

2017 年度

授業計画/シラバス

聖学院大学

SEIGAKUIN UNIVERSITY



基礎科目

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 111001A1

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

聖書を中心に、聖書の宗教観・人間観を学ぶ。

(2) 内容

キリスト教とはどんな宗教なのかということによって、世界の歴史や現代社会など目に見える世界を理解すること、そして人間存在とは何か、自分とは何か、人を愛するとは何かなど人間が生きてゆく上での基本的な課題に対しても理解を深めることを学ぶ。

受講者に対する要望

キリスト教に初めて触れる学生には馴染みが薄い分野ですので、わからない箇所は遠慮なく質問してください。

学びのキーワード

- ・ 聖書の世界観を学ぶ
- ・ 聖書が示す生き方を学ぶ

授業計画

01. 聖学院大学の建学の精神とキリスト教
02. キリスト教と人生
03. キリスト教と現代世界
04. 礼拝へ招き
05. 聖書の世界 旧約 (1) 創世記
06. 聖書の世界 旧約 (2) 出エジプトと十戒
07. 聖書の世界 旧約 (3) ダビデ王朝
08. 聖書の世界 旧約 (4) 王国の滅亡とバビロン捕囚
09. 聖書の世界 新約 (1) 新約聖書の全体像
10. 聖書の世界 新約 (2) イエスの奇跡
11. 聖書の世界 新約 (3) イエスのたとえ話
12. 聖書の世界 新約 (4) イエスの受難と復活
13. 聖書の世界 新約 (5) 使徒の働き
14. 聖書の世界 新約 (6) 黙示録
15. まとめ

準備学習(予習)

聖書および教科書『神を仰ぎ人に仕う』でその日の授業に該当する箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

各回の講義配布されたレジュメを読み返しておく。

評価方法

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 教会出席レポート及び全学礼拝レポート | 30% |
| (3) 期末試験もしくは期末レポート | 30% |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラルサービス) [978-4915826016]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

講義の中で指示する。

担当教員：田中 かおる

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001C1

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教は、現在の私達の日常生活、また明治以降の日本の教育界にもいろいろな形で影響を与えてきた。そういうことを点検しながら、キリスト教に親しみ、聖書のメッセージに直接触れて、理解を深めていきたい。
 聖書は旧約聖書を取り上げ、そこに示されている人間観とそれに対する神の関わりという視点から学び、今日の社会の問題との接点を共に考えていく。

(2) 内容

この授業は、聖学院大学の建学の精神であるキリスト教への理解を深めることを目的とする。

受講者に対する要望

毎回、聖書を持参すること。

学びのキーワード

- ・ 建学の精神 (聖学院の歴史)
- ・ 日本の教育界への影響
- ・ 聖書の人間観 (旧約)

授業計画

01. 「ようこそ、聖学院大学へ」
02. キリスト教と人生
03. キリスト教と現代社会
04. 礼拝への招き
05. 旧約聖書 (1) …天地創造(創世記1章)
06. 旧約聖書 (2) …アダムとエバ(創世記1～3章)
07. 旧約聖書 (3) …カインとアベル(創世記4:1～15)
08. 旧約聖書 (4) …箱舟物語(創世記6～8章)
09. 旧約聖書 (5) …アブラハムとイサク(創世記12～22章他)
10. 旧約聖書 (6) …ヤコブ(創世記25:19～他)
11. 旧約聖書 (7) …ヨセフとその兄弟たち(創世記37章他)
12. 旧約聖書 (8) …モーセ(1)(出エジプト1章他)
13. 旧約聖書 (9) …モーセ(2)(出エジプト14章他)
14. 旧約聖書 (10) …十戒(出エジプト20:1～17)
15. まとめ

準備学習(予習)

聖書の該当箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

毎回、小レポートを書くことによって講義内容を確認する。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------|
| (1) 毎回の小レポート | 20% | 授業の最後、10分以内で感想や意見、質問を書いて提出 |
| (2) 礼拝レポート | 30% | |
| (3) 試験 | 50% | 聖書、ノート持ち込可 |

教科書

日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に向う—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』(聖学院ゼネラル・サービス)

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：111001C2

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教の知識及びその精神を理解することによって、世界に通用する幅広い教養を身に着けることができる。また、旧約聖書は、神と人間を巡るドラマや描かれ、また知恵の言葉が語られているが、その内容の意味や意義を把握することによって、人間らしい生き方を模索するための思考力を形成する。

(2) 内容

「物語」（ストーリー）や、「言葉」を知っていくことが、どのように人生を歩んでいくかを深く考えたり、あるいは、苦境に立たされる時の重要な手助けや支えとなる。特に幼児・子どもへの教育に対しては、言葉・物語の伝授が成長の鍵となるが、聖書が語るストーリーや言葉は、よき感化を与え続けてきている。本講義では、聖書の中の、特に旧約聖書において語られているストーリーや言葉を、特に中盤以降から学んでいく。前半は、本学がその教育理念としているキリスト教とその精神を学ぶ。主にキリスト教に初めて接する学生を対象にしているが、以前からキリスト教に接している学生も、さらに既知の知識を深めることができる内容とする。

受講者に対する要望

授業では、各学生の積極的な発言を求める。グループディスカッションも予定しているため、活発な意見交換を求める。

学びのキーワード

- ・キリスト教精神
- ・愛
- ・言葉
- ・物語（ストーリー）
- ・教育

授業計画

01. ようこそ、聖学院大学へ～あなたのミッションを見つける旅へ～
02. キリスト教と人生～目からウロコの生き方～
03. キリスト教と現代世界～地球を俯瞰する見方のために～
04. 礼拝への招き～真のスピリットを生み出す場～
05. 旧約聖書を学ぶⅠ イントロダクション・世界と人間の創造
06. 旧約聖書を学ぶⅡ 人間の罪とは何か①～アダムとエバ～
07. 旧約聖書を学ぶⅢ 人間の罪とは何か②～カインとアベル～
08. 旧約聖書を学ぶⅣ 世界の滅びと再生～ノアの箱舟・バベルの塔～
09. 旧約聖書を学ぶⅤ グランドラインに立つアブラハム～イスラエルの歴史～
10. 旧約聖書を学ぶⅥ 約束の地へ踏み出せ～出エジプト～
11. 旧約聖書を学ぶⅦ 約束の地へ踏み出せ～出エジプトⅡ～
12. 旧約聖書を学ぶⅧ 英雄の生涯～ダビデ王の光と闇～
13. 旧約聖書を学ぶⅧ 滅びの中で救いを伝える～預言者～
14. 旧約聖書を学ぶⅧ それでも人生にイエスと言う～ヨブの苦難から～
15. まとめ

準備学習(予習)

毎講義の最後に指定する聖書箇所及び指定テキストの頁をあらかじめ読んでおくことを必須とする。

準備学習(復習)

講義毎に言及した本や映画等を積極的に読んだり、鑑賞することを勧める。

評価方法

- (1) 授業への参加度・平常点
- (2) 試験
- (3) 全学礼拝レポート
- (4) 教会出席レポート

試験と礼拝レポートの詳細については講義で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は、評価の対象としない。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）【978-4907113049】
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史ー神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼナラル・サービス）【978-4915826016】
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

講義において指示する。

担当教員：石田 学

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001D1

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教は、現在の私達の日常生活、また明治以降の日本の教育界にもいろいろな形で影響を与えてきた。そういうことを点検しながら、キリスト教に親しみ、聖書のメッセージに直接触れて、理解を深めていきたい。
 聖書は旧約聖書を取り上げ、そこに示されている人間観とそれに対する神の関わりという視点から学び、今日の社会の問題との接点を共に考えていく。

(2) 内容

この授業は、聖学院大学の建学の精神であるキリスト教への理解を深めることを目的とする。

受講者に対する要望

毎回、聖書を持参すること。

学びのキーワード

- ・ 建学の精神（聖学院の歴史）
- ・ キリスト教と現代社会
- ・ 聖書の人間観（旧約）

授業計画

01. 「ようこそ、聖学院大学へ」。なぜキリスト教を学ぶのか、講義要領の説明
02. キリスト教と人生。本学の精神とレポートの説明、キリスト教の紹介
03. キリスト教と現代社会。キリスト教礼拝の意味、聖書と讃美歌の見方、使い方。
04. 礼拝への招き。礼拝の紹介と、キリスト教の伝統と歴史入門
05. キリスト教とはなにか…教会の儀式と暦、習慣を知ろう
06. 旧約聖書（1）…旧約聖書と新約聖書、どう違うか 古代オリエント世界の紹介
07. 旧約聖書（2）…天地創造と、アブラハム、イサク、ヤコブの物語
08. 旧約聖書（3）…ヨセフ物語、前編：売られたヨセフ
09. 旧約聖書（4）…ヨセフ物語、後編：神の摂理とは何か
10. 旧約聖書（5）…出エジプトの物語、前編：神の人モーセ
11. 旧約聖書（6）…出エジプトの物語、後編：エクソダス
12. 旧約聖書（7）…「十戒」を学ぶ
13. 旧約聖書（8）…「約束の地」カナン定住と、ダビデ王
14. 旧約聖書（9）…王国の物語：ソロモン王、預言者
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

UNIPA から授業資料をダウンロードしておく。

準備学習(復習)

講義内容を、資料とワークシートを用いて復讐、確認する。

評価方法

- | | | |
|-----------------------|-----|---------------------|
| (1) 学期末の試験 | 90% | ノートと配布資料の持ち込みを認めます。 |
| (2) 課題レポート（全学礼拝、教会出席） | 10% | キリスト教概論の共通課題です。 |
| (3) 授業への参加度 | 肯定的 | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）【978-4907113049】
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼナラル・サービス）【978-4915826016】
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001J1

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。

(2) 内容

キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。春学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、キリスト教信仰の概略と旧約聖書について学ぶ。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・旧約聖書

授業計画

01. ようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生
03. キリスト教と現代世界
04. 礼拝への招き
05. 三位一体の神・神の国・教会
06. プロテスタントとは何か
07. 神の創造と人間の墮罪
08. 神の救済と人間の自己栄化
09. 族長たちの活躍(1)
10. 族長たちの活躍(2)
11. 出エジプトと「十戒」
12. イスラエル王国の盛衰と預言者たち
13. 諸書の世界：「ヨブ記」・「詩篇」・「箴言」(1)
14. 諸書の世界：「ヨブ記」・「詩篇」・「箴言」(2)
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業への参加度、試験、礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス) [978-4915826016]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

担当教員：吉岡 光人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001J2

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1 キリスト教と聖書についての基本的な知識を学ぶ。
 2 旧約聖書に記されている世界観・価値観を学ぶことを通して、自分自身の存在の意義や他者との関係の重要性を学ぶ。

(2) 内容

聖学院大学に入学してキリスト教と初めて出会う学生にも、わかりやすく聖書の世界を解説する。春学期は旧約聖書を中心に学ぶ。

受講者に対する要望

出席を重視する。授業に遅刻しないように心がけ、積極的に参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 旧約聖書
- ・ 神と人間との関係
- ・ 自由への解放
- ・ 自分と他者との関係

授業計画

01. オリエンテーション—ようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生
03. キリスト教と現代世界
04. 礼拝への招き —聖書・祈り・賛美—
05. 旧約聖書の全体像
06. 創世記（1）天地創造
07. 創世記（2）墮罪
08. 創世記（3）祝福の約束
09. 出エジプト記（1）解放の物語
10. 出エジプト記（2）神との契約
11. イスラエル王国（1）ダビデ王～ソロモン王
12. イスラエル王国（2）王国の崩壊
13. 捕囚の民（1）預言者の言葉
14. 捕囚の民（2）詩編
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

特に必要ない

準備学習(復習)

配布された資料、指示された教科書の箇所を読み返しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) 平常点 | 30% | 3分の2以上出席すること |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)【978-4907113049】
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼナラル・サービス)【978-4915826016】
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)【978-4820212041】

参考書

担当教員：菊地 順

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001P1

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけでなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をとおして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。

(2) 内容

初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。春学期は、初めの4回は、初年児教育として、大学およびキリスト教への導入の授業を行います。その後、旧約聖書に基づいて、キリスト教の背景をなすユダヤ教（イスラエル宗教）の世界について、特にその世界観・人間観、その歴史、及びキリスト教との関連について学びます。

受講者に対する要望

初めてキリスト教に触れる人も多いと思いますが、上述したキリスト教を学ぶ意義を理解し、開かれた心をもって授業に臨んでほしいと思います。また、授業で学んだことだけにとどまるのではなく、関心のあるところを自分で深めていく努力をしてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・聖書
- ・神
- ・人間
- ・歴史

授業計画

01. ようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生
03. キリスト教と現代世界
04. 礼拝への招き
05. 聖書と啓示
06. 人間とは何か(1) (人間の創造)
07. 人間とは何か(2) (人間の墮罪)
08. イスラエルの歴史と信仰(1) (アブラハムの生涯)
09. イスラエルの歴史と信仰(2) (ヤコブの生涯)
10. イスラエルの歴史と信仰(3) (ヨセフの生涯)
11. 出エジプト
12. 十戒と律法
13. 預言者たちの活動
14. 預言者とメシア思想
15. まとめ—ユダヤ教からキリスト教へ

準備学習(予習)

この授業は基本的にテキストに添って行ないます。予習としては、毎回授業の最後に次回の予告をしますので、それに従って予めテキストの下読みをしてください。

準備学習(復習)

復習としてはノートとテキストの内容の確認を中心に行ってください。また自分の関心のあるところを調べ、知識を深めてください。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|-------------------|
| (1) 試験 | 60% | 最後の授業時に1回行う |
| (2) 平常点 | 20% | 3分の2以上出席すること |
| (3) 課題 | 20% | 教会出席レポートと全学礼拝レポート |

以上の3点を総合して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は、試験を受けることができませんので、注意すること。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院セナラル・サービス) [978-4915826016]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

担当教員：野島 邦夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001P2

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【K】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【O】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教を知ることは、一生の財産になるにちがひありません。キリスト教は二千年来この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できないでしょう。哲学を始め様々な学問の分野でも、音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えて来ました。また、今世紀に入って、世界の情勢により意味でも悪い意味でも諸宗教が深くかかわっています。その中でキリスト教の真の姿を知っておくことが、どうしても必要です。しかし、それ以上に重要なことは、キリスト教は皆様方一人ひとりの人生の指針となり、拠りどころとなるに違いないということです。キリスト教信仰は単に天国に行けることを約束するだけではなく、葬儀の時にだけ必要なものでもなく、生きて悩んでいるその人の真の支えになるものです。この講義は、キリスト教とその教典（聖書）をなるべくわかりやすく解説して、受講者の皆様にキリスト教を正しく知っていただくとともに、キリスト教の教えが自分の精神的支えになると皆様に感じていただくことをめざしています。

(2) 内容

キリスト教は聖学院大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。それで、まず「宗教」は皆様のような若い人たちにも必要かどうか、必要であるならどのように必要なかを考えます。自分との「関わり」がわからなくては、学ぼうという意欲がわかないでしょうから、さらに、宗教が必要だと言っても、「なぜキリスト教なのか」を考えます。キリスト教は、あなたのどのような求めに対して、どのように答えてくれるのでしょうか。次に、キリスト教会（とくに礼拝）の実際を、写真や資料などを用いてわかりやすく説明します。知的にキリスト教を学んでも、実際の教会（礼拝）を体験しなくては大切な点が抜けたままですから。また、大学から一学期に一度は教会の礼拝に出席するように指導されますが、「教会に入りにくい」という声をよく聞くからです。続いて本論では、キリスト教の主な教えと聖書の概略を、まだそれらを全く知らないという方々のために説明します。まず、キリスト教の教典（聖書）の全体を一瞥し、その中心点を説明します。そうしませんと、キリスト教と聖書という大きな森に入る人は、道に迷うか、細部に気を取られて「木を見て森を見ず」ということになりがちですから。並行して各論を扱います。春学期は旧約聖書の大切な箇所とテーマを、指定の教科書「神を仰ぎ、人に仕う」に沿って、順番に学んでいきます。（秋学期は新約聖書の主な内容を学びます。）これらの具体的なテーマは「授業計画」を見てください。

受講者に対する要望

素直な気持ちでキリスト教を知りたいと思っている方々は、どなたでも歓迎します。授業中に聖書をししばしば使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・宗教
- ・旧約聖書
- ・神
- ・人間

授業計画

01. はじめに：ようこそ、聖学院大学へ（オリエンテーション）
02. キリスト教とあなたの人生
03. キリスト教と現代社会
04. 礼拝（教会）への招き
05. 聖書（旧約+新約）とは何か、どんな内容か？
06. 世間の神々とキリスト教の神
07. 神は創造者、人間は創られた存在
08. 人間の大切さ（「神のかたち」）
09. 人間の心の中の悪：ダビデを例にして
10. 私たちの心の悪の源：アダムの「墮落」
11. 悪の基準：十戒
12. 旧約の歴史概観（1）： アダムからモーセまで
13. 旧約の歴史概観（2）： モーセからバビロン捕囚まで
14. 旧約の歴史概観（3）： バビロン捕囚以後
15. まとめ

準備学習(予習)

この講義は、基本的に指定教科書（特に「神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版」）に従い聖書を用いておこないますので、毎回、指示される聖書箇所を読んできてください。その準備によって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習(復習)

毎回、講義内容の詳しいプリントを配布します。講義の後、それを必ず読み返してください。さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。それを提出していただき、添削して次回コメントしながら返却しますから、必ず読み返してください。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業参加度・課題 | 30% |
| (2) 礼拝出席レポート | 20% |
| (3) 試験 | 50% |

欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートを提出しない人は、試験を受けることができません。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）【978-4907113049】
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）【978-4915826016】

担当教員：山ノ下 恭二

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001P3

学部教育の関連目

- 【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
- 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
- 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
- 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的な内容を理解すると共に、自分の生き方を聖書から考えることを目標とする。

(2) 内容

本講義ではキリスト教の基礎であるキリスト教の神、聖書について詳しく解説し、旧約聖書の内容を詳しく解説していく。
キリスト教に触れるのは初めての学生も多いと考えているので、キリスト教の中心的メッセージを明確にしつつ、特に旧約聖書の中心的な用語についても詳しく解説していく。

受講者に対する要望

授業に遅刻せず、真剣に講義を聴き、全学礼拝レポート、教会礼拝レポートを指定された日時に提出してほしい。

学びのキーワード

- ・ 礼拝とは何だ
- ・ キリスト教の神とは
- ・ 旧約聖書には何が書いてある
- ・ 契約とは。戒めとは。
- ・ 預言とは何だ

授業計画

01. キリスト教を学ぶ意味
02. 聖学院の精神について
03. 全学礼拝・教会礼拝について
04. キリスト教の基礎知識
05. 聖書について
06. 創造について (1)
07. 創造について (2)
08. 堕落と滅びについて
09. 族長物語
10. 出エジプト
11. 契約と律法
12. 預言書 (1)
13. 預言書 (2)
14. 知恵文学 (1)
15. 知恵文学 (2)

準備学習(予習)

『聖書』『神を仰ぎ、人に仕う』は、毎回、必ず持参すること。
『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでくること。

準備学習(復習)

講義で触れた聖書、教科書、をよく読むこと

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点・態度 | 40% |
| (2) レポート提出 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)【978-4907113049】
聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス)【978-4915826016】
日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)【978-4820212041】

参考書

担当教員：東野 尚志

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001P4

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教の基本的な知識を得ることによって、キリスト教大学である聖学院大学で学ぶことの意味を捉え直す。さらに、旧約聖書の物語に描かれた神と人間の問題を学ぶことを通して、自分自身の存在と生き方を問い直すための確かな足場を築く。

(2) 内容

本講義では、聖書に初めて触れる学生に配慮しながら、キリスト教の基本的な教えを聖書に即して学んでいく。春学期は、特に、聖書の世界観、人間観、救済観等について、旧約聖書の物語を味わいながら解説する。

受講者に対する要望

必ず、聖書と教科書を持参すること。

学びのキーワード

- ・ 旧約聖書
- ・ 神と人間
- ・ 罪
- ・ 契約
- ・ 預言

授業計画

01. オリエンテーション—ようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生—キリスト教を学ぶ意味
03. 礼拝への招き—聖書・讃美歌の使い方
04. キリスト教の基礎知識
05. 聖書の世界
06. (キリスト教週間の振り返り)
07. 天地創造
08. 人間の創造
09. 人間の罪
10. 族長の物語
11. エジプト脱出
12. 契約と律法
13. 約束の地
14. 王国と預言
15. まとめと振り返り

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------|
| (1) 平常点 | 30% | 授業への参加度 |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』(聖学院大学出版会)
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス)
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)

参考書

担当教員：東野 尚志

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111001W1

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教の基本的な知識を得ることによって、キリスト教大学である聖学院大学で学ぶことの意味を捉え直す。さらに、旧約聖書の物語に描かれた神と人間の問題を学ぶことを通して、自分自身の存在と生き方を問い直すための確かな足場を築く。

(2) 内容

本講義では、聖書に初めて触れる学生に配慮しながら、キリスト教の基本的な教えを聖書に即して学んでいく。春学期は、特に、聖書の世界観、人間観、救済観等について、旧約聖書の物語を味わいながら解説する。

受講者に対する要望

出席を重視する。授業に遅刻しないように心がけ、積極的に参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 旧約聖書
- ・ 神と人間
- ・ 罪
- ・ 契約
- ・ 預言

授業計画

01. オリエンテーション—ようこそ、聖学院大学へ
02. キリスト教と人生—キリスト教を学ぶ意味
03. 礼拝への招き—聖書・讃美歌の使い方
04. キリスト教の基礎知識
05. 聖書の世界
06. (キリスト教週間の振り返り)
07. 天地創造
08. 人間の創造
09. 人間の罪
10. 族長の物語
11. エジプト脱出
12. 契約と律法
13. 約束の地
14. 王国と預言
15. まとめと振り返り

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------|
| (1) 平常点 | 30% | 授業への参加度 |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス) [978-4915826016]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 111002A3

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教会の歴史は、世界の歴史に大切な価値観を提供してきた。それを学ぶことにより、現代において、適切な判断力を見出しただきたい。

(2) 内容

キリスト教会の歴史を学ぶことを通して、そこに現れているキリスト教の人間観、倫理観、世界観などを学ぶ。

受講者に対する要望

馴染みのない事柄もあると思うが、わからないことは積極的に質問して頂きたい。

学びのキーワード

・キリスト教がわかると「ああ、そうだったのか！」と世界が見えてくる。

授業計画

01. キリスト教会の歴史 (1) 初代教会～古代教会
02. キリスト教会の歴史 (2) 中世の教会
03. キリスト教会の歴史 (3) 宗教改革時代 1
04. キリスト教会の歴史 (4) 宗教改革時代 2
05. キリスト教会の歴史 (5) 17世紀～18世紀
06. キリスト教会の歴史 (6) 18世紀～19世紀
07. キリスト教会の歴史 (7) 20世紀前半
08. キリスト教会の歴史 (8) 20世紀後半
09. 日本におけるキリスト教会の歴史 (1) キリシタン時代
10. 日本におけるキリスト教会の歴史 (2) 明治時代 1
11. 日本におけるキリスト教会の歴史 (3) 大正時代～昭和初期
12. 日本におけるキリスト教会の歴史 (4) 第二次世界大戦下の時代
13. 日本におけるキリスト教会の歴史 (5) 敗戦後
14. 日本におけるキリスト教会の歴史 (6) 現代
15. まとめ

準備学習(予習)

キリスト教概論Aで学んだ基礎知識を前提に講義を進めるので
 聖書と教科書の内容をよく理解しておくこと。

準備学習(復習)

レジュメを配布するのでそれを読み返しておくこと

評価方法

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 教会出席レポート及び全学礼拝レポート | 20% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス) [978-4915828616]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

授業で指示する。

担当教員：田中 かおる

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002C3

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

今学期は、イエス・キリストの生涯・教えと業から、聖書のメッセージを学ぶ。また教会の誕生と発展を確認する。更に、神の導きに従った人々の生涯に触れ、キリスト者として歩んだ人々の生き方を学ぶ。

(2) 内容

春学期の授業内容を前提に、新約聖書におけるイエス・キリストのメッセージを学ぶ。

受講者に対する要望

毎回、聖書を持参すること

学びのキーワード

- ・ イエス・キリスト
- ・ 聖書の人間観（新約）
- ・ 神の導きに従った人々

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新約聖書（1）・・・イエス誕生の背景
03. 新約聖書（2）・・・イエス・キリストの生涯
04. 新約聖書（3）・・・イエス・キリストの教え
05. 新約聖書（4）・・・イエス・キリストの教え（譬話）
06. 新約聖書（5）・・・イエス・キリストの業
07. 新約聖書（6）・・・十字架と復活
08. 新約聖書（7）・・・クリスマス
09. 新約聖書（8）・・・教会の誕生
10. 新約聖書（9）・・・教会の発展
11. 神の導きに従った人々（1）アシジのフランチェスコ
12. 神の導きに従った人々（2）マザー・テレサ
13. 神の導きに従った人々（3）星野富弘
14. 絵本「大切なきみ」から
15. まとめ

準備学習(予習)

聖書箇所を予告するので、読んでおくこと。

準備学習(復習)

毎回、小レポートを書くことによって、講義内容を確認する。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------------------|
| (1) 毎回の小レポート | 20% | 授業の最後、10分以内で授業内容を振り返り、感想、意見、質問を書いて提出 |
| (2) 礼拝レポート | 30% | |
| (3) 試験 | 50% | 聖書、ノート持ち込み可 |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）訳』（日本聖書協会）
 聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人にならうーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002C4

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

聖書に描かれているイエス・キリストの言葉と行為とを理解することによって、キリスト教精神の根幹を理解する。さらに、全ての人間が、人格的存在として受容されるべき国家及び共同体秩序の形成のためにキリスト教が果たしている役割を把握することによって、日本及び世界のデモクラシーの擁護と促進の重要性を理解する。

(2) 内容

イエス・キリストが語り、実践し、達成した出来事が、キリスト教精神を支えている核である。本講義では、前半から中盤にかけて、イエス・キリストの語った言葉と行った出来事を集中的に学ぶ。後半にかけては、キリスト教が、世界の歴史や、デモクラシー及び人権思想を形成したことを学ぶ。さらにその影響が日本にも及んでいることを学ぶ（人権思想は、幼児・子どもの良き教育を営むのために、不可欠なものである）。最後に、現代のキリスト教が抱えている問題を共有する。

受講者に対する要望

授業では、各学生の積極的な発言を求める。グループディスカッションも予定しているため、活発な意見交換を求める。

学びのキーワード

- ・ イエス・キリスト
- ・ 愛
- ・ 歴史形成
- ・ 人権
- ・ デモクラシー

授業計画

01. イエス・キリストの福音Ⅰ～山上の説教～
02. イエス・キリストの福音Ⅱ～続・山上の説教～
03. イエス・キリストの福音Ⅲ～続々・山上の説教～
04. イエス・キリストの福音Ⅳ～失われた兄弟たち～
05. イエス・キリストの福音Ⅴ～「隣人」になりなさい～
06. イエス・キリストの生涯Ⅰ～クリスマスをつくった方～
07. イエス・キリストの生涯Ⅱ～福音の旅へ～
08. イエス・キリストの生涯Ⅲ～十字架への道のりⅠ～
09. イエス・キリストの生涯Ⅳ～十字架への道のりⅡ～
10. イエス・キリストの弟子たちの働き～愛の賛歌～
11. クリスマスの意味
12. 宗教改革・プロテスタンティズム・デモクラシー
13. 日本におけるキリスト教～少年よ、大志を抱け～
14. 現代におけるキリスト教の課題
15. まとめ

準備学習(予習)

毎講義の最後に指定する聖書箇所及び指定テキストの頁をあらかじめ読んでおくことを必須とする。

準備学習(復習)

講義毎に言及した本や映画等を積極的に読んだり、鑑賞することを勧める。

評価方法

- (1) 授業の参加度・平常点
- (2) 試験
- (3) 全学礼拝レポート
- (4) 教会出席レポート

試験と礼拝レポートの詳細については講義で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は、評価の対象としない。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）[978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）[978-4915828016]
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）[978-4820212041]

参考書

担当教員：石田 学

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002D3

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

今学期は、イエス・キリストの生涯・教えと業から、聖書のメッセージを学ぶ。また教会の誕生と発展を確認する。更に、神の導きに従った人々の生涯に触れ、キリスト者として歩んだ人々の生き方を学ぶ。

(2) 内容

春学期の授業内容を前提に、新約聖書におけるイエス・キリストのメッセージを学び、またキリスト教が人間と世界をどう理解するかを共に考えます。

受講者に対する要望

毎回、聖書を持参して欲しい。

学びのキーワード

- ・ イエス・キリスト
- ・ 聖書の人間観（新約）
- ・ キリスト教倫理

授業計画

01. 講座の概要説明、イエス・キリストの時代 | ヘレニズム文化とローマ帝国のはなし
02. イエス・キリストの生涯（1） クリスマスの出来事
03. イエス・キリストの生涯（2） 教えと働き、「よいサマリア人」のたとえ
04. イエス・キリストの生涯（3） 愛と憐れみ、二つの「たとえ」
05. イエス・キリストの生涯（4） 十字架と復活（前編）
06. イエス・キリストの生涯（5） 十字架と復活（後編）
07. イエス・キリストの生涯（5） ビデオ鑑賞
08. パウロの働き：異邦人への教会の拡がり
09. 人間とはなにか：キリスト教的人間観に触れる
10. 罪とはなにか：世界とわたしたちの現実、キリスト教の罪理解
11. 「いのち」について考えてみよう：生命倫理をめぐる問題
12. キリスト教的結婚観：キリスト教は結婚をどのように考えるか
13. イエスからキリスト教へ：キリスト教の歴史を概観する
14. 真の霊性（スピリチュアリティ）を求めて
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

UNIPA から授業資料をダウンロードして、目をとおしておくこと。

準備学習(復習)

講義内容を確認する。
ワークシートと資料を用いて復習する。

評価方法

- | | | |
|----------------------|-----|------------------------|
| (1) 学期末試験 | 90% | 授業資料とワークシートの持ち込みを認めます。 |
| (2) 課題レポート：全学礼拝、教会出席 | 10% | キリスト教概論の共通課題です。 |
| (3) 授業への参加度 | プラス | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）[978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）[978-4915828616]
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）[978-4820212041]

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002J3

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。

(2) 内容

キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。秋学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、新約聖書と教会の歴史について学ぶ。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・新約聖書
- ・教会の歴史

授業計画

01. イエス・キリストの生涯(1)
02. イエス・キリストの生涯(2)
03. イエス・キリストの教え(1)
04. イエス・キリストの教え(2)
05. イエス・キリストの働き
06. 十字架・復活・昇天(1)
07. 十字架・復活・昇天(2)
08. 十字架・復活・昇天(3)
09. 教会の誕生と使徒たちの活躍
10. 古代教会
11. 中世教会
12. 宗教改革とピューリタニズム
13. 日本のキリスト教
14. 現代における教会とその希望
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業への参加度、試験、礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス) [978-4915828016]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

担当教員：吉岡 光人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002J4

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

新約聖書に記された世界観・救済観・人生観・倫理観を通してキリスト教の価値観を学ぶ。

(2) 内容

新約聖書の記された救済観・世界観・倫理観を通してキリスト教の全体像を理解する。
 聖書の価値観から生まれた歴史的事件や聖書に忠実に生きた人物を取り上げて紹介する。

受講者に対する要望

必ず、聖書と教科書を持参すること。

学びのキーワード

- ・新約聖書
- ・イエス・キリスト
- ・命
- ・救い
- ・キリスト教と世界

授業計画

01. 朗学期のオリエンテーション
02. 新約聖書の時代的背景
03. イエス・キリストの生涯
04. 福音書(1) 神の国
05. 福音書(2) イエスの奇跡とその意味
06. 福音書(3) イエスのたとえ話1
07. 福音書(4) イエスのたとえ話2
08. 福音書(5) イエスの苦難と死
09. 福音書(6) イエスの復活と昇天
10. 教会の誕生と宣教の開始
11. 教会の社会に対する影響
12. パウロ登場
13. パウロの宣教活動
14. ヨハネ黙示録
15. 秋学期のまとめ

準備学習(予習)

とくに必要ない。

準備学習(復習)

配布された資料、指示された教科書の箇所を読み返しておくこと。

評価方法

- | | | |
|----------------|----|--------------|
| (1) 平常点 | 30 | 3分の2以上出席すること |
| (2) レポート提出 | 30 | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験もしくはレポート | 40 | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス) [978-4915828016]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

担当教員：菊地 順

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002P4

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけではなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をとおして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。

(2) 内容

初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。
 秋学期は、春学期の学びを踏まえ、主にキリスト教の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、新約聖書を用いて学びます。また授業では、できるだけ映像なども取り入れて、親しみやすい内容にしたいと思えます。

受講者に対する要望

たえず開かれた心を持って授業に臨んでほしいと思います。また、授業での学びのみならず、自分から積極的に学びを深めていってほしいと思えます。

学びのキーワード

- ・ イエス・キリスト
- ・ 新約聖書
- ・ 神の国
- ・ 贖（あがな）い
- ・ 十字架

授業計画

01. イエス・キリストに関する資料—4つの福音書—
02. イエス・キリストの時代背景
03. イエス・キリストの生涯(1)—誕生から幼年時代—
04. イエス・キリストの生涯(2)—公生涯への備え—
05. イエス・キリストの生涯(3)—宣教の開始と弟子たちの召命—
06. イエス・キリストの生涯(4)—山上での説教(1)(マタイ5章)—
07. イエス・キリストの生涯(5)—山上での説教(2)(マタイ6章)—
08. イエス・キリストの生涯(6)—山上での説教(3)(マタイ7章)—
09. イエス・キリストの生涯(7)—弟子たちの派遣—
10. イエス・キリストの生涯(8)—たとえ話—
11. イエス・キリストの生涯(9)—奇跡—
12. イエス・キリストの生涯(10)—論争と対立—
13. イエス・キリストの生涯(11)—十字架への道(1)(最後の晩餐まで)—
14. イエス・キリストの生涯(12)—十字架への道(2)(十字架の出来事)—
15. まとめ—現代にとってキリスト教とは？

準備学習(予習)

この授業は基本的にテキストに添って行ないます。予習としては、毎回授業の最後に次回の予告を行いますので、それに従って予めテキストの下読みをしてください。

準備学習(復習)

復習としてはノートとテキストの内容の確認を中心に行ってください。また授業をとおして関心を持ったところを調べ、自分の知識を深めてください。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--------------|
| (1) 試験 | 60% | 最後の授業で1回行う |
| (2) 平常点 | 20% | 3分の2以上出席すること |
| (3) 課題 | 20% | 教会出席と礼拝出席 |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は試験を受けることができませんので、注意すること。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス) [978-4915826016]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

担当教員：野島 邦夫

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002P5

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教は聖学院大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教を知ることは一生の財産になるにちがいません。
 キリスト教は二千年来この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できないでしょう。哲学を始め様々な学問の分野でも、音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えて来ました。また、今世紀に入って、世界の情勢により意味でも悪い意味でも諸宗教が深くかかわっています。その中でキリスト教の真の姿を知っておくことが、どうしても必要です。
 しかし、それ以上に重要なことは、キリスト教は皆様方一人ひとりの人生の指針となり、拠りどころとなるに違いないということです。キリスト教信仰は単に天国に行けることを約束するだけではなく、葬儀の時にだけ必要なのではなく、生きて悩んでいるその人の真の支えになるものです。
 この講義は、キリスト教とその教典（聖書）をなるべくわかりやすく解説して、受講者の皆様にキリスト教を正しく知っていただくとともに、キリスト教の教えが自分の精神的支えになると皆様に感じていただくことをめざしています。

(2) 内容

キリスト教の主な教えと聖書の概略を、それらをまだよく知らないという方々のために説明します。この講義は一応、同一講師の「キリスト教概論A」の続きですが、それを受講されていない方々にもわかるように構成されています。
 まず、もう一度キリスト教の教典（聖書）の全体を一瞥し、その中心点を説明します。キリスト教と聖書という大きな森に入った人が、道に迷ったり、細部に気を取られて「木を見て森を見ず」ということにならないためです。同時に、聖書についての知識がいくら豊かになっても、自分との関わりが掴めないとうすぐ忘れてしまうだけです。だから、「聖書が身近になる方法」をお話しします。
 続く各論では、秋学期は新約聖書とイエス・キリストが主題ですから、その大切な箇所とテーマを、指定の教科書「神を仰ぎ、人に仕う」に沿って、順番に学んでいきます。（春学期は旧約聖書の主な内容を学びました。）
 さらに、新約聖書以後現代にいたるまでのキリスト教の歴史も概観します。
 これらの具体的なテーマは「授業計画」を見てください。

受講者に対する要望

素直な気持ちでキリスト教を知りたいと思っている方々は、どなたでも歓迎します。授業中に聖書をししばしば使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・新約聖書
- ・神
- ・イエス・キリスト
- ・人間

授業計画

01. はじめに（オリエンテーション）
02. 聖書（旧約+新約）概観
03. 聖書が身近になるために（1）
04. 聖書が身近になるために（2）
05. 新約聖書、特に福音書について
06. イエス・キリストとは誰か？
07. イエス・キリストの生涯のはじまり：降誕
08. イエス・キリストの教え（1）：山上の説教から
09. イエス・キリストの教え（2）：たとえ話から
10. イエス・キリストの死：十字架
11. 十二使徒とパウロ
12. イエス・キリストの復活と教会の誕生
13. キリスト教のその後（1）古代から中世まで
14. キリスト教のその後（2）宗教改革時代以後
15. まとめ

準備学習(予習)

この講義は、基本的に指定教科書（特に「神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版」）に従って聖書を用いておこないますので、毎回、指示される聖書箇所を読んでみてください。その準備によって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習(復習)

毎回、講義内容の詳しいプリントを配布します。講義の後、それを必ず読み返してください。
 さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。それを提出していただき、添削して次回コメントしながら返却しますから、必ず読み返してください。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業参加度・課題 | 30% |
| (2) 礼拝出席レポート | 20% |
| (3) 試験 | 50% |

欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートを提出しない人は、試験を受けることができません。

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）【978-4907113049】
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）【978-4915826016】

担当教員：山ノ下 恭二

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002P6

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

新約聖書の内容を学生が把握し、イエスが伝えた神の国について、従事者の死と復活について、パウロの伝道と手紙のついて詳しく知ること为目标とする。

(2) 内容

キリスト教の基礎である新約聖書の内容に詳しく解説する。イエスの生涯、十字架と復活、教会の成立、ヨーロッパ世界への伝道を解説する。新約聖書の鍵となる言葉、上ノ国、償い、信仰、義、愛、などの用語について解説する。

受講者に対する要望

授業に遅刻せず、真剣に講義を聴き、全学礼拝レポート、教会礼拝レポートを指定された日時までに提出してほしい。

学びのキーワード

- ・ イエスとはどのような人か
- ・ 神の国とは
- ・ 神の国のたとえ話とは
- ・ 十字架とは
- ・ どうしてキリスト教は広まったのか

授業計画

01. 授業のオリエンテーション
02. 新約聖書の概要、基礎知識
03. イエスの生涯
04. イエスの時代
05. 神の国の福音
06. イエスの活動
07. 神の国のたとえ話 (1)
08. 神の国のたとえ話 (2)
09. 神の国のたとえ話 (3)
10. メシア(キリスト)の十字架の死と復活
11. 教会の誕生
12. 使徒たちの宣教
13. パウロの伝道活動と手紙
14. キリスト教の歴史
15. 日本のキリスト教の歴史

準備学習(予習)

授業で予告されている『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでくること。

準備学習(復習)

講義で触れた聖書・教科書をよく読むこと

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点・態度 | 40% |
| (2) レポート提出 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』(聖学院大学出版会) [978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼネラル・サービス) [978-4915828616]
 日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会) [978-4820212041]

参考書

担当教員：東野 尚志

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002P7

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

新約聖書に示されたイエス・キリストの救いと教会の働きを学ぶことを通して、キリスト教信仰の神髄に触れる。また2000年の歴史の中で、キリストと出会い、信仰に導かれた人たちが、どのような証しに生きたかを学ぶことを通して、自らの生き方を問い直す。

(2) 内容

春学期の授業内容を前提として、特にキリスト教信仰の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、また十字架と復活の救いについて、新約聖書を通して学ぶ。さらに、教会の誕生と今日まで続くキリスト教会の歴史を概観しつつ、現代におけるキリスト教の影響と可能性を考える。

受講者に対する要望

必ず、聖書と教科書を持参すること。

学びのキーワード

- ・ 新約聖書
- ・ イエス・キリスト
- ・ 救い
- ・ 教会

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新約聖書の時代背景
03. イエス・キリストの生涯
04. イエス・キリストと出会った人たち
05. イエス・キリストの教え（1）
06. イエス・キリストの教え（2）
07. イエス・キリストの働き
08. 十字架と復活（1）
09. 十字架と復活（2）
10. 教会の誕生
11. パウロの回心と伝道
12. 古代・中世の教会
13. 宗教改革
14. 現代世界とキリスト教
15. まとめ

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------|
| (1) 平常点 | 30% | 授業への参加度 |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）[978-4907113049]
 聖学院大学キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）[978-49158286016]
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）[978-4820212041]

参考書

担当教員：東野 尚志

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：111002W3

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける
 【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

新約聖書に示されたイエス・キリストの救いと教会の働きを学ぶことを通して、キリスト教信仰の神髄に触れる。また2000年の歴史の中で、キリストと出会い、信仰に導かれた人たちが、どのような証しに生きたかを学ぶことを通して、自らの生き方を問い直す。

(2) 内容

春学期の授業内容を前提として、特にキリスト教信仰の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、また十字架と復活の救いについて、新約聖書を通して学ぶ。さらに、教会の誕生と今日まで続くキリスト教会の歴史を概観しつつ、現代におけるキリスト教の影響と可能性を考える。

受講者に対する要望

必ず、聖書と教科書を持参すること。

学びのキーワード

- ・ 新約聖書
- ・ イエス・キリスト
- ・ 救い
- ・ 教会

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新約聖書の時代背景
03. イエス・キリストの生涯
04. イエス・キリストと出会った人たち
05. イエス・キリストの教え（1）
06. イエス・キリストの教え（2）
07. イエス・キリストの働き
08. 十字架と復活（1）
09. 十字架と復活（2）
10. 教会の誕生
11. パウロの回心と伝道
12. 古代・中世の教会
13. 宗教改革
14. 現代世界とキリスト教
15. まとめ

準備学習(予習)

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業において、その都度指示する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------|
| (1) 平常点 | 30% | 授業への参加度 |
| (2) レポート提出 | 30% | 教会出席と全学礼拝出席 |
| (3) 試験 | 40% | |

教科書

聖学院キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）【978-4907113049】
 聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史—神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）【978-4915826016】
 日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

担当教員：新井 尚子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100307

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

(2) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・思考力
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション・・・課題1
02. 文章の種類
03. 表現のルール1・・・課題2 (説明文を書く)
04. 表現のルール2・・・課題3 (マニュアルを書く)
05. 表現のルール3・・・課題4 (話し言葉と書き言葉)
06. 書く内容を考える1・・・考えの広げ方
07. 書く内容を考える2・・・グループで考える
08. 文章の構成・・・課題5 (主張の伝え方)
09. 知識の入手法1・・・メモの取り方
10. 知識の入手法2・・・文献・資料の読み方
11. レジュメの作り方・・・課題6
12. レポートの書き方1
13. レポートの書き方2
14. レポートの書き方3・・・課題7
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。毎回の課題作成で、新聞記事やインターネット等で正しい知識を入手し、正しく文章化する作業をしてください。

準備学習(復習)

返却された文章の訂正箇所を確認し、できれば全文書き直しをすることが文章力向上に効果的です。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 宿題と授業への参加度 | 20% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：上嶋 康道

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100308

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- (1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力
 (2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

(2) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。
 カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・視点の切り替え
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション
02. よい文章とはどういうものか 1
03. よい文章とはどういうものか 2
04. 主観的記述に対する根拠の表現
05. 具体化について考える
06. 要約演習 1
07. 要約演習 映像情報を要約する 2
08. 事実の記述
09. 紹介する 1
10. 紹介する ブックレビュー 2
11. 紹介する 自己について 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。受講生には様々な種類の文章に接することが求められます。新聞の書評欄はこの目的にうってつけです。詳しくは初回授業で指示します。

準備学習(復習)

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 平常点 | 80% | 受講生は毎回文章を書きます。 |
| (2) 宿題 | | |
| (3) レポート | 20% | |

レポートの提出はUNIPAで行ってもらいます。レポート提出は単位認定の条件になるのでくれぐれも提出を忘れないようにすること。詳しくは授業で指示します。

教科書

参考書

担当教員：上嶋 康道

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100309

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- (1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力
- (2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

(2) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。
 カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・視点の切り替え
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション
02. よい文章とはどういうものか 1
03. よい文章とはどういうものか 2
04. 主観的記述に対する根拠の表現
05. 具体化について考える
06. 要約演習 1
07. 要約演習 映像情報を要約する 2
08. 事実の記述
09. 紹介する 1
10. 紹介する ブックレビュー 2
11. 紹介する 自己について 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。受講生には様々な種類の文章に接することが求められます。新聞の書評欄はこの目的にうってつけです。詳しくは初回授業で指示します。

準備学習(復習)

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 平常点 | 80% | 受講生は毎回文章を書きます。 |
| (2) 宿題 | | |
| (3) レポート | 20% | |

レポートの提出はUNIPAで行ってもらいます。レポート提出は単位認定の条件になるのでくれぐれも提出を忘れないようにすること。詳しくは授業で指示します。

教科書

参考書

担当教員：上嶋 康道

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100310

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- (1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力
 (2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

(2) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くことになり、その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。
 カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・視点の切り替え
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション
02. よい文章とはどういうものか 1
03. よい文章とはどういうものか 2
04. 主観的記述に対する根拠の表現
05. 具体化について考える
06. 要約演習 1
07. 要約演習 映像情報を要約する 2
08. 事実の記述
09. 紹介する 1
10. 紹介する ブックレビュー 2
11. 紹介する 自己について 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。受講生には様々な種類の文章に接することが求められます。新聞の書評欄はこの目的にうってつけです。詳しくは初回授業で指示します。

準備学習(復習)

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 平常点 | 80% | 受講生は毎回文章を書きます。 |
| (2) 宿題 | | |
| (3) レポート | 20% | |

レポートの提出はUNIPAで行ってもらいます。レポート提出は単位認定の条件になるのでくれぐれも提出を忘れないようにすること。詳しくは授業で指示します。

教科書

参考書

担当教員：太田 ミユキ

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

(2) 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

受講者に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

学びのキーワード

- ・ 表現力
- ・ 論理的思考
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
02. 敬語の基礎
03. 確実な連絡メモ
04. メールの書き方
05. 手紙の書き方
06. 説明のコツ
07. 大学生の調べ方 1
08. 大学生の調べ方 2
09. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

評価方法

(1) 授業への参加度	30%
(2) 試験	35%
(3) 提出物	35%

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として出席が3分の1を超えた場合は評価しない。

教科書

橋本 寿、稲嶋 健伸、安部 晋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』(三省堂) [978-4385363257]
日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍) [978-4487806638]

参考書

担当教員： 中島 佐和子

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 1 授業コード： 11100330

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

(2) 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

受講者に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

学びのキーワード

- ・ 表現力
- ・ 論理的思考
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
02. 敬語の基礎
03. 確実な連絡メモ
04. メールの書き方
05. 手紙の書き方
06. 説明のコツ
07. 大学生の調べ方 1
08. 大学生の調べ方 2
09. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

評価方法

(1) 授業への参加度	30%
(2) 試験	35%
(3) 提出物	35%

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として出席が3分の1を超えた場合は評価しない。

教科書

橋本 寿、稲嶋 健伸、安部 晋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』（三省堂）【978-4385363257】
日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』（東京書籍）【978-4487806638】

参考書

担当教員：副田 恵

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100340

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

(2) 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

受講者に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

学びのキーワード

- ・ 表現力
- ・ 論理的思考
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
02. 敬語の基礎
03. 確実な連絡メモ
04. メールの書き方
05. 手紙の書き方
06. 説明のコツ
07. 大学生の調べ方 1
08. 大学生の調べ方 2
09. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

評価方法

(1) 授業への参加度	30%
(2) 試験	35%
(3) 提出物	35%

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として出席が3分の1を超えた場合は評価しない。

教科書

橋本 寿、稲嶋 健伸、安部 晋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』(三省堂) [978-4385363257]
日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍) [978-4487806638]

参考書

担当教員：副田 恵

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100350

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

(2) 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

受講者に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法の学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

学びのキーワード

- ・ 表現力
- ・ 論理的思考
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
02. 敬語の基礎
03. 確実な連絡メモ
04. メールの書き方
05. 手紙の書き方
06. 説明のコツ
07. 大学生の調べ方 1
08. 大学生の調べ方 2
09. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 35% |
| (3) 提出物 | 35% |

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として出席が3分の1を超えた場合は評価しない。

教科書

橋本 寿、稲嶋 健伸、安部 晋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』(三省堂) [978-4385363257]

日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集 3訂版 3級』(東京書籍) [978-4487809936]

参考書

担当教員：新井 尚子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100380

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

(2) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・思考力
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション・・・課題1
02. 文章の種類
03. 表現のルール1・・・課題2 (説明文を書く)
04. 表現のルール2・・・課題3 (マニュアルを書く)
05. 表現のルール3・・・課題4 (話し言葉と書き言葉)
06. 書く内容を考える1・・・考えの広げ方
07. 書く内容を考える2・・・グループで考える
08. 文章の構成・・・課題5 (主張の伝え方)
09. 知識の入手法1・・・メモの取り方
10. 知識の入手法2・・・文献・資料の読み方
11. レジュメの作り方・・・課題6
12. レポートの書き方1
13. レポートの書き方2
14. レポートの書き方3・・・課題7
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。毎回の課題作成で、新聞記事やインターネット等で正しい知識を入手し、正しく文章化する作業をしてください。

準備学習(復習)

返却された文章の訂正箇所を確認し、できれば全文書き直しをすることが文章力向上に効果的です。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 宿題と授業への参加度 | 20% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：新井 尚子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100381

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

(2) 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

受講者に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

学びのキーワード

- ・思考力
- ・コミュニケーション
- ・事実と主張

授業計画

01. オリエンテーション・・・課題1
02. 文章の種類
03. 表現のルール1・・・課題2 (説明文を書く)
04. 表現のルール2・・・課題3 (マニュアルを書く)
05. 表現のルール3・・・課題4 (話し言葉と書き言葉)
06. 書く内容を考える1・・・考えの広げ方
07. 書く内容を考える2・・・グループで考える
08. 文章の構成・・・課題5 (主張の伝え方)
09. 知識の入手法1・・・メモの取り方
10. 知識の入手法2・・・文献・資料の読み方
11. レジュメの作り方・・・課題6
12. レポートの書き方1
13. レポートの書き方2
14. レポートの書き方3・・・課題7
15. まとめ

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。毎回の課題作成で、新聞記事やインターネット等で正しい知識を入手し、正しく文章化する作業をしてください。

準備学習(復習)

返却された文章の訂正箇所を確認し、できれば全文書き直しをすることが文章力向上に効果的です。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 宿題と授業への参加度 | 20% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：副田 恵

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100500

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

(2) 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

受講者に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

学びのキーワード

- ・ 表現力
- ・ 論理的思考
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
02. 敬語の基礎
03. 確実な連絡メモ
04. メールの書き方
05. 手紙の書き方
06. 説明のコツ
07. 大学生の調べ方 1
08. 大学生の調べ方 2
09. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

評価方法

(1) 授業への参加度	30%
(2) 試験	35%
(3) 提出物	35%

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A H レポートの提出を絶対条件とする。原則として出席が3分の1を超えた場合は評価しない。

教科書

橋本 寿、稲嶋 健伸、安部 晋世『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』(三省堂) [978-4385363257]
日本語検定委員会『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍) [978-4487806638]

参考書

担当教員：中島 佐和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100501

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

レポートや論文の書き方の基礎を身に付け、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育てることを目標とする。あわせて日本文化への理解を深めたい。

(2) 内容

◆内容◆
 自己紹介、敬語の使い方、手紙の作成などから始め、エッセイやレポート、意見文などを書くことで、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。なるべく多くの文章を書くようにしたい。適宜ドリルなどを併用する。

受講者に対する要望

授業に積極的に参加し、活発に発言してほしい。当然のことだが、どのような場合でも自分自身の意見を発表すること。

学びのキーワード

- ・ 調べる
- ・ 書く
- ・ 読む
- ・ 独自の意見

授業計画

01. ガイダンス／自己紹介
02. 敬語の基礎 (1)
03. 敬語の基礎 (2)
04. 手紙を書く (1) 形式を学ぶ
05. 手紙を書く (2) 恩師に近況報告を出そう
06. 天声人語を読む (1) 書写・難読語・要旨・テーマ
07. 天声人語を読む (2) 表記・構造・故事来歴・風習
08. エッセイを書く (1) テーマの設定・材料の収集
09. エッセイを書く (2) 構成を考えて書く
10. 意見文を書く (1) テーマの設定・材料の収集
11. 意見文を書く (2) 構成を考えて書く
12. レポートの書き方 (1) テーマの設定・材料の収集
13. レポートの書き方 (2) 用語・構成・書式・体裁
14. 自己アピール文を書く
15. まとめ

準備学習(予習)

テーマに沿って材料を収集する。

準備学習(復習)

出された課題をする。
 添削された文章を清書して提出する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 30% |
| (2) 提出物 | 70% |

教科書

参考書

担当教員：幸田 儔朗

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11100650

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【J】表現力・コミュニケーション：会話を伸ばし、的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義は単に話し方のノウハウだけを学ぶものではありません。人に何かを伝える時にはまずは自分の考えを持たなければなりません。様々な社会事象について自分はどう思うという“考える力”を涵養していきます。そして“その考えをことばで形にする力”そして“人前でわかりやすく伝える力”を身につけます。ですから澁みなく流暢に話せる人を育成することが目的ではありません。しっかりと自分の考えや思いがあって、初めてことばは生かされるのです。講義の中で自分の課題を発見し、多くのヒントをみつけて下さい。このような能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきましょう。

(2) 内容

就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。分野を越えて異なる意見や発想に出会い、対話を通じて共通の理解、合意形成を図っていく力です。そのためには相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力が求められます。この講義はそのノウハウを身につけていただくのが目的です。“一定の時間内に、一定の内容を、筋道たてて話せる力”、“パブリックスピーキング能力”です。社会に出てからは勿論、ゼミの発表や就職面接などにも役に立ちます。あわせて、「発音・発声」の音声表現の基本や「敬語」「社会人としてのことば」も学びます。人に何かを伝える場合に、声が聞こえないようなモノローグな話し方ではいくらその内容がよくても相手は聞く気にはなれません。また、自分の考えを伝えるためには豊かなことばの獲得は欠かせない要件です。講義の特長は実践が中心です。毎回、皆さんにあるテーマについてスピーチをしてもらいます。講師は元NHKアナウンサーです。放送で培ったノウハウを紹介しながら皆さんと一緒に講義をすすめていきます。

受講者に対する要望

講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。
 「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。

学びのキーワード

- ・「話しことば」は音のことば
- ・相手意識を持つ
- ・組み立てて話す
- ・テーマを絞って具体的に話す
- ・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力

授業計画

01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは～書きことばと話しことばの違い～
02. 「点検・あなたの話しことば」～自己紹介～
03. 「聞きやすい音声表現」～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～
04. わかりやすく話す(1)～話す順序を工夫しよう～
05. わかりやすく話す(2)～情報の整理と組み立て～
06. わかりやすく話す(3)～説明力を磨く～
07. 「きく力」(1) 傾聴力～人の話を聴きとる時の心構え～
08. 「きく力」(2) 質問力～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～
09. 社会人のことば(1)～敬語の基本 役割と分類～
10. 社会人のことば(2)～間違いやすい日本語・常識のことば～
11. 伝わるスピーチ(1)～思いを具体化する～
12. 伝わるスピーチ(2)～意見・主張を明確にする～
13. 総合実践スピーチ～効果測定(テスト)に備える～
14. 効果測定(期末テスト)～成果を生かし話してみよう!～
15. 講座のまとめ

準備学習(予習)

毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。

準備学習(復習)

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) スキルの理解度 | 30% |
| (2) 実践での評価 | 40% |
| (3) 取り組みの積極性 | 30% |

話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員： 風見 雅章

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 1 授業コード： 11100655

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
【J】表現力・コミュニケーション：会話を伸ばし、的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義は単に話し方のノウハウだけを学ぶものではありません。人に何かを伝える時にはまずは自分の考えを持たなければなりません。様々な社会事象について自分はどう思うという“考える力”を涵養していきます。そして“その考えをことばで形にする力”そして“人前でわかりやすく伝える力”を身につけます。ですから澁みなく流暢に話せる人を育成することが目的ではありません。しっかりと自分の考えや思いがあって、初めてことばは生かされるのです。講義の中で自分の課題を発見し、多くのヒントをみつけて下さい。このような能力は早い段階で身につけておくことが大切です。基礎から始め、一步一步上を目指していきましょう。

(2) 内容

就職の際に企業が皆さんに対し、一番求めている力は「コミュニケーション能力」です。分野を越えて異なる意見や発想に出会い、対話を通じて共通の理解、合意形成を図っていく力です。そのためには相手の話を正確に聴き取る力、そして自分の考えを相手にわかりやすく、的確に伝える力が求められます。この講義はそのノウハウを身につけていただくのが目的です。“一定の時間内に、一定の内容を、筋道たてて話せる力”、“パブリックスピーキング能力”です。社会に出てからは勿論、ゼミの発表や就職面接などにも役に立ちます。あわせて、「発音・発声」の音声表現の基本や「敬語」「社会人としてのことば」も学びます。人に何かを伝える場合に、声が聞こえないようなモノローグな話し方ではいくらその内容がよくても相手は聞く気にはなれません。また、自分の考えを伝えるためには豊かなことばの獲得は欠かせない要件です。講義の特長は実践が中心です。毎回、皆さんにあるテーマについてスピーチをしてもらいます。講師は元NHKアナウンサーです。放送で培ったノウハウを紹介しながら皆さんと一緒に講義をすすめていきます。

受講者に対する要望

講義の中心は実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、互いに積極的な意見交換をお願いします。
「考えをまとめる力」とともに、「人前で発表する力」、つまり、人前で話すことに慣れてもらうことも目的のひとつです。話すことが得意でない人も経験を積んで是非、苦手意識を克服して下さい。

学びのキーワード

- ・「話しことば」は音のことば
- ・相手意識を持つ
- ・組み立てて話す
- ・テーマを絞って具体的に話す
- ・「話す」と「聞く」は表裏一体～要約力

授業計画

01. 「話しことばの基本」 ～パブリックスピーキングとは～書きことばと話しことばの違い～
02. 「点検・あなたの話しことば」～自己紹介～
03. 「聞きやすい音声表現」～日本語の仕組み 発声・発音・音調をチェック～
04. わかりやすく話す(1)～話す順序を工夫しよう～
05. わかりやすく話す(2)～情報の整理と組み立て～
06. わかりやすく話す(3)～説明力を磨く～
07. 「きく力」(1) 傾聴力～人の話を聴きとる時の心構え～
08. 「きく力」(2) 質問力～色々な角度から訊き出そう・的を絞って訊き出そう～
09. 社会人のことば(1)～敬語の基本 役割と分類～
10. 社会人のことば(2)～間違いやすい日本語・常識のことば～
11. 伝わるスピーチ(1)～思いを具体化する～
12. 伝わるスピーチ(2)～意見・主張を明確にする～
13. 総合実践スピーチ～効果測定(テスト)に備える～
14. 効果測定(期末テスト)～成果を生かし話してみよう!～
15. 講座のまとめ

準備学習(予習)

毎回、講義の最後に翌週の講義テーマを伝えるとともに、話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までその準備をしっかりと行ってください。

準備学習(復習)

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、皆さんの理解度によっては同じ内容を繰り返すなど講義の順番を変更することもあります。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) スキルの理解度 | 30% |
| (2) 実践での評価 | 40% |
| (3) 取り組みの積極性 | 30% |

話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価します。

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員：伊世 憲造

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11101409

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

話し方が上手くなるとコミュニケーション能力が高まる。
この講座は原則として、1年生必修の「基礎教育入門（話し方）」で、授業に対する姿勢、成績ともに良好な2年生以上を対象とするハイレベルな実践講座である。「一定時間内に、整理した形で話ができ、その内容を明確に、聞き手に伝えられる応用力」を養うことを目標とする。さらに、正しい日本語で話し、かつ好印象を持ってもらう語り手になるにはどうすべきか考えていく。

(2) 内容

「少し改まった場で話をする際、どう話せばよいのか、そのためには何が必要なのか」を習得する。課題に対する素材の選び方、その素材の組み立て方、具体例は何か、表現は適切か、制限時間を守れたか（例3分）など、講座で録音したスピーチを随時再生しながら、多角的に吟味する実践演習を基本とする。

受講者に対する要望

与えられたテーマについて、自分の意見を持っておくこと。話の素材を集め、まとめ、どう組み立てるのが一番効果的か、時間内におさまるか、声に出して試してみることが重要である。

学びのキーワード

- ・「こんにちは」「ありがとう」挨拶がコミュニケーションの基本
- ・誰に、何を、どう話すか
- ・話を、どう組み立てるのか
- ・時間内にまとめる
- ・自分の好きな言葉を使っているか

授業計画

01. オリエンテーション あがり症、なまり等の悩み解決法
02. 自己紹介・相手を語る …… 印象づける内容と話し方
03. 発音、発声の基礎 …… 正しい声の出し方 魅力ある話し
04. 声は顔をつくる。笑顔で話そう！ …… 職業による話し方の違い
05. 愛を語ろう！ プロポーズ大作戦
06. 敬語と謙譲語の確認と実践
07. 改まった場での話 …… 結婚式の祝辞
08. 改まった場での話 …… 事故や災害にあった人、お年寄りと話した場合
09. プレゼンテーション …… 商品・企画書
10. プレゼンテーション …… 自己アピール とアメリカ大統領就任演説の比較
11. 新聞5紙の読み比べ …… 批判する話し方のコツ
12. 司会者になってみよう！
13. ラジオ・DJになってみよう！
14. ディベート …… 異なる立場で議論しあう
15. 課題スピーチ 積み重ねた力を全開する まとめ

準備学習(予習)

話す内容を事前にメモでまとめ、声に出して 時間を計るなどの下準備。
さらに、授業の前には、発生練習、早口言葉の反復など話すウォーミングアップが必要。

準備学習(復習)

教室での実践で指摘された点を生かし、どうまとめるか、再度スピーチして欲しい。反復が上達のコツである。
合わせて、好奇心をもって前に進み、自分の意見を持ち、話のテーマになりそうなことを探してみることも大切である。また自分をどうアピールできるか、日ごろからメモにまとめておくとなかなか非常に役に立つ。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 講義ごとの実践 | 40% |
| (2) 授業に対する姿勢 | 10% |
| (3) 課題スピーチ | 50% |

課題スピーチを重く見るのは当然としても、毎回の講義での実践も重要である。

教科書

特定の教科書は使用しない

参考書

担当教員：堀川 裕介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101700

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】 小学校教諭一種：必修科目
- 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | <small>・授業内課題で最も重要な評価項目として設定されている。
・授業内課題の成績は20%の割合で評価される。</small> |
| (2) 中間試験 | 15% | ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 15% | エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |

- ・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101705

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】 小学校教諭一種：必修科目
- 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | <small>・授業内課題で最も重要な評価項目として設定されている。
・授業内課題の成績は20%の割合で評価される。</small> |
| (2) 中間試験 | 15% | ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 15% | エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |

- ・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101710

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に終わられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | <small>・授業内課題で最も重要な評価項目として設定されている。
・授業内課題の成績は20%の割合で評価される。</small> |
| (2) 中間試験 | 15% | ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 15% | エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |

- ・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101715

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

- ・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
- ・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。
- ・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | <small>・授業内課題で個人と個人または個人と講師間で、授業計画の進捗を確認し、必要に応じて調整を行う。</small> |
| (2) 中間試験 | 15% | <small>ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。</small> |
| (3) 期末試験 | 15% | <small>エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。</small> |

- ・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。
- ・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101720

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

(2) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的な理解
- ・情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成|【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題|【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集|【情報社会】
09. エクセル|表の編集|【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷|【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

- (1) 課題 (テスト) 100%

教科書

ウイネット『Excel2010クイックマスター 基本編』(ウイネット)【978-4872846652】
 ウイネット『Word2010クイックマスター 基本編』(ウイネット)【978-4872846645】

参考書

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101725

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】 小学校教諭一種：必修科目
- 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

(2) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・ パソコン
- ・ オフィス系ソフト
- ・ 情報活用の実践力
- ・ 情報の科学的な理解
- ・ 情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成|【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成|【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題|【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集|【情報社会】
09. エクセル|表の編集|【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷|【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

(1) 課題 (テスト) 100%

教科書

ウイネット 『Excel2010クイックマスター 基本編』(ウイネット)【978-4872846652】
 ウイネット 『Word2010クイックマスター 基本編』(ウイネット)【978-4872846645】

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101730

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

(2) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で学習するアプリケーションやサービスについて簡単に下調べをするための課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101735

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

(2) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で学習するアプリケーションやサービスについて簡単に下調べをするための課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

担当教員：鈴木 省吾

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101740

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。

この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるようにする。

(2) 内容

現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

受講者に対する要望

継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。

授業では、わからないことを分らないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

学びのキーワード

- ・実習課題の完成
- ・ビジネスソフト操作の精通
- ・教えあい
- ・積極的な参加

授業計画

01. イントロダクション、ワードの概略
02. ワード文書作成の基本
03. ワードにおける作表
04. ワードオブジェクトの利用
05. ワード高度な編集
06. ワード総合問題
07. エクセルの概略、エクセル入力の基本
08. エクセルでの作表・表計算
09. エクセル関数の利用
10. エクセルデータベース機能の利用
11. ワードとエクセルの連携
12. エクセル総合問題
13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成
14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用
15. パワーポイント総合問題

準備学習(予習)

授業で出された課題の反復練習。

準備学習(復習)

毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。

評価方法

(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

教科書

参考書

担当教員： 鈴木 省吾

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 11101745

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション：文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】 小学校教諭一種：必修科目
- 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。

この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるようにする。

(2) 内容

現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

受講者に対する要望

継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。

授業では、わからないことを分らないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

学びのキーワード

- ・ 実習課題の完成
- ・ ビジネスソフト操作の精通
- ・ 教えあい
- ・ 積極的な参加

授業計画

01. イントロダクション、ワードの概略
02. ワード文書作成の基本
03. ワードにおける作表
04. ワードオブジェクトの利用
05. ワード高度な編集
06. ワード総合問題
07. エクセルの概略、エクセル入力の基本
08. エクセルでの作表・表計算
09. エクセル関数の利用
10. エクセルデータベース機能の利用
11. ワードとエクセルの連携
12. エクセル総合問題
13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成
14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用
15. パワーポイント総合問題

準備学習(予習)

授業で出された課題の反復練習。

準備学習(復習)

毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。

評価方法

(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

教科書

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101750

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】 小学校教諭一種：必修科目
- 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

(2) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ ノートパソコン
- ・ エクセル
- ・ グラフ
- ・ 表
- ・ ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、課題ができていないかを評価する。 |
| (3) 総合課題 | 30% | 15回目にコンピュータを使った総合課題を行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101755

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

(2) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、課題ができていないかを評価する。 |
| (3) 総合課題 | 30% | 15回目にコンピュータを使った総合課題を行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101760

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける
 【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る
 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

(2) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、課題ができていないかを評価する。 |
| (3) 総合課題 | 30% | 15回目にコンピュータを使った総合課題を行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：幸田 儔朗

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11101850

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義は初対面の他人（例えば面接官、同僚、顧客など）に対してきちんと自己表現できる力を磨くものです。「就職対策」に特化した内容にはなっていますが、広い意味で「オーラルコミュニケーション（話しことばによる意思疎通）」の向上に繋がる講義です。口頭による音声言語表現は文系理系を問わずあらゆる分野の問題解決に不可欠のものです。一方で文字言語とは異なり曖昧で不確実になりがちです。さらには相互性や瞬発力も求められ、それなりのトレーニングが必要です。ことばで表現する行為は実は「考えること」に他なりません。講義の中では「ものの見方・考え方」などの発想法、それを発表する時の「分かりやすい伝え方」など論理展開やプレゼンの技法も実践的なトレーニングを通して身に付けてゆきます。目標は、自分の考えや意見を他人に対して過不足なく口頭で伝えることができることと同時に、他人の話にきちんと耳を傾ける能力を身につけることです。学生たちが自信を持って自分を表現できることを目指します。

(2) 内容

この講義では新3年生を対象にして「就職活動に役立つ話し方」を学びます。とりわけ面接試験の際に求められる「説明力」と「対応力」を磨くために、実践的な表現トレーニングを行います。「新入社員の選考で最も重視する点」は、「コミュニケーション能力」とする企業は経済団体の調査でも80%に上ります。「話す力」「聞く力」「答える力」を通して多面的な対応力と構想力の向上を求めていることが分かります。対面で行う面接試験は人間性を含めて直接本人の能力を確かめる場であり、質問の意図を受け止めて的確にコミュニケーションできるか否かが試されます。そこでは「自分の考えを的確に伝える」「相手の発言を聞く」「意見の違いを知る」それらを踏まえて「互いに問題解決を図る」という能力が求められます。この講義では「面接」の意義を知った上で「説得力ある話し方」や、最近多くの企業が取り入れている「集団討論」のノウハウ、「小論文」の留意点、など、就職活動に直接役立つ言葉表現を実践的に学んでいきます。さらに、社会に出て必要とされる常識としての「敬語・熟語」、更には「時事問題」なども素材として取り上げ、広い視野をもって自己表現できるよう実践演習します。また自己点検の方法として随時、録音・録画を行い検証します。

受講者に対する要望

随時、各自の発表を録音・録画し、全員で視聴点検をします。受講生は積極的な意見交換をお願いします。他人の話をしっかり聞くことが自分の話し方の向上に繋がります。発表者の話に耳を傾けることが重要です。段階を踏む講義の性格上、欠席は効果を半減させますので無欠席をお願いします。

学びのキーワード

- ・「ことば表現」は自分の考えを明確にしてくれる
- ・話しことばコミュニケーションは問題解決の近道
- ・分かりやすく話すには整理と組み立てが必要
- ・相手の話をよく聞くことが自分の表現向上につながる
- ・「ことば表現」は意味、感情、そして人間性を伝える

授業計画

01. ことばによる自己表現とは ～情報の整理と組み立て～
02. 点検！自己紹介 ～各自の話し方を点検～
03. 模擬面接 ① 自分の長所短所を分析する ～自己PR～
04. 模擬面接 ② 自分の成長の糧を知る ～学生生活で得たもの～
05. 模擬面接 ③ 自分と社会の動きを関連付ける ～社会的関心事～
06. 模擬面接 ④ 自分がしたい仕事を明確にする ～志望理由～
07. 模擬面接 ⑤ 自分を売り込む材料をもつ ～セールスポイントの伝え方～
08. 模擬面接 ⑥ 自分の変わり目に気づく ～ターニングポイントの伝え方～
09. 小論文と面接の関係からみた話の組立て ～話材の発想と構成・表現法～
10. 集団討論 ① ～テーマ 「(例)リーダーの条件」～
11. 集団討論 ② ～テーマ 「自由課題」～
12. 要約と主張 ① 文章素材を話しことばで伝える ～課題を要約し解析 「読み解く・主張する」～
13. 要約と主張 ② 内容の共有と質疑応答 ～問題を解決 「話し合う」～
14. まとめ模擬面接 ① ことばの常識・時事用語などを点検 ～社会に必要な言葉遣い～
15. まとめ模擬面接 ② 本番に臨むために ～テーマ「私のやりたい仕事」～

準備学習(予習)

毎回、講義の最後に翌週の授業内容の概要を伝え、実践トレーニングは話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日までに話材を選択し準備をしっかりと行ってください。特に事前に一度は音声化して表現してみることが大切です。

準備学習(復習)

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、理解度によっては同じ内容を繰り返すこともあります。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) スキルの理解度 | 30% |
| (2) 実践演習での評価 | 40% |
| (3) 取り組みの積極性 | 30% |

話し方スキルの理解度、進歩度や毎回の授業参加の積極性などから評価する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001AA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 What's your name?
03. Unit 1 What's your name?
04. Unit 2 I love fashion!
05. Unit 2 I love fashion!
06. Unit 3 How do you stay healthy?
07. Unit 3 How do you stay healthy?
08. Unit 4 How do I get there?
09. Unit 4 How do I get there?
10. Unit 5 What's that?
11. Unit 5 What's that?
12. Unit 6 What's your dream?
13. Unit 6 What's your dream?
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 It was great!
17. Unit 7 It was great!
18. Unit 8 How much do you know?
19. Unit 8 How much do you know?
20. Unit 9 She can really sing!
21. Unit 9 She can really sing!
22. Unit 10 What do you like to do?
23. Unit 10 What do you like to do?
24. Unit 11 Of course you can.
25. Unit 11 Of course you can.
26. Unit 12 What happened next?
27. Unit 12 What happened next?
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくる。また宿題は必ずやってくる。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

※ ハールゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Student Book with CDs』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3058-1】

参考書

※ ハールゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Workbook』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3070-3】

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001AB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるSpeaking やListeningの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、課題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing people
06. Unit 3 In a classroom
07. Unit 3 In an electronics store
08. Unit 4 Everyday activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. スピーキングテスト #1
16. Unit 7 Free time activities
17. Unit 7 Popular sports
18. Unit 8 Life events
19. Unit 8 Plans for the weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV programs
22. Unit 10 Health problems
23. Unit 10 Getting better
24. Unit 11 On vacation
25. Unit 11 Past events
26. Unit 12 Telephone language
27. Unit 12 Things to do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. スピーキングテスト #2
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習しておくこと。また宿題は必ずやっておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|--------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 40% | (スピーキングテスト、期末試験終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001CA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を求める

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ プレゼンテーション
- ・ 発音
- ・ 文法

授業計画

01. Orientation & Pre-test
02. Unit 1 What's your name? 自己紹介
03. Unit 1 Exchanging Information
04. Unit 2 I love fashion Describing Clothing
05. Unit 2 I love fashion Talking about fashion
06. Unit 3 How do you stay healthy? Giving advice for health
07. Unit 3 How do you stay healthy? Talk about your ideas for health and happiness.
08. Test #1 (Units 1 ~ 3) | Unit 4 How do I get there? Giving directions.
09. Unit 4 How do I get there? Talk about your hometown. (small presentation)
10. Unit 5 What's that? Describing objects and use.
11. Unit 5 What's that? Talk about the special gifts.
12. Unit 6 What's your dream? Talk about your plans and possibilities
13. Unit 6 What's your dream? Talk about your future plan.
14. Unit 7 : It was great! Talking about the past events.
15. Speaking Test #1
16. Unit 7 It was great! Are you a lucky person or an unlucky person?
17. Unit 8 How much do you know? Comparing and contrasting.
18. Unit 8 How much do you know? Describe your pets or your favorite animals.
19. Unit 9 She can really sing! Talk about your abilities.
20. Unit 9 She can sing! Talking about challenging events.
21. Test #3 (Units 7 ~ 9) | Unit 10 What do you like to do? Expressing likes and dis likes.
22. Unit 10 What do you like to do? Talking about your vacation.
23. Unit 11 Of course you can. Talking about things you should do and shouldn't.
24. Unit 11 Of course you can do it! Talking about rules for your house or school.
25. Unit 12 What happened next? Create stories.
26. Unit 12 What happened next? Presenting your story.
27. Unit 12 Presenting your story.
28. Review
29. Speaking Test
30. 総まとめ

準備学習(予習)

課題はテキストの予習「文法、語彙」の学習。

準備学習(復習)

課題、テキスト会話のスピーキング練習

評価方法

- | | | |
|--------------------|------|--------------------|
| (1) 積極的な授業参加 | 10 % | 毎回の積極的な授業参加を期待したい。 |
| (2) 課題 | 10 % | |
| (3) 小テスト (3回) | 30 % | |
| (4) スピーキングテスト (2回) | 20 % | |
| (5) 期末試験 | 30 % | |

教科書

M. ハールゲン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Student Book with CDs』 (Pearson Japan) [978-988-003058-1]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001CB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、宿題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-Testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット(特に単語や文法)に目を通しておく。(30分)

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。宿題のプリントをやる。(60分)

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 小テスト、宿題、参加態度など |
| (2) 定期試験 | 60% | 期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-Testのスコア |

教科書

Susan Stempleski/Lynne Robertson [Talk Time 1 Student Book with Audio CD] (Oxford University Press) [978-0194392891]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001DA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 What's your name?
03. Unit 1 What's your name?
04. Unit 2 I love fashion!
05. Unit 2 I love fashion!
06. Unit 3 How do you stay healthy?
07. Unit 3 How do you stay healthy?
08. Unit 4 How do I get there?
09. Unit 4 How do I get there?
10. Unit 5 What's that?
11. Unit 5 What's that?
12. Unit 6 What's your dream?
13. Unit 6 What's your dream?
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 It was great!
17. Unit 7 It was great!
18. Unit 8 How much do you know?
19. Unit 8 How much do you know?
20. Unit 9 She can really sing!
21. Unit 9 She can really sing!
22. Unit 10 What do you like to do?
23. Unit 10 What do you like to do?
24. Unit 11 Of course you can.
25. Unit 11 Of course you can.
26. Unit 12 What happened next?
27. Unit 12 What happened next?
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくる。また宿題は必ずやってくる。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

※ ハールゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Student Book with CDs』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3058-1】

参考書

※ ハールゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Workbook』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3070-3】

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001DB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listening の練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また必ず課題、宿題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット（特に単語、文法）に目を通しておく。(30分)

準備学習(復習)

授業で学んだ表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。宿題のプリントをやる。(60分)

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 60% (期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-Testのスコア) |

教科書

Susan Stempleski [Talk Time 1 Student Book with Audio CD] (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001JA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【G】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

受講者に対する要望

基本的に毎回出席し、積極的に会話演習に参加することを期待する

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ コミュニケーション
- ・ 発音
- ・ 文法

授業計画

01. プリテスト、授業概要の説明、Unit 0 (クラスメート、先生について)
02. Unit 1: お互いについて質問する・答える|
03. Unit 1: お互いについてのインタビュー・リスニング・まとめ
04. Unit 2: ファッションについて話す
05. Unit 2: 装いについて述べる・モデルについて話す
06. Unit 3: 健康の秘訣について話す
07. Unit 3: 幸せになるための秘訣について話し合う
08. Listening Test #1 (units 1~3), Unit 4: 場所の尋ね方・教え方を学ぶ
09. Unit 4: 場所の説明・行き方の説明
10. Unit 5: 物を説明する(材質・使い方)
11. Unit 5: 特別なもの(贈り物)を説明する
12. Unit 6: 自分の夢について語る
13. Unit 6: 予定について話す・将来のプラン・夢について話す
14. Speaking Test #1
15. Listening Test #2 (Units 4 - 6), Unit 7: 過去の出来事について話す
16. Unit 7: 過去の出来事について話す
17. Unit 8: 動物や自然について話す
18. Unit 8: 動物や自然について話す・比べる|
19. Unit 9: 自分の特技について話す
20. Unit 9: 自分ができることについて話す
21. Listening Test #3 (Units 7-9), Unit 10: 好きなアクティビティについて話す
22. Unit 10: 好きなこと・嫌いなことについて話す・行事への誘い方を学ぶ
23. Unit 11: 日々のルールについて話す
24. Unit 11: やらなくてはならないこと・やらなくても良いことについて
25. Unit 12: テレビや映画についての感想
26. Unit 12: 短いストーリーを話す(映画・テレビ・マンガ・小説)
27. Listening Practice, 復習
28. Speaking test対策
29. Speaking Test #2 (Units 7 - 12)
30. まとめ

準備学習(予習)

テキストの各章にある「文法、語彙」を予習しておくこと。

準備学習(復習)

テキストの会話を何度も練習し、Language Check を復習しておくこと

評価方法

- | | | |
|-----------------------|-----|---|
| (1) 平常点 (積極的な参加と授業活動) | 10% | 宿題や課題には授業初めにスタンプを押します。欠席は8回を超えると単位が取得できません。 |
| (2) 課題 | 10% | |
| (3) 小テスト (3回) | 30% | |
| (4) スピーキングテスト (2回) | 20% | |
| (5) 総まとめのテスト | 30% | |

教科書

M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア『English Firsthand Success』(ピアソン・エデュケーション) [978-9880030581]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001JB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing people
06. Unit 3 In a classroom
07. Unit 3 In an electronics store
08. Unit 4 Everyday activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 Free time activities
17. Unit 7 Popular sports
18. Unit 8 Life events
19. Unit 8 Plans for the weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV programs
22. Unit 10 Health problems
23. Unit 10 Getting better
24. Unit 11 On vacation
25. Unit 11 Past events
26. Unit 12 Telephone language
27. Unit 12 Things to do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくること。また宿題は必ずやってくること。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

Susan Stempleski [Talk Time 1 Student Book with Audio CD] (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001JC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット(特に単語や文法)に目を通しておく。(30分)

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。 課題のプリントをやる。(60分)

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 60% (期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-testのスコア) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press) [978-0194392891]

参考書

担当教員：M. サベット

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001SA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

(2) 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

受講者に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

学びのキーワード

- ・ Communication
- ・ Strategies
- ・ Culture
- ・ Fluency
- ・ Interaction

授業計画

01. Class policy and course introduction
02. Module 1: Personal information
03. Exchanging personal information about self and family
04. Exchanging personal information about school and work
05. Exchanging personal information about friends
06. Summary and review
07. Module Two: Personality traits
08. Talking about personality traits
09. Discussing how we relate to others
10. Discussing how we relate to others
11. Summary and review
12. Module Three: Routines
13. Talking about daily routines
14. Talking about what we do for fun
15. Talking about what we do for fun
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module Four: Expressing opinions and preferences
20. Making comparisons and stating opinions
21. Making comparisons and stating opinions
22. Making comparisons and stating opinions
23. Summary and review
24. Module Five: Asking for and giving advice: making requests
25. Asking for and giving advice when facing difficulty
26. Making requests
27. Making requests
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

準備学習(予習)

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

準備学習(復習)

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

評価方法

(1) Participation	40%
(2) Homework	30%
(3) Presentations	30%

教科書

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001WA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、宿題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: Meeting People
03. Unit 1 : Countries and nationalities
04. Unit2 : Family
05. Unit 2 : Describing People
06. Unit 3 : In a Classroom
07. Unit 3 : In an Electronics Store
08. Unit 4 : Everyday Activities
09. Unit 4 : Places
10. Unit 5 : Foods and Drinks
11. Unit 5 : Snacks
12. Unit 6 : Housing
13. Unit 6 : In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 : Free Time Activities
17. Unit 7 : Popular Sports
18. Unit 8 : Life Events
19. Unit 8 : Plans for the Weekend
20. Unit 9 : Movies
21. Unit 9 : TV Programs
22. Unit 10 : Health Problems
23. Unit 10 : Getting Better
24. Unit 11 : On Vacation
25. Unit 11 : Past Events
26. Unit 12 : Telephone Language
27. Unit 12 : Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット（特に単語や文法）に目を通しておく。（30分）

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。宿題のプリントをやる。（60分）

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 小テスト、宿題、参加態度など |
| (2) 定期試験 | 60% | 期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-testのスコア |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson [Talk Time 1 Student Book with Audio CD] (Oxford University Press) [978-0194392891]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：112001WB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
 【C】小学校教諭一種：必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing people
06. Unit 3 In a classroom
07. Unit 3 In an electronics store
08. Unit 4 Everyday activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 Free time activities
17. Unit 7 Popular sports
18. Unit 8 Life events
19. Unit 8 Plans for the weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV programs
22. Unit 10 Health problems
23. Unit 10 Getting better
24. Unit 11 On vacation
25. Unit 11 Past events
26. Unit 12 Telephone language
27. Unit 12 Things to do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくること。また宿題は必ずやってくること。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

Susan Stempleski [Talk Time 1 Student Book with Audio CD] (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：112002AA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 It's nice to meet you.
03. Unit 1 It's nice to meet you.
04. Unit 2 Who are they talking about?
05. Unit 2 Who are they talking about?
06. Unit 3 When do you start?
07. Unit 3 When do you start?
08. Unit 4 Where does this go?
09. Unit 4 Where does this go?
10. Unit 5 How do I get there?
11. Unit 5 How do I get there?
12. Unit 6 What happened?
13. Unit 6 What happened?
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 I'd love that job.
17. Unit 7 I'd love that job.
18. Unit 8 What's playing?
19. Unit 8 What's playing?
20. Unit 9 What are you going to do?
21. Unit 9 What are you going to do?
22. Unit 10 How much is this?
23. Unit 10 How much is this?
24. Unit 11 How do you make it?
25. Unit 11 How do you make it?
26. Unit 12 Listen to the music.
27. Unit 12 Listen to the music.
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくること。また宿題は必ずやってくること。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 Student Book with CDs』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3059-8】

参考書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 Workbook』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3071-0】

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112002AB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができるようにする。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの習得に重点をおき、実践的なテーマにおける口語表現や正しい発音を学び、会話練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、課題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 文法、語彙力の強化

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Jobs
03. Unit 1 Daily activities
04. Unit 2 Current activities
05. Unit 2 Feelings
06. Unit 3 People we admire
07. Unit 3 Cities
08. Unit 4 On the weekend
09. Unit 4 On vacation
10. Unit 5 Entertainment
11. Unit 5 Music
12. Unit 6 A city square
13. Unit 6 Public transportation
14. まとめ (Unit 1-6)
15. スピーキングテスト #1
16. Unit 7 At a supermarket
17. Unit 7 Clothes and colors
18. Unit 8 Shops and stores
19. Unit 8 Places around town
20. Unit 9 Hobbies
21. Unit 9 Indoor exercise
22. Unit 10 Travel plans
23. Unit 10 Trip preparations
24. Unit 11 Quantities
25. Unit 11 Cooking
26. Unit 12 Job skills
27. Unit 12 Artistic talents
28. まとめ (Unit 7-12)
29. スピーキングテスト #2
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくる。また宿題は必ずやってくる。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|--------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 40% | (スピーキングテスト、期末試験終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time 2 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press) [978-0-19-439291-4]

参考書

担当教員： M. サベット

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 112002SA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

(2) 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

受講者に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

学びのキーワード

- ・ Communication
- ・ Strategies
- ・ Culture
- ・ Fluency
- ・ Discussion

授業計画

01. Class policy and course introduction
02. Module 1: Discussing past experiences
03. Talking about past experiences, memories, and vacations
04. Talking about personal history
05. Talking about personal history
06. Summary and review
07. Module 2: Home lifestyles
08. Talking about cities, neighborhoods, and living environments
09. Comparing neighborhoods and living environments
10. Comparing neighborhoods and living environments
11. Summary and review
12. Module 3: Culture and tradition
13. Talking about cultures, values, and traditions
14. Talking about cultures, values, and traditions
15. Talking about cultures, values, and traditions
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module 4: Global issues
20. Talking about local and global issues
21. Talking about local and global issues
22. Talking about local and global issues
23. Summary and review
24. Module 5: Future plans
25. Discussing near future plans
26. Discussing long term plans and goals
27. Discussing long term plans and goals
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

準備学習(予習)

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

準備学習(復習)

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

評価方法

(1) Participation	40%
(2) Homework	30%
(3) Presentations	30%

教科書

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：1 授業コード：11200310

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

立場や場面に応じた英語表現を学習する。自然な速度で話される短い会話を聞き取り、意味を理解する。映画に映し出されるポップカルチャー、教育、人間関係について、簡単な英語で意見を述べられるよう、指導していく。授業以外でも自主的に映画を見て英語学習に取り組む姿勢を育てる。

(2) 内容

映画School of Rockを教材にして、リスニング／語彙／会話表現を中心に学習する。また、スクリーンブックを読み、場面描写に使われる表現を学ぶ。

受講者に対する要望

会話練習、語彙表現の習得に積極的に取り組む。授業プリントの復習をしっかりと行う。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・スピーキング
- ・語彙
- ・異文化

授業計画

01. オリエンテーション、映画の前半(chapters 1~5)の視聴
02. Chapter 1
03. Chapter 2
04. Chapter 3
05. Test 1, Chapter 4
06. Chapter 4
07. Chapter 5
08. 映画の後半(chapters 6~10)の視聴 Chapter 6
09. Chapter 6
10. Test 2, Chapter 7
11. Chapters 7/8
12. Chapter 9, 10
13. Test 3, ロールプレイの練習
14. ロールプレイの発表
15. 総まとめ

準備学習(予習)

プリントで指示された語句の意味を調べる。

準備学習(復習)

授業で学習した会話表現／語彙の確認。

評価方法

- | | |
|----------|----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 積極的な授業への参加と貢献、宿題、小テスト |
| (2) 期末試験 | 50% 語彙・会話表現・映画の内容、登場人物について |

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セルフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ) [978-4894073847]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11200350

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すとともに、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

(2) 内容

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

受講者に対する要望

辞書を必ず授業に持参すること。
復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・英語表現 / 会話
- ・アメリカ文化
- ・語彙

授業計画

01. 授業オリエンテーション、映画鑑賞 (Ch. 1-5)
02. Chapter 1: Serving Society
03. Chapter 2: The Man
04. Chapter 3: Required Class Project
05. 小テスト (Chapters 1~3), Chapter 4: Creating Musical Fusion
06. Chapter 4: Creating Musical Fusion
07. Chapter 5 Ticked Off
08. 映画鑑賞 (Ch. 6-10)
09. Chapter 6: Field Trip
10. 小テスト (Chapter 4 ~ 6), Chapter 7: Stevie Nicks
11. Chapter 7: Stevie Nicks / Chapter 8: A Fraud
12. Chapter 8: A Fraud / Chapter 9: One Great Rock Show
13. 小テスト (Chapters 7 ~ 9), Chapter 10: Encore
14. 期末試験に向けた総復習、課題発表
15. まとめ

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておく。意味の分からない語彙や表現を辞書を使って調べておく。

準備学習(復習)

学習したチャプターの復習問題（授業内で配布）に取り組む。授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験、中間試験 | 50% | |

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セルフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ) [978-4894073847]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11200355

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

映画を鑑賞しながらリスニング力の向上を目指すとともに、様々な英語表現や文法なども学習する。またロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

(2) 内容

映画を授業に取り入れ、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

受講者に対する要望

辞書は必ず持参すること。
復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・英語表現／会話
- ・アメリカ文化
- ・語彙
- ・文法

授業計画

01. オリエンテーション／映画鑑賞 (Ch.1-5)
02. Chapter 1 Serving Society
03. Chapter 2 The Man
04. Chapter 3 Required Class Project
05. Chapter 4 Creating Musical Fusion
06. Chapter 5 Ticked Off
07. 映画前半部のふりかえり
08. 映画鑑賞 (Ch.6-10)
09. Chapter 6 Field Trip
10. Chapter 7 Stevie Nicks
11. Chapter 8 A Fraud
12. Chapter 9 One Great Rock Show & Chapter 10 Encore
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション&review
15. まとめ

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した英語表現、語彙、文法項目などを必ず復習すること。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験、中間試験 | 50% | |

教科書

マイク・ホワイト、高瀬 文広 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーン・プレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ) [978-4894073847]

参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：1 授業コード：11200410

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

映画を通してさまざまな英語表現を学び、大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。文化背景についても学ぶ。

(2) 内容

イギリスの映画を用い、リスニング・スピーキング・読解・語彙練習を行う。

受講者に対する要望

リスニング問題に取り組む、声に出して英語を読む、ペアワークを行う。以上のアクティビティに積極的に参加して下さい。

学びのキーワード

- ・ 語彙・文法
- ・ リスニング
- ・ スピーキング
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション、1～3章の映画視聴
02. 第1章
03. 第2章
04. 第3章
05. 小テスト、4～6章の映画視聴
06. 第4章
07. 第5章
08. 第6章
09. 小テスト、7～10章の映画視聴
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章
13. 小テスト、第10章
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

前もってテキストで学習箇所のあらすじを理解してくる。語彙プリントを事前に学習しておく。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への参加・貢献 |
| (2) 宿題 | 20% | 各チャプターの語彙プリント |
| (3) 小テスト | 15% | |
| (4) 発表 | 10% | |
| (5) 期末試験 | 35% | |

宿題は毎回授業開始時にチェックします。
小テストは採点して返却します。
発表は英語音声の映画作品についてプレゼンテーション（日本語または英語）をしてもらいます。

教科書

亀山 次『アバウト・ア・ボーイ（名作映画完全セルフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）【978-4894073432】

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：1 授業コード：11200430

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

映画に出てくるさまざまな英語表現と文化背景について学ぶ。LL機能を用い聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

(2) 内容

イギリスの映画を通して、英語のコミュニケーション能力を養う。

受講者に対する要望

授業だけでは十分ではないので、家でも何度もDVDを聴いてセリフを覚えられるくらいにする。映画のスク립トを声に出して読んでみたり役になりきって演じてみるなど積極的に勉強してください。

学びのキーワード

- ・ イギリス英語
- ・ リスニング力
- ・ 発音練習
- ・ 会話表現
- ・ 異文化理解

授業計画

01. オリエンテーション、1～5章の映画視聴と感想
02. 第1の練習問題
03. 第2の練習問題
04. 第3の練習問題
05. テスト1 (1～3章のまとめ) | 4章の練習問題
06. 第4の練習問題の続き
07. 第5の練習問題
08. 6～10章の映画視聴と感想, 6の練習問題
09. 第6章の練習問題 |
10. テスト1 (4～6章のまとめ), | 第7章の練習問題 |
11. 第8の練習問題
12. 第9章の練習問題
13. 第10の練習問題
14. テスト3 (7～9章のまとめ) と、まとめ
15. まとめ

準備学習(予習)

語彙プリントを事前に学習しておく。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------------|
| (1) 授業参加への積極性 | 10% | 授業中の作業に積極的に取り組む。ペアワークを積極的にこなす。 |
| (2) 宿題 | 20% | 各チャプターの語彙プリント |
| (3) 小テスト | 30% | 3回のテストの平均点 |
| (4) 期末試験 | 30% | |
| (5) 会話の発音テスト | 10% | 会話を暗唱でき、発音・イントネーションが流暢であるかどうか |

ドラマの会話を暗記してペアで発表してもらったり、発音記号の読み方を覚えて発音の練習も授業に取り入れていきます。

教科書

亀山 次『アバウト・ア・ボーイ (名作映画完全セリフ集スクリーン・プレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ) [978-4894073432]

参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：1 授業コード：11200440

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

映画を通してさまざまな英語表現を学び、大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。文化背景についても学ぶ。

(2) 内容

イギリスの映画を用い、リスニング・スピーキング・読解・語彙練習を行う。

受講者に対する要望

リスニング問題に取り組む、声に出して英語を読む、ペアワークを行う。以上のアクティビティに積極的に参加して下さい。

学びのキーワード

- ・ 語彙・文法
- ・ リスニング
- ・ スピーキング
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション、1～3章の映画視聴
02. 第1章
03. 第2章
04. 第3章
05. 小テスト、4～6章の映画視聴
06. 第4章
07. 第5章
08. 第6章
09. 小テスト、7～10章の映画視聴
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章
13. 小テスト、第10章
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

前もってテキストで学習箇所のあらすじを理解してくる。語彙プリントを事前に学習しておく。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への参加・貢献 |
| (2) 宿題 | 20% | 各チャプターの語彙プリント |
| (3) 小テスト | 15% | |
| (4) 発表 | 10% | |
| (5) 期末試験 | 35% | |

宿題は毎回授業開始時にチェックします。
小テストは採点して返却します。
発表は英語音声の映画作品についてプレゼンテーション（日本語または英語）をしてもらいます。

教科書

亀山 次『アバウト・ア・ボーイ（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）（スクリーンプレイ）【978-4894073432】

参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1120051U

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英文読解を通して基本的な語彙・文法事項を学習し、大学生として必要な英語読解力を養成する。英文を読む楽しさを味わい、教科書以外の本を自ら選んで読む方向へ導く。

(2) 内容

事実に基づいて書かれた英文を読み、内容理解のための問題演習を行う。読解に必要な文法事項を確認し、練習問題を行う。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・読解
- ・文法
- ・多読（ブックレポート）

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 1: Puppy Love
03. Unit 2: Surprise! It's Your Wedding!
04. Unit 3: Bad News, Good News
05. Unit 4: The Twins of Siam
06. Review
07. Unit 5: The Baby Exchange
08. Unit 6: The Ghost
09. Unit 7: Why Can't They Quit?
10. Review
11. Unit 8: Everybody's Baby
12. Unit 9: Pay It Forward
13. Unit 10: Please Pass the Bird Brains
14. Review
15. まとめ

準備学習(予習)

ワークシートに従って授業で学習予定のユニットのボキャブラリー・内容理解の予習を行う。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (宿題、ブックレポート、小テスト、参加態度) |
| (2) 定期試験 | 50% |

教科書

Sandra Heyer 『More TRUE STORIES』(PearsonLongman) 【978-0138143428】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1120052L

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基礎文法の復習、語彙表現の学習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、基本文法、語彙表現などを学習する。また、英語らしい発音、イントネーションで英文を読めるように、音読練習を行う。文中に出てきた文化や発話の発想などについて考える。

受講者に対する要望

辞書を引くのも大切な勉強です。事前にわからない語句表現は調べておくこと。授業に辞書を持参すること。積極的に発言してください。

学びのキーワード

- ・ 英語の基礎文法 |
- ・ 語彙表現
- ・ 音読
- ・ 読解
- ・ ブックレポート

授業計画

01. クラスガイダンス、プリントを使っての英語学習
02. Unit1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit4: A Problem with Monkeys、 文法：現在進行形、小テスト
06. Units 5: Looking for Love 文法：過去形
07. Unit5: Looking for Love 文法：過去形
08. Unit6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit7: Two Happy Men、 文法：前置詞、小テスト
10. Units 8: Alone for 43 Years 文法：受動態8
11. Unit9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
13. Unit10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級） テス
14. Unit 10, 復習
15. 総まとめ

準備学習(予習)

授業で学習するUnitの英単語の意味を事前に調べておくこと。
音読の練習。

準備学習(復習)

授業で配布するプリントの復習。特に語彙の暗記と英文法の復習を行うこと。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業への積極的な参加、宿題、小テスト、ブックレポート |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

Sandra Heyer 著 『Easy True Stories: A Picture-based Beginner Reader.』(PearsonJapan出版) [978-0801310896]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1120055U

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現や文法を学習しながら、大学生として必要な英語読解力を養成する。

(2) 内容

様々なスタイルの英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。またテキストを通して異文化への理解も深めていく。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートの説明、プリテストの実施
02. Unit 1 Dish Soap for Dinner
03. Unit 2 Fifty Good Friends
04. Unit 3 A New Man
05. Unit 4 I Ran for Everybody
06. Unit 5 The Love Letters
07. Unit 6 Lost and Found
08. Unit 7 A Little Traveler
09. Unit 8 Man's Best Friend
10. Unit 9 The Coin
11. Unit 10 Buried Alive
12. Unit 11 The Winning Ticket
13. Unit 12 The Luxury Hotel
14. Unit 13 Four Long Minutes
15. まとめ

準備学習(予習)

次に学習するユニットにある意味の分からない語彙は事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙や文法項目の復習をすること。教員の配付するプリントに取り組む。音読練習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Sandra Heyer 『True Stories in the News』(Pearsen Longman) 【ISBN 9780136154815】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1120056L

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

様々なタイプの文章を読みながら、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。
また音読をしながら、正しい発音、イントネーションの指導も行う。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加することを望む。
提出物は必ず期日までにやり、辞書は必ず持参すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 音読
- ・ ブックレポート

授業計画

01. オリエンテーション、ブックレポートとリーディングラボの説明
02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. 復習
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの音読練習を行い、単語の意味を調べる。

準備学習(復習)

授業で学習した単語や英語表現、文法を復習し、知識の定着に努める。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% | |
| (2) 平常点 | 50% | 積極的な授業参加、授業内の作業、小テスト、宿題、ブックレポート |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』(Pearson Japan) [978-0133041828]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112005AA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、フリテストの実施
02. Unit 1: A Special Teacher / be 動詞について、テキスト練習問題
03. Unit 1: A Difficult Beginning / 一般動詞について、テキスト練習問題
04. Unit 2: For the Love of Children / 命令文について、テキストの練習問題
05. Unit 2: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形について、テキストの練習問題
06. Unit 3: Hearts and Hands Build Homes / 過去形について、テキストの練習問題
07. Unit 3: E-Z Home / 過去形について、テキストの練習問題
08. Unit 4: What's Cooking / 助動詞について、テキストの練習問題
09. Unit 4: Knoxville, Tennessee / 助動詞について、テキストの練習問題
10. Unit 5: Dressing Down / 前置詞について、テキストの練習問題
11. Unit 5: Coolhunters / 受動態について、テキストの練習問題
12. Unit 6: No More Pain / 受動態について、テキストの練習問題
13. Unit 6: An Apple a Day / to不定詞について、テキストの練習問題
14. to不定詞について、テキストの練習問題、復習
15. まとめ

準備学習(予習)

新しいボキャブラリーの予習と音読を行う。

準備学習(復習)

授業で取り上げた文法項目の復習と音読をしっかりと行う。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (ブックレポート、授業内参加態度、小テスト、宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』(OxfordUnivPrSd) [978-0194352246]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005AB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関して考え、自分の意見を文章にする。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で扱う読み物に応じて、自分の意見を英文で表現する。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参する。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre Testの実施
02. Unit 1: Dish Soap for Dinner 文法: be 動詞
03. Unit 2: A New Man 文法: 一般動詞 (現在形)
04. Unit 3: The Runner 文法: 過去形
05. Unit 4: The Love Letters
06. Unit 5: Bad Luck, Good Luck 文法: 前置詞
07. Unit 6: Lost and Found 文法: 命令文
08. Unit 7: A Little Traveler 文法: 受動態
09. Unit 8: Man's Best Friend
10. Unit 9: The Coin 文法: to不定詞
11. Unit 10: Love or Baseball? 文法: 比較級、最上級、原級
12. Unit 11: Buried Alive 文法: 助動詞
13. Post Test準備
14. Post Test の実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

付属CDを使って、自分で滑らかに音読できるよう練習する。(30分)

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする。(120分)

評価方法

- | | |
|---------|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題・提出物の評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 学期末試験、Post-test |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra Heyer (Pearson Longman)
【978-0-13-615481-5】

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005CA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現や文法を学習しながら、大学生として必要な英語読解力を養成する。

(2) 内容

様々なスタイルの英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。またテキストを通して異文化への理解を深めていく。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートの説明、フリテストの実施
02. 教育問題: A Special Teacher / be 動詞の復習
03. 教育問題: A Difficult Beginning / 一般動詞の復習
04. 福祉問題: For the Love of Children / 命令文の復習
05. 道徳について: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習
06. 奉仕について: Hearts and Hands Build Homes / 時制の復習 (1)
07. 色々な家: E-Z Home / 時制の復習 (2)
08. Review (Unit 1-3)
09. 食文化とライフスタイル: What's Cooking / 助動詞の復習
10. 変わりゆく職場の服装について: Dressing Down / 前置詞の復習
11. ファッション文化: Coolhunters / 受動態の復習 (1)
12. 針治療について: No More Pain / 受動態の復習 (2)
13. 健康と食文化: An Apple a Day / to不定詞の復習
14. Review (Unit 4-6)
15. まとめ

準備学習(予習)

学習予定の章にある意味の分からない語彙は事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙や文法項目の復習をすること。音読練習をすること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% | |
| (2) 平常点 | 50% | (ブックレポート、授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』(OxfordUnivPrSd) [978-0194352246]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005CB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で扱うテーマに関して考え、自分の意見を文章にする。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で扱う読み物に応じて、自分の意見を英文で表現する。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題を提出すること

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション, Pre-testの実施
02. Unit 1: Dish Soap for Dinner 文法: be 動詞
03. Unit 2: A New Man 文法: 一般動詞 (現在形)
04. Unit 3: The Runner 文法: 過去形
05. Unit 4: The Love Letters
06. Unit 5: Bad Luck, Good Luck 文法: 前置詞
07. Unit 6: Lost and Found 文法: 命令文
08. Unit 7: A Little Traveler 文法: 受動態
09. Unit 8: Man's Best Friend
10. Unit 9: The Coin 文法: to不定詞
11. Unit 10: Love or Baseball? 文法: 比較級、最上級、原級
12. Unit 11: Burried Alive 文法: 助動詞
13. Post Testの準備
14. Post-Test の実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

付属CDを使って、音読の予習をする。(30分)

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする。(90分)

評価方法

- | | |
|---------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 学期末試験、Post-test |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra Heyer (Pearson Longman) 【978-0-13-615481-5】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005CC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出する

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: Dish Soap for Dinner 文法: be 動詞
03. Unit 2: A New Man 文法: 一般動詞（現在形）
04. Unit 3: The Runner 文法: 過去形
05. Unit 4: The Love Letters
06. Unit 5: Bad Luck, Good Luck 文法: 前置詞
07. Unit 6: Lost and Found 文法: 命令文
08. Unit 7: A Little Traveler 文法: 受動態
09. Unit 8: Man's Best Friend
10. Unit 9: The Coin 文法: 不定詞
11. Unit 10: Love or Baseball? 文法: 比較級、最上級、原級
12. Unit 11: Buried Alive 文法: 助動詞
13. Writingのまとめ
14. Post Test 準備
15. まとめ

準備学習(予習)

付属CDを使って、自分で滑らかに音読できるよう練習する。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする

評価方法

- | | |
|-----------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 学期末試験 | 50% (Post-testの点数も含む) |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra Heyer (Pearson Longman)
【978-0-13-615481-5】

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005CD

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
 03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
 04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
 05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
 06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
 07. 文法の復習
 08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
 09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
 10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
 11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
 12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
 13. 文法の復習
 14. 文法の復習
 15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、テキストの音読練習を行う。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|----------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (授業の作業、小テスト、参加態度、宿題、ブックレポート) |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)
 - 『ECA Learning Goals』 (-)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112005DA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現や文法を学習しながら、大学生として必要な英語読解力を養成する。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。またテキストを通して異文化への理解を深めていく。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートの説明、プリテストの実施
02. Unit 1 Dish Soap for Dinner / be動詞の復習
03. Unit 2 A New Man / 一般動詞の復習
04. Unit 3 The Runner / 時制(現在形・過去形・未来形)の復習
05. Unit 4 The Love Letters / 進行形の復習
06. Unit 5 Bad Luck, Good Luck / 命令文の復習
07. Unit 6 Lost and Found / 名詞の復習
08. Review (Unit 1-6)
09. Unit 7 A Little Traveler / 形容詞・副詞の復習
10. Unit 8 Man's Best Friend / 受動態の復習
11. Unit 9 The Coin / 助動詞の復習
12. Unit 10 Love or Baseball? / 前置詞の復習
13. Unit 11 Buried Alive / 疑問詞の復習
14. Review (Unit 7-11)
15. まとめ

準備学習(予習)

学習予定の章にある意味の分からない語彙は事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙や文法項目の復習をすること。
音読練習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (ブックレポート、授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Sandra Heyer 『True Stories in the News A Beginning Reader』(Pearson Longman) [978-0-13-615481-6]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005DB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題、宿題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 文法
- ・ 音読
- ・ 多読 (ブックレポート)
- ・ 読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
08. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
09. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
10. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
11. Unit 10: The Gift 文法：比較級、最上級、原級
12. 授業で学習した文法項目の総復習
13. Post Test の準備
14. Post Test の実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

宿題の単語の意味を調べ、指定されたサイトで音声を聞きながら、自分で滑らかに音読できるよう練習する。(60分)

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習(60分)

評価方法

- | | |
|---------|------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業参加度、宿題・課題の提出など) |
| (2) 試験 | 50% (学期末試験、Post-test) |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』(PearsonJapan) [978-0801310898]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112005JA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、テキストに出て来る様々なグローバルトピックに関する記事を読み、知識を養い、自分の意見が形成できるよう授業で指導をしていく。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、Pre-testの実施
02. 教育問題: A Special Teacher / be 動詞の復習
03. 教育問題: A Difficult Beginning / 一般動詞の復習
04. 福祉問題: For the Love of Children / 命令文の復習
05. 道徳について: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習
06. 奉仕について: Hearts and Hands Build Homes / 過去形の復習
07. 色々な家: E-Z Home / 過去形の復習
08. 食文化とライフスタイル: What's Cooking / 助動詞の復習
09. Catch up/ 助動詞の復習
10. 変わりゆく職場の服装について: Dressing Down / 前置詞の復習
11. ファッション文化: Coolhunters / 受動態の復習
12. 針治療について: No More Pain / 受動態の復習
13. 健康と食文化: An Apple a Day / to不定詞の復習
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの音読。理解できない語彙の意味を確認しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|----------------------------------|
| (1) 定期試験 | 50% (Post-testの成績を含む) |
| (2) 平常点 | 50% (ブックレポート、授業の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』(OxfordUnivPrSd) [978-0194352246]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005JB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関して考え、自分の意見を文章にする。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で扱う読み物に応じて、自分の意見を英文で表現する。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参する。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション、Pre-testの実施
02. Unit 1: Dish Soap for Dinner 文法: be 動詞
03. Unit 2: A New Man 文法: 一般動詞（現在形）
04. Unit 3: The Runner 文法: 過去形
05. Unit 4: The Love Letters
06. Unit 5: Bad Luck, Good Luck 文法: 前置詞
07. Unit 6: Lost and Found 文法: 命令文
08. Unit 7: A Little Traveler 文法: 受動態
09. Unit 8: Man's Best Friend
10. Unit 9: The Coin 文法: to不定詞
11. Unit 10: Love or Baseball? 文法: 比較級、最上級、原級
12. Unit 11: Buried Alive 文法: 助動詞
13. Post test 準備
14. Post Testの実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

付属CDを使って、自分で滑らかに音読できるよう練習する。(30分)

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする。(90分)

評価方法

- | | |
|---------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 学期末試験、Post-test |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra Heyer (Pearson Longman)
【978-0-13-615481-5】

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005JC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
 03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
 04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
 05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
 06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
 07. 文法の復習
 08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
 09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
 10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
 11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
 12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
 13. 文法の復習
 14. 文法の復習
 15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|--------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (授業の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』(PearsonJapan) [978-0801310898]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112005PA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現や文法を学習しながら、大学生として必要な英語読解力を養成する。

(2) 内容

様々なスタイルの英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。またテキストを通して異文化への理解を深めていく。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートの説明、プリテストの実施
02. 教育問題: A Special Teacher / be 動詞の復習
03. 教育問題: A Difficult Beginning / 一般動詞の復習
04. 福祉問題: For the Love of Children / 命令文の復習
05. 道徳について: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形の復習
06. 奉仕について: Hearts and Hands Build Homes / 時制の復習 (1)
07. 色々な家: E-Z Home / 時制の復習 (2)
08. Review (Unit 1-3)
09. 食文化とライフスタイル: What's Cooking / 助動詞の復習
10. 変わりゆく職場の服装について: Dressing Down / 前置詞の復習
11. ファッション文化: Coolhunters / 受動態の復習 (1)
12. 針治療について: No More Pain / 受動態の復習 (2)
13. 健康と食文化: An Apple a Day / to不定詞の復習
14. Review (Unit 4-6)
15. まとめ

準備学習(予習)

学習予定の章にある意味の分からない語彙は事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙や文法項目の復習をすること。音読練習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (ブックレポート、授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』(OxfordUnivPrSd) [978-0194352246]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005PB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関して考え、自分の意見を文章にする。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で扱う読み物に応じて、自分の意見を英文で表現する。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参する。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: Dish Soap for Dinner 文法：be動詞
03. Unit 2: A New Man 文法：一般動詞（現在形）
04. Unit 3: The Runner 文法：過去形
05. Unit 4: The Love Letters
06. Unit 5: Bad Luck, Good Luck 文法：前置詞
07. Unit 6: Lost and Found 文法：命令文
08. Unit 7: A Little Traveler 文法：受動態
09. Unit 8: Man's Best Friend
10. Unit 9: The Coin 文法：to不定詞
11. Unit 10: Love or Baseball? 文法：比較級、最上級、原級
12. Unit 11: Burried Alive 文法：助動詞
13. Post Test準備
14. Post Testの実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

付属CDを使って、音読の予習をする。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする。

評価方法

- | | |
|---------|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題・提出物の評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 学期末試験、Post-test |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra Heyer (Pearson Longman) 【978-0-13-615481-5】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005PC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 文法
- ・ 音読
- ・ 多読 (ブックレポート)
- ・ 読解

授業計画

01. オリエンテーション、シラバスの説明、Pre Test 実施
02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. Post Test 準備
15. まとめ

準備学習(予習)

宿題の単語の意味を調べ、指定されたサイトで音声聞きながら、自分で滑らかに音読できるよう練習する。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習

評価方法

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題の提出および評価、小テストなど |
| (2) 学期末試験 | 50% Post Testの点数も含む |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』(PearsonJapan) [978-0801310898]

参考書

担当教員：休講

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005PD

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
02. Unit 1: The Big TVs 文法：be動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法：一般動詞（現在）
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt 文法：命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法：現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法：過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法：助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法：前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法：受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法：to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法：比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. Review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Learning Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (授業参加態度、小テスト、宿題、ブックレポート) |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』(PearsonJapan) [978-0801310898]

参考書

担当教員：R. ローランド

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005SA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習、多読の練習を通して、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また、自分の意見を英語で述べる発信型の授業を目指す。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、グローバルなトピックに対し、知識を深め自分の意見を組み立て、そして発信できるよう授業の中で指導していく。英語による授業展開の中で、国際社会に通用する英語運用能力を養えるよう、リーディング・ディスカッションに重点を置く。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・多読〔ブックレポート〕
- ・読解
- ・ライティング

授業計画

01. Orientation, 授業について, Pretest
02. Culture: Love
03. Culture: Love
04. Preparing for Natural Disasters
05. Preparing for Natural Disasters
06. Cultural Similarities and Differences
07. Cultural Similarities and Differences
08. Health Issues
09. Health Issues
10. Difficulty of the Generation Gap (第10～15回の間に、英語体験ゼミナールが開催されかもしれませんが。)
11. Difficulty of the Generation Gap
12. Ancient Culture of Pompeii
13. Ancient Culture of Pompeii
14. Review and Exam Preparation
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストを数回読んでおくこと。語彙調べの宿題を済ませておくこと。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |
- (ブックレポート、オンラインリーディングレポート、授業の作業、小テスト、宿題、参加態度)

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』(PearsonJapan) 【-】

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005WA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で扱うテーマに関して考え、自分の意見を文章にする。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で扱う読み物に応じて、自分の意見を英文で表現する。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション、Pre Testの実施
02. Unit 1: Dish Soap for Dinner 文法: be 動詞
03. Unit 2: A New Man 文法: 一般動詞（現在形）
04. Unit 3: The Runner 文法: 過去形
05. Unit 4: The Love Letters
06. Unit 5: Bad Luck, Good Luck 文法: 前置詞
07. Unit 6: Lost and Found 文法: 命令文
08. Unit 7: A Little Traveler 文法: 受動態
09. Unit 8: Man's Best Friend
10. Unit 9: The Coin 文法: to不定詞
11. Unit 10: Love or Baseball? 文法: 比較級、最上級、原級
12. Unit 11: Buried Alive 文法: 助動詞
13. Post Test 準備
14. Post Test の実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

付属CDを使って、自分で滑らかに音読できるよう練習する。(30分)

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする。(90分)

評価方法

- | | |
|---------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 学期末試験、Post Test |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra Heyer (Pearson Longman)
[978-0-13-615481-5]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112005WB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関してリサーチを行い、世界的な視野で自分の意見や考えをまとめられる能力 (Critical Thinking) の養成にも努める。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表してもらう。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・読解
- ・文法
- ・多読 (ブックレポート)

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: The Big TVs 文法: be 動詞
03. Unit 2: The Man in the Blue Car 文法: 一般動詞
04. Unit 3: Larry's Favorite Shirt, 文法: 命令文
05. Unit 4: A Problem with Monkeys 文法: 現在進行形
06. Unit 5: Looking for Love 文法: 過去形
07. 文法の復習
08. Unit 6: A Tricky Situation 文法: 助動詞
09. Unit 7: Two Happy Men 文法: 前置詞
10. Unit 8: Alone for 43 Years 文法: 受動態
11. Unit 9: The Kind Waitress 文法: to不定詞
12. Unit 10: The Gift 文法: 比較級・最上級・原級
13. 文法の復習
14. 文法の復習
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、テキストの音読をしておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業内の作業、小テスト、ブックレポート、宿題、発表) |
| (2) 定期試験 | 50% (Post-testの成績を含む) |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11200610

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

(2) 内容

語彙表現の学習、文法の練習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講者に対する要望

テキストと辞書を忘れずに持ってくること。宿題と予習に真面目に取り組むこと。直訳ではなく、文の意味を理解できるようにしていきましょう。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 読解

授業計画

01. クラスガイダンス、授業シラバスの説明、プリテストの実施
02. Unit 11: The Power of Love
03. Unit 12: No More Housework!
04. Unit 13: An Accidental Success
05. Unit 14 Anna's Choice
06. Unit 15: The Escape from Cuba
07. Review of Unit 12-15
08. 中間テスト
09. Unit 16: The Twins and the Truth
10. Unit 17: Family for Rent
11. Unit 18: Quality Control
12. Unit 19: The Cheap Apartment
13. Unit 20: Something in Return
14. Review of Unit 16-20
15. まとめ

準備学習(予習)

語彙の意味調べ。内容をつかめるように本文を読んでおく。

準備学習(復習)

配布プリント（提出用）に取り組む。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 平常点（出席、取り組み、提出物） | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』 (Pearson Japan)

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112006AA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。正確な発音で音読出来るよう指導を行う。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・多読（ブックレポート）
- ・音読
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
02. Unit 7: Friends in Need / be動詞の復習、テキストの練習問題
03. Unit 7: El Nino / 一般動詞の復習、テキストの練習問題
04. Unit 8: Traveling Through Time / 復習
05. Unit 8: Get Out of Your Car ! / 時制の復習、テキストの練習問題
06. Unit 9: A Woman's Place / 関係代名詞について、テキストの練習問題
07. Unit 9: Encyclopedia of Woman in Science
08. Unit 10: Kudzu / 接続詞について、テキストの練習問題
09. Unit 10: The Real Flower / 助動詞の復習、テキストの練習問題
10. Unit 11: Work for the Future / 句動詞の表現について、テキストの練習問題
11. Unit 11: Make It Your Business
12. Unit 12: Dream Adventures, Scuba Diving / 現在完了について、テキストの練習問題
13. 現在完了、復習
14. Ifを使った条件文について、テキストの練習問題復習
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|----------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (授業の参加度、小テスト、宿題) |

小テスト、期末試験、Book レポートや授業内で出された課題、授業参加度などで評価される。

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』(OxfordUnivPrSd) (978-0194352246)

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112006AB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関して考え、自分の意見を文章にする。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で扱う読み物に応じて、自分の意見を英文で表現する。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション、Pre-testの実施
02. Unit 12: The Winning Ticket 文法：be動詞 / 一般動詞
03. Unit 13: Thank You 文法：未来形
04. Unit 14: Together Again
05. Unit 15: Saved by the Bell 文法：疑問詞
06. Unit 16: This Is the Place for Me 文法：現在完了形
07. Unit 17: Nicole's Party 文法：接続詞
08. Unit 18: A Song Little Boy 文法：句動詞
09. Unit 19: The Champion
10. Unit 20: The Bottle 文法：関係代名詞
11. Unit 21: The Last Laugh 文法：to不定詞
12. Unit 22: Old Friends 文法：Ifを使った文
13. Post Test準備
14. Post Test の実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

付属CDを使って、自分で滑らかに音読できるよう練習する。(30分)

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする。(90分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% | 学期末試験、Post-test |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra Heyer (Pearson Longman)
【978-0-13-615481-5】

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112006PA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

様々なスタイルの英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。またテキストを通して異文化への理解を深めてゆく。リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出すること。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・多読（ブックレポート）
- ・音読
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
02. Unit 7 Friends in Need / be動詞の復習
03. Unit 7 El Nino / 一般動詞の復習
04. Unit 8 Traveling Through Time / 時制の復習 (1)
05. Unit 8 Get Out of Your Car ! / 時制の復習 (2)
06. Unit 9 A Woman's Place / 関係代名詞について (1)
07. Unit 9 Encyclopedia of Women in Science / 関係代名詞について (2)
08. Unit 10 Kudzu / 接続詞について
09. Unit 10 The Real Flower / 助動詞の復習
10. Unit 11 Work for the Future / 句動詞の表現について
11. Unit 11 Make It Your Business / 前置詞の復習
12. Unit 12 Dream Adventures / 現在完了について
13. Unit 12 I Can! / Ifを使った条件文について
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

学習予定の章にある意味の分からない語彙は事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

各ユニットで学習した語彙表現や文法事項の復習をすること。音読練習をすること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% | |
| (2) 平常点 | 50% | (ブックレポート、授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』(OxfordUnivPrSd) [978-0194352246]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112006PB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また授業で取り扱うテーマに関して考え、自分の意見を文章にする。

(2) 内容

様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で扱う読み物に応じて、自分の意見を英文で表現する。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参する。積極的に授業に参加し、予習、復習を行い、必ず期限までに課題を提出すること。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ 文法
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ Writing

授業計画

01. オリエンテーション、Pre-testの実施
02. Unit 12: The Winning Ticket 文法：be動詞 / 一般動詞
03. Unit 13: Thank You 文法：未来形
04. Unit 14: Together Again
05. Unit 15: Saved by the Bell 文法：疑問詞
06. Unit 16: This is the Place for Me 文法：現在完了形
07. Unit 17: Nicole's Party 文法：接続詞
08. Unit 18: A Song Little Boy 文法：句動詞
09. Unit 19: The Champion
10. Unit 20: The Bottle 文法：関係代名詞
11. Unit 21: The last Laugh 文法：to不定詞
12. Unit 22: Old Friends 文法：Ifを使った文
13. Post Test の準備
14. Post-Test の実施と解説
15. まとめと解説

準備学習(予習)

付属CDを使って、音読の予習をする。(30分)

準備学習(復習)

授業で学習した語彙表現、及び文法の復習をする。(90分)

評価方法

- | | |
|---------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 学期末試験、Post-test |

教科書

『TRUE STORIES In the News』 Sandra heyer (Pearson Longman) 【978-0-13-615481-5】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112006PC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の練習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

教科書、辞書は必ず持参する。積極的に授業に参加し、宿題、課題を期限内に提出する。

学びのキーワード

- ・ 語彙
- ・ 文法演習
- ・ 音読
- ・ 多読（ブックレポート）
- ・ 読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
02. Unit 11: The Power of Love 文法：be動詞の復習
03. Unit 12: No More housework! 文法：一般動詞の復習
04. Unit 13: An Accidental Success 文法：時制の復習
05. Unit 14: Anna's Choice 文法：関係代名詞（主格）
06. Unit 15: The Escape from Cuba 文法：関係代名詞（目的格）
07. 文法の復習
08. Unit 16: The Twins and the Truth 文法：接続詞
09. Unit 17: Family for Rent 文法：助動詞の復習
10. Unit 18: Quality Control 文法：句動詞の表現
11. Unit 19: The Cheap Apartment 文法：現在完了形
12. Unit 20: Something in Return 文法：Ifを使った条件文
13. 文法の復習
14. Post Test 準備
15. まとめ

準備学習(予習)

宿題の単語調べ、指定のサイトで音声を読みながら、滑らかに音読ができるよう練習する。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習

評価方法

- | | |
|-----------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 学期末試験 | 50% Post Test の点数を含む |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』(PearsonJapan) [978-0801310898]

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112006PD

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の練習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

(2) 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題、課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・音読
- ・多読（ブックレポート）
- ・読解

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
02. Unit 11: The Power of Love 文法：be動詞の復習
03. Unit 12: No More housework! 文法：一般動詞の復習
04. Unit 13: An Accidental Success 文法：時制の復習
05. Unit 14: Anna's Choice 文法：関係代名詞（主格）
06. Unit 15: The Escape from Cuba 文法：関係代名詞（目的格）
07. 文法の復習
08. Unit 16: The Twins and the Truth 文法：接続詞
09. Unit 17: Family for Rent 文法：助動詞の復習
10. Unit 18: Quality Control 文法：句動詞の表現
11. Unit 19: The Cheap Apartment 文法：現在完了形
12. Unit 20: Something in Return 文法：Ifを使った条件文
13. 文法の復習
14. review
15. まとめ

準備学習(予習)

ボキャブラリーの予習、テキストの音読練習をしておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

評価方法

- | | |
|----------|----------------------------|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% (参加態度、小テスト、ブックレポート、宿題) |

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories : A Picture-Based Beginner Reader』(PearsonJapan) [978-0801310898]

参考書

担当教員：R. ローランド

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112006SA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習、読解演習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力／英語力を養成する。

(2) 内容

国際社会や文化に関する様々なテーマをとりあげ、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに関する知識を養い、自分の意見を正しい英文で表現できるようにする。英語による授業の中で、英語運用能力を高めて行く。

受講者に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

学びのキーワード

- ・ボキャブラリー
- ・文法演習
- ・多読〔ブックレポート〕
- ・読解
- ・ライティング

授業計画

01. Orientation、授業シラバスの説明、Pretest の実施
02. be動詞の復習、世界の迷信について：Black Cats and Broken Mirrors
03. 一般動詞の復習、世界の迷信について
04. 飛行機事故：Flight 5390
05. 時制の復習、様々な飛行機事故
06. 関係代名詞の復習、Catch-up
07. 世界の秘宝：The Treasure Hunt
08. 接続詞の復習、世界の秘宝
09. 助動詞の復習、Catch-Up
10. 句動詞の復習、文化と偏見（アーミッシュ）：The Plain People（第10～15回の間に、英語体験ゼミナールが開催されかもしれません。）
11. 現在完了形の復習、文化と偏見
12. 現在完了形の復習、人間の寿命について：Does Death Take A Holiday?
13. If を使った条件文の復習、詐欺について：Sucker Day
14. 口頭発表と試験対策
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストを読んでおくこと。語彙調べの宿題を済ませておくこと。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% |
- (授業の作業、小テスト、ブックレポート、オンラインリーディングレポート、宿題、参加態度)

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』(PearsonJapan) 【-】

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11200810

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏で使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げる。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

授業には辞書を持参して出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (Review 1)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

教科書付属のCDを使ってリスニング、音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11200820

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 平常点 (出席、授業参加態度、課題、宿題、小テ) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008AA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ライティングの基礎を学ぶ。簡単な文章からパラグラフ（段落）を作成できるようにする。この授業では、ライティングに必要な文法、語彙、英語表現も学ぶ。

(2) 内容

基本的な文法、語彙、英語表現を習得し、身近なテーマに基づいた事柄を英文で書けるようになる。パラグラフの構造を理解し、英語で文章を書くことに慣れる。最終的には、自分の意見や考えを2～3パラグラフの文章で書けるようになる。

受講者に対する要望

必ず辞書を持参し、毎回の授業に出席すること。宿題、課題をきちんと行い、期限までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ Writing
- ・ Grammar
- ・ Paragraph Writing
- ・ Vocabulary

授業計画

01. Orientation
02. 英文法の基本構造、主部と述部の関係
03. Lesson 1 My Self
04. Lesson 2 An Interview
05. Lesson 3 A Person I Like
06. Lesson 4 My Daily Activities
07. Lesson 5 My Home
08. Lesson 6 Yesterday
09. Lesson 7 Right Now
10. Lesson 8 Habitual Actions
11. Lesson 9 A Good Day / A Bad Day
12. Lesson 10 Two People
13. Lesson 11 Next Week
14. Lesson 12 A Letter to a Friend
15. まとめ

準備学習(予習)

教員が配布するハンドアウトをあらかじめ読んでおくこと。わからない語彙は調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ文法、語彙、英語表現を復習すること。課題として出されたテーマに関する英作文を行うこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業内の作業、小テスト、授業態度、課題/宿題 |
| (2) 期末テスト | 50% | |

教科書

教員が用意するハンドアウトを使用

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008AB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Basic TOEICの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

辞書を持参して、授業に出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した文法項目の総復習
15. まとめと解説

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読み、疑問点などを洗い出しておく。(60分)

準備学習(復習)

教科書の付属CDを使ったリスニングや音読、学んだ文法事項の復習を行う。(90分)

評価方法

- | | |
|---------|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加、宿題・課題の提出、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 期末試験 |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power-Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員： K. J. マクレン

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 1 授業コード： 112008CA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

This class will teach how to properly structure written and spoken English for communication

(2) 内容

Grammar, vocabulary and writing that is important for basic English Communication.

受講者に対する要望

Please bring a dictionary, textbook and notebook to class each time and review the lesson after finishing.

学びのキーワード

- ・ Grammar
- ・ Vocabulary
- ・ Reading
- ・ Writing
- ・ Speaking

授業計画

01. Introduction, Chapter 1 Parts of speech, sentence making.
02. Chapter 2 Prepositions, adjectives, adverbs
03. Chapter 3 Talk about your country and city
04. Chapter 3 "To be" and adverbs of time
05. Chapter 4 Talk about people and feelings
06. Chapter 4 Phrases of location
07. Chapter 4 Phrases of location
08. Review of first half
09. Chapter 5 Talk about animals and people
10. Chapter 5 Using a / an
11. Ch 5 Sentence pattern for "have." Ch 6 And, or, but
12. Chapter 6 Talking about hobbies and interests.
13. Chapter 6 Sentence patters for action verbs, gerunds.
14. Chapter 6 Sentence patters for action verbs, gerunds. ||
15. Review of second half

準備学習(予習)

Follow the text book and in class assignments.

準備学習(復習)

Review the homework after each class.

評価方法

(1) Assignments	30%
(2) Tests	40%
(3) In class work	30%

教科書

Dorothy E. Zemach 『Writing Sentences: The basics of Writing』 (MacMillian) [978-0230415911]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112008CB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏で使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げる。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

授業には辞書を持参して出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can, may, must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would, could, should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (Review 1)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

教科書付属のCDを使ってリスニング、音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』(南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008CC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。今後のSpeaking、Reading、Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また教科書にのっている基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をしてから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (Review 1)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や文法項目の復習をすること。

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% (期末試験の模範解答の提示、及び解説を行う) |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008CD

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 平常点 (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112008DA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏で使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げる。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

授業には辞書を持参して出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can, may, must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would, could, should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (Review 1)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

教科書付属のCDを使ってリスニング、音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：112008DB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

(2) 内容

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Basic Grammarの準備講座と位置付ける。

受講者に対する要望

辞書を必ず授業に持参すること。
復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 英語表現 / 会話
- ・ 語彙
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション、映画鑑賞 (Ch. 1-5)
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験、中間試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008JA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading、Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏で使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げる。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

授業には辞書を持参して出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 Personal Correspondence (1) 現在形・現在進行形 1
03. Unit 2 Personal Correspondence (2) 現在形・現在進行形 2
04. Unit 3 Biography (1) 過去形・過去進行形 1
05. Unit 4 Biography (2) 過去形・過去進行形 2
06. Unit 5 Events & Festivals 未来形
07. Review (Unit 1-5)
08. Unit 6 Directions & Locations (1) 前置詞(場所)
09. Unit 7 Directions & Locations (2) 前置詞(手段・道具)
10. Unit 8 Directions & Locations (3) There is / are...
11. Unit 9 Occupations (1) 代名詞
12. Unit 10 Occupations (2) 代名詞・再帰代名詞
13. Review (Unit 6-10)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

教科書付属のCDを使ってリスニング、音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会『Power - Up English <Basic> 総合英語パワーアップ基礎編 リスニングからリーディング』(南雲堂)【978-4-523-17686-2】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008JB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、配布されたプリントの復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 積極的な授業参加、宿題、小テスト |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008JC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 平常点 (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、) | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008PA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語のTOEICスキールズと総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習しなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。

(2) 内容

TOEICの準備とな(リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やフレーズ、イディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容となっている。

受講者に対する要望

英和辞典を必ず授業に持参する。
宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 文法、語彙
- ・ 表現方法・発音
- ・ リスニングスキル
- ・ TOEICの準備
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション|
02. Unit 1 Personal Correspondence (1)
03. Unit 2 Personal Correspondence (2)
04. Unit 3 Biography (1)
05. Unit 4 Biography (2)
06. Unit 5 Events and Festival
07. Review (Unit 1-5)
08. Unit 6 Directions &&Locations(1)
09. Unit 7 Directions & Locations(2)
10. Unit 8 Directions & Locations(3)
11. Unit 9 Occupations (1)
12. Unit 10 Occupations (2)
13. Review (Unit 6-10)& TOEIC Practice
14. TOEIC Practice
15. 期末まとめ

準備学習(予習)

学習予定のユニットの文法説明を読み、例文でわからない語句は調べておく。

準備学習(復習)

授業で扱った問題をやり直し、理解できているかどうか確認する。

評価方法

(1) 小テスト	30%
(2) 期末試験	50%
(3) 課題	10%
(4) 授業参加度	10

教科書

Power-Up English (Basic) 総合英語パワーアップ(基礎編) JACETリスニング研究会 南雲堂
ISBN978-4-523-17886-2

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008PB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

辞書を持参して授業に出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した文法項目の総復習
15. まとめと解説

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読み、疑問点を洗い出しておく。(60分)

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。(90分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|----------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業参加、宿題、課題の提出、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% | 学期末試験 |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008PC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏で使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げる。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

授業には辞書を持参して出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can, may, must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would, could, should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (Review 1)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

教科書付属のCDを使ってリスニング、音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』(南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：休講

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008PD

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。今後のSpeaking、Reading、Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また教科書にのっている基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をしてから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
07. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (Review 1)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や文法項目の復習をすること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | (期末試験の模範解答の提示、及び解説を行う) |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008SA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ライティングの基礎を学ぶ。簡単な文章からパラグラフ(段落)を作成できるようにする。さらには、自分の意見や経験をいくつかのパラグラフで構成された文章で書けるようにする。またこの授業では、ライティングに必要な文法、語彙、英語表現も学ぶ。

(2) 内容

基礎的な文法、語彙、英語表現を習得し、身近なテーマに基づいた事柄を英文で書けるようにする。パラグラフの構造を理解し、英語で文章を書くことに慣れる。最終的には、自分の意見や考えを2～3パラグラフの文章で書けるようにする。

受講者に対する要望

必ず辞書を持参し、毎回の授業に出席すること。宿題・課題をきちんと行い、期限までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ライティング
- ・文法
- ・語彙
- ・英語表現
- ・パラグラフライティング

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. 英文の基本構造、主部と述部の関係
03. Lesson 1 My Self
04. Lesson 2 An Interview
05. Lesson 3 A Person I Like
06. Lesson 4 My Daily Activities
07. Lesson 5 My Home
08. Lesson 6 Yesterday
09. Lesson 7 Right Now
10. Lesson 8 Habitual Actions
11. Lesson 9 A Good Day/A Bad Day
12. Lesson 10 Two People
13. Lesson 11 Next Weekend
14. Lesson 12 A Letter to a Friend
15. まとめ

準備学習(予習)

教員が配布するハンドアウトをあらかじめ読んでおくこと。また分からない語彙を調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ文法、語彙、英語表現を復習すること。課題として出されたテーマに関する英作文を行うこと。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

教員が用意するハンドアウトを使用

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008WA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Basic TOEICの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する

受講者に対する要望

辞書を持参して、授業に出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した文法項目の総復習
15. まとめと解説

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読み、疑問点などを洗い出しておく。(60分)

準備学習(復習)

教科書の付属CDを使ったリスニングや音読、学んだ文法事項の復習を行う。(90分)

評価方法

- | | |
|---------|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% 授業参加、宿題・課題の提出、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% 学期末試験 |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112008WB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法 / 発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 1 自己紹介 (名詞)
03. Unit 2 家族・ペット (動詞)
04. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
05. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
06. Unit 5 食文化 (疑問詞)
07. Unit 6 音楽について (How+形容詞 / 副詞～?)
08. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
09. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業) |
| (2) 定期試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：11200910

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

(2) 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

受講者に対する要望

授業には必ず出席すること。テキストと辞書を忘れないこと。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 表現方法／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業ガイダンス
02. Unit 13 機内で
03. Unit 14 空港で
04. Unit 15 ホテル
05. Unit 16 レストランで
06. Unit 17 ショッピング
07. Unit 18 ベースボール
08. Unit 19 ミュージカル鑑賞
09. Unit 20 旅行案内
10. Unit 21 トラブルシューティング
11. Unit 22 体調不良
12. Unit 23 電話での申し込み
13. Unit 24 さよなら、アメリカ！
14. Unit 13-24 の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

- 1、Reading Section の “Words & Phrases” を調べておく
- 2、小テストのための勉強

準備学習(復習)

配布プリント（提出用）に取り組む

評価方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 平常点（出席、取り組み、提出物、小テスト） | 50% |
| (2) 期末テスト | 50% |

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』（南雲堂）

参考書

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112009AA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ライティングの基礎を学ぶ。簡単な文章からパラグラフ（段落）を作成できるようにする。この授業では、ライティングに必要な文法、語彙、英語表現も学ぶ。

(2) 内容

基本的な文法、語彙、英語表現を習得し、身近なテーマに基づいた事柄を英文で書けるようになる。パラグラフの構造を理解し、英語で文章を書くことに慣れる。最終的には、自分の意見や考えを2～3パラグラフの文章で書けるようになる。

受講者に対する要望

必ず辞書を持参し、毎回の授業に出席すること。宿題、課題をきちんと行い、期限までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ライティング
- ・文法
- ・語彙
- ・英語表現
- ・パラグラフライティング

授業計画

01. Orientation
02. Lesson 13 My City
03. Lesson 14 Weekends
04. Lesson 15 A Vacation
05. Lesson 16 Another Letter
06. Lesson 17 Usually/Today
07. Lesson 18 Since My Arrival
08. Lesson 19 A Biography
09. Lesson 20 A Childhood Experience
10. Lesson 21 Another Interview
11. Lesson 22 Future Plans
12. Lesson 23 Giving Advice
13. Lesson 24 A Special Vacation
14. Lesson 25 A Letter to Myself
15. まとめ

準備学習(予習)

教員が配布するハンドアウトをあらかじめ読んでおくこと。わからない語彙は調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ文法、語彙、英語表現を復習すること。課題として出されたテーマに関する英作文を行うこと。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題 |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

教員が用意するハンドアウトを使用

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112009AB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ

受講者に対する要望

辞書を持参して、授業に出席すること。また、予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 13: 機内で (時・天候などを表すIt)
03. Unit 14: 空港で (接続詞)
04. Unit 15: ホテル (不定詞)
05. Unit 16: レストランで (形容詞)
06. Unit 17: ショッピング (頻度を表す副詞)
07. Unit 18: ベースボール (比較級)
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞 (現在完了)
09. Unit 20: 旅行案内 (受動態1)
10. Unit 21: トラブル・シューティング (受動態2)
11. Unit 22: 体調不良 (分詞)
12. Unit 23: 電話での申し込み (動名詞)
13. Unit 24: さよなら、アメリカ! (復習)
14. 授業で学習した文法項目の総復習
15. まとめと解説

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読み、疑問点などを洗い出しておく。(60分)

準備学習(復習)

教科書の付属CDを使ったリスニングや音読、学んだ文法事項の復習を行う。(90分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業参加度、宿題・課題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 試験 | 50% | 学期末試験 |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112009PA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語のTOEICスキールズと総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習しなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディング、文書書きでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容となっている。

受講者に対する要望

英和辞典は必ず持参する。
宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

学びのキーワード

- ・ 文法、語彙
- ・ 表現方法・発音
- ・ リスニングスキル
- ・ TOEICの準備
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション 教科書前半のReview
02. Unit 11 Instructions
03. Unit 12 Health & Physical Condition
04. Unit 13 Service and Requests
05. Unit 14 Special Orders
06. Unit 15 Money
07. Review (Unit 11-15)
08. Unit 16 Public Signs
09. Unit 17 Sports
10. Unit 18 History
11. Unit 19 Sightseeing
12. Unit 20 Science
13. Review & TOEIC Practice
14. TOEIC Practice
15. 期末まとめ

準備学習(予習)

学習予定のユニットの文法説明を読み、わからない語句を調べておく。

準備学習(復習)

授業で扱った練習問題で特に誤った問題について、理解を深め復習を行う。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小テスト | 30% |
| (2) 期末試験 | 50% |
| (3) 課題 | 10% |
| (4) 授業参加度 | |

教科書

Power-Up English (Basic) 総合英語パワーアップ(基礎編) JACETリスニング研究会 南雲堂
ISBN978-4-523-17886-2

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112009PB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ

受講者に対する要望

辞書を持参して、授業に出席すること。また予習、復習を行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Unit 13: 機内で (時・天候などを表すIt)
03. Unit 14: 空港で (接続詞)
04. Unit 15: ホテル (不定詞)
05. Unit 16: レストランで (形容詞)
06. Unit 17: ショッピング (頻度を表す副詞)
07. Unit 18: ベースボール (比較級)
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞 (現在完了)
09. Unit 20: 旅行案内 (受動態 1)
10. Unit 21: トラブル・シューティング (受動態 2)
11. Unit 22: 体調不良 (分詞)
12. Unit 23: 電話での申し込み (動名詞)
13. Unit 24: さよなら、アメリカ! (復習)
14. 授業で学習した文法項目の総復習
15. まとめと解説

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読み、疑問点を洗い出しておく。(60分)

準備学習(復習)

教科書付属のCDを使ったリスニングや音読、学んだ文法事項の復習を行う。(90分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|-------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 小テスト、宿題、課題、参加態度など |
| (2) 試験 | 50% | 学期末試験 |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112009PC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏で使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げる。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

授業には辞書を持参して出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 13: 機内で (時・天候などを表すIt)
03. Unit 14: 空港で (接続詞)
04. Unit 15: ホテル (不定詞)
05. Unit 16: レストランで (形容詞)
06. Unit 17: ショッピング (頻度を表す副詞)
07. Unit 18: ベースボール (比較級)
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞 (現在完了)
09. Unit 20: 旅行案内 (受動態 1)
10. Unit 21: トラブル・シューティング (受動態 2)
11. Unit 22: 体調不良 (分詞)
12. Unit 23: 電話での申し込み (動名詞)
13. Unit 24: さよなら、アメリカ! (Review 2)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の文法例文をよく読んでおくこと。教科書に付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

教科書付属のCDを使ってリスニング、音読、学んだ文法事項の復習を行う。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：112009PD

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeaking、Reading、Basic TOEICなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

(2) 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙や熟語を学び、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを学習する。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

辞書は必ず持参すること。
宿題、課題は必ず行い、期日に提出すること。

学びのキーワード

- ・ 英語表現／発音
- ・ リスニングスキル
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ リーディングスキル

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Unit 13: 機内で (時・天候などを表すIt)
03. Unit 14: 空港で (接続詞)
04. Unit 15: ホテル (不定詞)
05. Unit 16: レストランで (形容詞)
06. Unit 17: ショッピング (頻度を表す副詞)
07. Unit 18: ベースボール (比較級)
08. Unit 19: ミュージカル鑑賞 (現在完了)
09. Unit 20: 旅行案内 (受動態 1)
10. Unit 21: トラブル・シューティング (受動態 2)
11. Unit 22: 体調不良 (分詞)
12. Unit 23: 電話での申し込み (動名詞)
13. Unit 24: さよなら、アメリカ! (Review 2)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストに付属しているCDをくり返し聴く。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙や文法項目は必ず復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題) |
| (2) 期末試験 | 50% | (期末試験の模範解答の提示、及び解説を行う) |

教科書

JACETリスニング研究会 [Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング] (南堂堂) [978-4523176244]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：112009SA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ライティングの基礎を学ぶ。簡単な文章からパラグラフ(段落)を作成できるようにする。さらには、自分の意見や経験をいくつかのパラグラフで構成された文章で書けるようにする。またこの授業では、ライティングに必要な文法、語彙、英語表現も学ぶ。

(2) 内容

基礎的な文法、語彙、英語表現を習得し、身近なテーマに基づいた事柄を英文で書けるようにする。パラグラフの構造を理解し、英語で文章を書くことに慣れる。最終的には、自分の意見や考えを2～3パラグラフの文章で書けるようにする。

受講者に対する要望

必ず辞書を持参し、毎回の授業に出席すること。宿題・課題をきちんと行い、期限までに提出すること。

学びのキーワード

- ・ライティング
- ・文法
- ・語彙
- ・英語表現
- ・パラグラフライティング

授業計画

01. 授業オリエンテーション
02. Lesson 13 My City
03. Lesson 14 Weekends
04. Lesson 15 A Vacation
05. Lesson 16 Another Letter
06. Lesson 17 Usually/Today
07. Lesson 18 Since My Arrival
08. Lesson 19 A Biography
09. Lesson 20 A Childhood Experience
10. Lesson 21 Another Interview
11. Lesson 22 Future Plans
12. Lesson 23 Giving Advice
13. Lesson 24 A Special Vacation
14. Lesson 25 A Letter to Myself
15. まとめ

準備学習(予習)

教員が配布するハンドアウトをあらかじめ読んでおくこと。また分からない語彙を調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ文法、語彙、英語表現を復習すること。課題として出されたテーマに関する英作文を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% (授業内の作業、小テスト、授業態度、課題・宿題) |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

教員が用意するハンドアウトを使用

参考書

担当教員：休講

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11202010

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

映画を通して、アメリカの文化や歴史、社会情勢に関する知識を深める。またリサーチした内容をまとめ、自分の意見や考えを発表できるようにする。

(2) 内容

この授業では、語彙や文法といった言語的側面だけを学ぶのではなく、映画を鑑賞しながらアメリカの文化や歴史、社会情勢といった文化的側面についても学んでいく。また新聞やインターネットを利用し、映画のテーマに関するリサーチも行う。授業内では、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自分の意見や考えを発表してもらう。映画の内容を理解するために、リスニング演習や読解演習も行われる。

受講者に対する要望

授業内容が難しいので、毎回辞書を持参して授業に出席すること。
ディスカッションやグループワークといった授業内活動に積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・アメリカ文化・歴史
- ・アメリカ社会情勢
- ・リサーチ
- ・語彙・文法
- ・リスニング

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、映画鑑賞 (Unit 1-6)
02. Unit 1 The Ku Klux Klan
03. Unit 2 Elvis Presley
04. Unit 3 John F. Kennedy
05. Unit 4 The Folk Song Movement
06. Unit 5 The Vietnam War
07. Unit 6 Vietnam War Veterans and PTSD
08. 映画の前半部分 (Unit 1-6) に関するディスカッション、映画鑑賞 (Unit 7-12)
09. Unit 7 Hippies
10. Unit 8 John Lennon
11. Unit 9 Watergate
12. Unit 10 Apple Computer
13. Unit 11 Bicentennial Celebrations
14. Unit 12 AIDS、映画の後半部分 (Unit 7-12) に関するディスカッション、リサーチプロジェクトのプレゼンテーション (I)
15. リサーチプロジェクトのプレゼンテーション (II)、まとめ

準備学習(予習)

次の授業で学習するユニットの語彙を調べておくこと。
宿題として配られる資料を読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙、文法、英語表現を復習しておくこと。
教科書やノートを読み返し、授業で学習した内容を復習すること。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出) |
| (2) 期末試験 | 30% | (期末試験の模範解答の提示、及び解説を行う) |
| (3) レポート | 20% | (レポート課題への回答もしくは返却を行う) |
| (4) プレゼンテーション | 20% | (プレゼンテーション終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

亀本浩美、須田真由美、映画『フォレスト・ガンブ 一期一会』で学ぶアメリカ現代史『American History in Focus Student Book (Macmillan cinema English)』(マクミラン・ラングージハウス) [978-477360284]

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11202600

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

The goal of each lesson is to learn the meanings of the words in the songs and how they are used in everyday English.

(2) 内容

This class will feature a broad range of music in English. The songs will focus on words that have been put into use from music, or songs that are easy and fun to learn and sing. There will be background information on each song, as well as grammar and vocabulary lessons taken from each song.

受講者に対する要望

This class is for anyone who loves music and wants to learn the words to popular songs. There will also be a chance for students to choose some music as well.

学びのキーワード

- ・ Expressing feelings
- ・ Rhyming words
- ・ Common vernacular

授業計画

01. Introduction, Traditional songs
02. Early American songs
03. Pre-rock'n roll songs
04. Songs from the 1950s
05. Songs from the 1960s
06. Songs from the 1970s
07. Student choice songs
08. Review of first half
09. Songs from 1980s
10. Songs from 1990s
11. Songs from 2000s/ Modern Music
12. Songs from 2000s/ Modern music
13. Student choice song
14. Student choice song
15. Review of second half

準備学習(予習)

Please prepare for each song by listening before class

準備学習(復習)

Please study the key words on the printouts given each class.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Assignments | 30% |
| (2) Participation | 40% |
| (3) Tests | 30% |

Please make sure to attend all classes

教科書

参考書

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11202750

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の発音のルールを学習し、歌詞の中に現れる文法を理解することによってより歌を理解していく。自分なりに歌詞を読解し、考えを発表する。歌詞に現れた語彙表現を覚える。

(2) 内容

英語の歌を聞き取り、歌詞の理解、英文法の学習を行う。各章の読み物を読解する。歌詞について気づいた点などを発表する。

受講者に対する要望

テキストと辞書を必ず持参すること。リーディングパートはグループワークをしてもらいます。また、学期中2回の発表も基本はグループ発表です。他人と協力して取り組むことが求められます。

学びのキーワード

- ・ 語彙表現
- ・ 発音・聞き取り
- ・ 基礎文法
- ・ グループ発表

授業計画

01. クラスガイダンス、歌を使っての学習
02. Unit2
03. Unit3
04. Unit4
05. Unit5
06. Unit 6
07. Unit 7 / 中間発表準備
08. Test on Unit 2-7 / 中間発表
09. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 12
13. Unit13
14. Unit14 / 期末発表準備
15. Test on Unit 8, 9, 10, 12, 13, 14 / 期末発表

準備学習(予習)

配布された提出プリントをやっておく

準備学習(復習)

学習したvocabularyや発音のポイント、文法を復習する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 参加・取り組み | 20% |
| (2) 宿題 | 20% |
| (3) 発表 | 30% |
| (4) テスト | 30% |

毎回の宿題は授業開始時に集めます。そのあとは受け取りませんので、気をつけて下さい。聞き取り問題のあと、意味の確認作業がありますので、必ず辞書を持参してください。辞書を持ってこず、activityに参加できない場合は参加点から減点します。発音練習、感想の発表など積極的に参加してください。

教科書

角山照彦、Simon Capper 著 『English with Hit Songs. New Edition—Featuring the 'Max Best' CD Compilation—ポップスで学ぶ総合英語』(成美堂) 【ISBN 978-4-7919-3086-9】

参考書

担当教員：R. ローランド

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11202751

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

曲を聴き（リスニング）、授業中に話したり（スピーキング）、文章や歌詞を読んで（リーディング・語彙力）、レポートを書く（ライティング）。音楽を通して英語力の4技能を総合的にアップを目指す。

(2) 内容

この授業で洋楽の様々なジャンルとその代表曲を紹介し、歌詞の中の語彙と全体的な意味を学習する。また、好きな曲やアーティストについて調べ、レポートを提出する。

受講者に対する要望

We can learn a lot from music. Let's have fun improving our English skills!

学びのキーワード

- ・ 洋楽
- ・ 語彙
- ・ 文法
- ・ Music

授業計画

01. Orientation + class surveys
02. Blues songs
03. Rock and roll songs
04. Country songs
05. Disco songs
06. Folk songs
07. Motown songs
08. First half review + First report due
09. Jazz songs
10. Hip-hop songs
11. R & B songs
12. Modern rock songs
13. Reggae songs
14. Independent label music
15. Second half review + Second report due

準備学習(予習)

先生が提供する文章を読み、曲を聴き知らない単語を調べておく。

準備学習(復習)

授業の資料を見直す・レポートのテーマを調べて書く。

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) Class participation | 20% |
| (2) Quizzes and homework | 20% |
| (3) Midterm and Final Exam | 50% |
| (4) Reports | 30% |

教科書

No textbook - Materials provided by instructor

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11203210

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ (pleasure of reading) を知ることを目指す。

(2) 内容

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）を行う。

Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていき、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をしたり、アクティビティを行なう、学生主導の授業。

受講者に対する要望

英語の習熟度と関係なく、英語の本をよむことを楽しみ、自分の世界を広げ見識を深めることを目標とする。
授業前にリーディングラボで本を借りて授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・ Pleasure in reading
- ・ Pleasure in sharing
- ・ Pleasure in presenting

授業計画

01. オリエンテーション／ジャーナル記載方法／リーディング・ラボ案内
02. 読書とリーディングアクティビティ (1)
03. 読書とリーディングアクティビティ (2)
04. 読書とリーディングアクティビティ (3)
05. 読書とリーディングアクティビティ (4)
06. 読書とリーディングアクティビティ (5)
07. 読書／プレゼンテーション準備
08. 中間発表 / 読書
09. 読書とリーディングアクティビティ (6)
10. 読書とリーディングアクティビティ (7)
11. 読書とリーディングアクティビティ (8)
12. 読書とリーディングアクティビティ (9)
13. 読書とリーディングアクティビティ (10)
14. 読書／プレゼンテーション準備
15. 期末発表／In-class paper

準備学習(予習)

図書館で本を借りて、できる限り読書に努める。

準備学習(復習)

読んでいる本の読書記録（ジャーナル）を毎日記入する。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 出席・取り組み | 20 |
| (2) 読書量 | 25% |
| (3) 提出物 | 15 |
| (4) 発表 | 30% |
| (5) In-class paper | 10% |

学期末試験は記述式ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験とする。

教科書

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11203350

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ (pleasure of reading) を知ることを目指す。

(2) 内容

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）を行う。

Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていき、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をしたり、アクティビティを行なう、学生主導の授業。

受講者に対する要望

英語の習熟度と関係なく、英語の本をよむことを楽しみ、自分の世界を広げ見識を深めることを目標とする。
授業前にリーディングラボで本を2冊借りて授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・ Pleasure in reading
- ・ Pleasure in sharing
- ・ Pleasure in presenting

授業計画

01. オリエンテーション／ジャーナル記載方法／リーディング・ラボ案内
02. 読書とリーディングアクティビティ (1)
03. 読書とリーディングアクティビティ (2)
04. 読書とリーディングアクティビティ (3)
05. 読書とリーディングアクティビティ (4)
06. 読書／プレゼンテーション準備
07. 読書／プレゼンテーション準備
08. 読書とリーディングアクティビティ (5)
09. 読書とリーディングアクティビティ (6)
10. 読書とリーディングアクティビティ (7)
11. 読書とリーディングアクティビティ (8)
12. 読書／プレゼンテーション
13. 読書／プレゼンテーション
14. 読書／プレゼンテーション
15. まとめ

準備学習(予習)

図書館で本(Graded Readers)を借りて、できる限り読書に努める。

準備学習(復習)

読んでいる本の読書記録（ジャーナル）を毎日記入する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業参加度、Journal の提出と記述内容 |
| (2) 読書量 | 40% | Mini Book Report を含む |
| (3) プレゼンテーション | 40% | ポスターを使い、読んだ本をアピールする |

学期末試験は記述式ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験とする。

教科書

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

This class will talk about different cultures, local and global issues.

(2) 内容

Culture and communication

受講者に対する要望

Bring a dictionary, textbook and notebook to each class

学びのキーワード

- ・ Culture
- ・ Differences
- ・ Society
- ・ Global
- ・ Local

授業計画

01. What does culture mean?
02. Cultural rules for acceptable behavior
03. Stereotyping
04. Nonverbal communication, gestures, body language
05. Cultural perspectives of time
06. Touch and space
07. Cultural similarities
08. Review of first half
09. Verbal communication norms
10. Individuals and groups
11. Subcultures
12. Status
13. Our connected world
14. Internet Culture
15. Review of second half and retrospective

準備学習(予習)

Follow the textbook and inclass assignments

準備学習(復習)

Review homework after each class

評価方法

- | | |
|----------------------------------|-----|
| (1) In class work and attendance | 20% |
| (2) Tests | 50% |
| (3) Assignments | 30% |

教科書

『Kalaidoscope U. S. A. 最新アメリカ文化を映す』 SEIBIDO ISBN4-7919-4583-2

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204325

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

アメリカ文化を様々な角度のトピックの映像と読み物から学んでゆく。他国の文化を通して、グローバルな視野を養ってゆくことを目標とする。併せて英語のリスニングやリーディング力の向上、プレゼンテーションの能力を養成する。

(2) 内容

教科書のテーマをもとに、アメリカ文化を学ぶ。講義を通して、話す・聴く・読む・書くの4技能をバランスよく訓練する。また、グローバルな視野が持てるように、様々な価値観の違いや文化の違いを学んでゆく。

受講者に対する要望

毎回の授業の予習、復習を行うこと。真面目に授業に取り組む姿勢を望む。

学びのキーワード

- ・ Culture
- ・ 異文化
- ・ Society
- ・ Global
- ・ Local

授業計画

01. Class Orientation
02. Chapter 1 Hot Dogs
03. Chapter 3 Sound of Bluegrass
04. Chapter 4 Harlem Reborn
05. Nonverbal communication: Gestures and body language
06. Chapter 5 Islam in America
07. Chapter 5 Islam in America (2)
08. Chapter 6 UFO Fever
09. Chapter 12 Cheerleader
10. Chapter 13 Surrogate Motherhood
11. Chapter 14 Democrats, Republicans, and White House
12. Chapter 15 Thanksgiving
13. Review & Presentation
14. Presentation
15. Final Exam

準備学習(予習)

授業で行うチャプターを事前に予習し、分からない単語を調べてから授業に臨むこと。また、小テストや試験は必ず事前にしっかり該当箇所の復習を行っておくこと。

準備学習(復習)

授業で新しく学んだことは復習し、身に付くよう繰り返し憶える努力をすること。また、与えられた課題は必ず行うこと。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 小テスト | 20% |
| (2) Final Exam | 50% |
| (3) 課題(プレゼンテーションを含む) | 30% |

教科書

『Kalaidoscope U. S. A. 最新アメリカ文化を映す』 SEIBIDO ISBN4-7919-4583-2

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204330

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

This class will talk about different cultures, local and global issues.

(2) 内容

Culture and communication

受講者に対する要望

Bring a dictionary, textbook and notebook to each class

学びのキーワード

- ・ Culture
- ・ Differences
- ・ Society
- ・ Global
- ・ Local

授業計画

01. What does culture mean?
02. Cultural rules for acceptable behavior
03. Stereotyping
04. Nonverbal communication, gestures, body language
05. Cultural perspectives of time
06. Touch and space
07. Cultural similarities
08. Review of first half
09. Verbal communication norms
10. Individuals and groups
11. Subcultures
12. Status
13. Our connected world
14. Internet Culture
15. Review of second half

準備学習(予習)

Follow the textbook and inclass assignments

準備学習(復習)

Review homework after each class

評価方法

(1) Assignments	30%
(2) Tests	40%
(3) In class work	30%

教科書

Asako Kujiura, Gregory Goodmacher 『This is Culture -理論と実践で学ぶ異文化間コミュニケーション』(南叢堂) [978-4523174899]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204610

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

典型的なビジネスシーンを想定し、「読み」、「書き」、「聞き」、「話す」の4技能の習得を目標とする。また授業で学んだ知識を活用し、TOEICなどの資格試験対策にも役立てる。

(2) 内容

ビジネスシーンにおける会話や電話でのやりとり、電子メールや手紙の読み書きなどのアクティビティを通して、実践的なビジネス英語を学んでいく。

受講者に対する要望

授業に毎回参加すること。
辞書を必ず持参すること。
必修科目と比べると語彙が難しいので、予習を必ずしてこること。

学びのキーワード

- ・ ビジネス英語
- ・ リーディング
- ・ リスニング
- ・ 語彙・文法
- ・ スピーキング

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Part I ビジネス通信の基本 (1. 手紙)
03. Part I ビジネス通信の基本 (2. ファックス)
04. Part I ビジネス通信の基本 (3. 電子メール)
05. Part I ビジネス通信の基本 (4. 電話)
06. Part II 社交関係の英語 (5. 面会の申し入れ)
07. Part II 社交関係の英語 (6. ホテルの予約)
08. Part II 社交関係の英語 (9. レセプションの招待)
09. Part II 社交関係の英語 (10. アンケートの回答依頼)
10. Part III 社内の英語 (13. 会議の通知)
11. Part III 社内の英語 (15. 物品の購入)
12. Part IV 取引関係の英語 (21. 注文)
13. Part V 雇用関係の英語 (24. 履歴書)
14. Part V 雇用関係の英語 (27. 面接)
15. まとめ

準備学習(予習)

意味が分からない語彙や表現は、あらかじめ辞書を使い調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙や表現、文法項目は必ず復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

豊田 悦 『Essentials of Global Business English—ビジネス英語エッセンシャルズ』(南雲堂) [978-4523176053]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204630

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

典型的なビジネスシーンを想定し、「読み」、「書き」、「聞き」、「話す」の4技能の習得を目標とする。また授業で学んだ知識を活用し、TOEICなどの資格試験対策にも役立てる。

(2) 内容

ビジネスシーンにおける会話や電話でのやりとり、電子メールや手紙の読み書きなどのアクティビティを通して、実践的なビジネス英語を学んでいく。

受講者に対する要望

授業に毎回参加すること。
辞書は必ず持参すること。
必修科目と比べると語彙が難しいので、予習を必ずしてこること。

学びのキーワード

- ・ビジネス英語
- ・リーディング
- ・リスニング
- ・語彙・文法
- ・スピーキング

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明
02. Part I ビジネス通信の基本 (1. 手紙)
03. Part I ビジネス通信の基本 (2. ファックス)
04. Part I ビジネス通信の基本 (3. 電子メール)
05. Part I ビジネス通信の基本 (4. 電話)
06. Part II 社交関係の英語 (5. 面会の申し入れ)
07. Part II 社交関係の英語 (6. ホテルの予約)
08. Part II 社交関係の英語 (9. レセプションの招待)
09. Part II 社交関係の英語 (10. アンケートの回答依頼)
10. Part III 社内の英語 (13. 会議の通知)
11. Part III 社内の英語 (15. 物品の購入)
12. Part IV 取引関係の英語 (21. 注文)
13. Part V 雇用関係の英語 (24. 履歴書)
14. Part V 雇用関係の英語 (27. 面接)
15. まとめ

準備学習(予習)

意味が分からない語彙や表現は、あらかじめ辞書を使い調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学習した語彙や表現、文法項目は必ず復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、宿題・課題の提出) |
| (2) 期末試験 | 50% | |

教科書

豊田 暁『Essentials of Global Business English—ビジネス英語エッセンシャルズ』(南雲堂) [978-4523176053]

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204640

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ビジネスのグローバル化にともない、海外で仕事をする人たちだけでなく、日本国内のオフィスに勤務する人たちも英語が必要となってきた。この授業では、典型的なビジネスシーンを想定し、「読み」、「書き」、「聞き」、「話す」の4技能の習得を目標とする。また授業で学習したことを応用し、TOEICなどの資格試験対策にも役立つ。

(2) 内容

ビジネスシーンにおける英会話や電話でのやりとり、電子メールや手紙の読み書きなどのアクティビティを通して、実践的なビジネス英語を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加をのぞみます。様々なビジネス用語や表現を学んでゆくの、必ず予習復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・ Business English
- ・ Listening
- ・ Speaking
- ・ Writing
- ・ Telephone Conversation

授業計画

- | | |
|---|----------------------------|
| 01. Orientation | |
| 02. Unit 1 Greeting & Introducing Yourself | Basics of Letter & Email |
| 03. Unit 2 Offering Drinks | Expressing Gratitude |
| 04. Unit 3 Attempting Small Talk | Expressing Congratulations |
| 05. Unit 4 Asking for Repetition or Explanation | Making Invitation |
| 06. Unit 5 Transferring Telephone Calls | Greeting & Giving Notices |
| 07. Unit 6 Taking and Relaying Messages | Sending Cards |
| 08. Unit 8 Giving Suggestions & Advice | Rescheduling |
| 09. Unit 9 Making Reservations | Making Inquiries |
| 10. Unit 10 Stating & Asking for Opinions | Placing Orders |
| 11. Unit 11 Describing Locations of Objects | Accepting & Rejecting |
| 12. Unit 12 Giving Directions inside a Company | Reminding & Complaining |
| 13. Unit 13 Giving Instructions | |
| 14. Review | |
| 15. Review and Final Exam | |

準備学習(予習)

各授業で行うユニットを事前に予習すること。また、与えられた課題を行うこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ新しい知識を復習し、習得できるように努力すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------|
| (1) 平常点 | 60% | 小テスト、授業参加度、課題 |
| (2) 期末試験 | 40% | |

教科書

Astuko Ogawa & Kayoko Otani "Working with English" (MACMILLAN LANGUAGE HOUSE) ISBN4-89585-463-9

参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204840

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

質問を正確に聞き取り、適切な情報を提供できるリスニングスキルとスピーキングスキルを養う。日本の文化・習慣を英語で説明するための語彙・表現を身につける。

(2) 内容

「英語応対能力検定」公認教材を用い、「リスニング」「スピーキング」活動を通して各種場面で用いられる典型的な表現を学びます。

また、日本の習慣・伝統行事・名所・名物などのテーマについても取り上げ、授業の後半では英語でのプレゼンテーションを行っていただきます。

受講者に対する要望

指定された箇所の予習して授業に臨むこと。授業中は積極的にペアワークやグループワークに参加し、授業に貢献すること。

学びのキーワード

- ・スピーキング
- ・リスニング
- ・日本の文化・習慣
- ・語彙

授業計画

01. イントロダクション
02. Giving Directions
03. Transportation
04. Sightseeing
05. Japanese Food (part 1)
06. Japanese Food (part 2)
07. Manners
08. Visiting Onsen
09. Visiting Temples and Shrines
10. Special Days and Events
11. Explaining Japanese Things
12. Solving Problems
13. The Japanese Language
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの例文を読み、音声ファイルを利用して聞き取り・発音練習をする。

準備学習(復習)

授業で取り上げた語句・表現を覚える。与えられたテーマについて調べ英語で説明する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業への参加と貢献、課題、小テスト |
| (2) 発表 | 10% | 自分でテーマを選び、英語でプレゼンテーションを行う。 |
| (3) 期末試験 | 40% | |

提出課題はチェックして返却します。
小テストは採点して返却します。

教科書

旺文社 (編) 『英語応対能力検定 公認教材 とにかくひとこと まちかど英会話』(旺文社)【978-4010527139】

参考書

担当教員：遠藤 由佳里

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204850

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

質問を正確に聞き取り、適切な情報を提供できるリスニングスキルとスピーキングスキルを養う。日本の文化・習慣を英語で説明するための語彙・表現を身につける。

(2) 内容

「英語応対能力検定」公認教材を用い、「リスニング」「スピーキング」活動を通して各種場面で用いられる典型的な表現を学びます。

また、日本の習慣・伝統行事・名所・名物などのテーマについても取り上げ、授業の後半では英語でのプレゼンテーションを行っていただきます。

受講者に対する要望

指定された箇所の予習して授業に臨むこと。授業中は積極的にペアワークやグループワークに参加し、授業に貢献すること。

学びのキーワード

- ・スピーキング
- ・リスニング
- ・日本の文化・習慣
- ・語彙

授業計画

01. イントロダクション
02. Giving Directions
03. Transportation
04. Sightseeing
05. Japanese Food (part 1)
06. Japanese Food (part 2)
07. Manners
08. Visiting Onsen
09. Visiting Temples and Shrines
10. Special Days and Events
11. Explaining Japanese Things
12. Solving Problems
13. The Japanese Language
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの例文を読み、音声ファイルを利用して聞き取り・発音練習をする。

準備学習(復習)

授業で取り上げた語句・表現を覚える。
与えられたテーマについて調べ英語で説明する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業への参加と貢献、課題、小テスト |
| (2) 発表 | 10% | 自分でテーマを選び、英語でプレゼンテーションを行う。 |
| (3) 期末試験 | 40% | |

提出課題はチェックして返却します。
小テストは採点して返却します。

教科書

旺文社 (編) 『英語応対能力検定 公認教材 とにかくひとこと まちかど英会話』(旺文社) [978-4010527139]

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204960

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

海外旅行における様々なシチュエーションで役立つ英語表現を学習し、英語コミュニケーション能力の向上を図る。

(2) 内容

海外旅行で遭遇する様々なシチュエーションで役立つ英語会話や表現を学ぶ。リスニングや会話を通して、実践的な英語コミュニケーション能力の養成を行う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加が求められる。授業で学んだ表現が将来役立つように、予習・復習を必ず行うこと。

学びのキーワード

- ・ 旅行英会話
- ・ Listening
- ・ 英語コミュニケーション能力

授業計画

01. Orientation
02. Here's Your Boarding Pass
03. So, Where Are You From?
04. A Good Hotel At a Great Price
05. Next Stop, Chicago!
06. A Buffalo Burger?
07. Review of first half
08. Walking Around Oxford
09. Shopping in London
10. Oh, No! Where's My Passport?
11. Ouch! That Hurts!
12. Tell Me About Your Trip
13. Be a Street-Smart Traveler
14. Getting ready to return
15. Review of second half

準備学習(予習)

新しく学ぶユニットの知らない単語は事前に辞書で調べておく。また、課題を行うこと。

準備学習(復習)

授業で新しく学んだ単語や表現を復習する。

評価方法

(1) Assignments	30%
(2) In class work	40%
(3) Tests	30%

教科書

Dale Fuller/ Kevin Cleary 『Adventures Abroad English for Successful Travel Adventures Abroad (ワクワク旅行英会話)』
 (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE) [978-4777361809]

参考書

担当教員：R. ローランド

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204970

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

海外旅行においてうまく対応できるように役に立つ表現などを身につけ、全体的にコミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

海外旅行によくある、様々な場面をうまく対応するための英会話や表現を学習する。リスニングやクラスメートと会話することを通して実践的な英語力を高める。

受講者に対する要望

この授業で身につけたスキルをちゃんと海外旅行先で活躍できるように予習・復習・宿題をきちんとしましょう。

学びのキーワード

- ・ Travel
- ・ 海外旅行
- ・ ショッピング
- ・ レストランでの注文
- ・ 英会話

授業計画

01. Orientation + Introductions
02. May I see your passport?: Checking in
03. So, where are you from?: Small talk
04. Now, which way...: Directions
05. Say, do you know where...: Gathering information
06. Review of first half
07. I' ll take it!: Shopping
08. I' ll have that one too!: Shopping
09. What' s today' s special?: Ordering food
10. I' ll have what she' s having: Ordering food
11. I don' t feel so good...: Explaining injuries and illness
12. Review of second half
13. Skit preparation
14. Skit presentations
15. Wrapping up

準備学習(予習)

前回の授業を見直して、旅行の流れをイメージする。

準備学習(復習)

寸劇 (skit) をきちんと準備する。テキストを読み、知らない言葉を必ず調べておく。

評価方法

- (1) Class participation
- (2) Homework
- (3) Review tests
- (4) Final skit

授業参加とは：出席、授業への積極的な参加（携帯の使用・余談はなし）、小テストを含む、授業中の課題に真面目に取り組むこと。
Class participation includes: coming to class, actively participating (no cell phones or computers please), taking short quizzes and in class assignments seriously.

教科書

Dave Fuller / Kevin Clearly [Adventures Abroad - English for Successful Travel] (MAGMILLAN LANGUAGE HOUSE)

参考書

担当教員：K. J. マクレン

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11204980

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

海外旅行や短期滞在で役立つ様々な英語表現や簡単な会話を学ぶ。

(2) 内容

旅行で遭遇する様々な場面での実践的な英会話を学ぶ。旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深め、国際人としての心得やマナーを学ぶ。また、レストランでの注文の仕方、道の尋ね方、買い物の仕方など、さまざまな状況で役立つ英語表現を学ぶ。

受講者に対する要望

積極的な授業参加をのぞみます。

学びのキーワード

- ・ 出入国の手続き
- ・ ショッピングの会話
- ・ レストランでの注文
- ・ 娯楽についての会話
- ・ 健康問題に関する会話

授業計画

01. Orientation シラバスの説明・異文化について
02. Here's your boarding pass / Victoria
03. So where are you from? / Portland
04. Good hotel at a great price? / Manchester
05. Planning a day trip / Stratford-upon Avon
06. Nest Stop, Chicago! / Chicago
07. A buffalo burger? / Santa Fe
08. Walking around Oxford / Oxford
09. Shopping in London / London
10. Oh! No! Where is my passport? / Vancouver
11. Ouch! That hurts! / Sydney
12. Tell me about your trip. / Brisbane
13. Be a street smart traveler / Las Vegas
14. 異文化について
15. Review & Final Exam

準備学習(予習)

授業で行われるユニットを予習すること。また、与えられた課題を行うこと。

準備学習(復習)

授業で新しく学んだ表現や単語を復習し、将来使えるように努力すること。

評価方法

(1) 活発な授業参加	10%
(2) 小テスト	20%
(3) 宿題	10%
(4) 期末試験	40%
(5) 口頭発表	20%

教科書

『ADVENTURE ABOARD English for Successful Travel』 Dale Fuller/ Kevin Cleary (MCMILLAN LANGUAGE HOUSE) ISBN978-4-7773-6180-9

参考書

担当教員： K. J. マクレン

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 11204990

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

海外旅行における様々なシチュエーションで役立つ英語表現を学習し、英語コミュニケーション能力の向上を図る。

(2) 内容

海外旅行で遭遇する様々なシチュエーションで役立つ英語会話や表現を学ぶ。リスニングや会話を通して、実践的な英語コミュニケーション能力の養成を行う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加が求められる。授業で学んだ表現が将来役立つように、予習・復習を必ず行うこと。

学びのキーワード

- ・ 旅行英会話
- ・ Listening
- ・ 英語コミュニケーション能力

授業計画

01. Orientation
02. Here's Your Boarding Pass
03. So, Where Are You From?
04. A Good Hotel At a Great Price
05. Next Stop, Chicago!
06. A Buffalo Burger?
07. Review of first half
08. Walking Around Oxford
09. Shopping in London
10. Oh, No! Where's My Passport?
11. Ouch! That Hurts!
12. Tell Me About Your Trip
13. Be a Street-Smart Traveler
14. Getting ready to return
15. Review of second half

準備学習(予習)

新しく学ぶユニットの知らない単語は事前に辞書で調べておく。また、課題を行うこと。

準備学習(復習)

授業で新しく学んだ単語や表現を復習する。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Attendance | 30% |
| (2) In class work | 40% |
| (3) Tests | 30% |

教科書

デール・フラー『Adventures Abroad (ワクワク旅行英会話)』(マクミラン・ランゲージハウス) [978-4777361809]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11205010

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

難解とされるリーディングセクションを集中的に学習することで、就職に必要なとされるTOEICのスコアアップを図る。

(2) 内容

初級者対象のTOEICリーディングセクション（Part 5-7）に特化した、TOEIC受験対策授業。英文法の基礎知識を基にTOEICに必要な語彙、文法、読解のテクニック習得に努める。TOEICで400～500点の獲得を目標に学習する。

受講者に対する要望

基本の英文法はある程度、理解できているが、TOEICの勉強方法が分からない、またはTOEICの文法・リーディングパートの得点を伸ばしたいという学生には最適な授業です。2回目の授業からは必ずテキストを持参すること（テキストを中心に授業を行うので、テキストを忘れた人は必ずコピーなど、代わりにするものを用意して授業に臨む）。必ず予習（＝宿題）をやって授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 読解
- ・ スピード、手順
- ・ TOEICのリーディング形式

授業計画

01. オリエンテーション & TOEIC Reading Partの説明
02. Unit 1&2 文法：現在時制、過去時制
03. Unit 3&4 文法：未来形、進行形
04. Unit 5 文法：完了時制、Unit 6 Mini Test 1
05. Quiz #1と解説 & Unit 7 受動態
06. Unit 9&10 文法：to不定詞、動名詞
07. Unit 8&11 文法：使役動詞、助動詞
08. Unit 12 Mini Test 2 & Quiz #2と解説
09. Unit 13&14 文法：名詞と代名詞、冠詞
10. Unit 15&16 文法：形容詞、副詞
11. Unit 17&18 文法：比較 & Mini Test 3
12. Quiz #3と解説 & Unit 19 文法：関係詞
13. Unit 20&21 文法：仮定法、前置詞
14. Unit 22&23 文法：接続詞、数詞
15. Unit 24 Mini Test 4 & Quiz #4と解説

準備学習(予習)

授業内で疑問点が解決できるよう、予習としてテキストの指定箇所(授業計画の翌週に出ている2つのUnitが指定箇所：宿題)を必ずやり、授業に参加する。(120分)

準備学習(復習)

授業で学んだ文法や語彙などを必ず家で復習し、クイズに備える。そして今後のTOEIC受験のためにも復習して知識の定着に努める。(120分)

評価方法

- | | |
|----------|-----------------|
| (1) 平常点 | 40% 授業参加度、宿題など |
| (2) Quiz | 60% 4回のQuizの総合点 |

教科書

ジョシュア・コーエン 等 『Reading Breakthrough for the TOEIC Test : TOEICテストのリーディング攻略』(南雲堂)【978-4523178118】

参考書

担当教員：能町 和子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11205120

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

TOEIC 350点を目指す、リスニング練習に特化したクラスです。音が聞き取れるだけでは正解へはたどり着けないため、語彙表現や基本の英文法の学習も行います。

(2) 内容

聞き取り問題、語彙表現力をつける問題に取り組み、TOEICのListening Sectionのスコアアップを図る。

受講者に対する要望

毎回、辞書を持参すること。発音練習など積極的に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・リスニング
- ・語彙表現
- ・発音練習

授業計画

01. クラスガイダンス / Unit 1
02. Unit2&3
03. Unit4&5
04. Unit6 / Vocabulary Test
05. Unit7&8
06. Unit 9&10
07. Unit11&13
08. Unit12 / Vocabulary Test
09. Unit14&15
10. Unit16&17
11. Unit 18 / Vocabulary Test
12. Unit19&20
13. Unit21&22
14. Unit23&24
15. Review Sections のまとめ / Vocabulary Test

準備学習(予習)

指定された部分の語彙を調べる。配布プリント（提出用）に取り組む。

準備学習(復習)

vocabularyセクションの語彙表現の意味を覚え、発音を練習する

評価方法

- | | |
|-------------------------------|-----|
| (1) 参加・取り組み | 25% |
| (2) 宿題 | 25% |
| (3) ReviewTest/VocabularyTest | 50% |

教科書

石井義之 他 [Listening Explorer for the TOEIC Test --TOEIC テスト リスニングスキルアップ演習] (成美堂) 【ISBN 978-4-7919-4750-4】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11205210

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

発音が悪いために正しい英語でも理解してもらえないことがある。国際人の一人として、自信を持って英語が話せるようになる為には、発音も大事である。今までの発音を見直し、よりクリアな発音で英語が話せるようになることを目標とする。

(2) 内容

英語の発音が苦手な学生や、今以上に発音を上達させたい学生を対象に、発音の基礎を徹底的に指導する。まずは英語と日本語の音の違いを学び、英語らしい発音の特徴を学習する。聞き取りや発音練習をとおり、発音の上達に努める。

受講者に対する要望

毎回出席し、発音練習できる学生の受講を期待します。

学びのキーワード

- ・母音の特徴
- ・子音の特徴
- ・ストレス
- ・音の融合
- ・イントネーション

授業計画

01. オリエンテーションと発音のテスト|英語の母音のまとめ
02. 母音の聞き取りと発音練習
03. 母音の聞き取りと発音練習
04. 母音の復習、子音のまとめ
05. 子音(th)(f)(v)の聞き取りと発音練習
06. 子音(r)(l)(y)の聞き取りと発音練習
07. 語尾の発音、単数/複数、現在時制/過去時制の聞き分けと発音練習
08. 難しい子音、複数の子音の発音練習
09. 強弱・リズム・イントネーションについて
10. さまざまな語彙の種類と強弱
11. 文中の強弱
12. 英語の発音の特徴である、「音の融合」、「同化」の聞き取りと発音練習。
13. さまざまなイントネーションの聞き取りと発音練習
14. まとめ、発表の練習
15. 暗証の発表

準備学習(予習)

自宅で30分~60分、音声を聞きながら発音練習を行う。暗唱部分は、各自しっかりと練習し、暗記すること。

準備学習(復習)

学習した母音や子音は、発音記号で読めるよう、復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--|
| (1) 平常点 | 20% | 宿題、積極的な授業参加 |
| (2) 期末発表 | 40% | シャortsスピーチの暗唱。学習した発音、イントネーション、強弱を総合的に判断する。 |
| (3) 小テスト | 40% | 母音、子音、強弱、音節のまとめのテストを行う。 |

積極的に発音練習を行うこと。

教科書

Linda Lane 『Focus on Pronunciation (3E) 1: Student Book』(Pearson出版)【978-0132314930】

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11205220

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

発音が悪いために正しい英語でも理解してもらえないことがある。国際人の一人として、自信を持って英語が話せるようになる為には、発音も大事である。今までの発音を見直し、よりクリアな発音で英語が話せるようになることを目標とする。

(2) 内容

英語の発音が苦手な学生や、今以上に発音を上達させたい学生を対象に、発音の基礎を徹底的に指導する。まずは英語と日本語の音の違いを学び、英語らしい発音の特徴を学習する。聞き取りや発音練習をとおし、発音の上達に努める。

受講者に対する要望

毎回出席し、発音練習できる学生の受講を期待します。

学びのキーワード

- ・ 母音の特徴
- ・ 子音の特徴
- ・ 強弱
- ・ 音の融合
- ・ イントネーション

授業計画

01. オリエンテーションと発音のテスト|英語の母音のまとめ
02. 母音の聞き取りと発音練習
03. 母音の聞き取りと発音練習
04. 母音の復習、子音のまとめ。
05. 日本人が苦手な子音(th)(f)(v)の聞き取りと発音練習
06. 日本人が苦手な子音(r)(l)(y)の聞き取りと発音練習
07. 語尾の発音、単数/複数、現在時制/過去時制の聞き分けと発音練習
08. 複数の子音の組み合わせと発音練習
09. 強弱・リズム・イントネーションについて
10. 発音と強弱
11. 文中の強弱
12. 英語の発音の特徴である、「音の融合」、「同化」の聞き取りと発音練習。
13. さまざまなイントネーションの聞き取りと発音練習
14. 暗唱の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

準備学習(復習)

学習した母音や子音は発音記号でも読めるよう復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-------------|
| (1) 平常点 | 20% | 宿題、積極的な授業参加 |
| (2) 期末試験 | 30% | |
| (3) 暗唱発表 | 20% | |
| (4) 小テスト | 30% | |

平常点には、授業での積極的な練習も入ります。

教科書

Linda Lane 『Focus on Pronunciation 1』(ピアソン・エデュケーション)【978-0132314930】

参考書

担当教員：R. ローランド

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11205310

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分の意見が相手にうまく伝えるように、会話・研究・発表における言語・非言語スキルを学ぶこと。

(2) 内容

現代社会において様々なテーマを勉強しながら、その内容について自分の意見をきちんと持ち、会話と研究発表を通して伝え合う。

受講者に対する要望

現代社会の中の自分の立場をしっかりと確認できるように、毎回予習をしたうえで授業に積極的に参加しよう！

学びのキーワード

- ・ global・glocal
- ・ 現代社会
- ・ 研究
- ・ プレゼンテーション
- ・ 文法・ヴォキャブラーリ

授業計画

01. Orientation + Class introduction surveys
02. The environment and society part 1
03. The environment and society part 2
04. Text review and short presentations
05. Habitats and society part 1
06. Habits and society part 2
07. Introduction of mid-term presentation and preparation
08. Mid-term presentations
09. Myths
10. Education abroad
11. Text review and short presentations
12. Introduction of final presentation
13. Final presentation research and preparation
14. Final presentation check and practice
15. Final presentations and wrap-up

準備学習(予習)

授業前の課題を終わらせる(テキストなどを読んで、簡単な質問に答えるなど)

準備学習(復習)

学習まとめ(プレゼンテーション)を準備すること。

評価方法

- | | |
|--|-----|
| (1) Class participation | 10% |
| (2) Short assignments | 15% |
| (3) Short presentation / mid term presentation / | 50% |
| (4) Final presentation | 25% |

Class participation: 積極的に授業に取り組むこと(携帯の使用・余談・欠席・遅刻の習慣は減点になる)
Short assignments: 授業中で終わらせる課題や宿題 例: ブログを書く

教科書

N. ダグラス、A. ブーン『Inspire (ナショナル・ジオグラフィックラーニング)Level11』(センゲージラーニング)【978-1133963578】

参考書

担当教員：R. ローランド

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11205320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分の意見が相手にうまく伝えるように、会話・研究・発表における言語・非言語スキルを学ぶこと。

(2) 内容

現代社会において様々なテーマを勉強しながら、その内容について自分の意見をきちんと持ち、会話と研究発表を通して伝え合う。

受講者に対する要望

現代社会の中の自分の立場をしっかりと確認できるように、毎回予習をしたうえで授業に積極的に参加しよう！

学びのキーワード

- ・ global ・ glocal
- ・ 現代社会
- ・ 研究
- ・ プレゼンテーション
- ・ 文法・ヴォキャブラーリ

授業計画

01. Orientation + Class introduction surveys
02. The environment and society part 1
03. The environment and society part 2
04. Text review and short presentations
05. Habitats and society part 1
06. Habits and society part 2
07. Introduction of mid-term presentation and preparation
08. Mid-term presentations
09. Myths
10. Education abroad
11. Text review and short presentations
12. Introduction of final presentation
13. Final presentation research and preparation
14. Final presentation check and practice
15. Final presentations and wrap-up

準備学習(予習)

授業前の課題を終わらせる（テキストなどを読んで、簡単な質問に答えるなど）

準備学習(復習)

学習まとめ（プレゼンテーション）を準備すること。

評価方法

- | | |
|--|-----|
| (1) Class participation | 10% |
| (2) Short assignments | 15% |
| (3) Short presentation / mid term presentation / | 50% |
| (4) Final presentation | 25% |

Class participation: 積極的に授業に取り組むこと（携帯の使用・余談・欠席・遅刻の習慣は減点になる）
Short assignments: 授業中で終わらせる課題や宿題 例：ブログを書く

教科書

N. ダグラス、A. ブーン 『Inspire (ナショナル・ジオグラフィックラーニング)Level11』(センゲージラーニング)【978-1133963578】

参考書

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11206410

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語学習の基礎となる英文法を Step by Stepで学び、習得する。

(2) 内容

英語文法の基本である品詞の意味や基本文型から完了形、仮定法などの文法項目まで幅広く学習する。Step by Stepで丁寧に文法を学び、様々な演習を行い基本文法の習得を目指す。

受講者に対する要望

必ず予習、復習を行うこと。繰り返し練習問題を行い、新しく学んだ文法を習得できるように努力すること。

学びのキーワード

- ・ 英文法 |
- ・ 英作文
- ・ Vocabulary

授業計画

01. Orientation 授業内容の説明
 02. Unit 1, 2 品詞、平叙文、否定文、疑問文、命令文
 03. Unit 3, 4 文型の理解
 04. Unit 5 現在形、過去形、未来形、進行形
 05. Unit 6, 7 現在完了、過去完了、未来完了
 06. Unit 9, 10 接続詞、従属節、埋め込み文
 07. Unit 11 比較級、最上級
 08. Unit 12 能動態、受動態
 09. Unit 13, 14 名詞修飾、関係代名詞
 10. Unit 15 現在分詞、過去分詞、分詞修飾
 11. Unit 16, 17 関係副詞、分詞構文
 12. Unit 18, 19 知覚動詞、第5文型、使役文
 13. Unit 20, 21 法助動詞、仮定法過去、仮定法過去分詞
 14. Unit 22, 23 不定詞、動名詞、形式主語、冠詞
 15. Review & Final Exam

準備学習(予習)

授業前に未習の単語の意味を調べておく。また、必ず与えられた課題を行うこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ文法項目を必ず復習する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------|
| (1) 平常点 | 60% | 小テスト、授業参加度、課題 |
| (2) 期末試験 | 40% | |

教科書

"Step -by-Step Basic English Grammar" Nagoya Fujita (Asahi Press) ISBN978-4-255-15548-7

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11206420

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語コミュニケーションや英語資格試験などの基礎となる英文法を集中的に学習する。英文法を知識として学習するのではなく、実際のコミュニケーションに生かせるよう、具体的な日常生活のシーンなどと共に英文法を学習する。この講座は1年生の必修科目である、Reading、英語基礎表現、Speakingなどで扱う、基礎の英文法の定着を図るため、復習に努める。

(2) 内容

教科書の文法項目を中心に授業を行い、応用として学習した文法項目を、実際の自分のシチュエーションに置き換え、コミュニケーションを試みる。

受講者に対する要望

授業には必ず辞書を持参し、宿題、予習・復習を必ず行い、積極的な態度で授業に参加する。

学びのキーワード

- ・ 文法
- ・ 表現方法
- ・ 語彙
- ・ 発音・イントネーション
- ・ ライティング

授業計画

01. オリエンテーション：シラバスの説明など
02. 1. 名詞・形容詞・副詞・冠詞
03. 2. 現在形
04. 3. 過去形
05. 4. 未来形
06. 5. 疑問文・否定文
07. 6. 人称代名詞
08. 7. 完了形
09. 8. 受動態
10. 9. 助動詞
11. 10. to不定詞・動名詞
12. 11. 前置詞・接続詞
13. 11. 条件文
14. 12. 関係代名詞
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された教科書の文法項目に目を通し、疑問点などがあれば授業で質問できるよう準備しておく。

準備学習(復習)

十分な時間を学習した文法項目や会話表現などの復習して知識の定着を図るとともに、翌週の小テストにも備える。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業参加度、宿題の提出と評価、小テストなど |
| (2) 学期末試験 | 50% | |

教科書

未定

参考書

担当教員：小谷 哲夫

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11300100

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

国際化・情報化の時代の今日、英語以外の外国語を学ぶことは大きな意義があり、欧米の文化をより深く理解する上でも、必須条件であると思えます。

本講義では、先ず読みの徹底、そして文法と読解へと進みながら、初級ドイツ語を学んでいきます。日常的な表現による易しい文章であれば、自分で辞書を引いて読むことが出来る水準に達することを目標とします。

(2) 内容

講義の目標及び概要

1. 本講義はドイツ語の学習未経験者を対象としたクラスです。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習していき、ドイツ語の文章読解へと進めていきます。

2. カリキュラム上の位置づけ

基礎教育科目のなかの第二外国語の科目で、欧米文化学科の学生は「フランス語」とともに、選択必修科目です。

受講者に対する要望

短期間で語学を習得するには、まず自分で積極的に取り組む必要があります。休まずに、授業に参加して下さい。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. アルファベット・ドイツ語の単語の発音
03. 前回の続き
04. ビデオ教材の用いた発音練習
05. 同上
06. 同上
07. 第0課 ドイツ語のあいさつ・数詞
08. 第1課 人称代名詞・動詞の現在人称変化等
09. 第1課の練習問題
10. 第2課 名詞の性・語順等
11. 第2課の続き
12. 第2課の練習問題
13. 第3課 定冠詞と名詞の格変化等
14. 第3課の続き
15. 第3課の練習問題
16. 第4課 不定冠詞・所有冠詞等
17. 第4課の続き
18. 第4課の練習問題
19. 第5課 現在人称変化の不規則な動詞（1）等
20. 第5課の続き
21. 第5課の練習問題
22. 第6課 現在人称変化の不規則な動詞（2）等
23. 第6課の続き
24. 第6課の練習問題
25. 第1課から第6課までの文法補足
26. 同上の続き
27. まとめとこれまでの学習内容の理解度の確認
28. 同上の続き
29. 同上の続き
30. 定期試験問題の説明

準備学習(予習)

次の授業に対する予習の内容は毎回指示しますので、必ずやってくることを。

準備学習(復習)

毎回学習した内容の中で、特に重要な部分は必ず指摘しますので、必ず再確認して下さい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 定期試験 | 60% |
| (2) 小テスト | 20% |
| (3) 授業態度等の平常点 | 20% |

教科書

秋田 静男 他『ドイツ語インフォメーション neu2』(朝日出版社)【978-4255253589】

参考書

担当教員：小谷 哲夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11300120

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

今日のグローバル化時代においては、外国語でのコミュニケーション能力や情報活用能力を養うことにより、将来の選択肢が広がります。この授業は、そのようなドイツ語の運用力の修得を目指し、ドイツ語技能検定試験5級程度の語学力を身につけて、ドイツ語で簡単な自己表現ができることを目標とします。

ドイツ語圏はサッカー強国であると共に、宗教（ルターなど）、音楽（バッハ、モーツァルト、ベートヴェンなど）、哲学（カント、ニーチェなど）、文学（ゲーテ、グリム兄弟、ヘッセなど）の分野で著名な人物を輩出した、歴史的・文化的に重要な地域です。一方で、昨年から日本のニュースでも度々報じられているように、移民問題など多くの国際的な問題に直面しています。そこで、ドイツ語を学ぶだけでなく、このような問題や異文化の理解を深めることで、グローバルな視点で国際的な問題について議論できるようになることも目指します。

(2) 内容

ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語のドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習や読解練習を行います。またドイツ語圏のニュース映像や映画などを通して、ドイツ語圏の歴史、文化、社会も学びます。さらにグループあるいは個人で、ドイツ語圏の都市や文化について発表してもらい、情報を共有します。

受講者に対する要望

ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えることを求めます。独和辞典も必要ですが、開講時に紹介します。

学びのキーワード

- ・ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス）
- ・言語と文化

授業計画

01. ガイダンス（ドイツ語とドイツ語圏の国について）
02. アルファベットと発音練習（母音を中心として）
03. 発音練習（変母音を中心として）
04. 発音練習（子音を中心として）
05. 基本的な挨拶表現
06. 1課 動詞の現在人称変化
07. 1課 疑問詞と疑問文
08. 1課 自己紹介、人を紹介する
09. 2課 語順、決定疑問文と答え方
10. 2課 現在形の応用練習、ドイツの都市を学ぶ
11. 1～2課の復習（テキストの巻末の問題）
12. 3課 定冠詞と名詞の格変化
13. 3課 定冠詞類、発表の準備（テーマとグループの分類）
14. 3課 数詞と買い物に関する表現
15. 中間試験、映像を通してドイツの文化を学ぶ
16. 映像を通してドイツ語圏の現代の問題を学ぶ
17. 4課 不定冠詞、不定冠詞類
18. 4課 否定冠詞を用いた否定文
19. 5課 不規則動詞の現在人称変化
20. 6課 特殊な現在人称変化
21. ドイツ語圏の都市（南部）についての発表：第一グループ
22. ドイツ語圏の都市（中部）についての発表：第二グループ
23. ドイツ語圏の都市（北部）についての発表：第三グループ
24. 6課 人称代名詞
25. 6課 非人称esの表現
26. 5課 テキストの会話文、日常会話の基礎表現
27. 6課 テキストの会話文、パートナー練習
28. 3～4課の復習（テキストの巻末の問題）
29. 5～6課の復習（テキストの巻末の問題）
30. これまでの総復習と理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の指示に従い、テキストやプリントの問題練習、あるいは単語の意味調べなどの課題を行うこと。

準備学習(復習)

前回の授業の要点をノートで確認し、CDを聴き、内容を理解しながら発音練習を行うこと。ドイツ語の基本表現を暗記すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業時の課題達成度などの積極的な姿勢を評価 |
| (2) 発表 | 20% | |
| (3) 中間試験 | 30% | |
| (4) 期末試験 | 30% | |

教科書

秋田 幹男、江口 陽子、神谷 善弘、河村 麻里子、小林 憲吉、黒澤 優子、森川 元之、中野 有希子、竹村 恭一郎、田村 江里子『ドイツ語インフォメーションneu2』（朝日出版社）【978-4265253589】

参考書

授業時に紹介します。

担当教員：清水 威能子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修単位：2 授業コード：11300130

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ドイツ語は、主にドイツ、オーストリア、スイスで話されています。これらの国は、風景の美しさも有名ですが、さらに宗教（ルターなど）、音楽（バッハ、モーツァルトなど）、文学（グリム童話など）、哲学（カントなど）、スポーツ（サッカー）の分野でも知られています。またベンツなどの高級車や、身近にあるアディダスやニベアなども、工業国ドイツの製品です。

このような世界的に影響力のあるドイツ語圏の文化の知識を増やしなが、まずは発音を正確に身に付け、ドイツ語で挨拶や簡単な自己表現ができることを目標とします。

(2) 内容

ドイツ語の正確な発音と基礎をゆっくりと学び、そして何よりもドイツ語に慣れ親しむ練習を行います。また、音楽や映画などを通して、ドイツ語圏の文化も学びます。そして最後に、グループあるいは個人で、ドイツ語圏の都市や文化について発表してもらい、情報を共有します。

受講者に対する要望

ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えましょう。

学びのキーワード

- ・ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス）
- ・言語と文化

授業計画

01. ガイダンス（ドイツ語とドイツ語圏の国について）
02. アルファベットと発音練習（母音を中心として）
03. 発音練習（変母音を中心として）
04. 発音練習（子音を中心として）
05. 基本的な挨拶表現
06. 1課 動詞の現在人称変化
07. 1課 疑問詞と疑問文
08. 1課 自己紹介、人を紹介する
09. 2課 語順、決定疑問文と答え方
10. 2課 現在形の応用練習、ドイツの都市を学ぶ
11. 1～2課の復習（テキストの巻末の問題）
12. 3課 定冠詞と名詞の格変化
13. 3課 定冠詞類、発表の準備（テーマとグループの分類）
14. 3課 数詞と買い物に関する表現
15. 小テストと解説、映像でドイツの文化を学ぶ(1)
16. 映像でドイツの文化を学ぶ(2)
17. 4課 不定冠詞、不定冠詞類
18. 4課 否定冠詞を用いた否定文
19. 5課 不規則動詞の現在人称変化
20. 6課 特殊な現在人称変化
21. ドイツ語圏の都市（南部、ミュンヘンなど）についての発表：第一グループ
22. ドイツ語圏の都市（中部、フランクフルトなど）についての発表：第二グループ
23. ドイツ語圏の都市（北部、ハンブルク、ベルリンなど）についての発表：第三グループ
24. 6課 人称代名詞
25. 6課 非人称esの表現
26. 5課 テキストの会話文、日常会話の基礎表現
27. 6課 テキストの会話文、パートナー練習
28. 3～4課の復習（テキストの巻末の問題）
29. 5～6課の復習（テキストの巻末の問題）
30. これまでの総復習と理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の指示に従い、テキストやプリントの問題練習などの課題を行うこと。

準備学習(復習)

前回の授業の要点をノートで確認し、CDを聴き、内容を理解しながら発音練習を行うこと。

評価方法

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 授業時の課題達成度などの積極的な姿勢 | 30% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) 小テスト | 20% 小テストの解説は、テスト後に行います。 |
| (4) 期末試験 | 30% 期末試験の解説は、試験後に行います。 |

上記の「学びの目標」に従い、
 1 発音を正確に身に付ける
 2 ドイツ語で挨拶や簡単な自己表現ができる
 3 ドイツ語圏の文化について説明できる
 という点を判断し評価します。

教科書

秋田 静男 他『ドイツ語インフォメーション neu2』（朝日出版社）【978-4255253589】

参考書

独和辞典や参考書は、開講時に紹介します。

担当教員：清水 威能子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修単位：2 授業コード：11300210

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

世界的に影響のあるドイツ語圏の文化や社会の知識を増やししながら、ドイツ語で簡単な自己表現ができ、易しい文章が読めることを目標とします。さらに異文化との比較から、日本の文化や社会について、グローバルな視点で考察できることも目指します。

(2) 内容

ドイツ語 I の内容を復習しながら、さらに基礎をゆっくりと学び、ドイツ語に慣れ親しむ練習を行います。また、音楽や映画などを通して、ドイツ語圏の文化や社会も学びます。そして最後に、グループあるいは個人で、ドイツ語圏の習慣や社会について発表してもらい、情報を共有します。

受講者に対する要望

ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えましょう。

学びのキーワード

- ・ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス）
- ・言語と文化

授業計画

01. ガイダンスと発音の復習
02. ドイツ語 I の復習（1～2 課）と会話練習
03. ドイツ語 I の復習（2～3 課）と会話練習
04. ドイツ語 I の復習（3～4 課）と会話練習
05. ドイツ語 I の復習（5～6 課）と会話練習
06. 7 課 前置詞、オーストリア（ウィーン）の文化を映像で学ぶ
07. 7 課 前置詞の応用表現
08. 8 課 話法の助動詞
09. 8 課 話法の助動詞の応用表現
10. 9 課 分離動詞
11. 9 課 命令形、時刻の表現
12. 7～9 課までの復習（テキストの巻末の問題）
13. ドイツの社会を映画で学ぶ(1)
14. ドイツの社会を映画で学ぶ(2)
15. 小テストと解説、10 課 形容詞の格変化
16. 10 課 形容詞の応用表現
17. 10 課 再帰代名詞と再帰動詞
18. 11 課 過去人称変化
19. 11 課 従属接続詞
20. 12 課 現在完了形
21. 12 課 現在完了形の応用表現
22. ドイツ語圏の国の習慣や社会についての発表(1)
23. ドイツ語圏の国の習慣や社会についての発表(2)
24. ドイツ語圏の国の習慣や社会についての発表(3)
25. 10～12 課までの復習(1)（テキストの巻末の問題）
26. 10～12 課までの復習(2)（テキストの巻末の問題）
27. 読解練習(1)
28. 読解練習(2)
29. 読解練習(3)
30. これまでの総復習と理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の指示に従い、テキストやプリントの問題練習などの課題を行うこと。

準備学習(復習)

前回の授業の要点をノートで確認し、CDを聴き、内容を理解しながら発音練習を行うこと。

評価方法

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 授業時の課題達成度などの積極的な姿勢 | 30% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) 小テスト | 20% 小テストの解説は、テスト後に行います。 |
| (4) 期末試験 | 30% 期末試験の解説は、試験後に行います。 |

上記の「学びの目標」に従い、

1. ドイツ語で簡単な自己表現ができる
 2. 易しいドイツ語の文章が読める
 3. 異文化と比較して、日本の文化や社会を考察できる
- という点を判断し評価します。

教科書

秋田 静男 他『ドイツ語インフォメーション neu2』（朝日出版社）【978-4255253589】

参考書

授業時に紹介します。

担当教員：石田 明夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11300500

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、国連の公用語であるのももちろん、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(Federation Internationale de Football Association)がフランス語であることから、その重要性はつとに知られています。

ですから、この授業でフランス語の基礎を学ぶことは、世界への窓をほんのわずかでも開けるということの意味します。世界に目を向けられれば、多様な価値観に触れることができ自己形成に必ずや役立つと思えます。

(2) 内容

フランス語を初めて学ぶ学生のための授業です。ですから、ABCから始めてじっくりと、なんども繰返して会話表現、基礎的な文法を教科書にそって学んでいきます。また、DVD付きの教材ですので、フランスの町や生活スケッチを見ることができます。

時間の許すかぎり、フランスの音楽コンサートやミュージカルのDVDを用いたいと思っています。生きたフランス語に接し、フランスのさまざまな文化にも触れてもらいたいからです。

受講者に対する要望

簡単な言語というものには存在しません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えるとよいと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。簡単なフランス語の歌を紹介し、歌を覚えるのは発音に効果的です。

学びのキーワード

- ・ フランス語
- ・ フランス文化
- ・ パリ ボルドー

授業計画

01. 0課 ガイダンス ABC
02. 0課 簡単なあいさつ表現
03. 1課 自己紹介をする。動詞etre(英語のbe動詞にあたる)の練習
04. 1課 動詞etre(英語のbe動詞にあたる)の活用の確認 会話文の反復練習
05. 1課 音読練習 この課の復習(練習問題)
06. 2課 物を示す。名詞について
07. 2課 会話文の練習 形容詞について
08. 2課 音読練習 この課の復習(練習問題)
09. 3課 規則動詞の練習 疑問文について
10. 3課 規則動詞の活用の確認 会話文の反復練習
11. 3課 音読と訳 この課の復習(練習問題)
12. 4課 動詞avoirについて(英語のhaveにあたる) 否定文について
13. 4課 家族、年齢を言う。数字1から20
14. 4課 動詞avoirの活用の確認 会話文の反復練習
15. 4課 この課の復習(練習問題)
16. 以上までの総復習とビデオ鑑賞
17. 5課 動詞「行くaller」「するfaire」
18. 5課 動詞「行くaller」と「するfaire」の活用の確認 疑問詞「誰」「何」
19. 5課 会話文の反復練習
20. 5課 音読と訳 この課の復習(練習問題)
21. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)について 疑問詞「どんな」
22. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)の確認 会話文の反復練習
23. 6課 会話文の反復練習
24. 6課 音読と訳 この課の復習(練習問題)
25. 7課 代名詞について 願望表現
26. 7課 会話文の反復練習
27. 7課 音読と訳 この課の練習問題
28. 7課 仏検5級の練習問題
29. まとめ(予備日)1
30. まとめ(予備日)2

準備学習(予習)

予定の学習箇所を付属のCDとともに音読し、初出の語をノートに書き留めておくこと
確認のための小テストにしっかり対応すること

準備学習(復習)

終了した学習箇所、単語と表現を必ずなんどか音読すること
宿題や小テストに対応すること

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 授業への参加度、授業態度など |
| (2) 習熟度状況 | 40% | 動詞の活用、重要単語、文法事項の習熟度の確認 |
| (3) 課題の提出状況 | 20% | 文法事項に応じた宿題を出します。その提出状況を考慮します。 |

教科書

藤田裕二『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』(朝日出版社)【978-4255352596】

参考書

担当教員：石田 明夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11300510

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、国連の公用語であるのはもちろん、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(Federation Internationale de Football Association)がフランス語であることから、その重要性はつとに知られています。

ですから、この授業でフランス語の基礎を学ぶことは、世界への窓をほんのわずかでも開けるということの意味します。世界に目を向けられれば、多様な価値観に触れることができ自己形成に必ずや役立つと思えます。

(2) 内容

フランス語を初めて学ぶ学生のための授業です。ですから、ABCから始めてじっくりと、なんども繰返して会話表現、基礎的な文法を教科書にそって学んでいきます。また、DVD付きの教材ですので、フランスの町や生活スケッチを見ることができます。

時間の許すかぎり、フランスの音楽コンサートやミュージカルのDVDを用いたいと思っています。生きたフランス語に接し、フランスのさまざまな文化にも触れてもらいたいからです。

受講者に対する要望

簡単な言語というものには存在しません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えるとよいと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。簡単なフランス語の歌を紹介し、歌を覚えることは発音上達の近道です。

学びのキーワード

- ・ フランス語
- ・ フランス文化
- ・ パリ ボルドー

授業計画

01. 0課 ガイダンス ABC
02. 0課 簡単なあいさつ表現
03. 1課 自己紹介をする。動詞etre(英語のbe動詞にあたる)の練習
04. 1課 動詞etre(英語のbe動詞にあたる)の活用の確認 会話文の反復練習
05. 1課 音読練習 この課の復習(練習問題)
06. 2課 物を示す。名詞について
07. 2課 会話文の練習 形容詞について
08. 2課 音読練習 この課の復習(練習問題)
09. 3課 規則動詞の練習
10. 3課 規則動詞の活用の確認 疑問文について
11. 3課 会話文の反復練習
12. 3課 会話文の反復練習
13. 3課 この課の復習(練習問題)
14. 4課 動詞avoirについて(英語のhaveにあたる)
15. 4課 動詞avoirの活用の確認 否定文の作り方
16. 以上までの学習事項に関する総復習とビデオ鑑賞
17. 5課 動詞「行くaller」「するfaire」
18. 5課 動詞「行くaller」と「するfaire」の活用の確認 疑問詞「誰」「何」
19. 5課 会話文の反復練習
20. 5課 音読と訳 この課の復習(練習問題)
21. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)について 疑問詞「どんな」
22. 6課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)の確認 会話文の反復練習
23. 6課 会話文の反復練習
24. 6課 音読と訳 この課の復習(練習問題)
25. 7課 代名詞について 願望表現
26. 7課 会話文の反復練習
27. 7課 音読と訳 この課の練習問題
28. 7課 仏検5級の練習問題
29. まとめ(予備日)1
30. まとめ(予備日)2

準備学習(予習)

予定の学習箇所を付属のCDとともに音読し、初出の語をノートに書き留めておくこと
確認のための小テストにしっかり対応すること

準備学習(復習)

終了した学習箇所、単語と表現を必ずなんとか音読すること
宿題や小テストに対応すること

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 授業への参加度、授業態度など |
| (2) 習熟度状況 | 40% | 動詞の活用、重要単語、文法事項の習熟度の確認 |
| (3) 課題の提出状況 | 20% | 文法事項に応じた宿題を出します。その提出状況を考慮します。 |

教科書

藤田裕二『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅 1』(朝日出版社) [978-4255352596]

参考書

担当教員：小室 廉太

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修単位：2 授業コード：11300520

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- ・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。
- ・フランス語の発音の基礎が理解できるようになる。
- ・綴り字と発音の対応が分かるようになる。
- ・挨拶表現や簡単な質疑応答ができるようになる。
- ・自己紹介や他者紹介ができ、また理解できるようになる。
- ・日常の簡単なやりとりがフランス語でできるようになる。
- ・初級フランス語の文法が理解できるようになる。
- ・フランス文化についての理解が深まる。

(2) 内容

この授業では、フランス語発音の基礎を学びながら、簡単な会話表現を学んでいきます。発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な文法項目や動詞活用を学んでもらいます。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚えるようにしましょう。授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。また、フランス語検定問題も随時授業に取り入れていきます。楽しく、また活気のある授業にしてゆきたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待しています。

受講者に対する要望

遅刻、欠席をしないように心がけてください。授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。フランス語を学ぶだけでなく、コミュニケーションの仕方にも注意をしましょう。

学びのキーワード

- ・フランス語
- ・フランス文化
- ・仏検
- ・異文化理解
- ・異文化コミュニケーション

授業計画

01. ガイダンス 自己紹介 簡単なあいさつ フランスの世界遺産
02. 0課 アルファベ 簡単な自己紹介 つづり字の読み方
03. 0課 綴り字の読み方 フランスについて
04. 1課 ディアローグの発音練習 人称代名詞と動詞 ?tre
05. 1課 さまざまな国籍表現 名前の言い方
06. 1課 練習問題 読解問題 文化紹介：世界の中のフランス語
07. 2課 ディアローグの発音練習 名詞と不定冠詞 形容詞の性数一致と位
08. 2課 様々な名詞と形容詞 練習問題
09. 2課 読解問題 文化紹介：フランス人から見た日本 3課 ディアローグ
10. 3課 ディアローグの確認 第一群規則動詞 定冠詞 疑問文の作り方
11. 3課 場所に関する名詞 練習問題
12. 3課 住んでいる場所の尋ね方 読解問題 文化紹介：パリのモンパルナ
13. 1-3課 ディアローグと文法の復習
14. 仏検5級練習問題1
15. 1-3課のまとめ
16. 4課 ディアローグの発音練習 指示形容詞 動詞 avoir
17. 4課 否定文の作り方 数 (1-30) 練習問題 値段の尋ね方、聞き取り
18. 4課 読解問題 文化紹介：市場での買い物 5課 ディアローグの発音練習
19. 5課 ディアローグの確認 動詞 aller と近接未来 関係代名詞 que / quii 動詞 faire / partir
20. 5課 フランスの地図と都市名 練習問題 応用問題 文章読解 文化紹介：フランス鉄道の旅
21. 6課 ディアローグの発音練習 所有形容詞 疑問形容詞
22. 6課 日常の挨拶表現 (復習) 練習問題 文章読解 文化紹介：フランス南西部の都市、ボルドー
23. 7課 ディアローグの発音練習 人称代名詞強勢形 指示代名詞
24. 7課 提示表現と願望の表現 観光に関する語彙 練習問題
25. 7課 行きたい場所の尋ね方、答え方 文章読解 文化紹介：ボルドーワイン
26. 4-7課 ディアローグと文法の復習
27. 仏検5級練習問題2-1 文法問題
28. 仏検5級練習問題2-2 聞き取り問題
29. 4-6課のまとめ
30. 総まとめ

準備学習(予習)

事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。各課にあるLecture (文章読解) は宿題とする予定です。「注」を参考にしながら、辞書を調べて自分で訳してみましよう。

準備学習(復習)

毎回ディアローグ形式での発音練習をします。例文の発音は丸暗記するように心がけてください。また、練習問題を宿題にしたり、動詞活用や単語に関する小テストを行う予定です。しっかり準備しておいてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------------------|
| (1) 定期テスト | 60% | 中間試験と期末試験の合計点 |
| (2) 平常点 | 40% | 授業参加態度、宿題や小テストなどの結果点 |

教科書

藤田裕二『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅 1』(朝日出版社) [978-4255352596]

参考書

清岡智比古『フラ後入門、わかりやすいにもホドがある!』(白水社、2003年)

担当教員：塩谷 祐人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11300530

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

新しい語学を身につけることは、それだけ入手できる情報量が増え、自分の世界を広げることにつながります。

また、フランス語を通じてフランスの文化に触れることで、多様な考え方、多様なものの見方ができる国際的なセンスを身につけることも目標にしたいと思います。

(2) 内容

フランス語をはじめて学ぶ学生のためのクラスです。フランス語の読み方や簡単な会話、文法の基礎を学習します。ある程度学習が進むたびにまとめと習熟度の確認（全部で3回の予定）を行い、学習項目を少しずつこまめにチェックしていき、確実に新しい知識が身につくように段階的に授業を進めていきます。

教材にはフランスの世界遺産や食文化を巡る旅を通じてフランス語が学べるものを使い、映像資料や音声資料を活用しながら授業を進めていきます。

受講者に対する要望

覚えることを面倒くさがないこと。
知識や能力を身につければ、自分の可能性が広がっていくということを忘れないこと。

学びのキーワード

- ・ フランス語
- ・ コミュニケーション
- ・ 異文化理解
- ・ 国際社会
- ・ ヨーロッパ文化

授業計画

01. ガイダンス
02. フランス語の綴りの読み方。
03. フランス語で自己紹介。（名前や国籍や職業の言い方。）
04. 相手のことを聞いたり、第三者のことを言ったりする。（例：「あなたは学生ですか？」「彼はフランス人です。」）
05. 「これは〇〇です。」の言い方。（例：「これは本です。」）
06. 物を説明する。（例：「これはフランス語の本です。」）
07. 聞き取りの練習、訳の練習。
08. いろいろな動作を言う練習。（例：「〇〇に住んでいます。」「〇〇が好きです。」）
09. 相手に質問する。（例：「あなたはバリの住んでいるのですか？」）
10. 復習とフランス語検定5級を目指した練習問題。
11. 1課から3課までのまとめと習熟度確認
12. フランス語での買い物の仕方①（例：「これはいくらですか？」）
13. フランス語での買い物の仕方②（例：「〇〇はありますか？」）
14. 否定文の作り方。（例：「私は〇〇ではありません。」）
15. 行き先を言う、予定を言う。（例：「私はパリに行きます。」「私はパリに行くつもりです。」）
16. 誰？何？を聞いてみる。（例：「何をしていますか？」「それは誰ですか？」）
17. 聞き取りの練習、訳の練習。
18. 4課と5課のまとめと習熟度確認
19. 私の〇〇、君の〇〇の言い方。（例：「これは私の携帯です。」）
20. どんな〇〇ですか？の聞き方。（例：「どんな女優が好きですか？」）
21. フランス語の挨拶や日常表現を覚える。（例：「元気？」「すみません。」）
22. 「〇〇がしたい」の言い方。（例：「ツアーに申し込みたいのですが...」）
23. 「こちらとあちら」の言い方。（例：「二つの帽子がありますが、こちらがいいですか？それとも、あちらですか？」）
24. 観光に関する表現の会話練習。
25. 聞き取りと訳の練習。
26. 6課と7課のまとめと習熟度確認
27. 0課から7課までの総復習。
28. 総復習とフランス語検定5級を目指した練習問題。
29. 0課から7課の総復習
30. 0課から7課のまとめと習熟度確認

準備学習(予習)

毎回、「次回の予定」を伝えるので、その項目に目を通しておくこと。ただし、予習よりも復習を大事にすること。

準備学習(復習)

単語や文法、会話表現を覚えてもらうために、習熟度の確認を複数回おこなう予定です。その日に習ったことの練習問題や配布プリントを見直し、毎回、自身の習熟度をチェックしてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 授業への取り組みと会話練習などでの意欲を評価します。 |
| (2) 定期テスト | 60% | 3回の中間試験と学期末に行うテストの点数で評価します。 |

教科書

藤田裕二『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』(朝日出版社)【978-4255352596】

参考書

担当教員：小室 廉太

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修単位：2 授業コード：11300540

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- ・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。
- ・フランス語の発音の基礎が理解できるようになる。
- ・綴り字と発音の対応が分かるようになる。
- ・挨拶表現や簡単な質疑応答ができるようになる。
- ・自己紹介や他者紹介ができ、また理解できるようになる。
- ・日常の簡単なやりとりがフランス語でできるようになる。
- ・初級フランス語の文法が理解できるようになる。
- ・フランス文化についての理解が深まる。

(2) 内容

この授業では、フランス語発音の基礎を学びながら、簡単な会話表現を学んでいきます。発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な文法項目や動詞活用を学んでもらいます。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚えるようにしましょう。授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。また、フランス語検定問題も随時授業に取り入れていきます。楽しく、また活気のある授業にしてゆきたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待しています。

受講者に対する要望

遅刻、欠席をしないように心がけてください。授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。フランス語を学ぶだけでなく、コミュニケーションの仕方にも注意をしましょう。

学びのキーワード

- ・フランス語
- ・フランス文化
- ・仏検
- ・異文化理解
- ・異文化コミュニケーション

授業計画

01. ガイダンス 自己紹介 簡単なあいさつ フランスの世界遺産
02. 0課 アルファベ 簡単な自己紹介 つづり字の読み方
03. 0課 綴り字の読み方 フランスについて
04. 1課 ディアローグの発音練習 人称代名詞と動詞 ?tre
05. 1課 さまざまな国籍表現 名前の言い方
06. 1課 練習問題 読解問題 文化紹介：世界の中のフランス語
07. 2課 ディアローグの発音練習 名詞と不定冠詞 形容詞の性数一致と位
08. 2課 様々な名詞と形容詞 練習問題
09. 2課 読解問題 文化紹介：フランス人から見た日本 3課 ディアローグ
10. 3課 ディアローグの確認 第一群規則動詞 定冠詞 疑問文の作り方
11. 3課 場所に関する名詞 練習問題
12. 3課 住んでいる場所の尋ね方 読解問題 文化紹介：パリのモンパルナ
13. 1-3課 ディアローグと文法の復習
14. 仏検5級練習問題1
15. 1-3課のまとめ
16. 4課 ディアローグの発音練習 指示形容詞 動詞 avoir
17. 4課 否定文の作り方 数 (1-30) 練習問題 値段の尋ね方、聞き取り
18. 4課 読解問題 文化紹介：市場での買い物 5課 ディアローグの発音練習
19. 5課 ディアローグの確認 動詞 aller と近接未来 関係代名詞 que / quii 動詞 faire / partir
20. 5課 フランスの地図と都市名 練習問題 応用問題 文章読解 文化紹介：フランス鉄道の旅
21. 6課 ディアローグの発音練習 所有形容詞 疑問形容詞
22. 6課 日常の挨拶表現 (復習) 練習問題 文章読解 文化紹介：フランス南西部の都市、ボルドー
23. 7課 ディアローグの発音練習 人称代名詞強勢形 指示代名詞
24. 7課 提示表現と願望の表現 観光に関する語彙 練習問題
25. 7課 行きたい場所の尋ね方、答え方 文章読解 文化紹介：ボルドーワイン
26. 4-7課 ディアローグと文法の復習
27. 仏検5級練習問題2-1 文法問題
28. 仏検5級練習問題2-2 聞き取り問題
29. 4-6課のまとめ
30. 総まとめ

準備学習(予習)

事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。各課にあるLecture (文章読解) は宿題とする予定です。「注」を参考にしながら、辞書を調べて自分で訳してみましよう。

準備学習(復習)

毎回ディアローグ形式での発音練習をします。例文の発音は丸暗記するように心がけてください。また、練習問題を宿題にしたり、動詞活用や単語に関する小テストを行う予定です。しっかり準備しておいてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------------------|
| (1) 定期テスト | 60% | 中間試験と期末試験の合計点 |
| (2) 平常点 | 40% | 授業参加態度、宿題や小テストなどの結果点 |

教科書

藤田裕二『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』(朝日出版社)【978-4255352596】

参考書

清岡智比古『フラ後入門、わかりやすいにもホドがある!』(白水社、2003年)

担当教員：石田 明夫

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11300620

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、国連の公用語であるのはもちろん、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(Federation Internationale de Football Association)がフランス語であることから、その重要性はつとに知られています。

ですから、この授業でフランス語の基礎を発展させ、世界への窓をさらに開けることです。そうすれば、多様な価値観に触れることができ、自己形成に必ずや役立つと思えます。

(2) 内容

基礎のフランス語Iを復習しながら、内容をさらに発展させ、表現の幅を現在から、過去・未来へと広げます。多種・多様な表現を身につけることにより、フランス語の完全な基礎作りを目指します。

付属のDVDはもちろん、いろいろなビデオを駆使して、フランス及びフランス文化の理解にも目を向けるつもりです。

受講者に対する要望

フランス語Iを終了していること。
簡単な言語というものは存在しません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えるとよいと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。
簡単なフランス語の歌を紹介します。歌を覚えることは発音上達の近道です。

学びのキーワード

- ・ フランス語
- ・ フランス文化
- ・ パリ ボルドー

授業計画

01. ガイダンス
02. フランス語I(7課まで)の復習 仏検5級の練習問題
03. 8課 目的語代名詞について
04. 8課 目的語代名詞の練習 会話文の反復練習
05. 8課 音読と訳
06. 8課 この課の練習問題
07. 9課 新たな動詞と、特殊な代名詞について
08. 9課 趣味についての会話文を反復練習
09. 9課 音読と訳
10. 9課 この課の練習問題
11. 10課 天候時間を表現する
12. 10課 会話文の反復練習
13. 10課 音読と訳
14. 10課 この課の練習問題
15. 以上までの学習事項のまとめと確認
16. 仏検4級レベルの練習問題
17. 11課 特殊な代名詞と数量表現
18. 11課 食べ物飲み物の単語の練習
19. 11課 食べ物飲み物の単語の確認 会話文の反復練習
20. 11課 この課の練習問題
21. 12課 比較する
22. 12課 未来を表現する 会話文の反復練習
23. 12課 動詞未来形の確認 会話文の反復練習
24. 12課 この課の練習問題
25. 13課 過去形(1)について
26. 13課 過去分詞の確認 過去形の練習
27. 13課 会話文の反復練習 過去形(2)について
28. 13課 動詞過去形の確認 会話文の反復練習
29. 13課 この課の練習問題
30. まとめ(予備日)

準備学習(予習)

授業の予定箇所を指示しますから、必ず、そこに目を通し、単語帳に初出の単語を書き出しておくこと。
宿題や小テストに対応すること。

準備学習(復習)

宿題や小テスト内容をしっかりと確認すること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|----------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 授業への参加度、授業態度など |
| (2) 習熟度状況 | 40% | 動詞の活用、重要単語、文法事項の習熟度の確認 |
| (3) 宿題等の課題提出状況 | 20% | 各文法事項に応じた宿題を出します。それらの提出状況を考慮します。 |

教科書

藤田裕二『Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』(朝日出版社)【978-4255352596】

参考書

担当教員：越智 直子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修 単位：2 授業コード：11300900

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

(2) 内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 名詞
- ・ 動詞
- ・ ser
- ・ estar

授業計画

01. オリエンテーション
02. アルファベット、発音
03. アクセント、音節
04. 主語人称代名詞
05. 動詞 ser
06. 文型、国名・国籍
07. 名詞の性と数
08. 定冠詞と不定冠詞
09. 動詞 hay
10. 動詞 estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. まとめ
18. 動詞 tener
19. 動詞 hacer
20. 天候表現
21. 所有形容詞 (前置形)
22. 規則活用動詞 (-ar 動詞)
23. 規則活用動詞 (-er 動詞)
24. 規則活用動詞 (-ir 動詞)
25. 語幹母音変化動詞 (e → ie 型)
26. 語幹母音変化動詞 (o → ue 型)
27. 語幹母音変化動詞 (e → i 型)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『CD付 気ままにスペイン語 Mi querido espa?ol』(三修社)【978-4384420104】

参考書

担当教員：越智 直子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修 単位：2 授業コード：11300910

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

(2) 内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 名詞
- ・ 動詞
- ・ ser
- ・ estar

授業計画

01. オリエンテーション
02. アルファベット、発音
03. アクセント、音節
04. 主語人称代名詞
05. 動詞 ser
06. 文型、国名・国籍
07. 名詞の性と数
08. 定冠詞と不定冠詞
09. 動詞 hay
10. 動詞 estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. まとめ
18. 動詞 tener
19. 動詞 hacer
20. 天候表現
21. 所有形容詞 (前置形)
22. 規則活用動詞 (-ar 動詞)
23. 規則活用動詞 (-er 動詞)
24. 規則活用動詞 (-ir 動詞)
25. 語幹母音変化動詞 (e → ie 型)
26. 語幹母音変化動詞 (o → ue 型)
27. 語幹母音変化動詞 (e → i 型)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido español 「気ままにスペイン語」』(三修社) [978-4384420104]

参考書

担当教員：宮内 ふじ乃

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修 単位：2 授業コード：11300920

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

(2) 内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 名詞
- ・ 動詞
- ・ ser
- ・ estar

授業計画

01. オリエンテーション
02. アルファベット、発音
03. アクセント、音節
04. 主語人称代名詞
05. 動詞 ser
06. 文型、国名・国籍
07. 名詞の性と数
08. 定冠詞と不定冠詞
09. 動詞 hay
10. 動詞 estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. まとめ
18. 動詞 tener
19. 動詞 hacer
20. 天候表現
21. 所有形容詞 (前置形)
22. 規則活用動詞 (-ar動詞)
23. 規則活用動詞 (-er動詞)
24. 規則活用動詞 (-ir動詞)
25. 語幹母音変化動詞 (e → ie 型)
26. 語幹母音変化動詞 (o → ue 型)
27. 語幹母音変化動詞 (e → i 型)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido español 「気ままにスペイン語」』(三修社) [978-4384420104]

参考書

担当教員：越智 直子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修 単位：2 授業コード：11300940

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

(2) 内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 名詞
- ・ 動詞
- ・ ser
- ・ estar

授業計画

01. オリエンテーション
02. アルファベット、発音
03. アクセント、音節
04. 主語人称代名詞
05. 動詞 ser
06. 文型、国名・国籍
07. 名詞の性と数
08. 定冠詞と不定冠詞
09. 動詞 hay
10. 動詞 estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. まとめ
18. 動詞 tener
19. 動詞 hacer
20. 天候表現
21. 所有形容詞 (前置形)
22. 規則活用動詞 (-ar動詞)
23. 規則活用動詞 (-er動詞)
24. 規則活用動詞 (-ir動詞)
25. 語幹母音変化動詞 (e → ie 型)
26. 語幹母音変化動詞 (o → ue 型)
27. 語幹母音変化動詞 (e → i 型)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol 「気ままにスペイン語」』(三修社) [978-4384420104]

参考書

担当教員：越智 直子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修 単位：2 授業コード：11300950

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

(2) 内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 名詞
- ・ 動詞
- ・ ser
- ・ estar

授業計画

01. オリエンテーション
02. アルファベット、発音
03. アクセント、音節
04. 主語人称代名詞
05. 動詞 ser
06. 文型、国名・国籍
07. 名詞の性と数
08. 定冠詞と不定冠詞
09. 動詞 hay
10. 動詞 estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. まとめ
18. 動詞 tener
19. 動詞 hacer
20. 天候表現
21. 所有形容詞 (前置形)
22. 規則活用動詞 (-ar動詞)
23. 規則活用動詞 (-er動詞)
24. 規則活用動詞 (-ir動詞)
25. 語幹母音変化動詞 (e → ie 型)
26. 語幹母音変化動詞 (o → ue 型)
27. 語幹母音変化動詞 (e → i 型)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol 「気ままにスペイン語」』(三修社) [978-4384420104]

参考書

担当教員：宮内 ふじ乃

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修 単位：2 授業コード：11300960

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

(2) 内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 名詞
- ・ 動詞
- ・ ser
- ・ estar

授業計画

01. オリエンテーション
02. アルファベット、発音
03. アクセント、音節
04. 主語人称代名詞
05. 動詞 ser
06. 文型、国名・国籍
07. 名詞の性と数
08. 定冠詞と不定冠詞
09. 動詞 hay
10. 動詞 estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. まとめ
18. 動詞 tener
19. 動詞 hacer
20. 天候表現
21. 所有形容詞 (前置形)
22. 規則活用動詞 (-ar 動詞)
23. 規則活用動詞 (-er 動詞)
24. 規則活用動詞 (-ir 動詞)
25. 語幹母音変化動詞 (e → ie 型)
26. 語幹母音変化動詞 (o → ue 型)
27. 語幹母音変化動詞 (e → i 型)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol 「気ままにスペイン語」』(三修社) [978-4384420104]

参考書

担当教員：越智 直子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301000

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々な表現や初級文法を取得することにより、歌を訳したり、簡単な手紙、メールなどを書くという楽しみができることと思います。

(2) 内容

「スペイン語I」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくる生き生きとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取りあげる予定です。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 比較級
- ・ 不規則動詞
- ・ gustar
- ・ 再帰動詞

授業計画

01. オリエンテーション
02. 復習 (1)
03. 復習 (2)
04. 7課 (1)
05. 7課 (2)
06. 7課 (3)
07. 8課 (1)
08. 8課 (2)
09. 8課 (3)
10. 9課 (1)
11. 9課 (2)
12. 9課 (3)
13. 復習 (1)
14. 復習 (2)
15. まとめ
16. 10課 (1)
17. 10課 (2)
18. 10課 (3)
19. 11課 (1)
20. 11課 (2)
21. 11課 (3)
22. 12課 (1)
23. 12課 (2)
24. 12課 (3)
25. 13課 (1)
26. 13課 (2)
27. 13課 (3)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido español 「気ままにスペイン語」』(三修社) [978-4384420104]

参考書

担当教員：越智 直子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301010

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々な表現や初級文法を取得することにより、歌を訳したり、簡単な手紙、メールなどを書くという楽しみができることと思います。

(2) 内容

「スペイン語I」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくる生き生きとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取りあげる予定です。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ スペイン語
- ・ 比較級
- ・ 不規則動詞
- ・ gustar
- ・ 再帰動詞

授業計画

01. オリエンテーション
02. 復習 (1)
03. 復習 (2)
04. 7課 (1)
05. 7課 (2)
06. 7課 (3)
07. 8課 (1)
08. 8課 (2)
09. 8課 (3)
10. 9課 (1)
11. 9課 (2)
12. 9課 (3)
13. 復習 (1)
14. 復習 (2)
15. まとめ
16. 10課 (1)
17. 10課 (2)
18. 10課 (3)
19. 11課 (1)
20. 11課 (2)
21. 11課 (3)
22. 12課 (1)
23. 12課 (2)
24. 12課 (3)
25. 13課 (1)
26. 13課 (2)
27. 13課 (3)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 単語テスト、提出物 | 25% |
| (3) 中間試験、期末試験 | 50% |

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol 「気ままにスペイン語」』(三修社)【978-4384420104】

参考書

担当教員： 閻 子謙

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修:単位： 2 授業コード： 11301310

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。

(2) 内容

1. 目的
本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。
2. カリキュラム上の位置づけ
初級段階で、入門的な位置づけである。
3. 学びの意義と目標
中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。

受講者に対する要望

より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そつと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。

学びのキーワード

- ・教科書と発音表を忘れずに持ってくること。
- ・毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。
- ・間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。
- ・授業中携帯をいじらず、私語を控えること。

授業計画

01. ガイダンス
02. 単母音、子音
03. 単母音、子音の確認
04. 複母音
05. 複母音の確認
06. 鼻音
07. 鼻音の確認
08. 発音編の総まとめ
09. 第1課のポイント、本文
10. 第1課トレーニング
11. 第2課のポイント、本文
12. 第2課のトレーニング
13. 第3課のポイント、本文
14. 第3課のトレーニング
15. 第1～3課の復習
16. 第4課のポイント、本文
17. 第4課のトレーニング
18. 第5課のポイント、本文
19. 第5課のトレーニング
20. 第6課のポイント、本文
21. 第6課のトレーニング
22. 第4～6課の復習
23. 第7課のポイント、本文
24. 第7課のトレーニング
25. 第8課のポイント、本文
26. 第8課のトレーニング
27. 第9課のポイント、本文
28. 第9課トレーニング
29. 第7～9課の復習
30. 総復習

準備学習(予習)

事前に教科書を読んでおくこと

準備学習(復習)

前回の授業内容をもう一度おさらいすること。

評価方法

- (1) 平常点
- (2) 受講態度
- (3) 定期試験

教科書

開講時に指示します。

参考書

担当教員：福田 素子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301311

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

中国語の基礎を身につけるとともに、日本語や英語と比較しながら中国語とは（また日本語とは）どのような言語であるかを考える視座を身につける。また外国語を学ぶとはどういうことかを考える。

(2) 内容

ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。

受講者に対する要望

本講義は、基本的に初めて中国語に触れる、中国語を母語としない学生を対象とする。個別の発音や文法の練習を重視するので、積極的に授業に参加することを要望する。

学びのキーワード

- ・発音
- ・文法
- ・異文化理解
- ・中国語
- ・訓練と実践

授業計画

01. ガイダンス・中国語とはどのような言語か・声調
02. 発音（単母音・複母音）
03. 発音（子音）
04. 発音（鼻音）
05. 発音（補足と総合練習）・挨拶
06. 第一課 動詞「是」を使った文・名前の名乗り方。
07. 第一課練習
08. 第一課予備・第二課助詞「的」・疑問詞の使用。
09. 第二課練習
10. 第二課予備
11. 第三課 動詞述語文・連動文。
12. 第三課練習
13. 第三課予備
14. 復習
15. 中間まとめ
16. まとめ問題解説
17. 第四課 助動詞「想」・反復疑問文・形容詞述語文
18. 第四課練習
19. 第四課予備
20. 第五課 数字の言い方・動詞「有」を使った文。
21. 第五課 年齢の言い方・比較構文。
22. 第五課練習
23. 第六課 経験の言い方。「～するのが好きだ」の言い方。
24. 第六課 助動詞「要」
25. 第六課練習
26. 第七課 年月日・曜日・時刻の言い方。
27. 第七課 前置詞・文末の「了」
28. 第七課練習
29. 総復習
30. まとめ

準備学習(予習)

各課の新出単語は事前に目を通しておく。

準備学習(復習)

発音は直された点を忘れず、練習して身につける。学習した単語と構文はそのつど覚えていくこと。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 中間まとめ | 25% |
| (3) 課のまとめチェック | 25% |
- 課のまとめチェックは、原則として課の終了ごとに実施。

欠席が十回を越えると、期末試験の受験が出来ない。

教科書

相原茂／陳淑梅／飯田敦子『初級テキスト 日中いごみ広場』（朝日出版社）【978-4255451930】

参考書

辞書の購入は義務づけない。購入する場合は授業内で辞書についての説明を受けた後で購入することを勧める。

担当教員：新田 小雨子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301312

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本講義を受講することによって、中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常の挨拶表現もできるようになる。中国語を学ぶと同時に、中国の文化や風習などについても知ることができる。本講義では、発音指導や文法導入を行う際、常に日中対照研究に関する知識を取り入れており、受講者は中国語を学ぶことを通して、目標言語（中国語）及び母語（日本語）のメカニズムについて一層わかるようになる。

(2) 内容

本講義は、VT法 (Verbo-Tonal Method) を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。使用テキストには基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。

受講者に対する要望

- 1) 受動的ではなく主動的な学習態度を取ることを。
- 2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。
- 3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。
- 4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守ること。

学びのキーワード

- ・ 発音
- ・ 日常挨拶表現
- ・ 疑問文
- ・ 動詞、形容詞述語文

授業計画

01. ガイダンス:中国語について・簡単な挨拶表現など
02. 発音1:声調・単母音・複母音
03. 発音2:声母表・無気音と有気音・そり舌音
04. 発音3:鼻音を伴う母音・eのヴァリエーションなど
05. 発音4:3声の変調・[不]の変調・[一]の変調・軽声など
06. まとめ
07. 第1課「こんにちは」:動詞“是”・名前の言い方・挨拶ことばなど
08. 第1課「こんにちは」:本文・練習・ドリル
09. 第2課「学校」:助詞“的”・疑問詞など
10. 第2課「学校」:本文・練習・ドリル
11. 第3課「新宿」:動詞述語文・副詞“也”・連動文など
12. 第3課「新宿」:本文・練習・ドリル
13. 第4課「カメラを買う」:助動詞の“想”・反復疑問文など
14. 第4課「カメラを買う」:本文・練習・ドリル
15. 理解度の確認とフィードバック
16. 第5課「家族を語る」:動詞“有”・比較の言い方など
17. 第5課「家族を語る」:本文・練習・ドリル
18. 第6課「富士山」:経験を表す表現・助動詞の“要”など
19. 第6課「富士山」:本文・練習・ドリル
20. 第7課「喫茶店」:年月日・曜日・時刻の言い方・前置詞など
21. 第7課「喫茶店」:本文・練習・ドリル
22. 第8課「街」:前置詞その2“从”“往”・動詞につく“了”など
23. 第8課「街」:本文・練習・ドリル
24. 第8課「街」:中国語学習のための基礎知識・練習プリント
25. 第9課「京都」:動詞の“在”・“是…的”構文など
26. 第9課「京都」:本文・練習・ドリル
27. 第9課「京都」:練習プリント
28. 総復習
29. 総復習
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

- 1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。
- 2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。

準備学習(復習)

- 1) 発音記号(ピンイン)の読む練習を常に行うこと。
- 2) 既習単語の読み書きを練習すること。
- 3) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。
- 4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|--------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 40% 受講態度、小テスト、課題など |

教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子『初級テキスト 日中いごこみ広場』(朝日出版社) [978-4255451930]

参考書

担当教員： 閻 子謙

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修:単位： 2 授業コード： 11301315

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。

(2) 内容

1. 目的
本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。
2. カリキュラム上の位置づけ
初級段階で、入門的な位置づけである。
3. 学びの意義と目標
中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。

受講者に対する要望

より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そつと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。

学びのキーワード

- ・教科書と発音表を忘れずに持ってくること。
- ・毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。
- ・間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。
- ・授業中携帯をいじらず、私語を控えること。

授業計画

01. ガイダンス
02. 単母音、子音
03. 単母音、子音の確認
04. 複母音
05. 複母音の確認
06. 鼻音
07. 鼻音の確認
08. 発音編の総まとめ
09. 第1課のポイント、本文
10. 第1課トレーニング
11. 第2課のポイント、本文
12. 第2課のトレーニング
13. 第3課のポイント、本文
14. 第3課のトレーニング
15. 第1～3課の復習
16. 第4課のポイント、本文
17. 第4課のトレーニング
18. 第5課のポイント、本文
19. 第5課のトレーニング
20. 第6課のポイント、本文
21. 第6課のトレーニング
22. 第4～6課の復習
23. 第7課のポイント、本文
24. 第7課のトレーニング
25. 第8課のポイント、本文
26. 第8課のトレーニング
27. 第9課のポイント、本文
28. 第9課トレーニング
29. 第7～9課の復習
30. 総復習

準備学習(予習)

事前に教科書を読んでおくこと

準備学習(復習)

前回の授業内容をもう一度おさらいすること。

評価方法

- (1) 平常点
- (2) 受講態度
- (3) 定期試験

教科書

開講時に指示します。

参考書

担当教員：新田 小雨子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本講義を受講することによって、中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常の挨拶表現もできるようになる。中国語を学ぶと同時に、中国の文化や風習などについても知ることができる。本講義では、発音指導や文法導入を行う際、常に日中対照研究に関する知識を取り入れており、受講者は中国語を学ぶことを通して、目標言語（中国語）及び母語（日本語）のメカニズムについて一層わかるようになる。

(2) 内容

本講義は、VT法 (Verbo-Tonal Method) を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。使用テキストには基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。

受講者に対する要望

- 1) 受動的ではなく主動的な学習態度を取ることを。
- 2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。
- 3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。
- 4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守ること。

学びのキーワード

- ・ 発音
- ・ 日常挨拶表現
- ・ 疑問文
- ・ 動詞、形容詞述語文

授業計画

01. ガイダンス:中国語について・簡単な挨拶表現など
02. 発音1:声調・単母音・複母音
03. 発音2:声母表・無気音と有気音・そり舌音
04. 発音3:鼻音を伴う母音・eのヴァリエーションなど
05. 発音4:3声の変調・[不]の変調・[一]の変調・軽声など
06. まとめ
07. 第1課「こんにちは」:動詞“是”・名前の言い方・挨拶ことばなど
08. 第1課「こんにちは」:本文・練習・ドリル
09. 第2課「学校」:助詞“的”・疑問詞など
10. 第2課「学校」:本文・練習・ドリル
11. 第3課「新宿」:動詞述語文・副詞“也”・連動文など
12. 第3課:「新宿」:本文・練習・ドリル
13. 第4課「カメラを買う」:助動詞の“想”・反復疑問文など
14. 第4課「カメラを買う」:本文・練習・ドリル
15. 理解度の確認及びフィードバック
16. 第5課「家族を語る」:動詞“有”・比較の言い方など
17. 第5課「家族を語る」:本文・練習・ドリル
18. 第6課「富士山」:経験を表す表現・助動詞の“要”など
19. 第6課「富士山」:本文・練習・ドリル
20. 第7課「喫茶店」:年月日・曜日・時刻の言い方・前置詞など
21. 第7課「喫茶店」:本文・練習・ドリル
22. 第8課「街」:前置詞その2“从”“往”・動詞につく“了”など
23. 第8課「街」:本文・練習・ドリル
24. 第8課「街」:中国語学習のための基礎知識・練習プリント
25. 第9課「京都」:動詞の“在”・“是…的”構文など
26. 第9課「京都」:本文・練習・ドリル
27. 第9課「京都」:練習プリント
28. 総復習
29. 総復習
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

- 1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。
- 2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。

準備学習(復習)

- 1) 発音記号(ピンイン)の読む練習を常に行うこと。
- 2) 既習単語の読み書きを練習すること。
- 3) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。
- 4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|--------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 40% 受講態度、小テスト、課題など |

教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子『初級テキスト 日中いごこみ広場』(朝日出版社) [978-4255451930]

参考書

担当教員：新田 小雨子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301421

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語発音を強化し、文法への理解を深める。より複雑な自己紹介、日常挨拶表現、旅行などの時に使用される表現を話せるようになる。また、中国語を学ぶことを通じて、目標言語（中国語）及び母語（日本語）のメカニズムについて一層わかるようになる。言語そのものだけではなく、中国という国についても知ってもらおう。

(2) 内容

本講義の使用テキストには基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。

受講者に対する要望

- 1) 受動的ではなく主動的な学習態度を取ることを。
- 2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。
- 3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。
- 4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守ること。

学びのキーワード

- ・ 発音（声調の正確さ）
- ・ 疑問文
- ・ 前置詞
- ・ 助動詞
- ・ 補語

授業計画

01. ガイダンス
02. 発音復習
03. 発音復習
04. 基礎文型の復習
05. 基礎文型の復習
06. 基礎文型の復習
07. 第10課「寿司」：主述述語文・助動詞“能”・結果補語
08. 第10課「寿司」：本文・練習・ドリル
09. 第11課「スキー」：助動詞“会”・様態補語など
10. 第11課「スキー」：本文・練習・ドリル
11. 第12課「動物園」：方向補語・動詞の重ね型など
12. 第12課「動物園」：本文・練習・ドリル
13. 第12課「動物園」：練習プリント・中国語学習のための基礎知識
14. まとめ
15. 理解度の確認及びフィードバック
16. 第13課：「春休み」：疑問詞の不定用法など
17. 第13課：「春休み」：本文・練習・ドリル
18. 第13課：「春休み」：練習プリント
19. 第14課「空港の外」：可能補語・“把”構文など
20. 第14課「空港の外」：本文・練習・ドリル
21. 第14課「空港の外」：練習プリント
22. 第15課「ホテル」：選択疑問文・形容詞の重ね型など
23. 第15課「ホテル」：本文・練習・ドリル
24. 第15課「ホテル」：練習プリント
25. 第16課「部屋の中」：“就要～了”・“被”構文など
26. 第16課「部屋の中」：本文・練習・ドリル
27. 第16課「部屋の中」：練習プリント
28. 総復習
29. 総復習
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

- 1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。
- 2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。

準備学習(復習)

- 1) 既習単語の読み書きを練習すること。
- 2) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。
- 3) 声調に気を付けながら、各課の会話文を熟読すること。
- 4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|--------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 40% 受講態度、小テスト、宿題など |

教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子『初級テキスト 日中いごみ広場』（朝日出版社）【978-4255451930】

参考書

担当教員： 閻 子謙

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目/選択必修:単位： 2 授業コード： 11301427

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。

(2) 内容

1. 目的
本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。
2. カリキュラム上の位置づけ
初級段階で、入門的な位置づけである。
3. 学びの意義と目標
中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。

受講者に対する要望

より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そつと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。

学びのキーワード

- ・教科書と発音表を忘れずに持ってくること。
- ・毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。
- ・間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。
- ・授業中携帯をいじらず、私語を控えること。

授業計画

01. ガイダンス
02. 単母音、子音
03. 単母音、子音の確認
04. 複母音
05. 複母音の確認
06. 鼻音
07. 鼻音の確認
08. 発音編の総まとめ
09. 第7課のポイント、本文
10. 第7課トレーニング
11. 第8課のポイント、本文
12. 第8課のトレーニング
13. 第9課のポイント、本文
14. 第9課のトレーニング
15. 第7～9課の復習
16. 第10課のポイント、本文
17. 第10課のトレーニング
18. 第11課のポイント、本文
19. 第11課のトレーニング
20. 第12課のポイント、本文
21. 第12課のトレーニング
22. 第10～12課の復習
23. 第13課のポイント、本文
24. 第13課のトレーニング
25. 第14課のポイント、本文
26. 第14課のトレーニング
27. 第15課のポイント、本文
28. 第15課トレーニング
29. 第13～15課の復習
30. 総復習

準備学習(予習)

事前に教科書を読んでおくこと

準備学習(復習)

前回の授業内容をもう一度おさらいすること。

評価方法

- (1) 平常点
- (2) 受講態度
- (3) 定期試験

教科書

開講時に指示します。

参考書

担当教員：溝口 カブスン

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修単位：2 授業コード：11301710

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。
 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
 3 韓国文化理解の初歩的知識

(2) 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
 文法については「助詞」に重点を置く。
 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。

学びのキーワード

- ・ ハングル文字
- ・ 韓国語の発音
- ・ 韓国語文法
- ・ 現代の韓国

授業計画

01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
02. 第1課 講義開始にあたって
03. 第2課 ハングルを覚えよう（母音）
04. 第2課 ハングルを覚えよう（子音）
05. 第2課 ハングルを覚えよう（練習）
06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音）
07. 第3課 ハングルのまとめ（練習）
08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記）
09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説）
10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習）
11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認）
12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説）
13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習）
14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認）
15. 第1部の復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。（例文解説）
18. 第6課 私は中村です。（文法解説）
19. 第6課 私は中村です。（練習）
20. 第6課 私は中村です。（演習）
21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説）
22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説）
23. 第7課 故郷はどこですか。（練習）
24. 第7課 故郷はどこですか。（演習）
25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説）
26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説）
27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習）
28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習）
29. 自己紹介作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

各回の授業で扱う文字と単語、本文は予めCDで聞き、読み、書き等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

学習した後は習得した文字と単語、文章の暗記、日記の作文等2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』（白帝社）【978-4891745721】

参考書

担当教員：溝口 カブスン

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修単位：2 授業コード：11301711

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。

- 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
- 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
- 3 韓国文化理解の初歩的知識

(2) 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
文法については「助詞」に重点を置く。
また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。

学びのキーワード

- ・ハングル文字
- ・韓国語の発音
- ・韓国語文法
- ・現代の韓国

授業計画

01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
02. 第1課 講義開始にあたって
03. 第2課 ハングルを覚えよう（母音）
04. 第2課 ハングルを覚えよう（子音）
05. 第2課 ハングルを覚えよう（練習）
06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音）
07. 第3課 ハングルのまとめ（練習）
08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記）
09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説）
10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習）
11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認）
12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説）
13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習）
14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認）
15. 第1部の復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。（例文解説）
18. 第6課 私は中村です。（文法解説）
19. 第6課 私は中村です。（練習）
20. 第6課 私は中村です。（演習）
21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説）
22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説）
23. 第7課 故郷はどこですか。（練習）
24. 第7課 故郷はどこですか。（演習）
25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説）
26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説）
27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習）
28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習）
29. 自己紹介作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

各回の授業で扱う文字と単語、本文は予めCDで聞き、読み、書き等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

学習した後は習得した文字と単語、文章の暗記、日記の作文等2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』（白帝社）【978-4891745721】

参考書

担当教員：金 娜玄

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301712

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。

- 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
- 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
- 3 韓国文化理解の初歩的知識

(2) 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
文法については「助詞」に重点を置く。
また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。

学びのキーワード

- ・ ハングル文字
- ・ 韓国語の発音
- ・ 韓国語文法
- ・ 現代の韓国

授業計画

01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
02. 第1課 講義開始にあたって
03. 第2課 ハングルの覚えよう (母音)
04. 第2課 ハングルの覚えよう (子音)
05. 第2課 ハングルの覚えよう (練習)
06. 第3課 ハングルのまとめ (激音濃音)
07. 第3課 ハングルのまとめ (練習)
08. 第3課 ハングルのまとめ (日本語のハングル表記)
09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ (解説)
10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ (練習)
11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ (確認)
12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ (解説)
13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ (練習)
14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ (確認)
15. 第1部の復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。(例文解説)
18. 第6課 私は中村です。(文法解説)
19. 第6課 私は中村です。(練習)
20. 第6課 私は中村です。(演習)
21. 第7課 故郷はどこですか。(例文解説)
22. 第7課 故郷はどこですか。(文法解説)
23. 第7課 故郷はどこですか。(練習)
24. 第7課 故郷はどこですか。(演習)
25. 第8課 お昼の約束がありますか。(例文解説)
26. 第8課 お昼の約束がありますか。(文法解説)
27. 第8課 お昼の約束がありますか。(練習)
28. 第8課 お昼の約束がありますか。(演習)
29. 自己紹介作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

各回の授業で扱う文字と単語、本文は予めCDで聞き、読み、書き等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

学習した後は習得した文字と単語、文章の暗記、日記の作文等2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』(白帝社)【978-4891745721】

参考書

担当教員：金 娜玄

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301713

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- 以下の能力を養成し、知識を深める。
- 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
 - 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
 - 3 韓国文化理解の初歩的知識

(2) 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
文法については「助詞」に重点を置く。
また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。

学びのキーワード

- ・ ハングル文字
- ・ 韓国語の発音
- ・ 韓国語文法
- ・ 現代の韓国

授業計画

01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
02. 第1課 講義開始にあたって
03. 第2課 ハングルを覚えよう（母音）
04. 第2課 ハングルを覚えよう（子音）
05. 第2課 ハングルを覚えよう（練習）
06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音）
07. 第3課 ハングルのまとめ（練習）
08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記）
09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説）
10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習）
11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認）
12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説）
13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習）
14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認）
15. 第1部の復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。（例文解説）
18. 第6課 私は中村です。（文法解説）
19. 第6課 私は中村です。（練習）
20. 第6課 私は中村です。（演習）
21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説）
22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説）
23. 第7課 故郷はどこですか。（練習）
24. 第7課 故郷はどこですか。（演習）
25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説）
26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説）
27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習）
28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習）
29. 自己紹介作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

各回の授業で扱う文字と単語、本文は予めCDで聞き、読み、書き等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

学習した後は習得した文字と単語、文章の暗記、日記の作文等2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』（白帝社）【978-4891745721】

参考書

担当教員：溝口 カブスン

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修 単位：2 授業コード：11301714

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- 以下の能力を養成し、知識を深める。
- 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
 - 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
 - 3 韓国文化理解の初歩的知識

(2) 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
文法については「助詞」に重点を置く。
また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。

学びのキーワード

- ・ ハングル文字
- ・ 韓国語の発音
- ・ 韓国語文法
- ・ 現代の韓国

授業計画

01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
02. 第1課 講義開始にあたって
03. 第2課 ハングルを覚えよう（母音）
04. 第2課 ハングルを覚えよう（子音）
05. 第2課 ハングルを覚えよう（練習）
06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音）
07. 第3課 ハングルのまとめ（練習）
08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記）
09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説）
10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習）
11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認）
12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説）
13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習）
14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認）
15. 第1部の復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。（例文解説）
18. 第6課 私は中村です。（文法解説）
19. 第6課 私は中村です。（練習）
20. 第6課 私は中村です。（演習）
21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説）
22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説）
23. 第7課 故郷はどこですか。（練習）
24. 第7課 故郷はどこですか。（演習）
25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説）
26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説）
27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習）
28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習）
29. 自己紹介作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

各回の授業で扱う文字と単語、本文は予めCDで聞き、読み、書き等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

学習した後は習得した文字と単語、文章の暗記、日記の作文等2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』（白帝社）【978-4891745721】

参考書

担当教員：金 娜玄

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301716

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

- 以下の能力を養成し、知識を深める。
- 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
 - 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
 - 3 韓国文化理解の初歩的知識

(2) 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
文法については「助詞」に重点を置く。
また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじめる、入門者を対象とした初級講座である。

学びのキーワード

- ・ ハングル文字
- ・ 韓国語の発音
- ・ 韓国語文法
- ・ 現代の韓国

授業計画

01. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
02. 第1課 講義開始にあたって
03. 第2課 ハングルの覚えよう（母音）
04. 第2課 ハングルの覚えよう（子音）
05. 第2課 ハングルの覚えよう（練習）
06. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音）
07. 第3課 ハングルのまとめ（練習）
08. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記）
09. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（解説）
10. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（練習）
11. 第4課 パッチムと基本単語Ⅰ（確認）
12. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（解説）
13. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（練習）
14. 第5課 発音の変化と基本単語Ⅱ（確認）
15. 第1部の復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。（例文解説）
18. 第6課 私は中村です。（文法解説）
19. 第6課 私は中村です。（練習）
20. 第6課 私は中村です。（演習）
21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説）
22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説）
23. 第7課 故郷はどこですか。（練習）
24. 第7課 故郷はどこですか。（演習）
25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説）
26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説）
27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習）
28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習）
29. 自己紹介作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

各回の授業で扱う文字と単語、本文は予めCDで聞き、読み、書き等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

学習した後は習得した文字と単語、文章の暗記、日記の作文等2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』（白帝社）【978-4891745721】

参考書

担当教員：溝口 カブスン

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301820

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。

- 1 韓国語で簡単な会話をする能力
- 2 初歩的な文章を読むための「文法知識」
- 3 韓国文化理解のための基礎知識

(2) 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。
文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。
授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

「韓国語Ⅰ」の既履修者及び同程度の知識を持つ者を対象とする。
入門レベルに続き、初級レベルを完成させる。

学びのキーワード

- ・韓国語会話
- ・韓国語初級文法
- ・現代の韓国

授業計画

01. 韓国語Ⅰの復習（文字と発音）
02. 韓国語Ⅰの復習（発音の変化）
03. 韓国語Ⅰの復習（文法事項）
04. 第9課 女友達といっしょに行きます。（例文解説）
05. 第9課 女友達といっしょに行きます。（文法解説）
06. 第9課 女友達といっしょに行きます。（練習）
07. 第9課 女友達といっしょに行きます。（演習）
08. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（例文解説）
09. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（文法解説）
10. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（練習）
11. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（演習）
12. 第3部 韓国旅行、「モダンアップル」の歌
13. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（例文解説）
14. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説1）
15. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説2）
16. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（練習）
17. 第12課 いくらですか。（例文解説）
18. 第12課 いくらですか。（文法解説1）
19. 第12課 いくらですか。（文法解説2）
20. 第12課 いくらですか。（練習）
21. 第13課 私はキムチチゲにします。（例文解説）
22. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説1）
23. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説2）
24. 第13課 私はキムチチゲにします。（練習）
25. 第14課 ここがオンドル部屋です。（例文解説）
26. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説1）
27. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説2）
28. 第14課 ここがオンドル部屋です。（練習）
29. 日常会話の作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

本文の翻訳と単語帳、韓国語の日記作成等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

毎回、学習した単語と表現、文章等を2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』（白帝社）【978-4891745721】

参考書

担当教員：溝口 カブスン

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11301825

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。

- 1 韓国語で簡単な会話をする能力
- 2 初歩的な文章を読むための「文法知識」
- 3 韓国文化理解のための基礎知識

(2) 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。
文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。
授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

受講者に対する要望

「韓国語Ⅰ」の既履修者及び同程度の知識を持つ者を対象とする。
入門レベルに続き、初級レベルを完成させる。

学びのキーワード

- ・韓国語会話
- ・韓国語初級文法
- ・現代の韓国

授業計画

01. 韓国語Ⅰの復習（文字と発音）
02. 韓国語Ⅰの復習（発音の変化）
03. 韓国語Ⅰの復習（文法事項）
04. 第9課 女友達といっしょに行きます。（例文解説）
05. 第9課 女友達といっしょに行きます。（文法解説）
06. 第9課 女友達といっしょに行きます。（練習）
07. 第9課 女友達といっしょに行きます。（演習）
08. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（例文解説）
09. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（文法解説）
10. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（練習）
11. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（演習）
12. 第3部 韓国旅行、「モダン」の歌
13. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（例文解説）
14. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説1）
15. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説2）
16. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（練習）
17. 第12課 いくらですか。（例文解説）
18. 第12課 いくらですか。（文法解説1）
19. 第12課 いくらですか。（文法解説2）
20. 第12課 いくらですか。（練習）
21. 第13課 私はキムチチゲにします。（例文解説）
22. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説1）
23. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説2）
24. 第13課 私はキムチチゲにします。（練習）
25. 第14課 ここがオンドル部屋です。（例文解説）
26. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説1）
27. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説2）
28. 第14課 ここがオンドル部屋です。（練習）
29. 日常会話の作文や暗唱
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

本文の翻訳と単語帳、韓国語の日記作成等2時間程度の予習をする。

準備学習(復習)

毎回、学習した単語と表現、文章等を2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『アルギシウン韓国語』（白帝社）【978-4891745721】

参考書

担当教員：高津 美和

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11302100

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本に住んでいても、料理、美術、映画、サッカーなど、イタリアの様々な文化に触れる機会が多くあります。「イタリア語」を学ぶことで、魅力的なイタリアの文化をさらに身近に感じることができるでしょう。

(2) 内容

この授業では、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行います。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指します。

受講者に対する要望

イタリア語だけでなくイタリアの文化にも関心のある人の受講を歓迎します。

学びのキーワード

- ・イタリア語
- ・イタリア

授業計画

01. ガイダンス
02. アルファベットと発音
03. 第1課：名詞と形容詞 (1)
04. 第1課：名詞と形容詞 (2)
05. 第1課：名詞と形容詞 (3)
06. 第1課：名詞と形容詞 (4)
07. 第2課：essereとavere (1)
08. 第2課：essereとavere (2)
09. 第2課：essereとavere (3)
10. 第2課：essereとavere (4)
11. 第3課：are動詞 (1)
12. 第3課：are動詞 (2)
13. 第3課：are動詞 (3)
14. 第3課：are動詞 (4)
15. 復習 (第1～3課)
16. まとめ
17. 第4課：ere動詞 (1)
18. 第4課：ere動詞 (2)
19. 第4課：ire動詞 (1)
20. 第4課：ire動詞 (2)
21. 第5課：piacere (1)
22. 第5課：piacere (2)
23. 第5課：piacere (3)
24. 第5課：piacere (4)
25. 第6課：不規則動詞 (1)
26. 第6課：不規則動詞 (2)
27. 第6課：再帰動詞 (1)
28. 第6課：再帰動詞 (2)
29. 復習 (第4～6課)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通し、疑問がある場合は授業中に質問できるように準備する。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

遠藤礼子『Un piatto d' italianoイタリア語ひとさら』(白水社)【978-4560017623】

参考書

担当教員：高津 美和

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11302120

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本に住んでいても、料理、美術、映画、サッカーなど、イタリアの様々な文化に触れる機会が多くあります。「イタリア語」を学ぶことで、魅力的なイタリアの文化をさらに身近に感じることができるでしょう。

(2) 内容

この授業では、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行います。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指します。

受講者に対する要望

イタリア語だけでなくイタリアの文化にも関心のある人の受講を歓迎します。

学びのキーワード

- ・イタリア語
- ・イタリア

授業計画

01. ガイダンス
02. アルファベットと発音
03. 第1課：名詞と形容詞 (1)
04. 第1課：名詞と形容詞 (2)
05. 第1課：名詞と形容詞 (3)
06. 第1課：名詞と形容詞 (4)
07. 第2課：essereとavere (1)
08. 第2課：essereとavere (2)
09. 第2課：essereとavere (3)
10. 第2課：essereとavere (4)
11. 第3課：are動詞 (1)
12. 第3課：are動詞 (2)
13. 第3課：are動詞 (3)
14. 第3課：are動詞 (4)
15. 復習 (第1～3課)
16. まとめ
17. 第4課：ere動詞 (1)
18. 第4課：ere動詞 (2)
19. 第4課：ire動詞 (1)
20. 第4課：ire動詞 (2)
21. 第5課：piacere (1)
22. 第5課：piacere (2)
23. 第5課：piacere (3)
24. 第5課：piacere (4)
25. 第6課：不規則動詞 (1)
26. 第6課：不規則動詞 (2)
27. 第6課：再帰動詞 (1)
28. 第6課：再帰動詞 (2)
29. 復習 (第4～6課)
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通し、疑問がある場合には授業中に質問できるように準備する。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

遠藤礼子『Un piatto d' italianoイタリア語ひととさら』(白水社)【978-4560017623】

参考書

担当教員：高津 美和

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目/選択必修:単位：2 授業コード：11302200

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「イタリア語II」の履修によって、イタリア語の初級文法の習得が完了します。授業の後半には映画やアニメーションなども教材として取り上げる予定ですが、授業が進むにつれ、その内容をよく理解できるようになるでしょう。

(2) 内容

「イタリア語I」に引き続き、イタリア語の初級文法を学び、会話・作文・読解の練習を行います。CDやDVDなどの視聴覚教材を活用することによって、聴解力の強化も目指します。

受講者に対する要望

「イタリア語I」を履修した学生の受講を望みます。

学びのキーワード

- ・イタリア語
- ・イタリア

授業計画

01. ガイダンス
02. 復習：名詞と形容詞
03. 復習：規則動詞（are動詞、ere動詞、ire動詞）
04. 復習：不規則動詞
05. 第7課：補助動詞（1）
06. 第7課：補助動詞（2）
07. 第7課：補助動詞（3）
08. 第7課：補助動詞（4）
09. 第7課：補助動詞（5）
10. 第8課：近過去（1）
11. 第8課：近過去（2）
12. 第8課：近過去（3）
13. 第8課：近過去（4）
14. 第8課：近過去（5）
15. 復習（第7～8課）
16. まとめ
17. 第9課：半過去（1）
18. 第9課：半過去（2）
19. 第9課：半過去（3）
20. 第9課：半過去（4）
21. 第10課：未来（1）
22. 第10課：未来（2）
23. 第10課：未来（3）
24. 第10課：未来（4）
25. 第11課：命令法（1）
26. 第11課：命令法（2）
27. 第11課：命令法（3）
28. 第11課：命令法（4）
29. 復習（第9～11課）
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通し、疑問がある場合には授業中に質問できるように準備する。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

遠藤礼子『Un piatto d' italianoイタリア語ひとさら』（白水社）【978-4560017623】

参考書

担当教員：太田 ミユキ

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311530

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除く。「話す」ことに重きを置き口頭表現能力の向上を目指す。

(2) 内容

- ・ 毎回発音練習を行い、聞き手にとってわかりやすい発音を身につける。
- ・ 身近なテーマで原稿を書き、十分に練習し、ミニスピーチを行う。
- ・ テーマに沿って写真を使いながら少し長めのスピーチを行い、その後は質疑応答を行う。このスピーチは録音する。
- ・ 自らのパフォーマンスを再度聞きながら振り返り、自分自身の問題点を見つけ次のスピーチに生かす。
- ・ 他の人の発表のときは積極的に質問し、そのパフォーマンスに対してコメントを書く。
- ・ 学期の終わりには司会の表現も学ぶ。

受講者に対する要望

口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

学びのキーワード

- ・ スピーチ
- ・ 発音練習(フレージング練習)
- ・ 質疑応答
- ・ 振り返り
- ・ 良い聞き手

授業計画

01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介
02. 発音練習(ユニット7)・ミニスピーチ「私の国の一番」原稿作成
03. 発音練習(長音pp.29)ミニスピーチ「私の国の一番」発表
04. 発音練習(ユニット8)・ミニスピーチ「わたしの趣味・好きなこと」原稿作成
05. 発音練習(促音pp.41)・ミニスピーチ「わたしの趣味・好きなこと」発表
06. 発音練習(撥音pp.45)・「私の異文化体験」導入・原稿作成
07. スピーチ発表「私の異文化体験」
08. スピーチ発表「私の異文化体験」
09. 発音練習(ユニット13)・ミニスピーチ「思い出の手袋」原稿作成
10. 発音練習(ユニット12)・ミニスピーチ「思い出の手袋」発表
11. 発音練習(ユニット14)・ミニスピーチ「未来の私」原稿作成
12. 発音練習(数えよう4pp.68)・ミニスピーチ「未来の私」発表
13. 「おすすめの〇〇」導入・原稿作成・発表準備
14. スピーチ発表「おすすめの〇〇」
15. スピーチ発表「おすすめの〇〇」

準備学習(予習)

スピーチの発表練習を十分に行うこと

準備学習(復習)

授業時間内でスピーチの原稿を完成させることができなかった場合は、自宅で完成させ、発表の練習を、十分に行うこと。

評価方法

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) スピーチ(2回) | 40% |
| (2) ミニスピーチ(4回) | 40% |
| (3) 提出物(発表原稿・自己評価表・コメント) | 10% |
| (4) 平常点(取り組み・積極性など) | 10% |

- * スピーチ後に教師が口頭あるいは書面でコメントをする。
- * 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する

参考書

中川千恵子・中村則子『初級文型でできる日本語発音アクティビティ』(2010年)アスク出版
杉浦千恵・小野等監訳・宗イクマン監訳『わたしのほんごー 初級から話せるわたしの気持ち・わたしの考え』(2011年)くろしお出版

担当教員：前川 孝子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311531

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除く。「話す」ことに重きを置き口頭表現能力の向上を目指す。

(2) 内容

- ・ 毎回発音練習を行い、聞き手にとってわかりやすい発音を身につける。
- ・ 身近なテーマで原稿を書き、十分に練習し、ミニスピーチを行う。
- ・ テーマに沿って写真を使いながら少し長めのスピーチを行い、その後は質疑応答を行う。このスピーチは録音する。
- ・ 自らのパフォーマンスを再度聞きながら振り返り、自分自身の問題点を見つけ次のスピーチに生かす。
- ・ 他の人の発表のときは積極的に質問し、そのパフォーマンスに対してコメントを書く。
- ・ 学期の終わりには司会の表現も学ぶ。

受講者に対する要望

口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

学びのキーワード

- ・ スピーチ
- ・ 発音練習(フレージング練習)
- ・ 質疑応答
- ・ 振り返り
- ・ 良い聞き手

授業計画

01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介
02. 発音練習(ユニット7)・ミニスピーチ「私の国の一番」原稿作成
03. 発音練習(長音pp.29)ミニスピーチ「私の国の一番」発表
04. 発音練習(ユニット8)・ミニスピーチ「わたしの趣味・好きなこと」原稿作成
05. 発音練習(促音pp.41)・ミニスピーチ「わたしの趣味・好きなこと」発表
06. 発音練習(撥音pp.45)・「私の異文化体験」導入・原稿作成
07. スピーチ発表「私の異文化体験」
08. スピーチ発表「私の異文化体験」
09. 発音練習(ユニット13)・ミニスピーチ「思い出の手袋」原稿作成
10. 発音練習(ユニット12)・ミニスピーチ「思い出の手袋」発表
11. 発音練習(ユニット14)・ミニスピーチ「未来の私」原稿作成
12. 発音練習(数えよう4pp.68)・ミニスピーチ「未来の私」発表
13. 「おすすめの〇〇」導入・原稿作成・発表準備
14. スピーチ発表「おすすめの〇〇」
15. スピーチ発表「おすすめの〇〇」

準備学習(予習)

スピーチの発表練習を十分に行うこと

準備学習(復習)

授業時間内でスピーチの原稿を完成させることができなかった場合は、自宅で完成させ、発表の練習を、十分に行うこと。

評価方法

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) スピーチ(2回) | 40% |
| (2) ミニスピーチ(4回) | 40% |
| (3) 提出物(発表原稿・自己評価表・コメント) | 10% |
| (4) 平常点(取り組み・積極性など) | 10% |

- * スピーチ後に教師が口頭あるいは書面でコメントをする。
- * 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する

参考書

中川千恵子・中村則子『初級文型でできる日本語発音アクティビティ』(2010年)アスク出版
杉浦千恵・小野等志津・宗イクマン純子『わたしのほんごー 初級から話せるわたしの気持ち・わたしの考え』(2011年)くろしお出版

担当教員：阿久澤 弘陽

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311532

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除く。「話す」ことに重きを置き口頭表現能力の向上を目指す。

(2) 内容

- ・ 毎回発音練習を行い、聞き手にとってわかりやすい発音を身につける。
- ・ 身近なテーマで原稿を書き、十分に練習し、ミニスピーチを行う。
- ・ テーマに沿って写真を使いながら少し長めのスピーチを行い、その後は質疑応答を行う。このスピーチは録音する。
- ・ 自らのパフォーマンスを再度聞きながら振り返り、自分自身の問題点を見つけ次のスピーチに生かす。
- ・ 他の人の発表のときは積極的に質問し、そのパフォーマンスに対してコメントを書く。
- ・ 学期の終わりには司会の表現も学ぶ。

受講者に対する要望

口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

学びのキーワード

- ・ スピーチ
- ・ 発音練習(フレージング練習)
- ・ 質疑応答
- ・ 振り返り
- ・ 良い聞き手

授業計画

01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介
02. 発音練習(ユニット7)・ミニスピーチ「私の国の一番」原稿作成
03. 発音練習(長音pp.29)ミニスピーチ「私の国の一番」発表
04. 発音練習(ユニット8)・ミニスピーチ「わたしの趣味・好きなこと」原稿作成
05. 発音練習(促音pp.41)・ミニスピーチ「わたしの趣味・好きなこと」発表
06. 発音練習(撥音pp.45)・「私の異文化体験」導入・原稿作成
07. スピーチ発表「私の異文化体験」
08. スピーチ発表「私の異文化体験」
09. 発音練習(ユニット13)・ミニスピーチ「思い出の手袋」原稿作成
10. 発音練習(ユニット12)・ミニスピーチ「思い出の手袋」発表
11. 発音練習(ユニット14)・ミニスピーチ「未来の私」原稿作成
12. 発音練習(数えよう4pp.68)・ミニスピーチ「未来の私」発表
13. 「おすすめの〇〇」導入・原稿作成・発表準備
14. スピーチ発表「おすすめの〇〇」
15. スピーチ発表「おすすめの〇〇」

準備学習(予習)

スピーチの発表練習を十分に行うこと

準備学習(復習)

授業時間内でスピーチの原稿を完成させることができなかった場合は、自宅で作成させ、発表の練習を、十分に行うこと。

評価方法

(1) スピーチ(2回)	0.4
(2) ミニスピーチ(4回)	0.4
(3) 提出物(発表原稿・自己評価表・コメント)	0.1
(4) 平常点(取り組み・積極性など)	0.1

* スピーチ後に教師が口頭あるいは書面でコメントをする。
* 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する

参考書

中川千恵子・中村則子『初級文型でできる日本語発音アクティビティ』(2010年)アスク出版
杉浦千恵・小野等志津・宗イクマン純子『わたしのほんごー 初級から話せるわたしの気持ち・わたしの考え』(2011年)くろしお出版

担当教員：太田 ミユキ

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311635

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除く。「話す」ことに重きを置き口頭表現能力の向上を目指す。

(2) 内容

- ・毎回発音練習を行い、聞き手にとってわかりやすい発音を身につける。
- ・身近なテーマで原稿を書き、十分に練習し、ミニスピーチを行う。
- ・テーマに沿って写真を使いながら少し長めのスピーチを行い、その後は質疑応答を行う。このスピーチは録音する。
- ・自らのパフォーマンスを再度聞きながら振り返り、自分自身の問題点を見つけ次のスピーチに生かす。
- ・他の人の発表のときは積極的に質問し、そのパフォーマンスに対してコメントを書き、司会も行う。
- ・クラスメートにインタビューし、その内容を発表する。

受講者に対する要望

わかりやすい発音を身に付けるために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、スピーチにおいては、自分の発表だけでなく、他の学生のスピーチをきちんと聞き互いに学び合うことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

学びのキーワード

- ・スピーチ
- ・発音練習(フレージング練習)
- ・インタビュー
- ・振り返り
- ・良い聞き手

授業計画

01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介「1. 歓迎! 食べ歩きサークル」
02. ミ発音練習(ユニット15)・「百万円あったら」ミニスピーチ原稿作成
03. ミニスピーチ「百万円あったら」ミニスピーチ発表
04. 発音練習(ユニット23)・ミニスピーチ「新婚旅行に行くなら」原稿作成
05. ミニスピーチ「新婚旅行に行くなら」発表
06. 発音練習(ユニット24新製品を作りました) | スピーチ「弁論大会に向けて」導入・原稿作成
07. 弁論大会のテーマでスピーチ発表
08. 弁論大会のテーマでスピーチ発表
09. 発音練習(5. 私のストレス解消法)・「私のストレス解消法」原稿作成
10. ミニスピーチ発表「私のストレス解消法」
11. 発音練習(ユニット26)・「電話で話す」ペアで発表
12. インタビュー導入・実施発
13. インタビュー原稿作成・発表準備・練習
14. インタビュー発表
15. インタビュー発表

準備学習(予習)

スピーチの発表練習を十分に行うこと

準備学習(復習)

授業時間内でスピーチの原稿を完成させることができなかった場合は、自宅で完成させ、発表の練習を、十分に行うこと。

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) スピーチ(1回) | 20% |
| (2) インタビュー(1回) | 30% |
| (3) ミニスピーチ(3回) | 30% |
| (4) 提出物(発表原稿・自己評価表・コメントなど) | 10% |
| (5) 平常点(取り組み・積極性など) | 10% |

* スピーチ後に教師が口頭あるいは書面でコメントをする。
* 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

コピーを配布する

参考書

中川千恵子・中村則子『初級文型でできる日本語発音アクティビティ』(2010年) アスク出版
中川千恵子・木原郁子・斎藤浩文・篠原皇紀『伝わる発音が身につく! にほんご話し方トレーニング』(2015年) アスク出版

担当教員：川口 さち子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311636

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除く。「話す」ことに重きを置き口頭表現能力の向上を目指す。

(2) 内容

- ・毎回発音練習を行い、聞き手にとってわかりやすい発音を身につける。
- ・身近なテーマで原稿を書き、十分に練習し、ミニスピーチを行う。
- ・テーマに沿って写真を使いながら少し長めのスピーチを行い、その後は質疑応答を行う。このスピーチは録音する。
- ・自らのパフォーマンスを再度聞きながら振り返り、自分自身の問題点を見つけ次のスピーチに生かす。
- ・他の人の発表のときは積極的に質問し、そのパフォーマンスに対してコメントを書き、司会も行う。
- ・クラスメートにインタビューし、その内容を発表する。

受講者に対する要望

わかりやすい発音を身に付けるために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、スピーチにおいては、自分の発表だけでなく、他の学生のスピーチをきちんと聞き互いに学び合うことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

学びのキーワード

- ・スピーチ
- ・発音練習(フレージング練習)
- ・インタビュー
- ・振り返り
- ・良い聞き手

授業計画

01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介「1. 歓迎! 食べ歩きサークル」
02. ミ発音練習(ユニット15)・「百万円あったら」ミニスピーチ原稿作成
03. ミニスピーチ「百万円あったら」ミニスピーチ発表
04. 発音練習(ユニット23)・ミニスピーチ「新婚旅行に行くなら」原稿作成
05. ミニスピーチ「新婚旅行に行くなら」発表
06. 発音練習(ユニット24新製品を作りましょう) |スピーチ「弁論大会に向けて」導入・原稿作成
07. 弁論大会のテーマでスピーチ発表
08. 弁論大会のテーマでスピーチ発表
09. 発音練習(5. 私のストレス解消法)・「私のストレス解消法」原稿作成
10. ミニスピーチ発表「私のストレス解消法」
11. 発音練習(ユニット26)・「電話で話す」ペアで発表
12. インタビュー導入・実施発
13. インタビュー原稿作成・発表準備・練習
14. インタビュー発表
15. インタビュー発表

準備学習(予習)

スピーチの発表練習を十分に行うこと

準備学習(復習)

授業時間内でスピーチの原稿を完成させることができなかった場合は、自宅で完成させ、発表の練習を、十分に行うこと。

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) スピーチ(1回) | 20% |
| (2) インタビュー(1回) | 30% |
| (3) ミニスピーチ(3回) | 30% |
| (4) 提出物(発表原稿・自己評価表・コメントなど) | 0.1 |
| (5) 平常点(取り組み・積極性など) | 0.1 |

*スピーチ後に教師が口頭あるいは書面でコメントをする。
*欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

コピーを配布する

参考書

中川千恵子・中村則子『初級文型でできる日本語発音アクティビティ』(2010年)アスク出版
中川千恵子・木原郁子・斎藤浩文・篠原皇紀『伝わる発音が身につく! にほんご話し方トレーニング』(2015年)アスク出版

担当教員：阿久澤 弘陽

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311637

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除く。「話す」ことに重きを置き口頭表現能力の向上を目指す。

(2) 内容

- ・毎回発音練習を行い、聞き手にとってわかりやすい発音を身につける。
- ・身近なテーマで原稿を書き、十分に練習し、ミニスピーチを行う。
- ・テーマに沿って写真を使いながら少し長めのスピーチを行い、その後は質疑応答を行う。このスピーチは録音する。
- ・自らのパフォーマンスを再度聞きながら振り返り、自分自身の問題点を見つけ次のスピーチに生かす。
- ・他の人の発表のときは積極的に質問し、そのパフォーマンスに対してコメントを書き、司会も行う。
- ・クラスメートにインタビューし、その内容を発表する。

受講者に対する要望

わかりやすい発音を身に付けるために、毎回発音練習(フレージング練習)をするので、積極的に参加すること。また、スピーチにおいては、自分の発表だけでなく、他の学生のスピーチをきちんと聞き互いに学び合うことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

学びのキーワード

- ・スピーチ
- ・発音練習(フレージング練習)
- ・インタビュー
- ・振り返り
- ・良い聞き手

授業計画

01. 講義ガイダンス、発音練習導入、自己紹介「1. 歓迎! 食べ歩きサークル」
02. ミ発音練習(ユニット15)・「百万円あったら」ミニスピーチ原稿作成
03. ミニスピーチ「百万円あったら」ミニスピーチ発表
04. 発音練習(ユニット23)・ミニスピーチ「新婚旅行に行くなら」原稿作成
05. ミニスピーチ「新婚旅行に行くなら」発表
06. 発音練習(ユニット24新製品を作りましょう) |スピーチ「弁論大会に向けて」導入・原稿作成
07. 弁論大会のテーマでスピーチ発表
08. 弁論大会のテーマでスピーチ発表
09. 発音練習(5. 私のストレス解消法)・「私のストレス解消法」原稿作成
10. ミニスピーチ発表「私のストレス解消法」
11. 発音練習(ユニット26)・「電話で話す」ペアで発表
12. インタビュー導入・実施発
13. インタビュー原稿作成・発表準備・練習
14. インタビュー発表
15. インタビュー発表

準備学習(予習)

スピーチの発表練習を十分に行うこと

準備学習(復習)

授業時間内でスピーチの原稿を完成させることができなかった場合は、自宅で完成させ、発表の練習を、十分に行うこと。

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) スピーチ(1回) | 0.2 |
| (2) インタビュー(1回) | 0.3 |
| (3) ミニスピーチ(3回) | 0.3 |
| (4) 提出物(発表原稿・自己評価表・コメントなど) | 0.1 |
| (5) 平常点(取り組み・積極性など) | 0.1 |

*スピーチ後に教師が口頭あるいは書面でコメントをする。
*欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

コピーを配布する

参考書

中川千恵子・中村則子『初級文型でできる日本語発音アクセント』(2010年)アスク出版
中川千恵子・木原郁子・斎藤浩文・藤原皇紀『伝わる発音が身につく! にほんご話し方トレーニング』(2015年)アスク出版

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311740

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での講義レポートや論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけること。

(2) 内容

大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。具体的には、文の構成を考え、日本語で600～800字の文章が書けることを目指す。そのために、まずは正確に一文が書けることから始め、レポートを書くためのルールや表現方法を学んでいく。

受講者に対する要望

文や文章の書き方のルールを学び、それを生かして客観的な文が書けるよう意識すること。書いたものを読みなおし、自分で語用を修正できる力も身につけること。

学びのキーワード

- ・ 文体（書きことばのスタイル）
- ・ 文の構造
- ・ 意見文
- ・ 理由の述べ方
- ・ 客観的な文章

授業計画

01. オリエンテーション・表記の仕方（句読点）
02. 文体 1（文章の種類と文体）
03. 文体 2（書きことばの文体・普通体）
04. 文体 3（連用中止・文体まとめ）
05. 文の構造 1（主語と述語の関係）
06. 文の構造 2（修飾する/されることば）
07. 文の構造 3（文末の制限・簡潔な文）
08. 理解度チェック
09. 理解度チェックのふりかえり・話しことばから書きことばへのモードチェンジ
10. 意見文の表現（事実と意見・意見文のスタイル）
11. 理由を考えて記述する
12. 立場のある文章の書き方 1
13. 立場のある文章の書き方 2
14. 意見文を書く
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。

準備学習(復習)

課題を出すので、自分の言葉で丁寧に書き、提出すること。授業で作成した原稿や教師から添削された原稿をきちんと見直すこと。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 課題	15%
(3) 意見文	10%
(4) 中間試験	25%
(5) 期末試験	0.25

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

友松悦子『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）【978-4883194889】

参考書

担当教員：古賀 裕基

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311741

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での講義レポートや論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけること。

(2) 内容

大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。具体的には、文の構成を考え、日本語で600～800字の文章が書けることを目指す。そのために、まずは正確に一文が書けることから始め、レポートを書くためのルールや表現方法を学んでいく。

受講者に対する要望

文や文章の書き方のルールを学び、それを生かして客観的な文が書けるよう意識すること。書いたものを読みなおし、自分で語用を修正できる力も身につけること。

学びのキーワード

- ・ 文体（書きことばのスタイル）
- ・ 文の構造
- ・ 意見文
- ・ 理由の述べ方
- ・ 客観的な文章

授業計画

01. オリエンテーション・表記の仕方（句読点）
02. 文体 1（文章の種類と文体）
03. 文体 2（書きことばの文体・普通体）
04. 文体 3（連用中止・文体まとめ）
05. 文の構造 1（主語と述語の関係）
06. 文の構造 2（修飾する/されることば）
07. 文の構造 3（文末の制限・簡潔な文）
08. 理解度チェック
09. 理解度チェックのふりかえり・話しことばから書きことばへのモードチェンジ
10. 意見文の表現（事実と意見・意見文のスタイル）
11. 理由を考えて記述する
12. 立場のある文章の書き方 1
13. 立場のある文章の書き方 2
14. 意見文を書く
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。

準備学習(復習)

課題を出すので、自分の言葉で丁寧に書き、提出すること。授業で作成した原稿や教師から添削された原稿をきちんと見直すこと。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業参加度 | 25% |
| (2) 課題 | 15% |
| (3) 意見文 | 10% |
| (4) 中間試験 | 25% |
| (5) 期末試験 | 25% |

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

友松悦子『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）【978-4883194889】

参考書

担当教員：阿久澤 弘陽

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311742

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での講義レポートや論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけること。

(2) 内容

大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。具体的には、文の構成を考え、日本語で600～800字の文章が書けることを目指す。そのために、まずは正確に一文が書けることから始め、レポートを書くためのルールや表現方法を学んでいく。

受講者に対する要望

文や文章の書き方のルールを学び、それを生かして客観的な文が書けるよう意識すること。書いたものを読みなおし、自分で語用を修正できる力も身につけること。

学びのキーワード

- ・ 文体（書きことばのスタイル）
- ・ 文の構造
- ・ 意見文
- ・ 理由の述べ方
- ・ 客観的な文章

授業計画

01. オリエンテーション・表記の仕方（句読点）
02. 文体 1（文章の種類と文体）
03. 文体 2（書きことばの文体・普通体）
04. 文体 3（連用中止・文体まとめ）
05. 文の構造 1（主語と述語の関係）
06. 文の構造 2（修飾する/されることば）
07. 文の構造 3（文末の制限・簡潔な文）
08. 理解度チェック
09. 理解度チェックのふりかえり・話しことばから書きことばへのモードチェンジ
10. 意見文の表現（事実と意見・意見文のスタイル）
11. 理由を考えて記述する
12. 立場のある文章の書き方 1
13. 立場のある文章の書き方 2
14. 意見文を書く
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。

準備学習(復習)

課題を出すので、自分の言葉で丁寧に書き、提出すること。授業で作成した原稿や教師から添削された原稿をきちんと見直すこと。

評価方法

- | | |
|-----------|------|
| (1) 授業参加度 | 0.25 |
| (2) 課題 | 0.15 |
| (3) 意見文 | 0.1 |
| (4) 中間試験 | 0.25 |
| (5) 期末試験 | 0.25 |

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

友松悦子『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）【978-4883194889】

参考書

担当教員：前川 孝子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11311845

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での講義、レポートや論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につける。

(2) 内容

大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。レポートを書くためのルールや表現方法、具体的なレポートの書き方を学ぶ。

受講者に対する要望

文や文章の書き方のルールを学び、それを生かして客観的な文が書けるよう意識すること。書いたものを読みなおし、自分で語用を修正できる力も身につけること。

学びのキーワード

- ・ 客観的な文章
- ・ 中心文・支持文
- ・ 要約文
- ・ レポートに関する基礎知識
- ・ レポートの書き方

授業計画

01. オリエンテーション・話し言葉から書きことばへの切り替え (復習)
02. 文のつながり 1 (指示語)
03. 文のつながり 2 (接続のことば)
04. 客観性のある文章 (文末表現)
05. 段落 1 (段落・中心文・支持文)
06. 段落 2 (中心文・支持文の復習・段落のつながり)
07. 要約文を書く
08. 理解度チェック
09. 理解度チェックのふりかえり
10. レポートを書くための基礎知識 (手順・段落構成)
11. レポートを書くための基礎知識 (文体と主な表現・書式)
12. レポートの基本的な書き方 1 (順序立ててレポートを書く)
13. レポートの基本的な書き方 2 (引用してレポートを書く)
14. レポートの基本的な書き方 3 (資料を利用してレポートを書く・参考文献リストの書き方)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。

準備学習(復習)

出された課題には、丁寧に取り組むこと。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 課題	25%
(3) 中間試験	25%
(4) 期末試験	25%

授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。

教科書

初回の授業で紹介する。

参考書

担当教員：古賀 裕基

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11311846

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での講義、レポートや論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につける。

(2) 内容

大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。レポートを書くためのルールや表現方法、具体的なレポートの書き方を学ぶ。

受講者に対する要望

文や文章の書き方のルールを学び、それを生かして客観的な文が書けるよう意識すること。書いたものを読みなおし、自分で語用を修正できる力も身につけること。

学びのキーワード

- ・ 客観的な文章
- ・ 中心文・支持文
- ・ 要約文
- ・ レポートに関する基礎知識
- ・ レポートの書き方

授業計画

01. オリエンテーション・話し言葉から書きことばへの切り替え（復習）
02. 文のつながり 1（指示語）
03. 文のつながり 2（接続のことば）
04. 客観性のある文章（文末表現）
05. 段落 1（段落・中心文・支持文）
06. 段落 2（中心文・支持文の復習・段落のつながり）
07. 要約文を書く
08. 理解度チェック
09. 理解度チェックのふりかえり
10. レポートを書くための基礎知識（手順・段落構成）
11. レポートを書くための基礎知識（文体と主な表現・書式）
12. レポートの基本的な書き方 1（順序立ててレポートを書く）
13. レポートの基本的な書き方 2（引用してレポートを書く）
14. レポートの基本的な書き方 3（資料を利用してレポートを書く・参考文献リストの書き方）
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。

準備学習(復習)

出された課題には、丁寧に取り組むこと。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 課題	25%
(3) 中間試験	25%
(4) 期末試験	25%

授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。

教科書

初回の授業で紹介する。

参考書

担当教員：阿久澤 弘陽

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311847

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での講義、レポートや論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につける。

(2) 内容

大学で必要となるレポートや論文などの書き方を基礎から学ぶ。レポートを書くためのルールや表現方法、具体的なレポートの書き方を学ぶ。

受講者に対する要望

文や文章の書き方のルールを学び、それを生かして客観的な文が書けるよう意識すること。書いたものを読みなおし、自分で語用を修正できる力も身につけること。

学びのキーワード

- ・客観的な文章
- ・中心文・支持文
- ・要約文
- ・レポートに関する基礎知識
- ・レポートの書き方

授業計画

01. オリエンテーション・話し言葉から書きことばへの切り替え（復習）
02. 文のつながり 1（指示語）
03. 文のつながり 2（接続のことば）
04. 客観性のある文章（文末表現）
05. 段落 1（段落・中心文・支持文）
06. 段落 2（中心文・支持文の復習・段落のつながり）
07. 要約文を書く
08. 理解度チェック
09. 理解度チェックのふりかえり
10. レポートを書くための基礎知識（手順・段落構成）
11. レポートを書くための基礎知識（文体と主な表現・書式）
12. レポートの基本的な書き方 1（順序立ててレポートを書く）
13. レポートの基本的な書き方 2（引用してレポートを書く）
14. レポートの基本的な書き方 3（資料を利用してレポートを書く・参考文献リストの書き方）
15. 総まとめ

準備学習(予習)

予習箇所を指示するので、分からない言葉を辞典で調べ、授業に参加すること。

準備学習(復習)

出された課題には、丁寧に取り組むこと。

評価方法

(1) 授業参加度	0.25
(2) 課題	0.25
(3) 中間試験	0.25
(4) 期末試験	0.25

授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。

教科書

初回の授業で紹介する。

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311910

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語の初級文法が既習であることを前提に、初級文法の総整理を行い、初級文法を正確に理解、運用できる力を養成する。さらに、初級文法だけではなく、中級文法、上級文法の知識も適切に獲得することを目標とする。

(2) 内容

初級文法の重点項目を総整理し、それぞれを関連付けながら、適切な運用ができるよう学習する。

受講者に対する要望

積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 初級文法
- ・ 中級文法
- ・ N4、N3、N2
- ・ 文型

授業計画

01. オリエンテーション、模擬試験
02. 助詞
03. 「は」と「が」
04. 活用 1
05. 活用 2 動詞の3分類と「て形」・「た形」
06. 動詞の活用と文型
07. ふつう形
08. 理解度チェック
09. フィードバック
10. こ・そ・あ 自分と相手との関係
11. 申し出・勧誘 自分の行為の申し出か、相手への働きかけか
12. 自分か他者か
13. 継続性か、瞬間性か
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で学んだところは、各自復習すること。翌週に、小テスト等を実施する。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 中間試験	25%
(3) 期末試験	25%
(4) 課題	25%

教科書

友松悦子・和栗雅子(2004)『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

参考書

担当教員：横田 敦子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311911

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語の初級文法が既習であることを前提に、初級文法の総整理を行い、初級文法を正確に理解、運用できる力を養成する。さらに、初級文法だけではなく、中級文法、上級文法の知識も適切に獲得することを目標とする。

(2) 内容

初級文法の重点項目を総整理し、それぞれを関連付けながら、適切な運用ができるよう学習する。

受講者に対する要望

積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 初級文法
- ・ 中級文法
- ・ N4、N3、N2
- ・ 文型

授業計画

01. オリエンテーション、模擬試験
02. 助詞
03. 「は」と「が」
04. 活用 1
05. 活用 2 動詞の3分類と「て形」・「た形」
06. 動詞の活用と文型
07. ふつう形
08. 理解度チェック
09. フィードバック
10. こ・そ・あ 自分と相手との関係
11. 申し出・勧誘 自分の行為の申し出か、相手への働きかけか
12. 自分か他者か
13. 継続性か、瞬間性か
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で学んだところは、各自復習すること。翌週に、小テスト等を実施する。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 中間試験	25%
(3) 期末試験	25%
(4) 課題	25%

教科書

友松悦子・和栗雅子(2004)『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

参考書

担当教員：李 テイ

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11311912

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語の初級文法が既習であることを前提に、初級文法の総整理を行い、初級文法を正確に理解、運用できる力を養成する。さらに、初級文法だけではなく、中級文法、上級文法の知識も適切に獲得することを目標とする。

(2) 内容

初級文法の重点項目を総整理し、それぞれを関連付けながら、適切な運用ができるよう学習する。

受講者に対する要望

積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 初級文法
- ・ 中級文法
- ・ N4、N3、N2
- ・ 文型

授業計画

01. オリエンテーション、模擬試験
02. 助詞
03. 「は」と「が」
04. 活用 1
05. 活用 2 動詞の3分類と「て形」・「た形」
06. 動詞の活用と文型
07. ふつう形
08. 理解度チェック
09. フィードバック
10. こ・そ・あ 自分と相手との関係
11. 申し出・勧誘 自分の行為の申し出か、相手への働きかけか
12. 自分か他者か
13. 継続性か、瞬間性か
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で学んだところは、各自復習すること。翌週に、小テスト等を実施する。

評価方法

- | | |
|-----------|------|
| (1) 授業参加度 | 0.25 |
| (2) 中間試験 | 0.25 |
| (3) 期末試験 | 0.25 |
| (4) 課題 | 0.25 |

教科書

友松悦子・和栗雅子(2004)『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312013

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語の初級文法が既習であることを前提に、初級文法の総整理を行い、初級文法を正確に理解、運用できる力を養成する。さらに、初級文法だけでなく、中級文法、上級文法の知識も適切に獲得することを目標とする。

(2) 内容

初級文法の重点項目を総整理し、それぞれを関連付けながら、適切な運用ができるよう学習する。

受講者に対する要望

積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 初級文法
- ・ 中級文法
- ・ N4、N3、N2
- ・ 文型

授業計画

01. オリエンテーション、模擬試験
02. 話者の位置、「ていく」「てくる」
03. 他動詞と自動詞の対
04. 可能表現
05. 事実か、気持ちが入っているか
06. 条件など
07. 理解度チェック
08. フィードバック
09. 授受 だれがだれに？
10. 使役
11. 受身・使役受身
12. 敬語
13. 文のスタイル
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で学んだところは、各自復習すること。翌週に、小テスト等を実施する。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 中間試験	25%
(3) 期末試験	25%
(4) 課題	25%

教科書

友松悦子・和栗雅子(2004)『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312014

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語の初級文法が既習であることを前提に、初級文法の総整理を行い、初級文法を正確に理解、運用できる力を養成する。さらに、初級文法だけではなく、中級文法、上級文法の知識も適切に獲得することを目標とする。

(2) 内容

初級文法の重点項目を総整理し、それぞれを関連付けながら、適切な運用ができるよう学習する。

受講者に対する要望

積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 初級文法
- ・ 中級文法
- ・ N4、N3、N2
- ・ 文型

授業計画

01. オリエンテーション、模擬試験
02. 話者の位置、「ていく」「てくる」
03. 他動詞と自動詞の対
04. 可能表現
05. 事実か、気持ちが入っているか
06. 条件など
07. 理解度チェック
08. フィードバック
09. 授受 だれがだれに？
10. 使役
11. 受身・使役受身
12. 敬語
13. 文のスタイル
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で学んだところは、各自復習すること。翌週に、小テスト等を実施する。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 中間試験	25%
(3) 期末試験	25%
(4) 課題	25%

教科書

友松悦子・和栗雅子(2004)『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

参考書

担当教員：李 テイ

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312015

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語の初級文法が既習であることを前提に、初級文法の総整理を行い、初級文法を正確に理解、運用できる力を養成する。さらに、初級文法だけでなく、中級文法、上級文法の知識も適切に獲得することを目標とする。

(2) 内容

初級文法の重点項目を総整理し、それぞれを関連付けながら、適切な運用ができるよう学習する。

受講者に対する要望

積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 初級文法
- ・ 中級文法
- ・ N4、N3、N2
- ・ 文型

授業計画

01. オリエンテーション、模擬試験
02. 話者の位置、「ていく」「てくる」
03. 他動詞と自動詞の対
04. 可能表現
05. 事実か、気持ちが入っているか
06. 条件など
07. 理解度チェック
08. フィードバック
09. 授受 だれがだれに？
10. 使役
11. 受身・使役受身
12. 敬語
13. 文のスタイル
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で学んだところは、各自復習すること。翌週に、小テスト等を実施する。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 中間試験	25%
(3) 期末試験	25%
(4) 課題	25%

教科書

友松悦子・和栗雅子(2004)『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

参考書

担当教員：大熊 美佳

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312115

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 中級文法の定着を目指す。日本語能力試験を意識し、N3から始め、N2の文型の導入も行う。
2. 耳で聞いてもしっかり文型が把握できるようにする。

(2) 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。
3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
5. 学習した文法の確認のため、復習クイズ、またはディクテーションを行う。
6. 中間テストと期末テストを行う。

受講者に対する要望

N3・N2レベルの文型は日常生活や実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、予習、復習をしっかりと行い、運用できるように身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ N3レベルの文型
- ・ N2レベルの文型
- ・ 短文作成
- ・ 文法力の向上と定着

授業計画

01. ガイダンス N3レベルの文型チェック
02. 1-1~5 文型導入・練習
03. 1-6~10 文型導入・練習、ディクテーション
04. 2-11~16 文型導入・練習、復習クイズ(1~10)
05. 2-17~20 文型導入・練習、ディクテーション
06. 3-21~25 文型導入・練習、復習クイズ(11~20)
07. 3-26~30 文型導入・練習、ディクテーション
08. 理解度チェック(1~30)と解説
09. 4-31~34 文型導入・練習
10. 4-35~41 文型導入・練習、ディクテーション
11. 5-42~45 文型導入・練習、復習クイズ(31~41)
12. 5-46~50 文型導入・練習、ディクテーション
13. 6-51~56 文型導入・練習、復習クイズ(42~50)
14. 6-57~61 文型導入・練習、復習クイズ(51~56)
15. 総まとめ(31~61)と解説

準備学習(予習)

予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておくこと。

準備学習(復習)

- ・ 復習クイズ・ディクテーションに備え、復習しておくこと。
- ・ 宿題として短文作成を課すので翌週、提出すること。

評価方法

(1) 中間テスト	25%
(2) 期末テスト	25%
(3) 復習クイズ・ ディクテーション	20%
(4) 宿題・短文作成	15%
(5) 授業への参加度	15%

教科書

『TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

参考書

担当教員：李 テイ

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312116

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 中級文法の定着を目指す。日本語能力試験を意識し、N3から始め、N2の文型の導入も行う。
2. 耳で聞いてもしっかり文型が把握できるようにする。

(2) 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。
3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
5. 学習した文法の確認のため、復習クイズ、またはディクテーションを行う。
6. 中間テストと期末テストを行う。

受講者に対する要望

N3・N2レベルの文型は日常生活や実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、予習、復習をしっかり行い、運用できるように身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ N3レベルの文型
- ・ N2レベルの文型
- ・ 短文作成
- ・ 文法力の向上と定着

授業計画

01. ガイダンス N3レベルの文型チェック
02. 1-1~5 文型導入・練習
03. 1-6~10 文型導入・練習、ディクテーション
04. 2-11~16 文型導入・練習、復習クイズ(1~10)
05. 2-17~20 文型導入・練習、ディクテーション
06. 3-21~25 文型導入・練習、復習クイズ(11~20)
07. 3-26~30 文型導入・練習、ディクテーション
08. 理解度チェック(1~30)と解説
09. 4-31~34 文型導入・練習
10. 4-35~41 文型導入・練習、ディクテーション
11. 5-42~45 文型導入・練習、復習クイズ(31~41)
12. 5-46~50 文型導入・練習、ディクテーション
13. 6-51~56 文型導入・練習、復習クイズ(42~50)
14. 6-57~61 文型導入・練習、復習クイズ(51~56)
15. 総まとめ(31~61)と解説

準備学習(予習)

予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておくこと。

準備学習(復習)

- ・ 復習クイズ・ディクテーションに備え、復習しておくこと。
- ・ 宿題として短文作成を課すので翌週、提出すること。

評価方法

(1) 中間テスト	25%
(2) 期末テスト	25%
(3) 復習クイズ・ ディクテーション	20%
(4) 宿題・短文作成	15%
(5) 授業への参加度	15%

教科書

『TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

参考書

担当教員：太田 ミユキ

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312117

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 中級文法の定着を目指す。日本語能力試験を意識し、N3から始め、N2の文型の導入も行う。
2. 耳で聞いてもしっかり文型が把握できるようにする。

(2) 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。
3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
5. 学習した文法の確認のため、復習クイズ、またはディクテーションを行う。
6. 中間テストと期末テストを行う。

受講者に対する要望

N3・N2レベルの文型は日常生活や実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、予習、復習をしっかりと行い、運用できるように身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ N3レベルの文型
- ・ N2レベルの文型
- ・ 短文作成
- ・ 文法力の向上と定着

授業計画

01. ガイダンス N3レベルの文型チェック
02. 1-1~5 文型導入・練習
03. 1-6~10 文型導入・練習、ディクテーション
04. 2-11~16 文型導入・練習、復習クイズ(1~10)
05. 2-17~20 文型導入・練習、ディクテーション
06. 3-21~25 文型導入・練習、復習クイズ(11~20)
07. 3-26~30 文型導入・練習、ディクテーション
08. 理解度チェック(1~30)と解説
09. 4-31~34 文型導入・練習
10. 4-35~41 文型導入・練習、ディクテーション
11. 5-42~45 文型導入・練習、復習クイズ(31~41)
12. 5-46~50 文型導入・練習、ディクテーション
13. 6-51~56 文型導入・練習、復習クイズ(42~50)
14. 6-57~61 文型導入・練習、復習クイズ(51~56)
15. 総まとめ(31~61)と解説

準備学習(予習)

予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておくこと。

準備学習(復習)

- ・ 復習クイズ・ディクテーションに備え、復習しておくこと。
- ・ 宿題として短文作成を課すので翌週、提出すること。

評価方法

(1) 中間テスト	25%
(2) 期末テスト	25%
(3) 復習クイズ・ ディクテーション	20%
(4) 宿題・短文作成	15%
(5) 授業への参加度	15%

教科書

『TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

参考書

担当教員：大熊 美佳

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312218

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 中級文法の定着を目指す。日本語能力試験を意識し、N3から始め、N2の文型の導入も行う。
2. 耳で聞いてもしっかり文型が把握できるようにする。

(2) 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。
3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
5. 学習した文法の確認のため、復習クイズ、またはディクテーションを行う。
6. 中間テストと期末テストを行う。

受講者に対する要望

N3・N2レベルの文型は日常生活や実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、予習、復習をしっかりと行い、運用できるように身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ N3レベルの文型
- ・ N2レベルの文型
- ・ 短文作成
- ・ 文法力の向上と定着

授業計画

01. 1. ガイダンス N3レベルの文型チェック
02. 7-62~67文型導入・練習
03. 7-68~71文型導入・練習、ディクテーション
04. 8-72~78文型導入・練習、復習クイズ(62~71)
05. 9-79~83文型導入・練習、ディクテーション
06. 9-84~86文型導入・練習、復習クイズ(72~83)
07. 10-87~93文型導入・練習、ディクテーション
08. 理解度チェック(62~93)と解説
09. 10-94~98文型導入・練習
10. 11-99~106文型導入・練習、ディクテーション
11. 11-107~113文型導入・練習、復習クイズ(94~106)
12. N2 1-1~4文型導入・練習、復習クイズ(107~113)
13. N2 1-5~8文型導入・練習、ディクテーション
14. N2 1-9~15文型導入・練習、復習クイズ(N2-1~8)
15. 総まとめ(94~N2-15)と解説

準備学習(予習)

- ・ 予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておくこと。

準備学習(復習)

- ・ 復習クイズに備え、復習しておくこと。
- ・ 宿題として短文作成を課すので翌週、提出すること。

評価方法

(1) 中間テスト	25%
(2) 期末テスト	25%
(3) 復習クイズ・ディクテーション	20%
(4) 宿題・短文作成	15%
(5) 授業への参加度	0.15

教科書

ABK『TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

参考書

ABK『TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

担当教員：李 テイ

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312219

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 中級文法の定着を目指す。日本語能力試験を意識し、N3から始め、N2の文型の導入も行う。
2. 耳で聞いてもしっかり文型が把握できるようにする。

(2) 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。
3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
5. 学習した文法の確認のため、復習クイズ、またはディクテーションを行う。
6. 中間テストと期末テストを行う。

受講者に対する要望

N3・N2レベルの文型は日常生活や実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、予習、復習をしっかりと行い、運用できるように身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ N3レベルの文型
- ・ N2レベルの文型
- ・ 短文作成
- ・ 文法力の向上と定着

授業計画

01. 1. ガイダンス N3レベルの文型チェック
02. 7-62~67文型導入・練習
03. 7-68~71文型導入・練習、ディクテーション
04. 8-72~78文型導入・練習、復習クイズ(62~71)
05. 9-79~83文型導入・練習、ディクテーション
06. 9-84~86文型導入・練習、復習クイズ(72~83)
07. 10-87~93文型導入・練習、ディクテーション
08. 理解度チェック(62~93)と解説
09. 10-94~98文型導入・練習
10. 11-99~106文型導入・練習、ディクテーション
11. 11-107~113文型導入・練習、復習クイズ(94~106)
12. N2 1-1~4文型導入・練習、復習クイズ(107~113)
13. N2 1-5~8文型導入・練習、ディクテーション
14. N2 1-9~15文型導入・練習、復習クイズ(N2-1~8)
15. 総まとめ(94~N2-15)と解説

準備学習(予習)

- ・ 予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておくこと。

準備学習(復習)

- ・ 復習クイズに備え、復習しておくこと。
- ・ 宿題として短文作成を課すので翌週、提出すること。

評価方法

(1) 中間テスト	0.25
(2) 期末テスト	0.25
(3) 復習クイズ・ディクテーション	0.2
(4) 宿題・短文作成	0.15
(5) 授業への参加度	0.15

教科書

ABK『TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

参考書

ABK『TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

担当教員：太田 ミユキ

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312220

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 中級文法の定着を目指す。日本語能力試験を意識し、N3から始め、N2の文型の導入も行う。
2. 耳で聞いてもしっかり文型が把握できるようにする。

(2) 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。
3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
5. 学習した文法の確認のため、復習クイズ、またはディクテーションを行う。
6. 中間テストと期末テストを行う。

受講者に対する要望

N3・N2レベルの文型は日常生活や実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、予習、復習をしっかり行い、運用できるように身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ N3レベルの文型
- ・ N2レベルの文型
- ・ 短文作成
- ・ 文法力の向上と定着

授業計画

01. 1. ガイダンス N3レベルの文型チェック
02. 7-62~67文型導入・練習
03. 7-68~71文型導入・練習、ディクテーション
04. 8-72~78文型導入・練習、復習クイズ(62~71)
05. 9-79~83文型導入・練習、ディクテーション
06. 9-84~86文型導入・練習、復習クイズ(72~83)
07. 10-87~93文型導入・練習、ディクテーション
08. 理解度チェック(62~93)と解説
09. 10-94~98文型導入・練習
10. 11-99~106文型導入・練習、ディクテーション
11. 11-107~113文型導入・練習、復習クイズ(94~106)
12. N2 1-1~4文型導入・練習、復習クイズ(107~113)
13. N2 1-5~8文型導入・練習、ディクテーション
14. N2 1-9~15文型導入・練習、復習クイズ(N2-1~8)
15. 総まとめ(94~N2-15)と解説

準備学習(予習)

- ・ 予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておくこと。

準備学習(復習)

- ・ 復習クイズに備え、復習しておくこと。
- ・ 宿題として短文作成を課すので翌週、提出すること。

評価方法

(1) 中間テスト	25%
(2) 期末テスト	25%
(3) 復習クイズ・ディクテーション	20%
(4) 宿題・短文作成	15%
(5) 授業への参加度	15%

教科書

ABK『TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

参考書

ABK『TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』アスク出版

担当教員：内藤 みち

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるために、その基礎力の向上をはかる。

(2) 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

受講者に対する要望

語彙の意味や漢字などの予習を十分に行い、積極的に授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 日本語読解力
- ・ 日本語聴解力
- ・ 基礎日本語力

授業計画

01. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成
02. 読解「心のバリアフリー」①
03. 読解「心のバリアフリー」②
04. 音声言語理解「富士山」 復習クイズ 1
05. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」① 復習クイズ 2
06. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」②
07. 音声言語理解「信号の話」 復習クイズ 3
08. 理解度チェック
09. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」①
10. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」②
11. 音声言語理解「水族館」 復習クイズ 4
12. 読解「緑のカーテン」① 復習クイズ 5
13. 読解「緑のカーテン」②
14. 音声言語理解「失敗学」 復習クイズ 6
15. 総まとめ

準備学習(予習)

各読解教材に入る前には、必ずその課の読み物を各自で読み、語彙の意味や文型を調べ、内容把握をする。

準備学習(復習)

一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容について復習テストを行うので、よく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。

評価方法

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 中間試験 | 20% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 復習クイズ (漢字・語彙・文法など) | 20% |
| (4) クラスワーク (提出物・授業参加度など) | 20% |

欠席が3分の1以上となる場合は、単位は与えられない。

教科書

奥田純子監修『読む力』（くろしお出版）

参考書

担当教員：古賀 裕基

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312321

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるために、その基礎力の向上をはかる。

(2) 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

受講者に対する要望

語彙の意味や漢字などの予習を十分に行い、積極的に授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・日本語読解力
- ・日本語聴解力
- ・基礎日本語力

授業計画

01. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成
02. 読解「心のバリアフリー」①
03. 読解「心のバリアフリー」②
04. 音声言語理解「富士山」 復習クイズ 1
05. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」① 復習クイズ 2
06. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」②
07. 音声言語理解「信号の話」 復習クイズ 3
08. 理解度チェック
09. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」①
10. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」②
11. 音声言語理解「水族館」 復習クイズ 4
12. 読解「緑のカーテン」① 復習クイズ 5
13. 読解「緑のカーテン」②
14. 音声言語理解「失敗学」 復習クイズ 6
15. 総まとめ

準備学習(予習)

各読解教材に入る前には、必ずその課の読み物を各自で読み、語彙の意味や文型を調べ、内容把握をする。

準備学習(復習)

一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容について復習テストを行うので、よく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。

評価方法

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 中間試験 | 0.2 |
| (2) 期末試験 | 0.4 |
| (3) 復習クイズ (漢字・語彙・文法など) | 0.2 |
| (4) クラスワーク (提出物・授業参加度など) | 0.2 |

欠席が3分の1以上となる場合は、単位は与えられない。

教科書

奥田純子監修『読む力』（くろしお出版）

参考書

担当教員：吉沢 由香里

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312322

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるために、その基礎力の向上をはかる。

(2) 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

受講者に対する要望

語彙の意味や漢字などの予習を十分に行い、積極的に授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・日本語読解力
- ・日本語聴解力
- ・基礎日本語力

授業計画

01. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成
02. 読解「心のバリアフリー」①
03. 読解「心のバリアフリー」②
04. 音声言語理解「富士山」 復習クイズ 1
05. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」① 復習クイズ 2
06. 読解「30代ビジネスマン「心の病」を考える」②
07. 音声言語理解「信号の話」 復習クイズ 3
08. 理解度チェック
09. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」①
10. 読解「少女マンガ家ぐらしへ」②
11. 音声言語理解「水族館」 復習クイズ 4
12. 読解「緑のカーテン」① 復習クイズ 5
13. 読解「緑のカーテン」②
14. 音声言語理解「失敗学」 復習クイズ 6
15. 総まとめ

準備学習(予習)

各読解教材に入る前には、必ずその課の読み物を各自で読み、語彙の意味や文型を調べ、内容把握をする。

準備学習(復習)

一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容について復習テストを行うので、よく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 中間試験 | 20% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 復習クイズ(漢字・語彙・文法など) | 20% |
| (4) クラスワーク(提出物・授業参加度など) | 20% |

欠席が3分の1以上となる場合は、単位は与えられない。

教科書

奥田純子監修『読む力』(くろしお出版)

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11312525

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるために、その基礎力の向上をはかる。

(2) 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

受講者に対する要望

予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・日本語読解力
- ・日本語聴解力
- ・基礎日本語力

授業計画

01. 授業概要 チェックテスト
02. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」①
03. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」②
04. 音声言語理解「ゴリラの食事」 復習クイズ1
05. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」① 復習クイズ2
06. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」②
07. 音声言語理解「失敗学」 復習クイズ3
08. 理解度チェック
09. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」①
10. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」②
11. 音声言語理解「からくり人形」 復習クイズ4
12. 読解「フリーズする脳」① 復習クイズ5
13. 読解「フリーズする脳」②
14. 音声言語理解「長寿の理由」 復習クイズ6
15. 総まとめ

準備学習(予習)

読解文章の新しい語彙や表現を調べておくこと。また、文法などわからないことを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容について復習テストを行うので、よく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 中間試験 | 20% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 復習クイズ(漢字・語彙・文法など) | 20% |
| (4) クラスワーク(提出物・授業参加度など) | 20% |

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

奥田純子監修『読む力』(くろしお出版)

参考書

担当教員：古賀 裕基

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312526

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるために、その基礎力の向上をはかる。

(2) 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

受講者に対する要望

予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・日本語読解力
- ・日本語聴解力
- ・基礎日本語力

授業計画

01. 授業概要 チェックテスト
02. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」①
03. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」②
04. 音声言語理解「ゴリラの食事」 復習クイズ1
05. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」① 復習クイズ2
06. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」②
07. 音声言語理解「失敗学」 復習クイズ3
08. 理解度チェック
09. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」①
10. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」②
11. 音声言語理解「からくり人形」 復習クイズ4
12. 読解「フリーズする脳」① 復習クイズ5
13. 読解「フリーズする脳」②
14. 音声言語理解「長寿の理由」 復習クイズ6
15. 総まとめ

準備学習(予習)

読解文章の新しい語彙や表現を調べておくこと。また、文法などわからないことを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容について復習テストを行うので、よく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 中間試験 | 0.2 |
| (2) 期末試験 | 0.4 |
| (3) 復習クイズ(漢字・語彙・文法など) | 0.2 |
| (4) クラスワーク(提出物・授業参加度など) | 0.2 |

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

奥田純子監修『読む力』(くろしお出版)

参考書

担当教員：吉沢 由香里

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11312527

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるために、その基礎力の向上をはかる。

(2) 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

受講者に対する要望

予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・日本語読解力
- ・日本語聴解力
- ・基礎日本語力

授業計画

01. 授業概要 チェックテスト
02. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」①
03. 読解「「早朝時間」のフル活用で成功した人たち」②
04. 音声言語理解「ゴリラの食事」 復習クイズ 1
05. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」① 復習クイズ 2
06. 読解「環境立国ニッポンの挑戦」②
07. 音声言語理解「失敗学」 復習クイズ 3
08. 理解度チェック
09. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」①
10. 読解「渡り鳥はなぜ迷わない？」②
11. 音声言語理解「からくり人形」 復習クイズ 4
12. 読解「フリーズする脳」① 復習クイズ 5
13. 読解「フリーズする脳」②
14. 音声言語理解「長寿の理由」 復習クイズ 6
15. 総まとめ

準備学習(予習)

読解文章の新しい語彙や表現を調べておくこと。また、文法などわからないことを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

一つの内容が終了後、語彙や表現、文法内容について復習テストを行うので、よく復習すること。また、文章を音読して内容を確認すること。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 中間試験 | 20% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 復習クイズ(漢字・語彙・文法など) | 20% |
| (4) クラスワーク(提出物・授業参加度など) | 20% |

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

奥田純子監修『読む力』(くろしお出版)

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321111

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語能力試験N1合格を目指すだけでなく、その学びの過程で、さまざまなジャンルで用いられる日本語に触れ、幅広い日本語に対応できる能力を身に付けることを目標とする。

(2) 内容

日本語非母語話者を対象に実施されている日本語能力試験N1の文法を総復習する。普段、あまり目にする事のない文法・文型・語彙が多いが、硬い文章や小説等の読解等では必要になるものであるため、実例を見ながら、その使われ方を確認する。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 文の文法
- ・ 日本語能力試験
- ・ N1
- ・ 文法形式の整理

授業計画

01. ガイダンス・模擬試験
02. 時間関係
03. 範囲の始まり・限度
04. 限定・非限定・付加
05. 例示
06. 関係・無関係
07. 様子
08. 理解度チェック
09. フィードバック
10. 付随行動
11. 逆接
12. 条件
13. 逆接条件
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

課題を与える。

準備学習(復習)

授業で学んだことに関連する復習課題を与える。

評価方法

(1) 授業参加度	30%
(2) 中間試験	30%
(3) 期末試験	30%
(4) 課題	10%

教科書

友松悦子・福島佐知・中村 かおり (2011) 『新完全マスター 文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク) [978-4883195640]

参考書

担当教員：横田 敦子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321112

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語能力試験N1合格を目指すだけでなく、その学びの過程で、さまざまなジャンルで用いられる日本語に触れ、幅広い日本語に対応できる能力を身に付けることを目標とする。

(2) 内容

日本語非母語話者を対象に実施されている日本語能力試験N1の文法を総復習する。普段、あまり目にする事のない文法・文型・語彙が多いが、硬い文章や小説等の読解等では必要になるものであるため、実例を見ながら、その使われ方を確認する。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 文の文法
- ・ 日本語能力試験
- ・ N1
- ・ 文法形式の整理

授業計画

01. ガイダンス・模擬試験
02. 時間関係
03. 範囲の始まり・限度
04. 限定・非限定・付加
05. 例示
06. 関係・無関係
07. 様子
08. 理解度チェック
09. フィードバック
10. 付随行動
11. 逆接
12. 条件
13. 逆接条件
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

課題を与える。

準備学習(復習)

授業で学んだことに関連する復習課題を与える。

評価方法

(1) 授業参加度	0.3
(2) 中間試験	0.3
(3) 期末試験	0.3
(4) 課題	0.1

教科書

友松悦子・福島佐知・中村 かおり (2011) 『新完全マスター 文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク) [978-4883195640]

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321216

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語能力試験N1合格を目指すだけでなく、その学びの過程で、さまざまなジャンルで用いられる日本語に触れ、幅広い日本語に対応できる能力を身に付けることを目標とする。

(2) 内容

日本語非母語話者を対象に実施されている日本語能力試験N1の文法を総復習する。普段、あまり目にする事のない文法・文型・語彙が多いが、硬い文章や小説等の読解等では必要になるものであるため、実例を見ながら、その使われ方を確認する。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 日本語能力試験
- ・ N1
- ・ 文法
- ・ 文型

授業計画

01. ガイダンス 模擬試験
02. 目的・手段
03. 原因・理由
04. 可能・不可能・禁止
05. 話題・評価の基準
06. 比較対照
07. 結末・最終の状態
08. 理解度チェック
09. フィードバック
10. 強調
11. 主張・断定
12. 評価・感想
13. 心情・強制的思い
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

課題を与える

準備学習(復習)

授業で学んだことに関連する課題を与える。

評価方法

(1) 授業参加度	30%
(2) 中間試験	30%
(3) 期末試験	30%
(4) 課題	10%

教科書

友松悦子・福島佐知・中村かおり『新完全マスター 文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク) [978-4883195640]

参考書

担当教員：横田 敦子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321217

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語能力試験N1合格を目指すだけでなく、その学びの過程で、さまざまなジャンルで用いられる日本語に触れ、幅広い日本語に対応できる能力を身に付けることを目標とする。

(2) 内容

日本語非母語話者を対象に実施されている日本語能力試験N1の文法を総復習する。普段、あまり目にする事のない文法・文型・語彙が多いが、硬い文章や小説等の読解等では必要になるものであるため、実例を見ながら、その使われ方を確認する。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 日本語能力試験
- ・ N1
- ・ 文法
- ・ 文型

授業計画

01. ガイダンス 模擬試験
02. 目的・手段
03. 原因・理由
04. 可能・不可能・禁止
05. 話題・評価の基準
06. 比較対照
07. 結末・最終の状態
08. 理解度チェック
09. フィードバック
10. 強調
11. 主張・断定
12. 評価・感想
13. 心情・強制的思い
14. 総まとめ
15. フィードバック

準備学習(予習)

課題を与える

準備学習(復習)

授業で学んだことに関連する課題を与える。

評価方法

(1) 授業参加度	30%
(2) 中間試験	30%
(3) 期末試験	30%
(4) 課題	10%

教科書

友松悦子・福島佐知・中村かおり『新完全マスター 文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク) [978-4883195640]

参考書

担当教員：岡村 佳代

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321530

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学の演習での発表に自信を持って臨めるような日本語でのプレゼンテーションの基礎能力を身につけることが目標である。

(2) 内容

大学の授業・演習で必要な基礎的な発表方法を学ぶ。特に、今学期は、秋学期に行われる「留学生日本語弁論大会」に向けて、スピーチの内容を考え、クラス内発表を行うことから、他者に自分の考えを伝える、自分を表現するための口頭能力の育成を目指す。

受講者に対する要望

遅刻や欠席をしないようにし、授業に積極的に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・発音練習
- ・調査
- ・スピーチ
- ・発表の仕方
- ・質問の仕方

授業計画

01. オリエンテーション 自己紹介
02. 図書館オリエンテーション
03. 課題1 準備
04. 課題1 報告書の作成
05. 課題1 報告会
06. 課題2 準備
07. 課題2 報告書の作成
08. 課題2 報告会
09. 課題3 昨年度の弁論大会視聴 スピーチのテーマを考える
10. 課題3 スピーチ原稿執筆・修正
11. 課題3 スピーチ原稿執筆・修正
12. 課題3 スピーチ原稿執筆・修正
13. 課題3 スピーチ練習
14. 課題3 クラス内スピーチ大会①
15. 課題3 クラス内スピーチ大会②

準備学習(予習)

調査や発表のための準備などは、宿題となることがある。

準備学習(復習)

調査等の終了後には、報告書や原稿の提出を求める。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 発表・スピーチ | 50% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 平常点 | 30% |

学期中の欠席が授業回数の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321531

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学の演習での発表に自信を持って臨めるような日本語でのプレゼンテーションの基礎能力を身につけることが目標である。

(2) 内容

大学の授業・演習で必要な基礎的な発表方法を学ぶ。特に、今学期は、秋学期に行われる「留学生日本語弁論大会」に向けて、スピーチの内容を考え、クラス内発表を行うことから、他者に自分の考えを伝える、自分を表現するための口頭能力の育成を目指す。

受講者に対する要望

遅刻や欠席をしないようにし、授業に積極的に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・発音練習
- ・調査
- ・スピーチ
- ・発表の仕方
- ・質問の仕方

授業計画

01. オリエンテーション 自己紹介
02. 図書館オリエンテーション
03. 課題1 準備
04. 課題1 報告書の作成
05. 課題1 報告会
06. 課題2 準備
07. 課題2 報告書の作成
08. 課題2 報告会
09. 課題3 昨年度の弁論大会視聴 スピーチのテーマを考える
10. 課題3 スピーチ原稿執筆・修正
11. 課題3 スピーチ原稿執筆・修正
12. 課題3 スピーチ原稿執筆・修正
13. 課題3 スピーチ練習
14. 課題3 クラス内スピーチ大会①
15. 課題3 クラス内スピーチ大会②

準備学習(予習)

調査や発表のための準備などは、宿題となることがある。

準備学習(復習)

調査等の終了後には、報告書や原稿の提出を求める。

評価方法

(1) 発表・スピーチ	50%
(2) 提出物	20%
(3) 平常点	30%

学期中の欠席が授業回数の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：岡村 佳代

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321635

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分ならどのように表現するかを考え、さらに日本語母語話者がどのように表現しているかを観察することで、自分の日本語を見つめ直し、どのような日本語学習が必要であるかを自ら考えられるようになることが目標である。

(2) 内容

学部留学生の日本語力伸長を目指す。特に、口頭能力の育成を中心に行う。アカデミックな場面にも対応できるような「表現を考える」「練習する」「実践する」「まとめる」「振り返る」を繰り返しながら、日本語で話す力を伸ばしていく。

受講者に対する要望

遅刻や欠席をしないようにし授業に積極的に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・話す
- ・書く
- ・まとめる
- ・インタビューする
- ・報告する

授業計画

01. オリエンテーション 聞いたことを報告する
02. 見たことを報告する
03. 課題1 準備
04. 課題1 報告書の作成
05. 課題1 報告会
06. 課題2 準備
07. 課題2 報告書の作成
08. 課題2 報告会
09. 課題3 調査に関するディスカッション
10. 課題3 調査準備
11. 課題3 調査の実施
12. 課題3 報告書の作成
13. 課題3 発表準備
14. 課題3 発表会①
15. 課題3 発表会②

準備学習(予習)

発表のための準備などは、宿題となることがある。

準備学習(復習)

インタビュー等の終了後には、レポートなどの提出を求める。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 発表 | 40% |
| (2) 提出物 | 30% |
| (3) 平常点 | 30% |

学期中(15回の授業)の欠席が1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11321636

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分ならどのように表現するかを考え、さらに日本語母語話者がどのように表現しているかを観察することで、自分の日本語を見つめ直し、どのような日本語学習が必要であるかを自ら考えられるようになることが目標である。

(2) 内容

学部留学生の日本語力伸長を目指す。特に、口頭能力の育成を中心に行う。アカデミックな場面にも対応できるような「表現を考える」「練習する」「実践する」「まとめる」「振り返る」を繰り返しながら、日本語で話す力を伸ばしていく。

受講者に対する要望

遅刻や欠席をしないようにし授業に積極的に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・話す
- ・書く
- ・まとめる
- ・インタビューする
- ・報告する

授業計画

01. オリエンテーション 聞いたことを報告する
02. 見たことを報告する
03. 課題1 準備
04. 課題1 報告書の作成
05. 課題1 報告会
06. 課題2 準備
07. 課題2 報告書の作成
08. 課題2 報告会
09. 課題3 調査に関するディスカッション
10. 課題3 調査準備
11. 課題3 調査の実施
12. 課題3 報告書の作成
13. 課題3 発表準備
14. 課題3 発表会①
15. 課題3 発表会②

準備学習(予習)

発表のための準備などは、宿題となることがある。

準備学習(復習)

インタビュー等の終了後には、レポートなどの提出を求める。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 発表 | 40% |
| (2) 提出物 | 30% |
| (3) 平常点 | 30% |

学期中(15回の授業)の欠席が1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：太田 ミユキ

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321740

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

一文を正確に書けるようにすることから始め、レポート・論文の書き方を学び、大学の授業課題にも耐えうる論述ができるようにすることを目標とする。

(2) 内容

前半では、日本語学習者の文章に多く見られる文法の間違いを取り上げ、集中的に練習し、ミスのない正確な文章が書けるようにする。後半では、まとまった文章を書く練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ レポート
- ・ 文章表現力
- ・ 文体
- ・ 文法・文型
- ・ 語彙

授業計画

01. オリエンテーション、第1課 表記・作文
02. 第2課 文体・書き言葉(課題：自分の専門、勉強・研究したいこと)
03. 第3課 段落に分ける(課題：科学の発達と問題点)
04. 第4課 「は」と「が」(課題：私の国の有名な人)
05. 第5課 テーマを述べる
06. 課題：(私の国の特別なもの)
07. 理解度チェック
08. 理解度チェックのフィードバック
09. 第6課 理由・経過を述べる
10. (課題：私が日本に来るまで)
11. 第7課 定義をする(*文型・表現9)
12. (課題：ごみのリサイクル)
13. 第8課 判明していることを述べる(*文型・表現21)
14. (課題：日本の高齢化)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

スケジュールを見て、テキストの該当部分を読み理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業中に完成できなかった課題は、自宅で完成させ提出する。授業内容は自宅でも再度目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 中間テスト | 25% |
| (2) 期末テスト | 25% |
| (3) 宿題・提出物 | 30% |
| (4) 授業への参加度 | 20% |

多少%が変更されることもある。3分の1を超えての欠席は授業成績対象とはならない。

教科書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生 留学生の日本語②作文編』(2016年)アルク

参考書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生 留学生の日本語④論文作成編』(2016年)アルク

担当教員：大熊 美佳

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321741

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

一文を正確に書けるようにすることから始め、レポート・論文の書き方を学び、大学の授業課題にも耐えうる論述ができるようにすることを目標とする。

(2) 内容

前半では、日本語学習者の文章に多く見られる文法の間違いを取り上げ、集中的に練習し、ミスのない正確な文章が書けるようにする。後半では、まとまった文章を書く練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ レポート
- ・ 文章表現力
- ・ 文体
- ・ 文法・文型
- ・ 語彙

授業計画

01. オリエンテーション、第1課 表記・作文
02. 第2課 文体・書き言葉(課題：自分の専門、勉強・研究したいこと)
03. 第3課 段落に分ける(課題：科学の発達と問題点)
04. 第4課 「は」と「が」(課題：私の国の有名な人)
05. 第5課 テーマを述べる
06. 課題：(私の国の特別なもの)
07. 理解度チェック
08. 理解度チェックのフィードバック
09. 第6課 理由・経過を述べる
10. (課題：私が日本に来るまで)
11. 第7課 定義をする(*文型・表現9)
12. (課題：ごみのリサイクル)
13. 第8課 判明していることを述べる(*文型・表現21)
14. (課題：日本の高齢化)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

スケジュールを見て、テキストの該当部分を読み理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業中に完成できなかった課題は、自宅で完成させ提出する。授業内容は自宅でも再度目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 中間テスト | 25% |
| (2) 期末テスト | 25% |
| (3) 宿題・提出物 | 30% |
| (4) 授業への参加度 | 20% |

多少%が変更されることもある。3分の1を超えての欠席は授業成績対象とはならない。

教科書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生 留学生の日本語②作文編』(2016年)アルク

参考書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生 留学生の日本語④論文作成編』(2016年)アルク

担当教員：太田 ミユキ

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321845

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

一文を正確に書けるようにすることから始め、レポート・論文の書き方を学び、大学の授業課題にも耐える論述ができるようにすることを目標とする。

(2) 内容

前半では、日本語学習者の文章に多く見られる文法の間違いを取り上げ、集中的に練習し、ミスのない正確な文章が書けるようにする。後半では、まとまった文章を書く練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ レポート
- ・ 文章表現力
- ・ 文体
- ・ 文法・文型
- ・ 引用

授業計画

01. オリエンテーション、 * 作文の基本 (1) ・ 初回作文 (* p. 11)
02. * 作文の基本 (2) (課題: * p. 15)
03. 第9課 問題点を述べる (* 文型・表現7)
04. (課題: 日本人について理解できないこと)
05. 第10課 引用する (* 文型・表現27, 28)
06. (課題: 国民性)
07. 理解度チェック
08. 理解度チェックのフィードバック
09. 第11課 解決策を述べる
10. (課題: インターネットを取り巻く問題)
11. 第12課 手順を述べる (* 文型・表現25)
12. (課題: 子どもの頃のゲーム)
13. 第13課 指示詞を使う (* 文型・表現2)
14. (課題: 関心のある社会問題)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

復習プリントまたは宿題(課題)を配布する。

評価方法

(1) 中間テスト	25%
(2) 期末テスト	25%
(3) 宿題	30%
(4) 授業参加態度	20%

多少%が変更されることもある。3分の1を超えての欠席は授業成績対象とはならない。

教科書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生留学生の日本語②作文編』(2016年)アルク

参考書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生留学生の日本語④論文作成編』(2016年)アルク

担当教員：大熊 美佳

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321846

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

一文を正確に書けるようにすることから始め、レポート・論文の書き方を学び、大学の授業課題にも耐える論述ができるようにすることを目標とする。

(2) 内容

前半では、日本語学習者の文章に多く見られる文法の間違いを取り上げ、集中的に練習し、ミスのない正確な文章が書けるようにする。後半では、まとまった文章を書く練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な態度で授業に参加してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ レポート
- ・ 文章表現力
- ・ 文体
- ・ 文法・文型
- ・ 引用

授業計画

01. オリエンテーション、 * 作文の基本 (1) ・ 初回作文 (* p. 11)
02. * 作文の基本 (2) (課題: * p. 15)
03. 第9課 問題点を述べる (* 文型・表現7)
04. (課題: 日本人について理解できないこと)
05. 第10課 引用する (* 文型・表現27, 28)
06. (課題: 国民性)
07. 理解度チェック
08. 理解度チェックのフィードバック
09. 第11課 解決策を述べる
10. (課題: インターネットを取り巻く問題)
11. 第12課 手順を述べる (* 文型・表現25)
12. (課題: 子どもの頃のゲーム)
13. 第13課 指示詞を使う (* 文型・表現2)
14. (課題: 関心のある社会問題)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

復習プリントまたは宿題(課題)を配布する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 中間テスト | 25% |
| (2) 期末テスト | 25% |
| (3) 宿題 | 30% |
| (4) 授業参加態度 | 20% |

多少%が変更されることもある。3分の1を超えての欠席は授業成績対象とはならない。

教科書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生留学生の日本語②作文編』(2016年)アルク

参考書

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学生・大学院生留学生の日本語④論文作成編』(2016年)アルク

担当教員：吉沢 由香里

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11321950

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通して日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語 2 (音声表現理解) Aでは必要な情報を正確に理解して対応することや、講義を聴いてノートをとるような「受信型」のスキルの習得に重点を置く。

(2) 内容

大学の講義、テレビ番組などを視聴し、音声や映像などの情報を理解して対応したり、自分の言葉でまとめたり、自分の考えを発信したりできるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。
授業では以下のことを行う。
①聞き取れた音声などの情報から、意味を再構築できるように聴解ストラテジーを学ぶ。
②大意をわかりやすく文章にまとめる練習を行う。
③語彙・表現を増やし、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。
④理解した情報をもとに自分の考えを述べ、話し合う。
⑤日本語能力試験 N 1 の聴解・聴読解対策を意識した練習をする。

受講者に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を、意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてください。

学びのキーワード

- ・ 音声表現
- ・ 聴解活動
- ・ 聴解ストラテジー
- ・ ノート・テイキング

授業計画

01. ガイダンス 聞き取りのストラテジー 聴解練習 (発音に関する聞き取り)
02. アカデミックジャパニーズ (ノートをとる) 聴解練習 (文法に関する聞き取り)
03. 講義を聴く 聴解練習 (文法に関する聞き取り)
04. 講義を聴く 聴解練習 (会話表現)
05. ニュースを視聴する 聴解練習 (まとめ問題)
06. ニュースを視聴する 聴解練習 (即時対応)
07. 講義を聴く 聴解練習 (課題理解)
08. 理解度チェック
09. ニュースを視聴する 聴解練習 (ポイント理解)
10. ニュースを視聴する 聴解練習 (概要理解)
11. 講義を聴く 聴解練習 (統合理解)
12. 講義を聴く 聴解練習 (統合理解)
13. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 1)
14. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 2)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

単語リストを配布するので単語や表現の予習をすること。

準備学習(復習)

授業で学んだことに対して復習クイズを行うことがある。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 課題 | 25% |
| (3) 平常点 | 25% |

欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員：古賀 裕基

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11321951

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通して日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語 2 (音声表現理解) Aでは必要な情報を正確に理解して対応することや、講義を聴いてノートをとるような「受信型」のスキルの習得に重点を置く。

(2) 内容

大学の講義、テレビ番組などを視聴し、音声や映像などの情報を理解して対応したり、自分の言葉でまとめたり、自分の考えを発信したりできるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。
授業では以下のことを行う。
①聞き取れた音声などの情報から、意味を再構築できるように聴解ストラテジーを学ぶ。
②大意をわかりやすく文章にまとめる練習を行う。
③語彙・表現を増やし、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。
④理解した情報をもとに自分の考えを述べ、話し合う。
⑤日本語能力試験 N 1 の聴解・聴読解対策を意識した練習をする。

受講者に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を、意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてください。

学びのキーワード

- ・ 音声表現
- ・ 聴解活動
- ・ 聴解ストラテジー
- ・ ノート・テイキング

授業計画

01. ガイダンス 聞き取りのストラテジー 聴解練習 (発音に関する聞き取り)
02. アカデミックジャパニーズ (ノートをとる) 聴解練習 (文法に関する聞き取り)
03. 講義を聴く 聴解練習 (文法に関する聞き取り)
04. 講義を聴く 聴解練習 (会話表現)
05. ニュースを視聴する 聴解練習 (まとめ問題)
06. ニュースを視聴する 聴解練習 (即時対応)
07. 講義を聴く 聴解練習 (課題理解)
08. 理解度チェック
09. ニュースを視聴する 聴解練習 (ポイント理解)
10. ニュースを視聴する 聴解練習 (概要理解)
11. 講義を聴く 聴解練習 (統合理解)
12. 講義を聴く 聴解練習 (統合理解)
13. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 1)
14. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 2)
15. 総まとめ

準備学習(予習)

単語リストを配布するので単語や表現の予習をすること。

準備学習(復習)

授業で学んだことに対して復習クイズを行うことがある。

評価方法

(1) 試験	0.5
(2) 課題	0.25
(3) 平常点	0.25

欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員：吉沢 由香里

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11322055

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通して日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語 2 (音声表現理解) Bでは、聞いて理解したことをもとに、意見をまとめたり発表したりする「発信型」のスキルの習得に重点を置く。

(2) 内容

大学の講義の他、ニュース、ドキュメンタリー、ドラマなどのテレビ番組、さらに映画などを視聴し、正確に内容を理解すると同時に、大意をまとめられるようになることを目指す。背景知識として必要な最新の日本社会の情報や現代日本の若者の考え方についても学ぶ。さらに、視聴したものに対する自分の考えを発信できるようになることを目指す。
授業では以下のことを行う。
①聴解のストラテジーを学ぶ。
②聞き取った内容の大意を文章にまとめる。
③上級の語彙・表現を増やし、文型を定着させる。
④テーマについてディスカッションし、文章にまとめる。
⑤日本語能力試験 N 1 の聴解・聴読解対策を意識した練習をする。

受講者に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてください。

学びのキーワード

- ・ 音声表現
- ・ 聴解活動
- ・ 聴解ストラテジー
- ・ ノート・テイキング
- ・ メディア・リテラシー

授業計画

01. ガイダンス 聞き取りのポイントを確認する
02. 講義を視聴する 聴解練習 (情報を聞く)
03. 講義を視聴する 聴解練習 (指示を聞く)
04. ニュースを視聴する 聴解練習 (説明を聞く)
05. ニュースを視聴する 聴解練習 (テーマを聞く)
06. ドキュメンタリーを視聴する 聴解練習 (まとめ問題)
07. ドキュメンタリーを視聴する 聴解練習 (カタカナのことば)
08. 理解度チェック
09. ドラマを視聴する 聴解練習 (言い換えのことば)
10. ドラマを視聴する 聴解練習 (よく聞く表現)
11. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 1)
12. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 2)
13. 映画を視聴する
14. 映画を視聴する
15. 総まとめ

準備学習(予習)

語彙や表現の予習をすること。

準備学習(復習)

授業で学んだことについて、復習クイズを行うことがある。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 課題 | 25% |
| (3) 平常点 | 25% |

欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員：古賀 裕基

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11322056

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通して日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語 2 (音声表現理解) Bでは、聞いて理解したことをもとに、意見をまとめたり発表したりする「発信型」のスキルの習得に重点を置く。

(2) 内容

大学の講義の他、ニュース、ドキュメンタリー、ドラマなどのテレビ番組、さらに映画などを視聴し、正確に内容を理解すると同時に、大意をまとめられるようになることを目指す。背景知識として必要な最新の日本社会の情報や現代日本の若者の考え方についても学ぶ。さらに、視聴したものに対する自分の考えを発信できるようになることを目指す。
授業では以下のことを行う。
①聴解のストラテジーを学ぶ。
②聞き取った内容の大意を文章にまとめる。
③上級の語彙・表現を増やし、文型を定着させる。
④テーマについてディスカッションし、文章にまとめる。
⑤日本語能力試験 N 1 の聴解・聴読解対策を意識した練習をする。

受講者に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてください。

学びのキーワード

- ・ 音声表現
- ・ 聴解活動
- ・ 聴解ストラテジー
- ・ ノート・テイキング
- ・ メディア・リテラシー

授業計画

01. ガイダンス 聞き取りのポイントを確認する
02. 講義を視聴する 聴解練習 (情報を聞く)
03. 講義を視聴する 聴解練習 (指示を聞く)
04. ニュースを視聴する 聴解練習 (説明を聞く)
05. ニュースを視聴する 聴解練習 (テーマを聞く)
06. ドキュメンタリーを視聴する 聴解練習 (まとめ問題)
07. ドキュメンタリーを視聴する 聴解練習 (カタカナのことば)
08. 理解度チェック
09. ドラマを視聴する 聴解練習 (言い換えのことば)
10. ドラマを視聴する 聴解練習 (よく聞く表現)
11. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 1)
12. テレビ番組を視聴する 聴解練習 (まとめ問題 2)
13. 映画を視聴する
14. 映画を視聴する
15. 総まとめ

準備学習(予習)

語彙や表現の予習をすること。

準備学習(復習)

授業で学んだことについて、復習クイズを行うことがある。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 課題 | 25% |
| (3) 平常点 | 25% |

欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員： 棚橋 明美

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 11322120

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする。

(2) 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸張を目ざす授業である。特にこの授業では、読解力に力を入れる。ウォーミングアップとしてN2の試験問題を用いて試験の解答の仕方のコツを学習した後、エッセイや小説を読み、日本語の様々な表現を学ぶ。

受講者に対する要望

ただ授業をこなすという態度ではなく、積極的に日本語力を伸長させる努力を期待したい。また、「日本語の勉強」ということを超えて、小説やエッセイの楽しさを知り、好きになってほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 読解
- ・ 精読
- ・ 速読
- ・ 読む・書く

授業計画

01. オリエンテーション
02. 日本語能力試験N2の問題練習
03. 日本語能力試験N2の問題練習
04. エッセイを読む
05. エッセイを読む
06. 短編小説を読む
07. 短編小説を読む
08. 理解度チェック
09. 短編小説を読む。
10. 理解度チェックフィードバック
11. 短編小説を読む
12. 短編小説を読む
13. 短編小説を読む
14. 短編小説を読む
15. 総まとめ

準備学習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしてくること。毎時間、予習ノートの提出を義務付ける。

準備学習(復習)

授業前に、先週の範囲を必ず音読しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 参加度、クラス貢献度 | 30% |
| (2) 課題提出 | 10% |
| (3) 中間試験 | 30% |
| (4) 期末試験 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：太田 ミユキ

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11322121

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする。

(2) 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸張を目ざす授業である。特にこの授業では、読解力に力を入れる。ウォーミングアップとしてN2の試験問題を用いて試験の解答の仕方のコツを学習した後、エッセイや小説を読み、日本語の様々な表現を学ぶ。

受講者に対する要望

ただ授業をこなすという態度ではなく、積極的に日本語力を伸長させる努力を期待したい。また、「日本語の勉強」ということを超えて、小説やエッセイの楽しさを知り、好きになってほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 読解
- ・ 精読
- ・ 速読
- ・ 読む・書く

授業計画

01. オリエンテーション
02. 日本語能力試験N2の問題練習
03. 日本語能力試験N2の問題練習
04. エッセイを読む
05. エッセイを読む
06. 短編小説を読む
07. 短編小説を読む
08. 理解度チェック
09. 短編小説を読む。
10. 理解度チェックフィードバック
11. 短編小説を読む
12. 短編小説を読む
13. 短編小説を読む
14. 短編小説を読む
15. 総まとめ

準備学習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしてこること。毎時間、予習ノートの提出を義務付ける。

準備学習(復習)

授業前に、先週の範囲を必ず音読しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 参加度、クラス貢献度 | 0.3 |
| (2) 課題提出 | 0.1 |
| (3) 中間試験 | 0.3 |
| (4) 期末試験 | 0.3 |

教科書

参考書

担当教員： 棚橋 明美

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 11322326

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする一方、速読で全体像をつかむ練習もする。文学やエンターテインメント作品に親しむことにより、日本語を楽しみつつ、N1レベルの語彙や表現を身につけてほしい。また、小説やエッセイを読む楽しみを覚えてほしい。

(2) 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸長を目ざす授業である。エッセー、新聞、小説など多様な文章を読む力を付ける。適宜、まとまった文を書くことも求められる。

受講者に対する要望

ただ授業をこなすのではなく、能動的に日本語力を伸ばす努力をしてもらいたい。また、素材のエッセイや小説の面白さを十分に楽しんでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 読解
- ・ スピーチ
- ・ エッセー
- ・ 小説

授業計画

01. オリエンテーション、JPT練習問題。
02. JPT練習問題練習、新聞記事を読む。I
03. エッセイを読む
04. エッセイを読む。
05. 短編小説(1)を読む。
06. 短編小説(1)を読む。
07. 短編小説(1)を読む。
08. まとめ、ふりかえり。
09. 短編小説(2)を読む。I
10. 第8回のFB。短編小説(2)を読む
11. 短編小説(2)を読む。
12. 短編小説(2)を読む。
13. 短編小説(2)を読む。
14. 短編小説(2)を読む。
15. 総まとめ

準備学習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしてこること。毎回、予習ノートの提出を義務付ける。

準備学習(復習)

必ず課題は締切に間に合うように提出すること。次の週の授業では受け取らないので、欠席した者は、必ず前日までに研究室(3209)のメールボックスに提出しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業貢献度 | 30% |
| (2) 課題提出 | 10% |
| (3) 中間試験(スピーチ発表) | 30% |
| (4) 期末試験(筆記) | 30% |

教科書

参考書

担当教員：太田 ミユキ

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11322327

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする一方、速読で全体像をつかむ練習もする。文学やエンターテインメント作品に親しむことにより、日本語を楽しみつつ、N1レベルの語彙や表現を身につけてほしい。また、小説やエッセイを読む楽しみを覚えてほしい。

(2) 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸長を目ざす授業である。エッセー、新聞、小説など多様な文章を読む力を付ける。適宜、まとまった文を書くことも求められる。

受講者に対する要望

ただ授業をこなすのではなく、能動的に日本語力を伸ばす努力をしてもらいたい。また、素材のエッセイや小説の面白さを十分に楽しんでほしい。

学びのキーワード

- ・日本語
- ・読解
- ・スピーチ
- ・エッセー
- ・小説

授業計画

01. オリエンテーション、JPT練習問題。
02. JPT練習問題練習、新聞記事を読む。I
03. エッセイを読む
04. エッセイを読む。
05. 短編小説(1)を読む。
06. 短編小説(1)を読む。
07. 短編小説(1)を読む。
08. まとめ、ふりかえり。
09. 短編小説(2)を読む。I
10. 第8回のFB。短編小説(2)を読む
11. 短編小説(2)を読む。
12. 短編小説(2)を読む。
13. 短編小説(2)を読む。
14. 短編小説(2)を読む。
15. 総まとめ

準備学習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしてこること。毎回、予習ノートの提出を義務付ける。

準備学習(復習)

必ず課題は締切に間に合うように提出すること。次の週の授業では受け取らないので、欠席した者は、必ず前日までに研究室(3209)のメールボックスに提出しておくこと。

評価方法

(1) 授業貢献度	30%
(2) 課題提出	10%
(3) 中間試験(スピーチ発表)	30%
(4) 期末試験(筆記)	30%

教科書

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11331320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分の主張や意見・考えを文章にまとめ発表すること（スピーチ）を最終目標とする

(2) 内容

発表するために必要な語彙・文体の導入、発表内容の構成、発表時の態度・表現、レジュメの書き方等を身につけ、ゼミ等などでの発表に向けてのスキルを習得する。

受講者に対する要望

自分の発表テーマをしっかりと決め、発表準備を進める能動的取組が求められる。さらに、他のクラスメートの発表時には、集中して聴き、意見や質問をし、共に学ぶ姿勢が強く求められる。

学びのキーワード

- ・スピーチ発表
- ・スピーチ原稿作成
- ・語彙・文体、発音・表現
- ・レジュメの書き方
- ・意見・質問の表現

授業計画

01. オリエンテーション、「自己紹介と『最近の自身の関心事』」〈小発表①〉
02. 聖学院大学第1回弁論大会を聴く。
03. 「スピーチのテーマ」と「テーマ選択理由」〈小発表②〉
04. 小発表①と②の振り返り
05. レジュメの書き方
06. 「異文化」〈小発表③〉
07. 「異文化」〈小発表③〉／振り返り
08. 発表原稿の作成①
09. 発表原稿の作成②
10. 発表原稿の作成③
11. 質問の仕方と答え方、討論の仕方、等
12. スピーチ（最終発表）
13. スピーチ（最終発表）／振り返り
14. レポート作成
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時間以外に、自主的に調査や発表の準備をする必要がある。また、それらに関連して記入シートなどを作成し提出することが課せられる場合も少なからずある。

準備学習(復習)

授業で導入された項目に関連して各自に課題が課せられ、その提出が求められる。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 提出物（スピーチ原稿、レジュメ、等々） | 30% |
| (3) クラスワーク等 | 20% |

%が多少変更される場合もある。授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とはならない。

教科書

教師作成教材

参考書

担当教員：前川 孝子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11331425

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自ら考えテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことをレジュメにまとめられる。工夫して聞き手に理解してもらえる発表ができる。発表者の立場に立って、討論に参加できる。

(2) 内容

留学生が大学の授業・演習で口頭発表・討論を行う力を養成する。内容は、資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とまとめ方、レジュメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的には、自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。

また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行う。そして、これら発表・討論の授業と並行して日本語の弁論大会参加へ向けて、自分の意見を主張するための表現方法とスピーチの方法を学習する。

受講者に対する要望

アンケートやインタビューのテーマ設定をよく考えてください。自分が発表したプレゼンテーションが、それを聞いている人にどのように伝わるのかを考えながら、課題に取り組んでください。

また、発表では、他の学生の発表をきちんと聞くことも大切なので、「良い聞き手」になる努力をしてください。

学びのキーワード

- ・意見を述べる
- ・発表の仕方
- ・アンケート調査・インタビュー調査
- ・レジュメの作成方法
- ・質問の仕方

授業計画

01. 授業説明、最近の関心事 [小発表]
02. 調査の基本 (アンケート、インタビュー)、発表構成検討
03. 「最近の関心事」のフィードバックと弁論大会の原稿 (私の〇〇) 作成
04. アウトラインについて [小発表]
05. アンケートやインタビューの仕方、調査シート作成準備、「私の〇〇」のフィードバック
06. 調査シートについて [小発表と検討]
07. 調査シートの完成、「私の〇〇」の発表練習
08. 「私の〇〇」の発表
09. レジュメの作り方① (図表の説明の仕方)
10. レジュメの作り方② (資料のまとめ方)
11. パワーポイントの作り方 (発表の仕方、質問の仕方と答え方、討論の仕方)
12. 発表練習
13. 最終発表 1 司会と発表
14. 最終発表 2 司会と発表
15. 最終発表 3 司会と発表、まとめ、課題提出

準備学習(予習)

授業時間以外に、自主的に調査や発表の準備をしなければなりません。小発表したり、説明用のシートなどを作成したりする必要もあります。

準備学習(復習)

授業で作成した原稿や教師から添削された原稿をきちんと見直してください。また、授業内で注意された課題は必ずもう1度再調査してください。

評価方法

(1) 発表	40%
(2) レポート	20%
(3) 課題提出	20%
(4) 授業への参加度	20%

教科書

参考書

担当教員：川口 さち子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11332130

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語での会話をスムーズに運ぶためには、人間関係や場面を考慮して表現を選ばなければならない。本講義では、そのような日本語での円滑なコミュニケーションのための表現を学び、様々な場面において実際に応用できるようになることを目標とする。

(2) 内容

基本的な敬語を復習し、相手との関係（上下・親疎）やいろいろな場面において適切な待遇表現が選択できるように応用練習をする。具体的には、問い合わせや依頼などについて、口頭でのやりとりとメールの書き方を学ぶ。また、仕事や進学の面接場面での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、仕事のための日本語でのコミュニケーションも学ぶ。

受講者に対する要望

自ら考える姿勢を持ち、授業に真剣に取り組んでほしい。遅刻・欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・ 待遇表現
- ・ コミュニケーション
- ・ 人間関係（上下・親疎）
- ・ 敬語

授業計画

01. 講義ガイダンス、敬語と待遇表現について
02. 敬語のまとめ(1) 尊敬語・謙譲語
03. 敬語のまとめ(2) 丁寧語・お／ご
04. 立場で異なる日本語 (1)
05. 立場で異なる日本語 (2)
06. 立場で異なる日本語 (3)
07. 立場で異なる日本語 (4)
08. 自己アピールを考える (1)
09. 自己アピールを考える (2)
10. 職場で異なる日本語 (1)
11. 職場で異なる日本語 (2)
12. 職場で異なる日本語 (3)
13. 職場で異なる日本語 (4)
14. 電話・メールの日本語
15. まとめ

準備学習(予習)

敬語・待遇表現の基本事項を予習すること。

準備学習(復習)

授業内容に関連した発表およびテストを行うため、各自、十分に復習し、準備しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 中間・期末テスト | 50% |
| (2) 授業中の発表と課題の提出 | 30% |
| (3) 平常点（授業への参加度） | 20% |

* 欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。

教科書

参考書

担当教員：吉沢 由香里

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11332235

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本社会の様々な場面における円滑なコミュニケーションのための日本語表現を学び、身に付けることを目標とする。

(2) 内容

場面、立場、身分、職業によって異なる日本語の表現を学び、日本社会の中で円滑なコミュニケーションが行えるよう知識を身につける。特に、様々なビジネスシーンを扱った問題を解くことにより、ビジネス語彙・表現に慣れ、適切な待遇表現ができるように練習する。また、将来的な就職活動につながるように、電話会話、メールの書き方、面接での自己アピールの練習等も行う。

受講者に対する要望

予習・復習を十分にし、積極的に授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 敬語
- ・ 日本社会
- ・ 上下関係
- ・ ウチとソト
- ・ 就職活動

授業計画

01. ガイダンス
02. 社内会話①
03. 社内会話②
04. 電話の会話①
05. 電話の会話②
06. 社内メール
07. 社内文書
08. 理解度チェック
09. 社外との会話①
10. 社外との会話②
11. 社外文書
12. 自己アピールを考える
13. 就職活動の日本語①
14. 就職活動の日本語②
15. 総まとめ

準備学習(予習)

課題を与える。

準備学習(復習)

授業内容に関連した発表および復習クイズを行う。各自十分に復習し、準備しておくこと。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 中間試験 | 25% |
| (2) 期末試験 | 25% |
| (3) 課題・発表 | 25% |
| (4) 授業参加度 | 25% |

欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

教科書

小野塚若菜他『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集』ジャパンタイムズ

参考書

担当教員：横田 敦子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11333145

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

留学生が日本人と共に学ぶために必要な日本語力の向上を学習目標とする。
この授業では、小説を読むことを通して、日本語の語彙力を培うとともに、日本語文法の多様性や作品の背景や内容を理解し、日本の小説を楽しむようになることがこの授業の目標である。

(2) 内容

- ① 様々な短編小説を通して、日本語の語彙力を高めるとともに文法の多様性を学ぶ。
 - ② 視聴覚教材を通して作品の時代背景や作者の素顔なども学習していく。
 - ③ 学期の最後には各自が推薦する小説のプレゼンをおこない、その中から最も読みたいと思うものを選んで全員で講読する。(ビブリオバトル)
 - ④ 各自、語彙ノートを作成し、読んだ後には読書ノートを記録し提出する。
 - ⑤ 最終課題は、学期中に授業で読んだものの中から一つを選び、レビューを提出する。
- ※授業内容は、学生の読書歴によって変更することがある。

受講者に対する要望

2レベル履修後でない受講が難しい。
遅刻・欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・ 短編小説
- ・ 読解ストラテジー
- ・ 語彙力
- ・ 文法の多様性

授業計画

01. ガイダンス・自己紹介・「靴」安倍公房
02. 「わすれ傘」吉田道子
03. 「デューク」江國香織
04. 「貨幣」太宰治(ジグゾーリーディング)
05. 「来訪者」阿刀田高著(予測しながらの読解とディスカッション)
06. 「来訪者」阿刀田高著(予測しながらの読解とディスカッション)
07. 「来訪者」阿刀田高著(予測しながらの読解とディスカッション)
08. 理解チェック・フィードバック
09. 「高瀬舟」森鷗外著(背景理解・読解)
10. 「高瀬舟」森鷗外著(読解)
11. 「高瀬舟」森鷗外著(読解とDVD視聴、ディスカッション)
12. ビブリオバトル
13. 読解
14. 読解・ディスカッション
15. 総まとめ

準備学習(予習)

準備学習(予習)

1つの作品を1～3週かけて扱うので、必ず言葉などの予習を行ってから授業に臨むこと。

準備学習(復習)

読書ノートと語彙ノートを作成すること

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 中間試験 | 25% |
| (2) 期末試験 | 25% |
| (3) 課題(最終レポート・読書ノート・語彙ノート) | 20% |
| (4) 平常点(授業参加度など) | 30% |

※出席が2/3に満たないものは評価の対象とならない。

教科書

参考書

担当教員：吉沢 由香里

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11333250

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

留学生が、大学での研究・学習生活に支障のない日本語でのメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。

(2) 内容

日本語のテレビや動画のニュース、新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙・表現を習得し、メディアの解読ができるようになることを目指す。授業では①新聞記事の解読と話し合い、②ニュースの解読と話し合い、③発表を行う。報道に使われる語彙や表現の理解と習得に重点を置く。

受講者に対する要望

今、日本や世界で何が起きているのかに興味を持ち、新聞やニュースを見て授業に備えるようにしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 新聞、ニュース
- ・ 時事問題
- ・ 語彙
- ・ 聴解
- ・ 読解

授業計画

01. オリエンテーション 新聞の基礎知識 気象のニュース
02. 地震のニュース
03. 事件・事故のニュース
04. 日本社会のニュース
05. 調査結果のニュース
06. 科学技術のニュース
07. 各自が選んだニュース 発表
08. 理解度チェック
09. トラブルのニュース
10. 政治のニュース
11. 経済・金融のニュース
12. スポーツのニュース
13. 各自が選んだニュース 発表
14. その他のニュース
15. 総まとめ

準備学習(予習)

事前に配布したプリントや語彙リストを予習してくること。

準備学習(復習)

授業で学んだ教材の聞き取り、穴埋め、語彙クイズを行う。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 課題 | 25% |
| (3) 平常点 | 25% |

欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。

教科書

プリントを配布する

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11333365

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

学生のための日本語授業である。大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために必要な表現を学び、使えるようにする。

(2) 内容

日本語での会話からなるドラマおよび邦画から、上級・趙上級レベルの文型・語彙や日本的表現・音変化などを習得する。またそれらの視聴覚教材にある日本社会やその背景にある事柄に触れ、それらを学ぶ。

受講者に対する要望

ディクテーションおよび語彙や文型の予習・復習等々、個々人の積極的な授業への参加が不可欠となる。

学びのキーワード

- ・日本語 3 レベル
- ・音声言語理解
- ・ドラマ・邦画
- ・語彙・文型・表現
- ・日本社会

授業計画

01. 授業概要、ニーズ分析・アンケート、視聴覚教材①の語彙・文型導入
02. 視聴覚教材①視聴後内容についてのディスカッション
03. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
04. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
05. 視聴覚教材①の復習試験、視聴覚教材②の語彙・文型導入
06. 視聴覚教材②視聴後内容についてのディスカッション
07. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
08. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
09. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
10. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
11. 視聴覚教材②の復習試験、視聴覚教材③の語彙・文型導入
12. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
13. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
14. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
15. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答

準備学習(予習)

新出語彙・文型の予習をする。教材内容に扱われるキーワードを必要に応じて調べてくる。

準備学習(復習)

新出語彙・文型・漢字の復習練習問題またはクイズが実施される。必要に応じて解答をディスカッション形式で行い、それらの定着を高める。キーワードに関して調査を行うこともある。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) クイズ | 10% |
| (3) クラスワーク等 | 30% |

多少%が変更されることもある。3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。

教科書

教師作成教材

参考書

担当教員：岡村 佳代

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11333470

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本学における留学生対象の日本語科目では、最高位のレベルにあるクラスなので、アカデミックな文語体表現で自己表現ができることを目標とする。また、日本文化や日本語での表現形式を学びながら、日本語で表現することの楽しさを感じてもらいたい。

(2) 内容

本講義は、日本語を母語としない留学生の日本語による自己表現力の育成、向上を支援するものである。春学期は、新聞への投書、エッセイ、小論文を書くことを通して、多様な表現形態を学ぶ。これらの作品を可能な限り外部へ投稿することで自己の意見を発信していくことを目指す。

受講者に対する要望

文章表現力とディスカッション能力を伸ばすことに意欲と熱意のある学生の履修が望ましい。

学びのキーワード

- ・自己表現力
- ・アカデミックな文語体表現
- ・コミュニケーション能力

授業計画

01. オリエンテーション
02. 新聞の投稿 (1) 投書欄を読む、記事を書く準備
03. 新聞の投稿 (2) 投稿記事を書く
04. 随筆・エッセイ (1) エッセイを鑑賞する、エッセイを書く準備
05. 随筆・エッセイ (2) エッセイを書く
06. 随筆・エッセイ (3) エッセイを書く、ピアリーディング・修正
07. 随筆・エッセイ (4) エッセイ鑑賞会
08. 小論文 (1) コンテスト入賞作品を読む、テーマの検討
09. 小論文 (2) 図書館学習：テーマに関するインターネット資料検索、アウトライン作成
10. 小論文 (3) 図書館学習：テーマに関する文献資料の検索、アウトライン作成
11. 小論文 (4) アウトライン発表、小論文執筆
12. 小論文 (5) 執筆、ピアリーディング・修正
13. 小論文 (6) 執筆、ピアリーディング・修正
14. 小論文 (7) 仕上げ、要約の作成
15. 小論文 (8) 小論文口頭発表会・まとめ

準備学習(予習)

小論文鑑賞時は、授業前に読んでくること。

準備学習(復習)

創作活動の過程における推敲・仕上げ、発表の練習などは宿題となる。課題の期日を守らないと、授業時にクラス全体の迷惑になるので、責任を持った取り組みが大切である。

評価方法

(1) 創作作品	50%
(2) 発表	30%
(3) 平常点	20%

学期中の欠席率が15回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員：松永 直人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500110

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バスケットボールは走る、跳ぶ、投げるといった運動を含み、瞬発力、持久力を必要とするスポーツである。スポーツの基本的な動作を多く含んだバスケットボールを通じて、様々な身体活動を行い、生涯スポーツに取り組む動機付けと位置付ける。

(2) 内容

個人的な技術の向上だけでなく、チームスポーツを通して協調性の向上や戦術を理解することで相手の行動を先読みする精神的な充実を目標とする。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
 服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。
 熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・ チームスポーツ
- ・ 生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. コーディネーショントレーニング
03. 実技①（基本的な技術の習得①）
04. 実技②（基本的な技術の習得②）
05. 実技③（基本的な技術の習得③）
06. 実技④（ルールの理解）
07. 実技⑤（ゲーム①）
08. 実技⑥（ゲーム②）
09. 実技⑦（ゲーム③）
10. 実技⑧（ゲーム④）
11. 実技⑨（ゲーム⑤）
12. 実技⑩（ゲーム⑥）
13. 実技⑪（ゲーム⑦）
14. 実技⑫（ゲーム⑧）
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツの経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや技術・戦術を確認しておくこと。

評価方法

(1) 授業態度 100% 授業の参加態度・積極性から評価する

学期末の試験は実施しない。
 実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500120

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義はバドミントンの授業を履修したことのあ
 る学生及びこれまで競技スポーツとしてバドミン
 トンを専攻していた者を対象に、戦略・戦術論、
 競技の歴史を踏まえより発展的な講義を行う。

(2) 内容

バドミントン競技における戦略・戦術論や競技普
 及の歴史的背景を学び、バドミントン競技を行う
 だけでなく、指導も行えるようになることを目標
 とする。
 なお、講義内容は健康・体力づくり実習B(バドミ
 ントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シュー
 ズを着用すること。
 服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐
 れがあるため実習には参加させない。
 熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミング
 で取ること。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. ルール及び基本ストロークの復習
03. シングルの戦略・戦術論①
04. シングルの戦略・戦術論②
05. シングルの戦略・戦術論③
06. バドミントン競技の普及の歴史的背景と技術の発達
07. ダブルスの戦略・戦術論①
08. ダブルスの戦略・戦術論②
09. ダブルスの戦略・戦術論③
10. ダブルスの戦略・戦術論④
11. ダブルスの戦略・戦術論⑤
12. ダブルスの戦略・戦術論⑥
13. バドミントンの指導論①
14. バドミントンの指導論②
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験
 を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこ
 と。

評価方法

(1) 平常点

100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。
 実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員：朴 美香

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500130

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

硬式テニス実習を通して技術を習得するとともに運動能力や体力の向上を図る授業を展開していきます。さらには健康や体力管理のために運動実践の必要性を学びながら、生涯スポーツとしてテニスが身近に感じられるようになることを目標にします。

(2) 内容

- (1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には体育館で行うことがあります。また、講義室において映像資料を参考に学習を行うことがあります。
- (2) その日の練習テーマによっては二人、または小グループで行われることがあります。
- (3) 基本打法や練習方法などについてはデモンストレーションを行います。その後、学生に実践させることで練習の狙いや技術についてフィードバックをします。
- (4) 前半は、ボールの感覚を養う基礎的な運動とラケットに慣れるためのドリルを行います。そして硬式テニスで用いられる多くのストロークを身につけてラリーができることを目指します。後半は、ボレーとサーブの技術を加えながらダブルス・ゲームができるような授業を展開していきます。

受講者に対する要望

積極的参加すること
 テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 運動能力
- ・ 運動実践
- ・ 体力向上

授業計画

01. オリエンテーション
02. キャッチボールとコーディネーションドリル
03. グラウンドストロークの基本：フォアハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
04. 簡単なラリーと、フォアハンドストロークの練習
05. グラウンドストローク基本：バックハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
06. ラリーとバックハンドストローク練習
07. 色々なラリーとゲーム
08. ラリーの確認：ショートストロークラリー連続20回
09. ネットプレーの基本：ボレーの技術（グリップ、インパクト、ステップなど）
10. ボレーのラリーとネットプレーでゲームの展開
11. ダブルスゲームの理解：ゲームの仕方とルールの学習
12. サーブの基本①：グリップと肩、肘、手首の動きについて
13. サーブの基本②：バランスと体の回転、ラケットのスイング
14. ダブルスゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前回行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。
 シャドウスイング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。
 テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に閲覧しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。
 シャドウスイングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。
 毎回行われた課題をメモしておく。
 テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業態度・参加度 | 60% |
| (2) 実技、理論 | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的に行い、それぞれの役割を果たす内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

担当教員：神田 良太郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500140

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

(2) 内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

受講者に対する要望

- ・授業に対してまじめに取り組む
- ・積極性と協調性が大切
- ・シューズを用意すること

学びのキーワード

- ・授業に対して欠席をしないで取り組める
- ・他との協調性又協力

授業計画

01. ストレッチ運動
02. 1人で行う体力づくり運動
03. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング)
04. ターゲットボードゴルフ(基本練習、ルール理解)
05. ターゲットボードゴルフ(ゲーム)
06. ストレッチ運動
07. 2人組で行う体力づくり運動
08. ボールを使った運動
09. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------|-----------------------|
| (1) 平常点 | 60% 欠席-6点、遅刻・早退-2点 |
| (2) 評価点 | 40% 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ |

とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500150

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。
履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することと(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

(2) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
06. ○個人的技能練習（パス・スパイク）
07. ○集団的 skill 練習 ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的 skill 練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的 skill 練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的 skill 練習（3段攻撃のバリエーション） ●速攻を含んだゲーム
11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 出席 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：檜山 康

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500160

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1）幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2）切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 50% |
| (2) 実技試験 | 30% |
| (3) 参加態度 | 20% |

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

健康・体力づくり実習A (ソフトボール)

PHED-0-100

担当教員：神田 良太郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500170

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

- ・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。
- ・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。
- ・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。

(2) 内容

- ・歴史
ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。
- ・特性
①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。
②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・協調性
- ・協力性
- ・積極的に行動する姿勢
- ・努力

授業計画

01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール
02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等
03. ウォーミングアップ パント、トスバッティング、ボールの打ち方等
04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用
05. 同上 関係プレイの確認等
06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング
07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など
12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価)
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|------------------|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% ノック・バッティングなど |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500210

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バスケットボールは走る、跳ぶ、投げるといった運動を含み、瞬発力、持久力を必要とするスポーツである。スポーツの基本的な動作を多く含んだバスケットボールを通じて、様々な身体活動を行い、生涯スポーツに取り組む動機付けと位置付ける。

(2) 内容

個人的な技術の向上だけでなく、チームスポーツを通して協調性の向上や戦術を理解することで相手の行動を先読みする精神的な充実を目標とする。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。
熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・ チームスポーツ
- ・ 生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. コーディネーショントレーニング
03. 実技①（基本的な技術の習得①）
04. 実技②（基本的な技術の習得②）
05. 実技③（基本的な技術の習得③）
06. 実技④（ルールの理解）
07. 実技⑤（ゲーム①）
08. 実技⑥（ゲーム②）
09. 実技⑦（ゲーム③）
10. 実技⑧（ゲーム④）
11. 実技⑨（ゲーム⑤）
12. 実技⑩（ゲーム⑥）
13. 実技⑪（ゲーム⑦）
14. 実技⑫（ゲーム⑧）
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツの経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや技術・戦術を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500220

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義はバドミントンの授業を履修したことのあ
 る学生及びこれまで競技スポーツとしてバドミン
 トンを専攻していた者を対象に、戦略・戦術論、
 競技の歴史を踏まえより発展的な講義を行う。

(2) 内容

バドミントン競技における戦略・戦術論や競技普
 及の歴史的背景を学び、バドミントン競技を行う
 だけでなく、指導も行えるようになることを目標
 とする。
 なお、講義内容は健康・体力づくり実習A(バドミ
 ントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シュー
 ズを着用すること。
 服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐
 れがあるため実習には参加させない。
 熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミング
 で取ること。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. ルール及び基本ストロークの復習
03. シングルの戦略・戦術論①
04. シングルの戦略・戦術論②
05. シングルの戦略・戦術論③
06. バドミントン競技の普及の歴史的背景と技術の発達
07. ダブルスの戦略・戦術論①
08. ダブルスの戦略・戦術論②
09. ダブルスの戦略・戦術論③
10. ダブルスの戦略・戦術論④
11. ダブルスの戦略・戦術論⑤
12. ダブルスの戦略・戦術論⑥
13. バドミントンの指導論①
14. バドミントンの指導論②
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験
 を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこ
 と。

評価方法

(1) 平常点

100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。
 実習科目であることから、授業の出席及び取り組む姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員：朴 美香

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500230

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

硬式テニス実習を通して技術を習得するとともに運動能力や体力の向上を図る授業を展開していきます。さらには健康や体力管理のために運動実践の必要性を学びながら、生涯スポーツとしてテニスが身近に感じられるようになることを目標にします。

(2) 内容

- (1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には体育館で行うことがあります。また、講義室において映像資料を参考に学習を行うことがあります。
- (2) その日の練習テーマによっては二人、または小グループで行われることがあります。
- (3) 基本打法や練習方法などについてはデモンストレーションを行います。その後、学生に実践させることで練習の狙いや技術についてフィードバックをします。
- (4) 前半は、ボールの感覚を養う基礎的な「運動とラケットに慣れるためのドリルを行います。そして硬式テニスで用いられる多くのストロークを身につけてラリーができることを目指します。後半は、ボレーとサーブの技術を加えながらダブルス・ゲームができるような」授業を展開していきます。

受講者に対する要望

積極的に参加すること
 テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 運動能力
- ・ 運動実践
- ・ 体力向上

授業計画

01. オリエンテーション
02. キャッチボールとコーディネーションドリル
03. グラウンドストロークの基本：フォアハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
04. 簡単なラリーと、フォアハンドストロークの練習
05. グラウンドストローク基本：バックハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
06. ラリーとバックハンドストローク練習
07. ラリー挑戦とゲーム
08. ラリーの確認： ショートストロークラリー連続20回
09. ネットプレーの基本：ボレーの技術（グリップ、インパクト、ステップなど）
10. ボレーのラリーとネットプレーでゲームの展開
11. ダブルスゲームの理解：ゲームの仕方とルールの学習
12. サーブの基本①：グリップと肩、肘、手首の動きについて
13. サーブの基本②：バランスと体の回転、ラケットのスイング
14. ダブルスゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前回行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。
 シャドウスウィング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。
 テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に閲覧しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。
 シャドウスウィングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。
 毎回行われた課題をメモしておく。
 テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業参加度 授業態度 | 60% |
| (2) 実技、理論、 | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的に行い、それぞれの役割を果たす内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし

参考書

必要に応じて資料を配布する。

担当教員：神田 良太郎

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500240

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

(2) 内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

受講者に対する要望

- ・授業に対してまじめに取り組む
- ・積極性と協調性が大切
- ・シューズを用意すること

学びのキーワード

- ・授業に対して欠席をしないで取り組める
- ・他との協調性又協力

授業計画

01. ストレッチ運動
02. 1人で行う体力づくり運動
03. 体力づくり運動(マシンを使用したトレーニング)
04. ターゲットボードゴルフ(基本練習、ルール理解)
05. ターゲットボードゴルフ(ゲーム)
06. ストレッチ運動
07. 2人組で行う体力づくり運動
08. ボールを使った運動
09. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- (1) 平常点 60% 欠席-6点、遅刻・早退-2点
 (2) 評価点 40% 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ

とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500250

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

(2) 内容

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。
履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習 (パス・サーブ) ●つなぐゲーム (コミュニケーション)
05. 個人的技能練習 (パス・サーブ) ●つなぐゲーム (コミュニケーション)
06. ○個人的技能練習 (パス・スパイク)
07. ○集団的 skill 練習 ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的 skill 練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的 skill 練習 (攻撃へのつなぎ) ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的 skill 練習 (3段攻撃のバリエーション) ●速攻を含んだゲーム
11. ●ゲーム (リーグ戦) 男女混合
12. ●ゲーム (リーグ戦) 男女混合
13. ●ゲーム (リーグ戦) 男女別
14. ●ゲーム (リーグ戦) 学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：檜山 康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500260

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

フットサルに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1）幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2）切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 50% |
| (2) 実技試験 | 30% |
| (3) 参加態度 | 20% |

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：神田 良太郎

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500270

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

- ・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。
- ・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。
- ・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。

(2) 内容

- ・歴史
ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。
- ・特性
①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。
②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・協調性
- ・協力性
- ・積極的に行動する姿勢
- ・努力

授業計画

01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール
02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等
03. ウォーミングアップ パント、トスバッティング、ボールの打ち方等
04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用
05. 同上 関係プレイの確認等
06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング
07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など
12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価)
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|------------------|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% ノック・バッティングなど |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500310

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

これからの社会で必要とされる生涯スポーツとして人気の高いゴルフは、得てして高齢者のスポーツ、お金のかかるスポーツというイメージがつきまとうが、この授業では純粋にゴルフスポーツが身体活動として優れた運動種目であるということと、精神性を養うことにおいても優れた運動種目である事を理解したい。そこに大学生の時期に身体活動としてのゴルフを学ぶことによる優位性がある。

また、別の観点からも自然の中で展開されるスポーツ活動は、他の種目にはない醍醐味があると同時に、この授業は、3泊4日に亘る集中授業でもあり、その間は宿泊を伴う授業となる。集団生活の中で、学生同士の親睦を深め、楽しい活動としたい。

(2) 内容

生涯スポーツとしてのゴルフを、身体活動という視点から学ぶ授業である。通常の授業形態とは異なり、集中授業として3泊4日の日程で構成されている。ゴルフの基礎技術（グリップ、スタンス、スイング）を習得した後、練習場で実際にボールを打ち、その後ゴルフコースをラウンドする。そこでは、実際のプレーを技術という観点からだけでなく、ルールを尊び、ゴルフ特有の厳格なマナーなどの学習も含まれる。

受講者に対する要望

学生集団での宿泊を伴う授業形態であるところから、規律ある生活、行動のできないものは参加できない。
また、宿泊、交通、施設利用料は、個人負担となるため受講にあたっては別途定める経費を徴収する。

学びのキーワード

- ・ゴルフ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. 事前オリエンテーション
02. 実技（グリップ、スタンス）
03. 実技（スイング①ショートアイアン）
04. 講習（講義）
05. 実技（スイング②ミドルアイアン）
06. 実技（スイング③ロングアイアン）
07. 実技（コース練習①ショートコースを使って）
08. 実技（コース練習②スコアの取り方とラウンドマナー）
09. 講習（技術解説）
10. 実技（スイング④ドライバー）
11. 実技（スイング⑤バンカーショット）
12. 実技（コース練習③ミドルコース）
13. 実技（コース練習④ロングコース）
14. 実技（コース練習⑤グルーブプレッスン）
15. 実技（コース練習⑥実践演習）

準備学習(予習)

オリエンテーションの出席は必須。そこで説明される内容をよく聞き、実際の授業への心構えを理解する。

準備学習(復習)

学んだ知識技術が、それからの生活の中で生かされるよう心がける。

評価方法

(1) 授業参加の状況	50%
(2) 授業態度	30%
(3) 実践の状況	20%

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。
生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

(2) 内容

「健康」について、実技と理論の両面から学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

受講者に対する要望

服装は、運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作 ■以降、ストレッチは毎回実施
02. エアロビクス運動とは ■エアロビクス（フットワークI）
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 ■エアロビクス（フットワークII）
04. 自分の身体を知る（体組成測定） ■エアロビクス
05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック） ■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る（運動強度） ■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度） ■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果 ■バランスボール
09. トレーニングの原則 ■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活Ⅰ） ■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（食生活Ⅱ） ■パワーヨガ
12. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
13. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

準備学習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理する。また、解決策や疑問点について調べてみる。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度・習熟度 | 15% |
| (3) 授業記録ノート | 10% |

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500330

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 内容

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返す、各種目の競技形態や競技特性を理解する。
なお、講義内容は生涯スポーツ実習B(バドミントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。
熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストローク①
04. 基本ストローク②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員： 朴 美香

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 11500340

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）： 選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）： 選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種： 選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種： 選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義では、テニスの実習をとおして技術の習得を図るとともに運動能力の向上を目指す授業を展開していきます。またゲームを楽しむ中でルール、マナーやパートナーとのコミュニケーションなど、社会人としての教養的な意義と運動実践の必要性を学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめる能力を育成することを目標にします。

(2) 内容

- 1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には、体育館でコーディネーションドリルなどを行う場合があります。また、講義室において映像資料を参考に学習を行うこともあります。
- 2) 各技術を習得する中でテニスに含み込まれている要素、走る、跳ぶ、打つ、投げるといった基礎運動を学びながら、コーディネーショントレーニングも実践します。
- 3) 技術練習においては、グラウンドストロークの基本打法の練習を始め、ラリーを目指していきます。ラリーができることによって運動量を確保します。また、ボレーやサーブ技術を学習し、最終的にはダブルスゲームを楽しめるような授業を行います。

受講者に対する要望

積極的に参加すること。
テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 生涯
- ・ コミュニケーション
- ・ マナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. キャッチボールを通してボール感覚や基礎運動向上
03. 優しいラリーとグラウンドストロークの基本
04. フォアハンドストロークの基本： グリップ、ステップ、スイングなど
05. バックハンドストロークの基本： グリップ、ステップ、スイングなど
06. フォアハンドストロークとバックハンドストローク： 準備姿勢とグリップの握り替え
07. ロングラリー挑戦
08. ロングラリーとゲーム
09. ボレーとネットプレー： グリップ、インパクト、ステップなど
10. ボレーのラリー挑戦とゲーム
11. サーブの基本： 投球動作、グリップ、インパクト
12. サーブの基本： バランスとトス、体の回転、スイング
13. ダブルスゲームを理解する： ゲームの仕方、
14. ゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前回行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。
シャドウスウィング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。
テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に閲覧しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。
シャドウスウィングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。
毎回行われた課題をメモしておく。
テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業態度・参加度 | 60% |
| (2) 授業レポート | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的に行い、それぞれの役割を果たす内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

生涯スポーツ実習 A (バスケットボール)

PHED-0-100

担当教員：神田 良太郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11500350

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

- ・バスケットボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。
- ・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。
- ・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと課題を持って臨むようにする。

(2) 内容

※特性

- 1) 1チーム5名の2チームが同一コート上で1つのボールを奪い合い、リングにボールを入れ合う。
- 2) リングは30.5mの高さに上向きに設置され、ボールが上から通過することによって得点となる。
- 3) 走・跳・投の基本的な運動要素はもとより、敏捷性・技巧性・判断力などが要求される。
- 4) 攻撃・防御においてチームワークが必要となり、望ましい社会的態度が要求される。

※安全に対する留意点

- ・ケガや障害を起こさないように、ウォーミングアップ・クーリングダウンをしっかりと行う。また、事故防止に心掛ける。
- ・活動場所・施設・人数に応じた練習計画を立てる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・協調性
- ・協力性
- ・積極的に行動する姿勢
- ・努力

授業計画

01. 準備運動(ウォーミングアップ)、ランニング、ストレッチ運動、補助運動
02. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習、ハーフコートで3対3攻防練習
03. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習、ハーフコートで3対3攻防練習
04. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
05. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
06. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
07. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
08. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
09. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
10. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
11. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
12. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
13. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
14. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
15. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500360

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。
履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することと(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

(2) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス（以降、肩慣らし・基本練習は毎週行う）
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
06. ○個人的技能練習（パス・スパイク） ●チャンスボールをセッターへ
07. ○集団的技能練習（チャンスボールからの攻撃） ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的技能練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的技能練習 ●攻撃にチャレンジ
10. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 出席 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：檜山 康

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500370

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1）幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2）切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしてしておくこと。

評価方法

(1) レポート	50%
(2) 実技試験	30%
(3) 参加態度	20%

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500410

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

これからの社会で必要とされる生涯スポーツとしてのスキーは、身体活動として優れた運動種目であるということと、自然との融合との中で精神性を養うことにおいても優れた運動種目である事を理解すると同時に、大学生の時期に身体活動としてのスキー技術を学ぶことによる優位性がある。

また、別の観点からも自然の中で展開されるスポーツ活動は、他の種目にはない醍醐味があると同時に、この授業は、3泊4日に亘る集中授業でもあり、その間は宿泊を伴う授業となる。集団生活の中で、学生同士の親睦を深め、楽しい活動としたい。

(2) 内容

生涯スポーツとしてのスキーを、身体活動という視点から学ぶ授業である。通常の授業形態とは異なり、集中授業として3泊4日の日程で構成されている。スキーの基礎技術を習得した後、山の斜面のあらゆるコースにて実際に滑降する。そこでは、実際のスキー滑降の技術という観点からだけでなく、自然との融合、環境保全などの考え方と結び付けての学習も含まれる。

受講者に対する要望

学生集団での宿泊を伴う授業形態であることから、規律ある生活、行動ができない者は参加できない。
また、宿泊、交通、施設利用料は個人負担となるため受講に当たっては、別途定める経費を徴収する。

学びのキーワード

- ・スキー
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス-講義（スキーの運動特性の説明と用具）
02. グループ分けテスト（技術能力別班分けテスト）
03. 実技①（①グループ別指導-基本的な技術の習得と理論）
04. 実技②（②グループ別指導-緩斜面に応じた滑降の理論）
05. 実技③（③グループ別指導-急斜面に応じた滑降の理論）
06. 実技④（④ブルークボーゲンの基礎）
07. 実技⑤（⑤ブルークボーゲンのターン）
08. 実技⑥（⑥シュテムターンの基礎）
09. 実技⑦（⑦シュテムターンの応用）
10. 実技⑧（⑧パラレルターンの基礎）
11. 実技⑨（⑨パラレルターンの応用）
12. 実技⑩（⑩小回りターン）
13. 実技⑪（⑪ウエーデルンの基礎）
14. 実技⑫（⑫ウエーデルンの応用）
15. 実技⑬（⑬あらゆる斜面に応じた総合的な滑りの展開）

準備学習(予習)

ガイダンスで説明された内容をよく理解し、授業実践へと結び付ける。

準備学習(復習)

学んだ知識、技術が、生涯スポーツへつながるように、理解し、実践できるようになること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|----------------|
| (1) 授業参加の状況 | 50% | 積極的態度、行動を評価する。 |
| (2) 授業態度 | 30% | |
| (3) 授業実践 | 20% | |

ガイダンスの出席は必須。

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500420

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。
生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

(2) 内容

「健康」について実践と理論の両方から同時進行で学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

受講者に対する要望

様々なエクササイズに備え、体調を整えておくこと。運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作 ■以降、ストレッチは毎回実施
02. エアロビクス運動とは ■エアロビクス（フットワークI） ■体組成測定
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 ■エアロビクス（フットワークII）
04. 自分の身体を知る（体組成測定） ■エアロビクス
05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック） ■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る（運動強度） ■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度） ■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果 ■バランスボール
09. トレーニングの原則 ■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食行動I） ■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（食行動II） ■パワーヨガ
12. ヨガ&流行のエクササイズ紹介
13. ヨガ&流行のエクササイズ紹介
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

準備学習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理し、解決策や疑問点について調べておく。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度・習熟度 | 15% |
| (3) 授業記録ノート | 10% |

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500430

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 内容

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返す、各種目の競技形態や競技特性を理解する。
なお、講義内容は生涯スポーツ実習A(バドミントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。
服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。
熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストローク①
04. 基本ストローク②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

各ショットの名前と軌道、ルール、戦術論等を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。
実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員： 朴 美香

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 11500440

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）： 選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）： 選択必修科目
- 【G】小学校教諭一種： 選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種： 選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義では、テニスの実習をとおして技術の習得を図るとともに運動能力の向上を目指す授業を展開していきます。またゲームを楽しむ中でルール、マナーやパートナーとのコミュニケーションなど、社会人としての教養的な意義と運動実践の必要性を学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめる能力を育成することを目標にします。

(2) 内容

- 1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には、体育館でコーディネーションドリルなどを行う場合があります。また、講義室において映像資料を参考に学習を行うこともあります。
- 2) 各技術を習得する中でテニスに含み込まれている要素、走る、跳ぶ、打つ、投げるといった基礎運動を学びながら、コーディネーショントレーニングも実践します。
- 3) 技術練習においては、グラウンドストロークの基本打法の練習を始め、ラリーを目指していきます。ラリーができることによって運動量を確保します。また、ボレーやサーブ技術を学習し、最終的にはダブルスゲームを楽しめるような授業を行います。

受講者に対する要望

積極的に参加すること
テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 生涯スポーツ
- ・ コミュニケーション
- ・ マナー

授業計画

01. オリエンテーション、
02. キャッチボールとコーディネーションドリル
03. 優しいラリーとグラウンドストロークの基本
04. フォアハンドストロークの基本： グリップ、ステップ、スイングなど
05. バックハンドストロークの基本： グリップ、ステップ、スイングなど
06. フォアハンドストロークとバックハンドストローク： 準備姿勢とグリップの握り替え
07. ロングラリー挑戦
08. ロングラリーとゲーム
09. ボレーとネットプレー： グリップ、インパクト、ステップなど
10. ボレーのラリー挑戦とゲーム
11. サーブの基本： 投球動作、グリップ、インパクト
12. サーブの基本： バランスとトス、体の回転、スイング
13. ダブルスゲームを理解する： ゲームの仕方
14. ゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前回行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。
シャドウスウィング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。
テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に閲覧しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。
シャドウスウィングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。
毎回行われた課題をメモしておく。
テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業態度 授業への参加度 | 60% |
| (2) 実技、理論 | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的にを行い、それぞれの役割を果たす内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし

参考書

必要に応じて資料を配布する。

担当教員：神田 良太郎

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500450

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

- ・バスケットボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。
- ・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。
- ・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと課題を持って臨むようにする。

(2) 内容

※特性

- 1) 1チーム5名の2チームが同一コート上で1つのボールを奪い合い、リングにボールを入れ合う。
- 2) リングは30.5mの高さに上向きに設置され、ボールが上から通過することによって得点となる。
- 3) 走・跳・投の基本的な運動要素はもとより、敏捷性・技巧性・判断力などが要求される。
- 4) 攻撃・防御においてチームワークが必要となり、望ましい社会的態度が要求される。

※安全に対する留意点

- ・ケガや障害を起こさないように、ウォーミングアップ・クーリングダウンをしっかりと行う。また、事故防止に心掛ける。
- ・活動場所・施設・人数に応じた練習計画を立てる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・協調性
- ・協力性
- ・積極的に行動する姿勢
- ・努力

授業計画

01. 準備運動(ウォーミングアップ)、ランニング、ストレッチ運動、補助運動
02. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習、ハーフコートで3対3攻防練習
03. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習、ハーフコートで3対3攻防練習
04. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
05. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
06. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
07. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
08. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
09. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
10. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
11. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
12. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
13. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
14. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
15. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500460

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。

履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

(2) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス（以降、肩慣らし・基本練習は毎週行う）
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
06. ○個人的技能練習（パス・スパイク） ●チャンスボールをセッターへ
07. ○集団的技能練習（チャンスボールからの攻撃） ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的技能練習（シートレシーブ） ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的技能練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ
10. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず着替え・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

(1) 平常点	75%
(2) 課題への積極的参加度・習熟度	15%
(3) 授業記録ノート	10%

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：檜山 康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500470

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目
- 【C】小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1）幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2）切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしてしておくこと。

評価方法

(1) レポート	50%
(2) 実技試験	30%
(3) 参加態度	20%

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：鈴木 直樹

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500500

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【C】 小学校教諭一種：選択必修科目
- 【C】 幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

健康の柱である運動・休養・栄養や身体の特性について科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることで、自身の健康だけではなく、まわり（社会）の健康についても、積極的に働きかけるように人になることを期待する。

(2) 内容

高等学校までの保健体育の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、様々な角度から学習する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための必修科目

受講者に対する要望

日ごろから健康や運動・スポーツに関心を持ってほしい。

学びのキーワード

- ・健康とスポーツ
- ・生涯スポーツ
- ・身体的特性
- ・発達
- ・身体活動

授業計画

01. 体力低下の問題_新体カテストの結果から
02. 人間の健康と身体活動
03. 心身の発育・発達と運動・スポーツ
04. プレイ論から考える生涯スポーツ
05. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（児童・青年期）
06. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（中高齢・女性）
07. 身体特性を踏まえた学齢期における運動・スポーツ指導
08. 栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ

準備学習(予習)

前週に課題を出すので調べてくる。

準備学習(復習)

課題を適宜指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 定期試験 | 60% |
| (2) ミニレポートorミニテスト | 20% |
| (3) 授業への取り組み | 20% |

- (1) 講義のまとめとして学習の達成度をペーパーテストにより評価する
- (2) 毎回授業の最後に確認のテストかレポート作成を行う
- (3) 授業への積極性

教科書

参考書

担当教員：野島 邦夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11600116

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情懷を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

学生の皆様は、やがて社会に出られます。社会生活について期待と不安をもっておられるでしょう。大切なことは主体性を確立しておくこと、言葉を換えれば「自分で考える」人になること、そのために「考えの土台・人生の背骨になるもの」を見つけておくことです。キリスト教は、まさにそのためにあります。死後のことを説明するためだけではありません。キリスト教の教えをまとめた本（教典）が聖書です。「聖書」は宗教の教典で二・三千年前に書かれた古文書・・・と聞くと、はじめ誰でもたいてい「読む気が起こらない」と敬遠するでしょう。しかし、なぜ聖書は二千年もの間人に慰めと生きる力を与え、現代にいたるまで世界に大きな影響をもたらしているのでしょうか。それは、聖書にはいつの時代にも変わらない、人の生々しい生き様が描かれ、人の魂に必要なものが示されているからです。ちょっとした手引きで聖書はおもしろくてたまらない、しかもとても益のある本になります。読者に人として生きるための知恵を与え、他人とのほんとうのつながりを生みだし、世界を正しく見る視点を教えます。「ちょっとした手引き」ですが、どうしても手引きが必要で、この講義の目的はその手引きとなることです。そして、一学期終了するときに、「聖書の世界がわかって来た、聖書はおもしろいし益になる」と受講者に少しでも思っていたことが、この講義の目標です。

(2) 内容

キリスト教と聖書の初歩的な知識（一年時の「キリスト教概論」程度の）を前提にします。（しかし、その復習を加えて講義を進めますから、すこし忘れたかなと思う人でも心配いりません。）聖書の世界は大変深くまた複雑です。それだけにはじめ取っ付きにくいですが、なれて来るとそのおもしろさのとりこになるでしょうし、聖書に照らして、人間、また自分がわかってきます。一般的・抽象的な解説はなるべく避けて、複雑な内容を整理しつつ、毎回、聖書の中から特に興味深く重要なテーマを、なるべく具体的な人物や出来事に即して考えます。それらの人物の生きさまから、そこに込められている教えを学びます。また、それらが現代の私たちとかかわりない遠い昔のことではなく、今日的意義を持つことを考えます。これらと並行して、聖書の、地理的な・歴史的な・文化的な背景を説明します。（これを知るだけで、聖書はよくわかりおもしろくなります。）春学期は主に旧約聖書の人物と出来事を学びます。（秋学期は主に新約聖書からイエス・キリストについて学びます。）具体的なテーマについては「授業計画」を見てください。

受講者に対する要望

これは「聖書」の内容そのものを学ぶ授業です。時間中に聖書を頻繁に使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。

学びのキーワード

- ・ 旧約聖書
- ・ 創造
- ・ エゴイズム
- ・ 苦しみ
- ・ 救い

授業計画

01. はじめに（オリエンテーション）
02. 若者と宗教
03. 様々な人間観
04. 人間の価値とヒューマニズム
05. 人間の価値とキリスト教
06. 聖書（旧約＋新約）の概観
07. 聖書の神から見る人間の価値
08. 「神のかたち」である人間
09. 人間は「共に生きる」存在
10. エゴイズムの現実
11. エゴイズムの深刻さを測る：十戒
12. 苦しみで満ちているこの世界
13. 苦しみの中から叫ぶ：詩編とヨブ記から
14. 旧約聖書と救い
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、指示されている聖書箇所を必ず読んできてください。それによって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習(復習)

毎回、講義内容の詳しいプリントを渡します。それを講義後必ず読み返してください。さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。それを提出していただき、添削して次回コメントしながら返却しますから、必ず読み返してください。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業参加度・課題 | 30% |
| (2) 礼拝出席レポート | 20% |
| (3) 試験 | 50% |

欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートを提出しない人は、試験を受けることができません。

教科書

「聖書 新共同訳」（旧約＋新約）（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

担当教員：野島 邦夫

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11600217

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

学生の皆様は、やがて社会に出られます。社会生活について期待と不安をもっておられるでしょう。大切なことは主体性を確立しておくこと、言葉を換えれば「自分で考える」人になること、そのために「考えの土台・人生の背骨になるもの」を見つけておくことです。キリスト教は、まさにそのためにあります。死後のことを説明するためだけではありません。キリスト教の教えをまとめた本（教典）が聖書です。「聖書」は宗教の教典で二・三千年前に書かれた古文書・・・と聞くと、はじめ誰でもたいてい「読む気が起こらない」と敬遠するでしょう。しかし、なぜ聖書は二千年もの間人に慰めと生きる力を与え、現代にいたるまで世界に大きな影響をもたらしているのでしょうか。それは、聖書にはいつの時代にも変わらない、人の生々しい生き様が描かれ、人の魂に必要なものが示されているからです。ちょっとした手引きで聖書はおもしろくてたまらない、しかもとても益のある本になります。読者に人として生きるための知恵を与え、他人とのほんとうのつながりを生みだし、世界を正しく見る視点を教えます。「ちょっとした手引き」ですが、どうしても手引きが必要で、この講義の目的はその手引きとなることです。そして、一学期終了のときに、「聖書の世界がわかって来た、聖書はおもしろいし益になる」と受講者に少しでも思っていたことが、この講義の目標です。

(2) 内容

キリスト教と聖書の初歩的な知識（一年時の「キリスト教概論」程度の）を前提にします。（しかし、その復習を加えて講義を進めますから、すこし忘れたかなと思う人でも心配いりません。）また、この講義は一応、同一講師の「聖書の世界A」の続きですが、それを受講されていない方々にもわかるように構成されています。聖書の世界は大変深くまた複雑です。それだけにはじめ取っ付きにくいですが、なれて来るとそのおもしろさのとりこになるでしょうし、聖書に照らして、人間、また自分がわかってきます。一般的・抽象的な解説はなるべく避けて、複雑な内容を整理しつつ、毎回、聖書の中から特に興味深く重要なテーマを、なるべく具体的な人物や出来事に即して考えます。それらの人物の生きざまから、そこに込められている教えを学びます。また、それらが私たちとかかわりない遠い昔のことではなく、今日の意義を持つことを考えます。これらと並行して、聖書の、地理的な・歴史的な・文化的な背景を説明します。（これを知るだけで、聖書はよくわかりおもしろくなります。）秋学期は主に新約聖書からイエス・キリストについて学びます。（春学期は主に旧約聖書の人物と出来事を学びました。）具体的なテーマについては「授業計画」を見てください。

受講者に対する要望

これは「聖書」の内容そのものを学ぶ授業です。時間中に聖書を頻繁に使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不可）を毎回持って来てください。

学びのキーワード

- ・ 新約聖書
- ・ イエス・キリスト
- ・ 愛
- ・ 赦（ゆる）し
- ・ 共に

授業計画

01. はじめに（オリエンテーション）
02. 聖書の読み方（1）
03. 聖書の読み方（2）
04. 聖書（旧約＋新約）の概観
05. キリストの教え（1）：人間の価値
06. キリストの教え（2）：神の愛
07. キリストの教え（3）：隣人愛
08. キリストの教え（4）：きずな
09. キリストの教え（5）：赦（ゆる）し
10. キリストを見て自分を知る
11. エゴイズムの克服
12. あなたは「天使」か「悪魔」か？
13. あなたは「天使」か「悪魔」か？（聖書から）
14. イエス・キリストへの信仰
15. まとめ

準備学習（予習）

毎回、指示されている聖書箇所を必ず読んできてください。それによって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習（復習）

毎回、講義内容の詳しいプリントを渡します。それを講義後必ず読み返してください。さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。それを提出していただき、添削して次回コメントしながら返却しますから、必ず読み返してください。

評価方法

(1) 授業参加度・課題	30%
(2) 礼拝出席レポート	20%
(3) 試験	50%

欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートを提出しない人は、試験を受けることができません。

教科書

「聖書 新共同訳」（旧約＋新約）（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

担当教員：濱田 辰雄

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11602024

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本国は「神と仏」の国である。文化庁が毎年発行している『宗教年鑑』の信者数統計によると、神道信者と仏教信者で1億9千万人である。これはもちろん日本国総人口より多いが、わが国が「神仏習合」の国柄であることによる。この世界でもあまり例を見ない独特の宗教事情が日本国に与える影響を考察していく。その過程でキリスト教の宗教性と比較をしていき、日本にとってのキリスト教の存在意義を考えていきたい。

(2) 内容

宗教はそれぞれの国の魂であり、文化の根本である。日本における「神」と「仏」のあり方と。これに対する日本国民の信仰心の本質を学ぶ。そしてキリスト教が日本国にとってどういう意味を持つかを学んでいく。

受講者に対する要望

教科書を良く読むこと。そして「宗教」というものに関心をもって授業に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本
- ・ 国際社会
- ・ 公共
- ・ 市民
- ・ 宗教

授業計画

01. オリエンテーション 授業の進め方と「日本人と宗教」について
02. 第一章「神と仏の誕生」①神の由来
03. 第一章 同上 ②仏の由来
04. 第二章 神と仏の出会いと和合 ①苦悩する神と近寄る仏
05. 第二章 同上 ②崇る神と鎮める仏の誕生
06. 第三章 救いがたい世の中と来世信仰 ①阿弥陀のいる浄土
07. 第三章 同上 ②その後の神と仏の行方
08. 第四章 神と仏のてんまつ ①江戸の事情
09. 第四章 同上 ②尽きない怨霊の恐怖
10. 第五章 暮らしの中に息づく神と仏 ①身近な神々と神徳
11. 第五章 同上 ②身近な仏とご利益
12. 第六章 神社のしきたり寺のしきたり ①神社のしきたり
13. 第六章 同上 ②寺のしきたり
14. キリスト教の神と日本の神仏
15. まとめ、日本人と宗教

準備学習(予習)

教科書を良く読むこと。そして「宗教」というものに関心をもって授業に臨んで欲しい。

準備学習(復習)

復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 授業態度(平常点) | 10% |

毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。

教科書

由良弥生『「神」と「仏」の物語』 ベスト新書 830円+税

参考書

担当教員：濱田 辰雄

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11602929

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本国憲法では現代日本では「政教分離」となっており、政治と宗教は厳しく分別されている。しかし歴史的には政治の「政」は「まつりごと」であり、「神をまつる」と深く関わりを持った営みであった。事実、政治家たちはいつの時代も宗教勢力との関わりに腐心してきた。これらの歴史を踏まえつつ、キリスト教観点から宗教と政治との関わりについて考察していきたい。

(2) 内容

戦国時代、名大名たちは覇権争いに終始し、文字通り生命を削る争いに明け暮れていた。そして心の平安と平静を保つために宗教に近づいた。その中でキリスト教を受け入れた大名(キリシタン大名)もいた。この戦国大名とのかかわり方を通して、日本人の宗教のあり方を学んでいきたい。

受講者に対する要望

教科書を良く読むこと。そして「宗教」というものに関心をもって授業に臨んで欲しい。

学びのキーワード

- ・ 日本
- ・ 国際社会
- ・ 公共
- ・ 市民
- ・ 宗教

授業計画

01. オリエンテーション 「はじめに」
02. 第一章 「合戦と大名の信仰」
03. 第二章 「一向一揆と『民衆』」 加賀一向一揆の実像と石山合戦
04. 第二章 同上 共存の信仰世界と本願寺教団、民衆
05. 第三章 「キリスト教と出逢い」 宗教の始まりと宣教師のみた日本人の信仰
06. 第三章 同上 織田信長とキリシタン
07. 第四章 「キリシタン大名の誕生」 大友宗麟の改宗
08. 第四章 同上 家中のキリシタン信仰
09. 第五章 「『天道』という思想」 「天道」と諸信仰
10. 第五章 同上 統一政権の宗教政策
11. 第五章 同上 秀吉の伴天連追放令
12. 「おわりに」 日本人と宗教
13. キリスト教の政治観 ①
14. キリスト教の政治観 ②
15. まとめ、日本人にとってのキリスト教

準備学習(予習)

教科書を良く読むこと。そして「日本」のあり方を真剣に考えること。

準備学習(復習)

復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 授業態度(平常点) | 10% |

毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。

教科書

神田千里『戦国と宗教』岩波新書 820円＋税

参考書

担当教員：村瀬 天出夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11603320

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情懷を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本講義では、「科学」という現代社会において大きな価値と影響力をもつ学問体系に「批判的」な視点を持つことを目標とします。「批判的」とは「科学」を「宗教」と比較して、どちらかを優れているものとして賞賛したり、また劣っているものとして「非難」することではありません。「科学」の歴史をみることによって、その自然理解の方法と、その限界を考えることが「批判的」な視点を持つということです。

そして、このような「歴史」と「限界」を問うという視点は、ひるがえって「キリスト教」に対しても向けられるものです。両者を「批判的」にみることから「科学」と「キリスト教」、そして私たち一人ひとりの関係を考える視点を磨きます。

(2) 内容

「自然科学」とは私たちを取り囲む自然世界を研究する、さまざまな学問の総称です。物理学、化学、生物学、天文学といった「理系」の学問、「科学」のことです。自然のさまざまな法則を探求しようとするこれら科学は、そもそも自然世界をどのように眺め、理解し、その法則性を見つけ出そうとしているのでしょうか。その一方で「キリスト教」は自然世界をどのように眺め、理解しているのでしょうか。「科学」と「キリスト教」との間に、自然理解に違いはあるのでしょうか。

このような問題を考えるために、本講義では自然科学とキリスト教それぞれの「自然観」を明らかにし、両者の歴史的な関係も見えていきます。そこから科学とはそもそもどういう知的な営為なのか、またそれに対してキリスト教はどのような関係にあるかを考えていきます。

受講者に対する要望

「理系」科目の知識は必要ありません。「科学」とは何だろう、「キリスト教」とは何だろう、という興味・問題意識だけがが必要です。授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

- ・キリスト教と自然科学
- ・科学の歴史

授業計画

01. イントロダクション
02. 自然科学とは何か
03. 科学的自然観
04. キリスト教とは何か
05. キリスト教的自然観
06. ディスカッション
07. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（1）古代ギリシアの宇宙
08. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（2）中世キリスト教の宇宙
09. 近代の自然観：「科学革命」論
10. コペルニクス：太陽中心の宇宙
11. ケプラー：世界の調和
12. ガリレオ：学問と教会と権力
13. ニュートン：自然哲学と聖書研究
14. ディスカッション
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

教科書の欄に載せた村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）は、授業内容を理解するためのテキストですので、少しずつでよいので読んでください。他の文献はコピーを配布します。試験でもこれらの文献の内容にかかわる設問が出ます。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票のコメント欄で確認するか、授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末テスト | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

村上 陽一郎 『新しい科学論—「事実」は理論をたおせるか（ブルーバックス）』（講談社）
 村上 陽一郎 『科学史の逆遠近法—ルネサンスの再評価（講談社学術文庫）』（講談社）
 標 宣男 『科学史の中のキリスト教—自然の法からカオス理論まで』（教文館）

担当教員：村瀬 天出夫

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11603421

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現在私たちが知っている自然科学の原型は、ヨーロッパの中世・初期近代の時代に、キリスト教世界で生まれた自然理解の方法です。その意味で科学はきわめて特殊な、キリスト教文化の一つとして理解できます。授業では、キリスト教の考え方、信仰、歴史観が、近代科学の発展を推し進めたことを学びます。近代科学の歴史を振り返ることによって、キリスト教（信仰）と科学（知識）が、互いに協力的な関係にあったことを学習します。

(2) 内容

キリスト教と自然科学はしばしば対立するものと考えられています。キリスト教信仰の「誤り」を否定し、教会の権威に「勝利」することによって、自然科学は成立したと言われます。また、16・17世紀の「科学者」ガリレオ・ガリレイは、「それでも地球は回っている」と言って、地動説を認めないキリスト教会と対立したと考えられています。

このようなキリスト教と科学の対立という見方は、ガリレオより数世紀後の19世紀後半に生まれたものです。このことを自然科学の歴史を振り返ることによって学びます。特に近代科学が生まれたとされる「科学革命」の時代、キリスト教の信仰と、自然にかなする学問（自然科学）は調和的な関係にあったこと、ガリレオら当時の自然哲学者（自然科学者）は、信仰と学問の一致を追求していたことを学びます。

授業の後半では、現代の自然科学（医学）の考え方と、キリスト教の信仰の関係を学びます。

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

- ・キリスト教と自然科学
- ・科学の歴史
- ・現代の科学・医学の問題

授業計画

01. イントロダクション
02. キリスト教と科学：対立構造はいつ生まれたか？
03. 「科学者」とは誰か？
04. 「科学」はいつ誕生したのか？
05. 16～17世紀の「自然神学」
06. 18世紀の「聖俗革命」
07. 19世紀：「科学者」の登場
08. 学問の歴史と「科学」
09. 「科学」と「科学者」：知識を生産する
10. 「科学」と「技術」の融合：「科学技術」
11. 科学の目的とは？：「科学研究」と「科学政策」
12. 「科学的である」とはどういう意味か？
13. 学問と大学とキリスト教
14. ディスカッション
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

教科書の欄に載せた村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）は、授業内容を理解するためのテキストですので、少しずつでよいので読んでください。他の文献はコピーを配布します。試験でもこれらの文献の内容にかかわる設問が出ます。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末テスト | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

村上 陽一郎 『新しい科学論—「事実」は理論をたおせるか（ブルーバックス）』（講談社）
 村上 陽一郎 『科学史の逆遠近法—ルネサンスの再評価（講談社学術文庫）』（講談社）
 標 宣男 『科学史の中のキリスト教—自然の法からカオス理論まで』（教文館）

担当教員：渡辺 善忠

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11603672

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける
【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。

(2) 内容

(1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。

(2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。

「キリスト教と音楽A」（前期）では、旧約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。なお、「キリスト教と音楽B」（後期）では新約聖書による作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。

受講者に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。

学びのキーワード

- ・ 聖書の言葉
- ・ 音楽表現
- ・ 作曲家の時代背景
- ・ 教会の歴史
- ・ 皆さんの感性

授業計画

01. 第1回 ガイダンス
02. 第2回 J.S. バッハ「ロ短調ミサ曲」(1)
03. 第3回 J.S. バッハ「ロ短調ミサ曲」(2)
04. 第4回 J. ハイドン/A. コーブランド「天地創造」(1)
05. 第5回 J. ハイドン/A. コーブランド「天地創造」(2)
06. 第6回 B. ブリテン「ノアの洪水」
07. 第7回 G.F. ヘンデル「エジプトのイスラエル人」
08. 第8回 F. メンデルスゾーン「エリヤ」(1)
09. 第9回 F. メンデルスゾーン「エリヤ」(2)
10. 第10回 T. タリス「エレミヤの哀歌」
11. 第11回 詩編による作品(1)
12. 第12回 詩編による作品(2)
13. 第13回 詩編による作品(3)
14. 第14回 旧約聖書と音楽(前期のまとめ)
15. 第15回 旧約聖書と音楽(ふりかえり)

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

- 参考文献
 ・ 聖書(旧約聖書両方を用います)
 ・ 『聖書と音楽』(大野善正著/新教出版社 2000年)
 ・ 『よくわかるキリスト教の音楽』(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年)
 ・ 『大作曲家の信仰と生涯』(P. カヴァーネー著・吉田幸弘訳/教文館 2004年)
 ・ 『教会音楽史と讃美歌学』(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年)

担当教員：渡辺 善忠

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11603780

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける
 【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。

(2) 内容

(1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。
 (2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。
 「キリスト教と音楽B」（後期）では、新約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。

受講者に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。

学びのキーワード

- ・ 聖書の言葉
- ・ 音楽表現
- ・ 作曲家の時代背景
- ・ 教会の歴史
- ・ 皆さんの感性

授業計画

- | | |
|----------|---------------------------|
| 01. 第1回 | ガイダンス |
| 02. 第2回 | G. F. ヘンデル「メサイア」(1) |
| 03. 第3回 | G. F. ヘンデル「メサイア」(2) |
| 04. 第4回 | C. フランク「至福」 |
| 05. 第5回 | J. S. バッハ「マタイ受難曲」(1) |
| 06. 第6回 | J. S. バッハ「マタイ受難曲」(2) |
| 07. 第7回 | H. シュッツ/J. S. バッハ「ヨハネ受難曲」 |
| 08. 第8回 | F. メンデルスゾーン「聖パウロ」(1) |
| 09. 第9回 | F. メンデルスゾーン「聖パウロ」(2) |
| 10. 第10回 | 新約聖書とクリスマスの讃美歌 |
| 11. 第11回 | F. シュミット「七つの封印の書」 |
| 12. 第12回 | 聖書と讃美歌の関わりについて(1) |
| 13. 第13回 | 聖書と讃美歌の関わりについて(2) |
| 14. 第14回 | 新約聖書と音楽(後期のまとめ) |
| 15. 第15回 | 新約聖書と音楽(ふりかえり) |

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

- 参考文献(旧新約聖書両方を用います)
- ・「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年)
 - ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年)
 - ・「大作曲家の偉業と生涯」(P. カヴァーラー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年)
 - ・「教会音楽史と讃美歌学」(横塚康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年)

担当教員：渡辺 善忠

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：11603898

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。

(2) 内容

(1) キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。

(2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。

「キリスト教音楽史 A」では、キリスト教音楽のルーツであるユダヤ教音楽から宗教改革時代までの教会音楽について、聖書解釈と作品の時代背景から論じつつ作品に耳を傾けます。聖書と音楽史との関わりをふまえて音楽を理解することを目的とします。なお、「キリスト教音楽史 B」では宗教改革以降の作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。

受講者に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながら CD に耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。

学びのキーワード

- ・ 聖書の言葉
- ・ 音楽表現
- ・ ユダヤ教～教会の歴史
- ・ 時代背景
- ・ 皆さんの歴史理解

授業計画

- | | |
|------------|--------------------|
| 01. 第 1 回 | ガイダンス |
| 02. 第 2 回 | 旧約聖書が書かれた時代の音楽 (1) |
| 03. 第 3 回 | 旧約聖書が書かれた時代の音楽 (2) |
| 04. 第 4 回 | グレゴリオ聖歌 (1) |
| 05. 第 5 回 | グレゴリオ聖歌 (2) |
| 06. 第 6 回 | ミサ曲の成立と発展 (1) |
| 07. 第 7 回 | ミサ曲の成立と発展 (2) |
| 08. 第 8 回 | オラトリオの成立と発展 (1) |
| 09. 第 9 回 | オラトリオの成立と発展 (2) |
| 10. 第 10 回 | レクイエムの成立と発展 |
| 11. 第 11 回 | 宗教改革直前の教会音楽 (1) |
| 12. 第 12 回 | 宗教改革直前の教会音楽 (2) |
| 13. 第 13 回 | 宗教改革時代の教会音楽 |
| 14. 第 14 回 | 前期のまとめ (総論) |
| 15. 第 15 回 | 前期のまとめ (ふりかえり) |

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CD を試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ (内容の要約) をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

参考文献
 ・聖書 (旧約聖書両方を用います)
 ・「キリスト教音楽の歴史」(金澤正剛著/日本キリスト教団出版局 2001年)
 ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川聡雄他著/キリスト新聞社2000年)
 ・「ユダヤ音楽の歴史」(水野信男著/ミルトス 2000年)
 その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

担当教員：渡辺 善忠

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11603906

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。

(2) 内容

(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。
 (2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。
 「キリスト教と音楽史B」（後期）では、宗教改革から現代までのキリスト教合唱作品を中心に、教会の歴史・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。

受講者に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて音楽を学ぶ場としています。

学びのキーワード

- ・ 聖書の言葉
- ・ 音楽表現
- ・ 教会の歴史
- ・ 社会的背景
- ・ 皆さんの歴史観

授業計画

01. 第1回 ガイダンス
02. 第2回 J. S. バッハ(1)
03. 第3回 J. S. バッハ(2)
04. 第4回 G. F. ヘンデル
05. 第5回 M. ハイドンとJ. ハイドン
06. 第6回 A. モーツァルト
07. 第7回 L. V. ベートーヴェン
08. 第8回 F. シューベルト
09. 第9回 F. メンデルスゾーン
10. 第10回 J. ブラームス
11. 第11回 後期ロマン派のキリスト教音楽(1)
12. 第12回 後期ロマン派のキリスト教音楽(2)
13. 第13回 現代のキリスト教音楽
14. 後期のまとめ(総論)
15. 後期のまとめ(ふりかえり)

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯をたどったり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

参考文献
 ・聖書 (旧約聖書両方を用います)
 ・『キリスト教音楽の歴史』(金澤正剛著/日本キリスト教団出版局 2001年)
 ・『よくわかるキリスト教の音楽』(長谷川勝雄他著/キリスト新聞社2000年)
 ・『大作曲家の信仰と生涯』(ワグナー著・吉田泰弘訳/教文館 2000年)
 その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

担当教員：喜田 敬

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11604014

学部教育の関連目

【全】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

旧・新約聖書の記された時代の文化、文明を学び、聖書理解の幅を広げることを目標とする。

(2) 内容

民族と宗教と美術の関係を通し、美術の何たるかを考える。
イタリア、トルコ等で収集した資料を加え、聖書の世界を旅する。
本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを旨とする。

受講者に対する要望

歴史の講義であるため、考えるとともに憶えることが多くある。
美術とともに歴史に強い関心のある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 時代
- ・ 民族
- ・ 宗教
- ・ 政治
- ・ 美術

授業計画

01. オリエンテーション
02. フランコ・カンタブリア美術
03. メソポタミア美術
04. エジプト美術
05. エジプト美術
06. 中間試験
07. クレタ美術とミュケナイ美術
08. ギリシア美術
09. ギリシア美術
10. エトルリア美術
11. ローマ美術
12. ローマ美術
13. 初期キリスト教美術
14. ビザンティン美術
15. まとめ

準備学習(予習)

指定した教科書の箇所を熟読する。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読し、ノートとともにファイルする。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 90% |
| (2) レポート | 10% |

教科書

高階 秀爾『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）【978-4568400649】
日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

担当教員：喜田 敬

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11604122

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

中世からルネサンス期に至るキリスト教美術の世界に広く親しみ、その魅力に触れることを目標としている。

(2) 内容

「キリスト教と美術A」に引き続き、欧州中世から北方ルネサンスまでのキリスト教造形芸術の図像と歴史を学ぶ。

今回は2012年に独、仏、西で収集した資料を講義に加える。

本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く習得することを目指す。

受講者に対する要望

西洋美術とその歴史に関心のある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 教会
- ・ 神学
- ・ 哲学
- ・ 神話
- ・ 信仰

授業計画

01. オリエンテーション
02. 初期中世美術
03. ロマネスク美術
04. ゴシック美術
05. ゴシック美術
06. 中間試験
07. イタリア初期ルネサンス美術
08. イタリア初期ルネサンス美術
09. 15世紀の北方美術
10. 15世紀の北方美術
11. イタリア盛期ルネサンス美術
12. イタリア初期ルネサンス美術
13. 北方ルネサンス美術
14. 北方ルネサンス美術
15. まとめ

準備学習(予習)

指定する教科書の箇所を必ず読むこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントを再読し、その日制作したノートとともにファイルすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 90% |
| (2) レポート | 10% |

教科書

高階 秀爾『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）【978-4568400649】
日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

担当教員：藤掛 明

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11607001

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教の教理や人間理解を、カウンセリングという新しい視点から見つめ直し、その理解を深めることができる。

(2) 内容

現代社会の病理や、心理療法的な考え方を学び、そうした心理カウンセリングの営みとキリスト教の人間観がどのようにつながるのかを理解する。

受講者に対する要望

学んだ事柄を、たえず自分に重ね、自己分析していく姿勢が必要である。また聖書について一定の知識と関心があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 臨床の知
- ・ 依存症
- ・ ライフサイクル

授業計画

01. キリスト教カウンセリングの歴史と現在
02. 臨床の知（相互作用性）と人間理解
03. 臨床の知（多義性）と人間理解
04. 臨床の知（個別性）と人間理解
05. 現代社会の病理とキリスト教（ストレスと多忙さ）
06. 現代社会の病理とキリスト教（買い物依存）
07. 現代社会の病理とキリスト教（アルコール依存）
08. 現代社会の病理とキリスト教（自助グループ）
09. 牧会の心理療法的視点（フロイトとその影響）
10. 牧会の心理療法的視点（ロジャーズとその影響）
11. 牧会の心理療法的視点（ナラティブ・セラピーと物語神学）
12. ライフサイクル（こども時代ときょうだい関係）
13. ライフサイクル（思春期・青年期）
14. ライフサイクル（中年期・老年期）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画や、授業内での次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと

準備学習(復習)

配付資料を再読し、授業の中心点を考え、学習したことをまとめる。なお、リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌授業の冒頭で行う。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------|
| (1) ミニテスト | 25% | 適宜授業内で行う |
| (2) 授業態度 | 25% | |
| (3) 授業内テスト | 50% | 最終授業内で行う |

教科書

毎回、関連資料を配付する

参考書

「ありのままの自分を生きる」（藤掛明著、一麦出版）

担当教員：村上 純子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11607101

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業を通して、「心のケア」の基礎知識を得ること、またキリスト教の人間観を理解すること、そして各自が自分に対する理解、また他者に対する理解を深めることを目的としています。

(2) 内容

本講義では、「心のケア」とは何か、それとキリスト教はどう関係し、どう取り扱っていくべきなのかを見ていきます。社会的にも「カウンセリング」「心のケア」の重要性が取り上げられることが多いですが、その中には間違った情報や歪曲された考え方も多いのが現状です。この授業はカウンセラーになることを目的としたものではなく、心のケアに関して正しい基礎知識を持つことを目標としています。

また、キリスト教的視点から「心のケア」をどう考え、実践していけばいいのかを検証していきます。

受講者に対する要望

グループディスカッションやミニレポートなども多用する予定です。授業から何を学び取っていくかは自分次第です。その意識を持って授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ カウンセリング
- ・ キリスト教信仰
- ・ 心のケア

授業計画

01. 「心のケア」の必要性
02. カウンセラーの役割と治療 聴くことの意味
03. カウンセリングのプロセス 1（初回面接）
04. カウンセリングのプロセス 2（中断と終結）
05. カウンセリング理論 1（クライエント中心療法）
06. カウンセリング理論 2（精神分析）
07. カウンセリング理論 3（認知行動療法）
08. 心のケアのいろいろ 1（児童期の心のケア）
09. 心のケアのいろいろ 2（思春期の心のケア）
10. 心のケアのいろいろ 3（グリーフケア）
11. ケアをする人の自己理解 1
12. ケアをする人の自己理解 2
13. 心のケアと社会
14. 信仰と心のケア
15. まとめ

準備学習(予習)

講義内容に関する資料を読んできてください。

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

(1) 平常点	15%
(2) ミニレポート	25%
(3) 学期末試験	60%

教科書

随時指定

参考書

随時指定

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 11607595

学部教育の関連目

【全】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. Content - This course is a survey of the first major section of the Bible, the Old Testament, in English. An introduction to the Bible in general and the Old Testament in particular will be made, with special attention to their historical significance. Key themes within the Old Testament will then be covered, with emphasis on practical application to the students' personal lives.

(2) 内容

2. Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the Old Testament and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.

受講者に対する要望

Since the course is conducted in English, a minimum TOEFL equivalency score of 350 (paper-based test) is a prerequisite for taking the class.

学びのキーワード

- ・ Holy Bible
- ・ Old Testament
- ・ prophecy/prophet(s)
- ・ type(s)

授業計画

01. Course Introduction: What is the Bible?
02. The Bible's Influence on World History
03. Introduction to the Old Testament
04. The Pentateuch (Five Books of Moses) I: Creation
05. The Pentateuch (Five Books of Moses) II: Man's Fall
06. The Pentateuch (Five Books of Moses) III: Ten Commandments
07. History: Israel as Mankind in Microcosm
08. Poetry & the Wisdom Literature I: Focus on Proverbs
09. Poetry & the Wisdom Literature II: Focus on Proverbs, cont
10. Poetry & the Wisdom Literature III: Focus on Ecclesiastes
11. Prophecy I: Prophecies about Jesus Christ
12. Prophecy II: Prophecies about Jesus Christ, cont.
13. Types of Jesus Christ as Savior in the Old Testament I
14. Types of Jesus Christ as Savior in the Old Testament II
15. Summary

準備学習(予習)

Students are expected to complete the reading assignments from the Bible (Old Testament) and be prepared to discuss the contents in each class.

準備学習(復習)

Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points. Printed handouts provided in class should also be reviewed.

評価方法

(1) Participation	20%
(2) Reading	20%
(3) Chapel Reports	20%
(4) Exams	40%

教科書

Various authors 『NIV Thinline Bible』 (Zondervan)

参考書

担当教員：石田 学

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11607794

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西欧の歴史形成は、キリスト教との関わりを抜きには考えることができません。特に、西欧古代後期から近代はじめまでは、西欧世界はキリスト教世界そのものでした。近代から現代にかけての西欧文化・社会は、古代から中世までの西欧社会を基礎としていますので、この時代の歴史形成を知ることが、現代を知ることに通じます。今の世界を見るための歴史的な視点を持つことを目指します。

(2) 内容

1. 講座の目的
キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、歴史形成に関与してきたかを概観し、そのことを通して、わたしたちが生きる現代の世界を理解する一助にしたいと思います。
本講座は、教会のはじまりから西暦1500年までを区切りとして、十四の主題に焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成の上で役割を果たしてきたかを概観します。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、楽しみながら学べる工夫をしています。

受講者に対する要望

とにかく楽しんで受講して下さい。

学びのキーワード

- ・ローマ帝国
- ・迫害
- ・キリスト教世界
- ・中世ヨーロッパ
- ・スコラ哲学

授業計画

01. 歴史とは何か:授業の概要説明と、「歴史形成」ということの意味
02. ヘレニズム世界とローマ帝国:キリストの生きた世界
03. キリスト教の原点としてのイエス:何を教え、何を成し遂げたのか
04. 国家とキリスト教(1):なぜキリスト教は迫害されたか
05. 国家とキリスト教(2):なぜキリスト教は広まったか
06. 国家とキリスト教(3):古くて新しい国家と宗教の問題
07. 国家とキリスト教(4):「キリスト教世界」の成立と展開
08. 西欧古代世界の終わり:キリスト教:混沌の時代に教会の果たした役割
09. 古代から中世ヨーロッパへの道のり:アウグスティヌスの生涯と思想
10. 中世ヨーロッパの社会構造と教会:キリスト教的封建社会
11. 写本の話:聖書はどのようにして伝えられたか
12. 「スコラ学」の発展:西ヨーロッパで栄えた学問の方法
13. 石で建てる:大聖堂に込めた信仰と情熱
14. 十字軍とはなんだったのか:キリスト教世界とイスラム世界の不幸な邂逅
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

アップロードされたファイルに目を通しておいてください。

準備学習(復習)

pdfファイルとワークシートを用いて復習をしてください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------------------|
| (1) 学期末試験 | 90% | ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験 |
| (2) 課題レポート | 10% | キリスト教関連科目共通の課題です。 |

パワーポイントを用いた講義です。毎回のデータはpdfファイルにしてUNIPAから入る当講義の資料欄にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習に利用して下さい。授業時にはその時間の内容に合わせたワークシートを用意します。授業への参加度を重視します。

教科書

参考書

担当教員：石田 学

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11607895

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

近代から現代までの歴史形成にキリスト教がどう関与してきたか、その概略を把握できるようにします。日本では欠如しがちな、歴史形成におけるキリスト教の意義と役割を理解することを目指します。

(2) 内容

キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、近代から現代までの歴史形成に関与してきたかを概観します。皆さんが現代に至るまでの世界の歴史をよりよく理解し、そのことを通して現代社会についての認識を深め、よりよい未来を築いてゆく手がかりとなることを願っています。

本講座は、十五世紀から現代までを十五の主題に焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。中世に対する対抗文化として生じたルネサンスからはじめ、宗教改革のインパクトを概観しましょう。その上で近代世界の成立から現代までの歴史形成を考えてゆきます。

できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、かつ楽しむことができるようにしたいと思います。

受講者に対する要望

楽しんで受講していただきたいと思います。

学びのキーワード

- ・ルネサンス
- ・宗教改革
- ・市民革命
- ・アメリカ合衆国
- ・人権

授業計画

01. 新たな時代の幕開け:ルネサンスの光と影
02. キリスト教の拡大:大航海時代とキリスト教宣教
03. 中世の黄昏:宗教改革前夜の西ヨーロッパと教会
04. マルティン・ルター（1）:「我ここに立つ」
05. マルティン・ルター（2）:プロテスタント教会の誕生
06. その後のドイツ宗教改革:動乱の時代の教会
07. スイスの宗教改革:ツヴィングリとカルヴァン
08. イングランドの宗教改革:ヘンリ八世からエリザベスへ
09. ピューリタン革命とその結末:市民革命のさきがけ
10. 新大陸アメリカ:人々は新世界に何を夢見たか
11. 北アメリカの独立とその後の歴史:マニフェスト・デスティニー
12. 三十年戦争と啓蒙主義:近代世界とキリスト教
13. 二つの世界大戦とファシズム:教会はどう対応したか
14. 教会の新たな使命:正義と人権のための闘い
15. キリスト教の今と将来:現代教会が果たした役割と、教会の未来、まとめ

準備学習(予習)

UNIPAにアップロードされたファイルをダウンロードして、目をとおしておいてください。

準備学習(復習)

pdfファイルとワークシートを用いて復習してください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------------------|
| (1) 学期末試験 | 90% | ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験 |
| (2) 課題レポート | 10% | キリスト教関連科目共通の必修課題です。 |

パワーポイントを用いての講義です。毎回のデータはpdfファイルにしてUNIPAから入る当講座の資料欄にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習に利用して下さい。授業時にはその時間の内容に合わせたワークシートを用意します。

教科書

参考書

担当教員：村瀬 天出夫

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11608191

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教思想を文化として理解することは、キリスト教の世界観を歴史的に把握するだけでなく、現在の欧米世界を理解するためにも重要なものです。それは同時に、現在私たちが住む日本におけるキリスト教文化の影響を理解することにも通じます。

(2) 内容

本講義では、キリスト教思想の表現であるヨーロッパ文化、特に教会建築、美術、音楽、さらにキリスト教の世界観・自然観を学びます。キリスト教の歴史を概観しつつ、現在にも残るキリスト教建築（ロマネスク、ゴシック）、美術（中世、ルネサンス、バロック、東方教会）、音楽（ルネサンス、バロック、クラシック、ロマン派）を通じて、キリスト教の考え方・世界観を学習します。

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

- ・キリスト教文化
- ・建築・美術・音楽・自然科学
- ・世界観

授業計画

01. イントロダクション
02. キリスト教と一神教
03. ユダヤ教との比較
04. イスラムとの比較
05. イエスの登場とその活動
06. 原始キリスト教の誕生
07. 新約聖書の成立
08. 三位一体論の成立
09. ディスカッション
10. 古代のキリスト教建築
11. 中世のキリスト教建築
12. アウグスティヌス
13. 中世の女性神学者
14. 宗教改革へ
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んでください。また課題についても授業内で指示します。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末テスト | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：村瀬 天出夫

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11608292

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教の思想は、2000年間の間に変化・発展しただけでなく、分裂もしてきました。分裂を経たこの多様性を歴史的に理解することは、現在のキリスト教を理解する助けになります。また、思想の分裂を越えて、さまざまな宗派・宗教の間で対話を進めようとする努力も、現代のキリスト教の重要な問題です。これら分裂と対話の歴史は、さまざまな宗教的な対立が見られる現代社会を理解する助けになります。

(2) 内容

本講義では、キリスト教の重要な教理を歴史的に捉えることで、キリスト教思想の多様性を理解することを目指します。神とは誰か、人間とはどのような存在で、どのように生きるべきかといった問題にかんする、キリスト教の考え方（教理）について、それらがどのような歴史的・社会的な背景で生まれ、発展、変化していったのかを学習します。同時に、それらの教理が、カトリック教会やプロテスタント教会の諸宗派でどのように異なるのか、その歴史的な背景も学びます。

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

・キリスト教の世界観

授業計画

01. イントロダクション
02. キリスト教の世界観・歴史観 (1)
03. キリスト教の世界観・歴史観 (2)
04. 神：創造主・善と悪の根拠
05. 三位一体論：神と子と聖霊
06. キリスト：人と神・十字架の救い主
07. 救済：罪・贖い・神の国
08. 人間：神との関係・地上の生の意味
09. 教会：地上の「集会」
10. サクラメント：秘跡・通過儀礼
11. 奇跡：神の業と魔術
12. 他宗派・他宗教との関係：エキュメニズム・宗教対話
13. 終末論：救済史とその成就
14. ディスカッション
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んできてください。また課題についても授業内で指示します。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末テスト | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：吉岡 光人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11608398

学部教育の関連目

【全】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情懷を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

福祉活動のキリスト教的土台を見出しingたい。

(2) 内容

キリスト教は「神を愛すること」と「隣人を自分のように愛すること」を最も大切にしてきた。キリスト教会が隣人援助的に社会とかかわってきた歴史を学ぶことによって、今日の社会福祉やボランティア活動の基礎が築かれてきたことを学ぶ。

受講者に対する要望

出席を重視する。

学びのキーワード

- ・ 被造物としての人間を理解する
- ・ 自分を愛すること
- ・ 隣人を愛すること

授業計画

01. キリスト教と他者援助との関係
02. 聖書から見た人間理解
03. キリスト教的他者援助の歴史（1） 初代教会～古代教会
04. キリスト教的他者援助の歴史（2） 中世
05. キリスト教的他者援助の歴史（3） 宗教改革時代
06. キリスト教的他者援助の歴史（4） 17世紀～19世紀
07. キリスト教的他者援助の歴史（5） 20世紀前半
08. キリスト教的他者援助の歴史（6） 20世紀後半～21世紀
09. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（1） 宣教師の働き
10. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（2） 大正～昭和初期
11. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（3） 戦前～戦後
12. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（4） 電話相談
13. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（5） ボランティア活動
14. 日本におけるキリスト教的他者援助の歴史（6） その他
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業で必要なことは指示する。

準備学習(復習)

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること。

評価方法

- | | | |
|----------------|----|----------------|
| (1) 授業への積極的参加 | 30 | 遅刻・早退も評価の対象とする |
| (2) 礼拝レポート | 30 | 全学礼拝出席と教会出席 |
| (3) 試験もしくはレポート | 40 | |

教科書

参考書

担当教員：吉岡 光人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11608499

学部教育の関連目

【全】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教会が継承してきた「他者援助」の中で、「聞く」という援助の方法の大切さを知り、それを社会生活の中で活かせるように基本的な方法を身に着ける。

(2) 内容

- 1 「他者のこころを聞く」ための基本的方法を学ぶ
- 2 それぞれのケースにおける基本的な関わり方を学ぶ。

受講者に対する要望

演習形式を取り入れる時もあるので積極的に参加することを希望する。

学びのキーワード

- ・ 「こころを聞く」ために何をすればよいか
- ・ 自分のこころを偽らずに他者を関わるためには
- ・ あなたもOK、わたしもOKとなるためには

授業計画

01. 秋学期の授業の概説
02. 自分自身を知る
03. 他者を知る ー 共感 ー
04. 傾聴による援助の実際（1）反復技法
05. 傾聴による援助の実際（2）質問技法
06. 傾聴による援助の実際（2）パラフレーズ
07. 高齢者に対する関わり方
08. 精神障害の人との関わり方（1）
09. 精神障害の人との関わり方（2）
10. 悲嘆の中にいる人との関わり方（1）
11. 悲嘆の中にいる人との関わり方（2）
12. 自殺願望を抱いている人に対する関わり方
13. 入院患者への関わり方（ターミナルケアを含む）
14. 被災者に対する関わり方
15. まとめ

準備学習(予習)

必要なことは授業中に指示する。

準備学習(復習)

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1) 授業への積極的参加 | 40 |
| (2) 礼拝レポート | 30% 全学礼拝出席と教会出席 |
| (3) 試験もしくはレポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：森脇 健介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651111

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するという点でもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえられていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や理解の薄い時事問題に

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|--|
| (1) まとめのテスト | 60% | 最終的な学習成果を評価するための問題を実施します。全体的な理解について、授業内で重要な問題を扱いますので、理解度の差が結果的に大きく表れます。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業中の授業への取り組み、その結果を評価します。授業中や授業後に行われる演習には、問題としてまとめられていないもの、この授業や準備学習の成果は、講義を通じて評価します。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningの学習・演習結果を評価し、授業中・授業後に行われる演習に活用するための学習成果を評価します。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：森脇 健介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651112

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえられていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や押解の薄い時事に関して

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|--|
| (1) まとめのテスト | 60% | 最終的な学習成果を評価するための問題を実施します。全体的な理解について、授業内で重要事項の問題を扱いますので、履修者の理解が確認できるものと見込んでいます。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業内の授業に積極的に参加し、その成果を評価します。授業中や授業後に行われる演習には、課題として取り組んでいただきます。この成績は、履修者の理解を、講義を通じて評価します。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningを予習・復習材料として活用し、授業後、履修者の理解を、E-learningを通じて評価させていただきます。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：森脇 健介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651113

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するという点でもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や理解の薄い時事問題に

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|---|
| (1) まとめのテスト | 60% | 最終的な学習成果を評価するための問題を実施します。全体的な理解について、授業内で重要な問題を扱いますので、理解度の差が結果的に大きく表れます。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業中の参加の取り組み、そのほか自主学習の取り組み、授業中や授業後の学習態度を評価します。課題として与えられた課題を、この授業中の準備学習の場では、講義を聴いてください。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningの学習・復習の取り組みを評価し、授業中・授業後の課題などに活用された取り組みを評価します。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：山本 祥弘

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651114

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するという点でもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえられていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や押解の薄い時事問題に

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|--|
| (1) まとめのテスト | 60% | 最終的な学習成果を評価するための問題を実施します。全体的な理解について、授業内で重要な問題を扱いますので、理解度の差が結果的に大きく表れます。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業中の授業内容の理解度と、その理解度を表すため、授業中や授業後に行われる小テスト、課題としてまとめた課題などを行います。この小テストや授業後の小テストは、講義を共に進めます。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningの予習・復習の取り組み状況、授業後、検定試験の準備として自主学習の進捗状況を把握します。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：山本 祥弘

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651115

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえられていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や押解の薄い時事問題に

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|---|
| (1) まとめのテスト | 60% | 最終的な学習成果を評価するための問題を実施します。全体的な理解について、授業内で重要事項の問題を実施しますので、履修者の理解が確認できるようにしてください。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業内の取り組み状況と、その結果を評価します。授業中や授業後に行われる演習には、課題として取り組んでいただきます。この演習や授業後の演習は、講義と表裏を成します。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningによる「演習問題」に取り組む。授業中、授業後に行われる演習と合わせて実施していただきます。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：山本 祥弘

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651116

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえられていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や理解の薄い時事問題に

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|--|
| (1) まとめのテスト | 60% | 総論的知識を定量的に評価する問題を実施します。全体的傾向について、授業内で重点事項の解説をしますので、理解度の確認が可能です。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業内の取り組み状況と、その結果を評価します。授業中や授業後に行われる演習には、問題としてまとめられていないもの、この段階で理解が不十分なものは、講義を通じて行います。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningの学習・演習結果に基づき、卒業後、検定試験の受験に際しては認定試験で得られたデータを参照します。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：森脇 健介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651121

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえられていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や押解の薄い時事に関して

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|--|
| (1) まとめのテスト | 60% | 最終的な学習成果を評価するための問題を実施します。全体的な理解について、授業内で重要事項の問題を実施しますので、履修者の理解が確認できるようにしてください。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業中の授業への取り組み、その結果を評価します。授業中や授業後に行われる演習には、課題として取り組んでいただきます。この成績は、授業態度として評価します。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningによる「時事問題」の取り組み、理解度、履修状況などを定期的に確認するために実施しております。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：山本 祥弘

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目/選択科目/選択必単位：1 授業コード：11651122

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門科目を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。そのため本授業では、ニュース検定の受験に有利になるよう講義を行ったうえで受講者への受験を推奨しますが、受験は単位取得にとって必須の条件ではないことも付記しておきます。

(2) 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式教材を主に用いながら、また補助教材として映像教材や新聞記事なども用いて身につけていきます。

検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う時事問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。そのため高校以前の社会に関する知識が踏まえられていることが前提となりますが、この点についてはE-learning(ハコブネ)も授業内の教材として用いることで、そのつど確認していきます。

受講者に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験・期末試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。また、この講義は配布プリントが多くなりますが、内容はすべて期末試験に直結します。しっかりと自己管理をしておいてください。

学びのキーワード

- ・ ニュース検定
- ・ 政治経済
- ・ 社会問題
- ・ 社会的知識の基本の復習
- ・ E-learning (ハコブネ)

授業計画

01. イントロダクション
02. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
03. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
04. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
05. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
06. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
07. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
08. 前半部までのまとめ
09. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
10. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
11. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
12. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
13. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
14. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ・秋学期授業「図表理解」の実力判定試験(必修履修者のみ対象)
15. 講義全体を通してのまとめ

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、予習用教材としてE-learningの範囲を指定した場合は、該当範囲を必ず終えておきましょう。授業内で解いた問題の確認テストを行う回の前には、配布プリントなどを見て、自分が解けなかった問題や理解の薄い時事問題に

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につくと言えます。特に検定試験の合格を目指す場合、問題集の復習は非常に重要ですので各自で取り組んでください。

評価方法

- | | | |
|---------------------------|-----|--|
| (1) まとめのテスト | 60% | 最終的な学習成果を評価するための問題を実施します。全体的な理解について、授業内で重要な問題を指定しますので、授業後の復習が求められます。 |
| (2) 日頃の取り組み | 30% | 授業中の参加の取り組み、そのほか自主学習の取り組み、授業中や授業後の自主学習の取り組み、課題としてまとめたレポートなどについて、授業中の発表や授業後の発表など、講義を通じて評価します。 |
| (3) E-learning(ハコブネ)の取り組み | 10% | E-learningの学習・復習の取り組みについて、授業中、授業後の発表などによって授業中の発表や授業後の発表など、講義を通じて評価します。 |

「まとめのテスト・日頃の取り組み・E-learning」の100%でD～S評価を判定しますが、開講期間中のニュース検定準2級試験(6月中旬実施)に合格できた場合には最終評価に上乗せします。ただし、上記100%の評価があくまでベースであり、講義内で達成すべき評価の最低基準(合格判定相当以上の成績)を満たしていなければ、検定試験のみ合格しても評価の上乗せは行いません。すなわち、単にニュース検定に合格しただけでは単位を取得することはできませんので注意してください。

教科書

参考書

日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2017年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

担当教員：森脇 健介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651231

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning(ハコブネ) 数学「スタンダードコース」相当です。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験 (SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルA

授業計画

01. 基礎数学 (計算)
02. 基礎数学 (計算)
03. 基礎数学 (方程式等)
04. 基礎数学 (方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学 (関数・グラフ等)
06. 基礎数学 (図形等)
07. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning (ハコブネ) | 10% 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：森脇 健介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651232

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning 数学「スタンダードコース」相当で、必要に応じて「ベーシックコース」相当の問題も併用します。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験 (SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルB

授業計画

01. 基礎数学 (計算)
02. 基礎数学 (計算)
03. 基礎数学 (方程式等)
04. 基礎数学 (方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学 (関数・グラフ等)
06. 基礎数学 (図形等)
07. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------|-------------------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning | 10% 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：森脇 健介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651233

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning 数学「スタンダードコース」相当で、必要に応じて「ベーシックコース」相当の問題も併用します。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験 (SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルB

授業計画

01. 基礎数学 (計算)
02. 基礎数学 (計算)
03. 基礎数学 (方程式等)
04. 基礎数学 (方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学 (関数・グラフ等)
06. 基礎数学 (図形等)
07. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------|-------------------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning | 10% 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651234

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとって有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning(ハコブネ) 数学「スタンダードコース」相当です。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験 (SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルA

授業計画

01. 基礎数学 (計算)
02. 基礎数学 (計算)
03. 基礎数学 (方程式等)
04. 基礎数学 (方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学 (関数・グラフ等)
06. 基礎数学 (図形等)
07. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning (ハコブネ) | 10% 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651235

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、基本的にE-learning 数学「スタンダードコース」相当で、必要に応じて「ベーシックコース」相当の問題も併用します。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験 (SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルB

授業計画

01. 基礎数学 (計算)
02. 基礎数学 (計算)
03. 基礎数学 (方程式等)
04. 基礎数学 (方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学 (関数・グラフ等)
06. 基礎数学 (図形等)
07. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学 (組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題 (1)
11. 図表・資料の読み取り問題 (2)
12. 統計図表の解釈 (1)
13. 統計図表の解釈 (2)
14. 統計図表の解釈 (3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------|-------------------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning | 10% 「数学」スタンダードコースまたはベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651236

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、E-learning(ハコブネ)数学「ベーシックコース」相当です。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験(SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルC

授業計画

01. 基礎数学(計算)
02. 基礎数学(計算)
03. 基礎数学(方程式等)
04. 基礎数学(方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学(関数・グラフ等)
06. 基礎数学(図形等)
07. 基礎数学(組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学(組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------|-------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning | 10% 「数学」ベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：森脇 健介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651241

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、E-learning(ハコブネ)数学「ベーシックコース」相当です。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験(SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning
- ・ レベルC

授業計画

01. 基礎数学(計算)
02. 基礎数学(計算)
03. 基礎数学(方程式等)
04. 基礎数学(方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学(関数・グラフ等)
06. 基礎数学(図形等)
07. 基礎数学(組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学(組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------|-------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning | 10% 「数学」ベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員：山本 祥弘

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11651242

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学生にとって、高校までの数学を復習するだけでは、ほとんど意味がありません。大学生にとって必要なことは、復習・習得した数学の知識を、就職試験の問題の解き方へと接続すること、また大学の授業で出てくるような図表や資料を理解する力へと接続することです。

このように高校レベルの知識を、大学生として必要な能力へと展開する(=橋渡しする)ことが、この科目の学びの意義であり目標となります。

(2) 内容

この授業は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としています。

そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題(SPIや公務員試験など)の解き方につなげていきます。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学びます。

なお、基礎数学の難易度は、E-learning 数学(ハコブネ)「ベーシックコース」相当です。

受講者に対する要望

上記の「学びの意義と目標」をよく読み、常にこれを意識しながら取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 数学
- ・ 就職試験(SPI、公務員試験など)
- ・ 図表・資料
- ・ E-learning

授業計画

01. 基礎数学(計算)
02. 基礎数学(計算)
03. 基礎数学(方程式等)
04. 基礎数学(方程式、関数・グラフ等)
05. 基礎数学(関数・グラフ等)
06. 基礎数学(図形等)
07. 基礎数学(組合せ・確率・統計等)
08. 基礎数学(組合せ・確率・統計等)
09. 前半部のまとめ
10. 図表・資料の読み取り問題(1)
11. 図表・資料の読み取り問題(2)
12. 統計図表の解釈(1)
13. 統計図表の解釈(2)
14. 統計図表の解釈(3)
15. 後半部のまとめ

準備学習(予習)

E-learningの該当箇所をやること。

準備学習(復習)

E-learningのほか、各自SPI等の各種問題集で知識を定着させること。

評価方法

- | | |
|----------------|-------------------------|
| (1) まとめのテスト | 60% |
| (2) 授業への取り組み | 30% |
| (3) E-learning | 10% 「数学」ベーシックコースを使用します。 |

教科書

参考書

担当教員： 萬年山 啓

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652101

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【1】人権力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。

この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」という未来志向であることを特長とします。

多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活用し、社会で活躍するために必要な考え方や技法・能力を身につけていきます。

授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーションのとり方を学びます。

(2) 内容

この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。

大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、勉強・社会体験・サークル活動など、大学時代に取組んで得たことを活かせるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 自己理解
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイキング）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる）
04. 自分を知る（2） 自己分析（これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える）
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、キャリア転折をなくす方法を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
12. 社会人基礎力を高める（1） コミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める（2） 意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める（3） プレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 授業への取組 | 50% |
| (2) ワークへの取組 | 25% 個人ワークとグループワーク |
| (3) 課題レポート | 25% |

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員： 萬年山 啓

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652102

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【1】人権力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。

この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」するという未来志向であることを特長とします。

多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活用し、社会で活躍するために必要な考え方や技法・能力を身につけていきます。

授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーションのとり方を学びます。

(2) 内容

この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。

大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、勉強・社会体験・サークル活動など、大学時代に取組んで得たことを活かせるようにしてください。

学びのキーワード

- 自己理解
- 職業理解（仕事理解）
- 社会人基礎力

授業計画

- はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイキング）
- キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する）
- 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる）
- 自分を知る（2） 自己分析（これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する）
- 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える）
- 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、キャリア挫折をなくす方法を考える）
- 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
- 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
- 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
- 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
- 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
- 社会人基礎力を高める（1） コミュニケーション力など
- 社会人基礎力を高める（2） 意思決定力など
- 社会人基礎力を高める（3） プレゼンテーション力など
- 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 授業への取組 | 50% |
| (2) ワークへの取組 | 25% 個人ワークとグループワーク |
| (3) 課題レポート | 25% |

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員： 萬年山 啓

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652103

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【全】2年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【1】人権力・課題解決力・社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学(教育)から職場(社会)への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。

この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」するという未来志向であることを特長とします。

多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活用し、社会で活躍するために必要な考え方や技法・能力を身につけていきます。

授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーションのとり方を学びます。

(2) 内容

この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます(詳しくは、最初の授業で説明します)。

大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、勉強・社会体験・サークル活動など、大学時代に取組んで得たことを活かせるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 自己理解
- ・ 職業理解(仕事理解)
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに(授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイキング)
02. キャリアを知る(キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する)
03. 自分を知る(1) 性格分析(アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる)
04. 自分を知る(2) 自己分析(これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する)
05. 自分を知る(3) 能力分析(社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える)
06. 自分を知る(4) 適応分析(社会で活躍するための条件を考え、キャリア挫折をなくす方法を考える)
07. 社会と職業を知る(1) 社会を知る(社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える)
08. 社会と職業を知る(2) 産業を知る(1)(日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する)
09. 社会と職業を知る(3) 産業を知る(2)(現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する)
10. 社会と職業を知る(4) 職業を知る(業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える)
11. 社会と職業を知る(5) 雇用を知る(多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する)
12. 社会人基礎力を高める(1) コミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める(2) 意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める(3) プレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える(大学におけるキャリア形成を考える)

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 授業への取組 | 50% |
| (2) ワークへの取組 | 25% 個人ワークとグループワーク |
| (3) 課題レポート | 25% |

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員：江川 裕子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652104

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【4】人権力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、学生が自分の生き方、働き方などを自ら設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法についてゲームやワークを使って体感しながら学びます。
 この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

(2) 内容

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。
 「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、キャリアをデザインするという未来志向であることを特長とします。
 多くの学生が大学を卒業し、社会へデビューする日が来ます。社会への移行をスムーズに行うことができるように授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーション力や協働する意味を学びます。
 結婚・出産・育児など女性ならではのキャリア形成を考え、女性として自分らしく生きる知恵も学びます。
 「自分らしい生き方」を考えるよい機会になります。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会デビューを意識した受講マナーで授業に参加することを求めます。
 大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、大人社会のルールや社会常識を意識しましょう。

学びのキーワード

- ・ 自己理解
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイク）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識をゲームをしながら理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる 自分と向き合う）
04. 自分を知る（2） セルフカウンセリング（客観的に自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像を理解し、具体的な習得方法を考える）
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、不本意なキャリア挫折をなくす方策を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
12. 社会人基礎力を高める（1） ゲームで学ぶコミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める（2） ゲームで学ぶ意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める（3） ワークで学ぶプレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習(予習)

配布物の再読と授業の理解度の再確認。さらに学んだことを学生生活に活用すること。

準備学習(復習)

授業で配付したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 50% |
| (2) ワークへの取り組み | 25% |
| (3) 課題レポート | 25% |

自分の将来に向けての授業です。積極的な授業態度に期待します。

教科書

参考書

プリント配付します。課題レポートはそこから出題されます。

担当教員：江川 裕子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652105

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【全】2年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【4】人権力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、学生が自分の生き方、働き方などを自ら設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法についてゲームやワークを使って体感しながら学びます。
 この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

(2) 内容

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。
 「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、キャリアをデザインするという未来志向であることを特長とします。
 多くの学生が大学を卒業し、社会へデビューする日が来ます。社会への移行をスムーズに行うことができるように授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーション力や協働する意味を学びます。
 結婚・出産・育児など女性ならではのキャリア形成を考え、女性として自分らしく生きる知恵も学びます。
 「自分らしい生き方」を考えるよい機会になります。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会デビューを意識した受講マナーで授業に参加することを求めます。
 大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、大人社会のルールや社会常識を意識しましょう。

学びのキーワード

- ・ 自己理解 | |
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力 |

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイク）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識をゲームをしながら理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる 自分と向き合う）
04. 自分を知る（2） セルフカウンセリング（客観的に自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像を理解し、具体的な習得方法を考える） |
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、不本意なキャリア挫折をなくす方法を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する） |
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する） |
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する） |
12. 社会人基礎力を高める（1） ゲームで学ぶコミュニケーション力など |
13. 社会人基礎力を高める（2） ゲームで学ぶ意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める（3） ワークで学ぶプレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習（予習）

配布物の再読と授業の理解度の再確認。さらに学んだことを学生生活に活用すること。

準備学習（復習）

授業で配付したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 50% |
| (2) ワークへの取り組み | 25% |
| (3) 課題レポート | 25% |

自分の将来に向けての授業です。積極的な授業態度に期待します。

教科書

参考書

担当教員：江川 裕子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652106

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【4】人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、学生が自分の生き方、働き方などを自ら設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法についてゲームやワークを使って体感しながら学びます。
 この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

(2) 内容

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。
 「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、キャリアをデザインするという未来志向であることを特長とします。
 多くの学生が大学を卒業し、社会へデビューする日が来ます。社会への移行をスムーズに行うことができるように授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーション力や協働する意味を学びます。結婚・出産・育児など女性ならではのキャリア形成を考え、女性として自分らしく生きる知恵も学びます。
 「自分らしい生き方」を考えるよい機会になります。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会デビューを意識した受講マナーで授業に参加することを求めます。
 大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、大人社会のルールや社会常識を意識しましょう。

学びのキーワード

- ・ 自己理解 |
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイク）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識をゲームをしながら理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる 自分と向き合う |
04. 自分を知る（2） セルフカウンセリング（客観的に自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像を理解し、具体的な習得方法を考える） |
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、不本意なキャリア挫折をなくす方法を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する） |
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する） |
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
12. 社会人基礎力を高める（1） ゲームで学ぶコミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める（2） ゲームで学ぶ意思決定力など |
14. 社会人基礎力を高める（3） ワークで学ぶプレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習(予習)

配付物の再読と授業の理解度の再確認。さらに学んだことを学生生活に活用すること。

準備学習(復習)

授業で配付したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 50% |
| (2) ワークへの取り組み | 25% |
| (3) 課題レポート | 25% |

自分の将来に向けての授業です。積極的な授業態度に期待します。

教科書

参考書

プリント配付します。課題レポートはそこから出題されます。

担当教員： 萬年山 啓

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652107

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【全】2年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する
 【1】人権力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。

この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアリアスを「デザイン」するという未来志向であることを特長とします。

多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活用し、社会で活躍するために必要な考え方や技法・能力を身につけていきます。

授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーションのとり方を学びます。

(2) 内容

この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。

大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、勉強・社会体験・サークル活動など、大学時代に取組んで得たことを活かせるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 自己理解
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイキング）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる）
04. 自分を知る（2） 自己分析（これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える）
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、キャリア挫折をなくす方法を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
12. 社会人基礎力を高める（1） コミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める（2） 意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める（3） プレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 授業への取組 | 50% |
| (2) ワークへの取組 | 25% 個人ワークとグループワーク |
| (3) 課題レポート | 25% |

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員： 萬年山 啓

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652201

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。

この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどを目標にしています。

この授業でも、個人ワークやグループワークを採り入れます。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進めます。授業中での行動を通じて、学生の「ジェネリックスキル」を育成していきます。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「キャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築ができるようになることを目指します。

(2) 内容

後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていきます。さらに、大学(教育)から職場(社会)へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます(詳しくは、最初の授業で説明します)。

社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 社会の中での自分のあり方
- ・ 業種・職種・働き方
- ・ 社会で活躍するために必要な力
- ・ 協働するために必要な力

授業計画

01. 働く意味について考える(仕事や働き方を選ぶ基準について理解する)
02. なりたい自分を創る(自分が大切にしていることが何かを把握する)
03. 学生と社会人の違いを認識する(大学で求められることと社会が必要としていることを理解する)
04. 業種と企業について理解する(1) 人に対するサービスを中心に
05. 業種と企業について理解する(2) 事物に対するサービスを中心に
06. 職種について理解する(1) 自分の生活との関わりから職種を理解する
07. 職種について理解する(2) 職業の意味と多様性について理解する
08. 社会に出てから必要な力を養う(1) 読んで理解する力
09. 社会に出てから必要な力を養う(2) 聴いて理解する力
10. 社会に出てから必要な力を養う(3) 話して自分を伝える力
11. 社会に出てから必要な力を養う(4) 書いて自分を伝える力
12. ゲスト・スピーチから学ぶ(キャリア・コンサルタントによる講演)
13. 協働するために必要な能力を養う(1) 言葉だけの意思疎通
14. 協働するために必要な能力を養う(2) コミュニケーション力
15. 協働するために必要な能力を養う(3) 論理的思考と表現

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生生活に活用すること

評価方法

(1) 授業への取組	50%
(2) ワークへの取組	25% 個人ワークとグループワーク
(3) 課題レポート	25%

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員： 萬年山 啓

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652202

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。

この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどを目標にしています。

この授業でも、個人ワークやグループワークを採り入れ、他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進めます。授業中での行動を通じて、学生の「ジェネリックスキル」を育成していきます。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「キャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築ができるようになることを目指します。

(2) 内容

後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていきます。さらに、大学(教育)から職場(社会)へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます(詳しくは、最初の授業で説明します)。

社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 社会の中での自分のあり方
- ・ 業種・職種・働き方
- ・ 社会で活躍するために必要な力
- ・ 協働するために必要な力

授業計画

01. 働く意味について考える(仕事や働き方を選ぶ基準について理解する)
02. なりたい自分を創る(自分が大切にしていることが何かを把握する)
03. 学生と社会人の違いを認識する(大学で求められることと社会が必要としていることを理解する)
04. 業種と企業について理解する(1) 人に対するサービスを中心に
05. 業種と企業について理解する(2) 事物に対するサービスを中心に
06. 職種について理解する(1) 自分の生活との関わりから職種を理解する
07. 職種について理解する(2) 職業の意味と多様性について理解する
08. 社会に出てから必要な力を養う(1) 読んで理解する力
09. 社会に出てから必要な力を養う(2) 聴いて理解する力
10. 社会に出てから必要な力を養う(3) 話して自分を伝える力
11. 社会に出てから必要な力を養う(4) 書いて自分を伝える力
12. ゲスト・スピーチから学ぶ(キャリア・コンサルタントによる講演)
13. 協働するために必要な能力を養う(1) 言葉だけの意思疎通
14. 協働するために必要な能力を養う(2) コミュニケーション力
15. 協働するために必要な能力を養う(3) 論理的思考と表現

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生生活に活用すること

評価方法

(1) 授業への取組	50%
(2) ワークへの取組	25% 個人ワークとグループワーク
(3) 課題レポート	25%

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員： 萬年山 啓

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652203

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。

この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどを目標にしています。

この授業でも、個人ワークやグループワークを採り入れます。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進めます。授業中での行動を通じて、学生の「ジェネリックスキル」を育成していきます。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「キャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築ができるようになることを目指します。

(2) 内容

後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていきます。さらに、大学(教育)から職場(社会)へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます(詳しくは、最初の授業で説明します)。

社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 社会の中での自分のあり方
- ・ 業種・職種・働き方
- ・ 社会で活躍するために必要な力
- ・ 協働するために必要な力

授業計画

01. 働く意味について考える(仕事や働き方を選ぶ基準について理解する)
02. なりたい自分を創る(自分が大切にしていることが何かを把握する)
03. 学生と社会人の違いを認識する(大学で求められることと社会が必要としていることを理解する)
04. 業種と企業について理解する(1) 人に対するサービスを中心に
05. 業種と企業について理解する(2) 事物に対するサービスを中心に
06. 職種について理解する(1) 自分の生活との関わりから職種を理解する
07. 職種について理解する(2) 職業の意味と多様性について理解する
08. 社会に出てから必要な力を養う(1) 読んで理解する力
09. 社会に出てから必要な力を養う(2) 聴いて理解する力
10. 社会に出てから必要な力を養う(3) 話して自分を伝える力
11. 社会に出てから必要な力を養う(4) 書いて自分を伝える力
12. ゲスト・スピーチから学ぶ(キャリア・コンサルタントによる講演)
13. 協働するために必要な能力を養う(1) 言葉だけの意思疎通
14. 協働するために必要な能力を養う(2) コミュニケーション力
15. 協働するために必要な能力を養う(3) 論理的思考と表現

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生生活に活用すること

評価方法

(1) 授業への取組	50%
(2) ワークへの取組	25% 個人ワークとグループワーク
(3) 課題レポート	25%

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員：江川 裕子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：11652204

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、学生が自分の生き方、働き方などを自ら設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法についてゲームやワークを使って体感しながら学びます。

この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

(2) 内容

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。

「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、キャリアをデザインするという未来志向であることを特長とします。

多くの学生が大学を卒業し、社会へデビューする日が来ます。社会への移行をスムーズに行うことができるように授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーション力や協働する意味を学びます。結婚・出産・育児など女性ならではのキャリア形成を考え、女性として自分らしく生きる知恵も学びます。「自分らしい生き方」を考えるよい機会になります。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会デビューを意識した受講マナーで授業に参加することを求めます。

大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、大人社会のルールや社会常識を意識しましょう。

学びのキーワード

- ・ 自己理解 |
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイク）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識をゲームをしながら理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる 自分と向き合う）
04. 自分を知る（2） セルフカウンセリング（客観的に自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像を理解し、具体的な習得方法を考える）
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、不本意なキャリア挫折をなくす方法を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
12. 社会人基礎力を高める（1） ゲームで学ぶコミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める（2） ゲームで学ぶ意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める（3） ワークで学ぶプレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習（予習）

配布物の再読と授業の理解度の再確認。さらに学んだことを学生生活に活用すること。

準備学習（復習）

授業で配付したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 50% |
| (2) ワークへの取り組み | 25% |
| (3) 課題レポート | 25% |

自分の将来に向けての授業です。積極的な授業態度に期待します。

教科書

参考書

プリント配付します。課題レポートはそこから出題されます。

担当教員：江川 裕子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652205

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等を経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、学生が自分の生き方、働き方などを自ら設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法についてゲームやワークを使って体感しながら学びます。

この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

(2) 内容

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。

「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、キャリアをデザインするという未来志向であることを特長とします。

多くの学生が大学を卒業し、社会へデビューする日が来ます。社会への移行をスムーズに行うことができるように授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーション力や協働する意味を学びます。

結婚・出産・育児など女性ならではのキャリア形成を考え、女性として自分らしく生きる知恵も学びます。

「自分らしい生き方」を考えるよい機会になります。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会デビューを意識した受講マナーで授業に参加することを求めます。

大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、大人社会のルールや社会常識を意識しましょう。

学びのキーワード

- ・ 自己理解
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイク）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識をゲームをしながら理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる 自分と向き合う）
04. 自分を知る（2） セルフカウンセリング（客観的に自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像を理解し、具体的な習得方法を考える）
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、不本意なキャリア挫折をなくす方策を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
12. 社会人基礎力を高める（1） ゲームで学ぶコミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める（2） ゲームで学ぶ意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める（3） ワークで学ぶプレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習（予習）

配付物の再読と授業の理解度の再確認。さらに学んだことを学生生活に活用すること。

準備学習（復習）

授業で配付したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 50% |
| (2) ワークへの取り組み | 25% |
| (3) 課題レポート | 25% |

自分の将来に向けての授業です。積極的な授業態度に期待します。

教科書

参考書

プリント配付します。課題レポートはそこから出題されます。

担当教員：江川 裕子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652206

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等を経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、学生が自分の生き方、働き方などを自ら設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法についてゲームやワークを使って体感しながら学びます。

この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

(2) 内容

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。

「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、キャリアをデザインするという未来志向であることを特長とします。

多くの学生が大学を卒業し、社会へデビューする日が来ます。社会への移行をスムーズに行うことができるように授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーション力や協働する意味を学びます。

結婚・出産・育児など女性ならではのキャリア形成を考え、女性として自分らしく生きる知恵も学びます。

「自分らしい生き方」を考えるよい機会になります。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会デビューを意識した受講マナーで授業に参加することを求めます。

大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、大人社会のルールや社会常識を意識しましょう。

学びのキーワード

- ・ 自己理解
- ・ 職業理解（仕事理解）
- ・ 社会人基礎力

授業計画

01. はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレイク）
02. キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識をゲームをしながら理解する）
03. 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる 自分と向き合う）
04. 自分を知る（2） セルフカウンセリング（客観的に自分のことを理解する）
05. 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像を理解し、具体的な習得方法を考える）
06. 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、不本意なキャリア挫折をなくす方策を考える）
07. 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
08. 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
09. 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
10. 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
11. 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
12. 社会人基礎力を高める（1） ゲームで学ぶコミュニケーション力など
13. 社会人基礎力を高める（2） ゲームで学ぶ意思決定力など
14. 社会人基礎力を高める（3） ワークで学ぶプレゼンテーション力など
15. 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

準備学習(予習)

配付物の再読と授業の理解度の再確認。さらに学んだことを学生生活に活用すること。

準備学習(復習)

授業で配付したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 50% |
| (2) ワークへの取り組み | 25% |
| (3) 課題レポート | 25% |

自分の将来に向けての授業です。積極的な授業態度に期待します。

教科書

参考書

プリント配付します。課題レポートはそこから出題されます。

担当教員： 萬年山 啓

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目/選択科目 単位： 1 授業コード： 11652207

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。

この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどを目標にしています。

この授業でも、個人ワークやグループワークを採り入れ、他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進めます。授業中での行動を通じて、学生の「ジェネリックスキル」を育成していきます。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「キャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築ができるようになることを目指します。

(2) 内容

後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていきます。さらに、大学(教育)から職場(社会)へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。

受講者に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます(詳しくは、最初の授業で説明します)。

社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 社会の中での自分のあり方
- ・ 業種・職種・働き方
- ・ 社会で活躍するために必要な力
- ・ 協働するために必要な力

授業計画

01. 働く意味について考える(仕事や働き方を選ぶ基準について理解する)
02. なりたい自分を創る(自分が大切にしていることが何かを把握する)
03. 学生と社会人の違いを認識する(大学で求められることと社会が必要としていることを理解する)
04. 業種と企業について理解する(1) 人に対するサービスを中心に
05. 業種と企業について理解する(2) 事物に対するサービスを中心に
06. 職種について理解する(1) 自分の生活との関わりから職種を理解する
07. 職種について理解する(2) 職業の意味と多様性について理解する
08. 社会に出てから必要な力を養う(1) 読んで理解する力
09. 社会に出てから必要な力を養う(2) 聴いて理解する力
10. 社会に出てから必要な力を養う(3) 話して自分を伝える力
11. 社会に出てから必要な力を養う(4) 書いて自分を伝える力
12. ゲスト・スピーチから学ぶ(キャリア・コンサルタントによる講演)
13. 協働するために必要な能力を養う(1) 言葉だけの意思疎通
14. 協働するために必要な能力を養う(2) コミュニケーション力
15. 協働するために必要な能力を養う(3) 論理的思考と表現

準備学習(予習)

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

準備学習(復習)

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生生活に活用すること

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 授業への取組 | 50% |
| (2) ワークへの取組 | 25% 個人ワークとグループワーク |
| (3) 課題レポート | 25% |

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。

教科書

参考書

毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

担当教員：奥 富美子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652331

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事をすることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分自身のこれまでと今をみつめ、将来をどう設計していくかを考えることがキャリアデザインです。この科目では、キャリア(=学生生活、家庭生活を含め、卒業後の職業生活を加えた生き方)について考え、生涯にわたる自分自身のキャリアをデザインするうえで必要な考え方を、理論と実践とで学びます。大学卒業後に過ごす社会には正解がありません。自分で考え、自分で決断し、自分で行動する人が求められています。こうした力を養うため、キャリアの主人公は自分自身であることを意識しながら、将来職業に就き社会で活動するための準備をする科目です。「社会人による授業参画」を通して、職業理解や社会とのつながり、働くことを考えます。自分に興味を持ち、ペアワークやグループワークでの他者からのフィードバックも参考にしながら「自分らしさ」を追求し自信につなげていきましょう。今も卒業後の将来も発揮できる自分の魅力を明らかにして磨いていきましょう。

(2) 内容

自己のキャリア形成に重要な能力とは何か、「熟考する・調べる・自分の考えを述べる・他者の考えを聴く」「自らの意思で決断する・行動する」などが大切であることを理解します。毎回、講義と演習(個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など)を行います。席替えやグループ編成の変更なども頻繁に行います。授業中のこれらの実践を通して、生きる力の基盤となるコミュニケーション力を高めます。様々なワークを通して、自分に興味を持ち、自分の持ち味・強みを明確にします。人の生き方に興味を持ち、自分のキャリアに関心を向け、これからの自分のキャリアビジョンを描きます。社会人も頻繁に参加します。「大人と対話する力」を養い、就職活動や卒業後の社会における人とのかわり方の基礎力づくりをします。

受講者に対する要望

・学生生活を充実させ、その延長線上にある職業人生の充実へとつなげるため、授業での取り組み、体験の蓄積によりその力を養います。よって、「授業において積極的に参加する」ことが望めます。この科目で何を学べるかは自分次第です。堅苦しく考える必要はありません。「気楽に楽しく取り組む」ことで、気づきや学びが得やすくなります。自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止める、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。互いを尊重し、強みを引き出しあい、応援し合うクラスをつくっていきましょう。
・「キャリアファイル」を準備してください。(A4サイズ) 授業でおこなったワークのプリントや資料を収納します。「自分自身について考えたこと」を可視化し、学びを蓄積していくことで自分の将来設計に役立ちます。また、UNIPAに課題を提出する機会もあります。3～4年次の就職活動にも活用できます。「自己のふりかえり」資料となるので、提出と保存、ふりかえりを行ってください。
・授業への出席だけでなく、卒業後の自分、社会で活動している自分を常にイメージしながら、日常生活において、勉強、読書、ボランティア活動、サークル活動、社会人との対話などにも積極的にかかわるようにしてください。

学びのキーワード

- ・自己分析・自己理解・自分らしさ・自己肯定
- ・将来設計・キャリア・生き方
- ・コミュニケーション
- ・社会人基礎力・職業興味
- ・社会人との交流・ビジネスマナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. 大学生生活とキャリアデザイン(1) ～大学生生活もキャリアの一
03. 大学生生活とキャリアデザイン(2) ～好きなこととストレスマネジメント
04. 大学生生活とキャリアデザイン(3) ～自信創出力と豊かな感情表現
05. 自分らしさの探究～特徴
06. 自分らしさの探究～価値観
07. 自分らしさの探究～リーダーシップ
08. 生き方研究～職業人インタビュー(1)
09. 生き方研究～職業人インタビュー(2)
10. 生き方研究～人生ゲームを用いて
11. 「働く」と自分自身～社会人基礎力と自分との接点
12. 「働く」と自分自身～説明力の鍛え方
13. 「働く」と自分自身～職業興味タイプ診断
14. 大学生生活とキャリアデザイン(4)～将来とのつながり
15. まとめ レポート提出

準備学習(予習)

毎回、自己PRや気になる新聞記事の発表、学びのシェアなど、ミニプレゼンテーションがあります。テーマに基づき準備をしておいてください。

準備学習(復習)

毎回、授業についてのふりかえりと感想を授業シートに記述し提出します。授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------------|
| (1) 平常点 | 60% | 演習・ワークへの参加、発表、相互フィードバック |
| (2) 課題への取り組み | 30% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 10% | |

教科書

プリントを配布します。

参考書

プリントを配布します。

担当教員：奥 富美子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652341

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分自身のこれまでと今をみつめ、将来をどう設計していくかを考えることがキャリアデザインです。この科目では、キャリア（＝学生生活、家庭生活を含め、卒業後の職業生活を加えた生き方）について考え、生涯にわたる自分自身のキャリアをデザインするうえで必要な考え方を、理論と実践とで学びます。大学卒業後に過ごす社会には正解がありません。自分で考え、自分で決断し、自分で行動する人が求められています。こうした力を養うため、キャリアの主人公は自分自身であることを意識しながら、将来職業に就き社会で活動するための準備をする科目です。「社会人による授業参画」を通して、職業理解や社会とのつながり、働くことを考えます。自分に興味を持ち、ペアワークやグループワークでの他者からのフィードバックも参考にしながら「自分らしさ」を追求し自信につなげていきましょう。今も卒業後の将来も発揮できる自分の魅力を明らかにして磨いていきましょう。

(2) 内容

自己のキャリア形成に重要な能力とは何か、「熟考する・調べる・自分の考えを述べる・他者の考えを聴く」「自らの意思で決断する・行動する」などが大切であることを理解します。毎回、講義と演習（個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など）を行います。席替えやグループ編成の変更なども頻繁に行います。授業中のこれらの実践を通して、生きる力の基盤となるコミュニケーション力を高めます。様々なワークを通して、自分に興味を持ち、自分の持ち味・強みを明確にします。人の生き方に興味を持ち、自分のキャリアに関心を向け、これからの自分のキャリアビジョンを描きます。社会人も頻繁に参加します。「大人と対話する力」を養い、就職活動や卒業後の社会における人とのかわり方の基礎力づくりをします。

受講者に対する要望

・学生生活を充実させ、その延長線上にある職業人生の充実へとつなげるため、授業での取り組み、体験の蓄積によりその力を養います。よって、「授業において積極的に参加すること」が望まれます。この科目で何を学べるかは自分次第です。堅苦しく考える必要はありません。「気楽に楽しく取り組む」ことで、気づきや学びが得やすくなります。自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止める、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。互いを尊重し、強みを引き出しあい、応援し合うクラスをつくっていきましょう。

・「キャリアファイル」を準備してください。（A4サイズ）授業でおこなったワークのプリントや資料を収納します。「自分自身について考えたこと」を可視化し、学びを蓄積していくことで自分の将来設計に役立ちます。また、UNIPAに課題を提出する機会もあります。3～4年次の就職活動にも活用できます。「自己のふりかえり」資料となるので、提出と保存、ふりかえりを行ってください。

・授業への出席だけでなく、卒業後の自分、社会で活動している自分を常にイメージしながら、日常生活において、勉強、読書、ボランティア活動、サークル活動、社会人との対話などにも積極的にかかわるようにつけてください。

学びのキーワード

- ・自己分析・自己理解・自分らしさ・自己肯定
- ・将来設計・キャリア・生き方
- ・コミュニケーション
- ・社会人基礎力・職業興味
- ・社会人との交流・ビジネスマナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. 大学生生活とキャリアデザイン（1）～大学生生活もキャリアの一
03. 大学生生活とキャリアデザイン（2）～好きなこととストレスマネジメント
04. 大学生生活とキャリアデザイン（3）～自信創出力と豊かな感情表現
05. 自分らしさの探究～特徴
06. 自分らしさの探究～価値観
07. 自分らしさの探究～リーダーシップ
08. 生き方研究～職業人インタビュー（1）
09. 生き方研究～職業人インタビュー（2）
10. 生き方研究～人生ゲームを用いて
11. 「働く」と自分自身～社会人基礎力と自分との接点
12. 「働く」と自分自身～説明力の鍛え方
13. 「働く」と自分自身～職業興味タイプ診断
14. 大学生生活とキャリアデザイン（4）～将来とのつながり
15. まとめ レポート提出

準備学習(予習)

毎回、自己PRや気になる新聞記事の発表、学びのシェアなど、ミニプレゼンテーションがあります。テーマに基づき準備をしておいてください。

準備学習(復習)

毎回、授業についてのふりかえりと感想を授業シートに記述し提出します。授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------------|
| (1) 平常点 | 60% | 演習・ワークへの参加、発表、相互フィードバック |
| (2) 課題への取り組み | 30% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 10% | |

教科書

プリントを配布します。

参考書

プリントを配布します。

担当教員：奥 富美子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：11652342

学部教育の関連目

【全】初年に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分自身のこれまでと今をみつめ、将来をどう設計していくかを考えることがキャリアデザインです。この科目では、キャリア(=学生生活、家庭生活を含め、卒業後の職業生活を加えた生き方)について考え、生涯にわたる自分自身のキャリアをデザインするうえで必要な考え方を、理論と実践とで学びます。大学卒業後に過ごす社会には正解がありません。自分で考え、自分で決断し、自分で行動する人が求められています。こうした力を養うため、キャリアの主人公は自分自身であることを意識しながら、将来職業に就き社会で活動するための準備をする科目です。「社会人による授業参画」を通して、職業理解や社会とのつながり、働くことを考えます。自分に興味を持ち、ペアワークやグループワークでの他者からのフィードバックも参考にしながら「自分らしさ」を追求し自信につなげていきましょう。今も卒業後の将来も発揮できる自分の魅力を明らかにして磨いていきましょう。

(2) 内容

自己のキャリア形成に重要な能力とは何か、「熟考する・調べる・自分の考えを述べる・他者の考えを聴く」「自らの意思で決断する・行動する」などが大切であることを理解します。毎回、講義と演習(個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など)を行います。席替えやグループ編成の変更なども頻繁に行います。授業中のこれらの実践を通して、生きる力の基盤となるコミュニケーション力を高めます。様々なワークを通して、自分に興味を持ち、自分の持ち味・強みを明確にします。人の生き方に興味を持ち、自分のキャリアに関心を向け、これからの自分のキャリアビジョンを描きます。社会人も頻繁に参加します。「大人と対話する力」を養い、就職活動や卒業後の社会における人とのかわり方の基礎力づくりをします。

受講者に対する要望

・学生生活を充実させ、その延長線上にある職業人生の充実へとつなげるため、授業での取り組み、体験の蓄積によりその力を養います。よって、「授業において積極的に参加する」ことが望まれます。この科目で何を学べるかは自分次第です。堅苦しく考える必要はありません。「気楽に楽しく取り組む」ことで、気づきや学びが得やすくなります。自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止める、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。互いを尊重し、強みを引き出しあい、応援し合うクラスをつくっていきましょう。
・「キャリアファイル」を準備してください。(A4サイズ) 授業でおこなったワークのプリントや資料を収納します。「自分自身について考えたこと」を可視化し、学びを蓄積していくことで自分の将来設計に役立ちます。また、UNIPAに課題を提出する機会もあります。3～4年次の就職活動にも活用できます。「自己のふりかえり」資料となるので、提出と保存、ふりかえりを行ってください。
・授業への出席だけでなく、卒業後の自分、社会で活動している自分を常にイメージしながら、日常生活において、勉強、読書、ボランティア活動、サークル活動、社会人との対話などにも積極的にかかわるようにしてください。

学びのキーワード

- ・自己分析・自己理解・自分らしさ・自己肯定
- ・将来設計・キャリア・生き方
- ・コミュニケーション
- ・社会人基礎力・職業興味
- ・社会人との交流・ビジネスマナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. 大学生活とキャリアデザイン(1) ～大学生活もキャリアの一
03. 大学生活とキャリアデザイン(2) ～好きなこととストレスマネジメント
04. 大学生活とキャリアデザイン(3) ～自信創出力と豊かな感情表現
05. 自分らしさの探究～特徴
06. 自分らしさの探究～価値観
07. 自分らしさの探究～リーダーシップ
08. 生き方研究～職業人インタビュー(1)
09. 生き方研究～職業人インタビュー(2)
10. 生き方研究～人生ゲームを用いて
11. 「働く」と自分自身～社会人基礎力と自分との接点
12. 「働く」と自分自身～説明力の鍛え方
13. 「働く」と自分自身～職業興味タイプ診断
14. 大学生活とキャリアデザイン(4)～将来とのつながり
15. まとめ レポート提出

準備学習(予習)

毎回、自己PRや気になる新聞記事の発表、学びのシェアなど、ミニプレゼンテーションがあります。テーマに基づき準備をしておいてください。

準備学習(復習)

毎回、授業についてのふりかえりと感想を授業シートに記述し提出します。授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------------|
| (1) 平常点 | 60% | 演習・ワークへの参加・発表、相互フィードバック |
| (2) 課題への取り組み | 30% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 10% | |

教科書

プリントを配布します。

参考書

プリントを配布します。

担当教員：酒井 俊行

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11653001

学部教育の関連目

【全】初年に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

就活を意識した場合、準備しなければならないことがいくつかあります。中でもエントリーシートを書いたり、面接に臨んだりするための準備は周到にしなければなりません。エントリーシートというのは読んで名のごとし。志望先にアプローチするためのツールです。この書き方によって先に進めるか否かが大きく左右されます。

エントリーシートで重要なのは、自己PRと志望の動機がきちん書きけていることです。この授業では志望動機を過不足なく書けるようになるために不可欠な「業界・企業研究」について勉強します。

これまでの先輩がたの例を挙げると、遺憾ながら面接を含めて志望動機を相手先によく伝えることが出来なかったケースが多かったと言えます。志望動機をうまく伝えることが出来ないのは、それが全てではありませんが、業界・企業研究が不十分であるからと言って過言ではありません。そのために、この授業が必要とされるのです。

「転ばぬ先の杖」ということがあります。またものごとにはすべからず「傾向と対策」があります。就活本番での成功を掴み取るために、是非一緒に勉強して行きましょう。

(2) 内容

就活を意識した場合に、まず押さえておかなければならないのは就活の仕組みを知ることです。昨今の就活においては、無手勝流でチャレンジすることは極めて非効率と言えます。孫子の兵法に言うとおりに、百戦を危うくしないためには、敵を知り、己を知らなければなりません。

「己を知ること」は自己分析ということですが、ここで「敵を知ること」が『業界・企業分析』の作業ということになります。就職を希望する企業が必ずしも敵ということではありません。しかし相手を知らないでチャレンジすることは無謀ですし、何よりも先方企業に失礼です。

この授業では必要最小限の範囲で、皆さんが就活に臨んでクリアしなければならない、業界や企業に関する研究の方法を学ぶこととします。演習は計5回実施します。この演習は企業紹介のビデオを見て、それを予め提示するフォームに従って纏めるという形をとります。演習を繰り返せば、業界・企業研究の方法が十分身に付くはずで

受講者に対する要望

真面目に就活に取り組む意欲の強い学生の受講を希望します。

学びのキーワード

- ・ 就活の仕組みを知る
- ・ エントリーシートを知る
- ・ 業界・企業＝敵を知る

授業計画

01. オリエンテーション
02. 就活の仕組みを知る
03. 業界・企業研究とエントリーシート・面接
04. 業界研究の必要性
05. 業界（産業）と職業の体系的構造
06. いくつかの業界例
07. 企業研究の必要性
08. 企業研究の方法
09. 働く場としての中堅・中小企業
10. 業界研究の実習（1）
11. 業界研究の実習（2）
12. 企業研究の実習（1）
13. 企業研究の実習（2）
14. 企業研究の実習（3）
15. まとめ

準備学習(予習)

受講する学生は、並行して、マナー、言葉遣い、一般常識等のシェープアップについても心掛けるようして下さい。

準備学習(復習)

実践が大事です。その都度指示する課題が復習になりますので、作業指示は絶対を守りるようにして下さい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価 |
| (2) 演習結果 | 30% | 計5回実施する全ての演習が対象 |
| (3) 最終レポート | 30% | 総合的な完成度尾を確認 |

教科書

参考書

担当教員：中田 順平

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11653002

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を理解することにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分自身の将来を考えるうえで、業界・企業研究は欠かせません。業界・企業によって働き方は様々ですし、それぞれの企業で求められる人材（能力・キャラクターなど）も様々だからです。それらを理解していくことが大切です。あなたはどんな将来を実現していきたいのか？それを実現できるのはどのようなフィールドなのか？業界・企業研究ができるようになることで、あなたが望む将来を実現するためにはどのような業界・企業を選べば良いのか、を判断する力が身につきます。また、あなたを評価してくれる可能性の高い業界・企業も見極めやすくなるでしょう。また、就職活動の選考においては、多くの企業から志望理由（なぜその会社を志望したのか）が問われます。そうした場面で、企業が納得する志望理由を伝えられるようになるためには、業界・企業理解が欠かせません。毎回の講義とワーク実践を通して、自分で基本的な業界・企業研究ができるようになるよう、一緒に学んでいきましょう。

(2) 内容

この講座では、業界・企業研究の方法を学びます。ところで、何のために業界・企業研究を行うのでしょうか？商品やサービスを購入する際にその会社が信頼に値するのかわかるため、大事な資産の投資先を決めるため、就職先を選ぶためなど、様々な場面で業界・企業研究が求められています。この講座で学ぶのは、あなたが自分自身の卒業後の進路を考えたこと、また、進路・就職選択において望む結果を手に入れること、そのために役立つ業界・企業研究の方法です。現在、日本国内だけでも数百万社の企業が存在すると言われてます。そのすべてを詳細に理解することは現実的に不可能ですし、その必要もありません。業界・企業を理解するために必要なポイントを理解し、そのポイントを押さえて研究していけば良いのです。そうしたポイントをひとつひとつ学んでいきます。事業内容の理解、職種の理解から、より踏み込んだ企業の特徴までをワークを通して学んでいきます。また、社会人へのインタビューや実際に業界・企業研究を行うことを通して、自分自身で業界・企業研究ができることを目指します。多くの学生が苦戦する業界・企業研究の基礎をこの講座で一緒に学んでいきましょう。

受講者に対する要望

実際に自分自身で業界・企業研究ができるようになるためには、知識だけでなく、実践練習が欠かせません。真剣に授業を聴くだけでなく、ワークに取り組む、発表するなど自分から積極的に授業に参加してください。難しく考える必要はありません。楽しみながらリラックスして取り組める雰囲気と一緒につくっていきましょう。

学びのキーワード

- ・就職活動の基礎
- ・業界・企業研究の方法を知る
- ・自分がどんな業界・企業に興味を持てるかを知る
- ・将来設計・キャリア・生き方
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 業界・企業研究とは何か？|業界・企業研究とは何か？なぜ業界・企業研究が必要なのか？
03. 業界・企業研究の基礎 (1) |業界・企業・職種研究の流れをつかむ
04. 業界・企業研究の基礎 (2) |業界・企業・職種研究の流れをつかむ
05. 業界・企業研究の基礎 (3) |業界・企業・職種研究をやってみる
06. 業界・企業研究の基礎 (4) |業界・企業・職種で求められる力 2種類のスキルとは？
07. 業界・企業研究の基礎 (5) |業界・企業・職種で求められる力を考える
08. 業界・企業研究の実践 (1) |業界・企業・職種研究を行い、求められる力を考える
09. 業界・企業研究の実践 (2) |業界・企業・職種研究を行い、求められる力を考える
10. 社会人インタビュー準備|インタビューの基礎準備を行う
11. 社会人インタビュー|社会人にお話をうかがう
12. 社会人インタビュー振り返り|インタビューの振り返りを行う
13. 業界・企業研究の実践 (3) |業界・企業・職種研究を行い、求められる力を考える
14. 業界・企業研究実習 (4) |個人レポートの作成・発表
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回授業についての振り返りシート（感想・自己評価）を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき、気づいた課題を振り返り、学びを力に変えていってください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 出席率と演習・ワークへの参加、発表 |
| (2) 課題への取り組み | 35% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 25% | |

教科書

参考書

担当教員：酒井 俊行

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11653003

学部教育の関連目

【全】初年に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

就活を意識した場合、準備しなければならないことがいくつかあります。中でもエントリーシートを書いたり、面接に臨んだりするための準備は周到にしなければなりません。エントリーシートというのは読んで名のごとし。志望先にアプローチするためのツールです。この書き方によって先に進めるか否かが大きく左右されます。

エントリーシートで重要なのは、自己PRと志望の動機がきちり書けていることです。この授業では志望動機を過不足なく書けるようになるために不可欠な「業界・企業研究」について勉強します。

これまでの先輩がたの例を挙げると、遺憾ながら面接を含めて志望動機を相手先によく伝えることが出来なかったケースが多かったと言えます。志望動機をうまく伝えることが出来ないのは、それが全てではありませんが、業界・企業研究が不十分であるからと言って過言ではありません。そのために、この授業が必要とされるのです。

「転ばぬ先の杖」ということがあります。またものごとにはすべからず「傾向と対策」があります。就活本番での成功を掴み取るために、是非一緒に勉強して行きましょう。

(2) 内容

就活を意識した場合に、まず押さえておかなければならないのは就活の仕組みを知ることです。昨今の就活においては、無手勝流でチャレンジすることは極めて非効率と言えます。孫子の兵法に言うとおりに、百戦を危うくしないためには、敵を知り、己を知らなければなりません。

「己を知ること」は自己分析ということですが、ここで「敵を知ること」が『業界・企業分析』の作業ということになります。就職を希望する企業が必ずしも敵ということではありません。しかし相手を知らないでチャレンジすることは無謀ですし、何よりも先方企業に失礼です。

この授業では必要最小限の範囲で、皆さんが就活に臨んでクリアしなければならない、業界や企業に関する研究の方法を学ぶこととします。演習は計5回実施します。この演習は企業紹介のビデオを見て、それを予め提示するフォームに従って纏めるという形をとります。演習を繰り返せば、業界・企業研究の方法が十分身に付くはずで

受講者に対する要望

真面目に就活に取り組む意欲の強い学生の受講を希望します。

学びのキーワード

- ・ 就活の仕組みを知る
- ・ エントリーシートを知る
- ・ 業界・企業=敵を知る

授業計画

01. オリエンテーション
02. 就活の仕組みを知る
03. 業界・企業研究とエントリーシート・面接
04. 業界研究の必要性
05. 業界（産業）と職業の体系的構造
06. いくつかの業界例
07. 企業研究の必要性
08. 企業研究の方法
09. 働く場としての中堅・中小企業
10. 業界研究の実習（1）
11. 業界研究の実習（2）
12. 企業研究の実習（1）
13. 企業研究の実習（2）
14. 企業研究の実習（3）
15. まとめ

準備学習(予習)

受講する学生は、並行して、マナー、言葉遣い、一般常識等のシェープアップについても心掛けるようして下さい。

準備学習(復習)

実践が大事です。その都度指示する課題が復習になりますので、作業指示は絶対に守るようにして下さい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価 |
| (2) 演習結果 | 30% | 計5回実施する全ての演習が対象 |
| (3) 最終レポート | 30% | 総合的な完成度尾を確認 |

教科書

参考書

担当教員：中田 順平

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11653004

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を理解することにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分自身の将来を考えるうえで、業界・企業研究は欠かせません。業界・企業によって働き方は様々ですし、それぞれの企業で求められる人材（能力・キャラクターなど）も様々だからです。それらを理解していくことが大切です。あなたはどんな将来を実現していきたいのか？それを実現できるのはどのようなフィールドなのか？業界・企業研究ができるようになることで、あなたが望む将来を実現するためにはどのような業界・企業を選べば良いのか、を判断する力が身につきます。また、あなたを評価してくれる可能性の高い業界・企業も見極めやすくなるでしょう。また、就職活動の選考においては、多くの企業から志望理由（なぜその会社を志望したのか）が問われます。そうした場面で、企業が納得する志望理由を伝えられるようになるためには、業界・企業理解が欠かせません。毎回の講義とワーク実践を通して、自分で基本的な業界・企業研究ができるようになるよう、一緒に学んでいきましょう。

(2) 内容

この講座では、業界・企業研究の方法を学びます。ところで、何のために業界・企業研究を行うのでしょうか？商品やサービスを購入する際にその会社が信頼に値するのかわかるため、大事な資産の投資先を決めるため、就職先を選ぶためなど、様々な場面で業界・企業研究が求められています。この講座で学ぶのは、あなたが自分自身の卒業後の進路を考えたこと、また、進路・就職選択において望む結果を手に入れること、そのために役立つ業界・企業研究の方法です。現在、日本国内だけでも数百万社の企業が存在すると言われていています。そのすべてを詳細に理解することは実質的に不可能ですし、その必要もありません。業界・企業を理解するために必要なポイントを理解し、そのポイントを押さえて研究していけば良いのです。そうしたポイントをひとつひとつ学んでいきます。事業内容の理解、職種の理解から、より踏み込んだ企業の特徴までをワークを通して学んでいきます。また、社会人へのインタビューや実際に業界・企業研究を行うことを通して、自分自身で業界・企業研究ができることを目指します。多くの学生が苦戦する業界・企業研究の基礎をこの講座で一緒に学んでいきましょう。

受講者に対する要望

実際に自分自身で業界・企業研究ができるようになるためには、知識だけでなく、実践練習が欠かせません。真剣に授業を聴くだけでなく、ワークに取り組む、発表するなど自分から積極的に授業に参加してください。難しく考える必要はありません。楽しみながらリラックスして取り組める雰囲気と一緒につくっていきましょう。

学びのキーワード

- ・就職活動の基礎
- ・業界・企業研究の方法を知る
- ・自分がどんな業界・企業に興味を持てるかを知る
- ・将来設計・キャリア・生き方
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 業界・企業研究とは何か？|業界・企業研究とは何か？なぜ業界・企業研究が必要なのか？
03. 業界・企業研究の基礎 (1) |業界・企業・職種研究の流れをつかむ
04. 業界・企業研究の基礎 (2) |業界・企業・職種研究の流れをつかむ
05. 業界・企業研究の基礎 (3) |業界・企業・職種研究をやってみる
06. 業界・企業研究の基礎 (4) |業界・企業・職種で求められる力 2種類のスキルとは？
07. 業界・企業研究の基礎 (5) |業界・企業・職種で求められる力を考える
08. 業界・企業研究の実践 (1) |業界・企業・職種研究を行い、求められる力を考える
09. 業界・企業研究の実践 (2) |業界・企業・職種研究を行い、求められる力を考える
10. 社会人インタビュー準備|インタビューの基礎準備を行う
11. 社会人インタビュー|社会人にお話をうかがう
12. 社会人インタビュー振り返り|インタビューの振り返りを行う
13. 業界・企業研究の実践 (3) |業界・企業・職種研究を行い、求められる力を考える
14. 業界・企業研究実習 (4) |個人レポートの作成・発表
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回授業についての振り返りシート（感想・自己評価）を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき、気づいた課題を振り返り、学びを力に変えていってください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 出席率と演習・ワークへの参加、発表 |
| (2) 課題への取り組み | 35% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 25% | |

教科書

参考書

インターンシップI (事前学習)

GREE-0-300

担当教員：酒井 俊行

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：11653111

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を理解することにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。

またここで単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解されます。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎません。

インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターンシップに出る必要などないわけです。企業やお役所での実習を通じて、しっかり鍛えてもらうことこそがその目的です。そうした意味で、この授業は、そのための助走路を提供するというにすぎないと言った方がいいのかもしれない。

(2) 内容

この授業では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。事前準備ですから、当然のこと実習（インターンシップⅡ）に出ることが大前提となります。実習に出ないのであればこの授業を履修する意味がありません。就活を意識した場合、採用企業がインターンシップへの参加を高く評価していることは間違いありません。企業によっては、インターンシップに参加した学生を選考上無条件で次のステップに進ませることもあります。インターンシップは、そこまで重要視されているのだということをもっと理解して下さい。

また事前準備と言っても、わずか4ヶ月の座学で、全ての準備が可能になるなどとは思わないで下さい。ここでは皆さん1人1人のこれまでの人生における学びの集大成がまず問われます。例えばビジネスマナーやビジネス上の言葉づかいなどを考えてみましょう。社会人としてのマナーや言葉遣いは、決して大学で学ぶものではないはずですが、これまで皆さんが生活して来た過程、即ち学校生活、家庭生活、社会生活の中で自然に身に付いているものでなければなりません。

そうしたところから、授業末節に及ぶノウハウをここで学んでも、私はあまり効果がないと考えています。それよりも学生生活を通じて身に付けるべきことがらをチェックする方が、急がば回れ。効果が大きいものと考えられます。そのためにテキストとして、塚谷正彦『大学生の生き方・考え方』を採用します。このテキストでは、ある意味社会人が期待する学生の在り様が浮かび上がります。そうした学生像に100%迎合することはありませんが、それを知ることは、必然的にインターンシップの事前準備に繋がりますし、そして何よりも、就活本番への備えに資するということなのです。

受講者に対する要望

どの授業でもそうなのですが、特にこの授業は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないこととなります。そのため履修者には100%の出席率が求められます。100%の出席に自信がない皆さんは、履修を遠慮してもらった方が賢明かもしれません。

学びのキーワード

- ・ 就活の仕組みを知る
- ・ 自分の足りないところを知る
- ・ キャリアプランを描く

授業計画

01. オリエンテーション
02. 映画から学ぶインターンシップ①
03. 映画から学ぶインターンシップ②
04. 改めてインターンシップを考える+CANPUSWEBの登録法
05. 実習前チェックⅠ（社会の期待①+マナー①+語感①+SPI①）
06. 実習前チェックⅡ（社会の期待②+マナー②+語感②+SPI②）
07. 実習前チェックⅢ（社会の期待③+マナー③+語感③+SPI③）
08. 実習前チェックⅣ（社会の期待④+マナー④+語感④+SPI④）
09. 実習前チェックの中間確認と自己チェック
10. 実習前チェックⅤ（社会の期待⑤+マナー⑤+語感⑤+SPI⑤）
11. 実習前チェックⅥ（社会の期待⑥+マナー⑥+語感⑥+SPI⑥）
12. 実習前チェックⅦ（社会の期待⑦+マナー⑦+語感⑦+SPI⑦）
13. 実習前チェックⅧ（社会の期待⑧+マナー⑧+語感⑧+SPI⑧）
14. 実習前チェックの最終確認+ビデオに見るPBL型インターンシップ
15. まとめ：インターンシップを楽しもう！

準備学習(予習)

これまでの学生生活において何をしてきたかは、折に触れて整理しておいて下さい。また就活を意識すれば、長髪や茶髪などはそろそろ卒業した方がよいと思います。

準備学習(復習)

この授業で学んだことはインターンシップ実習に出た時に、有形無形に有効です。その都度、しっかりノートを取り、学んだことを確実に自分のものにして下さい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価 |
| (2) 中間レポート | 30% | 課題に従って学期中に4~5回程度提出（含む確認テスト） |
| (3) 最終レポート | 30% | インターンシップ実習の課題を記述 |

教科書

参考書

塚谷正彦 『大学生の生き方・考え方』（実教出版）【978-4407305418】

インターンシップI (事前学習)

GREE-0-300

担当教員：酒井 俊行

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653112

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を理解することにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。

またここで単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解されます。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎません。

インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターンシップに出る必要などないわけです。企業やお役所での実習を通じて、しっかり鍛えてもらうことがその目的です。そうした意味で、この授業は、そのための助走路を提供するというにすぎないと言った方がいいのかもしれない。

(2) 内容

この授業では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。事前準備ですから、当然のこと実習（インターンシップⅡ）に出ることが大前提となります。実習に出ないのであればこの授業を履修する意味がありません。就活を意識した場合、採用企業がインターンシップへの参加を高く評価していることは間違いありません。企業によっては、インターンシップに参加した学生を選考上無条件で次のステップに進ませることもあります。インターンシップは、そこまで重要視されているのだということをもっと理解して下さい。

また事前準備と言っても、わずか4ヶ月の座学で、全ての準備が可能になるなどとは思わないで下さい。ここでは皆さん1人1人のこれまでの人生における学びの集大成がまず問われます。例えばビジネスマナーやビジネス上の言葉づかいなどを考えてみましょう。社会人としてのマナーや言葉遣いは、決して大学で学ぶものではないはずですが、これまで皆さんが生活して来た過程、即ち学校生活、家庭生活、社会生活の中で自然に身に付いているものでなければなりません。

そうしたところから、授業末節に及ぶノウハウをここで学んでも、私はあまり効果がないと考えています。それよりも学生生活を通じて身に付けるべきことがらをチェックする方が、急がば回れ。効果が大きいものと考えられます。そのためにテキストとして、塚谷正彦『大学生の生き方・考え方』を採用します。このテキストでは、ある意味社会人が期待する学生の在り様が浮かび上がります。そうした学生像に100%迎合することはありませんが、それを知ることは、必然的にインターンシップの事前準備に繋がりますし、そして何よりも、就活本番への備えに資するということなのです。

受講者に対する要望

どの授業でもそうなのですが、特にこの授業は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないこととなります。そのため履修者には100%の出席率が求められます。100%の出席に自信がない皆さんは、履修を遠慮してもらった方が賢明かもしれません。

学びのキーワード

- ・ 就活の仕組みを知る
- ・ 自分の足りないところを知る
- ・ キャリアプランを描く

授業計画

01. オリエンテーション
02. 映画から学ぶインターンシップ①
03. 映画から学ぶインターンシップ②
04. 改めてインターンシップを考える+CANPUSWEBの登録法
05. 実習前チェックⅠ（社会の期待①+マナー①+語感①+SPI①）
06. 実習前チェックⅡ（社会の期待②+マナー②+語感②+SPI②）
07. 実習前チェックⅢ（社会の期待③+マナー③+語感③+SPI③）
08. 実習前チェックⅣ（社会の期待④+マナー④+語感④+SPI④）
09. 実習前チェックの中間確認と自己チェック
10. 実習前チェックⅤ（社会の期待⑤+マナー⑤+語感⑤+SPI⑤）
11. 実習前チェックⅥ（社会の期待⑥+マナー⑥+語感⑥+SPI⑥）
12. 実習前チェックⅦ（社会の期待⑦+マナー⑦+語感⑦+SPI⑦）
13. 実習前チェックⅧ（社会の期待⑧+マナー⑧+語感⑧+SPI⑧）
14. 実習前チェックの最終確認+ビデオに見るPBL型インターンシップ
15. まとめ：インターンシップを楽しもう！

準備学習(予習)

これまでの学生生活において何をしてきたかは、折に触れて整理しておいて下さい。また就活を意識すれば、長髪や茶髪などはそろそろ卒業した方がよいと思います。

準備学習(復習)

この授業で学んだことはインターンシップ実習に出た時に、有形無形に有効です。その都度、しっかりノートを取り、学んだことを確実に自分のものにして下さい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価 |
| (2) 中間レポート | 30% | 課題に従って学期中に4~5回程度提出（含む確認テスト） |
| (3) 最終レポート | 30% | インターンシップ実習の課題を記述 |

教科書

参考書

塚谷正彦 『大学生の生き方・考え方』（実教出版）【978-4407305418】

インターンシップI (事前学習)

GREE-0-300

担当教員：酒井 俊行

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653113

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を理解することにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。

またここで単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解されます。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎません。

インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターンシップに出る必要などないわけです。企業やお役所での実習を通じて、しっかり鍛えてもらうことこそがその目的です。そうした意味で、この授業は、そのための助走路を提供するというにすぎないと言った方がいいのかもしれない。

(2) 内容

この授業では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。事前準備ですから、当然のこと実習（インターンシップⅡ）に出ることが大前提となります。実習に出ないのであればこの授業を履修する意味がありません。就活を意識した場合、採用企業がインターンシップへの参加を高く評価していることは間違いありません。企業によっては、インターンシップに参加した学生を選考上無条件で次のステップに進ませることもあります。インターンシップは、そこまで重要視されているのだということをもっと理解して下さい。

また事前準備と言っても、わずか4ヶ月の座学で、全ての準備が可能になるなどとは思わないで下さい。ここでは皆さん1人1人のこれまでの人生における学びの集大成がまず問われます。例えばビジネスマナーやビジネス上の言葉づかいなどを考えてみましょう。社会人としてのマナーや言葉遣いは、決して大学で学ぶものではないはずですが、これまで皆さんが生活して来た過程、即ち学校生活、家庭生活、社会生活の中で自然に身に付いているものでなければなりません。

そうしたところから、授業末節に及ぶノウハウをここで学んでも、私にはあまり効果がないと考えています。それよりも学生生活を通じて身に付けるべきことがらをチェックする方が、急がば回れ。効果が大きいものと考えられます。そのためにテキストとして、塚谷正彦『大学生の生き方・考え方』を採用します。このテキストでは、ある意味社会人が期待する学生の在り様が浮かび上がります。そうした学生像に100%迎合することはありませんが、それを知ることは、必然的にインターンシップの事前準備に繋がりますし、そして何よりも、就活本番への備えに資するということです。

受講者に対する要望

どの授業でもそうなのですが、特にこの授業は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないこととなります。そのため履修者には100%の出席率が求められます。100%の出席に自信がない皆さんは、履修を遠慮してもらった方が賢明かもしれません。

学びのキーワード

- ・ 就活の仕組みを知る
- ・ 自分の足りないところを知る
- ・ キャリアプランを描く

授業計画

01. オリエンテーション
02. 映画から学ぶインターンシップ①
03. 映画から学ぶインターンシップ②
04. 改めてインターンシップを考える+CANPUSWEBの登録法
05. 実習前チェックⅠ（社会の期待①+マナー①+語感①+SPI①）
06. 実習前チェックⅡ（社会の期待②+マナー②+語感②+SPI②）
07. 実習前チェックⅢ（社会の期待③+マナー③+語感③+SPI③）
08. 実習前チェックⅣ（社会の期待④+マナー④+語感④+SPI④）
09. 実習前チェックの中間確認と自己チェック
10. 実習前チェックⅤ（社会の期待⑤+マナー⑤+語感⑤+SPI⑤）
11. 実習前チェックⅥ（社会の期待⑥+マナー⑥+語感⑥+SPI⑥）
12. 実習前チェックⅦ（社会の期待⑦+マナー⑦+語感⑦+SPI⑦）
13. 実習前チェックⅧ（社会の期待⑧+マナー⑧+語感⑧+SPI⑧）
14. 実習前チェックの最終確認+ビデオに見るPBL型インターンシップ
15. まとめ：インターンシップを楽しもう！

準備学習(予習)

これまでの学生生活において何をしてきたかは、折に触れて整理しておいて下さい。また就活を意識すれば、長髪や茶髪などはそろそろ卒業した方がよいと思います。

準備学習(復習)

この授業で学んだことはインターンシップ実習に出た時に、有形無形に有効です。その都度、しっかりノートを取り、学んだことを確実に自分のものにして下さい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価 |
| (2) 中間レポート | 30% | 課題に従って学期中に4~5回程度提出（含む確認テスト） |
| (3) 最終レポート | 30% | インターンシップ実習の課題を記述 |

教科書

塚谷正彦『脱フリーター宣言!大学生の生き方・考え方』（実教出版）【978-4407305418】

参考書

インターンシップI (事前学習)

GREE-0-300

担当教員：中田 順平

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653114

学部教育の関連目

【全】初年に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事をすることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

残りの大学時代をどう過ごしていくのか、また大学卒業後、自分がどんな進路を選択するのか、現在のあなたは明確な考えを持っていますか？大学時代の過ごし方は、あなたの将来に大きな影響を与えます。進学、就職、あるいは起業など、どんな選択をするのかはひとりひとり異なります。では、どうすれば納得のいく選択ができるのでしょうか？インターンシップ実習はこれらを考える絶好の機会となります。これまで関わったことがない人との出会いやコミュニケーション、それらを通してあなた自身が様々なことを感じ・考えることで、自分が望むことが少しずつつかめるようになっていくでしょう。また、ご自身の方向性が明確な人はその選択肢を手に入れるための手段を深く考える機会となるでしょう。

インターンシップをそうした有意義な機会にしていくための準備を本講座では行います。

インターンシップは近年では就職活動においても欠かせないものになってきています。採用選考にインターンシップを導入している企業もあります。

この講座で学ぶことは、進路を考える役に立つ、インターンシップ実習を実りあるものにする、というだけでなく、就職活動の際にも役立つ内容となっています。

また、社会人として必要なビジネスマナーや基礎的なコミュニケーションについては、ワーク実践を通して学びます。マナーやコミュニケーションは知識として知っているだけでなく、身につけて実践できることが重要です。毎回の授業を通して、少しずつ力をつけていきましょう。

(2) 内容

この講座はインターンシップ実習の事前学習の講座です。インターンシップに向けて準備をしていく内容になりますので、受講においてはインターンシップに参加することが前提となります。

昨今、大学生にとってインターンシップの存在は無視できないものになってきました。

インターンシップとは何なのか、なぜ今インターンシップが注目されているのか、インターンシップと就職活動の関係など、まずインターンシップの基本的理解を行います。

そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていきます。実習先を決めるための準備として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは将来の進路先・就職先の選択にもつながっていきます。また、実習にのぞむにあたって必要なビジネスマナーやコミュニケーションについても学びます。

インターンシップ実習をただ漠然過ごすのか、将来につながる機会にしていくのか、それは準備の質に大きく左右されます。充実したインターンシップにできるように、一緒に楽しみながら学んでいきましょう。

受講者に対する要望

インターンシップの実習先では、社会人としてのマナーやコミュニケーションが求められます。これらができるようになるためには、知識として知っているだけでなく、実践練習が欠かせません。人の話を聴く、発言する、ワークをするなど、授業内での実践に積極的に参加することで力をつけていってください。毎回の振り返りシートもそうした実践のひとつです。あなたの学びや疑問を積極的に表現してください。

学びのキーワード

- ・インターンシップと就職活動、履歴書・エントリーシート
- ・コミュニケーション
- ・自己理解・自己PR、キャリア・将来設計
- ・業界・企業理解
- ・ビジネスマナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. インターンシップを理解する|インターンシップとは何か？なぜインターンシップが必要とされているのか？
03. コミュニケーション基礎 (1) |社会人に求められるコミュニケーションを理解・実践する
04. コミュニケーション基礎 (2) |社会人に求められるコミュニケーションを理解・実践する
05. ビジネスマナー (1) |ビジネスマナーを理解・実践する
06. ビジネスマナー (2) |ビジネスマナーを理解・実践する
07. 自己理解 (1) |アセスメントを用いて自己理解を深める
08. 自己理解 (2) |過去の経験から自己理解を深める
09. 業界・企業理解 (1) |事業理解
10. 業界・企業理解 (2) |職種理解
11. 業界・企業理解 (3) |企業風土・職場環境の理解
12. 履歴書・エントリーシート|履歴書・エントリーシートの書き方
13. グループワーク (1) |グループで課題に取り組む。対話を通じて自己理解・他者理解を深める
14. グループワーク (2) |グループで課題に取り組む。対話を通じて自己理解・他者理解を深める
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回授業についての振り返りシート(感想・自己評価)を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき、気づいた課題を振り返り、学びを力に変えていってください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 出席率と演習・ワークへの参加、発表 |
| (2) 課題への取り組み | 35% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 25% | |

教科書

参考書

インターンシップI (事前学習)

GREE-0-300

担当教員：中田 順平

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653115

学部教育の関連目

【全】初年に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事をすることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

残りの大学時代をどう過ごしていくのか、また大学卒業後、自分がどんな進路を選択するのか、現在のあなたは明確な考えを持っていますか？大学時代の過ごし方は、あなたの将来に大きな影響を与えます。進学、就職、あるいは起業など、どんな選択をするのかはひとりひとり異なります。では、どうすれば納得のいく選択ができるのでしょうか？インターンシップ実習はこれらを考える絶好の機会となります。これまで関わったことがない人との出会いやコミュニケーション、それらを通してあなた自身が様々なことを感じ・考えることで、自分が望むことが少しずつつかめるようになっていくでしょう。また、ご自身の方向性が明確な人はその選択肢を手に入れるための手段を深く考える機会となるでしょう。

インターンシップをそうした有意義な機会にしていくための準備を本講座では行います。

インターンシップは近年では就職活動においても欠かせないものになってきています。採用選考にインターンシップを導入している企業もあります。

この講座で学ぶことは、進路を考える役に立つ、インターンシップ実習を実りあるものにする、というだけでなく、就職活動の際にも役立つ内容となっています。

また、社会人として必要なビジネスマナーや基礎的なコミュニケーションについては、ワーク実践を通して学びます。マナーやコミュニケーションは知識として知っているだけでなく、身につけて実践できることが重要です。毎回の授業を通して、少しずつ力をつけていきましょう。

(2) 内容

この講座はインターンシップ実習の事前学習の講座です。インターンシップに向けて準備をしていく内容になりますので、受講においてはインターンシップに参加することが前提となります。

昨今、大学生にとってインターンシップの存在は無視できないものになってきました。

インターンシップとは何なのか、なぜ今インターンシップが注目されているのか、インターンシップと就職活動の関係など、まずインターンシップの基本的理解を行います。

そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていきます。実習先を決めるための準備として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは将来の進路先・就職先の選択にもつながっていきます。また、実習にのぞむにあたって必要なビジネスマナーやコミュニケーションについても学びます。

インターンシップ実習をただ漠然過ごすのか、将来につながる機会にしていくのか、それは準備の質に大きく左右されます。充実したインターンシップにできるように、一緒に楽しみながら学んでいきましょう。

受講者に対する要望

インターンシップの実習先では、社会人としてのマナーやコミュニケーションが求められます。これらができるようになるためには、知識として知っているだけでなく、実践練習が欠かせません。人の話を聴く、発言する、ワークをするなど、授業内での実践に積極的に参加することで力をつけていってください。毎回の振り返りシートもそうした実践のひとつです。あなたの学びや疑問を積極的に表現してください。

学びのキーワード

- ・インターンシップと就職活動、履歴書・エントリーシート
- ・コミュニケーション
- ・自己理解・自己PR、キャリア・将来設計
- ・業界・企業理解
- ・ビジネスマナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. インターンシップを理解する|インターンシップとは何か？なぜインターンシップが必要とされているのか？
03. コミュニケーション基礎 (1) |社会人に求められるコミュニケーションを理解・実践する
04. コミュニケーション基礎 (2) |社会人に求められるコミュニケーションを理解・実践する
05. ビジネスマナー (1) |ビジネスマナーを理解・実践する
06. ビジネスマナー (2) |ビジネスマナーを理解・実践する
07. 自己理解 (1) |アセスメントを用いて自己理解を深める
08. 自己理解 (2) |過去の経験から自己理解を深める
09. 業界・企業理解 (1) |事業理解
10. 業界・企業理解 (2) |職種理解
11. 業界・企業理解 (3) |企業風土・職場環境の理解
12. 履歴書・エントリーシート|履歴書・エントリーシートの書き方
13. グループワーク (1) |グループで課題に取り組む。対話を通じて自己理解・他者理解を深める
14. グループワーク (2) |グループで課題に取り組む。対話を通じて自己理解・他者理解を深める
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回授業についての振り返りシート(感想・自己評価)を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき、気づいた課題を振り返り、学びを力に変えていってください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 出席率と演習・ワークへの参加、発表 |
| (2) 課題への取り組み | 35% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 25% | |

教科書

参考書

インターンシップI (事前学習)

GREE-0-300

担当教員：中田 順平

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653116

学部教育の関連目

【全】初年に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事をすることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

残りの大学時代をどう過ごしていくのか、また大学卒業後、自分がどんな進路を選択するのか、現在のあなたは明確な考えを持っていますか？大学時代の過ごし方は、あなたの将来に大きな影響を与えます。進学、就職、あるいは起業など、どんな選択をするのかはひとりひとり異なります。では、どうすれば納得のいく選択ができるのでしょうか？インターンシップ実習はこれらを考える絶好の機会となります。これまで関わったことがない人との出会いやコミュニケーション、それらを通してあなた自身が様々なことを感じ・考えることで、自分が望むことが少しずつつかめるようになっていくでしょう。また、ご自身の方向性が明確な人はその選択肢を手に入れるための手段を深く考える機会となります。

インターンシップをそうした有意義な機会にしていくための準備を本講座では行います。

インターンシップは近年では就職活動においても欠かせないものになってきています。採用選考にインターンシップを導入している企業もあります。

この講座で学ぶことは、進路を考える役に立つ、インターンシップ実習を実りあるものにする、というだけでなく、就職活動の際にも役立つ内容となっています。

また、社会人として必要なビジネスマナーや基礎的なコミュニケーションについては、ワーク実践を通して学びます。マナーやコミュニケーションは知識として知っているだけでなく、身につけて実践できることが重要です。毎回の授業を通して、少しずつ力をつけていきましょう。

(2) 内容

この講座はインターンシップ実習の事前学習の講座です。インターンシップに向けて準備をしていく内容になりますので、受講においてはインターンシップに参加することが前提となります。

昨今、大学生にとってインターンシップの存在は無視できないものになってきました。

インターンシップとは何なのか、なぜ今インターンシップが注目されているのか、インターンシップと就職活動の関係など、まずインターンシップの基本的理解を行います。

そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていきます。実習先を決めるための準備として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは将来の進路先・就職先の選択にもつながっていきます。また、実習にのぞむにあたって必要なビジネスマナーやコミュニケーションについても学びます。

インターンシップ実習をただ漠然過ごすのか、将来につながる機会にしていくのか、それは準備の質に大きく左右されます。充実したインターンシップにできるように、一緒に楽しみながら学んでいきましょう。

受講者に対する要望

インターンシップの実習先では、社会人としてのマナーやコミュニケーションが求められます。これらができるようになるためには、知識として知っているだけでなく、実践練習が欠かせません。人の話を聴く、発言する、ワークをするなど、授業内での実践に積極的に参加することで力をつけていってください。毎回の振り返りシートもそうした実践のひとつです。あなたの学びや疑問を積極的に表現してください。

学びのキーワード

- ・インターンシップと就職活動、履歴書・エントリーシート
- ・コミュニケーション
- ・自己理解・自己PR、キャリア・将来設計
- ・業界・企業理解
- ・ビジネスマナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. インターンシップを理解する|インターンシップとは何か？なぜインターンシップが必要とされているのか？
03. コミュニケーション基礎 (1) |社会人に求められるコミュニケーションを理解・実践する
04. コミュニケーション基礎 (2) |社会人に求められるコミュニケーションを理解・実践する
05. ビジネスマナー (1) |ビジネスマナーを理解・実践する
06. ビジネスマナー (2) |ビジネスマナーを理解・実践する
07. 自己理解 (1) |アセスメントを用いて自己理解を深める
08. 自己理解 (2) |過去の経験から自己理解を深める
09. 業界・企業理解 (1) |事業理解
10. 業界・企業理解 (2) |職種理解
11. 業界・企業理解 (3) |企業風土・職場環境の理解
12. 履歴書・エントリーシート|履歴書・エントリーシートの書き方
13. グループワーク (1) |グループで課題に取り組む。対話を通じて自己理解・他者理解を深める
14. グループワーク (2) |グループで課題に取り組む。対話を通じて自己理解・他者理解を深める
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業でワークやミニプレゼンテーションを実施します。特別な準備は必要ありません。自分から積極的に取り組む気持ちを準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回授業についての振り返りシート(感想・自己評価)を記述し提出します。実践と振り返りをくり返し行うことで、着実に力がついていきます。授業内で学んだ内容や自分自身の気づき、気づいた課題を振り返り、学びを力に変えていってください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 出席率と演習・ワークへの参加、発表 |
| (2) 課題への取り組み | 35% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 25% | |

教科書

参考書

担当教員：酒井 俊行

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653221

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際して業界・企業を選択する場合の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むとより自覚が芽生え、就活成功への階段を駆け上る例も少なからず見られます。

(2) 内容

本授業は民間企業、NPO、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップI（事前学習）の単位取得が前提となります。

受講者に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえるようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ 業界を知る
- ・ 仕事を知る
- ・ ビジネスマナーを実践する

授業計画

01. 実習先企業の事前研究(1)
02. 実習先企業の事前研究(2)
03. インターンシップ先での実習：日報作成(1)
04. インターンシップ先での実習：日報作成(2)
05. インターンシップ先での実習：日報作成(3)
06. インターンシップ先での実習：日報作成(4)
07. インターンシップ先での実習：日報作成(5)
08. インターンシップ先での実習：日報作成(6)
09. インターンシップ先での実習：日報作成(7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成(8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成(9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成(10)
13. まとめレポート作成(1)
14. まとめレポート作成(2)
15. 報告会での発表

準備学習(予習)

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

準備学習(復習)

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| (1) 実習先事前研究 | 10% | 実習先についての事前調査。実習先が決定次第実施 |
| (2) 実習 | 35% | 実際の実習 |
| (3) 実習ノート | 5% | 実習についての日報 |
| (4) 実習レポート | 20% | 10日間を通じての課題の達成状況、感想等 |
| (5) 報告会 | 30% | 実習レポートを元に、学生・教職員等の前で報告 |

教科書

参考書

担当教員：中田 順平

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653222

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際して業界・企業を選択する場合の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むとより自覚が芽生え、就活成功への階段を駆け上る例も少なからず見られます。

(2) 内容

本授業は民間企業、NPO、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップI（事前学習）の単位取得が前提となります。

受講者に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえるようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ 業界を知る
- ・ 仕事を知る
- ・ ビジネスマナーを実践する

授業計画

01. 実習先企業の事前研究(1)
02. 実習先企業の事前研究(2)
03. インターンシップ先での実習：日報作成(1)
04. インターンシップ先での実習：日報作成(2)
05. インターンシップ先での実習：日報作成(3)
06. インターンシップ先での実習：日報作成(4)
07. インターンシップ先での実習：日報作成(5)
08. インターンシップ先での実習：日報作成(6)
09. インターンシップ先での実習：日報作成(7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成(8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成(9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成(10)
13. まとめレポート作成(1)
14. まとめレポート作成(2)
15. 報告会での発表

準備学習(予習)

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

準備学習(復習)

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| (1) 実習先事前研究 | 10% | 実習先についての事前調査。実習先が決定次第実施 |
| (2) 実習 | 35% | 実際の実習 |
| (3) 実習ノート | 5% | 実習についての日報 |
| (4) 実習レポート | 20% | 10日間を通じての課題の達成状況、感想等 |
| (5) 報告会 | 30% | 実習レポートを元に、学生・教職員等の前で報告 |

教科書

参考書

担当教員：酒井 俊行

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11653223

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際して業界・企業を選択する場合の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むとより自覚が芽生え、就活成功への階段を駆け上る例も少なからず見られます。

(2) 内容

本授業は民間企業、NPO、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップI（事前学習）の単位取得が前提となります。

受講者に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえるようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ 業界を知る
- ・ 仕事を知る
- ・ ビジネスマナーを実践する

授業計画

01. 実習先企業の事前研究(1)
02. 実習先企業の事前研究(2)
03. インターンシップ先での実習：日報作成(1)
04. インターンシップ先での実習：日報作成(2)
05. インターンシップ先での実習：日報作成(3)
06. インターンシップ先での実習：日報作成(4)
07. インターンシップ先での実習：日報作成(5)
08. インターンシップ先での実習：日報作成(6)
09. インターンシップ先での実習：日報作成(7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成(8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成(9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成(10)
13. まとめレポート作成(1)
14. まとめレポート作成(2)
15. 報告会での発表

準備学習(予習)

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

準備学習(復習)

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| (1) 実習先事前研究 | 10% | 実習先についての事前調査。実習先が決定次第実施 |
| (2) 実習 | 35% | 実際の実習 |
| (3) 実習ノート | 5% | 実習についての日報 |
| (4) 実習レポート | 20% | 10日間を通じての課題の達成状況、感想等 |
| (5) 報告会 | 30% | 実習レポートを元に、学生・教職員等の前で報告 |

教科書

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11655151

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。

(2) 内容

「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での応対などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。

受講者に対する要望

ビジネス日本語能力テストのJ1・J1+を目指すクラスであるので、日本語能力試験N1に合格している、もしくは、日本語能力がN1相当であることが強いのぞまれる。

学びのキーワード

- ・ ビジネス日本語能力試験 (BJT)
- ・ ビジネス日本語能力試験J1+
- ・ ビジネス日本語能力試験J1
- ・ 日本企業での就業
- ・ 日本での就業

授業計画

01. 授業概要、BJT実力試験
02. ビジネス日本語／漢字①、聴解①
03. ビジネス日本語／漢字②、聴解②
04. ビジネス日本語／漢字③、聴解③
05. ビジネス日本語／文法・語彙①
06. ビジネス日本語／文法・語彙②
07. ビジネス日本語／文法・語彙③
08. 中間まとめ
09. ビジネス日本語／読解①
10. ビジネス日本語／読解②
11. ビジネス日本語／読解③
12. ビジネス会話①、ビジネス文書①
13. ビジネス会話②、ビジネス文書②
14. ビジネス会話③、ビジネス文書③
15. 総まとめ

準備学習(予習)

数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。

準備学習(復習)

学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 中間試験 | 30% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 課題への取り組み | 20% |
| (4) クラスワーク等 | 20% |

多少%が変更されることもある。授業を3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。

教科書

(初回の授業にて紹介する)

参考書

担当教員：内藤 みち

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11655252

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。

(2) 内容

「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での応対などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。

受講者に対する要望

ビジネス日本語能力テストのJ1・J1+を目指すクラスであるので、日本語能力試験N1に合格している、もしくは、日本語能力がN1相当であることが強くのぞまれる。

学びのキーワード

- ・ ビジネス日本語能力試験
- ・ ビジネス日本語試験J1+
- ・ ビジネス日本語試験J1
- ・ 日本企業での就業
- ・ 日本での就業

授業計画

01. 授業概要、BJT実力試験
02. ビジネス日本語／漢字①、聴解①
03. ビジネス日本語／漢字②、聴解②
04. ビジネス日本語／漢字③、聴解③
05. ビジネス日本語／文法・語彙①
06. ビジネス日本語／文法・語彙②
07. ビジネス日本語／文法・語彙③
08. 中間まとめ
09. ビジネス日本語／読解①
10. ビジネス日本語／読解②
11. ビジネス日本語／読解③
12. ビジネス会話①、ビジネス文書①
13. ビジネス会話②、ビジネス文書②
14. ビジネス会話③、ビジネス文書③
15. 総まとめ

準備学習(予習)

数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。

準備学習(復習)

学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 中間試験 | 30% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 課題への取り組み | 20% |
| (4) クラスワーク等 | 20% |

多少%が変更されることもある。授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とはならない。

教科書

初回の授業にて紹介する。

参考書

担当教員：渡辺 正人、熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11656510

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

普段暮らしている「地元」であっても、意外と知らないことは多い。また、最近のまちおこしなどでも、地元の資産を当たり前すぎて気が付かないことを掘り起こしていく手法も常套である。こうしたことから地元への気づきをどのように行うのか、という手法を実践的に学ぶ。

(2) 内容

「地元学」は、地域とは何か、地域に住むとはどのような関係性の中で暮らすことなのか、そこには大学の学びの専門性とどのようなかわりがあるのか、といった基礎知識と理解をすることを目的とする。そのため、講義及び実際にこの周辺を歩いて学ぶ。実際にフィールドワークを行い、その成果をまとめ、発表するという流れで、アクティブラーニングを主体とする。

受講者に対する要望

授業はワークを主体とするので、積極的に関わることを。

学びのキーワード

- ・ 地元
- ・ 地域連携
- ・ アクティブラーニング

授業計画

01. はじめに 「地元学」とはなにか
02. お互いに知り合おう
03. 戸崎を知ろう1 (風景の視点)
04. 戸崎を知ろう2 (歴史の視点)
05. テキストのまとめ方を練習しよう
06. テキストをまとめる (ワーク1)
07. テキストをまとめる (ワーク2)
08. グループごとに課題を設定しよう
09. 課題について調べる1
10. 課題について調べる2
11. 課題について調べる3
12. 課題について調べる4
13. 調査結果を持ち寄ろう
14. 発表の準備をしよう
15. まとめ 発表

準備学習(予習)

次回授業のための準備調査は必ず行うこと

準備学習(復習)

授業活動のとりまとめ

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|----------------------------------|
| (1) ポートフォリオの作成 | 50% | 授業時の資料、調査内容をまとめたポートフォリオの作成 |
| (2) まとめレポートの作成 | 50% | グループで取り組んだ研究課題に対する個人的な考察を記したレポート |

授業活動に関するものはすべて評価対象となる。

教科書

授業時に指示する

参考書

吉本哲郎『地元学をはじめよう』 (岩波ジュニア新書)
結城登美雄『地元学からの出発』 (農文協)

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11700110

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本国憲法の窮極の目的である「個人の尊重」と「幸福追求権の保障」（13条）、そして、そのために公務員に課される「憲法尊重擁護義務」（99条）の意義に徹底的にこだわりながら、人権保障と統治機構についてバランスよく触れ、（憲）法という視点から政治・経済・社会、そして人間を考察する能力を身に付けることをめざします。

具体的には、まず日本国憲法のオーソドックスな通説・判例の理解をめざしますが、資格試験の予備校ではない、大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダン、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチャリズム等から挑戦を受ける「近代」の象徴としての立憲主義の意義を（再）検討する、語本来の意味における critique な講義にしたいと考えています。

(2) 内容

教養科目・教職科目としての役割に鑑み、日本国憲法全体を総花的に取り上げるのではなく、「人権総論」と「平和主義」（条文でいえば前文および9～14条）に重点を置いて講義を行います。また、条文の細かい解釈にこだわることではなく、現代日本（と世界）を考える手ばかりとしての憲法にこだわりたいと思います。

ところで、憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいのですが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものです。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ最近の具体的な事例を挙げつつ、その内容について平易に解説したいと考えています。

なお、できるだけアクチュアルな問題を取り上げたいので、内容は多少変更される可能性があります。また、（憲）法に関わるゲストスピーカーの講演または映像作品の鑑賞も1～2回ほど実施する予定です。

受講者に対する要望

本講義の受講者は1年生、とりわけ一般的には法学に親しみを覚えないであろう人文・人間福祉両学部生が多いので、最初から高いことは要求しません。まずはきちんと講義に出席し、聴講することを徹底してほしいと思います。さらに、取り上げる内容も、高校の「政治・経済」や「現代社会」とは質的にまるで違います。求められる姿勢は、知識獲得よりも批判的思考です。「法律はどう定めているか」ではなく、「なぜ法律はそう定めているのか」、さらには「法律が定めていることはおかしくないか」といった視点を常に意識してください。

学びのキーワード

- ・ 法学
- ・ 公法学
- ・ 憲法学
- ・ 人権
- ・ 統治機構

授業計画

01. はじめに
02. 憲法とは何か：誤認逮捕事件を題材に
03. 国民・国家・憲法の関係
04. 日本国憲法の構造：人権保障
05. 日本国憲法の構造：統治機構
06. 公務員と憲法尊重擁護義務（1）：政治家の人権を題材に
07. 公務員と憲法尊重擁護義務（2）：公立学校教員の人権を題材に
08. 個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉
09. 平等原則
10. 教育権・学問の自由
11. 日本国憲法の制定過程
12. 平和主義（1）：前史
13. 平和主義（2）：日本国憲法制定から冷戦終結まで
14. 平和主義（3）：冷戦終結以降から現在まで
15. まとめ

準備学習(予習)

原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求められます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。

準備学習(復習)

毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課し、次の回までに講義内容の理解を定着させることを求められます。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | リアクションペーパーの記述内容によって評価します。 |
| (2) 期末試験 | 20% | 場合によっては期末レポートに変更する可能性があります。 |

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。また、私語等の授業妨害行為は大幅な減点対象となります。

教科書

参考書

担当教員：齋藤 美沙

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11700112

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

条文の解釈に加え、身近な問題や具体的事件を手がかりに、憲法の基本的知識や考え方を習得することを目的とします。

(2) 内容

本講義では、基本的人権の保障を中心に、憲法について学びます。身近な憲法問題や具体的事件を手がかりに、学習していきます。

受講者に対する要望

憲法と関係する社会問題に注意を払うようにして下さい。

学びのキーワード

- ・ 自由
- ・ 権利
- ・ 平等
- ・ 権力分立
- ・ 立憲主義

授業計画

01. ガイダンス 憲法を学ぶ意義
02. 憲法の基礎、日本国憲法史
03. 象徴天皇制、国民主権、平和主義
04. 人権総論、基本的人権の限界、人権の享有主体性
05. 幸福追求権、プライバシーの権利、自己決定権
06. 法の下の平等
07. 思想・良心の自由、信教の自由と政教分離、学問の自由
08. 表現の自由
09. 経済的自由
10. 人身の自由
11. 生存権、労働基本権、教育を受ける権利
12. 国会、参政権
13. 内閣、裁判所
14. 財政、地方自治
15. まとめ

準備学習(予習)

授業の最後に翌週の授業範囲を明示します。教科書の該当箇所を読むに加え、関係する時事にも関心を払うようにして下さい。

準備学習(復習)

配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 試験 | 80% |

試験の成績をもとに、コメントシート等への記載を考慮し、総合的に評価します。

教科書

『教養としての憲法入門』 神野潔 編著（弘文堂，2016年）

参考書

担当教員：平松 直登

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11700115

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

- 【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目
- 【C】小学校教諭一種：必修科目
- 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

講義を通じて、憲法学の基本的思考方法を身につけることを目標とします。最終的には、日本国憲法がすべての国民を「個人として尊重」している意義を踏まえて、現実の憲法に関する諸問題を自ら分析・検討できるようになることが本講義の目標です。

(2) 内容

受講者が、「〔近代〕立憲主義〔constitutionalism〕」という思想およびそれを基礎とする日本国憲法の歴史・特徴を学んだ上で（第1～4回）、国政を行うための機構が憲法上どのように設計されているかを把握し（第5～7回）、憲法の保障する人権について深い理解を得る（第8～15回）ことが可能となるような講義を行います。

受講者に対する要望

法学の予備知識は特に必要としませんが、きちんと予習した上で講義に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 憲法学
- ・ 立憲主義
- ・ 個人の尊重
- ・ 自由
- ・ 平等

授業計画

01. ガイダンス／憲法の基礎知識
02. 日本国憲法の歴史と構成／憲法改正
03. 国民主権と象徴天皇制
04. 平和主義
05. 国会／財政
06. 内閣／地方自治
07. 裁判所
08. 基本的人権（総論）
09. 法の下での平等
10. 精神的自由Ⅰ（思想・良心・信教の自由）
11. 精神的自由Ⅱ（表現の自由）
12. 経済的自由／人身の自由
13. 社会権／参政権・国務請求権
14. 教育をめぐる憲法問題（子どもの権利／学問の自由／教育を受ける権利）
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバス（授業計画）を参考とし、各回の講義内容に該当する教科書のページに目を通しておいてください。

準備学習(復習)

レジュメとノートを参照しながら、教科書の該当ページを再読した後、各回のレジュメの最後にある「確認問題」を解いた上で翌週の講義に臨んでください（翌週の講義の最初に行う答え合わせで、前回の講義の理解度を確認してください）。また、講義中に紹介する参考文献を精読し、講義内容のより深い理解を目指して復習に取り組んでください。

評価方法

- | | |
|---------|---------------------------------|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% 講義中に配布するリアクション・ペーパー等で評価します。 |

試験の結果をもとに、平常点を考慮し、総合的に評価します。リアクション・ペーパーに記載された内容への回答は、講義中に適宜行います。

教科書

毛利透『グラフィック 憲法入門【補訂版】』（新世社）【978-4883842360】

参考書

開講時に指示します。

担当教員：渡辺 正人、平 修久、金谷 京子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11702000

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める。2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける。3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける。国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する。

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

聖学院大学と釜石市の提携関係の中、本学学生の釜石地域に対する理解を深め、今後の連携関係を進めてゆく基盤をつくる。

(2) 内容

2011年の東日本大震災で、東北は大きな被害を受けた。東北は、歴史的にも数度の地震やそれに伴う津波による被害を受けながらも、そのたびに立ち上がり、今日を迎えている。それには、東北の持つ風土的な特性があり、そこに暮らす人々の精神性が深く関係していると言われる。そうした東北の中でも、本学と関係を深めてきている釜石市とその周辺を取り上げる。釜石市は、他方ではラグビーの町としてグローバルな地域でもある。本学の掲げる「グローバル」な場としてのモデルとして考えていく。「東北に生きる」ということを通じて「地域で生きる」ということはどういうことかを、考えてみたい。

受講者に対する要望

授業で触れる歴史や文化、現実ほんの一部にすぎない。自分で膨らませてゆく想像力・行動力を期待する。

学びのキーワード

- ・釜石
- ・地域連携
- ・震災
- ・グローバル
- ・ボランティア

授業計画

01. はじめに 本学と釜石市の関係を巡って
02. 2011年3月11日から今日まで
03. 東北の歴史① ものけ姫の世界～山の民の世界と金属～
04. 東北の歴史② 東北に花開く文化～奥州三代と平泉～
05. 釜石市の歴史 近代製鉄の幕開けとラグビーの町釜石
06. 東北の民俗と文学 遠野物語と宮沢賢治の世界
07. 釜石市の民俗―海と山の世界―
08. 震災とボランティア―阪神淡路大震災から東日本大震災を巡って
09. 東日本大震災とボランティア活動―本学も含めて
10. 東日本大震災とこども
11. 釜石市における復興支援ボランティア活動
12. 釜石市民による復興と応援団―三陸ひとつなぎ自然学校・釜援隊ほか
13. 釜石の漁業の被災と復興への取組
14. 復興まちづくり
15. まとめ

準備学習(予習)

適宜、授業時に指示する。

準備学習(復習)

適宜、授業時に指示するが、自分で積極的に調べを広げてほしい。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) コメントシート | 30% |
| (2) 最終レポート | 70% |

教科書

参考書

担当教員：川田 虎男

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11702110

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事をすることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

サービスラーニングは、地域社会や地球規模の問題解決のために活動する学外の組織・施設で社会貢献活動しながら学ぶ体験学習の手法である。また、そのプロセスにおいては、必要に応じて学生の主体的参加と課題探求・解決を中心にすえた学習方法PBL(Project Based Learning)も用いる。この授業では、その準備として基礎知識の習得、活動現場の選択と活動計画づくりを行う。

(2) 内容

この講義は、別に開講するコミュニティ・サービス・ラーニングⅡ(CSLⅡ)の準備を目的としています。CSLⅡは、学生一人ひとりが原則50時間以上の社会貢献活動に参加し、事前学習、ふりかえり、レポート作成、発表などを通じて、学びとしていく科目です。本講では、そのための準備として、下の内容を含む講義・実習を行います。

(1) オリエンテーション
CSLⅡ及び本講義の概要、CSLⅡで活動をはじめるまでのプロセスについて

(2) コミュニティでの活動に参加する技能や態度を身につける

主に講義を通して、「現場で学ぶ」技能や態度を身につけます。

(3) コミュニティの問題解決を目指す市民活動を知り、CSLⅡの活動先を選ぶ

実際に受入れ先となる団体に訪問し、地域課題および活動を調査します。

その後、調査内容をまとめ発表をします。また、討論などを通じて、

地域で活動することの意味を考えながら、活動先を選びます。

(4) 各自で施設・団体を訪問し、CSLⅡの活動計画をたてます。

受講者に対する要望

社会の問題に関心を持ち、学内での学習に飽き足らない者、NPOやボランティアなどに関心のある者、自発的に社会貢献活動に参加する意欲のある者の履修を望みます。専門の教員が活動先の選定と実際の活動サポートにあたります。

*CSLは学外の多様な主体と協働で行うため、あいさつ、連絡や相談、書類の期限内の提出など社会とかがかわる基礎的なコミュニケーションをしっかりとれること、とらうとするかどうか、最も重要なポイントとなります。

学びのキーワード

- ・ サービスラーニング
- ・ ボランティア・市民活動
- ・ 市民教育
- ・ NPO
- ・ 社会貢献

授業計画

01. オリエンテーション
02. サービス・ラーニングの理解
03. 活動先への取材準備
04. サービス・ラーニングの活動先への取材①
05. サービス・ラーニングの活動先への取材②
06. サービス・ラーニングの活動先紹介のまとめ
07. サービス・ラーニングの活動先紹介
08. コミュニティ・サービス・ラーニングⅡの活動計画書づくり①
09. コミュニティ・サービス・ラーニングⅡの活動計画書づくり②
10. コミュニティ・サービス・ラーニングⅡの活動計画書づくり③
11. コミュニティで活動するための心構え
12. 地域で生きる、知る、つながる
13. まとめと振り返りⅠ
14. まとめと振り返りⅡ
15. まとめと振り返りⅢ

準備学習(予習)

これまでの学生生活において関わってきたボランティア活動や社会貢献活動、また自身の関心のある社会的課題などについて、整理しておいて下さい。

準備学習(復習)

この授業は、コミュニティサービスラーニングⅡで実際に地域活動に出た際、有益な活動を展開するために行うものです。その都度、しっかりノートを取り、学んだことを確実に自分のものにして下さい。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業への参加度 | 30% | 連絡や課題の提出など講義や実習を円滑にするための作業 |
| (3) 活動先紹介の作成・発表 | 20% | |
| (4) 活動プラン作成 | 20% | ※個別にサービスラーニングの活動先を決定する際のプランを作成していただきます。活動プランが定まらない場合は、授業として授業参加になります。 |

教科書

必要に応じて配布します。特定のテキストを用いません。

参考書

講義の際に紹介する。

担当教員：川田 虎男

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11702210

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

CSLⅡでは、環境、福祉、国際などの市民によって地域で自主的に行われている活動に実際に参加する。それらの活動を通して、実際の社会の問題に直面し、その解決のための実践と学習をおこなうことで、講義や学内では得られない気づきや学びを促し、実践的な知を身につける。また、そのプロセスにおいては、必要に応じて学生の主体的参加と課題探求・解決を中心にすえた学習方法PBL(Project Based Learning)も用いる。

(2) 内容

受講者一人ひとりが自らの関心と適性に応じた地域での活動に参加し、そこで得た学びと気づきをふりかえり、社会と自分との新たな関係を築く第一歩とする。

- ・活動への参加。原則として50時間以上行い、日々の活動の記録を提出する
- ・活動中、教員が、必要に応じて実際の活動のサポートを行う。
- ・活動中、必要に応じて「個別面接（中間ふりかえり）」を行う
- ・活動終了後に「リフレクション（ふりかえり）」を行う（面接）
- ・リフレクションをもとに、レポートを作成し提出する
- ・レポートをもとに報告会で発表をする（パネルなどを作成する）

*学期はじめのオリエンテーション、学期終わりの活動発表の準備などのため全員出席（必須）とするが、それ以外は個別にふりかえりや面接、連絡、相談の時間にあてる〔毎週出席ではなく、教員と調整しながらすすめる〕。

受講者に対する要望

事前に「コミュニティサービスラーニングⅠ（CSLⅠ）」の履修が修了していることが必須。
選んだ活動場所によっては、交通費等が必要になる場合がある。

学びのキーワード

- ・ サービスラーニング
- ・ ボランティア・市民活動
- ・ 市民教育
- ・ NPO
- ・ 社会貢献

授業計画

01. オリエンテーション
02. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（1）
03. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（2）
04. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（3）
05. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（4）
06. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（5）
07. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（6）
08. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（7）
09. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（8）
10. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（9）
11. サービスラーニング先での活動・活動報告作成（10）
12. 活動発表準備Ⅰプレゼンテーション方法を学ぶ
13. 活動発表準備Ⅱ
14. 活動発表
15. まとめと振り返り

準備学習(予習)

活動先で当日学んだことを必ず振り返り、次の活動の改善につなげるよう準備する。

準備学習(復習)

学んだことを毎回振り返り、上手くできたこと、上手くいかなかったこと復習する。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 30% | 事前・事後の自主学習、大学・活動先との連絡・相談など活動を円滑にすすめるための努力も評価の対象となる。 |
| (2) 活動先からの評価 | 25% | |
| (3) 活動記録・実習レポート | 25% | |
| (4) 活動発表 | 25% | |

活動先からの評価、活動の記録、レポートの作成、発表などの各プロセスを通じて、総合的に評価する。

教科書

用いない。

参考書

参加する活動に応じて、参考となる資料の助言をする。

担当教員：平 修久

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11702310

学部教育の関連目

【全】初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める2年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける3年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける国内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自ららしい生き方を実現していく能力を習得する
【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

地域での学外授業と、グループでの討議・作業・発表を軸としたアクティブラーニングを通して、地域の理解を深め、地域の発展に資する学生の役割、調査方法、計画づくりについて学ぶ。

(2) 内容

地域社会には、幅広い年齢層の人々が多様な考え方をもち、それぞれの暮らし方を営んでいる。地域での暮らしをより良くするには、居住者ばかりでなく、地域で働き、学ぶ人たちも協力する必要がある。本学に接する宮原地域では、約20年間にわたり、イベント開催や地域調査などを、地域の方々と学生がともに取り組んできた。本講義では、地元のさいたま北商工協同組合の協力を得て、宮原地区の概要を学ぶとともに宮原地域をより良くするための方策を考える。なお、グループ作業が多いため、受講生の人数を25人に制限する。25人以上の登録があった場合は、上級生を優先する。

受講者に対する要望

グループワークは5,6人に分かれて行うので、積極的に授業に参加することを期待する。

学びのキーワード

- ・ 地元学
- ・ 課題解決
- ・ 地域調査
- ・ 地域貢献
- ・ アクティブラーニング

授業計画

01. まちの成り立ち
02. 宮原の店舗とビジネス
03. さいたま北商工協同組合と地域の活動
04. 調査・計画方法 (KJ法)
05. まち歩き (フィールドワーク)
06. 調査・計画方法 (マインドマップ)
07. 調査・計画方法 (ロジックモデル)
08. 宮原の問題・課題を検討する
09. 宮原の資源・可能性を検討する
10. 問題・課題の解決策を考える1
11. 問題・課題の解決策を考える2
12. 解決策の中間発表
13. 問題・課題の解決策を考える3
14. 問題・課題の解決策を考える4
15. 解決策の最終発表

準備学習(予習)

次回授業(特に、グループワーク)のための準備調査は必ず行うこと

準備学習(復習)

毎回の講義やグループワークなどの内容を整理し、まとめること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|----------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | グループワークの取り組み内容・度合いなど |
| (2) まとめレポートの作成 | 50% | グループで取り組んだ研究課題に対する個人的な考察を記したレポート |

教科書

参考書

授業時に指示する

教養科目・総合科目

担当教員：高橋 愛子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00101

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。|2) 基本的な概念、「権力」「合法性」「正当性」「公益」などの概念を理解する。|3) 現実の政治現象について、「政治学的に」思考する資質を学ぶ。

(2) 内容

現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な思考力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の諸課題と否応なく直面することを余儀なくされている。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテキスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」思考するとはどのようなことかを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の個々の概念、理論を学ぶだけでなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察、思考」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。|<カリキュラム上の位置づけ>政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。|

受講者に対する要望

リアルタイムな政治現象に関心を持ち、新聞の政治経済欄に毎日目を通すこと。

学びのキーワード

- ・ 政治の文脈
- ・ 権力
- ・ 合法性と正当性
- ・ 公益決定
- ・ メディアリテラシー

授業計画

01. 導入：政治学とは何か（1）—歴史的考察—
02. 導入：政治学とは何か（2）—権力とは何か—
03. 現代における政治：全面的政治化の時代（1）—現代とはいかなる社会か—
04. 現代における政治：全面的政治化の時代（2）—全体国家の時代—
05. 政治にとっての文脈としての歴史（1）—20世紀の世界大戦—
06. 政治にとっての文脈としての歴史（2）—東京裁判—
07. 政治にとっての文脈としての歴史（3）—サンフランシスコ条約—
08. 政治にとっての文脈としての歴史（4）—憲法と自衛隊—
09. 政治にとっての文脈としての歴史（5）—アジアと日本—
10. 政治の場としての国会（1）—言論の府—
11. 政治の場としての国会（2）—立法過程—
12. 政治の場としての自治体（1）—分権改革—
13. 政治の場としての自治体（2）—「条例」、「自治体憲章」—
14. 政治における主体（1）—政治家、官僚、諸団体—
15. 政治における主体（2）—メディア、NGO、NPO—
16. 政治における主体（3）—主権者としてのわたしたち—
17. 合法性と正当性（1）—民主的正当性—
18. 合法性と正当性（2）—合法性と正当性との背反—
19. 公益とは何か（1）—公共利益団体の活動—
20. 公益とは何か（2）—公益と私益、官益、国益—
21. 公益とは何か（3）—公益の決定と実現—
22. メディアリテラシー（1）—さまざまなメディア—
23. メディアリテラシー（2）—メディアと権力—
24. メディアリテラシー（3）—メディアリテラシーと市民—
25. 民主主義と選挙（1）—日本の選挙制度—
26. 民主主義と選挙（2）—選挙制度と民主的正当性—
27. 民主主義と教育（1）—シティズンシップ教育—
28. 民主主義と教育（2）—海外の事例から—
29. 一学期間のまとめ—復習—
30. 一学期間のまとめ—さらなる政治学の学びに向けて—

準備学習（予習）

各回の授業の際に配布されるペーパーを予めよく読んでくこと。

準備学習（復習）

授業で取り上げた課題についてのレスポンス・シートに記入して次回授業で提出することにより、各回の授業の基本概念をよく理解する。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 40% |
| (2) 新聞コメントの提出 | 30% |
| (3) ブックレポート | 30% |

教科書

北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—』有斐閣アルマ2009年[そのほかについては、授業の中で指示、もしくは、配布する。]

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A0010K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

(2) 内容

本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。| 政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

受講者に対する要望

社会や政治について関心を持つことが望ましい。新聞やテレビなどから入手可能な時事的なニュースについても折を見て触れるので、それらに関する知識を持っていることが求められる。

学びのキーワード

- ・ 政治
- ・ 社会
- ・ 国家
- ・ 権力

授業計画

01. 政治学とは何か1 政治的認識について
02. 政治学とは何か2 学問と政治
03. 人間の権利と民主主義について1 人権論の基礎
04. 人間の権利と民主主義について2 民主主義の理論
05. 国家の機能1 国家概念の基礎
06. 国家の機能2 国家機能の変遷
07. 国家の機能3 福祉国家の役割
08. 政党1 政党の分類
09. 政党2 党派と政党
10. 政党3 政党の機能
11. 圧力団体1 圧力団体の定義
12. 圧力団体2 圧力団体の機能
13. 圧力団体3 圧力団体の評価
14. 官僚制1 官僚制の定義
15. 官僚制2 官僚制の機能
16. 官僚制3 官僚制の役割
17. 政治的リーダーシップ1 リーダーシップの種類
18. 政治的リーダーシップ2 リーダーシップの史的類型
19. 政治的リーダーシップ3 組織とリーダー
20. 地方自治と政治構造1 自治と行政
21. 地方自治と政治構造2 住民参加の可能性
22. 地方自治と政治構造3 地方分権の意味
23. 住民参加と参加型民主主義1 デモクラシーと参加
24. 住民参加と参加型民主主義2 グラスルーツの持つ意義
25. 住民参加と参加型民主主義3 参加と組織
26. 政治の担い手に関する考察1 世論
27. 政治の担い手に関する考察2 ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1 グローバル化のもたらす影響
29. グローバル化と政治2 グローバル化と現代社会
30. まとめ

準備学習(予習)

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分～1時間程度のニュースの視聴が必要である。

準備学習(復習)

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末テスト | 30% |

教科書

北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—』有斐閣アルマ2009年|そのほか適宜、授業内に指定

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00120

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

授業では、まず政治を理解するための政治学の基本的な視角や理論を学ぶことを目標としています。授業の内容はあくまで基礎的な内容ばかりですが、国際政治学、比較政治学などより専門的な授業を理解するために必要な概念を学ぶ入門になります。

(2) 内容

政治学の入門として政治学の基礎を学びます。授業では、政治学の中心となっている制度論によって、各政治分野について実際にどのようなことが行われているのかを解説していきます。教科書と参考書にそって、授業を進めていきますが、本授業では国際政治学の分野における極めて基礎的な部分も含めて解説します。

受講者に対する要望

受講生は、(1) 各授業に対応する教科書とプリントの該当部分を予習してきて、(2) 授業を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書とプリントに沿って授業を進めていきます。

学びのキーワード

- ・ 本人・代理人モデル
- ・ 共通の目的
- ・ フリーライダー
- ・ 制度論
- ・ 多元的民主主義

授業計画

01. イントロダクション：「本人と代理人」で考える政治（参考書1 序章「七人の侍」の政治学） プリント配布
02. 伝統的政治学（参考書2 第11章「政治学の潮流」1） プリント配布
03. 科学としての政治学の成立（参考書2 第11章「政治学の潮流」2） プリント配布
04. 科学としての政治学の深化（参考書2 第11章「政治学の潮流」3） プリント配布
05. 規範的な学としての政治学（参考書2 第11章「政治学の潮流」4） プリント配布
06. 鉄の三角同盟（教科書第1章「組織された集団」1）
07. 少数者たちが支配する？-多元的民主主義-（教科書第1章「組織された集団」2）
08. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章「官と民の関係」1）
09. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章「官と民の関係」2）
10. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章「大企業と政治」1）
11. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（教科書第3章「大企業と政治」2）
12. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章「選挙と政治」1）
13. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章「選挙と政治」2）
14. 自治体には2つの役割がある（教科書第5章「地方分権」1）
15. 国と地方の相互依存（教科書第5章「地方分権」2）
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章「マスメディアと政治」1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章「マスメディアと政治」2）
18. ねじれ国会（教科書第7章「国会」1）
19. 国会の影響力（教科書第7章「国会」2）
20. 総理大臣と大統領（教科書第8章「内閣と総理大臣」1）
21. 総理大臣の影響力（教科書第8章「内閣と総理大臣」2）
22. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章「官僚」1）
23. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章「官僚」2）
24. 戦後の国際環境（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」1）
25. 日本の対外政策（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」2）
26. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章「経済交渉」1）
27. 経済交渉の行われ方（教科書第11章「経済交渉」2）
28. ビリヤードゲームのような国際政治（教科書第12章「国境を超える政治」1）
29. 裸になる国家（教科書第12章「国境を超える政治」2）
30. 政治学と政治問題についてのまとめ

準備学習(予習)

教科書のキーワードを覚えることを中心に、プリントと教科書の各該当部分を読んで予習する。できれば、参考書を先に呼んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書のキーワードの意味を理解することを中心に、ノートとプリント、教科書を再読する。できれば、参考書も参考にすること。それにより、授業後の理解を深める。質問事項があれば、UNIPAや次の授業の冒頭で質問すること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | 授業中の発言や、授業中に提出するレポートなどによる。また、授業中の発言やレポートの内容が授業の理解を深めているかどうかを評価する。 |
| (2) 授業内レポート | 30% | 学期末に提出する。課題は16回目の授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 60% | 論述試験 |

教科書

北山俊哉、久米郁男、真淵勝著『はじめて出会う政治学 - 構造改革の向こうに- 第3版』(有斐閣) [978-4641123687]

参考書

参考書1 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝著『政治学 補訂版』(有斐閣、2011年12月) | 参考書2 加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤恭彦著『現代政治学 第4版』(有斐閣、2012年3月)

担当教員：榎本 珠良

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

政治学の基礎を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。

(2) 内容

政治とは何か。民主主義とは何か。市民とは誰のことか。グローバル化の時代の国内政治をどう捉えるか。|本講義は、政治学を学ぶための必要な基礎知識を習得し、それに基づいて今日の日本および世界における政治に関わる諸問題を考察し分析する力を高めるものである。|

受講者に対する要望

現在の政治や時事問題に関心があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 民主主義
- ・ 政党制
- ・ 官僚制
- ・ 政治参加
- ・ 国内政治と国際政治

授業計画

01. 本講義のガイダンス
02. 政治とは何か (1) 基礎
03. 政治とは何か (2) 応用
04. 民主主義とは何か (1) 基礎と歴史
05. 民主主義とは何か (2) 応用
06. 民主主義とは何か (3) 討議の可能性
07. 政治制度の大枠
08. 政党制
09. 選挙制度
10. 政治参加と投票行動
11. 議会制度・執政部
12. 官僚制
13. 司法と利益集団
14. 政治制度を考える
15. 前半のまとめ
16. 中央と地方
17. メディア (1) 理論
18. メディア (2) 事例
19. 市民社会
20. NGO・NPO
21. 国内政治と国際政治 (1) 国際システムとは
22. 国内政治と国際政治 (2) 国際関係をどう見るか
23. 国際関係における安全保障
24. 冷戦終結後の安全保障
25. 国家と国際法
26. 国家と難民
27. 国家と開発
28. 社会のなかの政治を考える
29. 国際社会における政治を考える
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や教科書などで調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布するレジュメと授業中のノートをよく再読すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間試験 | 30% 中間試験の模範解答の提示と解説を行う。 |
| (3) 期末試験 | 40% 期末試験の模範解答の提示と解説を行う。 |

教科書

北山 俊哉・久米 郁男・真淵 勝『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』第3版、2009年。

参考書

担当教員：森 達也

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K2

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。|・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。|・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

(2) 内容

<テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎 | 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。| 本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- ・政治
- ・経済
- ・公共政策
- ・社会保障
- ・国際関係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 民主主義の基本原則（プリント）
03. 鉄の三角同盟（教科書第1章1）
04. 多元的民主主義（教科書第1章2）
05. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章1）
06. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章2）
07. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章1）
08. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（第3章2）
09. 政治過程論（1）利益集団（プリント）
10. 公共政策論（1）公共財と規制政策（プリント）
11. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章1）
12. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章2）
13. 地方分権には2つの役割がある（教科書第5章1）
14. 国と地方の相互依存（教科書第5章2）
15. これまでの内容のまとめと演習
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章2）
18. 政治過程（2）政党と選挙制度（プリント）
19. 政治過程（3）世論とマスメディア（プリント）
20. ねじれ国会（教科書第7章1）
21. 国会の影響力（教科書第7章2）
22. 総理大臣と大統領（教科書第8章1）
23. 総理大臣の影響力（第8章2）
24. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章1）
25. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章2）
26. 戦後の国際環境（教科書第10章1）
27. 日本の対外政策（教科書第10章2）
28. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章1）
29. 経済交渉の行われ方（教科書第11章2）
30. 国境を超える政治（教科書第12章）

準備学習（予習）

教科書の次回範囲を下読みしてわからない言葉を調べておく。|配布されたプリントをできるかぎり完成させておく。

準備学習（復習）

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して次の確認テストに備える。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

北山俊哉ほか『はじめて出会う政治学 第3版』（有斐閣アルマ、2009年）ISBN 978-4-641-12368-7

参考書

高等学校「政治・経済」資料集（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）|手持ちのものがあれば代用してよい。

担当教員：森 達也

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K3

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。|・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。|・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

(2) 内容

<テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎 | 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。| 本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- ・政治
- ・経済
- ・公共政策
- ・社会保障
- ・国際関係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 民主主義の基本原則（プリント）
03. 鉄の三角同盟（教科書第1章1）
04. 多元的民主主義（教科書第1章2）
05. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章1）
06. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章2）
07. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章1）
08. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（第3章2）
09. 政治過程論（1）利益集団（プリント）
10. 公共政策論（1）公共財と規制政策（プリント）
11. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章1）
12. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章2）
13. 地方分権には2つの役割がある（教科書第5章1）
14. 国と地方の相互依存（教科書第5章2）
15. これまでの内容のまとめと演習
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章2）
18. 政治過程（2）政党と選挙制度（プリント）
19. 政治過程（3）世論とマスメディア（プリント）
20. ねじれ国会（教科書第7章1）
21. 国会の影響力（教科書第7章2）
22. 総理大臣と大統領（教科書第8章1）
23. 総理大臣の影響力（第8章2）
24. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章1）
25. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章2）
26. 戦後の国際環境（教科書第10章1）
27. 日本の対外政策（教科書第10章2）
28. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章1）
29. 経済交渉の行われ方（教科書第11章2）
30. 国境を超える政治（教科書第12章）

準備学習（予習）

教科書の次回範囲を下読みしてわからない言葉を調べておく。|配布されたプリントをできるかぎり完成させておく。

準備学習（復習）

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して次の確認テストに備える。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

北山俊哉ほか『はじめて出会う政治学 第3版』（有斐閣アルマ、2009年）ISBN 978-4-641-12368-7

参考書

高等学校「政治・経済」資料集（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）|手持ちのものがあれば代用してよい。

担当教員：鈴木 真実哉

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00202

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

政治経済学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。| 経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。|| ☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

(2) 内容

経済学の特徴の考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

受講者に対する要望

毎回新しい知識に触れることになるので、必ず十分な復習の時間をとること。板書は全体の構成(毎回の講義における)を理解するのに必要なもので、必ずノートにとること。

学びのキーワード

- ・ 経済学の本質と意義
- ・ 人間の幸福と経済
- ・ 稀少性の解決
- ・ 効率性と公正

授業計画

01. 経済学とは何か
02. 資源の稀少性と解決 (1)
03. 資源の稀少性と解決 (2)
04. 生産可能性フロンティア
05. 機会費用 (1)
06. 機会費用 (2)
07. 消費者の行動 (1) 効用と無差別曲線
08. 消費者の行動 (2) 予算制約と消費可能領域
09. 消費者の行動 (3) 効用最大化
10. 消費者の行動 (4) 需要曲線
11. 生産者の行動 (1) 生産関数と収入
12. 生産者の行動 (2) 費用と費用関数
13. 生産者の行動 (3) 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給——市場 (1)
16. 需要と供給——市場 (2)
17. マクロ経済学 1 (生産物市場) 45° 線モデル
18. マクロ経済学 2 (乗数理論)
19. マクロ経済学 3 (貨幣市場)
20. マクロ経済学 4 (労働市場)
21. IS 曲線
22. LM 曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ (1)
26. オープンマクロ (2)
27. オープンマクロ (3)
28. オープンマクロ (4)
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

準備学習(復習)

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

教科書

参考書

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00203

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。|

(2) 内容

本講義では、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」を教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。||

受講者に対する要望

教科書の題名から、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 経済用語
- ・ 経済理論
- ・ ミクロ経済
- ・ マクロ経済

授業計画

01. はじめに
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. ミクロ経済学
04. 消費者はどう行動するのか
05. 企業はどう行動するのか
06. 市場の機能と価格メカニズム
07. まとめ（1）
08. 所得配分の決まり方
09. 独占と規制
10. 寡占市場
11. 外部性と市場の失敗
12. 不完全情報の世界
13. まとめ（2）
14. まとめ — ミクロ経済
15. 質疑応答
16. マクロ経済学の基本
17. GDPはどう決まるのか
18. マクロ経済主体の行動
19. まとめ（3）
20. 財政政策
21. 金融政策
22. 景気と失業
23. まとめ（4）
24. インフレとデフレ
25. 経済成長
26. 国際経済
27. マクロ経済政策
28. まとめ（5）
29. まとめ — マクロ経済学
30. 質疑応答

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

井堀 利宏、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」、KADOKAWA

参考書

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00210

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。|

(2) 内容

本講義では、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」を教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。||

受講者に対する要望

教科書の題名から、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 経済用語
- ・ 経済理論
- ・ ミクロ経済
- ・ マクロ経済

授業計画

01. はじめに
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. ミクロ経済学
04. 消費者はどう行動するのか
05. 企業はどう行動するのか
06. 市場の機能と価格メカニズム
07. まとめ（1）
08. 所得配分の決まり方
09. 独占と規制
10. 寡占市場
11. 外部性と市場の失敗
12. 不完全情報の世界
13. まとめ（2）
14. まとめ — ミクロ経済
15. 質疑応答
16. マクロ経済学の基本
17. GDPはどう決まるのか
18. マクロ経済主体の行動
19. まとめ（3）
20. 財政政策
21. 金融政策
22. 景気と失業
23. まとめ（4）
24. インフレとデフレ
25. 経済成長
26. 国際経済
27. マクロ経済政策
28. まとめ（5）
29. まとめ — マクロ経済学
30. 質疑応答

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

井堀 利宏、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」、KADOKAWA

参考書

担当教員：高橋 聡

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A002K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

意義|直感や好き嫌いではなく、理論にもとづく分析によって社会の仕組みを理解し、問題を解明する。これが学生が大学で身につけるべき思考法である。経済学によってそのトレーニングを効果的に行うことができる。
|目標|文法を理解していなければ外国語を理解することはできない。それと同じように、複雑な経済現象を読み解くためには経済理論という「文法」をマスターする必要がある。その最低限の知識を習得することが講義の第1の目標である。これにより、文法を無視した経済ニュースがいかにも多く世間に流通しているかもわかるだろう。そこで、経済ニュースの読み方を身につけることが第2の目標となる。

(2) 内容

経済現象の診断に必要な理論を習得し、日本経済の現状分析を行う。2コマの内容を2部構成とし、第1部(奇数回)は主に理論の習得、第2部(偶数回)は日本経済に関するレポートと解説をする。なお、第1部は、岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』(新世社)に準拠したプリントを用いるので、必要に応じてこの書を購入してほしい。

受講者に対する要望

遅刻や私語には厳正に対処する。授業の進行を妨害する者に対しては、教室からの退出や授業への参加停止を求めることもある。

学びのキーワード

- ・ GDP
- ・ 物価
- ・ 財政・金融
- ・ 経済成長
- ・ 貿易

授業計画

01. ガイダンス
02. 国内総生産
03. 国内総支出
04. 戦後日本経済の歩み (1) 復興期から高度経済成長
05. 国内総所得と三面等価の原則
06. 戦後日本経済の歩み (2) 戦後日本の経済成長と寄与度
07. 「総」概念と「純」概念
08. 働く人から見た日本経済 (1) 労働力に関する定義
09. 物価
10. 働く人から見た日本経済 (2) 日本的雇用慣行とその変化
11. 投資理論
12. 企業から見た日本経済 (1) 企業と競争の役割
13. 貨幣供給
14. 企業から見た日本経済 (2) 株式会社
15. 貨幣需要
16. 貿易・国際金融から見た日本経済 (1) 戦後日本の貿易構造の推
17. IS-LM分析 (1) IS曲線の導出
18. 貿易・国際金融から見た日本経済 (2) 国際収支と外国為替相場
19. IS-LM分析 (2) LM曲線の導出
20. 財政の役割と仕組み (1) 財政の役割
21. 財政政策
22. 財政の役割と仕組み (2) 租税
23. 金融政策
24. 社会保障の役割と仕組み (1) 社会保障制度の確立
25. 経済成長論
26. 社会保障の役割と仕組み (2) 医療保険制度とその他の保険制度
27. 国際マクロ経済学
28. 税の仕組み (1) 主要三税(所得税・法人税・消費税)
29. 貿易理論
30. 税の仕組み (2) 控除制度

準備学習(予習)

教科書の指定ページを読み、疑問点を自ら調べるなり、質問できる用意をすること。

準備学習(復習)

①練習問題をくりかえすこと。②授業で取り上げた問題に関する経済ニュースを収集すること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) 報告・発言 | 20% |

教科書

八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略!!日本経済』(学文社)【978-4762024979】

参考書

岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』(新世社)

担当教員：由川 稔

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A002K2

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずです。しかし現実の経済は、人間を奴隷化してしまうほどの恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で、明るい未来社会を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。

(2) 内容

経済学は抽象化や理論化という「科学的な方法」に基づいています。なぜでしょうか。それは、日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没してわからなくなりがちな経済現象の「本質」を見抜き、そこから、「新しい経済」や「人間のあり方」などを構想するためです。しかし、理論を理解することだけで頭が一杯になってしまうと、かえって現実を見る目を曇らせてしまう危険もあります。授業では、このバランスを重視したいと思います。

受講者に対する要望

「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。授業は初学者向けに丁寧に進めます。公務員試験対策等、スピーディーな展開が必要な方は、他を当たってください。なお、授業では、例えば国内の経済政策論議、対外的な政策協調や国益の対立といったニュース記事等、時事問題を中心とした資料も配布します。理論と現実の両方を視野に入れて、整理するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 経済
- ・ 社会
- ・ 自由
- ・ 公正
- ・ 競争・効率

授業計画

01. 経済学の全体像概観。マクロ経済学とミクロ経済学。政策運営との関わり。ビジネスとの関わり等。
02. インフレーションとデフレーション（1）～インフレの意味と影響
03. インフレーションとデフレーション（2）～デフレの意味と影響
04. 円高と円安
05. 第2次世界大戦後に成立した国際経済の枠組み
06. 近代経済学とマルクス経済学
07. 自由貿易と保護主義
08. ケインズの考え方と新自由主義の考え方
09. GDPをめぐる（1）～意味。名目と実質の違い。
10. GDPをめぐる（2）～消費
11. GDPをめぐる（3）～投資と政府支出
12. GDPをめぐる（4）～輸出と輸入
13. GDPをめぐる（5）～総需要と総供給
14. GDPをめぐる（6）～デフレギャップとインフレギャップ
15. 需要サイドの構成内容と供給サイドの構成内容
16. 金融政策（1）～お金（マネー）について
17. 金融政策（2）～中央銀行や民間銀行の役割
18. 金融政策（3）～近年の議論
19. 財政政策（1）～公共投資
20. 財政政策（2）～乗数効果
21. 現代日本経済史（1）～変動相場制への移行
22. 現代日本経済史（2）～グローバル化とバブル
23. 市場メカニズムと資源配分
24. 需要曲線と供給曲線
25. 価格について
26. 市場の失敗
27. ゲーム理論（1）～戦略
28. ゲーム理論（2）～協調
29. ゲーム理論（3）～合理的な行動
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

準備学習(復習)

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 定期試験 | 60% | 定期試験における最大の割合ですが、授業で学んだ内容を覚えることは必須です。しかし授業内容が理解できていないと、期待できません。 |
| (2) 受講態度 | 20% | 主として、授業で毎回配布・回収するチェックシートへの記入内容から、参加の積極性を見ます。 |
| (3) レポート等 | 20% | 授業内容に関連するテーマに関するレポートに、理論・事例を駆使して考察し、論議をまとめることが求められます。レポートの質も評価します。 |

教科書

伊藤元重著『はじめての経済学（上）』（日経文庫）日本経済新聞社（2004年4月）【97-84532110147】

参考書

担当教員： 正上 常雄

学期： 秋学期 科目： 教養科目 必修・選択： 必修科目 単位： 4 授業コード： 12A002K3

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。本講義では、経済学を学ぶために、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配などの概念を使って、様々な経済的問題を考えてゆく。経済全体を構成する要素は、家計（消費者）、企業、金融、政府、貿易の5つである。企業は他の4つと密接に関係している。企業のあり方について学ぶことで、経済全体についての考察も深まってゆく。社会に出て、企業で働くときの準備として経済学を学んで欲しい。| 難しい数式を覚えることより、経済学的な合理的思考を身に付けて欲しい。経済学は難しいと思わずに、賢く生活するための知恵を身に付けることを目標として欲しい。|

(2) 内容

経済学とは、個人、企業、政府などさまざまな組織が、どのように選択を行い、その選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問のことである。経済学について学ぶ前に、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配、といった概念を知っておく必要があり、まずは経済学で使われる概念と経済学的な思考をきちんと身に付け、教科書に沿って、経済学の基礎を学んでゆく。| 経済学的な思考をなるべくやさしく教えてゆくつもりである。簡単すぎてつまらないという人のために、適宜、プリントなどで発展的な学習も行う。| |

受講者に対する要望

授業中の私語は厳禁です。その他の授業中のルールについては、最初の授業で相談して決めます。

学びのキーワード

- ・トレードオフ
- ・インセンティブ
- ・市場
- ・分配
- ・労働

授業計画

01. 大学で履修する経済学の考え方1 | 【経済学の考え方 その1】全ての資源は有限である。～稀少性 | 【経済学の考え方 その2】資源は有限だから、片方しか選べない～トレード・オフ | 【経済学の考え方 その3】選ばなかった選択は「コスト」と
02. 大学で履修する経済学の考え方2 | 【経済学の考え方 その4】家計の目的1 | 経済学は3人登場、3つの市場、全体で見ると「相互依存」 | 消費者としての家計 | 最適な買物をするための条件 | 「最適な消費量」が変わる瞬間
03. 家計の目的2 | 労働者としての家計 | ミクロ経済学とは何か？
04. 企業の目的1 | 企業の目的 | 「完全競争市場」では、全ての企業が「プライステイカー」
05. 企業の目的2 | 自社の利益を最大にする方法～限界費用の話
07. 政府の目的1 | 政府の目的 | 国全体の幸福度とは？
08. 政府の目的2 | 政府の役割 | 資源の再配分
09. 需要と供給の話1 | 完全競争市場における需要と供給
10. 需要と供給の話2 | 価格メカニズム・均衡価格・均衡取引量
11. 不完全競争市場1 | 情報の非対称性と市場メカニズム
12. 不完全競争市場2 | 市場の失敗と政府の失敗 | 所得の再配分政策は有効？ | 家賃規制は何をもたらすか？ | 最低賃金制度は何をもたらすか？ | ぜいたく税は何をもたらすか？
13. ミクロ経済学の復習
14. 中間試験
15. マクロ経済学って何？1 | ミクロとマクロの違い
16. マクロ経済学って何？2 | マクロ経済学における家計と政府と企業
17. 短期の経済1 | 「短期」と「長期」～価格調整が「される前」と「された後」で考える
18. 短期の経済2 | 経済の規模を決めるのは需要か？ 供給か？
19. 貨幣の影響1 | 貨幣とは何か・交換手段・価値尺度・価値貯蔵手段 | 兌換・不換紙幣・電子マネー
20. 貨幣の影響2 | 金融政策とは | 金利はどう決まる | 金利が経済に与える影響 | マイナス金利ってアリ？
21. なぜ国民所得をコントロールするのか？1 | 国民所得って何 | 三面等価の原則 | GDPの計算 | 名目と実質
22. なぜ国民所得をコントロールするのか？2 | ケインズ経済学って何 | 生産者（企業や政府）が投資を増やす→国民所得が増える→消費が増える→さらに国民所得が増える→さらに消費が増える→...
23. IS-LM分析1 | 短期均衡とIS-LMモデル
24. IS-LM分析2 | 財政金融政策が現実の経済に与える効果の分析とIS-LMモデル | IS曲線の導出 | LM曲線の導出 | 財市場と貨幣市場の同時均衡
25. 長期の経済1 | 長期均衡への調整 | 短期モデルと長期均衡モデルの比較 | 物価水準はどのように決まるか
26. 長期の経済2 | インフレーションと失業 | 経済成長の理論
27. 長期の経済における失業1 | 自発的失業と非自発的失業 | 働く気がないOR仕事がない | インフレ率と失業率の短期的トレードオフ関係
28. 長期の経済における失業2 | 長期的にみればインフレ率と失業率は相関関係にはない？ | 自然失業率は労働市場の様々な特性に依存する？
29. 長期の経済における政策1 | マクロ経済学の新潮流 | マクロ経済理論の新展開
30. 長期の経済における政策2 および期末試験 | マクロ経済政策の有効性について | マネタリズム | 合理的期待形成学派 | ニューケインジアン

準備学習(予習)

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

準備学習(復習)

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かしてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 中間試験 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 平常点 | 20% |

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。
 基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

教科書

木暮 太一『大学で履修する入門経済学が1日でつかめる本 絶対わかりやすい経済学の教科書』（マトマ出版）【978-4904934036】

参考書

社会学 (W用)

SOC1-0-100/SOCI-P-100/SOCI-W-100

担当教員：渡邊 隼

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A00356

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(社会)：必修科目【教】高等学校教諭一種(公民)：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生(まちづくり)コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。
|・生活について理解する。|・人と社会の関係について理解する。|・社会問題について理解する。

(2) 内容

・社会学の成立と展開 |・社会学の研究視点 |・現代社会の理解 |・生活の理解 |・人と社会との関係 |・社会問題の理解

受講者に対する要望

「社会」「自己」「他者」にたいして、何らかの興味関心を持っていることが望ましい。

学びのキーワード

- ・社会理論
- ・社会システム
- ・自己理解
- ・他者理解
- ・社会学的想像力

授業計画

01. 社会学の成立と展開
02. 社会学の研究視点
03. 現代社会の理解 (1) 社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識
04. 現代社会の理解 (2) 社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標
05. 現代社会の理解 (3) 法と社会システム
06. 現代社会の理解 (4) 経済と社会システム
07. 現代社会の理解 (5) 社会変動① 社会変動の概念
08. 現代社会の理解 (6) 社会変動② 近代化、産業化、情報化
09. 現代社会の理解 (7) 人口① 人口の概念、人口構造
10. 現代社会の理解 (8) 人口② 人口問題、少子高齢化
11. 現代社会の理解 (9) 地域① 地域の概念、コミュニティの概念
12. 現代社会の理解 (10) 地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会
13. 現代社会の理解 (11) 地域③ 地域社会の集団・組織
14. 現代社会の理解 (12) 社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団
15. 現代社会の理解 (13) 社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション
16. 現代社会の理解 (14) 社会集団③ 組織の概念、官僚制
17. 生活の理解 (1) 家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態
18. 生活の理解 (2) 家族② 家族の変容、家族の機能
19. 生活の理解 (3) 生活の捉え方
20. 人と社会との関係 (1) 社会関係と社会的孤立
21. 人と社会との関係 (2) 社会的行為
22. 人と社会との関係 (3) 社会的役割
23. 人と社会との関係 (4) 社会的ジレンマ
24. 社会問題の理解 (1) 社会問題の捉え方
25. 社会問題の理解 (2) 具体的な社会問題① 貧困、失業
26. 社会問題の理解 (3) 具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺
27. 社会問題の理解 (4) 具体的な社会問題③ 犯罪、非行
28. 社会問題の理解 (5) 具体的な社会問題④ DV、ハラスメント
29. 社会問題の理解 (6) 具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ
30. 社会問題の理解 (7) 具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座(3) 社会理論と社会システム—社会学【第3版】』(中央法規出版)【978-4806832509】

参考書

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A003K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生（まちづくり）コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学系科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと思います。

(2) 内容

「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者性に迫る学問と言えるでしょう。| 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。

受講者に対する要望

私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・アイデンティティ
- ・コミュニケーション
- ・メディア
- ・政治と権力
- ・都市と消費社会

授業計画

01. 社会学とは
02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性
03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か
04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義
05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象
06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生
07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史
08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神
09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム
10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省
11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義
12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問
13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学
14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性
15. アイデンティティと社会学
16. コミュニケーションと社会学
17. 家族の社会学
18. 政治の社会学
19. 都市の社会学
20. 身体社会学
21. メディアの社会学
22. 情報化社会と消費社会
23. 階級・階層の社会学
24. ジェンダーとセクシュアリティ
25. 共同体と市民社会
26. 国民国家と多文化社会
27. グローバル化
28. 社会学史 (1) 西洋編
29. 社会学史 (2) 日本編
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』（筑摩書房）大澤真幸編|『社会学入門』（岩波書店）見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』（有斐閣）友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵
『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）宇都

準備学習(復習)

授業後にノートをまとめ直しましょう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) 期末試験 | 80% |

教科書

稲葉振一郎『社会学入門』（日本放送出版協会）【978-4140911365】

参考書

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A005K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格、選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。

(2) 内容

人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

学びのキーワード

- ・ 公法と私法
- ・ 任意規定と強行規定
- ・ 実体法と手続法
- ・ 権利・義務
- ・ 犯罪と処罰

授業計画

01. ガイダンス
02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法）
03. 子ども・少年と法②（刑事法）
04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法）
05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法）
06. 男女・夫婦①（民事法）
07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法）
08. 企業の法①（会社法）
09. 企業の法②（経済法）
10. 主権者の法①（憲法）
11. 主権者の法②（行政法）
12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法）
13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法）
14. 高齢者・相続①（社会保障法）
15. 高齢者・相続②（民法）
16. 憲法①（統治）
17. 憲法②（統治）
18. 民法①（人・法律行為・財産）
19. 民法②（契約・不法行為）
20. 刑法①（総論）
21. 刑法②（各論）
22. 商法①（株式）
23. 商法②（機関）
24. 民事訴訟法①（請求、弁論）
25. 民事訴訟法②（証拠、判決）
26. 刑事訴訟法①（捜査）
27. 刑事訴訟法②（公判）
28. 法とは何か
29. 法とは何か（続）
30. 全体のまとめ

準備学習（予習）

配布資料に目を通しておくこと。

準備学習（復習）

分かったこと、疑問点、自分なりの意見・感想などを、配布資料やノートに書き留めておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布します。

参考書

授業の中で適宜、紹介します。

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：4 授業コード：12A005K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格・選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科学科

(1) 学びの意義と目標

法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。

(2) 内容

「法を守る精神・法令遵守と責任」|「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などで

受講者に対する要望

受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 法を守る精神
- ・ 「公」と「私」
- ・ 権利と義務
- ・ 責任
- ・ 市民社会に生きる

授業計画

01. 法を守る精神：社会における信頼関係
02. 法を守る精神：社会（コミュニティ）の形成
03. 法と道徳
04. 法の概念
05. 法の存在形式（法源）
06. 法の種類
07. 法の効力 その範囲と限界
08. 「自然法論」と「法実証主義」
09. 法と道徳（2）
10. 自己決定権
11. 法がめざすもの（法の目的）
12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス
13. 法の目的（2）
14. 適法性と違法性
15. 「犯罪」とは何か？
16. 「犯罪」とは何か？（2）
17. モラルの低下した社会に生きる
18. 法の目的（3）
19. 「公」と「私」
20. 「責任」とは何か？
21. 「権利」とは何か？
22. 「正義」とは何か？
23. 「市民社会」に生きる
24. 「法」を守る精神
25. 諸外国の法
26. 諸外国の法（2）
27. 市民社会の法
28. 消費者と法
29. 知的財産権と法（1）
30. 知的財産権と法（2）

準備学習(予習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

準備学習(復習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業中の態度、積極的発言など | 40% |
| (2) 課題作成 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

『ポケット六法 平成29年版』（有斐閣）

参考書

担当教員：塩谷 祐人

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：4 授業コード：12B0031K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

教養として知っておくべき有名な作家を知り、その作品から自身のことや社会のことを考えるための材料を手に入れる。また語り継がれてきている名作を通して想像力や表現力を養い、何よりも「文学」という言葉を使った芸術を楽しめる感受性と知識を得ることが目標です。

(2) 内容

主にヨーロッパの作家とその作品を紹介していきます。|本講義では、映画化や舞台化されている文学作品を選び、その作者の考えや時代背景、また映画との違いなどを見ながら、文学に慣れ親しんでいきます。

受講者に対する要望

常に何か新しい知識や見方を得ようとアンテナを張っている学生を望みます。

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ文化
- ・異文化理解
- ・芸術
- ・映画
- ・文学

授業計画

01. ガイダンス
02. 17世紀のフランスの童話作家シャルル・ペロー
03. シャルル・ペローの『眠れる森の美女』と『ろばの皮』
04. 18世紀のフランスの童話作家ポーモン夫人
05. ポーモン夫人の『美女と野獣』
06. 18世紀末から19世紀初頭のドイツの作家ホフマンの『くるみ割り人形』と『砂男』
07. ホフマンの『砂男』とフロイトの精神分析/フランスのオペラ、オッフェンバック作曲の『ホフマン物語』
08. ソフォクレスのギリシア悲劇『オイディプス王』の舞台化
09. 19世紀のフランスの作家ヴィクトル・ユゴーとその時代
10. ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』
11. フランス映画『レ・ミゼラブル』とミュージカル映画『レ・ミゼラブル』
12. ヴィクトル・ユゴーの作品『ノートルダム・ド・パリ』
13. 『ノートルダム・ド・パリ』の原作と様々な映像化の比較
14. 19世紀末に活躍したアイルランド出身の作家オスカー・ワイルドと世紀末のヨーロッパ
15. 世紀末文学とは何か？オスカー・ワイルドの『ドリアン・グレイの肖像』
16. 中間まとめ
17. 19世紀末のフランスの作家ガストン・ルルー
18. ガストン・ルルーの『オペラ座の怪人』
19. 小説とミュージカル、二つの『オペラ座の怪人』
20. 20世紀の偉大なるドイツ語圏の作家フランツ・カフカの『審判』と『変身』
21. カフカの作品の映画化や舞台化
22. 20世紀のフランスの作家サン＝テグジュペリ
23. サン＝テグジュペリの『星の王子さま』
24. 20世紀のフランスの詩人ジャック・プレヴェール
25. ジャック・プレヴェールと映画/フランスのアニメ映画『王と鳥』
26. 20世紀のフランスの哲学者・作家のジャン＝ポール・サルトルと実存主義
27. 20世紀のフランスの作家ジャン・コクトー
28. ジャン・コクトーの『恐るべき子どもたち』
29. ミラン・クンデラと世界文学
30. まとめ

準備学習(予習)

前もって読んでおくべき資料や作品を指示するので、それをきちんと読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業内で紹介した作品を積極的に読み、DVDなどで入手可能な昔の映画なども実際に観てみることに。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--|
| (1) 平常点 | 40% | 授業中の発言やリアクションペーパーでの意見、確認シートなどでの理解を評価します。 |
| (2) 期末試験 | 60% | 学期末に行う論述テストの点数で評価します。 |

教科書

プリントを配布

参考書

講義内で内容毎に適宜指示する。

担当教員：塩谷 祐人

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：4 授業コード：12B0033K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

教養として知っておくべき有名な作家を知り、その作品から自身のことや社会のことを考えるための材料を手に入れる。また語り継がれてきている名作を通して想像力や表現力を養い、何よりも「文学」という言葉を使った芸術を楽しめる感受性と知識を得ることが目標です。

(2) 内容

主にヨーロッパの作家とその作品を紹介していきます。|本講義では、映画化や舞台化されている文学作品を選び、その作者の考えや時代背景、また映画との違いなどを見ながら、文学に慣れ親しんでいきます。

受講者に対する要望

常に何か新しい知識や見方を得ようとアンテナを張っている学生を望みます。

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ文化
- ・異文化理解
- ・芸術
- ・映画
- ・文学

授業計画

01. ガイダンス
02. 17世紀のフランスの童話作家シャルル・ペロー
03. シャルル・ペローの『眠れる森の美女』と『ろばの皮』
04. 18世紀のフランスの童話作家ポーモン夫人
05. ポーモン夫人の『美女と野獣』
06. 18世紀末から19世紀初頭のドイツの作家ホフマンの『くるみ割り人形』と『砂男』
07. ホフマンの『砂男』とフロイトの精神分析/フランスのオペラ、オッフェンバック作曲の『ホフマン物語』
08. ソフォクレスのギリシア悲劇『オイディプス王』の舞台化
09. 19世紀のフランスの作家ヴィクトル・ユゴーとその時代
10. ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』
11. フランス映画『レ・ミゼラブル』とミュージカル映画『レ・ミゼラブル』
12. ヴィクトル・ユゴーの作品『ノートルダム・ド・パリ』
13. 『ノートルダム・ド・パリ』の原作と様々な映像化の比較
14. 19世紀末に活躍したアイルランド出身の作家オスカー・ワイルドと世紀末のヨーロッパ
15. 世紀末文学とは何か？オスカー・ワイルドの『ドリアン・グレイの肖像』
16. 中間まとめ
17. 19世紀末のフランスの作家ガストン・ルルー
18. ガストン・ルルーの『オペラ座の怪人』
19. 小説とミュージカル、二つの『オペラ座の怪人』
20. 20世紀の偉大なるドイツ語圏の作家フランツ・カフカの『審判』と『変身』
21. カフカの作品の映画化や舞台化
22. 20世紀のフランスの作家サン＝テグジュペリ
23. サン＝テグジュペリの『星の王子さま』
24. 20世紀のフランスの詩人ジャック・プレヴェール
25. ジャック・プレヴェールと映画/フランスのアニメ映画『王と鳥』
26. 20世紀のフランスの哲学者・作家のジャン＝ポール・サルトルと実存主義
27. 20世紀のフランスの作家ジャン・コクトー
28. ジャン・コクトーの『恐るべき子どもたち』
29. ミラン・クンデラと世界文学
30. まとめ

準備学習(予習)

前もって読んでおくべき資料や作品を指示するので、それをきちんと読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業内で紹介した作品を積極的に読み、DVDなどで入手可能な昔の映画なども実際に観てみることに。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--|
| (1) 平常点 | 40% | 授業中の発言やリアクションペーパーでの意見、確認シートなどでの理解を評価します。 |
| (2) 期末試験 | 60% | 学期末に行う論述テストの点数で評価します。 |

教科書

プリントを配布

参考書

講義内で内容毎に適宜指示する。

担当教員：高橋 章仁

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目/選択科目 単位：4 授業コード：12B0045K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待している。

(2) 内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどり、ともに考えながら、なるべくわかりやすく解説していきたいと思っている。なお、一人の哲学者の思想をじっくりと読みたいという人は、秋学期の「哲学」を受講されたい。

受講者に対する要望

テキストを忍耐強く読み進めていくという覚悟をもって受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋哲学
- ・ 哲学入門

授業計画

01. ガイダンスと哲学とは何か
02. 歴史的概観
03. デカルト（1）——近代的自我の確立
04. デカルト（2）——道徳の問題
05. スピノザ——エチカ
06. ライブニッツ——モノドロジー
07. パスカル——理性と信仰
08. イギリス経験論（1）——ロックとバークリ
09. イギリス経験論（2）——ヒューム
10. 功利主義——ベンサムとJ. S. ミル
11. カント（1）——理性の特殊な運命
12. カント（2）——義務と定言命法
13. フィヒテ——自我の三原則
14. ドイツ観念論の展開
15. ヘーゲル（1）——弁証法の確立
16. ヘーゲル（2）——自由と歴史
17. キルケゴール（1）——実存哲学の誕生
18. キルケゴール（2）——実存の三段階
19. ニーチェ（1）——強者の生
20. ニーチェ（2）——ニヒリズムを生きる
21. ハイデガー（1）——現存在と実存
22. ハイデガー（2）——死への存在
23. サルトル（1）——即自存在と対自存在
24. サルトル（2）——対他存在
25. 実存思想概観
26. ヤスパース（1）——交わり
27. ヤスパース（2）——限界状況・その1
28. ヤスパース（3）——限界状況・その2
29. マックス・ウェーバー——責任倫理
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

毎回授業の最後に、次回取り上げる哲学者を伝達するので、何らかの哲学史の本などを利用して、その思想に関する予備的な知識を得ておくこと。詳しくは最初の授業のときに指示する。

準備学習(復習)

授業で提示されたテーマや事柄についてももう一度深く考え、可能なかぎり自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---------------------------|
| (1) 学期末試験 | 70% | 教場での論述試験を行う。 |
| (2) 平常点 | 30% | 出席・授業態度の他に、状況に応じて小テストを行う。 |

教科書

参考書

担当教員：高橋 章仁

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目/選択科目 単位：4 授業コード：12B0047K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

哲学の正確な知識を身につけることは必要であるが、単なる暗記に終始しては意味がない。テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが主体的に哲学と向き合うことを通じて、哲学することの意義を体感してほしいと思っている。

(2) 内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』（新潮文庫）を精読し、その思想を解説していく。「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は必ずしも平易ではないので、哲学的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。なお、様々な哲学者のテキストを読みたいという人は、春学期の「哲学」を受講されたい。

受講者に対する要望

テキストを忍耐強く読み進めていくという覚悟をもって受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋哲学
- ・ 哲学入門

授業計画

01. ガイダンスと予備的講義
02. 第1講「哲学とは何ぞや」(1)
03. 第1講「哲学とは何ぞや」(2)
04. 第1講「哲学とは何ぞや」(3)
05. 第2講「哲学の根源」(1)
06. 第2講「哲学の根源」(2)
07. 第2講「哲学の根源」(3)
08. 第3講「包括者」(1)
09. 第3講「包括者」(2)
10. 第3講「包括者」(3)
11. 第4講「神の思想」(1)
12. 第4講「神の思想」(2)
13. 第4講「神の思想」(3)
14. 第5講「無制約的な要求」(1)
15. 第5講「無制約的な要求」(2)
16. 第6講「人間」(1)
17. 第6講「人間」(2)
18. 第7講「世界」(1)
19. 第7講「世界」(2)
20. 第8講「信仰と啓蒙」(1)
21. 第8講「信仰と啓蒙」(2)
22. 第9講「人類の歴史」(1)
23. 第9講「人類の歴史」(2)
24. 第10講「哲学する人間の独立性」(1)
25. 第10講「哲学する人間の独立性」(2)
26. 第11講「哲学的な生活態度」(1)
27. 第11講「哲学的な生活態度」(2)
28. 第12講「哲学の歴史」(1)
29. 第12講「哲学の歴史」(2)
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

次回読み進めることになる箇所を、予め読み込んでおくこと。そして、どこが分かって、どこが分からないかを把握したうえで、授業にのぞんでほしい。

準備学習(復習)

授業で提示されたテーマや事柄についてももう一度深く考え、可能な限り自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------------|
| (1) 学期末試験 | 70% | 教場での論述試験を行う。 |
| (2) 平常点 | 30% | 出席・授業態度の他、状況に応じて小テストを行う。 |

教科書

参考書

担当教員：田中 史高

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目/選択科目 単位：4 授業コード：12B0050K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西洋史の基本的な認識をつちかい確認する序論的講義です。全部で30回の内容は、毎回別々のテーマをあつかい、西洋史の基本的な流れをつかめるように配列してあります。

(2) 内容

この科目では、古代、中世、近世、近代、さらに現代へ、年代順にヨーロッパ史の重要な事象や人物などを論じていきます。毎回、講義の概要と図版のプリント（レジュメ、A3版）を配布します。また、10分ていど、視覚教材（DVD）を用いる予定です。

受講者に対する要望

まとめの作成など、毎回の作業内容が多めなので、1回1回こまめにこなしていくように努力してください。

学びのキーワード

- ・ 国家
- ・ 宗教
- ・ 社会制度
- ・ 戦争と平和
- ・ 統合と分化

授業計画

01. オリエンテーション
02. エーゲ文明
03. ポリスの成立と発展（スパルタとアテネ）
04. 古代ギリシアの古典文化
05. ヘレニズム史（アレクサンドロスの帝国と文化）
06. 共和政期のローマ
07. 帝政期のローマ
08. ゲルマン人の大移動と部族国家
09. ローマ・カトリック教会の発展
10. 十字軍の諸相
11. 封建社会（封建制と荘園制）
12. 西欧中世都市の成立と諸特質
13. 西欧中世の文化
14. イタリア・ルネサンス
15. 西欧諸国の国王巡行、小テスト(1)
16. ヨーロッパ世界の拡大（大航海時代）
17. 西欧諸国の宗教改革
18. 絶対主義（一般論的特徴、モスクワ大公国～ロシア帝国）
19. オランダ共和国の独立と繁栄
20. 市民革命（アメリカ独立革命）
21. ナポレオン時代
22. 西欧ユダヤ人の歴史
23. ドイツの統一とドイツ帝国成立、小テスト(2)
24. 第一次・第二次産業革命
25. 帝国主義（一般的特徴、イギリスの帝国主義）
26. 第一次世界大戦
27. ファシズムと第二次世界大戦
28. 20世紀の欧米諸文化
29. 20世紀後半の西欧諸国の動向とEUの成立・発展
30. 20世紀後半の東欧諸国の動向、小テスト(3)

準備学習(予習)

高校で世界史を履修していた場合には、できればこの受講前に、その教科書を、西洋史関連の部分だけでもう一度目を通しておくとよいでしょう。

準備学習(復習)

毎回授業の最後10分ていどをあてて、配布レジュメに即した内容のまとめを作成し提出してもらいます。このまとめは、後日の提出も可とします。復習のための作業ですが、小テストへの準備もかねています。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業出席点 | 25% |
| (2) 授業内容のまとめ | 25% |
| (3) 小テスト (3回) | 50% |

小テストは3回のうちの最高点を中心にして評価します。

教科書

参考書

教科書は使わず、前記毎回のレジュメのほか、必要に応じて補足的な参考資料類もプリントを用意します。

担当教員：森 齊丈

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目/選択科目 単位：4 授業コード：12B0051K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかんして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。| 個々の事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。|

(2) 内容

本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。| また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。|

受講者に対する要望

講義中の私語は厳禁とする。携帯電話はマナーモード設定すること。

学びのキーワード

- ・ 歴史
- ・ 西洋史
- ・ 欧米文化

授業計画

01. 歴史とは何か？
02. 古代オリエント
03. 地中海世界
04. 古代ギリシア
05. 共和政ローマ
06. 帝政ローマ
07. ローマ帝国の社会とキリスト教
08. ゲルマン世界の誕生
09. 中世ヨーロッパ
10. 十字軍とイスラム世界
11. 中世ヨーロッパの社会
12. キリスト教と世俗君主
13. ヨーロッパ世界の拡大
14. 大航海時代
15. ルネサンス
16. 宗教改革
17. 宗教戦争とウェストファリア条約
18. 絶対王政
19. 英米の革命
20. フランス革命
21. 産業革命と労働問題
22. 帝国主義と民族主義
23. 第一次世界大戦
24. 戦間期のヨーロッパ
25. 第二次世界大戦
26. 東西冷戦の開始から終結まで
27. 欧州統合の歴史
28. 冷戦後の世界
29. ポストコロニアリズムとグローバリズム
30. 現代の世界

準備学習(予習)

毎授業の最後に次回のテーマを発表するので、教科書の該当部分に目を通すことを勧める。大事なところは板書するので、各自プリント、ノート等に書き込み、補足し復習するのが望ましい。

準備学習(復習)

授業で学んだ人物、事項についてプリント・ノート等を見ながら思い出せるようにするとよい。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 授業内レポート | 20% |
| (3) 小テスト1 | 20% |
| (4) 小テスト2 | 20% |
| (5) 小テスト3 | 20% |

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美穂、桑島 良平『山川世界史総合図録』(山川出版社) [978-4634040212]

参考書

担当教員：田中 史高

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目/選択科目 単位：4 授業コード：12B0052K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西洋史の基本的な認識をつちかい確認する序論的講義です。全部で30回の内容は、毎回別々のテーマをあつかい、西洋史の基本的な流れをつかめるように配列してあります。

(2) 内容

この科目では、古代、中世、近世、近代、さらに現代へ、年代順にヨーロッパ史の重要な事象や人物などを論じていきます。毎回、講義の概要と図版のプリント（レジュメ、A3版）を配布します。また、10分ていど、視覚教材（DVD）を用いる予定です。

受講者に対する要望

まとめの作成など、毎回の作業内容が多めなので、1回1回こまめにこなしていくように努力してください。

学びのキーワード

- ・ 国家
- ・ 宗教
- ・ 社会制度
- ・ 戦争と平和
- ・ 統合と分化

授業計画

01. オリエンテーション
02. エーゲ文明
03. ポリスの成立と発展（スパルタとアテネ）
04. 古代ギリシアの古典文化
05. ヘレニズム史（アレクサンドロスの帝国と文化）
06. 共和政期のローマ
07. 帝政期のローマ
08. ゲルマン人の大移動と部族国家
09. ローマ・カトリック教会の発展
10. 十字軍の諸相
11. 封建社会（封建制と荘園制）
12. 西欧中世都市の成立と諸特質
13. 西欧中世の文化
14. イタリア・ルネサンス
15. 西欧諸国の国王巡行、小テスト(1)
16. ヨーロッパ世界の拡大（大航海時代）
17. 西欧諸国の宗教改革
18. 絶対主義（一般論的特徴、モスクワ大公国～ロシア帝国）
19. オランダ共和国の独立と繁栄
20. 市民革命（アメリカ独立革命）
21. ナポレオン時代
22. 西欧ユダヤ人の歴史
23. ドイツの統一とドイツ帝国成立、小テスト(2)
24. 第一次・第二次産業革命
25. 帝国主義（一般的特徴、イギリスの帝国主義）
26. 第一次世界大戦
27. ファシズムと第二次世界大戦
28. 20世紀の欧米諸文化
29. 20世紀後半の西欧諸国の動向とEUの成立・発展
30. 20世紀後半の東欧諸国の動向、小テスト(3)

準備学習(予習)

高校で世界史を履修していた場合には、できればこの受講前に、その教科書を、西洋史関連の部分だけでもう一度目を通しておくといでしょう。

準備学習(復習)

毎回授業の最後10分ていどをあてて、配布レジュメに即した内容のまとめを作成し提出してもらいます。このまとめは、後日の提出も可とします。復習のための作業ですが、小テストへの準備もかねています。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業出席点 | 25% |
| (2) 授業内容のまとめ | 25% |
| (3) 小テスト (3回) | 50% |

小テストは3回のうちの最高点を中心にして評価します。

教科書

参考書

教科書は使わず、前記毎回のレジュメのほか、必要に応じて補足的な参考資料類もプリントを用意します。

担当教員：森 齊丈

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目/選択科目 単位：4 授業コード：12B0053K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかんして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。| 個々の事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。|

(2) 内容

本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。| また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。|

受講者に対する要望

講義中の私語は厳禁とする。携帯電話はマナーモード設定すること。

学びのキーワード

- ・ 歴史
- ・ 西洋史
- ・ 欧米文化

授業計画

01. 歴史とは何か？
02. 古代オリエント
03. 地中海世界
04. 古代ギリシア
05. 共和政ローマ
06. 帝政ローマ
07. ローマ帝国の社会とキリスト教
08. ゲルマン世界の誕生
09. 中世ヨーロッパ
10. 十字軍とイスラム世界
11. 中世ヨーロッパの社会
12. キリスト教と世俗君主
13. ヨーロッパ世界の拡大
14. 大航海時代
15. ルネサンス
16. 宗教改革
17. 宗教戦争とウェストファリア条約
18. 絶対王政
19. 英米の革命
20. フランス革命
21. 産業革命と労働問題
22. 帝国主義と民族主義
23. 第一次世界大戦
24. 戦間期のヨーロッパ
25. 第二次世界大戦
26. 東西冷戦の開始から終結まで
27. 欧州統合の歴史
28. 冷戦後の世界
29. ポストコロニアリズムとグローバリズム
30. 現代の世界

準備学習(予習)

毎授業の最後に次回のテーマを発表するので、教科書の該当部分に目を通すことを勧める。大事なところは板書するので、各自プリント、ノート等に書き込み、補足し復習するのが望ましい。

準備学習(復習)

授業で学んだ人物、事項についてプリント・ノート等を見ながら思い出せるようにするとよい。

評価方法

(1) 平常点	20%
(2) 授業内レポート	20%
(3) 小テスト1	20%
(4) 小テスト2	20%
(5) 小テスト3	20%

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美穂、桑島 良平『山川世界史総合図録』(山川出版社) [978-4634040212]

参考書

担当教員：松井 慎一郎

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目/選択科目 単位：4 授業コード：12B50320

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

単に知識を得るのではなく、我々がこれから生きていくうえで必要な知恵を引き出すことができるような学びの場にしていきたい。

(2) 内容

本講義では、幕末から敗戦までの約100年間の歴史を、できるだけ面白くわかりやすく解説する。政治史を中心に、中国・朝鮮との関係や思想家の言説についても詳しく触れる。

受講者に対する要望

日本近現代史はもちろんのこと、現代の社会について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・日本近現代史
- ・中国・朝鮮
- ・アジア認識
- ・政治
- ・思想

授業計画

01. はじめにーオリエンテーションー
02. 大塩平八郎は本当に民衆の味方なのか。
03. 幕府は黒船が来るのを知っていた？
04. 幕末のヒーローたち
05. 西郷隆盛と大久保利通
06. 台湾と朝鮮
07. 「革命」を認めた幻の憲法 |
08. 歴史の舞台となった秩父
09. 「脱亜論」の真実 |
10. アジアで2番目に制定された近代的憲法 |
11. なぜ大隈重信像は杖をついているのか。 |
12. すべてを失った内村鑑三の悲劇
13. 最初に朝鮮と戦った「日清戦争」
14. 「正露丸」誕生の背景 |
15. 漱石が書けなかった朝鮮
16. 『中央公論』を大雑誌に発展させた吉野作造 |
17. 五・四運動と三・一運動
18. 植民地は損であると主張した石橋湛山
19. 日本にもあった二大政党の時代
20. 民意に反した枢密院の暗躍 |
21. 満洲は本当に「我国の生命線」であったのか？
22. 軍事クーデターを批判した河合栄治郎の戦闘性
23. 人気総理が招いた中国との戦争
24. なぜアメリカと戦う羽目になったのか。
25. 「大東亜共栄圏」建設のための戦争？ |
26. 「玉砕」という作戦 |
27. 多くの生命と財産を奪った空襲 |
28. なぜ戦争をやめられなかったのか。 |
29. 占領によって実現した民主化 |
30. まとめ |

準備学習(予習)

各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。

準備学習(復習)

授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員：小林 茂之

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12B50500

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

言語と文化との関係を歴史を通して学ぶ。英語を教養として学ぶことで、英語を学ぶ楽しさを経験する。

(2) 内容

英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語（PDE）に近い初期近代英語（EModE）が成立し、現代でも普通に用いられる最も古い英語訳聖書である欽定訳聖書は、初期近代英語による傑出した作品である。本講義では、BBC製作の日本語版DVDを楽しみながら、やさしい英語に書き直された教科書を読み進めていく。英国の風景をパワーポイントで楽しみながら、楽しく英語の歴史を紹介したい。また、実用的知識としても、イギリス英語とアメリカ英語が異なる理由を知ることは、英語学習に大変役立つ。

受講者に対する要望

授業時に電子辞書などで調べてもらうので、必ず持ってくる。

学びのキーワード

- ・ 歴史言語学
- ・ 英語文化史
- ・ 古英語（アングロサクソン語）
- ・ 中英語
- ・ 初期近代英語

授業計画

01. 千年の歴史と五大陸への展開 (Video 1)
02. テキスト Ch.1 (1): An English-speaking World
03. テキスト Ch.1 (2): Nation Shall Speak Peace unto Nation
04. テキスト Ch.1 (3): The Best Kind of English
05. テキスト Ch.1 (4): The Voice of America
06. テキスト Ch.1 (5): The Network Standard
07. テキスト Ch.1 (6): English Where It's at
08. テキスト Ch.1 (7): Wealth, Wisdom and Strict Economy
09. 第1章のまとめ
10. 異文化との出会い (Video 2)
11. テキスト Ch.2 (1): The Mother Tongue
12. テキスト Ch.2 (2): The Making of English
13. テキスト Ch.2 (3): The Words of God
14. テキスト Ch.2 (4): The Norman Invasion
15. テキスト Ch.2 (5): Common Men Know No French
16. テキスト Ch.2 (6): Middle English
17. テキスト Ch.2 (7): First Founder and Embellisher of Our English
18. 第2章のまとめ
19. シェイクスピアの時代 (Video 3)
20. テキスト Ch.3 (1): A Muse of Fire
21. テキスト Ch.3 (2): The Bard of Avon
22. テキスト Ch.3 (3): Shakespearean Idioms
23. テキスト Ch.3 (4): The Authorized Version
24. 第3章のまとめ
25. スコットランド人海を渡る (Video 4)
26. 大英帝国の遺産 (Video 7)
27. 英語の未来 (Video 9)
28. テキスト Epilogue: Next Year's Words
29. 第25-27回, Epilogue のまとめ
30. 補足：英語史と映画

準備学習(予習)

教科書の進度に合わせて予習してくる。原文の日本語訳があるので、内容を把握しておく。

準備学習(復習)

受講者各自の必要に応じて、原文の日本語訳を活用する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 30% | 教科書を常に所持しないで、受講することは認められない。なお、随時、教科書を所持しているかをチェックする。 |
| (2) 期末レポート | 30% | 期末にレポート作成用のブックリストを配布する。 |
| (3) 授業への積極性 | 40% | 課題へのレスポンス |

教科書を手出し、携行することは授業出席と評価の必要条件である。|毎授業時にリアクションペーパーの提出がある。

教科書

寺澤 芳雄『BBC：英語ものがたり』（朝日出版社）【978-4255152967】

参考書

授業時に指示する。

担当教員：小林 茂之

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12B50505

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

言語と文化との関係を歴史を通して学ぶ。英語を教養として学ぶことで、英語を学ぶ楽しさを経験する。

(2) 内容

英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語（PDE）に近い初期近代英語（EModE）が成立し、現代でも普通に用いられる最も古い英語訳聖書である欽定訳聖書は、初期近代英語による傑出した作品である。本講義では、BBC製作の日本語版DVDを楽しみながら、やさしい英語に書き直された教科書を読み進めていく。英国の風景をパワーポイントで楽しみながら、楽しく英語の歴史を紹介したい。また、実用的知識としても、イギリス英語とアメリカ英語が異なる理由を知ることは、英語学習に大変役立つ。

受講者に対する要望

授業時に電子辞書などで調べてもらうので、必ず持ってくる。

学びのキーワード

- ・ 歴史言語学
- ・ 英語文化史
- ・ 古英語（アングロサクソン語）
- ・ 中英語
- ・ 初期近代英語

授業計画

01. 千年の歴史と五大陸への展開 (Video 1)
02. テキスト Ch.1 (1): An English-speaking World
03. テキスト Ch.1 (2): Nation Shall Speak Peace unto Nation
04. テキスト Ch.1 (3): The Best Kind of English
05. テキスト Ch.1 (4): The Voice of America
06. テキスト Ch.1 (5): The Network Standard
07. テキスト Ch.1 (6): English Where It's at
08. テキスト Ch.1 (7): Wealth, Wisdom and Strict Economy
09. 第1章のまとめ
10. 異文化との出会い (Video 2)
11. テキスト Ch.2 (1): The Mother Tongue
12. テキスト Ch.2 (2): The Making of English
13. テキスト Ch.2 (3): The Words of God
14. テキスト Ch.2 (4): The Norman Invasion
15. テキスト Ch.2 (5): Common Men Know No French
16. テキスト Ch.2 (6): Middle English
17. テキスト Ch.2 (7): First Founder and Embellisher of Our English
18. 第2章のまとめ
19. シェイクスピアの時代 (Video 3)
20. テキスト Ch.3 (1): A Muse of Fire
21. テキスト Ch.3 (2): The Bard of Avon
22. テキスト Ch.3 (3): Shakespearean Idioms
23. テキスト Ch.3 (4): The Authorized Version
24. 第3章のまとめ
25. スコットランド人海を渡る (Video 4)
26. 大英帝国の遺産 (Video 7)
27. 英語の未来 (Video 9)
28. テキスト Epilogue: Next Year's Words
29. 第25-27回, Epilogue のまとめ
30. 補足：英語史と映画

準備学習(予習)

教科書の進度に合わせて予習してくる。原文の日本語訳があるので、内容を把握しておく。

準備学習(復習)

受講者各自の必要に応じて、原文の日本語訳を活用する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 30% | 教科書を常に所持しないで、受講することは認められない。なお、随時、教科書を所持しているかをチェックする。 |
| (2) 期末レポート | 30% | 期末にレポート作成用のブックリストを配布する。 |
| (3) 授業への積極性 | 40% | 課題へのレスポンス |

教科書を手直し、携行することは授業出席と評価の必要条件である。| 毎授業時にリアクションペーパーの提出がある。|

教科書

寺澤 芳雄『BBC：英語ものがたり』（朝日出版社）【978-4255152967】

参考書

授業時に指示する。

担当教員：上宇都ゆりほ

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：12B50610

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学習からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

文学研究を専門としない学生のための教養としての科目として位置づける。しかし文学を広く見渡し、時代と思想のあり方を考えるために複合的な視野を導入した講義を進める。講義では教科書、プリントの音読を学生自身にしてもらう他、授業で取り上げた作品に関するDVDなどを用いて、日本文化の立体的な把握に迫りたい。教科書は毎回学生に音読してもらうので、教科書・参考資料の予習は必須である。また、授業の習熟度を測るために毎回小さなレポートを書いてもらって平常点とするので、受講に際しては真剣に授業を聞くこと。様々な時代の古典文学作品について、立体的な視点を通して、当時の社会的背景を考え、日本人の思想の成り立ちを俯瞰し、普遍的な人間の精神に迫ることを目標とする。

(2) 内容

文学作品とは、人間の普遍的な精神活動を基盤として、政治のあり方や人々の暮らしなどの、社会的背景が深く関わって成り立つものである。とすれば、日本の古典文学に触れることを通して、日本の社会のあり方によって今は異なるもの、反対に、何百年経っても変わらないものがわかるだろう。日本を知るために、文学作品を系統的に辿ってみよう。原文そのものに触れて、当時の人々の思想や暮らしに思いを馳せてみよう。現在の日本や日本人を考える時、日本の古典文学を知ることは、様々な価値観を相対化するための一つの物差しとなるはずである。

受講者に対する要望

毎回授業で扱った内容について、小さなレポートを書いてもらい、それを平常点とするので、ただ出席しているだけでは単位は取れないとしっかり認識し、まじめに授業に取り組んでほしい。また、毎回古典作品を原文で音読してもらうので、予習・復習は必ずしてくる。他の学生の迷惑となるので、私語は厳禁する。

学びのキーワード

- ・ 日本古典文学
- ・ 音読
- ・ レポート
- ・ 日本人の思想
- ・ 文学作品の周辺

授業計画

01. 授業概説、古典の色彩
02. 「伊勢物語」を読む（1）—成立について
03. 「伊勢物語」を読む（2）—時代背景と在原業平について
04. 「伊勢物語」を読む（3）—初段、第四段
05. 「伊勢物語」を読む（4）—第四段の史実と物語
06. 「源氏物語」を読む（1）—成立と時代背景
07. 「源氏物語」を読む（2）—義母への愛
08. 「源氏物語」を読む（3）—紫の上の苦悩と自立
09. 「源氏物語」を読む（4）—「宇治十帖」のテーマ
10. 「源氏物語」を読む（5）—母恋慕と「オイディプス王」
11. 「源氏物語」を読む（6）—「オイディプス王」と「阿闍世」
12. 「今昔物語集」を読む（1）—説話とは何か
13. 「今昔物語集」を読む（2）—成立と時代背景
14. 「今昔物語集」を読む（3）—「羅生門」の原話
15. 「今昔物語集」を読む（4）—姥捨て説話
16. 中間試験
17. 「平家物語」を読む（1）—成立について
18. 「平家物語」を読む（2）—武士とは何か
19. 「平家物語」を読む（3）—白拍子と清盛
20. 「平家物語」を読む（4）—熊谷直実の発心
21. 「平家物語」を読む（5）—頼朝と義経
22. 「平家物語」を読む（6）—平家の最期
23. 「菅根崎心中」を読む（1）—成立と時代背景
24. 「菅根崎心中」を読む（2）—大坂の町と花魁
25. 「菅根崎心中」を読む（3）—道行を読む
26. 「冥途の飛脚」を読む（1）—時代背景について
27. 「冥途の飛脚」を読む（2）—大坂から大和路へ
28. 「冥途の飛脚」を読む（3）—道行を読む
29. 「冥途の飛脚」を読む（4）—関連作品について
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回、教科書や関連するプリントを数名に読んでもらうので、教科書や配布プリントは読めるように予習しておくこと。

準備学習(復習)

授業中に読めなかった文字やことばについては必ず復習すること。また、返却したレポートのコメントは必ず読み返し、さらに自分の考えを深めよう。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 中間試験 | 30% |
| (2) 学期末試験 | 30% |
| (3) レポート | 40% |
- 毎回授業で扱った内容について、小さなレポートを提出してもらい、平常点とする。

中間試験の評価を30パーセント、学期末試験の評価を30パーセントとし、提出してもらうレポートを5点満点として毎回採点し、全てのレポートの点数を合算したものを40パーセントに換算して、それらを合算して評価する。

教科書

小林保治『あらずじで読む日本の古典』（新人物往来社）【978-4404040138】

参考書

担当教員：中島 佐和子

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12B50615

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

第一に、文学の楽しさを知ること。第二に、様々な文学作品を読むことは、人間関係が希薄化し、いじめや引きこもりが問題になっている今の時代にあって、他者を思いやり、他者との関わりについて考える絶好の機会となるだろう。自分の今いる場が、唯一絶対のものではないということにも気づくはずである。第三に、明治以降の日本社会について考察し、漢字、語彙、慣用句などの知識を得ることによる日本語能力の増進と、創作技法を分析することによるメディアリテラシー（情報を読み取り発信する能力）の強化を図りたい。文学を通しての人間理解は、どのような専門科目を学ぶ者にも非常に有益である。（取り上げる作家・作品は変更する可能性があります。）

(2) 内容

明治から現代に至る短編小説を主にした近現代日本文学を講読する。作品を鑑賞し、時代背景を探り、小説技法を学ぶ。人は、自分ひとりで存在しているのではなく、必ず周囲の人々との関係性の中にある。文学を読むということは、様々な関係性を体験するという他にない。また文学は時代を映す鏡である。明治から現代に至る道筋を文学でたどる事によって、現在の私たちがどのような位置にいるのかを確認したい。

受講者に対する要望

授業を漫然と受けるのではなく、積極的に参加して、発展的な学習をしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 読書の楽しみ
- ・ 人間
- ・ 歴史
- ・ 関係性

授業計画

01. ガイダンス
02. 樋口一葉の作品を読む（1）
03. 樋口一葉の作品を読む（2）
04. 樋口一葉の作品を読む（3）
05. 樋口一葉の作品を読む（4）
06. 田山花袋の作品を読む（1）
07. 田山花袋の作品を読む（2）
08. 田山花袋の作品を読む（3）
09. 田山花袋の作品を読む（4）
10. 夏目漱石の作品を読む（1）
11. 夏目漱石の作品を読む（2）
12. 夏目漱石の作品を読む（3）
13. 夏目漱石の作品を読む（4）
14. 芥川龍之介の作品を読む（1）
15. 芥川龍之介の作品を読む（2）
16. 芥川龍之介の作品を読む（3）
17. 芥川龍之介の作品を読む（4）
18. 宮沢賢治の作品を読む（1）
19. 宮沢賢治の作品を読む（2）
20. 宮沢賢治の作品を読む（3）
21. 宮沢賢治の作品を読む（4）
22. 金子みすゞの作品を読む（1）
23. 金子みすゞの作品を読む（2）
24. 金子みすゞの作品を読む（3）
25. 田村俊子の作品を読む
26. 太宰治の作品を読む（1）
27. 太宰治の作品を読む（2）
28. 俵万智の作品を読む（1）
29. 俵万智の作品を読む（2）
30. まとめ

準備学習(予習)

作品を必ず通読し、通読課題をする。

準備学習(復習)

学習内容を再確認するとともに、授業で学んだ作家の他の作品や、同時代の作品を読み、理解を深める。

評価方法

(1) 授業態度	10%
(2) 提出物	60%
(3) 期末テスト	30%

教科書

参考書

担当教員：坂巻 理恵子

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：12B50855

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

言葉を取りまく様々な文化について、これからの学びの糸口をつかむ入門的な授業とします。| 日本の文化・伝統に興味を持ち理解を深めていくこと。そして自身がこれらを世界に、また後の世代の子供達に伝える担い手であるという自覚をひとりひとりにもってほしいと考えます。|

(2) 内容

2011年の東日本大震災で、秩序を保ち忍耐を持ってみんなのために尽くす日本人の姿は海外で絶賛されました。私たちは長いこと忘れていた日本人らしさを再認識したように思います。| 本講義では、当たり前のようにまわりにある日本のよき文化について、言葉・文字という観点から考えます。後半は「和本」といわれる昔の書物を実際に手にとってみたり、出版の仕組みについてもふれてみたいと思っています。| また社会にでてからの素養となる基本的な日本語語彙についてのドリル学習、短い文章の作成・添削もあわせてやっていくつもりです。|

受講者に対する要望

残念なことに毎年三分の一ほどの学生を落とすことになってしまいます。評価は厳しいと思ってください。きちんと出席し、授業に参加する気持ちのある学生を希望します。

学びのキーワード

授業計画

01. 授業ガイダンス
02. 言葉の力
03. ものの名前 (1)
04. ものの名前 (2)
05. 言葉の由来 (1)
06. 言葉の由来 (2)
07. 日本のしきたり (1)
08. 日本のしきたり (2)
09. 敬語について (1)
10. 敬語について (2)
11. 敬語について (3)
12. 漢字について (1)
13. 漢字について (2)
14. 平仮名・片仮名について (1)
15. 平仮名・片仮名について (2)
16. 物語を生み出す力
17. 日本の神話 (1)
18. 日本の神話 (2)
19. 日本の昔話 (1)
20. 日本の昔話 (2)
21. 中間試験 (語彙復習テスト)
22. 翻訳ということ (1)
23. 翻訳ということ (2)
24. 本のはなし (1)
25. 本のはなし (2)
26. 本のはなし (3)
27. 本のはなし (4)
28. 本のはなし (5)
29. 本のはなし (6)
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回ワークの時間を設けます。必ず国語辞典または電子辞書を持参してください。知らないこと、あやふやなことはその場で調べて覚える。知らないうちに語彙力がつきます。

準備学習(復習)

授業で取り上げる語彙のプリントの内容は、社会に出た際に知っていなければ恥ずかしいものばかりです。必ず身に付けるという気持ちをもって、もう一度確認し復習しておくこと。また配布するプリントはかなりの分量になります。きちんと整理保管しておくよう心がけてください。

評価方法

(1) 平常点	50%
(2) 授業時のワーク	20%
(3) 中間試験	15%
(4) 課題レポート	15%

教科書

参考書

異文化間コミュニケーション（教養）

CCOM-0-100/CCOM-A-300/CCOM-J-20

担当教員：鄭 鎬碩

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12B50910

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【J】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多文化的な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目【A】副専攻：日本文化学科科目【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 現代世界において文化とコミュニケーションが問われる文脈について理解する。| (2) 異文化間コミュニケーションの基礎概念が分かる。| (3) 映像資料や文献を批判的に読みとく力を鍛える。

(2) 内容

わたしたちの日常は異質なもの（＝他者）との出会いであふれている。本講義では、映像資料やテキストをもとに、文明・人種・性など「差異」をめぐる多様な社会現象について学習し、異質性とのような関係を築いていくかという視点から現代文化のダイナミズムについて考えていく。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、発表してもらおう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ アイデンティティ
- ・ 自己と他者
- ・ 公共性
- ・ シティズンシップ
- ・ マイノリティ

授業計画

01. なぜ異文化間コミュニケーションが問題なのか
02. 視点としての「コミュニケーション」
03. 野蛮と文明（1）「啓蒙」の時代
04. 野蛮と文明（2）「人種」
05. 野蛮と文明（3）「野蛮人」への眼差し
06. オリエンタリズム（1）知識と権力
07. オリエンタリズム（2）『オリエンタリズム』を読む
08. オリエンタリズム（3）「東洋」の描かれ方
09. 練習・討論①：異文化へのまなざし（1）
10. 練習・討論②：異文化へのまなざし（2）
11. 自我と他者（1）自己とはなにか
12. 自我と他者（2）他人の眼差し
13. 自我と他者（3）パフォーマンスとしての自己呈示
14. 自我と他者（4）物語としての自己
15. マイノリティとマジョリティ（1）「マイノリティ」とはなにか
16. マイノリティとマジョリティ（2）マイノリティの社会運動
17. 練習・討論③：アメリカの人種問題（1）
18. 練習・討論④：アメリカの人種問題（2）
19. アイデンティティの政治（1）集団的アイデンティティ
20. アイデンティティの政治（2）新しい社会運動
21. 公共性からの排除（1）公共性とはなにか
22. 公共性からの排除（2）公と私
23. ジェンダー（1）性差と差別
24. ジェンダー（2）性差と反本質主義
25. ジェンダー（3）性別役割分業
26. 練習・討論⑤：グローバリゼーションと自由（1）
27. 練習・討論⑥：グローバリゼーションと自由（2）
28. シティズンシップ（1）移民と難民
29. シティズンシップ（2）多文化主義の挑戦
30. まとめ

準備学習（予習）

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習（復習）

授業で学んだ内容を文章でまとめ、コメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 期末レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

担当教員：池上 真理子

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12C00725

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「音楽は学ぶものではなく、感覚的に楽しむもの」と思っている人もいるかもしれない。しかし、他文化の音楽を真に理解し味わうためには、感覚的な好き嫌いでだけでなく、その音楽の生まれた背景や音楽の文法を学ぶことが不可欠である。西洋において、音楽は古来、精神的素養や学問の対象、あるいはキリスト教の祈りの手段としてなど、非常に知的な土壌の下に発展してきた。そのような多様な音楽のあり方を知ることにより、西洋音楽だけではなく、様々な文化の音楽をより深く理解できるような視点を身に付けることを目指す。

(2) 内容

西洋音楽史の概要を、作曲家、作品を軸としながら、時代背景、社会、文化、宗教など幅広い視点から学んでいく。各時代の音楽に出来るだけ生きた形で触れられるよう、CD、DVD、画像資料なども随時取り上げる。様々な音楽に触れ、西洋音楽に親しむと同時に、社会・文化的な観点から音楽を学ぶことにより、人間にとって音楽とは何なのか、という本質的な問いを持ち、音楽に対する視野を広げてもらいたい。

受講者に対する要望

授業に出席することは大前提で、それ自体は評価の対象にはならない。授業の理解度、関心、定着度などをリアクション・ペーパー、小テスト、中間、期末テストによって厳格に評価するので、予習、復習を含め、しっかりと学ぶ意志をもって授業に臨んでほしい。出席日数が大学の基準に満たない場合、また、出席が足りなくてもテスト等の点数が基準に満たない場合には、単位は与えられないので注意すること。また、スマホ、私語など授業マナーに反する行為に対しては、減点、出席と認めないなど厳しく対処する。授業は学ぶ場であることをしっかりと自覚して臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋音楽
- ・ 西洋音楽史
- ・ 音楽様式
- ・ 作曲家

授業計画

01. ガイダンス、西洋音楽史の概略
02. 西洋音楽史概略
03. 音楽とは何か (1)
04. 音楽とは何か (2)
05. 音楽とは何か (3)
06. 古代ギリシアの音楽と音楽思想
07. 中世の音楽 (1)
08. 中世の音楽 (2)
09. ルネサンスの音楽 (1)
10. ルネサンスの音楽 (2)
11. バロックの音楽 (1)
12. バロックの音楽 (2)
13. バロックの音楽 (3)
14. 古典派の音楽 (1)
15. 古典派の音楽 (2)
16. 前半のまとめ
17. 古典派の音楽 (3)
18. 古典派の音楽 (4)
19. ロマン派の音楽 (1)
20. ロマン派の音楽 (2)
21. ロマン派の音楽 (3)
22. ロマン派の音楽 (4)
23. 20世紀の音楽
24. ポピュラー音楽 (1)
25. ポピュラー音楽 (2)
26. 映画音楽 (1)
27. 映画音楽 (2)
28. 日本の伝統音楽 (1)
29. 日本の伝統音楽 (2)
30. ふりかえり

準備学習(予習)

授業で取り上げる内容に関して、予め調べたり、音楽を聴いておくように。|(90分)

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を、ノートや配布資料、音楽などで復習し、定着させること。|(120分)

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|---------------------------------|
| (1) 学期末試験 | 50% | 期末試験を評価する |
| (2) 授業への取り組み | 50% | 中間試験、リアクション・ペーパー、授業に臨む姿勢などを評価する |

試験は記述式で持ち込み不可。(しっかり理解、暗記していないと難しい) |リアクション・ペーパーへの回答、試験の解答提示と解説を行う。|

教科書

プリントを配布する

参考書

担当教員：上原 里佳

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12C01040

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義は、幅広く深い教養を学ぶ観点から絵本文化を通して子どもの世界を知るための入門的なものである。「子ども時代に親しんできた絵本、現代の子どもたち（そして大人たち）が楽しんでいる絵本、世界の絵本を通して、子ども文化の一端を担う「絵本文化」の奥深さについて学ぶ。

(2) 内容

絵本とは、「絵」と「文字」の絶妙なバランスによって成立する極めて特殊な文化であるため、その切り口も多様である。また、そこには物語だけでなく、自然科学、人間の在り方の基盤となる哲学などが、極力単純化された形で展開される。ここでは、絵本の歴史と発展を学びながら、できるだけ多くの絵本に触れその魅力と特徴について考えたい。

受講者に対する要望

久しぶりに触れる絵本の世界から、子ども時代には気づかなかった新たな魅力を新鮮な気持ちで感じとり、その奥深さを考えていきましょう。多くの作品を読む必要があるため、絵本・読書に興味のある人の受講を希望します。なお、授業開始後の退室は、体調不良など緊急時以外は認めません。同様に、私語など、他の受講生に迷惑がかかる行為があった場合も、欠席扱いとなることがあるので、注意すること。

学びのキーワード

- ・ 絵本
- ・ 幼児教育

授業計画

01. イントロダクション ～絵本とは何か～ 初回アンケート
02. 絵本の画面展開・描写の手法
03. 世界の絵本の歩み1 ～『世界図絵』からチャップ・ブックへ～
04. 世界の絵本の歩み2 ～近代絵本の発展・イギリスを中心に～
05. 世界の絵本の歩み3 ～ビアトリクス・ポター登場～
06. ポストモダンの絵本1 ～ポストモダン絵本の登場～
07. ポストモダンの絵本2
08. ポストモダンの絵本3
09. 子どもの発達と絵本
10. 赤ちゃん絵本1
11. 赤ちゃん絵本2
12. 幼児と絵本
13. 小・中学生と絵本
14. 視覚表現と色彩表現
15. 絵本の画材と技法
16. 日本の絵本の歩み1 ～絵巻物から赤本まで～
17. 日本の絵本の歩み2 ～新しい時代の幕開け～
18. 言葉の絵本1
19. 言葉の絵本2
20. 言葉の絵本3
21. 文字なし絵本1
22. 文字なし絵本2
23. 文字なし絵本3 ～物語を作ってみよう～
24. 写真絵本
25. 数の絵本
26. 時間・比較の絵本
27. ファンタジー絵本
28. ナンセンス絵本・パロディ絵本
29. 統括・復習
30. 理解度の確認と振り返り

準備学習(予習)

子ども時代に読んだ絵本を読み返しておくこと。日頃から絵本に触れる機会を積極的に増やし、絵本に馴染むようにしてください。様々なタイプの絵本を読むことで、授業の理解が深まります。大学図書館の他に、地元の図書館で検索・リクエストをかけるなど上手に活用しましょう。

準備学習(復習)

配布プリントを見直ししながら、ノートを完成させる。講義で解説した絵本は、図書館・書店などを利用し、各自必ず実際に手に取って目を通すこと。各回で紹介した作家の作品については、授業でとりあげた以外の絵本も積極的に読み、その特徴を理解すること。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度 | 20% | 授業開始後の、途中退出発症、体調不良など緊急時以外に無断退室した場合は、欠席扱いとなるので注意すること。 |
| (2) コメントペーパーへの記入・回答 | 30% | 出席確認だけでなく、講義理解度、積極性を判断し、成績に反映するものなので、必ず回答すること。 |
| (3) 期末テスト | 50% | 期末テストでは、授業でとりあげた作品を既読であることを前提に出席します。 |

復習、期末テストが必要となるので、講義中必ずノートをとること。最低必須出席日数が大学の規定に満たない場合は期末テストを受けることが出来ません。

教科書

適宜、プリント配布

参考書

配布プリントはあくまでも補助的なものです。授業中の板書、プロジェクターでの説明が主になるので、各自必ずノートをとるようにして下さい。

障害児(者)の理解と社会

HUWL-0-100

担当教員：齋藤 一雄

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12C30220

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

<学びの意義> | 障害者の社会生活における医療・福祉・労働・社会生活等における今日的な諸問題を明らかにし、諸制度等の基本的な考え方を押さえながら、望ましい共生社会の実現に向けた方向を探る。| || <目標> | 1 望ましい共生社会のあり方や実現に向けた諸課題について理解する。| 2 障害の種類や程度により、どのような指導や支援、配慮が必要であるかを理解する。| 3 障害児(者)の医療・福祉・労働・教育・社会生活等に関する諸制度について理解する。| 4 障害児(者)の社会生活等における今日的な諸課題について理解する。

(2) 内容

今日、共生社会の形成が求められており、その実現に向けて、障害者の権利条約の批准について障害者の諸制度改革が行われている。今後の共生社会の形成を目指して、一層の視野を広げるために、障害者の社会生活を直視し、その諸問題を明らかにしながら、共生社会のあるべき姿を考える。| 授業では、講義のほか、各課題に沿った調査等のレポートを提出・発表し、協議をとおして、あるべき姿や、今後の問題解決の方向を検討する。| 【共生社会】共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。|

受講者に対する要望

1 新聞やテレビで報道される障害者問題等に関心を持ち、問題の背景や解決方法等について考えてほしい。
2 年齢・性別・障害の有無に限らず、個人の尊厳が尊重され、共に助け合い、一人一人が生き甲斐をもって生活することができる共生社会とは、どのような社会であるかを考えてほしい。

学びのキーワード

- ・ 共生社会
- ・ 障害児(者)の理解と教育
- ・ 障害児(者)の福祉・労働
- ・ 障害児(者)と犯罪・戦争・医療
- ・ 障害理解教育

授業計画

01. オリエンテーション(授業内容・方法、学習方法等、障害のとらえ方)
02. 障害の理解と教育(視覚障害)
03. 障害の理解と教育(聴覚障害)
04. 障害の理解と教育(知的障害)
05. 障害の理解と教育(肢体不自由)
06. 障害の理解と教育(病弱)
07. 障害の理解と教育(発達障害)
08. 障害児の教育の歴史と今後(1)
09. 障害児教育の歴史と今後(2)(レポート1)
10. 障害者の権利条約(1)
11. 障害者の権利条約(2)
12. 障害者の社会生活(1)(バリアフリー・ユニバーサルデザイン)
13. 障害者の社会生活(2)(バリアフリー調査と発表・協議、レポート2)
14. 障害者の福祉機器(1)(最新の福祉機器等)
15. 障害者の福祉機器(2)(義肢等、協議)
16. 障害者の社会福祉(1)(社会福祉施策等)
17. 障害者の社会福祉(2)(手帳・年金、障害者施設等)
18. 障害者と労働(1)(キャリア教育、雇用促進・雇用率等)
19. 障害者と労働(2)(就労の継続と挫折、協議、レポート3)
20. 障害者と犯罪(1)(被害者、責任能力、累犯等)
21. 障害者と犯罪(2)(取調べ、裁判、協議)
22. 障害者と戦争(障害者が語る戦争、命の選別)
23. 障害者と薬害・公害
24. 障害児と医学(胎児診断の問題)
25. 障害者差別の問題
26. 障害者へのいじめ・虐待(レポート4)
27. 障害理解の推進(1)(障害理解の段階、障害児者の家族)
28. 障害理解の推進(2)(障害の受容、協議)
29. 交流及び共同学習とインクルーシブ教育
30. まとめ

準備学習(予習)

あらかじめ配布された資料には、必ず目をとおすとともに、重要な事項は調べておくこと。

準備学習(復習)

配布資料等を参考に、関係する新聞記事や文献等を調べ、授業内容を振り返り、理解を図ること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 40% |
| (2) 試験 | 60% |

成績評価全体に対するコメント
1 レポートは必ず提出のこと.

教科書

資料を配布する。

参考書

障害児(者)の理解と社会

HUWL-0-100

担当教員：齋藤 一雄

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12C30230

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

<学びの意義> | 障害者の社会生活における医療・福祉・労働・社会生活等における今日的な諸問題を明らかにし、諸制度等の基本的な考え方を押さえながら、望ましい共生社会の実現に向けた方向を探る。| || <目標> | 1 望ましい共生社会のあり方や実現に向けた諸課題について理解する。| 2 障害の種類や程度により、どのような指導や支援、配慮が必要であるかを理解する。| 3 障害児(者)の医療・福祉・労働・教育・社会生活等に関する諸制度について理解する。| 4 障害児(者)の社会生活等における今日的な諸課題について理解する。

(2) 内容

今日、共生社会の形成が求められており、その実現に向けて、障害者の権利条約の批准について障害者の諸制度改革が行われている。今後の共生社会の形成を目指して、一層の視野を広げるために、障害者の社会生活を直視し、その諸問題を明らかにしながら、共生社会のあるべき姿を考える。| 授業では、講義のほか、各課題に沿った調査等のレポートを提出・発表し、協議をとおして、あるべき姿や今後の問題解決の方向を検討する。| 【共生社会】共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。|

受講者に対する要望

1 新聞やテレビで報道される障害者問題、児童問題、高齢者問題に関心をもち、問題の背景や解決方法等について考えてほしい。| 2 年齢・性別・障害の有無に限らず、個人の尊厳が尊重され、共に助け合い、一人一人が生き甲斐をもって生活することができる共生社会とは、どのような社会であるかを考えてほしい。|

学びのキーワード

- ・ 共生社会
- ・ 障害児(者)の理解と教育
- ・ 障害児(者)の福祉・労働
- ・ 障害児(者)と犯罪・戦争・医療
- ・ 障害理解教育

授業計画

01. オリエンテーション(授業内容・方法、学習方法等、障害のとらえ方)
02. 障害の理解と教育(視覚障害)
03. 障害の理解と教育(聴覚障害)
04. 障害の理解と教育(知的障害)
05. 障害の理解と教育(肢体不自由)
06. 障害の理解と教育(病弱)
07. 障害の理解と教育(発達障害)
08. 障害児の教育の歴史と今後(1)
09. 障害児教育の歴史と今後(2)(レポート1)
10. 障害者の権利条約(1)
11. 障害者の権利条約(2)
12. 障害者の社会生活(1)(バリアフリー・ユニバーサルデザイン)
13. 障害者の社会生活(2)(バリアフリー調査と発表・協議)(レポート1)
14. 障害者の福祉機器(1)(最新の福祉機器等)
15. 障害者の福祉機器(2)(義肢等、協議)
16. 障害者の社会生活(1)(社会福祉施策等)
17. 障害者の社会福祉(2)(手帳、年金、障害者施設等)
18. 障害者と労働(1)(キャリア教育、雇用促進・雇用率等)
19. 障害者と労働(2)(就労の継続と挫折、協議、レポート3)
20. 障害者と犯罪(1)(被害者、責任能力、累犯等)
21. 障害者と犯罪(2)(取調べ、裁判、協議)
22. 障害者と戦争(障害者が語る戦争、命の選別)
23. 障害者と薬害・公害
24. 障害者と医学(胎児診断の問題)
25. 障害者差別の問題
26. 障害者へのいじめ・虐待(レポート4)
27. 障害理解の推進(1)(障害理解の段階、障害児者の家族)
28. 障害理解の推進(2)(障害の受容、協議)
29. 交流及び共同学習とインクルーシブ教育
30. まとめ

準備学習(予習)

あらかじめ配布された資料には、必ず目をとおすとともに、重要な事項は調べておくこと。

準備学習(復習)

配布資料等を参考に、関係する新聞記事や文献等を調べ、授業内容を振り返り、理解を図ること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 40% |
| (2) 試験 | 60% |

成績評価全体に対するコメント
1 レポートは必ず提出のこと。

教科書

資料を配付する。

参考書

担当教員：山田 義文

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12C50635

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々な立場の人々が抱くバリアを的確に捉え、皆さん自身が考える福祉環境像を提言できるよう、屋外での実習も実施します。今後も、常にすべての人々が安全で快適な環境を構築するための大切な意識を持ち続けられるようになることを目標とします。

(2) 内容

皆さんはそれぞれに趣味や生きがいを持ち、様々な製品やサービス、情報、建物や交通機関などを利用しながら毎日を過ごしていることと思います。しかし、それらを利用した時に不便に感じた経験も少なくないかと思えます。その悩みは、障がいを持つ人や高齢の人も全く同じです。福祉環境学の講義では、高齢者や障がいを持つ人を含め、誰にでも便利で快適な環境を実現するための具体的な改善手法に関して考察を重ねてゆきます。||||

受講者に対する要望

数値や専門用語などを暗記するのではなく、講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で検証してください。困ったことや質問などが生じた場合は、気軽に相談してください。グループワークも適宜織り交ぜます。学年や学科の枠を超え、活発に意見交換をしながら相互に高めあえる講義環境づくりに協力してください。

学びのキーワード

- ・ 高齢者
- ・ 障がい者
- ・ ノーマライゼーション
- ・ バリアフリー
- ・ ユニバーサルデザイン

授業計画

01. オリエンテーション：スケジュールと講義概要、講義のねらいと成績評価等についての確認
02. 福祉環境学を学ぶ意義と社会における位置付け
03. 福祉環境を取り巻く概念の変遷
04. 人間の生活機能と私たちを取り巻く様々なバリアの分析
05. 福祉環境にまつわるニュースを題材とした要因分析と考察
06. ノーマライゼーションの考え方
07. 障がいを持つ人の身体的特性と行動特性に関する基礎的事項
08. 障がいを持つ人々の環境の捉え方
09. 肢体不自由者の生活環境
10. 視覚に障がいを持つ方々の生活環境
11. 障がいを持つ方々の生活環境改善（1）環境整備の方法と事例紹介
12. 障がいを持つ方々の生活環境改善（2）福祉用具の活用
13. 障がいを持つ方々の生活環境改善（3）介助の方法と配慮事項
14. 障害者差別解消法の制定に至る社会的背景と施行後の課題
15. 実習事前指導：実習目的の説明とグループ編成
16. 実習事前確認：個人テーマの設定と個別確認、指導
17. 実習（1）福祉環境の視点に基づくキャンパス環境の検証—肢体不自由者の立場から—
18. 実習（1）のふりかえり：グループディスカッションとデータ整理、プレゼンテーションの作成、改善案の考察、指導、質疑応答
19. 実習（2）福祉環境の視点に基づくキャンパス環境の検証—視覚障がい者の立場から—
20. 実習（2）のふりかえり：グループディスカッションとデータ整理、プレゼンテーションの作成、改善案の考察、指導、質疑応答
21. 多目的トイレや多機能トイレの整備に関する現状と課題
22. 即日演習：様々な利用者の立場に立った学内トイレに関する課題と改善提案の考察
23. 視覚障がい者誘導用ブロックの敷設に関する現状と課題、国際比較を通じた考察
24. バリアフリー新法と福祉のまちづくり条例
25. バリアフリーデザインに関する基本的な考え方
26. ユニバーサルデザインに関する基本的な考え方
27. 身近な製品やサービスに見るユニバーサルデザインのプロセス
28. 実習のまとめ（1）福祉環境の視点に基づくキャンパス環境の検証—肢体不自由者の立場から— 代表学生による発表とまとめ
29. 実習のまとめ（2）福祉環境の視点に基づくキャンパス環境の検証—視覚障がい者の立場から— 代表学生による発表とまとめ、レポート返却と全体講評
30. 講義のまとめとふりかえり

準備学習(予習)

シラバスの授業計画の中に含まれる福祉環境に関わる用語の意味や背景を各自で調べ、講義前により深く学びたい部分を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で見つめ直し、考察を深めてゆくこと。関連する参考図書や新聞記事等の中で紹介されている最新の事例にも目を向けることが望ましい。節目ごとにテーマを決め、各自でリアクションペーパーに考察する機会を設けます。その内容を書画カメラを用いて全体にも紹介します。他の学生の考察内容と比較することを通じ、復習と同時に自身の考察をさらに深めてください。

評価方法

- | | | |
|------------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 30% | 考察の深さ、発表、自主的な検証、グループワークの取組など講義への参加度を評価 |
| (2) 演習課題に対する取り組み | 30% | 実習レポート2編 |
| (3) 定期試験 | 40% | 暗記を求めた内容ではなく、分析の深さや独自の考え方を評価する。 |

出席が3分の2以下の場合は、単位を認定しません。出席のみに対しての評価はありません。

教科書

プリントを配布します。

参考書

参考文献等は講義内で随時提示します。

担当教員：山本 博之

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12C50755

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【O】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

本授業は、これから社会福祉/ソーシャルワークについて専門的な学びを行おうとする学生の基礎科目と位置付ける。生活に密接に関わっている社会福祉の基礎とより新しい情報もふまえながら学ぶことを目的とする。

(2) 内容

本授業では、「社会福祉」を全般的に学ぶ。一口に「社会福祉」といっても、その範囲は非常に広い。授業においては、まず一般的な社会福祉を理解する視点を学び、理念、歴史、思想、制度といった基礎的な内容を学ぶ。その後、対象者や社会問題ごとのテーマを取り上げ、支援の現状について具体的な理解を深める。

受講者に対する要望

高い集中力と緊張感を維持しながら授業に出席すること。授業とは関係のない作業をしている学生については|厳格に対処する。

学びのキーワード

- ・ 社会福祉
- ・ ソーシャルワーク

授業計画

01. 社会福祉を理解する視点Ⅰ：社会福祉とは
02. 社会福祉を理解する視点Ⅱ：狭義、広義の社会福祉
03. 社会福祉の思想・理念
04. 欧米の社会福祉の歴史
05. 日本の社会福祉の歴史
06. 技術としての社会福祉の展開Ⅰ：近代
07. 技術としての社会福祉の展開Ⅱ：現代
08. 日本の社会保障制度
09. 社会福祉の機関と施設
10. 高齢者と社会福祉Ⅰ：高齢者の心理社会的困窮と社会福祉
11. 高齢者と社会福祉Ⅱ：高齢者福祉の現状と課題
12. 障害者と社会福祉Ⅰ：身体障害者と社会福祉
13. 障害者と社会福祉Ⅱ：知的障害者と社会福祉
14. 障害者と社会福祉Ⅲ：精神障害者と社会福祉
15. 医療と社会福祉Ⅰ：慢性疾患の時代における医療福祉の現状
16. 医療と社会福祉Ⅱ：慢性疾患の時代における医療福祉の課題、まとめ
17. 低所得者と社会福祉
18. 事例を通じた低所得者支援の現状と課題
19. ホームレス状態にある人と社会福祉
20. 事例を通じたホームレス状態にある人への支援の現状と課題
21. 子どもと社会福祉
22. 事例を通じた子どもへの支援の現状と課題
23. 就労支援と社会福祉
24. 事例を通じた就労支援の現状と課題
25. 社会福祉実践（ソーシャルワーク）における連携
26. 事例を通じた連携の現状と課題
27. 社会福祉専門職に必要とされる価値：社会福祉専門職の倫理
28. 事例を通じた倫理的ジレンマについて
29. まとめ
30. ふりかえり

準備学習(予習)

日ごろから、社会福祉の関心を持ち、新聞や電子媒体等で社会福祉に関する記事を積極的に目を通すように心がけること。翌週の授業用に配付もしくは指示された文献については熟読して授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容をノートや配布された資料でしっかり復習し、整理すること。

評価方法

- (1) 授業に対する積極的参加態度 30% リアクションペーパーは教員がコメントし、翌週返却する。
- (2) 試験 70% 中間、期末試験は模範解答の提示及び解説を行う。

教科書

指定しない。資料等については教員が適宜指示、配付する。

参考書

特に指定しない。

担当教員：鄭 鎬碩

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12D00520

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(1) 現代社会を批判的に捉えるための基礎知識を身につける。| (2) 情報化／消費化社会の特徴が分かる。| (3) 文献を読み、意見をまとめる力を鍛える。

(2) 内容

本講義では、情報化／消費化という視点から現代社会が直面しているシステムとしての限界について学び、社会をみる批判的な力を養う。テキストの講読及びグループ討論を通して、環境問題と南北問題が資本主義の歴史的変容において何を意味するのかについて理解を深め、情報化／消費化社会の未来について考える。

受講者に対する要望

授業では、テキストを読み進めながら解説する講義のほか、小グループで討論を行い、受講者全員に発表してもらう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ 現代社会
- ・ 情報化／消費化
- ・ 資本主義システム
- ・ 環境問題
- ・ 南北問題

授業計画

01. イントロダクション：情報化／消費化から考える現代社会
02. 近代／現代とはなにか
03. 資本主義とは何か
04. 管理のシステムと消費のシステム
05. 情報化と消費化
06. 資本主義と欲望
07. 資本主義の変容
08. 資本主義における幸福と不安
09. システムと「外部」
10. 練習・討論①：情報化／消費化社会の展開
11. 練習・討論②：情報化／消費化社会の展開
12. 『沈黙の春』
13. 「水俣」を考える
14. 資本主義と環境の臨界
15. 資本主義と資源の臨界
16. 「限界」の所在：南の貧困と北の貧困
17. 「豊かな社会」の光と影
18. 現代の人口問題
19. 二重の剥奪としての貧困
20. 経済的格差
21. 情報化／消費化社会と「外部」
22. 練習・討論③：現代社会の「限界問題」とわれわれ
23. 練習・討論④：現代社会の「限界問題」とわれわれ
24. 二つの「消費」と「限界問題」
25. 方法としての情報化
26. 二つの「情報」と「限界問題」
27. 情報化／消費化社会の転回
28. 練習・討論⑤：情報化／消費化社会の未来
29. 練習・討論⑥：情報化／消費化社会の未来
30. まとめ

準備学習(予習)

受講生は、毎回、テキストを予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業内容を踏まえてテキストを再読し、自分のコメントをまとめる。

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 授業への参加度（討論・発表およびレスポンス） | 30% |
| (2) 期末レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

見田宗介, 1996, 『現代社会の理論』（岩波新書）岩波書店。

参考書

講義内で紹介する

担当教員：渡辺 正人

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12D00610

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

わたしたちの生活は、昔から環境に影響されながらも、同時に環境を利用しながら営まれている。長らく日本人の生活は、自然の恵みを、海山里の各環境から得て、それを活かす方向で営まれてきた。民俗ではそれらは「生活の知恵」として伝承されている。|本講義では、環境というものを、そうした人々の生活の面からとらえ直す。それは、当たり前のように思われている環境の価値の再発見をすることが目標である。そうして、なぜ環境は守られねばならないか、といった問題意識まで深めたい。

(2) 内容

上記目標と意義を達成するため、主として民俗学的な視点から環境を学ぶ。|具体的には、海山川里などの自然環境やそこに生息する動植物を日本人はどのように活かしてそこから食料や生活具などを得てきたか、ということを取り上げながら、その対象となる環境に存在する事物についての理解を深めたい。環境に存在する事物現象を、よく理解した先人は、その特性をうまく生かして人間用に加工するが、その事物・現象側の特性や本質とは何か、を学ぶものである。

受講者に対する要望

普段から身近な環境を観察しなおしておいてほしい。

学びのキーワード

- ・ 環境破壊
- ・ 身近な環境
- ・ 民俗の知恵

授業計画

01. はじめに 日本人と環境につき合い方
02. 生活の知恵としての民俗
03. 日本人はいつから環境を有効利用するようになったのかー豊かな縄文時代
04. なぜお米が日本人の主食になったのか
05. 日本の生活文化を変えたお米
06. 豊かな山ー木材・石材の観点から
07. 身近な山ー里山環境
08. 山から金属を取り出す
09. 海に囲まれた日本ー海洋民族としてみた日本人
10. 江戸前の鮭はなぜ有名か
11. 山が豊かだと魚介類が美味しいのはなぜ
12. 身近な里海
13. 海という交通路
14. 川という交通路ー人間だけじゃなく
15. 川からどんな食料が取れるのか
16. 水の行方ー川泉、湧水から
17. 河川災害の歴史と新田開発
18. 地震災害と自然
19. 生活具としての植物利用
20. 生活具としての石材利用
21. 生活具としての金属利用
22. 生活の改善と環境破壊
23. 最近、鳥獣害が増えたわけ
24. 生活の便利と環境破壊
25. 公害のはなし
26. 日本の環境破壊は世界へも影響しているのかー森林伐採・マグロ・クジラ
27. 世界の環境汚染の現状
28. 地球＝ガイアという生命体
29. 「世界」は誰のものかー環境はみんなのもの
30. まとめ

準備学習(予習)

各回のキーワードが事前に示されるので、あらかじめ調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で扱った内容についてのレポート課題を作成する

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業時及びまとめレポート | 70% |
| (2) 授業時のコメント記入 | 30% |

教科書

授業時にプリントを配布する

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12D00620

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

わたしたちの生活は、昔から環境に影響されながらも、同時に環境を利用しながら営まれている。長らく日本人の生活は、自然の恵みを、海山里の各環境から得て、それを活かす方向で営まれてきた。民俗ではそれらは「生活の知恵」として伝承されている。|本講義では、環境というものを、そうした人々の生活の面からとらえ直す。それは、当たり前のように思われている環境の価値の再発見をすることが目標である。そうして、なぜ環境は守られねばならないか、といった問題意識まで深めたい。

(2) 内容

上記目標と意義を達成するため、主として民俗学的な視点から環境を学ぶ。|具体的には、海山川里などの自然環境やそこに生息する動植物を日本人はどのように活かしてそこから食料や生活具などを得てきたか、ということを取り上げながら、その対象となる環境に存在する事物についての理解を深めたい。環境に存在する事物現象を、よく理解した先人は、その特性をうまく生かして人間用に加工するが、その事物・現象側の特性や本質とは何か、を学ぶものである。

受講者に対する要望

普段から身近な環境を観察しなおしておいてほしい。

学びのキーワード

- ・ 環境破壊
- ・ 身近な環境
- ・ 民俗の知恵

授業計画

01. はじめに 日本人と環境につき合い方
02. 生活の知恵としての民俗
03. 日本人はいつから環境を有効利用するようになったのかー豊かな縄文時代
04. なぜお米が日本人の主食になったのか
05. 日本の生活文化を変えたお米
06. 豊かな山ー木材・石材の観点から
07. 身近な山ー里山環境
08. 山から金属を取り出す
09. 海に囲まれた日本ー海洋民族としてみた日本人
10. 江戸前の鮭はなぜ有名か
11. 山が豊かだと魚介類が美味しいのはなぜ
12. 身近な里海
13. 海という交通路
14. 川という交通路ー人間だけじゃなく
15. 川からどんな食料が取れるのか
16. 水の行方ー川泉、湧水から
17. 河川災害の歴史と新田開発
18. 地震災害と自然
19. 生活具としての植物利用
20. 生活具としての石材利用
21. 生活具としての金属利用
22. 生活の改善と環境破壊
23. 最近、鳥獣害が増えたわけ
24. 生活の便利と環境破壊
25. 公害のはなし
26. 日本の環境破壊は世界へも影響しているのかー森林伐採・マグロ・クジラ
27. 世界の環境汚染の現状
28. 地球＝ガイアという生命体
29. 「世界」は誰のものかー環境はみんなのもの
30. まとめ

準備学習(予習)

各回のキーワードが事前に示されるので、あらかじめ調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で扱った内容についてのレポート課題を作成する

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業時及びまとめレポート | 70% |
| (2) 授業時のコメント記入 | 30% |

教科書

授業時にプリントを配布する

参考書

担当教員：奥 富美子

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12D00710

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「自分で自分の健康の面倒をみていく」考え方や方法を学ぶ科目です。|大学卒業後、ほとんどの人が「職業人生（働く）」をスタートさせます。大学院やその他学習機関に進んだとしても、その先では「職業人生」が始まります。|「職業人生」を歩んでいくと、うれしいこともあれば困ることもあり、様々なことに遭遇し刺激を受けます。どんなにハードな仕事の日々でも、健康を害することなどまったくなくイキイキと楽しく働いているときには、「自分が変化し、成長している」と実感することがあります。その一方で、学生時代と異なり、これまで経験してきた人間関係や環境からより大きく広がった「働く社会」には正解はなく、初めて体験することばかりで戸惑いが続き、疲れて心身のバランスを崩すこともあるでしょう。そんなとき、自分を労わることを忘れてはなりません。|「職業人生」に費やす時間は長いからこそ、健康で過ごしたいものです。「自分なりの元気」で居続けるための方法を修得します。|

(2) 内容

心身の不調が起きるメカニズムを知り、不調に気づき早めに対処する方法、ストレス耐性を高める方法を学びます。|習慣化できるストレスマネジメントの方法、いまの自分の状態を確認する方法、アサーティブな表現方法など実践的内容を試しながら学習します。|「自分の元気ツール」を明確にし、「ツールを使う」ことを実践します。「4年間のキャンパスライフを明るく楽しく過ごし、充実させること」が、卒業後の健康な職業生活の準備となります。|講義と演習（個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など）で進めます。|確認クイズやレポート発表の方法で、定期的に学びのふりかえりをおこない、学生間の相互評価も導入します。|

受講者に対する要望

授業で得た学びを、日常生活で実践することを求めます。教室内だけで終わりにしないで、「試してみる」「やってみる」ことが大切です。|授業中の取り組みだけでなく、日常生活における体験の蓄積が習慣や自信となり、|学生生活を充実させることにつながります。さらに、その延長線上にある職業人生の充実へとつながります。|授業には演習が多く用意されています。実践力を身につけるためにも、「授業において積極的に参加する」ことが必要です。|自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止め、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。お互いを尊重し、応援し合うクラスをつくっていきましょう。|A4サイズのファイルを用意してください。 授業でおこなったワークのプリン

学びのキーワード

- ・ストレス解消、リラクセス、心身の健康
- ・笑い、運動、ビリーフ修正、五感
- ・アサーション、ポジティブ心理、一次感情、二次感情
- ・自己理解、自己肯定、自己受容
- ・人生イベント、人生の役割、偶然の活用

授業計画

01. オリエンテーション
02. ストレスとは ～ストレス社会といわれる現代において
03. 3つのストレス反応 ～心理面、行動面、身体面
04. いまの自分の状態を確認するには ～ストレス度チェック、感情と筋肉の関係
05. ストレス対処の基本 ～3つのアプローチ
06. 友だちをサポートしよう ～事例検討
07. とらえ方のクセ ～ビリーフ修正と楽観的思考
08. 習慣化できるストレスマネジメントの方法（1）～好きなことと居場所の関係、区切り方
09. 習慣化できるストレスマネジメントの方法（2）～身体を使う、書く
10. ソーシャルサポート～観察する・声をかける・聴く・つなげる
11. 感情・気持ちの表現（1）～アサーティブな表現、一次感情と二次感情
12. 感情・気持ちの表現（2）～NOは言ってもいい
13. 感情・気持ちの表現（3）～EQ(心の知能指数)
14. リラクゼーション～呼吸、音楽、色彩など、各種リラクゼーション法を試してみよう
15. まとめ レポート提出

準備学習(予習)

「前週の授業後、学んだことを日常生活で試してみてどうだったか」を発表します。分かりやすい発表内容を準備しておいてください。

準備学習(復習)

毎回、授業についてのふりかえりと感想を授業シートに記述し提出します。授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。|授業で得た学びを、日常生活で実践してください。翌週の授業で、試してどうだったかをシェアします。|

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|--------------------|
| (1) 平常点 | 60% | 演習・ワークへの参加・発表、相互評価 |
| (2) 課題への取り組み | 30% | 授業時提出物 |
| (3) 期末レポート | 10% | |

教科書

プリントを配布します。

参考書

プリントを配布します。

担当教員：柴田 武男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1Y032010

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本経済新聞の経済教室を集中的に読解していくことで、経済論文の論理が読み取る能力が養われ、論文作成時に参考となることを目標とする。

(2) 内容

本講義では、修士論文作成のために必要とされる経済学に関する理解力の強化を目標とする。日本経済新聞の「経済教室」をテキストとして、そこで展開されるトピックスから理論的背景を説明し、論文執筆のために必要とされる論旨の読解力と批判的理解力も涵養したい。
|<講義概要>| 論文作成に何より必要なのは、批判的理解力である。批判的理解力とは、論者の主張をまず正確に理解し、そのうえで論理の矛盾や欠陥を指摘して、内容を的確に評価する知的作業のことである。論文作成に不可欠なものである。徹底した「経済教室」の読み込みと、担当教員を交えた受講者全員との相互の議論で、批判的理解力とは何か、その一端を解き明かしていく。講義担当期間の日本経済新聞掲載の「経済教室」を教材として使用する。|

受講者に対する要望

とにかく180分の集中力の持続を期待する。|もちろん、トイレなどの中座は容認するが、講義は連続180分、途中休憩無しで集中して行う予定である。|

学びのキーワード

- ・ 経済教室
- ・ 日本経済新聞
- ・ 読解力
- ・ 論文作成
- ・ 集中力の持続

授業計画

01. 講義の概要についての説明、および担当教員による経済論文の読解の仕方を教示
02. 担当教員の論文を用いての読解講座 その2
03. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 1
04. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 2
05. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 3
06. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 4
07. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 5
08. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 6
09. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 7
10. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 8
11. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 9
12. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 10
13. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 11
14. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 12
15. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 13

準備学習(予習)

月曜から金曜まで掲載される日本経済新聞「経済教室」は必ず読むこと。経済用語は必ず事前に調べて内容を把握すること。

準備学習(復習)

講義中に理解困難な経済の専門用語については必ず復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 講義で課せられるレポート | 50% |

さらに積極的な受講態度、講義中の質疑等も評価に加味する。|

教科書

参考書

担当教員：平 修久

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1Y041010

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばとその動きが住民の間に広がっている。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。量から質の重視、余暇時間の増加、元気な高齢者の増加、スローライフなど、居住地を見直し、居住環境を改善しようとする意識を持った住民が増加し、まちづくりの担い手となっている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。

(2) 内容

まず、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働について学ぶ。その後、高齢化・人口減少、中心市街地、コミュニティのキーワードに関連するまちづくりの問題と対応策を幅広く学ぶ。

受講者に対する要望

居住地など、自分と関係のある地域コミュニティをいかにより良くしていくかを念頭におきながら、クラスディスカッション等に望むことを期待する。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・人口減少
- ・高齢化
- ・中心市街地
- ・コミュニティ

授業計画

01. まちづくりの概要①
02. まちづくりの概要②
03. まちづくりのプロセス・合意形成
04. 住民参加と協働
05. 都市計画制度
06. 人口減少と住宅地の維持
07. 空き家問題と対策
08. コンパクトシティ
09. 高齢化とまち（福祉のまちづくり）
10. 中心市街地の衰退と活性化方策
11. 中心市街地活性化の事例①
12. 中心市街地活性化の事例②
13. 中心市街地活性化の事例③
14. 地域コミュニティの創造
15. まちの居場所づくり

準備学習(予習)

事前に提示した関連資料を予習しておくこと。中心市街地の事例については、担当の受講生がレジュメ2-4枚を用意して発表を行う。

準備学習(復習)

毎回の講義内容を整理し、まとめること。中心市街地の事例に関しては、各自の発表のレジュメを復習すること。

評価方法

- | | |
|--------------|--------------------|
| (1) 授業への参加度合 | 30% |
| (2) 発表 | 20% 中心市街地活性化の事例の発表 |
| (3) レポート課題 | 30% |

教科書

参考書

授業の中で指示する

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1Y062001

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

その分野における先行研究を時代ごとにとつづけ、その根底なる問題意識と対峙すること。その作業を通じて己の関心を問い直し、研究の独自性を練り上げること。

(2) 内容

近現代日本の思想・キリスト教を対象とした最新の研究論文や著作を講読する。ゼミ形式で行う。選定は受講者の関心を重視し相談の上で行う。

受講者に対する要望

最新の研究成果に謙虚に学ぶ姿勢を堅持しつつも、自己の世界、自己の課題を見失うことのないよう、緊張感を持って対峙してほしい。

学びのキーワード

- ・ 近代日本史
- ・ 現代日本史
- ・ 思想史
- ・ キリスト教史
- ・ 文学史

授業計画

01. 授業担当者の研究紹介
02. 研究文献の講読
03. 同上
04. 同上
05. 同上
06. 同上
07. 同上
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

文献に注記されている先行研究には、原則として、すべてに目を通してこること。発表の際には対論を必ず出すこと。

準備学習(復習)

自己の研究テーマや方法との交錯および分岐を意識し、みずからの独自性をめぐって思索を深めること。

評価方法

- (1) 研究発表と討論 100%

研究発表と討論が全てである。

教科書

参考書

担当教員：清水 正之

学期：春学期 科目：総合科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1Y062110

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

近代の思想史的連関のなかで、対象を考察する中で、自らの宗教性についての理解を一層明らかにし、それぞれの問題意識が、さらに深まることをひとつの目標としています。

(2) 内容

キリスト教と日本人の精神性との関連を、主としてキリスト教思想家の著作を通して学ぶ授業です。倫理思想史の観点から、近代のキリスト教思想史の基本的な知識を得るとともに、時代的な思想家の思想的連関にも着目しながら、講義を進めていきます。

受講者に対する要望

授業内での積極的な発言や問題提起を望みます。

学びのキーワード

- ・近代日本思想
- ・日本とキリスト教
- ・日本人の宗教性
- ・近代日本の倫理思想

授業計画

01. 始めに|講義の目標と、それぞれの問題意識との連関を考えていきます。
02. 近代日本思想とキリスト教 1
03. 近代日本思想とキリスト教 2
04. 近代日本思想とキリスト教 3|
05. 近代日本思想とキリスト教 4
06. 近代日本思想とキリスト教 5
07. 近代日本思想とキリスト教 6|
08. 近代日本思想とキリスト教 7
09. 近代日本思想とキリスト教 8|
10. 中間考察 1|
11. 中間考察 2
12. 近代日本哲学とキリスト教 1
13. 近代日本哲学とキリスト教 2|
14. 近代日本哲学とキリスト教 3|
15. 近代日本哲学とキリスト教 4
16. 近代日本哲学とキリスト教 5
17. 近代日本哲学とキリスト教 6
18. 中間考察とまとめ 1|
19. 中間考察とまとめ 2||
20. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 1||
21. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 2
22. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 3
23. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 4|
24. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 5
25. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 6
26. 中間考察||
27. 伝統的心性とキリスト教 1|
28. 伝統的心性とキリスト教 2|
29. 伝統的心性とキリスト教 3
30. 総括と結論

準備学習(予習)

該当テキスト、関連研究論文等を前もって周到に読んでおくこと。

準備学習(復習)

各回、小レポートをまとめ、提出することを課す。

評価方法

- (1) 授業への参加度|積極性 50% 講義内での理解度、発言力、討論能力を評価する
- (2) 年度末の小論文をその完成度によって評価する。 50% 完成度、問題提起力、構成の適正さ等から評価する|小論文は、形式、内容の両面から評価する。

教科書

主題ごとに適宜指示します。

参考書

清水正之『日本思想全史』（ちくま新書）

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：総合科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1Y071010

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本講義では、関連する文献講読や、国内外の保育/教育に関する映像の視聴、発表等を通して、保育・教育に関する自身の枠組を広げることを目標とする。

(2) 内容

本講義では、児童教育学の中でも「異文化間教育」に焦点を当てる。現在、日本の保育所・幼稚園・小学校において、外国人の子どもたちや国際結婚の子どもたち、海外で生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション等の理論と実践について検討する。

受講者に対する要望

課題に丁寧に取り組むこと。|ディスカッション等に積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 児童教育学
- ・ 異文化間教育
- ・ 保育
- ・ 教育

授業計画

01. オリエンテーション 異文化間教育
02. 国際化する保育所・幼稚園・小学校
03. 異文化適応1：理論
04. 異文化適応2：中国帰国者の事例
05. コミュニケーション・ギャップ1：日系ブラジル人の事例
06. コミュニケーション・ギャップ2：親子の事例
07. 異文化間コミュニケーション1：理論
08. 異文化間コミュニケーション2：幼児の事例
09. 異文化間トレーニング1：理論
10. 異文化間トレーニング2：保育の事例
11. バイリンガル教育1：理論
12. バイリンガル教育2：児童・生徒の事例
13. アンチ・バイアスカリキュラム1：理論
14. アンチ・バイアスカリキュラム2：保育の事例
15. アンチ・バイアスカリキュラム3：小学校の事例
16. アンチ・バイアスカリキュラム4：海外の事例
17. ひょうたん島問題1：文化 教育
18. ひょうたん島問題2：多文化共生
19. 海外の子育て支援1：欧米
20. 海外の子育て支援2：アジア
21. 海外における保育の実践例
22. 海外における教育の実践例
23. 発表とディスカッション
24. 発表とディスカッション
25. 多文化保育
26. 多文化教育
27. 異文化間教育における保育者・教師の専門性
28. 小学校における異文化間教育の実践例
29. 異文化間教育の研究方法
30. 異文化間教育の課題

準備学習(予習)

配布する資料を事前に読んでおくこと。|発表準備に計画的に取り組むこと。

準備学習(復習)

各回の授業で与えられた課題に取り組むこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 課題報告 | 20% |
| (3) レポート | 20% |

レポートは添削をした上で返却を行う。

教科書

参考書

咲間まり子編 『多文化保育・教育論』

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：総合科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1Y072001

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童学の視座に立って子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の論文を読み解いたり実践記録を分析したりすることを通して、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を修得する。

(2) 内容

児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。|福祉学の諸分野の中でも児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願い、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程で様々な困難にであっても、どの子どもの育ちもしあわせであってほしいと願う視座に立って研究を進めるためには、まう、子どものしあわせとは何だろうと考えることから始めたい。さらには、そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているかを自問することは必須である。その力を身につけたい。

受講者に対する要望

子どもについて、自らの経験則に沿った印象や感覚を、理論的に問い直す作業領域に関心をもって履修してほしいと願っています。資料による情報収集が多くなります。文字資料を読み解くことに積極的に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 児童学
- ・ 児童理解
- ・ 保育
- ・ 教育
- ・ 子育て支援

授業計画

01. 児童を研究するということ
02. 児童を研究する方法論
03. 児童研究の動向①理論研究
04. 児童研究の動向②実践研究
05. 児童理解の方法
06. 幼児理解の方法
07. 児童理解の実際
08. 幼児理解の実際
09. 子どもの時間と発達理解
10. 子どもの時間と発達支援
11. 制度からみる子ども
12. 制度からみる保育・教育
13. 保育の制度史
14. 保育の実践史
15. 保育課程の理解
16. 子ども・子育て新制度と今日の保育
17. 児童理解における実践記録の意味
18. 児童理解における実践記録の実際
19. 児童理解における実践記録の分析①子どもへの着目
20. 児童理解における実践記録の分析②関わりへの着目
21. 保育・教育・援助の実践研究の方法
22. 保育・教育・援助の実践研究の実際
23. 保育・教育・援助の場面記録分析の方法
24. 保育・教育・援助の場面記録分析の実際
25. 保育・教育・援助の実践研究分析の方法
26. 保育・教育・援助の実践研究分析の実際
27. 今日の児童をめぐる諸課題の提起
28. 今日の児童をめぐる諸課題の分析
29. 今日の児童をめぐる諸課題に対する検討
30. 総括

準備学習(予習)

配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読み込んでおく。授業での課題報告はレジュメを作成し、主体的に準備を行う。

準備学習(復習)

慣れるまでは、ノート整理をお勧めします。また、修士論文研究に直結する資料を多く扱います。自分の研究に関連深い資料は、授業でのディスカッションをふまえて、授業後にさらに読み込みましょう。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 積極的参加 | 30% |
| (2) 課題報告 | 40% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

授業のなかで指示する。

参考書

担当教員：古谷野 亘

学期：春学期 科目：総合科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：1Y081010

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする【Ⅱ】対人支援力：人格を尊重して人とかわるることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢者の保健福祉は現在急速に変化しつつある。介護保険の施行は本質的な変化であったが、制度の改変は今後もさらに続くものと予想される。このような中では、現在の制度について知るだけでは不十分であって、その成立の背景や条件を正確に理解して、将来の方向を見通す力が求められる。そのような理解を得ることが本講義の目的である。

(2) 内容

本講義では、高齢者保健福祉の歴史的変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・ 高齢化
- ・ 正常老化
- ・ 介護保険制度
- ・ 地域包括ケア

授業計画

01. 高齢者保健福祉の歴史から学ぶ| 歴史をみる視点 (1)
02. 歴史をみる視点 (2)
03. 老人ホームの歴史 (1)
04. 老人ホームの歴史 (2)
05. 老人医療費の推移 (1)
06. 老人医療費の推移 (2)
07. ホームヘルプ事業の変遷 (1)
08. ホームヘルプ事業の変遷 (2)
09. 介護保険導入の意味 (1)
10. 介護保険導入の意味 (2)
11. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意 (1)
12. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意 (2)
13. 文献講読と討議| 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (1)
14. 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (2)
15. 地域包括ケアの課題 (1)
16. 地域包括ケアの課題 (2)
17. 介護予防の可能性 (1)
18. 介護予防の可能性 (2)
19. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (1)
20. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (2)
21. 要介護認定の問題 (1)
22. 要介護認定の問題 (2)
23. 介護保険下における老人ホームの経営 (1)
24. 介護保険下における老人ホームの経営 (2)
25. 在宅サービス事業者の課題 (1)
26. 在宅サービス事業者の課題 (2)
27. 高齢者サービスを支える人の問題 (1)
28. 高齢者サービスを支える人の問題 (2)
29. まとめと課題、総合討論 (1)
30. まとめと課題、総合討論 (2)

準備学習(予習)

全体を通して、特に文献講読の際には当該文献と関連資料を精読するなどの予習が必要になる。

準備学習(復習)

全体を通して、積極的な討議への参加と振り返り(復習)が必要である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：総合科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1Y082001

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする！【W】対人支援力：人格を尊重して人とかわかることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

(2) 内容

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、講義担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実践 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実践

受講者に対する要望

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

学びのキーワード

- ・子ども虐待
- ・子育て支援
- ・児童養護施設
- ・社会的養護

授業計画

01. 子ども家庭福祉における「子ども」観①
02. 子ども家庭福祉における「子ども」観②
03. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題①
04. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題②
05. 少子社会と福祉環境①
06. 少子社会と福祉環境②
07. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ①
08. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ②
09. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷①
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷②
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点①
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点②
13. 具体的なサービス内容と課題点①
14. 具体的なサービス内容と課題点②
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源①
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源②
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職①
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職②
19. 「子ども虐待」をとりまく神話①
20. 「子ども虐待」をとりまく神話②
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」①
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」②
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし①
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし②
25. 子ども虐待の社会的対応と限界①
26. 子ども虐待の社会的対応と限界②
27. スクールソーシャルワークの実践①
28. スクールソーシャルワークの実践②
29. ディスカッション①
30. ディスカッション②

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

準備学習(復習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 出席率 | 20% |
| (2) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：堀 恭子

学期：春学期 科目：総合科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1Y084010

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする | 【理】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

単純な発達過程を追うのではなく、家族・社会など関係性の中での発達を理解することにより、現実世界のヒトの精神発達について、理解することを目指しています。また、臨床心理学的課題について、発達の視点からの検討を加えることによってより深く理解する過程を経験し、実践に役立てる学びとなることを目指します。また、発達をテーマとした論文を批判的に読み、自分の研究をまとめるための力を養います。

(2) 内容

ヒトが生まれて死に至るまでの発達がどのように進むのかについて、理論だけでなく臨床心理学的視点も加えた心理援助実践の中で捉えていきます。ヒトは常に関係性の中で変化し続けていることも念頭に置いて、生涯発達、関係性の中での発達を学びます。

受講者に対する要望

授業では毎回ディスカッションを行います。ディスカッションが有意義なものとなるようにしっかり準備すること、ディスカッションに積極的に参加することを望みます。

学びのキーワード

- ・ 生涯発達
- ・ 関係性の中での理解
- ・ ダイナミクスの理解
- ・ 臨床心理学的視点
- ・ 課題理解における発達心理学的視点のはたす役割

授業計画

01. 確認：心理学の研究法と生涯発達心理学について
02. 文献購読およびディスカッション（乳幼児期）①
03. 文献購読およびディスカッション（乳幼児期）②
04. 文献購読およびディスカッション（乳幼児期）③
05. 文献購読およびディスカッション（乳幼児期）④
06. 文献購読およびディスカッション（乳幼児期）⑥
07. 文献購読およびディスカッション（児童期）①
08. 文献購読およびディスカッション（児童期）②
09. 文献購読およびディスカッション（青年期）①
10. 文献購読およびディスカッション（青年期）②
11. 文献購読およびディスカッション（青年期）③
12. 文献購読およびディスカッション（青年期）④
13. 文献購読およびディスカッション（成人期）①
14. 文献購読およびディスカッション（成人期）②
15. 文献購読およびディスカッション（成人期）③
16. 文献購読およびディスカッション（成人期）④
17. 文献購読およびディスカッション（高齢期）①
18. 文献購読およびディスカッション（高齢期）②
19. 文献購読およびディスカッション（高齢期）③
20. 文献購読およびディスカッション（高齢期）④
21. まとめ：生涯 j 発達研究（1）
22. まとめ：生涯発達研究（2）
23. 論文を批判的に読む（1）
24. 論文を批判的に読む（2）
25. 論文を批判的に読む（3）
26. 論文を批判的に読む（4）
27. 論文を批判的に読む（5）
28. まとめ：論文を批判的に読む
29. まとめ：発達心理学研究（1）
30. まとめ：発達心理学研究（2）

準備学習(予習)

文献を提示するので次回までにその内容についてショートレポートをまとめて授業に臨む。各自持ち寄ったショートレポートをもとに文献が扱っているテーマについて授業内のディスカッションを行う。

準備学習(復習)

ディスカッションの内容から考えたことをまとめておく。また不明な点などを文献等を用いて調べておく。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------------|
| (1) 授業内課題 | 60% | 授業内のディスカッションへの参加度、事前準備なども含みます。 |
| (2) 期末レポート | 40% | |

教科書

参考書

参考文献を適宜紹介

政治経済学科

担当教員：高橋 愛子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00101

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。|2) 基本的な概念、「権力」「合法性」「正当性」「公益」などの概念を理解する。|3) 現実の政治現象について、「政治学的に」思考する資質を学ぶ。

(2) 内容

現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な思考力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の諸課題と否応なく直面することを余儀なくされている。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテキスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」思考するとはどのようなことかを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の個々の概念、理論を学ぶだけでなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察、思考」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。|<カリキュラム上の位置づけ>政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。|

受講者に対する要望

リアルタイムな政治現象に関心を持ち、新聞の政治経済欄に毎日目を通すこと。

学びのキーワード

- ・ 政治の文脈
- ・ 権力
- ・ 合法性と正当性
- ・ 公益決定
- ・ メディアリテラシー

授業計画

01. 導入：政治学とは何か（1）—歴史的考察—
02. 導入：政治学とは何か（2）—権力とは何か—
03. 現代における政治：全面的政治化の時代（1）—現代とはいかなる社会か—
04. 現代における政治：全面的政治化の時代（2）—全体国家の時代—
05. 政治にとっての文脈としての歴史（1）—20世紀の世界大戦—
06. 政治にとっての文脈としての歴史（2）—東京裁判—
07. 政治にとっての文脈としての歴史（3）—サンフランシスコ条約—
08. 政治にとっての文脈としての歴史（4）—憲法と自衛隊—
09. 政治にとっての文脈としての歴史（5）—アジアと日本—
10. 政治の場としての国会（1）—言論の府—
11. 政治の場としての国会（2）—立法過程—
12. 政治の場としての自治体（1）—分権改革—
13. 政治の場としての自治体（2）—「条例」、「自治体憲章」—
14. 政治における主体（1）—政治家、官僚、諸団体—
15. 政治における主体（2）—メディア、NGO、NPO—
16. 政治における主体（3）—主権者としてのわたしたち—
17. 合法性と正当性（1）—民主的正当性—
18. 合法性と正当性（2）—合法性と正当性との背反—
19. 公益とは何か（1）—公共利害団体の活動—
20. 公益とは何か（2）—公益と私益、官益、国益—
21. 公益とは何か（3）—公益の決定と実現—
22. メディアリテラシー（1）—さまざまなメディア—
23. メディアリテラシー（2）—メディアと権力—
24. メディアリテラシー（3）—メディアリテラシーと市民—
25. 民主主義と選挙（1）—日本の選挙制度—
26. 民主主義と選挙（2）—選挙制度と民主的正当性—
27. 民主主義と教育（1）—シティズンシップ教育—
28. 民主主義と教育（2）—海外の事例から—
29. 一学期間のまとめ—復習—
30. 一学期間のまとめ—さらなる政治学の学びに向けて—

準備学習（予習）

各回の授業の際に配布されるペーパーを予めよく読んでくこと。

準備学習（復習）

授業で取り上げた課題についてのレスポンス・シートに記入して次回授業で提出することにより、各回の授業の基本概念をよく理解する。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 40% |
| (2) 新聞コメントの提出 | 30% |
| (3) ブックレポート | 30% |

教科書

北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—』有斐閣アルマ2009年|そのほかについては、授業の中で指示、もしくは、配布する。

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A0010K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

(2) 内容

本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。| 政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

受講者に対する要望

社会や政治について関心を持つことが望ましい。新聞やテレビなどから入手可能な時事的なニュースについても折を見て触れるので、それらに関する知識を持っていることが求められる。

学びのキーワード

- ・ 政治
- ・ 社会
- ・ 国家
- ・ 権力

授業計画

01. 政治学とは何か1 政治的認識について
02. 政治学とは何か2 学問と政治
03. 人間の権利と民主主義について1 人権論の基礎
04. 人間の権利と民主主義について2 民主主義の理論
05. 国家の機能1 国家概念の基礎
06. 国家の機能2 国家機能の変遷
07. 国家の機能3 福祉国家の役割
08. 政党1 政党の分類
09. 政党2 党派と政党
10. 政党3 政党の機能
11. 圧力団体1 圧力団体の定義
12. 圧力団体2 圧力団体の機能
13. 圧力団体3 圧力団体の評価
14. 官僚制1 官僚制の定義
15. 官僚制2 官僚制の機能
16. 官僚制3 官僚制の役割
17. 政治的リーダーシップ1 リーダーシップの種類
18. 政治的リーダーシップ2 リーダーシップの史的類型
19. 政治的リーダーシップ3 組織とリーダー
20. 地方自治と政治構造1 自治と行政
21. 地方自治と政治構造2 住民参加の可能性
22. 地方自治と政治構造3 地方分権の意味
23. 住民参加と参加型民主主義1 デモクラシーと参加
24. 住民参加と参加型民主主義2 グラスルーツの持つ意義
25. 住民参加と参加型民主主義3 参加と組織
26. 政治の担い手に関する考察1 世論
27. 政治の担い手に関する考察2 ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1 グローバル化のもたらす影響
29. グローバル化と政治2 グローバル化と現代社会
30. まとめ

準備学習(予習)

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分～1時間程度のニュースの視聴が必要である。

準備学習(復習)

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末テスト | 30% |

教科書

北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—』有斐閣アルマ2009年|そのほか適宜、授業内に指定

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00120

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

授業では、まず政治を理解するための政治学の基本的な視角や理論を学ぶことを目標としています。授業の内容はあくまで基礎的な内容ばかりですが、国際政治学、比較政治学などより専門的な授業を理解するために必要な概念を学ぶ入門になります。

(2) 内容

政治学の入門として政治学の基礎を学びます。授業では、政治学の中心となっている制度論によって、各政治分野について実際にどのようなことが行われているのかを解説していきます。教科書と参考書にそって、授業を進めていきますが、本授業では国際政治学の分野における極めて基礎的な部分も含めて解説します。

受講者に対する要望

受講生は、(1) 各授業に対応する教科書とプリントの該当部分を予習してきて、(2) 授業を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書とプリントに沿って授業を進めていきます。

学びのキーワード

- ・ 本人・代理人モデル
- ・ 共通の目的
- ・ フリーライダー
- ・ 制度論
- ・ 多元的民主主義

授業計画

01. イントロダクション：「本人と代理人」で考える政治（参考書1 序章「七人の侍」の政治学） プリント配布
02. 伝統的政治学（参考書2 第11章「政治学の潮流」1） プリント配布
03. 科学としての政治学の成立（参考書2 第11章「政治学の潮流」2） プリント配布
04. 科学としての政治学の深化（参考書2 第11章「政治学の潮流」3） プリント配布
05. 規範的な学としての政治学（参考書2 第11章「政治学の潮流」4） プリント配布
06. 鉄の三角同盟（教科書第1章「組織された集団」1）
07. 少数者たちが支配する？-多元的民主主義-（教科書第1章「組織された集団」2）
08. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章「官と民の関係」1）
09. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章「官と民の関係」2）
10. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章「大企業と政治」1）
11. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（教科書第3章「大企業と政治」2）
12. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章「選挙と政治」1）
13. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章「選挙と政治」2）
14. 自治体には2つの役割がある（教科書第5章「地方分権」1）
15. 国と地方の相互依存（教科書第5章「地方分権」2）
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章「マスメディアと政治」1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章「マスメディアと政治」2）
18. ねじれ国会（教科書第7章「国会」1）
19. 国会の影響力（教科書第7章「国会」2）
20. 総理大臣と大統領（教科書第8章「内閣と総理大臣」1）
21. 総理大臣の影響力（教科書第8章「内閣と総理大臣」2）
22. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章「官僚」1）
23. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章「官僚」2）
24. 戦後の国際環境（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」1）
25. 日本の対外政策（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」2）
26. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章「経済交渉」1）
27. 経済交渉の行われ方（教科書第11章「経済交渉」2）
28. ビリヤードゲームのような国際政治（教科書第12章「国境を超える政治」1）
29. 裸になる国家（教科書第12章「国境を超える政治」2）
30. 政治学と政治問題についてのまとめ

準備学習(予習)

教科書のキーワードを覚えることを中心に、プリントと教科書の各該当部分を読んで予習する。できれば、参考書を先に呼んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書のキーワードの意味を理解することを中心に、ノートとプリント、教科書を再読する。できれば、参考書も参考にすること。それにより、授業後の理解を深める。質問事項があれば、UNIPAや次の授業の冒頭で質問すること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | 授業中の発言や、授業中に提出したレポートなどによる。また、授業中の発言やレポートの内容が授業の理解を深めているかどうかを評価する。 |
| (2) 授業内レポート | 30% | 学期末に提出する。課題は16回目の授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 60% | 論述試験 |

教科書

北山俊哉、久米郁男、真淵勝著『はじめて出会う政治学 - 構造改革の向こうに- 第3版』(有斐閣) [978-4641123687]

参考書

参考書1 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝著『政治学 補訂版』(有斐閣、2011年12月) | 参考書2 加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤恭彦著『現代政治学 第4版』(有斐閣、2012年3月)

担当教員：榎本 珠良

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

政治学の基礎を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。

(2) 内容

政治とは何か。民主主義とは何か。市民とは誰のことか。グローバル化の時代の国内政治をどう捉えるか。|本講義は、政治学を学ぶための必要な基礎知識を習得し、それに基づいて今日の日本および世界における政治に関わる諸問題を考察し分析する力を高めるものである。|

受講者に対する要望

現在の政治や時事問題に関心があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 民主主義
- ・ 政党制
- ・ 官僚制
- ・ 政治参加
- ・ 国内政治と国際政治

授業計画

01. 本講義のガイダンス
02. 政治とは何か (1) 基礎
03. 政治とは何か (2) 応用
04. 民主主義とは何か (1) 基礎と歴史
05. 民主主義とは何か (2) 応用
06. 民主主義とは何か (3) 討議の可能性
07. 政治制度の大枠
08. 政党制
09. 選挙制度
10. 政治参加と投票行動
11. 議会制度・執政部
12. 官僚制
13. 司法と利益集団
14. 政治制度を考える
15. 前半のまとめ
16. 中央と地方
17. メディア (1) 理論
18. メディア (2) 事例
19. 市民社会
20. NGO・NPO
21. 国内政治と国際政治 (1) 国際システムとは
22. 国内政治と国際政治 (2) 国際関係をどう見るか
23. 国際関係における安全保障
24. 冷戦終結後の安全保障
25. 国家と国際法
26. 国家と難民
27. 国家と開発
28. 社会のなかの政治を考える
29. 国際社会における政治を考える
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や教科書などで調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布するレジュメと授業中のノートをよく再読すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間試験 | 30% 中間試験の模範解答の提示と解説を行う。 |
| (3) 期末試験 | 40% 期末試験の模範解答の提示と解説を行う。 |

教科書

北山 俊哉・久米 郁男・真淵 勝『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』第3版、2009年。

参考書

担当教員：森 達也

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K2

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。|・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。|・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

(2) 内容

<テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎 | 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。| 本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- ・政治
- ・経済
- ・公共政策
- ・社会保障
- ・国際関係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 民主主義の基本原則（プリント）
03. 鉄の三角同盟（教科書第1章1）
04. 多元的民主主義（教科書第1章2）
05. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章1）
06. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章2）
07. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章1）
08. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（第3章2）
09. 政治過程論（1）利益集団（プリント）
10. 公共政策論（1）公共財と規制政策（プリント）
11. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章1）
12. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章2）
13. 地方分権には2つの役割がある（教科書第5章1）
14. 国と地方の相互依存（教科書第5章2）
15. これまでの内容のまとめと演習
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章2）
18. 政治過程（2）政党と選挙制度（プリント）
19. 政治過程（3）世論とマスメディア（プリント）
20. ねじれ国会（教科書第7章1）
21. 国会の影響力（教科書第7章2）
22. 総理大臣と大統領（教科書第8章1）
23. 総理大臣の影響力（第8章2）
24. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章1）
25. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章2）
26. 戦後の国際環境（教科書第10章1）
27. 日本の対外政策（教科書第10章2）
28. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章1）
29. 経済交渉の行われ方（教科書第11章2）
30. 国境を超える政治（教科書第12章）

準備学習（予習）

教科書の次回範囲を下読みしてわからない言葉を調べておく。|配布されたプリントをできるかぎり完成させておく。

準備学習（復習）

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して次の確認テストに備える。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

北山俊哉ほか『はじめて出会う政治学 第3版』（有斐閣アルマ、2009年）ISBN 978-4-641-12368-7

参考書

高等学校「政治・経済」資料集（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）|手持ちのものがあれば代用してよい。

担当教員：森 達也

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K3

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。|・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。|・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

(2) 内容

<テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎 | 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。| 本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- ・政治
- ・経済
- ・公共政策
- ・社会保障
- ・国際関係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 民主主義の基本原則（プリント）
03. 鉄の三角同盟（教科書第1章1）
04. 多元的民主主義（教科書第1章2）
05. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章1）
06. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章2）
07. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章1）
08. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（第3章2）
09. 政治過程論（1）利益集団（プリント）
10. 公共政策論（1）公共財と規制政策（プリント）
11. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章1）
12. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章2）
13. 地方分権には2つの役割がある（教科書第5章1）
14. 国と地方の相互依存（教科書第5章2）
15. これまでの内容のまとめと演習
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章2）
18. 政治過程（2）政党と選挙制度（プリント）
19. 政治過程（3）世論とマスメディア（プリント）
20. ねじれ国会（教科書第7章1）
21. 国会の影響力（教科書第7章2）
22. 総理大臣と大統領（教科書第8章1）
23. 総理大臣の影響力（第8章2）
24. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章1）
25. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章2）
26. 戦後の国際環境（教科書第10章1）
27. 日本の対外政策（教科書第10章2）
28. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章1）
29. 経済交渉の行われ方（教科書第11章2）
30. 国境を超える政治（教科書第12章）

準備学習（予習）

教科書の次回範囲を下読みしてわからない言葉を調べておく。|配布されたプリントをできるかぎり完成させておく。

準備学習（復習）

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して次の確認テストに備える。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

北山俊哉ほか『はじめて出会う政治学 第3版』（有斐閣アルマ、2009年）ISBN 978-4-641-12368-7

参考書

高等学校「政治・経済」資料集（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）|手持ちのものがあれば代用してよい。

担当教員：鈴木 真実哉

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00202

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

政治経済学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。| 経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。|| ☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

(2) 内容

経済学の特徴の考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

受講者に対する要望

毎回新しい知識に触れることになるので、必ず十分な復習の時間をとること。板書は全体の構成(毎回の講義における)を理解するのに必要なもので、必ずノートにとること。

学びのキーワード

- ・ 経済学の本質と意義
- ・ 人間の幸福と経済
- ・ 稀少性の解決
- ・ 効率性と公正

授業計画

01. 経済学とは何か
02. 資源の稀少性と解決（1）
03. 資源の稀少性と解決（2）
04. 生産可能性フロンティア
05. 機会費用（1）
06. 機会費用（2）
07. 消費者の行動（1） 効用と無差別曲線
08. 消費者の行動（2） 予算制約と消費可能領域
09. 消費者の行動（3） 効用最大化
10. 消費者の行動（4） 需要曲線
11. 生産者の行動（1） 生産関数と収入
12. 生産者の行動（2） 費用と費用関数
13. 生産者の行動（3） 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給——市場（1）
16. 需要と供給——市場（2）
17. マクロ経済学1（生産物市場） 45°線モデル
18. マクロ経済学2（乗数理論）
19. マクロ経済学3（貨幣市場）
20. マクロ経済学4（労働市場）
21. IS曲線
22. LM曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ（1）
26. オープンマクロ（2）
27. オープンマクロ（3）
28. オープンマクロ（4）
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

準備学習(復習)

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

教科書

参考書

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00203

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。|

(2) 内容

本講義では、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」を教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。||

受講者に対する要望

教科書の題名から、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 経済用語
- ・ 経済理論
- ・ ミクロ経済
- ・ マクロ経済

授業計画

01. はじめに
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. ミクロ経済学
04. 消費者はどう行動するのか
05. 企業はどう行動するのか
06. 市場の機能と価格メカニズム
07. まとめ（1）
08. 所得配分の決まり方
09. 独占と規制
10. 寡占市場
11. 外部性と市場の失敗
12. 不完全情報の世界
13. まとめ（2）
14. まとめ — ミクロ経済
15. 質疑応答
16. マクロ経済学の基本
17. GDPはどう決まるのか
18. マクロ経済主体の行動
19. まとめ（3）
20. 財政政策
21. 金融政策
22. 景気と失業
23. まとめ（4）
24. インフレとデフレ
25. 経済成長
26. 国際経済
27. マクロ経済政策
28. まとめ（5）
29. まとめ — マクロ経済学
30. 質疑応答

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

井堀 利宏、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」、KADOKAWA

参考書

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00210

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。|

(2) 内容

本講義では、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」を教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。||

受講者に対する要望

教科書の題名から、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 経済用語
- ・ 経済理論
- ・ ミクロ経済
- ・ マクロ経済

授業計画

01. はじめに
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. ミクロ経済学
04. 消費者はどう行動するのか
05. 企業はどう行動するのか
06. 市場の機能と価格メカニズム
07. まとめ（1）
08. 所得配分の決まり方
09. 独占と規制
10. 寡占市場
11. 外部性と市場の失敗
12. 不完全情報の世界
13. まとめ（2）
14. まとめ — ミクロ経済
15. 質疑応答
16. マクロ経済学の基本
17. GDPはどう決まるのか
18. マクロ経済主体の行動
19. まとめ（3）
20. 財政政策
21. 金融政策
22. 景気と失業
23. まとめ（4）
24. インフレとデフレ
25. 経済成長
26. 国際経済
27. マクロ経済政策
28. まとめ（5）
29. まとめ — マクロ経済学
30. 質疑応答

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

井堀 利宏、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」、KADOKAWA

参考書

担当教員：高橋 聡

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A002K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

意義|直感や好き嫌いではなく、理論にもとづく分析によって社会の仕組みを理解し、問題を解明する。これが学生が大学で身につけるべき思考法である。経済学によってそのトレーニングを効果的に行うことができる。
|目標|文法を理解していなければ外国語を理解することはできない。それと同じように、複雑な経済現象を読み解くためには経済理論という「文法」をマスターする必要がある。その最低限の知識を習得することが講義の第1の目標である。これにより、文法を無視した経済ニュースがいかにか多く世間に流通しているかもわかるだろう。そこで、経済ニュースの読み方を身につけることが第2の目標となる。

(2) 内容

経済現象の診断に必要な理論を習得し、日本経済の現状分析を行う。2コマの内容を2部構成とし、第1部(奇数回)は主に理論の習得、第2部(偶数回)は日本経済に関するレポートと解説をする。なお、第1部は、岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』(新世社)に準拠したプリントを用いるので、必要に応じてこの書を購入してほしい。

受講者に対する要望

遅刻や私語には厳正に対処する。授業の進行を妨害する者に対しては、教室からの退出や授業への参加停止を求めることもある。

学びのキーワード

- ・ GDP
- ・ 物価
- ・ 財政・金融
- ・ 経済成長
- ・ 貿易

授業計画

01. ガイダンス
02. 国内総生産
03. 国内総支出
04. 戦後日本経済の歩み (1) 復興期から高度経済成長
05. 国内総所得と三面等価の原則
06. 戦後日本経済の歩み (2) 戦後日本の経済成長と寄与度
07. 「総」概念と「純」概念
08. 働く人から見た日本経済 (1) 労働力に関する定義
09. 物価
10. 働く人から見た日本経済 (2) 日本的雇用慣行とその変化
11. 投資理論
12. 企業から見た日本経済 (1) 企業と競争の役割
13. 貨幣供給
14. 企業から見た日本経済 (2) 株式会社
15. 貨幣需要
16. 貿易・国際金融から見た日本経済 (1) 戦後日本の貿易構造の推
17. IS-LM分析 (1) IS曲線の導出
18. 貿易・国際金融から見た日本経済 (2) 国際収支と外国為替相場
19. IS-LM分析 (2) LM曲線の導出
20. 財政の役割と仕組み (1) 財政の役割
21. 財政政策
22. 財政の役割と仕組み (2) 租税
23. 金融政策
24. 社会保障の役割と仕組み (1) 社会保障制度の確立
25. 経済成長論
26. 社会保障の役割と仕組み (2) 医療保険制度とその他の保険制度
27. 国際マクロ経済学
28. 税の仕組み (1) 主要三税(所得税・法人税・消費税)
29. 貿易理論
30. 税の仕組み (2) 控除制度

準備学習(予習)

教科書の指定ページを読み、疑問点を自ら調べるなり、質問できる用意をすること。

準備学習(復習)

①練習問題をくりかえすこと。②授業で取り上げた問題に関する経済ニュースを収集すること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) 報告・発言 | 20% |

教科書

八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略!!日本経済』(学文社)【978-4762024979】

参考書

岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』(新世社)

担当教員：由川 稔

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A002K2

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずです。しかし現実の経済は、人間を奴隷化してしまうほどの恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で、明るい未来社会を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。

(2) 内容

経済学は抽象化や理論化という「科学的な方法」に基づいています。なぜでしょうか。それは、日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没してわからなくなりがちな経済現象の「本質」を見抜き、そこから、「新しい経済」や「人間のあり方」などを構想するためです。しかし、理論を理解することだけで頭が一杯になってしまうと、かえって現実を見る目を曇らせてしまう危険もあります。授業では、このバランスを重視したいと思います。

受講者に対する要望

「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。授業は初学者向けに丁寧に進めます。公務員試験対策等、スピーディーな展開が必要な方は、他を当たってください。なお、授業では、例えば国内の経済政策論議、対外的な政策協調や国益の対立といったニュース記事等、時事問題を中心とした資料も配布します。理論と現実の両方を視野に入れて、整理するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 経済
- ・ 社会
- ・ 自由
- ・ 公正
- ・ 競争・効率

授業計画

01. 経済学の全体像概観。マクロ経済学とミクロ経済学。政策運営との関わり。ビジネスとの関わり等。
02. インフレーションとデフレーション（1）～インフレの意味と影響
03. インフレーションとデフレーション（2）～デフレの意味と影響
04. 円高と円安
05. 第2次世界大戦後に成立した国際経済の枠組み
06. 近代経済学とマルクス経済学
07. 自由貿易と保護主義
08. ケインズの考え方と新自由主義の考え方
09. GDPをめぐる（1）～意味。名目と実質の違い。
10. GDPをめぐる（2）～消費
11. GDPをめぐる（3）～投資と政府支出
12. GDPをめぐる（4）～輸出と輸入
13. GDPをめぐる（5）～総需要と総供給
14. GDPをめぐる（6）～デフレギャップとインフレギャップ
15. 需要サイドの構成内容と供給サイドの構成内容
16. 金融政策（1）～お金（マネー）について
17. 金融政策（2）～中央銀行や民間銀行の役割
18. 金融政策（3）～近年の議論
19. 財政政策（1）～公共投資
20. 財政政策（2）～乗数効果
21. 現代日本経済史（1）～変動相場制への移行
22. 現代日本経済史（2）～グローバル化とバブル
23. 市場メカニズムと資源配分
24. 需要曲線と供給曲線
25. 価格について
26. 市場の失敗
27. ゲーム理論（1）～戦略
28. ゲーム理論（2）～協調
29. ゲーム理論（3）～合理的な行動
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

準備学習(復習)

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 定期試験 | 60% | 定期試験における最大の割合ですが、授業で学んだ内容を覚えることは必須です。しかし授業内容が理解できていないと、期待できません。 |
| (2) 受講態度 | 20% | 主として、授業で毎回配布・回収するチェックシートへの記入内容から、参加の積極性を見ます。 |
| (3) レポート等 | 20% | 授業内容に関連するテーマに関するレポートに、理論・事例を駆使して考察し、論議をまとめることが求められます。レポートの質も評価します。 |

教科書

伊藤元重著『はじめての経済学（上）』（日経文庫）日本経済新聞社（2004年4月）【97-84532110147】

参考書

担当教員： 正上 常雄

学期： 秋学期 科目： 教養科目 必修・選択： 必修科目 単位： 4 授業コード： 12A002K3

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。本講義では、経済学を学ぶために、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配などの概念を使って、様々な経済的問題を考えてゆく。経済全体を構成する要素は、家計（消費者）、企業、金融、政府、貿易の5つである。企業は他の4つと密接に関係している。企業のあり方について学ぶことで、経済全体についての考察も深まってゆく。社会に出て、企業で働くときの準備として経済学を学んで欲しい。| 難しい数式を覚えることより、経済学的な合理的思考を身に付けて欲しい。経済学は難しいと思わずに、賢く生活するための知恵を身に付けることを目標として欲しい。|

(2) 内容

経済学とは、個人、企業、政府などさまざまな組織が、どのように選択を行い、その選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問のことである。経済学について学ぶ前に、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配、といった概念を知っておく必要があり、まずは経済学で使われる概念と経済学的な思考をきちんと身に付け、教科書に沿って、経済学の基礎を学んでゆく。| 経済学的な思考をなるべくやさしく教えてゆくつもりである。簡単すぎてつまらないという人のために、適宜、プリントなどで発展的な学習も行う。| |

受講者に対する要望

授業中の私語は厳禁です。その他の授業中のルールについては、最初の授業で相談して決めます。

学びのキーワード

- ・トレードオフ
- ・インセンティブ
- ・市場
- ・分配
- ・労働

授業計画

01. 大学で履修する経済学の考え方1 | 【経済学の考え方 その1】全ての資源は有限である。～稀少性 | 【経済学の考え方 その2】資源は有限だから、片方しか選べない～トレード・オフ | 【経済学の考え方 その3】選ばなかった選択は「コスト」と
02. 大学で履修する経済学の考え方2 | 【経済学の考え方 その4】家計の目的1 | 経済学は3人登場、3つの市場、全体で見ると「相互依存」 | 消費者としての家計 | 最適な買物をするための条件 | 「最適な消費量」が変わる瞬間
03. 家計の目的2 | 労働者としての家計 | ミクロ経済学とは何か？
04. 企業の目的1 | 企業の目的 | 「完全競争市場」では、全ての企業が「プライステイカー」
05. 企業の目的2 | 自社の利益を最大にする方法～限界費用の話
07. 政府の目的1 | 政府の目的 | 国全体の幸福度とは？
08. 政府の目的2 | 政府の役割 | 資源の再配分
09. 需要と供給の話1 | 完全競争市場における需要と供給
10. 需要と供給の話2 | 価格メカニズム・均衡価格・均衡取引量
11. 不完全競争市場1 | 情報の非対称性と市場メカニズム
12. 不完全競争市場2 | 市場の失敗と政府の失敗 | 所得の再配分政策は有効？ | 家賃規制は何をもたらすか？ | 最低賃金制度は何をもたらすか？ | ぜいたく税は何をもたらすか？
13. ミクロ経済学の復習
14. 中間試験
15. マクロ経済学って何？1 | ミクロとマクロの違い
16. マクロ経済学って何？2 | マクロ経済学における家計と政府と企業
17. 短期の経済1 | 「短期」と「長期」～価格調整が「される前」と「された後」で考える
18. 短期の経済2 | 経済の規模を決めるのは需要か？ 供給か？
19. 貨幣の影響1 | 貨幣とは何か・交換手段・価値尺度・価値貯蔵手段 | 兌換・不換紙幣・電子マネー
20. 貨幣の影響2 | 金融政策とは | 金利はどう決まる | 金利が経済に与える影響 | マイナス金利ってアリ？
21. なぜ国民所得をコントロールするのか？1 | 国民所得って何 | 三面等価の原則 | GDPの計算 | 名目と実質
22. なぜ国民所得をコントロールするのか？2 | ケインズ経済学って何 | 生産者（企業や政府）が投資を増やす→国民所得が増える→消費が増える→さらに国民所得が増える→さらに消費が増える→...
23. IS-LM分析1 | 短期均衡とIS-LMモデル
24. IS-LM分析2 | 財政金融政策が現実の経済に与える効果の分析とIS-LMモデル | IS曲線の導出 | LM曲線の導出 | 財市場と貨幣市場の同時均衡
25. 長期の経済1 | 長期均衡への調整 | 短期モデルと長期均衡モデルの比較 | 物価水準はどのように決まるか
26. 長期の経済2 | インフレーションと失業 | 経済成長の理論
27. 長期の経済における失業1 | 自発的失業と非自発的失業 | 働く気がないOR仕事がない | インフレ率と失業率の短期的トレードオフ関係
28. 長期の経済における失業2 | 長期的にみればインフレ率と失業率は相関関係にはない？ | 自然失業率は労働市場の様々な特性に依存する？
29. 長期の経済における政策1 | マクロ経済学の新潮流 | マクロ経済理論の新展開
30. 長期の経済における政策2 および期末試験 | マクロ経済政策の有効性について | マネタリズム | 合理的期待形成学派 | ニューケインジアン

準備学習(予習)

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

準備学習(復習)

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かしてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 中間試験 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 平常点 | 20% |

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。
 基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

教科書

木暮 太一『大学で履修する入門経済学が1日でつかめる本 絶対わかりやすい経済学の教科書』（マトマ出版）【978-4904934036】

参考書

社会学 (W用)

SOC1-0-100/SOCI-P-100/SOCI-W-10
0

担当教員：渡邊 隼

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A00356

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(社会)：必修科目【教】高等学校教諭一種(公民)：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生(まちづくり)コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。
|・生活について理解する。|・人と社会の関係について理解する。|・社会問題について理解する。

(2) 内容

・社会学の成立と展開 |・社会学の研究視点 |・現代社会の理解 |・生活の理解 |・人と社会との関係 |・社会問題の理解

受講者に対する要望

「社会」「自己」「他者」にたいして、何らかの興味関心を持っていることが望ましい。

学びのキーワード

- ・社会理論
- ・社会システム
- ・自己理解
- ・他者理解
- ・社会学的想像力

授業計画

01. 社会学の成立と展開
02. 社会学の研究視点
03. 現代社会の理解 (1) 社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識
04. 現代社会の理解 (2) 社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標
05. 現代社会の理解 (3) 法と社会システム
06. 現代社会の理解 (4) 経済と社会システム
07. 現代社会の理解 (5) 社会変動① 社会変動の概念
08. 現代社会の理解 (6) 社会変動② 近代化、産業化、情報化
09. 現代社会の理解 (7) 人口① 人口の概念、人口構造
10. 現代社会の理解 (8) 人口② 人口問題、少子高齢化
11. 現代社会の理解 (9) 地域① 地域の概念、コミュニティの概念
12. 現代社会の理解 (10) 地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会
13. 現代社会の理解 (11) 地域③ 地域社会の集団・組織
14. 現代社会の理解 (12) 社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団
15. 現代社会の理解 (13) 社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション
16. 現代社会の理解 (14) 社会集団③ 組織の概念、官僚制
17. 生活の理解 (1) 家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態
18. 生活の理解 (2) 家族② 家族の変容、家族の機能
19. 生活の理解 (3) 生活の捉え方
20. 人と社会との関係 (1) 社会関係と社会的孤立
21. 人と社会との関係 (2) 社会的行為
22. 人と社会との関係 (3) 社会的役割
23. 人と社会との関係 (4) 社会的ジレンマ
24. 社会問題の理解 (1) 社会問題の捉え方
25. 社会問題の理解 (2) 具体的な社会問題① 貧困、失業
26. 社会問題の理解 (3) 具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺
27. 社会問題の理解 (4) 具体的な社会問題③ 犯罪、非行
28. 社会問題の理解 (5) 具体的な社会問題④ DV、ハラスメント
29. 社会問題の理解 (6) 具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ
30. 社会問題の理解 (7) 具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座(3) 社会理論と社会システム—社会学【第3版】』(中央法規出版)【978-4808832509】

参考書

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A003K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生（まちづくり）コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学系科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会学的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと思います。

(2) 内容

「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者性に迫る学問と言えるでしょう。| 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。

受講者に対する要望

私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・アイデンティティ
- ・コミュニケーション
- ・メディア
- ・政治と権力
- ・都市と消費社会

授業計画

01. 社会学とは
02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性
03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か
04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義
05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象
06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生
07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史
08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神
09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム
10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省
11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義
12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問
13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学
14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性
15. アイデンティティと社会学
16. コミュニケーションと社会学
17. 家族の社会学
18. 政治の社会学
19. 都市の社会学
20. 身体の社会学
21. メディアの社会学
22. 情報化社会と消費社会
23. 階級・階層の社会学
24. ジェンダーとセクシュアリティ
25. 共同体と市民社会
26. 国民国家と多文化社会
27. グローバル化
28. 社会学史 (1) 西洋編
29. 社会学史 (2) 日本編
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』（筑摩書房）大澤真幸編|『社会学入門』（岩波書店）見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』（有斐閣）友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵
『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）宇都

準備学習(復習)

授業後にノートをまとめ直しましょう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) 期末試験 | 80% |

教科書

稲葉振一郎『社会学入門』（日本放送出版協会）【978-4140911365】

参考書

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A005K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格、選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。

(2) 内容

人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

学びのキーワード

- ・ 公法と私法
- ・ 任意規定と強行規定
- ・ 実体法と手続法
- ・ 権利・義務
- ・ 犯罪と処罰

授業計画

01. ガイダンス
02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法）
03. 子ども・少年と法②（刑事法）
04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法）
05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法）
06. 男女・夫婦①（民事法）
07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法）
08. 企業の法①（会社法）
09. 企業の法②（経済法）
10. 主権者の法①（憲法）
11. 主権者の法②（行政法）
12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法）
13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法）
14. 高齢者・相続①（社会保障法）
15. 高齢者・相続②（民法）
16. 憲法①（統治）
17. 憲法②（統治）
18. 民法①（人・法律行為・財産）
19. 民法②（契約・不法行為）
20. 刑法①（総論）
21. 刑法②（各論）
22. 商法①（株式）
23. 商法②（機関）
24. 民事訴訟法①（請求、弁論）
25. 民事訴訟法②（証拠、判決）
26. 刑事訴訟法①（捜査）
27. 刑事訴訟法②（公判）
28. 法とは何か
29. 法とは何か（続）
30. 全体のまとめ

準備学習（予習）

配布資料に目を通しておくこと。

準備学習（復習）

分かったこと、疑問点、自分なりの意見・感想などを、配布資料やノートに書き留めておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布します。

参考書

授業の中で適宜、紹介します。

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：4 授業コード：12A005K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格・選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科学科

(1) 学びの意義と目標

法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。

(2) 内容

「法を守る精神・法令遵守と責任」|「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などで

受講者に対する要望

受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 法を守る精神
- ・ 「公」と「私」
- ・ 権利と義務
- ・ 責任
- ・ 市民社会に生きる

授業計画

01. 法を守る精神： 社会における信頼関係
02. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成
03. 法と道徳
04. 法の概念
05. 法の存在形式（法源）
06. 法の種類
07. 法の効力 その範囲と限界
08. 「自然法論」と「法実証主義」
09. 法と道徳（2）
10. 自己決定権
11. 法がめざすもの（法の目的）
12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス
13. 法の目的（2）
14. 適法性と違法性
15. 「犯罪」とは何か？
16. 「犯罪」とは何か？（2）
17. モラルの低下した社会に生きる
18. 法の目的（3）
19. 「公」と「私」
20. 「責任」とは何か？
21. 「権利」とは何か？
22. 「正義」とは何か？
23. 「市民社会」に生きる
24. 「法」を守る精神
25. 諸外国の法
26. 諸外国の法（2）
27. 市民社会の法
28. 消費者と法
29. 知的財産権と法（1）
30. 知的財産権と法（2）

準備学習(予習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

準備学習(復習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業中の態度、積極的発言など | 40% |
| (2) 課題作成 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

『ポケット六法 平成29年版』（有斐閣）

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100101

学部教育の関連目

【P】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける | 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

倫理とは「いかに生きるか」を探究する営みであるが、それは「世界や人間をどのように見るか」という課題と密接に関わるものでもある。そして、とりわけ社会倫理をめぐる諸問題に取り組もうとするとき、世界や社会をより深く理解するために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠となる。後期は、キリスト教神学と倫理との関連という視点から、個別のトピックも取り上げつつ学びを進めていきたい。

(2) 内容

キリスト教神学についての基礎的理解を修得するとともに、その社会倫理との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と社会倫理
- ・キリスト教神学
- ・キリスト教と諸思想

授業計画

01. 「神学」とそのよりどころ（1）
02. 「神学」とそのよりどころ（2）
03. 神についての探求（1）
04. 神についての探求（2）
05. 神学と倫理思想（1）神学と哲学との微妙な関係
06. 神学と倫理思想（2）ロマン主義
07. 神学と倫理思想（3）マルクス主義・ポストモダニズム
08. 神学と倫理思想（4）フェミニズム
09. 神学と倫理思想（5）解放の神学・黒人神学
10. 「環境倫理」とキリスト教
11. 生と死
12. 性と結婚
13. 戦争と平和
14. キリスト教的文化と倫理
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|-----------------------------|
| (1) 参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 期末試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：菊地 順

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100102

学部教育の関連目

【P】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【R】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、平和に関する具体的な事例を学ぶことをとおして、特に人間の尊厳および人格・人権という価値の尊さの理解を深め、現代世界に通用する倫理観を身に付けることが目指されています。

(2) 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、春学期は「良き隣人となる」というテーマの下で、さまざまな分野で「平和」の実現のために貢献した人たちを取り上げて行います。「平和」というのは、単に戦争のない状態のことではなく、もっと豊かな積極的内容を持つ言葉で、さまざまな分野で活動した人たちの具体的な事例を見ながら、「良き隣人となる」ということはどういうことか考えたいと思います。具体的には、まずキリスト教の考える「平和」について考察します。そこには、いわゆる戦争のない平和ともっと広い意味での平和が認められますが、そのそれぞれを吟味したあと、特に20世紀にいくつかの事例を求め、その具体的な内容を検討し、人間の生き方について学びます。

受講者に対する要望

倫理というと堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、人間のよりよい生き方を学ぶもので、たえず社会に関心を持ち、問題を共有しながら、開かれた心で臨んでほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 戦争
- ・ 社会
- ・ 人格
- ・ 人権

授業計画

01. 「良き隣人となるために」序(1)—20世紀の時代精神
02. 「良き隣人となるために」序(2)—20世紀と大衆社会
03. 「良き隣人となるために」序(3)—20世紀と平和論
04. 「良き隣人となる」(1)—コルベ神父
05. 「良き隣人となる」(2)—ボンヘッフアー
06. 「良き隣人となる」(3)—新渡戸稲造(1)（その生涯）
07. 「良き隣人となる」(4)—新渡戸稲造(2)（その思想）
08. 「良き隣人となる」(5)—賀川豊彦
09. 「良き隣人となる」(6)—マハトマ・ガンディ(1)（その生涯）
10. 「良き隣人となる」(7)—マハトマ・ガンディ(2)（その思想）
11. 「良き隣人となる」(8)—マザー・テレサ(1)（その生涯）
12. 「良き隣人となる」(9)—マザー・テレサ(2)（映画を通して）
13. 「良き隣人となる」(10)—ダイアナ元皇太子妃と地雷廃絶運動
14. 「良き隣人となる」(11)—エレノア・ルーズベルトと世界人権宣言
15. まとめ—「良き隣人になる」とは？

準備学習(予習)

予習としては、シラバスを読んで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、予め下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習として、毎回授業で配布される講義内容のプリントを読み直すこと。また必要や関心に応じて、自分で調べ、知識を深めること。特に、この授業では復習に重点を置いてください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 課題 | 10% |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

参考書

毎回授業の初めにプリントを配布します。

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100203

学部教育の関連目

【P】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける | 【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】 高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

倫理とは「いかに生きるか」を探究する営みであるが、それは「世界や人間をどのように見るか」という課題と密接に関わるものでもある。そして、とりわけ社会倫理をめぐる諸問題に取り組もうとするとき、世界や社会をより深く理解するために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠となる。前期は、主として宗教一般と倫理との関連という視点から学びを進めていきたい。

(2) 内容

宗教一般についての基本的理解を得るとともに、その社会倫理との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 社会倫理と諸宗教
- ・ 宗教的人間観
- ・ 宗教的世界観

授業計画

01. 宗教の「始まり」について
02. 宗教・呪術・科学
03. さまざまな宗教のかたち
04. 何を信じるのかー宗教的实在観について
05. 宗教から見た人間ー宗教的人間観について
06. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（1）
07. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（2）
08. 宗教儀礼・修行について（1）
09. 宗教儀礼・修行について（2）
10. 宗教集団について
11. 宗教体験と人格（1）
12. 宗教体験と人格（2）
13. 「終末論」と倫理
14. 「スピリチュアリティ」と倫理
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|-----------------------------|
| (1) 参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 期末試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：菊地 順

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100204

学部教育の関連目

【P】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【R】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、人種問題の学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などの価値についての理解を深め、現代世界に通用する倫理を身に付けることが目指されています。

(2) 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、秋学期は人種問題に注目して行います。具体的には、アメリカ合衆国における黒人問題を中心にヨーロッパ世界におけるユダヤ人問題にも触れ、その歴史とその問題に取り組んだ人々の活動について学びます。そのことを通し、人間の生き方について、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学びます。

受講者に対する要望

人種問題は、世界中にある問題です。この学びのために、特に人間の尊厳とか人権ということにより敏感となり、社会や世界に広く関心を持ち、開かれた心で授業に臨んでほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ アフリカ系アメリカ人（黒人）
- ・ 奴隷制度
- ・ 人種隔離制度
- ・ 公民権（市民権）
- ・ 人格・人権

授業計画

01. アメリカの宗教的多元化と右派化
02. アメリカ教会史
03. アメリカ黒人の歴史
04. フレデリック・ダグラスの生涯と奴隷制度
05. 南北戦争と奴隷解放宣言
06. 動画で見るアメリカの奴隷制度
07. 人種隔離制度と黒人たちの闘い
08. 公民権運動への序章
09. M. L. キングと公民権運動（1）（その歩み）
10. M. L. キングと公民権運動（2）（その思想）
11. マルコムXの闘い（1）—その生涯と思想
12. マルコムXの闘い（2）—映画『マルコムX』から学ぶ
13. 大リーグと黒人—ジャッキー・ロビンソンとドジャーズの思想
14. エルヴィス・プレスリーと黒人音楽—人種の壁を越えて
15. まとめ—人間の尊厳と人権

準備学習(予習)

予習としては、シラバスで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、授業で毎回配布される講義内容のプリントを読み返すこと。また必要と関心に応じて、自分でさらに調べ、知識を深めること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 課題 | 10% |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は、試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

参考書

毎回授業の初めにプリントを配布します。

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1J120381

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と論理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地理）：必修科目 | 【A】副専攻：日本文化学科科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

高校までの歴史の学びは、人物名、事件名、年号などをひたすら頭にいれるという暗記物であったかもしれないが、大学での歴史の授業は、史料を解説しながら、過去の時代を考察するという作業が中心となる。史料読解力や論理的思考力を養っていききたい。

(2) 内容

概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。ここ北武蔵の地は、古代においては、埼玉古墳群に象徴されるように、東国豪族が活躍する舞台であり、中世期には、畠山重忠や熊谷直実らの武蔵武士を輩出し、彼らの活躍が鎌倉幕府成立に大きく貢献した。できるだけ北武蔵の状況について触れながら、古代・中世における政治の変遷について解説していく。|||

受講者に対する要望

日本の歴史について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 日本
- ・ 古代
- ・ 中世
- ・ 武蔵国
- ・ 政治史

授業計画

01. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
02. 邪馬台国はどこにあったのか？
03. 稲荷山古墳出土鉄剣銘の衝撃
04. 聖徳太子は本当に偉人なのか。
05. 「天皇」と「日本」の誕生 |
06. 聖武天皇の憂鬱と天皇制の危機
07. 桓武天皇のコンプレックス
08. 極楽浄土に憧れた道長・頼通父子
09. 畠山重忠の怪力伝説
10. 「官軍」はなぜ負けたのか？－承久の乱をめぐって－
11. 「冬は必ず春となる」－蒙古襲来と鎌倉新仏教－ |
12. 尊治と尊氏 |
13. くじ引きで決めた征夷大將軍
14. 北条氏に支配された武蔵国
15. まとめ

準備学習(予習)

各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。

準備学習(復習)

授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する |

参考書

担当教員：上安 祥子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1J120482

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地理）：必修科目 | 【A】副専攻：日本文化学科科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

歴史を学ぶということは、記録された個々の事実や、叙述されたストーリーを「覚える」ことではない。さまざまな史料や学説を検討、検証し、より確かにアプローチする方法を模索しながら、その事実を読み解いていく、きわめて論理的な思考力を駆使する作業が必要だ。本講義でも、そうした論理的思考力を養うことを目標としている。 | なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部社会科教職科目でもある。将来、教え導く立場に立つ諸君だからこそ、歴史を考えて学ぶ醍醐味を、十分に体験してもらいたい。

(2) 内容

概説Bでは、江戸時代から昭和までの歴史をあつかう。洪水や地震などの災害における救済と復興、戦争が起きた経緯、を重点的にとりあげ、政治や社会の動向といった側面をたどる。 | 個々のトピックスそのものを理解するだけでなく、史料を通じてその時代の様相や志向を「考える」、そして時代の流れを把握する、という、学びのプロセスを重視して授業をすすめていきたい。

受講者に対する要望

予習の内容、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めることがある。「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり調べておくこと。その場で考えるものについては、間違ふことをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べること。

学びのキーワード

- ・ 災害
- ・ 戦争
- ・ 近世
- ・ 近代

授業計画

01. ガイダンスー江戸の“四民”
02. 新しい時代の治者像ー山鹿素行の士道論と「太平記読み」の世界
03. ある名主の苦悩ー救済する人、される人
04. 御所千度参りの波紋
05. 七分積金と江戸の町会所
06. 「ぶらかし」と幕府の「私」
07. 東京の誕生
08. 築地梁山泊と改正掛
09. 1889年2月11日の万歳
10. かみあわない「自主」ー日清戦争、そして日露戦争へ
11. 普通選挙への道のり
12. 帝都復興
13. “ひきずられる”国論ー満蒙へのまなざし
14. 開戦しない論理、開戦する論理ー日中戦争、そして太平洋戦争へ
15. まとめ

準備学習(予習)

次回の授業内容に関して、確認しておくべき語句など、基本的には空欄補充形式の予習課題あり。この予習課題は提出はせず、成績にも反映しないが、予備知識や関心をもつことは、授業の理解度を高める。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。

準備学習(復習)

* 授業で配布するプリントに空欄を設け、その空欄に重要語句などを記入する作業を行いながら授業をすすめるが、その空欄に書き込んだ語句などを中心に、プリントをよく見直すこと。 | * 授業内試験の内容をよく見直すこと。 | * 授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”にとらえ、とくに関心を惹かれた内容に関するものから参考文献を読み進めてほしい。そうすることが復習になるとともに、理解を深めることにもつながる。とりわけ、教員免許取得を目指して履修する諸君は、1冊でも多くの参考文献を手にとるよう、意欲的に取り組んでほしい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--|
| (1) 学期末試験 | 55% | * 第15回目に授業内試験を行う。 * 試験の形式などは、時期をみて、授業のなかで説明する。 |
| (2) 授業内小試験 | 45% | * 授業中に出題、発問、授業時間経過に20分程度をこらして実施。 * 10分以内の授業で取り扱った内容から、授業時間経過を把握して実施。 |

* 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。 | * 公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

教科書

なし。毎授業、プリントを配布する。

参考書

毎授業、複数冊、紹介する。

社会調査の方法

SOCI-A-100/SOCI-J-1

担当教員：柳瀬 公

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J312800

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では、公的統計や簡単な調査報告・調査論文が読めるようになることを目標とする。受講生には、主にアンケート調査の実施方法やアンケート票の作成方法を学ぶ講義だと考えて欲しい。さらに、グループ・ワークも取り入れる予定なので、コミュニケーション能力の育成にも役立つだろう。

(2) 内容

本講義の目的は、社会調査によってデータや資料を収集して、それらを整理して、基礎的な分析の具体的な手法を学ぶことにある。単に社会調査の方法を知るだけでなく、講義内で受講生を対象に模擬的に調査を実施する。これに加えて、データ収集・整理の方法、および初歩的な統計データやグラフの読み方などを実際の作業を通じて体験することで理解を深める。講義の中で、作業の体験を重視するのは、「社会調査実習」(社会調査士G科目)で、社会調査を実施するための準備を本講義で行うためである。| 本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定B科目およびC科目に該当するので、A科目「社会調査入門」に引き続き受講することを強く勧める。なお、資格取得を希望しない学生も受講することができる。

受講者に対する要望

講義内での課題はUNIPAへ提出することが求められるので、パソコンを受講者自身が操作することになる。データを一時的に保存する必要性もあるので、USBメモリを用意してほしい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・インタビュー
- ・社会調査士

授業計画

01. 社会調査の目的と方法 | (「社会調査入門」の復習、調査の実施方法とその特徴を学ぶ)
02. 社会調査の企画と設計 | (調査票調査を理解した上で、調査票調査の企画と設計方法について学ぶ)
03. 仮説と変数 | (仮説および作業仮説、変数とは何か、独立変数および従属変数について学ぶ)
04. 仮説と質問文の関係 | (仮説と質問文の関係を理解して、仮説の作り方を学ぶ)
05. 仮説と質問文の関係 | (仮説と質問文の関係を理解して、質問文と質問方法による問題を学ぶ)
06. 質問文と選択肢の作り方 | (意識と事実の問い方、ワーディング・回答の選択肢に関する問題、尺度の種類)
07. 仮説を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる)
08. 仮説を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる)
09. 質問と選択肢を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る)
10. 調査票の構成【グループ作業】
11. プリテスト
12. 質問と選択肢を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る)
13. データ入力とデータ・クリーニング | (実際にPCもしくは集計表を使ったデータ入力、データ・クリーニングを行う)
14. サンプリングの考えと理論 | (全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方)
15. サンプリングの考えと理論 | (全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方)
16. サンプリングの実践 | (サンプリングの種類と方法について学び、実際のサンプリング作業を知る)
17. 単純集計と度数分布 | (尺度の種類、講義内模擬調査から度数分布表を作成する)
18. 平均・分散・標準偏差 | (講義内模擬調査から得た変数を使って、平均・分散・標準偏差を理解する)
19. クロス集計表の読み方 | (さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ)
20. クロス集計表を読む | (さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ)
21. クロス集計表を作る | (模擬調査結果からクロス集計表の作成、仮説の検証、簡単な報告書の執筆)
22. 調査結果のまとめかた | (模擬調査による仮説の検証、簡単な報告書執筆)
23. カイニ乗検定 | (模擬調査結果分析を精緻化するために、カイニ乗検定の考え方を学ぶ)
24. カイニ乗検定 | (模擬調査結果分析からカイニ乗検定の考え方を学び、実践してみる)
25. クロス集計表のエラロレーション | (模擬調査結果分析をより精緻化するために、第3変数と疑似連関について学ぶ)
26. 相関関係と因果関係 | (共分散および相関関係、相関係数について学ぶ)
27. 相関関係と因果関係 | (相関係数の注意点と、関連および相関関係と因果関係との違いについて学ぶ)
28. 質的データの読み方 | (インタビュー記録や文書などの質的データの分析方法について概観する)
29. 質的データを読む | (実際に、用意された記録や文書を簡単に分析してみる)
30. まとめ

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------------------|
| (1) 講義内課題 | 40% | 出席点は設けない。ほぼ毎回課される講義によって評価される。 |
| (2) 報告書 | 20% | |
| (3) 期末試験 | 40% | 持ち込み不可 |

前の講義内容への積み重ねで理解できる講義であるため、欠席しないことが重要になる。

教科書

大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

担当教員：高橋 愛子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P200330

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

本講義の狙いは以下の三点である。第一に、政治現象の分析や考察において不可欠かつ主要な位置を占める「権力（power）」概念の多面的な学びを通して、政治プロセスの各局面で「権力」がどのように作用しているかを考察すること、第二に、政策決定過程の全体像についての概観を得ること、そして第三に、政策決定の各プロセスの中に潜む様々な問題が私達にとってどのような「意味」を持っているかを考えることである。

(2) 内容

政治学の学問史のなかにおける「政治過程論」の史的立場・特徴について考察し、その後、各論をテキストを参考にしながら学んでいく。基本的なテキストとして下記の教科書を使い、必要に応じて資料を配布する。リアルな政治現象への認識を得るため新聞やニュース映像を適宜使用する。受講者は、政治にかかわる新聞記事のスクラップに各自のコメントを付したコメント・シートの提出が課せられる。|<カリキュラム上の位置づけ> 必修の専門基礎科目「政治学」修得済みの学生が、政治過程に|ついてより専門的に学ぶための科目である。|

受講者に対する要望

(1) リアルタイムに進行している国内外の政治現象に対し積極的な関心をもつこと、(2) ネットやテレビでのニュースを見るだけでなく、新聞をできる限り毎日読むこと。

学びのキーワード

- ・ 大衆社会
- ・ 権力とは何か
- ・ 政治文化
- ・ 立法過程
- ・ 「公益」とは何か

授業計画

01. 導入：講義計画の説明
02. 導入：政治過程論とはどのような学問か
03. 大衆社会の登場
04. 大衆社会における人間
05. 大衆社会の帰結
06. 大衆社会における人間観の変化
07. E. フロム『自由からの逃走』
08. さまざまな権力観 (1)
09. さまざまな権力観 (2)
10. さまざまな権力観 (3)
11. 政策決定過程と課題設定過程 (1)
12. 政策決定過程と課題設定過程 (2)
13. 政治システム論 (1)
14. 政治システム論 (2)
15. 前半のまとめ、学生からのコメントや質問への応答
16. 前半のふりかえりに基づくグループワーク
17. 政治文化論 (1)
18. 政治文化論 (2)
19. 政治的社会化
20. 脱物質主義的価値観
21. 人間関係資本
22. 組織による決定 (1)
23. 組織による決定 (2)
24. 議会と立法過程 (1)
25. 議会と立法過程 (2)
26. 利益集団とNGO (1)
27. 利益集団とNGO (2)
28. 選挙制度と政治参加 (1)
29. 選挙制度と政治参加 (2)
30. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

予め配布するペーパーあるいは教科書の該当箇所を読むでくこと。

準備学習(復習)

授業のポイントについてのレスポンス・シートの作成、提出。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 40% |
| (2) 期末テスト | 30% |
| (3) 新聞コメントの提出 | 30% |

教科書

伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』(有斐閣)【978-4641120938】

参考書

担当教員：久保 善慎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P200440

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：自由科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

受講者が将来どのような職業に就くにせよ、公共政策について、常識的な判断力を持ち合わせておかなければならない。将来の進路を決める際にも、また就職面接でも、公務員試験の論文や面接においても、各自がどのような社会課題に注目し、どのような考えを持っているのかを問われることになる。履修者が社会課題に対して、それぞれの意見や考えを持ち、意見を述べられるようになることを目標とする。

(2) 内容

公共政策とは、政府または公共部門が行う公共的共的問題の解決策のことをいう。政府または公共部門が行う公共的な政策全般を指す総称である。家庭から出る資源のリサイクルから安全保障の問題まで、社会のあらゆる領域に及ぶ。現代において公的な課題を解決する担い手は、国や自治体など公的機関にかぎらない。履修者の希望する就職先が、例えば民間企業であったとしても、その事業が公的な役割を果たしていることはもちろんである。広く社会に貢献できる事業だからこそ、その組織は継続もするし拡大していくのである。この講義では、公共政策を意図(なぜ)、主体(だれが)、行動(どのように)という観点から読み解いていく。それを通じて公共的問題の本質を理解することを目指す。具体的には、これまでの公共政策学の蓄積を利用し、公共政策がどのように決定され、実施され、評価されているかという公共政策のプロセスを説明する。

受講者に対する要望

毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。履修者が積極的な態度で授業に貢献することを望んでいる。

学びのキーワード

- ・ 公共政策と社会課題
- ・ 政策決定
- ・ 政策実施
- ・ 政策評価

授業計画

01. イントロダクション
02. 公共政策とは何か (1) 公共政策の基本構造
03. 公共政策とは何か (2) 公共政策へのアプローチ
04. 公共政策学の系譜 (1) 第1期・第2期
05. 公共政策学の系譜 (2) 第3期
06. アジェンダ設定 (1) アジェンダ設定理論
07. アジェンダ設定 (2) 政策決定
08. 政策問題の構造化
09. 公共政策の手段 (1) 直接供給と直接規制
10. 公共政策の手段 (2) 誘因およびその他の手段
11. 規範的判断 (1) 公平、効率性、安全・安心、自由
12. 規範的判断 (2) 価値の対立と政策の判断基準
13. 政策決定と合理性 (1) 政策決定の合理化への試み
14. 政策決定と合理性 (2) 合理的意思決定の限界
15. 政策決定と利益 (1) 利益調整としての政策決定過程
16. 政策決定と利益 (2) 利益と政治
17. 政策決定と制度
18. レポートの報告とディスカッション (1)
19. 政策決定とアイデア (1) アイディアの概念、アイデアによる影響
20. 政策決定とアイデア (2) 政策へのプロセス
21. 公共政策の実施 (1) 位置づけと構造、実施の現場
22. 公共政策の実施 (2) 実施研究のアプローチ
23. 公共政策の評価 (1) 評価のロジック、政策評価の種類と機能
24. 公共政策の評価 (2) 政策評価の政治性と参加
25. 公共政策管理のシステム (1) 市場メカニズムの活用
26. 公共政策管理のシステム (2) 地方分権とガバナンス
27. レポート報告とディスカッション (2)
28. 公共政策のトピック (1) 国際紛争
29. 公共政策のトピック (2) 社会保障と税負担
30. まとめ

準備学習(予習)

公共政策は現実の社会問題の解決に寄与することを志す実践的学問である。日ごろからニュース、新聞、書籍などを通じて、時事問題に関心を払っておくことが求められる。授業中への積極的な参加と意見交換をするために、授業で取り上げるトピックに関して事前に目を通すべき資料(報告書・書籍・HP・YouTube映像など)を示

準備学習(復習)

毎回の授業時に示す課題について、各自が次回までに自主的に準備することが望まれる。

評価方法

(1) 授業での積極的な貢献	30%
(2) レポート	30%
(3) 試験	40%

教科書

授業計画にあわせて、適宜授業時に示す。

参考書

担当教員：井上 兼生

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P200550

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）-選択必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）-選択必修科目【全】社会福祉主事任用資格-選択必修【P】国際平和コース-選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

対話の参加者ととともに主題となっている問いについて深く考える「哲学対話」と、テキストの読解、論述などを通して、深く考える力を育成することに力点をおいた授業をめざします。この科目は、社会科の教職科目でもあります。

(2) 内容

倫理学は、「〈よく生きる〉とはどういうことか」、あるいは、その「よさ」つまり「善」とは何かを理論的に探究する学問である。しかし、科学技術の進歩が著しい現代社会においては、従来とは異なる新たな倫理も必要とされるようになっている。たとえば、さまざまな先端医療技術の実用化により、人間の生と死のあり方に関しても人為的な選択の幅が拡大されて、これまでになかった多くの倫理問題が発生し、それらに取り組むために生命倫理という分野が成立している。また、現在の最速コンピュータの性能は、30年前のもの1000万倍以上といわれる。その間、インターネットも世界中をくまなく覆うようになった。私たちは、もうスマホやネットのない生活は考えられなくなっている。しかし、ネットトラブルやサイバー犯罪が広がり、情報倫理という分野が必要となった。また、人工知能が進歩し、今後、雇用の半分を奪うのではないかと予測されている。こうした、ただ生きるだけでも大変な現代社会で、〈よく生きる〉ためには、どう生きていけばよいのだろうか。さまざまな倫理的問題を具体的に考えながら、ともに考えてみよう。

受講者に対する要望

積極的に自分で考えたり、議論したり、調べようとする態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・よく生きる
- ・哲学対話
- ・深く考える力の育成

授業計画

01. イントロダクション：科学技術文明の彼方から「倫理」を考えるー「風の谷のナウシカ」を手掛かりとして
02. 「ナウシカ」から考える文明と自然と倫理
03. 「よく生きる」とは？ーソクラテスの問い
04. クマのプーさんの目的は？ーアリストテレスの目的論的倫理
05. 利己主義は道徳に反するか？ーカントとベンサム
06. 多数のために誰かを犠牲にしてよいか？ー功利主義と人格の尊厳
07. 困っている人を助けるのは義務か？ーよきサマリア人の喩えとボランティア精神、カントの不完全義務
08. 生命倫理①「生命の選別」は許されるか？
09. 生命倫理②脳死は人の死か？
10. 生命倫理③エンハンスメント(能力増強)は許容可能か？
11. 環境倫理①自然にも権利はあるか？
12. 環境倫理②将来世代に責任を負わなければならないか？
13. 高度情報社会と倫理ー情報公開と個人のプライバシー保護をどう両立するか？
14. アトムかターミネーターか？ー知能ロボットの進化と倫理
15. まとめー現代と倫理

準備学習(予習)

各回の授業は1時間ずつ異なったテーマを取り上げていきます。事前にテーマについての基礎知識を収集するなど、関心を高めておくこと。

準備学習(復習)

レポートも課します。授業で取り上げたテーマについて各自、深く考える努力を求めます。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加 | 30% |
| (2) 授業内レポート | 40% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

教科書

プリントを配布する

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P200610

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

比較して研究するためには中立的な分析力が必要とされる。その中立的な分析力を獲得するために、研究の方法や変数・バイアスの制御などを学んで、実際の政治や社会の比較ばかりでなく、実生活でも応用できる能力を身に付ける。

(2) 内容

前半では社会科学の研究手法を学びながら、比較政治学の手法を理解してもらう。研究や推論には2つのタイプがあり、それぞれを学んだ上で、比較政治にはどのような研究や推論がより中立性を確立できるかを理解してもらう。後半では世界各国の政治制度を比較することによって、因果関係推論の実例を学んでもらう。

受講者に対する要望

社会科学としての比較政治学の研究手法を学ぶことを目的としているため、思想学とは異なる分野であることを理解した上で受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 政治学
- ・ 社会科学
- ・ 因果関係
- ・ 事例研究
- ・ 政治制度論

授業計画

01. イントロダクション：政治とは何か？
02. 定性的研究と定量的研究
03. 社会科学の科学性
04. 仮説・法則・理論
05. 比較政治学の方法
06. 比較政治学の対象
07. 記述的推論と因果的推論
08. 記述的推論による比較研究(1)
09. 記述的推論による比較研究(2)
10. 因果的推論による比較研究(1)
11. 因果的推論による比較研究(2)
12. 研究対象の選択
13. バイアス問題
14. 観察の設定
15. 事例研究に対する他の見解
16. 制度論による比較
17. 政治制度の形成
18. 選挙制度の構成要素
19. 選挙制度の比較
20. 執政制度の構成要素
21. リーダシップの比較
22. 政党組織の構成要素
23. 政党組織の比較
24. 議会制度の構成要素
25. 議会制度の比較
26. 中央銀行制度の構成要素
27. 中央銀行制度の比較
28. 中央・地方関係制度の構成要素
29. 中央・地方関係制度の比較
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、可能であれば参考文献を読んでおくこと。

準備学習(復習)

プリントをよく読んだ後に、できれば参考文献を読んで、より深く比較政治学の研究手法を学んでもらうことが望ましい。質問事項があれば、UNIPAや次の授業の冒頭で質問すること。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 出席点 | 30% |
| (2) レポート | 30% 学期末に提出する。課題は16回目の授業で指示する。 |
| (3) 試験 | 40% |

授業回数の3分の2以上の出席回数がなければ成績評価を受けられないという学則を厳守する。

教科書

参考書

G. キング他(著)、真淵勝(監訳)『社会科学のリサーチ・デザイン—定性的研究における科学的推論』(勁草書房、2004年)H. ブレイディ他(著)、奥川泰博他(訳)『社会科学の方法論—多様な分析道具と共通の基準』(勁草書房、2014年)建林正彦他(著)『比較政治制度論』(有斐閣、2008年)

担当教員：宮本 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P200770

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：選択科目 | 【P】国際平和コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

国際政治には数多くの側面があり、これを理解するには多くの分析枠組みを学ぶ必要があります。ある一面でしか国際政治を理解できないことは、大きな誤りをおかすことになりかねません。この授業では国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を一通り学ぶこととなります。本授業は、第一に、国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を習得すること、第二に、それらの基礎知識に基づいて、国際政治の諸問題をより深く理解し、自ら解決方法を考える能力を養うことを目標とします。

(2) 内容

授業は教科書にそって、国際政治学の総論から始まって各分野を学んでいきます。国際政治学の基本概念と国際政治の歴史、対外政策論や国際秩序、安全保障論、国際政治経済論、さらにグローバリズムの問題として越境的世界について学びます。

受講者に対する要望

受講生は、(1) 各授業に対応する教科書の該当部分を予習してきて、(2) 講義を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書に沿って講義を進めていきます。

学びのキーワード

- ・リアリズム
- ・グローバリズム
- ・対外政策論
- ・国際政治経済論
- ・安全保障論

授業計画

01. 分析枠組みとしての国際政治学（教科書序章、プリント配布）
02. 国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」1）
03. リアリズムへの挑戦（教科書第1章「国際政治学の見取り図」2）
04. 三つの分析レベル（教科書第1章「国際政治学の見取り図」3）
05. 国際政治から世界政治へ？国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」4）
06. 主権国家体制以前の「世界秩序」（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」1）
07. 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2）
08. 世界大戦と主権国家体制のグローバル化（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2）
09. 冷戦期の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」4）
10. 冷戦終結後の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」5）
11. 外交 ●同意確保の政治過程（教科書第3章「対外政策の選択」1）
12. 国内政治と対外政策（教科書第3章「対外政策の選択」2）
13. 国家間の戦略的相互依存（教科書第3章「対外政策の選択」3）
14. 認識と行動（教科書第3章「対外政策の選択」4）
15. 威嚇と約束（教科書第3章「対外政策の選択」5）
16. 領域主権国家体制 ●国内類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」1）
17. 秩序の設計と生成 ●市場類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」2）
18. 国際秩序の変動と国内秩序の変動 ●共振論の挑戦（教科書第4章「国際秩序」3）
19. 戦争から安全保障へ（教科書第5章「安全保障」1）
20. 軍事的安全保障（教科書第5章「安全保障」2）
21. 安全保障の諸問題（教科書第5章「安全保障」3）
22. 国際の平和と国内の平和（教科書第5章「安全保障」4）
23. 歴史と思想（教科書第6章「国際政治経済」1）
24. 国際経済の制度（教科書第6章「国際政治経済」2）
25. 国際政治経済の過程（教科書第6章「国際政治経済」3）
26. グローバリゼーションとパワーシフト（教科書第6章「国際政治経済」4）
27. 平和と正義の相克（教科書第7章「越境的世界」1）
28. 越境問題の実相（教科書第7章「越境的世界」2）
29. 文明論と国際政治 ●「へだて」と「つながり」（教科書第7章「越境的世界」1）
30. 国際政治学と現代の国際問題についてのまとめ

準備学習(予習)

配布プリントや教科書の各該当部分を読んで予習する。キーワードを中心に予習することが望ましい。教科書を全部覚えようとするのではなく、キーワードを覚えて、論理を理解するように努めること。

準備学習(復習)

教科書、配布プリント、ノートを再読して、授業後の理解を深める。質問事項があれば、UNIPAや次の授業の冒頭で質問すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | 毎回の授業中に、授業中に行っている授業に出席することがある。また、授業開始の15分以内には出席を指示する。 |
| (2) レポート | 30% | 学期末に提出する。課題は16回目の授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 60% | 論述試験 |

教科書

中西寛、石田淳、田所昌幸著『国際政治学』（有斐閣）【978-4641053786】

参考書

担当教員：飯島 康夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P201010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種(地歴)：選択科目 | 【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

意義は英国の離脱に見られるEUの危機にある昨今の現状にあって、ヨーロッパ各国を結びつける基礎的な絆、文化とは何かを探求することにある。目標は様々な国の状況を理解し、私たちがヨーロッパからなにが学べるかをしっかりと掴み取ることである。

(2) 内容

EUの歴史と現状、未来に思いを馳せ、ヨーロッパ的なものの普遍性を探求する内容構成となっている。

受講者に対する要望

自主的な参加と対話をお願いする

学びのキーワード

- ・ 移民問題
- ・ ユーロ
- ・ 域内市場格差

授業計画

01. ヨーロッパのイメージ。ヨーロッパとは何か。
02. 底流する文化の特徴
03. 第二次世界大戦の反省とEUの形成、東欧革命後のEU拡大
04. フランスと極右の台頭、文化的中心
05. 統一後のドイツと移民寛容の姿勢
06. チェコとスロバキア
07. ポーランド
08. バルト三国
09. スペインの失業問題
10. ポルトガルの経済発展と現状
11. 南欧と中南米諸国との国際関係
12. 統合以前 第一次世界大戦の惨禍
13. 第二次世界大戦からアメリカの台頭
14. ヨーロッパ再建とEC
15. 冷戦のデタント
16. ポスト冷戦のヨーロッパ統合の動き
17. EUの仕組み
18. EU経済現状
19. 域内市場の形成
20. 通貨統合へ
21. 世界金融経済危機と南欧財政危機
22. EUの拡大がもたらしたもの
23. トルコとバルカン諸国の問題
24. EUの外交政策
25. 日本とヨーロッパの関係
26. ボスニア紛争、コンゴ
27. EUの安全保障政策
28. Brexitのもたらしたものとは？
29. ヨーロッパ的なものの普遍性、通奏低音をふりかえって
30. まとめ

準備学習(予習)

事前にテーマについて考察すること

準備学習(復習)

前回授業をふりかえって、当面の課題に活かすこと。ノートを取る。

評価方法

- | | |
|--------------|----|
| (1) 講義への参加 | 4割 |
| (2) レポート課題提出 | 4割 |
| (3) 口頭発表 | 2割 |

総合的評価

教科書

藤井裕一「ヨーロッパの政治経済・入門」有斐閣 | 羽場久美子編「EUを知るための63章」明石書店 | 佐藤彰一「禁欲のヨーロッパ」中公新書

参考書

担当教員：三浦 正士

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P201220

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

地方分権改革によって、地域における政治や行政は大きな変革期を迎えている。この講義では、地方自治の基本的な仕組みと今後の課題を理解するとともに、受講者が地域のアクターとしてこれからの地方自治のあり方や多様化・複雑化する地域課題について考える力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

この講義では、地方自治の基本的な仕組みを学び、今後の課題を考察する。前半の講義では、地方自治に関する歴史と理論、地方分権改革の動向、地域政治のしくみについて検討を行う。後半の講義では、自治体の政策過程とそこにおける住民参加・協働の重要性を解説するとともに、まちづくり、地域福祉、環境、防災・危機管理といった具体的な政策課題を取り上げ、行政と企業、NPO、地域住民の協働のあり方について自治体の実践を交えつつ実証的な検討を行う。

受講者に対する要望

授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問してください。

学びのキーワード

- ・住民自治
- ・団体自治
- ・二元代表制
- ・参加・協働

授業計画

01. ガイダンス
02. 自治とは何か
03. 地方自治の歴史 (1)
04. 地方自治の歴史 (2)
05. 地方自治の種類と権能
06. 大都市制度
07. 中央地方関係と自治体
08. 中央集権体制と機関委任事務
09. 地方分権改革の意義と到達点
10. 平成の大合併
11. レポート報告とディスカッション (1)
12. 自治体の統治機構
13. 自治体議会改革の現段階
14. 自治体選挙の現状と問題点
15. 自治体の行政機関
16. 自治体統治機構の国際比較
17. 自治体の政策過程 (1)
18. 自治体の政策過程 (2)
19. 政策法務と条例
20. 住民参加と協働 (1)
21. 住民参加と協働 (2)
22. レポート報告とディスカッション (2)
23. 地方自治とまちづくり
24. 地方自治と環境政策
25. 地方自治と地域福祉
26. 地方自治と防災・危機管理
27. 地方自治とコミュニティ
28. 自治体内分権のしくみと論点
29. 広域連携のしくみと論点
30. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

自治体の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高めること。

準備学習(復習)

参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深めること。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 期末試験 | 60% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 平常点 | 20% 授業への貢献度、リアクション・ペーパー |

教科書

特に使用しない。

参考書

今川豊、生山久仁彦、村上順編著『分権時代の地方自治』（三省堂、2007年）| 新藤宗幸・阿部宗『概説 日本の地方自治』（東京大学出版会、2006年）

担当教員：三浦 正士

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P201330

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

今日の社会においては、政府の役割が多様化・複雑化を見せており、政府の担う行政機能が人々の生活に大きな影響を与えている。この講義では、行政が果たすべき役割と機能について理解を深めるとともに、これからの行政のあり方について多面的に考えることのできる力を養うことを目標とする。

(2) 内容

この講義では、行政学の基本的な考え方を学び、行政が果たすべき役割と機能について考察する。具体的には、教科書や参考書を基に講義を行い、行政システム、官僚制、行政組織、公務員制度、政策過程に関する基礎的な理論を習得するとともに、具体的な事例を取り上げることで、理論を現実の問題に応用する力を養う。さらには、政治と行政（政官関係）、国と地方（中央地方関係）、行政と民間（官民関係）、行政と住民（行政統制）など、行政を取り巻く多様なアクターとの関係について考察し、行政を様々な角度から理解するための視点を養うことのできる講義とする。

受講者に対する要望

授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問してください。

学びのキーワード

- ・官僚制
- ・内閣と省庁
- ・政策過程
- ・地方分権

授業計画

01. ガイダンス
02. 行政学の構成と理論展開
03. 行政機能の肥大化と福祉国家
04. 官僚制をめぐる諸論点 (1)
05. 官僚制をめぐる諸論点 (2)
06. 現代国家の政府体系 (1)
07. 現代国家の政府体系 (2)
08. 日本の中央地方関係 (1)
09. 日本の中央地方関係 (2)
10. レポート報告とディスカッション (1)
11. 日本の統治機構と政官関係 (1)
12. 日本の統治機構と政官関係 (2)
13. 内閣制度と省庁制 (1)
14. 内閣制度と省庁制 (2)
15. 民営化と公民関係 (1)
16. 民営化と公民関係 (2)
17. 公務員制度 (1)
18. 公務員制度 (2)
19. 行政官僚制の政策過程 (1)
20. 行政官僚制の政策過程 (2)
21. 行政官僚制の意思決定システム
22. レポート報告とディスカッション (2)
23. 地方自治とは何か
24. 自治体行政と地方分権 (1)
25. 自治体行政と地方分権 (2)
26. 自治体行政と住民 (1)
27. 自治体行政と住民 (2)
28. 行政とコミュニティ
29. 行政統制と行政責任
30. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

日本の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高めること。

準備学習(復習)

教科書、参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深めること。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 期末試験 | 60% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 平常点 | 20% 授業への貢献度、リアクション・ペーパー |

教科書

西尾謙『行政学【新版】』（有斐閣、2001年）|今村都南雄ほか『ホーンブック基礎行政学【第3版】』（北樹出版、2015年）

参考書

牛山久仁彦、外山公美編著『国家と社会の政治・行政学』（芦書房、2013年）

担当教員：森分 大輔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P202010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

近代国家を成り立たせている基本的な考え方を学ぶという意味では基礎的な科目である。しかし抽象的な概念が多いため、実際には難しく感じられるかもしれない。必修の「政治学」よりは難しい。

(2) 内容

古代と中世の政治思想を概観した後、16世紀から19世紀までの政治思想の成立と展開を追う。まず、私達が生きる近代国家のうちどのような理念がこめられ、またそれがどのような歴史に支えられて成り立ってきたかを考察する。とはいえないが、近代国家を礼賛するのではなく、最初に古代と中世を学ぶことを通じて、近代が置き忘れてきたものについても合わせて目を向けたい。

受講者に対する要望

現代の政治への関心のみならず、そこにおいて交わされる政治的議論の内容に対する関心と、それが過去の様々な理論家の議論から組み立てられているという認識をもって講義に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 政治
- ・ 思想
- ・ 西洋
- ・ 歴史

授業計画

01. イントロダクションI 政治学と思想
02. イントロダクションII 政治思想史の課題
03. プラトンI 政治思想の始まり
04. プラトンII 政治と善の問題
05. アリストテレスI 徳と政治
06. アリストテレスII 目的論と政治的行為
07. アウグスティヌス I 神の存在証明
08. アウグスティヌス II 天の国と地の国
09. アクィナス I アリストテレスの影響
10. アクィナス II 普遍をめぐる問い
11. マキアヴェリI ルネサンスと政治思想
12. マキアヴェリII 共和主義と君主論
13. 宗教改革I ルターとプロテスタンティズム
14. 宗教改革II プロテスタンティズムの影響
15. 近代哲学の課題 I デカルト
16. 近代哲学の課題 II パスカル
17. ホッブズI コンフェッショナルリズムと政治哲学
18. ホッブズII 主権論の成立
19. ロックI 社会的課題と政治
20. ロックII 理性的個人の析出
21. ルソーI 不平等の起源
22. ルソーII 社会契約論と理性
23. バークI 保守主義とイギリス
24. バークII 政治家の役割
25. 連邦制の思想 I 中世的世界観
26. 連邦制の思想 II 連邦共和国の形成
27. トクヴィルI アメリカのデモクラシー
28. トクヴィルII フランス革命論
29. 市民社会をめぐる思想 ミル
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に取り上げる思想家について指示するので、関連する書籍に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義内容を踏まえて、自己の関心を明らかにしておくこと。また疑問については講義内のリアクションペーパーに記載し、疑問のままにしておかないこと。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業貢献 | 40% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 期末テスト | 40% |

教科書

授業内に指示する

参考書

担当教員：大塚 健司

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P202440

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

人口減少、少子・高齢化が社会にどんな影響を与えているか。社会構造、地域社会の変化に行政はどう対応しようとしているのかを市民目線で考察する。| 特に国と県、市町村（地方自治体）の関係について、その役割について考える。

(2) 内容

人口減少、少子・高齢社会、グローバル化の中において、地方自治体としての埼玉県がどんな政策決定をしてきたか、また、ますます厳しさを増す財政状況のなかでどのような政策展開しようとしてしているのか、具体的な事例等を通して実践的な視点からその取り組みなどを研究対象として考察する。| なお、本講座は必要に応じて埼玉県庁職員等の外部講師を招いて講義を行う。

受講者に対する要望

身近な地方自治体、コミュニティ政策に関心のある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・人口減少、少子・高齢社会
- ・国と地方自治体の関係、財政構造
- ・土地政策、コミュニティ
- ・福祉の体系、年金、医療、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉
- ・環境問題、環境福祉

授業計画

01. 人口減少、少子・高齢社会、福祉の体系
02. 人口減少、少子・高齢社会、福祉の体系
03. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化
04. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化
05. 埼玉県政の方向
06. 埼玉県政の方向
07. 環境問題の取り組み
08. 環境問題の取り組み
09. “住む、を見直す
10. “住む、を見直す
11. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み
12. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み
13. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～
14. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～
15. 埼玉地域政策研究のまとめ

準備学習(予習)

日本の人口構成、国と地方自治体の関係、福祉の体系、環境問題について調べておくこと。

準備学習(復習)

配布した資料等を参考にさらに論考すること。

評価方法

(1) レポート 100%

次回の授業までにレポートを提出、講義の要点をまとめ、討論を踏まえて感想をまとめること。

教科書

参考書

厚生労働白書、統計からみた埼玉県のすがた（編集・発行埼玉県総務部統計課）

担当教員：飯島 康夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P202520

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

様々な都市の文化と歴史を学ぶことによって、人種、文明、民族の異なる人々の暮らしと生業、また、その具体的な現れとしての都市のあり方を違いを理解することができるようになることがこの学びの意義である。最初の都市文明から現代まで5000年の時を経ているといわれている。採集生活から麦の栽培という農耕革命にいたり、人は定住生活をするようになってきた。最初の都市はシュメール人の建てたウルといわれている。その後、古代ギリシャ、ローマの諸都市を観察して、この古代都市のあり方がヨーロッパ中世の都市世界を形づくった。東アジアでは唐の長安が都市の鑄型を形をつくったといっでよいであろう。西欧においてだけ市民社会という意味での自治都市が栄えたというテーゼがあるが、これをもに検証していくことが目標である。

(2) 内容

都市とは何かという問いかけに対してこれをともに考えていく内容となっている。産業革命と近代的工業化社会が到来してから都市は激変してきた。19世紀になって社会や経済が急激な変化をもたらし、都市も人口増加の趨勢に揉まれてきた。19世紀から20世紀、21世紀と時代の流れにより、地球上ではメトロポリス、メガロポリスに覆われようとしている。それと同時に自然や地球環境の生態系が危機に瀕している。都市史全体の中で人が暮らしやすい都市とはどのようなものであるかを共に考えていく内容となっている。技術の進歩がともすれば、日々の暮らしを生かしてもすれば、そうでない時もある。人々の暮らしを居心地良いものにするには私たちは佇まい、都市をどのようなものにつくりあげていくことができるのか。そのような行動に繋がるあり方を一緒に考察していくことができればという願いから講義内容を構成していく。

受講者に対する要望

この講義は各都市の歴史を学ぶことによって、様々な文化と生活があることを共に探求し、視野を広げていきたい。

学びのキーワード

- ・ 居心地
- ・ 連帯
- ・ 共有

授業計画

01. 序 都市文明の潮流 - 前近代と近代の違い
02. 環濠城塞都市
03. 古代ギリシャの都市
04. 4大河川流域の都市
05. 古代ローマ
06. 中世ヨーロッパ都市
07. ルネッサンス都市
08. 城壁のない日本の都市
09. 都市の中の施設と機能
10. イスラム圏の都市
11. 中国の都市
12. バロック都市
13. 田園都市論
14. ゲデスの市政学とバイオポリス
15. マンフォードの都市論と問題点。ラスキンの都市論と芸術、景観。まとめ。

準備学習(予習)

各授業ごとに簡易な課題をお願いするので、それに対して自分の意見だけでなく他者のとの対話を行うことができるよう準備すること

準備学習(復習)

授業後の振り返りを各授業の前で行うのでノートに前回学んだことを書き止めておくこと

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業の能動的参加 | 対話。 |
| (2) レポート | 3割 |
| (3) 発表と質疑応答 | 2割 |

|自分の言葉で話す、対話する、レポートを書くなどバランスと総合的評価をする

教科書

「都市計画の世界史」 日端康雄、講談社新書

参考書

随時、指定する

担当教員：谷口 隆一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P202660

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

将来、公共性の高い仕事(公務員職等)に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといいテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれています。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができます。行政系コースの専門科目の一つです。

(2) 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが所属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要です。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来(しゅったい)の経緯と動向について学びます。| 公共倫理(コミュニティ間の倫理)、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニティ対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げます。| 以上を下敷きに、次のテーマについて学びます。①国家とは何か、②愛国心を持つことは悪なのか、③民主主義の陥穽(落とし穴)、④リベラル・デモクラシーの功罪、⑤アジアの近現代史、⑥いわゆる左翼と右翼、そして保守の主張に見られる違いについて。| 授業計画はあくまでも予定である。オリエンテーションで実際に受講者と合って方向性と内容と深度を決定します。

受講者に対する要望

参加度が悪ければ単位は与えない。下記の評価方法を参照。勉強はあまり好きでなくてもかまわないが、まじめに真剣に取り組むことを強く期待する。

学びのキーワード

- ・ 公共
- ・ 公共倫理
- ・ コミュニティ
- ・ コミュニタリアニズム
- ・ 正義・自由・平等・ニード

授業計画

01. オリエンテーション
02. 【総論1】 公共哲学とは何か(1) : 「公共」の定義
03. 【総論2】 公共哲学とは何か(2) : 解決課題としての「公共」
04. 【序章】 3.11の衝撃と公共哲学(1) : 公共哲学の存在意義
05. 【序章】 3.11の衝撃と公共哲学(2) : 「公共」の範囲について
06. 【第1章】 公共哲学の「人間・社会」観と倫理観(1) : 公共哲学は価値中立ではないのか
07. 【第1章】 公共哲学の「人間・社会」観と倫理観(2) : リベラルな公共哲学への一批判
08. 【第2章】 メディアと宗教の公共的役割(1) : メディアは公共を破壊するのかわるって自己破壊するメディア
09. 【第2章】 メディアと宗教の公共的役割(2) : 宗教は公共にどのように資するのか
10. 【第3章】 新しい「公共的な諸学」の構想 : 領分主権論
11. 【第3章】 新しい「公共的な諸学」の存在論的構想
12. 【第4章】 正義と人権(1) : リベラルな自由論への批判
13. 【第4章】 正義と人権(2) : 不平等もしくは格差について
14. 【中間まとめ】 レポート発表
15. 【発展的テーマ】 国家とは何か
16. 【発展的テーマ】 愛国心を持つことは悪なのか
17. 【発展的テーマ】 リベラル・デモクラシーを批判する
18. 【発展的テーマ】 自由をめぐる言説
19. 【発展的テーマ】 保守主義について
20. 【発展的テーマ】 保守主義はリベラリズムのどこに批判的なのか
21. 【発展的テーマ】 ナショナリズムとは何か
22. 【発展的テーマ】 ナショナリズムのどこが悪なのか
23. 【発展的テーマ】 いわゆる「左翼・リベラル」のどこが問題なのか
24. 【発展的テーマ】 国際情勢・リベラリズム・保守主義
25. 【2、3名の受講生によるレポート作成計画の発表】
26. 【次の2、3名の受講生によるレポート作成計画の発表】
27. 【さらに2、3名の受講生によるレポート作成計画の発表】
28. 【残り2、3名の受講生によるレポート作成計画の発表】
29. 【まとめ】
30. 【結論】

準備学習(予習)

テキストの各章を読んで予習する。さらに学習ノートを作成する。

準備学習(復習)

学習ノートで授業中に得た知見と知識を確認・吟味する。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---------------------------|
| (1) 授業への参加度と貢献度 | 50% | 出席はもちろんのこと、授業の学習に取り組む積極性。 |
| (2) レポート | 25% | 中間的学習習得を知るためにレポートを課す。 |
| (3) 論文 | 25% | 後期試験の代わりに論文を課す。 |

受講者が少数の場合、ゼミ形式で授業を行う。|学期に従って、出席回数が授業回数3分の2以上なければ単位を与えない。

教科書

授業において適宜指示する。

参考書

その他、必要に応じて授業の中でプリントを配布したり、入手する文献を指示したりする。

担当教員：小松崎 利明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P202880

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：選択指定科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

まずは、社会科学の領域において蓄積されてきた平和研究の学問的成果を学び、それを現代世界が抱える問題と結びつけて考察する。そこから、自分自身、そして他者との対話を通じて、現代世界における「平和」について多様な視点から考察する技術を習得する。

(2) 内容

平和学は、第二次世界大戦後に国際関係研究のなかから生み出された学問分野である。当初は戦争の防止をその主たる目的としていたが、次第に、戦争がなくとも平和とはいえない(peacelessness)状況(たとえば、政治的抑圧や貧困)を生み出す諸要因の解決を目指すようになってきた。そして、現代の平和学は、個人間の利害対立の原因から国家間紛争を誘発する構造のあり方まで、幅広い問題をその射程に置く学際的研究分野として位置づけられている。||この授業では、これまで蓄積されてきた平和研究の学問的成果を基礎に、われわれが生きる社会に生起する問題を通して「平和」について考える。ただし、この平和ということば／概念自体が多義的かつ論争的であり、またその平和を実現するための手段や方法も、人や文化、また時代によって多様な姿を見せ、さらには、平和に関する研究があらゆる学問分野を含むがゆえに、平和について包括的に学修することは困難である。||したがってこの授業では、アクティブ・ラーニングの観点から、「平和とは何か」「平和はどうすれば実現できるのか」といった問いへの「唯一の答え」を「提示する」ことはせず、基本知識の理解および習得と映像資料の視聴をもとにしたディスカッションによって、学生一人ひとりが自ら平和の諸問題と格闘することを目的とする。

受講者に対する要望

予備知識は必要ありませんが、授業を通して知り、学び、考えることを積極的に行ってほしいと思います。|なお、授業中の私語、居眠り、スマホいじりはご遠慮ください。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 暴力
- ・ 戦争
- ・ 人権
- ・ 人間の安全保障

授業計画

01. 平和学の基本視座
02. 暴力概念と紛争解決モデル
03. 現代世界の戦争
04. ケーススタディとディスカッション(1)「対テロ戦争」
05. 平和維持(1) 国連平和維持活動
06. ケーススタディとディスカッション(2) ルワンダ
07. 平和維持(2) 核抑止と安全保障のジレンマ
08. ケーススタディとディスカッション(3) 冷戦期の核抑止政策
09. 平和創造(1) 人道的介入論
10. ケーススタディとディスカッション(4) カンボジア
11. 平和創造(2) ジェノサイド
12. ケーススタディとディスカッション(5) ホロコースト
13. 平和創造(3) 惨事便乗型資本主義
14. ケーススタディとディスカッション(6) イラク
15. 構造的平和構築(1) グローバル経済システム
16. ケーススタディとディスカッション(7) 金融資本主義システム
17. 構造的平和構築(2) 医療保険制度
18. ケーススタディとディスカッション(8) アメリカ
19. 構造的平和構築(3) 暴力性の社会構造
20. ケーススタディとディスカッション(9) 銃規制問題
21. 構造的平和構築(4) イスラエル=パレスチナ紛争
22. ケーススタディとディスカッション(10) パレスチナ入植
23. 文化的平和構築(1) 芸術を通じた平和構築の試み
24. ケーススタディとディスカッション(11) ダニエル・バレンボイム
25. 文化的平和構築(2) 人間の安全保障
26. ケーススタディとディスカッション(12) 遺伝子組み換え作物
27. 文化的平和構築(3) 非暴力主義
28. ケーススタディとディスカッション(13) ガンディーとインド独立
29. 文化的平和構築(4) 和解
30. ケーススタディとディスカッション(14) 日本国憲法の平和主義

準備学習(予習)

予習課題文献を読んでおく。

準備学習(復習)

復習課題文献を読み、リアクションペーパーに取り組む。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | ○ 授業内での発言等、積極的に参加したかどうか。 |
| (2) リアクションペーパー | 30% | ○ 授業前文献に精読しているか、○ ディスカッションの議論をより発展させているか、○ 議論を整理できるか |
| (3) 中間レポート | 30% | (1) 資料(読み)の正確な理解 (2) 構成、論理の明確性 (3) 言葉(内容)の適切性 (4) 文章の明瞭さ、ライティングスタイル |
| (4) 期末レポート | 30% | (1) 資料(読み)の正確な理解 (2) 構成、論理の明確性 (3) 言葉(内容)の適切性 (4) 文章の明瞭さ、ライティングスタイル |

教科書

なし

参考書

毎回の授業で配布または紹介します。

担当教員：木村 裕二

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P300330

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

重要な条文について、制度趣旨に沿って、要件・効果の意味を理解する。事実の中にどんな法律問題が含まれているかを読み取る。基本的な判例を通じて、法解釈を学ぶ。民法を攻略すれば、法律全体の理解が大いに進みます。

(2) 内容

個人は、他人との自由な約束によって、財産（モノとカネ）を交換します。約束は互いに守られるべきだから、契約に基づいて権利・義務が発生します。誰が契約相手に選ばれるかは、自由競争です。それが原則ですが、ハンディを負った人はどうなるのか。団体で活動したいとき、他人に任せたいときはどうするのか。本心でない約束をしたときはどうなるか（民法総則）。物に対してどんな権利が成立するか。どのようにして、目に見えない権利を安全・確実なものにするか（物権法）。そのような問題を取り扱います。|||

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

学びのキーワード

- ・要件・効果
- ・権利・義務
- ・人と物
- ・意思表示
- ・取引の安全

授業計画

01. 民法を学ぶ
02. 民法の基本原則
03. 「人」と権利・義務
04. 法律行為、無効・取消
05. 未成年
06. 成年後見
07. 心裡留保、通謀虚偽表示
08. 錯誤
09. 詐欺、強迫
10. 第4回～第9回のまとめ
11. 法人
12. 代理
13. 表見代理・無権代理
14. 条件、期限、期間
15. 消滅時効、取得時効
16. 第11回～第15回のまとめ
17. 「物」と物権
18. 所有権、物権的請求権
19. 不動産物権変動
20. 登記と対抗要件
21. 動産物権変動
22. 第17回～第21回のまとめ
23. 共同所有、用益物権
24. 占有権
25. 担保物権
26. 抵当権
27. 質権、留置権、先取特権
28. 非典型担保
29. 第23回～第28回のまとめ
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

レジュメを通読して、分かるところと分からないところの目星をつけておく。|

準備学習(復習)

自分なりの方法で理解・疑問・意見・感想などを記録に残し、前回以前の資料や自分の記録と相互参照すること。重点は事後学習にあります。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布します。

参考書

内田貴「民法Ⅰ 総則・物権」「民法Ⅲ 債権総論・担保物権」東京大学出版会

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P300440

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

重要な条文について、制度趣旨に沿って、要件・効果の意味を理解する。事実の中にどんな法律问题が含まれているかを読み取る。基本的な判例を通じて、法解釈を学ぶ。民法を攻略すれば、法律全体の理解が大いに進みます。

(2) 内容

契約を実現するため、互いのなすべきこと、つまり債務を履行します。どうすれば債務を履行したといえるのか、相手が履行しないときどうするか（債権総論）。債務が履行できないものだったときや、途中で履行できなくなったとき、契約はどうか（契約総論）。取引の種類に応じて、どのような内容の債権・債務が発生するか（契約各論）。契約は結んでいないが、自分との関わりで他人に損害や損失が生じたとき、どういう場合に、どんな範囲で責任を負うか（不法行為・不当利得）。そのような問題を取り扱います。

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返し繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

学びのキーワード

- ・ 債権・債務
- ・ 責任財産
- ・ 信義則
- ・ 権利の濫用
- ・ 過失

授業計画

01. 債権法の見取り図
02. 債権の目的
03. 弁済
04. 相殺
05. 強制履行・損害賠償
06. 責任財産の保全
07. 債権譲渡
08. 連帯債務、保証債務
09. 第2回～第8回のまとめ
10. 契約法の見取り図
11. 契約の成立
12. 契約の効力
13. 契約の終了
14. 売買
15. 贈与
16. 賃貸借
17. 使用貸借
18. 第10回～第17回のまとめ
19. 消費貸借
20. 寄託
21. 雇用
22. 請負
23. 委任
24. 第19回～第23回のまとめ
25. 不法行為の要件
26. 不法行為の効果
27. 特殊な不法行為
28. 不当利得
29. 第25回～第28回のまとめ
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

レジュメを通読して、分かるところと分からないところの目星をつけておく。

準備学習(復習)

自分なりの方法で理解・疑問・意見・感想などを記録に残し、前回以前の資料や自分の記録と相互参照すること。重点は事後学習にあります。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布します。

参考書

内田貴「民法Ⅲ 債権総論・担保物権」「民法Ⅱ 債権各論」東京大学出版会

担当教員：佐藤 文彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P300660

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

商法を基軸として、民法を基礎とする私法全般にわたる基本的知識とともに、企業実務家としての素養を身に付けてもらうことを目標とする。|

(2) 内容

わが国にとどまらず、世界の経済を中心的に担っているのは株式会社である。本授業では、商法のうち、この株式会社を規整している会社法を中心に解説する。ここでは、会社をはじめとする商人がなぜ世に必要とされ、認められる存在であるのか、そしてなぜ株式会社が、世の起業家に、また世界経済に受け入れられているのかという疑問にはじまり、株式会社制度が抱える法的諸問題を会社法がどのように処理しているのかを主に学んでもらう。|

受講者に対する要望

真摯に講義に臨む学生を歓迎する。授業では商法、会社法にとどまらず、さまざまな法律の条文を参照する。各自六法を用意すること。

学びのキーワード

- ・ 商法の意義
- ・ 会社法の意義
- ・ 私法の意義
- ・ 株式会社「制度」の意義
- ・ 「法」というものの意義

授業計画

01. ガイダンス
02. 商法・会社法の意義
03. 個人商人、商人としての会社
04. 商人資格要件
05. 絶対的商行為
06. 営業的商行為
07. 商行為法総論
08. 消費者保護法総論
09. 商法が規定する共同事業制度
10. 会社法が規定する各種会社制度
11. 持分制度とは
12. 株式制度とは
13. 会社法の具体的目的
14. 組織法としての会社法
15. 会社の設立
16. 商業登記制度
17. 会社の組織再編行為総論
18. 合併、組織変更
19. 株式交換・移転
20. 事業譲渡、解散、清算
21. 株式・新株予約権の発行
22. 自己株式の取得、社債
23. 会社の機関総説
24. 株主総会
25. 取締役会
26. 取締役、代表取締役
27. 役員等の責任追及制度
28. 監査役（会）、会計監査人、会計参与
29. 委員会設置会社とは
30. 会社の情報開示制度

準備学習(予習)

教科書等により関連事項の全体像を自分なりに理解しておくこと。

準備学習(復習)

講義で示された条文・制度の内容を教科書等を参考にしながら理解すること。

評価方法

- (1) 学期末試験 100%

なお、出席状況・授業態度が悪い場合、これを減点評価要素とする。

教科書

山本忠弘ほか編『やさしい企業法改訂版』（嵯峨野書院）【978-4782305409】

参考書

担当教員：田口 安克

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P300770

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

税法は、税金を徴収する側の国や地方公共団体のためという視点だけでなく、納税者である私たちのためにあるということも理解し、現在のわが国の税法全体の概要を把握する。

(2) 内容

税金は、私たちの生活のあらゆる面にかかわっている。例えば、サラリーマンは給与から源泉徴収等で所得税や住民税が徴収され、国内の買い物の価格には消費税が含まれ、家や土地を所有している人は市町村に固定資産税を納付する。これら税金は、国や地方公共団体が提供する教育・警察などの公共サービスの財源となり、そのサービスの享受者としても私たちにかかわっている。| 本講義では、私たちの生活に深くかかわっている税金に関する法律（税法）のしくみについて、できるだけわかりやすく解説する。税法はどのような考え方がその根底にあるのか、あるいは、所得税法や法人税法といった実際の税法のしくみを解説するだけでなく、税務調査といった税務行政はどのようなものかなど、税金実務についても触れていく予定である。

受講者に対する要望

入門講座であるため、必須ではないが、財政学、会計学、簿記と関連するので、できうるかぎり、これらも受講してほしい。

学びのキーワード

- ・租税法律主義
- ・租税公平主義
- ・自主課税主義
- ・応能負担と応益負担
- ・申告納税と賦課課税

授業計画

01. 税法総論（1） 税の機能、税の種類、税法の法源
02. 税法総論（2） 税に関する基本原則（租税法律主義、租税公平主義、自主課税主義）|
03. 税法総論（3） 課税制度と税法解釈
04. 税法総論（4） 税務調査と納税者の救済
05. 税法総論（5） その他（脱税と租税回避、附帯税）
06. 所得税法（1） 所得の種類、納税義務者、利子所得・配当所得
07. 所得税法（2） 不動産所得、事業所得、必要経費と家事関連費
08. 所得税法（3） 給与所得、退職所得、譲渡所得
09. 所得税法（4） 一時所得・雑所得、源泉徴収、青色申告（所得税）
10. 所得税法（5） 所得計算、所得控除（医療費控除等）、税額控除（住宅ローン控除等）
11. 法人税法（1） 法人税の意義、法人税額の計算、益金・損金
12. 法人税法（2） 収益の計上、同族会社、棚卸資産
13. 法人税法（3） 減価償却、資本的支出、役員給与、交際費等
14. 法人税法（4） 寄附金、貸倒損失、貸倒引当金、途途秘匿金課税
15. 法人税法（5） リース取引、欠損金、租税公課
16. 法人税法（6） 繰延資産、確定申告、青色申告（法人税）
17. 消費税法（1） 消費税のしくみ、納税義務者、課税方法
18. 消費税法（2） 非課税取引、仕入税額控除、簡易課税
19. 消費税法（3） 消費税の経理処理、申告・納付、届出等
20. 相続税法（1） 相続税のしくみ、計算、課税財産
21. 相続税法（2） 財産評価
22. 相続税法（3） 基礎控除、配偶者控除等
23. 相続税法（4） 特例、納税、贈与税関連
24. 地方税法（1） 地方税のしくみと基本原理、個人住民税、個人事業税
25. 地方税法（2） 法人住民税、法人事業税、固定資産税、都市計画税
26. 地方税法（3） 不動産取得税、自動車関係税
27. 地方税法（4） 法定外税、その他の地方税
28. 諸税と国際税務（印紙税、登録免許税、租税条約、移転価格税制）
29. 税務行政
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に指定した教科書の該当箇所を読んでくること。

準備学習(復習)

追加プリントを再読し、各項目の理解を深めること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席票のコメントの内容と講義内容の関連性 |
| (2) 発表 | 30% | 講義参加への積極性及び理解度 |
| (3) 期末試験 | 40% | |

教科書

林 仲宣、四方田 彰、角田 敬子、竹内 達『ガイダンス 税法講義（三訂版）』（税務経理協会）[978-4419062217]
| [<http://www.minervashobo.co.jp/book/b165902.html>]

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P300810

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：選択科目 | 【P】国際平和コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

国際法を学ぶことの意義は、国際社会の現象の体系的な理解を可能にし、さらに国際的な裁判所の判例学習を通じてリーガルマインドを身につけることができるようになることにある。|| 受講生が目指すべき目標は、対話を中心としたアクティブ・ラーニングを通じて、国際社会に生起する諸現象を法的な観点から観察し、記述し、評価を行うことができるようになることである。

(2) 内容

伝統的に国際法は、主権国家の関係を規律する法であると理解されてきた。しかし、20世紀後半以降、主権国家の地位や機能の相対的低下と相まって、国際機構やNGO、個人といった国家以外の主体が国際法の生成および実現過程に深く関与するようになってきた。したがって現代の国際法は、国家間の関係のみならず、人々の日常生活のさまざまな領域と深く関わることになる。|| この授業では、こうした状況をふまえて、われわれの身の回りに起こる出来事にも目を配りつつ、対話を中心としたアクティブ・ラーニングの手法を用いて、世界的諸問題を法的に捉えることを目的とする。|| なお、受講者は法学を履修済みであることが望ましい。

受講者に対する要望

授業中の私語、居眠り、スマホいじりはご遠慮ください

学びのキーワード

- ・ 国家
- ・ 国際機構
- ・ 領域
- ・ 環境
- ・ 平和

授業計画

01. イントロダクション（講義概要の説明）
02. 国際法の基本的特徴
03. 国際法と国際社会
04. 国家と国際法（1）国家、国家承認、国家承認
05. 国家と国際法（2）国家の権利義務、管轄権
06. 国家機関
07. 国際組織と国際法
08. 国際法の存在形態
09. 条約法（1）条約の締結手続、留保
10. 条約法（2）条約の効力、解釈、終了、運用停止
11. 国際法と国内法
12. 国際法上の責任（1）国際違法行為、国家責任の追求要件
13. 国際法上の責任（2）賠償、紛争解決、ライアビリティー
14. 紛争の平和的解決（1）非裁判手続
15. 紛争の平和的解決（2）裁判手続
16. 前半のまとめ
17. 事例研究
18. 陸の国際法（1）領域権原
19. 陸の国際法（2）国境画定、領土紛争
20. 海の国際法（1）内水、領海、排他的経済水域
21. 海の国際法（2）接続水域、公海、深海底
22. 空と宇宙の国際法
23. 人と国際法
24. 国際刑事法
25. 国際経済法（1）投資
26. 国際経済法（2）貿易
27. 国際環境法
28. 武力・経済力の行使と国際法
29. 武力紛争・軍備管理の国際法
30. 期末試験

準備学習（予習）

- 教科書の該当箇所を読む | ○ 分からない言葉や知らない事実などを調べておく | ○ 資料の要点をまとめておく

準備学習（復習）

- 授業内容についてのノートをまとめる | ○ 教科書や参考資料を読み直して、授業内容への理解を深める

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | ○ 教科書の指定箇所を事前に読んでおく ○ 授業で積極的に発言し、授業内容の充実に貢献したか |
| (2) リアクション・ペーパー | 30% | ○ その日の授業内容を適切に理解しているか |
| (3) 定期試験 | 60% | ○ 与えられた問題に対して、法的観点から議論を行い、評価を下すことができるか。 ○ 論述式、持ち込み可 |

教科書

中谷和弘／橋本俊哉／河野真理子／森田章夫／山本良『国際法（第3版）』（有斐閣、2016年） [978-4641220638] | <http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641220638>

参考書

酒井啓吾／寺谷広司／西村弓／瀬本正太郎『国際法』（有斐閣、2011年） | <http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641046559> | 『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣、2011年） | <http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641115040>

担当教員：仲田 孝仁

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P301000

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

本講義は、「行政法」の入門的な知識や考え方を履修者に修得させることを主たる目的とする。また、本講義を履修することにより、私たちが一市民としていかに「行政」との法的な関わりが切っても切れないものであるかを認識させる。その上で一国民や市民としての視点から、より望ましい「行政（活動）」のあり方を諸君自身で考えたり、問題提起することができる。実社会に生起する行政上の諸問題（例えば、食品の偽装表示、食の安全性、スニーカー規制、個人情報やプライバシーの保護、原子力規制、建築物規制、薬害の問題などに見られる、国民と行政との法的関係）を法的に考えることができる。諸君は、既に自動車の運転免許を取得しているか？自宅から外に出れば「道路交通法」の規制をうけ、道路自体、「道路法」による公的管理に服している（国道と県道）。このように、身近な「行政法」の世界を皆さんに理解していただくことに学びの意義がある。以上に加えて、授業中頻りに発言を求め、ペーパーにて意見を書いていただく機会を持つ。自分の考えを話し相手に正確に伝え、法的に自分の意見を述べる、或いは書き伝える力が自然とつくこととなる。授業中十分に頭を働かせた諸君は、実社会において、いかなる問題（トラブル）に遭遇しようとも、論理的にその問題を捉え、自分の意見を明確にし、いかなる解決を図るかについて、洞察力や人としてのバランス感覚が身につくはずである。自分自身のものの見方や法的思考法を確立することに本講座の意義がある。

(2) 内容

講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論（以下、総論）」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法（以下、救済法）」とを学ぶ。ニュースなどで「行政処分」という言葉を目や耳にすることは多々あろう。「処分」と聞くと、法律違反をした個人や企業に対する「制裁」として考えがちである。例えば、道路交通法違反者に対する反則金や免許処分、労働基準法に違反した企業に対する労働基準監督署による「処分」はどうか。実のところ、「行政処分」とは、個人や企業に対し、法律に基づき、権利や義務の変動といった一定の法的効果を伴う行政庁（大臣や知事など）による行為を指す。具体的には、「許可」や「免許」といった行為類型がこれに当たる（上述した「処分」も同様に解される。）。一定の行政の行為形式に着目し、それらの概念や法的効果について学ぶことが「総論」の関心事となる。次に、「救済法」の例をあげよう。例えば、公安委員会により「運転免許」が違法に取り消された場合どのように争うか。また、子供が保育園に入園中、保育園の設置・管理に関する条例の改正により、二人目以降の子を入園させた場合、上の子に退園措置が下され、子を二人通園させる権利が奪われる場合の救済策などが考察対象となる。「行政法」という名の単一法典は存在しない。各種「行政活動」に共通する法理論を学習する科目が「行政法」である。但し、「行政〇〇法」という具合に、法律名が「行政」ではじまる法律は主たる講義対象となる。「公務員として任用された場合は、法律や条例を運用する。また民間企業であれば、行政の規制を受けない業種・業界はないといっても過言ではない。さらに、市民としても、運転免許（警察による交通規制や一斉検問）や営業許可（食品の販売業や飲食店）の取得、各種申請・届出、ゴミ収集、生活保護、介護保険、年金の給付、災害時の対応・避難勧告、消火活動、マイナンバー制度の施行、個人情報保護等、行政（国・地方公共団体）との関わりは生涯切っても切れないといえる（最近の出来事では、「ドローン」の規制など。）。よって、公務員志望者や国家試験受験者に限らず、企業に就職し、あるいは市民として社会生活を営む上でも「行政法」を学ぶ重要性は極めて高い。

受講者に対する要望

「行政法」は「法学」の中においては、応用科目に属する。そのため、法学、憲法（人権・統治）、民法A・Bといった基礎的な科目の履修が望ましい。ただし、履修者の学習状況を踏まえた上で、法学全般に通ずる基礎的な知識を教授することとする。講義自体は、基礎的な項目を中心として進めていくが、公務員試験（市区町村一般事務職、警察官、消防士レベル）、行政書士試験対策等も念頭に置く。

学びのキーワード

- ・ 法律学
- ・ 日本国憲法
- ・ 行政・内閣
- ・ 公務員
- ・ 国・地方公共団体

授業計画

01. オリエンテーション（「行政法」とはいかなる「法」か？本講義を学習する意義。）
02. 行政法の基本構造・諸原則（法律による行政の原理、公法・私法二元論）
03. 行政の仕組(1)－行政組織概説（行政活動の担い手について学ぶ。「行政主体」・「行政機関」概念、内閣、「国家行政組織法」概説）
04. 行政の仕組(2)－地方自治法概説
05. 公務員法（国家公務員と地方公務員、人事院、人事委員会、公務員の任用から退職まで、懲戒・分限処分）
06. 行政立法と行政計画（法規命令と行政規則、浜松市土地区画整理事業計画）
07. 行政裁量（日光太郎杉事件、伊方原発訴訟、マクリン事件）
08. 行政行為(1)－「行政行為」概念・諸類型、許可と特許
09. 行政行為(2)－行政行為の効力、無効と取消（公定力、重大・明白説とは？）
10. 行政行為(3)－取消と撤回・附款（実子あっせん事件・菊田医師事件）
11. 行政手続(1)（行政手続法、申請に対する処分、不利益処分）
12. 行政手続(2)（聴聞手続、個人タクシー事件、品川マンション事件、旅券発給拒否事件、パブリック・コメント）
13. 情報公開（開示請求の仕組み、個人情報、法人情報、意思形成過程情報、知事との交際費の開示請求）
14. 個人情報保護（個人情報保護の仕組み、個人情報の取り扱いについて事業者が留意すべき問題・課題）
15. 行政の実効性確保の手段(1)（行政代執行法、違法建築物の除去）
16. 行政の実効性確保の手段(2)（レッカー移動、行政罰）
17. 行政契約・行政指導（公害防止協定、宅地開発要綱）
18. 行政救済法総説
19. 損失補償（憲法29条について、土地収用、破壊消防、奈良県ため池条例事件）
20. 国家賠償(1)－総論・1条責任（国家賠償法について。国や自治体に対して損害賠償を請求する仕組みについて学ぶ。過失責任主義について、いじめ訴訟、学級事故について。）
21. 国家賠償(2)－2条責任・賠償と補償の谷間（道路や河川などの欠陥に起因して何らかの被害を受けた場合の賠償責任について学ぶ。水害訴訟・大東・多摩川）、その他、予防接種訴訟）
22. 行政不服申立て(1)（行政不服審査法、審査請求）
23. 行政不服申立て(2)（平成26年改正法について、行政不服審査会、審理員）
24. 行政事件訴訟(1)－総論（行政事件訴訟法、抗告訴訟、取消訴訟）
25. 行政事件訴訟(2)－取消訴訟の対象（取消訴訟の対象となる「処分」とは？）
26. 行政事件訴訟(3)－訴えの利益（誰が取消訴訟を提訴することができるのか？原告適格、法律上保護された利益説）
27. 行政事件訴訟(4)－取消訴訟の審理手続（取消訴訟の流れ、判決が確定した場合の効力、事情判決）
28. 行政事件訴訟(5)－仮の権利救済（執行停止、不法滞在する外国人の強制退去について）
29. 行政事件訴訟(6)－その他の抗告訴訟（義務付け訴訟、差止め訴訟、不作为の違法確認訴訟、無効確認訴訟）、客観訴訟
30. 行政救済法事例演習および総括

準備学習(予習)

初回の講義時において指示する。

準備学習(復習)

初回の講義時において指示する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 10% |
| (3) 小テスト | 20% |
- 3週に1回のペースで小テストを行う。

毎回の出席が評価の前提となる。つまみ食いの出席では到底内容を理解できない。出席回数不足の学生は評価対象とはならないので注意すること。

教科書

教科書は使用しない。レジュメを毎回配布する。必ず入手すること。

参考書

初回の講義時にお知らせする。配布レジュメの中に明記し、その中で幾つかの文献について説明する。

担当教員：小松崎 利明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P301210

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

国際人権法および国際人道法を学ぶことの意義は、とかく国家間関係に注目が集まりがちな国際関係において、個人の権利および尊厳を擁護するための法規範という視点から世界を見直すことができることにある。そして学びの目標は、受講生が国際社会に生起する人権・人道問題を法的な観点から観察し、記述し、評価を加えることができるようになることである。

(2) 内容

人権に関する国際法は、国連の創設後に条約化が進められてきた比較的新しい分野である。また、人道に関する国際法も、かつて戦争法や武力紛争法と呼ばれていたものを軸として20世紀後半に体系化されてきた分野である。||その背景には、二度の世界大戦を経て、人権を擁護することが平和を実現するための重要な手段であつたという考え、また、武力紛争が起こった際には、その人道性を最大限確保することが国際社会の重要な価値であるとの考えがある。さらに冷戦終結後は、法に反して人道性を蔑ろにする行為を行つた者は、それがたとえ公的な立場での行為であつたとしても、あるいは国家の指導的地位にあつたとしても、その責任を個人として負わなければいけないという考え方も国際社会に広まった。||このように、20世紀後半の世界では、個人の権利および尊厳を守ることに力が注がれてきた。この講義では、こうした状況をふまえて、個人と国際法という問題に対して、国際法の一分野である国際人権法および国際人道法、さらに国際刑事法を学修し、その現代世界における意義と問題点を考える。||なお、受講者は法学を履修済みであることが望ましい。

受講者に対する要望

授業中の私語、居眠り、スマホいじりはご遠慮ください

学びのキーワード

- ・ 国際法
- ・ 人権
- ・ 人道
- ・ 戦争・武力紛争
- ・ 国際刑事裁判

授業計画

01. イントロダクション（講義概要の説明）
02. 国際社会と法
03. 国際人権法の歴史
04. 国際人権法の理論
05. 国際人権法の主体（1）外国人
06. 国際人権法の主体（2）難民、少数者・先住民族
07. 国際人権法の主体（3）人種差別、女性、子ども、障がい者
08. 国際人権法における権利（1）身体的自由
09. 国際人権法における権利（2）精神の自由、社会権
10. 国際人権法と戦後補償
11. 国際人権法の履行確保（1）国連システム
12. 国際人権法の履行確保（2）人権諸条約
13. 前半のまとめ
14. 事例研究
15. 武力行使の規制
16. 集団安全保障制度
17. 自衛権
18. 害敵手段の規制
19. 中立法
20. 国際人道法の歴史
21. 国際人道法の適用範囲
22. 国際人道法の対象となる主体（1）戦闘員、捕虜
23. 国際人道法の対象となる主体（2）文民
24. 国際人道法の履行確保
25. 国際刑事法の歴史と類型
26. 国際刑事法の対象犯罪（1）テロリズム、薬物、資金洗浄
27. 国際刑事法の対象犯罪（2）戦争犯罪、人道に対する罪
28. 国際刑事法の履行確保（1）司法共助
29. 国際刑事法の履行確保（2）国際刑事裁判所
30. 期末試験

準備学習(予習)

○ 配布資料（10-20頁程度）を読む | ○ 分からない言葉や知らない事実などを調べておく | ○ 資料の要点をまとめておく

準備学習(復習)

○ 授業内容についてのノートをまとめる | ○ 参考資料等を読み直して、授業内容への理解を深める

評価方法

- (1) 平常点 10% ○ 教科書の指定箇所を事前に読んでいるか。| ○ 授業で積極的に発言し、授業内容の理解に貢献したか。
- (2) 定期試験 60% ○ 授業内容の理解を問う問題を正しく解答しているか。| ○ 授業内容の理解を問う問題を正しく解答しているか。
- (3) リアクション・ペーパー 30% ○ 毎回の授業内容が適切に理解できているか。

教科書

資料を配布する

参考書

授業で指示する

担当教員：松村 芳明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P301310

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

憲法を学ぶ際、日本国憲法の条文の意味を順番に理解してゆくという方法も考えられますが、この講義はそのような方法で学ぶのではなく、「比較憲法」という講義タイトルにあるように、諸外国の憲法と日本国憲法との比較という視点をもって憲法を学ぶという方法をとります。また、外国の憲法や歴史上の憲法（数多く存在するがそのすべてではない）について、原理原則的な問題にさかのぼってじっくり学ぶ、というスタイルをとります。さらに、日本国憲法や諸外国の憲法に関して近年とくに問題となっている論点や、グローバル化に関係する問題を取りあげ、判例や論文をも読みつつ学ぶという方法もとります。| 以上によってこの講義は、①日本国憲法を諸外国や歴史上の憲法との比較において捉えられるための知識を身につけられる、②憲法や国家に対する原理原則的なレベルにさかのぼった教養を身につけられる、③グローバル化の問題や、日本国憲法および世界の諸憲法の今日的な問題に対する鋭敏な感覚を身につけられる、という意義があります。また①～③はこの講義での目標でもあります。

(2) 内容

まず、とくにフランスとアメリカの憲法を歴史的、原理的に学ぶことによって、そもそも国家や憲法、自由や平等とは何かについてやや深く学びます。| つぎに、日本国憲法上の諸問題（とくに近年議論されていることがらでありまた諸外国との比較が可能な問題）について、原理原則のレベルにさかのぼり、また比較という視点から学ぶこととなります。| さらに、近年日本や諸外国でとくに問題となっている論点を順に取り上げ、判例や論文を読んでゆきます。| なお、世界各国の憲法との比較という視点を持つとはいえ、すべての憲法をとりあげることはそもそもきかないし、原理原則にさかのぼって学ぶというこの講義のスタイルからも、とりあげる憲法は、アメリカやフランス、ドイツ、イギリス等、いわゆる欧米諸国の憲法が中心となります。アジアやアフリカ、中南米、旧社会主義圏の憲法はあまり（ほとんど）扱わないので注意してください。

受講者に対する要望

授業に積極的に参加すること。欠席は可能な限り避けること。

学びのキーワード

- ・ 国家
- ・ 立憲主義
- ・ 平等
- ・ アメリカ憲法
- ・ フランス憲法

授業計画

01. 講義の概要
02. 「国家」「法」「自由」「平等」についての概説
03. 国家とは何か①：フランスとアメリカ
04. 国家とは何か②：共和制と民主主義
05. 国民とは何か
06. 法と権利
07. 政教分離
08. 平等
09. 立憲主義とは何か
10. 立憲主義と民主主義
11. 国民主権
12. 平和主義とは何か
13. 9条解釈
14. 安全保障システム
15. 愛国心とは何か
16. 大統領制と議院内閣制、連邦制、憲法裁判所
17. 新しい人権
18. 外国人の人権
19. 日本憲法史①：明治憲法
20. 日本憲法史②：日本国憲法制定史
21. 憲法改正
22. ヘイトスピーチ
23. 国籍差別
24. 婚外子差別
25. 夫婦別姓
26. 同性婚
27. アファーマティヴ・アクション
28. 学校教育と多様性
29. 選挙権
30. 社会権

準備学習(予習)

テキストや配布資料を読んでおくこと。

準備学習(復習)

講義で学んだ知識を整理するとともに、講義で学んだ論点について自ら検討すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 中間レポート | 40% |
| (2) 期末レポート | 50% |
| (3) 授業への参加度 | 10% |

教科書

レジス・ドブレ『娘と話す 国家のしくみって何?』（現代企画室、2002年）|長谷部恭男・杉田敦『これが憲法だ!』（朝日新書、2006年）

参考書

担当教員：倉西 雅子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P301610

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【P】経済経営コース：自由科目 | 【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

経済が円滑に発展するためには、法に基づく公的機関による市場秩序の維持が必要となります。本講義では、この公的な市場の秩序維持の役割を、経済のメカニズムの理解を基礎としながら、自由な経済活動をルールの面から律する競争法、並びに、競争政策を中心に見て行きます。|| 本講義で特に重視するのは、市場における競争法の存在意義の理解です。ルールに基づく公正で公平な競争の実現は、経済の発展の基盤となるからです。|| 経済法を学ぶことは、経済の基本的な仕組みを学ぶに留まらず、実践的な知識を身に着けることでもあります。競争法は兎角に難解な分野とみなされがちですが、実際には、経済に密着した身近な存在であることが無理なく理解できるよう、分かりやすい講義を心がけたいと思います。|

(2) 内容

本講義は、概説部分に当たる第一部と実践面を扱う第二部から構成されています。|| 前半の第1部においては、経済の仕組みを解説すると共に、競争法・競争政策の大まかな概要について説明します。国や地域の違いに拘わらず、競争法に凡そ共通する規制対象の行為等について学びます。|| 後半の第2部では、競争法の国際比較を行います。日本国の独占禁止法について詳しく解説した後、アメリカ、並びに、EUの競争法を概観すると共に、中国やインドといった新興国の競争法も扱います。|| 最後に、経済のグローバル化に伴う問題に対する競争当局の対応についても触れ、本講義を通して競争法・競争政策の全体像を掴むこととします。|| なお、本講義では期末試験は実施せず、レポートにて評価を行います。現実の経済活動との繋がりを実感できるよう、レポートでは、企業合併承認の判断など、実践的な問題に取り組んでいただきます。||

受講者に対する要望

秩序ある自由な経済活動とは何か、といった基本的な問題に興味や関心のある方の受講を希望します。

学びのキーワード

- ・ 法の役割
- ・ 競争法
- ・ 経済秩序
- ・ 法の支配
- ・ ルール志向

授業計画

01. ガイダンス
02. 人類と経済の歩み
03. 政府と市場
04. 市場と競争
05. 競争政策の概要
06. 独占と私的独占
07. カルテルの禁止その1
08. カルテルの禁止その2
09. 集中・結合
10. 合併規制
11. 不公正な取引方法その1
12. 不公正な取引方法その2
13. 適用除外と免除その1
14. 適用除外と免除その2
15. 競争成果の保障
16. 日本経済の歩みと競争法
17. 独占禁止法
18. 公正取引委員会
19. 公正取引委員会と裁判所
20. 犯則事件と訴訟手続き
21. アメリカ経済の歩みと競争政策
22. 反トラスト法
23. アメリカの競争政策の仕組み
24. 欧州市場の形成と競争政策
25. EU競争法
26. EUの競争政策の仕組み
27. 中国の競争法
28. インドの競争法
29. 経済のグローバル化と競争政策
30. レポートの検討会

準備学習(予習)

講義プリントは、一週間前の授業において配布しますので、必ず熟読し、大凡の内容を理解しておいてください。

準備学習(復習)

講義終了後に配布プリントを再読し、講義で学んだ知識や学習内容を復習してください。また、講義中に皆さんがノートしたペーパーは返却しますので、復習に役立ててください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

教科書は使用せず、毎回、講義プリントを前週に配布します。

参考書

担当教員：宮澤 弘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P301710

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】国際平和コース：自由科目 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

たくさんの、そして多様な人々がいっしょに生活していく「社会」を成り立たせるためにはどのようなルールが必要か、このような問題を検討するときには法哲学で学んだ知識や考え方が力を発揮します。物事を考える時に、現状よりもわずかでも根本的に、そして少しでも全体を見渡せる高所から、問題を眺められる力を養うことができるのです（あるいはそのような能力をトレーニングしていきます）。この授業では、自分で物事を考える姿勢、態度を身につけてもらうことを大きな目標としています。

(2) 内容

この授業では、法哲学という学問が扱う諸問題を概観し、法学との違いを認識してもらいながら、法をめぐる問題を哲学的に探究することがどのようなものであるのかを具体的に説明していきます。法や権利などの概念はどのように理解されているのか、正義が問題となる領域での中心課題は何か、そして法を解釈するという作業にはどのような問題が含まれているのか、といったテーマを取り扱います。授業ではできるだけ具体的なことと結びつけて説明を行いたいと考えています。また、関連する問題を取り扱ったビデオの視聴も予定しています。

受講者に対する要望

社会の様々な問題に関心を持つために、新聞のチェック、ニュースやドキュメント番組の視聴を日常から心がけてください。

学びのキーワード

- ・ 法の概念
- ・ 権利と義務
- ・ 正義論
- ・ 法の解釈
- ・ 人間社会と法

授業計画

01. 法哲学について（学問領域の説明）
02. 権利をめぐる（イントロダクション；ビデオ視聴）
03. 権利と義務 1
04. 権利と義務 2
05. 権利概念の分析
06. 法と命令
07. 法の概念；一次ルールと二次ルール
08. 法の社会的機能
09. 法と道徳
10. 自然法論と法実証主義
11. 正義の分類
12. メタ倫理学と価値相対主義
13. リベラルな正義論 1
14. リベラルな正義論 2
15. リバタリアニズム 1
16. リバタリアニズム 2
17. 社会の発展と分配的正義
18. 自由と平等をめぐる 1
19. 自由と平等をめぐる 2
20. 何の平等が重要なのか 1
21. 何の平等が重要なのか 2
22. 何の平等が重要なのか 3
23. 産業政策とグローバルな社会（開発経済学との関わりにおいて）
24. テクノロジーの進歩と正義の問題（生命倫理との関わりにおいて）
25. 法の解釈とは何か（問題の所在）
26. 法解釈論争について
27. ドウウオーキンの法理論 1
28. ドウウオーキンの法理論 2
29. 法と社会と人間と（法哲学で学んだことをふりかえって）
30. まとめ

準備学習（予習）

事前に配布した資料は必ず読んできてください。そして一般的なことですが、社会の様々な問題に関心を持つために日常から新聞を読む、あるいはニュースをチェックする癖を習慣づけてください。

準備学習（復習）

配布したレジュメや資料は必ず読み返し、疑問点やわからないことがあれば次回以降に必ず質問してください。また授業の中で適宜、関連する文献（新書や文庫程度のもの）を紹介しますので、積極的に読み進めてください。できれば5冊以上、少なくとも学期中に2冊は読んでください。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|---|
| (1) 試験 | 60% | |
| (2) 平常点 | 40% | 授業中あるいは次回までに提出する課題や小テスト（確認テスト）を指します。全部で10回前後を予定しています。 |

平常点に関しては、授業期間中に適宜講評や解説を行います。

教科書

指定しません。レジュメを配布します。

参考書

授業初回時に紹介します（また授業期間中にも適宜紹介します）。

担当教員：木村 裕二

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P301881

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

条文の文言、定義・概念、立法趣旨を用いた法解釈の技術を学ぶことを通して、法律的文書の読み・書きの方法論を身につけることを目標とする。

授業計画

01. 法の機能と条文の読み方
02. 法の解釈と判例の読み方
03. 契約と意思表示
04. 人・法人
05. 代理
06. 契約の効力
07. 契約のプロセス
08. 物と所有権
09. 物権変動
10. 占有、時効
11. 売買、贈与
12. 賃貸借、消費貸借
13. 役務型契約、信託
14. 不法行為
15. 会社

(2) 内容

民法は、財産取引や団体をどのように規律しているか。民法総則・物権総論・債権各論の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

学びのキーワード

- ・要件・効果
- ・権利・義務
- ・債権と物権
- ・意思表示
- ・取引の安全

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

内田貴「民法Ⅰ 総則・物権総論」「民法Ⅱ 債権各論」東京大学出版会

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P301982

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

民事訴訟法・家事事件手続法など手続法の基本構造にも触れつつ、権利実現・権利保護のプロセスについて学ぶ。|制度趣旨、条文の要件・効果を構造的に理解する。

授業計画

01. 債権と金融取引
02. 弁済、相殺
03. 強制履行、損害賠償
04. 債権譲渡、保証
05. 抵当権
06. 訴訟・執行・破産
07. 夫婦
08. 親子
09. 要保護者
10. 相続人
11. 相続財産
12. 相続分
13. 遺産分割
14. 遺言
15. まとめと課題

(2) 内容

民事法は、金融取引や相続をどう規律しているか。民法の債権総論、担保物権、親族・相続の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

学びのキーワード

- ・ 債権の目的
- ・ 責任財産
- ・ 民事事件
- ・ 個人主義
- ・ 家事事件

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

参考書 内田貴「民法Ⅲ 債権総論・担保物権」「民法Ⅳ 親族・相続」東京大学出版会

担当教員：野田 扇三郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P302010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

日本の財政は今どうなっているかについて身近な例を挙げて検証する|社会人になったら必ず直面する税務問題を常識としていち早くマスターする。|また国税専門官試験や国家公務員Ⅱ種試験受験のきっかけとなっていたきたい。

授業計画

01. 所得税 アルバイトの税金
02. 所得税 基本的しくみ
03. 所得金額の計算
04. 人的控除
05. 手続きの電子化
06. 法人税 会社の税金
07. 法人税制度の概要
08. 法人税の所得計算
09. 連結納税制度
10. 企業再編制度
11. 相続税 贈与税
12. 今話題の消費税 その他の国税
13. 地方税
14. 国税庁の機構と役割
15. 「国税専門官試験」受験の勧め

(2) 内容

日本の財政の「現状と問題点」を認識する。

準備学習(予習)

新聞・スマホ等の経済記事に注視

準備学習(復習)

配布資料での確認

評価方法

(1) 平常点	50%
(2) 発言・意見	20%
(3) 期末レポート	30%

受講者に対する要望

全15回の受講。

学びのキーワード

- ・社会人としての常識
- ・誠実な人柄
- ・あくなき探究心

教科書

特に使用しない。資料配布。

参考書

「日本の税制」平成28年度版 財経詳報社

担当教員：野田 扇三郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P302110

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

今後より経済のグローバル化は避けられない現状を税の視点で検証する。|国際社会の動向をいち早くキャッチする感覚を磨く。|「国税専門官試験」や「国家公務員試験Ⅱ種」受験のきっかけとしていただきたい。

(2) 内容

現在の国際課税制度について事例でわかりやすく解説する

受講者に対する要望

経済事象に興味をもっていただきたい。本講座は社会に出て必ず役に立つ

学びのキーワード

- ・ 鋭い感覚
- ・ 広い視野
- ・ ひたむきな探究心

授業計画

01. 国際課税制度 概要
02. 外国税額控除制度
03. 外国子会社合算税制
04. 移転価格税制
05. 過少資本税制
06. 過大支払利子税制
07. 非居住者に対する課税制度
08. 租税条約
09. 情報交換とは
10. 国際取引の税務調査の現場
11. 付加価値税非課税品目
12. 小規模事業者の特例
13. 各国の税收構造
14. 国際的二重課税の排除措置
15. 今後国税庁の果たすべき役割|「国税専門官試験」に向けて

準備学習(予習)

新聞等の経済記事に注視

準備学習(復習)

配布資料での確認

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発言 意見 | 20% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

使用しない。資料配布

参考書

「日本の税制」平成27年度版・各種経済紙（エコノミスト等）

担当教員：中野 宏

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P400220

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済ますことは出来ません。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事や人生に反映させていくこととなります。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべくもなく、皆さんは投資により自らの手腕において老後のための資産形成を行っていかねばなりません。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具です。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願っています。

(2) 内容

ミクロ経済学の基礎および応用理論を学習します。ミクロ経済学は一人ひとりの経済主体や一つひとつの財（生産物のごと）を分析の対象とする分野です。この授業では、消費者が財を買う、企業が財を作る、市場で財の価格や取引量が決まる、政府が課税や規制を行う、など身の回りで日常的に行われている様々な経済活動の背後にある行動法則や決定原理を明らかにすることで、いかなる経済の状態が社会的に最も望ましいのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを理論的に考察します。その中で、多くの国の政府が積極的に進めている規制緩和や公的企業の民営化、自由貿易の推進といった競争促進政策の意義と問題点も明らかにされるでしょう。|近代経済学は数学を援用することで発展してきた学問であり、授業ではほとんどの説明はグラフを描くことで行われます。なるべく数学を用いないようにして進めたいとは考えますが、どうしても必要な最小限の数学については折に触れて授業内で説明します。基本的には講義形式ですが、理解を助けるために、数値例を用いた簡単な計算演習などもやってみようと思っています。|なお、必ず専門科目「経済学」を履修した上で受講して下さい。|下の授業計画は予定です。学生の皆さんの理解度に応じて変更することもあります。

受講者に対する要望

今までより少しでいいですから、テレビやネットで日々報道される経済ニュースに関心を持つ努力をしてみてください。

学びのキーワード

- ・費用便益分析
- ・完全競争市場
- ・厚生経済学の基本定理
- ・供給独占
- ・市場の失敗

授業計画

01. 経済学とは何か (1) / 経済学の目的
02. 経済学とは何か (2) / 必要な数学
03. 価格の決定 (1) / 市場の需要曲線と供給曲線
04. 価格の決定 (2) / 完全競争市場の価格調整メカニズム
05. 余剰の概念 (1) / 消費者余剰
06. 余剰の概念 (2) / 生産者余剰
07. 消費者の行動 (1) / 消費者余剰の最大化
08. 消費者の行動 (2) / 個別需要曲線の導出
09. 消費者の行動 (3) / 需要の価格弾力性
10. 企業の行動 (1) / 生産関数と費用曲線
11. 企業の行動 (2) / 生産者余剰（利潤）の最大化
12. 企業の行動 (3) / 個別供給曲線の導出
13. 供給独占 (1) / 市場の分類
14. 供給独占 (2) / 独占企業の利潤最大化行動
15. 厚生経済学の基本定理 (1) / 総余剰最大化の条件
16. 厚生経済学の基本定理 (2) / 競争と独占
17. 課税と補助金 (1) / 課税の方法
18. 課税と補助金 (2) / 課税の効果
19. 貿易と関税 (1) / 自由貿易の利益
20. 貿易と関税 (2) / 保護貿易と関税
21. 外部性 (1) / 外部性と市場の失敗
22. 外部性 (2) / ピグー税とコースの定理
23. 公共財 (1) / 公共財と市場の失敗
24. 公共財 (2) / リンダールの方法
25. ゲームの理論 (1) / 標準型ゲームとナッシュ均衡
26. ゲームの理論 (2) / 囚人のジレンマ
27. 消費者の行動：再論 (1) / 無差別曲線分析
28. 消費者の行動：再論 (2) / 代替効果と所得効果
29. 講義のまとめ (1)
30. 講義のまとめ (2)

準備学習(予習)

次回の講義について指示された項目を、各自で調べておくこと。

準備学習(復習)

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがあります。毎回講義の復習プリントを配布しますので、次の講義日までに各自仕上げてください。|復習プリントの解答は、別途配布します。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--|
| (1) 平常点 | 30% | 講義や板書のノート取りなど授業における集中度、および発言や質問など授業への参加の積極度を総合的に評価します。 |
| (2) レポート | 30% | 講義期間半ばに1回レポート課題を出します。 課題の模範解答の提示および解説は、別途行います。 |
| (3) 期末試験 | 40% | 最終回に授業内試験を行います。 |

定められたとおり3分の2(20回)以上の出席がなければ成績評価の対象とはなりません。また、レポート提出と期末試験受験のどちらが欠けても成績評価の対象とはなりませんので注意してください。

教科書

特に指定はしません。毎回講義レジュメを用意します。

参考書

夏川昭夫、浜野忠司、戸田学著『FIRST STEPミクロ経済学(有斐閣ブックス)』(有斐閣)|岩田規久男著『ゼミナールミクロ経済学入門』(日本経済新聞社)

担当教員：由川 稔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P400330

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

理論面では、「基礎レベルの習熟」に目標を置きたいと思います。そしてそれを踏まえて、或る経済現象をどう捉えるべきか、自分の頭で、しかし独り善がりでない考え方で当たっていけるようにする、それがこの授業の意義と目標です。

(2) 内容

概論的な経済学から一歩進んで、世の中の経済現象をより理論的に考えてみましょう。特に経済を「マクロ的に」（＝巨視的に）捉えるのが「マクロ経済学」です。金融や、財政や、国際経済の動向等、私たちの今と将来を考えるため、目を向けるべき領域はたくさんあります。気分や情緒ではなく、理論に根差した理解に挑戦しましょう。

受講者に対する要望

授業の話をつただ聞き流すだけでは、身につけません。理解しようという主体性が求められます。また、「マクロ経済学」という一つのまとまりがある分野ですので、出席したりしなかったり「ムラ」がある人や、試験前の一夜漬けに賭けるような人も、成果をつかみにくいと思います。ただし、やむを得ない事情で欠席回数が増えたような場合は、相談してください。|教科書については、資格や公務員等の各種試験対策にも利用できるものにしてありますが、授業は、スピード感よりも、基本的なポイントを確実に理解することを重視して、丁寧に進めます。なお、授業では時事問題を中心とした資料も配布します。理論と現実との関連を、考えてみましょう。

学びのキーワード

- ・ 国民所得
- ・ GDP、国内総生産
- ・ 財政
- ・ 金融
- ・ 市場経済

授業計画

01. マクロ経済学とは何か
02. GDPについて（1）～GDPが生まれるまでの歴史的背景
03. GDPについて（2）～GDPとは何か
04. GDPについて（3）～GDP、GNP、GNI
05. 三面等価の原則
06. 名目と実質
07. 財市場の分析（1）～消費と投資
08. 財市場の分析（2）～政府支出、輸出と輸入
09. 有効需要の原理（1）～45度線分析
10. 有効需要の原理（2）～均衡国民所得
11. 完全雇用国民所得
12. デフレギャップとインフレギャップ
13. 乗数理論（1）～投資乗数
14. 乗数理論（2）～政府支出乗数
15. 乗数理論（3）～租税乗数
16. 乗数理論（4）～均衡予算乗数
17. 貨幣と債券（1）～貨幣（マネー）
18. 貨幣と債券（2）～債券
19. 利率の決定（1）～貨幣需要
20. 利率の決定（2）～貨幣供給
21. 金融政策（1）～金融緩和
22. 金融政策（2）～金融引き締め
23. 金融政策（3）～銀行と信用創造の仕組み
24. 金融政策（4）～金融のパワーと歴史
25. IS-LM分析（1）～IS曲線
26. IS-LM分析（2）～LM曲線
27. IS-LM分析（3）～金融政策の効果
28. IS-LM分析（4）～財政政策の効果
29. まとめと復習（1）
30. まとめと復習（2）

準備学習(予習)

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

準備学習(復習)

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---|
| (1) 定期試験 | 60% | <small>試験前に行われる範囲の範囲ですが、授業で学んだ内容を覚えることは必須です。しかし授業内容が範囲外ではないので、期待ください。</small> |
| (2) 受講態度 | 20% | <small>主として、授業で毎回配布・回収するチェックシートへの記入内容から、参加の積極性を見ます。</small> |
| (3) レポート等 | 20% | <small>授業で配布するレポートシートに、授業内容を基にレポートを作成していただく。授業内容を基にレポートを作成していただく。レポートの提出と見直し。</small> |

教科書

石川秀樹『単位が取れるマクロ経済学ノート』（講談社）【978-4061544789】

参考書

担当教員：鈴木 真実哉

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P400501

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

「金融」に無縁で生活できない現代において、すべての学生に学んでもらいたい科目である。社会科学系統の科目にとり、政治経済学部における両学科学生にとって共通専門科目となっている。現代の人間として知っておくべき知識を提示している。現代に生きる人間として知っておくべき「金融」に関する基礎知識を修得できる。難解な金融現象の理解が深まる。

(2) 内容

金融に関する基礎概念の修得に力点をおく。その上で、日本における金融現象を中心に、理論、政策、トピックスについて解説する。とくに、1990年代から現在に至るまでの日本金融史上でも稀である大変革期について、その本質と今後の方向性について解説する。たとえば、金融ビッグ・バン、大蔵省の改組、日本銀行法改正、郵便貯金の民営化、不良債権問題、などである。

受講者に対する要望

金融の世界は日々変化している。テキストやその他の書籍ではカバーしきれないものも講義するので、毎回ノートを取る必要がある。

学びのキーワード

- ・金融の本質と意義
- ・デフレ下の金融
- ・貨幣の未来

授業計画

01. 金融とは何か
02. 金融とは何か
03. 金融とは何か
04. 金融システム
05. 金融システム
06. 金融市場
07. 金融市場
08. 金融構造
09. 金融構造
10. 貨幣とは何か？
11. 貨幣とは何か？
12. 貨幣とは何か？
13. 貨幣の供給
14. 貨幣の供給
15. 貨幣の供給
16. 貨幣の需要
17. 貨幣の需要
18. 貨幣と利子
19. 貨幣と利子
20. 日本の金融機関
21. 日本の金融市場
22. 日本の金融政策
23. 金融の自由化・国際化
24. 金融の自由化・国際化
25. 不良債権問題
26. 円高
27. 金融界の未来
28. 金融界の未来
29. まとめ
30. まとめ

準備学習(予習)

指定する教科書の講義予定箇所をレポート用紙1枚にまとめておくこと。シラバスの講義予定テーマについてテキスト(第1回講義において指定する)の相当箇所をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

テキストの講義箇所、板書をまとめて、清書ノートを作成しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験90%には、レポートによる評価を含むこともある。

教科書

参考書

担当教員： 正上 常雄

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1P400660

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

この授業ではわかりやすいテキストを使って財政を基礎から学んでいこうと思います。教科書に書いてあることを学ぶだけでなく、現在の財政に関する現実の問題についても色々と議論してみたいと思います。| 財政学は公務員試験などでも出題されますので、過去問題などを使いながら、どのような形で出題されているのかも学びます。

(2) 内容

目的| 財政は我々の税金にかかわる事柄です。我々はなぜ税金を納めなくてはならぬのか、財政は何に使われているのか、財政赤字があると何が起きるのかなど、様々な疑問があると思います。我々にとって身近なようでよくわからない財政、新聞では、ギリシャの財政危機とか日本の税と社会保障の一体改革など財政にまつわる様々なトピックが取り上げられています。現実を理解するには、財政の仕組みと本質を理解しなくてはなりません。|

受講者に対する要望

授業中の私語は厳禁です。それ以外のルールは、最初の授業で相談して決めます。

学びのキーワード

- ・ 財政民主主義
- ・ 租税
- ・ 公共政策

授業計画

01. 財政学とは
02. 財政の範囲と規模
03. 財政の3機能
04. 予算と何か
05. 公共財とは
06. 公共財の政治的な選択
07. 国と地方自治体の公共財の供給
08. 地方分権と公共財の供給
09. 社会資本
10. 租税のあり方
11. 税負担の公平
12. 課税の経済効果
13. 租税の帰着
14. 租税による所得再分配
15. 租税体系
16. 累進税と逆進税
17. 所得課税
18. 消費課税
19. 法人課税
20. 公債とは
21. 財政の持続可能性
22. 公債の負担
23. 地方財政の役割
24. 地方財政の資金の流れ
25. 地方交付税
26. 社会保障とは
27. 公的年金
28. 医療保険と介護保険
29. 生活保護
30. 少子高齢化の進展

準備学習(予習)

教科書は初心者向けのやさしいものを選びましたが、もっと詳しい財政についての知識も授業で補完していくつもりです。難しい話はちょっと苦手という人も、まずは教科書を一読してみてください。

準備学習(復習)

授業では教科書に書かれていることだけでなく、公務員試験などにも対応できるように、専門用語の解説なども行うので、ノートやプリントでしっかり復習して下さい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 中間試験 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 平常点 | 20% |

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。基本的に中間試験と期末試験で評価します。

教科書

上村 敏之『コンパクト 財政学 第2版』(新世社)【978-4883841967】

参考書

担当教員：中野 宏

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P400710

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済ますことは出来ません。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事や人生に反映させていくこととなります。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべくもなく、皆さんは投資により自らの手腕において老後のための資産形成を行っていかねばなりません。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具です。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願っています。

(2) 内容

政府および中央銀行が行う経済政策の理論と実例を学習します。バブル崩壊以降「失われた20年」とも称されるように、我が国経済は長きにわたって低迷を続け、経済成長率の鈍化、止まらないデフレ、巨額の政府債務、非正規雇用の拡大、所得格差と特に若年層の貧困化、少子高齢化と年金や医療制度の疲弊、企業の国際競争力の低下等々、様々な問題が顕在化してきています。その中には早急な解決が求められるものも多く、現在ではかつてないほど経済政策の重要性は高まっていると言えます。この授業では、我が国で実際に行われた（行われている）政策例をとりあげながら、その理論的背景を学習し、これからの日本経済つまりは皆さんの将来のために政策当局が今何をすべきかを考えていきます。|授業の前半は景気対策を中心としたマクロ経済政策を、後半は競争と規制の市場政策を中心としたミクロ経済政策を講義します。経済理論をふんだんに取り入れますので、グラフ等を多用しますが、なるべく数学は用いないで授業を進めるつもりでいます。|なお、必ず専門科目「経済学」を履修した上で受講して下さい。|下の授業計画は予定です。学生の皆さんの理解度に応じて変更することもあります。

受講者に対する要望

今までより少しでいいですから、テレビやネットで日々報道される経済ニュースに関心を持つ努力をしてみてください。

学びのキーワード

- ・ 財政政策
- ・ 金融政策
- ・ 規制緩和
- ・ 所得格差
- ・ 市場の失敗

授業計画

01. 経済政策の目的 (1) / 最適な資源配分と公平な所得配分
02. 経済政策の目的 (2) / 景気の安定化と成長戦略
03. GDP基礎論 (1) / 我が国の経済成長率と経済の現況
04. GDP基礎論 (2) / GDPの決定要因
05. 財政の仕組み (1) / 政府一般会計予算
06. 財政の仕組み (2) / 財政の機能
07. 政府の財政政策と乗数理論
08. 政府の累積債務問題
09. 金融基礎論 (1) / 貨幣と金融市場
10. 金融基礎論 (2) / 貨幣の供給
11. 中央銀行の金融政策 (1) / 金融政策の手段
12. 中央銀行の金融政策 (2) / 「異次元の」緩和政策とマイナス金
13. 経済成長戦略
14. 費用便益分析基礎論 (1) / 限界便益と限界費用
15. 費用便益分析基礎論 (2) / 余剰の概念
16. 厚生経済学の基本定理 (1) / 最適資源配分の条件
17. 厚生経済学の基本定理 (2) / 完全競争市場の調整メカニズム
18. 規制緩和と民営化
19. 自然独占と料金規制
20. 課税と補助金 (1) / 課税の原則
21. 課税と補助金 (2) / 課税の効果
22. 貿易と関税 (1) / 自由貿易の利益とTPP
23. 貿易と関税 (2) / 保護貿易と関税
24. 所得格差と所得再分配政策
25. 市場の失敗：外部性 (1) / 外部不経済と地球温暖化問題
26. 市場の失敗：外部性 (2) / ピグー課税と補助金
27. 市場の失敗：公共財 (1) / 公共財の性質
28. 市場の失敗：公共財 (2) / リンダールの方法とフリーライダー
29. 講義のまとめ (1)
30. 講義のまとめ (2)

準備学習(予習)

次回の講義について指示された項目を、各自で調べておくこと。

準備学習(復習)

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがあります。毎回講義の復習プリントを配布しますので、次の講義日までに各自仕上げてください。|復習プリントの解答は、別途配布します。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--|
| (1) 平常点 | 30% | 講義や板書のノート取りなど授業における集中度、および発言や質問など授業への参加の積極度を総合的に評価します。 |
| (2) レポート | 30% | 講義期間半ばに1回レポート課題を出します。 別途、解答例の提示および解説を行います。 |
| (3) 期末試験 | 40% | 授業最終回に授業内試験を行います。 |

定められたとおり3分の2(20回)以上の出席がなければ成績評価の対象とはなりません。また、レポート提出と期末試験受験のどちらが欠けても成績評価の対象とはなりませんので注意してください。

教科書

特に指定はしません。毎回講義レジュメを用意します。

参考書

岩田規久男、飯田泰之著『ゼミナール経済政策入門』(日本経済新聞社)

担当教員：金子 良事

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P400810

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会政策は学際的な領域なので、独自の方法を持っているというよりは、様々な分野の知見を組み合わせて成立しています。社会福祉学、社会学、経済学、労使関係論、労働法、社会保障などです。この講義では歴史を中心に据えて、様々な分野を学び、数多くの考え方を学びます。一つの事象に対しても複眼的にいろいろな角度から捉えるような思考習慣を身につけます。

(2) 内容

社会政策はイギリスではソーシャル・ポリシーという名前で1970年代以降、発達した概念で、世界的にもその影響が強くあります。イギリスでは慈善事業や社会事業が発展し、福祉国家化するなかで、ソーシャル・ポリシーという概念が登場してきたのです。日本は19世紀の終わり頃からドイツのSozialpolitikという考え方を取り入れ、別の発達をしました。この講義では日本における社会政策の歴史を振り返りつつ、社会政策という視点から、どうやって関連する領域を理解することが出来るのかを学びます。

受講者に対する要望

出来ることから少しずつ積み上げていってください。自分が考える限界よりもうちょっとだけ頑張りましょう。

学びのキーワード

- ・都市社会学・都市政策
- ・社会福祉
- ・社会保障・人口政策
- ・労使関係・労働法
- ・教育

授業計画

01. イントロダクション
02. 日本における社会政策研究の歴史：その方法
03. 国民国家の形成
04. 統治機構の整備：行政と政治、市民参加
05. 社会政策におけるプレイヤー
06. 社会政策におけるプレイヤー(2)
07. 教育制度の形成
08. 教育制度の形成(2)
09. 教育制度の展開
10. 教育制度の展開(2)
11. 医療、衛生と社会政策
12. 医療、衛生と社会政策(2)
13. 医療、衛生と社会政策(3)
14. 医療、衛生と社会政策(4)
15. 法からみる労働
16. 法からみる労働(2)
17. 労使関係と社会政策
18. 労使関係と社会政策(2)
19. 人口政策と社会保障
20. 人口政策と社会保障(2)
21. 人口政策と社会保障(3)
22. 人口政策と社会保障(4)
23. 行動科学の発展と政策科学
24. 行動科学の発展と政策科学(2)
25. 社会思想
26. 社会思想(2)
27. 予備
28. 演習問題
29. 復習ないし自習
30. まとめ

準備学習(予習)

現在、執筆中の『日本における社会政策の基礎的研究』を中心に講義を構想しているため、原稿が完成している部分については事前配布することもあります。また、関連する参考文献も紹介します。そうしたものを読んで、事前に分からないことなどを考えてください。ただ、予習よりも復習に時間をかけて欲しいので、余裕がなければ

準備学習(復習)

レジュメなどの配布物、自分のノートを見て、復習して下さい。そこから学んだことで、さらに進んで勉強したい場合には関連文献を読むようにして下さい。関連文献は講義のなかでも出来る限り紹介したいと思います。

評価方法

- (1) テスト 100

30回で授業内試験を行います。その前週に演習問題を行い、問題とその解説をします。解説は、設問に対してどこがポイントなのか(採点する際の加点要素)をお話しますので、この回には必ず参加して下さい。出席はあくまでテストを受ける際の前提条件で、直接、加点しません。

教科書

レジュメ中心。関連する文献を講義中に紹介することもある。

参考書

担当教員：藤田 孝典

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P400990

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）・選択科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格・選択必修 | 【F】地域共生（まちづくり）コース：自由科目 | 【特】社会福祉士国家試験受験資格・必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格・必修科目

(1) 学びの意義と目標

・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。
|・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。|・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。|・生活困窮者自立支援法の概要を理解し、生活困窮者支援ノウハウを学ぶ。

(2) 内容

・公的扶助の概念 | ・貧困・低所得者問題と社会的排除 | ・公的扶助の歴史 | ・生活保護制度の仕組み | ・生活保護の運営実施体制と関係機関 | ・生活保護の動向 | ・低所得者対策とホームレス対策 | ・自立支援プログラムの意義と実際 | ・生活困窮者自立支援法の概要

受講者に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。
・授業中は積極的な参加を求めます。質問や意見は遠慮なく出してください。
・私語は周囲の迷惑になりますので絶対に慎んでください。

学びのキーワード

- ・貧困・低所得
- ・生活保護
- ・ホームレス
- ・生活困窮者自立支援

授業計画

01. 公的扶助の概念
02. 貧困・低所得者問題と社会的排除
03. 公的扶助の歴史 (1) 海外の歴史
04. 公的扶助の歴史 (2) 日本の歴史
05. 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的・原理
06. 生活保護制度の仕組み (2) 生活保護法の原則
07. 生活保護制度の仕組み (3) 生活保護の種類と内容
08. 生活保護制度の仕組み (4) 生活保護基準と実施要領
09. 生活保護制度の仕組み (5) 保護施設
10. 生活保護制度の仕組み (6) 被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 自立支援プログラムと相談援助活動
14. 生活困窮者自立支援法の概要
15. 生活困窮者支援の実際と課題

準備学習(予習)

毎回配付する資料を読解してくる

準備学習(復習)

毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 出席 | 平常点 |
| (2) 小レポート | 平常点 |
| (3) 試験 | |

教科書

参考書

担当教員：大森 達也

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P401550

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

本講義では、戦後の日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴などについての講義を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とする。

(2) 内容

本講義では、1990年代の日本経済は、まさに過去の成功の故に、制度的に疲弊し、矛盾を露呈するにいたったと理解し、サブプライム問題以降、混迷する世界経済において日本経済は今後どのような方向に進んでいくか、あるいは、どのように変化するかを、戦後の歴史等を踏まえて考えていくこととする。

受講者に対する要望

盛りだくさんの内容で、講義のスピードは当然のことながら早くなるので、しっかりした受講姿勢で臨むこと。

学びのキーワード

- ・資本主義
- ・戦後日本経済
- ・産業構造
- ・貿易構造

授業計画

01. はじめに
02. 経済体制とは
03. 古典的資本主義と古典的社会主義
04. 現代混合資本主義
05. 経済体制としての日本型資本主義（歴史的背景）
06. 経済体制としての日本型資本主義（目的、課題）
07. 経済体制としての日本型資本主義（モデルとして）
08. 戦後日本経済の発展過程（戦後復興期）
09. 戦後日本経済の発展過程（高度経済成長期）
10. 戦後日本経済の発展過程（低経済成長期）
11. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-1）
12. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-2）
13. 戦後日本経済の発展過程（まとめ）
14. 前半講義のまとめ
15. 質疑応答
16. 戦後日本経済の発展過程のおさらい
17. 戦後日本経済の成長の仕組み（設備投資競争について）
18. 戦後日本経済の成長の仕組み（その他の企業競争）
19. 産業構造の変化
20. 産業構造の変化（課題）
21. 日本の金融・財政政策（経済政策とは）
22. 日本の金融・財政政策（政策手段に見る日本の特徴）
23. 日本の金融・財政政策（課題）
24. 日本の貿易構造（貿易の意味）
25. 日本の貿易構造（貿易摩擦から経済摩擦へ）
26. 日本の貿易構造（課題）
27. 日本経済：21世紀における課題
28. 日本経済：21世紀における課題
29. 後半講義まとめ
30. 質疑応答

準備学習(予習)

内容的に、盛りだくさんなので、事前に文献等を読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義内容をもとに行われるので、ノートをしっかりとしておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|----------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1,200文字程度 3回×10% |

教科書

参考書

担当教員：柴田 武男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P401810

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

本講義を受講することで、企業がいかに資金を調達し、また運用しているのか、その基本的構造が理解できる。また、基本的構造にとどまらず、現在企業が置かれている経営課題に関する知識が蓄積されることで、企業経済に関するテレビ・新聞報道等への関心が高まり、理解する意欲の養成を目標とする。

(2) 内容

企業経済論は、企業活動をその資金調達、資金運用を中心に論ずるものであるが、現在企業活動の円滑な遂行は資金面だけではなく、雇用条件・環境対策など社会から幅広く問われている。企業経済論Aでは、企業を取り巻く経済的・社会的側面を重視して、現在企業活動がどのような問題に直面して課題としているのかを明らかにする。講義では現在の経済現象から企業経済の本質を講義していくので、テキストとしては『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『週刊エコノミスト』などの経済誌を活用し、また、日々のテレビ報道も教材として解説していく。初学者にも理解しやすい講義を心がけるが、専門的な内容も伴うので補助教材等の配布で理解を助けたい。

受講者に対する要望

90分講義に集中できること。これが受講の基本的前提である。私語など講義に集中する環境を乱す受講生については退席させる場合がある。

学びのキーワード

- ・メガバンク
- ・中小金融機関
- ・株式市場
- ・債券市場
- ・コンプライアンス

授業計画

01. 企業経済論とは・・・そもそも企業とは何か
02. 企業は社会から何を求められているのか
03. 現代企業に関する論説
04. 企業とメガバンク
05. 企業と中小金融機関
06. 企業とノンバンク
07. 企業経済をめぐる統計データ
08. 企業と株式市場
09. 企業と債券市場
10. 企業と格付け機関
11. 企業と信用情報機関
12. 企業と海外金融市場
13. 企業経営とコンプライアンス
14. 企業経営の現代的課題
15. エクセレント・カンパニー論

準備学習(予習)

日頃から新聞記事をよく読んでおくこと。また、配付された教材、指示された文献を読んで事前に専門用語を調べて理解に努めること。

準備学習(復習)

講義中に配付される教材を再読しておくこと。また、そこでの専門用語について確認して、内容を理解しておくこと。

評価方法

(1) 講義中の出席票でのメモ50% | 定期末

定期末試験だけでなく、普段の講義での参加度も重要視する。

教科書

講義中に指示する。また、講義資料を講義開始時に配付する。

参考書

講義中に指示する。

担当教員：柴田 武男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P401910

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

本講義を履修することによって現代企業をとりまく課題を幅広く理解でき、それはそのまま就職活動等での活かした知識として活用できる。さらに、就職策企業を選択する上での知的ツールとなりうる。

(2) 内容

企業経済論Bは、企業活動をその資金調達、資金運用を中心に論ずるものであるが、現在の企業を取り巻く経営環境は資金の調達・運用にとどまらず、社会から求められることも大きく変化している。この変化の潮流を中心に講義を展開したい。本講義ではこの問題の解明に必要な基本的知識を解説するだけでなく、できるだけ現在生じている経済現象から企業経済の本質を講義する。同時に、幅広く企業経営そのものの問題を考察していく。ビデオ教材および経済雑誌等を活用して、初学者にも理解しやすい講義を心がけるが、かなり専門的な内容になるので補助教材等の配布で理解を助けたい。

受講者に対する要望

とにかく、講義に90分集中して欲しい。また、日頃から経済記事などを読んで問題意識を持って受講すること。

学びのキーワード

- ・金融検査マニュアル
- ・ブラック企業
- ・過労死
- ・資金調達
- ・リーマンショック

授業計画

01. 企企業は何を問われているのか |
02. 企業を取り巻く経営環境の変貌 |
03. 企業経営と運用リスク・・・仕組み債投資を巡って |
04. 企業経営と資金調達手段の多様化 ||
05. 金融検査マニュアルの役割と課題 ||
06. 企業金融を巡る統計データ(1)経済財政白書 ||
07. 企業金融を巡る統計データ(2)中小企業白書 |
08. 企業金融を巡る統計データ(3)ジェトロ世界貿易投資報告 ||
09. 企業経営とコンプライアンス問題 | |
10. 企業経営における労働問題・・・人材派遣法 | |
11. 日本企業と海外企業(1)日本企業の対外進出 |
12. 日本企業と海外企業(2)外国企業の参入 | |
13. 日本企業と女性労働 ||
14. 現代における企業経営の課題(1) | |
15. 現代における企業経営の課題(2)

準備学習(予習)

講義で取り上げる事例を予告するので、それに対する事前学習が講義の理解を助けるので、心掛けて欲しい。また、経済ニュースには日頃から目を通すことも御願いたい。

準備学習(復習)

講義中の取り上げる事例で説明しきれないこともあるので、残存する問題点を指摘するので自発的に調べるのが望ましい。

評価方法

- (1) 講義中に課するミニレポートでの書き込み50% 定期末

講義では毎回必ず出席票に課題を書いて提出させるので、その内容について重要視する。|また、出席票の項目、科目名・担当教員・日付けなどを正確に書くことも評価の対象とする。

教科書

講義中に指示するが、原則として、毎回配付する教材によって講義を進める。

参考書

講義中に指示する。

担当教員：高橋 聡

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P402010

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

目標：日本経済の歴史を学ぶことを通じて、私たちが生きる社会、そして私たちの生活のこれからを見通すための指針を得る。2コマ連続の講義前半(奇数回)では明治期から現代に至るまでの通史を学ぶ。後半(偶数回)では、人口・産業・労働・金融・財政・貿易・国民生活・環境などテーマごとの歴史を学ぶ。||意義：就職活動あるいはメディアを読み解く上で最低限必要な日本社会の常識を知ることができるであろう。||

(2) 内容

2コマ続きの授業であるため、前半と後半で講義内容を変える。第3回目以降の奇数回では、伊藤修『日本の経済』をベースにした講義形式で行う。第4回目以降の偶数回では、報告とそれへの解説・質疑応答を中心に授業を行う。|

受講者に対する要望

予備知識は不要だが、受講に際しては意欲的な取り組みが求められる。授業の妨害行為がある場合には、教室からの退出、授業への参加停止を求めることがある。

学びのキーワード

- ・ 経済成長 |
- ・ 日本的経営
- ・ 長期不況
- ・ 環境
- ・ 労働と社会保障

授業計画

01. ガイダンス：講義全体の見取り図。
02. 日本経済への視角
03. 近代経済発展の概観
04. 経済発展の軌跡
05. 明治の経済発展
06. 人口・国土・環境・国富
07. 第1次世界大戦以後
08. 食生活と第一次産業
09. 戦時の統制経済
10. 変貌する第二次産業と第三次産業
11. 戦後占領期
12. 雇用・労働
13. 高度経済成長期1 高度成長の20年
14. 金融・資本市場
15. 高度経済成長期2 成長の構造
16. 前半のまとめ
17. 1970年代の日本経済 ニクソン・ショックと石油ショック
18. 財政
19. 1980年代の日本経済 日米貿易摩擦、バブル経済
20. 国際収支
21. バブル崩壊以後の日本経済 長期不況と構造改革
22. 国民生活
23. 歴史から見た日本経済の諸問題1 財政と社会保障
24. 日本経済の展望
25. 歴史から見た日本経済の諸問題2 日本型経営と雇用
26. 経済と環境1 水俣病
27. 歴史から見た日本経済の諸問題3 仕事と働き方
28. 経済と環境2 エネルギー問題
29. 歴史から見た日本経済の諸問題4 貧困と格差
30. 後半のまとめ

準備学習(予習)

次回講義の範囲を指定するので、テキストを丁寧に読むこと。

準備学習(復習)

ノートの整理を行うこと。指定する課題(テキストの要約やレポートなど)を行うこと。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 報告・発言 | 30% |

授業への出席だけで単位を保証することはない。

教科書

講義用：伊藤修『日本の経済—歴史・現状・論点』中央公論新社【ISBN 978-4-12-101896-0】|報告用：宮崎勇・本庄真・田谷祐三『日本経済図説』(第4版)岩波書店【ISBN 978-4-00-431447-9】

参考書

講義の中で随時紹介する。

担当教員：酒井 俊行

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P402190

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

上述したように、わが国における企業数の99.7%は中小企業です。このように企業の数だけ見ても、中小企業は身近な存在であるはずなのに、意外に“中小企業WHAT?”というのが実態だと思われず。| この授業を受ける第一の意義は、そうした“WHAT?”をなくすることです。中小企業の在り様を正確に理解し、そのわが国における地位・貢献度を理解してもらうことによって、少しでも“WHAT?”をなくすることが私の期待するところです。| 第二に、わが国従業員の75.8%が中小事業所に勤めているということです。ということは、皆さんもそうした中小企業に勤めるチャンスが大いにあることです。就活に際して業界研究は必須ですが、業界研究に止まらない中小企業研究も極めて大事になるわけです。| 以上ここでは2つに限定してこの講義の意義を挙げましたが、やや大げさに言えば、この講義はわが国経済に関する一面の真実を明らかにするためにも重要ということが出来ます。

(2) 内容

わが国では企業数の99.7%が中小企業であり、そうした中小規模の事業所に勤める従業者は全体の75.8%にも及んでいます。これらの数字に見られるように、実態として、学生の皆さんは卒業後中小企業に勤務することが多くなり、また大企業に勤めたとしても色々な局面で中小企業と関係を持たざるをえないということです。したがって想像以上に皆さんにとって、中小企業は身近な存在であるわけです。ところがこのように身近な存在でありながら、中小企業についてどれくらい知っているのでしょうか? | この授業は大きく、理論篇(第3回～第21回)と統計編(第23回～第28回)に分けて進めます。理論篇は『21世紀中小企業論』、統計編は『日本の中小企業2016』に従うこととします。どちらの篇もテキストに書かれていることだけではなく、基礎的なアイデア・背景なども説明するつもりです。一般にどのテキストもマスターするためには、基本的な知識が必要とされます。したがって基本知識が不足すれば、理解が表面的になってしまいます。そのことを意識したうえで、可能な限り分かり易い説明を心掛けるつもりでいます。そのことを予め記憶して下さい。

受講者に対する要望

授業は100%出席しないと意味がありません。教員は皆さんが全て出席することを前提に授業計画を考えています。また皆さんも高い授業料を払っているわけですから、授業をさぼることが如何に損であるかを考えてみて下さい。そのように考えることの出来る諸君を歓迎します。

学びのキーワード

- ・就職先としての中小企業
- ・中小企業の地位
- ・中小企業の意義

授業計画

01. オリエンテーション
02. 中小企業論と定義及び地位
03. 理論篇1：中小企業で働くこと
04. 理論篇2：企業の創業と進化
05. 理論篇3：中小企業とは何か
06. ドラマに見る中小企業
07. 理論篇4：戦後日本の中小企業問題の推移(1)
08. 理論篇5：戦後日本の中小企業問題の推移(2)
09. 理論篇6：戦後日本の中小企業発展の軌跡(1)
10. 理論篇7：戦後日本の中小企業発展の軌跡(2)
11. 理論篇8：もの作りと中小企業(1)
12. 理論篇9：もの作りと中小企業(2)
13. 理論篇10：中小製造業の経営(1)
14. 理論篇11：中小製造業の経営(2)
15. 理論篇12：中小商業と流通(1)
16. 理論篇13：中小商業と流通(2)
17. 理論篇14：中小商業経営と商人性(1)
18. 理論篇15：中小商業経営と商人性(2)
19. 理論篇16：中小企業の金融(1)
20. 理論篇17：中小企業の金融(2)
21. 理論篇18：戦後日本の中小企業政策の変遷
22. 中間まとめ
23. 統計篇1：最近の中小企業動向(1)～景況、生産・出荷・在庫
24. 統計篇2：最近の中小企業動向(2)～設備投資、輸出入
25. 統計編3：最近の中小企業動向(3)～物価、雇用・賃金
26. 統計編4：最近の中小企業動向(4)～売上高、企業収益、企業財務
27. 統計編5：最近の中小企業動向(5)～資金繰り、企業倒産、金融
28. 統計編6：最近の中小企業動向(6)～海外進出、地域別動向
29. 中小企業白書とトピック
30. 最終まとめ

準備学習(予習)

毎回次回の範囲を示しますので、必ず教科書を読んで当該箇所の予習をして下さい。予習をしないと、どんどん分からなくなってしまいます。

準備学習(復習)

毎回30分～1時間程度の復習により、知識ベースを確実なものにするようにして下さい。理解度を確認するために確認テストも実施します。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|--------------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | 授業への積極的参加状況を量りながら、貢献度を評価 |
| (2) 中間確認テストと解説 | 20% | 理解度を深めるために折り返し点で実行し、同時にその解説を実施 |
| (3) 最終確認テスト | 40% | 予め出題範囲を示した上で実行し、同時にその解説を実施 |

教科書

商工総合研究所『図説日本の中小企業2016』(一般財団法人商工総合研究所) [978-4901731249] | 渡辺幸男他『21世紀中小企業論 第3版 - 多様性と可能性を探る』(有斐閣) [978-4641220096]

参考書

担当教員：山口 隆太郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P402200

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

私たちは「民主主義」のなかで暮らしている。しかしこの「民主主義」のもとのように社会制度が形成され、その運営に私たちは関わっているのか。住民は地域を支える一員であり、地域を作る一員である。どのように地域の問題を考え、その運営に参画すればいいのか。それを考える基盤となる知識、認識を得ることがこの講義の目標である。

(2) 内容

朝、家を出て大学に着くまでに目にするもの、あるいは使うものにはどのようなものがあるだろうか。目を覚まし蛇口をひねって顔を洗うところから一日は始まる。道路を歩いて駅に向かい、電車に乗る。あるいはバスかもしれない。その道すがら、保育園や小中学校の賑わいを目にし、街を巡回するパトカーが脇を通り過ぎるかもしれない。また、高齢者などをケアする介護施設も目にする。そして大学に着き、教室で講義に臨む。これらのことに財政は関わっている。特に地方財政は私たちの生活に密接に関わっている。道路や上下水道などのインフラストラクチャー、ゴミ処理、教育・保育制度、社会福祉制度など、人々の生活を支える多くの公共サービスは地方自治体によって提供されている。さらに、どのようなサービスを提供するかのみならず、その財源をどのようにまかなうかも重要な問題となっている。地方税の徴収、地方債といった公債の発行、中央政府からの補助金などがどのようなかたちで地方自治に関わっているかという問題である。近年、新聞やテレビのニュースなどで盛んに地方財政問題は扱われている。各地方自治体はその財政力の地域間格差をどうするかをはじめとして多くの問題に向き合っており、そのなかで地方自治体、中央政府がどのような役割分担を前提に政府間財政関係を築くか、今なお模索されているのが現状である。このような背景のもと、本講義では地方財政に関する基礎的な知識を学び、自分が生活する地域社会がどのような制度設計のもと運営されているかを理解する。具体的には国と地方間の政府間財政関係のもとのように地方財政が位置付けられているかという総論から、地方税・地方交付税・地方債・国庫補助負担金などの各制度を具体的に検討していく。そこからさらに発展して、地方財政の健全化・地方財政の阻害・地域の実情に合った地方財政運営の考察を通して、日本における地方財政制度の現状と課題を考えていく。

受講者に対する要望

・特段の予備知識は必要ない講義を進める。|・成績評価などについては初回の講義で説明するので、注意して聞くこと。|・提示したレポートやテストの成績評価以外に救済措置はないので、日々の講義をしっかり受けることが肝要である。|・特段の理由がない場合欠席はしないこと。欠席する場合は事前に教員に連絡すること。

学びのキーワード

- ・ 地方財政
- ・ 財政学
- ・ 政府間財政関係
- ・ 社会福祉
- ・ 民主主義

授業計画

01. 地方財政とは(1)
02. 地方財政とは(2)
03. 国と地方の役割分担 -地方分権改革- (1)
04. 国と地方の役割分担 -地方分権改革- (2)
05. 地方自治体の歳出 -予算- (1)
06. 地方自治体の歳出 -予算- (2)
07. 地方自治体の歳出 -経費- (1)
08. 地方自治体の歳出 -経費- (2)
09. 地方自治体の歳入 -地方税- (1)
10. 地方自治体の歳入 -地方税- (2)
11. 地方自治体の歳入 -財政調整制度・地方交付税- (1)
12. 地方自治体の歳入 -財政調整制度・地方交付税- (2)
13. 地方自治体の歳入 -国庫補助負担金- (1)
14. 地方自治体の歳入 -国庫補助負担金- (2)
15. 地方自治体の歳入 -地方債・地方自治体の破たん和財政健全化- (1)
16. 地方自治体の歳入 -地方債・地方自治体の破たん和財政健全化- (2)
17. 地方財政の歴史的展開 (1)
18. 地方財政の歴史的展開 (2)
19. 地方自治体の役割 -セーフティーネット- (1)
20. 地方自治体の役割 -セーフティーネット- (2)
21. 地方自治体の役割 -教育と保育- (1)
22. 地方自治体の役割 -教育と保育- (2)
23. 地方自治体の役割 -介護と高齢者福祉- (1)
24. 地方自治体の役割 -介護と高齢者福祉- (2)
25. 地方自治体の役割 -公共事業・地方公営企業- (1)
26. 地方自治体の役割 -公共事業・地方公営企業- (2)
27. 地方財政の改革と課題 -平成の大合併における地方自治- (1)
28. 地方財政の改革と課題 -平成の大合併における地方自治- (2)
29. まとめ・復習 (1)
30. まとめ・復習 (2)

準備学習(予習)

日頃から新聞やニュース等に注意し、地方財政に関して関心を高める。

準備学習(復習)

毎回の講義内容を、単純にタームを覚えるなどではなく、その問題となっているものの論理的な構造を説明できるようにする。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------------------------|
| (1) 中間レポート | 30% | 教員の提示したテーマに基づきA4で2000字程度 |
| (2) 試験 | 70% | ただし、中間レポート提出を期末試験受験の要件とする。 |

教科書

参考書

担当教員：柴田 武男、石橋 満、鈴木 成高、柳沢 真人

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P431810

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目 | 【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

「国際金融論A」同様、国際金融の基礎的なメカニズムと、それらが我々の日々の生活にいかに関係しているかを理解することが、本講座における第一の目標です。さらには、世界で起こっている国際金融の状況や課題を知ること、受講者がそれらを、これからの社会生活の中で、どうやって生かしていくかを、考えてもらいます。| たとえ国内での仕事に就くにしても、国際金融の基礎的な知識は不可欠であり、グローバル化が進む中で、特に将来ビジネスの世界を目指す人にとり、本講座で学ぶ知識は必須であります。| 国際金融というと難解で敷居が高く思えて、受講を躊躇する学生もいるかもしれませんが、本講座についてはそのような心配は無用です。本講座の講師は国際金融実務の経験者であり、実務にはすべて明確な手順があり、その理由があります。単なる国際金融の教科書では学べない、その取引がなぜそのような仕組みで行われるのか、その理由が理解できれば国際金融は容易に理解できます。国際金融を難解だと思っている学生にこそ、本講座の受講を強く勧めます。|

(2) 内容

2016年度秋学期開講の「国際金融論A」の姉妹講座です。「国際金融論A」では、国際金融の基礎的なメカニズムと、国内経済政策の関心に焦点を当てて語りましたが、本講座においては、主にグローバルな立ち位置から、国際金融の現状と問題点を解き明かします。| 「国際金融論A」でカバーした基礎的なメカニズムについて、アップデートした形で触れた後、焦点を世界各地における国際金融の課題や問題点に当ててゆきます。アメリカ、ヨーロッパ、そして中国を中心とするアジアが、その主な対象となります。| 「国際金融論A」同様、本講座も、それぞれが立場の違う国際金融の専門家三名が講師を務める、オムニバス方式を採用します。日本銀行で金融行政に携わった講師、三菱東京UFJ銀行で外国業務に携わった講師、丸紅で国際ビジネスのファイナンスに携わった講師の三名が、本講座のテーマを、それぞれの専門の立場や視点から語ることで、今日的な国際金融における基礎的な問題を浮き彫りにします。| 講義は、理論的側面より、実務的側面に重点を置き、実務の現場の状況を語ることで、受講者全員が国際金融に関心を持ち、基礎的な知識を身につけることを目指します。

受講者に対する要望

実務経験者からの具体的で分かりやすい講義となるから。国際金融は難しいという先入観なく、むしろ国際金融は全く分からないという初学者の受講を期待する。

学びのキーワード

- ・ マイナス金利
- ・ 日銀政策委員会
- ・ 為替相場
- ・ FX取引
- ・ L/C(信用状)

授業計画

01. 金融当局から見た国際金融(日銀OB柳沢講師)①
02. 金融当局から見た国際金融(日銀OB柳沢講師)②
03. 金融当局から見た国際金融(日銀OB柳沢講師)③
04. 金融当局から見た国際金融(日銀OB柳沢講師)④
05. 金融当局から見た国際金融(日銀OB柳沢講師)⑤
06. 資金供給者の立場から見た国際金融(東京三菱OB鈴木講師)①
07. 資金供給者の立場から見た国際金融(東京三菱OB鈴木講師)②
08. 資金供給者の立場から見た国際金融(東京三菱OB鈴木講師)③
09. 資金供給者の立場から見た国際金融(東京三菱OB鈴木講師)④
10. 資金供給者の立場から見た国際金融(東京三菱OB鈴木講師)⑤
11. 資金需要者の立場から見た国際金融(丸紅OB石橋講師)①
12. 資金需要者の立場から見た国際金融(丸紅OB石橋講師)②
13. 資金需要者の立場から見た国際金融(丸紅OB石橋講師)③
14. 資金需要者の立場から見た国際金融(丸紅OB石橋講師)④
15. 資金需要者の立場から見た国際金融(丸紅OB石橋講師)⑤

準備学習(予習)

新聞記事における経済面、特に金融関係の記事は普段から読んでおくこと。

準備学習(復習)

各講義では必ず詳細な資料が配付されるので、講義終了後内容について十分復習すること。また、質問事項があれば、次の講義にて質問を行うこと。

評価方法

- (1) 授業への集中度・平時要点50% 講義開 出席票に書き込む、講義の感想・質問等が採点対象となります。
- (2) 課題レポート|50% 三人の 授業への参加度とレポート課題で採点し、定期末試験は行いません。

定期末試験は行いませんから、授業への参加度・レポート課題の提出が極めて重要です。三回のレポート課題は必ず提出してください。

教科書

特に指定しない。講義中配付する資料で行う。

参考書

講義の中で指示する。

担当教員：酒井 祐太郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P500110

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：指定科目

(1) 学びの意義と目標

当科目の到達目標は、①経営学の基礎としての専門用語を理解できるようにすること、②経済・経営に関する新聞記事を理解し、読めるようにすること、③経営学の中の各専門分野をさらに深く学ぶための基礎力を身につけること、④経営学上の財務分析、経営分析の基礎が自分でできるようにすること。

(2) 内容

当科目は企業の経営・管理の体系的な知識を基本的なレベルから学ぶことを目的とします。現代は、企業の時代と呼ばれるほど、我々の生活は企業の活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。| 実際の講義では、まず我々と企業とが基本的にどのようなかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因の変化にどのように対応していくべきかを考えたい。| 入門レベルの授業を考えています。経営学より深い専門的な内容の導入となる科目としてとらえて頂きたい。|

受講者に対する要望

経済・経営に関する内容なので、毎日の新聞、ニュースに関心を持ってほしい。また、授業の内容に基づき、課題を積極的に行い、理解をさらに深めてほしい。| 参考書は指示しますが、必ず授業に出席し内容を理解し、復習することが必須です。

学びのキーワード

授業計画

01. 履修上の注意、<序>経営学の定義、4つの経営資源、経営学の対象
02. 1 企業の基本的構造 (1) 水平的分業とは (2) 垂直的分業とは ①トップマネジメント層 ②ミドルマネジメント層 ③ローマネジメント層
03. 2 経営組織 (1) ライン組織とは (2) ライン・アンド・スタッフ組織とは
04. (3) 事業部制組織とは (4) 集権的組織、分権的組織とは | (5) バーナードの組織観 ①組織の成立要件 ②組織の存続要件
05. 3 人的資源管理 (1) 雇用管理 ①募集・選考・採用 ②配置・配属 ③人事異動
06. ④雇用調整と解雇 ⑤解雇権の濫用 ⑥雇用形態の多様化
07. (2) 賃金管理 ①賃金とは ②賃金構成
08. (4) 人事制度 職能資格制度の基本
09. (4) 人事制度 ①企業内資格と職位の関係 ②企業内資格、職位と賃金の関係
10. (5) 企業内福利厚生 ①法定福利厚生 ②法定外福利厚生 (6) 勤労意欲の管理
11. (7) 労使関係管理 ①労働組合とは ②労働組合の交渉形態
12. 4 財務管理 (1) 財務管理の課題 (2) 貸借対照表とは
13. (2) 貸借対照表について
14. (3) 損益計算書について
15. 前半のまとめ
16. 貸借対照表と損益計算書の練習問題
17. 5 経営分析とは
18. (1) 経営分析 収益性の分析
19. 収益性の分析
20. 財務的安定性の分析
21. 財務的安定性の分析
22. 成長性の分析
23. 成長性の分析
24. 株式会社の基本① 株式会社設立の方法
25. 株式会社の基本② 株式とは、配当、上場とは
26. 株式会社の基本③ 増資、株主総会や取締役会等の会社機関について
27. 経営戦略とマーケティングの基本① 競争戦略、成長戦略、マーケティングの4Pとは
28. 経営戦略とマーケティングの基本② マーケティングミックスの基本について
29. 総まとめ①
30. 総まとめ②

準備学習(予習)

次回の内容を告知するので、指示された内容を、必ず予習すること

準備学習(復習)

内容を告知するので、その内容を必ず復習すること。
また課せられた課題を通して、学習した内容を復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 定期試験 | 50% | 中間試験、期末試験の両方を実施予定 |
| (2) 平常点 | 50% | |

教科書

特に指定しない (必要に応じてプリント等を配布する)

参考書

上林、奥林等共著 「経験から学ぶ 経営学入門」 有斐閣ブックス

担当教員：酒井 祐太郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P500111

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：指定科目

(1) 学びの意義と目標

当科目の到達目標は、①経営学の基礎としての専門用語を理解できるようにすること、②経済・経営に関する新聞記事を理解し、読めるようにすること、③経営学の中の各専門分野をさらに深く学ぶための基礎力を身につけること、④経営学上の財務分析、経営分析の基礎が自分でできるようにすること。

(2) 内容

当科目は企業の経営・管理の体系的な知識を基本的なレベルから学ぶことを目的とします。現代は、企業の時代と呼ばれるほど、我々の生活は企業の活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。| 実際の講義では、まず我々と企業とが基本的にどのようなかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因の変化にどのように対応していくべきかを考えたい。| 入門レベルの授業を考えています。経営学より深い専門的な内容の導入となる科目としてとらえて頂きたい。|

受講者に対する要望

経済・経営に関する内容なので、毎日の新聞、ニュースに関心を持ってほしい。また、授業の内容に基づき、課題を積極的に行い、理解をさらに深めてほしい。|参考書は指示しますが、必ず授業に出席し内容を理解し、復習することが必須です。

学びのキーワード

授業計画

01. 履修上の注意、<序>経営学の定義、4つの経営資源、経営学の対象
02. 1 企業の基本的構造 (1) 水平的分業とは (2) 垂直的分業とは ①トップマネジメント層 ②ミドルマネジメント層 ③ローマネジメント層
03. 2 経営組織 (1) ライン組織とは (2) ライン・アンド・スタッフ組織とは
04. (3) 事業部制組織とは (4) 集権的組織、分権的組織とは | (5) バーナードの組織観 ①組織の成立要件 ②組織の存続要件
05. 3 人的資源管理 (1) 雇用管理 ①募集・選考・採用 ②配置・配属 ③人事異動|
06. ④雇用調整と解雇 ⑤解雇権の濫用 ⑥雇用形態の多様化
07. (2) 賃金管理 ①賃金とは ②賃金構成
08. (4) 人事制度 職能資格制度の基本
09. (4) 人事制度 ①企業内資格と職位の関係 ②企業内資格、職位と賃金の関係
10. (5) 企業内福利厚生 ①法定福利厚生 ②法定外福利厚生 (6) 勤労意欲の管理
11. (7) 労使関係管理 ①労働組合とは ②労働組合の交渉形態
12. 4 財務管理 (1) 財務管理の課題 (2) 貸借対照表とは
13. (2) 貸借対照表について
14. (3) 損益計算書について
15. 前半のまとめ
16. 貸借対照表と損益計算書の練習問題
17. 5 経営分析とは
18. (1) 経営分析 収益性の分析
19. 収益性の分析
20. 財務的安定性の分析
21. 財務的安定性の分析
22. 成長性の分析
23. 成長性の分析
24. 株式会社の基本① 株式会社設立の方法
25. 株式会社の基本② 株式とは、配当、上場とは
26. 株式会社の基本③ 増資、株主総会や取締役会等の会社機関について
27. 経営戦略とマーケティングの基本① 競争戦略、成長戦略、マーケティングの4Pとは
28. 経営戦略とマーケティングの基本② マーケティングミックスの基本について
29. 総まとめ①
30. 総まとめ②

準備学習(予習)

次回の内容を告知するので、指示された内容を、必ず予習すること

準備学習(復習)

内容を告知するので、その内容を必ず復習すること。
また課せられた課題を通して、学習した内容を復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 定期試験 | 50% | 中間試験、期末試験の両方を実施予定 |
| (2) 平常点 | 50% | |

教科書

特に指定しない (必要に応じてプリント等を配布する)

参考書

上林、奥林等共著 「経験から学ぶ 経営学入門」 有斐閣ブックス

担当教員：山田 ひとみ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P500220

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

会計情報である財務諸表の作成原理を理解した上で、株式会社の利害関係者が財務諸表をどのように用い、意思決定に役立っているのかについて理解できるようになる。また自ら財務諸表を入手して基礎的な経営分析ができるようになることを目標としています。

(2) 内容

企業の経済活動を貨幣単位で測定・記録・報告する一連の行為を会計といいます。会計行為によって得られた情報は財務諸表として企業の外部利害関係者(株主や債権者)に公開され、企業の受託責任を明らかにしたり、意思決定のための情報提供をしたり、多数の関係者の利害を調整したりする役割を担っています。本講義では典型的な企業形態である株式会社を対象とした会計を学びます。

受講者に対する要望

簿記(初級)の単位を修得済、または日商簿記検定3級レベルの基礎知識がある学生を履修対象とします。理解度を確認するため、適宜、ミニテストを行います。

学びのキーワード

- ・ 会計情報
- ・ 企業経営
- ・ 経営分析
- ・ 連結会計
- ・ 国際会計

授業計画

01. ガイダンス/授業の進め方、試験の方法、評価の方法など
02. 総論(1)会計情報の意義
03. 総論(2)会計情報の有用性と限界
04. 財務諸表(1) 貸借対照表
05. 財務諸表(2) 損益計算書
06. 財務諸表(3) キャッシュ・フロー計算書
07. 財務諸表(4) 連結財務諸表
08. 資産会計(1) 棚卸資産
09. 資産会計(2) 有形固定資産
10. 資産会計(3) 金融資産
11. 負債会計
12. 純資産会計
13. 損益会計(1) 意義、諸原則、分類
14. 損益会計(2) 法人税等
15. まとめ
16. 財務諸表の監査
17. 財務諸表の読み方(1) 収益性、安全性
18. 財務諸表の読み方(2) 成長性
19. 財務諸表の読み方(3) その他の指標
20. 財務諸表分析実践(1)
21. 財務諸表分析実践(2)
22. 財務諸表分析実践(3)
23. 財務諸表分析実践(4)
24. 合併の会計
25. 製造業の会計(1)
26. 製造業の会計(2)
27. 経営管理のための会計(1)
28. 経営管理のための会計(2)
29. 税効果会計
30. まとめ

準備学習(予習)

授業中に指示したキーワードについて、新聞や専門辞書で情報収集をしてから授業に臨んで下さい。

準備学習(復習)

授業中に出された課題を復習し、各項目について次回までに説明できるようにして下さい。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 課題 | 30% |
| (3) ミニテスト | 20% |

教科書

参考書

第1回目の授業で指示します。

担当教員： T. アサモア

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1P500440

学部教育の関連目

【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】 経済経営コース： 自由科目

(1) 学びの意義と目標

マーケティングの基礎理論と事例研究を通じて、社会におけるビジネス活動を結び付けて理解し、マーケティングと企業、消費者の関わりについて理解を深める。

(2) 内容

我々を取り巻く環境の進展は、企業の行動や消費者の生活に絶え間なく影響している。マーケティングで取り扱われている問題は、企業だけでなく、消費者の行動に密接に関連している。さらに、マーケティングは物的商品の関係する企業だけでなく、新たにサービス企業も対象としても研究されるようになってきている。| 本授業においては、マーケティングの基礎理論も、マーケティング環境を説明するために当然考慮する。企業のマーケティングに力点が置かれるが、消費者行動にも言及する。| 引用する例の大部分は、日本企業に関するものであるが、様々な国における企業のケースにも触れてみたい。| 最初の講義へマーケティング論の運営方法及び評価方法について説明する。

受講者に対する要望

授業内容の予習・復習を積極的に行うこと。

学びのキーワード

- ・ 営利組織
- ・ 市場
- ・ 企業
- ・ 経営
- ・ 国際化

授業計画

01. マーケティングとマーケティング論
02. マーケティング・コンセプト
03. マーケティング論の範囲
04. マーケティング論の課題
05. マーケティング展開の事例研究
06. マーケティング論の基本的構造
07. マーケティングの基本構造の事例研究
08. マーケティング戦略の基本
09. 市場対応戦略
10. 市場対応戦略の事例研究
11. 競争対応戦略
12. 競争対応戦略の事例研究
13. ドメイン戦略
14. ドメイン戦略の事例研究
15. 技術対応戦略
16. 技術対応の事例研究
17. マーケティングマネジメントの基本
18. マーケティングマネジメントの事例研究
19. マーケティングミックス戦略
20. 商品戦略の基本
21. 商品開発
22. 商品開発の事例
23. PLCの基本
24. PLC展開の事例研究
25. サービス戦略の基本
26. サービス戦略と商品戦略の枠組み
27. プロモーション戦略の基礎
28. プロモーション展開の事例
29. 流通戦略
30. 価格戦略

準備学習(予習)

その都度、授業にて指示を出す。

準備学習(復習)

その都度、授業にて指示を出す。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------|
| (1) 小テスト | 40% | 授業終了後、毎回行う |
| (2) 臨時試験 | 40% | 授業時間中に行う |
| (3) レポート | 20% | 中間レポート |

総まとめテストを実施する。成績は、試験の結果及び、出席に基づいて総合的に評価する。

教科書

参考書

担当教員：山田 ひとみ

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P500550

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することができる(日商簿記3級程度)。「簿記(中級)A」や「簿記(中級)B」履修するための知識を身につけることができる。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きま

(2) 内容

会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習と自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

受講者に対する要望

簿記の基礎を学びますので、最初が肝心です。
第1回目から第8回目までは休まず出席してください。
第9回目以降も、休んだ場合は次回までに必ず自習して下さい。

学びのキーワード

- ・複式簿記
- ・企業会計
- ・財務諸表
- ・会計学
- ・経営学

授業計画

01. ガイダンス(授業の進め方、採点方法)
02. 仕訳 (1)
03. 仕訳 (2)
04. 転記
05. 試算表 (1)
06. 現金・預金
07. 商品売買
08. 小口現金・約束手形
09. 為替手形
10. 手形の裏書・割引
11. その他の期中取引 (1)
12. その他の期中取引 (2)
13. 有価証券
14. 資本金・税金
15. 試算表 (2)
16. 補助簿
17. 決算整理仕訳 (1)
18. 決算整理仕訳 (2)
19. 決算整理仕訳 (3)
20. 決算整理仕訳 (4)
21. 決算整理仕訳 (5)
22. 決算整理仕訳 (6)
23. 8桁精算表 (1)
24. 8桁精算表 (2)
25. 貸借対照表・損益計算書の作成
26. 伝票・訂正仕訳
27. 総合問題演習 (1)
28. 総合問題演習 (2)
29. 総合問題演習 (3)
30. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当箇所を熟読し、練習問題を必ず解答して下さい。

準備学習(復習)

講義中に解答した練習問題を、反復解答練習しましょう。理解が不十分な箇所は、講師に質問するなどして、次回までに理解するようにして下さい。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 40% |
| (2) ミニテスト | 30% |
| (3) 平常点 | 30% |

教科書

参考書

第1回目にテキストを指定します。

担当教員：山田 ひとみ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P500551

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することができる(日商簿記3級程度)。「簿記(中級)A」や「簿記(中級)B」履修するための知識を身につけることができる。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きま

(2) 内容

会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習と自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

受講者に対する要望

簿記の基礎を学びますので、最初が肝心です。
第1回目から第8回目までは休まず出席してください。
第9回目以降も、休んだ場合は次回までに必ず自習して下さい。

学びのキーワード

- ・複式簿記
- ・企業会計
- ・財務諸表
- ・会計学
- ・経営学

授業計画

01. ガイダンス(授業の進め方、採点方法)
02. 仕訳 (1)
03. 仕訳 (2)
04. 転記
05. 試算表 (1)
06. 現金・預金
07. 商品売買
08. 小口現金・約束手形
09. 為替手形
10. 手形の裏書・割引
11. その他の期中取引 (1)
12. その他の期中取引 (2)
13. 有価証券
14. 資本金・税金
15. 試算表 (2)
16. 補助簿
17. 決算整理仕訳 (1)
18. 決算整理仕訳 (2)
19. 決算整理仕訳 (3)
20. 決算整理仕訳 (4)
21. 決算整理仕訳 (5)
22. 決算整理仕訳 (6)
23. 8桁精算表 (1)
24. 8桁精算表 (2)
25. 貸借対照表・損益計算書の作成
26. 伝票・訂正仕訳
27. 総合問題演習 (1)
28. 総合問題演習 (2)
29. 総合問題演習 (3)
30. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当箇所を熟読し、練習問題を必ず解答して下さい。

準備学習(復習)

講義中に解答した練習問題を、反復解答練習しましょう。理解が不十分な箇所は、講師に質問するなどして、次回までに理解するようにして下さい。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 40% |
| (2) ミニテスト | 30% |
| (3) 平常点 | 30% |

教科書

参考書

第1回目にテキストを指定します。

担当教員：八木 規子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P500770

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成しうる仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるものひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすためには、さまざまなスキルが必要とされる。組織行動論を学ぶことの意義は、こうしたスキルを身につけるとともに、人間の認知、行動、感情を動かす原理原則を学ぶことで、自分自身と他者をより良く理解することにある。組織行動論の学びを通じて、自らが組織の良き一員となるだけでなく、後年、部下をもったときには、良き上司として、部下を導き、育成する力を磨くことを目標とする。

(2) 内容

組織行動論は、組織という文脈のなかで、人間が行動する際に見せるさまざまな法則性について学ぶ。個人が、個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークの習得に基礎を置き、それらの法則性の活用を、実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるか、ケース・スタディ、ロール・プレイ、グループ・プロジェクト等の学習手法を通じて、身に着ける。

受講者に対する要望

自分自身と他者をよく理解したいという意欲をもち、学びの実践のために、自分自身のcomfort zoneの外にすこし出て、新しいことに挑戦してほしい。

学びのキーワード

- ・ 経営
- ・ 小集団
- ・ 組織
- ・ モチベーション
- ・ リーダーシップ

授業計画

01. 本科目の進め方について。組織行動論とは何か
02. 組織行動論の歴史。科学的研究方法と組織行動論
03. 学習と知識（Kolbのモデル）
04. パーソナリティ：個人レベルでの違い
05. チーム分け発表【要出席】チーム・プロジェクトの説明
06. 集団行動の基礎
07. チームを理解する
08. 組織文化1：組織における文化とは何か
09. 組織文化2：組織と文化の相互関係
10. コミュニケーション
11. コンフリクトと交渉1：概念モデル
12. コンフリクトと交渉2：ロール・プレイによる実践
13. 個人行動の基礎—価値観、態度
14. 個人行動の基礎—認知、学習
15. 前半まとめ
16. 動機付けの基本的なコンセプト—動機付けとはなにか、初期の理論
17. 動機付けの基本的なコンセプト—現代の理論、国民文化の影響
18. 動機付け：コンセプトから応用—給与制度設計と動機付け
19. 動機付け：コンセプトから応用—職務再設計
20. 動機付け：コンセプトから応用—多様化する労働力を動機付ける
21. 個人の意思決定
22. パワーと政治
23. リーダーシップ1：初期の理論
24. リーダーシップ2：状況を理論に組み入れる
25. 組織構造の基礎
26. 組織変革と組織開発1：理論的枠組み
27. 組織変革と組織開発2：現実組織での実践
28. チームプロジェクト発表—1【要出席】
29. チームプロジェクト発表—2【要出席】
30. 後半まとめ

準備学習(予習)

指定された参考資料は、授業前に読んでおくこと。これらに関しては、適宜質問を出すので、クラス・ディスカッションの準備をしておくこと。参考資料はUNIPAにアップロードするので、学生は使い方に習熟しておくこと

準備学習(復習)

随時、復習のための小テストを行うので、授業中に取ったノートを整理しておくこと。授業で議論した理論やフレームワークを、現実社会の課題にどのように適用できるか、逆に、理論やフレームワークの限界は何なのか、考えてみることに。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|----------------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業中に行う小テストの結果、ディスカッションへの参加、等を含む。 |
| (2) チーム・プロジェクト | 30% | 授業内で詳細を指示する |
| (3) 試験 | 50% | 2回の総合 |

教科書

ロビンズ、S.P.(2009) (高木晴夫訳) 『新版組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社。|アマゾン、出版元、等から購入可能。

参考書

教科書の各章に相当するような準備資料を、事前にUNIPAにアップロードしておくので、学生は、授業出席前にそれらをダウンロードして読んでおくこと。

担当教員：金子 毅

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P500880

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする意義を有する。学習を通して今後の不透明な21世紀アジアを含む世界情勢をシュミレートし、かつ生き抜く上での学知を獲得させることを目標とする。

(2) 内容

本講義では経営における人間の復権をテーマに、経営管理をめぐる様々な問題を管理組織と労務管理の2点から検討する。また、これに基づき、企業経営の国際間比較を行ない、人間を中心とする企業経営が日本においては成立しにくい要因を浮き彫りにする。

受講者に対する要望

講義を通して「企業で働く、仕事をする」際の自己の立ち位置を確認するようにしてもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 企業経営
- ・ 組織・人事管理
- ・ リーダーシップ
- ・ 労務管理

授業計画

01. プロローグ：経営管理とは何か？
02. 企業経営の形1：個人主義による企業経営
03. 企業経営の形2：経営家族主義による企業経営
04. 組織・人事管理1：組織って何？
05. 組織・人事管理2：企業目的を達成するためのしくみ
06. 組織・人事管理3：等級制度のしくみ
07. 組織・人事管理4：評価制度
08. 生産管理1：品質・コスト・納期
09. 生産管理2：生産管理の進め方
10. イノベーション：企業の中身をいかに変革するか
11. マーケティング1：マーケティングって何？
12. マーケティング2：お客とどのように関わるか
13. マーケティング3：お客にどんな価値を提供するか
14. 能力主義と成果主義；なじみにくい個人主義
15. リーダーシップ1：経営の成否の決め手
16. リーダーシップ：管理型マネジャーと変革型リーダー
17. NPOとNGO1：ボランティアとスタッフによる管理
18. NPOとNGO2：企業利益とどこが異なるのか
19. 労務管理1：労働組合の誕生（社会主義を旗印とした闘争）
20. 労務管理2：労働組合対策1（分裂する組合闘争）
21. 労務管理3：労働組合対策2（労使協調による団体交渉）
22. 労務管理4：福利厚生による従業員管理1（安全とリスク管理）
23. 労務管理5：教育訓練の導入（OJT、Off-JTとQC管理）
24. 労務管理6：従業員福利1（労働科学の研究：大原総研）
25. 労務管理7：従業員福利2（安全活動の矛盾）
26. 労務管理8：従業員福利3（ハインリッヒの法則と誤用）
27. 労務管理9：従業員福利4（健康管理1）
28. 労務管理10：従業員福利5（健康管理2）
29. 労務管理11：キャリア・デザイン（働く自分の将来像）
30. エピローグ：全体の総括、および討議

準備学習(予習)

配布プリント（A3、2枚程度）の事前の「音読」を通し、発問されると考えられる箇所をつかんでおく。

準備学習(復習)

配布プリントのアンダーラインの語句を中心に概念とその意味や結びつきを捉えながら、ノートに書き記す。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 80% |
| (2) 参加姿勢 | 10% |
| (3) 感想文 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：山田 ひとみ

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P501110

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

中級程度の商業簿記について学習する。商品売買業を主たる業務とする株式会社を前提とした取引の記帳方法の一巡を学びます。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。| 予習、復習、自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

(2) 内容

株式会社が作成する財務諸表を読む力がつき、経営状態を把握できるようになる（日商簿記2級程度）。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上で十分な基礎知識が身に付きます。

受講者に対する要望

「簿記」または「簿記(初級)」の単位取得後、もしくは日商簿記3級合格後に履修して下さい。「簿記(中級) B」の後に履修することもできます。

学びのキーワード

- ・複式簿記
- ・商業簿記
- ・株式会社会計
- ・会計学
- ・経営学

授業計画

01. 商業簿記の一巡
02. 現金・預金
03. 手形
04. 有価証券
05. 債権・債務
06. 引当金
07. 商品売買
08. 特殊商品売買
09. 株式会社会計(1)株式の発行、税金
10. 株式会社会計(2)社債
11. 株式会社会計(3)剰余金の配当・処分
12. 株式会社会計(4)繰延資産
13. 決算
14. 本支店会計
15. 総合問題

準備学習(予習)

日商簿記検定3級の過去問題集を継続的に解答して、簿記の基礎力をキープしましょう。また、授業計画を参照し、テキストの該当箇所を一読しておきましょう。

準備学習(復習)

講義中に解答&指示された演習問題を次回までに反復解答練習しましょう。 |

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験 | 40% |
| (2) ミニテスト | 30% |
| (3) 授業への参加度 | 30% |

教科書

第1回目の講義でテキストを指定します。

参考書

担当教員：山田 ひとみ

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P501320

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

企業会計の一巡を理解し、企業の所得の計算プロセスや法人課税の基礎を理解することができる。会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。

(2) 内容

企業は日々の取引を複式簿記で記録して会計情報を作成して決算を行い、その決算に基づいて所得を計算して納税申告をします。ですから、企業会計の一連の手続を学ぶには、会計と税務の両方について理解することが重要です。|会計分野は、「簿記とは何か」からスタートし、企業の会計情報の意義や種類について学びます。税務分野は、わが国の「税金とは何か」からスタートし、主として企業の所得に対して課税される法人税の理論と計算について学びます。企業経営全体を財務の観点から分析する手法を学びます。||

受講者に対する要望

簿記・会計初学者でも受講できます。「簿記（初級）」履修後または、同時に履修することをお勧めします。理解度チェックのため、適宜、レポートを提出してもらいます。

学びのキーワード

- ・ 企業会計
- ・ 経営財務論
- ・ 租税法
- ・ 会計学
- ・ 経営学

授業計画

01. ガイダンス（授業の進め方、採点方法について）
02. くらしと会計
03. くらしと租税
04. 株式会社の仕組みと税務・会計（1）
05. 株式会社の仕組みと税務・会計（2）
06. 会計の意義と会計学の研究対象
07. 複式簿記の仕組み（1）仕訳
08. 複式簿記の仕組み（2）貸借対照表
09. 複式簿記の仕組み（3）損益計算書
10. 複式簿記の仕組み（4）簿記一巡
11. 企業会計の仕組み（1）財産法と損益法
12. 企業会計の仕組み（2）棚卸法と誘導法
13. 企業会計の仕組み（3）会計公準
14. 企業会計の仕組み（4）会計原則
15. 企業会計制度（1）会社法
16. 企業会計制度（2）金融商品取引法
17. 企業会計制度（3）法人税法
18. 国際会計基準の取り扱い
19. 租税および租税法の意義
20. 租税法律関係の特色
21. 租税法の基本原則（1）租税法律主義
22. 租税法の基本原則（2）租税公平主義
23. 租税法規について
24. 納税義務について
25. 法人と法人税の意義
26. 法人税の課税根拠
27. 企業財務論（1）
28. 企業財務論（2）
29. 企業財務論（3）
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、推薦図書等で該当箇所を確認しておくこと。推薦図書→(1)『現代会計学（第12版）』（新井清光 著、中央経済社、2011年）(2)『現代税法の基礎知識』（岸田貞夫、柳裕治、他 著、ぎょうせい、2011年）

準備学習(復習)

配布プリントの再読と、講義中に指示された課題を次回までに終えること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 提出課題 | 30% |
| (2) 定期試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：関水 信和

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P501540

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

企業経営の意義・あり方とリスクをベンチャー企業の経営を通して理解することです。就職先を選ぶ時にも役に立つはずですが、| また、出席票に記入されたいくつかのコメントに対して、解説を加え、双方向性のある情報交換が行えるように努めています。

(2) 内容

当科目はベンチャー企業の現状と問題点やあり方などを学ぶものです。ベンチャー企業と取引をしたり、さらに起業したりする時に役に立ちます。またベンチャー企業経営の勉強を通して、企業と経営の本質について、理解を深められるような授業を行うので、ベンチャー企業と関わりを持たない人にも有意義なはずですが、講義では、録画したテレビ番組/DVDをいろいろと見て、ベンチャー企業を実体験できるようにします。| 尚、専門科目ではありますが、企業経営における財務ないし法務などとの関係を解説するので、会計や法律などを勉強する意義などが理解できて、それらの科目を勉強するモチベーションが増すはずですが、よって財務や法律をまだ勉強していない人にも受講をお勧めします。

受講者に対する要望

知識を増やすというよりも、企業経営の本質を理解することに力点を置いて講義をします。また毎週配布するコメント票に質問ないし意見を記入してください。次週の講義の中で、なるべく回答するようにし、双方向性を持った授業とします。

学びのキーワード

- ・ベンチャー企業
- ・経営
- ・ビジネス
- ・知的財産
- ・特許

授業計画

01. 履修ガイダンス、ベンチャービジネスを勉強する意義など
02. 企業とは、ベンチャー企業とは
03. 企業経営と財務管理・法務管理などとの関係
04. 日本のベンチャー企業の現状
05. 産学連携とベンチャー企業
06. 産学連携の日・米・欧比較
07. 産学連携と知的財産
08. ベンチャー企業の特許戦略 1
09. ベンチャー企業の特許戦略 2
10. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 1
11. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 2
12. ベンチャー企業の目標と株式上場
13. 事例研究
14. 起業のリスクと意義
15. まとめ、理解度の確認

準備学習(予習)

授業の中で、次回のテーマを説明するので、基礎的事項を勉強し、問題意識を持って受講するようにしてください。

準備学習(復習)

授業で説明した内容の具体的な事例を文献ないしインターネットなどで調べて、確認するようにしてください。そして配布するコメント票などに記入するように心掛けてください。記入されている質問に対しては、次の講義で回答するようにしています。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席票の記述内容を平常点として評価します。 |
| (2) 課題 | 30% | レポート形式の課題を出します。 |
| (3) 期末試験 | 40% | 配布資料・ノートなど持込み可 |

レポートについて|①必ず提出してください。|②卒論執筆の準備とようになります。|③解説の中で卒論執筆の方法をアドバイスします。

教科書

参考書

関水信和著『社会人大学院・通信制大学の勤め(仮題)』(2017年4月中央経済社より出版予定)の|巻末のベンチャー企業に関する資料が授業の参考となります。

担当教員：金子 毅

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P501650

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

机上の理論よりも不況を経営の方向を見定めるビジネスチャンスを生き抜きの知恵として活かすことを学ぶ点にこそ経営史の意義が存在するといえる。講義形式で進めるが、一方向的な講義に終始せず、常に受講生との「対話」を重視し、経営に対する鋭敏な時代感覚を養わせるようにしたい。

(2) 内容

世界恐慌のさなか、多くの企業が倒産へと追い込まれる中、経営の基礎を固め業績を伸ばした企業もまた存在することからこれを教訓として生み出されたのが経営史という学問である。本講義では、その基礎になる理論とともに社史を主な資料とする産業別の企業発展史を支柱に話を進めることにしたい。

受講者に対する要望

講義には柔軟な頭と軽いフットワークで知の迷宮に挑んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 経営における歴史の位置づけ
- ・ 人間
- ・ 理論史
- ・ 企業史

授業計画

01. プロローグ：なぜ経営史を学ぶのか
02. 経営における歴史の扱い方
03. 基礎理論1：テイラーの科学的管理法
04. 電器産業：パナソニック1
05. 基礎理論2：フォーディズムの誕生とその浸透1
06. 電器産業2：パナソニック2
07. 基礎理論3：フォーディズムの誕生とその浸透2
08. 自動車産業：トヨタ自動車1
09. 基礎理論4：フォーディズムの問題点
10. 自動車産業トヨタ自動車2
11. 基礎理論5：ホーソン実験と人間関係論
12. 自動車産業：トヨタ自動車3
13. 基礎理論6：マズローの欲求5段階説
14. 家電産業：ソニー1
15. 基礎理論7：デシの自己決定の理論
16. 家電産業：ソニー2
17. 基礎理論8：企業内教育1
18. 化粧品産業：資生堂1
19. 基礎理論9：企業内教育2
20. 化粧品産業：資生堂2
21. 基礎理論10：個人主義による企業経営
22. 小売業：ダイエー1
23. 基礎理論11：家族主義による経営1（温情主義）
24. 小売業：ダイエー2
25. 基礎理論12：家族主義による経営2（恩情主義）
26. 小売業：ユニクロ1
27. 基礎理論13：リスクと安全の経営史1
28. 小売業：ユニクロ2
29. 基礎理論14：リスクと安全の経営史2
30. エピローグ：集団討議（経営史から見える日本企業）

準備学習(予習)

配布プリント（A3、2枚程度）を事前に「音読」し、自分で「読みながら聞く」作業をした上で必ず講義に参加すること。

準備学習(復習)

配布プリントの下線部や概念などについての書き込みを中心に音読し、これをノートに整理していく。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 80% |
| (2) 参加姿勢 | 10% |
| (3) 感想文 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：柴田 武男、国際社会貢献センター A

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P501761

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目 【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

本講座で講師たちの語る内容は、分かりやすい現実論である。実社会とはいかなるところか。仕事の現場では、どのようなことが行われているのか。また海外のビジネスの現場は、国内とどのように違い、どのような多様性があるのか。そして、そこで求められるものとは何か。| 複数の講師たちが語る様々なメッセージを注意深く聴き、自ら咀嚼し、理解できないところは講師に質問する。講義に対するそのような積極的な態度をとることを通じて、必ずや将来の糧となるものが得られるはずである。| 本講座を受講することで、変貌する世界に向ける目を養って欲しい。世界は広く、そこには多様、多彩な活躍の場が待っていることを、是非学んで欲しい。|

(2) 内容

春学期開講、15コマを複数の講師が講義する、オムニバス方式の講座である。講師はいずれも、戦後の日本経済を牽引した各種基幹産業に勤務し、主に国際ビジネスの現場で活躍した元ビジネスマンである。講義の内容は、講師たちの実務体験に基づいた生々しい仕事の現場の状況や、各講師の勤務した各産業における全体構造の変遷、現状、そしてそれぞれの産業が抱える問題点や、将来の課題などを語る。| また、将来実業界を目指す学生たちに対して、実社会で働く心構えや、ビジネスに対する基本的な考え方など、社会人の先輩としての各講師からのメッセージが送られる。| 本講座の続編として、秋学期開講の「国際ビジネスの現場B」がある。日本の産業界の実像を把握するために、両講座を継続して受講することが望ましい。|

受講者に対する要望

日々のビジネス世界の動きに関心を持つこと。また各講義の中で、関心を持った事柄をさらに調べて知識を深めること。

学びのキーワード

- ・仕事の現場を知る
- ・ビジネスの基本を知る
- ・世界を見る目を養う
- ・世界の多様性を知る

授業計画

01. グローバル化にいかに対応すべきか | 講師：内田敬一郎（元三菱商事）
02. 日本食品産業の挑戦|~日本の食文化を世界に発信~I | 講師：関原滋彦（元住友商事）
03. 日本食品産業の挑戦|~日本の食文化を世界に発信~II | 講師：関原滋彦（元住友商事）
04. 国際市場における日本の機械製造業の特徴|~最大市場中国での競争を中心事例として~I | 講師：奥信彦（元コマツ）
05. 国際市場における日本の機械製造業の特徴|~最大市場中国での競争を中心事例として~II | 講師：奥信彦（元コマツ）
06. 日本の製薬業界の現状~国際社会との関係と課題~I | 講師：錦織浩治（元山之内製薬）
07. 日本の製薬業界の現状~国際社会との関係と課題~II | 講師：錦織浩治（元山之内製薬）
08. 鉄鋼産業のグローバル化と技術革新I | 講師：植木正憲（元新日本製鉄）
09. 鉄鋼産業のグローバル化と技術革新II | 講師：植木正憲（元新日本製鉄）
10. 我が国の自動車産業のグローバル展開|~その現状と課題~I | 講師：関知耻忠（元日産自動車）
11. 我が国自動車産業のグローバル展開|~その現状と課題~II | 講師：関知耻忠（元日産自動車）
12. エネルギービジネスの国際展開|~エネルギー問題解決に挑む民間プロジェクト~I | 講師：荒川昌佳（元三菱商事）
13. エネルギービジネスの国際展開|~エネルギー問題解決に挑む民間プロジェクト~II | 講師：荒川昌佳（元三菱商事）
14. 日本の保険会社の海外事業—その背景と課題I—|前川正（元三井住友海上）
15. 日本の保険会社の海外事業—その背景と課題II—|前川正（元三井住友海上）

準備学習(予習)

次回講師の講義テーマに関連し、関心ある事項を調べておくこと。また、講師への質問を準備しておくこと。

準備学習(復習)

初講を除き、各講師は2コマずつ担当する。各講師の1コマ目の講義内容を復習し、疑問点を2コマ目の講義の際に講師に対して質問すること。

評価方法

- | | |
|----------------|---------------------|
| (1) 平常点による加点減点 | 10% |
| (2) 課題レポート提出 | 90% 7人の講師が、レポート課題提示 |

平常点を重視するので、質問等講義への積極的な参加を期待する。

教科書

参考書

担当教員：柴田 武男、国際社会貢献センターB

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P501862

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目 【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

本講座で講師たちの語る内容は、分かりやすい現実論である。実社会とはいかなるところか。仕事の現場では、どのようなことが行われているのか。また海外のビジネスの現場は、国内とどのように違うのか。そこで求められるものとは何か。複数の講師たちが語る様々なメッセージを注意深く聴き、自ら咀嚼し、理解できないところは講師に質問する。講義に対するそのような積極的な態度をとることを通じて、必ずや将来の糧となるものが得られるはずである。|本講座を受講することで、目まぐるしく変貌する世界に向けた目を養って欲しい。世界は広く、そこには多様、多彩な活躍の場が待っていることを、学んで欲しい。

(2) 内容

秋学期開講、15コマを複数の講師が講義する、オムニバス方式の講座である。講師はいずれも、現在の日本経済を牽引する各種基幹産業に勤務し、主に国際ビジネスの現場で活躍した元ビジネスマンである。講義の内容は、講師たちの実務体験に基づいた生々しい仕事の現場の状況や、各講師の勤務した各産業における全体構造の変遷、現状、そしてそれぞれの産業が抱える問題点や、将来の課題などを語る。| また、将来実業界を目指す学生たちに対して、実社会で働く心構えや、ビジネスに対する基本的な考え方など、社会人の先輩としての各講師からのメッセージが送られる。| 本講座は、春学期開講の「国際ビジネスの現場A」の続編である。春学期は主に、戦後経済成長を担った主力産業を取り上げるが、秋学期は比較的新しく台頭し、変貌の只中にある産業を中心に取り上げる。春学期「国際ビジネスの現場A」と本講座を、継続して受講することが望ましい。

受講者に対する要望

日々のビジネス世界の動きに関心を持つこと。また各講義の中で、関心を持った事柄をさらに調べて知識を深めること。

学びのキーワード

- ・仕事の現場を知る
- ・ビジネスの基本を知る
- ・世界を見る目を養う
- ・世界の多様性を知る

授業計画

01. 海外進出・海外取引にあたっての留意点 | 講師：内田敬一郎（元三菱商事）
02. 日本の製粉業について I | 講師：植松計雄（元日清製粉）
03. 日本の製粉業について II | 講師：植松計雄（元日清製粉）
04. 金融を支える決済制度と送金のはなし | 講師：後藤守孝（元三菱UFJリサーチ&コンサルティング）
05. 身近な外国為替相場のはなし | 講師：後藤守孝（元三菱UFJリサーチ&コンサルティング）
06. 日本の繊維産業について I | 講師：和田滋（元東レ）
07. 日本の繊維産業について II | 講師：和田滋（元東レ）
08. 地球を守る資源とその循環システムの構築 I | 講師：坂本行正（元三菱商事）
09. 地球を守る資源とその循環システムの構築 II | 講師：坂本行正（元三菱商事）
10. グローバリゼーションと日本の航空業界 I | 講師：伊原隆（元日本航空）
11. グローバリゼーションと日本の航空業界 II | 講師：伊原隆（元日本航空）
12. ビジネス情報サービスの提供現場とIT技術 I | 講師：松尾光（元日本経済新聞）
13. ビジネス情報サービスの提供現場とIT技術 II | 講師：松尾光（元日本経済新聞）
14. 日本の半導体・エレクトロニクス産業の再生 I | 講師：渡辺修（元NEC）
15. 日本の半導体・エレクトロニクス産業の再生 II | 講師：渡辺修（元NEC）

準備学習(予習)

次回講師の講義テーマに関連し、関心ある事項を調べておくこと。また、講師への質問を準備しておくこと。

準備学習(復習)

初講を除き、各講師は2コマずつ担当する。各講師の1コマ目の講義内容を復習し、疑問点を2コマ目の講義の際に講師に対して質問すること。

評価方法

- | | |
|----------------|---------------------|
| (1) 平常点により加点減点 | 10% |
| (2) 課題レポート提出 | 90% 7人の講師が、レポート課題提示 |

平常点を重視するので、質問等講義への積極的な対応を期待する。

教科書

参考書

担当教員：八木 規子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P502210

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力・世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

文化、ことに異文化という言葉は、往々にして国民文化の違いを想起させる。しかしながら、文化の違いは、国の境界線の内と外にあるばかりでなく、国のなかにも異文化は存在するし、また国の境界線と文化の境界線が重なり合うとも限らない。ところが、日本は、国家、文化、言語の三つの境界線が重なり合う、世界でも珍しい国である。このため、日本人にとって、こうした文化の境界線の多様性を直感的に理解することは、とても難しい。しかし、多文化社会に生きる感受性を高めることは、国内外を問わず、異なる文化背景から来る人びととの協同作業を、実りの高い建設的なものとする能力向上の前提条件である。そこで、本科目では、体験的学習手法を通じて、学生がこのような建設的な異文化接触の可能性を実感し、将来職場で異文化マネジメントを実践する自信を持つことを目標とする。

(2) 内容

本科目は、異なる文化背景を持つ人々がともに働くときにしばしば起こる現象について、そのメカニズムを考察するとともに、異なる文化背景を持つ人々の接触を、衝突や障害ではなく、豊かな実りある建設的な結果へと、つなげるために必要な知識、スキル、態度を学ぶ。学習方法として、ロール・プレイ、シミュレーション、ケーススタディなどの手法を用い、経験→内省→理論化→実験というKolbの学習理論に基づく学びを目指す。また、国民社会レベルの文化の他に、人間の認知が『差異』を感じる、さまざまな属性（ジェンダー、年齢、等）にも関心を向け、異文化マネジメントを、多様性（ダイバーシティ）の高い組織のマネジメントに応用する方策についても考えてゆく。

受講者に対する要望

異文化マネジメントとは、他者の視点から自分自身を見つめなおすことでもある。それには、自分が快適で居られる領域から一步踏み出して、未体験の領域に足を踏み入れる必要がある。この科目の受講を通して、学生がそのような勇気を持つことを期待する。

学びのキーワード

- ・ 経営
- ・ 異文化
- ・ ダイバーシティ

授業計画

01. コース紹介
02. なぜ企業はグローバル化するのか？文化とビジネスの接点
03. 文化とは何か
04. 文化を比較する-1：時間と空間
05. 文化を比較する-2：価値観
06. 文化を比較する-3：言語と非言語メッセージ
07. 異文化接触-1：文化アイデンティティ
08. 異文化接触-2：選択的認識 | マイノリティ経験プロジェクト企画書提出締め切り
09. 異文化接触-3：差別的な帰属
10. 異文化インテリジェンス-1：戦略的思考の側面
11. 異文化インテリジェンス-2：意欲・動機の側面
12. 異文化インテリジェンス-3：行動の側面 | マイノリティ経験プロジェクト要旨提出締め切り
13. マイノリティ経験プロジェクト発表-1
14. マイノリティ経験プロジェクト発表-2
15. 意思決定者としてのグローバル・マネジャー-1：意思決定モデルの文化差
16. 意思決定者としてのグローバル・マネジャー-2：倫理的ジレンマ
17. 交渉者としてのグローバル・マネジャー-1：国際ビジネスにおける交渉条件
18. 交渉者としてのグローバル・マネジャー-2：交渉スタイルの文化差
19. 交渉者としてのグローバル・マネジャー-3：ロール・プレイ
20. リーダーとしてのグローバル・マネジャー-1：部下の動機付け
21. リーダーとしてのグローバル・マネジャー-2：リーダースタイルの文化差
22. 多文化チームで働く-1：チームを編成する
23. 多文化チームで働く-2：組織の文脈
24. 企業戦略と企業の異文化対応志向-1：グローバルイノベーション
25. 企業戦略と企業の異文化対応志向-2：ローカリゼーション
26. 組織構造と文化
27. 国際キャリアの形成-1：海外赴任
28. 国際キャリアの形成-2：本国復帰
29. 異文化マネジメントの未来
30. 期末振り返り

準備学習(予習)

参考資料（課題読み物、事前準備アセスメント、授業で行うロール・プレイのシナリオ、等）は、UNIPA「授業資料」セクションにアップロードする。これらの資料は、授業前にダウンロードし、読みこんだ上で、授業に参加すること。随時、UNIPA「クラスフォーラム」セクションに、事前にこれら参考資料に対する学生の意見記

準備学習(復習)

授業で学んだ内容の理解度を測る復習小テストを随時行うので、ノートをもとめておくこと。期末テストの準備は、小テストの振り返りが有効である。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 授業への積極的、建設的な参加 授業内小テスト |
| (2) マイノリティ経験プロジェクト | 35% | 企画書提出、クラス内発表、レポート提出の各段階でフィードバックを行う |
| (3) 期末試験 | 35% | |

教科書

参考書

担当教員：平 修久

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P600440

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

自分たちのまちは自分たちで良くしようという、生活環境の改善や地域振興という動きが全国で広がっている。このようなまちづくりは、人と人とのつながりを深めるばかりでなく、関わっている人たちの人間的成長ももたらす。まちは総合的なものであり、まちづくりを学ぶことは視野を広げ、人生をより豊かなものにするにつなげる。また、身近なまちの問題や課題、まちづくりの意義、内容、手法を理解し、説明できるようになることが学びの目標である。

(2) 内容

本科目では、背景、定義、タイプなど、まちづくりの概要、まちづくりの進め方と主な手法、分野別課題と事例、まちづくりの意義や目指すものなどを学ぶ。

受講者に対する要望

自分の居住しているまちや大学周辺のまちに対する関心を高め、どのようにしたら、よいまちになるかという意識を持って受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・コミュニティ
- ・活性化

授業計画

01. 1. まちづくりの概要 (アイスブレイク)
02. 1. まちづくりの概要 (聖学院大学周辺のまちづくり)
03. 1. まちづくりの概要 (まちづくりとは)
04. 1. まちづくりの概要 (まちづくりの歴史)
05. 1. まちづくりの概要 (まちづくりの分類・担い手)
06. 1. まちづくりの概要 (まちづくりの分類別事例)
07. 1. まちづくりの概要 (まちづくりのプロセス)
08. 1. まちづくりの概要 (住民参加と協働)
09. 1. まちづくりの概要 (住民参加と協働の進め方)
10. 1. まちづくりの概要 (住民参加と協働の事例)
11. 2. 生活環境維持改善のまちづくり (都市計画・地区計画①)
12. 2. 生活環境維持改善のまちづくり (都市計画・地区計画②)
13. 2. 生活環境維持改善のまちづくり (都市計画・地区計画③)
14. 2. 生活環境維持改善のまちづくり (郊外住宅地の維持)
15. 2. 生活環境維持改善のまちづくり (福祉のまちづくり)
16. 3. つなげるまちづくり (コミュニティの現状と創造)
17. 3. つなげるまちづくり (新しいコミュニティの創造の事例)
18. 3. つなげるまちづくり (子育て支援の事例)
19. 3. つなげるまちづくり (子育て環境の変化と改善)
20. 3. つなげるまちづくり (居場所づくり)
21. 4. 活性化のまちづくり (中心市街地の問題と対応)
22. 4. 活性化のまちづくり (中心市街地活性化の事例①)
23. 4. 活性化のまちづくり (中心市街地活性化の事例②)
24. 4. 活性化のまちづくり (中心市街地活性化の事例③)
25. 4. 活性化のまちづくり (食とまちづくり)
26. 4. 活性化のまちづくり (食とまちづくりの事例)
27. 4. 活性化のまちづくり (観光まちづくり)
28. 4. 活性化のまちづくり (アニメのまちづくり)
29. 4. 活性化のまちづくり (ゆるキャラ、まち歩き)
30. 5. まとめ (まちづくりの本質)

準備学習(予習)

事前に指示する参考文献や配布物などを読んでおくこと。

準備学習(復習)

毎回の講義内容を整理し、まとめること。また、授業に関連する課題については、授業内容の理解を深める復習として、期日までに提出すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 20% |
| (2) 課題 | 40% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

授業の中で指示する。

担当教員：中原 純

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P600660

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのような考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。

(2) 内容

「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問を社会心理学的に解説します。授業の最終盤では、受講生のみなさん自身が、社会心理学の知識を用いて、身近な疑問を解決していく練習を企画しています。

受講者に対する要望

授業中でも内容に関する積極的な発言、質問は歓迎します。また、随時コメントシートを配布しますので、わからないことがあればシートに質問を記入してください。

学びのキーワード

- ・ 自己
- ・ 他者
- ・ 集団
- ・ 社会

授業計画

01. 社会心理学とは
02. 自己概念(1)
03. 自己概念(2)
04. 文化的自己
05. 対人認知(1)
06. 対人認知(2)
07. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(1)
08. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(2)
09. 態度と態度変容(1)
10. 態度と態度変容(2)
11. 人間関係の進展(1)
12. 人間関係の進展(2)
13. 人間関係の進展(3)
14. 幸福感
15. まとめ(1)
16. 社会からの影響(1)
17. 社会からの影響(2)
18. 社会からの影響(3)
19. 集団と集団間関係(1)
20. 集団と集団間関係(2)
21. 集団と集団間関係(3)
22. 集団と集団間関係(4)
23. 現代的問題と社会心理学—インターネット—
24. 現代的問題と社会心理学—性—
25. 現代的問題と社会心理学—キャリア—
26. 現代的問題と社会心理学—超高齢社会—
27. 応用課題(1)
28. 応用課題(2)
29. 応用課題(3)
30. まとめ(2)

準備学習(予習)

特に必要ありません。

準備学習(復習)

試験に備えて、授業で触れた重要なキーワードは説明できるようにしておいてください。

評価方法

- | | |
|-------------------|---------------------|
| (1) 授業内容に関する小レポート | 35% |
| (2) 応用課題 | 15% |
| (3) 試験 | 50% 持ち込み不可の試験を行います。 |

教科書

参考書

担当教員：土方 透

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P600770

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

大学での勉学で「役に立つ」ことを学ぼうとするのであれば、他の科目を履修することが望ましい。そのような「想定内」の問題に答える叡智は、大学での学問とは関係がない。想定外の問題がこれまで指摘されている現代社会にあって、必要なことは、過去の人類の知的な蓄積を学ぶことで、自己の確かな推理力・判断力を養うことである。それが学びの意義であり、それをどのように獲得し、我がものとするかは、各受講者にゆだねる。

(2) 内容

本講義では、現代の社会学理論が到達した学問的境位を、人間の知の展開として位置づけることを目的とする。講義では、まず人類の思想の歴史的展開を概観する。そのことにより、はじめて最新の理論と呼ばれるものの「新しさ」が明らかになる。すなわち、思想史上の連続的側面と非連続的側面から、現代の理論というものが理解可能となるわけである。そうした作業を経たうえで、現代社会において、所与のものとして市民権を得た諸思想ならびに諸価値の限界を指摘しつつ、いま考えられる可能な選択肢を提示したい。||

受講者に対する要望

本講義では、広範な領域におよぶ知的好奇心と、高度に抽象的な議論に耐えられる能力が要求される。

学びのキーワード

- ・ 理論
- ・ 社会
- ・ 自己言及性
- ・ 複雑性
- ・ システム

授業計画

01. 科学の危機：イントロダクション
02. 科学の危機：概要
03. 主観／客観
04. 20世紀初頭の諸科学の危機とパラダイム転換
05. 自然科学における転換
06. 人文科学における転換
07. 社会科学における転換
08. 現代思想の境位
09. 小括
10. 古典的科学観
11. 近代の科学観と社会科学の成立
12. マルクスの科学観
13. ヴェーバーの科学観
14. 社会科学における客観性
15. 客観性問題：存在と当為
16. 規範科学と事実科学
17. 文献解題 1
18. 文献解題
19. 小括
20. 脱構築
21. コスモスと複雑性
22. 部分と全体
23. 客観性と客観化可能性
24. 規範と構造
25. 小括
26. 自己言及性
27. 脱-パラドクス化
28. 自己塑性的社会システム
29. 総括 1
30. 総括 2

準備学習(予習)

なお、講義に際しては、毎回レジメを配布するほか、具体的な時事問題にも触れながら、各トピックスを扱っていく。レジメに目を通した上で参加し、終了後に配布された資料と併せて再読すること。

準備学習(復習)

前回の議論を、そのつど確認してそのつどの講義に臨んで欲しい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 40% |
| (3) レポート | 30% |
- 各ステップにおける受講者の理解状況を確認する意味で、何度か小テストとそのフォローを行う。

議論が毎回積み上げられていくので、出席をすることがすべての評価の前提となる。

教科書

土方 透『法という現象：実定法の社会的解明（叢書現代社会のフロンティア）』（ミネルヴァ書房）【978-4623048991】

参考書

テキストの他、プリントを配布する。

担当教員：渡邊 隼

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P600990

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【R】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

今日、家族は非常に多義的な存在であり、さまざまな社会問題を理解するうえで必要不可欠なものとなっている。講義を通じて、家族をめぐる問題についての基礎を学ぶとともに、多様な家族のありかたを理解するにあたって役に立つような知識や考え方を身につけてもらいたい。

(2) 内容

現代社会の家族をめぐる問題について総合的に学ぶ。

受講者に対する要望

・「家族」について問題関心を持っていること。
・社会学について、ある程度の知識があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・近代家族
- ・親密性・親密圏
- ・多様な家族
- ・ジェンダー
- ・家父長制

授業計画

01. 家族とは（1）
02. 家族とは（2）
03. 家族の種類（1）
04. 家族の種類（2）
05. 性と愛（1）
06. 性と愛（2）
07. 結婚の意味と機能（1）
08. 結婚の意味と機能（2）
09. 離婚・再婚（1）
10. 離婚・再婚（2）
11. 家族の危機（1）
12. 家族の危機（2）
13. 家族と役割（1）
14. 家族と役割（2）
15. 家族と子育て（1）
16. 家族と子育て（2）
17. 家族と介護（1）
18. 家族と介護（2）
19. 多様な家族（1）
20. 多様な家族（2）
21. 母子世帯・父子世帯（1）
22. 母子世帯・父子世帯（2）
23. フェミニズム思想と家族（1）
24. フェミニズム思想と家族（2）
25. 生殖補助技術と家族観（1）
26. 生殖補助技術と家族観（2）
27. 晩婚化・非婚化（1）
28. 晩婚化・非婚化（2）
29. 近代家族論（1）
30. 近代家族論（2）

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①自分が興味関心を抱いた事柄、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

岩間咲子・大和礼子・田間泰子, 2015. 『問いからはじめる家族社会学：多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣.

マスコミュニケーション論

SOCI-P-300/SOCI-A-3

担当教員：鄭 鎬碩

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P601000

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

(1) マスコミュニケーションと社会変容を考えるための基礎知識を習得する。| (2) 文献や映像資料を批判的に読みとく力を鍛える。

(2) 内容

本講義ではマスコミュニケーションと社会変容について学習する。文献、新聞記事、写真、映像など多様な資料をから、「大衆」「群衆」「国民」「公衆」の形成にかかわる情報メディアのダイナミックな働きについて学び、コミュニケーションという視点から歴史を捉えるための基本的な感覚を身につける。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、発表してもらおう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ マスメディア
- ・ 印刷革命
- ・ 公共圏
- ・ ジャーナリズム
- ・ 社会運動

授業計画

01. イントロダクション (1) : マスコミュニケーションを考える
02. イントロダクション (2) : メディアと社会変容
03. 「マス」の時代、近代 (1) 資本主義
04. 「マス」の時代、近代 (2) 国民国家
05. 「マス」の時代、近代 (3) 自由主義
06. 「マス」の時代、近代 (4) 大衆メディア
07. 練習・討論①
08. 練習・討論②
09. 声の文化と文字の文化
10. 印刷革命と科学革命
11. 印刷革命と宗教改革
12. 「想像の共同体」と「国語」の誕生 (1)
13. 「想像の共同体」と「国語」の誕生 (2)
14. コーヒーハウスと公共圏 (1)
15. コーヒーハウスと公共圏 (2)
16. 練習・討論③
17. 練習・討論④
18. ジャーナリズムと市民社会 (1)
19. ジャーナリズムと市民社会 (2)
20. 公共圏の歴史的変容 (1)
21. 公共圏の歴史的変容 (2)
22. 練習・討論⑤
23. 練習・討論⑥
24. マスメディアと社会運動 (1)
25. マスメディアと社会運動 (2)
26. マスメディアと社会運動 (3)
27. メディア・イベントと集合的記憶 (1)
28. メディア・イベントと集合的記憶 (2)
29. メディア・イベントと集合的記憶 (3)
30. まとめ

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を文章でまとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 期末レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

担当教員：土方 透

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P601210

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

現代社会に特徴的な問題をピックアップし、社会を定式化する諸説の紹介とともに、本講義では、現代社会を読み込むための前提とするであろう学問的基盤を出発点に、このようにして定式化された見地によって、アクチュアルな問題がいかに取り扱われるか、現実の社会問題に言及しつつ、その様態を描出する。講義は映像資料なども多く用いる予定。

(2) 内容

受講生の批判的推察力と、自ら社会を構成する主体としての意識を惹起したい。

受講者に対する要望

講義で展開される議論を、他人事として理解せず、自分の問題として理解できるよう、普段から新聞やニュースで採り上げられるさまざまな問題について、注意をはらっていただきたい。

学びのキーワード

- ・ 社会
- ・ 狂気
- ・ 個人
- ・ 自由
- ・ 安全

授業計画

01. 社会科学の到達点
02. 社会科学の到達点
03. 分析のための諸前提
04. 分析のための諸前提
05. リスク社会
06. リスク社会
07. 安全のパラドクス
08. 安全のパラドクス
09. 社会の免疫
10. 社会の免疫
11. 共生社会
12. 共生社会
13. 自然との共存
14. 異文化との共存
15. 包摂と排除
16. 包摂と排除
17. ヒステリーと狂気
18. ヒステリーと狂気
19. 近代社会と合理性
20. 近代社会と合理性
21. 自由からの逃走
22. 自由からの逃走
23. 集団の暴走
24. 集団の暴走
25. 科学と宗教
26. 科学と宗教
27. ポスト合理性
28. ポスト合理性
29. 総括 1
30. 総括 2

準備学習(予習)

講義の進行がその積み重ねを前提としているため、毎回の講義で確認された事項を、受講者において次回の講義までに確認してくる作業が予習として求められる。

準備学習(復習)

講義で展開された議論を、身近なところに応用し、教室での学びを自分の問題として受け取る訓練をすること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) テスト | 40% | 受講者の理解状況の確認のために、何度か小テストおよびそのフォローを行う。 |
| (3) レポート | 30% | |

教科書

適宜、教室で指示する。

参考書

適宜、指示ないし配布する。

担当教員：川田 虎男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P601660

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。||「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

(2) 内容

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。||また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくこととなります。||基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無は問いません。||

受講者に対する要望

参加型の授業が多く、グループワークや発表などがありますので、積極的な参加をお願いします。

学びのキーワード

- ・ ボランティア
- ・ 市民活動
- ・ NPO

授業計画

01. オリエンテーション
02. ボランティアの定義と活動分野
03. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」
04. 市民活動・NPO法人とボランティア
05. 大学生とボランティアI
06. 大学生とボランティアII
07. ワークショップ「ボランティアの種を探す」
08. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション
09. 実際のボランティア活動を知るI「災害ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知るII「コミュニティ活動ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知るIII「環境ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知るIV「国際ボランティア」
13. まとめと振り返りI
14. まとめと振り返りII
15. まとめと振り返りIII

準備学習(予習)

実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。
授業では毎回一定程度の分量の振り返りシートの記入をしていただく予定です。

準備学習(復習)

昨年度も授業での学びから、様々な活動やプロジェクトが生まれました。授業で学んだことを実際の活動に活かせるよう工夫してください。
具体的には、ゲストスピーカーの関わる現場やボランティアセンターを活用して、ボランティア活動を体験することを推奨します。知識として学んだことを、「自分の体験」として納得する機会を作ってください。

評価方法

(1) 平常点	25%
(2) 授業への参加度	25%
(3) 中間レポート	20%
(4) 試験	30%

授業期間中にボランティア体験を行いレポートの提出をしていただきます。

教科書

参考書

担当教員：加藤 敦也

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P601910

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

「文化社会学」は、幅広い文化現象を分析の対象とする社会学の領域です。文化社会学の視座を理解することにより、日常の消費生活とグローバルな資本主義との関連を理解すること、電子メディアの情報を批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を身につけること、音楽やファッション、映画などの表象を社会的に理解する方法論を習得することを目指します。

(2) 内容

文化とは広く社会の生活様式を指します。例えば、日常生活では衣食住を基本とする文化がありますが、そこからは生産と消費の変化やテクノロジーの進展など様々な社会の変化を読み取ることができます。また、芸術の鑑賞、娯楽などの文化からは、都市化とメディアの発達といった社会の変化が読み解けます。この講義では、生活様式としての文化、メディアと文化、ポピュラー文化などをテーマとして、文化についての理論と研究方法を紹介していきます。例えば、ファッションやポピュラー音楽といった文化、普段目にしていないテレビ番組など、日常生活の身近な現象を題材としますので、視聴覚資料を用いた具体的で分かりやすい授業の内容構成となります。

受講者に対する要望

文化社会学が扱うテーマは、学生各自にとっても身近なものです。テレビ、映画、音楽、漫画、ファッション、食生活など日常生活で接する文化を楽しみつつ、なぜ学問の対象となるのかを考えながら、授業に意欲的にのぞんでいただければ幸いです。

学びのキーワード

- ・社会学
- ・サブカルチャー
- ・ポピュラー文化
- ・メディア
- ・消費社会

授業計画

01. イントロダクション（授業の進め方・評価方法について）
02. 文化社会学の諸理論
03. 都市化と生活様式の変容（消費生活と盛り場の歴史）
04. 都市におけるサブカルチャーの発展（文学、音楽など芸術の歴史）
05. メディアの発展史①（印刷技術の発明、電話、ラジオ、テレビ）
06. メディアの発展史②（インターネット、スマートフォンなどITメディア）
07. ポピュラー文化論
08. 文化に関する小括・討論①（メディアの受容経験）
09. ポピュラー音楽論①（ビートルズ現象）
10. ポピュラー音楽論②（パンクロックの登場）
11. ファッションの理論①（滴り理論と顕示的消費）
12. ファッションの理論②（記号学と記号消費）
13. ファッションの理論③（ジェンダー）
14. 映画鑑賞（「アニー・ホール」）
15. 映画の歴史と文化
16. テレビの文化
17. 漫画の歴史と文化
18. 文化に関する小括討論②（ポピュラー文化の理解について）
19. 消費社会の歴史と理論
20. ファストフード文化
21. ショッピングモールの発展
22. 文化に関する小括・討論③（消費と日常生活）
23. 教育と文化①（学校）
24. 教育と文化②（多様な学び：オルタナティブ教育）
25. 恋愛と文化①（結婚とロマンティック・ラブ・イデオロギー）
26. 恋愛と文化②（多様化するセクシュアリティ）
27. 映画鑑賞（「（500日の）サマー」）
28. 文化に関する小括・討論④（恋愛意識と文化）
29. グローバリゼーションと多文化主義
30. まとめ

準備学習(予習)

予習に当たっては、各授業回のタイトルのキーワードを文献で調べておくことが望ましい。なお、社会学辞典なども参考にするとよい。

準備学習(復習)

復習に当たっては、授業時に取ったノートを熟読し、さらに配布資料を熟読しておくことが望ましい。また、授業を受けて各自が関心を覚えた文化社会学のキーワードとそれに付随する社会現象などは、文献もしくはインターネットなどで調べてみることを薦める。

評価方法

- | | |
|--------------|-------------|
| (1) 平常点 | 30点 |
| (2) ディスカッション | 20点 授業中に課す。 |
| (3) 定期試験 | 50点 |

授業のコメントページおよびディスカッションへの取り組みを評価に含む。授業への積極かつ意欲的な参加が望ましい。また、評価については上述の授業への取り組みに加え、定期試験を行い、その結果と合わせて判定する。

教科書

特になし。

参考書

ドミニク・ストリナチ（著）、渡辺潤・伊藤明己（訳）、2003、『ポピュラー文化論を学ぶ人のために』世界思想社。|南田勝也・辻泉編著、2008、『文化社会学の視座——のめりこむメディア文化とそこにある日常の文化』ミネルヴァ書房。|井上俊・長谷正人編、2010、『文化社会学入門』ミネルヴァ書房。

担当教員：加藤 敦也

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P602010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

授業の意義と目標は、受講者がジェンダー論を学ぶことにより、性に関するステレオタイプの発想で生じる諸問題とジェンダーの不平等について理解できるようになることである。受講者には、自らが経験している日常生活の様々な場面にジェンダーの問題が深くかかわっていることを理解してもらいたい。また、ジェンダーにとらわれない諸個人のライフスタイルの多様性を理解してもらうことも目標とする。

(2) 内容

女／男という区分は、生物学や医学、脳科学などの説明に還元しきれるものではなく、社会的な文脈に応じて意味が変わると考えるのがジェンダー論である。本講義では主に男性のあり方が構築される社会的文脈に焦点を当て、男性ジェンダーの問題について、家族、教育、労働、恋愛／性愛、服装や美の基準といったテーマを事例としながら説明していく。

受講者に対する要望

講義形式のため、私語は慎んでほしい。ただし、ジェンダー論の扱う問題は日常生活で抱く身近な問題関心に結びつきやすいため、授業に関連のある内容であれば、発言を促すこともある。意欲的な態度で授業に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ジェンダー
- ・男性学
- ・セクシュアリティ
- ・家族
- ・人権

授業計画

01. イントロダクション：ジェンダーとは何か？
02. 性別役割分業について
03. 男性学・メンズリブ
04. 就労・雇用をめぐるジェンダー格差とジェンダー規範（「フリーター」、「ニート」現象に見られるジェンダー問題）
05. 異性愛男性の恋愛意識の変化について（「草食系男子」を事例として）
06. ポルノグラフィの是非について
07. ゲイ・クィアスタディーズ
08. 同性婚とパートナーシップ制度について
09. 男性の家事・育児参加について
10. DV・デートDV（ジェンダーの観点から）
11. 「男男間」暴力（教育空間を事例として）
12. ポピュラー文化と男らしさ（ロック・ミュージック、スポーツにおける男らしさの表象を例として）
13. ファッションとジェンダー（男性向けファッション雑誌を事例として）
14. 女らしさ・男らしさのゆくえ（日本社会の未婚化・晩婚化について）
15. ジェンダー論のまとめ

準備学習(予習)

各授業タイトルに関連するキーワードを書誌文献またはインターネット等で予め調べておくことを推奨する。なお、ジェンダー論の入門書はたくさんあるので、読みやすいものを読んでおくことで学習効果がより高くなる。

準備学習(復習)

板書内容をまとめたノートを見直し、要点を整理したうえで、分かりにくい専門用語、キーワードについては入門書や辞典、あるいは授業で紹介する文献を読み、意味を正確に理解できるようにすることが望まれる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30点 |
| (2) 定期試験 | 70点 |

授業の平常点と定期試験の得点を総合的に加味して評価する。|なお、授業では毎回コメントペーパーを書いてもらい、優れたコメントを書いたものは受講生間で読み上げ、加点することがある。ただし、総合点の上限を100点とする。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜指示する。|分かりやすい入門書としては、次の文献を薦めておく。|①加藤秀一・海老原暁子・五田仁、2005、『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社。|②千田有紀・中西祐子・青山真、2013、『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。|また、男性学の参考文献としては、次の文献を薦めておく。|①伊藤公雄、1996、『男性学入門』作品社。|②多賀太、2006、『男らしさの社会学——揺らぐ男のライフコース』世界思想社。|③田中後之、2009、『男性学の新展開』青弓社。

担当教員：原島 大輔

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P700440

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

デジタルメディアが、現代のグローバルな情報社会において、どのような問題に直面しており、あるいはどのような可能性を開きつつあるのかについて、とくに政治経済学的・文化理論的な視座から、基礎情報学的な思考法の習得を目指します。

(2) 内容

人工知能をはじめとするいくつかのデジタルメディアを題材にとりあげて、メディアの歴史と基礎情報学的なメディア論の考え方を学習していきます。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・メディア
- ・基礎情報学
- ・人工知能

授業計画

01. イントロダクション
02. イントロダクション
03. 人工知能（第1次人工知能ブーム）
04. 人工知能（第1次人工知能ブーム）
05. 人工知能（第2次人工知能ブーム）
06. 人工知能（第2次人工知能ブーム）
07. 人工知能（第3次人工知能ブーム）
08. 人工知能（第3次人工知能ブーム）
09. 基礎情報学（イントロダクション）
10. 基礎情報学（イントロダクション）
11. 基礎情報学（情報理論とサイバネティクス）
12. 基礎情報学（情報理論とサイバネティクス）
13. 基礎情報学（ネオ・サイバネティクス）
14. 基礎情報学（ネオ・サイバネティクス）
15. 基礎情報学（生物と機械）
16. 基礎情報学（生物と機械）
17. 基礎情報学（階層的自律コミュニケーション・システム）
18. 基礎情報学（階層的自律コミュニケーション・システム）
19. 基礎情報学（メディア）
20. 基礎情報学（メディア）
21. 基礎情報学（まとめ）
22. 基礎情報学（まとめ）
23. デジタルメディアと政治経済／倫理感性（制御、予測、先制）
24. デジタルメディアと政治経済／倫理感性（制御、予測、先制）
25. デジタルメディアと政治経済／倫理感性（ポストヒューマン、トランスヒューマン、ノンヒューマン）
26. デジタルメディアと政治経済／倫理感性（ポストヒューマン、トランスヒューマン、ノンヒューマン）
27. デジタルメディアと政治経済／倫理感性（ヴァーチャル、ポストトゥルース、集合知）
28. デジタルメディアと政治経済／倫理感性（ヴァーチャル、ポストトゥルース、集合知）
29. まとめ
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回の授業で、次回の予告をおこなうので、そこで提示されたキーワードについて調べておいてください。また、配布資料があるときには、事前に目を通しておいてください。

準備学習(復習)

授業で配布する資料や紹介する文献などを参考にして、授業内容を復習してください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P700550

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

法情報、政治情報の発見と分析を行う授業です。この授業で学んだことは、将来、資格試験や就職試験にも必ず役立ちます。予習、復習ともに積極的に取り組んでください。

(2) 内容

現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では「法学」「政治学」分野におけるさまざまな「情報」問題について解説し、理解してもらおう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

受講者に対する要望

遅刻、欠席などせず、積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 法と情報
- ・ 政治と情報
- ・ 情報化社会に生きる
- ・ 生活の中から見た法と行政

授業計画

01. 現代社会における法情報、政治情報(1)
02. 現代社会における法情報、政治情報(2)
03. 情報と法(国内編)(1)
04. 情報と法(国内編)(2)
05. 情報と法(海外編)(1)
06. 情報と法(海外編)(2)
07. 情報化社会と国際法(1)
08. 情報化社会と国際法(2)
09. 情報化社会における犯罪(国内編)(1)
10. 情報化社会における犯罪(国内編)(2)
11. 情報化社会における犯罪(海外編)(1)
12. 情報化社会における犯罪(海外編)(2)
13. 情報化社会とマスメディア(1)
14. 情報化社会とマスメディア(2)
15. 情報と政治行政(1)
16. 情報と政治行政(2)
17. 情報と政治行動(1)
18. 情報と政治行動(2)
19. 情報化社会と個人情報(1)
20. 情報化社会と個人情報(2)
21. 情報公開と情報の保護(1)
22. 情報公開と情報の保護(2)
23. 知的財産権(1)
24. 知的財産権(2)
25. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
26. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
27. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題(1)
28. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題(2)
29. 情報化社会の将来予測(1)
30. 情報化社会の将来予測(2)

準備学習(予習)

授業内容に沿った資料を前週までに提供する。資料の熟読など、予習を授業までに行っておくこと。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|---|
| (1) 授業内容の理解度 | 40% | 客観的視点での理解 自分の意見をまとめる |
| (2) 課題作成 | 30% | 文献、逐次刊行物、新聞、あるいはネット上の情報を調査し、レポート形式にまとめる |
| (3) 試験 | 30% | 試験、または自分の調査研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。 |

教科書

開講時に提示する

参考書

授業中に提示する

担当教員：若松 昭子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P700660

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修科目 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。

(2) 内容

情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人々の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加を望む。授業に関連する施設見学や、展示会等の観覧を課すことがある。
|1. 資格取得者優先 |2. 人数制限をすることもある

学びのキーワード

- ・ 情報メディア
- ・ 図書
- ・ 図書館
- ・ 書物

授業計画

01. 情報メディア史の意義
02. 文字・記録のはじまり
03. 粘土板と古代の図書館
04. パピルスからパーチメントへ
05. 中世の書物文化と修道院図書館
06. 大学の誕生と書物
07. 印刷術の発明と普及
08. 読書様式の変化
09. 国家形成と国立図書館
10. コーヒーハウスと貸本屋
11. 公共図書館の誕生
12. コンピュータと図書館
13. 日本の図書館と書物文化 (1)
14. 日本の図書館と書物文化 (2)
15. まとめとディスカッション

準備学習(予習)

教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------------|
| (1) 試験 | 50% | 試験に代わるレポートあり |
| (2) 小課題 | 20% | |
| (3) 授業参加状況 | 30% | 授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる

教科書

ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一『本の歴史(「知の再発見」双書)』(創元社) [978-4422211404]

参考書

担当教員：鈴木 省吾

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P700880

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

Excelの基本的な操作を既に学んだ学生が、より有効かつ幅広くExcelを使うために必要となる操作法を学ぶ。単なる表計算を超え、統計処理や文書作成が行えるようにする。社会での実用に耐えるExcelの操作能力を身につける。

(2) 内容

Microsoft Excelの高度な操作法を学ぶ。基礎的な内容の復習からはじめ、Excelの機能を最大限に生かす使い方を習得する。

受講者に対する要望

継続的に実習に参加し、PGになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

学びのキーワード

- ・実習課題の完成
- ・Excelへの精通
- ・教えあい
- ・積極的な参加

授業計画

01. Excelの概要／データの入力
02. 表の作成・編集・印刷
03. グラフの作成
04. Excel関数
05. ワークシートの活用
06. データベース機能の利用
07. ピボットテーブル
08. マクロの作成
09. Excel VBAプログラミングの基礎
10. Excel VBAプログラミング 1
11. Excel VBAプログラミング 2
12. Excel VBAプログラミング 3
13. 統計処理
14. 文書作成
15. 資料処理

準備学習(予習)

授業で出された課題の反復練習。

準備学習(復習)

実習授業なので、実際に授業内で課題を完成させることが重要となるが、課題ごとの内容は、次の週からの前提になるので、復習を必ず行うこと。

評価方法

(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

教科書

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P700990

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

インターネットやコンピュータ技術の発達とともに、メール、ブログ、ツイッターなど様々なコミュニケーション・ツールが出現し、多くの人に利用されている。これらのツールの多くは、情報の送り手だけでなく、情報の受け手も情報を発信できる双方向の特徴を持つ。双方向性は便宜性をもたらす一方で、一度発信した情報は回収できないことから、様々な問題が起きている。ルールを守りつつ、これらのツールを使いこなすことは現代社会に生きる我々にとって必要不可欠である。授業ではこれらのツールを実際に利用し、その特徴を習得することを目標とし、時間があればネチケットについても学習する。| また、グーグルはインターネット上で様々なファイルを共有できるサービスを提供している。これらのサービスを利用すれば、従来のメールにファイルを添付してデータをやり取りするという手間を省くことができる。これらのサービスについても学ぶ。

(2) 内容

ノートパソコンを用いた実習により、メール、ブログ、ツイッターなどの様々なコミュニケーション・ツールを利用してコミュニケーションを行い、それぞれの特徴を理解する。また、グーグルは、近年ネット上で文書ファイルや表計算ファイルや予定表を共有するサービスを提供している。グーグルはネット上でチャット（文字によるオンライン・リアルタイムでのメッセージのやり取り）を行うサービスも提供している。グーグルが提供しているこの種のサービスを利用して、ネット上でのファイルの共有等を行う。| 授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。各人は二人一組になってメッセージのやり取りやファイルの共有を行う。質問は随時受け付ける。また、時間がある場合には、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を出題する。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・Gメール
- ・ブログ
- ・ツイッター
- ・グーグル
- ・インターネット

授業計画

01. ガイダンス
02. Gメールでメールの送受信を行う
03. ファイルを圧縮してメールに添付して送る
04. Gメールでチャットを行う
05. ネット上のワープロソフトを利用する
06. ネット上の表計算ソフトを利用する
07. ネット上のプレゼンテーション・ソフトを利用する
08. グーグル・カレンダーで予定を共有する
09. ブログで新しい記事を書く
10. ブログの記事に画像を挿入する
11. ブログでコメントを書く
12. ツイッターでツイートを投稿する、フォロワーになる
13. ツイッターでリスト、ダイレクトメッセージを利用する
14. ツイッターで授業参加者全員のツイートを共有し、お互いにコメントを付ける。
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、授業に積極的に参加しているかを評価する。 |
| (3) 期末試験 | 30% | 15回目に筆記試験を行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P701000

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

デジタル技術の進歩とともに、静止画像や動画像を記憶する記憶メディアは日進月歩のスピードで大容量になっている。これらの記憶メディアを利用すれば、高精細な画像を再生することが可能である。静止画像や動画像などの記憶メディアとして、CD、DVD、BD（ブルーレイ・ディスク）などの光ディスクがある。授業では、スマートフォンにより写真や動画を撮影し、CD-RやDVD-Rに画像ファイルを書き込む方法を学ぶことを通して、マルチメディアに関する基本技術を習得することを目標とする。CD-RやDVD-Rは安価で使いやすいことから、今後情報化がますます進む中でも、利用価値を失わないと思われる。画像ファイルを編集した後、CD-RやDVD-Rに書き込むことは、これからの社会人にとって不可欠の技術である。また、スマートフォンで撮影した画像をパソコンに取り込んで自分で編集する方法を習得していれば、自分で撮影した画像をブログ、SNS、ホームページなどにアップロードすることも容易にできるであろう。

(2) 内容

ノートパソコンを用いた実習を通して、スマートフォンで撮影した静止画像や動画像をノートパソコンで編集したり、編集した画像をCDやDVDに書き込む方法について学ぶ。また、音楽CDの楽曲をこれらの記憶メディアに書き込む方法についても学ぶ。写真の画像や動画像を編集するソフトにより、パソコン上で写真の明るさ、コントラストを調整したり、トリミングをしたり、縮小する。また、動画像を短くしたり、動画像にテキストや音声を入力する。複数枚の写真を一定の時間間隔で連続して表示するスライドショーを作成する方法も学ぶ。また、イラストや文字などの静止画像を複数枚作成し、一定の時間間隔で表示させ、簡単なアニメーションを作成することも学ぶ。タグを使って速く画像を検索する方法についても学ぶ。授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、時間がある場合には、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を出題する。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・マルチメディア
- ・画像編集
- ・CD
- ・DVD
- ・デジタルカメラ

授業計画

01. ガイダンス
02. ピクチャ・マネジャーで静止画像を編集する
03. スマートフォンで静止画像を撮影し、コンピュータに取り込む
04. 音楽CDの楽曲を空のCD-Rに書き込む（焼く）
05. スマートフォンで動画像を撮影し、コンピュータに取り込む
06. ウィンドウズ・ムービーメーカーで撮影した動画像を短くする
07. ウィンドウズ・ムービーメーカーで動画像にテキストや音声を入力し、DVD-Rに書き込む
08. ウィンドウズ・ムービーメーカーによる動画像の編集のまとめの実習を行う
09. パワーポイントで動画を再生する
10. 静止画像をもとにスライドショーを作成し、DVD-Rに書き込む
11. アニメーションGIFで動画を作成する(1)
12. アニメーションGIFで動画を作成する(2)
13. グーグル・ピカサでコラージュ画像を作成する
14. ウィンドウズ・フォトギャラリーで画像の検索を行う
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、授業に積極的に参加しているかを評価する。 |
| (3) 期末試験 | 30% | 筆記試験を15回目に行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：竹井 潔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P701110

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

情報社会では、生活においてもビジネス社会においてもネットワークは不可欠なものとなっている。情報伝達の手段としてのネットワークの基本的な構造や特徴を理解することは、これから情報社会に生きる者にとって必須の基礎知識となる。これらを学ぶことによりネットワーク社会におけるコミュニケーションのあり方について考えてもらいたい。

(2) 内容

インターネットや携帯電話・スマートフォンが普及し、ICTの急速な進展により情報ネットワークを取り巻く環境の変化は非常にめまぐるしい。そのような環境下で我々は情報通信ネットワークを日常的に使って様々なコミュニケーションを行っている。現代社会はまさに情報通信ネットワークによるデータ通信に基礎をおく高度情報通信社会となっている。講義ではこのことを踏まえ、情報通信ネットワークの基本的仕組みの理解とともに具体的なネットワークの構築及び設計についての基礎的な技術と知識について学ぶ。ネットワークの伝送技術及びLAN、インターネットの仕組みや携帯電話・スマートフォン、衛星通信など仕組みやサービスについても取り扱う。

受講者に対する要望

講義内容は情報通信ネットワークの基本的な事柄である。経営、情報分野を志す多くの学生に履修してほしい。

学びのキーワード

- ・通信ネットワーク
- ・LAN
- ・インターネット
- ・通信サービス
- ・伝送技術

授業計画

01. オリエンテーション |
02. 情報と通信 |
03. 通信ネットワークとは |
04. 通信ネットワークの歴史 |
05. 通信方式とネットワークの構成 |
06. 通信サービスの歴史 |
07. 通信サービスの自由化と種類 |
08. 専用回線サービス、交換回線サービス |
09. 総合デジタル通信サービス (ISDN) |
10. 衛星通信サービス |
11. 移動体通信サービス |
12. 携帯電話の通信方式 |
13. 携帯電話のサービス |
14. 伝送方式1 同期方式 |
15. 伝送方式2 アナログ伝送、デジタル伝送 |
16. 中間まとめ |
17. 伝送制御手順1 ベーシック制御手順 |
18. 伝送制御手順2 HDLC手順 |
19. 誤り制御方式1 水平垂直パリティ検査方式 |
20. 誤り制御方式2 誤り訂正方式 |
21. 通信回線の多重化1 周波数多重化、時分割多重化 |
22. 通信回線の多重化2 PCM多重化、パケット多重化 |
23. 交換方式1 回線交換方式、蓄積交換方式 |
24. 交換方式2 フレームリレー方式、ATM交換方式 |
25. ネットワークアーキテクチャー/OSI参照モデル |
26. LANとは |
27. LAN構築の方法 |
28. インターネット TCP/IPプロトコル |
29. 今後のネットワーク社会 |
30. まとめ

準備学習(予習)

授業では、ネットワーク特有の用語や知識が出てくるが、事前に授業で指示された参考文献等で重要用語を調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で十分理解できなかった専門用語や知識について、各自調べておくこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 課題、理解度小テストの実施 □ |
| (2) 中間試験口 | 40% | |
| (3) 期末試験口 | 40% | |

教科書

プリントを配布する

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：4 授業コード：1P701220

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】経済経営コース：自由科目 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぼう。

(2) 内容

現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

受講者に対する要望

各種資格試験、就職試験でも必ず役に立つ内容である。積極的に学ぶこと。

学びのキーワード

- ・ 社会における情報
- ・ 情報化社会に生きる
- ・ 法、政治、経済、生活と情報

授業計画

01. 現代社会と情報(1)
02. 現代社会と情報(2)
03. 情報と職業(国内)(1)
04. 情報と職業(国内)(2)
05. 行政と情報(1)
06. 行政と情報(2)
07. 企業活動と情報(1)
08. 企業活動と情報(2)
09. 情報の収集、蓄積、再利用(1)
10. 情報の収集、蓄積、再利用(2)
11. インターネット・ビジネス(1)
12. インターネット・ビジネス(2)
13. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
14. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
15. 課題作成(1)
16. 課題作成(2)
17. 情報と職業(海外)(1)
18. 情報と職業(海外)(2)
19. 情報化社会の諸問題2(1)
20. 情報化社会の諸問題2(2)
21. 情報化社会の諸問題(1)
22. 情報化社会の諸問題(2)
23. 情報化社会の将来予測(1)
24. 情報化社会の将来予測(2)
25. 課題作成(1)
26. 課題作成(2)
27. 情報化社会とマスメディア(1)
28. 情報化社会とマスメディア(2)
29. 課題作成(1)
30. 課題作成(2)

準備学習(予習)

前週までにテーマと資料を提供するので、予習および復習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 課題作成 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

参考書

担当教員： 鈴木 省吾

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1P701330

学部教育の関連目

【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】 情報コミュニケーションコース： 自由科目

(1) 学びの意義と目標

情報社会に参画する態度を育てる上で、重要なトピックの一つとなる情報リスクについて学ぶ。
| 個人の倫理観のみならず、法規制や技術的対策により情報社会が支えられていることを、授業への積極的な参加を通して理解する。

(2) 内容

インターネット社会における情報伝達に関わる脅威とその実情や対策を学ぶ。クイズやディスカッションを通して各トピックの理解を深め、日常のPC利用、ネット利用に活かせる知識を身につける。

受講者に対する要望

授業での講義やディスカッションを通して、小論文にまとめたり、クイズによって知識の確認を行ったりする。積極的に授業に参加し、貪欲に知識を吸収するとともに、学生自身が知っていることを持ち寄って貢献してほしい。

学びのキーワード

・ 授業への積極的参加

授業計画

01. インターネット社会と情報倫理
02. インターネット社会が抱える問題
03. インターネット上のトラブル
04. インターネット上の脅威
05. 情報セキュリティの技術的対策
06. 情報セキュリティ対策の要点
07. 技術的対策の実際（1）
08. 技術的対策の実際（2）
09. インターネット社会と法
10. 不正アクセス禁止法
11. プロバイダ責任制限法
12. 著作権保護の必要性
13. 著作権保護の課題
14. 個人情報の保護
15. 情報倫理教育へむけて

準備学習(予習)

教科書の該当箇所を熟読の上授業に臨むこと。

準備学習(復習)

小論文、課題を完成させること。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|------------------------|
| (1) 小論文 | 50% | 授業内のディスカッションを通して、完成させる |
| (2) 課題 | 50% | クイズ形式で知識の定着を目指す |

出席は評価割合に含まれないが、5回の出席で不合格とする。遅刻は15分まででそれ以降は欠席扱い。3回の遅刻を欠席1回とみなす。

教科書

参考書

担当教員：大谷 康晴

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：1P701440

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

かつて書誌の編集の副産物として書誌データベースが生み出されたように、図書館は本来情報技術を活用してより高度なサービスを展開すべき存在です。しかし、近年の目覚ましいインターネット周辺の情報技術の発展に比して、図書館における活用は大きく遅れています。この遅れは、看過することはできないといえます。この授業では、以上の問題意識に立って、以下の点を授業の到達目標とします。

- ・図書館に活用可能な情報技術について説明できる
- ・図書館で必要とされる初歩的な情報技術を活用できる
- ・図書館に関わるさまざまなシステムの概要について説明できる
- ・図書館における現在の情報技術活用の問題点について指摘できる

(2) 内容

この授業では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じてコンピュータ上で確認をしながら講義をしていきます。

受講者に対する要望

第1回のガイダンスで詳細について説明いたしますので、必ず出席して確認をとってください。

学びのキーワード

- ・情報通信技術
- ・図書館

授業計画

01. 授業ガイダンス
02. 社会、図書館と情報技術
03. コンピュータとネットワークの基礎
04. データベースの仕組み
05. 検索エンジンの仕組み
06. 図書館業務システムの仕組み（ホームページによる情報の発信を含む）
07. 図書館ウェブサイトの評価
08. 図書館サービスと情報技術（レコメンドサービス）
09. 図書館サービスと情報技術（カレントアウェアネス）
10. 電子資料と図書館
11. 情報資源組織と情報技術
12. デジタルアーカイブ
13. コンピュータシステムの管理（ネットワークセキュリティ、ソフトウェア及びデータ管理を含む）
14. 図書館と情報技術のトピック
15. まとめ

準備学習(予習)

- ・基礎的なコンピュータ操作（ウェブ閲覧、電子メール、ワープロソフト）は、事前に確認しておくこと
- ・授業時に紹介した資料について事前によく読んでおくこと

準備学習(復習)

- ・授業時に紹介した資料について事後にもよく読んでおくこと
- ・授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 各回での課題提出物・感想 | 40% |
| (2) 期末レポート | 60% |

* 評価対象の前提として欠席は全授業回数3分の1以下とします。

教科書

なし。授業時に資料を配布します

参考書

講義時に随時紹介いたします。

担当教員：吉田 隆

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：1P701550

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

図書館・図書館員の仕事は利用者サービスが大前提である。利用者にとって心地よいサービスを提供をする上での知識と技法を学ぶ。

(2) 内容

①図書館情報資源を分野別に理解する。②図書館利用者サービスを複眼的に把握する。

受講者に対する要望

教科書の予習と復習が必要不可欠。

学びのキーワード

- ・ 情報サービス
- ・ 情報源
- ・ 利用者
- ・ 図書館司書
- ・ 著作権法

授業計画

01. ガイダンス・情報社会と図書館の情報サービス
02. 図書館における情報サービスの展開
03. 図書館における情報サービスの理論的展開
04. レファレンスサービスの理論と実践
05. レファレンスサービスの実際
06. 情報サービス論の理論と方法
07. 各種情報源の特質と利用法 (1) : 情報メディア・文献を探す
08. 各種情報源の特質と利用法 (2) : 論文・記事を探す
09. 各種情報源の特質と利用法 (3) : 事項・事実の検索
10. 各種情報源の評価と解説
11. 各種情報源の組織化
12. 発信型情報サービスの意義と方法
13. 情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識
14. 図書館利用教育と情報リテラシーの育成
15. 展望：IT社会と図書館・図書館司書

準備学習(予習)

事前の予習。具体的な方法は授業時に指示する。

準備学習(復習)

事後の復讐。配布資料をノートに要約すること。

評価方法

(1) 平常点	20%
(2) 課題	20%
(3) 試験	60%

教科書

竹内さとる『図書館のめざすもの 新版』(日本図書館協会)【978-4820414100】

参考書

担当教員：吉田 隆

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1P701660

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

(2) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

(1) 平常点	20%
(2) 課題	20%
(3) 試験	60%

教科書

参考書

9784883672073 原田智子編著 情報サービス演習 樹村房

担当教員：吉田 隆

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1P701661

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

(2) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

(1) 平常点	20%
(2) 課題	20%
(3) 試験	60%

教科書

原田智子編著『情報サービス演習』(樹村房)【978-4883672073】

参考書

担当教員：坂内 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1P701770

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通し実践的な情報検索能力を身につける。

(2) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号（ハイフン、イコール、アスタリスク、スペース）の半角入力等、および、WindowsおよびInternet Explorerの基本的操作を確実にできるようにしておくこと。配布したプリントを毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する配布プリントのUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

使用しない。プリントを適宜 配布する。

参考書

担当教員：坂内 悟

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1P701771

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通し実践的な情報検索能力を身につける。

(2) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号（ハイフン、イコール、アスタリスク、スペース）の半角入力等、および、WindowsおよびInternet Explorerの基本的操作を確実にできるようにしておくこと。配布したプリントを毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する配布プリントのUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

使用しない。プリントを適宜 配布する。

参考書

担当教員：高橋 愛子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PC10001

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西洋政治思想の諸概念についての理解を深め、一層掘り下げた議論ができるようになること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠となる文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。卒論執筆における問題意識、論文構成、文献リサーチなどの指導を行う。|<受講の条件>3年次に「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みであること、卒論執筆予定であること(講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、それ以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトをとること)。

(2) 内容

本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ担当のうえ、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行っていく。卒論執筆指導を伴う。|<カリキュラム上の位置づけ>3年次必修の「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。|

受講者に対する要望

独自の研究テーマを持ち、そのテーマに関する専門的文献への積極的な問題意識を持つこと。

学びのキーワード

- ・文献リサーチ
- ・アーティクル・レビュー

授業計画

01. 導入:一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
02. 共通テキストの講読・議論
03. 共通テキストの講読・議論
04. 共通テキストの講読・議論
05. 共通テキストの講読・議論
06. 共通テキストの講読・議論
07. 共通テキストの講読・議論
08. 共通テキストの講読・議論
09. 共通テキストの講読・議論
10. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
11. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
12. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
13. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
14. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
15. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

自らの研究テーマについての明確な問題意識をもち、それを文字化して記述すること。

準備学習(復習)

議論で指摘された点についてのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 小論文 | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

担当教員：金子 毅

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PC10810

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする意義を有する。学習を通して今後の不透明な21世紀アジアを含む世界情勢をシュミレートし、かつ、生き抜く上での学知を獲得させることを目的とする

(2) 内容

企業の内外を取り巻く環境条件が大きな転換を遂げている現状においては倫理的知が不可欠である。本講義では、経営倫理という観点から時代の変化に即応した企業経営における価値観、すなわち企業活動という共同生活を営む際に必要な心や意義のルールの確立と遵守という問題について考察する。

受講者に対する要望

講義を通して「企業で働く、仕事をする」際の自己の立ち位置を確認するようにしてもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 経営倫理
- ・ コンプライアンス
- ・ CSR

授業計画

01. プロローグ：学問、そして企業経営上不可欠な倫理観とは？
02. コンプライアンスに気をつける1：茶髪って違反か？
03. コンプライアンスに気をつける2：個人情報危険
04. コンプライアンスに気をつける3：この請求書、会社に請求しちゃっていいの？
05. コンプライアンスに気をつける4：それってセクハラになるの？
06. コンプライアンスに気をつける5：接待づけは身を滅ぼす
07. コンプライアンスに気をつける6：クレームだ、どう対応する？
08. コンプライアンスに気をつける7：パワハラは連鎖する
09. コンプライアンスに気をつける8：不確実な情報にどう対応する？
10. CSRを考えよ1：続発する企業不祥事
11. CSRを考えよ2：企業は社会の一員
12. CSRを考えよ3：CSRの考え方
13. CSRを考えよ4：ではどこからはじめればよいか
14. CSRを考えよ：CSRの可能性
15. エピローグ：全体の総括、および討議

準備学習(予習)

配布するプリントを事前に「音読」し、発問されると考えられる箇所をつかんでおく。

準備学習(復習)

講義時にアンダーラインを引いた語句を中心に概念とその意味や結びつきを捉えながら、ノートに書き記す。

評価方法

- | | |
|----------|----|
| (1) レポート | 80 |
| (2) 参加姿勢 | 10 |
| (3) 感想文 | 10 |

教科書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PC11103

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

論理的思考力と文章の書き方を身につけること、またそれをプレゼンテーションする実践力を身につける。

(2) 内容

原則として「卒業演習（比較憲法）」の履修者を対象とする。| より発展的な事例研究を行う授業。ゼミ形式とし、自身の研究の報告と参加者による討論を中心とする。

受講者に対する要望

研究テーマを明確にもっていること。また発表と討論に積極的に加わる意欲のある者。

学びのキーワード

・ 卒論執筆を前提にした研究報告

授業計画

01. 授業の進め方（講義）
02. 卒業論文の書き方（講義）
03. 報告と討論
04. 報告と討論
05. 報告と討論
06. 報告と討論
07. 報告と討論
08. 中間総括（講義）
09. 報告と討論
10. 報告と討論
11. 報告と討論
12. 報告と討論
13. 報告と討論
14. 報告と討論
15. 報告と討論

準備学習(予習)

自身の研究の進捗状況は毎回チェックされるので、報告できるようにしておくこと。また、他の報告者の内容について、質問ができるように予習しておくことも必要となる。

準備学習(復習)

毎回質疑応答で答えられなかった問いについては、Web上で次回授業までに回答することで復習されたとみなす。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 報告 | 50% |

平常点は、普段の議論への参加態度による。

教科書

参考書

担当教員：永井 キクヨ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1PC70220

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ビジネスマナー、社会人基礎力は社会出るために必要な能力です。なぜ必要なのかという基本から、激変するビジネスの世界での対応力まで、様々な角度から学びます。学んだことを身につけ、発揮できることを目標とします。後半には驚異のノート術というマインドマップを学びます。このノート術は、学習・記憶・プレゼンテーション等々、さまざまなことに応用できます。||

(2) 内容

ビジネスの世界で求められるビジネスマナー・社会人基礎力を学び、身につけます。学校から社会への橋渡しをイメージし、実践形式で進めます。

受講者に対する要望

社会に出る自分を想像しながら授業に取り組みましょう。講義、グループワーク、発表からさまざまなことを学び取ってください。

学びのキーワード

- ・ビジネスマナー
- ・社会人基礎力
- ・コミュニケーション
- ・マインドマップ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学生と社会人の違い
03. 社会人基礎力とは～主体性と働きかけ力～
04. コミュニケーション
05. 好感をもたれる聴き方
06. 社会人基礎力～傾聴力～
07. 信頼される話し方
08. 社会人基礎力～発信力～
09. 電話対応基礎①
10. 電話対応基礎②
11. 社会人に要求されるストレス耐性とは
12. 社会人基礎力～ストレスコントロール力～
13. 社会人基礎力～現状把握力～
14. 前半のまとめ
15. 社会人基礎力～柔軟性～
16. リフレーミングの重要性
17. ビジネス文書
18. 訪問のマナー
19. 冠婚葬祭のマナー
20. 社会人基礎力～実行力～
21. 社会人基礎力～創造力～
22. マインドマップ①
23. マインドマップ②活用術
24. マインドマップ③活用術
25. マインドマップ④自分を表現しよう！
26. マインドマップ⑤自分を表現しよう！
27. 社会人に求められるホスピタリティ①
28. 社会人に求められるホスピタリティ②
29. 強い社会人になるためには
30. まとめ

準備学習(予習)

テーマに基づき課題を出しますので、事前準備をしてください。

準備学習(復習)

毎回振り返りを行います。適宜、小テストや課題を提出し、理解度を確認します。

評価方法

- | | |
|-------------|------------|
| (1) テスト | 30% |
| (2) 授業の取り組み | 40% 授業時提出物 |
| (3) 授業への参加度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：永井 キクヨ

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1PC70310

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

秘書学概論の学びは、秘書を目指す人だけでなく社会に出る全ての人に役立ちます。ビジネスマナー、組織内外の基本的な知識と技能、コミュニケーションなどの幅広い学びは社会に出て必要なことばかりです。問題の正誤だけでなく、意味を理解し、社会人として行動できるようになることを目標とします。

(2) 内容

秘書学で学ぶ、資質・言動・技能は社会人として求められるスキルです。上司のためだけでなく、社会の一員としてどう振る舞えばよいのかを学びます。秘書検定2級の過去問題を解いていくので、受験する学生には試験対策にもなります。

受講者に対する要望

毎回の講義、グループワーク、ロールプレイングからテキスト以外の部分もたくさん学んでください。

学びのキーワード

- ・ 秘書検定
- ・ ビジネスマナー
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 職業人としての自覚と心構え
03. 求められる能力
04. 求められる能力～対人関係能力～
05. 秘書の機能
06. あいさつと話し方、聞き方①
07. あいさつと話し方、聞き方②
08. あいさつと話し方、聞き方③
09. 仕事の進め方①
10. 仕事の進め方②
11. 電話対応①
12. 電話対応②
13. 来客対応①
14. 来客対応②
15. 前半のまとめ
16. 社会常識①
17. 経営知識①
18. 経営知識②
19. 社会常識②
20. 会議
21. 交際業務①
22. 交際業務②
23. ビジネス文書の作成
24. ビジネス文書の取り扱い
25. 資料管理
26. スケジュール管理
27. 環境整備
28. 接遇マナー
29. よい秘書（社会人）とは
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、事前にテキストを読んでください。

準備学習(復習)

毎回振り返りを行います。適宜、小テストや課題を提出し、理解度を確認します。

評価方法

- | | |
|--------------|------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 授業への取り組み | 30% 授業時提出物 |
| (3) 授業への参加度 | 20% |

教科書

実務技能検定協会『新秘書特講：秘書検定で学ぶオフィスの常識と心構え』（早稲田教育出版社）[978-4776611066]

参考書

担当教員：蝶野 立彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00431

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

古代から近世までの西洋の歴史を概観し、西洋史上の重要な事象やトピックを紹介・解説しながら、「古代」「中世」「近世」のそれぞれの時代の特徴とそれらの時代を貫く大きな歴史的变化のダイナミズムを明らかにしてゆく。前近代の西洋史の展開について基礎的な知識を修得するとともに、現代の世界や社会の成り立ちを理解するために必要な歴史的視座を養うことが、本講義の目標である。

(2) 内容

古代から18世紀半ばまでの西洋史の展開を「①古代（第2回～第4回）」「②中世（第5回～第7回）」「③近世（第8回～第14回）」という3つのパートに分けて考察し、これらの時代の西洋史の流れを、重要な邦訳史料や図像史料を紹介しつつ、読み解いてゆく。

受講者に対する要望

歴史の題材は多岐にわたっており、授業で取りあげることができる題材はそのうちの一部に過ぎないので、授業の内容をより正確に理解するために、不明瞭な箇所については参考書などを用いて自ら調べる習慣を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋史
- ・ 国際関係
- ・ 古代
- ・ 中世
- ・ 近世

授業計画

01. ガイダンス
02. 古代オリエント世界
03. 古代ギリシアの都市国家とヘレニズム
04. 都市国家ローマから古代ローマ帝国へ
05. 中世の西ヨーロッパ世界——封建社会の成立とローマ教会の発展
06. 中世の東ヨーロッパ世界——ビザンツ帝国の盛衰とスラブ諸民族の動き
07. 中世後期のヨーロッパ——十字軍、中世都市、商業の復活、黒死病、封建制と教皇権の動揺
08. 大航海時代の到来とヨーロッパ世界の膨張
09. ルネサンス
10. 宗教改革と対抗宗教改革
11. 16～17世紀ヨーロッパの国際政治と主権国家体制の形成
12. 絶対王政の時代のヨーロッパ諸国（1）——イギリス、フランス
13. 絶対王政の時代のヨーロッパ諸国（2）——プロイセン、オーストリア、ロシア
14. 18世紀ヨーロッパの市民文化——啓蒙思想とコーヒーハウス
15. まとめ

準備学習（予習）

各回の講義で取り扱われるトピックについて、参考書・事典などを用いて初歩的な知識を得ておくことが望ましい。

準備学習（復習）

各回の講義内容に関わりのある参考文献を授業時に紹介するので、講義についての理解を深めるために、授業後にそれらの文献を参照することが望ましい。また、リアクションペーパーに記された受講者からの質問に対しては、適宜授業内に口頭で返答するので、それらのコメントも復習に役立ててほしい。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 受講態度とリアクションペーパー |
| (2) テスト | 50% | |

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美穂、桑島 良平『山川世界史総合図録』（山川出版社）【978-4634040212】

参考書

それぞれの講義箇所についての参考書は、そのつど教場で指示する。

担当教員：蝶野 立彦

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00532

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

近代～現代の西洋の歴史を概観し、西洋史上の重要な事象やトピックを紹介・解説しながら、「近代」「現代」のそれぞれの時代の特徴とそれらの時代を貫く大きな歴史的变化のダイナミズムを明らかにしてゆく。近現代の西洋史の展開について基礎的な知識を修得するとともに、現代の世界や社会の成り立ちを理解するために必要な歴史的視座を養うことが、本講義の目標である。

(2) 内容

18世紀末から現代までの西洋史の展開を「①近代（第2回～第8回）」「②現代（第9回～第14回）」という2つのパートに分けて考察し、これらの時代の西洋史の流れを、重要な邦訳史料や図像史料を紹介しつつ、読み解いてゆく。

受講者に対する要望

歴史の題材は多岐にわたっており、授業で取りあげることができる題材はそのうちの一部に過ぎないので、授業の内容をより正確に理解するために、不明瞭な箇所については参考書などを用いて自ら調べる習慣を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋史
- ・ 国際関係
- ・ 近代
- ・ 現代

授業計画

01. ガイダンス
02. アメリカの独立革命
03. フランス革命
04. ナポレオン戦争
05. 産業革命
06. ウィーン体制とナショナリズム
07. 帝国主義の時代と列強による植民地支配
08. 列強の対立の激化と第一次世界大戦の勃発
09. ロシア革命
10. 第一次世界大戦後のヨーロッパとアメリカ——ヴェルサイユ体制の成立
11. 世界恐慌とファシズム
12. 第二次世界大戦
13. 東西冷戦の時代
14. ヨーロッパ統合の動きと欧州連合の成立
15. まとめ

準備学習(予習)

各回の講義で取り扱われるトピックについて、参考書・事典などを用いて初歩的な知識を得ておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各回の講義内容に関わりのある参考文献を授業時に紹介するので、講義についての理解を深めるために、授業後にそれらの文献を参照することが望ましい。また、リアクションペーパーに記された受講者からの質問に対しては、適宜授業内に口頭で返答するので、それらのコメントも復習に役立ててほしい。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 受講態度とリアクションペーパー |
| (2) テスト | 50% | |

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美穂、桑島 良平『山川世界史総合図録』（山川出版社）【978-4634040212】

参考書

それぞれの講義箇所についての参考書は、そのつど教場で指示する。

担当教員：赤坂 恒明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00771

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようになる。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史の意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。

(2) 内容

前近代のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。| この授業のカリキュラム上の位置づけは、東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

学びのキーワード

- ・ 歴史
- ・ 東アジア
- ・ 東洋
- ・ 中国
- ・ 日中関係

授業計画

01. 序
02. アジアとヨーロッパ
03. 「東洋」という概念
04. 歴史編纂をめぐる諸問題
05. 中華思想
06. 冊封体制論
07. 志賀島出土の金印と、邪馬台国女王 卑弥呼をめぐる諸問題
08. 倭の五王
09. 遣隋使(1) 「日、出ずるところの天子」の国書に対する隋の煬帝の対処
10. 遣隋使(2) 小野妹子が隋の煬帝から授かった返書を紛失した事件
11. 古朝鮮
12. 高句麗
13. 渤海
14. 吐蕃（古代チベット）
15. まとめ

準備学習(予習)

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

準備学習(復習)

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。各自の自主的な復習を期待する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 10% |
| (2) 試験（小テスト含む） | 90% |

期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。

教科書

資料を配布するので、教科書は使用しない。

参考書

世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。| 参考文献等は講義中に紹介する。

担当教員：赤坂 恒明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00872

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見るができるようになること。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになること。

(2) 内容

東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一國史」の枠組についても批判的に分析する。| この授業のカリキュラム上の位置づけは、入門的な位置づけの基礎的な講義であり、日本史を学ぼうとする学生にも適している。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。
なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

学びのキーワード

- ・ 歴史
- ・ 東アジア
- ・ 沖縄
- ・ 朝鮮
- ・ 中国

授業計画

01. 序
02. 「オホーツク文化」と東北アジア
03. 「もうひとつの蒙古襲来」：元（モンゴル）軍の樺太（サハリン）侵攻
04. 山丹交易：「鎖国」の江戸時代と清朝を、毛皮と絹が結んだ、北まわりの交易
05. アムール川中・下流域と樺太の先住諸民族と近代
06. 貿易立国、琉球王国の繁栄
07. 「琉球処分」をめぐる日清関係：清朝領となるはずであった先島諸島（八重山・宮古列島）
08. 韓国併合への道
09. 日本による朝鮮半島の植民地支配（1）第一期
10. 日本による朝鮮半島の植民地支配（2）第二期と第三期
11. 「戦争抛棄二閣スル条約」（パリ不戦条約）と満洲事変
12. 内モンゴにおけるモンゴル人のまなざしから見た日本の「侵略」
13. 熱河作戦
14. 「支那事変」：盧溝橋事件から「南京大虐殺」へ
15. まとめ

準備学習(予習)

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

準備学習(復習)

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。各自の自主的な復習を期待する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 10% |
| (2) 試験（小テスト含む） | 90% |

期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。

教科書

資料を配布するので、教科書は使用しない。

参考書

世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。| 参考文献等は講義中に紹介する。

担当教員：秋山 秀一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01010

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

自然地理学の知識を身につけることは、とても大切なことであり、国際理解度を高めることにも大きく寄与します。そのことは卒業後どのような仕事に就こうと、意義があり重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。

(2) 内容

世界の各地ではいろいろな人々が生活基盤となるその土地の自然環境を理解し、土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では、日本、アメリカ、アジアの国々に、そしてヨーロッパ諸国における自然を自然地理学の視点から具体的に取り上げ、学びます。

受講者に対する要望

日頃から自然を意識する人、関心がある人、大好きな人、また、自然を観る目を学び身につけたいと考えたことのある人、そんな人たちの受講を望みます。

学びのキーワード

- ・ 国立公園
- ・ 水と暮らし
- ・ 地震
- ・ 温泉
- ・ ハザードマップ

授業計画

01. 導入
02. 地形図を読む
03. 地形を読む
04. 自然地理学と暮らし
05. 地震と暮らし
06. 日本の温泉
07. 世界の温泉①（ドイツ、イタリア、アメリカ）
08. 世界の温泉②（アイスランド、ロシア、アジア諸国）
09. 海岸の地形
10. 砂漠
11. アジアの自然
12. ヨーロッパの自然
13. 世界の自然遺産①（中国、ベトナム、韓国）
14. 世界の自然遺産②（カナダ、スイス、クロアチア）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

準備学習(復習)

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 日頃の授業への貢献度 | 30% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 小レポート、それにまとめたレポート | 40% |

教科書

秋山 秀一『世界、この魅力ある街・人・自然』（八千代出版）【978-4842916682】

参考書

担当教員：飯島 康夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01220

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

地理学の基礎を学び、現実の地域の調査ができるようになることが望ましい。既存の文献ではなく、自分で判断、分析できるようになること。

(2) 内容

人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれらから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。| この講義は地理学に関係する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫してみた。

受講者に対する要望

地理と歴史は表裏一体のものであるから地域の歴史から現在の姿までの変遷を理解できるようになって欲しい。

学びのキーワード

- ・ 地理学史
- ・ 情報革命
- ・ グローバリゼーション

授業計画

01. 地理学の発展史
02. 地理学と隣接科学との関係
03. 新古典派地理学のアプローチ
04. 行動・組織論、人文主義のアプローチ
05. マルクス主義的地理学のアプローチ
06. 人文地理の思想
07. 情報ネットワークと空間編成
08. 地域間格差
09. 政治経済システムと都市の空間編成
10. 製造業の空洞化と都市・地域経営
11. 経済のサービス化と都市・地域の空間編成
12. グローバリゼーションと都市・地域政策
13. レポートの添削・指導
14. レポートの書き方、伝え方、プレゼンテーションの方法
15. 総まとめ

準備学習(予習)

教科書に書かれていることを指定したところを事前に読んで理解しておくこと。

準備学習(復習)

前の講義のノートを見て、学んだことを簡潔にまとめること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 出席 | 50% |
| (2) レポート・小テスト | 30% |
| (3) 発表 | 20% |

1. 基準に満たない提出物は再提出させる場合がある。2. 調べ方、書き方を学んでください。3. 極端に出席回数が少ない場合、評価対象外とする。4. 基本文献を指示するので、基礎知識を養うこと

教科書

ピーター・ティックェンほか『立地と空間 上』(古今書院) [978-4772215657] | 古川俊哲『散步学』のすすめ 中公新書

参考書

担当教員：秋山 秀一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01451

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

(2) 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学んでいきます。

受講者に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 地域研究
- ・ 地図
- ・ アジア
- ・ フィールドワーク
- ・ 観光写真

授業計画

01. 導入
02. 現代社会と交通
03. 地図を読む
04. アジアの中の日本
05. 韓国
06. ベトナム
07. ミャンマー
08. マレーシア
09. 香港・マカオ
10. 中国・台湾
11. タイ
12. ラオス、カンボジア
13. フィジーと太平洋の島々
14. オーストラリア、ニュージーランド
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

準備学習(復習)

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 日頃の授業への貢献度 | 30% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 小レポート、それにまとめたレポート | 40% |

教科書

秋山 秀一『フィールドワークのススめーアジア観光・文化の旅』（学文社）【978-4762020728】

参考書

担当教員：秋山 秀一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01552

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

(2) 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにヨーロッパ諸国並びにアメリカ、そして、日本の各地、における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学び、街歩きの楽しさも修得していきます。

受講者に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ
- ・アメリカ
- ・日本
- ・街歩き
- ・フィールドワーク

授業計画

01. 導入
02. メンタルマップ
03. 東京はアフリカだ
04. 国際化の中の日本
05. 日本①（東京）
06. 日本②（関東地方）
07. 日本③（日本全国）
08. アメリカ①（東海岸）
09. アメリカ②（西海岸）
10. ヨーロッパ
11. イギリス
12. ロンドン
13. フランス
14. イタリア
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

準備学習(復習)

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 日頃の授業への貢献度 | 30% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 小レポート、それにまとめたレポート | 40% |

教科書

秋山秀一『大人のまち歩き』（新典社）【978-4787978516】

参考書

担当教員：大賀 祐樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01660

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

哲学で大切なことは、答えを知ることよりも、当たり前を感じていたことの中に潜む疑問を見つけて問いを立てることである。様々な哲学者がどのような問いを立て、答えを見つけるために試行錯誤したのか。その道筋を追うことによって、日常の生活においても浮上する様々な問題に対して、自分なりの問いを立て、本質を見抜き、答えを出す力を養うことを目標とする。| 「哲学」を初めて学ぶ者を対象とする。| できるだけ理解しやすいように、日常的な出来事や、映画、SF、アニメ作品等の事例を例に置き換えて説明する。

(2) 内容

人間はどのように生きるべきなのか？ 人間にとって幸せとは何か？ | 「哲学」といえば一般的に、そういった問題について考えるものだと思われているかもしれませんが。| しかし、哲学とは本来「真理とは何か」という問題について考えるものです。| 「真理」を知ることでは正しく生き、幸せになれると、長い間考えられてきました。| とはいえ、「真理」=「絶対に正しくてこれ以上変えようがない唯一の答え」など、本当にあるのでしょうか？ | 現代の私たちの感覚からすると疑問に感じるかもしれません。| 一方で、「正しい」ことが何も無いのかというと、それもまた疑問に感じることでしよう。| この授業では、古代から現代までの間、哲学が「正しさ」をどのように探し求めてきたのかについての歴史とストーリーを講義形式でお話します。

受講者に対する要望

予習・復習に関しては準備学習の項目を参照。

学びのキーワード

- ・西洋哲学史
- ・真理
- ・現代思想

授業計画

01. 「哲学」とはどのようなものか
02. 「愛」について（プラトン）
03. 「真理」について（プラトン）
04. 「正義」について（アリストテレス）
05. 「私」とは誰か（デカルト）
06. 人間の「自由」と「道徳」（カント）
07. 「言葉」についてⅠ（ラッセル）
08. 「言葉」についてⅡ（ウィトゲンシュタイン）
09. 「心」とは何か
10. 「可能世界」について
11. 科学の正しさと「真理」
12. ニヒリズムとポストモダン（ニーチェ、フーコー）
13. プラグマティズム
14. 哲学は「真理」を見つけたか？（まとめ）
15. 試験

準備学習（予習）

前の回で紹介した考え方を受けて次の回で批判・展開することが多いので、復習をきっちりしておくことが同時に予習にもなる。授業で配布されたレジュメを熟読し、参考文献に挙げられた本の中から興味を持った本を読むことで、復習と予習を兼ねた学習となるだろう。また、次回に扱う思想家の大まかな情報や時代背景などを

準備学習（復習）

毎回PowerPointのスライドを使用し、プリントを配布する予定なので、興味を持った話題があればその点を掘り下げて、自分なりの問題意識やそれに対する答えを考えておく。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 試験 | 60% | 期末に実施 |
| (2) レポート | 30% | 中間に実施 |
| (3) 授業参加度、授業態度等 | 10% | 出席や授業への参加度を参考にし、授業中の私語等が多いと成績評価の参考にすることがあります。 |

レポート、試験に対するフィードバック希望者は提出時にその旨を記載してください。

教科書

参考書

参考書 | 毎回の授業内で参考文献を随時紹介する。

担当教員：大槻 岳

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1PE00330

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。この講座はコミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つであるので、公務員試験を意識している学生にはぜひ受講してもらいたい。

(2) 内容

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる文章理解を取り上げるとともに、二次試験で課される教養論文の対策にも触れていく。

受講者に対する要望

新しいことを事前に学んでくる必要はありませんが、反復演習を中心とした講義となるので、前回の内容をしっかりと復習することが次回の予習となることを自覚して講義に臨んでください。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・客観的解答力
- ・反復演習
- ・公務員観の養成

授業計画

01. 文章理解 概要解説 (以下は2016年度の実施結果であり、実際の進度は学生の状況等を鑑みて決定する)
02. 論作文 概要解説
03. 文章理解 要旨把握 (人文)
04. 文章理解 要旨把握 (哲学)
05. 文章理解 内容把握 (人文)
06. 論作文演習
07. 文章理解 内容把握 (哲学)
08. 文章理解 傍線部問題
09. 文章理解 空欄補充
10. 論作文演習
11. 文章理解 文章整序
12. 資料解釈
13. 文章理解 古文要旨把握
14. 文章理解 古文傍線部問題
15. 文章理解 確認演習
16. 文章理解 確認演習
17. 文章理解 英文要旨把握
18. 文章理解 英文内容把握
19. 文章理解 英文空欄補充
20. 論作文演習
21. 文章理解 総合演習
22. 資料解釈 総合演習
23. 文章理解 英文対策演習
24. 文章理解 英文対策演習
25. 文章理解 総合演習
26. 論作文演習
27. 文章理解 総合演習
28. 文章理解 総合演習
29. 文章理解 総合演習
30. 授業内試験を予定

準備学習(予習)

前回内容の解法の復習。特に文章理解の四分野に関しては、それぞれの設問に応じた解法があるので、その解法について習得できるように各自のペースに合わせて演習を行ってください。

準備学習(復習)

授業内で演習した問題の復習。各問題の解答を覚えるのではなく、なぜその選択肢が正解となるのか(なぜその選択肢が不正解となるのか)の根拠を理解するように心がけてください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 毎回の課題演習 | 20% |
| (3) 学期末テスト | 40% |

教科書

プリントなど、講師が用意した教材で行う(学生が負担する必要はない)。

参考書

担当教員：吉澤 剛士

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1PE00510

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定される。過去の出題傾向や実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を中心としながら進めていく。本講義では教養試験の中の判断推理・数的推理を取り扱う。「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。

(2) 内容

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験に合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講者に対する要望

試験のための知識だけではなく、合格するためのポイントやテクニックも伝授するので、毎回必ず出席し、必ず公務員試験に合格してもらいたい。他の受講者に迷惑をかけないこと。

学びのキーワード

- ・ 公務員試験
- ・ 数的推理
- ・ 判断推理

授業計画

01. 数的推理 数の計算と数列|判断推理 集合とその要素
02. 数的推理 約数・倍数|判断推理 命題の真偽
03. 数的推理 覆面算・方阵算|判断推理 発言の真偽
04. 数的推理 整数問題・記数法 |判断推理 暗号の解読
05. 数的推理 最大・最小問題|判断推理 対応関係
06. 数的推理 方程式・不等式の応用|判断推理 順序関係
07. 数的推理 連立方程式の応用|判断推理 位置関係
08. 数的推理 割合・比・濃度|判断推理 試合の勝敗
09. 数的推理 速さ|判断推理 整数の性質と数量関係
10. 数的推理 仕事算・時計算・年齢算|判断推理 操作の手順
11. 数的推理 場合の数・順列・組み合わせ|判断推理 平面図形の移動と軌跡
12. 数的推理 確率|判断推理 平面図形の構成と分割
13. 数的推理 直線図形|判断推理 立体図形とその組み立て
14. 数的推理 円・扇形 |判断推理 展開図・投影図
15. 数的推理 立体図形 |判断推理 立体の切断

準備学習(予習)

事前に該当の項目内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

講義で取り上げた項目を復習し、確実に身に付けるようにすること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

試験は中間試験と期末試験の結果をもって評価する。

教科書

参考書

担当教員：久保 善慎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1PE00810

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。特に、本講座で扱う人文科学分野・社会科学分野の政治などは、他の科目や論述試験、面接試験とも重複する分野となる。また、専門科目とも重複する分野は、本講座での授業を履修することで理解が十分でなかった点を見直すことにもなる。| 限られた時間で効率良く試験対策ができるよう、試験対策のための準備スケジュール、テキストの選び方・活用方法、先輩の合格体験などを紹介しながら、受講生が自学の時間も活用できるようになることが目的である。

(2) 内容

公務員試験の教養試験は、人文科学、社会科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解、資料解釈など出題範囲が幅広い。要領よく集中して学習をすることが求められる。| 人文科学の取り上げる分野は非常に広く、高校までに学習した日本史・世界史・地理をはじめ、社会科学の分野である、政治、経済、法律、社会についての対策は、論述問題の出題テーマとも化なせる重要な科目であり、十分な準備をしておくことが大切である。また、近年、公務員試験対策では人物重視の試験が多くなる傾向があり、この演習を通じて人物重視の試験傾向の対策にもつながる。| 近年の公務員試験の新しい傾向（政策プレゼンテーションの準備対策）についても紹介し、履修者の志望や関心を確認しながら講座をすすめてゆく。公務員試験の準備は長期間に及ぶ。本講座を受講することで、履修者の自学の時間も活用できるようにサポートする。

受講者に対する要望

公務員試験の合格を目指す学生向けの演習であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。予習で1回目、授業時に2回目、復習で3回目というように、何度も繰り返すことで試験対策をすすめることができるようにする。

学びのキーワード

- ・ 地方公務員試験
- ・ 警察官
- ・ 消防官
- ・ 一般行政職
- ・ 教養試験

授業計画

01. イントロダクション
02. 演習I
03. 演習II
04. 演習III
05. 演習I～IIIの復習
06. 演習IV
07. 演習V
08. 演習VI
09. 演習IV～VIの復習
10. 演習VII
11. 演習VIII
12. 演習IX
13. 演習VII～IXの復習
14. 総括
15. まとめとその解説

準備学習(予習)

理解を深めるため、指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習をすること。

準備学習(復習)

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への積極的な貢献 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

教科書

履修者の志望する試験を確認しながら、適宜授業中に示す。

参考書

司馬遼太郎(1999)『坂の上の雲』文春文庫||城山 三郎(1980)『官僚たちの夏』新潮文庫||横石知二(2007)『そうだ、葉っぱを売ろう!』ソフトバンククリエイティブ||高野稔(2012)『ローマ法王に米を食べさせた男』講談社||チャルマーズ・ジョンソン(1982)『通産省と日本の奇蹟』ティビエニス・ブリタニカ|

担当教員：猪狩 廣美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PE01061

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

授業計画

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

(2) 内容

準備学習(予習)

準備学習(復習)

評価方法

受講者に対する要望

学びのキーワード

教科書

参考書

担当教員：北川 嘉昭、阿部 忠資、池田 洋子、小林 直彦、五味 智子、松崎 保昌

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PE01162

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

地域社会の抱える課題と対策について認識を深めることを通じて、自治体等への就職に対するモチベーションを高めることを目標とする。

(2) 内容

福祉や教育、防災、街づくりなど、自治体の基幹的な業務に加え、タバコのポイ捨て禁止やレジ袋規制、ゆるキャラやB1グランプリ、ゴミ屋敷対策など、全国自治体の特色ある施策などについて、その背景、期待される効果、課題等をわかりやすく説明する。

受講者に対する要望

地域社会に関心を持ち、新聞もできるだけ目を通してください

学びのキーワード

- ・ 地域社会
- ・ 地方自治体
- ・ 地方公務員
- ・ 住民福祉
- ・ 公共サービス

授業計画

01. 地方自治・公共政策について
02. 事例研究 (震災対策)
03. 事例研究 (子育て支援)
04. 事例研究 (教育)
05. 事例研究 (地域活性化①)
06. 事例研究 (地域活性化②)
07. 事例研究 (産業振興)
08. 事例研究 (高齢者福祉)
09. 事例研究 (障害者福祉など)
10. 事例研究 (環境・リサイクル)
11. 事例研究 (防犯、感染症、ICT等の危機管理)
12. 事例研究 (行政改革)
13. 事例研究 (都市計画)
14. 事例研究 (道路、再開発、景観)
15. これからの公共サービス、公務員

準備学習(予習)

新聞を読み、地域のイベントへ参加に参加するなど、地域社会の出来事や課題に関心をもってください。

準備学習(復習)

テレビや新聞などで講義に関連した情報に接したとき、自治体や住民はどうすべきかについて、自分なりの考え方をまとめてみてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 出席 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：久保 善慎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1PE01271

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。多くの試験科目があり、限られた時間で効率良く試験対策ができるよう、自己流で教科書テキストのすべてを網羅する学習するよりも、要点を把握した上で、問題演習を通じた対策が必要です。受講生の苦手分野を中心に過去問に取り組むことにより実力の底上げを図る。

(2) 内容

公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習することが求められる。この演習は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とする。そこで、次のことを行う。 (1) 受講生が教養試験の演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。 (2) 指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで授業に臨む。 (3) 復習を通じて繰り返し演習問題にあたることで理解を深める。公務員試験の準備は長期間になります。本演習を受講することで、試験対策のための準備スケジュール、テキストの選び方・活用方法、先輩の合格体験などを紹介しながら、受講生が自学の時間も活用できるようサポートする。

受講者に対する要望

公務員試験の合格を目指す学生向けの演習であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 地方公務員試験
- ・ 警察官
- ・ 消防官
- ・ 一般行政職
- ・ 教養試験

授業計画

01. イントロダクション
02. 演習問題I
03. 演習問題II
04. 演習問題III
05. 演習I～IIIの復習
06. 演習問題IV
07. 演習問題V
08. 演習問題VI
09. 演習IV～VIの復習
10. 演習問題VII
11. 演習問題VIII
12. 演習問題IX
13. 演習VII～IXの復習
14. 総括
15. まとめとその解説

準備学習(予習)

理解を深めるため、指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説すること。

準備学習(復習)

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への積極的な貢献 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

教科書

適宜授業中に示す。

参考書

司馬遼太郎(1999)『坂の上の雲』文春文庫||城山 三郎(1980)『官僚たちの夏』新潮文庫||横石知二(2007)『そうだ、葉っぱを売ろう!』ソフトバンククリエイティブ||高野誠(2012)『ローマ法王に米を食べさせた男』講談社||チャルマーズ・ジョンソン(1982)『通産省と日本の奇跡』ティビエニス・ブリタニカ

担当教員：久保 善慎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1PE01372

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。多くの試験科目があり、限られた時間で効率良く試験対策ができるよう、自己流で教科書テキストのすべてを網羅する学習するよりも、要点を把握した上で、問題演習を通じた対策が必要です。受講生の苦手分野を中心に過去問に取り組みることにより実力の底上げを図る。

(2) 内容

公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習することが求められる。この講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とする。そこで、次のことを行う。 (1) 受講生が教養試験の演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。 (2) 指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで授業に臨む。 (3) 復習を通じて繰り返し演習問題にあたることで理解を深める。公務員試験の準備は長期間になります。本演習を受講することで、試験対策のための準備スケジュール、テキストの選び方・活用方法、先輩の合格体験などを紹介しながら、受講生が自学の時間も活用できるようサポートする。

受講者に対する要望

公務員試験の合格を目指す学生向けの演習であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 地方公務員試験
- ・ 警察官
- ・ 消防官
- ・ 一般行政職
- ・ 教養試験

授業計画

01. イントロダクション
02. 演習問題I
03. 演習問題II
04. 演習問題III
05. 演習I～IIIの復習
06. 演習問題IV
07. 演習問題V
08. 演習問題VI
09. 演習IV～VIの復習
10. 演習問題VII
11. 演習問題VIII
12. 演習問題IX
13. 演習VII～IXの復習
14. 総括
15. まとめとその解説

準備学習(予習)

理解を深めるため、指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び予習すること。

準備学習(復習)

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への積極的な貢献 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

教科書

適宜授業中に示す。

参考書

司馬遼太郎(1999)『坂の上の雲』文春文庫||城山 三郎(1980)『官僚たちの夏』新潮文庫||横石知二(2007)『そうだ、葉っぱを売ろう!』ソフトバンククリエイティブ||高野誠(2012)『ローマ法王に米を食べさせた男』講談社||チャルマーズ・ジョンソン(1982)『通産省と日本の奇蹟』ティビエニス・ブリタニカ

担当教員：猪狩 廣美、北川 嘉昭、佐藤 安夫、米澤 貴幸、池田 洋子、小林 直彦、五味 智子、澤田 千秋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1PE01481

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験(警察・消防・保育士等を含む)の1次試験に合格する力をつけることが、本講義の目標である。

(2) 内容

この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。|専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。|また、授業の中では、公務員に求められる文章技法(論作文)や表現方法(面接技法)についても指導を行う。|なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。|

受講者に対する要望

「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び秋学期の公務員講座(専門B)も合わせて受講することを強くすすめる。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス、講義と演習「ミクロ経済学1」、文章技法
02. 講義と演習「ミクロ経済学2」、文章技法
03. 講義と演習「ミクロ経済学3」、文章技法
04. 講義と演習「行政法4」、文章技法
05. 講義と演習「憲法1」
06. 講義と演習「憲法2」
07. 講義と演習「憲法3」
08. 講義と演習「憲法4」
09. 講義と演習「憲法5」
10. 講義と演習「憲法6」
11. 講義と演習「憲法7」
12. 講義と演習「憲法8」
13. 講義と演習「行政学1」
14. 講義と演習「行政学2」
15. 講義と演習「行政学3」
16. 講義と演習「行政学4」
17. 講義と演習「マクロ経済学1」
18. 講義と演習「マクロ経済学2」
19. 講義と演習「マクロ経済学3」
20. 講義と演習「マクロ経済学4」
21. 講義と演習「行政法1」
22. 講義と演習「行政法2」
23. 講義と演習「行政法3」
24. 講義と演習「行政法4」
25. 講義と演習「民法(1)1」、表現方法
26. 講義と演習「民法(1)2」、表現方法
27. 講義と演習「民法(1)3」、表現方法
28. 講義と演習「民法(1)4」、表現方法
29. 講義と演習「民法(1)5」、表現方法
30. 講義と演習「民法(1)6」、表現方法、春期のまとめ

準備学習(予習)

公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 授業参加度 | 50% | 出席、質疑応答等 |
| (2) 期末試験 | 50% | |

授業参加度、期末試験を総合的に評価する

教科書

参考書

東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級(15年版)』(成美堂出版)|資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新久一八一過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版)|

担当教員：猪狩 廣美、高梨 博和、阿部 忠資、池田 洋子、小林 直彦、五味 智子、澤田 千秋、松崎 保昌
 学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1PE01582

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験(警察・消防・保育士等を含む)の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

(2) 内容

1. 内容 | この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。| 専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。公務員講座(専門A)に引き続き、過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。| また、授業の中では、公務員に求められる文章技法(論作文)や表現方法(面接技法)についても指導を行う。| なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。

受講者に対する要望

「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び春学期の公務員講座(専門A)も合わせて受講することを強くすすめる。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス、講義と演習「政治学1」
02. 講義と演習「政治学2」
03. 講義と演習「政治学3」
04. 講義と演習「政治学4」
05. 講義と演習「政治学5」
06. 講義と演習「政治学6」
07. 講義と演習「財政学1」
08. 講義と演習「財政学2」
09. 講義と演習「財政学3」
10. 講義と演習「財政学4」
11. 講義と演習「財政学5」
12. 講義と演習「財政学6」
13. 講義と演習「社会学1」
14. 講義と演習「社会学2」
15. 講義と演習「社会学3」
16. 講義と演習「社会学4」
17. 講義と演習「社会学5」
18. 講義と演習「社会学6」
19. 講義と演習「社会学7」
20. 講義と演習「社会学8」
21. 講義と演習「経営学1」、文章技法
22. 講義と演習「経営学2」、文章技法
23. 講義と演習「経営学3」、文章技法
24. 講義と演習「経営学4」、文章技法
25. 講義と演習「民法(2)1」、表現方法
26. 講義と演習「民法(2)2」、表現方法
27. 講義と演習「民法(2)3」、表現方法
28. 講義と演習「民法(2)4」、表現方法
29. 講義と演習「民法(2)5」、表現方法
30. 講義と演習「民法(2)6」、表現方法、秋学期のまとめ

準備学習(予習)

公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 授業参加度 | 50% | 出席、質疑応答等 |
| (2) 期末試験 | 50% | |

授業参加度、期末試験を総合的に評価する。

教科書

参考書

東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級(15年版)』(成美堂出版)| 資格試験研究会『[大卒程度] 警察官・消防官 新久一八一過去ゼミ 社会科学』(実務教育出版)

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00111

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

(2) 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

受講者に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

学びのキーワード

- ・社会教育の理念
- ・生涯教育・生涯学習
- ・生涯発達論
- ・発達課題
- ・学歴社会の是正

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
03. 社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
04. 生涯教育の理念(1)
05. 生涯教育の理念(2)
06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ(何がちがうのか?)
07. 生涯教育の理念と社会背景(1)(各国の生涯教育の事情)
08. 生涯教育の理念と社会背景(2)(わが国の教育改革と生涯学習体系への移行)
09. 生涯教育の理念と社会背景(3)(急激な社会変化への適応)
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)(平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題)
11. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か?)
12. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など)
13. 生涯教育の理念への批判
14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』(樹村房)【978-4883672301】

参考書

担当教員：安齋 聡子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00212

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育から生涯学習の時代へと、今日いわれるところの生涯学習振興政策がどのような経緯から生まれて来たのか、また生涯学習社会の実現に向けて、今日の社会教育施設に求められる教育的機能について理解することを目標とします。

(2) 内容

本講義では第1に、我が国戦後の社会教育の理念について学びます。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年代半ば以降の教育答申等の内容を通して捉えます。第3に、社会教育施設として設置された、公民館、公共図書館、博物館活動について成り立ちと機能について取り上げ、生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズや、まちづくりとの関連において21世紀に求められる諸機能と課題について展望していきます。|社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられています。|資格取得を目指さない学生の受講も歓迎します。|

受講者に対する要望

今日の社会の中にある、生涯学習の現場に関心を注ぎながら、そして自身の学習体験と照らし合わせながら講義に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 社会教育
- ・ 生涯学習
- ・ 公民館とまちづくり
- ・ 博物館
- ・ 社会教育施設の今日的課題

授業計画

01. 教育の民主化と社会教育
02. 教育基本法・社会教育法と社会教育
03. 社会教育から生涯学習の理念へ (1) 何が新たな展開として出現したか
04. 社会教育から生涯学習の理念へ (2) 生涯学習と社会教育の違いとは?
05. 生涯学習振興と公民館 (1) 公民館の成り立ちから今日へ
06. 生涯学習振興と公民館 (2) 公民館とコミュニティ
07. 生涯学習振興と公民館 (3) 学習機会の設定に関する理論 (学習要求と必要課題の視点から)
08. まちづくりと公民館活動 (特色ある公民館活動の紹介)
09. 自分の住んでいるまちの公民館を調べてみよう
10. 私の暮らしているまちの地域課題 (調べた結果の紹介)
11. 生涯学習振興と博物館 (1) 博物館の成り立ち
12. 生涯学習振興と博物館 (2) 博物館・学校・地域との連携事業
13. まちづくりと博物館 (特色ある博物館活動の紹介)
14. 指定管理者制度と社会教育施設をめぐる議論
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの指定範囲を事前に読みこんで、毎回の授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させてください。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内応答 | 60% |
| (2) 試験 | 40% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』(樹村房)【978-4883672301】

参考書

担当教員：安齋 聡子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00321

<p>学部教育の関連目</p> <p>【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. ガイダンス 02. 社会教育の概念 03. 社会教育計画の概念（1） 04. 社会教育計画の概念（2） 05. 社会教育における地域 06. 社会教育における施設 07. 社会教育における集団（1） 08. 社会教育における集団（2） 09. 社会教育におけるボランティア（1） 10. 社会教育におけるボランティア（2） 11. 社会教育における参加（1） 12. 社会教育における参加（2） 13. 社会教育における学習プログラム（1） 14. 社会教育における学習プログラム（2） 15. まとめ 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p> <p>【全】社会教育主事任用資格：必修科目 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>事前に資料を配布します。それらに目を通してきてください。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とします。また、すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とします。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>この授業では、秋学期の「社会教育計画B」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を確認するとともに、一緒に考えていく授業とします。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていきます。</p>	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 授業内応答</td> <td>60%</td> <td><small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握するために行います。この割合は授業内容の理解度を評価するための目安です。</small></td> </tr> <tr> <td>(2) 期末試験</td> <td>40%</td> <td>15回目の授業内で実施します。</td> </tr> </table>	(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握するために行います。この割合は授業内容の理解度を評価するための目安です。</small>	(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。
(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握するために行います。この割合は授業内容の理解度を評価するための目安です。</small>					
(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。					
<p>受講者に対する要望</p> <p>授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p> <p><small>社会教育の基礎—転形期の社会教育を考える（講座 転形期の社会教育Ⅰ）. 2015. 学文社【978-4-7620-2511-2】</small></p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習 ・社会教育 ・社会教育施設 ・社会教育行政 							

担当教員：安齋 聡子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00422

<p>学部教育の関連目</p> <p>【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. 社会教育における学習者（1） 02. 社会教育における学習者（2） 03. 社会教育における学習支援（1） 04. 社会教育における学習支援（2） 05. 社会教育における学習情報 06. 社会教育における大学 07. 社会教育における連携（1） 08. 社会教育における連携（2） 09. 社会教育における評価（1） 10. 社会教育における評価（2） 11. 社会教育行政の変遷 12. 社会教育計画をめぐる課題（1） 13. 社会教育計画をめぐる課題（2） 14. 社会教育計画をめぐる課題（3） 15. まとめ 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p> <p>【全】社会教育主事任用資格：必修科目 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>事前に資料を配布します。それらに目を通してきてください。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とします。 また、すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とします。 </p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>この授業では、春学期の「社会教育計画A」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を確認するとともに、一緒に考えていく授業とします。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていきます。</p>	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 授業内応答</td> <td>60%</td> <td><small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握し、必要に応じて授業内容を調整します。</small></td> </tr> <tr> <td>(2) 期末試験</td> <td>40%</td> <td>15回目の授業内で実施します。</td> </tr> </table>	(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握し、必要に応じて授業内容を調整します。</small>	(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。
(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握し、必要に応じて授業内容を調整します。</small>					
(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。					
<p>受講者に対する要望</p> <p>授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p> <p>社会教育の基礎—転形期の社会教育を考える（講座 転形期の社会教育Ⅰ）、2015、学文社 [978-4-7620-2511-2]</p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習 ・社会教育 ・社会教育施設 ・社会教育行政 							

担当教員：安齋 聡子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00531

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる、社会教育行政と多様な主体との連携に関する知見を得ることを目標とします。すべての受講生においては、生涯学習・社会教育がどのように進められているのかその具体を把握し、自らに関わることでして考えられるようになることを目標とします。

(2) 内容

この授業では、社会教育行政と一般行政、企業やNPO等の民間、市民、高等教育機関等との連携のあり方や課題等について確認していきます。

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育における連携の意味
03. 社会教育行政と一般行政（1）
04. 社会教育行政と一般行政（2）
05. 社会教育と学校
06. 社会教育と地域
07. 社会教育と社会福祉
08. 社会教育と市民活動（1）
09. 社会教育と市民活動（2）
10. 社会教育と企業活動
11. 社会教育におけるコーディネーション
12. 社会教育と地域振興（1）
13. 社会教育と地域振興（2）
14. 社会教育と学校教育の制度的検討
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの指定範囲を事前に読みこんで、毎回の授業に臨んでください。

準備学習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内応答 | 60% | <small>授業中の発言や質問に対する回答、グループディスカッションの参加状況、授業後の振り返りシートなどから評価します。</small> |
| (2) 期末試験 | 40% | 15回目の授業内で試験を実施します。 |

受講者に対する要望

授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。

学びのキーワード

- ・生涯学習
- ・社会教育
- ・市民活動
- ・ボランティア

教科書

社会教育の連携論—社会教育の固有性と連携を考える（講座 転形期の社会教育Ⅱ）. 2015. 学文社 | [978-4-7620-2512-9]

参考書

担当教員：安齋 聡子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00632

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる、社会教育における多様な学習機会に関する知識を身につけることを目標とします。|すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とします。

(2) 内容

社会教育施設における学習機会とそれぞれの特徴、課題を整理します。|それらの具体的な活動について、受講者自身で資料収集をおこない、テーマを設定した上で、実際に任意の施設を利用して、レポートの作成と授業内での報告を行っていただきます。

受講者に対する要望

授業内報告以外にも、皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。

学びのキーワード

- ・生涯学習
- ・社会教育
- ・学習機会
- ・社会教育施設

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育施設における学習機会 (1)
03. 社会教育施設における学習機会 (2)
04. 社会教育施設における学習機会 (3)
05. 社会教育施設における学習機会 (4)
06. 社会教育施設における学習機会 (5)
07. 授業内報告 (1)
08. 授業内報告 (2)
09. 授業内報告 (3)
10. 授業内報告 (4)
11. 授業内報告 (5)
12. 授業内報告 (6)
13. 授業内報告 (7)
14. 授業内報告 (8)
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に資料を配布します。それらに目を通してきてください。|授業内報告についての具体的な方法については授業内で説明します。

準備学習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------------------|
| (1) 授業内応答 | 30% | <small>授業内報告(1)～(8)の合計</small> |
| (2) 授業内報告 | 40% | 原則1人1回の報告とします。 |
| (3) 期末試験 | 30% | 15回目の授業内で実施します。 |

教科書

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00741

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【C】今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として(或いは一個人として)、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

(2) 内容

1. 内容 | 本講義では、日本社会における高齢化の実態と高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学の理論について論じることとする。また、高齢期の人間が直面する課題とそれを解決するためにどのような教育実践が今日展開されているのかについても紹介する。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。|| 2. カリキュラム上の位置づけ | 資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。

受講者に対する要望

遅刻、無断欠席は厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 少子高齢化
- ・ 老年学
- ・ 成人の学習理論
- ・ ジェロゴジー
- ・ 加齢と知能

授業計画

01. 日本社会の高齢化の状況と将来推計
02. 戦前の高齢者の社会的地位(家長制度、尊属優位の民法規定)
03. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷
04. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張(活動理論と離脱理論等)
05. 生涯発達理論について
06. 加齢と知的能力(1)
07. 加齢と知的能力(2)
08. 高齢期の発達と危機(高齢期の発達課題)
09. 高齢期の発達と危機(高齢期の生活課題)
10. 高齢者の特性を活かした教育学(gerogogy)の理論
11. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法
12. 高齢者の学習関心・学習要求(1)
13. 高齢者の学習関心・学習要求(2) |
14. 高齢者を対象とする特色ある教育実践の紹介
15. まとめ

準備学習(予習)

講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。

準備学習(復習)

毎回、授業の講義ノートの整理をすること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 25% |
| (3) 試験 | 50% |

教科書

堀薫夫・三輪建二『生涯学習と自己実現』(放送大学教育振興会)【978-4595306143】

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00842

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【C】今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

(2) 内容

1. 内容 | 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題(死・病、対象喪失などをめぐる課題)を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。|| 2. カリキュラム上の位置づけ | 資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。||

受講者に対する要望

本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。

学びのキーワード

- ・ 青少年期の発達特性
- ・ ポストモダン
- ・ 奉仕活動の義務化
- ・ シティズンシップ教育
- ・ 生と死の準備教育

授業計画

01. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
02. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
03. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
04. 非行原因論の系譜（1）
05. 非行原因論の系譜（2）
06. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
07. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
08. 学校教育における奉仕活動の必修化をどう考えるか（協議）
09. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ
10. わが国における「死の準備教育」提唱の背景とその内容
11. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」をめぐる議論について
12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果
13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育－実践事例の紹介－」
15. まとめ

準備学習(予習)

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

準備学習(復習)

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 25% |
| (3) レポート点 | 50% |

教科書

参考書

講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

担当教員：安齋 聡子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00910

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる社会教育施設の役割や活動、運営上の諸課題等に関して知見を得ることを目標とします。|すべての受講生においては、社会教育施設をめぐる現状を把握し、社会教育そのものについて自ら考えられるようになることを目標とします。|受講者自身がそれぞれの視点で社会教育施設における学習機会を確認するとともに、自らの学習・教育活動の経験とあわせて、各施設で展開されている活動の意義を考えられるようになることをめざします。|||

(2) 内容

この授業では、生涯学習支援のための社会教育施設を概観した上で、各施設における活動や運営における諸課題について具体的に考えていきます。

受講者に対する要望

授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。

学びのキーワード

- ・ 社会教育施設
- ・ 公民館
- ・ 図書館
- ・ 博物館
- ・ 社会教育行政

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育における施設の体系
03. 社会教育における施設の作られ方
04. 社会教育における施設 (1)
05. 社会教育における施設 (2)
06. 社会教育における施設 (3)
07. 社会教育における施設 (4)
08. 社会教育における施設 (5)
09. 社会教育における施設 (6)
10. 社会教育における施設 (7)
11. 社会教育における施設 (8)
12. 社会教育施設をめぐる環境 (1)
13. 社会教育施設をめぐる環境 (2)
14. 社会教育施設をめぐる環境 (3)
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの指定範囲を事前に読みこんで、毎回の授業に臨んでください。

準備学習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内応答 | 60% | <small>授業中の発言や質問に対する回答、グループ討議での発言などにより評価します。</small> |
| (2) 試験 | 40% | 15回目の授業内で実施します。 |

教科書

社会教育の施設論—社会教育の空間的展開を考える (講座 転形期の社会教育Ⅲ) . 2015. 学文社 | 978-4-7620-2513-6 |

参考書

担当教員：谷口 隆一郎、井上 兼生

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00101

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

総合的な評価を旨とする。

教科書

増田二郎「大学でいかに学ぶか」講談社現代新書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00102

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：鄭 鎬碩

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00103

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：金子 毅

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00104

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：菊地 順

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00105

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00106

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：柴田 武男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00107

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：高橋 愛子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00108

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|----------------------------------|
| (1) 課題 | 50% | 分担したプレゼンテーションでのレジュメ作成とプレゼンにおける説明 |
| (2) 授業への参加貢献度 | 50% | 授業の各回における質疑、発言などへの積極的参加 |

教科書

参考書

担当教員：土方 透

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00109

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00110

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00111

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：山田 ひとみ

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00112

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00113

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びは、学ぶ目的も学ぶ方法も高校までの勉強とは違っている。高校までの与えられた教育の中では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。大学では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作っていくことが求められる。この演習では、大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための手ほどきをする。

(2) 内容

大学での学びを始めることができるように、「大学での学びはどうなっているか」、「講義を聴き、ノートを取る」、「自分で調べる」、「学術的な文章を読む」、「他人と議論して、自分で考える」、「レポートを書く」、「プレゼンテーション」、「ネットの活用」を学び、訓練する。

受講者に対する要望

大学での「自分で、自分の課題に取り組む」ための学びは、高校までの受け身の教育とは全く違っている。高校までの教育では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。この演習では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作っていくことを学ぶ。

学びのキーワード

- ・大学での講義
- ・ノートを取る
- ・自分で調べる
- ・学術的な文章
- ・プレゼンテーション

授業計画

01. 1. 大学では自分の時間割を自分で組む — 大学での学びは高校までとは違う
02. 2. 大学での授業
03. 3. 卒業に必要な要件
04. 4. 図書館実習 — 図書館の使い方 BiblioLab
05. 5. ノートを取る(1) — 講義を聴き、ノートを取る
06. 6. ノートを取る(2) — 板書写しは、ノートではない
07. 7. ノートを取る(3) — 使えるノートと、使えないノート
08. 8. ノートを取る(4) — 「誰の考えなのか」はつきり区別する
09. 9. ノートを取る(5) — 自分の 印し・記号を作って使う
10. 10. ノートを取る(6) — マインド・マップ を作る
11. 11. 自分で調べる
12. 12. メディア・リテラシー
13. 13. インターネットで調べる
14. 14. 文献を自分で読む
15. 15. 自分の主張を、明確にする

準備学習(予習)

示された資料の探索と得た資料の理解、レポートを書く訓練、指定された回のプレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーションの準備。

準備学習(復習)

演習で学んだ内容を復習し、各回のリアクション・ペーパーを作成する。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 各回の リアクション・ペーパー | 40% |
| (2) 演習クラスへの 参画と貢献 | 30% |
| (3) 課題レポート | 30% |

各回のリアクション・ペーパー、資料の探索と資料の理解、レポートを書く訓練、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等、などを総合的に評価する。

教科書

なし、講義資料を配布する。

参考書

文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。

担当教員：八木 規子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00114

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになるだろう。

(2) 内容

大学生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー
03. 読解の練習
04. 要約の練習
05. レポートの書き方解説
06. 討論の練習
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：谷口 隆一郎、井上 兼生

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00201

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

講義への主体性、小レポート課題、発表などを総合的にかつバランス良く評価することに努める。

教科書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00202

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：鄭 鎬碩

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00203

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：金子 毅

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00204

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：菊地 順

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00205

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00206

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：柴田 武男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00207

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：高橋 愛子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00208

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|----------------------------------|
| (1) 課題 | 50% | 分担したプレゼンテーションでのレジュメ作成とプレゼンにおける説明 |
| (2) 授業への参加貢献度 | 50% | 授業の各回における質疑、発言などへの積極的参加 |

教科書

参考書

担当教員：土方 透

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00209

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00210

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00211

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：山田 ひとみ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00212

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00213

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での学びは、学ぶ目的も学ぶ方法も高校までの勉強とは違っている。高校までの与えられた教育の中では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。大学では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作っていくことが求められる。この演習では、大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための手ほどきをする。

(2) 内容

「予備演習A」に引き続いて、大学での学びを始めることが出来るように、「大学での学びはどんなになっているか」、「講義を聴き、ノートを取る」、「自分で調べる」、「学術的な文章を読む」、「他人と議論して、自分で考える」、「レポートを書く」、「プレゼンテーション」、「ネットの活用」を学び、訓練する。

受講者に対する要望

大学での「自分で、自分の課題に取り組む」ための学びは、高校までの受け身の教育とは全く違っている。高校までの教育では、問題が与えられて、そしてすでに決まっている正解に至る方法を身に付ける訓練が中心だった。この演習では、先ず問題があることに自分で気づき、その問題を自分で明確にして、自分でその正解を作っていくことを学ぶ。

学びのキーワード

- ・ 議論・討論
- ・ レポート
- ・ プレゼンテーション
- ・ インターネット
- ・ SNSの危険

授業計画

01. 1. 他人と議論して、自分で考える
02. 2. 議論して、初めて自分が解かる
03. 3. 正しく推論する
04. 4. 図書館実習 — 図書館の使い方 BiblioLab データ・ベース検索
05. 5. レポートを書く (1) — レポートとは何か
06. 6. レポートを書く (2) — レポートを読むのは、自分ではない
07. 7. レポートを書く (3) — 全体を考えて、構成を作り、まとめる
08. 8. レポートを書く (4) — パラグラフを考えて、清書する
09. 9. レポートを書く (5) — 正確な文章に仕上げる
10. 10. レポートを書く (6) — 引用・注・参考文献
11. 11. プレゼンテーション (1) — プレゼンテーションとは何か
12. 12. プレゼンテーション (2) — プレゼンテーションによる発表の準備
13. 13. プレゼンテーション (3) — プレゼンテーション資料の作成
14. 14. 大学生活とインターネット
15. 15. インターネットにひそむ危険

準備学習(予習)

示された資料の探索と得た資料の理解、レポートを書く訓練、指定された回のプレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーションの準備。

準備学習(復習)

演習で学んだ内容を復習し、各回のリアクション・ペーパーを作成する。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 各回の リアクション・ペーパー | 40% |
| (2) 演習クラスへの 参画と貢献 | 30% |
| (3) 課題レポート | 30% |

各回のリアクションペーパー、資料の探索と資料の理解、レポートを書く訓練、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等、などを総合的に評価する。

教科書

なし、講義資料を配布する。

参考書

文献・資料のリスト と 講義資料を配布する。

担当教員：八木 規子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1PX00214

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

(2) 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなすレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

受講者に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨まれたい。欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 導入科目
- ・ 演習科目

授業計画

01. イントロダクション
02. 図書館ツアー：データベース編
03. 自己分析
04. 交流分析
05. 担当者による発表
06. 担当者による発表
07. 担当者による発表
08. 担当者による発表
09. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

準備学習(復習)

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題 | 60% |
| (2) 授業への参加貢献度 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：菊地 順

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX10509

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

春学期は、キングの背景と、キングの活動の原点ともなったモンゴメリーでの戦いを中心に学びます。そのことをとおし、その背後にあるキリスト教の精神を尋ねつつ、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えます。

(2) 内容

この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。|具体的には、アメリカで1950年代後半から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングを中心に、その戦い、生き方、思想について学びます。

受講者に対する要望

日本人にはあまりなじみのない人種問題を扱いますが、そこには人類に共通な普遍的問題があります。アメリカの歴史や黒人問題、また人間そのものに関心を寄せる人に受講してほしいと思います。また、授業では、学びつつ、議論しつつ、授業をしていきますので、積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ マーティン・ルーサー・キング
- ・ アフリカ系アメリカ人 (黒人)
- ・ 人種隔離政策
- ・ 非暴力
- ・ 人権

授業計画

01. 授業のオリエンテーション
02. アメリカ最南部の世界
03. 1950年代のアメリカ
04. キングの背景—家族・教会・教育
05. キングの戦い—モンゴメリーでのバス・ボイコット運動 (1) (その戦い)
06. キングの戦い—モンゴメリーでのバス・ボイコット運動 (2) (その勝利)
07. キングの非暴力思想 (1) (ガンジーとの出会い)
08. キングの非暴力思想 (2) (非暴力思想の形成)
09. キングの非暴力思想 (3) (その特色)
10. キングとローザ・パークス
11. 公民権運動への備え
12. キングと公民権運動の戦い・前半 (1) (シット・イン運動)
13. キングと公民権運動の戦い・前半 (2) (フリーダム・ライド運動)
14. キングと公民権運動の戦い・前半 (3) (オルバニーでの苦戦)
15. まとめ

準備学習(予習)

予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されたプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的判断で成績を出します。

教科書

参考書

プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。

担当教員：柴田 武男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX10713

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本ゼミの目的は、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の問題と取り組むことである。また、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

(2) 内容

専門演習 A (企業経済論) では、経済情報のアクセス方法とその活用方法を教授する。中心的な情報源は日本経済新聞である。特に日本経済新聞電子版を用いて、インターネット時代に即して情報収集・活用の方法を指示していく。また、ゼミの教材としては『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『週刊エコノミスト』という三大経済誌を活用し、その中から企業経済論に相応しい題材を提供し、議論していく。また、受講者からもこれらの情報媒体から題材提供を指示し、議論していく。本ゼミは、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の経済問題と取り組むことを目的として、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

受講者に対する要望

日々、日本経済新聞など経済記事を日頃から読む習慣を期待している。

学びのキーワード

- ・ 日本経済新聞
- ・ 週刊エコノミスト
- ・ 週刊東洋経済
- ・ 週刊ダイヤモンド
- ・ データベース

授業計画

01. 教員によるゼミの進め方を解説
02. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
03. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
04. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
05. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
06. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
07. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
08. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
09. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
10. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
11. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論10
12. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論11
13. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論12
14. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論13
15. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論14

準備学習(予習)

ゼミの出席は無遅刻・無欠席をお願いしたい。また、できるだけ政治経済学科主催の講演会および公開講義、AH等のシンポジウムにも積極的に参加できる学生の受講を期待する。

準備学習(復習)

講義で取り上げたテーマについて、質疑応答で生じた疑問点についてレポートを復習課題とする。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：金子 毅

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX10925

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

学生たちの将来に差し迫った就職活動に不可欠なプレゼン能力を養うことを通して、グローバル化により混迷する企業社会を生き抜く知性を獲得させる。

(2) 内容

日本の企業経営者の思考法について学ぶ。松下幸之助著作の『実践経営哲学』などを扱い、毎時これに関するテーマを学生各自が選んで発表をする形式で進める。

受講者に対する要望

ちょっと柔らかい頭と軽いフットワークで知の迷宮にチャレンジして下さい。

学びのキーワード

- ・ 企業の使命感
- ・ 経営理念
- ・ ダム経営
- ・ 水道哲学

授業計画

01. イントロダクション：松下式経営とは？
02. 発表に取り掛かる前に：分担の取り決めなど
03. 発表 1
04. 発表 2
05. 発表 3
06. 発表 4
07. 発表 5
08. 中間整理
09. 発表 6
10. 発表 7
11. 発表 8
12. 発表 9
13. 発表 10
14. 発表 11
15. エピローグ：まとめ（松下式経営は可能か？）

準備学習(予習)

発表者はテキストを熟読し、テーマを抽出し、レジュメを作成しておく。それ以外の者はテキストに目を通し、想定される問題点を確認しておく。

準備学習(復習)

レジュメに付された板書による訂正・追加個所を次回の該当箇所との関連を踏まえながら熟読する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX11169

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない、賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

(2) 内容

憲法に関連するテキストを用い、内容の読解・要約、さらに意見を発表する作業を重ねます。受講者には以下のことが求められます。||* 本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎです。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知り、その現実を体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。||* 現場を多く見る。若者に限らず、とにかく現代日本人は現場を知らなさ過ぎです。そのため、現実を知らない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、直接その目と耳で触れることによって異質な他者を理解し、それに共感する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。

受講者に対する要望

「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加することが強く求められます。

学びのキーワード

- ・ 演習科目
- ・ 法律学
- ・ 憲法学
- ・ 比較法学

授業計画

01. 導入：演習の進め方に関する討議及び決定
02. テキスト輪読・発表・議論
03. テキスト輪読・発表・議論
04. テキスト輪読・発表・議論
05. テキスト輪読・発表・議論
06. テキスト輪読・発表・議論
07. テキスト輪読・発表・議論
08. テキスト輪読・発表・議論
09. テキスト輪読・発表・議論
10. テキスト輪読・発表・議論
11. テキスト輪読・発表・議論
12. テキスト輪読・発表・議論
13. テキスト輪読・発表・議論
14. テキスト輪読・発表・議論
15. テキスト輪読・発表・議論

準備学習(予習)

演習科目なので、とりわけプレゼンテーションの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。

準備学習(復習)

プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。 |
| (2) 期末レポート | 20% | |

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

教科書

参考書

担当教員：高橋 愛子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX11541

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治にかかわる独自の研究テーマを見出すこと。

(2) 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。|以上の基本的な考え方に立ち、本年は「アメリカ政治の背景、および、アメリカ政治がもたらす政治的影響」を一つの切り口としながら、共通のテキストを輪読しつつ学び議論をしてゆく。一学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。
2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・アメリカの社会が抱えている格差の現状
- ・アメリカ政治における理念的次元
- ・トランプ政権をめぐるさまざまな争点

授業計画

01. 導入：一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
02. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
03. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
04. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
05. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
06. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
07. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
08. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
09. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
10. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
11. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
12. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
13. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
14. 個人の研究テーマのプレゼン・議論
15. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 学期末レポート | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

担当教員：竹井 潔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX11710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。

(2) 内容

ICTやAIが目覚ましい進展により、私たちの社会は大きく変わってきている。情報社会を取り巻く環境を認識し、情報化によって便益を受けている面と問題が生じてきている情報社会の課題を検討していきたい。

受講者に対する要望

専門演習は必ず出席し、積極的に参画すること。特に自分が発表担当になっている時の欠席は不可。

学びのキーワード

- ・ 情報社会における諸課題
- ・ 情報倫理

授業計画

01. オリエンテーション
02. 課題研究 1
03. 課題研究 2
04. 課題研究 3
05. テーマの選定
06. 研究計画書の作成
07. 調査・研究 1
08. 発表 1
09. 調査・研究 2
10. 発表 2
11. 調査・研究 3
12. 発表 3
13. 調査・研究 4
14. 発表 4
15. まとめ

準備学習(予習)

発表演習には事前に文献調査などを行い、発表資料を作成してこよう。また、わからない専門用語については調べて理解しておくこと。

準備学習(復習)

ゼミで出てくる専門用語において、理解が不足している事柄は、各自内容を整理して理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 演習 | 40% |
| (2) レポート | 60% |

教科書

授業中に指示する

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX11945

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

これまでに身に付けてきた、様々な社会科学的教養を前提として、政治哲学に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを目的としている。

(2) 内容

政治哲学の専門演習として、洋の東西にまたがる近・現代の政治理論家のテキストを読み込むことを主眼とする。また、それに関連する議論をおこなうことで参加者の政治学的素養を深める。

受講者に対する要望

アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事問題を議論することで、現実理解能力を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ 政治学
- ・ 思想
- ・ 討論

授業計画

01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
02. 政治理論と現代政治に関する導入
03. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
04. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
05. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
06. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
07. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
08. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
09. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
10. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
11. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
12. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
13. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
14. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
15. まとめ

準備学習(予習)

現実の政治現象に関心を持つだけでなくその理解に必要な政治哲学的観点への関心をもつこと。

準備学習(復習)

発表、討論内容について自身の考えを整理することが必要とされる。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業貢献 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：土方 透

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX13110

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ゼミは一方向的な講義とは異なり、一つのテーマをめぐってゼミ員同士が議論するという水平的なコミュニケーションから成り立つ。したがって、ここでは自らが能動的に考え、発し、それに対する反応を自らにおいて反省し、かつリプライするというもっとも知的な力が必要とされることとなる。そうした醍醐味を得るとともに、かかる能力を高めていくことが当科目の主たる意義と目標になる。

(2) 内容

文献講読、討論を通じて、ゼミ形式でしか得られない知的刺激と学的鍛錬を目標とする。

受講者に対する要望

受講する以上、能動的に参加すること。それに尽きる。

学びのキーワード

- ・ 現代社会
- ・ 社会学理論
- ・ 社会問題

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文献の選定
03. 文献講読
04. 文献講読
05. 文献講読
06. プレゼンテーション
07. プレゼンテーション
08. 中間総括
09. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. 総括
15. 卒業演習へのオリエンテーション

準備学習(予習)

毎回の課題の準備

準備学習(復習)

前回の成果を必ず次回に積み上げていくこと

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|-----------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% | ただ出席しているのではなく、議論を展開する姿勢に対する評価となる。 |
| (2) プレゼンテーション | 40% | プレゼンテーションの内容、レジュメに完成度などを評価の対象とする。 |

教科書

受講生と話し合いのうえ、教室で指示する。

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX13273

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

(2) 内容

これまでの歴史において、人々は平和をどのように捉え、また平和について何を考えてきたのか、といったテーマについて学び考えることを目的に、平和に関する歴史的・思想的文献を輪読する。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 輪読
- ・ 演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読 (学生による発表と討論)
03. 文献輪読 (学生による発表と討論)
04. 文献輪読 (学生による発表と討論)
05. 文献輪読 (学生による発表と討論)
06. 文献輪読 (学生による発表と討論)
07. 文献輪読 (学生による発表と討論)
08. 文献輪読 (学生による発表と討論)
09. 文献輪読 (学生による発表と討論)
10. 文献輪読 (学生による発表と討論)
11. 文献輪読 (学生による発表と討論)
12. 文献輪読 (学生による発表と討論)
13. 文献輪読 (学生による発表と討論)
14. 文献輪読 (学生による発表と討論)
15. 文献輪読 (学生による発表と討論)

準備学習(予習)

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% | 授業で扱った文献の書評レポート |

教科書

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX13310

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代においては、国内政治が国際政治に影響を与え、また国際政治が国内政治に影響を与えることは当然のことになっている。国際政治は人々の日々の生活にも大きな影響を与えている。ガソリンは、中東の政治や戦争で価格が大きく変動することがある。当たり前のように日本で食べられていたクジラは、国際規制によって今では高級品である。マグロも、養殖物以外は食べられなくなるかもしれない。国際政治の変動を理解せずに、生活することは、少なくとも日本ではありえない。自分には関係ないと思っけていても、国際政治の影響は確実に受けているのである。国際政治を理解することは、自分がおかれている状況を理解することでもある。||演習Aでは、それを念頭に、激変する国際政治を理解するための枠組みを学ぶことに重点をおきたい。最終的には、現代の国際政治の中で、自分のおかれている状況を理解することを目指す。

(2) 内容

演習は文献輪読・討論が中心である。文献を読んで、お互いに討論することで、より国際政治への理解を深めていきたい。ただし、国際政治を理解するためには、いくつかの視角がある。演習では、リアリズムを中心に国際政治を理解する文献を用意する。また校外学習として、日本の政治の中心地である霞ヶ関や永田町を訪問して、校外で開催されるセミナーなどに参加することもある。

受講者に対する要望

春学期に開講される「国際政治論」を受講すること。

学びのキーワード

- ・ 国際政治
- ・ 戦争
- ・ 外交
- ・ 安全保障
- ・ 国際秩序

授業計画

01. イントロダクション(演習の進め方)
02. 文献輪読と討論
03. 文献輪読と討論
04. 文献輪読と討論
05. 文献輪読と討論
06. 文献輪読と討論
07. 文献輪読と討論
08. 文献輪読と討論
09. 文献輪読と討論
10. 校外学習
11. 文献輪読と討論
12. 文献輪読と討論
13. 文献輪読と討論
14. 文献輪読と討論
15. 文献輪読と討論

準備学習(予習)

文献の該当部分を読んでおき、より理解を深めるために関係する他の文献も調べておくこと。

準備学習(復習)

ノートを作成しておいて、講義後にそれを整理しておき、学期末レポートに備えること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 文献の担当部分の発表や討論への参加 |
| (2) 学期末レポート | 50% | 文献の要約と評価。UNIPAで学期末に提出。 |

教科書

イントロダクションでいくつか提示するので、その場で選択する。

参考書

授業の中で指示する

担当教員：飯島 康夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX13510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

市民社会とはどのようなことなのか。また、世界各地にある「都市」をヨーロッパの都市と日本の町との異なる点、共通する点を比較して市民意識の自由と責任とは何かを考察していくこと。そして、一定の理解をしていくこと。これが講義の意義と目標である。

(2) 内容

都市と市民、これらはどのようなものであるかを西洋と東洋、日本の文化のなかで考察していく。特に中世都市に重点を置きその特徴を明らかにしようとするものである。

受講者に対する要望

出席し主体性を持つこと

学びのキーワード

- ・市民社会
- ・近代化とその課題
- ・住民と都市

授業計画

01. 受講にあたっての導入
02. 住民と市民の違い
03. 国家と都市の違い
04. 東洋の町
05. ギリシャのポリスとは
06. アテネとスパルタ
07. ローマ
08. ロンバルディア同盟
09. 中間のまとめ
10. 西洋中世都市の成立
11. バロック都市
12. 産業革命と都市の行方
13. 近代化と都市
14. 19世紀から20世紀にかけての変化
15. まとめ。現代の状況を背景に、グローバル化と市民、都市の関係をレポート、発表。

準備学習(予習)

発表者は責任を持ってテーマについて発表すること

準備学習(復習)

前回ゼミの意見を振り返り、それを踏まえて、課題にこたえること

評価方法

- | | |
|----------------------------|----|
| (1) 各テーマで、小課題をともに考えるので準備する | 4割 |
| (2) 各自が自主的に考えを示し、共有すること | 2割 |
| (3) レポートと発表 | 4割 |

均衡の取れた総合的な評価

教科書

増田四郎「都市」ちくま学芸文庫

参考書

担当教員：谷口 隆一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX14010

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(1) 公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。| (2) 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。| (3) 論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。| (4) 以上に加えて、経済学のおよび（国際）政治学的思考を醸成するべく、日本とその周辺諸国にかかわる近現代史を概観し、現代の国政政治経済状況を理解する。

(2) 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが所属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅつたい）の経緯と動向について学ぶ。| 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニティリアリズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。| (1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジュメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。| さらに、上記「学びの意義と目標」の(4)を達成するために、ゼミ生各自が公共倫理・政治経済にかんするテーマを見つけ、各自でテキストを決め、ゼミで学習内容を報告し合う。

受講者に対する要望

年に数回合宿を行う。全員参加を基本とする。

学びのキーワード

- ・ 公共
- ・ 公共倫理
- ・ コミュニティ
- ・ グローバリズム
- ・ ナショナリティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 公共とは何か（1）： 導入
03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 公共とは何か（2）： 定説への批判
04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 社会契約論とリベラリズムの出来
05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズムの系譜
06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 近代とリベラリズムの陥穽
07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 近代主義とリベラリズム
08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズムと格差
09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズム批判—コミュニティリアリズム、他
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズムと共通善
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 保守主義と共通善
12. 2、3名のゼミ生によるレポート作成計画の発表
13. 次の2、3名のゼミ生によるレポート作成計画の発表
14. 残りの2、3名のゼミ生によるレポート作成計画の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

準備学習(復習)

学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。

評価方法

- | | | |
|----------------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度と貢献度 | 50% | 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジュメ等 |
| (2) 研究成果（小論文）ないしレポート | 50% | ゼミ論文・レポートに対する評価 |
| (3) 出欠について | | 学則を参照！出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。 |

遅刻が常習の者や授業の取り組みが著しく消極的な者については評価を厳しくする。

教科書

授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

参考書

授業内で指示する。

担当教員：八木 規子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX14349

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

組織行動論は、組織において人間が行動する際にみせる、様々な法則性について学ぶ学問である。現実の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から吟味することは、履修生が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、3年次に執筆する卒業研究レポートに備えて、普遍的な科学研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。

(2) 内容

組織行動論の諸概念を、テキスト『キャリアで語る経営組織』の輪読を通じて、学んでいく。専門演習 A では、履修生が組織行動論の中で、興味のある概念を選び、卒業研究レポートの研究・執筆につなげていく、第一段階として、組織行動論の諸概念に親しみながら、レポートの書き方の基本を再確認する。

受講者に対する要望

理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 組織行動
- ・ 調査研究手法
- ・ 企業
- ・ 個人

授業計画

01. イントロダクション：自己紹介、ゼミの進め方について
02. 第1章 キャリアを考える：個人の欲求と会社の目的
03. 分担決定、レジュメの作り方
04. 第2章 入社する：社会化と組織文化
05. 第3章 会社と仕事に慣れる：モチベーションと規則の関係
06. 第4章 人事異動：会社のなかでのキャリア開発
07. 第5章 部下を持つ：リーダーシップ
08. 第6章 部内をまとめる：集団のダイナミズム
09. 第7章 トラブル発生：コンフリクト・マネジメント
10. 第8章 あこがれの経営企画室へ：組織のデザイン
11. 第9章 部長たちの奮闘：環境のマネジメント
12. 第10章 事業を背負う：組織変革とトップの役割
13. 第11章 ついに社長就任：経営理念とビジネスシステム
14. 第12章 ビジネスのさらに先：経営にできること
15. まとめ

準備学習(予習)

次回予定されている、テキストの該当章は必ず読み、自分の考え、意見をまとめておくこと。内容理解を問うクイズを行うこともある。報告者・発表者は、前日までにレジュメを担当教員に提出すること。

準備学習(復習)

各回のゼミ終了後、理解したこと、疑問に思ったことをまとめておくこと。UNIPA上に、それらの考えをアップロードする場を設けるので、そこに考えを書き込むこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--|
| (1) 授業への貢献 | 50% | クラス討議への参加、担当夏の発表、他の参加者の報告への発言、クラスサイトの発言に対する建設的なフィードバック |
| (2) 期末レポート | 50% | |

教科書

稲葉祐之、他著『キャリアで語る経営組織 ― 個人の論理と組織の論理』（有斐閣）【978-4-641-12393-9】

参考書

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX14561

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本演習では、日本経済の基礎知識を、各自深めることから始め、卒業研究で取り扱う問題に対する意識を高めることを目的とする。

(2) 内容

本演習では、1990年代に入るまで順調な経済成長を持続してきた日本経済の特徴を、欧米経済先進国との制度的な比較から理解すると共に、90年代の「失われた10年」を経て、21世紀を迎えた今日においてもいまだ問題を抱える日本経済についての講義、ディスカッションを通して、各自考えることをする。

受講者に対する要望

秋学期にある「日本経済論」を履修すること。また、15回の講義で、日本経済の基礎を概観するので、しっかりと勉強をすること。

学びのキーワード

- ・ 日本経済
- ・ 市場経済
- ・ 現在資本主義
- ・ 失われた10年

授業計画

01. はじめに
02. 市場経済の特徴
03. 現代資本主義の特徴
04. 戦後復興期から高度成長期まで
05. 石油危機にはじまる低成長期
06. 経済成長の仕組み(1)
07. 経済成長の仕組み(2)
08. 日本的市場競争の仕組み(銀行グループ)
09. 日本的市場競争の仕組み(日本的経営)
10. 円高不況からバブルへ(背景)
11. 円高不況からバブルへ(政策対応)
12. 「失われた10年」の意味
13. 「失われた10年」における政策対応
14. 「失われた10年」の間の世界の変化
15. まとめ

準備学習(予習)

日本経済に関する書籍を前もって読み、講義の問題提起に対して発言できるように準備しておくこと。

準備学習(復習)

広義に関連した資料を集め、目を通しておくこと。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------|
| (1) 資料収集 | 50% | 2回×25% |
| (2) レポート | 50% | 1,200文字程度 2回 |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX14681

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

(2) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2017年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・生活の中から見た法と行政
- ・消費者保護法
- ・消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：平 修久

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX14785

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶとともに、実際のまちづくりを体験することにより、考える力と行動する力を身につけること。

(2) 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。何気なく毎日過ごしている身近なまちをもう一度見直し、埋もれている価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きが各地で見られる。あるいは、まちの問題に自ら市民が取り組む動きも起きている。そこで、本演習では、具体的なまちの課題を取り上げ、実際のまちづくり活動を行うとともに、まちの見方・歩き方など、まちの理解の仕方を学ぶ。授業の性格上、グループ作業があるとともに、学外で行うこともある。また、キャンパス内で行うほたる祭りに参加し、イベントの運営方法などを学ぶ。||

受講者に対する要望

グループ作業などに積極的に関わることを期待する。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・地域活動
- ・景観

授業計画

01. ガイダンス
02. まちの構成要素 人・組織
03. まちの仕組み 行政・市民参加
04. まち歩き(戸崎地区)
05. まち歩き(まとめ1)
06. KJ法
07. まち歩き(まとめ2)
08. まちの景観
09. 景観調査
10. 景観調査(まとめ)
11. レジメの作成方法について
12. まちづくりに関する本の輪読
13. まちづくりに関する本の輪読
14. まちづくりに関する本の輪読
15. まちづくりに関する本の輪読

準備学習(予習)

事前に、教科書の指定箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

グループワークやフィールドワークの場合は、振り返りを行い、輪読の場合は、指定箇所を再度読み直す。

評価方法

(1) 授業への参加度合	30%
(2) グループワーク	10%
(3) 小課題	20%
(4) 発表	15%
(5) レポート	25%

教科書

田村明『まちづくりの実践』(岩波新書)【978-4004306153】

参考書

担当教員：菊地 順

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX20509

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

秋学期は、1964年と65年に公民権法等が成立しますが、それに至るまでのキングたちの戦い（公民権運動）を中心に学びます。また、同時代に生きてきたキングと関連のある指導者たちについても学びます（特にケネディとマルコムX）。この学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えたいと思います。

(2) 内容

この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。|具体的には、アメリカで1950年代後半から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングを中心に、その戦い、生き方、思想について学びます。

受講者に対する要望

授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ マーティン・ルーサー・キング
- ・ 公民権運動
- ・ 非暴力
- ・ 人間の尊厳
- ・ アメリカン・ドリーム

授業計画

01. 授業のオリエンテーション
02. キングと公民権運動の戦い・後半（1）（バーミングハム闘争への道）
03. キングと公民権運動の戦い・後半（2）（バーミングハム闘争）
04. キングと公民権運動の戦い・後半（3）（バーミングハム獄中からの書簡）
05. キングとケネディ兄弟（1）（その出会い）
06. キングとケネディ兄弟（2）（その関係）
07. ワシントン大行進（1）—その背景と意義—
08. ワシントン大行進（2）—” I have a dream”
09. キングとノーベル平和賞（1）（苦境の中で）
10. キングとノーベル平和賞（2）（受賞講演）
11. 公民権法の成立（1）（1964年）
12. 公民権法の成立（2）（1965年）
13. キングとマルコムX（1）（両者の社会的背景）
14. キングとマルコムX（2）（両者の思想的特色）
15. まとめ

準備学習(予習)

予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されたプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的判断で成績を出します。

教科書

参考書

担当教員：柴田 武男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX20713

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本ゼミの目的は、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の問題と取り組むことである。また、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

(2) 内容

専門演習B(企業経済論)では、経済情報のアクセス方法とその活用方法を教授する。中心的な情報源は日本経済新聞である。特に日本経済新聞電子版を用いて、インターネット時代に即して情報収集・活用の方法を指示していく。また、ゼミの教材としては『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『週刊エコノミスト』という三大経済誌を活用し、その中から企業経済論に相応しい題材を提供し、議論していく。また、受講者からもこれらの情報媒体から題材提供を指示し、議論していく。本ゼミは、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の経済問題と取り組むことを目的として、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

受講者に対する要望

日頃から日本経済新聞など経済記事を読む習慣を期待している。講義のメーリングリストを活用するのでパソコン・メール環境を準備してください。

学びのキーワード

- ・ 日経電子版
- ・ 週刊東洋経済
- ・ 週刊エコノミスト
- ・ 週刊ダイヤモンド
- ・ PDFファイル

授業計画

01. 教員によるゼミの進め方を解説
02. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
03. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
04. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
05. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
06. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
07. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
08. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
09. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
10. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論
11. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論10
12. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論11
13. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論12
14. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論13
15. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論14

準備学習(予習)

ゼミの出席は無遅刻・無欠席をお願いしたい。また、できるだけ政治経済学科主催の講演会および公開講義、AH等のシンポジウムにも積極的に参加できる学生の受講を期待する。

準備学習(復習)

ゼミの質疑応答で生じた疑問点をレポート課題として提出させる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：金子 毅

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX20925

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

学生たちの将来に差し迫った就職活動に不可欠なプレゼンテーション能力を養い、これを通してグローバル化により混迷する企業社会を生き抜く処方箋を提供する。

(2) 内容

日本の企業の思考法について学ぶ。小売業を主な題材とし、ユニクロの柳井正の著作など（講義時に指示）をテキストとし、毎時これに関連するテーマを学生各自が発表する形式で進める。

受講者に対する要望

ちょっと柔らかい頭と軽いフットワークで知の迷宮にチャレンジして下さい。

学びのキーワード

- ・顧客創造
- ・知識労働
- ・社会の公器

授業計画

01. イントロダクション：ユニクロ的経営とは？
02. 発表に取り掛かる前に：分担の取り決めなど
03. 発表 1
04. 発表 2
05. 発表 3
06. 発表 4
07. 発表 5
08. 中間整理
09. 発表 6
10. 発表 7
11. 発表 8
12. 発表 9
13. 発表 10
14. 発表 11
15. エピローグ：ユニクロ式経営のゆくえ

準備学習(予習)

発表者はテキストを熟読し、テーマを抽出し、レジюмеを作成しておく。それ以外の者はテキストの該当箇所に目を通し、想定される疑問点を確認しておく。

準備学習(復習)

レジюмеに付された板書による訂正・加筆箇所を次回の発表個所との関連を踏まえながら熟読する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX21169

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない、賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

(2) 内容

春学期に引き続き、憲法に関連するテキストを用い、内容の読解・要約、さらに意見を発表する作業を重ねます。受講者には以下のことが求められます。||* 本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎです。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知り、その現実を追体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。||* 現場を多く見る。若者に限らず、とにかく現代日本人は現場を知らなさ過ぎです。そのため、現実を知らない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、直接その目と耳で触れることによって異質な他者を理解し、それに共感する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。

受講者に対する要望

「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する「こと」が強く求められます。

学びのキーワード

- ・ 演習科目
- ・ 法律学
- ・ 憲法学
- ・ 比較法学

授業計画

01. 導入：演習の進め方に関する討議及び決定
02. テキスト輪読・発表・議論
03. テキスト輪読・発表・議論
04. テキスト輪読・発表・議論
05. テキスト輪読・発表・議論
06. テキスト輪読・発表・議論
07. テキスト輪読・発表・議論
08. テキスト輪読・発表・議論
09. テキスト輪読・発表・議論
10. テキスト輪読・発表・議論
11. テキスト輪読・発表・議論
12. テキスト輪読・発表・議論
13. テキスト輪読・発表・議論
14. テキスト輪読・発表・議論
15. テキスト輪読・発表・議論

準備学習(予習)

演習科目なので、とりわけプレゼンテーションの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。

準備学習(復習)

プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。 |
| (2) 期末レポート | 20% | |

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

教科書

参考書

担当教員：高橋 愛子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX21541

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（要点を把握し、レジュメを作成し、プレゼンする）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマへの問題意識を深めること。

(2) 内容

基本的に、学期の前半は春学期に続き「アメリカ政治の背景、および、アメリカ政治がもたらす政治的影響」に関する共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の研究課題についての進捗状況を報告、議論する。報告と議論を重ねて次年度以降に取り組む「卒業論文」の土台・骨格の形成を図る。学期末に「学期末レポート」の提出が求められる。

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・アメリカの社会が抱えている格差の現状
- ・アメリカ政治における理念的次元
- ・トランプ政権をめぐるさまざまな争点

授業計画

01. オリエンテーション
02. 共通テキストの講読、議論
03. 共通テキストの講読、議論
04. 共通テキストの講読、議論
05. 共通テキストの講読、議論
06. 共通テキストの講読、議論
07. 共通テキストの講読、議論
08. 共通テキストの講読、議論
09. 各自の研究課題のプレゼン、議論
10. 各自の研究課題のプレゼン、議論
11. 各自の研究課題のプレゼン、議論
12. 各自の研究課題のプレゼン、議論
13. 各自の研究課題のプレゼン、議論
14. 各自の研究課題のプレゼン、議論
15. 一学期間のまとめ

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについてのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 学期末レポート | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

担当教員：竹井 潔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX21710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく

(2) 内容

ICTやAIが目覚ましい進展により、私たちの社会は大きく変わってきている。情報社会を取り巻く環境を認識し、情報化によって便益を受けている面と問題が生じてきている情報社会の課題を検討していきたい。

受講者に対する要望

専門演習は必ず出席し、積極的に参画すること。特に自分が発表担当になっている時の欠席は不可。

学びのキーワード

- ・ 情報社会における諸課題
- ・ 情報倫理

授業計画

01. 課題検討
02. 課題研究 1
03. 課題研究 2
04. 課題研究 3 |
05. テーマの選定
06. 研究計画書の作成
07. 調査・研究 1
08. 発表 1 |
09. 調査・研究 2
10. 発表 2
11. 調査・研究 3
12. 発表 3 |
13. 調査・研究 4
14. 発表 4 |
15. まとめ |

準備学習(予習)

発表演習には事前に文献調査などを行い、発表資料を作成してこること。また、わからない専門用語については調べて理解しておくこと。

準備学習(復習)

ゼミで出てくる専門用語において、理解が不足している事柄は、各自内容を整理して理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 演習 | 40% |
| (2) レポート | 60% |

教科書

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX21945

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

これまでに身に付けてきた、様々な社会科学的教養を前提として、政治哲学に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを目的としている。

(2) 内容

政治哲学の専門演習として、各人の問題意識にあわせた議論を行うことを主眼に置く。同時に関連する議論をおこなうことで参加者の政治学的素養を深める。

受講者に対する要望

アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事問題を議論することで、現実理解能力を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ 政治学
- ・ 思想
- ・ 討論

授業計画

01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
02. 各自の関心のあるテーマの選択
03. 各自のプレゼン・議論
04. 各自のプレゼン・議論
05. 各自のプレゼン・議論
06. 各自のプレゼン・議論
07. 各自のプレゼン・議論
08. 各自のプレゼン・議論
09. 各自のプレゼン・議論
10. 各自のプレゼン・議論
11. 各自のプレゼン・議論
12. 各自のプレゼン・議論
13. 各自のプレゼン・議論
14. 各自のプレゼン・議論
15. まとめ

準備学習(予習)

現実の政治現象に関心を持つだけでなくその理解に必要な政治哲学的観点への関心をもつこと。

準備学習(復習)

発表、討論内容について自身の考えを整理することが必要とされる。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業貢献 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：土方 透

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX23110

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学での専門演習の名に恥じないように、深く深く考えていく訓練をする。

(2) 内容

専門演習Aに準ずる。内容は、基本的にAのものを継承する。

受講者に対する要望

秋学期の専門演習は、ある意味で四年間のうちもっとも重要な位置を占めているといえる。心して、真剣に取り組んで欲しい。

学びのキーワード

・専門演習Aに準ずる。

授業計画

01. オリエンテーション
02. プレゼンテーション
03. プレゼンテーション
04. プレゼンテーション
05. プレゼンテーション
06. プレゼンテーション
07. プレゼンテーション
08. 全体討論
09. プレゼンテーション
10. プレゼンテーション
11. プレゼンテーション
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. 全体討論
15. 総括

準備学習(予習)

毎回、必ず課題をこなすこと。

準備学習(復習)

成果を必ず次回のプレゼンテーションに活かすこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 50% | 専門演習Aに準ずる。 |
| (2) 報告の内容 | 50% | 専門演習Aに準ずる。 |

教科書

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX23273

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

(2) 内容

現代世界において平和を実現するためにはどのような取り組みが求められるのか、またそうした取り組みの実例にはどのようなものがあるのか、といったテーマについて学び考えることを目的に、平和に関する現代的な事象を論じた文献を輪読する。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 輪読
- ・ 演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読 (学生による発表と討論)
03. 文献輪読 (学生による発表と討論)
04. 文献輪読 (学生による発表と討論)
05. 文献輪読 (学生による発表と討論)
06. 文献輪読 (学生による発表と討論)
07. 文献輪読 (学生による発表と討論)
08. 文献輪読 (学生による発表と討論)
09. 文献輪読 (学生による発表と討論)
10. 文献輪読 (学生による発表と討論)
11. 文献輪読 (学生による発表と討論)
12. 文献輪読 (学生による発表と討論)
13. 文献輪読 (学生による発表と討論)
14. 文献輪読 (学生による発表と討論)
15. 文献輪読 (学生による発表と討論)

準備学習(予習)

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% | 授業で扱った文献の書評レポート |

教科書

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX23310

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代においては、国内政治が国際政治に影響を与え、また国際政治が国内政治に影響を与えることは当然のことになっている。国際政治は人々の日々の生活にも大きな影響を与えている。ガソリンは、中東の政治や戦争で価格が大きく変動することがある。当たり前のように日本で食べられていたクジラは、国際規制によって今では高級品である。マグロも、養殖物以外は食べられなくなるかもしれない。国際政治の変動を理解せずに、生活することは、少なくとも日本ではありえない。自分には関係ないと思っけていても、国際政治の影響は確実に受けているのである。国際政治を理解することは、自分がおかれている状況を理解することでもある。||演習Bでは、それを念頭に、国際政治の実態を学ぶことに重点をおきたい。最終的には、現代の国際政治の中で、自分のおかれている状況を理解することを目指したい。

(2) 内容

演習は文献輪読・討論が中心である。文献を読んで、お互いに討論することで、より国際政治への理解を深めていきたい。ただし、国際政治を理解するためには、いくつかの視角がある。演習では、リアリズムを中心に国際政治を理解する文献を用意する。また校外学習として、日本の政治の中心地である霞ヶ関や永田町を訪問して、校外で開催されるセミナーなどに参加することもある。

受講者に対する要望

春学期に開講される「国際政治論」を受講していることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 国際政治
- ・ 戦争
- ・ 外交
- ・ 安全保障
- ・ 国際秩序

授業計画

01. イントロダクション (演習の進め方)
02. 文献輪読と討論
03. 文献輪読と討論
04. 文献輪読と討論
05. 文献輪読と討論
06. 文献輪読と討論
07. 文献輪読と討論
08. 文献輪読と討論
09. 文献輪読と討論
10. 校外学習
11. 文献輪読と討論
12. 文献輪読と討論
13. 文献輪読と討論
14. 文献輪読と討論
15. 文献輪読と討論

準備学習(予習)

文献の該当部分を読んでおき、より理解を深めるために関係する他の文献も調べておくこと。

準備学習(復習)

ノートを作成しておいて、講義後にそれを整理しておき、学期末レポートに備えること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 文献の担当部分の発表や討論への参加 |
| (2) 学期末レポート | 50% | 文献の要約と評価。UNIPAで学期末に提出。 |

教科書

イントロダクションでいくつか提示するので、その場で選択する。

参考書

授業の中で指示する

担当教員：飯島 康夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX23510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

このゼミは都市研究の一環として都市史を共に概観することにある。目標は、私達の住む街の現実に置き換えて居心地の良い街とは何かを考えその為になにができるかを試行錯誤ながらも共に実践出来る事を出来るように備える事である。

(2) 内容

都市形成の概観とその構成要素と一緒に探求する内容となっている。

受講者に対する要望

様々なゼミ生がいることに配慮して各テーマに一定の理解を共有できること

学びのキーワード

- ・ 有機体
- ・ 中世都市
- ・ 欧米と東洋の違い

授業計画

01. ゼミのあり方など、導入
02. 都市の定義と見方
03. 経済社会上の生産過程と都市の位置づけ
04. 都市史俯瞰
05. 都市
06. 有機体としての都市と家庭
07. 類型化
08. 先史時代
09. 古代都市 メソポタミア、エジプト等
10. ヨーロッパ社会の起源
11. ギリシャ、ローマ
12. 中世都市
13. 英国での変遷
14. ヨーロッパでの変遷
15. 総まとめ

準備学習(予習)

文献等にテーマに沿って調べてくること

準備学習(復習)

前回ゼミへの振り返り、当面の課題に活かすこと

評価方法

- | | |
|-------------------------|----|
| (1) ゼミへの主体性、参加 | 4割 |
| (2) 資料にもとづく発表と他者への受け入れ | 3割 |
| (3) レポート課題の口頭発表とそれに臨む姿勢 | 3割 |

総合的な評価

教科書

アサーコーン「都市形成の歴史」鹿島出版会

参考書

担当教員：谷口 隆一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX24010

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(1) 公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。| (2) 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。| (3) 論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。| (4) 以上に加えて、経済学のおよび（国際）政治学的思考を醸成するべく、日本とその周辺諸国にかかわる近現代史を概観し、現代の国政政治経済状況を理解する。

(2) 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが所属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅつたい）の経緯と動向について学ぶ。| 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニティリアリズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。| (1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジュメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。| さらに、上記「学びの意義と目標」の(4)を達成するために、ゼミ生各自が公共倫理・政治経済にかんするテーマを見つけ、各自でテキストを決め、ゼミで学習内容を報告し合う。

受講者に対する要望

年に数回合宿を行う。全員参加を基本とする。

学びのキーワード

- ・ 公共
- ・ 公共倫理
- ・ コミュニティ
- ・ グローバリズム
- ・ ナショナリティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 公共とは何か（1）： 導入
03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 公共とは何か（2）： 一般的理解の解説
04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 社会契約論とリベラリズムの出来
05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズムの系譜
06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 近代とリベラリズムの陥穽
07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 近代主義とリベラリズム
08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズムと格差
09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズム批判—コミュニティリアリズム、他
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： リベラリズムと共通善
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジュメを作成して、報告を行う： 保守主義と共通善
12. 2、3名のゼミ生によるレポート作成計画の発表
13. 次の2、3名のゼミ生によるレポート作成計画の発表
14. 残りの2、3名のゼミ生によるレポート作成計画の発表 |
15. まとめ

準備学習(予習)

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

準備学習(復習)

学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。

評価方法

- | | | |
|----------------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度と貢献度 | 50% | 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジュメ等 |
| (2) 研究成果（小論文）ないしレポート | 50% | ゼミ論文・レポートに対する評価 |
| (3) 出席率 | | 学則を参照 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。 |

遅刻が常習の者や授業の取り組みが著しく消極的な者については評価を厳しくする。

教科書

授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

参考書

授業内で指示する。

担当教員：八木 規子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX24349

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

組織行動論は、組織において、人間が行動する際にみせる様々な法則性について学ぶ学問である。実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から分析できるようにすることを目的とする。こうした分析スキルを身につけることは、履修生が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、卒業研究レポートの研究・執筆に向けて、普遍的な科学的研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。

(2) 内容

専門演習Aで学んだ組織行動論の諸概念を、現実のチーム・ベースの活動において実践する。地域の行政・企業等と協力した活動、あるいは大学内のイベント等への参加（具体的な活動内容は、今後決定する）を通じて、ゼミ生はチーム・ベースの活動を行う。これらの活動に自分たちが従事するなかで、組織行動論の諸概念（コンフリクト、コミュニケーション、リーダーシップ、モチベーションなど）が、チーム活動の成果をあげる上で、どのように作用しているかを、観察、記録する。こうした活動実践と理論的観察の往復運動から、履修生が興味のある概念の絞り込みを目指す。ここで絞り込まれた概念を、次年度の卒業研究ゼミで、さらに深く研究していくこととする。

受講者に対する要望

理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 組織行動
- ・ 調査研究手法
- ・ 企業
- ・ 個人

授業計画

01. イントロダクション：ゼミの進め方について
02. 質的研究手法とは何か-1: フィールドワークとは何か
03. 質的研究手法とは何か-2: データの記録
04. 担当（取材）セクションの決定
05. 取材結果報告とディスカッション
06. 取材結果報告とディスカッション
07. 取材結果報告とディスカッション
08. 取材結果報告とディスカッション
09. 取材結果報告とディスカッション
10. 取材結果報告とディスカッション
11. 質的研究手法とは何か-3: データの整理と問いの発見
12. 図書館の使い方
13. 質的研究手法とは何か-4: 理論を使う
14. 質的研究手法とは何か-5: レポートを書く
15. まとめ

準備学習(予習)

次回テキスト、文献は必ず読み、自分の考え、意見をまとめておくこと。該当箇所は、UNIPAにアップロードする。

準備学習(復習)

各回のゼミ終了後、理解したこと、疑問に思ったことをまとめておくこと。UNIPA上に、それらの考えをアップロードする場を設けるので、利用すること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応 |
| (2) 活動での成果物 | 30% | 対象となる活動で要求される課題に対して提出する成果（活動により異なる） |
| (3) 期末レポート | 30% | |

教科書

参考書

担当教員：大森 達也

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX24561

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本演習では、卒業研究Ⅰ及びⅡで、10,000字程度のレポートをまとめることになるが、そのためのレジメの作成をすることを目的としている

(2) 内容

本演習では、専門演習Ⅰで学んだ日本経済の抱える問題に関する基礎知識をもとに、各自、レポート課題を設定した上で、それぞれの課題に関する文献を読み、発表、そして発表に対するクラスディスカッションを行ないつつ、レポート（レジメを含む）をまとめることを目的としている。

受講者に対する要望

日本経済における自分の関心事項をはっきりさせること。そのためには、幅広く文献調査をし、知識を蓄えることが求められる。

学びのキーワード

- ・ 文献調査
- ・ 発表
- ・ レポート作成

授業計画

01. 問題の整理
02. 予定課題の発表
03. 予定課題に関する文献調査(1)
04. 文献内容の発表(1)
05. 文献内容の発表(2)
06. 予定課題に関する文献調査(2)
07. 文献内容の発表(3)
08. 文献内容の発表(4)
09. 予定課題に関する文献調査(3)
10. 文献内容の発表(5)
11. 文献内容の発表(6)
12. レポートの発表(1)
13. レポートの発表(2)
14. レポートの発表(3)
15. まとめ

準備学習(予習)

3週サイクルで、文献調査、内容の発表となっている。十分に時間をかけ、準備することが望まれる。

準備学習(復習)

次の発表に向けて、終わったサイクルがどうであったかを振り返ること。

評価方法

- | | |
|--------------|--------------|
| (1) ディスカッション | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 期末レポート | 40% 4,000字程度 |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX24681

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

(2) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2017年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・生活の中から見た法と行政
- ・消費者保護法
- ・消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：平 修久

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX24785

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代のまちの問題を理解するとともに、問題の分析方法などを学ぶことにより、考える力を身につける。

(2) 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。身近なまちを見直し、まちの価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を市民が取り組む動きも起きている。| 本演習では、まず、まちや都市を理解するために必要なデータとその分析方法を学ぶ。次に、近年、まちや都市にとって重要な問題である、人口減少、高齢化、少子化、安全、活力などの低下の状況と原因を考える。最後に、それらの問題に自治体がどのように取り組んでいるかについて、総合計画を読む。

受講者に対する要望

まちの問題に関心を持ち、主体的に調べることを期待する。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・人口減少
- ・安全
- ・活性化
- ・総合計画

授業計画

01. ガイダンス
02. 自分の住んでいる自治体を知る①
03. 自分の住んでいる自治体を知る②
04. 都市のデータの読み方①
05. 都市のデータの読み方②
06. 都市のデータの読み方③
07. 都市のデータの読み方④
08. 自治体の計画
09. 総合計画①
10. 総合計画②
11. 総合計画③
12. 総合計画④
13. 総合計画⑤
14. 総合計画⑥
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に、参考資料の指定箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

参考資料の指定箇所を再度読み直す。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

参考書

授業の中で指定する。

担当教員：菊地 順

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX30510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

春学期は、公民権法成立後のキングの活動を学びます。それは、一方ではベトナム戦争に対する反戦運動であり、他方では貧困撲滅のための戦いでしたが、それをとおしてみられるアメリカ社会の悪の構造と、それに対するキングの戦いを学び、キングとその運動の意義について考えます。

(2) 内容

この授業では、キリスト教倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。具体的には、アメリカで1950年代から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングたちの活動を踏まえ、その後のアメリカにおける人種問題を学びます。

受講者に対する要望

授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ マーティン・ルーサー・キング
- ・ ベトナム戦争
- ・ 貧困問題
- ・ 悪の構造
- ・ 贖罪

授業計画

01. 授業のオリエンテーション
02. アメリカとベトナム戦争
03. キングと反戦運動 (1) (1967年4月まで)
04. キングと反戦運動 (2) (1967年4月以降)
05. キングと貧困撲滅運動 (1) (シカゴでの闘い)
06. キングと貧困撲滅運動 (2) (「貧者の行進」)
07. キングの死 (1) —その背景—
08. キングの死 (2) —その意味—
09. キングの見たアメリカ社会の悪の構造 (1) (人種問題)
10. キングの見たアメリカ社会の悪の構造 (2) (経済問題)
11. キング後のアメリカ (1) (黒人暴動)
12. キング後のアメリカ (2) (ベトナム戦争)
13. キング後のアメリカ (3) (ブラック・パワー)
14. キング後のアメリカ (4) (黒人神学)
15. まとめ

準備学習(予習)

予習として、読むことが中心となりますので、予め配布されるプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、学んだことをまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポート作成に備えること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的な判断で成績を出します。

教科書

参考書

プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。

担当教員：柴田 武男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX30710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究はレポート作成を単位認定条件とするので、そのためのテーマ決定、情報収集、作文能力などが育成される。レポート作成記述を身につけることが目標となる。

(2) 内容

「卒業研究（企業経済論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。ただし、日頃新聞の経済記事を読み、日本の企業を取り巻く経営環境についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。株式・社債、派遣法など様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。

受講者に対する要望

ゼミでは、ゼミ生相互の議論が重要であるので欠席しないことと議論に積極的に参加して発言することを期待する。メーリングリストを活用することでパソコン・メール環境を準備してください。

学びのキーワード

- ・議論への参加
- ・テーマの設定
- ・情報収集
- ・データベースの利用
- ・日本経済新聞

授業計画

01. 最初の数回は、論文読解のコツを教える。
02. 次に、論文のレポート方法を教える。
03. さらに、論文のテーマ選定方法を教える。
04. 最終的に、選定したテーマで論文作成の方法を教える。
05. 確定したテーマでレポートを作成する。
06. 卒業研究レポートの中間報告1
07. 卒業研究レポートの中間報告2
08. 卒業研究レポートの中間報告3
09. 卒業研究レポートの中間報告4
10. 卒業研究レポートの中間報告5
11. 卒業研究レポートの中間報告6
12. 卒業研究レポートの中間報告7
13. 卒業研究レポートの中間報告8
14. 卒業研究レポートの中間報告9
15. 卒業研究レポートの中間報告10

準備学習(予習)

無断欠席は認められない。病欠等仕方ないが、必ず連絡をお願いする。主に三年次選択科目となるので、就職活動に関するアドバイスも行うので、就職意識の強い学生を期待する。

準備学習(復習)

発表したテーマに関して追加的な課題を設定する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：金子 毅

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX30910

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

発表と討論を通じて、卒業レポートを書く上での基本的な「論文作法」を習得する。卒業レポートを書くための基礎固めを行なう。

(2) 内容

経営管理のベースとなる基本文献の抽出から引用、参考を含めた研究レポート作成に向けた文献研究までを扱う。

受講者に対する要望

受講生には、自分の問題関心を持つように心がけ、講義の中でそれとのすり合わせを行なうつもりで参加してもらいたい。なお、ネット情報からのコピー引用は厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 論理的流れ
- ・ 理論枠組
- ・ 文献検索
- ・ 文献リストの作成

授業計画

01. プロローグ：経営管理として焦点となるテーマは何か
02. 基本文献の紹介と購読 1
03. 基本文献の紹介と購読 2
04. 基本文献の紹介と購読 3
05. 文献検索の方法
06. 文献検索の実践 1：図書館での検索
07. 文献検索の実践 2：ネットで検索してみよう
08. 文献リストの作成 1：課題でチャレンジ
09. 文献リストの作成 2：課題でチャレンジ 2
10. 文献研究 1
11. 文献研究 2
12. 文献研究 3
13. 文献研究 4
14. 文献研究 5
15. エピローグ：小括

準備学習(予習)

シラバスに記した手順を参照して、卒業レポートに向けた自己の論点を整理しておく。

準備学習(復習)

講義で討論した内容や教員からの指摘に基づき、卒業レポートの構成や論点を練り直す。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX31110

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、法律上は「成年」であるところの各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

(2) 内容

2年次の「専門演習（憲法）」の成果を踏まえ、受講者各々が各自の研究テーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねることにより、最終的に一定量の論文を完成させます。

受講者に対する要望

「演習」科目ですので、「受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。

学びのキーワード

- ・ 演習科目
- ・ 法律学
- ・ 憲法学
- ・ 比較法学
- ・ 人権論

授業計画

01. 導入：担当の決定
02. 各自の個別テーマの発表・議論
03. 各自の個別テーマの発表・議論
04. 各自の個別テーマの発表・議論
05. 各自の個別テーマの発表・議論
06. 各自の個別テーマの発表・議論
07. 各自の個別テーマの発表・議論
08. 各自の個別テーマの発表・議論
09. 各自の個別テーマの発表・議論
10. 各自の個別テーマの発表・議論
11. 各自の個別テーマの発表・議論
12. 各自の個別テーマの発表・議論
13. 各自の個別テーマの発表・議論
14. 各自の個別テーマの発表・議論
15. まとめ

準備学習（予習）

演習科目なので、とりわけプレゼンテーションの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。

準備学習（復習）

プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。 |
| (2) 期末レポート | 20% | |

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

教科書

授業内で指示します。

参考書

授業内で指示します。

担当教員：高橋 愛子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX31510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジюмеを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治にかかわる独自の研究テーマを見出すこと。

(2) 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。|以上の基本的な考え方に立ち、本年は、「18歳選挙権の下での政治参加」を一つの切り口としながら、共通のテキストを輪読しつつ学び議論をしてゆく。一学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。|<カリキュラム上の位置づけ>3年次春学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。|

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。
2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・ 選挙権年齢とは
- ・ なぜ政治参加が必要なのか
- ・ さまざまな政治参加のあり方
- ・ 国際社会における選挙権年齢

授業計画

01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
02. どのような観点からテーマを位置づけるか
03. テキストの輪読・各自のプレゼン
04. テキストの輪読・各自のプレゼン
05. テキストの輪読・各自のプレゼン
06. テキストの輪読・各自のプレゼン
07. テキストの輪読・各自のプレゼン
08. テキストの輪読・各自のプレゼン
09. テキストの輪読・各自のプレゼン
10. テキストの輪読・各自のプレゼン
11. 個人のテーマについてのプレゼン
12. 個人のテーマについてのプレゼン
13. 個人のテーマについてのプレゼン
14. 個人のテーマについてのプレゼン
15. 一学期の振り返り・まとめ

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 学期末レポート | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

担当教員：竹井 潔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX31710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

情報社会についての諸問題について理解し、問題意識を持って課題を形成していくことができることを目標とする。

(2) 内容

ICTやAIが目覚ましい進展により、私たちの社会は大きく変わってきている。情報社会を取り巻く環境を認識し、情報化によって便益を受けている面と問題が生じてきている情報社会の課題を検討していきたい。|専門演習の成果をふまえ、個別テーマの検討、プレゼンテーション、卒業研究レポート作成を行う。

受講者に対する要望

専門演習は必ず出席し、積極的に参画すること。|自分が発表担当の無断欠席は厳禁。|

学びのキーワード

- ・ 情報社会における諸課題
- ・ 情報倫理

授業計画

01. オリエンテーション
02. 課題研究 1
03. 課題研究 2
04. 課題研究 3 |
05. テーマ選定
06. 研究計画書作成
07. 調査・研究 1
08. 発表 1
09. 調査・研究 2
10. 発表 2
11. 調査・研究 3
12. 発表 3
13. 調査・研究 4
14. 発表 4
15. まとめ

準備学習(予習)

発表演習には事前に文献調査などを行い、発表資料を作成してこること。|また、わからない専門用語については調べて理解しておくこと。|

準備学習(復習)

ゼミで出てくる専門用語において、理解が不足している事柄は、各自内容を整理して理解しておくこと。|

評価方法

- | | |
|--------------|----|
| (1) 毎回の報告 | 40 |
| (2) 卒業研究レポート | 60 |

教科書

授業中に指示する

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX31910

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得）、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。

(2) 内容

＜内容＞「専門演習（政治哲学）」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする。専門演習での学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。|

受講者に対する要望

3年次に位置づけられた必修の演習科目の一つであるという自覚の下、積極的に自身のテーマを追求し、議論に参加することが望まれる。

学びのキーワード

- ・ 政治
- ・ 思想
- ・ 討論

授業計画

01. イントロダクション
02. 共通のテキストの講読・議論
03. 共通のテキストの講読・議論
04. 共通のテキストの講読・議論
05. 共通のテキストの講読・議論
06. 共通のテキストの講読・議論
07. 共通のテキストの講読・議論
08. 共通のテキストの講読・議論
09. 共通のテキストの講読・議論
10. 共通のテキストの講読・議論
11. 共通のテキストの講読・議論
12. 共通のテキストの講読・議論
13. 共通のテキストの講読・議論
14. 共通のテキストの講読・議論
15. 共通のテキストの講読・議論

準備学習(予習)

政治に関する積極的な関心を持つのみならず、理論的な視点、継続的に文献に取り掛かることのできる忍耐力、自己の思考を提示することへの興味をもち、必要な学習をすることが必要である。

準備学習(復習)

自身のテーマとの関連をゼミの議論を振り返り反省すること、そしてそれらをまとめることが求められる。あわせて関連書籍の購読をすることが望ましい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業貢献 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

松尾秀哉・臼井陽一郎 『紛争と和解の政治学』（ナカニシヤ出版）

担当教員：土方 透

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX33110

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習（理論社会学）の成果をふまえ、卒論の完成へ向けて指導を行う。

(2) 内容

卒論を仕上げるという作業は、多くの学生にとって最初で最後の論文作成となる。学士号取得にふさわしい能力を身につけたことの証である。

受講者に対する要望

けっしてくじけないこと。

学びのキーワード

授業計画

01. 各自、論文作成へ向けてテーマの選定
02. テーマの検討と文献の選択
03. 文献講読とプレゼンテーション
04. 同上
05. 同上
06. 同上
07. 文献の検討
08. 文献講読とプレゼンテーション
09. 同上
10. 同上
11. 討論
12. 文献講読とプレゼンテーション
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

ただひたすら勤勉であることを要求する。

準備学習(復習)

毎回、前回に指摘された点の進捗状況を報告できるように、作業を進めてくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 毎回の報告 | 20% |
| (2) 卒論 | 80% |

教科書

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX3210

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

(2) 内容

平和に関する現代的な問題について学び、考えることを目的に、「紛争と和解」というテーマで文献を輪読する。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 輪読
- ・ 演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読 (学生による発表と討論)
03. 文献輪読 (学生による発表と討論)
04. 文献輪読 (学生による発表と討論)
05. 文献輪読 (学生による発表と討論)
06. 文献輪読 (学生による発表と討論)
07. 文献輪読 (学生による発表と討論)
08. 文献輪読 (学生による発表と討論)
09. 文献輪読 (学生による発表と討論)
10. 文献輪読 (学生による発表と討論)
11. 文献輪読 (学生による発表と討論)
12. 文献輪読 (学生による発表と討論)
13. 文献輪読 (学生による発表と討論)
14. 文献輪読 (学生による発表と討論)
15. 文献輪読 (学生による発表と討論)

準備学習(予習)

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% | |

教科書

参考書

担当教員：飯島 康夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX33510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西欧市民意識がどこから来たのかを探求することが学びの意義である。目標は、それを現代日本の状況にあてはめて一定の理解を得ることである。

(2) 内容

市民意識の形成と国との関係の違いに対する探求することが主な内容とする。

受講者に対する要望

他のゼミ生の意見に耳を傾けてお互いに視野を共に広め高めあう事

学びのキーワード

- ・基礎自治体
- ・ギルド
- ・誓約団体

授業計画

01. 導入。ゼミの実施方法などを意見交換する。
02. 都市史の時代区分について
03. 古代より中世
04. 中世より近世
05. 近世より近代、ポストモダン
06. ヴェバーの都市研究の特徴
07. ギルド起源説
08. 市民意識の源流と中世都市
09. 市民意識の精神的基盤
10. 成立期のヨーロッパ社会と中世紀の社会、文化
11. ドイツ中世都市起源について
12. イタリア中世都市の成立について
13. コミューン成立過程
14. 市民意識とは何かを問う
15. 総まとめ

準備学習(予習)

各テーマに沿って事前に調べペーパーと口頭発表に準備すること

準備学習(復習)

前回ゼミをふりかえって当面の与えられたテーマに活かす

評価方法

- | | |
|------------------|----|
| (1) 各自発表の主体性 | 4割 |
| (2) 他のゼミ生に耳を傾けたか | 3割 |
| (3) 各レポートの口頭発表 | 3割 |

バランスに配慮して総合評価とする

教科書

増田四郎「西欧市民意識の形成」講談社学術文庫

参考書

担当教員：谷口 隆一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX34010

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この演習は、キリスト教政治哲学に基づいた公共哲学研究（近代主義やデモクラシー、リベラリズム、自由、平等、公共性といった観念の思想的背景、公正な富の社会的再分配にまつわる諸議論、あるいは正義論を扱う）科目である。かかる視座は、政治経済学科の設立理念と思想とも抜き差し難く接続している。さらにこの科目は、理念・思想と実際の政策との関係を問うことを肝要とし、現代の政治経済および国際情勢に関連づけながら授業を進めていく。

(2) 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学ぶ。| 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニタリアズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。| (1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。|

受講者に対する要望

私の「倫理学」（開講年度に注意）と「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えている。

学びのキーワード

・公共
・公共倫理
・コミュニティ
・グローバリズム
・リベラリズム コミュニタリアニズム ナショナル
ティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： 公共とは何か： 導入
03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： 公共とは何か： 批判と再定義
04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： 自由についての諸説
05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラな自由の概念を批判する
06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラな社会における格差について
07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： 格差をどう是正するか
08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラリズムとは何か
09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラ・デモクラシーとは何か
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラリズムと共通善
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： コミュニタリアニズムと共通善
12. ゼミ生2人によるレポート計画の発表
13. さらに2、3名のゼミ生によるレポート計画の発表
14. 残りのゼミ生によるレポート計画の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

準備学習(復習)

学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度と貢献度 | 50% | 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 |
| (2) 研究成果（小論文・レポート） | 50% | ゼミ論文・レポートに対する評価 |
| (3) 出欠について | | 学則を参照 出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。 |

遅刻の常習の者や授業への取り組みが著しく消極的な者については評価を厳しくする。

教科書

授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

参考書

授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

担当教員：竹井 潔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX34210

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。

(2) 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は我々が情報社会の中でより良く生きていく上で必要となる。「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

受講者に対する要望

自分の研究テーマについて、積極的に取り組むこと。|また、発表演習担当のときに無断欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 情報社会における諸課題|
- ・ 情報倫理|

授業計画

01. 情報社会と情報倫理の課題|
02. 個別研究テーマの検討|
03. 研究計画書作成|
04. 個別研究テーマの発表
05. 個別研究テーマの調査 1 |
06. 個別研究テーマの発表 1 |
07. 個別研究テーマの調査 2 |
08. 個別研究テーマの発表 2 |
09. 個別研究テーマの調査 3 |
10. 個別研究テーマの発表 3 |
11. 個別研究テーマの調査 4 |
12. 個別研究テーマの発表 4 |
13. 個別研究テーマの調査 5 |
14. 個別研究テーマの発表 5 |
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。発表演習には事前に発表資料を作成しておくこと。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

準備学習(復習)

演習でできなかった箇所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------|
| (1) 演習 | 40% | 課題提出、発表演習 |
| (2) 期末レポート | 60% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：八木 規子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX34310

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

組織行動論は、組織において、人間が行動する際にみせる様々な法則性について学ぶ学問である。実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から吟味することは、履修生が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、卒業研究レポートの研究・執筆にあたっては、普遍的な科学的研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。

(2) 内容

専門演習を通じて学んだ組織行動論の諸概念の中から、履修生が興味のある概念を選び、卒業研究レポートの研究・執筆を行う。卒業研究Iでは、レポートの研究・執筆の素材となる、現実のチーム・ベースの活動を実践する。地域の行政・企業等と協力した活動を想定している。ゼミ生は、これらの活動に自分たちが従事するなかで、組織行動論の諸概念（コンフリクト、コミュニケーション、リーダーシップ、モチベーションなど）が、チーム活動の成果をあげる上で、どのように作用しているかを、観察、記録する。こうした活動実践と理論的観察の往復運動から、履修生が興味のある概念の絞り込みを目指す。

受講者に対する要望

理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 組織行動
- ・ 調査研究手法
- ・ 企業
- ・ 個人

授業計画

01. ゼミの進め方について
02. 質的研究手法とは何か-1: フィールドワークとは何か
03. 質的研究手法とは何か-2: データの記録
04. チーム編成と取材対象の決定
05. 取材のアポイント取り実習
06. 模擬インタビュー
07. 質的研究手法とは何か-3: データの整理と問いの発見
08. ビジュアル・データの整理と分析方法を学ぶ
09. 取材-1
10. 取材-2
11. 取材-3
12. 取材結果報告とデータのまとめ方討論
13. 活動成果のとりまとめ-1
14. 活動成果のとりまとめ-2
15. 活動結果発表・まとめ

準備学習(予習)

該当箇所のテキスト、文献は必ず読み、自分の考え、意見をまとめておくこと。参考資料はUNIPAにアップロードするので、使い方に習熟しておくこと。チーム・プロジェクトの活動に際しては、チーム・メンバーと連絡を取り合い、責任ある行動をとること。

準備学習(復習)

収集したデータの記録、第1弾の整理は、同日中に済ませること。その後の編集は、チーム・メンバー間の協働作業を進め、期日に遅れないよう進めること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------|
| (1) 授業への貢献 | 50% | チーム・プロジェクトへの積極的、建設的参加 |
| (2) 活動成果の提出 | 50% | |

教科書

参考書

担当教員： 大高 研道

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1PX34410

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本演習では、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや社会的企業の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンを提起できるようになることを目指す。| その集大成のひとつとして位置づけられるのが、「卒業研究レポート」である。今学期の学びは、卒業研究レポート作成にむけて問題関心を具体化し、理論化するための基盤を形成するとともに、大学生活を通じた学びを省察的に検討し、意義づけるための重要な機会をも提供するであろう。

(2) 内容

グローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の現実を、自分なりの観点から検討した「専門演習」を踏まえて、より具体的な解決主体としての市民・コミュニティ（組織）のあり方や可能性について検討することが、本演習（卒業研究）の内容となる。| まず「専門演習」での学びを通して醸成された知見にもとづいて選択されたテキストを題材に、各自関心のある課題を取り上げ、自由に報告・議論する。その上で、卒業レポートのテーマを確定し、調査方法論および論文執筆の基本的技法について学ぶ。|

受講者に対する要望

・ 時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 地域社会
- ・ NPO
- ・ 社会的企業
- ・ 社会的排除
- ・ 現代的協同性

授業計画

01. 卒業研究について
02. 調査方法論
03. 調査課題・対象の焦点化にむけて(1)
04. 調査課題・対象の焦点化に向けて(2)
05. 文献購読・報告
06. 文献購読・報告
07. 文献購読・報告
08. 文献購読・報告
09. 文献購読・報告
10. 調査方法論の再確認
11. 調査領域・調査事例の選定
12. 個別報告
13. 個別報告
14. 個別報告
15. まとめと反省

準備学習(予習)

・ 次回テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べてくること。報告者は当日人数分のレジュメを準備してくること。

準備学習(復習)

・ 各自、ゼミ終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回ゼミの冒頭に共通討論の場を設ける。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 70% | 報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。 |
| (2) レポート | 30% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX34510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

研究レポート作成を通じて、それぞれの問題意識を高めるという意義もあるが、同時に、「報連相」の重要性を理解することを目的としている。

(2) 内容

卒業研究Iの目的は、専門演習IIで選んだ各自の課題についての卒業研究レポートを作成する準備を進めることである。

受講者に対する要望

各自、調査・研究の自己管理を徹底すること。

学びのキーワード

- ・ 研究計画
- ・ 文献調査

授業計画

01. 目的と進め方
02. 研究計画書の作成
03. 研究計画書の発表(1)
04. 研究計画書の発表(2)
05. 文献リストの作成
06. 文献調査の発表(1)
07. 文献調査の発表(2)
08. 中間発表(1)
09. 中間発表(2)
10. 研究計画書の変更と発表(1)
11. 文献リストの変更と発表(1)
12. 追加文献調査の発表(1)
13. 追加文献調査の発表(2)
14. 中間発表(3)
15. 中間発表(4)

準備学習(予習)

研究レポート作成を目的としているため、個別テーマごとの指導が重要とならざるを得ないので、各自、調査・研究の時間を充分にとること。

準備学習(復習)

個別指導に従い、各自、発表後に問題点を整理し、次回につなげること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 研究計画書作成 | 15% |
| (2) 文献リスト作成 | 15% |
| (3) 発表 | 30% |
| (4) 中間レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX34610

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

(2) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2017年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・生活の中から見た法と行政
- ・消費者保護法
- ・消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：平 修久

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX34710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習で修得した知識、作業経験を活かし、さらに、まちづくりに関する知識を深める。まちに対する観察力を深め、フィールドワークを行うことにより、考える力を身につけること。

(2) 内容

大学周辺地域を対象にして、活性化計画もしくはまちの改善計画を検討する。具体的内容を取上げ、詳細な計画を作成する。これらの作業を通して、計画作成の流れを学ぶ。

受講者に対する要望

まちづくり計画作成に積極的に参画するとともに、まちに対する視野を拡大してもらいたい。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・活性化
- ・フィールドワーク

授業計画

01. ガイダンス
02. 卒業研究の進め方
03. 図書館ガイダンス
04. 卒業研究レポート作成準備
05. まちづくり計画①
06. まちづくり計画②
07. まちづくり計画③
08. まちづくり計画④
09. 参考文献の概要の発表①
10. 参考文献の概要の発表②
11. 参考文献の概要の発表③
12. まちづくり計画⑤
13. まちづくり計画⑥
14. まちづくり計画⑦
15. まとめ

準備学習(予習)

グループ作業に際しては、事前に担当する内容を事前に調べておくこと。発表に際しては、十分に準備して臨むこと。

準備学習(復習)

まちづくり計画に関しては、毎回振り返りを行い、発表に関しては、質問や意見を踏まえ卒業研究レポートに反映させること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 40% |
| (2) グループ作業 | 20% |
| (3) 課題 | 40% |

教科書

なし

参考書

担当教員：菊地 順

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX40510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

秋学期は、ヨーロッパにおけるユダヤ人問題を中心に見ながら、改めて人権について考えたいと思います。そして、そのおことをとおして、人間の生き方について、理解を深めたいと思います。

(2) 内容

この授業では、各自が自分のテーマを決め、最終的に卒業研究レポートを書くことを目指します。そのために、レポートを巡って何度か発表をしてもらいます。また同時に、基本的人権について、ユダヤ人問題を中心に学びます。

受講者に対する要望

授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・反ユダヤ主義
- ・ユダヤ人問題
- ・基本的人権
- ・憲法
- ・人間の尊厳

授業計画

01. 授業のオリエンテーション
02. 古代世界と反ユダヤ主義
03. 卒業研究レポートのテーマ発表
04. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史 (1) (ドイツを中心として—中世まで)
05. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史 (2) (ドイツを中心として—近現代)
06. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史 (3) (スペインを中心として—1492年まで)
07. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史 (4) (スペインを中心として—1492年以降)
08. 卒業研究レポートの中間発表
09. 基本的人権の歴史 (1) (近代)
10. 基本的人権の歴史 (2) (現代)
11. 基本的人権の理念 (1) (ヨーロッパ)
12. 基本的人権の理念 (2) (アメリカ)
13. 基本的人権と日本
14. 卒業研究レポートの発表
15. まとめ

準備学習(予習)

予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されるプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

授業に積極的に参加することを重視します。また最後に卒業研究レポートを書いてもらいます。その総合的な判断で成績を出します。

教科書

参考書

プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。

担当教員：柴田 武男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX40710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究はレポート作成を単位認定条件とするので、そのためのテーマ決定、情報収集、作文能力などが育成される。レポート作成記述を身につけることが目標となる。

(2) 内容

「卒業研究（企業経済論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。ただし、日頃新聞の経済記事を読み、日本の企業を取り巻く経営環境についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。株式・社債、派遣法など様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。

受講者に対する要望

ゼミでは、ゼミ生相互の議論が重要であるので欠席しないことと議論に積極的に参加して発言することを期待する。メーリングリストを活用することでパソコン・メール環境を準備してください。

学びのキーワード

- ・議論への参加
- ・テーマの設定
- ・情報収集
- ・データベースの利用
- ・日本経済新聞

授業計画

01. 最初の数回は、論文読解のコツを教える。
02. 次に、論文のレポート方法を教える。
03. さらに、論文のテーマ選定方法を教える。
04. 最終的に、選定したテーマで論文作成の方法を教える。
05. 確定したテーマでレポートを作成する。
06. 卒業研究レポートの中間報告1
07. 卒業研究レポートの中間報告2
08. 卒業研究レポートの中間報告3
09. 卒業研究レポートの中間報告4
10. 卒業研究レポートの中間報告5
11. 卒業研究レポートの中間報告6
12. 卒業研究レポートの中間報告7
13. 卒業研究レポートの中間報告8
14. 卒業研究レポートの中間報告9
15. 卒業研究レポートの中間報告10

準備学習(予習)

無断欠席は認められない。病欠等仕方ないが、必ず連絡をお願いする。主に三年次選択科目となるので、就職活動に関するアドバイスも行うので、就職意識の強い学生を期待する。

準備学習(復習)

発表したテーマに関して追加的な課題を設定する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：金子 毅

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX40910

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

発表と討論を通じて、卒業レポートを書く上での基本的な「論文作法」を習得する。学生自身の問題関心を踏まえた卒業レポートの作成を目標とする。

(2) 内容

作成した文献リストをもとに、自己の問題関心に基づく研究レポートを完成させる。

受講者に対する要望

受講者には、自分の問題関心を持つように心がけ、講義の中でそれとのすり合わせを行なうつもりで参加してもらいたい。なお、ネット情報からのコピー引用は厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 論理の流れ
- ・ 理論枠組
- ・ 文献検索
- ・ 文献リストの作成

授業計画

01. プロローグ：研究レポートに取り掛かる前に
02. 論文の二つのパターン1：理論研究
03. 論文の二つのパターン2：実証研究
04. 実証研究の二つのパターン1：量的調査
05. 実証研究の二つのパターン2：質的調査
06. サンプル文献購読1：理論
07. サンプル文献購読2：量的調査に基づく実証
08. サンプル文献購読3：質的調査を元とする実証
09. サンプル文献購読4：量的・質的調査を組み合わせた実証
10. 論文の書き方：要旨の作成と章の立て方
11. 註の打ち方、引用と参照の違い
12. 成果報告1
13. 成果報告2
14. 成果報告3
15. エピローグ：総括

準備学習(予習)

シラバスに記した手順を参照して、卒業レポートに向けた自己の論点を整理しておく。

準備学習(復習)

講義で討論した内容や教員からの指摘に基づき、卒業レポートの構成や論点を練り直す。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX41110

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、法律上は「成年」であるところの各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力（国家）や社会的権力（企業）から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

(2) 内容

春学期に引き続き、受講者各々が各自の研究テーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねることにより、最終的に一定量の論文を完成させます。

受講者に対する要望

「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する「ことが強く求められます。

学びのキーワード

- ・ 演習科目
- ・ 法律学
- ・ 憲法学
- ・ 比較法学
- ・ 人権論

授業計画

01. 導入：担当の決定
02. 各自の個別テーマの発表・議論
03. 各自の個別テーマの発表・議論
04. 各自の個別テーマの発表・議論
05. 各自の個別テーマの発表・議論
06. 各自の個別テーマの発表・議論
07. 各自の個別テーマの発表・議論
08. 各自の個別テーマの発表・議論
09. 各自の個別テーマの発表・議論
10. 各自の個別テーマの発表・議論
11. 各自の個別テーマの発表・議論
12. 各自の個別テーマの発表・議論
13. 各自の個別テーマの発表・議論
14. 各自の個別テーマの発表・議論
15. まとめ

準備学習(予習)

演習科目なので、とりわけプレゼンテーションの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。

準備学習(復習)

プレゼンテーション後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。 |
| (2) 期末レポート | 20% | |

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

教科書

授業内で指示します。

参考書

授業内で指示します。

担当教員：高橋 愛子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX41510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジюмеを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマを「卒業論文」執筆へと掘り下げることに。

(2) 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。|以上の基本的な考え方に立ち、前半は、春学期から続き「18歳選挙権の下での政治参加」を切り口としながら、共通のテキストを輪読し議論をしてゆく。後半は各自のテーマについての進捗状況を報告し議論する。学期末に各自のテーマについての「小論文」（10,000字）を提出することが求められる。|<カリキュラム上の位置づけ> 3年次秋学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。|

受講者に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。
2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

学びのキーワード

- ・文献リサーチ
- ・アーティクル・レビュー

授業計画

01. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
02. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
03. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
04. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
05. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
06. 各自の研究課題のプレゼン・議論
07. 各自の研究課題のプレゼン・議論
08. 各自の研究課題のプレゼン・議論
09. 各自の研究課題のプレゼン・議論
10. 各自の研究課題のプレゼン・議論
11. 各自の研究課題のプレゼン・議論
12. 各自の研究課題のプレゼン・議論
13. 各自の研究課題のプレゼン・議論
14. 各自の研究課題のプレゼン・議論
15. 各自の研究課題のプレゼン・議論

準備学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

準備学習(復習)

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 20% |
| (2) プレゼン | 40% |
| (3) 小論文 | 40% |

教科書

初回授業において指示する。

参考書

担当教員：竹井 潔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX41710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

情報社会についての諸問題について理解し、問題意識を持って課題を形成していくことができることを目標とする。

(2) 内容

ICTやAIが目覚ましい進展により、私たちの社会は大きく変わってきている。情報社会を取り巻く環境を認識し、情報化によって便益を受けている面と問題が生じてきている情報社会の課題を検討していきたい。|卒業研究Ⅰの成果をふまえ、卒業研究レポート作成を行う。

受講者に対する要望

自分の研究テーマについて、積極的に取り組むこと。|また、発表演習担当のときに無断欠席は厳禁である。

学びのキーワード

授業計画

01. 課題検討 |
02. 課題研究 1
03. 課題研究 2
04. 課題研究 3 |
05. テーマ選定
06. 研究計画書作成
07. 調査研究 1
08. 発表 1
09. 調査研究 2
10. 発表 2
11. 調査研究 3
12. 発表 3
13. 調査研究 4
14. 発表 4
15. まとめ

準備学習(予習)

発表演習には事前に文献調査などを行い、発表資料を作成してこること。|また、わからない専門用語については調べて理解しておくこと。|

準備学習(復習)

ゼミで出てくる専門用語において、理解が不足している事柄は、各自内容を整理して理解しておくこと。|

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 毎回の報告 | 40% |
| (2) 卒業研究レポート | 60% |

教科書

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX41910

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得）、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。

(2) 内容

<内容>「専門演習（政治哲学）」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする。専門演習での学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。|

受講者に対する要望

3年次に位置づけられた必修の演習科目の一つであるという自覚の下、積極的に自身のテーマを追求し、議論に参加することが望まれる。

学びのキーワード

- ・ 政治
- ・ 思想
- ・ 討論

授業計画

01. イントロダクション
02. 共通のテキストの講読・議論
03. 共通のテキストの講読・議論
04. 共通のテキストの講読・議論
05. 共通のテキストの講読・議論
06. 共通のテキストの講読・議論
07. 共通のテキストの講読・議論
08. 共通のテキストの講読・議論
09. 共通のテキストの講読・議論
10. 共通のテキストの講読・議論
11. 共通のテキストの講読・議論
12. 共通のテキストの講読・議論
13. 共通のテキストの講読・議論
14. 共通のテキストの講読・議論
15. 共通のテキストの講読・議論

準備学習(予習)

政治に関する積極的な関心を持つのみならず、理論的な視点、継続的に文献に取りかかることのできる忍耐力、自己の思考を提示することへの興味をもち、必要な学習をすることが必要である。

準備学習(復習)

自身のテーマとの関連をゼミの議論を振り返り反省すること、そしてそれらをまとめることが求められる。あわせて関連書籍の購読をすることが望ましい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 出席 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：土方 透

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX43110

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒論の完成へ向けて指導を行う。

(2) 内容

卒論を仕上げるという作業は、多くの学生にとって最初で最後の論文作成となる。学士号取得にふさわしい能力を身につけたことの証である。

受講者に対する要望

けっしてくじけないこと。

学びのキーワード

授業計画

01. これまでの総括と報告
02. これまでの総括と報告
03. プレゼンテーション
04. 同上
05. 同上
06. 同上
07. 同上
08. プレゼンテーション
09. 同上
10. 同上
11. 中間報告
12. プレゼンテーション
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

ただひたすら勤勉であることを要求する。

準備学習(復習)

毎回、前回に指摘された点の進捗状況を報告できるように、作業を進めてくること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 毎回の報告 | 20% |
| (2) 卒論 | 80% |

教科書

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX43210

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

(2) 内容

平和に関する現代的な問題について学び、考えることを目的に、「国際社会の規範」というテーマで文献を輪読する。

受講者に対する要望

本を読んで考え、議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 輪読
- ・ 演習

授業計画

01. イントロダクション
02. 文献輪読 (学生による発表と討論)
03. 文献輪読 (学生による発表と討論)
04. 文献輪読 (学生による発表と討論)
05. 文献輪読 (学生による発表と討論)
06. 文献輪読 (学生による発表と討論)
07. 文献輪読 (学生による発表と討論)
08. 文献輪読 (学生による発表と討論)
09. 文献輪読 (学生による発表と討論)
10. 文献輪読 (学生による発表と討論)
11. 文献輪読 (学生による発表と討論)
12. 文献輪読 (学生による発表と討論)
13. 文献輪読 (学生による発表と討論)
14. 文献輪読 (学生による発表と討論)
15. 文献輪読 (学生による発表と討論)

準備学習(予習)

文献の指定箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

授業での討論をふまえ、期末レポート作成に向けてノートを作成しておく。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加 |
| (2) 期末レポート | 50% | |

教科書

参考書

担当教員：飯島 康夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX43510

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

最終的な学びとして卒論につなげ都市で暮らすとはどうゆうことかを自ら探求することが意義である。目標は様々な事例から現代のライフスタイルの徴候を理解することである。

(2) 内容

ゼミの最終的段階にある為、各自が自主的にテーマを設定できるようサポートする内容となっている。

受講者に対する要望

自由で楽しい、しかも、互いに配慮を疎かにせず積極的な最終的ゼミとなるよう協働すること

学びのキーワード

- ・ 自主的参加
- ・ レポート課題の発表の仕方
- ・ 他者への配慮

授業計画

01. 導入
02. 各自のテーマ設定
03. 各自の発表
04. 各自の発表
05. 各自の発表
06. 各自の発表
07. 中間の振り返り
08. 各自の発表
09. 各自の発表
10. 各自の発表
11. 各自の発表
12. 各自の発表
13. 家庭と都市の関係について考察する
14. 互いの評価
15. 総まとめ

準備学習(予習)

根拠を持って口頭発表に備える

準備学習(復習)

他者のコメントを入れて見方を見直す

評価方法

- | | |
|--------------|----|
| (1) 主体性 | 4割 |
| (2) 他者との共振 | 3割 |
| (3) レポート課題提出 | 3割 |

トータルな評価

教科書

各自の推薦文献と以前に指定した都市研究の教科書

参考書

担当教員：谷口 隆一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX44010

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この演習は、キリスト教政治哲学に基づいた公共哲学研究（近代主義やデモクラシー、リベラリズム、自由、平等、公共性といった観念の思想的背景、公正な富の社会的再分配にまつわる諸議論、あるいは正義論を扱う）科目である。かかる視座は、政治経済学科の設立理念と思想とも抜き差し難く接続している。さらにこの科目は、理念・思想と実際の政策との関係を問うことを肝要とし、現代の政治経済および国際情勢に関連づけながら授業を進めていく。

(2) 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学ぶ。| 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニタリアズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。| (1) 公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。(2) 文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3) 卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。|

受講者に対する要望

私の「倫理学」（開講年度に注意）と「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えている。

学びのキーワード

・公共
・公共倫理
・コミュニティ
・グローバリズム
・リベラリズム
コミュニタリアニズム ナショナル
ティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： 公共とは何か： 導入
03. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： 公共とは何か： 批判と再定義
04. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラな自由の概念を批判する
05. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラな社会における格差について
06. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： 格差をどう是正するか
07. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラ・デモクラシーとは何か
08. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラリズムとは何か
09. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： リベラリズムと共通善
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： コミュニタリアニズムによるリベラリズム批判
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う： コミュニタリアニズムと共通善
12. ゼミ生2人によるレポート計画の発表
13. さらに2、3名のゼミ生によるレポート計画の発表
14. 残りのゼミ生によるレポート計画の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

準備学習(復習)

学習ノートを自主的に作成して、これを読み返し、次の授業に質問等を行う。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度と貢献度 | 50% | 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 |
| (2) 研究成果（小論文・レポート） | 50% | ゼミ論文・レポートに対する評価 |
| (3) 出欠について | | 学則を参照し出席回数が全授業回数の3分の2以上でなければ成績評価は受けられない。 |

遅刻の常習の者や授業への取り組みが著しく消極的な者については評価を厳しくする。

教科書

授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

参考書

授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

担当教員：竹井 潔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX44210

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。

(2) 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は我々が情報社会の中でより良く生きていく上で必要となる。「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

受講者に対する要望

自分の研究テーマについて、積極的に取り組むこと。また、発表演習担当のときに無断欠席は厳禁である。

学びのキーワード

- ・ 情報倫理
- ・ 情報社会と諸課題

授業計画

01. 情報社会と課題形成
02. 個別研究テーマの形成
03. 個別研究テーマの研究計画書作成
04. 個別研究テーマの調査 1
05. 個別研究テーマの発表 1
06. 個別研究テーマの調査 2
07. 個別研究テーマの発表 2
08. 個別研究テーマの調査 3
09. 個別研究テーマの発表 3
10. 個別研究テーマの調査 4
11. 個別研究テーマの発表 4
12. 個別研究テーマの調査 5
13. 個別研究テーマの発表 5
14. 総合発表
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。発表演習には事前に発表資料を作成しておくこと。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

準備学習(復習)

演習でできなかった箇所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------|
| (1) 演習 | 40% | 課題提出、発表演習 |
| (2) 期末レポート | 60% | |

教科書

参考書

授業の中で指示する

担当教員：八木 規子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX44310

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

組織行動論は、組織において、人間が行動する際にみせる様々な法則性について学ぶ学問である。実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題を、組織行動論の理論やフレームワークの視点から吟味することは、履修者が、将来組織人として生きる上で、問題解決の選択肢を増やすという意義がある。また、卒業研究レポートの研究・執筆にあたっては、普遍的な科学研究手法に沿った研究のやり方を習得することを目標とする。こうした研究手法の習得は、我々が生きる複雑な社会と、それに関する膨大な情報に対して、我々が下していかなければならない「判断」と「選択」の「品質」を上げるという意義がある。

(2) 内容

専門演習を通じて学んだ組織行動論の諸概念、また、卒業研究Iの活動から、履修者が興味を深めた概念を選び、卒業研究レポートの研究・執筆を行う。卒業研究IIでは、研究計画書の作成からレポートの執筆までを実践する。

受講者に対する要望

理論・フレームワークを学ぶことは、自分の考え方を、一つの枠組みに強制的に嵌めてみることに他ならない。窮屈に感じるかもしれないが、一度そうしたトレーニングを経ることで、ものの見方、考え方が広がるはずだ。そういう体験にチャレンジするつもりでゼミに臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 組織行動
- ・ 調査研究手法
- ・ 企業
- ・ 個人

授業計画

01. イントロダクション：卒業研究レポート執筆に向けて
02. 卒研Iの体験を振り返る
03. 研究調査計画書を作る-1：データの整理と問いの発見
04. 研究調査計画書を作る-2：先行研究から問いを見出す
05. 仮説とその検証方法に関する個別報告-1
06. 仮説とその検証方法に関する個別報告-2
07. 調査研究の進捗状況に関する個別報告1
08. 調査研究の進捗状況に関する個別報告2
09. 調査研究の進捗状況に関する個別報告3
10. 調査研究の進捗状況に関する個別報告4
11. 調査研究の進捗状況に関する個別報告5
12. 調査研究の進捗状況に関する個別報告6
13. 卒業研究レポート草稿の発表・検討1
14. 卒業研究レポート草稿の発表・検討2
15. まとめ

準備学習(予習)

自身が担当回るとき、報告者・発表者は、前日までにレジュメを提出すること。それ以外の回は、建設的な批評ができるよう、報告者・発表者のレジュメに目を通し、内容の理解をするとともに、報告者・発表者のその後の学習に資するような関連情報の収集をすること。

準備学習(復習)

各回のゼミ終了後、理解したこと、疑問に思ったことをまとめておくこと。UNIPA上に、それらの考えをアップロードする場を設けるので、利用すること。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|------------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 50% | クラス討議への参加、発言、クラスメイトの発言に対する反応 |
| (2) 卒業研究レポート | 50% | |

教科書

参考書

担当教員： 大高 研道

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1PX44410

学部教育の関連目

【P】 論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本演習（卒業研究）では、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンを提起できるようになることを目指す。その集大成のひとつとして位置づけられるのが、「卒業研究レポート」である。「卒業研究」を通じた学びは、自身の生涯にわたる社会への問題意識・関心の基本的スタンスを醸成するうえでも、重要な意義を有しているであろう。

(2) 内容

グローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の中で、自分なりの関心から選択した「現代的課題」をより深く掘り下げ、その解決主体としての市民・コミュニティ（組織）のあり方と可能性について検討することが本演習（卒業研究）の内容となる。
| 具体的には、設定したテーマ（課題）についての多面的な観点からの検討を通して、関連する領域において活動を展開する市民社会組織（NPO、社会的企業、協同組合、ボランティア団体等）調査を実施する。その成果を報告してもらい、最終的には卒業研究レポートとしてまとめてもらう。

受講者に対する要望

・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 地域社会
- ・ NPO
- ・ 社会的企業
- ・ 社会的排除
- ・ 現代的協同性

授業計画

01. 卒業研究レポート執筆にむけて
02. 調査方法論の再確認
03. 調査テーマの検討・確定
04. 個別報告(1)
05. 個別報告(2)
06. 共同調査
07. 個別報告(3)
08. 個別報告(4)
09. 個別報告(5)
10. 共同調査
11. 卒業研究レポート草稿の検討I
12. 卒業研究レポート草稿の検討II
13. 現代社会における「コミュニティの担い手」を考えるI
14. 現代社会における「コミュニティの担い手」を考えるII
15. まとめと反省

準備学習(予習)

・ 報告者は、前回報告で指摘された箇所の修正および新たに執筆した箇所の要旨をまとめたレジュメ等を準備し、事前に提出すること。報告を担当しないものも、毎回、簡単な卒レポ進行状況を報告すること。

準備学習(復習)

・ ゼミでの検討会をとおして指摘された修正点等は、その週のうちに加筆・修正すること。次回ゼミの冒頭に、簡単な進行状況の報告をしてもらう。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。 |
| (2) レポート | 50% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

担当教員：大森 達也

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX44510

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

研究レポート作成を通じて、それぞれの問題意識を高めるという意義とともに、「報連相」の重要性を理解することにある。

(2) 内容

卒業研究IIの目的は、卒業研究Iで進めてきた卒業研究レポート準備をさらに進め、卒業研究レポートを完成することである。

受講者に対する要望

各自、調査・研究の自己管理を手一定すること。

学びのキーワード

- ・ 研究計画
- ・ 文献調査
- ・ レポート発表

授業計画

01. 研究計画書の変更と発表 (2)
02. 文献リストの変更と発表 (2)
03. 追加文献調査の発表 (3)
04. 追加文献調査の発表 (4)
05. 中間発表 (5)
06. 中間発表 (6)
07. 研究計画書の変更と発表 (3)
08. 文献リストの変更と発表 (3)
09. 追加文献調査の発表 (5)
10. 追加文献調査の発表 (6)
11. 最終研究発表 (1)
12. 最終研究発表 (2)
13. 最終研究発表 (3)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

準備学習(予習)

研究レポート作成を目的としているため、個別テーマごとの指導が重要とならざるを得ない。各自、調査・研究の時間を充分にとることが重要となる。

準備学習(復習)

個別指導に従い、各自、発表後に問題点を整理し、最終の研究レポートに反映すること。

評価方法

- | | |
|------------|---------------|
| (1) 中間発表 | 20% |
| (2) 最終発表 | 30% |
| (3) 研究レポート | 50% 10,000字程度 |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 英人

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX44610

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

生活の中から見えた法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

(2) 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2017年度のテーマは「生活の中から見えた法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

受講者に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・生活の中から見えた法と行政
- ・消費者保護法
- ・消費者保護行政

授業計画

01. 現代社会と法（その種類と仕組み）
02. 法と道徳
03. 法が強制的であるということ
04. 法の機能
05. 「犯罪」とは何か？
06. 現代社会と裁判制度
07. デュー・プロセスについて
08. 消費者を守る法
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

準備学習(予習)

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題作成 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：平 修久

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1PX44710

学部教育の関連目

【P】論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自ら課題を設定し、調査し、レポートを作成できるようにすること。

(2) 内容

各自、興味あるまちづくり、あるいはまちの問題・課題について、調査研究を行う。テーマとしては、(1)都市問題、(2)地域コミュニティの活性化・維持、(3)食によるまちづくり、(4)観光まちづくり、(5)安全なまちづくり、(6)福祉のまちづくり、(7)まちの環境保全・再生・創造、(8)まちのイベントなどを想定している。

受講者に対する要望

主体的に課題に取り組むとともに、他の受講生の課題や取り組み方法にも関心を持ち、自らの卒業研究レポートづくりに役立ててもらいたい。

学びのキーワード

・まちづくり

授業計画

01. 埼玉県地域問題
02. レポート発表①
03. レポート発表②
04. レポート発表③
05. 公共政策の概要①
06. 公共政策の概要②
07. 卒業研究中間発表①
08. 卒業研究中間発表②
09. 卒業研究中間発表③
10. 政策評価①
11. 政策評価②
12. 卒業研究最終発表①
13. 卒業研究最終発表②
14. 卒業研究最終発表③
15. 卒業研究最終発表④

準備学習(予習)

事前に、配布資料を読んでおくこと。レポートの発表に関しては、その内容をまとめ、準備しておくこと。

準備学習(復習)

発表の場合はコメントをまとめ、講義の場合はノートをまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 30% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) 卒業研究レポート | 50% |

教科書

参考書

授業の中で指示する

教師論（中高教職）

TEAT-0-100/TEAT-D-1

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程/ 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T100101

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。| 2) 地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。| 3) 戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。| 4) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。|

(2) 内容

教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。| 教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。| その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。|

受講者に対する要望

「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。

学びのキーワード

- ・ 職場としての学校
- ・ 教員の特殊性
- ・ 教員の社会的役割

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教師に求められる資質・能力とは（1）－現状と課題
03. 教師に求められる資質・能力とは（2）－生徒の求める教師像
04. 教師に求められる資質・能力とは（3）－教師としての自覚
05. 教師の仕事（1）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識
06. 教師の仕事（2）教師の力量向上－研修の義務と機会
07. 教師の地位（1）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など
08. 教師の地位（2）現代社会と教師
09. 教師の環境（1）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解
10. 教師の環境（2）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員
11. 教師の環境（3）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など
12. 教師養成（1）その歴史－戦前期および戦後改革
13. 教師養成（2）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚
14. 教育計画とは何か
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。

準備学習(復習)

授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらったレポートの準備を考えてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----------------------------|
| (1) 期末テスト | 30% |
| (2) 授業への参加 | 40% 授業中の討論への参加など |
| (3) レポート | 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。 |

教科書

参考書

社会科公民的分野教育法（中高教職）

SUBP-P-200

担当教員：増田 正博

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302141

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。| <学びの目標> | ○「公民」「公民的資質」における「公民」の概念を理解できる。| ○公民的分野の内容と学習方法を理解できる。| ○公民的分野の学習指導案を作成することができる。|

(2) 内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の公民科も視野に入れながら、中学校における「公民的分野」の内容について考察する。| 本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。| ○戦前の「公民教育」と戦後の社会科教育の関係について理解する。| ○「公民的資質」の概念、公民的分野の内容について理解する。| ○「政治」的単元、「経済」的単元、「国際政治・経済学習、現代社会」的単元について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。|

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。| ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。| ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。| ○レポートは必ず提出するようにして欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・政治・経済・社会の動きに興味・関心を持とう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 「生きる力」と戦前の公民教育—戦前の公民教育、戦後の公民科、社会科へ至る経緯について理解する。
03. 戦後の社会科教育の推移と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の内容とその推移を理解する。
04. 公民的分野の目標と学習内容（1）—公民・公民的資質の概念、現在までの公民的分野の内容・目標の推移を理解する。
05. 公民的分野の目標と学習内容（2）—公民的分野の内容とその推移について理解する。
06. 公民的内容の指導計画と指導事例—指導計画の作成方法を理解するとともに、中項目を選択し、指導計画を作成する。
07. 「政治」的単元の扱い—政治的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
08. 「政治」的単元の学習指導案の作成—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、発問計画もたてる。
09. 「経済」的単元の扱い—経済的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
10. 「経済」的単元の学習指導案の作成—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、板書計画もたてる。
11. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の扱い—「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の内容を理解する。
12. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の学習指導案の作成—<演習>学習指導案を作成、発問・板書計画をてる。
13. 公民的分野の授業評価と方法—評価規準について具体的に理解するとともに、評価方法について知る。
14. テスト問題の作成と実践例の紹介—テスト問題の作成の方法を理解するとともに、先進的な実践例について知る。
15. 講義のまとめ—公民的な見方・考え方についてまとめる。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴るよう指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること。

教科書

教科書（中学校）『新編新しい社会 公民（平成28年度）』（東京書籍）【公民929】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編（平成20年9月）』（日本文教出版）【978-453690051】

参考書

担当教員：増田 正博

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302245

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。|<学びの目標>|○「公民的資質」の概念を理解できる。|○地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解できる。|○日本・世界の略地図を描くことができ、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。

(2) 内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の地歴科も視野に入れながら、中学校における「地理的分野」、「歴史的分野」の内容について考察する。|本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。|○戦前の「地理教育」「歴史教育」のねらいを知るとともに、戦後の社会科教育の変遷を理解する。|○社会科の教科構造、地理的分野・歴史的分野の学習内容について理解する。|○「歴史的分野」、「地理的分野」について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。|

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。|○新聞に掲載している教育関連の記事に関心を持って欲しい。|○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。|○レポートは必ず提出して欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・略地図を描くスキルを獲得しよう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 地理・歴史教育の沿革（戦前期）—戦前の地理・歴史教育の内容とそのねらいについて理解する。
03. 戦後の社会科教育の変遷と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の推移とその内容を理解する。
04. 歴史的分野教育法（歴史的分野の目標）—歴史的分野の目標の推移とその内容について理解する。
05. 歴史的分野教育法（歴史的分野の内容）—歴史的分野の内容とその推移について理解する。
06. 歴史的分野教育法（指導計画と指導事例）—<演習>指導計画の方法を知るとともに中項目を選択し、指導計画を作成する。
07. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—学習指導案を作成する方法について理解する。
08. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成する。
09. 地理的分野教育法（地理的分野の目標）—地理的分野の目標の推移とその内容について理解する。
10. 地理的分野教育法（地理的分野の内容）—地理的分野の内容とその推移について理解する。
11. 地理的分野教育法（指導計画と指導事例）—地理的分野の指導計画を知り、学習指導案の書き方を理解する。
12. 地理的分野教育法（学習指導案の作成）—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成する。
13. 地理的分野教育法（略地図の作成）—<演習>日本、世界の略地図を作成する。
14. 地理的分野教育法（略地図を用いた板書・テスト問題の作成）—テスト問題の作成の方法、略地図を用いた板書を理解する。
15. 講義のまとめ—地理的・歴史的分野の見方・考え方についてまとめる。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴じるように指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること。

教科書

教科書（中学校）『新編新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍）【地理725】|教科書（中学校）『新編新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍）【歴史729】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編（平成20年9月）』（日本文教出版）【978-4536590051】

参考書

担当教員：増田 正博

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302361

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。|<学びの目標>|○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために生徒の住んでいる「地域」に注目することが生徒の興味・関心を喚起できることに気づく。|○フィールドワークの重要性を理解できる。|○地域にこだわった学習指導案を作成することができる。

(2) 内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義表の内容は小・中の社会科・高の「地歴科」「公民科」の関連に注目するとともに、地理・歴史・公民的各分野で「地域」にこだわり、「身近な地域」のフィールドワークを実施する。|○戦前に実践された「社会科」学習の内容を理解する。|○歴史的分野における「郷土」・「人物」・「生活文化」、地理的分野における「身近な地域」、公民的分野における「消費者文化」・「法教育」、等の実践について理解する。|○地理的分野における二万五千分の一の地形図の読図を行う。|○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。|○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。|○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。|○レポートは必ず提出して欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・社会科は道員教科であることを認識しよう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 社会科教育の沿革と教科構造—戦前の「地理・歴史」学習、戦後の社会科教育の推移、社会科の構造を理解する。
03. 現代における社会科教育の役割—「同和教育」を通じて社会科教育の果たす役割を理解する。
04. 中学校社会科の目標と内容—社会科の目標と内容を理解するとともに、「総合的学習の時間」との関連について知る。
05. 小学校社会科・高等学校「地歴科」「公民科」との関連—小・中・高の関連について理解する。
06. 地理的分野「身近な地域の学習」—二万五千分の一の地形図について理解する。
07. 地理的分野「身近な地域の学習」—<演習>地形図をもとにフィールドワークを行う。
08. 歴史的分野「郷土」の扱い—「郷土」の扱いの変遷と「郷土」を扱う意義について理解する。
09. 歴史的分野「生活文化」の学習と博物館—「生活文化」の概念を理解するとともに、博学連携について知る。
10. 歴史的分野「人物」の扱い—歴史における人物の果たす役割について理解する。
11. 公民的分野「消費者教育」—消費者教育の変遷と消費者教育の意義について理解する。
12. 公民的分野「法教育」—法教育の内容と意義を理解するとともに、裁判員制度について知る。
13. 「学習指導案」の作成—<演習>地域にこだわった学習指導案を作成する。
14. 「考古学の利用」・補遺—考古学を利用する意義について理解するとともに、実践例を紹介する。
15. 講義のまとめ—社会科教育では「地域」が重要であることを理解する。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴じるように指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること。

教科書

教科書(中学校)『新編新しい社会 地理(平成28年度)』(東京書籍)【地理725】|教科書(中学校)『新編新しい社会 歴史(平成28年度)』(東京書籍)【歴史729】|教科書(中学校)『新編新しい社会 公民(平成28年度)』(東京書籍)【公民929】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編(平成20年9月)』(日本文教出版)【978-453690051】

参考書

担当教員：増田 正博

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302462

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(社会)：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。|<学びの目標>|○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために一斉画一指導を克服して多様な学習方法があることに気づく。|○「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の内容・方法について理解する。|○学習指導案を作成することができる。

(2) 内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、さらに「社会科授業研究I」をふまえて本講義を位置づける。本講義の内容は社会科の資料論、指導論を中心に構成した。|○学習方法について、「問題解決学習」、「検証学習」をはじめ多様な方法論を理解する。|○学習過程の多様な方法論と評価論について理解する。|○実物資料による体験、古文書資料の読解などを行う。|○地理的分野における地図帳、歴史的分野における年表、公民的分野における新聞、等の扱いについて理解する。|○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。|○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。|○必ず「レジュメ」(前時に配布する)を読んできて欲しい。|○レポートを必ず提出して欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・社会科は道具教科であることを認識しよう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 指導計画の作成と教材研究—アメリカ社会科の変遷を理解する。あわせて単元学習のあり方について知る。
03. 学習指導過程の工夫—「オープンマインド」・「オープンプロセス」・「オープンエンド」の3つのオープンを理解する。
04. 学習指導の評価と方法—「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の3つの評価を理解する。
05. 学習方法の工夫—「問題解決学習」、「発見学習」をはじめ多様な学習方法を理解する。
06. 授業過程の工夫—「受容的課題」、「選択的課題」、「発見的課題」について理解する。
07. 学習資料の開発—実物資料、加工資料の実際に触れ、資料の重要性を理解する。
08. 地図帳と地理的分野の授業—地理的分野の学習において、空間的認識の育成と地図帳の関連を理解する。
09. 年表と歴史的分野の授業—歴史的分野の学習において、時間的認識を育成するには年表が大きな役割を果たすことについて理解する。
10. 新聞と公民的分野の授業—公民的分野は現実の政治・経済・社会を扱うため新聞が大きな役割を果たしていることについて理解する。
11. 統計の活用—3分野の教科書には多くの統計が所載されている。この統計の見方について理解する。
12. 学習指導案の作成—<演習>卒論としての社会科学習指導案作成を2時間にわたって行う。
13. 「学習指導案」の作成—同上
14. 授業研究と教師のありかた—社会科実践家の事例を紹介し、教材研究の重要性を理解する。
15. 講義のまとめ—教育実習への意欲を喚起する。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴るよう指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること

教科書

教科書(中学校)『新編新しい社会 地理(平成28年度)』(東京書籍)【地理725】教科書(中学校)『新編新しい社会 歴史(平成28年度)』(東京書籍)【歴史729】教科書(中学校)『新編新しい社会 公民(平成28年度)』(東京書籍)【公民929】地図帳(中学校)『中学校社会科地図』(帝国書院)【帝国地図724】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編(平成20年9月)』(日本文教出版)【978-4536590051】

参考書

担当教員：井上 兼生

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T303151

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

高校の公民の範囲は広い。科目としては「現代社会」「政治・経済」「倫理」がありますが、それぞれの教科書を利用しながら、授業方法について目標設定から一コマの授業計画まで、実践的な力をつけることを目指します。そして、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成を目標とします。

(2) 内容

1. 内容:まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。そのうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業のスキル・教材提示の仕方とともに、教材作成の手がかりとなる教科内容にあった教材や方法を紹介する。具体的には、公民科の授業構成方法、学習指導案の作成方法、教材研究の考え方、板書や発問の仕方、教材作成方法などの従来からの授業展開スキルに加え、ICTの活用、グループ・ディスカッション、ディベート、ジグソー法などのアクティブ・ラーニング型授業展開のスキルの修得も目指す。後半の授業では、学習指導案の発表と模擬授業を実施する。|2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。|||

受講者に対する要望

教育実習の前年の科目でもあり、真剣勝負で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 実践的
- ・ 教材研究
- ・ 教育計画

授業計画

01. 「学習指導要領」の「公民科」の変遷と構成
02. 授業作りのポイントと学習指導案の作り方
03. 授業のスキル：教材研究、話し方、発問、板書 教材作成 授業管理
04. 「現代社会」の学習指導法(1) 青年期の課題
05. 「現代社会」の学習指導法(2) 現代社会の諸課題(1) 地球環境とエネルギー問題
06. 「現代社会」の学習指導法(3) 現代社会の諸課題(2) ITの普及・AIの進歩と雇用問題
07. 「政治・経済」の学習指導法(1) 経済分野(1) 市場取り引きと「市場の失敗」
08. 「政治・経済」の学習指導法(2) 経済分野(2) 経済格差の問題
09. 「政治・経済」の学習指導法(3) 政治分野(1) 日本国憲法の成立
10. 「政治・経済」の学習指導法(4) 政治分野(2) 「機会の平等」と「結果の平等」
11. 「倫理」の学習指導法(1) 在り方生き方
12. 「倫理」の学習指導法(2) 現代の倫理的課題
13. 学習指導案発表と模擬授業(1) 調べ学習
14. 学習指導案発表と模擬授業(2) レポート
15. 研究協議／まとめ

準備学習(予習)

学習指導案などの作成や模擬授業までこなしてもらうので、不足する知識などは事前に幅広く吸収すること。

準備学習(復習)

学習指導案やレポートなどを授業中に完成させることは時間的にも不可能です。課題の作業内容について指摘された問題点など、丁寧に振り返って、よりよいものとする。

評価方法

- (1) 授業中の学習活動 100% 学習指導案やレポートなどの作成・提出、模擬授業など。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編（平成22年6月）』（教育出版）【978-4316300238】

参考書

担当教員：小川 洋

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T304155

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

地歴科の科目を一通り、授業ができるように指導します。高校で履修していない学生もいますが、その部分については自助努力に期待することになります。十分な知識が教授法の前提となります。自分にどのような知識が足りないかを常に意識して取組み、ある程度の自信をもってもらうことが目標です。

(2) 内容

1. 内容:まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。|2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。|

受講者に対する要望

教授法に必要な知識は授業では補えません。知識の部分は個人差も大きいので、自ら積極的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・教材研究
- ・授業計画

授業計画

01. 「学習指導要領」の「地理歴史科」の変遷と構成
02. 地歴科の教育目標など
03. 「日本史」科目の教育目標など
04. 「日本史」の学習指導法(1) 前近代史
05. 「日本史」の学習指導法(2) 近現代史
06. 「世界史」の教育目標など
07. 「世界史」の学習指導法(1) 前近代史
08. 「世界史」の学習指導法(2) 近現代史
09. 「地理」の教育目標など
10. 「地理」の学習指導法(1) 系統地理分野
11. 「地理」の学習指導法(2) 地誌分野
12. 教材づくり
13. 教材の活用法
14. 授業の技術
15. まとめ

準備学習(予習)

各科目ごとに作業を進めるので、あらかじめ自分に知識が不足している科目・単元については自発的に学習準備をすること。

準備学習(復習)

授業で指摘された不十分な箇所や内容については次の授業までに確実に修正しておくこと。

評価方法

- (1) 授業中の学習活動 100% 単元計画から一コマの授業計画あるいは模擬授業を課します。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領』（東山書房）【978-4827815412】

参考書

欧米文化学科

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 15200100

学部教育の関連目

【A・J】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

第一の目的は、キリスト教があらゆる分野で成してきた著しい貢献が、今日受講者個人個人の気づかなかった領域に至っても大いに関係していることを認識することができるように導くものです。

(2) 内容

内容： この講義は、キリスト教文化論Bと連結した講座で、キリスト教が、世界の様々な領域において貢献してきた歴史上の事実の焦点を当て考えていきます。第一の重点は、キリスト教の世界観が政治体制と市民の自由・権利解放にどのように影響を及ぼしたかに着目し、次に一般的文化、又、大衆文化の分野に目を移し、そして、後半は特にアメリカ合衆国における影響を概観していきます。||

受講者に対する要望

講義は日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は講義内容です。

学びのキーワード

- ・ worldview (世界観)
- ・ Christianity (キリスト教)
- ・ culture (文化)
- ・ happiness (幸福)
- ・ civil rights (民権)

授業計画

01. キリスト教的世界観の梗概
02. キリスト教と政府 I:自由と民主主義
03. キリスト教と 政府 II: 奴隷制度廃止
04. キリスト教と 政府 III: アメリカ合衆国における市民権運動
05. 芸術におけるキリスト教のインパクト (強い影響)
06. 建築におけるキリスト教のインパクト
07. 音楽におけるキリスト教のインパクト
08. 文学におけるキリスト教のインパクト
09. 映画におけるキリスト教のインパクト I
10. 映画におけるキリスト教のインパクト II
11. キリスト教の祭日、言葉、記号
12. キリスト教と大衆文化 (ポップカルチャー) I
13. キリスト教と大衆文化 II
14. キリスト教と大衆文化 III
15. ふりかえり

準備学習(予習)

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

準備学習(復習)

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

評価方法

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 全学礼拝レポート及び教会出席レポート | 35% |
| (3) 中間テスト | 15% |
| (4) 期末テスト | 15% |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

印刷物；プリント

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15200110

学部教育の関連目

【A・J】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについて考えていきたい。

(2) 内容

宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と文化
- ・キリスト教と諸宗教
- ・民俗と宗教

授業計画

01. 宗教の「始まり」について
02. 宗教・呪術・科学
03. さまざまな宗教のかたち
04. 何を信じるのかー宗教的实在観について
05. 宗教から見た人間ー宗教的人間観について
06. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（1）
07. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（2）
08. 宗教儀礼・修行について（1）
09. 宗教儀礼・修行について（2）
10. 宗教集団について
11. 宗教体験と人格（1）
12. 宗教体験と人格（2）
13. 民俗と宗教の深層（1）折口信夫
14. 民俗と宗教の深層（2）柳田國男
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業への参加度・礼拝レポートの三つを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 15200200

学部教育の関連目

【A・J】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

第一の（基本的）目的は、キリスト教の遍在する影響を包括的、又、個人的、両観点から探索し学びます。

(2) 内容

1. 内容：この講義は、キリスト教概論A及びBに続く講座として設けられた科目で、キリスト教が世界にもたらした深遠なる影響の概観を学び探ります。“もし、イエス・キリストが降誕していなかったら？”という仮説質問から始まり、講義は、イエス・キリストの存在しなかった仮説を設け進み、そして、イエス・キリストとキリスト教徒が歴史を通して人類に建設的に影響を及ぼした多くの領域の輪郭を描いていきます。特に人間の尊厳と人権の領域についても学びます。||

受講者に対する要望

講義は、日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は、講義内容です。

学びのキーワード

- ・ worldview（世界観）
- ・ creationism（創造論）
- ・ morality（道徳）
- ・ ethics（倫理）
- ・ (human) rights（人権／権利）

授業計画

01. イエス・キリストが降誕していなかったら？ 世の中はどう違っていたであろうか？
02. 世界観と宗教 I:概観
03. 世界観と宗教 II:二例——無神論 対 キリスト教唯一神論
04. ダーウィンの進化論 対 キリスト教の天地創造論:両者の論理的結果
05. 人間の生命の尊厳
06. キリスト教の女性に対する尊厳の向上
07. キリスト教道徳と倫理 I
08. キリスト教道徳と倫理 II
09. 中間テスト
10. 教育におけるキリスト教の強い影響:普遍的教育と大学
11. キリスト教の慈愛と利他主義 I: 病院と医療施設、チャリティーとボランティア・グループ
12. 現代科学とキリスト教の関係
13. 労働階級と経済におけるキリスト教の影響
14. キリスト教と人権
15. ふりかえり

準備学習(予習)

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

準備学習(復習)

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

評価方法

(1) 平常点	35%
(2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート	35%
(3) 中間テスト	15%
(4) 期末テスト	15%

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

印刷物；プリント

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15200210

学部教育の関連目

【A・J】本学の基礎であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「神学こそは、およそ人が学びたいと願うものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。この授業においては、キリスト教神学について、また、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。

(2) 内容

キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と文化
- ・キリスト教神学
- ・キリスト教と諸思想

授業計画

01. 「神学」とそのよりどころ
02. 神はどのようにして知られるか—啓示と自然—
03. 神学と諸思想（1）神学と哲学との微妙な関係
04. 神学と諸思想（2）ロマン主義
05. 神学と諸思想（3）マルクス主義・ポストモダニズム
06. 神学と諸思想（4）フェミニズム
07. 神学と諸思想（5）解放の神学・黒人神学
08. 神についての探求（1）
09. 神についての探求（2）
10. 神と創造
11. 救いとは何か（1）
12. 救いとは何か（2）
13. 「終末」について
14. キリスト教的文化と倫理
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業へ参加度・試験・礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。

教科書

参考書

担当教員：氏家 理恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：1A100511

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身に付ける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。

(2) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。

受講者に対する要望

毎回の講義内で、様々な課題に取り組むほか、講義の外でも多くの課題に継続的に取り組んでもらいますので、積極的な取組を期待します。また、講義内で積極的に発言することを望みます。

学びのキーワード

- ・ 読み方
- ・ 考え方
- ・ 初年次教育
- ・ 論理的思考

授業計画

01. ガイダンス
02. ノートを取る (1)
03. 小テスト1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2)
04. 文章に読んだ足跡をつける
05. 小テスト2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1)
06. 文章を段落ごとに要約する (2)
07. 小テスト3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1)
08. 文章全体の要旨を作成する (2)
09. 小テスト4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う
10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1
11. 小テスト5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1)
14. グラフ・画像を読む (2)
15. 小テスト7 (論理トレーニング) / 総合演習

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------|
| (1) 小テスト | 30% | 全7回の合計 |
| (2) 平常点 | 70% | 参加態度、課題への取組など |

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1A100512

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身に付ける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。

(2) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。

受講者に対する要望

毎回の講義内で、様々な課題に取り組むほか、講義の外でも多くの課題に継続的に取り組んでもらいますので、積極的な取組を期待します。また、講義内で積極的に発言することを望みます。

学びのキーワード

- ・読み方
- ・考え方
- ・初年次教育
- ・論理的思考

授業計画

01. ガイダンス
02. ノートを取る (1)
03. 小テスト1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2)
04. 文章に読んだ足跡をつける
05. 小テスト2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1)
06. 文章を段落ごとに要約する (2)
07. 小テスト3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1)
08. 文章全体の要旨を作成する (2)
09. 小テスト4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う
10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1
11. 小テスト5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1)
14. グラフ・画像を読む (2)
15. 小テスト7 (論理トレーニング) / 総合演習

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------|
| (1) 小テスト | 30% 全7回の合計 |
| (2) 平常点 | 70% 参加態度、課題への取組など |

教科書

参考書

担当教員：村瀬 天出夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1A100513

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身に付ける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。

(2) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。

受講者に対する要望

毎回の講義内で、様々な課題に取り組むほか、講義の外でも多くの課題に継続的に取り組んでもらいますので、積極的な取組を期待します。また、講義内で積極的に発言することを望みます。

学びのキーワード

- ・ 読み方
- ・ 考え方
- ・ 初年次教育
- ・ 論理的思考

授業計画

01. ガイダンス
02. ノートを取る (1)
03. 小テスト1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2)
04. 文章に読んだ足跡をつける
05. 小テスト2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1)
06. 文章を段落ごとに要約する (2)
07. 小テスト3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1)
08. 文章全体の要旨を作成する (2)
09. 小テスト4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う
10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1
11. 小テスト5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1)
14. グラフ・画像を読む (2)
15. 小テスト7 (論理トレーニング) / 総合演習

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | |
|----------|-------------------|
| (1) 小テスト | 30% 全7回の合計 |
| (2) 平常点 | 70% 参加態度、課題への取組など |

教科書

参考書

担当教員：畠山 宗明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1A100616

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。

(2) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティも実施します。

受講者に対する要望

講義の内外で、様々な課題に取り組んでもらうため、積極的な取組を期待します。また、講義内で、積極的に発言するようにしましょう。

学びのキーワード

- ・書く力
- ・調べる力
- ・初年次教育

授業計画

01. ガイダンス
02. 短い文章を書く
03. 小テスト1 (社会人の基礎用語) / 論理的なつながりを表現する
04. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
05. 小テスト2 (社会人の基礎用語) / 段落と論理の関係を学ぶ
06. 段落から章立てを構成する (1)
07. 小テスト3 (社会人の基礎用語) / 段落から章立てを構成する
08. レポートのための図書館ガイダンス
09. 小テスト4 (社会人の基礎用語) / 感想文や作文とレポートの違い
10. 課題を設定する
11. 小テスト5 (社会人の基礎用語) / 資料の調べ方
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (社会人の基礎用語) / 総合演習 (レポートの中間評価)
14. 総合演習 (レポートの準備)
15. 小テスト7 (社会人の基礎用語) / 総合演習 (レポートの準備)

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているため、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているため、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------|
| (1) 小テスト | 20% | 全7回の合計 |
| (2) 期末レポート | 40% | |
| (3) 平常点 | 40% | 授業への参加態度、課題の提出状況など |

教科書

参考書

担当教員：和田 光司

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1A100617

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。

(2) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティーも実施します。

受講者に対する要望

講義の内外で、様々な課題に取り組んでもらうため、積極的な取組を期待します。また、講義内で、積極的に発言するようにしましょう。

学びのキーワード

- ・書く力
- ・調べる力
- ・初年次教育

授業計画

01. ガイダンス
02. 短い文章を書く
03. 小テスト1（社会人の基礎用語）／論理的なつながりを表現する
04. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2
05. 小テスト2（社会人の基礎用語）／段落と論理の関係を学ぶ
06. 段落から章立てを構成する（1）
07. 小テスト3（社会人の基礎用語）／段落から章立てを構成する
08. レポートのための図書館ガイダンス
09. 小テスト4（社会人の基礎用語）／感想文や作文とレポートの違い
10. 課題を設定する
11. 小テスト5（社会人の基礎用語）／資料の調べ方
12. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2
13. 小テスト6（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの中間評価）
14. 総合演習（レポートの準備）
15. 小テスト7（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの準備）

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------|
| (1) 小テスト | 20% | 全7回の合計 |
| (2) 期末レポート | 40% | |
| (3) 平常点 | 40% | 授業への参加態度、課題の提出状況など |

教科書

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1A100618

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。

(2) 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティーも実施します。

受講者に対する要望

講義の内外で、様々な課題に取り組んでもらうため、積極的な取組を期待します。また、講義内で、積極的に発言するようにしましょう。

学びのキーワード

- ・書く力
- ・調べる力
- ・初年次教育

授業計画

01. ガイダンス
02. 短い文章を書く
03. 小テスト1 (社会人の基礎用語) / 論理的なつながりを表現する
04. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
05. 小テスト2 (社会人の基礎用語) / 段落と論理の関係を学ぶ
06. 段落から章立てを構成する (1)
07. 小テスト3 (社会人の基礎用語) / 段落から章立てを構成する
08. レポートのための図書館ガイダンス
09. 小テスト4 (社会人の基礎用語) / 感想文や作文とレポートの違い
10. 課題を設定する
11. 小テスト5 (社会人の基礎用語) / 資料の調べ方
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (社会人の基礎用語) / 総合演習 (レポートの中間評価)
14. 総合演習 (レポートの準備)
15. 小テスト7 (社会人の基礎用語) / 総合演習 (レポートの準備)

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------|
| (1) 小テスト | 20% | 全7回の合計 |
| (2) 期末レポート | 40% | |
| (3) 平常点 | 40% | 授業への参加態度、課題の提出状況など |

教科書

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1A101010

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

北米・西欧各地域の現代社会をめぐる基礎知識を身につけることで、新聞・テレビニュースなどさまざまなメディアで報道されるこれらの地域についての情報に関心を持ち、国際的な視野を養う基礎とすることを目指す。

(2) 内容

この授業では、北米や西欧の現代社会を理解するための基礎知識を学んでいく。地理・歴史・文化の基本的な知識を確認するほか、現代の北米・西欧各国が置かれた社会情勢を理解するために、特に人種・宗教事情にも注目して学ぶ。

受講者に対する要望

北米・西欧の事情をめぐる報道等に目を向け、特に自分の関心の持てる分野を見つけて、継続的にニュースを追ったり基礎的な文献などを読んだりしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 北米
- ・ 西欧
- ・ 地理・歴史
- ・ 文化
- ・ 人種・宗教

授業計画

01. 導入
02. 北米の地理・歴史・文化 1
03. 北米の地理・歴史・文化 2
04. 北米の地理・歴史・文化 3
05. 現代北米の人種・宗教事情 1
06. 現代北米の人種・宗教事情 2
07. 現代北米の人種・宗教事情 3
08. 西欧の地理・文化
09. 西欧20世紀・21世紀の歴史 1
10. 西欧20世紀・21世紀の歴史 2
11. 西欧20世紀・21世紀の歴史 3
12. 現代西欧の人種・宗教事情 1
13. 現代西欧の人種・宗教事情 2
14. 現代西欧の人種・宗教事情 3
15. まとめ

準備学習(予習)

配布する資料などに目を通し、小テストに備えること

準備学習(復習)

資料や小テストの復習を行なうこと

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 小テスト | 80% |
| (2) リアクションペーパーへの記述など、授業への参 | 20% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

担当教員： 作田 奈苗

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1A102070

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性： 社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文脈を共有しない他者と適切な関係を築くためのコミュニケーションを意識的に考え、実践できるようになること。

(2) 内容

この授業では、大学生生活、および卒業後社会で必要となる言語技術のうち、会話または文書によって場面に応じて適切にコミュニケーションをとる技術を学ぶ。まず、敬語の規範的な文法や慣用を確認する。また、運用について、書きことば話し言葉ともに、具体的な実践練習を行う。| 具体的には次のような活動を行う。| ① ビジネスを想定した場面でのさまざまな自己表現の活動をする。| ② 小さいプロジェクトワークを3回実施する。毎回授業の残り時間はプロジェクトワークの作業に当て、授業終了時に進捗状況の報告をする。| ※要求される日本語のレベルが高いので、留学生の場合、レベル3の学生でなければ勧めない。

受講者に対する要望

この授業は座って講義を聴くだけの授業ではない。グループワークをしたり、発表をしたりして、クラス内で活動し、社会人としてのコミュニケーション力を養成する。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 敬語
- ・ 配慮
- ・ コミュニケーション
- ・ メール

授業計画

01. オリエンテーション 敬語の基礎
02. 気をつけたい敬語 (1)
03. 気をつけたい敬語 (2)
04. 気をつけたい発音
05. あいづちのいろいろ
06. 敬語のプロジェクトワーク発表会
07. 話題の選択
08. より適切なことばの選択
09. 相手の負担を軽減する表現
10. メールプロジェクトワーク発表会
11. メールプロジェクトワークふりかえり
12. 添える言葉
13. 授受表現と配慮
14. 意志・願望の表現と配慮
15. 「私の配慮」のプロジェクトワーク発表会

準備学習(予習)

UNIPAの教材に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

課題が完成しなかった場合、次の授業までに課題を完成させ、提出すること。|プロジェクトワークを進めておくこと。|プロジェクトワークの発表会でのパフォーマンスの準備をすること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業中の活動 | 70% |
| (2) プロジェクトワーク | 30% |

合計60点以上を単位取得の条件とする。

教科書

参考書

教材はUNIPAにアップロードしておく。

担当教員：畠山 宗明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1A103210

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

引用のしかたやレポートのより詳細な章立てのやり方など、1年次の基礎ゼミではなかなか身につかない読み書きの技術を学ぶことと、書物そのものに親しむことで、より総合的な「読む力」を身につけることが本科目の目標です。

(2) 内容

本科目では、基礎ゼミA、Bを踏まえて、より高度な読み書き能力を身につけることを目標とします。基本的には基礎ゼミABで使用した教科書を使用し、読解、レポート作成のための技術を学びますが、それぞれ、より高度な内容に踏み込んで演習を行います。さらに、ビブリオバトルや図書館ワークショップを通じて、講義のための読み書きだけでなく、総合的な読む力を身につけていきます。また、プレゼンテーションやキャリアガイダンスなども実施します。

受講者に対する要望

基礎ゼミA、Bに続き、読む力、書く力を養っていきますが、基礎ゼミCではレポートにとどまらず、本を読む事そのものに親しんでいきます。書かれた言葉に広く親しむことによって、さらに上位の表現を身につけていけるようにして下さい。

学びのキーワード

- ・書く力
- ・読む力
- ・ビブリオバトル

授業計画

01. ガイダンス+昨年度の復習+良いレポートとは？
02. 見通しを立てる①—「全体」から考える、主題と目的の違い、概要の作り方。
03. キャリアガイダンス①
04. 文章の構造①—論理関係をつかむ
05. 文章の構造②—文と段落
06. プレゼンテーションガイダンス①
07. プレゼンテーションガイダンス②
08. 論文の構造
09. 論文でよく使う表現
10. キャリアガイダンス②
11. その他①—引用、参照のしかた
12. その他②—引用を本文に組み込む
13. ビブリオバトル①
14. ビブリオバトル②
15. ビブリオバトル③およびまとめ

準備学習(予習)

基礎ゼミA、Bでの取り組みをよく思い出し、反省点を明確にして下さい。また講義スケジュールを初回に配布するので、テーマとなる教科書の項目をよく読んできて下さい。

準備学習(復習)

返却された課題によく目を通し、しっかりと復習して下さい。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| (1) 平常点 | 70% | ワークショップへの参加、演習課題なども含まれる |
| (2) ブックレポート | 30% | |

学期末のブックレポートの他、各回の課題も評価対象とする。

教科書

教室で指定

参考書

教室で指定

担当教員：K. O. アンダスン

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1A103310

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

Students are expected to work on their research papers outside of class and may have to meet the teacher for discussion of their papers outside of class. The final research papers must be turned in on time in order for students to pass this class.

(2) 内容

The main goal of this course is to teach students how to write a research paper/report in English.

受講者に対する要望

Active participation, regular attendance, and focus on writing will be highly emphasized.

学びのキーワード

- Research
- Outlining and organization
- Paragraphing and linking paragraphs with transition words and phrases
- Writing, self-review, peer-review, rewriting drafts
- documentation, works cited, in-text citations

授業計画

01. Introduction to the class / What do you want to write about? / brainstorming / outlining / typing a Word document / title page / pagination
02. Sources of information: evaluating your sources / gathering information about your sources / the list of Works Cited
03. Organization: introductory paragraph / topic and subtopics / supporting sentences and examples / transition signals / body paragraphs / conclusion
04. Continuation of Organization in number 3 above
05. Headings / paragraphs / linking the sections and paragraphs of a research essay
06. continuing of Headings, paragraphs, etc., in number 5 above
07. paraphrasing / summarizing / quotations / synthesizing
08. continuing of paraphrasing, summarizing, etc., in number 7 above
09. in-text citations / referring to the textbook (the MLA Handbook) for information about how to document sources
10. continuing of in-text citations / referring to the MLA Handbook, etc. as in number 9 above
11. self-editing / peer review / discussing your essay with the teacher
12. self-editing, peer review, etc., as in number 11 above
13. writing a conclusion
14. writing a conclusion, continued
15. turning the paper in

準備学習(予習)

Students are expected to work diligently in class and also work on their papers outside of class. The final research papers must be turned in on time in order for students to pass the class.

準備学習(復習)

Students must bring the textbook and all handouts from the teacher to every class.

評価方法

- | | |
|----------------------------------|-----|
| (1) Participation | 10% |
| (2) self-editing and peer review | 10% |
| (3) rewriting of drafts | 10% |
| (4) homework | 20% |
| (5) final paper | 40% |

教科書

MLA Handbook Eighth Edition, The Modern Language Association of America (New York, 2016)

参考書

Handouts from the teacher

担当教員：蝶野 立彦

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1A200330

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「ヨーロッパと非ヨーロッパ地域との関わり」というテーマを基軸に据えながら、16世紀から現代までのヨーロッパ史の展開を辿り、《近現代ヨーロッパの歴史的变化》と《アメリカ・アジア・中東・アフリカなどの非ヨーロッパ地域の歴史》との間の相関関係について考察する。近現代ヨーロッパ史について世界史のかつグローバルな視座から理解を深めるとともに、ヨーロッパと非ヨーロッパ地域との歴史的繋がりについて基礎的な知識を修得することが、本講義の目標である。

(2) 内容

16世紀から現代までの《ヨーロッパ史の展開》と《非ヨーロッパ地域の歴史》との関わりについて、「①大航海時代のヨーロッパと非ヨーロッパ世界」「②フランス革命とアメリカ」「③ヨーロッパの産業革命とアジア」「④ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ」「⑤東西冷戦とヨーロッパ」「⑥欧州連合とグローバリゼーション」という6つのテーマに即して考察し、ヨーロッパ史上の重要な事象と同時代の非ヨーロッパ地域の歴史との間にどのような結びつきが存在していたのかを検討してゆく。

受講者に対する要望

歴史の題材は多岐にわたっており、授業で取りあげることができる題材はそのうちの一部に過ぎないので、授業の内容をより正確に理解するために、不明瞭な箇所については参考書などを用いて自ら調べる習慣を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋史
- ・ 国際関係
- ・ 紛争
- ・ 文化変容
- ・ グローバリゼーション

授業計画

01. ガイダンス
02. 大航海時代のヨーロッパと非ヨーロッパ世界 (1) : 大航海時代のヨーロッパの世界認識
03. 大航海時代のヨーロッパと非ヨーロッパ世界 (2) : ヨーロッパ世界経済の成立と近代世界システム
04. 大航海時代のヨーロッパと非ヨーロッパ世界 (3) : スペインによるアメリカ大陸の植民地化とヨーロッパの価格革命
05. 大航海時代のヨーロッパと非ヨーロッパ世界 (4) : オランダ・イギリス・フランスの東インド会社と植民地をめぐる争い
06. 大航海時代のヨーロッパと非ヨーロッパ世界 (5) : 大西洋沿岸地域での三角貿易と奴隷貿易
07. フランス革命とアメリカ (1) : ヨーロッパ啓蒙思想とアメリカ独立戦争
08. フランス革命とアメリカ (2) : 《アメリカ合衆国の成立》がフランス革命に及ぼした影響
09. フランス革命とアメリカ (3) : ナポレオンによるヨーロッパ大陸支配とラテンアメリカ諸国の独立運動
10. フランス革命とアメリカ (4) : 近代ヨーロッパ文化とアメリカ大陸における文化変容
11. ヨーロッパの産業革命とアジア (1) : 非ヨーロッパ地域からの物資の流入とヨーロッパの生活革命
12. ヨーロッパの産業革命とアジア (2) : オリエンタリズムとシノワズリ
13. ヨーロッパの産業革命とアジア (3) : イギリスのインド進出と産業革命
14. ヨーロッパの産業革命とアジア (4) : イギリスの木綿工業の発達がインドの社会にもたらした変化
15. ヨーロッパの産業革命とアジア (5) : イギリス東インド会社の中国貿易とアヘン戦争
16. ヨーロッパの産業革命とアジア (6) : フランスの東南アジア進出とフランス領インドシナ連邦
17. ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ (1) : オスマン帝国とヨーロッパ
18. ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ (2) : 東方問題の発生とクリミア戦争
19. ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ (3) : 19世紀後半の経済不況とヨーロッパ列強による植民地獲得競争
20. ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ (4) : ヨーロッパ列強によるアフリカ分割
21. ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ (5) : 第一次世界大戦とオスマン帝国の解体
22. ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ (6) : パレスチナ問題とヨーロッパ
23. ヨーロッパの帝国主義と中東・アフリカ (7) : 第二次世界大戦と国際連合の成立
24. 東西冷戦とヨーロッパ (1) : 東西両陣営の形成とアジア・アフリカ諸国の独立
25. 東西冷戦とヨーロッパ (2) : 冷戦時代の東西ドイツ
26. 東西冷戦とヨーロッパ (3) : ベルリンの壁の崩壊と冷戦時代の終焉
27. 欧州連合とグローバリゼーション (1) : 欧州連合の成立と多極化する世
28. 欧州連合とグローバリゼーション (2) : 20世紀後半のヨーロッパ諸国の移民政策
29. 欧州連合とグローバリゼーション (3) : 「ヨーロッパ統合」の理念と文化的軌跡
30. まとめ

準備学習(予習)

各回の講義で取り扱われるトピックについて、参考書・事典などを用いて初歩的な知識を得ておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各回の講義内容に関わりのある参考文献を授業時に紹介するので、講義についての理解を深めるために、授業後にそれらの文献を参照することが望ましい。また、リアクションペーパーに記された受講者からの質問に対しては、適宜授業内に口頭で返答するので、それらのコメントも復習に役立ててほしい。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 受講態度とリアクションペーパー |
| (2) レポート | 50% | |

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美穂、桑島 良平『山川世界史総合図録』(山川出版社) [978-4634040212]

参考書

それぞれの講義箇所についての参考書は、そのつど教場で指示する。

担当教員：金沢 はるえ

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A210860

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

開発途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何が出来るかを考えていきたいと思えます。そのために、国際協力に関わりたいたいと思っている学生に、異文化理解や貧困について、また自立のための支援のあり方を自分のことと関わらせて考えてほしいと思えます。|

(2) 内容

なぜ、国際ボランティアが必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国がどんな問題を抱えているのか、私たちの生活とどのようなつながりがあるのか、また途上国の抱える問題解決の基本的な視点を、ワークショップ形式で考えていきます。また、国際ボランティアとして関わりたいと思っている学生に、ゲストから話を聞き、ボランティアの多様なあり方を紹介していきます。

受講者に対する要望

「国際ボランティア入門B」と同様に、入門的な位置づけです。私たちの生活と途上国のつながりやその問題を理解し、ボランティアとしての関わり方を考えていきます。国際協力や問題解決に関心のある学生に主体的に学んでほしいと考えています。

学びのキーワード

- ・ 異文化理解
- ・ 豊かさ貧しさ
- ・ 援助・支援・協力
- ・ 開発
- ・ 問題解決

授業計画

01. アンケート 世界の現状・格差・貧困について
02. 世界一大きな授業
03. 世界の子どもたち 子どもの権利条約
04. ボランティアとはボランティアの実際(ゲスト)
05. タイ・バーン村(1)アイコの援助について
06. タイ・バーン村(2)村の生活と問題
07. タイ・バーン村(3)プロジェクトを選ぶ
08. ボランティアの自発性
09. ボランティアの非営利性
10. ボランティアの社会性
11. ボランティアの先駆性
12. ボランティアの実際 (ゲスト)
13. 持続可能な開発とは
14. 国際ボランティアの実際 (ゲスト)
15. 持続可能な開発目標 (SDGs) に向けて

準備学習(予習)

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておいてください。

準備学習(復習)

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

評価方法

(1) 出席状況	授業への参加度
(2) レポート	60%
(3) 授業での課題	40%

出席については、毎回の出席が大前提となります。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意すること

教科書

参考書

参考文献『ボランティア もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

担当教員：金沢 はるえ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A210970

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

開発途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何が出来るかを考えていきたいと思えます。そのために、国際協力に関わりたいたいと思っている学生に、異文化理解や貧困について、また自立のための支援のあり方を自分のことと関わらせて考えてほしいと思えます。|

(2) 内容

なぜ、国際協力が必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国が抱えている人権・環境・開発と、その根本にある貧困とはどういうことなのかを、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対し、国際ボランティアがどのような活動をし、どのように問題解決をしているのかを紹介していきます。|

受講者に対する要望

「国際ボランティア入門A」と同様に、入門的な位置づけです。国際協力の対象となる、開発途上国の抱える問題と、それに取り組む支援のあり方を学んでいきます。国際協力や問題解決に関心のある学生に主体的に学んでほしいと考えています。

学びのキーワード

- ・異文化理解
- ・豊かさ貧しさ
- ・援助・支援・協力
- ・開発
- ・問題解決

授業計画

01. 世界の現状～格差・貧困について～
02. もし世界が100人の村だったら
03. 世界の子どもたち～児童労働～
04. 途上国の生活～フォトランゲージ～
05. 誰を援助するか～途上国の男性・女性・子ども・政府～
06. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
07. 豊かさ・貧しさの見方・考え方～ランキング・ウェビング～
08. 援助の見方・考え方～誰が援助するか～
09. 開発の見方・考え方～プロジェクトを選ぶ～
10. 国際ボランティアの実際（ゲスト）～自立のための支援とは～
11. 問題分析とシステム思考～貧困の悪循環～
12. 主体的な参加とは～参加のはしご～
13. 主体性を高めるために～識字教育と問題解決～
14. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
15. フェアトレード～民衆交易とは～

準備学習(予習)

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておいてください。

準備学習(復習)

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

評価方法

(1) 出席状況	授業への参加度
(2) レポート	60%
(3) 授業での課題	40%

出席については、毎回の出席が大前提となります。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意すること

教科書

参考書

参考文献『ボランティア もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

担当教員：若林 大我

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A211510

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

観光（ツーリズム）とは、現代社会において重要な産業であるばかりでなく、人間が古来おこなってきた「移動」という活動と密接に結び付いた現象です。さらに、グローバル化の進展に伴う文化の変容や生成を考えるにあたり、観光は今日ますます無視できない研究対象となりつつあります。| 本科目では、観光を“マジメな”研究対象として捉える文化人類学の一分野である「観光人類学」のアプローチを紹介することで、人の「移動」がむしろ常態となった現代における文化を理解する枠組みを身につけます。また、東京オリンピック等の大規模な国際的イベントを控え、日本の観光産業が以前にも増して拡大していく中で、世界からの観光客を迎える側の私たちが何を考え、どのような姿勢を取るべきかについても考察を深めていきます。

(2) 内容

講義形式で、大きく分けて①近代観光産業の成立、②観光によって生み出される文化、③現代の様々な観光の事例、④新たな観光の形態の4つのトピックを扱います。このうち③については、世界の観光産業全体を概観するのではなく、観光人類学における先行研究の蓄積が厚い東南アジアの事例、担当教員の調査地域である南米アンデスの事例、そして私たちに馴染み深い日本の事例のみを取り上げる予定です。| 単調な講義とならないよう、観光パンフレットやガイドブック等の1次資料や視聴覚資料をできるだけ取り入れたいと思います。また履修者諸君の理解や関心に応じ、下記の授業計画は多少変更される可能性があります。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・観光
- ・モダニティ
- ・越境
- ・文化の生成

授業計画

01. イントロダクション
02. 「観光」以前：私たちにあって「移動」とは何か
03. 近代観光産業の成立①：貴族のグランド・ツアー（教養旅行）
04. 近代観光産業の成立②：産業革命と「余暇」の成立
05. 近代観光産業の成立③：大衆観光（マス・ツーリズム）の時代
06. 近代観光産業の成立④：大衆観光から個人観光へ
07. 観光の特質①：ジョン・アリーの『観光のまなざし』
08. 観光の特質②：ジョン・アリーの『観光のまなざし』
09. 現代の様々な観光①：バリ島の事例
10. 現代の様々な観光②：マレーシアの事例
11. 現代の様々な観光③：ペルーの事例①
12. 現代の様々な観光④：ペルーの事例②
13. 現代の様々な観光⑤：ペルーの事例③
14. 現代の様々な観光⑥：ペルーの事例④
15. 現代の様々な観光⑦：岩手県遠野の事例
16. 現代の様々な観光⑧：ディズニーランド
17. 現代の様々な観光⑨：ハウステンボスと志摩スペイン村
18. 現代の様々な観光⑩：ピーターラビットのおうち
19. 観光によって生み出される文化①
20. 観光によって生み出される文化②
21. 観光によって生み出される文化③
22. 観光によって生み出される文化④
23. 新たな観光の形態①：「持続可能な」観光①
24. 新たな観光の形態②：「持続可能な」観光②
25. 新たな観光の形態③：「持続可能な」観光③
26. 新たな観光の形態④：「持続可能な」観光④
27. 新たな観光の形態⑤：ライフスタイル・マイグランド①
28. 新たな観光の形態⑥：ライフスタイル・マイグランド②
29. ふりかえり①
30. ふりかえり②

準備学習(予習)

下記で指定する教科書のうち、指定した箇所を事前に読んでから授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業内で提示する参考文献のいずれかを読んでください。授業内で数回、リアクションペーパー記入の機会を設ける予定ですので、参考文献を読んだ上で授業内容をふりかえり、より詳しく学びたい点や授業に対する要望を書いてください。翌週の授業内またはUNIPA内で回答します。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 20% |
| (2) 授業内試験 | 80% |

教科書

山下晋司（編）『観光文化学』（新曜社）【ISBN: 978-4788510807】

参考書

担当教員：和田 光司

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A223910

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

歴史を本格的に学びたいという学生のために、方法的知識を与える。教育や記憶など日常的に話題になっている歴史・歴史学をめぐる議論に対し批判力を育成する。日頃よりTV・新聞などの歴史学に関する記事・番組などに関心を持って接しておくこと。

(2) 内容

この授業は歴史学の入門ではなく、既に一通りの通史の知識がある者が一段上の歴史的な考え方を学ぶことを目的とする。書店に行けば、いつも多くの歴史の本を目にする。また、歴史に関心があり、歴史の議論をする人は多い。戦争や教科書問題について語る学生も多い。しかし、それらの本や言葉のすべてが、真に信頼に足るものであろうか。「学問」としての歴史学とは、いったいどのようなものであろうか。この授業の目的は、「歴史」や「歴史学」について考えることである。注意してほしいことは、この授業では、ヨーロッパの具体的な歴史の流れ（「通史」と言う）について学ぶことはしない。この授業で扱うのは、人間にとって歴史とは何か、人間は歴史をどのように考えてきたか、学問としての「歴史学」はどのように生まれたのか、歴史は科学か、歴史における真実とは何か。どのようにしたら、その真実に到達できるのか、歴史学は今どうなっているのか、どのような主題に関心を持たれているのか、といった問題である。以上のような歴史学上の問題について、現在の世界情勢の中で具体的に焦点となっている諸問題と関連させて、現在の歴史学の在り方や課題を考えていく。

受講者に対する要望

指示される項目について調査しておく。|各授業後、参考文献を自分で当たり、理解を深める。

学びのキーワード

- ・ 歴史学
- ・ グローバリゼーション
- ・ 社会史
- ・ 歴史教育

授業計画

01. 序、ギリシヤ的歴史観とユダヤ的歴史観
02. 世界史の成立
03. 進歩という考え方
04. 近代歴史学の成立
05. 近代歴史学の問題点
06. 近代歴史学の反省
07. 社会史の誕生
08. 環境と歴史
09. 歴史人口学
10. 家族史
11. 女性史
12. 死の歴史
13. 民衆文化
14. ソシアビリテ
15. カーニバルと反乱
16. 地域史
17. 世界史をどう書くか
18. マルクス主義と史的唯物論
19. マックス・ウエーバー
20. ウオーラーステインの「世界システム論」
21. グローバル・ヒストリー
22. 歴史と記憶 1
23. 歴史と記憶 2
24. 歴史教育と教科書 1
25. 歴史教育と教科書 2
26. ポストコロニアリズム 1
27. ポストコロニアリズム 2
28. カルチャラル・スタディーズ 1
29. カルチャラル・スタディーズ 2
30. 総括

準備学習(予習)

準備学習(復習)

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 期末レポート | 40% |

(1)平常点:60% (2)期末レポート:40%

教科書

教科書を指定しない|プリントを配布する

参考書

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1A224150

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性： 社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

【教】 高等学校教諭一種（英語）： 選択科目

(1) 学びの意義と目標

Content - This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries. ||

(2) 内容

Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.

受講者に対する要望

Since the course is conducted entirely in English, a minimum TOEFL equivalency score of 380 (paper-based test) is a pre-requisite for taking the class.

学びのキーワード

- culture
- dimensions
- values
- verbal & nonverbal communication
- intercultural communication competence (ICC)

授業計画

01. Course Introduction & Overview: What is culture?
02. Culture Variance: How do cultures differ?
03. Dimensions of Culture: Adler
04. Dimensions of Culture: Hofstede
05. Dimensions of Culture: Trompenaars & Hampden-Turner
06. Dimensions of Culture: Shaules
07. Dimensions of Culture: The GLOBE Study
08. Cultural Values & Attitudes: Rokeach & Inglehart
09. Subcultures
10. Comparison of National Cultural Groups
11. Comparison of Japanese & American Culture: Hall
12. Comparison of Japanese & American Culture: Condon
13. Comparison of Japanese & American Culture: Meyer's "Culture Map"
14. MIDTERM EXAM
15. Culture & Perception
16. Culture & Language: Exploring the Connection
17. Culture & Language: Potential Pitfalls
18. Cultural Code Words: Japanese
19. Cultural Code Words: American English
20. Intercultural Communication Theories
21. Cultural Differences in Communication
22. Culture & Nonverbal Communication: Body Language (the Peases)
23. Culture & Nonverbal Communication: Other Elements (Hall & Dodd)
24. Cultural Biases
25. Culture Shock
26. Cultural Adaptation
27. Intercultural Communication Competence: Key Elements
28. Intercultural Communication Competence: Development [TERM PAPER DUE]
29. Japanese & Americans Working Together
30. Review & Reflection

準備学習(予習)

Students are expected to complete the weekly textbook reading assignments and be prepared to discuss the contents in each class.

準備学習(復習)

After each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

評価方法

(1) Participation	15%
(2) Reading Assignments	20%
(3) Term Paper	35%
(4) Exams	30%

教科書

Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th ed.)』 (SAGE Publications, Inc.)

参考書

担当教員：赤坂 恒明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A224660

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

世界史上におけるイスラム文化の重要性についての認識を深めることができるようになること、イスラム教に関する最低限の基礎を説明できるようになること。

(2) 内容

本講義では、まず、イスラム教に関する基礎を、キリスト教・ユダヤ教と比較しつつ明らかにします。また、イスラム教徒の生活の規範となっている「イスラム法」についても具体的な事例を紹介します。次に、古代ギリシア・インド・中国・エジプトなどの諸文化の要素を摂取・融合して形成・発展したイスラム文化の諸相を取り上げ、イスラム文化が近代以前のヨーロッパ文化に与えた影響の世界史的意義について論じます。なお、本講義では、「忘れられたキリスト教」とも呼ばれる東方キリスト教諸派についても概観します。なぜなら、例えばネストリウス派キリスト教徒がイスラム文化の成立に重要な役割を果たしたことから明らかなように、東方キリスト教諸派はイスラムと密接な関係を持っているからです。本授業のカリキュラム上の位置づけは、概説で、入門的な講義です。イスラム教に関する基礎知識を身につけ、他宗教・異文化に対する関心を養う基礎的な講義です。

受講者に対する要望

多くの受講者には、なじみの薄い分野の講義となってしまうので、特に、授業への積極的な参加が望まれます。

学びのキーワード

- ・ 宗教
- ・ 文化
- ・ 文明
- ・ 歴史
- ・ イスラム

授業計画

01. 序
02. イスラム信仰の柱(1) 神、天使、預言者
03. イスラム信仰の柱(2) 啓典、来世、天命
04. イスラム信仰の実践の基準
05. イスラム法
06. ムハンマド（マホメット）とイスラム教の成立
07. ムハンマド死後のイスラム教の発展
08. スンナ派とシーア派
09. 東方キリスト教諸派の概観と、イスラム以前の西アジアにおける学術
10. アッバース朝期におけるイスラム文明の発展
11. イスラム哲学と新プラトン主義ギリシア哲学
12. イスラム世界における実用的学問の展開
13. 中世ヨーロッパへの影響(1) スペインにおけるアラビア語文献のラテン語翻訳活動
14. 中世ヨーロッパへの影響(2) シチリア王国：ルッジェーロ2世とフリードリヒ2世
15. まとめ

準備学習(予習)

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認してください。

準備学習(復習)

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認するようにしてください。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 10% |
| (2) 試験（小テスト含む） | 90% |

期末試験は、複数の問題から選択して回答する形式で行います。

教科書

資料を配布するので、教科書は使用しません。

参考書

授業に世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参してください。| 参考文献等は講義中に紹介します。

担当教員：赤坂 恒明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A224770

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

イスラム教に関する基礎的な知識を持ち、非ムスリム（非イスラム教徒）住民が多数を占める東アジアと欧米において、少数集団としての立場に置かれたムスリム（イスラム教徒）の状況を理解し、他宗教・異文化に関する国際的な視野を持てるようになることを、学びの意義と目標とします。

(2) 内容

本講義では、「東アジアと欧米におけるイスラム」を主題として、地域社会における宗教的ないし民族的少数集団に関する諸問題について考察します。まず、イスラム教についての基礎知識を確認します。次いで、東アジア、旧ソ連のヨーロッパ部分、バルカン半島のムスリム（イスラム教徒）住民について個別に論じます。そして、最後に、欧米におけるイスラムをめぐる諸問題と、対イスラム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる予定です。| なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取りあげる予定ですので、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもあります。| この授業のカリキュラム上の位置づけは、他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義です。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適しています。

受講者に対する要望

多くの受講者には、なじみの薄い分野の講義となると思われますので、特に、授業への積極的な参加が望まれます。なお、講義内容には中国に関する部分も含まれますので、漢字が十分にわからない留学生には、特に努力が求められます。

学びのキーワード

- ・ 宗教
- ・ 文化
- ・ イスラム教
- ・ 民族問題
- ・ オリエンタリズム

授業計画

01. 序
02. イスラム教についての基礎知識
03. 日本人とイスラム
04. 中国におけるイスラム(1)：回民
05. 中国におけるイスラム(2)：トルコ系諸民族
06. ロシアにおけるイスラム(1)：ヴォルガ=ウラル地方
07. ロシアにおけるイスラム(2)：北コーカサス
08. 南コーカサスにおけるイスラム(1)：アゼルバイジャン
09. 南コーカサスにおけるイスラム(2)：アルメニア問題
10. バルカン半島におけるイスラム(1)：ブルガリアのトルコ人
11. バルカン半島におけるイスラム(2)：旧ユーゴスラヴィアのイスラム教徒
12. 西欧におけるイスラム：労働者移民の定着と社会問題
13. アメリカ合衆国におけるイスラム：マルコムXとその周辺
14. 「オリエンタリズム」の虚実
15. まとめ

準備学習(予習)

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認してください。

準備学習(復習)

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認するようにしてください。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 10% |
| (2) 試験(小テスト含む) | 90% |

期末試験は、複数の問題から選択して回答する形式で行います。

教科書

資料を配布するので、教科書は使用しません。

参考書

授業に世界地図帳と世界史資料集(高校で用いたものでよい)を持参してください。| 参考文献等は講義中に紹介します。

担当教員：村瀬 天出夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A224810

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

科学の歴史を学ぶことによって、高度に発展した現代の科学技術社会とそこに生きる私たち自身を理解する。そのためにそもそも科学とは何か、またそれはどのように発展してきたのかを理解する。

(2) 内容

古代から17世紀の「科学革命」期までの科学思想の発展を辿ります。特に次の疑問を考えていきます。|・そもそも「科学者」とは誰のことか|・彼らの真の動機はどのようなものか|・科学はごく一部の天才たちによって作られるのか、それとも文化や社会の需要とも結びついているのか|・本当に科学は発見から次の発見へと直線的に進歩するのか|・宗教と科学の関係とは歴史上はどのようなものだったのか| わたしたちが生きる現代世界から見ると、歴史上の科学的な発見はときに奇妙で滑稽な考え方にもとづいているかのように見えます。というのも科学を作ってきた初期の思想家たちは当時の文化や知識の枠組みのなかで研究をしてきたからです。それでもそれら歴史上の考え方や知識は現代においても今なお重要であり受け入れられてもいるのです。|

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

・西洋科学史

授業計画

01. イントロダクション
02. 科学と人間：科学史とは
03. 古代の科学：自然への探求心
04. バビロニア、エジプト、ギリシアの自然研究
05. プラトンの宇宙とピタゴラス派
06. アリストテレスと自然世界の研究
07. アリストテレス哲学：宇宙論と自然学
08. ヘレニズム時代の自然哲学と天文学
09. 古代ローマの技術
10. 古代世界の終焉
11. 初期キリスト教と科学
12. イスラム教の誕生とイスラム科学
13. 西洋ラテン世界の復活と大学の成立
14. 中世：アリストテレス哲学とスコラ主義
15. 神の創造と秩序をめぐる哲学
16. 中世の錬金術と自然学
17. 中世からルネサンスへ
18. ルネサンスの自然魔術
19. コペルニクスと改暦
20. ルネサンスのテクノロジー
21. ティコ、ケプラー、ガリレオ
22. 新しい自然学
23. 発見の旅と自然誌
24. 機械論哲学と新しい原子論
25. 機械論と生気論
26. 17世紀の化学
27. ニュートンの登場
28. 学術協会（学会）の誕生
29. 科学の発展とは
30. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んでください。また課題についても授業内で指示します。

準備学習(復習)

授業では毎回、出席票に授業内容についての疑問・意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいません。そこからディスカッションをしていきます。積極的な授業参加を求めています。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末テスト | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

ウィリアム・F・バイナム『歴史でわかる科学入門』藤井美佐子訳、太田出版、2013年。|池内了『知識ゼロからの科学史入門』幻冬舎、2012年。|L.M.プリンチペ『科学革命』菅谷暁・山田敏弘共訳、丸善書店（サイエンスハレット）、2014年。

担当教員：村瀬 天出夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A311100

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

国際人としてグローバルに活躍する基礎的教養の一つとして、国際情勢や各国・各地域の文化・社会的特徴などの理解が絶対的に必要であり、この授業は今日の国際社会においてなお大きな影響力を有しているヨーロッパについての、基礎的理解を進めるものである。TV、新聞、インターネットなどの時事記事をある程度まで理解できる力をつけることを目標とする。

(2) 内容

現在のヨーロッパの状況を理解するために全ヨーロッパ的な歴史的経緯や政治、経済、社会、文化面を解説する。

受講者に対する要望

現在の情勢が授業の内容になるので、TV、新聞、インターネットなどの国際情勢の報道に日頃関心を持って親しむこと

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ
- ・EU
- ・国際情勢
- ・グローバリゼーション

授業計画

01. イントロダクション
02. ヨーロッパ世界とは
03. 現代ヨーロッパのキーワード
04. ディスカッション
05. 帝国主義の台頭：現代における意味
06. 帝国主義と列強の展開
07. 世界分割と列強対立
08. ディスカッション
09. 二つの世界大戦：現代における意味
10. 第一次世界大戦
11. ヴェルサイユ体制
12. 世界恐慌
13. ファシズムの台頭
14. 第二次世界大戦
15. ディスカッション
16. 冷戦：現代における意味
17. 東西対立の始まり
18. 冷戦構造とヨーロッパの復興
19. 米ソ両国の動揺
20. 国際経済の危機
21. ディスカッション
22. 冷戦の解消：現代的な意味
23. ソ連・東欧社会主義圏の解体
24. 世界の多元化
25. 地域紛争
26. ディスカッション
27. 21世紀の経済
28. グローバリズム
29. 宗教紛争
30. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んでください。また課題についても授業内で指示します。

準備学習(復習)

授業内容を次回までに要約し、十分に把握すること

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内レポート | 50% |
| (2) 学期末レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1A312300

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人の行動の善悪・正否をめぐるさまざまな異なる考え方を学ぶことで、異なった価値観と対話に開かれた態度を身につけることを目指す。

(2) 内容

誰も一人で生きているわけではない。多くの人は、人と交わりつつその関係に生じる価値観や規範に沿って生きている。私たちはどのような価値観や規範に沿って人との関係を築いているのだろうか？「私が隣人や社会と共に生きること」を様々なテーマに沿って、クラスで共に考えていきたい。また、折に触れて、ユダヤ・キリスト教等の思想家も含む西洋思想家の見解を紹介したい。

受講者に対する要望

様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。

学びのキーワード

- ・個人と隣人・社会
- ・助け合い
- ・家族・民族・国家
- ・民主主義
- ・宗教と社会

授業計画

01. 導入
02. 大災害と助け合い？—一人はなぜ助け合うのか
03. 大災害と助け合い？—一人はなぜ助け合うのか
04. 人間の自由とは？
05. 人間の自由とは？
06. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
07. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
08. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
09. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
10. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
11. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
12. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
13. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
14. 人間の自由と人格
15. 人間の自由と人格
16. 公平であるとは？—車椅子のチャリダー
17. 公平であるとは？—なぜ大学で学ぶのか？
18. 公平であるとは？—公平な社会とは？
19. 公平であるとは？—公平な社会とは？
20. 私たちが所属する集団に負うもの—親子・兄弟姉妹の関わり
21. 私たちが所属する集団に負うもの—家族と民族
22. 私たちが所属する集団に負うもの—民族と国家
23. 私たちが所属する集団に負うもの—民族・国家を超えて
24. 民主主義と連帯
25. 民主主義と連帯
26. 民主主義と連帯
27. 宗教とグローバル社会
28. 宗教とグローバル社会
29. 宗教とグローバル社会
30. まとめ

準備学習(予習)

配布するプリント類を自宅で読み返すこと

準備学習(復習)

講義ノートと配布物の復習を行なうこと

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------|
| (1) 平常点 | 70% | 授業内での提出物・議論への参加など |
| (2) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1A312310

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人の行動の善悪・正否をめぐるさまざまな異なる考え方を学ぶことで、異なった価値観と対話に開かれた態度を身につけることを目指す。

(2) 内容

誰も一人で生きているわけではない。多くの人は、人と交わりつつその関係に生じる価値観や規範に沿って生きている。私たちはどのような価値観や規範に沿って人との関係を築いているのだろうか？「私が隣人や社会と共に生きること」を様々なテーマに沿って、クラスで共に考えていきたい。また、折に触れて、ユダヤ・キリスト教等の思想家も含む西洋思想家の見解を紹介したい。

受講者に対する要望

様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。

学びのキーワード

- ・個人と隣人・社会
- ・助け合い
- ・家族・民族・国家
- ・民主主義
- ・宗教と社会

授業計画

01. 導入
02. 大災害と助け合い？—一人はなぜ助け合うのか
03. 大災害と助け合い？—一人はなぜ助け合うのか
04. 人間の自由とは？
05. 人間の自由とは？
06. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
07. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
08. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
09. 多数派の幸福のために少数者を犠牲にすること
10. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
11. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
12. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
13. 個人の自由の範囲とは？—薬物使用・売買春・臓器売買・人肉食
14. 人間の自由と人格
15. 人間の自由と人格
16. 公平であるとは？—車椅子のチャリダー
17. 公平であるとは？—なぜ大学で学ぶのか？
18. 公平であるとは？—公平な社会とは？
19. 公平であるとは？—公平な社会とは？
20. 私たちが所属する集団に負うもの—親子・兄弟姉妹の関わり
21. 私たちが所属する集団に負うもの—家族と民族
22. 私たちが所属する集団に負うもの—民族と国家
23. 私たちが所属する集団に負うもの—民族・国家を超えて
24. 民主主義と連帯
25. 民主主義と連帯
26. 民主主義と連帯
27. 宗教とグローバル社会
28. 宗教とグローバル社会
29. 宗教とグローバル社会
30. まとめ

準備学習(予習)

配布するプリント類を自宅で読み返すこと

準備学習(復習)

講義ノートと配布物の復習を行なうこと

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------|
| (1) 平常点 | 70% | 授業内での提出物・議論への参加など |
| (2) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1A314110

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

20世紀後半から今日までのアメリカにおける人種・宗教などの問題についての知識を深め、日々変化する現代アメリカ社会への関心を高める。

(2) 内容

20世紀後半から21世紀のアメリカを覆ってきた人種差別・圧倒的貧富の格差・テロの攻撃と排他主義などの諸問題と格闘してきた活動家・思想家・宗教者らの思想に学び、現代日本に生きる私たちへの示唆をとともに考える。

受講者に対する要望

北米の事情をめぐる報道等に目を向け、特に自分の関心の持てる分野を見つけて、継続的にニュースを追ったり基礎的な文献などを読んだりしてほしい。

学びのキーワード

- ・アメリカ・キリスト教
- ・キング牧師
- ・人種差別
- ・テロ
- ・共生

授業計画

01. 導入
02. アメリカの黒人差別①—20世紀前半まで
03. アメリカの黒人差別②—20世紀後半から現在まで
04. マーティン・ルーサー・キング牧師と公民権運動①—キング牧師の生涯
05. マーティン・ルーサー・キング牧師と公民権運動②—公民権運動の展開
06. マーティン・ルーサー・キング牧師と公民権運動③—同時代の黒人諸運動
07. マーティン・ルーサー・キング牧師と非暴力主義①—ガンジーとキング牧師
08. マーティン・ルーサー・キング牧師と非暴力主義②—市民的不服従の伝統
09. マーティン・ルーサー・キング牧師と非暴力主義③—白人社会との共生
10. マーティン・ルーサー・キング牧師とキリスト教①—平等の思想
11. マーティン・ルーサー・キング牧師とキリスト教②—正義の思想
12. マーティン・ルーサー・キング牧師とキリスト教③—愛の思想
13. バラク・オバマ大統領の登場①—オバマの生いたち
14. バラク・オバマ大統領の登場②—オバマの諸演説における共生の思想
15. バラク・オバマ大統領の登場③—オバマとキング牧師
16. バラク・オバマ大統領の登場④—オバマと黒人共同体の伝統
17. バラク・オバマ大統領の登場⑤—オバマと黒人キリスト教の伝統
18. バラク・オバマ大統領の登場⑥—終わらない黒人差別
19. アメリカの死刑制度①—現状
20. アメリカの死刑制度②—アメリカ社会の貧困・差別の象徴としての死刑制度
21. アメリカの死刑制度③—死刑制度擁護の思想的背景
22. アメリカの死刑制度④—死刑制度に反対するキリスト教的活動
23. アメリカの死刑制度⑤—死刑制度に反対するキリスト教思想
24. アメリカの死刑制度⑥—キリスト教平和主義思想
25. テロと排他主義を越えて①—9.11テロとアメリカ社会の反応
26. テロと排他主義を越えて②—アメリカ・キリスト教界とイスラム
27. テロと排他主義を越えて③—アメリカ・キリスト教における正義の思想
28. テロと排他主義を越えて④—アメリカ・キリスト教における共生の思想
29. テロと排他主義を越えて⑤—アメリカ・キリスト教における民主主義の思想の可能性
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で配布する資料の予習、授業でのディスカッションへの準備など（90分~120分）

準備学習(復習)

授業で配布する資料の復習など（90分~120分）

評価方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 授業内でのディスカッションへの参加や提出物 | 80% |
| (2) 期末テスト | 20% |

教科書

授業内で指示する。

参考書

授業内で指示する。

担当教員： 畠山 宗明

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 4 授業コード： 1A412040

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業では、①芸術と社会、②社会に向かう芸術、③制度としての芸術という三つのテーマを中心に考えてみたい。これらのアプローチを通じて、ある作品を取り巻いていた社会環境を知るだけでなく、芸術そのものが持っている社会的性格を理解することが、この講義の目標である。

(2) 内容

芸術は日常的な社会活動とは全く切り離されたものと理解されがちである。しかし、作品に値段がついたり表現が規制されたりするのは、芸術もまたさまざまな社会的実践の一つであるということの意味している。また芸術活動の中には、積極的に社会との関わりを目指すものもある。この講義では、そのような芸術と社会の関わりを様々な観点から検討してみたい。

受講者に対する要望

この授業では、「なぜ芸術はわからないものなのか」という問題にも立ち入っていきたいと思っているので、芸術の「わからなさ」の前に戻込みしている学生も、怖がらずに受講して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 芸術
- ・ アート
- ・ 欧米文化
- ・ グローバル社会

授業計画

01. イントロダクション
02. 「芸術」とは何だろうか？
03. 何が芸術の価値を決めるのか？
04. 芸術における「近代」
05. 芸術と非芸術
06. 第一部 まとめ
07. 西洋社会と芸術① イントロダクション
08. 西洋社会と芸術② 芸術の始まりと西洋の誕生
09. 西洋社会と芸術③ 西洋芸術の形成
10. 西洋社会と芸術④ ルネッサンス
11. 西洋社会と芸術⑤ バロック
12. 第二部 まとめ
13. 近代の芸術① イントロダクション
14. 近代の芸術② 印象派
15. 近代の芸術③ ゴシック・リバイバルと世紀末芸術
16. 近代の芸術④ 抽象芸術の誕生
17. 第三部 まとめ
18. 20世紀の芸術① 前衛芸術の登場
19. 20世紀の芸術② 前衛芸術と大衆文化、テクノロジー
20. 20世紀の芸術③ 戦後の芸術 ヨーロッパとアメリカ
21. 20世紀の芸術④ 大衆の時代の芸術
22. 20世紀の芸術⑤ 消費社会、情報社会における芸術
23. 第四部 まとめ
24. グローバル時代の芸術① 現代日本の芸術
25. グローバル時代の芸術② 世界の現代美術
26. グローバル時代の芸術③ 日本美術史を考える①
27. グローバル時代の芸術④ 日本美術史を考える②
28. 舞台芸術と言語芸術
29. 音楽と芸術
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業で次回の予告を行い、参考文献の指示などもその時に行う。

準備学習(復習)

授業でプリントを配布するので、その内容や掲載されている参考文献を図書館で調べるなどして欲しい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 期末レポート | 40% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) ミニツレレポート | 30% |

期末レポートと平常点で評価するが、授業後にミニツレレポート(その場で提出する小レポート)の提出を求める場合がある。

教科書

教室で指定する|

参考書

プリント以外の参考文献に関しては、まず高野 秀爾『近代絵画史—ゴッダからモンドリアンまで(上)(下)』(中公新書)が授業にかかわる中でもっとも広い範囲を扱っている。その他の個別のテーマに関しては、適宜指示する。

担当教員：青山 めぐみ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1A413210

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

デザイン画とはアイデアを視覚的に表したコミュニケーションツールである。過去のファッションデザイン画を参考に、人体や現代の基本服種を理解し画にすることにより、ファッションデザイン画の基礎を学ぶ。

(2) 内容

近現代のファッションとデザイン画を参考に、我々の最も身近な服種の構造を理解した上で着装画を彩色で仕上げ、プレゼンテーションする。

受講者に対する要望

ファッションに興味があり、意欲を持って予習復習する者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・デザイン
- ・人体バランス
- ・シャツ
- ・立体感
- ・プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション デザイン画とは
02. 近現代のファッションとデザイン画(講義)
03. 人体表現① 片脚重心ヌードポーズ
04. 近現代のファッション スーツ(講義)
05. 人体表現② 両脚重心ヌードポーズ
06. 基本服種 シャツ
07. 基本服種 スカート&パンツ
08. 人体表現③ 顔 線画
09. 人体表現③ 顔 彩色
10. 着装線画① 基本服種のコーディネート シャツ&ボトムス
11. 着装線画② 基本服種のバリエーション デニム
12. 着装画彩色① デモンストレーション
13. 着装画彩色② デモンストレーション
14. 彩色実習
15. 仕上げ、発表、講評、ファイル提出

準備学習(予習)

日常的に確認しやすい服種を取り上げるので、より多くの情報収集をすると良い。又ファッション雑誌のみならず、トレンドや服装史、絵画など興味のある分野からファッションを観察して情報を集めることが望ましい。

準備学習(復習)

授業内で終了できなかった課題や宿題を次回までに仕上げて来る。それを土台に次の授業が進むことを忘れずに。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|-------------------|
| (1) 作品の完成度 | 60% | 画力と仕上げの美しさ |
| (2) プレゼンテーション | 25% | 作品の見やすさと発表による作品説明 |
| (3) 授業態度 | 15% | 授業の取り組み、積極性 |

教科書

参考書

矢島功著『MODE DRAWING 改訂版』アトリエKO(教員から配付)

担当教員：氏家 理恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A510242

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

英米文学のヨーロッパ文学における位置づけを知り、その歴史的・文化的発展と作品の多様性を学ぶ。英米文学におけるさまざまな思潮やジャンル、批評用語などの基礎的な知識を得、英米文学を理解するために必要な知識を確認する。また、さまざまな作品や物語を楽しむためのコツ、読み解くための言葉と力を養う。

(2) 内容

本講義は、英米文学の歴史をたどりながら、そのジャンルの展開と作品の多様性について概観する。各ジャンルからなるべく多くの作品を紹介しながら抜粋を読み、それらの特徴や意義を考える。また、ヨーロッパ全体の文芸思潮や文学の歴史、英米の歴史・社会・生活という側面からも文学作品を読み解いていく。| 「文学」と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまう人、作品や物語を「読む」とはどういうことかよく分からないと感じている人に、英米文学の面白さや作品を読む楽しさを知ってもらいたい。|

受講者に対する要望

文学に興味がある意欲的な学生の受講を希望する。また、この講義は2年生以上対象の専門科目であり、教職課程履修者にとっては必修科目であるため、ある程度の欧米芸術文化の基礎知識を持っている学生の履修を推奨する。なお、授業で取り上げる作品はなるべく読んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文学史
- ・ 文学理論
- ・ 文芸批評
- ・ ジャンル論

授業計画

01. イントロダクション：「文学」とは
02. 英米文学以前：ヨーロッパ文学の流れ
03. 英文学の成立：言語と国の確立
04. 英文学史概観
05. 英詩の隆盛：イギリス・ルネサンス
06. 詩を「読む」：詩の伝統と形式
07. ソネットとバラッド
08. イギリスにおける演劇の隆盛：エリザベス調演劇
09. シェイクスピア：『ロミオとジュリエット』『ハムレット』『ベニスの商人』
10. シェイクスピア以後のイギリス演劇
11. 小説夜明け前—市民革命の時代
12. コーヒーハウスと近代小説の誕生
13. 最初の近代小説：『ロビンソン・クルーソー』
14. ジャーナリズムと風刺小説：『ガリヴァー旅行記』
15. 小説を「読む」：物語における語り・語り手・視点
16. 語りの発達：書簡体小説『パメラ』
17. 小説の展開：反小説『トリストラム・シャンディ』
18. 古典主義とロマン主義
19. ワーズワース『虹』、ウィリアム・ブレイク『病んだバラ』
20. ゴシック小説『フランケンシュタイン』
21. 女性作家：ジェイン・オースティンとブロンテ姉妹
22. アメリカにおける文学の発達
23. ピューリタン文学
24. アメリカ・ロマン主義とリアリズム
25. 大衆文化と大衆小説の誕生：チャールズ・ディケンズとマーク・トウェイン
26. 19世紀の出版事情と読者・読書行為
27. ミステリの誕生：『シャーロック・ホームズの冒険』
28. 教育学と児童文学の成立：『不思議の国のアリス』
29. SFとファンタジーの誕生
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で扱う作品の引用部分は事前に読んでおくこと。また、期末レポートの一部として作品批評レポートを課すので、学期中にブックリストから選択した作品を読み、レポート作成準備をしておくこと。

準備学習(復習)

課題やレポートでは授業で学んだ知識・用語などを活用しながらの作成を求めらるので、授業のポイントやキーワードは随時復習しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|--------------|
| (1) 平常点 | 50% | ミニッツノート・小テスト |
| (2) 作品読解課題 (3回) | 30% | |
| (3) 期末レポート | 20% | |

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A510850

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本質を見つめ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。|

(2) 内容

この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。|

受講者に対する要望

毎回のミニレポートの他、3本のレポートを書いてもらうが、提出期限に遅れないように、よく準備をしてレポートを作成してほしい。

学びのキーワード

- ・ 神話・伝説
- ・ ファンタジーの空間
- ・ ファンタジーの時間
- ・ 不老不死・生命創造
- ・ 魔法

授業計画

01. ファンタジーとは何か
02. 神話・伝説:ファンタジーの原型
03. 神話・伝説:予言の意味
04. 神話・伝説:ギリシャ神話「神々と英雄たち」
05. 神話・伝説:ギリシャ神話「トロイ戦争の顛末」
06. 神話・伝説:北欧神話の世界観
07. 神話・伝説:北欧神話の神々
08. 神話・伝説:アーサー王伝説
09. ファンタジーの生き物:伝説の中のドラゴン
10. ファンタジーの生き物:ファンタジー作品の中のドラゴン
11. ファンタジーの生き物:ユニコーン、その他
12. ファンタジーの空間:現実から異世界への移動法
13. ファンタジーの空間:異世界の物語
14. ファンタジーの空間:ディズニーランド
15. ファンタジーの空間:おとぎ話とディズニー・アニメ
16. ファンタジーの空間:ディズニー・アニメのプリンセス像
17. ファンタジーの空間:日常の中の魔法
18. ファンタジーの空間:「私」の中の「他人」
19. ファンタジーの空間:夢
20. ファンタジーの空間:バーチャル・リアリティー
21. ファンタジーの時間:過去と未来
22. ファンタジーの時間:時間旅行の方法
23. 異形のものたち:ヴァンパイアの原型
24. 異形のものたち:物語の中のヴァンパイア
25. 異形のものたち:マッドサイエンティストと人造人間
26. 異形のものたち:生命創造というタブー
27. 異形のものたち:不老不死
28. 魔法使いと魔女
29. 魔法の食べ物
30. まとめ

準備学習(予習)

授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ1ヶ月に1本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。

準備学習(復習)

毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。

評価方法

(1) 毎回の課題	20%
(2) 第一レポート	25%
(3) 第二レポート	25%
(4) 第三レポート	30%

教科書

参考書

担当教員：畠山 宗明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A513010

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大衆文化とは、広く社会で受け入れられている文化である。しかし、「大衆」とは、時代ごとに人々が理想として想像した社会の姿を映す鏡でもある。本講義では、特に19世紀から20世紀のアメリカの大衆文化の分析を行うが、その目的は、人々が「大衆」をどのようにイメージしてきたのか、そこにはどのような「理想」が投影されていたのかを探ることにある。そして、こうした歴史の概観を通じて、私たち自身が私たちの社会の未来を想像するやり方を探ることがこの講義のさらに大きな目的である。

(2) 内容

大衆文化とは、映画やマンガ、ポピュラー音楽のような、社会に広く受け入れられた、気軽に楽しめる文化を指している。しかし、それは、古来から存在していたものではなく、近代になって初めて生まれたものである。なぜ近代になって大衆文化と呼ばれる領域(ひいては「大衆」という単位)が必要とされたのか？本講義ではそのことを、特にアメリカの大衆文化を分析することを通じて考察する。

受講者に対する要望

要望現在の大衆文化だけでなくその歴史にも興味を持ち、今ある文化を歴史的ダイナミズムの結果として捉える視点を手に入れて欲しい。

学びのキーワード

- ・大衆文化
- ・アメリカ
- ・映画
- ・ポピュラー音楽

授業計画

01. イントロダクション
02. 大衆文化とは？①—歴史の中の「大衆」
03. 大衆文化とは？②—大衆文化とアメリカ
04. アメリカと大衆文化①—アメリカ文化の特徴
05. アメリカと大衆文化②—アメリカ合衆国の特徴とその成り立ち
06. アメリカ大衆文化の成立①—19世紀まで
07. アメリカ大衆文化の成立②—20世紀初頭のアメリカ
08. アメリカ大衆文化の成立③—映画とジャズ
09. 映画の歴史①
10. 映画の歴史②
11. ジャズの歴史①
12. ジャズの歴史②
13. アメリカ大衆文化の完成①
14. アメリカ大衆文化の完成②
15. 前半まとめ
16. 後半イントロダクション—20世紀後半の大衆文化
17. 戦後アメリカ文化の誕生①—アメリカの黄金時代としての1950年代
18. 戦後アメリカ文化の誕生②—不良少年とロックンロール
19. 黒人文化、黒人音楽の歴史
20. ポピュラー文化の誕生とビートルズ①
21. ポピュラー文化の誕生とビートルズ②
22. 消費の時代の大衆文化①—カウンター・カルチャーの登場①
23. 消費の時代の大衆文化②—カウンター・カルチャーの登場②
24. 消費の時代の大衆文化③—カウンター・カルチャーの登場③
25. 大衆文化の現在①—1970年代の大衆文化
26. 大衆文化の現在②—1980年代以降の大衆文化
27. 現代日本の大衆文化①
28. 現代日本の大衆文化②
29. 現代日本の大衆文化③
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業中に次の内容を予告するので、下に挙げた参考文献を中心に、該当する部分に関してネットで調べるなど予め予習しておくことが望ましい。

準備学習(復習)

配布したプリントやそこで示されている参考文献を元に、インターネットや図書館で調査を行うこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 期末レポート | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

期末レポートが大きな判断基準となるが、授業後にミニッツレポートの提出を求める場合がある(平常点に算入)。

教科書

参考書

大和田 俊之著『アメリカ音楽史 ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』(講談社選書メチエ)、ロバート・スクラー著『アメリカ映画の文化史—映画がつくったアメリカ』(講談社学術文庫)などがある。その他演歌やビートルズに関するものなど参考文献は随時提示する。

担当教員：瀧井 直子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A610460

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

西洋美術の歴史を学ぶことを通して、今後各自の専門的関心を深めるための基礎を養うことができます。様々な美術作品に親しむと同時に、その背後に宿っているメッセージを読み解く力を身につけましょう。

(2) 内容

本講義では、古代ギリシアから20世紀までの西洋美術を時代にそってみていきます。対象とする地域はヨーロッパと北アメリカ、また取り上げる美術は絵画だけでなく、彫刻、建築、装飾美術など多岐にわたります。講義は具体的な作品に焦点をあてながら進め、美術の作り手と受け手、作品の形態、作品が作られた時代の社会や文化背景などの諸問題について考察します。

受講者に対する要望

講義中の私語、居眠りを厳禁します。講義では短時間ながらも討論の時間を設けることがありますので、積極的に参加してください。また、展覧会や講義で紹介する文献を見ることで、具体的な作品を心に刻みつけてください。

学びのキーワード

- ・ 美術史
- ・ 西洋美術
- ・ 美術作品の作り手と受け手
- ・ 美術作品に親しむ
- ・ 読み解く力

授業計画

01. イントロダクション
02. 古代ギリシアの美術と建築 (1)
03. 古代ギリシアの美術と建築 (2)
04. 古代ローマの美術
05. ビザンティン美術
06. ロマネスクの美術と建築
07. ゴシックの美術と建築
08. ルネサンスの美術 (1)
09. ルネサンスの美術 (2)
10. 北方ルネサンスの美術
11. バロックの美術
12. ロココの美術
13. 講義のまとめ (1)
14. 中間試験とその解説
15. 新古典主義の美術
16. ロマン主義の美術 (1)
17. ロマン主義の美術 (2)
18. 写実主義
19. 印象主義 (1)
20. 印象主義 (2)
21. ポスト印象主義 (1)
22. ポスト印象主義 (2)
23. 世紀末芸術と象徴主義の美術 (1)
24. 世紀末芸術と象徴主義の美術 (2)
25. キュビズム
26. 近現代の彫刻
27. ダダイスムとシュルレアリスムの美術
28. 抽象表現主義
29. ポップ・アート
30. 講義のまとめ (2)

準備学習(予習)

配布プリントなどの指定箇所を読み、疑問点などを整理しておきましょう。また、わからない言葉などは初回の講義で紹介する参考文献やインターネットなどで調べた上で授業に出席してください。

準備学習(復習)

配布プリントを再読するとともに、ノートを整理してください。なお、講義中に指示した作家名や作品名などは暗記してください。課題が出された際には、期限内に提出できるように取り組んでください。また、返却した復習シートに目を通し、理解が不十分だった点を復習しておきましょう。

評価方法

- | | |
|------------------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 15% |
| (2) リアクション・シート、提出課題(主に復習シート) | 25% |
| (3) 中間試験 | 30% |
| (4) 期末試験 | 30% |

教科書

プリントを配布します。

参考書

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』(美術出版社)

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A610620

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

交通機関の発達とともに、メディアやコンピュータ、通信手段の飛躍的な発展により、私たちの住む地球という世界は確実に狭くなっている。今や自国の価値観だけで生きるとは世界での孤立を意味することになる。政治的にも、経済的にも、教育的にも、世界に通用する多様性を身につけ、文化的差異を乗り越えてともに生きる意識を身につけることを目指す。||

(2) 内容

私たちにとっては違和感なく自然に思われる考え方や生活様式が、他の文化や時代の人々にとってはまったく異なるふうに捉えられることがある。異なった文化を背景として生きてきた者同士が同じ社会で生きようとするとき、そこには交流だけでなく衝突が起きることもある。|この授業では様々な異文化交流・衝突の事例において文化がアイデンティティに及ぼす影響を考察しながら、多文化共生の道筋を考察する。|学期の終わりには、履修者全員が異文化交流・多文化共生の事例を一つ選び、事例研究報告をクラスの中で行う。

受講者に対する要望

様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。

学びのキーワード

- ・ 異文化理解
- ・ 異文化適用
- ・ 世界の価値観
- ・ 異文化受容
- ・ 多文化共生社会

授業計画

01. 導入、異文化を理解する。
02. 異文化理解の意義、世界における多様化という風潮
03. 文化とは1 文化の冰山モデル
04. 異文化摩擦の原因 私の常識、あなたの非常識
05. 文化とは2 トータルカルチャーとサブカルチャー、文化の特徴
06. 文化的側面に対する個人的側面と普遍的側面
07. 異文化適用 U字曲線の適応 カルチャーショックとは
08. W字曲線の適応、らせん型の適応
09. シュミレーション シュミレーションの意義
10. シュミレーション体験
11. 違いに気づく 行動による文化の違い、視点による文化の違い
12. 環境による文化の違い、発想の転換
13. 異文化の認識 固定観念、ファイリング
14. ステレオタイプ
15. 差別を考える 差別の種類 階級、社会、人種、身体能力や病気
16. 差別が生まれる背景、差別と異文化理解
17. 世界の価値観、個人主義対集団主義 性善説対性悪説
18. 高文脈文化対低文脈文化
19. 異文化トレーニングとしてのケーススタディー
20. 異文化トレーニングとしてのシミュレーション
21. 異文化受容、異文化受容のプロセス、自文化中心の階段、見えない文化に気づく段階
22. 文化を相対的にみる段階、新しい文化を取り入れる段階、新しいアイデンティティが確立される段階 | 異文化受容の5つのステップ
23. 自分を知る
24. いいところ探し
25. 異文化理解と外国語教育 世界共通語としての英語
26. 英語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
27. 多文化共生社会の実現に向けて
28. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）
29. 異文化理解・多文化共生の事例研究（学生による発表）
30. まとめ

準備学習(予習)

配布するプリント類を自宅で読み返すこと。クラス内での発表の準備をすること。

準備学習(復習)

講義ノートと配布物の復習を行なうこと

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------|
| (1) 授業への貢献度 | 30% | 授業内でのディスカッションへの参加や提出物 |
| (2) 事例研究発表 | 25% | |
| (3) 期末テスト | 25% | |
| (4) 課題レポート | 20% | |

教科書

原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社 | 978-4-327-37734-2

参考書

担当教員： 畠山 宗明

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1A613010

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

視覚文化とは、文化表現を、特に眼に見えるものの領域から考えるものである。私達の文化活動の多くは、視覚に訴えることを大きな目的としている。そしてそうした傾向は、絵画や彫刻などの芸術にとどまらず、映画、マンガ、アニメ、ファッションなど、文化の幅広い領域に広がっている。本講義ではこのようなさまざまな視覚芸術、視覚文化を広く概観しながら、映像を「読む」技術を学んでいく。しかし同時に、視覚とは嗅覚、聴覚などの五感のうちの一つにすぎない。にも関わらず私たちはともすれば視覚を中心に考えてしまいがちである。視覚文化とはこうした私達の「偏り」の歴史を示すものでもある。近年では、このような視覚を中心とした文化の捉え方は批判的に捉えられてもいる。こうした観点から本講義では、文化における聴覚、触覚、味覚などの感覚経験の意味も考えながら、その中で改めて視覚文化の歴史と意義を位置づけていきたい。

(2) 内容

①文化における視覚の役割を歴史的に概観することで、芸術論や大衆文化論などに限定されない幅広い包括的な文化観を養う。②言事は異なった伝達メカニズムを学ぶことで、メディアを読む力(メディア・リテラシー)を養う。

受講者に対する要望

マンガやアニメは今日では日常的に触れることができるが、そこから一歩踏み出して視野を広げるつもりで参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 映像
- ・ イメージ
- ・ 文化
- ・ メディア・リテラシー

授業計画

01. イントロダクション 視覚文化とは何か？
02. 視覚が文化になる時——視覚芸術と大衆文化
03. 視覚文化の特徴① 視覚記号の特徴
04. 視覚文化の特徴② 絵画と写真—「記録」としての映像
05. 視覚文化の特徴③ 画面の中の「無意識」—映像で「語る」とは？
06. 視覚文化の特徴④ 文化における「参加」
07. 様々な視覚文化① 芸術の中の視覚
08. 様々な視覚文化② 19世紀の視覚文化(写真、ファッション、観光)
09. 様々な視覚文化③ 20世紀の視覚文化(写真、映画)
10. 様々な視覚文化④ 映画の登場
11. 様々な視覚文化⑤ テレビ、アニメ、マンガなど
12. 様々な視覚文化⑥ デジタル時代の視覚文化
13. 様々な視覚文化⑦ グローバル時代の視覚文化
14. 前半まとめ
15. 映像における表現① 映像で物語ること
16. 映像における表現② 映像における「演出」とは？
17. 映像における表現③ 映像における「見せること」と「見せないこと」
18. 映像における表現⑤ 映像における言葉と音声
19. 映像における表現⑥ 写真にとっての表現
20. 映像を「読む」① 映像に現れる「社会」
21. 映像を「読む」② 戦後日本の映像を読む
22. 映像を「読む」③ 映像の中のジェンダー
23. 動画の時代の文化① 映画にとって「運動」とは？
24. 動画の時代の文化② 初期映画における身体と運動
25. 動画の時代の文化③ 実写とアニメーション
26. 動画の時代の文化④ アニメーションにおける「運動」
27. 動画の時代の文化⑤ 挿絵からマンガへ
28. 動画の時代の文化⑥ デジタル時代の動画文化①
29. 動画の時代の文化⑦ デジタル時代の動画文化②
30. 全体まとめ

準備学習(予習)

映画や写真、漫画など扱うジャンルが決まっているので、題材となるメディアのおおまかな歴史について、図書館やインターネットなどで調査しておくのが望ましい。

準備学習(復習)

授業で論じた作品に実際に触れてみる。さらに授業で出たキーワードについて図書館やインターネットで調査するなどが望ましい

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | ミニッツレポートなど |
| (2) レポート | 70% | |

教科書

教室で指示

参考書

『視覚文化「組」講義』、石岡良治、フィルムアート社、2014年『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』、ジヨン・A. ウォーカー、サラ チャップリン著、前川修樹訳、晃洋書房、2001年

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710160

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コミュニケーションのための活きた英文法を学び、文法知識を整理することで、自信を持って英語で話す力と書く力を身につけることができる。各種試験、教職、就職にも役立つ。特に英語の教職を目指すものにとっては文法の教授法の練習にもなる。

(2) 内容

本講義は、四半世紀にわたり世界中の英語学習者にコミュニケーションに「使える」文法書として利用されてきたテキストを用い、専門用語に依存した文法解説を最小限にとどめ、直観による理解を推進するイラストや平易な例文を用いて英文法を基礎から学ぶ。今まで英文法が苦手としてきた受講生にもわかりやすい内容である。本科目を修了することで日常生活や資格試験の英文法をほぼ網羅できる。|||||

受講者に対する要望

英文法を基礎から総復習したいという熱意ある者の受講を望む。基礎から日常生活や資格試験に使える文法までを要領よく学べる絶好のチャンスであり、正しい文法知識は将来の仕事にも役に立つ。欧米文化学科の学生はぜひとも受講して欲しい。

学びのキーワード

- ・ コミュニケーションのための英文法
- ・ 使える英文法
- ・ 直観による理解の推進
- ・ 活きた英語
- ・ 話す力と書く力

授業計画

01. コミュニケーション英文法の学習法と現在形 (be動詞の肯定文、否定文、疑問文)
02. 現在形 (現在進行形と疑問文、単純現在形と否定文)
03. 現在形 (単純現在形の疑問文、現在進行形と単純現在形、I have と I've got)
04. 過去形 (be動詞の過去形、単純過去形と否定文と疑問文)
05. 過去形と現在完了形 (過去進行形、I used to +動詞の原形、現在までの経験)
06. 現在完了形 (現在までの動作や状態の継続、for・since・ago、I have doneと過去単純形I did、just alreadyとyet)
07. 現在完了形と受動態 (I've lost my key. と I lost my key last week.) (is doneと was done)
08. 受動態と動詞の形 (is being doneとhas been done) (be/ have / do現在形と過去形における動詞、規則変化動詞と不規則変化動詞)
09. 未来表現 (What are you doing tomorrow? 未来を表すbe+ ing, I'm going to+動詞の原形、will)
10. 法助動詞と命令文 (might, canとcould, must)
11. 法助動詞と命令文 (I have to +動詞の原形、Would you like ...?, I'd like...、I'd rather +動詞の原形、Do this! Don't do it!, Let's do this!命令文)
12. there と it (there is there are, there was/were, there has/ have been, there will be, 「それ」と物を示さないit)
13. 助動詞 (I am, I don't など肯定文、否定文における後に続く語句の省略、聞き返し疑問と付加疑問、too/ either, so am I/ neither do Iなど、I can't, haven't, don't など)
14. 疑問文 (Is it...? Have you ...?, Do they ...?など、Who saw you? Who did you see? Who is she talking to? What is it like? What...? Which...? How...?)
15. 疑問文と間接話法 (How long does it take to+動詞の原形?, Do you know where...? I don't know what...?などの間接疑問文、She said that... He told me that ...間接話法)
16. -ingと「to + 動詞の原形」(動詞の後ろにくるto+動詞の原形とing、want/ tell+人+to+動詞の原形、I went to the store to +動詞の原形 (目的語を表す不定詞))
17. go, get, do, make, have (基本的な動詞を用いた表現)
18. 代名詞と所有格 (代名詞の主格と目的格、所有格、独立所有格)
19. 代名詞と所有格 (代名詞の格、再帰代名詞、- ' s)
20. a と the (不定冠詞、単数形と複数形、可算名詞と不可算名詞)
21. a と the (不定冠詞と定冠詞、theのつく形とつかない形、the+場所の名前)
22. 限定詞と代名詞 (this/that/these/those, one/ ones, someとany)
23. 限定詞と代名詞 (not+any+名詞、no+名詞・none, every and all, all most some any no/none/both/either/ neither, a lot/ much/ many, a) little と(a) few)
24. 形容詞と副詞 (old/ nice/ interesting, quickly /badly/suddenlyなど、old/older 比較級)
25. 形容詞と副詞 (not as ...as原級を用いた比較、最上級、enough, too)
26. 語順 (動詞・目的語、場所・時、文中で動詞とともに生じる副詞、still, yetとalready, 「動詞+物+人」と「動詞+人+物」)
27. 接続詞と節 (and but or so because 2つの文をつなぐ接続詞、when時を表す節、起きるかもしれない出来事仮定するif節、事実と反することを仮定するif節、関係副詞：主語であることを示す関係代名詞、目的語であることを示す関係代名詞と)
28. 前置詞 (時、期間、前・後・間を表す前置詞/接続詞、場所を前置詞)
29. 前置詞と句動詞 (位置関係、方向を表す前置詞、「形容詞+前置詞」、「前置詞+ing」、「動詞+前置詞」、go in, fall off, run away句動詞と動作の方向、put on your shoes, put your shoes on 句動詞と目的語)
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

毎回、指定ページの予習をすること。テキストにそのまま記入してよい。

準備学習(復習)

授業の復習をし、次回の確認テストに備える。毎回、いくつもの文法事項について学習するため、復習を必須とする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 10% |
| (2) 確認テスト | 30% |
| (3) 中間テスト | 30% |
| (4) 期末テスト | 30% |

予習復習を重視し、毎回の確認テストで努力を評価する。

教科書

Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』(Cambridge University Press) [978-4-889967-65-4]

参考書

担当教員：加曽利 実

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：1A710290

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

言語は、相手に通じて初めて意味を持ちます。日本語とは、全く異なる音声構造を持つ英語の音声構造と音声学の基礎理論を学び、実際にネイティブ・スピーカーに通じる発音の習得を目指します。つまり、ネイティブ・スピーカーの言う事を正しく理解できるように、また自らの意思を相手のネイティブ・スピーカーに正しく伝えられるようになります。アメリカ英語を中心に授業を進めていきます。イギリス英語についても、主だった差異について触れます。現在日本社会において、英語能力は、今や常識となりつつあります。学生時代の間に確実に英語を身に付けたい人、そして中学校や高等学校などの英語教師を目指す人に受講を強く勧めます。

(2) 内容

英語を学習する際、最も大切な事は、その発音を学ぶことです。いくら一生懸命、英語を学習しても、発音が英米等のネイティブ・スピーカーに通じなかったり、誤解されてしまったりは、その学習は、結局、徒労となってしまいます。そうならない様にするためには、まず第一に、英語の発音を学習することです。発音を良くすると、聴き取る力もアップして来て、英会話が出来るようになります。応用を学ぶ前に、基礎事項をしっかりと固めておきましょう。| 授業では、プリント教材を用いて、英語音声学の基礎理論（発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等）を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行います。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語や他の様々な種類の英語についても触れます。CALL(L L)教室を使用します。最初の授業の時に、プリントで授業の詳細について説明します。

受講者に対する要望

音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、1-2年次生の間に履修することを勧めます。言語学習は、相手に通じることを前提とします。また、学生の間に、予習・受講・復習というHop-Step-Jumpの「三段跳び学習法」を必ず身に付けるようにして下さい。

学びのキーワード

- ・英語学習の中核を成す基礎科目
- ・ネイティブに通じる発音の習得
- ・英語らしい発音とリズム
- ・実学としての英語学習
- ・CALL(L L)教室、フォーマット形式(mp3, wav, mp4, DVDなど)

授業計画

01. イントロダクション ― 「音声無くして言語無し」を認識する
02. 英語音声学入門―言語学習上における音声学の重要性
03. 英語音声学の基礎理論 (1) ― 言語音の分析方法
04. 英語音声学の基礎理論 (2) ― 調音音声学・音響音声学・聴覚音声学
05. 英語音声学の基礎理論 (3) ― 声門上部発音器官
06. 英語音声学の基礎理論 (4) ― 音素と異音、音声記号とIPA、母音の分類と定義、子音と分類と定義
07. 英語音声学の基礎理論 (5) ― イギリスの標準発音(RP)とアメリカの標準発音(GA)
08. 子音の発音・理論と練習 (1) ― 破裂音
09. 子音の発音・理論と練習 (2) ― 摩擦音
10. 子音の発音・理論と練習 (3) ― 破擦音
11. 子音の発音・理論と練習 (4) ― 歯茎側音、反転音
12. 子音の発音・理論と練習 (5) ― 鼻音、半母音
13. 母音の発音・理論と練習 (1) ― 単母音(高前舌母音、中前舌母音、低前舌母音)
14. 母音の発音・理論と練習 (2) ― 単母音(低中舌母音、中中舌母音)
15. 母音の発音・理論と練習 (3) ― 単母音(高後舌母音、低後舌母音)
16. 母音の発音・理論と練習 (4) ― 二重母音(上昇二重母音、集中二重母音)
17. 母音の発音・理論と練習 (5) ― 反転二重母音
18. 音の結合 (1) ― 子音連結、音素配列論
19. 音の結合 (2) ― 同化作用、有声音化、無声音化、鼻音化、口蓋音化、擦音化
20. 音の結合 (3) ― 異化作用、音の脱落、語中音添加、音位転換、重音脱落
21. リダクション ― 英文法と英語音声学との関係(品詞と強勢)
22. 英語の三段階強勢
23. 強形発音と弱形発音 (1) ― 人称代名詞、関係代名詞、不定代名詞
24. 強形発音と弱形発音 (2) ― 助動詞、be動詞、have動詞
25. 強形発音と弱形発音 (3) ― 前置詞、接続詞、その他
26. 名詞句と合成名詞
27. 日本語のリズムと英語のリズム
28. 文強勢の移動
29. イントネーション ― 内部開放接続、内部閉鎖接続、末尾下降接続、末尾上昇接続
30. 総合練習・まとめ

準備学習(予習)

毎回、必ず10頁程度、テキストを予習して、ノートに重要点と思われる箇所をまとめておいて下さい。予習・復習ノートの提出のため、ノートまとめを励行しておいて下さい。

準備学習(復習)

復習を励行して下さい。毎回、授業後、なるべく早いうちに、学習した項目をノートに纏めて復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への参加度 |
| (2) 予習・復習ノート | 10% | ノート提出 |
| (3) 発音チェックテスト | 10% | 発音学習事項の練習度 |
| (4) 中間試験 | 30% | 中間試験の成績 |
| (5) 期末試験 | 30% | 期末試験の成績 |

予習と復習を励行するかどうか、定期試験などの成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

プリント教材

参考書

学習指導要領。その他は、授業中に提示します。

担当教員：加曽利 実

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710380

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

グローバル化という現代社会において、英会話にとどまらず、英語全般に関する様々な知識が、必須事項となって来ています。英語を学習、研究、教育する者ならば、知っておかなければならない知識を網羅します。

(2) 内容

英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、日本では、なかなか入手困難な、イギリスの著名な学者の朗読による「古英語や中英語などの当時の貴重な再現音声」を聞くことが出来る点です。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。

受講者に対する要望

ある程度、英語基礎力の付いた2-4年次生に履修することをお勧めします。Word Formation(語形成)や古(いにしえ)の英語音の発音などに関心のある学生や教職課程履修者にお勧めします。

学びのキーワード

- ・英語学の必須知識
- ・音韻論・形態論・統語論・英語史
- ・伝統文法
- ・アメリカ構造主義文法
- ・生成変形文法

授業計画

01. イントロダクション
02. 英語学の諸分野
03. 国際語としての英語
04. 英語の音構造 1 -- 音声器官
05. 英語の音構造 2 -- 母音の分類、子音の分類
06. 英語の音構造 3 -- 音韻論
07. 英語の語構造 1 -- 形態論
08. 英語の語構造 2 -- 語の分類
09. 英語の語構造 3 -- 語形成
10. 英語の文構造:伝統文法 1 -- 科学的伝統文法の成立
11. 英語の文構造:伝統文法 2 -- スウィートとイエスペルセン
12. 英語の文構造:アメリカ構造主義 1 -- 構造主義の言語観
13. 英語の文構造:アメリカ構造主義 2 -- IC分析
14. 英語の文構造:生成変形文法 1 -- 生成変形文法的アプローチ
15. 英語の文構造:生成変形文法 2 -- 句構造規則
16. 英語の文構造:生成変形文法 3 -- 変形規則
17. 英語の意味構造 1 -- 意味論と比較文化論
18. 英語の意味構造 2 -- ChomskyとSaussureの理論的比較
19. インド・ヨーロッパ語族
20. 英語の歴史:古英語 1 -- 古英語の成立
21. 英語の歴史:古英語 2 -- 発音と文字
22. 英語の歴史:古英語 3 -- 文法
23. 英語の歴史:中英語 1 -- 発音と綴り字
24. 英語の歴史:中英語 2 -- 語彙と文法
25. 英語の歴史:近代英語 1 -- 近代英語の成立(シェイクスピアと欽定英訳聖書)
26. 英語の歴史:近代英語 2 -- 大母音推移と規範文法の成立
27. アメリカ英語 1 -- アメリカ英語の発音
28. アメリカ英語 2 -- アメリカ英語の語法・文法
29. 英語の未来像
30. 総合的まとめ

準備学習(予習)

毎回、10頁程度予習しましょう。テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートは、提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、日頃、予習・復習を励行して下さい。

準備学習(復習)

毎回、受講後すぐに、学習した項目を復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。

評価方法

(1) 平常点	20%	授業への参加度
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出
(3) 中間試験	35%	中間試験の成績
(4) 期末試験	35%	期末試験の成績

予習と復習を励行するかどうか、定期試験の成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

石黒 昭博『現代の英語学』（金星堂）【978-4764736047】

参考書

学習指導要領。その他は、授業中に提示します。

担当教員：D. バーガー

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710470

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる母語の性質を認識することを望んでいる。

(2) 内容

この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話しことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。

受講者に対する要望

言語の本質について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・形態論
- ・統語論
- ・意味論
- ・音声学・音韻論
- ・言語習得

授業計画

01. 授業紹介、言語の本質
02. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション）
03. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション）
04. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション）
05. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション）
06. 動物の「言語」（講義とディスカッション）
07. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション）
08. 人間の脳、形態論 — 単語の構造（講義とディスカッション）
09. 形態論—内容語と機能語（講義とディスカッション）
10. 形態論—形態素：意味の最小単位（講義とディスカッション）
11. 形態論—拘束形態素と自由形態素；グループワーク：形態論に関する問題を解決する
12. 統語論 — 文構造（講義とディスカッション）
13. 統語論— 統語範疇、句構造樹等（講義とディスカッション）
14. 統語論— 句構造規則、グループワーク：統語論に関する問題を解決する
15. 意味論 — 語の意味（講義とディスカッション）
16. 意味論— 意味特性、意味役割（講義とディスカッション）
17. 意味論—文の真実性、含意、隠喩、直示；グループワーク：意味論に関する問題を解決する
18. 音声学 — 言語の音（講義とディスカッション）
19. 音声学— 音標文字、調音音声学：子音（講義とディスカッション）
20. 音声学— 調音の位置、調音の方法（講義とディスカッション）
21. 音声学—調音音声学：母音、グループワーク：音声学に関する問題を解決する
22. 音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション）
23. 音韻論— 音素：言語の音韻単位（講義とディスカッション）
24. 音韻論—形態素の発音；グループワーク：音韻論に関する問題を解決する
25. 言語変化—音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション）
26. 言語変化—形態変化、統語変化（講義とディスカッション）
27. 言語変化—語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する
28. 言語習得—幼児言語習得の段階（講義とディスカッション）
29. 言語習得—言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション）
30. 言語習得—「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する

準備学習(予習)

当日のワークシートを参照すること。

準備学習(復習)

講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにワークシートを復習すること。

評価方法

(1) 授業への参加度	25%
(2) ワークシート	25%
(3) 小テスト	25%
(4) 期末試験	25%

教科書

プリントを配布する

参考書

ビクトリア フロムキン、ニーナ ヒアムズ（著）、ロバート ロッドマン（著）、緒方 孝文（監修）『フロムキンの言語 | 学』第7版 ビー・エヌ・エヌ新社 2006]

担当教員：M. サベット

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710710

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。|(2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。|(3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。|

(2) 内容

This course focuses on writing and giving speech. Skills such as how to start and end a speech are taught. Students will be given many opportunities to give speeches in front of their classmates. |||||

受講者に対する要望

Students should be able to give speeches in front of others, keeping in mind skills taught during the course.

学びのキーワード

- ・ public speaking
- ・ body language
- ・ intonation
- ・ content
- ・ ending

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Part I: The Physical Message
03. Informative Speech; Gestures
04. Informative Speech; Body Language
05. Speech #1
06. Layout Speech; Voice Inflection
07. Layout Speech; VoiceTone
08. Demonstration Speech Preparation
09. Demonstration Speech
10. Part II: The Story Message; Introduction
11. Part II: The Story Message; Main Body
12. Speech #2
13. Persuasive Speech (Script Format)
14. Persuasive Speech (Introduction)
15. The Body; Transitions
16. The Body; Sequencers
17. Persuasive Speech (Paragraphs)
18. Persuasive Speech (Main Body)
19. The Conclusion; Persuasive Speech Script
20. The Conclusion; Small Group Presentation
21. Speech #3
22. Part III: The Visual Message Using Graphs
23. Part III: The Visual Message Using Charts and Data
24. Making Visual Aids; Graphs
25. Making Visual Aids; PowerPoint
26. Part IV: Preparation for Full Presentation; Outline
27. Part IV: Preparation for Full Presentation; Script
28. Part IV: Preparation for Full Presentation; Small Group Practice
29. Part IV: Preparation for Full Presentation; Practice with Teacher
30. Final Speech

準備学習(予習)

Giving a speech requires preparation and students must write the main body of their speech before coming to class.

準備学習(復習)

Students are required to prepare for their speeches and come to class prepared.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 20% |
| (2) mini speeches | 60% |
| (3) final speech | 20% |

教科書

参考書

担当教員：M. サベット

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710820

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

The goals of the course are: |Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。このコースの目標: |1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition; |2. (language) to improve your ability to express your opinions in English; |3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society. |1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。|2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。|3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要であるかという理解を深める。

(2) 内容

Speech & Debate B focuses on debating skills in English. |Students start with simple debates and then slowly move to more difficult topics. |

受講者に対する要望

Students should be able to express their opinions clearly.

学びのキーワード

- Debate
- Data
- Research
- Discussion
- Opinion

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Opinions
03. Agreeing
04. Disagreeing
05. Explaining Your Personal Opinion
06. Explaining Your Opinion with Facts
07. Preparation for Debate #1
08. Debate #1
09. Supporting Your Opinion with Expert Opinion
10. Supporting Your Opinion with Data
11. Organizing Your Opinion with Supporting Paragraphs
12. Organizing Your Opinion; Forming the Main Body
13. The “1AC”
14. Preparation for Debate #2
15. Debate #2
16. Refuting Explanations Using Polite Language
17. Refuting Explanations Using Firm Language
18. Tennis Debate: Affirmative
19. Tennis Debate: Negative
20. Challenging Supports
21. Preparation for Debate #3
22. Debate #3
23. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Gathering Data
24. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Forming the Body
25. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches; Controlled Debate
26. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches; Small Group Work
27. Preparation for Formal Debate During Test Week: Outline
28. Preparation for Formal Debate During Test Week: Script
29. Preparation for Formal Debate During Test Week: Group Practice
30. Final Debate

準備学習(予習)

Students are required to do research and collect data before each debate. Must work as a team and contribute to their group.

準備学習(復習)

Students must search for data and information in order to be ready for next debate.

評価方法

(1) Participation	40%
(2) Mini Debate	40%
(3) Final Debate	20%

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A711510

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】小学校英語指導者資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童英語教育の概要と共に、英語運用力についても学ぶ。子どもに英語を教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。

(2) 内容

児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また小学校外国語活動の目的と意義、国際理解教育、第二言語習得についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。児童英語教育科目の中の入門的な講座である。||

受講者に対する要望

「教える」ことを学ぶ以上、他者と積極的にかわり学びを共有しながら共に成長していこうとする意識を持って参加すること。

学びのキーワード

- ・ 外国語教育の目的
- ・ 母語習得と第二言語習得
- ・ 国際理解教育
- ・ 4技能の指導
- ・ 指導技術

授業計画

01. イントロダクション 外国語教育の意義
02. 母語習得と第二言語習得
03. 指導者の役割、小学校英語指導者の登録制度
04. 領域としての外国語活動の意義、外国語活動の教材
05. 学習指導要領の理解、年間指導計画
06. 言語材料と4技能の指導
07. 教材研究
08. 国際理解教育
09. 指導法と指導技術
10. 教材・教具の活用法
11. 評価の在り方、進め方
12. 教室運営、授業づくり
13. これからの小学校英語教育 領域から教科へ
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション、まとめ

準備学習(予習)

前時に指示された教科書の指定箇所及びプリントを読んでから授業に臨むこと。

準備学習(復習)

リフレクションシートに授業の振り返りを記入し、次授業に備える。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加、貢献 | 20% |
| (2) リフレクションシート | 20% |
| (3) プレゼンテーション | 30% |
| (4) レポート | 30% |

教科書

文部科学省『Hi, friends! 1』(東京書籍)【978-4487258833】|文部科学省『Hi, friends! 2』(東京書籍)【978-4487258840】

参考書

樋口 忠彦、加賀田 哲也、泉 恵美子、衣笠 知子『小学校英語教育入門』(研究社)【978-4327410865】|

担当教員： 澁井 とし子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1A711620

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 小学校英語指導者資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

公立小学校での外国語活動必修化後の最新の動向を把握しつつ、指導者として今何をすべきかを検証していく。

(2) 内容

2020年に小学校外国語活動が教科化になる動きにより、今まで行っていた小学校5、6年生の授業内容は小学校3、4年生が行うことになり、5、6年生は年間70時間の外国語活動となる。この授業では、公立小学校での外国語活動(英語)の基礎知識を身につけ、それぞれの学年に相応しい授業内容を考える。そしてカリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。教材研究を行い、様々な活動例を基に、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。学期の最後には考えた指導案を発表する。

受講者に対する要望

参加型の授業である。教壇に立って教えることを見据えて積極的に取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 小学校英語教育
- ・ 外国語活動
- ・ 指導案作成
- ・ 模擬授業

授業計画

01. オリエンテーション
02. 小学校における英語教育の意義
03. 小学校段階での英語教育のあり方
04. 学習指導要領とカリキュラムづくり
05. 学習意欲を高められる評価のあり方
06. 学習指導案の作成
07. 指導者に求められる資質
08. 教材研究の進め方
09. 小・中の連携
10. アクティビティと指導方法
11. 環境づくりと指導技術
12. 教材研究と研究開発校の取り組み
13. 教材研究と指導案作り
14. 教材研究と指導案作り
15. プレゼンテーション

準備学習(予習)

次の授業で扱うテキストの単元を読んで、予習しておくこと。レポート作成の課題があるが、教える立場になったことを考えてレポートを作成してほしい。

準備学習(復習)

自分が将来行う授業をイメージしていけるよう、毎回講義で学んだことの見直しをすること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 20% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 指導案作成 | 30% |
| (4) プレゼンテーション | 20% |

遅刻は3回すると1回の欠席とみなします。

教科書

関秀夫、金森強著『小学校外国語活動の進め方「ことばの教育」として』(成美堂) [978-4791971541] | 文部科学省『Hi, friends! 1!』(東京書籍) [978-4487258833] | 文部科学省『Hi, friends! 2!』(東京書籍) [978-4487258840]

参考書

文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動編 東洋館出版社

担当教員：A. クラウス

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A711830

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】小学校英語指導者資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

The goals are learning how children learn languages and learning methods to teach languages to children.

(2) 内容

Teaching English to children is different from teaching English to older learners. Teachers need techniques and methods specifically for children. In this class, you will learn about these methods and the theories behind them. You will also have a chance to polish your classroom language and your teaching skills by preparing activities, songs, and picture books to present to classmates. Halloween and Christmas activities will also be included, as well as online resources.

受講者に対する要望

Students are expected to read about the topics, pass daily quizzes on material presented in the class before, and practice presenting activities designed for children.

学びのキーワード

- ・ teaching methods
- ・ children
- ・ teaching materials

授業計画

01. Introduction to teaching children
02. Classroom language
03. Warm-up activities
04. Warm-up activities (Student presentation 1)
05. Lesson planning
06. Activities using pictures
07. What is Halloween?
08. Halloween activities
09. The importance of listening
10. Activities for teaching listening, TPR
11. Materials for teaching children 1
12. Materials for teaching children 2
13. Online resources 1
14. Online resources 2
15. Songs and chants
16. Songs and chants (Student presentation 2)
17. Activities for teaching speaking
18. Teaching dialogs
19. Multiple intelligence theory
20. Teaching to different learning styles
21. Activities using cards 1
22. Activities using cards 2
23. What is Christmas? Christmas songs
24. Christmas activities
25. Picture books 1
26. Picture books 2
27. Theme-based lessons
28. Teaching reading and writing
29. Picture books (Student presentation 3)
30. Picture books (Student presentation 3) cont.

準備学習(予習)

Before class, students will prepare activities to present.

準備学習(復習)

Before and after class, students will read materials about the topics presented in class.

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) class participation | 20% |
| (2) presentations | 50% |
| (3) quizzes | 20% |
| (4) assignments | 10% |

教科書

松香洋子『小学生は英語が大好き —72 Activities 1 基礎編』(松香フォニックス研究所) [978-4896430509]

参考書

担当教員：小川 隆夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A711940

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】小学校英語指導者資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教師として教壇に立つ前に、小学校で使用頻度の高い教材について十分に把握することや、子供の反応を知っておくことは大切である。現場での事例を知り、学生間で議論を交わしながら、小学校外国語の様々な事項にも柔軟に対応できる力を身に付けることを目標とする。

(2) 内容

小学校における外国語（英語）は、2020年に高学年が教科、中学年が必修となる。指導者もその流れを敏感に感じ取り、柔軟に対応出来る力を身につける必要がある。また、中学校、高等学校教員免許取得の場合にも、小学校で外国語を勉強してきた生徒をいかに受け入れ、指導していくかが課題となってくる。従って、本講義では、小学校外国語を指導するにあたり必要な理論、指導法の知識を得るとともに、小学校中学校の教育現場で役立つ具体的な活動の実践演習を行う。

受講者に対する要望

話にしっかり耳を傾け、積極的な講義への参加を期待する。講義においては、小学校英語指導に関わる事柄を紹介し、学生間の意見交換も行うため、全講義出席を基本とする。| 小学校英語指導者資格を目指す学生のみならず、小学校教員を目指す学生、中高英語教員を目指す学生も受講して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 小学校外国語活動
- ・ 子供のための指導法
- ・ 教室英語
- ・ 歌、絵本、アクティビティー
- ・ ティーム・ティーチング

授業計画

01. 自らの英語習得を振り返る
02. 小学校外国語活動の変遷とこれから
03. 子どもの言語習得
04. 英語教授法
05. Classroom English
06. Teacher talkとジェスチャー
07. レッスンプランの立て方
08. アクティビティー
09. 歌とチャンツ
10. 絵本の活用とストーリーテリング
11. 語彙学習に有効な活動
12. 低学年の指導—理論と実践
13. 中学年の指導—理論と実践
14. Hi friends!1に見る小学校英語活動分析
15. Hi friends!1を使用した実践
16. Hi friends!2に見る小学校英語活動分析
17. Hi friends!2を使用した実践
18. 文字指導とその意義
19. フォニックス
20. 授業の組み立て方と運営
21. Team Teaching
22. Team Teachingの実践
23. ICTの活用
24. 評価
25. 小学校外国語活動と中学校英語の接続
26. 研究実践発表 1
27. 研究実践発表振り返り 1
28. 研究実践発表2
29. 研究実践発表振り返り 2
30. まとめと振り返り

準備学習(予習)

指導書Hi, friends!の指定箇所を目を通してから授業に臨むこと。実践発表前には、活動案及び教材準備をして臨むこと。

準備学習(復習)

各回で配布された資料及びその内容をノートまたはファイルに整理し、演習で使用した教材なども含めてファイリングしておくこと。レポートが課された場合は、期日までに仕上げ提出すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 20% |
| (2) 実践発表 | 30% |
| (3) レポート | 30% |
| (4) 指導案 | 20% |

授業では活発な意見交換や討議を実施するため積極性を評価する。

教科書

文部科学省『Hi, friends! 1』(東京書籍) [978-4487258833] | 文部科学省『Hi, friends! 2』(東京書籍) [978-4487258840]

参考書

小川隆夫『先生、英語やろうよ！1』 mp | 松香フォニックス、小川隆夫『高学年のための小学校英語 先生英語やろうよ！2』 mp | 松香フォニックス、佐藤久美子・松香洋子『きょうから私も英語の先生』五川大学出版

担当教員：東 仁美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A712060

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】小学校英語指導者資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校英語指導者資格の必修科目である。小学校現場で実際の英語活動の実践を見学し、児童英語教育への理解を深める。

(2) 内容

児童英語教育の観察実習をする。公立小学校での授業見学のほかに、実習の事前指導がある。授業観察後、毎回実習レポートを提出する。

受講者に対する要望

「学生」ではなく、公教育の場で「指導者」としてふるまい、責任を持った行動をしてほしい。児童英語教育の他科目をできるだけ多く履修し、小学校英語の理論と実践を身に付けた上でインターンシップIを履修してほしい。英検二級程度の英語力を持った学生の履修が望ましい。

学びのキーワード

- ・ 観察実習
- ・ 英語活動
- ・ 振り返り

授業計画

01. 事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。
02. 観察実習 1
 03. 観察実習 2
 04. 観察実習 3
 05. 観察実習 4
 06. 観察実習 5
 07. 観察実習 6
 08. 観察実習 7
 09. 観察実習 8
 10. 観察実習 9
 11. 観察実習 10
 12. 観察実習 11
 13. 観察実習 12
 14. 観察実習 13
 15. 事後指導

準備学習(予習)

授業で使う指導案を理解した上で事前指導を受け、授業に参加する。

準備学習(復習)

実習終了後、速やかに実習レポートを作成し、提出する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 実習 | 60% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 事前事後指導 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A712170

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】小学校英語指導者資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。

(2) 内容

児童英語教育の授業実習をする。公立小学校での英語活動の実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。

受講者に対する要望

「学生」ではなく、公教育の場で「指導者」としてふるまい、責任を持った行動をしてほしい。児童英語教育の他科目をできるだけ多く履修し、小学校英語の理論と実践を身に付けた上でインターンシップIIを履修してほしい。英検二級程度の英語力を持った学生の履修が望ましい。

学びのキーワード

- ・ 英語活動
- ・ 授業実習
- ・ 指導案作成
- ・ 模擬授業

授業計画

01. 事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。
02. 授業実習 1
03. 授業実習 2
04. 授業実習 3
05. 授業実習 4
06. 授業実習 5
07. 授業実習 6
08. 授業実習 7
09. 授業実習 8
10. 授業実習 9
11. 授業実習 10
12. 授業実習 11
13. 授業実習 12
14. 授業実習 13
15. 事後指導

準備学習(予習)

指導案作成、教材研究をする。

準備学習(復習)

授業を振り返り、実習レポートを作成する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 実習 | 60% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 事前事後指導 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：D. バーガー

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A712510

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】Japan Studies Program (JSP) 科目

(1) 学びの意義と目標

The purpose of this class is to help students gain a better understanding of how we use language to interact with others, to both uplift and degrade individuals and groups in society, and how language helps form our identity.

(2) 内容

This course will cover three broad areas of language use in society: ways in which personal and group identity are reflected in language use, such as accent, dialect, and multilingualism, and the negative effects of linguistic prejudice; ways in which human relations are expressed through honorific and polite language; and how non-discriminatory language reform illustrates the relationship between language change and social change.

受講者に対する要望

提携校からの交換留学生や留学経験のある、または留学を希望する学生、授業に参加するために十分な英語能力を持つ学生の受講を望む。英語の読書力、聞き取り、ディスカッション能力が必要。

学びのキーワード

- ・言語変種
- ・危機言語
- ・言語復興
- ・敬語と丁寧語
- ・差別語

授業計画

01. Misconceptions about Language: Language Myths 1
02. Language Myths 2: Linguistic Prejudice & Inequality 1
03. Linguistic Prejudice & Inequality 2
04. Key Concepts: Language Varieties
05. Standard Language, Dialect, Accent, Speech Style & Register
06. Bi/Multilingualism and Diglossia
07. Multilingual Japan (Ryukyuan, Ainu, hogen)
08. Endangered Languages & Language Revitalization: Japan
09. Ainu and Ryukyuan
10. Hawaiian
11. Native American Languages
12. Polite Language: Differing Views of "Politeness"
13. Speech Acts
14. Theories of Politeness: Lakoff
15. Theories of Politeness: Leach
16. Theories of Politeness: Brown & Levinson
17. Honorific Language
18. Japanese and Other Honorific Language
19. The Speech Act of Apology
20. Japanese and English Apologies
21. Discriminatory Language: Language Change
22. Evolution of Japanese & English Discriminatory Terms
23. Discriminatory Language: Buraku, People with Disabilities
24. Discriminatory Language: Japanese Media Guidelines
25. English Discriminatory Language: University Guidelines
26. Inclusive Language and English Bible Translations
27. Sexist Language
28. Nonsexist Language Reform in Japanese
29. Nonsexist Language Reform in English
30. Review

準備学習(予習)

与えられた資料、講義内容のプリントを事前に読むこと。

準備学習(復習)

各資料についてリアクションペーパーを書き、小テストのために各課題のプリントを復習すること。

評価方法

- | | | |
|-------------------------|-----|------------|
| (1) class participation | 25% | 授業への参加度 |
| (2) quizzes | 25% | 小テスト |
| (3) reaction papers | 25% | リアクションペーパー |
| (4) final exam | 25% | 期末試験 |

教科書

プリントを配布する

参考書

Bauer, Laurie, and Peter Trudgill, editors. *Language Myths*. London, Penguin, 1998. |バウワー, ローリー/トッドギル, ピーター
 【編】/町田 健【監訳】/水嶋 いづみ【訳】『言語学的にいえば——ことば』にまつわる「常識」をくつがえす! 研究社
 2000 |Lee, Yeonsuk. *The Ideology of Kokugo*. Translated by Maki Hirano Hubbard. Honolulu, University of Hawaii
 Press, 2009. |イ ヨンスク『「国語」という思想—近代日本の言語認識』岩波書店 2012 |Nettle, Daniel, and Suzanne Romaine.
Vanishing Voices: The Extinction of the World's Languages. New York, Oxford, 2000. |タニエル・ネトル スザンヌ・ロメ
 イン 訳 島村宣男『消えゆく言語たち 失われることは、失われる世界』新曜社 | 2001 |Heinrich, Patrick. *Making of*

担当教員：阿字 宏康

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A712701

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本講義の目的は、英文法の学習者の視点と指導する立場からの視点とを同時に持つことで、英文法への理解を深め、効果的な指導法を考えることである。自らの英語コミュニケーション能力を高めるべく、基本的文法知識を身につけ、かつ英語を教える際の指導法の可能性について考察を深める。

(2) 内容

中学および高校の既習英文法を復習しながら、その指導法を学ぶ。学習者としての経験から、理解・習得が困難であった文法項目について考察し、いかなるアプローチが学習者にとって有効であるかを検討する。また、文法の基礎知識はコミュニケーションに不可欠であることを念頭におき、英語を実践的に使用する際に必要とされる文法について考える。

受講者に対する要望

英語教育に関心があり、英文法の基礎を復習する意欲のある者の受講を望む

学びのキーワード

- ・ 英文法
- ・ 英語教育

授業計画

01. オリエンテーション
02. Focus on Form、コミュニケーションのための文法
03. 品詞とその分類 主に名詞、冠詞、代名詞
04. 形容詞と副詞 動詞や名詞の修飾関係と働き
05. 動詞と文型
06. 動詞と文型、ワークショップ（品詞）
07. 動詞と時制
08. 動詞と時制
09. 動詞と時制、完了形
10. 動詞と時制、完了形、ワークショップ（時制）
11. 助動詞
12. 態、ワークショップ（助動詞、態）
13. 不定詞
14. 不定詞と動名詞
15. 不定詞と動名詞、ワークショップ（不定詞と動名詞）
16. 分詞
17. 分詞、分詞構文、ワークショップ（分詞）
18. 比較
19. 関係詞
20. 関係詞
21. 関係詞、アクティビティ（関係詞）
22. 模擬授業について
23. 仮定法
24. 仮定法
25. 否定、ワークショップ（仮定法と否定）
26. 模擬授業準備
27. 模擬授業（1）教科書（教科用図書）の文法事項を具体的に説明する。
28. 模擬授業（2）教科書の文法事項を具体的に説明する。
29. 模擬授業（3）
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われる項目について英文法の参考書で確認しておくこと

準備学習(復習)

既習の文法項目についてまとめ、ミニテストへの準備、および模擬授業にいかに関与するかを検討すること

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 出席・授業参加 | 30% |
| (2) ミニテスト・レポート提出等 | 30% |
| (3) 模擬授業・マイクロティーチング | 20% |
| (4) 試験・レポート提出 | 20% |

教科書

高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1 2016年度版』（三省堂）【三省堂730】高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 2016年度版』（三省堂）【三省堂830】高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 2016年度版』（三省堂）【三省堂930】文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売）【978-4304041617】

参考書

担当教員：村瀬 天出夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A712890

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

他者・異文化に対するとまどい・恐れを越えるための方法・アプローチを考える能力を養う。同時に、日本で生活する大学生としての自分自身をみつめ、社会人をめざすにあたっての課題と展望を考え、希望を想像する能力を培う。

(2) 内容

現在私たちが生活する世界では、人やモノ、お金、さらに文化現象が国境を越えて「地球的」（「グローバル」）な規模で移動・伝播し、また国籍や文化的な出自が異なる人同士が一緒に生活し働いています。このように様々な国籍と多様な文化が共存している世界が「グローバル化」した社会であると説明されます。しかし、このような社会は現在、日本で生活する大学生にとって、特別に新しいことではなく、もはや当たり前前の状況でもあります。また同時に「グローバル」という言葉自体が使い古されて陳腐化した言葉になりつつあると言えます。| 本講義はこの「グローバル」という言葉を批判的に捉えつつ、その背後にある身近な（「ローカル」な）社会現象を見ていきます。いわば私たちが生活する「ローカル」な空間における「グローバル」な事柄を学んでいきます。そして、そのような状況で発生しうる社会的な問題だけでなく、そこで大学生や若者が漠然と抱くであろう「とまどい」を明らかにし、それらを希望へと変えていく態度を学んでいきます。そのことによって現在の日本で生活する大学生が身につけるべき視点と考え方を習得します。

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

- ・ 異文化
- ・ 大学生と社会人
- ・ アイデンティティ
- ・ 他者理解
- ・ 現代社会

授業計画

01. イントロダクション
02. 問題設定：「グローバルであるとはどういう意味だろうか？」
03. 「グローバル文化」を理解するためのキーワード
04. 私たちの身近にある「グローバル文化」を見つけてみる
05. 国籍と国境：その意味、その限界
06. 経済の「グローバル化」
07. 「日本人」とはどのような人を指すのか？
08. ディスカッション①
09. 問題設定：「大学生はグローバル文化とどう接するのだろうか？」
10. 隣の留学生：異文化との接触
11. 留学：「外国人」になってみることは？
12. 外国語教育と日本語教育
13. メディアとのつきあい方
14. ディスカッション②
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んでみてください。また課題についても授業内で指示します。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末レポート | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

小林誠ほか編『グローバル文化学：文化を超えた協働』法律文化社、2011年。

担当教員：村瀬 天出夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A712891

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

他者・異文化に対するとまどい・恐れを越えるための方法・アプローチを考える能力を養う。同時に、日本で生活する大学生としての自分自身をみつめ、社会人をめざすにあたっての課題と展望を考え、希望を想像する能力を培う。

(2) 内容

現在私たちが生活する世界では、人やモノ、お金、さらに文化現象が国境を越えて「地球的」（「グローバル」）な規模で移動・伝播し、また国籍や文化的な出自が異なる人同士が一緒に生活し働いています。このように様々な国籍と多様な文化が共存している世界が「グローバル化」した社会であると説明されます。しかし、このような社会は現在、日本で生活する大学生にとって、特別に新しいことではなく、もはや当たり前状況でもあります。また同時に「グローバル」という言葉自体が使い古されて陳腐化した言葉になりつつあると言えます。| 本講義はこの「グローバル」という言葉を批判的に捉えつつ、その背後にある身近な（「ローカル」な）社会現象を見ていきます。いわば私たちが生活する「ローカル」な空間における「グローバル」な事柄を学んでいきます。そして、そのような状況で発生しうる社会的な問題だけでなく、そこで大学生や若者が漠然と抱くであろう「とまどい」を明らかにし、それらを希望へと変えていく態度を学んでいきます。そのことによって現在の日本で生活する大学生が身につけるべき視点と考え方を習得します。

受講者に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

学びのキーワード

- ・ 異文化
- ・ 大学生と社会人
- ・ アイデンティティ
- ・ 他者理解
- ・ 現代社会

授業計画

01. イントロダクション
02. 問題設定：「グローバルであるとはどういう意味だろうか？」
03. 「グローバル文化」を理解するためのキーワード
04. 私たちの身近にある「グローバル文化」を見つけてみる
05. 国籍と国境：その意味、その限界
06. 経済の「グローバル化」
07. 「日本人」とはどのような人を指すのか？
08. ディスカッション①
09. 問題設定：「大学生はグローバル文化とどう接するのだろうか？」
10. 隣の留学生：異文化との接触
11. 留学：「外国人」になってみることは？
12. 外国語教育と日本語教育
13. メディアとのつきあい方
14. ディスカッション②
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業内で配布される資料・テキストを読んでみてください。また課題についても授業内で指示します。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 期末レポート | 60% |
| (2) 授業への参加度 | 40% |

教科書

参考書

小林誠ほか編『グローバル文化学：文化を超えた協働』法律文化社、2011年。

担当教員： K. O. アンダスン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 授業コード： 1A802280

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

The purpose of this course is to help students develop critical thinking and be able to formulate and discuss their views and ideas.

(2) 内容

This course is designed to provide students with opportunities to learn the necessary academic vocabulary and intermediate to advance level English listening and speaking skills that will serve as the foundation for further preparatory work as they prepare to study abroad in a university environment.

受講者に対する要望

Students should fully prepare and finish any homework or presentations before they are due and they are encouraged to consult with the teacher outside of class if they need help.

学びのキーワード

- ・ belonging to a group
- ・ gender roles
- ・ media and society
- ・ crime and criminals
- ・ cultural cha

授業計画

01. Course Introduction: TOEFL Listening: vocabulary building
02. word lists and learning strategies
03. focus on the family: marriage
04. focus on the family: marriage, cont.
05. focus on the family: home life
06. focus on the family: home life, continued
07. comparison of Japanese, American, etc., family life
08. groupthink: what is it?
09. groupthink: how does it affect family life?
10. groupthink: how does it affect family life?, continued
11. groupthink: how does it affect family life?, continued
12. cultural values: gender roles and education
13. cultural values: gender roles and education, cont.
14. cultural values: gender roles and education, cont.
15. cultural values: gender roles and education, cont.
16. midterm exam
17. gender issues in society: the world
18. gender issues in society: American society
19. gender issues in society: Japanese, etc. society
20. cultural change: why do cultures change?
21. cultural change: how do cultures change?
22. cultural change: is change positive or negative?
23. presentations
24. presentations
25. global issues: war and peace
26. global issues: war and peace
27. global issues: environmental concerns
28. global issues: environmental concerns, cont.
29. global issues: becoming "global citizens"
30. over all review of class content

準備学習(予習)

Students should have homework done and be totally prepared for presentations and class discussions before the next class and should consult the teacher outside of class when they need help.

準備学習(復習)

Students should review what they have covered in class and take comments on their classwork under consideration in preparing for future classes.

評価方法

(1) homework	20%
(2) class participation	15%
(3) presentation	25%
(4) two exams	40%

教科書

参考書

Kim Sanabria [Academic Listening Encounters Life in Society Student Book] (Cambridge University Press) The teacher will sell copies of this textbook directly to the students. |

担当教員：櫻井 智美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A802545

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. TOEFLの出題形式と内容を知ること。|2. 自己学習の方法を学ぶこと。|3. 授業中で学んだ単語・熟語・文法を各自復習して覚えること。|

(2) 内容

TOEFLとはTest of English as a Foreign Languageの略称で世界中で受験されている英語運用能力テストである。TOEICが無事ネスコミュニケーション重視であるのに対し、TOEFLは北米の大学で学ぶことができる英語力を測るテストであるため、アカデミックな内容が多く出題される。|本講義ではリスニングとリーディングに重点を置き、問題を解くためのスキルの習得、重要なポイントの解説、基礎・応用練習、そして試験問題を同じ形式の間に答える実践練習を行う。さまざまな練習問題を通じ、TOEFLに必要なリスニング力、単語力、読解力、文法理解力など総合的な英語能力の育成を目指す。

受講者に対する要望

1. 授業に集中して取り組むこと。|2. 授業前に必ず予告されたレッスンのわからない単語は調べてテキストに書き込んでおくこと。|3. 単語クイズのための自主学習をすること。|4. 宿題は必ずやってくること。|5. プログレステストと定期試験は時間をかけて準備すること。|6. TOEFL-ITPを必ず受験すること。

学びのキーワード

- ・ TOEFL Test
- ・ ITP & IBT
- ・ リスニング
- ・ リーディング
- ・ 文法

授業計画

01. オリエンテーション、Placement Test
Module 1: Lesson 1 Listening: Understanding suggestions, requests and offers (short dialogues)
- 02.
03. Module 1: Lesson 2 Listening: Understanding gist (extended conversations/ academic mini-talks)
04. Module 1: Lesson 3 Structure: Parallelism/word form/word order
05. Module 1: Lesson 4 Structure: Subject/verb agreement
06. Module 1: Lesson 5 Reading: Understanding gist
07. Module 1: Lesson 6 Reading: Understanding purpose, Take home test (Progress Test 1)
08. Module 2: Lesson 1 Listening: Understanding attitude (short dialogues) . Progress Test 1 Listening
09. Progress Test 1の解説
10. Module 2: Lesson 2 Listening: Understanding specific information (extended conversations/ academic mini-talks)
11. Module 2: Lesson 3 Structure: Independent clauses
12. Module 2: Lesson 4 Structure: Passive voice
13. Module 2: Lesson 5 Reading: Understanding specific information
14. Module 2: Lesson 6 Reading: Understanding pronoun reference, Take home test (Progress Test 1)
15. Module 3: Lesson 1 Listening: Understanding specific information (short dialogues). Progress Test 2 Listening
16. Progress Test 2の解説
17. Module 3: Lesson 2 Listening: Understanding implication (extended conversations/ academic mini-talks)
18. Module 3: Lesson 3 Structure: Gerunds, infinitives, participles
19. Module 3: Lesson 4 Structure: Past modals
20. Module 3: Lesson 5 Reading: Understanding unfamiliar words
21. Module 3: Lesson 6 Reading: Understanding implication, Take home test (Progress Test 3)
22. Module 4: Lesson 1 Listening: Understanding uncertainty and conclusions (short dialogues). Progress Test 3 Listening
23. Progress Test 3 の解説
24. Module 4: Lesson 2 Listening: Integrating skills (extended conversations/ academic mini-talks)
25. Module 4: Lesson 3 Structure: Dependent clauses
26. Module 4: Lesson 4 Structure: Inverted subject + verb order
27. Module 4: Lesson 5 Reading: Understanding attitude
28. Module 4: Lesson 6 Reading: Integrating reading skills
29. Progress test 4
30. Summary

準備学習(予習)

授業で次回の予告をするので、予告されたレッスンに必ず目を通すこと。|予告されたレッスンのわからない単語は調べてテキストに書き込んでおくこと。|

準備学習(復習)

毎回単語のクイズを行うので、単語や熟語を復習して覚えること。|毎回宿題を出すので、必ず自宅でCDを聞き、問題を解いてくること。|授業中に間違った練習問題は必ず復習し、不明な点をなくしておくこと。|各モジュール終了後のプログレステストを自宅で必ず解いてくること。

評価方法

- | | |
|--------------------|----|
| (1) 平常点 | 15 |
| (2) 単語テスト | 30 |
| (3) プログレステスト&期末テスト | 50 |
| (4) TOEFL-ITP | 5 |

教科書

Boost Your English 2 -Practice for TOEFL ITP-

参考書

担当教員：D. バーガー

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1A803890

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業はグローバルコミュニケーションコースの学生や英語圏で留学を希望している学生を始め、英語能力を向上したい学生のためである。この授業とグローバルライティングスキルを両方とる学生は留学するための最も重要なスキルが学べる。

(2) 内容

この科目では大学授業（アカデミック）のトピックを英語で読むためのリーディングスキルを学ぶ。ECAリーディングレベルを向上させるために語彙を増やすことは不可欠であるので、語彙学習を重視する。主に、教科書のリーディングや多読を通して、語彙を増やす。さらに、もっと批判的に考えることを学ぶために授業では教科書や多読についてのディスカッションを行う。

受講者に対する要望

授業外の英語のリーディングや新しい語彙を積極的に学ぶことや授業参加は絶対に欠かさないことである。

学びのキーワード

- Extensive Reading 多読
- English for academic purposes アカデミックの目的のための英語
- Vocabulary 語彙
- Study Abroad 留学
- College-level 大学授業のトピック

授業計画

01. Course introduction 授業紹介: Academic Reading Topic 1
02. Preview 予習: Pre-reading 事前リーディング
03. Preview 予習: Reading strategies リーディング・ストラテジ
04. Reading comprehension 読解力
05. Vocabulary learning 語彙学習
06. Review 習復: Writing about reading リーディングについて文を書くこと
07. Review 習復: Talking about reading リーディングについてのディスカッション
08. Academic Reading Topic 2
09. Preview 予習: Pre-reading 事前リーディング
10. Preview 予習: Reading strategies リーディング・ストラテジ
11. Reading comprehension 読解力
12. Vocabulary learning 語彙学習
13. Review 習復: Writing about reading リーディングについて文を書くこと
14. Review 習復: Talking about reading リーディングについてのディスカッション
15. Academic Reading Topic 3
16. Preview 予習: Pre-reading 事前リーディング
17. Preview 予習: Reading strategies リーディング・ストラテジ
18. Reading comprehension 読解力
19. Vocabulary learning 語彙学習
20. Review 習復: Writing about reading リーディングについて文を書くこと
21. Review 習復: Talking about reading リーディングについてのディスカッション
22. Academic Reading Topic 4
23. Preview 予習: Pre-reading 事前リーディング
24. Preview 予習: Reading strategies リーディング・ストラテジ
25. Reading comprehension 読解力
26. Vocabulary learning 語彙学習
27. Review 習復: Writing about reading リーディングについて文を書くこと
28. Review 習復: Talking about reading リーディングについてのディスカッション
29. Bonus reading ボーナス（おまけ）のリーディング
30. Putting it all together まとめ

準備学習(予習)

教科書やその他の英語の資料を毎日読み、新しい単語を書き留めること。

準備学習(復習)

小テストや授業中のディスカッションの中で新しい語彙を繰り返し使用することは復讐の手助けになる。

評価方法

- | | | |
|-------------------------|-----|---------|
| (1) Class participation | 25% | 授業への参加度 |
| (2) Homework | 25% | 宿題 |
| (3) Quizzes | 25% | 小テスト |
| (4) Final exam | 25% | 期末試験 |

教科書

Cheryl Benz 『College Reading Book 1 (256 pp) (Houghton Mifflin English for Academic Success)』(センゲージ・ラーニング) [978-0618230204]

参考書

担当教員：加曽利 実

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1A804050

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

生きた英語表現を身につけるための理論と実践を行います。発音練習を行いながら、機能語を中心とする「演説に基づく表現力とリスニングのポイント」を学習し、実践力を養います。

(2) 内容

ネイティブ・スピーカーに通じる「英語の表現力と聴解力」を身につけるためには、まず基本的な発声法と英語の発音ができていなければなりません。ネイティブ・スピーカーとコミュニケーションを行ったり、人前でスピーチを行うためには、ネイティブ・スピーカーが用いる「自然な英文」を覚え、スピーキング力とリスニング力をアップさせて行くことが効果的です。更に、英語の常識を身につけましょう。特に、この授業では、米国独立宣言や米国大統領の演説を用いて、現代日本社会で生きて行くために必須となる「民主主義の本質」を学んだり、実用的な英会話教材により、スピーチの発音法を練習したりします。CALL(LL)教室を使用します。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。

受講者に対する要望

本授業は、春学期の「英語音声学」を履修した後に、履修した方が、より効果的に学習できます。英語学習の基盤となる「英語音声学」との大きな違いは、呼吸法・解剖学的考察・省略発音・米語演説法などといった「応用理論の実践」にあります。

学びのキーワード

- ・英語音声学の実践・応用
- ・呼吸を中心とした解剖学入門
- ・日米比較音声学
- ・省略発音英語・実用英会話
- ・大統領の演説の練習

授業計画

01. 効果的な英語学習方法について
02. 呼吸法・発声法概観
03. 音声学的見地からの解剖学 1 -- 人体解剖学と呼吸法
04. 音声学的見地からの解剖学 2 -- 呼吸法(胸式呼吸と腹式呼吸)と発声法
05. 音声学的見地からの解剖学 3 -- 効果的な発声練習の仕方
06. 日米比較音声学 1 -- 英語と日本語の母音
07. 日米比較音声学 2 -- 英語と日本語の子音
08. 日米比較音声学 3 -- 英語と日本語の音声的特徴の比較
09. 省略発音英語 1 -- 非省略英語と省略英語
10. 省略発音英語 2 -- 非省略英語と省略英語の階層的・発想的差
11. 省略発音英語 3 -- 非省略英語と省略英語の口頭練習
12. リンカーン大統領の演説の分析と練習 1 -- ゲティスバーグ演説の歴史的意義
13. リンカーン大統領の演説の分析と練習 2 -- ゲティスバーグ演説の内容分析
14. リンカーン大統領の演説の分析と練習 3 -- ゲティスバーグ演説と民主主義の本質
15. リンカーン大統領の演説の分析と練習 4 -- ゲティスバーグ演説と日本国憲法
16. ケネディ大統領の演説の分析と練習 1 -- ケネディ大統領の演説に見られる傾向と特性
17. ケネディ大統領の演説の分析と練習 2 -- 大統領就任演説の解説・分析
18. ケネディ大統領の演説の分析と練習 3 -- 就任演説の口頭反復練習
19. ケネディ大統領の演説の分析と練習 4 -- 就任演説と日本の民主主義
20. キング牧師の演説の分析と練習 1 -- 「私には夢がある」の内容解説・分析
21. キング牧師の演説の分析と練習 2 -- 「私には夢がある」の歴史的意義
22. キング牧師の演説の分析と練習 3 -- 「私には夢がある」とオバマ大統領
23. キング牧師の演説の分析と練習 4 -- 「私には夢がある」の演説と日本における民主主義のレベル
24. 実用英会話の分析と練習 1 -- Roommates
25. 実用英会話の分析と練習 2 -- Make Your Bed
26. 実用英会話の分析と練習 3 -- Don't Be Chicken
27. 実用英会話の分析と練習 4 -- Meeting New Friends
28. 実用英会話の分析と練習 5 -- Driving Class
29. 小テスト・英語発音のブラッシュアップ方法
30. 総合練習・まとめ

準備学習(予習)

毎回、テキストを5頁程度予習し、配布プリントも熟読し、添付のCDを聞いて、練習してから、授業に望んで下さい。予習・復習ノートを提出してもらい、評価の一部とします。

準備学習(復習)

復習を励行して下さい。毎回、授業後、早期に復習し、何回か繰り返すと、記憶が定着します。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|----------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への参加度 |
| (2) 予習・復習ノート | 10% | ノートの提出 |
| (3) 発音テスト | 10% | 発音テストの成績 |
| (4) 中間試験 | 30% | 中間試験の成績 |
| (5) 期末試験 | 30% | 期末試験の成績 |

予習と復習を励行するかどうか、成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

荒井 良雄 編、尾崎 寔 注釈『英語名演説集』(英光社)【978-4870971264】

参考書

授業中に提示します。

担当教員： F. ルテュール

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 授業コード： 1A804620

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

フランス語を基礎から学びながら、簡単な日常会話ができるようにします。|自己紹介や趣味、さまざまな場面を設定しての(レストラン、買い物、旅行等々)会話の練習。|現在形、過去形、未来形の習得。|

(2) 内容

本年のクラスは、教科書は使用せずプリントを使用します。文法、語彙、コミュニケーション、リスニングとロールプレイ形式で行い、クイズなども取り入れ、楽しく学べるようにします。|プリントは、各種テキスト(LE NOUVEAU TAXI 1(Hachette社) / MOI JE... COMMUNICATION (Alma社) / LE NOUVEAU SANS FRONTIERE (CI? International社) / FESTIVAL (CI? International社) / LE NOUVEAU ROND POINT (Maison des Langues社)) から、抜粋したものを用意します。|各テーマの終わりには、会話の練習を行います。毎週1つのテーマを学びます。2週に渡ることもあります。|読む、書く、聞く、話すことを練習します。リスニングは、CD、DVD、またはインターネット(ポッドキャスト)を使用する予定です。||

受講者に対する要望

積極的に話しましょう。

学びのキーワード

- ・興味を持って
- ・楽しみながら
- ・積極的に

授業計画

01. アルファベット/数字/ヨーロッパの通貨(ユーロ)+ゲーム
02. 同上
03. 紹介の練習 (自己、家族、三人称の使い方)
04. 同上
05. 趣味について話す
06. 同上
07. 時間と日常生活について話す
08. 同上
09. 過去形の練習(複合過去)
10. 同上
11. 過去形の練習(半過去)
12. 同上
13. 未来形の練習
14. 同上
15. まとめ

準備学習(予習)

翌週のプリントを配りますので、前もって語彙について調べておくと、授業に余裕をもって入っていけると思います。

準備学習(復習)

発音を確認しながら音読の練習。語彙の再確認。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------|
| (1) テスト | 50% | 学年末にテストを1回 |
| (2) 平常点 | 25% | |
| (3) 授業態度 | 25% | |

教科書

参考書

担当教員：森 容子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修

単位：2

授業コード：1A805030

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

映画を通してアメリカ文化に対する理解を深め、楽しみながら英語のリスニング能力と英語表現能力を向上させることを目標としています。

(2) 内容

この授業では、いくつかの映画を通して、独特の英語表現を理解したり、英語のリスニング力を強化したりします。同時に、英語の学習だけではなく、各々の映画で取り扱われるアメリカ社会の抱える問題や文化にも目を向け、アメリカについて学んでいきます。また、講義を聴くだけの受け身の授業ではなく、能動的かつ積極的な授業参加ができるように、各自にさらに映画のテーマに関して詳しく調べ発表してもらいます。

受講者に対する要望

週をまたいで、映画を見ながら授業を進めていく可能性が多いので、欠席すると映画の部分を見落とし授業についていくのが難しくなります。ですから、きちんと出席することが受講の前提です。授業には、教科書と辞書は必帯です。

学びのキーワード

- ・アメリカの社会情勢
- ・アメリカ文化
- ・リスニング
- ・英語会話表現
- ・リサーチ

授業計画

01. オリエンテーション
02. アメリカの医療制度と臓器移植
03. Unit 3 Joh Q -- Organ Transplant Today and Tomorrow
04. Unit 3 Joh Q -- Organ Transplant Today and Tomorrow
05. エイズ感染者と差別・レッドリボン
06. Unit 8 Philadelphia -- AIDS and Discrimination
07. Unit 8 Philadelphia -- AIDS and Discrimination
08. Unit 8 Philadelphia -- AIDS and Discrimination
09. 結婚と離婚
10. Unit 4 Mrs. Doubtfire -- Who Takes Care of Children
11. Unit 4 Mrs. Doubtfire -- Who Takes Care of Children
12. 再婚と継父母
13. Unit 5 Stepmom -- Meeting a New Family
14. Unit 5 Stepmom -- Meeting a New Family
15. まとめテスト【前半】
16. アメリカ社会における職場と女性進出
17. Unit 7 Working Girl -- Women in Business
18. Unit 7 Working Girl -- Women in Business
19. アメリカの教育制度とハーレム
20. Unit 9 Music of the Heart -- Scenes from American School
21. Unit 9 Music of the Heart -- Scenes from American School
22. Unit 9 Music of the Heart -- Scenes from American School
23. Unit 9 Music of the Heart -- Scenes from American School
24. アメリカの裁判制度及び弁護士
25. Unit 10 The Rainmaker -- Tough Business of Lawyers
26. Unit 10 The Rainmaker -- Tough Business of Lawyers
27. NASAと宇宙飛行
28. Unit 11 Space Cowboys -- NASA' s Continued Challenges
29. Unit 11 Space Cowboys -- NASA' s Continued Challenges
30. まとめテスト【後半】

準備学習(予習)

次の授業で学習するテキストのUNIT、特にボキャブラリー部分は事前に予習しておくこと。また関連テーマに関して、インターネットなどで情報集めをしておくこと授業にさらに興味が持てると思います。

準備学習(復習)

授業で学習した英語表現や単語は、毎回、しっかりと復習して覚えること。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|------------------|
| (1) 積極的な授業参加 | 20% | 授業態度・出席・宿題提出 |
| (2) 課題提出と発表 | 20% | 課題はアメリカ情勢と文化に関して |
| (3) 英語テスト | 40% | リスニング・英語表現・語彙 |
| (4) 異文化理解テスト | 20% | アメリカの文化と社会情勢に関して |

英語のテストのみで評価しないので、課題提出も忘れないうでください。また出席や授業態度も評価対象になりますから休まないように、授業中はおしゃべりしたり眠らないようにしましょう。

教科書

楠本浩美・濱田真由美 Cinema English 『American Society in Focus』(Macmillan Languagehouse) [978-4895855051]

参考書

担当教員：K. O. アンダスン

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A805141

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語の歌詞の意味を多方面から分析し、理解力を養う。The purpose of this course is to learn and understand the history behind rock music, the cultural attitudes behind the music (including negative attitudes such as racism), and to come to a better appreciation of not only rock, but also music of other genres and other countries and cultures.

(2) 内容

10のエピソードから成る The History of Rock and Roll のDVDを教材とする。各エピソードで紹介される音楽を聴き、英語の歌詞の意味や表現、さらに歴史的背景や文化を学ぶ。DVDの内容に関する宿題を課し、またエピソードごとに小テストも行う。

受講者に対する要望

Students should attend every class, be on time, have their homework prepared before each class, be diligent in preparing for quizzes and exams, and be willing to ask and answer questions in discussions of popular music.

学びのキーワード

- the blues, R and B, rockabilly
- the British Invasion, soul music
- glam rock, punk, new wave, rap, hip-hop, house music, etc.

授業計画

01. Introduction to the class; episode 1: Rock and Roll Explodes
02. episode 1, continued
03. episode 1, continued
04. episode 2: Good Rockin' Tonight
05. episode 2, continued
06. episode 3: Britain Invades America, America Fights Back
07. episode 3, continued
08. episode 3, continued
09. episode 4: The Sounds of Soul
10. episode 4, continued
11. episode 4, continued
12. episode 5: Plugging In
13. episode 5, continued
14. episode 5, continued
15. episode 6: My Generation
16. episode 6, continued
17. episode 6, continued
18. episode 7: Guitar Heroes
19. episode 7, continued
20. episode 7, continued
21. episode 8: The 1970s: Have a Nice Decade
22. episode 8, continued
23. episode 8, continued
24. episode 9: Punk
25. episode 9, continued
26. episode 9, continued
27. episode 10: Up from the Underground
28. episode 10, continued
29. episode 10, continued
30. review for the final exam

準備学習(予習)

予習は必ずしてくること。授業時には必ず辞書を持って来ること。遅刻をせず、全授業に出席し、積極的に参加する。

準備学習(復習)

Students should try outside of class to find out more about the kinds of music and musicians covered in class and to think about how these kinds of music and musicians have affected both national and world culture.

評価方法

(1) participation	10%
(2) homework	30%
(3) quizzes	30%
(4) final exam	30%

教科書

All class materials will handed out to students by the teacher.

参考書

担当教員：石田 明夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1A805410

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

★聞き取りやすいフランス語の歌詞を聴き、発音し、口語的表現を覚え、文法の復習をすることにより、基本的なレベル(仏検4~3級)に達することができます。また、フランスの大衆文化(ポップ・カルチャー)についての知識が深まり、フランスひいてはヨーロッパについてポピュラーな視点を獲得でき、ヨーロッパに関連する講義を履修する上で役立つと思います。|★フランス語を学ぶことの重要性は論を待ちませんが、フレンチ・ポップスでフランス語を学ぶことの意義はポップ・ミュージックの歌や歌手(あるいはグループ名)を覚えることにあります。これから出会うかもしれないフランス語圏の人たちと、その知識を活用して、覚えた歌を歌ったり、好きな歌手や歌を話題にしたり、一緒にyoutubeを見たり、生きたコミュニケーションが楽しめるからです。

(2) 内容

『フランス語 II』までに学習した発音・文法等の復習をしながら、本物のフランス文化に直接触れてみましょう。ここでは、フランスのヴァリエテ(いわゆるシャンソン)、ロック、R&B、ラップ、レゲエなどフランスのポップ・ミュージックと、フランスのミュージカル(『星の王子様』『ノートルダムの鐘つき男』『1789年バスチーユの恋人達』を用意しています)をDVDで鑑賞し、そのテキストを読みます。また、気に入った曲を歌えるようになります。|また、歌詞ばかりではなく、フランスを紹介した簡単な文も随時取り入れます。

受講者に対する要望

★フランスの文化(音楽、映画、小説、食など)に関心のある学生、あるいは関心を持ちたいと思っている学生を望みます。
★メディア(新聞、ラジオ、テレビ、インターネット)を通して、フランス情報にいつもアンテナを張っておくことが重要です。

学びのキーワード

- ・ヴァリエテ・シャンソン
- ・ポップ・フランセ
- ・オペラ・ロック

授業計画

01. ガイダンス / フランスの音楽事情について / ライブコンサートのDVDを鑑賞
02. ライブコンサートを鑑賞し、その中からテキスト曲を指定(Voulzyの曲を予定)。
歌詞テキストを読み、内容について考察する。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(Amel BentのR&Bを予定)。
- 03.
04. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(Noahのレゲエを予定)。
05. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(G. Blancの曲を予定)。
06. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキストを指定(Manauのケルト神話のラップを予定)。
07. 歌詞テキストの読解。人気アーティストから、テキストを指定(Tina Arenaの曲を予定)。
08. 歌詞テキストの読解。レゲエ歌手を紹介。テキストを指定。
09. 歌詞テキストの読解。ミュージカルを鑑賞。
10. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(1)。
11. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(2)。
12. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(3)。
13. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(4)。
14. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(5)。
15. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(6)。
16. ミュージカル1全編を鑑賞し、内容について話し合い、感想を提出する。
17. 夏の音楽祭のライブコンサートを見て、歌詞テキストを読む(1)
18. 夏の音楽祭のライブコンサートを見て、歌詞テキストを読む(2)
19. ミュージカルの希望が多ければ、ミュージカル2を鑑賞。さもなければポップスを紹介。
20. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(1)。
21. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(2)。
22. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(3)。
23. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(4)。
24. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(5)。
25. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(6)。
26. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(7)。
27. 人気アーティストの紹介。その歌詞テキストを読解する(1)。
28. 人気アーティストの紹介。その歌詞テキストを読解する(2)。
29. まとめ(予備日)
30. まとめ(予備日)

準備学習(予習)

1回の授業で読む歌詞テキストの量は、詩形式で15行くらいです。予定の曲を歌詞を見ながらyoutube等でなんども聴き、予習指定した箇所の新出の単語を辞書で調べておいてください。

準備学習(復習)

復習用に練習問題のプリントを配布します。自習用に役立ててください。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 授業への参加度、授業態度など |
| (2) 発表点 | 40% | 指定箇所の音読と訳の発表 |
| (3) 課題の提出状況 | 20% | 宿題など、課題の提出状況を考慮します。 |

教科書

歌詞等の テキストをプリントして配布します。それには、読みやすいように単語、表現等の注を多くつけてあります。

参考書

特にありませんが、プリントした歌詞を見ながらyoutube等で何度も聴いてください。

担当教員：清水 威能子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1A805750

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

今日では、外国語でのコミュニケーション能力や情報活用能力を養うことにより、将来の選択肢が広がります。この授業は、そのようなドイツ語の運用力の修得を目指します。さらに、異文化の理解を深め、グローバルな視点で国際的な問題について考察できることも目標とします。

(2) 内容

ドイツ語ⅠとⅡの内容を復習しながら、前半は、映画などを用い、場面に応じた実用的なコミュニケーションの練習を行います。後半は、さまざまなテキスト（グリム童話や『アルプスの少女ハイジ』の原作の一部、ドイツの習慣についてのテキスト、インターネット上の文章など）で読解練習を行います。また、希望者がいれば、留学や検定試験の対策も行います。最後に、グループあるいは個人で、ドイツ語圏の現代事情について（できれば、ドイツ語のサイトから情報を集め）発表してもらい、情報を共有します。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加して下さい。

学びのキーワード

- ・ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス）
- ・言語と文化

授業計画

01. ガイダンス（これからの学習とドイツ語圏の国について）
02. 会話とリスニングの練習(1) <さまざまな挨拶表現>
03. 会話とリスニングの練習(2) <自己紹介と人を紹介する>
04. 会話とリスニングの練習(3) <互いの好みを話す、食に関する表現>
05. 会話とリスニングの練習(4) <買い物での表現>
06. 会話とリスニングの練習(5) <一日の出来事を伝える表現>
07. 会話とリスニングの練習(6) <レストランでの表現>
08. 会話とリスニングの練習(7) <道案内についての表現>
09. 会話とリスニングの練習(8) <天候についての表現>
10. 映画を通して、ドイツの日常表現と文化を学ぶ
11. 会話とリスニングの練習(9) <プレゼントについての表現>
12. 会話とリスニングの練習(10) <体調についての表現>
13. 会話とリスニングの練習(11) <受動態を使う日常表現>
14. 会話とリスニングの練習(12) <非現実の願望の表現>
15. 会話とリスニングの練習(13) <丁寧語の表現>
16. 映画を通して、ドイツの日常表現と現代事情を学ぶ
17. 読解練習(1) <グリム童話1>、発表の準備
18. 読解練習(2) <グリム童話2>
19. 読解練習(3) <ドイツの新聞・雑誌の記事1>
20. 読解練習(4) <ドイツの新聞・雑誌の記事2>
21. 読解練習(5) <ドイツ語圏の家庭での習慣>
22. 読解練習(6) <ドイツ人の音に対する意識>
23. ドイツ語圏の現代事情についての発表(1)
24. ドイツ語圏の現代事情についての発表(2)
25. 読解練習(7) <ドイツ語圏の食事の作法>
26. 読解練習(8) <ドイツ人のおもてなし>
27. 読解練習(9) <日独の個人主義と集団的意識>
28. 読解練習(10) <『アルプスの少女ハイジ』の原作1>
29. 読解練習(11) <『アルプスの少女ハイジ』の原作2>
30. これまでの復習と理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の指示に従い、プリントの文章を読んでおくこと。

準備学習(復習)

前回の授業の要点をノートで確認し、基本表現を覚えること。

評価方法

- | | |
|------------------------|------------------------|
| (1) 授業時の課題達成度などの積極的な姿勢 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 期末試験 | 30% 期末試験の解説は、試験後に行います。 |

上記の「学びの目標」に従い、|1 日常生活において、ドイツ語でコミュニケーションがとれる|2 ドイツ語で情報を収集し、活用できる|3 ドイツ語圏の現代事情について説明できる|という点を判断し評価します。

教科書

プリントを配布します。

参考書

授業時に紹介します。

担当教員： 澁井 とし子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 授業コード： 1A805860

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性： 社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

就職してからも語学研修や海外旅行で英語を使う機会が増えているが、社会に出てから「日常生活のいろいろな場面で使う適切な表現を知らないで困る」ことが多いようである。そのため、本授業ではすぐに役立つ15のスキットを中心に学習者に必要とされるスキルを身につけることを目標とし、タスクを中心に英語表現を学んでいく。| 各レッスンとも自然な言語習得を目標とし、リスニングによるインプットからスピーキングによるアウトプットに効果的につながるようにしていく。そして、就職してから益々求められる「コミュニケーション力」及び、「パブリックスピーキング力（人前での発表力）」を養うことを最終的な目標とする。

(2) 内容

Listening 1, 2, 3の3段階のリスニング活動を行い、大筋の理解から段階的に細部の理解を目指す。ここでは、各レッスンでターゲットとなる表現を音によってインプットする。その後、Communication Rulesの部分でターゲットとなる表現に関して、その機能面と使われる状況を確認する。Speaking Practiceの部分で、リスニングで学んだ表現を実際の状況の中で使い、疑似体験を楽しむ。また、日本人が疑問に思う、英語圏のしきたりや社会制度そして考え方についても学んでいく。| 時にはトピックに関してディスカッションを行い、自分の考えをまとめる5行ライティングも行っていく。学期の最後にはプレゼンテーションを行い、人前での発表経験を積む。

受講者に対する要望

日常会話を自分の言葉で話せるようになるために、毎回しっかりと発話練習を行い、ペアワーク・グループワークには、積極的に臨んでください。また、自分の考えを述べられるようになるために、ディスカッションや5行ライティングを行いますので、トピックに関して、どう思うのかを深く考える習慣をつけましょう。| 間違えてもいいので、自分の考えを人に伝えてみよう、英語を話してみようというチャレンジ精神をもって授業に取り組んでほしいです。

学びのキーワード

- ・ リスニング
- ・ スピーキング
- ・ ディスカッション
- ・ 5行ライティング
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. Lesson1 Greetings
03. Lesson 2 Asking for Directions
04. Lesson 3 Requesting Information
05. Lesson 4 Making Things Clear ①
06. Lesson 4 Making Things Clear ②
07. Lesson 5 Explaining What's Wrong ①
08. Lesson 5 Explaining What's Wrong ②
09. Lesson 6 Going for a Job Interview ①
10. Lesson 6 Going for a Job Interview ②
11. Lesson 7 Making a Phone Call ①
12. Lesson 7 Making a Phone Call ②
13. Lesson 8 Reporting Emergencies (1) ①
14. Lesson 8 Reporting Emergencies (1) ②
15. Lesson 9 Reporting Emergencies (2) ①
16. Lesson 9 Reporting Emergencies (2) ②
17. Lesson 10 Getting Invited to a Party ①
18. Lesson 10 Getting Invited to a Party ②
19. Lesson 11 Making Complaints ①
20. Lesson 11 Making Complaints ②
21. Lesson 12 Asking a Favor ①
22. Lesson 12 Asking a Favor ②
23. Lesson 13 Comparing Things ①
24. Lesson 13 Comparing Things ②
25. Lesson 14 Giving Opinions (1) ①
26. Lesson 14 Giving Opinions (1) ②
27. Lesson 15 Giving Opinions (2) ①
28. Lesson 15 Giving Opinions (2) ②
29. プレゼンテーション
30. まとめ

準備学習(予習)

各レッスンの“Communication Rules”を事前に読んでおくこと。|また、各レッスンで扱うトピックについて、自分はどう思うのか（賛成か反対か）、そしてその理由が述べられるように自分の考えを整理しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ表現や単語、授業内容を振り返り、しっかりと自分のものにできるよう復習を行うこと。|授業で扱ったスキットのCDを何度も聞いて、表現を口に出して練習し、自分の言葉として話せるようにすること。|5行ライティングを行った場合には、その内容を見直し、しっかりとした英文を書けるように復習すること。。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 20% |
| (2) ライティング | 20% |
| (3) プレゼンテーション | 20% |
| (4) 期末試験 | 40% |

教科書

『Daily English - To Be a Good Communicator ビデオで学ぶ日常英会話』 小野田 栄・Noel Gosman 著 (金星堂) ISBN978-4-7647-3742-6

参考書

武藤 克彦 (著), 荒井 貴和 (著), 吉田 研作 (監修, 監修) 『起きてから寝るまで英語表現700 オフィス編』

担当教員： 櫻井 智美

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 授業コード： 1A805970

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性： 社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

国際社会において、英語の需要は益々高まっている。異文化を理解し受け入れる柔軟な態度や、世界とコミュニケーションを図ることができる能力が必要とされている。これは日本の会社でも例外ではない。| この授業では、リスニング力とリーディング力を強化し、会話力の向上へつなげていくことを目標とする。職場で良く使われる簡単に基礎的な英語表現を習得し、的確に失礼のない対応ができることを目指す。

(2) 内容

将来会社で遭遇するであろう場面を設定し、その各場面で必要とされる英語の知識とスキルを身につけると共に、日本で就職活動を行う際の知識やビジネスマナーにも触れる。具体的には就職活動で必要とされる履歴書の書き方や面接、そして入社してからの電話対応など、学生である主人公の物語に沿って学習する。また、簡単なビジネスレターやメールの作成にも取り組む。| リスニングとリーディング、会話を中心にスキルアップを目指し、会話においては基本的な表現のビジネス・コミュニケーションについてペアワークやグループワークを交えながら習得する。|

受講者に対する要望

授業への積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・ 就職
- ・ ビジネス
- ・ リスニング
- ・ 英会話
- ・ リーディング

授業計画

01. ガイダンス
02. 就職活動1： 履歴書を書く①
03. 就職活動1： 履歴書を書く②
04. 就職活動2： 就職申し込みの手紙を書く①
05. 就職活動2： 就職申し込みの手紙を書く②
06. 就職活動3： 面接の手はずを整える①
07. 就職活動3： 面接の手はずを整える②
08. 就職活動4： 面接①
09. 就職活動4： 面接②
10. 採用通知①
11. 採用通知②
12. 入社日①
13. 入社日②
14. ふりかえり1
15. ふりかえり2
16. 仕事への準備①
17. 仕事への準備②
18. 電話1： 電話に対応する①
19. 電話1： 電話に対応する②
20. 電話2： 伝言を受ける①
21. 電話2： 伝言を受ける②
22. 電話3： 面会の予約をする①
23. 電話3： 面会の予約をする②
24. 顧客を訪ねる①
25. 顧客を訪ねる②
26. 訪問者の受け入れ①
27. 訪問者の受け入れ②
28. プレゼンテーション
29. プレゼンテーション・復習
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で次回の予告をするので、予告された内容に目を通すこと。

準備学習(復習)

毎回単語のクイズを行うので、授業で学んだ単語や熟語を復習すること。

評価方法

(1) 平常点	25%
(2) プレゼンテーション	25%
(3) 中間試験	25%
(4) 期末試験	25%

教科書

城由紀子『やさしいオフィス英語』(成美堂)【978-4791947119】

参考書

担当教員：東 仁美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A806040

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. TOEICテストの出題傾向と内容を知り、TOEIC受験の準備を進めていく。|2. 自分の英語力を自己診断し、自分に合った英語学習方法を見つける。|3. 英語学習への意欲を高め、英語学習の習慣を身に付ける。

(2) 内容

TOEIC400点～500点取得を目標とする学生を対象とする。英語の基礎力を育成し、自律した学習者になれるよう、英語の勉強の仕方についてもトレーニングをする。TOEICテストで出題されるテーマごとにリーディング・リスニングの問題を扱う。小テストを通して単語力をつけ、テスト形式に慣れることを主眼に置いて、6月のTOEIC受験を目指す。

受講者に対する要望

1. 積極的に授業に参加すること。2. 単語クイズ、中間試験、期末試験のために時間をかけてテスト勉強をすること。3. 6月のTOEIC-IPを受験すること。

学びのキーワード

- ・ TOEIC-IP
- ・ 語彙習得
- ・ 自律学習

授業計画

01. オリエンテーション、TOEIC模擬試験
02. Unit 1 Daily Life 1
03. Unit 1 Daily Life 2
04. Unit 2 Places 1
05. Unit 2 Places 2
06. Unit 3 People 1
07. Unit 3 People 2
08. Unit 4 Travel 1
09. Unit 4 Travel 2
10. Unit 5 Business 1
11. Unit 5 Business 2
12. Unit 6 Office 1
13. Unit 6 Office 2
14. 復習 中間試験
15. Unit 7 Technology 1
16. Unit 7 Technology 2
17. Unit 8 Personnel 1
18. Unit 8 Personnel 2
19. Unit 9 Management 1
20. Unit 9 Management 2
21. Unit 10 Purchasing 1
22. Unit 10 Purchasing 2
23. Unit 11 Finances 1
24. Unit 11 Finances 1
25. Unit 11 Finances 2
26. Unit 12 Media 1
27. Unit 12 Media 2
28. Unit 13 Entertainment 1
29. Unit 13 Entertainment 2
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

テキスト巻末のリスニング課題をやってくること。

準備学習(復習)

テキストの各ユニット終了後に単語リストを復習すること。

評価方法

(1) 授業への参加度	30%
(2) 単語クイズ	25%
(3) 中間試験	20%
(4) 期末試験	20%
(5) TOEIC-IP受験	5%

教科書

水本 真, Mark D. stafford, Mark D. stafford 『SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST INTRO』(桐原書店) [978-434252656]

参考書

担当教員：森 容子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A806541

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. TOEICの出題形式と内容を知ること。| 2. TOEICの攻略法。| 3. 毎日の英語学習を習慣づける。| 4. TOEIC400~500を目指す。|

(2) 内容

TOEICの試験は受けてみたいが、英語はちょっと不得意、どの様に勉強したらよいか全く見当もつかない、と思っている学生向けの授業です。授業では、実用面を重視しながら、英語の基礎固めをしていきます。英語の実力は、必ず勉強した時間に比例して伸びていきます。ですから受講中は、できるだけ英語のシャワーを浴びていただいて、英語学習を日常生活のルーティンに取り入れていただけるよう指導していくと同時に、TOEICで少しでも得点が取れるように攻略法も学習していきます。|

受講者に対する要望

1. 授業を休まないこと。| 2. 一日に英語勉強時間ゼロの日を作らないこと。| 3. 授業中は必ず英和辞典を持参すること。| 4. TOEIC-IPを受験すること。|

学びのキーワード

- ・語彙力
- ・繰り返し学習
- ・スキミング
- ・5文型と品詞

授業計画

01. オリエンテーション
02. TOEIC模擬試験
03. リスニング攻略法
04. Unit 1：リスニング写真描写問題
05. Unit 2：リスニング応答問題
06. Unit 3：否定疑問文と付加疑問文
07. リスニング応答問題
08. Unit 4：リスニング会話問題
09. Unit 5：リスニング会話問題
10. 小テストと解説
11. リスニング問題 (1)
12. リスニング問題 (2)
13. リスニング問題 (3)
14. リスニング問題 (4)
15. 文法・語彙問題攻略法
16. Unit 6：品詞と動詞の時制
17. Unit 7：単語とイディオム
18. 文法・語彙問題 (1)
19. 文法・語彙問題 (2)
20. 文法・語彙問題 (3)
21. 小テストと解説
22. 読解問題攻略法
23. Unit 8：広告・サービス・告知の文章
24. Unit 9：手紙・その他の文章
25. 読解問題 (1)
26. 読解問題 (2)
27. 読解問題 (3)
28. 実践テスト
29. 実践テストの解説
30. 今までの総復習

準備学習(予習)

次の授業のテキスト問題を、前もって1回は解いておくこと。リーディング部門に関しては、必ず解答時間を意識すること。

準備学習(復習)

授業で学んで、できなかった単語や熟語、文法事項は必ず、毎回ノートにまとめて、時間を置いて何回も復習すること。聞きとれなかった部分は、理解できるようになるまで何度も繰り返し聴く。その時ディクテーションや音読を取り入れると効果的。

評価方法

(1) 授業への参加度	15%
(2) 小テスト	30%
(3) 期末試験	50%
(4) TOEIC-IP	5%

TOEIC-IPテストも評価対象ですから必ず学期内に受験してください。

教科書

Educational Testing Service 『TOEIC Bridge 公式ワークブック』(国際ビジネスコミュニケーション協会) [978-490603393]

参考書

総合英語フォレスト「Forest」 桐原書店

担当教員： 澁井 とし子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 授業コード： 1A807042

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性： 社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

2016年5月からTOEICテストの試験形式と内容が改訂されました。その新形式に対応したテストのスコアを上げることを目標としています。形式や内容が変わっても、英語の基礎としての単語と文法、英語コミュニケーションのスコアを上げることが容易でないことには変わりはありません。授業では、英語力全体をアップすることで、新形式に対応していきます。

(2) 内容

TOEICテストの問題に慣れ、スコアアップのためのコツを身に付けることを目的として総合的な対策を行います。必要に応じ、英語コミュニケーション能力の基礎となる、英単語や英文法の基礎的な知識を確認します。2回の講義で1ユニットをカバーします。授業では、①リスニングの答え合わせ、再度リスニング問題を聞いて、スクリプトの穴埋めを行います。②リーディングの答え合わせと解き方の解説を行います。

受講者に対する要望

毎回扱う語彙をコツコツと覚えてください。＜br/>6月に実施されるTOEIC-IPは、必ず受験してください。

学びのキーワード

- ・ リスニング
- ・ リーディング
- ・ ディクテーション
- ・ シャドーイング

授業計画

01. オリエンテーション
02. Unit 1 Airport
03. Unit 1 Airport
04. Unit 2 Train Station 単語クイズ①
05. Unit 2 Train Station
06. Unit 3 Department Store 単語クイズ② 小テスト①
07. Unit 3 Department Store
08. Unit 4 Restaurant 単語クイズ③
09. Unit 4 Restaurant
10. Unit 5 Hotel 単語クイズ④ 小テスト②
11. Unit 5 Hotel
12. Unit 6 Hospital 単語クイズ⑤
13. Unit 6 Hospital
14. Unit 7 Bank 単語クイズ⑥ 小テスト③
15. Unit 7 Bank
16. Unit 8 Workplace 単語クイズ⑦
17. Unit 8 Workplace
18. Unit 9 Fitness Club 単語クイズ⑧ 小テスト④
19. Unit 9 Fitness Club
20. Unit 10 Sightseeing 単語クイズ⑨
21. Unit 10 Sightseeing
22. Unit 11 International Conference 単語クイズ⑩ 小テスト⑤
23. Unit 11 International Conference
24. Unit 12 Computer Society 単語クイズ⑪
25. Unit 12 Computer Society
26. Unit 13 Employment 単語クイズ⑫ 小テスト⑥
27. Unit 13 Employment
28. Unit 14 Job Training
29. Unit 12 Job Training
30. まとめ

準備学習(予習)

次に行うテキストのユニット（リスニングとリーディング）を全て解いてくること。（答え合わせは、授業中に行います。）

準備学習(復習)

①授業で扱ったユニットの新出単語を覚えること。|②授業で扱ったリスニングのスクリプトを見直し、音読をすること。|③授業で学んだ内容を整理して、わからない点は次回の授業で聞けるようにすること。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 10% |
| (2) 単語クイズ | 30% |
| (3) 小テスト | 30% |
| (4) 定期試験 | 25% |
| (5) TOEIC IP テスト | 5% |

遅刻は3回すると、1回の欠席とみなします。

教科書

石井隆之、岩田雅彦、山口修、松村優子、Joe Ciunci 『FALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC TEST』 TOEIC LISTENING AND READING TEST オールパワフル演習 | (成美堂) [978-4-7919-6029-3] | LISTENING AND READING

参考書

担当教員：森 容子

学期：秋学期 科目：選択科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1A807543

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

TOEICテストの攻略法をつかみ、TOEICテスト500点数以上を目指します。ビジネスでよく使われる英単語や熟語、英語表現を習得できます。TOEICの勉強は、テスト準備にとどまらず、将来、実践の場においても使えるリスニング力・リーディング力の向上の手助けになります。|

(2) 内容

この授業は、TOEICテスト500点以上を目指している学生に適しています。TOEIC形式のテスト問題に多くあたることにより、英語力アップするだけでなく、テストの傾向や英語のナチュラルスピードにも慣れるよう訓練します。こうした学習の積み重ねと、得点のコツを学習することで、TOEICテストにおいての高得点が期待できます。英文読解に関しては、限られた時間内で、長文の中から答えを選べるように、必要な情報を文章の中から探し出すスキニング能力も養っていきます。|

受講者に対する要望

1. 授業を休まないこと。| 2. 一日に英語勉強時間ゼロの日を作らないこと。| 3. 授業中は必ず英和辞典を持参すること。| 4. TOEIC-IPを受験すること。|

学びのキーワード

- ・ 語彙力
- ・ 繰り返し学習
- ・ スキニング
- ・ 5文型と品詞

授業計画

01. オリエンテーション
02. インターネとの視聴覚教材を使用しての英語学習
03. リスニング攻略法
04. リスニング問題 (1)
05. リスニング問題 (2)
06. リスニング問題 (3)
07. 語彙の覚え方
08. 文法問題攻略法
09. 文法・語彙問題 (1)
10. 文法・語彙問題 (2)
11. 文法・語彙問題 (3)
12. リーディング問題攻略法
13. リーディング問題 (1)
14. リーディング問題 (2)
15. リーディング問題 (3)
16. テキスト 第1回 模擬試験
17. 模擬試験の解説 (1)
18. 模擬試験の解説 (2)
19. 把握度チェックテスト
20. コンピュータを使つての英語学習
21. テキスト 第2回 模擬試験
22. 模擬試験の解説 (1)
23. 模擬試験の解説 (2)
24. 把握度チェックテスト
25. テキスト 第3回 模擬試験
26. 模擬試験の解説 (1)
27. 模擬試験の解説 (2)
28. 把握度チェックテスト
29. 今学期のまとめと確認
30. 今までの総復習

準備学習(予習)

次の授業のテキスト問題を、前もって1回は解いておくこと。リーディング部門に関しては、必ず解答時間を意識すること。

準備学習(復習)

授業で学んで、できなかった単語や熟語、文法事項は必ず、毎回ノートにまとめて、時間を置いて何回も復習すること。聞きとれなかった部分は、理解できるようになるまで何度も繰り返し聴く。その時ディクテーションや音読を取り入れると効果的。

評価方法

(1) 授業への参加度	15%
(2) 単語テスト	30%
(3) 定期試験	50%
(4) TOEIC-IP受験	5%

評価対象は定期試験のみではないので、毎回の授業に欠席しないで、授業中もおしゃべりしたり眠ったりしないで、真剣に授業に臨んでください。またTOEIC-IPテストも対象になっていますので、学期中に必ず受けて、ください。

教科書

Educational Testing Service 『TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編』(国際ビジネスコミュニケーション協会)

参考書

総合英語フォレスト「Forest」 桐原書店|

担当教員：川島 安博

学期：春学期 科目：選択科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A901010

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

本科目では、講義を介して「出版編集」の初歩について学ぶとともに、その学びを雑誌原稿執筆などの実習によって理解を深めていくことを受講者に期待している。|また、受講者には、出版物をつくり出すための取材、原稿の執筆と校正などを実践的に学ばなかで、「編集」を含めた仕事全般で必要な能力（例えば前に踏み出し、考え抜き、チームで働く力など）を養ってほしい。

(2) 内容

本科目は、私たちが日ごろ手にする出版物（書籍や雑誌）をつくり出している「出版編集」の初歩について学んでいく。講義内容としては、出版物の企画に始まり、取材、原稿執筆と整理、校正・校閲、デザインや印刷など一連の制作過程について概説するとともに、著作権問題や流通、電子書籍の現状など出版編集に関わる事項についても取り扱う。|また、受講者個々で実際に雑誌原稿を執筆するなどして、出版編集を実践的に学ぶことを目指す。

受講者に対する要望

実習的な側面があるので、遅刻・早退は原則認めない。

学びのキーワード

- ・ 出版
- ・ 編集

授業計画

01. オリエンテーション
02. 編集者の仕事とは何か 4つの役割
03. 企画を立てる① 企画立案のための3要点
04. 企画を立てる② 企画の3T
05. 企画を立てる③ 企画書の書き方
06. 取材を行う① 取材の意味、取材依頼とミーティング
07. 取材を行う② 取材準備
08. 取材を行う③ インタビュー
09. 取材を行う④ 取材をもとに原稿執筆の準備
10. 原稿の書き方① リードとキャプション、媒体の特性
11. 原稿の書き方② 文章の基本5W1H
12. 原稿の書き方③ 読んでもらうための工夫
13. 原稿整理と校正・校閲① 原稿整理の基本、文体の統一、漢字使用
14. 原稿整理と校正・校閲② かな遣い、送りがな、数字・外来語の表記、ルビ
15. 原稿整理と校正・校閲③ 単位記号の表記、差別語の扱い、約物
16. 原稿整理と校正・校閲④ 校正の進め方と校正記号、タテ組校正
17. 原稿整理と校正・校閲⑤ ヨコ組校正、校閲
18. デザインする① 本の外見を考える、本やページのつくり
19. デザインする② 台割、デザインフォーマット、書体
20. デザインする③ 写真、カバーデザイン、紙選び
21. 印刷する① 印刷の基礎知識
22. 印刷する② 印刷の流れ
23. 著作権を知る① 著作権とは何か
24. 著作権を知る② 出版契約
25. 著作権を知る③ 引用の考え方
26. 出版流通を知る① 取次までの流れ
27. 出版流通を知る② 委託、書誌情報
28. 電子書籍の現状と未来① 電子書籍とは何か
29. 電子書籍の現状と未来② 電子書籍の売買
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画で明示している項目について、テキストを熟読し、理解を深めておくこと。また、テキストで興味・関心ある項目については自主的に読み進めてほしい。

準備学習(復習)

授業回ごと学習内容を復習し、参考にすべき文献・資料があれば目を通しておく。授業時間外にも作業を行う場合あり。

評価方法

(1) 授業への姿勢	20%
(2) 課題提出	50%
(3) 期末レポート	30%

教科書

編集の学校/文章の学校監修『Editor's Handbook 編集者・ライターのための必修基礎知識』雷鳥社、2015年|また、授業時に別途資料を配付する。

参考書

編集の学校監修『1週間マスター 編集をするための基礎メソッド』雷鳥社、2003年|また、授業時に必要に応じて別途指示する。

担当教員： 関根 清三

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1A902610

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

欧米の精神史の根底には、ヘレニズムとヘブライズムという2つの潮流が流れている。これをギリシア、ヘブライの源流にまでさかのぼって学ぶことは、欧米の思想、歴史、文学、芸術、政治、経済、社会、心理等々を研究対象とする全ての人にとって、正確に、また深く、対象を理解するためどうしても不可欠なことである。本講義は隔年で、ギリシアとヘブライの思想の源流を探ることを課題としている。昨年は特にギリシアの理知的な哲学を学ぶことによって、物を考えるということはどういうことか、知見を磨いたが、今年度はヘブライの宗教倫理に焦点をあわせることによって、ヨーロッパ思想の根幹となるもう1つの側面を探求してみたい。

(2) 内容

《古代ヘブライの思想》|ヨーロッパ思想の源流にある、古代ヘブライ思想はどのように始まりいかに展開し、そしてどのような本質をもって、欧米の精神史に影響を与えてきたのか、その展開と本質について考察する。基本となるテキストは旧約聖書であり、これは律法・預言者・諸書の3部に分かれる。律法からは、今年度は特に契約の書、申命記法と神聖法典を取り上げ、預言者ではイザヤ、第二イザヤ、第三イザヤの系譜をたどる。また諸書からは、箴言、ヨブ記、コーヘレス書を論じたい。特に箴言の徳目論は、昨年度ギリシアの講義で扱ったアリストテレス『ニコマコス倫理学』と比較して論ずる。もって昨年度から引き続きの聴講者には昨年度講義とのつなぎとし、ギリシア・ヘブライの比較の一定の視座を提供したいが、今年度初めて聴講するのでも、ひとまとまりで分かるように講義する。

受講者に対する要望

古代ヘブライ人の思考と経験を、現代に生きる自分の問題と照らし合わせて、学び考えてほしい。

学びのキーワード

- ・ 知への愛
- ・ 驚き
- ・ 愛と義
- ・ 贖罪思想
- ・ ニヒリズムと現代の思想的状況

授業計画

01. 序論
02. 法集成（1）：契約の書
03. 法集成（2）：申命記法と神聖法典
04. 前期知恵文書：箴言（1）
05. 前期知恵文書：箴言（2）
06. 後期知恵文書：ヨブ記（1）
07. 後期知恵文書：ヨブ記（2）
08. コーヘレス書とニヒリズム（1）
09. コーヘレス書とニヒリズム（2）
10. イザヤ書の頑迷預言
11. イザヤ書の罪理解
12. 第二イザヤ書の贖罪思想
13. 第三イザヤ書の救済理解
14. ヘブライ思想における愛と正義
15. ヘブライとギリシアにおける驚き

準備学習(予習)

特に必要はない。

準備学習(復習)

参考書と読み比べて、講義の主要な論点は何だったかを纏めること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

講義が一段落したところで何回か、理解度をチェックする短いレポートを時間内に課す。しかし80%は期末試験の成績で評価する。

教科書

参考書

関根清三『ギリシア・ヘブライの倫理思想』（東大出版会）【978-4130120593】

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1AA01301

学部教育の関連目

【全】大学院レベルの内容を持った講義で学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする。【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学院研究科での学びの目標には、専門的な自らの課題を深めることと共に、人文的教養と視野をひろげることも重要な要素としてある。欧米文化のみならず、アメリカ・ヨーロッパから学んだ研究方法のもとで培われた日本文化研究の視点や研究をも入れ、一つの主題を追う形で、研究の最前線を学ぶ。

(2) 内容

アメリカ、ヨーロッパ、日本それぞれの文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視野のなかで大局的に理解するための研究入門となる講義を目指している。文化研の担当教員が1回ないし2回ずつ、それぞれの分野の基本的なテーマについて、研究の視点、研究の意義、研究の方法等に触れながら講義する。(コーディネーター:清水均)

受講者に対する要望

期末レポートは大学院での研究論文の基礎となるものであるため、聖学院大学大学院の規矩にかなった形式を心がけるように要望する。

学びのキーワード

- ・人文学・研究方法
- ・アメリカ文化
- ・ヨーロッパ文化
- ・日本文化
- ・比較思想・比較文化

授業計画

01. 清水均：このオムニバス形式の講義の全体的な目的や構成についてのオリエンテーションを兼ねた回となる。また、担当者の研究分野から、日本における「文化」概念の成立について触れる。
02. 清水 均：近代日本における「文化」概念の成立
03. 村松晋：近代日本のキリスト教 (1)
04. 村松晋：近代日本のキリスト教 (2)
05. 氏家理恵：英米文学とキリスト教
06. 稲田敦子：イギリス文化の両義性ー自由のあり方をめぐって
07. 森田美千代：19世紀アメリカのキリスト教と文化 (1)
08. 森田美千代：19世紀アメリカのキリスト教と文化 (2)
09. 高橋義文：アメリカの宗教ー建国期
10. 高橋義文：アメリカの宗教ー現代
11. 関根清三：旧新約聖書の根本問題 (1)
12. 関根清三：旧新約聖書の根本問題 (2)
13. 片柳榮一：近代を切り開いたルターの良心概念
14. 片柳榮一：近代民主主義
15. 清水正之：この講義全体の意味を、あらためて振り返る。また講義を通じた最終レポートの要領の指示や、締切、枚数についての指示を行う。

準備学習(予習)

予告及び指定されたテキストを前もって読んでおくこと。

準備学習(復習)

各回に提示された論点を整理しまとめる小レポートを作成する。

評価方法

- | | | |
|----------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への積極的な参加、問題意識。 | 50% | 授業への意欲的な取り組みの評価 |
| (2) 期末レポートの完成度、問題提起力 | 50% | 期末レポートの完成度と問題提起力につき |

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて各回の授業の中で指示される。

専門演習(キリスト教文化)Ⅰ

EACL-A-200

担当教員：E. D. オズバーン

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX00200

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教の理解を深めると同時に、クラスのディスカッションにおいて自己表現の経験を通して、学生自身の自己内面探求を大きな目標とします。

(2) 内容

1. 内容：この講義は、生徒のキリスト教信仰の教義の理解をより深めると共に、また、聖書の教えがどのようにそれぞれの人生にかかわるものであるかを思考してゆくものです。「人生の意義とは」、「この世での自己の存在の意味とは」、あるいは、「幸福とは」といった現実的疑問をキリスト教的観点より話し合います(討論します)。聖書参照、また、全四肢なく生まれながらも充実し意義深い人生を歩んでいるオーストラリア人のニック・ブイチチ著より彼の人生とその証しを参照します。||

受講者に対する要望

この講義は日本語と英語によって行われます。必然的に学生の英語力は向上されますが、講義の第一焦点は講義内容にあります。

学びのキーワード

- ・キリスト教
- ・人生
- ・夢

授業計画

01. イントロダクション
02. 一般的世界観とは何か?
03. キリスト教的世界観 I
04. キリスト教的世界観 II
05. 聖書と貴方／あなた (現実的生活) I
06. 聖書と貴方／あなた (現実的生活) II
07. 聖書と貴方／あなた (現実的生活) III
08. ディスカッション ブイチチ著書 I
09. ディスカッション ブイチチ著書 II
10. ディスカッション ブイチチ著書 III
11. ディスカッション ブイチチ著書 IV
12. ディスカッション ブイチチ著書 V
13. ディスカッション ブイチチ著書 VI
14. ブイチチの人生の原理 /道義、信念、基礎
15. 期末レポート

準備学習(予習)

既定の読書宿題を終え、講義の内のクラスディスカッションにおいて積極的参加を期待します。

準備学習(復習)

学生はクラスディスカッションのその日の内容を復習し、個人の生活・人生にどのように関係付けられるかを熟考し、まとめておくこと、尚、次回のクラスにおいて明確に述べられることを期待されます。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 授講参加態度 | 30% |
| (3) 読書レポート | 15% |
| (4) 期末レポート | 25% |

教科書

ニック ブイチチ『それでも僕の人生は「希望」でいっぱい』(三笠書房) [978-4837957263]

参考書

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1AX00310

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

学びの意義と目標：世界におけるキリスト教の影響力の深層理解を提供することが第一目標です。また、この講義に関連するトピックにおいてのプレゼンテーションと研究論文の準備行程を学ぶ場でもあります。

(2) 内容

1. 内容：この講義は専門演習(キリスト教文化)Iの履修後に基づき続く講義です。イエス・キリストそしてキリスト教が世界にもたらした道徳、倫理、自由と民主主義、女性の地位向上、慈善事業、また大衆文化(美術、音楽、文学、テレビ・映画等)に深い影響を探究していきます。特定の焦点としてイエスの教えに強く影響を受けた、レンブラント、トルストイ、ドストエフスキー、新渡戸稲造、ガンジー、マザー・テレサ、またマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師等の歴史的人物をあげ検討します。||

受講者に対する要望

この講義は日本語と英語によって行われます。必然的に学生の英語力は向上されますが、講義の第一焦点は講義内容にあります。

学びのキーワード

- ・ Christianity (キリスト教)
- ・ historical influence (歴史的影響)
- ・ role models (模範的な人)

授業計画

01. イントロダクション
02. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 I
03. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 II
04. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 III
05. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 IV
06. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 V
07. 焦点：レンブラント
08. 焦点：トルストイ
09. 焦点：ドストエフスキー
10. 口頭発表
11. 焦点：新渡戸稲造
12. 焦点：ガンジー
13. 焦点：マーティン・ルーサー・キングJr. 牧師
14. 焦点：マザーテレサ
15. 期末論文

準備学習(予習)

既定の読書を都度終えることと、その読書内容に関してクラス・ディスカッションに積極的参加を期待します。

準備学習(復習)

? 学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

評価方法

(1) 平常点	20%
(2) 受講参加態度	15%
(3) r読書レポート	20%
(4) PPT発表	20%
(5) 期末論文	25%

教科書

フィリップ・ヤンシー『だれも書かなかったイエス』(いのちのことば社)【978-4264016724】

参考書

担当教員：和田 光司

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX00540

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

レジュメの作成、およびプレゼンテーションに慣れる。この段階は入門と位置づける。

(2) 内容

この授業では、「砂糖の世界史」をテキストにし、各学生がその中の中から関心がある部分を選択して発表する。このテキストは現在史学界で注目されている世界システム論の入門書としては最適であり、それにより現代の歴史学の発想方法に触れることができるであろう。

受講者に対する要望

自発性を持って受講すること

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ
- ・歴史
- ・プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション 1
02. オリエンテーション 2
03. オリエンテーション 3
04. 教科書の内容を各自発表 1
05. 教科書の内容を各自発表 2
06. 教科書の内容を各自発表 3
07. 教科書の内容を各自発表 4
08. 教科書の内容を各自発表 5
09. 教科書の内容を各自発表 6
10. 教科書の内容を各自発表 7
11. 教科書の内容を各自発表 8
12. 教科書の内容を各自発表 9
13. 教科書の内容を各自発表 10
14. 教科書の内容を各自発表 11
15. 教科書の内容を各自発表 12

準備学習(予習)

発表者は自分の担当分の発表を準備する。レジュメを作成しリハーサルを行っておく。担当に当たっていない学生は次回該当箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

他学生や教員からのコメントを参考にして、再度レジュメを作り直す。また反省点に注意し、もう一度自分でプレゼンテーションを行ってみること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 授業内発表 | 60% |

教科書

川北 稔『砂糖の世界史 (岩波ジュニア新書)』(岩波書店)【978-4005002764】

参考書

担当教員：和田 光司

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX00650

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

プレゼンテーション技術の向上。相互評価による他者からの批判に柔軟に対応しうる人格性の養成、複史的歴史理解力の養成

(2) 内容

この授業では、専門演習Ⅰの延長線上にプレゼンテーション能力の一層の向上を図る。山川出版社の世界史リブレット叢書から関心のあるものを選び、発表する。また第二次世界大戦についてすでに通達した小テーマから各学生関心がある部分を選択して発表する。同じテーマを様々な角度より眺めることにより、歴史的視点の多様性、重層性を学んでいく。また、専門演習Ⅰからさらに進んで、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力をより発展させる。

受講者に対する要望

主体性をもってプレゼンテーションに取り組んでほしい

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ
- ・歴史
- ・プレゼンテーション
- ・第二次世界大戦

授業計画

01. オリエンテーション 1
02. オリエンテーション 2
03. オリエンテーション 3
04. 各自自分のテーマを発表 1
05. 各自自分のテーマを発表 2
06. 各自自分のテーマを発表 3
07. 各自自分のテーマを発表 4
08. 各自自分のテーマを発表 5
09. 各自自分のテーマを発表 6
10. 各自自分のテーマを発表 7
11. 各自自分のテーマを発表 8
12. 各自自分のテーマを発表 9
13. 各自自分のテーマを発表 10
14. 各自自分のテーマを発表 11
15. 各自自分のテーマを発表 12

準備学習(予習)

自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読み、分析し、レジュメを作成する。発表の前にリハーサルを行う。また第二次世界大戦の通史やTV番組、映画などでこの分野に親しむ。

準備学習(復習)

他学生からの評価をもとに、反省点に注意してレジュメを作成し直す。また同様に自分でもう一度プレゼンテーションを試みる。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 授業内発表 | 60% |

教科書

参考書

担当教員：氏家 理恵

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX02060

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

作品の分析方法を学ぶと同時に、作品を題材とした発表の仕方・レジユメの書き方・レポートの書き方などを身につけることも目的とする。物語の「読み方」を学び、また、その背景にある思想や文化、歴史などについて調べ、考察する力を養う。また、ディスカッションを通して自分の意見を積極的に発言することに慣れ、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高める。

(2) 内容

英米文学作品や文化論からの抜粋を読んだり、映像作品を観たりしながら、物語を「読み」、その作品を生み出した文化や社会について理解を進める。前半は文献購読を中心とし、後半は発表を中心としたディスカッション形式です。事前に決めた担当者に分担部分についてのまとめ・解説・情報・コメントなどを発表してもらい、その後は発表を受けてのディスカッションとなる。なお、取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決定する。

受講者に対する要望

この科目はこれから2年間にわたる〈ゼミ〉の最初のものであるので、それを自覚し、積極的に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文化
- ・ 映像文化
- ・ 物語分析
- ・ 比較文化・比較文学

授業計画

01. イントロダクションーゼミの進め方・役割分担
02. 文学作品・文化を「読む」とは？
03. 発表についてーレジユメ・資料の作り方
04. 文献講読 1
05. 文献講読 2
06. 文献講読 3
07. 文献講読 4
08. 文献講読 5
09. 前半のまとめとゼミ発表のポイント
10. 発表 1
11. 発表 2
12. 発表 3
13. 発表 4
14. 発表 5
15. まとめー専門演習Ⅱに向けて

準備学習(予習)

毎回読む部分の予習は必ずすること。知らない用語・言い回しは調べておくこと。発表にあたっては内容・ポイントをまとめるだけでなく、調べたことも含めて発表レジユメを作成すること。

準備学習(復習)

自分の発表やレポートに活かせるように、授業で学んだ発表のポイント、レジユメ作成やレポート作成のポイントを常にまとめておくこと。

評価方法

(1) 平常点	30%
(2) 課題	20%
(3) 発表	30% レジユメ作成含む
(4) 期末レポート	20%

教科書

参考書

担当教員：氏家 理恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX02170

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習I」では、発表の仕方や発表の仕方を学んだが、IIではさらに調べ物の仕方、引用の仕方、論理的な文章の書き方を学ぶ。専門演習Iで作成したレポートの合評を通して、レポートを書くコツ・読むコツをつかみ、アウトラインを組み立てたり説得力のある文章・表現を身に着けることを目標とするが、同時にディスカッションに慣れることも目標とする。

(2) 内容

前半は「専門演習I」で作成したレポートの合評会とレポート作成に関する文献購読、後半は「専門演習II」に引き続き発表を行う。後半は事前に決めた担当者による発表と、発表を受けてのディスカッションですすめる。担当者は内容のまとめ・調べてきたこと・分析・コメントをレジュメを作成した上で発表する。II

受講者に対する要望

ゼミに積極的に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文化
- ・ 映像文化
- ・ 物語分析
- ・ 比較文化・比較文学

授業計画

01. イントロダクション：レポートの書き方と読み方
02. 専門演習Iレポート合評会 1
03. 専門演習Iレポート合評会 2
04. 専門演習Iレポート合評会 3
05. 専門演習Iレポート合評会 4
06. 専門演習Iレポート合評会 5
07. レポート総評と作成の諸注意
08. 発表 1
09. 発表 2
10. 発表 3
11. 発表 4
12. 発表 5
13. 発表のまとめ・総評
14. 発表総評と分析・考察の諸注意
15. 卒業研究に向けて

準備学習(予習)

合評用のレポート、講読文献、発表資料は事前に読み、授業時には自分の評価やコメントを発言できるように、常に準備しておくこと。発表にあたってはテーマを設定し、問題意識をもって必要な情報を調べ、分析・考察を加えたうえで発表すること。発表レジュメをワープロで作成すること。

準備学習(復習)

合評会や発表を通して確認したレポートの書き方やプレゼンの仕方などのポイントは、今後のレポート作成や発表に生かせるように、必要事項をまとめておくこと。また、合評後は加筆修正したレポートを再提出すること。 |

評価方法

(1) 平常点	30%
(2) 課題	20%
(3) 発表	30% レジュメ作成含む
(4) 期末レポート	20%

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX04490

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童英語教育の基礎的な資料を読み、自分の興味分野への知的好奇心を高めていく。また、プレゼンテーションやグループディスカッションの力もつけていく。

(2) 内容

小学校での外国語活動が必修化され、早期英語教育に対する関心が高まっている。専門演習Ⅰでは、入門書を読み合わせしながら、児童英語教育の理論と実践を学んでいく。英語教育への興味を高めるために、小学校英語に限らず、幼稚園、民間の英語教室、中高の英語の授業の見学などのフィールドワークの課題を課す。また、小グループで英語学習のテーマを決め、自らを学習者のサンプルとしてプロジェクトを遂行することを通して、効果的な英語学習法を考察していく。

受講者に対する要望

ペアやグループでのプロジェクトを通して協同学習の在り方を学んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 小学校英語教育
- ・ 外国語活動必修化
- ・ 学習指導要領
- ・ 早期英語教育
- ・ 小学校英語の教科化

授業計画

01. オリエンテーション
02. ゲーム・物語と子どもたちの外国語学習
03. リズム・ライム・メロディー
04. 早期英語教育の目的
05. 外国語学習者としての子どもたち
06. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング
07. 4技能を伸ばす指導
08. 語彙指導
09. 文法指導
10. 目標とする発音モデル
11. 子どもたちへの発音指導
12. 市販教材の活用
13. 内容中心の指導
14. 子どものための評価
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当箇所を事前に読んでくる。発表担当者はレジュメを作成し、発表の事前指導を受けること。

準備学習(復習)

授業レポートをまとめて、提出する。

評価方法

(1) 出席、授業への貢献	20%
(2) レポート	20%
(3) ブックレビュー	30%
(4) プレゼンテーション	30%

教科書

シーラ・リクソン、小林 美代子、八田 玄二、宮本 弦、山下 千里『チュートリアルで学ぶ新しい「小学校英語」の教え方』(玉川大学出版部)【978-4472404597】

参考書

担当教員：東 仁美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX04500

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究での研究テーマを決めていくプロセスとして、専門演習IIでは小学校英語教育についての知識を深め、自分の興味分野を絞り込んでいく。

(2) 内容

文献の読み合わせをしながら、子どもが英語を学ぶことを理論と実践の両面から考えていく。授業は担当者による発表と活動の紹介の形で進める。発表者はレジメを準備し、事前に決められた分担部分についてのまとめ、解説を行なう。|小学校、幼稚園、民間の英語教室及び中高の英語科の授業を見学するフィールドワークを課題として行い、授業の中で授業見学の報告を行う。|学期中に各自興味のある文献を一冊読み、ブックレビューをまとめる。ブックレビュー集を作成することにより、英語教育の様々な分野の情報交換をし、卒業研究のテーマ決定の題材としていく。

受講者に対する要望

割り当てられた発表は責任を持って取り組むこと。ディスカッションには積極的に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 小学校英語教育
- ・ ブックレビュー
- ・ 英語活動
- ・ 外国語活動

授業計画

01. オリエンテーション
02. グローバル社会の英語教育
03. 第二言語習得理論
04. 第二言語習得のプロセス
05. 日本人の英語学習の問題
06. 言語習得の第一歩：インプット
07. 効果的なインプット
08. 言語知識の自動化：アウトプット
09. 効果的なアウトプット
10. 言語学習をサポートする原動力：動機づけ
11. 動機づけを高める指導法
12. 学習方略： 長期記憶の量を増やす
13. 学習方略： メタ認知をトレーニングする
14. 学習スタイル
15. まとめ、ブックレビュー発表

準備学習(予習)

発表の担当者は事前にレジメを提出し、発表内容について指導を受けること。
テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加すること。

準備学習(復習)

授業見学のレポートには、ハンドアウトなども添付し、クラスで発表できるよう詳細にまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加、貢献 | 40% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

廣森友入『英語学習のメカニズム 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』(大修館書店) [978-4469245990]

参考書

担当教員：D. バーガー

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX04830

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この演習の目的は専門演習Iと同様に、広く信じられている言語に関する誤解をより理解することである。専門演習IIにおいて、英語と日本語の標準変種と標準外の変種（イギリス英語とアメリカ英語や共通語を含む）を比較する。同時に、標準外の言語変種に関する偏見による負の役割を考慮する。

(2) 内容

この演習では言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習Iと同様に、より深く追求することができる。専門演習IIでは、方言と標準語という言語変種、またはなまりについて研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生はそれぞれの課題を研究し、研究発表をすることが求められている。

受講者に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 方言
- ・ 標準語
- ・ イギリス英語
- ・ アメリカ英語
- ・ 言語偏見

授業計画

01. 授業紹介、専門演習IIの課題の紹介：方言と標準語の基本知識
02. 言語と方言の違い；図書館等への検索方法の復習
03. 標準語とは何か
04. 地域方言；リアクションペーパーとは何か
05. 『社会言語学入門』『言語、方言、変種』についてのリアクションペーパー；英語の変種：イギリス英語、アメリカ英語
06. イギリス英語とアメリカ英語の比較
07. 日本語の変種：標準語と共通語；レポート・発表の仕方の復習
08. 日本語の変種：地域方言
09. 英語の変種についての独自の研究発表
10. 言語偏見：「言語的不平等と社会的不平等」に関するディスカッション
11. 言語不安
12. 言語偏見：「They Speak Really Bad English」に関するディスカッション
13. 「They Speak Really Bad English」：アメリカにおける言語偏見
14. 「They Speak Really Bad English」：英語と日本語における言語偏見の比較
15. 専門演習II最終研究レポートの口頭発表

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。

準備学習(復習)

各資料についてのリアクションペーパーや独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。

評価方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) リアクションペーパー | 10% |
| (3) 中案発表のレポートとその口頭発表 | 25% |
| (4) 専門演習II最終研究レポートとその口頭発表 | 40% |

教科書

プリントを配布す

参考書

イ ヨンスク『「国語」という思想—近代日本の言語認識』岩波書店、2012

担当教員： M. サベット

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1AX04960

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】 人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】 人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】 人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】 表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】 表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】 グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】 グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

Students will have a deeper understanding of their own culture while at the same time show respect and understanding for other cultures.

(2) 内容

1. 自らの文化、歴史、社会の基本的要素の知識を深める。 | 2. コミュニケーションとは何か、そして自らの文化や歴史が、どのように人との接し方に影響を与えるかについて理解を深める。 | 3. コミュニケーションと国際理解のバリアについて考える。 | 4. コミュニケーション能力と国際理解の知識、スキル、考え方を身に付けることを目標とする。 | 5. 他の国の人々や文化に理解と尊敬と責任を表す。 |

受講者に対する要望

Class participation and research on assigned topics are required.

学びのキーワード

- ・ Culture
- ・ Communication
- ・ Understanding
- ・ Identity
- ・ Global

授業計画

01. Introduction to the Course
02. Presentation Fundamentals
03. Meaning of culture
04. Meaning of Communication
05. Influence of Culture on Identity
06. Personality Test: Individualistic vs Collective Societies
07. Discrimination and Stereotyping
08. Presentations on Discrimination and Stereotyping
09. Movie: Hafu
10. Discussion on Hafu in Japan
11. Interracial Families
12. Movie: Shallow Hall
13. Movie: Shallow Hall
14. Final Presentation
15. Final Presentation

準備学習(予習)

Students must gather information and data in order to be prepared for discussions in the classroom.

準備学習(復習)

Students will be asked to do further reading and research on topics discussed in the class.

評価方法

(1) Participation	30%
(2) Presentations	40%
(3) Final Report	30%

教科書

参考書

担当教員：M. サベット

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX05070

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この演習の目的は、人々は意図的にまたは意図せず、どのように、なぜ差別をしてしまうのかを理解し、偏見をもたずに、文化や行動(行為)を分析するためのスキルを身に付けることである。

(2) 内容

差別的な行動を認識し、それを拒否することが、グローバル志向の人になるための鍵である。多様性と一体性の利点を分析することが、社会の平等と公平性を促進することの基本である。この演習は、独自の背景や文化的価値観により人々に偏見を持っていることを気づかせます。世界中の過去と現在の差別的政策を学ぶ。

受講者に対する要望

研究をし、積極的にクラスの議論に参加する者を望む。

学びのキーワード

- ・ステレオタイプ
- ・差別
- ・体性
- ・多様性
- ・価値観

授業計画

01. Introduction to the course
02. Globalization and Interdependence
03. Globalization and Interdependence Presentations
04. Documentary: War Dance
05. Present Day Slavery and Human Trafficking
06. Human Trafficking Presentations
07. Child Labor
08. Slavery and Child Labor Presentations
09. Child Soldiers
10. Slavery Movie: 12 Years a Slave
11. Slavery Movie: 12 Years a Slave
12. Current News Presentations
13. Preparation for the Final Presentation
14. Final Presentation
15. Final Presentation

準備学習(予習)

プレゼンテーション、授業の予習、トピックに関する研究が必要である。

準備学習(復習)

プレゼンテーション及び議論においては、継続的な研究が必要である。

評価方法

(1) Participation	30%
(2) Presentations	40%
(3) Final Report	30%

教科書

参考書

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1AX05210

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. この講義は、卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱから成り立っています。クラスの 必修書物・印刷物とディスカッションは、学生のキリスト教とその文化に関連する個々のトピックスにおいて、興味や構想を深め発展させてゆきます。学生は、学術研究行程と論文の原理を学び、また、続く卒業研究Ⅱでの学生のそれぞれの課題を学期末に決定することを目標とします。 |

(2) 内容

講義の主要目的は、キリスト教とその文化の学術研究を進め、学術研究制作と論文の基本原理を学びます。

受講者に対する要望

学生は、密接な関連講義である「専門演習」を好結果をもっての終了を必要とし、大学レベルの研究のチャレンジを期待されるものとします。

学びのキーワード

・ 論文テーマ

授業計画

01. イントロダクション
02. クリスマンライフの逆説ⅠⅠ
03. クリスマンライフの逆説ⅠⅡ
04. クリスマンライフの逆説ⅠⅢ
05. 逆説的に生きるⅠ
06. 逆説的に生きるⅡ
07. 逆説的に生きるⅢⅢⅢ
08. 逆説的に生きるⅣ
09. 神の人間搜索Ⅰ
10. 神の人間搜索Ⅱ
11. パワーポイント発表の準備
12. PPT発表
13. 学術論文トピック選択/学術研究Ⅰ執行
14. 学術研究Ⅱ執行
15. 最終レポート

準備学習(予習)

学生は指定された教材の読書を都度終えること、個々のトピックスのリサーチを図書館等で進めること。これに続き、グループ・ディスカッションにおいてそれぞれ週ごとのリサーチ発表を求められます。

準備学習(復習)

学生は、プレゼンテーション効果を高める為に用いるMSパワーポイント操作の習得を義務づけられます。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 出席及び授業参加/態度 | 30% |
| (2) 必修書物 | 20% |
| (3) パワーポイント(PPT)による発表 | 20% |
| (4) 最終レポート | 30% |

教科書

ケント・キース 『『それでもなお、人を愛しなさい?人生の意味を見つけるための逆説の10カ条』』 (早川書房: 新装改訂版)

参考書

印刷物; プリント

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1AX05220

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に繋がる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. この講義は、卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱから成り立っています。クラスの 必修書物・印刷物とディスカッションは、学生のキリスト教とその文化に関連する個々のトピックスにおいて、興味や構想を深め発展させてゆきます。学生は、学術研究行程と論文の原理を学び、また、続く卒業研究Ⅱでの学生のそれぞれの課題を学期末に決定することを目標とします。 |

(2) 内容

講義の主要目的は、キリスト教とその文化の学術研究を進め、学術研究制作と論文の基本原則を学びます。

受講者に対する要望

学生は、密接な関連講義である「専門演習」を好結果をもっての終了を必要とし、大学レベルの研究のチャレンジを期待されるものとします。

学びのキーワード

・ 論文テーマ

授業計画

01. イントロダクション
02. クリスマンライフの逆説ⅠⅠ
03. クリスマンライフの逆説ⅠⅡ
04. クリスマンライフの逆説ⅠⅢ
05. 逆説的に生きるⅠ
06. 逆説的に生きるⅡ
07. 逆説的に生きるⅢⅢⅢ
08. 逆説的に生きるⅣ
09. 神の人間搜索Ⅰ
10. 神の人間搜索Ⅱ
11. パワーポイント発表の準備
12. PPT発表
13. 学術論文トピック選択/学術研究Ⅰ執行
14. 学術研究Ⅱ執行
15. 最終レポート

準備学習(予習)

学生は指定された教材の読書を都度終えること、個々のトピックスのリサーチを図書館等で進めること。これに続き、グループ・ディスカッションにおいてそれぞれ週ごとのリサーチ発表を求められます。

準備学習(復習)

学生は、プレゼンテーション効果を高める為に用いるMSパワーポイント操作の習得を義務づけられます。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 出席及び授業参加/態度 | 30% |
| (2) 必修書物 | 20% |
| (3) パワーポイント(PPT)による発表 | 20% |
| (4) 最終レポート | 30% |

教科書

ケント・キース 『『それでもなお、人を愛しなさい?人生の意味を見つけるための逆説の10カ条』 (早川書房: 新装改訂版)』

参考書

印刷物; プリント

担当教員：E. D. オズバーン

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX05315

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. この講義は、卒業研究IIに続く講義であり、学生はそれぞれの興味に従って、トピックを選択し、その課題において深層・綿密な研究を進め、クラスにおいてその途中経過報告、また、成果をクラスディスカッションで発表します。最終的論文結果は、各学生の学期末の学術研究論文として提出されます。||

(2) 内容

講義の主要目的は、キリスト教とその文化の学術研究を進め、また、各論文の適切な構成を持った論文結果を口頭表現することによって、学生が課題においてのより深い知識を進展させていくことにあります。

受講者に対する要望

学生は、密接な関連講義である「専門演習」を好結果をもっての終了を必要とし、大学レベルの研究のチャレンジを期待されるものとします。

学びのキーワード

・学術研究

授業計画

01. イントロダクション
02. 研究課題選択の概観
03. 学術研究指導 I
04. 学術研究指導 II
05. 学術研究指導 III
06. 論文様式の指針 I
07. 論文様式の指針 II
08. 中間レポート&ディスカッション I
09. 中間レポート&ディスカッション II
10. 中間レポート&ディスカッション III
11. 中間レポート&ディスカッション IV
12. 中間レポート&ディスカッション V
13. 学術研究論文
14. PPT準備発表
15. (論文)発表

準備学習(予習)

学生は指定された教材の読書を都度終えること、個々のトピックのリサーチを図書館等で進めること。これに続き、グループ・ディスカッションにおいてそれぞれ週ごとのリサーチ発表を求められます。

準備学習(復習)

計画的に授業外で個人的に学術研究を進めていく義務と、その中間レポートの提出義務があります。

評価方法

(1) 授業参加/態度	30%
(2) 中間レポート	10%
(3) 最終学術論文	40%
(4) クラスでのパワーポイント(PPT)研究論文発表	20%

教科書

参考書

印刷物・プリント：“欧米文化科論文ガイドライン・指針”

担当教員：和田 光司

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX05650

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な関心力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自由研究による知的関心の育成、問題解決能力の向上、文書作成技術の涵養、オープンな場での発表による対社会的なコミュニケーション力の向上

(2) 内容

(内容) 本講義では、卒業研究Iに続いてプレゼンテーション能力の一層の実践的発展を志す。特に卒業レポート作成により文章力の向上を目指す。また他ゼミとの交流発表会により、より開かれた形でのプレゼンテーションの機会を持つ。||

受講者に対する要望

就業力とも直結するような段階になるので、チャレンジ精神をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 自由研究
- ・ プレゼンテーション
- ・ レポート執筆
- ・ 調査

授業計画

01. 自由発表、レポート指導、1
02. 自由発表、レポート指導、表2
03. 自由発表、レポート指導、3
04. 自由発表、レポート指導、4
05. 自由発表、レポート指導、5
06. 自由発表、レポート指導、6
07. 自由発表、レポート指導、7
08. 自由発表、レポート指導、8
09. 自由発表、レポート指導、9
10. 自由発表、レポート指導、10
11. 自由発表、レポート指導、11
12. 自由発表、レポート指導、12
13. 自由発表、レポート指導、13
14. 自由発表、レポート指導、14
15. 自由発表、レポート指導、15

準備学習(予習)

卒業レポート作成のための準備、調査、草稿執筆、研究発表のためのレジюме、パワーポイント作成

準備学習(復習)

教員からの指示に基づき、レポートの訂正。発表後、反省点に従いレジюме、パワーポイントの修正、自分でプレゼンテーションを再度試みる。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 卒業レポート | 40% |
| (3) 研究発表 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：氏家 理恵

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX07080

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習」では、発表を通して文献の読み方やレジュメの作り方に慣れ、レポート合評を通してレポートの書き方を学んだ。「卒業研究Ⅰ」では、引き続き、レジュメやレポートの作成力、プレゼンテーション力を高め、社会に出ても通用する応用力をつける。また、卒業研究テーマを決定し、研究計画を練る期間とする。

(2) 内容

「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。レポート合評では専門演習Ⅱで作成したレポートを相互評価し、内容・形式ともによりよくするための作成ポイントを確認する。また、それぞれの卒業研究計画について発表し、ディスカッションを繰り返しながら、それぞれの研究テーマ決定への足掛かりとする。

受講者に対する要望

ゼミには積極的に参加してほしい。また、学期終了時までには、自分の興味・関心に合った卒業研究テーマを見つけ、研究計画を練り上げてほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文化
- ・ 映像文化・視覚文化
- ・ 物語分析
- ・ 比較文学・比較文化

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方の確認と役割・作業分担
02. レポート合評会 1
03. レポート合評会 2
04. レポート合評会 3
05. レポート合評会 4
06. レポート合評会 5
07. レポート合評会 6
08. レポート合評会 7
09. 研究テーマ発表 1
10. 研究テーマ発表 2
11. 図書館ガイダンス
12. 研究の進め方について：理論と方法
13. 卒業研究計画発表 1
14. 卒業研究計画発表 2
15. 卒業研究Ⅱ・卒業論文に向けて

準備学習(予習)

レポート評価表や研究計、レジュメの作成など、事前に準備すべきことは必ずしておくこと。合評会用のレポート、資料は事前に読み、授業時には自分のコメントや評価を発言できるように準備しておくこと。

準備学習(復習)

合評会や発表を通して確認したレポートの書き方やプレゼンの仕方などのポイントは、今後のレポート作成や発表に生かせるように、必要事項をまとめておくこと。また、合評後は加筆修正したレポートを再提出すること。

評価方法

(1) 平常点	30%
(2) 課題	20%
(3) 発表	30%
(4) 期末レポート	20%

教科書

なし

参考書

担当教員：氏家 理恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX07180

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な関与力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

これまで学んできたさまざまな知識とテクニックを駆使し、各自の研究テーマを深化させ、卒業研究レポートの完成を目指す。

(2) 内容

<ゼミ>での学びの集大成として、卒業研究レポートとその論集を作成する。まず、「卒業研究I」で作成した各自の卒業研究テーマに関するレポートを題材にして、アウトライン作成・引用の仕方・注の書き方・画像の使い方など、全員に共通する注意事項をお互いに添削しながら確認する。また、数本ずつ合評をしていき、それぞれの課題を明らかにする。最後に、書式や表現なども含め、説得力のある論理的なレポート作成をするためのポイントの最終確認をしながら、卒業研究レポートを完成させる。

受講者に対する要望

ディスカッション中心となるので意欲的な参加を希望する。また、2年間のゼミの集大成としての卒業研究レポートの完成に向けて努めてほしい。

学びのキーワード

- ・ 英米文学
- ・ 英米文化
- ・ 映像文化
- ・ 物語分析
- ・ 比較文学・比較文化

授業計画

01. イントロダクションー卒業研究経過報告
02. アウトライン再確認
03. レポート完成までの諸注意
04. 卒業研究Iレポート合評会 1
05. 卒業研究Iレポート合評会 2
06. レポート的な文章表現について
07. 卒業研究Iレポート合評会 3
08. 卒業研究Iレポート合評会 4
09. 卒業研究Iレポート合評会 5
10. レポート・論文の書式について（確認）
11. レポート再提出と総評
12. 個別面談 1 / 相互コメント作成
13. 個別面談 2 / 相互コメント作成
14. 最終レポート提出と相互チェック
15. 論集作成

準備学習(予習)

卒業研究レポートの合評会に向けて、お互いのレポートのチェックを随時行うこと。自分の卒業研究レポートの完成に向けて、自分の分析・考察を入れ、オリジナリティをできるだけ出せるように常に考えていること。

準備学習(復習)

合評会で確認したレポートのポイントに基づきながら卒業研究レポートを作成すること。最終レポートは原稿用紙換算20枚以上を目指す。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 30% | ディスカッションへの参加度 |
| (2) 課題 | 30% | 他のメンバーのレポート校正・評価 |
| (3) 期末レポート | 40% | |

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX09401

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

演習を通して、各自の研究テーマを決定し、卒業研究レポートの骨子を明確にしていく。

(2) 内容

専門演習で学んできた英語教育の分野から、自分の関心のある分野を探し出し、文献購読を始める。学期末課題としてそれらをレポートにまとめる。研究課題を決めて、文献研究を進めていく。

受講者に対する要望

卒業研究Ⅱでの卒業研究レポート作成につながるよう、積極的に演習に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 英語教育
- ・ バイリンガル教育
- ・ 指導法
- ・ 第二言語習得理論
- ・ 小中連携

授業計画

01. オリエンテーション
02. 早期英語教育
03. 英語教育の小中連携
04. アジア諸国の早期英語教育
05. バイリンガル教育
06. 効果的な英語学習法
07. 図書館オリエンテーション
08. ブックレビュー発表 1
09. ブックレビュー発表 2
10. 絵本の読み聞かせの効用
11. 音読の効果の検証
12. 英語学習の動機付け
13. 文法指導
14. 卒業研究レポート 概要発表
15. まとめ

準備学習(予習)

文献を読むことに慣れてほしい。授業で扱う文献は前週の授業で配布するので、必ず目を通しておくこと。また、文献発表後のディスカッションに積極的に参加すること。

準備学習(復習)

授業後にリフレクションシートを記入し、提出する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への出席、参加 | 30% |
| (2) ブックレビュー | 20% |
| (3) プレゼンテーション | 20% |
| (4) レポート | 30% |

教科書

プリントを配布する

参考書

担当教員：東 仁美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX09510

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習、卒業研究のまとめとして、自分のテーマを深めるとともに卒業研究レポート執筆に向けての準備をする。

(2) 内容

文献購読をしながら、卒業研究レポートのテーマ選び、論文作成にとりかかる。英語教育学の分野の中から、自分が興味を持てるテーマを選び、資料検索、データ集めを個別指導を交えながら行っていく。 |

受講者に対する要望

2年間のゼミのまとめとして、最も興味がある分野を選び、納得のいくレポートをまとめてほしい。

学びのキーワード

- ・ 英語教育
- ・ 言語習得理論
- ・ 文献研究
- ・ 小学校外国語活動
- ・ 中学校英語教育

授業計画

01. イントロダクション
02. テーマ設定
03. 論文の書き方
04. 資料検索
05. テーマ発表、討論 (1)
06. テーマ発表、討論 (2)
07. テーマ発表、討論 (3)
08. 論文作成指導 (1)
09. 論文作成指導 (2)
10. 中間報告、討論 (1)
11. 中間報告、討論 (2)
12. 中間報告、討論 (3)
13. プレゼンテーション (1)
14. プレゼンテーション (2)
15. まとめ

準備学習(予習)

参考文献を積極的に検索し、資料を読み込む。自分のテーマを掘り下げて研究していくこと。

準備学習(復習)

レポートの添削指導の後は修正レポートを作成し、再度提出する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加、貢献 | 30% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

プリントを配布する

参考書

白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則 『英語教育用語辞典』(大修館書店)

担当教員：加曾利 実

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX10560

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日米比較文化論ですから、特に、日本語と英語の言語的・思想的構造の異同について解説・議論します。

(2) 内容

卒業研究(英語学) II では、卒業研究(英語学) I同様、日米比較文化論についての英文テキストを輪読しながら、議論を深化させていきたいと思っています。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。

受講者に対する要望

原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。|

学びのキーワード

- ・日米比較文化論
- ・経験主義と理性主義
- ・言語と思考
- ・発想法

授業計画

01. イントロダクション
02. テキストの輪読：日米比較文化論 1 -- You and I are Equal
03. テキストの輪読：日米比較文化論 2 -- You and I are Close Friends
04. テキストの輪読：日米比較文化論 3 -- You and I are Relaxed
05. テキストの輪読：日米比較文化論 4 -- You and I are Independent
06. テキストの輪読：日米比較文化論 5 -- People as Individuals
07. テキストの輪読：日米比較文化論 6 -- Being Original
08. テキストの輪読：日米比較文化論 7 -- Questions, Questions!
09. テキストの輪読：日米比較文化論 8 -- Answer to the Point
10. テキストの輪読：日米比較文化論 9 -- Conversational Ballgames
11. テキストの輪読：日米比較文化論 10 -- Don't Apologize!
12. テキストの輪読：日米比較文化論 11 -- Nobody Told Me!
13. テキストの輪読：日米比較文化論 12 -- 自己推薦書の日米比
14. テキストの輪読：日米比較文化論 13 -- 比較論から見た日本とアメリカの文化の本質
15. 総合的なまとめ

準備学習(予習)

毎回、全員に当たるので、各自、予習・復習ノートを作成し、テキストを翻訳しておいて下さい。このノートは、提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、毎回、学習事項をしっかりとまとめておいて下さい。

準備学習(復習)

復習も、励行して下さい。授業後、なるべく早期に、かつ繰り返し復習すると、より効果的に記憶に定着します。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|---------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への参加度 |
| (2) 予習・復習ノート | 10% | ノート提出 |
| (3) 課題レポート | 30% | レポート提出 |
| (4) 期末試験 | 40% | 期末試験の成績 |

予習と復習を励行するかどうか、定期試験の成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

坂本ナンシー、直塚玲子『Polite Fictions』(金星堂)【978-4764737785】

参考書

Kenneth Y. Sagawa, "Cultural Differences" (桐原書店) | 授業中に提示します。

担当教員：D. バーガー

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX10730

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身に付ける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この演習の目的は、まず、日本が多言語社会であることを紹介することである。そして、日本とアメリカの危機言語についての理解を深めることである。国の結束に対する標準語の良い影響、または言語的や民族的多様性に対する標準語の悪影響を調べる。

(2) 内容

このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習Ⅰ、Ⅱと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Ⅰの主要課題は危機言語と言語復興である。主に、アイヌ語、琉球諸言語、ハワイ語、アメリカ先住民の諸言語を始め、それぞれの社会において英語と日本語がその言語の危機状態の一因となる役割を果たすことを研究する。受講生は各課題について資料を読み、リアクションペーパーを書く。学期末にその課題の中から1つ選び、または専門演習Ⅰ、Ⅱに調べたテーマを続き、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められる。卒業論文を書く学生はテーマを選び、研究を今学期中に始めることを勧める。

受講者に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 危機言語
- ・ 言語復興
- ・ アイヌ語
- ・ 琉球語
- ・ ハワイ語

授業計画

01. 授業紹介、卒業研究Ⅰの課題の紹介：少数言語、危機言語、言語衰退、言語復興
02. 危機言語、言語復興
03. 危機言語としてのアイヌ語
04. アイヌ語復興、北海道旧土人保護法、アイヌ文化振興法
05. アイヌ語についての資料のリアクションペーパー
06. 危機言語としての琉球語
07. 琉球語復興
08. 琉球語についての資料のリアクションペーパー
09. 危機言語としてのハワイ語
10. ハワイ語復興
11. ハワイ語についての資料のリアクションペーパー
12. 危機言語としてのアメリカ先住民の諸言語
13. アメリカ先住民の諸言語復興
14. まとめ
15. 卒業研究Ⅰ最終研究レポートの口頭発表

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加するために、各課題について事前に調べ、与えられた資料を事前に読むこと。
| |

準備学習(復習)

各資料についてリアクションペーパーを書き、授業でその資料についてのディスカッションを行なう。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) リアクションペーパー | 25% |
| (3) 卒業研究Ⅰ最終研究レポート | 30% |
| (4) その口頭発表 | 15% |

教科書

プリントを配布する

参考書

沖縄大学地域研究所 編『琉球諸語の復興』英華書房出版 2013 | 菅野 茂『アイヌの語』朝日文庫 1990 | ダニエル・ネトル スザンヌ・ロメイユ 訳 島村宣男『消えゆく言語たち 失われることば、失われる世界』新曜社2001 | パトリック・ハインリッヒ 『東アジアにおける言語復興 中国・台湾・沖縄を焦点に』?三元社 2010 | R. M. W. ディクソン 訳 大角翠『言語の興亡』岩波書店 2008 |

担当教員：D. バーガー

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX10840

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業の目的は社会における差別と私たちの言語使用が差別的な考え方を反映することを考慮することである。日本とアメリカの社会で差別されている人々を調べる。また、私たちの言語使用はその人々の存在を認めたり否定したりして、平等、または不平等な扱いの一因になる可能性があることを考慮する。

(2) 内容

卒業研究IIの主要課題は差別語と包括語である。日本とアメリカ社会における人種・民族・性・障がい等に関する差別語と言語的差別をなくすための「包括語」という表裏一体の問題について研究する。ゼミの4学期の集大成となる卒業研究最終レポートを学期の初期から書き始め、学期末に提出するまで定期的なチェックを行う。

受講者に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 差別語
- ・ 非差別語
- ・ 人種差別語
- ・ 性差別語
- ・ 包括語

授業計画

01. 授業紹介、1万字以上の最終レポートのテーマ確認、卒業研究IIの課題の紹介:差別語とは何か?
02. 日本固有の差別問題：部落差別と差別語
03. 最終レポートのチェック、先住民に対する差別語
04. 先住民に対する差別語、障がいを持つ人に対する差別語
05. 障がいを持つ人に対する差別語
06. 最終レポートのチェック、その他の差別語
07. その他の差別語
08. アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (1)
09. 最終レポートのチェック、アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (2)
10. 性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (1)
11. 性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (2)
12. 最終レポートのチェック、性差別語と男女包括語変革:英語の例 (1)
13. 性差別語と男女包括語変革:英語の例 (2)
14. 性差別語と男女包括語変革：英語の例 (3)
15. 卒業研究最終レポートの口頭発表

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加するために、資料を事前に読むこと。

準備学習(復習)

授業で資料についてのディスカッションに参加すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 最終レポートのチェック | 25% |
| (3) 卒業研究II最終研究レポート | 30% |
| (4) その口頭発表 | 15% |

教科書

プリントを配布する

参考書

上野 千鶴子 (編集)、メディアの中の性差別を考える会 (編集)『きつと変えられる性差別語—私たちのガイド』 ライン 三省堂 1996 | 堀田 真将著の『実例・差別表現 あらゆる情報発信者のためのケーススタディ』ソフトバンククリエイティブ 2008]

担当教員：M. サベット

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX11580

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この演習の目的は、複雑な経済的・社会的な問題を理解することである。世界は狭くなっており、任意の行動または不作為が全世界に影響を及ぼすことを理解する。

(2) 内容

この演習では、世界が直面している、貧困、森林破壊、教育の欠如などの根本的な問題を紹介し、その根原因について学ぶ。そして、これらに関連する問題は、住んでいる場所に関わらず、人々にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。

受講者に対する要望

研究をし、積極的にクラスの議論に参加する者を望む。

学びのキーワード

- ・ 教育
- ・ 貧困
- ・ 環境
- ・ 気候変動
- ・ 人権

授業計画

01. Introduction to the course
02. Human Development
03. Human Development
04. Hunger: Data from the UN
05. Affects of Economic Inequality
06. Economic Progress or Lack of Progress Presentations
07. Poverty and Education in Developing Countries
08. Women Education in Developing Countries
09. Food and Culture
10. Relation between Food and Culture Presentations
11. Documentary: Food Chains
12. Documentary: Food Inc.
13. Food Waste Presentations
14. Final Presentation
15. Final Presentation

準備学習(予習)

議論をするにあたり、事前にデータ収集をし、研究しておく必要がある。

準備学習(復習)

議論のトピックは関連性があるため、継続的な研究が必要である。

評価方法

(1) Participation	30%
(2) Presentations	40%
(3) Final report	30%

教科書

参考書

担当教員：M. サベット

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX11690

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に着ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

Studying and discussing certain issues will not bring positive results. Students need to realize how steps taken by individuals, no matter how small, can make a difference. | Students will learn how they can become better citizens by taking action and making contribution.

(2) 内容

In this class, we will study about the environment, global warming, and how changes in the nature are affecting our lifestyle. We will also study and discuss causes of war and conflict that are happening around us. And finally, we will discuss how to bring peace and harmony to today's societies.

受講者に対する要望

Since this is the last semester for this seminar, students must focus on how their action can make a difference.

学びのキーワード

- ・ Environment
- ・ Global warming
- ・ Deforestation
- ・ Animal Rights
- ・ Global citizen

授業計画

01. Introduction to the Course
02. Environment: Global Warming
03. Documentary: Chasing Ice
04. Environment: Rain Forest
05. Environment: Deforestation
06. Deforestation Documentary: Green
07. Presentation on Environmental Destruction
08. Documentary: The Cove
09. Animal Cruelty
10. Disappearance of Species
11. Documentary: Vanishing of the Bees
12. Discussion on Becoming a Global Citizen
13. Preparation for Final Presentation
14. Final Presentation
15. Final Presentation

準備学習(予習)

Students will be asked to give short presentations on certain topics. Prior preparation and consultation with the teacher is essential.

準備学習(復習)

Since most of the topics are inter-related, students should refer to previous lessons frequently.

評価方法

(1) Participation	30%
(2) Presentations	40%
(3) Final report	30%

教科書

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX11710

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人類の遺産とも言えるべきキングの思想から、対立と憎しみを超越して人がどのように共生を目指し得るのかを考察し、21世紀を生きる私たちへの教訓を学んでいきたい。|ほとんどの学生にとっては初めてのゼミ形式の授業であるため、自分の考察をまとめ発表することに徐々に慣れていけるように配慮する。

(2) 内容

1950年代・60年代アメリカの黒人公民権運動を指揮したマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の演説・説教・書簡などから特に重要なテキストを取り上げ、丁寧に読みこみ、差別的な社会の構造の変革を訴えた彼の思想の根幹にある「共生」の思想を読み解いていく。背景にあるキリスト教信仰・黒人教会の伝統・非暴力主義・市民的不服従・社会と共同体の理念などについても、適宜説明を加える。|※履修者の関心により、場合によっては、倫理学・キリスト教倫理思想の分野の他の文献をテキストとすることも考える。

受講者に対する要望

ゼミ形式の授業では、講義科目以上に主体的な学びの姿勢が重要である。分からないことについては、自分から質問したり、自分で調べてみたりして、積極的に取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・多文化共生
- ・倫理思想
- ・平和思想

授業計画

01. 導入 1
02. 導入 2
03. 学生による発表 1
04. 学生による発表 2
05. 学生による発表 3
06. 学生による発表 4
07. 学生による発表 5
08. 前半のまとめ
09. 学生による発表 1
10. 学生による発表 2
11. 学生による発表 3
12. 学生による発表 4
13. 学生による発表 5
14. 後半のまとめ
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

テキストをよく読んでから授業に参加すること

準備学習(復習)

授業のノートを整理しテキストの内容について理解を深めること

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) ディスカッションなどへの参加 | 50% |
| (2) 発表 | 25% |
| (3) 期末レポート | 25% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

担当教員： 畠山 宗明

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1AX12010

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】 人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】 人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】 人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】 表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】 表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】 グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】 グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

① メディア・リテラシーを高める | 様々なメディアの読み方を「メディア・リテラシー」と言います。言葉だけでなく様々なメディアに関わる「リテラシー」を身につけることがこのゼミの意義かつ目標となります。|| ② メディア体験を言語化する | そしてこのゼミでもう一つの目標としているのは、言語以外の表現について、言葉で表現できるようになることです。映像をはじめとするメディア表現の言語化は、言葉から言葉への翻案とは全く異なった技術が必要とします。ここでは、発表やディスカッション、レポートを通じて、そうした技術を身に付けていきます。|| ③ 自分のテーマを見つける | このゼミの最後の目的は、「自分のテーマを見つける」ということです。大学では最終学年に卒業研究レポートを作成します。そのためのテーマを、ゼミでの学びを通じて、時間をかけて育てていくことになります。このように、一つのことについて、時間をかけて考え続け、形を持った表現にまで高めていくことが、大学での学びの核心にあります。このゼミでの発表や調査を通じて、自分の関心がどこに向かっているのかを発見して欲しいと思っています。

(2) 内容

このゼミでは、映像文化やさまざまな大衆文化を「読む」やり方を身につけていきます。映画やテレビ、マンガなど、映像メディアを介した表現は言語とは異なった独自の「文法」を持っています。またそれらは、内容やストーリーとは違ったやり方で「読む」こともできます。このゼミでは、そうした映像文法のあり方や読み方、さらには映像体験を言語に置き換える方法を学んでいきます。また今日、視覚映像にとどまらず、文化のあり方は多様化し、日常的なコミュニケーションも、さまざまなメディアを介して行われています。このゼミではさらに、さまざまなジャンルやメディアを通じて行われる表現や、そこから派生的に生まれた文化の「読み方」も学んでいきたいと思っています。

受講者に対する要望

このゼミが目的とするのは、映像作品だけでなく、それが批評や論文を通じてどのように言語化されているのかまで含めて考え、自分でもある程度それができるようにすることである。もちろんさまざまな映像作品に触れるのは大きな目的ではあるが、その先を常に意識して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 映像文化
- ・ メディア・リテラシー
- ・ 視覚文化
- ・ 大衆文化

授業計画

01. イントロダクション
02. 映像とメディアについて 基本概念の理解
03. 発表、調査、購読のやり方について
04. 文献購読①
05. 文献購読②
06. 文献購読③
07. 文献購読④
08. 文献購読⑤
09. 文献購読まとめ
10. ディスカッションについて
11. 作品鑑賞とディスカッション
12. 発表①
13. 発表②
14. 発表③
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

この講義では、書籍だけでなく映像作品も取り上げていくので、予告された映像作品に関しては、あらかじめ鑑賞しておくか、ネットや書籍で関連情報を調べておくことが望ましい。| また基本的な映画史などについて初歩から学ぶということは別の講義で行うので、それらの講義を受講するか、図書館、インターネットを通じて

準備学習(復習)

授業で一部取り上げた作品については、残りの部分も自分で鑑賞するようにして欲しい。また関連情報などにも目を配るようにすること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 期末レポート | 40% |
| (3) 発表 | 30% |

レポートだけでなく、購読、発表、ディスカッションへのバランスの良い熱意ある参加が求められる。「出席」だけでは評価点とならないことに注意すること。

教科書

教室で指定

参考書

教室で指定

担当教員：島田 由紀

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX12110

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習Ⅰから引き続いて、マーティン・ルーサー・キング牧師の思想から、対立と憎しみを超えて人がどのように共生を目指し得るのかを考察し、21世紀を生きる私たちへの教訓を学んでいきたい。|専門演習Ⅰよりも長いテキストを読み、テキストに記された情報と思想への考察をまとめ発表することに慣れていく。

(2) 内容

学期の前半は、1950年代・60年代アメリカの黒人公民権運動を指揮したマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の演説・説教・書簡などから特に重要なテキストや、キング牧師の生涯を扱ったテキストを取り上げ、丁寧に読みこみ、差別的な社会の構造の変革を訴えた彼の思想の根幹にある「共生」の思想を読み解いていく。背景にあるキリスト教信仰・黒人教会の伝統・非暴力主義・市民的不服従・社会と共同体の理念などについても、適宜説明を加える。|学期の後半には、履修者一人一人が各自の関心に沿ったテキストを選択して考察を発表し、卒業研究Ⅱで執筆する卒研レポートに向けての準備を始める。また、レポート作成技術の基礎練習を継続的に行なう。

受講者に対する要望

ゼミ形式の授業では、講義科目以上に主体的な学びの姿勢が重要である。分からないことについては、自分から質問したり、自分で調べてみたりして、積極的に取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 多文化共生
- ・ 倫理思想
- ・ 平和思想

授業計画

01. 導入
02. 学生による発表
03. 学生による発表
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 中間のまとめ
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

指定されたテキストをあらかじめよく読んでから授業に参加すること。|自分自身の発表に備えること。|卒研レポート執筆に向けて、自分自身の関心のある分野の基礎的文献を読み進めること。

準備学習(復習)

他の学生の発表を聴いたうえで、あらためてテキストを読み返し考察を深めること

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) ディスカッションへの参加等 | 50% |
| (2) 発表 | 25% |
| (3) 期末レポート | 25% |

教科書

授業の中で指示する。

参考書

授業の中で指示する。

担当教員： 畠山 宗明

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1AX12210

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習Ⅱでは、より映像技法に立ち入ったかたちで映像リテラシーを高めつつ、レポートという形で言語化の作業を行う。

(2) 内容

まず最初に、演習Ⅰでのレポートの合評を行う。次に文献購読を行った後、扱った作品に関して、場面の記述やテーマの抽出、社会的な読解など、映像を言語化するための演習を行う。

受講者に対する要望

テキストだけでなく、映像そのものにも深く分け入っていくので、熱意を持って参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 映像文化
- ・ 映像リテラシー
- ・ 映画

授業計画

01. イントロダクション
02. レポート合評①
03. レポート合評②
04. 文献購読①
05. 文献購読②
06. 文献購読③
07. 文献購読④
08. 参考上映
09. 演習①
10. 演習②
11. 演習③
12. 演習④
13. レポート計画発表
14. レポート計画発表②
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

購読文献は事前に読んでおくこと。また文献で言及のあった作品は、最低限ネットで情報などを調べておくこと。

準備学習(復習)

文献で言及のあった作品などについて、実際に観賞するだけでなく、ネットでの批評や関連文献などを調べること。観賞ノートなどを作成するのも良い。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 期末レポート | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1AX12310

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

履修者各自の関心に応じて、対立と憎しみを超えて人がどのように共生を目指し得るのかを考察し、21世紀を生きる私たちへの教訓を学んでいきたい。

(2) 内容

履修者それぞれが各自の関心に従って、多文化共生に関わるテーマをめぐる文献を読み、その内容と考察について発表を行ない、卒研レポートの執筆に備える。|専門演習IIから引き続いて、レポート作成のための基礎練習も行なう。

受講者に対する要望

主体的な学びの姿勢がますます重要になる。分からないことについては、自分から質問したり、自分で調べてみたりして、積極的に取り組んでほしい。積み重ねが重要なので、教員やゼミのメンバーとのやり取りを密に行なってほしい。

学びのキーワード

- ・多文化共生
- ・倫理思想
- ・平和思想

授業計画

01. 導入
02. 学生による発表
03. 学生による発表
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 学生による発表
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表準備やレポート作成のための文献収集や講読を継続的に行なうこと。|

準備学習(復習)

発表へのフィードバックやレポートへの添削を受けて、修正を行ない、考察を深めること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 発表 (3回) | 45% |
| (2) 小レポート・期末レポート | 45% |
| (3) ディスカッションへの参加など | 10% |

教科書

授業の中で指示する。

参考書

授業の中で指示する。

担当教員： 畠山 宗明

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1AX12510

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身に付ける | 【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う | 【A】人格と主体性：教育分野において他者に物事を教える力を身につける | 【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を説明する力を身につける | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

引き続き映像読解、記述の力を高めつつ、卒業研究レポートの計画を始める。また、その準備として、映画以外の視覚文化(マンガ、アニメーション)などに対する知見も身につける。

(2) 内容

まず前回までの演習同様、レポートの合評を行う。その後、文献購読を行い。卒業研究レポートの計画にはいる。

受講者に対する要望

卒業研究レポートを見据えたゼミになるので、自分の研究テーマを見つけるつもりで参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 映像文化
- ・ 映像リテラシー
- ・ 映画
- ・ 視覚文化

授業計画

01. イントロダクション
02. レポート合評①
03. レポート合評②
04. 文献購読(文献決定)
05. 文献購読①
06. 文献購読②
07. 文献購読③
08. 文献購読④
09. 研究テーマ発表①
10. 研究テーマ発表②
11. 演習
12. 卒業研究レポート計画発表①
13. 卒業研究レポート計画発表②
14. 総評
15. 全体まとめ

準備学習(予習)

購読で使用するテキストを読んでおくだけでなく、テキストの注や参考文献から、自分の研究テーマにつながりそうな本を探す。

準備学習(復習)

購読で話題に挙げたテキストや作品に実際に触れてみる。

評価方法

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J132010

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

旅行業界は、旅行を企画・手配・実施することが主たる業務であるが、現在は、地方創生やインバウンド(外国人観光客誘致)の国策と連動し様々な新しい業務が発生しているため、偏った知識ではなく幅広い知識が求められる。ひとつの業界を深く知ることで、その業界のみならず様々な業界の姿が見えてくる。|この講義を通じて、業界を深く分析・考察する力を身に付けて欲しい。|

(2) 内容

文系学生に人気業界である<旅行業界>を取り巻く環境や具体的な業務内容を学び、実際に働く姿をイメージすることで、将来の職業選択に必要な視点・観点を身に付ける。また、実際に旅行の企画をし、プレゼンテーションを行う。優秀チームにはJTBでのインターンシップを予定。|尚、授業内容(プレゼンテーション実施)の関係で、受講生数を原則50名制限とする。|

受講者に対する要望

「授業内容」「授業計画」の欄にも記したが、授業内でグループワーク及びプレゼンテーションを実施する。ここで選出される優秀企画については、実際に(株)JTB関東に採用される可能性もあり、また、インターンシップへの参加にも繋がる可能性もあるので、是非意欲的に授業に臨んでほしい。その意味でも、一度の授業欠席であっても大きな損失となることを認識しておいてほしい。

学びのキーワード

- ・旅行・観光
- ・地域交流
- ・業界分析
- ・キャリアデザイン
- ・コミュニケーション

授業計画

- 旅行業界とJTBについて|現在の旅行業界を取り巻く市場環境や、旅行業界の特徴を抑え、旅行業界の代表的な仕事の紹介。|その中でJTBグループが目指すべき方向性や、新しい事業領域の事例についても紹介する。|また、第11回目以降に予定し
- 旅行業界実務講義(店頭編)|「旅行の仕事とは?」とイメージした場合に、もっとも想起しやすい店舗のカウンターの店頭営業。では実際の社員はどのように1日~1週間を過ごし、お客様とどのようなやり取りをしているのかを知る。|
- 旅行業界実務講義(法人営業・企業編)|法人営業について学ぶ。一般企業や組織・団体へ営業提案する「法人営業」。旅行が与える企業への影響や効果、仕事の魅力、やりがい、苦労とは?|
- 旅行業界実務講義(法人営業・学校編)|学校などの教育関係団体を中心に営業展開する「教育旅行営業」。小学校~大学まで旅行会社が教育にどのように関わっているかを知る。|
- 旅行業界実務講義(地域交流編)|今、最も注目されている分野である地域交流ビジネス。少子高齢化に伴い、国や地方行政の動きは日々変化している。地域と旅行会社との連携で生まれるビジネスを知る。|
- 旅行業界実務講義(インバウンド編)|インバウンド=訪日旅行。2,000万人を突破。国の重要政策のひとつとされ、これからさらなる伸びが予想されるこのマーケットについて、現状と近い将来 想定される需要について知る。|
- 送迎員講義(国内旅行編)|旅行業の中で「花形」職種のひとつである送迎員。しかし実際のツアー進行 管理には、突発的な事態への対応、常に発を誘う行動など、スピーディな 仕事が必要とされる。国内旅行における送迎員の基本業務について
- 送迎員講義(海外旅行編)|国内送迎業務と海外送迎業務の違いを中心に、実際に起こった出来事などを事例として取り上げながら、海外送迎業務を学ぶ。|
- 旅行企画講義(国内旅行編)|国内旅行企画(商品造成)について学ぶ。国内パッケージ商品の動向、変遷、関東地方の顧客(マーケット)の特徴についてなどを学ぶ。|
- 旅行企画講義(海外旅行編)|海外旅行企画(商品造成)について学ぶ。海外旅行の企画に必要な観点や、海外パッケージ商品の動向・変遷、旬の海外旅行のエリアについても触れる。|
- グループワーク①|テーマ(案)「(埼玉の魅力発見ツアー企画)を考える」について、各自立案した企画を持ち寄りグループごとの企画を考える。|
- グループワーク②|グループワークごとに立案した企画をブラッシュアップする。(必要に応じて授業時間外に現地調査をしておく)|
- グループワーク③|プレゼンテーションの準備(パワーポイントの作成、役割分担など)|
- グループワーク④|グループでの発表。
- グループワーク⑤|グループでの発表。|最優秀企画を選出する。プレゼンテーションの振り返り。|レポート課題についての説明|

準備学習(予習)

グループワークに向けての準備。プレゼンテーションテーマに関して各自で調査、立案を進めておく。(日々時間を作って作業を進める。)|その他、「日本人の海外出国者数、外国人の入国者数(インバウンド)、その推移、今後の展望」「旅行会社の仕事のイメージ」など、随時課題に取り組んでもらう。(30分~120分)

準備学習(復習)

週ごとに「振り返りシート」に記述し、次週の授業時に提出する。(30分~60分)

評価方法

- (1) 平常点(出席状況・「振り返りシート」提出状況) 50%
- (2) 最終レポート 25%
- (3) グループワーク参加状況 25%

※11回目以降の授業においてグループワーク並びにプレゼンテーションを実施する関係で、第一回目と第二回目の授業の両方に欠席した学生は、以後の授業に出席できないものとする。

教科書

指定のテキストを授業時に配布する

参考書

必要に応じて授業時に配布する

社会調査入門

SOCI-A-100/SOCI-J-1

担当教員：柳瀬 公

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J312790

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に着ける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義は、社会調査の実例を取り上げながら、社会調査に関する基本的事項を知ること、社会調査に関する知識にどのような意味があるかを理解することを目的とする。より具体的には、過去に行われた調査から、社会調査とはどのようなものか、社会調査には何ができるのか、社会調査を実施する上での倫理的な問題は何かを学ぶことを目指す。その過程で、社会調査の方法の基本も学ぶことができるので、「社会調査の方法」への導入として受講することが望ましい。

(2) 内容

社会調査とは、社会の特徴を発見したり、確認したりすることを目指した手段である。本講義では、いろいろな社会調査の例から社会調査とはどんなものかを入門的に学ぶ。本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定A科目に該当するため、同資格取得を希望する学生はいちばん初めに受講することを勧める。社会調査士は、社会調査協会が認定する資格で、社会調査の基礎的な能力をもつことを示す。また、資格希望者でなくとも本講義を受講することはできる。

受講者に対する要望

講義内課題は、UNIPAに回答を書き込む形を取るのので、スマートフォンを持っていると講義内で終えられる。また、念のためUSBメモリも用意して持参して欲しい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・インタビュー
- ・調査倫理
- ・社会調査士

授業計画

01. 社会調査とは何か | (社会調査が、社会科学のどこに位置して、どのような方法なのかの概略を知る)
02. 社会調査の実例から学ぶ：実態調査 | (社会階層や家族などに関する実態調査を確認して、社会調査の目的を学ぶ)
03. 社会調査の実例から学ぶ：世論調査と公的統計 | (世論調査・官庁統計の具体例から、社会調査の意義、社会調査の方法を学ぶ)
04. 社会調査の実例から学ぶ：市場調査 | (市場調査の具体例を確認しながら、社会調査の意義、社会調査の方法を学ぶ)
05. 社会調査の実例から学ぶ：その他の学術的調査 | (調査票調査以外の文化人類学的調査から、社会調査の意義、その方法を学ぶ)
06. 社会調査の歴史 | (代表的な社会調査の例を見ながら、社会調査の発展について理解する)
07. 調査倫理について学ぶ | (社会調査に関連する人権問題について理解する)
08. 調査倫理について学ぶ | (各種倫理綱領から倫理的な問題を知り、実際の対応について理解する)
09. 量的調査とは何か | (実際の量的調査票から量的調査の手順を知る)
10. 量的調査とは何か | (社会調査の実例から、調査データの分析の基本を学ぶ)
11. 質的調査とは何か | (インタビューや参与観察を取り上げて、量的調査との違いを知る)
12. 質的調査とは何か | (ドキュメント分析、会話分析などの基本と、写真観察法を知る)
13. 社会調査を体験してみる | (非参与観察法を体験する)
14. 社会調査を体験してみる | (非参与観察法を体験する)
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 講義内課題 | 60% | ほぼ毎回課せられる講義内課題によって評価する(課題が課されない回には評価しないことになる)。 |
| (2) 期末試験 | 40% | 持ち込み不可 |

教科書

大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房)【978-4623066544】

参考書

社会調査の方法

SOCI-A-100/SOCI-J-1

担当教員：柳瀬 公

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J312800

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では、公的統計や簡単な調査報告・調査論文が読めるようになることを目標とする。受講生には、主にアンケート調査の実施方法やアンケート票の作成方法を学ぶ講義だと考えて欲しい。さらに、グループ・ワークも取り入れる予定なので、コミュニケーション能力の育成にも役立つだろう。

(2) 内容

本講義の目的は、社会調査によってデータや資料を収集して、それらを整理して、基礎的な分析の具体的な手法を学ぶことにある。単に社会調査の方法を知るだけでなく、講義内で受講生を対象に模擬的に調査を実施する。これに加えて、データ収集・整理の方法、および初歩的な統計データやグラフの読み方などを実際の作業を通じて体験することで理解を深める。講義の中で、作業の体験を重視するのは、「社会調査実習」(社会調査士G科目)で、社会調査を実施するための準備を本講義で行うためである。| 本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定B科目およびC科目に該当するので、A科目「社会調査入門」に引き続き受講することを強く勧める。なお、資格取得を希望しない学生も受講することができる。

受講者に対する要望

講義内での課題はUNIPAへ提出することが求められるので、パソコンを受講者自身が操作することになる。データを一時的に保存する必要性もあるので、USBメモリを用意してほしい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・インタビュー
- ・社会調査士

授業計画

01. 社会調査の目的と方法 | (「社会調査入門」の復習、調査の実施方法とその特徴を学ぶ)
02. 社会調査の企画と設計 | (調査票調査を理解した上で、調査票調査の企画と設計方法について学ぶ)
03. 仮説と変数 | (仮説および作業仮説、変数とは何か、独立変数および従属変数について学ぶ)
04. 仮説と質問文の関係 | (仮説と質問文の関係を理解して、仮説の作り方を学ぶ)
05. 仮説と質問文の関係 | (仮説と質問文の関係を理解して、質問文と質問方法による問題を学ぶ)
06. 質問文と選択肢の作り方 | (意識と事実の問ひ方、ワーディング・回答の選択肢に関する問題、尺度の種類)
07. 仮説を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる)
08. 仮説を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる)
09. 質問と選択肢を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る)
10. 調査票の構成【グループ作業】
11. プリテスト
12. 質問と選択肢を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る)
13. データ入力とデータ・クリーニング | (実際にPCもしくは集計表を使ったデータ入力、データ・クリーニングを行う)
14. サンプリングの考えと理論 | (全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方)
15. サンプリングの考えと理論 | (全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方)
16. サンプリングの実験 | (サンプリングの種類と方法について学び、実際のサンプリング作業を知る)
17. 単純集計と度数分布 | (尺度の種類、講義内模擬調査から度数分布表を作成する)
18. 平均・分散・標準偏差 | (講義内模擬調査から得た変数を使って、平均・分散・標準偏差を理解する)
19. クロス集計表の読み方 | (さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ)
20. クロス集計表を読む | (さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ)
21. クロス集計表を作る | (模擬調査結果からクロス集計表の作成、仮説の検証、簡単な報告書の執筆)
22. 調査結果のまとめかた | (模擬調査による仮説の検証、簡単な報告書執筆)
23. カイ二乗検定 | (模擬調査結果分析を精緻化するために、カイ二乗検定の考え方を学ぶ)
24. カイ二乗検定 | (模擬調査結果分析からカイ二乗検定の考え方を学び、実践してみる)
25. クロス集計表のエラロレーション | (模擬調査結果分析をより精緻化するために、第3変数と疑似連関について学ぶ)
26. 相関関係と因果関係 | (共分散および相関関係、相関係数について学ぶ)
27. 相関関係と因果関係 | (相関係数の注意点と、関連および相関関係と因果関係との違いについて学ぶ)
28. 質的データの読み方 | (インタビュー記録や文書などの質的データの分析方法について概観する)
29. 質的データを読む | (実際に、用意された記録や文書を簡単に分析してみる)
30. まとめ

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------------------|
| (1) 講義内課題 | 40% | 出席点は設けない。ほぼ毎回課される講義によって評価される。 |
| (2) 報告書 | 20% | |
| (3) 期末試験 | 40% | 持ち込み不可 |

前の講義内容への積み重ねで理解できる講義であるため、欠席しないことが重要になる。

教科書

大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

担当教員：柳瀬 公

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る！【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に着ける！【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義の到達目標は、推測統計に必要な確率論や正規分布の理解を深め、さまざまな仮説の検定を習得することである。

(2) 内容

本講義の目的は、社会調査で得られたデータをまとめたり分析したりするために必要となる、基礎的な統計学的知識を習得することである。統計学は、記述統計と推測統計に大別される。前者は、データのもっている特性をより鮮明に表現するために、データを要約したり作表したりすることであり、後者は、母集団からの無作為標本（ランダムサンプル）より得られたデータから、母集団を推計しようとするものである。本講義では、前者の基本統計量をおさらいした上で後者を詳しく学習する。

本講義を受講する前に「社会調査の方法」を履修しておくことより理解しやすい。さらに複雑な分析を習得したいのであれば、「量的データ解析の方法」を履修するとよい。本科目は社会調査士認定D科目となるため、2016年度卒業予定で社会調査士取得を希望する学生は、今年度必ず本科目を受講しなければならない。

受講者に対する要望

初回のガイダンスでは、授業の進め方や成績評価について説明するので、必ず出席すること。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・社会統計
- ・基本統計量
- ・推測統計
- ・仮説検定

授業計画

01. ガイダンス なぜ社会統計学を学ぶのか
02. 集計：量的データの整理 単純集計、クロス集計による分析を理解する。
03. 度数分布・位置の指標 度数分布表を作成する、最頻値・中央値・平均を理解する。
04. ばらつきの指標 範囲・平均偏差・標準偏差を理解する。
05. 確率論の基礎 確率分布の性質を理解する。
06. 正規分布・推計統計の考え方 正規分布と標準偏差との関係を理解する、正規分布表を解釈し、Z得点とT得点を算出する。
07. 標本抽出と推定 無作為抽出の概念を理解する、信頼区間や標本誤差について学ぶ。
08. 2種類の過誤 帰無仮説と対立仮説の関係を理解し、仮説検定の基本的な手続きを学ぶ。
09. カテゴリー間の差を検定する クロス集計表に対するカイ2乗検定を学ぶ
10. 2つの平均の差を検定する t検定を理解する。
11. 複数の平均の差を検定する 分散分析を理解する。
12. 相関関と相関関係 相関係数の意味を理解し、2つの連続変数間の関係を推定する。
13. 回帰分析の基礎 回帰直線や最小2乗法の意味を理解する。
14. 仮説検定の練習問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画のテーマに沿って参考書をよく読んで、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業で配布するレジュメを各自で整理し、内容を復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内演習課題 | 40% |
| (2) 期末試験 | 60% |

教科書

特に指定せず、授業ではレジュメを配布する。

参考書

P. G. ホーエル著、浅井晃・村上正康訳 『初等統計学 第4版』 (培風社) 1981年 【ISBN : 978-4-563-00839-0】

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313210

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に着ける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では社会調査を実体験することで、社会調査の役割や方法を具体的に理解することができる。つまり、本講義は、「社会調査入門」「社会調査の方法」で学んだ社会調査の手法を、受講者自身が実践する実習となる。

(2) 内容

「社会調査の方法」で学んだ調査企画から報告書作成までの一連の社会調査の過程を、実際に受講生自身が体験・実践する科目で、実習形式とゼミ形式を進める。与えられた共通テーマ「大学生の日常生活に関する社会調査」にしたがい、受講生自身が（場合によってはグループごとに）より具体的なテーマ・仮説を設定して、聖学院大学学生を対象とした量的な調査を実施する。なお、実査は聖学院大学で開講される授業を対象とした集合調査法によって行うものとする。| 本講義は、日本文化学科の文化論・比較文化系に位置する専門科目であるとともに、社会調査士認定G科目に該当している。社会調査士取得希望者でなくても受講はできるが、「社会調査の方法」を修得していないと履修できない。| ※2017年度は社会調査実践IとIIを春学期に同時並行で開講する。そのため、社会調査実践Iの授業計画は春学期前半に週2コマで進め、社会調査実践IIの事業計画は春学期後半に週2コマで進めることになる。

受講者に対する要望

USBメモリを持参すること。| 課題を一つずつ達成することが求められ、受講生それぞれが自分の果たすべき役割を考えて実習に臨んで欲しい。また、欠席することで、他の受講生の作業が中断してしまうということを覚えておいて欲しい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・量的調査
- ・社会調査実習
- ・社会調査士

授業計画

01. 「社会調査の方法」の復習とガイダンス
02. 先行研究の収集と整理 | (共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる [21~64頁])
03. 先行研究の収集と整理 | (共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる [21~64頁])
04. 先行研究の収集と整理 | (共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる [21~64頁])
(仮) 調査企画と仮説の設定 | (共通テーマに従って、より詳細なテーマを考え、調査を企画する (A4版2枚) [88~98頁])
06. (仮) 調査企画報告とグループ分け | (受講者が自分が考えた調査テーマを報告して、テーマごとグループ分けを行う [88~98頁])
07. 先行研究の補足と調査設計 | (受講生間で生じた調査企画のズレを調整して、クラスのテーマを統一する)
08. 先行研究の補足と調査設計 | (受講生間で生じた調査企画のズレを調整して、クラスのテーマを統一する)
09. 仮説構成と質問項目 | (クラス・テーマに基づいた仮説と質問を構成する)
10. 仮説構成と質問項目 | (クラス・テーマに基づいた仮説と質問を構成する)
11. 調査設計報告 | (受講生が作成した仮説と質問を報告して、質疑応答を行う)
12. 仮説と質問の修正 | (報告を受けて明らかになった課題に応じて、仮説・質問を修正する)
13. 仮説と質問の修正 | (報告を受けて明らかになった課題に応じて、仮説・質問を修正する)
14. 調査項目から調査票の構成を考える
15. プリテスト用調査票の印刷と完成 | (期日までに学外3名以上の方にプリテストを実施してくる)

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

(1) 調査企画	15%	「社会調査の方法」報告書の修正 5% / 調査企画書 5% / 調査企画報告書 5%
(2) 調査設計	25%	調査設計 10% / 調査設計報告 5% / 調査設計修正 5% / 調査票完成とプリテスト 5%
(3) 調査依頼と実査	10%	
(4) データ入力と集計	15%	
(5) 報告書作成	35%	報告書(分析) 30% / 報告書作成と実習報告 5%

教科書

大谷信介・後藤範重・小松洋・木下栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313310

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では社会調査を実体験することで、社会調査の役割や方法を具体的に理解することができる。つまり、本講義は、「社会調査入門」「社会調査の方法」で学んだ社会調査の手法を、受講者自身が実践する実習となる。

(2) 内容

「社会調査の方法」で学んだ調査企画から報告書作成までの一連の社会調査の過程を、実際に受講生自身が体験・実践する科目で、実習形式とゼミ形式を進める。与えられた共通テーマ「大学生の日常生活に関する社会調査」にしたがい、受講生自身が（場合によってはグループごとに）より具体的なテーマ・仮説を設定して、聖学院大学学生を対象とした量的な調査を実施する。なお、実査は聖学院大学で開講される授業を対象とした集合調査法によって行うものとする。| 本講義は、日本文化学科の文化論・比較文化系に位置する専門科目であるとともに、社会調査士認定G科目に該当している。社会調査士取得希望者でなくても受講はできるが、「社会調査の方法」を修得していないと履修できない。| ※2017年度は社会調査実践ⅠとⅡを春学期に同時並行で開講する。そのため、社会調査実践Ⅰの授業計画は春学期前半に週2コマで進め、社会調査実践Ⅱの事業計画は春学期後半に週2コマで進めることになる。

受講者に対する要望

USBメモリを持参すること。| 課題を一つずつ達成することが求められ、受講生それぞれが自分の果たすべき役割を考えて実習に臨んで欲しい。また、欠席することで、他の受講生の作業が中断してしまうということを覚えておいて欲しい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・量的調査
- ・社会調査実習
- ・社会調査士

授業計画

01. プリテスト結果の検討と研究倫理審査申請
02. 調査対象クラスの決定 | (層化2段階抽出法を参考にし、標本数と調査対象クラスを決定する [教科書136-175頁]。)
03. 調査票完成と調査依頼準備 | (クラス全体の調査票を完成して、調査依頼状作成方法を学ぶ [教科書176-193頁]。)
04. 実査担当決めと調査依頼 | (クラス全体の調査票を完成して、調査依頼状作成方法を学ぶ [教科書176-193頁]。)
05. 実査用調査票の印刷 | (調査票を印刷するとともに、調査依頼状を完成して、依頼に同う。)
06. エディティングとコーディング | (実査において回収した調査票にエディティングを行う [教科書193-207頁]。)
07. データ入力 | [教科書193-207頁]
08. データクリーニング | [教科書193-207頁]
09. 単純集計・クロス集計 | (仮説に基づき単純集計とクロス集計を行う [教科書208-242頁]。)
10. 単純集計・クロス集計 | (仮説に基づき単純集計とクロス集計を行う [教科書208-242頁]。)
11. 分析と仮説検証 | (検定を行い、仮説を検証する [教科書208-242頁]。)
12. 報告書の作成 | [教科書242-246頁]
13. 報告書の作成 | [教科書242-246頁]
14. 調査報告書の印刷と実習報告の準備
15. 調査実習報告会

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認し、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

(1) 調査企画	15%	「社会調査の方法」報告書の修正 5% / 調査企画書 5% / 調査企画報告書 5%
(2) 調査設計	25%	調査設計 10% / 調査設計報告書 5% / 調査設計修正 5% / 調査票完成とプリテスト 5%
(3) 調査依頼と実査	10%	
(4) データ入力と集計	15%	
(5) 報告書作成	35%	報告書(分析) 30% / 報告書作成と実習報告 5%

教科書

大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

担当教員：柳瀬 公

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313410

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では、多変量解析を使った学術論文を正しく読めるようになるとともに、受講生が各自の研究目的に沿った手法を選択し、実際に統計ソフトを用いて分析できるようになることを目標とする。

(2) 内容

本講義の目的は、多変量解析の基本的な考え方と主要な計量モデルを理解することである。多変量解析とは、一度に多くの変数を全体的にまたは同時に分析し、これらの関係性を明らかにする統計的手法の総称である。多変量解析には、ある現象に影響を与える原因を見つけ出し、今後の予測を行ったり（要因分析）、情報を圧縮・分類する（構造分析）といったようにさまざまな手法が存在する。本講義では、代表的な手法である重回帰分析、因子分析、主成分分析、クラスター分析、数量化理論を取り上げ、分析目的に応じてどの手法を採用すればよいのか判断する力を身につけ、解析結果を正確に読み取れるようになることを目指す。| なお、本講義は、基本的な統計的知識を理解していることを前提として進めるので、「社会統計学の基礎」の単位を取得している方が望ましい。また、2016年度卒業予定で社会調査士取得を希望する学生は、今年度必ず本科目を受講しなければならない。

受講者に対する要望

初回のガイダンスでは、授業の進め方や成績評価について説明するので、必ず出席すること。

学びのキーワード

- ・ 社会調査
- ・ 多変量解析

授業計画

01. . ガイダンス なぜ多変量解析を学ぶのか
02. 多変量データのしくみ 尺度水準について学ぶ、多変量解析の全体像から手法選択を理解する。
03. データの特徴を数字で表す 数値や変数を表す記号をおさらいし、数学的理解を深める。
04. 共変動と相関係数 共変動の意味を知る、散布図を作成し相関関係を解釈する。
05. 重回帰分析とは何か？ 重回帰分析による予測方程式を理解する、重回帰係数を算出する。
06. 重回帰分析の特徴 標準偏重回帰係数、重決定係数を理解する。
07. 重回帰分析の実際 実際に統計ソフトSPSSを用いて重回帰分析を実施し、その結果を解釈・記述する。
08. 重回帰分析の使用例 重回帰分析を用いた研究事例を学ぶ。
09. 因子分析の特徴 因子分析によるデータ要約を理解する。
10. 因子分析の実際 因子分析の手順を理解する、実際にSPSSを用いて分析し、抽出された因子を解釈する。
11. 主成分分析 因子分析との違いを理解し、それらの使用例を学ぶ。
12. クラスター分析 クラスター分析による対象のグループ分けを理解する。
13. 数量化理論 数量化の種類を学び、その中で数量化III類を用いて質的データの構造を把握する。
14. 多変量解析の練習問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿って該当する部分の章をよく読んで、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。||

準備学習(復習)

授業で取り上げた箇所を教科書でふり返し、各自ノートにまとめておくこと。||

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内演習課題 | 40% |
| (2) 期末テスト | 60% |

教科書

小杉司著『社会調査士のための多変量解析法』（北大路書房）【978-476282569】

参考書

担当教員：八木 規子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P502210

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る | 【A】グローバル世界で活躍するための理解力・世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【P】経済経営コース：自由科目 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

文化、ことに異文化という言葉は、往々にして国民文化の違いを想起させる。しかしながら、文化の違いは、国の境界線の内と外にあるばかりでなく、国のなかにも異文化は存在するし、また国の境界線と文化の境界線が重なり合うとも限らない。ところが、日本は、国家、文化、言語の三つの境界線が重なり合う、世界でも珍しい国である。このため、日本人にとって、こうした文化の境界線の多様性を直感的に理解することは、とても難しい。しかし、多文化社会に生きる感受性を高めることは、国内外を問わず、異なる文化背景から来る人びととの協同作業を、実りの高い建設的なものとする能力向上の前提条件である。そこで、本科目では、体験的学習手法を通じて、学生がこのような建設的な異文化接触の可能性を実感し、将来職場で異文化マネジメントを実践する自信を持つことを目標とする。

(2) 内容

本科目は、異なる文化背景を持つ人々がともに働くときにしばしば起こる現象について、そのメカニズムを考察するとともに、異なる文化背景を持つ人々の接触を、衝突や障害ではなく、豊かな実りある建設的な結果へと、つなげるために必要な知識、スキル、態度を学ぶ。学習方法として、ロール・プレイ、シミュレーション、ケーススタディなどの手法を用い、経験→内省→理論化→実験というKolbの学習理論に基づく学びを目指す。また、国民社会レベルの文化の他に、人間の認知が『差異』を感じる、さまざまな属性（ジェンダー、年齢、等）にも関心を向け、異文化マネジメントを、多様性（ダイバーシティ）の高い組織のマネジメントに応用する方策についても考えてゆく。

受講者に対する要望

異文化マネジメントとは、他者の視点から自分自身を見つめなおすことでもある。それには、自分が快適で居られる領域から一步踏み出して、未体験の領域に足を踏み入れる必要がある。この科目の受講を通して、学生がそのような勇気を持つことを期待する。

学びのキーワード

- ・ 経営
- ・ 異文化
- ・ ダイバーシティ

授業計画

01. コース紹介
02. なぜ企業はグローバル化するのか？文化とビジネスの接点
03. 文化とは何か
04. 文化を比較する-1：時間と空間
05. 文化を比較する-2：価値観
06. 文化を比較する-3：言語と非言語メッセージ
07. 異文化接触-1：文化アイデンティティ
08. 異文化接触-2：選択的認識|マイノリティ経験プロジェクト企画書提出締め切り
09. 異文化接触-3：差別的な帰属
10. 異文化インテリジェンス-1：戦略的思考の側面
11. 異文化インテリジェンス-2：意欲・動機の側面
12. 異文化インテリジェンス-3：行動の側面|マイノリティ経験プロジェクト要旨提出締め切り
13. マイノリティ経験プロジェクト発表-1
14. マイノリティ経験プロジェクト発表-2
15. 意思決定者としてのグローバル・マネジャー-1：意思決定モデルの文化差
16. 意思決定者としてのグローバル・マネジャー-2：倫理的ジレンマ
17. 交渉者としてのグローバル・マネジャー-1：国際ビジネスにおける交渉条件
18. 交渉者としてのグローバル・マネジャー-2：交渉スタイルの文化差
19. 交渉者としてのグローバル・マネジャー-3：ロール・プレイ
20. リーダーとしてのグローバル・マネジャー-1：部下の動機付け
21. リーダーとしてのグローバル・マネジャー-2：リーダースタイルの文化差
22. 多文化チームで働く-1：チームを編成する
23. 多文化チームで働く-2：組織の文脈
24. 企業戦略と企業の異文化対応志向-1：グローバルイノベーション
25. 企業戦略と企業の異文化対応志向-2：ローカリゼーション
26. 組織構造と文化
27. 国際キャリアの形成-1：海外赴任
28. 国際キャリアの形成-2：本国復帰
29. 異文化マネジメントの未来
30. 期末振り返り

準備学習(予習)

参考資料（課題読み物、事前準備アセスメント、授業で行うロール・プレイのシナリオ、等）は、UNIPA「授業資料」セクションにアップロードする。これらの資料は、授業前にダウンロードし、読みこんだ上で、授業に参加すること。随時、UNIPA「クラスフォーラム」セクションに、事前にこれら参考資料に対する学生の意見記

準備学習(復習)

授業で学んだ内容の理解度を測る復習小テストを随時行うので、ノートをもとめておくこと。期末テストの準備は、小テストの振り返りが有効である。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 授業への積極的、建設的な参加 授業内小テスト |
| (2) マイノリティ経験プロジェクト | 35% | 企画書提出、クラス内発表、レポート提出の各段階でフィードバックを行う |
| (3) 期末試験 | 35% | |

教科書

参考書

マスコミュニケーション論

SOCI-P-300/SOCI-A-3

担当教員：鄭 鎬碩

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P601000

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

(1) マスコミュニケーションと社会変容を考えるための基礎知識を習得する。| (2) 文献や映像資料を批判的に読みとく力を鍛える。

(2) 内容

本講義ではマスコミュニケーションと社会変容について学習する。文献、新聞記事、写真、映像など多様な資料をから、「大衆」「群衆」「国民」「公衆」の形成にかかわる情報メディアのダイナミックな働きについて学び、コミュニケーションという視点から歴史を捉えるための基本的な感覚を身につける。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、発表してもらおう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ マスメディア
- ・ 印刷革命
- ・ 公共圏
- ・ ジャーナリズム
- ・ 社会運動

授業計画

01. イントロダクション (1) : マスコミュニケーションを考える
02. イントロダクション (2) : メディアと社会変容
03. 「マス」の時代、近代 (1) 資本主義
04. 「マス」の時代、近代 (2) 国民国家
05. 「マス」の時代、近代 (3) 自由主義
06. 「マス」の時代、近代 (4) 大衆メディア
07. 練習・討論①
08. 練習・討論②
09. 声の文化と文字の文化
10. 印刷革命と科学革命
11. 印刷革命と宗教改革
12. 「想像の共同体」と「国語」の誕生 (1)
13. 「想像の共同体」と「国語」の誕生 (2)
14. コーヒーハウスと公共圏 (1)
15. コーヒーハウスと公共圏 (2)
16. 練習・討論③
17. 練習・討論④
18. ジャーナリズムと市民社会 (1)
19. ジャーナリズムと市民社会 (2)
20. 公共圏の歴史的変容 (1)
21. 公共圏の歴史的変容 (2)
22. 練習・討論⑤
23. 練習・討論⑥
24. マスメディアと社会運動 (1)
25. マスメディアと社会運動 (2)
26. マスメディアと社会運動 (3)
27. メディア・イベントと集合的記憶 (1)
28. メディア・イベントと集合的記憶 (2)
29. メディア・イベントと集合的記憶 (3)
30. まとめ

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を文章でまとめ、自分のコメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 期末レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

教師論（中高教職）

TEAT-0-100/TEAT-D-1

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程/ 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T100101

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。| 2) 地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。| 3) 戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。| 4) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。|

(2) 内容

教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。| 教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。| その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。|

受講者に対する要望

「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。

学びのキーワード

- ・ 職場としての学校
- ・ 教員の特殊性
- ・ 教員の社会的役割

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教師に求められる資質・能力とは（1）－現状と課題
03. 教師に求められる資質・能力とは（2）－生徒の求める教師像
04. 教師に求められる資質・能力とは（3）－教師としての自覚
05. 教師の仕事（1）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識
06. 教師の仕事（2）教師の力量向上－研修の義務と機会
07. 教師の地位（1）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など
08. 教師の地位（2）現代社会と教師
09. 教師の環境（1）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解
10. 教師の環境（2）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員
11. 教師の環境（3）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など
12. 教師養成（1）その歴史－戦前期および戦後改革
13. 教師養成（2）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚
14. 教育計画とは何か
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。

準備学習(復習)

授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらったレポートの準備を考えてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----------------------------|
| (1) 期末テスト | 30% |
| (2) 授業への参加 | 40% 授業中の討論への参加など |
| (3) レポート | 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。 |

教科書

参考書

担当教員：阿字 宏康

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305178

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期にある中、英語科教員に求められる資質・能力もより重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことを通して、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。

(2) 内容

本講義では、英語教育の意義と目的を考察することを通して英語科教員になる目的意識を確立する。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術等への理解を深め、理論から実践へとつなげるために、実際の授業の在り方についても考察する。英語科教員として必要とされる英語力を身につけ、指導案作成や模擬授業を行う中で、指導に必要な力を培う。

受講者に対する要望

英語科教員になるという確かな意志と目指す教員像を明確にしながら授業に臨む。

学びのキーワード

- ・小中高英語教育
- ・学習理論・第二言語習得理論
- ・外国語教授法
- ・学習指導要領
- ・指導技術

授業計画

01. オリエンテーション、英語教育の目的と意義（第1章）
02. 国際語としての英語（第2章）
03. 学習指導要領（第3章）
04. 学習者要因（第4章） 「じゃれマガ」を用いての模擬授業
05. 英語教員に求められるもの（第5章）
06. 小学校における外国語活動（第6章）
07. 英語教授法・四技能（第7章）
08. 「じゃれマガ」を用いての模擬授業・教科書の構成の確認
09. 指導案の作成、教室英語
10. 模擬授業（1） 年間指導計画の確認等
11. 模擬授業（2）
12. 授業運営（第20章）、オーラルイントロダクション
13. 模擬授業（2）
14. 模擬授業（2）
15. まとめ、試験とその解説

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。

準備学習(復習)

講義、模擬授業に対するリフレクションシートを記入して、提出すること。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業への貢献 | 30% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 模擬授業・マイクロティーチング | 20% |
| (4) 学期末テスト | 20% |

教科書

ダグラス・ジャレレル『じゃれマガ—100 Stories of 2015-2014』（浜島書店）【978-4834350395】 | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）【-】 | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』（三省堂）【-】 | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』（三省堂）【-】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売）【978-4304041617】 | 望月 昭彦、齋崎 弘典、卯城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）【978-4469245665】

参考書

担当教員：阿字 宏康

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305286

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期を迎えている中、英語科教員に求められる資質・能力より重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことで、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。

(2) 内容

「英語科教育法I」に引き続き、英語教育の意義と目的を考察することを通して、英語科教員になるという目的意識を確立することを目指す。さらに中高英語教育で求められる実践的コミュニケーション能力の育成のために聞く・話す・読む・書くの四技能を有機的に関連づけながら指導することを目指す。模擬授業においては教科用図書（教科書）を十分理解しながら、実際の授業での配慮事項等を段階的に身に付けることをねらう。

受講者に対する要望

英語教員としての在り方、学び方を学び、資質・能力の向上に資するべく授業に臨む。

学びのキーワード

- ・小中高英語教育
- ・コミュニケーション能力の育成
- ・語彙・文法指導
- ・4技能
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーション能力の育成（第9章）
03. リスニング・スピーキングの指導（第10・11章）
04. リーディング・ライティングの指導（第12・13章）
05. ティームティーチング（第14章）
06. 模擬授業（1）
07. 模擬授業（1）
08. 文法指導（第18章）
09. 語彙指導（第19章）
10. 模擬授業（2）
11. 模擬授業（2）
12. 評価（第15章）
13. 教科書と教材研究（第17章）
14. 模擬授業（3）
15. 模擬授業（3） まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。

準備学習(復習)

模擬授業後に自身の授業を必ず見直す。その上でリフレクションシートを記入して、提出すること。

評価方法

(1) 授業への貢献	20%
(2) レポート	20%
(3) 模擬授業	30%
(4) 学期末課題	30%

教科書

ダグラス・ジャレール『じゃれマガ-100 Stories of 2015』(浜島書店) [978-4834350401] | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1 2016年度版』(三省堂) [三省堂730] | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 2016年度版』(三省堂) [三省堂830] | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 2016年度版』(三省堂) [三省堂930] | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』(開院館出版販売) [978-4304041617] | 望月 明彦、岩崎 弘貞、卯城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館書店) [978-449245565]

参考書

担当教員：小川 隆夫

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305394

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

中学校の英語学習は、これから長期間にわたる英語学習に備えるため、生徒たちを自律した学習者に育てる必要がある。この講義を通して、さまざまな指導技術とともに、英語教師としての心構え、生き方を学ぶことを目標とする。

(2) 内容

中学校の英語授業のための必須要素を網羅し、授業の展開方法から、4技能を伸ばす指導技術、家庭学習までを学ぶ。| また、授業を効果的に行うため、生徒との人間関係づくり、生徒がお互いに協力し合って学習に取り組むクラス、授業のムード作りなど、クラスルーム・マネジメントの方法も取り上げる。| アクティブ・ラーニングによる、課題研究やディスカッション、プレゼンテーションなどを積極的に行う。

受講者に対する要望

英語科教師になるという自覚を持って参加すること。教育実習を1年後に控え教授法の理論、実技をしっかりと習得するため、遅刻せずに全講義に出席するように努めること。また、教員としての必要とされるマナーや言葉遣いの指導も行う。

学びのキーワード

- ・ ICTの活用
- ・ 授業パターン
- ・ 指導技術
- ・ クラスルーム・マネジメント
- ・ 自律的学習者

授業計画

01. 入門期の指導・基本の授業パターン - 1時間の授業構成
02. 文法中心の授業・リーディング中心の授業
03. 活動中心の授業(グループ・ゲーム、英語の歌を使った授業、クイズやスキットの発表会)
04. 指導技術(ペアワーク・グループワーク・TT、発音と文字)
05. 文法指導と語彙指導の技術
06. リスニング指導・リーディング指導の技術
07. スピーキング指導・ライティング指導の技術
08. 文法指導のアプローチ、評価(観点別評価・ペーパーテスト・評価計画・パフォーマンス評価・Can-Do評価)
09. 教材・教具 クラスルームマネジメント、ICTの活用
10. 自律的学習者に育てるための工夫 - 家庭学習
11. ICTを活用した英語科授業
12. 小学校英語教育との連携
13. 模擬授業と振り返り
14. 模擬授業と振り返り
15. 確認とまとめ

準備学習(予習)

事前に配布するプリントを読んで参加する。模擬授業は1週間以上前に指導案を提出し添削を受ける。

準備学習(復習)

1~10までは授業のポイントをまとめる。11~14は模擬授業のフィードバックをまとめる。

評価方法

(1) 授業への参加度	20%
(2) 模擬授業	35%
(3) 指導案作成	35%
(4) レポート	10%

教科書

授業でハンドアウトを配布する。|教育実習校で使用する英語教科書1年生から3年生分を各自用意すること。

参考書

金谷 進、大田 洋、馬場 哲生、青野 保、柳瀬 陽介『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』(大修館書店)|各自の実習校が使用している教科書1年生から3年生分を事前に用意する。

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305400

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

高等学校の英語の大きな変化に対応するための方策などを中心に、中学校からの連携を考えるとともに、指導技術から文法まで着実に教えられるようにすることを目標とする。どの学年でも、どの分野でも教えることができるように、知識とテクニック、理論を身に付ける。

(2) 内容

本講義では高等学校新学習要領による「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「英語表現Ⅰ・Ⅱ」「英語会話」の7科目構成をどう教えるかを実践DVDを見ながら考え、模擬授業を組み立てて実践する。また、中学校の英語と比較しながら、高等学校では「英語授業は英語で行うことを基本とする」という方針に合わせ、授業実践の方法を探る。

受講者に対する要望

英語教師になるという自覚のもとに授業に臨むこと。4年生春学期に教育実習を行うことを念頭に毎回の授業を大切に受講すること。遅刻せず全出席を目指してほしい。

学びのキーワード

- ・ 高等学校新学習指導要領
- ・ 中高連携
- ・ コミュニケーション英語
- ・ 英語表現
- ・ 英語会話

授業計画

01. 高等学校新学習指導要領について
02. 中学校との連携と入学時の指導
03. 「英語で授業」の考え方
04. 基本の授業パターン
05. 「コミュニケーション英語」の指導と授業構成
06. 聞いて理解する活動と読んで理解する活動
07. 「英語表現」の指導と展開
08. 「英語会話」の指導計画と展開
09. ネイティブスピーカーの活用と指導技術（発音指導・語彙指導）
10. リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング指導他
11. 文法指導の考え方、評価計画
12. ICTを活用した模擬授業及び振り返り
13. 模擬授業及び振り返り
14. 模擬授業及び振り返り
15. まとめ

準備学習(予習)

事前配布するハンドアウトの指定ページを読んで授業に参加すること。
模擬授業は実施1週間以上前に指導案を提出して添削を受けること。

準備学習(復習)

ハンドアウトの内容及び授業のリフレクションなどをまとめて指定日までに提出すること。

評価方法

(1) 授業への参加度	20%
(2) 模擬授業	35%
(3) 指導案	35%
(4) レポート	10%

教科書

授業にてハンドアウトを配布する。

参考書

金谷 暁、久保野 雅史、高山 芳樹、阿野 幸一 『大修館英語授業ハンドブック 高校編』（大修館書店）配布したプリント等はすべてポータルサイトを参照して保存すること。

日本文化学科

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 15200100

学部教育の関連目

【A・J】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

第一の目的は、キリスト教があらゆる分野で成してきた著しい貢献が、今日受講者個人個人の気づかなかつた領域に至っても大いに関係していることを認識することができるように導くものです。

(2) 内容

内容： この講義は、キリスト教文化論Bと連結した講座で、キリスト教が、世界の様々な領域において貢献してきた歴史上の事実を焦点を当て考えていきます。第一の重点は、キリスト教の世界観が政治体制と市民の自由・権利解放にどのように影響を及ぼしたかに着目し、次に一般的文化、又、大衆文化の分野に目を移し、そして、後半は特にアメリカ合衆国における影響を概観していきます。||

受講者に対する要望

講義は日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は講義内容です。

学びのキーワード

- ・ worldview (世界観)
- ・ Christianity (キリスト教)
- ・ culture (文化)
- ・ happiness (幸福)
- ・ civil rights (民権)

授業計画

01. キリスト教的世界観の梗概
02. キリスト教と政府 I:自由と民主主義
03. キリスト教と 政府 II: 奴隷制度廃止
04. キリスト教と 政府 III: アメリカ合衆国における市民権運動
05. 芸術におけるキリスト教のインパクト (強い影響)
06. 建築におけるキリスト教のインパクト
07. 音楽におけるキリスト教のインパクト
08. 文学におけるキリスト教のインパクト
09. 映画におけるキリスト教のインパクト I
10. 映画におけるキリスト教のインパクト II
11. キリスト教の祭日、言葉、記号
12. キリスト教と大衆文化 (ポップカルチャー) I
13. キリスト教と大衆文化 II
14. キリスト教と大衆文化 III
15. ふりかえり

準備学習(予習)

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

準備学習(復習)

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

評価方法

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 全学礼拝レポート及び教会出席レポート | 35% |
| (3) 中間テスト | 15% |
| (4) 期末テスト | 15% |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

印刷物；プリント

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15200110

学部教育の関連目

【A・J】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについて考えていきたい。

(2) 内容

宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と文化
- ・キリスト教と諸宗教
- ・民俗と宗教

授業計画

01. 宗教の「始まり」について
02. 宗教・呪術・科学
03. さまざまな宗教のかたち
04. 何を信じるのかー宗教的实在観について
05. 宗教から見た人間ー宗教的人間観について
06. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（1）
07. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（2）
08. 宗教儀礼・修行について（1）
09. 宗教儀礼・修行について（2）
10. 宗教集団について
11. 宗教体験と人格（1）
12. 宗教体験と人格（2）
13. 民俗と宗教の深層（1）折口信夫
14. 民俗と宗教の深層（2）柳田國男
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業への参加度・礼拝レポートの三つを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 15200200

学部教育の関連目

【A・J】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】 人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

第一の（基本的）目的は、キリスト教の遍在する影響を包括的、又、個人的、両観点から探索し学びます。

(2) 内容

1. 内容：この講義は、キリスト教概論A及びBに続く講座として設けられた科目で、キリスト教が世界にもたらした深遠なる影響の概観を学び探ります。“もし、イエス・キリストが降誕していなかったら？”という仮説質問から始まり、講義は、イエス・キリストの存在しなかった仮説を設け進み、そして、イエス・キリストとキリスト教徒が歴史を通して人類に建設的に影響を及ぼした多くの領域の輪郭を描いていきます。特に人間の尊厳と人権の領域についても学びます。||

受講者に対する要望

講義は、日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は、講義内容です。

学びのキーワード

- ・ worldview (世界観)
- ・ creationism (創造論)
- ・ morality (道徳)
- ・ ethics (倫理)
- ・ (human) rights (人権／権利)

授業計画

01. イエス・キリストが降誕していなかったら？ 世の中はどう違っていたであろうか？
02. 世界観と宗教 I:概観
03. 世界観と宗教 II:二例——無神論 対 キリスト教唯一神論
04. ダーウィンの進化論 対 キリスト教の天地創造論:両者の論理的結果
05. 人間の生命の尊厳
06. キリスト教の女性に対する尊厳の向上
07. キリスト教道徳と倫理 I
08. キリスト教道徳と倫理 II
09. 中間テスト
10. 教育におけるキリスト教の強い影響:普遍的教育と大学
11. キリスト教の慈愛と利他主義 I: 病院と医療施設、チャリティーとボランティア・グループ
12. 現代科学とキリスト教の関係
13. 労働階級と経済におけるキリスト教の影響
14. キリスト教と人権
15. ふりかえり

準備学習(予習)

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

準備学習(復習)

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート | 35% |
| (3) 中間テスト | 15% |
| (4) 期末テスト | 15% |

教科書

日本聖書協会『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）【978-4820212041】

参考書

印刷物；プリント

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15200210

学部教育の関連目

【A・J】本学の基礎であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【A】人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく倫理観や教養を身につける【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「神学こそは、およそ人が学びたいと願うものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。この授業においては、キリスト教神学について、また、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。

(2) 内容

キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻、授業中の教室の出入りは授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と文化
- ・キリスト教神学
- ・キリスト教と諸思想

授業計画

01. 「神学」とそのよりどころ
02. 神はどのようにして知られるか—啓示と自然—
03. 神学と諸思想（1）神学と哲学との微妙な関係
04. 神学と諸思想（2）ロマン主義
05. 神学と諸思想（3）マルクス主義・ポストモダニズム
06. 神学と諸思想（4）フェミニズム
07. 神学と諸思想（5）解放の神学・黒人神学
08. 神についての探求（1）
09. 神についての探求（2）
10. 神と創造
11. 救いとは何か（1）
12. 救いとは何か（2）
13. 「終末」について
14. キリスト教的文化と倫理
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 礼拝レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

授業へ参加度・試験・礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。

教科書

参考書

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1A224150

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性： 社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

【教】 高等学校教諭一種（英語）： 選択科目

(1) 学びの意義と目標

Content - This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries. ||

(2) 内容

Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.

受講者に対する要望

Since the course is conducted entirely in English, a minimum TOEFL equivalency score of 380 (paper-based test) is a pre-requisite for taking the class.

学びのキーワード

- culture
- dimensions
- values
- verbal & nonverbal communication
- intercultural communication competence (ICC)

授業計画

01. Course Introduction & Overview: What is culture?
02. Culture Variance: How do cultures differ?
03. Dimensions of Culture: Adler
04. Dimensions of Culture: Hofstede
05. Dimensions of Culture: Trompenaars & Hampden-Turner
06. Dimensions of Culture: Shaules
07. Dimensions of Culture: The GLOBE Study
08. Cultural Values & Attitudes: Rokeach & Inglehart
09. Subcultures
10. Comparison of National Cultural Groups
11. Comparison of Japanese & American Culture: Hall
12. Comparison of Japanese & American Culture: Condon
13. Comparison of Japanese & American Culture: Meyer's "Culture Map"
14. MIDTERM EXAM
15. Culture & Perception
16. Culture & Language: Exploring the Connection
17. Culture & Language: Potential Pitfalls
18. Cultural Code Words: Japanese
19. Cultural Code Words: American English
20. Intercultural Communication Theories
21. Cultural Differences in Communication
22. Culture & Nonverbal Communication: Body Language (the Peases)
23. Culture & Nonverbal Communication: Other Elements (Hall & Dodd)
24. Cultural Biases
25. Culture Shock
26. Cultural Adaptation
27. Intercultural Communication Competence: Key Elements
28. Intercultural Communication Competence: Development [TERM PAPER DUE]
29. Japanese & Americans Working Together
30. Review & Reflection

準備学習(予習)

Students are expected to complete the weekly textbook reading assignments and be prepared to discuss the contents in each class.

準備学習(復習)

After each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

評価方法

(1) Participation	15%
(2) Reading Assignments	20%
(3) Term Paper	35%
(4) Exams	30%

教科書

Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th ed.)』 (SAGE Publications, Inc.)

参考書

担当教員：D. バーガー

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710470

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる母語の性質を認識することを望んでいる。

(2) 内容

この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話しことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。

受講者に対する要望

言語の本質について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・形態論
- ・統語論
- ・意味論
- ・音声学・音韻論
- ・言語習得

授業計画

01. 授業紹介、言語の本質
02. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション）
03. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション）
04. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション）
05. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション）
06. 動物の「言語」（講義とディスカッション）
07. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション）
08. 人間の脳、形態論 — 単語の構造（講義とディスカッション）
09. 形態論—内容語と機能語（講義とディスカッション）
10. 形態論—形態素：意味の最小単位（講義とディスカッション）
11. 形態論—拘束形態素と自由形態素；グループワーク：形態論に関する問題を解決する
12. 統語論 — 文構造（講義とディスカッション）
13. 統語論— 統語範疇、句構造樹等（講義とディスカッション）
14. 統語論— 句構造規則、グループワーク：統語論に関する問題を解決する
15. 意味論 — 語の意味（講義とディスカッション）
16. 意味論— 意味特性、意味役割（講義とディスカッション）
17. 意味論—文の真実性、含意、隠喩、直示；グループワーク：意味論に関する問題を解決する
18. 音声学 — 言語の音（講義とディスカッション）
19. 音声学— 音標文字、調音音声学：子音（講義とディスカッション）
20. 音声学— 調音の位置、調音の方法（講義とディスカッション）
21. 音声学—調音音声学：母音、グループワーク：音声学に関する問題を解決する
22. 音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション）
23. 音韻論— 音素：言語の音韻単位（講義とディスカッション）
24. 音韻論—形態素の発音；グループワーク：音韻論に関する問題を解決する
25. 言語変化—音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション）
26. 言語変化—形態変化、統語変化（講義とディスカッション）
27. 言語変化—語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する
28. 言語習得—幼児言語習得の段階（講義とディスカッション）
29. 言語習得—言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション）
30. 言語習得—「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する

準備学習(予習)

当日のワークシートを参照すること。

準備学習(復習)

講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにワークシートを復習すること。

評価方法

(1) 授業への参加度	25%
(2) ワークシート	25%
(3) 小テスト	25%
(4) 期末試験	25%

教科書

プリントを配布する

参考書

ビクトリア フロムキン、ニーナ ヒアムズ（著）、ロバート ロッドマン（著）、緒方 孝文（監修）『フロムキンの言語 | 学』第7版 ビー・エヌ・エヌ新社 2006]

担当教員：川手 恩

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A711093

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義では、日常生活でどこにでも見受けられるようなやり取りをコミュニケーションと位置づけ、心理言語学視点より分析し、実社会での様々な状況や場面におけるコミュニケーションの成り立ちを理解することを目的とする。また、様々な研究分野にも精通し学習することの楽しさ、大切さ、すばらしさを見出すことも目的である。

(2) 内容

本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学両方面に加えて脳科学からも分析し、言葉の仕組み、言葉の獲得や言葉の運用に焦点をあて授業を進めていく。|||

受講者に対する要望

クラス活動に積極的に参加しましょう。

学びのキーワード

- ・ 言語使用と心理
- ・ 言語行為と心理
- ・ 産出のメカニズム
- ・ 理解のメカニズム
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. コース内容の説明とニーズ分析
02. 心理言語学とは
03. 動物のコミュニケーション
04. 言語と思考
05. 幼児の言葉の獲得
06. 幼児の言葉の獲得
07. 幼児の言葉の獲得
08. 産出のメカニズム：音
09. 産出のメカニズム：語彙
10. 産出のメカニズム：句
11. 文と文章の理解：チョムスキー生成文法
12. 理解のメカニズム：品詞の組み合わせと統語解析モデル
13. 理解のメカニズム：統語解析モデル
14. 統語解析モデルの復習と理解の確認1
15. 脳の仕組み1
16. 脳の仕組み2
17. 統語解析モデルの復習と理解の確認2
18. 復習と中間テスト
19. 脳の仕組み3
20. 脳の仕組み4
21. 脳と言語：言語の臨界期
22. 脳と言語：ビデオ前半とディスカッション
23. 脳と言語：ビデオ後半とディスカッション
24. 学期末レポートについて内容とお題
25. 学期末レポートについてフォーマットと「はじめに」
26. レポートの書き方の指導
27. 参考文献リストの書き方と練習
28. 心理言語学諸相の復習
29. プレゼンテーションと質疑応答
30. プレゼンテーションと質疑応答

準備学習(予習)

教科書や与えられたプリントを読んでおきましょう

準備学習(復習)

それぞれのトピックの問題をこなし内容を把握していきましょう。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|----------------------|
| (1) クラス参加と 宿題 | 40% | 宿題は必要に応じて授業中に配布されます。 |
| (2) 期末レポート | 30% | |
| (3) プレゼンテーション | 10% | |
| (4) 中間テスト | 20% | 一部持ち込み可 |

教科書

重野純(編)『言語とこころ』新曜社【9784788511965】

参考書

担当教員：D. バーガー

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A712510

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】Japan Studies Program (JSP) 科目

(1) 学びの意義と目標

The purpose of this class is to help students gain a better understanding of how we use language to interact with others, to both uplift and degrade individuals and groups in society, and how language helps form our identity.

(2) 内容

This course will cover three broad areas of language use in society: ways in which personal and group identity are reflected in language use, such as accent, dialect, and multilingualism, and the negative effects of linguistic prejudice; ways in which human relations are expressed through honorific and polite language; and how non-discriminatory language reform illustrates the relationship between language change and social change.

受講者に対する要望

提携校からの交換留学生や留学経験のある、または留学を希望する学生、授業に参加するために十分な英語能力を持つ学生の受講を望む。英語の読書力、聞き取り、ディスカッション能力が必要。

学びのキーワード

- ・言語変種
- ・危機言語
- ・言語復興
- ・敬語と丁寧語
- ・差別語

授業計画

01. Misconceptions about Language: Language Myths 1
02. Language Myths 2: Linguistic Prejudice & Inequality 1
03. Linguistic Prejudice & Inequality 2
04. Key Concepts: Language Varieties
05. Standard Language, Dialect, Accent, Speech Style & Register
06. Bi/Multilingualism and Diglossia
07. Multilingual Japan (Ryukyuan, Ainu, hogen)
08. Endangered Languages & Language Revitalization: Japan
09. Ainu and Ryukyuan
10. Hawaiian
11. Native American Languages
12. Polite Language: Differing Views of "Politeness"
13. Speech Acts
14. Theories of Politeness: Lakoff
15. Theories of Politeness: Leach
16. Theories of Politeness: Brown & Levinson
17. Honorific Language
18. Japanese and Other Honorific Language
19. The Speech Act of Apology
20. Japanese and English Apologies
21. Discriminatory Language: Language Change
22. Evolution of Japanese & English Discriminatory Terms
23. Discriminatory Language: Buraku, People with Disabilities
24. Discriminatory Language: Japanese Media Guidelines
25. English Discriminatory Language: University Guidelines
26. Inclusive Language and English Bible Translations
27. Sexist Language
28. Nonsexist Language Reform in Japanese
29. Nonsexist Language Reform in English
30. Review

準備学習(予習)

与えられた資料、講義内容のプリントを事前に読むこと。

準備学習(復習)

各資料についてリアクションペーパーを書き、小テストのために各課題のプリントを復習すること。

評価方法

- | | | |
|-------------------------|-----|------------|
| (1) class participation | 25% | 授業への参加度 |
| (2) quizzes | 25% | 小テスト |
| (3) reaction papers | 25% | リアクションペーパー |
| (4) final exam | 25% | 期末試験 |

教科書

プリントを配布する

参考書

Bauer, Laurie, and Peter Trudgill, editors. *Language Myths*. London, Penguin, 1998. [バウワー, ローリー/トッドギル, ピーター
【編】/町田 健【監訳】/水崎 いづみ【訳】『言語学的にいえば——ことばにまつわる「常識」をくつがえす』研究社
2000] Lee, Yeonsuk. *The Ideology of Kokugo*. Translated by Maki Hirano Hubbard. Honolulu, University of Hawaii
Press, 2009. [イ・ヨンスク『「国語」という思想—近代日本の言語認識』岩波書店, 2012] Nettie, Daniel, and Suzanne Romaine.
Vanishing Voices: The Extinction of the World's Languages. New York, Oxford, 2000. [タニエル・ネトル スザンヌ・ロメ
イン 訳 島村登男『消えゆく言語たち 失われることば、失われる世界』新曜社, 2001] Heinrich, Patrick. *Making of*

担当教員：川島 安博

学期：春学期 科目：選択科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A901010

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

本科目では、講義を介して「出版編集」の初歩について学ぶとともに、その学びを雑誌原稿執筆などの実習によって理解を深めていくことを受講者に期待している。|また、受講者には、出版物をつくり出すための取材、原稿の執筆と校正などを実践的に学ばなかで、「編集」を含めた仕事全般で必要な能力（例えば前に踏み出し、考え抜き、チームで働く力など）を養ってほしい。

(2) 内容

本科目は、私たちが日ごろ手にする出版物（書籍や雑誌）をつくり出している「出版編集」の初歩について学んでいく。講義内容としては、出版物の企画に始まり、取材、原稿執筆と整理、校正・校閲、デザインや印刷など一連の制作過程について概説するとともに、著作権問題や流通、電子書籍の現状など出版編集に関わる事項についても取り扱う。|また、受講者個々で実際に雑誌原稿を執筆するなどして、出版編集を実践的に学ぶことを目指す。

受講者に対する要望

実習的な側面があるので、遅刻・早退は原則認めない。

学びのキーワード

- ・ 出版
- ・ 編集

授業計画

01. オリエンテーション
02. 編集者の仕事とは何か 4つの役割
03. 企画を立てる① 企画立案のための3要点
04. 企画を立てる② 企画の3T
05. 企画を立てる③ 企画書の書き方
06. 取材を行う① 取材の意味、取材依頼とミーティング
07. 取材を行う② 取材準備
08. 取材を行う③ インタビュー
09. 取材を行う④ 取材をもとに原稿執筆の準備
10. 原稿の書き方① リードとキャプション、媒体の特性
11. 原稿の書き方② 文章の基本5W1H
12. 原稿の書き方③ 読んでもらうための工夫
13. 原稿整理と校正・校閲① 原稿整理の基本、文体の統一、漢字使用
14. 原稿整理と校正・校閲② かな遣い、送りがな、数字・外来語の表記、ルビ
15. 原稿整理と校正・校閲③ 単位記号の表記、差別語の扱い、約物
16. 原稿整理と校正・校閲④ 校正の進め方と校正記号、タテ組校正
17. 原稿整理と校正・校閲⑤ ヨコ組校正、校閲
18. デザインする① 本の外見を考える、本やページのつくり
19. デザインする② 台割、デザインフォーマット、書体
20. デザインする③ 写真、カバーデザイン、紙選び
21. 印刷する① 印刷の基礎知識
22. 印刷する② 印刷の流れ
23. 著作権を知る① 著作権とは何か
24. 著作権を知る② 出版契約
25. 著作権を知る③ 引用の考え方
26. 出版流通を知る① 取次までの流れ
27. 出版流通を知る② 委託、書誌情報
28. 電子書籍の現状と未来① 電子書籍とは何か
29. 電子書籍の現状と未来② 電子書籍の売買
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画で明示している項目について、テキストを熟読し、理解を深めておくこと。また、テキストで興味・関心ある項目については自主的に読み進めてほしい。

準備学習(復習)

授業回ごと学習内容を復習し、参考にすべき文献・資料があれば目を通しておく。授業時間外にも作業を行う場合あり。

評価方法

(1) 授業への姿勢	20%
(2) 課題提出	50%
(3) 期末レポート	30%

教科書

編集の学校/文章の学校監修『Editor's Handbook 編集者・ライターのための必修基礎知識』雷鳥社、2015年|また、授業時に別途資料を配付する。

参考書

編集の学校監修『1週間マスター 編集をするための基礎メソッド』雷鳥社、2003年|また、授業時に必要に応じて別途指示する。

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110420

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

4年間にわたる本学日本文化学科での学びの基礎であり、その後の各自の具体的な研究目標を見定めるきっかけを掴んでほしい。その後の方向性に変更、修正がなされることに何ら問題はないが、「日本文化」を捉える上での広い視野を確保する姿勢を身につけてほしい。

(2) 内容

「日本文化」を学ぶことについての導入講座である。日本文化学科では「語学・文学系統」「歴史・思想系統」「文化論・比較文化系統」の三つの柱を立て、「日本文化研究」へのアプローチ方法の目安を示唆しているが、本講座においては、この三つの柱を枠組みとし、それぞれの系統の専任の教員によるオムニバス形式の授業を展開する中で、「日本文化」に関する基礎的な学びをしてもらうこととなる。

受講者に対する要望

オムニバス形式の授業の利点を生かし、各系統における研究の違いと、根底に流れる共通性をしっかりと捉えてほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 語学・文学
- ・ 歴史・思想
- ・ 文化論・比較文化

授業計画

01. ガイダンス・導入 (村松)
02. 語学・文学 (1) 小林
03. 語学・文学 (2) 黒崎
04. 語学・文学 (3) 木下
05. 歴史・思想 (1) 松井
06. 歴史・思想 (2) 清水 (正)
07. 歴史・思想 (3) 村松
08. 小テスト①
09. 歴史・思想 (4) 柳田
10. 文化論・比較文化 (1) 濱田 |
11. 文化論・比較文化 (2) 熊谷
12. 文化論・比較文化 (3) 横山
13. 文化論・比較文化 (4) 清水 (均)
14. まとめ (村松)
15. 小テスト②

準備学習(予習)

2回実施される「小テスト」に向けて予習をしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業内容をノートにまとめ、提出できるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 小テスト | 50% |

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110530

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学で過ごす数年間が人生にとって非常に大切な時間であることは言うまでもない。特に他者とのコミュニケーション力を養成することは生涯にわたって自己を生かす上で必須の要件となるので、是非とも身につけておいてほしい。一方、「読書記録」においては、記述作業を通じて、「読み」の力を養成するとともに、自己を内省する手がかりを掴んでほしい。

(2) 内容

本講座は学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実を願うと同時に、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージしてもらい、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめた講座である。|学科カリキュラムにおける「専門基礎科目」に位置する必修科目である。即ち、日本文化学科の学生として卒業するためには履修が絶対に欠かせない科目ということである。尚、「授業計画」については外部講師による担当回があるので、講師の都合上変更される場合がある。|

受講者に対する要望

上記の目標を達成するために、授業形態は基本的に「参加型（アクティブラーニング/課題解決型）」の形式をとる。全出席はもとより、自分の殻を破って積極的な姿勢で授業に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・キャンパスデザイン
- ・キャリアデザイン
- ・コミュニケーション
- ・読書
- ・プレゼンテーション

授業計画

01. ガイダンス並びに教務指導
02. 大学生としての学びと生活 1—図書館ツアー①
03. 大学生としての学びと生活 2—図書館ツアー②
04. 大学生としての学びと生活 3—マナーの本質と重要性
05. 大学生としての学びと生活 4—コミュニケーションの重要性：他者を感じる
06. 大学生としての学びと生活 5—プレゼンテーションの方法
07. 「プレゼンテーション」に向けて①
08. 「プレゼンテーション」に向けて②
09. 「プレゼンテーション」の実践—「埼玉の魅力」報告会
10. キャンパスデザインとは—上級生の話を聴き、自分のキャンパスデザインを描く
11. ビブリオバトルに向けて①—ガイダンス—
12. ビブリオバトルに向けて②—推薦図書を決める—
13. ビブリオバトル—準決勝—
14. ビブリオバトル—決勝—
15. まとめ（テスト形式）

準備学習(予習)

1、読書記録の記述|「私の読書記録」を作成し、最終的には「課題図書」「自由図書」から各2冊以上、合計4冊以上の書籍を読むことを義務づける。|2、プレゼンテーション|「埼玉の魅力」について、個人の作業として調査（図書館を利用した文献調査・現地踏査）をしており、グループワークの中でその情報を共有できるように

準備学習(復習)

「授業シート」に毎回の授業についての感想、見解を記述する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業出席の状況、「授業シート」の記述状況、授業への取り組みの状況 |
| (2) 読書記録 | 25% | |
| (3) 最終課題 | 25% | |

教科書

指定のテキストを授業時に配布する。

参考書

必要に応じて授業時に配布する。

担当教員：濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110640

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」を具体的に描き、これから先の学生生活の目標をつかむ。

(2) 内容

「ライフデザイン」は、学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実とともに、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージし、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめて実施される講座である。

「ライフデザイン B」では、「キャリア」を意識してそれぞれのキャンパスライフをどのように組み立てるかをデザインする。また、日本文化学科の学生としてどのような専門研究をするかという方向づけのヒントとなるプログラムを実施する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ ライフデザイン
- ・ キャンパスデザイン
- ・ 専門研究
- ・ キャリアデザイン

授業計画

01. ガイダンス
02. 専門研究への導入①
03. 専門研究への導入②
04. 専門研究への導入③
05. 専門研究への導入④
06. 専門研究への導入⑤及びキャリアガイダンス
07. キャリアデザインプログラム①
08. キャリアデザインプログラム②
09. キャリアデザインプログラム③
10. キャリアデザインプログラム④
11. キャリアデザインプログラム⑤
12. キャリアデザインプログラム⑥
13. キャリアデザインプログラム⑦
14. キャリアデザインプログラム⑧
15. まとめ

準備学習(予習)

・ 「読書記録」は適宜記述、提出し、最終的に4枚(課題図書2枚+自由選択図書2枚)を提出すること。
・ 「キャリアデザインプログラム」において適宜課される課題にしっかりと取り組むこと。

準備学習(復習)

・ 「キャリアデザインプログラム」において、毎回の授業内容をテキストを使って振り返る。(授業中書き込めなかった部分は必ず各自で記入しておく)

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 「私の読書記録」 | 25% |
| (3) 授業内容に関する提出物 | 25% |
| (4) 最終課題 | 25% |

教科書

春学期「ライフデザイン・良く生きるA」の授業時に配布したテキストを継続して使用する。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：太田 ミュキ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110760

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習① 説明の語彙
04. 実作練習② テーマ
05. 実作練習③ 取材
06. 実作練習④ 構想
07. 実作練習⑤ 帰納法
08. 実作練習⑥ 演繹法
09. 実作練習⑦ 構成
10. 実作練習⑧ 尾括式
11. 実作練習⑨ 頭括式
12. 実作練習⑩ 双括式
13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング
14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：副田 恵

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110765

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけるとともに、その学習体験を通して指導方法について理解していくことを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習① 説明の語彙
04. 実作練習② テーマの提示
05. 実作練習③ 材料の取材
06. 実作練習④ 構想の重要さ
07. 実作練習⑤ 帰納法
08. 実作練習⑥ 演繹法
09. 実作練習⑦ 構成
10. 実作練習⑧ 尾括式
11. 実作練習⑨ 頭括式
12. 実作練習⑩ 双括式
13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング
14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：坂巻 理恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1J110770

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習① 説明の語彙
04. 実作練習② テーマの提示
05. 実作練習③ 材料の取材
06. 実作練習④ 構想
07. 実作練習⑤ 帰納法
08. 実作練習⑥ 演繹法
09. 実作練習⑦ 構成
10. 実作練習⑧ 尾括式
11. 実作練習⑨ 頭括式
12. 実作練習⑩ 双括式
13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング
14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：副田 恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110775

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習①
04. 実作練習②
05. 実作練習③
06. 実作練習④
07. 実作練習⑤
08. 実作練習⑥
09. 実作練習⑦
10. 実作練習⑧
11. 実作練習⑨
12. 実作練習⑩
13. 実作練習⑪
14. 実作練習⑫
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：小林 茂之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J120100

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【A】 副専攻：日本文化学科科目 | 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

多くの受講者にとって母語の日本語と最も身近な外国語である英語との比較を通して、現代言語学のスタンダードな考え方を学ぶ。また、現代知性の代表の一人としてのチョムスキーと現代言語学の典型である生成言語学を具体例を通して学ぶことによって科学的思考法を養い、大学学部レベルの現代言語学・言語哲学・認知科学に関する人文的教養を身に付けるとともに、チョムスキーの哲学的意義や、彼の活動を通して大学知識人の民主主義社会に対する責任や倫理について学ぶ。

(2) 内容

現代言語学は、科学の一分野として認識されるようになった。これは、チョムスキーによる生成文法と呼ばれる言語研究が言語学の主流の一つを占めるようになったためである。本講義では、現在アメリカの代表的知識人の一人であるチョムスキーについて紹介し、彼が確立した生成文法が何を問題とし、解明してきたかを展望する。そして、生成文法が研究対象とする母語話者の言語知識とは何であるかを、受講者のほとんどの母語である日本語と、言語の普遍性の観点から日本人にとってもっとも知られている外国語である英語のデータに基づいて、音声学・音韻論、統語論（文法）、意味論などの主要分野について概説する。なお、受講者の理解度に応じて、高等学校における国語学の用語からの橋渡しするとともに、近年の言語研究の成果に対する理解を図る。

受講者に対する要望

毎回、導入・要点をパワーポイントで解説する。また、出席票を兼ねたリアクションペーパーに授業内容に即した簡単な問いに取り組んでほしい。発展的読書の案内があるので、受講者は発展的読書に取り組んでほしい。また、教科書は授業時、予習、復習が必要であるので、教科書を手しないうちに授業に出席しても平常点は認められない。

学びのキーワード

- ・ 言語
- ・ 音声・音韻
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 意味

授業計画

01. 生成文法入門(1)、チョムスキーの学問と思想
02. 生成文法入門(2)、チョムスキーの生い立ち、思想界への影響
03. 第1章 ことばの研究(1)、言語観の移り変わり、国語学、規範主義、言語科学
04. 第1章 ことばの研究(2)、恣意性、分節性、抽象性、構造
05. 第1章 ことばの研究(3)、言語能力、言語運用、言語獲得
06. 第1章 ことばの研究(4)、ことばの普遍性と個別性、ことばの伝達機能、談話（文章表現）
07. 第2章 ことばの獲得(1)、言語獲得の普遍性、言語獲得の迅速さと完璧さ、臨界期
08. 第2章 ことばの獲得(2)、言語獲得の前提条件、発達心理言語学
09. 第2章 ことばの獲得(3)、生成文法と言語獲得、PP理論と言語獲得過程
10. 第2章 ことばの獲得(4)、空主語パラメータ、可能なパラメータの制限、語彙項目に結び付けられたパラメータ
11. 第3章 音としてのことば(1)、音声学、文字と音声、発音のメカニズム、音の分類
12. 第3章 音としてのことば(2)、日本語の音、韻律現象（アクセント）
13. 第3章 音としてのことば(3)、音韻論、最小対立の対、音素、辞書と音韻表示
14. 第3章 音としてのことば(4)、音韻素性と音韻規則、日本語の音韻現象、動詞の活用、ピッチアクセント
15. 第4章 語彙と辞書(1)、文法構造と辞書
16. 第4章 語彙と辞書(2)、形態素、接辞、異形態
17. 第4章 語彙と辞書(3)、語彙範疇、述語の項構造、慣用句、辞書における記載
18. 第4章 語彙と辞書(4)、派生、複合、その他の語形成
19. 第5章 文の仕組み(1)、文法性の判断、句構造
20. 第5章 文の仕組み(2)、移動現象、受動文、日本語に特有な被害の受動文
21. 第5章 文の仕組み(3)、名詞句の解釈、束縛理論
22. 第5章 文の仕組み(4)、不可視的要素
23. 第6章 語の意味と文の意味(1)、単語の意味、多義性、意味素性、意味関係、意味公準
24. 第6章 語の意味と文の意味(2)、文の意味構造、統語論と論理形式
25. 第6章 語の意味と文の意味(3)、論理形式における名詞句の解釈
26. 第6章 語の意味と文の意味(4)、修飾、含意と前提、情報の構造
27. 補足(1)：歴史言語学入門（ラテン語）
28. 補足(2)：歴史言語学入門（ギリシア語）
29. 補足(3)：日本語と英語の史的対照
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回の講義の最後に、次回の教科書の予習ページが示されるので、それにしたがって教科書を予習する。

準備学習(復習)

期末のレポートの準備を含めて、発展的読書をする。また、講義で取り上げない部分を復習時に補う。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------------------|
| (1) レポート | 40% | 教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。 |
| (2) 平常点 | 40% | 教科書の携行を随時チェックする。 |
| (3) 授業参加度 | 20% | 出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。 |

平常点の評価は、教科書の携行して、授業に出席することが前提である。毎授業時ごとにリアクションペーパーの提出がある。授業参加度には、出席票を兼ねたリアクションペーパーの授業の内容理解のための課題への取り組みを含む。

教科書

井上和子・他『生成言語学入門』（大修館書店）【978-4469212341】

参考書

授業時に指示する。

担当教員：木下 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J120210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の日文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）・必修科目 【教】 高等学校教諭一種（国語）・必修科目 【A】 副専攻：日本文化学科科目 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本文学および日本文学研究の特色や方法を理解します。これから、さまざまな作品を鑑賞し、研究するための土台を作ります。

(2) 内容

日本文学入門。これから4年間、研究を進めていく上で知っておきたい、日本文学によく登場する概念や事項、基礎的な知識を学びます。前半は、まずは、書物の装訂と漢字から仮名が作り出されていく過程をたどります。次に、神話や物語、また現代にも見られる、高貴な生まれの主人公が中央世界から疎外され、さすらって苦難を乗り越えたり、時にはそのまま亡くなってしまふ「貴種流離譚（きしゅりゅうりたん）」という話型に着目します。そして、同時代や後世の読者がそれをいかに解釈し、自分の課題に向き合ったり楽しんだりしたかを考えます。後半は、流離のテーマが天変地異や災害、政権交代によって「無常・遁世・漂泊」という描かれ方に変化していくことや、読者層が広がることで「勸善懲悪」の筋書きが好まれていく様相を追います。その次に、和歌から俳句、短歌にいたる流れのなかで、言葉と観念がどのように磨き上げられていったかを探ります。以上のように、文学史上の概念をほぼ時代順に追うことで、それぞれの時代に特有の精神や思想、美意識に迫ります。

受講者に対する要望

ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。

学びのキーワード

- ・日本文学
- ・漢字と仮名
- ・王権と流離
- ・物語と読者
- ・和歌から俳諧、俳句、短歌へ

授業計画

01. はじめに一本のかたちと広まり：装訂、写本と版本
02. 漢字から仮名へ（1）—漢字の伝来：東アジア漢字文化圏
03. 漢字から仮名へ（2）—訓点、カナ、万葉仮名、かな
04. 異郷・境界（1）—世界のはじまり：高天原と黄泉国
05. 異郷・境界（2）—アマテラスとスサノヲ
06. 異郷・境界（3）—スサノヲ追放：地上へ
07. 王権と流離（1）—ヤマトタケルのさすらい
08. 王権と流離（2）—『伊勢物語』と在原業平
09. 王権と流離（3）—『伊勢物語』の東下り
10. 王権と流離（4）—『源氏物語』の光源氏
11. 王権と流離（5）—『源氏物語』の須磨流離
12. 史実と虚構（1）—光源氏の物語論：史書と比較して
13. 史実と虚構（2）—「日本紀の御局」：同時代の『源氏物語』評
14. 史実と虚構（3）—光源氏になりたかった男：四辻善成と王権
15. 物語の楽しみ（1）—『更級日記』：旅のはじまり
16. 物語の楽しみ（2）—『更級日記』：旅の途中、土地の伝説を楽しむ
17. 物語の楽しみ（3）—『更級日記』：「後の位も何かはせむ」
18. 無常・遁世・漂泊（1）—『平家物語』
19. 無常・遁世・漂泊（2）—『方丈記』
20. 無常・遁世・漂泊（3）—『徒然草』
21. 勸善懲悪（1）—『南総里見八犬伝』：「水滸伝」の影響
22. 勸善懲悪（2）—さまざまな受容
23. 和歌（1）—枕詞・序詞：『万葉集』から『古今和歌集』へ
24. 和歌（2）—掛詞・見立て：『古今和歌集』とそれ以降
25. 和歌（3）—本歌取り：藤原俊成と藤原定家
26. 俳諧・俳句と短歌（1）—松尾芭蕉：美的理念
27. 俳諧・俳句と短歌（2）—松尾芭蕉：『奥の細道』
28. 俳諧・俳句と短歌（3）—正岡子規：さまざまな革新運動
29. 俳諧・俳句と短歌（4）—寺山修司：抒情とアンダーグラウンド
30. まとめ

準備学習(予習)

配布したプリントは必ず読み、分からない漢字や語句については辞書で調べておくこと。図書館を活用すること。

準備学習(復習)

その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。追加で質問があれば受け付けます。

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 期末試験 | 60% |
| (2) 平常点 | 40% フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物 |

教科書

参考書

三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、本間 洋一（編）『日本古典文学を読む』（和泉書院）

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1J120381

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と論理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地理）：必修科目 | 【A】副専攻：日本文化学科科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

高校までの歴史の学びは、人物名、事件名、年号などをひたすら頭にいれるという暗記物であったかもしれないが、大学での歴史の授業は、史料を解説しながら、過去の時代を考察するという作業が中心となる。史料読解力や論理的思考力を養っていききたい。

(2) 内容

概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。ここ北武蔵の地は、古代においては、埼玉古墳群に象徴されるように、東国豪族が活躍する舞台であり、中世期には、畠山重忠や熊谷直実らの武蔵武士を輩出し、彼らの活躍が鎌倉幕府成立に大きく貢献した。できるだけ北武蔵の状況について触れながら、古代・中世における政治の変遷について解説していく。|||

受講者に対する要望

日本の歴史について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 日本
- ・ 古代
- ・ 中世
- ・ 武蔵国
- ・ 政治史

授業計画

01. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
02. 邪馬台国はどこにあったのか？
03. 稲荷山古墳出土鉄剣銘の衝撃
04. 聖徳太子は本当に偉人なのか。
05. 「天皇」と「日本」の誕生 |
06. 聖武天皇の憂鬱と天皇制の危機
07. 桓武天皇のコンプレックス
08. 極楽浄土に憧れた道長・頼通父子
09. 畠山重忠の怪力伝説
10. 「官軍」はなぜ負けたのか？－承久の乱をめぐって－
11. 「冬は必ず春となる」－蒙古襲来と鎌倉新仏教－ |
12. 尊治と尊氏 |
13. くじ引きで決めた征夷大將軍
14. 北条氏に支配された武蔵国
15. まとめ

準備学習(予習)

各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。

準備学習(復習)

授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する |

参考書

担当教員：上安 祥子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1J120482

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目 | 【A】副専攻：日本文化学科科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

歴史を学ぶということは、記録された個々の事実や、叙述されたストーリーを「覚える」ことではない。さまざまな史料や学説を検討、検証し、より確かにアプローチする方法を模索しながら、その事実を読み解いていく、きわめて論理的な思考力を駆使する作業が必要だ。本講義でも、そうした論理的思考力を養うことを目標としている。 | なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部社会科教職科目でもある。将来、教え導く立場に立つ諸君だからこそ、歴史を考えて学ぶ醍醐味を、十分に体験してもらいたい。

(2) 内容

概説Bでは、江戸時代から昭和までの歴史をあつかう。洪水や地震などの災害における救済と復興、戦争が起きた経緯、を重点的にとりあげ、政治や社会の動向といった側面をたどる。 | 個々のトピックスそのものを理解するだけでなく、史料を通じてその時代の様相や志向を「考える」、そして時代の流れを把握する、という、学びのプロセスを重視して授業をすすめていきたい。

受講者に対する要望

予習の内容、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めることがある。「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり調べておくこと。その場で考えるものについては、間違ふことをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べること。

学びのキーワード

- ・ 災害
- ・ 戦争
- ・ 近世
- ・ 近代

授業計画

01. ガイダンスー江戸の“四民”
02. 新しい時代の治者像ー山鹿素行の士道論と「太平記読み」の世界
03. ある名主の苦悩ー救済する人、される人
04. 御所千度参りの波紋
05. 七分積金と江戸の町会所
06. 「ぶらかし」と幕府の「私」
07. 東京の誕生
08. 築地梁山泊と改正掛
09. 1889年2月11日の万歳
10. かみあわない「自主」ー日清戦争、そして日露戦争へ
11. 普通選挙への道のり
12. 帝都復興
13. “ひきずられる”国論ー満蒙へのまなざし
14. 開戦しない論理、開戦する論理ー日中戦争、そして太平洋戦争へ
15. まとめ

準備学習(予習)

次回の授業内容に関して、確認しておくべき語句など、基本的には空欄補充形式の予習課題あり。この予習課題は提出はせず、成績にも反映しないが、予備知識や関心をもつことは、授業の理解度を高める。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。

準備学習(復習)

* 授業で配布するプリントに空欄を設け、その空欄に重要語句などを記入する作業を行いながら授業をすすめるが、その空欄に書き込んだ語句などを中心に、プリントをよく見直すこと。 | * 授業内試験の内容をよく見直すこと。 | * 授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”にとらえ、とくに関心を惹かれた内容に関するものから参考文献を読み進めてほしい。そうすることが復習になるとともに、理解を深めることにもつながる。とりわけ、教員免許取得を目指して履修する諸君は、1冊でも多くの参考文献を手にとるよう、意欲的に取り組んでほしい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--|
| (1) 学期末試験 | 55% | * 第15回目に授業内試験を行う。 * 試験の形式などは、時期をみて、授業のなかで説明する。 |
| (2) 授業内小試験 | 45% | * 授業中に小試験、随時、授業時間外にも小試験を行うことがある。 * 小試験の回数で決まる。 * 授業時間外に実施される。 * 授業時間外に実施される。 |

* 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。 | * 公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

教科書

なし。毎授業、プリントを配布する。

参考書

毎授業、複数冊、紹介する。

担当教員：川口 義一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J120520

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本語教育に必要な基礎的知識を得ること。

(2) 内容

本講義では、日本語教育の基礎となる日本語の諸相、すなわち、日本語の音声・表記・語彙・文法・敬語などについて概観する。また、関連して、世界の日本語教育事情や日本語教育の多様化などについても考える。| 毎回のテーマについて、講師がタスクを与え、学生はグループでそれについて討論し、結果を報告する。その結果に基づいてさらに討論をするなどして、タスクの解決を図る。| 毎回、講師からテーマに関係した課題を与えられるので、その中から3題を選び、学期末に最終レポートとして提出する。|

受講者に対する要望

一年次及び二年次の受講が望ましい。日本語教員養成課程の科目であるが、教職課程をとる学生にもすすめたい。

学びのキーワード

- ・ 外国語としての日本語
- ・ 他文化への理解
- ・ 自文化の発見

授業計画

01. 講義概要・講師紹介
02. 同上
03. 日本語の音声① pp. 167-177(ページ数は、教科書の予習箇所。以下、同)
04. 同上
05. 日本語の音声② pp. 200-220
06. 同上
07. 日本語の語彙 pp. 30-48
08. 同上
09. 日本語の文法①_活用 pp. 85-94
10. 同上
11. 日本語の文法②_助詞 ?pp. 106-113, pp. 158-165
12. 同上
13. 日本語の文法③_存在表現・動詞の自他 ?pp. 95-99
14. 同上
15. 日本語の文法④_～テイル・～タ ?pp. 138-149
16. 同上
17. 日本語の表記_仮名・漢字 ?pp. 57-69
18. 同上
19. 日本語の文法⑤_条件表現 ?pp. 114-122
20. 同上
21. 日本語の文法⑥_ヴォイス(受身・使役) ?pp. 128-137
22. 同上
23. 日本語の文法⑦_ムード ?pp. 150-157
24. 同上
25. 日本語の敬語① ?pp. 258-263
26. 同上
27. 日本語の敬語② ?pp. 49-56
28. 同上
29. 日本語教育の多様化 pp. 537-561
30. まとめと振り返り

準備学習(予習)

授業の前に、当日学習する教科書の該当箇所を読んでおくこと。用語なども調べておく。

準備学習(復習)

毎回課される期末レポート用課題の求めるところを確認。

評価方法

- | | | |
|-------------------------|-----|--|
| (1) レポートの内容 | 60% | (2 最終レポート3種類のそれぞれを20点満点で採点し、その総計で評価。 |
| (2) 教室内発表の内容および振り返りレポート | 30% | 各回のグループ討論におけるタスクの解決力を1. 1. 5. 2の3段階で評価し、その15回の総計で最終評価。 |
| (3) 授業態度 | 10% | 遅刻・早退などの回数、グループ討論における協調性などに基づいて減点方式で評価。 |

出席時間数が全体の3分の2に満たない者は評価しない。

教科書

荒川洋平著 『本気で日本語教師を目指す人のための入門書 日本語教育のスタートライン』(2016・スリーエーネットワーク)【ISBN 978-4-88319-740-8】

参考書

担当教員：網本 尚子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J120630

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

私たちと同じ日本人が、昔はどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知ることによって、現代と古典の世界がかけ離れたものではなく、現代は昔の日本の延長上に成立していることを理解する。また、現代との相違点や共通点について考察し、双方の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。|

(2) 内容

この授業では、中古から中世の代表的な文学作品のいくつかを読み味わう。|単に現代語訳するだけでなく、読解に際して必要な古語や文法の知識を深めるとともに、昔の風俗や考え方についての講義を通して、古典を学ぶ上で最低限覚えておくべき常識を身につける。|

受講者に対する要望

現代語訳や古語の意味などをただ暗記するだけでなく、作品について積極的に自分でも調べ、主体的に自分の考えを持つようにしてもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 古典文学
- ・ 平安文学
- ・ 中世文学
- ・ 古典芸能

授業計画

01. ガイダンス・日本語の言葉遊び
02. 百人一首に見られる恋の歌 その1
03. 百人一首に見られる恋の歌 その2
04. 百人一首に見られる恋の歌 その3
05. 枕草子1 清少納言の経歴。清少納言と紫式部
06. 枕草子2 すばらしい女性とは？
07. 枕草子3 宮中の楽しい思い出
08. 枕草子4 清少納言の知識
09. 平家物語1 敦盛最期
10. 平家物語2 平家物語と能。能初心者のための鑑賞講座
11. 今昔物語集1 今昔物語が描く世界
12. 今昔物語集2 今昔物語の登場人物
13. 徒然草1 作者について
14. 徒然草2 無常観について
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で取り上げる作品について、辞典・事典・高校の教科書・参考書などで、あらかじめ下調べしておくこと。

準備学習(復習)

試験では、ノート・プリントの持ち込みを許可するので、ノート整理は毎回きちんとしておくこと。また、本文に出てきた古語、文法などをノートに書き出し、毎回覚えておくこと。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--------------------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業日数の三分の二以上出席 授業後に提出する感想文・質問の内容などで評価 |
| (2) 試験 | 80% | |

欠席・遅刻・早退・学生証忘れなどは、平常点減点の対象とする。
受講態度が悪い(私語・居眠り・ノートを取らない・課題にまじめに取り組まないなど)場合は、平常点を減点する。

教科書

参考書

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J120960

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目 | 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

これまでに教え込まれた「知識」を主体的に検証し、自分なりのものの見方を構築していくきっかけを手に入れること。

(2) 内容

先人の営んできた思想・思考の歴史には、皆さんが自己と自己をとりまく社会とを批判的に問い質し、借り物でない独自の視点を構築していくために学ぶべきことがら、数多く散りばめられている。本講義では通史的に、その主要なものを提示することで、皆さんの「常識」に創造的なゆさぶりをかけてみたいと思っている。|||

受講者に対する要望

「『歴史』は嫌い、『思想』は難しい」と考えている人にこそ受講してもらいたい。文字通り「入門科目」であるため1、2年次の受講が望ましい。なお受講者の質問やコメントを授業に取り入れるため、授業計画には変更が生じることがある。

学びのキーワード

- ・ 日本思想史
- ・ 宗教
- ・ 仏教
- ・ 神道
- ・ 近代

授業計画

01. 何を学ぶか—オリエンテーション—
02. 「無文字社会」の人々とその思想
03. 「遺物」に託された祈りの世界
04. 「カミ」をめぐる文化誌
05. 仏教を受け容れた人々—「罪の意識」の芽生え—
06. 「百姓」=「農民」とされた訳—差別問題を考える—
07. 「見棄てられた人々」と共に—親鸞の深さと新しさ—
08. 歴史と思想の関係 その1—「転換の時代」の意味を問う—
09. 歴史と思想の関係 その2—「弱き者」の目線から—
10. 歴史と思想の関係 その3—創られた「江戸時代」イメージ—
11. 「大日本帝国」を創った思想 その1—「祝祭日」の企図—
12. 「大日本帝国」を創った思想 その2—国家と教育—
13. 君たちはどう生きるか その1—「いのち」への祈り—
14. 君たちはどう生きるか その2—〈現代〉への眼—
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、「ライフデザイン」における私の推薦図書に眼を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること。

評価方法

- (1) 期末試験 100%

期末試験によって評価する。全授業回数のおよそ三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いは初回の授業で説明する。

教科書

参考書

担当教員：小島 智章

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J121070

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目 | 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・日本文化学科の選択必修科目の1つ。1・2年での習得を原則としますが、それ以上の学年でも受講することができます。| ・伝統芸能についての基礎的な知識を身につけ、古典作品に描かれた人々の生活や考え方について理解を深めることを目標とします。| 近年、海外からの注目・評価が高まっている日本の伝統的な文化を理解することは、グローバル化する現代社会で生きていくうえで、大きな力になるでしょう。|

(2) 内容

異なる時代に生まれた、さまざまな種類の芸能が、ほとんどその完成時の様式のままに並存し、現代に伝わっている点に、世界に類を見ない日本の芸能の大きな特徴があります。| この講義では、特に能・狂言、人形浄瑠璃（文楽）、歌舞伎を中心に取り上げ、映像による作品鑑賞を通じて、各芸能の特徴を把握するとともに、古典作品に描かれた社会や人々について理解を深めることを目的とします。|

受講者に対する要望

機会があれば、授業で紹介する伝統芸能を実際の舞台上で鑑賞してください。| 埼玉では川口や草加などの公共ホールで、歌舞伎や文楽の公演が行われることがあります。|

学びのキーワード

- ・ 伝統芸能
- ・ 能
- ・ 狂言
- ・ 文楽
- ・ 歌舞伎

授業計画

01. ガイダンス
02. 日本の伝統芸能 民俗芸能
03. 日本の伝統芸能 雅楽（舞楽）
04. 日本の伝統芸能 能（1）
05. 日本の伝統芸能 能（2）
06. 日本の伝統芸能 狂言（1）
07. 日本の伝統芸能 狂言（2）
08. 日本の伝統芸能 人形浄瑠璃（文楽）（1）
09. 日本の伝統芸能 人形浄瑠璃（文楽）（2）
10. 日本の伝統芸能 人形浄瑠璃（文楽）（3）
11. 日本の伝統芸能 歌舞伎（1）
12. 日本の伝統芸能 歌舞伎（2）
13. 日本の伝統芸能 話芸（1）
14. 日本の伝統芸能 話芸（2）
15. 全体のまとめ

準備学習（予習）

授業で取り上げる芸能の歴史や作者、作品等について、参考文献や参考WEBサイトで概要を調べておく。

準備学習（復習）

授業内容の要点、映像資料についての感想・疑問などをノートにまとめ、レポート執筆の準備をしておく。

評価方法

- (1) 授業への参加度・小レポート 30% 出席カードに感想・疑問などを毎回記して提出。
- (2) レポート 70% 詳細は教場で指示する。

教科書

教場でプリントを配布する。

参考書

教場で指示する。

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J121390

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多元的な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

「日本」「日本文化」「日本人」等々を問い質すための、具体的な場を獲得すること。「小さきもの」「名も無きもの」が奏でる〈文化〉に眼を向け、「ヒーロー」でなく「敗者」の哀歎にこそ耳を傾けられるようになってほしい。

(2) 内容

「日本文化」とは何だろうか。「“日本”にしかない文化」というものは存在するのだろうか。否、そもそも「『日本文化』とは何か」を問い、それを探り当てようとする試みに、積極的な意義はあるのだろうか。本講義では、私たちの身の回りに息づく諸文化を、世界史的な文脈をも考慮しつつ、多角的かつ重層的な観点から問い質すことにより、上記の問いかけに対する一つの場を提示することを目的としている。||

受講者に対する要望

入門科目として、1・2年次（なるべく1年次）の受講が望ましい。なお受講者の質問・コメントや時事問題を取り入れるため、授業計画には変更が生じることがある。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 民俗
- ・ 比較文化

授業計画

01. 何を学ぶか—オリエンテーション—
02. 「日本」を問い直す—「日本史」をめぐる様々なイメージ—
03. アジアのなかの日本その1—竹をめぐる諸文化—
04. アジアのなかの日本その2—『竹取物語』をめぐる文化誌—
05. アジアのなかの日本その3—「竹取の翁」とはどういう人か—
06. 「日本文化史」の陰に その1—差別問題を考える—
07. 「日本文化史」の陰に その2—芸能と差別—
08. 「日本文化」を問う その1—「江戸の歌舞伎」と「明治の歌舞伎」—
09. 「日本文化」を問う その2—創り出された「日本文化」—
10. 「日本文化」を問う その3—「日本語」と軍隊—
11. 文化とは何か その1—生活者の目線から—
12. 文化とは何か その2—欧米人の日本滞在記が問いかける世界—
13. 文化とは何か その3—明日を問うための資料論
14. 残された課題「文化的多元主義」について—
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、「ライフデザイン」における私の推薦図書に眼を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること

評価方法

(1) 試験 100%

期末試験によって評価する。全授業回数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いは初回の授業で説明する。

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J121610

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

インターネット上に多くみられる「独善的で狭量な意見や感想」ではなく、広い視野と深い思考を形成してもらうことが大きな目標である。そのためには対象（この場合はテキスト）への「レッテル貼り」を排除すること、むしろテキストから「発見」を得ることを基本姿勢としてもってもらうことになる。

(2) 内容

日本の近現代文学作品を取り上げ、その「読解」の方法を学ぶ。「テキストを批評的に読む」とはいかなる営為なのか、ということの一端に触れてもらうというのが本講義の趣旨である。特に、「作者の実生活」と「テキスト」とを切り離して読むことの重要性を理解してもらい、また、「定説」等の他者の読解ではなく、あくまで自らの「読解（感想ではなく）」を築き上げることを目指して授業を展開する。|尚、扱う作品については以下に記しておくが、「テキスト読解補説」で扱う作品については受講生の読書傾向をみてから決めることにしたい。

受講者に対する要望

テキスト（作品）に対し、一対一で向き合う態度が大切である。ゆせに、受講生個々で各テキスト（作品）の「読み」を必ず行っておいてほしい。

学びのキーワード

- ・ テキスト
- ・ 読解
- ・ 語り手

授業計画

01. I：テキスト読解のためのレッスンー1
02. I：テキスト読解のためのレッスンー2
03. II：夏目漱石『ころ』を読むー1
04. II：夏目漱石『ころ』を読むー2
05. II：夏目漱石『ころ』を読むー3
06. III：高村光太郎『智恵子抄』を読むー1
07. III：高村光太郎『智恵子抄』を読むー2
08. III：高村光太郎『智恵子抄』を読むー3
09. IV：角田光代『八日目の蟬』を読むー1
10. IV：角田光代『八日目の蟬』を読むー2
11. IV：角田光代『八日目の蟬』を読むー3
12. V：谷崎潤一郎『痴人の愛』を読むー1
13. V：谷崎潤一郎『痴人の愛』を読むー2
14. VI：テキスト読解補説ー1（作品は授業時に指示する）
15. VI：テキスト読解補説ー2（作品は授業時に指示する）

準備学習(予習)

授業で扱う作品については各自必ず読んでおくこと。

準備学習(復習)

各回の授業内容の要点を簡潔にまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 最終レポート | 50% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：茂山 千三郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J130210

学部教育の関連目

【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本の「伝統芸能」の姿を知ること、私たちがどのような文化を育んできたか、そして、現在の私たちにとってどのような意味を持つのかを理解する。更には、実演を通して、「文化を体験すること」「文化を創造すること」という、アクティブラーニングを実践する。

(2) 内容

日本の伝統芸能の中で、最もシンプルかつ基礎となる芸能「狂言」を通し古典芸能の伝承を知る。||・歴史、演技論、発声法、台本の分析、解釈、衣装分析、能舞台の機能と理論の解説。|・基礎の演技「構え・歩み」から一曲の狂言の演技実習で衣装の着付けも含め、上演完成を目標とする。||

受講者に対する要望

白足袋（靴下）の着用。実習の授業では、動ける服装で参加のこと。授業の一環として、実際の狂言舞台を鑑賞してもらう。

学びのキーワード

- ・ 1) 伝統芸能
- ・ 2) 文化理解
- ・ 3) 文化体験

授業計画

01. 伝統芸能論 狂言
02. 伝統芸能論 狂言
03. 伝統芸能論 狂言
04. 学外実習
05. 学外実習
06. 能狂言比較
07. 能狂言比較
08. 狂言演技論
09. 台本分析
10. 台本分析
11. 発声
12. 台本読み
13. 台本読み
14. 台本読み
15. 謡実習
16. 謡実習
17. 謡実習
18. 型の稽古
19. 型の稽古
20. 型の稽古
21. 狂言の動きの稽古
22. 狂言の動きの稽古
23. 狂言の動きの稽古
24. 狂言の動きの稽古
25. 狂言の動きの稽古
26. 狂言の動きの稽古
27. 狂言の動きの稽古
28. 着付け実習
29. 総合稽古
30. 総合稽古

準備学習(予習)

実習科目なので、各時間で発見した課題・問題点を自分なりに克服しておくこと。台本を覚えること。

準備学習(復習)

演技実習では、その日行った台本の読み、演技のおさらいをしておくことが求められる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 狂言実習の評価 | 60% |
| (2) 狂言鑑賞レポート | 20% |
| (3) 最終レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：山田 理映

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J130315

学部教育の関連目

【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

華道は海外に日本の代表的な伝統文化として紹介されている。|基本的な知識を学び身近な伝統文化を体験する。|道と名の付く日本の奥深い文化や、型を大切に作る心に触れ、作品の中に自らの個性を生かしていく。

(2) 内容

華道（いけばな）はなぜ日本の伝統文化になったのか、華道の歴史と生活様式の変化に伴い、花型がどの様に変化していったかを学ぶ。|実技を通して花の扱い方、盛花の基本花型を身につける。|2コマから15コマは講義と実技になる。|希望者は実技12回以上で4級の免状を取ることができる。|実技の花材費用として1回1,000円程度の費用がかかる予定である。

受講者に対する要望

回数を重ねて理解し身につけていく事なので、積極的に受講して欲しい。
自分の作品は大切にして、実技の準備や後片付け等は責任を持って行う。

学びのキーワード

- ・ 伝統文化
- ・ いけばなの歴史
- ・ 様式之美(古典から現代)
- ・ 四季の花
- ・ 花の扱い方

授業計画

01. いけ花の誕生から成立
02. 基本花型1 実技に付いての基礎知識
03. 基本花型2 いけ花のしつらい
04. 基本花型3 年中行事の花 その1
05. 基本花型4 年中行事の花 その2
06. 基本花型5 季節ごとの花の扱い
07. 基本花型6 いけ花の構成 その1
08. 花材に合った花型でいける1 いけ花の構成 その2
09. 花材に合った花型でいける2 花手前
10. 花材に合った花型でいける3 いけばなの鑑賞方法
11. まとめ1 作品展 お互いの作品を鑑賞する
12. 花材に合った花器にいける1 花器の色々
13. 花材に合った花器にいける2 投げ入れについて
14. 花材に合った花器にいける3 いけ花の心
15. まとめ2 作品展 自分達の作品を先生方や友達に鑑賞してもらう。

準備学習(予習)

自分以外の人の作品を鑑賞して、次回の作品の参考にする。

準備学習(復習)

実技に使った花材に付いてしらべてみる。
実際にいけた花を持ち帰り、いけ直す。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|---|
| (1) 授業への取り組み方 | 50% | 授業への参加度 |
| (2) 実技 | 20% | 花をいける時の準備、片付け。 習得しようとする姿勢。 |
| (3) レポート | 30% | 使用した花材について調べる。 作品についての感想等を実習ノートにまとめて提出する。 |

欠席・遅刻は減点の対象になる。|レポートは実技のある時は実習ノートとして、作品展の時にはまとめて提出する。

教科書

参考書

毎時間プリントを配布する。

担当教員：金原亭馬治

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J130410

学部教育の関連目

【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

落語という伝統芸能を、その基本的な知識から学び、実演を鑑賞することを通して、身近な伝統的な言語文化を体験する。その体験を通して、日本人がどのような文化を育んできたか、そして、現在の私たちにとってどのような意味を持つのかを理解する。また、日本人の生活意識や倫理観についても考える機会とする。

(2) 内容

日本の伝統的な言語文化である「落語」について、実演を鑑賞し、噺の基礎となっている生活に関する知識を学ぶことにより、伝承されてきた古典芸能の意味とその価値について具体的に理解する。授業の基本的な型としては、落語を1席鑑賞してもらい、登場した事物や言葉について解説する時間と、その噺の基礎となっている人生観や価値観、世界観について討議をしながら理解を深めていく時間とのセットとして学習を進める。

受講者に対する要望

まずは落語を楽しむという精神で出席してほしい。噺の中で気づいた点や不明な事項については、積極的に発言して確認してほしい。この授業を通じて、落語という文化を理解するとともに、今は失われた江戸期の庶民生活の価値観や人生観を学ぶとともに、現代について比較しながら考えていく機会としてほしい。

学びのキーワード

- ・ 伝統的な言語文化
- ・ 落語の歴史
- ・ 話芸
- ・ 実演鑑賞
- ・ 体験を通して学ぶ

授業計画

01. 落語について概説する
02. 落語鑑賞と討議 (1) 身分制度と貨幣制度
03. 落語鑑賞と討議 (2) 寄席文化
04. 落語鑑賞と討議 (3) 江戸の経済
05. 落語鑑賞と討議 (4) 寄席という文化
06. 落語鑑賞と討議 (5) 結婚観
07. 落語鑑賞と討議 (6) 労働観
08. 落語鑑賞と討議 (7) 女の一生
09. 落語鑑賞と討議 (8) 男と女
10. 落語鑑賞と討議 (9) 継承とオリジナル
11. 落語鑑賞と討議 (10) 江戸の倫理観
12. 落語鑑賞と討議 (11) 身体感覚と『笑い』
13. 落語鑑賞と討議 (12) 善意と悲劇
14. 落語鑑賞と討議 (13) 笑いの意義
15. まとめ

準備学習(予習)

次の週に鑑賞してもらう演目を予告するので、内容におおよそを調べておくこと。

準備学習(復習)

噺の内容に関連した討議課題が出た場合には、発表できるように自分の考えをまとめておくとともに、要点を書く出す等の準備をして臨むこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加状況 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

毎回の授業に積極的に参加することが前提となる。欠席・遅刻は減点の対象になる。| レポートは寄席の鑑賞後にその分析結果を提出する。

教科書

授業中に指示する。

参考書

担当教員：川島 安博

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J130640

学部教育の関連目

【J】表現力・コミュニケーション：会話を伸ばし、的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

本科目では、講義を介して放送およびその周辺領域について学ぶとともに、その学びをメディア・リテラシーの実習によって理解を深めていくことを受講生に期待している。|受講生には、「放送とは何か」についてその実態把握を通じ理解すること、私たちの生活が放送を含めたメディアにどう関わっているのかについて自分なりの考えを導き出すことを求めたい。

(2) 内容

本科目では、人びとの日常生活の営みに欠かせない放送とその周辺領域について学ぶことを目的としている。|日本での放送は、ラジオ放送が1925年に、地上テレビ放送は太平洋戦争後の1953年に始まる。特に地上テレビ放送の普及はめざましく、現在ではさまざまな情報を伝えるほか、娯楽を提供するなど、人びとの日常生活に不可欠な存在となった。他方で、1989年のBSアナログ放送の開始以降、多メディア多チャンネル化、デジタル化とそれに伴う通信事業との融合などのメディア変容が進むなど激動の最中にある。|本科目では、こうした状況下にある放送について、日本における放送の歴史的経緯をはじめ、メディア特性と社会的機能、産業構造、放送制度、地域メディアとしての役割、番組制作と放送倫理、娯楽番組、広告・宣伝、公共放送のあり方、放送に接する市民との関係などの諸局面を取り上げ、その現況と問題点を概説していく。|また併せて、私たちの日常生活を取り囲む放送が日頃どのように関わっているのかについて、メディア・リテラシーの実習を介して考える。具体的には、日頃のメディアとの関わりをはじめ、テレビ・コマーシャルやテレビドラマ、ニュース報道がどのように私たちのもとに送られているのかについて取り上げる。

受講者に対する要望

本科目は週2回行われ、1回目は講義形式、2回目（授業計画で「リテラシー」の記載がある回）はグループ単位による実習形式をとる。実習という側面があるので、遅刻・早退は原則認めない。

学びのキーワード

- ・放送
- ・メディア・リテラシー

授業計画

01. オリエンテーション
02. 放送とは何か
03. 放送史①
04. リテラシー① メディア・リテラシーとは何か
05. 放送史②
06. リテラシー② メディア社会に生きていることを確認する
07. 放送史③
08. リテラシー③ メディアと流行について調べる
09. 産業構造①
10. リテラシー④ 私たちとテレビ・コマーシャル
11. 産業構造②
12. リテラシー⑤ ターゲット・オーディエンス
13. 放送制度①
14. リテラシー⑥ CMが呈示する価値観
15. 放送制度②
16. リテラシー⑦ テレビドラマの映像言語
17. 娯楽番組
18. リテラシー⑧ ドラマが売っている「商品」
19. 広告・宣伝
20. リテラシー⑨ テレビドラマと社会の動き
21. 公共放送
22. リテラシー⑩ ニュース番組の構成
23. 地域メディア
24. リテラシー⑪ なぜ、3大ニュースなのか
25. 放送倫理
26. リテラシー⑫ ニュース番組に登場する人びと
27. 市民
28. リテラシー⑬ 事件報道を考える①
29. リテラシー⑭ 事件報道を考える②
30. まとめ

準備学習(予習)

授業計画で明示している項目について、参考にするべき文献・資料があれば目を通しておくことを求める。

準備学習(復習)

授業回ごと学習内容を復習し、参考にするべき文献・資料があれば目を通しておく。

評価方法

(1) 授業への姿勢	20%
(2) ワークシートの作成	50%
(3) 学期末試験	30%

教科書

鈴木みどり編『最新Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』リベルタ出版、2013年|また、授業時に別途資料を配付する。

参考書

島崎智彦・池田政之・米倉律編著『放送論』学文社、2009年|松岡新児・向後英紀編著『新・現場からみた放送学』学文社、2004年|また、授業時に必要に応じて別途指示する。

担当教員：藤田 のぼる

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J130960

学部教育の関連目

【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文学学科科目

(1) 学びの意義と目標

・文学作品を、創作という立場から分析、観賞する。|・実際に創作活動を通して、文学の表現について考える。

(2) 内容

●この授業は文学作品創作の実習を行います。授業者の専門が児童文学なので、参考にするのは児童文学が多くなりますが、それぞれの創作作品は児童文学に限らず、自由な素材、テーマで書いてもらいます。「創作」が果たして学べるものかどうかという疑問があるかと思いますが、創作のタネはそれぞれの心の中に意外に潜んでいるもので、それにどのような手順でどのように形を与えてやるかを学ぶということになるでしょう。|●具体的には、「読む」と「書く」ことの両方を通して、学んでいきます。最終的にそれぞれ自分のオリジナル作品を仕上げることが目標とします。授業の進め方については、受講者の数や希望、提出された作品の傾向などによってかなり変更するケースもありますが、一応の予定として掲げておきます。なお、授業の性格上、受講人数には限りがありますので、事前の掲示など注意してください。また、第1回目の授業は、最大限休まないようにしてください。|

受講者に対する要望

なんとんでも、この授業は最終的にそれぞれのオリジナル作品を完成させるのがゴールなので、そこをめざしてがんばってもらいます。なお、受講者の人数などによって、授業計画は変更する場合があります。

学びのキーワード

- ・ 創作
- ・ 文学
- ・ 表現

授業計画

01. 始めに～授業の進め方について、前年度作品を読む
02. レッスン1～作文を書こう
03. 作文を読む～「設定」ということ
04. レッスン2～〇〇のつもりになって
05. 作品を読む1～一人称と三人称
06. レッスン3～「視点」ということ
07. レッスン4～会話文
08. 作品を読む2～会話文を生かす
09. 作品を読む3～他大学作品
10. レッスン5～絵本に文をつける
11. 作品を読む4～展開を考える
12. 自作の構想について
13. レッスン6～原稿の書き方
14. 作品を読む5
15. レッスン7～映像を文章に
16. 作品の一次提出
17. 提出作品の個別指導A
18. 提出作品の個別指導B
19. 作品を読む6
20. 作品を読む7
21. 短編の書き方
22. 提出作品の問題点1
23. 提出作品の問題点2
24. 提出作品の問題点3
25. 作品最終提出
26. 提出作品を読む1
27. 提出作品を読む2
28. 提出作品の回覧と感想1
29. 提出作品の回覧と感想2
30. まとめ

準備学習(予習)

作品を読むことは授業内で消化しますが、書くことは宿題になりますので、相応の時間を要します。

準備学習(復習)

授業で紹介された作品は、なるべく読むようにしてください。

評価方法

- | | |
|-------------------|----|
| (1) 提出作品 | 80 |
| (2) 通常の提出物 | 10 |
| (3) 他の受講者作品へのコメント | 10 |

提出作品の内容はもとより、指定された期日を守ることも重要です。

教科書

参考書

担当教員：佐怒賀 直美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J131070

学部教育の関連目

【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

・俳句作品を、実作者の立場から分析・鑑賞します。|・実作・句会・吟行会などの体験を通して、俳句表現、ひいては文学表現について考えます。

(2) 内容

・この授業では俳句創作の実習を行います。授業者は俳句の実作者ですので、実作はもちろん、句会や吟行会などを通して、俳句の楽しさや奥深さなどを体験的に学んでいきます。五七五、十七音という短い言葉の中に潜む広大無辺な世界に、受講者も実作者として飛び込むこととなります。|・具体的には、句会が中心となります。句会とは、各自が作った俳句を持ち寄り、その中から好きな作品を選び、互いに鑑賞や批評をし合う場です。ですから、まずは俳句を作り、休まずに出席することが基本となります。最後には、句会に提出した俳句を中心にした合同句集を作ります。|・大学構内を含め吟行会を3回行います。吟行会とは、実際に皆でその場に行き俳句を作ることです。同じ場所で同じものを見て、お互いにどのような作品ができるのか楽しみでもあり、勉強にもなります。|・以上のような授業の性格上、受講人数には制限がありますので、事前の掲示などに注意してください。|・講義は前半に集中して行いますので、極力第1回から出席することが望まれます。

受講者に対する要望

・経験や能力・資格は不要です。俳句は誰にでもできます。ただし、この授業は、「俳句を作ること」「出席すること」が二大原則ですので、意欲を持って積極的に参加することを望みます。

学びのキーワード

- ・ 創作
- ・ 文学
- ・ 表現
- ・ 連衆

授業計画

01. 講義①：俳句で楽しむ
02. 講義②：俳句の基本
03. 講義③：俳句の作り方とミニ吟行会（大学構内散策）
04. 講義④：句会の方法とミニ句会（ミニ吟行会の句）
05. 句会①：5月の句
06. 吟行会①：5月の大宮花の丘農林公苑散策
07. 句会②：5月の吟行句
08. 句会③：6月の句ーその1
09. 句会④：6月の句ーその2
10. 句会⑤：6月の句ーその3
11. 句会⑥：6月の句ーその4
12. 吟行会②：7月の大宮花の丘農林公苑散策
13. 句会⑦：7月の吟行句 * 合同句集原稿提出
14. 句会⑧：最後の句会
15. 合同句集鑑賞会

準備学習(予習)

・原則として、毎回の句会提出用の作品（3から5句）が宿題となります。

準備学習(復習)

・句会に出された俳句をあらためて鑑賞し直したり、自分の俳句を、参加者の批評などを参考に推敲することが大切です。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 提出物A (俳句作品) | 40% |
| (2) 提出物B (その他) | 20% |
| (3) 活動状況 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：近藤 聡

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J131280

学部教育の関連目

【J】表現力・コミュニケーション：会話を伸ばし、的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(国語)：必修科目【教】高等学校教諭一種(国語)：必修科目【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

授業の目標は次の2点です。| 1. 受講者全員がディベートをできるようにする。| 2. 国語科教育におけるディベート学習を知る。| ディベートはトレーニングですから、明確な方法および指導事項があります。方法と指導事項を明示しながら、各自がディベートをおこなえるように指導します。ディベートには様々な形式があります。今回は、トレーニング効果の高い2通りの形式でおこないます。| また、ディベートの授業実践において、「反駁」学習は意義がありながら、指導が最も困難であるとされてきました。この点を克服した国語科教育の最新の授業プランを、実際に体験して学びます。| 将来、受講者が、国語科教育の現場に立つ際に、理論と実践の両面で役立つ授業を目指しています。|

(2) 内容

アカデミック・ディベートは、論点整理と再構造化を繰り返し訓練するトレーニングです。| 現在の国語科教育は、アカデミック・ディベートを「アーギュメント教育」「論理的思考力の向上」を目的にして、以前より導入するようになりました。しかし、十分に普及しているとはいえません。| 本授業は、受講者がディベートとディベート学習の両方を知ることが目標としています。

受講者に対する要望

授業は、基本的にワークショップ型です。個人およびグループでの演習とディベートゲームで授業は進行します。| 各自が能動的に学習に取り組む必要があります。課題を締め切りまでにきちんとこなし、遅刻や欠席がないようにしてください。

学びのキーワード

- ・ディベート
- ・アーギュメント教育
- ・国語科教育

授業計画

01. ディベートの四条件を知る
02. 反駁を学ぶ(1)：演習「反駁を書く①」
03. 反駁を学ぶ(2)：演習「反駁を書く②」
04. 反駁を学ぶ(3)：反駁エンドレスゲーム「反駁を繰り返す」
05. 反駁を学ぶ(4)：演習「反駁を振り返る」
06. ストラテジーを学ぶ：演習「反駁を想定して立論を作る」
07. 演習「三・三(さん・さん)ディベート」
08. 演習「ディベートの『判定』方法を学ぶ」
09. 演習「ディベート学習の『評価』方法を学ぶ」
10. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る(1)
11. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る(2)
12. 国語科教育におけるリベラルアーツの位置づけを考察する
13. 流布している各種のディベート教材を知り、批評する
14. 演習「ディベート学習の『授業プラン』を提案する」
15. ディベートおよびディベート学習の「総括」

準備学習(予習)

授業時に指示します。

準備学習(復習)

授業時に指示します。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 筆記試験 | 70% |
| (2) 課題・演習等 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J131510

学部教育の関連目

【J】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多元的な価値観をふまえつつ、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文学専攻 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

答えのない問題について、意見を交わしながら、最善案を導くというプロセスを学ぶことを目標とする。この学びによって思考力と表現力が伸長されるはずである。

(2) 内容

この授業では、「多文化とは何か」「多文化共生とは何か」を少人数グループで互いに意見を交換し合いながら、物事を見る視点には多様性があることを学んでいく。

受講者に対する要望

前に立って発表したり、学内の留学生にインタビューを行ったりするため、座って講義を聴くという態度では授業に参加したことにならない。積極的に意見を「ことば」にしてもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 多文化
- ・ 言語教育
- ・ 国際化
- ・ グローバル化
- ・ 異文化

授業計画

01. オリエンテーション
02. 他者の視点を考える
03. 差別と区別？
04. 差別を考える 「青い目・茶色い目」
05. 留学生になったつもりでスピーチコンテスト（1）
06. 外国につながりを持つ子どもたち（1）
07. 外国につながりを持つ子どもたち（2）
08. 異文化の疑似体験
09. 外国人技能実習制度
10. 外国人技能実習制度
11. 多文化共生社会を考える
12. 多文化共生社会を考える
13. 留学生になったつもりでスピーチコンテスト（2）
14. やさしい日本語
15. まとめ

準備学習(予習)

課題を与える

準備学習(復習)

授業内容がレポートと関係する。各自、学んだことをきちんと整理すること。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 発表	25%
(3) 課題	20%
(4) 中間レポート	10%
(5) 期末レポート	20%

教科書

参考書

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J131660

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多様な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

本学との提携校である湖西大学校で実施される研修プログラムに他大学の学生とともに参加する。この中で韓国のヒト・モノ・コトに実際に触れ、関わることで、実践的な「異文化体験」をすることになる。その体験は、学生個々の体験として、あるいは共に参加する学生たちのお互いの共有体験として、将来にわたって貴重なものとなるだろう。

(2) 内容

夏期休暇中に実施される韓国湖西大学校の「短期韓国文化体験プログラム」に参加し、総合的に日本と韓国との文化交流の歴史と現在を学ぶものである。|1～4年生対象の「体験と実践」を重視する「学科基礎科目」のうちの「選択必修科目B群」の一つに位置付けられる。|尚、「授業計画」については湖西大学校のスケジュールが決定次第連絡することとする。

受講者に対する要望

事前講習、現地研修、事後報告会のすべての出席し、与えられた課題(レポート)の全てを提出すること。また、韓国訪問時には、自己の責任において本学学生としてふさわしい行動をとってほしい。

学びのキーワード

- ・文化交流
- ・異文化体験
- ・日韓関係
- ・韓国
- ・韓国語

授業計画

01. 事前講習
02. 韓国湖西大学校研修プログラム
03. 韓国湖西大学校研修プログラム
04. 韓国湖西大学校研修プログラム
05. 韓国湖西大学校研修プログラム
06. 韓国湖西大学校研修プログラム
07. 韓国湖西大学校研修プログラム
08. 韓国湖西大学校研修プログラム
09. 韓国湖西大学校研修プログラム
10. 韓国湖西大学校研修プログラム
11. 韓国湖西大学校研修プログラム
12. 韓国湖西大学校研修プログラム
13. 韓国湖西大学校研修プログラム
14. 韓国湖西大学校研修プログラム
15. 事後報告会

準備学習(予習)

1、韓国語の講座を履修済みであることが望ましい。
2、「事前講習」に必ず出席し、現地での研修に臨む良き準備をしておいてほしい。

準備学習(復習)

1、事後報告会に出席し、口頭で報告をする。
2、現地研修についての報告レポートを提出する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 現地研修 | 50% |
| (2) 事前講習 | 10% |
| (3) 事後報告会 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J131810

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多元的な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

現代における大学の存在意義において、「地域における大学の役割」という視点を欠かすことはできない。日本文化学科では「埼玉学」と並び、この講座を設置することでそのような課題に取り組んでいるが、「大宮盆栽美術館」をはじめとする関係の方々による授業を受けることは、受講生が「体験」として「地域」を学ぶことに繋がるものである。望むらくは、その「体験」をいかした形で、「伝統的でもあり国際的でもある盆栽文化」の発信地である大宮盆栽町に深く関与する働き手となる学生となってほしい。

(2) 内容

いまや世界的な人気を得ている「盆栽」について、これを文化として学び、実践と体験をする講座である。「大宮盆栽美術館」のご協力を得て、様々な専門家による様々な視点から盆栽文化を学ぶことになるが、特にフィールドワークや実際に盆栽に触れるという体験的な内容においては、これまでにない「文化体験」を得ることになるであろう。|授業は夏期集中形式で行い、計5～6日の日数で実施する。場所は大学だけでなく、大宮盆栽町で実施する。尚、第一回目のガイダンスは夏休みに入る前に実施する予定なので、日程・会場についての掲示に注意してもらいたい。また、「授業計画」全般については外部講師の都合上変更する可能性があるが、確定次第掲示するのでこれについても注意してもらいたい。

受講者に対する要望

夏休み期間を利用した集中講義形式で行う。ほとんどが学内での授業となるが、大宮盆栽町（盆栽美術館・盆栽園等）における授業もあるので、多少の交通費が必要となる。受講者には全ての授業に出席することを求めるが、その上で、他では体験できない内容が展開されるので、この機会を十分に利用してもらいたい。尚、人数制限20名であるので、履修希望者数が多い場合には上級生が優先となる。

学びのキーワード

- ・盆栽文化
- ・ローカル（地域）
- ・グローバル
- ・体験
- ・実践

授業計画

01. ガイダンス
02. I、導入：浮世絵と盆栽ほか
03. II、盆栽村とは何か①—盆栽の種類と樹形
04. II、盆栽とは何か②—盆栽の飾り
05. III、世界の中の盆栽①—世界盆栽大会に向けての取り組み
06. III、世界の中の盆栽②—盆栽を世界に広める
07. III、世界の中の盆栽③—盆栽実習
08. IV、現代に生きる盆栽①—新しい盆栽文化を目指して
09. IV、現代に生きる盆栽②—盆栽に触れる・盆栽を育てる
10. V、盆栽の歴史と文化①—盆栽の歴史
11. V、盆栽の歴史と文化②—浮世絵と盆栽
12. VI、盆栽村を訪れる①—大宮盆栽美術館を訪れる
13. VI、盆栽村を訪れる②—盆栽村フィールドワーク
14. VII、振り返りとまとめ①—振り返り
15. VII、振り返りとまとめ②—まとめ

準備学習(予習)

「授業日誌」において「翌日の授業目的」を記述する。

準備学習(復習)

毎日の授業後に、その日の授業内容についての振り返りを「授業日誌」に記述する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業日誌の作成 | 50% |
| (2) 最終レポート | 50% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J132010

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会人としての主体性や実践的な働く力を養う【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

旅行業界は、旅行を企画・手配・実施することが主たる業務であるが、現在は、地方創生やインバウンド(外国人観光客誘致)の国策と連動し様々な新しい業務が発生しているため、偏った知識ではなく幅広い知識が求められる。ひとつの業界を深く知ることで、その業界のみならず様々な業界の姿が見えてくる。|この講義を通じて、業界を深く分析・考察する力を身に付けて欲しい。|

(2) 内容

文系学生に人気業界である<旅行業界>を取り巻く環境や具体的な業務内容を学び、実際に働く姿をイメージすることで、将来の職業選択に必要な視点・観点を身に付ける。また、実際に旅行の企画をし、プレゼンテーションを行う。優秀チームにはJTbでのインターンシップを予定。|尚、授業内容(プレゼンテーション実施)の関係で、受講生数を原則50名制限とする。|

受講者に対する要望

「授業内容」「授業計画」の欄にも記したが、授業内でグループワーク及びプレゼンテーションを実施する。ここで選出される優秀企画については、実際に(株)JTb関東に採用される可能性もあり、また、インターンシップへの参加にも繋がる可能性もあるので、是非意欲的に授業に臨んでほしい。その意味でも、一度の授業欠席であっても大きな損失となることを認識しておいてほしい。

学びのキーワード

- ・旅行・観光
- ・地域交流
- ・業界分析
- ・キャリアデザイン
- ・コミュニケーション

授業計画

- 旅行業界とJTbについて|現在の旅行業界を取り巻く市場環境や、旅行業界の特徴を抑え、旅行業界の代表的な仕事の紹介。|その中でJTbグループが目指すべき方向性や、新しい事業領域の事例についても紹介する。|また、第11回目以降に予定し
- 旅行業界実務講義(店頭編)|「旅行の仕事とは?」とイメージした場合に、もっとも想起しやすい店舗のカウンターの店頭営業。では実際の社員はどのように1日~1週間を過ごし、お客様とどのようなやり取りをしているのかを知る。|
- 旅行業界実務講義(法人営業・企業編)|法人営業について学ぶ。一般企業や組織・団体へ営業提案する「法人営業」。旅行が与える企業への影響や効果、仕事の魅力、やりがい、苦労とは?|
- 旅行業界実務講義(法人営業・学校編)|学校などの教育関係団体を中心に営業展開する「教育旅行営業」。小学校~大学まで旅行会社が教育にどのように関わっているかを知る。|
- 旅行業界実務講義(地域交流編)|今、最も注目されている分野である地域交流ビジネス。少子高齢化に伴い、国や地方行政の動きは日々変化している。地域と旅行会社との連携で生まれるビジネスを知る。|
- 旅行業界実務講義(インバウンド編)|インバウンド=訪日旅行。2,000万人を突破。国の重要政策のひとつとされ、これからさらなる伸びが予想されるこのマーケットについて、現状と近い将来 想定される需要について知る。|
- 送迎員講義(国内旅行編)|旅行業の中で「花形」職種のひとつである送迎員。しかし実際のツアー進行 管理には、突発的な事態への対応、常に発を誘う行動など、スピーディな 仕事が必要とされる。国内旅行における送迎員の基本業務について
- 送迎員講義(海外旅行編)|国内送迎業務と海外送迎業務の違いを中心に、実際に起こった出来事などを事例として取り上げながら、海外送迎業務を学ぶ。|
- 旅行企画講義(国内旅行編)|国内旅行企画(商品造成)について学ぶ。国内パッケージ商品の動向、変遷、関東地方の顧客(マーケット)の特徴についてなどを学ぶ。|
- 旅行企画講義(海外旅行編)|海外旅行企画(商品造成)について学ぶ。海外旅行の企画に必要な観点や、海外パッケージ商品の動向・変遷、旬の海外旅行のエリアについても触れる。|
- グループワーク①|テーマ(案)「(埼玉の魅力発見ツアー企画)を考える」について、各自立案した企画を持ち寄りグループごとの企画を考える。|
- グループワーク②|グループワークごとに立案した企画をブラッシュアップする。(必要に応じて授業時間外に現地調査をしておく)|
- グループワーク③|プレゼンテーションの準備(パワーポイントの作成、役割分担など)|
- グループワーク④|グループでの発表。
- グループワーク⑤|グループでの発表。|最優秀企画を選出する。プレゼンテーションの振り返り。|レポート課題についての説明|

準備学習(予習)

グループワークに向けての準備。プレゼンテーションテーマに関して各自で調査、立案を進めておく。(日々時間を作って作業を進める。)|その他、「日本人の海外出国者数、外国人の入国者数(インバウンド)、その推移、今後の展望」「旅行会社の仕事のイメージ」など、随時課題に取り組んでもらう。(30分~120分)

準備学習(復習)

週ごとに「振り返りシート」に記述し、次週の授業時に提出する。(30分~60分)

評価方法

- (1) 平常点(出席状況・「振り返りシート」提出状況) 50%
- (2) 最終レポート 25%
- (3) グループワーク参加状況 25%

第11回目以降の授業においてグループワーク並びにプレゼンテーションを実施する関係で、第一回目と第二回目の授業の両方に欠席した学生は、以後の授業に出席できないものとする。

教科書

指定のテキストを授業時に配布する

参考書

必要に応じて授業時に配布する

担当教員：小島 智章

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J310100

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

・日本文化学科の専門・選択科目。|・伝統芸能に関する基礎的な知識を身につけ、作品を多角的に鑑賞する素地を養うとともに、日本文化における芸能の重要性について理解を深めることを目標とします。| 近年、海外からの注目・評価が高まっている日本の伝統的な文化を理解することは、グローバル化する現代社会で生きていくうえで、大きな力になるでしょう。|

(2) 内容

異なる時代に生まれた、さまざまな種類の芸能が、ほとんどその完成時の様式のままに並存し、現代に伝わっている点に、世界に類を見ない日本の芸能の大きな特質があります。| この講義では、中世・近世に誕生し発展した芸能、能・狂言、人形浄瑠璃（文楽）、歌舞伎の歴史と特徴について、映像資料を活用しながら、時代順に学んでいきます。また、これらの伝統芸能が、現代の演劇や映画などに及ぼした影響にもふれ、新たな文化を生み出す土壌としての古典の意義について考えます。|

受講者に対する要望

機会があれば、授業で紹介する伝統芸能を実際の舞台上で鑑賞してください。| 埼玉では川口や草加などの公共ホールで、歌舞伎や文楽の公演が行われることがあります。|

学びのキーワード

- ・伝統芸能
- ・能・狂言
- ・人形浄瑠璃（文楽）
- ・歌舞伎
- ・演劇・映画

授業計画

01. ガイダンス
02. 中世から近世の日本と芸能
03. 能 (1) 能・狂言の成立と展開
04. 能 (2) 能の特徴 舞台・能面・装束・身体表現など
05. 能 (3) 能の作品
06. 能 (4) 能と現代演劇
07. 狂言 (1) 狂言の特徴 人物描写・せりふ・身体表現など
08. 狂言 (2) 狂言の作品
09. 狂言 (3) 狂言と歌舞伎
10. 狂言 (4) 狂言と現代演劇
11. 人形浄瑠璃 (1) 人形浄瑠璃の成立
12. 人形浄瑠璃 (2) 近松門左衛門と竹本義太夫
13. 人形浄瑠璃 (3) 近松以後の人形浄瑠璃
14. 人形浄瑠璃 (4) 近現代の人形浄瑠璃
15. 人形浄瑠璃 (5) 民俗芸能の人形芝居 (1)
16. 人形浄瑠璃 (6) 民俗芸能の人形芝居 (2)
17. 人形浄瑠璃 (7) 時代物 (1)
18. 人形浄瑠璃 (8) 時代物 (2)
19. 人形浄瑠璃 (9) 世話物
20. 人形浄瑠璃 (10) 現代における人形浄瑠璃受容の諸相
21. 歌舞伎 (1) 歌舞伎のはじまり
22. 歌舞伎 (2) 元禄歌舞伎 和事と荒事
23. 歌舞伎 (3) 義太夫狂言 (1)
24. 歌舞伎 (4) 義太夫狂言 (2)
25. 歌舞伎 (5) 純歌舞伎 (1)
26. 歌舞伎 (6) 純歌舞伎 (2)
27. 歌舞伎 (7) 舞踊劇
28. 歌舞伎 (8) 新歌舞伎と新作歌舞伎
29. 歌舞伎 (9) 歌舞伎と映画
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業で取り上げる芸能の歴史や作者、作品等について、参考文献や参考WEBサイトで概要を調べておく。

準備学習(復習)

授業内容の要点、映像資料についての感想・疑問などをノートにまとめ、レポート執筆の準備をしておく。

評価方法

- (1) 授業への参加度・小レポート 30% 出席カードに感想・疑問などを毎回記して提出。
- (2) 小テスト 20% 重要キーワードの確認。詳細は教場で指示する。
- (3) レポート 50% 詳細は教場で指示する。

教科書

教場でプリントを配布する。

参考書

教場で指示する。

担当教員：佐伯 英里子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J310210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本美術に関する基礎的知識を習得するとともに、美術作品を単に感覚的に受け止めることから一歩進んで、表現の背後にある意味を読み解き、より深く鑑賞することにより、現在の問題意識ともリンクさせて考える力を養うことができるようになる。

(2) 内容

授業のねらいと概要 | 日本美術の大きな流れは、他の文化領域と同様、常に外来の刺激を受け(近代以前は主に中国、以降は西欧諸国)その摂取消化を繰り返してきた。しかしそこには常に独自の日本的受容の姿勢、日本的嗜好の選択が働いていたといえよう。本講義では、そうした外来と和との融合相克のなかで、一貫して変わらず続いてきた日本美術の実態を明らかにすることを目標に、日本美術の流れを、メジャー作品を中心に概観する。

受講者に対する要望

美術館や博物館見学等、できる限り実作品に触れて、自ら感じ考える機会を持ってほしい。また、日本美術の理解に役立つ、日本の歴史に関する概説的知識を身につけることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 伝統と創造
- ・ 日本人の美意識
- ・ 和と漢
- ・ 和と洋

授業計画

01. 授業概要と参考文献紹介
02. 縄文と弥生
03. 奈良時代の美術 1 法隆寺を中心に
04. 奈良時代の美術 2 薬師寺を中心に
05. 奈良時代の美術 3 東大寺を中心に
06. 平安時代の美術 1 密教美術
07. 平安時代の美術 2 絵巻物
08. 平安時代の美術 3 浄土教美術
09. 鎌倉時代の美術 1 運慶と快慶
10. 鎌倉時代の美術 2 肖像画
11. 鎌倉時代の美術 3 縁起絵巻
12. 室町時代の美術 1 禅宗美術
13. 室町時代の美術 2 禅宗美術
14. 室町時代の美術 3 お伽草紙
15. 総括
16. 安土桃山時代の美術 1 障壁画
17. 安土桃山時代の美術 2 城郭建築
18. 江戸時代の美術 1 琳派
19. 江戸時代の美術 2 写生派
20. 江戸時代の美術 3 浮世絵
21. 江戸時代の美術 4 狩野派
22. 近代の美術 1 洋画と日本画
23. 近代の美術 2 大正期
24. 近代の美術 3 昭和初期
25. 現代の美術 1 戦後日本画
26. 現代の美術 2 戦後洋画
27. 現代の美術 3 漫画とアニメ
28. 日本美術の可能性
29. 総括
30. 試験とその解説

準備学習(予習)

授業計画を参照し、該当する箇所の教科書部分に目を通しておく。

準備学習(復習)

授業内のスライドやビデオ及び配付資料を参考としながら、授業内容のポイントを整理し、まとめる。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------------------------|
| (1) 小レポート | 40% | 展覧会を鑑賞し、感想を書く。 |
| (2) 習熟度確認 | 40% | 授業内容に関し、学習目標の達成、習熟度の確認を行う。 |
| (3) 授業態度 | 20% | 出席状況と学習意欲 |

教科書

辻 惟雄, 泉 武夫『日本美術史ハンドブック』(新書館)【978-4403250989】

参考書

担当教員：清水 均

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：1J310610

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

昨今、日本のポップカルチャー/サブカルチャーは「クールジャパン」として海外からも注目されているが、その実態を批評的に検証することで、学生個々の生の現場というものを確認してもらいたい。

(2) 内容

「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされる。特に、私たちの日々の営みと地続きの地平に存在するポップカルチャー/サブカルチャーは、意識的にも無意識的にも私たちの生活様式や生活感情そのものにも価値や意味をもたらすものであるということができ、私たちは嫌でもポップカルチャー/サブカルチャーの影響下にあるといえる。|この授業ではそうした視点に立って、2000年代（0年代）を中心とした想像力、表現力の有りようを検証することを通じて、私たちの現在地を確認してみたい。

受講者に対する要望

カリキュラム上では「文化」の領域に設置されているが、「文化」そのものの意味を問うことを目指しているので、どのジャンルに関心を持つ学生にも、あるいは他学科の学生にも「文化学」の基礎として受講してもらいたい。|授業は第一回目から内容に深く立ち入ることになるので、第一回の授業から出席することを認識しておいてほしい。

学びのキーワード

- ・ ポップカルチャー
- ・ サブカルチャー
- ・ 高度経済成長/バブル
- ・ 共生/共同体
- ・ 想像力

授業計画

01. 序：授業ガイダンス及びイントロダクション | 1. 『新世紀エヴァンゲリオン』と2000年代文化の変容 | 2. 2000年代に到るまでの戦後日本の文化の展開（概観・分岐点の確認）
02. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (1) 高度経済成長とはどのような時代だったのか | (1) 高度経済成長期を概観する | (2) キャッチコピーにみる時代の変化
03. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (2) 高度経済成長の終焉前後 | (1) マンガ表現の変容 - 『巨人の星』から『タッチ』へ
04. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (2) 高度経済成長の終焉前後 | (2) 特撮モノの変容 - 『ウルトラマン』から『ウルトラセブン』へ
05. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (2) 高度経済成長の終焉前後 | (3) 大衆音楽の展開 - 関西フォーク系（私たちの歌）から吉田拓郎、井上陽水、ユーミン（私の歌）へ
06. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (2) 高度経済成長の終焉前後 | (4) テレビドラマと映画の表現 - 『岸辺のアルバム』から『家族ゲーム』へ
07. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (2) 高度経済成長の終焉前後 | (5) 村上春樹のデビューとウォークマンの登場
08. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (3) バブルとその崩壊前後 | (1) 大衆音楽の変容と詩的フレーズの流行 - 浜崎あゆみ、ミスチルの歌詞の特徴
09. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (3) バブルとその崩壊前後 | (2) 村上春樹の変容と女性作家の隆盛-1
10. | I：2000年代に到るまでの文化変容 | (3) バブルとその崩壊前後 | (2) 村上春樹の変容と女性作家の隆盛-2
11. | II：2000年代の想像力 | (1) 『新世紀エヴァンゲリオン』と『デス・ノート』の問題系 | - 「引きこもり/心理主義」と「サブパイプ/決断主義」の限界
12. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (1) 『郊外共同体』としての『下妻物語』-1
13. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (1) 『郊外共同体』としての『下妻物語』-2
14. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (2) 『家族共同体』としての『クレヨンしんちゃん劇場版』-1
15. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (2) 『家族共同体』としての『クレヨンしんちゃん劇場版』-2
16. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (3) 『新たな家族共同体の形』を描く『サマーウォーズ』
17. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (4) 『新たな家族共同体の形』を描く『おおかみこどもの雨と雪』 (vs 『ももへの手紙』)
18. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (5) 『疑似家族』の可能性を描く『ラストフレンズ』
19. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (6) 村上春樹・伊坂幸太郎における「システム」の問題
20. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (7) 村上春樹『1084』をめぐって-1
21. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (7) 村上春樹『1084』をめぐって-2
22. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (8) 『魔法少女まどか☆マギカ』をめぐって-1
23. | II：2000年代の想像力 | (2) 〈共生と共同体〉の可能性 | (8) 『魔法少女まどか☆マギカ』をめぐって-2
24. | III：現代ポップカルチャーの可能性 | (1) 「システム」と「敵」の問題系 | (1) 『サイコパス』が描いたもの
25. | III：現代ポップカルチャーの可能性 | (2) 2.5次元世界と拡張現実 | (1) アイドル消費（アイドルアニメ・初音ミク・聖地巡礼・AKB48）-1
26. | III：現代ポップカルチャーの可能性 | (2) 2.5次元世界と拡張現実 | (1) アイドル消費（アイドルアニメ・初音ミク・聖地巡礼・AKB48）-2
27. III：現代ポップカルチャーの可能性 | (3) アニメの現在地
28. IV：現代文化の諸問題-1
29. IV：現代文化の諸問題-2
30. 「到達度テスト」

準備学習(予習)

1、「小課題」を課すので提出日（授業時に指示する）までに各自調べてレポートにまとめる作業を日々継続してほしい。テーマは次の通り。| (1) 高度経済成長とはどのような時代か | (2) バブルとその崩壊とはどのような現象か | 2、村上春樹の作品を可能な限り読んでおくこと。扱う作品は次の通り。| 『風の歌』

準備学習(復習)

「到達度テスト」を課すので、日々の授業のまとめをしておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------|
| (1) 平常点 | 50% | 出席状況・小課題 |
| (2) 最終レポート | 25% | |
| (3) 到達度テスト | 25% | |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：藤田 和美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J310980

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

女性学は研究のための研究ではなく、性差別からの解放を訴えた社会運動と、多分野の学問研究の知見が連動して形成された実践的、かつ学際的な学問研究である。各研究分野における理論的枠組みや方法論などを参考にして、女性であれ、男性であれ、性別にかかわらず私達一人一人が〈自分らしさ〉を大切にして主体的に考え、行動することができるような性と生のあり方を探る。
 | 現代日本におけるジェンダー問題に対する認識を深め、男女共同参画社会の実現に向けて、私たちは具体的にどうすれば良いのか、社会において何が必要かを様々な角度から検討する。||

(2) 内容

女性学とは、既存の知や文化を、ジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究、更には男性学研究までの学問の成立の歴史的過程をたどりながら、その成果を学び、性・結婚・労働・文化・芸術・メディア・教育・健康・スポーツなど、現代の私達を取り巻く諸問題について考える。| 授業は講義を中心に進めるが、グループ学習もおこなう。ビデオなどの視聴覚教材も利用する。毎回授業時に感想を提出してもらう。||||

受講者に対する要望

授業中の飲食、私語、携帯閲覧を禁じる。
 学びに対する主体的な取り組みや、授業中の積極的な発言を期待する。

学びのキーワード

- ・ ジェンダー
- ・ 性差別
- ・ 性別役割分業
- ・ 男女共同参画
- ・ 多様性

授業計画

01. ジェンダーとは何か(1)
02. ジェンダーとは何か(2)
03. 異文化における女性・男性(1)
04. 異文化における女性・男性(2)
05. 性の多様性(1)
06. 性の多様性(2)
07. 近代化とジェンダー(1)
08. 近代化とジェンダー(2)
09. 慣習とジェンダー(1)
10. 慣習とジェンダー(2)
11. 労働とジェンダー(1)
12. 労働とジェンダー(2)
13. 労働とジェンダー(3)
14. 労働とジェンダー(4)
15. 文化・芸術におけるジェンダー(1)
16. 文化・芸術におけるジェンダー(2)
17. メディアの中の女性像・男性像(1)
18. メディアの中の女性像・男性像(2)
19. スポーツとジェンダー(1)
20. スポーツとジェンダー(2)
21. 家族関係をめぐる諸問題(1)
22. 家族関係をめぐる諸問題(2)
23. 家族関係をめぐる諸問題(3)
24. 家族関係をめぐる諸問題(4)
25. 教育とジェンダー(1)
26. 教育とジェンダー(2)
27. 男女共同参画社会に向けて
28. グループ・ディスカッション
29. 発表
30. 発表、講評

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックについて新聞等で情報を集めておくこと。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、関連する文献を読むこと。

評価方法

(1) 授業時の感想	30%
(2) 宿題	20%
(3) レポート	40%
(4) 発表	10%

教科書

参考書

授業時に指示する。

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J311010

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

わたしたちは皆、こども経験者である。こどもを理解することは、わたしたちが自分自身の生き方を確認することでもある。その確認を通じて、自分自身についての意外な発見が起こることもある。その驚きと面白さを大切にすることを学びの意義としたい。|こどもに関する言説を冷静に読みとり、学びのなかで自身に起こることを誠実に感受して記述表現することを、学びの目標としたい。|

(2) 内容

こどもは育つ者である。その育つ過程に、おとなはどのように関わってきたのだろうか。また、関わろうとしているのだろうか。育ち・育ての文化の多様性を理解したい。こどもは、おとなの目にどのように映る人たちだろうか。日々の暮らしにおける相互的で相補的な〈目交・まなかい〉に、育ち・育ての文化を把握したい。

受講者に対する要望

日常生活のちょっとした変化に気づき、それを面白さとして感受するセンスをみがくよう心がけてほしい。こどもが触れるものごとをていねいに理解することを心がけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 育ち・育ての文化
- ・ ライフサイクルと子ども期
- ・ こどもの生活世界
- ・ こどもの自由と権利：ウェル ビーイング
- ・ こどもとおとなの関係構造

授業計画

01. こどもとおとな：育つことと育てること
02. こどもの原風景 (1) 子ども期について
03. こどもの原風景 (2) わらわらとしていること
04. 母なるものと父なるもの
05. 食べることと食べられること
06. 冒険すること：怖さに出会うとき
07. 祭りのなかのこども：子供組の役割
08. こどもと言葉：話す と 語る
09. こどもと経験：見える と 見る
10. こどもと伝承：児童文化財について
11. 遊びのなかのこども (1) 遊びは人生の鏡である
12. 遊びのなかのこども (2) 経験としての遊び
13. 遊びのなかのこども (3) 遊ぶ権利
14. こどもと家庭：理想と現実
15. こどもとおとな：こどもがこどもとして生きること・ウェル ビーイングについて

準備学習(予習)

今回の内容に関することを調査する。

準備学習(復習)

配布資料や授業時に紹介した文献などを参照して、ノートの整理をする。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------------|
| (1) 小レポート | 70% | 各回5点×14回 |
| (2) 期末課題 | 30% | 内容の詳細を初回時に説明する。 |

小レポートと期末課題の書式は、授業担当者が定めたものにする。取り組み方を初回時に説明する。

教科書

使用しない。プリントを適宜配布する。

参考書

授業のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。絵本やおもちゃを多用する。

担当教員：丹羽 朋子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J311620

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多様な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文化人類学は、世界の多様な地域の人々が生きる営みや現代社会の文化現象を知り、「他者」の理解を通して自らの「当たり前」を問い直す学問です。本講義では、文化人類学の調査法や理論、さらに近年隆盛する研究成果の多様な表現形式などを学びながら、自らの身近な暮らしを含む世の中の事象を複眼的な目で捉えて情報発信するため、「人類学的想像力」を養うことを目標とします。

(2) 内容

文化人類学の研究では、「フィールドワーク」とよばれる経験的調査によって得た知見を、「民族誌」として表現します。本講義では文化人類学的実践について、(1) 調査手法、(2) 主要な諸テーマの考え方、(3) 民族誌的表現の方法という三方向から概観します。(2)は具体的には生と死、家族、時間といった「人間」を考える上で普遍的なテーマについて、世界各地の事例や関連映像をもとに考えていきます。(3)では映像や展示といった多様なメディアを用いた民族誌の制作や、災害の記憶の記録など、昨今の発展的な取り組みについて取り上げ、文化人類学の新たな可能性について考察します。

受講者に対する要望

本授業は民族誌映像や映画を多用し、そこから議論を深めていきます。リアクション・ペーパーは、講義の内容や授業における議論を参考に、授業で見た映像を受講者が自分なりに考察することが求められます。

学びのキーワード

- ・ 他者理解
- ・ 諸文化の比較
- ・ フィールドワークの技法
- ・ 記憶と記録
- ・ 表現メディアの多様性

授業計画

01. イントロダクション
02. 現代社会を生きる「私」をめぐる文化人類学
03. 文化人類学の歴史 (1)
04. 文化人類学の歴史 (2)
05. 文化人類学の転回—「観察」から「協働」へ (1)
06. 文化人類学の転回—「観察」から「協働」へ (2)
07. 異文化を「展示」する (1)
08. 異文化を「展示」する (2)
09. フィールドワークの技法の多様性 (1)
10. フィールドワークの技法の多様性 (2)
11. 「生む」ことをめぐる多様な社会文化 (1)
12. 「生む」ことをめぐる多様な社会文化 (2)
13. 「死」といかに向き合うか (1)
14. 「死」といかに向き合うか (2)
15. 家族・ジェンダー・婚姻を人類学的に考える (1)
16. 家族・ジェンダー・婚姻を人類学的に考える (2)
17. モノの移動が生み出す人のつながり (1)
18. モノの移動が生み出す人のつながり (2)
19. 食を人類学的に考える (1)
20. 食を人類学的に考える (2)
21. 儀礼と暮らしの時間性 (1)
22. 儀礼と暮らしの時間性 (2)
23. 民族誌的表現の実験—映像の力 (1)
24. 民族誌的表現の実験—映像の力 (2)
25. 災害の記憶と記録、その表現 (1)
26. 災害の記憶と記録、その表現 (2)
27. 民族誌的表現の実験—芸術と人類学の間 (1)
28. 民族誌的表現の実験—芸術と人類学の間 (2)
29. まとめ—人類学的想像力を養う
30. レポートの書き方

準備学習(予習)

各講義のテーマや受講者の問題関心に応じて、人類学に関する展覧会や映画の鑑賞、簡単なインタビュー調査等の課題を出します。

準備学習(復習)

各回の授業で配布するプリントを再読し、また学期末のレポートのための文献を読み進めておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 授業後のリアクションペーパー | 30% |
| (3) 学期末のレポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J311840

学部教育の関連目

【J】国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「海外文化交流研修（アジア）」を経験してから、翌年この科目を履修するも良いし、その逆もありうる。いずれにせよ、近くて遠い国といわれた韓国との関係改善は、次代を担う若者たちの相互理解から始まるといえる。

(2) 内容

1、本学と提携関係にある韓国啓明大学校の夏季セミナー（KLCC・3週間）に参加して、認定される科目である。午前中は韓国語を学び、午後は伝統的な韓国文化を体験する。韓国語のクラスは初級からの学びが可能である。また午後の韓国文化の体験学習は、韓国茶道、伝統演劇・音楽・舞踏・技術・武道、現地訪問など多彩なプログラムが用意されており、通例の留学では経験しがたいほどに豊富な内容になっている。|2、3週間の寮生活を通して、韓国文化の理解を深め、韓国の学生たちと交流を深めることができるのも魅力のひとつであろう。

受講者に対する要望

研修中は本学の学生であることを忘れずに行動してほしい。啓明大学校での詳細が決定次第、募集に入るので、掲示に気をつけてほしい。例年、個人負担は26万円ほどであるが、多少の増減はあり得る。

学びのキーワード

- ・ 韓国文化
- ・ 韓国語
- ・ 国際交流
- ・ 海外体験

授業計画

研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う

準備学習(予習)

研修先の指示、基準に従う。

準備学習(復習)

研修先の指示、基準に従う。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 本学における事前準備講座 | 10% |
| (2) 現地研修への参加度 | 60% |
| (3) 事後レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J312310

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

「日本社会」「日本文化」「日本語」「日本人」の特殊性を考えることを目標にするとともに、どんな社会現象に日本／日本人論を読みとるきっかけがあるのかを理解できるはずである。|

(2) 内容

戦後の高度経済成長期以降の日本社会、日本文化、日本人、日本というアイデンティティを社会的に取り扱う。ただし、履修登録段階で示した内容とは若干異なるので、よく確認して最終的に登録して欲しい。具体例を示すために、（できないかもしれないが、）視聴覚教材や新聞・雑誌記事を取り上げながら講義を進めていく。| 前半では、戦後日本社会を社会学がどのように捉えたかを知ることで、何を「日本的」な文化現象とすることを理解する。後半では、小林修一の『日本のコード——日本的なるものとは何か』（みすず書房、2009年）を中心に取りあげ、日本社会や日本文化の特性を理解したい。これらに加えて、加藤典洋の『敗戦後論』（筑摩書房、2005年）を中心に取りあげ、日本ならびに日本人というアイデンティティを考えてみたい。|

受講者に対する要望

身近な事例と講義内容とを結びつけることを常に意識して、講義に臨んで欲しい。

学びのキーワード

- ・ 日本社会
- ・ 日本人
- ・ 高度経済成長
- ・ 戦後
- ・ アイデンティティ

授業計画

01. ガイダンス
02. 戦後日本の高度経済成長
03. 戦後日本の高度経済成長
04. 戦後日本の高度経済成長
05. 戦後日本の家族
06. 戦後日本の家族
07. 学卒後就職の変化
08. 学卒後就職の変化
09. 学卒後就職の変化
10. 日本人のアイデンティティ論
11. 日本人のアイデンティティ論
12. 日本のポピュラー文化論
13. 日本のポピュラー文化論
14. 日本のポピュラー文化論
15. シュッツの多元的世界論
16. シュッツの多元的世界論
17. 心理主義化する社会
18. 心理主義化する社会
19. 日本語のコード
20. 日本語のコード
21. 日本語のコード
22. 日本語のコード
23. 日本語のコード
24. 日本文化のコード
25. 日本文化のコード
26. 日本文化のコード
27. 日本社会のコード
28. 日本社会のコード
29. 日本社会のコード
30. まとめ

準備学習(予習)

予習として、前回までの講義の板書をまとめたノートを作り、講義全体の流れを理解してくることを進める。

準備学習(復習)

復習としては講義で指定する教科書を読んで、講義への理解を深めて欲しい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 講義内課題 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末レポート | 40% |

教科書

小林修一『日本のコード——日本的なるものとは何か』みすず書房、2009年。

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J312410

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多様な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

「和漢比較文学」は古くて新しい学問分野といえる。本講義では「和漢比較文学」の手法を用いて、中国の「漢詩」と日本の「和歌」の比較文学を軸とし、比較文化に及ぶ。対象とする時代は10世紀までとする。本講義を通して「比較文学」の手法を学ぶとともに、文献資料の読解における基本的な技術の涵養を目標とする。

(2) 内容

『古今和歌集』への道～漢詩から和歌へ～

受講者に対する要望

積極的で能動的な学習を求めたい。配付資料が大部となるので、資料の管理についても丁寧に行うことを心掛けて欲しい。尚、講義には漢和辞典必携である(電子辞書可)。

学びのキーワード

・『詩経』／『説文解字』／『文章流別志論』／『文心雕龍』
 ・新体詩／詩病説／『文鏡秘府論』／『文筆式』／『華札華梁』／『詩髓』／近体詩／平仄式／四声
 ・藤原漢成／『歌經標式』／大江千里／『句題和歌』／菅原道真／『新撰万葉集』／大江綏時／『千載佳句』
 ・紀貫之／『古今和歌集』／仮名序／真名序／部立
 ・国風暗黒時代／国風時代／国風文化

授業計画

01. ガイダンス
02. 中国文芸理論と詩学①／『詩経』の世界
03. 中国文芸理論と詩学②／『詩経』の世界
04. 中国文芸理論と詩学③／『説文解字』の世界
05. 中国文芸理論と詩学④／中国文芸理論書と詩学
06. 中国文芸理論と詩学⑤／新体詩と近体詩
07. 中国文芸理論と詩学⑥／新体詩と近体詩
08. 中国文芸理論と詩学⑦／新体詩と近体詩
09. 中国文芸理論と詩学⑧／新体詩と近体詩
10. 中国文芸理論書の日本への将来①
11. 中国文芸理論書の日本への将来②
12. 中国文芸理論書の日本への将来③
13. 『歌經標式』歌病説①
14. 『歌經標式』歌病説②
15. 『句題和歌』を巡る問題点①
16. 『句題和歌』を巡る問題点②
17. 『句題和歌』を巡る問題点③
18. 『句題和歌』を巡る問題点④
19. 『新撰万葉集』を巡る問題点①
20. 『新撰万葉集』を巡る問題点②
21. 『新撰万葉集』を巡る問題点③
22. 『新撰万葉集』を巡る問題点④
23. 『新撰万葉集』を巡る問題点⑤／大学寮について
24. 『新撰万葉集』を巡る問題点⑥／大学寮について
25. 『千載佳句』を巡る問題点①
26. 『千載佳句』を巡る問題点②
27. 『千載佳句』を巡る問題点③
28. 『古今和歌集』の歌論
29. 『古今和歌集』の構造
30. 総括

準備学習(予習)

多くの受講生にとって初見の資料が中心となる。講義で使用する資料は事前に配布するので講義前に通読してから参加して欲しい。

準備学習(復習)

本講義の重要な課題は「復習」にあるといえる。毎回の講義ごとにテーマがあり、関連する参考書がある。復習については適宜教場にて紹介をする。受講生は積極的に図書館を利用し、講義の内容から派生する問題を探求して欲しい。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---------------------------------------|
| (1) 積極性 | 40% | 授業への参加度／教場における積極性(質疑応答)／教場における小レポートなど |
| (2) 学期末レポート | 60% | 学期末のレポートの提出を課題とします |

学期末の課題レポートが提出されない場合は「D」となる。

教科書

プリントを配布する

参考書

教場にて適宜紹介する|

社会調査入門

SOCI-A-100/SOCI-J-1

担当教員：柳瀬 公

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J312790

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に着ける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義は、社会調査の実例を取り上げながら、社会調査に関する基本的事項を知ること、社会調査に関する知識にどのような意味があるかを理解することを目的とする。より具体的には、過去に行われた調査から、社会調査とはどのようなものか、社会調査には何ができるのか、社会調査を実施する上での倫理的な問題は何かを学ぶことを目指す。その過程で、社会調査の方法の基本も学ぶことができるので、「社会調査の方法」への導入として受講することが望ましい。

(2) 内容

社会調査とは、社会の特徴を発見したり、確認したりすることを目指した手段である。本講義では、いろいろな社会調査の例から社会調査とはどんなものかを入門的に学ぶ。本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定A科目に該当するため、同資格取得を希望する学生はいちばん初めに受講することを勧める。社会調査士は、社会調査協会が認定する資格で、社会調査の基礎的な能力をもつことを示す。また、資格希望者でなくとも本講義を受講することはできる。

受講者に対する要望

講義内課題は、UNIPAに回答を書き込む形を取るのので、スマートフォンを持っていると講義内で終えられる。また、念のためUSBメモリも用意して持参して欲しい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・インタビュー
- ・調査倫理
- ・社会調査士

授業計画

01. 社会調査とは何か | (社会調査が、社会科学のどこに位置して、どのような方法なのかの概略を知る)
02. 社会調査の実例から学ぶ：実態調査 | (社会階層や家族などに関する実態調査を確認して、社会調査の目的を学ぶ)
03. 社会調査の実例から学ぶ：世論調査と公的統計 | (世論調査・官庁統計の具体例から、社会調査の意義、社会調査の方法を学ぶ)
04. 社会調査の実例から学ぶ：市場調査 | (市場調査の具体例を確認しながら、社会調査の意義、社会調査の方法を学ぶ)
05. 社会調査の実例から学ぶ：その他の学術的調査 | (調査票調査以外の文化人類学的な調査から、社会調査の意義、その方法を学ぶ)
06. 社会調査の歴史 | (代表的な社会調査の例を見ながら、社会調査の発展について理解する)
07. 調査倫理について学ぶ | (社会調査に関連する人権問題について理解する)
08. 調査倫理について学ぶ | (各種倫理綱領から倫理的な問題を知り、実際の対応について理解する)
09. 量的調査とは何か | (実際の量的調査票から量的調査の手順を知る)
10. 量的調査とは何か | (社会調査の実例から、調査データの分析の基本を学ぶ)
11. 質的調査とは何か | (インタビューや参与観察を取り上げて、量的調査との違いを知る)
12. 質的調査とは何か | (ドキュメント分析、会話分析などの基本と、写真観察法を知る)
13. 社会調査を体験してみる | (非参与観察法を体験する)
14. 社会調査を体験してみる | (非参与観察法を体験する)
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---|
| (1) 講義内課題 | 60% | ほぼ毎回課される講義内課題によって評価する(課題が課されない回には評価しないことになる)。 |
| (2) 期末試験 | 40% | 持ち込み不可 |

教科書

大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

社会調査の方法

SOCI-A-100/SOCI-J-1

担当教員：柳瀬 公

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J312800

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では、公的統計や簡単な調査報告・調査論文が読めるようになることを目標とする。受講生には、主にアンケート調査の実施方法やアンケート票の作成方法を学ぶ講義だと考えて欲しい。さらに、グループ・ワークも取り入れる予定なので、コミュニケーション能力の育成にも役立つだろう。

(2) 内容

本講義の目的は、社会調査によってデータや資料を収集して、それらを整理して、基礎的な分析の具体的な手法を学ぶことにある。単に社会調査の方法を知るだけでなく、講義内で受講生を対象に模擬的に調査を実施する。これに加えて、データ収集・整理の方法、および初歩的な統計データやグラフの読み方などを実際の作業を通じて体験することで理解を深める。講義の中で、作業の体験を重視するのは、「社会調査実習」(社会調査士G科目)で、社会調査を実施するための準備を本講義で行うためである。| 本講義は、日本文化学科専門科目の文化論・比較文化系に位置する科目であるとともに、社会調査士認定B科目およびC科目に該当するので、A科目「社会調査入門」に引き続き受講することを強く勧める。なお、資格取得を希望しない学生も受講することができる。

受講者に対する要望

講義内での課題はUNIPAへ提出することが求められるので、パソコンを受講者自身が操作することになる。データを一時的に保存する必要性もあるので、USBメモリを用意してほしい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・インタビュー
- ・社会調査士

授業計画

01. 社会調査の目的と方法 | (「社会調査入門」の復習、調査の実施方法とその特徴を学ぶ)
02. 社会調査の企画と設計 | (調査票調査を理解した上で、調査票調査の企画と設計方法について学ぶ)
03. 仮説と変数 | (仮説および作業仮説、変数とは何か、独立変数および従属変数について学ぶ)
04. 仮説と質問文の関係 | (仮説と質問文の関係を理解して、仮説の作り方を学ぶ)
05. 質問文と質問文の関係 | (仮説と質問文の関係を理解して、質問文と質問方法による問題を学ぶ)
06. 質問文と選択肢の作り方 | (意識と事実の問い方、ワーディング・回答の選択肢に関する問題、尺度の種類)
07. 仮説を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる)
08. 仮説を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、仮説を立てる)
09. 質問と選択肢を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る)
10. 調査票の構成【グループ作業】
11. プリテスト
12. 質問と選択肢を作る【グループ作業】 | (講義内で実施する模擬調査のため、質問と選択肢を作る)
13. データ入力とデータ・クリーニング | (実際にPCもしくは集計表を使ったデータ入力、データ・クリーニングを行う)
14. サンプリングの考え方と理論 | (全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方)
15. サンプリングの考え方と理論 | (全数調査と標本調査、無作為抽出、正規分布、標本誤差、標本数の決め方)
16. サンプリングの実際 | (サンプリングの種類と方法について学び、実際のサンプリング作業を知る)
17. 単純集計と度数分布 | (尺度の種類、講義内模擬調査から度数分布表を作成する)
18. 平均・分散・標準偏差 | (講義内模擬調査から得た変数を使って、平均・分散・標準偏差を理解する)
19. クロス集計表の読み方 | (さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ)
20. クロス集計表を読む | (さまざまなクロス集計結果から仮説を検証することを学ぶ)
21. クロス集計表を作る | (模擬調査結果からクロス集計表の作成、仮説の検証、簡単な報告書の執筆)
22. 調査結果のまとめかた | (模擬調査による仮説の検証、簡単な報告書執筆)
23. カイ二乗検定 | (模擬調査結果分析を精緻化するために、カイ二乗検定の考え方を学ぶ)
24. カイ二乗検定 | (模擬調査結果分析からカイ二乗検定の考え方を学び、実践してみる)
25. クロス集計表のエロレクション | (模擬調査結果分析をより精緻化するために、第3変数と疑似連関について学ぶ)
26. 相関関係と因果関係 | (共分散および相関関係、相関係数について学ぶ)
27. 相関関係と因果関係 | (相関係数の注意点と、関連および相関関係と因果関係との違いについて学ぶ)
28. 質的データの読み方 | (インタビュー記録や文書などの質的データの分析方法について概観する)
29. 質的データを読む | (実際に、用意された記録や文書を簡単に分析してみる)
30. まとめ

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------------------|
| (1) 講義内課題 | 40% | 出席点は設けない。ほぼ毎回課される講義によって評価される。 |
| (2) 報告書 | 20% | |
| (3) 期末試験 | 40% | 持ち込み不可 |

前の講義内容への積み重ねで理解できる講義であるため、欠席しないことが重要になる。

教科書

大谷 信介、後藤 範章、小松 洋、木下 栄二『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

担当教員：柳瀬 公

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る！【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に着ける！【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義の到達目標は、推測統計に必要な確率論や正規分布の理解を深め、さまざまな仮説の検定を習得することである。

(2) 内容

本講義の目的は、社会調査で得られたデータをまとめたり分析したりするために必要となる、基礎的な統計学的知識を習得することである。統計学は、記述統計と推測統計に大別される。前者は、データのもっている特性をより鮮明に表現するために、データを要約したり作表したりすることであり、後者は、母集団からの無作為標本（ランダムサンプル）より得られたデータから、母集団を推計しようとするものである。本講義では、前者の基本統計量をおさらいした上で後者を詳しく学習する。

本講義を受講する前に「社会調査の方法」を履修しておくことより理解しやすい。さらに複雑な分析を習得したいのであれば、「量的データ解析の方法」を履修するとよい。本科目は社会調査士認定D科目となるため、2016年度卒業予定で社会調査士取得を希望する学生は、今年度必ず本科目を受講しなければならない。

受講者に対する要望

初回のガイダンスでは、授業の進め方や成績評価について説明するので、必ず出席すること。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・社会統計
- ・基本統計量
- ・推測統計
- ・仮説検定

授業計画

01. ガイダンス なぜ社会統計学を学ぶのか
02. 集計：量的データの整理 単純集計、クロス集計による分析を理解する。
03. 度数分布・位置の指標 度数分布表を作成する、最頻値・中央値・平均を理解する。
04. ばらつきの指標 範囲・平均偏差・標準偏差を理解する。
05. 確率論の基礎 確率分布の性質を理解する。
06. 正規分布・推計統計の考え方 正規分布と標準偏差との関係を理解する、正規分布表を解釈し、Z得点とT得点を算出する。
07. 標本抽出と推定 無作為抽出の概念を理解する、信頼区間や標本誤差について学ぶ。
08. 2種類の過誤 帰無仮説と対立仮説の関係を理解し、仮説検定の基本的な手続きを学ぶ。
09. カテゴリー間の差を検定する クロス集計表に対するカイ2乗検定を学ぶ
10. 2つの平均の差を検定する t検定を理解する。
11. 複数の平均の差を検定する 分散分析を理解する。
12. 相関関と相関関係 相関係数の意味を理解し、2つの連続変数間の関係を推定する。
13. 回帰分析の基礎 回帰直線や最小2乗法の意味を理解する。
14. 仮説検定の練習問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画のテーマに沿って参考書をよく読んで、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業で配布するレジュメを各自で整理し、内容を復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内演習課題 | 40% |
| (2) 期末試験 | 60% |

教科書

特に指定せず、授業ではレジュメを配布する。

参考書

P. G. ホーエル著、浅井晃・村上正康訳 『初等統計学 第4版』 (培風社) 1981年 【ISBN : 978-4-563-00839-0】

担当教員：鈴木 英一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J313120

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・近世三味線音楽・洋楽流入…現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が、いまなおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、それぞれのジャンルの特殊性と、音楽としての普遍性を検証することを主な目標とする。さらに講師は邦楽の演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直してもらいたいと思う。

(2) 内容

メディアに津軽三味線や雅楽の若き邦楽ミュージシャンの演奏が取り上げられ、既に若い人も伝統音楽を違和感なく享受している。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのであろうか。それとも伝統音楽の変質か。現代における日本音楽の存在価値を見極めてみたい。| |

受講者に対する要望

出来るだけ現代と繋がり深い伝統音楽を学ぶので、ぜひ一度は演奏会に出かけて欲しい。講義ではパフォーマンスとしての音楽を念頭に置いているので、受講生も出席カードやレポートでパフォーマンスして欲しい。

学びのキーワード

- ・ 歌舞伎音楽
- ・ 津軽三味線
- ・ 和太鼓
- ・ 西洋音楽との融合
- ・ 不易流行

授業計画

01. ○音楽とは何か
02. ○古代の音楽
03. ○日本音楽の淵源「雅楽」
04. ○雅楽がつくった日本人の国民性
05. ○仏教音楽の渡来 良い声とは何?
06. ○「能」の音楽を知ろう
07. ○「能」の名作を鑑賞しよう
08. ○「歌」と「語り」
09. ○語り物「浄瑠璃」の成立
10. ○浄瑠璃と人形劇の合体「文楽」
11. ○カブキの発想と歌舞伎音楽
12. ○三味線の渡来
13. ○新しい音階の成立
14. ○三味線音楽の流派
15. ○三味線実演鑑賞
16. ○音曲の司「義太夫節」
17. ○盲人と音楽の関係
18. ○歌舞伎下座音楽
19. ○歌舞伎音楽名作鑑賞
20. ○その他の江戸時代の音楽
21. ○音楽の開国 洋楽受容史
22. ○近代音楽教育
23. ○邦楽と洋楽の融合時代
24. ○現代に生きる伝統音楽「津軽三味線」
25. ○現代に生きる伝統音楽「創作和太鼓」
26. ○現代に生きる伝統音楽「雅楽」
27. ○現代に生きる伝統音楽「子守歌」
28. ○こんな音楽聞いた事ない「雑藝」
29. ○伝統音楽体験
30. ○再び「音楽とは何か?」

準備学習(予習)

とにかく数多くの伝統音楽を試聴しておいてください。

準備学習(復習)

学習した音楽を理論化してみてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313210

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では社会調査を実体験することで、社会調査の役割や方法を具体的に理解することができる。つまり、本講義は、「社会調査入門」「社会調査の方法」で学んだ社会調査の手法を、受講者自身が実践する実習となる。

(2) 内容

「社会調査の方法」で学んだ調査企画から報告書作成までの一連の社会調査の過程を、実際に受講生自身が体験・実践する科目で、実習形式とゼミ形式を進める。与えられた共通テーマ「大学生の日常生活に関する社会調査」にしたがい、受講生自身が（場合によってはグループごとに）より具体的なテーマ・仮説を設定して、聖学院大学学生を対象とした量的な調査を実施する。なお、実査は聖学院大学で開講される授業を対象とした集合調査法によって行うものとする。| 本講義は、日本文化学科の文化論・比較文化系に位置する専門科目であるとともに、社会調査士認定G科目に該当している。社会調査士取得希望者でなくても受講はできるが、「社会調査の方法」を修得していないと履修できない。| ※2017年度は社会調査実践IとIIを春学期に同時並行で開講する。そのため、社会調査実践Iの授業計画は春学期前半に週2コマで進め、社会調査実践IIの事業計画は春学期後半に週2コマで進めることになる。

受講者に対する要望

USBメモリを持参すること。| 課題を一つずつ達成することが求められ、受講生それぞれが自分の果たすべき役割を考えて実習に臨んで欲しい。また、欠席することで、他の受講生の作業が中断してしまうということを覚えておいて欲しい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・量的調査
- ・社会調査実習
- ・社会調査士

授業計画

01. 「社会調査の方法」の復習とガイダンス
02. 先行研究の収集と整理 | (共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる [21~64頁])
03. 先行研究の収集と整理 | (共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる [21~64頁])
04. 先行研究の収集と整理 | (共通テーマに即して、過去に行われた調査票調査に基づく研究を探して、まとめる [21~64頁])
(仮) 調査企画と仮説の設定 | (共通テーマに従って、より詳細なテーマを考え、調査を企画する (A4版2枚) [88~98頁])
06. (仮) 調査企画報告とグループ分け | (受講者が自分が考えた調査テーマを報告して、テーマごとグループ分けを行う [88~98頁])
07. 先行研究の補足と調査設計 | (受講生間で生じた調査企画のズレを調整して、クラスのテーマを統一する)
08. 先行研究の補足と調査設計 | (受講生間で生じた調査企画のズレを調整して、クラスのテーマを統一する)
09. 仮説構成と質問項目 | (クラス・テーマに基づいた仮説と質問を構成する)
10. 仮説構成と質問項目 | (クラス・テーマに基づいた仮説と質問を構成する)
11. 調査設計報告 | (受講生が作成した仮説と質問を報告して、質疑応答を行う)
12. 仮説と質問の修正 | (報告を受けて明らかになった課題に応じて、仮説・質問を修正する)
13. 仮説と質問の修正 | (報告を受けて明らかになった課題に応じて、仮説・質問を修正する)
14. 調査項目から調査票の構成を考える
15. プリテスト用調査票の印刷と完成 | (期日までに学外3名以上の方にプリテストを実施してくる)

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認して、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

(1) 調査企画	15%	「社会調査の方法」報告書の修正 5% / 調査企画書 5% / 調査企画報告書 5%
(2) 調査設計	25%	調査設計 10% / 調査設計報告 5% / 調査設計修正 5% / 調査票完成とプリテスト 5%
(3) 調査依頼と実査	10%	
(4) データ入力と集計	15%	
(5) 報告書作成	35%	報告書(分析) 30% / 報告書作成と実習報告 5%

教科書

大谷信介・後藤範重・小松洋・木下栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313310

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身に付ける | 【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では社会調査を実体験することで、社会調査の役割や方法を具体的に理解することができる。つまり、本講義は、「社会調査入門」「社会調査の方法」で学んだ社会調査の手法を、受講者自身が実践する実習となる。

(2) 内容

「社会調査の方法」で学んだ調査企画から報告書作成までの一連の社会調査の過程を、実際に受講生自身が体験・実践する科目で、実習形式とゼミ形式を進める。与えられた共通テーマ「大学生の日常生活に関する社会調査」にしたがい、受講生自身が（場合によってはグループごとに）より具体的なテーマ・仮説を設定して、聖学院大学学生を対象とした量的調査を実施する。なお、実査は聖学院大学で開講される授業を対象とした集合調査法によって行うものとする。| 本講義は、日本文化学科の文化論・比較文化系に位置する専門科目であるとともに、社会調査士認定G科目に該当している。社会調査士取得希望者でなくても受講はできるが、「社会調査の方法」を修得していないと履修できない。| ※2017年度は社会調査実践ⅠとⅡを春学期に同時並行で開講する。そのため、社会調査実践Ⅰの授業計画は春学期前半に週2コマで進め、社会調査実践Ⅱの事業計画は春学期後半に週2コマで進めることになる。

受講者に対する要望

USBメモリを持参すること。| 課題を一つずつ達成することが求められ、受講生それぞれが自分の果たすべき役割を考えて実習に臨んで欲しい。また、欠席することで、他の受講生の作業が中断してしまうということを覚えておいて欲しい。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・アンケート
- ・量的調査
- ・社会調査実習
- ・社会調査士

授業計画

01. プリテスト結果の検討と研究倫理審査申請
02. 調査対象クラスの決定 | (層化2段階抽出法を参考にし、標本数と調査対象クラスを決定する [教科書136-175頁]。)
03. 調査票完成と調査依頼準備 | (クラス全体の調査票を完成して、調査依頼状作成方法を学ぶ [教科書176-193頁]。)
04. 実査担当決めと調査依頼 | (クラス全体の調査票を完成して、調査依頼状作成方法を学ぶ [教科書176-193頁]。)
05. 実査用調査票の印刷 | (調査票を印刷するとともに、調査依頼状を完成して、依頼に同う。)
06. エディティングとコーディング | (実査において回収した調査票にエディティングを行う [教科書193-207頁]。)
07. データ入力 | [教科書193-207頁]
08. データクリーニング | [教科書193-207頁]
09. 単純集計・クロス集計 | (仮説に基づき単純集計とクロス集計を行う [教科書208-242頁]。)
10. 単純集計・クロス集計 | (仮説に基づき単純集計とクロス集計を行う [教科書208-242頁]。)
11. 分析と仮説検証 | (検定を行い、仮説を検証する [教科書208-242頁]。)
12. 報告書の作成 | [教科書242-246頁]
13. 報告書の作成 | [教科書242-246頁]
14. 調査報告書の印刷と実習報告の準備
15. 調査実習報告会

準備学習(予習)

前回の講義内課題の評価を受講者自身がUNIPAで確認し、自分の課題を明確にしておくこと。また、各回に該当する教科書の部分を読んでくること。

準備学習(復習)

UNIPAで授業内課題の評価を確認できるので、受講者自身が弱点を見出し、教科書や社会調査に関する書籍を使って復習してほしい。

評価方法

(1) 調査企画	15%	「社会調査の方法」報告書の修正 5% / 調査企画書 5% / 調査企画報告書 5%
(2) 調査設計	25%	調査設計 10% / 調査設計報告書 5% / 調査設計修正 5% / 調査票完成とプリテスト 5%
(3) 調査依頼と実査	10%	
(4) データ入力と集計	15%	
(5) 報告書作成	35%	報告書(分析) 30% / 報告書作成と実習報告 5%

教科書

大谷信介・後藤龍章・小松洋・木下栄二『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房) [978-4623066544]

参考書

担当教員：柳瀬 公

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J313410

学部教育の関連目

【A】人格と主体性：社会調査士として社会の実情を分析・判断する力を身につける【J】実践力：社会の実態把握をめざして、世論調査や官庁統計、マーケティング・リサーチなど、いわゆる社会調査を実施するための社会調査士として認定されるために必要となる基礎的な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【J】社会調査士資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では、多変量解析を使った学術論文を正しく読めるようになるとともに、受講生が各自の研究目的に沿った手法を選択し、実際に統計ソフトを用いて分析できるようになることを目標とする。

(2) 内容

本講義の目的は、多変量解析の基本的な考え方と主要な計量モデルを理解することである。多変量解析とは、一度に多くの変数を全体的にまたは同時に分析し、これらの関係性を明らかにする統計的手法の総称である。多変量解析には、ある現象に影響を与える原因を見つけ出し、今後の予測を行ったり（要因分析）、情報を圧縮・分類する（構造分析）といったようにさまざまな手法が存在する。本講義では、代表的な手法である重回帰分析、因子分析、主成分分析、クラスター分析、数量化理論を取り上げ、分析目的に応じてどの手法を採用すればよいのか判断する力を身につけ、解析結果を正確に読み取れるようになることを目指す。| なお、本講義は、基本的な統計的知識を理解していることを前提として進めるので、「社会統計学の基礎」の単位を取得している方が望ましい。また、2016年度卒業予定で社会調査士取得を希望する学生は、今年度必ず本科目を受講しなければならない。

受講者に対する要望

初回のガイダンスでは、授業の進め方や成績評価について説明するので、必ず出席すること。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・多変量解析

授業計画

01. .ガイダンス なぜ多変量解析を学ぶのか
02. 多変量データのしくみ 尺度水準について学ぶ、多変量解析の全体像から手法選択を理解する。
03. データの特徴を数字で表す 数値や変数を表す記号をおさらいし、数学的理解を深める。
04. 共変動と相関係数 共変動の意味を知る、散布図を作成し相関関係を解釈する。
05. 重回帰分析とは何か？ 重回帰分析による予測方程式を理解する、重回帰係数を算出する。
06. 重回帰分析の特徴 標準偏重回帰係数、重決定係数を理解する。
07. 重回帰分析の実際 実際に統計ソフトSPSSを用いて重回帰分析を実施し、その結果を解釈・記述する。
08. 重回帰分析の使用例 重回帰分析を用いた研究事例を学ぶ。
09. 因子分析の特徴 因子分析によるデータ要約を理解する。
10. 因子分析の実際 因子分析の手順を理解する、実際にSPSSを用いて分析し、抽出された因子を解釈する。
11. 主成分分析 因子分析との違いを理解し、それらの使用例を学ぶ。
12. クラスター分析 クラスター分析による対象のグループ分けを理解する。
13. 数量化理論 数量化の種類を学び、その中で数量化III類を用いて質的データの構造を把握する。
14. 多変量解析の練習問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿って該当する部分の章をよく読んで、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。||

準備学習(復習)

授業で取り上げた箇所を教科書でふり返り、各自ノートにまとめておくこと。||

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内演習課題 | 40% |
| (2) 期末テスト | 60% |

教科書

小杉司著『社会調査士のための多変量解析法』（北大路書房）【978-476282569】

参考書

担当教員：藤田 のぼる

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J401290

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童文学は、第一義には子どもの読者に向けて書かれたものですが、今子ども時代と訣別しようとしている時期に、児童文学に触れることには格別の意義があると思います。また、大人として、さまざまな場で子どもと対峙する機会に、児童文学というアイテムが大きな役割を果たすと思います。

(2) 内容

●一口に「児童文学」といっても、童話、小説、詩、絵本、ノンフィクションといったジャンルがあり、これを数ヶ月間の講義でこなすのは難題です。が、あえて欲張ってそれをやってみたいと思っています。ですからこの講義はかなり駆け足の進行になります。|●全体は大きく三部に分かれ、第一部（児童文学に描かれた子ども）では、さまざまな角度から作品の中の子ども像を中心に、児童文学作品を紹介していきます。第二部（不思議の形、テーマを深める）では、テーマ、方法、思想などの角度から作品を紹介していきます。これらを通して、児童文学がなにを、どのように描いているのかをみてもらいます。|●第三部のテーマは、「（児童）文学を読む」ということは、読者にとってどのような行為なのか」ということについて考えるということです。特に児童文学の場合、それを読むことが子どもにとって無条件に「良いこと」とされ、場合によっては強制されたりもするわけですが、本とは、物語とはどのようなものなのかを、皆さんの子ども時代の体験なども合わせながら考えていきたいと思います。

受講者に対する要望

講義で紹介された作品を、この機会に自主的になるべく多く読んでほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文学
- ・ 文学
- ・ 子ども
- ・ ファンタジー
- ・ 読書

授業計画

01. 始めに～児童文学の講義を始めるにあたって
02. 児童文学に描かれた子ども 1～学校の中の子ども
03. 児童文学に描かれた子ども 2～家族の中の子ども
04. 児童文学に描かれた子ども 3～社会の中の子ども
05. 児童文学に描かれた子ども 4～成長する子ども
06. 児童文学に描かれた子ども 5～発見する子ども
07. 児童文学に描かれた子ども 6～冒険する子ども
08. 児童文学に描かれた子ども 7～闘う子ども
09. 児童文学に描かれた子ども 8～さまざまな子ども像
10. 不思議の形～いろいろなファンタジー
11. 不思議の形～ファンタジーの方法 1
12. 不思議の形～ファンタジーの方法 2
13. 不思議の形～ファンタジーの方法 3
14. 不思議の形～ファンタジーの方法 4
15. テーマを深める 1～「生」と「死」をめぐって
16. テーマを深める 2～「愛」について
17. テーマを深める 3～「特別」の人たち
18. テーマを深める 4～「戦争」に迫る
19. 子どもと読書の問題をめぐって
20. 子どもの「読書離れ」を考える 1～内因と外因
21. 子どもの「読書離れ」を考える 2～「建前の児童文学」
22. 子どもの「読書離れ」を考える 3～児童文学の流れ
23. 「読書」の意味を考える 1～〈物語〉と〈小説〉
24. 「読書」の意味を考える 2～〈物語〉をめぐって
25. 「読書」の意味を考える 3～〈小説〉をめぐって
26. 「読書」の意味を考える 4～読書という行為の固有性
27. 今、求められる児童文学とは 1～〈情報性〉ということ
28. 今、求められる児童文学とは 2～〈仕掛け〉と〈入口〉
29. 今、求められる児童文学とは 3～子どもたちの「現実感覚」
30. まとめ

準備学習(予習)

テキストに沿った形の講義は後半からになります。事前に少しずつ読んでおいてください。

準備学習(復習)

講義の中で紹介された作品について、努めて実際に読むこと。最低1冊は読んで、講義の18回が終わった時点で、感想をレポートとして提出してもらいます。

評価方法

- | | |
|------------|----|
| (1) レポート | 80 |
| (2) 通常の提出物 | 20 |

基本的に課題のレポートにより評価しますが、それ以外の通常の提出物や授業への参加度も加味します。

教科書

藤田のぼる『児童文学への3つの質問』（てらいんく）【978-4925108515】

参考書

担当教員：木下 綾子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410100

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

上代・中古の文学作品における特色や他作品との関連、文学史的な意味について考え、理解を深めます。日本文学・文化を知る上で必要不可欠な古典文学に親しみ、その面白さと意義を学びます。

(2) 内容

上代・中古（飛鳥時代～平安時代）の代表的な文学作品について、原文に触れながら基礎的な知識を学び、表現や主題、方法論の変遷を捉えます。概要は以下のとおりです。日本は律令国家を形成するにあたり、中国の政治体制や学問、思想とともに漢字漢文を導入しました。神話や伝承、歌謡などの口承文芸は記載されるようになり、国史へと編成されていきます。漢詩漢文がさかんに創作される一方、漢字から仮名が生み出され、和歌が次第に公の場で詠まれるようになるほか、物語や日記が登場します。これらは、貴族文化の発展や後宮ではたらく女性たちの活躍にもなって、花開きます。のち、爛熟、退廃期を経て前代の検証が行われ、新風が拓かれます。

受講者に対する要望

ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。

学びのキーワード

- ・ 文学史
- ・ 上代文学
- ・ 中古文学

授業計画

01. はじめに一漢字・漢文の伝来と日本文学のはじまり
02. 上代（神話・伝承・歴史）—神話から国史へ（1）：『古事記』、口承文芸と伝説
03. 上代（神話・伝承・歴史）—神話から国史へ（2）：『日本書紀』、国際社会に向けて
04. 上代（和歌）—国家とうた（1）：『万葉集』、禁断の恋
05. 上代（和歌）—国家とうた（2）：『万葉集』、「大君は」
06. 上代（漢詩）—国家とうた（3）：『懐風藻』、壬申の乱を越えて、穉世の詩
07. 上代（説話）—国家と仏教：『日本霊異記』、よみがえりの話
08. 中古（漢詩・漢文）—漢詩文の隆盛：『凌雲集』『経国集』、詩の理論
09. 中古（漢詩・漢文）—漢詩文の隆盛：『文華秀麗集』、詩宴の楽しみ
10. 中古（漢詩・漢文）—空海の仏教と文学：『三教指帰』『性霊集』
11. 中古（漢詩・漢文）—詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（1）：『菅家文庫』、詩の家に生まれて
12. 中古（漢詩・漢文）—詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（2）：『菅家後集』、詩臣として
13. 中古（和歌）—和歌と美意識の確立（1）：『古今和歌集』、和歌の理論
14. 中古（和歌）—和歌と美意識の確立（2）：『古今和歌集』の季節感、恋
15. 中古（物語）—伝奇物語の発生（1）：『竹取物語』と伝承世界、神話世界のなごり
16. 中古（物語）—伝奇物語の発生（2）：『竹取物語』、かぐや姫と天皇、月世界
17. 中古（物語）—歌物語の発生（1）：『伊勢物語』、「みやび」と反逆
18. 中古（物語）—歌物語の発生（2）：『伊勢物語』、「みやび」と敗残
19. 中古（日記）—自己を見つめて（1）：『土佐日記』、亡き子の思い出と旅
20. 中古（日記）—自己を見つめて（2）：『蜻蛉日記』、夫との攻防と和歌
21. 中古（随筆）—『源氏物語』の時代（1）：『枕草子』、美しい中宮の思い出
22. 中古（日記）—『源氏物語』の時代（2）：『紫式部日記』、自己と他者を見つめて
23. 中古（物語）—『源氏物語』の時代（3）：『源氏物語』、桐壺帝と桐壺更衣の愛
24. 中古（物語）—『源氏物語』の時代（4）：『源氏物語』、光源氏と藤壺、恋と罪
25. 中古（日記）—『源氏物語』以後（1）：『更級日記』、物語への憧れと仏教の夢
26. 中古（物語）—『源氏物語』以後（2）：『堤中納言物語』「虫愛つる姫君」
27. 中古（歴史物語）—栄華の回顧と検証：『栄花物語』『大鏡』
28. 中古（歌謡・漢文・説話）—類聚（コレクション）：『和漢朗詠集』『本朝文粹』『今昔物語集』
29. 中古（和歌・歌謡）—新風を求めて：『後拾遺和歌集』、藤原俊成『千載和歌集』『古来風体抄』
30. まとめ

準備学習(予習)

作品の概要について『日本古典文学大辞典』（岩波書店）や、新編日本古典文学全集（小学館）、角川ビギナーズ・クラシックス（角川書店）などで確認しておいてください。

準備学習(復習)

その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。分からない漢字や語句については辞書で調べる。追加で質問があれば受け付けます。関心をもった作品は、現代語訳でもいいので読んでみましょう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 60% |
| (2) 平常点 | 40% |
- フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物

教科書

参考書

三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、本間 洋一（編）『日本古典文学を読む』（和泉書院）

担当教員：石澤 一志

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

日本文学に於ける、中世・近世期を概観する。|| 基本的な文学作品についての知識・時代背景を理解しつつ、| 中世・近世の文学作品の中から著名な作品、重要な作品を取り上げる。| 各々の作品の独自性を明らかにすると同時に、| 他の作品との関連や、文学史の中でその作品がどのような位置を占めるか、| といった視点も大切に| して読解を進める。|| 多くの作品に触れてゆく中で、日本の古典文学というものが、| いかにも多様で奥深いもの| かの一端を知って欲しい。

(2) 内容

中世・近世（時代でいうなら鎌倉時代から江戸時代まで）の文学作品を取り上げる。| それまで貴族階級・僧侶が中心であった文化形成の場が、| 武士階級、そして町人を含めた一般階層にまで拡大・交流してゆく時期であり、| 俗っぽさ・人間臭さ・猥雑さ・生活感など、| 中古・王朝文化にはあまり多くは見られなかった特徴が現れると同時に、| 王朝文化に対する憧憬から、そこに価値を見出す時代でもある。|| 旧来のものの発展継承と、新たな文学の発生する時代の面白さを、味わいたい。|

受講者に対する要望

ノート・メモをマメにとることを心がけて欲しい。| テキストはテキスト・ノート・配付資料の持ち込みを可とする。|| 講義をきちんと聞き、重要だと思ったことは、| たとえ板書されなくてもテキスト・ノートに書き留めること。|| 手を動かしつつ講義を聴くことが、あなた方の成長につながります。||

学びのキーワード

- ・ 文学史
- ・ 中世文学
- ・ 近世文学

授業計画

01. 日本文学史概説 — 中世・近世の時代区分—
02. 中世の韻文（和歌）— 中世和歌の始発とその展開
03. 中世の韻文（和歌）— 後鳥羽院と藤原定家、後鳥羽院歌壇の成立と『新古今和歌集』
04. 中世の韻文（和歌）— 後鳥羽院と藤原定家、『新古今和歌集』以後の歌壇史
05. 中世の散文（軍記・説話）— 『保元』『平治』から『平家物語』へ その①
06. 中世の散文（軍記・説話）— 『保元』『平治』から『平家物語』へ その②
07. 中世の散文（軍記・その他）— 『平家物語』外伝 — 『義経記』『建礼門院右京大夫集』
08. 中世の散文（随筆）— 『方丈記』と鴨長明
09. 中世の散文（随筆）— 『徒然草』— 兼好法師の伝記、『徒然草』概説
10. 中世の散文（随筆）— 『徒然草』— 代表的章段を読む
11. 中世の韻文（連歌・俳諧）— 連歌史概説
12. 中世の韻文（連歌・俳諧）— 連歌の展開、俳諧への道
13. 中世の散文（説話）— 『宇治拾遺物語』『十訓抄』『沙石集』
14. 中世の散文（演劇・芸能）— 『風姿花伝』・謡曲『隅田川』
15. 中世の散文（軍記）— 『太平記』、その他の戦物語
16. 中世の散文（物語）— 『源氏物語』以降、物語史概説
17. 中世の散文（物語）— 鎌倉・室町時代物語と御伽草子
18. 近世の散文（物語・小説）— 近世物語の展開、仮名草子と笑話
19. 近世の散文（物語・小説）— 浮世草子・西鶴
20. 近世の散文（物語・小説）— 黄表紙・洒落本・滑稽本
21. 近世の散文（物語・小説）— 読本・馬琴
22. 近世の韻文（俳諧）— 貞門・談林・蕉門の展開
23. 近世の韻文（俳諧）— 蕉風俳諧の成立と展開、芭蕉とその門弟
24. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）— 近世の演劇文学概説・近松門左衛門の生涯
25. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）— 浄瑠璃・歌舞伎の名作を観る
26. 近世の韻文（俳諧）— 蕉門以降の俳諧の展開、蕪村・一茶まで
27. 中世・近世の韻文（漢詩文）— 中世・近世漢詩文概説
28. 中世・近世の韻文（漢詩文）— 近世漢詩文の世界
29. 近世の散文（その他）— 多彩な、近世文学の世界
30. 理解度確認

準備学習(予習)

作品の概要について、テキストを一読し、確認しておく。| 図書館1階にある『日本古典文学大辞典』（岩波書店）・| 『日本古典文学大事典』（明治書院）なども活用すること。|| また、高校までの日本史の教科書を一読していただくことが望ましい。

準備学習(復習)

ノートの見直しと整理をすること。| 疑問点が見つかったら、質問しに来るように。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--------------------|
| (1) 中間・期末試験 | 60% | テキスト・ノート持ち込み可。 |
| (2) 平常点 | 40% | コメントシートの記載内容も加味する。 |

教科書

『千年の百冊』（小学館、2013）を使用する。必携のこと。

参考書

担当教員：前田 潤

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410320

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】 高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「近代文学」という制度発生の歴史過程を注視し、「近代文学」が他領域とどのような影響関係のもとで変貌してきたのかについて学ぶことを通じて、「歴史」を相対化し、「現代」を対象化するまなざしを育みたい。

(2) 内容

◆明治初期から平成に至るまでの日本文学の歩みを概観する。画期的な意味を持つ文学作品や文学者の動向に触れ、その歴史的位置を確認すると共に、同時代の文化社会の中でそれらがどのような役割を果たしていたのかに言及する。特に政治や労働運動、活字出版メディアの史的展開と文学言説との関わりについては詳しく見取り図を引いてゆきたい。授業では項目を挙げるだけの解説は避け、記憶に残るような鮮烈な文学者の言動を紹介したいと考えている。|◆明治期の詩歌や自然主義の小説、自由律俳句や最新の作家の小説の表現や文体に直接触れ、自分なりに鑑賞・批評することを通じて、近現代文学への関心を深めるような試みを講義の中に取り入れてゆくつもりである。

受講者に対する要望

自分が何に興味を持つ存在であるのかという「問い」を持って講義に臨んで欲しい。

学びのキーワード

- ・ 近代文学
- ・ 現代文学
- ・ 文学史
- ・ 文化史
- ・ 小説

授業計画

01. ガイダンス
02. 近代小説の起源
03. 「浮雲」の実験
04. 「たけくらべ」の文体
05. 「舞姫」の論じ方
06. 「阿部一族」は剽窃文学か
07. 「自然主義」とは何か
08. 韻文史概説
09. 革新者・正岡子規
10. 「坊っちゃん」語りの構造
11. 「三四郎」と「青年」
12. 「心」をめぐる論争
13. 山頭火と放哉
14. 「家族」の文学・志賀直哉と疫病
15. 労働争議と大正文学
16. 職業作家としての芥川龍之介
17. 関東大震災と近代日本文学
18. 谷崎潤一郎の「転向」
19. 「新感覚」の実態
20. 「蟹工船」再考
21. 「人間失格」の「奥行き」
22. 高見順とメタフィクション
23. 巨人・松本清張
24. 探偵小説の歴史と江戸川乱歩
25. 1965・ベトナム・開高健
26. 1995・村上春樹の「転回」
27. 村上春樹と長編小説
28. 都市・ファッション・ノベル
29. 女性・貧困・格差 津村記久子の小説
30. 長野まゆみと桜庭一樹

準備学習(予習)

必読図書を1冊、選択の形で指定する。それについては精読すること。| また、授業中紹介してゆく作品の幾つかを、自ら手に取り読んでみて欲しい。

準備学習(復習)

各回完結型の講義ではあるが、近代文学史の流れを体系的に把握するためには、講義内容の連続性に配慮し、前回の内容を復習しながらついてきて欲しい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 最終試験 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410430

学部教育の関連目

【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

同時代成立の和歌集『古今集』との関連等を考察しながら、「歌物語」としての独自の性格を明らかにしていきます。また、教職を目指す学生の古典対応力の増強も目標としています。|『伊勢物語』は、『源氏物語』をはじめとして、能楽・歌舞伎にも影響を及ぼし、屏風など絵画の題材にもなっています。後世の日本文化との関係、発展を考える上で重要な作品です。古来の文人墨客が愛した国民的物語—『伊勢物語』を知ることは、現代人の教養という面でも意義深いことです。|

(2) 内容

歌物語の代表作として広く知られる『伊勢物語』を講読していきます。授業では、作品の大きな魅力である主人公、色好みの貴公子・在原業平の人間像をつかんでいきます。また、業平の生きた時代背景や風俗習慣も確認していきます。|二条の後や伊勢の齋宮との許されない恋や、惟喬親王等との交流の中で詠まれた心打つ和歌の数々。『伊勢物語』は、それら業平の歌にまつわる話に、業平以外の人々の歌にまつわる物語も取り込みつつ、全体として業平の「みやびの世界」が形成されていることを学んでいきます。|作品中の和歌の重要性に注目して、口語訳・解釈は詳細に考察していきます。

受講者に対する要望

一般教養として古典知識を身につけたい学生、教職科目受講者で古典対応力増強をめざす学生の受講を望みます。

学びのキーワード

- ・平安文学
- ・歌物語
- ・和歌
- ・在原業平
- ・みやび

授業計画

01. 作品概説 伊勢物語誕生の背景
02. " 色好み在原業平
03. 冒頭章段 1段
04. " 2段
05. 業平と二条の後関係章段 3段
06. " 4段
07. " 5段
08. " 6段
09. " まとめ
10. 東下り関係章段 7段
11. " 8段
12. " 9段
13. " 9段
14. " まとめ
15. 東国物語 10段
16. 15回までの復習:和歌の技巧について
17. 伊勢齊宮関係章段 69段
18. " 70段
19. " 71段
20. " 72段 まとめ
21. 筒井筒の章段 23段
22. "
23. 筒井筒と他作品の比較 古今集
24. " 大和物語
25. " まとめ
26. 歌物語について
27. 惟喬親王関係章段 82段
28. "
29. "
30. まとめ 125段

準備学習(予習)

辞書を引いて自分の口語訳をしてみる。物語のクライマックスを形成する和歌の訳は、ぜひ参考書を見ないでチャレンジしてほしい。

準備学習(復習)

授業ノートをつくり、内容をまとめていくこと。授業で提示した資料等を調べ、ノートのまとめに加えるとよい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時提出物 | 40% |
| (2) 授業時発表 | 10% |
| (3) 期末試験 | 50% |

教科書

石田 穰二『伊勢物語—付現代語訳（角川ソフィア文庫（SP5））』（角川学芸出版）【978-4044005016】

参考書

担当教員：木下 綾子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410540

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

注釈と口語訳つきのテキストを用い、基礎的な知識を身に付けながら、魅力ある表現やテーマを味わい、分析します。平安文学がいかに中国文学を受容したかを考え、総合的に読解し理解することを目指します。

(2) 内容

平安時代に唐から伝来し、大流行した白居易の『白氏文集』と、その影響を受けた紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』、菅原道真の『菅家文草』『菅家後集』を読み比べます。前半は、『白氏文集』「長恨歌」と『源氏物語』を中心に、愛する女性を失った男性の長きにわたる痛み、悲しみに注目します。後半は、さすらいの悲しみや当地における男女・男同志の交流、琴のモチーフを読み解きます。また、紫式部と清少納言における『白氏文集』受容や、漢字漢文をめぐる振舞いの違いを考えます。

受講者に対する要望

ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。

学びのキーワード

- ・平安文学における中国文学の受容
- ・源氏物語
- ・枕草子
- ・菅家文草・菅家後集
- ・白氏文集

授業計画

01. はじめに
02. 白居易の生涯、『白氏文集』の成立と伝来
03. 「長恨歌」(1) —背景
04. 「長恨歌」(2) —寵愛
05. 「長恨歌」(3) —安史の乱、楊貴妃の死
06. 「長恨歌」(4) —玄宗皇帝の悲嘆(1) —帰路
07. 「長恨歌」(5) —玄宗皇帝の悲嘆(2) —都に戻って、長い夜
08. おもかげ(1) —桐壺帝と桐壺更衣
09. 「長恨歌」(6) —仙界での再会
10. 「長恨歌」(7) —生まれ変わっても
11. 「長恨歌」(8) —まとめ
12. おもかげ(2) —桐壺更衣、藤壺
13. おもかげ(3) —葵上、紫上
14. おもかげ(4) —大君、浮舟
15. 前半のまとめ
16. 光源氏が須磨に退去するまで
17. 流謫の地にて(1) —光源氏と男たち
18. 流謫の地にて(2) —菅原道真と光源氏(1) —悲秋文学
19. 流謫の地にて(3) —菅原道真と光源氏(2) —道真と光源氏の「恩賜の御衣」
20. 流謫の地にて(4) —王昭君伝説と光源氏(1) —王昭君伝説
21. 流謫の地にて(5) —王昭君伝説と光源氏(2) —光源氏の落魄意識
22. 流謫の地にて(6) —「琵琶行」と明石入道、明石君(1) —「琵琶行」
23. 流謫の地にて(7) —「琵琶行」と明石入道、明石君(2) —楽器と系譜
24. 紫式部と清少納言(1) —ふたりの生涯と一条天皇の後宮
25. 紫式部と清少納言(2) —紫式部：「新楽府」(1) —「新楽府」
26. 紫式部と清少納言(3) —紫式部：「新楽府」(2) —中宮彰子と紫式部
27. 紫式部と清少納言(4) —清少納言：「香炉峰の雪」(1) —「香炉峰下」
28. 紫式部と清少納言(5) —清少納言：「香炉峰の雪」(2) —中宮定子と清少納言
29. 紫式部と清少納言(6) —まとめ
30. レポート提出とまとめ

準備学習(予習)

配布したプリントは必ず読み、分からない漢字や語句については辞書で調べておくこと。参考文献は各自で読んでおくこと。図書館を活用すること。

準備学習(復習)

その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。分からない漢字や語句については辞書で調べること。追加で質問があれば受け付けます。

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 平常点 | 40% フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物 |

教科書

参考書

担当教員：佐藤 ゆかり

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410760

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究方法を学ぶ。| 目標は、(1) 近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、(2) 自分の意見を、根拠をもって論述すること、(3) 卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得、である。| この授業の学びの意義は、(1) 精読し、調査し、レジメにまとめ、発表するという流れが、情報収集、読み解き、探索、発信という、日常生活に役立つ、(2) 自分自身の意見を基に、他の学生との意見交換を行ない、特に異なった意見を持つ学生との議論を行なうことで、より日本文学に対する理解を深められる、(3) 本離れと言われる現代において、読書の重要性、楽しさを体験し、次世代への知識の提供、自分自身の生涯学習の基礎を作る、である。|

(2) 内容

西洋と〈出会った〉明治以降の近現代文学を通して、それまでの日本文学の伝統との連続性と非連続性を意識しつつ、これからの日本文学史を視野に入れたい。本授業では、近現代の著名な作家による名作短篇・中篇小説を読み、内容を的確に理解し、それを論理的に思考し表現する能力を高め、さらに発表をすることで互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することを目的とする。学生の発表を中心に、ディスカッション、映像との比較等を交えて進める。なお、履修者人数によっては、採り上げる作品、順番も含めて変更する場合もある。|

受講者に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、授業中採り上げる作品は必ず読んで、熱心に取り組める学生の受講を希望する。演習発表中心の授業であるから、担当箇所の作品精読、調査、レジメの作成、それについて発表があるので、その点を留意すること。プリントはなくさないこと。

学びのキーワード

- ・ 近現代日本文学の研究方法
- ・ 近現代小説精読
- ・ 演習発表の方法
- ・ 映像と小説の比較
- ・ 他者の意見を聴く

授業計画

01. 導入—近現代文学を読むとは？（講義）
02. 作品分析の方法（講義）
03. 横光利一『春は馬車に乗って』①資料収集の方法
04. 横光利一『春は馬車に乗って』②先行研究の精読
05. 横光利一『春は馬車に乗って』③自分の意見をまとめる、他人の意見を聞く
06. 芥川龍之介『魔術』①児童文学の側面
07. 芥川龍之介『魔術』②映像とディスカッション
08. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』①第一章
09. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』②第二章、第三章
10. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』③第四章
11. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』①父と母
12. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』②父と子
13. 有島武郎『小さき者へ』③まとめとディスカッション
14. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』①伊豆
15. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』②踊子
16. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』③孤児根性
17. 川端康成『伊豆の踊子』④映像と文学の比較
18. 川端康成『伊豆の踊子』⑤まとめとディスカッション
19. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』①ゴーシュと動物
20. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』②作品の中の音楽
21. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』③まとめとディスカッション
22. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』④映像と文学の比較
23. 〈学生発表〉中島敦『山月記』①友との再会
24. 〈学生発表〉中島敦『山月記』②夢の実現
25. 中島敦『山月記』③まとめとディスカッション
26. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』①台所
27. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』②厨房とキッチン
28. 吉本ばなな『キッチン』③まとめとディスカッション
29. 吉本ばなな『キッチン』④映像と文学の比較
30. まとめ

準備学習(予習)

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめてくること。

準備学習(復習)

授業内で採り上げた小説について、読んでくること。レジメを見直し、自分の意見をまとめること。

評価方法

(1) レポート	50%
(2) 発表	30%
(3) 平常点	20%

欠席が3分の1を超えた者は単位認定しない。

教科書

参考書

担当教員：文 智暎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J411200

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・対照言語学の方法を学ぶ。|・外国語と日本語を比べることによって、日本語の特徴を理解する。
|・日本語教育に生かすため、日本語と外国語との違いや文化の違いを学ぶ。

(2) 内容

日本語と外国語、主に韓国語を中心に対照する。音声・文字・語彙・文法・言語行動等について、日本語との類似点、相違点を考えていく。また、その応用として日本語教育にどのように生かしていくかを考える。

受講者に対する要望

韓国語の学習経験は必要としない。

学びのキーワード

- ・対照研究
- ・日本語学
- ・日本語教育
- ・韓国語学
- ・韓国語教育

授業計画

01. ガイダンス
02. 対照言語学とは
03. 対照言語学の方法
04. 世界の言語と日本語
05. 音声
06. 文字
07. 語彙
08. 助詞
09. 語順 1
10. 語順 2
11. 敬語 1
12. 敬語 2
13. 授受表現 1
14. 授受表現 2
15. 日本語教育への応用 1
16. 前半のまとめ
17. あいさつ
18. あいづち
19. コミュニケーションスタイル
20. 断り
21. 謝罪
22. 人称・呼称
23. 男ことば・女ことば
24. 役割語
25. 指示詞
26. ほめ行動 1
27. ほめ行動 2
28. 日本語教育への応用 2
29. 日本語教育への応用 3
30. 総まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックについて考えてくること。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 学期末試験 | 50% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |
| (3) 授業中の小課題・小テスト | 30% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J411740

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多元的な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

中国文学史上の「志怪小説」の位置づけを理解するとともに、具体的な作品の読解を通して、その作品世界に触れたい。また、上記のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、基礎となる「訓読」についてより深い理解を目指す。

(2) 内容

中国六朝期の志怪小説の講読を中心とし、漢文読解力の涵養、基礎的な工具書の扱い方等にも配慮する。

受講者に対する要望

漢和辞典必携 詳しくは初回の講義にて解説の予定。

学びのキーワード

- ・ 志怪小説
- ・ 漢文訓読
- ・ 説話

授業計画

01. ・ ガイダンス
02. ・ 志怪小説概論(1)
03. ・ 志怪小説概論(2)
04. ・ 志怪小説概論(3)
05. ・ 志怪小説概論(4)
06. ・ 志怪小説概論(5)
07. ・ 志怪小説各論(1)／「三王墓」(1)
08. ・ 志怪小説各論(2)／「三王墓」(2)
09. ・ 志怪小説各論(3)／「范巨卿張元伯」(1)
10. ・ 志怪小説各論(4)／「范巨卿張元伯」(2)
11. ・ 志怪小説各論(5)／「童謡」(1)
12. ・ 志怪小説各論(6)／「童謡」(2)
13. ・ 志怪小説各論(7)／「鬼」(1)
14. ・ 志怪小説各論(8)／「鬼」(2)
15. ・ 志怪小説各論(9)／「管輅」(1)
16. ・ 志怪小説各論(10)／「管輅」(2)
17. ・ 志怪小説各論(11)／「隗?」(1)
18. ・ 志怪小説各論(12)／「隗?」(2)
19. ・ 志怪小説各論(13)／「天竺胡人」(1)
20. ・ 志怪小説各論(14)／「天竺胡人」(2)
21. ・ 志怪小説各論(15)／「胡母班」(1)
22. ・ 志怪小説各論(16)／「胡母班」(2)
23. ・ 志怪小説各論(17)／「妖怪・牛能言」(1)
24. ・ 志怪小説各論(18)／「妖怪・牛能言」(2)
25. ・ 志怪小説各論(19)／「到伯夷・安陽亭書生」(1)
26. ・ 志怪小説各論(20)／「到伯夷・安陽亭書生」(2)
27. ・ 志怪小説各論(21)／「阿紫」(1)
28. ・ 志怪小説各論(22)／「阿紫」(2)
29. ・ 志怪小説各論(23)／「阿紫」(3)
30. 総括

準備学習(予習)

配付資料に関する予習／教場で指示

準備学習(復習)

教場で指示

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 予習・復習 | 30% |
| (2) 積極性 | 20% |
| (3) 学期末レポート | 50% |

教科書

プリントを配布する

参考書

教場で適宜紹介する

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J411850

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることができる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目|【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目|【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法A」では特に「命題」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱う。

(2) 内容

日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。

受講者に対する要望

言語に興味がある者の受講を歓迎する。また、授業内での積極的な意見交換ができればなおよい。

学びのキーワード

- ・日本語
- ・言語
- ・日本語学
- ・文法
- ・日本語教員養成課程

授業計画

01. 文法を考えるとということ
02. 単語とは
03. 品詞とは
04. 品詞を考える（活用）
05. 格の問題
06. 自動詞と他動詞
07. ボイス（1）受け身
08. ボイス（2）使役
09. やりもらい
10. アスペクト「ている」
11. テンス「る」「た」
12. 空間に関する表現
13. 意志に関する表現
14. 解釈の多義性
15. まとめ

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で取り上げた文法項目は、返却されたワークシートを用いて、必ず復習しておくこと。

評価方法

(1) 授業参加度	30%
(2) 試験	30%
(3) 課題	30%
(4) 中間レポート	10%

教科書

森山卓郎（2003）『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J411901

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることができる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(国語)・選択科目|【教】高等学校教諭一種(国語)・選択科目|【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目|【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。

(2) 内容

この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文は、「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法B」では特に「モダリティ」に重きを置く。また、複文についても詳しく取り上げる。

受講者に対する要望

教員と受講生の双方向の授業を目指します。受講生の積極的な参加を歓迎します。

学びのキーワード

- ・日本語
- ・文法
- ・複文
- ・モダリティ
- ・助詞

授業計画

01. 文法とは？
02. モダリティ 断定と不確定 医者「インフルエンザらしいですね」→「インフルエンザのようですね」
03. モダリティ 断定と不確定 天気予報「明日は雨でしょう」
04. モダリティ 疑問文 「彼はどこにいるかどうか分からない」→「彼はどこにいるかわからない」
05. モダリティ 意志 「じゃあ、ぼくがやるつもりだ」→「じゃあ、ぼくがやる」
06. 主語と「は」と「が」
07. 「象は鼻が長い」「僕はうなぎだ」
08. とりたて 「女の子だけ来た」「女の子しか来なかった」
09. 単文と複文
10. 複文 「て」節
11. 複文 条件文 「雨が降るとこの傘を差しなさい」→「雨が降ったらこの傘を差しなさい」
12. 複文 逆接 「急いでいるのは分かるのに、車は使うな」→「急いでいるのは分かるが、車は使うな」
13. 名詞修飾 「内の関係」「外の関係」
14. 談話とテキスト
15. まとめ

準備学習(予習)

課題を与える。各自、課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

毎時間始めにワークシートの返却を行うため、ワークシートを元に自主的にきちんと丁寧な復習を行ってほしい。

評価方法

(1) 授業参加度	30%
(2) 課題	30%
(3) テスト	30%
(4) 中間レポート	10%

教科書

森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』(ひつじ書房)【978-4894761742】

参考書

担当教員： 棚橋 明美

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1J412070

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることができる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目|【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目|【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本語教育の視点から、日本語音声学・音韻論の中の単音（分節音）についての知識と応用を学ぶ。日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。|

(2) 内容

日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学ぶ。「あいうえお」など単音の発音について、規範的な発音法を学び、自分自身の発音との差異を考える。そのために、実際に発音したり音声を聞いたりして、積極的に音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見するような活動を行う。また、日本語の発音記号の書き方を身につける。| 試験は、日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、筆記と聴解の両方を課す。|

受講者に対する要望

出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。
 後期の「日本語学（音声・音韻）B」も引き続き受講することが望ましい。実際に声を出して自分やクラスメートの発音を確かめることが重要なので、恥ずかしがらずに声を出してしてほしい。必ず手鏡を用意すること。

学びのキーワード

- ・ 規範的発音
- ・ 日本語教育
- ・ 声を出す
- ・ 発見
- ・ 発音と発音記号

授業計画

01. 言語音を作る仕組み 音声について
02. 音素と異音 有声音と無声音
03. 母音
04. 子音-1（調音点と調音法）
05. 子音-2（カ行）
06. 子音-3（キヤ行）
07. 子音-4（ガ・ギヤ行）
08. 復習とまとめ
09. 子音-5（サ行）
10. 子音-6（シャ行）
11. 子音-7（ザ・ジャ行）
12. 子音-8（タ・チャ行）
13. 子音-9（ダ行、ナ行）
14. 子音-10（ニヤ行、マ・ミヤ行）
15. 復習 聴解練習

準備学習(予習)

授業内で指示する。

準備学習(復習)

復習シートは必ずやって次回提出すること。自宅で、習った範囲の教科書を精読すること。また、手鏡などをみながら発音して、自分の口の動きを観察してほしい。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 期末テスト | 40% |
| (2) 出席と参加、授業貢献度 | 30% |
| (3) 課題提出 | 20% |
| (4) 復習小テスト | 10% |

出席回数が3分の2に満たない者は、期末テストを受けられない。

教科書

棚橋 明美『日本語教育能力検定試験に合格するための聴解問題10』（アルク）【978-4757412620】

参考書

担当教員： 棚橋 明美

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1J412180

学部教育の関連目

【J】 実践力： 文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 聖学院大学日本語教員養成課程： 選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程： 選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本語教育の視点から、日本語音声学・音韻論の中の韻律（プロソディー）についての知識と応用を学ぶ。| 日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。|

(2) 内容

日本語のアクセント・イントネーション・リズムなどの韻律（プロソディー）について学習する。実際の音声を聞いたり発音してみたりすることで、アクセントやイントネーションなどの韻律特徴をとらえ、体系化して考えることを学ぶ。規範とされる韻律体系と自分の発音や他の人の発音との差異について、実際に発音してみて確かめる。日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、試験問題なども扱う。||

受講者に対する要望

前期の「日本語学(音声・音韻) A」の受講がのぞましい。「音声・音韻」Bから取った場合、ぜひ春学期のAも受講してほしい。出席率100%をめざしてほしい(休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意)。

学びのキーワード

- ・アクセント
- ・イントネーション
- ・プロミネンス
- ・プロソディー
- ・発見

授業計画

01. イントロダクション 韻律（プロソディー）とは？
02. 拍と音節
03. フット
04. アクセントー1（機能）
05. アクセントー2（規則）
06. アクセントー3（名詞）
07. アクセントー4（表記法）
08. アクセントー5（名詞の聞き取り練習）
09. アクセントー6（動詞・形容詞）
10. イントネーションー1（機能）
11. イントネーションー2（終助詞との関係）
12. プロミネンス
13. フィラー、あいづち、プロソディー
14. 特殊拍
15. まとめと聴解練習

準備学習(予習)

先入観を持たずに音声を聞き、発見の喜びを感じてほしいので、予習については、授業時に指示する。

準備学習(復習)

教科書をよく読んで復習してもらいたい。復習シートは必ずやって、次の授業で提出すること。また、実際に発音して、自分の話し方を観察してほしい。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 期末テスト | 40% |
| (2) 出席、参加、授業貢献度 | 30% |
| (3) 課題提出 | 10% |
| (4) 復習小テスト | 20% |

出席回数が3分の2に満たない者は、期末テストを受けられない。

教科書

棚橋 明美『日本語教育能力検定試験に合格するための聴解問題10』(アルク)【978-4757418301】

参考書

担当教員：溝口 カブスン

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J412300

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多様な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。| 1 韓国語で簡単な日常会話をする事 | 2 そのために必要な言語知識を身に付ける事 | 3 韓国の現代社会・文化に対する理解を深めること

(2) 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に、語彙を増やすこと発話力に重点を置く。| 文法事項の復習も併行して行う。| また、韓国の現代社会・文化を理解するための映像教材を積極的に活用していく。

受講者に対する要望

韓国語I履修者を対象にする。
意思疎通が自由に行えるレベルにコミュニケーション能力を高める。

学びのキーワード

- ・韓国語会話
- ・韓国語の作文
- ・韓国文化

授業計画

01. STEP 1 1 基本の文字を覚えましょう、基本会話I
02. 2 文字はこれで全部です、基本会話II
03. 3 パッチムと発音の変化、基本会話III
04. STEP 2 1 ホテルで名前を聞かれました
05. 2 フロントで時間をたずねました
06. 3 街で場所をたずねました
07. 4 友達の誘いをことわりました
08. 5 地下鉄に乗りました
09. 6 タクシーで観光をすすめられました
10. 7 メニュー選びに迷いました
11. 8 料理の感想を聞かれました
12. 9 伝統茶は種類が豊富です
13. 10 お茶を飲みながら話をしました
14. 11 市場で買い物をしました
15. 12 待ってくださいと言われました
16. 13 ショッピングに行きました
17. 14 警備員に注意されました
18. 15 商品をすすめられました
19. 16 値段の交渉をしました
20. 17 エステに行きました
21. 18 明日の予定を話しました
22. 19 劇場に行きました
23. 20 ロビーで話をしました
24. STEP 3 HOTEL / ホテル・TOWN / 街中
25. TRANSPORTATION / 交通・RESTAURANT / レストラン
26. TEAROOM / 茶房・MARKET / 市場
27. SHOPPING 1・2 / 買い物
28. AESTHETIC / エステ・THEATER / 劇場
29. 韓国の現代社会に触れる
30. 授業のまとめ

準備学習(予習)

発表する1週間の分量の日記の作成等2時間の予習をする。

準備学習(復習)

発表した日記の単語と文章等2時間程度の復習をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 80% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |

教科書

溝口甲順『入門ドリル 書いて簡単!韓国語』(一藝社)【978-4901253802】

参考書

担当教員： 閻 子謙

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1J412410

学部教育の関連目

【1】 国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多様な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げた。市場経済を導入したことによって、社会の構造が激しく変化し、中国人でさえも、暫く中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象を持つと言う。地理的に近く、交流の歴史も長いお隣の国である中国と、そこで暮らす人々の生活習慣、価値観に触れ、最新知識を増やし、更に中国語の力を伸ばすことを目標とする。|問答形式を基本スタンスとして、教師と学生の会話や学生同士の練習が主です。耳と口などを駆使する一連の作業を通して基本文型習熟させることが狙いです。形を変えて何回でも繰り返して話すことがポイントです。

(2) 内容

1、目的| 初級の段階を終え、更に一段と上のレベルの中国語を学ぶ学生を対象とする。|| 2、カリキュラム上の位置づけ| 発音の正確さ、ピンインのマスターを確認しつつ、積極的に話し、楽しい中国語を味わう中級、中国語検定試験四級に相当する科目である。||

受講者に対する要望

間違いを恐れず恥ずかしながら積極的に授業に参加することが大事です。

学びのキーワード

- ・ 四声を意識して発音すること。
- ・ 発音表に基づいて自己チェックすること。
- ・ テンポを上げて滑らかに音読すること。

授業計画

01. ガイダンス
02. 発音復習
03. 第1～13課復習、応用練習
04. 同上
05. 同上
06. 同上
07. 同上
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. 第14課学習
12. 第14課復習、応用練習
13. 第15課学習
14. 第15課復習、応用練習
15. 第1～15課総合応用練習
16. 同上
17. 同上
18. 同上
19. 同上
20. 同上
21. 中国語検定試験合格特訓
22. 同上
23. 同上
24. 同上
25. 同上
26. 同上
27. 同上
28. 同上
29. 中国語作文演習
30. 同上

準備学習(予習)

事前に教科書を読んでおくこと

準備学習(復習)

前回の授業内容をおさらいすること。

評価方法

- (1) 平常点
- (2) 受講態度
- (3) 定期試験

教科書

開講時に指示します。

参考書

担当教員：川口 さち子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J412520

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・日本語教員養成のための科目である。日本語教育概論をとった上で履修すること。この講義で、教授法の全体的なことを学び、日本語教授法演習へと進む。Ⅱ・第2言語としての日本語を外国人に教えるとはどういうことかということを知り、実際の現場で応用できるようにする。Ⅱ

(2) 内容

まず、いろいろな外国語教授法を学んだ上で、初級・中上級の指導法、4技能（聞く・話す・読む・書く）の指導法、教材の使い方などを中心に学んでいく。Ⅱ（1）各種教授法を学ぶ際は、ビデオを視聴したり、受講生に模擬学生になってもらい、外国語のモデル授業を行い、それについて討論を行う。また、数名の学生を指名してレポートを書いてもらう。担当者は、授業内で発表し、その後質疑応答を行う。Ⅱ（2）＜期末レポート＞指定したいくつかの課題の中から選び、「期末レポート」を書き、期末最後の講義時間に提出する。Ⅱ

受講者に対する要望

外国語のモデル授業を体験したり、ビデオ視聴を行ったりして、観察レポートを書いてもらうので欠席しないこと。欠席を3分の1を超えた場合は評価しない。

学びのキーワード

- ・日本語教育
- ・教授法
- ・第2言語習得
- ・文型の導入
- ・教室活動

授業計画

01. 外国語教授法の歴史
02. オーディオリンガル・メソッドとは 1
03. オーディオリンガル・メソッドとは 2
04. トータルフィジカルレスポンスとは 1 体験授業
05. トータルフィジカルレスポンスとは 2 体験授業
06. サイレントウェイとは 1 体験授業
07. サイレントウェイとは 2 体験授業
08. ヴェルボトナル法とは
09. コミュニカティブアプローチとは1
10. コミュニカティブアプローチとは2
11. 教師中心の教育から学習者主体の教育へ
12. ニーズ、シラバス、カリキュラム：コースデザイン 1
13. ニーズ、シラバス、カリキュラム：コースデザイン 2
14. 初級の文型と文法用語
15. 「話す」ための教室活動 1
16. 「話す」ための教室活動 2
17. 「書く」ための教室活動 1
18. 「書く」ための教室活動 2
19. 「聞く」ための教室活動 1
20. 「聞く」ための教室活動 2
21. 「読む」ための教室活動 1
22. 「読む」ための教室活動 2
23. 初級指導法 1文型の導入と教材・教具
24. 初級指導法 2 文型の導入と教材・教具
25. 初級指導法 3文型の導入と教材・教具
26. 初級指導法 4文型の導入と教材・教具
27. 視聴覚教材 ビデオ・DVD教材の実際 1
28. 視聴覚教材 ビデオ・DVD教材の実際 2
29. 中・上級指導法と教材 1
30. 中・上級指導法と教材 2

準備学習(予習)

外国語のモデル授業を行うので欠席しないこと。教授法を理解するにはこの体験が重要である。また、数名の学生を指名してレポートを書かせる。担当者は、授業内で発表し、その後質疑応答を行う。指定したページは読んでおく。

準備学習(復習)

習ったことを使って教材作成をしてもらうことがある。

評価方法

(1) 期末レポート	50%
(2) 授業内発表	20%
(3) 討論への参加度	10%
(4) 観察レポート	10%
(5) 出席状況	10%

教科書

小林 ミナ『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法 37』（アルク）【978-4757418301】

参考書

担当教員：作田 奈苗

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J412630

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることができる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目【J】聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「外国人に対する日本語の教師」になるための心構えをつくり、必要な基礎知識を身につける。受講資格は、「日本語教授法講義」を履修済みであること。また、この演習の単位を取得しなければ、「日本語教育実習」の履修の資格は得られない。

(2) 内容

「外国人に対する日本語」の教え方の基礎を学ぶ。いろいろな日本語教科書の特徴を調べる。教科書として『みんなの日本語』を用い、日本語文法を「文型」という観点から捉える。アセンブリーアワーに行われる実習報告会（例年10月または11月に実施）、留学生弁論大会（開催される場合は11月頃）への参加とレポート作成は、この授業の一環として必須事項とするのでスケジュールを空けておくこと。また、入試日などの大学休校日を利用して、日本語学校の授業見学を行う予定である。

受講者に対する要望

日本語教師志望でない学生も受け入れるが扱いは志望者と区別しない。授業は演習形式で進められ、課題も多く課せられるので覚悟して臨むこと。主体的・積極的に取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・日本語の教え方
- ・教科書分析
- ・文法・文型分析
- ・教科書『みんなの日本語』
- ・日本語教師

授業計画

01. 日本語教授法についての概説
02. 教科書分析（1）
03. 教科書分析（2）
04. 教科書分析（3）
05. 教科書分析（4）
06. 教科書分析（5）
07. 文型分析（1）
08. 文型分析（2）
09. 文型分析（3）
10. 文型分析（4）
11. 文型分析（5）
12. 文型分析（6）
13. 文型分析（7）
14. 文型分析（8）
15. 文型分析（9）
16. 文型分析（10）
17. 文型分析（11）
18. 文型分析（12）
19. 文型分析（13）
20. 文型分析（14）
21. 文型分析（15）
22. 文型分析（16）
23. 文型分析（17）
24. 文型分析（18）
25. 文型分析（19）
26. 文型分析（20）
27. 文型分析（21）
28. 文型分析（22）
29. 期末試験
30. 期末試験フィードバック|授業ふりかえり

準備学習(予習)

教科書『みんなの日本語』で文型分析をするが、発表担当でない課についても、事前に目を通して、何を教えるのかを考えておくこと。

準備学習(復習)

文型分析した課の語彙や文型について、復習する。導入の仕方を復習したり、授業内で扱えなかった文型についても各自で、導入方法を考えてみる。分からないことは、次の授業で質問し、疑問を無くす努力をすること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 期末試験 | 30% |
| (2) 文型分析課題 | 40% |
| (3) 授業見学等のレポート | 30% |

期末試験50%以上の得点、出席率70%以上、かつ課題提出率100%を単位取得の条件とする。

教科書

スリーエーネットワーク 編著『みんなの日本語 初級1! 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）【978-4883196463】|スリーエーネットワーク、スリーエーネットワーク『みんなの日本語 初級1! 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）【978-4883196036】

参考書

担当教員：川口 さち子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1J412740

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目【J】聖学院大学日本語教員養成課程：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・日本語教授法演習を終了し、いよいよ実践への応用となる段階である。|・この科目を履修することにより、現場で実際に教えられる力を身につけてほしい。|

(2) 内容

・外国人学生に日本語を教えるための実践的な力を養う。|1 教室内作業| 1) 教科書の各課の指導項目を把握・分析し、各項目の導入方法およびドリルや会話等の練習方法を学び、教案が立てられるようにする。| 2) 指導項目にあった、教材が作成できるようにする。| 3) 模擬授業を行い、実際の教壇に立てるようにする。|2 現場実習…夏休みまたは、学期中の2週間を使い、実際に日本語教育機関で見学および教壇実習を行う。見学ノート・教壇実習の教案およびそのレポート・日本語教育機関での実習を終えてのレポートを作成、提出する。|※このほかに、本学の日本語授業にボランティアとして入ってもらう。また、現場実習へ行く前に自主トレーニングを行ってもらう予定である。

受講者に対する要望

教案を何度も書き、練り上げて、模擬授業を行う。また無断欠席した者は評価の対象としない。
課題が十分にできない場合は、現場実習に参加できないことがある。

学びのキーワード

- ・日本語教育
- ・実習
- ・教案作成
- ・教材作成
- ・模擬授業

授業計画

01. 講義概要・実習とは・教案作成の方法・予備テスト
02. 『みんなの日本語I・II』の構成および各課の指導項目の把握・分析
03. 『みんなの日本語I・II』の構成および各課の指導項目の把握・分析・教案作成準備
04. ラフ教案作成・発表
05. 文型教案詳細発表
06. 模擬授業（文型）
07. 模擬授業（文型）
08. 模擬授業（文型）
09. 模擬授業（文型）
10. 漢字教案作成
11. 模擬授業（漢字）
12. 模擬授業（漢字）
13. 模擬授業（漢字）・聴解教案作成
14. 模擬授業（聴解）
15. 模擬授業仕上げ

準備学習(予習)

履修者にはほぼ毎回発表してもらう。取り組みが不十分な者は、現場実習に参加できないことがあるので、発表者はレジュメ・教案を十分に準備すること。

準備学習(復習)

本学の日本語授業に参加観察し、見学レポートを提出する。実習校での現場実習に参加する前に、教科書に再度目を通し、各課の文型・新出語彙は整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 教案と発表 | 40% |
| (2) 討論への参加度 | 10% |
| (3) 出席状況 | 10% |
| (4) 実習校での評価 | 20% |
| (5) 実習レポート・見学レポート | 20% |

教科書

スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級1 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）【978-4883196036】|スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級11 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）【978-4883196463】|学校法人KCP学園KCP地球市民日本語学校編『新装版1日15分の漢字練習 初級～初中級 下』（アルク）【978-4757420137】|学校法人KCP学園KCP地球市民日本語学校編『新装版1日15分の漢字練習 初級～初中級 上』（アルク）【978-4757420120】

参考書

講義中に紹介する。

担当教員：作田 奈苗

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J412850

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択科目 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・学習者のレベルや学習目的に合わせた教材を選んだり作ったりできるようになること。|・インターネットなどのメディアの中から教材として使える素材を入手し、それを利用した教材を作れるようになること。?|・教育のICT利用に積極的に取り組めるようになること。

(2) 内容

この授業では、日本語を教えるときの効果的な教材の選び方、使い方、及び、作り方について考える。| 日本語教師は、学習者のレベルや学習目的に合わせた的確な教材を用意できなければならない。そのため、教材選択の留意点を学び、また、どんなものが教材の素材になり得るかを学ぶ。さらに、その素材をもとに実際の教材を作成し、利用する実践力を身につける。| 授業では講義だけではなく実際の教材作成に取り組み、それを発表し互いに検討する。

受講者に対する要望

日本語教員養成課程関係科目である。日本語教育概論、教授法講義で学んだ知識を生かし、教授法演習、教育実習へと進むための準備を行う。したがって、日本語教育概論及び日本語教授法講義を履修していることが望ましい。日本語教育に関する前提知識がなければ、課題作成にも取り組めず、単位取得は難しい。

学びのキーワード

- ・日本語教育
- ・教材
- ・作成

授業計画

01. 教材とは—レベル・ニーズに合わせた教材選び・教材作り
02. ネット上の日本語学習教材—日本語学習サイト
03. ネット上の日本語教育用素材—教材作成支援サイト
04. 絵教材—絵教材の作成
05. 文型導入—プレゼンテーションソフトの利用
06. 導入とドリル—ドリルの教材作成
07. 文型練習—ワープロソフト、表計算ソフトの利用
08. 会話練習—初級の会話練習教材の作成
09. 応用練習—教室で行われる様々な活動とその教材
10. コントロールされた日本語—初級読解教材の作成
11. 初級作文教材—初級の作文教材の作成
12. 中上級の読解と作文の教材—読解・作文の活動のバリエーション
13. ICTと日本語教育（1）—ICTを利用した授業
14. ICTと日本語教育（2）—タブレット端末の可能性
15. 生教材

準備学習(予習)

課題の教材を完成させ、発表する準備をしてくること。原則的に発表の割り当てられた日に発表できなければ、評価されない。

準備学習(復習)

発表時の質問、講評をもとによりよい教材に仕上げる。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) レポート・教材作成（発表も含む） | 70% |
| (2) 授業参加 | 30% |

合計60点以上を単位取得の条件とする。

教科書

スリーエーネットワーク『みんなの日本語 初級1 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）【978-4883196036】

参考書

担当教員：家永 香織

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J413000

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

日本人は、千年以上にわたり和歌（短歌）を詠み続けてきました。和歌は日本文学の土台であり、和歌を抜きにして、日本文学を語ることはできません。歌人たちは秀歌を詠むために情熱を傾け、また一首の和歌から物語や説話が生まれることもありましたが、和歌が人を救うことでもありました。和歌には偉大な力があるのです。そうした和歌の本質を知ることが、本講義の目標です。和歌にはどのような力があるのか、人々は和歌をどのようにとらえていたのか、歌人たちは何を考えて和歌を詠んでいたのか、物語や女流日記の筆者は和歌をどのように利用したのか—そうした問題について考えながら、和歌の世界を楽しみましょう。

(2) 内容

和歌は難しいと考えている人が多い一方で、「うた恋い。」や「ちはやふる」などの漫画の影響で、和歌に興味を持つ学生も増えていきます。本講義では、主に平安から鎌倉時代の和歌を取り上げ、和歌とは何かというところからはじめ、古典和歌に関する様々な知識や、散文（物語・女流日記・軍記・説話など）と和歌との関連、また当時の人々にとって和歌がどのようなものであったかについて解説します。和歌は必ずしも格調高いものばかりではなく、言葉遊びの類も少なくありません。アニメ「うた恋い。」のDVD、現代のJ-POPの歌詞やキャッチコピーなども教材として利用し、わかりやすい説明をこころがけたいと思います。また、多くの作品を取り上げるので、多様な作品を読む楽しみも感じてもらえることでしょう。様々な作品を読みながら、和歌のおもしろさを味わって欲しいと思います。

受講者に対する要望

漫然と説明を聞き、板書を写すのではなく、問題意識を持ちながら能動的に講義に取り組みましょう。疑問が生じたら、毎時間書いてもらったりアクションペーパーで質問してください。次の時間に質問に答えます。授業に直接関係しないことでも可能な限り答え、受講者が授業をきっかけに関心を広げていくことを手助けしたいと思います。

学びのキーワード

- ・ 古典文学
- ・ 和歌

授業計画

01. 古典和歌の基礎知識—和歌とは何か
02. 和歌の修辞・現代の歌詞やキャッチコピーに見られる和歌的レトリック
03. 様々な和歌
04. ことば遊びの歌
05. 歌集（1）—勅撰集
06. 歌集（2）—私家集（個人歌集）
07. 本歌取り
08. 題詠（1）—題詠とは何か
09. 題詠（2）—男歌と女歌（藤原定家と式子内親王は恋仲だったのか）
10. 題詠（3）—物語の作中人物になりかわる歌（平安時代の二次創作）
11. 物語と和歌（1）—和歌から物語へ（「うた恋い。」の藤原義孝）
12. 物語と和歌（2）—物語の中の和歌（『虫愛づる姫君』①）
13. 物語と和歌（3）—物語の中の和歌（『虫愛づる姫君』②）
14. 物語と和歌（4）—物語の中の和歌（『虫愛づる姫君』③）
15. ここまでのまとめと理解度確認
16. 女流日記と和歌—『更級日記』
17. 説話と和歌（1）—歌徳説話
18. 説話と和歌（2）—死者の歌・神仏の歌
19. 説話と和歌（3）—秀歌への執念
20. 軍記と和歌—『平家物語』（和歌をどう利用しているか）
21. 和歌を訳す・つくる・翻案する
22. 歌物語を読む（1）—『伊勢物語』（注は誰が付けたのか）
23. 歌物語を読む（2）—『伊勢物語』第六段（女を盗む話）
24. 歌物語を読む（3）—『伊勢物語』第六十九段（業平と斎宮）
25. 私家集を読む（1）—『建礼門院右京大夫集』①（二人の恋人との関係）
26. 私家集を読む（2）—『建礼門院右京大夫集』②（『源氏物語』の影響）
27. 私家集を読む（3）—『隆房集』と『隆房の恋づくし』①（作品の概説と問題の整理）
28. 私家集を読む（4）—『隆房集』と『隆房の恋づくし』②（『隆房の恋づくし』は隆房作か）
29. 私家集を読む（5）—『隆房集』と『隆房の恋づくし』③（長歌と『艶詞絵巻』）
30. まとめと理解度確認

準備学習(予習)

作品の概要を文学辞典などで確認しておく。図書館1階にある『日本古典文学大辞典』（岩波書店）や『日本古典文学大事典』（明治書院）などを活用する。

準備学習(復習)

ノートの見直しと整理をする。ノートを見直す過程で疑問点が見つかったら、次の授業の際に質問すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--|
| (1) 中間テスト | 50% | ノート持ち込み可。次の講義の際に返却及び解説を行う。 |
| (2) 平常点 | 20% | 毎回提出してもらったりアクションペーパーの内容も加味する。なお、次の講義の際にアクションペーパーに対する回答を行う。 |
| (3) 期末レポート | 30% | 授業時間中に書いてもらう。 |

教科書

テキストは使用せずプリントを配布。

参考書

担当教員：前田 潤

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J413110

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文学学科科目

(1) 学びの意義と目標

地震と文学との距離をめぐって思考することを通じて、「出来事」の重みに触れると共に、「出来事」が「構成」されるものでもあることをも知って欲しい。

(2) 内容

◆天災の発生が、同時代の社会・文学にどのような影響を与えてきたのかについて、多角的に考察する。「東日本大震災」の余波から議論を始め、「関東大震災」および「阪神淡路大震災」の発生が、小説を「書く」ことや「読む」こと、また、新聞雑誌に連載中の小説や各種刊行物にどのような影響を与えたのかをつぶさに検討する。同時に、多くの文学作品の中絶・変貌・誕生と深く関わる、震災直下のメディア状況や、罹災社会の混乱を考察する。「例外状況」と「文学」ソフトという観点から、戦争と文学との関わりについても言及する。なお、授業では映像資料を活用する。|◆専門領域への知を深化させてゆく契機となる講座である。|◆小説の言葉が、現実とどのように関わりながら編成されてゆくのかを知ると共に、震災被害の実態や社会・文化への影響、復興の問題点などについても学んでゆく。|◆写真と日本近代文学という観点から、視覚表象の批評方法を学ぶ機会を設ける。

受講者に対する要望

「地震」そのものについて学ぶ授業ではなく「地震」が「われわれ」に何をもたらすか、という点について考える授業であることを知っておいて貰いたい。被災者と非被災者を共に「当事者」とする地点から講義する。初回の授業には必ず参加すること。

学びのキーワード

- ・ 地震
- ・ 復興
- ・ 震災
- ・ 写真
- ・ 戦争

授業計画

01. ガイダンス
02. 「東日本大震災」への視点(1) 「被災」の周辺から
03. 「東日本大震災」への視点(2) 初期報道の問題点・文化領域への蚕食
04. 「東日本大震災」への視点(3) 被災と「モラル」をめぐって
05. 天災と「共同体」をめぐる思考(1) 小田実
06. 天災と「共同体」をめぐる思考(2) 小田実
07. 福島第1原発事故をめぐって
08. 予告された「震災」の記憶 高嶋哲夫「TUNAMI」
09. 震災発生と情報停滞(阪神淡路大震災)
10. 報道と「震災」の輪郭(阪神淡路大震災)
11. 復興と作家のボランティア実践(1)(田中康夫)
12. 復興と作家のボランティア実践(2)(田中康夫)
13. 「暴力」としての「震災」(1)(村上春樹)
14. 「暴力」としての「震災」(2)(村上春樹)
15. 「暴力」としての「震災」(3)(村上春樹)
16. 震災直後の社会心理と救済(1)(宮本輝)
17. 震災直後の社会心理と救済(2)(宮本輝)
18. 災害ユートピア(1)(9・11)
19. 災害ユートピア(2)(ハリケーンカトリーナ)
20. 写真と日本近代文学(1) 漱石のいない写真
21. 写真と日本近代文学(2) 自裁と肖像写真
22. 写真と日本近代文学(3) 宣教師の写真
23. 写真と日本近代文学(4) 群衆と写真
24. 物語的機縁としての「震災」(1)(東野圭吾)
25. 物語的機縁としての「震災」(2)(東野圭吾)
26. 震災直下の大正期メディア(1)(関東大震災)
27. 震災直下の大正期メディア(2)(関東大震災)
28. 震災の視覚像(竹久夢二)
29. 大正期婦人雑誌の変貌(菊池寛)
30. 震災モラトリアムと小説言説(村上浪六)

準備学習(予習)

授業で扱う全ての文学テクストを読む必要は無いが、村上春樹の「震災」小説など、時間をかけて取り上げる2~3篇の作品については読了してもらいたい。また、班分けをして班ごとに報告してもら場合もある。

準備学習(復習)

毎回の講義内容の整理と、紹介したテクストに触れることが重要。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 最終試験 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：小林 茂之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J413310

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目 | 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

英語は、多くの日本人にとって学んだ経験がある言語であるとともに、現代世界では世界語となっている。しかし、定説によれば、その起源は5C頃にブリテン島にやって来たアングロ・サクソン民族が持ち込んだゲルマン語の一方言であった。しかし、現在のブリテン島のアングロ・サクソン系の人口の割合は圧倒的には多くないという調査結果から、最近では古英語期の歴史書に基づいた定説には疑問が提出されている。この講義では、アルフレッド大王のサークルによる古英語訳の文献を中心に講読しながら、言語と民族との関係について考えるとともに、言語文化史を中世英文学作品を通して学ぶことを目標とする。

(2) 内容

ゲルマン語族と古英語の関係、古英語の文法概説、『ウエストサクソン福音書』、『古英語七書（旧約聖書）』、『アングロ・サクソン年代記』、『英国教会史』、『古英語版ポエシウス』、『アルフリッチ説教集』などの原文（部分）講読。古英語成立・発達の諸問題。

受講者に対する要望

教科書を入手し、授業時に携行する。

学びのキーワード

- ・ 古英語
- ・ 言語と民族
- ・ 英語史
- ・ 歴史言語学
- ・ 中世英文学

授業計画

01. 英語史概説 (1)
02. 英語史概説 (2)
03. 前英語史とゲルマン語族
04. ブリテン島の民族 (1)
05. ブリテン島の民族 (2)
06. ブリテン島の民族 (3)
07. 古英語概説 (1)
08. 古英語概説 (2)
09. 『ウエストサクソン福音書』 From the Gospel of St. Matthew ①
10. 『ウエストサクソン福音書』 From the Gospel of St. Matthew ②
11. 『アングロ・サクソン年代記』 (1) Early Britain ①
12. 『アングロ・サクソン年代記』 (2) Early Britain ②
13. 『アングロ・サクソン年代記』 (3) The Coming of the English ①
14. 『アングロ・サクソン年代記』 (4) The Coming of the English ②
15. 『アングロ・サクソン年代記』 (5) Alfred's War with the Danes ①
16. 『アングロ・サクソン年代記』 (6) Alfred's War with the Danes ②
17. 『古英語版ポエティウス 哲学の慰め』 Orpheus and Eurydice (1)
18. 『古英語版ポエティウス 哲学の慰め』 Orpheus and Eurydice (2)
19. 『アルフリッチ説教集』 Pope Gregory ①
20. 『アルフリッチ説教集』 Pope Gregory ②
21. 『テュロスのアポロニウス』 Apollonius of Tyre ①
22. 『テュロスのアポロニウス』 Apollonius of Tyre ②
23. 『ベィオウルフ』 Beowulf ①
24. 『ベィオウルフ』 Beowulf ②
25. 『エクセター謎詩』 The Riddles ①
26. 『エクセター謎詩』 The Riddles ①
27. 『エクセター写本』 Deor ①
28. 『エクセター写本』 Deor ②
29. 『ピータバラ年代記』 Peterborough Chronicle ①
30. 『ピータバラ年代記』 Peterborough Chronicle ②

準備学習(予習)

講読箇所の現代英語訳を読んで、内容を理解しておく。

準備学習(復習)

講読箇所の語釈を復習し、興味・関心に応じて発展的読書をする。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|----------------------------------|
| (1) 期末レポート | 50% | |
| (2) 授業への参加度 | 50% | 担当者を決めて、報告してもらうこともある(任意、強制ではない)。 |

教科書の携行は授業中の活動の評価の必要条件である。

教科書

市河三喜・松浪有(1986)『古英語・中英語初歩』(研究社)。

参考書

授業時に指示する

担当教員：内藤 みち

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J413790

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本語母語話者の言語意識や言語活動から日本語の特質やその規則性を見い出していくことにより、日本語が話される社会の規則性に触れていく。日本語の表現を通し、属しているコミュニティや話し手と聴き手の人間関係を導き出した、社会背景の変化をみる。

(2) 内容

日本語の特徴的表現に対する外国人の理解や受けとめ方を通しその特質を学んだり、日常使用している日本語を様々な角度から分析し話者の属性や対話対象との人間関係等の規則性を捉えていく社会言語学的内容となる。特定の日本語表現に対する諸外国の人々の理解や異なるコミュニティに属する日本人の受けとめ方については主に読み物を通し触れていくが、受講生自身の言語活動もその特質を導き出す分析対象となる。

受講者に対する要望

日本語以外の言語を学んだ経験や、外国語に通じているとより理解に易しい。日本語やその規則性に興味を持ち、積極的に身のまわりで使用されている表現に目を向けてほしい。

学びのキーワード

- ・日本語のコード
- ・集団語
- ・非言語コミュニケーション
- ・言語と文化
- ・言語変化

授業計画

01. 授業概要、「ファティック」
02. 「察し」
03. 「集団語／属性」(1)
04. 「集団語／属性」(2)
05. 非言語コミュニケーション(1)
06. 非言語コミュニケーション(2)
07. 言語と文化(1)
08. 中間試験
09. 言語と文化(2)
10. 言語変化(1)／語彙
11. 言語変化(2)／文法
12. 言語変化(3)／音声
13. 「対称詞」
14. 「自称詞」
15. 総まとめ

準備学習(予習)

日本語表現等を拾い出し考察する事前課題がある。

準備学習(復習)

授業内容に関する復習練習問題がなされ、その解答をディスカッション形式で行う。授業内容で扱った言語表現や言語活動の身のまわりでの使用を取り上げ考察する復習がある。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 中間試験 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) クラスワーク等 | 20% |

多少%が変更されることもある。授業の3分の1を超えて欠席した場合は成績評価対象とならない。

教科書

教師作成教材

参考書

担当教員： 福田 素子

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1J413810

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多元的な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

20世紀前期以前、日本の文献の多くは、公私を問わず漢文によって書かれていた。|前近代の東アジアでは、中国の古典語で書かれた文献が知の遺産として共有されており、過去の日本人の知識人たちも、そのような世界に参加していた。しかし彼らの多くは中国に行ったこともなければ、同時代の中国人と直に接したこともなかった。彼らは訓読という方法によって、中国の古典を読んでいたのである。そして彼らは中国の書物から得たものを養分にして、日本語または漢文で著述を遺してきた。それが今私たちが使っている日本語になったのである。漢文訓読は、「日本語が良くも悪くも今何故こうなってしまうているのか」を考えるために必要不可欠なツールであると言える。|この授業では、私たちが何故漢文訓読を読めるべきなのかを理解し、その上で漢文訓読の技術を身につけることである。|

(2) 内容

この授業は、|1. 日本語話者が訓読という方法で漢文を読む意義を考える。|2. 構文・訓点・送り仮名の付け方の規則を覚え、書き下し文を作る基礎訓練をつむ。|3. 少しずつ長い漢文を読めるように、また白文（訓点のふられていない文）を読めるように、演習問題を繰り返す。|上記に加えて、漢文のリズムや語彙に慣れるため、漢文の書き下し文の暗記をする。||という内容を予定している。講義を聴くだけでなく、実際に手や口を動かすことが多くなるので、積極的な参加を要する。|現代中国語の学習経験は、必要ない（あればそれなりに面白い）。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・ 漢文訓読
- ・ 文法理解
- ・ 作品読解
- ・ 古典とは何か
- ・ 訓練と実践

授業計画

01. 授業の進め方についてガイダンス。
02. 漢文とは何か。訓読とは何か。
03. 漢字の発音 1（音読み）・2（訓読み）
04. 漢字の発音 3（再読文字）・漢字の発音 4（置き字）。
05. 漢字の読み方復習と練習
06. 文法の要点 1（文型）・2（語間連結構造）。
07. 返り点 1（符号と用法の原則）・返り点 2（例外措置）。
08. 文法の要点と返り点の復習・練習。
09. 送り仮名 1（語彙領域）・2（補読領域）。
10. 送り仮名 3（漢文訓読で用いる古文の語法・文法）。
11. 書き下し文・漢文の体裁・辞典や参考書の使い方。
12. 発音～書き下し文まで、復習と練習。
13. 訓読の要領説明。
14. 常用漢語を訓読してみる。
15. 三文字・四文字の漢語を訓読してみる。
16. 短文を読んでもみる。
17. 長文を読んでもみる（準備演習）。
18. 長文を読んでもみる。
19. 中間まとめ。これまでの復習。
20. 長文訓読練習 1・2
21. 長文訓読練習 2・3
22. 『論語』を読んでもみる（訓点付きと白文）。
23. 『莊子』を読んでもみる（訓点付きと白文）。
24. 『史記』を読んでもみる。
25. 古文を読んでもみる。
26. 漢詩を読んでもみる（訓点付き）
27. 漢詩を読んでもみる（白文）。
28. 日本漢文を読んでもみる・1
29. 日本漢文を読んでもみる・2
30. 【総まとめ】 訓読をする意義の理解と、訓読技術の習得。

準備学習(予習)

授業のはじめに、随時小テストを実施するので、準備をしてくること。

準備学習(復習)

その日学習した用語や記号の意味を、確認しておくこと。随時小テストで確認する。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|--|
| (1) 筆記試験 | 50% | |
| (2) 書き下し文の暗記 | 50% | 授業内において、順次五つの漢字書き下し文の暗記を出題する。全て覚えると満点。 |

10回欠席すると、筆記試験を受ける資格を失う。

教科書

古田島洋介・湯城喜信著『漢文訓読入門』（明治書院）【978-4625734007】

参考書

古田島洋介『これならわかる返り点入門から応用まで』（新典社新書 2009）|戸川芳郎（監修）、佐藤進 濱口富士雄（編集）『全訳漢詩選 第四版』（三省堂 2016）は、スマートフォンアプリ版がある。|二堂庵主人加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫 2010）は少し難しいが詳しい。

担当教員： 稲田 奈津子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1J510100

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力： 歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「日本固有の」「古くからの伝統」といった言葉を、安易に使ってしまっていないだろうか。我々が想像する伝統は、実はせいぜい3世代前、古くても室町時代以降に作られたものだったりするし、その契機も海外からの影響である場合も多い。根拠のない言説に惑わされないためにも、実際に歴史史料に触れてみる経験は重要だろう。本講義では、様々な歴史史料を通して日本と東アジア世界との関わりを学び、また現代とは異なる時代を知ることで、現代社会を見つめなおす視点を養うことを目指したい。

(2) 内容

交通手段が未発達で、現代のように気軽に海外を歩き来ることが難しかった古代。しかし意外にも、日本古代社会のなかには海外からの影響を多く見いだすことができる。その影響は、律令制などの法律や制度にとどまらず、人々の生活に密着した習俗や信仰にまで及んでいる。本講義では、こうした古代社会のなかに溶け込んでいった東アジア文化の様相を、様々なトピックスから窺っていきたい。前半では喪葬儀礼を、後半では金石文や正倉院宝物といった文物を中心に取り上げる。

受講者に対する要望

画像を多く見てもらうので、教室の前方に着席してほしい。また意見・質問など、授業中や授業後、提出カード等を利用して、積極的に出してほしい。

学びのキーワード

- ・ 東アジア
- ・ 喪葬儀礼
- ・ 金石文
- ・ 正倉院宝物
- ・ 文化交流

授業計画

01. ガイダンス
02. 火葬のはじまり —僧侶が伝えた新しい文化
03. 「模範的」な葬儀とは —中国礼制のひろがり
04. モガリは女性の役割か —「深奥の秘儀」批判
05. 殯宮遺跡を発見?! —艇止山遺跡の評価をめぐって
06. 聖武の葬列 —仏教に傾倒した天皇の最期
07. あの世への持ちものリスト —随葬衣物疏の世界
08. 土塔と知識集団 —一行基と朝鮮半島(1)
09. 灌漑施設の整備 —一行基と朝鮮半島(2)
10. 歴史の空白を埋める石碑 —時をかける広開土王碑(1)
11. 発見・改竄説・多様性 —時をかける広開土王碑(2)
12. 近代史に翻弄される石碑 —時をかける広開土王碑(3)
13. 大仏へのささげもの —正倉院宝物と献物帳
14. 宝庫のなかの海外文化 —正倉院宝物と朝鮮半島
15. まとめ

準備学習(予習)

次回講義に関連するプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと。授業中に指名して史料を音読してもらう場合もある。

準備学習(復習)

授業は配布プリントを中心に進めるので、プリントを読み直して復習し、次回の小テストに備えること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----------|
| (1) 筆記試験 | 40% |
| (2) 小テスト | 30% 毎時間実施 |
| (3) 提出カード | 30% 毎時間提出 |

教科書

プリントを配布する

参考書

担当教員：西尾 知己

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J510210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本の中世(12～16世紀頃)は古代・近世とくらべても、社会が不安定で混沌のなかにあった。しかし混沌であることは、逆にその世の中に生きていた人が自由な発想のもと日々の生活を送ったことをも意味している。そこで生まれた発想はとても個性的で、そのなかには現代の私達の生活を考えていく上で示唆を与えてくれるものも少なくない。よって中世の歴史から何か一つでもこれからの社会を考えていくヒントをみなさんがつかめるような講義を展開したい。

(2) 内容

日本中世の社会について鎌倉時代から順を追って講義する形をとる。ただその際、教科書的に淡々と事実を追うのではなく、以下の点に注意しながら講義を進めていきたい。| ①中世の人々がどのような葛藤のなかで生きていたのかがよくわかる資料を取り上げる。そしてその葛藤が | 生まれる背景にある中世社会の特質を解説し、その過程で資料で述べられていることの理解を深めてい | くという方法をとる。| ②①のような葛藤は、現代の私達の社会のありようを考える上でさまざまな示唆を与えてくれる。よって、 | 歴史を通じて自分達の社会を見直すことも同時に行いたい。

受講者に対する要望

授業では毎回1つずつ問いを発して、みなさんに意見を書いてもらう形式をとるので、受け身ではなく、中世の社会についての知識を蓄えるなかでいろいろなことを考える場にしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本
- ・ 中世史
- ・ 法文化
- ・ 社会史
- ・ 寺院史

授業計画

01. ガイダンス
02. 中世の差別とけがれ
03. 中世の法—御成敗式目と北条泰時—
04. 中世のデモ・ストライキ—寺社強訴—
05. 忠誠と反逆—建武の新政と足利尊氏—
06. 境界を越える人々—倭寇—
07. 守るのは寺院か? 学問か?—南北朝内乱のなかの京都東寺—
08. 自立と自由—中世の村落—
09. 徳政とは何か?—中世人の所有観念—
10. 喧嘩両成敗にみる中世社会
11. 戦国大名の文芸活動
12. 戦国大名の苦悩—毛利元就の手紙を読む—
13. 一揆と豊臣秀吉—刀狩令を読む—
14. 西洋との摩擦—キリスト教と日本の中世社会—
15. 学期末のまとめ

準備学習(予習)

各項目の概要を歴史辞書等で事前に確認する。基本的な辞書類については初回で提示する予定である。

準備学習(復習)

授業でふれた事項について、参考文献であげた本や論文にあたることでさらに深めてほしい。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|------------------------|
| (1) 学期末のまとめ | 80% | 具体的には試験(持ち込み可)を想定している。 |
| (2) 授業内での提出カード | 20% | 提出カードの優秀者には、別途加点する。 |

教科書

なし。

参考書

毎時間ごとにテーマに関する参考文献は示す。

担当教員：上安 祥子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J510320

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

史料は、なんらかの〈情報〉を発信している。その〈情報〉には、人や書物などに媒介され、運ばれるだけではなく、人と人とが、〈情報〉に媒介され、社会的な関係をつくりあげていく、という側面がある。| そのような関係の諸相を読み解く作業を通じて、〈覚える〉ものとしてではなく、〈思考する〉ものとして、歴史に向き合う姿勢を身に付けることを目指している。

(2) 内容

江戸時代に生きた、さまざまな人びとの生活感覚を垣間見ることができる多様な史料にふれ、江戸という時代と社会の意識や志向、社会情勢、人と人とのつながりを読み解く。| まずは、史料を目にする、そして史料に接することに慣れる、ということからはじめて、調べる、読む、考える、といった手順をふんで、歴史を研究する基礎的な作業を体験し、学ぶ。| 取り扱う史料は、文献だけではなく、地図や植物画・動物画などもあり、適宜、画像を映写する。また、史料を実際に手にとる機会も、設ける予定である。| なお、文献史料については、原文と読み下し文を配布プリントに併記し、読み方や意味などは、授業時間内に確認・理解できるように、授業をすすめる。

受講者に対する要望

* 予習課題、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、発言を求めた際、「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり準備しておくこと。その場で考えるものについては、間違ふことをおそれたりためらったりせずに、はっきり意見を述べること。| * 辞書や文献などに書かれていることを探し出してわかった気になるのではなく、ほんとうにそうか? なぜそうなのか? といった問題意識をもってもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 歴史を〈思考する〉
- ・ 江戸時代
- ・ つながり

授業計画

01. ガイダンス
02. 近世人の〈世界〉認識
03. オランダ商館に集う人びと
04. 長崎屋に集う人びと
05. 「素人」、地図を売る
06. 伊勢参り、そのついでにどこへ行く?—江戸時代の旅と観光(1)
07. 江戸へ出頭、そのついでにどこへ行く?—江戸時代の旅と観光(2)
08. 『政談』の写本
09. 「馬鹿」も「あほう」もランク付け
10. 凝り性な殿たち
11. 殿のトレードマークが流行に?
12. 花を育てる人びと
13. 借楽園主人とは誰か
14. その辞書に、publicは載っているか?
15. まとめ

準備学習(予習)

* 次回の授業内容に関して課題を出すので、簡略に答えられるように(指名する)準備をして、授業に出席すること。| * 準備した答えが、修正を必要とする内容であっても、成績評価には関係ない。

準備学習(復習)

* 史料の内容について、キー・ワードや大意を復習すること。| * 参考文献を読み進めること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内試験 | 55% | * 最終回の第15回に、論述形式の授業内試験を行う。 * 論述の字数などは、詳細をみて、授業のなかで説明する。 |
| (2) 小レポート | 45% | 小レポートは60~100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。 |

* 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。| * 公文を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

教科書

なし。毎授業、プリントを配布する。

参考書

毎授業、複数冊、紹介する。

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J510410

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

・戦争を軸に、日本近代史（明治から大正期）を総合的に考察する。|・基礎的な史料読解力を養う。

(2) 内容

近代日本は、台湾出兵、甲申事変、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦というように、10年おきに対外戦争を繰り返す、まさに「戦争の時代」であった。本講義では、何故そのような「戦争の時代」を招来してしまったのかという疑問を解明すべく、明治、大正期に経験した戦争の経過を、当時の政治・経済・思想的背景を踏まえながら辿っていく。

受講者に対する要望

秋学期の「日本史の研究(現代史特論)」と密接な繋がりがあるので、併せて受講してもらいたい。|

学びのキーワード

- ・日本近代史
- ・戦争
- ・政治
- ・経済
- ・思想

授業計画

01. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
02. 幕末の外患
03. 明治維新と富国強兵（1）－国民皆兵－
04. 明治維新と富国強兵（2）－福沢諭吉の対外認識－
05. 朝鮮問題（1）－征韓論と江華島事件－
06. 朝鮮問題（2）－壬午軍乱と甲申事変－
07. 日清戦争（1）－7月23日戦争－
08. 日清戦争（2）－清国・台湾民主国との戦い－
09. 日露戦争（1）－恐露病とアジア情勢－
10. 日露戦争（2）－反露から征露へ－
11. 韓国併合（1）－日韓協約と義兵戦争－
12. 韓国併合（2）－植民地・朝鮮－
13. 第一次世界大戦（1）－日独戦争－
14. 第一次世界大戦（2）－シベリア戦争－
15. まとめ

準備学習(予習)

各回で取り上げる事項に関する予備知識を持った上で臨むこと。

準備学習(復習)

授業中の疑問点や不明点は、教員への質問や参考文献（プリントの末尾に記載）の読解によって解決すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する

参考書

授業のなかで指示する

担当教員：松井 慎一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J510510

学部教育の関連目

【J】 人 格 力 ・ 課 題 解 決 力 : 歴 史 学、文 学、語 学、哲 学 等 の 人 文 学 的 な 専 門 的 知 識 と 倫 理 観 を 身 に つ け る

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

・ 戦争を軸に、昭和史を総合的に考察する。| ・ 基礎的な史料読解力を養う。

(2) 内容

戦後70年以上が経過し、日本の社会において戦争の記憶が急速に失われつつある。300万人以上もの犠牲者を出してしまったアジア・太平洋戦争（「大東亜戦争」）とはいかなる戦争であったのか。広大な中国を相手にしながら、産業力において圧倒されていたアメリカとの戦争に踏み切ったのはなぜか。また、そもそもなぜ中国と戦うことになったのか、等々。悲劇の道を歩むこととなった軍国主義時代の日本を検証していく。|

受講者に対する要望

春学期の「日本史の研究(近代史特論)」と密接な関係があるので、併せて受講することが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 昭和史
- ・ 戦争
- ・ アジア
- ・ 思想
- ・ 政治・経済

授業計画

01. オリエンテーション(本講義の目的と概要)
02. 満洲事変と「満洲国」樹立(1)ーヴェルサイユ・ワシントン体制ー|
03. 満洲事変と「満洲国」樹立(2)ー柳条湖事件と上海事変ー
04. 日中全面戦争(1)ー華北分離工作から盧溝橋事件へー
05. 日中全面戦争(2)ー「泥沼化」した戦争ー
06. アジア・太平洋戦争の勃発(1)ー日独伊三国同盟の締結ー
07. アジア・太平洋戦争の勃発(2)ー真珠湾攻撃ー
08. 「大東亜共栄圏」の実態(1)ー南方進出ー|
09. 「大東亜共栄圏」の実態(2)ー皇民化政策ー|
10. 学徒出陣
11. 「玉砕」と「特攻」(1)ー平泉澄の思想ー
12. 「玉砕」と「特攻」(2)ー「十死零生」の戦術ー
13. 「大日本帝国」の崩壊(1)ー本土空襲ー|
14. 「大日本帝国」の崩壊(2)ー終戦ー|
15. まとめ

準備学習(予習)

各回で取り上げる事項に関する予備知識を持った上で臨むこと。

準備学習(復習)

授業中の疑問点や不明点は、教員への質問や参考文献(プリントの末尾に記載)の読解によって解決すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する

参考書

授業のなかで指示する

担当教員：上安 祥子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J511420

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代社会がどう変わり、またどう変えていくことが出来るのか、それを過去に学ぶことができるテーマとして、〈公共性〉を取り上げている。| したがって、近世という過去の時代における〈公共性〉観念の形成を理解するだけではなく、未来に向けた〈公共性〉構築という、現代的な課題としてとらえ直し、ひとりひとりが、その課題に向き合うきっかけを得ることを目指している。| また、直面する問題の解決方法が模索され、選択される思想形成の経緯をたどることを通じて、論理的思考力を鍛えていくことも、重要な目標である。

(2) 内容

日本の近世という時代、〈公共性への志向〉という思潮が立ち現れてくる。経済や政治を論じる言説として、積極的に現実の社会とかかわりをもっていた儒教は、その思潮を構成する、主なものの一つに数えられる。| 日本の思想家たちが、いかなることを問題として見出し、それを解決するために、いかなることを、儒教の概念や理論を用いていかに表現したのか、という分析視角を設定して、その思潮をたどっていく。

受講者に対する要望

予習課題など、発言を求めた際、「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり準備しておくこと。その場で考えるものについては、間違ふことをおそれたりためらったりせずに、はっきり意見を述べること。

学びのキーワード

- ・ 公共性
- ・ 朱子学
- ・ 徂徠学
- ・ 丸山眞男

授業計画

01. ガイダンスー意図を読む
02. 「乱」とは何か
03. 「共に善に落ちたるところ」
04. 「私情」から「至情」へ
05. 徂徠学のかがやき？ー丸山眞男氏の学説をめぐって(1)
06. 「めんめんこう」に悩む
07. なぜ「道」はつくられるのか
08. なぜ「道」は開かれるのか
09. 「一己」と「天下」
10. 「公理」なるもの
11. 朱子学≠“朱子学”ー丸山眞男氏の学説をめぐって(2)
12. 「借楽」と「共楽」
13. 「国家を謀る」
14. 試される『新論』
15. まとめ

準備学習(予習)

* 授業の冒頭で、前回の授業で提出した小レポートの内容を紹介し、論点を整理するので、配布したプリントやノートを見直したうえで、授業に出席すること。| * 配布プリントに、“予習”というコーナーを設け、たとえば調べておくべき用語などを指示するので、それらの課題に取り組み、答えを出しておくこと。

準備学習(復習)

* 配布プリントにある、“今回のPOINT&復習”のコーナーの、空欄補充の問題に取り組み、答え合わせをして復習すること。(解答は別途配布)| * 各回でとりあげる思想家が、それぞれどのようなキー・ワードを用い、どのような内容を論じていたか、見直すこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内試験 | 55% | * 最終回の第15回に、論述形式の授業内試験をおこなう。 * 論述の字数などは、詳細をみて、授業のなかで説明する。 |
| (2) 小レポート | 45% | 小レポートは60~100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。 |

* 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。| * 公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

教科書

なし。毎授業、プリントを配布する。

参考書

毎授業、複数冊、紹介する。

担当教員：高山 秀嗣

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J511530

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本仏教史を通史的に概観することにより、日本仏教が社会のさまざまな分野と関わりながら展開してきたことを具体的に学んでいく。また授業に積極的に取り組むことにより、調べ学習や発表の練習などにもなる。||

(2) 内容

本講義では、日本の歴史上における仏教の推移過程についてさまざまな角度から検討を行っていく。日本仏教史の流れを概観することで、仏教を取り巻く周辺状況である日本の思想や文化などについても視野を広げて学びを深めていくことを目的とする。基本は講義形式を取る。授業への積極的な参加も求めていきたい。||

受講者に対する要望

出席と授業への取り組みは特に重視する。|

学びのキーワード

- ・ 宗教
- ・ 仏教
- ・ 思想
- ・ 文化
- ・ 日本

授業計画

01. 日本仏教史概観
02. 仏教伝来
03. 聖徳太子
04. 奈良仏教：南都六宗
05. 平安仏教（1）：最澄
06. 平安仏教（2）：空海
07. 鎌倉仏教（1）：浄土教
08. 鎌倉仏教（2）：禅宗
09. 鎌倉仏教（3）：日蓮宗
10. 室町仏教：一休・蓮如
11. 近世仏教
12. 近代仏教
13. 現代仏教
14. 現代日本の宗教状況
15. 講義のまとめ

準備学習(予習)

各回のテーマおよび内容はあらかじめ提示するので、予習を行った上で授業に臨むこと。また、講義や討論などにも積極的に取り組んでいきたい。

準備学習(復習)

授業内配布プリントの内容は、試験レポートと深くかかわる。精読する必要がある。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) レポート | 50% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 授業への取り組み | 20% |

教科書

プリントを配付する。

参考書

授業内で適宜提示する。

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J511640

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本の歴史・思想・宗教、特に近代日本の思想史・文学史を視ていくための新しい視点を獲得し、上記領域への関心を深めていくこと。

(2) 内容

キリスト教をめぐる繰り広げられた、思想・宗教史上の数あるドラマについて多角的な視点から考察を加えることにより、「キリスト教」ならびに「日本史」へのイメージを刷新し、その実像に迫る手立てを獲得してもらおう。さらに「3.11」以後の歴史を生きる皆さんが、〈生きることの意味〉を主体的に考えていけるような授業を心がけていく。

受講者に対する要望

「関連文化」「日本思想入門」を併せて受講することが望ましい。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ キリスト教
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 近代日本文学

授業計画

01. 何を学ぶか—オリエンテーション—
02. 「キリスト教史」を問い直す
03. ザビエル以前のこと
04. ザビエルは、なぜ日本に来たか
05. ザビエルは、日本で何をしたか
06. ザビエルたちの言動は、なぜ人びとのところをつかんだか
07. ザビエルの日本伝道は、世界に何をもたらしたか
08. ザビエルの意外な「遺産」
09. 近代日本のキリスト教を問い直す
10. 明治のキリスト者 その1—その出自と内面世界—
11. 明治のキリスト者 その2—「世代交代」を促したもの—
12. 明治のキリスト者 その3—100年前の日本のすがた—
13. 近代日本のキリスト教の課題
14. 現代日本とキリスト教—キリスト教からの問い—
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、「ライフデザイン」の私の推薦図書に眼を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること。

評価方法

- (1) 期末試験 100%

期末試験によって評価する。全授業数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いについては初めに説明する。

教科書

参考書

担当教員：佐藤 ゆかり

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J511710

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究方法を学ぶ。特に、日本文学におけるキリスト教の影響についての考察をする。キリスト教受容の問題は、近代化に関わる〈思想的〉問題ととらえられがちだが、作家たちがキリスト教をどのように受容したかを考えることは、特定の時代、また、作家個人の問題にとどまらず、私たちが直面する問題でもある。目標は、(1) 近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、(2) 自分の意見を、根拠をもって論述すること、(3) 卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得、である。| この授業の学びの意義は、(1) 精読することで、文章の読解力を養える、(2) 自分自身の意見を基に、より日本文学に対する理解を深められる、(3) 本離れと言われる現代において、読書の重要性、楽しさを体験し、次世代への知識の提供、自分自身の生涯学習の基礎を作る、である。|

(2) 内容

西洋と〈出会った〉明治以降の近現代文学を通して、それまでの日本文学の伝統との連続性と非連続性を意識しつつ、日本文学におけるキリスト教の受容、さらに、これからの日本文学とキリスト教の関係を視野に入りたい。本講義では、近現代小説に描かれたキリスト教をテーマに、著名な作家による名作短篇・中篇小説を読み、作家のキリスト教信仰の有無なども含め、様々な角度から考察していく。作品ごとに、リアクションペーパーを通して、知識力と自己表現力を培いたい。|

受講者に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、キリスト教に興味を持つ学生、授業中採り上げる作品を必ず読む学生の受講を希望する。プリントはなくさないこと。

学びのキーワード

- ・ 近現代日本文学の研究方法
- ・ 近現代小説精読
- ・ 作家とキリスト教の関わり方
- ・ 聖書の用い方
- ・ 他者の意見を聴く

授業計画

01. 導入—日本文学の中の〈キリスト教〉という視点—
02. 正宗白鳥「信仰」
03. 正宗白鳥「何処へ」①主人公の生き方
04. 正宗白鳥「何処へ」②救世軍の青年
05. 正宗白鳥「何処へ」③最後の場面
06. 長与善郎「青銅の基督」
07. 太宰治「駈込み訴え」①聖書の翻案
08. 太宰治「駈込み訴え」②小鳥とは
09. 芥川龍之介「奉教人の死」①作家について
10. 芥川龍之介「奉教人の死」②聖書の引用
11. 芥川龍之介「神神の微笑」①植物を中心に
12. 芥川龍之介「神神の微笑」②最後の場面
13. 芥川龍之介「おぎん」①殉教について
14. 芥川龍之介「おぎん」②最後の場面
15. まとめ

準備学習(予習)

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめてくること。

準備学習(復習)

授業内で採り上げた小説について、全編を読んでくること。ノートを見直し、自分の意見をまとめること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) リアクションペーパー | 50% |
| (3) 平常点 | 30% |

欠席が3分の1を超えた者は単位認定しない。

教科書

参考書

担当教員： 芦名 裕子

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1J511970

学部教育の関連目

【1】 国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多面的な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

宗教学の基礎を学び、諸宗教の経典や内容を修得し、グローバルな視野を獲得する。|日本人の宗教を考え、身近な信仰についてもそのルーツ等を探る。

(2) 内容

内容|宗教学の基礎を学ぶ。宗教への興味を喚起する。|宗教学は1870年頃、マックス・ミュラーによって提唱された新しい学問である。しかし、神学など、経典研究を中心とする学問の歴史はすでに確立していた。|そこで、まず、宗教学の基礎を講義し、世界の宗教を比較宗教学の視点から学んでいく。さらに、アジアの宗教にも焦点を置き、比較考察する。また、私たち日本人の宗教観を世界の諸宗教と比較しながら、再考察し、身近な信仰についても考えてみよう。|イスラム教・ヒンズー教・道教など世界の宗教を調査から裏づけられた概説をする。|パチカンの内部に迫るDVDによる授業（1回）|アンコール・ワット〈DVD使用〉|ラテン語の聖歌|

受講者に対する要望

欠席しないようにお願いします。欠席した場合、教科書で必ず復習してください。私語厳禁。

学びのキーワード

- ・ アジアの宗教
- ・ 中国宗教
- ・ ユダヤ教
- ・ キリスト教
- ・ イスラム教

授業計画

01. プロローグ(可能な限り出席のこと)
02. 比較宗教学とは何か
03. 宗教学の基礎
04. 宗教学の方法
05. キリスト教概説
06. キリスト教(カトリック)
07. ユダヤ教と日本
08. ユダヤ教概説
09. イスラム教
10. 仏教概説
11. チベット仏教
12. ヒンズー教
13. 中国宗教(道教1)
14. 道教2 儒教
15. 中国仏教
16. アメリカの宗教
17. アメリカ新宗教(1)
18. アメリカ新宗教(2)
19. 日本仏教
20. アジアの宗教
21. 日本人の信仰(七福神など)
22. キーワード学習
23. プロテスタント神学
24. レポートの書き方等の説明
25. ヨーロッパの宗教〈DVD使用〉
26. 奈良・京都の宗教を考える
27. アンコール・ワット〈DVD使用〉
28. 日本の新宗教
29. 日本の古代宗教
30. まとめ

準備学習(予習)

講義で指示された文献を読む。

準備学習(復習)

講義で暗記するように指示された項目をきちんと暗記する。講義で紹介した著作を図書館で確認する。〈br /〉

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 基礎テスト | 50% |
| (2) レポート | 50% |

平常点や授業への取り組みも重視する。

教科書

参考書

芦名裕子著『楽しい宗教学』

担当教員：大坊 真伸

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J512080

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多様な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

中国の思想に触れてもらうため日本語訳（もしくは書き下し文）を読み、その日本語訳（書き下し文）から漢文（原文）を読解するような授業を行う。|中国思想の特徴及び正確な漢文訓読を講義の目的とするが、漢文読解についてはあまり枝葉末節に拘らないようにしたい。|一見古臭いような中国思想であるが、古代から現代まで連続と続く思想の影響を理解してもらいたい。加えて、学生の皆さんが将来教員になった時、教え子に是非とも紹介したくなるような漢文ネタを提供したいと考えている。

(2) 内容

本講義は2コマ連続の講義である。|1コマ目に「中国思想」、2コマ目に漢文訓読を教授する。|① 講義内容としては中国思想の代表「諸子百家」を扱う。授業時数が限られている為、当該思想の特徴的なものを紹介する。|② 日本文化学科の学生が多いことを鑑み、日本文化に関連が深い事柄を紹介していく。日本文化にも中国思想が影響を与えていることを理解する。深奥難解な内容も多いため、やり出すとキリがない。よって概論的なものにとどめる。|③ 漢文訓読の基礎を学ぶ（将来、中学・高校の古典の授業で生徒たちに理解しやすい授業が行えることを目標とする）。

受講者に対する要望

毎時間の小テストが評価の重要なウェイトを占める。授業を欠席すると、その時間の小テストが0点になるばかりでなく、次回の小テスト範囲も未習熟になってしまうので注意すること。|高校生の時に使用した漢文文法書をまだ持っているならば、是非とも持参してきて欲しい。

学びのキーワード

- ・ 中国思想
- ・ 諸子百家
- ・ 儒教
- ・ 比較文化

授業計画

01. 【諸子百家】ガイダンス（時代と各思想のあらまし）
02. 【諸子百家】孔子（生い立ちと功績）
03. 【諸子百家】『論語』（日本語に根付く『論語』出典の故事成語）
04. 【諸子百家】孟子の思想1（易姓革命と王道）
05. 【諸子百家】孟子の思想2（五十歩百歩・性善説）
06. 【諸子百家】荀子の思想（性悪説・勸学・天人の分）
07. 【諸子百家】韓非子（法家思想概論）
08. 【諸子百家】『墨子』『兼愛・非攻』
09. 【諸子百家】『老子』『無為自然』・『莊子』1（無用の用・万物斉同）
10. 【諸子百家】『莊子』2（尾を塗中に曳く・夢に胡蝶と為る）
11. 【諸子百家】『列子』1（寓話から見る列子「朝三暮四」等）
12. 【諸子百家】『列子』2（日本文学との関わりを中心に「名人伝」中島敦）
13. 【諸子百家】『孫子』兵法1（二人の孫子）（孫子&兵法七書）
14. 【諸子百家】『孫子』兵法2（『史記』孫子呉子列伝を讀む）・『呉子』『少数精鋭主義』
15. 【諸子百家】四書・五経入門
16. 〈漢文〉ガイダンス（漢文の五文型）
17. 〈漢文〉返り点・送り仮名・書き下し文
18. 〈漢文〉助字・返読文字
19. 〈漢文〉再読文字
20. 〈漢文〉否定文(1)～(3)否定の基本形
21. 〈漢文〉否定文(4)～(5)不可能・禁止
22. 〈漢文〉否定文(6)～(7)二重否定・部分否定・全部否定
23. 〈漢文〉疑問形
24. 〈漢文〉反語形
25. 〈漢文〉使役形・受身形
26. 〈漢文〉仮定形・比較形・選択形
27. 〈漢文〉抑揚系・限定形・累加形・詠嘆形
28. 〈漢文〉入試問題にチャレンジ！！
29. 日本儒学概説～内村鑑三『代表的日本人』～
30. 総括

準備学習(予習)

次回授業予定の中国思想について予習しておくことが望ましい。漢文句形については、高等学校ではあまり詳しく学んできてはいないことと推察する。授業内に於いてしっかり学習内容を身につけて欲しい。

準備学習(復習)

今年度は“（入試によく出る）漢文重要単語”を家庭学習として課す。詳細は初回授業時に説明する。また、漢文句形の確認テストを行う。プリント沢山なので、専用フォルダ必須！

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|------------------------|
| (1) 単語小テスト | 40% | 漢文重要単語 |
| (2) 句形小テスト | 40% | 漢文重要句形 |
| (3) 期末試験 | 10% | 毎時間の小テストの延長として行う予定である。 |
| (4) 中国思想レポート | 10% | |

教科書

菊地 隆雄、村山 敬三、六谷 明美 編著『基礎から解釈へ 漢文必修 四訂版』（桐原書店）【978-4342784620】

参考書

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J512110

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

・ 近代日本における社会・経済の変遷を考察する。
 ・ 基礎的な史料読解力を養う。

(2) 内容

幕末に西洋列強の圧力により国際社会の扉を開いた日本を待ち受けていたのは、「帝国主義」と呼ばれる国際情勢であった。近代日本における社会・経済は、その弱肉強食の激しい競争場裡にいかんして生き残れるのかということを中心に展開されてきたといえる。本講義では、明治から昭和初期にかけて、「生存競争」「優勝劣敗」の問題に取り組もうとした思想家たちの言説を取り上げ、それを解明していくことにより、近代日本の社会・経済の変遷を辿っていくことにしたい。それは、今日におけるグローバル化の問題に我々がどう立ち向かうべきかを考える上でも少なからず参考になるであろう。

受講者に対する要望

日本近代における思想家・学者による社会・経済に関する考察を辿っていく授業であるが、日本近代史への興味はもちろんのこと、現代の社会・経済について強い関心を持つ者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 社会・経済
- ・ 帝国主義
- ・ 功利と道義
- ・ 進化論
- ・ 理想主義

授業計画

01. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
02. 福澤諭吉の「独立自尊」（1）－封建制からの脱却－
03. 福澤諭吉の「独立自尊」（2）－弱肉強食の国際情勢－
04. 福澤諭吉の富国強兵論（1）－貿易立国論－
05. 福澤諭吉の富国強兵論（2）－資本主義の矛盾－
06. 加藤弘之の社会進化論（1）－『国体新論』から『人権新説』へ－
07. 加藤弘之の社会進化論（2）－国際法と戦争論－
08. 内村鑑三の「日本の天職」論（1）－東西の媒酌人－
09. 内村鑑三の「日本の天職」論（2）－宗教大国としての日本－
10. 幸徳秋水の社会主義（1）－帝国主義批判－
11. 幸徳秋水の社会主義（2）－社会主義と道義－
12. 「七博士」の帝国主義と社会政策（1）－社会政策学会と七博士建白事件－
13. 「七博士」の帝国主義と社会政策（2）－戸水寛人と小野塚喜平次－
14. 丘浅次郎の生物進化論（1）－獣類としての人間－
15. 丘浅次郎の生物進化論（2）－日本社会への影響－
16. 浮田和民の倫理的帝国主義（1）－進化論とキリスト教－
17. 浮田和民の倫理的帝国主義（2）－功利と道義－
18. 牧口常三郎の人生地理学（1）－人道的競争の時代－
19. 牧口常三郎の人生地理学（2）－軍国主義に抗して－
20. 吉野作造の国際民主主義（1）－政治と宗教－
21. 吉野作造の国際民主主義（2）－帝国主義から国際協調主義へ－
22. 土田杏村の文化主義（1）－国内経済優先論－
23. 土田杏村の文化主義（2）－統制国民主義－
24. 河合栄治郎の理想主義的社会主義（1）－労働問題研究－
25. 河合栄治郎の理想主義的社会主義（2）－「人格の成長」のための社会づくり－
26. 石橋湛山の小日本主義（1）－欲望統整の哲学－
27. 石橋湛山の小日本主義（2）－植民地放棄論－
28. 「大東亜共栄圏」の思想（1）－松岡洋祐－
29. 「大東亜共栄圏」の思想（2）－「世界史の哲学」－
30. まとめ

準備学習(予習)

各回で取り上げる人物の予備知識をある程度調べて授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業での疑問点や不明点は、教員に質問したり、プリントに記載されている参考文献にあたるなどして、解決すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する

参考書

授業のなかで指示する

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J512210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【A】 副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

現代日本の諸課題は、近代日本の直面した問題の圏内から原理的に抜け出てはいないことについて理解を深めること。

(2) 内容

「3.11」以降の歴史を生きる私たちにとって、自己と自己を取り巻く社会とを批判的に問い質し得る視座を構築することは喫緊の課題である。そのための具体的な手立てを探るべく、明治末を起点とする日本の思想史を（宗教を含む）、時事問題等をも絡めながら、問題提起的に講義する。思想・宗教のみならず、「戦争と革命の世紀」といわれる「20世紀の歴史」に関心を有するものの受講を歓迎する。||

受講者に対する要望

3, 4年生向けの特殊講義である。受講者の要望や時事問題を意識して講義を進めていくだけに、授業計画に変更が生じる場合がある。〈現代〉への強い関心を抱く学生の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 大衆社会
- ・ 疎外
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 日本近代史

授業計画

01. はじめに—先取りされた〈現代〉への眼
02. 大正時代の幕開け—東京駅開業の光と影
03. 人類史の中の第一次世界大戦 1—「西欧」の「破壊」
04. 人類史の中の第一次世界大戦 2—日本へのインパクト
05. 1918・1919年の画期—内に暴動・外に反日デモ
06. 起ち上がる思想家たち—〈平等〉と〈自由〉
07. 大正期の〈宗教〉 1—宮沢賢治の軌跡 I
08. 大正期の〈宗教〉 2—宮沢賢治の軌跡 II
09. 時代の叫び—朝日平吾
10. まとめ—現代日本の呻き
11. 1920年代の外交—中国とアメリカをめぐる
12. 大正大震災の衝撃 1—北一輝・大杉栄・宮沢賢治
13. 大正大震災の衝撃 2—和辻哲郎・芥川龍之介・谷崎潤一郎
14. 大正大震災の衝撃 3—「東京人の墮落時代」
15. 大正大震災の衝撃 4—変容する時代人心
16. 震災後の総選挙
17. ポスト震災と「大正」の終わり 1—3つの新聞記事から
18. ポスト震災と「大正」の終わり—中国問題ふたたび
19. 農本主義の磁場—反文明・反都市の情念
20. 震災後10年の世相—坂田山心中と東京音頭
21. 1937・1938年の転回 1—震災後15年の日本 I
22. 1937・1938年の転回 2—震災後15年の日本 II
23. まとめ—「大東亜戦争」という呼称
24. 現代日本への問い 1—〈戦前〉と〈戦後〉への視座 I
25. 現代日本への問い 2—〈近代〉の本質を問う
26. 現代日本への問い 3—福沢諭吉の〈賭け〉
27. 私たちのジレンマ—「近代日本」という〈問題〉
28. 私たちはどう生きるか 1—ミヒャエル・エンデをめぐる
29. 私たちはどう生きるか 2—内村鑑三をめぐる
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回の講義終了時に、次回講義への導入として示された問いかけと関連資料をふまえ、問題意識を育んだ上で受講すること。

準備学習(復習)

レジュメを元に当日中に復習し、疑問点は積極的に教員に質問すること。また授業中に言及した文献にはできる限り直接あたること。

評価方法

- (1) 期末試験 100%

期末試験によって評価する。全授業回数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いについては初回に説明する。

教科書

参考書

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J700210

学部教育の関連目

【J】実践力：学校教育にかかわる専門的知識を養い、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

◆教員採用試験の「現代文」読解問題に解答する学力を養成することを目指す。|◆教員採用試験の要求する「現代文」文章読解能力の水準を把握するとともに、「国語」教員として最低限必要な文章表現力の獲得を目標とする。|◆多領域に向けて開かれた現代日本語の文章を読解できる能力を養うことも講義の目的とする。

(2) 内容

公立の中学校・高等学校の採用試験を受験する3年生を対象とした科目である。毎回、授業の中で教員採用試験を意識した問題の分析を行う。領域横断的な文章素材を扱うとともに、入門から中級へと問題の難易度を上げていき、最終的に過去に出題された問題を分析する。|

受講者に対する要望

採用試験に向けて自己の能力を磨く意欲を持って授業に臨んで欲しい。

学びのキーワード

- ・ 現代文
- ・ 採用試験問題
- ・ 読解
- ・ 分析
- ・ 解釈

授業計画

01. ガイダンス 採用試験の問題をやってみよう
02. 評論：文学の言語と論文の言語
03. 評論：伊藤整
04. 評論：林 達夫
05. 評論：大江健三郎
06. 評論：柳 宗玄
07. 随筆：五木寛之
08. 評論：武満徹
09. 評論：岸田徹
10. 随筆：村上春樹
11. 随筆：加藤周一
12. 小説：武者小路実篤
13. 小説：三浦哲郎
14. 小説：神西 清
15. 総括

準備学習(予習)

次回の内容に関する予習を指示するので、必ず取り組むこと。

準備学習(復習)

各回完結の授業となるため、前回の内容に関する毎回の復習を奨励する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加状況 | 50% |
| (2) 確認問題 | 50% |

教科書

出口 汪『出口の現代文レベル別問題集②基礎編【改訂第2版】』（ナガセ）[978-4-89085-445-5]

参考書

出口 汪『やりなおし高校国語——教科書で論理力・読解力を鍛える』（岩波書店）[978-4-480-06810-1]

担当教員：濱田 寛、木下 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J700320

学部教育の関連目

【J】実践力：学校教育にかかわる専門的知識を養い、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

将来、生徒たちに教えるためには、古典の豊かな世界を楽しむことができるようになってこそ魅力的な授業が可能になるだろう。

(2) 内容

この科目で学ぶ「古典」とは日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、それぞれ8時間目にまとめと「試験」を実施する。前半の「古文」では、用言を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『竹取物語』を読む。後半の「漢文」では、基本的な漢文の語法を学習し、その演習として「散文」作品の読解を行う。文学史に関連して、より専門的な事項についても丁寧な解説を行う予定である。

受講者に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。

学びのキーワード

- ・ 文語文法
- ・ 用言の活用
- ・ 漢文訓読
- ・ 諸子百家
- ・ 竹取物語

授業計画

01. 古典文法入門
02. 動詞（1）（四段活用動詞）
03. 動詞（2）（上一段・上二段活用動詞、下一段・下二段活用動詞）
04. 動詞（3）（変格活用動詞）
05. 形容詞・形容動詞
06. 演習『竹取物語』（1）
07. 演習『竹取物語』（2）
08. 古典分野まとめ
09. 漢文訓読概説（1）
10. 漢文訓読概説（2）
11. 漢文訓読概説（3）
12. 儒家の思想／『論語』
13. 儒家の思想／『孟子』
14. 儒家の思想／『荀子』
15. 道家の思想／『老子』

準備学習(予習)

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。

準備学習(復習)

自主課題プリント配付予定。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---------|
| (1) 中間試験 | 50% | 第8週に実施 |
| (2) 学期末試験 | 50% | 定期試験に実施 |

教科書

参考書

担当教員：木下 綾子、濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J700430

学部教育の関連目

【J】実践力：学校教育にかかわる専門的知識を養い、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人に教えるためには、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、はじめて魅力的な授業も可能になろう。文法もまた同じことが言えよう。

(2) 内容

前半の「漢文」では、「韻文」を中心に扱う。具体的には『詩経』から唐詩までの中国の韻文の史的展開と具体的な作品に即した鑑賞を行う。その他、詩の朗読も積極的に取り入れていく。後半の「古文」では、助動詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『徒然草』を読む。

受講者に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。また、毎回必ず辞書を持参すること。

学びのキーワード

- ・ 近体詩・平仄式
- ・ 詩の朗読
- ・ 助動詞の用法
- ・ 徒然草

授業計画

01. 中国古典詩概説
02. 古体詩概説（1）
03. 古体詩概説（2）
04. 近体詩概説（1）
05. 近体詩概説（2）
06. 近体詩概説（3）
07. 近体詩概説（4）
08. 漢文分野まとめ
09. 助動詞概説、過去の助動詞
10. 完了の助動詞、推量の助動詞（1）
11. 推量の助動詞（2）、伝聞・推定の助動詞
12. 打消・打消推量の助動詞
13. 断定の助動詞、尊敬の助動詞
14. 演習『徒然草』（1）
15. 演習『徒然草』（2）

準備学習(予習)

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。

準備学習(復習)

その日に学んだことを確実に身に付けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に付けよう。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------|
| (1) 中間試験 | 50% | 第8週に実施 |
| (2) 学期末試験 | 50% | 定期試験期間に実施 |

教科書

参考書

担当教員：濱田 寛、木下 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J700540

学部教育の関連目

【J】実践力：学校教育にかかわる専門的知識を養い、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人に教えるためには、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、はじめて魅力的な授業も可能になる。

(2) 内容

前半の「漢文」は、「史書」を中心に扱う。具体的には『春秋』三伝の比較対照を行いつつ「春秋の義」について学び、また高等学校の教材として定番ともいえる『史記』について、知見を深めたい。後半の「古文」は、助詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『伊勢物語』を読む。

受講者に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。

学びのキーワード

- ・ 紀伝体・編年体
- ・ 史記
- ・ 助詞の用法
- ・ 伊勢物語

授業計画

01. 中国史書概説
02. 『春秋』読解演習 (1)
03. 『春秋』読解演習 (2)
04. 『春秋』読解演習 (3)
05. 『史記』読解演習 (1)
06. 『史記』読解演習 (2)
07. 『史記』読解演習 (3)
08. 漢文分野まとめ
09. 助詞概説、格助詞
10. 接続助詞
11. 副助詞
12. 係助詞
13. 終助詞・間投助詞
14. 演習『伊勢物語』 (1)
15. 演習『伊勢物語』 (2)

準備学習(予習)

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。

準備学習(復習)

その日に学んだことを確実に身に付けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に付けよう。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------|
| (1) 中間試験 | 50% | 第8週に実施 |
| (2) 学期末試験 | 50% | 定期試験期間に実施 |

教科書

参考書

担当教員：小林 茂之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J801000

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ゼミ参加者は参考書などから具体的な言語分析のケーススタディを報告し、卒業レポートB・卒業論文のテーマを探索し、卒業レポートや卒業論文の作成の準備を目標とする。また、ワークショップを通じて共同研究を行い、発表や討論の技能を向上させる。

(2) 内容

ゼミ参加者は、歴史語用論、歴史社会言語学、比較統語論の各分野に関する参考書から、ケーススタディを選択し、報告し、報告者と参加者で今後の研究の可能性や見通しを検討し合う。

受講者に対する要望

『言語学特殊講義』（隔年開講予定）が2017年度春学期に開講されるので、ゼミ受講者に言語資料の分析を学ぶために履修することを要望する。卒業レポート、卒業論文の研究テーマを参考書などでリサーチし、ゼミの最後に研究発表した上で、中間報告としてレポートにまとめる。

学びのキーワード

- ・ 歴史言語学
- ・ 言語文化史
- ・ 歴史社会言語学
- ・ 社会語用論
- ・ 比較統語論

授業計画

01. 導入・ケーススタディ報告（パワーポイントによる発表形式）の担当の割り振り決定
02. ケーススタディ報告と討議
03. ケーススタディ報告と討議
04. ケーススタディ報告と討議
05. ケーススタディ報告と討議
06. ケーススタディ報告と討議
07. ケーススタディ報告と討議
08. ケーススタディ報告と討議
09. ケーススタディ報告と討議
10. ケーススタディ報告と討議
11. ケーススタディ報告と討議
12. ケーススタディ報告と討議
13. ゼミ参加者の研究テーマ報告と研究の進行に関する報告
14. ゼミ参加者の研究テーマ報告と研究の進行に関する報告
15. 予備日

準備学習(予習)

発表者はパワーポイントで発表資料を作成する。他のゼミ参加者は、予定されたケーススタディの資料を読み、ゼミでの討論に備える。

準備学習(復習)

ゼミ参加者は、毎回のゼミで取り上げられたケーススタディについて、言語史的・言語文化史的または統語論的な研究可能性を探索し、各自の研究の発展を図る。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 授業への参加度 | 20% |
| (4) 単位レポート | 20% |

平常点の評価対象は次のような活動である。参考書のケーススタディの報告者は、パワーポイントで充実した資料（スライド）を作成し、ゼミ参加者に内容を解説する。また、他のゼミ参加者は報告者に質問をするともに討論に参加する。

教科書

寺澤 盾『聖書でたどる英語の歴史』（研究社）【978-4469245820】

参考書

高田博行・他(2011)『歴史語用論入門—過去のコミュニケーションを復元する(シリーズ・言語学フロンティア)』。大修館書店。[高田博行・他(2015)『歴史社会言語学入門：社会から読み解くことばの移り変わり(シリーズ・言語学フロンティア)』。大修館書店。] [渡辺明(2005)『ミニマリストプログラム序説(シリーズ・言語学フロンティア)』。大修館書店。]

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J801210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各自の興味・関心を振り返り、課題を見つけ、調査を行い、結果を考察し、論文を執筆するという大学での学びの集大成を行う。

(2) 内容

卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けて、調査等を行い、ディスカッションを通して、考察を深める。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・ 卒業レポート
- ・ 卒業論文

授業計画

01. オリエンテーション
02. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
03. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
04. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
05. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
06. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
07. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
08. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
09. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
10. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
11. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
12. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
13. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
14. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
15. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表

準備学習(予習)

各自、発表に向けて十分に準備を進めること。

準備学習(復習)

授業内でのディスカッションを参考に、卒業レポート、卒業論文執筆に向けて、研究を進めること。

評価方法

(1) 授業参加度	25%
(2) 課題	25%
(3) レポート	25%
(4) 発表	25%

教科書

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J801480

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本学科の学びの集大成としての「卒業レポート」の完成を目標とする。3年次までの人文学の学びを総括し、「自分の意見」をどのように導き、表明するべきかを実践的に学ぶ。

(2) 内容

各自の設定した課題について、仮説を立て、調査を行い、資料にまとめ、プレゼンを行い、文章にまとめる、という一連のプロセスを実践的に学ぶ。演習発表と平衡してレポートの添削指導を行う。

受講者に対する要望

徹底した事前準備を求める。

学びのキーワード

- ・ 調査
- ・ 資料作成
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. ガイダンス
02. 概要発表①
03. 概要発表②
04. 概要発表③
05. 概要発表④
06. 個別発表①
07. 個別発表②
08. 個別発表③
09. 個別発表④
10. 個別発表⑤
11. 個別発表⑥
12. 個別発表⑦
13. 個別発表⑧
14. 個別発表⑨
15. 個別発表⑩／総括

準備学習(予習)

資料作成のための準備

準備学習(復習)

発表内容の文章化→必ず添削指導を受けること

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |
| (3) 卒業レポート | 30% |

演習発表は「概要発表」1回、「個別発表」2回を必須とする。

教科書

参考書

担当教員：木下 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J801610

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業レポートの執筆を目標とします。| 各自のテーマに基づいて、対象とする時代と前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用して、自分なりの「地図」や「系図」を作ります。その上で、いかに独自の問いを立てるか、何を論拠としていかに答えを導くか、そして、それをいかに文章化して読み手に伝達するかを学びます。

(2) 内容

演習発表を行い、その後、文章の添削指導を受けます。

受講者に対する要望

上記、評価方法・注意点、および準備学習（予習・復習）に同じ。

学びのキーワード

- ・平安文学
- ・執筆
- ・調査・研究・報告
- ・質疑応答

授業計画

01. はじめに—この演習の方法と概要、報告者の決定
02. 受講生による発表 (1)
03. 受講生による発表 (2)
04. 受講生による発表 (3)
05. 受講生による発表 (4)
06. 受講生による発表 (5)
07. 受講生による発表 (6)
08. 受講生による発表 (7)
09. 受講生による発表 (8)
10. 受講生による発表 (9)
11. 受講生による発表 (10)
12. 受講生による発表 (11)
13. 受講生による発表 (12)
14. 受講生による発表 (13)
15. 受講生による発表 (14)、まとめ

準備学習(予習)

報告者は自身のテーマについて調査・考察して、レジュメを作成すること。その他の受講生は報告者に質問したいことを考えておくこと。

準備学習(復習)

報告者は質疑の内容に基づいて訂正や追加調査を行い、文章化して添削指導を受けること。その他の受講生も自身のテーマに照らし合わせて、問題点の整理や参考文献の探索を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 卒業レポート | 70% |
| (2) 演習発表 | 20% |
| (3) 質疑応答における発言 | 10% |

報告者はよく調査して、自分なりの論点を提示すること。その他の受講生も報告者に失礼がないよう予習し、発表を注意深く聴いて積極的に発言すること。発表後は必ず添削指導を受けること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J802110

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習」や「卒業研究」を通じて培った分析力や構想力を用いて、各自、研究テーマを設定し、資料を集積して、問題点を整理し、レポートを完成させる。

(2) 内容

卒業レポート、さらには卒業論文の完成を見据えて、各自の研究テーマを追究するための発表と討議を行う。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にしてください。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想史
- ・ 文化史
- ・ 政治史
- ・ 社会史

授業計画

01. ガイダンス
02. 参加者による発表
03. 参加者による発表
04. 参加者による発表
05. 参加者による発表
06. 参加者による発表
07. 参加者による発表
08. 参加者による発表
09. 参加者による発表
10. 参加者による発表
11. 参加者による発表
12. 参加者による発表
13. 参加者による発表
14. 参加者による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は事前に教員の指導を受けて報告レジュメを作成すること。参加者は報告者の課題を調べて授業中発言できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

報告者は授業中に指摘された問題点・疑問点などについてしっかり調べておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J802300

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

上記に尽きている。本学で学んでよかったと思えるような学びの集大成を、ゼミ生どうしで共有したい。

(2) 内容

最終学年の最後のゼミとして、名実ともに大学生生活を総括する学びの場である。一人でも多くの人に、卒業論文を書いてほしいと希っている。

受講者に対する要望

できる限り卒業論文に挑戦してほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 民俗
- ・ 芸術

授業計画

01. はじめに—大学生生活を総括するために—
02. 卒業レポートとは何か その1
03. 卒業レポートとは何か その2
04. 研究発表
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。

教科書

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J802420

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業論文、卒業レポートの完成をめざして、各自の調べ考察する対象の理解と、研究法を学び身につける。

(2) 内容

日本の思想に関わる諸問題からテーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめる。

受講者に対する要望

テキストと対話しつつ、自らの考えをまとめ、かたちにすることは、大学での学びの総決算であるとともに、社会に出てから必ず役に立つ。意欲的な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 日本思想
- ・ 卒業論文
- ・ 卒業レポート

授業計画

01. ガイダンス
02. 卒業レポート発表・準備
03. 卒業レポート発表・準備
04. 卒業レポート発表・準備
05. 卒業レポート発表・準備
06. 卒業レポート発表・準備
07. 卒業レポート発表・準備
08. 卒業レポート発表・準備
09. 卒業レポート発表・準備
10. 卒業レポート発表・準備
11. 卒業レポート発表・準備
12. 卒業レポート発表・準備
13. 卒業レポート発表・準備
14. 卒業レポート発表・準備
15. まとめ

準備学習(予習)

発表者は、事前に十分な準備をすること。他の参加者も、発表者の予告した課題に即して、発言の準備をする。

準備学習(復習)

発表者は、討論を経て修正したレジュメを提出する。他の参加者は、発表・討議でなされた内容を、自らの課題に活かすべく、よく振り返ること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J802540

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。

(2) 内容

1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」|2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」）|簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語—文化と文学を研究する—」ということになる。|主な研究の視点としては次の2点を想定している。|①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といった「文学ジャンル」に留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む広い範囲の表現を含む。|②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。|

受講者に対する要望

この段階では「卒業研究Ⅱ」で深めた各自の研究のまとめとして「卒業レポート」を執筆し、その過程で卒業論文への可能性をも見定めてほしい。

学びのキーワード

- ・ 近現代文化
- ・ 近現代文学
- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ ポップ・カルチャー/サブ・カルチャー

授業計画

01. ガイダンス
02. 卒業レポート作成準備
03. 卒業レポート作成準備
04. 卒業レポート作成準備
05. 卒業レポート作成準備
06. 卒業レポート作成準備
07. 卒業レポート作成準備
08. 卒業レポート作成準備
09. 卒業レポート作成準備
10. 卒業レポート作成準備
11. 卒業レポート作成準備
12. 卒業レポート作成準備
13. 卒業レポート作成準備
14. 卒業レポート作成準備
15. 卒業レポート作成準備

準備学習(予習)

自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習(復習)

随時「研究ノート」を執筆し、最終レポートにつなげていく。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 最終レポート | 50% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J802660

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養っていくことを目指す。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

(2) 内容

卒業研究Ⅱまでに各自が見つけた研究テーマについて、先行研究論文を実際に読み解きながらその内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べる。その上で、参加者全体でディスカッションを行う。最終的に学びの総括として研究発表会での発表、および卒業論文あるいは卒業レポートの作成につなげる。

受講者に対する要望

研究課題を少しずつ深めていく意識を持ち続けてほしい。

学びのキーワード

- ・ 各自の研究課題
- ・ 発表
- ・ 研究討議
- ・ 研究の深化
- ・ 研究発表会

授業計画

01. 研究を体系化することについて講義
02. 各自の研究テーマに関する発表・討議
03. 各自の研究テーマに関する発表・討議
04. 各自の研究テーマに関する発表・討議
05. 各自の研究テーマに関する発表・討議
06. 各自の研究テーマに関する発表・討議
07. 各自の研究テーマに関する発表・討議
08. 各自の研究テーマに関する発表・討議
09. 各自の研究テーマに関する発表・討議
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議
14. 研究発表会での研究発表
15. 「学び」の総括、および卒業レポート・卒業論文に向けての留意事項の確認。

準備学習(予習)

1ヶ月に1回のペースで研究発表を行えるよう、自分の課題に関する先行研究論文を読んでいく。

準備学習(復習)

研究討議の内容を踏まえてまとめなおすとともに、これまでの発表内容と結合させていく。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業での発表 | 30% |
| (2) 研究討議への参加状況 | 20% |
| (3) 研究発表会での発表 | 20% |
| (4) 最終レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J802710

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

目標は、日本文化学科での4年間をまとめる卒業レポート(10,000字)の執筆にある。これは、2年次の専門演習ゼミと3年次の卒業研究ゼミを経て、受講生自身が決めた問題提起にしたがって、論文を仕上げることを意味している。

(2) 内容

受講生には下記2回の報告を課す。| ①一度目の報告では、専門演習・卒業研究で積み上げてきた卒業レポートの構想を章立てにして報告する。各章の概要も含めて報告することを求める。| ②二度目の中間報告では、①での指摘を踏まえて修正した卒業レポートを報告する。| 報告のために準備したレジュメや卒業レポートはすべて、報告予定日までにUNIPAに提出する。| 各受講生は、①と②の報告を終えることで、最終的には学期末に卒業レポート提出に臨むことになる。

受講者に対する要望

2回の報告を目安に、各自自分の課題を進めて、期日までに卒業レポートを提出して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 社会学
- ・ 他者
- ・ 集合意識
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. 卒業レポート章立て発表 (1)
02. 卒業レポート章立て発表 (2)
03. 卒業レポート章立て発表 (3)
04. 卒業レポート章立て発表 (4)
05. 卒業レポート章立て発表 (5)
06. 卒業レポート章立て発表 (6)
07. 卒業レポート中間報告 (1)
08. 卒業レポート中間報告 (2)
09. 卒業レポート中間報告 (3)
10. 卒業レポート中間報告 (4)
11. 卒業レポート中間報告 (5)
12. 卒業レポート中間報告 (6)
13. 卒業レポートまとめ (1)
14. 卒業レポートまとめ (2)
15. 卒業レポートまとめ (3)

準備学習(予習)

他の学生の報告やそれへのコメントも頼りにしながら、自分の報告の準備と復習を試みて欲しい。

準備学習(復習)

他の学生の報告やそれへのコメントも頼りにしながら、自分の報告の準備と復習を試みて欲しい。

評価方法

(1) 報告 (2回分)	20%
(2) ①章立てレジュメ	20%
(3) 中間報告原稿	20%
(4) 卒業レポート	40%

教科書

参考書

現代位相研究所『フシギなくらい思えてくる！本当にわかる社会学』日本実業出版社、2010年、1,400円税別。| 濱嶋朗・竹内順郎・石川晃弘『社会学小辞典』(新版増補版) 有斐閣、2005年、4,200円税別。| 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・野村敬志『社会学』有斐閣、2007年、3,500円税別。| 井上俊・長谷正人『文化社会学入門——テーマとツール』2010年、ミネルヴァ書房、2,600円税別。| 白井利明・高橋一郎『よくわかる卒業論文の書き方』ミネルヴァ書房、2008年、2,500円税別。| 宇都宮辰子『よくわかる社会学』(第2版) ミネルヴァ書房、2009年、2,500円税別。

担当教員：小林 茂之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J805000

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

毎回ゼミ参加者が研究内容の報告・発表を行い、専門演習I・IIおよび卒業研究I・IIおよび卒業レポートAの学びの総復習を行うとともに、自身の卒業論文、卒業研究の深化を図る。

(2) 内容

卒業レポート、卒業論文提出の準備。

授業計画

01. 研究テーマ報告
02. 研究報告
03. 研究報告
04. 研究報告
05. 研究報告
06. 研究報告
07. 研究報告
08. 研究報告
09. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究発表
14. 研究発表
15. 研究発表

準備学習(予習)

テキスト講読の進度に合わせて、予習する。

準備学習(復習)

研究発表に向けて、発展的な研究を行う。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 授業への積極性 | 20% |
| (4) 単位レポート | 20% |

受講者に対する要望

4年間の大学での学びを実りあるものにするよう、頑張ってもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 歴史言語学
- ・ 言語文化史
- ・ 比較統語論

教科書

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J805210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各自の興味・関心を振り返り、課題を見つけ、調査を行い、結果を考察し、論文を執筆するという大学での学びの集大成を行う。

(2) 内容

卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けて、調査等を行い、ディスカッションを通して、考察を深める。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・ 卒業レポート
- ・ 卒業論文

授業計画

01. オリエンテーション
02. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
03. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
04. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
05. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
06. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
07. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
08. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
09. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
10. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
11. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
12. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
13. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
14. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表
15. 卒業レポートおよび卒業論文執筆に向けての発表

準備学習(予習)

各自、発表に向けて十分に準備を進めること。

準備学習(復習)

授業内でのディスカッションを参考に、卒業レポート、卒業論文執筆に向けて、研究を進めること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業参加度 | 25% |
| (2) 課題 | 25% |
| (3) レポート | 25% |
| (4) 発表 | 25% |

教科書

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J805480

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本学科の学びの集大成としての「卒業レポート」の完成を目標とする。3年次までの人文学の学びを総括し、「自分の意見」をどのように導き、表明すべきかを実践的に学ぶ。「卒業論文」の執筆を行う場合は「卒業レポートA」からの継続指導となり、大きな構想のもとに執筆する技術を学ぶ。

(2) 内容

各自の設定した課題について、仮説を立て、調査を行い、資料にまとめ、プレゼンを行い、文章にまとめる、という一連のプロセスを実践的に学ぶ。演習発表と平衡してレポートの添削指導を行う。「卒業論文」の執筆を行う場合は「卒業レポートA」からの継続指導となる。

受講者に対する要望

徹底した事前準備を求める。

学びのキーワード

- ・ 調査
- ・ 資料作成
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. ガイダンス
02. 概要発表①
03. 概要発表②
04. 概要発表③
05. 概要発表④
06. 個別発表①
07. 個別発表②
08. 個別発表③
09. 個別発表④
10. 個別発表⑤
11. 個別発表⑥
12. 個別発表⑦
13. 個別発表⑧
14. 個別発表⑨
15. 個別発表⑩／総括

準備学習(予習)

資料作成のための準備

準備学習(復習)

発表内容の文章化→必ず添削指導を受けること

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 授業への参加度 | 20% |
| (3) 卒業レポート | 30% |

「卒業レポートA」を参照。尚、「卒業論文」の執筆の場合は「演習発表」を20%とし、「卒業論文」を80%として評価を行う。「卒業論文」の評価には「中間発表」「卒論面談」の評価を含む。

教科書

参考書

担当教員：木下 綾子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J805610

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業レポート、および卒業論文の執筆を目標とします。| 各自のテーマに基づいて、対象とする時代と前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用して、自分なりの「地図」や「系図」を作ります。その上で、いかに独自の問いを立てるか、何を論拠としていかに答えを導くか、そして、それをいかに文章化して読み手に伝達するかを学びます。

(2) 内容

演習発表を行い、その後、文章の添削指導を受けます。卒業論文を執筆する場合は「卒業レポートA」からの継続指導となります。

受講者に対する要望

上記、評価方法・注意点、および準備学習（予習・復習）に同じ。

学びのキーワード

- ・平安文学
- ・執筆
- ・調査・研究・報告
- ・質疑応答

授業計画

01. はじめに—この演習の方法と概要、報告者の決定
02. 受講生による発表 (1)
03. 受講生による発表 (2)
04. 受講生による発表 (3)
05. 受講生による発表 (4)
06. 受講生による発表 (5)
07. 受講生による発表 (6)
08. 受講生による発表 (7)
09. 受講生による発表 (8)
10. 受講生による発表 (9)
11. 受講生による発表 (10)
12. 受講生による発表 (11)
13. 受講生による発表 (12)
14. 受講生による発表 (13)
15. 受講生による発表 (14)、まとめ

準備学習(予習)

報告者は自身のテーマについて調査・考察して、レジュメを作成すること。その他の受講生は報告者に質問したいことを考えておくこと。

準備学習(復習)

報告者は質疑の内容に基づいて訂正や追加調査を行い、文章化して添削指導を受けること。その他の受講生も自身のテーマに照らし合わせて、問題点の整理や参考文献の探索を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 卒業レポート | 70% |
| (2) 演習発表 | 20% |
| (3) 質疑応答における発言 | 10% |

報告者はよく調査して、自分なりの論点を提示すること。その他の受講生も報告者に失礼がないよう予習し、発表を注意深く聴いて積極的に発言すること。発表後は必ず添削指導を受けること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

担当教員：松井 慎一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J806110

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習」や「卒業研究」を通じて培った分析力や構想力を用いて、各自、研究テーマを設定し、資料を集積して、問題点を整理し、レポートを完成させる。

(2) 内容

卒業レポート、さらには卒業論文の完成を見据えて、各自の研究テーマを追究するための発表と討議を行う。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にしてください。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想史
- ・ 文化史
- ・ 政治史
- ・ 社会史

授業計画

01. ガイダンス
02. 参加者による発表
03. 参加者による発表
04. 参加者による発表
05. 参加者による発表
06. 参加者による発表
07. 参加者による発表
08. 参加者による発表
09. 参加者による発表
10. 参加者による発表
11. 参加者による発表
12. 参加者による発表
13. 参加者による発表
14. 参加者による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は事前に教員の指導を受けて報告レジュメを作成すること。参加者は報告者の課題を調べて授業中発言できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

報告者は授業中に指摘された問題点・疑問点などについてしっかり調べておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J806300

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業論文執筆は、一連のプロセスそれ自体、最も大学生らしい学びと言ってよい。その経験は、進路が何であれ将来に生きてくる。新しい人生の門出に臨み、〈原点〉となる作品を創り上げてほしい。

(2) 内容

原則として卒業論文執筆希望者のためのゼミである。それぞれの主題に従って指導する。

受講者に対する要望

「勇み足」を恐れず、みずからの〈肉声〉を、ぶつけること。そのためには、〈資料〉を時代の中で、内在的に読解することが不可欠となる。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 民俗
- ・ 芸術

授業計画

01. はじめに—大学生生活を総括するために—
02. 卒業論文とは何か その1
03. 卒業論文とは何か その2
04. 研究発表
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。

教科書

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J806420

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業論文、卒業レポートの完成をめざして、各自の調べ考察する対象の理解と、研究法を学び身につける。

(2) 内容

日本の思想に関わる諸問題からテーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめる。

受講者に対する要望

テキストと対話しつつ、自らの考えをまとめ、かたちにすることは、大学での学びの総決算であるとともに、社会に出てから必ず役に立つ。意欲的な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 日本思想
- ・ 卒業論文
- ・ 卒業レポート

授業計画

01. ガイダンス
02. 卒業レポート発表・準備
03. 卒業レポート発表・準備
04. 卒業レポート発表・準備
05. 卒業レポート発表・準備
06. 卒業レポート発表・準備
07. 卒業レポート発表・準備
08. 卒業レポート発表・準備
09. 卒業レポート発表・準備
10. 卒業レポート発表・準備
11. 卒業レポート発表・準備
12. 卒業レポート発表・準備
13. 卒業レポート発表・準備
14. 卒業レポート発表・準備
15. まとめ

準備学習(予習)

発表者は、事前に十分な準備をすること。他の参加者も、発表者の予告した課題に即して、発言の準備をする。

準備学習(復習)

発表者は、討論を経て修正したレジュメを提出する。他の参加者は、発表・討議でなされた内容を、自らの課題に活かすべく、よく振り返ること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J806510

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。

(2) 内容

1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」|2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」）|簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語-文化と文学を研究する-」ということになる。|主な研究の視点としては次の2点を想定している。|①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」=「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「詳説」や「昔話」「童話」といった「文学ジャンル」に留まらず、「映像表現」「演劇」などをも含む広い範囲の表現を含む。|②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。

受講者に対する要望

卒業論文の執筆を目指している学生は、常に「到達点」から逆算して自らの「研究の現状」を把握することを求める。

学びのキーワード

- ・ 近現代文化
- ・ 近現代文学
- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ ポップ・カルチャー/サブ・カルチャー

授業計画

01. ガイダンス
02. 卒業レポート作成準備
03. 卒業レポート作成準備
04. 卒業レポート作成準備
05. 卒業レポート作成準備
06. 卒業レポート作成準備
07. 卒業レポート作成準備
08. 卒業レポート作成準備
09. 卒業レポート作成準備
10. 卒業レポート作成準備
11. 卒業レポート作成準備
12. 卒業レポート作成準備
13. 卒業レポート作成準備
14. 卒業レポート作成準備
15. 卒業レポート作成準備

準備学習(予習)

自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習(復習)

随時「研究ノート」を執筆し、最終レポートに繋げていく。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 最終レポート | 50% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J806610

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

全体の中での位置を意識して物事を進める姿勢を、体験を通して身に着けていくことを目指す。さらに、自らのもっている情報を目の前の「他者」に如何に伝えるかという方法論も身に着けた。その上で、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることを目標としたい。

(2) 内容

各自の研究テーマについて、論文の目次に沿って研究をまとめ、その内容を参加者に紹介するとともに、参加者全体でディスカッションを行う。それを通して、自らは気づかなかった新しい視点の示唆を得たり、研究の不足部分に気づいたりすることができるであろう。

受講者に対する要望

自らの課題と正対する意識を持ち続けてほしい。

学びのキーワード

- ・ 興味
- ・ 関心
- ・ 資料批判
- ・ 帰納と演繹
- ・ 思考

授業計画

01. 研究を体系化することについて講義
02. 各自の研究テーマに関する発表・討議
03. 各自の研究テーマに関する発表・討議
04. 各自の研究テーマに関する発表・討議
05. 各自の研究テーマに関する発表・討議
06. 各自の研究テーマに関する発表・討議
07. 各自の研究テーマに関する発表・討議
08. 各自の研究テーマに関する発表・討議
09. 全体中間発表会
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議
14. 各自の研究テーマに関する発表・討議
15. 全体最終発表会

準備学習(予習)

1ヶ月に1回のペースで研究発表を行えるよう、自分の課題に関する研究を進めていく。

準備学習(復習)

研究討議の内容を踏まえて発表内容を修正し、提出する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の発表 | 30% |
| (2) 討議への参加状況 | 30% |
| (3) 最終レポート | 40% |

最終レポートはA4版10枚以上とする。

教科書

授業中に指示する。

参考書

担当教員：小林 茂之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX10100

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

現代統語論における思考法を学び、論理力を高める。また、基礎力を充実させることによって、発展的な研究に取り組む準備をする。専門演習ⅠⅠでは文献学的知識も学ぶので、図書館司書講座の受講者にも役立つ。さらに、卒業研究に向けて、基礎的な研究技能を身に付ける。

(2) 内容

現代統語論の基礎的な概念や分析法を教科書を通して学ぶ。また、必要に応じて、プレゼンテーションの仕方など、大学生として必要な基礎的なスキルを学ぶ。担当者による演習方式での報告の後、参加者全員で検討する。

受講者に対する要望

日本語学概説を履修済みであることが望ましいが、未履修者は秋学期に受講する。言語文化論（2017年度は開講されない。2018年度開校予定）を履修して、3年次の卒業演習ⅠⅠの履修の準備をする。教科書の他に電子辞書などを持参する。

学びのキーワード

- ・ 音声学
- ・ 統語論
- ・ 意味論
- ・ 言語史
- ・ 語用論

授業計画

01. 導入
02. Ch. 3 How Words Are Made: Morphology (1)
03. Ch. 3 How Words Are Made: Morphology (2)
04. Ch. 4 How Words Mean: Semantics I (1)
05. Ch. 4 How Words Mean: Semantics I (2)
06. Ch. 5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (1)
07. Ch. 5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (2)
08. Ch. 6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (1)
09. Ch. 6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (2)
10. Ch. 7 How Sentences Mean: Semantics II (1)
11. Ch. 7 How Sentences Mean: Semantics II (2)
12. Ch. 8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (1)
13. Ch. 8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (2)
14. Ch. 9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (1)
15. Ch. 9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (2)

準備学習(予習)

教科書を読み準備した上で授業に参加する。

準備学習(復習)

関連書を読み、さまざまな言語現象に知識を広げる。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 教科書を手せずに出席しても、平常点は認められない。 |
| (2) 授業参加度 | 20% | 担当箇所を決める場合を含む。 |
| (3) 期末レポート | 40% | |

教科書を手直し、携行することはゼミ参加の必要条件である。[第1]章ごとに報告者を決め、報告者は PowerPoint を用いて、内容を要約して報告する。[第2]章も授業参加度として評価する。

教科書

影山太郎・他『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』（くろしお出版）[978-4874242773]

参考書

授業時に指示する。

担当教員：木下 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX10560

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

平安文学の学習および研究を進めていく上で必要な知識や技術を、演習形式で習得します。| 具体的には、前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用しながら、当該作品を東アジアの文学史、文化史、政治史のなかで読み解く訓練をします。また、いかに問いを立て、意見・主張を導き出し、証し立てるのか。そして、それらをいかに伝達し、議論するのかを身に付けます。

(2) 内容

『源氏物語』 「葵」について一節ずつ、解釈と鑑賞、考察を行っていきます。| 『源氏物語』は、寛弘5年(1008)頃に一部分が成立した日本文学史上最大の古典です。| 「葵」は、光源氏が桐壺帝の譲位後、東宮の後見を委ねられながらも藤壺とますます疎遠になってしまいうさまや、源氏の冷淡な態度を嘆いていた六条御息所が賀茂の車争いをきっかけに源氏の正妻・葵の上に対する恨みを深めること、一方の葵の上は執拗な物の怪(もののけ)に悩みながら子・夕霧を出産するものの亡くなってしまうこと、そして、その喪が明けたのち光源氏が紫の上と新枕を交わすことなどが描かれます。| この「葵」の読解作業を通じて物語解釈の方法を習得し、表現の特色や方法、および文学史、文化史的な意義について考えます。

受講者に対する要望

本演習の基礎科目としては、「日本文学概説」「日本文学史(上代・中古)」「日本文学 研究と批評(古典②)」があります。並行して履修することを勧めます。

学びのキーワード

- ・平安文学
- ・源氏物語
- ・調査・研究・報告
- ・質疑応答

授業計画

01. はじめに—この演習の方法と概要、報告者の決定
02. 担当教員による模擬発表(1)
03. 担当教員による模擬発表(2)
04. 受講生による発表(1)
05. 受講生による発表(2)
06. 受講生による発表(3)
07. 資料見学
08. 受講生による発表(4)
09. 受講生による発表(5)
10. 受講生による発表(6)
11. 百人一首大会
12. 受講生による発表(7)
13. 受講生による発表(8)
14. 受講生による発表(9)
15. レポート提出とまとめ

準備学習(予習)

報告者は担当箇所について調査して、レジュメを作成すること。その他の受講生は本文を読み、報告者に質問したいことを考えておくこと。

準備学習(復習)

その日のうちにレジュメを読み返し、整理すること。報告者は質疑で指摘されたレジュメの訂正箇所を直し、追加調査を書き加えたものを、レポートとして提出してください。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 報告・レポート | 70% |
| (2) 質疑応答における発言 | 30% |

報告者はよく調査して、自分なりの論点を提示すること。その他の受講生も報告者に失礼がないよう予習し、発表を注意深く聴いて積極的に発言すること。参加者全員で議論して、新たな読みを拓きましょう。

教科書

紫式部、玉上 琢弥『源氏物語—付現代語訳(第2巻)(角川ソフィア文庫)』(角川書店)【978-4044024024】

参考書

阿部 秋生、秋山 虔、今井 源衛、鈴木 日出男『源氏物語(第2巻)(新編日本古典文学全集)』(小学館)

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX11110

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

先ず、「史料」の解説を通じて、「読解力」、「考察力」、「批判力」等の基礎学力を身につけていきたい。そして、自己の研究課題を追究していくことで「分析力」「忍耐力」を、研究発表を通じて「構想力」「表現力」などを確かなものにしていきたい。

(2) 内容

日本近現代史すなわち幕末から現代にいたるまでの時期の歴史を対象とするゼミである。我々が生きている現代社会は、経格差や少子高齢化など数々の問題・不安を抱えている。過去の人物や事象について学ぶことは単なる懐古趣味であってはいけない。「温故知新」というように、現代社会あるいは自己が抱えている問題や不安を解決する糸口を引き出すことこそ歴史を学ぶ最大の意義であると考えている。自己の「問題意識」を強く持ち、「史料」を深く読み解くことで、過去の人物や事象に迫っていきたい。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にしてください。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想
- ・ 文化
- ・ 政治
- ・ 経済

授業計画

01. はじめにーガイダンスー|
02. 研究入門 1 ー 日本近現代史研究とはー
03. 研究入門 2 ー 文献の調べ方ー
04. 研究入門 3 ー 発表の仕方ー
05. 参加者による発表
06. 参加者による発表
07. 参加者による発表
08. 参加者による発表
09. 参加者による発表
10. 参加者による発表
11. 参加者による発表
12. 参加者による発表
13. 参加者による発表
14. 参加者による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は事前に教員の指導を受けること。参加者は報告者の担当部分の史料を読んで臨むこと。

準備学習(復習)

その日の討論や疑問点などをよく整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

授業のなかで指示する|

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX11240

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文化現象を通じて社会の枠組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会学的な視点（ものの見方）を身につけられるになるだろう。| また、このゼミでは各ゼミ生の関心について深く調べるのではなく、文化の社会学におけるゼミ生の関心自体を見つけるために指定教科書を丁寧に理解することを目標とする。

(2) 内容

ケータイやSNS、デザイン、スポーツ、ファッション、美容、観光やお笑い、食生活や住まい、都市と地域、ジェンダー、家族、友だち付き合い、恋愛、若者などの「文化」から、社会の枠組みを浮き彫りすることを目指す。| 春学期前半のゼミでは、①指定書籍（教科書）を読み、これをレジュメにまとめて、グループごとに報告して、質疑応答により理解を深めるというものである。より具体的には、2人1組程度で、教科書の各章をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式を進める。| 春学期の後半には、各ゼミ生が「卒業レポート」として深めることができそうなこと、または興味のあるテーマについての②先行研究論文を探して、レジュメにまとめて発表、質疑応答を行う。後半は、どれだけ先行研究論文をわかりやすく報告するかが大切になる。| ※担当教員が2017年度春学期に特別研究期間を取得するため、専門演習Ⅰ／Ⅱが2017年度春学期に同時開講される予定なので注意してほしい。

受講者に対する要望

①課題提出方法：レジュメをワードで提出して、報告日当日【指定時刻】までに、UNIPAへ提出すること。| ②課題提出方法：(1) 先行研究論文は報告日1週間前まで、(2) その論文のレジュメは報告日当日【指定時刻】までにUNIPAへ提出すること。

学びのキーワード

- ・社会学
- ・文化
- ・他者
- ・集合意識
- ・コミュニケーション

授業計画

01. ガイダンス
02. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（1）
03. 【2年生】①教科書報告と討論（1）
04. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（2）
05. 【2年生】①教科書報告と討論（2）
06. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（3）
07. 【2年生】①教科書報告と討論（3）
08. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（4）
09. 【2年生】①教科書報告と討論（4）
10. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（5）
11. 【2年生】①教科書報告と討論（5）
12. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（6）
13. 【2年生】①教科書報告と討論（6）
14. 【3年生】各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（7）
15. 【2年生】①教科書報告と討論（7）

準備学習(予習)

指定された書籍を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。

準備学習(復習)

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|---------------|
| (1) 報告への取り組み | 40% | 報告用レジュメによって評価 |
| (2) 報告 | 15% | 当日の報告自体によって評価 |
| (3) 質疑応答 | 45% | 毎回の発言によって評価 |

教科書

小川伸彦・山泰幸 『現代文化の社会学入門——テーマと出会う、問いを深める』 ミネルヴァ書房、2007年、2,800円税別。

参考書

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX11460

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代の「想像力」を分析することを通じて、私たちがどのような世界に存在しているのかを考える。また、そのことを通じて、世界（社会）に対する批評的な視座を獲得することを目指す。文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身と社会、世界への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。|

(2) 内容

主な研究の視点としては次の2点を想定している。|①文学などの「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といたジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。|②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちににとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、研究対象は映画、ドラマ、マンガ、アニメ、メディア・風俗・流行・スポーツ・お笑い・ファッション・食文化、あるいはいわゆる「伝統文化」と呼ばれるもの等を含めた近現代文化全般ということになる。|||

受講者に対する要望

まずは研究の方法とゼミ形式での授業を体得することを通じて自らの研究テーマを発見してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 近現代文化
- ・ 近現代文学
- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ ポップカルチャー

授業計画

01. ガイダンス：ゼミ形式の授業の方法について
02. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
03. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
04. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
05. 研究発表(1)
06. 研究発表(1)
07. 研究発表(1)
08. 研究発表(1)
09. 研究発表(1)
10. 研究発表(2)
11. 研究発表(2)
12. 研究発表(2)
13. 研究発表(2)
14. 研究発表(2)
15. まとめ

準備学習(予習)

自らの発表の準備は当然「間にあわせ」では充実した発表に繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習(復習)

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 最終レポート | 40% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX11670

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学におけるゼミナール形式の授業を初めて体験するという状況を踏まえ、研究の基礎技能について理解していくことを一番の目標とする。| 世界は完成し閉じたものではなく、今も動き続けているものである。子どもと教育、どちらも身近な存在ではあるが、あまり考えたことの無い人も多いだろう。そのような自分の足元を見直すことで、日本を含めたアジアの文化について、それぞれが自分なりの課題意識を持ってこの後の大学での「学び」に関する視点を見つけていくことと目指したい。| さらに、このゼミでの活動を通して、資料の探し方やまとめ方、発表の仕方を理解していくことを目指す。

(2) 内容

具体的にはあまんきみこの共同研究を行い、その過程を通して、日本の子どもが置かれた状況、創りだした文化、歩んだ歴史を振り返り、複数で課題を担当して資料収集や発表を行い、その発表内容を基にした研究討議を行うことを体験的に学んでいく。| また、上級生の研究発表をその準備から関わり、研究会の運営の仕方を学ぶとともに、大学での「学び」について具体的なイメージを持つ。| そのような活動の中から、各自が自分なりの課題を見出していく。見出した課題について、ブックレポートを作成する。

受講者に対する要望

担当した課題について、自分が皆に知らせるんだという意識をもって資料収集や発表に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 基礎技能の習得
- ・ 資料収集の仕方
- ・ 資料の読み方・まとめ方
- ・ 発表の仕方
- ・ 研究討議の仕方

授業計画

01. 授業に関するガイダンス、および子どもをめぐる状況について討議。
02. 図書館ガイダンス
03. 発表の基礎を学ぶ（1）
04. 発表の基礎を学ぶ（2）
05. 発表の基礎を学ぶ（3）
06. 発表の基礎を学ぶ（4）
07. 発表の基礎を学ぶ（5）
08. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 1。
09. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 2。
10. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 3。
11. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 4。
12. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 5。
13. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 6。
14. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 7。
15. 授業の総括と、演習Ⅱに向けての留意事項の確認。

準備学習(予習)

担当した課題論文を読んでまとめ、発表用の資料を作成する。

準備学習(復習)

研究討議を通じて学んだ内容を整理しておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポートと発表 | 40% |
| (2) 討議への参加状況 | 20% |
| (3) 最終レポート | 40% |

教科書

あまんきみこ『あまんきみこ童話集』（角川春樹事務所）ハルキ文庫 あ17-1 【9784758433976】

参考書

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX11720

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「歴史・思想」分野における「ものの考え方」「調べ方」、宗教や民俗へのアプローチの仕方など、研究の初歩を会得してもらいたい。まずは共通のテキストを講読する形式ですすめる予定であるが、参加者の顔ぶれにより、臨機応変に対応したい。

(2) 内容

美術・文学から「宗教」に至るまで、広い意味での〈作品〉を、時代の中で読み解くことを目指す。「相関文化」「日本思想入門」に共感してくれた人の参加を歓迎する。|||

受講者に対する要望

時代の「陰」に眼を向けられるようになること。「小さき者」「名もなき者」が育んだ〈文化〉への眼差しを育てること。〈アジア〉を場として「日本」を問い質すこと。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 哲学
- ・ 芸術
- ・ 民俗

授業計画

01. はじめに一オリエンテーション
02. 研究の手立て その1—ゼミとは何か—
03. 研究の手立て その2—テーマはどうやって決めるのか—
04. 研究の手立て その3—何を使って調べるか/図書館の使い方—
05. 研究の手立て その4—レジュメの作り方—
06. テキスト講読のオリエンテーション その1
07. テキスト講読のオリエンテーション その2
08. 参加者によるレポート
09. 参加者によるレポート
10. 参加者によるレポート
11. 参加者によるレポート
12. 参加者によるレポート
13. 参加者によるレポート
14. 参加者によるレポート
15. まとめ

準備学習(予習)

レポーターは発表前に教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。「ゼミは決して休まない」気概で参加してほしい。

教科書

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX12050

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

比較文化の研究を目標とする本ゼミにおける、基礎的・技術的な事項を学ぶ。本演習で修得する知識・技術は卒業研究での自律的な研究のための基礎力に相当する。

(2) 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは『世俗諺文』（影印）である。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- ・ 源為憲撰 『世俗諺文』
- ・ 比較文学
- ・ 比較文化

授業計画

01. ガイダンス
02. 演習方法の解説
03. 模擬演習(1)／担当教員による模擬演習
04. 模擬演習(2)／担当教員による模擬演習
05. 演習発表(1)
06. 演習発表(2)
07. 演習発表(3)
08. 演習発表(4)
09. 演習発表(5)
10. 演習発表(6)
11. 演習発表(7)
12. 演習発表(8)
13. 演習発表(9)
14. 演習発表(10)
15. 総括

準備学習(予習)

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習(復習)

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を「事後報告」として提出する

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 演習発表 | 80% |
| (2) 積極性 | 20% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳ではない。

教科書

プリントを配布する

参考書

教場にて適宜紹介する。

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX12130

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神について、キリスト教というグローバルな視点も援用しつつ、より深く理解することを目指す。

(2) 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。とりあえずは共通のテキストを決めて、それを一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。

受講者に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本人の生き方・あり方
- ・キリスト教と日本人

授業計画

01. ガイダンス
02. 発表と討議
03. 発表と討議
04. 発表と討議
05. 発表と討議
06. 発表と討議
07. 発表と討議
08. 発表と討議
09. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 発表と討議への参加度と内容 | 30% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX12210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

ことばから社会を見る目を養い、多角的にものを見、思考できるようになることを目標とする。

(2) 内容

普段何気なく耳にし、口にしている日本語の多様性に目を向ける。ことばを通して、性・世代・集団・地域・心理・書きことば・話しことばなどのバラエティを学ぶ。その一歩として、先行研究を通し、日本語に関する研究にはどのようなものがあるのかを知る。

受講者に対する要望

発表、質疑応答、ディスカッションの形式を進める。積極的に参加し、発言してほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 先行研究
- ・ 要約
- ・ 日本語教育
- ・ ディスカッション

授業計画

01. ガイダンス
02. 「女のことば・男のことば」「幼児のことば・育児のことば」
03. 「専門のことば」「仲間のことば」
04. 「若者ことば・キャンパスことば」「ことばのデフォルメ」
05. 先輩の発表を聞く
06. 先輩の発表を聞く
07. 雑誌『日本語学』とは
08. 先行研究を要約・発表する(1)
09. 先行研究を要約・発表する(2)
10. 先行研究を要約・発表する(3)
11. 関連論文を探す(1)
12. 関連論文を探す(2)
13. 関連論文を探す(3)
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

準備学習(予習)

各自、発表に向けて準備すること。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：小林 茂之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX12500

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

言語史研究を行う上で、いくつかの初期英語のテキスト講読の導入し、テキスト・言語の基本的な特徴を知り文献学的知識を学ぶ。文献学的知識は図書館司書の受講者に役立つ。卒業レポートに向けて、研究テーマを見つける。

(2) 内容

古英語は、英語発達の上で時期である。『ウエストサクソン福音書』、『アングロ・サクソン年代記』、『ベィオウルフ』などの作品から選んで、教科書の記述や翻訳で内容を補いながら、原典を写本の複製で読んでみる。また、歴史言語学における統語変化について概説する。担当者による報告、討議を併せて行う。

受講者に対する要望

日本語学概説の未履修者は、秋学期にそれらを履修する。教科書は必ず入手してください。

学びのキーワード

- ・ 歴史言語学
- ・ 古英語
- ・ 『ウエストサクソン福音書』
- ・ 『アングロ・サクソン年代記』
- ・ 『ベィオウルフ』

授業計画

01. 導入：古英語概説
02. 原書講読：『ウエストサクソン福音書』①
03. 原書講読：『ウエストサクソン福音書』②
04. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Early Britain ①
05. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Early Britain ②
06. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 The Coming of the English
07. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 The Coming of the English
08. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Alfred's War with the Danes ①
09. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Alfred's War with the Danes ①
10. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Alfred's War with the Danes ②
11. 写本解読：『アングロ・サクソン年代記』
12. 原書講読：『ベィオウルフ』 Beowulf ①
13. 原書講読：『ベィオウルフ』 Beowulf ②
14. 写本解読：『ベィオウルフ』 Beowulf
15. 通時統語論入門

準備学習(予習)

授業の進行に合わせて、教科書を読んでくる。なお、教科書は販売が遅れるなど、入手が困難な場合、コピーを配布する。

準備学習(復習)

関連書を読み、内容を確認したり、知識を広げる。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 40% | 教科書は必ず入手して、授業に携行する。教科書を手せず、授業に参加しても、平常点は認められない。 |
| (2) 授業参加 | 20% | テキスト講読における演習の担当を含む。 |
| (3) 期末レポート | 40% | |

演習内容については、受講者の希望を考慮して決める。報告・討議は、授業参加度として評価する。

教科書

市河三喜・松浪有(1986)『古英語・中英語入門』。研究社。

参考書

授業時に指示する。

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX12710

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

何に興味があるのかを見つめ、どのような資料がどこにあるのかを知り、また、どのような調査からどのような結果が既に導かれているのかを学ぶ。

(2) 内容

「ことば」のあり方への関心を高め、自らの疑問点を明確にし、関連する先行研究を調べることで、興味関心を深める。また、資料や文献の探し方、集め方を学ぶ。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・ゼミ
- ・演習
- ・発表
- ・ディスカッション
- ・レジュメ

授業計画

01. ガイダンス
02. 「敬うことば・へりくだることば」「上品なことば・下品なことば」
03. 「忌避することば・慶弔のことば」「サービスのことば」
04. 「喜怒哀楽のことば」「メール・ネットのことば」
05. 先輩の発表を聞く
06. 先輩の発表を聞く
07. 論文レビュー(1)
08. 論文レビュー(2)
09. 論文レビュー(3)
10. 先輩の発表を聞く
11. 先輩の発表を聞く
12. 研究を比較する(1)
13. 研究を比較する(2)
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

準備学習(予習)

発表前には十分な準備を行うこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：松井 慎一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX14010

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究に必要な史料読解力や論理的考察力などの基本的な学力を身に付けていきたい。

(2) 内容

明治から昭和初期までの時期の史料を読んでいく。現代の感覚からではなく、当時の時代状況をしっかり踏まえたうえで、できるだけ書き手の心境に近づきながら、読み解いていきたい。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にして臨んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想
- ・ 文化
- ・ 政治
- ・ 経済

授業計画

01. はじめにーガイダンスー
02. 参加者による発表
03. 参加者による発表
04. 参加者による発表
05. 参加者による発表
06. 参加者による発表
07. 参加者による発表
08. 参加者による発表
09. 参加者による発表
10. 参加者による発表
11. 参加者による発表
12. 参加者による発表
13. 参加者による発表
14. 参加者による発表
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は事前に教員の指導を受けること。参加者は報告者の担当部分の史料を読んで臨むこと。

準備学習(復習)

その日の討論や問題点などをよく整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

授業のなかで指示する

参考書

授業のなかで指示する

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX14220

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習Ⅱ」での学びをふまえ、テーマ設定の仕方、文献の探し方、さらにその〈読み解き方〉を身につけていくことを目標にする。

(2) 内容

「歴史・思想(宗教を含む)」の分野から関心のあるテーマを自由に選び(要相談)、広い意味での〈作品〉の読み方・読み抜き方を学ぶ。特定の思想家・宗教家あるいは作家における狭義の〈作品〉を「歴史・思想」の視点から立体的に読み直したいという学生も、もちろん支援する。

受講者に対する要望

〈学び〉を深めるためには〈共に〉学ぶことが不可欠である。豊かで実りある時間を積極的に創り上げようとする姿勢を求めたい。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 民俗
- ・ 芸術

授業計画

01. はじめに—オリエンテーション—
02. 研究の手立て その1—いかにテーマを絞るか—
03. 研究の手立て その2—何を読んで深めるか—
04. 研究の手立て その3—どうやって伝えるか—
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記2つを勘案して評価する。なお全授業回数の三分の一以上を欠席した者は授業参加を放棄したと見なす。

教科書

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX14430

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習Ⅰの学びをふまえつつ、さらなるテキストの読解力また考察力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神について、キリスト教というグローバルな視点も援用しつつ、より深く理解することを目指す。

授業計画

01. ガイダンス
02. 発表と討議
03. 発表と討議
04. 発表と討議
05. 発表と討議
06. 発表と討議
07. 発表と討議
08. 発表と討議
09. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

(2) 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。専門演習Ⅰの学びをふまえつつ、共通のテキストと一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 発表と討議への参加度と内容 | 30% | |
| (3) レポート | 20% | |

受講者に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本人の生き方・あり方
- ・キリスト教と日本人

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX14760

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代の「想像力」を分析することを通じて、私たちがどのような世界に存在しているのかを考える。また、そのことを通じて、世界（社会）に対する批評的な視座を獲得することを目指す。文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身と社会、世界への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。|

(2) 内容

主な研究の視点としては次の2点を想定している。|①文学などの「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といったジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。|②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちににとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、研究対象は映画、ドラマ、マンガ、アニメ、メディア・風俗・流行・スポーツ・お笑い・ファッション・食文化、あるいはいわゆる「伝統文化」と呼ばれるもの等を含めた近現代文化全般ということになる。|||

受講者に対する要望

まずは研究の方法とゼミ形式での授業を体得することを通じて自らの研究テーマを発見してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ 文学
- ・ サブカルチャー
- ・ ポップカルチャー

授業計画

01. ガイダンス：ゼミ形式の授業の方法について
02. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
03. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
04. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
05. 研究発表(1)
06. 研究発表(1)
07. 研究発表(1)
08. 研究発表(1)
09. 研究発表(1)
10. 研究発表(2)
11. 研究発表(2)
12. 研究発表(2)
13. 研究発表(2)
14. 研究発表(2)
15. まとめ

準備学習(予習)

自らの発表の準備は当然「間にあわせ」では充実した発表に繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習(復習)

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 最終レポート | 40% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX14870

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学におけるゼミナール形式の授業を初めて体験するという状況を踏まえ、研究の基礎技能について理解していくことを一番の目標とする。| 世界は完成し閉じたものではなく、今も動き続けているものである。子どもと教育、どちらも身近な存在ではあるが、あまり考えたことの無い人も多いだろう。そのような自分の足元を見直すことで、日本を含めたアジアの文化について、それぞれが自分なりの課題意識を持ってこの後の大学での「学び」に関する視点を見つけていくことと目指したい。| さらに、このゼミでの活動を通して、資料の探し方やまとめ方、発表の仕方を理解していくことを目指す。

(2) 内容

日本の子どもが置かれた状況、創りだした文化、歩んだ歴史を振り返り、複数で課題を担当して資料収集や発表を行い、その発表内容を基にした研究討議を行う。| また、上級生の研究発表をその準備から関わり、研究会の運営の仕方を学ぶとともに、大学での「学び」について具体的なイメージを持つ。| そのような活動の中から、各自が自分なりの課題を見出していき、見出した課題について、ここで学んだ方法を用いて資料を捜し、ブックレポートを作成する。

受講者に対する要望

担当した課題について、自分が皆に知らせるんだという意識をもって資料収集や発表に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 基礎技能の習得
- ・ 資料収集の仕方
- ・ 資料の読み方・まとめ方
- ・ 発表の仕方
- ・ 研究討議の仕方

授業計画

01. 授業に関するガイダンス、および子どもをめぐる状況について討議。
02. 図書館ガイダンス
03. 発表の基礎を学ぶ (1)
04. 発表の基礎を学ぶ (2)
05. 発表の基礎を学ぶ (3)
06. 発表の基礎を学ぶ (4)
07. 発表の基礎を学ぶ (5)
08. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 1。
09. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 2。
10. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 3。
11. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 4。
12. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 5。
13. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 6。
14. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 7。
15. 授業の総括と、演習Ⅱに向けての留意事項の確認。

準備学習(予習)

担当した課題論文を読んでまとめ、発表用の資料を作成する。

準備学習(復習)

研究討議を通じて学んだ内容を整理しておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポートと発表 | 40% |
| (2) 討議への参加状況 | 20% |
| (3) 最終レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX15150

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

比較文化の研究を目標とする本ゼミにおける、基礎的・技術的な事項を学ぶ。本演習では「課題発見」を重要な目標とし、与えられた箇所から自ら「課題」を見出し、探求する姿勢を学ぶ。

(2) 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは「専門演習Ⅰ」から継続して『世俗諺文』（影印）を使用する。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- ・ 源為憲撰 『世俗諺文』
- ・ 課題発見
- ・ 比較文学
- ・ 比較文化

授業計画

01. ・ ガイダンス
02. ・ 演習発表（1）
03. ・ 演習発表（2）
04. ・ 演習発表（3）
05. ・ 演習発表（4）
06. ・ 演習発表（5）
07. ・ 演習発表（6）
08. ・ 演習発表（7）
09. ・ 演習発表（8）
10. ・ 演習発表（9）
11. ・ 演習発表（10）
12. ・ 演習発表（11）
13. ・ 演習発表（12）
14. ・ 演習発表（13）
15. 総括

準備学習（予習）

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習（復習）

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を行い、「学期末レポート」作成のための基礎データを蓄積すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 積極性 | 20% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳ではない。

教科書

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX15580

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習」を通して学んだ「基礎」を「応用」へと展開する。

(2) 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは『世俗諺文』（影印）を使用する。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- ・ 源為憲撰 『世俗諺文』
- ・ 比較文学
- ・ 比較文化

授業計画

01. ・ ガイダンス
02. ・ 演習方法の解説
03. ・ 模擬演習(1)／担当教員による模擬演習
04. ・ 模擬演習(2)／担当教員による模擬演習
05. ・ 演習発表(1)
06. ・ 演習発表(2)
07. ・ 演習発表(3)
08. ・ 演習発表(4)
09. ・ 演習発表(5)
10. ・ 演習発表(6)
11. ・ 演習発表(7)
12. ・ 演習発表(8)
13. ・ 演習発表(9)
14. ・ 演習発表(10)
15. 総括

準備学習(予習)

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習(復習)

「卒業レポート」を意識したテーマ探求を1年間の共通課題として設定する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 演習発表 | 80% |
| (2) 積極性 | 20% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳ではない。

教科書

プリントを配布する。

参考書

教場にて適宜紹介する。

担当教員：小林 茂之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX15600

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代統語論における思考法を学び、論理力を高める。また、基礎力を充実させることによって、発展的な研究に取り組む準備をする。専門演習 I I では文献学的知識も学ぶので、図書館司書講座の受講者にも役立つ。さらに、卒業研究に向けて、基礎的な研究技能を身に付ける。

(2) 内容

現代統語論の基礎的な概念や分析法を教科書を通して学ぶ。また、必要に応じて、プレゼンテーションの仕方など、大学生として必要な基礎的なスキルを学ぶ。担当者による演習方式での報告の後、参加者全員で検討する。

受講者に対する要望

日本語学概説を履修済みであることが望ましいが、未履修者は秋学期に受講する。春学期には言語学特殊講義（隔年開講なので、4年次には開講されない予定）を履修して、専門演習 I I の履修の準備をする。教科書の他に電子辞書などを持参する。

学びのキーワード

- ・ 音声学
- ・ 統語論
- ・ 意味論
- ・ 言語史
- ・ 語用論

授業計画

01. 導入
02. Ch. 3 How Words Are Made: Morphology (1)
03. Ch. 3 How Words Are Made: Morphology (2)
04. Ch. 4 How Words Mean: Semantics I (1)
05. Ch. 4 How Words Mean: Semantics I (2)
06. Ch. 5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (1)
07. Ch. 5 How English Phrases Are Formed: Syntax I (2)
08. Ch. 6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (1)
09. Ch. 6 How English Phrases Are Formed: Syntax II (2)
10. Ch. 7 How Sentences Mean: Semantics II (1)
11. Ch. 7 How Sentences Mean: Semantics II (2)
12. Ch. 8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (1)
13. Ch. 8 How to Communicate with Other People: Pragmatics (2)
14. Ch. 9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (1)
15. Ch. 9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology (2)

準備学習(予習)

教科書を読み準備した上で授業に参加する。

準備学習(復習)

関連書を読み、さまざまな言語現象に知識を広げる。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 教科書を手せずに出席しても、平常点は認められない。 |
| (2) 授業参加度 | 20% | 担当箇所を決める場合を含む。 |
| (3) 期末レポート | 40% | |

教科書を手直し、携行することはゼミ参加の必要条件である。| 早急に報告者を決め、報告者は PowerPoint を用いて、内容を要約して報告する。| また、討議も授業参加度として評価する。

教科書

影山太郎・他『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』(くろしお出版) [978-4874242773]

参考書

授業時に指示する。

担当教員：小林 茂之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX15710

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

言語史研究を行う上で、いくつかの初期英語のテキスト講読の導入し、テキスト・言語の基本的な特徴を知り文献学的知識を学ぶ。文献学的知識は図書館司書の受講者に役立つ。卒業レポートに向けて、研究テーマを見つける。

(2) 内容

古英語は、英語発達の上で時期である。『ウエストサクソン福音書』、『アングロ・サクソン年代記』、『ベィオウルフ』などの作品から選んで、教科書の記述や翻訳で内容を補いながら、原典を写本の複製で読んでみる。また、歴史言語学における統語変化について概説する。担当者による報告、討議を併せて行う。

受講者に対する要望

日本語学概説の未履修者は、秋学期にそれらを履修する。言語学特殊講義(隔年開講予定)は4年次に履修できないので、2017年度春学期に受講することを希望する。なお、ゼミ時に教科書の携行は必要条件であるので、必ず入手するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 歴史言語学
- ・ 古英語
- ・ 『ウエストサクソン福音書』
- ・ 『アングロ・サクソン年代記』
- ・ 『ベィオウルフ』

授業計画

01. 導入：古英語概説
02. 原書講読：『ウエストサクソン福音書』①
03. 原書講読：『ウエストサクソン福音書』②
04. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Early Britain ①
05. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Early Britain ②
06. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 The Coming of the English
07. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 The Coming of the English
08. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Alfred's War with the Danes ①
09. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Alfred's War with the Danes ①
10. 原書講読：『アングロ・サクソン年代記』 Alfred's War with the Danes ②
11. 写本解読：『アングロ・サクソン年代記』
12. 原書講読：『ベィオウルフ』 Beowulf ①
13. 原書講読：『ベィオウルフ』 Beowulf ②
14. 写本解読：『ベィオウルフ』 Beowulf
15. 通時統語論入門

準備学習(予習)

授業の進行に合わせて、教科書を読んでくる。なお、教科書は販売が遅れるなど、入手が困難な場合、コピーを配布する。

準備学習(復習)

関連書を読み、内容を確認したり、知識を広げる。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 40% | 教科書は必ず入手して、授業に携行する。教科書を手せず、授業に参加しても、平常点は認められない。 |
| (2) 授業参加 | 20% | テキスト講読における演習の担当を含む。 |
| (3) 期末レポート | 40% | |

演習内容については、受講者の希望を考慮して決める。報告・討議は、授業参加度として評価する。

教科書

市河三喜・松浪有(1986)『古英語・中英語入門』。研究社。

参考書

授業時に指示する。

担当教員：濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX16090

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

演習における「意見表明」の技術を学ぶ。

(2) 内容

本演習は「専門演習Ⅱ」のテキストである『世俗諺文』(影印)の「輪読」を平衡して行いつつ、各自の「卒業レポート／卒業論文」のテーマ発表を中心とする。

受講者に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

学びのキーワード

- ・ 源為憲撰 『世俗諺文』
- ・ 課題発見
- ・ 比較文学
- ・ 比較文化

授業計画

01. ・ ガイダンス
02. ・ 演習発表 (1)
03. ・ 演習発表 (2)
04. ・ 演習発表 (3)
05. ・ 演習発表 (4)
06. ・ 演習発表 (5)
07. ・ 演習発表 (6)
08. ・ 演習発表 (7)
09. ・ 演習発表 (8)
10. ・ 演習発表 (9)
11. ・ 演習発表 (10)
12. ・ 演習発表 (11)
13. ・ 演習発表 (12)
14. ・ 演習発表 (13)
15. 総括

準備学習(予習)

演習発表の準備には相当の時間を要する

準備学習(復習)

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を行い、「学期末レポート」作成のための基礎データを蓄積すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 演習発表 | 50% |
| (2) 積極性 | 20% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳ではない。

教科書

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX16510

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ことばから社会を見る目を養い、多角的にものを見、思考できるようになることを目標とする。

(2) 内容

普段何気なく耳にし、口にしている日本語の多様性に目を向ける。ことばを通して、性・世代・集団・地域・心理・書きことば・話しことばなどのバラエティを学ぶ。その一歩として、先行研究を通じ、日本語に関する研究にはどのようなものがあるのかを知る。

受講者に対する要望

発表、質疑応答、ディスカッションの形式で進める。積極的に参加し、発言してほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 先行研究
- ・ 要約
- ・ 日本語教育
- ・ ディスカッション

授業計画

01. ガイダンス
02. 「女のことば・男のことば」「幼児のことば・育児のことば」
03. 「専門のことば」「仲間のことば」
04. 「若者ことば・キャンパスことば」「ことばのデフォルメ」
05. 発表
06. 発表
07. 雑誌『日本語学』とは
08. 先行研究を要約・発表する(1)
09. 先行研究を要約・発表する(2)
10. 先行研究を要約・発表する(3)
11. 関連論文を探す(1)
12. 関連論文を探す(2)
13. 関連論文を探す(3)
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

準備学習(予習)

各自、発表に向けて準備すること。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX16610

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

何に興味があるのかを見つめ、どのような資料がどこにあるのかを知り、また、どのような調査からどのような結果が既に導かれているのかを学ぶ。

(2) 内容

「ことば」のあり方への関心を高め、自らの疑問点を明確にし、関連する先行研究を調べることで、興味関心を深める。また、資料や文献の探し方、集め方を学ぶ。

受講者に対する要望

学びのキーワード

- ・ゼミ
- ・演習
- ・発表
- ・ディスカッション
- ・レジュメ

授業計画

01. ガイダンス
02. 「敬うことば・へりくだることば」「上品なことば・下品なことば」
03. 「忌避することば・慶弔のことば」「サービスのことば」
04. 「喜怒哀楽のことば」「メール・ネットのことば」
05. 発表
06. 発表
07. 論文レビュー（1）
08. 論文レビュー（2）
09. 論文レビュー（3）
10. 発表
11. 発表
12. 研究を比較する（1）
13. 研究を比較する（2）
14. まとめ（1）
15. まとめ（2）

準備学習(予習)

発表前には十分な準備を行うこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことをきちんと整理し、レポートにまとめられるように準備すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 30% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：木下 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX16910

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業レポートや卒業論文を執筆するために必要な知識や技術を、演習形式で習得します。| 具体的には、前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用しながら、その世界を見渡して、自分なりの「地図」や「系図」を作る必要があります。その上で、いかに独自の問いを立て、何を論拠としていかに答えを導くか。それをほかのメンバーにいかに伝達し、討論を通じて互いにいかに深め合うかを学びます。

(2) 内容

『源氏物語』「葵」について一節ずつ、解釈と鑑賞、考察を行っていきます。| 『源氏物語』は、寛弘5年(1008)頃に一部分が成立した日本文学史上最大の古典です。| 「葵」は、光源氏が桐壺帝の譲位後、東宮の後見を委ねられながらも藤壺とますます疎遠になってしまうさまや、源氏の冷淡な態度を嘆いていた六条御息所が賀茂の車争いをきっかけに源氏の正妻・葵の上に対する恨みを深めること、一方の葵の上は執拗な物の怪(もののけ)に悩みながら子・夕霧を出産するものの亡くなってしまふこと、そして、その喪が明けたのち光源氏が紫の上と新枕を交わすことなどが描かれます。| この「葵」の読解作業を通じて物語解釈の方法を習得し、表現の特色や方法、および文学史、文化史的な意義について考えます。| なお、3年生には、こちらの指定した時期に卒業研究の経過報告をしてもらいます。

受講者に対する要望

本演習の基礎科目としては、「日本文学概説」「日本文学史(上代・中古)」「日本文学 研究と批評(古典②)」があります。並行して履修することを勧めます。

学びのキーワード

- ・平安文学
- ・源氏物語
- ・調査・研究・報告
- ・質疑応答

授業計画

01. はじめに—この演習の方法と概要、報告者の決定
02. 担当教員による模擬発表(1)
03. 担当教員による模擬発表(2)
04. 受講生による発表(1)
05. 受講生による発表(2)
06. 受講生による発表(3)
07. 資料見学
08. 受講生による発表(4)
09. 受講生による発表(5)
10. 受講生による発表(6)
11. 百人一首大会
12. 受講生による発表(7)
13. 受講生による発表(8)
14. 受講生による発表(9)
15. レポート提出とまとめ

準備学習(予習)

報告者は担当箇所について調査して、レジュメを作成すること。その他の受講生は本文を読み、報告者に質問したいことを考えておくこと。

準備学習(復習)

その日のうちにレジュメを読み返し、整理すること。報告者は質疑で指摘されたレジュメの訂正箇所を直し、追加調査を書き加えたものを、レポートとして提出してください。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 報告・レポート | 70% |
| (2) 質疑応答における発言 | 30% |

報告者はよく調査して、自分なりの論点を提示すること。その他の受講生も報告者に失礼がないよう予習し、発表を注意深く聴いて積極的に発言すること。参加者全員で議論して、新たな読みを拓きましょう。

教科書

紫式部、玉上 琢弥『源氏物語—付現代語訳(第2巻)(角川ソフィア文庫)』(角川書店)【978-4044024024】

参考書

阿部 秋生、秋山 虔、今井 源衛、鈴木 日出男『源氏物語(第2巻)(新編日本古典文学全集)』(小学館)

担当教員：木下 綾子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX17010

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業レポートや卒業論文を執筆するために必要な知識や技術を、演習形式で習得します。| 具体的には、前後の時代における漢詩漢文、和歌、日記、物語、説話の各ジャンルにわたるテキスト、注釈書、辞書、索引、研究書を利用しながら、その世界を見渡して、自分なりの「地図」や「系図」を作る必要があります。その上で、いかに独自の問いを立て、何を論拠としていかに答えを導くか。それをほかのメンバーにいかに伝達し、討論を通じて互いにいかに深め合うかを学びます。

(2) 内容

『源氏物語』「葵」について一節ずつ、解釈と鑑賞、考察を行っていきます。| 『源氏物語』は、寛弘5年(1008)頃に一部分が成立した日本文学史上最大の古典です。| 「葵」は、光源氏が桐壺帝の譲位後、東宮の後見を委ねられながらも藤壺とますます疎遠になってしまうさまや、源氏の冷淡な態度を嘆いていた六条御息所が賀茂の車争いをきっかけに源氏の正妻・葵の上に対する恨みを深めること、一方の葵の上は執拗な物の怪(もののけ)に悩みながら子・夕霧を出産するものの亡くなってしまふこと、そして、その喪が明けたのち光源氏が紫の上と新枕を交わすことなどが描かれます。| この「葵」の読解作業を通じて物語解釈の方法を習得し、表現の特色や方法、および文学史、文化史的な意義について考えます。| なお、3年生には、こちらの指定した時期に卒業研究の経過報告をしてもらいます。

受講者に対する要望

本演習の基礎科目としては、「日本文学概説」「日本文学史(上代・中古)」「日本文学 研究と批評(古典②)」があります。並行して履修することを勧めます。

学びのキーワード

- ・平安文学
- ・源氏物語
- ・調査・研究・報告
- ・質疑応答

授業計画

01. 卒業研究の経過報告(1)
02. 卒業研究の経過報告(2)
03. 担当教員による模擬発表
04. 受講生による発表(1)
05. 受講生による発表(2)
06. 受講生による発表(3)
07. 受講生による発表(4)
08. 受講生による発表(5)
09. 受講生による発表(6)
10. 受講生による発表(7)
11. 受講生による発表(8)
12. 受講生による発表(9)
13. 百人一首大会
14. 受講生による発表(10)
15. レポート提出とまとめ

準備学習(予習)

報告者は担当箇所について調査して、レジュメを作成すること。その他の受講生は本文を読み、報告者に質問したいことを考えておくこと。

準備学習(復習)

その日のうちにレジュメを読み返し、整理すること。報告者は質疑で指摘されたレジュメの訂正箇所を直し、追加調査を書き加えたものを、レポートとして提出してください。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 報告・レポート | 70% |
| (2) 質疑応答における発言 | 30% |

報告者はよく調査して、自分なりの論点を提示すること。その他の受講生も報告者に失礼がないよう予習し、発表を注意深く聴いて積極的に発言すること。参加者全員で議論して、新たな読みを拓きましょう。

教科書

紫式部、玉上 琢弥『源氏物語—付現代語訳(第2巻)(角川ソフィア文庫)』(角川書店)【978-4044024024】

参考書

阿部 秋生、秋山 虔、今井 源衛、鈴木 日出男『源氏物語(第2巻)(新編日本古典文学全集)』(小学館)

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX17910

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

先行研究論文を読んで、それに関する報告を行うことで、「読解力」、「考察力」、「批判力」「分析力」「忍耐力」「構想力」「表現力」などの卒論執筆に必要な諸能力を身に付けていきたい。

(2) 内容

卒業論文のテーマを探り出す準備段階として、先行研究論文を参考にしながら、史料の読み方、構成方法、論述の仕方などを学んでいきたい。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にしてください。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想
- ・ 文化
- ・ 政治
- ・ 経済

授業計画

01. ガイダンス
02. 学生による発表
03. 学生による発表
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 学生による発表
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

準備学習(予習)

毎回、報告者が取り上げる先行研究論文をしつかり読んで議論ができるようにしておくこと。

準備学習(復習)

その日の討論や疑問点などをよく整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

授業のなかで指示する

参考書

授業のなかで指示する

担当教員：松井 慎一郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX18010

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

先行研究論文を読んで、それに関する報告を行うことで、「読解力」、「考察力」、「批判力」「分析力」「忍耐力」「構想力」「表現力」などの卒論執筆に必要な諸能力を身に付けていきたい。

(2) 内容

卒業論文のテーマを探り出す準備段階として、先行研究論文を参考にしながら、史料の読み方、構成方法、論述の仕方などを学んでいきたい。

受講者に対する要望

日頃から、歴史への関心はもちろんのこと、自己を取り巻く現代社会、そして、何よりも自分自身の将来に深い関心を持っていただきたい。発表や討議の場では、自分の考えや感性を大切にしてください。

学びのキーワード

- ・ 日本近現代史
- ・ 思想
- ・ 文化
- ・ 政治
- ・ 経済

授業計画

01. ガイダンス
02. 学生による発表
03. 学生による発表
04. 学生による発表
05. 学生による発表
06. 学生による発表
07. 学生による発表
08. 学生による発表
09. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

準備学習(予習)

毎回、報告者が取り上げる先行研究論文をしつかり読んで議論ができるようにしておくこと。

準備学習(復習)

その日の討論や問題点などをよく整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート | 20% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

担当教員：村松 晋

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX18300

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究Ⅱ、さらには卒業論文につなげ得る成果を手にすること。

(2) 内容

参加者各自が、専門演習Ⅱ（思想②）で取り組んだテーマを発展させることを目的とする。対象領域も専門演習Ⅱのそれに準ずる。

受講者に対する要望

〈進路〉を含め、「いかに生きるか」を自問しながら研究計画を立案してほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 民俗
- ・ 芸術

授業計画

01. はじめに—オリエンテーション—
02. 研究の手立て その1—専門演習から卒業研究へ—
03. 研究の手立て その2—自分を見つめるということ—
04. 研究の手立て その3—真の自分のテーマを発見する—
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。なお全授業回数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したと見なす。

教科書

参考書

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX18410

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

上記に尽きている。本学で学んでよかったと思えるような学びの集大成を、ゼミ生どうしで共有したい。

(2) 内容

最終学年の最後のゼミとして、名実ともに大学生生活を総括する学びの場である。一人でも多くの人に、卒業論文を書いてほしいと希っている。

受講者に対する要望

できる限り卒業論文に挑戦してほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本史
- ・ 宗教
- ・ 思想
- ・ 民俗
- ・ 芸術

授業計画

01. はじめに—大学生生活を総括するために—
02. 卒業論文とは何か その1
03. 卒業論文とは何か その2
04. 研究発表
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。

教科書

参考書

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX19340

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。

(2) 内容

1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」|2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」）|簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語—文化と文学を研究する—」ということになる。|主な研究の視点としては次の2点を想定している。|①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といたジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。|②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。|

受講者に対する要望

この段階では研究テーマを明確にし、卒業論文への可能性を見定めてほしい。

学びのキーワード

- ・ 近現代文化
- ・ 近現代文学
- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ ポップカルチャー

授業計画

01. ガイダンス
02. プレゼンテーション
03. プレゼンテーション
04. プレゼンテーション
05. 研究発表
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 再考察
14. 再考察
15. 再考察

準備学習(予習)

自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習(復習)

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 最終レポート | 40% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：清水 均

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX19450

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化や文学を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。その意味で、研究を通じて学生個々の発想と感性が試され、活かされると同時に、ひいてはそれが大学卒業後の人生の大いなる糧となるはずである。

(2) 内容

1) 研究対象：近現代の「文化」と「文学」|2) 内容（キーワード：「物語」「想像力」「時代」「価値」）|簡潔に言えば「モノ・コト・ヒトと物語—文化と文学を研究する—」ということになる。|主な研究の視点としては次の2点を想定している。|①「物語」を研究することは、それを生成する「想像力・世界観」を研究することであり、更にこの「想像力・世界観」を研究することは、それをもたらす「世界のしくみとその変化・時代の状況」を研究することとなる。つまりは「物語」の魅力を引き出すことは、私たちが存在する「世界」＝「時代状況」「歴史性」「生きることの意味」を考察することになる。ただし、この場合の「物語」とは必ずしも「小説」や「昔話」「童話」といたジャンルに留まらず、「映像表現」「演劇」などを含む。|②私たちの周りにある「モノ・コト・ヒト」について、昔からあるものも、最近生まれたものも含め、それらが私たちにとってどのような意味や価値があるのかを考える。その意味で、いわゆる「伝統文化」と呼ばれるものも対象となる。|

受講者に対する要望

この段階では研究テーマを明確にし、卒業論文への可能性を見定めてほしい。

学びのキーワード

- ・ 近現代文化
- ・ 近現代文学
- ・ 物語
- ・ 想像力
- ・ ポップカルチャー

授業計画

01. ガイダンス
02. プレゼンテーション
03. プレゼンテーション
04. プレゼンテーション
05. 卒業レポート準備
06. 卒業レポート準備
07. 卒業レポート準備
08. 卒業レポート準備
09. 卒業レポート準備
10. 卒業レポート準備
11. 卒業レポート準備
12. 卒業レポート準備
13. 卒業レポート準備
14. 卒業レポート準備
15. 卒業レポート準備

準備学習(予習)

自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

準備学習(復習)

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) 最終レポート | 40% |

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業時に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX19560

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

(2) 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。

受講者に対する要望

演習Ⅱで見つけた研究課題を少しずつ深めるつもりで臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 各自の研究課題
- ・ 先行研究
- ・ 発表
- ・ 研究討議
- ・ 研究の深化

授業計画

01. 文化を研究することの意味について講義と、討議。
02. 図書館ガイダンス
03. 各自の研究テーマに関する発表・討議 1。
04. 各自の研究テーマに関する発表・討議 2。
05. 各自の研究テーマに関する発表・討議 3。
06. 各自の研究テーマに関する発表・討議 4。
07. 各自の研究テーマに関する発表・討議 5。
08. 各自の研究テーマに関する発表・討議 6。
09. 各自の研究テーマに関する発表・討議 7。
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議 8。
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議 9。
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議 10。
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議 11。
14. ゼミ研究発表会準備・運営
15. 各自の研究テーマに関する発表・討議 12。

準備学習(予習)

自分の選んだテーマについてほぼ1ヶ月に1回程度の資料報告をしてほしい。そのため、発表に合わせたペースで論文を読み解いてもらう。

準備学習(復習)

研究討議を踏まえて、次の発表までに発表内容を整理しなおす。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 課題に関する発表 | 50% |
| (2) 研究討議への参加状況 | 30% |
| (3) 最終レポート | 20% |

教科書

あまんきみこ『あまんきみこ童話集』（角川春樹事務所）ハルキ文庫 あ17-1【9784758433976】

参考書

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX19670

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

(2) 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。最終的に学びの総括として研究発表会での発表、および最終レポートの完成につなげる。また、研究資料を收拾する手段の習得を目指し、国立国会図書館の見学を行う。

受講者に対する要望

研究課題を少しずつ深めていく意識を持ち続けてほしい。

学びのキーワード

- ・ 各自の研究課題
- ・ 発表
- ・ 研究討議
- ・ 研究の深化
- ・ 研究発表会

授業計画

01. 研究を体系化することについて講義
02. 各自の研究テーマに関する発表・討議
03. 各自の研究テーマに関する発表・討議
04. 各自の研究テーマに関する発表・討議
05. 各自の研究テーマに関する発表・討議
06. 各自の研究テーマに関する発表・討議
07. 各自の研究テーマに関する発表・討議
08. 各自の研究テーマに関する発表・討議
09. 各自の研究テーマに関する発表・討議
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議
14. 研究発表会での研究発表
15. 「学び」の総括、および卒業論文に向けての留意事項の確認。

準備学習(予習)

1ヶ月に1回のペースで研究発表を行えるよう、自分の課題に関する先行研究論文を読んでいく。

準備学習(復習)

研究討議の内容を踏まえてまとめなおすとともに、これまでの発表内容と結合させていく。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業での発表 | 30% |
| (2) 研究討議への参加状況 | 20% |
| (3) 最終レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX19720

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習での学びをふまえつつ、それぞれのテーマのまとめに取りかかるための準備をする。テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。

(2) 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、一緒に勉強していきたい。

受講者に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討論に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本人の生き方・あり方
- ・キリスト教と日本人

授業計画

01. ガイダンス
02. 発表と討議
03. 発表と討議
04. 発表と討議
05. 発表と討議
06. 発表と討議
07. 発表と討議
08. 発表と討議
09. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 発表と討議への参加度と内容 | 30% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX19830

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究Iでの学びをふまえつつ、それぞれのテーマの最終的まとめに向けて準備する。これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。

(2) 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、一緒に勉強していきたい。

受講者に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

学びのキーワード

- ・日本の思想
- ・日本人の生き方・あり方
- ・キリスト教と日本人

授業計画

01. 導入
02. 発表と討議
03. 発表と討議
04. 発表と討議
05. 発表と討議
06. 発表と討議
07. 発表と討議
08. 発表と討議
09. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 発表と討議への参加度と内容 | 30% | |
| (3) レポート | 20% | |

教科書

参考書

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：教職科目 単位：1 授業コード：1JX20010

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

教員採用試験の傾向と現状を把握し、中学校・高等学校教員を目指す上で必要な一般教養や教職教養の基本的な知識を学ぶ。と同時に、教員として必要な資質や適性を高めることを目指す。

(2) 内容

公立中学校・高等学校教員採用試験を受験し、その合格を目指す3年生を対象とした教職演習である。特に国語科以外の一般教養（文系）と教職教養「教育史」を中心に取り組む。

受講者に対する要望

教員採用試験を受験し、必ず教員になるという強い意志と、そのための努力を惜しまない学生の受講を願う。

学びのキーワード

- ・ 教員採用試験
- ・ 一般教養
- ・ 教育史
- ・ 教育への情熱
- ・ 基礎学力

授業計画

01. 採用試験の概要
02. 一般教養（文系科目）の傾向と対策（1） 日本史古代
03. 一般教養（文系科目）の傾向と対策（2） 日本史中世
04. 一般教養（文系科目）の傾向と対策（3） 日本史近世
05. 一般教養（文系科目）の傾向と対策（4） 日本史近代
06. 一般教養（文系科目）の傾向と対策（5） 世界史古代・中世
07. 一般教養（文系科目）の傾向と対策（6） 世界史近世・近代
08. 一般教養（文系科目）の傾向と対策（8） 文系科目のまとめ
09. 教職教養（教育史）の傾向と対策（1） 古代・中世
10. 教職教養（教育史）の傾向と対策（2） 近代・現代
11. 教職教養（教育心理）の傾向と対策（1） 発達
12. 教職教養（教育真理）の傾向と対策（2） 言語
13. 教職教養（教育原理）の傾向と対策
14. 教職教養（教育法規）の傾向と対策
15. まとめ

準備学習(予習)

小テスト（その都度指示）に向けての学習

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加状況 | 50% |
| (2) 理解度の確認 | 50% |

毎回出席が大前提である。10分以上の遅刻は欠席として扱う。

教科書

授業中にプリントを配布する。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX22110

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文化現象を通じて社会の枠組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会学的な視点（ものの見方）を身につけられるようになるだろう。| そのために、このゼミ前半では、各ゼミ生の関心を定めるとともに、論文や書籍をまとめて自分の考えを展開する力をつけることを目指す。また、下級生の教科書に基づく報告を聞き、質疑を行うことで、社会的な視点を理解することも目標とする。ゼミの後半では、自分の文化現象についての関心を社会学的な視点に基づいて調査して、先行研究とは異なる点を指摘する力をつけることを目指す。

(2) 内容

まず、担当教員が2017年度秋学期に特別研究期間を取得するため、卒業研究 I / II が2017年度春学期に同時開講される予定なので注意してほしい。| 日本の文化を社会的に捉えることを目指して、各ゼミ生が自らのテーマを見つけて、発展させられるようなゼミとしたい。専門演習から始まったであろう「自分の関心探し」を、卒業研究では「自分の関心」として先鋭化させてほしい。| そこで、各ゼミ生は、2年生による文化の社会学に関する教科書の報告を参考にしながら、自らの関心となった現代日本の文化現象（インターネット／ケータイ／SNS／消費／都市／地域／若者／友人関係／付き合い／家族／ジェンダーなど）を社会学理論で説明することを目指すことになる。| 具体的には、次の①～③の課題を順に課す。| ①参照したい先行研究・論文を探して報告することを課す。| ②卒業レポートで論じたい事例・文化現象や先行研究を紹介して、どのような視点から論述するかを整理して報告すること（考察すること）を課す。| さらに、報告後には③報告済みのレジュメを修正して、卒業レポート執筆準備としてレポート形式で提出することが求められる。| なお、各報告に対して、他のゼミ生から必ず質疑を求められるので、さまざまな関心に興味を拡げてほしい。報告者には、寄せられた質疑に丁寧に答えることが求められる。なお、ゼミ生の人数が多い場合は、グループワークが基本となるにも注意してほしい。

受講者に対する要望

①②報告に使用する先行研究論文は報告の1週間前までに、報告レジュメは報告担当日【指定時刻】までにUNIPAへ提出すること。| ③修正レジュメは、2017年8月【指定日】までにUNIPA「課題提出」にアップロードする。

学びのキーワード

- ・社会学
- ・文化
- ・他者
- ・集合意識
- ・コミュニケーション

授業計画

01. ガイダンス
02. 【3年生】①各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（1）
03. 【2年生】教科書テキスト報告（1）
04. 【3年生】①各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（2）
05. 【2年生】教科書テキスト報告（2）
06. 【3年生】①各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（3）
07. 【2年生】教科書テキスト報告（3）
08. 【3年生】①各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（4）
09. 【2年生】教科書テキスト報告（4）
10. 【3年生】①各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（5）
11. 【2年生】教科書テキスト報告（5）
12. 【3年生】①各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（6）
13. 【2年生】教科書報テキスト報告（6）
14. 【3年生】①各ゼミ生のテーマに関する先行研究論文の報告（7）
15. 【2年生】教科書テキスト報告（7）

準備学習(予習)

2年生報告用教科書を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加すること。

準備学習(復習)

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------------|
| (1) 報告への取り組み | 40% | ①②レジュメによって評価 |
| (2) 報告 | 15% | 先行研究論文の報告自体によって評価 |
| (3) 質疑応答 | 30% | |
| (4) レジュメ修正 | 15% | ③課題：報告②を受けて修正したレジュメを、レポート形式で提出する |

教科書

小川伸彦・山本幸 『現代文化の社会学入門——テーマと出会う、問いを深める』 ミネルヴァ書房、2007年、2,800円税別。

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1JX22210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文化現象を通じて社会の枠組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会学的な視点（ものの見方）を身につけられるようになるだろう。| そのために、このゼミ前半では、各ゼミ生の関心を定めるとともに、論文や書籍をまとめて自分の考えを展開する力をつけることを目指す。また、下級生の教科書に基づく報告を聞き、質疑を行うことで、社会的な視点を理解することも目標とする。ゼミの後半では、自分の文化現象についての関心を社会学的な視点に基づいて調査して、先行研究とは異なる点を指摘する力をつけることを目指す。

(2) 内容

まず、担当教員が2017年度秋学期に特別研究期間を取得するため、卒業研究Ⅰ／Ⅱが2017年度春学期に同時開講される予定なので注意してほしい。| 日本の文化を社会的に捉えることを目指して、各ゼミ生が自らのテーマを見つけて、発展させられるようなゼミとしたい。専門演習から始まったであろう「自分の関心探し」を、卒業研究では「自分の関心」として先鋭化させてほしい。| そこで、各ゼミ生は、2年生による文化の社会学に関する教科書の報告を参考にしながら、自らの関心となった現代日本の文化現象（インターネット／ケータイ／SNS／消費／都市／地域／若者／友人関係／付き合い／家族／ジェンダーなど）を社会学理論で説明することを目指すことになる。| 具体的には、次の①～③の課題を順に課す。| ①参照したい先行研究・論文を探して報告することを課す。| ②卒業レポートで論じたい事例・文化現象や先行研究を紹介して、どのような視点から論述するかを整理して報告すること（考察すること）を課す。| さらに、報告後には③報告済みのレジュメを修正して、卒業レポート執筆準備としてレポート形式で提出することが求められる。| なお、各報告に対して、他のゼミ生から必ず質疑を求められるので、さまざまな関心に興味を拡げてほしい。報告者には、寄せられた質疑に丁寧に答えることが求められる。なお、ゼミ生の人数が多い場合は、グループワークが基本となるにも注意してほしい。

受講者に対する要望

①②報告に使用する先行研究論文は報告の1週間前までに、報告レジュメは報告担当日【指定時刻】までにUNIPAへ提出すること。| ③修正レジュメは、2017年8月【指定日】までにUNIPA「課題提出」にアップロードする。

学びのキーワード

- ・社会学
- ・文化
- ・他者
- ・集合意識
- ・コミュニケーション

授業計画

01. 後半課題の準備
02. 【3年生】②卒業レポート計画の報告（1）
03. 【2年生】社会学系論文の報告（1）
04. 【3年生】②卒業レポート計画の報告（2）
05. 【2年生】社会学系論文の報告（2）
06. 【3年生】②卒業レポート計画の報告（3）
07. 【2年生】社会学系論文の報告（3）
08. 【3年生】②卒業レポート計画の報告（4）
09. 【2年生】社会学系論文の報告（4）
10. 【3年生】②卒業レポート計画の報告（5）
11. 【2年生】社会学系論文の報告（5）
12. 【3年生】②卒業レポート計画の報告（6）
13. 【2年生】社会学系論文の報告（6）
14. 【3年生】②卒業レポート計画の報告（7）
15. 【2年生】社会学系論文の報告（7）

準備学習（予習）

2年生報告用教科書を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加すること。

準備学習（復習）

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------------|
| (1) 報告への取り組み | 40% | ①②レジュメによって評価 |
| (2) 報告 | 15% | 先行研究論文の報告自体によって評価 |
| (3) 質疑応答 | 30% | |
| (4) レジュメ修正 | 15% | ③課題：報告②を受けて修正したレジュメを、レポート形式で提出する |

教科書

小川伸彦・山泰幸『現代文化の社会学入門——テーマと出会う、問いを深める』ミネルヴァ書房、2007年、2,800円税別。

参考書

担当教員：鄭 鎬碩

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P630610

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 現代世界において文化とコミュニケーションが問われる文脈について理解する。 | (2) 異文化間コミュニケーションの基礎概念が分かる。 | (3) 映像資料や文献を批判的に読みとく力を鍛える。

(2) 内容

わたしたちの日常は異質なもの（＝他者）との出会いであふれている。本講義では、映像資料やテキストをもとに、文明・人種・性など「差異」をめぐる多様な社会現象について学習し、異質性とのような関係を築いていくかという視点から現代文化のダイナミズムについて考えていく。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、発表してもらおう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ アイデンティティ
- ・ 自己と他者
- ・ 公共性
- ・ シティズンシップ
- ・ マイノリティ

授業計画

01. なぜ異文化間コミュニケーションが問題なのか
02. 視点としての「コミュニケーション」
03. 野蛮と文明（1）「啓蒙」の時代
04. 野蛮と文明（2）「人種」
05. 野蛮と文明（3）「野蛮人」への眼差し
06. オリエンタリズム（1）知識と権力
07. オリエンタリズム（2）『オリエンタリズム』を読む
08. オリエンタリズム（3）「東洋」の描かれ方
09. 練習・討論①：異文化へのまなざし（1）
10. 練習・討論②：異文化へのまなざし（2）
11. 自我と他者（1）自己とはなにか
12. 自我と他者（2）他人の眼差し
13. 自我と他者（3）パフォーマンスとしての自己呈示
14. 自我と他者（4）物語としての自己
15. マイノリティとマジョリティ（1）「マイノリティ」とはなにか
16. マイノリティとマジョリティ（2）マイノリティの社会運動
17. 練習・討論③：アメリカの人種問題（1）
18. 練習・討論④：アメリカの人種問題（2）
19. アイデンティティの政治（1）集団的アイデンティティ
20. アイデンティティの政治（2）新しい社会運動
21. 公共性からの排除（1）公共性とはなにか
22. 公共性からの排除（2）公と私
23. ジェンダー（1）性差と差別
24. ジェンダー（2）性差と反本質主義
25. ジェンダー（3）性別役割分業
26. 練習・討論⑤：グローバリゼーションと自由（1）
27. 練習・討論⑥：グローバリゼーションと自由（2）
28. シティズンシップ（1）移民と難民
29. シティズンシップ（2）多文化主義の挑戦
30. まとめ

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を文章でまとめ、コメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 期末レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

担当教員：木下 綾子、濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：2J700650

学部教育の関連目

【J】実践力：学校教育にかかわる専門的知識を養い、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人に教えるためには、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、はじめて魅力的な授業も可能になろう。 |

(2) 内容

この科目で学ぶ「古典」とは、日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、読解力を養う。| 前半の「古文」では、和歌の修辞法や敬語法について学習し、演習として『古今和歌集』・『新古今和歌集』・『枕草子』を読む。| 後半の「漢文」では、中国文学史を軸に、史書や文言小説など、様々な作品を鑑賞する。また、日本における漢文学の歴史についても、頼山陽『日本外史』などの鑑賞を通じて理解を深めていく。

受講者に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。

学びのキーワード

- ・ 和歌
- ・ 敬語法
- ・ 中国文学史
- ・ 日本文学史

授業計画

01. 和歌の修辞法 (1)
02. 和歌の修辞法 (2)
03. 演習『古今和歌集』・『新古今和歌集』
04. 敬語法 (1)
05. 敬語法 (2)
06. 演習『枕草子』 (1)
07. 演習『枕草子』 (2)
08. 古典分野まとめ
09. 中国文学史 (1)
10. 中国文学史 (2)
11. 中国文学史 (3)
12. 中国文学史 (4)
13. 日本漢文学史 (1)
14. 日本漢文学史 (2)
15. 日本漢文学史 (3)

準備学習(予習)

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること。具体的には教場にて指示。

準備学習(復習)

その日に学んだことを確実に身に付けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に付けよう。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------|
| (1) 中間試験 | 50% | 第8週に実施 |
| (2) 学期末試験 | 50% | 定期試験期間に実施 |

教科書

参考書

担当教員：横山 寿世理

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：2JX14540

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文化現象を通じて社会の枠組みを明らかにすること、すなわち社会の存在証明は、「社会学」の視点にもなっている。したがって、この社会学的な視点（ものの見方）を身につけられるになるだろう。| また、この専門演習IIゼミでは少しずつ各ゼミ生の関心を絞ることを目標とする。ただし、専門演習Iと同じく、文化の社会学におけるゼミ生の関心自体を見つけるために指定教科書を丁寧に理解することも目標とする。

(2) 内容

ケータイやSNS、デザイン、スポーツ、ファッション、美容、観光やお笑い、食生活や住まい、都市と地域、ジェンダー、家族、友だち付き合い、恋愛、若者などの「文化」から、社会の枠組みを浮き彫りすることを目指す。| 春学期前半のゼミでは、①指定書籍（教科書）を読み、これをレジュメにまとめて、グループごとに報告して、質疑応答により理解を深めるというものである。より具体的には、2人1組程度で、教科書の各章をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式を進める。| 春学期の後半には、各ゼミ生が「卒業レポート」として深めることができそうなこと、または興味のあるテーマについての②先行研究論文を探して、レジュメにまとめて発表、質疑応答を行う。後半は、どれだけ先行研究論文をわかりやすく報告するかが大切になる。| ※担当教員が2017年度春学期に特別研究期間を取得するため、専門演習I/IIが2017年度春学期に同時開講される予定なので注意してほしい。

受講者に対する要望

①課題提出方法：レジュメをワードで提出して、報告日当日【指定時刻】までに、UNIPAへ提出すること。| ②課題提出方法：(1) 先行研究論文は報告日1週間前まで、(2) その論文のレジュメは報告日当日【指定時刻】までにUNIPAへ提出すること。

学びのキーワード

- ・社会学
- ・文化
- ・他者
- ・集合意識
- ・コミュニケーション

授業計画

01. ガイダンス、後半課題の準備
02. 【3年生】卒業レポート計画の報告（1）
03. 【2年生】②各ゼミ生による先行研究論文の報告（1）
04. 【3年生】卒業レポート計画の報告（2）
05. 【2年生】②各ゼミ生による先行研究論文の報告（2）
06. 【3年生】卒業レポート計画の報告（3）
07. 【2年生】②各ゼミ生による先行研究論文の報告（3）
08. 【3年生】卒業レポート計画の報告（4）
09. 【2年生】②各ゼミ生による先行研究論文の報告（4）
10. 【3年生】卒業レポート計画の報告（5）
11. 【2年生】②各ゼミ生による先行研究論文の報告（5）
12. 【3年生】卒業レポート計画の報告（6）
13. 【2年生】②各ゼミ生による先行研究論文の報告（6）
14. 【3年生】卒業レポート計画の報告（7）
15. 【2年生】②各ゼミ生による先行研究論文の報告（7）

準備学習(予習)

指定された書籍を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。

準備学習(復習)

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

評価方法

(1) 報告への取組み	40%	先行研究論文の報告用レジュメによって評価 (1課題につき20%)
(2) 質疑応答	45%	毎回のゼミにおける発言によって評価
(3) 報告	15%	先行研究論文の報告自体によって評価 (1回目7%/2回目8%) 教科書についての報告レジュメの修正と再提出によって評価

教科書

小川伸彦・山本幸 『現代文化の社会学入門——テーマと出会う、問いを深める』 ミネルヴァ書房、2007年、2,800円税別。

参考書

教師論（中高教職）

TEAT-0-100/TEAT-D-1

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程/ 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T100101

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。| 2) 地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。| 3) 戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。| 4) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。|

(2) 内容

教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。| 教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。| その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。|

受講者に対する要望

「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。

学びのキーワード

- ・ 職場としての学校
- ・ 教員の特殊性
- ・ 教員の社会的役割

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教師に求められる資質・能力とは（1）－現状と課題
03. 教師に求められる資質・能力とは（2）－生徒の求める教師像
04. 教師に求められる資質・能力とは（3）－教師としての自覚
05. 教師の仕事（1）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識
06. 教師の仕事（2）教師の力量向上－研修の義務と機会
07. 教師の地位（1）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など
08. 教師の地位（2）現代社会と教師
09. 教師の環境（1）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解
10. 教師の環境（2）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員
11. 教師の環境（3）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など
12. 教師養成（1）その歴史－戦前期および戦後改革
13. 教師養成（2）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚
14. 教育計画とは何か
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。

準備学習(復習)

授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらったレポートの準備を考えてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----------------------------|
| (1) 期末テスト | 30% |
| (2) 授業への参加 | 40% 授業中の討論への参加など |
| (3) レポート | 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。 |

教科書

参考書

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306102

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

国語の教師として、教材を研究するに当たって身に着けるべき基礎的な解釈技法の理解と習熟を目指す。この基礎の上に、確実な教材理解に基づいた授業を構想することが可能となるだろう。

(2) 内容

「国語科教育法Ⅰ」と「国語科教育法Ⅱ」とがそれぞれ半期科目として国語科教育の基礎的な知識と技能とを理解し修得することを目指している。そして、前者は主に「理論編」であり後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の理論を主眼とした内容を扱うことになる。| 新学習指導要領が発表され注目が集まる今、学校教育現場では多様な課題が浮かび上がりつつある。授業を一方的な知識伝達の場から相互交流による「学び」の場へと、大きく転換することが必要である。| 授業では、国語科教育が抱える今日的な課題について受講者とともに考え、国語科教育とは何かということについて一人ひとりがアプローチすることを目指す。そして、国語科の教師として、中学校あるいは高等学校の教壇に立つとはどういうことであるのか、どうあるべきなのかを考える基礎を作っていく。その上で、実践を視野に入れた授業構想を練ることを通じて、教育実習に実践的に役立つような授業内容を工夫したい。|

受講者に対する要望

国語科の指導者になる、というはっきりとした目的意識をもって授業に参加すること。したがって、授業に関する課題は必ずすべて提出すること。| 単位取得の最低条件として、全授業の4/5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、遅刻も謹んでいただきたい。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。

学びのキーワード

- ・ 国語科教育
- ・ 国語科教育の課題
- ・ 『学習指導要領』
- ・ アクティブ・ラーニング
- ・ 評価

授業計画

01. 授業に関するガイダンス、および自己分析。
02. 自己分析に基づいたスピーチとその指導法
03. 国語科をめぐる教育課題
04. これまでの『学習指導要領』と新『学習指導要領』
05. 教科書と検定制度
06. 解釈のための基礎技法1（視点、中心人物）。
07. 解釈のための基礎技法2（ストーリー・プロット・クライマックス）。
08. 現代の国語に関する課題についての研究討議
09. ことばに就いての学習案
10. 国語科の指導目標
11. 目標に準拠した評価
12. 文学的文章の指導を考える1（教材研究）
13. 文学的文章の指導を考える2（指導目標）
14. 文学的文章の指導を考える3（アクティブ・ラーニングの工夫）
15. 授業の総括

準備学習(予習)

授業計画を参照し、課題に関する準備は早め早めに行うこと。

準備学習(復習)

配布プリントを参考にしながら、教科書の該当部分の内容を次回までに確認しておくこと。

評価方法

(1) 授業への参加状況	10%
(2) 課題レポート	30%
(3) 確認試験	30%
(4) 学修記録	30%

教科書

町田守弘、他『実践国語科教育法—「美しく、力づく」授業の創造』（学文社）【978-4762025792】 | 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）【978-4-316-30021-4】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』（東洋館出版社）【978-4-491-02380-9】 |

参考書

授業中に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306210

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

中学校・高等学校の国語科教育の理論と実践の学びを通して、国語科の教員として必要とされる知識と技能の習得を目指す。

(2) 内容

「国語科教育法Ⅰ」と「国語科教育法Ⅱ」とがそれぞれ半期科目となっているが、前者は主に「理論編」であり後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の実践を主眼とした内容を扱うことになる。新しい学習指導要領において「アクティブ・ラーニング」「IT化」が重視されていることを踏まえ、この科目では、国語科における様々な言語活動の魅力的な扱いを工夫していきたい。国語科教育法は実践を基盤とするということに配慮して、授業そのものをテキストとした実践的な授業構造にすることにより、効果的な国語科教育指導者の育成を目指す。特に、後半は受講者による模擬授業を実施して、実践的な内容を中心とした授業を展開する。また、教材研究の進め方について理解することは、学習指導に対する自信を生みだし、その自信が教育という職業に対する新たな情熱を生むであろう。そのため、受講者全員が教材研究の方法に習熟し、活用する力を身につけることを目指す。さらに、教えるということは、大きな責任を伴うものでもある。この授業を通して、その責任の大きさも自覚してほしい。

受講者に対する要望

国語科の指導者になる、というはっきりとした自覚をもって授業に参加すること。教材研究・模擬授業・相互批評のすべてに積極的に取り組むこと。なお単位取得の最低条件として、全授業の4/5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、10分以上の遅刻は認めない。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。

学びのキーワード

- ・ 基礎的技能の応用
- ・ 教材研究
- ・ 国語科教育
- ・ 学習指導要領
- ・ 教育機器とIT化

授業計画

01. 国語科教育の目標① 国語科教育の目標観の変遷を概観する
02. 国語科教育の目標② 学習指導要領（国語科）の構造を学ぶ
03. 授業を構造化する① 板書の計画と方法を学ぶ
04. 授業を構造化する② 指導言（「指示」・「発問」・「解説」）の機能とその効果的な配列の方法を学ぶ
05. 国語科教育のIT化を考える
06. デジタル教科書の可能性と課題
07. 学習指導案の書き方を学ぶ（概略）
08. 学習指導案の書き方を学ぶ（学習の位置づけ）
09. 文学教材の学習指導案作成
10. 文学教材の模擬授業と相互批評を行う① 導入部の工夫
11. 文学教材の模擬授業と相互批評を行う② 展開部の工夫
12. 評論教材の教材研究を行う
13. 評論教材の模擬授業と相互批評を行う① 関心・意欲の指導
14. 評論教材の模擬授業と相互批評を行う② 論理展開の把握と発展的思考
15. 授業のまとめ

準備学習(予習)

指定した教科書のすべてに目を通しておくこと。

準備学習(復習)

配布資料や教科書を参考にして、授業内容を次回までに理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 模擬授業への取り組み | 30% |
| (2) 課題レポート | 30% |
| (3) 学修記録 | 40% |

模擬授業への取り組み（40%）、相互批評への取り組み（40%）、試験（20%）で評価する。

教科書

『国語科教育法Ⅰ』で使用した以下の教科書を引き続き使用する。|町田守弘、他『実践国語科教育法—「楽しく、力づく」授業の創造』(学文社)【978-4762025792】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』(東洋館出版社)。|文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』(教育出版)。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306328

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

教育法Ⅰで学んだ文学的表現の分析方法、教育法Ⅱで学んだ国語科教育に対する全般的な理解を基礎として、実際の教材に対してその事前の研究がどのように重要であるのか、どのように実際の指導につながっていくのかを学ぶ。この学びによって、教育法Ⅳで行う模擬授業に向けた準備とする。

(2) 内容

「話すこと・聞くこと」の指導実践、「書くこと」の指導実践、それぞれについて、学習者の関心・意欲・態度をどのように高めつつ身に付けるべき能力を伸ばしているのかを理解する。更に小説教材を用いた「読むこと」の指導実践を目指して、教材研究の進め方と実践への活かし方を具体的に体験を通して理解し、技能として身につけていく。

受講者に対する要望

教育実習に向けて実践的な力を身に付けるという自覚のもと、研究討議に積極的に参加するとともに、討議内容を踏まえた研究と工夫を求めたい。

学びのキーワード

- ・教材研究
- ・関心・意欲・態度
- ・身に付けるべき能力
- ・知識・理解
- ・体験

授業計画

01. 授業に関するガイダンス、および教材研究の重要性に関する討議。
02. 「学習指導案」についての確認
03. 目標に準拠した評価
04. 「話すこと・聞くこと」の指導
05. 「書くこと」の指導
06. 「伝統的な言語文化」の指導
07. 小説教材による授業実践に向けた教材研究① 教材文の解釈と分析
08. 小説教材による授業実践に向けた教材研究② 作者に関する研究
09. 小説教材による授業実践に向けた教材研究③ 他の作品及び文学史上の位置
10. 小説教材による授業実践に向けた教材研究④ 教材としての価値と意味
11. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑤ 指導目標とアクティブ・ラーニング
12. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑥ 単元の魅力と導入部の工夫
13. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑦ 学習指導案の作成
14. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑧ 学習指導案の相互評価
15. 総括

準備学習(予習)

授業実践で用いたテキストについては、事前に配布するので、十分に読みこなし上で授業に臨むこと。

準備学習(復習)

配布資料やテキストにより、授業内容を次回までに理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 課題レポート | 40% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |
| (3) 最終レポート | 30% |

教科書

授業中にプリントを配布する

参考書

大村はま『新編 教室をいきいきと 1』(筑摩書房) 4-480-08146-1 | 大村はま『新編 教室をいきいきと 2』(筑摩書房) 4-480-08146-2

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306430

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

半期の授業の序盤は、国語科の授業研究を行う。中盤から終盤にかけては、国語単元学習（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）の概要を学び、実際に単元学習を作り模擬授業を行う。

(2) 内容

中学校・高等学校の国語科教育の実践と理論の学びを深めることを通して、国語科の教員として必要とされる技能と知識の習得を目指す。

受講者に対する要望

相互批評でのやり取りを踏まえた工夫と研究を常に欠かさぬ態度とを望む。

学びのキーワード

- ・「読むこと」の授業
- ・学習目標
- ・単元学習
- ・教材研究
- ・指導技術

授業計画

01. 授業研究① 「読むこと」の学習指導過程のモデルについて
02. 小説教材による授業実践と相互批評① 教材文の解釈と分析
03. 小説教材による授業実践と相互批評② 導入部の工夫
04. 小説教材による授業実践と相互批評③ 展開部の工夫
05. 小説教材による授業実践と相互批評④ 学習の成立と評価
06. 評論教材による授業実践に向けた教材研究① 教材文の分析
07. 評論教材による授業実践に向けた教材研究② 教材文の意味
08. 評論教材による授業実践と相互評価① 導入部の工夫
09. 評論教材による授業実践と相互評価② 教材文の理解
10. 評論教材による授業実践と相互評価③ 活動と評価
11. 評論教材による授業実践と相互評価④ 単元の組み立て
12. 言語文化教材による授業実践と相互評価① 教材文の解釈
13. 言語文化教材による授業実践と相互評価② 学習の成立
14. 言語文化教材による授業実践と相互評価③ 評価の工夫
15. 授業の総括

準備学習(予習)

教材は前もって渡すので、その教材研究は早め早めに行うこと。

準備学習(復習)

相互批評で指摘された点についての改善策を次回の模擬授業までに整理すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 模擬授業への取り組み | 30% |
| (2) 相互評価への取り組み | 30% |
| (3) 最終レポート | 40% |

教科書

文部科学省、文科省-『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）文部科学省、文科省-『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』（東洋館出版社）

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程/必修科目 単位：2 授業コード：6L001010

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

(2) 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

受講者に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

学びのキーワード

- ・社会教育の理念
- ・生涯教育・生涯学習
- ・生涯発達論
- ・発達課題
- ・学歴社会の是正

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育の領域（家庭教育、社会教育、学校教育）
03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）
04. 生涯教育の理念(1)
05. 生涯教育の理念(2)
06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？）
07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情）
08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行）
09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応）
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題）
11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？）
12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など）
13. 生涯教育の理念への批判
14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』（樹村房）【978-4883672301】

参考書

担当教員：若松 昭子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L022020

学部教育の関連目

【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

(2) 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 情報社会

授業計画

01. 図書館の定義
02. 図書館の種類
03. 図書館の理念
04. 情報社会と図書館
05. 図書館の自由に関する宣言
06. 図書館員の倫理綱領
07. 図書館に関する法規
08. 公立図書館の制度と機能 1
09. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとなすこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験またはレポート | 40% |
| (2) 各授業時の課題 | 35% |
| (3) 授業態度や授業への参加度 | 25% |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

教科書

塩見昇『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ3 -1)』(日本図書館協会)四訂版【9784820414179】

参考書

担当教員：若松 昭子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L022021

学部教育の関連目

【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

(2) 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 情報社会

授業計画

01. 図書館の定義
02. 図書館の種類
03. 図書館の理念
04. 情報社会と図書館
05. 図書館の自由に関する宣言
06. 図書館員の倫理綱領
07. 図書館に関する法規
08. 公立図書館の制度と機能 1
09. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとなすこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験またはレポート | 40% |
| (2) 各授業時の課題 | 35% |
| (3) 授業態度や授業への参加度 | 25% |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

教科書

塩見 昇『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-1)』(日本図書館協会)【978-4820414179】

参考書

担当教員：三日市 紀子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L025050

学部教育の関連目

【1】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館サービスの意義を強調し、マネジメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。

(2) 内容

図書館サービスの構造および基本的な考え方を学び、各種サービス（資料提供、情報提供、図書館サービスの連携・協力、利用者に応じた図書館サービス、課題解決型サービス）を理解する。図書館サービスの遂行に必要な要素（著作権や利用者とのコミュニケーション）についても概説する。

受講者に対する要望

1. 授業の中で、グループでの討論や発表活動を行う場合があります。各自協力して取り組んでください。|2. 初回の授業で授業の進め方について説明します。欠席のないようにしてください。|3. 授業中の不要な退室や、指示された時以外のスマートフォン使用はご遠慮ください。|4. 毎回の授業において、前回の内容を振り返るテストを行う予定なので、必ず復習しておいてください。

学びのキーワード

- ・ 図書館サービス
- ・ 利用者サービスの多様性
- ・ 利用空間
- ・ 図書館ネットワーク

授業計画

01. イントロダクション：図書館の機能とサービス、基本用語の確認など
02. 図書館サービスの構造および種類
03. 図書館サービスの変遷
04. 利用空間の整備：書架の配置、排架の原理と工夫
05. 資料提供サービス①：貸出サービスの構造
06. 資料提供サービス②：資料提供の展開：リクエストサービス、相互貸借
07. 図書館サービスと著作権
08. 情報提供サービス：レファレンスサービス、情報発信、講座・セミナー
09. 図書館サービスの連携と協力：図書館ネットワーク
10. 利用目的に応じたサービス：課題解決型サービスなど
11. 利用者に応じたサービス①障害者サービス
12. 利用者に応じたサービス②高齢者サービス
13. 利用者に応じたサービス③多文化サービス
14. 利用者との交流：接遇・コミュニケーション
15. まとめ

準備学習(予習)

課題や予習キーワードの下調べなどをこなして、授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業で触れた内容を振り返り、思考を整理してください。|（適宜、内容を振り返る課題を課することもあります）

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|-------------------------|
| (1) 試験 | 50% | 6割以上の正解率が必須である。 |
| (2) 課題提出・授業内ミニテスト | 50% | 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出 |

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを前提条件とします。授業開始以降15分までの入室を遅刻とみなし、それ以降の入室は欠席とみなすので留意してください。

教科書

随時、プリントを配布します。

参考書

授業時に提示します。

担当教員：若松 昭子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：6L038030

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。

(2) 内容

情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人々の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加を望む。授業に関連する施設見学や、展示会等の観覧を課すことがある。
|1. 資格取得者優先|2. 人数制限をすることもある

学びのキーワード

- ・ 情報メディア
- ・ 図書
- ・ 図書館
- ・ 書物

授業計画

01. 情報メディア史の意義
02. 文字・記録のはじまり
03. 粘土板と古代の図書館
04. パピルスからパーチメントへ
05. 中世の書物文化と修道院図書館
06. 大学の誕生と書物
07. 印刷術の発明と普及
08. 読書様式の変化
09. 国家形成と国立図書館
10. コーヒーハウスと貸本屋
11. 公共図書館の誕生
12. コンピュータと図書館
13. 日本の図書館と書物文化 (1)
14. 日本の図書館と書物文化 (2)
15. まとめとディスカッション

準備学習(予習)

教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------------|
| (1) 試験 | 50% | 試験に代わるレポートあり |
| (2) 小課題 | 20% | |
| (3) 授業参加状況 | 30% | 授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる

教科書

ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一『本の歴史（「知の再発見」双書）』（創元社）【978-4422211404】

参考書

兒童学科

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300100

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、子どもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、子どもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【D】「子ども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

(2) 内容

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人々を、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供するこを目的とする。

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取り、積極的に講義に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 優しさ
- ・ 寛容
- ・ 生きる勇氣
- ・ 自己肯定
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

準備学習(復習)

講義毎に指定される図書・映画等を読んだり、視聴することによって、見識をさらに深めることが重要である。

評価方法

- (1) 授業レポート
- (2) 礼拝レポート
- (3) 期末試験
- (4) 授業への積極的参加

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300101

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供することを目的とする。

(2) 内容

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 寛容
- ・ 優しさ
- ・ 人格的關係
- ・ 生きる勇氣
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

講義毎に指定される本や映画を見ることにより、理解度をより深めていくことができる。

準備学習(復習)

授業内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

(1) 授業レポート	30%
(2) 礼拝レポート	20%
(3) 期末テスト	35%
(4) 授業への積極的参加	15%

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300108

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基礎であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆえに深い理解を持つて社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供することを目的とする。

(2) 内容

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

受講者に対する要望

授業にして積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 優しさ
- ・ 寛容
- ・ 生きる勇氣
- ・ 自己肯定
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

授業で取り上げる人々の考え方や生き方について、関係した書物を読んで理解を深める努力を求める。

評価方法

- (1) 授業レポート
- (2) 礼拝レポート
- (3) 期末テスト
- (4) 授業への積極的参加

教科書

参考書

授業の中で示唆する

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300201

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こども的人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む

学びのキーワード

- ・ 主の祈り
- ・ 聖書

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された聖書箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業の内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業レポート | 45% |
| (2) 礼拝レポート | 25% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300205

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

積極的に受講してください。

学びのキーワード

- ・キリスト教倫理
- ・問題意識
- ・自己相対化

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

準備学習(復習)

配布プリントとノートをまとめてください。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験 | 20% |
| (2) プリント問題への回答 | 20% |
| (3) 全学礼拝と教会レポート | 20% |
| (4) ノートおよびプリント提出 | 20% |
| (5) プレゼンテーション | 20% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300216

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、ことごも的人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、ことごも的人格と人権を尊重するゆえに深い倫理観を持つて社会貢献ができることを学ぶ【W】「ことごも期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。

学びのキーワード

- ・キリスト教倫理
- ・問題意識
- ・自己相対化

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

準備学習(復習)

心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。

評価方法

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

担当教員：松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A510850

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける | 【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本质を見つめ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。|

(2) 内容

この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。|

受講者に対する要望

毎回のミニレポートの他、3本のレポートを書いてもらうが、提出期限に遅れないように、よく準備をしてレポートを作成してほしい。

学びのキーワード

- ・ 神話・伝説
- ・ ファンタジーの空間
- ・ ファンタジーの時間
- ・ 不老不死・生命創造
- ・ 魔法

授業計画

01. ファンタジーとは何か
02. 神話・伝説:ファンタジーの原型
03. 神話・伝説:予言の意味
04. 神話・伝説:ギリシャ神話「神々と英雄たち」
05. 神話・伝説:ギリシャ神話「トロイ戦争の顛末」
06. 神話・伝説:北欧神話の世界観
07. 神話・伝説:北欧神話の神々
08. 神話・伝説:アーサー王伝説
09. ファンタジーの生き物:伝説の中のドラゴン
10. ファンタジーの生き物:ファンタジー作品の中のドラゴン
11. ファンタジーの生き物:ユニコーン、その他
12. ファンタジーの空間:現実から異世界への移動法
13. ファンタジーの空間:異世界の物語
14. ファンタジーの空間:ディズニーランド
15. ファンタジーの空間:おとぎ話とディズニー・アニメ
16. ファンタジーの空間:ディズニー・アニメのプリンセス像
17. ファンタジーの空間:日常の中の魔法
18. ファンタジーの空間:「私」の中の「他人」
19. ファンタジーの空間:夢
20. ファンタジーの空間:バーチャル・リアリティー
21. ファンタジーの時間:過去と未来
22. ファンタジーの時間:時間旅行の方法
23. 異形のものたち:ヴァンパイアの原型
24. 異形のものたち:物語の中のヴァンパイア
25. 異形のものたち:マッドサイエンティストと人造人間
26. 異形のものたち:生命創造というタブー
27. 異形のものたち:不老不死
28. 魔法使いと魔女
29. 魔法の食べ物
30. まとめ

準備学習(予習)

授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ1ヶ月に1本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。

準備学習(復習)

毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。

評価方法

(1) 毎回の課題	20%
(2) 第一レポート	25%
(3) 第二レポート	25%
(4) 第三レポート	30%

教科書

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C100310

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。

(2) 内容

子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面で子どもと大人の関わりを考える。||

受講者に対する要望

毎回の授業でレスポンスシートに課題を記入することで、出席確認、受講者・講義者双方の振り返りに活用しています。レスポンスシートに積極的に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 子ども
- ・ 児童学
- ・ 幼児理解
- ・ 保育
- ・ 学校教育

授業計画

01. 子どものイメージと理解
02. 制度にたちあられた子ども
03. 子ども学のはじまり
04. 子ども観と社会制度
05. 子どもの目、大人の目
06. 子どもの理解、大人の理解
07. 保育という視点
08. 学校と子ども
09. 赤ちゃん絵本にみる子どもの認知
10. 不適切な養育と子ども
11. 絵本のカ
12. 子どもの自尊
13. 児童学における記録の意味
14. 省察すること
15. 総括

準備学習(予習)

授業回のテキストに目を通してから授業に臨みましょう。レスポンスシートにコメントを書いて返却します。毎回の授業前に読み活かしましょ

準備学習(復習)

授業ノートを整理しましょう。テキストに含まれる資料は、授業で扱った箇所以外の部分も必ず読み込みましょ。参考文献を数多く紹介します。積極的に読みましょ。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 50% | レスポンスシートの記入内容で確認します |
| (2) 試験 | 50% | |

教科書

参考書

初回授業に全回分のテキストプリントを配布します。|予備はありません。記名の上、毎回の授業で活用して下さい。

担当教員：相川 徳孝、市村 和子、松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：1C100480

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

この授業は子どもの生活の場に自主的に参加し、生活を共にすることを通して体験したことをレポートや討議等の方法を通して整理、理論化し、子どもに対する理解や現場環境の理解を深めていくことを目的とする。

(2) 内容

学生の自主的なボランティア活動等の体験を実践レポートとしてまとめ、対象理解や子どもとかわる大人として求められる役割、現場環境について理解をしていく。

受講者に対する要望

この授業を受講しようとする学生は以下の条件を満たしていなければならない。
・集中講義出席以前にフィールドにおける実践体験をもつこと。
・集中講義に出席し、定められたプログラムを経験すること。

学びのキーワード

- ・フィールド
- ・対象理解
- ・専門職に対する使命感・責任感
- ・文章表現力

授業計画

01. フィールドワークとは何か？
02. 実践の理論化とはどういう営みか？（1）
03. 実践の理論化とはどういう営みか？（2）
04. 実践の場における情報交換（1）
05. 実践の場における情報交換（2）
06. 実践の場における情報交換（3）
07. 記録の整理（1）
08. 記録の整理（2）
09. 記録の整理（3）
10. 記録の整理（4）
11. 体験と記録に基づくグループ討議（1）
12. 体験と記録に基づくグループ討議（2）
13. 体験と記録に基づくグループ討議（3）
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

フィールドにおける実践体験をしておくこと。

準備学習(復習)

討議等で指摘されたことをレポートとしてまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 体験記録 | 50% |
| (2) レポート発表 | 50% |

教科書

参考書

授業の中で参考となる図書や資料を提示していく。

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1C100585

学部教育の関連目

【C】グローバルな視点を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

オーストラリアの保育・教育等について、英語による講義と実践を通して学ぶこと。| (1) 教育用玩具を運動能力と知的発達の観点からとらえ、子どもたちがおもちゃで遊ぶことによって何を学ぶかを見る。| (2) 子ども達に人気が高い集団ゲームや活動を、社会性のためのレッスンの例として見る。| (3) 幼い子どもを持つ家庭にホームステイをし、子どもと家族の関わり方を学ぶ。| (4) 保育所・幼稚園から小学校までのオーストラリアの保育・教育を学ぶ。

(2) 内容

国際化の進展に伴い、子どもの問題も海外諸事情を勘案し、それらとの連環における学習が不可避とされている。この場合の学習は、海外情報の収集および実地体験に分けて考えることができる。前者は、関連する学科目の講義・演習において行われるが、本学科目は受講者に実地体験の機会を提供するものである。| 本年度の児童学海外研修は、オーストラリア、アデレードのフリンダース大学で行われ、児童学科の教員が同行する予定である。なお本研修は、国際交流・英語教育課の協力を得て、同課との連携のもとに行われる。

受講者に対する要望

引率者の指示に従い団体行動に協力すること。
英語、特に英会話の練習をしておくこと。

学びのキーワード

- ・オーストラリア
- ・児童学海外研修
- ・フリンダース大学

授業計画

01. オリエンテーション
02. 事前指導 (研修手続きについて)
03. 事前指導 (研修内容について)
04. 事前指導 (事前準備について)
05. 事前指導 (オーストラリアについて)
06. 事前指導 (英語)
07. 事前指導 (英会話)
08. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
09. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
10. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
11. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
12. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
13. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
14. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
15. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
16. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
17. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
18. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
19. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
20. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
21. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
22. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
23. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
24. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
25. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
26. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
27. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
28. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
29. オーストラリア (フリンダース大学) での研修
30. 事後指導

準備学習(予習)

- ・英語の学習
・発表、部分実習の準備

準備学習(復習)

- ・各回の授業で与えられた課題に取り組むこと

評価方法

事前・事後指導とフリンダース大学からの評価をもとに総合的に評価する。| 提出された課題は、返却を行う。

教科書

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1C100675

<p>学部教育の関連目</p> <p>【C】グローバルな視点を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション 02. バイリンガル 03. 子どもの母語の発達 04. バイリンガル教育の理論 05. 家庭で育てるバイリンガル 06. Two-Way Immersion 07. アトランタの歴史1 南北戦争 08. アトランタの歴史2 キング牧師 09. 事前指導 海外実習の手続き 10. 事前指導 保育英語教材 手遊び・絵本 11. 事前指導 保育英語教材 遊び 12. 事前指導 教材研究 13. 事前指導 英会話 14. SAINTSでの実習 15. SAINTSでの実習 16. SAINTSでの実習 17. SAINTSでの実習 18. ISAINTSでの実習 19. SAINTSでの実習 20. ISAINTSでの実習 21. SAINTSでの実習 22. ISAINTSでの実習 23. ISAINTSでの実習 24. SAINTSでの実習 25. SAINTSでの実習 26. SAINTSでの実習 27. SAINTSでの実習 28. SAINTSでの実習 29. 事後指導 (全体指導) 30. 事後指導 (個別指導)
<p>カリキュラム上の位置付け</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>プリントを事前に読み、まとめること。
計画的に実習準備(手続き、教材準備等)に取り組むこと。</p>
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>SAINTSでの教育・保育実践のなかでの実習を通して、日本国内での実習とはまた違った多くのことに気付き、学ぶことが目的である。 </p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>英語、特に保育英語、英会話を復習すること。 バイリンガル教育について復習し、質問をまとめること。 教材研究をすること。</p>
<p>(2) 内容</p> <p>アメリカ合衆国ジョージア州アトランタにある、聖学院アトランタ国際学校(SAINTS)で、約2週間の研修を行う。 多文化の混在するアメリカ社会の中にある「SAINTS」には、普段家庭では英語、日本語、その他2種以上の言語を使用している、多言語多文化の中で日常生活を過ごす子どもたちが多く通っている。このような生活環境にある子どもたちに対して、「SAINTS」では日本の教育・保育を活かしながら、バイリンガル教育、異文化間教育・保育が行われている。特に英語と日本語という2つの言語、異なった文化を、それぞれ尊重しながら受容していく過程で、子どもたちもお互い同士のかかわり合いの中から、お互いを認め合って育ち合っている。</p>	<p>評価方法</p> <p>事前・事後指導、実習日誌をもとに総合的に評価する。 予習で準備をした教材については、授業時に模擬保育を行い、改善案を受講者とともに検討する。</p>
<p>受講者に対する要望</p> <p>この科目を履修するためには、4年次秋学期の履修登録の時点で、下記の要件を満たしていなければならない。 (1)春学期までの必修科目と「幼稚園教育実習」・「保育・教職実践演習(初等)」を除く幼稚園教諭一種免許状取得に必要な科目(資格必修科目)の単位を全て取得していること。 (2)「幼稚園教育実習」の単位を取得しているか、取得見込みであること。 (3)卒業要件をすでに満たしていること。 なお、希望者が多数の場合は面接を行い選抜をすることとなる。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p>
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外実習 ・ SAINTS ・ バイリンガル教育 ・ 異文化間教育 ・ 保育・教育 	

担当教員：松本 祐子、小池 茂子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C100715

<p>学部教育の関連目</p> <p>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション・グループワーク（テーマディスカッション） 02. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（調査について・グループで調べる） 03. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（プレゼンテーション） 04. 図書館ツアー（情報リテラシー・新聞記事の検索と活用法） 05. 情報リテラシーを踏まえて、課題メールを作成する 06. 自分の生まれた日の新聞記事を用いて、自分の誕生日の紹介記事をつくる 07. 自分をしなやかに表現する（表現の科学/ことばの違い・動作） 08. 話し言葉と書き言葉の違いを知る 09. 正確で美しい文字を書く 10. 自己紹介文を作成する（実習調書作成準備） 11. 礼状・挨拶状を書く 12. 文章力を高めるテクニック：主語と述語の整った文を書く 13. 文章力を高めるテクニック：視点の統一した文を書く 14. 文章力を高めるテクニック：読点、接続詞の使い方 15. まとめ 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>毎回の課題をきちんとこなすこと。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>保育者、教員を目指す学生として、「子どもの良き理解者」となり、また「良き社会人」となるために必要な教養、表現力、基礎学力を身につける。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>返却された課題を見直し、各自、復習すること。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>保・幼・小の資格必修である「基礎実習」の前提科目となる授業である。実習調書や日誌をきちんと書けるだけの基本的な文章力、幅広い知識を獲得するために必要な調査能力と情報リテラシー、自分自身の持ち味を効果的に表現するためのコミュニケーション能力を身につけることを目指して、様々な実践練習を行う。</p>	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 授業中の発表</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>(2) 毎回の課題</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>(3) 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>	(1) 授業中の発表	20%	(2) 毎回の課題	40%	(3) 期末試験	40%
(1) 授業中の発表	20%						
(2) 毎回の課題	40%						
(3) 期末試験	40%						
<p>受講者に対する要望</p> <p>毎回、授業にきちんと出席し、必ず課題を提出すること。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な文章表現力 ・ 効果的な自己表現の方法 ・ 情報リテラシー ・ グループワーク ・ プレゼンテーションの作法 							

担当教員：小池 茂子、松本 祐子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C100720

<p>学部教育の関連目</p> <p>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション・グループワーク（テーマディスカッション） 02. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（調査について・グループで調べる） 03. 調査を用いて、自分のクラスを紹介する（プレゼンテーション） 04. 図書館ツアー（情報リテラシー・新聞記事の検索と活用法） 05. 情報リテラシーを踏まえて、課題メールを作成する 06. 自分の生まれた日の新聞記事を用いて、自分の誕生日の紹介記事をつくる 07. 自分をしなやかに表現する（表現の科学/ことばの違い・動作） 08. 話し言葉と書き言葉の違いを知る 09. 正確で美しい文字を書く 10. 自己紹介文を作成する（実習調書作成準備） 11. 礼状・挨拶状を書く 12. 文章力を高めるテクニック：主語と述語の整った文を書く 13. 文章力を高めるテクニック：視点の統一した文を書く 14. 文章力を高めるテクニック：読点、接続詞の使い方 15. まとめ 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>毎回の課題をきちんとこなすこと。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>保育者、教員を目指す学生として、「子どもの良き理解者」となり、また「良き社会人」となるために必要な教養、表現力、基礎学力を身につける。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>返却された課題を見直し、各自、復習すること。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>保・幼・小の資格必修である「基礎実習」の前提科目となる授業である。実習調書や日誌をきちんと書けるだけの基本的な文章力、幅広い知識を獲得するために必要な調査能力と情報リテラシー、自分自身の持ち味を効果的に表現するためのコミュニケーション能力を身につけることを目指して、様々な実践練習を行う。</p>	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 授業中の発表</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>(2) 毎回の課題</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>(3) 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>	(1) 授業中の発表	20%	(2) 毎回の課題	40%	(3) 期末試験	40%
(1) 授業中の発表	20%						
(2) 毎回の課題	40%						
(3) 期末試験	40%						
<p>受講者に対する要望</p> <p>毎回、授業にきちんと出席し、必ず課題を提出すること。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な文章表現力 ・ 効果的な自己表現の方法 ・ 情報リテラシー ・ グループワーク ・ プレゼンテーションの作法 							

担当教員：川瀬 敏行

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C100835

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

小学校教員としての専門教養「社会」の基礎及び採用試験の傾向と対策を研究し、合格を目指していく。

(2) 内容

教職の基本的な知識を研究する専門科目である。教職における専門教養「社会」を取り上げ、その基礎的研究及び傾向対策研究をする。

受講者に対する要望

小学校教員採用試験の合格を目指し、努力する者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 小学校教員採用
- ・ 専門教養「社会」の基礎的研究
- ・ 専門教養「社会」の傾向対策研究
- ・ 学習指導要領「社会」
- ・ 地理、歴史、政治・経済・国際社会

授業計画

01. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究 (1)
02. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究 (2)
03. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究 (3)
04. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究 (4)
05. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究 (5)
06. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究 (6)
07. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究 (7)
08. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究 (1)
09. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究 (2)
10. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究 (3)
11. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究 (4)
12. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究 (5)
13. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究 (6)
14. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究 (7)
15. まとめ

準備学習(予習)

学習指導要領解説「社会編」、専門教養「社会」の過去問を十分研究しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、教科書、参考書等で学習内容について確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 理解度の確認 | 50% |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。

教科書

東京アカデミー『教員採用試験 参考書(6) 小学校全科(2017年度) (オープンセサミシリーズ)』(ティーエーネットワーク) [978-4864552103] | 東京アカデミー『教員採用試験セサミノート 3(2017年度) 小学校全科 (オープンセサミ・シリーズ)』(ティーエーネットワーク) [978-4864552271] | 文部科学省、文科省『小学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社) [978-4491031606]

参考書

担当教員：齋藤 範雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C100940

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

教員採用試験の傾向にあわせ、基礎から難度の高い問題までの演習を行う。

(2) 内容

小学校教員として必要な算数、数学の基礎知識を確認するとともに、教員採用試験に向けて実力向上を目指す。

受講者に対する要望

小学校の教員採用試験を目指す受講生を望む。
 テキストや演習問題を事前に配布するので、必ず自力で問題に挑戦して講義に臨むなど、自らの学力向上を目指し積極的な授業態度を期待する。

学びのキーワード

- ・教員採用試験
- ・問題演習（問題解決力の向上）

授業計画

01. オリエンテーション、診断テストと解説
02. 教員採用試験に向けての基礎演習（整数の性質）
03. 教員採用試験に向けての基礎演習（数と計算）
04. 教員採用試験に向けての基礎演習（式の展開と因数分解）
05. 教員採用試験に向けての基礎演習（一次方程式の計算、不等式）
06. 教員採用試験に向けての基礎演習（一次方程式の応用）
07. 教員採用試験に向けての基礎演習（二次方程式とその応用）
08. 教員採用試験に向けての基礎演習（関数の基礎及び一次関数）
09. 教員採用試験に向けての基礎演習（一次関数の応用）
10. 教員採用試験に向けての基礎演習（二次関数とその応用）
11. 教員採用試験に向けての基礎演習（図形の性質）
12. 教員採用試験に向けての基礎演習（合同・相似な図形）
13. 教員採用試験に向けての基礎演習（三平方の定理 円の性質 他）
14. 教員採用試験に向けての基礎演習（場合の数）
15. 教員採用試験に向けての基礎演習（確率） とまとめ

準備学習(予習)

事前に配布されるテキストに目を通し、演習問題を自力で解いて授業に臨むこと。

準備学習(復習)

教科書だけではなく、配布されたプリント等を確実に身につけるようにする。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------------|
| (1) 授業への参加態度 | 50% | 事前に配布される問題プリントを自力で解いて、授業に参加すること。 |
| (2) 確認テスト | 50% | |

毎時間受講生一人一人がテキストの問題を解き、解説する。このことを通して問題解決力の向上を目指す。それ故、毎時間の授業準備(予習)、授業参加態度を重要な評価ポイントとする。

教科書

参考書

東京アカデミー 『2017年度教員採用試験参考書(6) 小学校全科』 (ティーエーネットワーク)

担当教員：市村 和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C101045

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

一般教養「国語」の傾向と現状を把握し、小学校教員を目指すうえで必要な基本的知識を学ぶ。また、「授業づくり」について研究し、授業力向上を目指す。さらに、これらの学びを通して、一人一人が教員として必要な資質や適性を高めることを目標とする。

(2) 内容

小学校教員を目指し、教員採用試験を受験する予定の3年生を対象とした教職演習である。国語科の学力向上と、「授業づくり」について取り組む。

受講者に対する要望

教員採用試験を受験し、必ず教員になるという強い意志と、そのための努力を惜しまない学生の受講を願う。

学びのキーワード

- ・ 教員採用試験
- ・ 一般教養「国語」
- ・ 授業をつくる
- ・ 教育への情熱

授業計画

01. オリエンテーション、国語科の学びについて
02. 漢字1（同音異義語、対義語）
03. 漢字2（四字熟語）
04. 慣用句、ことわざ、故事成語
05. 短歌、俳句
06. 古典文学作品
07. 近現代の作者と作品
08. 学習指導案について
09. 学習指導案作成1（単元）
10. 学習指導案作成2（本時）
11. 授業をつくる1（発問）
12. 授業をつくる2（板書）
13. 授業をつくる3（ノート指導）
14. 授業をつくる4（音読・朗読）
15. まとめ

準備学習(予習)

小テスト（その都度指示）に向けての学習

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 積極的な発言、授業づくりへの意欲 |
| (2) 理解度の確認 | 50% | 課題、小テスト |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付。本演習専用のファイルにプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。

担当教員：齋藤 範雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C101255

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

算数・数学の基礎知識を身につけるとともに、教員採用試験の傾向（模擬授業を含む）を研究し、合格を目指す。| 教育実習に向け、教材解釈や教具の工夫、授業展開の仕方等について理解を深める。

(2) 内容

小学校教員として必要な算数・数学の基礎知識を確認するとともに、教員採用試験の傾向と対策の研究をする。| 教育実習に向けて、指導案の作成や授業展開の方法を学ぶ。

受講者に対する要望

事前に配布されるテキストや問題を自力で解くことにより、自分の課題を知るとともに実力の向上を図り、教員採用試験合格を目指す。
教育実習に向けた準備を進める。

学びのキーワード

- ・教員採用試験
- ・実践演習
- ・教育実習及び模擬授業の実践

授業計画

01. オリエンテーション、教員採用試験に向けての実践演習（算数教育と法規）
02. 教員採用試験に向けての実践演習（数と計算、発展問題）
03. 教員採用試験に向けての実践演習（式と計算、発展問題）
04. 教員採用試験に向けての実践演習（一次方程式とその発展問題）
05. 教員採用試験に向けての実践演習（二次方程式とその発展問題）
06. 教員採用試験に向けての実践演習（一次関数とその発展問題）
07. 教員採用試験に向けての実践演習（二次関数とその発展問題）
08. 教員採用試験に向けての実践演習（平行線と角、三角形と線分の比他 発展問題）
09. 教員採用試験に向けての実践演習（合同・相似の証明、発展問題）
10. 教員採用試験に向けての実践演習（三平方の定理、円の性質 発展問題）
11. 教員採用試験に向けての実践演習（場合の数とその発展問題）
12. 教員採用試験に向けての実践演習（確率とその発展問題）
13. 教育実習及び模擬授業（算数科）の実践と研究（授業展開と発問）
14. 教育実習及び模擬授業（算数科）の実践と研究（教材開発と教具の作成・準備）
15. 教育実習及び模擬授業（算数科）の実践と研究（授業の評価） 確認テスト

準備学習(予習)

事前に配布されるテキストに目を通し、演習問題を自力で解いて授業に出席すること。
 模擬授業の実践では、自作の教具を考えるなど工夫のある実践を心掛けること。

準備学習(復習)

配布されたプリントを確実に理解できるようにし、参考書などで問題解決力の向上を確認するようにする。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|----------------------------------|
| (1) 授業への参加態度や意欲 | 30% | 事前に配布される問題プリントを自力で解いて、授業に参加すること。 |
| (2) 模擬授業 | 20% | 指導案、教具等の工夫 |
| (3) 確認テスト | 50% | |

日々の授業態度が実力を培うことになるので、毎回予習をして出席することを前提とし、積極的な授業態度を期待したい。

教科書

参考書

指導内容については事前にプリントして配布するので、必ず自力で解いて授業に参加すること。

担当教員：丸山 綱男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C101360

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

演習形態を中心として、講義、観察・実験対策演習、事例研究、模擬授業等を組み合わせて、実際の教育現場を想定した教育課題を履修者同士の実践的な学びによって解決できるようにする。次年度に実施される都道府県の採用試験を突破できることを目標とする。

(2) 内容

本演習は、採用試験を受験する学生が、教師に必要なとされる理科の専門知識・技能並びに資質・能力をいかに学び、修得してきたかを点検・確認する。将来、教員になる上で、理科指導における基礎・基本を確実に身に付け、理科の現代的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図り、採用試験に資する演習とする。

受講者に対する要望

小学校理科における専門的な知識・技能を修得し、実践的な指導力の向上を求める受講生を願う。

学びのキーワード

- ・専門的な知識・技能（理科）
- ・実践的な指導力
- ・教職の実現

授業計画

01. オリエンテーション 小学校理科の現代的課題（講義）
02. 新学習指導要領・理科（2020年度実施）に示された内容に関する面接演習
03. 理科の問題解決に関連する面接演習
04. 授業展開に関する講義と演習
05. 模擬授業演習
06. 観察・実験対策演習 1
07. 観察・実験対策演習 2
08. 観察・実験対策演習 3
09. 観察・実験対策演習 4
10. 観察・実験対策演習 5
11. 理科試験問題の傾向と対策 1
12. 理科試験問題の傾向と対策 2
13. 理科試験問題の傾向と対策 3
14. 理科試験問題の傾向と対策 4
15. まとめ

準備学習(予習)

自己の課題を常に意識し、予告された次回のテーマについて事前に学習をしておくこと。

準備学習(復習)

講義等で配布された資料を活用し、自己の課題解決に向けて必ず見直しをすること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 課題レポート | 30% |
| (3) 試験 | 20% |

毎授業の演習に積極的に参加し、課題意識をもって意欲的に取り組むことを重視する。

教科書

参考書

担当教員：市村 和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C101465

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

教員採用試験の傾向と現状を把握し、面接試験や論文試験に必要な知識を学ぶ。また、社会人として必要な所作やマナーも同時に身に付ける。

(2) 内容

公立小学校教員採用試験を受験する4年生を対象とした教職演習である。|特に面接、論文・課題作文、模擬授業を中心に取り組む。

受講者に対する要望

教員採用試験合格のための努力を惜しまず、指導を素直に受け入れることのできる学生の受講を望む。|第1回目から、面接用、論文用のノートを用意すること。

学びのキーワード

- ・公立小学校教員採用試験
- ・教育への情熱
- ・論文・面接・模擬授業

授業計画

01. 教員採用試験に向けて（心構え、スケジュール）
02. 教員採用試験に向けて（各都府市の試験傾向と対策）
03. 面接試験、論文試験、模擬授業について
04. 面接試験の研究1（自己PRについて）
05. 面接試験の研究2（学習指導について）
06. 面接試験の研究3（生徒指導について）
07. 面接試験の研究4（教育課題について）
08. 面接試験の研究5（法規について）
09. 面接試験の研究6（場面指導について）
10. 論文試験の研究1（論文の書き方について）
11. 論文試験の研究2（論文を書く）
12. 模擬面接1（個人面接）
13. 模擬面接2（集団面接）
14. 模擬授業
15. 教員採用試験対策のまとめ

準備学習(予習)

前時に与えられた課題に対する自分なりの解答・意見、試験情報の収集等

準備学習(復習)

指摘された内容事項についての修正

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 50% | 参加意欲・態度、発表 |
| (2) 課題レポート、ノート等 | 50% | |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付。本演習専用のファイルにプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。|

担当教員：古谷野 亘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C101570

学部教育の関連目

【C】今日的課題についての知識・教養を身につける【W】論理的思考・表現力・情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。

(2) 内容

大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「心理学・臨床死生学分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。

受講者に対する要望

毎回講義に出席して、各教員の研究への取り組みを知り、研究することの楽しさにふれてほしい。

学びのキーワード

授業計画

01. オリエンテーション / 研究すること
02. 福祉理論のなかの地域福祉的要素
03. 高齢社会とユニバーサルデザイン
04. 高齢社会の元気高齢者
05. 健康と環境
06. ストレス対策とうつ予防
07. 知的障害者に対する支援 — 罪を犯した知的障害の支援を中心に —
08. 精神保健福祉における新たな支援関係 — プロシューマーの萌芽とうねり —
09. 海外福祉研究の楽しみ
10. 心理テストと心理療法
11. 子どもを研究する視座
12. 子ども虐待とネグレクト
13. 遊びに文化が生まれる — 「子どもの仕事は遊ぶこと」をめぐる —
14. 対人援助職のメンタルヘルス
15. 金子みすゞのスピリチュアリティ

準備学習(予習)

次回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。

準備学習(復習)

毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

使用しない

参考書

授業の中で指示する

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200100

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。| 授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

(2) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らに在る大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化することに、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。
授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子, 武田 京子『新版 児童文化』(ななみ書房)【978-4903355436】

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200105

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。| 授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

(2) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らに在る大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化することに、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。
授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子, 武田 京子『新版 児童文化』(ななみ書房)【978-4903355436】

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200210

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

「(大人が) 子どもの目線に立つ」と言われる。このとき〈子ども〉はどのようにあらわれてくるだろうか。多様な〈子ども〉を自身に感じて確認し、今・ここを生きる子どもを理解するときのセンスをみがいていくことを、学びの意義とする。| 遊ぶことの協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感受し、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

(2) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。| フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。|

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもの生活と文化
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究 (1) ジャンケン
05. 遊び研究 (2) 呼びかける・つながる
06. 遊び研究 (3) とばす
07. 遊び研究 (4) まわる
08. 遊び研究 (5) はじく
09. 遊び研究 (6) ころがす
10. 遊び研究 (7) 囲む
11. 遊び研究 (8) 追いかける
12. 遊び研究 (9) 触れる
13. 遊び研究 (10) 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習(予習)

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習(復習)

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) レポート | 80% | 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% | |
| (3) 期末レポート | 10% | |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）【978-4893470744】

参考書

加古里子『伝承遊び考』小峰書店

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200215

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

「(大人が) 子どもの目線に立つ」と言われる。このとき〈子ども〉はどのようにあらわれてくるだろうか。多様な〈子ども〉を自身に感じて確認し、今・ここを生きる子どもを理解するときのセンスをみがいていくことを、学びの意義とする。| 遊ぶことの協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感受し、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

(2) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。| フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。|

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもの生活と文化
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究 (1) ジャンケン
05. 遊び研究 (2) 呼びかける・つながる
06. 遊び研究 (3) とばす
07. 遊び研究 (4) まわる
08. 遊び研究 (5) はじく
09. 遊び研究 (6) ころがす
10. 遊び研究 (7) 囲む
11. 遊び研究 (8) 追いかける
12. 遊び研究 (9) 触れる
13. 遊び研究 (10) 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習(予習)

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習(復習)

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) レポート | 80% | 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% | |
| (3) 期末レポート | 10% | |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）【978-4893470744】

参考書

加古里子『伝承遊び考』小峰書店

担当教員：上原 里佳

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C200320

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種：選択科目 | 【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

児童学科専門科目群「児童文化系統」の選択科目。幼稚園教諭免許状資格科目（選択）、保育士資格科目（選択）としても指定されており、絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。|絵本についての基礎知識を習得することで、まずは、自分自身の絵本への向き合い方の幅をひろげてほしい。そして、子どもが「描かれた世界」をどう受けとめどのように心を養っていくのか、そこに「絵本」という媒体や大人はどう関わるのか、保育・教育現場で用いることも考慮しつつ、絵本が作り出す〈場〉の意味と可能性を学んでほしい。

(2) 内容

子どもが会う物語世界の入口にある絵本との出会いは、大人との共同作業によって用意されることから、大人をもう一度、人間の原点である〈子ども〉世界へと誘う働きもしている。子どもの絵本体験とは何かを探りつつ、優れた絵本から、子どもの世界の文法、さらに大人にとっての意味もとらえていきたい。|カリキュラム上の位置づけ：|絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。

受講者に対する要望

久しぶりに触れる絵本の世界から、子ども時代には気づかなかった新たな魅力を新鮮な気持ちで感じとり、その奥深さを考えていきましょう。多くの作品を読む必要があるため、絵本・読書に興味のある人の受講を希望します。
なお、授業開始後の退室は、体調不良など緊急時以外は認めません。同様に、私語など、他の受講生に迷惑がかかる行為があった場合も、欠席扱いとなることがあるので、注意すること。

学びのキーワード

- ・ 絵本
- ・ 幼児教育

授業計画

01. イントロダクション ～絵本とは何か～ 初回アンケート
02. 絵本の画面展開・描写の手法
03. 絵本の誕生
04. 絵本の歴史 ～近代絵本の発展・イギリスを中心に～
05. 子どもの発達と絵本
06. 赤ちゃん絵本
07. 幼児と絵本
08. 絵本の画材と技法
09. 日本の絵本の歩み
10. ことばの絵本1 ～子どもとことば、3つのカテゴリー～
11. ことばの絵本2 ～ことば遊びいろいろ～
12. 文字なし絵本
13. 写真絵本
14. 数・時間・比較の絵本
15. 理解度の振り返りと確認

準備学習(予習)

子ども時代に読んだ絵本を読み返しておくこと。日ごろから、図書館・書店等を利用し積極的に絵本に触れる機会をつくること。特に図書館はリクエストをかければ古い絵本も見ることが出来ますので、上手に活用しましょう。

準備学習(復習)

配布プリントを見直し、ノートを完成させること。授業で解説した絵本は、図書館・書店などで、必ず実際に手にして読むこと。テーマに関連する絵本、気になった作家の作品については、できるだけ多くの作品を読むこと。実際に子どもに接する機会がある人は、読み聞かせをして彼らの反応を観察すること。

評価方法

- | | | |
|------------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度 | 20% | 授業開始後の、途中退出席禁、体調不良など緊急時以外に無断退室した場合は、欠席扱いとなるので注意すること。 |
| (2) コメントペーパーへの回答 | 30% | 出席確認だけでなく、講義理解度、積極性を判断するので、必ず回答すること。 |
| (3) 期末テスト | 50% | 期末テストでは、授業でとりあげた作品を既読であることを前提に出題します。 |

復習、期末テストが必要となるので、講義中必ずノートをとること。最低必須出席日数が大学の規定に満たない場合は期末テストを受けることが出来ません。

教科書

適宜、プリント配布

参考書

配布プリントはあくまでも授業理解の補助的なものです。授業中の板書・プロジェクターでの説明などを、その都度各自ノートにまとめ、復習して下さい。

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C201710

学部教育の関連目

【C】グローバルな視点を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・世界の子どもたちと家族の現状を知り、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。| ・適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫した発表を行う。

(2) 内容

現在、日本の保育所・幼稚園・小学校等において、外国人の子どもたちや国際結婚家庭の子どもたち、海外で生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション・多文化共生保育等の理論と実践について概説する。さらに、外国人の子どもたち・家族とコミュニケーションをとる上で必要となる、世界の保育・教育に関する情報を収集し、発表する。| 英語や多言語による授業、映像を用いた授業、海外の遊びや歌、ロールプレイ等参加型の授業を行う。

受講者に対する要望

4年次に「海外実習 (SAINTS)」の履修を希望する者は、本講義を履修することが望ましい。| 参加型の授業が多いため、積極的に授業に参加することが求められる。| 発表準備やレポート準備等、計画的に取り組むことが求められる。

学びのキーワード

- ・異文化間教育
- ・文化
- ・世界
- ・海外実習 (SAINTS)
- ・多文化

授業計画

01. オリエンテーション 異文化間教育
02. 異文化適応
03. コミュニケーション・ギャップ
04. バイリンガル教育
05. 異文化間コミュニケーション
06. 異文化間トレーニング
07. 多文化共生保育
08. 多文化共生保育 (事例検討)
09. 世界の保育・教育と子どもたち 発表準備
10. 世界の保育・教育と子どもたち (発表・補足講義)
11. 世界の保育・教育と子どもたち (発表・補足講義)
12. 世界の保育・教育と子どもたち (発表・補足講義)
13. ひょうたん島問題
14. 海外の手遊び・遊び・歌
15. 日本における外国人の子どもの保育・教育の実践 まとめ

準備学習(予習)

人数が多い場合は、グループワークとグループ発表を行う。| 人数が少ない場合は、個人で調べた上で、発表を行う。| そのため、発表準備が必要となる。

準備学習(復習)

授業で視聴した映像についての考察や、事例分析等をまとめ、提出する。| 発表後のフィードバックをもとに、最終レポートをまとめる。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------|
| (1) 平常点 | 50% | 出席点ではない。 |
| (2) 発表 | 25% | |
| (3) レポート | 25% | |

レポート課題への回答を行う。

教科書

参考書

担当教員：中村 輝美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C201825

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義を通して、上記の講義内容で記した「子どもの遊びにおけるおもちゃの特性・役割について」「子どもたちのおもちゃ遊びの種類や変遷について」「現代社会におけるおもちゃの特徴や課題について」といったことを基に、子どもとおもちゃのかかわりについて考えることは勿論のことであるが、将来保育者・教育者として又は一人の大人として子どもとかかわるときに、どのようなおもちゃを選択し提供できるかといった知見を身につけていくことを目標とする。| また、特に20世紀から21世紀にわたるおもちゃの歴史や日本のおもちゃと世界のおもちゃにおける共通点を確認し、様々なおもちゃを使った遊びのスタイルや各国の豊かなおもちゃ文化といったものも理解し、おもちゃ遊びの多様さ・面白さと役割について積極的に自分なりの考えを持ち、受講生同士で互いに発表したり語り合ったりなど表現する姿勢も身につけてほしい。||

(2) 内容

子どもにとっておもちゃとはどんな存在なのだろうか。古くから子どもの遊びと深いかかわりを持つおもちゃについて、この授業では次の3点について、おもちゃの歴史や学生自身の成長過程を振り返りながら探っていきたい。| まず、「子どもの遊びにおけるおもちゃの特性・役割について」みていく。ここでは、子どもの年齢発達について押さえながら、具体的に現在子どもたちに遊ばれているおもちゃを取り上げ、さらに学生自身の過去のおもちゃ遊びの経験を振り返ることで確認していきたい。次に、「子どもたちのおもちゃ遊びの種類や変遷について」である。昔から変わらずあるもの、時代の変化に伴って増えたもの、時代や場所によっておもちゃそのもの又は遊びの方法が変化したものなど様々だが、日本のおもちゃの歩み（江戸時代から平成にかけて）だけでなく、保育や教育に影響を及ぼした海外のおもちゃについても触れていきたい。最後に、「現代社会におけるおもちゃの特徴や課題について」である。子どもを取り巻く環境の変化や現代社会の特徴について取り上げ、おもちゃは時代に反映されることを確認し、今のおもちゃやこれからのおもちゃのあり方について学生たちと意見交換しながら考えを深めていきたい。

受講者に対する要望

子どもの発達など、子どもに関する基本的な考え方を事前に押さえておいてもらいたい。

学びのキーワード

- ・おもちゃの歴史
- ・子どもの発達とおもちゃ
- ・子どもの遊び
- ・おもちゃの役割
- ・児童文化財

授業計画

01. オリエンテーション
02. おもちゃの役割・分類について（その1）
03. おもちゃの役割・分類について（その2）
04. 玩具文化史（その1）
05. 玩具文化史（その2）
06. 玩具文化史（その3）
07. 玩具文化史（その4）
08. ままごと玩具にかかわる探究
09. 魔法少女シリーズにかかわる探究
10. ヒーロー・ロボットにかかわる探究
11. おもちゃとキャラクターについて
12. 日本の郷土玩具について
13. 手づくりおもちゃについて
14. おもちゃの安全性について
15. 本授業のまとめ

準備学習(予習)

おもちゃ売り場や身近にある施設、おもちゃ美術館などを利用して市販や手作りに関わらず様々なおもちゃに触れておくこと。その際、自分の気づきなどをまとめておくこと。

準備学習(復習)

授業で紹介したおもちゃについても上記の施設を利用し、実物を見つけて触れておくこと。紹介した文献や入手したカタログを確認してみる。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------------------------|
| (1) 授業態度 | 20% | グループでの話し合い時や質問に対して、積極的な発言をしてもらいたい。 |
| (2) 授業内提出物 | 40% | 毎回提示する課題に対して書いてもらうリアクションペーパーを含む。 |
| (3) 課題レポート | 40% | 自分の意見や考えを入れた記述を望む。 |

毎回のリアクションペーパーについては、適宜回答や解説を行う。提出レポートは添削をした後に返却を行う。

教科書

特になし。毎回配布する自作プリントを使用する。

参考書

授業内で随時紹介する。

担当教員：東 仁美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C201935

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

外国語活動の授業内容の背景となる専門的な知識・技術などを習得し、英語運用能力を身に付ける。

(2) 内容

小学校外国語活動での実践に必要な英語力を身に付けるため、英語コミュニケーションと英語運用に必要な知識の習得を目指す科目である。小学校教員として、児童と英語でのやり取りができる英語力を4技能バランスよく身に付ける。また、指導者として知っておいてほしい知識を得ることで専門性の高い指導につなげることをねらいとする。||

受講者に対する要望

来年度には小学校外国語の教科化が先行実施となる。大学卒業後、小学校外国語科の指導ができる教員になれるようにこの授業を通して英語の運用能力を高めてほしい。

学びのキーワード

- ・ 小学校英語教育
- ・ 外国語活動
- ・ 英語運用力
- ・ 異文化の知識
- ・ 第二言語習得

授業計画

01. 小学校英語教育の現状と課題
02. 英語コミュニケーション 1 Listening
03. 英語コミュニケーション 2 Speaking
04. 英語コミュニケーション 3 Reading
05. 英語コミュニケーション 4 Writing
06. 英語コミュニケーション 5 4技能統合型の活動
07. 英語の基本的な音声の仕組み
08. 語彙の基本的な知識
09. 文法の基本的な知識
10. 発音と綴りの関係
11. 第二言語習得理論の基礎
12. マザーグースと絵本
13. さまざまな国・地域の生活・習慣
14. 異文化交流
15. プレゼンテーション

準備学習(予習)

オリジナルテキストを初回の授業で配布する。毎回の授業で扱うユニットのテキストを事前に読んで、授業に参加すること。||

準備学習(復習)

授業で使われた英語表現を復習し、実際の授業で使えるようにする。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) リフレクションの記入 | 25% |
| (3) 小テスト | 25% |
| (4) プレゼンテーション | 25% |

教科書

文部科学省『Hi, friends! 1』(東京書籍) [978-4487258833] | 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(東洋館出版社) [978-4491023779]

参考書

樋口忠彦(編著)『小学校英語教育法入門』(研究社)

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C202040

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

英語活動の意義、目標を十分に理解し、知識、情報、指導技術を生かし、現場で率先して実践できるようにする。担任として単独での授業の方法と共に、英語指導助手と共に行うIT授業の方法も学び、コミュニケーションを取ることの大切さ、楽しさ、難しさなどを体得する。

(2) 内容

小学校英語の教科化を目前にして、児童英語の概要や理論と実践を学び、コミュニケーション能力の素地、国際理解教育と英語活動の関係などを明らかにしていく。また、数多くの実践例を参考にしながら、次世代を担う児童のための英語教育のあり方を考える。歌、チャンツ、絵本の指導法から、教室英語、アクティビティーの作り方、評価方法までを体得し、模擬授業を英語だけで行うことを目指す。||

受講者に対する要望

毎回行うアクティビティーに積極的に取り組み、自分のものにして欲しい。教室英語を覚えて模擬授業には入念なりハーサルをして臨むこと。小学校教諭志望者だけでなくJ-Shine資格取得を目指す学生、民間で英語を教えたり語学学校などへの就職を望む学生はぜひ受講して欲しい。

学びのキーワード

- ・児童英語教材
- ・リズム
- ・マザーグース
- ・言語習得理論
- ・アクティビティー

授業計画

01. オリエンテーション及び小学校外国語活動の目標及び教員としての資質
02. 国際理解教育と外国語活動
03. 英語のリズムとマザーグース
04. 児童の心をつかむ教材と実践的指導法
05. 言語習得理論と実践
06. 児童英語教材の分析と応用
07. 小学校英語活動の評価と教材の選択
08. 単元計画と指導案作成
09. フィードバックとその手法
10. アクティビティー・プレゼンテーション 教材の活用方法
11. アクティビティー・プレゼンテーション ICTの活用について
12. 模擬授業と振り返り
13. 模擬授業と振り返り
14. 模擬授業と振り返り
15. 授業の確認とまとめ

準備学習(予習)

小学校英語活動は教科化を目前に常に新聞やマスコミに取り上げられている。新たな情報を得るために日頃から情報を集めること。事前に配布するプリントを読んでから、授業に参加すること。

準備学習(復習)

マザーグースやチャンツなどは常に復習して身につけること。指導案作成やアクティビティー作成など授業の課題を着実にこなして提出すること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 10% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 模擬授業 | 30% |
| (4) プレゼンテーション | 20% |
| (5) 指導案作成 | 20% |

教科書

文部科学省『Hi, friends! 2』(東京書籍)【978-4487258840】

参考書

小川 隆夫、松香 洋子 『高学年のための小学校英語 「先生、英語やろうよ! 2」 CD付』 (mp)松香フォニックス)

担当教員：徳井 千里

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1C300425

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとりの子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもの生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかで豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちと関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。

(2) 内容

乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要とされる考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。

受講者に対する要望

教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。

学びのキーワード

- ・子どもの発達
- ・子育て支援
- ・発達臨床

授業計画

01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために
02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？
03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち
04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力
05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち
06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる
07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ
08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること
09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ
10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心
11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯
12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する
13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を
14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実
15. まとめ・理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

準備学習(復習)

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくことよ。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への積極的参加(質問・発言)の有無や、プレゼンテーションの相互評価を参照します。 |
| (2) ミニテスト・提出物 | 20% | ミニテストは予習の確認として毎回の講義のなかで実施します。正誤よりも、自分で考えて積極的に回答することを期待します。 |
| (3) レポート | 20% | 関心、疑問事項を記述し、それに対する適切なコメントを添えて提出し、授業内で議論します。それをもとに、次の授業で発表させていただきます。 |
| (4) 中間・期末テスト | 40% | テストは採点のうえ返却し、模範解答の提示と解説を行います。 |

レポート・課題の未提出は大幅に減点します。

教科書

本郷一夫(編著) 第2版 『保育の心理学1・2(シードブック)』(建帛社)【978-4767950358】

参考書

担当教員：徳井 千里

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1C300430

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとりの子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもの生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかで豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちと関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。

(2) 内容

乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要とされる考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。

受講者に対する要望

教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。

学びのキーワード

- ・子どもの発達
- ・子育て支援
- ・発達臨床

授業計画

01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために
02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？
03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち
04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力
05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち
06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる
07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ
08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること
09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ
10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心
11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯
12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する
13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を
14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実
15. まとめ・理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

準備学習(復習)

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくことよ。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への積極的参加(質問・発言)の有無や、プレゼンテーションの相互評価を参照します。 |
| (2) ミニテスト・提出物 | 20% | ミニテストは予習の確認として毎回の講義のなかで実施します。正誤よりも、自分で考えて積極的に回答することを期待します。 |
| (3) レポート | 20% | 関心、疑問事項をもち、それらの疑問にコメントして質問し、授業内で議論します。それをもとに、自分の考えをまとめることを行います。 |
| (4) 中間・期末テスト | 40% | テストは採点のうえ返却し、模範解答の提示と解説を行います。 |

レポート・課題の未提出は大幅に減点します。

教科書

本郷一夫(編著) 第2版 『保育の心理学1・2(シードブック)』(建帛社)【978-4767950358】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C301135

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状(教職に関わる科目)

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育相談における基本的な態度としてのカウンセリングマインドを身につけることを目標とする。また教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

(2) 内容

教育相談及びカウンセリングや精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。適応上の諸問題についてはグループでの調査、発表、及びそれに基づいた話し合いを行い、その結果について小レポートの提出を求める。またカウンセリングについては、応答練習やロールプレイを行い、その結果について同様に小レポートの提出を求める。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談とカウンセリングマインド
02. カウンセリングの基礎
03. カウンセリングの考え方—来談者中心療法
04. カウンセリングの考え方—認知療法
05. カウンセリングの考え方—交流分析
06. カウンセリングの考え方—解決志向短期療法
07. カウンセリングの考え方—行動療法
08. こどもの理解—個性の把握
09. こどもの理解—箱庭
10. こどもの理解—描画
11. こどもの精神障害
12. こどもの不適応
13. こどもの問題行動
14. 学校カウンセリング
15. 総括(フィードバックを含む)

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、それについてあらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業でおこなった課題等について自らふりかえり、授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C301140

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状(教職に関わる科目)

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育相談における基本的な態度としてのカウンセリングマインドを身につけることを目標とする。また教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

(2) 内容

教育相談及びカウンセリングや精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。適応上の諸問題についてはグループでの調査、発表、及びそれに基づいた話し合いを行い、その結果について小レポートの提出を求める。またカウンセリングについては、応答練習やロールプレイを行い、その結果について同様に小レポートの提出を求める。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談とカウンセリングマインド
02. カウンセリングの基礎
03. カウンセリングの考え方—来談者中心療法
04. カウンセリングの考え方—認知療法
05. カウンセリングの考え方—交流分析
06. カウンセリングの考え方—解決志向短期療法
07. カウンセリングの考え方—行動療法
08. こどもの理解—個性の把握
09. こどもの理解—箱庭
10. こどもの理解—描画
11. こどもの精神障害
12. こどもの不適応
13. こどもの問題行動
14. 学校カウンセリング
15. 総括(フィードバックを含む)

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、それについてあらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業でおこなった課題等について自らふりかえり、授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C301205

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目） | 【E】人と社会の理解・人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【F】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

(2) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。またグループでの発表、話し合いも行う。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 行動変容としての学習の基礎
06. 行動変容としての学習の応用
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 乳幼児の有能さ
11. 認知発達と学習
12. パーソナリティと社会性の発達
13. 特別な支援の必要な子ども
14. 個人差の測定と評価
15. 総括（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、あらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業での課題、発表の内容について自ら整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学第4版』（有斐閣）【978-4641220591】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C301215

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目） | 【E】人と社会の理解・人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【F】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

(2) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。またグループでの発表、話し合いも行う。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 行動変容としての学習の基礎
06. 行動変容としての学習の応用
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 乳幼児の有能さ
11. 認知発達と学習
12. パーソナリティと社会性の発達
13. 特別な支援の必要な子ども
14. 個人差の測定と評価
15. 総括（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、あらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業での課題、発表の内容について自ら整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学第4版』（有斐閣）【978-4641220591】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C301320

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学びの意義と目標 | 教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目標とする。

(2) 内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

受講者に対する要望

あらかじめ問題を課すので、積極的に調べて、授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習
- ・発達

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の理論
03. 記憶
04. 学習法
05. 動機づけ
06. 教授学習
07. 発達の原理
08. 発達段階
09. 初期学習
10. 人格
11. 適応
12. 精神衛生
13. 知能
14. 教育評価
15. 総括

準備学習(予習)

予め配布する資料について調べておく。

準備学習(復習)

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と発表 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C401400

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育に関する様々な議論は、現代に特有な課題を取りあげているように見えるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。
| 複雑にみえる教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとらわれることなく、ときには概念くだきも行いながら、自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。|

(2) 内容

人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たち自身の生き方への問いであるといえる。| この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。

受講者に対する要望

全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。

学びのキーワード

- ・教育の関係論
- ・ライフサイクルと発達観
- ・教育における感性と理性
- ・学びと教えにおける媒介
- ・協同的な学びの可能性

授業計画

01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界
02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界
03. ライフサイクル論と発達観
04. イニシエーションと異校種間連携
05. 「教え」の関係構造（1）積極性
06. 「教え」の関係構造（2）消極性
07. 教育主体と学習主体
08. 観察というまなざし
09. 「子どもの理性」について
10. 直観教授について
11. 教材の意義
12. 学校の時間の特性
13. 学習集団と競争意識
14. 個人的な学びと協同的な学び
15. 教育の可能性

準備学習(予習)

教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。

準備学習(復習)

ノートの整理をして、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 75% | 各回5点×15回 |
| (2) 期末課題 | 15% | 初回に出題する。 |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求められることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。

教科書

広岡義之『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）【978-4623063413】

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C401405

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育に関する様々な議論は、現代に特有な課題を取りあげているように見えるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。
| 複雑にみえる教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとらわれることなく、ときには概念くだきも行いながら、自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。|

(2) 内容

人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たち自身の生き方への問いであるといえる。| この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。

受講者に対する要望

全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。

学びのキーワード

- ・教育の関係論
- ・ライフサイクルと発達観
- ・教育における感性と理性
- ・学びと教えにおける媒介
- ・協同的な学びの可能性

授業計画

01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界
02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界
03. ライフサイクル論と発達観
04. イニシエーションと異校種間連携
05. 「教え」の関係構造（1）積極性
06. 「教え」の関係構造（2）消極性
07. 教育主体と学習主体
08. 観察というまなざし
09. 「子どもの理性」について
10. 直観教授について
11. 教材の意義
12. 学校の時間の特性
13. 学習集団と競争意識
14. 個人的な学びと協同的な学び
15. 教育の可能性

準備学習(予習)

教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。

準備学習(復習)

ノートの整理をして学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 75% | 各回5点×15回 |
| (2) 期末課題 | 15% | 初回に出題する。 |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求めることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。

教科書

広岡義之『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）【978-4623063413】

参考書

担当教員：御手洗 明佳

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C401530

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、社会学的な「ものの見方」を身につけることにより、教員なるための素養を身につけます。そのため、授業の学修を通じて、以下のことができるようになることを目標とします。

| 1) 客観的なデータ・情報の比較や分析から、教育に関連するさまざまな事象について多面的な考察をおこない、深い理解を示すことができる。

| 2) 自分が興味をもった教育事象について、客観的なデータに基づき意見を表明することができる。

(2) 内容

いじめ、不登校、子どもの貧困、家庭のしつけや就学前教育…、私たちの周りには解決が求められる教育問題が溢れています。こうした問題を解決するにはどうしたら良いのでしょうか。教育社会学では、「良い教育とは何か」という規範を学ぶのではなく、「実際の教育とはどのようなのか」という実態の解明を目指します。教育事象そのものを客観的に把握することにより、問題の本質に迫ろうというわけです。この授業では、教育事象を捉える視点を養うことを目的とし、それを通じて私たちが当たり前と思っている教育事象について、いま一度立ち止まり、クリティカル《批判的》に考え直すことを促します。

受講者に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 家族・家庭
- ・ 学歴
- ・ 少年非行
- ・ 貧困

授業計画

01. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
02. 教育の社会的機能（1）社会化概念とその機能
03. 教育の社会的機能（2）配分と正当化
04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か
05. 学歴と階層移動（2）エリート教育
06. 逸脱行為（1）逸脱の理論
07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に）
08. 家族と教育（1）家族とはなにか
09. 家族と教育（2）戦前から戦後へ
10. 家族と教育（3）教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの生活
12. 貧困と子どもの教育
13. 教育問題を考える（1）教育環境格差
14. 教育問題を考える（2）インクルーシブ教育システム
15. 第1回～第14回講義のまとめ

準備学習(予習)

各テーマで2, 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備学習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------|
| (1) 通常の学習活動 | 40% | 出席、授業中の作業など |
| (2) レポート | 30% | 授業中に説明する1本のレポート |
| (3) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

担当教員：御手洗 明佳

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C401535

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、社会学的な「ものの見方」を身につけることにより、教員なるための素養を身につけます。そのため、授業の学修を通じて、以下のことができるようになることを目標とします。

| 1) 客観的なデータ・情報の比較や分析から、教育に関連するさまざまな事象について多面的な考察をおこない、深い理解を示すことができる。

| 2) 自分が興味をもった教育事象について、客観的なデータに基づく意見を表明することができる。

(2) 内容

いじめ、不登校、子どもの貧困、家庭のしつけや就学前教育…、私たちの周りには解決が求められる教育問題が溢れています。こうした問題を解決するにはどうしたら良いのでしょうか。教育社会学では、「良い教育とは何か」という規範を学ぶのではなく、「実際の教育とはどのようなのか」という実態の解明を目指します。教育事象そのものを客観的に把握することにより、問題の本質に迫ろうというわけです。この授業では、教育事象を捉える視点を養うことを目的とし、それを通じて私たちが当たり前と思っている教育事象について、いま一度立ち止まり、クリティカル《批判的》に考え直すことを促します。

受講者に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 家族・家庭
- ・ 学歴
- ・ 少年非行
- ・ 貧困

授業計画

01. オリエンテーション（教育社会学とはどのような学問か）
02. 教育の社会的機能（1）社会化概念とその機能
03. 教育の社会的機能（2）配分と正当化
04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か
05. 学歴と階層移動（2）エリート教育
06. 逸脱行為（1）逸脱の理論
07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に）
08. 家族と教育（1）家族とはなにか
09. 家族と教育（2）戦前から戦後へ
10. 家族と教育（3）教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの生活
12. 貧困と子どもの教育
13. 教育問題を考える（1）教育環境格差
14. 教育問題を考える（2）インクルーシブ教育システム
15. 第1回～第14回講義のまとめ

準備学習(予習)

各テーマで2, 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備学習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------|
| (1) 通常の学習活動 | 40% | 出席、授業中の作業など |
| (2) レポート | 30% | 授業中に説明する1本のレポート |
| (3) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

学校と教育の歴史（児童）

TEAT-0-300/PEDA-C-2

担当教員：小林 千枝子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C401640

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：選択科目【C】幼稚園教諭一種：選択科目

(1) 学びの意義と目標

現代の学校や教育のあり方が、人々の生活の仕方を含む社会の動きを踏まえて変化してきたことが具体的にわかり、現代の学校と教育を歴史的に考察するその基礎を習得することが本講義の目標である。それには、自分の受けてきた教育や自分が知っている学校等を客観的にとらえることも伴う。学校と教育の実際を、ただただ、そういうものとして受けとめるのではなく、なぜこうなのか、どうなるのがよいのかを、自ら考えるその一つの手がかりとして歴史に学ぶことができ、その手がかりを習得できるところに、本講義の意義がある。|||

(2) 内容

学校と教育の歴史を、日本がその影響を多分に受けた欧米社会の動向に触れながらも、日本社会のそれを中心に、近世から戦後までを概観する。編年史的歴史ではなく、日本の学校と教育の特色をよく表すことがらを積極的に取り上げることにより、学校教育が社会のあり方と深くかかわりながら変化してきたことを、受講生が具体的に理解できるようにしたい。その詳細は授業計画の欄に示した。| 学生からの質問や問題提起も講義のなかに取り入れて、学生間で議論する機会も設けたい。| 教科書は指定しないが、折に触れ、プリント教材を配布する。

受講者に対する要望

折に触れ、学生に親しみやすいような文献を紹介するので、読むようにしてほしい。「戦後70年」ということで歴史に言及する新聞記事も少なくない。学校と教育の歴史は、社会全体の人々の子育てや働き方を含む様々な生活の歴史と密接にかかわる。そうした広い視野をもって歴史に目を向け、現代教育の流れがどのような歴史のなかでつくられてきているのかを考えるようにしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学校教育と社会のかかわり
- ・ 教育を受ける権利
- ・ 生活と教育
- ・ 学校と社会
- ・ 教育と形成、教化、生活訓練、学習

授業計画

01. ガイダンス—学校と教育の歴史を学ぶということ— 教育と、その類似概念である形成、教化、生活訓練、学習等との違いを
考える。|
02. I 伝統社会の子育てと人間形成 | (1) 人口構造の変動と共同体社会の子育て慣行
03. (2) 子供組と若者組・娘組
04. II 日本における「近代学校」のはじまり | (1) 「学制」発布と明治元勳の教育思想
05. (2) 教育勅語体制の成立と展開
06. III 自由教育運動と権利としての教育という発想の成立 | (1) 新学校における「個性」尊重とその特質
07. (2) 日本教員組合啓明会の成立と展開
08. (3) 自由大学運動と農民自治会運動
09. IV 国民学校令と戦時下の子どもたち | (1) 総力戦体制と国民学校令
10. (2) 教育科学研究会におけるカリキュラム改造運動
11. (3) 戦時下における中等学校生徒たちの勤労動員の実態 |
12. V 戦後日本の教育改革とその後 | (1) 教育基本法の成立と六・三・三・四制の成立と新制中学校
13. (2) 生活への着目と戦後生活綴方
14. (3) 生活綴方と教育のかかわりを考える
15. 総まとめ

準備学習(予習)

新聞の教育や歴史に関する記事に目を向けるようにしてほしい。そうすることで、現代教育の特色がどのような歴史過程を踏まえているのかを考えるきっかけをつかんでほしい。

準備学習(復習)

講義で学んだことを振り返り、報道等で知る現代教育や自分の受けてきた教育が歴史を踏まえてきていることを考える習慣を身につけてほしい。質問は講義のなかで随時受けつける。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 学期末試験 | 80% |
| (2) 中間レポートなど | 20% |

学期末試験は記述式とする。自分自身で知識を整理し、考えることが大切である。

教科書

とくに指定しない。

参考書

小林千枝子『教育と自治の心性史—農村社会における教育・文化運動の研究—』麻原書店、1997年。| ISBN4-89434-080-1 C10371
『中内敬夫著作集』麻原書店、2000年。| ISBN4-89434-204-9 C0321 | 橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之
祐編『青年の社会的自立と教育—高度成長期日本における地域・学校・家族—』大月書店、2011年。| ISBN978-4-272-41213-6 C00371
小林千枝子『戦後日本の地域と教育—京都北條郡における教育実践の社会史—』学苑出版社、2014年。| ISBN978-4-284-10415-9
C3037 | 小林千枝子・平岡さつき・中内敬夫『到達度評価—子どもの思考を深める教育方法の開拓へ—』昭和堂、2016年。| ISBN978-4-8122-1528-9 C3037

担当教員：田中 かおる

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C401925

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

保育内容と聖書のメッセージとの関連を確認しながら、キリスト教保育の視点を学ぶ。

(2) 内容

本講義では、キリスト教保育の基盤となることを確認し、考察することを目的とする。|手順としては、以下のように進める。まず、キリスト教が日本の幼児教育にもたらした影響を確認する。次に、キリスト教保育の基盤である聖書における人間観、及びイエス・キリストの子ども観を確認する。。その過程において、保育の現場と聖書のメッセージとが、どのようにかかわるのかを、実際の保育事例と照らし合わせながら考察し、キリスト教保育とは何かを考える。キリスト教保育者論やカリキュラムについても考える。

受講者に対する要望

毎回、聖書を持参すること。

学びのキーワード

- ・日本の幼児教育界への影響
- ・聖書の人間観（旧新約）と保育の実践
- ・イエス・キリストの子ども理解
- ・キリスト教の行事（三大祭り）

授業計画

01. オリエンテーション
02. 日本のキリスト教幼児教育・保育の歴史
03. キリスト教の行事（三大祭り他）
04. 聖書の人間観（1）天地創造物語における人間の位置
05. 聖書の人間観（2）アダムとエバー人間の問題と神の守り（保育の視点）―|
06. 聖書人間観（3）カインとアベル―人間の問題と神の守り（保育の視点）―
07. 聖書の人間観（4）箱舟物語（絵本）―神の守りと使命―
08. 聖書の人間観（5）十戒―神の養育―|
09. イエス・キリストの子ども理解
10. 「キリスト教幼児教育概説」に学ぶⅠ（松川成夫論文概観）
11. 「キリスト教幼児教育概説」に学ぶⅡ（保育者論）|
12. 「キリスト教幼児教育概説」に学ぶⅢ（保育カリキュラム）
13. キリスト教保育の現場から（ビデオによる実践報告）
14. 『キリスト教幼児教育指針』から学ぶ
15. まとめ

準備学習(予習)

該当する聖書箇所をあらかじめ読んでくること。

準備学習(復習)

講義内容の確認
①小レポートによる振り返り
②ノートによる振り返り

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------------------|
| (1) 毎回の小レポート | 20% | 授業の事後、10分以内で講義内容を振り返り、感想、意見、質問を書き出す。 |
| (2) 礼拝 | 30% | |
| (3) 課題レポート | 50% | 講義の項目を一つ選び、講義内容を要約し、考察する。 |

教科書

参考書

キリスト教保育連盟『新・キリスト教保育』|キリスト教保育連盟『キリスト教幼児教育概説』

担当教員：本多 勇

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10510105

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主任任用資格：選択必修 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学びの意義は、子どもの育ちと暮らしを支える保育士として、現代社会における社会福祉の知識と技術についての基礎的理解を深める、ということです。| 学びの目標は、(1)現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、(2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、(3)社会福祉の制度や実施体系等、(4)社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかる仕組み、(5)社会福祉の動向と課題について、の5つの“社”について理解します。その上で、保育士/児童福祉専門職として、社会福祉のクライアント（養護児童、障害者、要介護高齢者、貧困者、保育所などを利用する児童や保護者等）を「社会的弱者」として捉えるのではなく、そこにある生活課題を社会における問題として認識できるようにします。

(2) 内容

社会福祉は、現代社会において私たちの生活を支える社会制度の一つです。この講義では、その社会福祉に関する基礎的知識および技術について学びます。

受講者に対する要望

・新聞・テレビ・インターネット等の社会福祉に関連する報道や、自分の住んでいる地域での社会福祉に関連する制度や問題に、関心を持ちましょう。
・『社会福祉小六法』や『社会福祉用語辞典』を参考書として用意しておくことさらに理解が深まります。（ミネルヴァ書房、中央法規出版など）
・質問・意見を積極的に発言すること（思ったこと、考えたことを言葉で表現しましょう）。
・授業中の私語はしないこと。音を出さないこと。ゲームやスマホ・ケータイなどで内職しないこと。
・かばんは机上に置かないこと。
・フラットファイル等で、配布したプリント等は綴じてまとめておくこと。

学びのキーワード

- ・社会のなかの生活
- ・社会関係
- ・制度、法律
- ・支援（援助）の方法
- ・ソーシャルワーク

授業計画

01. (社会福祉の意義と歴史の変遷1) イントロダクション 社会福祉とは？
02. (社会福祉の意義と歴史の変遷2) 社会福祉の理念と概念
03. (社会福祉の意義と歴史の変遷3) 社会福祉の歴史の変遷
04. (社会福祉と児童家庭福祉1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
05. (社会福祉と児童家庭福祉2) 児童の人権擁護と社会福祉
06. (社会福祉と児童家庭福祉3) 家庭支援と社会福祉
07. (社会福祉制度と実施体系1) 社会福祉の制度と法体系
08. (社会福祉制度と実施体系2) 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
09. (社会福祉制度と実施体系3) 社会福祉の専門職・実施者、社会保障及び関連制度
10. (相談援助・利用者保護1) 相談援助の意義と原則
11. (相談援助・利用者保護2) 相談援助の方法と技術
12. (相談援助・利用者保護3) 情報提供と第三者評価、利用者の権利擁護と苦情解決
13. (社会福祉の動向1) 少子高齢化社会への対応、在宅福祉・地域福祉の推進
14. (社会福祉の動向2) チームアプローチとネットワーク、諸外国の動向
15. (半期のふりかえり、まとめ) あらためて、社会福祉とは？

準備学習(予習)

テキストの該当箇所を事前に読んで理解をすすめておくことが望ましい。

準備学習(復習)

毎回プリント（レジュメ、資料）を配布するので整理し、理解をすすめる。あわせてテキストに目を通し、理解を深める。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|-------------------------|
| (1) リアクションペーパー | 40% | 与えられた課題についてしっかり書いてください。 |
| (2) 期末テスト | 60% | 試験の概要は授業中に伝えます。 |

出席時のリアクションペーパー提出40%及び期末テスト60%で評価する。保育士養成必修科目のため15回全出席が原則。毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

教科書

新保育士養成講座編集委員会『新保育士養成講座 第4巻 社会福祉』（全国社会福祉協議会）【978-4793511608】

参考書

担当教員：笹瀨 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510210

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

希薄化した家族関係や地域社会とのつながりから、狭い限られた人間関係に悩まされ、傷ついている子どもや大人も少なくない時代。相談援助を学ぶことで、これを学んだ者にしかできないことは何か？を考えつつ、相談援助者の存在理由を一緒に求めていきたい。| 子どものこと、障害児者のこと、高齢者のことをよく知らないし、現場体験も乏しい受講者が少なくないと思うので、演習科目である本講義では、相談援助の基礎的な理論や方法だけでなく、将来、福祉の現場でも応用できる援助技術の習得を目指したい。そのために、①様々な対人援助の理論と具体的な援助技術を身につけること ②社会資源の活用に慣れ、地域の福祉力を高める力をつけること ③現場から学べる人であって欲しい 以上の3点を目標に授業を進めていくので、全力でぶつかってきて欲しい。|

(2) 内容

相談援助とは、様々な悩みや問題を抱え、それを解決するために援助を求めて来談した人と、一定の訓練と経験を経た職業的専門家である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる援助の事である。まず、相談援助の概要や意義から入り、その理論について考察し、相談援助の方法や技術についての理解を深め、具体的な展開についても学びつつ、様々な相談援助の場面での事例分析を行っていく。|カリキュラム上の位置づけ：| 相談援助によって、来談者に起きることが期待される変化は、来談者の悩みや問題の解決だけでなく、自己実現や個人としての生き方をも含んでいるので、児童学科の基礎科目を終了した段階が望ましい。

受講者に対する要望

子ども達の健やかな育ちを支え、親や地域の育児力を高めるためにも、相談援助の技術を習得して欲しい。

学びのキーワード

- ・事例分析
- ・専門職との連携
- ・社会資源の活用と創出
- ・ケースワークとグループワーク

授業計画

01. 相談援助の意義と機能（オリエンテーション・DV・QOL・社会資源、アドボカシー）
02. 相談援助理論（児童の権利宣言・保育所保育指針・不登校・ノーマリゼーション、援助理論の特徴）
03. 相談援助とソーシャルワーク（COS・リッチモンド・セツルメント・自立とは）
04. 相談援助の方法と理解（相談援助の過程・アウトリーチ・傾聴・スーパービジョン・コンサルテーション）
05. 相談援助の環境と技術（相談援助の対象・援助技術・傾聴ボラ・OJT／offJT）
06. 相談援助の具体的展開（ケースワークの諸原則・吃音相談とその具体的対応例）
07. ケースワークの具体的展開（バズスティックの7原則・自己覚知・ホームスタート・ベテるの家）
08. グループワークを活用した相談援助（その1）Gコノブカ・成瀬裕策の動作法・カウンセリング）
09. グループワークを活用した相談援助（その2）アルコール依存症・グループワークの構成要素・ADA）
10. グループワークの具体的展開（グループワークの諸原則・合計特殊出生率・GWの展開過程）|
11. 相談援助における記録と評価（記録のとおり方・書き方・評価と所見・説明責任）
12. 多様な専門職との連携（児童施設の専門職・職員間の連携・行政機関の専門職）
13. 社会資源の活用・調整・開発（保育領域を超える問題・ひとり親家庭・MSW・保護司）
14. 相談援助の課題と展望（事例分析）（子育て不安・わが町の社会資源活用例・ロールプレイ・フィールドワーク・ホームヘルパー）
15. まとめ

準備学習（予習）

授業計画を必ず読んで、必要な語句やトピックについて情報を集めておく。初めて接する専門用語がたくさん出てくるので、あらかじめ予習しておかないと理解が難しいと思う。

準備学習（復習）

講義で使ったプリント・資料を再読して、専用のファイルに収納すること。出題された「課題演習」をやって、次週までに提出発表出来るようにしておくこと。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--------------------------------|
| (1) まとめ | 80% | 第15講時に実施(90分) |
| (2) 平常点 | 10% | 15~14回 10% 13~12回 8% 11~10回 6% |
| (3) 授業への参加度 | 10% | 意見、感想、疑問等記入&レポート課題提出 |

教科書

参考書

配布するプリント・資料を収納する専用ファイルを2冊用意しておくこと。

担当教員：笹瀨 悟

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510215

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

希薄化した家族関係や地域社会とのつながりから、狭い限られた人間関係に悩まされ、傷ついている子どもや大人も少なくない時代。相談援助を学ぶことで、これを学んだ者にしかできないことは何か？を考へつつ、相談援助者の存在理由を一緒に求めていきたい。| 子どものこと、障害児者のこと、高齢者のことをよく知らないし、現場体験も乏しい受講生が少なくないと思うので、演習科目である本講義では、相談援助の基礎的な理論や方法だけでなく、将来、福祉の現場でも応用できる援助技術の習得を目指したい。そのために、①様々な対人援助の理論と具体的な援助技術を身につけること ②社会資源の活用に慣れ、地域の福祉力を高める力をつけること ③現場から学べる人であって欲しい 以上の3点を目標に授業を進めていくので、全力でぶつかってきて欲しい。|

(2) 内容

相談援助とは、様々な悩みや問題を抱え、それを解決するために援助を求めて来談した人と、一定の訓練と経験を経た職業的専門家である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる援助の事である。まず、相談援助の概要や意義から入り、その理論について考察し、相談援助の方法や技術についての理解を深め、具体的な展開についても学びつつ、様々な相談援助の場面での事例分析を行っていく。|カリキュラム上の位置づけ：| 相談援助によって、来談者に起きることが期待される変化は、来談者の悩みや問題の解決だけでなく、自己実現や個人としての生き方をも含んでいるので、児童学科の基礎科目を終了した段階が望ましい。

受講者に対する要望

子ども達の健やかな育ちを支え、親や地域の育児力を高めるためにも、相談援助の技術を習得して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 事例分析
- ・ 専門職との連携
- ・ 社会資源の活用と創出
- ・ ケースワークとグループワーク

授業計画

01. 相談援助の意義と機能（オリエンテーション・DV・QOL・社会資源・アドボカシー）
02. 相談援助理論（児童の権利宣言・保育所保育指針・不登校・ノーマリゼーション・援助理論の特徴）
03. 相談援助とソーシャルワーク（COS・リッチモンド・セツルメント・自立とは）
04. 相談援助の方法と理解（相談援助の過程・アウトリーチ・傾聴・スーパービジョン・コンサルテーション）
05. 相談援助の環境と技術（相談援助の対象・援助技術・傾聴ボラ・OJT／offJT）
06. 相談援助の具体的展開（ケースワークの諸原則・吃音相談とその具体的対応例・CWの展開過程）
07. ケースワークの具体的展開（バズスティックの7原則・自己覚知・ホームスタート・ベテランの家）
08. グループワークを活用した相談援助（その1）Gコノブカ・成瀬裕策の動作法・カウンセリング）
09. グループワークを活用した相談援助（その2）アルコール依存症・グループワークの構成要素・ADA）
10. グループワークの具体的展開（グループワークの諸原則・合計特殊出生率・GWの展開過程）|
11. 相談援助における記録と評価（記録のとり方・書き方・評価と所見・説明責任）
12. 多様な専門職との連携（児童施設の専門職・職員間の連携・行政機関の専門職）
13. 社会資源の活用・調整・開発（保育領域を超える問題・ひとり親家庭・MSW・保護司）
14. 相談援助の課題と展望（事例分析）（子育て不安・わが町の社会資源活用例・ロールプレイ・フィールドワーク・ホームヘルパー）
15. まとめ（授業内試験）

準備学習（予習）

授業計画を必ず読んで、必要な語句やトピックについて情報を集めておく。初めて接する専門用語がたくさん出てくるので、あらかじめ予習をしておかないと理解が難しいと思われる。

準備学習（復習）

講義で使ったプリント・資料を再読して、専用のファイルに収納すること。出題された「課題演習」をやって、次週までに提出発表出来るようにしておくこと。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|--------------------------------|
| (1) 授業内試験（まとめ） | 80% | 第15講時に実施 |
| (2) 平常点 | 10% | 15~14回 10% 13~12回 8% 11~10回 6% |
| (3) 授業への参加度 | 10% | 意見、感想、疑問等記入&レポート課題提出 |

教科書

使用しない。

参考書

配布するプリント・資料を収納する専用ファイルを2冊用意しておくこと。

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10510320

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける | 【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童家庭福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童家庭福祉の考え方を身につけることをねらいとする。

(2) 内容

現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。

受講者に対する要望

保育士になる意識をもって、授業に臨んでください。

本授業の内容を理解したうえで「保育実習」に臨んでほしいと願っています。

レスポンスシートを出席参加の確認・授業の振り返りに活用してください。

学びのキーワード

- ・ 児童福祉
- ・ 児童福祉法
- ・ 保育士

授業計画

01. 児童家庭福祉の理念と概念
02. 児童家庭福祉と子どもの人権の歴史的変遷
03. 現代社会と児童家庭福祉
04. 児童家庭福祉の一分野としての保育
05. 児童家庭福祉の制度と法体系
06. 児童家庭福祉行財政と実施機関
07. 児童福祉施設と児童福祉の事業（1）児童の居住型施設
08. 児童福祉施設と児童福祉の事業（2）通所型施設と事業
09. 少子化と多様な保育ニーズ・子育て支援
10. 児童虐待防止
11. 母子保健と児童の健全育成
12. 社会的養護・非行への対応と支援
13. 障害のある児童への支援
14. 児童家庭福祉の専門職
15. 総括

準備学習(予習)

次の授業回の該当章の教科書を一読しておく。

準備学習(復習)

授業でこまめに取ったノートをもとめる。
ノートに照らしながら該当部分の教科書を使って復習を行う。（特に、遅刻・欠席・居眠り等、集中して聴けない時間があった場合には、補う必要があります）

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | レスポンスシートへの記入内容で判断する |
| (2) 試験 | 70% | |

教科書

松本 園子『子どもと家庭の福祉を学ぶ』（ななみ書房）【978-4903355351】

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10510325

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける | 【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童家庭福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童家庭福祉の考え方を身につけることをねらいとする。

(2) 内容

現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。 |

受講者に対する要望

保育士になる意識をもって、授業に臨んでください。

本授業の内容を理解したうえで「保育実習」に臨んでほしいと願っています。

レスポンスシートを出席参加の確認・授業の振り返りに活用してください。

学びのキーワード

- ・ 児童福祉
- ・ 児童福祉法
- ・ 保育士

授業計画

01. 児童家庭福祉の理念と概念
02. 児童家庭福祉と子どもの人権の歴史の変遷
03. 現代社会と児童家庭福祉
04. 児童家庭福祉の一分野としての保育
05. 児童家庭福祉の制度と法体系
06. 児童家庭福祉行財政と実施機関
07. 児童福祉施設と児童福祉の事業（1）児童の居住型施設
08. 児童福祉施設と児童福祉の事業（2）通所型施設と事業
09. 少子化と多様な保育ニーズ・子育て支援
10. 児童虐待防止
11. 母子保健と児童の健全育成
12. 社会的養護・非行への対応と支援
13. 障害のある児童への支援
14. 児童家庭福祉の専門職
15. 総括

準備学習(予習)

次の授業回の該当章の教科書を一読しておく。

準備学習(復習)

授業でこまめに取ったノートをもとめる。
ノートに照らしながら該当部分の教科書を使って復習を行う。（特に、遅刻・欠席・居眠り等、集中して聴けない時間があった場合には、補う必要があります）

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | レスポンスシートへの記入内容で判断する |
| (2) 試験 | 70% | |

教科書

松本 園子『子どもと家庭の福祉を学ぶ』（ななみ書房）【978-4903355351】

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10510430

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育の世界に身をもってかかわるには、ゆたかな感受性としなやかな思考力をもって、学び得たことを保育実践に活かしていこうとする意欲が求められる。その意欲を受講生自身が確認することを、学びの意義とする。
| 保育の世界は、「育ち・育てる」の基本形を保持して発展してきた。したがって、時代の変化があっても、基本形を壊すことなく、時代の状況に応じた保育をおこなう知恵とわざをもっている。こうした保育の基本・基礎に関心を持ち、それを大切に受け継いで理解することを、学びの目標とする。

(2) 内容

保育は、育つ者と育てる者とのあいだの、細やかで大らかな関わり合いに生起する、日々のいとなみである。倉橋惣三は『育ての心』のなかで「世の中にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である」と保育の心を述べた。この心を、保育の基礎として理解したい。| 私たちは、保育の基礎を、子どもと大人との〈目交（まなか）い〉に注目して理解したい。日々の生活のなかで両者が互いに見つめあい、表情を交わしあうところに、保育の楽しさ、明るさ、そして温かさを感じるのではないだろうか。そうした保育の基本を大切にしたい。|

受講者に対する要望

日常生活のなかで、季節の移ろいを感じたり、ちょっとした物事の変化に気づいたり、小さな不思議をおもしろいと思ったりすることを、大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・子育ての習俗
- ・発達の過程
- ・子どもの育ちと生活環境
- ・子ども観と保育観
- ・保育の課題

授業計画

01. 保育の原義
02. 「育つ・育てる」の関係
03. 産育の習俗 (1) 誕生のときを迎える
04. 産育の習俗 (2) 七歳を迎える
05. 発達の過程 (1) ものに触れて世界を知る
06. 発達の過程 (2) ことばの発展と社会性
07. 保育の場：子どもが育つ環境を考える
08. 保育の時間：子どもの生活を考える
09. 保育の内容と方法 (1) 個と集団、そして共同性を考える
10. 保育の内容と方法 (2) 過程と成果のあり方を考える
11. 保育の課程：計画・実践・記録・評価、そして省察
12. 保育の思想と歴史 (1) 自由について
13. 保育の思想と歴史 (2) 権利について
14. 保育における課題
15. 保育の可能性

準備学習(予習)

配布プリントや保育に関する新聞記事などを読んで、その内容をノートに記録する。

準備学習(復習)

ノートの整理をしながら、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典(教科書)などを活用して、学んだことを補完する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 70% | 各回5点×14回 |
| (2) 期末課題 | 20% | |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求める。

教科書

森上 史朗、柏女 霊峰『保育用語辞典(第8版)』(ミネルヴァ書房)【978-4623073528】

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10510435

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育の世界に身をもってかかわるには、ゆたかな感受性としなやかな思考力をもって、学び得たことを保育実践に活かしていこうとする意欲が求められる。その意欲を受講生自身が確認することを、学びの意義とする。
| 保育の世界は、「育ち・育てる」の基本形を保持して発展してきた。したがって、時代の変化があっても、基本形を壊すことなく、時代の状況に応じた保育をおこなう知恵とわざをもっている。こうした保育の基本・基礎に関心を持ち、それを大切に受け継いで理解することを、学びの目標とする。

(2) 内容

保育は、育つ者と育てる者とのあいだの、細やかで大らかな関わり合いに生起する、日々のいとなみである。倉橋惣三は『育ての心』のなかで「世の中にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である」と保育の心を述べた。この心を、保育の基礎として理解したい。| 私たちは、保育の基礎を、子どもと大人との〈目交（まなか）い〉に注目して理解したい。日々の生活のなかで両者が互いに見つめあい、表情を交わしあうところに、保育の楽しさ、明るさ、そして温かさを感じるのではないだろうか。そうした保育の基本を大切にしたい。|

受講者に対する要望

日常生活のなかで、季節の移ろいを感じたり、ちょっとした物事の変化に気づいたり、小さな不思議をおもしろいと思ったりすることを、大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・子育ての習俗
- ・発達の過程
- ・子どもの育ちと生活環境
- ・子ども観と保育観
- ・保育の課題

授業計画

01. 保育の原義
02. 「育つ・育てる」の関係
03. 産育の習俗 (1) 誕生のときを迎える
04. 産育の習俗 (2) 七歳を迎える
05. 発達の過程 (1) ものに触れて世界を知る
06. 発達の過程 (2) ことばの発展と社会性
07. 保育の場：子どもが育つ環境を考える
08. 保育の時間：子どもの生活を考える
09. 保育の内容と方法 (1) 個と集団、そして共同性を考える
10. 保育の内容と方法 (2) 過程と成果のあり方を考える
11. 保育の課程：計画・実践・記録・評価、そして省察
12. 保育の思想と歴史 (1) 自由について
13. 保育の思想と歴史 (2) 権利について
14. 保育における課題
15. 保育の可能性

準備学習(予習)

配布プリントや保育に関する新聞記事などを読んで、その内容をノートに記録する。

準備学習(復習)

ノートの整理をしながら、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典(教科書)などを活用して、学んだことを補完する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 70% | 各回5点×14回 |
| (2) 期末課題 | 20% | |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求める。

教科書

森上 史朗, 柏女 豊峰『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)【978-4623073528】

参考書

担当教員：坂本 佳代子、春木 豊

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10510540

<p>学部教育の関連目</p> <p>【C】保育者に必要な知識・技能を身につける</p>	<p>授業計画</p> <p>01. 社会的養護の理念と概念 02. 現代の子育て環境 03. 子育て支援制度 訪問・相談 04. 子育て支援制度 預かり支援 05. 子育て支援制度 集いの広場 06. 現代の要保護児童 07. 保護者支援 08. 虐待 09. 虐待への対策 10. 施設養護の実際 I 11. 施設養護の実際 II 12. 施設養護の実際 III 13. 里親制度 I 14. 里親制度 II 15. 社会的養護概観</p>						
<p>カリキュラム上の位置付け</p> <p>【C】保育士資格：必修科目</p>							
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>児童の問題は社会状況との関係で生じてくることを学んでほしい。すなわち、現在の大きな課題である虐待についても、被虐待児童と虐待をしてしまう親の双方が支援対象であることを認識してほしい。</p>							
<p>(2) 内容</p> <p>本来、子どもは家庭において養育されるものと捉えられています。しかし、古来より少なくない人数の子どもが、家庭以外の場で育てられてきている歴史があります。今、我々の時代にそれら家庭以外の養育形態を「社会的養護」という言葉で表現し、意味づけています。この講義では、 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 以上を主たる目標として、学ぶものとする。 授業の中では、社会問題への理解と関心が必要となる。授業の中で、新聞記事等に触れ、そこから読解する</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>常に、自治問題に関心を持ち続け「社会的養護」関係の話題がピックアップできるようにしてください。</p>						
<p>受講者に対する要望</p> <p>保育士という対人援助を目指す学生は、日々の自身の態度が重視される。このことを実践するためにも、授業中はきちんとした心構えと態度で臨んでほしい。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>毎回授業時に質疑応答（ディスカッション）し、理解度について確認する。</p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 里親 ・ 児童相談所 ・ 措置 ・ 虐待 ・ 自立支援 	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>(2) 平常点</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>(3) 授業参加態度</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>教科書</p> <p>参考書</p>	(1) 試験	50%	(2) 平常点	20%	(3) 授業参加態度	30%
(1) 試験	50%						
(2) 平常点	20%						
(3) 授業参加態度	30%						

担当教員：坂本 佳代子、春木 豊

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10510545

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童の問題は社会状況との関係で生じてくることを学んでほしい。すなわち、現在の大きな課題である虐待についても、被虐待児童と虐待をしてしまう親の双方が支援対象であることを認識してほしい。

(2) 内容

本来、子どもは家庭において養育されるものと捉えられています。しかし、古来より少なくない人数の子どもが、家庭以外の場で育てられてきている歴史があります。今、我々の時代にそれら家庭以外の養育形態を「社会的養護」という言葉で表現し、意味づけています。この講義では、|1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。|2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。|3. 社会的養護の制度や実施体系について理解する。|4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。|5. 社会的養護の現状と課題について理解する。|以上を主たる目標として、学ぶものとする。|授業の中では、社会問題への理解と関心が必要となる。授業の中で、新聞記事等に触れ、そこから読解する

受講者に対する要望

保育士という対人援助を目指す学生は、日々の自身の態度が重視される。このことを実践するためにも、授業中はきちんとした心構えと態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 里親
- ・ 児童相談所
- ・ 措置
- ・ 虐待
- ・ 自立支援

授業計画

01. 社会的養護の理念と概念
02. 現代の子育て環境
03. 子育て支援制度 訪問・相談
04. 子育て支援制度 預かり支援
05. 子育て支援制度 集いの広場
06. 現代の要保護児童
07. 保護者支援
08. 虐待
09. 虐待への対策
10. 施設養護の実際 I
11. 施設養護の実際 II
12. 施設養護の実際 III
13. 里親制度 I
14. 里親制度 II
15. 社会的養護概観

準備学習(予習)

常に、自治問題に関心を持ち続け「社会的養護」関係の話題がピックアップできるようにしてください。

準備学習(復習)

毎回授業時に質疑応答（ディスカッション）し、理解度について確認する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 授業参加態度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：岸澤 藤子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510650

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

乳児保育が必要とされる社会的背景を説明できるようになる。また、乳児保育の現状と課題を理解し考えを深める。さらに、乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割について学ぶ。|加えて、それぞれの発表を通して乳児と信頼関係を築くために必要な保育技術を身につける。

(2) 内容

乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人としての土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらよいのだろうか。乳児保育の需要が高まりを見せる中、本講義では、養護と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技能を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。

受講者に対する要望

日頃から、乳幼児に関する新聞記事及びニュース、特集に関心を持ち、現代的な課題にアンテナを張っておくこと

学びのキーワード

- ・ 乳児保育の理念と歴史の変遷
- ・ 乳児保育の役割と機能
- ・ 乳児保育の現状と課題
- ・ 3歳未満児の生活と遊び
- ・ 保育技術の向上

授業計画

01. 乳児保育とは
02. 赤ちゃんの誕生
03. 乳児保育が求められる社会的背景
04. 乳児保育の現状
05. 乳児保育の歴史の変遷
06. 乳児院における乳児保育
07. 家庭的保育等における乳児保育
08. 保育所における乳児保育
09. 保育所における乳児保育の実際
10. 乳児や家庭をとりまく環境と子育て支援の場
11. 認定こども園とは
12. 児童福祉法、児童福祉施設最低基準
13. 労働基準法、育児・介護休業法
14. 保育所保育指針
15. まとめ

準備学習(予習)

自らすすんで、実際に乳児と触れ合う機会を持つこと。また、授業の中で、手作り玩具と手遊びの発表を行うので準備をしておくこと。

準備学習(復習)

乳児の月齢に応じた手遊びを、自信を持って楽しくできるように復習しておくこと

評価方法

(1) 平常点	20%
(2) 提出物	20%
(3) 発表	20%
(4) 筆記試験	40%

教科書

志村聡子 編『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院)【978-4810313680】

参考書

担当教員：岸澤 藤子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510655

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

乳児保育が必要とされる社会的背景を説明できるようになる。また、乳児保育の現状と課題を理解し考えを深める。さらに、乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割について学ぶ。|加えて、それぞれの発表を通して乳児と信頼関係を築くために必要な保育技術を身につける。

(2) 内容

乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人としての土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらよいのだろうか。乳児保育の需要が高まりを見せる中、本講義では、養護と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技能を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。

受講者に対する要望

日頃から、乳幼児に関する新聞記事及びニュース、特集に関心を持ち、現代的な課題にアンテナを張っておくこと

学びのキーワード

- ・ 乳児保育の理念と歴史の変遷
- ・ 乳児保育の役割と機能
- ・ 乳児保育の現状と課題
- ・ 3歳未満児の生活と遊び
- ・ 保育技術の向上

授業計画

01. 乳児保育とは
02. 赤ちゃんの誕生
03. 乳児保育が求められる社会的背景
04. 乳児保育の現状
05. 乳児保育の歴史の変遷
06. 乳児院における乳児保育
07. 家庭的保育等における乳児保育
08. 保育所における乳児保育
09. 保育所における乳児保育の実際
10. 乳児や家庭をとりまく環境と子育て支援の場
11. 認定こども園とは
12. 児童福祉法、児童福祉施設最低基準
13. 労働基準法、育児・介護休業法
14. 保育所保育指針
15. まとめ

準備学習(予習)

自らすすんで、実際に乳児と触れ合う機会を持つこと。また、授業の中で、手作り玩具と手遊びの発表を行うので準備をしておくこと。

準備学習(復習)

乳児の月齢に応じた手遊びを、自信を持って楽しくできるように復習しておくこと

評価方法

(1) 平常点	20%
(2) 提出物	20%
(3) 発表	20%
(4) 筆記試験	40%

教科書

志村聡子 編『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院)【978-4810313680】

参考書

担当教員：田村 すゝか

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510760

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

人生の土台を作る大切な時期にある0～2歳児の心と体の発達を理解し、月齢に応じてその育ちを支える保育者としての基礎を作る。|また、様々な発達状況・家庭環境にある乳児に対する関わりなど、実践場面で想定される保育についても具体的に学ぶ。|

(2) 内容

3歳未満の子どもを対象として保育にあたるために必要な理論と知識を学ぶ。特に「乳児保育B」では(1)乳児期の子どもの発育と発達及びその援助(2)乳児保育の実践にあたるためのポイント(計画と記録)(3)保護者・保育者・地域との連携の3点を柱として講義を行う。|カリキュラムの位置づけ：|「乳児保育A」とは学習領域を分けて講義を行う。|

受講者に対する要望

実際に乳幼児と関わる機会を作り、学んだことを体感できるよう努めてほしい。また、平素からニュースなどの報道に接することによって、乳幼児や保護者が置かれている現状を把握するよう期待している。

学びのキーワード

- ・ 人生の基礎の形成期
- ・ 乳幼児の発育と発達
- ・ 保護者の理解と支援
- ・ 保育者の連携・他職種との連携

授業計画

01. オリエンテーション
02. 赤ちゃんの誕生（妊娠から胎児期、誕生まで）
03. 子どもの心と体の発達（1）（人間の赤ちゃんの誕生）
04. 子どもの心と体の発達（2）（出生～3カ月まで）
05. 子どもの心と体の発達（3）（生後4カ月～8カ月まで①）
06. 子どもの心と体の発達（4）（生後4カ月～8カ月まで②）
07. 子どもの心と体の発達（5）（生後9カ月～15カ月まで）
08. 子どもの心と体の発達（6）（生後15カ月～2歳まで）
09. 子どもの心と体の発達（7）（2歳児）
10. 子どもの心と体の発達（まとめ）
11. 保護者との連携・保護者への支援
12. 発達の遅れと援助
13. 地域との連携 子どもの健康と安全
14. 乳児保育の計画と評価
15. 総括と試験

準備学習(予習)

授業計画を参照して該当する項目に関して教科書に事前に目を通す。

準備学習(復習)

毎回授業のはじめに前回の復習を兼ねたプリントを行うことで知識の定着を図る。そのため、前回のノートに頼らずにプリントに記入できるように、各回のポイントについて復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|----------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 最初の授業で指示する |

教科書

吉長 真子, 志村 聡子『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院)【978-4810313680】

参考書

担当教員：田村 すゝか

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510765

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

人生の土台を作る大切な時期にある0～2歳児の心と体の発達を理解し、月齢に応じてその育ちを支える保育者としての基礎を作る。|また、様々な発達状況・家庭環境にある乳児に対する関わりなど、実践場面で想定される保育についても具体的に学ぶ。|

(2) 内容

3歳未満の子どもを対象として保育にあたるために必要な理論と知識を学ぶ。特に「乳児保育B」では(1)乳児期の子どもの発育と発達及びその援助(2)乳児保育の実践にあたるためのポイント(計画と記録)(3)保護者・保育者・地域との連携の3点を柱として講義を行う。|カリキュラムの位置づけ：|「乳児保育A」とは学習領域を分けて講義を行う。|

受講者に対する要望

実際に乳幼児と関わる機会を作り、学んだことを体感できるよう努めてほしい。また、平素からニュースなどの報道に接することによって、乳幼児や保護者が置かれている現状を把握するよう期待している。

学びのキーワード

- ・ 人生の基礎の形成期
- ・ 乳幼児の発育と発達
- ・ 保護者の理解と支援
- ・ 保育者の連携・他職種との連携

授業計画

01. オリエンテーション
02. 赤ちゃんの誕生（妊娠から胎児期、誕生まで）
03. 子どもの心と体の発達（1）（人間の赤ちゃんの誕生）
04. 子どもの心と体の発達（2）（出生～3カ月まで）
05. 子どもの心と体の発達（3）（生後4カ月～8カ月まで①）
06. 子どもの心と体の発達（4）（生後4カ月～8カ月まで②）
07. 子どもの心と体の発達（5）（生後9カ月～15カ月まで）
08. 子どもの心と体の発達（6）（生後15カ月～2歳まで）
09. 子どもの心と体の発達（7）（2歳児）
10. 子どもの心と体の発達（まとめ）
11. 保護者との連携・保護者への支援
12. 発達の遅れと援助
13. 地域との連携 子どもの健康と安全
14. 乳児保育の計画と評価
15. 総括と試験

準備学習(予習)

授業計画を参照して該当する項目に関して教科書に事前に目を通す。

準備学習(復習)

毎回授業のはじめに前回の復習を兼ねたプリントを行うことで知識の定着を図る。そのため、前回のノートに頼らずにプリントに記入できるよう、各回のポイントについて復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|----------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 最初の授業で指示する |

教科書

吉長 真子, 志村 聡子『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院)【978-4810313680】

参考書

社会的養護内容（保①）

SWEL-C-200

担当教員：笹瀨 悟

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10510870

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では、「利用児や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって進めていくので、受講生は、社会的養護内容の専門的な知識だけでなく、具体的な援助技術や多様な考え方を身につけることができると思う。子どもを育むことは、第一義的には両親の責務であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっている。児童施設に入所している子どもやその家族に表面化していることが、普通の家族の中にも潜んでいる事が見てとれるのである。それは、児童施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会的養護が必要な時代にあることを物語っている。従って、社会的養護内容を学ぶことは、子どもの権利や家庭や社会の在り方について理解を深めることにつながる。本講義を通して、社会的養護内容を学んだ学生諸君が、保育所だけでなく、各種児童施設において、また、地域住民の一人として児童福祉を支え、子どもの最善の利益を守る主体となり、その実現に向けて働きかけてくれることを、心から願っている。

(2) 内容

本講義では、まず社会的養護における児童の権利養護やその仕組み、児童の生存発達保障、保育士の倫理と責務、児童養護の体系と児童福祉施設の概要、各種児童施設の暮らし、保育士の専門性に関する知識と援助技術、それにソーシャルワーク技術の活用等について、さらに社会的養護内容の課題と展望についても学ぶ。（詳細は、開講時に説明する）|カリキュラム上の位置付け：|社会的養護内容は、保育士養成のカリキュラムの中で、専門課程の基礎となる科目である。|

受講者に対する要望

”私は児童学科だから、乳幼児や児童のことしかわかりません”という姿勢では、通用しないことを知っておいてください。また、保育の専門家を目指す学びをしていきましょう。

学びのキーワード

- ・子どもの最善の利益
- ・保育士の専門性
- ・ソーシャルワーク
- ・養護の連続性
- ・愛着形成

授業計画

01. 社会的養護における児童の権利養護（大学での単位の意味・子どもの最善の利益・意見表明権・エンパワメント）
02. 生存と発達の保障（児童自立支援計画書・ICF・エコマップ・障害の構造的理解）
03. 子どもの権利を守る仕組みについて（子どもの権利ノート・苦情解決の仕組み・第三者評価制度・運営適正化委員会）
04. 保育士の倫理及び責務（支援者の子ども観・生命倫理・オンブズパーソン・守秘義務・ノーマリゼーション）
05. 児童養護の体系と児童福祉施設の概要（児童養護施設・要保護児童・措置制度から利用契約制度へ・ユニットケア）
06. （その2）乳児院と母子生活支援施設での暮らし（担当保育制・措置変更・養護の連続性・愛着形成）
07. （その3）重症心身障害児施設での暮らし（大鳥の分類、レスパイトサービス、PTとOT、バイタルサイン）
08. （その4）肢体不自由児施設と児童自立支援施設での暮らし（リハビリとは？・CP・勤務体制・少年審判・保護処分）
09. （その5）発達障害児と情緒障害児短期治療施設での暮らし（発達障害・不登校・SST・愛着障害）
10. （その6）知的障害児施設と自閉症児施設での暮らし（知的障害とは？・IQの理解の仕方・自閉症とは？・自閉症の文化・医療型と福祉型障害児入所施設）
11. 家庭養護について（里親制度・ファミリーホーム事業・養子縁組制度・真実告知）
12. 保育士の専門性に関する知識と援助技術（トラウマ・断続勤務・家族再統合・試行行動・マリトリートメント）
13. 児童福祉施設のこれから（課題演習3事例と講義）（施設内虐待・入浴介助のリスク・コミュニケーション能力）
14. 社会的養護の課題と展望（課題演習4事例）（家族団結とは？・出生前診断・アドミッションケア・リービングケア）
15. まとめ

準備学習(予習)

必ず授業計画を事前に見て、各テーマに関連した語句（キーワード）やトピックについて、出来るだけ情報を集めること。講義終了直前に、次回の講義テーマについて触れるので、確認しておくこと。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読して、理解を深めておくこと。毎講義後に「課題演習」が出されるので、自宅で作って、翌週までに提出発表できるように準備しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--------------------------------------|
| (1) 授業内定期試験 | 80% | 第15講時に実施（得点×0.8） |
| (2) 平常点 | 10% | 15~14回出席 10% 13~12回出席 8% 11~10回出席 6% |
| (3) 出席点B | 10% | 講義後、自分の意見、感想、疑問等記入した人、課題レポート提出 |

教科書

参考書

プリントや資料を収納する専用ファイルを2冊用意のこと。

社会的養護内容（保②）

SWEL-C-200

担当教員：笹瀨 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10510875

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義では、「利用児や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって進めていくので、受講生は、社会的養護内容の専門的な知識だけでなく、具体的な援助技術や多様な考え方を身につけることができると思う。子どもを育むことは、第一義的には両親の責務であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっている。児童施設に入所している子どもやその家族に表面化していることが、普通の家族の中にも潜んでいる事が見てとれるのである。それは、児童施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会的養護が必要な時代にあることを物語っている。従って、社会的養護内容を学ぶことは、子どもの権利や家庭や社会の在り方について理解を深めることにつながる。本講義を通して、社会的養護内容を学んだ学生諸君が、保育所だけでなく、各種児童施設において、また、地域住民の一人として児童福祉を支え、子どもの最善の利益を守る主体となり、その実現に向けて働きかけてくれることを、心から願っている。

(2) 内容

本講義では、先ず社会的養護における児童の権利養護やその仕組み、児童の生存発達保障、保育士の倫理と責務、児童養護の体系と児童福祉施設の概要、各種児童施設の暮らし、保育士の専門性に関する知識と援助技術、それにソーシャルワーク技術の活用等について、さらに社会的養護内容の課題と展望についても学ぶ。（詳細は、開講時に説明する）|カリキュラム上の位置付け：|社会的養護内容は、保育士養成のカリキュラムの中で、専門課程の基礎となる科目である。|

受講者に対する要望

”私は児童学科だから、乳幼児や児童のことしかわかりません”という姿勢では、通用しないことを知っておいてください。また、専門家を目指す学びをしていきましょう。

学びのキーワード

- ・(1)子どもの最善の利益
- ・保育士の専門性とは？
- ・ソーシャルワーク
- ・養護の連続性
- ・愛着形成

授業計画

01. 社会的養護における児童の権利養護（大学での単位の意味・子どもの最善の利益・意見表明権・エンパワメント）
02. 生存と発達の保障（児童自立支援計画書・エコマップ・ICF・障害の構造的理解）
03. 子どもの権利を守る仕組みについて（子どもの権利ノート・苦情解決の仕組み・第三者評価制度・運営適正化委員会）
04. 保育士の倫理及び責務（支援者の子ども観・生命倫理・オンブズパーソン・守秘義務・ノーマリゼーション）
05. 児童養護の体系と児童福祉施設の概要（児童養護施設・要保護児童・措置制度から利用契約制度へ・ユニットケア）
06. （その2）乳児院と母子生活支援施設での暮らし（担当保育制・措置変更・養護の連続性・愛着形成）
07. （その3）重症心身障害児施設での暮らし（大鳥の分類、レスパイトサービス、PTとOT、バイタルサイン）
08. （その4）肢体不自由児施設と児童自立支援施設での暮らし（リハビリとは？・CP・勤務体制・少年審判・保護処分）
09. （その5）発達障害児と情緒障害児短期治療施設での暮らし（発達障害・不登校・SST・愛着障害）
10. （その6）知的障害児施設と自閉症児施設での暮らし（知的障害とは？・IQの理解の仕方・自閉症とは？・自閉症の文化・医療型と福祉型障害児入所施設）
11. 家庭養護について（里親の種類と里親養護の特徴・ファミリーホーム事業・真実告知・特別養子縁組制度）
12. 保育士の専門性に関する知識と援助技術（トラウマ・断続勤務・家族再統合・試行行動・マリトリートメント）
13. 児童福祉施設のこれから（課題演習3事例と講義）（施設内虐待・入浴介助のリスク・コミュニケーション能力）
14. 社会的養護の課題と展望（課題演習4事例）（家族団壊とは？・出生前診断・アドミッションケア・リービングケア）
15. まとめ

準備学習(予習)

必ず授業計画を事前に見て、各テーマに関連した語句（キーワード）やトピックについて、出来るだけ情報を集めること。講義終了直前に、次回の講義テーマについて触れるので、確認しておくこと。プリント・資料を保存するファイル2冊用意の事。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読して、理解を深めておくこと。毎講義後に「課題演習」が出されるので、自宅でやって、翌週までに提出発表できるように準備しておくこと。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------------------|
| (1) 授業内定期試験 | 80% | 第15講時に実施（90分） |
| (2) 平常点A | 10% | 15~14回出席 10% 13~12回出席 8% 11~10回出席 6% |
| (3) 授業への参加度B | 10% | 講義後、自分の意見、感想、疑問等記入した人、課題レポート提出 |

教科書

使用しない。替わりに毎講義前にレジュメを配布する。

参考書

プリントや資料を収納するファイルを2冊用意すること

担当教員：上野 直子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510980

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保護者の支援には、保護者の思いに気付く経験が重要です。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、保護者の気持ちになってみることで、よりよい支援の手掛かりを考えていきましょう。

(2) 内容

保育相談支援とは、子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識や技術を背景として、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の思いを受けとめながら、安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示、その他の援助業務を指します。| そこで、保育相談支援の基本と実践力をつけるため、以下の4つの目標達成に向けて、学生相互でのグループ活動等を通して学んでいきます。

| (1) 保育相談支援の意義と原則について理解する。
| (2) 保護者支援の基本を理解する。| (3) 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。| (4) 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。|

受講者に対する要望

ディスカッションには積極的な参加を求めています。実際の支援場面においては、幅広い支援の在り方が求められますので、この授業を通じて、様々な思いを巡らせる経験をしていただければと思っています。

学びのキーワード

- ・ 保護者支援
- ・ コミュニケーション
- ・ 相談・助言
- ・ ロールプレイ

授業計画

01. 保育者に対する保育相談支援の意義
02. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
03. 子どもの最善の利益と福祉の重視
04. 子どもの成長の喜びの共有
05. 保護者の養育力の向上に資する支援
06. 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重
07. 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
08. 保育に関する保護者に対する指導
09. 保育者支援の内容
10. 保育者支援の方法と技術
11. 保育者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12. 保育所における保育相談支援の実際
13. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
14. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

準備学習(予習)

授業では毎回ディスカッションの時間を設定。事前にテーマを提示しますので、準備学習して下さい（A4用紙1枚程度）。授業終了後、感想をまとめ、提出を求めています。

準備学習(復習)

授業ノートを整理すること、提出課題に記載されたコメント、授業時に指定した教科書の該当箇所などを読み返し、学習の振り返りを行ってください。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|---|
| (1) 授業への参加度 | 20% | ディスカッションへの参加など授業態度も含む |
| (2) 提出課題の実施状況 | 40% | 事前準備(予習)が出来ているか、授業を踏まえての感想・意見提案が出来ているかを提出課題を通じて確認します。 |
| (3) 学期末評価 | 40% | |

学期末にはテストを実施の予定です。

教科書

参考書

柏女霊峰／橋本真紀 編著『保育相談支援（第2版）』（ミネルヴァ書房）【978-4623076376】

担当教員：上野 直子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10510985

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保護者の支援には、保護者の思いに気付く経験が重要です。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、保護者の気持ちになってみることで、よりよい支援の手掛かりを考えていきましょう。

(2) 内容

保育相談支援とは、子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識や技術を背景として、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の思いを受けとめながら、安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示、その他の援助業務を指します。そこで、保育相談支援の基本と実践力をつけるため、以下の4つの目標達成に向けて、学生相互でのグループ活動等を通して学んでいきます。

（1）保育相談支援の意義と原則について理解する。
（2）保護者支援の基本を理解する。 （3）保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 （4）保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

受講者に対する要望

ディスカッションには積極的な参加を求めています。実際の支援場面においては、幅広い支援の在り方が求められますので、この授業を通じて、様々な思いを巡らせる経験をしていただければと思っています。

学びのキーワード

- ・ 保護者支援
- ・ コミュニケーション
- ・ 相談・助言
- ・ ロールプレイ

授業計画

01. 保育者に対する保育相談支援の意義
02. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
03. 子どもの最善の利益と福祉の重視
04. 子どもの成長の喜びの共有
05. 保護者の養育力の向上に資する支援
06. 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重
07. 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
08. 保育に関する保護者に対する指導
09. 保育者支援の内容
10. 保育者支援の方法と技術
11. 保育者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12. 保育所における保育相談支援の実際
13. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
14. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

準備学習(予習)

授業では毎回ディスカッションの時間を設定。事前にテーマを提示しますので、準備学習して下さい（A4用紙1枚程度）。授業終了後、感想をまとめ、提出を求めています。

準備学習(復習)

授業ノートを整理すること、提出課題に記載されたコメント、授業時に指定した教科書の該当箇所などを読み返し、学習の振り返りを行ってください。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|---|
| (1) 授業への参加度 | 20% | ディスカッションへの参加など授業態度も含む |
| (2) 提出課題の実施状況 | 40% | 事前準備(予習)が出来ているか、授業を踏まえての感想・意見提案が出来ているかを提出課題を通じて確認します。 |
| (3) 学期末評価 | 40% | |

学期末にはテストを実施の予定です。

教科書

参考書

柏女霊峰／橋本真紀 編著『保育相談支援（第2版）』（ミネルヴァ書房）【978-4623076376】

担当教員：坂本 佳代子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10511100

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・障害を負って生きることの苦しさを洞察できるようになること。|・多様な障害があることを理解すること。|・支援は子どものみならず、家族支援も重要であることを理解すること。|・支援は個別の状況によって異なることを理解する。

(2) 内容

この講義では、障害のある子どもの保育についての歴史の変遷や障害理解等について学んでいくものです。| 現在、インクルーシブな保育が当然のものとなされ、障害のある子どもも無い子どもも共に育つ取り組みが試行され実践されるようになってきました。その中では一人一人に望ましい保育実践を行うための取り組みが工夫されなくてはなりません。このような統合保育とは別に、障害別に病院や施設等の専門機関で保育を受けている子ども達も少なからずいる現状です。このように、様々な機関で実践されている障害児保育について広く体系的に学んでいきます。| また、養育者はどのような過程で子どもの障害に気づいていくのか、その時の子どもと養育者の支援はどのように整備されているのかについても学んでいくこととします。| 上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。

受講者に対する要望

障害については身近でない場合には、かなり理解が難しい。それだけに授業内容をしっかりと理解してほしい。

学びのキーワード

- ・障害って何
- ・普通って何
- ・障害受容
- ・早期発見早期療育
- ・障害手帳

授業計画

01. 障害の概念と内容
02. 身体障害概論 I
03. 身体障害概論 II
04. 知的障害概論 I
05. 知的障害概論 II
06. 精神障害概論 I
07. 精神障害概論 II
08. 発達障害概論 I
09. 発達障害概論 II
10. 障害成因論
11. 障害児と家族
12. 障害児保育
13. アセスメントと個別支援計画
14. 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
15. 個別支援計画作成

準備学習(予習)

身近な地域において、どのような障害児保育実践がおこなわれているかについて、関心を持ち、情報入手等をするように心がけてください。

準備学習(復習)

毎回授業の初めに、前回の内容について質問します。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 授業参加態度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：坂本 佳代子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10511195

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・障害を負って生きることの苦しさを洞察できるようになること。|・多様な障害があることを理解すること。|・支援は子どものみならず、家族支援も重要であることを理解すること。|・支援は個別の状況によって異なることを理解する。

(2) 内容

この講義では、障害のある子どもの保育についての歴史の変遷や障害理解等について学んでいくものです。| 現在、インクルーシブな保育が当然のものとなされ、障害のある子どもも無い子どもも共に育つ取り組みが試行され実践されるようになってきました。その中では一人一人に望ましい保育実践を行うための取り組みが工夫されなくてはなりません。このような統合保育とは別に、障害別に病院や施設等の専門機関で保育を受けている子ども達も少なからずいる現状です。このように、様々な機関で実践されている障害児保育について広く体系的に学んでいきます。| また、養育者はどのような過程で子どもの障害に気づいていくのか、その時の子どもと養育者の支援はどのように整備されているのかについても学んでいくこととします。| 上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。

受講者に対する要望

障害については身近でない場合には、かなり理解が難しい。それだけに授業内容をしっかりと理解してほしい。

学びのキーワード

- ・障害って何
- ・普通って何
- ・障害受容
- ・早期発見早期療育
- ・障害手帳

授業計画

01. 障害の概念と内容
02. 身体障害概論 I
03. 身体障害概論 II
04. 知的障害概論 I
05. 知的障害概論 II
06. 精神障害概論 I
07. 精神障害概論 II
08. 発達障害概論 I
09. 発達障害概論 II
10. 障害成因論
11. 障害児と家族
12. 障害児保育
13. アセスメントと個別支援計画
14. 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
15. 個別支援計画作成

準備学習(予習)

身近な地域において、どのような障害児保育実践がおこなわれているかについて、関心を持ち、情報入手等をするように心がけてください。

準備学習(復習)

毎回授業の初めに、前回の内容について質問します。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 授業参加態度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：田村 すゞか

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10511205

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

①様々な障害についての基本的な知識を得て、保育上の留意点について理解する|②障害がある子どもの保育にかかわる医療や福祉、教育などの現状と課題について知る|③障害がある子どもたちが集団保育の場で他児と育ちあう保育実践について考える|④障害がある子どもの保護者・家族支援について考える

(2) 内容

特別な支援を必要とする障害のある子どもについて理解し、保育現場での支援の在り方について様々な面から考える。|障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、現状と課題について学ぶ。|カリキュラム上の位置づけ：|障害児保育のための基礎知識，援助方法を学ぶ。||

受講者に対する要望

保育士資格のための必修授業であるが、特別支援教育が進む現代において障害がある子どもと接する現場は増えているため、幼稚園・小学校の教員免許取得予定の学生の受講も歓迎する。

学びのキーワード

- ・ 障害児の保育
- ・ 特別支援
- ・ 統合保育
- ・ 療育

授業計画

01. オリエンテーション 障害がある子どもの保育について考える
02. 子どもが発達する道すじ / 障害がある子どもが育つ場所
03. 障害がある子どもの理解と保育の実際①
04. 障害がある子どもの理解と保育の実際②
05. 障害がある子どもの理解と保育の実際③
06. 障害がある子どもの理解と保育の実際④
07. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑤
08. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑥
09. 発達のアセスメント（検査法など）
10. 統合保育①
11. 統合保育②
12. 保護者・きょうだいへの理解と支援
13. 障害がある子どもの保育計画
14. 障害がある子どもの就学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、該当の項目について事前に教科書に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

毎回授業の始めにプリントで前回の振り返りを行う。そのために事前に自分で復習をしておくことを推奨する。

評価方法

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 詳細は授業初回に指示する |

教科書

星山麻木『障害児保育ワークブック』（萌文書林）【978-4893471703】

参考書

担当教員：田村 すゞか

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10511210

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

①様々な障害についての基本的な知識を得て、保育上の留意点について理解する|②障害がある子どもの保育にかかわる医療や福祉、教育などの現状と課題について知る|③障害がある子どもたちが集団保育の場で他児と育ちあう保育実践について考える|④障害がある子どもの保護者・家族支援について考える

(2) 内容

特別な支援を必要とする障害のある子どもについて理解し、保育現場での支援の在り方について様々な面から考える。|障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、現状と課題について学ぶ。|カリキュラム上の位置づけ：|障害児保育のための基礎知識，援助方法を学ぶ。||

受講者に対する要望

保育士資格のための必修授業であるが、特別支援教育が進む現代において障害がある子どもと接する現場は増えているため、幼稚園・小学校の教員免許取得予定の学生の受講も歓迎する。

学びのキーワード

- ・ 障害児の保育
- ・ 特別支援
- ・ 統合保育
- ・ 療育

授業計画

01. オリエンテーション 障害がある子どもの保育について考える
02. 子どもが発達する道すじ / 障害がある子どもが育つ場所
03. 障害がある子どもの理解と保育の実際①
04. 障害がある子どもの理解と保育の実際②
05. 障害がある子どもの理解と保育の実際③
06. 障害がある子どもの理解と保育の実際④
07. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑤
08. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑥
09. 発達のアセスメント（検査法など）
10. 統合保育①
11. 統合保育②
12. 保護者・きょうだいへの理解と支援
13. 障害がある子どもの保育計画
14. 障害がある子どもの就学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、該当の項目について事前に教科書に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

毎回授業の始めにプリントで前回の振り返りを行う。そのために事前に自分で復習をしておくことを推奨する。

評価方法

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 50% 詳細は授業初回に指示する |

教科書

星山麻木『障害児保育ワークブック』（萌文書林）【978-4893471703】

参考書

担当教員：小林 京子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10511420

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処し、保健活動を通して子どもやその家族を支援できるようになる基礎を習得する。また、子どもの病気や事故の特徴についての基礎を理解する。

(2) 内容

1. 内容：|子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を知り、子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達と生活の中での発育・発達支援、子どもの病気や事故の特徴とその予防方法等の基礎を理解する。|2. カリキュラム上の位置づけ：|保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの保健に関する基礎的な科目である。

受講者に対する要望

これまでの学びを活用しながら積極的に講義、グループワークに臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・ 子どもの保健
- ・ 母子保健
- ・ 子どもの生活
- ・ ヘルスプロモーション
- ・ 学校保健

授業計画

01. 子どもの健康の捉え方、健康指標
02. 子どもの保健における子どもの捉え方（子どもの育ちのDVD）
03. 子どもの発達の原則とそれに影響を与えるもの
04. 子どもの発達とそれを支える生活環境・保健・医療制度（母子保健対策、ヘルスプロモーション、地域）
05. 新生児期の生理、発達と新生児の持つ能力
06. 子どもの大きさ・重さの発育と運動機能の発達
07. 子どもに特徴的な生理機能と睡眠・排泄の機能
08. 子どもの情緒・言語・認知発達
09. 起こりやすい事故・健康問題とその支援
10. 学童思春期の健康
11. 子どもの生活習慣と保育環境
12. 子どもの保健とヘルスプロモーションへの支援
13. グループワーク
14. グループワーク
15. まとめと振り返り

準備学習(予習)

これまでの学習、特にこどもの成長、発達についてを振り返り整理しておいてください。

準備学習(復習)

講義中に紹介する文献を講義後に読み、各講義の内容を深めてください。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 筆記試験 | 70% |
| (2) グループワーク参加度/平常点 | 30% |

教科書

参考書

子どもの保健B（保②）

HESC-C-200

担当教員：平田 美佳、平田 倫生

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10511525

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育における子どもの健康の維持・増進の意味を理解するとともに、保育士の役割の重要性について認識する。子どもがかかりやすい病気、子どもに多い症状、子ども特有の心身の変調の表現を理解することで、保育現場で子どもの病気予防、早期発見、早期対処ができるような基礎知識を習得する。また、子どもの発育・発達や健康問題は家庭環境や家庭での養育方法と密接にかかわっていることを理解し、子どものみならず家族を支援できるようになる基礎知識を習得する。さらに、医療現場における病気や障がいを持った子どもについての理解を深め、病院や施設における子どもの権利を守った生活の保障と支援、医療と保育の連携の重要性に理解する。

(2) 内容

健康な子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達、生活のなかでの発育・発達支援について理解する。また、子どもの病気の特徴やその予防、病気や障がいを持った子どもの理解とその支援、医療現場での保育の重要性や医療と保育の連携について学ぶ。

受講者に対する要望

近年、保育士は社会的需要が高まり、保育の質の向上はわが国の大きな課題の一つです。この科目は将来子どもを対象とする専門職に就くものが、子どもの心身の安全・安寧を守り実践していくために、大変重要な内容です。授業に参加するだけでなく、授業を通して自分が将来目指す職種の役割の重要性を再認識したり、授業内容に関連した社会の動きや日常的に見かける子どもたちの様子にも関心を持つように心がけて履修してください。

学びのキーワード

- ・ 子ども
- ・ 成長・発達
- ・ 病気・障がい
- ・ 予防・支援
- ・ 専門職の責務

授業計画

01. 子どもの発育・発達とその支援1（発育・発達の原則、身体発育）
02. 子どもの発育・発達とその支援2（生理機能の発達）
03. 子どもの発育・発達とその支援3（運動機能の発達）
04. 子どもの発育・発達とその支援4（言語、社会性、情緒の発達、発達の評価）
05. 子どもの発育・発達とその支援5（発達障害を持つ子どもの理解と支援）
06. 子どもの病気とその予防1（母子手帳の意義と活用の仕方）
07. 子どもの病気とその予防2（予防接種）
08. 子どもの病気の特徴1（重要な感染症と保育所での感染症の取り扱い）
09. 子どもの病気の特徴2（アレルギー疾患と子どもへの対応）
10. 子どもの病気の特徴3（SIDS、けいれん、救急処置）
11. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援（病児病後児保育制度、園医の役割、薬のお預かり）
12. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援（入院・通院している子どもの理解と支援）
13. 医療現場における保育の役割と重要性
14. 保育現場で働くさまざまな職種と多職種連携
15. 保育士の役割の重要性（まとめ）

準備学習(予習)

子ども時代の自分の経験・それまでの学習内容と重ね合わせ、興味や疑問・関心を持って授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業の復習は確実に行い、そのときに疑問に感じた部分については、次の授業で確実に質問して、自ら疑問を解決するようにしてください。

評価方法

- | | |
|---------|------|
| (1) 試験 | 100% |
| (2) 平常点 | |

教科書

竹内 高博、大矢 紀昭『よくわかる子どもの保健【第2版】（やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ）』（ミネルヴァ書房）【978-4623069538】|母子保健事業団『母子健康手帳』（母子保健事業団）【-】

参考書

子どもの保健B（保①）

HESC-C-200

担当教員：平田 美佳、平田 倫生

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：10511530

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育における子どもの健康の維持・増進の意味を理解するとともに、保育士の役割の重要性について認識する。子どもがかかりやすい病気、子どもに多い症状、子ども特有の心身の変調の表現を理解することで、保育現場で子どもの病気予防、早期発見、早期対処ができるような基礎知識を習得する。また、子どもの発育・発達や健康問題は家庭環境や家庭での養育方法と密接にかかわっていることを理解し、子どものみならず家族を支援できるようになる基礎知識を習得する。さらに、医療現場における病気や障がいを持った子どもについての理解を深め、病院や施設における子どもの権利を守った生活の保障と支援、医療と保育の連携の重要性に理解する。

(2) 内容

健康な子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達、生活のなかでの発育・発達支援について理解する。また、子どもの病気の特徴やその予防、病気や障がいを持った子どもの理解とその支援、医療現場での保育の重要性や医療と保育の連携について学ぶ。

受講者に対する要望

近年、保育士は社会的需要が高まり、保育の質の向上はわが国の大きな課題の一つです。この科目は将来子どもを対象とする専門職に就くものが、子どもの心身の安全・安寧を守り実践していくために、大変重要な内容です。授業に参加するだけでなく、授業を通して自分が将来目指す職種の役割の重要性を再認識したり、授業内容に関連した社会の動きや日常的に見かける子どもたちの様子にも関心を持つように心がけて履修してください。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・成長・発達
- ・病気・障がい
- ・予防・支援
- ・専門職の責務

授業計画

01. 子どもの発育・発達とその支援1（発育・発達の原則、身体発育）
02. 子どもの発育・発達とその支援2（生理機能の発達）
03. 子どもの発育・発達とその支援3（運動機能の発達）
04. 子どもの発育・発達とその支援4（言語、社会性、情緒の発達、発達の評価）
05. 子どもの発育・発達とその支援5（発達障害を持つ子どもの理解と支援）
06. 子どもの病気とその予防1（母子手帳の意義と活用の仕方）
07. 子どもの病気とその予防2（予防接種）
08. 子どもの病気の特徴1（重要な感染症と保育所での感染症の取り扱い）
09. 子どもの病気の特徴2（アレルギー疾患と子どもへの対応）
10. 子どもの病気の特徴3（SIDS、けいれん、救急処置）
11. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援（病児病後児保育制度、園医の役割、薬のお預かり）
12. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援（入院・通院している子どもの理解と支援）
13. 医療現場における保育の役割と重要性
14. 保育現場で働くさまざまな職種と多職種連携
15. 保育士の役割の重要性（まとめ）

準備学習(予習)

子ども時代の自分の経験・それまでの学習内容と重ね合わせ、興味や疑問・関心を持って授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業の復習は確実に行い、そのときに疑問に感じた部分については、次の授業で確実に質問して、自ら疑問を解決するようにしてください。

評価方法

- | | |
|---------|------|
| (1) 試験 | 100% |
| (2) 平常点 | |

教科書

竹内 真博、大矢 紀昭『よくわかる子どもの保健[第3版]』（ミネルヴァ書房）[978-4623073436] | 母子保健事業団『母子健康手帳』（母子保健事業団）〔-〕

参考書

子どもの保健演習（保①）

HESC-C-200

担当教員：藤城 富美子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10511635

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

<目標>保育者として、子どもの自身の健康の保持・増進を勧めるための援助法を学び、実践可能な実技を身に着ける。|<意義>著しい成長発達を遂げる乳幼児期の基本的理解や対応を学ぶ意義は大きい。加えて、子どもの成長発達する過程において、病気やけがなど様々な傷害を想定し対応できるようにする。

(2) 内容

乳幼児期の子どもの成長発達は著しい。しかし、乳幼児期は抵抗力も免疫も未熟で未発達な時期であり、感染症など病気・怪我等健康を阻害しやすい時期でもある。保育者として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するための基本的な知識を技術を講義と演習を通じて学ぶ。また、子ども自身が基本的生活習慣を身につけ、自らの健康を意識するための健康教育をグループワーク演習で考え発表する（健康教育の実演）

受講者に対する要望

・子どもの健康や生命の保持は、大人の責任である。保育者としての責任を強く感じて学ぶ姿勢をもって望んでほしい。・グループワーク学習を通し、共有・協働の関係が円滑に行えるように刺激し合う積極的な姿勢を望む。・人形に対しても尊重の姿勢を忘れない。

学びのキーワード

- ・ 保育の中の保健
- ・ 発育発達
- ・ 養護
- ・ 子どもの病気
- ・ 健康

授業計画

01. 子ども健康と保健活動の意義（保健計画・多職種との連携）
02. 子どもの発育（身体機能の発育と評価）計測の演習
03. 子どもの発育（運動機能発達と評価）遠城寺式の演習
04. 子どもの発育（生理機能の発育と評価）生理機能演習
05. 小テスト（子どもの発育発達のため）演習の確認
06. 子どもの養護の仕方（哺乳・離乳・冷凍母乳）の演習
07. 子どもの養護の仕方（沐浴・着脱・おむつ交換）
08. 子どもの養護の方法（抱き方・おんぶの仕方）
09. 子どもに多くみられる病気（症状の見方とケアの仕方）
10. 子どもに多くみられる病気と対応（・感染症対策と予防接種）
11. 保育室の環境整備と衛生管理
12. 子どもの事故と安全対策（子どもの事故の特徴と留意点、安全対策の仕方）
13. 応急処置（けが時の対応と手当の仕方、救急救命法（異物除去とCPR）演習）
14. 慢性疾患や障害をもつ子どもへの対応と家族の支援（医療や療育との関わり）
15. 子どもの保健演習の総理解

準備学習(予習)

毎回の講義の最後には、次回の講義内容・キーワードを伝えるので、学習してくること。

準備学習(復習)

・翌週には、振り返りテスト及びグループへの質問を行い学びの程度を確認する。各演習後は、目標達成を評価するための個人及びグループの振り返りをシートを作成する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|------------|
| (1) 期末試験 | 50% | 基本的理解 |
| (2) 小テスト及び提出物 | 20% | 復習 |
| (3) 授業への参加度 | 30% | 演習の積極性・協調性 |

・グループ演習を中心に進めるため、互いに協働する積極的な姿勢をもっていかをみる。

教科書

大西文子『子どもの保健演習』（中山書店）【978-4521736778】|日本保育園保健協議会『子どもの病気 ホームケア』（日本保育園保健協議会）【】

参考書

子どもの保健演習（保②）

HESC-C-200

担当教員：藤城 富美子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10511640

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

<目標>保育者として、子どもの自身の健康の保持・増進を勧めるための援助法を学び、実践可能な実技を身に着ける。|<意義>著しい成長発達を遂げる乳幼児期の基本的理解や対応を学ぶ意義は大きい。加えて、子どもの成長発達する過程において、病気やけがなど様々な傷害を想定し対応できるようにする。

(2) 内容

乳幼児期の子どもの成長発達は著しい。しかし、乳幼児期は抵抗力も免疫も未熟で未発達な時期であり、感染症など病気・怪我等健康を阻害しやすい時期でもある。保育者として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するための基本的な知識を技術を講義と演習を通じて学ぶ。また、子ども自身が基本的生活習慣を身につけ、自らの健康を意識するための健康教育をグループワーク演習で考え発表する（健康教育の実演）

受講者に対する要望

・子どもの健康や生命の保持は、大人の責任である。保育者としての責任を強く感じて学ぶ姿勢をもって望んでほしい。・グループワーク学習を通し、共有・協働の関係が円滑に行えるように刺激し合う積極的な姿勢を望む。・人形に対しても尊重の姿勢を忘れない。

学びのキーワード

- ・ 保育の中の保健
- ・ 発育発達
- ・ 養護
- ・ 子どもの病気
- ・ 健康

授業計画

01. 子ども健康と保健活動の意義（保健計画・多職種との連携）
02. 子どもの発育（身体機能の発育と評価）計測の演習
03. 子どもの発育（運動機能発達と評価）遠城寺式の演習
04. 子どもの発育（生理機能の発育と評価）生理機能演習
05. 小テスト（子どもの発育発達のまとめ）演習の確認
06. 子どもの養護の仕方（哺乳・離乳・冷凍母乳）
07. 子どもの養護の仕方（沐浴・着脱・おむつ交換）
08. 子どもの養護の方法（抱き方・おんぶの仕方）
09. 子どもに多くみられる病気（症状の見方とケアの仕方）
10. 子どもに多くみられる病気と対応（感染症対策と予防接種）
11. 保育室の環境整備と衛生管理
12. 子どもの事故と安全対策（子どもの事故の特徴と留意点、安全対策の仕方）
13. 応急処置（けが時の対応と手当の仕方、救急救命法（異物除去とCPR）演習）
14. 障害や障がいをもつ子どもへの対応と家族の支援（医療や療育との関わり）
15. 子どもの保健演習の総理解

準備学習(予習)

毎回の講義の最後には、次回の講義内容・キーワードを伝えるので、学習してくること。

準備学習(復習)

・翌週には、必ず個人及びグループ質問を行い、学びの程度を確認する。
・各演習後は、目標達成を評価するための個人及びグループの振り返りをシートを作成する。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------|
| (1) 試験 | 30% | 基本的理解 |
| (2) 小テスト | 20% | 復習 |
| (3) 平常点 | 20% | 演習での積極性と協調性 |
| (4) 授業への参加度 | 30% | 積極的な発言 |

・毎回の出席が基本であるが、グループ演習を中心に進めるため、互いに協働する積極的な姿勢をもっているかをみる。

教科書

大西文子『子どもの保健演習』（中山書店）【978-4521736778】|日本保育園保健協議会『子どもの病気 ホームケア』（日本保育園保健協議会）【】

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10511745

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 家庭の意義とその機能について理解する。|
 (2) 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。| (3) 子育て家庭の支援体制について理解する。| (4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

(2) 内容

本講義は、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について概説する。また、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。|

受講者に対する要望

授業内で課題・小テスト・グループワークに取り組むことが多くあるため、丁寧に取り組むこと。
 ロールプレイ、グループワーク、グループディスカッション等に積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・家庭
- ・子育て支援
- ・連携
- ・保育所
- ・保育士

授業計画

01. オリエンテーション 家庭の意義と機能
02. 家庭支援の必要性 保育士等が行う家庭支援の原理
03. 家庭生活を取り巻く社会的状況1 現代の家庭における人間関係
04. 家庭生活を取り巻く社会的状況2 男女共同参画社会とワークライフバランス
05. 家庭生活を取り巻く社会的状況3 地域社会の変容と家庭支援
06. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
07. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
08. 保育所入所児童の家庭への支援
09. 子育て支援サービスの概要
10. 子育て支援の実践例1 子育てサークル
11. 子育て支援の実践例2 子育てひろば
12. 要保護児童及びその家庭に対する支援 関係機関との連携
13. 地域の子育て家庭への支援1 保育の場における相談
14. 地域の子育て家庭への支援2 地域子育て支援センターの子育て支援
15. 子育て支援サービスの課題

準備学習(予習)

- ・課題に取り組むこと

準備学習(復習)

- ・授業で視聴した事例の分析をすること
・グループワーク等のまとめをすること
・小テストの準備をすること
・子育てマップを作成すること

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席点ではない。 |
| (2) 課題 | 20% | |
| (3) 小テスト | 25% | |
| (4) レポート | 25% | |

毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。|小テストは、授業内で一人ひとり結果を確認できるようにする。|また、レポートは後日返却を行う。

教科書

参考書

厚生労働省 『保育所保育指針』 | 文部科学省 『幼稚園教育要領』

担当教員：佐藤 千瀬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10511750

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 家庭の意義とその機能について理解する。|
 (2) 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。| (3) 子育て家庭の支援体制について理解する。| (4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

(2) 内容

本講義は、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について概説する。また、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。|

受講者に対する要望

授業内で課題・小テスト・グループワークに取り組むことが多くあるため、丁寧に取り組むこと。
 ロールプレイ、グループワーク、グループディスカッション等に積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・家庭
- ・子育て支援
- ・連携
- ・保育所
- ・保育士

授業計画

01. オリエンテーション 家庭の意義と機能
02. 家庭支援の必要性 保育士等が行う家庭支援の原理
03. 家庭生活を取り巻く社会的状況1 現代の家庭における人間関係
04. 家庭生活を取り巻く社会的状況2 男女共同参画社会とワークライフバランス
05. 家庭生活を取り巻く社会的状況3 地域社会の変容と家庭支援
06. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
07. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
08. 保育所入所児童の家庭への支援
09. 子育て支援サービスの概要
10. 子育て支援の実践例1 子育てサークル
11. 子育て支援の実践例2 子育てひろば
12. 要保護児童及びその家庭に対する支援 関係機関との連携
13. 地域の子育て家庭への支援1 保育の場における相談
14. 地域の子育て家庭への支援2 地域子育て支援センターの子育て支援
15. 子育て支援サービスの課題

準備学習(予習)

- ・課題に取り組むこと

準備学習(復習)

- ・授業で視聴した事例の分析をすること
・グループワーク等のまとめをすること
・小テストの準備をすること
・子育てマップを作成すること

評価方法

- | | | |
|----------|-----|----------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席点ではない。 |
| (2) 課題 | 20% | |
| (3) 小テスト | 25% | |
| (4) レポート | 25% | |

毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。|小テストは、授業内で一人ひとり結果を確認できるようにする。|また、レポートは後日返却を行う。

教科書

参考書

厚生労働省 『保育所保育指針』 | 文部科学省 『幼稚園教育要領』

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 10511855

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

基礎栄養を学び、子どもの食だけでなく、保護者や自身の食生活についても考えられるようにする。

(2) 内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、栄養学の基礎的な知識を身につけ、その上で小児の特徴について理解することを目的とする。また、食育とは何かを学び、得た知識を小児やその保護者にどのように伝えていくかを考察する。

受講者に対する要望

授業中は積極的な発言を行うことを期待する。
私語は慎むように。

学びのキーワード

・ 食生活と栄養

授業計画

01. 栄養調査
02. 子どもの健康と食生活の意義
03. 栄養に関する基礎知識 (1)
04. 栄養に関する基礎知識 (2)
05. 栄養に関する基礎知識 (3)
06. ふりかえりと解説
07. 調理実習 1 (基本の食卓)
08. 妊娠期・授乳期の食生活
09. 調理実習 2 (お弁当づくり)
10. 乳児期の食生活 (1)
11. 乳児期の食生活 (2)
12. 調乳実習
13. 乳児期の食生活 (3)
14. 調理実習 (離乳食)
15. 総括

準備学習(予習)

教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

将来保育士になる者として、授業で取り上げた内容について、子どもたちや保護者に対し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

評価方法

(1) 平常点	15%
(2) 授業内発表	15%
(3) レポート	30%
(4) 期末試験	40%

教科書

監修 公益財団法人 児童育成協会 | 編集 堤ちはる、藤澤由美子 | 『子どもの食と栄養』 (中央法規) 【978-4-8058-5212-5】

参考書

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 10511860

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

基礎栄養を学び、子どもの食だけでなく、保護者や自身の食生活についても考えられるようにする。

(2) 内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、栄養学の基礎的な知識を身につけ、その上で小児の特徴について理解することを目的とする。また、食育とは何かを学び、得た知識を小児やその保護者にどのように伝えていくかを考察する。|

受講者に対する要望

授業中は積極的な発言を行うことを期待する。

私語は慎むように。

学びのキーワード

・ 食生活と栄養

授業計画

01. 栄養調査
02. 子どもの健康と食生活の意義
03. 栄養に関する基礎知識 (1)
04. 栄養に関する基礎知識 (2)
05. 栄養に関する基礎知識 (3)
06. ふりかえりと解説
07. 調理実習 1 (基本の食卓)
08. 妊娠期・授乳期の食生活
09. 調理実習 2 (お弁当づくり)
10. 乳児期の食生活 (1)
11. 乳児期の食生活 (2)
12. 調乳実習
13. 乳児期の食生活 (3)
14. 調理実習 (離乳食)
15. 総括

準備学習(予習)

教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

将来保育士になる者として、授業で取り上げた内容について、子どもたちや保護者に対し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

評価方法

(1) 平常点	15%
(2) 授業内発表	15%
(3) レポート	30%
(4) 期末試験	40%

教科書

監修 公益財団法人 児童育成協会|編集 堤ちはる、藤澤由美子|『子どもの食と栄養』(中央法規)【978-4-8058-5212-5】

参考書

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 10511965

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

ライフステージに応じた栄養と食生活を学ぶことで、子どもの生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身につける。

(2) 内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、まず保育者である自身の食生活について振り返る。その上で、各ライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深める。

受講者に対する要望

討論やロールプレイには積極的に参加すること。
私語は慎むこと。

学びのキーワード

- ・ ライフステージごとの食生活
- ・ 疾病管理

授業計画

01. 乳児期の食生活 (4)
02. 幼児期の食生活 (1)
03. 幼児期の食生活 (2)
04. 幼児期の食生活 (3)
05. 調理実習 (幼児のおやつ)
06. 学童期・思春期の食生活
07. ふりかえりと解説
08. 食育の基本と内容 (1)
09. 食育の基本と内容 (2)
10. 食育の基本と内容 (3)
11. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)
13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2)
14. 調理実習 (アレルギー対応おやつ)
15. 総括

準備学習(予習)

教科書に沿った授業を行うので、事前に教科書を読むこと。箇所は授業で指定する。教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでおくこと。
|食事をしっかり食べて授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を、保護者に相談された際に正しく説明できるよう、自分の言葉で話せるようにしておくこと。

評価方法

(1) 平常点	15%
(2) 授業内発表	15%
(3) 中間試験	30%
(4) 期末試験	40%

教科書

監修 公益財団法人 児童育成協会|編集 堤ちはる、藤澤由美子|『子どもの食と栄養』(中央法規) [978-4-8058-5212-5]

参考書

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 10511970

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

ライフステージに応じた栄養と食生活を学ぶことで、子どもの生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身につける。

(2) 内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、まず保育者である自身の食生活について振り返る。その上で、各ライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深める。

受講者に対する要望

討論やロールプレイには積極的に参加すること。
私語は慎むこと。

学びのキーワード

- ・ ライフステージごとの食生活
- ・ 疾病管理

授業計画

01. 乳児期の食生活 (4)
02. 幼児期の食生活 (1)
03. 幼児期の食生活 (2)
04. 幼児期の食生活 (3)
05. 調理実習 (幼児のおやつ)
06. 学童期・思春期の食生活
07. ふりかえりと解説
08. 食育の基本と内容 (1)
09. 食育の基本と内容 (2)
10. 食育の基本と内容 (3)
11. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)
13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2)
14. 調理実習 (アレルギー対応おやつ)
15. 総括

準備学習(予習)

教科書に沿った授業を行うので、事前に教科書を読むこと。箇所は授業で指定する。教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでおくこと。
|食事をしっかり食べて授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を、保護者に相談された際に正しく説明できるよう、自分の言葉で話せるようにしておくこと。

評価方法

(1) 平常点	15%
(2) 授業内発表	15%
(3) 中間試験	30%
(4) 期末試験	40%

教科書

監修 公益財団法人 児童育成協会|編集 堤ちはる、藤澤由美子|『子どもの食と栄養』(中央法規) [978-4-8058-5212-5]

参考書

担当教員： 牛津 信忠

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 10512075

学部教育の関連目

【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【C】 今日的課題についての知識・教養を身につける | 【W】 人と社会の理解： 人を理解し、問題意識を持ちかわる力をつける | 【I】 人と社会の理解： 社会を理解し、問題意識を持ちかわる力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】 社会福祉主任任用資格： 選択必修 | 【C】 保育士資格： 選択科目

(1) 学びの意義と目標

地域福祉は現今社会福祉〔広義〕の主要分野となっている。我々の地域生活の課題に住民として主体的に取り組む、解決のために行動することが今求められる故である。現時点においてこうした意味を持つ地域福祉を、その具体的課題に応じて深く理解し、我々が地域住民ないし市民として果たすべき事柄を身に着けていくことを、さらに地域生活を通して実践できるようになることを目標にする。

(2) 内容

・ 地域福祉の基本的考え方を次の内容に沿って講義していく。| 1 人権尊重、2 権利擁護、3 自立支援、4 地域生活支援、5 地域移行、6 社会的包摂等を含む（順番は理解度に即して変更されることがある） || ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。 || ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

受講者に対する要望

積極的に予習・復習をするなかで、上記目標に掲げた地域意識を養い、市民性を主体性へ向かって解放していくことを求める。

学びのキーワード

- ・ 地域福祉
- ・ インクルージョン、エクスクルージョン
- ・ バリヤフリー、ユニバーサルデザイン
- ・ ノーマライゼーション
- ・ 住民主体

授業計画

01. 地域福祉の基本的考え方；人権尊重
02. 地域福祉の基本的考え方；権利擁護
03. 地域福祉の基本的考え方；自立支援
04. 地域福祉の基本的考え方；地域生活支援
05. 地域福祉の基本的考え方；地域移行
06. 地域福祉の基本的考え方；社会的包摂等
07. 地域福祉の主体と対象（1）
08. 地域福祉の主体と対象（2）
09. 地域福祉の主体と対象（3）
10. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（1）
11. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（2）
12. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（1）
13. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（2）
14. 地域福祉の技術（1）
15. 地域福祉の技術（2）

準備学習(予習)

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、地域に対する認識を深めておくことが望ましい、さらに授業時に配布するレジュメを用いて、次回の授業内容について予習をしておくこと。

準備学習(復習)

予習で感じた問題意識を基礎にして授業を受けること。さらに毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項の考察をすること。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 20% | |
| (2) 授業態度・積極性 | 10% | 座席票で確認し、本人の授業態度を評価。 |
| (3) 復習小テスト | 10% | 適宜、復習コメント(短文)を書いてもらい、提出を求める。 |
| (4) 予習小テスト | 10% | 適宜、今後の授業についてのヒントを与え、予習を目的としたコメント(短文)を書いてもらい提出を求める。 |
| (5) 学期末筆記試験 | 50% | 授業全体を対象に。学期末・論文形式の試験を行う。 |

授業において配布されたプリントを読み前もって授業の予習をしておくこと。授業終了後、ノート、プリントを参照し、復習を行うことを求める。こうした予習復習が、最後に行われる学期末筆記試験、その他小テストの高い評価につながる。

教科書

参考書

主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。

担当教員：市村 和子

学期：秋学期 科目：教職課程/ 必修・選択：選択科目/教職科目 単位：2 授業コード：10630000

学部教育の関連目

【C】 保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける | 【D】 中・高等学校教諭一種免許状 (教職に関わる科目)

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種：必修科目 | 【C】 幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

国語科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解するとともに、国語科教育に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得することを目標とする。また、自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることも目標とする。

(2) 内容

小学校学習指導要領をもとに、国語科の目標や各学年の学習内容を学ぶ。また、各学年の教材を研究し、国語科が言語活動の中核としての役割を担うことについて理解する。|

受講者に対する要望

国語科を学ぶ者として言語感覚を養い、日常の言葉遣いにも十分気を付けること。

学びのキーワード

- ・ 学習指導要領「国語」
- ・ 漢字の読み書き
- ・ 言語感覚
- ・ 言語活動

授業計画

01. オリエンテーション、小学校国語科について
02. 国語科の目標について
03. 国語科の内容について
04. 国語科の指導計画について
05. 国語科の学習指導について
06. 1年の学習内容
07. 2年の学習内容
08. 3年の学習内容
09. 4年の学習内容
10. 5年の学習内容
11. 6年の学習内容
12. 書写：硬筆で文字を書く
13. 書写：毛筆で文字を書く
14. 国語科の事例研究
15. まとめ

準備学習(予習)

次時の課題について予習すること。予告の上適宜テストを実施するので必ず学習して臨むこと。

準備学習(復習)

学習指導要領を繰り返し読むこと。|文字(平仮名、片仮名、漢字)が正しい書き順、字体で書けるように練習すること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630100

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

絵本、児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容の三つの領域「言葉」「人間関係」「表現」を踏まえて、幼児の読書活動に関わる保育者として、言葉を通して人間関係を育む幼児期の読書の意味を考える。テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、様々な角度から保育者・教員として必要な言葉の基礎力を身につける。

受講者に対する要望

この授業は、保育士・幼免の選択科目である。

学びのキーワード

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針
- ・保育内容の領域「言葉」「人間関係」「表現」
- ・日本の神話
- ・日本の昔話とヨーロッパの昔話
- ・ブックトーク

授業計画

01. 授業説明：子どもとは？ 大人とは？
02. 子どものままでいたい？ 『ピーター・パン』と『くまのプーさん』
03. 幼児の読書体験と大人の果たす役割：「言葉」「人間関係」「表現」
04. ブックトークとは：小人たちの物語
05. 絵本、児童文学に出てくるお菓子
06. 死ぬってどういうこと？：『夏の庭』『ずっとずっとだいすきだよ』
07. 子どもと相棒：『こんとあき』
08. 日本の神話：「いざなぎといざなみ」
09. 日本の神話：「いなばの白うさぎ」と『エルマーの冒険』
10. 日本の昔話
11. ヨーロッパの昔話
12. ブックトークの効果的な方法
13. 子どもの年齢と読書
14. テーマと読書
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する作文課題は必ず提出すること。ブックトーク発表のための作品選び、構想作り、シナリオ作り、グループ練習など、じゅうぶん準備をしておくこと。

準備学習(復習)

授業で扱った作品を読んでおくこと。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) ブックトーク発表 | 20% |
| (3) ブックトークのレポート | 10% |
| (4) 宿題提出と授業内の小レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630210

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。

(2) 内容

小学校社会科の目標や各学年の学習内容・指導事例研究を中心に上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても研究する。

受講者に対する要望

教師を目指す自覚をもって積極的に学び、資質・能力の基礎を向上させていく努力を望む。

学びのキーワード

- ・ 小学校社会科
- ・ 社会科教育の歩み
- ・ 社会科の目標
- ・ 社会科の学習内容と研究
- ・ 社会科指導の基礎と課題

授業計画

01. 授業計画及び「社会科」について
02. 社会科教育の歩み（1）：小学校社会科の歴史
03. 社会科教育の歩み（2）：社会科学習指導要領・学力観の変遷
04. 学習指導要領と社会科
05. 社会科の目標について：教科目標・各学年目標と研究
06. 社会科の学習内容<3・4年（1）身近な地域や市（2）地域の人々の生産や販売>と指導事例研究
07. 社会科の学習内容<3・4年（3）飲料水の確保や廃棄物の処理（4）災害や事故の防止>と指導事例研究
08. 社会科の学習内容<3・4年（5）地域の人々の生活、先人の働き（6）県の様子>と指導事例研究
09. 社会科の学習内容<5年（1）国土の自然（2）我が国の農業>と指導事例研究
10. 社会科の学習内容<5年（3）我が国の工業生産（4）情報産業>と指導事例研究
11. 社会科の学習内容<6年（1）我が国の歴史>と指導事例研究
12. 社会科の学習内容<6年（2）我が国の政治の働き（3）世界の中の日本の役割>と指導事例研究
13. 社会科指導の基礎と課題研究（1）：各種資料・地図・地球儀の活用
14. 社会科指導の基礎と課題研究（2）：小・中学校の社会科の関連
15. まとめ

準備学習(予習)

教育全般、社会科教育に関する情報を集め、「新聞を読んで」のレポート提出及び発表の準備をしておくこと。

準備学習(復習)

「新聞を読んで」の発表から、教育全般及び社会科授業に参考になる事柄について、「社会」授業内容との関連を確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) レポート | 15% |
| (3) 理解度の確認 | 50% |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編(平成27年10月)』（東洋館出版社）【978-4491031606】

参考書

担当教員：齋藤 範雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630315

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。

(2) 内容

小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。| 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。

受講者に対する要望

児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。

学びのキーワード

- ・ 学習指導要領
- ・ 児童の成長と各領域における概念形成
- ・ 教材の理解と研究

授業計画

01. オリエンテーション、算数教育の変遷
02. 算数教育と法規及び学習指導要領
03. 数概念の形成とその指導（数）
04. 数概念の形成とその指導（加法・減法）
05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法）
06. 量概念の形成とその指導（長さ）
07. 量概念の形成とその指導（面積） 他
08. 図形概念の形成とその指導（図形の観察と構成）
09. 図形概念の形成とその指導（平面図形と論理）
10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の見取り図・展開図）
11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現）
12. 関数概念の形成とその指導（比例・反比例）
13. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理 場合の数）
14. 問題解決学習と和算
15. まとめ

準備学習(予習)

授業前に、教科書を読み、内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習内容について確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業への参加態度や意欲 | 30% |
| (2) 確認テスト、レポート等の提出物 | 30% |
| (3) 期末テスト | 40% |

毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）【978-4491023731】

参考書

担当教員：齋藤 範雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630320

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。

(2) 内容

小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。| 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。

受講者に対する要望

児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。

学びのキーワード

- ・ 学習指導要領
- ・ 児童の成長と各領域における概念形成
- ・ 教材の理解と研究

授業計画

01. オリエンテーション、算数教育の変遷
02. 算数教育と法規及び学習指導要領
03. 数概念の形成とその指導（数）
04. 数概念の形成とその指導（加法・減法）
05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法）
06. 量概念の形成とその指導（長さ）
07. 量概念の形成とその指導（面積）他
08. 図形概念の形成とその指導（図形の観察と構成）
09. 図形概念の形成とその指導（平面図形と論理）
10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の見取り図・展開図）
11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現）
12. 関数概念の形成とその指導（比例・反比例）
13. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理 場合の数）
14. 問題解決学習と和算
15. まとめ

準備学習(予習)

授業前に、教科書を読み、内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習内容について確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業への参加態度や意欲 | 30% |
| (2) 確認テスト、レポート等の提出物 | 30% |
| (3) 期末テスト | 40% |

毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）【978-4491023731】

参考書

担当教員：丸山 綱男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630425

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

理科において基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味を持つ。本授業では、受講生自身が知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察、実験を行って学習内容を実生活と関連付けて科学的な見方や考え方を養うことを重視する。理科のA・B区分の特徴を把握し、理科教材や理科授業についての見識を深め、何より受講生自身が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようにする。|また、理科として現代社会における環境問題にもふれ、理科を通して人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。|

(2) 内容

本授業では、2020年度から実施される新学習指導要領を参照しながら、小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。自然の対象の特性や児童の構築する見方や考え方に基づく「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の違いを認識した上で、児童の興味・関心や新たな知的探求心をどのように高めるべきか、理科が配当されている学年の観察・実験を体験する。また、実験器具の基本操作を正しく習得し、安心・安全な理科指導を身につけ事故防止を図る。

受講者に対する要望

・小学校の理科指導に必要な基本的な技能と心構えを学ぶこと。
・子どもを理科好きにするための自然事象へのかかわり方を学ぶこと。

学びのキーワード

・小学校理科の目標（新学習指導要領）
・学習内容A・B区分（新学習指導要領）
・観察・実験の体験
・事故防止

授業計画

01. オリエンテーション 小学校理科の概要
02. 小学校理科の目標について（新学習指導要領）
03. 小学校理科の学習内容（「A物質・エネルギー」「B生命・地球」：新学習指導要領）
04. 小学校理科観察・実験の安全指導・事故防止について
05. 小学校第3学年理科の観察・実験1（電気の通り道）
06. 小学校第3学年理科の観察・実験2（ゴムのはたらき）
07. 小学校第4学年理科の観察・実験1（月と星）
08. 小学校第4学年理科の観察・実験2（水と温度）
09. 理科授業展開における観察・実験
10. 小学校第5学年理科の観察・実験1（植物の発芽、成長）
11. 小学校第5学年理科の観察・実験2（電流の働き）
12. 小学校第6学年理科の観察・実験1（燃焼の仕組み）
13. 小学校第6学年理科の観察・実験2（人の体のつくりと働き）
14. 小学校第6学年理科の観察・実験3（水溶液の性質）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業終了時に次時の課題を通知するので、2020年度実施される新学習指導要領の目標と内容を何度も読み返して、課題の見通しをもって授業に臨むこと。

準備学習(復習)

児童の発達段階を念頭に入れた観察・実験や科学的な見方や考え方が体験できたのかをレポート作成を通して問い直し、論理的に整理することを積み重ねること。

評価方法

(1) 平常点	30%
(2) 提出物	40%
(3) 試験	30%

教科書

適宜資料を配布します。|

参考書

担当教員：市村 和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630530

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解するとともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。

(2) 内容

小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。

受講者に対する要望

学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。

学びのキーワード

- ・ 具体的な活動や体験
- ・ 子どもの思いや願い
- ・ 気付き
- ・ 幼保小の連携

授業計画

01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨
02. 生活科の目標について
03. 生活科の内容について
04. 生活科の指導計画について
05. 生活科の学習指導について
06. 事例研究（「探検」の授業）
07. 探検活動1（学校探検）
08. 探検活動2（学校マップ作り）
09. 探検活動のまとめ、情報交換
10. 事例研究（「ものの製作」の授業）
11. 製作活動1（おもちゃ作り）
12. 製作活動2（おもちゃの紹介）
13. 生活科の教材開発、環境構成について
14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について
15. 生活科教育のまとめ

準備学習(予習)

次時の予告内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート、作品等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

担当教員：市村 和子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630535

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解するとともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。

(2) 内容

小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。

受講者に対する要望

学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。

学びのキーワード

- ・具体的な活動や体験
- ・子どもの思いや願い
- ・気付き
- ・幼保小の連携

授業計画

01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨
02. 生活科の目標について
03. 生活科の内容について
04. 生活科の指導計画について
05. 生活科の学習指導について
06. 事例研究（「ものの製作」の授業）
07. 製作活動1（おもちゃ作り）
08. 製作活動2（おもちゃの紹介）
09. 事例研究（「探検」の授業）
10. 探検活動1（学校探検）
11. 探検活動2（学校マップ作り）
12. 探検活動のまとめ、情報交換
13. 生活科の教材開発、環境構成について
14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について
15. 生活科教育のまとめ

準備学習(予習)

次時の予告内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート、作品等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

担当教員：馬場 由子、広瀬 歩美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：10630640

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

日常の生活を見つめ直し、家庭科の学びを通して未来を担う自立した生活者を育てることを目指す。調理や裁縫を生活者に必要な技や知恵として評価し直し、かしこい消費者として「選ぶ目」と「作る手」を育てるため、炊飯実習と針刺し制作を行う。

(2) 内容

自分の生活と持続可能な地球環境の関わりを考える学習を通し、生活者としての自覚と判断力、実践力を育てる。持続可能な地球環境の視点を取り入れた「サステナブルクッキング」等の授業実践も紹介する。主体的に判断し、行動できる生活者を育てる授業実践を基に、実習や模擬授業も行う。

受講者に対する要望

指導要領と教科書の精読。授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集し、引き出しを増やす。家庭科を通して子ども達に伝えたいことを考える。

学びのキーワード

- ・自分の理念をもつ
- ・家庭科で育てたい力を考える
- ・子どもと共に学びをつくる
- ・学びの意味を考える
- ・持続可能な地球環境の視点をもつ

授業計画

01. 学習指導要領の内容と学習活動
02. 教科書に出てくる学習活動と学び方
03. 生きる力を育てる学習活動の工夫
04. なぜ衣服を着るのだろう
05. 裁縫実習（針刺し制作）
06. 展覧会（仲間からの学び）
07. なぜ食べるのだろう
08. サステナブルクッキング
09. 調理実習（ご飯炊き）
10. 家庭とは・家族とは
11. サステナブルライフ
12. 表示を読んでみよう
13. これからの生活に必要な視点
14. オリジナル題材発表会
15. まとめと期末定期試験

準備学習(予習)

・指導要領と家庭科の教科書を精読し、特徴をつかんでおく。
・家庭科で育てたい力を日々の生活の中で探しておく。
・裁縫用具、調理実習用エプロンと三角巾を準備しておく。

準備学習(復習)

・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオ作成すること。
・講義で出された課題は次週に提出すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 15% |
| (2) リアクションペーパー | 30% |
| (3) 提出物 | 15% |
| (4) 模擬授業 | 20% |
| (5) 試験 | 20% |

毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。生活レポート（B4用紙1枚）を書き、1人1回発表予定。

教科書

『新しい家庭科5・6』（東京書籍）|『小学校5・6年わたしたちの家庭科』（開隆堂）【978-4304080128】|馬場 由子2017年版新版『家庭科ワークシート・身近な消費生活と環境（教師用）』（地域教材社）【-】|文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成20年版）』（東洋館出版社）【978-4491023748】

参考書

担当教員：久保田 翠

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631000

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

受講者に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽教育
- ・教職
- ・弾き歌い

授業計画

01. レベル・チェック、目標設定、課題決定
02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
08. 前半のまとめ
09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してこること。わからない箇所はレッスンで質問すること。|(120分)

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。|(120分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--|
| (1) 発表 | 40% | 最後の授業内での課題の発表を評価する |
| (2) 平常点 | 60% | 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。 |

教科書

各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。

参考書

担当教員：池上 真理子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631001

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

受講者に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽教育
- ・教職
- ・弾き歌い

授業計画

01. レベル・チェック、目標設定、課題決定
02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
08. 前半のまとめ
09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してこること。わからない箇所はレッスンで質問すること。|(120分)

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。|(120分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--|
| (1) 発表 | 40% | 最後の授業内での課題の発表を評価する |
| (2) 平常点 | 60% | 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。 |

教科書

各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。

参考書

担当教員：池上 真理子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631002

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

受講者に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽教育
- ・教職
- ・弾き歌い

授業計画

01. レベル・チェック、目標設定、課題決定
02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
08. 前半のまとめ
09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してこること。わからない箇所はレッスンで質問すること。|(120分)

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。|(120分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--|
| (1) 発表 | 40% | 最後の授業内での課題の発表を発表する |
| (2) 平常点 | 60% | 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。 |

教科書

各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。

参考書

担当教員：久保田 翠

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631010

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。|その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。|この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

(2) 内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。|基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

受講者に対する要望

実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽
- ・弾き歌い
- ・コード

授業計画

01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
02. ピアノ演奏の基礎①姿勢や基礎的な楽典 コード：英語音名、単音伴奏
03. ピアノ演奏の基礎②手の形や基礎的な楽典 コード：メジャーコード
04. ピアノ演奏の基礎③ペダルやタッチについて コード：メジャーコードに慣れる。
05. ピアノ演奏の基礎④保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコード
06. ピアノ演奏の実践②保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコードに慣れる。メジャーコードへの理解を深める。
07. ピアノ演奏の実践③保育・教育現場の教材の演習 コード：セブンスコード
08. ピアノ演奏の実践④保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：セブンスコードに慣れる。メジャーコードとマイナーコードへの理解を深める。
09. ピアノ演奏の実践⑤保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：スリーコード、カデンツ（I、IV、V、V7）
10. ピアノ演奏の実践⑥保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：その他のコード
11. ピアノ演奏のまとめ①発表に向けての課題曲選定 コード：コード伴奏による歌唱教材の弾き歌い（発表課題曲選定）
12. ピアノ演奏のまとめ②発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
13. ピアノ演奏のまとめ③発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
14. ピアノ演奏のまとめ④発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
15. まとめ（発表）

準備学習（予習）

出された課題への取り組み（講義毎）・・・120分

準備学習（復習）

授業で指摘されたことの復習、理解・・・120分|一度仕上げた曲の復習（レパートリー作りのため）・・・90分

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 学習態度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。|ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：阪 まどか

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631011

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。|その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。|この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

(2) 内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。|基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

受講者に対する要望

実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽
- ・弾き歌い
- ・コード

授業計画

01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
02. ピアノ演奏の基礎①姿勢や基礎的な楽典 コード：英語音名、単音伴奏
03. ピアノ演奏の基礎②手の形や基礎的な楽典 コード：メジャーコード
04. ピアノ演奏の基礎③ペダルやタッチについて コード：メジャーコードに慣れる。
05. ピアノ演奏の基礎④保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコード
06. ピアノ演奏の実践②保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコードに慣れる。メジャーコードへの理解を深める。
07. ピアノ演奏の実践③保育・教育現場の教材の演習 コード：セブンスコード
08. ピアノ演奏の実践④保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：セブンスコードに慣れる。メジャーコードとマイナーコードへの理解を深める。
09. ピアノ演奏の実践⑤保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：スリーコード、カデンツ（I、IV、V、V7）
10. ピアノ演奏の実践⑥保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：その他のコード
11. ピアノ演奏のまとめ①発表に向けての課題曲選定 コード：コード伴奏による歌唱教材の弾き歌い（発表課題曲選定）
12. ピアノ演奏のまとめ②発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
13. ピアノ演奏のまとめ③発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
14. ピアノ演奏のまとめ④発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
15. まとめ（発表）

準備学習（予習）

出された課題への取り組み（講義毎）・・・120分

準備学習（復習）

授業で指摘されたことの復習、理解・・・120分|一度仕上げた曲の復習（レパートリー作りのため）・・・90分

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 学習態度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。|ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：阪 まどか

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631012

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。|その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。|この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

(2) 内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。|基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

受講者に対する要望

実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽
- ・弾き歌い
- ・コード

授業計画

01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
02. ピアノ演奏の基礎①姿勢や基礎的な楽典 コード：英語音名、単音伴奏
03. ピアノ演奏の基礎②手の形や基礎的な楽典 コード：メジャーコード
04. ピアノ演奏の基礎③ペダルやタッチについて コード：メジャーコードに慣れる。
05. ピアノ演奏の基礎④保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコード
06. ピアノ演奏の実践②保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコードに慣れる。メジャーコードへの理解を深める。
07. ピアノ演奏の実践③保育・教育現場の教材の演習 コード：セブンスコード
08. ピアノ演奏の実践④保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：セブンスコードに慣れる。メジャーコードとマイナーコードへの理解を深める。
09. ピアノ演奏の実践⑤保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：スリーコード、カデンツ（I、IV、V、V7）
10. ピアノ演奏の実践⑥保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：その他のコード
11. ピアノ演奏のまとめ①発表に向けての課題曲選定 コード：コード伴奏による歌唱教材の弾き歌い（発表課題曲選定）
12. ピアノ演奏のまとめ②発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
13. ピアノ演奏のまとめ③発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
14. ピアノ演奏のまとめ④発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
15. まとめ（発表）

準備学習（予習）

出された課題への取り組み（講義毎）・・・120分

準備学習（復習）

授業で指摘されたことの復習、理解・・・120分|一度仕上げた曲の復習（レパートリー作りのため）・・・90分

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 学習態度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。|ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：笠井 かほる

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631050

<p>学部教育の関連目</p> <p>【C】教師に必要な知識・技能を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ 02. 基礎的な楽典、読譜、リズム 03. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色について、 04. 保育、教育現場での歌唱法、発声、コードについて 05. 歌唱教材の演習・コードの基礎 06. 歌唱教材の演習・コードの基礎 07. 歌唱教材の演習・コードの基礎 08. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について 09. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について 10. 中間まとめと確認 11. 保育・教育現場での教材の弾き歌い 12. 保育・教育現場での教材の弾き歌い 13. 保育・教育現場での教材の弾き歌い 14. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用 1 15. コード伴奏によるポップスの弾き歌い総まとめ 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p> <p>【C】保育士資格：選択科目</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>事前の練習なしでの授業参加は認めない。
コード伴奏の習得には一定の練習が必要であり、楽曲演奏能力を高めるためにも、学生自身が自覚を持った練習をして授業に臨むこと。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得は、ピアノ初心者、経験者の差なく学習でき、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。
演習を通して音楽の楽しさを学生自身が感じながら、音楽的技術の向上をはかることを目標とする。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>実習、就職試験、保育・教職現場でのレパートリーになるよう復讐を心がけてほしい。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>音楽を通し、感性豊かな表現活動が、こどもたちと楽しくできるような保育者・教員を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。
主にピアノ演奏の習得を通し、音楽に関する基礎知識、歌唱伴奏法を学ぶ。</p>	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 参加状況</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>(2) 平常点</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>(3) 中間・期末テスト</td> <td>50%</td> </tr> </table>	(1) 参加状況	25%	(2) 平常点	25%	(3) 中間・期末テスト	50%
(1) 参加状況	25%						
(2) 平常点	25%						
(3) 中間・期末テスト	50%						
<p>受講者に対する要望</p> <p>演習科目で、グループレッスンであり、個人的な指導も時間に制限があるため、効率のよい授業、お互いの向上のために事前の練習は必須である。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな感性と表現力 ・コード伴奏の習得 ・歌唱曲の伴奏 ・保育、教育現場での実践的活用法 							

担当教員：渋谷 みどり

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631060

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

(2) 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

受講者に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽

授業計画

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める。
02. ピアノ演奏の基礎（1） 曲の中でいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎（2） 曲の中でいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎（3） 曲の中でいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎（4） ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践（1） 曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践（2） 曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践（3） 自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践（4） 自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ（1） まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ（2） 譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ（3） 演奏の表現① 曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ（4） 演奏の表現② どのように弾きたいか考える。
14. ピアノ演奏のまとめ（5） 曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する |

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合には、なにがわからないのかを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題に対する取り組み度と達成度 |
| (2) まとめと発表 | 50% | |

毎回、課題を練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に計算されない。欠席は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示する。

参考書

担当教員：渋谷 みどり

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631061

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

(2) 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

受講者に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽

授業計画

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める。
02. ピアノ演奏の基礎（1） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎（2） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎（3） 曲の中でのいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎（4） ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践（1） 曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践（2） 曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践（3） 自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践（4） 自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ（1） まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ（2） 譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ（3） 演奏の表現① 曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ（4） 演奏の表現② どのように弾きたいか考える。
14. ピアノ演奏のまとめ（5） 曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する |

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合には、なにがわからないのかを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題に対する取り組み度と達成度 |
| (2) まとめと発表 | 50% | |

毎回、課題を練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に計算されない。欠席は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示する。

参考書

担当教員：久保田 翠

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631062

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

(2) 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

受講者に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽

授業計画

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める。
02. ピアノ演奏の基礎（1） 曲の中でいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎（2） 曲の中でいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎（3） 曲の中でいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎（4） ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践（1） 曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践（2） 曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践（3） 自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践（4） 自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ（1） まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ（2） 譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ（3） 演奏の表現① 曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ（4） 演奏の表現② どのように弾きたいか考える。
14. ピアノ演奏のまとめ（5） 曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する |

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合には、なにがわからないのかを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題に対する取り組み度と達成度 |
| (2) まとめと発表 | 50% | |

毎回、課題を練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加工されない。欠席は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示する。

参考書

担当教員：久保田 翠

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631070

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。

(2) 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。

受講者に対する要望

児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・音楽
- ・ピアノ
- ・コード
- ・児童教育
- ・幼児教育

授業計画

01. 各学生のレベル調査・テキストの指示
02. 基礎理論：音程と音階
03. 基礎理論：コードネームの概要
04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
06. 短調、マイナーコード
07. セブンスコード：日常生活の歌
08. セブンスコード：季節の歌
09. 主要三和音、スリーコードの付け方
10. スリーコードの応用
11. その他のコードⅠ
12. その他のコードⅡ
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. 発表、まとめ

準備学習(予習)

課題曲の予備練習

準備学習(復習)

指摘された点の修正練習

評価方法

- | | | |
|---------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 課題曲の完成度 |
| (2) 努力点 | 30% | 予復習の評価 |
| (3) 習熟度 | 20% | 練習曲数 |
| (4) 発表 | 20% | 最終段階での演奏評価 |

全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。

教科書

個々の学生の能力に応じてプリントを配布

参考書

担当教員：塚原 晴美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631071

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。

(2) 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。

受講者に対する要望

児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・音楽
- ・ピアノ
- ・コード
- ・児童教育
- ・幼児教育

授業計画

01. 各学生のレベル調査・テキストの指示
02. 基礎理論：音程と音階
03. 基礎理論：コードネームの概要
04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
06. 短調、マイナーコード
07. セブンスコード：日常生活の歌
08. セブンスコード：季節の歌
09. 主要三和音、スリーコードの付け方
10. スリーコードの応用
11. その他のコードⅠ
12. その他のコードⅡ
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. 発表、まとめ

準備学習(予習)

課題曲の予備練習

準備学習(復習)

指摘された点の修正練習

評価方法

- | | | |
|---------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 課題曲の完成度 |
| (2) 努力点 | 30% | 予復習の評価 |
| (3) 習熟度 | 20% | 練習曲数 |
| (4) 発表 | 20% | 最終段階での演奏評価 |

全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。|

教科書

個々の学生の能力に応じてプリントを配布

参考書

担当教員：塚原 晴美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631072

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。

(2) 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。

受講者に対する要望

児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・音楽
- ・ピアノ
- ・コード
- ・児童教育
- ・幼児教育

授業計画

01. 各学生のレベル調査・テキストの指示
02. 基礎理論：音程と音階
03. 基礎理論：コードネームの概要
04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
06. 短調、マイナーコード
07. セブンスコード：日常生活の歌
08. セブンスコード：季節の歌
09. 主要三和音、スリーコードの付け方
10. スリーコードの応用
11. その他のコードⅠ
12. その他のコードⅡ
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. 発表、まとめ

準備学習(予習)

課題曲の予備練習

準備学習(復習)

指摘された点の修正練習

評価方法

- | | | |
|---------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 課題曲の完成度 |
| (2) 努力点 | 30% | 予復習の評価 |
| (3) 習熟度 | 20% | 練習曲数 |
| (4) 発表 | 20% | 最終段階での演奏評価 |

全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。

教科書

個々の学生の能力に応じてプリントを配布

参考書

担当教員：島崎 美知子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631080

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

(2) 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

受講者に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

学びのキーワード

- ・読符力
- ・リズム感
- ・曲を仕上げる力
- ・伴奏に必要なコードなど理論的知識
- ・伴奏に必要なアンサンブル力

授業計画

01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行う。
03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)
04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)
05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)
08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)
09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|-------------|
| (1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 | 60% | 注意に対する改善 |
| (2) 最後の発表 | 30% | 人前で出せる実力 |
| (3) 音楽的知識 | 10% | 興味を持って吸収したか |

欠席は減点の対象になる

教科書

参考書

担当教員：島崎 美知子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631081

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

(2) 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

受講者に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

学びのキーワード

- ・読符力
- ・リズム感
- ・曲を仕上げる力
- ・伴奏に必要なコードなど理論的知識
- ・伴奏に必要なアンサンブル力

授業計画

01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行う。
03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(1)
04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(2)
05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)
08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)
09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|-------------|
| (1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 | 60% | 注意に対する改善 |
| (2) 最後の発表 | 30% | 人前で出せる実力 |
| (3) 音楽的知識 | 10% | 興味を持って吸収したか |

欠席は減点の対象になる

教科書

参考書

担当教員：島崎 美知子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631082

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

(2) 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

受講者に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

学びのキーワード

- ・読符力
- ・リズム感
- ・曲を仕上げる力
- ・伴奏に必要なコードなど理論的知識
- ・伴奏に必要なアンサンブル力

授業計画

01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行う。
03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(1)
04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(2)
05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(1)
08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(2)
09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける(3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|-------------|
| (1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 | 60% | 注意に対する改善 |
| (2) 最後の発表 | 30% | 人前で出せる実力 |
| (3) 音楽的知識 | 10% | 興味を持って吸収したか |

欠席は減点の対象になる

教科書

参考書

担当教員：池上 真理子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631100

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

受講者に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽教育
- ・教職
- ・弾き歌い

授業計画

01. レベル・チェック、目標設定、課題決定
02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
08. 前半のまとめ
09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。|(120分)

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。|(120分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--|
| (1) 発表 | 40% | 最後の授業内での課題の発表を評価する |
| (2) 平常点 | 60% | 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。 |

教科書

各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。

参考書

担当教員：池上 真理子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631101

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

受講者に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽教育
- ・教職
- ・弾き歌い

授業計画

01. レベル・チェック、目標設定、課題決定
02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
08. 前半のまとめ
09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。|(120分)

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。|(120分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--|
| (1) 発表 | 40% | 最後の授業内での課題の発表を評価する |
| (2) 平常点 | 60% | 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。 |

教科書

各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。

参考書

担当教員：阪 まどか

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631102

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つことのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。そのために必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

受講者に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽教育
- ・教職
- ・弾き歌い

授業計画

01. レベル・チェック、目標設定、課題決定
02. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(1)
03. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(2)
04. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ(3)
05. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(1)
06. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(2)
07. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む(3)
08. 前半のまとめ
09. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(1)
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(2)
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす(3)
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(1)
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(2)
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく(3)
15. まとめ(発表)

準備学習(予習)

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。|(120分)

準備学習(復習)

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。|(120分)

評価方法

- | | | |
|---------|-----|--|
| (1) 発表 | 40% | 最後の授業内での課題の発表を評価する |
| (2) 平常点 | 60% | 毎回のレッスンに向けて、十分に準備、練習しているか、積極的に取り組んでいるかを評価する。 |

教科書

各学生のレベル、目的に即した課題を指示する。

参考書

担当教員： 阪 まどか

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 10631110

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。|その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。|この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

(2) 内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。|基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

受講者に対する要望

実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽
- ・弾き歌い
- ・コード

授業計画

01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
02. ピアノ演奏の基礎①姿勢や基礎的な楽典 コード：英語音名、単音伴奏
03. ピアノ演奏の基礎②手の形や基礎的な楽典 コード：メジャーコード
04. ピアノ演奏の基礎③ペダルやタッチについて コード：メジャーコードに慣れる。
05. ピアノ演奏の実践①保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコード
06. ピアノ演奏の実践②保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコードに慣れる。メジャーコードへの理解を深める。
07. ピアノ演奏の実践③保育・教育現場の教材の演習 コード：セブンスコード
08. ピアノ演奏の実践④保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：セブンスコードに慣れる。メジャーコードとマイナーコードへの理解を深める。
09. ピアノ演奏の実践⑤保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：スリーコード、カデンツ（I、IV、V、V7）
10. ピアノ演奏の実践⑥保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：その他のコード
11. ピアノ演奏のまとめ①発表に向けての課題曲選定 コード：コード伴奏による歌唱教材の弾き歌い（発表課題曲選定）
12. ピアノ演奏のまとめ②発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
13. ピアノ演奏のまとめ③発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
14. ピアノ演奏のまとめ④発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
15. まとめ（発表）

準備学習（予習）

出された課題への取り組み（講義毎）・・・120分

準備学習（復習）

授業で指摘されたことの復習、理解・・・120分|一度仕上げた曲の復習（レパートリー作りのため）・・・90分

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 学習態度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。|ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：阪 まどか

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631111

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。|その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。|この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

(2) 内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。|基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

受講者に対する要望

実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽
- ・弾き歌い
- ・コード

授業計画

01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
02. ピアノ演奏の基礎①姿勢や基礎的な楽典 コード：英語音名、単音伴奏
03. ピアノ演奏の基礎②手の形や基礎的な楽典 コード：メジャーコード
04. ピアノ演奏の基礎③ペダルやタッチについて コード：メジャーコードに慣れる。
05. ピアノ演奏の実践①保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコード
06. ピアノ演奏の実践②保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコードに慣れる。メジャーコードへの理解を深める。
07. ピアノ演奏の実践③保育・教育現場の教材の演習 コード：セブンスコード
08. ピアノ演奏の実践④保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：セブンスコードに慣れる。メジャーコードとマイナーコードへの理解を深める。
09. ピアノ演奏の実践⑤保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：スリーコード、カデンツ（I、IV、V、V7）
10. ピアノ演奏の実践⑥保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：その他のコード
11. ピアノ演奏のまとめ①発表に向けての課題曲選定 コード：コード伴奏による歌唱教材の弾き歌い（発表課題曲選定）
12. ピアノ演奏のまとめ②発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
13. ピアノ演奏のまとめ③発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
14. ピアノ演奏のまとめ④発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
15. まとめ（発表）

準備学習（予習）

出された課題への取り組み（講義毎）・・・120分

準備学習（復習）

授業で指摘されたことの復習、理解・・・120分|一度仕上げた曲の復習（レパートリー作りのため）・・・90分

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 学習態度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。|ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：阪 まどか

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631112

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。|その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。|この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

(2) 内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。|基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

受講者に対する要望

実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽
- ・弾き歌い
- ・コード

授業計画

01. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
02. ピアノ演奏の基礎①姿勢や基礎的な楽典 コード：英語音名、単音伴奏
03. ピアノ演奏の基礎②手の形や基礎的な楽典 コード：メジャーコード
04. ピアノ演奏の基礎③ペダルやタッチについて コード：メジャーコードに慣れる。
05. ピアノ演奏の実践①保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコード
06. ピアノ演奏の実践②保育・教育現場の教材の演習 コード：マイナーコードに慣れる。メジャーコードへの理解を深める。
07. ピアノ演奏の実践③保育・教育現場の教材の演習 コード：セブンスコード
08. ピアノ演奏の実践④保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：セブンスコードに慣れる。メジャーコードとマイナーコードへの理解を深める。
09. ピアノ演奏の実践⑤保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：スリーコード、カデンツ（I、IV、V、V7）
10. ピアノ演奏の実践⑥保育・教育現場の教材の弾き歌い コード：その他のコード
11. ピアノ演奏のまとめ①発表に向けての課題曲選定 コード：コード伴奏による歌唱教材の弾き歌い（発表課題曲選定）
12. ピアノ演奏のまとめ②発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
13. ピアノ演奏のまとめ③発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
14. ピアノ演奏のまとめ④発表に向けての課題曲の練習 コード：課題曲の練習
15. まとめ（発表）

準備学習（予習）

出された課題への取り組み（講義毎）・・・120分

準備学習（復習）

授業で指摘されたことの復習、理解・・・120分|一度仕上げた曲の復習（レパートリー作りのため）・・・90分

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 学習態度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。|ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：笠井 かほる

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631150

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得は、ピアノ初心者、経験者に差がなく学習でき、即興、身体表現の伴奏、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。演習を通して音楽の楽しさを学生自身が感じながら、音楽的技能の向上をはかることを目標とする。

(2) 内容

音楽活動を通じ感性豊かな表現活動をこどもたちと楽しく行える保育者、教員、を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。ピアノ演奏の技能習得とともに、音楽に関する基礎知識、保育現場で役に立つコードによる歌唱伴奏法を学ぶ。

受講者に対する要望

コード伴奏は個人の既習歴、能力に見合った即興、応用ができるが、一定の練習が必要なため、学生自身が自覚を持った練習をして授業に臨むこと

学びのキーワード

- ・ 音楽的表現
- ・ コード伴奏の習得
- ・ 歌唱曲のピアノ伴奏法
- ・ 保育、教育現場での応用

授業計画

01. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ
02. 幼児の音楽的な表現活動について、幼児の発達と音楽
03. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色、コードについて、
04. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌
05. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌
06. コードネームの学習と楽曲演習
07. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について
08. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について 1
09. 中間まとめと確認
10. I IV V V7とコードネームの関連と演習
11. 保育歌唱曲の伴奏
12. 保育歌唱曲の伴奏
13. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用
14. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用
15. 総まとめ

準備学習(予習)

練習した曲に対するレッスンなので練習なしの授業参加は認められない。必ず授業準備をしてくること

準備学習(復習)

実習、就職試験、保育・教職現場に役立つよう、復讐の積み重ねでレパートリーを増やすこと

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 参加状況 | 30% |
| (2) 平常点 | 10% |
| (3) 中間テスト | 20% |
| (4) 期末テスト | 25% |
| (5) 学習量 | 15% |

教科書

参考書

担当教員：笠井 かほる

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631151

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得は、ピアノ初心者、経験者に差がなく学習でき、即興、身体表現の伴奏、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。演習を通して音楽の楽しさを学生自身が感じながら、音楽的技能の向上をはかることを目標とする。

(2) 内容

音楽活動を通じ感性豊かな表現活動をこどもたちと楽しく行える保育者、教員、を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。ピアノ演奏の技能習得とともに、音楽に関する基礎知識、保育現場で役に立つコードによる歌唱伴奏法を学ぶ。

受講者に対する要望

コード伴奏は個人の既習歴、能力に見合った即興、応用ができるが、一定の練習が必要なため、学生自身が自覚を持った練習をして授業に臨むこと

学びのキーワード

- ・ 音楽的表現
- ・ コード伴奏の習得
- ・ 歌唱曲のピアノ伴奏法
- ・ 保育、教育現場での応用

授業計画

01. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ
02. 幼児の音楽的な表現活動について、幼児の発達と音楽
03. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色、コードについて、
04. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌
05. 実習に役立つ「動き」を伴う音楽活動、手遊び、わらべ歌
06. コードネームの学習と楽曲演習
07. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について
08. コード伴奏と保育歌唱教材の演習、歌詞理解と作曲者について 1
09. 中間まとめと確認
10. I IV V V7とコードネームの関連と演習
11. 保育歌唱曲の伴奏
12. 保育歌唱曲の伴奏
13. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用
14. アニメソング、ポップスの弾き歌いへの応用
15. 総まとめ

準備学習(予習)

練習した曲に対するレッスンなので練習なしの授業参加は認められない。必ず授業準備をしてくること

準備学習(復習)

実習、就職試験、保育・教職現場に役立つよう、復讐の積み重ねでレパートリーを増やすこと

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 参加状況 | 30% |
| (2) 平常点 | 10% |
| (3) 中間テスト | 20% |
| (4) 期末テスト | 25% |
| (5) 学習量 | 15% |

教科書

参考書

担当教員： 渋谷 みどり

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 10631160

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

(2) 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

受講者に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽

授業計画

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
02. ピアノ演奏の基礎(1)曲の中でいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎(2)曲の中でいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎(3)曲の中でいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎(4)ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践(1)曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践(2)曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践(3)自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践(4)自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ(1)まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ(2)譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ(3)演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ(4)演奏の表現②どのように弾きたいか考え
14. ピアノ演奏のまとめ(5)曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないのかを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにしておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題に対する取り組み度と達成度 |
| (2) まとめと発表 | 50% | |

毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に計算されない。欠席は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員： 渋谷 みどり

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 10631161

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

(2) 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

受講者に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽

授業計画

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
02. ピアノ演奏の基礎(1)曲の中でいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎(2)曲の中でいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎(3)曲の中でいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎(4)ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践(1)曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践(2)曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践(3)自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践(4)自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ(1)まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ(2)譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ(3)演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ(4)演奏の表現②どのように弾きたいか考え
14. ピアノ演奏のまとめ(5)曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないのかを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにしておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題に対する取り組み度と達成度 |
| (2) まとめと発表 | 50% | |

毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に計算されない。欠席は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：渋谷 みどり

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631162

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

(2) 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。この授業では、楽譜を正確に読んで弾く事を重要視するので、基礎としてのいろいろな音符の弾き方に、時間をかける場合もある。また、楽譜が正確に読める場合は、すぐに実践に入り、ピアノ曲や童謡の伴奏等で授業を進める。

受講者に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

学びのキーワード

- ・ピアノ
- ・音楽

授業計画

01. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
02. ピアノ演奏の基礎(1)曲の中でいろいろな音符の弾き方①
03. ピアノ演奏の基礎(2)曲の中でいろいろな音符の弾き方②
04. ピアノ演奏の基礎(3)曲の中でいろいろな音符の弾き方③
05. ピアノ演奏の基礎(4)ペダルの使い方
06. ピアノ演奏の実践(1)曲の構成や音楽用語について①
07. ピアノ演奏の実践(2)曲の構成や音楽用語について②
08. ピアノ演奏の実践(3)自分がイメージする演奏表現を考える①
09. ピアノ演奏の実践(4)自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ(1)まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ(2)譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ(3)演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ(4)演奏の表現②どのように弾きたいか考え
14. ピアノ演奏のまとめ(5)曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

準備学習(予習)

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないのかを明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにしておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題に対する取り組み度と達成度 |
| (2) まとめと発表 | 50% | |

毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に計算されない。欠席は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：塚原 晴美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631170

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。

(2) 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。

受講者に対する要望

児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・音楽
- ・ピアノ
- ・コード
- ・児童教育
- ・幼児教育

授業計画

01. 各学生のレベル調査・テキストの指示
02. 基礎理論：音程と音階
03. 基礎理論：コードネームの概要
04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
06. 短調、マイナーコード
07. セブンスコード：日常生活の歌
08. セブンスコード：季節の歌
09. 主要三和音、スリーコードの付け方
10. スリーコードの応用
11. その他のコードⅠ
12. その他のコードⅡ
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. 発表、まとめ

準備学習(予習)

課題曲の予備練習

準備学習(復習)

指摘された点の修正練習

評価方法

- | | | |
|---------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 課題曲の完成度 |
| (2) 努力点 | 30% | 予復習の評価 |
| (3) 習熟度 | 20% | 練習曲数 |
| (4) 発表 | 20% | 最終段階での演奏評価 |

全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。

教科書

個々の学生の能力に応じてプリントを配布

参考書

担当教員：塚原 晴美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631171

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。

(2) 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。

受講者に対する要望

児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・音楽
- ・ピアノ
- ・コード
- ・児童教育
- ・幼児教育

授業計画

01. 各学生のレベル調査・テキストの指示
02. 基礎理論：音程と音階
03. 基礎理論：コードネームの概要
04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
06. 短調、マイナーコード
07. セブンスコード：日常生活の歌
08. セブンスコード：季節の歌
09. 主要三和音、スリーコードの付け方
10. スリーコードの応用
11. その他のコードⅠ
12. その他のコードⅡ
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. 発表、まとめ

準備学習(予習)

課題曲の予備練習

準備学習(復習)

指摘された点の修正練習

評価方法

- | | | |
|---------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 課題曲の完成度 |
| (2) 努力点 | 30% | 予復習の評価 |
| (3) 習熟度 | 20% | 練習曲数 |
| (4) 発表 | 20% | 最終段階での演奏評価 |

全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。

教科書

個々の学生の能力に応じてプリントを配布

参考書

担当教員：塚原 晴美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631172

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

小学校文部省唱歌の範唱、童謡の弾き歌いに必要なピアノ伴奏による奏法の技術を学ぶ。楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。

(2) 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な音楽の基礎技術を習得する。

受講者に対する要望

児童教育、幼児教育における音楽教育の必要性に対して強い意識を持って、授業に臨んで下さい。

学びのキーワード

- ・音楽
- ・ピアノ
- ・コード
- ・児童教育
- ・幼児教育

授業計画

01. 各学生のレベル調査・テキストの指示
02. 基礎理論：音程と音階
03. 基礎理論：コードネームの概要
04. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
05. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
06. 短調、マイナーコード
07. セブンスコード：日常生活の歌
08. セブンスコード：季節の歌
09. 主要三和音、スリーコードの付け方
10. スリーコードの応用
11. その他のコードⅠ
12. その他のコードⅡ
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. 発表、まとめ

準備学習(予習)

課題曲の予備練習

準備学習(復習)

指摘された点の修正練習

評価方法

- | | | |
|---------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 課題曲の完成度 |
| (2) 努力点 | 30% | 予復習の評価 |
| (3) 習熟度 | 20% | 練習曲数 |
| (4) 発表 | 20% | 最終段階での演奏評価 |

全出席が前提の授業なので、欠席した場合には評価に影響する事があります。

教科書

個々の学生の能力に応じてプリントを配布

参考書

担当教員：島崎 美知子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10631180

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

(2) 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

受講者に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

学びのキーワード

- ・読符力
- ・リズム感
- ・曲を仕上げる力
- ・伴奏に必要なコードなど理論的知識
- ・伴奏に必要なアンサンブル力

授業計画

01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行う。
03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(1)
04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(2)
05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)
08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)
09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|-------------|
| (1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 | 60% | 注意に対する改善 |
| (2) 最後の発表 | 30% | 人前で出せる実力 |
| (3) 音楽的知識 | 10% | 興味を持って吸収したか |

欠席は減点の対象になる

教科書

参考書

担当教員：島崎 美知子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631181

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

(2) 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

受講者に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

学びのキーワード

- ・読符力
- ・リズム感
- ・曲を仕上げる力
- ・伴奏に必要なコードなど理論的知識
- ・伴奏に必要なアンサンブル力

授業計画

01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行う。
03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)
04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)
05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)
08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)
09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|-------------|
| (1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 | 60% | 注意に対する改善 |
| (2) 最後の発表 | 30% | 人前で出せる実力 |
| (3) 音楽的知識 | 10% | 興味を持って吸収したか |

欠席は減点の対象になる

教科書

参考書

担当教員：島崎 美知子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10631182

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

(2) 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進度についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

受講者に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

学びのキーワード

- ・読符力
- ・リズム感
- ・曲を仕上げる力
- ・伴奏に必要なコードなど理論的知識
- ・伴奏に必要なアンサンブル力

授業計画

01. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
02. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行う。
03. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(1)
04. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的知識も増やして行く。(2)
05. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
06. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
07. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)
08. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)
09. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

準備学習(予習)

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

準備学習(復習)

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|-------------|
| (1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備 | 60% | 注意に対する改善 |
| (2) 最後の発表 | 30% | 人前で出せる実力 |
| (3) 音楽的知識 | 10% | 興味を持って吸収したか |

欠席は減点の対象になる

教科書

参考書

担当教員：山田 裕治

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10632210

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

小学校などの教育現場からの楽器演奏指導の要望に応えるためには、自ら正しい演奏法を学びながら指導法を習得する必要がある。奏者の体（唇）を振動体としている金管楽器は最初に発音原理を知り正しい奏法を身につけないとその後の上達が望めない。この授業では音の出る仕組みを理解した上で、正しい奏法と練習方法を習得し、指導者になった時に実践できるようにする。

(2) 内容

吹奏楽・金管バンドで使用されるトランペットやトロンボーンなどの金管楽器の基本奏法を身につけると同時に、児童に対する指導法も学ぶ。また合奏での楽器の組み合わせ方や響きの作り方も学ぶ。

受講者に対する要望

授業に積極的に参加する|疑問を残さない

学びのキーワード

- ・基礎奏法の理解
- ・指導法
- ・アンサンブルの楽しさ
- ・曲を完成させる過程
- ・楽器の仕組み

授業計画

01. 担当する楽器選び
02. 楽器の扱い方を覚え、発音原理を理解する
03. 基礎的な演奏法を学ぶ
04. 音域の拡大
05. 初歩の練習曲の演奏 1
06. 初歩の練習曲の演奏 2
07. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 1
08. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 2
09. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 3
10. 基礎練習方法の習得と練習曲による演奏能力の向上 4
11. 発表曲の個人練習 1
12. 発表曲の個人練習 2
13. 発表曲の合奏 1
14. 発表曲の合奏 2
15. 練習曲の発表|

準備学習(予習)

担当楽器について調べ演奏を聴いてみる|授業で演奏する楽譜を読みピアノで弾いてみる

準備学習(復習)

苦手な音程やリズムをピアノで弾いてみる

評価方法

- | | |
|----------|---------------|
| (1) 平常点 | 80% 練習に取り組む姿勢 |
| (2) 期末試験 | 20% 演奏の達成度 |

教科書

授業時にプリントを配布

参考書

担当教員：久保田 翠、渋谷 みどり、塚原 晴美、山田 裕治、池上 真理子、阪 まどか

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633725

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要な基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け・音部記号と譜表
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音名と変化記号
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音符と休符
04. ピアノ演奏の基礎(3)・拍子
05. ピアノ演奏の基礎(4)・様々なリズム
06. ピアノ演奏の実践(1)・反復記号と発想記号
07. ピアノ演奏の実践(2)・これまでの復習
08. ピアノ演奏の実践(3)・音程
09. ピアノ演奏の実践(4)・長音階
10. ピアノ演奏の実践(5)・短音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・関係調
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・三和音とカデンツ
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・コードネーム
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・発想記号
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

授業時にプリントを配布

参考書

担当教員：久保田 翠、渋谷 みどり、塚原 晴美、山田 裕治、池上 真理子、阪 まどか

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633730

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要な基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け・音部記号と譜表
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音名と変化記号
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音符と休符
04. ピアノ演奏の基礎(3)・拍子
05. ピアノ演奏の基礎(4)・様々なリズム
06. ピアノ演奏の実践(1)・反復記号
07. ピアノ演奏の実践(2)・これまでの復習
08. ピアノ演奏の実践(3)・音程
09. ピアノ演奏の実践(4)・長音階
10. ピアノ演奏の実践(5)・短音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・関係調
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・三和音とカデンツ
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・コードネーム
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・発想記号
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

授業時にプリントを配布

参考書

担当教員：井口 太

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633845

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

(2) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとしていけないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入と幼児への実践の紹介
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太『新・幼児の音楽教育—幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導』(朝日出版社)【978-4255155562】

参考書

担当教員：井口 太

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633850

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

(2) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとしていけないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入と幼児への実践の紹介
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太『新・幼児の音楽教育』（朝日出版社）【978-4255155562】

参考書

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10633965

学部教育の関連目

【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

子どもの好む教師、親の求める教師、教師の考える望ましい教師、校長・行政者の求める望ましい教師を考えながら、教師とは何かを追究することに学びの価値がある。本講義を通して教育活動に従事する魅力に触れ、教師の道を目指そうとする気持ちが確かなものになることを期待する。

(2) 内容

「教育は人にある」といわれる。施設・設備が整備され、すぐれた教材・教具が開発された今日においても、教師の重要性に変わりはない。最近、特に学校での事故や生徒の自殺問題で、世間の教師に対する関心は強いものになっている。本講義では、教師の仕事、役割、教師観や職場としての学校などについて学び、望ましい資質能力とは何かと人権を尊重した教師の姿を考える。

受講者に対する要望

教職志望者が、資質向上を図り、真摯に取り組むことを望む。

学びのキーワード

- ・ 教師の仕事
- ・ 資質能力
- ・ 望ましい教師
- ・ 人権尊重
- ・ 目指す教師像

授業計画

01. オリエンテーション 教師の日常世界
02. 授業をつくる（授業の構成・デザイン）
03. 授業から学ぶ（評価する主体としての教師・ともに学び続ける教師）
04. カリキュラムをデザインする（カリキュラムの概念・学びのビジョンとその実践・学びのデザイン・開発と評価）
05. 子どもを育む（子どもの心に寄り添う・子どもの言葉を受け取る・教師-子ども関係が陥りやすい落とし穴）
06. 生涯を教師として生きる（教育実習から新任の教師へ・教師としてのアイデンティティの模索）
07. 同僚とともに学校を創る（学校での授業の探求・学校における同僚性・教師文化の形成するもの）
08. 教職の専門性（教師に対する国際的認識・教師の養成・成長）
09. 時代の中の教師（日本における教育の風景の展開・戦後の教師像）
10. 教師の仕事とジェンダー（歴史の中の女性教師）
11. 教育改革と教師の未来（転換期の学校・教師の使命・未来への希望）
12. 教師研究へのアプローチ（教師研究との広がり・教師をめざして）
13. プレゼンテーション 「教える職業」から「学びの専門職」への転換について
14. プレゼンテーション 「子どもの学びを促進する教育実践」について
15. 授業の確認とまとめ

準備学習(予習)

テキストの指定ページを読んで授業に臨むこと。新聞から教育関連の記事を1つ選んで、メモをとり意見が言えるようにして授業に臨むこと。

準備学習(復習)

配布プリント及びテキストの学習箇所での復習をする。平日頃から新聞やニュースに目を通し、社会情勢や教育関連の記事に関心を持つ。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 毎回、リフレクションカードの提出を求める。 |
| (2) プレゼン | 30% | |
| (3) レポート1回 | 20% | |
| (4) 期末テスト | 30% | |

教科書

秋田 喜代美、佐藤 学 改訂版『新しい時代の教職入門 改訂版』（有斐閣）【978-4641220607】

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10633970

学部教育の関連目

【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 保育者の役割と倫理について理解する。 | (2) 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけを理解する。 | (3) 保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し、理解する。 | (4) 保育者の協働について理解する。 | (5) 保育者の専門職的成長について理解する。 |

(2) 内容

本講義では、保育者の役割と倫理、保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ、保育士・幼稚園教諭の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長について概説する。

受講者に対する要望

毎回の授業で課題・小テストに取り組むことが多くあるため、計画的に丁寧に取り組むこと。 | 出席シート（リアクションペーパー）を丁寧に記入すること。 | グループワークに積極的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ 保育士
- ・ 幼稚園教諭
- ・ 役割
- ・ 専門性
- ・ 協働

授業計画

01. オリエンテーション 保育者の役割1—保育士（3歳以上児）
02. 保育者の役割2—保育士（3歳未満児）
03. 保育者の役割3—幼稚園教諭
04. 保育者の役割4—月間・年間の役割
05. 保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ
06. 保育者の倫理
07. 保育士・幼稚園教諭の専門性1—養護と教育 資質・能力
08. 保育士・幼稚園教諭の専門性2—知識・技術及び判断
09. 保育士・幼稚園教諭の専門性3—保育の省察と自己評価
10. 保育者の協働1—保育と保護者支援にかかわる協働
11. 保育者の協働2—保護者及び地域社会との協働
12. 保育者の協働3—専門職間、専門機関及び家庭的保育者等との連
13. 保育・教育の実践例
14. 保育者の専門職的成長
15. 理解度の確認と振り返り

準備学習(予習)

- ・ 課題に取り組むこと

準備学習(復習)

・ 授業で視聴した事例の分析をすること | 小テストの準備をすること | 返却された出席シート（リアクションペーパー）に修正加筆の指示がある場合には、修正すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席点ではない。 |
| (2) 課題 | 20% | |
| (3) 小テスト | 20% | |
| (4) 事例レポート | 10% | |
| (5) 最終課題 | 20% | |

毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。 | 小テストの結果は、受講者が確認できるようにし、復習につなげられるようにする。 | また、最終課題のポイントは、最終授業時に解説を行う。

教科書

参考書

厚生労働省 『保育所保育指針』 | 文部科学省 『幼稚園教育要領』

担当教員：鎌原 雅彦

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634100

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学4年間の学びと実習・実践を通して学んだことを総合的に学習することを目的とし、幼稚園教諭を目指す上での自己課題を明確にしていく。不足している知識・技能については補完をし、卒業後に幼稚園教諭として従事する上で必要な資質や能力を高めていく。

(2) 内容

大学4年間での幼稚園教職課程の学びを総括し、これまで蓄積してきた「履修カルテ」や実習日誌を基に幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能については補完をしていく。

受講者に対する要望

履修カルテや実習記録を見直し、各自の不足している点は何か、そのためにどのような学びをしたらよいかを各自が見出してほしい。

学びのキーワード

- ・子ども理解
- ・実践力
- ・保育技能
- ・教師としての使命感と責任感

授業計画

01. オリエンテーション（授業の説明、履修カルテから自己分析）
02. 幼稚園教諭としての職務
03. 保護者との対応について
04. 遊びを通じた学びについて
05. 安全管理について
06. 子ども理解について
07. 指導案作成について
08. 模擬保育とグループ討議① 事例
09. 模擬保育とグループ討議② 環境
10. 模擬保育とグループ討議③ 遊び
11. 模擬保育とグループ討議④ 子どもの食
12. 模擬保育とグループ討議⑤ 障害児保育
13. 教師のメンタルヘルス
14. 幼稚園教諭として求められる力
15. まとめ（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

履修カルテや実習記録からの自己課題を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業や模擬保育等で指摘されたことをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 自己課題レポート | 10% |
| (2) 授業内試験 | 20% |
| (3) 模擬保育 | 50% |
| (4) 課題レポート | 20% |

毎回の出席が大前提である。

教科書

参考書

必要に応じプリントを配布する。

担当教員：川瀬 敏行

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634195

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教職課程の集大成として4年生の秋学期に位置付ける。学生が教員になる上で自己の課題を自覚し、不足する知識や技能等の定着を図る演習等を通して資質能力を向上させ、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。

(2) 内容

教職課程における全学年の学びを総括して自己分析し、資質・能力の向上をさらに図り、確かなものにしていくものである。これまで蓄積してきた「履修カルテ」等の記録、学内外学習、活動の経験等を基に培ってきた能力の確認(自己分析)及び不足部分(知識・技能・態度など)を補完し、確実に身に付けていく。そして、教師としての専門性と確かな力量(学習指導力、生徒指導力、学級経営力等)、豊かな人間性や社会性、対人間関係能力等の総合的な人間力などの教員としての資質・能力を確認し、教職に対する強い情熱をもって自己の目指す教師像を明確にしていけるようにする。|※グループ学習・討論、ロールプレイング、実技指導、事例研究、フィールドワーク、教材研究、指導案作成、模擬授業等を取り入れていく。

受講者に対する要望

履修カルテ等の記録から自分の力を総括し、不足している点を補って、望ましい教師を目指して具体的に力をつける努力を望む。

学びのキーワード

- ・教員の資質・能力
- ・教育への情熱と使命感・責任感
- ・教師としての専門性・確かな力量
- ・実践的指導力
- ・総合的な人間力

授業計画

01. 教職実践演習授業計画と履修カルテからの自己分析
02. 教科等の指導力1：授業づくりと実際（教材開発・授業技術）
03. 教科等の指導力2：子どもの絵に見る学校教育・図画工作
04. 教科等の指導力3：学校における食育・学校給食
05. 教科等の指導力4：学校安全と危機管理（安全教育・安全管理・組織活動）
06. 児童生徒理解と学級経営1：学級づくりの方法と実際
07. 児童生徒理解と学級経営2：生徒指導の進め方と実際
08. 児童生徒理解と学級経営3：子どもの心理の理解・学校教育相談
09. 児童生徒理解と学級経営4：特別支援教育
10. 児童生徒理解と学級経営5：子どもの発育・健康管理
11. 社会性や対人関係能力1：教師の一日（役割・実務・教職員の協力）
12. 社会性や対人関係能力2：教師のメンタルヘルス
13. 社会性や対人関係能力3：児童虐待の防止と小学校
14. 社会性や対人関係能力4：保護者・地域・関係機関・異校種間の連携
15. まとめ：教職生活への一歩・よりよい教師へ

準備学習(予習)

前時の課題に対する自分なりの解答・意見・準備等。

準備学習(復習)

指摘された内容事項についての修正

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 演習・協議等への参加度・内容 | 30% |
| (3) 課題レポート | 40% |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634205

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 保育の意味、意義、内容を「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」をもとに、子どもの最善の利益を保障する高い質の保育のありかたについて学び、理解する。| 2. 教育・保育課程の編成、指導計画を理解し、立案する力を身につける。| 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。| 4. 乳幼児教育・保育の意義を再考し、保育者の役割を自覚し、当事者意識を高める。

(2) 内容

保育における教育課程と保育課程の意味と意義を理解し、教育・保育課程の史的変遷、課程の原理と実践や諸外国の課程と実践との関係に学び、実際に教育・保育課程の編成、及び具体的な指導計画の立案について学ぶ。

受講者に対する要望

・かけがえのない子ども（乳幼児）の育ちに携わる当事者意識を持って、受講すること。| ・教員と他の学生と共に授業を創造する参加者としてのマナーを守ること。| ・提出物・課題持参等の日程を厳守すること。

学びのキーワード

- ・子ども観・保育観
- ・教育課程
- ・保育課程
- ・指導計画
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション 幼児教育・保育の基本とカリキュラムの基礎理論
02. 子どもの実態・遊びと学びの関係と教育・保育課程
03. 保育における課程・計画の変遷1（明治～昭和初期）
04. 保育における課程・計画の変遷2（幼稚園教育要領と保育所保育指針）
05. 幼稚園における教育課程の編成と展開
06. 幼稚園における指導計画の理解と作成1 3・4・5歳児を中心に
07. 幼稚園における指導計画の理解と作成2 学びあいとふりかえり
08. 保育所における保育課程の編成と展開
09. 保育所における指導計画の理解と作成1 0・1・2歳児を中心に
10. 保育所における指導計画の理解と作成2 学びあいとふりかえり
11. 保育における評価
12. 海外の教育・保育課程に学ぶ
13. 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携とカリキュラム
14. 教育・保育課程をめぐる現代の課題
15. 学びのふりかえり

準備学習(予習)

- ・指導計画立案（幼稚園と保育所の2つ）の準備を計画的に進めること

準備学習(復習)

- ・授業後に、資料を熟読して、理解を深めること。| ・本授業を履修している仲間と調べたり、話し合いを持ち、振り返りを行ったり、自主的に指導計画を作成してみる。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 20% | 出席点ではない。 |
| (2) 指導計画 | 20% | 提出期日厳守のこと。 |
| (3) 試験 | 60% | |

・授業出席は必須（前提）である。| ・欠席・遅刻・並びに授業中における私語・携帯電話等機器の使用や提出物未提出の場合は、単位取得に影響を及ぼすことを留意しておくように。| ・提出された指導計画は、返却を行う。| ・試験後に解説を行う。

教科書

参考書

『幼稚園教育要領』 | 『保育所保育指針』 | 『認定こども園教育・保育要領』 | 森眞理『子どもの育ちを共有できるアルバム：ポートフォリオ入門』（小学館）

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634210

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 保育の意味、意義、内容を「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」をもとに、子どもの最善の利益を保障する高い質の保育のありかたについて学び、理解する。| 2. 教育・保育課程の編成、指導計画を理解し、立案する力を身につける。| 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。| 4. 乳幼児教育・保育の意義を再考し、保育者の役割を自覚し、当事者意識を高める。

(2) 内容

保育における教育課程と保育課程の意味と意義を理解し、教育・保育課程の史的変遷、課程の原理と実践や諸外国の課程と実践との関係に学び、実際に教育・保育課程の編成、及び具体的な指導計画の立案について学ぶ。

受講者に対する要望

・かけがえのない子ども（乳幼児）の育ちに携わる当事者意識を持って、受講すること。| ・教員と他の学生と共に授業を創造する参加者としてのマナーを守ること。| ・提出物・課題持参等の日程を厳守すること。

学びのキーワード

- ・子ども観・保育観
- ・教育課程
- ・保育課程
- ・指導計画
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション 幼児教育・保育の基本とカリキュラムの基礎理論
02. 子どもの実態・遊びと学びの関係と教育・保育課程
03. 保育における課程・計画の変遷1（明治～昭和初期）
04. 保育における課程・計画の変遷2（幼稚園教育要領と保育所保育指針）
05. 幼稚園における教育課程の編成と展開
06. 幼稚園における指導計画の理解と作成1 3・4・5歳児を中心に
07. 幼稚園における指導計画の理解と作成2 学びあいとふりかえり
08. 保育所における保育課程の編成と展開
09. 保育所における指導計画の理解と作成1 0・1・2歳児を中心に
10. 保育所における指導計画の理解と作成2 学びあいとふりかえり
11. 保育における評価
12. 海外の教育・保育課程に学ぶ
13. 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携とカリキュラム
14. 教育・保育課程をめぐる現代の課題
15. 学びのふりかえり

準備学習(予習)

- ・指導計画立案（幼稚園と保育所の2つ）の準備を計画的に進めること

準備学習(復習)

- ・授業後に、資料を熟読して、理解を深めること。| ・本授業を履修している仲間と調べたり、話し合いを持ち、振り返りを行ったり、自主的に指導計画を作成してみる。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 20% | 出席点ではない。 |
| (2) 指導計画 | 20% | 提出期日厳守のこと。 |
| (3) 試験 | 60% | |

・授業出席は必須（前提）である。| ・欠席・遅刻・並びに授業中における私語・携帯電話等機器の使用や提出物未提出の場合は、単位取得に影響を及ぼすことを留意しておくように。| ・提出された指導計画は、返却を行う。| ・試験後に解説を行う。

教科書

参考書

『幼稚園教育要領』 | 『保育所保育指針』 | 『認定こども園教育・保育要領』 | 森眞理『子どもの育ちを共有できるアルバム：ポートフォリオ入門』（小学館）

担当教員：相川 徳孝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634315

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

(2) 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。

受講者に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

学びのキーワード

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・子どもの発達
- ・領域と保育内容
- ・指導計画

授業計画

01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本
02. 保育内容と領域の意義について
03. 幼稚園教育要領について
04. 保育所保育指針について |
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について |
06. 保育内容の変遷
07. 乳児の発達と保育内容
08. 幼児の発達と保育内容
09. 指導計画の意義
10. 保育における遊びの意義
11. 保育における子ども理解
12. 保育の多様な展開 (1) 多文化共生と保育内容
13. 保育の多様な展開 (2) 保幼小連携と保育内容
14. 保育者の専門性と社会における保育ニーズ
15. まとめ

準備学習(予習)

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をよく読むこと。

準備学習(復習)

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

レポート課題等の提出は期限を守ること。

教科書

内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領・保育所保育指針』(チャイルド本社)【978-4805402283】

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634320

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

授業計画

01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本
02. 保育内容と領域の意義について
03. 幼稚園教育要領について
04. 保育所保育指針について
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について
06. 保育内容の変遷
07. 乳児の発達と保育内容
08. 幼児の発達と保育内容
09. 指導計画の意義
10. 保育における遊びの意義
11. 保育における子ども理解
12. 保育の多様な展開 (1) 多文化共生と保育内容
13. 保育の多様な展開 (2) 保幼小連携と保育内容
14. 保育者の専門性と社会における保育ニーズ
15. まとめ

(2) 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。|

準備学習(予習)

幼稚園教育要領と保育所保育指針をよく読むこと。

準備学習(復習)

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

受講者に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

レポート課題等の提出は期限を守ること。

学びのキーワード

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・子どもの発達
- ・領域と保育内容
- ・指導計画

教科書

内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 原本』(チャイルド本社) [978-4805402283]

参考書

担当教員：鈴木 明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634430

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後に続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつけられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。

(2) 内容

本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。|カリキュラム上の位置づけ：|心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。|

受講者に対する要望

健康問題について、常日頃から関心を持ってください。

学びのキーワード

- ・乳幼児の健康管理
- ・心身の発育と発達
- ・生活習慣
- ・指導計画
- ・保育指針

授業計画

01. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境）
02. 『幼児のからだの発達』（発育と発達）
03. 『心の発達と健康（1）』（知覚と認知）
04. 『心の発達と健康（2）』（生活習慣の発達）
05. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得）
06. 『幼児の保健（1）』（幼児の栄養・休養・睡眠）
07. 『幼児の保健（2）』（幼児の病気や事故）
08. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭）
09. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本）
10. 『領域「健康」の指導の仕方（1）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方）
11. 『領域「健康」の指導の仕方（2）』（生活習慣と指導の仕方）
12. 『指導計画と指導の実例』（年間・月案・週案・日案の実例）
13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備）
14. 保育所保育指針での保育内容の構成
15. 保育の計画と評価

準備学習(予習)

常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|----------------|
| (1) 試験 | 50% | 授業で学んだことの点検 |
| (2) ショートテスト | 40% | 毎授業時に確認のテストを行う |
| (3) 授業意欲 | 10% | 授業時の質疑応答 |

毎回授業内に行うショートテストについてはその都度解答の解説する。また定期試験では試験後に解答例および配点内容の解説も行う。

教科書

授業初回時に指定する。

参考書

初回の授業時に参考図書も含めて指示します。

担当教員：鈴木 明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634435

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつけられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。

(2) 内容

本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。|カリキュラム上の位置づけ：|心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。|

受講者に対する要望

健康問題について、常日頃から関心を持ってください。

学びのキーワード

- ・乳幼児の健康管理
- ・心身の発育と発達
- ・生活習慣
- ・指導計画
- ・保育指針

授業計画

01. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境）
02. 『幼児のからだの発達』（発育と発達）
03. 『心の発達と健康（1）』（知覚と認知）
04. 『心の発達と健康（2）』（生活習慣の発達）
05. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得）
06. 『幼児の保健（1）』（幼児の栄養・休養・睡眠）
07. 『幼児の保健（2）』（幼児の病気や事故）
08. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭）
09. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本）
10. 『領域「健康」の指導の仕方（1）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方）
11. 『領域「健康」の指導の仕方（2）』（生活習慣と指導の仕方）
12. 『指導計画と指導の実例』（年間・月案・週案・日案の実例）
13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備）
14. 保育所保育指針での保育内容の構成
15. 保育の計画と評価

準備学習(予習)

常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|----------------|
| (1) 試験 | 50% | 授業で学んだことの点検 |
| (2) ショートテスト | 40% | 毎事業時に確認のテストを行う |
| (3) 授業意欲 | 10% | 授業時の質疑応答 |

毎回授業内に行うショートテストについてはその都度解答の解説する。また定期試験では試験後に解答例および配点内容の解説も行う。

教科書

授業初回時に指定する。

参考書

初回の授業時に参考図書も含めて指示します。

担当教員：鈴木 明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634440

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後に続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつけられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。

(2) 内容

本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。|カリキュラム上の位置づけ：|心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。|

受講者に対する要望

健康問題について、常日頃から関心を持ってください。

学びのキーワード

- ・乳幼児の健康管理
- ・心身の発育と発達
- ・生活習慣
- ・指導計画
- ・保育指針

授業計画

01. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境）
02. 『幼児のからだの発達』（発育と発達）
03. 『心の発達と健康（1）』（知覚と認知）
04. 『心の発達と健康（2）』（生活習慣の発達）
05. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得）
06. 『幼児の保健（1）』（幼児の栄養・休養・睡眠）
07. 『幼児の保健（2）』（幼児の病気や事故）
08. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭）
09. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本）
10. 『領域「健康」の指導の仕方（1）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方）
11. 『領域「健康」の指導の仕方（2）』（生活習慣と指導の仕方）
12. 『指導計画と指導の実例』（年間・月案・週案・日案の実例）
13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備）
14. 保育所保育指針での保育内容の構成
15. 保育の計画と評価

準備学習(予習)

常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|----------------|
| (1) 試験 | 50% | 授業で学んだことの点検 |
| (2) ショートテスト | 40% | 毎事業時に確認のテストを行う |
| (3) 授業意欲 | 10% | 授業時の質疑応答 |

毎回授業内に行うショートテストについてはその都度解答の解説する。また定期試験では試験後に解答例および配点内容の解説も行う。

教科書

授業初回時に指定する。

参考書

初回の授業時に参考図書も含めて指示します。

担当教員：今井 麻美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634545

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

人とのかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。

(2) 内容

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とのかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。

受講者に対する要望

授業の中での気づきや疑問、驚きを大切にし、自分で考える時間や身近な他者と話し合う時間をもって欲しい。

学びのキーワード

- ・ 保育内容
- ・ 人間関係
- ・ 自我の発達
- ・ 自己と他者
- ・ 遊び

授業計画

01. 保育の基本と領域「人間関係」
02. 乳幼児期の人間関係の発達と特性①家族の中に生まれる子ども
03. 乳幼児期の人間関係の発達と特性②自我の芽生え/イヤイヤ期
04. 乳幼児期の人間関係の発達と特性③他者とのかかわり
05. 領域「人間関係」の歴史の変遷
06. 入園期の心の安定と人間関係
07. 3歳児の人間関係(1)保育者との関係
08. 3歳児の人間関係(2)友だちへの思い
09. 4歳児の人間関係(1)さまざまな葛藤
10. 4歳児の人間関係(2)葛藤を超えて
11. 5歳児の人間関係(1)仲間関係の深まり
12. 5歳児の人間関係(2)協同的な遊び
13. 地域社会におけるさまざまな人とのかかわり
14. 「気になる子」をめぐっての人間関係
15. まとめ—人間関係を捉える視点

準備学習(予習)

幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい

準備学習(復習)

授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 期末レポート | 50% |

欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領解説—平成20年10月』(フレール館)【978-4577812457】|厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレール館)【978-4577812426】|内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレール館)【978-4577813737】

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレール館)|厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレール館)|内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレール館)

担当教員：今井 麻美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634550

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

人とのかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。

(2) 内容

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とのかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。

受講者に対する要望

授業の中での気づきや疑問、驚きを大切にし、自分で考える時間や身近な他者と話し合う時間をもって欲しい。

学びのキーワード

- ・ 保育内容
- ・ 人間関係
- ・ 自我の発達
- ・ 自己と他者
- ・ 遊び

授業計画

01. 保育の基本と領域「人間関係」
02. 乳幼児期の人間関係の発達と特性①家族の中に生まれる子ども
03. 乳幼児期の人間関係の発達と特性②自我の芽生え/イヤイヤ期
04. 乳幼児期の人間関係の発達と特性③他者とのかかわり
05. 領域「人間関係」の歴史の変遷
06. 入園期の心の安定と人間関係
07. 3歳児の人間関係(1)保育者との関係
08. 3歳児の人間関係(2)友だちへの思い
09. 4歳児の人間関係(1)さまざまな葛藤
10. 4歳児の人間関係(2)葛藤を超えて
11. 5歳児の人間関係(1)仲間関係の深まり
12. 5歳児の人間関係(2)協同的な遊び
13. 地域社会におけるさまざまな人とのかかわり
14. 「気になる子」をめぐっての人間関係
15. まとめ—人間関係を捉える視点

準備学習(予習)

幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい

準備学習(復習)

授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 期末レポート | 50% |

欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領解説—平成20年10月』(フレール館)【978-4577812457】|厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレール館)【978-4577812426】|内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレール館)【978-4577813737】

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレール館)|厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレール館)|内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレール館)

担当教員：今井 麻美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634555

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

人とのかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。

(2) 内容

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とのかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。

受講者に対する要望

授業の中での気づきや疑問、驚きを大切にし、自分で考える時間や身近な他者と話し合う時間をもって欲しい。

学びのキーワード

- ・ 保育内容
- ・ 人間関係
- ・ 自我の発達
- ・ 自己と他者
- ・ 遊び

授業計画

01. 保育の基本と領域「人間関係」
02. 乳幼児期の人間関係の発達と特性①家族の中に生まれる子ども
03. 乳幼児期の人間関係の発達と特性②自我の芽生え/イヤイヤ期
04. 乳幼児期の人間関係の発達と特性③他者とのかかわり
05. 領域「人間関係」の歴史的変遷
06. 入園期の心の安定と人間関係
07. 3歳児の人間関係(1)保育者との関係
08. 3歳児の人間関係(2)友だちへの思い
09. 4歳児の人間関係(1)さまざまな葛藤
10. 4歳児の人間関係(2)葛藤を超えて
11. 5歳児の人間関係(1)仲間関係の深まり
12. 5歳児の人間関係(2)協同的な遊び
13. 地域社会におけるさまざまな人とのかかわり
14. 「気になる子」をめぐる人間関係
15. まとめ—人間関係を捉える視点

準備学習(予習)

幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい

準備学習(復習)

授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 期末レポート | 50% |

欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領解説—平成20年10月』(フレール館)【978-4577812457】|厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレール館)【978-4577812426】|内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレール館)【978-4577813737】

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレール館)|厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレール館)|内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレール館)

担当教員：丸山 綱男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634660

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

領域「環境」は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から環境構成をしなければならない。本授業では、子どもの感動や心のゆれを共感できる保育者として、幼児一人ひとりが発達の方角性に向かって幼児が経験してほしいことなどの願いを、いかに「環境」に埋め込むべきか、環境構成のあり方等について実体験を通して習得する。

(2) 内容

新幼稚園教育要領（2018年度実施）、幼保連携型認定子ども園 教育・保育要領、保育所保育指針には、保育は「環境を通して行う」ものであることが明示されている。|本授業では、「環境を通して行う」中で、領域「環境」が身近な自然環境や社会環境とかかわる力や心情・意欲・態度の高まりをめざそうとするものであり、保育者としての環境構成を通して学ぶ。その実体験は、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富んだもの、応答性の要素を持つものは何かを探る。

受講者に対する要望

免許・資格取得のための必須科目ではあるが、幼児の豊かな育ちを支える専門性を磨くよう受講してほしい。

学びのキーワード

- ・領域「環境」の構成
- ・人的環境
- ・自然環境
- ・物的環境
- ・社会的環境

授業計画

01. オイエンテーション：保育での「環境」とは
02. 新幼稚園教育要領（2018年度実施）、教育・保育要領、保育所保育指針の「環境」のとらえ方
03. 領域「環境」における変遷と環境構成のあり方
04. 人的環境としての保育者・友（DVD視聴）
05. 自然環境1 身近な植物にふれる活動
06. 自然環境2 生命の営みにふれる活動
07. 自然環境3 植物を使った活動
08. 物的環境1 園庭の自然や遊具とかかわる活動
09. 物的環境2 身の回りの物に愛着をもち遊ぶ活動
10. 物的環境3 数量・図形・文字・標識へ触れる活動
11. 社会的環境 地域・行事にかかわる活動
12. 安全対策と環境
13. 課題の整理と討議（グループ毎）
14. 課題の発表と総括
15. まとめ

準備学習(予習)

領域「環境」の理解を深めるために、講義前毎に、「新幼稚園教育要領（2018年度実施）」「保育所保育指針」を熟読して、理論と講義を通じた実践の一体化を図る。

準備学習(復習)

レポート作成等を通して、授業中に学んだことや実体験したことを整理し、新たな文献等にも当たって講義内容の充実を図る。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 課題の整理 | 20% |
| (4) 試験 | 30% |

教科書

秋田喜代美・増田時枝・安見克夫編『保育内容「環境」（新時代の保育双書）』（株式会社みらい）【978-4860151515】

参考書

担当教員：丸山 綱男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634665

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

領域「環境」は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にしかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から環境構成をしなければならない。本授業では、子どもの感動や心のゆれを共感できる保育者として、幼児一人ひとりが発達の方角性に向かって幼児が経験してほしいことなどの願いを、いかに「環境」に埋め込むべきか、環境構成のあり方等について実体験を通して習得する。

(2) 内容

新幼稚園教育要領（2018年度実施）、幼保連携型認定子ども園 教育・保育要領、保育所保育指針には、保育は「環境を通して行う」ものであることが明示されている。|本授業では、「環境を通して行う」中で、領域「環境」が身近な自然環境や社会環境とかかわる力や心情・意欲・態度の高まりをめざそうとするものであり、保育者としての環境構成を通して学ぶ。その実体験は、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富んだもの、応答性の要素を持つものは何かを探る。

受講者に対する要望

免許・資格取得のための必須科目ではあるが、幼児の豊かな育ちを支える専門性を磨くよう受講してほしい。

学びのキーワード

- ・領域「環境」の構成
- ・人的環境
- ・自然環境
- ・物的環境
- ・社会的環境

授業計画

01. オイエンテーション：保育での「環境」とは
02. 新幼稚園教育要領（2018年度実施）、教育・保育要領、保育所保育指針の「環境」のとらえ方
03. 領域「環境」における変遷と環境構成のあり方
04. 人的環境としての保育者・友（DVD視聴）
05. 自然環境1 身近な植物にふれる活動
06. 自然環境2 生命の営みにふれる活動
07. 自然環境3 植物を使った活動
08. 物的環境1 園庭の自然や遊具とかかわる活動
09. 物的環境2 身の回りの物に愛着をもち遊ぶ活動
10. 物的環境3 数量・図形・文字・標識へ触れる活動
11. 社会的環境 地域・行事にかかわる活動
12. 安全対策と環境
13. 課題の整理と討議（グループ毎）
14. 課題の発表と総括
15. まとめ

準備学習(予習)

領域「環境」の理解を深めるために、講義前毎に、「新幼稚園教育要領（2018年度実施）」「保育所保育指針」を熟読して、理論と講義を通じた実践の一体化を図る。

準備学習(復習)

レポート作成等を通して、授業中に学んだことや実体験したことを整理し、新たな文献等にも当たって講義内容の充実を図る。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 課題の整理 | 20% |
| (4) 試験 | 30% |

教科書

秋田喜代美・増田時枝・安見克夫編『新時代の保育双書 保育内容「環境」』（株式会社みらい）[978-4860151515]

参考書

担当教員：丸山 綱男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634670

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

領域「環境」は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から環境構成をしなければならない。本授業では、子どもの感動や心のゆれを共感できる保育者として、幼児一人ひとりが発達の方角性に向かって幼児が経験してほしいことなどの願いを、いかに「環境」に埋め込むべきか、環境構成のあり方等について実体験を通して習得する。

(2) 内容

新幼稚園教育要領（2018年度実施）、幼保連携型認定子ども園 教育・保育要領、保育所保育指針には、保育は「環境を通して行う」ものであることが明示されている。|本授業では、「環境を通して行う」中で、領域「環境」が身近な自然環境や社会環境とかかわる力や心情・意欲・態度の高まりをめざそうとするものであり、保育者としての環境構成を通して学ぶ。その実体験は、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富んだもの、応答性の要素を持つものは何かを探る。

受講者に対する要望

免許・資格取得のための必須科目ではあるが、幼児の豊かな育ちを支える専門性を磨くよう受講してほしい。

学びのキーワード

- ・領域「環境」の構成
- ・人的環境
- ・自然環境
- ・物的環境
- ・社会的環境

授業計画

01. オイエンテーション：保育での「環境」とは
02. 新幼稚園教育要領（2018年度実施）、教育・保育要領、保育所保育指針の「環境」のとらえ方
03. 領域「環境」における変遷と環境構成のあり方
04. 人的環境としての保育者・友のあり方（DVD視聴）
05. 自然環境1 身近な植物にふれる活動
06. 自然環境2 生命の営みにふれる活動
07. 自然環境3 植物を使った活動
08. 物的環境1 園庭の自然や遊具とかかわる活動
09. 物的環境2 身の回りの物に愛着をもち遊ぶ活動
10. 物的環境3 数量・図形・文字・標識へ触れる活動
11. 社会的環境 地域・行事にかかわる活動
12. 安全対策と環境
13. 課題の整理と討議（グループ毎）
14. 課題の発表と総括
15. まとめ

準備学習(予習)

領域「環境」の理解を深めるために、講義前毎に、「新幼稚園教育要領（2018年度実施）」「保育所保育指針」を熟読して、理論と講義を通じた実践の一体化を図る。

準備学習(復習)

レポート作成等を通して、授業中に学んだことや実体験したことを整理し、新たな文献等にも当たって講義内容の充実を図る。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 20% |
| (3) 課題の整理 | 20% |
| (4) 試験 | 30% |

教科書

秋田喜代美・増田時枝・安見克夫編『新時代の保育双書 保育内容「環境」』（株）みらい【978-4860151515】

参考書

担当教員：上野 直子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：10634775

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持っていただきたいと思います。

(2) 内容

保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の「言葉」の領域では、『経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること』がねらいになっています。そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関しての理解を深めます。| 並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います（絵本、手遊び歌、言葉遊び、コミュニケーションを促進する玩具など）。保育者として、子どものことばの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみましょ

受講者に対する要望

受講者の皆さんが聞くだけ、板書だけの授業にならないように、ノートの作成を積極的に行っていただきたいと思ひます。教材作成などを通じて、子どものことばの発達を注意深く観察し、子どもが人との間でことばを獲得する過程を学んでいきましょう。

学びのキーワード

- ・言語発達
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について
03. ことばの発達過程について（ことばの前のことば）
04. ことばの発達過程について（一次のことば）
05. ことばの発達過程について（二次のことば）
06. 遊びと言葉1（子どものことばを理解するために）
07. 遊びと言葉2（子どもの発話を観察する）
08. 文字との出会い
09. ことばの問題と援助
10. 子どもが「ことば」を楽しむ活動とは（絵本研究）
11. 絵本研究グループ発表
12. ことばを促す保育教材作り（その1：子どもと深める言葉遊び・指導案の作成）
13. 模擬保育グループ発表
14. ことばを促す保育教材作り（その2：乳幼児とのコミュニケーションを深める手作り玩具とは）
15. 子どものための玩具紹介と発表（まとめ）

準備学習(予習)

「ことば」に関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。

準備学習(復習)

授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなると思ひます。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|------------------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% | 授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含まれます。 |
| (2) 演習など | 70% | 小テスト、個別教材ノート、課題、発表など |

上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思ひます。

教科書

参考書

秋田 喜代美、野口 隆子 『保育内容 言葉（新保育シリーズ）』（光生館）

担当教員：上野 直子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634780

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持っていただきたいと思います。

(2) 内容

保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の「言葉」の領域では、『経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること』がねらいになっています。そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関しての理解を深めます。| 並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います（絵本、手遊び歌、言葉遊び、コミュニケーションを促進する玩具など）。保育者として、子どものことばの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみましょ

受講者に対する要望

受講者の皆さんが聞くだけ、板書だけの授業にならないように、ノートの作成を積極的に行っていただきたいと思ひます。教材作成などを通じて、子どものことばの発達を注意深く観察し、子どもが人との間でことばを獲得する過程を学んでいきましょう。

学びのキーワード

- ・言語発達
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について
03. ことばの発達過程について（ことばの前のことば）
04. ことばの発達過程について（一次のことば）
05. ことばの発達過程について（二次のことば）
06. 遊びと言葉1（子どものことばを理解するために）
07. 遊びと言葉2（子どもの発話を観察する）
08. 文字との出会い
09. ことばの問題と援助
10. 子どもが「ことば」を楽しむ活動とは（絵本研究）
11. 絵本研究グループ発表
12. ことばを促す保育教材作り（その1：子どもと深める言葉遊び・指導案の作成）
13. 模擬保育グループ発表
14. ことばを促す保育教材作り（その2：乳幼児とのコミュニケーションを深める手作り玩具とは）
15. 子どものための玩具紹介と発表（まとめ）

準備学習(予習)

「ことば」に関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。

準備学習(復習)

授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなると思ひます。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|------------------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% | 授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含まれます。 |
| (2) 演習など | 70% | 小テスト、個別教材ノート、課題、発表など |

上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思ひます。

教科書

参考書

秋田 喜代美、野口 隆子 『保育内容 言葉（新保育シリーズ）』（光生館）

担当教員：上野 直子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634785

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持っていただきたいと思います。

(2) 内容

保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の「言葉」の領域では、『経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること』がねらいになっています。そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関しての理解を深めます。| 並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います（絵本、手遊び歌、言葉遊び、コミュニケーションを促進する玩具など）。保育者として、子どものことばの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみましょ

受講者に対する要望

受講者の皆さんが聞くだけ、板書だけの授業にならないように、ノートの作成を積極的に行っていただきたいと思ひます。教材作成などを通じて、子どものことばの発達を注意深く観察し、子どもが人との間でことばを獲得する過程を学んでいきましょう。

学びのキーワード

- ・言語発達
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について
03. ことばの発達過程について（ことばの前のことば）
04. ことばの発達過程について（一次のことば）
05. ことばの発達過程について（二次のことば）
06. 遊びと言葉1（子どものことばを理解するために）
07. 遊びと言葉2（子どもの発話を観察する）
08. 文字との出会い
09. ことばの問題と援助
10. 子どもが「ことば」を楽しむ活動とは（絵本研究）
11. 絵本研究グループ発表
12. ことばを促す保育教材作り（その1：子どもと深める言葉遊び・指導案の作成）
13. 模擬保育グループ発表
14. ことばを促す保育教材作り（その2：乳幼児とのコミュニケーションを深める手作り玩具とは）
15. 子どものための玩具紹介と発表（まとめ）

準備学習(予習)

「ことば」に関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。

準備学習(復習)

授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなると思ひます。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|------------------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% | 授業態度・毎回記入するレスポンスカードの記載内容の評価も含まれます。 |
| (2) 演習など | 70% | 小テスト、個別教材ノート、課題、発表など |

上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思ひます。

教科書

参考書

秋田 喜代美、野口 隆子 『保育内容 言葉（新保育シリーズ）』（光生館）

担当教員：相川 徳孝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634800

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどのようなことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

(2) 内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

受講者に対する要望

各自の保育技術を高めていくこと

学びのキーワード

- ・子どもの表現
- ・保育者の表現
- ・表現に必要な保育技術

授業計画

01. オリエンテーション
02. 保育の基本と領域「表現」について
03. 幼稚園教育要領における「表現」
04. 保育所保育指針における「表現」
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
06. 保育者のための楽典の基礎
07. 子どもの表現(1)歌唱
08. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び
09. 子どもの表現(3)動きのリズム
10. 子どもの表現(4)身体表現
11. 指導計画について
12. 総合的な表現活動としての劇活動(1) 絵本から劇活動への導入
13. 総合的な表現活動としての劇活動(2) 子どもの表現を助けるための小道具
14. 総合的な表現活動としての劇活動(3) 劇活動を支えるための保育者の役割
15. まとめ

準備学習(予習)

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験とレポート | 80% |
| (2) 各自の表現 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634890

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどのようなことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

(2) 内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

授業計画

01. オリエンテーション
02. 保育の基本と領域「表現」について
03. 幼稚園教育要領における「表現」
04. 保育所保育指針における「表現」
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
06. 保育者のための楽典の基礎
07. 子どもの表現(1)歌唱
08. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び
09. 子どもの表現(3)動きのリズム
10. 子どもの表現(4)身体表現
11. 指導計画について
12. 総合的な表現活動としての劇活動(1) 絵本から劇活動への導入
13. 総合的な表現活動としての劇活動(2) 子どもの表現を助けるための小道具
14. 総合的な表現活動としての劇活動(3) 劇活動を支えるための保育者の役割
15. まとめ

準備学習(予習)

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験とレポート | 80% |
| (2) 各自の表現 | 20% |

受講者に対する要望

各自の保育技術を高めていくこと

学びのキーワード

- ・ 子どもの表現
- ・ 保育者の表現
- ・ 表現に必要な保育技術

教科書

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634895

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどのようなことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

(2) 内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

受講者に対する要望

各自の保育技術を高めていくこと

学びのキーワード

- ・子どもの表現
- ・保育者の表現
- ・表現に必要な保育技術

授業計画

01. オリエンテーション
02. 保育の基本と領域「表現」について
03. 幼稚園教育要領における「表現」
04. 保育所保育指針における「表現」
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
06. 保育者のための楽典の基礎
07. 子どもの表現(1)歌唱
08. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び
09. 子どもの表現(3)動きのリズム
10. 子どもの表現(4)身体表現
11. 指導計画について
12. 総合的な表現活動としての劇活動(1)絵本から劇活動への導入
13. 総合的な表現活動としての劇活動(2)子どもの表現を助けるための小道具
14. 総合的な表現活動としての劇活動(3)劇活動を支えるための保育者の役割
15. まとめ

準備学習(予習)

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 試験とレポート | 80% |
| (2) 各自の表現 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：柴田 和豊、島田 佳枝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634905

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

子どもたちの存在の大切さを実感させてくれる子どもたちの様々な表現を受けとめることができるようになること、そのために、造形表現を柱とする保育の場面で必要な知識、技術、実践力を身につけていくことを目標とする。さらに、保育者、授業者自身もまた表現者であることに気付き、自分自身の課題としても表現活動に取り組めるよう導いていく。

(2) 内容

「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に記されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの諸点を実現するために、幼児の造形的発達の特性について理解を深めるとともに、みずからも様々な表現体験を積み重ねていくことを通して、保育者に求められる理論的素養と実践的能力を育てていく。また、子どもたちの表現活動の基本が「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさと大切さが実感できるよう、理論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。

受講者に対する要望

遊びのようなかたちから造形表現の多様性と可能性を考えていくので、図画工作や美術が苦手だった人も心配せずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 子ども
- ・ 発達過程
- ・ 視覚的・触覚的
- ・ あそび
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション 造形表現の大切さと多様性 (担当者：柴田・島田)
02. 子どもの絵の発達過程1：なぐり描きの段階 (1歳前後～3歳前後) (担当者：島田)
03. 子どもの絵の発達過程2：形の発見と命名の段階 (3歳前後～4歳前後) (担当者：島田)
04. 子どもの絵の発達過程3：図式的な表現の段階 (4歳前後～10歳前後) (担当者：島田)
05. 保育所保育指針と造形表現 (担当者：島田)
06. 幼稚園教育要領と造形表現 (担当者：島田)
07. 触覚的な表現の体験1：粘土を中心に (担当者：柴田)
08. 触覚的な表現の体験2：紙・布・自然物・人工物など色々な材料を使って (担当者：柴田)
09. 視覚的な表現の体験1：なぐり描き (担当者：柴田)
10. 視覚的な表現の体験2：「知っていることを描く」ことの追体験 (担当者：柴田)
11. 生活と結びついた表現の体験1：コミュニケーションの視点から (担当者：柴田)
12. 生活と結びついた表現の体験2：身の回りを美しくする装飾性の視点から (担当者：柴田)
13. 模擬授業1：立体的表現領域 (担当者：柴田)
14. 模擬授業2：絵画的表現領域 (担当者：柴田、島田)
15. まとめ (担当者：柴田・島田)

準備学習(予習)

最初に幼稚園教育要領と保育所保育指針における表現についての記述を読んでおくこと。その後は授業で配布するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと・よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で単元ごとに整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

欠席が4回を越えると評価の対象とはならない

教科書

『保育所保育指針』 厚生労働省 (フレール館) | 『幼稚園教育要領』 文部科学省 (教育出版)

参考書

担当教員：柴田 和豊、島田 佳枝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634910

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

子どもたちの存在の大切さを実感させてくれる子どもたちの様々な表現を受けとめることができるようになること、そのために、造形表現を柱とする保育の場面で必要な知識、技術、実践力を身につけていくことを目標とする。さらに、保育者、授業者自身もまた表現者であることに気付き、自分自身の課題としても表現活動に取り組めるよう導いていく。

(2) 内容

「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に記されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの諸点を実現するために、幼児の造形的発達の特性について理解を深めるとともに、みずからも様々な表現体験を積み重ねていくことを通して、保育者に求められる理論的素養と実践的能力を育てていく。また、子どもたちの表現活動の基本が「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさと大切さが実感できるよう、理論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。

受講者に対する要望

遊びのようなかたちから造形表現の多様性と可能性を考えていくので、図画工作や美術が苦手だった人も心配せずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 子ども
- ・ 発達過程
- ・ 視覚的・触覚的
- ・ あそび
- ・ コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション 造形表現の大切さと多様性 (担当者：柴田・島田)
02. 子どもの絵の発達過程1：なぐり描きの段階 (1歳前後～3歳前後) (担当者：島田)
03. 子どもの絵の発達過程2：形の発見と命名の段階 (3歳前後～4歳前後) (担当者：島田)
04. 子どもの絵の発達過程3：図式的な表現の段階 (4歳前後～10歳前後) (担当者：島田)
05. 保育所保育指針と造形表現 (担当者：島田)
06. 幼稚園教育要領と造形表現 (担当者：島田)
07. 触覚的な表現の体験1：粘土を中心に (担当者：柴田)
08. 触覚的な表現の体験2：紙・布・自然物・人工物など色々な材料を使って (担当者：柴田)
09. 視覚的な表現の体験1：なぐり描き (担当者：柴田)
10. 視覚的な表現の体験2：「知っていることを描く」ことの追体験 (担当者：柴田)
11. 生活と結びついた表現の体験1：コミュニケーションの視点から (担当者：柴田)
12. 生活と結びついた表現の体験2：身の回りを美しくする装飾性の視点から (担当者：柴田)
13. 模擬授業1：立体的表現領域 (担当者：柴田)
14. 模擬授業2：絵画的表現領域 (担当者：柴田、島田)
15. まとめ (担当者：柴田・島田)

準備学習(予習)

最初に幼稚園教育要領と保育所保育指針における表現についての記述を読んでおくこと。その後は授業で配布するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと・よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で単元ごとに整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

欠席が4回を越えると評価の対象とはならない

教科書

『保育所保育指針』 厚生労働省 (フレール館) | 『幼稚園教育要領』 文部科学省 (教育出版)

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635020

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・年齢・月齢ごとの一般的な幼児の発達を理解する。|・一般的な発達理解をふまえた個々の幼児理解の手法を身につける。|・個々の幼児理解を基盤とした保育実践を具体的に考えられる力を養う。|・幼児の姿を記録化し、省察することで保育を高めていく方法を理解する。

(2) 内容

「児童学概論」と「児童文化論A」（とくに、遊び、子どもと食の単元）等で学んだ児童理解を基盤としながら、乳幼児の各年齢・月齢ごとの一般的な発達の姿を理解したうえで、特性をふまえた一人一人の幼児の姿を理解し、人と人として幼児と向き合える理解基盤を身につける。|幼児理解を踏まえて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を手がかりとしながら保育の場での保育実践や幼児指導の手法を理解し、具体的に自分でどのように関わるのか、言葉かけや振る舞いができるようになる。|幼児に対する保育者の関わりを記録化し、省察し、保育内容を振り返り、その作業を通して保育内容を高めていく方法を身につけて学ぶ。|

受講者に対する要望

日常生活でも乳幼児に関心をもって、子どもの姿に目を向けて過ごしましょう。子どもが喜ぶ活動をいつでも考えて、実践の練習を重ねてください。

学びのキーワード

- ・ 幼児理解
- ・ 幼稚園教育要領
- ・ 保育所保育指針
- ・ 乳幼児の発達
- ・ 保育指導計画

授業計画

01. 幼児理解の姿勢と方法
02. 0, 1歳児の発達特性と子どもの姿
03. 2歳児の発達特性と子どもの姿
04. 3歳児の発達特性と子どもの姿
05. 4歳児の発達特性と子どもの姿
06. 5歳児の発達特性と子どもの姿
07. 発達の特性をふまえた関わり
08. 幼児理解と保育指導計画の立案
09. 保育実践事例の記録化と分析
10. 保育実践記録の分析による幼児理解
11. 幼児との関わりからの気づきと省察
12. 幼児理解をふまえた保育指導計画の立案方法
13. 2・3歳児の事例分析と実践の検討
14. 3・4歳児の事例分析と実践の検討
15. 総括

準備学習(予習)

・「児童学概論」のテキスト（とくに事例・絵本）とノートを読み込んでから臨むこと。|・毎回の授業で指定する準備学習に取り組むこと。

準備学習(復習)

・授業ノートをしっかりまとめること。|・毎回の授業で指定する課題に取り組むこと。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | レスポンスシートへの記載内容で判断する |
| (2) 試験 | 30% | |
| (3) 課題（保育指導計画案） | 30% | |
| (4) 課題（実践） | 10% | |

教科書

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針（原本）』（チャイルド本社）[978-4805402283]

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635025

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・年齢・月齢ごとの一般的な幼児の発達を理解する。|・一般的な発達理解をふまえた個々の幼児理解の手法を身につける。|・個々の幼児理解を基盤とした保育実践を具体的に考えられる力を養う。|・幼児の姿を記録化し、省察することで保育を高めていく方法を理解する。

(2) 内容

「児童学概論」と「児童文化論A」（とくに、遊び、子どもと食の単元）等で学んだ児童理解を基盤としながら、乳幼児の各年齢・月齢ごとの一般的な発達の姿を理解したうえで、特性をふまえた一人一人の幼児の姿を理解し、人と人として幼児と向き合える理解基盤を身につける。|幼児理解を踏まえて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を手がかりとしながら保育の場での保育実践や幼児指導の手法を理解し、具体的に自分でどのように関わるのか、言葉かけや振る舞いができるようになる。|幼児に対する保育者の関わりを記録化し、省察し、保育内容を振り返り、その作業を通して保育内容を高めていく方法を身につけて学ぶ。|

受講者に対する要望

日常生活でも乳幼児に関心をもって、子どもの姿に目を向けて過ごしましょう。子どもが喜ぶ活動をいつでも考えて、実践の練習を重ねてください。

学びのキーワード

- ・ 幼児理解
- ・ 幼稚園教育要領
- ・ 保育所保育指針
- ・ 乳幼児の発達
- ・ 保育指導計画

授業計画

01. 幼児理解の姿勢と方法
02. 0, 1歳児の発達特性と子どもの姿
03. 2歳児の発達特性と子どもの姿
04. 3歳児の発達特性と子どもの姿
05. 4歳児の発達特性と子どもの姿
06. 5歳児の発達特性と子どもの姿
07. 発達の特性をふまえた関わり
08. 幼児理解と保育指導計画の立案
09. 保育実践事例の記録化と分析
10. 保育実践記録の分析による幼児理解
11. 幼児との関わりからの気づきと省察
12. 幼児理解をふまえた保育指導計画の立案方法
13. 2・3歳児の事例分析と実践の検討
14. 3・4歳児の事例分析と実践の検討
15. 総括

準備学習(予習)

・「児童学概論」のテキスト（とくに事例・絵本）とノートを読み込んでから臨むこと。|・毎回の授業で指定する準備学習に取り組むこと。

準備学習(復習)

・授業ノートをしっかりまとめること。|・毎回の授業で指定する課題に取り組むこと。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | レスポンスシートへの記載内容で判断する |
| (2) 試験 | 30% | |
| (3) 課題（保育指導計画案） | 30% | |
| (4) 課題（実践） | 10% | |

教科書

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針（原本）』（チャイルド本社）[978-4805402283]

参考書

担当教員： 齋藤 範雄

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 10636390

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身に付ける | 【D】 中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種：必修科目 | 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、教育の歴史、教育課程、教授スキル及びメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

(2) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいか常に考えて参加すること。

学びのキーワード

- ・ 教育の変遷
- ・ カリキュラム
- ・ 教授スキル
- ・ 子ども理解
- ・ ICT教育

授業計画

01. オリエンテーション、教育の理念
02. 教育の変遷について
03. 教育の場と学校教育
04. 教育課程の変遷
05. 教育の方法と教授スキル
06. 授業と評価
07. 子ども理解について
08. 今日の課題1（発達障害の概要について）
09. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
10. ICTの活用の状況と有用性について
11. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
12. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
13. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
14. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
15. まとめ

準備学習(予習)

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% | テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

担当教員： 齋藤 範雄

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 10636395

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身に付ける | 【D】 中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種：必修科目 | 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、教育の歴史、教育課程、教授スキル及びメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

(2) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいか常に考えて参加すること。

学びのキーワード

- ・ 教育の変遷
- ・ カリキュラム
- ・ 教授スキル
- ・ 子ども理解
- ・ ICT教育

授業計画

01. オリエンテーション、教育の理念
02. 教育の変遷について
03. 教育の場と学校教育
04. 教育課程の変遷
05. 教育の方法と教授スキル
06. 授業と評価
07. 子ども理解について
08. 今日の課題1（発達障害の概要について）
09. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
10. ICTの活用の状況と有用性について
11. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
12. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
13. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
14. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
15. まとめ

準備学習(予習)

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% | テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

担当教員：相川 徳孝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：10636615

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状 (教諭に関わる科目)

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

これまでに培った保育の理論・技能の全てを発揮し、幼稚園教諭となるために必要な実践力を修得することを目標とする。実習を通して幼児に対する理解を深め、また保育者としての使命感を高める。建学の精神に則り、多様な保育の一類型としてキリスト教保育への造詣も深める。

(2) 内容

事前学習を経て、幼稚園で4週間の実習を行い、事後学習を通して自己課題に目を向け自己覚知を行う。幼稚園では、大学を離れた幼児教育の現場において実習担当者から実践的な指導を受けながら実習を行い、クラス運営や行事に参加することで幼稚園における教師の職務や活動を実践的に学び、さらには自ら立案した保育指導計画に基づく責任実習を実施する。

受講者に対する要望

幼稚園教諭となるための実習である。いままでの授業で学んだ内容、特に保育内容総論や幼児指導法での授業内容を再確認し、教育の現場に望むこと。また実習先の教師や子どもから学ぶという姿勢を持って取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 幼稚園と保育者の役割
- ・ 教材研究
- ・ 援助方法
- ・ 記録

授業計画

01. オリエンテーション
02. 幼稚園教育要領の理解
03. 実習における自己課題と個々の実習目標
04. 年齢別の指導について(1)
05. 年齢別の指導について(2)
06. 年齢別の指導について(3)
07. 各自の実習内容と指導案作成について
08. 実習日誌の記入について(1)
09. 実習日誌の記入について(2)
10. 指導案に基いた模擬保育実践(1)
11. 指導案に基いた模擬保育実践(2)
12. キリスト教保育について～保育の多様性～
13. 事後指導(1)
14. 事後指導(2)
15. 総括～幼稚園教育実習で培われた力と見いだされた自己課題～

準備学習(予習)

いままでに体験した実習を通して見出した各自の自己課題に取り組むこと。また、実習で生かせる保育実技(手遊び、ピアノ等)を準備しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に提示された課題について、同じ間違いをしないよう正しく修正し、自分のものとしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 実習評価 | 80% |
| (2) 事前準備 | 10% |
| (3) 事後指導 | 10% |

実習に行くためにどのような事前準備をしたか、また実習でそれを生かすことができたかが重要なポイントとなる。

教科書

参考書

幼稚園教育実習ハンドブック

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：3 授業コード：10636620

学部教育の関連目

【1】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける | 【0】中・高等学校教諭一種免許状（教諭に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

これまでに培った保育の理論・技能の全てを発揮し、幼稚園教諭となるために必要な実践力を修得することを目標とする。|実習を通して幼児に対する理解を深め、また保育者としての使命感を高める。|建学の精神に則り、多様な保育の一類型としてキリスト教保育への造詣も深める。

(2) 内容

事前学習を経て、幼稚園で2週間の実習を行い、事後学習を通して自己課題に目を向け自己覚知を行う。|幼稚園では、大学を離れた幼児教育の現場において実習担当者から実践的な指導を受けながら実習を行い、クラス運営や行事に参加することで、幼稚園における教師の職務や活動を実践的に学び、さらには自ら立案した指導計画に基づく責任実習を実施する。

受講者に対する要望

幼稚園教諭となるための実習である。いままでの授業で学んだ内容、特に保育内容総論や幼児指導法での授業内容を再確認し、教育の現場に臨むこと。また実習先の教師や子どもから学ぶという姿勢を持って取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 幼稚園と保育者の役割
- ・ 教材研究
- ・ 援助方法
- ・ 記録

授業計画

01. オリエンテーション
02. 幼稚園教育要領の理解
03. 実習における自己課題と個々の実習目標
04. 年齢別の指導について(1) □ 3歳児
05. 年齢別の指導について(2) 4歳児
06. 年齢別の指導について(3) 5歳児
07. 各自の実習内容と指導案作成について
08. 実習日誌の記入について(1) 全体
09. 指導案に基いた模擬保育実践(1)
10. 指導案に基いた模擬保育実践(2)
11. 指導案に基いた模擬保育実践(3)
12. 実習日誌の記入について(2) 考察
13. 事後指導(1) 全体指導
14. 事後指導(2) 個別指導
15. 総括～幼稚園教育実習で培われた力と見いだされた自己課題～

準備学習(予習)

基礎実習終了後の個別指導において確認した各自の自己課題に取り組むこと。|また、実習で生かせる保育実技(手遊び、ピアノ等)を準備しておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業時に提示された課題に取り組むこと。|また、指導を受けたことについては、同じ間違いをしないように自分のものとしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 実習評価 | 80% |
| (2) 事前準備 | 10% |
| (3) 事後指導 | 10% |

実習に行くためにどのような事前準備をしたか、また実習でそれを生かすことができたかが重要なポイントとなる。

教科書

参考書

幼稚園教育要領 | 幼稚園教育実習ハンドブック

担当教員：佐藤 千瀬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10636945

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。| (2) 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。| (3) 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。| (4) 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。| (5) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。| (6) 保育士としての自己の課題を明確化する。

(2) 内容

保育実習を履修した学生が、各自の実習体験を振り返り、新たな自己課題を持って保育実習Aに参加する。| 各自が準備した教材をもとに指導計画を立て、それをもとに保育を展開していくことを通して発達に合った指導方法や実践力を高めていく。| ・必ず「保育実習指導A」と併せて履修する。| ・「保育実習A」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。|

受講者に対する要望

外部の保育所に実習生として参加するという真摯な態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 保育所実習
- ・ 保育所保育指針
- ・ 指導計画
- ・ 保育士
- ・ 家庭支援

授業計画

01. 実習についてのオリエンテーション
02. 保育所における実習
03. 保育所における実習
04. 保育所における実習
05. 保育所における実習
06. 保育所における実習
07. 保育所における実習
08. 保育所における実習
09. 保育所における実習
10. 保育所における実習
11. 保育所における実習
12. 保育所における実習
13. 保育所における実習
14. 保育所における実習
15. 保育所における実習

準備学習(予習)

乳幼児の発達について学んでおくこと。| 部分/責任実習の指導案及び保育教材の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

実習日誌から翌日の実習目標と自己課題を見出すこと。| 部分/責任実習後には、指導案の修正と自己課題を明確にすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 実習評価 | 70% |
| (2) 実習日誌 | 30% |

実習日誌は、「保育実習指導A」の事後指導（個別面談）後に返却を行う。

教科書

参考書

児童学科実習委員会編 『保育実習の手引き』| 厚生労働省 『保育所保育指針』

担当教員：坂本 佳代子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10637050

学部教育の関連目

【C】 保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育実習で学んだ保育所・居住型施設の現状を踏まえる。保育士を目指すうえで自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

授業計画

01. 通所施設における実習
02. 通所施設における実習
03. 通所施設における実習
04. 通所施設における実習
05. 通所施設における実習
06. 通所施設における実習
07. 通所施設における実習
08. 通所施設における実習
09. 通所施設における実習
10. 通所施設における実習
11. 通所施設における実習
12. 通所施設における実習
13. 通所施設における実習
14. 通所施設における実習
15. 通所施設における実習

(2) 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。|カリキュラム上の位置づけ：| 「保育実習B」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。

準備学習(予習)

実習で学びたいことを整理し、日々の実習目標を立てる。

準備学習(復習)

一日の実習を振り返り、実習日誌を記入する。その日の自己課題に向き合い、翌日の実習目標を立てる。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 施設実習評価 | 60% |
| (2) 施設実習日誌 | 40% |

受講者に対する要望

健康管理を充分に行い、欠席・遅刻・早退のない実習が実施できるようにしましょう。

学びのキーワード

- ・ 通所施設
- ・ 児童館
- ・ 児童発達支援センター
- ・ 保育士
- ・ 児童福祉法

教科書

参考書

児童学科実習委員会編「保育実習Bの手引き」|保育士倫理綱領

担当教員：佐藤 千瀬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637160

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。| (2) 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。| (3) 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。| (4) 保育士の専門性と職業倫理について理解する。| (5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

(2) 内容

保育実習を履修した学生を対象に、今までの実習体験を踏まえ、さらに保育所について理解を深めるための実習の事前指導、事後指導を行う。| 必ず「保育実習A」と併せて履修する。| 学生要覧に記されている前提科目の単位が取得できていることが、履修の条件である。

受講者に対する要望

今までの実習の総括をするという真摯な気持ちをもって参加すること。| 決められたルールに従って受講すること。

学びのキーワード

- ・ 保育所実習
- ・ 保育士
- ・ 保育所保育指針
- ・ 指導計画
- ・ 実践

授業計画

01. ガイダンス
02. 実習生調書記入について
03. 指導計画について
04. 指導計画の個別指導
05. 保育所保育指針について 保育所保育の実際
06. 家庭・地域との連携
07. 実習オリエンテーションについて
08. 模擬保育（指導計画の実践）
09. 模擬保育（指導計画の実践）
10. 模擬保育（指導計画の実践）
11. 実習日誌について（記録と保育の改善）
12. 保育所実習の実際 保育士の専門性と職業倫理
13. 全体事後指導（グループ討議）
14. 個別事後指導（個人面談） 自己課題の明確化
15. 実習報告会

準備学習(予習)

指導案作成、模擬保育準備及び実習準備を計画的に取り組むこと。

準備学習(復習)

模擬保育後に指導案の加筆修正をすること。また、記録を作成すること。| 実習後には、事後指導用のレポートを作成し、自己課題を明確にすること。|

評価方法

- | | |
|------------|--------------|
| (1) 事前学習課題 | 50% |
| (2) 事後学習課題 | 20% |
| (3) 平常点 | 30% 出席点ではない。 |

事前学習課題（レポート）は、添削をした上で実習前に返却を行い、実習につなげられるようにする。| 課題の修正加筆が必要な場合は、再提出をすること。| 模擬保育後は、クラスでディスカッションをし、改善案等をクラスメイトと検討する。

教科書

参考書

児童学科実習委員会編 『保育実習の手引き』 | 厚生労働省 『保育所保育指針』

担当教員：坂本 佳代子、春木 豊

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637265

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業を保育実習Bと共に履修しなければならない。|保育士養成の最終仕上げの実習指導である。これまで学んだ知識や実践の総まとめとしての意味を持つ。

(2) 内容

通所施設実習について理解を深め、実践力を養う

受講者に対する要望

主体的に実習施設について調べ、自分の求めている情報を体系的に入手すること。

学びのキーワード

- ・通所施設
- ・保育士

授業計画

01. 保育実習ガイダンス
02. 実習先の確認 備考欄を理解する
03. 実習先について理解を深める
04. 保育実習Bに当たっての留意事項 1
05. 保育実習に当たっての留意事項 2
06. 保育実習に当たっての留意事項 3
07. 保育実習に当たっての留意事項 4
08. 実習生調書記載の留意事項
09. 実習生調書記載
10. 保育実習に当たっての留意事項 5
11. 保育実習に当たっての留意事項 6
12. 保育士会倫理綱領の理解
13. 通所型施設実習の振り返り<個人面談>
14. 通所型施設実習の振り返り<個人面談>
15. 通所型施設実習の振り返り<個人面談>

準備学習(予習)

保育実習Bの手引きを事前に読み込んでおくこと

準備学習(復習)

提出物は期限を守って提出のこと

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加態度 | 50% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 提出物 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：川瀬 敏行、市村 和子、齋藤 範雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：5

授業コード：10637355

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校の教育実習は、小学校の教員を志望する学生が、大学の教職課程で習得した知識・技能を基礎として、小学校において教師に求められる職務の一端を実地に学ぶところに意義がある。実際に小学校において、児童の発達段階に応じたコミュニケーションの取り方などの生徒指導、教科等の授業観察や授業実践、教室掲示や学級事務などの学級経営等の力をつけることを目標にしている。

(2) 内容

小学校教育実習は、実際の小学校の学校現場で授業をし、児童理解につとめ、様々な人間関係を学ぶ場である。そのため、事前指導をし、実習終了後に事後指導を行う。| *教育実習(実習校で4週間)

受講者に対する要望

実習校では実習生としての立場を自覚し、指導や助言を素直に受け、実りある経験となるよう意欲的に誠意をもって取り組むことを望む。

学びのキーワード

- ・ 実習の意義と心構え
- ・ 児童の発達特性
- ・ 指導案と指導技術
- ・ 実習日誌・実習報告
- ・ 教師としての力量向上

授業計画

01. 教育実習の意義と心構え
02. 教育実習生の一日について
03. 授業づくりの基礎基本と授業実践演習に向けて
04. 小学校の組織と小学生の一般的特色について
05. 学習指導案の作成について
06. 教育実習日誌の書き方とあいさつの仕方について
07. 実習直前指導 *教育実習(実習校で4週間)
08. 実習報告1・実習校で学んだこと(グループ前半) /事後指導個人面談
09. 実習報告2・実習校で学んだこと(グループ後半) /事後指導個人面談
10. 教師としての力量向上1(場面指導の基本とポイント) /事後指導個人面談
11. 教師としての力量向上2(場面指導事例研究)
12. 教師としての力量向上3(学習指導)
13. 教師としての力量向上4(生徒指導)
14. 教師としての力量向上5(学級経営)
15. 小学校教育実習のまとめ

準備学習(予習)

あいさつ・服装などへの配慮等をはじめ実習への心構え、授業実践等、実習に向けた準備に真剣に取り組むこと。

準備学習(復習)

事前指導の内容を反復しての理解、実習の反省等をよく行い、毎日の実習日誌の整理、終了後の報告書の作成、今後の学習の課題の整理などができるようにすること。

評価方法

- | | |
|--------------|---------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 実習校からの報告 | 50% 実習校の評価、巡回訪問での情報 |
| (3) 実習日誌・報告書 | 20% 実習日誌、報告書、成果と改善策 |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席及び参加の態度が悪い場合は減点の対象となる。上記及び実習校の詳細、巡回報告、実習日誌、実習報告等、総合的に判断します。

教科書

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：10637545

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「どう実践してよいかわからない」という声が多い「造形遊び」について、その意義を理解し、自分で授業プランを構想し、それを実行できるようになることを目指している。また、鑑賞することに関心を持ち、その多様な在り方を理解した上で、鑑賞活動の方法を工夫できるようにしていきたい。

(2) 内容

学習指導要領が示す「造形遊び」「絵や立体に表す」「鑑賞」という3つの活動領域から、この授業では「造形遊び」を取り上げ、その必要性和様々な実践形態を考えていく。具体的には「自然物や人工物などの色や形を基に思いついてつくる」「それらを並べたり、つないだり、積んだり、体全体を動かしてつくる」などの学習指導要領のキーワードを手がかりに、それらを反映した造形遊びのプランを考え、実行する。また、各単元の終わりには、実行した造形遊びの成果をみんなで「鑑賞」する機会をもうけ、良かったところと課題を確認できるようにする。さらに、鑑賞の多面的な役割を理解できるよう、鑑賞についての全般的な概説も行う。

受講者に対する要望

遊びのように造形活動に取り組んで行くので、図工や美術の時間が苦手であった人も、不安を抱かずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 造形遊び
- ・ 見立て
- ・ いろいろな材料
- ・ 場所
- ・ 鑑賞

授業計画

01. オリエンテーション：学習指導要領が示す工図画作科の内容構成について（担当者：柴田・柴崎）
02. 低学年の造形遊び1：見立て遊び（担当者：柴田・柴崎）
03. 低学年の造形遊び2：気に入った自然物を並べる（担当者：柴田）
04. 低学年の造形遊び3：身近にある愛らしい人工物を並べたり、積んだりする（担当者：柴田）
05. 鑑賞：第2回から4回までの成果物を見て、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
06. 鑑賞：文化伝承の視点も織り込んだ、鑑賞についての全体的な概説（担当者：柴田）
07. 中学年の造形遊び1：身の回りからスタンプに使えるものを探し、スタンプを押す楽しさを体験する（担当者：柴田）
08. 中学年の造形遊び2：スタンプする楽しさに加えて、押しながら色や配置を考えて、作品製作に進む（担当者：柴田）
09. 鑑賞：前回の授業の作品を展示し、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
10. 高学年の造形遊び1-1：水や土、光や風などの、自然の産物と現象に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
11. 高学年の造形遊び1-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
12. 高学年の造形遊び2-1：身近な場所に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
13. 高学年の造形遊び2-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
14. 高学年の造形遊び1と2のまとめ：児童の活動事例を参考に、実践体験を振り返り、授業の在り方を検討する（担当者：柴崎）
15. まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

最初に図画工作科の学習指導要領に目を通しておくこと。その後は授業で配布するプリントに資料に目を通すとともに、用具・材料等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと・良かったこと・改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637550

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「どう実践してよいかわからない」という声が多い「造形遊び」について、その意義を理解し、自分で授業プランを構想し、それを実行できるようになることを目指している。また、鑑賞することに関心を持ち、その多様な在り方を理解した上で、鑑賞活動の方法を工夫できるようにしていきたい。

(2) 内容

学習指導要領が示す「造形遊び」「絵や立体に表す」「鑑賞」という3つの活動領域から、この授業では「造形遊び」を取り上げ、その必要性和様々な実践形態を考えていく。具体的には「自然物や人工物などの色や形を基に思いついてつくる」「それらを並べたり、つないだり、積んだり、体全体を動かしてつくる」などの学習指導要領のキーワードを手がかりに、それらを反映した造形遊びのプランを考え、実行する。また、各単元の終わりには、実行した造形遊びの成果をみんなで「鑑賞」する機会をもうけ、良かったところと課題を確認できるようにする。さらに、鑑賞の多面的な役割を理解できるよう、鑑賞についての全般的な概説も行う。

受講者に対する要望

遊びのように造形活動に取り組んで行くので、図工や美術の時間が苦手であった人も、不安を抱かずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・造形遊び
- ・見立て
- ・いろいろな材料
- ・場所
- ・鑑賞

授業計画

01. オリエンテーション：学習指導要領が示す工図画作科の内容構成について（担当者：柴田・柴崎）
02. 低学年の造形遊び1：見立て遊び（担当者：柴田・柴崎）
03. 低学年の造形遊び2：気に入った自然物を並べる（担当者：柴田）
04. 低学年の造形遊び3：身近にある愛らしい人工物を並べたり、積んだりする（担当者：柴田）
05. 鑑賞：第2回から4回までの成果物を見て、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
06. 鑑賞：文化伝承の視点も織り込んだ、鑑賞についての全体的な概説（担当者：柴田）
07. 中学年の造形遊び1：身の回りからスタンプに使えるものを探し、スタンプを押す楽しさを体験する（担当者：柴田）
08. 中学年の造形遊び2：スタンプする楽しさに加えて、押しながら色や配置を考えて、作品製作に進む（担当者：柴田）
09. 鑑賞：前回の授業の作品を展示し、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
10. 高学年の造形遊び1-1：水や土、光や風などの、自然の産物と現象に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
11. 高学年の造形遊び1-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
12. 高学年の造形遊び2-1：身近な場所に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
13. 高学年の造形遊び2-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
14. 高学年の造形遊び1と2のまとめ：児童の活動事例を参考に、実践体験を振り返り、授業の在り方を検討する（担当者：柴崎）
15. まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

最初に図画工作科の学習指導要領に目を通しておくこと。その後は授業で配布するプリントに資料に目を通すとともに、用具・材料等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと・良かったこと・改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637665

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「絵や立体に表す」「鑑賞」の領域に関する様々な表現と指導の実際を学ぶことによって、指導者としての実践力を培うことを目標とする。また、子どもたちが自分の気持ちや考えを表現に込める点において、「児童を理解し支える」という最も大切な教育的課題に図画工作が貢献できることも伝えたい。

(2) 内容

図画工作科の教育内容について理解を深めていくには、実際に様々な造形表現を体験することが必要となる。この授業では、学習指導要領に記された図画工作科の3つの柱から「絵や立体に表す」を取り上げ、関連する様々な造形表現について実習を積み重ね、それらの体験を通して、図画工作科の実践に欠かせない思考力と造形能力の育成に取り組む。また、春学期の「図画工作A」と同じように、各単元の終わりには、製作した作品をみんなで「鑑賞」する機会をもうけて、鑑賞領域への対応力が育まれるようにしている。

受講者に対する要望

遊びから始める様な形で造形活動に取り組んでいくので、図工や美術が苦手であった人も、不安をいわずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 絵・立体・工作
- ・ 表現内容
- ・ 表現方法
- ・ 鑑賞
- ・ 教材研究

授業計画

01. オリエンテーション：学習指導要領が示す図画工作の内容構成と図画工作科の意義の確認（担当者：柴田・柴崎）
02. ものと人のクロッキー1：クロッキーを楽しむ（担当者：柴田・柴崎）
03. ものと人のクロッキー2：前回のクロッキーに彩色する（担当者：柴田）
04. 鑑賞：第2回と第3回の授業の作品を鑑賞し、その良さと課題を話し合う（担当者：柴田）
05. 紙粘土を使って夢の動物を作る1：紙粘土を作り、夢の動物の構想を進める（担当者：柴田）
06. 紙粘土を使って夢の動物を作る2：作った紙粘土で夢の動物を製作する（担当者：柴田）
07. 紙粘土を使って夢の動物を作る3：製作した夢の動物に彩色する（担当者：柴田）
08. 鑑賞：色々な夢の動物の良さを楽しむとともに教材の改善点を検討する（担当者：柴田）
09. 生活に生かす作品製作：身近にある愛らしい小物を食品容器のふたなどに配置しペンダントを作る（担当者：柴田）
10. 針金工作1：針金で想像の建物を作る-材料に親しみ構想を進める（担当者：柴崎）
11. 針金工作2：構想に基づいて製作を進める（担当者：柴崎）
12. 発信する作品づくり-版画によるポスター制作1：身近な材料で文字版を作ることと並行して、ポスターの構想を進める（担当者：柴崎）
13. 発信する作品づくり-版画によるポスター制作2：構想をもとに、版による文字と図柄を組み合わせてポスターを製作する（担当者：柴崎）
14. 鑑賞：針金工作とポスターの作品を鑑賞し、それぞれの良さと改善点を話し合う（担当者：柴崎）
15. まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

図画工作の学習指導要領を読んでおくこと。その後は授業で配布する資料に目を通すとともに、必要な材料・用具等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと、よかったこと、改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

欠席が4回を越えると評価の対象とはならない

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637670

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「絵や立体に表す」「鑑賞」の領域に関する様々な表現と指導の実際を学ぶことによって、指導者としての実践力を培うことを目標とする。また、子どもたちが自分の気持ちや考えを表現に込める点において、「児童を理解し支える」という最も大切な教育的課題に図画工作が貢献できることも伝えたい。

(2) 内容

図画工作科の教育内容について理解を深めていくには、実際に様々な造形表現を体験することが必要となる。この授業では、学習指導要領に記された図画工作科の3つの柱から「絵や立体に表す」を取り上げ、関連する様々な造形表現について実習を積み重ね、それらの体験を通して、図画工作科の実践に欠かせない思考力と造形能力の育成に取り組む。また、春学期の「図画工作A」と同じように、各単元の終わりには、製作した作品をみんなで「鑑賞」する機会をもうけて、鑑賞領域への対応力が育まれるようにしている。

受講者に対する要望

遊びから始める様な形で造形活動に取り組んでいくので、図工や美術が苦手であった人も、不安をいわずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 絵・立体・工作
- ・ 表現内容
- ・ 表現方法
- ・ 鑑賞
- ・ 教材研究

授業計画

- オリエンテーション：学習指導要領が示す図画工作の内容構成と図画工作科の意義の確認（担当者：柴田・柴崎）
- ものと人のクロッキー1：クロッキーを楽しむ（担当者：柴田・柴崎）
- ものと人のクロッキー2：前回のクロッキーに彩色する（担当者：柴田）
- 鑑賞：第2回と第3回の授業の作品を鑑賞し、その良さと課題を話し合う（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る1：紙粘土を作り、夢の動物の構想を進める（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る2：作った紙粘土で夢の動物を製作する（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る3：製作した夢の動物に彩色する（担当者：柴田）
- 鑑賞：色々な夢の動物の良さを楽しむとともに教材の改善点を検討する（担当者：柴田）
- 生活に生かす作品製作：身近にある愛らしい小物を食品容器のふたなどに配置しペンダントを作る（担当者：柴田）
- 針金工作1：針金で想像の建物を作る-材料に親しみ構想を進める（担当者：柴崎）
- 針金工作2：構想に基づいて製作を進める（担当者：柴崎）
- 発信する作品づくり-版画によるポスター制作1：身近な材料で文字版を作ることと並行して、ポスターの構想を進める（担当者：柴崎）
- 発信する作品づくり-版画によるポスター制作2：構想をもとに、版による文字と図柄を組み合わせてポスターを製作する（担当者：柴崎）
- 鑑賞：針金工作とポスターの作品を鑑賞し、それぞれの良さと改善点を話し合う（担当者：柴崎）
- まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

図画工作の学習指導要領を読んでおくこと。その後は授業で配布する資料に目を通すとともに、必要な材料・用具等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと、よかったこと、改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

欠席が4回を越えると評価の対象とはならない

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637775

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育士・社会人として必要な語彙と知識を身につけ、現代を生きる我々を取り巻くさまざまな課題について、自分なりの意見を持つことを目標とする。自分で調べ、考え、発表することで、情報収集能力と集めた情報を分析する洞察力を身につけ、それらを他者に発信できる表現力、問題解決能力を獲得することを目指す。

(2) 内容

本演習は保育士をめざす学生を対象とし、子どもとその保護者を取り巻く社会の現状について知り、社会の一員として課題意識を持ち、積極的に社会生活に参加していくための視点を獲得するための授業である。学生自身が身近な問題を調査し、正しい情報を収集し、保育者にふさわしい説得力のある言葉で発表、討論する形で進めていく。また、演習の後半では、素話の実践を通して、魅力的な話術によって子どもたちを楽しませる表現力を身につける。||

受講者に対する要望

この授業では、他者の意見に耳を傾けながら、自らの意見を発表し、積極的に討論に参加することが求められる。授業時のみならず、日常的にも社会の動きに目を向け、幅広い視野と知識を身につけてほしい。|

学びのキーワード

- ・ 保育の言葉
- ・ 問題解決能力
- ・ プレゼンテーション
- ・ グループ討議
- ・ 素話

授業計画

01. ガイダンス
02. 保育の言葉：尊敬語・謙譲語の使い方
03. 保育の言葉：丁寧語の使い方
04. 保育の言葉：場面による表現練習
05. 実習日誌の表現：基本的な文章表現と目標の書き方
06. 実習日誌の表現：事実の記録と考察の書き方
07. 園便りの作成：情報とレイアウト、コラムの書き方
08. 園便りの作成：簡潔で魅力的な見せ方について
09. グループ討議：効果的な意見の述べ方
10. グループ討議：マッピングによる意見の整理方法
11. グループ討議：生きやすい社会とは？
12. 素話の素材の探し方
13. 効果的な素話の方法
14. 素話の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

課題発表、素話の発表の前には、じゅうぶんな準備をすること。日常的に社会の動きに目を向け、情報収集を心がけること。|保育士を目指す学生として、その週で最も気になるニュースを選び、感想も添えて、毎回、提出すること。

準備学習(復習)

授業時に配布された資料を活用して、さらに語彙を増やし、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。毎回実施する漢字テストについて、間違ったところを復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 毎回の宿題 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 30% |
| (3) 課題レポート | 40% |

教科書

参考書

適宜プリント類を配布

担当教員：松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637780

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育士・社会人として必要な語彙と知識を身につけ、現代を生きる我々を取り巻くさまざまな課題について、自分なりの意見を持つことを目標とする。自分で調べ、考え、発表することで、情報収集能力と集めた情報を分析する洞察力を身につけ、それらを他者に発信できる表現力、問題解決能力を獲得することを目指す。

(2) 内容

本演習は保育士をめざす学生を対象とし、子どもとその保護者を取り巻く社会の現状について知り、社会の一員として課題意識を持ち、積極的に社会生活に参加していくための視点を獲得するための授業である。学生自身が身近な問題を調査し、正しい情報を収集し、保育者にふさわしい説得力のある言葉で発表、討論する形で進めていく。また、演習の後半では、素話の実践を通して、魅力的な話術によって子どもたちを楽しませる表現力を身につける。||

受講者に対する要望

この授業では、他者の意見に耳を傾けながら、自らの意見を発表し、積極的に討論に参加することが求められる。授業時のみならず、日常的にも社会の動きに目を向け、幅広い視野と知識を身につけてほしい。|

学びのキーワード

- ・ 保育の言葉
- ・ 問題解決能力
- ・ プレゼンテーション
- ・ グループ討議
- ・ 素話

授業計画

01. ガイダンス
02. 保育の言葉：尊敬語・謙譲語の使い方
03. 保育の言葉：丁寧語の使い方
04. 保育の言葉：場面による表現練習
05. 実習日誌の表現：基本的な文章表現と目標の書き方
06. 実習日誌の表現：事実の記録と考察の書き方
07. 園便りの作成：情報とレイアウト、コラムの書き方
08. 園便りの作成：簡潔で魅力的な見せ方について
09. グループ討議：効果的な意見の述べ方
10. グループ討議：マッピングによる意見の整理方法
11. グループ討議：生きやすい社会とは？
12. 素話の素材の探し方
13. 効果的な素話の方法
14. 素話の発表
15. まとめ

準備学習(予習)

課題発表、素話の発表の前には、じゅうぶんな準備をすること。日常的に社会の動きに目を向け、情報収集を心がけること。|保育士を目指す学生として、その週で最も気になるニュースを選び、感想も添えて、毎回、提出すること。

準備学習(復習)

授業時に配布された資料を活用して、さらに語彙を増やし、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。毎回実施する漢字テストについて、間違ったところを復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 毎回の宿題 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 30% |
| (3) 課題レポート | 40% |

教科書

参考書

適宜プリント類を配布

担当教員：丸山 綱男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637885

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

現代社会において、子どもの最善の利益を保障するために保育の果たす役割を問い直し、保育をめぐる諸問題を児童虐待という視点を見据えて論議する。演習形式では学生が主役であり、調べる・論理立てる・説明することを通して自己表現力とコミュニケーション力を身につけることを習得する。また、演習から新しい知識を得て、自分の取り組む問題に対しよりいっそう関心を深めることもねらいとする。将来保育士として様々な困難にぶつかったとき、問題解決を図る視点や力を身につけ保育にとって心の支援が重要であることを学びの目標とする。

(2) 内容

本演習は、保育士をめざす学生に対して現代的課題の中で社会問題化している児童虐待を切り口として、保育に関する課題の現状分析、考察、検討を行うと共に、保育士の責務である「保育・保護者・地域の子育て家庭への支援等」への対応、判断等について学びを深める。|演習では、テーマ毎のグループを作り、保育士としての支援のあり方を話し合って成果を発表する。また、演習を通して、仲間とのディスカッション、よりよい解決策の模索等、能動的に問題解決をする力を高める。|

受講者に対する要望

演習では、自身の研究意欲を高める場として積極的に発言をすることが求められる。意見交換で自己表現力とコミュニケーション力をつけるようにする。

学びのキーワード

- ・ 児童虐待
- ・ 子育て支援
- ・ 保育政策の動向
- ・ グループ討議
- ・ 発表

授業計画

01. オリエンテーション 保育をめぐる現代的な課題（講義）
02. 児童虐待について（講義）
03. 子育て支援と保育についてⅠ（講義）
04. 子育て支援と保育についてⅡ（講義）
05. 現代の保育政策の動向（講義）
06. テーマ設定とグループピング
07. テーマの公表とグループ間の意見交換
08. グループ討議と発表資料の作成 1
09. グループ討議と発表資料の作成 2
10. ゼミ内で発表会と全体での検討 1
11. ゼミ内で発表会と全体での検討 2
12. ゼミ内で発表会と全体での検討 3
13. ゼミ内で発表会と全体での検討 4
14. 演習の総括
15. まとめ

準備学習(予習)

グループ討議に入る前には、事前に様々な情報収集を行って、理論と現実の両面から保育の現状を把握すること。また、各自で課題に対する考察を重ね表現する力を養っておくこと。

準備学習(復習)

講義等で配布された資料を活用して、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 20% |
| (3) 課題レポート | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：丸山 綱男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637890

学部教育の関連目

【C】 保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

現代社会において、子どもの最善の利益を保障するために保育の果たす役割を問い直し、保育をめぐる諸問題を児童虐待という視点を見据えて論議する。演習形式では学生が主役であり、調べる・論理立てる・説明することを通して自己表現力とコミュニケーション力を身につけることを習得する。また、演習から新しい知識を得て、自分の取り組む問題に対しよりいっそう関心を深めることもねらいとする。将来保育士として様々な困難にぶつかったとき、問題解決を図る視点や力を身につけ保育にとって心の支援が重要であることを学びの目標とする。

(2) 内容

本演習は、保育士をめざす学生に対して現代的課題の中で社会問題化している児童虐待を切り口として、保育に関する課題の現状分析、考察、検討を行うと共に、保育士の責務である「保育・保護者・地域の子育て家庭への支援等」への対応、判断等について学びを深める。|演習では、テーマ毎のグループを作り、保育士としての支援のあり方を話し合って成果を発表する。また、演習を通して、仲間とのディスカッション、よりよい解決策の模索等、能動的に問題解決をする力を高める。|

受講者に対する要望

演習では、自身の研究意欲を高める場として積極的に発言をすることが求められる。意見交換で自己表現力とコミュニケーション力をつけるようにする。

学びのキーワード

- ・ 児童虐待
- ・ 子育て支援
- ・ 保育政策の動向
- ・ グループ討議
- ・ 発表

授業計画

01. オリエンテーション 保育をめぐる現代的な課題（講義）
02. 児童虐待について（講義）
03. 子育て支援と保育についてⅠ（講義）
04. 子育て支援と保育についてⅡ（講義）
05. 現代の保育政策の動向（講義）
06. テーマ設定とグループピング
07. テーマの公表とグループ間の意見交換
08. グループ討議発表資料の作成1
09. グループ討議と発表資料の作成2
10. ゼミ内で発表会と全体での検討1
11. ゼミ内で発表会と全体での検討2
12. ゼミ内で発表会と全体での検討3
13. ゼミ内で発表会と全体での検討4
14. 演習の総括
15. まとめ

準備学習(予習)

グループ討議に入る前には、事前に様々な情報収集を行って、理論と現実の両面から保育の現状を把握すること。また、各自で課題に対する考察を重ね表現する力を養っておくこと。

準備学習(復習)

講義等で配布された資料を活用して、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 討議・発表 | 20% |
| (3) 課題レポート | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：清水 将之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637985

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。| 更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。||カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。
 また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf || 文部科学省「幼稚園教育要領」平成20年3月 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf || 厚生労働省「保育所保育指針解説書」平成20年4月 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

担当教員：清水 将之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637990

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。| 更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。||カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。
 また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説体育編」 平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf || 文部科学省 「幼稚園教育要領」 平成20年3月 || http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf || 厚生労働省 「保育所保育指針解説書」 平成20年4月 || <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

担当教員：清水 将之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C638005

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や、模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングでき得る資質の育成を目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。| 指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。|カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・ごっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール・フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf | 文部科学省「幼稚園教育要領」平成20年3月 | http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf | 厚生労働省「保育所保育指針解説書」平成20年4月 | <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

担当教員：清水 将之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C638010

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や、模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングでき得る資質の育成を目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。| 指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。|カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・ごっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール・フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiledfile/2011/01/19/1234931_010.pdf | 文部科学省「幼稚園教育要領」平成20年3月 | http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/you.pdf | 厚生労働省「保育所保育指針解説書」平成20年4月 | <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

学校経営と学校図書館（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：小川 三和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10650100

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。

(2) 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。

受講者に対する要望

講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。

学びのキーワード

- ・ 学習センター・情報センター・読書センター
- ・ 学校図書館経営
- ・ 学校図書館メディア
- ・ 学校教育
- ・ 知識基盤社会

授業計画

01. 学校図書館の意義と理念、役割
02. 学校図書館の歴史
03. 学校図書館の国際的な動向
04. 教育行政と学校図書館
05. 図書館ネットワーク
06. 学校図書館経営
07. 学校図書館経営
08. 学校図書館の施設・設備
09. 司書教諭の任務と職務
10. 学校図書館メディアの構成
11. 学校図書館メディアの選択・収集
12. 学校図書館メディアの管理・提供
13. 学校図書館活動
14. 評価試験
15. さまざまな図書館・まとめ

準備学習(予習)

学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として理解したことと、今後も考察していくべきこととを明確にする。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------|
| (1) 提出物 | 50% | |
| (2) 評価テスト | 30% | 14回目に行い、最終回に解説をする。 |
| (3) 関心・意欲 | 20% | 私語・居眠りのないように。 |

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。

教科書

なし。プリント配布。

参考書

小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015.10 1800円＋税

学校図書館メディアの構成（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：若松 昭子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：2

授業コード：10650205

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。

(2) 内容

学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。|||

受講者に対する要望

授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくるのが重要です。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・学校図書館メディア
- ・メディア構成
- ・資料組織

授業計画

01. 学校図書館メディアの種類
02. メディアの選択と収集
03. 開架式と配列
04. 分類（1）NDCの構成と特徴
05. 分類（2）補助表とその働き-1
06. 分類（3）補助表とその働き-2
07. 分類（4）分類規程
08. 図書記号と別置記号
09. 件名標目表
10. 目録（1）目録の歴史と種類
11. 目録（2）アクセスポイント
12. 目録（3）NCRと記述の実際
13. 機械化と標準化
14. 書誌ユーティリティとネットワーク
15. まとめと総合演習

準備学習(予習)

教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

与えられた課題をきちんとやってくること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 試験 | 40% | 試験に代わるレポートになる場合もあり |
| (2) 小課題 | 30% | |
| (3) 授業参加状況 | 30% | 授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。

教科書

「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）【978-479322433】

参考書

学習指導と学校図書館（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：米谷 茂則

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C650310

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを集め、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

(2) 内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。| 司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

受講者に対する要望

小学校免許取得の場合は国語科又は社会科の指導法科目を、中学・高校免許取得の場合は免許教科指導法科目を先に履修しているか、この科目と並行して履修していることが望ましい。

学びのキーワード

- ・教育課程の展開
- ・情報活用能力の育成
- ・調べ学習の学習過程
- ・学校図書館機能の活用
- ・司書教諭の専門性

授業計画

01. 児童生徒の学校図書館機能活用と読書についての現状理解
02. 教育課程の展開と学校図書館
03. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
04. 情報活用能力の育成、その計画と指導方法
05. 調べ学習、課題学習、課題研究の一般的な学習過程
06. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の体験の発表と実践例の提示
07. 引用指導および調べ学習における自分の考えの形成に関する指導内容
08. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
09. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 現行教科書における調べ学習、課題学習、課題研究の例示／アクティブラーニングレポートの説明
11. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで
12. マンガ読書からマンガ読書学習へ／学習指導案の事前提出
13. 特別支援学校における読書活動、調べ学習の実際
14. アクティブラーニングレポートの発表／学習指導案の検討
15. 学校図書館年間計画の例示／司書教諭の仕事とその専門性／ 【学習指導案の提出】

準備学習(予習)

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。アクティブラーニングレポートの作成をすること。指導案の構想メモにもとづいて学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。

評価方法

- | | | |
|--------------------------|-----|---|
| (1) 発表等 | 20% | 授業において中級、中級、高等学級の調べ学習などの発表をこなす。他に各級別の発表があるため、個別に対応すること。 |
| (2) アクティブラーニングレポートの作成と発表 | 10% | 中級、高等、文部科学省が発表している中級など、調べ学習、課題学習、課題研究に関する調べ学習レポートを作成する。 |
| (3) 学習指導案の作成 | 60% | 学習指導案の作成について細かく指導する。指導案検討を経て、個別指導もおこなう。評価基準は第8回にて示す。 |
| (4) 平常点：授業における取組 | 10% | 真面目さを要求する。ノートをとること、資料を配布した場合は、資料への書き込みをいき、ファイルしていくこと。 |

第1回は必ず出席のこと。第1回を含め12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。出席条件を満たし、最終課題を提出したことで単位が認定されるということではない。

教科書

参考書

必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

読書と豊かな人間性（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：小川 三和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：10650415

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。

(2) 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。

受講者に対する要望

作業や体験、実習、討論などを多く取り入れるので、進んで学習に取り組み、欠席した場合は、出席者に必ず授業内容や次の授業の準備等を確認しておくこと。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・読書センター・学習センター・情報センター
- ・読書の指導・読書活動
- ・学校教育
- ・司書教諭の役割

授業計画

01. 読書の意義と目的・多様な読書資料
02. 発達段階に応じた読書の指導
03. 読書環境の整備と読書材の提供
04. 読書環境の整備と読書材の提供・ポップ作り
05. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ブックトーク等
06. 児童・生徒と本を結ぶための方法・読み聞かせ
07. 児童・生徒と本を結ぶための方法・アニメーション・読書会
08. 全校で取り組む読書活動
09. 各教科等での読書の指導
10. 探究的な学習と読書の指導
11. 学校経営と学校図書館、読書活動の推進
12. 読書活動推進のための連携
13. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ビブリオバトル
14. 評価試験
15. 個に応じた読書の指導

準備学習(予習)

多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。ビブリオバトルを行うので、大学生としても豊かな読書生活を送ること。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|----------------------|
| (1) 演習・関心・意欲 | 30% | 学習準備、演習への取り組み、授業態度等。 |
| (2) 提出物 | 30% | |
| (3) 評価試験 | 40% | 第14回に行い、最終回に解説を行う。 |

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物、演習、評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。

教科書

小川 三和子『読書の指導と学校図書館』（青弓社）【978-4787200563】

参考書

情報メディアの活用（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：長谷川 幸代

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10650520

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、効果的な情報提供ができることを目標とする。また、効果的なメディアの利用について発案する力を養う。

(2) 内容

社会全般、学校図書館における、さまざまなメディアと資料活用の意義と方法について学ぶ。効果的なメディア利用について考え、受講者それぞれのアイデアを共有していく。現代社会における情報の取り扱いの諸問題についても学ぶ。毎回授業では、前半に解説を行い、後半では各自がテーマについて自分なりの考えをまとめる。また、実際にデータベースを利用し、メディア利用に関する情報の検索を行ったり、効果的な資料・情報のアピールについて実践する。

受講者に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。信頼できる情報を選択するスキルを身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・情報メディア
- ・司書教諭

授業計画

01. 情報メディアの概要と歴史
02. 教育における情報メディアの活用
03. 情報メディアの種類と特性
04. 情報メディアの選択と管理
05. コンピュータの教育利用（1）
06. コンピュータの教育利用（2）
07. インターネットの概要と利用
08. データベースの利用
09. メディアを利用した教育の促進（1）基本
10. メディアを利用した教育の促進（2）応用
11. メディアとコミュニケーションの理論
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. さまざまなメディアと諸問題

準備学習(予習)

教科書に目を通す。

準備学習(復習)

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

シリーズ学校図書館編集委員会・編『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）【978-4793322464】

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX10100

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究の入り口に立って、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。| 子どもの視点を考慮した絵本の選書・読み語りが出来ようになる。||

(2) 内容

子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。| 特に絵本・幼年童話を題材とし、子どもの発達や子どもの遊びの場面を考慮した選書の方法や、読み語りの方法を実践的に学ぶことを通して児童研究を行う。||

受講者に対する要望

「子ども」「子どもに関わること」に関心をもって調べたり考えたりする面白さを味わってください。
絵本・幼年童話に関心をもって、自分でも面白い、その楽しさを他者に伝えることに取り組んでみましょう。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・児童学
- ・絵本
- ・幼年童話

授業計画

01. 子どもへのまなざし・絵本へのまなざし
02. 子どもの育ちと絵本 (1) 赤ちゃんの発達と絵本
03. 子どもの育ちと絵本 (2) 2・3歳児の発達
04. 子どもの育ちと絵本 (3) 2歳児の絵本
05. 子どもの育ちと絵本 (4) 3歳児の絵本
06. 子どもの育ちと絵本 (5) 4・5歳児の発達
07. 子どもの育ちと絵本 (6) 4歳児の絵本
08. 子どもの育ちと絵本 (7) 日本昔話絵本
09. 子どもの育ちと絵本 (8) 外国の昔話絵本
10. 子どもの育ちと絵本 (9) 絵本と再話
11. 子どもの育ちと絵本 (10) 科学の絵本
12. 子どもの育ちと絵本 (11) 5歳児の絵本①物語の絵本
13. 子どもの育ちと絵本 (12) 5歳児の絵本②知識の絵本
14. 絵本の楽しみを彩るもの
15. 総括

準備学習(予習)

子どもに関する自分の関心に向き合しましょう。課題報告のための自主的な調査・研究と発表準備が必要です。事前に配布した資料はしっかり読みましょう。絵本発表は、よく下読みをして臨んでください。

準備学習(復習)

配布資料や参考文献を積極的に読みましょう。発表した絵本について紹介資料を作成してください。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 40% |
| (2) 課題発表 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX10210

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。||| | |

(2) 内容

専門演習(児童学I)の学修内容を踏まえ、さらに受講者各々の問題意識・興味関心に沿って、子どもが絵本を味わい絵本の世界を楽しむ方法について、具体的な方法を知り、実践的に理解する。|

受講者に対する要望

実習や他の授業とも関連付けながら、自分の関心を探っていきましょう。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・発達
- ・絵本
- ・教材研究

授業計画

01. 子どもと絵本について考える視点
02. 絵本を楽しむ味わう方法(1) 科学的絵本の楽しみ方①手法や実践への理解
03. 絵本を楽しむ味わう方法(1) 科学的絵本の楽しみ方②好きな絵本を読みあう
04. 絵本を楽しむ味わう方法(2) 絵本の発展的な楽しみ方①絵本をもとにした手作り教材
05. 絵本を楽しむ味わう方法(2) 絵本の発展的な楽しみ方②手遊びや歌の活用
06. 絵本を楽しむ味わう方法(2) 絵本の発展的な楽しみ方③絵本の二次使用の注意
07. 絵本を楽しむ味わう方法(3) 選書と楽しみ方の模索
08. 絵本を楽しむ味わう方法(3) 絵本の教材研究
09. 絵本を楽しむ味わう方法(3) 絵本の楽しみ方の準備
10. 絵本を楽しむ味わう方法(3) 絵本から発展する実践の計画
11. 絵本を楽しむ味わう方法(3) 絵本から発展する実践の準備
12. 絵本を楽しむ味わう方法(3) 絵本から発展する実践の練習
13. 絵本を楽しむ味わう方法(4) 絵本から発展する実践発表
14. 絵本を楽しむ味わう方法(4) 絵本の教材研究発表
15. 総括

準備学習(予習)

自分の興味関心に自覚的に向き合いきましょう。多くの絵本にふれ、自分の好きな絵本を見つけておきましょう。

準備学習(復習)

専門演習の時間内に終了しなかった教材研究や教材作成は、次の時間までに終了させておいてください。授業中に生まれた疑問や課題は、積極的に調べて、次の時間に発表してください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | 積極的な発言を求めます |
| (2) 研究発表 | 40% | 自分の発表当番の回に向けて、よく準備して報告してください |
| (3) レポート | 30% | |

教科書

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX11350

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

作者である子どもの心を知る知性と感性を身につける。

(2) 内容

就学前好きであった造形活動が、小学校入学後嫌いになる例が、多く報告されている。その原因として、作品に対する教師の評価や、生徒の認知発達による、他者との比較などがあげられる。では、保育現場での造形活動には、全く問題はないのか。幼児期の造形体験・造形教育の望ましい在り方とは如何なるものか。本授業では、造形教育の歴史と現状を中心にこの点を考える。

受講者に対する要望

保育、教育現場における造形に関心のある学生の受講を望む。

学びのキーワード

- ・時代
- ・文化
- ・子ども
- ・芸術
- ・遊び

授業計画

01. オリエンテーション
02. 江戸市民文化と欧州絵画
03. 印象派の画家たち
04. 近代美術教育の成立
05. チゼックと児童絵画
06. 日本の造形教育
07. 臨画
08. 自由画
09. 幼児の発達と描画
10. 幼児画の特徴
11. 幼児の描画活動と保育者
12. アメリカ
13. イギリス
14. フランス
15. まとめ

準備学習(予習)

予習用に配布するプリントは必ず読むこと。

準備学習(復習)

授業ノートを再読し、配布されたプリントとファイルすること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・レポート | 80% |
| (2) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

プリントを配布する。

担当教員：喜田 敬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX11460

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

造形教育とは何か。知識の蓄積とともに、考える習慣を身につける。

(2) 内容

保育者は、園児の描画活動を指導すべきではない、と考える幼稚園は日本では少なくない。「これまでの教育論が、知的な領域と情的な領域に人間の心を分化し、知的教育が推進されるために情的な育成が阻害されるという二元論に立つことが多かった」ことも、その理由の一つであろう。だが、「造形的な活動は単に行為とか表出とか、経験、記録のみにとどまってしまって、芸術的な感動とか思いの表現に入らないで」よいのか。 | 専門演習IIでは、内外の造形教育の研究と実践から、保育造形の望ましい在り方を探る。 |

受講者に対する要望

ディスカッションには積極的に参加するように。

学びのキーワード

- ・ 保育者
- ・ 園
- ・ 子ども
- ・ 造形
- ・ 文化

授業計画

01. オリエンテーション。
02. 子どもの絵、大人の絵
03. 透視画法
04. 色相、明度、彩度
05. 光
06. DBAE
07. DBAEの実技体験
08. ディスカッション「DBAEの可能性と問題点」
09. 造形教育と性差
10. マンガと保育者
11. 日本アニメの歴史。アニメーション黎明期
12. アニメーション現代
13. サブカルチャーとファインアートと子どもたち
14. ディスカッション「造形教育の望ましい在り方」
15. まとめ

準備学習(予習)

予習のために配布するプリントを読んでおくこと。

準備学習(復習)

ノートをまとめ、配布資料をファイルする。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 制作 | 40% |
| (2) レポート | 40% |
| (3) 発表 | 20% |

教科書

参考書

プリントを配布する。

担当教員：相川 徳孝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX11770

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもの発達理解の上に、実際に子どもたちが興味や関心をもつ教材にはどのようなものがあるのかを考え、作製していく。

(2) 内容

この演習では保育現場で必要とされる基礎的な文章表現や子ども理解を深めていくと同時に、さまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められている役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて考えていく。また、保育者に必要と思われる保育技術の習得も目指していく。

受講者に対する要望

子どもに対する興味や関心があり、保育を多角的な視点で見ることを考えたい学生であってほしい。

学びのキーワード

- ・子どもの発達理解
- ・保育所と幼稚園の違い
- ・教材研究
- ・提示方法

授業計画

01. オリエンテーション
02. いろいろな保育教材について
03. 子どもの発達と保育教材
04. 保育教材製作のための計画書作成
05. 保育教材製作(1)
06. 保育教材製作(2)
07. 保育教材製作(3)
08. 保育教材製作(4)
09. 保育教材製作(5)
10. 指導案作成
11. 模擬保育(1)
12. 模擬保育(2)
13. 模擬保育(3)
14. 模擬保育からの今後の自己課題について
15. まとめ

準備学習(予習)

幼稚園や保育所でよく使われる教材や発達に即した絵本等について調べておくこと。

準備学習(復習)

他の授業ですでに学んだ幼稚園、保育所の役割や子どもの発達のプロセスについて正しく理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 教材作製 | 50% |
| (2) 模擬保育 | 25% |
| (3) 討論の参加度 | 25% |

ただ楽しい教材を作るということではなく、それを通して何を育てたいか、明確にし、取り組むこと。

教科書

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX11880

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ここでは遊びの意味や理解、子どもの行動の意味を考えること、さらには保育者の援助方法について保育事例を多く取り上げながら討論を重ね、各自の保育観を構築していくことを目標としている。

(2) 内容

本演習は、「専門演習(保育実践論I)」の延長線上にあり、前演習で取り組んだ教材研究を具体的な保育の内容にどのように取り入れていけばよいのか、そのためにはどのような保育者の働きが必要となるのか等について実践していく。事例をまとめる、発表するそれぞれのプロセスにおいて、保育者として必要な専門用語の理解と読み手に思いが伝わる文章表現とはどのようなものかについても学んでいく。

受講者に対する要望

保育を多角的な視点でみることを学んでほしい。

学びのキーワード

- ・子どもの生活
- ・遊びを通じた学び
- ・保育者の援助
- ・指導計画

授業計画

01. オリエンテーション
02. 保育研究の方法について
03. 事例研究の意義
04. 事例研究の方法(1)
05. 事例研究の方法(2)
06. 事例研究の方法(3)
07. 事例研究発表(1)
08. グループ討論(1)
09. 事例研究発表(2)
10. グループ討論(2)
11. 事例研究発表(3)
12. グループ討論(3)
13. 事例研究発表(4)
14. グループ討論(4)
15. まとめ

準備学習(予習)

各自の実践から保育についての実践記録をまとめ、討論ができるように準備すること。

準備学習(復習)

授業時に取り上げた事例研究において、問題点と子ども同士、子どもと保育者のかかわりをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 事例レポート | 50% |
| (2) 子ども理解 | 25% |
| (3) 文章表現 | 25% |

各自のレポートにおいて他者につたわる内容であるか、考察ができているかがポイントとなる。

教科書

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX12310

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

・基礎文献の講読方法及び文献の収集方法、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。|・日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みに気づき、多角的に考える。

(2) 内容

「異文化間教育」とは、「2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握すること」であり、その教育を考えるものである。具体例として、日本に住む外国人の子ども、海外に住む日本人の子ども、国際結婚の子どもを対象とした研究が挙げられる。本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のある基礎文献を講読し、発表とディスカッションを行う。また、世界の保育・教育や現状にも目を向け、多様な保育・教育方法や教材、各国の課題を、体験や映像を含めて学ぶ。

受講者に対する要望

ディスカッションに積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・異文化間教育
- ・文化
- ・外国人の子ども
- ・世界の保育・教育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 資料の収集方法とテーマの決定 文献の講読方法とまとめ方
03. 異文化間教育とは 異文化間教育の実践例
04. 発表とディスカッション
05. 発表とディスカッション
06. 発表とディスカッション
07. 発表とディスカッション
08. 発表とディスカッション
09. 発表とディスカッション
10. 異文化間教育の実践例
11. 発表とディスカッション
12. レポート作成方法
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. 海外の遊び/絵本 まとめ

準備学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに、調べ直し最終レポートをまとめること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 45% |
| (3) レポート | 15% |

最終レポートは、添削した上で「専門演習(異文化間教育II)」の授業で返却し、加筆修正が必要な点について各自で復習できるようにする。

教科書

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX12420

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習(異文化間教育I)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが最大のねらいである。|・文献リストの作成方法、文献の講読方法及びまとめ方、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。|・各自の関心のあるテーマとともに、日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みを広げ、多角的に考える。

(2) 内容

本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のあるテーマを見つけ、文献を講読し、発表とディスカッションを行う。|

受講者に対する要望

パワーポイントを使用した発表準備が求められる。

学びのキーワード

- ・異文化間教育
- ・文化
- ・外国人の子ども
- ・世界の保育・教育

授業計画

01. オリエンテーション テーマの決定 発表方法
02. 発表とディスカッション
03. 発表とディスカッション
04. 発表とディスカッション
05. 発表とディスカッション
06. 発表とディスカッション
07. 発表とディスカッション
08. 世界の文化
09. 世界の遊び
10. 世界の保育・教育
11. 文献収集と文献リストの作成 レポート作成方法
12. 発表とディスカッション
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. まとめ

準備学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに調べ直し、最終レポートをまとめること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 45% |
| (3) レポート | 15% |

最終レポートは、添削した上で「卒業研究(異文化間教育I)」の授業で返却し、加筆修正が必要な点について各自で復習できるようにする。

教科書

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX12510

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもの生活に実際にかかわるとき、思い込みだけではなかなかうまくいかない。この演習への参加を通じて、自分自身の思い込みに気づき、その思い込みを解いてみる機会になることを学びの意義とする。|思い込みを解くことは、簡単そうだが実際にはけっこう難しい。けれども、単独で行うよりも仲間と協力して行くと、意外な発見を互いに認め合い、頑固な思い込みがするりと解けることがある。こうした学びになるように仲間と協同することを、学びの目標とする。

(2) 内容

子どもが子どもとしてしあわせに生きること。子どもとともに生きる私たちは、それをどう支えようか。人は誕生と同時に学び始めるとルソーは言った。その学びは、子どものしあわせにどのようにつながるのだろうか。子どもと大人とがかかわりあう生活世界に教育文化の可能性を考えて、教育観を再考してみたい。このような問題関心から、この演習では、とくに、日々の暮らしにおける子どもの表情に注目する。文献の輪読とディスカッションを通じて、互いに理解を深めたい。

受講者に対する要望

育つことへの関心を深めて、育てることのセンスをみがいてほしい。相手を否定することなく、意見を交わしあうなかで互いの理解を深める努力をしてほしい。

学びのキーワード

- ・子どものしあわせと学び
- ・育つことと育てること
- ・日々の暮らしにおける子どもの表情
- ・子どもと大人の生活世界
- ・完成可能性

授業計画

01. 教育観再考のために：育ての心
02. 育つことと育てること：驚く心
03. 子どもと大人の生活世界：参加の心
04. 笑う子ども
05. 泣く子ども
06. 怒る子ども
07. 喜ぶ子ども
08. おどける子ども
09. ケンカする子ども
10. ウソをつく子ども
11. うたう子ども
12. 黙っている子ども
13. おしゃべりする子ども
14. おどる子ども
15. 教育観再考のために：完成可能性

準備学習(予習)

次回に読むところを読んでおく

準備学習(復習)

ディスカッションをふりかえり、その内容を記録する。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 輪読への参加 | 40% |
| (2) ディスカッションへの参加 | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

倉橋悠三『育ての心〈上〉』(フレーベル館)【978-4577803172】

参考書

内容に合わせて、適宜紹介する。

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX12610

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習 I の発展的演習である。前の演習において皆で学んだことを、実際の遊びにおいて確認し、理解を深めることを、学びの意義とする。基本的な研究の手法を学んで、日々の学びや卒業研究に活用する力を養うことを、学びの目標とする。

(2) 内容

子どもの学びは全身感覚的であると言われる。子どもに添い立つ大人には、子どもとの交わり・コミュニケーションのなかで子どもの躍動的な学びのありようを感受して、より充実した発展的な活動を子どもとともに創っていくことが求められるだろう。そこで、この演習では、遊びに着目して、子どもの学びのありようを考えていきたい。

受講者に対する要望

楽しさやおもしろさがどのように学びに起こってくるのか、実感とともに学んでほしい。また、遊びに生まれるこころのありようを記録する力を養ってほしい。

学びのキーワード

- ・遊びのミメーシス
- ・興味・関心
- ・プレイフルな創造性
- ・広義のコミュニケーション
- ・感覚的な学び

授業計画

01. 遊びとコミュニケーション
02. 五感のあり方 (1) ふれる
03. 五感のあり方 (2) 味わう
04. 五感のあり方 (3) 嗅いでみる
05. 五感のあり方 (4) きこえる
06. 五感のあり方 (5) みえる
07. 五感のあり方 (6) 子どもの理性
08. 模倣すること (1) うつる
09. 模倣すること (2) まわす
10. 模倣すること (3) つたわる
11. 遊びの発展過程 (1) ひらく
12. 遊びの発展過程 (2) ふくらむ
13. 遊びの発展過程 (3) はじける
14. 遊びの発展過程 (4) まとまる
15. 遊びと学び

準備学習(予習)

次回の学びに必要なことを調査をする。

準備学習(復習)

各回に学んだことの内容を整理して、考察をまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 報告 | 40% |
| (2) ディスカッション | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

使用しない。

参考書

予習に必要な文献資料を適宜紹介する。

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX12860

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 人の書いた論説文の趣旨を把握し、書かれた内容を批判的に考察する力を身につける || 2. レポート作成の基本的作法を身につける

(2) 内容

1) 各受講生が、テキストを批判的に読むという学問研究の基礎的技法について学ぶ。| 2) レポートの書き方について学ぶ。| カリキュラム上の位置づけ：| 卒業研究へのプロセスとして考えている。||

受講者に対する要望

発表資料の準備をつうじて仲間と共に確認し合い、意見の交換等を持って授業に参加することを希望する。

学びのキーワード

- ・ テキスト批評
- ・ レポートの書き方
- ・ 文献・資料の探し方
- ・ 研究発表の基本

授業計画

01. ガイダンス
02. テキスト批評について学ぶ
03. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (1)
04. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (2)
05. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (3)
06. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (4)
07. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (5)
08. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討 (6)
09. 研究発表の基礎 (1)
10. 研究発表の基礎 (2)
11. 研究発表の基礎 (3)
12. 研究発表 (1)
13. 研究発表 (2)
14. 研究発表 (3)
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された資料、テキストの箇所について、わからない事項については可能な限り事前に調べて演習に臨むこと。

準備学習(復習)

授業の中で指定された課題を毎回必ず仕上げ、次回の授業に臨むこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 60% |

教科書

柏木恵子『父親になる、父親をする一家庭心理学の視点から』(岩波ブックレット) || 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会) [978-4766409697]

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX12970

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

このゼミは、保育者、小学校教員を目指す学生たちの国語力向上を目的とする。様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深めてゆきたい。|

(2) 内容

初回の授業で、各自「小中学生に勧めたい物語ベスト10」のリストを用意してくる。その中から特に1冊を選び、毎回、一人ずつ、自分の選んだ作品について分析、発表する。ディスカッションを可能にするため、受講者全員がその作品を読んでくること。発表とディスカッションを中心に、毎回、読書会のスタイルで授業を進める。卒業研究、卒業論文へと続く最初のゼミであり、最終的にきちんと研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う。|

受講者に対する要望

毎回の読書会に積極的に参加できるよう、課題図書は必ず読んでおくこと。

学びのキーワード

- ・ レポートの書き方
- ・ レジュメの書き方
- ・ 日本語文章表現
- ・ 読書リスト
- ・ 読書会

授業計画

01. 授業説明、及び、各自の今学期の課題作品発表
02. レポートの文体
03. レジュメの書き方について
04. 論文の構造について
05. 読書会①
06. 読書会②
07. 読書会③
08. 読書会④
09. 読書会⑤
10. 読書会⑥
11. 読書会⑦
12. 読書会⑧
13. 読書会⑨
14. 読書会⑩
15. レポート発表

準備学習(予習)

初回授業で、各自、読書リストを提出。読書会の課題図書を毎回、必ず読んでくること。自分の発表時にはレジュメを作成し、当日の午前中に提出すること。

準備学習(復習)

読書会発表後は、レポートを作成して提出すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 読書会発表 | 40% |
| (2) 学期末レポート | 30% |
| (3) 討論への参加度 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX13080

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会人としての教養と日本語力を身につけると、また、幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちの国語力を向上させることを目標とする。

(2) 内容

小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深めてゆく。授業の後半は、教育実習準備のため、実際に模擬授業、ブックトークなど、実践的な発表力を身につける練習をする。

受講者に対する要望

毎回、指示された課題にじゅうぶん準備をして授業に臨むこと。

学びのキーワード

- ・句会
- ・ブックトーク
- ・国語模擬授業
- ・キャラクター作り

授業計画

01. 授業説明
02. ブックトークについて
03. 俳句を作る
04. 難しい言葉クイズ
05. 作文課題を考える
06. 相棒キャラクターを作る
07. 〈おまえ〉は悪い言葉か？
08. 金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」
09. 詩を鑑賞する
10. 国語模擬授業
11. 国語模擬授業
12. 国語模擬授業
13. ブックトーク発表
14. ブックトーク発表
15. まとめ

準備学習(予習)

ゼミの前半は、毎回、様々な課題を出すので、初回授業で配布する予定表に従って予習しておくこと。後半は、国語の模擬授業とブックトークを行ってもらうので、発表者はじゅうぶん用意しておくこと。

準備学習(復習)

国語力向上のために各自で必要な読書・新聞購読などを行うこと。

評価方法

- (1) 模擬授業・ブックトークの発表 30%
- (2) 毎回の課題&討論への参加度 70%

教科書

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX13190

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会科教育、社会科指導における基礎的基本的な内容について学び、教師を目指す資質を向上させる。

(2) 内容

社会科指導に必要と思われる内容について、「社会科とは何か」「社会科はどうあるべきか」といった問題意識の観点に立ち、| 1 社会科の本質| 2 社会科の内容| 3 社会科学習指導論| 4 社会科の授業実践| などから適宜課題を取り上げ、演習と研究をする。| なお、現地見学・学習を行う予定である。||

受講者に対する要望

社会科に関心をもち、小学校教員を目指して、しっかり努力していく者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 小学校社会科教育
- ・ 社会科指導における基礎基本
- ・ 社会科授業事例研究・演習
- ・ 社会科指導案作成・協議
- ・ 現地見学・現地学習

授業計画

01. ガイダンス、授業計画等について
02. 社会科教育、社会科指導における基礎基本
03. 選択課題に基づく演習・協議 1
04. 選択課題に基づく演習・協議 2
05. 選択課題に基づく演習・協議 3
06. 選択課題に基づく演習・協議 4
07. 選択課題に基づく演習・協議 5
08. 現地見学・学習計画
09. 現地見学・学習
10. 現地見学・学習のまとめ
11. 選択課題に基づく演習・協議 6
12. 選択課題に基づく演習・協議 7
13. 選択課題に基づく演習・協議 8
14. 選択課題に基づく演習・協議 9
15. まとめ

準備学習(予習)

授業の中で指示された点については、次回までに予習し、準備をしておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習した内容については確認し、確実に習得していけるようにしていくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 演習・課題研究 | 50% |

上記を基準に総合的に判断します。

教科書

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX13200

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会科教育・社会科指導において、教師に求められる資質・能力の基礎を養成する。教師の専門性の向上に結び付けていくことを目指す。

(2) 内容

専門演習(社会科I)の継続で行う。社会科授業の基盤となる学習内容の研究、学習指導案の作成、授業研究等から選択課題に基づく演習・協議をし、研究を深める。現地見学・現地学習も取り入れ、研究協議する。

受講者に対する要望

専門演習(社会科I)を受講済みで、小学校教員を目指し、資質・能力の向上に積極的に学ぶ学生の受講を望む。

学びのキーワード

- ・小学校社会科教育
- ・小学校社会科学習内容研究
- ・社会科の授業づくりと事例研究
- ・社会科指導案作成・研究
- ・現地見学・現地学習

授業計画

01. ガイダンス、授業計画について
02. 選択課題に基づく演習・協議・研究 1
03. 選択課題に基づく演習・協議・研究 2
04. 選択課題に基づく演習・協議・研究 3
05. 選択課題に基づく演習・協議・研究 4
06. 選択課題に基づく演習・協議・研究 5
07. 現地見学・学習計画
08. 現地見学・学習
09. 現地見学・学習のまとめ
10. 選択課題に基づく演習・協議・研究 6
11. 選択課題に基づく演習・協議・研究 7
12. 選択課題に基づく演習・協議・研究 8
13. 選択課題に基づく演習・協議・研究 9
14. 選択課題に基づく演習・協議・研究 10
15. まとめ

準備学習(予習)

課題を選定、研究し発表の準備をする。

準備学習(復習)

発表について全体で協議し、指摘・指導された点については、再度確認、修正する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 演習・課題研究 | 50% |

上記を基準に総合的に判断します。

教科書

参考書

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1CX13910

学部教育の関連目

【C】 児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々なデータを多面的に見ることで、氾濫する健康情報を正しく読み取る力を身に付けると共に、調べた情報について意見を交換することの楽しさを味わう。また、生きる力の源となる食の大切さを実感する。|

(2) 内容

子どもたちや、子どもたちの家庭をめぐる食の現状および課題について、公的なデータを読み取ることによって学び考える。子どもたちに食育をおこなう上で必要となる食に関する知識・技術が何かを知る。

受講者に対する要望

積極的な討論姿勢を求める

学びのキーワード

- ・ 栄養教育
- ・ 食育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 調理実習
03. 調査結果発表
04. 調理計画 (1)
05. 調理計画 (2)
06. 調理計画 (3)
07. 調理実習
08. 食に関する調査 (1)
09. 食に関する調査 (2)
10. 食に関する調査 (3)
11. 発表・討論 (1)
12. 発表・討論 (2)
13. 発表・討論 (3)
14. 発表・討論 (4)
15. まとめ

準備学習(予習)

配布資料を読み込み、自分なりの意見を持ってくこと

準備学習(復習)

討論した点について、さらに考えを深めること

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 参加点 | 50% |
| (2) 課題 | 50% |

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1CX14010

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを取り巻く食の課題について、自身でテーマを設定し深く検討することで、実践的に理解を深める。調べた情報について意見を交換することの楽しさを味わう。調理や栽培の基礎技術を習得する。

(2) 内容

専門演習(栄養教育Ⅰ)の学修内容を踏まえ、各々が興味関心を持った食についての課題を探求するための、実践的な手法を学ぶ。食育活動に有効な調理や栽培の実践を行う。

受講者に対する要望

積極的な討論姿勢を求める

学びのキーワード

- ・ 栄養教育
- ・ 食育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 食事調査
03. 調査結果発表
04. 調理計画(1)
05. 調理計画(2)
06. 調理計画(3)
07. 調理実習
08. 食に関する調査(1)
09. 食に関する調査(2)
10. 食に関する調査(3)
11. 発表・討論(1)
12. 発表・討論(2)
13. 発表・討論(3)
14. 発表・討論(4)
15. まとめ

準備学習(予習)

配布資料を読み込み、自分なりの意見を持ってくこと

準備学習(復習)

討論した点について、さらに考えを深めること

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 参加点 | 50% |
| (2) 課題 | 50% |

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX20100

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。自分の問題関心を深める方法論を選んで子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。|

(2) 内容

専門演習(児童学II)の学修内容を踏まえ、絵本理解の方法として絵本評論に学ぶ手法を身につける。そのうえで、受講者各々の問題意識・興味関心に沿って絵本を選書し分析研究を行い、研究の成果を発表する。||

受講者に対する要望

自分らしい取り組み内容を見つけていきましょう。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・発達
- ・絵本
- ・絵本評論

授業計画

01. 研究方法の学習(1) 絵本評論とは何か
02. 研究方法の学習(2) 絵本評論を手掛かりに絵本を味わう
03. 絵本評論の学習①五味太郎氏の「うさこちゃんとうみ」論に学ぶ
04. 絵本評論の学習②五味太郎氏の「うさこちゃんとうみ」論を協議する
05. 絵本評論の学習③「行きて帰りし」論に学ぶ
06. 絵本評論の学習④瀬田貞二理論と「アンガスとあひる」
07. 絵本評論の学習⑤瀬田貞二理論と「てぶくろ」
08. 絵本評論の学習⑥瀬田貞二理論と「おだんごぱん」
09. 絵本評論の学習⑦瀬田貞二理論と「たろうのともだち」
10. 絵本評論の学習⑧瀬田貞二理論と「ありこのおつかい」
11. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析①選書
12. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析②分析視点の検討
13. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析③研究発表
14. 「行きて帰りし」理論からの絵本分析④意見交換と協議
15. 総括

準備学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取組み、報告するための準備をすることが必要です。

準備学習(復習)

研究発表ごとに、研究してきたことを振り返り、研究を進めるために次に行うことを考えましょう。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------------|
| (1) 積極的な参加 | 30% | 積極的な発言を求めます。 |
| (2) 研究発表 | 40% | 発表の当番回に向けて、よく準備をして報告してください。 |
| (3) レポート | 30% | |

教科書

授業中にプリントを配布します。

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX20210

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを軸とした自らの関心に沿って、調べたり実践したりすることを通して考えることの具体的な方法を実践的に習得する。子ども研究の面白さ、奥深さ、難しさを体験的に学ぶ。自ら取り組んだ成果を大切に扱い、まとめ、人に伝える手法を実践しながら身につける。受講生同士の成果に関心をもって尊重しあい、学びあう経験をする。|||

(2) 内容

専門演習(児童学I・II)、卒業研究(児童学I)での学修を踏まえ、受講生各々の問題関心に沿った卒業研究を発展させ、子どもと絵本等の児童文化財を研究の対象と捉えた活動の成果を「卒業研究レポート」としてまとめ、発表する。|||

受講者に対する要望

自分の関心に沿って、沢山の絵本等児童文化財と触れてきたと思います。その提供方法・技能についても、意識的に習得したいと思います。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・発達
- ・絵本
- ・児童文化財

授業計画

01. 卒業研究の方向性
02. 研究報告と討議(1)ゼミで学んできたことの確認と課題の明確化
03. 研究報告と討議(2)相互の課題発表と意見交換
04. 研究報告と討議(3)資料と記録の収集
05. 研究報告と討議(4)資料と記録の整理
06. 研究報告と討議(5)資料と記録の分析
07. 研究報告と討議(6)資料と記録に基づく考察
08. 研究報告と討議(7)考察内容の相互検討
09. 研究を発表する方法(1)卒業研究レポートの作成について
10. 研究を発表する方法(2)卒業研究における資料作成の方法
11. 研究発表を聞いて自分の研究を豊かにする方法
12. 卒業研究の発表と討議(1)絵本研究
13. 卒業研究の発表と討議(2)絵本をもとに製作した児童文化財に関する研究
14. 卒業研究の発表と討議(3)絵本と乳幼児の発達に関する研究
15. 総括

準備学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取組み、報告するための準備をすることが必要です。

準備学習(復習)

卒業研究レポートにまとめるために、協議した内容を文章にまとめておくことが必要です。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 25% |
| (2) 研究発表 | 25% |
| (3) 卒業研究レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：山口 博

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX20890

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教の立場から諸問題に即答や解答を与える倫理的な宣言 (ethical pronouncement) としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察 (analysis reflection) を加えるものである。

(2) 内容

本講義は、キリスト教幼児教育を研究するにあたり、「人間実存の神秘への導入」(inducting) を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代の諸問題を、キリスト教倫理学の領域で考察したい。

受講者に対する要望

積極的に受講してください。

学びのキーワード

- ・人|
- ・神
- ・主|
- ・生|
- ・死

授業計画

01. 序
02. 各自の研究課題を探ります
03. 各自の研究課題に取り組みます
04. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。
05. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。
06. パソコンルームを使い論文作成に取り組みます。
07. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。
08. 図書館の電子黒板等を使用し、プレゼンテーションをします。
09. 共通の卒業研究の実践に取り組みます。|プレゼンテーションとディスカッションをします。
10. 共通の卒業研究の実践に取り組みます。|プレゼンテーションとディスカッションをします。
11. プレゼンテーションとディスカッションをします。 |共通の卒業研究の実践に取り組みます。
12. プレゼンテーションとディスカッションをします。 | 共通の卒業研究の実践に取り組みます。
13. プレゼンテーションとディスカッションをします。 | 共通の卒業研究の実践に取り組みます。
14. プレゼンテーションとディスカッションをします。 |共通の卒業研究の発表をします。
15. まとめ

準備学習(予習)

各自のUSBに卒論内容を書き込み作成します。|プレゼンテーションの準備が必要になります。

準備学習(復習)

ノートをまとめてください。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 講義への積極性 | 20% |
| (2) ディスカッション | 20% |
| (3) 論文作成 | 20% |
| (4) ノートおよびプリント提出 | 20% |
| (5) プレゼンテーション | 20% |

教科書

参考書

講義の中で指示

担当教員：喜田 敬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX21370

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業論文、卒業研究、卒業制作に向けた資料収集、調査、試作を進め、「卒業研究II」の準備を行う。

(2) 内容

本授業では、卒業論文、卒業研究、卒業制作のうち一つを選び研究する。定期的に研究、制作の経過報告を行う。

受講者に対する要望

研究意欲を損なわせるので、欠席はしないこと。

学びのキーワード

- ・ 観察
- ・ 鑑賞
- ・ 発見
- ・ 言語化
- ・ 共有

授業計画

01. 卒業論文・卒業研究・卒業制作の進め方について
02. レジメの書き方、発表の仕方
03. 参考文献について
04. テーマ設定 (1)
05. テーマ設定 (2)
06. 資料収集
07. 資料収集
08. 研究計画、制作計画レポート作成
09. 研究計画、制作計画レポート作成
10. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
11. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
12. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
13. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
14. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、授業に備える。

準備学習(復習)

配布資料の再読と、与えられた課題を必ず行うこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 活動性・発表 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：喜田 敬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX21480

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業論文、卒業研究ないし卒業制作を通し、独自の視点から児童教育に造形教育が果たす役割について考えることを目標としている。

(2) 内容

卒業論文、卒業研究レポート、卒業制作の指導を行う。卒業制作を選択した受講者は、制作意図、教育効果等に関する説明文書を作品に添付する。

受講者に対する要望

担当者との面会の時間を多く作ってもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 熟視
- ・ 熟読
- ・ 冷静
- ・ 発見
- ・ 報告

授業計画

01. 「卒業研究II」の進め方について
02. 卒業制作説明
03. 卒業研究レポート作成説明
04. 卒業制作・卒業研究レポート
05. 卒業制作・卒業研究レポート
06. 卒業制作・卒業研究レポート
07. 経過報告
08. 経過報告
09. 卒業制作・卒業研究レポート
10. 卒業制作・卒業研究レポート
11. 卒業制作・卒業研究レポート
12. 研究発表
13. 制作発表
14. 研究発表
15. 制作発表

準備学習(予習)

授業計画を参照し、授業に備える。

準備学習(復習)

指導された内容の整理をする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 研究・制作発表 | 80% |
| (2) 活動性 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX21700

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各自の子どもや保育に対する興味から自己課題、研究方法について見出すことを目標とする。

(2) 内容

「卒業研究」は「専門演習（保育実践論I. II）」の延長線上にあり、いままで学んできたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。

受講者に対する要望

保育を多角的に考察することと実際に子どもとわかるフィールドをもっていることが望まれる。

学びのキーワード

- ・ 実践研究
- ・ 子ども理解
- ・ 遊びを通した学び

授業計画

01. オリエンテーション
02. いろいろな保育方法
03. 幼稚園教育要領について
04. 保育所保育指針について
05. 事例研究(1)
06. 事例研究(2)
07. 事例研究(3)
08. 事例研究(4)
09. 事例研究(5)
10. 事例研究(6)
11. 事例研究(7)
12. 保育者の援助について
13. 遊びを通した学びの意義
14. 子どもの生活と環境構成
15. まとめ

準備学習(予習)

基礎実習と保育所実習、施設実習の日誌をまとめておくこと。

準備学習(復習)

討論を通して明確となった課題をまとめていくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 事例レポート | 80% |
| (2) 討論の参加度 | 20% |

各自の実践をまとめ、それを第三者に説明し、柔軟な視点で自分の保育をみつめられるかがポイント。

教科書

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX21810

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

演いままで行ってきたことを基に各自が研究テーマを決め、卒業研究として集大成することを目指すものであり、多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養うことを目標とする。

(2) 内容

習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく

受講者に対する要望

子どもに関するフィールドを持っていることが望まれる。

学びのキーワード

- ・子ども理解
- ・実践研究
- ・私の保育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 各自のテーマ設定について
03. テーマ設定発表
04. レポート作成 (1)
05. レポート作成 (2)
06. レポート作成 (3)
07. レポート発表中間発表
08. レポート作成 (1)
09. レポート作成 (2)
10. レポート作成 (3)
11. レポート発表と討論 (1)
12. レポート発表と討論 (2)
13. レポート発表と討論 (3)
14. 保育の今日的課題
15. まとめ

準備学習(予習)

各自の興味や関心にしながらレポートをまとめ、それを土台に討論できるように準備すること。

準備学習(復習)

討論を通して見えてきた他者の保育者の視点、保育の課題についてまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 実践レポート | 80% |
| (2) 保育実践 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：坂本 佳代子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22045

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各自の研究テーマについて、十分な実践及び研究と全員での協議により、対人援助者としての資質を高めることを目指す

(2) 内容

卒業研究(児童福祉実践理論I)で各自取り組んだ研究を継続し、協議を通して深化させる。その成果を卒業研究としてまとめ、発表する。

受講者に対する要望

卒業研究をしっかりとめて、大学で学んだことの成果の一つとして今後に生かせるようにする。

学びのキーワード

- ・児童福祉法
- ・障害者総合支援法
- ・研究報告・発表

授業計画

01. 卒業研究テーマの発表と進め方について
02. 研究中間報告・協議(1)
03. 研究中間報告・協議(2)
04. 研究中間報告・協議(3)
05. 研究中間報告・協議(4)
06. 研究中間報告のまとめと研究報告仕上げに向けて
07. 研究報告・協議(5)
08. 研究報告・協議(6)
09. 研究報告・協議(7)
10. 研究報告・協議(8)
11. 研究報告のまとめと発表に向けて
12. 卒業研究の発表・協議(1)
13. 卒業研究の発表・協議(2)
14. 卒業研究の発表・協議(3)
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は、実践研究した内容をわかりやすくまとめ、発表できるよう準備しておく。

準備学習(復習)

研究協議の中で指摘された点、指導を受けた点については、再度修正をして卒業研究としてまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 研究協議参加状況 | 20% |
| (3) 研究報告・発表 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22360

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。
 ・卒業論文(レポート)の書き方を学ぶ。

(2) 内容

卒業研究は、「専門演習(異文化間教育I・II)」の延長線上にあり、これまでの学習成果をさらに発展させ、ディスカッションを重ねながら、各自の関心のあるテーマを深めていくことを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する方法を学ぶ。

受講者に対する要望

・事前に配布した資料を読み、まとめること。
 ・研究テーマの焦点を絞り、決定すること。

学びのキーワード

- ・異文化間教育
- ・文化
- ・外国人の子ども
- ・世界の保育・教育
- ・研究方法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 世界の遊び
03. 研究発表とディスカッション
04. 研究発表とディスカッション
05. 研究発表とディスカッション
06. 多文化保育・教育
07. 研究方法1:研究のタイプとデータ収集法 観察
08. 研究方法2:観察と記録
09. 研究方法3:インタビュー 研究者倫理
10. 異文化間教育の実践例
11. 研究発表とディスカッション
12. レポート作成方法
13. 研究発表とディスカッション
14. 研究発表とディスカッション
15. まとめ

準備学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに調べ直し、最終レポートをまとめること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 45% |
| (3) レポート | 15% |

最終レポートは、添削した上で「卒業研究(異文化間教育II)」の授業で返却し、加筆修正が必要な点について各自で復習できるようにする。

教科書

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22470

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。
 |・卒業論文（レポート）の書き方を学ぶ。
 |

(2) 内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文（レポート）にまとめることを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する。授業は、それぞれの経過報告とディスカッションで進められる。||

受講者に対する要望

計画的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・異文化間教育
- ・卒業論文（レポート）
- ・文化
- ・外国人の子ども
- ・世界の保育・教育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 先行研究の発表
03. 先行研究の発表
04. 先行研究の発表
05. 経過報告とディスカッション
06. 世界の教材
07. 異文化間教育の実践例
08. 世界の文化
09. 経過報告とディスカッション
10. 経過報告とディスカッション
11. 研究成果の発表
12. 研究成果の発表
13. 研究成果の発表
14. レポート作成について
15. まとめ

準備学習(予習)

発表（経過報告）3回分の準備及び卒業論文（レポート）の執筆を計画的に進めること。

準備学習(復習)

発表でのディスカッションをもとに修正し、卒業論文（レポート）にまとめること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 45% |
| (3) レポート | 15% |

レポート課題への回答を行う。

教科書

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22510

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

これまでの学びの総まとめとしての卒業研究である。自身のあり方をふりかえりながら、学んだことを社会でも活かしていくわざをともに見出しあうことを、学びの意義とする。| 最終学年であることをふまえて、これまでのこととこれからのことをじっくりと考えながら結びつけることを学びの目標とする。

(2) 内容

専門演習で学び得たことに基づいて、各自が関心のある内容を研究にまとめる。また、その研究を仲間と共有できるようにする。そのために必要な基本的な方法を学ぶ。また、工夫の仕方を仲間との意見交換の中で学ぶ。

受講者に対する要望

研究をまとめるなかで、生活のなかのちょっとしたことのおもしろさに気づくようなセンスをみがいてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学びにおける興味・関心
- ・ 真面目さと遊び心
- ・ 楽しさ・面白さの真意
- ・ 体験と経験
- ・ 子どもとの生活

授業計画

01. 教育文化論の領野
02. 研究の方法 (1) 入口に立ってみる
03. 研究の方法 (2) 戸口を開けてみる
04. 研究の方法 (3) 一歩踏み出してみる
05. 研究の方法 (4) 道を探してみる
06. 研究の方法 (5) 手がかりを得る
07. 研究の方法 (6) 印をつけておく
08. 研究の方法 (7) もし道に迷ったら…
09. 研究の方法 (8) 入口まで戻ってみる
10. 研究のまとめ方 (1) 歩みをふりかえる
11. 研究のまとめ方 (2) 概略図をつくる
12. 研究のまとめ方 (3) 見聞録をつくる
13. 研究内容の理解 (1) 全体と部分
14. 研究内容の理解 (2) 分解と再構成
15. 教育文化論の領野を見渡す

準備学習(予習)

次回の学習に必要なことを調査する。

準備学習(復習)

各回の内容をふりかえって、研究をまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 報告 | 40% |
| (2) ディスカッション | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22515

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

これまでの学びの総まとめとしての卒業研究である。自身のあり方をふりかえりながら、学んだことを社会でも活かしていくわざをともに見出しあうことを、学びの意義とする。| 最終学年であることをふまえて、これまでのこととこれからのことをじっくりと考えながら結びつけることを学びの目標とする。

(2) 内容

専門演習で学び得たことに基づいて、各自が関心のある内容を研究にまとめる。また、その研究を仲間と共有できるようにする。そのために必要な基本的な方法を学ぶ。また、工夫の仕方を仲間との意見交換の中で学ぶ。

受講者に対する要望

研究をまとめるなかで、生活のなかのちょっとしたことのおもしろさに気づくようなセンスをみがいてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学びにおける興味・関心
- ・ 真面目さと遊び心
- ・ 楽しさ・面白さの真意
- ・ 体験と経験
- ・ 子どもとの生活

授業計画

01. 教育文化論の領野
02. 研究の方法 (1) 入口に立ってみる
03. 研究の方法 (2) 戸口を開けてみる
04. 研究の方法 (3) 一歩踏み出してみる
05. 研究の方法 (4) 道を探してみる
06. 研究の方法 (5) 手がかりを得る
07. 研究の方法 (6) 印をつけておく
08. 研究の方法 (7) もし道に迷ったら…
09. 研究の方法 (8) 入口まで戻ってみる
10. 研究のまとめ方 (1) 歩みをふりかえる
11. 研究のまとめ方 (2) 概略図をつくる
12. 研究のまとめ方 (3) 見聞録をつくる
13. 研究内容の理解 (1) 全体と部分
14. 研究内容の理解 (2) 分解と再構成
15. 教育文化論の領野を見渡す

準備学習(予習)

次回の学習に必要なことを調査する。

準備学習(復習)

各回の内容をふりかえって、研究をまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 報告 | 40% |
| (2) ディスカッション | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22620

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

これまでの学びの総まとめとしての卒業研究である。自身のあり方をふりかえりながら、学んだことを社会でも活かしていくわざをともに見出しあうことを、学びの意義とする。| 最終学年であることをふまえて、これまでのこととこれからのことをじっくりと考えながら結びつけていくことを学びの目標とする。

(2) 内容

受講生それぞれが関心のある内容を研究にまとめる。また、その研究を仲間と共有できるようにする。

受講者に対する要望

生活のなかのちょっとしたおもしろさに気づくようなセンスを研いでほしい。

学びのキーワード

- ・ 学びにおける興味・関心
- ・ 真面目さと遊び心
- ・ 楽しさ・面白さの真意
- ・ 体験と経験
- ・ 子どもとの生活

授業計画

01. 教育文化を研究する
02. 研究の方法 (1) 選ぶ
03. 研究の方法 (2) しぼる
04. 研究の方法 (3) ひろげる
05. 研究の発展 (1) 集める
06. 研究の発展 (2) 分類する
07. 研究の発展 (3) 並べかえる
08. 研究の発展 (4) 組みあわせる
09. 研究の発表方法 (1) 見せる
10. 研究の発表方法 (2) 隠す
11. 研究の発表方法 (3) きいてみる
12. 研究の発表方法 (4) 応答する
13. 研究成果の理解 (1) 交換する
14. 研究成果の理解 (2) 再考する
15. 教育文化論の可能性をひらく

準備学習(予習)

次回の学習に必要なことを調査する。

準備学習(復習)

各回の内容をふりかえって、研究をまとめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 報告 | 40% |
| (2) ディスカッション | 40% |
| (3) 期末課題 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22810

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学び、かつ、卒論を執筆する学生のために、個人指導も併せて行う。

(2) 内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。|秋学期開講科目であるので、最初、テーマ設定と研究の進め方(方法論)について共通の指導を行うが、後半は個人指導を中心に進める。

受講者に対する要望

3年生の卒業研究で取り組んだ研究テーマを各人がさらに深化させ、研究発表及び研究報告書の作成に取り組む。したがって、毎回の授業が大変重要なものとなるため、必ず毎回出席し、指導を踏まえて各人の研究を進めるようにすることを求めることとした。

学びのキーワード

- ・ 卒論テーマ設定の仕方
- ・ 研究方法
- ・ 資料の収集の仕方
- ・ 論文構成の立て方

授業計画

01. 卒業研究テーマの設定の仕方
02. 卒業研究テーマの発表と内容の検討(1)
03. 卒業研究テーマの発表と内容の検討(2)
04. 研究方法についての指導(1)
05. 研究方法についての指導(2)
06. 研究方法についての指導(3)
07. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
08. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
09. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
10. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
11. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
12. 各自のテーマに基づく研究の発表と検討
13. 各自のテーマに基づく研究の発表と検討
14. 各自のテーマに基づく研究の発表と検討
15. 研究報告書の提出・まとめ

準備学習(予習)

発表(経過報告)の準備及び卒業論文(レポート)の執筆を授業時間以外にも計画的に進めること。

準備学習(復習)

各回に指導された事項を踏まえて、新たな学びを自主的に積み上げて、発表の内容を深化させること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 50% |

教科書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会)【978-4766409697】

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX22920

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

様々な児童文学を通して、日本語の豊かな語彙・運用力を身につけ、教員を目指す社会人として、自分の考えを自分の言葉で発表できるようになることを目標とする。|

(2) 内容

このゼミは、毎回のテーマに合った作品を各自が持ち寄り、ディスカッションを行う形で授業を進める。|

受講者に対する要望

テーマを意識した読書を心がけ、設定されたテーマに関わる作品を探せるようにしてほしい。

学びのキーワード

- ・テーマ別読書会
- ・効果的なプレゼンテーション

授業計画

01. 授業説明
02. 論文のレジュメ作成方法について
03. ディスカッション(1)家族
04. ディスカッション(2)友情
05. ディスカッション(3)動物
06. ディスカッション(4)恋
07. ディスカッション(5)冒険
08. ディスカッション(6)魔法
09. ディスカッション(7)不老不死
10. ディスカッション(8)クリスマス
11. 百人一首
12. 句会
13. レポート発表
14. 卒業研究レジュメ発表
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回のディスカッションテーマに合わせて、各自が作品を選び、レジュメを用意してこること。学期末に卒業研究レポートのレジュメを提出してもらうので、各自、準備を進めておくこと。

準備学習(復習)

毎回のディスカッションで扱った作品についてレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 毎回の課題&討論への参加度 | 60% |
| (2) 学期末レポート | 30% |
| (3) 卒業研究レジュメ | 10% |

教科書

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX23030

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

保育者・教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身につけることを目標とする。|

(2) 内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。授業は、それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションで進められる。|

受講者に対する要望

最終的な卒業研究レポート作成のため、各自で研究を進めていくこと。

学びのキーワード

授業計画

01. 受講者各自の論文テーマ発表
02. 経過報告とディスカッション
03. 経過報告とディスカッション
04. 経過報告とディスカッション
05. 経過報告とディスカッション
06. 経過報告とディスカッション
07. 経過報告とディスカッション
08. 経過報告とディスカッション
09. 経過報告とディスカッション
10. 経過報告とディスカッション
11. 経過報告とディスカッション
12. 経過報告とディスカッション
13. 卒業研究レポート発表
14. 卒業研究レポート発表
15. まとめ

準備学習(予習)

卒業研究レポート作成を進めるのと並行して、ゼミメンバーの研究テーマについて、全員がディスカッションに参加できるように、扱われる作品等を読んでもらうこと。

準備学習(復習)

ディスカッションを通して学んだことを踏まえて、卒業研究レポートを修正しながら完成させること。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 毎回のディスカッションへの参加度 | 40% |
| (2) 卒業研究レポート | 60% |

教科書

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX23140

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会科教育について、これまで学んできたことを基盤に、各自が研究テーマをもち、十分な調査と研究から、大学での集大成としての卒業研究に結び付けていくことを目指す。

(2) 内容

地理的分野、歴史的分野、公民的分野など、広く社会科教育に関係する内容の中から、各自が研究題材項目を選択する。選択した項目について調査研究を進め、その報告を全体で協議し、研究を深める。

受講者に対する要望

研究テーマに基づく十分な調査研究を行い、成果に結び付けていくことを望む。

学びのキーワード

- ・ 社会科
- ・ 卒業研究の進め方
- ・ 研究計画・現地調査
- ・ 資料収集・作成の仕方
- ・ 研究の中間報告

授業計画

01. 卒業研究の進め方について
02. 取り上げたい調査研究について
03. 調査研究計画の発表・協議 (1)
04. 調査研究計画の発表・協議 (2)
05. 調査研究計画の発表・協議 (3)
06. 調査研究テーマについて報告・協議 (1)
07. 現地調査 (1)
08. 調査研究テーマについて報告・協議 (2)
09. 現地調査 (2)
10. 調査研究中間発表・協議 (1)
11. 調査研究中間発表・協議 (2)
12. 調査研究中間発表・協議 (3)
13. 調査研究中間発表・協議 (4)
14. 調査研究中間発表・協議 (5)
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は、前回、指摘・指導を受けた箇所の修正をした新たなレジュメ等を準備すること。報告しない者も進行状況について簡単に伝える。

準備学習(復習)

ゼミで検討し、指摘された点については、再度、調査研究しておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 資料収集・調査活動 | 20% |
| (3) 研究報告・中間発表 | 50% |

上記を基準に総合的に判断します。

教科書

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX23245

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各自の研究テーマについて、十分な調査研究と全員での協議により、社会科教育に結び付けることができるようにするとともに教育者・社会人としての資質の向上に資する。

(2) 内容

卒業研究(社会科I)で各自取り組んだ研究を継続し、協議を通して深化させる。その成果を卒業研究としてまとめ、発表する。

受講者に対する要望

卒業研究をしっかりとめて、大学で学んだことの成果の一つとして今後に生かせるようにする。

学びのキーワード

- ・社会科
- ・地域調査・地域研究
- ・研究報告・発表
- ・卒業研究成果

授業計画

01. 卒業研究テーマの発表と進め方について
02. 研究中間報告・協議(1)
03. 研究中間報告・協議(2)
04. 研究中間報告・協議(3)
05. 研究中間報告・協議(4)
06. 現地調査
07. 研究報告・協議(5)
08. 研究報告・協議(6)
09. 研究報告・協議(7)
10. 研究報告・協議(8)
11. 研究報告のまとめと発表に向けて
12. 卒業研究の発表・協議(1)
13. 卒業研究の発表・協議(2)
14. 卒業研究の発表・協議(3)
15. まとめ

準備学習(予習)

報告者は、調査・研究した内容をわかりやすくまとめ、発表できるよう準備しておく。

準備学習(復習)

研究協議の中で指摘された点、指導を受けた点については、再度調査・修正をして卒業研究としてまとめる。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 調査活動・資料作成 | 20% |
| (3) 研究報告・発表 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1CX23780

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自ら選んだ教育心理学的テーマに基づいた個別調査研究の発表・討議を通して教育心理学的な見方を習得する。|

(2) 内容

教育心理学的研究について自らテーマを設定し、研究計画を立案し、個別に調査研究を行う。

受講者に対する要望

議論に積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・調査
- ・実験

授業計画

01. オリエンテーション
02. 個別研究発表の準備 (1)
03. 個別研究発表の準備 (2)
04. 個別研究発表の準備 (3)
05. 個別研究発表の準備 (4)
06. 個別研究発表の準備 (5)
07. 個別研究発表 (1)
08. 個別研究発表 (2)
09. 個別研究発表 (3)
10. 個別研究発表 (4)
11. 個別研究発表 (5)
12. 個別研究発表 (6)
13. 個別研究発表 (7)
14. 個別研究発表 (8)
15. まとめ (フィードバックを含む)

準備学習(予習)

各自のテーマに基づいて事前準備を行う

準備学習(復習)

討論をもとに、自らの考えを整理する。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 平常点と発表 | 40% |

教科書

参考書

担当教員： 広瀬 歩美

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1CX23910

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを取り巻く食の課題について、自身でテーマを設定し深く検討することで、課題解決に必要なことに気づく。また、調べた情報について意見を交換することの楽しさを味わう。食生活改善を目標とするとともに達成の難しさを実践的に学ぶ。

(2) 内容

専門演習(栄養教育Ⅱ)の学修内容を踏まえ、各々が興味関心を持った食に関連するテーマを設定し、研究発表を行う。受講生自身が豊かな食生活を送れるよう、振り返りを行う。

受講者に対する要望

積極的な討論姿勢を求める

学びのキーワード

- ・ 栄養教育
- ・ 食育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 食事調査
03. 調査結果発表
04. 調理計画(1)
05. 調理計画(2)
06. 調理計画(3)
07. 調理実習
08. 食に関する調査(1)
09. 食に関する調査(2)
10. 食に関する調査(3)
11. 発表・討論(1)
12. 発表・討論(2)
13. 発表・討論(3)
14. 発表・討論(4)
15. まとめ

準備学習(予習)

配布資料を読み込み、自分なりの意見を持ってくこと

準備学習(復習)

討論した点について、さらに考えを深めること

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 参加点 | 50% |
| (2) 課題 | 50% |

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00741

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【C】今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として(或いは一個人として)、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

(2) 内容

1. 内容 | 本講義では、日本社会における高齢化の実態と高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学の理論について論じることとする。また、高齢期の人間が直面する課題とそれを解決するためにどのような教育実践が今日展開されているのかについても紹介する。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。|| 2. カリキュラム上の位置づけ | 資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。

受講者に対する要望

遅刻、無断欠席は厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 少子高齢化
- ・ 老年学
- ・ 成人の学習理論
- ・ ジェロゴジー
- ・ 加齢と知能

授業計画

01. 日本社会の高齢化の状況と将来推計
02. 戦前の高齢者の社会的地位(家長制度、尊属優位の民法規定)
03. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷
04. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張(活動理論と離脱理論等)
05. 生涯発達理論について
06. 加齢と知的能力(1)
07. 加齢と知的能力(2)
08. 高齢期の発達と危機(高齢期の発達課題)
09. 高齢期の発達と危機(高齢期の生活課題)
10. 高齢者の特性を活かした教育学(gerogogy)の理論
11. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法
12. 高齢者の学習関心・学習要求(1)
13. 高齢者の学習関心・学習要求(2) |
14. 高齢者を対象とする特色ある教育実践の紹介
15. まとめ

準備学習(予習)

講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。

準備学習(復習)

毎回、授業の講義ノートの整理をすること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 25% |
| (3) 試験 | 50% |

教科書

堀薫夫・三輪建二『生涯学習と自己実現』(放送大学教育振興会)【978-4595306143】

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00842

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【C】今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

(2) 内容

1. 内容 | 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題(死・病、対象喪失などをめぐる課題)を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。|| 2. カリキュラム上の位置づけ | 資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。||

受講者に対する要望

本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。

学びのキーワード

- ・ 青少年期の発達特性
- ・ ポストモダン
- ・ 奉仕活動の義務化
- ・ シティズンシップ教育
- ・ 生と死の準備教育

授業計画

01. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
02. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
03. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
04. 非行原因論の系譜（1）
05. 非行原因論の系譜（2）
06. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
07. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
08. 学校教育における奉仕活動の必修化をどう考えるか（協議）
09. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ
10. わが国における「死の準備教育」提唱の背景とその内容
11. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」をめぐる議論について
12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果
13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育－実践事例の紹介－」
15. まとめ

準備学習(予習)

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

準備学習(復習)

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 25% |
| (3) レポート点 | 50% |

教科書

参考書

講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

こども心理学科

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300100

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、子どもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、子どもの人格と人権を尊重するゆえに高い倫理観を持つ社会貢献ができることを学ぶ【D】「子ども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

(2) 内容

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供するこを目的とする。

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取り、積極的に講義に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 優しさ
- ・ 寛容
- ・ 生きる勇氣
- ・ 自己肯定
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

準備学習(復習)

講義毎に指定される図書・映画等を読んだり、視聴することによって、見識をさらに深めることが重要である。

評価方法

- (1) 授業レポート
- (2) 礼拝レポート
- (3) 期末試験
- (4) 授業への積極的参加

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：15300101

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供することを目的とする。

(2) 内容

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 寛容
- ・ 優しさ
- ・ 人格的關係
- ・ 生きる勇氣
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

講義毎に指定される本や映画を見ることにより、理解度をより深めていくことができる。

準備学習(復習)

授業内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業レポート | 30% |
| (2) 礼拝レポート | 20% |
| (3) 期末テスト | 35% |
| (4) 授業への積極的参加 | 15% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300108

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基礎であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆえに深い理解を持つて社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供することを目的とする。

(2) 内容

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

受講者に対する要望

授業にして積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 優しさ
- ・ 寛容
- ・ 生きる勇氣
- ・ 自己肯定
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

授業で取り上げる人々の考え方や生き方について、関係した書物を読んで理解を深める努力を求める。

評価方法

- (1) 授業レポート
- (2) 礼拝レポート
- (3) 期末テスト
- (4) 授業への積極的参加

教科書

参考書

授業の中で示唆する

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：15300201

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こども的人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む

学びのキーワード

- ・ 主の祈り
- ・ 聖書

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された聖書箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業の内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業レポート | 45% |
| (2) 礼拝レポート | 25% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300205

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

積極的に受講してください。

学びのキーワード

- ・キリスト教倫理
- ・問題意識
- ・自己相対化

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

準備学習(復習)

配布プリントとノートをまとめてください。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験 | 20% |
| (2) プリント問題への回答 | 20% |
| (3) 全学礼拝と教会レポート | 20% |
| (4) ノートおよびプリント提出 | 20% |
| (5) プレゼンテーション | 20% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300216

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆえに深い理解を持って社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。

学びのキーワード

- ・キリスト教倫理
- ・問題意識
- ・自己相対化

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

準備学習(復習)

心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。

評価方法

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

学校経営と学校図書館（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：小川 三和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10650100

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。

(2) 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。

受講者に対する要望

講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。

学びのキーワード

- ・ 学習センター・情報センター・読書センター
- ・ 学校図書館経営
- ・ 学校図書館メディア
- ・ 学校教育
- ・ 知識基盤社会

授業計画

01. 学校図書館の意義と理念、役割
02. 学校図書館の歴史
03. 学校図書館の国際的な動向
04. 教育行政と学校図書館
05. 図書館ネットワーク
06. 学校図書館経営
07. 学校図書館経営
08. 学校図書館の施設・設備
09. 司書教諭の任務と職務
10. 学校図書館メディアの構成
11. 学校図書館メディアの選択・収集
12. 学校図書館メディアの管理・提供
13. 学校図書館活動
14. 評価試験
15. さまざまな図書館・まとめ

準備学習(予習)

学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として理解したことと、今後も考察していくべきこととを明確にする。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------|
| (1) 提出物 | 50% | |
| (2) 評価テスト | 30% | 14回目に行い、最終回に解説をする。 |
| (3) 関心・意欲 | 20% | 私語・居眠りのないように。 |

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。

教科書

なし。プリント配布。

参考書

小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015.10 1800円＋税

学校図書館メディアの構成（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：若松 昭子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：2

授業コード：10650205

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。

(2) 内容

学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。|||

受講者に対する要望

授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくるのが重要です。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・学校図書館メディア
- ・メディア構成
- ・資料組織

授業計画

01. 学校図書館メディアの種類
02. メディアの選択と収集
03. 開架式と配列
04. 分類（1）NDCの構成と特徴
05. 分類（2）補助表とその働き-1
06. 分類（3）補助表とその働き-2
07. 分類（4）分類規程
08. 図書記号と別置記号
09. 件名標目表
10. 目録（1）目録の歴史と種類
11. 目録（2）アクセスポイント
12. 目録（3）NCRと記述の実際
13. 機械化と標準化
14. 書誌ユーティリティとネットワーク
15. まとめと総合演習

準備学習(予習)

教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

与えられた課題をきちんとやってくること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 試験 | 40% | 試験に代わるレポートになる場合もあり |
| (2) 小課題 | 30% | |
| (3) 授業参加状況 | 30% | 授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。

教科書

「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）【978-479322433】

参考書

学習指導と学校図書館（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：米谷 茂則

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C650310

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを集め、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

(2) 内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。| 司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

受講者に対する要望

小学校免許取得の場合は国語科又は社会科の指導法科目を、中学・高校免許取得の場合は免許教科指導法科目を先に履修しているか、この科目と並行して履修していることが望ましい。

学びのキーワード

- ・教育課程の展開
- ・情報活用能力の育成
- ・調べ学習の学習過程
- ・学校図書館機能の活用
- ・司書教諭の専門性

授業計画

01. 児童生徒の学校図書館機能活用と読書についての現状理解
02. 教育課程の展開と学校図書館
03. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
04. 情報活用能力の育成、その計画と指導方法
05. 調べ学習、課題学習、課題研究の一般的な学習過程
06. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の体験の発表と実践例の提示
07. 引用指導および調べ学習における自分の考えの形成に関する指導内容
08. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
09. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 現行教科書における調べ学習、課題学習、課題研究の例示／アクティブラーニングレポートの説明
11. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで
12. マンガ読書からマンガ読書学習へ／学習指導案の事前提出
13. 特別支援学校における読書活動、調べ学習の実際
14. アクティブラーニングレポートの発表／学習指導案の検討
15. 学校図書館年間計画の例示／司書教諭の仕事とその専門性／ 【学習指導案の提出】

準備学習(予習)

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。アクティブラーニングレポートの作成をすること。指導案の構想メモにもとづいて学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。

評価方法

- | | | |
|--------------------------|-----|--|
| (1) 発表等 | 20% | 授業において中級、中級、高学年での調べ学習などの発表をとおし、加えて各級別の発表をとおし、個別に評価すること。 |
| (2) アクティブラーニングレポートの作成と発表 | 10% | 中級、高学年、文部科学省が実施している中級など、調べ学習、課題学習、課題研究に関する調べ学習レポートを提出すること。 |
| (3) 学習指導案の作成 | 60% | 学習指導案の作成について細かく指導する。指導案検討を経て、個別指導もおこなう。評価基準は第8回にて示す。 |
| (4) 平常点：授業における取組 | 10% | 真面目さを要求する。ノートをとること、資料を配布した場合は、資料への書き込みをいき、ファイルしていくこと。 |

第1回は必ず出席のこと。第1回を含め12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。出席条件を満たし、最終課題を提出したことで単位が認定されるということではない。

教科書

参考書

必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

読書と豊かな人間性（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：小川 三和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：10650415

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。

(2) 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。

受講者に対する要望

作業や体験、実習、討論などを多く取り入れるので、進んで学習に取り組み、欠席した場合は、出席者に必ず授業内容や次の授業の準備等を確認しておくこと。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・読書センター・学習センター・情報センター
- ・読書の指導・読書活動
- ・学校教育
- ・司書教諭の役割

授業計画

01. 読書の意義と目的・多様な読書資料
02. 発達段階に応じた読書の指導
03. 読書環境の整備と読書材の提供
04. 読書環境の整備と読書材の提供・ポップ作り
05. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ブックトーク等
06. 児童・生徒と本を結ぶための方法・読み聞かせ
07. 児童・生徒と本を結ぶための方法・アニメーション・読書会
08. 全校で取り組む読書活動
09. 各教科等での読書の指導
10. 探究的な学習と読書の指導
11. 学校経営と学校図書館、読書活動の推進
12. 読書活動推進のための連携
13. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ビブリオバトル
14. 評価試験
15. 個に応じた読書の指導

準備学習(予習)

多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。ビブリオバトルを行うので、大学生としても豊かな読書生活を送ること。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|----------------------|
| (1) 演習・関心・意欲 | 30% | 学習準備、演習への取り組み、授業態度等。 |
| (2) 提出物 | 30% | |
| (3) 評価試験 | 40% | 第14回に行い、最終回に解説を行う。 |

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物、演習、評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。

教科書

小川 三和子『読書の指導と学校図書館』（青弓社）【978-4787200563】

参考書

情報メディアの活用（C用）

TEAT-0-200/TEAT-C-200/TEAT-C-200

担当教員：長谷川 幸代

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10650520

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、効果的な情報提供ができることを目標とする。また、効果的なメディアの利用について発案する力を養う。

(2) 内容

社会全般、学校図書館における、さまざまなメディアと資料活用の意義と方法について学ぶ。効果的なメディア利用について考え、受講者それぞれのアイデアを共有していく。現代社会における情報の取り扱いの諸問題についても学ぶ。毎回授業では、前半に解説を行い、後半では各自がテーマについて自分なりの考えをまとめる。また、実際にデータベースを利用し、メディア利用に関する情報の検索を行ったり、効果的な資料・情報のアピールについて実践する。

受講者に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。信頼できる情報を選択するスキルを身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学校図書館
- ・ 情報メディア
- ・ 司書教諭

授業計画

01. 情報メディアの概要と歴史
02. 教育における情報メディアの活用
03. 情報メディアの種類と特性
04. 情報メディアの選択と管理
05. コンピュータの教育利用（1）
06. コンピュータの教育利用（2）
07. インターネットの概要と利用
08. データベースの利用
09. メディアを利用した教育の促進（1）基本
10. メディアを利用した教育の促進（2）応用
11. メディアとコミュニケーションの理論
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. さまざまなメディアと諸問題

準備学習(予習)

教科書に目を通す。

準備学習(復習)

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

シリーズ学校図書館編集委員会・編『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）【978-4793322464】

参考書

担当教員：渡辺 正人、吉澤 剛士、齋藤 一雄、中村 月子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：1

授業コード：1D100302

<p>学部教育の関連目</p> <p>【D】初年次教育科目</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. 学科の教育理念、教育課程の概要 02. 大学での学び～図書館オリエンテーション～ 03. ノートの取り方、情報検索の仕方 04. 人を大切にすること 05. 学びの振り返り～小グループディスカッション～ 06. 人の心に寄り添うとは 07. 困難を抱える人に向き合う 08. こどもの心と教育 09. 学びの振り返り～小グループディスカッション～ 10. 気になる資格について 11. 体と心 12. 心が動くとき 13. 人はなぜ悩むのか 14. こどもに心動かされて 15. まとめ：こども心理学科で学ぶこと、考えること
<p>カリキュラム上の位置付け</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>心理・健康・教育に関する書物を読んでおくこと
</p>
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>本科目は、1. 人間関係形成能力、2. 情報活用能力、3. 意思決定能力の育成を目標としている。本科目は、初年次の学習であることを考慮し、まずは、様々な人々とのコミュニケーションを図るプログラムにそって学習し、生き方に関する考え方をお互いに理解し合う機会をもつとともに自己理解を深め、学習への意欲を喚起していくことを目指している。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>プログレスノートを取り、授業の振り返りをする
キーワードを調べておくこと</p>
<p>(2) 内容</p> <p>この科目は、自分自身の生き方をみつめ、将来をどのように設計していくのかを考える科目である。</p>	<p>評価方法</p> <p>(1) プログレスノート 100%</p>
<p>受講者に対する要望</p> <p>心理に関する書物を複数読んでみる
グループワークでは、積極的にクラスメイトとコミュニケーションをとること</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p>
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と自分を大切にすること ・大学での学び ・仕事と自分 ・人生設計 ・感動 	

担当教員：竹渕 香織、吉澤 剛士、齋藤 一雄、中村 月子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：1 授業コード：1D100403

<p>学部教育の関連目</p> <p>【D】初年次教育科目</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション 02. 卒業後の仕事 臨床心理士・カウンセラー 03. 卒業後の仕事 療育・保育 04. 卒業後の仕事 特別支援教育 05. 振り返りとまとめ（全体） 06. 卒業後の仕事 保健科教員 07. 卒業後の仕事 公務員 08. 卒業後の仕事 一般企業 09. 振り返りとまとめ（全体） 10. 中グループセッション① 11. 中グループセッション② 12. 中グループセッション③ 13. 中グループセッション④ 14. 中グループセッション⑤ 15. まとめ（ノート提出） 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>興味を持った仕事について、情報収集をする。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>こども心理総論Aに引き続き、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力を育てる。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>興味をもった内容、調べた内容をプログレスノートにまとめる。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>紹介される職業の概要を聞き、興味があったものについて積極的に情報を集め、分析する力を育てる。卒業後の就職・進路をイメージする。 聞いた話をもとに、各自が興味を持った内容やテーマについて、中グループに分かれ、さらに細かく学ぶ。 </p>	<p>評価方法</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>(1) 平常点</td> <td>50%</td> <td>出席・参加度</td> </tr> <tr> <td>(2) ノート作成</td> <td>50%</td> <td></td> </tr> </table>	(1) 平常点	50%	出席・参加度	(2) ノート作成	50%	
(1) 平常点	50%	出席・参加度					
(2) ノート作成	50%						
<p>受講者に対する要望</p> <p>好奇心をもとう
推論し検討しよう</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p> <p><small>ノートを準備すること。毎回の講義、グループでの学びについて記録し、資料を整理する。ルーズリーフは不可。</small></p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン ・自己発見 ・コミュニケーション 							

担当教員：村上 純子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D100606

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【D】認定心理士：基礎科目

(1) 学びの意義と目標

心理学という学問の考え方や実証科学としての研究の方法などを学び、心理学の学びの基礎の形成を目指す。

授業計画

01. 講義の進め方
02. 心理学とは何か
03. 心理学の学問的背景と科学としての心理学の目標
04. 私たちの心に入ってくるものとは？—私たちが見えている世界—
05. 知覚の限界
06. 私たちの心にとどまるものとは？—学習と学習—
07. 心の中にあるものの使い方①—思考と推論—
08. 心の中にあるものの使い方②—言語の使用—
09. なぜ私たちはそうするのか—動機と情動—
10. 発達
11. 個人差
12. 物事がうまくいかないと感じるとき
13. 人と人のかかわり
14. 心理学の目的
15. まとめと理解度の確認

(2) 内容

本講義では、初めて心理学を学ぶ人が、実証科学としての心理学を深く理解することを目的に、心理学の歴史、知覚とはなにか、学習と記憶のメカニズム、思考と推理の心理学的過程、人の行動と動機づけ・情動との関連、個人の多様性ないし個人差などの代表的な研究を紹介し、心理学の基礎的な考え方を講義していく。|※「認定心理士」資格では、「基礎科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

準備学習(予習)

授業終了時に指示する課題に沿って行なうこととする。

準備学習(復習)

授業開始時に前回の授業内容の確認を行うので準備しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------------------|
| (1) 授業参加度 | 40% | 授業内で出される質問への応答や課題に対する評価 |
| (2) 学期末試験 | 60% | |

受講者に対する要望

各回の学びを確実にしてください

学びのキーワード

教科書

参考書

担当教員：金谷 京子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D100708

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを選め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

こどもについて様々な知識を得ることに留まるのではなく、「こどもとはなにか」「こどもが健全に育っていくためにいかにするべきか」について考えていけるようにする。こどもの内面（心理）に着目しながらこどもにアプローチする視点をもつ。現代のこどもの問題について意見を述べられるようにする

(2) 内容

本講義では、こどもに関する歴史から現代のこどもの問題について言及し、こどもが社会のなかで心身ともに健やかに育ち、学び、遊び、参加していくにはどのようにしていったらよいか、こどもの視点を大切にしながら考えていく。こどもサイドからの問題とこどもをとりまく環境の問題を具体的に考えていく。

受講者に対する要望

日ごろからこどもと接する機会を多くもっておいてください。

学びのキーワード

- ・ こどもの心理
- ・ こどもと遊び
- ・ 現代社会とこども
- ・ 児童家庭福祉

授業計画

01. こどもの起源とこどもを取り巻く社会の変化
02. 現代のこどもの問題と背景
03. 現代のこどもの問題と背景
04. 現代のこどもの問題への対応
05. こどもの権利
06. こどもと遊び
07. こどもと遊び
08. こどもと福祉
09. こどもと福祉
10. こどもと福祉
11. こどもの保育
12. こどもの教育
13. こどもの心理
14. こどもの心理
15. まとめと評価について

準備学習(予習)

課題を事前に調べてまとめノートを作成する。

準備学習(復習)

各授業でテーマとなった課題について、調べておく。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-------------|
| (1) 発表 | 10% | グループワークでの発表 |
| (2) レポート | 90% | |

教科書

参考書

特に教科書は使わず、単元に応じてプリントを配布する。|【参考書】子ども資料年鑑、日本子ども家庭総合研究所、KTC中央出版

担当教員：金谷 京子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D100809

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

児童期の発達段階においてどのような課題が存在するか、また、その課題の達成のために、児童がどのような能力や資源を有しているか学ぶ。

(2) 内容

こどもは、家庭・学校・職場などの集団の中で生きていく存在である。多様な社会文化的環境において、こども、特に児童は経験を積み重ね、独自の生き方を模索する。心身の成熟とともに個人差をもたらす、認知的・情動的・社会的な要因について学ぶ。|※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。

受講者に対する要望

各回の学びを確実にしてください

学びのキーワード

- ・発達理論
- ・発達課題
- ・認知
- ・社会性
- ・コミュニケーション

授業計画

01. こどもの特性について
02. こどもの知覚
03. こどもの知覚
04. こどもの知覚|
05. こどもの知覚
06. こどもの知覚|
07. こどもの感情|
08. こどもの対人関係||
09. こどものコミュニケーション
10. こどものコミュニケーション
11. こどもの運動機能|
12. こどもの認知
13. 乳幼児の支援
14. 学校における児童の支援
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回出される予習課題を行って、講義の臨むこと

準備学習(復習)

各回の授業の初めに、前回の確認を行うので、準備をしておくこと

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) 試験 | 80% |

教科書

参考書

担当教員：金谷 京子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D100910

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：基礎科目 | 【D】認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

生涯発達の観点から、人間の誕生から死に至るまで変化の諸相を理解し、発達支援の実践にむすびつけるにはいかにしたらよいか考察していけるようにする。発達のメカニズムを考えながら、発達の課題について理解していく。

(2) 内容

人間の行動や心的な諸機能の発達は、どのような過程をたどるものか、また、どのようなメカニズムによってもたらされるのか、生涯発達の視点から人間の発達について学習する。また、発達の諸相と原理を理解した上で、心理職としてできる発達支援についても考えていく。

受講者に対する要望

自分の過去を振り返り、年齢によってどのような変化が生じたか思い起こしておいてください。

学びのキーワード

- ・生涯発達
- ・発達支援

授業計画

01. 発達理論から学ぶ発達心理学の視点
02. 発達の諸相を学ぶ—生命の誕生
03. 発達の諸相を学ぶ—胎児期の発達
04. 発達の諸相を学ぶ—乳児期の発達
05. 発達の諸相を学ぶ—乳児期の発達
06. 発達の諸相を学ぶ—幼児期の発達
07. 発達の諸相を学ぶ—幼児期の発達
08. 発達の諸相を学ぶ—幼児期の発達
09. 発達の諸相を学ぶ—児童期の発達
10. 発達の諸相を学ぶ—青年期・成人期・老年期の発達
11. 発達のメカニズムを学ぶ—運動・操作の発達
12. 発達のメカニズムを学ぶ—認知・言語の発達
13. 発達のメカニズムを学ぶ—情動・社会性の発達
14. 発達支援の原理と方法
15. 発達心理学と保育・教育・福祉

準備学習(予習)

単元ごとに教科書、参考書を読んでもらうこと。子どもの観察を心がけ、子どもの成長・発達に関心をもつこと。
 【参考書】「図解雑学 発達心理学」(山下富美代編著/ナツメ社)、「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」(岡本依子ほか/新曜社)

準備学習(復習)

講義ノートを整理し、復習しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) 試験 | 80% |

教科書

本郷一夫『保育の心理学I・II 第2版』(建帛社)【978-4767950358】

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D101315

学部教育の関連目

【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を向き、こどもの人格と人権を尊重するゆきなきない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ【D】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

被災地支援のボランティアに限らず、自分たちの日常レベルでのさまざまなボランティアの実情と意義に触れていきます。あなた自身、将来ボランティアに関わるか、もしかしたらボランティアの支援を必要とする立場になるかもしれません。聞いておく価値はあります。|

(2) 内容

本学は2014年1月に岩手県釜石市と復興支援に関する協定を結びました。これまでも釜石市を含めて、埼玉県内外で活動を続けてきましたが、今年はより飛躍が望まれる年となりました。そこで、ボランティア実践論では、「釜石を知る」と題して、釜石市の地域理解、震災から復興まで、これから、と場面を分けて、ワークショップの形で理解を深め、自分たちでできることを考えます。そのプロセスで、どのような場面ではどのような活動が必要かを理解することになるでしょう。まだ、実践経験のない人も、ここで活動の内容に触れることで一歩を踏み出すきっかけがつかめるかもしれません、すでに実践経験のある人は自分の活動を見直すきっかけにしたいと思います。

受講者に対する要望

基礎的なボランティアの知識を身につけるものなので、ボランティアの経験の有無はといたしません。グループワーク中心なので、グループ内での役割を理解し、積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ ボランティア
- ・ 市民活動
- ・ 地域

授業計画

01. オリエンテーション・ボランティアの定義と活動分野
02. 本学のボランティア活動支援センターとボランティアコーディネーション
03. ワークショップ1「釜石を知る（過去編）」
04. ワークショップ2「釜石を知る（過去編）」
05. ワークショップ3「釜石を知る（過去編）」
06. 「釜石を知る（過去編）」発表
07. ワークショップ4「釜石を知る（現在編）」
08. ワークショップ5「釜石を知る（現在編）」
09. ワークショップ6「釜石を知る（現在編）」
10. 「釜石を知る（現在編）」発表
11. ワークショップ7「釜石を知る（未来編）」
12. ワークショップ8「釜石を知る（未来編）」
13. ワークショップ9「釜石を知る（未来編）」
14. 「釜石を知る（未来編）」発表
15. ボランティア実践論のまとめ

準備学習(予習)

授業内容に即して、各人の体験や考えをまとめさせるので、指示に従って事前に用意しておくこと。また、基礎的な用語については事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた内容に関して、類似の事例を確認しておくこと。ボランティアは、個々の事例に対応してゆく柔軟さが求められるので、その多様な在り方を学んでゆくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 最終レポート | 60% |
| (2) 授業内小レポート | 40% |

教科書

授業内で指示する

参考書

担当教員：村上 純子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D101416

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「家族」は人間理解をする上で無視することのできない要素である。家族心理学の学びを通して、より深い人間理解を養い、現実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。

(2) 内容

家族心理学、家族療法の基礎を学び、人間関係や家族関係の問題の理解に役立てる。個人の心理、家族システムとしての機能、さらには家族を取り巻く社会システムなど、多角的に見ていく。また実際のケースを提示し、グループディスカッションを行うことで、家族療法をより深く理解できるようにする。

受講者に対する要望

授業から何を学び取っていくかは自分次第です。その意識を持って授業に臨んでください。特にグループディスカッションには積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 家族療法
- ・ 家族心理学
- ・ ライフサイクル
- ・ ジェノグラム

授業計画

01. 家族とは何か
02. 家族療法の理論と基礎 (1)
03. 家族療法の理論と基礎 (2)
04. 家族療法の理論と基礎 (3)
05. 家族のライフサイクルと危機 (1) 結婚、夫婦
06. 家族のライフサイクルと危機 (2) 幼児期、児童期の家族
07. 家族のライフサイクルと危機 (3) 思春期、青年期の家族
08. 家族のライフサイクルと危機 (4) 成人期、老年期の家族
09. 家族療法の実際
10. 家族の諸問題と家族療法
11. ジェノグラムの基礎
12. ジェノグラムの作成と活用 (1)
13. ジェノグラムの作成と活用 (2)
14. ジェノグラムの活用
15. まとめ

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・授業態度 | 20% |
| (2) 課題 | 40% |
| (3) 学期末試験 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：村上 純子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D101510

学部教育の関連目

【1】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

プレイセラピーの実際として、子どもとの関わり方の基本的な態度、具体的な方法論などを知り、子どもをより深く理解し、関わることをできるようになることを目標とする。

(2) 内容

プレイセラピーとは、子どもにとっての遊びの意味、心理療法としての理論など、基礎的なことを学ぶ。|またグループプロジェクトを通して、子どもたちを心理的に援助する手段を自分たちで考え、形にすることを学ぶ。

受講者に対する要望

子どものかかわりについて、今までの経験や行動観察などをまとめて発表する場などを設けるので、積極的に発言し、授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・プレイセラピー
- ・遊び
- ・アセスメント
- ・心理療法

授業計画

01. 子どもと心理臨床
02. プレイセラピーの歴史と発展
03. 子どもの発達と遊び (1)
04. 子どもの発達と遊び (2)
05. プレイセラピーの理論
06. プレイセラピーの基本 (1)
07. プレイセラピーの基本 (2)
08. プレイセラピーの実際 (1)
09. プレイセラピーの実際 (2)
10. プレイセラピーの実際 (3)
11. プレイセラピーの実際 (4)
12. グループプロジェクト (1)
13. グループプロジェクト (2)
14. グループプロジェクト (3)
15. まとめ

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 出席・授業態度 | 30% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 学期末試験 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：小館 貴幸

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D101611

学部教育の関連目

【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を向き、こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ【D】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「人はひとりで死ぬだろう」とフランスの哲学者パスカルは述べていますが、ひとりきりで死ぬのは人間的とはいえません。人間とは「人の間」を意味します。「間」は一人では成立せず、必ず「人と人」という他者との関わりのうちでこそ成立するのです。したがって、人間とは一人で存在するのではなく、他者との関わりのうちに存在するのです。人が死を迎えるとき、必ず後に遺される者がいます。遺された者は、大切な人を失った大きな悲しみを抱えながらも、生きていかなくてはならないのです。失った人が大切な人であればあるほど、日常生活を営むことが困難となり、その喪失感や悲しみは大きなものとなります。ここにケアの必要性が求められるのです。グリーンケアを学ぶ意義は、まさにここにあります。| したがって本講義での大きな目標は、誰もが体験しうるグリーンケアについての基本的諸事項を理解すること、実際の現場でグリーンケアを行うことができるということ、さらにはこれから体験するであろう自身のグリーンケアへの事前準備をするということ、の三点になります。

(2) 内容

グリーンケアを学ぶ上で欠かすことができないことがいくつかあります。グリーンケアは大切な人の死を契機として生じます。死を迎える前には当然ながら死までの歩みがあります。したがって、グリーンケアはターミナルケアと一続きのものであるため、ターミナルケアについても知らなくてはなりません。さらには、生と死について、ケアについても知らなくてはなりません。講義ではこれらの内容も扱っていきます。| そして最も重要なことは、グリーンケアは単なる知識の領域にのみ属しているのではなく、人の心や思いの領域に属しているということです。したがって、基本的な諸事項を扱うことはもちろんのことですが、実際の事例を多く用いることによって、その人の心や思いそのものに迫っていきたいと思っています。| 全体的には講義形式で進めていきますが、皆さんが参加する機会も設けることによって、自分のこととして感じることができ、考えられることができるようにしたいと思います。| また、皆さんの関心や要望に合わせて、授業計画を臨機応変に一部変更することもあります。

受講者に対する要望

大切な人を失った悲しみは誰もが体験しうるものです。講義を受けるにあたって、他人事としてではなく、自分のこととして感じ、考え、自らが追体験するような気持ちで参加して下さい。講義内でのリアクションペーパーや課題についても、自分で考えて取り組んで下さい。

学びのキーワード

- ・ グリーンケア
- ・ ターミナルケア
- ・ 生と死
- ・ 一人称の死と二人称の死
- ・ 遺族

授業計画

01. イントロダクション：グリーンケアを学ぶにあたって
02. 「いのち」とは何か
03. 死とは何か（1）：死の基本的考察
04. 死とは何か（2）：一人称の死
05. 死とは何か（3）：二人称の死
06. ケアとは何か（1）：キャロル・ギリガンにおけるケア
07. ケアとは何か（2）：ミルトン・メイヤロフにおけるケア
08. ターミナルケアについて
09. グリーンケア（1）：グリーンケアとは何か
10. グリーンケア（2）：伝統的グリーンケア論
11. グリーンケア（3）：新しいグリーンケア論
12. グリーンケア（4）：遺族の思いの変遷
13. グリーンケアの実践（1）
14. グリーンケアの実践（2）
15. 振り返りとまとめ

準備学習(予習)

講義内容に関して、事前に自分で調べて関心事や疑問点をまとめておくようにして下さい。新聞やニュースに目を通すように心がけ、生と死に関する事柄に敏感になって下さい。

準備学習(復習)

配布されたプリントを見直したり、講義内容を振り返って、知識の定着を図って下さい。講義内で紹介された参考書を読んだり、興味ある内容を自分で調べるようにし、さらに深める努力をして下さい。また、出された課題にしっかり取り組んで下さい。

評価方法

- | | |
|----------------|---------------------------|
| (1) 授業への出席・貢献度 | 15% |
| (2) 課題 | 25% 授業内でのリアクション・ペーパー、宿題など |
| (3) 期末のテスト | 60% 持込不可。適語選択問題。 |

上記の総合評価で行います。ただし、テストで30%未満の場合は不可とします。

教科書

特定のものはありません。講義内でプリントを配布します。

参考書

講義の中で随時紹介します。

担当教員：柴田 実

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D101720

学部教育の関連目

【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を向き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ【D】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本授業では、近年医療・福祉の領域において注目されているスピリチュアルケアの内容を理解できるようにするため、スピリチュアルケアの基本的な考え方や思想、人間理解について学ぶ。

(2) 内容

スピリチュアルケアを理解する上で必要な価値観や基本的な視点を形成するために、キリスト教的価値観、哲学的人間観、喪失における悲嘆の問題や死生観などについて解説する。本授業ではできるだけ現代的な問題を通して理解できるように心がけ、DVDの視聴を数回行う。

受講者に対する要望

必ず出席すること。

学びのキーワード

- ・スピリチュアリティ
- ・ホスピスケア
- ・態度価値
- ・病院チャプレン
- ・喪失

授業計画

01. キリスト教のスピリチュアリティ・愛の問題
02. キリスト教のスピリチュアリティ・罪の問題
03. キリスト教のスピリチュアリティ・救いの問題
04. ホスピスケアについて
05. 態度価値について－実存哲学との関係
06. 在宅ホスピスにおけるスピリチュアルケア
07. 愛する者を失うこと－喪失の痛み
08. 患者とは何か－病む人についての理解
09. 病気による人生の喪失
10. 病院チャプレンの動機
11. 病院チャプレンの理念
12. 生命倫理の問題－自殺、出生全診断
13. スピリチュアルケアの事例
14. スピリチュアルケアの方法
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する。

準備学習(復習)

各回の授業後、配布資料をもとに復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート提出 | 80% |
| (2) 授業参加度 | 20% |

教科書

授業毎に配布資料を配ります。

参考書

授業毎に配布資料を配ります。

担当教員：柴田 実

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D101819

学部教育の関連目

【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を向き、こどもの人格と人権を尊重するゆきなきない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ【D】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本授業では、近年医療・福祉の領域において注目されているスピリチュアルケアの臨床を理解できるようにするため、スピリチュアルケアの基本的な技術や実践方法について学ぶ。

(2) 内容

スピリチュアルケアにおいて必要な技術的能力を形成するために、スピリチュアルペイン、スピリチュアルニーズの解説、スピリチュアルケアに不可欠な傾聴技法の習得、危機介入の方法などについて授業をおこなう。

受講者に対する要望

スピリチュアルケア論A、スピリチュアルケア入門の履修が望ましい。

学びのキーワード

- ・スピリチュアルペイン
- ・傾聴
- ・喪失体験
- ・アセスメント
- ・危機介入

授業計画

01. スピリチュアルペインについて
02. 喪失体験の問題
03. 救出体験とスピリチュアルニーズ
04. 対人援助とはなにか
05. 傾聴技法・明確化、要約
06. 傾聴技法・感情に寄り添う、会話の焦点のあて方
07. 傾聴技法・会話における対決
08. スピリチュアルケアの方法・アセスメントについて
09. スピリチュアルケアの方法・ロールプレイ
10. スピリチュアルケアと危機介入
11. 死生観の洞察
12. 高齢者へのスピリチュアルケア
13. 末期患者へのスピリチュアルケア
14. 家族へのスピリチュアルケア
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する。

準備学習(復習)

各回の授業後、配布資料をもとに復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート提出 | 80% |
| (2) 授業参加度 | 20% |

教科書

授業毎に配布資料を配ります。

参考書

授業毎に配布資料を配ります。

担当教員：中村 月子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D101901

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ヘルスプロモーションの基本的な概念や理論について説明できる。また、わが国の健康課題を理解し、地域や学校におけるヘルスプロモーションの具体的な活動について知り、実践につなげることができる。

(2) 内容

ヘルスプロモーションは現代社会において、自他ともに健康を保持増進していく上で重要な役割を担う。健康の保持増進を図る上での政策、組織的取り組みや地域での活動、個々の適切な生活行動を選択できるための健康教育など、ヘルスプロモーションの基本的な理念と方法を学ぶ。

受講者に対する要望

自分自身の健康とも結びつけて積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。

学びのキーワード

- ・ヘルスプロモーション
- ・健康課題
- ・健康の概念
- ・健康増進活動
- ・ヘルスプロモーションスクール

授業計画

01. オリエンテーション
02. 現代社会と健康（健康の概念）
03. 健康社会と健康（健康課題）
04. ヘルスプロモーションの概念
05. ヘルスプロモーションの方法
06. 日本におけるヘルスプロモーション
07. 地域におけるヘルスプロモーション
08. 地域におけるヘルスプロモーション（住んでいる地域の健康増進活動を調べよう）
09. 地域におけるヘルスプロモーション（住んでいる地域の健康増進活動を紹介しよう）
10. 学校教育におけるヘルスプロモーション
11. ヘルスプロモーションスクール
12. 世界におけるヘルスプロモーション
13. 子どもの健康を考える（グループ活動）
14. 子どもの健康を考える（発表）
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | ディスカッションの参加状況、自分の考えの表現能力度 |
| (2) 課題レポート | 50% | |

教科書

和田雅史、齊藤理砂子『健康科学 ヘルスプロモーション』（聖学院大学出版会）【978-4907113179】

参考書

担当教員：大橋 良枝、金谷 京子、吉澤 剛士、齋藤 一雄、中村 月子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D102020

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 子どもの生活における今日的課題について多面的に考察できる。| 2. 子どもの可能性を発見し、適切な教育や援助につながる問題解決思考が身につく。| 3. 子どもをめぐる様々な問題を表層的に捉えるのではなく、多面的に深く捉えることの重要性に気づくことができる。|

(2) 内容

子どもの生活に関する事例を用い、子どもの心身の健康とその促進のための問題解決に向けたディスカッション等を行う。心理・保健・特別支援教育などいろいろな視点から、現代を生きる子どもたちの課題とその解決方法について学ぶ。

受講者に対する要望

グループディスカッションに積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・子どもの健康課題
- ・子どもの発達課題
- ・子どもの生活課題
- ・子どもの心理社会的課題
- ・特別支援教育

授業計画

01. オリエンテーション、子どもの心理社会的課題（齋藤理砂子）
02. 子どもの心理社会課題：小1プロブレム（齋藤理砂子）
03. 命と心の健康：生命の尊厳を考える（金谷）
04. 命と心の健康：生きること（金谷）
05. 命と心の健康：命の授業（金谷）
06. 子どもの健康課題：身体的（吉澤）
07. 子どもの健康課題：精神的（吉澤）
08. 子どもの健康課題：社会的（吉澤）
09. 子どもへの臨床心理学的援助：幼児期、児童期（大橋）
10. 子どもへの臨床心理学的援助：学童期（大橋）
11. 子どもへの臨床心理学的援助：思春期、青年期（大橋）
12. 自閉症スペクトラムの子ども（齋藤一雄）
13. 知的障害のある子ども（齋藤一雄）
14. 障害のある子どもの就学（齋藤一雄）
15. 子どもの心理社会的課題：中1ギャップ（齋藤理砂子）

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--------------------------|
| (1) 授業への貢献度 | 70% | ディスカッション参加状況、自分の考えの表現能力度 |
| (2) 課題レポート | 30% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：村上 純子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D102121

学部教育の関連目

[0] 心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「きょうだい」そして家族の存在は、障害や病気のある児童を支援する上で重要である。きょうだい支援の学びを通して、より深い人間理解を養い、実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。

(2) 内容

障害や病気のある児童への特別な配慮は、親や教師が気遣って行なっているが、当事者のきょうだいにも支援が必要なことが多々ある。本講義では、きょうだいを持ちうる悩みと人間的成長の可能性（得がたい経験）について理解し、きょうだい支援の在り方や方法について、「きょうだい支援の会」の活動などを参考に考えていく。

受講者に対する要望

授業の中で、自ら学びとろうとする意識が重要です。特にグループディスカッションには積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ きょうだい
- ・ 障害児
- ・ 支援
- ・ 家族

授業計画

01. きょうだいとは
02. 病気の子どもを取り囲む環境
03. 家族のライフサイクルと病気
04. きょうだいの心理
05. 病気、障害の告知
06. 親支援の方法と実践
07. きょうだい支援の方法と実践 (1)
08. きょうだい支援の方法と実践 (2)
09. きょうだい支援の方法と実践 (3)
10. きょうだい支援の方法と実践 (4)
11. きょうだい支援の方法と実践 (5)
12. きょうだい支援の社会的資源 (1)
13. きょうだい支援の社会的資源 (2)
14. きょうだい支援の社会的資源 (3)
15. まとめ

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・授業態度 | 20% |
| (2) 課題レポート | 40% |
| (3) 学期末課題 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：屋沢 萌、佐久間 隆介

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1D102210

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：基礎科目

(1) 学びの意義と目標

心理学研究の技法を学ぶことに加えて、教育や保育の現場で実際に子どもとかわり合い、行動を観察し、その意味を考え理解するのに役立つ視点を養うことができる。

(2) 内容

子どものころや行動に関する心理学的な研究の方法について学ぶことを目標とする。本実習では、特に行動観察法、発話分析法、知能検査法、発達検査法を扱う。各回の始めにそれぞれの基本的な方法について講義を通して学び、その後実習を通してそれらの技法を習得する。|※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験・実習）に区分される科目である。

受講者に対する要望

子どものことばや行動の背後にある意味（意思）を理解しようとする姿勢を持って臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 行動観察
- ・ 発話分析
- ・ 知能検査
- ・ 発達検査

授業計画

01. ガイダンス
02. 心理学とその研究法①時間見本法
03. 心理学とその研究法①行動観察法
04. 心理学とその研究法②解釈とまとめ
05. 心理学とその研究法②解釈とまとめ
06. 会話分析法①講義と実習
07. 会話分析法①講義と実習
08. 会話分析法②解釈とまとめ
09. 会話分析法②解釈とまとめ
10. 実習レポートの書き方
11. 実習レポートの書き方
12. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）①講義と実習
13. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）①講義と実習
14. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）②解釈とレポートの書き方
15. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）②解釈とレポートの書き方
16. 発達検査法（PVT-R絵画語い発達検査）①講義と実習
17. 発達検査法（PVT-R絵画語い発達検査）①講義と実習
18. 発達検査法（PVT-R絵画語い発達検査）②解釈とレポートの書き方
19. 発達検査法（PVT-R絵画語い発達検査）②解釈とレポートの書き方
20. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）①講義と実習
21. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）①講義と実習
22. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）②解釈とレポートの書き方
23. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）②解釈とレポートの書き方
24. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）①講義と実習
25. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）①講義と実習
26. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）②解釈とレポートの書き方
27. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）②解釈とレポートの書き方
28. 認知機能に関する検査法①講義と実習
29. 認知機能に関する検査法②解釈とレポートの書き方
30. 総括

準備学習(予習)

各実習の事前に内容や用語等について調べておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各実習の事後にレポートをまとめて提出すること。

評価方法

- | | | |
|----------------------|-----|-----------|
| (1) 授業への参加の程度 | 60% | 出席、実習、発表等 |
| (2) 実習レポートと毎回の授業コメント | 40% | |

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

担当教員：金谷 京子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D102324

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

応用行動分析の原理を理解し、日常生活のなかで起きている現象を分析してみる。日常生活で変容させたい行動を構造化して新たな行動が獲得できるように工夫してみる。

(2) 内容

応用行動分析は、人間を中心とした生物全般の諸活動を環境と個体の相互作用の側面から探求し、行動に関する因果関係を解明しようとする行動分析学を応用して、広く人間の行動をその人の利益や社会の利益になるように変容させること目的としている。|まず行動分析の理論を理解した上で、応用行動分析の手法を学んでいき、望ましい行動の獲得や問題行動の軽減など、日常生活のなかでの行動変容の応用を考えていく。|

受講者に対する要望

行動分析関係の用語を事前に事典等で調べておく。

学びのキーワード

- ・ ABA
- ・ 強化
- ・ 動因と誘因

授業計画

01. 行動分析学とは
02. 応用行動分析の基本的考え方
03. 自己行動改善計画について
04. 行動目標の立て方
05. 強化について
06. データの収集とグラフ化
07. 単一事例の実験デザイン
08. 行動変容法
09. 般化について
10. 治療への応用 1 |
11. 治療への応用 2
12. 治療への応用 3
13. 治療への応用 4
14. 治療への応用 5
15. 自己行動改善結果のまとめ

準備学習(予習)

応用行動分析に関する文献を購読しておくこと。専門用語を調べておくこと。

準備学習(復習)

ノートを整理し、不明な点を調べておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 20% |
| (2) レポート提出 | 80% |

教科書

参考書

P. A. アルパート・A. C. トルーマン著 『はじめての応用行動分析』 (二瓶社)

担当教員：柴田 実

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D102405

学部教育の関連目

【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を向き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ【D】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする【D】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本授業では、近年医療・福祉の領域において注目されているスピリチュアルケアを理解できるようにするため、スピリチュアルケアの基本的な考え方を学ぶ。

(2) 内容

スピリチュアルケアを理解する上で必要なスピリチュアリティ、宗教とスピリチュアルケアとの関係、スピリチュアルケアと関連する思想について解説する。

受講者に対する要望

必ず出席すること。

学びのキーワード

- ・スピリチュアリティ
- ・パストラルケア
- ・危機対処
- ・実存思想
- ・死生観

授業計画

01. スピリチュアリティの定義
02. スピリチュアルケアの定義
03. スピリチュアルケアと宗教
04. パストラルケアについて
05. 病院チャプレンとは何かー業務と役割
06. 危機対処（コーピング）について
07. 死後の問題について
08. スピリチュアリティと哲学
09. スピリチュアリティと新約思想
10. スピリチュアリティと実存思想
11. スピリチュアリティと死生観
12. 死生観を深める
13. 現代社会におけるスピリチュアルケアの問題
14. 死の看取りの問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する。

準備学習(復習)

各回の授業後、配布資料をもとに復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート提出 | 80% |
| (2) 授業参加度 | 20% |

教科書

授業毎に配布資料を配ります。

参考書

授業毎に配布資料を配ります。

担当教員：大橋 良枝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D200100

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：基礎科目

(1) 学びの意義と目標

自然科学と違って、心という科学的に非常に扱いにくい対象が、どうすれば科学になりうるのかを知ることが、受講生自らが、心についての妥当な認識を深めることにもつながるようになるために、心理学の多彩な研究法の背後にある研究の方法論（論理）を理解する。

(2) 内容

①人の心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、②1世紀余にわたる心理学の研究の歴史のなかでその論理はどのような変遷をへて現在のようになってきたのか、そして、③今、心理学は、研究方法論の百花繚乱期をむかえているが、実験法から質的研究法まで、どのような方法論と技法が何を明らかにするためにどのように使われているかを紹介する。

受講者に対する要望

事前に、心理学概論と心理学実験演習、測定と評価を受講していることが望ましい。心理学研究法を使うつもりが無くても、物事の考え方の訓練としてこの授業の内容を身につけて欲しい。

学びのキーワード

- ・ 研究デザイン
- ・ 実験法
- ・ 質問紙法
- ・ 観察法
- ・ 妥当性・信頼性

授業計画

01. ガイダンス
02. 因果関係の検討：実験室実験法
03. モデル検討：モデル論的アプローチ
04. 質問紙調査法
05. 心理尺度構成法
06. 観察法一般
07. フィールドワーク：ethnomethodologyとgrounded theory
08. 教育的介入法
09. アクションリサーチ
10. 事例介入研究
11. 心理検査法
12. 生理心理学的研究法
13. 比較心理学的方法
14. 心理学研究法のまとめ
15. 心理学研究法と心理学研究の今後の展開

準備学習(予習)

テキストの指定された部分をまとめ、授業時に提出。

準備学習(復習)

授業を内容を踏まえ理解を確かにする。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 提出物 | 60% |
| (2) 期末レポート | 40% |

教科書

参考書

Robert L. Solso, Homer H. Johnson, 浅井 邦二, 河合 美子, 安藤 孝敏, 落合 勲 『心理学実験計画入門』 (学芸社)

担当教員：大橋 良枝、小橋 眞理子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1D200201

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：基礎科目

(1) 学びの意義と目標

心理学における実験的研究の基礎を習得する。そのため、心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

(2) 内容

心理学の基礎的な実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・認知・社会などの領域を中心に、実験・調査方法について、実験者（調査者）及び被験者（回答者）として参加体験する。実験器具の関係で、20名程度のグループに分かれて実習する。|※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

受講者に対する要望

真摯な実験態度を望みます

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス①
02. ガイダンス②
03. レポートのまとめ方①
04. レポートのまとめ方②
05. ミューラーリヤー①
06. ミューラーリヤー②
07. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導①
08. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導②
09. 触二点域①
10. 触二点域②
11. 重量弁別①
12. 重量弁別②
13. 両側性転移①
14. 両側性転移②
15. 系列位置効果①
16. 系列位置効果②
17. ストループ効果①
18. ストループ効果②
19. 古典的条件付け①
20. 古典的条件付け②
21. ワーキングメモリ①
22. ワーキングメモリ②
23. 要求水準①
24. 要求水準②
25. 好悪の条件付け①
26. 好悪の条件付け②
27. 集団式知能検査（京大NX）①
28. 集団式知能検査（京大NX）②
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

毎回配布する次週の実験資料をもとに準備学習を行ってください

準備学習(復習)

実験後の課題を行ってください

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 実験への参加度 | 20% |
| (2) レポート | 80% |

教科書

参考書

【参考書】授業の中で指示する。

担当教員：藤掛 明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D200410

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

時代とともに変化し、多様化してきている青年期の心理的課題について概要を知ることができる。また、青年期にある自分自身について深く知ることができる。

(2) 内容

(1) 青年期に起こりがちな心理的問題や、関連した社会病理現象をとりあげ、その理解や援助・解決の道筋を考える。|(2) 同時に青年期にある自分自身を洞察し、実際のアセスメント技法を体験しながら、体感的に学ぶことを心がける。|※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。

受講者に対する要望

一般的な知識で満足することなく、たえず自分自身に重ね、自己分析していく姿勢が必要となる。

学びのキーワード

- ・ 自我同一性
- ・ 自己実現
- ・ 発達課題
- ・ 心理テスト

授業計画

01. 青年期と青年心理学
02. 自分自身を考える（行動スタイル）
03. 自分自身を考える（いろいろな自分；SCT）
04. 自分自身を考える（深層の自分；描画テスト）
05. 自分自身を考える（自我同一性）
06. 自分自身を考える（自己実現）
07. 前半のまとめ
08. 家族を考える（きょうだい関係）
09. 家族を考える（家族の機能）
10. 友だち関係を考える
11. 学校を考える
12. 仕事を考える
13. 恋愛を考える
14. 昔の自分を考える（早期回想）
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業計画や、授業内で行う次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

配付資料を再読するとともに、授業で配布する復習用資料（授業新聞）を使って、授業の中心点を考え、他の学生の意見を読むなどすること。|なお、リアクションペーパーに対するフィードバックを、授業新聞記事および翌授業冒頭に行う。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------|
| (1) ミニテスト | 25% | 適宜授業内で行なう |
| (2) 授業態度 | 25% | |
| (3) 授業内テスト | 50% | 最終授業内で行なう |

教科書

参考書

毎回関連資料等を配布する。|【参考書】授業の中で指示する。|

担当教員：金谷 京子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1D200511

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

1) 子どもの発達と学習の過程に関する心理学的な基礎知識を習得する。| 2) それらの知識を実際の子どもの理解を深めるために利用することができる。| 3) 子どもの発達と学習の状態に応じた、適切な指導・支援の方法について自らで考え、現代の教育現場における課題の解決を考える。|

(2) 内容

教育心理学は、教育過程における諸現象を心理学的観点から解明し、教育を効果的に行うための方法を見出すことを目的とした学問である。| 本講義では、教育心理学の研究の流れを学んだ上で、様々な研究知見の解説を通して学習、授業過程、測定と評価、教師と児童の関係、人格、適応、発達の分野について学ぶ。| 学び方のコツに関するDVDを視聴しながら、「学習」の方法について理解を深める。

受講者に対する要望

専門用語についてこまめに調べるようにしてください

学びのキーワード

- ・ 学習
- ・ 教育と心理
- ・ 動機づけ
- ・ 教育評価

授業計画

01. 教育心理学の目指すもの・どのように教えるか
02. どのように学ぶか、学習とは
03. 知識獲得
04. 学習法
05. 記憶
06. 問題解決 |
07. 学習と動機づけ
08. 効力感と無気力感
09. 原因帰属
10. 学級集団と人間関係、教師と生徒
11. 教育測定と評価
12. 測定・評価の方法
13. 人格と適応
14. 成長と発達
15. まとめと評価

準備学習(予習)

事前に教科書を読み、単元の予習をしておく。関連する研究知見を調べてみる。

準備学習(復習)

ノートをまとめて復習し、理解を深める。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 小レポート等 | 20% |
| (2) 試験 | 80% |

教科書

北原倫彦ほか『コンパクト教育心理学』（北大路書房）【978-4762825224】 | 鎌原雅彦・竹網誠一郎『やさしい教育心理学』（有斐閣アルマ）【978-4641220591】

参考書

担当教員：竹瀨 香織

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D200607

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける【R】対人支援力：人格を尊重して人とかわるることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：基礎科目 | 【D】認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

臨床心理学的な人間理解の視点を学ぶ。発達理論や人格理論、心理査定や心理療法、心理職の実践領域などの基礎的な知識を得る。それらのことから、今後の専門科目の学びの土台を作る。

(2) 内容

臨床心理学の歴史、基礎理論、研究や支援のための方法論、実践領域などの基礎知識を学ぶ。|臨床心理学は実践の学問であることから、典型事例の概説と討議、グループディスカッション、ロールプレイングなどを用いて体験的に学ぶ。|※「認定心理士」資格では、「選択科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

受講者に対する要望

学びやワークから基礎知識を得るとともに、トピックスや事例を自分自身に重ね合わせ、体験的に学んでいく姿勢が望まれる。

学びのキーワード

- ・臨床心理学
- ・心理査定
- ・心理療法
- ・臨床心理学的支援

授業計画

01. ガイダンス
02. 臨床心理学とは①（臨床心理学のめざすもの）
03. 臨床心理学とは②（歴史と成り立ち）
04. 臨床心理学とは③（パーソナリティから）
05. 臨床心理学とは④（正常と異常の概念から）
06. 援助の対象①（神経症・うつ・パーソナリティ障害・統合失調症など）
07. 援助の対象②（発達障害・知的障害、不適応など）
08. 心理査定①（観察法、面接法、質問紙法）
09. 心理査定②（投影法）
10. 心理療法①（精神分析）
11. 心理療法②（行動療法）
12. 心理療法③（クライエント中心療法）
13. 心理療法④（家族療法・表現療法）
14. 臨床心理学的援助とは、臨床心理士による支援の実例
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参考に、関連資料を読んだり、インターネットなどで情報を集めたりしておく。

準備学習(復習)

基本的な専門用語や概念を覚えること。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 期末テスト | 50% |
| (2) 授業への参加度（ワーク、提出物） | 30% |
| (3) 平常点 | 20% |

教科書

なし。資料を配布する。

参考書

授業内で指示する。|

担当教員：村上 純子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D200908

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目 | 【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

人間にとっての健康とはいかなるものか、健康心理学が目指すもの（健康の回復・維持・増進・疾病の予防を考え、生活習慣や行動などの改善をはかり、生活を豊かにしていくこと）を理解し、実践する手がかりを学ぶ。

(2) 内容

健康には「肉体的、精神的、社会的、霊的」の4つの側面がある（WHOの定義による）。|本授業では、健康生活に関わる心理（主に精神的・社会的側面）の基本的理解を深め、さらに健康生活（健康維持行動）を構築、支援するための心理学的理論を学習する。|また、健康教育に関する教材を作成することにより、実践に関しての理解を深めていく。|

受講者に対する要望

授業の中で紹介する参考資料などを用いて、知識と理解を深めるよう努力して欲しい。また、グループで健康教育に関わる教材を作成するので、そこに積極的に参加することを望む。

学びのキーワード

- ・健康心理学
- ・ストレス
- ・健康行動
- ・生涯発達

授業計画

01. 健康と病気、その理解
02. 健康心理学の基礎理論
03. 健康行動とリスク
04. 生涯発達と健康
05. ストレスと健康
06. ストレスと対処方法
07. 健康とパーソナリティ
08. 生活習慣と健康①
09. 生活習慣と健康②
10. ネット社会と健康
11. 健康心理学的アセスメント
12. 健康教育① 教材作成計画
13. 健康教育② 教材作成
14. 健康教育③ 教材完成
15. 期末まとめと課題

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読み、キーワードについて調べてくる

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・授業態度 | 20% |
| (2) 健康教材作成 | 40% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：石岡 良子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201014

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目 | 【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

私たちが、周りの世界をどのように認識しているのか、またそれがどのようなメカニズムによるものなのかについて、認知心理学の知見を知ることができる。またこの授業を通じて、人間の行動をより客観的に捉えることができる。

(2) 内容

皆さんは、これまでの経験の中で、「これは絶対に間違っていない」と思っていたことが、「間違っていた」という経験はありませんか？このような「思い込み」は、時に大きな問題を引き起こします。どうして私たちはこのような間違いを起こすのでしょうか？ | この授業では、わたしたちが周囲の状況をどのように認識したり、どのように物事を覚えたり判断したりしているのかについて、一緒に考えます。

受講者に対する要望

認知心理学の観点から、日常の行動や現象を普段から捉えることが必要です。 | また授業中は、他の受講生のより良い学びの場となるようご協力をお願いします。

学びのキーワード

- ・ 認知
- ・ 知覚
- ・ 感覚

授業計画

01. ガイダンス（認知心理学とは）
02. 感覚
03. 知覚
04. 注意
05. 記憶（1）
06. 記憶（2）
07. 言語
08. 知識
09. 問題解決・推論
10. 判断・意志決定
11. 潜在認知
12. 身体と言語
13. 動物の認知とヒトの認知
14. 認知心理学の歴史と今後
15. 「学び」の認知科学

準備学習(予習)

各回のテーマに関する現象で、大学やアルバイト等でみられる、具体的な出来事について考えること。

準備学習(復習)

各回のテーマで考えた認識の仕方が、妥当であるか、他の現象を題材にして考えること。 | また、授業中の解説とは異なる捉え方や、影響する要因がないか考えること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------------------------------|
| (1) 準備学習課題 | 70% | 各テーマに関する課題をオンライン上に掲載します（14回×5点）。 |
| (2) レポート | 20% | 学期末に課題を説明します（4回×5点）。 |
| (3) 平常点 | 10% | 授業中の態度を考慮します。 |

教科書

参考書

1) 服部雅史・小島治幸・北神慎司（2015）基礎から学ぶ認知心理学 人間の認識の不思議 有斐閣 | 2) 原田悦子（編）（2015）スタンダード認知心理学 松井 豊（監）ライブラリストANDARD心理学5 サイエンス社 | 3) 内村直之・植田一博・寺井むつみ・川合伸幸・嶋田聡太郎・植田浩一（2016）はじめての認知科学 日本認知科学会（監）「認知科学のススメ」シリーズ1 新曜社。

非行の心理

PSYC-D-300/PSYC-W-3

担当教員：藤掛 明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201115

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

非行の心理について、臨床心理学の観点から、理解する。心理アセスメントや心理カウンセリングの実際についても、一般の心理臨床との違いを明確にする。また、非行に限らず、行動化を伴う心理臨床（依存症など）についてもあわせて取り上げる。

(2) 内容

非行や犯罪の事例やそれを取り上げた文学作品などを適宜紹介し、受講者が主体的に参加し、考えることが出来るようにする。

受講者に対する要望

臨床心理学全般の基礎知識があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 非行カウンセリング
- ・ 心理アセスメント
- ・ 矯正施設（少年院、少年鑑別所）
- ・ 依存症

授業計画

01. 少年司法と非行（警察、家庭裁判所、少年鑑別所）
02. 少年司法と非行（少年院、保護観察所）
03. 非行の概要（非行種別、非行性、成人犯罪との違い）
04. 非行少年の個別的理解・心理査定を進め方
05. 非行少年の個別的理解・HTPテスト
06. 非行少年の個別的理解・質問紙の性格テスト
07. 非行少年の個別的理解・TAT
08. 非行少年の個別的理解・家族画テスト
09. 非行の心理カウンセリング
10. 非行のロールレタリング
11. 少年院での矯正教育
12. 代表的な非行理論
13. 非行と依存症、家族機能
14. 非行事例の検討
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿って該当する配付資料を読んでおくこと。また、関連事項をインターネットなどで調べておくこと。

準備学習(復習)

参考書や配付資料を再読するとともに、授業で指定するトピックスを次回までに説明できるようにしておくこと。なお、リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌授業の冒頭に行う。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 適宜授業内で行なうミニテスト | 25% |
| (2) 授業態度 | 25% |
| (3) 最終授業内で、授業内テスト | 50% |

教科書

毎回関連資料を配布する。|

参考書

「非行カウンセリング入門」藤掛明著、金剛出版

担当教員：佐久間 隆介

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201216

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

心理学の生物学的な基盤について、特に人間の心の働きの不調を理解する上で役立つ知識を身につけることができるとともに、個人の認知に関してその程度や症状を深く理解するきっかけがえられる。

(2) 内容

認知・行動・情動といった人間の心の働き、および脳の損傷によって生じるその障害についての基礎心理学的な知識や考え方を学ぶ。また、その障害に対して、リハビリテーション（機能回復）などの介入方法の考え方や具体的な方法についても合わせて学ぶこととする。

受講者に対する要望

基本的な概念や用語の予習・復習を行い、覚える努力をすることが必要となる。心とその機能を理解することに対して知的好奇心旺盛な姿勢を期待する。

学びのキーワード

- ・ 知覚・認知
- ・ 感情・意欲・動機づけ
- ・ 障害
- ・ リハビリテーション
- ・ 神経心理学的検査

授業計画

01. ガイダンス
02. 神経心理学とは—その目的と方法—
03. 神経心理学の歴史 - 脳の解剖学的基礎を中心に -
04. 知覚・認知① 視覚失認
05. 知覚・認知② 聴覚失認
06. 空間 半側空間無視
07. 行為 失行
08. 記憶① ワーキングメモリーとはなにか—短期記憶障害・ワーキングメモリ障害—
09. 記憶② エピソード記憶障害・意味記憶障害・手続き記憶障害
10. 言語① 失語
11. 言語② 失読・失書・計算障害
12. 注意障害・実行機能障害・学習の障害
13. 感情、意欲、動機づけの障害
14. 高次脳機能障害における神経心理学に基づくリハビリテーションについて
15. まとめ

準備学習(予習)

講義に先だち、各回のテーマと用語について事前に調べておくことがのぞましい。

準備学習(復習)

基本的な概念や用語の復習を行い、覚える努力をすること。脳機能と心の関係についての理解を深める。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表、小レポート | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

参考書

担当教員：西村 洋一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201317

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【D】心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

社会心理学の幅広い知識・技術を学ぶだけでなく、それらに基づいて、自ら研究を計画し、データを収集・解析し、論文を作成する実証研究を実際に推進できる力を身につける。日常の出来事を自ら積極的に捉え直し、実際の諸問題の問題解決に取り組む力を伸ばしていく。

(2) 内容

社会心理学分野は自己、他者、そして集団やコミュニティにおいて生起する諸問題について、実証科学的な視点から分析していくことを目指している。講義では、社会的状況における個人内過程からコミュニケーション、集団における社会的影響、メディアと社会の関係まで社会心理学的視点から解説していく。

受講者に対する要望

授業に関連する新聞記事に目を通して情報収集しておく。関連用語を事典で調べておく。

学びのキーワード

- ・自己
- ・対人認知
- ・対人魅力
- ・社会的影響
- ・インターネット利用

授業計画

01. 社会心理学とは？
02. 自己① 自分自身を把握する：自己意識
03. 自己② 自己を認識し、示す：自己概念、自己呈示、自己開示
04. 自己③ 自尊感情について理論と実体験から理解する
05. 対人認知とは？
06. ステレオタイプ：その維持と変容
07. 人を好きになったり嫌いになったりするメカニズム：対人魅力
08. 恋愛関係を社会心理学の観点から理解する
09. コミュニケーションとは？
10. 非言語的コミュニケーション
11. 説得的コミュニケーションと態度変容
12. 自分自身のコミュニケーションを振り返る
13. 集団と個人
14. 集団意思決定
15. まとめと振り返り

準備学習(予習)

参考書等を用いて講義内容に関連するテーマについてあらかじめ調べておくこと。

準備学習(復習)

講義内容をまとめた上で関心を持ったことや疑問点について調べ、自ら深めること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-------------------------|
| (1) レポート | 50% | 講義日ごとに実施 次回にフィードバックを行う。 |
| (2) 期末試験 | 40% | 試験終了後に模範解答を提示する。 |
| (3) 講義への参加度 | 10% | |

レポートは講義の内容の理解度や講義内の活動への参加度を測るものとして実施するため、講義および活動への積極的な参加を求める。

教科書

参考書

担当教員：竹瀨 香織

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201410

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける【H】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

人間は、他者とのコミュニケーションの中で生きている。良好な人間関係や信頼関係の形成に有効なコミュニケーションについて、多角的に学ぶ。またコミュニケーションの技能を修得し、実践する手がかりを学ぶ。

(2) 内容

コミュニケーションを人間形成、社会的影響、適応改善等の視点から学習し、併せてコミュニケーションスキルを習得するためのグループワークを体験する。|※「認定心理士」資格では、「選択科目h」（社会心理学・産業心理学）に区分される科目である。

受講者に対する要望

各テーマに沿ったワークやディスカッションを行うので積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・ コミュニケーション
- ・ 自己認識

授業計画

01. ガイダンス
02. コミュニケーションとは何か
03. コミュニケーションの構成要素
04. 非言語的コミュニケーション①
05. 非言語的コミュニケーション②
06. 自己認識・対人関係とコミュニケーション①
07. 自己認識・対人関係とコミュニケーション②
08. アサーティブなコミュニケーション
09. コミュニケーションによる人間形成
10. 説得的コミュニケーション
11. マスコミュニケーション①
12. マスコミュニケーション②
13. 文化とコミュニケーション①
14. 文化とコミュニケーション②
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて情報を収集しておく。

準備学習(復習)

各トピックスについてキーワード、概要をまとめる。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 出席、ディスカッションやワーク等への参加度 |
| (2) 学期末試験 | 60% | |

教科書

参考書

担当教員：藤掛 明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201620

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

心理療法の目的、対象、およびそれぞれの心理療法の効果と限界について理解することを目標とする。

(2) 内容

心理療法の前提となる「臨床の知」を理解し、そのうえで、各種心理療法の方法と効果・限界について学ぶ。またコラージュ療法については実演式に体験し、心理療法を進める上での実際的问题についても学ぶ。

受講者に対する要望

準備学習により、各回テーマを理解した上で、授業に臨んでください。授業中は、積極的に発言するとともに、他者の発言を傾聴する姿勢を持ってください。

学びのキーワード

- ・ 臨床の知
- ・ 心理療法の種類
- ・ コラージュ療法

授業計画

01. ガイダンス
02. 心理療法と臨床の知（相互作用性）
03. 心理療法と臨床の知（多義性）
04. 心理療法と臨床の知（個別性）
05. 臨床心理学の中の心理療法
06. 心理療法と心理テスト
07. 来談者中心療法
08. 精神分析
09. 認知行動療法
10. ナラティブ・セラピー
11. 家族療法
12. 芸術療法①コラージュ療法の実施方法
13. 芸術療法②コラージュ療法における統合
14. 芸術療法③コラージュ療法と色彩
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、指示された予習課題を確実に行ってください

準備学習(復習)

毎回、提示される復習課題に沿って、学習したことをまとめてください。なお、リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌授業の冒頭で行います。

評価方法

- | | |
|------------|--------------|
| (1) 参加度 | 25% |
| (2) ミニテスト | 25% 適宜授業内で行う |
| (3) 授業内テスト | 50% 最終授業内で行う |

教科書

毎回資料を配付する

参考書

「描画テスト・描画療法入門」（藤掛明著、金剛出版）

担当教員：村上 純子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201822

学部教育の関連目

【Ⅰ】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける | 【Ⅱ】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

児童臨床心理学において基本的な事項となる、発達理論を踏まえたうえで、臨床現場における児童臨床心理学的援助の実際と、関連の仕事の外観し、児童臨床心理学分野の実践活動への理解を深めることを目指す。

(2) 内容

児童発達心理理論を踏まえた上で、それに基づいた、臨床手法としての心理アセスメント、遊戯療法を学び、現行の実践活動について学習を深める。

受講者に対する要望

毎回、予習し、各回のテーマを理解して授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・発達理論
- ・個人差
- ・適応

授業計画

01. ガイダンス
02. 発達理論①（乳児期から幼児期）
03. 発達理論②（学童期）
04. 発達理論③（思春期）
05. 児童に対する心理アセスメント①（理論と実施における注意）
06. 児童に対する心理アセスメント②（方法）
07. 遊戯療法概説①（理論）
08. 遊戯療法概説②（事例）
09. 実践領域①（教育）
10. 実践事例①（教育）
11. 実践領域②（司法・矯正）
12. 実践事例②（司法・矯正）
13. 実践領域③（医療・福祉）
14. 実践事例③（医療・福祉）
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回指示する

準備学習(復習)

毎回指示する

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加度 | 20% |
| (2) レポート | 80% |

教科書

参考書

担当教員：小島 道生

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D201909

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける【R】対人支援力：人格を尊重して人とかわることでできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

共生社会の実現が求められる今日、障害のある人の心理などを学び、それぞれの障害について適切な理解を深めることは大切です。本講義では、それぞれの障害に関する診断基準や原因などの基礎的な事柄について説明できるようになること、さらには心理・行動特性と具体的な支援方法の概論について説明できるようになることを目標とします。

(2) 内容

障害の概念など、障害に関する基礎的な事柄について解説します。その後、視覚障害、聴覚障害、発達障害、知的障害など、それぞれの障害の診断基準や原因などの基礎的な事柄を解説するとともに、心理・行動特性と支援方法について講義します。支援方法には、心理検査などのアセスメント、さらにはSSTなどの具体的な支援方法についても体験的な演習を通して学んでいきます。それぞれの障害について全般的な理解を深めるとともに、障害児(者)に対して、根拠に基づく科学的な支援方法の在り方について講義と演習を通して、学んでいきます。なお、講義では視聴覚機器も活用しながら、障害特性などについて理解を深めます。|※「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

受講者に対する要望

障害のある人の心理と支援について、積極的に調べてほしいと思います。また、演習活動では、心理学の知見をいかした支援方法について学びます。したがって、心理学などについても、興味・関心を広げて欲しいと思います。

学びのキーワード

- ・ 障害
- ・ 発達
- ・ 心理特性
- ・ 行動特性

授業計画

01. 障害とは
02. 視覚障害の心理と支援
03. 聴覚障害の心理と支援
04. 運動障害の心理と支援
05. 病弱児(者)の心理と支援
06. 知的障害の心理と支援(1)
07. 知的障害の心理と支援(2)
08. 自閉スペクトラム症の心理と支援(1)
09. 自閉スペクトラム症の心理と支援(2)
10. 自閉スペクトラム症の心理と支援(3)
11. 自閉スペクトラム症の心理と支援(4)
12. LDの心理と支援(1)
13. LDの心理と支援(2)
14. ADHDの心理と支援
15. まとめ

準備学習(予習)

講義で指示した用語等について、調べてきてほしい。

準備学習(復習)

心理特性、行動特性というキーワードをもとに、各講義内容を振り返ってほしい。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 講義内容の知識確認テスト | 60% |
| (2) 授業内での発言と参加態度 | 20% |
| (3) ミニレポート課題 | 20% |

教科書

参考書

【参考書】「障害児心理入門」（井澤信三・小島道生著／ミネルヴァ書房）

担当教員：大橋 良枝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D202023

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：基礎科目 | 【D】認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

心理統計学の基礎となる測定学の理解に加え、測定法を身に付け実行できるようになることを目指す。また、教育における評価の活用方法と禁忌について理解することを目指す。

(2) 内容

前半の講義の中で、身近な現象を題材として、測定学の基礎を押さえた上で、現場における心理測定と評価の位置づけを学ぶ。その後、実際にそれぞれの関心に基づいて、測定と評価の実習を行い、その習熟度から授業評価がなされる。

受講者に対する要望

心理学実験実習を履修していること。四則計算が出来る電卓を持参すること。心理統計に関する教科書として、山田剛史・村井潤一郎(2004). よく分かる心理統計. ミネルヴァ書房. を基本とするが、各自で自分にあった使いやすいテキストを探すこと。

学びのキーワード

- ・測定
- ・評価
- ・尺度
- ・記述統計と推測統計

授業計画

01. 測定学概論—身の回りにおける測定
02. 測定と評価の嘘と本当—測定法と評価法の活用と限界
03. 母集団と標本の関係—推定
04. 推定のために—平均・偏差・分布
05. 教育評価—フィードバック
06. 教育場面における測定と評価①
07. 教育場面における測定と評価②
08. 心理臨床場面における測定と評価①
09. 心理臨床場面における測定と評価②
10. より高度な統計—t検定 分散分析 回帰分析
11. より高度な統計の実際—演習①
12. より高度な統計の実際—演習②
13. 調査実習①
14. 調査実習②
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の予習箇所を熟読しておくこと。

準備学習(復習)

練習問題を解きながら理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 小テスト | 60% |
| (2) 最終レポート | 40% |

教科書

参考書

ダレル・ハフ、高木 秀玄 『統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門 (ブルーバックス)』 (講談社)

担当教員：浦上 涼子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1D202225

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

心理検査の目的と意義を理解し、正しく実施・採点を行うことができる。また、検査結果をもとに子どもの特性を分析・把握し、支援方法を考えることができる。

(2) 内容

子どものこころの発達や障害を理解する上で、心理検査は欠かすことのできない重要な道具である。本実習では、子どもの発達の評価に関連する基本的な心理検査について、講義と実習を通して学ぶ。また実際の事例の検討から検査結果の解釈の方法や、それを子どもの支援につなげる方法について学習する。子どもの発達とその障害に関する科目を履修し、基礎知識を習得していることが望ましい。

受講者に対する要望

検査の実習を多く取り入れるため、それらに積極的に参加すること。実習の前に、それぞれの検査の基本的な内容について調べておくことが望ましい。

学びのキーワード

- ・心理検査
- ・言語発達検査
- ・知能検査
- ・認知機能検査

授業計画

01. ガイダンス
02. 心理検査の歴史的背景
03. 心理検査の目的、方法、倫理的配慮
04. 言語発達検査（PVT-R絵画語い発達検査）①講義と実習
05. 言語発達検査（PVT-R絵画語い発達検査）②解釈とレポートの書き方
06. 知能検査（田中ビネー知能検査V）①講義と実習
07. 知能検査（田中ビネー知能検査V）②解釈とレポートの書き方
08. 知能検査（WISC-IV知能検査）①講義と実習
09. 知能検査（WISC-IV知能検査）②解釈とレポートの書き方
10. 認知機能検査（K-ABC心理教育アセスメントバッテリー）①講義と実習
11. 認知機能検査（K-ABC心理教育アセスメントバッテリー）②解釈とレポートの書き方
12. 認知機能検査（DN-CAS認知評価システム）①講義と実習
13. 認知機能検査（DN-CAS認知評価システム）②解釈とレポートの書き方
14. 事例による学習
15. まとめ

準備学習(予習)

各実習の事前に内容や用語等について調べておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各実習の事後にレポートをまとめて提出すること。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 出席、実習、発表等の授業への参加の程度 | 60% |
| (2) 毎回の課題レポート | 40% |

教科書

前川 久男、梅永 雄二、中山 健『発達障害の理解と支援のためのアセスメント』（日本文化科学社）[978-4821073610]

参考書

担当教員：吉澤 剛士

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1D202327

学部教育の関連目

【P】 獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【D】 心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

【D】 認定心理士：基礎科目 | 【D】 認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

心を数量化、情報化するための情報処理技術の基礎を身につける。

(2) 内容

情報処理手法の基本について学ぶ。

受講者に対する要望

他の受講者に迷惑をかけないこと。

学びのキーワード

- ・ 情報処理
- ・ エクセル

授業計画

01. オリエンテーション
02. 基本操作
03. 表の作成
04. セルの参照
05. 論理関数①
06. 論理関数②
07. グラフの作成
08. 統計分析①
09. 統計分析②
10. データベース機能
11. データ集計とピボットテーブル①
12. データ集計とピボットテーブル②
13. 検索／行列関数と日付／時刻関数①
14. 検索／行列関数と日付／時刻関数②
15. 試験

準備学習(予習)

基本的操作は事前に確認しておくこと。

準備学習(復習)

授業で習うだけでなく、授業外でも自分自身で操作を行ってみること。

評価方法

- (1) 課題をこなしながらし、その到達度を評価す 50%
- (2) 試験 50%

教科書

武藤志真子 『健康・医療・営業のためのExcelワーク』（アイ・ケイコーポレーション）【978-4-87492-335-1】

参考書

|

担当教員：小島 道生、司城 紀代美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D202529

学部教育の関連目

【D】「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 知的障害に関する基礎知識を身につけることができる。| 2) 知的障害児の認知的特徴、行動的特徴、社会性および情動の特徴について理解できる。| 3) 知的障害児の二次障害について理解できる。| 4) 知的障害児に対する心理アセスメントについて理解できる。| 5) 知的障害児の認知発達、社会性および情動発達への支援に関する知識を得ることができる。| これらを通して、特別支援教育に携わる教師に必要な知的障害児の心理特性とその支援を学ぶことができる。

(2) 内容

本授業は、第一に知的障害の概念に関する基礎的知識を学び、第二に知的障害児の認知、行動、社会性および情動に関する特性を学ぶ。第三に支援に必要となる心理アセスメントの概略を学んだ上で、第四に、支援の実際を学ぶことができる構成とした。このことにより、知的障害の心理特性を理解した上でのより実践的な発達支援ができる教師を養成したい。|

受講者に対する要望

基本的概念や用語など、覚える努力が必要となる。ノート、資料のファイリングなど、各自で自分にあった整理方法、学習方法を考えてください。

学びのキーワード

- ・ 知的障害
- ・ 心理特性
- ・ 心理アセスメント
- ・ 支援方法

授業計画

01. 知的障害に関する基礎知識（1）障害の概念および定義①日本の定義の変遷、②AAMR（アメリカ精神障害学会）の定義
02. 知的障害に関する基礎知識（2）知的障害の分類
03. 知的障害児の認知的特徴（1）視覚、聴覚
04. 知的障害児の認知的特徴（2）言語、学習
05. 知的障害児の行動的特徴
06. 知的障害児の社会性および情動の特徴
07. 知的障害と二次障害（心身症および行為障害等を含む）
08. 知的障害に対する心理アセスメント（1）知能に関するアセスメント（ビネー式知能検査、WISC、K-ABC、DI-II-CAS）
09. 知的障害に対する心理アセスメント（2）発達に関するアセスメント（津守稲毛式、KIDS、遠城寺式、PVT検査）
10. 知的障害に対する心理アセスメント（3）社会適応に関するアセスメント（S-M式社会能力検査、ヴァインランド社会成熟尺度等）
11. 知的障害児の認知発達に関する支援（1）ことばの発達支援、絵本を利用した発達支援
12. 知的障害児の認知発達に関する支援（2）コンピュータを利用した視覚認知支援、読み書きに関する発達支援
13. 知的障害児の社会性および情動発達に関する支援
14. 知的障害および知的障害の二次障害への対応
15. 全体の振り返り

準備学習(予習)

各回の授業内容に関する基本的概念や用語について事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

配られた資料等の整理を通して、理解の確認をしておくこと。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業における発表、小レポート等 | 60% |
| (2) 試験 | 40% |

教科書

梅谷 忠秀、笠田 明義 『知的障害児の心理学』（田研出版）| 小池 敏夫、北島 善夫 『知的障害の心理学—発達支援からの理解』（北大路書房）

参考書

担当教員： 赫多 久美子、竹田 一則

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 授業コード： 1D202731

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】 特別支援学校教諭一種（知・肢・病）： 必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 病弱・虚弱の定義が理解できる。| 2) 脳の構造と機能が理解できる。| 3) 体温・呼吸・摂食などの機能およびその教育的支援について理解できる。| 4) 疾患と病気の意味の違いを理解する。病弱・虚弱の原因となる主要な疾患について理解できる。| 5) 入院・治療など生活環境の変化が病弱児の心理に大きく影響することが理解できる。| 6) 子どもの発達（認知）水準が疾患の理解や治療活動への参加に影響すること、またどのような心理的反応が生じやすいかを理解できる。ターミナル期の子どもの心理が理解できる。| 7) 健康行動理論を学ぶことで、健康と心理の関係を理解できる。| これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる病弱児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。

(2) 内容

授業は、到達目標を1から7まで設定し、病弱に関わる生理、病理機能とその教育的配慮、病弱に関わる主な疾患の理解、入院・治療が及ぼす心理的影響、子どもの発達期から見た心理的影響、健康行動理論の理解まで達成できるように構成している。

受講者に対する要望

専門的知識を学ぶため、学習に取り組む意識をきちんと維持して講義に臨んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ 病弱・虚弱の定義の理解
- ・ 脳の構造と機能の理解
- ・ 高次脳機能障害
- ・ 原因疾患の理解
- ・ 心理特性

授業計画

01. 病弱・虚弱児とは 定義、疾患と病気の違い
02. 脳の構造と機能（1）中枢神経系の構造
03. 脳の構造と機能（2）中枢神経系の機能
04. 脳の構造と機能（3）高次脳機能障害
05. てんかん（1）概要
06. てんかん（2）教育的対応の実際
07. 体温・呼吸・摂食の生理と病理
08. 摂食の仕組みとその障害 教育的対応の実際
09. 主要な疾患の理解 アレルギー疾患、糖尿病・肥満、腎疾患
10. 主要な疾患の理解 心疾患、悪性新生物、心身症等
11. 発達段階からみた病弱児の心理： 幼児期、学童期、青年期
12. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響（1）
13. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響（2）事例でのミニグループ・ワーク
14. ターミナル期の子どもの心理
15. 健康行動理論（心理モデルについて）健康信念モデル、社会的認知理論（変化のステージモデル）、自己効力感

準備学習(予習)

病児に対する意識を高めるために図書館で、病児に関する図書を検索しあらかじめ読み、各自、イメージを持って授業に望むこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容で、理解が不十分と思われる部分の振り返りを確実にすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) テスト | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

竹田一則 『肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学』（ジヤース教育新社）【 978-4921124915】

参考書

担当教員：大橋 良枝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D204001

学部教育の関連目

【Ⅰ】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【Ⅱ】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

グループ（集団）に対しての臨床心理学的分析、および心理学的介入における必要最低限の理論を習得し、グループ分析及び介入の基礎力を身につけること。|社会性、リーダーシップなど、人との中で生きていくのに重要な力の基礎となる知識を身につけること。

(2) 内容

講義内容は集団力学基礎理論と事例の検討を中心とするが、体験に重点を置くため、授業内でのグループ活動を課す。

受講者に対する要望

体験的学習を重視するため、積極的な態度を望む。

学びのキーワード

- ・ 集団力動 group dynamics
- ・ 精神分析 psychoanalytic theory
- ・ グループプロセス group processes

授業計画

01. ガイダンス
02. 基礎理論Ⅰ：Grの効用と困難
03. 基礎理論Ⅱ：システムズ理論
04. 基礎理論Ⅲ：基底的理想と作業Gr
05. 分析プレゼンテーション1
06. 分析プレゼンテーション2
07. 事例Ⅰ；事例Ⅰ；学校臨床—学級崩壊と基底的理想
08. 事例Ⅱ；施設臨床心理—依存とネガティブアイデンティティ
09. 事例Ⅲ；産業心理—二代目の心理 エディプス葛藤と世代間伝達
10. 事例Ⅳ；女性集団への介入—嫉妬と基底的理想
11. 事例Ⅴ；いじめとスケープゴート
12. 映画に見る集団心理Ⅰ
13. 映画に見る集団心理2
14. 実験的集団活動の実施
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内で指示される課題を事前に行うこと。

準備学習(復習)

授業内容で不明な点について振り返り、次回授業内で講師に質問できるように準備しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------------------|
| (1) 参加態度 | 40% | 出席率・授業参与度 |
| (2) 期末レポート | 40% | |
| (3) グループ活動 | 20% | 授業内で行われるグループ活動での学びの深さ、参与度を評価する。 |

教科書

授業内で指示する。

参考書

{現代のエスプリ：グループサイコセラピの現在, <https://www.amazon.co.jp/%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%92%B0%E2%92%07%E2%92%BD%E2%92%A0%E2%92%0A%E2%92%A2>

担当教員：小島 龍平

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300100

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 身体の構成と基本的な構造について説明できる。| 2. 骨格の構成、構造と働きを説明できる。| 3. 生命を維持するための機能（植物性機能）である、脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系および生殖器系の基本的な解剖学的構造と機能を説明できる。| 4. 外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を構成する、感覚機能、運動機能およびそれらを統御する神経機能や内分泌機能を、疾患とも関連付けて説明できる。| 以上のことから、健康教育を行う教員の基本的な知識である体のしくみと働きを理解し、健康の維持増進のための複雑な事象を科学的にとらえる態度を育てる。また、自分の身体について実感をともなって理解できることを目指す。|

(2) 内容

本講義は、保健科教諭として健康教育を行っていく上で、重要な細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）と外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を人体の生理機能から学ぶ構成としている。

受講者に対する要望

ノートを丁寧にとること。特に、板書の図や、授業中に大切な箇所と強調したことはメモする。疑問点は質問をするなど、授業に積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 身体の構成と基本構造
- ・ 器官と組織
- ・ 身体の構造と機能と健康、疾患

授業計画

01. 保健科教諭にとっての解剖学・生理学とは
02. 骨格の構成、構造と働き
03. 心臓および血管系の構成、構造と働き
04. 呼吸器系の構成、構造と働き
05. 消化器系の構成と配置。消化管の構造と働き
06. 肝臓・胆のう・膵臓の構造と働き
07. 泌尿器系の構成と配置。腎臓の構造と働き
08. 尿管・膀胱の構造と働き
09. 生殖器系の構成、配置、構造と働き
10. 内分泌系の構成、構造と機能
11. 神経系の構成と配置。神経の興奮と伝達のしくみ
12. 脳と脊髄の形態、構造と機能
13. 末梢神経系の構成、構造と機能
14. 感覚器系の構成、構造と機能
15. 筋の構造・筋収縮と運動制御のしくみ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、教科書の該当箇所を予め読んで疑問点などをメモしておくこと。

準備学習(復習)

授業中に示されたキーワードや大切だと思われる箇所は復習して、理解を確実にすること。なお、疑問点はメモして、教科書や参考書で調べ、また積極的に質問すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------------|
| (1) 課題作成 | 50% | 各授業ごとに必ず宿題を課す。詳細については授業時に説明する。 |
| (2) 定期試験 | 50% | |

教科書

授業時に資料を配布する。また、下記を参考図書として推薦する。できるだけ購入することをすすめる。||

参考書

坂井建雄、岡田隆夫『解剖生理学（系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能①）』（医学書院）【978-4-260-01826-5】

担当教員：大江 敏江

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300202

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる。| 2. 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解できる。| 3. 栄養素の摂取と消費のバランスが成長期の心身の健康・栄養状態に与える影響について、健康教育を実施し得る基盤をつくる。| 以上により、栄養学の基礎的知識を整理すると共に、健康の維持・増進と疾病予防における食の重要性を理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。|

(2) 内容

本講義は、①三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） ②微量栄養素（ビタミン、ミネラル） ③その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解できるように構成されている。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても概説する。

受講者に対する要望

予習、復習をしっかりと行いながら授業に参加することを望む。

学びのキーワード

- ・ 栄養素
- ・ 消化
- ・ 吸収
- ・ 食事
- ・ 健康

授業計画

01. 栄養と健康（目標1）
02. 栄養素の消化・吸収・代謝（目標1）
03. 糖質とは何か（目標1）
04. 糖質の機能と効率的な摂取法（目標2）
05. タンパク質とは何か（目標1）
06. タンパク質の機能と効率的な摂取法（目標2）
07. 脂質とは何か（目標1）
08. 脂質の機能と効率的な摂取法（目標2）
09. ビタミンの必要性（目標1）
10. ミネラルの必要性（目標1）
11. 水分・食物繊維の必要性（目標1）
12. 栄養素の摂取量と消費量のバランス（目標2、3）
13. 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（目標2、3）
14. 幼児期・学童期・思春期の栄養学（目標1、2、3）
15. まとめ（目標1、2、3）

準備学習(予習)

次週の教科書の該当箇所を読む。

準備学習(復習)

(1) 授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。(2) 重要と指摘された箇所はよく復習する。(3) 小テストは返却後復習し、よく理解する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 受講態度 | 20% |
| (2) 授業内小テスト | 20% |
| (3) 中間テスト | 30% |
| (4) 期末テスト | 30% |

60%以上を合格とする。

教科書

吉田 勉『わかりやすい栄養学』最新版、三共出版、2,300円＋税

参考書

担当教員：一幡 良利

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300509

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 微生物について理解できる。| 2. 微生物と宿主の関係性、感染の機序と対策が理解できる。| 3. 免疫学から抗原と抗体の関係を理解し、免疫機能をつかさどる細胞に関しての理解と免疫機序成立の過程について理解できる。| 4. アレルギー、栄養と免疫の関連、自己免疫について理解できる。| これらを通して、外的環境と内的環境（身体）との相互作用によって人の健康が維持されていることを学び、よりよく生きようとする人の健康に働きかける保健科教諭の基本的知識を身につける。

(2) 内容

本講義では、まず人の健康に外的に影響する微生物について概説する。次に外的な環境によって人の身体がどのように反応するのかについて免疫学を通して学ぶように構成されている。また、感染症の成立機序と感染予防などについて、栄養や自己免疫等の機能を通して理解できるように構成されている。

受講者に対する要望

教科書、ノートを用意し、必ずノートをとる。不明な点は質問してほしい。
 日常起きている感染症の話題に関心をもってほしい。

学びのキーワード

- ・細菌・ウイルスの構造と増殖
- ・遺伝子の変異と耐性菌の出現
- ・免疫作用・免疫細胞・抗原と抗体
- ・アレルギーとそのタイプ
- ・自己免疫と自己免疫疾患

授業計画

01. 微生物学とは何か（微生物の分類学的位置、原核生物と真核生物、細菌とウイルスの一般性）
02. 細菌学総論（細菌の形態、細菌の構造、細菌の増殖）（目標1）
03. 細菌学総論（遺伝情報の発現、遺伝子の変異）（目標1）
04. ウイルス学総論（ウイルスの構造、ウイルスの増殖）（目標1）
05. 感染と発病、感染対策（感染の経過、宿主と微生物の相互関係、感染防御機構）（目標2）
06. 予防接種と免疫療法（ワクチン、免疫血清、ヒト免疫グロブリン製剤）（目標3）
07. 免疫学とは何か 有用な免疫作用と望ましくない免疫作用について（目標3）
08. 抗原（免疫応答を引き起こす抗原の条件とは何か）、抗体（抗体の構造と機能、抗体の免疫反応における働き）（目標3）
09. 細胞1（マクロファージ、好中球、好酸球、好塩基球の免疫系における働き）（目標3）
10. 細胞2（T細胞・B細胞その他の免疫系における働きとその活性化について）（目標3）
11. 免疫成立の機序と腸管粘膜免疫（細胞の生成の場および免疫反応の場における免疫成立の機序、腸管粘膜局所免疫について）（目標3）
12. アレルギー（アレルギーとは アレルギーの仕組みについて）（目標4）
13. 栄養と免疫（栄養状態と免疫、種々の栄養成分の免疫への影響について）（目標4）
14. 自己免疫（自己免疫の成立機序、自己免疫病と自己免疫病の発病機構）（目標4）
15. まとめ（これまでの講義についての総括）

準備学習(予習)

授業計画に沿って、教科書の次回該当箇所を予習のこと。

準備学習(復習)

当日の講義箇所と関連の教科書部分を参照・復習し、疑問や不明の箇所をノートに記し、次回に質問してほしい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業内レポート | 20% |
| (2) レポート・定期試験 | 80% |

教科書

高橋昌巳、一幡良利『コメディカルのための微生物と感染予防』（桜雲会）【978-4904611029】

参考書

担当教員：中村 月子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300604

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 子どもの身体的機能を理解する。| 2. 学校感染症の特徴と支援について説明できる。| 3. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と支援について説明できる。| 4. 子どもの主な慢性疾患の病態と支援について説明できる。| 5. 子どもの眼疾患、耳鼻咽喉頭疾患の病態と支援について説明できる。| 以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかけるための実践的な知識・技能を身につける。|

(2) 内容

本講義は、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、支援について概説する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患、障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。

学びのキーワード

- ・小児保健
- ・子どもの健康課題

授業計画

01. 子どもの身体の解剖生理①（筋骨格・目・耳・歯）（目標1）
02. 子どもの身体の解剖生理②（内臓の生理機能）（目標1）
03. 子どもの健康状態の把握（目標1）
04. 学校感染症①（第1種－エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱等）（目標2）
05. 学校感染症②（第2種－インフルエンザ〈鳥インフルエンザを除く〉、百日咳等）
06. 学校感染症③（第3種－コレラ、細菌性赤痢等）（目標2）
07. 子どものアレルギー疾患①（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）（目標3）
08. 子どものアレルギー疾患②（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）（目標3）
09. 子どもの腎疾患①（糸球体腎炎・尿路感染症）（目標4）
10. 子どもの腎疾患②（ネフローゼ症候群・尿検査）（目標4）
11. 子どもの心疾患①（先天性心疾患）（目標4）
12. 子どもの心疾患②（川崎病・不整脈と心電図）（目標4）
13. 子どもの糖尿病と肥満（目標4）
14. 子どもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患（目標5）
15. 小児保健学のまとめ（目標1～5）

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業への参加及び筆記試験 | 60% |
| (2) 定期試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する

参考書

衛藤 隆 『新世紀の小児保健』（日本小児医事出版社）

担当教員：吉澤 剛士

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300710

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 健康を脅かす様々な要因について理解する。
| 2. 感染症とその予防について理解する。| 3. 生活習慣病の要因と予防について理解する。| 4. 健康の定義とプライマリーヘルスケアについて説明できる。| 以上を通して、健康の維持・増進と疾病予防について理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。|

(2) 内容

本講義は、人類の健康に脅威となった疾病の原因とその予防について概説する。主な分野は、感染症、生活習慣病、環境要因に起因する疾病などである。健康とはなにか、人類はこの数百年に限っても、どのような病の脅威と戦ってきたかについても理解できるように構成されている。

受講者に対する要望

机上に講義に関係ないものは置かないこと。他の受講者に迷惑をかけないこと。

学びのキーワード

- ・ 感染と免疫
- ・ 新興感染症、再興感染症、日和見感染、平素無害菌
- ・ 生活習慣病、メタボリックシンドローム
- ・ 特定健診、健康寿命と平均寿命
- ・ 健康の定義、プライマリーケア

授業計画

01. 健康を脅かす様々な要因（目標1）
02. 感染症とその予防1. 「感染」とはなにか（目標2）
03. 感染症とその予防2. 免疫と予防接種（目標2）
04. 感染症とその予防3. 結核とインフルエンザ（目標2）
05. 感染症とその予防4. コレラ、0157、ノロウイルス（目標2）
06. 感染症とその予防5. AIDS、MRSA（目標2）
07. 電離放射線、紫外線（目標1）
08. 熱中症と体温調節（目標1）
09. 成人病と生活習慣病、一次予防（目標3）
10. 悪性新生物とその予防（目標3）
11. 心疾患とその予防（目標3）
12. 脳血管疾患とその予防（目標3）
13. 糖尿病と合併症、およびその予防（目標3）
14. 健康の定義とプライマリーヘルスケア（目標4）
15. まとめ（目標1～4）

準備学習(予習)

教科書を予習しておくこと。

準備学習(復習)

その日のキーワード、授業の終わりの小テストで疑問の点、返却された前回小テストで、理解が不十分であった箇所、誤答の箇所は復習、確認してほしい。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 受講態度 | 20% |
| (2) 毎回の小テスト | 30% |
| (3) 授業内試験 | 50% |

毎回、授業内に小テストを実施する。

教科書

苫米地孝之助『Nボックス 改訂健康管理論』（建帛社）【978-4-7679-0496-2】

参考書

学校保健概論(安全を含む。)

HLTH-D-200

担当教員：中村 月子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D300913

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。
| 2. 学校保健の関係法規について理解できる。| 3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、説明できる。| 4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。| 5. 学校保健推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。
| 以上により、子ども期の身体的な健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようになるための基礎力を身に付ける。|

(2) 内容

本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるように必要な知識や技術を学べるように構成されている。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加すること

学びのキーワード

- ・ 学校保健
- ・ 保健管理
- ・ 児童生徒の健康課題
- ・ 児童生徒の発育発達
- ・ 学校保健組織活動

授業計画

01. ガイダンス（目標1）
02. 学校保健概説Ⅰ（歴史の変遷・意義・関連法規）（目標1. 2）
03. 学校保健概説Ⅱ（領域構造）（目標4）
04. 児童生徒の発育発達と健康課題（目標3）
05. 学校保健計画 法的根拠と意義・内容（目標2）
06. 健康観察 意義（目標3）
07. 健康診断 意義、法的根拠、方法指導（目標2. 3）
08. 疾病管理 疾病の基礎知識（目標1. 3）
09. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標1. 3）
10. 学校救急処置活動 学校における救急処置活動の意義、実際（目標1. 3）
11. 学校環境衛生 法的根拠、学校環境衛生検査の実際（目標1. 2. 3）
12. 学校健康相談活動 学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談（目標1. 3）
13. 学校安全計画・危機管理 児童生徒の災害の実態・安全教育（目標1. 3. 4）
14. 学校保健組織活動 意義・組織（教職員・児童生徒・地域）（目標4）
15. まとめ（学校保健の今日的課題）（目標1. 2. 3. 4）

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 課題発表 | 30% |
| (2) 授業振り返りレポート | 20% |
| (3) まとめのレポート | 50% |

教科書

和田雅史・鈴木明『現代学校保健学』（共栄出版）

参考書

授業の中で指示する

救急処置法（実習を含む） / 救急処置法（実習を含む）

HLTH-D-200

担当教員：中村 月子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301305

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義と実習では、学校における児童生徒の傷病知識、救急処置や対応技術を教授する。心肺蘇生法、AEDを用いた除細動の技術も習得できるように構成されている。

(2) 内容

1. 保健科教諭として、医療的及び教育的側面から救急処置の過程を理解し、的確な判断と処置ができる | 2. 学校救急処置活動の基本的な知識を習得する。 | 3. 学校救急処置の技術を体得する。 | 4. 心肺蘇生法、AED除細動器の取り扱いを体得する。 | 5. 校種別の傷病の特徴を知り、対応できる。 | 6. 学校救急処置過程に準じて児童生徒の対応ができる。 | 以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

受講者に対する要望

実習時は、予鈴がなるまでに身支度を整え、所定の位置に着いていること。

学びのキーワード

- ・ 救急処置
- ・ 学校救急処置
- ・ けがの対応
- ・ 病気の対応

授業計画

01. オリエンテーション（授業の進め方の説明）
02. 学校救急処置過程 保健室入室時の対応（目標1）
03. 学校救急体制（校内役割と組織図等作成）（目標1. 2）
04. 学校救急処置の基本（目標1. 2）
05. けが・病気の対応（1）小学校（目標1. 3. 5）
06. けが・病気の対応（2）中学校（目標1. 3. 5）
07. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（1）こどもの場合（目標4）
08. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（2）大人の場合（目標4）
09. けが・傷の処置（1）中学校・高校に多いけが（目標5）
10. けが・傷の処置（2）止血・包帯演習（目標5. 6）
11. けが・傷の処置（3）骨折等固定演習（目標5. 6）
12. 内科的訴えの対応（目標6）①
13. 内科的訴えの対応（目標6）②
14. 総合シミュレーション（目標1～6）
15. まとめ（目標1～6）

準備学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習（復習）

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 筆記試験 | 50% |
| (2) 実技試験 | 50% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

授業の中で指示する

担当教員：吉澤 剛士

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301406

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 水と健康の問題を理解できる。| 2. 食品と健康の問題を理解できる。| 3. 住居と健康の問題を理解できる。| 4. 放射能と健康の問題を理解できる。| 5. 公害と健康の問題を理解できる。| 6. 地球環境問題への理解が深まる。| 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。|

(2) 内容

本講義は、水、空気、食品、日光、住居など、我々の周囲の環境と健康との関係について概説した上で、放射能の問題、公害の問題から環境汚染と健康の問題、および地球環境問題と健康の問題まで理解できるように構成している。

受講者に対する要望

教科書を必ず準備してほしい（「公衆衛生学」と共通）。ノートを必ず取ること。遅刻・欠席をしない、教室の前列に着席すること。机上に、雑誌、スマートフォン、飲食物など、講義に関係ない物は置かないこと。

学びのキーワード

- ・水系感染症、緩速濾過と急速濾過、下水処理、活性汚泥法、浄化槽
- ・微生物起因の食中毒、感染型と毒素型、自然毒、化学毒
- ・温熱条件、感覚温度、熱中症、換気、二酸化炭素、一酸化炭素
- ・環境基本法、四大公害、環境基準
- ・地球環境問題、温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨

授業計画

01. 環境と健康
02. 水と健康、上水道普及と感染症
03. 上水処理法と水道水の水質基準
04. 下水道の目的と下水処理法
05. し尿処理と廃棄物処理
06. 食中毒(1) 微生物を原因とする食中毒
07. 食中毒(2) 自然毒および化学物質
08. 住居の環境衛生(1) 温熱条件・熱中症
09. 住居の環境衛生(2) 二酸化炭素・一酸化炭素・換気
10. 電離放射線、紫外線、マイクロ波、レーザー光
11. 環境の化学的条件
12. 公害と環境汚染(1) (環境基本法・大気汚染)
13. 公害と環境汚染(2) (水質汚濁と公害病)
14. 地球環境問題(温暖化、オゾン層破壊ほか)
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の該当範囲については、予め、目を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義中に強調した箇所、キーワード、終了時の小テスト、および、返却された前回の小テストで出来なかった箇所は、よく復習しておく。

評価方法

- | | | |
|-----------------------|-----|----------|
| (1) 授業への参加度および課題へ取り組み | 20% | 積極性、着席位置 |
| (2) 毎回の小テスト | 30% | |
| (3) 授業内試験 | 50% | |

講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。原則、次回に返却する。

教科書

配布資料を使用

参考書

担当教員：吉澤 剛士

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301511

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける | 【M】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 健康の定義、健康指標、および予防医学の概念について理解できる。 | 2. 保健衛生統計について理解できる。 | 3. 感染症とその予防について理解できる。 | 4. 疫学概念について理解できる。 | 5. 成人保健について、生活習慣病とその予防、衛生行政の観点から理解できる。 | 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。 |

(2) 内容

健康の維持増進に働きかけるための基礎となる公衆衛生に関する知識を身につけるため、本講義は、はじめに健康の概念から、保健衛生統計の意義とその理解の仕方まで概説する。次に、公衆衛生学では重要なテーマである感染症とその予防方法について解説し、疫学とは何であるのかについて理解できるように構成している。最後に、現代大きな問題となっている生活習慣病について触れ、成人保健の今日的課題が理解できるように構成している。

受講者に対する要望

机の上に講義に関係ない物は置かないこと。他の受講者に迷惑をかけないこと。

学びのキーワード

- ・健康指標、人口動態、人口動態
- ・一次予防、二次予防
- ・疫学、記述疫学、分析疫学、患者・対照研究、コホート研究
- ・生活習慣病、メタボリックシンドローム、特定健診
- ・保健衛生行政、

授業計画

01. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
02. 人口動態統計・人口動態統計
03. 出生と死亡の動向
04. 生命表と平均余命・平均寿命
05. 医の倫理
06. 感染症とその予防
07. 免疫と予防接種、消毒
08. AIDSと性感染症
09. 疫学1. 疫学とは何か
10. 疫学2. 記述疫学と分析疫学
11. 生活習慣病とその予防
12. 健康増進、成人保健、老人保健
13. 地域保健、保健衛生行政
14. 医療保障、保健医療サービス
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の該当箇所を予習しておくこと。

準備学習(復習)

講義中のキーワード、前回復習問題の誤答箇所、当日の復習問題の疑問点などは、教科書も参考に復習のこと

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 受講態度 | 20% |
| (2) 各回復習問題 | 30% |
| (3) 期末授業内試験 | 50% |

教科書

苫米地孝之助『Nボックス 改訂健康管理論』（建帛社）【978-4-7679-0496-2】

参考書

担当教員：助川 征雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301707

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【D】認定心理士：選択科目 | 【W】認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

1. 精神保健の定義と健康に対する意義を理解できる。
| 2. 子ども期に発症しやすい精神疾患とその治療の現状について理解できる。
| 3. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育のあり方について理解できる。
| 4. 精神科治療の基本知識について理解できる。
| 5. 学校における精神保健について理解できる。
| 6. 職場のメンタルヘルスについて理解できる。
| 以上を通して、精神的な健康を保持するための環境や文化について知った上で、学校保健について深く考察できるようになる。幅広く人間という存在を理解できるような保健科教員を目指す。|

(2) 内容

本講義は、子ども期における各精神疾患の特徴やアセスメントの方法について概説した上で、精神科治療の基本的な考え方や治療体系、心理療法、認知行動療法等を含めた治療支援活動についても触れる。また、学校における精神保健活動や教職員のメンタルヘルスについて理解できるように構成している。

受講者に対する要望

精神保健（メンタルヘルス）が、障がい者だけではなく誰にとっても大切なことをしっかり受け止めること。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉の歴史
- ・ライフサイクルと精神保健
- ・医学モデルからリカバリーモデルへ

授業計画

01. 精神保健の定義と意義（目標1）
02. 子ども期の精神疾患（気分障害の特徴や治療について）（目標2）
03. 子ども期の精神疾患（統合失調症の特徴と治療について）（目標2）
04. 子ども期の精神疾患（不安障害の特徴と治療について、子どものPDSOと環境との関連に
05. 子ども期の精神疾患（心身症の特徴と治療について）（目標2）
06. 子ども期の精神疾患（パーソナリティ障害の特徴と治療について）（目標2）
07. 子ども期の精神疾患（物質関連障害の特徴と治療について）（目標2）
08. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育（目標3）
09. 精神科治療の基礎知識 精神科治療の基本的な考え方、精神科の治療体系、薬物療法（向精神薬）と治療支援活動（目標4）
10. 精神科治療の基礎知識 心理療法、認知行動療法、リハビリテーション等（目標4）
11. 学校における精神保健（学校保健統計からみた精神保健の問題）（目標5）
12. 学校における精神保健（精神保健相談）（目標5）
13. 学校における精神保健（精神保健指導への取り組み）（目標5）
14. 学校における精神保健（保護者への対応、地域との連携、危機対応）（目標5）
15. 職場のメンタルヘルス（教職員のメンタルヘルスについて）（目標6）

準備学習（予習）

2回目から、毎回、資料を配布するので、あらかじめ通読するなど予習をし、質問も適宜準備して授業に臨むこと。

準備学習（復習）

毎回、資料等を読み直し、わからない専門用語などは、その日のうちに調べておくこと。適宜、関連した宿題も課す。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内レポート | 60% |
| (2) 平常点 | 40% |

期末レポートによる（5つの課題の中から選択）。

教科書

講義は原則、毎回配布するレジメを使用。

参考書

講義の中で参考書を紹介する。

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1D302408

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できうる科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーションスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。|歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方で、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。

(2) 内容

現代社会に出現する青少年期の健康課題を取り上げる。社会構造や生活様式の変化とともに、子どもの発育発達や疾病構造に変化が起こっていることに着目し、その成立要因の解明や予防の具体的方法について論じていく。特に学びの場である学校における教育保健学的観点から検討を加える。時代とともに、生活構造の変化によって私達の生活様式も変容していく。しかしながらその結果として身体の異常や歪みの出現、そして新たな疾病構造の変容をもたらした。ここでは、日々の身体活動や遊びのありかた、食生活の内容と食べ方、そして心のあり方やストレスの状況など精神の健康という様々な要因によって影響を受けているという視点から、子どもの身体の現状を考えていく。|従来、教育生理学の分野で研究されてきた「学齢期シンドローム」と呼ばれる子ども達の現状に目を向け、その研究成果を視野に入れて、子どもの健康問題を考えていく。|必ずしも簡易な医学的知識だけを楽しむことだけではなく、また予防教育という観点からだけではなく、子どもに即して健康の科学的認識を高めることにより、自己の健康をいかにして向上させることができるのか、また社会的にどのように子どもの健康や生命を守ることができるのかを検討していく。|講義では、子どもの生活現状に着目しつつ、なるべく身近にある子どもの健康課題を取り上げていく。

受講者に対する要望

子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。

学びのキーワード

- ・健康課題
- ・ヘルスプロモーション
- ・予防
- ・教育保健
- ・科学的認識

授業計画

01. オリエンテーションー青少年期の健康課題
02. ライフスタイルの変化と身体への影響
03. 生活リズムの変化と身体異常
04. 自然環境の変化と健康
05. 遊びや運動の変化と発育発達
06. 運動不足が及ぼす身体への影響
07. 運動の効果と運動障害
08. 食生活の変化と健康課題
09. 肥満とその予防
10. ダイエット形態誤認
11. アレルギーの増加とその背景
12. 感染症と予防対策
13. 現代生活と精神の健康
14. 青少年期のストレス
15. 授業の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集め、|講義ノートなどにまとめて、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えを講義ノートなどにまとめておく。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業への姿勢 | 50% |
| (2) 到達度評価のためのまとめ | 50% |

教科書

和田雅史、齊藤理砂子『健康科学 ヘルスプロモーション』（聖学院大学出版会）【978-4907113179】

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D400101

学部教育の関連目

【D】「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

こどもの生活世界を理解することを学びの意義とする。文化や環境の多様性に目を向けて広い視野をもつとともに、世界のこどもに共通する生き方を把握して、こどもがこどもとしてしあわせに生きること (well being) についてじっくりと考えたい。こどもがしあわせに育つ過程に、わたしたちはふれてかかわる。学びの目標は、こどもとふれあう自身に起こることを誠実にとらえて表現し、それを互いに伝えあうことができるようになることにある。| |

(2) 内容

こどもは、やがておとなになる。その過程には文化がかかわっている。こどもの生活世界は、時代や暮らしの環境のちがいによって様々である。それは、歴史や経済、そして社会に影響されているからである。と同時に、それらに影響を及ぼしているとも言えるだろう。こどもが生きる世界は、こどもとおとなとの相互性に成り立つのである。世界のこどもの生き方を、こどもとおとなの共感的交流に注目して理解したい。

受講者に対する要望

こどもの生活世界に触れるには、細やかで大らかなセンスが求められる。毎日の生活のなかで、それぞれがセンスをみがく努力をすることを望む。

学びのキーワード

- ・ こども期とこども観
- ・ こどもの生活世界と文化
- ・ 遊びと学び
- ・ こどもの自由と権利・ウェル ビーイング
- ・ こどもとおとなの相互関係

授業計画

01. こどもとおとな：問題提起
02. こどもの生活世界と権利：こどもがこどもとしてしあわせに生きること
03. 家族のなかのこども (1) 生まれること
04. 家族のなかのこども (2) 大きくなること
05. 家族のなかのこども (3) 一人前になること
06. 家族のなかのこども (4) 家庭と家族
07. 学びのなかのこども (1) 知と技を得ること
08. 学びのなかのこども (2) 話しことばと書きことば
09. 学びのなかのこども (3) 学校に行くことと行かないこと
10. 学びのなかのこども (4) 余暇と勉強
11. 遊びのなかのこども (1) 自由と練習
12. 遊びのなかのこども (2) 意味と無意味
13. 遊びのなかのこども (3) 怖いものに出会う
14. 遊びのなかのこども (4) 伝えあう
15. こどもとおとな：こどもらしさをめぐって

準備学習(予習)

次回の内容について、調査しておく

準備学習(復習)

小レポートの内容も合わせて、ノート整理をする

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-------------|
| (1) 小レポート | 70% | 各回5点×14回 |
| (2) 期末課題 | 20% | 初回時に内容を説明する |
| (3) ノート | 10% | 詳細を初回時に説明する |

教科書

使用しない。プリントを適宜 配布する。

参考書

授業の内容にあわせて、参考文献を紹介する。絵本を多用する。

担当教員：渡辺 正人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D400202

学部教育の関連目

[0] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文化は、こころのゆりかごである。文化が違えば、ものの見方や感じ方は異なる。この授業では、日本文化の特性や感性について学ぶ。基本的な日本文化の特徴と心性の関係を理解することが目標である。

(2) 内容

日本の文化の歴史と、その特性を中心に日本の文化を学ぶ。具体的には、民俗・芸術・宗教などを取り上げながら、その成立と特性を学び、それらが「日本人の心性」の形成にどのように関与してきたかを考える予定である。

受講者に対する要望

身の回りの事例に注意しながら受講すると心意との関係は分かりやすいのではないかと思う。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 民俗
- ・ 稲作文化
- ・ 神仏

授業計画

01. 日本文化の成り立ち（日本人の成り立ち）
02. 日本文化の成り立ち（日本文化の基層）
03. 日本文化の成り立ち（美意識の形成）
04. 日本文化の成り立ち（武士精神）
05. 日本文化の成り立ち（民俗とは何か）
06. 日本文化の成り立ち（ムラ意識の形成）
07. 日本文化の成り立ち（マチ意識の形成）
08. 日本文化の成り立ち（現代の生活文化）
09. 日本文化の成り立ち（日本の宗教事情）
10. 日本文化の成り立ち（仏教との関り）
11. 日本文化の成り立ち（神道との関り）
12. 日本文化の成り立ち（現世利益を求めて）
13. 日本文化の心意性 1
14. 日本文化の心意性 2
15. まとめ

準備学習(予習)

用語などについて事前に示しておくので、理解をしておくこと。

準備学習(復習)

パートごとに小テスト（記述式）を行う。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 小テスト | 30% |
| (2) 授業シート | 30% |
| (3) まとめレポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：金谷 京子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D400808

学部教育の関連目

[0] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 天災や人災に対する危機意識をもつ| 2. こどもの危機予知ができるようにしていく| 3. リスクマネジメントを学ぶ| 4. 危機に出遭ったこどもの心理とケアについて理解する

(2) 内容

こどもにとっての危機をもたらす要因には、災害、事故、疾病、虐待、貧困、いじめ、事件、家庭崩壊、環境破壊などさまざまある。これらの危機にこどもが出遭ったときにこどもの心にもたらされる衝撃は大きい。こうした危機に出遭ったときに大人はどうケアしたらよいのか、また、このような危機を回避する、あるいは被害を最小にとどめるにはどうしたらよいか検討していく。

受講者に対する要望

グループワークに際し、積極的にグループ内の役割を果たすようにしてください

学びのキーワード

- ・ 災害とこども
- ・ 現代社会とこどもの危機
- ・ リスクマネジメント

授業計画

01. こどもにとっての危機
02. 天災と人災
03. 災害時のこどものケア
04. 災害時のケア
05. 災害時のケア
06. 虐待とこども
07. 虐待とこども
08. 虐待予防
09. 学校といじめ
10. いじめの分析
11. こどもの貧困
12. こどもの事故
13. リスクマネジメント・危機予知
14. こどものこころのケア
15. まとめと評価

準備学習(予習)

グループワーク課題を調べてくる

準備学習(復習)

他のグループの発表課題についてもまとめてみる

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 課題発表 | 20% |
| (2) レポート | 80% |

教科書

参考書

担当教員：田島 伸二

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D400909

学部教育の関連目

[0] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(1) 国際協力活動を実践的に楽しく学ぶことは、自分が生きていく世界への視野を大きく広げ、多様な価値観や豊かな創造性などを獲得するのに非常に役立つ。とくに子どもたちへの国際教育や文化活動を理解すると、将来の職業人としても、家庭人としても、地球人としても非常に役立つ重要な講義となろう。|(2) 目標は子ども国際協力の世界を、頭で理解するだけでなく、実社会で実践できる力を多彩に形成することを目標にしている。とくに言葉+絵+デザインなどを使った絵地図ワークショップを開催できる能力を身につけると、どのような環境でも自由に活用できるようになる。|ので、問題解決に対処できるたくましい力を養成したい。人間力も身につけたい。|(3) 「心の絵地図分析」という、ユネスコも採用した田島開発の心理メソッド理論と実践を身につけられるように個人とグループで多数の楽しいワークショップを開催したいと考えている。これは人間の奥底にある喜怒哀楽の考えを取り出し、文章や絵を使って視覚化していく方法である。学生たちには、この理論とスキルが社会で大きく役立つと思える。|

(2) 内容

子ども国際協力の講義は、世界中の多様な環境に生きているさまざまな子どもたちの生活文化・教育活動、そして同時に社会面や経済面など難しい課題や問題に直面していることなど実感的に学んでいくことを目的としている。光と影の両面を文化や教育の具体的な実例多数を通じて、映像やアートなどを通じて実感的に理解できるようにしたい。そして、将来、卒業生が、社会のこどもの国際教育関係で働くときには、最も役立つような実践的な理論やスキルをワークショップスタイルで講義していきたい。ワークショップは、楽しく役にたつ実践的な課題を、相互に議論したり、文章や絵を描いたり写真を分析するなど講義は、双方向のおもしろく実践的な授業を行いたい。|視聴覚機材を使って1000枚以上の多くの写真やDVD情報をもとに、自分で考え、自分の力で実行できるように多様な知識・技術・情報が獲得できるようにしたい。

受講者に対する要望

世界中の多様な文化や価値観を学ぶことが、人生や社会を豊かにするので、受講者は文化の発信やコミュニケーションの力に大いなる好奇心や興味を持ってほしい。また授業で学んだことを是非、社会で実際にすぐに役立てるような積極的な学生を大歓迎する。語学の能力は問わない。

学びのキーワード

- ・子どもの現実の心理や創造性を学ぶ
- ・社会を生き抜く知恵やスキルの研鑽
- ・国際協力活動への積極的参加
- ・豊かなコミュニケーションや人間関係の作り方
- ・身近な国際理解体験の実践活動

授業計画

01. こども国際協力の楽しさ・すばらしさ—私の国際協力活動から
02. アジアや欧米で行ってきたユネスコ活動の紹介と映像+議論
03. 絵やデザインを使ってグループによる絵地図ワークショップ NO. 1 | 「自分自身の絵本を作る」
04. 社会で効果的に活用できる絵地図ワークショップの学習 NO. 2 | 「グループでテーマを決めて、具体的にその解決を図る」
05. 世界の国々で、戦争や貧しい子どもたちが直面している問題点？
06. 子どもに向けて国境を越えて楽しく役に立つ文化活動のつくり方|遊びのつくりかた
07. だれにもできる簡単にできる創作活動と楽しい教材開発
08. すぐに役立つ国際コミュニケーションとその技術研修 (歌、物語、遊び) |ユニークな個性に基づいて
09. 識字教育 (リテラシー) とはなにか、その課題と実践について|なぜ人には、文字の読み書きが必要か？
10. 平和・環境活動の理解と子どもたちの深刻な課題|戦争の起きる原因と子どもに向けての平和教育
11. 子ども国際理解に役立つ簡単に楽しい教材制作—1 |理論と実践篇 (ワークショップ)
12. 子ども国際協力に役立つ魅力的でおもしろい教材制作—2 |理論と実践篇 (ワークショップ)
13. 自分の今後の生き方とキャリア・デザイン絵地図ワークショップ—1
14. 自分の今後の生き方とキャリア・デザイン絵地図ワークショップ—2
15. 未来へ伝えたいものまとめ&各々のプレゼンテーション

準備学習(予習)

1. 毎回、次の学習の課題を発表するので、学生はそれに向けてあらゆる情報源から事前に学習して用意すること

準備学習(復習)

また復習としては毎回、どのような授業内容がなぜ最も役立ったかをA4サイズの紙に書いて提出する

評価方法

- | | | |
|--------------------------|-----|--------------------------------------|
| (1) レポートやワークショップで全員へ課題提出 | 40% | 授業の中で取り上げた課題のレポートや ワークショップでの製作物などの評価 |
| (2) 授業への参加度・熱心度 | 40% | 学生の授業に取り組む熱心さ・授業態度 |
| (3) 学生の想像性や創造性 | 20% | 授業の中で質疑応答などで顕著な成果を示した学生 |

期末考査は、新たな課題の提出によってレポート形式 (論文執筆) で行う

教科書

参考書

参考資料として、環境絵本「大亀ガウディの海」の日本語版、英語版 (希望者によって) をワークショップの中で使う。授業の中で具体的に購入について指示する。

担当教員： 牛津 信忠

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1D401910

学部教育の関連目

【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を向き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ【D】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代社会における福祉とは、単に狭義の弱者救済ではなく、人間生活を総合的に問題状況から解放する施策と技術の中核とした支援的充足・調整策である。その制度状況へ道を歴史的、思想的に理解し、福祉学への導入をしていきたい。加えて技術論についての基本視点をも概説したい。

(2) 内容

・現代社会における福祉制度の意義や理念、さらに歴史を理解する。| ・現代社会における福祉状況について理解する。| ・福祉原理の理論と思想について理解する。| ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。| ・福祉政策の課題について理解する。| (講義の進め方・順番は理解度の状況に応じて変更されることがある) |

受講者に対する要望

初めて福祉学に触れる方々は、思想的接近に戸惑うかもしれない。しかし、じっくりと授業に参加し、考えながら授業を受け止めていってほしい。出席を重んじ、また授業内の小テストを通じてその日の授業の復習をしてゆくことを望む

学びのキーワード

- ・ ノーマライゼーション
- ・ バリアフリー
- ・ 基本的な生活ニーズ
- ・ 生活構造
- ・ 絆と寄り添い

授業計画

01. 福祉制度の現在 (1)
02. 福祉の歴史 (1)
03. 福祉の歴史 (2)
04. 福祉の歴史 (3)
05. 福祉政策への道
06. 福祉政策への展開 (1)
07. 福祉政策への道 (2)
08. 福祉思想 (1)
09. 福祉思想 (2)
10. 福祉の原理
11. 福祉のニーズ論 (1)
12. 福祉のニーズ論 (2)
13. 福祉資源 (1)
14. 福祉資源 (2)
15. 福祉政策の課題

準備学習(予習)

授業の初めに指示する参考文献、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。
授業時に配布するレジュメの内、語られず残された箇所について次回までに理解を深め、問題意識を持って授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。3回に一度、授業終了10分前に実施する小テストをその間の授業の復習に役立てること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 20% | |
| (2) 小テスト | 20% | 数回の小テストにより復習の機会を作る。 |
| (3) 学期末テスト | 40% | 授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。 |
| (4) 授業態度 | 10% | 授業における真面目な参加態度を求める。 |
| (5) 授業内質問 | 10% | 授業内での確かな質問ができるかどうかを10%の範囲で加点方式の評価点をつけていく。 |

細かい上記の評価をなすが、総括的には、福祉意識の高揚とその基礎たる知識を持つことを求めている。したがって小テストや学期末テストの察典に際しては、その達成度を記述された内容から読み取っていくことになる。

教科書

参考書

毎回授業概要のプリントを配る。これに講義において重要とされた内容を書き込んだり、またマーカーチェックをしたりして拡大・深化した福祉理解へ進んでほしい。

担当教員：齋藤 一雄、金澤 貴之、川間 健之介、永井 伸幸、米田 宏樹、赫多 久美子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D402000

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 特別支援教育の目指すべき目標・理念について理解することができる。| 2) 特別支援教育体制における学校経営、学級経営、指導の実際を知ることができる。| 3) 特別支援教育に関する法律・制度等を理解することができる。| 4) 特別支援教育の現状について、障害種別ごとに概要を理解し、述べることができる。| これらを通して、障害の概要及び特別支援教育全体を理解し、教育者にとって基盤となる知識ならびに価値観と、人格の育成を図る。|

(2) 内容

特別支援教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講義する。さらに、特別支援教育の現状について障害種別ごとに定義や診断、就学、教育の概要を理解し、全体像を把握する。

受講者に対する要望

障害のある子どもの教育の現状と問題点を知識として得るだけでなく、自らの問題意識へと発展させていくことを期待する。

学びのキーワード

授業計画

01. 特別支援教育の歴史と理念（担当：米田）
02. 特別支援教育制度の成果と限界（担当：米田）
03. 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の提起（担当：米田）
04. 日本的インクルーシブ教育としての特別支援教育（担当：吉田）
05. 特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画、校内支援体制（保護者支援を含む）（担当：吉田）
06. 学校教育法、同施行規則、同施行令（学校教育制度、就学指導、学習指導要領等）（担当：吉田）
07. 障害児の教育の概要（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常学級；個別教育支援計画、個別指導計画）（担当：吉田）
08. 障害種別ごとの教育の概要（視覚障害）（担当：永井）
09. 障害種別ごとの教育の概要（聴覚障害）（担当：金澤）
10. 障害種別ごとの教育の概要（知的障害）（担当：吉田）
11. 障害種別ごとの教育の概要（肢体不自由）（担当：川間）
12. 障害種別ごとの教育の概要（病弱・身体虚弱）（担当：岡澤）
13. 障害種別ごとの教育の概要（重複障害）（担当：岡澤）
14. 障害種別ごとの教育の概要（発達障害）（担当：吉田）
15. 理解推進（担当：吉田）

準備学習(予習)

配布資料の指定された箇所を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布される資料を見直し、授業内容についての理解と考察を深めておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 課題レポート | 20% |
| (2) 講義内容の確認テスト | 80% |

教科書

資料を配布

参考書

担当教員：金澤 貴之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402313

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 聴覚障害児教育の歴史やその具体的な指導法について言語発達を軸に理解できる。| 2) 聴覚障害に関する基本的概念と聴覚障害児の発達に関する基礎的知識を理解できる。| 3) 聴覚障害児教育が直面する今日的課題について論考し、理解を深める。| これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる聴覚障害児への教育的な技能を身につけ、また心理・生理・病理に関する知識を得ることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。|

(2) 内容

本授業では、まず聴覚障害教育の歴史および教育制度、ならびに実際の指導方法について講義する。また、聴覚障害児生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達といった個体的側面について概観する。加えて聴覚障害とその概念、聞こえの仕組み、聴覚障害の発見と診断、その後の聴覚補償に至るまでの聴覚障害に関する基礎的内容を概観する。

受講者に対する要望

特別支援教諭を目指すために必要な講義である。教師として自らの学ぶ姿勢を問い直しながら講義を受けてほしい。

学びのキーワード

- ・聴覚障害教育の歴史
- ・聴覚特別支援学校
- ・教育制度
- ・指導法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 聴覚障害とその概念
03. 聴覚障害教育の歴史
04. 聴覚障害に関わる教育制度：カリキュラム編成
05. 聴覚特別支援学校（聾学校）の組織と教育の概要
06. 聴覚障害児の指導法（1）口話法による言語指導
07. 聴覚障害児の指導法（2）キュード・スピーチ、指文字、手話
08. 聴覚障害児の指導法（3）手話言語環境における言語指導
09. 聴覚障害の生理・病理（1）聞こえの仕組み
10. 聴覚障害の生理・生理（2）発見・診断・分類
11. 聴覚障害と聴覚補償
12. 聴覚障害の心理（1）認知機能の発達
13. 聴覚障害の心理（2）言語発達
14. 聴覚障害とコミュニケーション
15. 聴覚障害と社会生活

準備学習(予習)

学習指導要領については事前に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義内容の振り返りは、毎回の講義後、各自怠ることのないように心掛けること。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業における発表、小レポート等 | 60% |
| (2) 試験 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：永井 伸幸

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402414

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 視覚系の構造、機能、病態生理を理解できる。
 2) 視覚障害の概念、定義、分類を理解できる。
 3) 視覚障害の心理特性を理解できる。
 4) 視覚障害教育の課程、内容、指導方法について具体的に理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる視覚障害児への心理・生理・病理に関する知識を得、また、教育的な技能を身につけることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。

(2) 内容

視覚障害は視力、視野、色覚等の視機能の永続的低下である。視覚障害を生理的、知覚心理学的に理解するには、視機能や視知覚特性の基本的な理解が必要である。また、聴覚や触覚の特性の理解も必要である。そうした知覚、生理の基礎を踏まえた上で視覚障害と関連の深い代表的な眼疾患について学び、加えて彼らに対する教育課程並びに指導法の在り方を探り、理解を深める。

受講者に対する要望

視覚障害の児童生徒への教育に必要な内容である。講義にしっかりと集中してほしい。

学びのキーワード

- ・心理特性
- ・視覚系の生理・病理
- ・教育制度・カリキュラム編成
- ・指導方法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 視覚障害の生理・病理（1）視覚系の構造
03. 視覚障害の生理・病理（2）視機能（視力、視野等）
04. 視覚障害の生理・病理（3）視覚障害と眼疾患
05. 視覚障害児の心理（1）心理的適応
06. 視覚障害児の心理（2）聴覚と空間概念
07. 視覚障害児の心理（3）触覚と体性感覚
08. 視覚障害児の就学の基準と学びの場
09. 視覚障害特別支援学校（盲学校）における教育の特徴（カリキュラム編成を含む）
10. 視覚障害児の指導法（1）視覚障害と点字
11. 視覚障害児の指導法（2）視覚障害と歩行
12. 視覚障害児の指導法（3）弱視児に対する指導の配慮
13. 視覚障害児の指導法（4）弱視児に対する拡大の方策
14. 重複障害児の指導
15. 全体の振りかえりとまとめ

準備学習(予習)

視覚系の構造と機能については、事前学習として調べておくこと。

準備学習(復習)

講義内容についてはその都度、各自、振り返り、理解が不足している部分については復習してほしい。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業態度（発表、小レポート） | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

青柳まゆみ 鳥山由子『視覚障害教育入門—改訂版—』（ジアース教育新社）【978-4863713000】

参考書

担当教員：齋藤 一雄、吉井 勘人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402515

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 知的障害教育の教育課程の編成について、学部ごとの特色を理解できる。| 2) 教育課程と指導計画について理解できる。| 3) 知的障害児の指導方法について理解できる。| 4) 計画に関する理解を深め、指導案の作成や指導技術を学び、授業の評価の基本を理解する。| これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる知的障害児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。|

(2) 内容

本授業では、特別支援学校や特別支援学級の教育課程の編成を知るとともに、各教科等の指導計画を学ぶことができるように構成している。次に、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深める構成とし、最後に、事例を通して個別の指導計画に理解を深められるように構成している。これらを通して、特別支援学校教諭として実践的に教育に携われる能力の育成を目指す。

受講者に対する要望

知的障害や自閉症に関する図書を読んで理解を深めておくこと
また特別支援学校等のボランティアに参加すること

学びのキーワード

- ・ 領域・教科を合わせた指導
- ・ 生活単元学習
- ・ 作業学習
- ・ 教科別の指導
- ・ 自立活動

授業計画

01. オリエンテーションおよび知的障害教育の指導法の特徴（担当：吉田）
02. 知的障害特別支援学校や特別支援学級の教育課程編成と学習指導要領（領域・教科、教科別、領域別）
03. 指導計画の作成と指導案① 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）
04. 指導計画の作成と指導案② 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）の続き
05. 指導計画の作成と指導案③ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）（担当：吉井）
06. 指導計画の作成と指導案④ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き
07. 指導計画の作成と指導案⑤ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き
08. 指導計画の作成と指導案⑥ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）（担当：吉田）
09. 指導計画の作成と指導案⑦ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田）
10. 指導計画の作成と指導案⑧ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田）
11. 指導計画の作成と指導案⑨ 教科別の指導 国語（担当：吉井）
12. 指導計画の作成と指導案⑩ 教科別の指導 算数（担当：吉井）
13. 指導計画の作成と指導案⑪ 教科別の指導 国語・算数・音楽の教科書（担当：吉田）
14. 領域別の指導：道徳、特別活動、自立活動（担当：吉井）
15. 個別の指導計画と学習指導案（担当：吉田）

準備学習(予習)

学習指導要領と解説を読んで、基礎的な理解をしておくこと。
障害児に関するニュースや新聞記事等をつかんでおくこと

準備学習(復習)

学習内容をまとめ、要点を押さえておくこと

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 発表、小レポート等 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部)』(海文堂出版)【978-4303124328】| 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)』(教育出版)【978-4316300160】| 文部科学省『特別支援学校幼稚園教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領・特別支援学校高等部学習指導要領』(海文堂出版)【978-4303124229】

参考書

担当教員：鈴木 晴子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402610

学部教育の関連目

【D】「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 乳幼児期の子どもたちの生活習慣に関する知識を学びまた遊びの意義について理解できる。| 2) 乳幼児期の子どもたちの生活環境について保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から学ぶことができる。| 3) 教育課程編成の基本的な考え方と障害児への保育の考え方を理解できる。| 4) 障害児のケアのための基礎知識と実際の指導法について具体的に学ぶ。| 以上の学習により特別支援教諭に求められる、乳幼児期に必要なケアと指導の具体的方法について学ぶことができる。同時に、これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる乳幼児期の子どもたちの生活に関する知識、生活にかかわる活動への援助、そしてケアに関する具体的な技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。

(2) 内容

本講義は、主に障害のある幼児に対する療育と指導の方法について学ぶことを目的とする。講義は、以下のように構成されている。まず第一に、障害幼児の療育と指導方法を学ぶ基盤として、健常乳幼児の生活について生活習慣および遊びの観点から学ぶ。第二に、幼児期の子どもたちの発達特徴と集団生活という環境の特性を理解したうえで、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から、発達を促す環境構成とその指導の要領を学ぶことで、インクルーシブ教育の中での障害幼児の生活とその支援について考察を深める。そして第三に、教育的ニーズのある幼児に対する個別支援計画の立案と、具体的な指導に結びつく教材等について学ぶ。最後に、障害を理解するうえでの基本知識及び療育に必要なケアの方法、具体的指導方法を学ぶ。

受講者に対する要望

障害幼児に焦点を当てた授業は、本講義だけである。幼児期の支援は、特別支援教育では、基本をなすものである。しっかりと学んでほしい。

学びのキーワード

- ・子どもとは
- ・乳幼児期の子どもたちの生活理解
- ・ICF
- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領とは
- ・障害幼児の理解と支援

授業計画

01. オリエンテーション、「こども期」の生活
02. 乳幼児期の子どもたちの生活（1）生活リズムと睡眠
03. 乳幼児期の子どもたちの生活（2）生活習慣
04. 乳幼児期の子どもたちの生活（3）遊び
05. 乳幼児の子どもたちの生活（4）食育など
06. 「障害」について当事者の語りからみつめる
07. 保育における個別の教育的ニーズと援助（地域連携、他職種連携など）
08. 障害程度に応じた実際の指導法（主に重度の障害）
09. 保育・教育機関の指針等の保育および保育形態の理解
10. 「共生社会の形成」へ向けてのインクルーシブ教育システムの構築の意義（主に幼児教育において）
11. 教育課程編成の基本的な考え方と障害幼児の発達を支える教材と個別支援計画（主に絵本）
12. 障害についての生理・病理的知識の理解（1）中枢・末梢神経系についての理解、知的障害・発達障害等
13. 障害についての生理・病理的知識の理解（2）てんかん等
14. 障害児のケアおよび指導法（1）生活習慣
15. 障害児のケアおよび指導法（2）遊び

準備学習(予習)

学習しなければならない内容が多い講義であるため、指示された事前学習は、確実にして講義に出席してください。

準備学習(復習)

講義後、理解が不十分と思われた内容については、復習をすること。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|---------------------------|
| (1) 講義内容に関する知識の確認 | 50% | 実施後にフィードバックを行う。 |
| (2) 子ども遊びに関する課題レポート | 40% | 本課題レポートは後日返却する。 |
| (3) 授業毎レポート | 10% | 授業毎レポートに対しては、次週の授業時に返答する。 |

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員： 赫多 久美子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1D402717

学部教育の関連目

【D】「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

病弱児は特別支援学校（病弱）や特別支援学級（病弱）にのみ在籍しているわけではなく、他の障害種の特別支援学校や学級、通常の学級にも在籍しています。病弱児が安心して学校生活を送るためには、教師の理解と適切な配慮が不可欠です。そのため、この講義では以下のことを目標とします。|①病弱児の教育に関する歴史、法令・制度について基本的な知識を習得する。|②教育課程、教育内容・方法（各教科、自立活動）、自己管理支援について基本的な知識を習得する。|③様々な病気の子どもに対する正しい理解と適切な配慮、指導や支援の仕方の基本を身につける。

(2) 内容

我が国の病弱教育の現場について、明治時代から今日までの病弱教育、病気の種類の変遷、病弱教育の意義、これからの病弱教育について分析し、特別支援教育の観点から病気の子どもへの教育における指導法について考察します。併せて病弱教育の充実のための課題と具体的展開の方策について考えます。|①病弱児の教育に関する歴史、法令・制度について解説する。|②病弱教育における教育課程、教育内容・方法（各教科、自立活動）、自己管理支援について、実践例を挙げながら解説する。|③様々な病気の子どもに対する正しい理解と適切な指導や支援の仕方について、グループディスカッションを取り入れながら考察する。|

受講者に対する要望

病気の子どものに関する新聞、ネット、テレビの報道等に関心を向け、積極的にアクセスしましょう。|グループディスカッションでは、自ら考え、臆せず自分の意見を表明しましょう。

学びのキーワード

- ・ 病弱・虚弱の定義
- ・ 教育課程
- ・ 自己管理支援
- ・ 個別の指導計画
- ・ 合理的配慮

授業計画

01. オリエンテーション 病弱児、病弱教育とは？（定義と意義について）
02. 病弱教育の歴史と制度（明治から現在に至るまで 障害者の権利に関する条約、障害者差別解消法）|
03. 病弱教育の場と指導形態
04. 関連機関、多職種との連携（トータルケアの観点から）
05. 病弱教育における児童・生徒理解と教育課程
06. 病弱教育における個別の指導計画、個別的教育支援計画、自立支援、キャリア教育
07. 病弱教育における教科指導、自立活動の実際と課題（実践事例）
08. 病弱教育における教材教具の工夫とICT活用
09. 病弱児の自己管理支援（1）（身体疾患 アレルギー疾患の事例で）
10. 病弱児の自己管理支援（2）（精神疾患 当事者研究）
11. 病弱児の保護者・きょうだいの理解と接し方
12. 復学支援、通常学級における病弱児の支援、合理的配慮、災害時の支援体制
13. ターミナル期における指導・支援、グリーフケアについて
14. 病弱教育の課題と展望（インクルーシブ教育システムの構築）
15. まとめ

準備学習(予習)

次回の内容に関連した課題を提示します。自分で調べてノートにまとめ、講義に臨みましょう。|

準備学習(復習)

講義で取り上げた事項、専門用語等をワークシートやノートにまとめておきましょう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---------------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 40% | 毎回、講義内容に関連したリアクションペーパーの提出を求めます。 |
| (2) 試験による評価 | 60% | 第15回に授業内試験を実施します。 |

教科書

『病弱教育における各教科等の指導』編著：全国特別支援学校病弱教育校長会：ジアース教育新社（¥2,000+税）【ISBN978-4-86371-333-8】をテキストとします。

参考書

担当教員：金谷 京子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX00100

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

時間軸でこどもの変化を見る目をもつとともに、こどもにとっての環境の変化について考えられるようにしていく。|発達に応じたこどもの接し方を学ぶ。

(2) 内容

こどもの発達の基礎知識について文献で学ぶと共に実際の観察やこどもとのふれあいを通してこどものための発達支援について考えていく。|学内や学外での子どもへのアプローチ実践を通して子どもの行動特徴を理解する

受講者に対する要望

自己課題を設定できるように、こどもに関する関心は何か整理してみてください。
こどもに接する活動に積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・発達
- ・発達と遊び
- ・発達支援

授業計画

01. ガイダンス
02. 発達心理学関連文献購読
03. 文献購読
04. 文献購読
05. 文献購読
06. 小テスト
07. 文献購読
08. 文献購読
09. 自己課題の設定・調査法について
10. 学外実践
11. 文献調査結果の発表
12. 文献調査結果の発表
13. 文献調査結果の発表
14. 自己課題の振り返り
15. まとめ

準備学習(予習)

自己課題が設定できるように、多数の文献を検索しておく。

準備学習(復習)

他のゼミ生の発表を聞いて、自己課題を整理しなおす。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 活動参加 | 10% |

教科書

参考書

保育の心理学 I II 本郷一夫編 建帛社

担当教員：金谷 京子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX00213

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) 実践を通して得られた知見と文献を通して得られた知見を統合整理する | 2) 自分なりに発達に応じた支援法を考えてみる | 3) 他のゼミ生の発表を聞き、情報交換、意見交換ができるようにする

(2) 内容

専門演習Iで学んだことを基に、自己課題をさらに深めて遂行していく。| こどもの発達のメカニズムの探求と同時に、こどもの物的、人的環境の問題や不応答や障害の問題にも目を向けていく。| また、こどもから大人へと成長とともに起こる発達の問題についても学び、発達支援の方法を考える。

受講者に対する要望

積極的に子どもと関わるボランティアに参加し、実践から得た知見を自己課題に連合させてみてください。

学びのキーワード

- ・生涯発達
- ・発達支援
- ・環境問題

授業計画

01. オリエンテーション
02. 調査法について、自己課題の設定
03. 課題研究発表
04. 課題研究発表
05. 課題研究発表
06. 学外実践活動
07. 課題研究発表
08. 課題研究発表
09. 課題研究発表
10. 学外実践活動
11. 課題研究発表
12. 課題研究発表
13. 課題研究発表
14. 課題研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

自己課題に関する文献検索あるいは実地調査をしておく

準備学習(復習)

課題発表後の整理をする

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 70% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) 活動参加 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：竹淵 香織

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX00502

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようにする。講師の個々への助言指導をもとに、研究の進め方を学ぶ。

(2) 内容

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について習得した知見をもとに、各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。|お互いの発表に意見を述べ、議論する。

受講者に対する要望

自ら調べ、討論に参加する積極性を持つこと

学びのキーワード

- ・相談
- ・カウンセリング
- ・支援

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究分野の検討①
03. 研究分野の検討②
04. 文献収集と検討①
05. 文献収集と検討②
06. 文献収集と検討③
07. 各自の研究方法発表①
08. 各自の研究方法発表②
09. 各自の研究方法発表③
10. 研究テーマの検討①
11. 研究テーマの検討②
12. 各自の研究方法の再検討①
13. 各自の研究方法の再検討②
14. 各自の研究方法の再検討③
15. まとめ

準備学習(予習)

関連情報、先行研究、文献を収集する。

準備学習(復習)

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席、討論への参加度 |
| (2) 発表 | 30% | |
| (3) レポート | 40% | |

教科書

参考書

担当教員：竹淵 香織

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX00615

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

カウンセリングや相談についてそれぞれ興味ある事柄を調査・分析し考える際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。調べて分かったことを伝え合い、意見の交換をする楽しみを味わう。

(2) 内容

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について、専門演習I(相談心理学)の学習内容を踏まえ、習得した知見をもとに、さらに各々の問題意識に沿って主題に取り組む。関連した文献や資料を収集し、その内容をレポートする。|お互いの発表に意見を述べ、議論する。

受講者に対する要望

専門演習I(相談心理学)を受講していること。
自らの発表に際して、予め内容をまとめ、配布資料を作成しておく。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 調査・研究方法について①
03. 調査・研究方法について②
04. 研究報告①
05. 研究報告②
06. 研究報告③
07. 研究報告④
08. 研究報告⑤
09. 中間まとめ・振り返り
10. 研究報告⑥
11. 研究報告⑦
12. 研究報告⑧
13. 研究報告⑨
14. 研究報告⑩
15. まとめ

準備学習(予習)

関連情報、先行研究、文献を収集する。

準備学習(復習)

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) レポート・発表 | 70% |
| (2) 討議への参加 | 30% |

教科書

参考書

専門演習I (家族心理学)

CHCL-D-200

担当教員：村上 純子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX00703

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

心理学および、人間理解、家族に関する基礎を学び、自らの関心事をあきらかにすること、研究方法の基礎を身につけることが目的である。卒業研究にむけての土台となる演習である。

(2) 内容

心理学、人間理解、家族に関する研究テーマの中で、自らの問題意識を高め、それに関するトピックスを調査、レポート作成、発表する。

受講者に対する要望

授業内での発表とディスカッションを重視します。積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 心理学的研究
- ・ 家族心理学

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究とは
03. 文献の調べ方
04. 研究レポートの書き方
05. 文献講読とディスカッション (1)
06. 文献講読とディスカッション (2)
07. 文献講読とディスカッション (3)
08. 文献講読とディスカッション (4)
09. 研究レポート作成 (1)
10. 研究レポート作成 (2)
11. レポート発表と討議 (1)
12. レポート発表と討議 (2)
13. レポート発表と討議 (3)
14. レポート発表と討議 (4)
15. まとめ

準備学習(予習)

担当者は文献を読み、レジメを準備し発表に備えること。担当に関わらず全員文献を読むこと。

準備学習(復習)

授業内容を振り返り、自らの研究レポート作成に生かすこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・授業態度 | 50% |
| (2) 研究レポート | 50% |

教科書

参考書

専門演習II (家族心理学)

CHCL-D-300

担当教員：村上 純子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX00816

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

心理学および、人間理解、家族に関する基礎を学び、自らの関心事をあきらかにすること、研究方法の基礎を身につけることが目的である。卒業研究にむけての土台となる演習である。

(2) 内容

専門演習Iに引き続き、心理学、人間理解、家族に関する研究テーマの中で、自らの問題意識を高め、それに関するトピックスを調査、レポート作成、発表する。

受講者に対する要望

授業内での発表とディスカッションを重視します。積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・心理学的研究
- ・家族心理学

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究論文とは
03. 研究テーマの選定
04. 文献講読とディスカッション (1)
05. 文献講読とディスカッション (2)
06. 文献講読とディスカッション (3)
07. 文献講読とディスカッション (4)
08. 文献講読とディスカッション (5)
09. 研究小論文作成 (1)
10. 研究小論文作成 (2)
11. 小論文発表と討議 (1)
12. 小論文発表と討議 (2)
13. 小論文発表と討議 (3)
14. 小論文発表と討議 (4)
15. まとめ

準備学習(予習)

担当者は文献を読み、レジメを準備し発表に備えること。担当に関わらず全員文献を読むこと。

準備学習(復習)

授業内容を振り返り、自らの研究レポート作成に生かすこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 研究レポート | 50% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX02626

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習なので、まずは発表とは何かを学び、資料の作成法や発表について身につけることを目標とする。

(2) 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。

受講者に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 心意
- ・ 民俗
- ・ 身体性

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文化と心意との関係を考える
03. 発表
04. 発表
05. 発表
06. 発表
07. 発表
08. 発表
09. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

資料を事前に熟読しておくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 資料 | 50% |

教科書

参考書

専門演習Ⅰ（心理療法）

CHCL-D-200

担当教員：大橋 良枝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX02710

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門研究ⅠⅡを通して、心理療法とは何かについて理解し、事例研究法を学ぶための基礎を身に付ける。

(2) 内容

心理療法とは何かを学ぶ。|具体的には、心理療法とカウンセリングの違い、心理療法の歴史、心理療法の効果と禁忌などを、講義、事例の検討、ビデオなどを通じて学ぶ。

受講者に対する要望

事例を扱いますので、臨床的態度もともに学ぶものと理解し、真摯な態度での出席を望みます。

学びのキーワード

- ・心理療法
- ・発達
- ・人格構造
- ・事例研究法

授業計画

01. 概説
02. 心理療法とは何か 1
03. 心理療法とは何か 2
04. ビデオ グロリアと3人のセラピスト
05. 討論 グロリアと3人のセラピストについて 1
06. 討論 グロリアと3人のセラピストについて 2
07. 心理療法の歴史
08. こどもの心理療法 1
09. こどもの心理療法 2
10. こどもの心理療法 3
11. こどもの心理療法 まとめ
12. 力動論 1
13. 力動論 2
14. 討論
15. まとめ

準備学習(予習)

指定する参考文献、事例等を事前に必ず読んでくること。

準備学習(復習)

授業内容について理解が十分であるか確認し、疑問点があれば次の授業冒頭に質問すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 出席態度 | 60% |
| (2) 最終レポート | 40% |

教科書

参考書

現代心理療法入門 小谷英文著

専門演習II (心理療法)

CHCL-D-300

担当教員：大橋 良枝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX02720

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門研究 I II を通して、心理療法とは何かについて理解し、事例研究法を学ぶための基礎を身に付ける。

(2) 内容

専門演習 I に引き続き、心理療法とは何かについて学ぶ。|具体的には、専門演習 I に続き、青年期、成人臨床事例を用いて、その検討を行う。

受講者に対する要望

事例を扱いますので、臨床的態度もともに学ぶものと理解し、真摯な態度での出席を望みます。

学びのキーワード

授業計画

01. 概説
02. 人格論 1
03. 人格論 2
04. 病理論 1
05. 病理論 2
06. 青年期の心理療法 1
07. 青年期の心理療法 2
08. 青年期の心理療法 3
09. 討論 1
10. 討論 2
11. 成人の心理療法 1
12. 成人の心理療法 2
13. 成人の心理療法 3
14. 討論 1
15. 討論 2 まとめ

準備学習(予習)

授業内で提示された資料に事前に目を通し、理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業内容について理解が十分であるか確認し、疑問点があれば次の授業冒頭に質問すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 出席態度 | 60% |
| (2) 最終レポート | 40% |

教科書

参考書

現代心理療法入門 小谷英文著

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX02910

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1. 現代を生きる子どもたちにとって、心身ともに健やかに成長していくためには、どのような生活環境が望ましいのかについて考え、理解を深める。| 2. 「子どもの健康」という広いテーマから、興味がある課題を自ら見つけ出し、今後の学習、研究活動につなげていく。|

(2) 内容

専門演習Ⅰでは、子どもが心身ともに健やかに成長していくために望ましい生活環境、大切にしていけることについて学習する。そして、文献講読と討議により、現代を生きる子どもたちの健康課題とその対処法や支援方法、健康教育方法についての知識、理解を深めていく。

受講者に対する要望

子どもの健康問題とその対処法、支援方法に興味がある学生が望ましいです。

学びのキーワード

- ・子どもの身体的な課題
- ・子どもの社会的な課題
- ・子どもの心理的な課題

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文献講読と討議 (子どもの生活実態)
03. 文献講読と討議 (子どもの生活習慣)
04. 文献講読と討議 (子どもの体力・運動能力の現状)
05. 文献講読と討議 (子どもの身体的な課題)
06. 文献講読と討議 (子どもの社会的な課題)
07. 文献講読と討議 (子どもの心理的な課題)
08. 文献講読と討議 (子どもと遊び)
09. 文献講読と討議 (子どもとメディア)
10. 文献講読と討議 (子どもの食生活、食育)
11. レポート作成 (子どもを取り巻く諸問題)
12. レポート作成 (子どもを取り巻く諸問題)
13. レポート作成 (子どもを取り巻く諸問題)
14. 発表会
15. まとめ

準備学習(予習)

日常的に、子どもの諸問題に対する興味・関心を持つように努める。事前に指示した内容について学習する。

準備学習(復習)

指示された内容について学習する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：齊藤 理砂子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX03024

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文献検索、文献調査方法、文献の読み方、討議方法、資料作成方法等を身に付ける。| 様々な文献による情報収集、討論を通して、自分なりの研究課題を探索する。

(2) 内容

専門演習Iで学んだ子どもの健康課題を基礎に、専門演習IIでは、現代を生きる子どもたちの健康課題を解決していくための方法について考え、研究活動につなげていく。そのためには、まず文献検索、文献調査方法、論文閲読、討議方法、資料作成方法について学習する。また、様々な文献による情報収集、討論を通して、自分なりの研究課題を探索する。

受講者に対する要望

研究活動のスタートとして、文献検索、ディスカッション等、積極的に行ってください。

学びのキーワード

- ・ 小児保健学
- ・ 学校保健
- ・ ヘルスプロモーション
- ・ 文献検索方法
- ・ 研究課題探索

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究とは1
03. 研究とは2
04. 文献検索、文献調査方法1
05. 文献検索、文献調査方法2
06. 文献の読み方1
07. 文献の読み方2
08. ディスカッションの仕方1
09. ディスカッションの仕方2
10. 資料の作り方1
11. 資料の作り方2
12. 研究テーマを考える1
13. 研究テーマを考える2
14. 研究テーマを考える3
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿った内容について、予め学習しておく

準備学習(復習)

授業で学んだこと、気づいたことをまとめる

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) 課題レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：金谷 京子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX05000

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

①発達心理学の基礎を踏まえた上で、発達および発達支援についてさらに関心を深め、研究の視点を定めていく。②自らが研究したい分野についてのデータ収集の方法を身に付ける。③研究計画の立て方を理解する。④研究計画・データ収集の結果を発表できるようにする。

(2) 内容

①発達心理学に関する研究書を読み解きながら、こどもから高齢者に至る発達に関連する研究分野を調べ、関心のある研究テーマを見つけていく。②各自の研究分野に関連したデータ収集の方法を学ぶ。③研究計画の立て方を、事例を見ながら学習する。

受講者に対する要望

発達心理関係の文献を読んでおくこと。発表用のレジュメを作成し、配布できるように準備しておく。

学びのキーワード

- ・生涯発達
- ・発達研究
- ・質的研究
- ・事例研究

授業計画

01. ガイダンス
02. 参考文献の読み解き、問題意識から研究テーマの設定へ
03. 事例研究、質的研究について
04. 研究計画の立て方
05. 資料の探し方
06. 情報の整理の仕方
07. 専門的な文章の書き方
08. 課題研究中間報告会①
09. 課題研究中間報告会②
10. 課題研究中間報告会③
11. プレゼンテーションの方法①
12. プレゼンテーションの方法②
13. 課題研究発表会①
14. 課題研究発表会②
15. 課題研究発表会③

準備学習(予習)

発達研究に関わる文献購読をしておくこと

準備学習(復習)

自己の課題研究の振り返りをする

評価方法

(1) 出席と討論を中心とした授業への関与度、数回の 100% 統合評価

教科書

参考書

担当教員：金谷 京子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX05115

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

卒業研究 I で学びを深めた各自のテーマに取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスを通し、独自の発想や想像を養い、調査研究を実践していく力を身につけ、自らの考えをまとめ、他者にそれを伝える力を身につけることを目指す。

(2) 内容

研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。さらに家族心理学の分野において、各受講者が自分の関心あるテーマを選択し、研究レポートおよび研究活動を行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

受講者に対する要望

決められた役割を遂行すること。ゼミで推奨する活動への積極的に参加すること。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究経過報告とディスカッション①
03. 研究経過報告とディスカッション②
04. 研究経過報告とディスカッション③
05. 個別指導のフィードバック
06. 研究経過報告とディスカッション④
07. 研究経過報告とディスカッション⑤
08. 研究経過報告とディスカッション⑥
09. 研究経過報告とディスカッション⑦
10. 個別研究論文完成指導①
11. 個別研究論文完成指導②
12. 個別研究論文完成指導③
13. 卒業研究発表①
14. 卒業研究発表②
15. 卒業研究発表③とまとめ

準備学習(予習)

自己が設定した課題について調査をしておく

準備学習(復習)

ゼミで討論した結果をもとに課題を修正する

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 課題発表 | 20% |
| (2) 課題レポート提出 | 70% |
| (3) 活動参加 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：竹瀨 香織

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX05402

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について習得した知見を基に、各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようにする。講師の個々への助言指導をもとに、研究の進め方を学ぶ。

(2) 内容

各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。研究テーマについてを発表し、他のメンバーとディスカッションする。

受講者に対する要望

自らの発表に際して、予め内容をまとめ、配布資料を作成しておく。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究分野の検討①
03. 研究分野の検討②
04. 文献収集と検討①
05. 文献収集と検討②
06. 文献収集と検討③
07. 各自の研究方法発表①
08. 各自の研究方法発表②
09. 各自の研究方法発表③
10. 研究テーマの検討①
11. 研究テーマの検討②
12. 研究方法の検討①
13. 研究方法の検討②
14. 研究方法の検討③
15. まとめ

準備学習(予習)

関連情報、先行研究、文献を収集する。

準備学習(復習)

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|------|
| (1) 個人発表とレポート | 80% | 総合評価 |
| (2) 討議への参加度 | 20% | |

教科書

参考書

担当教員：竹瀨 香織

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX05517

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

卒業研究 I (相談心理学) で決めたテーマについて研究計画を実施する。最終的には各自研究をまとめ、発表する。

授業計画

01. ガイダンス
02. 各自の研究計画の発表とディスカッション①
03. 各自の研究計画の発表とディスカッション②
04. 各自の研究計画の発表とディスカッション③
05. 各自の研究計画の発表とディスカッション④
06. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑤
07. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑥
08. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑦
09. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑧
10. 各自の研究計画の発表とディスカッション⑨
11. 報告書のまとめ①
12. 報告書のまとめ②
13. 報告書のまとめ③
14. 完成した研究の発表①
15. 完成した研究の発表②

(2) 内容

各自の研究をまとめる。まとめた研究について発表する。

準備学習(予習)

研究のテーマについて調査、レポート執筆を進める。ディスカッションに備えて内容を整理する。

準備学習(復習)

ディスカッションで得られた指摘や意見を参考に、研究を振り返り展開させていくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----------------|
| (1) 研究レポート | 80% |
| (2) 発表 | 20% 発表・ディスカッション |

受講者に対する要望

卒業研究 I の単位を取得していること。

学びのキーワード

教科書

参考書

担当教員：村上 純子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX05603

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマに取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスを通し、独自の発想や想像を養い、調査研究を実践していく力を身につけ、知識の獲得と自らの視点の確立を目指す。

(2) 内容

研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。さらに家族心理学の分野において、各受講者が自分の関心あるテーマを選択し、研究レポートおよび研究活動を行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

受講者に対する要望

各自のテーマや目的に応じての学習であるため、授業外での学習が重要となる。自らのテーマに関する資料を積極的に集め、知識の幅を広げられるよう積極的に参加すること。さらに授業時に積極的にディスカッションし、その議論を自らの研究に活かすことを期待する。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究論文とは？ 研究論文の書き方、まとめ方について
03. 研究経過報告とディスカッション①
04. 研究経過報告とディスカッション②
05. 研究経過報告とディスカッション③
06. 研究経過報告とディスカッション④
07. 研究経過報告とディスカッション⑤
08. 中間発表（講義およびディスカッション）
09. 研究経過報告とディスカッション⑥
10. 研究経過報告とディスカッション⑦
11. 研究経過報告とディスカッション⑧
12. 研究経過報告とディスカッション⑨
13. 研究経過報告とディスカッション⑩
14. 研究経過報告とディスカッション⑪
15. まとめ

準備学習(予習)

各自の研究テーマに沿って、研究論文作成のための下準備を行うこと。

準備学習(復習)

各回において、指摘のあった研究論文作成上の改善点を再度振り返り次回以降に生かすこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート・発表 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：村上 純子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX05718

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

卒業研究 I で学びを深めた各自のテーマに取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスを通し、独自の発想や想像を養い、調査研究を実践していく力を身につけ、自らの考えをまとめ、他者にそれを伝える力を身につけることを目指す。

(2) 内容

研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。さらに家族心理学の分野において、各受講者が自分の関心あるテーマを選択し、研究レポートおよび研究活動を行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

受講者に対する要望

各自のテーマや目的に応じての学習であるため、授業外での学習が重要となる。自らのテーマに関する資料を積極的に集め、知識の幅を広げられるよう積極的に参加すること。さらに授業時に積極的にディスカッションし、その議論を自らの研究に活かすことを期待する。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 研究経過報告とディスカッション①
03. 研究経過報告とディスカッション②
04. 研究経過報告とディスカッション③
05. 個別指導のフィードバック
06. 研究経過報告とディスカッション④
07. 研究経過報告とディスカッション⑤
08. 研究経過報告とディスカッション⑥
09. 研究経過報告とディスカッション⑦
10. 個別研究論文完成指導①
11. 個別研究論文完成指導②
12. 個別研究論文完成指導③
13. 卒業研究発表会①
14. 卒業研究発表会②
15. 卒業研究発表会③とまとめ

準備学習(予習)

各自の研究テーマに沿って、研究論文作成のための下準備を行うこと。

準備学習(復習)

各回において、指摘のあった研究論文作成上の改善点を再度振り返り次回以降に活かすこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート・発表 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX07413

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究なので、特に論文を読む力を身につけたい。

(2) 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。

受講者に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 心意
- ・ 民俗
- ・ 身体性

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文化と心意との関係を考える
03. 発表
04. 発表
05. 発表
06. 発表
07. 発表
08. 発表
09. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

資料を事前に熟読しておくこと。特に指示された論文は読んでおくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。また、関連の論文を探す努力も欲しい。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 資料 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX07528

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究なので、特に論文を批判的に読む力を身につけたい。

(2) 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。卒業論文を書く場合は、その基礎まで固めておきたい。

受講者に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 日本文化
- ・ 心意
- ・ 民俗
- ・ 身体性

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文化と心意との関係を考える
03. 発表
04. 発表
05. 発表
06. 発表
07. 発表
08. 発表
09. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

準備学習(予習)

資料を事前に熟読しておくこと。特に指示された論文は読んでおくこと。

準備学習(復習)

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。また、関連の論文を探す努力も欲しい。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 資料 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：大橋 良枝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX07610

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自分の関心を明確にするために、積極的に文献等に当たる力を身につけること。|自分の関心と問題意識を明確にするために、発表の場を利用する力をつけること。 |

(2) 内容

卒業論文を進めていく。|進捗状況を発表し、卒業論文の準備を進める。 | |

受講者に対する要望

些細な疑問もゼミの中で挙げて、その場で解決し、次につなげていく姿勢

学びのキーワード

授業計画

01. 概説
02. 担当者による発表 1
03. 担当者による発表 2
04. 担当者による発表 3
05. 担当者による発表 4
06. 担当者による発表 5
07. 担当者による発表 6
08. 担当者による発表 7
09. 担当者による発表 8
10. 担当者による発表 9
11. 担当者による発表 10
12. 担当者による発表 11
13. 担当者による発表 12
14. 総評
15. まとめ

準備学習(予習)

発表の準備のための、調査等。 |

準備学習(復習)

発表を経てレポート、論文を修正。 | |

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 出席態度 | 50% |
| (2) 研究進捗状況 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：大橋 良枝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX07723

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業論文執筆の第二段階である。自分の関心と問題意識を明確にするために、発表の場を利用する力をつけること。

(2) 内容

卒業研究IIに引き続き、卒業論文を進めていく。| 毎回、進捗状況を発表し、卒業論文の準備を進める。

受講者に対する要望

些細な疑問もゼミの中で挙げて、その場で解決し、次につなげていく姿勢

学びのキーワード

- ・心理療法
- ・心理学研究法
- ・発達段階

授業計画

01. 学期末レポートの返却と解説
02. 担当者による発表1
03. 担当者による発表2
04. 担当者による発表3
05. 担当者による発表4
06. 担当者による発表5
07. 中間発表
08. 担当者による発表6
09. 担当者による発表7
10. 担当者による発表8
11. 担当者による発表9
12. 担当者による発表10
13. 担当者による発表11
14. 最終発表
15. まとめ

準備学習(予習)

発表の準備のための、調査等。

準備学習(復習)

発表を経てレポート、論文を修正。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 出席態度 | 50% |
| (2) 研究進捗状況 | 50% |

教科書

参考書

担当教員： 齊藤 理砂子

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1DX07811

学部教育の関連目

【D】 演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

研究テーマの設定方法、調査・分析方法、研究成果の発表方法について、知識を修得する

(2) 内容

専門演習Ⅱで学んだことを発展させるため、研究テーマの設定方法、調査・分析方法、研究成果の発表方法を学ぶ。そして、「子どもの健康とその支援」という広いテーマから、各々が研究テーマを設定し、調査、分析、研究成果の発表方法を学習していく。

受講者に対する要望

積極的に研究活動に取り組むこと

学びのキーワード

- ・ 小児保健学
- ・ 調査方法
- ・ 研究方法
- ・ 学校保健学
- ・ ヘルスプロモーション

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究テーマの設定 1
03. 研究テーマの設定 2
04. 研究テーマの設定 3
05. 研究経過報告と討議 1
06. 研究経過報告と討議 2
07. 研究経過報告と討議 3
08. 中間発表会
09. 研究経過報告と討議 4
10. 研究経過報告と討議 5
11. 研究経過報告と討議 6
12. 研究経過報告と討議 7
13. 研究経過報告と討議 8
14. 発表会
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿って、予め学習しておくこと

準備学習(復習)

授業で気がついたこと、学んだことをまとめる

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 発表内容 | 50% |

教科書

参考書

担当教員： 齊藤 理砂子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1DX07926

学部教育の関連目

【D】 演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

設定したテーマに基づき、研究を行い、最終的には、卒業論文または報告書としてまとめることを目標とする。

(2) 内容

卒業研究Iで設定したテーマに基づいて、研究を進めていく。その際にディスカッション等を行うことにより、思考を深め、考察につなげていく。

受講者に対する要望

積極的に研究活動に取り組むこと

学びのキーワード

- ・ 小児保健学
- ・ 調査方法
- ・ 研究方法
- ・ 学校保健学
- ・ ヘルスプロモーション

授業計画

01. 研究テーマの設定
02. 経過報告、ディスカッション
03. 経過報告、ディスカッション
04. 経過報告、ディスカッション
05. 経過報告、ディスカッション
06. 中間発表会
07. 経過報告、ディスカッション
08. 経過報告、ディスカッション
09. 経過報告、ディスカッション
10. 卒業研究レポート作成
11. 卒業研究レポート作成
12. 卒業研究レポート作成
13. 卒業研究レポート作成
14. 卒業研究レポート作成
15. 発表会

準備学習(予習)

授業計画に沿って、予め学習しておくこと

準備学習(復習)

授業で気がついたこと、学んだことをまとめる

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート | 80% |
| (2) 授業参加状況 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：休講

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX08010

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

学校保健学あるいは学校健康教育学領域の文献を読み合いながら、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、今日的健康課題について、自分自身の興味関心に基づいてテーマ設定し、自身の調べ学習、まとめ、発表を通して、自身の研究をまとめていく。ここでは、調べ学習、調査の方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など、学生として必要な表現スキルの方法もあわせて学んでいくことができる。

(2) 内容

子どもの発育発達という視点から、子ども達の健康や安全について考えていく。健康学の基礎的知識を学ぶと同時に、一般社会に出現している現代的健康課題を取り上げ、皆で論じていきたい。英語の文献購読も毎回行う。|後半の授業では、学生自身が興味を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。|

受講者に対する要望

子ども、教育、学校、あるいは現代社会に出現している心や身体の課題に関心がある者は、積極的に志望して欲しい。

学びのキーワード

- ・学校保健
- ・健康教育
- ・表現スキル

授業計画

01. 子どもの身体の現状
02. 子どもの身体のおかしさ
03. 教育保健の現状と課題
04. 社会的課題としての子どもの身体
05. 各自の研究テーマを設定
06. 各自が関心を持った研究テーマを発表する
07. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる①文献を使って
08. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる②ニューストピックを使って
09. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる③インターネットを使って
10. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる④実験実習から
11. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる⑤質問紙を使って
12. 各自のまとめを発表ー①討論の方法ブレインストーミング
13. 各自のまとめを発表ー②討論の方法ディスカッションとディベート
14. 各自のまとめを発表ー③討論ロールプレイング
15. まとめと今後の課題についての討論

準備学習(予習)

テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 自から考え、それを発表する能力。他者の意見を聞き、それを理解する態度を評価する。 |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% | 各授業におけるまとめと最終時にまとめるレポートを評価する。 |

授業への参加の状況を把握し評価の観点としたい。具体的には、出席状況、発言の状況、発表の状況などがその対象となる。

教科書

授業の中で説明

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1DX08210

学部教育の関連目

【D】演習科目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

卒業研究 I で学んだ内容を継続しながら、子ども、学校、教育に関連する領域の文献を読み合いながら、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、今日健康課題について、自分自身の興味関心に基づいてテーマ設定し、自身の調べ学習、まとめ、発表を通して、自身の研究の意識を深めていくと同時に、最終的に論文としてそれをまとめていく過程を学ぶことによって考察力を高めていくことになる。

(2) 内容

卒業研究 I の継続教育として、学校における児童生徒の発育発達という視点から、子ども達の健康や安全について考えていく。と同時に将来卒業論文やゼミ論を書くことを前提に、調べ学習、調査の方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法などを改めて学習し、学生として必要と思われる表現スキルの方法もあわせて学んでいく。そして学生自身が興味を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する力を養うために、その過程では学生相互で討論を通じてお互いの研究内容を高めていく。

受講者に対する要望

卒業論文をまとめようとしているものだけでなく、ゼミ論として論文をまとめようと考えているものは積極的に参加して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 学校保健
- ・ 健康教育
- ・ 表現スキル

授業計画

01. 研究論文とは何か
02. 研究論文のまとめ方
03. 研究論文の発表の方法 (プレゼンテーションの方法)
04. 各自の研究テーマを設定①ディスカッション
05. 各自の研究テーマを設定②発表
06. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる①自主研究一報告
07. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる②自主研究一報告
08. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる③自主研究一報告
09. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる④自主研究一報告
10. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる⑤自主研究一報告
11. 各自の研究成果のまとめを発表一討論①
12. 各自の研究成果のまとめを発表一討論②
13. 各自の研究成果の修正一討論①
14. 各自の研究成果の修正一討論②
15. まとめと今後の課題について

準備学習(予習)

テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|------------------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 50% | 他者の意見を聞く態度と自らが考え、その考えを発表できるかを評価する。 |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% | 毎時間に書くまとめと総合的に書くレポートによる評価 |

授業への参加の状況を把握し評価の観点としたい。具体的には、出席の状況、発言の状況、発表の状況などがその対象となる。

教科書

授業の中で提示

参考書

担当教員：澤田 豊

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W221000

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

犯罪を通して人間理解を深める機会としたい。犯罪が起きるたびに社会は何故、どうしてと原因を探し、対策を検討するが、人間の歴史において犯罪がなくなったことはない。犯罪者や犯罪現象についての理解を深め、どう対処すべきかを考える枠組みを提供する。

(2) 内容

犯罪は個人と社会の相互作用によるもので、人間の社会行動の一つである。犯罪には個人的要因・社会環境要因・その相互関係が関与し、歴史や発達という時間要因の影響もあって、犯罪を単純な直線的因果関係で説明することは難しい。|犯罪は何故起きるのか、非行少年や犯罪者とはどういう人たちかについて人間の特性から説明する。犯罪統計や事例を通して、犯罪理論や犯罪者類型について講義をする。また、犯罪者の処遇について説明し、犯罪の防止策を考える。|心理学的研究のほか、精神医学・動物生態学・社会学の関連する研究も紹介する。

受講者に対する要望

新聞などの非行犯罪に関する記事で疑問があれば、質問してほしい。講義への質問も歓迎します。|心理学の基礎知識のあることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 非行
- ・ 犯罪
- ・ 適応
- ・ 無力感
- ・ 疎外感

授業計画

01. 講義内容の説明 参考文献の紹介 |非行少年や犯罪者はどういう人たちか 我々と何が違うのか 同じなのか
02. 人間社会と犯罪 |人間にとって犯罪とは何か 歴史上犯罪がなくなるのは何故か
03. 適応と犯罪 |犯罪を社会適応の視点から考える。人間が困難に直面した時に取る適応行動の一つとして犯罪を説明する。
04. 攻撃性と悪 |攻撃性は犯罪と結び付けられることが多く悪と考えられやすいが、本当だろうか
05. 犯罪者類型 |非行少年や犯罪者の様々なタイプを紹介する。
06. 犯罪理論1 |様々な犯罪理論を紹介し、これまで犯罪者についてどう考えてきたかを学ぶ。
07. 犯罪理論2 |非行少年に焦点を当てた理論を説明する。
08. 非行現象 |犯罪統計をもとに非行現象の現状について説明する
09. 多様な非行少年 |事例を通して様々な非行に関係する要因を説明する。
10. 発達と非行 |思春期に非行が多くなるのは何故か
11. 非行少年の処遇 |非行少年は警察・裁判所・矯正・保護という司法の流れの中でどう対応がなされているかを説明する。
12. 非行再考1 |何故非行をするのか
13. 非行再考2 |どうしたら非行をしなくなるのか
14. 非行再考3 |事例を通して理論の適用と限界を学ぶ。
15. 前半のまとめ |
16. 犯罪現象 |犯罪白書からみた犯罪の現状
17. 犯罪者の処遇 |施設処遇を中心に説明する。
18. 拘禁 |拘禁状況における人間の行動
19. 拘禁に関する社会実験と「夜と霧」から犯罪者の処遇を考える。
20. 犯罪者の多様性1 |罪名からみた犯罪者の特徴
21. 犯罪者の多様性2 |早発型と遅発型
22. 犯罪者の多様性3 |累犯者
23. 犯罪の個人的要因 |性格などは関係するのか
24. 犯罪の社会環境要因 |家庭・職場・人間関係など何が関係するのか
25. 犯罪要因の複雑さ |個人的要因と環境要因の相互作用 同じような要因がありながら犯罪をする人とならない人がいるのは何故か
26. 犯罪をめぐる諸問題1 |ストーカー犯罪 悲嘆の心理からの分
27. 犯罪をめぐる諸問題2 |ホワイトカラー犯罪
28. 犯罪をめぐる諸問題3 |犯罪のない社会はあり得るか
29. 犯罪再考 |事例（ゲーリー・ギルモア）を通して人間にとって犯罪とは何かを考える。
30. まとめ |

準備学習(予習)

特に必要はないが、非行犯罪に関する自分自身の考えや疑問をまとめておくとよい。

準備学習(復習)

講義の内容について疑問を大切にしてください。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 試験 | 70% | 中間試験 (35%)、最終試験 (35%) |
| (2) レポート | 30% | 講義の中で課題を与える。 |

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：堀 恭子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W221158

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

対人援助については、専門職としてどのようにあるべきかについて教育がなされるが、「なすべきことができなかつたときにどうするか」について学ぶ機会は少ない。福祉心理学では福祉を対人援助と読み解いて、援助者・被援助者双方を心理学的側面から理解すると同時に、対人援助場面をコミュニティ心理学の視点を持ってシステムティックに捉える練習の場とし、現実の援助場面について考える機会とする。

(2) 内容

講義の前半では、参考文献に沿って主に援助者に起こっていることについて学び、後半では具体的な対人援助場面において、援助者・被援助者・援助場面に起こりうることについて紹介し、受講者と共に対人援助について考えていきたい。ほぼ毎回受講者間でのグループディスカッションを通して、学びを深めていく予定である。

受講者に対する要望

話題提供されたことに対して、自分の考えをまとめて記述することが求められます。また、受講者間のグループディスカッションを行いますので、出席や授業内課題の内容を重視します。一方的に聞くだけの授業ではないのですが、苦手意識を取り去るよい機会ですので、ぜひチャレンジしてみてください。

学びのキーワード

- ・心理学的視点
- ・支援を受けることの理解
- ・支援することの理解
- ・相互作用の視点を持った自己理解
- ・相互作用の視点を持った関係理解

授業計画

01. オリエンテーション
02. 参考文献解説 (1)
03. 参考文献解説 (2)
04. 参考文献解説 (3)
05. 参考文献解説 (4)
06. 参考文献解説 (5)
07. 参考文献解説 (6)
08. 参考文献解説 (7)
09. まとめ
10. 福祉における心理学
11. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (1)
12. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (2)
13. 心理学的視点からみた児童・生徒支援
14. 心理学的視点からみた障害支援 (含医療)
15. まとめ／人はなぜ・どのように援助するか

準備学習(予習)

授業終了時に、次回までの簡単な課題を提示し、課題内容を踏まえて指示されたショートレポートを作成する。

準備学習(復習)

講義内容について、自分の考えをまとめ、小グループで意見を出し合い他者の考えを知り、自分の考えを伝える。ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識と思考の整理を行う。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業内課題 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末レポート | 40% |

教科書

参考書

参考文献を適宜紹介します

担当教員： 山本 渉

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1W221564

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

パーソナリティ研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論について学び、心理学において個人差の問題を取り扱うための基礎知識を習得します。その上で、多面的なアプローチをもとに考えたり体験したりすることで、自己や他者の内面をより深く理解できるようになることを目標としています。

(2) 内容

人間の行動や意識的経験は同じ状況においてさえ、人によって少なからず異なります。一方、状況が変化しても、その人に特有の、ある程度一貫した行動や意識的経験が認められます。パーソナリティ（人格）とは、このような個人差と個人内の一貫性に関わる概念であり、その人のその人らしさを形作っているものです。本講義では、パーソナリティ研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論を紹介します。また、自己や他者のパーソナリティについての理解を深めるため、実習等の具体的な課題も盛り込みながら授業を進めます。

受講者に対する要望

実習や課題等の提出物は、講義を聞かないと作成できません。全出席を目指すこと、積極的に参加することを求めます。

学びのキーワード

- ・ 類型論と特性論
- ・ パーソナリティ検査法（質問紙法、投映法、作業検査法）
- ・ 学派ごとのパーソナリティの捉え方
- ・ パーソナリティの形成
- ・ パーソナリティ障害

授業計画

01. オリエンテーション
02. パーソナリティ研究の歴史と理論（類型論と特性論）
03. パーソナリティ検査法(1)：質問紙法
04. パーソナリティ検査法(2)：投映法、作業検査法
05. 【実習1】投映法を体験してみよう
06. 学派による捉え方の違い(1)：精神分析から
07. 学派による捉え方の違い(2)：クライアント中心療法と認知行動療法から
08. 【実習2】自分の認知・感情・行動について考えてみよう
09. パーソナリティはどのように形成されるのか
10. 社会心理学的知見から
11. 人間関係・家族関係の中でパーソナリティを捉える
12. 面接法の技法
13. 【実習3】パーソナリティ障害に対する理解を深めよう
14. 適応と支援（パーソナリティ障害を中心に）
15. まとめ

準備学習(予習)

実習は、その前までの回の授業内容と連動しているので、実習前には内容を再確認すること。

準備学習(復習)

毎回配布するプリントの内容を振り返り、理解を定着させること。実習課題を丁寧に取り組み、提出すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 40% |
| (2) 実習課題の提出 | 20% |
| (3) 学期末テスト | 40% |

教科書

参考書

児童福祉論 A

CGSW-D-200/CGSW-W-2

担当教員：栗原 直樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230656

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。|・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。|・児童の権利について理解する。|・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。

(2) 内容

・児童・家庭を取り巻く社会環境 | ・児童・家庭福祉の理念とあゆみ | ・児童・家庭にかかわる法制度

受講者に対する要望

【注意事項】
「児童福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (1) 現代社会と子どもの成長・発達
02. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (2) 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
03. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (3) 児童・家庭の福祉ニーズの実際
04. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (1) 児童家庭福祉の理念および概念
05. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (2) 児童育成責任
06. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (3) 児童の権利保障
07. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (4) 児童家庭福祉制度の発展過程
08. 児童・家庭にかかわる法制度 (1) 児童・家庭福祉の法体系
09. 児童・家庭にかかわる法制度 (2) 児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度 (3) 児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度 (4) DV防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度 (5) 母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度 (6) 次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度 (7) 児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度 (8) 児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 松原康雄、オ村純、芝野松次郎 編著 | ミネルウ・ア書房 社会福祉士養成テキストブック ISBN 978-4-623-07378-8

参考書

児童福祉論B

CGSW-D-200/CGSW-W-2

担当教員：栗原 直樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230764

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。| ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。| ・児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。|

(2) 内容

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス | ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 | ・児童・家庭への相談活動の実際

受講者に対する要望

【注意事項】
「児童福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (1) 母子保健
02. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (2) 障害・難病のある児童と家族への支援
03. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (3) 児童の社会的養護サービス
04. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (4) 児童虐待対策
05. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (5) 保育
06. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (6) ひとり親家庭の福祉
07. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (7) 子育て支援
08. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (8) 児童健全育成
09. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (9) 非行・情緒障害児への支援
10. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (10) 女性福祉
11. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (1) 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (2) 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
13. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (3) 児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
14. 児童・家庭への相談活動の実際 (1) 児童相談所による支援
15. 児童・家庭への相談活動の実際 (2) 多職種連携、ネットワーキング

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 松原康雄、オ村純、芝野松次郎 編著 | ミネルウゝア書房 社会福祉士養成テキストブック ISBN 978-4-623-07378-8

参考書

人間福祉学科

社会学 (W用)

SOC1-0-100/SOC1-P-100/SOC1-W-100

担当教員：渡邊 隼

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A00356

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(社会)：必修科目【教】高等学校教諭一種(公民)：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生(まちづくり)コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。
|・生活について理解する。|・人と社会の関係について理解する。|・社会問題について理解する。

(2) 内容

・社会学の成立と展開 | ・社会学の研究視点 | ・現代社会の理解 | ・生活の理解 | ・人と社会との関係 | ・社会問題の理解

受講者に対する要望

「社会」「自己」「他者」にたいして、何らかの興味関心を持っていることが望ましい。

学びのキーワード

- ・社会理論
- ・社会システム
- ・自己理解
- ・他者理解
- ・社会学的想像力

授業計画

01. 社会学の成立と展開
02. 社会学の研究視点
03. 現代社会の理解 (1) 社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識
04. 現代社会の理解 (2) 社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標
05. 現代社会の理解 (3) 法と社会システム
06. 現代社会の理解 (4) 経済と社会システム
07. 現代社会の理解 (5) 社会変動① 社会変動の概念
08. 現代社会の理解 (6) 社会変動② 近代化、産業化、情報化
09. 現代社会の理解 (7) 人口① 人口の概念、人口構造
10. 現代社会の理解 (8) 人口② 人口問題、少子高齢化
11. 現代社会の理解 (9) 地域① 地域の概念、コミュニティの概念
12. 現代社会の理解 (10) 地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会
13. 現代社会の理解 (11) 地域③ 地域社会の集団・組織
14. 現代社会の理解 (12) 社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団
15. 現代社会の理解 (13) 社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション
16. 現代社会の理解 (14) 社会集団③ 組織の概念、官僚制
17. 生活の理解 (1) 家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態
18. 生活の理解 (2) 家族② 家族の変容、家族の機能
19. 生活の理解 (3) 生活の捉え方
20. 人と社会との関係 (1) 社会関係と社会的孤立
21. 人と社会との関係 (2) 社会的行為
22. 人と社会との関係 (3) 社会的役割
23. 人と社会との関係 (4) 社会的ジレンマ
24. 社会問題の理解 (1) 社会問題の捉え方
25. 社会問題の理解 (2) 具体的な社会問題① 貧困、失業
26. 社会問題の理解 (3) 具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺
27. 社会問題の理解 (4) 具体的な社会問題③ 犯罪、非行
28. 社会問題の理解 (5) 具体的な社会問題④ DV、ハラスメント
29. 社会問題の理解 (6) 具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ
30. 社会問題の理解 (7) 具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座(3) 社会理論と社会システム—社会学【第3版】』(中央法規出版)【978-4808832509】

参考書

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A003K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(社会)：必修科目【教】高等学校教諭一種(公民)：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生(まちづくり)コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学系科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会学的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと思います。

(2) 内容

「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者性に迫る学問と言えるでしょう。| 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。

受講者に対する要望

私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・アイデンティティ
- ・コミュニケーション
- ・メディア
- ・政治と権力
- ・都市と消費社会

授業計画

01. 社会学とは
02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性
03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か
04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義
05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象
06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生
07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史
08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神
09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム
10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省
11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義
12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問
13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学
14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性
15. アイデンティティと社会学
16. コミュニケーションと社会学
17. 家族の社会学
18. 政治の社会学
19. 都市の社会学
20. 身体社会学
21. メディアの社会学
22. 情報化社会と消費社会
23. 階級・階層の社会学
24. ジェンダーとセクシュアリティ
25. 共同体と市民社会
26. 国民国家と多文化社会
27. グローバル化
28. 社会学史 (1) 西洋編
29. 社会学史 (2) 日本編
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』(筑摩書房)大澤真幸編|『社会学入門』(岩波書店)見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』(有斐閣)友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂木佳穂重
『よくわかる社会』

準備学習(復習)

授業後にノートをまとめ直しましょう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) 期末試験 | 80% |

教科書

稲葉振一郎『社会学入門』(日本放送出版協会)【978-4140911365】

参考書

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A005K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格、選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。

(2) 内容

人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

学びのキーワード

- ・ 公法と私法
- ・ 任意規定と強行規定
- ・ 実体法と手続法
- ・ 権利・義務
- ・ 犯罪と処罰

授業計画

01. ガイダンス
02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法）
03. 子ども・少年と法②（刑事法）
04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法）
05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法）
06. 男女・夫婦①（民事法）
07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法）
08. 企業の法①（会社法）
09. 企業の法②（経済法）
10. 主権者の法①（憲法）
11. 主権者の法②（行政法）
12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法）
13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法）
14. 高齢者・相続①（社会保障法）
15. 高齢者・相続②（民法）
16. 憲法①（統治）
17. 憲法②（統治）
18. 民法①（人・法律行為・財産）
19. 民法②（契約・不法行為）
20. 刑法①（総論）
21. 刑法②（各論）
22. 商法①（株式）
23. 商法②（機関）
24. 民事訴訟法①（請求、弁論）
25. 民事訴訟法②（証拠、判決）
26. 刑事訴訟法①（捜査）
27. 刑事訴訟法②（公判）
28. 法とは何か
29. 法とは何か（続）
30. 全体のまとめ

準備学習（予習）

配布資料に目を通しておくこと。

準備学習（復習）

分かったこと、疑問点、自分なりの意見・感想などを、配布資料やノートに書き留めておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布します。

参考書

授業の中で適宜、紹介します。

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：4 授業コード：12A005K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格・選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科学科

(1) 学びの意義と目標

法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。

(2) 内容

「法を守る精神・法令遵守と責任」|「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などで

受講者に対する要望

受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 法を守る精神
- ・ 「公」と「私」
- ・ 権利と義務
- ・ 責任
- ・ 市民社会に生きる

授業計画

01. 法を守る精神： 社会における信頼関係
02. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成
03. 法と道徳
04. 法の概念
05. 法の存在形式（法源）
06. 法の種類
07. 法の効力 その範囲と限界
08. 「自然法論」と「法実証主義」
09. 法と道徳（2）
10. 自己決定権
11. 法がめざすもの（法の目的）
12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス
13. 法の目的（2）
14. 適法性と違法性
15. 「犯罪」とは何か？
16. 「犯罪」とは何か？（2）
17. モラルの低下した社会に生きる
18. 法の目的（3）
19. 「公」と「私」
20. 「責任」とは何か？
21. 「権利」とは何か？
22. 「正義」とは何か？
23. 「市民社会」に生きる
24. 「法」を守る精神
25. 諸外国の法
26. 諸外国の法（2）
27. 市民社会の法
28. 消費者と法
29. 知的財産権と法（1）
30. 知的財産権と法（2）

準備学習(予習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

準備学習(復習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業中の態度、積極的発言など | 40% |
| (2) 課題作成 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

『ポケット六法 平成29年版』（有斐閣）

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300100

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、子どもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓く。子どもの人格と人権を尊重するゆえに高い倫理観を持つて社会貢献ができることを学ぶ【D】「子ども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

(2) 内容

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供するこを目的とする。

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取り、積極的に講義に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 優しさ
- ・ 寛容
- ・ 生きる勇氣
- ・ 自己肯定
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

準備学習(復習)

講義毎に指定される図書・映画等を読んだり、視聴することによって、見識をさらに深めることが重要である。

評価方法

- (1) 授業レポート
- (2) 礼拝レポート
- (3) 期末試験
- (4) 授業への積極的参加

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300101

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供することを目的とする。

(2) 内容

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

学びのキーワード

- ・ 寛容
- ・ 優しさ
- ・ 人格的關係
- ・ 生きる勇氣
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

講義毎に指定される本や映画を見ることにより、理解度をより深めていくことができる。

準備学習(復習)

授業内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業レポート | 30% |
| (2) 礼拝レポート | 20% |
| (3) 期末テスト | 35% |
| (4) 授業への積極的参加 | 15% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300108

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基礎であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆえに深い理解を持つて社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間とは何か。その解を自分なりに、公共の福祉に適応する形で見出すことは、社会福祉及び教育に携わる者として必須の事柄と言わなければならない。その働きは、どのようなものであれ、本質的に人と向き合う姿勢が求められるし、またそうあるべきだからである。児童・高齢者・障害者など、一般的に社会的弱者と呼ばれる人たちを、どのように理解したらいいか。本講義では、その解のヒントを、主にキリスト教を媒介にして提供することを目的とする。

(2) 内容

この講義は主にキリスト教を媒介にした人間学を扱う。前半は、キリスト教の人間観を、旧約聖書・イエス・新約聖書（パウロ）、宗教改革、ラインホルド・ニーバー（アメリカの思想家）を基に考察していく。中盤から、社会福祉の分野で重大な貢献をした日本のキリスト者の人間観の理解を学ぶ。後半は、「死」「老い」「子ども」「障害者」という社会福祉において重要なテーマを取り上げ、学生による発表を中心しつつ、理解を深めていく。

受講者に対する要望

授業にして積極的な態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 優しさ
- ・ 寛容
- ・ 生きる勇氣
- ・ 自己肯定
- ・ 悔い改め

授業計画

01. (1) 囚問とは何か～イントロダクション～
02. (2) 旧約聖書の人間観
03. (3) 団エスの人間観（Ⅰ）
04. (4) 団エスの人間観（Ⅱ）
05. (5) パウロの人間観
06. (6) 宗教改革の人間観
07. (7) ラインホルド・ニーバーの人間観
08. (8) 日本人の人間観①～賀川豊彦～
09. (9) 日本人の人間観②～石井十次～
10. (10) 日本人の人間観③～富岡幸助
11. (11) 日本人の人間観④～山室軍平
12. (12) 人間論 各論 「死」について
13. (13) 「老い」について
14. (14) 「子ども」について
15. (15) 「障害者」について

準備学習(予習)

授業時に指示する

準備学習(復習)

授業で取り上げる人々の考え方や生き方について、関係した書物を読んで理解を深める努力を求める。

評価方法

- (1) 授業レポート
- (2) 礼拝レポート
- (3) 期末テスト
- (4) 授業への積極的参加

教科書

参考書

授業の中で示唆する

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：15300201

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こども的人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つことで社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

講義、課題に対する真摯な取り組みを望む

学びのキーワード

- ・ 主の祈り
- ・ 聖書

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

指定された聖書箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業の内容を踏まえ、授業レポートに取り組む

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業レポート | 45% |
| (2) 礼拝レポート | 25% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300205

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こども的人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない態度を持つて社会貢献ができることを学ぶ【W】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここ」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

積極的に受講してください。

学びのキーワード

- ・キリスト教倫理
- ・問題意識
- ・自己相対化

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

準備学習(復習)

配布プリントとノートをまとめてください。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験 | 20% |
| (2) プリント問題への回答 | 20% |
| (3) 全学礼拝と教会レポート | 20% |
| (4) ノートおよびプリント提出 | 20% |
| (5) プレゼンテーション | 20% |

教科書

参考書

担当教員：五十嵐 成見

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15300216

学部教育の関連目

【C・D・W】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う【D】人間学や倫理学など、こともの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を啓き、こともの人格と人権を尊重するゆえに深い倫理観を持つて社会貢献ができることを学ぶ【W】「こともの類」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この講義の最終的目標は、各学生が、それぞれのテーマに対して問題意識を持ち、自分なりに意見を持ち、その主張の根拠を言語化することができるようになることである。

(2) 内容

この講義は、現代における様々な倫理的諸課題を、主にキリスト教的人間論の観点の情報を提供しつつ、検討する。近代主義（モダニズム）が前提としていた普遍的価値観なるものが瓦解された21世紀において、われわれが「公共の福祉」の発展のために持ち合わせるべき倫理的センスは如何様なものであるのか。それを、学生諸君と共に探求することとしたい。（テーマは変更及び順不同になる場合がある）

受講者に対する要望

授業中は、ただ講義に耳を傾けるだけでなく、しっかりノートを取ってほしい。書くことをとおして理解や思索が深まる。

学びのキーワード

- ・キリスト教倫理
- ・問題意識
- ・自己相対化

授業計画

01. (1) イントロダクション～自然法の問題～
02. (2) 性の問題
03. (3) 宗教の問題
04. (4) 家庭の問題
05. (5) 政治の問題
06. (6) 個と公の問題
07. (7) 平和の問題
08. (8) いのちの問題
09. (9) 正義の問題
10. (10) 愛の問題
11. (11) 富と貧困の問題
12. (12) 労働の問題
13. (13) 人権の問題
14. (14) 環境の問題
15. まとめ

準備学習(予習)

準備学習(復習)

心に残った授業内容について振り返り、思索を深め、問題意識を広げて、自分なりの学びを広げてほしい。

評価方法

教科書

参考書

授業の中で示唆する。

担当教員：古谷野 亘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C101570

学部教育の関連目

【C】今日的課題についての知識・教養を身につける【W】論理的思考・表現力・情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。

(2) 内容

大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「心理学・臨床死生学分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。

受講者に対する要望

毎回講義に出席して、各教員の研究への取り組みを知り、研究することの楽しさにふれてほしい。

学びのキーワード

授業計画

01. オリエンテーション / 研究すること
02. 福祉理論のなかの地域福祉的要素
03. 高齢社会とユニバーサルデザイン
04. 高齢社会の元気高齢者
05. 健康と環境
06. ストレス対策とうつ予防
07. 知的障害者に対する支援 — 罪を犯した知的障害の支援を中心に —
08. 精神保健福祉における新たな支援関係 — プロシューマーの萌芽とうねり —
09. 海外福祉研究の楽しみ
10. 心理テストと心理療法
11. 子どもを研究する視座
12. 子ども虐待とネグレクト
13. 遊びに文化が生まれる — 「子どもの仕事は遊ぶこと」をめぐる —
14. 対人援助職のメンタルヘルス
15. 金子みすゞのスピリチュアリティ

準備学習(予習)

次回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。

準備学習(復習)

毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

使用しない

参考書

授業の中で指示する

担当教員：村上 純子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D101416

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力をつける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「家族」は人間理解をする上で無視することのできない要素である。家族心理学の学びを通して、より深い人間理解を養い、現実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。

(2) 内容

家族心理学、家族療法の基礎を学び、人間関係や家族関係の問題の理解に役立てる。個人の心理、家族システムとしての機能、さらには家族を取り巻く社会システムなど、多角的に見ていく。また実際のケースを提示し、グループディスカッションを行うことで、家族療法をより深く理解できるようにする。

受講者に対する要望

授業から何を学び取っていくかは自分次第です。その意識を持って授業に臨んでください。特にグループディスカッションには積極的に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 家族療法
- ・ 家族心理学
- ・ ライフサイクル
- ・ ジェノグラム

授業計画

01. 家族とは何か
02. 家族療法の理論と基礎 (1)
03. 家族療法の理論と基礎 (2)
04. 家族療法の理論と基礎 (3)
05. 家族のライフサイクルと危機 (1) 結婚、夫婦
06. 家族のライフサイクルと危機 (2) 幼児期、児童期の家族
07. 家族のライフサイクルと危機 (3) 思春期、青年期の家族
08. 家族のライフサイクルと危機 (4) 成人期、老年期の家族
09. 家族療法の実際
10. 家族の諸問題と家族療法
11. ジェノグラムの基礎
12. ジェノグラムの作成と活用 (1)
13. ジェノグラムの作成と活用 (2)
14. ジェノグラムの活用
15. まとめ

準備学習(予習)

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点・授業態度 | 20% |
| (2) 課題 | 40% |
| (3) 学期末試験 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：柴田 実

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D102405

学部教育の関連目

【D】人間学や倫理学など、こどもの人格と人権を尊重するための知識を獲得するだけでなく、社会での実践体験を通して、スピリチュアルな世界に目を向き、こどもの人格と人権を尊重するゆきない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ【D】「こども期」にある人々へのケアリングを実践するには、単なる知識の獲得に留めず、多様な「いまここで」を体験・経験する実践的な学びとする【D】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本授業では、近年医療・福祉の領域において注目されているスピリチュアルケアを理解できるようにするため、スピリチュアルケアの基本的な考え方を学ぶ。

(2) 内容

スピリチュアルケアを理解する上で必要なスピリチュアリティ、宗教とスピリチュアルケアとの関係、スピリチュアルケアと関連する思想について解説する。

受講者に対する要望

必ず出席すること。

学びのキーワード

- ・スピリチュアリティ
- ・パストラルケア
- ・危機対処
- ・実存思想
- ・死生観

授業計画

01. スピリチュアリティの定義
02. スピリチュアルケアの定義
03. スピリチュアルケアと宗教
04. パストラルケアについて
05. 病院チャプレンとは何かー業務と役割
06. 危機対処（コーピング）について
07. 死後の問題について
08. スピリチュアリティと哲学
09. スピリチュアリティと新約思想
10. スピリチュアリティと実存思想
11. スピリチュアリティと死生観
12. 死生観を深める
13. 現代社会におけるスピリチュアルケアの問題
14. 死の看取りの問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する。

準備学習(復習)

各回の授業後、配布資料をもとに復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) レポート提出 | 80% |
| (2) 授業参加度 | 20% |

教科書

授業毎に配布資料を配ります。

参考書

授業毎に配布資料を配ります。

担当教員：藤掛 明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D200410

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

時代とともに変化し、多様化してきている青年期の心理的課題について概要を知ることができる。また、青年期にある自分自身について深く知ることができる。

(2) 内容

(1) 青年期に起こりがちな心理的問題や、関連した社会病理現象をとりあげ、その理解や援助・解決の道筋を考える。|(2) 同時に青年期にある自分自身を洞察し、実際のアセスメント技法を体験しながら、体感的に学ぶことを心がける。|※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。

受講者に対する要望

一般的な知識で満足することなく、たえず自分自身に重ね、自己分析していく姿勢が必要となる。

学びのキーワード

- ・ 自我同一性
- ・ 自己実現
- ・ 発達課題
- ・ 心理テスト

授業計画

01. 青年期と青年心理学
02. 自分自身を考える（行動スタイル）
03. 自分自身を考える（いろいろな自分；SCT）
04. 自分自身を考える（深層の自分；描画テスト）
05. 自分自身を考える（自我同一性）
06. 自分自身を考える（自己実現）
07. 前半のまとめ
08. 家族を考える（きょうだい関係）
09. 家族を考える（家族の機能）
10. 友だち関係を考える
11. 学校を考える
12. 仕事を考える
13. 恋愛を考える
14. 昔の自分を考える（早期回想）
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業計画や、授業内で行う次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

配付資料を再読するとともに、授業で配布する復習用資料（授業新聞）を使って、授業の中心点を考え、他の学生の意見を読むなどすること。
|なお、リアクションペーパーに対するフィードバックを、授業新聞記事および翌授業冒頭に行う。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------|
| (1) ミニテスト | 25% | 適宜授業内で行なう |
| (2) 授業態度 | 25% | |
| (3) 授業内テスト | 50% | 最終授業内で行なう |

教科書

参考書

毎回関連資料等を配布する。|【参考書】授業の中で指示する。|

担当教員：竹瀨 香織

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D200607

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける【R】対人支援力：人格を尊重して人とかわることでできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：基礎科目 | 【D】認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

臨床心理学的な人間理解の視点を学ぶ。発達理論や人格理論、心理査定や心理療法、心理職の実践領域などの基礎的な知識を得る。それらのことから、今後の専門科目の学びの土台を作る。

(2) 内容

臨床心理学の歴史、基礎理論、研究や支援のための方法論、実践領域などの基礎知識を学ぶ。|臨床心理学は実践の学問であることから、典型事例の概説と討議、グループディスカッション、ロールプレイングなどを用いて体験的に学ぶ。|※「認定心理士」資格では、「選択科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

受講者に対する要望

学びやワークから基礎知識を得るとともに、トピックスや事例を自分自身に重ね合わせ、体験的に学んでいく姿勢が望まれる。

学びのキーワード

- ・臨床心理学
- ・心理査定
- ・心理療法
- ・臨床心理学的支援

授業計画

01. ガイダンス
02. 臨床心理学とは①（臨床心理学のめざすもの）
03. 臨床心理学とは②（歴史と成り立ち）
04. 臨床心理学とは③（パーソナリティから）
05. 臨床心理学とは④（正常と異常の概念から）
06. 援助の対象①（神経症・うつ・パーソナリティ障害・統合失調症など）
07. 援助の対象②（発達障害・知的障害、不適応など）
08. 心理査定①（観察法、面接法、質問紙法）
09. 心理査定②（投影法）
10. 心理療法①（精神分析）
11. 心理療法②（行動療法）
12. 心理療法③（クライエント中心療法）
13. 心理療法④（家族療法・表現療法）
14. 臨床心理学的援助とは、臨床心理士による支援の実際
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参考に、関連資料を読んだり、インターネットなどで情報を集めたりしておく。

準備学習(復習)

基本的な専門用語や概念を覚えること。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 期末テスト | 50% |
| (2) 授業への参加度（ワーク、提出物） | 30% |
| (3) 平常点 | 20% |

教科書

なし。資料を配布する。

参考書

授業内で指示する。|

非行の心理

PSYC-D-300/PSYC-W-3

担当教員：藤掛 明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201115

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

非行の心理について、臨床心理学の観点から、理解する。心理アセスメントや心理カウンセリングの実際についても、一般の心理臨床との違いを明確にする。また、非行に限らず、行動化を伴う心理臨床（依存症など）についてもあわせて取り上げる。

(2) 内容

非行や犯罪の事例やそれを取り上げた文学作品などを適宜紹介し、受講者が主体的に参加し、考えることが出来るようにする。

受講者に対する要望

臨床心理学全般の基礎知識があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 非行カウンセリング
- ・ 心理アセスメント
- ・ 矯正施設（少年院、少年鑑別所）
- ・ 依存症

授業計画

01. 少年司法と非行（警察、家庭裁判所、少年鑑別所）
02. 少年司法と非行（少年院、保護観察所）
03. 非行の概要（非行種別、非行性、成人犯罪との違い）
04. 非行少年の個別的理解・心理査定を進め方
05. 非行少年の個別的理解・HTPテスト
06. 非行少年の個別的理解・質問紙の性格テスト
07. 非行少年の個別的理解・TAT
08. 非行少年の個別的理解・家族画テスト
09. 非行の心理カウンセリング
10. 非行のロールレタリング
11. 少年院での矯正教育
12. 代表的な非行理論
13. 非行と依存症、家族機能
14. 非行事例の検討
15. 全体のまとめ

準備学習(予習)

授業計画に沿って該当する配付資料を読んでおくこと。また、関連事項をインターネットなどで調べておくこと。

準備学習(復習)

参考書や配付資料を再読するとともに、授業で指定するトピックスを次回までに説明できるようにしておくこと。なお、リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌授業の冒頭に行う。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 適宜授業内で行なうミニテスト | 25% |
| (2) 授業態度 | 25% |
| (3) 最終授業内で、授業内テスト | 50% |

教科書

毎回関連資料を配布する。|

参考書

「非行カウンセリング入門」藤掛明著、金剛出版

担当教員：佐久間 隆介

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201216

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

心理学の生物学的な基盤について、特に人間の心の働きの不調を理解する上で役立つ知識を身につけることができるとともに、個人の認知に関してその程度や症状を深く理解するきっかけがえられる。

(2) 内容

認知・行動・情動といった人間の心の働き、および脳の損傷によって生じるその障害についての基礎心理学的な知識や考え方を学ぶ。また、その障害に対して、リハビリテーション（機能回復）などの介入方法の考え方や具体的な方法についても合わせて学ぶこととする。

受講者に対する要望

基本的な概念や用語の予習・復習を行い、覚える努力をすることが必要となる。心とその機能を理解することに対して知的好奇心旺盛な姿勢を期待する。

学びのキーワード

- ・ 知覚・認知
- ・ 感情・意欲・動機づけ
- ・ 障害
- ・ リハビリテーション
- ・ 神経心理学的検査

授業計画

01. ガイダンス
02. 神経心理学とは—その目的と方法—
03. 神経心理学の歴史 - 脳の解剖学的基礎を中心に -
04. 知覚・認知① 視覚失認
05. 知覚・認知② 聴覚失認
06. 空間 半側空間無視
07. 行為 失行
08. 記憶① ワーキングメモリーとはなにか—短期記憶障害・ワーキングメモリ障害—
09. 記憶② エピソード記憶障害・意味記憶障害・手続き記憶障害
10. 言語① 失語
11. 言語② 失読・失書・計算障害
12. 注意障害・実行機能障害・学習の障害
13. 感情、意欲、動機づけの障害
14. 高次脳機能障害における神経心理学に基づくリハビリテーションについて
15. まとめ

準備学習(予習)

講義に先だち、各回のテーマと用語について事前に調べておくことがのぞましい。

準備学習(復習)

基本的な概念や用語の復習を行い、覚える努力をすること。脳機能と心の関係についての理解を深める。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表、小レポート | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

参考書

担当教員：竹瀨 香織

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D201410

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける【H】対人支援力：人格を尊重して人とかがわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

人間は、他者とのコミュニケーションの中で生きている。良好な人間関係や信頼関係の形成に有効なコミュニケーションについて、多角的に学ぶ。またコミュニケーションの技能を修得し、実践する手がかりを学ぶ。

(2) 内容

コミュニケーションを人間形成、社会的影響、適応改善等の視点から学習し、併せてコミュニケーションスキルを習得するためのグループワークを体験する。|※「認定心理士」資格では、「選択科目h」（社会心理学・産業心理学）に区分される科目である。

受講者に対する要望

各テーマに沿ったワークやディスカッションを行うので積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・ コミュニケーション
- ・ 自己認識

授業計画

01. ガイダンス
02. コミュニケーションとは何か
03. コミュニケーションの構成要素
04. 非言語的コミュニケーション①
05. 非言語的コミュニケーション②
06. 自己認識・対人関係とコミュニケーション①
07. 自己認識・対人関係とコミュニケーション②
08. アサーティブなコミュニケーション
09. コミュニケーションによる人間形成
10. 説得的コミュニケーション
11. マスコミュニケーション①
12. マスコミュニケーション②
13. 文化とコミュニケーション①
14. 文化とコミュニケーション②
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて情報を収集しておく。

準備学習(復習)

各トピックスについてキーワード、概要をまとめる。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 出席、ディスカッションやワーク等への参加度 |
| (2) 学期末試験 | 60% | |

教科書

参考書

担当教員：小島 道生

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D201909

学部教育の関連目

【D】心理学系科目を主体とした学びを認め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ発達によって生じる「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける【M】対人支援力：人格を尊重して人とかわることでできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

共生社会の実現が求められる今日、障害のある人の心理などを学び、それぞれの障害について適切な理解を深めることは大切です。本講義では、それぞれの障害に関する診断基準や原因などの基礎的な事柄について説明できるようになること、さらには心理・行動特性と具体的な支援方法の概論について説明できるようになることを目標とします。

(2) 内容

障害の概念など、障害に関する基礎的な事柄について解説します。その後、視覚障害、聴覚障害、発達障害、知的障害など、それぞれの障害の診断基準や原因などの基礎的な事柄を解説するとともに、心理・行動特性と支援方法について講義します。支援方法には、心理検査などのアセスメント、さらにはSSTなどの具体的な支援方法についても体験的な演習を通して学んでいきます。それぞれの障害について全般的な理解を深めるとともに、障害児(者)に対して、根拠に基づく科学的な支援方法の在り方について講義と演習を通して、学んでいきます。なお、講義では視聴覚機器も活用しながら、障害特性などについて理解を深めます。|※「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

受講者に対する要望

障害のある人の心理と支援について、積極的に調べてほしいと思います。また、演習活動では、心理学の知見をいかした支援方法について学びます。したがって、心理学などについても、興味・関心を広げて欲しいと思います。

学びのキーワード

- ・ 障害
- ・ 発達
- ・ 心理特性
- ・ 行動特性

授業計画

01. 障害とは
02. 視覚障害の心理と支援
03. 聴覚障害の心理と支援
04. 運動障害の心理と支援
05. 病弱児(者)の心理と支援
06. 知的障害の心理と支援(1)
07. 知的障害の心理と支援(2)
08. 自閉スペクトラム症の心理と支援(1)
09. 自閉スペクトラム症の心理と支援(2)
10. 自閉スペクトラム症の心理と支援(3)
11. 自閉スペクトラム症の心理と支援(4)
12. LDの心理と支援(1)
13. LDの心理と支援(2)
14. ADHDの心理と支援
15. まとめ

準備学習(予習)

講義で指示した用語等について、調べてきてほしい。

準備学習(復習)

心理特性、行動特性というキーワードをもとに、各講義内容を振り返ってほしい。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 講義内容の知識確認テスト | 60% |
| (2) 授業内での発言と参加態度 | 20% |
| (3) ミニレポート課題 | 20% |

教科書

参考書

【参考書】「障害児心理入門」（井澤信三・小島道生著／ミネルヴァ書房）

担当教員：大橋 良枝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D204001

学部教育の関連目

【Ⅰ】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【Ⅱ】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

グループ（集団）に対しての臨床心理学的分析、および心理学的介入における必要最低限の理論を習得し、グループ分析及び介入の基礎力を身につけること。|社会性、リーダーシップなど、人との中で生きていくのに重要な力の基礎となる知識を身につけること。

(2) 内容

講義内容は集団力学基礎理論と事例の検討を中心とするが、体験に重点を置くため、授業内でのグループ活動を課す。

受講者に対する要望

体験的学習を重視するため、積極的な態度を望む。

学びのキーワード

- ・ 集団力動 group dynamics
- ・ 精神分析 psychoanalytic theory
- ・ グループプロセス group processes

授業計画

01. ガイダンス
02. 基礎理論Ⅰ：Grの効用と困難
03. 基礎理論Ⅱ：システムズ理論
04. 基礎理論Ⅲ：基底的理想と作業Gr
05. 分析プレゼンテーション1
06. 分析プレゼンテーション2
07. 事例Ⅰ；事例Ⅰ；学校臨床—学級崩壊と基底的理想
08. 事例Ⅱ；施設臨床心理—依存とネガティブアイデンティティ
09. 事例Ⅲ；産業心理—二代目の心理 エディプス葛藤と世代間伝達
10. 事例Ⅳ；女性集団への介入—嫉妬と基底的理想
11. 事例Ⅴ；いじめとスケープゴート
12. 映画に見る集団心理Ⅰ
13. 映画に見る集団心理2
14. 実験的集団活動の実施
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内で指示される課題を事前に行うこと。

準備学習(復習)

授業内容で不明な点について振り返り、次回授業内で講師に質問できるように準備しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------------------|
| (1) 参加態度 | 40% | 出席率・授業参与度 |
| (2) 期末レポート | 40% | |
| (3) グループ活動 | 20% | 授業内で行われるグループ活動での学びの深さ、参与度を評価する。 |

教科書

授業内で指示する。

参考書

{現代のエスプリ：グループサイコセラピーの現在, <https://www.amazon.co.jp/%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%92%B0%E2%92%97%E2%92%BD%E2%92%A0%E2%92%9A%E2%92%A2>

担当教員：中嶋 励子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1L411884

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・対人関係、対人認知、コミュニケーション、ストレスとストレス対処などについて、心理学の基礎知識を習得する。|・先行研究の主な研究方法と分析について、基本的な部分を理解する。|・基礎知識の理解をもとに、身近な事例にあてはめる応用理解を身につける。|

(2) 内容

・私たちは、普段、さまざまな人々や周囲の社会との関係を持ちながら生活しています。この授業では、家族や友人、地域や職場など周囲の人々との関係について、心理学分野の研究例を説明していきます。|・基礎的な理解を踏まえたうえで、身近な事例にあてはめて考える応用理解を身につけ、よりよい人間関係を築くために役立つ力を養うことを目指します。|・「人間関係」という言葉は、身近な言葉として、普段の会話でも用いられますが、この講義では、主に、社会心理学分野で研究されてきた「人間関係」を学んでいきます。|・大学卒業後、社会生活を送るうえで、家族、友人だけでなく、周囲の他者や組織と関わっていくことが求められます。心理学の研究に基づいた「人間関係論」を学び、客観的な見方を身につけ、よりよい人間関係を築くためにどうしたらよいかを考えていきます。|・なお、授業では実社会の動向に関する問題も取り上げますので、内容が多少変更される可能性があります。|・また、授業内で、人間や社会との関わりに関する映像を、1-2回程度提示する予定です。|・受講に関する詳細説明は、第1回授業時に行うので、必ず出席することを求めます。|

受講者に対する要望

・心理学に関連する科目を履修していることが望ましい。|・授業内に行うディスカッションや質疑応答に、積極的に参加すること、及び、アクション・ペーパーの回答内容を重視する。|・授業の遅刻・早退、及び授業中の私語には厳禁。|・課題は、指示する内容・提出方法、及び締切を厳守すること。|・第1回目の授業で、受講に関する説明を行うので必ず出席することを求める。|

学びのキーワード

- ・対人的影響
- ・コミュニケーション
- ・社会心理学
- ・リスク認知と災害
- ・ストレスとストレス・マネジメント

授業計画

01. 人間関係論とは何か：授業の進め方と成績評価の説明（必ず出席すること）
02. 人は他者に会ったときどのように推論するか
03. 人は他者をどのようにタイプ分けするか
04. ステレオタイプとステレオタイプの問題点
05. 他者の影響
06. 他者の存在が作業や仕事に及ぼす影響
07. 対人関係能力：コンピテンス
08. 対人行動の調整過程
09. コミュニケーションとは何か
10. 言語・非言語によるコミュニケーション
11. 非言語によるコミュニケーション（事例とその考察）
12. メール・SNS等によるコミュニケーション
13. 社会の影響を受けるコミュニケーション
14. 態度形成と態度変容
15. 説得とコミュニケーション
16. コミュニケーションについてのまとめ・講義前半のまとめ
17. 集団の行動と意思決定
18. 集団行動と組織
19. 組織の中の人間行動
20. ワークモチベーションと職務満足
21. リスク認知：人はどのように危険を認知し、行動するのか
22. リスク・コミュニケーション
23. 災害心理学：災害前・災害直後の心理と行動
24. 災害後の心理と行動
25. ストレスとは何か：ストレスとストレス認知
26. ストレス耐性・ストレス対処行動
27. 社会生活におけるストレスとストレス・マネジメント
28. 人間関係に関する実験法・観察法の研究例
29. 人間関係に関する質問紙法の研究例
30. 授業後半のまとめ

準備学習(予習)

授業の前週に提示する「翌週の授業のキーワード」を中心に講義を進めるので、キーワードについて配布資料を読むこと、参考文献を調べるなど、自ら準備に取り組むこと。|また、キーワードに関連する新聞記事やニュースにも関心を持ち、調べておくこと。|

準備学習(復習)

その週の授業内容の主要な点は、授業内で提出を求めるリアクション・ペーパーに書く内容となるので、そのポイントを復習しておくこと。|特に、自分自身の経験や周囲、社会で起きていることを、授業内容と関連づけて考える習慣をつけておくこと。|課題レポートには、授業内容の基礎的な理解度及び、応用理解力を養うことが目的なので、授業内容を復習しながら、積極的に取り組むこと。|

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---|
| (1) 平常点 | 40% | 1) 授業中の発言や質問に対する回答の質、2) 授業中のグループワークやディスカッションへの参加状況、3) 授業中の発言や質問に対する回答の質、4) 授業中の発言や質問に対する回答の質、5) 授業中の発言や質問に対する回答の質 |
| (2) 中間課題 | 30% | 1) 授業中の発言や質問に対する回答の質、2) 授業中のグループワークやディスカッションへの参加状況、3) 授業中の発言や質問に対する回答の質、4) 授業中の発言や質問に対する回答の質、5) 授業中の発言や質問に対する回答の質 |
| (3) 最終課題 | 30% | 1) 課題レポートの提出状況、2) 課題レポートの内容と提出方法、3) 課題レポートの提出期限 |

課題レポートの内容と提出方法、提出期限は授業内で提示することを厳守すること。

教科書

参考書

参考図書：|「社会心理学」(池田謙一他、有斐閣)|「社会人のための産業組織心理学」(高橋修他、産業能率大学出版部)|「やさしく学べる心理学—医療・福祉を学ぶ人のために」(小島一夫他著、北樹出版)|

担当教員：藤田 孝典

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P400990

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）・選択科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格・選択必修 | 【F】地域共生（まちづくり）コース：自由科目 | 【特】社会福祉士国家試験受験資格・必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格・必修科目

(1) 学びの意義と目標

・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。
| ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
| ・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。
| ・生活困窮者自立支援法の概要を理解し、生活困窮者支援ノウハウを学ぶ。

(2) 内容

・公的扶助の概念 | ・貧困・低所得者問題と社会的排除 | ・公的扶助の歴史 | ・生活保護制度の仕組み | ・生活保護の運営実施体制と関係機関 | ・生活保護の動向 | ・低所得者対策とホームレス対策 | ・自立支援プログラムの意義と実際 | ・生活困窮者自立支援法の概要

受講者に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。
 ・授業中は積極的な参加を求めます。質問や意見は遠慮なく出してください。
 ・私語は周囲の迷惑になりますので絶対に慎んでください。

学びのキーワード

- ・ 貧困・低所得
- ・ 生活保護
- ・ ホームレス
- ・ 生活困窮者自立支援

授業計画

01. 公的扶助の概念
02. 貧困・低所得者問題と社会的排除
03. 公的扶助の歴史 (1) 海外の歴史
04. 公的扶助の歴史 (2) 日本の歴史
05. 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的・原理
06. 生活保護制度の仕組み (2) 生活保護法の原則
07. 生活保護制度の仕組み (3) 生活保護の種類と内容
08. 生活保護制度の仕組み (4) 生活保護基準と実施要領
09. 生活保護制度の仕組み (5) 保護施設
10. 生活保護制度の仕組み (6) 被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 自立支援プログラムと相談援助活動
14. 生活困窮者自立支援法の概要
15. 生活困窮者支援の実際と課題

準備学習(予習)

毎回配付する資料を読解してくる

準備学習(復習)

毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 出席 | 平常点 |
| (2) 小レポート | 平常点 |
| (3) 試験 | |

教科書

参考書

担当教員：中原 純

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P600660

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのような考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。

(2) 内容

「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問を社会心理学的に解説します。授業の最終盤では、受講生のみなさん自身が、社会心理学の知識を用いて、身近な疑問を解決していく練習を企画しています。

受講者に対する要望

授業中でも内容に関する積極的な発言、質問は歓迎します。また、随時コメントシートを配布しますので、わからないことがあればシートに質問を記入してください。

学びのキーワード

- ・ 自己
- ・ 他者
- ・ 集団
- ・ 社会

授業計画

01. 社会心理学とは
02. 自己概念(1)
03. 自己概念(2)
04. 文化的自己
05. 対人認知(1)
06. 対人認知(2)
07. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(1)
08. 社会的感情—怒り、不安、羞恥心—(2)
09. 態度と態度変容(1)
10. 態度と態度変容(2)
11. 人間関係の進展(1)
12. 人間関係の進展(2)
13. 人間関係の進展(3)
14. 幸福感
15. まとめ(1)
16. 社会からの影響(1)
17. 社会からの影響(2)
18. 社会からの影響(3)
19. 集団と集団間関係(1)
20. 集団と集団間関係(2)
21. 集団と集団間関係(3)
22. 集団と集団間関係(4)
23. 現代的問題と社会心理学—インターネット—
24. 現代的問題と社会心理学—性—
25. 現代的問題と社会心理学—キャリア—
26. 現代的問題と社会心理学—超高齢社会—
27. 応用課題(1)
28. 応用課題(2)
29. 応用課題(3)
30. まとめ(2)

準備学習(予習)

特に必要ありません。

準備学習(復習)

試験に備えて、授業で触れた重要なキーワードは説明できるようにしておいてください。

評価方法

- | | |
|-------------------|---------------------|
| (1) 授業内容に関する小レポート | 35% |
| (2) 応用課題 | 15% |
| (3) 試験 | 50% 持ち込み不可の試験を行います。 |

教科書

参考書

担当教員：渡邊 隼

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P600990

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【R】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

今日、家族は非常に多義的な存在であり、さまざまな社会問題を理解するうえで必要不可欠なものとなっている。講義を通じて、家族をめぐる問題についての基礎を学ぶとともに、多様な家族のありかたを理解するにあたって役に立つような知識や考え方を身につけてもらいたい。

(2) 内容

現代社会の家族をめぐる問題について総合的に学ぶ。

受講者に対する要望

・「家族」について問題関心を持っていること。
・社会学について、ある程度の知識があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・近代家族
- ・親密性・親密圏
- ・多様な家族
- ・ジェンダー
- ・家父長制

授業計画

01. 家族とは（1）
02. 家族とは（2）
03. 家族の種類（1）
04. 家族の種類（2）
05. 性と愛（1）
06. 性と愛（2）
07. 結婚の意味と機能（1）
08. 結婚の意味と機能（2）
09. 離婚・再婚（1）
10. 離婚・再婚（2）
11. 家族の危機（1）
12. 家族の危機（2）
13. 家族と役割（1）
14. 家族と役割（2）
15. 家族と子育て（1）
16. 家族と子育て（2）
17. 家族と介護（1）
18. 家族と介護（2）
19. 多様な家族（1）
20. 多様な家族（2）
21. 母子世帯・父子世帯（1）
22. 母子世帯・父子世帯（2）
23. フェミニズム思想と家族（1）
24. フェミニズム思想と家族（2）
25. 生殖補助技術と家族観（1）
26. 生殖補助技術と家族観（2）
27. 晩婚化・非婚化（1）
28. 晩婚化・非婚化（2）
29. 近代家族論（1）
30. 近代家族論（2）

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①自分が興味関心を抱いた事柄、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

参考書

岩間咲子・大和礼子・田間泰子, 2015. 『問いからはじめる家族社会学：多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣.

担当教員：中谷 茂一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：1W100100

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科での生活と学習を有意義なものとする基礎的な知識・情報を修得すること。|

(2) 内容

人間福祉学科1年生を対象に、大学生としての生活と人間福祉学科での学びを始めるに当たって必要な情報を提供する。

受講者に対する要望

毎回講義に出席し、提出物を忘れずに提出して、人間福祉学科での学びに備えてほしい。

学びのキーワード

授業計画

01. 科目ガイダンス
02. 特別講義 「聖学院大学で学ぶということ」
03. 授業の受け方とノート・テイキング
04. レポートの書き方
05. 図書館を使う
06. ネットとの付き合い方
07. 学生生活と危機管理 ― 最新の事例から
08. こころとからだの健康、病気の予防
09. 自分探し
10. ボランティア活動
11. 外国を見てみる・外国で学ぶ
12. “進路”の考え方
13. 特別講義 「現代の貧困と社会的排除」
14. 専門 1 凶間福祉とバリアフリー
15. “ ” 2 凶間福祉と心理学
16. “ ” 3 “幸せ”と心理学
17. “ ” 4 高齢者の生活と社会
18. “ ” 5 凶世代で創造する地域包括ケアシステム
19. “ ” 6 現代社会と子ども虐待
20. “ ” 7 現代社会と子ども・学校の問題
21. “ ” 8 障害者の生活と社会
22. “ ” 9 精神障害者の生活と社会
23. “ ” 10 凶アサポートの時代
24. 特別講義 「海外福祉研究の楽しみ～イギリスを中心に」
25. 専門 11 福祉の心はどこから？
26. “ ” 12 福祉文化 ― 地域福祉の視点から ―
27. 大学生活と資格取得・資格の説明
28. 大学生活と資格取得・資格の説明
29. 卒業後の進路と就活
30. 人間福祉学科で学ぶということ

準備学習(予習)

次回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。

準備学習(復習)

授業内容は多岐に分かれているので、必ず、終了後は、資料の読み返しや要点確認を行うこと。また、適宜、指定図書、居住地の福祉情報の把握、ボランティア活動、社会福祉施設見学などを踏まえた自己課題を選択させ、小レポートを課すので、これらに積極的に取り組むこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 提出物 | 50% |

教科書

使用しない

参考書

授業の中で指示する

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1W101120

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

今や分別のある大人だけでなく、小・中学生もインターネットを介して多様な人々とコミュニケーションを取れるようになりました。そこには良い面もありますが、悪い面にも目を向けていかなければならない状況が数多く生まれています。インターネットが普及した結果、私たちはさまざまなトラブルに巻き込まれたり、知らないうちに犯罪に加担してしまうことさえあるのです。この講義では、そのような時代の潮流に飲み込まれてしまわぬように、インターネットの仕組みを理解し、情報倫理を身につけることで、危険を予防し他者と共生していく方法を身につけていきます。

(2) 内容

この授業では、情報社会における倫理とは何かを学びます。具体的には、インターネットの基本的な仕組みや、そこで起きるさまざまな事件を例に取り上げ、なぜその問題が起きたのか、それを回避するためにはどうしたらいいのかを考えていきます。授業は講義形式で進めますが、新聞記事や映像、ワークシート、ソーシャル・メディアを活用しながら、ディスカッション等を行う予定です。

受講者に対する要望

出席は成績評価の対象になりませんが、5回以上休んだ者は学内規定通り、単位を取得できません。積極的な参加を期待しています。

学びのキーワード

- ・ 情報と倫理
- ・ メディア・リテラシー
- ・ 情報社会

授業計画

01. 情報化社会と倫理
02. 情報倫理とは
03. 情報社会とインターネット
04. ブログ、SNS、スモールワールド
05. コンテンツビジネスの仕組み
06. 法律と権利
07. インターネットのセキュリティリスク
08. マルウェア、ファイル共有ソフト
09. インターネット・トラブル
10. コミュニケーション・トラブル
11. ネットいじめ
12. ネット依存症
13. 出会い系サイト
14. 炎上の過程と構造
15. まとめ

準備学習(予習)

予習は、参考書を読んでおいてください。

準備学習(復習)

復習は、講義後にノートを自分なりにまとめ直しましょう。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 10% |
| (2) 期末試験 | 50% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

テキストは使用しません。|

参考書

『学生時代に学びたい情報倫理』朝大誠、2011年、共立出版 | 『情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』高橋慈子・原田隆史・佐藤翔・岡部香典、2015年、技術評論社 | 『インターネットの光と影 Ver. 5』情報教育学会・情報倫理教育研究グループ編、2014年、北大路書房 | 『情報化社会の歩き方』佐藤佳弘、2010年、ミネルヴァ書房 | 『脱! スマホのトラブル』佐藤佳弘、2014年、武蔵野大学出版会

担当教員：川田 虎男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W201150

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。||「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

(2) 内容

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。||また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくこととなります。||基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無は問いません。

受講者に対する要望

ボランティアの重要な要素に「自発性」があります。
本講義を受講する学生には、積極的な参加を求めます。
特にグループワークやワークショップでは、個々の自発的参加が求められます。

学びのキーワード

- ・ ボランティア
- ・ 市民活動
- ・ NPO
- ・ NPO法人

授業計画

01. オリエンテーション
02. ボランティアの定義と活動分野
03. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」
04. 市民活動・NPO法人とボランティア
05. 大学生とボランティアI
06. 大学生とボランティアII
07. ワークショップI「ボランティアの種を探す」
08. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション
09. 実際のボランティア活動を知るI「災害ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知るII「コミュニティ活動ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知るIII「環境ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知るIV「国際ボランティア」
13. まとめと振り返りI
14. まとめと振り返りII
15. まとめと振り返りIII

準備学習(予習)

実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。授業でも活動の紹介を行っていきますので、積極的な参加をお願いします。

準備学習(復習)

授業を受けた後は、各自振り返りを行い授業内での「気づき」や自分なりの考えを深める時間を取ってください。
振り返った内容をレポートにまとめる等も効果的です。
また、実際に活動を行っている方は、その学びをどう活かせるかを考え、実践していただきたいと思えます。その活動から見えてきたものも大切な学びになります。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 25% |
| (2) 授業への参加度 | 25% |
| (3) 中間レポート | 20% |
| (4) 試験 | 30% |
- 授業期間中にボランティア体験を実施し、そのレポートを提出していただきます。

教科書

参考書

担当教員： 牛津 信忠

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目

単位： 4

授業コード： 1W210224

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）・必修科目【全】社会福祉主事任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。| ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。| ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。| ・福祉政策の課題について理解する。| ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。| ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。| ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

(2) 内容

・現代社会における福祉制度と福祉政策| ・福祉の思想と哲学| ・福祉制度の発達過程| ・福祉政策におけるニーズと資源| ・福祉政策の課題| ・福祉政策の構成要素| ・福祉政策の関連領域| ・福祉政策の国際比較| ・相談援助活動と福祉政策の関係

受講者に対する要望

毎回授業に出席することはいうまでもなく、授業計画に沿って、予習復習をすることを義務付ける。予習については毎回提供するプリントを用いて、二回目より前回プリントの説明を終えていない箇所を読み、その意味をしっかりと調べて授業に臨むこと。復習は、ノート、プリントを読み返し、復習小テストのために準備をして毎回授業に臨むこと[最低3回に一度は小テストを行う]。

学びのキーワード

・福祉における理念、政策、技術
・社会福祉における狭義・広義
・普遍主義的福祉
・ノーマライゼーション
・ワーク・ライフ・バランス

授業計画

01. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (1) わが国における福祉制度の概念と理念
02. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (2) 福祉政策の概念と理念
03. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (3) 福祉制度と福祉政策の関係
04. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (4) 福祉政策と政治の関係
05. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (5) 福祉政策の主体と対象
06. 福祉の思想と哲学 (1) 福祉の原理をめぐる哲学と倫理
07. 福祉の思想と哲学 (2) 福祉の原理をめぐる理論
08. 福祉制度の発達過程 (1) 前近代社会と福祉
09. 福祉制度の発達過程 (2) 近代社会と福祉
10. 福祉制度の発達過程 (3) 現代社会と福祉
11. 福祉政策におけるニーズと資源 (1) 需要とニーズの概念
12. 福祉政策におけるニーズと資源 (2) 資源の概念
13. 福祉政策の課題 (1) 福祉政策と社会問題 ① 貧困、孤独、失業
14. 福祉政策の課題 (2) 福祉政策と社会問題 ② 社会的排除、ヴァルネラビリティ
15. 福祉政策の課題 (3) 福祉政策の現代的課題 (社会的包摂、社会連帯、セーフティネット)
16. 福祉政策の構成要素 (1) 福祉政策の論点 ① 福祉政策の課題と国際比較
17. 福祉政策の構成要素 (2) 福祉政策の論点 ② 効率性と公平性、必要と資源
18. 福祉政策の構成要素 (3) 福祉政策の論点 ③ 普遍主義と選別主義
19. 福祉政策の構成要素 (4) 福祉政策の論点 ④ 自立と依存・自己選択とパターナリズム
20. 福祉政策の構成要素 (5) 福祉政策の論点 ⑤ 参加とエンパワーメント
21. 福祉政策の構成要素 (6) 福祉政策における政府・市場・国民の役割
22. 福祉政策の構成要素 (7) 福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
23. 福祉政策の構成要素 (8) 福祉サービス供給部門
24. 福祉政策の構成要素 (9) 福祉サービスの供給と利用の過程
25. 福祉政策の関連領域 (1) 所得と福祉政策
26. 福祉政策の関連領域 (2) 保健医療と福祉政策
27. 福祉政策の関連領域 (3) 福祉政策と教育・住宅・労働政策
28. 福祉政策の国際比較 (1) 欧米諸国の福祉政策
29. 福祉政策の国際比較 (2) 東アジア諸国の福祉政策
30. 相談援助活動と福祉政策の関係

準備学習(予習)

前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | |
| (2) 小テストに見る思考力 | 20% | 授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。 |
| (3) 授業中の態度 | 10% | 座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。 |
| (4) 授業中の質問 | 10% | 授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。 |
| (5) 期末論文形式のテスト | 40% | 授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。 |

上記された細かい項目を横断的にとらえるときに、そこには人間福祉というより広義の福祉観があることに注意してほしい。現代は特殊化された福祉から「人間のより良い人生づくり」をすべての人に許せる状態への移行期である。

教科書

参考書

主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。加えて関連プリントを毎回配布する。

担当教員：横澤 義夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W210340

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

死と生という問いは医療と生命科学にも当然関係してきますから、生命倫理とも共通する課題です。共通基本科目のひとつとして、信仰を含めた人間福祉の対象である生命の意味の理解を目標にします。|現代では戦国の侘茶はもう成り立たないともいわれます。明日は知れぬ一期一会の中で生死を決しなければならなかった人たちの、その生死の問題そのものが侘茶でした。しかし現代でもわたしたちは突然に脳死状態の家族をもったり、自身が死への告知を受けたりします。これに対処すべく、わたしたち自身の生と死の意味を打ち建て、生死を自身で自身のために決定できる死生観を探ってみたいのです。

(2) 内容

死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題そのものです。現代日本人は社会機構や日常生活のパターンに至るまでヨーロッパ化された環境の中で生きていますし、医療技術の発展とともに旧来の生命観や死の観念では対処できない状況に立たされています。そこでこの講義では、ヨーロッパの伝統的な生命観から生と死の問題に入ってゆきます。そこから現代日本人の死生観の混迷に少しでも明かりをあててみます。|

受講者に対する要望

1回のレポート以外には課題は出しませんので、じっくりと聴き、ともに考える努力をしてみてください。

学びのキーワード

- ・いのちとはなにか
- ・人格とはなにか
- ・生老病死
- ・人間的時間とは
- ・死を記憶せよ

授業計画

01. I. 死生問題の現代的状況。なにが課題か
02. II. 生について
03. 1. 日本人の生命観とその現代的混迷
04. 2. ヨーロッパ人の生命観とその検討の必要
05. A. アリストテレス主義の伝統的生命観
06. 同
07. B. キリスト教精神の福祉の概念
08. III. 死について
09. 1. 近代自然科学とデカルト的二元論
10. 2. 現代の医療倫理・遺伝子工学問題 etc.
11. 3. 伝統的生命観とどこが対立するのか
12. IV. 総合としての死生観
13. 1. 発生学といのちの問題
14. 2. 老について・病について（ターミナル・ケア論）
15. 同

準備学習(予習)

新聞や定時テレビニュースなどの人間やいのちに関係する報道に関心を払って、場合によっては書きとどめる努力をしてください。|90分

準備学習(復習)

前週の講義で箇条書きしたノートの大切と思える箇所は自分で文章にしてみる努力をしてください。|90分

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% | 欠席理由のある場合には必ず申告のこと |
| (2) レポート | 70% | テーマについては講義中に説明します |

教科書

参考書

教科書は使用しません。

担当教員：川上 祐美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W210448

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

生命医科学技術の急速な進展により、誕生する前から死に際してまで人生の様々な場面で、いのちをめぐる選択がいやおうなしに迫られる時代が訪れている。しかし、それら個々の事象のはらむ倫理的問題の検討は十分になされておらず、その拠り所を模索しつつある。|健康・医療・福祉を生命倫理<バイオエシックス>の立場からとらえ、現代の諸問題に対処し得る思考と感性の研鑽によって、豊かな人間観といのちについての深い洞察力が養われることをめざす。

(2) 内容

生命倫理のトピックの新聞資料などに基づき、多角的に考え、論理的に表現するための練習をする。|毎回授業時間内で小論文を作成し、教員のチェックを受け修正する。

受講者に対する要望

文章の音読ができるようになること、丁寧に字を書くこと、基本的な漢字をしっかりと書けるようになること、文章を適切に組み立てられるようになること、が目標です。

学びのキーワード

- ・ 生老病死
- ・ 生命倫理
- ・ 死生観
- ・ 人間・技術・環境
- ・ 先端科学の倫理

授業計画

01. いのちを考える ～現代の生老病死と医療～
02. 高齢期医療と人間の尊厳 ～老いと生きがい～
03. ターミナルケアの実際1 ～現代の死を考える～
04. ターミナルケアの実際2 ～死をめぐる自己決定と事前指示～
05. 尊厳死・安楽死 ～オランダの事例から～
06. 臓器移植と脳死1 ～法制化と国際的格差～
07. 臓器移植と脳死2 ～生命の資源化とその配分～
08. 生殖技術と優生思想1 ～選別されるいのち～
09. 生殖技術と優生思想2 ～障害とはなにか～
10. 家族の変遷と子ども ～DNAに規定されゆく個と、人間の可能性
11. 医療過誤・薬害 ～社会医療の功罪～
12. エンハンスメント ～人体増強の行方～
13. 生命観の多様性と幸福 ～宗教文化における死生観の伝統と変容～
14. 医科学技術と人間の尊厳 ～戦争と臨床研究の倫理～
15. まとめ ～生老病死・再考～

準備学習(予習)

日々のニュースに関心をもつこと。

準備学習(復習)

講義中に配布した新聞資料などをよく読んでくること。|授業で扱った関連事項について自分で調べること。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|--|
| (1) 授業への参加度・小論文 | 60% | 毎回の授業内でその日のテーマに沿った小論文を提出し、その都度添削を受け修正する。 |
| (2) 期末レポート | 40% | 課題図書の本レポートを予定している。 |

教科書

なし。参考書や関連資料は講義内で随時紹介する。

参考書

島田進 『いのちを“つくって”もいいですか?』 NHK出版、2016| ヴィクトル・フランクル (池田香代子訳) 『夜と霧』 みすず出版

人体の構造と機能及び疾病

CCSW-W-100

担当教員：藤野 秀美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W210772

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉） 必修科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係をふまえて理解できるよう学びます。| ・障害やリハビリテーションの概要、国際生活機能分類（ICF）における障害やリハビリテーションの考え方について理解し、必要な支援を考えられることをめざします。| ・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できるよう学びます。

(2) 内容

・人の成長・発達 | ・健康の捉え方 | ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方 | ・障害の概要 | ・リハビリテーションの概要 | ・こころとからだのしくみの基本的理解 | ・生活支援に必要なこころとからだのしくみ | ・疾病の概要 |

受講者に対する要望

社会福祉に携わる者として、支える対象である人間への関心をもち、講義に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・健康
- ・人体の構造・機能
- ・疾病・障害
- ・リハビリテーション
- ・国際生活機能分類

授業計画

01. 健康の捉え方と人口統計
02. 人口の高齢化と健康・保健対策
03. 人の成長発達と老化
04. こころとからだのしくみ（心理面及び身体面）の基本的理解 こころとからだのしくみの基礎的理解
05. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 身体構造と心身の機能(1)
06. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 身体構造と心身の機能(2)
07. 疾病の概要(1) 生活習慣病、がん、脳血管疾患、心疾患、高血
08. 疾病の概要(2) 糖尿病、内分泌疾患、呼吸器・消化器・血液疾患、膠原
09. 疾病の概要(3) 腎・泌尿器、骨・関節、感覚器、感染症、神経疾患・難病、先天性疾患
10. 障害の概要(1) 視覚・聴覚・平衡機能、内部障害
11. 障害の概要(2) 知的障害、発達障害、認知症、高次脳機能障害
12. 障害の概要(3) 精神障害、肢体不自由
13. リハビリテーションの概要
14. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当部分を自己学習し、不明な点や疑問点を明確にする。

準備学習(復習)

テキスト、プリントを参考に講義内容を確認して理解を深めるとともに、次の講義で疑問点や不明点を解決できるよう準備する。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) レポートまたは小テスト | 40% |
| (3) テスト | 30% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座(1)人体の構造と機能及び疾病—医学一般 第3版』(中央法規出版)【978-4805851005】

参考書

担当教員：鷹野 吉章

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W210988

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。|・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。|・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。

(2) 内容

・社会調査の意義と目的|・社会調査の概要|・社会調査における倫理と個人情報保護|・量的調査の方法|・質的調査の方法|・社会調査の実施にあたってのITの活用方法

受講者に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので、社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

学びのキーワード

- ・社会調査
- ・量的調査の方法
- ・質的調査の方法
- ・データ分析
- ・個人情報保護

授業計画

01. オリエンテーション
02. 社会調査の意義と目的
03. 社会調査の概要
04. 社会調査における倫理と個人情報保護
05. 量的調査の方法 (1) 量的調査の方法と特徴
06. 量的調査の方法 (2) 調査設計
07. 量的調査の方法 (3) 調査票の作成方法
08. 量的調査の方法 (4) サンプリングと実査
09. 量的調査の方法 (5) 集計・データ解析・発表と報告
10. 質的調査の方法 (1) 質的調査の特徴と種類
11. 質的調査の方法 (2) 調査設計・対象者の選定と調査手続・調査方法
12. 質的調査の方法 (3) 調査の実施
13. 質的調査の方法 (4) データの分析
14. 質的調査の方法 (5) 発表・報告
15. 社会調査の実施にあたってのITの活用方法

準備学習(予習)

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) レポート | 30% |

出席点について：毎回の出席が欠前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

教科書

教科書は使用せず毎回配布資料により講義する。

参考書

担当教員：古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W211296

学部教育の関連目

【Ⅰ】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【Ⅱ】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人口高齢化のメカニズムを理解し、近未来の日本の高齢者がどのような人々であり、彼（女）らのために求められる施策について考えられるようになる。

(2) 内容

人生の後半で経験する変化を取り上げ、人が“高齢者”となっていく過程を検討する。そして、個人の高齢化の理解を前提として、高齢者の割合が高い社会（高齢社会）への移行に際して問題となる事象、また特に高齢社会への移行が急速であった場合に深刻になる事象を明らかにする。

受講者に対する要望

関心をもち、休まずに出席すること。

学びのキーワード

- ・人口高齢化
- ・正常老化
- ・社会関係
- ・サクセスフル・エイジング

授業計画

01. 社会老年学とは
02. 高齢者観
03. 人口高齢化の推移
04. 高齢化の原因
05. 人口転換と人口構造の変化
06. 老化と健康・病気
07. 生活機能
08. 高齢期の健康づくり
09. 定年退職と引退
10. 高齢期の収入と年金
11. 高齢期の人間関係
12. 高齢期の家族
13. 近隣と友人
14. サクセスフル・エイジング
15. 高齢社会における高齢者のライフスタイル

準備学習(予習)

授業はおおむね教科書の通りに進むので、次回の部分を読んでおくとよい。

準備学習(復習)

授業はかなりのスピードで進むので復習が必要。また、その一環として、レポートの作成・提出が義務づけられる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 筆記試験 | 40% |

教科書

古谷野 亘、安藤 孝敏『改訂 新社会老年学:シニアライフのゆくえ』(ワールドプランニング) [978-4863510074]

参考書

授業の中で指示する

担当教員：宮寺 良光

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W211610

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

・ 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。
 |・ 社会保障の概念や対象およびその理念等について、その発達過程も含めて理解する。
 |・ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。
 |・ 社会保障制度の体系と概要について理解する。
 |・ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。
 |・ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

(2) 内容

・ 現代社会における社会保障制度の課題 | ・ 社会保障の概念や対象およびその理念 | ・ 社会保障の歴史 | ・ 社会保障の財源と費用 | ・ 社会保険と社会扶助の関係 | ・ 社会保障制度の体系 | ・ 社会保障制度の概要（年金保険・医療保険・介護保険・労働保険・その他社会手当） | ・ 公的保険制度と民間保険制度の関係 | ・ 諸外国における社会保障制度の概要

受講者に対する要望

・ 出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。 | ・ 2コマ連続の講義であるため、長時間の受講になっても苦痛を伴わないように、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。

学びのキーワード

- ・ 人口の少子・高齢化
- ・ 皆保険・皆年金
- ・ 介護保険
- ・ 労働保険
- ・ 国際比較

授業計画

01. 現代社会における社会保障制度の課題 (1) 人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会
02. 現代社会における社会保障制度の課題 (2) 労働・雇用環境の変化
03. 現代社会における社会保障制度の課題 (3) 少子高齢・人口減少社会・政治・経済的な問題と社会保障の課題
04. 社会保障の概念や対象およびその理念
05. 社会保障の歴史 (1) 欧米における歴史的展開
06. 社会保障の歴史 (2) 日本における歴史的展開
07. 社会保障の財源と費用 (1) 社会保険の財源及び給付費
08. 社会保障の財源と費用 (2) 国民負担率と財源・費用に関する国家的課題
09. 社会保険と社会扶助の関係 (1) 社会保険の概念と範囲
10. 社会保険と社会扶助の関係 (2) 社会扶助の概念と範囲
11. 社会保障制度の体系
12. 年金保険制度 (1) 年金保険制度の沿革と概要
13. 年金保険制度 (2) 国民年金
14. 年金保険制度 (3) 厚生年金・その他の年金
15. 年金保険制度 (4) 年金制度をめぐる最近の動向
16. 医療保険制度 (1) 医療保険制度の沿革と最近の動向
17. 医療保険制度 (2) 国民健康保険
18. 医療保険制度 (3) 健康保険と共済組合制度
19. 医療保険制度 (4) 後期高齢者医療制度
20. 介護保険制度 (1) 創設の経緯
21. 介護保険制度 (2) 介護保険制度の概要
22. 介護保険制度 (3) 介護保険制度をめぐる最近の動向
23. 労働保険制度 (1) 労働保険制度の沿革と最近の動向
24. 労働保険制度 (2) 労働者災害補償保険
25. 労働保険制度 (3) 雇用保険
26. 社会手当制度
27. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (1) 民間保険に期待される役割
28. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (2) 民間保険の概要
29. 諸外国における社会保障制度の概要 (1) 社会保障の国際比較
30. 諸外国における社会保障制度の概要 (2) 先進諸国における社会保障制度の概要

準備学習(予習)

シラバスを参照して次回の授業内容を確認し、該当する箇所について「参考書」に提示した文献の中から、1冊以上の文献を読解してくる。

準備学習(復習)

毎回の授業後に出題する小レポートを作成し、提出する。

評価方法

(1) 平常点	30%
(2) 小レポート	30%
(3) 試験	40%

・小課題については、次回の授業時にコメントし、優れている点や課題となっている点を明示する。 | ・試験については、UNIPAを用いて模範解答の提示をおこなう。

教科書

参考書

唐穂直義 (2012) 『脱貧困の社会保障』 旬報社、中山徹・加藤真史 (2014) 『社会福祉士養成シリーズ 社会保障』 東山書房、梶野美智子・田中耕太郎 (2001~2017) 『はじめての社会保障 (第1~14版)』 有斐閣、今井伸編 (2016) 『わかる・みえる社会保障論: 事例でつむぐ社会保障入門』 みらい

担当教員：長田 齋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W211720

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・相談援助活動において必要となる医療保険制度や保健医療サービスについて理解する。| ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

(2) 内容

・医学と社会 | ・公衆衛生の動向と対策 | ・医療保険制度の概要 | ・保健医療サービスの概要 | ・保健医療サービスにおける専門職の役割 | ・保健医療サービス関係者との連携と実際

受講者に対する要望

多職種協働の時代の専門職にとって、福祉と保健医療の接点を学ぶことは極めて重要なことです。積極的な授業参加を期待します。

学びのキーワード

- ・人口静態、人口動態、平均寿命
- ・医療保障、保険医療制度、公費負担医療
- ・政策医療、5疾病・5事業
- ・専門職の役割、医療ソーシャルワーカー
- ・医療連携、地域包括ケア

授業計画

01. 医学と社会 (1) 疾病と生活問題
02. 医学と社会 (2) 医療技術の発展と生命倫理
03. 公衆衛生の動向と対策 人口静態・人口動態
04. 医療保険制度 (1) 医療保障
05. 医療保険制度 (2) 医療費に関する政策動向
06. 診療報酬
07. 保健サービスの概要 (1) 保健行政の組織・体系、母子保健・学校保健
08. 保健サービスの概要 (2) 健康づくり・生活習慣病対策、高齢者保健
09. 医療サービスの概要 (1) 医療施設の概要
10. 医療サービスの概要 (2) 政策医療
11. 保健医療サービスにおける専門職の役割 (1) 医療従事者とその役割
12. 保健医療サービスにおける専門職の役割 (2) インフォームドコンセントの意義と実際
13. 保健医療サービスにおける専門職の役割 (3) 医療ソーシャルワーカーの役割
14. 保健医療サービス関係者との連携と実際 (1) 医師、看護師、保健師等との連携と実際
15. 保健医療サービス関係者との連携と実際 (2) 地域の社会資源との連携

準備学習(予習)

講義内容の該当箇所を事前に教科書で学習しておくとともに、関連事項の最近の動向やトピックスについて新聞記事等の検索を行う。

準備学習(復習)

配布資料の内容を再確認するとともに、復習用のワークシートを完成させる。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 期末テスト | 80% |
| (2) 受講態度 | 20% |

期末テストの試験結果(80%)及び授業態度(出席・発言の状況、提出物の内容等：20%)により、総合的に評価します。

教科書

全国社会福祉協議会『医学一般 改訂版—人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス (社会福祉学習双書 14巻)』(全国社会福祉協議会) [978-4793511967]

参考書

担当教員：長尾 愛女

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W211828

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。| ・相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。| ・成年後見制度の実際について理解する。| ・社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

(2) 内容

・相談援助活動と法とのかかわり | ・成年後見制度 | ・日常生活自立支援事業 | ・権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 | ・権利擁護活動の実際

受講者に対する要望

事前に履修しておくことが望ましい科目：「法学」
権利擁護が問題となるケースを発見し、関心を深めておくこと。

学びのキーワード

- ・権利擁護
- ・相談援助
- ・成年後見制度
- ・憲法・民法・行政法・社会福祉関連法

授業計画

01. 相談援助活動と法とのかかわり (1) 相談援助活動において想定される法律問題
02. 相談援助活動と法とのかかわり (2) 日本国憲法の理解
03. 相談援助活動と法とのかかわり (3) 民法の理解
04. 相談援助活動と法とのかかわり (4) 行政法の理解
05. 成年後見制度 (1) 成年後見制度の概要 ①成年後見・保佐・補助の概要
06. 成年後見制度 (2) 成年後見制度の概要 ②任意後見の概要・民法における親権や扶養の概要
07. 成年後見制度 (3) 成年後見制度の概要 ③成年後見制度の最近の動向・成年後見制度利用支援事業の概要
08. 日常生活自立支援事業
09. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 (1) 家庭裁判所・法務局・市町村の役割
10. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 (2) 弁護士・司法書士の役割
11. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 (3) 社会福祉士の役割と活動の実際
12. 権利擁護活動の実際 (1) 認知症高齢者・消費者被害者への支援
13. 権利擁護活動の実際 (2) 被虐待児者・アルコール等依存者への支援
14. 権利擁護活動の実際 (3) 非行少年とホームレスへの支援・障害児者への支援
15. 権利擁護活動の実際 (4) 多問題重複ケースをかかえる者への支援

準備学習(予習)

今回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

社会・精神保健福祉士の国家試験受験予定者は、講義内容の復習（教科書の重要箇所の理解、ノートの見直しなど）と併せて、受験ワークブックや過去問題集などに目を通し知識を確実に習得すること。

評価方法

- | | | |
|----------------------|-----|---|
| (1) 期末試験 | 60% | テキスト、レジュメの持ち込み可。穴埋め式、○×式等で行なうことを予定している。 |
| (2) 毎回の授業のリアクションペーパー | 20% | リアクションペーパーを通じた積極的な質問、感想等による授業参加を評価する。 |
| (3) 中間レポート | 20% | 具体的なケース支援に関するレポート（800文字以上）を予定している。 |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集『権利擁護と成年後見制度【第4版】（新・社会福祉士養成講座19）』（中央法規）【978-4805839362】

参考書

担当教員：野口 勝則

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W211936

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

社会福祉における就労支援サービスは比較的新しい分野の課題ですが、雇用・労働の問題は古くからの社会的課題であり、現在の日本でも「一億総活躍社会」が話題となるなど、重要な課題です。| 本講義では、就労支援サービスが必要とされる社会的意義と目的、社会福祉に携わる者が理解しておくべき就労支援サービスの基本的事項について講義します。|| 講義の主内容は次項「(2)内容」のとおりですが、雇用・労働の問題は福祉的支援の対象者だけではなく、福祉を学ぶ受講者にとっても身近かつ重要な問題です。そのため、本講義では労働法等についてもお話しする予定です。| また、講義の際にはビデオ教材を使用し、視覚的、具体的に学べるよう行います。|

(2) 内容

・日本の社会構造の変化、労働現場・労働市場の動向と就労支援の必要性|・福祉施策、労働施策等の概要|・就労支援サービスの対象者（障害者、女性、低所得者等）と具体的支援|・相談援助活動に必要な各種の就労支援制度|・就労支援に係る組織、団体及び専門職の役割と機能|・就労支援分野との連携・自立支援と就労|・就労支援分野との連携と実際

受講者に対する要望

就労問題はこれから社会人となる皆さんにとっても重要です。受講者ご自身の職業生活と関連づけた学習が大切です。

学びのキーワード

授業計画

01. 自立支援と就労
02. 雇用・就労の動向と労働施策の概要
03. 障害者と就労支援 (1) 就労支援制度(1) 障害者福祉制度における就労支援制度
04. 障害者と就労支援 (2) 就労支援制度(2) 障害者雇用施策の概要
05. 障害者と就労支援 (3) 職業リハビリテーション機関の役割と実際
06. 障害者と就労支援 (4) 就労支援に係る専門職の役割と実際
07. 低所得者と就労支援
08. 就労支援分野との連携と実際

準備学習(予習)

教科書に目を通しておくとともに、普段から雇用情勢（失業率、高校・大学卒業予定者の内定状況等）、障害者・低所得者等の就労問題について、ニュース等を通じて理解しておくことが望まれます。

準備学習(復習)

講義では補足資料も配付し、使用します。また、筆記試験については終了後に模範解答を配布し、解説を行いますので、それらの資料や筆記試験の状況等も含め、講義内容を復習することが望まれます。|また、就労・雇用問題については度々報道される分野ですので、関心を持ち続けることも望まれます。

評価方法

- (1) 筆記試験|2日間の講義ですが、各日の最後に講 筆記試
- (2) 出席|2日間の講義への参加度、受講態度等を総 筆記試

2日間の講義です、各日ごとの筆記試験と講義への参加度・受講態度等を総合的に勘案し、評価を行います。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座第18巻就労支援サービス最新版』（中央法規出版）【978-4805837641】

参考書

担当教員：長田 斎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W212568

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

健康の意義、社会生活とのかかわりを理解するとともに、公衆衛生の理念、発展過程、制度体系、各種公衆衛生活動の概要と動向を習得する。

(2) 内容

・健康の概念、社会とのかかわり | ・公衆衛生の歴史、ヘルスプロモーション | ・人口問題、平均寿命 | ・疫学的調査方法 | ・疾病予防の概念と健康戦略 | ・保健衛生関係法と制度、関係機関

受講者に対する要望

健康と社会の関りを考えることは、福祉と保健医療の接点を考えることにもつながります。積極的な授業参加を期待します。

学びのキーワード

・健康、公衆衛生活動、ヘルスプロモーション
 ・人口静態、人口動態、平均寿命
 ・疫学調査、観察研究、介入研究
 ・健康日本21（第二次）、NCDs、ハイリスク・ポピュレーションストラテジー
 ・保健衛生関係法体系と行政機関

授業計画

01. 健康と公衆衛生
02. 公衆衛生の歴史
03. 保健統計(1) 人口統計
04. 保健統計(2) 人口動態・生命表
05. 疫学
06. 疾病予防と健康管理
07. 環境保健(1) 生態系、地球環境と公害
08. 環境保健(2) 大気、上下水、住環境
09. 感染症
10. 保健衛生行政・地域保健
11. 母子保健・学校保健
12. 成人保健・健康づくり
13. 産業保健・国際保健
14. 精神保健・歯科保健・難病対策
15. 医療制度

準備学習(予習)

講義内容の該当箇所を事前に教科書で学習しておくとともに、関連事項の最近の動向やトピックスについて新聞記事等の検索を行う。

準備学習(復習)

配布資料の内容を再確認するとともに、復習用のワークシートを完成させる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 受講態度 | 20% |

期末試験の結果(80%)及び授業態度(出席・発言の状況、提出物の内容等・20%)により、総合的に評価します。

教科書

「シンプル衛生公衆衛生学」 鈴木庄亮監修 小山洋・辻一郎編集 (南江堂) 2016

参考書

担当教員：長谷川 辰男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W212876

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

レクリエーションの意義について理解を深め、個人・集団を対象としたレクリエーション活動が展開できるよう、計画・企画・運営・実施・評価ができるようになる事を目標とする。

(2) 内容

レクリエーションに関する基礎理論を学び、現代社会におけるレクリエーションの役割や必要性を理解するとともに支援方法等についても理解を深める。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加と意見交換を望む。

学びのキーワード

- ・レクリエーション
- ・日常生活
- ・QOL
- ・健康

授業計画

01. オリエンテーション
02. レクリエーションについて
03. 福祉レクリエーションについて
04. セラピューティックレクリエーションについて
05. アセスメントに基づいてのプログラム計画について①
06. アセスメントに基づいてのプログラム計画について②
07. コミュニケーションについて
08. 対象に合わせた支援方法について
09. グループによる創作ゲームの立案①
10. グループによる創作ゲームの実施と評価①
11. グループによる創作ゲームの立案②
12. グループによる創作ゲームの実施と評価②
13. 対象者に合わせたアレンジについて①
14. 対象者に合わせたアレンジについて②
15. まとめ

準備学習(予習)

紹介した資料、文献、書籍等について目を通しておくこと。

準備学習(復習)

資料やノートの確認をすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 50% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 授業態度 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：長谷川 辰男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W212984

学部教育の関連目

【Ⅰ】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける | 【Ⅱ】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

リハビリテーションの本来の意味、歴史そして社会制度を理解し、様々な場面におけるリハビリテーションについて考え、関心を高めることを目指します。

(2) 内容

講義、配布資料などもとに授業を進めます。また、ディスカッションなども取り入れ、リハビリテーションの理解を深めていきます。

受講者に対する要望

授業の復習を十分に行ない、積極的な授業への参加を望みます。

学びのキーワード

- ・リハビリテーション
- ・病気と障害
- ・社会保障制度

授業計画

01. リハビリテーションとは
02. 病気と障害
03. 人間活動と発達
04. 障害と心理
05. リハビリテーションの諸段階
06. リハビリテーションの過程（1）
07. リハビリテーションの過程（2）
08. リハビリテーションの過程（3）
09. 機能障害をもたらす主な疾病と外傷、先天性異常および精神障害（1）
10. 機能障害をもたらす主な疾病と外傷、先天性異常および精神障害（2）
11. リハビリテーションを支える社会保障体制（1）
12. リハビリテーションを支える社会保障体制（2）
13. 福祉用具について
14. 事例紹介
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に配布する資料を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布された資料やノートを確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 50% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 授業態度 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：高畑 隆

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：1W213092

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目【W】認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。|② 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。|③ 精神保健、心の健康の維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。|④ 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。|

(2) 内容

① 精神の健康と精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要(予防と健康づくり)|② 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ|③ 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ|④ 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ|⑤ 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ|⑥ 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割|⑦ 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題|⑧ 精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携|⑨ 諸外国の精神保健活動の現状及び対策

受講者に対する要望

講義形式の授業。学習効果を高めるためDVD/ビデオ、スライド等の視聴覚教材を適宜利用する。また、必要に応じて、学習したテーマに関するレポート課題を課し、より深く学習できるように指導する。

学びのキーワード

- ・人と発達
- ・保健予防
- ・ストレス
- ・心の健康
- ・ライフサイクル

授業計画

01. オリエンテーション/精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 1) 地域保健施策の概要
02. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 2) 関係法規における精神保健
03. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 3) ストレスと地域精神保健施策の概要
04. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 1) ライフサイクルにおけるメンタルヘルス①胎児期・乳幼児期・学童期
精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 1) ライフサイクルにおけるメンタルヘルス②思春期・青年期・成人期・高齢期
05. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 2) ファミリーソーシャルワークと精神保健福祉士
06. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 1) 現状と課題
07. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割
08. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 3) スクールソーシャルワークと精神保健福祉士①
09. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 3) スクールソーシャルワークと精神保健福祉士②
10. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 1) 現状と課題
11. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割
12. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 3) 産業ソーシャルワークと精神保健福祉士
13. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 1) 現状と課題
14. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割
15. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 3) 精神保健福祉士の役割
16. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 1) 現状と課題
17. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 2) 専門機関や関係職種の役割と連携
18. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 3) 精神保健福祉士の役割
19. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 1) 現状と課題
20. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 2) 専門機関や関係職種の役割と連携
21. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 3) 地域の社会資源の活用と連携
22. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 4) 精神保健福祉士の役割
23. 精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 1) 現状と課題
24. 精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 2) 専門機関や関係職種の役割
25. 精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 3) 専門機関や関係職種との連携
26. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 (1)
27. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 (2)
28. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 (3)
29. まとめ

準備学習(予習)

自らの健康・セルフケアに留意し、予防と心の健康を基盤に地域精神保健福祉活動の具体的事例(集団・グループが活動基盤)から、その取り組みの目的を明確にし、プロセスを意識し、多面的視点と支援姿勢を学ぶ授業を進めます。授業内容に関する疑問や音目け気軽に聞いてください。授業出席率を重視

準備学習(復習)

前回の授業について復習することが次回の授業の予習につながる。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 授業への参加態度・リアクションペーパー | 30% |
| (2) 筆記試験 | 70% |

教科書

精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座 第2巻 精神保健の課題と支援』(中央法規出版)【978-4805851173】|

参考書

プロが教える心理学の全てがわかる(ナツメ社)【978-4-8163-5164-8】|国民衛生の動向(厚生労働統計協会)|我が国の精神保健福祉・精神保健福祉ハンドブック(日本公衆衛生協会)【978-4-8192-0245-9】

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W213610

<p>学部教育の関連目</p> <p>【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める</p>	<p>授業計画</p>
<p>カリキュラム上の位置付け</p>	
<p>(1) 学びの意義と目標</p>	
<p>(2) 内容</p>	
<p>受講者に対する要望</p>	<p>準備学習(予習)</p>
<p>学びのキーワード</p>	<p>準備学習(復習)</p>
	<p>評価方法</p>
	<p>教科書</p> <p>参考書</p>

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W213710

<p>学部教育の関連目</p> <p>【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める</p>	<p>授業計画</p>
<p>カリキュラム上の位置付け</p>	
<p>(1) 学びの意義と目標</p>	
<p>(2) 内容</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>準備学習(復習)</p> <p>評価方法</p>
<p>受講者に対する要望</p>	
<p>学びのキーワード</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p>

担当教員：堀 恭子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W220100

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目 | 【W】認定心理士：基礎科目

(1) 学びの意義と目標

・心理学理論によるヒトの理解とその技法の基礎について理解する | ・ヒトの成長・発達と心理との関係について理解する | ・日常生活と心の健康との関係について理解する | ・心理的支援の方法と実際について理解する

(2) 内容

・心理学の特徴と歴史 | ・ヒトの心理学的理解 | ・ヒトの成長・発達と心理 | ・日常生活と心の健康 | ・心理的支援の方法と実際

受講者に対する要望

講義に加え、心理学という学問の概要を知ってもらいながら、心理学がどのように利用されているか実感してもらいたいと考えています。まじめに心理学を学ぶ気のある方のみ受講してください。講義に参加して提供された話題について考える習慣を身に付けてほしいと思いますので、授業への参加態度を重視します。

学びのキーワード

- ・心理学の概要と特徴
- ・心理学の各基礎理論
- ・心理学の応用
- ・日常生活と心理学
- ・心理的援助

授業計画

01. 心理学の特徴—心理学の見方・考え方
02. 心理学の歴史
03. ヒトは世界をどうとらえるかⅠ—感覚・知覚・認知
04. ヒトは世界をどうとらえるかⅡ—情動・感情
05. ヒトは世界をどうとらえるかⅢ—まとめ・心と脳
06. こころの働きを知るⅠ—言語と思考
07. こころの働きを知るⅠ—2 学習・知能・創造性
08. こころの働きを知るⅠ—3 記憶
09. こころの働きを知るⅡ—欲求と動機づけ・適応
10. こころの働きを知る—まとめ
11. 対人関係の心理学Ⅰ—「私らしさ」はどう決まるのか／人格
12. 対人関係の心理学Ⅰ—対人コミュニケーション
13. 対人関係の心理学Ⅰ—他者の理解
14. 対人関係の心理学Ⅱ—集団の中の個人／人と環境
15. 対人関係の心理学Ⅱ—集団の理解
16. 対人関係の心理学—まとめ
17. 発達Ⅰ—発達の定義・遺伝と環境・発達理論
18. 発達Ⅱ—発達段階と発達課題（1）胎児期から幼児期
19. 発達Ⅲ—発達段階と発達課題（2）児童期から青年期
20. 発達Ⅳ—発達段階と発達課題（3）成人期から高齢期
21. 発達Ⅴ—発達と危機：アタッチメント・アイデンティティ・喪失・障害
22. 発達Ⅵ—まとめ
23. 日常生活と心の健康Ⅰ—ストレス：ストレスとコーピング
24. 日常生活と心の健康Ⅱ—ストレス症状とストレスマネジメント
25. 日常生活と心の健康Ⅲ—心身の不調とアセスメント
26. 日常生活と心の健康Ⅳ—まとめ
27. 心理的支援の方法と実際Ⅰ—こころの専門家と臨床心理学
28. 心理的支援の方法と実際Ⅱ—心理療法
29. 心理的支援の方法と実際Ⅲ—カウンセリングとソーシャルワークとの関係・ピアサポート
30. 全体のまとめ

準備学習(予習)

次回の講義で取り扱う項目について予告しますので、各自事前学習として調べ、毎回出席確認をかねて行うショートレポートとして提出してもらいます

準備学習(復習)

講義で扱った内容と事前学習について授業内に複数回のまとめを行い、小テストや中間レポート提出により講義内容の復習を行い、定着を確認します

評価方法

- | | | |
|------------------------|-----|----------------------------------|
| (1) 講義内課題 | 30% | |
| (2) 小テスト・中間レポートなどの振り返り | 60% | 小テストは知識を問うというより、理解度を測るための記述式とします |
| (3) 期末レポート | 10% | |

教科書

参考書

毎回プリントを配布し、適宜参考文献を紹介します

担当教員：金重 利典

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W220208

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

子どもについて学ぶことは、将来子どもに関わる職に就いたり、子育てをする際に役立つだけでなく、大人である自身についての理解を深めることでもある。講義を受ける中で子どもについて知識を得るだけでなく、自身がどのようにして成長してきたのか、大人である自分自身についての理解を深めてほしい。また、他者を理解する際に、発達の視点を持つことで他者との関わりをより豊かなものにすることができる。講義を通して、人との関わりかたを振り返る機会としてほしい。

(2) 内容

この授業では、変化のめまぐるしい乳幼児期を中心に、思春期までの人間の発達について講義を行う。認知発達・言語発達・情動発達・社会性の発達・発達障害といった幅広い領域について理解を深め、子どもがどのようにして大人へと成長していくのか、その発達の軌跡について学びを深める。

受講者に対する要望

講義形式であるが、積極的な参加を期待する。出席は前提であるが、それ以上に自身が授業を通して何を学んだか、自分自身で評価できるようにしてほしい。またその内容について、リアクションペーパーに記述してもらうため、自身の考えをまとめられるよう講義を受けてほしい。

学びのキーワード

- ・発達心理学
- ・認知発達
- ・言語発達
- ・情動発達
- ・社会性の発達

授業計画

01. 初回ガイダンス
02. 発達心理学とは：遺伝と環境
03. 身体の発達・感覚の発達
04. 認知発達：ピアジェの理論1
05. 認知発達：ピアジェの理論2
06. 言語発達：ことばの獲得
07. 言語発達：文法の獲得
08. 社会性の発達：アタッチメント
09. 社会性の発達：情動発達、情動理解の発達
10. 社会性の発達：仲間関係の発達
11. 社会性の発達：共感と向社会的行動
12. 社会性の発達：道徳性の発達
13. 社会性の発達：「心の理論」
14. 発達障害
15. 授業の振り返り

準備学習(予習)

初回のガイダンスで大まかな授業内容について触れる。その際、自分が興味のあるものを少なくとも一つ選び、関連する書籍などで知識を深めておく。

準備学習(復習)

授業の内容に関する自身の経験を思い出したり、家族に聞いてみたりすることで、講義の内容を身近な知識として定着させる。また授業で扱った内容がのちの授業に出てくることがあるため、基本的な用語については講義内容を復習し、いつでも思い出せるようにしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

平常点は出席+リアクションペーパーへの回答によって評価する。出席が前提であるが、出席するだけでは平常点として評価せず、リアクションペーパーの内容を重視する。リアクションペーパーは、毎回の授業の内容に関する自身の考えや授業内容への質問を述べてもらう。

教科書

参考書

担当教員：堀 恭子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W220316

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

個人としての発達理解だけでなく、家族・社会の中での発達を理解することにより、人が常に変化し発達をとげることを実感してほしいと考えています。講義を通して得た基礎知識とその活用によって、人に対する理解において、「関係性の中で生涯続く変化」への視点が持てるようになることを目標とします

(2) 内容

発達心理学ではヒトが誕生してから死を迎えるまでの心身の構造や機能の変化について心理学的側面から検討します。発達のメカニズムについて研究方法の解説も交えながら学び、身近にある問題についても一緒に考えていきます。発達心理学Bでは青年期から死に至るまでの発達について、生涯発達の考え方に注目しながら学びます。その時のテーマに沿ったディスカッションを行い、多角的な視点から物事を見る機会を持ちます。

受講者に対する要望

講義に参加して提供された話題について考える習慣を身に付けてほしいと思っていますので、出席や出席態度を重視します。

学びのキーワード

- ・生涯発達
- ・心身構造と機能変化のメカニズム
- ・関係性の理解
- ・専門知識と課題解決

授業計画

01. オリエンテーション：発達とは何か・生涯発達の考え方
02. 生涯発達心理学の基礎：成人期以降の発達の歴史
03. 生涯発達心理学の基礎：発達理論と発達課題
04. 青年期の発達（1）自立と巣立ちを理解する
05. 青年期の発達（2）ライフサイクルと心身の発達
06. 青年期の課題・まとめ
07. 成人期の発達（1）心身の変化とところ
08. 成人期の発達（2）関係性の変化とところ
09. 成人期の課題・まとめ
10. 老年期の発達（1）老いとは何か①身体の変化
11. 老年期の発達（2）老いとは何か②認知機能の変化
12. 老年期の発達（3）老いとは何か③知的機能の変化
13. 老年期の問題を考える（1）：適応・高齢期の悩み
14. 老年期の問題を考える（2）：DVD視聴とディスカッション
15. まとめ

準備学習(予習)

授業終了時に、次回までの簡単な課題を提示し、課題内容を踏まえてショートレポートを作成してもらいます。

準備学習(復習)

講義内容について、ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識の整理を行います。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 講義内課題 | 30% |
| (2) 中間レポート | 40% |
| (3) 期末レポート | 30% |

教科書

参考書

毎回資料を配布し、適宜参考文献を紹介します。

担当教員：利根川 明子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W220424

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。
 |・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。
 |・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。|・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。

(2) 内容

この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。

受講者に対する要望

教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
 また、積極的な質問や感想をお待ちしています。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・発達心理学
- ・パーソナリティ心理学
- ・臨床心理学

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど
02. 発達の理論
03. 各時期の発達の様相①
04. 各時期の発達の様相②
05. 学習の理論①
06. 学習の理論②
07. 教授と学習①
08. 教授と学習②
09. 動機づけの理論①
10. 動機づけの理論②
11. 知能と学力①
12. 知能と学力②
13. 教育の評価①
14. 教育の評価②
15. 授業の実践と研究①
16. 授業の実践と研究②
17. 学級集団①
18. 学級集団②
19. パーソナリティの問題と生徒理解①
20. パーソナリティの問題と生徒理解②
21. 問題行動と教育相談①
22. 問題行動と教育相談②
23. 問題行動と教育相談③
24. 発達の問題①
25. 発達の問題②
26. 発達の問題③
27. 教育実践の記述
28. 教育実践と教育心理学
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 授業内課題 | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』(有斐閣アルマ) 【978-4641220591】

参考書

担当教員：澤田 豊

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W221000

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

犯罪を通して人間理解を深める機会としたい。犯罪が起きるたびに社会は何故、どうしてと原因を探し、対策を検討するが、人間の歴史において犯罪がなくなったことはない。犯罪者や犯罪現象についての理解を深め、どう対処すべきかを考える枠組みを提供する。

(2) 内容

犯罪は個人と社会の相互作用によるもので、人間の社会行動の一つである。犯罪には個人的要因・社会環境要因・その相互関係が関与し、歴史や発達という時間要因の影響もあって、犯罪を単純な直線的因果関係で説明することは難しい。|犯罪は何故起きるのか、非行少年や犯罪者とはどういう人たちかについて人間の特性から説明する。犯罪統計や事例を通して、犯罪理論や犯罪者類型について講義をする。また、犯罪者の処遇について説明し、犯罪の防止策を考える。|心理学的研究のほか、精神医学・動物生態学・社会学の関連する研究も紹介する。

受講者に対する要望

新聞などの非行犯罪に関する記事で疑問があれば、質問してほしい。講義への質問も歓迎します。|心理学の基礎知識のあることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 非行
- ・ 犯罪
- ・ 適応
- ・ 無力感
- ・ 疎外感

授業計画

01. 講義内容の説明 参考文献の紹介 |非行少年や犯罪者はどういう人たちか 我々と何が違うのか 同じなのか
02. 人間社会と犯罪 |人間にとって犯罪とは何か 歴史上犯罪がなくなるのは何故か
03. 適応と犯罪 |犯罪を社会適応の視点から考える。人間が困難に直面した時に取る適応行動の一つとして犯罪を説明する。
04. 攻撃性と悪 |攻撃性は犯罪と結び付けられることが多く悪と考えられやすいが、本当だろうか
05. 犯罪者類型 |非行少年や犯罪者の様々なタイプを紹介する。
06. 犯罪理論1 |様々な犯罪理論を紹介し、これまで犯罪者についてどう考えてきたかを学ぶ。
07. 犯罪理論2 |非行少年に焦点を当てた理論を説明する。
08. 非行現象 |犯罪統計をもとに非行現象の現状について説明する
09. 多様な非行少年 |事例を通して様々な非行に関係する要因を説明する。
10. 発達と非行 |思春期に非行が多くなるのは何故か
11. 非行少年の処遇 |非行少年は警察・裁判所・矯正・保護という司法の流れの中でどう対応がなされているかを説明する。
12. 非行再考1 |何故非行をするのか
13. 非行再考2 |どうしたら非行をしなくなるのか
14. 非行再考3 |事例を通して理論の適用と限界を学ぶ。
15. 前半のまとめ |
16. 犯罪現象 |犯罪白書からみた犯罪の現状
17. 犯罪者の処遇 |施設処遇を中心に説明する。
18. 拘禁 |拘禁状況における人間の行動
19. 拘禁に関する社会実験と「夜と霧」から犯罪者の処遇を考える。
20. 犯罪者の多様性1 |罪名からみた犯罪者の特徴
21. 犯罪者の多様性2 |早発型と遅発型
22. 犯罪者の多様性3 |累犯者
23. 犯罪の個人的要因 |性格などは関係するのか
24. 犯罪の社会環境要因 |家庭・職場・人間関係など何が関係するのか
25. 犯罪要因の複雑さ |個人的要因と環境要因の相互作用 同じような要因がありながら犯罪をする人とならない人がいるのは何故か
26. 犯罪をめぐる諸問題1 |ストーカー犯罪 悲嘆の心理からの分
27. 犯罪をめぐる諸問題2 |ホワイトカラー犯罪
28. 犯罪をめぐる諸問題3 |犯罪のない社会はあり得るか
29. 犯罪再考 |事例（ゲーリー・ギルモア）を通して人間にとって犯罪とは何かを考える。
30. まとめ |

準備学習(予習)

特に必要はないが、非行犯罪に関する自分自身の考えや疑問をまとめておくとよい。

準備学習(復習)

講義の内容について疑問を大切にしてください。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 試験 | 70% | 中間試験 (35%)、最終試験 (35%) |
| (2) レポート | 30% | 講義の中で課題を与える。 |

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：堀 恭子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W221158

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

対人援助については、専門職としてどのようにあるべきかについて教育がなされるが、「なすべきことができなかつたときにどうするか」について学ぶ機会は少ない。福祉心理学では福祉を対人援助と読み解いて、援助者・被援助者双方を心理学的側面から理解すると同時に、対人援助場面をコミュニティ心理学の視点を持ってシステムティックに捉える練習の場とし、現実の援助場面について考える機会とする。

(2) 内容

講義の前半では、参考文献に沿って主に援助者に起こっていることについて学び、後半では具体的な対人援助場面において、援助者・被援助者・援助場面に起こりうることについて紹介し、受講者と共に対人援助について考えていきたい。ほぼ毎回受講者間でのグループディスカッションを通して、学びを深めていく予定である。

受講者に対する要望

話題提供されたことに対して、自分の考えをまとめて記述することが求められます。また、受講者間のグループディスカッションを行いますので、出席や授業内課題の内容を重視します。一方的に聞くだけの授業ではないのですが、苦手意識を取り去るよい機会ですので、ぜひチャレンジしてみてください。

学びのキーワード

- ・心理学的視点
- ・支援を受けることの理解
- ・支援することの理解
- ・相互作用の視点を持った自己理解
- ・相互作用の視点を持った関係理解

授業計画

01. オリエンテーション
02. 参考文献解説 (1)
03. 参考文献解説 (2)
04. 参考文献解説 (3)
05. 参考文献解説 (4)
06. 参考文献解説 (5)
07. 参考文献解説 (6)
08. 参考文献解説 (7)
09. まとめ
10. 福祉における心理学
11. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (1)
12. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (2)
13. 心理学的視点からみた児童・生徒支援
14. 心理学的視点からみた障害支援 (含医療)
15. まとめ／人はなぜ・どのように援助するか

準備学習(予習)

授業終了時に、次回までの簡単な課題を提示し、課題内容を踏まえて指示されたショートレポートを作成する。

準備学習(復習)

講義内容について、自分の考えをまとめ、小グループで意見を出し合い他者の考えを知り、自分の考えを伝える。ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識と思考の整理を行う。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業内課題 | 30% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末レポート | 40% |

教科書

参考書

参考文献を適宜紹介します

担当教員： 山本 渉

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1W221564

学部教育の関連目

【W】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

パーソナリティ研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論について学び、心理学において個人差の問題を取り扱うための基礎知識を習得します。その上で、多面的なアプローチをもとに考えたり体験したりすることで、自己や他者の内面をより深く理解できるようになることを目標としています。

(2) 内容

人間の行動や意識的経験は同じ状況においてさえ、人によって少なからず異なります。一方、状況が変化しても、その人に特有の、ある程度一貫した行動や意識的経験が認められます。パーソナリティ（人格）とは、このような個人差と個人内の一貫性に関わる概念であり、その人のその人らしさを形作っているものです。本講義では、パーソナリティ研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論を紹介します。また、自己や他者のパーソナリティについての理解を深めるため、実習等の具体的な課題も盛り込みながら授業を進めます。

受講者に対する要望

実習や課題等の提出物は、講義を聞かないと作成できません。全出席を目指すこと、積極的に参加することを求めます。

学びのキーワード

- ・ 類型論と特性論
- ・ パーソナリティ検査法（質問紙法、投映法、作業検査法）
- ・ 学派ごとのパーソナリティの捉え方
- ・ パーソナリティの形成
- ・ パーソナリティ障害

授業計画

01. オリエンテーション
02. パーソナリティ研究の歴史と理論（類型論と特性論）
03. パーソナリティ検査法(1)：質問紙法
04. パーソナリティ検査法(2)：投映法、作業検査法
05. 【実習1】投映法を体験してみよう
06. 学派による捉え方の違い(1)：精神分析から
07. 学派による捉え方の違い(2)：クライアント中心療法と認知行動療法から
08. 【実習2】自分の認知・感情・行動について考えてみよう
09. パーソナリティはどのように形成されるのか
10. 社会心理学的知見から
11. 人間関係・家族関係の中でパーソナリティを捉える
12. 面接法の技法
13. 【実習3】パーソナリティ障害に対する理解を深めよう
14. 適応と支援（パーソナリティ障害を中心に）
15. まとめ

準備学習(予習)

実習は、その前までの回の授業内容と連動しているので、実習前には内容を再確認すること。

準備学習(復習)

毎回配布するプリントの内容を振り返り、理解を定着させること。実習課題を丁寧に取り組み、提出すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への取り組み | 40% |
| (2) 実習課題の提出 | 20% |
| (3) 学期末テスト | 40% |

教科書

参考書

担当教員：長谷川 恵美子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W221672

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

臨床心理学の基礎知識を身につけるとともに、上記で紹介した各領域での応用の仕方を学び、実際の臨床、ボランティアの現場にて、統合的な支援を検討することができるようになることを目標とする。

(2) 内容

臨床心理学は心理学の一研究分野であるとともに、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学でもある。授業では、その歴史、発達理論や人格理論などの基礎理論、心理査定や心理療法などの方法論について、学校、産業、医療、福祉などの視点から、それぞれの領域での事例などを概説し、また時にはディスカッションを通しながら理解を深める。

受講者に対する要望

各回の課題に積極的に取り組み、その時点での自らの意見や考え方を挙げて授業に参加すること。

学びのキーワード

- ・臨床心理学
- ・統合的支援
- ・心理療法
- ・心理アセスメント

授業計画

01. この授業に関するガイダンス
02. 臨床心理学とは
03. 臨床心理学の歴史 1
04. 臨床心理学の歴史 2
05. 臨床心理学の基礎理論（精神分析を中心に）
06. 臨床心理学の基礎理論（イメージの心理学）
07. 臨床心理学の基礎理論（行動論的立場から）
08. 臨床心理学の基礎理論（認知的立場から）
09. 臨床心理学の基礎理論（発達論的立場から）
10. 臨床心理学の基礎理論（統合的心理療法）
11. 心理アセスメントとは
12. 心理アセスメントの実際（診断基準）
13. 心理アセスメントの実際（知的側面の把握）
14. 心理アセスメントの実際（認知的側面の把握）
15. 心理アセスメントの実際（人格的側面の把握）
16. 心理アセスメントの解釈（基礎）
17. 心理アセスメントの解釈（実践編）
18. 臨床心理学的援助とは
19. 臨床心理士による支援とは
20. 心理臨床の実際（幼少期の問題）
21. 心理臨床の実際（思春期を考える）
22. 心理臨床の実際（青年期を考える）
23. 心理臨床の実際（中高年を考える）
24. 心理臨床の実際（産業領域のシステム）
25. 心理療法の実践（家族への支援）
26. 心理臨床の実際（医療分野と臨床心理学）
27. 心理臨床の実際（疾患を抱えた人への支援）
28. 心理臨床の実際（高齢者への支援）
29. 心理臨床の実際（最近の心理療法）
30. まとめ

準備学習（予習）

配布した資料は熟読し参加することを期待する。

準備学習（復習）

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

参考書

担当教員：川西 智也

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W221780

学部教育の関連目

【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

カウンセリングの知識や態度を学び、将来受講者が関わる可能性のある対人援助の現場で活かせるようになることを目標とする。また、カウンセリングの実践には、自身の心の動きや対人関係のパターンなど、自分についての気づきや発見を積み上げていくことも不可欠である。こうした自己理解を深めることも目標としたい。

(2) 内容

対話による対人援助のひとつであるカウンセリングは、医療、教育、福祉、産業など、それぞれの分野・現場に適した形で活用され、独自の発展を遂げている。授業では多様なカウンセリングに共通する理論や技法、態度を中心に理解することを目的とする。聴講を通じた知的な理解だけでなく、ロール・プレイや事例検討などのワークへの取り組みを通じた体験的理解を促したい。

受講者に対する要望

本授業では、ロール・プレイや事例検討などのグループワークに取り組み、学生間でディスカッションを行う機会が多い。受講者には授業への積極的な参加を期待する。

学びのキーワード

- ・カウンセリングの基本的姿勢と基礎技法
- ・アセスメント
- ・カウンセリングの過程
- ・体験的理解
- ・自己理解

授業計画

01. オリエンテーション
02. カウンセリングとは
03. カウンセリングの基礎技法① 傾聴
04. カウンセリングの基礎技法② 傾聴 (ワーク)
05. カウンセリングの基礎技法③ 応答
06. カウンセリングの基礎技法④ 応答 (ワーク)
07. アセスメント① アセスメントとは
08. アセスメント② 面接法
09. アセスメント③ 心理検査
10. アセスメント④ 心理検査 (ワーク)
11. カウンセリングの初期
12. カウンセリングの初期 (ワーク)
13. カウンセリングの過程① 来談者中心療法
14. カウンセリングの過程② 来談者中心療法 (ワーク)
15. カウンセリングの過程③ 精神分析
16. カウンセリングの過程④ 精神分析 (ワーク)
17. カウンセリングの過程⑤ 認知行動療法
18. カウンセリングの過程⑥ 認知行動療法 (ワーク)
19. カウンセリングの終結
20. カウンセリングの終結 (ワーク)
21. カウンセリングの実際① 医療
22. カウンセリングの実際② 医療 (ワーク)
23. カウンセリングの実際③ 教育
24. カウンセリングの実際④ 教育 (ワーク)
25. カウンセリングの実際⑤ 福祉
26. カウンセリングの実際⑥ 福祉 (ワーク)
27. カウンセリングの実際⑦ 産業
28. カウンセリングの実際⑧ 産業 (ワーク)
29. 講義のまとめ①
30. 講義のまとめ②

準備学習(予習)

授業の冒頭では、前回の授業で記入したふりかえりシートについて教員がコメントをするので、前回の授業内容について再度確認しておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布された資料に再度目を通して学習内容を整理し、気づきや疑問点を簡単にまとめておくこと

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 60% | 授業内の課題やグループワークへの取り組み、ふりかえりシートを平常点として評価 |
| (2) 期末レポート | 40% | |

教科書

プリントを配布する

参考書

授業のなかで適宜紹介する

担当教員： 中原 純

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1W221888

学部教育の関連目

【W】 対人支援力： 人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 認定心理士： 基礎科目

(1) 学びの意義と目標

心理学は心の科学です。そのため、人間の心理をデータにしてわかりやすく分析することが求められます。この授業では、心理学の研究論文（質的研究・量的研究）を正しく読むことができ、自分自身で研究計画を作成し、データを取得し、パソコンを使って分析できるようになることを目標とします。

(2) 内容

この講義は大きく2つのパートに分かれています。前半部（1～15回）は心理学研究法について学び、後半部（16～30回）は心理統計法について学びます。ただし、心理学研究法（前半部）と心理統計法（後半部）は独立したものではありません。心理学的に現象（具体的な物事）を捉えることができ、その上で、データとして扱うことによって、より深く心理学の研究を理解・遂行することができるようになります。また、いずれのパートも講義と実習（実験・調査計画を立てる、学術論文を読む、統計ソフトを操作する等）を織り交ぜた授業内容を予定しています。

受講者に対する要望

この授業の内容を理解するには、ある程度“慣れ”が必要です。最初は理解できなくても、実習課題を進めたり、論文を読んだり、研究計画を考えたりする中で徐々に理解できていきます。そのため、わからないことが多くても、諦めずに最後まで出席するようにしてください。|卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している人間福祉学科の学生は、この授業を必ず履修してください。

学びのキーワード

- ・ 心理学研究法
- ・ 質的研究
- ・ 量的研究
- ・ 記述統計
- ・ 推測統計

授業計画

01. イントロダクション（心理学研究法、心理統計法とは？）
02. “こころ”の捉え方（独立変数と従属変数）
03. 探索型研究と検証型研究
04. データの収集①（観察法）
05. データの収集②（面接法）
06. 質的研究における分析方法
07. データの収集③（実験法）
08. 量的研究における分析方法①（実験から得られたデータの分析）
09. データの収集④（調査法）
10. 量的研究における分析方法②（調査から得られたデータの分析）
11. 心理学の学術論文の読み方①
12. 心理学の学術論文の読み方②
13. リサーチクエスションの立て方
14. 研究計画の作成方法
15. 心理学研究法のまとめ
16. 変数の種類と尺度の水準
17. 代表値と散布度
18. 標準化と偏差値
19. 共分散と相関係数
20. 回帰式
21. 推測統計のイントロダクション
22. 母集団と標本
23. 正規分布と標本分布
24. 1つの平均値の検定
25. t検定による平均値の比較①（独立したデータの検定）
26. t検定による平均値の比較②（対応のあるデータの検定）
27. 3つ以上の平均の比較と交互作用
28. 相関係数の検定
29. 単回帰分析と重回帰分析
30. 心理統計法のまとめ

準備学習(予習)

授業では、エクセルを使って分析を行ったり、UNIPAを利用して課題の受け渡しをします。そのため、図の作成方法等、エクセルの基本的な知識と技術は事前に学習できている方が望ましいです。また、UNIPAの使い方も慣れておいてください。

準備学習(復習)

わからないことは教員に気軽に積極的に質問し、可能な限りすぐに解決するようにしてください。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------------|
| (1) 試験 | 50% | |
| (2) 実習課題 | 50% | 講義内容に関する課題を設定し、提出を求めることが多くあります。 |

教科書

参考書

担当教員：長谷川 恵美子、中原 純

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W221996

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：基礎科目

(1) 学びの意義と目標

基礎的な心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、統計的処理などを学び、得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

(2) 内容

1. 内容 | 少人数のグループに分かれ心理学各領域（知覚、学習、記憶、欲求、態度など）の研究実践の基礎を、実習をとおして学ぶことを目的としている。実験実施とともに各実験が終わるごとにレポートの提出が求められる。他のグループメンバーに負担がかからないよう欠席・遅刻・レポート期限などは厳しくチェックされる授業である。| 「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

受講者に対する要望

レポートを書く際に、心理統計の知識が必要となるため、心理学研究法を並履修することが望ましい。
卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、秋学期の「心理学実験実習B」とあわせて本授業を履修すること。可能なら実験実習A,Bの順に履修することが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 実験
- ・ 調査方法
- ・ 心理学研究法
- ・ 心理統計

授業計画

01. 心理学実験に関するオリエンテーション
02. 心理学実験と倫理
03. 心理学実験と統計
04. 視覚の特徴と錯視（ミューラー・リヤー錯視）(1)
05. 視覚の特徴と錯視（ミューラー・リヤー錯視）(2)
06. 触2点閾の測定(1)
07. 触2点閾の測定(2)
08. 反射・反応時間《生理》(1)
09. 反射・反応時間《生理》(2)
10. 唾液アミラーゼとストレス《生理》(1)
11. 唾液アミラーゼとストレス《生理》(2)
12. イメージの測定（SD法）《調査・観察》(1)
13. イメージの測定（SD法）《調査・観察》(2)
14. パーソナルスペースの観察《調査・観察》(1)
15. パーソナルスペースの観察《調査・観察》(2)
16. 短期記憶・系列位置効果《実験：認知》(1)
17. 短期記憶・系列位置効果《実験：認知》(2)
18. ストループ効果—認知的葛藤—(1)
19. ストループ効果—認知的葛藤—(2)
20. 鏡映描写—学習の転移—(1)
21. 鏡映描写—学習の転移—(2)
22. 錯誤相関《実験：社会》(1)
23. 錯誤相関《実験：社会》(2)
24. 社会的態度尺度の構成（リッカート法）(1)
25. 社会的態度尺度の構成（リッカート法）(2)
26. 印象形成《実験：社会》(1)
27. 印象形成《実験：社会》(2)
28. ゲーム理論(1)
29. ゲーム理論(2)
30. まとめ

準備学習(予習)

この授業は実習形式の授業である。授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えもしながら積極的に取り組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 平常レポート | 70% |
| (2) 平常点（授業への積極的参加状況） | 30% |

教科書

授業時に指示する

参考書

担当教員：長谷川 恵美子、堀 恭子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W222004

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：基礎科目

(1) 学びの意義と目標

少人数のグループに分かれ、心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。またこの授業では、得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

(2) 内容

心理学研究の基礎を修得する。臨床系の心理調査などの内容も含まれるため、留意しなければならない倫理の問題をはじめ、仮説設定、実験デザインの決定などの作業を取り上げながら、心理学各領域（認知心理、社会心理、臨床心理、生理心理など）の研究実践の基礎を実習をとおして学ぶことを目的としている。「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

受講者に対する要望

この科目は、人間福祉学科、心理系、「応用科目」であり、できる限り、心理学実験実習Aを履修後に受講することが望ましい。特に心理系で卒業研究を行う学生は受講することが望ましい。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、春学期の「心理学実験実習A」とあわせて本授業を履修すること。

学びのキーワード

- ・心理学実験
- ・心理アセスメント
- ・心理療法
- ・心理学研究法
- ・生理心理学

授業計画

01. 心理検査法に関するオリエンテーション
02. 検査と倫理
03. 性格検査質問紙法（YG 性格検査）（1）
04. 性格検査質問紙法（YG 性格検査）（2）
05. 性格検査質問紙法（CMI健康調査）（1）
06. 性格検査質問紙法（CMI健康調査）（2）
07. 発達検査（デンバー）（1）
08. 発達検査（デンバー）（2）
09. 知能検査（田中・鈴木ビネー）（1）
10. 知能検査（田中・鈴木ビネー）（2）
11. 知能検査（WAISⅢ）（1）
12. 知能検査（WAISⅢ）（2）
13. 認知機能検査（HDS-R, MMSE）（1）
14. 認知機能検査（WMSR）（2）
15. 性格検査（SCT）（1）
16. 性格検査（SCT）（2）
17. 性格検査作業検査法（内田クレペリン）（1）
18. 性格検査作業検査法（内田クレペリン）（2）
19. PFスタディ（1）
20. HTP/樹木画（1）
21. HTP/樹木画（2）
22. 箱庭実習（1）
23. 箱庭実習（2）
24. ロールシャッハ（1）
25. ロールシャッハ（2）
26. こどもの行動観察（1）
27. こどもの行動観察（2）
28. ストレスなどその他の心理検査法（1）
29. ストレスなどその他の心理検査法（2）
30. まとめ

準備学習（予習）

授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えももちながら積極的に取り組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。

準備学習（復習）

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常レポート | 70% |
| (2) 平常点（授業への積極的参加） | 30% |

教科書

授業時に指示する

参考書

担当教員：岩田 健

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230100

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目【全】社会福祉主事任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・介護の概念や対象及びその理念等について理解する。|・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。|・終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。

(2) 内容

・介護の概念や対象|・介護過程|・介護の技法（住環境の整備を含む。）|・認知症ケア|・介護予防|・終末期ケア

受講者に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・自立支援
- ・介護の専門性
- ・介護の理念
- ・エンパワメント
- ・個人の尊厳

授業計画

01. 介護の概念や対象 (1) 介護の概念と範囲
02. 介護の概念や対象 (2) 介護の理念
03. 介護の概念や対象 (3) 介護の対象
04. 介護過程
05. 介護の技法 (1) 家事における自立支援
06. 介護の技法 (2) 身支度・移動・睡眠の介護
07. 介護の技法 (3) 食事・口腔衛生の介護
08. 介護の技法 (4) 入浴・清潔・排泄の介護
09. 介護と住環境
10. 認知症ケア (1) 認知症ケアの基本的考え方
11. 認知症ケア (2) 認知症ケアの実際
12. 介護予防 (1) 介護予防の必要性
13. 介護予防 (2) 介護予防プランの実際
14. 終末期ケア (1) 終末期ケアの基本的考え方
15. 終末期ケア (2) 終末期ケアの実際

準備学習(予習)

次回の授業について口述しますから、いわれた箇所を必ず読んでくること。また、配布したプリントの空白を教科書をみて埋めること。

準備学習(復習)

A4のノートを準備し、1回受講ごとに、学んだ内容と感想をまとめ、授業終了5分前にその箇所を広げておく。

評価方法

(1) 試験	70%
(2) 介護過程記録	15%
(3) 宿題	10%
(4) 出席	5%

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度(第4版)』(中央法規出版)【978-4808851067】

参考書

担当教員：岩田 健

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230215

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。| 2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。| 3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。|

(2) 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

受講者に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ ジュハリの窓
- ・ ボディメカニクス
- ・ 生活不活発病
- ・ 自立性・安全性・安楽性
- ・ 自分らしさ

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーションの基本
03. 身支度の介護
04. 身支度の介護演習
05. 移動の介護
06. 移動の介護演習
07. 睡眠の介護
08. 食事の介護
09. 食事の介護演習
10. 入浴・身体の清潔
11. 足浴の演習
12. 排泄の介護
13. 排泄の介護演習
14. 予想される事故とその対応
15. 住環境の整備

準備学習(予習)

次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。

演習に関してはシュミュレーションしておく。

準備学習(復習)

演習を行って見て、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。

評価方法

- | | |
|----------|----------|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) レポート | 20% 宿題含む |
| (3) 出席 | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版』(中央法規出版)【978-480883016】

参考書

相談援助の基盤と専門職

CCSW-W-100

担当教員：助川 征雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W230332

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。| ・精神保健福祉士の役割と意義について理解する。| ・相談援助の概念と範囲について理解する。| ・相談援助の理念について理解する。| ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。| ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。| ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

(2) 内容

・社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 | ・相談援助の概念と範囲 | ・相談援助の理念 | ・相談援助に係る専門職の概念と範囲 | ・専門職倫理と倫理的ジレンマ | ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 | ・総合的かつ包括的な援助を支える理論

受講者に対する要望

最初の授業の時に、テキストをもとに全体の授業日程を提示しそれに沿って授業を進めていく。テキストは最初の授業時に購入しておくこと。

学びのキーワード

- ・ソーシャルワーク
- ・生活支援
- ・権利擁護
- ・自立支援
- ・社会的包摂

授業計画

01. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (1) 社会福祉士及び介護福祉士法
02. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (2) 社会福祉士の専門性
03. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (3) 精神保健福祉士法
04. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (4) 精神保健福祉士の専門性
05. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (5) 「総合的かつ包括的な相談援助」が求められる背景と制度的動向
06. 相談援助の概念と範囲 (1) ソーシャルワークに係る国際定義
07. 相談援助の概念と範囲 (2) ソーシャルワークの形成過程① 源流・基礎確立期
08. 相談援助の概念と範囲 (3) ソーシャルワークの形成過程② 発展期・批判期
09. 相談援助の概念と範囲 (4) ソーシャルワークの形成過程③ 再編期
10. 相談援助の概念と範囲 (5) ソーシャルワークの形成過程④ 統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク
11. 相談援助の理念 (1) ソーシャルワーク実践と価値
12. 相談援助の理念 (2) 自立支援
13. 相談援助の理念 (3) 利用者の尊厳と自己決定
14. 相談援助の理念 (4) ノーマライゼーション
15. 相談援助の理念 (5) 社会的包摂
16. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (1) 相談援助専門職の概念と範囲
17. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (2) 福祉行政等における専門職
18. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (3) 民間の施設・組織における専門職
19. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (4) 諸外国の動向
20. 相談援助における権利擁護の意義
21. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (1) 専門職倫理の概念
22. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (2) 倫理綱領
23. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (3) 倫理的ジレンマ
24. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (4) 倫理的ジレンマに関する事例検討
25. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 (1) ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な援助の意義と内容
26. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 (2) ジェネラリストの視点に基づく多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
27. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (1) ニーズ把握
28. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (2) エンパワメントと社会資源の主体的活用
29. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (3) 媒介と「影響作用」
30. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (4) エコシステムとコミュニティ

準備学習(予習)

最初の授業時に授業日程表を配布する。それに沿って各時限の授業を進行するので、それにあわせて指定したテキストの該当するところを熟読して授業に臨むこと。

準備学習(復習)

その日に疑問に思ったことは参考書を調べるなどしてクリアしておくこと。このような復習をを習慣にすることが望ましい。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 期末試験の成績 | 70% |
| (2) 学習意欲に関する評価 | 30% |

期末試験の成績（70%）と授業態度（学習意欲に関する評価）（30%）をあわせて100点満点として全体を評価する。

教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会、柳澤 孝主、坂野 恵司『相談援助の基盤と専門職3版（社会福祉士シリーズ6）』（弘文堂）【978-4805851029】 |

参考書

担当教員： 田村 綾子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1W230440

学部教育の関連目

【W】 対人支援力： 対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 高等学校教諭一種（福祉）： 必修科目 【W】 社会福祉士国家試験受験資格： 必修科目

(1) 学びの意義と目標

・ 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。| ・ 相談援助の対象について理解する。| ・ 相談援助の過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。

(2) 内容

・ 相談援助活動の意義 | ・ 相談援助の理論と発展 | ・ 相談援助の対象 | ・ 相談援助の構造と機能 | ・ 相談援助の過程 | ・ ケースマネジメントとケアマネジメント | ・ 相談援助のためのアウトリーチ | ・ 相談援助におけるネットワークング | ・ 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 | ・ 相談援助における情報通信技術(IT)の活用

受講者に対する要望

教科書・ノートを持参すること。授業中は静かに受講し、教員からの問いかけに対して真面目に考察すること。

学びのキーワード

- ・ 相談
- ・ 援助関係
- ・ 生活
- ・ 社会

授業計画

01. 相談援助活動の意義
02. 相談援助の理論と発展 (1) 人と環境の相互作用
03. 相談援助の理論と発展 (2) 相談援助技術体系の発展
04. 相談援助の理論と発展 (3) システム思考に基づくジェネリックな援助理論
05. 相談援助の対象 (1) 社会福祉の対象の概念
06. 相談援助の対象 (2) 相談援助の対象の概念と範囲
07. 相談援助の対象 (3) 個人・家族、グループ、地域との相談援助の視点
08. 相談援助の構造と機能 (1) 相談援助の構造
09. 相談援助の構造と機能 (2) 相談援助の機能
10. 相談援助の過程 (1) 相談援助過程の概観
11. 相談援助の過程 (2) インテーク
12. 相談援助の過程 (3) アセスメント①相談援助におけるアセスメントの特徴
13. 相談援助の過程 (4) アセスメント②情報収集の方法
14. 相談援助の過程 (5) アセスメント③情報の分析・生活課題の確定
15. 相談援助の過程 (6) 支援の計画
16. 相談援助の過程 (7) 支援の実施
17. 相談援助の過程 (8) モニタリングと評価
18. 相談援助の過程 (9) 支援の終結とアフターケア
19. ケースマネジメントとケアマネジメント (1) ケースマネジメントとケアマネジメントの概念
20. ケースマネジメントとケアマネジメント (2) ケアマネジメントの目的と意義
21. ケースマネジメントとケアマネジメント (3) ケアマネジメントの方法と留意点
22. 相談援助のためのアウトリーチ (1) アウトリーチの意義と目的
23. 相談援助のためのアウトリーチ (2) アウトリーチの方法と留意点
24. 相談援助におけるネットワークング (1) ネットワークングの意義と目的
25. 相談援助におけるネットワークング (2) ネットワークングの方法と留意点
26. 相談援助におけるネットワークング (3) ネットワークングのためのシステムづくり
27. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (1) 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
28. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (2) 社会資源の活用・調整開発の方法と留意点
29. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (3) ソーシャルアクションによるシステムづくり
30. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用 IT活用の意義と留意点及び支援の概要

準備学習(予習)

今回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 毎回の授業のリアクションペーパー | 30% |
| (3) 提出物 | 10% |
| (4) 受講態度 | 10% |

教科書

社会福祉学習双書』編集委員会『社会福祉援助技術論 I』(全国社会福祉協議会)【978-4793512278】

参考書

担当教員：鷹野 吉章

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W230548

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：選択科目|【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・ 相談援助に係るクリニカル・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。|・ 相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。|・ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。|・ 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

(2) 内容

・ 相談援助における援助関係|・ 相談援助のための基本技法|・ 相談援助の実践モデルとアプローチ|・ 集団を活用した相談援助|・ スーパービジョンとコンサルテーション|・ 相談援助における記録|・ 事例分析

受講者に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

学びのキーワード

- ・ クリニカル・ソーシャルワーク
- ・ ソーシャルワーク理論モデル
- ・ グループワーク
- ・ スーパービジョン
- ・ 事例分析

授業計画

01. 相談援助における援助関係 (1) 援助関係の意義と概念
02. 相談援助における援助関係 (2) 援助関係の形成方法
03. 相談援助のための基本技法 (1) コミュニケーション技法
04. 相談援助のための基本技法 (2) 面接技法① 相談援助における面接の目的
05. 相談援助のための基本技法 (3) 面接技法② 相談援助における面接の展開
06. 相談援助のための基本技法 (4) 面接技法③ 相談援助における面接の形態
07. 相談援助のための基本技法 (5) 契約の意義と目的
08. 相談援助のための基本技法 (6) 契約の方法と留意点
09. 相談援助のための基本技法 (7) 観察技法
10. 相談援助の実践モデルとアプローチ (1) 相談援助の焦点化と視点
11. 相談援助の実践モデルとアプローチ (2) ソーシャルワーク実践のモデル①
12. 相談援助の実践モデルとアプローチ (3) ソーシャルワーク実践のモデル②
13. 相談援助の実践モデルとアプローチ (4) ソーシャルワーク実践のモデル③
14. 相談援助の実践モデルとアプローチ (5) ソーシャルワーク実践のモデル④
15. 相談援助の実践モデルとアプローチ (6) ソーシャルワーク実践のモデル⑤
16. 集団を活用した相談援助 (1) 集団を活用した相談援助の意義と特徴
17. 集団を活用した相談援助 (2) グループワークの原則
18. 集団を活用した相談援助 (3) グループワークの実際
19. スーパービジョンとコンサルテーション (1) スーパービジョンの意義と目的
20. スーパービジョンとコンサルテーション (2) スーパービジョンの内容・形態・機能
21. スーパービジョンとコンサルテーション (3) コンサルテーションの意義と目的
22. 相談援助における記録 (1) 記録の意義と目的
23. 相談援助における記録 (2) 記録の種類と方法
24. 相談援助における記録 (3) 個人情報保護の意義と留意点
25. 事例分析 (1) 事例分析の意義と方法
26. 事例分析 (2) 相談援助活動の実際 ①社会的排除
27. 事例分析 (3) 相談援助活動の実際 ②児童虐待
28. 事例分析 (4) 相談援助活動の実際 ③高齢者虐待
29. 事例分析 (5) 相談援助活動の実際 ④ホームレス
30. 事例分析 (6) 相談援助活動の実際 ⑤家庭内暴力 (D.V)

準備学習(予習)

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

出席点について：毎回の出席が欠席となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

教科書

教科書は使用せず毎回配布する資料により講義する。

参考書

児童福祉論 A

CGSW-D-200/CGSW-W-2

担当教員：栗原 直樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230656

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。|・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。|・児童の権利について理解する。|・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。

(2) 内容

・児童・家庭を取り巻く社会環境 | ・児童・家庭福祉の理念とあゆみ | ・児童・家庭にかかわる法制度

受講者に対する要望

【注意事項】
「児童福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (1) 現代社会と子どもの成長・発達
02. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (2) 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
03. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (3) 児童・家庭の福祉ニーズの実際
04. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (1) 児童家庭福祉の理念および概念
05. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (2) 児童育成責任
06. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (3) 児童の権利保障
07. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (4) 児童家庭福祉制度の発展過程
08. 児童・家庭にかかわる法制度 (1) 児童・家庭福祉の法体系
09. 児童・家庭にかかわる法制度 (2) 児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度 (3) 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度 (4) DV防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度 (5) 母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度 (6) 次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度 (7) 児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度 (8) 児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 松原康雄、オ村純、芝野松次郎 編著 | ミネルウゝア書房 社会福祉士養成テキストブック ISBN 978-4-623-07378-8

参考書

児童福祉論B

CGSW-D-200/CGSW-W-2

担当教員：栗原 直樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230764

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。| ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。| ・児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。|

(2) 内容

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス | ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 | ・児童・家庭への相談活動の実際

受講者に対する要望

【注意事項】
「児童福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (1) 母子保健
02. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (2) 障害・難病のある児童と家族への支援
03. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (3) 児童の社会的養護サービス
04. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (4) 児童虐待対策
05. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (5) 保育
06. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (6) ひとり親家庭の福祉
07. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (7) 子育て支援
08. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (8) 児童健全育成
09. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (9) 非行・情緒障害児への支援
10. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (10) 女性福祉
11. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (1) 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (2) 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
13. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (3) 児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
14. 児童・家庭への相談活動の実際 (1) 児童相談所による支援
15. 児童・家庭への相談活動の実際 (2) 多職種連携、ネットワーキング

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 松原康雄、オ村純、芝野松次郎 編著 | ミネルウゝア書房 社会福祉士養成テキストブック ISBN 978-4-623-07378-8

参考書

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230880

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
|・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。|・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。|・高齢者の福祉ニーズについて理解する。|・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。

(2) 内容

・発達と老化の理解 | ・高齢者の生活実態 | ・認知症の理解 | ・高齢者の福祉ニーズ | ・少子高齢社会と高齢者

受講者に対する要望

本講義では、高齢者への理解を深めることが主要な目的となります。高齢者にまつわる具体的な事例や統計データ等を用いて、より実践的な学びにつなげるようにしたいと思います。
国家試験受験資格に必要な科目ですので、知識の習得はもちろん重要なことですが、その知識を自分の身近な状況に引き付けて考えることでより深い学びになると思います。是非、社会や地域との接点を意識しながら、講義に参加してください。

学びのキーワード

- ・発達と老化
- ・生活実態
- ・認知症
- ・ニーズ
- ・少子高齢社会

授業計画

01. 発達と老化の理解 (1) 人間の成長と発達の基礎的理解
02. 発達と老化の理解 (2) 老年期の発達と成熟
03. 発達と老化の理解 (3) 老化に伴うことからの変化と日常生活
04. 発達と老化の理解 (4) 高齢者と健康
05. 高齢者の生活実態 (1) 高齢者を取り巻く社会環境
06. 高齢者の生活実態 (2) 高齢者の世帯状況・経済状況
07. 高齢者の生活実態 (3) 高齢者の総合的理解
08. 認知症の理解 (1) 認知症を取り巻く状況
09. 認知症の理解 (2) 認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解 (3) 認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ (1) 要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ (2) 認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ (3) 高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ (4) 高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者

準備学習(予習)

次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。

準備学習(復習)

講義で配布した資料を読み返したり、関連する書籍を読んだりして、理解を深めてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 課題 | 20% |

高齢者をとりまく様々な実態について、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版』(中央法規出版)【978-4805853016】

参考書

担当教員：長谷部 雅美、古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：1W230988

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。|・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。

(2) 内容

・高齢者保健福祉の発展と制度体系|・介護保険法の概要|・高齢者支援の関係法規|・高齢者を支援する組織と役割|・専門職の役割と実際|・高齢者支援の方法と実際

受講者に対する要望

本講義では、高齢者を支援する法制度や仕組みを学ぶことが主要な目的です。高齢者の生活実態と適宜関連させながら、講義を展開していきます。
国家試験受験資格に必要な科目ですので、知識の習得はもちろん重要なことですが、その知識を自分の身近な状況に引き付けて考えることでより深い学びになると思います。是非、社会や地域との接点を意識しながら、講義に参加してください。

学びのキーワード

- ・制度体系
- ・介護保険法
- ・関係法規
- ・関係組織
- ・専門職の役割

授業計画

01. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (1) 高齢者保健福祉の発展 (担当：古谷野)
02. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (2) 高齢者保健福祉の制度体系 (担当：古谷野)
03. 介護保険法の概要 (1) 介護保険制度の目的・保険財政 (担当：古谷野)
04. 介護保険法の概要 (2) 保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス (担当：古谷野)
05. 介護保険法の概要 (3) 介護保険サービスの体系 (担当：古谷野)
06. 介護保険法の概要 (4) 介護概要 (担当：古谷野)
07. 介護保険法の概要 (5) 介護保険制度の最近の動向 (担当：古谷野)
08. 高齢者支援の関係法規 (1) 老人福祉法 (担当：長谷部)
09. 高齢者支援の関係法規 (2) 高齢者の医療の確保に関する法律 (担当：長谷部)
10. 高齢者支援の関係法規 (3) 高齢者虐待防止法 (担当：長谷部)
11. 高齢者支援の関係法規 (4) その他関係法規 (担当：長谷部)
12. 高齢者を支援する組織と役割 (担当：長谷部)
13. 専門職の役割と実際 (担当：長谷部)
14. 高齢者支援の方法と実際 (担当：長谷部)
15. 高齢者への生活支援の今後の問題 (担当：長谷部)

準備学習(予習)

次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。

準備学習(復習)

講義で配布したレジュメを読み返したり、関連する書籍を読んだりして、理解を深めてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 課題 | 20% |

高齢者を支援する法制度や仕組みについて、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版』(中央法規出版)【978-4805853016】

参考書

担当教員：松井 優子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W231004

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。| ・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。| ・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。

(2) 内容

・障害の基礎的理解 | ・障害者福祉の基本理念 | ・生活機能障害の理解 | ・障害者の生活理解 | ・障害者の実態

受講者に対する要望

・私語を禁止します。

学びのキーワード

- ・障害
- ・人権
- ・ノーマライゼーション
- ・脱施設化

授業計画

01. 障害の基礎的理解 (1) 国際的な障害の概念 ①ICIDHからICFへ
02. 障害の基礎的理解 (2) 国際的な障害の概念 ②ICFによる障害のとらえ方
03. 障害者福祉の基本理念 (1) 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
04. 障害者福祉の基本理念 (2) ノーマライゼーションとリハビリテーション
05. 障害者福祉の基本理念 (3) 自立と自立生活
06. 生活機能障害の理解 (1) 身体障害の種類と原因、特性
07. 生活機能障害の理解 (2) 知的障害の原因と特性
08. 生活機能障害の理解 (3) 精神障害の種類と原因、特性
09. 生活機能障害の理解 (4) 発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解 (5) 障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解 (6) 障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解 (1) 障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解 (2) 事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解 (3) 事例からみる地域生活の実態と福祉ニーズ
15. 障害者の実態

準備学習(予習)

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
 2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (14) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第5版)』(中央法規出版) [978-4806851074]

参考書

担当教員：松井 優子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W231112

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）・必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・障害者福祉制度の発展過程について理解する。
|・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。|
【注意事項】|「障害者福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

(2) 内容

・障害者福祉制度の発展過程 | ・障害者にかかわる法体系 | ・障害者自立支援法 | ・組織及び団体の役割と実際 | ・障害者に関連する法律

受講者に対する要望

私語を禁止します。

学びのキーワード

- ・障害
- ・人権
- ・ノーマライゼーション
- ・脱施設化

授業計画

01. 障害者福祉制度の発展過程
02. 障害者にかかわる法体系 (1) 障害者基本法の概要
03. 障害者にかかわる法体系 (2) 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
04. 障害者総合支援法 (1) 障害者総合支援法の目的
05. 障害者総合支援法 (2) 支給決定の仕組みとプロセス
06. 障害者総合支援法 (3) 自立支援給付・地域生活支援事業等の体
07. 障害者総合支援法 (4) 障害福祉計画、苦情解決・審査請求
08. 障害者総合支援法 (5) 障害者自立支援制度の動向
09. 組織及び団体の役割と実際
10. 支援サービス提供の実際 (1) サービス提供の実際と専門職の役
11. 支援サービス提供の実際 (2) 障害者福祉分野の多職種連携、ネットワークングの実際
12. 支援サービス提供の実際 (3) 相談支援事業所の役割と活動の实
13. 障害者に関連する法律 (1) 発達障害者支援法他
14. 障害者に関連する法律 (2) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
15. 共生社会をめざして

準備学習(予習)

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
 2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (14) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第5版)』(中央法規出版) [978-4806851074]

参考書

担当教員： 牛津 信忠

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1W231328

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 高等学校教諭一種（福祉） 選択科目 | 【全】 社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。|・地域福祉の主体と対象について理解する。|・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。|・地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握方法、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。|・地域福祉計画と地域福祉活動計画について理解する。|（講義の順番は理解度に応じて変更されることがある）

(2) 内容

・現代社会における地域福祉の実際 | ・地域福祉の基本的考え方 | ・地域福祉の主体と対象 | ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 | ・地域福祉の推進方法 | ・地域福祉計画と地域福祉活動計画

受講者に対する要望

生活の場としての地域社会を自らの体験を通じて具体的に見つめ、そこで課題とされ、或いはされてきた問題状況を念頭に学んでいってほしい。単なる知識の増大を図るのみではなく実践課題をつかみ、その解決への一市民としての自覚的取り組みを忘却することなく、学びを進めること。

学びのキーワード

- ・ ノーマライゼーション
- ・ 主体的共同
- ・ ネットワーキング
- ・ 地域福祉ニーズ
- ・ トータルケアシステム

授業計画

01. 現代社会における地域福祉の実際 (1) 社会の変化と地域福祉の課題
02. 現代社会における地域福祉の実際 (2) 地域における多様な福祉課題への対応
03. 地域福祉の基本的考え方 (1) 地域福祉理論の発展と広がり
04. 地域福祉の基本的考え方 (2) 地域福祉の理念と概念
05. 地域福祉の主体と対象 (1) 地域福祉の主体
06. 地域福祉の主体と対象 (2) 地域福祉の対象
07. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (1) 行政組織と民間組織の役割
08. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (2) 専門職や地域住民の役割
09. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (3) ボランティア活動の考え方と推進方法
10. 地域福祉の推進方法 (1) 地域福祉の方法論
11. 地域福祉の推進方法 (2) 地域における福祉ニーズの把握方法① 地域福祉におけるアウトリーチの意義
12. 地域福祉の推進方法 (3) 地域における福祉ニーズの把握方法② 質的な福祉ニーズの把握方法と実際
13. 地域福祉の推進方法 (4) 地域における福祉ニーズの把握方法③ 量的な福祉ニーズの把握方法と実際
14. 地域福祉の推進方法 (5) ネットワーキング① ネットワーキングの意義と方法
15. 地域福祉の推進方法 (6) ネットワーキング② ネットワーキングの実際
16. 地域福祉の推進方法 (7) 社会資源の活用・調整・開発① 社会資源の概要
17. 地域福祉の推進方法 (8) 社会資源の活用・調整・開発② 社会資源の活用とコーディネート
18. 地域福祉の推進方法 (9) 社会資源の活用・調整・開発③ 福祉サービスの開発
19. 地域福祉の推進方法 (10) 社会資源の活用・調整・開発④ まちづくりとソーシャルアクション
20. 地域福祉の推進方法 (11) 地域トータルケアシステムの構築方法と実際① 地域トータルケアシステムの必要性と考え方
21. 地域福祉の推進方法 (12) 地域トータルケアシステムの構築方法と実際② 地域トータルケアシステムの展開方法
22. 地域福祉の推進方法 (13) 地域トータルケアシステムの構築方法と実際③ 地域トータルケアシステムの事例
23. 地域福祉の推進方法 (14) 地域における福祉サービスの評価方法と実際① 福祉サービスの評価の意義とそのシステム
24. 地域福祉の推進方法 (15) 地域における福祉サービスの評価方法と実際② 福祉サービスの評価の方法と実際
25. 地域福祉の推進方法 (16) 地域における福祉サービスの評価方法と実際③ 福祉サービスのプログラム評価の展開
26. 地域福祉の推進方法 (17) 地域福祉の財源
27. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (1) 地域福祉計画の法制化と策定の意義
28. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (2) 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の策定
29. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (3) 地域福祉活動計画と地区福祉計画の意義と内容
30. これからの地域福祉のあり方

準備学習(予習)

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、認識を深めておくこと。毎回配布するレジュメの未終了箇所を熟読し問題意識を持って次の授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業時に配布のレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項を課題視して思考を深めていくこと。3回に一度行う終了箇所に関する小テストの準備として復習をしっかり行っていくこと。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | |
| (2) 授業内小テスト | 20% | 授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。 |
| (3) 授業受講態度 | 10% | 座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。 |
| (4) 授業中の質問 | 10% | 授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。 |
| (5) 期末テスト成績 | 40% | 授業全体を対象とし、知識のみならず、思考力を重視する。 |

授業において配布されたプリントを読み前もって授業の予習しておくこと。授業終了後、ノート、プリントを参照し、復習を行うことを求める。こうした予復習が、最後に行われる学期末筆記試験、その他小テストの高い評価につながる。

教科書

参考書

スライドショー（パワーポイントによる）を主とするが、関連のプリントをも配布する。

担当教員：山本 博之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W231429

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

医療ソーシャルワークを行うために必要な基本的内容を学ぶことを目的とする。

(2) 内容

慢性疾患の時代に入り、「医療と福祉の連携」という言葉がたびたび使われるようになった。しかしながら、人々の傷病や健康にかかわる問題は社会福祉と密接な関係があったといえる。授業では、医療福祉の歴史、医療福祉専門職が習得すべき知識、価値、技術について学ぶとともに、事例を通じて医療福祉実践の現状を学ぶ。

受講者に対する要望

毎回の授業へは高い緊張感をもって出席すること。授業と関係のない作業をしている学生に対しては厳格に対処する。

学びのキーワード

- ・医療ソーシャルワーク
- ・保健医療

授業計画

01. ソーシャルワーク概論
02. 医療福祉を取り巻く背景
03. 医療ソーシャルワークの歴史
04. 日本の医療制度
05. 日本の医療福祉にかかわる制度Ⅰ：医療保険制度の概要
06. 日本の医療福祉にかかわる制度Ⅱ：診療報酬の仕組み
07. 医療ソーシャルワーカーの役割機能Ⅰ：業務指針
08. 急性期医療における医療ソーシャルワーカーの機能
09. 事例を通じた急性期医療における医療ソーシャルワーカーの機能
10. ターミナル期における医療ソーシャルワーカーの機能
11. 事例を通じたターミナル期における医療ソーシャルワーカーの機能
12. グループプレゼンテーション
13. 医療福祉の将来的展望
14. 授業の振り返り、補足
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画にて講義内容を確認し、該当部分の下調べをしてから授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業後は十分な復習を行い、知識の定着をはかること。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 授業への積極的参加態度 | 50% | 課題レポートやリアクションペーパーはコメントし、授業中にフィードバックを行う。 |
| (2) 試験 | 50% | 試験の解説を行う。 |

教科書

指定しない。資料等については教員が適宜指示、配付する。

参考書

特に指定しない。

精神保健福祉に関する制度とサービス

CPSW-W-300

担当教員：相川 章子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：1W231530

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける | 【W】対人支援力：人格を尊重して人とかわかることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。| ② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。| ③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。| ④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。| ⑤ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。|

(2) 内容

① 精神保健福祉法の意義と内容 | ② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス | ③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 | ④ 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働 | ⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係 | ⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携 | ⑦ 医療観察法の概要 | ⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割 | ⑨ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用 |

受講者に対する要望

精神保健福祉士国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。法制度等に関する知識の修得のみならず、その背景や成立プロセス等から精神保健福祉士としての価値観を身につけることを目指している。主体的に「考える」機会として積極的に授業に参加することを望みます。

学びのキーワード

- ・ 法制度成立の背景の理解
- ・ 精神障害者の福祉サービス
- ・ 精神保健福祉士としての価値

授業計画

01. オリエンテーション
02. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス 1) 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法
03. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス 2) 制度とサービスの相互作用の理解
04. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 1) 精神病患者監護法から精神保健福祉法成立までの経緯
05. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 2) 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
06. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 3) 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化
07. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 4) 障害者自立支援法成立による変化
08. 精神保健福祉法の概要 1) 精神保健福祉法の構成①
09. 精神保健福祉法の概要 1) 精神保健福祉法の構成②
10. 精神保健福祉法の概要 2) 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役
11. 精神保健福祉法の概要 3) 最近の動向
12. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 1) 障害者基本法と精神障害者施策とのかわり
13. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 2) 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際①
14. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 2) 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際②
15. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 3) 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業
16. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 1) 精神障害者と社会保障制
17. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 2) 医療保険制度/3) 介護保険制度/4) 経済的支援に関する制度
18. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 1) 相談援助にかかわる行政組織と民間組織
19. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 2) 福祉サービス提供施設・機関の役割
20. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 3) インフォーマルな社会資源の役割
21. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 4) 専門職や地域住民の役割と実際
22. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 1) 刑事司法と更生保護
23. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 2) 保護観察所と更生保護の担い手
24. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 3) 司法・医療・福祉の連携の必要性と実際
25. 医療観察法の概要と実際 1) 医療観察法の意義と内容/2) 医療観察法の審判と精神保健参与員の役割
26. 医療観察法の概要と実際 3) 指定入院医療機関における処遇
27. 医療観察法の概要と実際 4) 地域処遇/5) 社会復帰調整官の役割と実際
28. 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 1) 意義と目的/2) 対象/3) 倫理
29. 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 4) 量的調査法と質的調査法/5) ICTの活用方法/6) 事例
30. まとめ

準備学習(予習)

今回の授業でとりあげる箇所のテキストの一読

準備学習(復習)

授業内で気になったところ、疑問に感じたところなどをノートに書き留め、テキストやプリント等で復習する。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート等 | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

日本精神保健福祉士養成協会『新・精神保健福祉士養成講座 (6) 精神保健福祉に関する制度とサービス 新・精神保健福祉士養成講座 (6) 精神保健福祉に関する制度とサービス 第4版』(中央法規出版) [978-4805851197]

参考書

精神保健医療福祉白書2016 (中央法規出版) | 社会福祉六法 (最新版であれば出版社は問いません)

精神障害者の生活支援システム

CPSW-W-300

担当教員：助川 征雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：1W231632

学部教育の関連目

【M】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける | 【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。| ② 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。| ③ 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。| ④ 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。

(2) 内容

① 精神障害者の概念 | ② 精神障害者の生活の実際 | ③ 精神障害者の生活と人権 | ④ 精神障害者の居住支援 | ⑤ 精神障害者の就労支援 | ⑥ 精神障害者の生活支援システム | ⑦ 市町村における相談援助 | ⑧ その他の行政機関における相談援助

受講者に対する要望

最初の授業の時に、テキストをもとに全体の授業日程を提示しそれに沿って授業を進めていきます。テキストは最初の授業時に購入しておくこと。

学びのキーワード

- ・ 精神障害者の生活支援の意義と特徴
- ・ 生活者としての精神障害者
- ・ 居住支援
- ・ 就労支援
- ・ リカバリー支援

授業計画

01. オリエンテーション/精神障害者の概念 1) 障害の概念/2) 障害者基本法における精神障害者
02. 精神障害者の概念 3) 精神保健福祉法における精神障害/4) 精神障害者の特性
03. 精神障害者の生活の実際 1) 精神障害者の現状/2) 精神障害者と家族の現状
04. 精神障害者の生活の実際 3) 精神障害者と地域社会/4) 海外における地域生活支援モデルの動向
05. 精神障害者の生活と人権 1) 精神障害者の生活支援の理念と概要/2) 地域生活における精神障害者の人権
06. 精神障害者の地域生活支援システム 1) 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システム/2) 相談援助
07. 精神障害者の地域生活支援システム 3) 雇用・就業以外の就労/4) 余暇活動
08. 精神障害者の地域生活支援システム 5) ソーシャル・サポート・ネットワーク/6) 地域生活支援システムの実例
09. 精神障害者の居住支援 1) 居住支援制度の歴史的展開/2) 居住の場の確保と精神保健福祉士の役割
10. 精神障害者の居住支援 3) 居住支援の実例と精神保健福祉士の役割/4) 居住支援にかかわる専門職と役割/5) 今後の居住支援
11. 精神障害者の就労支援 1) 雇用・就業支援制度の概要/2) 雇用・就業支援制度の歴史的展開
12. 精神障害者の就労支援 3) 雇用・就業に関わる専門職/4) 雇用・就業支援の実例
13. 精神障害者の就労支援 5) 福祉的就労における支援の実例/6) 雇用・就業支援における近年の動向
14. 行政における相談援助 1) 市町村における相談援助システム/2) その他の行政機関における相談援助
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書を用いて授業を進行するので、それに合わせて該当するところを熟読して授業に臨むことにより、科目への興味と理解が深まる。

準備学習(復習)

各授業時に、抄録と関係資料を印刷物として配布して授業を進める。合わせて、参考文献等についても紹介するので、授業後の学習を深めるために有効に活用してもらいたい。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 期末試験の成績 | 70% |
| (2) 学習意欲に関する評価 | 30% |

授業ごとにコメントカードの提出を求め、出席日数とコメントカードの記述内容を評価する。

期末試験の成績(70%)と授業態度(学習意欲に関する評価)(30%)を合わせて100点満点として全体を評価します。

教科書

参考書

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 第7巻 精神障害者の生活支援システム(第2版)』(中央法規出版)【978-4905839492】

担当教員：助川 征雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W231740

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。|② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。|③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。|④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

(2) 内容

① 精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方|② 相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲|③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲|④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む。）の意義と内容

受講者に対する要望

精神保健福祉士の資格取得希望者は必須科目であることを認識し、より専門的な知識を習得するために積極性を持って出席することを求める。

学びのキーワード

- ・ 精神保健福祉の歴史
- ・ 関わり
- ・ 権利擁護
- ・ 社会的包括（ソーシャルインクルージョン）
- ・ スtrenグスモデル

授業計画

01. オリエンテーション
02. 精神保健福祉分野における相談援助の概念 1) 基本的な考え方
03. 精神保健福祉分野における相談援助の概念 2) 権利擁護の意義と範囲
04. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 1) 精神保健福祉分野における相談援助活動の対象
05. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 2) 精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義
06. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 3) 精神保健福祉分野における援助活動の現状と今後の展開
07. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲 1) 精神保健福祉士の概念
08. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲 2) 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務
09. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 1) 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割
10. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 2) 専門職倫理と倫理的ジレンマ
11. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 1) 総合的・包括的な援助を支える理論|
12. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 2) 総合的・包括的な援助の機能と概要
13. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 3) 多職種連携（チームアプローチ）の意義と概要
14. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 4) 多職種連携における精神保健福祉士の役割
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) リアクションペーパー | 15% |
| (3) 平常点 | 25% |

各評価項目から総合的に評価する。

教科書

参考書

新・精神保健福祉士養成講座 第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）（中央法規出版）

担当教員： 児玉 照彰

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1W231844

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。|② 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実践について理解する。|③ 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。|④ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。|

(2) 内容

① 相談援助の過程及び対象者との援助関係|② 相談援助活動のための面接技術|③ 相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む。）|④ 家族調整・支援の実践と事例分析|⑤ スーパービジョンとコンサルテーション|⑥ 地域移行の対象及び支援体制|⑦ 地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む。）|⑧ 地域を基盤にした支援とネットワーク|⑨ 地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開||

受講者に対する要望

精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目の一つです。
グループディスカッションなどを交えながらすすめていきますので、主体的積極的な参加を望みます。

学びのキーワード

- ・ 精神保健福祉士の専門性
- ・ 精神保健福祉士の価値・倫理
- ・ 精神保健福祉士の技術

授業計画

01. オリエンテーション/精神保健福祉援助技術論導入
02. 相談援助の過程および対象との援助関係 1) 地域を基盤とした相談援助
03. 相談援助の過程および対象との援助関係 2) ケース発見/3) 受理面接と契約
04. 相談援助の過程および対象との援助関係 4) 課題分析/5) 支援計画
05. 相談援助の過程および対象との援助関係 6) 支援の実施と経過の観察/7) 効果測定と支援の評価/8) 終結とアフターケア
06. 相談援助活動のための面接技術 1) 面接を効果的に行う方法
07. 相談援助活動のための面接技術 2) 面接技法
08. 相談援助活動の展開 1) 個別支援の実践と事例分析
09. 相談援助活動の展開 2) 集団を活用した支援の実践と事例分析
10. 相談援助活動の展開 3) 事例による相談援助活動の検討
11. 家族調整・支援の実践と事例分析 1) 精神保健福祉における精神障害者と家族の関係
12. 家族調整・支援の実践と事例分析 2) 家族支援の方法
13. 家族調整・支援の実践と事例分析 3) 事例による家族調整・支援の検討
14. 地域移行の対象および支援体制 1) 地域移行支援の対象/2) 地域移行の体制
15. 地域移行の対象および支援体制 3) 精神保健福祉士の役割と多職種との連携
16. 地域移行の対象および支援体制 4) 地域移行にかかる組織や機関/5) 地域移行を推進する事業の展開
17. 地域移行の対象および支援体制 6) 事例による地域移行支援の検討
18. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 1) 精神障害者を取り巻く社会的状況
19. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 2) 地域相談援助の主体/3) 地域相談援助対象/4) 地域相談援助の体制
20. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 5) 事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
21. 地域を基盤にした支援とネットワーク 1) 地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
22. 地域を基盤にした支援とネットワーク 2) 地域アセスメントとBSC およびSWOT分析
23. 地域を基盤にした支援とネットワーク 3) 地域を基盤にした支援の具体的展開
24. 地域を基盤にした支援とネットワーク 4) 事例による地域を基盤にした支援の検討
25. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 1) 包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と実践
26. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 2) 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討
27. スーパービジョンとコンサルテーション 1) スーパービジョン 意義・方法
28. スーパービジョンとコンサルテーション 2) コンサルテーション 意義・方法
29. スーパービジョンとコンサルテーション 3) 事例によるスーパービジョンおよびコンサルテーション
30. まとめ

準備学習(予習)

次回授業で取り扱う箇所のテキストを一読する。

準備学習(復習)

授業で気になったところ、疑問に思ったところなどを書き留め、テキストやプリント等で復習する。

評価方法

(1) 授業態度	30%	出席日数・発言・リアクションペーパー含む
(2) レポート等	30%	
(3) 期末試験	40%	

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』第2版(中央法規出版) [978-4805839478] |

参考書

担当教員：助川 征雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W231946

学部教育の関連目

【M】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける | 【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。|② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。

(2) 内容

① 精神保健医療福祉の歴史と動向|② 精神障害者に対する支援の基本的考え方と必要な知識|③ 精神科リハビリテーションの概念と構成|④ 精神科リハビリテーションのプロセス

受講者に対する要望

精神保健福祉士の資格取得希望者は必須科目であることを認識し、より専門的な知識を習得するために積極性を持って出席することを求める。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉の歴史
- ・医学モデルからリカバリーモデルへ
- ・精神科リハビリテーションの技法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 精神保健医療福祉の歴史と動向 1)わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向
03. 精神保健医療福祉の歴史と動向 2)諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷
04. 精神障害者に対する支援の基本的考え方と必要な知識 1)精神保健福祉士における活動の歴史
05. 精神障害者に対する支援の基本的考え方と必要な知識 2)精神障害者支援の理念
06. 精神障害者に対する支援の基本的考え方と必要な知識 3)精神保健医療福祉領域における支援対象
07. 精神障害者に対する支援の基本的考え方と必要な知識 4)精神障害者の人権
08. 精神科リハビリテーションの概念と構成 1)精神科リハビリテーションの概念
09. 精神科リハビリテーションの概念と構成 2)精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則
10. 精神科リハビリテーションの概念と構成 3)精神科リハビリテーションの構成と展開
11. 精神科リハビリテーションのプロセス 1)リハビリテーションのプロセス
12. 精神科リハビリテーションのプロセス 2)アプローチの方法①
13. 精神科リハビリテーションのプロセス 2)アプローチの方法②
14. 精神科リハビリテーションのプロセス 3)疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) リアクションペーパー | 15% |
| (3) 平常点 | 25% |

各評価項目から総合的に評価する。

教科書

参考書

新編精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、松本昭『新編・精神保健福祉士養成セミナー 第5巻—精神保健福祉の理論と相談援助の展開—2 精神保健福祉におけるリハビリテーション』（へるす出版）

担当教員：助川 征雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W232048

学部教育の関連目

【M】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける | 【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する。|② 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。

(2) 内容

① 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割|② 精神障害者の支援モデル|③ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方|④ 精神障害者のケアマネジメント|

受講者に対する要望

精神保健福祉士の資格取得希望者は必須科目であることを認識し、より専門的な知識を習得するために積極性を持って出席することを求める。

学びのキーワード

- ・ 医学モデルからリカバリーモデルへ
- ・ あらたなりハビリテーションの技法
- ・ 精神保健福祉士の役割

授業計画

01. オリエンテーション
02. 精神障害者支援の実践モデル 1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
03. 精神障害者支援の実践モデル 2)代表的な精神障害者支援の実践モデル
04. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 1)精神科専門療法 2)家族教育プログラム
05. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 3)精神科デイケア
06. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 4)医療機関のアウトリーチ
07. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 5)チーム医療の概要/6)医療機関における多職種との協働・連携
08. 精神障害者支援の実践モデル 1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
09. 精神障害者支援の実践モデル 2)代表的な精神障害者支援の実践モデル
10. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方 1)地域ネットワーク
11. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方 2)アウトリーチ/3)地域生活支援事業と訪問援助
12. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方4)家族会及びセルフヘルプグループ/5)PSMボランティアの育成と活用
13. 精神障害者のケアマネジメント 1)原則/2)意義と方法
14. 精神障害者のケアマネジメント 3)展開過程/4)チームケアとチームワーク/5)事例による検討
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) リアクションペーパー | 40% |

各評価項目から総合的に評価する。

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、柏木昭『精神保健福祉士養成セミナー 第5巻 精神保健福祉におけるリハビリテーション』（へるす出版）【978-4892698354】

参考書

担当教員：三田寺 裕治

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W232160

学部教育の関連目

【M】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける | 【W】対人支援力：人格を尊重して人とかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。|・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論について理解する。|・福祉サービスの運営と管理運営について理解する。

(2) 内容

・福祉サービスの特質と理念 | ・福祉サービスに係る組織や団体 | ・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 | ・福祉サービス提供組織の経営と実際 | ・福祉サービスの運営管理の方法と実際

受講者に対する要望

福祉サービスの管理運営に関して踏み込んだ検討をするため、双方向の授業を展開します。問題意識を持ち、積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・社会福祉法人
- ・サービスマネジメント
- ・経営に関する基礎理論
- ・財務会計

授業計画

01. 福祉サービスの特質と理念
02. 福祉サービスに係る組織や団体 (1) 社会福祉法人制度
03. 福祉サービスに係る組織や団体 (2) 特定非営利活動法人制度
04. 福祉サービスに係る組織や団体 (3) その他の組織や団体
05. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 (1) 組織・経営に関する基礎理論
06. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 (2) 運営管理に関する基礎理論
07. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 (3) 集団の力学・リーダーシップに関する基礎理論
08. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (1) 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス
09. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (2) 福祉サービス提供組織における人材の養成と確保
10. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (3) 理事会の役割・財源
11. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (4) 福祉サービス提供組織の経営の実際
12. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (1) 適切なサービス提供体制の確保 ①スーパービジョン体制ほか
13. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (2) 適切なサービス提供体制の確保 ②苦情対応・リスクマネジメントの方法
14. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (3) 働きやすい労働環境の整備
15. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (4) 福祉サービスの管理運営の実際

準備学習(予習)

毎回授業終了後に次回の講義内容について触れるので、テキストを熟読し、内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

テキスト、プリントを中心に復習し、要点をノートにまとめておくこと。また、授業中に提示された課題については、レポートにまとめ、次回授業時に提出すること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 事前・事後レポート | 20% |
| (2) 試験 | 80% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 『福祉サービスの組織と経営 (新・社会福祉士養成講座11)』 (中央法規) 【978-4805837610】

参考書

担当教員：馬場 康德

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W232268

学部教育の関連目

【Ⅰ】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【Ⅱ】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【Ⅱ】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【Ⅲ】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。| ・福祉行財政の実際について理解する。| ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

(2) 内容

・福祉行政の実施体制 | ・福祉財政の動向 | ・福祉計画の意義と目的 | ・福祉計画の主体と方法 | ・福祉計画の実際 |

受講者に対する要望

福祉に関する時事問題についての新聞記事を読み、配布資料等を読み直すこと。

学びのキーワード

- ・福祉の体系
- ・福祉行政の実施体制
- ・国と地方自治体の関係、役割
- ・福祉の財源
- ・福祉計画の種類、役割

授業計画

01. オリエンテーション, 福祉と法制度
02. 行政の骨格, 社会福祉関係法の構造
03. 福祉行政における国と地方公共団体の役割
04. 福祉行政における国と地方公共団体の関係
05. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法
06. 福祉の財源（1）費用と財源の動向
07. 福祉の財源（2）財源と各財源の特徴
08. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割
09. 福祉計画の目的と意義
10. 福祉計画の主体と方法
11. 福祉計画の策定方法と留意点・福祉計画の評価方法
12. 福祉計画の実際（1）老人福祉計画・介護保険事業計画
13. 福祉計画の実際（2）障害者計画・障害福祉計画 次世代育成支援行動計画
14. 福祉計画の実際（3）地域福祉計画
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、教科書等を読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書及び配布資料を読み込むこと。

評価方法

- | | |
|-------------|------------------|
| (1) 中間レポート | 20% |
| (2) 授業内小テスト | 30% 授業内に小テストを行う。 |
| (3) 期末試験 | 50% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座<10>福祉行財政と福祉計画』（中央法規出版）【978-4805839324】

参考書

担当教員：三澤 孝夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W232376

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

【学びの意義】|・更生保護制度と福祉制度の連携は、高齢化社会や障害者の社会復帰において注目されており、近年では新たな仕組みが整えられるなど、大きく進展している。福祉関係の相談機関や施設での業務において、その現状の理解は重要性を増しており、これらの知識は必須であるとともに、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の重要な出題領域でもある。また、専門家のみならず、我が国の司法制度や関係機関の役割、保護観察制度などの概要と現状についての知識や理解は、社会人として生活する上でも有用であると言える。||【目標】|1. 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。|2. 更生保護を中心に、司法制度の基本部分、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、| 団体及び専門職について理解する。|3. 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。|4. 相談援助活動において必要となる医療観察制度の概要と対象者援助の状況を理解する。

(2) 内容

「更生保護制度」は、社会福祉士の指定科目の1つでもあるため、国家試験を念頭にポイントを押さえ、講義していく。また、近年、福祉寮陰気の現場において、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、就労支援などと「更生保護制度」の連携が急速に進みつつあるが、これらの現状をふくめ「司法福祉」全般について解説していく。| また、このような現状を受け、国家資格試験においても、前述のこれらの関連科目にも、「更生保護制度」、「司法福祉」の制度や要素が出てくるが多くなっている。そのため、このような点も考慮し、他の関連分野と「更生保護制度」、「司法福祉」等の関係や連携等も講義で取り上げていく。| また、精神保健福祉士に必要な医療観察制度についても、保護観察制度と対比させながら、詳しく説明していく。その他、最新の更生保護制度の動向を、併せて伝えていく。||講義は、パワーポイントと教科書を連携させて行っていく。|「更生保護制度」という複雑な制度を、集中講義8回の講義枠で理解してもらうため、また、講義中に国家資格試験について、教科書記載部分と照らして、ポイント等を話す予定であるため、教科書を必携とする。||・更生保護の制度|・更生保護制度の担い手、関係機関・団体との連携|・医療観察制度|・更生保護制度の近年の動向と課題

受講者に対する要望

講義については、静かに聞くことを受講の最低条件としますが、授業内容に関する疑問、意見については、気軽に積極的に出してください。
 また、「更生保護制度」という複雑な制度を、集中講義8回の講義枠で理解してもらうため、また、講義中に国家資格試験について、教科書記載部分と照らして、ポイント等を話す予定であるため、教科書を必携とする。

学びのキーワード

- ・ 司法福祉
- ・ 司法制度
- ・ 更生保護制度
- ・ 保護観察法
- ・ 医療観察制度

授業計画

01. 更生保護の制度 (1) 意義・歴史・更生保護法制
02. 更生保護の制度 (2) 保護観察・生活環境の調整
03. 更生保護の制度 (3) 仮釈放・更生緊急保護 等
04. 更生保護制度の担い手
05. 医療観察制度 (1)
06. 医療観察制度 (2)
07. 司法福祉、更生保護制度における関係機関・団体との連携 / 近年の動向と課題
08. 更生保護制度【総括】

準備学習(予習)

更生保護制度はその内容が複雑なため、事前に警察、検察、裁判所の違い、裁判における三審制など、司法の基礎的な部分をよく理解しておくこと。また、教科書に沿って、短期間で集中的に講義を行うため、事前にその日の講義予定の教科書の部分を読んでおくこと。

準備学習(復習)

特に重要な部分については、講義中に教科書内にマークするように指示し、その他「犯罪白書」などにある重要資料などは、別途、配布するので、次の講義までに十分理解しておくこと。

評価方法

- (1) 定期試験 90%
- (2) 小テスト、レポート、受講態度等 10%

定期試験(90%)とともに、小テスト、レポート、受講態度等を加味し、総合的に評価する。

教科書

森長秀 『「更生保護制度」社会福祉士シリーズ20巻(第2版)』(弘文堂)【978-4335611568】

参考書

担当教員：天野 敬子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W232490

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

スクールソーシャルワーカーの役割と意義を学び、スクールソーシャルワークの展開過程を具体的にイメージできるようになる。

(2) 内容

スクールソーシャルワークは教育現場で展開するソーシャルワークである。学校で子どもが表出する諸問題とその背景要因を学び、子どもへの支援の在り方を理解する。

受講者に対する要望

一方的な講義形式ではなく、双方向にやりとりしながらすすめたいので、積極的に感想や意見を述べてもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 連携
- ・ ネットワーク
- ・ 子どもの権利

授業計画

01. 開講にあたっての注意事項およびシラバスを解説する。
02. DVD「スクールソーシャルワーカーの仕事」を視聴して全体像をつかむ。
03. 子どもの現状1 「いじめ」について（1）
04. 子どもの現状2 「いじめ」について（2）
05. 子どもの現状3 「不登校」について（1）
06. 子どもの現状4 「不登校」について（2）
07. 子どもの現状5 「児童虐待」について（1）
08. 子どもの現状6 「児童虐待」について（2）
09. 子どもの現状7 「非行」について（1）
10. 子どもの現状8 「非行」について（2）
11. 子どもの現状9 「子どもの貧困」（1）
12. 子どもの現状10 「子どもの貧困」（2）
13. SSWの仕事の流れ
14. 他機関との連携
15. 総括

準備学習(予習)

レポート発表をする学生は、事前に調べて発表資料を作成する。発表以外の学生への予習は授業時に指示する。

準備学習(復習)

学んだことを確認し、ニュースや新聞の関連記事を読んで、見識を深める。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) レポート発表 | 10% |
| (3) 授業態度 | 10% |
| (4) テスト | 40% |

教科書

山野則子・野田正人・半羽利美佳『よくわかるスクールソーシャルワーク』（ミネルヴァ書房）【978-4623059423】

参考書

担当教員：山田 義文

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W302304

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間福祉学科の皆さんにとって基盤となる人間と環境と障がいとの関係性、ノーマライゼーション、バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインなどの概念について具体的な事例を示しながら自分の言葉で概念を捉え、現状の福祉環境に関する課題を分析し、改善案を提言できるようになることを講義の目標とします。

(2) 内容

本講義では、障がい者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点で捉え、障がい者、高齢者を含む全ての人が個性豊かに暮らすための環境整備のあり方について学びます。そのため、ニーズ分析時にはソーシャルワークの知見、福祉住環境改善を考察する際には建築計画や福祉用具に関する内容も扱います。講義では、重度肢体不自由者の住環境に関する先進的な取り組みや高齢者の居住環境に関する国際比較、ニュースで取り上げられた福祉環境に関する最新のトピックにも触れ、実習や演習を通じて多角的に学びを深めてゆきます。

受講者に対する要望

数値や専門用語などを暗記するのではなく、講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で検証してください。困ったことや質問などが生じた場合は、気軽に相談してください。グループワークも適宜織り交ぜます。活発に意見交換をしながら相互に高めあえる講義環境づくりに協力してください。

学びのキーワード

- ・障がい者
- ・高齢者
- ・ノーマライゼーション
- ・バリアフリー
- ・ユニバーサルデザイン

授業計画

01. オリエンテーション、福祉環境論を学ぶ意義と社会における位置付け
02. 福祉環境を取り巻く概念の変遷
03. 人間の生活機能と私たちを取り巻く様々なバリアの分析
04. 障がいを持つ人、高齢者の身心特性と行動特性に関する基礎的事項
05. 福祉住環境整備に携わる専門家の連携と役割分担
06. 福祉住環境整備のプロセス・アセスメントからフォローアップまで
07. 演習：高齢者の住環境改善に関する考察
08. 演習のふりかえりとまとめ：グループによる発表と全体講評
09. バリアフリーデザインとユニバーサルデザインの概念
10. 実習前指導：実習の意義及び課題の説明
11. 実習：身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証
12. 実習のまとめとふりかえり：代表学生による発表とまとめ 報告書返却と全体講評
13. 重度肢体不自由者の生活環境に関する先進的な取り組みと課題
14. 高齢者の居住環境に関する国際比較—ノルウェーと日本の事例を通じて—
15. 講義のまとめとふりかえり

準備学習(予習)

シラバスの授業計画の中に含まれる福祉環境に関わる用語の意味や背景を各自で調べ、講義前により深く学びたい部分を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で見つめ直し、考察を深めてゆくこと。関連する参考図書や新聞記事等の中で紹介されている最新の事例にも目を向けることが望ましい。節目ごとにテーマを決め、各自でリアクションペーパーに考察する機会を設けます。その内容を書画カメラを用いて全体にも紹介します。他の学生の考察内容と比較することを通じ、復習と同時に自身の考察をさらに深めてください。

評価方法

- | | | |
|------------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 30% | 考察の深さ、発表、自主的な検証、グループワークの取組など講義への参加度を評価 |
| (2) 演習課題に対する取り組み | 30% | 実習レポートの内容 |
| (3) 定期試験 | 40% | 暗記を求める内容ではなく、分析の深さや独自の考え方を評価する。 |

出席が3分の2以下の場合は、単位を認定しません。出席のみに対しての評価はありません。

教科書

プリントを配布します

参考書

参考文献等は講義内で随時提示します。

社会福祉援助技術演習 A

CGSW-W-200

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：1W310100

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

①自己や他者を客観的に理解し、社会福祉援助技術現場実習で活用することができる。|②基本的コミュニケーション技術を習得し、人間関係を円滑に形成することができる。|③基本的な面接技術を習得し、社会福祉援助技術現場実習で援助関係を円滑に形成することができる。

(2) 内容

本演習では、自己覚知・他者理解、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得に関する実技指導を行う。

受講者に対する要望

社会福祉士を目指す学生が最初に受講する演習科目である。自己覚知や他者理解とともに、コミュニケーション技術を学びながら、自ら相談援助職に対する適性を見極めるきっかけにしていきたい。

学びのキーワード

- ・自己理解
- ・他者理解
- ・コミュニケーション
- ・面接技術
- ・バリア

授業計画

01. オリエンテーション 社会福祉援助技術演習の意義
02. 自己覚知のための演習① ふだんの自分を知る
03. 自己覚知のための演習② 援助者としての自分を知る
04. 自己覚知のための演習③ ライフストーリー(1) 自分のライフストーリーから学ぶ
05. 他者理解のための演習① ライフストーリー(2) 当事者のライフストーリーから学ぶ
06. 他者理解のための演習② 相手の立場に立って考える
07. 基本的なコミュニケーション技術の習得① コミュニケーションパターンを知る(1)
08. 基本的なコミュニケーション技術の習得② コミュニケーションパターンを知る(2)
09. 基本的なコミュニケーション技術の習得③ 開かれた態度で相手に接する
10. 基本的なコミュニケーション技術の習得④ 意識的に身体のコミュニケーションを用いる
11. 基本的な面接技術の習得① 開いた質問と閉じた質問を使い分ける
12. 基本的な面接技術の習得② 要約と具体的な状況説明を使い分ける
13. 基本的な面接技術の習得③ 感情や状況、行動を反射して伝える
14. 基本的な面接技術の習得④ 相談機関での面接(ロールプレイング)
15. 総括 演習Aの振り返り

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所をよく読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布された文献の該当箇所を読み直し、演習で学んだことをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 学習状況(態度・発言など) | 50% |
| (2) レポート課題 | 50% |

原則として、欠席は認められない。|演習での学習状況、レポート課題で総合的に評価する。

教科書

参考書

担当教員：長谷部 雅美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W310228

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

①個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、エコシステムの視座に基づき、ミクロ、メゾ、マクロの関係から捉えることができる。|②個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、適切な支援方法を選択し、実施することができる。

(2) 内容

社会福祉援助技術演習Bでは、第一に、具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的・包括的な援助について実践的に習得するための演習を行う。第二に、地域福祉の基盤整備と開発に関わる事例を活用した実技指導を行う。||

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

学びのキーワード

- ・エコシステム
- ・ジェネラリスト・ソーシャルワーク
- ・無縁化
- ・事例検討
- ・地域を基盤とする実践

授業計画

01. オリエンテーション ソーシャルワークにおける事例検討の意義
02. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(1)在宅における高齢者虐待に対する介入
03. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(2)児童虐待通告事例への児童相談所の対応
04. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(3)日常生活自立支援事業における知的障害者への支援
05. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(4)家庭内暴力(DV)への支援
06. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(5)低所得者への支援
07. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(6)社会的排除の解決に向けた支援
08. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(7)ホームレスへの支援
09. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(8)危機介入を活用した支援
10. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(1)地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握技法の習得
11. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(2)地域福祉の計画立案技法の習得
12. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(3)ネットワークの活用技法の習得
13. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(4)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
14. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(5)サービスの評価技法の習得
15. 総括 演習Bの振り返り

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布された文献の該当箇所を読み直し、演習で学んだことをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 学習状況(態度・発言など) | 40% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) レポート課題 | 30% |

原則として、欠席は認められない。|演習での学習状況、発表、レポート課題で総合的に評価する。

教科書

参考書

担当教員：小沼 聖治

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W310340

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

相談援助の過程に基づいた援助方法を理解し、社会福祉援助技術現場実習において効果的に実践することができる。

(2) 内容

社会福祉援助技術演習 C では、相談援助事例を題材として、相談援助の過程や相談援助場面を想定した実技指導を行う。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。|グループワーク等への積極的な参加を期待しています。

学びのキーワード

- ・アウトリーチ
- ・インテーク
- ・アセスメント
- ・実施とモニタリング
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション 相談援助の過程に基づいた演習の意義
02. 相談援助の過程に基づく実技指導①インテーク (1)アウトリーチ技法の習得
03. 相談援助の過程に基づく実技指導②インテーク (2)インテーク面接技法の習得
04. 相談援助の過程に基づく実技指導③アセスメント (1)情報収集技法の習得
05. 相談援助の過程に基づく実技指導④アセスメント (2)観察技法の習得
06. 相談援助の過程に基づく実技指導⑤アセスメント (3)情報分析・生活課題把握技法の習得
07. 相談援助の過程に基づく実技指導⑥プランニング (1)支援目標設定技法の習得
08. 相談援助の過程に基づく実技指導⑦プランニング (2)支援プログラム作成技法の習得
09. 相談援助の過程に基づく実技指導⑧支援の実施 (1)利用者への働きかけ技法の習得
10. 相談援助の過程に基づく実技指導⑨支援の実施 (2)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
11. 相談援助の過程に基づく実技指導⑩モニタリング 実施状況のモニタリング技法の習得
12. 相談援助の過程に基づく実技指導⑪効果測定 評価技法の習得
13. 相談援助の過程に基づく実技指導⑫再アセスメントと支援の強化
14. 相談援助の過程に基づく実技指導⑬終結とアフターケア
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習 C の振り返り

準備学習(予習)

今回の内容に関して、提示された文献の該当箇所を読んでください。

準備学習(復習)

授業で学んだことや気づいたことの振り返りや、文献の該当箇所を再度読み直すようにしてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート課題 | 50% |

上記の評価項目を総合的に評価します。|講義後は、毎回アクションペーパーの提出があります。

教科書

参考書

担当教員：小沼 聖治

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W310348

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

相談援助の過程に基づいた援助方法を理解し、社会福祉援助技術現場実習において効果的に実践することができる。

(2) 内容

社会福祉援助技術演習 C では、相談援助事例を題材として、相談援助の過程や相談援助場面を想定した実技指導を行う。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。|グループワーク等への積極的な参加を期待しています。

学びのキーワード

- ・アウトリーチ
- ・インテーク
- ・アセスメント
- ・実施とモニタリング
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション 相談援助の過程に基づいた演習の意義
02. 相談援助の過程に基づく実技指導①インテーク (1)アウトリーチ技法の習得
03. 相談援助の過程に基づく実技指導②インテーク (2)インテーク面接技法の習得
04. 相談援助の過程に基づく実技指導③アセスメント (1)情報収集技法の習得
05. 相談援助の過程に基づく実技指導④アセスメント (2)観察技法の習得
06. 相談援助の過程に基づく実技指導⑤アセスメント (3)情報分析・生活課題把握技法の習得
07. 相談援助の過程に基づく実技指導⑥プランニング (1)支援目標設定技法の習得
08. 相談援助の過程に基づく実技指導⑦プランニング (2)支援プログラム作成技法の習得
09. 相談援助の過程に基づく実技指導⑧支援の実施 (1)利用者への働きかけ技法の習得
10. 相談援助の過程に基づく実技指導⑨支援の実施 (2)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
11. 相談援助の過程に基づく実技指導⑩モニタリング 実施状況のモニタリング技法の習得
12. 相談援助の過程に基づく実技指導⑪効果測定 評価技法の習得
13. 相談援助の過程に基づく実技指導⑫再アセスメントと支援の強化
14. 相談援助の過程に基づく実技指導⑬終結とアフターケア
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習 C の振り返り

準備学習(予習)

次回の内容に関して、提示された文献の該当箇所を読んでください。

準備学習(復習)

授業で学んだことや気づいたことの振り返りや、文献の該当箇所を再度読み直すようにしてください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 授業やグループワークの参加状況等 |
| (2) レポート課題 | 50% | |

上記の評価項目を総合的に評価します。|講義後は、毎回アクションペーパーの提出があります。

教科書

参考書

担当教員：金子 毅司

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W310468

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

個別具体的な相談事例について、事例検討を通して、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。

(2) 内容

本演習では、社会福祉援助技術現場実習で得た事例を検討することにより、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、集団指導・個別指導による実技指導を行う。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。

学びのキーワード

- ・体験の一般化
- ・プロセス・レコード
- ・インシデント方式
- ・ハーバード方式
- ・事例検討による専門知識の習得

授業計画

01. オリエンテーション 個別的な実習体験を一般化することの意義(1)
02. 事例検討による実習体験の一般化(1) プロセス・レコードの作成
03. 事例検討による実習体験の一般化(2) プロセス・レコードを活用した個別スーパーバージョン・ピアスーパーバージョン
04. 事例検討による実習体験の一般化(3) プロセス・レコードを活用したロールプレイング(1)
05. 事例検討による実習体験の一般化(4) プロセス・レコードを活用したロールプレイング(2)
06. 事例検討による実習体験の一般化(5) インシデント方式による事例検討の意義・事例検討の準備
07. 事例検討による実習体験の一般化(6) インシデント方式による実習事例検討(1)
08. 事例検討による実習体験の一般化(7) インシデント方式による実習事例検討(2)
09. 事例検討による実習体験の一般化(8) インシデント方式による実習事例検討(3)
10. 事例検討による実習体験の一般化(9) ハーバード方式による事例検討の意義
11. 事例検討による実習体験の一般化(10) ハーバード方式による事例発表の準備
12. 事例検討による実習体験の一般化(11) ハーバード方式による実習事例検討(1)
13. 事例検討による実習体験の一般化(12) ハーバード方式による実習事例検討(2)
14. 事例検討による実習体験の一般化(13) ハーバード方式による実習事例検討(3)
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習Dの振り返り

準備学習(予習)

次回の内容について、提示された文献の該当事例を読んでおくようにしてください。また、実習体験を通して、必要と考える専門知識・技術について整理しておいてください。

準備学習(復習)

事例検討を通して学んだ専門知識・技術、クライアント支援に関連する制度等について改めて整理しておいてください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 参加状況やグループワークの状況等 |
| (2) レポート課題 | 40% | |
| (3) 発表 | 20% | |

上記の評価項目を総合的に評価します。

教科書

参考書

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W310581

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

相談援助の過程に基づく振り返りや相談援助の基本的技法の再検討を通して、個別具体的な相談事例を、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。

(2) 内容

本演習では、個別的な実習体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、現場実習で作成した支援計画や経過記録をもとに相談援助の過程の振り返りや相談援助の基本的技法の再検討に関する実技指導を行う。

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を十分理解したうえで、本科目を受講してください。

学びのキーワード

- ・実習体験の一般化
- ・相談援助の過程
- ・相談援助の基本的技法
- ・支援計画
- ・経過記録

授業計画

01. オリエンテーション
02. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（1）インテーク局面の振り返り
03. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（2）アセスメント局面の振り返り（1）
04. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（3）アセスメント局面の振り返り（2）
05. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（4）アセスメント局面の振り返り（3）
06. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（5）プランニング局面の振り返り（1）
07. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（6）プランニング局面の振り返り（2）
08. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（7）インターベンション局面の振り返り（1）
09. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（8）インターベンション局面の振り返り（2）
10. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（9）モニタリング局面の振り返り
11. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（1）関係づくりの再検討
12. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（2）面接技法の再検討
13. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（3）記録技法の再検討
14. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（4）評価技法の再検討
15. 総括と振り返り

準備学習(予習)

次回の内容について、提示された文献の該当事例を読んでおくようにしてください。また、実習体験を通して、必要と考える専門的知識・技術について整理しておいてください。

準備学習(復習)

相談援助の振り返りを通して学んだ専門的知識・技術について改めて整理しておいてください。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 参加状況やグループワークの状況等 |
| (2) レポート課題 | 30% | |
| (3) 発表 | 30% | |

上記の評価項目を総合的に評価します。

教科書

参考書

社会福祉援助技術現場実習指導I

CGSW-W-300

担当教員：長谷部 雅美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W310600

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：選択必修科目 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。|(2) これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。|

(2) 内容

社会福祉援助技術現場実習指導Iでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。|

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

学びのキーワード

- ・ 価値
- ・ 知識
- ・ 技術
- ・ 守秘義務
- ・ 実習記録

授業計画

01. 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義 社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の留意点
02. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(1)個人のプライバシーの保護の必要性(個人情報保護法の理解を含む)
03. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(2)社会福祉士と守秘義務
04. 現場体験学習及び見学実習 現場体験学習及び見学実習(実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む)の留意点
05. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(1)実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識
06. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(2)基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解
07. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(3)援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解
08. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(4)コミュニティへの働きかけの理解
09. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(1)ケアワークの理解(1)(視聴覚学習)
10. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(2)ケアワークの理解(2)(演習)
11. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(3)感染症の理解とその対策
12. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(1)記録の意義と目的
13. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(2)実習記録ノートの意義と目的
14. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(3)記録技法の修得
15. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(4)実践評価記録の方法

準備学習(予習)

自身が配属された実習機関・施設の内容を十分に学習しておくこと。

準備学習(復習)

授業内で行ったことは必ず振り返り、身に付けること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 参加状況やグループワークの状況等 |
| (2) レポート課題 | 50% | |

教科書

参考書

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：6 授業コード：1W310808

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：選択必修科目 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。 | ②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。

(2) 内容

実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。 | 1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。 |

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

学びのキーワード

- ・円滑な援助関係の形成
- ・ニーズ把握と支援計画
- ・アドボカシーとエンパワメント
- ・チームアプローチ
- ・専門職倫理

授業計画

01. 利用者やその関係者、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
02. 利用者理解とそのニーズの把握
03. 利用者やその関係者との援助関係の形成
04. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
05. チームアプローチの実際
06. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
07. 経営やサービスの管理運営の実際
08. 配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解
09. 具体的な社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
10. 社会福祉士と他職種との連携の実際
11. 利用者の支援計画の作成
12. 地域課題の発見と理解
13. 制度の実際の課題の理解
14. ソーシャルアクションの実際
15. まとめ

準備学習(予習)

毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭に置いて実習を行うこと。

準備学習(復習)

その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。

評価方法

(1) 実習内容 100%

教科書

参考書

精神保健福祉援助演習(基礎)

CPSW-W-100

担当教員：相川 章子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W320100

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。|① 相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いること。|② 個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげること。|

(2) 内容

ア 自己覚知 |イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 |ウ 基本的な面接技術の習得 |エ グループダイナミクス活用技術の習得 |オ 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 |カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得 |キ 記録の技術の習得 |ク 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行うこと。| ・ 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 | ・ 地域アセスメント | ・ 地域福祉の計画 | ・ ネットワーキング | ・ 社会資源の活用・調整・開発 | ・ サービス評価 |

受講者に対する要望

精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目の一つです。自分自身を見つめる作業を繰り返しつつ、現場実習に向け真摯に取り組む姿勢が求められます。自分の健康管理も含め学習目標を立て、日常生活を律する自己管理型の学習態度を必要とします。

学びのキーワード

- ・ 自己覚知
- ・ コミュニケーション技術
- ・ グループ・ダイナミクス

授業計画

01. オリエンテーション 精神保健福祉援助演習の意義
02. 自己覚知のための演習①ふだんの自分を知る 援助者としての自分を知る
03. 自己覚知のための演習②ライフストーリー(1) 自分のライフストーリーから学ぶ
04. 基本的なコミュニケーション技術の習得①コミュニケーションの体系的理解
05. 基本的なコミュニケーション技術の習得②コミュニケーションパターンを知る
06. 基本的な面接技術の習得①面接技法の基礎的理解と演習
07. 基本的な面接技術の習得②相談機関での面接(ロールプレイング)
08. グループダイナミクスの活用
09. 情報の収集・整理・伝達の技術の習得
10. 課題の発見・分析・解決の技術
11. 記録の技術の習得
12. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握/地域アセスメント
13. 地域福祉の計画/ネットワーキング
14. 社会資源の活用・調整・開発/サービス評価
15. 定期試験と総括

準備学習(予習)

あらかじめ指示する宿題をやってくること。演習形式の本講義では事前学習が重要となる。

準備学習(復習)

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------|
| (1) 授業態度 | 30% | 出席日数含む |
| (2) レポート等 | 30% | |
| (3) 期末試験 | 40% | |

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『新版 精神保健福祉士養成セミナー7巻 精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』(へるす出版) [978-4892698378]

参考書

担当教員：相川 章子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W320208

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。|① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。|② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。

(2) 内容

① 次に掲げる具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、実現に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。（社会的排除、退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート、地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等）、教育、就労（雇用）、貧困、低所得、ホームレス、精神科リハビリテーション、その他の危機状態にある精神保健福祉）|② アに掲げる事例を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。（インテーク（受理面接）、契約、アセスメント（課題分析）、プランニング（支援の計画）、支援の実施、モニタリング（経過観察）、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア）|③イの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。（アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発）

受講者に対する要望

実習ガイダンスにおいて説明した受講上の留意点をふまえた上で、4年次の配属実習の事前学習の環境でもあることを自覚すること。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉士の専門性
- ・精神保健福祉士の価値
- ・精神保健福祉士としての技術
- ・主体的に取り組む

授業計画

01. オリエンテーション／精神保健福祉援助における事例検討の意義
02. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討①社会的排除
03. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討②退院支援、地域移行、地域生活継続
04. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討③ピアサポート
総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討④地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等）
05. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑤教育、就労（雇用）
06. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑥貧困、低所得、ホームレス
07. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑦ホームレスへの支援
08. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑧ホームレスへの支援
09. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑨精神科リハビリテーション/その他危機状態にある精神保健福祉
相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑩相談援助の過程【インテーク（受理面接）、契約、アセスメント（課題分析）
10. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑪アウトリーチ事例を通して相談援助の過程の実技指導
12. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑫ケアマネジメント事例を通して相談援助の過程の実技指導
13. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑬チームアプローチ/ネットワーク事例を通して相談援助の過程の実技指導
14. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑭社会資源の活用・調整・開発事例を通して相談援助の過程の実技指導
15. 定期試験と総括／事例問題形式による試験及び本授業の振り返り

準備学習(予習)

事前に指示する課題を必ず提出すること。

準備学習(復習)

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席日数・遅刻等含む |
| (2) レポート等 | 30% | |
| (3) 期末テスト | 40% | |

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『新版 精神保健福祉士養成セミナー 7巻 精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』(へるす出版) [978-4892698378]

参考書

担当教員：相川 章子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W320316

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。||

(2) 内容

精神保健福祉援助実習後に行うことから、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、実習における学生の個別的な体験も踏まえ、以下の内容について集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。|① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例の検討。| ② 具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習。|

受講者に対する要望

精神保健福祉士という国家資格所持者にふさわしい実践力を習得することを目指す科目であることから、これまでの学習を総括するつもりで意欲的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉援助技術
- ・精神保健福祉士の価値
- ・自己覚知
- ・コミュニケーション

授業計画

01. オリエンテーション／個別的な実習体験を一般化することの意義
02. 事例検討による実習体験の一般化①プロセス・レコードの作成
03. 事例検討による実習体験の一般化②プロセス・レコードを活用したロールプレイング(1)
04. 事例検討による実習体験の一般化③プロセス・レコードを活用したロールプレイング(2)
05. 事例検討による実習体験の一般化④プロセス・レコードを活用したロールプレイング(3)
06. 事例検討による実習体験の一般化⑤インシデント方式による事例検討の意義・事例検討の準備
07. 事例検討による実習体験の一般化⑥インシデント方式による実習事例検討(1)
08. 事例検討による実習体験の一般化⑦インシデント方式による実習事例検討(2)
09. 事例検討による実習体験の一般化⑧インシデント方式による実習事例検討(3)
10. 事例検討による実習体験の一般化⑨ハーバード方式による事例検討の意義
11. 事例検討による実習体験の一般化⑩ハーバード方式による事例発表の準備
12. 事例検討による実習体験の一般化⑪ハーバード方式による実習事例検討(1)
13. 事例検討による実習体験の一般化⑫ハーバード方式による実習事例検討(2)
14. 事例検討による実習体験の一般化⑬ハーバード方式による実習事例検討(3)
15. 定期試験と総括／事例問題形式による試験及び演習Cの振り返り

準備学習(予習)

毎回提示する課題に取り組んだうえで授業に出席すること。

準備学習(復習)

演習を通して知識や考察の不足部分を自身の専門職としての学習課題として認識し、各種テキスト等を活用して復習すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------------------------|
| (1) 参加姿勢 | 50% | 演習への取り組み姿勢とリアクションペーパーにより判断する |
| (2) 試験 | 50% | |

教科書

参考書

担当教員：相川 章子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W320424

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける | 【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。| ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。|

(2) 内容

次に掲げる事項について個別指導及び集団指導 | ① 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 | ② 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解 | ③ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 | ④ 現場体験学習及び見学実習 | ⑤ 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 | ⑥ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 | ⑦ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む。） | ⑧ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 | ⑨ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成

受講者に対する要望

自分自身を見つめる作業を繰り返しつつ、現場実習に向け真摯に取り組む姿勢が求められます。自分の健康管理も含め学習目標を立て、日常生活を律する自己管理型の学習態度を必要とします。原則として欠席は認めません。

学びのキーワード

- ・ ソーシャルワークの専門性
- ・ 自己覚知
- ・ 他者理解
- ・ 社会性

授業計画

01. 精神保健福祉援助実習と実習指導の意義① 精神保健福祉援助実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の意義
02. 精神保健福祉援助実習と実習指導の意義② 実習指導（スーパービジョン）の目的および意義
03. 精神保健医療福祉の現状に関する基本的理解 日本の精神保健福祉の現状のおかれている利用者理解
04. 実習施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的理解
05. 実習に必要な専門的知識と技術に関する理解① [事例を通して学ぶ]
06. 実習に必要な専門的知識と技術に関する理解② [事例を通して学ぶ]
07. 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 [事例を通して学ぶ]
08. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 [事例を通して学ぶ]
09. 「実習記録ノート」への記録内容及び方法に関する理解 実習記録の意義、スーパービジョンに必要な内容、方法について学ぶ
10. 現場体験学習及び見学実習の目的および事前学習
11. 現場体験学習及び見学実習 [現場体験学習および見学実習]
12. 現場体験学習及び見学実習の事後学習 / 現場体験学習及び見学実習に関するグループディスカッション
13. 実習課題及び実習計画の作成① 実習課題および実習計画の作成の意義の理解とその方法(1)
14. 実習課題及び実習計画の作成② 実習課題および実習計画の作成の意義の理解とその方法(2)
15. 実習課題及び実習計画の作成③ 実習課題および実習計画の作成の意義の理解とその方法(3)

準備学習(予習)

実習事前学習では、毎回出される課題や書類等を必ず提出すること。また、実習にあたっての書類作成についても同様に提出し、指導を求めること。

準備学習(復習)

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加姿勢 | 50% |
| (2) 提出物 | 50% |

積極的な参加姿勢を特に強く求めます。

教科書

荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子『PSW実習ハンドブック 実習生のための手引き』（へるす出版）【978-4892697913】 | 新原精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』（へるす出版）【978-4892698385】

参考書

担当教員：田村 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W320532

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。|④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

(2) 内容

次に掲げる事項について個別指導及び集団指導|巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）により、現場実習へ向けて準備を行う。|①実習施設・機関の概要理解、②実習施設・機関の所在する地域の概要理解、③精神保健福祉士としての自己の学習課題の明確化、④実習計画の立案

受講者に対する要望

現場での実習に向けて具体的な課題設定を行い、事前準備を整えるため、毎回提示する課題に取り組んだうえで出席すること。
遅刻・欠席は特段の理由がない場合、また事前申し出がない場合は認めないので、自覚して履修すること。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉士
- ・自己覚知
- ・専門職の知識・技術
- ・精神保健福祉の関係機関・施設

授業計画

01. 事前学習の目的と意義／事前学習の意義と方法
02. 実習課題及び実習計画の作成／実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
03. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度
04. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項
05. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習（1）
06. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習（2）
07. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習（3）
08. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習（4）
09. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価（1）
10. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価（2）
11. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習（1）
12. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習（2）
13. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習（3）
14. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習（4）
15. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理

準備学習(予習)

提示する課題にきちんと取り組んで出席すること。

準備学習(復習)

授業内で理解不足と感じた事柄につき、各自の学習課題として復習すること。

評価方法

- | | |
|--------------|------------------------------------|
| (1) 課題への取り組み | 50% |
| (2) 参加姿勢 | 50% 毎回アクションペーパーを記載する中で授業の理解度を確認する。 |

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『新版 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』（へるす出版）【978-4892697570】

参考書

担当教員：相川 章子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W320640

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

精神保健福祉士として必要な専門的援助能力の養成をめざす。具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

(2) 内容

精神保健福祉援助実習の学びを踏まえ、以下の内容を個別指導とグループ討議により行う。|①実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成| ②実習の評価全体総括会|

受講者に対する要望

国家資格としての専門職養成の最終段階であることを自覚し、これまでの学習を総括するつもりで積極的に自己の成長課題を発見し、成長に向けて意欲的に取り組むことを期待する。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉士
- ・専門性
- ・学習課題の発見

授業計画

01. 事後学習の目的と意義／事後学習の意義と方法、スーパービジョンの意義
02. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1)
03. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2)
04. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理
05. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理
06. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1)
07. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2)
08. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3)
09. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備
10. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備
11. 実習報告会による全体的評価の総括③実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備
12. 実習報告会による全体的評価の総括④実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備
13. 実習報告会による全体的評価の総括⑤実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備
14. 実習報告会による全体的評価の総括⑥実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催
15. 実習報告会による全体的評価の総括⑦実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催

準備学習(予習)

実習終了後のレポート作成や報告会に向けた準備などを主体的に行うこと

準備学習(復習)

レポートをもとに行うプレゼンテーションの結果として得た学習課題に対して、各自で復習し知識・理解を深めること

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|--------------------------------|
| (1) 授業への取り組み姿勢 | 50% | 授業内での発言内容、リアクションペーパーの記載内容で判断する |
| (2) 提出物 | 25% | 実習終了後のレポートおよび報告書を評価する |
| (3) 報告会 | 25% | 年度末に実施予定の報告会への参加姿勢をもとに評価する |

教科書

参考書

実習指導Bのテキストも用いる

専門演習(子ども家庭論)Ⅰ

SMPW-W-200

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX10316

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかることを目標とする。

(2) 内容

履修者の興味関心に基づき、児童福祉に関連するテーマをいくつか自分で設定し、学生による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員による補足をする。テーマ設定は自由だが、家族社会学関連領域、子ども虐待・ネグレクトに関連する内容が望ましい。|個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。

受講者に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的に発言・参加することが必須。自分の意見をもつと同時にその考えから一歩離れ相対化することを意識してほしい。

学びのキーワード

- ・ 家族
- ・ 子ども

授業計画

01. オリエンテーション及びテーマ設定・選択
02. 「児童福祉」の領域と研究方法について
03. 発表・ディスカッション及びコメント
04. 発表・ディスカッション及びコメント
05. 発表・ディスカッション及びコメント
06. 発表・ディスカッション及びコメント
07. 発表・ディスカッション及びコメント
08. 発表・ディスカッション及びコメント
09. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (2) 発表内容 | 60% |

教科書

参考書

担当教員：中谷 茂一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX10424

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

専門演習Iにおける発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に発表レジュメの質を高めることも目標とする。

(2) 内容

自己の興味関心に基づいて設定したテーマについて学生個人による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。| 個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティアなどから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。

受講者に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による発表を望む。

学びのキーワード

- ・ 家族
- ・ 子ども

授業計画

01. 専門演習IIの達成課題と発表抄録作成について
02. 発表・ディスカッション及びコメント
03. 発表・ディスカッション及びコメント
04. 発表・ディスカッション及びコメント
05. 発表・ディスカッション及びコメント
06. 発表・ディスカッション及びコメント
07. 発表・ディスカッション及びコメント
08. 発表・ディスカッション及びコメント
09. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (2) 発表内容 | 60% |

教科書

参考書

専門演習(高齢社会論)Ⅰ

SMPW-W-200

担当教員：古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX10532

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

(2) 内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。|ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

受講者に対する要望

関心をもち主体的に参加すること。

学びのキーワード

授業計画

01. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
02. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
03. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
04. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
05. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
06. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
07. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
08. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
09. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 文献・資料の講読と解釈、討議 (11)
12. 文献・資料の講読と解釈、討議 (12)
13. 文献・資料の講読と解釈、討議 (13)
14. 文献・資料の講読と解釈、討議 (14)
15. 文献・資料の講読と解釈、討議 (15)

準備学習(予習)

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

評価方法

- (1) 平常点 100%

教科書

古谷野亘・安藤幸敏『改訂 新社会老年学:シニアライフのゆくえ』(ワールドプランニング)【978-4863510074】

参考書

授業の中で指示する

担当教員：古谷野 亘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX10640

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

(2) 内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。|ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

受講者に対する要望

関心をもち主体的に参加すること。

学びのキーワード

授業計画

01. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
02. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
03. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
04. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
05. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
06. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
07. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
08. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
09. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (1)
12. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (2)
13. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (3)
14. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (4)
15. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (5)

準備学習(予習)

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

評価方法

- (1) 平常点 100%

教科書

古谷野亘・安藤幸敏『改訂 新社会老年学:シニアライフのゆくえ』(ワールドプランニング) [978-4863510074]

参考書

授業の中で指示する

担当教員：長谷川 恵美子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX11204

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

心理学研究とはどのようなものなのか、立案、方法論の決定、まとめ方、発表方法を、実際の予備研究を進める作業を通して、体験し身に着けることを目的としている。

(2) 内容

4年次の卒業研究に向けて、自ら関心のある心理学関連テーマを定め、専門演習1で開始した予備研究を実施し、その結果をまとめ、考察を書き、まとめ、最終的にプレゼンテーションを行う。

受講者に対する要望

大学生活の集大成である卒業研究をやり多きものにするためにも、この授業を十分活用し、各自の研究テーマを見つけ、方法論やプレゼンテーションの基本的なスキルを体得することを期待する。|また、様々な研究にふれながら、視野を広げることを期待する。|

学びのキーワード

- ・ ひと
- ・ 心理
- ・ 研究法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 実験・調査の実施と報告 (1)
03. 実験・調査の実施と報告 (2)
04. 実験・調査の実施と報告 (3)
05. 結果の分析 (1)
06. 結果の分析 (2)
07. 結果の分析 (3)
08. 結果のディスカッション (1)
09. 結果のディスカッション (2)
10. 結果のディスカッション (3)
11. プレ研究の完成に向けて (1)
12. プレ研究の完成に向けて (2)
13. プレ研究の完成に向けて (3)
14. 研究発表会とディスカッション (1)
15. 研究発表会とディスカッション 2

準備学習(予習)

各自のプレ研究のテーマについて、各回に出された目標と課題を進めるにあたり、必要な文献収集と資料の熟読、プレゼンテーション資料の作成をする。

準備学習(復習)

各自、授業中のディスカッションで得た情報をもとに、方向性を適宜修正し研究に磨きをかけてゆく。さらに他のゼミ学生の発表した内容についても、各々の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

担当教員： 田村 綾子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 1 授業コード： 1WX12236

学部教育の関連目

【W】 論理的思考・表現力： 論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

授業は、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（施設見学、ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進め、随時教員からの講義や文献紹介を行う。

(2) 内容

・ 前学期の内容を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察を深化させる。|・ 精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。|・ 専門職としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。|

受講者に対する要望

出席することを重視し、毎回話し合われるテーマについて関心をもって積極的に参加、発言すること。自分の頭と心で考え、感じる癖をつけること。

学びのキーワード

- ・ 生活支援
- ・ ライフサイクル
- ・ 福祉課題
- ・ 人と社会
- ・ 倫理観

授業計画

01. 前学期振り返りと研究計画
02. グループ演習 1
03. グループ演習 2
04. 学生からのプレゼンテーション
05. 学生からのプレゼンテーション
06. 学生からのプレゼンテーション
07. 学生からのプレゼンテーション
08. 学生からのプレゼンテーション
09. 学生からのプレゼンテーション
10. 学生からのプレゼンテーション
11. 学生からのプレゼンテーション
12. 学生からのプレゼンテーション
13. 学生からのプレゼンテーション
14. 卒業研究テーマについて
15. 総括

準備学習(予習)

学生からのプレゼンテーションを中心に進めるため、事前に指定されるテーマについて文献等を熟読しておくこと。また、プレゼンテーションの担当者はレジュメ作成を事前におこなうこと。

準備学習(復習)

リアクションペーパーを用いて、各自の感想、考察を言語化する時間を設ける。各回の内容について、理解できなかったところを各自で調べて理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 参加姿勢 | 50% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) リアクションペーパー | 20% |

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を発言等を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを総合的に評価する。

教科書

参考書

担当教員：木下 大生

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX12656

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

自身が関心を持てるテーマを見つけることが第一の目標となる。テーマが見つかったからは、その内容について、文献、フィールドワーク等から知見を深め、テーマを出来るだけ具体的にしてい
く。それにより、テーマに対する独自の視点を醸成する。

(2) 内容

専門演習 I で学んだことを振り返りながら、各自、障害者の生活や福祉に関連するテーマで、特に興味や関心があるテーマをみつけ、その内容について深めていく。

受講者に対する要望

自身のテーマに限らず、他の学生のテーマにも関心を持ち、積極的に発言(疑問や意見)をし、また他の学生の発言にも耳を傾け、学生同志での活発なディスカッションをしてください。

学びのキーワード

- ・ 関心のあるテーマの探求
- ・ プレゼンテーション
- ・ ディスカッション
- ・ 好奇心
- ・ 自己覚知

授業計画

01. ゼミの進め方についての確認
02. 専門演習 I の振り返り
03. グループディスカッション(障害者福祉全般について)
04. 研究テーマの発表
05. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(1)
06. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(2)
07. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(3)
08. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(4)
09. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(5)
10. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(6)
11. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(7)
12. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(8)
13. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(9)
14. 個人研究発表/質疑/ディスカッション(10)
15. まとめ

準備学習(予習)

自身が発表する際は、きちんと事前準備をしてくること。

準備学習(復習)

自身のテーマや内容について、他の学生や教員から寄せられた疑問や質問については、必ず調べること。また、授業内で生じた疑問は自ら調べ解決すること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 参加態度 | 30% |
| (3) レポート | 20% |
| (4) プレゼンテーション | 30% |

教科書

参考書

担当教員：中原 純

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX13306

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

身近な社会の中で日々起きている具体的な現象を、社会心理学の専門用語を用いて抽象的に表現する能力を身に着ける。発表したり、議論をする力を養う。

(2) 内容

印象形成、説得、自己呈示、ソーシャルサポート、援助行動、社会的アイデンティティといった社会心理学が伝統的に扱ってきた様々なトピックに関する文献を購読する。各回、担当者が関心のあるトピックについてテキストを読み、授業時に報告する。担当者以外の受講生は、事前にテキストを読み、授業時に質問やコメントができるようにしておく。

受講者に対する要望

学生同士で議論することを期待します。どんな小さなことでもかまいませんので、積極的に発言してください。

学びのキーワード

- ・印象形成
- ・説得
- ・自己呈示
- ・ソーシャルサポート
- ・集団的アイデンティティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 文献購読と討議
03. 文献購読と討議
04. 文献購読と討議
05. 文献購読と討議
06. 文献購読と討議
07. 文献購読と討議
08. 文献購読と討議
09. 文献購読と討議
10. 文献購読と討議
11. 文献購読と討議
12. 文献購読と討議
13. 文献購読と討議
14. 文献購読と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に文献を購読し、質問やコメントを考えておく。

準備学習(復習)

授業中に解決できなかったトピックがあれば、次週までに調べておく。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 60% |

教科書

参考書

担当教員：中原 純

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX13410

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

卒業研究を実施するために、社会心理学の知識を深め、基本的な方法論を学ぶ。また、「理論的に考えた仮説を、具体的な現象を通して実証する」という基本的な思考プロセスを学習し、抽象と具体を結び付けて考える思考力を養う。

(2) 内容

人が社会の中で生活することで生じる様々な現象を、“こころ”との結びつきを通して扱う社会心理学に関する学術論文を購読する。購読する中で、社会心理学のトピックについて知識を深めることはもちろんであるが、加えて、リサーチクエスションのたて方、実験方法、調査方法、統計解析の方法、結果のまとめ方などを学ぶ。また、受講生の意欲次第ではあるが、過去に行われた実験や調査などの追試を実際に行うこともあり得る。

受講者に対する要望

学生同士で議論することを期待します。どんな小さなことでもかまいませんので、積極的に発言してください。

学びのキーワード

- ・印象形成
- ・説得
- ・自己呈示
- ・ソーシャルサポート
- ・集団的アイデンティティ

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学術論文の検索方法
03. 学術論文に関する発表と討議
04. 学術論文に関する発表と討議
05. 学術論文に関する発表と討議
06. 学術論文に関する発表と討議
07. 学術論文に関する発表と討議
08. 学術論文に関する発表と討議
09. 学術論文に関する発表と討議
10. 学術論文に関する発表と討議
11. 学術論文に関する発表と討議
12. 学術論文に関する発表と討議
13. 学術論文に関する発表と討議
14. 学術論文に関する発表と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

パワーポイントを使用した発表を行ってまいります。授業内でも操作方法の解説を行いますが、不安のある人は、受講前に練習をしておいてください。各回の発表担当者は論文を購読し、内容をパワーポイントで発表する準備をしてください。担当者以外の受講生も、事前に論文を読み、質問やコメントを考えておくようにしてください。

準備学習(復習)

学術論文の購読は、初学者には困難です。授業後も多くの疑問が残ると思いますので、内容を復習し、出来る限り解決するようにしましょう。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 発表 | 60% |

教科書

参考書

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX20316

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「専門演習Ⅰ・Ⅱ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかる。

(2) 内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。| 卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。

受講者に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読込むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による研究を望む。

学びのキーワード

- ・ 家族
- ・ 子ども

授業計画

01. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について
02. 卒業研究の方法について
03. 発表・ディスカッション及びコメント
04. 発表・ディスカッション及びコメント
05. 発表・ディスカッション及びコメント
06. 発表・ディスカッション及びコメント
07. 発表・ディスカッション及びコメント
08. 発表・ディスカッション及びコメント
09. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

準備学習(予習)

自己のレジメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (2) 発表内容 | 60% |

教科書

参考書

担当教員：中谷 茂一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX20424

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「卒業研究I」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートを目標とする。

(2) 内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。| テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。

受講者に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読込むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による研究を望む。

学びのキーワード

- ・ 家族
- ・ 子ども

授業計画

01. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について
02. 卒業研究の方法について
03. 〈テーマA〉発表・ディスカッション及びコメント
04. 〈テーマB〉発表・ディスカッション及びコメント
05. 〈テーマC〉発表・ディスカッション及びコメント
06. 〈テーマD〉発表・ディスカッション及びコメント
07. 〈テーマE〉発表・ディスカッション及びコメント
08. 〈テーマF〉発表・ディスカッション及びコメント
09. 〈テーマG〉発表・ディスカッション及びコメント
10. 〈テーマH〉発表・ディスカッション及びコメント
11. 〈テーマI〉発表・ディスカッション及びコメント
12. 〈テーマJ〉発表・ディスカッション及びコメント
13. 〈テーマK〉発表・ディスカッション及びコメント
14. 〈テーマL〉発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

準備学習(予習)

自己のレジメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (2) 発表内容 | 60% |

教科書

参考書

担当教員：古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX20532

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進める。

(2) 内容

輪番で研究の途中経過を報告し、その報告をもとに皆で議論する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

受講者に対する要望

自主的に研究を進めるとともに、授業では積極的に発言する。

学びのキーワード

授業計画

01. 研究の中間発表と討議 (1)
02. 研究の中間発表と討議 (2)
03. 研究の中間発表と討議 (3)
04. 研究の中間発表と討議 (4)
05. 研究の中間発表と討議 (5)
06. 研究の中間発表と討議 (6)
07. 研究の中間発表と討議 (7)
08. 研究の中間発表と討議 (8)
09. 研究の中間発表と討議 (9)
10. 研究の中間発表と討議 (10)
11. 研究の中間発表と討議 (11)
12. 研究の中間発表と討議 (12)
13. 研究の中間発表と討議 (13)
14. 研究の中間発表と討議 (14)
15. 研究の中間発表と討議 (15)

準備学習(予習)

各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。

評価方法

(1) 平常点 100%

教科書

使用しない

参考書

授業の中で指示する

担当教員：古谷野 亘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX20640

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進め、研究結果をレポートにまとめる。

(2) 内容

輪番で研究の途中経過を報告し、その報告討論をもとにレポートを作成する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

受講者に対する要望

自主的に研究を進めるとともに、授業では積極的に発言する。

学びのキーワード

授業計画

01. 研究の中間発表と討議 (1)
02. 研究の中間発表と討議 (2)
03. 研究の中間発表と討議 (3)
04. 研究の中間発表と討議 (4)
05. 研究の中間発表と討議 (5)
06. 研究の中間発表と討議 (6)
07. 研究の中間発表と討議 (7)
08. 研究の中間発表と討議 (8)
09. 研究の中間発表と討議 (9)
10. 研究の中間発表と討議 (10)
11. 研究の中間発表と討議 (11)
12. 研究の中間発表と討議 (12)
13. 研究の中間発表と討議 (13)
14. 研究の中間発表と討議 (14)
15. 研究の中間発表と討議 (15)

準備学習(予習)

各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

使用しない

参考書

授業の中で指示する

担当教員：長谷川 恵美子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX21196

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

卒業論文に向けて、自ら関心のある心理学関連テーマを定め、その研究完成を目標に、テーマ、方法、結果のまとめ方を検討し、自ら研究作業を進める力をつけることが目的である。

(2) 内容

4年次の卒業研究に向けて、自ら関心のある心理学関連テーマを定め研究を開始する。

受講者に対する要望

各自の研究テーマをみつけ、方法論やプレゼンテーションの基本的なスキルを体得することを期待する。|また、様々な研究にふれながら、視野を広げることが期待する。|

学びのキーワード

- ・ ひと
- ・ 心理
- ・ 研究法

授業計画

01. ガイダンス
02. 心理学研究の倫理と課題
03. 研究テーマの検討
04. 実験・調査の準備 (1)
05. 実験・調査の準備 (2)
06. 実験・調査の準備 (3)
07. 方法・手続きの検討 (1)
08. 方法・手続きの検討 (2)
09. 方法・手続きの検討 (3)
10. 実験・調査シミュレーション (1)
11. 実験・調査シミュレーション (2)
12. 実験・調査データの収集と保管 (1)
13. 実験・調査データの収集と保管 (2)
14. 演習内中間発表とディスカッション (1)
15. 演習内中間発表とディスカッション (2)

準備学習(予習)

各自の研究のテーマについて、各回に出された目標と課題を進めるにあたり、必要な文献収集と資料の熟読、プレゼンテーション資料の作成をする。

準備学習(復習)

各自、授業中のディスカッションで得た情報をもとに、方向性を適宜修正し研究に磨きをかけてゆく。さらに他のゼミ学生の発表した内容についても、各々の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

担当教員：長谷川 恵美子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX21204

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

卒業研究1で立案し、自ら収集したデータをもとに、各々の卒業研究を完成させることが目標である。

(2) 内容

卒業研究1で定めた方法論をもとに、実際のデータを収集し、統計学的に検討し、結果および研究の限界などについて発表・ディスカッションする。

受講者に対する要望

よりよい卒業論文の完成を目指し、この授業を十分活用し、各自の研究テーマをみつけ、方法論やプレゼンテーションの基本的なスキルを体得することを期待する。| また、様々な研究にふれながら、視野を広げることを期待する。 |

学びのキーワード

- ・ ひと
- ・ 心理
- ・ 研究法

授業計画

01. ガイダンス
02. 実験・調査の報告 (1)
03. 実験・調査の報告 (2)
04. 実験・調査の報告 (3)
05. 結果の分析 (1)
06. 結果の分析 (2)
07. 結果の分析 (3)
08. ディスカッション 1
09. ディスカッション 2
10. ディスカッション 3
11. 研究発表 1
12. 研究発表 2
13. 研究発表 3
14. まとめ 1
15. まとめ 2

準備学習(予習)

各自の研究のテーマについて、各回に出された目標と課題を進めるにあたり、必要な文献収集と資料の熟読、プレゼンテーション資料の作成をする。

準備学習(復習)

各自、授業中のディスカッションで得た情報をもとに、方向性を適宜修正し研究に磨きをかけてゆく。さらに他のゼミ学生の発表した内容についても、各々の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 30% |
| (3) ディスカッション | 20% |

教科書

参考書

担当教員：田村 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX22236

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（SW実習、施設見学、ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。

(2) 内容

・卒業に向け、本学人間福祉学科で学んだことの集大成を論文として記述することを目的とし、文献検索、調査研究、プレゼンテーションと意見交換に基づく考察の深化を行う。|・専門演習1・2を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する自己の価値観を確立させる。|・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。|・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。|

受講者に対する要望

卒業までに論文を作成することを前提とし、各自の関心に基づく生活支援のテーマを明確化して問題意識を持って主体的に課題探究に取り組むことを求める。

学びのキーワード

- ・ソーシャルワーク
- ・社会福祉

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学生からのプレゼンテーションと意見交換①
03. 学生からのプレゼンテーションと意見交換②
04. 学生からのプレゼンテーションと意見交換③
05. 学生からのプレゼンテーションと意見交換④
06. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑤
07. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑥
08. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑦
09. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑧
10. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑨
11. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑩
12. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑪
13. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑫
14. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑬
15. まとめ

準備学習(予習)

自己の卒業研究テーマを定め、継続的に文献検索や調査研究、レポートの執筆をおこなうこと。

準備学習(復習)

プレゼンテーションと意見交換を中心に授業を進めることから、協議された内容を反映させて各自の研究テーマについての考察を深化させること。履修修了の時点では、卒業論文（レポート）が完成することを目指す。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 参加姿勢 | 50% |
| (2) 研究内容 | 30% |
| (3) 提出物 | 20% |

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を、発言を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを元に総合的に評価する。

教科書

参考書

担当教員：堀 恭子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX22560

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

心理学的視点を持った研究に取り掛かる。自身の研究を進めるために、集めた資料から確実に言えること・言えないことを整理したうえで、具体的な研究内容を決定していく。発表においては、他者にも論理的に説明できるようになることを目的とする。

(2) 内容

自分がテーマとしたいことをどうやって研究の形にするのかを学んでいく。具体的には各自自分のテーマに関連する先行文献を探し、これまで行われてきた研究を把握したうえで、自身の研究テーマとその研究方法について検討していく

受講者に対する要望

自分の興味・関心を具体的な研究にしていく第1歩を踏み出す重要な時期です。授業外でも必要な時には連絡を取り合って共に進めてゆきたいと考えています。また互いに意見を述べ合うことから新しい学びをつかんでほしいと考えています。

学びのキーワード

- ・ 問いの探求
- ・ 先行研究の検討
- ・ 研究方法の検討

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究内容について発表とディスカッション (1)
03. 研究内容について発表とディスカッション (2)
04. 研究内容について発表とディスカッション (3)
05. 研究内容について発表とディスカッション (4)
06. 研究内容について発表とディスカッション (5)
07. 研究内容について発表とディスカッション (6)
08. 研究内容について発表とディスカッション (7)
09. 研究内容について発表とディスカッション (8)
10. 研究内容について発表とディスカッション (9)
11. 研究経過報告とディスカッション (1)
12. 研究経過報告とディスカッション (2)
13. 研究経過報告とディスカッション (3)
14. 研究経過報告とディスカッション (4)
15. まとめ

準備学習(予習)

研究を進めるために、各自のテーマに沿った学習が必要とされ、学んだことをまとめて発表する準備を行うなど授業外の学習機会が重要となる

準備学習(復習)

授業内で議論されたことでわからないこと・気になったことをそのままにせず、すぐに調べるなどして、自身の学習を深めるヒントにすることを期待する

評価方法

- | | |
|---------|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 報告 | 70% 報告には事前準備、ディスカッション参加も含まれます |

教科書

参考書

参考文献を適宜指示します。

担当教員：堀 恭子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：1WX22668

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【W】認定心理士：その他

(1) 学びの意義と目標

研究のプロセス（先行研究の検討から卒業研究のテーマとそれに沿った研究方法を決定し、そこから得られた結果を考察し、卒業研究としてまとめる）を体験する。卒業研究の内容を発表することを目標とする。決められたテーマについて報告をまとめ、文書に表す、発表するという体験を通して、成果をまとめるという力だけでなく、報告を受ける側に理解してもらい伝え方を身につける。

(2) 内容

研究テーマに沿った研究方法（調査・観察・実験）を用いて研究を進め、得た結果を考察して卒業研究としてまとめ、発表するまでを内容とする。

受講者に対する要望

卒業研究は、自身の興味・関心を絞り込んでテーマを決め、調査等を実行し、その結果をまとめて発表するといった、これまでの学びの集大成です。真摯に取り組んで、自分の力を実感してほしいと思います。

学びのキーワード

- ・文献検討：関連する文献を探す
- ・テーマに沿った研究方法模索
- ・研究の実行
- ・研究のまとめ
- ・研究の発表

授業計画

01. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (1)
02. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (2)
03. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (3)
04. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (4)
05. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (5)
06. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (6)
07. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (7)
08. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (8)
09. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (9)
10. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (10)
11. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (11)
12. 卒業研究実施とその進捗状況を確認し合う (12)
13. 卒業研究発表の準備
14. 各自の卒業研究発表
15. まとめ

準備学習(予習)

演習で行う発表やディスカッションから得たものを自身の研究にも活かせるよう、事前準備をしっかりと行ってほしい。

準備学習(復習)

ゼミや教員の個別指導で検討された事項から、内容を見直しながら卒業研究としてまとめる努力をしてほしい。

評価方法

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 卒業研究 | 70% 卒業研究の内容だけでなく、準備から発表までの内容すべてを含みます |

教科書

参考書

各自の研究テーマに沿った文献を探し、活用する。

担当教員：中原 純

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1WX22910

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会心理学の研究を通して、理論的かつ論理的に考える力を養う。また、データ分析のためのソフトを扱うスキル、プレゼンテーションのスキル、ディスカッションのスキルなどを身に着ける。

(2) 内容

卒業研究を実施する。特に、卒業研究 I では、各自が興味あるテーマに関して、先行研究を調べ、研究計画を作成することを求める。研究計画が完成した受講生から、順次、実験や調査を実施する。

受講者に対する要望

心理学研究法、心理学実験実習A、心理学実験実習Bを受講済み、もしくは同時受講していることが望ましい。自分でテーマを決め、自主的に勉強し、研究を進めていく力が試されます。教員は授業時間外でも相談にのりますので、積極的に研究にチャレンジしましょう。

学びのキーワード

- ・ 研究計画
- ・ 実験
- ・ 調査

授業計画

01. 進捗状況の報告と討議
02. 進捗状況の報告と討議
03. 進捗状況の報告と討議
04. 進捗状況の報告と討議
05. 進捗状況の報告と討議
06. 進捗状況の報告と討議
07. 進捗状況の報告と討議
08. 進捗状況の報告と討議
09. 進捗状況の報告と討議
10. 進捗状況の報告と討議
11. 進捗状況の報告と討議
12. 進捗状況の報告と討議
13. 進捗状況の報告と討議
14. 進捗状況の報告と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

各自が興味・関心のある先行研究をレビューし、研究計画を考える。

準備学習(復習)

授業での議論をふまえ、さらに先行研究を調べたり、研究計画の修正を行う。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 研究計画 | 50% |

教科書

参考書

担当教員： 中原 純

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 1WX23010

学部教育の関連目

【W】 論理的思考・表現力： 論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会心理学の研究を通して、理論的かつ論理的に考える力を養う。また、データ分析のためのソフトを扱うスキル、プレゼンテーションのスキル、ディスカッションのスキルなどを身に着ける。

(2) 内容

卒業研究を実施する。特に、卒業研究 II では、卒業研究 I で完成させた研究計画を基に、実際にデータを収集し、結果をまとめ、卒業研究として完成させる。

受講者に対する要望

卒業研究を完成させるのはとても苦しい作業です。しかし、完成させた頃には、達成感と共に非常に多くの知識や技術を身に着けていることを実感できると思います。サポートしますので、頑張りましょう。

学びのキーワード

- ・ 実験
- ・ 調査
- ・ データ分析
- ・ 論文執筆

授業計画

01. 進捗状況の報告と討議
02. 進捗状況の報告と討議
03. 進捗状況の報告と討議
04. 進捗状況の報告と討議
05. 進捗状況の報告と討議
06. 進捗状況の報告と討議
07. 進捗状況の報告と討議
08. 進捗状況の報告と討議
09. 進捗状況の報告と討議
10. 進捗状況の報告と討議
11. 進捗状況の報告と討議
12. 進捗状況の報告と討議
13. 進捗状況の報告と討議
14. 進捗状況の報告と討議
15. まとめ

準備学習(予習)

各自のペースで、研究を進めてください。

準備学習(復習)

各自のペースで、研究を進めてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 卒業研究 | 50% |

教科書

参考書

専門演習(高齢者福祉論) I

SMPW-W-200

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：2WX10590

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（地歴）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

高齢者福祉領域において解決が求められる社会問題を知るだけでなく、他者に伝え、共に考えることで、論理的思考力や表現力を養います。また、一連の学習を通して、自分の関心あるテーマにしっかりと向き合うことを目指します。

(2) 内容

専門演習（高齢者福祉論）Iでは、高齢者に関わる社会問題や課題について、文献や書籍等を通じて調べ、まとめ、発表します。発表後は、参加者全員で意見交換を行い、発表内容の理解を深めます。

受講者に対する要望

専門演習ですので、自らの関心に基づいて主体的に学んでほしいと思います。調べる、考える、伝える力は、大学だけでなく社会に出ても必要になります。一緒に苦しみ、楽しみましょう。

学びのキーワード

- ・ 高齢者
- ・ 社会問題
- ・ 文献探索
- ・ プレゼンテーション
- ・ 論理的思考力

授業計画

01. オリエンテーション：専門演習の目的と進め方に関する説明
02. 関心あるテーマに関する文献・書籍の発表
03. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
04. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
05. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
06. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
07. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
08. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
09. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
10. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
11. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
12. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
13. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
14. 文献内容の発表・グループワーク・論点整理
15. 専門演習のまとめ

準備学習(予習)

次回発表される文献を精読してから参加するようにしてください。

準備学習(復習)

配布された資料を読み返したり、グループワークで意見交換した内容を文章にまとめるようにしてください。

評価方法

- | | |
|---------|-------------------------|
| (1) 発表 | 50% |
| (2) 平常点 | 50% 課題への取組みやグループワークの状況等 |

教科書

参考書

専門演習(高齢者福祉論) II

SMPW-W-300

担当教員：長谷部 雅美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：2WX10610

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢者福祉領域において解決が求められている社会問題や課題に対して、机上での理解に留まらず、体験的に理解することを目指します。知識と体験を連動させることで、より深い理解につながります。また、実際に体験したことを、他者に伝え、共に考えることで、プレゼンテーション力や論理的思考力も養います。

(2) 内容

専門演習(高齢者福祉論) II では、専門演習 I で調べた社会問題や課題に対して、実際の現場へ足を運び体験を通して学びます。そして、現場で理解したことをまとめ、発表し、意見交換を行うことで、理解を深めます。

受講者に対する要望

専門演習ですので、自らの関心に基づいて主体的に学んでほしいと思います。また、人や社会と積極的に関わることを期待します。

学びのキーワード

- ・ 高齢者
- ・ 社会問題
- ・ 体験的理解
- ・ プレゼンテーション
- ・ 論理的思考力

授業計画

01. オリエンテーション：専門演習 II の目的と進め方に関する説明
02. 関心あるテーマの確認と体験学習先の検討
03. 体験学習先の探し方と体験学習の目的の明確化
04. 体験学習に向けた進捗状況の報告
05. 体験学習に向けた進捗状況の報告
06. 体験学習と状況報告
07. 体験学習と状況報告
08. 体験学習と状況報告
09. 体験学習と状況報告
10. 体験学習と状況報告
11. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
12. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
13. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
14. 体験学習のまとめ（発表・意見交換）
15. 専門演習 II の総括

準備学習(予習)

専門演習 I で学んだことを整理し、課題や関心事を明確化しておいてください。また、次回の授業に関わる文献を読んでおいてください。

準備学習(復習)

配布資料を読み直したり、発表や意見交換した内容を振り返ったりして、専門演習で理解したことを文章でまとめておくようにしてください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 発表 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：堀 恭子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：2WX12468

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

文献を読み込み、理解した内容をまとめる作業の練習をする。後半は身近な問題をどのように問いの形にしていくのか、検討する。その過程は自分の思考の整理でもあり、自分の考えを他者に伝える、コミュニケーションの練習でもある。授業を通して思考力、コミュニケーション力双方を訓練してほしい。

(2) 内容

自分の中の興味・関心を心理学的側面から捉え、問いとして突き詰めていく作業をする。先行研究や文献にあたり、自分の中の問いが研究となっていけるのかを検討する。互いに自分の考えを発表し合うことで相互に新しい発見をする。

受講者に対する要望

準備ができていることが望ましいが、準備がなくても出席し、他者の考えを聞いてディスカッションに参加するだけでも大きな意味があります。できるだけ出席して体験を重ねてほしいと考えています。

学びのキーワード

- ・ 自身の興味・関心
- ・ 問いの探求
- ・ 文献検を探す
- ・ 先行研究の検討
- ・ ディスカッション

授業計画

01. オリエンテーション
02. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (1)
03. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (2)
04. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (3)
05. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (4)
06. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (5)
07. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (6)
08. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (7)
09. グループワーク：文献の内容をまとめ、発表する (8)
10. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (1)
11. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (2)
12. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (3)
13. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (4)
14. 自身の興味関心に即した文献検討と研究課題模索 (5)
15. 発表

準備学習(予習)

参考文献を事前に読み込み、グループでのまとめに役立つ。自身の興味関心について整理する。

準備学習(復習)

毎回のまとめで疑問に感じたことを調べてみることで、ディスカッションを通じてさらに必要と思われた検討を先延ばしにせず行うこと

評価方法

- | | |
|---------|---------------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 報告 | 70% 報告にはディスカッションへの参加も含まれる |

教科書

参考書

参考文献を適宜指示します。

卒業研究(高齢者福祉論) I

SMPW-W-300

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：2WX20510

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢者福祉領域で解決が求められている社会問題について、専門演習で深めた理解を前提に、自らが課題と考え、明らかにしたいテーマを設定できる力を養います。また、設定したテーマに対して、適切な調査手法を選択し、実践することを目指します。

(2) 内容

卒業研究(高齢者福祉論) I では、高齢者に関わる社会問題や課題の中から、卒業研究のテーマを設定します。設定したテーマについて、適切な調査手法を選択して調査を実施します。

受講者に対する要望

卒業研究ですので、自らの関心に基づいて主体的に学び、実践してほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 高齢者
- ・ 社会問題
- ・ 質的調査
- ・ 量的調査
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション：卒業研究 I の目的と進め方に関する説明
02. 卒業研究のテーマ設定（発表・質疑）
03. 卒業研究のテーマ設定（発表・質疑）
04. 卒業研究のテーマ設定（発表・質疑）
05. 調査手法の理解
06. 調査手法の理解
07. 調査手法の選定
08. 調査手法の選定
09. 調査実施に向けた準備
10. 調査実施に向けた準備
11. 調査実施に向けた準備
12. 調査実施
13. 調査実施
14. 調査実施
15. 卒業研究 I のまとめ

準備学習(予習)

専門演習で学んだ社会問題の内容や課題を整理しておいてください。また、次回の授業に関わる文献を読んでおいてください。

準備学習(復習)

配布資料を読み直したり、授業の中で提示された各自の課題を整理しておいてください。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 課題への取組みやグループワークの状況等 |
| (2) 調査実施 | 50% | |

教科書

参考書

卒業研究(高齢者福祉論) II

SMPW-W-400

担当教員：長谷部 雅美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：1 授業コード：2WX20610

学部教育の関連目

【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

高齢者福祉領域で解決が求められている社会問題について、自らが設定した卒業研究のテーマを論理的に整理する力、文章として表現する力、人に伝える力を養います。

(2) 内容

卒業研究 II では、高齢者に関わる社会問題や課題の中から、自らが設定した卒業研究のテーマを論文としてまとめます。また、自分が調査したことや考察したことを、論文発表会で報告します。

受講者に対する要望

卒業研究ですので、自らの関心に基づいて主体的に学び、実践してほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 高齢者
- ・ 社会問題
- ・ 論文構成
- ・ 調査結果の解釈
- ・ プレゼンテーション

授業計画

01. オリエンテーション：卒業研究 II の目的と進め方に関する説明
02. 卒業研究の進捗状況の報告（1）先行研究および研究方法
03. 卒業研究の進捗状況の報告（2）調査結果
04. 卒業研究の進捗状況の報告（3）調査結果
05. 卒業研究の進捗状況の報告（4）調査結果の解釈
06. 卒業研究の進捗状況の報告（5）調査結果の解釈
07. 卒業研究レポートの作成（1）
08. 卒業研究レポートの作成（2）
09. 卒業研究レポートの作成（3）
10. 卒業研究レポートの作成（4）
11. 卒業研究レポートの作成（5）
12. 卒業研究レポートの作成（6）
13. 卒業研究レポートの作成（7）
14. 卒業研究レポート発表会（1）
15. 卒業研究レポート発表会（2）

準備学習(予習)

自らの研究テーマに関連した先行研究を読んでまとめておいてください。

準備学習(復習)

授業で指摘されたことを確認し、卒業研究レポートを進めてください。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|---------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 課題への取組みやグループワークの状況等 |
| (2) 卒業研究レポート | 50% | |
| (3) 発表 | 20% | |

教科書

参考書

教師論（中高教職）

TEAT-0-100/TEAT-D-1

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程/ 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T100101

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。| 2) 地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。| 3) 戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。| 4) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。|

(2) 内容

教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。| 教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。| その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。|

受講者に対する要望

「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。

学びのキーワード

- ・ 職場としての学校
- ・ 教員の特殊性
- ・ 教員の社会的役割

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教師に求められる資質・能力とは（1）－現状と課題
03. 教師に求められる資質・能力とは（2）－生徒の求める教師像
04. 教師に求められる資質・能力とは（3）－教師としての自覚
05. 教師の仕事（1）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識
06. 教師の仕事（2）教師の力量向上－研修の義務と機会
07. 教師の地位（1）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など
08. 教師の地位（2）現代社会と教師
09. 教師の環境（1）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解
10. 教師の環境（2）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員
11. 教師の環境（3）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など
12. 教師養成（1）その歴史－戦前期および戦後改革
13. 教師養成（2）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚
14. 教育計画とは何か
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。

準備学習(復習)

授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらったレポートの準備を考えてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----------------------------|
| (1) 期末テスト | 30% |
| (2) 授業への参加 | 40% 授業中の討論への参加など |
| (3) レポート | 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。 |

教科書

参考書

福祉科教育法Ⅰ（中高教職）

SUBP-W-300

担当教員：中谷 茂一

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T307140

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

(2) 内容

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。| 学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。|

受講者に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。

自分の頭で考え積極的に発言しなければ単位修得はできない。

学びのキーワード

・福祉科教育

授業計画

01. 1 「福祉」教科創設の背景と経緯・基本方針
02. 2 福祉教育の意義と福祉に関する学科設置の基本的な考え方
03. 3 社会福祉学と「福祉」教科
04. 4 「福祉」教科の科目関連と構造
05. 5 教育観と福祉科教育
06. 6 「福祉」の内容と解説 目標・社会福祉基礎・社会福祉制度・社会福祉援助技術
07. 7 基礎介護・社会福祉実習
08. 8 社会福祉演習・福祉情報処理
09. 9 指導計画の作成と内容の取扱い
10. 10 模擬授業(1)
11. 11 模擬授業(2)
12. 12 模擬授業(3)
13. 13 模擬授業(4)
14. 14 模擬授業(5)
15. 15 模擬授業(6)

準備学習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

教育実習を考える会 編『教育実習生のための学習指導案作成教本 社会・地歴・公民科』（産書林）[978-4915442834] | 桐原宏行 編著『福祉科教育法』（三和書館）[978-4916037633] | 保住 芳美『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』（明治図書出版）[978-4188509197]

参考書

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T307241

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

(2) 内容

福祉科教育法Iで学習したことを展開させ、さらにレベルアップした指導案と模擬授業を行ってもらい、教育実習へとつなげていくことを目標とする。| 高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。| 学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。|

受講者に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。

学びのキーワード

・福祉科教育

授業計画

01. 1 社会福祉基礎
02. 2 社会福祉制度
03. 3 社会福祉援助技術
04. 4 基礎介護
05. 5 社会福祉実習
06. 6 社会福祉演習
07. 7 福祉情報処理
08. 8 指導計画の作成と内容の取扱い
09. 模擬授業 (1)
10. 模擬授業 (2)
11. 模擬授業 (3)
12. 模擬授業 (4)
13. 模擬授業 (5)
14. 模擬授業 (6)
15. 模擬授業 (7)

準備学習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

参考書

教職課程

担当教員：堀川 裕介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101700

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
|・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。|・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に答えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---------------------------------------|
| (1) 授業内課題 | 70% | 授業中課題は授業中に提出し、評価は授業終了後に行う。詳細は授業で指示する。 |
| (2) 中間試験 | 15% | ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 15% | エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |

・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。|・3回の遅刻が1回の欠席とみなす。|・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101705

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
|・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。|・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | 授業中に行われる課題を評価する。 ・授業中の出席状況を確認し、授業中の発言内容、態度、態度を確認し、授業中の発言内容を確認する。 |
| (2) 中間試験 | 15% | ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 15% | エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。 |

・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。|・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。|・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101710

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
|・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。|・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してくること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---|
| (1) 授業内課題 | 70% | <small>2学期中修習科目の成績評価は2学期制とする。 授業時間外の学習までの準備と復習が求められ、これに時間を割いた場合は減点</small> |
| (2) 中間試験 | 15% | <small>ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。</small> |
| (3) 期末試験 | 15% | <small>エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。</small> |

・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。|・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。|・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：堀川 裕介

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101715

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータを使った資料作成はIT社会を生きる現代人に必須のスキルである。中でもワード、エクセル、パワーポイントは、大学でレポートを書く際や社会人として仕事をする際の基本的なツールとなる。この授業では、実習を通じてこれらの基本的な扱い方に慣れ親しむことを目標とする。またIT社会の基本的な知識・作法を学ぶ講義を通じて、狭い意味でのスキルだけではなく、ITを「適切に」利用する心構えを身に付けてもらう。

(2) 内容

マイクロソフト社が提供する文書作成ソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」、発表資料作成ソフト「パワーポイント」の操作方法を学ぶ。実際に操作できるようになることが肝心なので、講師の説明に沿って学生諸君がこれらのソフトを操作する実習形式の授業を中心とする。また実習の合間にはIT社会の基本的な知識や作法を学ぶ座学形式の講義も行う。

受講者に対する要望

・複数回にまたがって作業することもあるので、特段の事情が無い限り欠かさず出席してほしい。
|・分からない点はそのままにせず、講師や周りの人に聞くなどその場で解決してほしい。|・遅刻はしないこと。

学びのキーワード

- ・ワード
- ・エクセル
- ・パワーポイント
- ・実習重視
- ・IT社会

授業計画

01. ガイダンス：授業計画の説明、UNIPAの使用方法
02. ワード①：ワードの基本操作、タイピング
03. ワード②：文書の編集
04. ワード③：図表の作成・編集
05. 講義①：コンピュータとネットワークの仕組み
06. エクセル①：エクセルの基本操作
07. エクセル②：グラフの作成・編集
08. エクセル③：関数の利用
09. エクセル④：その他の操作
10. ワード・エクセルの総復習
11. 講義②：情報社会のセキュリティとモラル
12. パワーポイント①：パワーポイントの基本操作
13. パワーポイント②：オブジェクトの作成・編集
14. パワーポイント③：その他の操作
15. パワーポイントの総復習

準備学習(予習)

授業中に終えられなかった作業は次回までに済ませておくこと。

準備学習(復習)

よく理解できなかった点は配布資料や参考書を読んで復習してこること。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内課題 | 70% | <small>授業中課題は授業中に提出し、提出期限は授業終了後1週間以内とする。 ・提出期限後の提出は認めない。 ・提出期限後の提出は認めない。 ・提出期限後の提出は認めない。</small> |
| (2) 中間試験 | 15% | <small>ワードとエクセルを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。</small> |
| (3) 期末試験 | 15% | <small>エクセルとパワーポイントを用いた模擬資料作りを行う。詳細は授業で指示する。</small> |

・開始後20分を過ぎてからの出席は遅刻扱いとする。|・3回の遅刻で1回の欠席とみなす。|・5回を超えて欠席した場合は不合格とする。

教科書

配布資料を教科書として用いる。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101720

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。| これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

(2) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。| 特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。| また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。| 出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。|

学びのキーワード

- ・ パソコン
- ・ オフィス系ソフト
- ・ 情報活用の実践力
- ・ 情報の科学的な理解
- ・ 情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成 |【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成 |【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成 |【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題 |【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集 |【情報社会】
09. エクセル|表の編集 |【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷 |【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

(1) 課題 (テスト) 100%

教科書

ウイネット『Excel2010クイックマスター 基本編』(ウイネット) [978-4872846652] |ウイネット『Word2010クイックマスター 基本編』(ウイネット) [978-4872846645]

参考書

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101725

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学で研究を進める上で、ワープロや表計算ソフトは欠かせません。また、就職の際には、ワープロ、表計算が使えるかどうかによって給料や任される仕事内容が変わります。| これらを踏まえ、この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得し、レポート作成や卒論などで活用できるようにする。

(2) 内容

この授業では、オフィスのワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎を習得します。| 特にワード（ワープロ）とエクセル（表計算）の習得に力を注ぎます。| また、大学生活を有意義に過ごすために、情報社会における倫理を学びます。

受講者に対する要望

教科書は、必ず購入しておくこと。| 出席は評価の対象ではありません。しかし、5回以上休むと単位を取得できません。|

学びのキーワード

- ・ パソコン
- ・ オフィス系ソフト
- ・ 情報活用の実践力
- ・ 情報の科学的な理解
- ・ 情報社会に参画する態度

授業計画

01. ワードとエクセル、パワーポイントの基本操作
02. ワード|文字入力と編集の基本操作
03. ワード|文書の編集、印刷
04. ワード|文書の作成 |【パワーポイントの基礎1】
05. ワード|表を使った文書の作成 |【パワーポイントの基礎2】
06. ワード|図形や画像を使った文書の作成 |【パワーポイントの基礎3】
07. ワード|総合学習問題 |【パワーポイントの基礎4】
08. エクセル|データの編集 |【情報社会】
09. エクセル|表の編集 |【情報倫理】
10. エクセル|ブックの印刷 |【ネチケット】
11. エクセル|グラフと図形の作成
12. エクセル|ブックの利用と管理
13. エクセル|関数
14. エクセル|データベース機能
15. エクセル|総合学習問題

準備学習(予習)

テキストに目を通し、わからない単語を調べましょう。

準備学習(復習)

オフィスソフトは、繰り返し作業することで身につきます。授業の復習をすると同時に、授業中に達成できなかった課題は、次週までの宿題です。

評価方法

(1) 課題 (テスト) 100%

教科書

ウイネット『Excel2010クイックマスター 基本編』(ウイネット) [978-4872846652] |ウイネット『Word2010クイックマスター 基本編』(ウイネット) [978-4872846645]

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101730

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

(2) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で学習するアプリケーションやサービスについて簡単に下調べをするための課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

担当教員：原島 大輔

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101735

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学での学習や研究に必要となる、情報技術の基礎的な利用法の習得を目指します。それから、学生として、さらには社会人として、情報社会で生きていくうえで身につけておくべき情報倫理の習得を目指します。

(2) 内容

パソコンの基本操作、オフィス系ソフト（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の基本操作、インターネットを利用した情報検索と情報発信について、実習します。また、情報倫理や、情報という概念そのものについての学術的な理解の基礎について、講義します。

受講者に対する要望

積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・パソコン
- ・オフィス系ソフト
- ・インターネット
- ・情報倫理
- ・基礎情報学

授業計画

01. オリエンテーション、パソコンの基本操作
02. 文字入力、ファイル管理
03. インターネットとメールの利用
04. 情報検索
05. ワードプロソフトの活用
06. ワードプロソフトの活用
07. 表計算ソフトの活用
08. 表計算ソフトの活用
09. 表計算ソフトの活用
10. プレゼンテーションソフトの活用
11. プレゼンテーションソフトの活用
12. インターネットを利用した情報発信
13. 情報倫理と情報セキュリティ
14. 基礎情報学
15. まとめ

準備学習(予習)

授業で学習するアプリケーションやサービスについて簡単に下調べをするための課題を出します。

準備学習(復習)

授業で実習したことを復習するための課題を出します。

評価方法

- | | |
|--------|-----|
| (1) 課題 | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

単位取得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とします。

教科書

参考書

担当教員： 鈴木 省吾

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 11101740

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるようにする。

(2) 内容

現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

受講者に対する要望

継続的に実習に参加し、PGIになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

学びのキーワード

- ・ 実習課題の完成
- ・ ビジネスソフト操作の精通
- ・ 教えあい
- ・ 積極的な参加

授業計画

01. イントロダクション、ワードの概略
02. ワード文書作成の基本
03. ワードにおける作表
04. ワードオブジェクトの利用
05. ワード高度な編集
06. ワード総合問題
07. エクセルの概略、エクセル入力の基本
08. エクセルでの作表・表計算
09. エクセル関数の利用
10. エクセルデータベース機能の利用
11. ワードとエクセルの連携
12. エクセル総合問題
13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成
14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用
15. パワーポイント総合問題

準備学習(予習)

授業で出された課題の反復練習。

準備学習(復習)

毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。

評価方法

(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

教科書

参考書

担当教員： 鈴木 省吾

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 必修科目 単位： 2 授業コード： 11101745

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるようにする。

(2) 内容

現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

受講者に対する要望

継続的に実習に参加し、PGIになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

学びのキーワード

- ・ 実習課題の完成
- ・ ビジネスソフト操作の精通
- ・ 教えあい
- ・ 積極的な参加

授業計画

01. イントロダクション、ワードの概略
02. ワード文書作成の基本
03. ワードにおける作表
04. ワードオブジェクトの利用
05. ワード高度な編集
06. ワード総合問題
07. エクセルの概略、エクセル入力の基本
08. エクセルでの作表・表計算
09. エクセル関数の利用
10. エクセルデータベース機能の利用
11. ワードとエクセルの連携
12. エクセル総合問題
13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成
14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用
15. パワーポイント総合問題

準備学習(予習)

授業で出された課題の反復練習。

準備学習(復習)

毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。

評価方法

(1) 課題 100% 毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まれないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

教科書

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101750

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

(2) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、課題ができているかを評価する。 |
| (3) 総合課題 | 30% | 15回目にコンピュータを使った総合課題を行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101755

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける | 【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

(2) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、課題ができているかを評価する。 |
| (3) 総合課題 | 30% | 15回目にコンピュータを使った総合課題を行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：二神 常爾

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：11101760

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける【P】獲得した専門的知識を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る【J】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業でデータ集計を行ったり（エクセル）、レポートを書いたり（ワード）する上で必須である。また、社会人になって仕事をする中でも不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、エクセルの使い方の基本を習得することを目標とし、エクセルの実習を中心に行う。時間に余裕がある場合に、ワードの実習を行う。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセルを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

(2) 内容

エクセル、ワードの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。授業ではとくにエクセルに習熟することを目標とする。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

受講者に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

学びのキーワード

- ・ノートパソコン
- ・エクセル
- ・グラフ
- ・表
- ・ワード

授業計画

01. ガイダンス
02. エクセルでのセル範囲の選択、ファイルの保存
03. エクセルのセルへの文字、数値の入力
04. エクセルでの表の作成
05. エクセルでの折れ線グラフの作成
06. エクセルでの棒グラフの作成
07. エクセルのシート見出しの編集
08. エクセルでのセル・行・列の挿入・削除、データの並べ替え
09. エクセルで関数（合計、平均、最大、最小など）を利用する
10. エクセルで数式を利用する
11. エクセルのグラフをワード文書に貼り付ける
12. エクセルの表をワード文書に貼り付ける
13. ワード文書のレイアウトを整える
14. ワード文書のヘッダーとフッターを編集する
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバスで各回の授業計画を事前に確認し、キーワードをインターネットで調べたり、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------------|
| (1) 平常点 | 30% | |
| (2) 授業中の課題 | 40% | 授業中に指示した通り、操作しているか、課題ができていないかを評価する。 |
| (3) 総合課題 | 30% | 15回目にコンピュータを使った総合課題を行うので、必ず受けること。 |

2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

教科書

毎回プリントを配付する。

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001AA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 What's your name?
03. Unit 1 What's your name?
04. Unit 2 I love fashion!
05. Unit 2 I love fashion!
06. Unit 3 How do you stay healthy?
07. Unit 3 How do you stay healthy?
08. Unit 4 How do I get there?
09. Unit 4 How do I get there?
10. Unit 5 What's that?
11. Unit 5 What's that?
12. Unit 6 What's your dream?
13. Unit 6 What's your dream?
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 It was great!
17. Unit 7 It was great!
18. Unit 8 How much do you know?
19. Unit 8 How much do you know?
20. Unit 9 She can really sing!
21. Unit 9 She can really sing!
22. Unit 10 What do you like to do?
23. Unit 10 What do you like to do?
24. Unit 11 Of course you can.
25. Unit 11 Of course you can.
26. Unit 12 What happened next?
27. Unit 12 What happened next?
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくること。また宿題は必ずやってくる。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシニア 『English Firsthand Success Student Book with CDs』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3068-1】

参考書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシニア 『English Firsthand Success Workbook』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3070-3】

担当教員：能町 和子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001AB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるSpeaking やListeningの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、課題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing people
06. Unit 3 In a classroom
07. Unit 3 In an electronics store
08. Unit 4 Everyday activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. スピーキングテスト #1
16. Unit 7 Free time activities
17. Unit 7 Popular sports
18. Unit 8 Life events
19. Unit 8 Plans for the weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV programs
22. Unit 10 Health problems
23. Unit 10 Getting better
24. Unit 11 On vacation
25. Unit 11 Past events
26. Unit 12 Telephone language
27. Unit 12 Things to do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. スピーキングテスト #2
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習しておくこと。また宿題は必ずやること。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|--------------------------------|
| (1) 平常点 | 60% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 40% | (スピーキングテスト、期末試験終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001CA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目|【C】小学校教諭一種：必修科目|【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を求める

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ プレゼンテーション
- ・ 発音
- ・ 文法

授業計画

01. Orientation & Pre-test
02. Unit 1 What's your name? 自己紹介
03. Unit 1 Exchanging Information
04. Unit2 I love fashion Describing Clothing
05. Unit 2 I love fashion Talking about fashion
06. |Unit 3 How do you stay healthy? Giving advice for health
07. Unit 3 How do you stay healthy? Talk about your ideas for health and happiness.
08. Test #1 (Units 1 ~ 3)|Unit 4 How do I get there? Giving directions.
09. Unit 4 How do I get there? Talk about your hometown. (small presentation)
10. |Unit 5 What's that? Describing objects and use.
11. Unit 5 What's that? Talk about the special gifts.
12. Unit 6 What's your dream? Talk about your plans and possibilities
13. Unit 6 What's your dream? Talk about your future plan.
14. Unit 7 : It was great! Talking about the past events.
15. Speaking Test #1
16. Unit 7 It was great! Are you a lucky person or an unlucky person?
17. Unit 8 How much do you know? Comparing and contrasting.
18. Unit 8 How much do you know? Describe your pets or your favorite animals.
19. Unit 9 She can really sing! Talk about your abilities.
20. Unit 9 She can sing! Talking about challenging events.
21. Test #3 (Units 7 ~ 9)|Unit 10 What do you like to do? Expressing likes and dis likes.
22. Unit 10 What do you like to do? Talking about your vacation.
23. Unit 11 Of course you can. Talking about things you should do and shouldn't. |
24. Unit 11 Of course you can do it! Talking about rules for your hous or school.
25. Unit 12 What happened next? Create stories.
26. Unit 12 What happened next? Presenting your story.
27. Unit 12 Presenting your story.
28. Review
29. Speaking Test
30. 総まとめ

準備学習(予習)

課題はテキストの予習「文法、語彙」の学習。

準備学習(復習)

課題、テキスト会話のスピーキング練習

評価方法

- | | | |
|--------------------|------|--------------------|
| (1) 積極的な授業参加 | 10 % | 毎回の積極的な授業参加を期待したい。 |
| (2) 課題 | 10 % | |
| (3) 小テスト (3回) | 30 % | |
| (4) スピーキングテスト (2回) | 20 % | |
| (5) 期末試験 | 30 % | |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア『English Firsthand Success Student Book with CDs』(Pearson Japan) [978-989-003058-1]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001CB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、宿題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-Testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット(特に単語や文法)に目を通しておく。(30分)

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。宿題のプリントをやる。(60分)

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 小テスト、宿題、参加態度など |
| (2) 定期試験 | 60% | 期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-Testのスコア |

教科書

Susan Stempleski/Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』(Oxford University Press) [978-0194392891]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001DA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 What's your name?
03. Unit 1 What's your name?
04. Unit 2 I love fashion!
05. Unit 2 I love fashion!
06. Unit 3 How do you stay healthy?
07. Unit 3 How do you stay healthy?
08. Unit 4 How do I get there?
09. Unit 4 How do I get there?
10. Unit 5 What's that?
11. Unit 5 What's that?
12. Unit 6 What's your dream?
13. Unit 6 What's your dream?
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 It was great!
17. Unit 7 It was great!
18. Unit 8 How much do you know?
19. Unit 8 How much do you know?
20. Unit 9 She can really sing!
21. Unit 9 She can really sing!
22. Unit 10 What do you like to do?
23. Unit 10 What do you like to do?
24. Unit 11 Of course you can.
25. Unit 11 Of course you can.
26. Unit 12 What happened next?
27. Unit 12 What happened next?
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくること。また宿題は必ずやってくること。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシニア 『English Firsthand Success Student Book with CDs』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3068-1】

参考書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシニア 『English Firsthand Success Workbook』 (Pearson Longman) 【978-988-00-3070-3】

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001DB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listening の練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また必ず課題、宿題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット（特に単語、文法）に目を通しておく。(30分)

準備学習(復習)

授業で学んだ表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。宿題のプリントをやる。(60分)

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 60% (期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-Testのスコア) |

教科書

Susan Stempleski [Talk Time 1 Student Book with Audio CD] (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：メイス みよ子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001JA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

受講者に対する要望

基本的に毎回出席し、積極的に会話演習に参加することを期待する

学びのキーワード

- ・ 会話
- ・ リスニング
- ・ コミュニケーション
- ・ 発音
- ・ 文法

授業計画

01. プリテスト、授業概要の説明、Unit 0 (クラスメート、先生について)
02. Unit 1: お互いについて質問する・答える |
03. Unit 1: お互いについてのインタビュー・リスニング・まとめ
04. Unit 2: ファッションについて話す
05. Unit 2: 装いについて述べる・モデルについて話す
06. Unit 3: 健康の秘訣について話す
07. Unit 3: 幸せになるための秘訣について話し合う
08. Listening Test #1 (Units 1~3), Unit 4: 場所の尋ね方・教え方を学ぶ
09. Unit 4: 場所の説明・行き方の説明
10. Unit 5: 物を説明する (材質・使い方)
11. Unit 5: 特別なもの (贈り物) を説明する
12. Unit 6: 自分の夢について語る
13. Unit 6: 予定について話す・将来のプラン・夢について話す
14. Speaking Test #1
15. Listening Test #2 (Units 4 - 6), Unit 7: 過去の出来事について話す
16. Unit 7: 過去の出来事について話す
17. Unit 8: 動物や自然について話す
18. Unit 8: 動物や自然について話す・比べる |
19. Unit 9: 自分の特技について話す
20. Unit 9: 自分ができることについて話す
21. Listening Test #3 (Units 7 - 9), Unit 10: 好きなアクティビティについて話す
22. Unit 10: 好きなこと・嫌いなことについて話す・行事への誘い方を学ぶ
23. Unit 11: 日々のルールについて話す
24. Unit 11: やらなくてはならないこと・やらなくても良いことについて
25. Unit 12: テレビや映画についての感想
26. Unit 12: 短いストーリーを話す (映画・テレビ・マンガ・小説)
27. Listening Practice, 復習
28. Speaking test対策
29. Speaking Test #2 (Units 7 - 12)
30. まとめ

準備学習(予習)

テキストの各章にある「文法、語彙」を予習しておくこと。

準備学習(復習)

テキストの会話を何度も練習し、Language Check を復習しておくこと

評価方法

- | | | |
|-----------------------|------|---|
| (1) 平常点 (積極的な参加と授業活動) | 10 % | 宿題や課題には授業初めにスタンプを押します。欠席は8回を超えると単位が取得できません。 |
| (2) 課題 | 10 % | |
| (3) 小テスト (3回) | 30 % | |
| (4) スピーキングテスト (2回) | 20 % | |
| (5) 総まとめのテスト | 30 % | |

教科書

M. ヘルゲセン, S. ブラウン, J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success 』(ピアソン・エデュケーション) [978-9880030581]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001JB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・英語コミュニケーション能力
- ・Listening
- ・正しい発音
- ・Speaking
- ・英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing people
06. Unit 3 In a classroom
07. Unit 3 In an electronics store
08. Unit 4 Everyday activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 Free time activities
17. Unit 7 Popular sports
18. Unit 8 Life events
19. Unit 8 Plans for the weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV programs
22. Unit 10 Health problems
23. Unit 10 Getting better
24. Unit 11 On vacation
25. Unit 11 Past events
26. Unit 12 Telephone language
27. Unit 12 Things to do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習しておくこと。また宿題は必ずやること。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001JC

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting People
03. Unit 1 Countries and Nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing People
06. Unit 3 In a Classroom
07. Unit 3 In an Electronics Store
08. Unit 4 Everyday Activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 Free Time Activities
17. Unit 7 Popular Sports
18. Unit 8 Life Events
19. Unit 8 Plans for the Weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV Programs
22. Unit 10 Health Problems
23. Unit 10 Getting Better
24. Unit 11 On Vacation
25. Unit 11 Past Events
26. Unit 12 Telephone Language
27. Unit 12 Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット(特に単語や文法)に目を通しておく。(30分)

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。宿題のプリントをやる。(60分)

評価方法

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% (小テスト、宿題、参加態度など) |
| (2) 定期試験 | 60% (期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-testのスコア) |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson [Talk Time 1 Student Book with Audio CD] (Oxford University Press) [978-0194392891]

参考書

担当教員：M. サベット

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001SA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

(2) 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

受講者に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

学びのキーワード

- ・ Communication
- ・ Strategies
- ・ Culture
- ・ Fluency
- ・ Interaction

授業計画

01. Class policy and course introduction
02. Module 1: Personal information
03. Exchanging personal information about self and family
04. Exchanging personal information about school and work
05. Exchanging personal information about friends
06. Summary and review
07. Module Two: Personality traits
08. Talking about personality traits
09. Discussing how we relate to others
10. Discussing how we relate to others
11. Summary and review
12. Module Three: Routines
13. Talking about daily routines
14. Talking about what we do for fun
15. Talking about what we do for fun
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module Four: Expressing opinions and preferences
20. Making comparisons and stating opinions
21. Making comparisons and stating opinions
22. Making comparisons and stating opinions
23. Summary and review
24. Module Five: Asking for and giving advice; making requests
25. Asking for and giving advice when facing difficulty
26. Making requests
27. Making requests
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

準備学習(予習)

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

準備学習(復習)

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

評価方法

(1) Participation	40%
(2) Homework	30%
(3) Presentations	30%

教科書

参考書

担当教員：島田 洋子

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001WA

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【全】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

辞書を持参し、積極的な授業参加を望む。また、必ず課題、宿題、予習、復習を行うこと。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1: Meeting People
03. Unit 1 : Countries and nationalities
04. Unit2 : Family
05. Unit 2 : Describing People
06. Unit 3 : In a Classroom
07. Unit 3 : In an Electronics Store
08. Unit 4 : Everyday Activities
09. Unit 4 : Places
10. Unit 5 : Foods and Drinks
11. Unit 5 : Snacks
12. Unit 6 : Housing
13. Unit 6 : In an Apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題の発表 Speaking Test #1
16. Unit 7 : Free Time Activities
17. Unit 7 : Popular Sports
18. Unit 8 : Life Events
19. Unit 8 : Plans for the Weekend
20. Unit 9 : Movies
21. Unit 9 : TV Programs
22. Unit 10: Health Problems
23. Unit 10: Getting Better
24. Unit 11 : On Vacation
25. Unit 11 : Past Events
26. Unit 12 : Telephone Language
27. Unit 12 : Things to Do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題の発表 Speaking Test #2
30. 総まとめ (Unit 1-12) と解説

準備学習(予習)

授業で行うユニット（特に単語や文法）に目を通しておく。（30分）

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを使って会話を復習する。宿題のプリントをやる。（60分）

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---------------------------------|
| (1) 平常点 | 40% | 小テスト、宿題、参加態度など |
| (2) 定期試験 | 60% | 期末試験、2回のスピーキングテスト、Post-testのスコア |

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press) [978-0194392891]

参考書

担当教員：中川 英幸

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：112001WB

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、テキストにあるスピーキングやリスニングの練習を行い、自然な会話ができるようにする。いろいろなシチュエーションでよく使われる実践的な英語表現や語彙を学んでいく。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。また予習や復習、宿題をしっかりとやること。

学びのキーワード

- ・ 英語コミュニケーション能力
- ・ Listening
- ・ 正しい発音
- ・ Speaking
- ・ 英文法

授業計画

01. オリエンテーション、授業シラバスの説明、Pre-testの実施
02. Unit 1 Meeting people
03. Unit 1 Countries and nationalities
04. Unit 2 Family
05. Unit 2 Describing people
06. Unit 3 In a classroom
07. Unit 3 In an electronics store
08. Unit 4 Everyday activities
09. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an apartment
14. まとめ (Unit 1-6)
15. 課題発表 (スピーキングテスト #1)
16. Unit 7 Free time activities
17. Unit 7 Popular sports
18. Unit 8 Life events
19. Unit 8 Plans for the weekend
20. Unit 9 Movies
21. Unit 9 TV programs
22. Unit 10 Health problems
23. Unit 10 Getting better
24. Unit 11 On vacation
25. Unit 11 Past events
26. Unit 12 Telephone language
27. Unit 12 Things to do
28. まとめ (Unit 7-12)
29. 課題発表 (スピーキングテスト #2)
30. 総まとめ (Unit 1-12)

準備学習(予習)

授業で学習予定のユニットを予習してくること。また宿題は必ずやってくること。

準備学習(復習)

授業で学んだ語彙や表現を復習する。教科書に付属しているCDをくり返し聴き、会話を練習する。

評価方法

- | | | |
|--------------------|-----|---------------------------|
| (1) 平常点 | 50% | (授業内の作業、小テスト、参加態度、課題・宿題) |
| (2) スピーキングテスト・期末試験 | 50% | (スピーキングテスト終了後に総括、及び解説を行う) |

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press) [978-0-19-439289-1]

参考書

担当教員：松永 直人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500110

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バスケットボールは走る、跳ぶ、投げるといった運動を含み、瞬発力、持久力を必要とするスポーツである。スポーツの基本的な動作を多く含んだバスケットボールを通じて、様々な身体活動を行い、生涯スポーツに取り組む動機付けと位置付ける。

(2) 内容

個人的な技術の向上だけでなく、チームスポーツを通して協調性の向上や戦術を理解することで相手の行動を先読みする精神的な充実を目標とする。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。| 服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。| 熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・チームスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. コーディネーショントレーニング
03. 実技①（基本的な技術の習得①）
04. 実技②（基本的な技術の習得②）
05. 実技③（基本的な技術の習得③）
06. 実技④（ルールの理解）
07. 実技⑤（ゲーム①）
08. 実技⑥（ゲーム②）
09. 実技⑦（ゲーム③）
10. 実技⑧（ゲーム④）
11. 実技⑨（ゲーム⑤）
12. 実技⑩（ゲーム⑥）
13. 実技⑪（ゲーム⑦）
14. 実技⑫（ゲーム⑧）
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツの経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや技術・戦術を確認しておくこと。

評価方法

(1) 授業態度 100% 授業の参加態度・積極性から評価する

学期末の試験は実施しない。| 実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。|

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500120

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【初】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義はバドミントンの授業を履修したことのある学生及びこれまで競技スポーツとしてバドミントンを専攻していた者を対象に、戦略・戦術論、競技の歴史を踏まえより発展的な講義を行う。

(2) 内容

バドミントン競技における戦略・戦術論や競技普及の歴史的背景を学び、バドミントン競技を行うだけでなく、指導も行えるようになることを目標とする。|なお、講義内容は健康・体力づくり実習B(バドミントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。|服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。|熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取ること。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. ルール及び基本ストロークの復習
03. シングルの戦略・戦術論①
04. シングルの戦略・戦術論②
05. シングルの戦略・戦術論③
06. バドミントン競技の普及の歴史的背景と技術の発達
07. ダブルスの戦略・戦術論①
08. ダブルスの戦略・戦術論②
09. ダブルスの戦略・戦術論③
10. ダブルスの戦略・戦術論④
11. ダブルスの戦略・戦術論⑤
12. ダブルスの戦略・戦術論⑥
13. バドミントンの指導論①
14. バドミントンの指導論②
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

- (1) 平常点 100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。|実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員：朴 美香

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500130

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

硬式テニス実習を通して技術を習得するとともに運動能力や体力の向上を図る授業を展開していきます。さらには健康や体力管理のために運動実践の必要性を学びながら、生涯スポーツとしてテニスが身近に感じられるようになることを目標にします。

(2) 内容

(1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には体育館で行うことがあります。また、講義室において映像資料を参考に学習を行うことがあります。| (2) その日の練習テーマによっては二人、または小グループで行われることがあります。| (3) 基本打法や練習方法などについてはデモンストレーションを行います。その後、学生に実践させることで練習の狙いや技術についてフィードバックをします。| (4) 前半は、「ボールの感覚を養う基礎的な」運動とラケットに慣れるためのドリルを行います。そして硬式テニスで用いられる多くのストロークを身につけてラリーができることを目指します。後半は、「ボレーとサーブの技術を加えながらダブルス・ゲームができるような」授業を展開していきます。

受講者に対する要望

積極的に参加すること | テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 運動能力
- ・ 運動実践
- ・ 体力向上

授業計画

01. オリエンテーション
02. キャッチボールとコーディネーションドリル
03. グラウンドストロークの基本：フォアハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
04. 簡単なラリーと、フォアハンドストロークの練習
05. グラウンドストローク基本：バックハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
06. ラリーとバックハンドストローク練習
07. 色々なラリーとゲーム
08. ラリーの確認：ショートストロークラリー連続20回
09. ネットプレーの基本：ボレーの技術（グリップ、インパクト、ステップなど）
10. ボレーのラリーとネットプレーでゲームの展開
11. ダブルスゲームの理解：ゲームの仕方とルールの学習
12. サーブの基本①：グリップと肩、肘、手首の動きについて
13. サーブの基本②：バランスと体の回転、ラケットのスイング
14. ダブルスゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前に行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。| シャドウスウイング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。| テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に関連しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。| シャドウスウイングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。| 毎回行われた課題をメモしておく。| テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業態度・参加度 | 60% |
| (2) 実技、理論 | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的に行い、それぞれの役割を果たす | 内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

担当教員：神田 良太郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500140

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

(2) 内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。| スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

受講者に対する要望

・授業に対してまじめに取り組む
・積極性と協調性が大切
・シューズを用意すること

学びのキーワード

・授業に対して欠席をしないで取り組める
・他との協調性又協力

授業計画

01. ストレッチ運動
02. 1人で行う体力づくり運動
03. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング)
04. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解)
05. ターゲットバードゴルフ(ゲーム)
06. ストレッチ運動
07. 2人組で行う体力づくり運動
08. ボールを使った運動
09. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------|-----------------------|
| (1) 平常点 | 60% 欠席-6点、遅刻・早退-2点 |
| (2) 評価点 | 40% 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ |

とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500150

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。|履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

(2) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習 (パス・サーブ) ●つなぐゲーム (コミュニケーション)
05. 個人的技能練習 (パス・サーブ) ●つなぐゲーム (コミュニケーション)
06. ○個人的技能練習 (パス・スパイク)
07. ○集団的技能練習 ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的技能練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的技能練習 (攻撃へのつなぎ) ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的技能練習 (3段攻撃のバリエーション) ●速攻を含んだゲーム
11. ●ゲーム (リーグ戦) 男女混合
12. ●ゲーム (リーグ戦) 男女混合
13. ●ゲーム (リーグ戦) 男女別
14. ●ゲーム (リーグ戦) 学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 出席 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：檜山 康

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500160

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目|【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目|【小】小学校教諭一種：選択必修科目|【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1） 幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2） 切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしていくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 50% |
| (2) 実技試験 | 30% |
| (3) 参加態度 | 20% |

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：神田 良太郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500170

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【C】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。|・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。|・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。

(2) 内容

・歴史| ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。|・特性| ①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。| ②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・ 協調性
- ・ 協力性
- ・ 積極的に行動する姿勢
- ・ 努力

授業計画

01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール
02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等
03. ウォーミングアップ バント、トスバッティング、ボールの打ち方等
04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用
05. 同上 関係プレイの確認等
06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング
07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など
12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価)
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|------------------|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% ノック・バッティングなど |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500210

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バスケットボールは走る、跳ぶ、投げるといった運動を含み、瞬発力、持久力を必要とするスポーツである。スポーツの基本的な動作を多く含んだバスケットボールを通じて、様々な身体活動を行い、生涯スポーツに取り組む動機付けと位置付ける。

(2) 内容

個人的な技術の向上だけでなく、チームスポーツを通して協調性の向上や戦術を理解することで相手の行動を先読みする精神的な充実を目標とする。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。| 服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。| 熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・ チームスポーツ
- ・ 生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. コーディネーショントレーニング
03. 実技①（基本的な技術の習得①）
04. 実技②（基本的な技術の習得②）
05. 実技③（基本的な技術の習得③）
06. 実技④（ルールの理解）
07. 実技⑤（ゲーム①）
08. 実技⑥（ゲーム②）
09. 実技⑦（ゲーム③）
10. 実技⑧（ゲーム④）
11. 実技⑨（ゲーム⑤）
12. 実技⑩（ゲーム⑥）
13. 実技⑪（ゲーム⑦）
14. 実技⑫（ゲーム⑧）
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツの経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや技術・戦術を確認しておくこと。

評価方法

(1) 平常点

100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。| 実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。|

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500220

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【初】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義はバドミントンの授業を履修したことのある学生及びこれまで競技スポーツとしてバドミントンを専攻していた者を対象に、戦略・戦術論、競技の歴史を踏まえより発展的な講義を行う。

(2) 内容

バドミントン競技における戦略・戦術論や競技普及の歴史的背景を学び、バドミントン競技を行うだけでなく、指導も行えるようになることを目標とする。|なお、講義内容は健康・体力づくり実習A(バドミントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。|服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。|熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取ること。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. ルール及び基本ストロークの復習
03. シングルの戦略・戦術論①
04. シングルの戦略・戦術論②
05. シングルの戦略・戦術論③
06. バドミントン競技の普及の歴史的背景と技術の発達
07. ダブルスの戦略・戦術論①
08. ダブルスの戦略・戦術論②
09. ダブルスの戦略・戦術論③
10. ダブルスの戦略・戦術論④
11. ダブルスの戦略・戦術論⑤
12. ダブルスの戦略・戦術論⑥
13. バドミントンの指導論①
14. バドミントンの指導論②
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

- (1) 平常点 100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。|実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員：朴 美香

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500230

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

硬式テニス実習を通して技術を習得するとともに運動能力や体力の向上を図る授業を展開していきます。さらには健康や体力管理のために運動実践の必要性を学びながら、生涯スポーツとしてテニスが身近に感じられるようになることを目標にします。

(2) 内容

(1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には体育館で行うことがあります。また、講義室において映像資料を参考に学習を行うことがあります。| (2) その日の練習テーマによっては二人、または小グループで行われることがあります。| (3) 基本打法や練習方法などについてはデモンストレーションを行います。その後、学生に実践させることで練習の狙いや技術についてフィードバックをします。| (4) 前半は、「ボールの感覚を養う基礎的な」運動とラケットに慣れるためのドリルを行います。そして硬式テニスで用いられる多くのストロークを身につけてラリーができることを目指します。後半は、「ボレーとサーブの技術を加えながらダブルス・ゲームができるような」授業を展開していきます。

受講者に対する要望

積極的に参加すること | テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 運動能力
- ・ 運動実践
- ・ 体力向上

授業計画

01. オリエンテーション
02. キャッチボールとコーディネーションドリル
03. グラウンドストロークの基本：フォアハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
04. 簡単なラリーと、フォアハンドストロークの練習
05. グラウンドストローク基本：バックハンドストローク（グリップ、スイング、ステップなど）
06. ラリーとバックハンドストローク練習
07. ラリー挑戦とゲーム
08. ラリーの確認： ショートストロークラリー連続20回
09. ネットプレーの基本：ボレーの技術（グリップ、インパクト、ステップなど）
10. ボレーのラリーとネットプレーでゲームの展開
11. ダブルスゲームの理解：ゲームの仕方とルールの学習
12. サーブの基本①：グリップと肩、肘、手首の動きについて
13. サーブの基本②：バランスと体の回転、ラケットのスイング
14. ダブルスゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前に行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。| シャドウスウイング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。| テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に関連しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。| シャドウスウイングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。| 毎回行われた課題をメモしておく。| テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業参加度 授業態度 | 60% |
| (2) 実技、理論、 | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的に行い、それぞれの役割を果たす | 内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし

参考書

必要に応じて資料を配布する。

担当教員：神田 良太郎

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500240

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

(2) 内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。| スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

受講者に対する要望

・授業に対してまじめに取り組む
・積極性と協調性が大切
・シューズを用意すること

学びのキーワード

・授業に対して欠席をしないで取り組める
・他との協調性又協力

授業計画

01. ストレッチ運動
02. 1人で行う体力づくり運動
03. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング)
04. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解)
05. ターゲットバードゴルフ(ゲーム)
06. ストレッチ運動
07. 2人組で行う体力づくり運動
08. ボールを使った運動
09. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------|-----------------------|
| (1) 平常点 | 60% 欠席-6点、遅刻・早退-2点 |
| (2) 評価点 | 40% 授業態度、技能面、シューズ等の忘れ |

とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500250

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

(2) 内容

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。|履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習 (パス・サーブ) ●つなぐゲーム (コミュニケーション)
05. 個人的技能練習 (パス・サーブ) ●つなぐゲーム (コミュニケーション)
06. ○個人的技能練習 (パス・スパイク)
07. ○集団的 skill 練習 ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的 skill 練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的 skill 練習 (攻撃へのつなぎ) ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的 skill 練習 (3段攻撃のバリエーション) ●速攻を含んだゲーム
11. ●ゲーム (リーグ戦) 男女混合
12. ●ゲーム (リーグ戦) 男女混合
13. ●ゲーム (リーグ戦) 男女別
14. ●ゲーム (リーグ戦) 学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：檜山 康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500260

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目【小】小学校教諭一種：選択必修科目
【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

フットサルに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1） 幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2） 切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしていくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 50% |
| (2) 実技試験 | 30% |
| (3) 参加態度 | 20% |

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：神田 良太郎

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500270

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目|【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目|【C】小学校教諭一種：選択必修科目|【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。|・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。|・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと歯科大を持って臨むようにする。

(2) 内容

・歴史| ソフトボールは1887年にアメリカで室内ベースボールとして考案された。わが国には、1921(大正10)年に大谷武一より紹介された。1949年(昭和24)年に軟式野球連盟から独立して②日本ソフトボール協会が発足された。|・特性| ①大きいボールを細いバットで打つので打ちやすく狭い場所で老若男女が安全に気軽に楽しめる。| ②投手と捕手の距離が短く、投手は下手投げで投球するのでだれでも簡単にできる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・ 協調性
- ・ 協力性
- ・ 積極的に行動する姿勢
- ・ 努力

授業計画

01. 学習内容を理解・安全性と用具の使用法・ストレッチ、ランニング、補助運動、キャッチボール
02. ストレッチ、ランニング、補助運動(ウォーミングアップ)、キャッチボール、ゴロ・フライの打球処理、ノックでの捕球の仕方等
03. ウォーミングアップ バント、トスバッティング、ボールの打ち方等
04. ウォーミングアップ 攻守走投の応用
05. 同上 関係プレイの確認等
06. ウォーミングアップ ゲームに対する基本練習。ハーフバッティング
07. ウォーミングアップ 8-10人制のゲーム 対戦表を作り勝敗を記入、目標を立てる
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. シートバッティング シートノック ピッチングと守備など
12. ウォーミングアップ ゲーム(攻守走投のゲーム内容評価)
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|------------------|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% ノック・バッティングなど |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500310

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【C】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

これからの社会で必要とされる生涯スポーツとして人気の高いゴルフは、得てして高齢者のスポーツ、お金のかかるスポーツというイメージが付きまとうが、この授業では純粋にゴルフスポーツが身体活動として優れた運動種目であるということと、精神性を養うことにおいても優れた運動種目である事を理解したい。そこに大学生の時期に身体活動としてのゴルフを学ぶことによる優位性がある。|また、別の観点からも自然の中で展開されるスポーツ活動は、他の種目にはない醍醐味があると同時に、この授業は、3泊4日に亘る集中授業でもあり、その間は宿泊を伴う授業となる。集団生活の中で、学生同士の親睦を深め、楽しい活動としたい。

(2) 内容

生涯スポーツとしてのゴルフを、身体活動という視点から学ぶ授業である。通常の授業形態とは異なり、集中授業として3泊4日の日程で構成されている。ゴルフの基礎技術（グリップ、スタンス、スイング）を習得した後、練習場で実際にボールを打ち、|その後ゴルフコースをラウンドする。ここでは、実際のプレーを技術という観点からだけでなく、ルールを尊び、ゴルフ特有の厳格なマナーなどの学習も含まれる。

受講者に対する要望

学生集団での宿泊を伴う授業形態であるところから、規律ある生活、行動のできないものは参加できない。
また、宿泊、交通、施設利用料は、個人負担となるため受講にあたっては別途定める経費を徴収する。

学びのキーワード

- ・ ゴルフ
- ・ 生涯スポーツ

授業計画

01. 事前オリエンテーション
02. 実技（グリップ、スタンス）
03. 実技（スイング①ショートアイアン）
04. 講習（講義）
05. 実技（スイング②ミドルアイアン）
06. 実技（スイング③ロングアイアン）
07. 実技（コース練習①ショートコースを使って）
08. 実技（コース練習②スコアの取り方とラウンドマナー）
09. 講習（技術解説）
10. 実技（スイング④ドライバー）
11. 実技（スイング⑤バンカーショット）
12. 実技（コース練習③ミドルコース）
13. 実技（コース練習④ロングコース）
14. 実技（コース練習⑤グループプレッスン）
15. 実技（コース練習⑥実践演習）

準備学習(予習)

オリエンテーションの出席は必須。そこで説明される内容をよく聞き、実際の授業への心構えを理解する。

準備学習(復習)

学んだ知識技術が、それからの生活の中で生かされるよう心がける。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業参加の状況 | 50% |
| (2) 授業態度 | 30% |
| (3) 実践の状況 | 20% |

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500320

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。|生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

(2) 内容

「健康」について、実技と理論の両面から学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

受講者に対する要望

服装は、運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作 ■以降、ストレッチングは毎回実施
02. エアロビクス運動とは ■エアロビクス（フットワークI）
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 ■エアロビクス（フットワークII）
04. 自分の身体を知る（体組成測定） ■エアロビクス
05. 自分の身体を知る（姿勢・ゆがみチェック） ■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る（運動強度） ■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度） ■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果 ■バランスボール
09. トレーニングの原則 ■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活I） ■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（食生活II） ■パワーヨガ
12. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
13. ■ヨガ&流行のエクササイズ紹介
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

準備学習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理する。また、解決策や疑問点について調べてみる。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度・習熟度 | 15% |
| (3) 授業記録ノート | 10% |

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500330

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 内容

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返し、各種目の競技形態や競技特性を理解する。|なお、講義内容は生涯スポーツ実習B(バドミントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。|服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。|熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストローク①
04. 基本ストローク②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

ルールや用語、ストロークやスイングを確認しておくこと。

評価方法

- (1) 平常点 100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。|実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員： 朴 美香

学期： 春学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 11500340

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】 高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】 小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】 幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義では、テニスの実習をとおして技術の習得を図るとともに運動能力の向上を目指す授業を展開していきます。またゲームを楽しむ中でルール、マナーやパートナーとのコミュニケーションなど、社会人としての教養的な意義と運動実践の必要性を学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめる能力を育成することを目標にします。

(2) 内容

1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には、体育館でコーディネーションドリルなどを行う場合があります。また、講義室において映像資料を参考にしながら学習を行うこともあります。| 2) 各技術を習得する中でテニスに含み込まれている要素、走る、跳ぶ、打つ、投げるといった基礎運動を学びながら、コーディネーショントレーニングも実践します。| 3) 技術練習においては、グラウンドストロークの基本打法の練習を始め、ラリーを目指していきます。ラリーができることによって運動量を確保します。また、ボレーやサーブ技術を学習し、最終的にはダブルスゲームを楽しめるような授業を行います。

受講者に対する要望

積極的に参加すること。| テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 生涯
- ・ コミュニケーション
- ・ マナー

授業計画

01. オリエンテーション
02. キャッチボールを通してボール感覚や基礎運動向上
03. 優しいラリーとグラウンドストロークの基本
04. フォアハンドストロークの基本：グリップ、ステップ、スイングなど
05. バックハンドストロークの基本：グリップ、ステップ、スイングなど
06. フォアハンドストロークとバックハンドストローク：準備姿勢とグリップの握り替え
07. ロングラリー挑戦
08. ロングラリーとゲーム
09. ボレーとネットプレー：グリップ、インパクト、ステップなど
10. ボレーのラリー挑戦とゲーム
11. サーブの基本：投球動作、グリップ、インパクト
12. サーブの基本：バランスとトス、体の回転、スイング
13. ダブルスゲームを理解する：ゲームの仕方、
14. ゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前に行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。| シャドウスウイング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。| テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に関連しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。| シャドウスウイングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。| 毎回行われた課題をメモしておく。| テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業態度・参加度 | 60% |
| (2) 授業レポート | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的に行い、それぞれの役割を果たす| 内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

生涯スポーツ実習 A (バスケットボール)

PHED-0-100

担当教員：神田 良太郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500350

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(共通)：選択必修科目【教】高等学校教諭一種(共通)：選択必修科目【C】小学校教諭一種：選択必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・バスケットボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。|・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。|・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと課題を持って臨むようにする。

(2) 内容

※特性| 1) 1チーム5名の2チームが同一コート上で1つのボールを奪い合い、リングにボールを入れ合う。| 2) リングは30.5mの高さに上向きに設置され、ボールが上から通過することによって得点となる。| 3) 走・跳・投の基本的な運動要素はもとより、敏捷性・技巧性・判断力などが要求される。| 4) 攻撃・防御においてチームワークが必要となり、望ましい社会的態度が要求される。||※安全に対する留意点| ・ケガや障害を起こさないように、ウォーミングアップ・クーリングダウンをしっかりと行う。また、事故防止に心掛ける。| ・活動場所・施設・人数に応じた練習計画を立てる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・協調性
- ・協力性
- ・積極的に行動する姿勢
- ・努力

授業計画

01. 準備運動(ウォーミングアップ)、ランニング、ストレッチ運動、補助運動
02. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習、ハーフコートで3対3攻防練習
03. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習、ハーフコートで3対3攻防練習
04. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
05. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
06. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
07. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
08. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習、ハーフコートで5対5のゲーム
09. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
10. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
11. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
12. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
13. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
14. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
15. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

生涯スポーツ実習 A (バレーボール)

PHED-0-100

担当教員：未定

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500360

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。|履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

(2) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス（以降、肩慣らし・基本練習は毎週行う）
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
06. ○個人的技能練習（パス・スパイク） ●チャンスボールをセッターへ
07. ○集団的技能練習（チャンスボールからの攻撃） ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的技能練習 ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的技能練習 ●攻撃にチャレンジ
10. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 出席 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度 | 15% |
| (3) 授業記録 | 10% |

教科書

参考書

担当教員：檜山 康

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500370

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1） 幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2） 切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 50% |
| (2) 実技試験 | 30% |
| (3) 参加態度 | 20% |

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500410

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【小】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

これからの社会で必要とされる生涯スポーツとしてのスキーは、身体活動として優れた運動種目であるということと、自然との融合との中で精神性を養うことにおいても優れた運動種目である事を理解すると同時に、大学生の時期に身体活動としてのスキー技術を学ぶことによる優位性がある。|また、別の観点からも自然の中で展開されるスポーツ活動は、他の種目にはない醍醐味があると同時に、この授業は、3泊4日に亘る集中授業でもあり、その間は宿泊を伴う授業となる。集団生活の中で、学生同士の親睦を深め、楽しい活動としたい。

(2) 内容

生涯スポーツとしてのスキーを、身体活動という視点から学ぶ授業である。通常の授業形態とは異なり、集中授業として3泊4日の日程で構成されている。スキーの基礎技術を習得した後、山の斜面のあらゆるコースにて実際に滑降する。そこでは、実際のスキー滑降の技術という観点からだけでなく、自然との融合、環境保全などの考え方と結び付けての学習も含まれる。

受講者に対する要望

学生集団での宿泊を伴う授業形態であることから、規律ある生活、行動ができない者は参加できない。|また、宿泊、交通、施設利用料は個人負担となるため受講に当たっては、別途定める経費を徴収する。

学びのキーワード

- ・スキー
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス-講義 (スキーの運動特性の説明と用具)
02. グループ分けテスト (技術能力別班分けテスト)
03. 実技① (①グループ別指導-基本的な技術の習得と理論)
04. 実技② (②グループ別指導-緩斜面に応じた滑降の理論)
05. 実技③ (③グループ別指導-急斜面に応じた滑降の理論)
06. 実技④ (④ブルークボーゲンの基礎)
07. 実技⑤ (⑤ブルークボーゲンのターン)
08. 実技⑥ (⑥シュテムターンの基礎)
09. 実技⑦ (⑦シュテムターンの応用)
10. 実技⑧ (⑧パラレルターンの基礎)
11. 実技⑨ (⑨パラレルターンの応用)
12. 実技⑩ (⑩小回りターン)
13. 実技⑪ (⑪ウエーデルンの基礎)
14. 実技⑫ (⑫ウエーデルンの応用)
15. 実技⑬ (⑬あらゆる斜面に応じた総合的な滑りの展開)

準備学習(予習)

ガイダンスで説明された内容をよく理解し、授業実践へと結び付ける。

準備学習(復習)

学んだ知識、技術が、生涯スポーツへつながるように、理解し、実践できるようになること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|----------------|
| (1) 授業参加の状況 | 50% | 積極的態度、行動を評価する。 |
| (2) 授業態度 | 30% | |
| (3) 授業実践 | 20% | |

ガイダンスの出席は必須。|

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500420

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(共通)・選択必修科目【教】高等学校教諭一種(共通)：選択必修科目【小】小学校教諭一種：選択必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。|生活全般(食事・運動・睡眠)にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

(2) 内容

「健康」について実践と理論の両方から同時進行で学習します。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋コンディショニング運動(自重を使ったトレーニング)・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

受講者に対する要望

様々なエクササイズに備え、体調を整えておくこと。運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

学びのキーワード

- ・フィットネス
- ・健康への自己教育力の向上
- ・実践方法

授業計画

01. ガイダンスと基本動作■以降、ストレッチングは毎回実施
02. エアロビクス運動とは■エアロビクス(フットワークI)■体組成測定
03. 健康を支える要素・運動の必要性と効果■エアロビクス(フットワークII)
04. 自分の身体を知る(体組成測定)■エアロビクス
05. 自分の身体を知る(姿勢・ゆがみチェック)■エアロビクス
06. 自分に適した運動を知る(運動強度)■ステップエアロビクス
07. 自分に適した運動を知る(運動の種類・頻度)■ステップエアロビクス
08. 筋コンディショニングの必要性と効果■バランスボール
09. トレーニングの原則■バランスボール
10. ライフスタイルと健康(食行動I)■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康(食行動II)■パワーヨガ
12. ヨガ&流行のエクササイズ紹介
13. ヨガ&流行のエクササイズ紹介
14. リクエストウィーク(これまでに実施のリクエストエクササイズ)
15. まとめ

準備学習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理し、解決策や疑問点について調べておく。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度・習熟度 | 15% |
| (3) 授業記録ノート | 10% |

教科書

参考書

担当教員：松永 直人

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500430

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。

(2) 内容

ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返し、各種目の競技形態や競技特性を理解する。|なお、講義内容は生涯スポーツ実習A(バドミントン)と同じである。

受講者に対する要望

初回の授業を除いて、全ての運動のできる服装、シューズを着用すること。|服装の不備及びシューズの着用がない場合は、怪我の恐れがあるため実習には参加させない。|熱中症予防として、水分補給等は各自適切なタイミングで取る。

学びのキーワード

- ・ラケットスポーツ
- ・生涯スポーツ

授業計画

01. ガイダンス（運動は行わない）
02. シャトル・ラケットに慣れる
03. 基本ストローク①
04. 基本ストローク②
05. 簡易ラリー
06. 競技規則、審判の方法の習得
07. シングルのゲーム①
08. シングルのゲーム②
09. ダブルスのゲーム①
10. ダブルスのゲーム②
11. トリプルのゲーム
12. 団体戦①
13. 団体戦②
14. 団体戦③
15. まとめ

準備学習(予習)

これまでのボールスポーツ、ラケットスポーツ等の経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

各ショットの名前と軌道、ルール、戦術論等を確認しておくこと。

評価方法

- (1) 平常点 100% 授業の参加態度・積極性から評価する。

学期末の試験は実施しない。|実習科目であることから、授業の出席及び取り組み姿勢を評価する。

教科書

参考書

担当教員： 朴 美香

学期： 秋学期 科目： 基礎科目 必修・選択： 選択科目 単位： 1 授業コード： 11500440

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目【小】小学校教諭一種：選択必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義では、テニスの実習をとおして技術の習得を図るとともに運動能力の向上を目指す授業を展開していきます。またゲームを楽しむ中でルール、マナーやパートナーとのコミュニケーションなど、社会人としての教養的な意義と運動実践の必要性を学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめる能力を育成することを目標にします。

(2) 内容

1) テニスコートでの実技が中心になるが、雨天時には、体育館でコーディネーションドリルなどを行う場合があります。また、講義室において映像資料を参考にしながら学習を行うこともあります。|2) 各技術を習得する中でテニスに含み込まれている要素、走る、跳ぶ、打つ、投げるといった基礎運動を学びながら、コーディネーショントレーニングも実践します。|3) 技術練習においては、グラウンドストロークの基本打法の練習を始め、ラリーを目指していきます。ラリーができることによって運動量を確保します。また、ボレーやサーブ技術を学習し、最終的にはダブルスゲームを楽しめるような授業を行います。

受講者に対する要望

積極的に参加すること|テニスシューズを必ず用意すること

学びのキーワード

- ・ テニス
- ・ 生涯スポーツ
- ・ コミュニケーション
- ・ マナー

授業計画

01. オリエンテーション、
02. キャッチボールとコーディネーションドリル
03. 優しいラリーとグラウンドストロークの基本
04. フォアハンドストロークの基本：グリップ、ステップ、スイングなど
05. バックハンドストロークの基本：グリップ、ステップ、スイングなど
06. フォアハンドストロークとバックハンドストローク：準備姿勢とグリップの握り替え
07. ロングラリー挑戦
08. ロングラリーとゲーム
09. ボレーとネットプレー：グリップ、インパクト、ステップなど
10. ボレーのラリー挑戦とゲーム
11. サーブの基本：投球動作、グリップ、インパクト
12. サーブの基本：バランスとトス、体の回転、スイング
13. ダブルスゲームを理解する：ゲームの仕方
14. ゲームを楽しむ
15. 学習のまとめ

準備学習(予習)

前に行った練習内容をイメージするとともにコンディショニングを整えておく。|シャドウスイング、ストレッチ、キャッチボールをしておく。|テニスの試合のテレビ観戦、テニスの実技本を事前に関連しておく。

準備学習(復習)

コーディネーションドリルとしてのバランスやステップドリルを復習しておく。|シャドウスイングやストレッチ、キャッチボールを復習しておく。|毎回行われた課題をメモしておく。|テニスの試合観戦（テレビ中継）

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業態度 授業への参加度 | 60% |
| (2) 実技、理論 | 40% |

与えられた練習の狙いを理解した上、グループでの話し合い活動的に行い、それぞれの役割を果たす|内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること

教科書

特になし

参考書

必要に応じて資料を配布する。

生涯スポーツ実習B (バスケットボール)

PHED-0-100

担当教員：神田 良太郎

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：11500450

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目【C】小学校教諭一種：選択必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・バスケットボールは個人スポーツではなく集団スポーツなのでみんなで話し合いチームの目標を決めて計画を立てる。|・できるだけ集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。|・毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームと課題を持って臨むようにする。

(2) 内容

※特性| 1) 1チーム5名の2チームが同一コート上で1つのボールを奪い合い、リングにボールを入れ合う。| 2) リングは30.5mの高さに上向きに設置され、ボールが上から通過することによって得点となる。| 3) 走・跳・投の基本的な運動要素はもとより、敏捷性・技巧性・判断力などが要求される。| 4) 攻撃・防御においてチームワークが必要となり、望ましい社会的態度が要求される。||※安全に対する留意点| ・ケガや障害を起こさないように、ウォーミングアップ・クーリングダウンをしっかりと行う。また、事故防止に心掛ける。| ・活動場所・施設・人数に応じた練習計画を立てる。

受講者に対する要望

チームスポーツなので協調性を持って授業に取り組む姿勢(道具の準備・後片付け等の時も)

学びのキーワード

- ・協調性
- ・協力性
- ・積極的に行動する姿勢
- ・努力

授業計画

01. 準備運動(ウォーミングアップ)、ランニング、ストレッチ運動、補助運動
02. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習
03. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブル、ランニングパス、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで1対1～2対2攻防練習
04. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習
05. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習
06. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習
07. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習
08. 準備運動、個人技練習(シュート、パス、ドリブルシュート、ランニングパスからのシュート)、ハーフコートで3対3攻防練習
09. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
10. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
11. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
12. 準備運動、チーム分け、チーム練習(シュート、パス、ドリブル、ポストプレイ)、オールコートで5対5のゲーム
13. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
14. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)
15. 準備運動、オールコートで5対5のゲーム(リーグ戦方式)

準備学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

準備学習(復習)

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 行動・協調・積極性 | 20% |
| (3) テスト | 40% |

とにかく欠席をしないこと

教科書

参考書

担当教員：未定

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500460

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目 | 【小】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。| 履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

(2) 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。

受講者に対する要望

経験不問。できるできないに関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

学びのキーワード

- ・バレーボール
- ・技術・戦術・マナー・ルール
- ・コミュニケーションスキルの向上

授業計画

01. ○ガイダンス（以降、肩慣らし・基本練習は毎週行う）
02. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
03. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
04. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
05. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
06. ○個人的技能練習（パス・スパイク） ●チャンスボールをセッターへ
07. ○集団的技術練習（チャンスボールからの攻撃） ●チャンスボールをセッターへ
08. ○集団的技術練習（シートレシーブ） ●チャンスボールから攻撃へ
09. ○集団的技術練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ
10. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
11. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）学年別
15. ●ゲーム

準備学習(予習)

必ず着替え・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 75% |
| (2) 課題への積極的参加度・習熟度 | 15% |
| (3) 授業記録ノート | 10% |

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員：檜山 康

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500470

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目|【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目|【小】小学校教諭一種：選択必修科目|【幼】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本授業ではサッカーにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。サッカーの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

(2) 内容

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、サッカーの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

受講者に対する要望

サッカーに強い関心がある学生に受講してもらいたい。

学びのキーワード

- ・スポーツ指導
- ・チーム戦術
- ・グループ戦術
- ・個人戦術
- ・戦術的なゲーム

授業計画

01. オリエンテーション・導入
02. ボール無しの動き（1）集団で動くことの難しさ
03. ボール無しの動き（2）サポートの方法（タイミング、角度）
04. ドリブル・ボールコントロール 個人技術と集団戦術の関係
05. プレーの先取り スペースを創って使う
06. 判断のスピード 3人目の動きのタイミング
07. 1対1の対応 局面と全体の関係
08. チームワークとは何か
09. チャレンジ&カバー 局面と全体の連動
10. 攻撃の幅 周りを見る 遠くを見る
11. 攻撃の連動（1） 幅を使う 動き出す
12. 攻撃の連動（2） 切り替え コンパクト
13. 数的優位を作る 生かす
14. 後方からのサポート 組み立てのプランを持つ
15. まとめ

準備学習(予習)

前回の授業を発展させた内容で授業内容は構成するので、授業の復習が予習になる。

準備学習(復習)

最終レポートは、授業内容の記録を提出してもらうので、毎回の授業内容について記録を取り復習をしておくこと。

評価方法

(1) レポート	50%
(2) 実技試験	30%
(3) 参加態度	20%

実技なので出席が前提になる。欠席は減点になるので注意すること。全授業時数の2/3以上の出席で評価の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：鈴木 直樹

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：11500500

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：選択必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

健康の柱である運動・休養・栄養や身体の特性について科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることで、自身の健康だけでなく、まわり（社会）の健康についても、積極的に働きかけるように人になることを期待する。

(2) 内容

高等学校までの保健体育の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、様々な角度から学習する。||カリキュラム上の位置付け：|保育士資格取得のための必修科目

受講者に対する要望

日ごろから健康や運動・スポーツに関心を持ってほしい。

学びのキーワード

- ・健康とスポーツ
- ・生涯スポーツ
- ・身体的特性
- ・発達
- ・身体活動

授業計画

01. 体力低下の問題 新体カテストの結果から
02. 人間の健康と身体活動
03. 心身の発育・発達と運動・スポーツ
04. プレイ論から考える生涯スポーツ
05. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（児童・青年期）
06. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（中老年・女性）
07. 身体特性を踏まえた学齢期における運動・スポーツ指導
08. 栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ

準備学習(予習)

前週に課題を出すので調べてくる。

準備学習(復習)

課題を適宜指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 定期試験 | 60% |
| (2) ミニレポートorミニテスト | 20% |
| (3) 授業への取り組み | 20% |

(1) 講義のまとめとして学習の達成度をペーパーテストにより評価する
(2) 毎回授業の最後に確認のテストかレポート作成を行う
(3) 授業への積極性

教科書

参考書

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11700110

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本国憲法の窮極の目的である「個人の尊重」と「幸福追求権の保障」（13条）、そして、そのために公務員に課される「憲法尊重擁護義務」（99条）の意義に徹底的にこだわりながら、人権保障と統治機構についてバランスよく触れ、（憲）法という視点から政治・経済・社会、そして人間を考察する能力を身に付けることをめざします。|| 具体的には、まず日本国憲法のオーソドックスな通説・判例の理解をめざしますが、資格試験の予備校ではない、大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダン、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチュラリズム等から挑戦を受ける「近代」の象徴としての立憲主義の意義を（再）検討する、語本来の意味におけるcritiqueな講義にしたいと考えています。

(2) 内容

教養科目・教職科目としての役割に鑑み、日本国憲法全体を総花的に取り上げるのではなく、「人権総論」と「平和主義」（条文でいえば前文および9～14条）に重点を置いて講義を行います。また、条文の細かい解釈にこだわるのではなく、現代日本（と世界）を考える手がかりとしての憲法にこだわりたいと思います。|| ところで、憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいのですが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものです。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ最近の具体的な事例を挙げつつ、その内容について平易に解説したいと考えています。|| なお、できるだけアクチュアルな問題を取り上げたいので、内容は多少変更される可能性があります。また、（憲）法に関わるゲストスピーカーの講演または映像作品の鑑賞も1～2回ほど実施する予定です。

受講者に対する要望

本講義の受講者は1年生、とりわけ一般的には法学に親しみを覚えないであろう人文・人間福祉両学部生が多いので、最初から高いことは要求しません。まずはきちんと講義に出席し、聴講することを徹底してほしいと思います。
さらに、取り上げる内容も、高校の「政治・経済」や「現代社会」とは質的にまるで違います。求められる姿勢は、知識獲得よりも批判的思考です。「法律はどう定めているか」ではなく、「なぜ法律はそう定めているのか」、さらには「法律が定めていることはおかしくないか」といった視点を常に意識してください。

学びのキーワード

- ・ 法学
- ・ 公法学
- ・ 憲法学
- ・ 人権
- ・ 統治機構

授業計画

01. はじめに
02. 憲法とは何か：誤認逮捕事件を題材に
03. 国民・国家・憲法の関係
04. 日本国憲法の構造：人権保障
05. 日本国憲法の構造：統治機構
06. 公務員と憲法尊重擁護義務（1）：政治家の人権を題材に
07. 公務員と憲法尊重擁護義務（2）：公立学校教員の人権を題材に
08. 個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉
09. 平等原則
10. 教育権・学問の自由
11. 日本国憲法の制定過程
12. 平和主義（1）：前史
13. 平和主義（2）：日本国憲法制定から冷戦終結まで
14. 平和主義（3）：冷戦終結以降から現在まで
15. まとめ

準備学習(予習)

原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求められます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。

準備学習(復習)

毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課し、次の回までに講義内容の理解を定着させることを求められます。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | リアクションペーパーの記述内容によって評価します。 |
| (2) 期末試験 | 20% | 場合によっては期末レポートに変更する可能性があります。 |

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。また、私語等の授業妨害行為は大幅な減点対象となります。

教科書

参考書

担当教員：齋藤 美沙

学期：春学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11700112

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【小】小学校教諭一種：必修科目 | 【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

条文の解釈に加え、身近な問題や具体的事件を手がかりに、憲法の基本的知識や考え方を習得することを目的とします。

(2) 内容

本講義では、基本的人権の保障を中心に、憲法について学びます。身近な憲法問題や具体的事件を手がかりに、学習していきます。

受講者に対する要望

憲法と関係する社会問題に注意を払うようにして下さい。

学びのキーワード

- ・自由
- ・権利
- ・平等
- ・権力分立
- ・立憲主義

授業計画

01. ガイダンス 憲法を学ぶ意義
02. 憲法の基礎、日本国憲法史
03. 象徴天皇制、国民主権、平和主義
04. 人権総論、基本的人権の限界、人権の享有主体性
05. 幸福追求権、プライバシーの権利、自己決定権
06. 法の下での平等
07. 思想・良心の自由、信教の自由と政教分離、学問の自由
08. 表現の自由
09. 経済的自由
10. 人身の自由
11. 生存権、労働基本権、教育を受ける権利
12. 国会、参政権
13. 内閣、裁判所
14. 財政、地方自治
15. まとめ

準備学習(予習)

授業の最後に翌週の授業範囲を明示します。|教科書の該当箇所を読むに加え、関係する時事にも関心を払うようにして下さい。|

準備学習(復習)

配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 試験 | 80% |

試験の成績をもとに、コメントシート等への記載を考慮し、総合的に評価します。

教科書

『教養としての憲法入門』 神野潔 編著（弘文堂、2016年）

参考書

担当教員：平松 直登

学期：秋学期 科目：基礎科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：11700115

学部教育の関連目

【全】表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、大学教育の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目|【小】小学校教諭一種：必修科目|【幼】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

講義を通じて、憲法学の基本的思考方法を身につけることを目標とします。|最終的には、日本国憲法がすべての国民を「個人として尊重」している意義を踏まえて、現実の憲法に関する諸問題を自ら分析・検討できるようになることが本講義の目標です。

(2) 内容

受講者が、「〔近代〕立憲主義〔constitutionalism〕」という思想およびそれを基礎とする日本国憲法の歴史・特徴を学んだ上で（第1～4回）、国政を行うための機構が憲法上どのように設計されているかを把握し（第5～7回）、憲法の保障する人権について深い理解を得る（第8～15回）ことが可能となるような講義を行います。

受講者に対する要望

法学の予備知識は特に必要としませんが、きちんと予習した上で講義に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 憲法学
- ・ 立憲主義
- ・ 個人の尊重
- ・ 自由
- ・ 平等

授業計画

01. ガイダンス／憲法の基礎知識
02. 日本国憲法の歴史と構成／憲法改正
03. 国民主権と象徴天皇制
04. 平和主義
05. 国会／財政
06. 内閣／地方自治
07. 裁判所
08. 基本的人権（総論）
09. 法の下での平等
10. 精神的自由Ⅰ（思想・良心・信教の自由）
11. 精神的自由Ⅱ（表現の自由）
12. 経済的自由／人身の自由
13. 社会権／参政権・国務請求権
14. 教育をめぐる憲法問題（子どもの権利／学問の自由／教育を受ける権利）
15. まとめ

準備学習(予習)

シラバス（授業計画）を参考とし、各回の講義内容に該当する教科書のページに目を通しておいてください。

準備学習(復習)

レジュメとノートを参照しながら、教科書の該当ページを再読した後、各回のレジュメの最後にある「確認問題」を解いた上で翌週の講義に臨んでください（翌週の講義の最初に行う答え合わせで、前回の講義の理解度を確認してください）。|また、講義中に紹介する参考文献を精読し、講義内容のより深い理解を目指して復習に取り組んでください。

評価方法

- | | |
|---------|---------------------------------|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% 講義中に配布するリアクション・ペーパー等で評価します。 |

試験の結果をもとに、平常点を考慮し、総合的に評価します。|リアクション・ペーパーに記載された内容への回答は、講義中に適宜行います。

教科書

毛利透『グラフィック 憲法入門〔補訂版〕』（新世社）【978-4883842360】

参考書

開講時に指示します。

担当教員：高橋 愛子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00101

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。|2) 基本的な概念、「権力」「合法性」「正当性」「公益」などの概念を理解する。|3) 現実の政治現象について、「政治学的に」思考する資質を学ぶ。

(2) 内容

現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な思考力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の諸課題と否応なく直面することを余儀なくされている。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテキスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」思考するとはどのようなことかを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の個々の概念、理論を学ぶだけでなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察、思考」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。|<カリキュラム上の位置づけ>政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。|

受講者に対する要望

リアルタイムな政治現象に関心を持ち、新聞の政治経済欄に毎日目を通すこと。

学びのキーワード

- ・ 政治の文脈
- ・ 権力
- ・ 合法性と正当性
- ・ 公益決定
- ・ メディアリテラシー

授業計画

01. 導入：政治学とは何か（1）—歴史的考察—
02. 導入：政治学とは何か（2）—権力とは何か—
03. 現代における政治：全面的政治化の時代（1）—現代とはいかなる社会か—
04. 現代における政治：全面的政治化の時代（2）—全体国家の時代—
05. 政治にとっての文脈としての歴史（1）—20世紀の世界大戦—
06. 政治にとっての文脈としての歴史（2）—東京裁判—
07. 政治にとっての文脈としての歴史（3）—サンフランシスコ条約—
08. 政治にとっての文脈としての歴史（4）—憲法と自衛隊—
09. 政治にとっての文脈としての歴史（5）—アジアと日本—
10. 政治の場としての国会（1）—言論の府—
11. 政治の場としての国会（2）—立法過程—
12. 政治の場としての自治体（1）—分権改革—
13. 政治の場としての自治体（2）—「条例」、「自治体憲章」—
14. 政治における主体（1）—政治家、官僚、諸団体—
15. 政治における主体（2）—メディア、NGO、NPO—
16. 政治における主体（3）—主権者としてのわたしたち—
17. 合法性と正当性（1）—民主的正当性—
18. 合法性と正当性（2）—合法性と正当性との背反—
19. 公益とは何か（1）—公共利益団体の活動—
20. 公益とは何か（2）—公益と私益、官益、国益—
21. 公益とは何か（3）—公益の決定と実現—
22. メディアリテラシー（1）—さまざまなメディア—
23. メディアリテラシー（2）—メディアと権力—
24. メディアリテラシー（3）—メディアリテラシーと市民—
25. 民主主義と選挙（1）—日本の選挙制度—
26. 民主主義と選挙（2）—選挙制度と民主的正当性—
27. 民主主義と教育（1）—シティズンシップ教育—
28. 民主主義と教育（2）—海外の事例から—
29. 一学期間のまとめ—復習—
30. 一学期間のまとめ—さらなる政治学の学びに向けて—

準備学習（予習）

各回の授業の際に配布されるペーパーを予めよく読んでくこと。

準備学習（復習）

授業で取り上げた課題についてのレスポンス・シートに記入して次回授業で提出することにより、各回の授業の基本概念をよく理解する。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業へのコミットメント | 40% |
| (2) 新聞コメントの提出 | 30% |
| (3) ブックレポート | 30% |

教科書

北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—』有斐閣アルマ2009年|そのほかについては、授業の中で指示、もしくは、配布する。

参考書

担当教員：森分 大輔

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A0010K

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

(2) 内容

本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。| 政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

受講者に対する要望

社会や政治について関心を持つことが望ましい。新聞やテレビなどから入手可能な時事的なニュースについても折を見て触れるので、それらに関する知識を持っていることが求められる。

学びのキーワード

- ・ 政治
- ・ 社会
- ・ 国家
- ・ 権力

授業計画

01. 政治学とは何か1 政治的認識について
02. 政治学とは何か2 学問と政治
03. 人間の権利と民主主義について1 人権論の基礎
04. 人間の権利と民主主義について2 民主主義の理論
05. 国家の機能1 国家概念の基礎
06. 国家の機能2 国家機能の変遷
07. 国家の機能3 福祉国家の役割
08. 政党1 政党の分類
09. 政党2 党派と政党
10. 政党3 政党の機能
11. 圧力団体1 圧力団体の定義
12. 圧力団体2 圧力団体の機能
13. 圧力団体3 圧力団体の評価
14. 官僚制1 官僚制の定義
15. 官僚制2 官僚制の機能
16. 官僚制3 官僚制の役割
17. 政治的リーダーシップ1 リーダーシップの種類
18. 政治的リーダーシップ2 リーダーシップの史的類型
19. 政治的リーダーシップ3 組織とリーダー
20. 地方自治と政治構造1 自治と行政
21. 地方自治と政治構造2 住民参加の可能性
22. 地方自治と政治構造3 地方分権の意味
23. 住民参加と参加型民主主義1 デモクラシーと参加
24. 住民参加と参加型民主主義2 グラスルーツの持つ意義
25. 住民参加と参加型民主主義3 参加と組織
26. 政治の担い手に関する考察1 世論
27. 政治の担い手に関する考察2 ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1 グローバル化のもたらす影響
29. グローバル化と政治2 グローバル化と現代社会
30. まとめ

準備学習(予習)

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分～1時間程度のニュースの視聴が必要である。

準備学習(復習)

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業参加 | 40% |
| (2) 中間レポート | 30% |
| (3) 期末テスト | 30% |

教科書

北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—』有斐閣アルマ2009年|そのほか適宜、授業内に指定

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00120

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

授業では、まず政治を理解するための政治学の基本的な視角や理論を学ぶことを目標としています。授業の内容はあくまで基礎的な内容ばかりですが、国際政治学、比較政治学などより専門的な授業を理解するために必要な概念を学ぶ入門になります。

(2) 内容

政治学の入門として政治学の基礎を学びます。授業では、政治学の中心となっている制度論によって、各政治分野について実際にどのようなことが行われているのかを解説していきます。教科書と参考書にそって、授業を進めていきますが、本授業では国際政治学の分野における極めて基礎的な部分も含めて解説します。

受講者に対する要望

受講生は、(1) 各授業に対応する教科書とプリントの該当部分を予習してきて、(2) 授業を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書とプリントに沿って授業を進めていきます。

学びのキーワード

- ・ 本人・代理人モデル
- ・ 共通の目的
- ・ フリーライダー
- ・ 制度論
- ・ 多元的民主主義

授業計画

01. イントロダクション：「本人と代理人」で考える政治（参考書1 序章「七人の侍」の政治学） プリント配布
02. 伝統的政治学（参考書2 第11章「政治学の潮流」1） プリント配布
03. 科学としての政治学の成立（参考書2 第11章「政治学の潮流」2） プリント配布
04. 科学としての政治学の深化（参考書2 第11章「政治学の潮流」3） プリント配布
05. 規範的な学としての政治学（参考書2 第11章「政治学の潮流」4） プリント配布
06. 鉄の三角同盟（教科書第1章「組織された集団」1）
07. 少数者たちが支配する？-多元的民主主義-（教科書第1章「組織された集団」2）
08. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章「官と民の関係」1）
09. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章「官と民の関係」2）
10. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章「大企業と政治」1）
11. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（教科書第3章「大企業と政治」2）
12. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章「選挙と政治」1）
13. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章「選挙と政治」2）
14. 自治体には2つの役割がある（教科書第5章「地方分権」1）
15. 国と地方の相互依存（教科書第5章「地方分権」2）
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章「マスメディアと政治」1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章「マスメディアと政治」2）
18. ねじれ国会（教科書第7章「国会」1）
19. 国会の影響力（教科書第7章「国会」2）
20. 総理大臣と大統領（教科書第8章「内閣と総理大臣」1）
21. 総理大臣の影響力（教科書第8章「内閣と総理大臣」2）
22. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章「官僚」1）
23. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章「官僚」2）
24. 戦後の国際環境（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」1）
25. 日本の対外政策（教科書第10章「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」2）
26. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章「経済交渉」1）
27. 経済交渉の行われ方（教科書第11章「経済交渉」2）
28. ビリヤードゲームのような国際政治（教科書第12章「国境を超える政治」1）
29. 裸になる国家（教科書第12章「国境を超える政治」2）
30. 政治学と政治問題についてのまとめ

準備学習(予習)

教科書のキーワードを覚えることを中心に、プリントと教科書の各該当部分を読んで予習する。できれば、参考書を先に呼んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書のキーワードの意味を理解することを中心に、ノートとプリント、教科書を再読する。できれば、参考書も参考にすること。それにより、授業後の理解を深める。質問事項があれば、UNIPAや次の授業の冒頭で質問すること。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | 授業中の発言や、授業中に提出するレポートなどによる。また、授業中の発言やレポートの内容が授業の理解を深めているかどうかを評価する。 |
| (2) 授業内レポート | 30% | 学期末に提出する。課題は16回目の授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 60% | 論述試験 |

教科書

北山俊哉、久米郁男、真淵勝著『はじめて出会う政治学 - 構造改革の向こうに- 第3版』(有斐閣) [978-4641123687]

参考書

参考書1 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝著『政治学 補訂版』(有斐閣、2011年12月)|参考書2 加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤恭彦著『現代政治学 第4版』(有斐閣、2012年3月)

担当教員：榎本 珠良

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

政治学の基礎を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。

(2) 内容

政治とは何か。民主主義とは何か。市民とは誰のことか。グローバル化の時代の国内政治をどう捉えるか。|本講義は、政治学を学ぶための必要な基礎知識を習得し、それに基づいて今日の日本および世界における政治に関わる諸問題を考察し分析する力を高めるものである。|

受講者に対する要望

現在の政治や時事問題に関心があることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 民主主義
- ・ 政党制
- ・ 官僚制
- ・ 政治参加
- ・ 国内政治と国際政治

授業計画

01. 本講義のガイダンス
02. 政治とは何か (1) 基礎
03. 政治とは何か (2) 応用
04. 民主主義とは何か (1) 基礎と歴史
05. 民主主義とは何か (2) 応用
06. 民主主義とは何か (3) 討議の可能性
07. 政治制度の大枠
08. 政党制
09. 選挙制度
10. 政治参加と投票行動
11. 議会制度・執政部
12. 官僚制
13. 司法と利益集団
14. 政治制度を考える
15. 前半のまとめ
16. 中央と地方
17. メディア (1) 理論
18. メディア (2) 事例
19. 市民社会
20. NGO・NPO
21. 国内政治と国際政治 (1) 国際システムとは
22. 国内政治と国際政治 (2) 国際関係をどう見るか
23. 国際関係における安全保障
24. 冷戦終結後の安全保障
25. 国家と国際法
26. 国家と難民
27. 国家と開発
28. 社会のなかの政治を考える
29. 国際社会における政治を考える
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や教科書などで調べておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布するレジュメと授業中のノートをよく再読すること。

評価方法

- | | |
|-------------|-------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 中間試験 | 30% 中間試験の模範解答の提示と解説を行う。 |
| (3) 期末試験 | 40% 期末試験の模範解答の提示と解説を行う。 |

教科書

北山 俊哉・久米 郁男・真淵 勝『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』第3版、2009年。

参考書

担当教員：森 達也

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K2

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。|・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。|・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

(2) 内容

<テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎 | 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。| 本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- ・政治
- ・経済
- ・公共政策
- ・社会保障
- ・国際関係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 民主主義の基本原則（プリント）
03. 鉄の三角同盟（教科書第1章1）
04. 多元的民主主義（教科書第1章2）
05. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章1）
06. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章2）
07. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章1）
08. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（第3章2）
09. 政治過程論（1）利益集団（プリント）
10. 公共政策論（1）公共財と規制政策（プリント）
11. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章1）
12. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章2）
13. 地方分権には2つの役割がある（教科書第5章1）
14. 国と地方の相互依存（教科書第5章2）
15. これまでの内容のまとめと演習
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章2）
18. 政治過程（2）政党と選挙制度（プリント）
19. 政治過程（3）世論とマスメディア（プリント）
20. ねじれ国会（教科書第7章1）
21. 国会の影響力（教科書第7章2）
22. 総理大臣と大統領（教科書第8章1）
23. 総理大臣の影響力（第8章2）
24. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章1）
25. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章2）
26. 戦後の国際環境（教科書第10章1）
27. 日本の対外政策（教科書第10章2）
28. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章1）
29. 経済交渉の行われ方（教科書第11章2）
30. 国境を超える政治（教科書第12章）

準備学習（予習）

教科書の次回範囲を下読みしてわからない言葉を調べておく。|配布されたプリントをできるかぎり完成させておく。

準備学習（復習）

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して次の確認テストに備える。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

北山俊哉ほか『はじめて出会う政治学 第3版』（有斐閣アルマ、2009年）ISBN 978-4-641-12368-7

参考書

高等学校「政治・経済」資料集（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）|手持ちのものがあれば代用してよい。

担当教員：森 達也

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A001K3

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

・政治と経済に関する基本的な知識を習得すること。|・政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。|・身近な問題を政治（学）的に捉え、それに対して意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

(2) 内容

<テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎 | 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。| 本講義では、現代政治の基礎知識を習得しながら政治学の基本的な考えを学び、続いて政治学の各分野を順に取扱います。時事的な問題についても適宜取り上げ、コメントシート等により受講者の意見を集約・共有して理解を深めていきます。

受講者に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を適宜復習すること。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

学びのキーワード

- ・政治
- ・経済
- ・公共政策
- ・社会保障
- ・国際関係

授業計画

01. 講義の概要と趣旨の説明
02. 民主主義の基本原則（プリント）
03. 鉄の三角同盟（教科書第1章1）
04. 多元的民主主義（教科書第1章2）
05. 規制緩和で何が変わったか？（教科書第2章1）
06. 市場の失敗・政府の失敗（教科書第2章2）
07. 大企業が政治を支配している？（教科書第3章1）
08. 大企業の構造的な影響力と政治的紛争（第3章2）
09. 政治過程論（1）利益集団（プリント）
10. 公共政策論（1）公共財と規制政策（プリント）
11. 政策で選挙は戦えるか（教科書第4章1）
12. 政策に代わる手がかりは？（教科書第4章2）
13. 地方分権には2つの役割がある（教科書第5章1）
14. 国と地方の相互依存（教科書第5章2）
15. これまでの内容のまとめと演習
16. マスメディアは政治を動かす？（教科書第6章1）
17. マスメディアは誰の味方か？（教科書第6章2）
18. 政治過程（2）政党と選挙制度（プリント）
19. 政治過程（3）世論とマスメディア（プリント）
20. ねじれ国会（教科書第7章1）
21. 国会の影響力（教科書第7章2）
22. 総理大臣と大統領（教科書第8章1）
23. 総理大臣の影響力（第8章2）
24. 大臣と官僚のバトル（教科書第9章1）
25. キャリア官僚のキャリア（教科書第9章2）
26. 戦後の国際環境（教科書第10章1）
27. 日本の対外政策（教科書第10章2）
28. 貿易は世界を幸せにするか？（教科書第11章1）
29. 経済交渉の行われ方（教科書第11章2）
30. 国境を超える政治（教科書第12章）

準備学習（予習）

教科書の次回範囲を下読みしてわからない言葉を調べておく。|配布されたプリントをできるかぎり完成させておく。

準備学習（復習）

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して次の確認テストに備える。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------|
| (1) 中間課題 | 35% | 論述問題を含む |
| (2) 最終試験 | 35% | 論述問題を含む |
| (3) 授業内課題 | 30% | 小テスト・コメントシート |

教科書

北山俊哉ほか『はじめて出会う政治学 第3版』（有斐閣アルマ、2009年）ISBN 978-4-641-12368-7

参考書

高等学校「政治・経済」資料集（たとえば『最新図説政経』（浜島書店、2015年）など）|手持ちのものがあれば代用してよい。

担当教員：鈴木 真実哉

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00202

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

政治経済学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。| 経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。|| ☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

(2) 内容

経済学の特徴の考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

受講者に対する要望

毎回新しい知識に触れることになるので、必ず十分な復習の時間をとること。板書は全体の構成(毎回の講義における)を理解するのに必要なもので、必ずノートにとること。

学びのキーワード

- ・ 経済学の本質と意義
- ・ 人間の幸福と経済
- ・ 稀少性の解決
- ・ 効率性と公正

授業計画

01. 経済学とは何か
02. 資源の稀少性と解決（1）
03. 資源の稀少性と解決（2）
04. 生産可能性フロンティア
05. 機会費用（1）
06. 機会費用（2）
07. 消費者の行動（1） 効用と無差別曲線
08. 消費者の行動（2） 予算制約と消費可能領域
09. 消費者の行動（3） 効用最大化
10. 消費者の行動（4） 需要曲線
11. 生産者の行動（1） 生産関数と収入
12. 生産者の行動（2） 費用と費用関数
13. 生産者の行動（3） 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給——市場（1）
16. 需要と供給——市場（2）
17. マクロ経済学1（生産物市場） 45°線モデル
18. マクロ経済学2（乗数理論）
19. マクロ経済学3（貨幣市場）
20. マクロ経済学4（労働市場）
21. IS曲線
22. LM曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ（1）
26. オープンマクロ（2）
27. オープンマクロ（3）
28. オープンマクロ（4）
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

準備学習(予習)

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

準備学習(復習)

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 定期試験 | 90% |
| (2) 出席状況 | 10% |

定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

教科書

参考書

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00203

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。|

(2) 内容

本講義では、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」を教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。||

受講者に対する要望

教科書の題名から、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 経済用語
- ・ 経済理論
- ・ ミクロ経済
- ・ マクロ経済

授業計画

01. はじめに
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. ミクロ経済学
04. 消費者はどう行動するのか
05. 企業はどう行動するのか
06. 市場の機能と価格メカニズム
07. まとめ（1）
08. 所得配分の決まり方
09. 独占と規制
10. 寡占市場
11. 外部性と市場の失敗
12. 不完全情報の世界
13. まとめ（2）
14. まとめ — ミクロ経済
15. 質疑応答
16. マクロ経済学の基本
17. GDPはどう決まるのか
18. マクロ経済主体の行動
19. まとめ（3）
20. 財政政策
21. 金融政策
22. 景気と失業
23. まとめ（4）
24. インフレとデフレ
25. 経済成長
26. 国際経済
27. マクロ経済政策
28. まとめ（5）
29. まとめ — マクロ経済学
30. 質疑応答

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

井堀 利宏、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」、KADOKAWA

参考書

担当教員：大森 達也

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A00210

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。|

(2) 内容

本講義では、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」を教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。||

受講者に対する要望

教科書の題名から、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

学びのキーワード

- ・ 経済用語
- ・ 経済理論
- ・ ミクロ経済
- ・ マクロ経済

授業計画

01. はじめに
02. ミクロ経済学とマクロ経済学
03. ミクロ経済学
04. 消費者はどう行動するのか
05. 企業はどう行動するのか
06. 市場の機能と価格メカニズム
07. まとめ（1）
08. 所得配分の決め方
09. 独占と規制
10. 寡占市場
11. 外部性と市場の失敗
12. 不完全情報の世界
13. まとめ（2）
14. まとめ — ミクロ経済
15. 質疑応答
16. マクロ経済学の基本
17. GDPはどう決まるのか
18. マクロ経済主体の行動
19. まとめ（3）
20. 財政政策
21. 金融政策
22. 景気と失業
23. まとめ（4）
24. インフレとデフレ
25. 経済成長
26. 国際経済
27. マクロ経済政策
28. まとめ（5）
29. まとめ — マクロ経済学
30. 質疑応答

準備学習(予習)

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 中間試験 | 35% |
| (2) 期末試験 | 35% |
| (3) ブックレポート | 30% 1200文字程度 3回×10% |

教科書

井堀 利宏、「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」、KADOKAWA

参考書

担当教員：高橋 聡

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A002K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

意義|直感や好き嫌いではなく、理論にもとづく分析によって社会の仕組みを理解し、問題を解明する。これが学生が大学で身につけるべき思考法である。経済学によってそのトレーニングを効果的に行うことができる。|目標|文法を理解していなければ外国語を理解することはできない。それと同じように、複雑な経済現象を読み解くためには経済理論という「文法」をマスターする必要がある。その最低限の知識を習得することが講義の第1の目標である。これにより、文法を無視した経済ニュースがいかにか多く世間に流通しているかもわかるだろう。そこで、経済ニュースの読み方を身につけることが第2の目標となる。

(2) 内容

経済現象の診断に必要な理論を習得し、日本経済の現状分析を行う。2コマの内容を2部構成とし、第1部(奇数回)は主に理論の習得、第2部(偶数回)は日本経済に関するレポートと解説をする。なお、第1部は、岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』(新世社)に準拠したプリントを用いるので、必要に応じてこの書を購入してほしい。

受講者に対する要望

遅刻や私語には厳正に対処する。授業の進行を妨害する者に対しては、教室からの退出や授業への参加停止を求めることもある。

学びのキーワード

- ・ GDP
- ・ 物価
- ・ 財政・金融
- ・ 経済成長
- ・ 貿易

授業計画

01. ガイダンス
02. 国内総生産
03. 国内総支出
04. 戦後日本経済の歩み (1) 復興期から高度経済成長
05. 国内総所得と三面等価の原則
06. 戦後日本経済の歩み (2) 戦後日本の経済成長と寄与度
07. 「総」概念と「純」概念
08. 働く人から見た日本経済 (1) 労働力に関する定義
09. 物価
10. 働く人から見た日本経済 (2) 日本的雇用慣行とその変化
11. 投資理論
12. 企業から見た日本経済 (1) 企業と競争の役割
13. 貨幣供給
14. 企業から見た日本経済 (2) 株式会社
15. 貨幣需要
16. 貿易・国際金融から見た日本経済 (1) 戦後日本の貿易構造の推
17. IS-LM分析 (1) IS曲線の導出
18. 貿易・国際金融から見た日本経済 (2) 国際収支と外国為替相場
19. IS-LM分析 (2) LM曲線の導出
20. 財政の役割と仕組み (1) 財政の役割
21. 財政政策
22. 財政の役割と仕組み (2) 租税
23. 金融政策
24. 社会保障の役割と仕組み (1) 社会保障制度の確立
25. 経済成長論
26. 社会保障の役割と仕組み (2) 医療保険制度とその他の保険制度
27. 国際マクロ経済学
28. 税の仕組み (1) 主要三税(所得税・法人税・消費税)
29. 貿易理論
30. 税の仕組み (2) 控除制度

準備学習(予習)

教科書の指定ページを読み、疑問点を自ら調べるなり、質問できる用意をすること。

準備学習(復習)

①練習問題をくりかえすこと。②授業で取り上げた問題に関する経済ニュースを収集すること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) 報告・発言 | 20% |

教科書

八田幸二・佐藤拓也・武田勝『攻略!!日本経済』(学文社)【978-4762024979】

参考書

岩田規久男『基礎コースマクロ経済学(第2版)』(新世社)

担当教員：由川 稔

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：必修科目 単位：4 授業コード：12A002K2

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずです。しかし現実の経済は、人間を奴隷化してしまうほどの恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で、明るい未来社会を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。

(2) 内容

経済学は抽象化や理論化という「科学的な方法」に基づいています。なぜでしょうか。それは、日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没してわからなくなりがちな経済現象の「本質」を見抜き、そこから、「新しい経済」や「人間のあり方」などを構想するためです。しかし、理論を理解することだけで頭が一杯になってしまうと、かえって現実を見る目を曇らせてしまう危険もあります。授業では、このバランスを重視したいと思います。

受講者に対する要望

「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。授業は初学者向けに丁寧に進めます。公務員試験対策等、スピーディーな展開が必要な方は、他を当たってください。なお、授業では、例えば国内の経済政策論議、対外的な政策協調や国益の対立といったニュース記事等、時事問題を中心とした資料も配布します。理論と現実の両方を視野に入れて、整理するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 経済
- ・ 社会
- ・ 自由
- ・ 公正
- ・ 競争・効率

授業計画

01. 経済学の全体像概観。マクロ経済学とミクロ経済学。政策運営との関わり。ビジネスとの関わり等。
02. インフレーションとデフレーション（1）～インフレの意味と影響
03. インフレーションとデフレーション（2）～デフレの意味と影響
04. 円高と円安
05. 第2次世界大戦後に成立した国際経済の枠組み
06. 近代経済学とマルクス経済学
07. 自由貿易と保護主義
08. ケインズの考え方と新自由主義の考え方
09. GDPをめぐる（1）～意味。名目と実質の違い。
10. GDPをめぐる（2）～消費
11. GDPをめぐる（3）～投資と政府支出
12. GDPをめぐる（4）～輸出と輸入
13. GDPをめぐる（5）～総需要と総供給
14. GDPをめぐる（6）～デフレギャップとインフレギャップ
15. 需要サイドの構成内容と供給サイドの構成内容
16. 金融政策（1）～お金（マネー）について
17. 金融政策（2）～中央銀行や民間銀行の役割
18. 金融政策（3）～近年の議論
19. 財政政策（1）～公共投資
20. 財政政策（2）～乗数効果
21. 現代日本経済史（1）～変動相場制への移行
22. 現代日本経済史（2）～グローバル化とバブル
23. 市場メカニズムと資源配分
24. 需要曲線と供給曲線
25. 価格について
26. 市場の失敗
27. ゲーム理論（1）～戦略
28. ゲーム理論（2）～協調
29. ゲーム理論（3）～合理的な行動
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

準備学習(復習)

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---|
| (1) 定期試験 | 60% | 定期試験における最大の割合ですが、授業で学んだ内容を覚えることは必須です。しかし授業内容が理解できていないと、期待できません。 |
| (2) 受講態度 | 20% | 主として、授業で毎回配布・回収するチェックシートへの記入内容から、参加の積極性を見ます。 |
| (3) レポート等 | 20% | 授業内容に関するレポートやディスカッションに際し、レポートを提出していただく。授業内容を理解して発表・議論ができるかを、レポートの内容と見させていただきます。 |

教科書

伊藤元重著『はじめての経済学（上）』（日経文庫）日本経済新聞社（2004年4月）【97-84532110147】

参考書

担当教員： 正上 常雄

学期： 秋学期 科目： 教養科目 必修・選択： 必修科目 単位： 4 授業コード： 12A002K3

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。本講義では、経済学を学ぶために、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配などの概念を使って、様々な経済的問題を考えてゆく。経済全体を構成する要素は、家計（消費者）、企業、金融、政府、貿易の5つである。企業は他の4つと密接に関係している。企業のあり方について学ぶことで、経済全体についての考察も深まってゆく。社会に出て、企業で働くときの準備として経済学を学んで欲しい。| 難しい数式を覚えることより、経済学的な合理的思考を身に付けて欲しい。経済学は難しいと思わずに、賢く生活するための知恵を身に付けることを目標として欲しい。|

(2) 内容

経済学とは、個人、企業、政府などさまざまな組織が、どのように選択を行い、その選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問のことである。経済学について学ぶ前に、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配、といった概念を知っておく必要があり、まずは経済学で使われる概念と経済学的な思考をきちんと身に付け、教科書に沿って、経済学の基礎を学んでゆく。| 経済学的な思考をなるべくやさしく教えてゆくつもりである。簡単すぎてつまらないという人のために、適宜、プリントなどで発展的な学習も行う。| |

受講者に対する要望

授業中の私語は厳禁です。その他の授業中のルールについては、最初の授業で相談して決めます。

学びのキーワード

- ・トレードオフ
- ・インセンティブ
- ・市場
- ・分配
- ・労働

授業計画

01. 大学で履修する経済学の考え方1 | 【経済学の考え方 その1】全ての資源は有限である。～稀少性 | 【経済学の考え方 その2】資源は有限だから、片方しか選べない～トレード・オフ | 【経済学の考え方 その3】選ばなかった選択は「コスト」と
02. 大学で履修する経済学の考え方2 | 【経済学の考え方 その4】家計の目的1 | 経済学は3人登場、3つの市場、全体で見ると「相互依存」 | 消費者としての家計 | 最適な買物をするための条件 | 「最適な消費量」が変わる瞬間
03. 家計の目的2 | 労働者としての家計 | ミクロ経済学とは何か？
04. 企業の目的1 | 企業の目的 | 「完全競争市場」では、全ての企業が「プライステイカー」
05. 企業の目的2 | 自社の利益を最大にする方法～限界費用の話
07. 政府の目的1 | 政府の目的 | 国全体の幸福度とは？
08. 政府の目的2 | 政府の役割 | 資源の再配分
09. 需要と供給の話1 | 完全競争市場における需要と供給
10. 需要と供給の話2 | 価格メカニズム・均衡価格・均衡取引量
11. 不完全競争市場1 | 情報の非対称性と市場メカニズム
12. 不完全競争市場2 | 市場の失敗と政府の失敗 | 所得の再配分政策は有効？ | 家賃規制は何をもたらすか？ | 最低賃金制度は何をもたらすか？ | ぜいたく税は何をもたらすか？
13. ミクロ経済学の復習
14. 中間試験
15. マクロ経済学って何？1 | ミクロとマクロの違い
16. マクロ経済学って何？2 | マクロ経済学における家計と政府と企業
17. 短期の経済1 | 「短期」と「長期」～価格調整が「される前」と「された後」で考える
18. 短期の経済2 | 経済の規模を決めるのは需要か？ 供給か？
19. 貨幣の影響1 | 貨幣とは何か・交換手段・価値尺度・価値貯蔵手段 | 兌換・不換紙幣・電子マネー
20. 貨幣の影響2 | 金融政策とは | 金利はどう決まる | 金利が経済に与える影響 | マイナス金利ってアリ？
21. なぜ国民所得をコントロールするのか？1 | 国民所得って何 | 三面等価の原則 | GDPの計算 | 名目と実質
22. なぜ国民所得をコントロールするのか？2 | ケインズ経済学って何 | 生産者（企業や政府）が投資を増やす→国民所得が増える→消費が増える→さらに国民所得が増える→さらに消費が増える→...
23. IS-LM分析1 | 短期均衡とIS-LMモデル
24. IS-LM分析2 | 財政金融政策が現実の経済に与える効果の分析とIS-LMモデル | IS曲線の導出 | LM曲線の導出 | 財市場と貨幣市場の同時均衡
25. 長期の経済1 | 長期均衡への調整 | 短期モデルと長期均衡モデルの比較 | 物価水準はどのように決まるか
26. 長期の経済2 | インフレーションと失業 | 経済成長の理論
27. 長期の経済における失業1 | 自発的失業と非自発的失業 | 働く気がないOR仕事がない | インフレ率と失業率の短期的トレードオフ関係
28. 長期の経済における失業2 | 長期的にみればインフレ率と失業率は相関関係にはない？ | 自然失業率は労働市場の様々な特性に依存する？
29. 長期の経済における政策1 | マクロ経済学の新潮流 | マクロ経済理論の新展開
30. 長期の経済における政策2 および期末試験 | マクロ経済政策の有効性について | マネタリズム | 合理的期待形成学派 | ニューケインジアン

準備学習(予習)

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

準備学習(復習)

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かしてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 中間試験 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) 平常点 | 20% |

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。
 基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

教科書

木暮 太一『大学で履修する入門経済学が1日でつかめる本 絶対わかりやすい経済学の教科書』（マトマ出版）【978-4904934036】

参考書

社会学 (W用)

SOC1-0-100/SOC1-P-100/SOC1-W-100

担当教員：渡邊 隼

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A00356

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(社会)：必修科目【教】高等学校教諭一種(公民)：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生(まちづくり)コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。
|・生活について理解する。|・人と社会の関係について理解する。|・社会問題について理解する。

(2) 内容

・社会学の成立と展開 |・社会学の研究視点 |・現代社会の理解 |・生活の理解 |・人と社会との関係 |・社会問題の理解

受講者に対する要望

「社会」「自己」「他者」にたいして、何らかの興味関心を持っていることが望ましい。

学びのキーワード

- ・社会理論
- ・社会システム
- ・自己理解
- ・他者理解
- ・社会学的想像力

授業計画

01. 社会学の成立と展開
02. 社会学の研究視点
03. 現代社会の理解 (1) 社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識
04. 現代社会の理解 (2) 社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標
05. 現代社会の理解 (3) 法と社会システム
06. 現代社会の理解 (4) 経済と社会システム
07. 現代社会の理解 (5) 社会変動① 社会変動の概念
08. 現代社会の理解 (6) 社会変動② 近代化、産業化、情報化
09. 現代社会の理解 (7) 人口① 人口の概念、人口構造
10. 現代社会の理解 (8) 人口② 人口問題、少子高齢化
11. 現代社会の理解 (9) 地域① 地域の概念、コミュニティの概念
12. 現代社会の理解 (10) 地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会
13. 現代社会の理解 (11) 地域③ 地域社会の集団・組織
14. 現代社会の理解 (12) 社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団
15. 現代社会の理解 (13) 社会集団② ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション
16. 現代社会の理解 (14) 社会集団③ 組織の概念、官僚制
17. 生活の理解 (1) 家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態
18. 生活の理解 (2) 家族② 家族の変容、家族の機能
19. 生活の理解 (3) 生活の捉え方
20. 人と社会との関係 (1) 社会関係と社会的孤立
21. 人と社会との関係 (2) 社会的行為
22. 人と社会との関係 (3) 社会的役割
23. 人と社会との関係 (4) 社会的ジレンマ
24. 社会問題の理解 (1) 社会問題の捉え方
25. 社会問題の理解 (2) 具体的な社会問題① 貧困、失業
26. 社会問題の理解 (3) 具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺
27. 社会問題の理解 (4) 具体的な社会問題③ 犯罪、非行
28. 社会問題の理解 (5) 具体的な社会問題④ DV、ハラスメント
29. 社会問題の理解 (6) 具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ
30. 社会問題の理解 (7) 具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊

準備学習(予習)

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

準備学習(復習)

講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと(適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい)。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 40% |
| (2) 期末試験 | 40% |
| (3) レポートなど | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座(3) 社会理論と社会システム—社会学【第3版】』(中央法規出版)【978-4808832509】

参考書

担当教員：加藤 裕康

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A003K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る【W】論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【P】国際平和コース：自由科目【P】地域共生（まちづくり）コース：指定科目【P】情報コミュニケーションコース：自由科目【A】副専攻：政治経済学系科目【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

社会学とはどのような学問なのか、その歴史と理論を学ぶことで、社会的な視点を身につけることを目標とします。混沌とした社会を分析するためのツールを駆使して、自分なりの考えをもって行動できる人間になる、その第一歩としたいと思います。

(2) 内容

「当事者でなければわからない」という言葉を耳にします。果たしてそれは本当でしょうか。他人に指摘されてハッとすることがあるように、自分の中には自分では気付かない「他者性」があります。同じように当事者だからこそ見えないこともあります。社会学は、その他者性に迫る学問と言えるでしょう。| 本講義では、社会学の歴史と理論を学んでいきます。さらに抽象的な議論と具体的な事例を織り交ぜ、社会学の視点を解説します。また授業では、リアクションペーパーやソーシャル・メディアを活用する中で、講義内容を主体的に捉える契機とします。

受講者に対する要望

私語、遅刻は厳禁です。出席は評価の対象ではありませんが、5回休んだ者は大学の規定通り、単位を取得できません。

学びのキーワード

- ・アイデンティティ
- ・コミュニケーション
- ・メディア
- ・政治と権力
- ・都市と消費社会

授業計画

01. 社会学とは
02. 社会学の理論はどのようなものかー理論の必要性
03. 社会学の理論はどのようなものかーモデルとは何か
04. 社会学の理論はどのようなものかー方法論的全体主義
05. 社会学の理論はどのようなものかー社会学の対象
06. 社会学はいかに成立したのかー近代社会科学の誕生
07. 社会学はいかに成立したのかー進化論と比較文明史
08. 社会学はいかに成立したのかーモダニズムの精神
09. 社会学はいかに成立したのかー学問におけるモダニズム
10. 社会学はいかに成立したのかーデュルケムによる近代の反省
11. 社会学はいかに成立したのかーウェーバーとマルクス主義
12. 多元化する時代と社会学ー危機についての学問
13. 多元化する時代と社会学ー理論社会学
14. 多元化する時代と社会学ー社会学の可能性
15. アイデンティティと社会学
16. コミュニケーションと社会学
17. 家族の社会学
18. 政治の社会学
19. 都市の社会学
20. 身体社会学
21. メディアの社会学
22. 情報化社会と消費社会
23. 階級・階層の社会学
24. ジェンダーとセクシュアリティ
25. 共同体と市民社会
26. 国民国家と多文化社会
27. グローバル化
28. 社会学史 (1) 西洋編
29. 社会学史 (2) 日本編
30. まとめ

準備学習(予習)

教科書をあらかじめ読んでおいてください。参考文献は適宜、紹介します。
【参考文献】
『社会学のすすめ』（筑摩書房）大澤真幸編|『社会学入門』（岩波書店）見田宗介
『新版 社会学のエッセンス』（有斐閣）友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵
『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）宇都

準備学習(復習)

授業後にノートをまとめ直しましょう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) 期末試験 | 80% |

教科書

稲葉振一郎『社会学入門』（日本放送出版協会）【978-4140911365】

参考書

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：12A005K1

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格、選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後の生活の中で、いろいろな問題で迷うことがあるでしょう。そのとき使える自分用の「地図」を作っていくために、法律問題の基本を理解することが、本講義の目的です。また教職を目指す人には、教える側の自分が何を分かっているのか、その核心をつかむことを目標としてもらいたいと思います。

(2) 内容

人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担います。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方、かかわってきます。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていきます。後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返ります。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくります。

受講者に対する要望

未知の言葉や考え方が、たくさん出てきます。まずは「認知」、とにかく見て知ることです。次に「理解」、自分の経験値と想像力を駆使して、考えます。繰り返すうちに自分が変わり、前より物事が鮮明に見えてきます。そして「使ってみる」、これは本や教材を真似しながら良いのです。最後に、「確かめる」。前提知識に誤りがないか、他から引用したものと自分が考えたことを区別できているか、です。そういう練習の素材だと思って下さい。

学びのキーワード

- ・ 公法と私法
- ・ 任意規定と強行規定
- ・ 実体法と手続法
- ・ 権利・義務
- ・ 犯罪と処罰

授業計画

01. ガイダンス
02. 子ども・少年と法①（民事法・社会法）
03. 子ども・少年と法②（刑事法）
04. 人・労働者・消費者①（民法・民事訴訟法）
05. 人・労働者・消費者②（労働法・消費者法）
06. 男女・夫婦①（民事法）
07. 男女・夫婦②（刑事法・社会法）
08. 企業の法①（会社法）
09. 企業の法②（経済法）
10. 主権者の法①（憲法）
11. 主権者の法②（行政法）
12. 被疑者・被告人・被害者①（刑法）
13. 被疑者・被告人・被害者②（刑事訴訟法）
14. 高齢者・相続①（社会保障法）
15. 高齢者・相続②（民法）
16. 憲法①（統治）
17. 憲法②（統治）
18. 民法①（人・法律行為・財産）
19. 民法②（契約・不法行為）
20. 刑法①（総論）
21. 刑法②（各論）
22. 商法①（株式）
23. 商法②（機関）
24. 民事訴訟法①（請求、弁論）
25. 民事訴訟法②（証拠、判決）
26. 刑事訴訟法①（捜査）
27. 刑事訴訟法②（公判）
28. 法とは何か
29. 法とは何か（続）
30. 全体のまとめ

準備学習（予習）

配布資料に目を通しておくこと。

準備学習（復習）

分かったこと、疑問点、自分なりの意見・感想などを、配布資料やノートに書き留めておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布します。

参考書

授業の中で適宜、紹介します。

担当教員：渡辺 英人

学期：春学期 科目：教養科目 必修・選択：選択科目/必修科目 単位：4 授業コード：12A005K4

学部教育の関連目

【全】各学科の基礎的学問からなる教養科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）・必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）・必修科目【全】社会福祉士主任任用資格・選択必修【P】経済経営コース・自由科目【P】国際平和コース・指定科目【P】地域共生（まちづくり）コース・自由科目【A】副専攻：政治経済学科学科

(1) 学びの意義と目標

法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。

(2) 内容

「法を守る精神・法令遵守と責任」|「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などで

受講者に対する要望

受講者の在籍学部を問わず、具体例をあげながら、全員にわかりやすく解説します。遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 法を守る精神
- ・ 「公」と「私」
- ・ 権利と義務
- ・ 責任
- ・ 市民社会に生きる

授業計画

01. 法を守る精神： 社会における信頼関係
02. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成
03. 法と道徳
04. 法の概念
05. 法の存在形式（法源）
06. 法の種類
07. 法の効力 その範囲と限界
08. 「自然法論」と「法実証主義」
09. 法と道徳（2）
10. 自己決定権
11. 法がめざすもの（法の目的）
12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス
13. 法の目的（2）
14. 適法性と違法性
15. 「犯罪」とは何か？
16. 「犯罪」とは何か？（2）
17. モラルの低下した社会に生きる
18. 法の目的（3）
19. 「公」と「私」
20. 「責任」とは何か？
21. 「権利」とは何か？
22. 「正義」とは何か？
23. 「市民社会」に生きる
24. 「法」を守る精神
25. 諸外国の法
26. 諸外国の法（2）
27. 市民社会の法
28. 消費者と法
29. 知的財産権と法（1）
30. 知的財産権と法（2）

準備学習(予習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

準備学習(復習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業中の態度、積極的発言など | 40% |
| (2) 課題作成 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

『ポケット六法 平成29年版』（有斐閣）

参考書

担当教員：柳田 洋夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100101

学部教育の関連目

【P】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける | 【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

倫理とは「いかに生きるか」を探究する営みであるが、それは「世界や人間をどのように見るか」という課題と密接に関わるものでもある。そして、とりわけ社会倫理をめぐる諸問題に取り組もうとするとき、世界や社会をより深く理解するために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠となる。後期は、キリスト教神学と倫理との関連という視点から、個別のトピックも取り上げつつ学びを進めていきたい。

(2) 内容

キリスト教神学についての基礎的理解を修得するとともに、その社会倫理との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・キリスト教と社会倫理
- ・キリスト教神学
- ・キリスト教と諸思想

授業計画

01. 「神学」とそのよりどころ（1）
02. 「神学」とそのよりどころ（2）
03. 神についての探求（1）
04. 神についての探求（2）
05. 神学と倫理思想（1）神学と哲学との微妙な関係
06. 神学と倫理思想（2）ロマン主義
07. 神学と倫理思想（3）マルクス主義・ポストモダニズム
08. 神学と倫理思想（4）フェミニズム
09. 神学と倫理思想（5）解放の神学・黒人神学
10. 「環境倫理」とキリスト教
11. 生と死
12. 性と結婚
13. 戦争と平和
14. キリスト教的文化と倫理
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|-----------------------------|
| (1) 参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 期末試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：菊地 順

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100102

学部教育の関連目

【P】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける【R】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、平和に関する具体的な事例を学ぶことをとおして、特に人間の尊厳および人格・人権という価値の尊さの理解を深め、現代世界に通用する倫理観を身に付けることが目指されています。

(2) 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、春学期は「良き隣人となる」というテーマの下で、さまざまな分野で「平和」の実現のために貢献した人たちを取り上げて行います。「平和」というのは、単に戦争のない状態のことではなく、もっと豊かな積極的内容を持つ言葉で、さまざまな分野で活動した人たちの具体的な事例を見ながら、「良き隣人となる」ということはどういうことか考えたいと思います。具体的には、まずキリスト教の考える「平和」について考察します。そこには、いわゆる戦争のない平和ともっと広い意味での平和が認められますが、そのそれぞれを吟味したあと、特に20世紀にいくつかの事例を求め、その具体的な内容を検討し、人間の生き方について学びます。

受講者に対する要望

倫理というと堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、人間のよりよい生き方を学ぶもので、たえず社会に関心を持ち、問題を共有しながら、開かれた心で臨んでほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 平和
- ・ 戦争
- ・ 社会
- ・ 人格
- ・ 人権

授業計画

01. 「良き隣人となるために」序(1)—20世紀の時代精神
02. 「良き隣人となるために」序(2)—20世紀と大衆社会
03. 「良き隣人となるために」序(3)—20世紀と平和論
04. 「良き隣人となる」(1)—コルベ神父
05. 「良き隣人となる」(2)—ボンヘッファー
06. 「良き隣人となる」(3)—新渡戸稲造(1)（その生涯）
07. 「良き隣人となる」(4)—新渡戸稲造(2)（その思想）
08. 「良き隣人となる」(5)—賀川豊彦
09. 「良き隣人となる」(6)—マハトマ・ガンディ(1)（その生涯）
10. 「良き隣人となる」(7)—マハトマ・ガンディ(2)（その思想）
11. 「良き隣人となる」(8)—マザー・テレサ(1)（その生涯）
12. 「良き隣人となる」(9)—マザー・テレサ(2)（映画を通して）
13. 「良き隣人となる」(10)—ダイアナ元皇太子妃と地雷廃絶運動
14. 「良き隣人となる」(11)—エレノア・ルーズベルトと世界人権宣言
15. まとめ—「良き隣人になる」とは？

準備学習(予習)

予習としては、シラバスを読んで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、予め下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習として、毎回授業で配布される講義内容のプリントを読み直すこと。また必要や関心に応じて、自分で調べ、知識を深めること。特に、この授業では復習に重点を置いてください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 課題 | 10% |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

参考書

毎回授業の初めにプリントを配布します。

担当教員：柳田 洋夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100203

学部教育の関連目

【P】 本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける | 【P】 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】 高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

倫理とは「いかに生きるか」を探究する営みであるが、それは「世界や人間をどのように見るか」という課題と密接に関わるものでもある。そして、とりわけ社会倫理をめぐる諸問題に取り組もうとするとき、世界や社会をより深く理解するために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠となる。前期は、主として宗教一般と倫理との関連という視点から学びを進めていきたい。

(2) 内容

宗教一般についての基本的理解を得るとともに、その社会倫理との関連について学び考察する。

受講者に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 社会倫理と諸宗教
- ・ 宗教的人間観
- ・ 宗教的世界観

授業計画

01. 宗教の「始まり」について
02. 宗教・呪術・科学
03. さまざまな宗教のかたち
04. 何を信じるのかー宗教的实在観について
05. 宗教から見た人間ー宗教的人間観について
06. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（1）
07. 宗教から見た世界ー宗教的世界観について（2）
08. 宗教儀礼・修行について（1）
09. 宗教儀礼・修行について（2）
10. 宗教集団について
11. 宗教体験と人格（1）
12. 宗教体験と人格（2）
13. 「終末論」と倫理
14. 「スピリチュアリティ」と倫理
15. まとめとふりかえり

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|-----------------------------|
| (1) 参加度 | 50% | 規定に満たない場合は評価の対象としない |
| (2) 期末試験 | 30% | 規定の時間より遅刻した場合は受験を認めない |
| (3) 全学礼拝・教会レポート | 20% | 必ず提出。規定枚数を提出しない場合は評価の対象としない |

試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

参考書

担当教員：菊地 順

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：15100204

学部教育の関連目

【P】本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の在り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける。【R】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、人種問題の学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などの価値についての理解を深め、現代世界に通用する倫理を身に付けることが目指されています。

(2) 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、秋学期は人種問題に注目して行います。具体的には、アメリカ合衆国における黒人問題を中心にヨーロッパ世界におけるユダヤ人問題にも触れ、その歴史とその問題に取り組んだ人々の活動について学びます。そのことを通し、人間の生き方について、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学びます。

受講者に対する要望

人種問題は、世界中にある問題です。この学びのために、特に人間の尊厳とか人権ということにより敏感となり、社会や世界に広く関心を持ち、開かれた心で授業に臨んでほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ アフリカ系アメリカ人（黒人）
- ・ 奴隷制度
- ・ 人種隔離制度
- ・ 公民権（市民権）
- ・ 人格・人権

授業計画

01. アメリカの宗教的多元化と右派化
02. アメリカ教会史
03. アメリカ黒人の歴史
04. フレデリック・ダグラスの生涯と奴隷制度
05. 南北戦争と奴隷解放宣言
06. 動画で見るアメリカの奴隷制度
07. 人種隔離制度と黒人たちの闘い
08. 公民権運動への序章
09. M. L. キングと公民権運動（1）（その歩み）
10. M. L. キングと公民権運動（2）（その思想）
11. マルコムXの闘い（1）—その生涯と思想
12. マルコムXの闘い（2）—映画『マルコムX』から学ぶ
13. 大リーグと黒人—ジャッキー・ロビンソンとドジャーズの思想
14. エルヴィス・プレスリーと黒人音楽—人種の壁を越えて
15. まとめ—人間の尊厳と人権

準備学習(予習)

予習としては、シラバスで授業内容を確認すると共に、毎回授業の最後に次回の予告をするので、下調べをしておくこと。

準備学習(復習)

復習としては、授業で毎回配布される講義内容のプリントを読み返すこと。また必要と関心に応じて、自分でさらに調べ、知識を深めること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 20% |
| (3) 課題 | 10% |

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は、試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

教科書

参考書

毎回授業の初めにプリントを配布します。

担当教員： E. D. オズバーン

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1A224150

学部教育の関連目

【A】 人格と主体性： 社会人としての主体性や実践的な働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

【教】 高等学校教諭一種（英語）： 選択科目

(1) 学びの意義と目標

Content – This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries. ||

(2) 内容

Learning Objectives – The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.

受講者に対する要望

Since the course is conducted entirely in English, a minimum TOEFL equivalency score of 380 (paper-based test) is a pre-requisite for taking the class.

学びのキーワード

- culture
- dimensions
- values
- verbal & nonverbal communication
- intercultural communication competence (ICC)

授業計画

01. Course Introduction & Overview: What is culture?
02. Culture Variance: How do cultures differ?
03. Dimensions of Culture: Adler
04. Dimensions of Culture: Hofstede
05. Dimensions of Culture: Trompenaars & Hampden-Turner
06. Dimensions of Culture: Shaules
07. Dimensions of Culture: The GLOBE Study
08. Cultural Values & Attitudes: Rokeach & Inglehart
09. Subcultures
10. Comparison of National Cultural Groups
11. Comparison of Japanese & American Culture: Hall
12. Comparison of Japanese & American Culture: Condon
13. Comparison of Japanese & American Culture: Meyer's "Culture Map"
14. MIDTERM EXAM
15. Culture & Perception
16. Culture & Language: Exploring the Connection
17. Culture & Language: Potential Pitfalls
18. Cultural Code Words: Japanese
19. Cultural Code Words: American English
20. Intercultural Communication Theories
21. Cultural Differences in Communication
22. Culture & Nonverbal Communication: Body Language (the Peases)
23. Culture & Nonverbal Communication: Other Elements (Hall & Dodd)
24. Cultural Biases
25. Culture Shock
26. Cultural Adaptation
27. Intercultural Communication Competence: Key Elements
28. Intercultural Communication Competence: Development [TERM PAPER DUE]
29. Japanese & Americans Working Together
30. Review & Reflection

準備学習(予習)

Students are expected to complete the weekly textbook reading assignments and be prepared to discuss the contents in each class.

準備学習(復習)

After each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

評価方法

(1) Participation	15%
(2) Reading Assignments	20%
(3) Term Paper	35%
(4) Exams	30%

教科書

Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th ed.)』 (SAGE Publications, Inc.)

参考書

担当教員：島田 由紀

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1A314110

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

20世紀後半から今日までのアメリカにおける人種・宗教などの問題についての知識を深め、日々変化する現代アメリカ社会への関心を高める。

(2) 内容

20世紀後半から21世紀のアメリカを覆ってきた人種差別・圧倒的貧富の格差・テロの攻撃と排他主義などの諸問題と格闘してきた活動家・思想家・宗教者らの思想に学び、現代日本に生きる私たちへの示唆をとともに考える。

受講者に対する要望

北米の事情をめぐる報道等に目を向け、特に自分の関心の持てる分野を見つけて、継続的にニュースを追ったり基礎的な文献などを読んだりしてほしい。

学びのキーワード

- ・アメリカ・キリスト教
- ・キング牧師
- ・人種差別
- ・テロ
- ・共生

授業計画

01. 導入
02. アメリカの黒人差別①—20世紀前半まで
03. アメリカの黒人差別②—20世紀後半から現在まで
04. マーティン・ルーサー・キング牧師と公民権運動①—キング牧師の生涯
05. マーティン・ルーサー・キング牧師と公民権運動②—公民権運動の展開
06. マーティン・ルーサー・キング牧師と公民権運動③—同時代の黒人諸運動
07. マーティン・ルーサー・キング牧師と非暴力主義①—ガンジーとキング牧師
08. マーティン・ルーサー・キング牧師と非暴力主義②—市民的不服従の伝統
09. マーティン・ルーサー・キング牧師と非暴力主義③—白人社会との共生
10. マーティン・ルーサー・キング牧師とキリスト教①—平等の思想
11. マーティン・ルーサー・キング牧師とキリスト教②—正義の思想
12. マーティン・ルーサー・キング牧師とキリスト教③—愛の思想
13. バラク・オバマ大統領の登場①—オバマの生いたち
14. バラク・オバマ大統領の登場②—オバマの諸演説における共生の思想
15. バラク・オバマ大統領の登場③—オバマとキング牧師
16. バラク・オバマ大統領の登場④—オバマと黒人共同体の伝統
17. バラク・オバマ大統領の登場⑤—オバマと黒人キリスト教の伝統
18. バラク・オバマ大統領の登場⑥—終わらない黒人差別
19. アメリカの死刑制度①—現状
20. アメリカの死刑制度②—アメリカ社会の貧困・差別の象徴としての死刑制度
21. アメリカの死刑制度③—死刑制度擁護の思想的背景
22. アメリカの死刑制度④—死刑制度に反対するキリスト教的活動
23. アメリカの死刑制度⑤—死刑制度に反対するキリスト教思想
24. アメリカの死刑制度⑥—キリスト教平和主義思想
25. テロと排他主義を越えて①—9.11テロとアメリカ社会の反応
26. テロと排他主義を越えて②—アメリカ・キリスト教界とイスラム
27. テロと排他主義を越えて③—アメリカ・キリスト教における正義の思想
28. テロと排他主義を越えて④—アメリカ・キリスト教における共生の思想
29. テロと排他主義を越えて⑤—アメリカ・キリスト教における民主主義の思想の可能性
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で配布する資料の予習、授業でのディスカッションへの準備など（90分~120分）

準備学習(復習)

授業で配布する資料の復習など（90分~120分）

評価方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 授業内でのディスカッションへの参加や提出物 | 80% |
| (2) 期末テスト | 20% |

教科書

授業内で指示する。

参考書

授業内で指示する。

担当教員：増田 直子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A316091

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

多人種・多民族の存在が社会のあり方にどのような影響を及ぼしているかを理解し、その意義を説明できるようにする。

(2) 内容

難民や頭脳流出などの人の移動が現在世界規模で起こっている。また、ホスト社会側ではこうした急激な人の流入に対する反発も見られ、大きな社会問題となっている。移住の理由、移住先でのコミュニティの成立、ホスト社会との関係、多様な人から成り立つ多文化社会の問題と可能性について、アメリカ・カナダの事例を中心に学ぶ。また、南米日系人の日本への逆流といった日本の事例も取り上げる。

受講者に対する要望

移民や外国人問題など関連のニュースや新聞記事に日頃から関心を持つこと。

学びのキーワード

- ・ 移民・移住
- ・ 多文化主義
- ・ 多文化社会

授業計画

01. 導入－人口構成、国勢調査
02. アメリカの国土
03. アメリカへの移民の流れ（1）「旧移民」
04. アメリカへの移民の流れ（2）「新移民」
05. アメリカへの移民の流れ（3）移民制限
06. 日系アメリカ人（1）排斥
07. 日系アメリカ人（2）強制立ち退きから補償運動へ
08. 『9.11に立ち向かった日系人』→レポート
09. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（1）
10. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（2）
11. 黒人公民権運動
12. 『グローリー』→レポート
13. 先住アメリカ人
14. アジア系アメリカ人
15. ヒスパニック/ラティーノ・ラティーナ
16. 同時多発テロとアメリカのムスリム
17. 性の解放と性をめぐる論争
18. ステレオタイプ（1）映画に見られる黒人像
19. ステレオタイプ（2）映画に見られる日本人像
20. 博物館・記念碑をめぐるマイノリティの記憶
21. 同化の概念と多文化主義
22. 多民族国家カナダ
23. 日系カナダ人
24. カナダの先住民
25. カナダの多文化主義
26. ケベック（1）フランス系カナダ人
27. ケベック（2）現代のケベックをめぐる問題
28. 南米日系人（1）南米での経験
29. 南米日系人（2）日本への逆流
30. まとめ

準備学習(予習)

事前に指示された用語を調べておくこと。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにする。

評価方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) レポート | 40% |
| (3) 小テスト、授業内でのリアクション・ペーパー | 10% |

教科書

参考書

担当教員：氏家 理恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A510242

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

英米文学のヨーロッパ文学における位置づけを知り、その歴史的・文化的発展と作品の多様性を学ぶ。英米文学におけるさまざまな思潮やジャンル、批評用語などの基礎的な知識を得、英米文学を理解するために必要な知識を確認する。また、さまざまな作品や物語を楽しむためのコツ、読み解くための言葉と力を養う。

(2) 内容

本講義は、英米文学の歴史をたどりながら、そのジャンルの展開と作品の多様性について概観する。各ジャンルからなるべく多くの作品を紹介しながら抜粋を読み、それらの特徴や意義を考える。また、ヨーロッパ全体の文芸思潮や文学の歴史、英米の歴史・社会・生活という側面からも文学作品を読み解いていく。| 「文学」と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまう人、作品や物語を「読む」とはどういうことかよく分からないと感じている人に、英米文学の面白さや作品を読む楽しさを知ってもらいたい。|

受講者に対する要望

文学に興味がある意欲的な学生の受講を希望する。また、この講義は2年生以上対象の専門科目であり、教職課程履修者にとっては必修科目であるため、ある程度の欧米芸術文化の基礎知識を持っている学生の履修を推奨する。なお、授業で取り上げる作品はなるべく読んでほしい。

学びのキーワード

- ・英米文学
- ・英米文学史
- ・文学理論
- ・文芸批評
- ・ジャンル論

授業計画

01. イントロダクション：「文学」とは
02. 英米文学以前：ヨーロッパ文学の流れ
03. 英文学の成立：言語と国の確立
04. 英文学史概観
05. 英詩の隆盛：イギリス・ルネサンス
06. 詩を「読む」：詩の伝統と形式
07. ソネットとバラッド
08. イギリスにおける演劇の隆盛：エリザベス調演劇
09. シェイクスピア：『ロミオとジュリエット』『ハムレット』『ベニスの商人』
10. シェイクスピア以後のイギリス演劇
11. 小説夜明け前—市民革命の時代
12. コーヒーハウスと近代小説の誕生
13. 最初の近代小説：『ロビンソン・クルーソー』
14. ジャーナリズムと風刺小説：『ガリヴァー旅行記』
15. 小説を「読む」：物語における語り・語り手・視点
16. 語りの発達：書簡体小説『パメラ』
17. 小説の展開：反小説『トリストラム・シャンディ』
18. 古典主義とロマン主義
19. ワーズワース『虹』、ウィリアム・ブレイク『病んだバラ』
20. ゴシック小説『フランケンシュタイン』
21. 女性作家：ジェイン・オースティンとブロンテ姉妹
22. アメリカにおける文学の発達
23. ピューリタン文学
24. アメリカ・ロマン主義とリアリズム
25. 大衆文化と大衆小説の誕生：チャールズ・ディケンズとマーク・トウェイン
26. 19世紀の出版事情と読者・読書行為
27. ミステリの誕生：『シャーロック・ホームズの冒険』
28. 教育学と児童文学の成立：『不思議の国のアリス』
29. SFとファンタジーの誕生
30. まとめ

準備学習(予習)

授業で扱う作品の引用部分は事前に読んでおくこと。また、期末レポートの一部として作品批評レポートを課すので、学期中にブックリストから選択した作品を読み、レポート作成準備をしておくこと。

準備学習(復習)

課題やレポートでは授業で学んだ知識・用語などを活用しながらの作成を求めらるので、授業のポイントやキーワードは随時復習しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|--------------|
| (1) 平常点 | 50% | ミニッツノート・小テスト |
| (2) 作品読解課題 (3回) | 30% | |
| (3) 期末レポート | 20% | |

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A610620

学部教育の関連目

【A】グローバル世界で活躍するための理解力：世界情勢に対する理解や異文化への共生的姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

交通機関の発達とともに、メディアやコンピュータ、通信手段の飛躍的な発展により、私たちの住む地球という世界は確実に狭くなっている。今や自国の価値観だけで生きるとは世界での孤立を意味することになる。政治的にも、経済的にも、教育的にも、世界に通用する多様性を身につけ、文化的差異を乗り越えてともに生きる意識を身につけることを目指す。||

(2) 内容

私たちにとっては違和感なく自然に思われる考え方や生活様式が、他の文化や時代の人々にとってはまったく異なるふうに捉えられることがある。異なった文化を背景として生きてきた者同士が同じ社会で生きようとするとき、そこには交流だけでなく衝突が起きることもある。|この授業では様々な異文化交流・衝突の事例において文化がアイデンティティに及ぼす影響を考察しながら、多文化共生の道筋を考察する。|学期の終わりには、履修者全員が異文化交流・多文化共生の事例を一つ選び、事例研究報告をクラスの中で行う。

受講者に対する要望

様々な映像資料やテキストをもとに、自分自身の意見を持ち、それを積極的にクラスのなかでシェアすることを目指してほしい。

学びのキーワード

- ・ 異文化理解
- ・ 異文化適用
- ・ 世界の価値観
- ・ 異文化受容
- ・ 多文化共生社会

授業計画

01. 導入、異文化を理解する。
02. 異文化理解の意義、世界における多様化という風潮
03. 文化とは1 文化の冰山モデル
04. 異文化摩擦の原因 私の常識、あなたの非常識
05. 文化とは2 トータルカルチャーとサブカルチャー、文化の特徴
06. 文化的側面に対する個人的側面と普遍的側面
07. 異文化適用 U字曲線の適応 カルチャーショックとは
08. W字曲線の適応、らせん型の適応
09. シュミレーション シュミレーションの意義
10. シュミレーション体験
11. 違いに気づく 行動による文化の違い、視点による文化の違い
12. 環境による文化の違い、発想の転換
13. 異文化の認識 固定観念、ファイリング
14. ステレオタイプ
15. 差別を考える 差別の種類 階級、社会、人種、身体能力や病気
16. 差別が生まれる背景、差別と異文化理解
17. 世界の価値観、個人主義対集団主義 性善説対性悪説
18. 高文脈文化対低文脈文化
19. 異文化トレーニングとしてのケーススタディー
20. 異文化トレーニングとしてのシミュレーション
21. 異文化受容、異文化受容のプロセス、自文化中心の階段、見えない文化に気づく段階
22. 文化を相対的にみる段階、新しい文化を取り入れる段階、新しいアイデンティティが確立される段階 | 異文化受容の5つのステップ
23. 自分を知る
24. いいところ探し
25. 異文化理解と外国語教育 世界共通語としての英語
26. 英語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
27. 多文化共生社会の実現に向けて
28. 異文化交流・多文化共生の事例研究（学生による発表）
29. 異文化理解・多文化共生の事例研究（学生による発表）
30. まとめ

準備学習(予習)

配布するプリント類を自宅で読み返すこと。クラス内での発表の準備をすること。

準備学習(復習)

講義ノートと配布物の復習を行なうこと

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------|
| (1) 授業への貢献度 | 30% | 授業内でのディスカッションへの参加や提出物 |
| (2) 事例研究発表 | 25% | |
| (3) 期末テスト | 25% | |
| (4) 課題レポート | 20% | |

教科書

原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社 | 978-4-327-37734-2

参考書

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710160

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コミュニケーションのための活きた英文法を学び、文法知識を整理することで、自信を持って英語で話す力と書く力を身につけることができる。各種試験、教職、就職にも役立つ。特に英語の教職を目指すものにとっては文法の教授法の練習にもなる。

(2) 内容

本講義は、四半世紀にわたり世界中の英語学習者にコミュニケーションに「使える」文法書として利用されてきたテキストを用い、専門用語に依存した文法解説を最小限にとどめ、直観による理解を推進するイラストや平易な例文を用いて英文法を基礎から学ぶ。今まで英文法が苦手としてきた受講生にもわかりやすい内容である。本科目を修了することで日常生活や資格試験の英文法をほぼ網羅できる。|||||

受講者に対する要望

英文法を基礎から総復習したいという熱意ある者の受講を望む。基礎から日常生活や資格試験に使える文法までを要領よく学べる絶好のチャンスであり、正しい文法知識は将来の仕事にも役に立つ。欧米文化学科の学生はぜひとも受講して欲しい。

学びのキーワード

- ・ コミュニケーションのための英文法
- ・ 使える英文法
- ・ 直観による理解の推進
- ・ 活きた英語
- ・ 話す力と書く力

授業計画

01. コミュニケーション英文法の学習法と現在形 (be動詞の肯定文、否定文、疑問文)
02. 現在形 (現在進行形と疑問文、単純現在形と否定文)
03. 現在形 (単純現在形の疑問文、現在進行形と単純現在形、I have と I've got)
04. 過去形 (be動詞の過去形、単純過去形と否定文と疑問文)
05. 過去形と現在完了形 (過去進行形、I used to +動詞の原形、現在までの経験)
06. 現在完了形 (現在までの動作や状態の継続、for・since・ago、I have doneと過去単純形I did、just alreadyとyet)
07. 現在完了形と受動態 (I've lost my key. と I lost my key last week.) (is doneと was done)
08. 受動態と動詞の形 (is being doneとhas been done) (be/ have / do現在形と過去形における動詞、規則変化動詞と不規則変化動詞)
09. 未来表現 (What are you doing tomorrow? 未来を表すbe+ ing, I'm going to+動詞の原形、will)
10. 法助動詞と命令文 (might, canとcould, must)
11. 法助動詞と命令文 (I have to +動詞の原形、Would you like ...?, I'd like...、I'd rather +動詞の原形、Do this! Don't do it!, Let's do this!命令文)
12. there と it (there is there are, there was/were, there has/ have been, there will be, 「それ」と物を示さないit)
13. 助動詞 (I am, I don't など肯定文、否定文における後に続く語句の省略、聞き返し疑問と付加疑問、too/ either, so am I/ neither do I など、I can't, haven't, don't など)
14. 疑問文 (Is it...? Have you ...?, Do they ...?など、Who saw you? Who did you see? Who is she talking to? What is it like? What...? Which...? How...?)
15. 疑問文と間接話法 (How long does it take to+動詞の原形?, Do you know where...? I don't know what...?などの間接疑問文、She said that... He told me that ...間接話法)
16. -ingと「to + 動詞の原形」(動詞の後ろにくるto+動詞の原形とing、want/ tell+人+to+動詞の原形、I went to the store to +動詞の原形 (目的語を表す不定詞))
17. go, get, do, make, have (基本的な動詞を用いた表現)
18. 代名詞と所有格 (代名詞の主格と目的格、所有格、独立所有格)
19. 代名詞と所有格 (代名詞の格、再帰代名詞、- ' s)
20. a と the (不定冠詞、単数形と複数形、可算名詞と不可算名詞)
21. a と the (不定冠詞と定冠詞、theのつく形とつかない形、the+場所の名前)
22. 限定詞と代名詞 (this/that/these/those, one/ ones, someとany)
23. 限定詞と代名詞 (not+any+名詞、no+名詞・none, every and all, all most some any no/none/both/either/ neither, a lot/ much/ many, a) little と(a) few)
24. 形容詞と副詞 (old/ nice/ interesting, quickly /badly/suddenlyなど、old/older 比較級)
25. 形容詞と副詞 (not as ...as原級を用いた比較、最上級、enough, too)
26. 語順 (動詞・目的語、場所・時、文中で動詞とともに生じる副詞、still, yetとalready, 「動詞+物+人」と「動詞+人+物」)
27. 接続詞と節 (and but or so because 2つの文をつなぐ接続詞、when時を表す節、起きるかもしれない出来事仮定するif節、事実と反することを仮定するif節、関係副詞：主語であることを示す関係代名詞、目的語であることを示す関係代名詞と)
28. 前置詞 (時、期間、前・後・間を表す前置詞/接続詞、場所を前置詞)
29. 前置詞と句動詞 (位置関係、方向を表す前置詞、「形容詞+前置詞」、「前置詞+ing」、「動詞+前置詞」、go in, fall off, run away句動詞と動作の方向、put on your shoes, put your shoes on 句動詞と目的語)
30. 理解度の確認

準備学習(予習)

毎回、指定ページの予習をすること。テキストにそのまま記入してよい。

準備学習(復習)

授業の復習をし、次回の確認テストに備える。毎回、いくつもの文法事項について学習するため、復習を必須とする。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 10% |
| (2) 確認テスト | 30% |
| (3) 中間テスト | 30% |
| (4) 期末テスト | 30% |

予習復習を重視し、毎回の確認テストで努力を評価する。

教科書

Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』(Cambridge University Press) [978-4-889967-65-4]

参考書

担当教員：加曽利 実

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：4

授業コード：1A710290

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

言語は、相手に通じて初めて意味を持ちます。日本語とは、全く異なる音声構造を持つ英語の音声構造と音声学の基礎理論を学び、実際にネイティブ・スピーカーに通じる発音の習得を目指します。つまり、ネイティブ・スピーカーの言う事を正しく理解できるように、また自らの意思を相手のネイティブ・スピーカーに正しく伝えられるようになります。アメリカ英語を中心に授業を進めていきます。イギリス英語についても、主だった差異について触れます。現在日本社会において、英語能力は、今や常識となりつつあります。学生時代の間に確実に英語を身に付けたい人、そして中学校や高等学校などの英語教師を目指す人に受講を強く勧めます。

(2) 内容

英語を学習する際、最も大切な事は、その発音を学ぶことです。いくら一生懸命、英語を学習しても、発音が英米等のネイティブ・スピーカーに通じなかったり、誤解されてしまったりは、その学習は、結局、徒労となってしまいます。そうならない様にするためには、まず第一に、英語の発音を学習することです。発音を良くすると、聴き取る力もアップして来て、英会話が出来るようになります。応用を学ぶ前に基礎事項をしっかりと固めておきましょう。| 授業では、プリント教材を用いて、英語音声学の基礎理論（発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等）を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行います。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語や他の様々な種類の英語についても触れます。CALL(L L)教室を使用します。最初の授業の時に、プリントで授業の詳細について説明します。

受講者に対する要望

音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、1-2年次生の間に履修することを勧めます。言語学習は、相手に通じることを前提とします。また、学生の間に、予習・受講・復習というHop-Step-Jumpの「三段跳び学習法」を必ず身に付けるようにして下さい。

学びのキーワード

- ・英語学習の中核を成す基礎科目
- ・ネイティブに通じる発音の習得
- ・英語らしい発音とリズム
- ・実学としての英語学習
- ・CALL(L L)教室、フォーマット形式(mp3, wav, mp4, DVDなど)

授業計画

01. イントロダクション ― 「音声無くして言語無し」を認識する
02. 英語音声学入門―言語学習上における音声学の重要性
03. 英語音声学の基礎理論 (1) ― 言語音の分析方法
04. 英語音声学の基礎理論 (2) ― 調音音声学・音響音声学・聴覚音声学
05. 英語音声学の基礎理論 (3) ― 声門上部発音器官
06. 英語音声学の基礎理論 (4) ― 音素と異音、音声記号とIPA、母音の分類と定義、子音と分類と定義
07. 英語音声学の基礎理論 (5) ― イギリスの標準発音(RP)とアメリカの標準発音(GA)
08. 子音の発音・理論と練習 (1) ― 破裂音
09. 子音の発音・理論と練習 (2) ― 摩擦音
10. 子音の発音・理論と練習 (3) ― 破擦音
11. 子音の発音・理論と練習 (4) ― 歯茎側音、反転音
12. 子音の発音・理論と練習 (5) ― 鼻音、半母音
13. 母音の発音・理論と練習 (1) ― 単母音(高前舌母音、中前舌母音、低前舌母音)
14. 母音の発音・理論と練習 (2) ― 単母音(低中舌母音、中中舌母音)
15. 母音の発音・理論と練習 (3) ― 単母音(高後舌母音、低後舌母音)
16. 母音の発音・理論と練習 (4) ― 二重母音(上昇二重母音、集中二重母音)
17. 母音の発音・理論と練習 (5) ― 反転二重母音
18. 音の結合 (1) ― 子音連結、音素配列論
19. 音の結合 (2) ― 同化作用、有声音化、無声音化、鼻音化、口蓋音化、擦音化
20. 音の結合 (3) ― 異化作用、音の脱落、語中音添加、音位転換、重音脱落
21. リダクション ― 英文法と英語音声学との関係(品詞と強勢)
22. 英語の三段階強勢
23. 強形発音と弱形発音 (1) ― 人称代名詞、関係代名詞、不定代名詞
24. 強形発音と弱形発音 (2) ― 助動詞、be動詞、have動詞
25. 強形発音と弱形発音 (3) ― 前置詞、接続詞、その他
26. 名詞句と合成名詞
27. 日本語のリズムと英語のリズム
28. 文強勢の移動
29. イントネーション ― 内部開放接続、内部閉鎖接続、末尾下降接続、末尾上昇接続
30. 総合練習・まとめ

準備学習(予習)

毎回、必ず10頁程度、テキストを予習して、ノートに重要点と思われる箇所をまとめておいて下さい。予習・復習ノートの提出のため、ノートまとめを励行しておいて下さい。

準備学習(復習)

復習を励行して下さい。毎回、授業後、なるべく早いうちに、学習した項目をノートに纏めて復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|------------|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への参加度 |
| (2) 予習・復習ノート | 10% | ノート提出 |
| (3) 発音チェックテスト | 10% | 発音学習事項の練習度 |
| (4) 中間試験 | 30% | 中間試験の成績 |
| (5) 期末試験 | 30% | 期末試験の成績 |

予習と復習を励行するかどうか、定期試験などの成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

プリント教材

参考書

学習指導要領。その他は、授業中に提示します。

担当教員：加曽利 実

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710380

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

グローバル化という現代社会において、英会話にとどまらず、英語全般に関する様々な知識が、必須事項となって来ています。英語を学習、研究、教育する者ならば、知っておかなければならない知識を網羅します。

(2) 内容

英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、日本では、なかなか入手困難な、イギリスの著名な学者の朗読による「古英語や中英語などの当時の貴重な再現音声」を聞くことが出来る点です。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。

受講者に対する要望

ある程度、英語基礎力の付いた2-4年次生に履修することをお勧めします。Word Formation(語形成)や古(いにしえ)の英語音の発音などに関心のある学生や教職課程履修者にお勧めします。

学びのキーワード

- ・ 英語学の必須知識
- ・ 音韻論・形態論・統語論・英語史
- ・ 伝統文法
- ・ アメリカ構造主義文法
- ・ 生成変形文法

授業計画

01. イントロダクション
02. 英語学の諸分野
03. 国際語としての英語
04. 英語の音構造 1 -- 音声器官
05. 英語の音構造 2 -- 母音の分類、子音の分類
06. 英語の音構造 3 -- 音韻論
07. 英語の語構造 1 -- 形態論
08. 英語の語構造 2 -- 語の分類
09. 英語の語構造 3 -- 語形成
10. 英語の文構造:伝統文法 1 -- 科学的伝統文法の成立
11. 英語の文構造:伝統文法 2 -- スウィートとイエスペルセン
12. 英語の文構造:アメリカ構造主義 1 -- 構造主義の言語観
13. 英語の文構造:アメリカ構造主義 2 -- IC分析
14. 英語の文構造:生成変形文法 1 -- 生成変形文法的アプローチ
15. 英語の文構造:生成変形文法 2 -- 句構造規則
16. 英語の文構造:生成変形文法 3 -- 変形規則
17. 英語の意味構造 1 -- 意味論と比較文化論
18. 英語の意味構造 2 -- ChomskyとSaussureの理論的比較
19. インド・ヨーロッパ語族
20. 英語の歴史:古英語 1 -- 古英語の成立
21. 英語の歴史:古英語 2 -- 発音と文字
22. 英語の歴史:古英語 3 -- 文法
23. 英語の歴史:中英語 1 -- 発音と綴り字
24. 英語の歴史:中英語 2 -- 語彙と文法
25. 英語の歴史:近代英語 1 -- 近代英語の成立(シェイクスピアと欽定英訳聖書)
26. 英語の歴史:近代英語 2 -- 大母音推移と規範文法の成立
27. アメリカ英語 1 -- アメリカ英語の発音
28. アメリカ英語 2 -- アメリカ英語の語法・文法
29. 英語の未来像
30. 総合的まとめ

準備学習(予習)

毎回、10頁程度予習しましょう。テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートは、提出してもらい、評価の一部とすることもありますので、日頃、予習・復習を励行して下さい。

準備学習(復習)

毎回、受講後すぐに、学習した項目を復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。

評価方法

(1) 平常点	20%	授業への参加度
(2) 予習・復習ノート	10%	ノート提出
(3) 中間試験	35%	中間試験の成績
(4) 期末試験	35%	期末試験の成績

予習と復習を励行するかどうか、定期試験の成績に大きく影響します。予習・復習の励行を切に希望します。

教科書

石黒 昭博『現代の英語学』(金星堂)【978-4764736047】

参考書

学習指導要領。その他は、授業中に提示します。

担当教員：D. バーガー

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710470

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる母語の性質を認識することを望んでいる。

(2) 内容

この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話しことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。

受講者に対する要望

言語の本質について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・形態論
- ・統語論
- ・意味論
- ・音声学・音韻論
- ・言語習得

授業計画

01. 授業紹介、言語の本質
02. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション）
03. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション）
04. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション）
05. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション）
06. 動物の「言語」（講義とディスカッション）
07. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション）
08. 人間の脳、形態論 — 単語の構造（講義とディスカッション）
09. 形態論—内容語と機能語（講義とディスカッション）
10. 形態論—形態素：意味の最小単位（講義とディスカッション）
11. 形態論—拘束形態素と自由形態素；グループワーク：形態論に関する問題を解決する
12. 統語論 — 文構造（講義とディスカッション）
13. 統語論— 統語範疇、句構造樹等（講義とディスカッション）
14. 統語論— 句構造規則、グループワーク：統語論に関する問題を解決する
15. 意味論 — 語の意味（講義とディスカッション）
16. 意味論— 意味特性、意味役割（講義とディスカッション）
17. 意味論—文の真実性、含意、隠喩、直示；グループワーク：意味論に関する問題を解決する
18. 音声学 — 言語の音（講義とディスカッション）
19. 音声学— 音標文字、調音音声学：子音（講義とディスカッション）
20. 音声学— 調音の位置、調音の方法（講義とディスカッション）
21. 音声学—調音音声学：母音、グループワーク：音声学に関する問題を解決する
22. 音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション）
23. 音韻論— 音素：言語の音韻単位（講義とディスカッション）
24. 音韻論—形態素の発音；グループワーク：音韻論に関する問題を解決する
25. 言語変化—音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション）
26. 言語変化—形態変化、統語変化（講義とディスカッション）
27. 言語変化—語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する
28. 言語習得—幼児言語習得の段階（講義とディスカッション）
29. 言語習得—言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション）
30. 言語習得—「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する

準備学習(予習)

当日のワークシートを参照すること。

準備学習(復習)

講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにワークシートを復習すること。

評価方法

(1) 授業への参加度	25%
(2) ワークシート	25%
(3) 小テスト	25%
(4) 期末試験	25%

教科書

プリントを配布する

参考書

ビクトリア フロムキン、ニーナ ヒアムズ（著）、ロバート ロッドマン（著）、緒方 孝文（監修）『フロムキンの言語 | 学』第7版 ビー・エヌ・エヌ新社 2006]

担当教員：M. サベット

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710710

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。|(2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。|(3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。|

(2) 内容

This course focuses on writing and giving speech. Skills such as how to start and end a speech are taught. Students will be given many opportunities to give speeches in front of their classmates. |||||

受講者に対する要望

Students should be able to give speeches in front of others, keeping in mind skills taught during the course.

学びのキーワード

- ・ public speaking
- ・ body language
- ・ intonation
- ・ content
- ・ ending

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Part I: The Physical Message
03. Informative Speech; Gestures
04. Informative Speech; Body Language
05. Speech #1
06. Layout Speech; Voice Inflection
07. Layout Speech; VoiceTone
08. Demonstration Speech Preparation
09. Demonstration Speech
10. Part II: The Story Message; Introduction
11. Part II: The Story Message; Main Body
12. Speech #2
13. Persuasive Speech (Script Format)
14. Persuasive Speech (Introduction)
15. The Body; Transitions
16. The Body; Sequencers
17. Persuasive Speech (Paragraphs)
18. Persuasive Speech (Main Body)
19. The Conclusion; Persuasive Speech Script
20. The Conclusion; Small Group Presentation
21. Speech #3
22. Part III: The Visual Message Using Graphs
23. Part III: The Visual Message Using Charts and Data
24. Making Visual Aids; Graphs
25. Making Visual Aids; PowerPoint
26. Part IV: Preparation for Full Presentation; Outline
27. Part IV: Preparation for Full Presentation; Script
28. Part IV: Preparation for Full Presentation; Small Group Practice
29. Part IV: Preparation for Full Presentation; Practice with Teacher
30. Final Speech

準備学習(予習)

Giving a speech requires preparation and students must write the main body of their speech before coming to class.

準備学習(復習)

Students are required to prepare for their speeches and come to class prepared.

評価方法

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) Participation | 20% |
| (2) mini speeches | 60% |
| (3) final speech | 20% |

教科書

参考書

担当教員：M. サベット

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1A710820

学部教育の関連目

【A】表現力・リテラシー：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

The goals of the course are: |Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。このコースの目標: |1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition; |2. (language) to improve your ability to express your opinions in English; |3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society. |1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。|2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。|3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要であるかという理解を深める。

(2) 内容

Speech & Debate B focuses on debating skills in English. |Students start with simple debates and then slowly move to more difficult topics. |

受講者に対する要望

Students should be able to express their opinions clearly.

学びのキーワード

- ・ Debate
- ・ Data
- ・ Research
- ・ Discussion
- ・ Opinion

授業計画

01. Class Introduction and Course Information
02. Opinions
03. Agreeing
04. Disagreeing
05. Explaining Your Personal Opinion
06. Explaining Your Opinion with Facts
07. Preparation for Debate #1
08. Debate #1
09. Supporting Your Opinion with Expert Opinion
10. Supporting Your Opinion with Data
11. Organizing Your Opinion with Supporting Paragraphs
12. Organizing Your Opinion; Forming the Main Body
13. The “1AC”
14. Preparation for Debate #2
15. Debate #2
16. Refuting Explanations Using Polite Language
17. Refuting Explanations Using Firm Language
18. Tennis Debate: Affirmative
19. Tennis Debate: Negative
20. Challenging Supports
21. Preparation for Debate #3
22. Debate #3
23. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Gathering Data
24. Organizing Your Refutation: the “1NC” : Forming the Body
25. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches; Controlled Debate
26. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches; Small Group Work
27. Preparation for Formal Debate During Test Week: Outline
28. Preparation for Formal Debate During Test Week: Script
29. Preparation for Formal Debate During Test Week: Group Practice
30. Final Debate

準備学習(予習)

Students are required to do research and collect data before each debate. Must work as a team and contribute to their group.

準備学習(復習)

Students must search for data and information in order to be ready for next debate.

評価方法

(1) Participation	40%
(2) Mini Debate	40%
(3) Final Debate	20%

教科書

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C100310

学部教育の関連目

【C】児童学の視座を得て、課題探究力・問題解決力・表現力・コミュニケーション力・記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。

(2) 内容

子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面で子どもと大人の関わりを考える。||

受講者に対する要望

毎回の授業でレスポンスシートに課題を記入することで、出席確認、受講者・講義者双方の振り返りに活用しています。レスポンスシートに積極的に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 子ども
- ・ 児童学
- ・ 幼児理解
- ・ 保育
- ・ 学校教育

授業計画

01. 子どものイメージと理解
02. 制度にたちあられた子ども
03. 子ども学のはじまり
04. 子ども観と社会制度
05. 子どもの目、大人の目
06. 子どもの理解、大人の理解
07. 保育という視点
08. 学校と子ども
09. 赤ちゃん絵本にみる子どもの認知
10. 不適切な養育と子ども
11. 絵本のカ
12. 子どもの自尊
13. 児童学における記録の意味
14. 省察すること
15. 総括

準備学習(予習)

授業回のテキストに目を通してから授業に臨みましょう。レスポンスシートにコメントを書いて返却します。毎回の授業前に読み活かしましよう。

準備学習(復習)

授業ノートを整理しましょう。テキストに含まれる資料は、授業で扱った箇所以外の部分も必ず読み込みましよう。参考文献を数多く紹介します。積極的に読みましよう。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------------------|
| (1) 積極的な参加 | 50% | レスポンスシートの記入内容で確認します |
| (2) 試験 | 50% | |

教科書

参考書

初回授業に全回分のテキストプリントを配布します。|予備はありません。記名の上、毎回の授業で活用して下さい。

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200100

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。| 授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

(2) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らにいる大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化することに、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。
授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子, 武田 京子『新版 児童文化』(ななみ書房)【978-4903355436】

参考書

担当教員：田澤 薫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200105

学部教育の関連目

【C】児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。| 授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

(2) 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

受講者に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らに在る大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

学びのキーワード

- ・ 児童文化
- ・ 児童文化財
- ・ 遊び
- ・ 生育儀礼
- ・ 子どもの主体性

授業計画

01. 子どもの世界をのぞく視点
02. 子どもと遊び (1) 遊びの意味
03. 子どもと遊び (2) 子どもの遊び
04. 子どもとモノ (1) おもちゃ
05. 子どもとモノ (2) 人形
06. 子どもとモノ (3) たからもの
07. 子どもとモノと遊び (1) おもちゃを遊びにいかす
08. 子どもとモノと遊び (2) 人形を遊びにいかす
09. 伝承文化と子ども (1) 生育儀礼
10. 伝承文化と子ども (2) 年中行事
11. 子どもとことば (1) わらべうた
12. 子どもとことば (2) 紙芝居
13. 子どもとことば (3) 絵本
14. 子どもとことば (4) おはなし
15. 総括

準備学習(予習)

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化することに、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

準備学習(復習)

教科書の該当箇所を必ず一読すること。
授業ノートをまとめること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

皆川 美恵子, 武田 京子『新版 児童文化』(ななみ書房)【978-4903355436】

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200210

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

「(大人が) 子どもの目線に立つ」と言われる。このとき〈子ども〉はどのようにあらわれてくるだろうか。多様な〈子ども〉を自身に感じて確認し、今・ここを生きる子どもを理解するときのセンスをみがいていくことを、学びの意義とする。| 遊ぶことの協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感受し、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

(2) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。| フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。|

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもの生活と文化
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究 (1) ジャンケン
05. 遊び研究 (2) 呼びかける・つながる
06. 遊び研究 (3) とばす
07. 遊び研究 (4) まわる
08. 遊び研究 (5) はじく
09. 遊び研究 (6) ころがす
10. 遊び研究 (7) 囲む
11. 遊び研究 (8) 追いかける
12. 遊び研究 (9) 触れる
13. 遊び研究 (10) 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習(予習)

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習(復習)

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) レポート | 80% | 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% | |
| (3) 期末レポート | 10% | |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）【978-4893470744】

参考書

加古里子『伝承遊び考』小峰書店

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C200215

学部教育の関連目

【C】 児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】 保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

「(大人が) 子どもの目線に立つ」と言われる。このとき〈子ども〉はどのようにあらわれてくるだろうか。多様な〈子ども〉を自身に感じて確認し、今・ここを生きる子どもを理解するときのセンスをみがいていくことを、学びの意義とする。| 遊ぶことの協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感受し、その学びの過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

(2) 内容

私たちは、しあわせな生き方を子どもとともに生きて育てていきたいと望んでいる。では、私たちが子どもの生活・文化に関わることの真意はなんだろうか。そこで、遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。| フレーベルが「遊びは人生の鏡である」と述べたことをふまえて考えてみよう。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起こる親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。|

受講者に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

学びのキーワード

- ・参加と役割
- ・コミュニケーション
- ・あいだをもつ
- ・伝え合う
- ・記録する

授業計画

01. 子どもの生活と文化
02. 伝承遊びの特質
03. 遊びと子どもの権利
04. 遊び研究 (1) ジャンケン
05. 遊び研究 (2) 呼びかける・つながる
06. 遊び研究 (3) とばす
07. 遊び研究 (4) まわる
08. 遊び研究 (5) はじく
09. 遊び研究 (6) ころがす
10. 遊び研究 (7) 囲む
11. 遊び研究 (8) 追いかける
12. 遊び研究 (9) 触れる
13. 遊び研究 (10) 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

準備学習(予習)

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

準備学習(復習)

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) レポート | 80% | 6点×11回 7点×2回 |
| (2) 研究成果発表 | 10% | |
| (3) 期末レポート | 10% | |

各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

教科書

小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび』(萌文書林)【978-4893470744】

参考書

加古里子『伝承遊び考』小峰書店

担当教員：徳井 千里

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C300425

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとりの子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもの生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかで豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちと関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。

(2) 内容

乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要とされる考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。

受講者に対する要望

教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。

学びのキーワード

- ・子どもの発達
- ・子育て支援
- ・発達臨床

授業計画

01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために
02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？
03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち
04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力
05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち
06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる
07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ
08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること
09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ
10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心
11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯
12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する
13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を
14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実
15. まとめ・理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

準備学習(復習)

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくことよ。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|--|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への積極的参加(質問・発言)の有無や、プレゼンテーションの相互評価を重視します。 |
| (2) ミニテスト・提出物 | 20% | ミニテストは予習の確認として毎回の講義のなかで実施します。正誤よりも、自分で考えて積極的に回答することを期待します。 |
| (3) レポート | 20% | 関心、疑問事項をもち、それらの疑問にコメントして質問し、授業内で議論します。それをもとに、自分の考えをまとめて発表することを目指します。 |
| (4) 中間・期末テスト | 40% | テストは採点のうえ返却し、模範解答の提示と解説を行います。 |

レポート・課題の未提出は大幅に減点します。

教科書

本郷一夫(編著) 第2版 『保育の心理学1・2(シードブック)』(建帛社)【978-4767950358】

参考書

担当教員：徳井 千里

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1C300430

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。標準的な発達の枠組みとそれを越えて多様に広がる可能性を知ることにより、ひとりの子どもに面したときに、その子どもの心情やパーソナリティ、人との関係性や情緒的な安定性、発達の様相などを多次元にきめ細かく読み取り、幅広く想定する力が養われる。そこには、それぞれの子どもの生活している家庭や社会、時代や文化などの背景を、自身の経験や価値観を越えて理解する力も求められる。そのうえで、人生の中でもっとも劇的な変化をとげる時期の子どもたちが、健やかで豊かな成長を遂げるために、保育士や教師がどのような環境や経験を準備し、いかにして子どもたちと関わり、発達を支援するかということについて主体的に考え、知識や経験、人間理解の視点を自分自身で獲得していく力を身につけていきたい。本講ではレポートやミニテストを課すが、そうした課題に取り組む経験を通じて、知る、経験する、学ぶ、考える、というような発達に関わる重要なプロセスを自身で体験し、子どもの学びについての理解を深めてもらいたい。

(2) 内容

乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようになることが期待される。そして、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要とされる考え方や視点、人間観を身につける。そこには、様々な心理的な課題や心的特性、多様な発達に関わる臨床心理や発達臨床の知見も包括されるものである。さらに、貧困や養育困難、虐待など、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、多様性を増す家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。そのうえで、レポートやトピック発表等の課題を通じて、子どもの発達に関わる問題を、適正な情報に基づいて主体的に調査・検討し、自身の考察を論述・表現する力を身に付けることをめざす。

受講者に対する要望

教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。

学びのキーワード

- ・子どもの発達
- ・子育て支援
- ・発達臨床

授業計画

01. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために
02. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？
03. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち
04. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力
05. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち
06. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる
07. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ
08. 児童期の子ども ～小学生が経験すること
09. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ
10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりのなかで育つ心
11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯
12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する
13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を
14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実
15. まとめ・理解度の確認

準備学習(予習)

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

準備学習(復習)

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくことよ。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 20% | 授業への積極的参加(質問・発言)の有無や、プレゼンテーションの相互評価を参照します。 |
| (2) ミニテスト・提出物 | 20% | ミニテストは予習の確認として毎回の講義のなかで実施します。正誤よりも、自分で考えて積極的に回答することを期待します。 |
| (3) レポート | 20% | 関心、疑問事項をもち、それらの疑問にコメントして質問し、授業内で議論します。それをもとに、自分の考えをまとめることを行います。 |
| (4) 中間・期末テスト | 40% | テストは採点のうえ返却し、模範解答の提示と解説を行います。 |

レポート・課題の未提出は大幅に減点します。

教科書

本郷一夫(編著) 第2版 『保育の心理学1・2(シードブック)』(建帛社)【978-4767950358】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C301135

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける|【D】中・高等学校教諭一種免許状(教職に関わる科目)

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目|【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育相談における基本的な態度としてのカウンセリングマインドを身につけることを目標とする。また教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

(2) 内容

教育相談及びカウンセリングや精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。適応上の諸問題についてはグループでの調査、発表、及びそれに基づいた話し合いを行い、その結果について小レポートの提出を求める。またカウンセリングについては、応答練習やロールプレイを行い、その結果について同様に小レポートの提出を求める。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談とカウンセリングマインド
02. カウンセリングの基礎
03. カウンセリングの考え方—来談者中心療法
04. カウンセリングの考え方—認知療法
05. カウンセリングの考え方—交流分析
06. カウンセリングの考え方—解決志向短期療法
07. カウンセリングの考え方—行動療法
08. こどもの理解—個性の把握
09. こどもの理解—箱庭
10. こどもの理解—描画
11. こどもの精神障害
12. こどもの不適応
13. こどもの問題行動
14. 学校カウンセリング
15. 総括(フィードバックを含む)

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、それについてあらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業でおこなった課題等について自らふりかえり、授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C301140

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける|【D】中・高等学校教諭一種免許状(教職に関わる科目)

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目|【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育相談における基本的な態度としてのカウンセリングマインドを身につけることを目標とする。また教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

(2) 内容

教育相談及びカウンセリングや精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。適応上の諸問題についてはグループでの調査、発表、及びそれに基づいた話し合いを行い、その結果について小レポートの提出を求める。またカウンセリングについては、応答練習やロールプレイを行い、その結果について同様に小レポートの提出を求める。

受講者に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・心理療法
- ・自己理解

授業計画

01. 教育相談とカウンセリングマインド
02. カウンセリングの基礎
03. カウンセリングの考え方—来談者中心療法
04. カウンセリングの考え方—認知療法
05. カウンセリングの考え方—交流分析
06. カウンセリングの考え方—解決志向短期療法
07. カウンセリングの考え方—行動療法
08. こどもの理解—個性の把握
09. こどもの理解—箱庭
10. こどもの理解—描画
11. こどもの精神障害
12. こどもの不適応
13. こどもの問題行動
14. 学校カウンセリング
15. 総括(フィードバックを含む)

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、それについてあらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業でおこなった課題等について自らふりかえり、授業の内容について、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C301205

学部教育の関連目

【G】子どもの発達・心理についての知識を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目） | 【R】人と社会の理解・人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【G】小学校教諭一種：必修科目 | 【G】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【G】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

(2) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。またグループでの発表、話し合いも行う。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 行動変容としての学習の基礎
06. 行動変容としての学習の応用
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 乳幼児の有能さ
11. 認知発達と学習
12. パーソナリティと社会性の発達
13. 特別な支援の必要な子ども
14. 個人差の測定と評価
15. 総括（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、あらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業での課題、発表の内容について自ら整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学第4版』（有斐閣）【978-4641220591】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C301215

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目） | 【E】人と社会の理解・人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【F】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

(2) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。またグループでの発表、話し合いも行う。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 行動変容としての学習の基礎
06. 行動変容としての学習の応用
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 乳幼児の有能さ
11. 認知発達と学習
12. パーソナリティと社会性の発達
13. 特別な支援の必要な子ども
14. 個人差の測定と評価
15. 総括（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、あらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業での課題、発表の内容について自ら整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学第4版』（有斐閣）【978-4641220591】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C301320

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学びの意義と目標 | 教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目標とする。

(2) 内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

受講者に対する要望

あらかじめ問題を課すので、積極的に調べて、授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習
- ・発達

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の理論
03. 記憶
04. 学習法
05. 動機づけ
06. 教授学習
07. 発達の原理
08. 発達段階
09. 初期学習
10. 人格
11. 適応
12. 精神衛生
13. 知能
14. 教育評価
15. 総括

準備学習(予習)

予め配布する資料について調べておく。

準備学習(復習)

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と発表 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C401400

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育に関する様々な議論は、現代に特有な課題を取りあげているように見えるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。
| 複雑にみえる教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとらわれることなく、ときには概念くだきも行いながら、自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。|

(2) 内容

人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たち自身の生き方への問いであるといえる。| この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。

受講者に対する要望

全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。

学びのキーワード

- ・教育の関係論
- ・ライフサイクルと発達観
- ・教育における感性と理性
- ・学びと教えにおける媒介
- ・協同的な学びの可能性

授業計画

01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界
02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界
03. ライフサイクル論と発達観
04. イニシエーションと異校種間連携
05. 「教え」の関係構造（1）積極性
06. 「教え」の関係構造（2）消極性
07. 教育主体と学習主体
08. 観察というまなざし
09. 「子どもの理性」について
10. 直観教授について
11. 教材の意義
12. 学校の時間の特性
13. 学習集団と競争意識
14. 個人的な学びと協同的な学び
15. 教育の可能性

準備学習(予習)

教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。

準備学習(復習)

ノートの整理をして、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 75% | 各回5点×15回 |
| (2) 期末課題 | 15% | 初回に出題する。 |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求められることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。

教科書

広岡義之『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）【978-4623063413】

参考書

担当教員：寺崎 恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1C401405

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育に関する様々な議論は、現代に特有な課題を取りあげているように見えるが、実は、教育という人間としての生き方の歴史に深く根差している。その根をたどって課題の内実を理解することを、学びの意義とする。
| 複雑にみえる教育論議を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培う。小手先の方法論にとられることなく、ときには概念くだきも行いながら、自らの教育観を勇気をもって自由に育てていくことを、学びの目標とする。|

(2) 内容

人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たち自身の生き方への問いであるといえる。| この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。

受講者に対する要望

全ての回を通じて、受講生が各自で、学びの意義と目標を確認することになるだろう。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。

学びのキーワード

- ・教育の関係論
- ・ライフサイクルと発達観
- ・教育における感性と理性
- ・学びと教えにおける媒介
- ・協同的な学びの可能性

授業計画

01. 教育の原義（1）〈教〉の生活世界
02. 教育の原義（2）〈育〉の生活世界
03. ライフサイクル論と発達観
04. イニシエーションと異校種間連携
05. 「教え」の関係構造（1）積極性
06. 「教え」の関係構造（2）消極性
07. 教育主体と学習主体
08. 観察というまなざし
09. 「子どもの理性」について
10. 直観教授について
11. 教材の意義
12. 学校の時間の特性
13. 学習集団と競争意識
14. 個人的な学びと協同的な学び
15. 教育の可能性

準備学習(予習)

教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。

準備学習(復習)

ノートの整理をして学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|----------|
| (1) 小レポート | 75% | 各回5点×15回 |
| (2) 期末課題 | 15% | 初回に出題する。 |
| (3) ノート | 10% | |

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求められることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。

教科書

広岡義之『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）【978-4623063413】

参考書

担当教員：御手洗 明佳

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C401530

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、社会学的な「ものの見方」を身につけることにより、教員なるための素養を身につけます。そのため、授業の学修を通じて、以下のことができるようになることを目標とします。

| 1) 客観的なデータ・情報の比較や分析から、教育に関連するさまざまな事象について多面的な考察をおこない、深い理解を示すことができる。

| 2) 自分が興味をもった教育事象について、客観的なデータに基づき意見を表明することができる。

(2) 内容

いじめ、不登校、子どもの貧困、家庭のしつけや就学前教育…、私たちの周りには解決が求められる教育問題が溢れています。こうした問題を解決するにはどうしたら良いのでしょうか。教育社会学では、「良い教育とは何か」という規範を学ぶのではなく、「実際の教育とはどのようなのか」という実態の解明を目指します。教育事象そのものを客観的に把握することにより、問題の本質に迫ろうというわけです。この授業では、教育事象を捉える視点を養うことを目的とし、それを通じて私たちが当たり前と思っている教育事象について、いま一度立ち止まり、クリティカル《批判的》に考え直すことを促します。

受講者に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 家族・家庭
- ・ 学歴
- ・ 少年非行
- ・ 貧困

授業計画

01. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
02. 教育の社会的機能（1）社会化概念とその機能
03. 教育の社会的機能（2）配分と正当化
04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か
05. 学歴と階層移動（2）エリート教育
06. 逸脱行為（1）逸脱の理論
07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に）
08. 家族と教育（1）家族とはなにか
09. 家族と教育（2）戦前から戦後へ
10. 家族と教育（3）教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの生活
12. 貧困と子どもの教育
13. 教育問題を考える（1）教育環境格差
14. 教育問題を考える（2）インクルーシブ教育システム
15. 第1回～第14回講義のまとめ

準備学習(予習)

各テーマで2, 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備学習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------|
| (1) 通常の学習活動 | 40% | 出席、授業中の作業など |
| (2) レポート | 30% | 授業中に説明する1本のレポート |
| (3) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

担当教員：御手洗 明佳

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C401535

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、社会学的な「ものの見方」を身につけることにより、教員なるための素養を身につけます。そのため、授業の学修を通じて、以下のことができるようになることを目標とします。

| 1) 客観的なデータ・情報の比較や分析から、教育に関連するさまざまな事象について多面的な考察をおこない、深い理解を示すことができる。

| 2) 自分が興味をもった教育事象について、客観的なデータに基づく意見を表明することができる。

(2) 内容

いじめ、不登校、子どもの貧困、家庭のしつけや就学前教育…、私たちの周りには解決が求められる教育問題が溢れています。こうした問題を解決するにはどうしたら良いのでしょうか。教育社会学では、「良い教育とは何か」という規範を学ぶのではなく、「実際の教育とはどのようなのか」という実態の解明を目指します。教育事象そのものを客観的に把握することにより、問題の本質に迫ろうというわけです。この授業では、教育事象を捉える視点を養うことを目的とし、それを通じて私たちが当たり前と思っている教育事象について、いま一度立ち止まり、クリティカル《批判的》に考え直すことを促します。

受講者に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 家族・家庭
- ・ 学歴
- ・ 少年非行
- ・ 貧困

授業計画

01. オリエンテーション（教育社会学とはどのような学問か）
02. 教育の社会的機能（1）社会化概念とその機能
03. 教育の社会的機能（2）配分と正当化
04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か
05. 学歴と階層移動（2）エリート教育
06. 逸脱行為（1）逸脱の理論
07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に）
08. 家族と教育（1）家族とはなにか
09. 家族と教育（2）戦前から戦後へ
10. 家族と教育（3）教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの生活
12. 貧困と子どもの教育
13. 教育問題を考える（1）教育環境格差
14. 教育問題を考える（2）インクルーシブ教育システム
15. 第1回～第14回講義のまとめ

準備学習(予習)

各テーマで2, 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備学習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------|
| (1) 通常の学習活動 | 40% | 出席、授業中の作業など |
| (2) レポート | 30% | 授業中に説明する1本のレポート |
| (3) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

担当教員：松本 祐子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630100

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教諭に関する科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

絵本、児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。

(2) 内容

幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容の三つの領域「言葉」「人間関係」「表現」を踏まえて、幼児の読書活動に関わる保育者として、言葉を通して人間関係を育む幼児期の読書の意味を考える。テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、様々な角度から保育者・教員として必要な言葉の基礎力を身につける。

受講者に対する要望

この授業は、保育士・幼免の選択科目である。

学びのキーワード

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針
- ・保育内容の領域「言葉」「人間関係」「表現」
- ・日本の神話
- ・日本の昔話とヨーロッパの昔話
- ・ブックトーク

授業計画

01. 授業説明：子どもとは？ 大人とは？
02. 子どものままでいたい？ 『ピーター・パン』と『くまのプーさん』
03. 幼児の読書体験と大人の果たす役割：「言葉」「人間関係」「表現」
04. ブックトークとは：小人たちの物語
05. 絵本、児童文学に出てくるお菓子
06. 死ぬってどういうこと？ 『夏の庭』『ずっとずっとだいすきだよ』
07. 子どもと相棒：『こんとあき』
08. 日本の神話：「いざなぎといざなみ」
09. 日本の神話：「いなばの白うさぎ」と『エルマーの冒険』
10. 日本の昔話
11. ヨーロッパの昔話
12. ブックトークの効果的な方法
13. 子どもの年齢と読書
14. テーマと読書
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時に指示する作文課題は必ず提出すること。ブックトーク発表のための作品選び、構想作り、シナリオ作り、グループ練習など、じゅうぶん準備をしておくこと。

準備学習(復習)

授業で扱った作品を読んでおくこと。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) ブックトーク発表 | 20% |
| (3) ブックトークのレポート | 10% |
| (4) 宿題提出と授業内の小レポート | 20% |

教科書

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630210

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。

(2) 内容

小学校社会科の目標や各学年の学習内容・指導事例研究を中心に上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても研究する。

受講者に対する要望

教師を目指す自覚をもって積極的に学び、資質・能力の基礎を向上させていく努力を望む。

学びのキーワード

- ・ 小学校社会科
- ・ 社会科教育の歩み
- ・ 社会科の目標
- ・ 社会科の学習内容と研究
- ・ 社会科指導の基礎と課題

授業計画

01. 授業計画及び「社会科」について
02. 社会科教育の歩み（1）：小学校社会科の歴史
03. 社会科教育の歩み（2）：社会科学習指導要領・学力観の変遷
04. 学習指導要領と社会科
05. 社会科の目標について：教科目標・各学年目標と研究
06. 社会科の学習内容<3・4年（1）身近な地域や市（2）地域の人々の生産や販売>と指導事例研究
07. 社会科の学習内容<3・4年（3）飲料水の確保や廃棄物の処理（4）災害や事故の防止>と指導事例研究
08. 社会科の学習内容<3・4年（5）地域の人々の生活、先人の働き（6）県の様子>と指導事例研究
09. 社会科の学習内容<5年（1）国土の自然（2）我が国の農業>と指導事例研究
10. 社会科の学習内容<5年（3）我が国の工業生産（4）情報産業>と指導事例研究
11. 社会科の学習内容<6年（1）我が国の歴史>と指導事例研究
12. 社会科の学習内容<6年（2）我が国の政治の働き（3）世界の中の日本の役割>と指導事例研究
13. 社会科指導の基礎と課題研究（1）：各種資料・地図・地球儀の活用
14. 社会科指導の基礎と課題研究（2）：小・中学校の社会科の関連
15. まとめ

準備学習(予習)

教育全般、社会科教育に関する情報を集め、「新聞を読んで」のレポート提出及び発表の準備をしておくこと。

準備学習(復習)

「新聞を読んで」の発表から、教育全般及び社会科授業に参考になる事柄について、「社会」授業内容との関連を確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) レポート | 15% |
| (3) 理解度の確認 | 50% |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編(平成27年10月)』（東洋館出版社）【978-4491031606】

参考書

担当教員：齋藤 範雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630315

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。

(2) 内容

小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。| 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。

受講者に対する要望

児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。

学びのキーワード

- ・ 学習指導要領
- ・ 児童の成長と各領域における概念形成
- ・ 教材の理解と研究

授業計画

01. オリエンテーション、算数教育の変遷
02. 算数教育と法規及び学習指導要領
03. 数概念の形成とその指導（数）
04. 数概念の形成とその指導（加法・減法）
05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法）
06. 量概念の形成とその指導（長さ）
07. 量概念の形成とその指導（面積） 他
08. 図形概念の形成とその指導（図形の観察と構成）
09. 図形概念の形成とその指導（平面図形と論理）
10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の見取り図・展開図）
11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現）
12. 関数概念の形成とその指導（比例・反比例）
13. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理 場合の数）
14. 問題解決学習と和算
15. まとめ

準備学習(予習)

授業前に、教科書を読み、内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習内容について確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業への参加態度や意欲 | 30% |
| (2) 確認テスト、レポート等の提出物 | 30% |
| (3) 期末テスト | 40% |

毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）【978-4491023731】

参考書

担当教員：齋藤 範雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630320

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。

(2) 内容

小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。| 教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究する。

受講者に対する要望

児童の「理解の様相や発達段階」を踏まえて、算数科の「指導、実践にあたる」という意味を理解すること。

学びのキーワード

- ・ 学習指導要領
- ・ 児童の成長と各領域における概念形成
- ・ 教材の理解と研究

授業計画

01. オリエンテーション、算数教育の変遷
02. 算数教育と法規及び学習指導要領
03. 数概念の形成とその指導（数）
04. 数概念の形成とその指導（加法・減法）
05. 数概念の形成とその指導（乗法・除法）
06. 量概念の形成とその指導（長さ）
07. 量概念の形成とその指導（面積） 他
08. 図形概念の形成とその指導（図形の観察と構成）
09. 図形概念の形成とその指導（平面図形と論理）
10. 図形概念の形成とその指導（立体図形の見取り図・展開図）
11. 関数概念の形成とその指導（関数の考えとその表現）
12. 関数概念の形成とその指導（比例・反比例）
13. 確率・統計概念の形成とその指導（資料の整理 場合の数）
14. 問題解決学習と和算
15. まとめ

準備学習(予習)

授業前に、教科書を読み、内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習内容について確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業への参加態度や意欲 | 30% |
| (2) 確認テスト、レポート等の提出物 | 30% |
| (3) 期末テスト | 40% |

毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）【978-4491023731】

参考書

担当教員：丸山 綱男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630425

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

理科において基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味を持つ。本授業では、受講生自身が知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察、実験を行って学習内容を実生活と関連付けて科学的な見方や考え方を養うことを重視する。理科のA・B区分の特徴を把握し、理科教材や理科授業についての見識を深め、何より受講生自身が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようにする。|また、理科として現代社会における環境問題にもふれ、理科を通して人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。|

(2) 内容

本授業では、2020年度から実施される新学習指導要領を参照しながら、小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。自然の対象の特性や児童の構築する見方や考え方に基づく「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の違いを認識した上で、児童の興味・関心や新たな知的探求心をどのように高めるべきか、理科が配当されている学年の観察・実験を体験する。また、実験器具の基本操作を正しく習得し、安心・安全な理科指導を身につけ事故防止を図る。

受講者に対する要望

・小学校の理科指導に必要な基本的な技能と心構えを学ぶこと。
・子どもを理科好きにするための自然事象へのかかわり方を学ぶこと。

学びのキーワード

- ・小学校理科の目標（新学習指導要領）
- ・学習内容A・B区分（新学習指導要領）
- ・観察・実験の体験
- ・事故防止

授業計画

01. オリエンテーション 小学校理科の概要
02. 小学校理科の目標について（新学習指導要領）
03. 小学校理科の学習内容（「A物質・エネルギー」「B生命・地球」：新学習指導要領）
04. 小学校理科観察・実験の安全指導・事故防止について
05. 小学校第3学年理科の観察・実験1（電気の通り道）
06. 小学校第3学年理科の観察・実験2（ゴムのはたらき）
07. 小学校第4学年理科の観察・実験1（月と星）
08. 小学校第4学年理科の観察・実験2（水と温度）
09. 理科授業展開における観察・実験
10. 小学校第5学年理科の観察・実験1（植物の発芽、成長）
11. 小学校第5学年理科の観察・実験2（電流の働き）
12. 小学校第6学年理科の観察・実験1（燃焼の仕組み）
13. 小学校第6学年理科の観察・実験2（人の体のつくりと働き）
14. 小学校第6学年理科の観察・実験3（水溶液の性質）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業終了時に次時の課題を通知するので、2020年度実施される新学習指導要領の目標と内容を何度も読み返して、課題の見通しをもって授業に臨むこと。

準備学習(復習)

児童の発達段階を念頭に入れた観察・実験や科学的な見方や考え方が体験できたのかをレポート作成を通して問い直し、論理的に整理することを積み重ねること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 40% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

適宜資料を配布します。|

参考書

担当教員：市村 和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630530

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解するとともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。

(2) 内容

小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。

受講者に対する要望

学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。

学びのキーワード

- ・具体的な活動や体験
- ・子どもの思いや願い
- ・気付き
- ・幼保小の連携

授業計画

01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨
02. 生活科の目標について
03. 生活科の内容について
04. 生活科の指導計画について
05. 生活科の学習指導について
06. 事例研究（「探検」の授業）
07. 探検活動1（学校探検）
08. 探検活動2（学校マップ作り）
09. 探検活動のまとめ、情報交換
10. 事例研究（「ものの製作」の授業）
11. 製作活動1（おもちゃ作り）
12. 製作活動2（おもちゃの紹介）
13. 生活科の教材開発、環境構成について
14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について
15. 生活科教育のまとめ

準備学習(予習)

次時の予告内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート、作品等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

担当教員：市村 和子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10630535

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：選択科目

(1) 学びの意義と目標

生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解するとともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。

(2) 内容

小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をとおして学ぶ。

受講者に対する要望

学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。

学びのキーワード

- ・ 具体的な活動や体験
- ・ 子どもの思いや願い
- ・ 気付き
- ・ 幼保小の連携

授業計画

01. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨
02. 生活科の目標について
03. 生活科の内容について
04. 生活科の指導計画について
05. 生活科の学習指導について
06. 事例研究（「ものの製作」の授業）
07. 製作活動1（おもちゃ作り）
08. 製作活動2（おもちゃの紹介）
09. 事例研究（「探検」の授業）
10. 探検活動1（学校探検）
11. 探検活動2（学校マップ作り）
12. 探検活動のまとめ、情報交換
13. 生活科の教材開発、環境構成について
14. 幼稚園・保育所等と小学校の連携について
15. 生活科教育のまとめ

準備学習(予習)

次時の予告内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート、作品等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

担当教員：馬場 由子、広瀬 歩美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：2

授業コード：10630640

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

日常の生活を見つめ直し、家庭科の学びを通して未来を担う自立した生活者を育てることを目指す。調理や裁縫を生活者に必要な技や知恵として評価し直し、かしこい消費者として「選ぶ目」と「作る手」を育てるため、炊飯実習と針刺し制作を行う。

(2) 内容

自分の生活と持続可能な地球環境の関わりを考える学習を通し、生活者としての自覚と判断力、実践力を育てる。持続可能な地球環境の視点を取り入れた「サステナブルクッキング」等の授業実践も紹介する。主体的に判断し、行動できる生活者を育てる授業実践を基に、実習や模擬授業も行う。

受講者に対する要望

指導要領と教科書の精読。授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集し、引き出しを増やす。家庭科を通して子ども達に伝えたいことを考える。

学びのキーワード

- ・自分の理念をもつ
- ・家庭科で育てたい力を考える
- ・子どもと共に学びをつくる
- ・学びの意味を考える
- ・持続可能な地球環境の視点をもつ

授業計画

01. 学習指導要領の内容と学習活動
02. 教科書に出てくる学習活動と学び方
03. 生きる力を育てる学習活動の工夫
04. なぜ衣服を着るのだろう
05. 裁縫実習（針刺し制作）
06. 展覧会（仲間からの学び）
07. なぜ食べるのだろう
08. サステナブルクッキング
09. 調理実習（ご飯炊き）
10. 家庭とは・家族とは
11. サステナブルライフ
12. 表示を読んでみよう
13. これからの生活に必要な視点
14. オリジナル題材発表会
15. まとめと期末定期試験

準備学習(予習)

・指導要領と家庭科の教科書を精読し、特徴をつかんでおく。
・家庭科で育てたい力を日々の生活の中で探しておく。
・裁縫用具、調理実習用エプロンと三角巾を準備しておく。

準備学習(復習)

・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオ作成すること。
・講義で出された課題は次週に提出すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 15% |
| (2) リアクションペーパー | 30% |
| (3) 提出物 | 15% |
| (4) 模擬授業 | 20% |
| (5) 試験 | 20% |

毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。生活レポート（B4用紙1枚）を書き、1人1回発表予定。

教科書

『新しい家庭科5・6』（東京書籍）|『小学校5・6年わたしたちの家庭科』（開隆堂）【978-4304080128】|馬場 由子2017年版新版『家庭科ワークシート・身近な消費生活と環境（教師用）』（地域教材社）【-】|文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成20年版）』（東洋館出版社）【978-4491023748】

参考書

担当教員：久保田 翠、渋谷 みどり、塚原 晴美、山田 裕治、池上 真理子、阪 まどか

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633725

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種：必修科目 | 【C】 幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】 保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要な基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け・音部記号と譜表
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音名と変化記号
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音符と休符
04. ピアノ演奏の基礎(3)・拍子
05. ピアノ演奏の基礎(4)・様々なリズム
06. ピアノ演奏の実践(1)・反復記号と発想記号
07. ピアノ演奏の実践(2)・これまでの復習
08. ピアノ演奏の実践(3)・音程
09. ピアノ演奏の実践(4)・長音階
10. ピアノ演奏の実践(5)・短音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・関係調
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・三和音とカデンツ
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・コードネーム
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・発想記号
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

授業時にプリントを配布

参考書

担当教員：久保田 翠、渋谷 みどり、塚原 晴美、山田 裕治、池上 真理子、阪 まどか

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633730

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

(2) 内容

小学校、幼稚園、保育所などでの音楽表現活動に必要な基本的な知識とピアノの演奏技術を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

受講者に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにして欲しい

学びのキーワード

- ・スキルを身につける自覚を持つ
- ・疑問点をわからないままにしない
- ・ピアノは繰り返し練習

授業計画

01. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け・音部記号と譜表
02. ピアノ演奏の基礎(1)・音名と変化記号
03. ピアノ演奏の基礎(2)・音符と休符
04. ピアノ演奏の基礎(3)・拍子
05. ピアノ演奏の基礎(4)・様々なリズム
06. ピアノ演奏の実践(1)・反復記号
07. ピアノ演奏の実践(2)・これまでの復習
08. ピアノ演奏の実践(3)・音程
09. ピアノ演奏の実践(4)・長音階
10. ピアノ演奏の実践(5)・短音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・関係調
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・三和音とカデンツ
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・コードネーム
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・発想記号
15. 総括

準備学習(予習)

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って予習する
2. 次回のレッスン曲の練習

準備学習(復習)

1. 配布プリントによる講義内容の復習
2. レッスン曲の練習

評価方法

- | | |
|-----------|----------|
| (1) ピアノ実技 | 50% |
| (2) 期末試験 | 30% |
| (3) 平常点 | 20% 課題提出 |

教科書

授業時にプリントを配布

参考書

担当教員：井口 太

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633845

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

(2) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとしていけないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入と幼児への実践の紹介
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太『新・幼児の音楽教育—幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導』(朝日出版社)【978-4255155562】

参考書

担当教員：井口 太

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10633850

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児や児童の音楽指導では表現に対する楽しさを味わい、創造性を豊かに育むことが重要であると考えます。そのため、受講者が音・音楽を感じ取って、創り出すことに大きな意味があると考えています。幼稚園教育要領、保育所保育指針や学習指導要領の基本的な理解と結びつけながら、指導に必要なポイントにも触れていきたいと予定しています。

(2) 内容

幼児保育並びに小学校の音楽指導に必要な基礎技能と知識を育成します。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解していきます。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を用意しています。中でも、カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みたいと考えます。

受講者に対する要望

授業で紹介する情報を各自が実行して身につけていくことを期待します。特に楽器の操作などはこれなしには自分のものとしていけないと思います。努力を求めます。

学びのキーワード

- ・ 幼児・児童の理解
- ・ 図形楽譜による表現
- ・ 創造的な音楽表現と指導
- ・ コードネームの理解と伴奏の工夫
- ・ 幼児期の発達と表現

授業計画

01. リズム読みの基本と即興的表現の指導
02. ハンドサインと階名唱／歌唱教材の紹介
03. 身体楽器の活用とリズム表現
04. コードネームの概要／I-Vの伴奏と鍵盤遊び
05. 図形楽譜の紹介と音作りのグループ表現
06. 絵本への効果音作りを工夫
07. わらべうたの分類と音階理論
08. ギターの導入と幼児への実践の紹介
09. 歌唱教材の研究①：年少幼児の教材を中心に
10. ギターの基礎と幼児の合奏教材の紹介
11. 日本の昔話と音楽作り
12. 幼児の合奏指導教材の検討
13. 歌唱教材の研究②：幼小連携教材を中心に
14. 小学校での創造的音楽表現の事例
15. 講義内容の振り返りとまとめ

準備学習(予習)

次回の予定と関連する教科書のページに目を通すようにしてほしい。

準備学習(復習)

紹介した内容を基に、自分の表現技能などを磨いてほしい。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ノートの評価 | 20% |
| (2) 活動への取り組み | 80% |

* 毎回の出席が重要です。熱心な取り組みを期待します。

教科書

井口太『新・幼児の音楽教育』（朝日出版社）【978-4255155562】

参考書

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10633965

学部教育の関連目

【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

子どもの好む教師、親の求める教師、教師の考える望ましい教師、校長・行政者の求める望ましい教師を考えながら、教師とは何かを追究することに学びの価値がある。本講義を通して教育活動に従事する魅力に触れ、教師の道を目指そうとする気持ちが確かなものになることを期待する。

(2) 内容

「教育は人にある」といわれる。施設・設備が整備され、すぐれた教材・教具が開発された今日においても、教師の重要性に変わりはない。最近、特に学校での事故や生徒の自殺問題で、世間の教師に対する関心は強いものになっている。本講義では、教師の仕事、役割、教師観や職場としての学校などについて学び、望ましい資質能力とは何かと人権を尊重した教師の姿を考える。

受講者に対する要望

教職志望者が、資質向上を図り、真摯に取り組むことを望む。

学びのキーワード

- ・ 教師の仕事
- ・ 資質能力
- ・ 望ましい教師
- ・ 人権尊重
- ・ 目指す教師像

授業計画

01. オリエンテーション 教師の日常世界
02. 授業をつくる（授業の構成・デザイン）
03. 授業から学ぶ（評価する主体としての教師・ともに学び続ける教師）
04. カリキュラムをデザインする（カリキュラムの概念・学びのビジョンとその実践・学びのデザイン・開発と評価）
05. 子どもを育む（子どもの心に寄り添う・子どもの言葉を受け取る・教師-子ども関係が陥りやすい落とし穴）
06. 生涯を教師として生きる（教育実習から新任の教師へ・教師としてのアイデンティティの模索）
07. 同僚とともに学校を創る（学校での授業の探求・学校における同僚性・教師文化の形成するもの）
08. 教職の専門性（教師に対する国際的認識・教師の養成・成長）
09. 時代の中の教師（日本における教育の風景の展開・戦後の教師像）
10. 教師の仕事とジェンダー（歴史の中の女性教師）
11. 教育改革と教師の未来（転換期の学校・教師の使命・未来への希望）
12. 教師研究へのアプローチ（教師研究との広がり・教師をめざして）
13. プレゼンテーション 「教える職業」から「学びの専門職」への転換について
14. プレゼンテーション 「子どもの学びを促進する教育実践」について
15. 授業の確認とまとめ

準備学習(予習)

テキストの指定ページを読んで授業に臨むこと。新聞から教育関連の記事を1つ選んで、メモをとり意見が言えるようにして授業に臨むこと。

準備学習(復習)

配布プリント及びテキストの学習箇所での復習をする。平日頃から新聞やニュースに目を通し、社会情勢や教育関連の記事に関心を持つ。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 平常点 | 20% | 毎回、リフレクションカードの提出を求める。 |
| (2) プレゼン | 30% | |
| (3) レポート1回 | 20% | |
| (4) 期末テスト | 30% | |

教科書

秋田 喜代美、佐藤 学 改訂版『新しい時代の教職入門 改訂版』（有斐閣）【978-4641220607】

参考書

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10633970

学部教育の関連目

【C】子どもに向き合う者としての倫理観を養う | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 保育者の役割と倫理について理解する。 | (2) 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけを理解する。 | (3) 保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し、理解する。 | (4) 保育者の協働について理解する。 | (5) 保育者の専門職的成長について理解する。 |

(2) 内容

本講義では、保育者の役割と倫理、保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ、保育士・幼稚園教諭の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長について概説する。

受講者に対する要望

毎回の授業で課題・小テストに取り組むことが多くあるため、計画的に丁寧に取り組むこと。 | 出席シート（リアクションペーパー）を丁寧に記入すること。 | グループワークに積極的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ 保育士
- ・ 幼稚園教諭
- ・ 役割
- ・ 専門性
- ・ 協働

授業計画

01. オリエンテーション 保育者の役割1—保育士（3歳以上児）
02. 保育者の役割2—保育士（3歳未満児）
03. 保育者の役割3—幼稚園教諭
04. 保育者の役割4—月間・年間の役割
05. 保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ
06. 保育者の倫理
07. 保育士・幼稚園教諭の専門性1—養護と教育 資質・能力
08. 保育士・幼稚園教諭の専門性2—知識・技術及び判断
09. 保育士・幼稚園教諭の専門性3—保育の省察と自己評価
10. 保育者の協働1—保育と保護者支援にかかわる協働
11. 保育者の協働2—保護者及び地域社会との協働
12. 保育者の協働3—専門職間、専門機関及び家庭的保育者等との連
13. 保育・教育の実践例
14. 保育者の専門職的成長
15. 理解度の確認と振り返り

準備学習(予習)

- ・ 課題に取り組むこと

準備学習(復習)

・ 授業で視聴した事例の分析をすること | 小テストの準備をすること | 返却された出席シート（リアクションペーパー）に修正加筆の指示がある場合には、修正すること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|----------|
| (1) 平常点 | 30% | 出席点ではない。 |
| (2) 課題 | 20% | |
| (3) 小テスト | 20% | |
| (4) 事例レポート | 10% | |
| (5) 最終課題 | 20% | |

毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。 | 小テストの結果は、受講者が確認できるようにし、復習につなげられるようにする。 | また、最終課題のポイントは、最終授業時に解説を行う。

教科書

参考書

厚生労働省 『保育所保育指針』 | 文部科学省 『幼稚園教育要領』

担当教員：鎌原 雅彦

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634100

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

大学4年間の学びと実習・実践を通して学んだことを総合的に学習することを目的とし、幼稚園教諭を目指す上での自己課題を明確にしていく。不足している知識・技能については補完をし、卒業後に幼稚園教諭として従事する上で必要な資質や能力を高めていく。

(2) 内容

大学4年間での幼稚園教職課程の学びを総括し、これまで蓄積してきた「履修カルテ」や実習日誌を基に幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能については補完をしていく。

受講者に対する要望

履修カルテや実習記録を見直し、各自の不足している点は何か、そのためにどのような学びをしたらよいかを各自が見出してほしい。

学びのキーワード

- ・子ども理解
- ・実践力
- ・保育技能
- ・教師としての使命感と責任感

授業計画

01. オリエンテーション（授業の説明、履修カルテから自己分析）
02. 幼稚園教諭としての職務
03. 保護者との対応について
04. 遊びを通じた学びについて
05. 安全管理について
06. 子ども理解について
07. 指導案作成について
08. 模擬保育とグループ討議① 事例
09. 模擬保育とグループ討議② 環境
10. 模擬保育とグループ討議③ 遊び
11. 模擬保育とグループ討議④ 子どもの食
12. 模擬保育とグループ討議⑤ 障害児保育
13. 教師のメンタルヘルス
14. 幼稚園教諭として求められる力
15. まとめ（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

履修カルテや実習記録からの自己課題を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

授業や模擬保育等で指摘されたことをまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 自己課題レポート | 10% |
| (2) 授業内試験 | 20% |
| (3) 模擬保育 | 50% |
| (4) 課題レポート | 20% |

毎回の出席が大前提である。

教科書

参考書

必要に応じプリントを配布する。

担当教員：川瀬 敏行

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634195

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教職課程の集大成として4年生の秋学期に位置付ける。学生が教員になる上で自己の課題を自覚し、不足する知識や技能等の定着を図る演習等を通して資質能力を向上させ、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。

(2) 内容

教職課程における全学年の学びを総括して自己分析し、資質・能力の向上をさらに図り、確かなものにしていくものである。これまで蓄積してきた「履修カルテ」等の記録、学内外学習、活動の経験等を基に培ってきた能力の確認(自己分析)及び不足部分(知識・技能・態度など)を補完し、確実に身に付けていく。そして、教師としての専門性と確かな力量(学習指導力、生徒指導力、学級経営力等)、豊かな人間性や社会性、対人間関係能力等の総合的な人間力などの教員としての資質・能力を確認し、教職に対する強い情熱をもって自己の目指す教師像を明確にしていけるようにする。|※グループ学習・討論、ロールプレイング、実技指導、事例研究、フィールドワーク、教材研究、指導案作成、模擬授業等を取り入れていく。

受講者に対する要望

履修カルテ等の記録から自分の力を総括し、不足している点を補って、望ましい教師を目指して具体的に力をつける努力を望む。

学びのキーワード

- ・教員の資質・能力
- ・教育への情熱と使命感・責任感
- ・教師としての専門性・確かな力量
- ・実践的指導力
- ・総合的な人間力

授業計画

01. 教職実践演習授業計画と履修カルテからの自己分析
02. 教科等の指導力1：授業づくりと実際（教材開発・授業技術）
03. 教科等の指導力2：子どもの絵に見る学校教育・図画工作
04. 教科等の指導力3：学校における食育・学校給食
05. 教科等の指導力4：学校安全と危機管理（安全教育・安全管理・組織活動）
06. 児童生徒理解と学級経営1：学級づくりの方法と実際
07. 児童生徒理解と学級経営2：生徒指導の進め方と実際
08. 児童生徒理解と学級経営3：子どもの心理の理解・学校教育相談
09. 児童生徒理解と学級経営4：特別支援教育
10. 児童生徒理解と学級経営5：子どもの発育・健康管理
11. 社会性や対人関係能力1：教師の一日（役割・実務・教職員の協力）
12. 社会性や対人関係能力2：教師のメンタルヘルス
13. 社会性や対人関係能力3：児童虐待の防止と小学校
14. 社会性や対人関係能力4：保護者・地域・関係機関・異校種間の連携
15. まとめ：教職生活への一歩・よりよい教師へ

準備学習(予習)

前時の課題に対する自分なりの解答・意見・準備等。

準備学習(復習)

指摘された内容事項についての修正

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 演習・協議等への参加度・内容 | 30% |
| (3) 課題レポート | 40% |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634315

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

授業計画

01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本
02. 保育内容と領域の意義について
03. 幼稚園教育要領について
04. 保育所保育指針について |
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について |
06. 保育内容の変遷
07. 乳児の発達と保育内容
08. 幼児の発達と保育内容
09. 指導計画の意義
10. 保育における遊びの意義
11. 保育における子ども理解
12. 保育の多様な展開 (1) 多文化共生と保育内容
13. 保育の多様な展開 (2) 保幼小連携と保育内容
14. 保育者の専門性と社会における保育ニーズ
15. まとめ

(2) 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。

準備学習(予習)

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をよく読むこと。

準備学習(復習)

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

受講者に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

レポート課題等の提出は期限を守ること。

学びのキーワード

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・子どもの発達
- ・領域と保育内容
- ・指導計画

教科書

内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領・保育所保育指針』(チャイルド本社)【978-4805402283】

参考書

担当教員：相川 徳孝

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10634320

学部教育の関連目

【C】保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通して幼稚園と保育所、認定こども園の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

授業計画

01. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の基本
02. 保育内容と領域の意義について
03. 幼稚園教育要領について
04. 保育所保育指針について
05. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について
06. 保育内容の変遷
07. 乳児の発達と保育内容
08. 幼児の発達と保育内容
09. 指導計画の意義
10. 保育における遊びの意義
11. 保育における子ども理解
12. 保育の多様な展開（1）多文化共生と保育内容
13. 保育の多様な展開（2）保幼小連携と保育内容
14. 保育者の専門性と社会における保育ニーズ
15. まとめ

(2) 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。|

準備学習(予習)

幼稚園教育要領と保育所保育指針をよく読むこと。

準備学習(復習)

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

受講者に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

レポート課題等の提出は期限を守ること。

学びのキーワード

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- ・子どもの発達
- ・領域と保育内容
- ・指導計画

教科書

内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 原本』（チャイルド本社）[978-4805402283]

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635130

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校教育では、教職員が協力して適切に教育課程の編成・実施をしていくことによって学校の教育目標の実現が図られている。「教育課程論」は、教員の資格取得及び教職を目指す人にとって基本となるものであり、重要である。教育課程の基本とその中心的な役割を担っていく教員の資質についての理解と向上を目標とする。

(2) 内容

学習指導要領の改訂、教育課程の意義及び編成の方法と実施、各教科等に共通する指導計画・指導案の作成と内容、教師の資質と役割、学級経営の基本、課題等について学ぶ。

受講者に対する要望

積極的な姿勢で学び、教育課程の編成と実施に当たる教師としての資質・向上に努力していくことを望む。

学びのキーワード

- ・教育課程の基本：基準・意義
- ・小学校学習指導要領・生きる力
- ・教育課程の編成及び実施
- ・教育課程の編成の手順と評価
- ・教員に求められる資質・能力

授業計画

01. 教育課程の基本について：基準・意義
02. 学習指導要領の改訂について
03. 学習指導要領改訂の経過と特色について
04. 教育課程に関する法令について
05. 教育課程の編成及び実施について（1）：一般方針、内容等の取扱いに関する共通事項
06. 教育課程の編成及び実施について（2）：授業時数等、指導計画の作成
07. 授業時数等の決定と年間計画表・日課表の作成について
08. 教育課程実施上の配慮事項について
09. 教育課程編成の手順と評価について
10. 各教科等の指導計画の作成と内容の取扱いについて
11. 教育課程の実施と教員に求められる資質・能力（1）：教養審・中教審答申
12. 教育課程の実施と教員に求められる資質・能力（2）：目指す教師像
13. よりよい授業の創造と各教科等に共通する学習指導案の作成
14. 教師の役割、学級経営、地域・保護者との連携について
15. まとめ

準備学習(予習)

前時の学習内容を基に、グループ協議、報告を実施することがある。

準備学習(復習)

授業後、教科書・プリント等で学習内容について確認をしておく。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) レポート | 15% |
| (3) 理解度の確認 | 50% |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合は、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。

教科書

文部科学省、文科省『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館出版社）【978-4491023700】

参考書

担当教員：市村 和子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635235

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校学習指導要領における国語科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「国語科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることも目標とする。

(2) 内容

小学校学習指導要領に照らしながら、国語科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等をとおして授業の進め方を学ぶ。

受講者に対する要望

小学校で習う漢字（1006文字）の読み書きと、書き順については確実に身に付けること。|自らの言語感覚を磨くこと。

学びのキーワード

- ・ 学習指導要領「国語」
- ・ 教材研究
- ・ 指導案作成
- ・ 模擬授業

授業計画

01. オリエンテーション、小学校国語科の意義と特質
02. 国語科の目標及び内容の理解
03. 教材研究、教材分析の方法（文学教材・説明文教材）
04. 教材研究、教材分析の方法（言葉・漢字・作文指導）
05. 事例研究1（文学教材の指導）
06. 事例研究2（説明文教材の指導）
07. 事例研究3（作文指導）
08. 指導計画の作成について
09. 学習指導案の内容、作成の手順
10. 学習指導案の作成
11. 模擬授業1（低学年教材）
12. 模擬授業2（中学年教材）
13. 模擬授業3（高学年教材）
14. 評価について
15. まとめ

準備学習(予習)

次時に扱う教材は必ず読んでおくこと。予告の上適宜テストを実施するので必ず学習して臨むこと。

準備学習(復習)

学習指導要領を繰り返し読むこと。
文字（平仮名、片仮名、漢字）が正しい書き順、字体で書けるように練習すること。

評価方法

- | | |
|----------------|--------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 指導案作成・模擬授業 | 40% |
| (3) 理解度の確認 | 30% レポート、テスト |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

担当教員：川瀬 敏行

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635340

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校において、授業はもっとも重要な教育活動である。教科の一つである社会科授業の実践に結び付く力を身に付けていくことを目標とする。

(2) 内容

専門科目「社会」で学んだことを基に、小学校社会科授業の事例・指導法を研究するとともに、各自が学習指導案の作成、模擬授業の実践をし、小学校の社会科指導について学ぶ。

受講者に対する要望

小学校社会科の授業づくりへの具体的な学びと実践から、教師としての力をつけていく努力を望む。

学びのキーワード

- ・ 小学校学習指導要領と社会科
- ・ 小学校社会科授業研究
- ・ 社会科学習指導案の作成、教材研究
- ・ 社会科指導法と研究
- ・ 社会科模擬授業と研究

授業計画

01. 学習指導要領と小学校社会科
02. 小学校社会科授業の実際と授業研究（1）：第3学年・第4学年
03. 小学校社会科授業の実際と授業研究（2）：第5学年・第6学年
04. 社会科学習指導案作成の基本と事例研究
05. 社会科学習指導案作成のポイントと手順、教材研究の仕方
06. 社会科学習指導案作成の実際と指導法の研究
07. 社会科学習指導案作成の実際と模擬授業計画
08. 社会科模擬授業実践と研究（1）：第3・4学年内容（1）（2）から<わたしたちの市の様子>
09. 社会科模擬授業実践と研究（2）：第3・4学年内容（3）（4）から<住みよいくらし>
10. 社会科模擬授業実践と研究（3）：第3・4学年内容（5）（6）から<地域の先人の働き>
11. 社会科模擬授業実践と研究（4）：第5学年内容（1）（2）から<わたしたちの国土>
12. 社会科模擬授業実践と研究（5）：第5学年内容（3）（4）から<工業生産とわたしたちのくらし>
13. 社会科模擬授業実践と研究（6）：第6学年内容（1）から<日本の歴史>
14. 社会科模擬授業実践と研究（7）：第6学年内容（2）（3）から<わたしたちの生活と政治>
15. まとめ

準備学習(予習)

教材研究をしっかりと行い、社会科学習指導案の作成及び模擬授業の実施に向けた準備をしておく。

準備学習(復習)

模擬授業の実践と研究から、反省点と改善の方向を確認し、授業実践力を高めていけるようにする。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 10% |
| (3) 指導案作成・模擬授業 | 60% |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象となる。上記を基準に総合的に判断します。

教科書

文部科学省、文科省『小学校学習指導要領解説 社会編 7版（2015/10/21）』（東洋館出版社）【978-4491031606】

参考書

担当教員：齋藤 範雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635445

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

算数指導の基礎・基本を理解するとともに、算数・数学を学習する楽しさやよさを感じ、授業実践に結びつけた力を身につける。

(2) 内容

算数科のねらいを明確に捉えるとともに数学を創る立場から算数科の教材を研究する。授業では、問題解決を通して算数数学を使って考える楽しさや算数数学のよさを感じ、学ぶ意欲を高める授業実践のあり方を身につけるようにしたいと考えている。

受講者に対する要望

教材内容だけでなく、教材を通して児童に身につけさせたい数学の見方や考え方を学んでいきます。そのためには、学生自身が自ら問題解決を体験し、その過程で上記の内容と意義をつかんでほしい。積極的な授業参加を期待する。

学びのキーワード

- ・学習指導要領
- ・アクティブ・ラーニングによる教材研究
- ・算数的活動・数学的活動と数学の見方・考え方
- ・模擬授業

授業計画

01. オリエンテーション、算数科教育と法規
02. 算数科教育のねらい（「論理的に考える」とは）
03. 算数科授業の展開と教材研究（数と計算—記数法）
04. 算数科授業の展開と教材研究（数と計算—三角数と四角数）
05. 算数科授業の展開と教材研究（量と測定—面積の求め方）
06. 算数科授業の展開と教材研究（量と測定—速さ）
07. 算数科授業の展開と教材研究（図形—多角形の内角）
08. 算数科授業の展開と教材研究（図形—正多面体）
09. 算数科授業の展開と教材研究（数量関係—関数的な考え方と問題解決）
10. 算数科授業の展開と教材研究（数量関係—問題解決と課題の発展）
11. 算数科授業の展開と教材研究（問題解決学習—数の不思議）
12. 算数科授業の実施に向けて（指導案の作成の基本について）
13. 算数科授業の実施に向けて（教材・教具の作成の仕方について）
14. 算数科授業の実施に向けて（授業とその評価の仕方について）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業前に教科書を読み、内容を理解しておくこと。

準備学習(復習)

授業後、学習内容について確認しておくこと。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業への参加態度や意欲 | 30% |
| (2) レポート、模擬授業等 | 30% |
| (3) 期末テスト | 40% |

毎時間最後に行う「理解度確認のまとめ」のレポートを重視する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）【978-4491023731】

参考書

担当教員：丸山 綱男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635550

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

理科の教材研究を深めて適切な授業設計を立案し、児童の科学的な見方や考え方をいかに伸張できるかが問われる。授業を実施する前には授業過程や学習指導の仕方を設計するための豊富な経験・構想力が必要である。本授業では、児童に理科学習の成立を確実に保障するために、事例演習・実験を通して学習指導案（模擬授業）を作成する。模擬授業を実施し、その効果の検証を通して理科指導力を磨く。理科が好きになりその面白さをいきいきと児童に伝えられる豊かな専門的力量をもち、実践的な指導力を備えた質の高い教員の養成を目標とする。

(2) 内容

学校現場では、多忙感もあってか理科教材セットを一括購入して理科学習を進めるなど、理科指導を苦手とする教員が増える傾向が見られる。そのような課題が指摘される中、児童が自然の事物・現象に感動し、好奇心や興味を持って理科の面白さが実感できる授業はどうあるべきか、事例を通して実体験する。本授業は小学校教員として魅力ある理科授業を展開する指導力を身につけることをめざして実施するものである。そのため講義だけでなく、理科学習指導案の作成とその模擬授業を取り入れて実践力を高める。なお、授業を支える安全面に配慮した理科の教科経営についても学ぶ。

受講者に対する要望

・児童に理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる指導を確立する。
・実験器具の適切な扱いに熟知して、安全な観察・実験に心がける。

学びのキーワード

- ・問題解決学習
- ・身の回りの物
- ・学習指導案
- ・評価
- ・教科経営

授業計画

01. オリエンテーション 新学習指導要領・理科（2020年度実施）のねらい
02. 理科授業における問題解決学習Ⅰ（事象提示）
03. 理科授業の事例演習・実験1（6年）
04. 理科授業の事例演習・実験2（3年）
05. 理科授業における問題解決学習Ⅱ（観察・実験）
06. 理科授業の事例演習・実験3（4年）
07. 理科の授業構想と授業評価の視点
08. 理科学習指導案の作成1
09. 理科学習指導案の作成2
10. 作成した理科学習指導案の相互点検
11. 学習指導案に基づく模擬授業の準備
12. 模擬授業の実践と省察1
13. 模擬授業の実践と省察2
14. 理科の安全を柱とした教科経営
15. まとめ

準備学習(予習)

新学習指導要領・理科（2020年度実施）の目標と内容、系統性、A・B区分の特徴の理解を深め、その趣旨が教科書にどのように表記されているのか分析をする。配布された学習指導案（実践されたもの）を参考として読み込んでおく。

準備学習(復習)

学習指導案の「案」が示す通り、模擬授業を実践した後に検討を加えて問題点を修正加筆し、案が一義的に定義できるようにする。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 指導案作成の参加 | 30% |
| (3) 課題レポート | 30% |
| (4) 試験 | 20% |

教科書

適宜資料を配布します。

参考書

担当教員：市村 和子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635655

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

生活科の学習の特質を理解するとともに、子どもの思いや願いを生かした「生活科の授業づくり」ができる力を身に付ける。また、生活科における子どもの学び、教師の役割等について自分なりの考察ができるようにする。

(2) 内容

授業「生活」で学んだ生活科の目標や内容理解を基に、具体的な授業づくりに取り組む。一人一人が学習指導案作成や教材作成、模擬授業をとおして授業の進め方を実践的に学ぶ。

受講者に対する要望

子どもの学びは、生活に根ざしたものであることを理解し、自らも自分を取り巻く環境に興味・関心をもち、積極的に関わるよう心がけてほしい。

学びのキーワード

- ・子どもの思いや願い
- ・指導案作成
- ・模擬授業
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション、生活科の意義と特質
02. 生活科の目標及び内容
03. 生活科の年間指導計画、単元計画
04. 生活科の学習指導
05. 生活科の評価方法
06. 学校マップの作成
07. 地域マップの作成
08. 学習指導案の内容
09. 学習指導案作成の主な手順、児童の意識の流れ
10. 事例研究1（家庭と生活）
11. 事例研究2（動植物の飼育・栽培）
12. 模擬授業1（「遊び」の授業）
13. 模擬授業2（「ものの製作」の授業）
14. 模擬授業3（「自分自身」の授業）
15. 生活科から総合的な学習の時間へ

準備学習(予習)

学習指導要領をよく読むこと。
模擬授業のための準備をしっかりとやること。

準備学習(復習)

毎回の授業のポイントを整理すること（ノート、プリント等）

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 指導案作成、模擬授業等 | 30% |
| (3) テスト | 40% |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

担当教員：笠井 かほる

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635760

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校学習指導要領の音楽科の目標及び内容を理解し、指導できる能力を身に着ける。|音楽を通して「表現する」楽しさを子どもたちと共有できる授業が行えることを目標とする。

(2) 内容

基本的な音楽理論、歌唱、器楽、鑑賞の指導法を学び、小学校学習指導要領に沿って、小学校各学年の教科書に内容を演習する。|指導案の書き方、模擬授業を行い、評価し合う。

受講者に対する要望

半期で内容が多い授業のため復習、教科書の熟読、共通教材の弾き歌いの練習が必要である。

学びのキーワード

- ・ 小学校学習指導要領
- ・ 歌唱指導法
- ・ 器楽
- ・ 鑑賞
- ・ 指導案作成

授業計画

01. オリエンテーション・小学校音楽の授業のふりかえり
02. 小学校学習指導要領音楽科の目標及び内容の理解
03. 音楽理論・発声法
04. 1年の教科書内容・共通教材の指導法
05. 2年の教科書内容・共通教材の指導法
06. 3年の教科書内容・共通教材の指導法
07. 指導案の作成
08. まとめと確認
09. 鑑賞の各学年の目標と内容
10. 鑑賞教材の指導法
11. 鑑賞教材の指導法
12. 模擬授業4年の共通教材
13. 模擬授業5年の共通教材
14. 模擬授業6年の共通教材
15. 共通教材の演奏・まとめ

準備学習(予習)

教科書を熟読、共通教材を練習しておく

準備学習(復習)

授業に対応した教科書の部分を熟読
共通教材の弾き歌い

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 参加状況 | 15% |
| (2) 平常点 | 10% |
| (3) 中間期末テスト | 55% |
| (4) 指導案作成 | 10% |
| (5) 模擬授業 | 10% |

教科書

初等科音楽教育研究会『初等科音楽教育法〔改訂版〕』（音楽之友社）【978-4276820098】

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635865

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

図画工作の授業を自分で構想し実践できるよう、小学校教育の中で図画工作科が有する意義、造形表現の様々な形態、児童の造形表現の特性、表現技法と材料などについての理解を深める。また、授業者自身が造形表現に親しむことの大切さに気づくようになることも目標としている。

(2) 内容

図画工作科の意義、教育内容、実践の方法を理解できるように、図画工作科の歴史、目標、内容、指導法および評価について概観していく。そのために、主要な美術教育論の紹介、学習指導要領の解説、実践事例の分析を、各種文献資料、子どもたちの作品、授業の映像記録などを用いて行う。さらに、それらによって得られた知見をもとに、模擬授業を計画し実行する。

受講者に対する要望

子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさを実感できるよう、概論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進めるので、図画工作や美術が苦手であった人も不安をもちずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・造形表現
- ・コミュニケーション
- ・授業づくり
- ・学習指導

授業計画

01. 図画工作科の現代の方向性(担当者：柴田・柴崎)
02. 図画工作科・美術教育の歩み(担当者：柴田・柴崎)
03. 学習指導要領について1：A表現(1)造形遊び、A表現(2)絵や立体に表す(担当者：柴田)
04. 学習指導要領について2 B鑑賞(担当者：柴田)
05. 学習指導要領について3 共通事項、言語活動(担当者：柴田)
06. 造形活動の多様性：視覚的タイプと触覚的タイプについて(担当者：柴田)
07. 事例研究1：触覚性を重視した造形(担当者：柴田)
08. 事例研究2：自然と触れ合う造形(担当者：柴田)
09. 事例研究3：絵による感情表現(担当者：柴田)
10. 事例研究4：社会的なコミュニケーションを重視した表現(担当者：柴崎)
11. 事例研究5：鑑賞(担当者：柴崎)(担当者：柴崎)
12. 評価について(担当者：柴崎)
13. 模擬授業1 絵画表現(担当者：柴崎)
14. 模擬授業2 工作表現(担当者：柴崎)
15. まとめ(担当者：柴田・柴崎)

準備学習(予習)

最初に図画工作科の学習指導要領を読んでおくこと。その後は授業で配布する資料に目を通すとともに、必要な材料・用具などを適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと、よかったこと、改善すべきことなどを單元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 提出物 | 50% |
| (2) 模擬授業 | 20% |
| (3) 試験 | 30% |

欠席が4回を越えると評価の対象とはならない

教科書

参考書

担当教員：馬場 由子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10635970

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

指導要領に理念の共有が謳われた生きる力を家庭科は実践的に育むことができる。生きる力には思考力と判断力、それを実行する知恵と技が不可欠。消費者基本法で選択する権利を保障されても、自分で作ることが出来なければ買うしかない。未来の担う自立した生活者として生きる力という車の両輪である選ぶ目と作る手を育てる。

(2) 内容

A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境の指導内容を関連させて学びをつくり、持続可能な地球環境に配慮しながら生活を楽しく豊かにする知恵と技を育てる。自分の考えや判断を生かして主体的に生きるための作る手を育てるとともに、実践力育成のための題材開発や模擬授業も行う。

受講者に対する要望

授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集して引き出しを増やす。日常生活の中で知恵と技を磨き、選ぶ目と作る手を育てる。

学びのキーワード

- ・ (1) 選ぶ目と作る手
- ・ 学びの適時性
- ・ 協働
- ・ 条件思考力
- ・ 毎日の生活が教材研究

授業計画

01. 学校教育における家庭科の位置と意義
02. 学習指導要領と生きる力を育てる年間指導計画
03. 作る手を育てる①（りんごの皮むきトライアル）
04. 選ぶ目を育てる①（エシカルファッション）
05. 作る手を育てる②（ミシン実習）
06. 作る手を育てる③（吾妻袋制作）
07. 選ぶ目を育てる②わが家のだし新聞
08. 作る手を育てる④（みそ汁実習）
09. 作る手を育てる⑤（プリン実習）
10. 選ぶ目を育てる③（情報を読む）
11. 生きる力を育てるオリジナル題材開発（指導案作成）
12. 模擬授業①指導案作成
13. 模擬授業②授業実践
14. これからの家庭科教育の課題
15. まとめと期末定期試験

準備学習(予習)

- ・ 指導要領と教科書を精読し、特徴をつかむこと
- ・ 運針、ボタン付け、ミシンの扱い等裁縫関連の練習をすること
- ・ 野菜や果物の皮むき等包丁使いの練習をすること

準備学習(復習)

- ・ リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオを作成すること
- ・ 講義で出された課題は次週に提出すること

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|----------------|
| (1) 授業への参加度 | 15% | 授業に参加し学ぶことが基本 |
| (2) リアクションペーパー | 30% | 授業内に学んだことを記録 |
| (3) 提出物 | 15% | 課題は期限内に提出 |
| (4) 模擬授業 | 20% | 指導案作成と模擬授業の完成度 |
| (5) 試験 | 20% | 学びの総括 |
- 毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。

教科書

『新しい家庭科5・6』（東京書籍）|『小学校5・6年わたしたちの家庭科』（開隆堂）[978-4304080128]|馬場 由子2017年版新版『家庭科ワークシート・身近な消費生活と環境（教師用）』（地域教材社）|『文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成20年版）』（東洋館出版社）[978-4491023748]|

参考書

担当教員：鈴木 直樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10636075

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。また、本講義では、体育授業実践に触れながら自らの身体を問い、体育における、教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。その為、次の各項目を学習の目標とする。|1) 体育の学習観を捉えなおし、授業づくりの基盤を確立することができる。|2) 体育授業実践上の教師としての構えを身につけ、教材研究を通し、カリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。|3) 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。

(2) 内容

講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築したうえで、実技を通してながら、各運動領域の特性を理解し、実践上の視点を明らかにしていく。その上で、実際に指導案を作成し、討議を行い、体育の指導についての理解を深めていく。また、近年、反省的实践家としての教師が強く求められているように、常に授業改善しながら、よりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養う必要がある。これが、いわゆる「授業の省察力」ということになる。この力を身につける為に、模擬授業を通し、授業分析を演習する。

受講者に対する要望

講義と実技を行うので、運動のできる服装を準備して下さい。その際、小学校の教員が体育の授業に臨むうえでふさわしい服装として下さい。また、授業中に学習指導案を作成しますので、ノートパソコンを持っている人は持参して下さい。

学びのキーワード

- ・ 体育の授業づくり
- ・ 模擬授業
- ・ 学習指導案
- ・ 授業観察

授業計画

01. 小学校体育の方向性について体育の歴史の変遷を踏まえながら理解する。
02. 小学校の運動領域編成と学びの系統性について理解する。
03. 運動のおもしろさや魅力について実技を通して理解する。
04. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。(1)
05. 体育における様々な学習形態について方法的側面と組織側面から知り、その長所と短所を理解する。
06. 体育における子どもの視点に立った学習過程について理解する。
07. 体育の授業づくりの手順を理解し、教材研究の進め方を理解する。
08. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。(2) & 現在、求められる体育の学習評価の在り方について理解する。
09. 「体づくり運動」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
10. 「器械運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
11. 「陸上運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
12. 模擬授業の振り返りを行い、指導の改善点について明確にする。
13. 「ボール運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
14. 「表現運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
15. 「保健」の模擬授業及び、授業のまとめのワークショップを行う。

準備学習(予習)

教科書を読んでおくこと。

準備学習(復習)

教科書とノートを活用して振り返りを行う。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--------|
| (1) ミニレポート | 25% | 授業時に作成 |
| (2) 授業観察・分析 | 20% | |
| (3) 学習指導案 | 20% | |
| (4) 授業実践 | 15% | |
| (5) 期末レポート | 20% | |

出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編(平成20年5月)8版』(東洋館出版社)【978-4491031613】|鈴木直樹・梅澤秋久・鈴木聡・松本大輔『学び手の視点から創る小学校の体育授業』(大学教育出版)【978-4864292436】

参考書

担当教員：市村 和子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10636180

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校における道徳教育の目標、「特別の教科 道徳」の目標及び内容構成の考え方を理解するとともに、道徳科の指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることを目標とする。

(2) 内容

小学校における「特別の教科 道徳」改訂の経緯や基本方針、道徳科の目標及び内容等についての概要を学ぶ。また、資料分析の仕方や学習指導の展開の仕方を知り、学習指導案の作成、模擬授業等をとおして授業の進め方を学ぶ。

受講者に対する要望

自らの道徳的実践力の向上に努めてほしい。

学びのキーワード

- ・ 特別の教科 道徳科
- ・ 資料分析
- ・ 学習指導案
- ・ 模擬授業
- ・ 道徳的実践力

授業計画

01. オリエンテーション、「特別の教科 道徳」改訂の経緯と基本方針
02. 道徳教育と道徳科、道徳科の目標
03. 道徳科の内容の基本的性格
04. 道徳科の内容項目1（自分自身、人との関わり）
05. 道徳科の内容項目2（集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わり）
06. 道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画
07. 道徳科の指導
08. 学習指導案（内容、作成の主な手順）
09. 資料分析について
10. 教材の開発と活用
11. 道徳科の評価
12. 模擬授業1（低学年教材）
13. 模擬授業2（中学年教材）
14. 模擬授業3（高学年教材）
15. 小学校における道徳教育のまとめ

準備学習(予習)

道徳科の教材を積極的に読み、多様な教材の開発に努めること。

準備学習(復習)

毎回の授業のポイントを整理すること。

評価方法

- | | |
|----------------|--------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 指導案作成・模擬授業 | 40% |
| (3) 理解度の確認 | 30% レポート、テスト |

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

教科書

授業の中で指示をする。

参考書

特別活動の理論と方法

TEAT-0-300/TEAT-C-2

担当教員：丸山 綱男、小池 茂子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10636285

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

授業では、2020年から実施される、新学習指導要領における小学校特別活動の位置づけについて学ぶところから始める。その上で、特別活動の発生や変遷をたどり、特別活動の意義や内容を理解するとともに、特別活動の実際の進め方について何が必要かの研究を深める。特別活動は、教科書がないということで担任の指導観や力量に左右されることが多くバラツキが懸念される。実践事例を参考にして模擬授業を構想し、授業の展開を試みることを通して、学校・学級づくりにおける教師の指導力の在り方を体験する。

(2) 内容

特別活動は「なすことによって学ぶ」と言われるが、「なすことによって何を身につけたか」を重視したい。他者とかかわりながら、人と人とのかかわり方を学ぶとともに、自主的・実践的に取り組む態度を形成する大変重要な活動である。教師は教科書という枠がないので知識技能を伝達するのではなく、教師と児童、そして児童同士の信頼関係を共に創っていくということが求められる。講義では、子どもの自主性を育むために教師が特別活動の教育的意義を理解し体験活動を充実させていく必要性を明らかにする。

受講者に対する要望

・小学校教員となる強い意志をもって特別活動の授業に臨む。
 | ・新小学校学習指導要領（2020年実施）を毎回必ず持参する。

学びのキーワード

- ・特別活動の意義
- ・人と人とのかかわり
- ・自主的・実践的
- ・模擬授業

授業計画

01. オリエンテーション
02. 特別活動の意義と役割
03. 新学習指導要領（2020年度より実施）「特別活動」のねらい
04. 児童会・クラブ活動の指導
05. 学級活動Ⅰ（学級活動の目標と内容）
06. 学級活動Ⅱ（学級や学校の生活づくり）
07. 学級活動Ⅲ（日常の生活や学習への適応及び健康安全）
08. 学校行事Ⅰ（学校行事の目標と内容）
09. 学校行事Ⅱ（学校行事の実践事例）
10. 実践事例にみる特別活動の展開
11. 模擬授業の構想と指導案の作成Ⅰ
12. 模擬授業の構想と指導案の作成Ⅱ
13. 模擬授業の演習と省察Ⅰ
14. 模擬授業の演習と省察Ⅱ
15. まとめ

準備学習（予習）

授業終了時には、シラバスの次回の授業内容を提示しますので、必ずテキストや資料等に目を通して授業に参加する。

準備学習（復習）

授業中に示したポイントや重要事項などの箇所について各自でメモをもとに確認しておく。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 指導案作成 | 20% |
| (3) 模擬授業への参加 | 20% |
| (4) 試験 | 30% |

教科書

適宜資料を配布します。 |

参考書

担当教員： 齋藤 範雄

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 10636390

学部教育の関連目

【C】 教師に必要な知識・技能を身に付ける | 【D】 中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】 小学校教諭一種：必修科目 | 【C】 幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、教育の歴史、教育課程、教授スキル及びメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

(2) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいか常に考えて参加すること。

学びのキーワード

- ・ 教育の変遷
- ・ カリキュラム
- ・ 教授スキル
- ・ 子ども理解
- ・ ICT教育

授業計画

01. オリエンテーション、教育の理念
02. 教育の変遷について
03. 教育の場と学校教育
04. 教育課程の変遷
05. 教育の方法と教授スキル
06. 授業と評価
07. 子ども理解について
08. 今日の課題1（発達障害の概要について）
09. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
10. ICTの活用の状況と有用性について
11. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
12. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
13. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
14. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
15. まとめ

準備学習(予習)

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% | テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

担当教員： 齋藤 範雄

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 10636395

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身に付ける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、教育の歴史、教育課程、教授スキル及びメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

(2) 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

受講者に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいか常に考えて参加すること。

学びのキーワード

- ・教育の変遷
- ・カリキュラム
- ・教授スキル
- ・子ども理解
- ・ICT教育

授業計画

01. オリエンテーション、教育の理念
02. 教育の変遷について
03. 教育の場と学校教育
04. 教育課程の変遷
05. 教育の方法と教授スキル
06. 授業と評価
07. 子ども理解について
08. 今日の課題1（発達障害の概要について）
09. 今日の課題2（主な発達障害の支援方法について）
10. ICTの活用の状況と有用性について
11. 教育メディア演習1（ソフトの操作方法と班及び役割分担決め）
12. 教育メディア演習2（自己紹介ファイル及び研究調査内容、作成）
13. 教育メディア演習3（作品完成、発表原稿作成）
14. 教育メディア演習4（発表会及び評価について）
15. まとめ

準備学習(予習)

前時に予告された内容について調べておくこと

準備学習(復習)

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 30% | 積極的な発言をすること |
| (2) 理解度の確認 | 70% | テスト、課題レポート、作品、発表 |

毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

教科書

参考書

随時プリントを配付する

生徒指導論(進路指導を含む。)

TEAT-0-200/TEAT-C-2

担当教員：小川 隆夫

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：10636400

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状(教職に関わる科目)

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童は集団生活の中で人と関わりながら歩んでいる。その中では適度な人間関係を保ちながら、困った時も切り抜けていく力を要求される。生徒指導を学ぶ意義は、日常生活の中で児童を援助、指導するうえでの具体的な指針が得られることである。| 生徒指導の基本的な考え方を身につけることにより、一人ひとりの良さを伸ばし、様々な場面での説得力ある対応ができ、解決していく力がつくことを目標とする。

(2) 内容

生徒指導は、児童が自分自身を見つめ、よりよく成長していくことを援助する指導のことである。また、生徒指導は授業、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事、給食、掃除、休み時間などのすべての活動を通して行われることから、実際の学校生活の様々な場面を想定し、援助や指導方法、教師の立場や適切な行動などについて話し合う。さらに、進路指導・キャリア教育の意義と原理を学び、キャリアプランについて考える。

受講者に対する要望

いじめや自殺など社会での生徒指導への関心が高い。受講生は新聞を読み、世の中で起こっている事件や事故、教育関連のニュースなどに目を向けて欲しい。

学びのキーワード

- ・ 児童理解
- ・ いじめ
- ・ 問題行動
- ・ 家庭の生徒指導
- ・ 教育相談と進路指導

授業計画

01. 生徒指導の意義と原理を考える。
02. 教育課程の編成原理と学習指導要領
03. 児童生徒理解の基本、児童生徒理解に関する今日的課題
04. 学校における生徒指導体制、重大な生徒指導事案が発生した場合の組織的流れについて
05. 児童生徒全体への生徒指導、組織的対応の進め方、教員の責務と役割、問題行動等の未然予防
06. いじめ、いじめとはなにか、いじめの構造、いじめの発見と解決のために
07. 不登校、不登校につながる多様な要因、不登校の児童生徒に対する生徒指導の考え方
08. 校則、体罰、出席停止
09. 進路指導・キャリア教育の意義と原理
10. 「やりたいこと」と進路指導、児童生徒のなりたい職業、これからの進路指導
11. キャリアプランについて考える、キャリアプランを作成する授業のねらい
12. 現代の労働問題
13. 教育相談とカウンセリングの望ましいあり方
14. グループプレゼンテーション
15. 授業の確認とまとめ

準備学習(予習)

テキストの指定ページを読んで授業に臨む。新聞から、教育関係の記事を選び、自分の意見を加えたプレゼンができるようにしておく。

準備学習(復習)

テキストの指定ページの復習をする。日常的に新聞に目を通すこと。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 20% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) プレゼンテーション | 30% |
| (4) 期末テスト | 30% |

教科書

林尚示・伊東秀樹編著 『生徒指導・進路指導 理論と方法』教師のための教育学シリーズ10 学文社1978-4-7620-2620-1

参考書

担当教員：川瀬 敏行、市村 和子、齋藤 範雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：5

授業コード：10637355

学部教育の関連目

【C】保育者・教師として必要な知識・技能を保育・教育の現場の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

小学校の教育実習は、小学校の教員を志望する学生が、大学の教職課程で習得した知識・技能を基礎として、小学校において教師に求められる職務の一端を実地に学ぶところに意義がある。実際に小学校において、児童の発達段階に応じたコミュニケーションの取り方などの生徒指導、教科等の授業観察や授業実践、教室掲示や学級事務などの学級経営等の力をつけることを目標にしている。

(2) 内容

小学校教育実習は、実際の小学校の学校現場で授業をし、児童理解につとめ、様々な人間関係を学ぶ場である。そのため、事前指導をし、実習終了後に事後指導を行う。| *教育実習(実習校で4週間)

受講者に対する要望

実習校では実習生としての立場を自覚し、指導や助言を素直に受け、実りある経験となるよう意欲的に誠意をもって取り組むことを望む。

学びのキーワード

- ・ 実習の意義と心構え
- ・ 児童の発達特性
- ・ 指導案と指導技術
- ・ 実習日誌・実習報告
- ・ 教師としての力量向上

授業計画

01. 教育実習の意義と心構え
02. 教育実習生の一日について
03. 授業づくりの基礎基本と授業実践演習に向けて
04. 小学校の組織と小学生の一般的特色について
05. 学習指導案の作成について
06. 教育実習日誌の書き方とあいさつの仕方について
07. 実習直前指導 *教育実習(実習校で4週間)
08. 実習報告1・実習校で学んだこと(グループ前半) /事後指導個人面談
09. 実習報告2・実習校で学んだこと(グループ後半) /事後指導個人面談
10. 教師としての力量向上1(場面指導の基本とポイント) /事後指導個人面談
11. 教師としての力量向上2(場面指導事例研究)
12. 教師としての力量向上3(学習指導)
13. 教師としての力量向上4(生徒指導)
14. 教師としての力量向上5(学級経営)
15. 小学校教育実習のまとめ

準備学習(予習)

あいさつ・服装などへの配慮等をはじめ実習への心構え、授業実践等、実習に向けた準備に真剣に取り組むこと。

準備学習(復習)

事前指導の内容を反復しての理解、実習の反省等をよく行い、毎日の実習日誌の整理、終了後の報告書の作成、今後の学習の課題の整理などができるようにすること。

評価方法

- | | |
|--------------|---------------------|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 実習校からの報告 | 50% 実習校の評価、巡回訪問での情報 |
| (3) 実習日誌・報告書 | 20% 実習日誌、報告書、成果と改善案 |

平常点については、出席状況・積極的な学びなど授業への参加度、欠席及び参加の態度が悪い場合は減点の対象となる。上記及び実習校の詳細、巡回報告、実習日誌、実習報告等、総合的に判断します。

教科書

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637545

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「どう実践してよいかわからない」という声が多い「造形遊び」について、その意義を理解し、自分で授業プランを構想し、それを実行できるようになることを目指している。また、鑑賞することに関心を持ち、その多様な在り方を理解した上で、鑑賞活動の方法を工夫できるようにしていきたい。

(2) 内容

学習指導要領が示す「造形遊び」「絵や立体に表す」「鑑賞」という3つの活動領域から、この授業では「造形遊び」を取り上げ、その必要性和様々な実践形態を考えていく。具体的には「自然物や人工物などの色や形を基に思いついてつくる」「それらを並べたり、つないだり、積んだり、体全体を動かしてつくる」などの学習指導要領のキーワードを手がかりに、それらを反映した造形遊びのプランを考え、実行する。また、各単元の終わりには、実行した造形遊びの成果をみんなで「鑑賞」する機会をもうけ、良かったところと課題を確認できるようにする。さらに、鑑賞の多面的な役割を理解できるよう、鑑賞についての全般的な概説も行う。

受講者に対する要望

遊びのように造形活動に取り組んで行くので、図工や美術の時間が苦手であった人も、不安を抱かずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・造形遊び
- ・見立て
- ・いろいろな材料
- ・場所
- ・鑑賞

授業計画

01. オリエンテーション：学習指導要領が示す工図画作科の内容構成について（担当者：柴田・柴崎）
02. 低学年の造形遊び1：見立て遊び（担当者：柴田・柴崎）
03. 低学年の造形遊び2：気に入った自然物を並べる（担当者：柴田）
04. 低学年の造形遊び3：身近にある愛らしい人工物を並べたり、積んだりする（担当者：柴田）
05. 鑑賞：第2回から4回までの成果物を見て、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
06. 鑑賞：文化伝承の視点も織り込んだ、鑑賞についての全体的な概説（担当者：柴田）
07. 中学年の造形遊び1：身の回りからスタンプに使えるものを探し、スタンプを押す楽しさを体験する（担当者：柴田）
08. 中学年の造形遊び2：スタンプする楽しさに加えて、押しながら色や配置を考えて、作品製作に進む（担当者：柴田）
09. 鑑賞：前回の授業の作品を展示し、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
10. 高学年の造形遊び1-1：水や土、光や風などの、自然の産物と現象に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
11. 高学年の造形遊び1-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
12. 高学年の造形遊び2-1：身近な場所に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
13. 高学年の造形遊び2-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
14. 高学年の造形遊び1と2のまとめ：児童の活動事例を参考に、実践体験を振り返り、授業の在り方を検討する（担当者：柴崎）
15. まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

最初に図画工作科の学習指導要領に目を通しておくこと。その後は授業で配布するプリントに資料に目を通すとともに、用具・材料等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと・良かったこと・改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637550

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「どう実践してよいかわからない」という声が多い「造形遊び」について、その意義を理解し、自分で授業プランを構想し、それを実行できるようになることを目指している。また、鑑賞することに関心を持ち、その多様な在り方を理解した上で、鑑賞活動の方法を工夫できるようにしていきたい。

(2) 内容

学習指導要領が示す「造形遊び」「絵や立体に表す」「鑑賞」という3つの活動領域から、この授業では「造形遊び」を取り上げ、その必要性和様々な実践形態を考えていく。具体的には「自然物や人工物などの色や形を基に思いついてつくる」「それらを並べたり、つないだり、積んだり、体全体を動かしてつくる」などの学習指導要領のキーワードを手がかりに、それらを反映した造形遊びのプランを考え、実行する。また、各単元の終わりには、実行した造形遊びの成果をみんなで「鑑賞」する機会をもうけ、良かったところと課題を確認できるようにする。さらに、鑑賞の多面的な役割を理解できるよう、鑑賞についての全般的な概説も行う。

受講者に対する要望

遊びのように造形活動に取り組んで行くので、図工や美術の時間が苦手であった人も、不安を抱かずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・造形遊び
- ・見立て
- ・いろいろな材料
- ・場所
- ・鑑賞

授業計画

01. オリエンテーション：学習指導要領が示す図画工作科の内容構成について（担当者：柴田・柴崎）
02. 低学年の造形遊び1：見立て遊び（担当者：柴田・柴崎）
03. 低学年の造形遊び2：気に入った自然物を並べる（担当者：柴田）
04. 低学年の造形遊び3：身近にある愛らしい人工物を並べたり、積んだりする（担当者：柴田）
05. 鑑賞：第2回から4回までの成果物を見て、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
06. 鑑賞：文化伝承の視点も織り込んだ、鑑賞についての全体的な概説（担当者：柴田）
07. 中学年の造形遊び1：身の回りからスタンプに使えるものを探し、スタンプを押す楽しさを体験する（担当者：柴田）
08. 中学年の造形遊び2：スタンプする楽しさに加えて、押しながら色や配置を考えて、作品製作に進む（担当者：柴田）
09. 鑑賞：前回の授業の作品を展示し、感想を述べ合い、よさと課題を把握する（担当者：柴田）
10. 高学年の造形遊び1-1：水や土、光や風などの、自然の産物と現象に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
11. 高学年の造形遊び1-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
12. 高学年の造形遊び2-1：身近な場所に着目した造形遊びの構想（担当者：柴崎）
13. 高学年の造形遊び2-2：前回の授業で構想した造形遊びの実践と検証（担当者：柴崎）
14. 高学年の造形遊び1と2のまとめ：児童の活動事例を参考に、実践体験を振り返り、授業の在り方を検討する（担当者：柴崎）
15. まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

最初に図画工作科の学習指導要領に目を通しておくこと。その後は授業で配布するプリントに資料に目を通すとともに、用具・材料等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと・良かったこと・改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637665

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「絵や立体に表す」「鑑賞」の領域に関する様々な表現と指導の実際を学ぶことによって、指導者としての実践力を培うことを目標とする。また、子どもたちが自分の気持ちや考えを表現に込める点において、「児童を理解し支える」という最も大切な教育的課題に図画工作が貢献できることも伝えたい。

(2) 内容

図画工作科の教育内容について理解を深めていくには、実際に様々な造形表現を体験することが必要となる。この授業では、学習指導要領に記された図画工作科の3つの柱から「絵や立体に表す」を取り上げ、関連する様々な造形表現について実習を積み重ね、それらの体験を通して、図画工作科の実践に欠かせない思考力と造形能力の育成に取り組む。また、春学期の「図画工作A」と同じように、各単元の終わりには、製作した作品をみんなで「鑑賞」する機会をもうけて、鑑賞領域への対応力が育まれるようにしている。

受講者に対する要望

遊びから始める様な形で造形活動に取り組んでいくので、図工や美術が苦手であった人も、不安をいわずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 絵・立体・工作
- ・ 表現内容
- ・ 表現方法
- ・ 鑑賞
- ・ 教材研究

授業計画

- オリエンテーション：学習指導要領が示す図画工作の内容構成と図画工作科の意義の確認（担当者：柴田・柴崎）
- ものと人のクロッキー1：クロッキーを楽しむ（担当者：柴田・柴崎）
- ものと人のクロッキー2：前回のクロッキーに彩色する（担当者：柴田）
- 鑑賞：第2回と第3回の授業の作品を鑑賞し、その良さと課題を話し合う（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る1：紙粘土を作り、夢の動物の構想を進める（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る2：作った紙粘土で夢の動物を製作する（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る3：製作した夢の動物に彩色する（担当者：柴田）
- 鑑賞：色々な夢の動物の良さを楽しむとともに教材の改善点を検討する（担当者：柴田）
- 生活に生かす作品製作：身近にある愛らしい小物を食品容器のふたなどに配置しペンダントを作る（担当者：柴田）
- 針金工作1：針金で想像の建物を作る-材料に親しみ構想を進める（担当者：柴崎）
- 針金工作2：構想に基づいて製作を進める（担当者：柴崎）
- 発信する作品づくり-版画によるポスター制作1：身近な材料で文字版を作ることと並行して、ポスターの構想を進める（担当者：柴崎）
- 発信する作品づくり-版画によるポスター制作2：構想をもとに、版による文字と図柄を組み合わせてポスターを製作する（担当者：柴崎）
- 鑑賞：針金工作とポスターの作品を鑑賞し、それぞれの良さと改善点を話し合う（担当者：柴崎）
- まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

図画工作の学習指導要領を読んでおくこと。その後は授業で配布する資料に目を通すとともに、必要な材料・用具等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと、よかったこと、改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

欠席が4回を越えると評価の対象とはならない

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：柴田 和豊、柴崎 裕

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637670

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「絵や立体に表す」「鑑賞」の領域に関する様々な表現と指導の実際を学ぶことによって、指導者としての実践力を培うことを目標とする。また、子どもたちが自分の気持ちや考えを表現に込める点において、「児童を理解し支える」という最も大切な教育的課題に図画工作が貢献できることも伝えたい。

(2) 内容

図画工作科の教育内容について理解を深めていくには、実際に様々な造形表現を体験することが必要となる。この授業では、学習指導要領に記された図画工作科の3つの柱から「絵や立体に表す」を取り上げ、関連する様々な造形表現について実習を積み重ね、それらの体験を通して、図画工作科の実践に欠かせない思考力と造形能力の育成に取り組む。また、春学期の「図画工作A」と同じように、各単元の終わりには、製作した作品をみんなで「鑑賞」する機会をもうけて、鑑賞領域への対応力が育まれるようにしている。

受講者に対する要望

遊びから始める様な形で造形活動に取り組んでいくので、図工や美術が苦手であった人も、不安をいわずに受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 絵・立体・工作
- ・ 表現内容
- ・ 表現方法
- ・ 鑑賞
- ・ 教材研究

授業計画

- オリエンテーション：学習指導要領が示す図画工作の内容構成と図画工作科の意義の確認（担当者：柴田・柴崎）
- ものと人のクロッキー1：クロッキーを楽しむ（担当者：柴田・柴崎）
- ものと人のクロッキー2：前回のクロッキーに彩色する（担当者：柴田）
- 鑑賞：第2回と第3回の授業の作品を鑑賞し、その良さと課題を話し合う（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る1：紙粘土を作り、夢の動物の構想を進める（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る2：作った紙粘土で夢の動物を製作する（担当者：柴田）
- 紙粘土を使って夢の動物を作る3：製作した夢の動物に彩色する（担当者：柴田）
- 鑑賞：色々な夢の動物の良さを楽しむとともに教材の改善点を検討する（担当者：柴田）
- 生活に生かす作品製作：身近にある愛らしい小物を食品容器のふたなどに配置しペンダントを作る（担当者：柴田）
- 針金工作1：針金で想像の建物を作る-材料に親しみ構想を進める（担当者：柴崎）
- 針金工作2：構想に基づいて製作を進める（担当者：柴崎）
- 発信する作品づくり-版画によるポスター制作1：身近な材料で文字版を作ることと並行して、ポスターの構想を進める（担当者：柴崎）
- 発信する作品づくり-版画によるポスター制作2：構想をもとに、版による文字と図柄を組み合わせてポスターを製作する（担当者：柴崎）
- 鑑賞：針金工作とポスターの作品を鑑賞し、それぞれの良さと改善点を話し合う（担当者：柴崎）
- まとめ（担当者：柴田・柴崎）

準備学習(予習)

図画工作の学習指導要領を読んでおくこと。その後は授業で配布する資料に目を通すとともに、必要な材料・用具等を適正に準備すること。

準備学習(復習)

学習した内容について、学んだこと、よかったこと、改善すべきことなどを、単元ごとに自分の視点で整理すること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時の活動 | 40% |
| (2) 製作物 | 30% |
| (3) レポート | 30% |

欠席が4回を越えると評価の対象とはならない

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

参考書

担当教員：清水 将之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637985

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。| 更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。||カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。
 また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf || 文部科学省「幼稚園教育要領」平成20年3月 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotoou/new-cs/youryou/you.pdf || 厚生労働省「保育所保育指針解説書」平成20年4月 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

担当教員：清水 将之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：10637990

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。| 更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。||カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
02. 体ほぐしの特性と実践
03. 体ほぐしの実践と指導のあり方
04. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
05. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
06. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
07. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
08. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
09. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。
 また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 課題レポート | 70% |
| (2) 試験 | 30% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf || 文部科学省「幼稚園教育要領」平成20年3月 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf || 厚生労働省「保育所保育指針解説書」平成20年4月 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

担当教員：清水 将之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C638005

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や、模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングでき得る資質の育成を目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。| 指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。|カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・ごっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール・フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf | 文部科学省「幼稚園教育要領」平成20年3月 | http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you.pdf | 厚生労働省「保育所保育指針解説書」平成20年4月 | <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

担当教員：清水 将之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C638010

学部教育の関連目

【C】教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：選択必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や、模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングでき得る資質の育成を目的とする。

(2) 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。| 指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。|カリキュラム上の位置づけ：| 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。|

受講者に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の必要性に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

学びのキーワード

- ・身体表現に関する知識・技術
- ・健康と運動
- ・子どもの体力と健康
- ・生涯体育
- ・楽しい体育

授業計画

01. ゲーム遊び・ごっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
02. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
03. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
04. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
05. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（固定施設を使った運動遊び）
06. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び）
07. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（ボール・フラフープなどを操作する運動遊び）
08. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（竹馬・二輪車などを操作する運動遊び）
09. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（リズム遊び）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（表現遊び）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

準備学習(予習)

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

準備学習(復習)

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 課題レポート | 30% |
| (2) 指導計画・指導案 | 20% |
| (3) 模擬授業・指導実践 | 30% |
| (4) 授業成果発表 | 20% |

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

教科書

講義ごとにハンドアウトを示す。

参考書

文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」平成20年6月
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiledfile/2011/01/19/1234931_010.pdf | 文部科学省「幼稚園教育要領」平成20年3月 | http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/you.pdf | 厚生労働省「保育所保育指針解説書」平成20年4月 | <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>

担当教員：金谷 京子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1D200511

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【D】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

1) 子どもの発達と学習の過程に関する心理学的な基礎知識を習得する。| 2) それらの知識を実際の子どもの理解を深めるために利用することができる。| 3) 子どもの発達と学習の状態に応じた、適切な指導・支援の方法について自らで考え、現代の教育現場における課題の解決を考える。|

(2) 内容

教育心理学は、教育過程における諸現象を心理学的観点から解明し、教育を効果的に行うための方法を見出すことを目的とした学問である。| 本講義では、教育心理学の研究の流れを学んだ上で、様々な研究知見の解説を通して学習、授業過程、測定と評価、教師と児童の関係、人格、適応、発達の分野について学ぶ。| 学び方のコツに関するDVDを視聴しながら、「学習」の方法について理解を深める。

受講者に対する要望

専門用語についてこまめに調べるようにしてください

学びのキーワード

- ・ 学習
- ・ 教育と心理
- ・ 動機づけ
- ・ 教育評価

授業計画

01. 教育心理学の目指すもの・どのように教えるか
02. どのように学ぶか、学習とは
03. 知識獲得
04. 学習法
05. 記憶
06. 問題解決 |
07. 学習と動機づけ
08. 効力感と無気力感
09. 原因帰属
10. 学級集団と人間関係、教師と生徒
11. 教育測定と評価
12. 測定・評価の方法
13. 人格と適応
14. 成長と発達
15. まとめと評価

準備学習(予習)

事前に教科書を読み、単元の予習をしておく。関連する研究知見を調べてみる。

準備学習(復習)

ノートをまとめて復習し、理解を深める。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 小レポート等 | 20% |
| (2) 試験 | 80% |

教科書

北原倫彦ほか『コンパクト教育心理学』（北大路書房）【978-4762825224】 | 鎌原雅彦・竹網誠一郎『やさしい教育心理学』（有斐閣アルマ）【978-4641220591】

参考書

担当教員：小島 道生、司城 紀代美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1D202529

学部教育の関連目

【D】「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 知的障害に関する基礎知識を身につけることができる。| 2) 知的障害児の認知的特徴、行動的特徴、社会性および情動の特徴について理解できる。| 3) 知的障害児の二次障害について理解できる。| 4) 知的障害児に対する心理アセスメントについて理解できる。| 5) 知的障害児の認知発達、社会性および情動発達への支援に関する知識を得ることができる。| これらを通して、特別支援教育に携わる教師に必要な知的障害児の心理特性とその支援を学ぶことができる。

(2) 内容

本授業は、第一に知的障害の概念に関する基礎的知識を学び、第二に知的障害児の認知、行動、社会性および情動に関する特性を学ぶ。第三に支援に必要となる心理アセスメントの概略を学んだ上で、第四に、支援の実際を学ぶことができる構成とした。このことにより、知的障害の心理特性を理解した上でのより実践的な発達支援ができる教師を養成したい。|

受講者に対する要望

基本的概念や用語など、覚える努力が必要となる。ノート、資料のファイリングなど、各自で自分にあった整理方法、学習方法を考えてください。

学びのキーワード

- ・ 知的障害
- ・ 心理特性
- ・ 心理アセスメント
- ・ 支援方法

授業計画

01. 知的障害に関する基礎知識（1）障害の概念および定義①日本の定義の変遷、②AAMR（アメリカ精神障害学会）の定義
02. 知的障害に関する基礎知識（2）知的障害の分類
03. 知的障害児の認知的特徴（1）視覚、聴覚
04. 知的障害児の認知的特徴（2）言語、学習
05. 知的障害児の行動的特徴
06. 知的障害児の社会性および情動の特徴
07. 知的障害と二次障害（心身症および行為障害等を含む）
08. 知的障害に対する心理アセスメント（1）知能に関するアセスメント（ビネー式知能検査、WISC、K-ABC、DI-II-CAS）
09. 知的障害に対する心理アセスメント（2）発達に関するアセスメント（津守稲毛式、KIDS、遠城寺式、PVT検査）
10. 知的障害に対する心理アセスメント（3）社会適応に関するアセスメント（S-M式社会能力検査、ヴァインランド社会成熟尺度等）
11. 知的障害児の認知発達に関する支援（1）ことばの発達支援、絵本を利用した発達支援
12. 知的障害児の認知発達に関する支援（2）コンピュータを利用した視覚認知支援、読み書きに関する発達支援
13. 知的障害児の社会性および情動発達に関する支援
14. 知的障害および知的障害の二次障害への対応
15. 全体の振り返り

準備学習(予習)

各回の授業内容に関する基本的概念や用語について事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

配られた資料等の整理を通して、理解の確認をしておくこと。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業における発表、小レポート等 | 60% |
| (2) 試験 | 40% |

教科書

梅谷 忠秀、笠田 明義 『知的障害児の心理学』（田研出版）| 小池 敏夫、北島 善夫 『知的障害の心理学—発達支援からの理解』（北大路書房）

参考書

担当教員： 赫多 久美子、竹田 一則

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択必修科目 単位： 2 授業コード： 1D202731

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

[D] 特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 病弱・虚弱の定義が理解できる。| 2) 脳の構造と機能が理解できる。| 3) 体温・呼吸・摂食などの機能およびその教育的支援について理解できる。| 4) 疾患と病気の意味の違いを理解する。病弱・虚弱の原因となる主要な疾患について理解できる。| 5) 入院・治療など生活環境の変化が病弱児の心理に大きく影響することが理解できる。| 6) 子どもの発達（認知）水準が疾患の理解や治療活動への参加に影響すること、またどのような心理的反応が生じやすいかを理解できる。ターミナル期の子どもの心理が理解できる。| 7) 健康行動理論を学ぶことで、健康と心理の関係を理解できる。| これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる病弱児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。

(2) 内容

授業は、到達目標を1から7まで設定し、病弱に関わる生理、病理機能とその教育的配慮、病弱に関わる主な疾患の理解、入院・治療が及ぼす心理的影響、子どもの発達期から見た心理的影響、健康行動理論の理解まで達成できるように構成している。

受講者に対する要望

専門的知識を学ぶため、学習に取り組む意識をきちんと維持して講義に臨んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ 病弱・虚弱の定義の理解
- ・ 脳の構造と機能の理解
- ・ 高次脳機能障害
- ・ 原因疾患の理解
- ・ 心理特性

授業計画

01. 病弱・虚弱児とは 定義、疾患と病気の違い
02. 脳の構造と機能（1）中枢神経系の構造
03. 脳の構造と機能（2）中枢神経系の機能
04. 脳の構造と機能（3）高次脳機能障害
05. てんかん（1）概要
06. てんかん（2）教育的対応の実際
07. 体温・呼吸・摂食の生理と病理
08. 摂食の仕組みとその障害 教育的対応の実際
09. 主要な疾患の理解 アレルギー疾患、糖尿病・肥満、腎疾患
10. 主要な疾患の理解 心疾患、悪性新生物、心身症等
11. 発達段階からみた病弱児の心理：幼児期、学童期、青年期
12. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響（1）
13. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響（2）事例でのミニグループ・ワーク
14. ターミナル期の子どもの心理
15. 健康行動理論（心理モデルについて）健康信念モデル、社会的認知理論（変化のステージモデル）、自己効力感

準備学習(予習)

病児に対する意識を高めるために図書館で、病児に関する図書を検索しあらかじめ読み、各自、イメージを持って授業に望むこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容で、理解が不十分と思われる部分の振り返りを確実にすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) テスト | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

竹田一則 『肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学』（ジヤース教育新社）【 978-4921124915】

参考書

担当教員：小島 龍平

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300100

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 身体の構成と基本的な構造について説明できる。| 2. 骨格の構成、構造と働きを説明できる。| 3. 生命を維持するための機能（植物性機能）である、脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系および生殖器系の基本的な解剖学的構造と機能を説明できる。| 4. 外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を構成する、感覚機能、運動機能およびそれらを統御する神経機能や内分泌機能を、疾患とも関連付けて説明できる。| 以上のことから、健康教育を行う教員の基本的な知識である体のしくみと働きを理解し、健康の維持増進のための複雑な事象を科学的にとらえる態度を育てる。また、自分の身体について実感をともなって理解できることを目指す。|

(2) 内容

本講義は、保健科教諭として健康教育を行っていく上で、重要な細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）と外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を人体の生理機能から学ぶ構成としている。

受講者に対する要望

ノートを丁寧にとること。特に、板書の図や、授業中に大切な箇所と強調したことはメモする。疑問点は質問をするなど、授業に積極的に参加すること。

学びのキーワード

- ・ 身体の構成と基本構造
- ・ 器官と組織
- ・ 身体の構造と機能と健康、疾患

授業計画

01. 保健科教諭にとっての解剖学・生理学とは
02. 骨格の構成、構造と働き
03. 心臓および血管系の構成、構造と働き
04. 呼吸器系の構成、構造と働き
05. 消化器系の構成と配置。消化管の構造と働き
06. 肝臓・胆のう・膵臓の構造と働き
07. 泌尿器系の構成と配置。腎臓の構造と働き
08. 尿管・膀胱の構造と働き
09. 生殖器系の構成、配置、構造と働き
10. 内分泌系の構成、構造と機能
11. 神経系の構成と配置。神経の興奮と伝達のしくみ
12. 脳と脊髄の形態、構造と機能
13. 末梢神経系の構成、構造と機能
14. 感覚器系の構成、構造と機能
15. 筋の構造・筋収縮と運動制御のしくみ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、教科書の該当箇所を予め読んで疑問点などをメモしておくこと。

準備学習(復習)

授業中に示されたキーワードや大切だと思われる箇所は復習して、理解を確実にすること。なお、疑問点はメモして、教科書や参考書で調べ、また積極的に質問すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|--------------------------------|
| (1) 課題作成 | 50% | 各授業ごとに必ず宿題を課す。詳細については授業時に説明する。 |
| (2) 定期試験 | 50% | |

教科書

授業時に資料を配布する。また、下記を参考図書として推薦する。できるだけ購入することをすすめる。||

参考書

坂井建雄、岡田隆夫『解剖生理学（系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能①）』（医学書院）【978-4-260-01826-5】

担当教員：大江 敏江

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300202

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる。| 2. 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解できる。| 3. 栄養素の摂取と消費のバランスが成長期の心身の健康・栄養状態に与える影響について、健康教育を実施し得る基盤をつくる。| 以上により、栄養学の基礎的知識を整理すると共に、健康の維持・増進と疾病予防における食の重要性を理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。|

(2) 内容

本講義は、①三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） ②微量栄養素（ビタミン、ミネラル） ③その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解できるように構成されている。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても概説する。

受講者に対する要望

予習、復習をしっかりと行いながら授業に参加することを望む。

学びのキーワード

- ・ 栄養素
- ・ 消化
- ・ 吸収
- ・ 食事
- ・ 健康

授業計画

01. 栄養と健康（目標1）
02. 栄養素の消化・吸収・代謝（目標1）
03. 糖質とは何か（目標1）
04. 糖質の機能と効率的な摂取法（目標2）
05. タンパク質とは何か（目標1）
06. タンパク質の機能と効率的な摂取法（目標2）
07. 脂質とは何か（目標1）
08. 脂質の機能と効率的な摂取法（目標2）
09. ビタミンの必要性（目標1）
10. ミネラルの必要性（目標1）
11. 水分・食物繊維の必要性（目標1）
12. 栄養素の摂取量と消費量のバランス（目標2、3）
13. 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（目標2、3）
14. 幼児期・学童期・思春期の栄養学（目標1、2、3）
15. まとめ（目標1、2、3）

準備学習(予習)

次週の教科書の該当箇所を読む。

準備学習(復習)

(1) 授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。(2) 重要と指摘された箇所はよく復習する。(3) 小テストは返却後復習し、よく理解する。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 受講態度 | 20% |
| (2) 授業内小テスト | 20% |
| (3) 中間テスト | 30% |
| (4) 期末テスト | 30% |

60%以上を合格とする。

教科書

吉田 勉『わかりやすい栄養学』最新版、三共出版、2,300円＋税

参考書

担当教員：一幡 良利

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300509

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 微生物について理解できる。| 2. 微生物と宿主の関係性、感染の機序と対策が理解できる。| 3. 免疫学から抗原と抗体の関係を理解し、免疫機能をつかさどる細胞に関しての理解と免疫機序成立の過程について理解できる。| 4. アレルギー、栄養と免疫の関連、自己免疫について理解できる。| これらを通して、外的環境と内的環境（身体）との相互作用によって人の健康が維持されていることを学び、よりよく生きようとする人の健康に働きかける保健科教諭の基本的知識を身につける。

(2) 内容

本講義では、まず人の健康に外的に影響する微生物について概説する。次に外的な環境によって人の身体がどのように反応するのかについて免疫学を通して学ぶように構成されている。また、感染症の成立機序と感染予防などについて、栄養や自己免疫等の機能を通して理解できるように構成されている。

受講者に対する要望

教科書、ノートを用意し、必ずノートをとる。不明な点は質問してほしい。
 日常起きている感染症の話題に関心をもってほしい。

学びのキーワード

- ・細菌・ウイルスの構造と増殖
- ・遺伝子の変異と耐性菌の出現
- ・免疫作用・免疫細胞・抗原と抗体
- ・アレルギーとそのタイプ
- ・自己免疫と自己免疫疾患

授業計画

01. 微生物学とは何か（微生物の分類学的位置、原核生物と真核生物、細菌とウイルスの一般性）
02. 細菌学総論（細菌の形態、細菌の構造、細菌の増殖）（目標1）
03. 細菌学総論（遺伝情報の発現、遺伝子の変異）（目標1）
04. ウイルス学総論（ウイルスの構造、ウイルスの増殖）（目標1）
05. 感染と発病、感染対策（感染の経過、宿主と微生物の相互関係、感染防御機構）（目標2）
06. 予防接種と免疫療法（ワクチン、免疫血清、ヒト免疫グロブリン製剤）（目標3）
07. 免疫学とは何か 有用な免疫作用と望ましくない免疫作用について（目標3）
08. 抗原（免疫応答を引き起こす抗原の条件とは何か）、抗体（抗体の構造と機能、抗体の免疫反応における働き）（目標3）
09. 細胞1（マクロファージ、好中球、好酸球、好塩基球の免疫系における働き）（目標3）
10. 細胞2（T細胞・B細胞その他の免疫系における働きとその活性化について）（目標3）
11. 免疫成立の機序と腸管粘膜免疫（細胞の生成の場および免疫反応の場における免疫成立の機序、腸管粘膜局所免疫について）（目標3）
12. アレルギー（アレルギーとは アレルギーの仕組みについて）（目標4）
13. 栄養と免疫（栄養状態と免疫、種々の栄養成分の免疫への影響について）（目標4）
14. 自己免疫（自己免疫の成立機序、自己免疫病と自己免疫病の発病機構）（目標4）
15. まとめ（これまでの講義についての総括）

準備学習(予習)

授業計画に沿って、教科書の次回該当箇所を予習のこと。

準備学習(復習)

当日の講義箇所と関連の教科書部分を参照・復習し、疑問や不明の箇所をノートに記し、次回に質問してほしい。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業内レポート | 20% |
| (2) レポート・定期試験 | 80% |

教科書

高橋昌巳、一幡良利『コメディカルのための微生物と感染予防』（桜雲会）【978-4904611029】

参考書

担当教員：中村 月子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300604

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 子どもの身体的機能を理解する。| 2. 学校感染症の特徴と支援について説明できる。| 3. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と支援について説明できる。| 4. 子どもの主な慢性疾患の病態と支援について説明できる。| 5. 子どもの眼疾患、耳鼻咽喉頭疾患の病態と支援について説明できる。| 以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかけるための実践的な知識・技能を身につける。|

(2) 内容

本講義は、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、支援について概説する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患、障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。

学びのキーワード

- ・小児保健
- ・子どもの健康課題

授業計画

01. 子どもの身体の解剖生理①（筋骨格・目・耳・歯）（目標1）
02. 子どもの身体の解剖生理②（内臓の生理機能）（目標1）
03. 子どもの健康状態の把握（目標1）
04. 学校感染症①（第1種－エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱等）（目標2）
05. 学校感染症②（第2種－インフルエンザ〈鳥インフルエンザを除く〉、百日咳等）
06. 学校感染症③（第3種－コレラ、細菌性赤痢等）（目標2）
07. 子どものアレルギー疾患①（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）（目標3）
08. 子どものアレルギー疾患②（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）（目標3）
09. 子どもの腎疾患①（糸球体腎炎・尿路感染症）（目標4）
10. 子どもの腎疾患②（ネフローゼ症候群・尿検査）（目標4）
11. 子どもの心疾患①（先天性心疾患）（目標4）
12. 子どもの心疾患②（川崎病・不整脈と心電図）（目標4）
13. 子どもの糖尿病と肥満（目標4）
14. 子どもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患（目標5）
15. 小児保健学のまとめ（目標1～5）

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業への参加及び筆記試験 | 60% |
| (2) 定期試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する

参考書

衛藤 隆 『新世紀の小児保健』（日本小児医事出版社）

担当教員：吉澤 剛士

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D300710

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 健康を脅かす様々な要因について理解する。
| 2. 感染症とその予防について理解する。| 3. 生活習慣病の要因と予防について理解する。| 4. 健康の定義とプライマリーヘルスケアについて説明できる。| 以上を通して、健康の維持・増進と疾病予防について理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。|

(2) 内容

本講義は、人類の健康に脅威となった疾病の原因とその予防について概説する。主な分野は、感染症、生活習慣病、環境要因に起因する疾病などである。健康とはなにか、人類はこの数百年に限っても、どのような病の脅威と戦ってきたかについても理解できるように構成されている。

受講者に対する要望

机上に講義に関係ないものは置かないこと。他の受講者に迷惑をかけないこと。

学びのキーワード

- ・ 感染と免疫
- ・ 新興感染症、再興感染症、日和見感染、平素無害菌
- ・ 生活習慣病、メタボリックシンドローム
- ・ 特定健診、健康寿命と平均寿命
- ・ 健康の定義、プライマリーケア

授業計画

01. 健康を脅かす様々な要因（目標1）
02. 感染症とその予防1. 「感染」とはなにか（目標2）
03. 感染症とその予防2. 免疫と予防接種（目標2）
04. 感染症とその予防3. 結核とインフルエンザ（目標2）
05. 感染症とその予防4. コレラ、0157、ノロウイルス（目標2）
06. 感染症とその予防5. AIDS、MRSA（目標2）
07. 電離放射線、紫外線（目標1）
08. 熱中症と体温調節（目標1）
09. 成人病と生活習慣病、一次予防（目標3）
10. 悪性新生物とその予防（目標3）
11. 心疾患とその予防（目標3）
12. 脳血管疾患とその予防（目標3）
13. 糖尿病と合併症、およびその予防（目標3）
14. 健康の定義とプライマリーヘルスケア（目標4）
15. まとめ（目標1～4）

準備学習(予習)

教科書を予習しておくこと。

準備学習(復習)

その日のキーワード、授業の終わりの小テストで疑問の点、返却された前回小テストで、理解が不十分であった箇所、誤答の箇所は復習、確認してほしい。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 受講態度 | 20% |
| (2) 毎回の小テスト | 30% |
| (3) 授業内試験 | 50% |

毎回、授業内に小テストを実施する。

教科書

苫米地孝之助『Nボックス 改訂健康管理論』（建帛社）【978-4-7679-0496-2】

参考書

学校保健概論(安全を含む。)

HLTH-D-200

担当教員：中村 月子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D300913

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。
| 2. 学校保健の関係法規について理解できる。| 3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、説明できる。| 4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。| 5. 学校保健推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。
| 以上により、子ども期の身体的な健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようになるための基礎力を身に付ける。|

(2) 内容

本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるために必要な知識や技術を学べるように構成されている。

受講者に対する要望

積極的に授業に参加すること

学びのキーワード

- ・ 学校保健
- ・ 保健管理
- ・ 児童生徒の健康課題
- ・ 児童生徒の発育発達
- ・ 学校保健組織活動

授業計画

01. ガイダンス（目標1）
02. 学校保健概説Ⅰ（歴史の変遷・意義・関連法規）（目標1. 2）
03. 学校保健概説Ⅱ（領域構造）（目標4）
04. 児童生徒の発育発達と健康課題（目標3）
05. 学校保健計画 法的根拠と意義・内容（目標2）
06. 健康観察 意義（目標3）
07. 健康診断 意義、法的根拠、方法指導（目標2. 3）
08. 疾病管理 疾病の基礎知識（目標1. 3）
09. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標1. 3）
10. 学校救急処置活動 学校における救急処置活動の意義、実際（目標1. 3）
11. 学校環境衛生 法的根拠、学校環境衛生検査の実際（目標1. 2. 3）
12. 学校健康相談活動 学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談（目標1. 3）
13. 学校安全計画・危機管理 児童生徒の災害の実態・安全教育（目標1. 3. 4）
14. 学校保健組織活動 意義・組織（教職員・児童生徒・地域）（目標4）
15. まとめ（学校保健の今日的課題）（目標1. 2. 3. 4）

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 課題発表 | 30% |
| (2) 授業振り返りレポート | 20% |
| (3) まとめのレポート | 50% |

教科書

和田雅史・鈴木明『現代学校保健学』（共栄出版）

参考書

授業の中で指示する

担当教員：中村 月子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301305

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義と実習では、学校における児童生徒の傷病知識、救急処置や対応技術を教授する。心肺蘇生法、AEDを用いた除細動の技術も習得できるように構成されている。

(2) 内容

1. 保健科教諭として、医療的及び教育的側面から救急処置の過程を理解し、的確な判断と処置ができる | 2. 学校救急処置活動の基本的な知識を習得する。 | 3. 学校救急処置の技術を体得する。 | 4. 心肺蘇生法、AED除細動器の取り扱いを体得する。 | 5. 校種別の傷病の特徴を知り、対応できる。 | 6. 学校救急処置過程に準じて児童生徒の対応ができる。 | 以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

受講者に対する要望

実習時は、予鈴がなるまでに身支度を整え、所定の位置に着いていること。

学びのキーワード

- ・ 救急処置
- ・ 学校救急処置
- ・ けがの対応
- ・ 病気の対応

授業計画

01. オリエンテーション（授業の進め方の説明）
02. 学校救急処置過程 保健室入室時の対応（目標1）
03. 学校救急体制（校内役割と組織図等作成）（目標1. 2）
04. 学校救急処置の基本（目標1. 2）
05. けが・病気の対応（1）小学校（目標1. 3. 5）
06. けが・病気の対応（2）中学校（目標1. 3. 5）
07. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（1）こどもの場合（目標4）
08. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（2）大人の場合（目標4）
09. けが・傷の処置（1）中学校・高校に多いけが（目標5）
10. けが・傷の処置（2）止血・包帯演習（目標5. 6）
11. けが・傷の処置（3）骨折等固定演習（目標5. 6）
12. 内科的訴えの対応（目標6）①
13. 内科的訴えの対応（目標6）②
14. 総合シミュレーション（目標1～6）
15. まとめ（目標1～6）

準備学習(予習)

事前に指示される内容について調べておくこと。

準備学習(復習)

指示された内容について学習すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 筆記試験 | 50% |
| (2) 実技試験 | 50% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

授業の中で指示する

担当教員：吉澤 剛士

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301406

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 水と健康の問題を理解できる。| 2. 食品と健康の問題を理解できる。| 3. 住居と健康の問題を理解できる。| 4. 放射能と健康の問題を理解できる。| 5. 公害と健康の問題を理解できる。| 6. 地球環境問題への理解が深まる。| 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。|

(2) 内容

本講義は、水、空気、食品、日光、住居など、我々の周囲の環境と健康との関係について概説した上で、放射能の問題、公害の問題から環境汚染と健康の問題、および地球環境問題と健康の問題まで理解できるように構成している。

受講者に対する要望

教科書を必ず準備してほしい（「公衆衛生学」と共通）。ノートを必ず取ること。遅刻・欠席をしない、教室の前列に着席すること。机上に、雑誌、スマートフォン、飲食物など、講義に関係ない物は置かないこと。

学びのキーワード

- ・水系感染症、緩速濾過と急速濾過、下水処理、活性汚泥法、浄化槽
- ・微生物起因の食中毒、感染型と毒素型、自然毒、化学毒
- ・温熱条件、感覚温度、熱中症、換気、二酸化炭素、一酸化炭素
- ・環境基本法、四大公害、環境基準
- ・地球環境問題、温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨

授業計画

01. 環境と健康
02. 水と健康、上水道普及と感染症
03. 上水処理法と水道水の水質基準
04. 下水道の目的と下水処理法
05. し尿処理と廃棄物処理
06. 食中毒(1) 微生物を原因とする食中毒
07. 食中毒(2) 自然毒および化学物質
08. 住居の環境衛生(1) 温熱条件・熱中症
09. 住居の環境衛生(2) 二酸化炭素・一酸化炭素・換気
10. 電離放射線、紫外線、マイクロ波、レーザー光
11. 環境の化学的条件
12. 公害と環境汚染(1) (環境基本法・大気汚染)
13. 公害と環境汚染(2) (水質汚濁と公害病)
14. 地球環境問題(温暖化、オゾン層破壊ほか)
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の該当範囲については、予め、目を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義中に強調した箇所、キーワード、終了時の小テスト、および、返却された前回の小テストで出来なかった箇所は、よく復習しておく。

評価方法

- | | | |
|-----------------------|-----|----------|
| (1) 授業への参加度および課題へ取り組み | 20% | 積極性、着席位置 |
| (2) 毎回の小テスト | 30% | |
| (3) 授業内試験 | 50% | |

講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。原則、次回に返却する。

教科書

配布資料を使用

参考書

担当教員：吉澤 剛士

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301511

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける | 【M】人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【W】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 健康の定義、健康指標、および予防医学の概念について理解できる。 | 2. 保健衛生統計について理解できる。 | 3. 感染症とその予防について理解できる。 | 4. 疫学概念について理解できる。 | 5. 成人保健について、生活習慣病とその予防、衛生行政の観点から理解できる。 | 以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。 |

(2) 内容

健康の維持増進に働きかけるための基礎となる公衆衛生に関する知識を身につけるため、本講義は、はじめに健康の概念から、保健衛生統計の意義とその理解の仕方まで概説する。次に、公衆衛生学では重要なテーマである感染症とその予防方法について解説し、疫学とは何であるのかについて理解できるように構成している。最後に、現代大きな問題となっている生活習慣病について触れ、成人保健の今日的課題が理解できるように構成している。

受講者に対する要望

机の上に講義に関係ない物は置かないこと。他の受講者に迷惑をかけないこと。

学びのキーワード

- ・健康指標、人口動態、人口動態
- ・一次予防、二次予防
- ・疫学、記述疫学、分析疫学、患者・対照研究、コホート研究
- ・生活習慣病、メタボリックシンドローム、特定健診
- ・保健衛生行政、

授業計画

01. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
02. 人口動態統計・人口動態統計
03. 出生と死亡の動向
04. 生命表と平均余命・平均寿命
05. 医の倫理
06. 感染症とその予防
07. 免疫と予防接種、消毒
08. AIDSと性感染症
09. 疫学1. 疫学とは何か
10. 疫学2. 記述疫学と分析疫学
11. 生活習慣病とその予防
12. 健康増進、成人保健、老人保健
13. 地域保健、保健衛生行政
14. 医療保障、保健医療サービス
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書の該当箇所を予習しておくこと。

準備学習(復習)

講義中のキーワード、前回復習問題の誤答箇所、当日の復習問題の疑問点などは、教科書も参考に復習のこと

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 受講態度 | 20% |
| (2) 各回復習問題 | 30% |
| (3) 期末授業内試験 | 50% |

教科書

苫米地孝之助『Nボックス 改訂健康管理論』（建帛社）【978-4-7679-0496-2】

参考書

担当教員：助川 征雄

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D301707

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける【M】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（保健）：必修科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【D】認定心理士：選択科目 | 【M】認定心理士：副次科目

(1) 学びの意義と目標

1. 精神保健の定義と健康に対する意義を理解できる。
| 2. 子ども期に発症しやすい精神疾患とその治療の現状について理解できる。
| 3. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育のあり方について理解できる。
| 4. 精神科治療の基本知識について理解できる。
| 5. 学校における精神保健について理解できる。
| 6. 職場のメンタルヘルスについて理解できる。
| 以上を通して、精神的な健康を保持するための環境や文化について知った上で、学校保健について深く考察できるようになる。幅広く人間という存在を理解できるような保健科教員を目指す。|

(2) 内容

本講義は、子ども期における各精神疾患の特徴やアセスメントの方法について概説した上で、精神科治療の基本的な考え方や治療体系、心理療法、認知行動療法等を含めた治療支援活動についても触れる。また、学校における精神保健活動や教職員のメンタルヘルスについて理解できるように構成している。

受講者に対する要望

精神保健（メンタルヘルス）が、障がい者だけではなく誰にとっても大切なことをしっかり受け止めること。

学びのキーワード

- ・精神保健福祉の歴史
- ・ライフサイクルと精神保健
- ・医学モデルからリカバリーモデルへ

授業計画

01. 精神保健の定義と意義（目標1）
02. 子ども期の精神疾患（気分障害の特徴や治療について）（目標2）
03. 子ども期の精神疾患（統合失調症の特徴と治療について）（目標2）
04. 子ども期の精神疾患（不安障害の特徴と治療について、子どものPDSOと環境との関連に
05. 子ども期の精神疾患（心身症の特徴と治療について）（目標2）
06. 子ども期の精神疾患（パーソナリティ障害の特徴と治療について）（目標2）
07. 子ども期の精神疾患（物質関連障害の特徴と治療について）（目標2）
08. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育（目標3）
09. 精神科治療の基礎知識 精神科治療の基本的な考え方、精神科の治療体系、薬物療法（向精神薬）と治療支援活動（目標4）
10. 精神科治療の基礎知識 心理療法、認知行動療法、リハビリテーション等（目標4）
11. 学校における精神保健（学校保健統計からみた精神保健の問題）（目標5）
12. 学校における精神保健（精神保健相談）（目標5）
13. 学校における精神保健（精神保健指導への取り組み）（目標5）
14. 学校における精神保健（保護者への対応、地域との連携、危機対応）（目標5）
15. 職場のメンタルヘルス（教職員のメンタルヘルスについて）（目標6）

準備学習（予習）

2回目から、毎回、資料を配布するので、あらかじめ通読するなど予習をし、質問も適宜準備して授業に臨むこと。

準備学習（復習）

毎回、資料等を読み直し、わからない専門用語などは、その日のうちに調べておくこと。適宜、関連した宿題も課す。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業内レポート | 60% |
| (2) 平常点 | 40% |

期末レポートによる（5つの課題の中から選択）。

教科書

講義は原則、毎回配布するレジメを使用。

参考書

講義の中で参考書を紹介する。

担当教員：齋藤 一雄、金澤 貴之、川間 健之介、永井 伸幸、米田 宏樹、赫多 久美子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1D402000

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 特別支援教育の目指すべき目標・理念について理解することができる。| 2) 特別支援教育体制における学校経営、学級経営、指導の実際を知ることができる。| 3) 特別支援教育に関する法律・制度等を理解することができる。| 4) 特別支援教育の現状について、障害種別ごとに概要を理解し、述べることができる。| これらを通して、障害の概要及び特別支援教育全体を理解し、教育者にとって基盤となる知識ならびに価値観と、人格の育成を図る。|

(2) 内容

特別支援教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講義する。さらに、特別支援教育の現状について障害種別ごとに定義や診断、就学、教育の概要を理解し、全体像を把握する。

受講者に対する要望

障害のある子どもの教育の現状と問題点を知識として得るだけでなく、自らの問題意識へと発展させていくことを期待する。

学びのキーワード

授業計画

01. 特別支援教育の歴史と理念（担当：米田）
02. 特別支援教育制度の成果と限界（担当：米田）
03. 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の提起（担当：米田）
04. 日本的インクルーシブ教育としての特別支援教育（担当：吉田）
05. 特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画、校内支援体制（保護者支援を含む）（担当：吉田）
06. 学校教育法、同施行規則、同施行令（学校教育制度、就学指導、学習指導要領等）（担当：吉田）
07. 障害児の教育の概要（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常学級；個別教育支援計画、個別指導計画）（担当：吉田）
08. 障害種別ごとの教育の概要（視覚障害）（担当：永井）
09. 障害種別ごとの教育の概要（聴覚障害）（担当：金澤）
10. 障害種別ごとの教育の概要（知的障害）（担当：吉田）
11. 障害種別ごとの教育の概要（肢体不自由）（担当：川間）
12. 障害種別ごとの教育の概要（病弱・身体虚弱）（担当：岡澤）
13. 障害種別ごとの教育の概要（重複障害）（担当：岡澤）
14. 障害種別ごとの教育の概要（発達障害）（担当：吉田）
15. 理解推進（担当：吉田）

準備学習(予習)

配布資料の指定された箇所を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布される資料を見直し、授業内容についての理解と考察を深めておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 課題レポート | 20% |
| (2) 講義内容の確認テスト | 80% |

教科書

資料を配布

参考書

担当教員：金澤 貴之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402313

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 聴覚障害児教育の歴史やその具体的な指導法について言語発達を軸に理解できる。| 2) 聴覚障害に関する基本的概念と聴覚障害児の発達に関する基礎的知識を理解できる。| 3) 聴覚障害児教育が直面する今日的課題について論考し、理解を深める。| これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる聴覚障害児への教育的な技能を身につけ、また心理・生理・病理に関する知識を得ることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。|

(2) 内容

本授業では、まず聴覚障害教育の歴史および教育制度、ならびに実際の指導方法について講義する。また、聴覚障害児生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達といった個体的側面について概観する。加えて聴覚障害とその概念、聞こえの仕組み、聴覚障害の発見と診断、その後の聴覚補償に至るまでの聴覚障害に関する基礎的内容を概観する。

受講者に対する要望

特別支援教諭を目指すために必要な講義である。教師として自らの学ぶ姿勢を問い直しながら講義を受けてほしい。

学びのキーワード

- ・聴覚障害教育の歴史
- ・聴覚特別支援学校
- ・教育制度
- ・指導法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 聴覚障害とその概念
03. 聴覚障害教育の歴史
04. 聴覚障害に関わる教育制度：カリキュラム編成
05. 聴覚特別支援学校（聾学校）の組織と教育の概要
06. 聴覚障害児の指導法（1）口話法による言語指導
07. 聴覚障害児の指導法（2）キュード・スピーチ、指文字、手話
08. 聴覚障害児の指導法（3）手話言語環境における言語指導
09. 聴覚障害の生理・病理（1）聞こえの仕組み
10. 聴覚障害の生理・生理（2）発見・診断・分類
11. 聴覚障害と聴覚補償
12. 聴覚障害の心理（1）認知機能の発達
13. 聴覚障害の心理（2）言語発達
14. 聴覚障害とコミュニケーション
15. 聴覚障害と社会生活

準備学習(予習)

学習指導要領については事前に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義内容の振り返りは、毎回の講義後、各自怠ることのないように心掛けること。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業における発表、小レポート等 | 60% |
| (2) 試験 | 40% |

教科書

参考書

担当教員：永井 伸幸

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402414

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 視覚系の構造、機能、病態生理を理解できる。
 2) 視覚障害の概念、定義、分類を理解できる。
 3) 視覚障害の心理特性を理解できる。
 4) 視覚障害教育の課程、内容、指導方法について具体的に理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる視覚障害児への心理・生理・病理に関する知識を得、また、教育的な技能を身につけることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。

(2) 内容

視覚障害は視力、視野、色覚等の視機能の永続的低下である。視覚障害を生理的、知覚心理学的に理解するには、視機能や視知覚特性の基本的な理解が必要である。また、聴覚や触覚の特性の理解も必要である。そうした知覚、生理の基礎を踏まえた上で視覚障害と関連の深い代表的な眼疾患について学び、加えて彼らに対する教育課程並びに指導法の在り方を探り、理解を深める。

受講者に対する要望

視覚障害の児童生徒への教育に必要な内容である。講義にしっかりと集中してほしい。

学びのキーワード

- ・心理特性
- ・視覚系の生理・病理
- ・教育制度・カリキュラム編成
- ・指導方法

授業計画

01. オリエンテーション
02. 視覚障害の生理・病理（1）視覚系の構造
03. 視覚障害の生理・病理（2）視機能（視力、視野等）
04. 視覚障害の生理・病理（3）視覚障害と眼疾患
05. 視覚障害児の心理（1）心理的適応
06. 視覚障害児の心理（2）聴覚と空間概念
07. 視覚障害児の心理（3）触覚と体性感覚
08. 視覚障害児の就学の基準と学びの場
09. 視覚障害特別支援学校（盲学校）における教育の特徴（カリキュラム編成を含む）
10. 視覚障害児の指導法（1）視覚障害と点字
11. 視覚障害児の指導法（2）視覚障害と歩行
12. 視覚障害児の指導法（3）弱視児に対する指導の配慮
13. 視覚障害児の指導法（4）弱視児に対する拡大の方策
14. 重複障害児の指導
15. 全体の振りかえりとまとめ

準備学習(予習)

視覚系の構造と機能については、事前学習として調べておくこと。

準備学習(復習)

講義内容についてはその都度、各自、振り返り、理解が不足している部分については復習してほしい。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業態度（発表、小レポート） | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

青柳まゆみ 鳥山由子『視覚障害教育入門—改訂版—』（ジアース教育新社）【978-4863713000】

参考書

担当教員：齋藤 一雄、吉井 勘人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402515

学部教育の関連目

[D] 「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 知的障害教育の教育課程の編成について、学部ごとの特色を理解できる。| 2) 教育課程と指導計画について理解できる。| 3) 知的障害児の指導方法について理解できる。| 4) 計画に関する理解を深め、指導案の作成や指導技術を学び、授業の評価の基本を理解する。| これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる知的障害児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。|

(2) 内容

本授業では、特別支援学校や特別支援学級の教育課程の編成を知るとともに、各教科等の指導計画を学ぶことができるように構成している。次に、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深める構成とし、最後に、事例を通して個別の指導計画に理解を深められるように構成している。これらを通して、特別支援学校教諭として実践的に教育に携われる能力の育成を目指す。

受講者に対する要望

知的障害や自閉症に関する図書を読んで理解を深めておくこと
また特別支援学校等のボランティアに参加すること

学びのキーワード

- ・領域・教科を合わせた指導
- ・生活単元学習
- ・作業学習
- ・教科別の指導
- ・自立活動

授業計画

01. オリエンテーションおよび知的障害教育の指導法の特徴（担当：吉田）
02. 知的障害特別支援学校や特別支援学級の教育課程編成と学習指導要領（領域・教科、教科別、領域別）
03. 指導計画の作成と指導案① 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）
04. 指導計画の作成と指導案② 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）の続き
05. 指導計画の作成と指導案③ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）（担当：吉井）
06. 指導計画の作成と指導案④ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き
07. 指導計画の作成と指導案⑤ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き
08. 指導計画の作成と指導案⑥ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）（担当：吉田）
09. 指導計画の作成と指導案⑦ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田）
10. 指導計画の作成と指導案⑧ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田）
11. 指導計画の作成と指導案⑨ 教科別の指導 国語（担当：吉井）
12. 指導計画の作成と指導案⑩ 教科別の指導 算数（担当：吉井）
13. 指導計画の作成と指導案⑪ 教科別の指導 国語・算数・音楽の教科書（担当：吉田）
14. 領域別の指導：道徳、特別活動、自立活動（担当：吉井）
15. 個別の指導計画と学習指導案（担当：吉田）

準備学習(予習)

学習指導要領と解説を読んで、基礎的な理解をしておくこと。
障害児に関するニュースや新聞記事等をつかんでおくこと

準備学習(復習)

学習内容をまとめ、要点を押さえておくこと

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 発表、小レポート等 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部)』(海文堂出版)【978-4303124328】| 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)』(教育出版)【978-4316300160】| 文部科学省『特別支援学校幼稚園教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領・特別支援学校高等部学習指導要領』(海文堂出版)【978-4303124229】

参考書

担当教員：鈴木 晴子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1D402610

学部教育の関連目

【D】「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 乳幼児期の子どもたちの生活習慣に関する知識を学びまた遊びの意義について理解できる。| 2) 乳幼児期の子どもたちの生活環境について保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から学ぶことができる。| 3) 教育課程編成の基本的な考え方と障害児への保育の考え方を理解できる。| 4) 障害児のケアのための基礎知識と実際の指導法について具体的に学ぶ。| 以上の学習により特別支援教諭に求められる、乳幼児期に必要なケアと指導の具体的方法について学ぶことができる。同時に、これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる乳幼児期の子どもたちの生活に関する知識、生活にかかわる活動への援助、そしてケアに関する具体的な技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。

(2) 内容

本講義は、主に障害のある幼児に対する療育と指導の方法について学ぶことを目的とする。講義は、以下のように構成されている。まず第一に、障害幼児の療育と指導方法を学ぶ基盤として、健常乳幼児の生活について生活習慣および遊びの観点から学ぶ。第二に、幼児期の子どもたちの発達特徴と集団生活という環境の特性を理解したうえで、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から、発達を促す環境構成とその指導の要領を学ぶことで、インクルーシブ教育の中での障害幼児の生活とその支援について考察を深める。そして第三に、教育的ニーズのある幼児に対する個別支援計画の立案と、具体的な指導に結びつく教材等について学ぶ。最後に、障害を理解するうえでの基本知識及び療育に必要なケアの方法、具体的指導方法を学ぶ。

受講者に対する要望

障害幼児に焦点を当てた授業は、本講義だけである。幼児期の支援は、特別支援教育では、基本をなすものである。しっかりと学んでほしい。

学びのキーワード

- ・子どもとは
- ・乳幼児期の子どもたちの生活理解
- ・ICF
- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領とは
- ・障害幼児の理解と支援

授業計画

01. オリエンテーション、「こども期」の生活
02. 乳幼児期の子どもたちの生活（1）生活リズムと睡眠
03. 乳幼児期の子どもたちの生活（2）生活習慣
04. 乳幼児期の子どもたちの生活（3）遊び
05. 乳幼児の子どもたちの生活（4）食育など
06. 「障害」について当事者の語りからみつめる
07. 保育における個別の教育的ニーズと援助（地域連携、他職種連携など）
08. 障害程度に応じた実際の指導法（主に重度の障害）
09. 保育・教育機関の指針等の保育および保育形態の理解
10. 「共生社会の形成」へ向けてのインクルーシブ教育システムの構築の意義（主に幼児教育において）
11. 教育課程編成の基本的な考え方と障害幼児の発達を支える教材と個別支援計画（主に絵本）
12. 障害についての生理・病理的知識の理解（1）中枢・末梢神経系についての理解、知的障害・発達障害等
13. 障害についての生理・病理的知識の理解（2）てんかん等
14. 障害児のケアおよび指導法（1）生活習慣
15. 障害児のケアおよび指導法（2）遊び

準備学習(予習)

学習しなければならない内容が多い講義であるため、指示された事前学習は、確実にして講義に出席してください。

準備学習(復習)

講義後、理解が不十分と思われた内容については、復習をすること。

評価方法

- | | | |
|---------------------|-----|---------------------------|
| (1) 講義内容に関する知識の確認 | 50% | 実施後にフィードバックを行う。 |
| (2) 子ども遊びに関する課題レポート | 40% | 本課題レポートは後日返却する。 |
| (3) 授業毎レポート | 10% | 授業毎レポートに対しては、次週の授業時に返答する。 |

教科書

授業の中で指示する

参考書

担当教員： 赫多 久美子

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1D402717

学部教育の関連目

【D】「こども期」の発達に影響する環境や文化についての知識を学び、こども期の学習と発達を支援する技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

病弱児は特別支援学校（病弱）や特別支援学級（病弱）にのみ在籍しているわけではなく、他の障害種の特別支援学校や学級、通常の学級にも在籍しています。病弱児が安心して学校生活を送るためには、教師の理解と適切な配慮が不可欠です。そのため、この講義では以下のことを目標とします。|①病弱児の教育に関する歴史、法令・制度について基本的な知識を習得する。|②教育課程、教育内容・方法（各教科、自立活動）、自己管理支援について基本的な知識を習得する。|③様々な病気の子どもに対する正しい理解と適切な配慮、指導や支援の仕方の基本を身につける。

(2) 内容

我が国の病弱教育の現場について、明治時代から今日までの病弱教育、病気の種類の変遷、病弱教育の意義、これからの病弱教育について分析し、特別支援教育の観点から病気の子どもへの教育における指導法について考察します。併せて病弱教育の充実のための課題と具体的展開の方策について考えます。|①病弱児の教育に関する歴史、法令・制度について解説する。|②病弱教育における教育課程、教育内容・方法（各教科、自立活動）、自己管理支援について、実践例を挙げながら解説する。|③様々な病気の子どもに対する正しい理解と適切な指導や支援の仕方について、グループディスカッションを取り入れながら考察する。|

受講者に対する要望

病気の子どもに関する新聞、ネット、テレビの報道等に関心を向け、積極的にアクセスしましょう。|グループディスカッションでは、自ら考え、臆せず自分の意見を表明しましょう。

学びのキーワード

- ・ 病弱・虚弱の定義
- ・ 教育課程
- ・ 自己管理支援
- ・ 個別の指導計画
- ・ 合理的配慮

授業計画

01. オリエンテーション 病弱児、病弱教育とは？（定義と意義について）
02. 病弱教育の歴史と制度（明治から現在に至るまで 障害者の権利に関する条約、障害者差別解消法）|
03. 病弱教育の場と指導形態
04. 関連機関、多職種との連携（トータルケアの観点から）
05. 病弱教育における児童・生徒理解と教育課程
06. 病弱教育における個別の指導計画、個別的教育支援計画、自立支援、キャリア教育
07. 病弱教育における教科指導、自立活動の実際と課題（実践事例）
08. 病弱教育における教材教具の工夫とICT活用
09. 病弱児の自己管理支援（1）（身体疾患 アレルギー疾患の事例で）
10. 病弱児の自己管理支援（2）（精神疾患 当事者研究）
11. 病弱児の保護者・きょうだいの理解と接し方
12. 復学支援、通常学級における病弱児の支援、合理的配慮、災害時の支援体制
13. ターミナル期における指導・支援、グリーフケアについて
14. 病弱教育の課題と展望（インクルーシブ教育システムの構築）
15. まとめ

準備学習(予習)

次回の内容に関連した課題を提示します。自分で調べてノートにまとめ、講義に臨みましょう。|

準備学習(復習)

講義で取り上げた事項、専門用語等をワークシートやノートにまとめておきましょう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---------------------------------|
| (1) 授業への参加度 | 40% | 毎回、講義内容に関連したリアクションペーパーの提出を求めます。 |
| (2) 試験による評価 | 60% | 第15回に授業内試験を実施します。 |

教科書

『病弱教育における各教科等の指導』編著：全国特別支援学校病弱教育校長会：ジアース教育新社（¥2,000+税）【ISBN978-4-86371-333-8】をテキストとします。

参考書

担当教員：太田 ミュキ

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1J110760

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習① 説明の語彙
04. 実作練習② テーマ
05. 実作練習③ 取材
06. 実作練習④ 構想
07. 実作練習⑤ 帰納法
08. 実作練習⑥ 演繹法
09. 実作練習⑦ 構成
10. 実作練習⑧ 尾括式
11. 実作練習⑨ 頭括式
12. 実作練習⑩ 双括式
13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング
14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：副田 恵

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110765

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけるとともに、その学習体験を通して指導方法について理解していくことを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習① 説明の語彙
04. 実作練習② テーマの提示
05. 実作練習③ 材料の取材
06. 実作練習④ 構想の重要さ
07. 実作練習⑤ 帰納法
08. 実作練習⑥ 演繹法
09. 実作練習⑦ 構成
10. 実作練習⑧ 尾括式
11. 実作練習⑨ 頭括式
12. 実作練習⑩ 双括式
13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング
14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：坂巻 理恵子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目

単位：2

授業コード：1J110770

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習① 説明の語彙
04. 実作練習② テーマの提示
05. 実作練習③ 材料の取材
06. 実作練習④ 構想
07. 実作練習⑤ 帰納法
08. 実作練習⑥ 演繹法
09. 実作練習⑦ 構成
10. 実作練習⑧ 尾括式
11. 実作練習⑨ 頭括式
12. 実作練習⑩ 双括式
13. 実作練習⑪ クリティカル・リーディング
14. 実作練習⑫ 接続詞・指示語
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：副田 恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：必修科目 単位：2 授業コード：1J110775

学部教育の関連目

【1】表現力・コミュニケーション・文章理解力・文章作成力を伸ばし、言語能力を高め、的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持つてくるであろう。

(2) 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

受講者に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

学びのキーワード

- ・文章読解力
- ・論理的思考
- ・表現力

授業計画

01. 導入
02. 文章構成練習
03. 実作練習①
04. 実作練習②
05. 実作練習③
06. 実作練習④
07. 実作練習⑤
08. 実作練習⑥
09. 実作練習⑦
10. 実作練習⑧
11. 実作練習⑨
12. 実作練習⑩
13. 実作練習⑪
14. 実作練習⑫
15. 総括

準備学習(予習)

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

準備学習(復習)

次回の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 提出物 | 70% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集めて採点をつける。したがって、未提出の回があると採点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

教科書

参考書

担当教員：小林 茂之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J120100

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【A】 副専攻：日本文化学科科目 | 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

多くの受講者にとって母語の日本語と最も身近な外国語である英語との比較を通して、現代言語学のスタンダードな考え方を学ぶ。また、現代知性の代表の一人としてのチョムスキーと現代言語学の典型である生成言語学を具体例を通して学ぶことによって科学的思考法を養い、大学学部レベルの現代言語学・言語哲学・認知科学に関する人文的教養を身に付けるとともに、チョムスキーの哲学的意義や、彼の活動を通して大学知識人の民主主義社会に対する責任や倫理について学ぶ。

(2) 内容

現代言語学は、科学の一分野として認識されるようになった。これは、チョムスキーによる生成文法と呼ばれる言語研究が言語学の主流の一つを占めるようになったためである。本講義では、現在アメリカの代表的知識人の一人であるチョムスキーについて紹介し、彼が確立した生成文法が何を問題とし、解明してきたかを展望する。そして、生成文法が研究対象とする母語話者の言語知識とは何であるかを、受講者のほとんどの母語である日本語と、言語の普遍性の観点から日本人にとってもっとも知られている外国語である英語のデータに基づいて、音声学・音韻論、統語論（文法）、意味論などの主要分野について概説する。なお、受講者の理解度に応じて、高等学校における国語学の用語からの橋渡しするとともに、近年の言語研究の成果に対する理解を図る。

受講者に対する要望

毎回、導入・要点をパワーポイントで解説する。また、出席票を兼ねたリアクションペーパーに授業内容に即した簡単な問いに取り組んでほしい。発展的読書の案内があるので、受講者は発展的読書に取り組んでほしい。また、教科書は授業時、予習、復習が必要であるので、教科書を手しないうちに授業に出席しても平常点は認められない。

学びのキーワード

- ・ 言語
- ・ 音声・音韻
- ・ 文法
- ・ 語彙
- ・ 意味

授業計画

01. 生成文法入門(1)、チョムスキーの学問と思想
02. 生成文法入門(2)、チョムスキーの生い立ち、思想界への影響
03. 第1章 ことばの研究(1)、言語観の移り変わり、国語学、規範主義、言語科学
04. 第1章 ことばの研究(2)、恣意性、分節性、抽象性、構造
05. 第1章 ことばの研究(3)、言語能力、言語運用、言語獲得
06. 第1章 ことばの研究(4)、ことばの普遍性と個別性、ことばの伝達機能、談話（文章表現）
07. 第2章 ことばの獲得(1)、言語獲得の普遍性、言語獲得の迅速さと完璧さ、臨界期
08. 第2章 ことばの獲得(2)、言語獲得の前提条件、発達心理言語学
09. 第2章 ことばの獲得(3)、生成文法と言語獲得、PP理論と言語獲得過程
10. 第2章 ことばの獲得(4)、空主語パラメータ、可能なパラメータの制限、語彙項目に結び付けられたパラメータ
11. 第3章 音としてのことば(1)、音声学、文字と音声、発音のメカニズム、音の分類
12. 第3章 音としてのことば(2)、日本語の音、韻律現象（アクセント）
13. 第3章 音としてのことば(3)、音韻論、最小対立の対、音素、辞書と音韻表示
14. 第3章 音としてのことば(4)、音韻素性と音韻規則、日本語の音韻現象、動詞の活用、ピッチアクセント
15. 第4章 語彙と辞書(1)、文法構造と辞書
16. 第4章 語彙と辞書(2)、形態素、接辞、異形態
17. 第4章 語彙と辞書(3)、語彙範疇、述語の項構造、慣用句、辞書における記載
18. 第4章 語彙と辞書(4)、派生、複合、その他の語形成
19. 第5章 文の仕組み(1)、文法性の判断、句構造
20. 第5章 文の仕組み(2)、移動現象、受動文、日本語に特有な被害の受動文
21. 第5章 文の仕組み(3)、名詞句の解釈、束縛理論
22. 第5章 文の仕組み(4)、不可視的要素
23. 第6章 語の意味と文の意味(1)、単語の意味、多義性、意味素性、意味関係、意味公準
24. 第6章 語の意味と文の意味(2)、文の意味構造、統語論と論理形式
25. 第6章 語の意味と文の意味(3)、論理形式における名詞句の解釈
26. 第6章 語の意味と文の意味(4)、修飾、含意と前提、情報の構造
27. 補足(1)：歴史言語学入門（ラテン語）
28. 補足(2)：歴史言語学入門（ギリシア語）
29. 補足(3)：日本語と英語の史的対照
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回の講義の最後に、次回の教科書の予習ページが示されるので、それにしたがって教科書を予習する。

準備学習(復習)

期末のレポートの準備を含めて、発展的読書をする。また、講義で取り上げない部分を復習時に補う。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------------------|
| (1) レポート | 40% | 教科書に基づく課題レポートであるので、教科書を必ず入手する。 |
| (2) 平常点 | 40% | 教科書の携行を随時チェックする。 |
| (3) 授業参加度 | 20% | 出席票を兼ねたリアクションシートの課題を提出することを含む。 |

平常点の評価は、教科書の携行して、授業に出席することが前提である。毎授業時ごとにリアクションペーパーの提出がある。授業参加度には、出席票を兼ねたリアクションペーパーの授業の内容理解のための課題への取り組みを含む。

教科書

井上和子・他『生成言語学入門』（大修館書店）【978-4469212341】

参考書

授業時に指示する。

担当教員：木下 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：4 授業コード：1J120210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の日文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）・必修科目 【教】 高等学校教諭一種（国語）・必修科目 【A】 副専攻：日本文化学科科目 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本文学および日本文学研究の特色や方法を理解します。これから、さまざまな作品を鑑賞し、研究するための土台を作ります。

(2) 内容

日本文学入門。これから4年間、研究を進めていく上で知っておきたい、日本文学によく登場する概念や事項、基礎的な知識を学びます。前半は、まずは、書物の装訂と漢字から仮名が作り出されていく過程をたどります。次に、神話や物語、また現代にも見られる、高貴な生まれの主人公が中央世界から疎外され、さすらって苦難を乗り越えたり、時にはそのまま亡くなってしまふ「貴種流離譚（きしゅりゅうりたん）」という話型に着目します。そして、同時代や後世の読者がそれをいかに解釈し、自分の課題に向き合ったり楽しんだりしたかを考えます。後半は、流離のテーマが天変地異や災害、政権交代によって「無常・遁世・漂泊」という描かれ方に変化していくことや、読者層が広がることで「勸善懲悪」の筋書きが好まれていく様相を追います。その次に、和歌から俳句、短歌にいたる流れのなかで、言葉と観念がどのように磨き上げられていったかを探ります。以上のように、文学史上の概念をほぼ時代順に追うことで、それぞれの時代に特有の精神や思想、美意識に迫ります。

受講者に対する要望

ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。

学びのキーワード

- ・日本文学
- ・漢字と仮名
- ・王権と流離
- ・物語と読者
- ・和歌から俳諧、俳句、短歌へ

授業計画

01. はじめに一本のかたちと広まり：装訂、写本と版本
02. 漢字から仮名へ（1）—漢字の伝来：東アジア漢字文化圏
03. 漢字から仮名へ（2）—訓点、カナ、万葉仮名、かな
04. 異郷・境界（1）—世界のはじまり：高天原と黄泉国
05. 異郷・境界（2）—アマテラスとスサノヲ
06. 異郷・境界（3）—スサノヲ追放：地上へ
07. 王権と流離（1）—ヤマトタケルのさすらい
08. 王権と流離（2）—『伊勢物語』と在原業平
09. 王権と流離（3）—『伊勢物語』の東下り
10. 王権と流離（4）—『源氏物語』の光源氏
11. 王権と流離（5）—『源氏物語』の須磨流離
12. 史実と虚構（1）—光源氏の物語論：史書と比較して
13. 史実と虚構（2）—「日本紀の御局」：同時代の『源氏物語』評
14. 史実と虚構（3）—光源氏になりたかった男：四辻善成と王権
15. 物語の楽しみ（1）—『更級日記』：旅のはじまり
16. 物語の楽しみ（2）—『更級日記』：旅の途中、土地の伝説を楽しむ
17. 物語の楽しみ（3）—『更級日記』：「後の位も何かはせむ」
18. 無常・遁世・漂泊（1）—『平家物語』
19. 無常・遁世・漂泊（2）—『方丈記』
20. 無常・遁世・漂泊（3）—『徒然草』
21. 勸善懲悪（1）—『南総里見八犬伝』：「水滸伝」の影響
22. 勸善懲悪（2）—さまざまな受容
23. 和歌（1）—枕詞・序詞：『万葉集』から『古今和歌集』へ
24. 和歌（2）—掛詞・見立て：『古今和歌集』とそれ以降
25. 和歌（3）—本歌取り：藤原俊成と藤原定家
26. 俳諧・俳句と短歌（1）—松尾芭蕉：美的理念
27. 俳諧・俳句と短歌（2）—松尾芭蕉：『奥の細道』
28. 俳諧・俳句と短歌（3）—正岡子規：さまざまな革新運動
29. 俳諧・俳句と短歌（4）—寺山修司：抒情とアンダーグラウンド
30. まとめ

準備学習(予習)

配布したプリントは必ず読み、分からない漢字や語句については辞書で調べておくこと。図書館を活用すること。

準備学習(復習)

その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。追加で質問があれば受け付けます。

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) 期末試験 | 60% |
| (2) 平常点 | 40% フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物 |

教科書

参考書

三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、本間 洋一(編) 『日本古典文学を読む』(和泉書院)

担当教員：松井 慎一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1J120381

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と論理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地理）：必修科目 | 【A】副専攻：日本文化学科科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

高校までの歴史の学びは、人物名、事件名、年号などをひたすら頭にいれるという暗記物であったかもしれないが、大学での歴史の授業は、史料を解説しながら、過去の時代を考察するという作業が中心となる。史料読解力や論理的思考力を養っていききたい。

(2) 内容

概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。ここ北武蔵の地は、古代においては、埼玉古墳群に象徴されるように、東国豪族が活躍する舞台であり、中世期には、畠山重忠や熊谷直実らの武蔵武士を輩出し、彼らの活躍が鎌倉幕府成立に大きく貢献した。できるだけ北武蔵の状況について触れながら、古代・中世における政治の変遷について解説していく。|||

受講者に対する要望

日本の歴史について関心がある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・ 日本
- ・ 古代
- ・ 中世
- ・ 武蔵国
- ・ 政治史

授業計画

01. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
02. 邪馬台国はどこにあったのか？
03. 稲荷山古墳出土鉄剣銘の衝撃
04. 聖徳太子は本当に偉人なのか。
05. 「天皇」と「日本」の誕生 |
06. 聖武天皇の憂鬱と天皇制の危機
07. 桓武天皇のコンプレックス
08. 極楽浄土に憧れた道長・頼通父子
09. 畠山重忠の怪力伝説
10. 「官軍」はなぜ負けたのか？－承久の乱をめぐって－
11. 「冬は必ず春となる」－蒙古襲来と鎌倉新仏教－ |
12. 尊治と尊氏 |
13. くじ引きで決めた征夷大將軍
14. 北条氏に支配された武蔵国
15. まとめ

準備学習(予習)

各回で取り扱う事項に関する予備知識を得たうえで講義に臨むこと。

準備学習(復習)

授業終了後は、プリントを読み返すなどして、しっかり理解すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する |

参考書

担当教員：上安 祥子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目/選択単位：2 授業コード：1J120482

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【J】人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目 | 【A】副専攻：日本文化学科科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

歴史を学ぶということは、記録された個々の事実や、叙述されたストーリーを「覚える」ことではない。さまざまな史料や学説を検討、検証し、より確かにアプローチする方法を模索しながら、その事実を読み解いていく、きわめて論理的な思考力を駆使する作業が必要だ。本講義でも、そうした論理的思考力を養うことを目標としている。 | なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部社会科教職科目でもある。将来、教え導く立場に立つ諸君だからこそ、歴史を考えて学ぶ醍醐味を、十分に体験してもらいたい。

(2) 内容

概説Bでは、江戸時代から昭和までの歴史をあつかう。洪水や地震などの災害における救済と復興、戦争が起きた経緯、を重点的にとりあげ、政治や社会の動向といった側面をたどる。 | 個々のトピックスそのものを理解するだけでなく、史料を通じてその時代の様相や志向を「考える」、そして時代の流れを把握する、という、学びのプロセスを重視して授業をすすめていきたい。

受講者に対する要望

予習の内容、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めることがある。「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり調べておくこと。その場で考えるものについては、間違ふことをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べること。

学びのキーワード

- ・ 災害
- ・ 戦争
- ・ 近世
- ・ 近代

授業計画

01. ガイダンスー江戸の“四民”
02. 新しい時代の治者像ー山鹿素行の士道論と「太平記読み」の世界
03. ある名主の苦悩ー救済する人、される人
04. 御所千度参りの波紋
05. 七分積金と江戸の町会所
06. 「ぶらかし」と幕府の「私」
07. 東京の誕生
08. 築地梁山泊と改正掛
09. 1889年2月11日の万歳
10. かみあわない「自主」ー日清戦争、そして日露戦争へ
11. 普通選挙への道のり
12. 帝都復興
13. “ひきずられる”国論ー満蒙へのまなざし
14. 開戦しない論理、開戦する論理ー日中戦争、そして太平洋戦争へ
15. まとめ

準備学習(予習)

次回の授業内容に関して、確認しておくべき語句など、基本的には空欄補充形式の予習課題あり。この予習課題は提出はせず、成績にも反映しないが、予備知識や関心をもつことは、授業の理解度を高める。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。

準備学習(復習)

* 授業で配布するプリントに空欄を設け、その空欄に重要語句などを記入する作業を行いながら授業をすすめるが、その空欄に書き込んだ語句などを中心に、プリントをよく見直すこと。 | * 授業内試験の内容をよく見直すこと。 | * 授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”にとらえ、とくに関心を惹かれた内容に関するものから参考文献を読み進めてほしい。そうすることが復習になるとともに、理解を深めることにもつながる。とりわけ、教員免許取得を目指して履修する諸君は、1冊でも多くの参考文献を手にとるよう、意欲的に取り組んでほしい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--|
| (1) 学期末試験 | 55% | * 第15回目に授業内試験を行う。 * 試験の形式などは、時期をみて、授業のなかで説明する。 |
| (2) 授業内小試験 | 45% | * 授業中に出題、発問、授業時間経過に応じて随時行われる。 * 1人1人の授業で取り扱った内容から、授業時間経過と質問回数に応じて。 |

* 出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。 | * 公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。

教科書

なし。毎授業、プリントを配布する。

参考書

毎授業、複数冊、紹介する。

担当教員：近藤 聡

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J131280

学部教育の関連目

【J】表現力・コミュニケーション：会話を伸ばし、的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(国語)：必修科目【教】高等学校教諭一種(国語)：必修科目【A】副専攻：日本文化学科科目

(1) 学びの意義と目標

授業の目標は次の2点です。| 1. 受講者全員がディベートをできるようにする。| 2. 国語科教育におけるディベート学習を知る。| ディベートはトレーニングですから、明確な方法および指導事項があります。方法と指導事項を明示しながら、各自がディベートをおこなえるように指導します。ディベートには様々な形式があります。今回は、トレーニング効果の高い2通りの形式でおこないます。| また、ディベートの授業実践において、「反駁」学習は意義がありながら、指導が最も困難であるとされてきました。この点を克服した国語科教育の最新の授業プランを、実際に体験して学びます。| 将来、受講者が、国語科教育の現場に立つ際に、理論と実践の両面で役立つ授業を目指しています。|

(2) 内容

アカデミック・ディベートは、論点整理と再構造化を繰り返し訓練するトレーニングです。| 現在の国語科教育は、アカデミック・ディベートを「アーギュメント教育」「論理的思考力の向上」を目的にして、以前より導入するようになりました。しかし、十分に普及しているとはいえません。| 本授業は、受講者がディベートとディベート学習の両方を知ることが目標としています。

受講者に対する要望

授業は、基本的にワークショップ型です。個人およびグループでの演習とディベートゲームで授業は進行します。| 各自が能動的に学習に取り組む必要があります。課題を締め切りまでにきちんとこなし、遅刻や欠席がないようにしてください。

学びのキーワード

- ・ディベート
- ・アーギュメント教育
- ・国語科教育

授業計画

01. ディベートの四条件を知る
02. 反駁を学ぶ(1)：演習「反駁を書く①」
03. 反駁を学ぶ(2)：演習「反駁を書く②」
04. 反駁を学ぶ(3)：反駁エンドレスゲーム「反駁を繰り返す」
05. 反駁を学ぶ(4)：演習「反駁を振り返る」
06. ストラテジーを学ぶ：演習「反駁を想定して立論を作る」
07. 演習「三・三(さん・さん)ディベート」
08. 演習「ディベートの『判定』方法を学ぶ」
09. 演習「ディベート学習の『評価』方法を学ぶ」
10. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る(1)
11. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る(2)
12. 国語科教育におけるリベラルアーツの位置づけを考察する
13. 流布している各種のディベート教材を知り、批評する
14. 演習「ディベート学習の『授業プラン』を提案する」
15. ディベートおよびディベート学習の「総括」

準備学習(予習)

授業時に指示します。

準備学習(復習)

授業時に指示します。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 筆記試験 | 70% |
| (2) 課題・演習等 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：小室 陽子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J131390

学部教育の関連目

【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

書道（書写を中心とする）の指導が必要な中学校国語の教職を志す学生自身が、文字に関する実技に裏付けられた知識を高めることによって毛筆で書くことへの抵抗感を持つことなく、教壇に立った時に、生徒が楽しく筆で紙とむきあえるようにし、よりよい生徒指導ができるようにすることを目標としたい。

(2) 内容

書は文字を素材にした創造芸術です。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産である中国や日本の古典を教材として、正しく美しい文字を学び、書くための場とした。|講義では、筆順、書技、理論等を学び、実技においては、漢字、仮名を毛筆を主とし硬筆を含めた課題作成を通して、文字そのものについても考えていきたい。|又、各書体の特徴をより正確に理解するためにその書体での作品を制作する。|更に、漢字、仮名作品に対応する落款印を作成し、書作品として完成させることを通して、文字だけにとどまらず文化としての書への関心をより一層高めたい。|

受講者に対する要望

文字を素材にした実技主体の講座です。|文字に対して一点の意義、一画（一線）の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。
また、展覧会などに積極的に出向き、文字だけでなく作品として鑑賞し、文化としての書に対する感性を高めてほしい。

学びのキーワード

- ・実技講座
- ・漢字
- ・仮名
- ・作品制作
- ・落款印制作

授業計画

01. 導入：講師と学生の自己紹介・講義の進め方・評価方法、文房四宝
02. 執筆法：永字八法、氏名揮毫
03. 書体の変遷：篆書の成立、特徴、石鼓文の鑑賞と臨書
04. 篆書：泰山刻石の鑑賞と臨書
05. 隸書：書体の成立、特徴、曹全碑の鑑賞、双鉤填墨
06. 隸書：曹全碑の臨書
07. 隸書：乙瑛碑の臨書
08. 隸書：隸書体の作品制作
09. 草書：草書の成立、特徴、十七帖の鑑賞、双鉤填墨
10. 草書：十七帖の臨書・硬筆
11. 草書：十七帖の臨書、草書体の作品制作
12. 行書：行書の成立、特徴、蘭亭序の鑑賞
13. 行書：蘭亭序の全臨_1. 全体の流れを把握する
14. 行書：蘭亭序の全臨_2. 全体の流れに留意し、長文を最後まで書きあげる
15. 楷書：楷書の成立、特徴、九成宮醴泉銘の鑑賞、双鉤填墨
16. 楷書：九成宮醴泉銘の臨書_1
17. 楷書：九成宮醴泉銘の臨書_2
18. 楷書：孔子廟堂碑の鑑賞と臨書
19. 楷書：孔子廟堂碑の臨書
20. 楷書：雁塔聖教序の鑑賞と臨書
21. 楷書：雁塔聖教序の臨書・硬筆
22. 楷書：楷書体の作品制作
23. 仮名：仮名の成立、仮名の基本用筆
24. 仮名：平安時代の古筆に学ぶ・硬筆
25. 仮名：高野切第三種の鑑賞と臨書
26. 仮名：高野切第三種の臨書
27. 作品制作：落款印の制作_1 仮名用（消しゴムを印材とする）
28. 作品制作：落款印の制作_2 漢字用（消しゴムを印材とする）
29. 仮名：仮名の作品制作
30. 仮名：仮名の作品制作と鑑賞

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われる書体等について、大まかな情報を収集しておくことを望む。
実技が主なので、書道用具を必ず持参、書くことに専念してほしい。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントを改めて読み直し、書体の特徴を理解しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) 実技課題 | 50% | 時間毎の実技課題の評価 |
| (2) 課題提出状況 | 10% | 時間毎の実技課題提出状況 |
| (3) 授業態度 | 20% | 取り組み方 |
| (4) 授業準備 | 10% | 用具の準備なども加味 |
| (5) 出席状況 | 10% | |

毎時間ごの実技課題を提出してもらい、その評価と授業態度（私語、居眠り等）及び用具の準備を加味し評価する。但し、出席状況が3分の2に満たない場合及び課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とする。

教科書

参考書

担当教員：小室 陽子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択必修科目 単位：2 授業コード：1J131395

学部教育の関連目

【J】実践力：研修科目や体験科目を用意し、実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

書道（書写を中心とする）の指導が必要な中学校国語の教職を志す学生自身が、文字に関する実技に裏付けられた知識を高めることによって毛筆で書くことへの抵抗感を持つことなく、教壇に立った時に、生徒が楽しく筆で紙とむきあえるようにし、よりよい生徒指導ができるようにすることを目標としたい。

(2) 内容

書は文字を素材にした創造芸術です。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産である中国や日本の古典を教材として、正しく美しい文字を学び、書くための場とした。|講義では、筆順、書技、理論等を学び、実技においては、漢字、仮名を毛筆を主とし硬筆を含めた課題作成を通して、文字そのものについても考えていきたい。|又、各書体の特徴をより正確に理解するためにその書体での作品を制作する。|更に、漢字、仮名作品に対応する落款印を作成し、書作品として完成させることを通して、文字だけにとどまらず文化としての書への関心をより一層高めたい。|

受講者に対する要望

文字を素材にした実技主体の講座です。|文字に対して一点の意義、一画（一線）の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。
また、展覧会などに積極的に出向き、文字だけでなく作品として鑑賞し、文化としての書に対する感性を高めてほしい。

学びのキーワード

- ・実技講座
- ・漢字
- ・仮名
- ・作品制作
- ・落款印制作

授業計画

01. 導入：講師と学生の自己紹介・講義の進め方・評価方法、文房四宝
02. 執筆法：永字八法、氏名揮毫
03. 書体の変遷：篆書の成立、特徴、石鼓文の鑑賞と臨書
04. 篆書：泰山刻石の鑑賞と臨書
05. 隸書：書体の成立、特徴、曹全碑の鑑賞、双鉤填墨
06. 隸書：曹全碑の臨書
07. 隸書：乙瑛碑の臨書
08. 隸書：隸書体の作品制作
09. 草書：草書の成立、特徴、十七帖の鑑賞、双鉤填墨
10. 草書：十七帖の臨書・硬筆
11. 草書：十七帖の臨書、草書体の作品制作
12. 行書：行書の成立、特徴、蘭亭序の鑑賞
13. 行書：蘭亭序の全臨_1. 全体の流れを把握する
14. 行書：蘭亭序の全臨_2. 全体の流れに留意し、長文を最後まで書きあげる
15. 楷書：楷書の成立、特徴、九成宮醴泉銘の鑑賞、双鉤填墨
16. 楷書：九成宮醴泉銘の臨書_1
17. 楷書：九成宮醴泉銘の臨書_2
18. 楷書：孔子廟堂碑の鑑賞と臨書
19. 楷書：孔子廟堂碑の臨書
20. 楷書：雁塔聖教序の鑑賞と臨書
21. 楷書：雁塔聖教序の臨書・硬筆
22. 楷書：楷書体の作品制作
23. 仮名：仮名の成立、仮名の基本用筆
24. 仮名：平安時代の古筆に学ぶ・硬筆
25. 仮名：高野切第三種の鑑賞と臨書
26. 仮名：高野切第三種の臨書
27. 作品制作：落款印の制作_1. 仮名用（消しゴムを印材とする）
28. 作品制作：落款印の制作_2. 漢字用（消しゴムを印材とする）
29. 仮名：仮名の作品制作
30. 仮名：仮名の作品制作と鑑賞

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われる書体等について、大まかな情報を収集しておくこと。
実技が主なので、書道用具・半紙を必ず準備し、書くことに専念できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントを改めて読み直し、書体の特徴を理解しておくこと。|添削された箇所注意到して再度書いてみる

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------|
| (1) 実技課題 | 40% | 時間毎の実技課題の評価 |
| (2) 課題提出状況 | 25% | 時間毎の実技課題提出状況 |
| (3) 授業態度 | 15% | 取り組み方 |
| (4) 授業準備 | 10% | 用具の準備なども加味 |
| (5) 出席状況 | 10% | |

時間ごとに実技課題を提出してもらい作品を評価する。又、授業態度（私語、居眠り等）及び用具の準備状況も評価する。課題の提出がなく評価点数が不足した場合や授業への参加度が低い場合は不合格とする。

教科書

参考書

担当教員：木下 綾子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410100

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

上代・中古の文学作品における特色や他作品との関連、文学史的な意味について考え、理解を深めます。日本文学・文化を知る上で必要不可欠な古典文学に親しみ、その面白さと意義を学びます。

(2) 内容

上代・中古（飛鳥時代～平安時代）の代表的な文学作品について、原文に触れながら基礎的な知識を学び、表現や主題、方法論の変遷を捉えます。概要は以下のとおりです。日本は律令国家を形成するにあたり、中国の政治体制や学問、思想とともに漢字漢文を導入しました。神話や伝承、歌謡などの口承文芸は記載されるようになり、国史へと編成されていきます。漢詩漢文がさかんに創作される一方、漢字から仮名が生み出され、和歌が次第に公の場で詠まれるようになるほか、物語や日記が登場します。これらは、貴族文化の発展や後宮ではたらく女性たちの活躍にもなって、花開きます。のち、爛熟、退廃期を経て前代の検証が行われ、新風が拓かれます。

受講者に対する要望

ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。

学びのキーワード

- ・ 文学史
- ・ 上代文学
- ・ 中古文学

授業計画

01. はじめに一漢字・漢文の伝来と日本文学のはじまり
02. 上代（神話・伝承・歴史）—神話から国史へ（1）：『古事記』、口承文芸と伝説
03. 上代（神話・伝承・歴史）—神話から国史へ（2）：『日本書紀』、国際社会に向けて
04. 上代（和歌）—国家とうた（1）：『万葉集』、禁断の恋
05. 上代（和歌）—国家とうた（2）：『万葉集』、「大君は」
06. 上代（漢詩）—国家とうた（3）：『懐風藻』、壬申の乱を越えて、穉世の詩
07. 上代（説話）—国家と仏教：『日本霊異記』、よみがえりの話
08. 中古（漢詩・漢文）—漢詩文の隆盛：『凌雲集』『経国集』、詩の理論
09. 中古（漢詩・漢文）—漢詩文の隆盛：『文華秀麗集』、詩宴の楽しみ
10. 中古（漢詩・漢文）—空海の仏教と文学：『三教指帰』『性霊集』
11. 中古（漢詩・漢文）—詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（1）：『菅家文庫』、詩の家に生まれて
12. 中古（漢詩・漢文）—詩人菅原道真と『白氏文集』の受容（2）：『菅家後集』、詩臣として
13. 中古（和歌）—和歌と美意識の確立（1）：『古今和歌集』、和歌の理論
14. 中古（和歌）—和歌と美意識の確立（2）：『古今和歌集』の季節感、恋
15. 中古（物語）—伝奇物語の発生（1）：『竹取物語』と伝承世界、神話世界のなごり
16. 中古（物語）—伝奇物語の発生（2）：『竹取物語』、かぐや姫と天皇、月世界
17. 中古（物語）—歌物語の発生（1）：『伊勢物語』、「みやび」と反逆
18. 中古（物語）—歌物語の発生（2）：『伊勢物語』、「みやび」と敗残
19. 中古（日記）—自己を見つめて（1）：『土佐日記』、亡き子の思い出と旅
20. 中古（日記）—自己を見つめて（2）：『蜻蛉日記』、夫との攻防と和歌
21. 中古（随筆）—『源氏物語』の時代（1）：『枕草子』、美しい中宮の思い出
22. 中古（日記）—『源氏物語』の時代（2）：『紫式部日記』、自己と他者を見つめて
23. 中古（物語）—『源氏物語』の時代（3）：『源氏物語』、桐壺帝と桐壺更衣の愛
24. 中古（物語）—『源氏物語』の時代（4）：『源氏物語』、光源氏と藤壺、恋と罪
25. 中古（日記）—『源氏物語』以後（1）：『更級日記』、物語への憧れと仏教の夢
26. 中古（物語）—『源氏物語』以後（2）：『堤中納言物語』「虫愛つる姫君」
27. 中古（歴史物語）—栄華の回顧と検証：『栄花物語』『大鏡』
28. 中古（歌謡・漢文・説話）—類聚（コレクション）：『和漢朗詠集』『本朝文粹』『今昔物語集』
29. 中古（和歌・歌謡）—新風を求めて：『後拾遺和歌集』、藤原俊成『千載和歌集』『古来風体抄』
30. まとめ

準備学習(予習)

作品の概要について『日本古典文学大辞典』（岩波書店）や、新編日本古典文学全集（小学館）、角川ビギナーズ・クラシックス（角川書店）などで確認しておいてください。

準備学習(復習)

その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。分からない漢字や語句については辞書で調べる。追加で質問があれば受け付けます。関心をもった作品は、現代語訳でもいいので読んでみましょう。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 60% |
| (2) 平常点 | 40% |
- フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物

教科書

参考書

三村 晃功、寺川 真知夫、廣田 哲通、本間 洋一(編) 『日本古典文学を読む』(和泉書院)

担当教員：石澤 一志

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410210

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

日本文学に於ける、中世・近世を概観する。|| 基本的な文学作品についての知識・時代背景を理解しつつ、| 中世・近世の文学作品の中から著名な作品、重要な作品を取り上げる。| 各々の作品の独自性を明らかにすると同時に、| 他の作品との関連や、文学史の中でその作品がどのような位置を占めるか、| といった視点も大切に| して読解を進める。|| 多くの作品に触れてゆく中で、日本の古典文学というものが、| いかにも多様で奥深いもの| かの一端を知って欲しい。

(2) 内容

中世・近世（時代でいうなら鎌倉時代から江戸時代まで）の文学作品を取り上げる。| それまで貴族階級・僧侶が中心であった文化形成の場が、| 武士階級、そして町人を含めた一般階層にまで拡大・交流してゆく時期であり、| 俗っぽさ・人間臭さ・猥雑さ・生活感など、| 中古・王朝文化にはあまり多くは見られなかった特徴が現れると同時に、| 王朝文化に対する憧憬から、そこに価値を見出す時代でもある。|| 旧来のものの発展継承と、新たな文学の発生する時代の面白さを、味わいたい。|

受講者に対する要望

ノート・メモをマメにとることを心がけて欲しい。| テキストはテキスト・ノート・配付資料の持ち込みを可とする。|| 講義をきちんと聞き、重要だと思ったことは、| たとえ板書されなくてもテキスト・ノートに書き留めること。|| 手を動かしつつ講義を聴くことが、あなた方の成長につながります。||

学びのキーワード

- ・ 文学史
- ・ 中世文学
- ・ 近世文学

授業計画

01. 日本文学史概説 — 中世・近世の時代区分—
02. 中世の韻文（和歌）— 中世和歌の始発とその展開
03. 中世の韻文（和歌）— 後鳥羽院と藤原定家、後鳥羽院歌壇の成立と『新古今和歌集』
04. 中世の韻文（和歌）— 後鳥羽院と藤原定家、『新古今和歌集』以後の歌壇史
05. 中世の散文（軍記・説話）— 『保元』『平治』から『平家物語』へ その①
06. 中世の散文（軍記・説話）— 『保元』『平治』から『平家物語』へ その②
07. 中世の散文（軍記・その他）— 『平家物語』外伝 — 『義経記』『建礼門院右京大夫集』
08. 中世の散文（随筆）— 『方丈記』と鴨長明
09. 中世の散文（随筆）— 『徒然草』— 兼好法師の伝記、『徒然草』概説
10. 中世の散文（随筆）— 『徒然草』— 代表的章段を読む
11. 中世の韻文（連歌・俳諧）— 連歌史概説
12. 中世の韻文（連歌・俳諧）— 連歌の展開、俳諧への道
13. 中世の散文（説話）— 『宇治拾遺物語』『十訓抄』『沙石集』
14. 中世の散文（演劇・芸能）— 『風姿花伝』・謡曲『隅田川』
15. 中世の散文（軍記）— 『太平記』、その他の戦物語
16. 中世の散文（物語）— 『源氏物語』以降、物語史概説
17. 中世の散文（物語）— 鎌倉・室町時代物語と御伽草子
18. 近世の散文（物語・小説）— 近世物語の展開、仮名草子と笑話
19. 近世の散文（物語・小説）— 浮世草子・西鶴
20. 近世の散文（物語・小説）— 黄表紙・洒落本・滑稽本
21. 近世の散文（物語・小説）— 読本・馬琴
22. 近世の韻文（俳諧）— 貞門・談林・蕉門の展開
23. 近世の韻文（俳諧）— 蕉風俳諧の成立と展開、芭蕉とその門弟
24. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）— 近世の演劇文学概説・近松門左衛門の生涯
25. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）— 浄瑠璃・歌舞伎の名作を観る
26. 近世の韻文（俳諧）— 蕉門以降の俳諧の展開、蕪村・一茶まで
27. 中世・近世の韻文（漢詩文）— 中世・近世漢詩文概説
28. 中世・近世の韻文（漢詩文）— 近世漢詩文の世界
29. 近世の散文（その他）— 多彩な、近世文学の世界
30. 理解度確認

準備学習(予習)

作品の概要について、テキストを一読し、確認をしておく。| 図書館1階にある『日本古典文学大辞典』（岩波書店）・| 『日本古典文学大事典』（明治書院）なども活用すること。|| また、高校までの日本史の教科書を一読してくることが望ましい。

準備学習(復習)

ノートの見直しと整理をすること。| 疑問点が見つかったら、質問しに来るように。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--------------------|
| (1) 中間・期末試験 | 60% | テキスト・ノート持ち込み可。 |
| (2) 平常点 | 40% | コメントシートの記載内容も加味する。 |

教科書

『千年の百冊』（小学館、2013）を使用する。必携のこと。

参考書

担当教員：前田 潤

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410320

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】 高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「近代文学」という制度発生の歴史過程を注視し、「近代文学」が他領域とどのような影響関係のもとで変貌してきたのかについて学ぶことを通じて、「歴史」を相対化し、「現代」を対象化するまなざしを育みたい。

(2) 内容

◆明治初期から平成に至るまでの日本文学の歩みを概観する。画期的な意味を持つ文学作品や文学者の動向に触れ、その歴史的位置を確認すると共に、同時代の文化社会の中でそれらがどのような役割を果たしていたのかに言及する。特に政治や労働運動、活字出版メディアの史的展開と文学言説との関わりについては詳しく見取り図を引いてゆきたい。授業では項目を挙げるだけの解説は避け、記憶に残るような鮮烈な文学者の言動を紹介したいと考えている。|◆明治期の詩歌や自然主義の小説、自由律俳句や最新の作家の小説の表現や文体に直接触れ、自分なりに鑑賞・批評することを通じて、近現代文学への関心を深めるような試みを講義の中に取り入れてゆくつもりである。

受講者に対する要望

自分が何に興味を持つ存在であるのかという「問い」を持って講義に臨んで欲しい。

学びのキーワード

- ・ 近代文学
- ・ 現代文学
- ・ 文学史
- ・ 文化史
- ・ 小説

授業計画

01. ガイダンス
02. 近代小説の起源
03. 「浮雲」の実験
04. 「たけくらべ」の文体
05. 「舞姫」の論じ方
06. 「阿部一族」は剽窃文学か
07. 「自然主義」とは何か
08. 韻文史概説
09. 革新者・正岡子規
10. 「坊っちゃん」語りの構造
11. 「三四郎」と「青年」
12. 「心」をめぐる論争
13. 山頭火と放哉
14. 「家族」の文学・志賀直哉と疫病
15. 労働争議と大正文学
16. 職業作家としての芥川龍之介
17. 関東大震災と近代日本文学
18. 谷崎潤一郎の「転向」
19. 「新感覚」の実態
20. 「蟹工船」再考
21. 「人間失格」の「奥行き」
22. 高見順とメタフィクション
23. 巨人・松本清張
24. 探偵小説の歴史と江戸川乱歩
25. 1965・ベトナム・開高健
26. 1995・村上春樹の「転回」
27. 村上春樹と長編小説
28. 都市・ファッション・ノベル
29. 女性・貧困・格差 津村記久子の小説
30. 長野まゆみと桜庭一樹

準備学習(予習)

必読図書を1冊、選択の形で指定する。それについては精読すること。| また、授業中紹介してゆく作品の幾つかを、自ら手に取り読んでみて欲しい。

準備学習(復習)

各回完結型の講義ではあるが、近代文学史の流れを体系的に把握するためには、講義内容の連続性に配慮し、前回の内容を復習しながらついてきて欲しい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 最終試験 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410430

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

同時代成立の和歌集『古今集』との関連等を考察しながら、「歌物語」としての独自の性格を明らかにしていきます。また、教職を目指す学生の古典対応力の増強も目標としています。|『伊勢物語』は、『源氏物語』をはじめとして、能楽・歌舞伎にも影響を及ぼし、屏風など絵画の題材にもなっています。後世の日本文化との関係、発展を考える上で重要な作品です。古来の文人墨客が愛した国民的物語—『伊勢物語』を知ることは、現代人の教養という面でも意義深いことです。|

(2) 内容

歌物語の代表作として広く知られる『伊勢物語』を講読していきます。授業では、作品の大きな魅力である主人公、色好みの貴公子・在原業平の人間像をつかんでいきます。また、業平の生きた時代背景や風俗習慣も確認していきます。|二条の後や伊勢の齋宮との許されない恋や、惟喬親王等との交流の中で詠まれた心打つ和歌の数々。『伊勢物語』は、それら業平の歌にまつわる話に、業平以外の人々の歌にまつわる物語も取り込みつつ、全体として業平の「みやびの世界」が形成されていることを学んでいきます。|作品中の和歌の重要性に注目して、口語訳・解釈は詳細に考察していきます。

受講者に対する要望

一般教養として古典知識を身につけたい学生、教職科目受講者で古典対応力増強をめざす学生の受講を望みます。

学びのキーワード

- ・ 平安文学
- ・ 歌物語
- ・ 和歌
- ・ 在原業平
- ・ みやび

授業計画

01. 作品概説 伊勢物語誕生の背景
02. " 色好み在原業平
03. 冒頭章段 1段
04. " 2段
05. 業平と二条の後関係章段 3段
06. " 4段
07. " 5段
08. " 6段
09. " まとめ
10. 東下り関係章段 7段
11. " 8段
12. " 9段
13. " 9段
14. " まとめ
15. 東国物語 10段
16. 15回までの復習:和歌の技巧について
17. 伊勢斎宮関係章段 69段
18. " 70段
19. " 71段
20. " 72段 まとめ
21. 筒井筒の章段 23段
22. "
23. 筒井筒と他作品の比較 古今集
24. " 大和物語
25. " まとめ
26. 歌物語について
27. 惟喬親王関係章段 82段
28. "
29. "
30. まとめ 125段

準備学習(予習)

辞書を引いて自分の口語訳をしてみる。物語のクライマックスを形成する和歌の訳は、ぜひ参考書を見ないでチャレンジしてほしい。

準備学習(復習)

授業ノートをつくり、内容をまとめていくこと。授業で提示した資料等を調べ、ノートのまとめに加えるとよい。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 授業時提出物 | 40% |
| (2) 授業時発表 | 10% |
| (3) 期末試験 | 50% |

教科書

石田 穰二『伊勢物語—付現代語訳（角川ソフィア文庫（SP5））』（角川学芸出版）【978-4044005016】

参考書

担当教員：木下 綾子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410540

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

注釈と口語訳つきのテキストを用い、基礎的な知識を身に付けながら、魅力ある表現やテーマを味わい、分析します。平安文学がいかに中国文学を受容したかを考え、総合的に読解し理解することを目指します。

(2) 内容

平安時代に唐から伝来し、大流行した白居易の『白氏文集』と、その影響を受けた紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』、菅原道真の『菅家文草』『菅家後集』を読み比べます。前半は、『白氏文集』「長恨歌」と『源氏物語』を中心に、愛する女性を失った男性の長きにわたる痛み、悲しみに注目します。後半は、さすらいの悲しみや当地における男女・男同志の交流、琴のモチーフを読み解きます。また、紫式部と清少納言における『白氏文集』受容や、漢字漢文をめぐる振舞いの違いを考えます。

受講者に対する要望

ノートを用意して、板書や口頭による解説をまとめること。講義の最後には、毎回、意見・感想・質問をフィードバックペーパーに記してもらうので、自分なりの問題意識を持って参加してください。

学びのキーワード

- ・平安文学における中国文学の受容
- ・源氏物語
- ・枕草子
- ・菅家文草・菅家後集
- ・白氏文集

授業計画

01. はじめに
02. 白居易の生涯、『白氏文集』の成立と伝来
03. 「長恨歌」(1) —背景
04. 「長恨歌」(2) —寵愛
05. 「長恨歌」(3) —安史の乱、楊貴妃の死
06. 「長恨歌」(4) —玄宗皇帝の悲嘆(1) —帰路
07. 「長恨歌」(5) —玄宗皇帝の悲嘆(2) —都に戻って、長い夜
08. おもかげ(1) —桐壺帝と桐壺更衣
09. 「長恨歌」(6) —仙界での再会
10. 「長恨歌」(7) —生まれ変わっても
11. 「長恨歌」(8) —まとめ
12. おもかげ(2) —桐壺更衣、藤壺
13. おもかげ(3) —葵上、紫上
14. おもかげ(4) —大君、浮舟
15. 前半のまとめ
16. 光源氏が須磨に退去するまで
17. 流謫の地にて(1) —光源氏と男たち
18. 流謫の地にて(2) —菅原道真と光源氏(1) —悲秋文学
19. 流謫の地にて(3) —菅原道真と光源氏(2) —道真と光源氏の「恩賜の御衣」
20. 流謫の地にて(4) —王昭君伝説と光源氏(1) —王昭君伝説
21. 流謫の地にて(5) —王昭君伝説と光源氏(2) —光源氏の落魄意識
22. 流謫の地にて(6) —「琵琶行」と明石入道、明石君(1) —「琵琶行」
23. 流謫の地にて(7) —「琵琶行」と明石入道、明石君(2) —楽器と系譜
24. 紫式部と清少納言(1) —ふたりの生涯と一条天皇の後宮
25. 紫式部と清少納言(2) —紫式部：「新楽府」(1) —「新楽府」
26. 紫式部と清少納言(3) —紫式部：「新楽府」(2) —中宮彰子と紫式部
27. 紫式部と清少納言(4) —清少納言：「香炉峰の雪」(1) —「香炉峰下」
28. 紫式部と清少納言(5) —清少納言：「香炉峰の雪」(2) —中宮定子と清少納言
29. 紫式部と清少納言(6) —まとめ
30. レポート提出とまとめ

準備学習(予習)

配布したプリントは必ず読み、分からない漢字や語句については辞書で調べておくこと。参考文献は各自で読んでおくこと。図書館を活用すること。

準備学習(復習)

その日のうちにプリントとノートを読み返し、整理すること。分からない漢字や語句については辞書で調べる。追加で質問があれば受け付けます。

評価方法

- | | |
|----------|------------------------------|
| (1) レポート | 60% |
| (2) 平常点 | 40% フィードバックペーパーや小テスト等の授業内提出物 |

教科書

参考書

担当教員：佐藤 ゆかり

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J410760

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究方法を学ぶ。| 目標は、(1) 近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、(2) 自分の意見を、根拠をもって論述すること、(3) 卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得、である。| この授業の学びの意義は、(1) 精読し、調査し、レジメにまとめ、発表するという流れが、情報収集、読み解き、探索、発信という、日常生活に役立つ、(2) 自分自身の意見を基に、他の学生との意見交換を行ない、特に異なった意見を持つ学生との議論を行なうことで、より日本文学に対する理解を深められる、(3) 本離れと言われる現代において、読書の重要性、楽しさを体験し、次世代への知識の提供、自分自身の生涯学習の基礎を作る、である。|

(2) 内容

西洋と〈出会った〉明治以降の近現代文学を通して、それまでの日本文学の伝統との連続性と非連続性を意識しつつ、これからの日本文学史を視野に入れたい。本授業では、近現代の著名な作家による名作短篇・中篇小説を読み、内容を的確に理解し、それを論理的に思考し表現する能力を高め、さらに発表をすることで互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することを目的とする。学生の発表を中心に、ディスカッション、映像との比較等を交えて進める。なお、履修者人数によっては、採り上げる作品、順番も含めて変更する場合もある。|

受講者に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、授業中採り上げる作品は必ず読んで、熱心に取り組める学生の受講を希望する。演習発表中心の授業であるから、担当箇所の作品精読、調査、レジメの作成、それについて発表があるので、その点を留意すること。プリントはなくさないこと。

学びのキーワード

- ・ 近現代日本文学の研究方法
- ・ 近現代小説精読
- ・ 演習発表の方法
- ・ 映像と小説の比較
- ・ 他者の意見を聴く

授業計画

01. 導入—近現代文学を読むとは？（講義）
02. 作品分析の方法（講義）
03. 横光利一『春は馬車に乗って』①資料収集の方法
04. 横光利一『春は馬車に乗って』②先行研究の精読
05. 横光利一『春は馬車に乗って』③自分の意見をまとめる、他人の意見を聞く
06. 芥川龍之介『魔術』①児童文学の側面
07. 芥川龍之介『魔術』②映像とディスカッション
08. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』①第一章
09. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』②第二章、第三章
10. 〈学生発表〉国木田独歩『春の鳥』③第四章
11. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』①父と母
12. 〈学生発表〉有島武郎『小さき者へ』②父と子
13. 有島武郎『小さき者へ』③まとめとディスカッション
14. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』①伊豆
15. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』②踊子
16. 〈学生発表〉川端康成『伊豆の踊子』③孤児根性
17. 川端康成『伊豆の踊子』④映像と文学の比較
18. 川端康成『伊豆の踊子』⑤まとめとディスカッション
19. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』①ゴーシュと動物
20. 〈学生発表〉宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』②作品の中の音楽
21. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』③まとめとディスカッション
22. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』④映像と文学の比較
23. 〈学生発表〉中島敦『山月記』①友との再会
24. 〈学生発表〉中島敦『山月記』②夢の実現
25. 中島敦『山月記』③まとめとディスカッション
26. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』①台所
27. 〈学生発表〉吉本ばなな『キッチン』②厨房とキッチン
28. 吉本ばなな『キッチン』③まとめとディスカッション
29. 吉本ばなな『キッチン』④映像と文学の比較
30. まとめ

準備学習(予習)

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめてくること。

準備学習(復習)

授業内で採り上げた小説について、読んでくること。レジメを見直し、自分の意見をまとめること。

評価方法

(1) レポート	50%
(2) 発表	30%
(3) 平常点	20%

欠席が3分の1を超えた者は単位認定しない。

教科書

参考書

担当教員：上宇都ゆりほ

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J411520

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【A】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】 聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

歴史的仮名遣いや古文の読み方という初歩から始め、動詞・形容詞・形容動詞という用言の活用を習得する。まずは古文の読み方に慣れ、用言の活用を習得することによって、日本語の構造を理解し、古典文学作品を原文で読むための基礎を固める。

(2) 内容

私たちが使う日本語は、長い歴史の中で変化し続けてきたものであり、私たちにとって古典日本語は、現代日本語とは全く異なる言語のように感じるかもしれない。日本文学を専門的に学ぶためには、古典文学を専攻する者だけでなく、近・現代文学を正しく考察するためにも、日本文学史の中で古典文学を把握し、理解することが必要である。そのために、古典文法は必ず身に付けなくてはならないものである。この授業では、古典日本語の基本的な読み方、品詞の分類や動詞・形容詞・形容動詞といった用言の活用の種類や活用形を習得し、古典日本語を学ぶ上で基礎となる文法の習得を目標とする。|その際、単に単語だけを取り出すのではなく、いきいきとした形で触れるために、『蜻蛉日記』を副教材として読むことによって、実際にどのように用いられているかを学び、併せて平安時代の代表的日記作品である『蜻蛉日記』の世界を味わう。|具体的な授業の進め方として、毎回その講義の目標に掲げる文法事項について、まず古典文法の教科書を用いて基本的な練習によって習得する。次に『蜻蛉日記』のひとつの章を音読して、講義で扱った文法事項を含む単語をピックアップし、それぞれに文法的説明をつけてもらう。毎回講義の最後には小テストを実施して、学びのフィードバックを行う予定である。

受講者に対する要望

毎回小テストを行って平常点とするので、しっかり予習・復習をすること。教科書は必ず購入し、毎回到授業はもとより、予習・復習に役立てること。

学びのキーワード

- ・ 古典文法
- ・ 用言の活用
- ・ 小テスト

授業計画

01. 授業概説と歴史的仮名遣い
02. 歴史的仮名遣いと品詞一用言と体言
03. 品詞（1）一名詞と動詞
04. 品詞（2）一動詞・形容詞・形容動詞
05. 品詞（3）連体詞・副詞・感動詞・接続詞
06. 品詞（4）一助詞・助動詞
07. 四段活用動詞（1）一活用の種類と活用形を覚える
08. 四段活用動詞（2）一活用の種類と活用形の用例
09. 上一段・下一段活用動詞（1）一活用の種類と活用形を覚える
10. 上一段・下一段活用動詞（2）一活用の種類と活用形の用例
11. 上二段活用動詞（1）一活用の種類と活用形を覚える
12. 上二段活用動詞（2）一活用の種類と活用形の用例
13. 下二段活用動詞（1）一活用の種類と活用形を覚える
14. 下二段活用動詞（2）一活用の種類と活用形の用例
15. 動詞の活用の総復習
16. 動詞の活用のまとめ
17. サ行変格活用動詞・カ行変格活用動詞の活用の種類と活用形を覚える
18. ラ行変格活用動詞・ナ行変格活用動詞の活用の種類と活用形を覚える
19. 変格活用動詞の活用の用例
20. 動詞の活用の音便
21. 動詞の活用の総復習
22. 形容詞の活用の種類と活用形を覚える
23. 形容動詞の活用の種類と活用形の用例
24. 形容動詞の活用（2）
25. 形容動詞の活用の種類と活用形を覚える
26. 形容動詞の活用の種類と活用形の用例
27. 用言の活用の総復習（1）
28. 用言の活用の総復習（2）
29. 用言の活用の総復習（3）
30. これまでの授業の総まとめ

準備学習(予習)

シラバスで指定、あるいは授業中に指定した『詳説古典文法』の教科書の範囲を読んでくること。

準備学習(復習)

講義で学んだ範囲について、毎回次の講義の10分間で小テストを実施するので、必ず学んだことについての復習を行うこと。

評価方法

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| (1) 中間試験 | 30% |
| (2) 学期末試験 | 30% |
| (3) 小テスト | 40% 毎回の授業の最後に、前回学んだ内容の小テストを実施する。 |

中間試験の点数を30パーセント、学期末試験の点数を30パーセント、毎回行う小テストを合算した点数を40パーセントに換算して平常点とし、それらを合算して評価する。

教科書

井島 正博・伊藤 博業・他島 ひとみ『詳説 古典文法』(筑摩書房) [978-4480917256] | 角川書店編『ビギナーズ・クラシックス蜻蛉日記』(角川書店) [978-4043574070]

参考書

担当教員：渡辺 正人

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J411635

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

古典作品を、自力で辞書を引きながら適切に読解できる基礎知識を養うことが目標です。『紫式部日記』を読むことによって平安文学の頂点を極めた紫式部の体験した世界を知ること。当時の上流貴族の生活一行事や、冊子作りなど日常生活の描写は、歴史的にも価値のあるものです。また、紫式部の精神を理解することは『源氏物語』を始めとし、その後の日本文学に流れる精神への理解につながります。幅広い古典作品へアプローチする力を高めるための講座になります。

(2) 内容

古典知識の習熟を図っていきます。『紫式部日記』という古典作品の中でもかなり手応えのある文章を読んでいくことで、古典の文法・読解力をつけていきます。授業内容は、中宮の出産の場面や道長の屋敷の様子など、当時の風俗風習などが描かれているので、随時解説を加えながら、無理なく深化させていきます。『紫式部日記』を読解することにより、紫式部が仕えた彰子（一条天皇中宮）や、権力者藤原道長（彰子の父）などの姿をとらえていきます。また、そのきらびやかな生活を見つめる紫式部の眼差しから「作家紫式部」への理解も深めていきます。

受講者に対する要望

古典研究を目指す学生、教職希望の学生の古典日本語の習熟を図る講座で、「古典日本語」を履修済みの学生を対象としています。日文の学生の第2外国語の選択必修科目になります。

学びのキーワード

- ・ 古典日本語
- ・ 古典文法
- ・ 紫式部日記
- ・ 平安貴族の生活

授業計画

01. 授業概説
02. 秋のけは入り立つままに
03. 渡殿の戸口の局に見出だせば
04. 九日、菊の綿を
05. 御帳の東おもては
06. 御いただきの御髪おろしたてまつり
07. 午の時に、空晴れて
08. 紫式部日記の表現の特徴
09. 五日の夜は
10. 十月十余日までと
11. 行幸ちかくなりぬとて
12. おそろしかるべき夜の御酔ひなめりと見て
13. 中間試験
14. 宮の御前聞こしめすや
15. 入らせたまふべきことも近うなりぬれど
16. 御前の池に、水鳥どもの
17. こころみに、物語をとりにて見れど
18. 師走の二十九日に参る
19. 宮の内侍ぞ
20. 和泉式部といふ人こそ
21. 丹波の守の北の方をば
22. 清少納言こそ、したり顔に
23. よろずのこと、人によりてことごととなり
24. それ、心よりほかのわが面影をば
25. さまよう、すべて人はおいらかに
26. 左衛門の内侍といふ人はべり
27. いかに、いまは言忌みしはべらじ
28. まとめ 源氏物語との関り
29. まとめ 貴族の生活
30. まとめ 全体

準備学習(予習)

『紫式部日記』の配布プリントを利用してノートを作り、自分で辞書を引いて、口語訳をする。また、文法の教科書は該当部分を読んでおくとよい。

準備学習(復習)

まよめの講義を利用しながら復習を行うとよい。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|---------|
| (1) 授業時提出物 | 20% | 授業時発表含む |
| (2) 中間試験 | 40% | |
| (3) 期末試験 | 40% | |

教科書

授業時に指示する |

参考書

担当教員：濱田 寛

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J411740

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多元的な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

中国文学史上の「志怪小説」の位置づけを理解するとともに、具体的な作品の読解を通して、その作品世界に触れたい。また、上記のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、基礎となる「訓読」についてより深い理解を目指す。

(2) 内容

中国六朝期の志怪小説の講読を中心とし、漢文読解力の涵養、基礎的な工具書の扱い方等にも配慮する。

受講者に対する要望

漢和辞典必携 詳しくは初回の講義にて解説の予定。

学びのキーワード

- ・ 志怪小説
- ・ 漢文訓読
- ・ 説話

授業計画

01. ・ ガイダンス
02. ・ 志怪小説概論(1)
03. ・ 志怪小説概論(2)
04. ・ 志怪小説概論(3)
05. ・ 志怪小説概論(4)
06. ・ 志怪小説概論(5)
07. ・ 志怪小説各論(1)／「三王墓」(1)
08. ・ 志怪小説各論(2)／「三王墓」(2)
09. ・ 志怪小説各論(3)／「范巨卿張元伯」(1)
10. ・ 志怪小説各論(4)／「范巨卿張元伯」(2)
11. ・ 志怪小説各論(5)／「童謡」(1)
12. ・ 志怪小説各論(6)／「童謡」(2)
13. ・ 志怪小説各論(7)／「鬼」(1)
14. ・ 志怪小説各論(8)／「鬼」(2)
15. ・ 志怪小説各論(9)／「管輅」(1)
16. ・ 志怪小説各論(10)／「管輅」(2)
17. ・ 志怪小説各論(11)／「隗?」(1)
18. ・ 志怪小説各論(12)／「隗?」(2)
19. ・ 志怪小説各論(13)／「天竺胡人」(1)
20. ・ 志怪小説各論(14)／「天竺胡人」(2)
21. ・ 志怪小説各論(15)／「胡母班」(1)
22. ・ 志怪小説各論(16)／「胡母班」(2)
23. ・ 志怪小説各論(17)／「妖怪・牛能言」(1)
24. ・ 志怪小説各論(18)／「妖怪・牛能言」(2)
25. ・ 志怪小説各論(19)／「到伯夷・安陽亭書生」(1)
26. ・ 志怪小説各論(20)／「到伯夷・安陽亭書生」(2)
27. ・ 志怪小説各論(21)／「阿紫」(1)
28. ・ 志怪小説各論(22)／「阿紫」(2)
29. ・ 志怪小説各論(23)／「阿紫」(3)
30. 総括

準備学習(予習)

配付資料に関する予習／教場で指示

準備学習(復習)

教場で指示

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 予習・復習 | 30% |
| (2) 積極性 | 20% |
| (3) 学期末レポート | 50% |

教科書

プリントを配布する

参考書

教場で適宜紹介する

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J411850

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることができる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目|【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目|【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法A」では特に「命題」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱う。

(2) 内容

日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。

受講者に対する要望

言語に興味がある者の受講を歓迎する。また、授業内での積極的な意見交換ができればなおよい。

学びのキーワード

- ・ 日本語
- ・ 言語
- ・ 日本語学
- ・ 文法
- ・ 日本語教員養成課程

授業計画

01. 文法を考えるとということ
02. 単語とは
03. 品詞とは
04. 品詞を考える（活用）
05. 格の問題
06. 自動詞と他動詞
07. ボイス（1）受け身
08. ボイス（2）使役
09. やりもらい
10. アスペクト「ている」
11. テンス「る」「た」
12. 空間に関する表現
13. 意志に関する表現
14. 解釈の多義性
15. まとめ

準備学習(予習)

予習課題を提示する。

準備学習(復習)

授業で取り上げた文法項目は、返却されたワークシートを用いて、必ず復習しておくこと。

評価方法

(1) 授業参加度	30%
(2) 試験	30%
(3) 課題	30%
(4) 中間レポート	10%

教科書

森山卓郎（2003）『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房

参考書

担当教員：黒崎 佐仁子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J411901

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることができる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(国語)・選択科目|【教】高等学校教諭一種(国語)・選択科目|【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目|【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。

(2) 内容

この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文は、「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法B」では特に「モダリティ」に重きを置く。また、複文についても詳しく取り上げる。

受講者に対する要望

教員と受講生の双方向の授業を目指します。受講生の積極的な参加を歓迎します。

学びのキーワード

- ・日本語
- ・文法
- ・複文
- ・モダリティ
- ・助詞

授業計画

01. 文法とは？
02. モダリティ 断定と不確定 医者「インフルエンザらしいですね」→「インフルエンザのようですね」
03. モダリティ 断定と不確定 天気予報「明日は雨でしょう」
04. モダリティ 疑問文 「彼はどこにいるかどうか分からない」→「彼はどこにいるかわからない」
05. モダリティ 意志 「じゃあ、ぼくがやるつもりだ」→「じゃあ、ぼくがやる」
06. 主語と「は」と「が」
07. 「象は鼻が長い」「僕はうなぎだ」
08. とりたて 「女の子だけ来た」「女の子しか来なかった」
09. 単文と複文
10. 複文 「て」節
11. 複文 条件文 「雨が降るとこの傘を差しなさい」→「雨が降ったらこの傘を差しなさい」
12. 複文 逆接 「急いでいるのは分かるのに、車は使うな」→「急いでいるのは分かるが、車は使うな」
13. 名詞修飾 「内の関係」「外の関係」
14. 談話とテキスト
15. まとめ

準備学習(予習)

課題を与える。各自、課題に取り組むこと。

準備学習(復習)

毎時間始めにワークシートの返却を行うため、ワークシートを元に自主的にきちんと丁寧な復習を行ってほしい。

評価方法

(1) 授業参加度	30%
(2) 課題	30%
(3) テスト	30%
(4) 中間レポート	10%

教科書

森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』(ひつじ書房)【978-4894761742】

参考書

担当教員： 棚橋 明美

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 2 授業コード： 1J412070

学部教育の関連目

【J】実践力：文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることができる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目|【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目|【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

日本語教育の視点から、日本語音声学・音韻論の中の単音（分節音）についての知識と応用を学ぶ。日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。|

(2) 内容

日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学ぶ。「あいうえお」など単音の発音について、規範的な発音法を学び、自分自身の発音との差異を考える。そのために、実際に発音したり音声を聞いたりして、積極的に音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見するような活動を行う。また、日本語の発音記号の書き方を身につける。| 試験は、日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、筆記と聴解の両方を課す。|

受講者に対する要望

出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。
 後期の「日本語学（音声・音韻）B」も引き続き受講することが望ましい。実際に声を出して自分やクラスメートの発音を確かめることが重要なので、恥ずかしがらずに声を出してしてほしい。必ず手鏡を用意すること。

学びのキーワード

- ・ 規範的発音
- ・ 日本語教育
- ・ 声を出す
- ・ 発見
- ・ 発音と発音記号

授業計画

01. 言語音を作る仕組み 音声について
02. 音素と異音 有声音と無声音
03. 母音
04. 子音-1（調音点と調音法）
05. 子音-2（カ行）
06. 子音-3（キヤ行）
07. 子音-4（ガ・ギヤ行）
08. 復習とまとめ
09. 子音-5（サ行）
10. 子音-6（シャ行）
11. 子音-7（ザ・ジャ行）
12. 子音-8（タ・チャ行）
13. 子音-9（ダ行、ナ行）
14. 子音-10（ニヤ行、マ・ミヤ行）
15. 復習 聴解練習

準備学習(予習)

授業内で指示する。

準備学習(復習)

復習シートは必ずやって次回提出すること。自宅で、習った範囲の教科書を精読すること。また、手鏡などをみながら発音して、自分の口の動きを観察してほしい。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 期末テスト | 40% |
| (2) 出席と参加、授業貢献度 | 30% |
| (3) 課題提出 | 20% |
| (4) 復習小テスト | 10% |

出席回数が3分の2に満たない者は、期末テストを受けられない。

教科書

棚橋 明美『日本語教育能力検定試験に合格するための聴解問題10』（アルク）【978-4757412620】

参考書

担当教員：佐藤 ゆかり

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1J511710

学部教育の関連目

【J】 人格力・課題解決力：歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 中学校教諭一種（国語）：選択科目 | 【教】 高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究方法を学ぶ。特に、日本文学におけるキリスト教の影響についての考察をする。キリスト教受容の問題は、近代化に関わる〈思想的〉問題ととらえられがちだが、作家たちがキリスト教をどのように受容したかを考えることは、特定の時代、また、作家個人の問題にとどまらず、私たちが直面する問題でもある。目標は、(1) 近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、(2) 自分の意見を、根拠をもって論述すること、(3) 卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得、である。| この授業の学びの意義は、(1) 精読することで、文章の読解力を養える、(2) 自分自身の意見を基に、より日本文学に対する理解を深められる、(3) 本離れと言われる現代において、読書の重要性、楽しさを体験し、次世代への知識の提供、自分自身の生涯学習の基礎を作る、である。|

(2) 内容

西洋と〈出会った〉明治以降の近現代文学を通して、それまでの日本文学の伝統との連続性と非連続性を意識しつつ、日本文学におけるキリスト教の受容、さらに、これからの日本文学とキリスト教の関係を視野に入りたい。本講義では、近現代小説に描かれたキリスト教をテーマに、著名な作家による名作短篇・中篇小説を読み、作家のキリスト教信仰の有無なども含め、様々な角度から考察していく。作品ごとに、リアクションペーパーを通して、知識力と自己表現力を培いたい。|

受講者に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、キリスト教に興味を持つ学生、授業中採り上げる作品を必ず読む学生の受講を希望する。プリントはなくさないこと。

学びのキーワード

- ・ 近現代日本文学の研究方法
- ・ 近現代小説精読
- ・ 作家とキリスト教の関わり方
- ・ 聖書の用い方
- ・ 他者の意見を聴く

授業計画

01. 導入—日本文学の中の〈キリスト教〉という視点—
02. 正宗白鳥「信仰」
03. 正宗白鳥「何処へ」①主人公の生き方
04. 正宗白鳥「何処へ」②救世軍の青年
05. 正宗白鳥「何処へ」③最後の場面
06. 長与善郎「青銅の基督」
07. 太宰治「駈込み訴え」①聖書の翻案
08. 太宰治「駈込み訴え」②小鳥とは
09. 芥川龍之介「奉教人の死」①作家について
10. 芥川龍之介「奉教人の死」②聖書の引用
11. 芥川龍之介「神神の微笑」①植物を中心に
12. 芥川龍之介「神神の微笑」②最後の場面
13. 芥川龍之介「おぎん」①殉教について
14. 芥川龍之介「おぎん」②最後の場面
15. まとめ

準備学習(予習)

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめてくること。

準備学習(復習)

授業内で採り上げた小説について、全編を読んでくること。ノートを見直し、自分の意見をまとめること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) レポート | 20% |
| (2) リアクションペーパー | 50% |
| (3) 平常点 | 30% |

欠席が3分の1を超えた者は単位認定しない。

教科書

参考書

担当教員：大坊 真伸

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1J512080

学部教育の関連目

【1】国際理解力：常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多様な価値観をふまえて、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：選択科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

中国の思想に触れてもらうため日本語訳（もしくは書き下し文）を読み、その日本語訳（書き下し文）から漢文（原文）を読解するような授業を行う。|中国思想の特徴及び正確な漢文訓読を講義の目的とするが、漢文読解についてはあまり枝葉末節に拘らないようにしたい。|一見古臭いような中国思想であるが、古代から現代まで連続と続く思想の影響を理解してもらいたい。加えて、学生の皆さんが将来教員になった時、教え子に是非とも紹介したくなるような漢文ネタを提供したいと考えている。

(2) 内容

本講義は2コマ連続の講義である。|1コマ目に「中国思想」、2コマ目に漢文訓読を教授する。|① 講義内容としては中国思想の代表「諸子百家」を扱う。授業時数が限られている為、当該思想の特徴的なものを紹介する。|② 日本文化学科の学生が多いことを鑑み、日本文化に関連が深い事柄を紹介していく。日本文化にも中国思想が影響を与えていることを理解する。深奥難解な内容も多いため、やり出すとキリがない。よって概論的なものにとどめる。|③ 漢文訓読の基礎を学ぶ（将来、中学・高校の古典の授業で生徒たちに理解しやすい授業が行えることを目標とする）。

受講者に対する要望

毎時間の小テストが評価の重要なウェイトを占める。授業を欠席すると、その時間の小テストが0点になるばかりでなく、次回の小テスト範囲も未習熟になってしまうので注意すること。|高校生の時に使用した漢文文法書をまだ持っているならば、是非とも持参してきて欲しい。

学びのキーワード

- ・ 中国思想
- ・ 諸子百家
- ・ 儒教
- ・ 比較文化

授業計画

01. 【諸子百家】ガイダンス（時代と各思想のあらまし）
02. 【諸子百家】孔子（生い立ちと功績）
03. 【諸子百家】『論語』（日本語に根付く『論語』出典の故事成語）
04. 【諸子百家】孟子の思想1（易姓革命と王道）
05. 【諸子百家】孟子の思想2（五十歩百歩・性善説）
06. 【諸子百家】荀子の思想（性悪説・勸学・天人の分）
07. 【諸子百家】韓非子（法家思想概論）
08. 【諸子百家】『墨子』『兼愛・非攻』
09. 【諸子百家】『老子』『無為自然』・『莊子』1（無用の用・万物斉同）
10. 【諸子百家】『莊子』2（尾を塗中に曳く・夢に胡蝶と為る）
11. 【諸子百家】『列子』1（寓話から見る列子「朝三暮四」等）
12. 【諸子百家】『列子』2（日本文学との関わりを中心に「名人伝」中島敦）
13. 【諸子百家】『孫子』兵法1（二人の孫子）（孫子&兵法七書）
14. 【諸子百家】『孫子』兵法2（『史記』孫子呉子列伝を讀む）・『呉子』『少數精銳主義』
15. 【諸子百家】四書・五経入門
16. 〈漢文〉ガイダンス（漢文の五文型）
17. 〈漢文〉返り点・送り仮名・書き下し文
18. 〈漢文〉助字・返読文字
19. 〈漢文〉再読文字
20. 〈漢文〉否定文(1)～(3)否定の基本形
21. 〈漢文〉否定文(4)～(5)不可能・禁止
22. 〈漢文〉否定文(6)～(7)二重否定・部分否定・全部否定
23. 〈漢文〉疑問形
24. 〈漢文〉反語形
25. 〈漢文〉使役形・受身形
26. 〈漢文〉仮定形・比較形・選択形
27. 〈漢文〉抑揚系・限定形・累加形・詠嘆形
28. 〈漢文〉入試問題にチャレンジ！！
29. 日本儒学概説～内村鑑三『代表的日本人』～
30. 総括

準備学習(予習)

次回授業予定の中国思想について予習しておくことが望ましい。漢文句形については、高等学校ではあまり詳しく学んできてはいないことと推察する。授業内に於いてしっかり学習内容を身につけて欲しい。

準備学習(復習)

今年度は“（入試によく出る）漢文重要単語”を家庭学習として課す。詳細は初回授業時に説明する。また、漢文句形の確認テストを行う。プリント沢山なので、専用フォルダ必須！

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|------------------------|
| (1) 単語小テスト | 40% | 漢文重要単語 |
| (2) 句形小テスト | 40% | 漢文重要句形 |
| (3) 期末試験 | 10% | 毎時間の小テストの延長として行う予定である。 |
| (4) 中国思想レポート | 10% | |

教科書

菊地 隆雄、村山 敬三、六谷 明美 編著『基礎から解釈へ 漢文必修 四訂版』（桐原書店）【978-4342784620】

参考書

担当教員：井上 兼生

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P200550

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）-選択必修科目【教】高等学校教諭一種（公民）-選択必修科目【全】社会福祉主事任用資格-選択必修【P】国際平和コース-選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

対話の参加者ととともに主題となっている問いについて深く考える「哲学対話」と、テキストの読解、論述などを通して、深く考える力を育成することに力点をおいた授業をめざします。この科目は、社会科の教職科目でもあります。

(2) 内容

倫理学は、「〈よく生きる〉とはどういうことか」、あるいは、その「よさ」つまり「善」とは何かを理論的に探究する学問である。しかし、科学技術の進歩が著しい現代社会においては、従来とは異なる新たな倫理も必要とされるようになっている。たとえば、さまざまな先端医療技術の実用化により、人間の生と死のあり方に関しても人為的な選択の幅が拡大されて、これまでになかった多くの倫理問題が発生し、それらに取り組むために生命倫理という分野が成立している。また、現在の最速コンピュータの性能は、30年前のもの1000万倍以上といわれる。その間、インターネットも世界中をくまなく覆うようになった。私たちは、もうスマホやネットのない生活は考えられなくなっている。しかし、ネットトラブルやサイバー犯罪が広がり、情報倫理という分野が必要となった。また、人工知能が進歩し、今後、雇用の半分を奪うのではないかと予測されている。こうした、ただ生きるだけでも大変な現代社会で、〈よく生きる〉ためには、どう生きていけばよいのだろうか。さまざまな倫理的問題を具体的に考えながら、ともに考えてみよう。

受講者に対する要望

積極的に自分で考えたり、議論したり、調べようとする態度で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・よく生きる
- ・哲学対話
- ・深く考える力の育成

授業計画

01. イントロダクション：科学技術文明の彼方から「倫理」を考えるー「風の谷のナウシカ」を手掛かりとして
02. 「ナウシカ」から考える文明と自然と倫理
03. 「よく生きる」とは？ーソクラテスの問い
04. クマのプーさんの目的は？ーアリストテレスの目的論的倫理
05. 利己主義は道徳に反するか？ーカントとベンサム
06. 多数のために誰かを犠牲にしてよいか？ー功利主義と人格の尊厳
07. 困っている人を助けるのは義務か？ーよきサマリア人の喩えとボランティア精神、カントの不完全義務
08. 生命倫理①「生命の選別」は許されるか？
09. 生命倫理②脳死は人の死か？
10. 生命倫理③エンハンスメント(能力増強)は許容可能か？
11. 環境倫理①自然にも権利はあるか？
12. 環境倫理②将来世代に責任を負わなければならないか？
13. 高度情報社会と倫理ー情報公開と個人のプライバシー保護をどう両立するか？
14. アトムかターミネーターか？ー知能ロボットの進化と倫理
15. まとめー現代と倫理

準備学習(予習)

各回の授業は1時間ずつ異なったテーマを取り上げていきます。事前にテーマについての基礎知識を収集するなど、関心を高めておくこと。

準備学習(復習)

レポートも課します。授業で取り上げたテーマについて各自、深く考える努力を求めます。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加 | 30% |
| (2) 授業内レポート | 40% |
| (3) 学期末レポート | 30% |

教科書

プリントを配布する

参考書

担当教員：宮本 悟

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P200770

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：選択科目 | 【P】国際平和コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

国際政治には数多くの側面があり、これを理解するには多くの分析枠組みを学ぶ必要があります。ある一面でしか国際政治を理解できないことは、大きな誤りをおかすことになりかねません。この授業では国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を一通り学ぶこととなります。本授業は、第一に、国際政治学の基礎的な分析枠組みや視角を習得すること、第二に、それらの基礎知識に基づいて、国際政治の諸問題をより深く理解し、自ら解決方法を考える能力を養うことを目標とします。

(2) 内容

授業は教科書にそって、国際政治学の総論から始まって各分野を学んでいきます。国際政治学の基本概念と国際政治の歴史、対外政策論や国際秩序、安全保障論、国際政治経済論、さらにグローバリズムの問題として越境的世界について学びます。

受講者に対する要望

受講生は、(1) 各授業に対応する教科書の該当部分を予習してきて、(2) 講義を聴き、理解し、質問に答えてもらいます。原則、教科書に沿って講義を進めていきます。

学びのキーワード

- ・リアリズム
- ・グローバリズム
- ・対外政策論
- ・国際政治経済論
- ・安全保障論

授業計画

01. 分析枠組みとしての国際政治学（教科書序章、プリント配布）
02. 国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」1）
03. リアリズムへの挑戦（教科書第1章「国際政治学の見取り図」2）
04. 三つの分析レベル（教科書第1章「国際政治学の見取り図」3）
05. 国際政治から世界政治へ？国際政治の悲劇性とリアリズム（教科書第1章「国際政治学の見取り図」4）
06. 主権国家体制以前の「世界秩序」（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」1）
07. 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2）
08. 世界大戦と主権国家体制のグローバル化（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」2）
09. 冷戦期の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」4）
10. 冷戦終結後の国際政治（教科書第2章「国際政治の歴史的視角」5）
11. 外交 ●同意確保の政治過程（教科書第3章「対外政策の選択」1）
12. 国内政治と対外政策（教科書第3章「対外政策の選択」2）
13. 国家間の戦略的相互依存（教科書第3章「対外政策の選択」3）
14. 認識と行動（教科書第3章「対外政策の選択」4）
15. 威嚇と約束（教科書第3章「対外政策の選択」5）
16. 領域主権国家体制 ●国内類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」1）
17. 秩序の設計と生成 ●市場類推論の系譜（教科書第4章「国際秩序」2）
18. 国際秩序の変動と国内秩序の変動 ●共振論の挑戦（教科書第4章「国際秩序」3）
19. 戦争から安全保障へ（教科書第5章「安全保障」1）
20. 軍事的安全保障（教科書第5章「安全保障」2）
21. 安全保障の諸問題（教科書第5章「安全保障」3）
22. 国際の平和と国内の平和（教科書第5章「安全保障」4）
23. 歴史と思想（教科書第6章「国際政治経済」1）
24. 国際経済の制度（教科書第6章「国際政治経済」2）
25. 国際政治経済の過程（教科書第6章「国際政治経済」3）
26. グローバリゼーションとパワーシフト（教科書第6章「国際政治経済」4）
27. 平和と正義の相克（教科書第7章「越境的世界」1）
28. 越境問題の実相（教科書第7章「越境的世界」2）
29. 文明論と国際政治 ●「へだて」と「つながり」（教科書第7章「越境的世界」1）
30. 国際政治学と現代の国際問題についてのまとめ

準備学習(予習)

配布プリントや教科書の各該当部分を読んで予習する。キーワードを中心に予習することが望ましい。教科書を全部覚えようとするのではなく、キーワードを覚えて、論理を理解するように努めること。

準備学習(復習)

教科書、配布プリント、ノートを再読して、授業後の理解を深める。質問事項があれば、UNIPAや次の授業の冒頭で質問すること。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | 授業中の発言や、授業中に提出するレポートなどによる。また、授業後の16回以上の授業後に提出するレポートなどによる。 |
| (2) レポート | 30% | 学期末に提出する。課題は16回目の授業で指示する。 |
| (3) 期末試験 | 60% | 論述試験 |

教科書

中西寛、石田淳、田所昌幸著『国際政治学』（有斐閣）【978-4641053786】

参考書

担当教員：飯島 康夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P201010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種(地歴)：選択科目 | 【P】国際平和コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

意義は英国の離脱に見られるEUの危機にある昨今の現状にあって、ヨーロッパ各国を結びつける基礎的な絆、文化とは何かを探求することにある。目標は様々な国の状況を理解し、私たちがヨーロッパからなにが学べるかをしっかりと掴み取ることである。

(2) 内容

EUの歴史と現状、未来に思いを馳せ、ヨーロッパ的なものの普遍性を探求する内容構成となっている。

受講者に対する要望

自主的な参加と対話をお願いする

学びのキーワード

- ・ 移民問題
- ・ ユーロ
- ・ 域内市場格差

授業計画

01. ヨーロッパのイメージ。ヨーロッパとは何か。
02. 底流する文化の特徴
03. 第二次世界大戦の反省とEUの形成、東欧革命後のEU拡大
04. フランスと極右の台頭、文化的中心
05. 統一後のドイツと移民寛容の姿勢
06. チェコとスロバキア
07. ポーランド
08. バルト三国
09. スペインの失業問題
10. ポルトガルの経済発展と現状
11. 南欧と中南米諸国との国際関係
12. 統合以前 第一次世界大戦の惨禍
13. 第二次世界大戦からアメリカの台頭
14. ヨーロッパ再建とEC
15. 冷戦のデタント
16. ポスト冷戦のヨーロッパ統合の動き
17. EUの仕組み
18. EU経済現状
19. 域内市場の形成
20. 通貨統合へ
21. 世界金融経済危機と南欧財政危機
22. EUの拡大がもたらしたもの
23. トルコとバルカン諸国の問題
24. EUの外交政策
25. 日本とヨーロッパの関係
26. ボスニア紛争、コンゴ
27. EUの安全保障政策
28. Brexitのもたらしたものとは？
29. ヨーロッパ的なものの普遍性、通奏低音をふりかえって
30. まとめ

準備学習(予習)

事前にテーマについて考察すること

準備学習(復習)

前回授業をふりかえって、当面の課題に活かすこと。ノートを取る。

評価方法

- | | |
|--------------|----|
| (1) 講義への参加 | 4割 |
| (2) レポート課題提出 | 4割 |
| (3) 口頭発表 | 2割 |

総合的評価

教科書

藤井裕一「ヨーロッパの政治経済・入門」有斐閣 | 羽場久美子編「EUを知るための63章」明石書店 | 佐藤彰一「禁欲のヨーロッパ」中公新書

参考書

担当教員：小松崎 利明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P300810

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：選択科目 | 【P】国際平和コース：選択指定科目

(1) 学びの意義と目標

国際法を学ぶことの意義は、国際社会の現象の体系的な理解を可能にし、さらに国際的な裁判所の判例学習を通じてリーガルマインドを身につけることができるようになることにある。|| 受講生が目指すべき目標は、対話を中心としたアクティブ・ラーニングを通じて、国際社会に生起する諸現象を法的な観点から観察し、記述し、評価を行うことができるようになることである。

(2) 内容

伝統的に国際法は、主権国家の関係を規律する法であると理解されてきた。しかし、20世紀後半以降、主権国家の地位や機能の相対的低下と相まって、国際機構やNGO、個人といった国家以外の主体が国際法の生成および実現過程に深く関与するようになってきた。したがって現代の国際法は、国家間の関係のみならず、人々の日常生活のさまざまな領域と深く関わることになる。|| この授業では、こうした状況をふまえて、われわれの身の回りに起こる出来事にも目を配りつつ、対話を中心としたアクティブ・ラーニングの手法を用いて、世界的諸問題を法的に捉えることを目的とする。|| なお、受講者は法学を履修済みであることが望ましい。

受講者に対する要望

授業中の私語、居眠り、スマホいじりはご遠慮ください

学びのキーワード

- ・ 国家
- ・ 国際機構
- ・ 領域
- ・ 環境
- ・ 平和

授業計画

01. イントロダクション（講義概要の説明）
02. 国際法の基本的特徴
03. 国際法と国際社会
04. 国家と国際法（1）国家、国家承認、国家承認
05. 国家と国際法（2）国家の権利義務、管轄権
06. 国家機関
07. 国際組織と国際法
08. 国際法の存在形態
09. 条約法（1）条約の締結手続、留保
10. 条約法（2）条約の効力、解釈、終了、運用停止
11. 国際法と国内法
12. 国際法上の責任（1）国際違法行為、国家責任の追求要件
13. 国際法上の責任（2）賠償、紛争解決、ライアビリティー
14. 紛争の平和的解決（1）非裁判手続
15. 紛争の平和的解決（2）裁判手続
16. 前半のまとめ
17. 事例研究
18. 陸の国際法（1）領域権原
19. 陸の国際法（2）国境画定、領土紛争
20. 海の国際法（1）内水、領海、排他的経済水域
21. 海の国際法（2）接続水域、公海、深海底
22. 空と宇宙の国際法
23. 人と国際法
24. 国際刑事法
25. 国際経済法（1）投資
26. 国際経済法（2）貿易
27. 国際環境法
28. 武力・経済力の行使と国際法
29. 武力紛争・軍備管理の国際法
30. 期末試験

準備学習（予習）

- 教科書の該当箇所を読む | ○ 分からない言葉や知らない事実などを調べておく | ○ 資料の要点をまとめておく

準備学習（復習）

- 授業内容についてのノートをまとめる | ○ 教科書や参考資料を読み直して、授業内容への理解を深める

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 平常点 | 10% | ○ 教科書の指定箇所を事前に読んでおく ○ 授業で積極的に発言し、授業内容の充実に関与したか |
| (2) リアクション・ペーパー | 30% | ○ その日の授業内容を適切に理解しているか |
| (3) 定期試験 | 60% | ○ 与えられた問題に対して、法的観点から議論を行い、評価を下すことができるか。 ○ 論述式、持ち込み可 |

教科書

中谷和弘／橋本俊哉／河野真理子／森田章夫／山本良『国際法（第3版）』（有斐閣、2016年）[978-4641220638] | <http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641220638>

参考書

酒井啓吾／寺谷広司／西村弓／瀬本正太郎『国際法』（有斐閣、2011年）| <http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641046559> | 『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣、2011年）| <http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641115040>

担当教員：藤田 孝典

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P400990

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る | 【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）・選択科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格・選択必修 | 【P】地域共生（まちづくり）コース：自由科目 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格・必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格・必修科目

(1) 学びの意義と目標

・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。| ・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。| ・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。| ・生活困窮者自立支援法の概要を理解し、生活困窮者支援ノウハウを学ぶ。

(2) 内容

・公的扶助の概念 | ・貧困・低所得者問題と社会的排除 | ・公的扶助の歴史 | ・生活保護制度の仕組み | ・生活保護の運営実施体制と関係機関 | ・生活保護の動向 | ・低所得者対策とホームレス対策 | ・自立支援プログラムの意義と実際 | ・生活困窮者自立支援法の概要

受講者に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。
・授業中は積極的な参加を求めます。質問や意見は遠慮なく出してください。
・私語は周囲の迷惑になりますので絶対に慎んでください。

学びのキーワード

- ・貧困・低所得
- ・生活保護
- ・ホームレス
- ・生活困窮者自立支援

授業計画

01. 公的扶助の概念
02. 貧困・低所得者問題と社会的排除
03. 公的扶助の歴史 (1) 海外の歴史
04. 公的扶助の歴史 (2) 日本の歴史
05. 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的・原理
06. 生活保護制度の仕組み (2) 生活保護法の原則
07. 生活保護制度の仕組み (3) 生活保護の種類と内容
08. 生活保護制度の仕組み (4) 生活保護基準と実施要領
09. 生活保護制度の仕組み (5) 保護施設
10. 生活保護制度の仕組み (6) 被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 自立支援プログラムと相談援助活動
14. 生活困窮者自立支援法の概要
15. 生活困窮者支援の実際と課題

準備学習(予習)

毎回配付する資料を読解してくる

準備学習(復習)

毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 出席 | 平常点 |
| (2) 小レポート | 平常点 |
| (3) 試験 | |

教科書

参考書

担当教員：鄭 鎬碩

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1P630610

学部教育の関連目

【P】現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目 | 【A】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目 | 【J】聖学院大学日本語教員養成課程：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 現代世界において文化とコミュニケーションが問われる文脈について理解する。 | (2) 異文化間コミュニケーションの基礎概念が分かる。 | (3) 映像資料や文献を批判的に読みとく力を鍛える。

(2) 内容

わたしたちの日常は異質なもの（＝他者）との出会いであふれている。本講義では、映像資料やテキストをもとに、文明・人種・性など「差異」をめぐる多様な社会現象について学習し、異質性とどのような関係を築いていくかという視点から現代文化のダイナミズムについて考えていく。

受講者に対する要望

授業では講義のほか、小グループで討論を行い、発表してもらおう。自分の意見をクラスのなかでシェアする積極的な姿勢が求められる。

学びのキーワード

- ・ アイデンティティ
- ・ 自己と他者
- ・ 公共性
- ・ シティズンシップ
- ・ マイノリティ

授業計画

01. なぜ異文化間コミュニケーションが問題なのか
02. 視点としての「コミュニケーション」
03. 野蛮と文明（1）「啓蒙」の時代
04. 野蛮と文明（2）「人種」
05. 野蛮と文明（3）「野蛮人」への眼差し
06. オリエンタリズム（1）知識と権力
07. オリエンタリズム（2）『オリエンタリズム』を読む
08. オリエンタリズム（3）「東洋」の描かれ方
09. 練習・討論①：異文化へのまなざし（1）
10. 練習・討論②：異文化へのまなざし（2）
11. 自我と他者（1）自己とはなにか
12. 自我と他者（2）他人の眼差し
13. 自我と他者（3）パフォーマンスとしての自己呈示
14. 自我と他者（4）物語としての自己
15. マイノリティとマジョリティ（1）「マイノリティ」とはなにか
16. マイノリティとマジョリティ（2）マイノリティの社会運動
17. 練習・討論③：アメリカの人種問題（1）
18. 練習・討論④：アメリカの人種問題（2）
19. アイデンティティの政治（1）集団的アイデンティティ
20. アイデンティティの政治（2）新しい社会運動
21. 公共性からの排除（1）公共性とはなにか
22. 公共性からの排除（2）公と私
23. ジェンダー（1）性差と差別
24. ジェンダー（2）性差と反本質主義
25. ジェンダー（3）性別役割分業
26. 練習・討論⑤：グローバリゼーションと自由（1）
27. 練習・討論⑥：グローバリゼーションと自由（2）
28. シティズンシップ（1）移民と難民
29. シティズンシップ（2）多文化主義の挑戦
30. まとめ

準備学習(予習)

受講生は、毎回の文献を予め読んで授業に参加する。

準備学習(復習)

授業で学んだ内容を文章でまとめ、コメントを加えておく。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 期末レポート | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

講義内で紹介する。

担当教員：蝶野 立彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00431

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

古代から近世までの西洋の歴史を概観し、西洋史上の重要な事象やトピックを紹介・解説しながら、「古代」「中世」「近世」のそれぞれの時代の特徴とそれらの時代を貫く大きな歴史的变化のダイナミズムを明らかにしてゆく。前近代の西洋史の展開について基礎的な知識を修得するとともに、現代の世界や社会の成り立ちを理解するために必要な歴史的視座を養うことが、本講義の目標である。

(2) 内容

古代から18世紀半ばまでの西洋史の展開を「①古代（第2回～第4回）」「②中世（第5回～第7回）」「③近世（第8回～第14回）」という3つのパートに分けて考察し、これらの時代の西洋史の流れを、重要な邦訳史料や図像史料を紹介しつつ、読み解いてゆく。

受講者に対する要望

歴史の題材は多岐にわたっており、授業で取りあげることができる題材はそのうちの一部に過ぎないので、授業の内容をより正確に理解するために、不明瞭な箇所については参考書などを用いて自ら調べる習慣を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋史
- ・ 国際関係
- ・ 古代
- ・ 中世
- ・ 近世

授業計画

01. ガイダンス
02. 古代オリエント世界
03. 古代ギリシアの都市国家とヘレニズム
04. 都市国家ローマから古代ローマ帝国へ
05. 中世の西ヨーロッパ世界——封建社会の成立とローマ教会の発展
06. 中世の東ヨーロッパ世界——ビザンツ帝国の盛衰とスラブ諸民族の動き
07. 中世後期のヨーロッパ——十字軍、中世都市、商業の復活、黒死病、封建制と教皇権の動揺
08. 大航海時代の到来とヨーロッパ世界の膨張
09. ルネサンス
10. 宗教改革と対抗宗教改革
11. 16～17世紀ヨーロッパの国際政治と主権国家体制の形成
12. 絶対王政の時代のヨーロッパ諸国（1）——イギリス、フランス
13. 絶対王政の時代のヨーロッパ諸国（2）——プロイセン、オーストリア、ロシア
14. 18世紀ヨーロッパの市民文化——啓蒙思想とコーヒーハウス
15. まとめ

準備学習（予習）

各回の講義で取り扱われるトピックについて、参考書・事典などを用いて初歩的な知識を得ておくことが望ましい。

準備学習（復習）

各回の講義内容に関わりのある参考文献を授業時に紹介するので、講義についての理解を深めるために、授業後にそれらの文献を参照することが望ましい。また、リアクションペーパーに記された受講者からの質問に対しては、適宜授業内に口頭で返答するので、それらのコメントも復習に役立ててほしい。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|-----------------|
| (1) 平常点 | 50% | 受講態度とリアクションペーパー |
| (2) テスト | 50% | |

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美穂、桑島 良平『山川世界史総合図録』（山川出版社）【978-4634040212】

参考書

それぞれの講義箇所についての参考書は、そのつど教場で指示する。

担当教員：蝶野 立彦

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00532

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目|【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

近代～現代の西洋の歴史を概観し、西洋史上の重要な事象やトピックを紹介・解説しながら、「近代」「現代」のそれぞれの時代の特徴とそれらの時代を貫く大きな歴史的变化のダイナミズムを明らかにしてゆく。近現代の西洋史の展開について基礎的な知識を修得するとともに、現代の世界や社会の成り立ちを理解するために必要な歴史的視座を養うことが、本講義の目標である。

(2) 内容

18世紀末から現代までの西洋史の展開を「①近代（第2回～第8回）」「②現代（第9回～第14回）」という2つのパートに分けて考察し、これらの時代の西洋史の流れを、重要な邦訳史料や図像史料を紹介しつつ、読み解いてゆく。

受講者に対する要望

歴史の題材は多岐にわたっており、授業で取りあげることができる題材はそのうちの一部に過ぎないので、授業の内容をより正確に理解するために、不明瞭な箇所については参考書などを用いて自ら調べる習慣を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 西洋史
- ・ 国際関係
- ・ 近代
- ・ 現代

授業計画

01. ガイダンス
02. アメリカの独立革命
03. フランス革命
04. ナポレオン戦争
05. 産業革命
06. ウィーン体制とナショナリズム
07. 帝国主義の時代と列強による植民地支配
08. 列強の対立の激化と第一次世界大戦の勃発
09. ロシア革命
10. 第一次世界大戦後のヨーロッパとアメリカ——ヴェルサイユ体制の成立
11. 世界恐慌とファシズム
12. 第二次世界大戦
13. 東西冷戦の時代
14. ヨーロッパ統合の動きと欧州連合の成立
15. まとめ

準備学習(予習)

各回の講義で取り扱われるトピックについて、参考書・事典などを用いて初歩的な知識を得ておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各回の講義内容に関わりのある参考文献を授業時に紹介するので、講義についての理解を深めるために、授業後にそれらの文献を参照することが望ましい。また、リアクションペーパーに記された受講者からの質問に対しては、適宜授業内に口頭で返答するので、それらのコメントも復習に役立ててほしい。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) テスト | 50% |

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美穂、桑島 良平『山川世界史総合図録』（山川出版社）【978-4634040212】

参考書

それぞれの講義箇所についての参考書は、そのつど教場で指示する。

担当教員：赤坂 恒明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00771

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようになる。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史の意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。

(2) 内容

前近代のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。| この授業のカリキュラム上の位置づけは、東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

学びのキーワード

- ・ 歴史
- ・ 東アジア
- ・ 東洋
- ・ 中国
- ・ 日中関係

授業計画

01. 序
02. アジアとヨーロッパ
03. 「東洋」という概念
04. 歴史編纂をめぐる諸問題
05. 中華思想
06. 冊封体制論
07. 志賀島出土の金印と、邪馬台国女王 卑弥呼をめぐる諸問題
08. 倭の五王
09. 遣隋使(1) 「日、出ずるところの天子」の国書に対する隋の煬帝の対処
10. 遣隋使(2) 小野妹子が隋の煬帝から授かった返書を紛失した事件
11. 古朝鮮
12. 高句麗
13. 渤海
14. 吐蕃（古代チベット）
15. まとめ

準備学習(予習)

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

準備学習(復習)

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。各自の自主的な復習を期待する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 10% |
| (2) 試験（小テスト含む） | 90% |

期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。

教科書

資料を配布するので、教科書は使用しない。

参考書

世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。| 参考文献等は講義中に紹介する。

担当教員：赤坂 恒明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD00872

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見るができるようになること。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになること。

(2) 内容

東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。| この授業のカリキュラム上の位置づけは、入門的な位置づけの基礎的な講義であり、日本史を学ぼうとする学生にも適している。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。
なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

学びのキーワード

- ・ 歴史
- ・ 東アジア
- ・ 沖縄
- ・ 朝鮮
- ・ 中国

授業計画

01. 序
02. 「オホーツク文化」と東北アジア
03. 「もうひとつの蒙古襲来」：元（モンゴル）軍の樺太（サハリン）侵攻
04. 山丹交易：「鎖国」の江戸時代と清朝を、毛皮と絹が結んだ、北まわりの交易
05. アムール川中・下流域と樺太の先住諸民族と近代
06. 貿易立国、琉球王国の繁栄
07. 「琉球処分」をめぐる日清関係：清朝領となるはずであった先島諸島（八重山・宮古列島）
08. 韓国併合への道
09. 日本による朝鮮半島の植民地支配（1）第一期
10. 日本による朝鮮半島の植民地支配（2）第二期と第三期
11. 「戦争抛棄二閣スル条約」（パリ不戦条約）と満洲事変
12. 内モンゴにおけるモンゴル人のまなざしから見た日本の「侵略」
13. 熱河作戦
14. 「支那事変」：盧溝橋事件から「南京大虐殺」へ
15. まとめ

準備学習（予習）

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

準備学習（復習）

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認する。各自の自主的な復習を期待する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 10% |
| (2) 試験（小テスト含む） | 90% |

期末試験は、論述形式（問題は選択）で行い、教材の持ち込みを不可とする。

教科書

資料を配布するので、教科書は使用しない。

参考書

世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。| 参考文献等は講義中に紹介する。

担当教員：秋山 秀一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01010

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

自然地理学の知識を身につけることは、とても大切なことであり、国際理解度を高めることにも大きく寄与します。そのことは卒業後どのような仕事に就こうと、意義があり重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。

(2) 内容

世界の各地ではいろいろな人々が生活基盤となるその土地の自然環境を理解し、土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では、日本、アメリカ、アジアの国々に、そしてヨーロッパ諸国における自然を自然地理学の視点から具体的に取り上げ、学びます。

受講者に対する要望

日頃から自然を意識する人、関心がある人、大好きな人、また、自然を観る目を学び身につけたいと考えたことのある人、そんな人たちの受講を望みます。

学びのキーワード

- ・ 国立公園
- ・ 水と暮らし
- ・ 地震
- ・ 温泉
- ・ ハザードマップ

授業計画

01. 導入
02. 地形図を読む
03. 地形を読む
04. 自然地理学と暮らし
05. 地震と暮らし
06. 日本の温泉
07. 世界の温泉①（ドイツ、イタリア、アメリカ）
08. 世界の温泉②（アイスランド、ロシア、アジア諸国）
09. 海岸の地形
10. 砂漠
11. アジアの自然
12. ヨーロッパの自然
13. 世界の自然遺産①（中国、ベトナム、韓国）
14. 世界の自然遺産②（カナダ、スイス、クロアチア）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

準備学習(復習)

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 日頃の授業への貢献度 | 30% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 小レポート、それにまとめたレポート | 40% |

教科書

秋山 秀一『世界、この魅力ある街・人・自然』（八千代出版）【978-4842916682】

参考書

担当教員：飯島 康夫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01220

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

地理学の基礎を学び、現実の地域の調査ができるようになることが望ましい。既存の文献ではなく、自分で判断、分析できるようになること。

(2) 内容

人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれらから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。| この講義は地理学に関係する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫してみた。

受講者に対する要望

地理と歴史は表裏一体のものであるから地域の歴史から現在の姿までの変遷を理解できるようになって欲しい。

学びのキーワード

- ・ 地理学史
- ・ 情報革命
- ・ グローバリゼーション

授業計画

01. 地理学の発展史
02. 地理学と隣接科学との関係
03. 新古典派地理学のアプローチ
04. 行動・組織論、人文主義のアプローチ
05. マルクス主義的地理学のアプローチ
06. 人文地理の思想
07. 情報ネットワークと空間編成
08. 地域間格差
09. 政治経済システムと都市の空間編成
10. 製造業の空洞化と都市・地域経営
11. 経済のサービス化と都市・地域の空間編成
12. グローバリゼーションと都市・地域政策
13. レポートの添削・指導
14. レポートの書き方、伝え方、プレゼンテーションの方法
15. 総まとめ

準備学習(予習)

教科書に書かれていることを指定したところを事前に読んで理解しておくこと。

準備学習(復習)

前の講義のノートを見て、学んだことを簡潔にまとめること。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 出席 | 50% |
| (2) レポート・小テスト | 30% |
| (3) 発表 | 20% |

1. 基準に満たない提出物は再提出させる場合がある。2. 調べ方、書き方を学んでください。3. 極端に出席回数が少ない場合、評価対象外とする。4. 基本文献を指示するので、基礎知識を養うこと

教科書

ピーター・ティックェンほか『立地と空間 上』（古今書院）【978-4772215657】 | 古川俊哲『散步学』のすすめ 中公新書

参考書

担当教員：秋山 秀一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01451

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

(2) 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学んでいきます。

受講者に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 地域研究
- ・ 地図
- ・ アジア
- ・ フィールドワーク
- ・ 観光写真

授業計画

01. 導入
02. 現代社会と交通
03. 地図を読む
04. アジアの中の日本
05. 韓国
06. ベトナム
07. ミャンマー
08. マレーシア
09. 香港・マカオ
10. 中国・台湾
11. タイ
12. ラオス、カンボジア
13. フィジーと太平洋の島々
14. オーストラリア、ニュージーランド
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

準備学習(復習)

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 日頃の授業への貢献度 | 30% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 小レポート、それにまとめたレポート | 40% |

教科書

秋山 秀一『フィールドワークのススめーアジア観光・文化の旅』（学文社）【978-4762020728】

参考書

担当教員：秋山 秀一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01552

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択科目 | 【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

(2) 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにヨーロッパ諸国並びにアメリカ、そして、日本の各地、における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学び、街歩きの楽しさも修得していきます。

受講者に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ
- ・アメリカ
- ・日本
- ・街歩き
- ・フィールドワーク

授業計画

01. 導入
02. メンタルマップ
03. 東京はアフリカだ
04. 国際化の中の日本
05. 日本①（東京）
06. 日本②（関東地方）
07. 日本③（日本全国）
08. アメリカ①（東海岸）
09. アメリカ②（西海岸）
10. ヨーロッパ
11. イギリス
12. ロンドン
13. フランス
14. イタリア
15. まとめ

準備学習(予習)

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

準備学習(復習)

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

評価方法

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 日頃の授業への貢献度 | 30% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート | 40% |

教科書

秋山秀一『大人のまち歩き』（新典社）【978-4787978516】

参考書

担当教員：大賀 祐樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1PD01660

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：選択必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

哲学で大切なことは、答えを知ることよりも、当たり前を感じていたことの中に潜む疑問を見つけて問いを立てることである。様々な哲学者がどのような問いを立て、答えを見つけるために試行錯誤したのか。その道筋を追うことによって、日常の生活においても浮上する様々な問題に対して、自分なりの問いを立て、本質を見抜き、答えを出す力を養うことを目標とする。| 「哲学」を初めて学ぶ者を対象とする。| できるだけ理解しやすいように、日常的な出来事や、映画、SF、アニメ作品等の事例を例に置き換えて説明する。

(2) 内容

人間はどのように生きるべきなのか？ 人間にとって幸せとは何か？ | 「哲学」といえば一般的に、そういった問題について考えるものだと思われているかもしれませんが。| しかし、哲学とは本来「真理とは何か」という問題について考えるものです。| 「真理」を知ることでは正しく生き、幸せになれると、長い間考えられてきました。| とはいえ、「真理」=「絶対に正しくてこれ以上変えようがない唯一の答え」など、本当にあるのでしょうか？ | 現代の私たちの感覚からすると疑問に感じるかもしれません。| 一方で、「正しい」ことが何も無いのかということ、それもまた疑問に感じることでしよう。| この授業では、古代から現代までの間、哲学が「正しさ」をどのように探し求めてきたのかについての歴史とストーリーを講義形式でお話します。

受講者に対する要望

予習・復習に関しては準備学習の項目を参照。

学びのキーワード

- ・西洋哲学史
- ・真理
- ・現代思想

授業計画

01. 「哲学」とはどのようなものか
02. 「愛」について（プラトン）
03. 「真理」について（プラトン）
04. 「正義」について（アリストテレス）
05. 「私」とは誰か（デカルト）
06. 人間の「自由」と「道徳」（カント）
07. 「言葉」についてⅠ（ラッセル）
08. 「言葉」についてⅡ（ウィトゲンシュタイン）
09. 「心」とは何か
10. 「可能世界」について
11. 科学の正しさと「真理」
12. ニヒリズムとポストモダン（ニーチェ、フーコー）
13. プラグマティズム
14. 哲学は「真理」を見つけたか？（まとめ）
15. 試験

準備学習（予習）

前の回で紹介した考え方を受けて次の回で批判・展開することが多いので、復習をきっちりしておくことが同時に予習にもなる。授業で配布されたレジュメを熟読し、参考文献に挙げられた本の中から興味を持った本を読むことで、復習と予習を兼ねた学習となるだろう。また、次回に扱う思想家の大まかな情報や時代背景などを

準備学習（復習）

毎回PowerPointのスライドを使用し、プリントを配布する予定なので、興味を持った話題があればその点を掘り下げて、自分なりの問題意識やそれに対する答えを考えておく。

評価方法

- | | | |
|-----------------|-----|---|
| (1) 試験 | 60% | 期末に実施 |
| (2) レポート | 30% | 中間に実施 |
| (3) 授業参加度、授業態度等 | 10% | 出席や授業への参加度を参考にし、授業中の私語等が多いと成績評価の参考にすることがあります。 |

レポート、試験に対するフィードバック希望者は提出時にその旨を記載してください。

教科書

参考書

参考書 | 毎回の授業内で参考文献を随時紹介する。

担当教員： 牛津 信忠

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1W210224

学部教育の関連目

【W】福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目【全】社会福祉主事任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。| ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。| ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。| ・福祉政策の課題について理解する。| ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。| ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。| ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

(2) 内容

・現代社会における福祉制度と福祉政策| ・福祉の思想と哲学| ・福祉制度の発達過程| ・福祉政策におけるニーズと資源| ・福祉政策の課題| ・福祉政策の構成要素| ・福祉政策の関連領域| ・福祉政策の国際比較| ・相談援助活動と福祉政策の関係

受講者に対する要望

毎回授業に出席することはいうまでもなく、授業計画に沿って、予習復習をすることを義務付ける。予習については毎回提供するプリントを用いて、二回目より前回プリントの説明を終えていない箇所を読み、その意味をしっかりと調べて授業に臨むこと。復習は、ノート、プリントを読み返し、復習小テストのために準備をして毎回授業に臨むこと[最低3回に一度は小テストを行う]。

学びのキーワード

- ・福祉における理念、政策、技術
- ・社会福祉における狭義・広義
- ・普遍主義的福祉
- ・ノーマライゼーション
- ・ワーク・ライフ・バランス

授業計画

01. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (1) わが国における福祉制度の概念と理念
02. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (2) 福祉政策の概念と理念
03. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (3) 福祉制度と福祉政策の関係
04. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (4) 福祉政策と政治の関係
05. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (5) 福祉政策の主体と対象
06. 福祉の思想と哲学 (1) 福祉の原理をめぐる哲学と倫理
07. 福祉の思想と哲学 (2) 福祉の原理をめぐる理論
08. 福祉制度の発達過程 (1) 前近代社会と福祉
09. 福祉制度の発達過程 (2) 近代社会と福祉
10. 福祉制度の発達過程 (3) 現代社会と福祉
11. 福祉政策におけるニーズと資源 (1) 需要とニーズの概念
12. 福祉政策におけるニーズと資源 (2) 資源の概念
13. 福祉政策の課題 (1) 福祉政策と社会問題 ① 貧困、孤独、失業
14. 福祉政策の課題 (2) 福祉政策と社会問題 ② 社会的排除、ヴァルネラビリティ
15. 福祉政策の課題 (3) 福祉政策の現代的課題 (社会的包摂、社会連帯、セーフティネット)
16. 福祉政策の構成要素 (1) 福祉政策の論点 ① 福祉政策の課題と国際比較
17. 福祉政策の構成要素 (2) 福祉政策の論点 ② 効率性と公平性、必要と資源
18. 福祉政策の構成要素 (3) 福祉政策の論点 ③ 普遍主義と選別主義
19. 福祉政策の構成要素 (4) 福祉政策の論点 ④ 自立と依存・自己選択とパターナリズム
20. 福祉政策の構成要素 (5) 福祉政策の論点 ⑤ 参加とエンパワーメント
21. 福祉政策の構成要素 (6) 福祉政策における政府・市場・国民の役割
22. 福祉政策の構成要素 (7) 福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
23. 福祉政策の構成要素 (8) 福祉サービス供給部門
24. 福祉政策の構成要素 (9) 福祉サービスの供給と利用の過程
25. 福祉政策の関連領域 (1) 所得と福祉政策
26. 福祉政策の関連領域 (2) 保健医療と福祉政策
27. 福祉政策の関連領域 (3) 福祉政策と教育・住宅・労働政策
28. 福祉政策の国際比較 (1) 欧米諸国の福祉政策
29. 福祉政策の国際比較 (2) 東アジア諸国の福祉政策
30. 相談援助活動と福祉政策の関係

準備学習(予習)

前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|-------------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | |
| (2) 小テストに見る思考力 | 20% | 授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。 |
| (3) 授業中の態度 | 10% | 座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。 |
| (4) 授業中の質問 | 10% | 授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。 |
| (5) 期末論文形式のテスト | 40% | 授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。 |

上記された細かい項目を横断的にとらえるときに、そこには人間福祉というより広義の福祉観があることに注意してほしい。現代は特殊化された福祉から「人間のより良い人生づくり」をすべての人に許せる状態への移行期である。

教科書

参考書

主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。加えて関連プリントを毎回配布する。

人体の構造と機能及び疾病

CCSW-W-100

担当教員：藤野 秀美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W210772

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉） 必修科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係をふまえて理解できるよう学びます。| ・障害やリハビリテーションの概要、国際生活機能分類（ICF）における障害やリハビリテーションの考え方について理解し、必要な支援を考えられることをめざします。| ・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できるよう学びます。

(2) 内容

・人の成長・発達 | ・健康の捉え方 | ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方 | ・障害の概要 | ・リハビリテーションの概要 | ・こころとからだのしくみの基本的理解 | ・生活支援に必要なこころとからだのしくみ | ・疾病の概要 |

受講者に対する要望

社会福祉に携わる者として、支える対象である人間への関心をもち、講義に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・健康
- ・人体の構造・機能
- ・疾病・障害
- ・リハビリテーション
- ・国際生活機能分類

授業計画

01. 健康の捉え方と人口統計
02. 人口の高齢化と健康・保健対策
03. 人の成長発達と老化
04. こころとからだのしくみ（心理面及び身体面）の基本的理解 こころとからだのしくみの基礎的理解
05. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 身体構造と心身の機能(1)
06. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 身体構造と心身の機能(2)
07. 疾病の概要(1) 生活習慣病、がん、脳血管疾患、心疾患、高血
08. 疾病の概要(2) 糖尿病、内分泌疾患、呼吸器・消化器・血液疾患、膠原
09. 疾病の概要(3) 腎・泌尿器、骨・関節、感覚器、感染症、神経疾患・難病、先天性疾患
10. 障害の概要(1) 視覚・聴覚・平衡機能、内部障害
11. 障害の概要(2) 知的障害、発達障害、認知症、高次脳機能障害
12. 障害の概要(3) 精神障害、肢体不自由
13. リハビリテーションの概要
14. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの該当部分を自己学習し、不明な点や疑問点を明確にする。

準備学習(復習)

テキスト、プリントを参考に講義内容を確認して理解を深めるとともに、次回の講義で疑問点や不明点を解決できるよう準備する。

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) レポートまたは小テスト | 40% |
| (3) テスト | 30% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座(1)人体の構造と機能及び疾病—医学一般 第3版』(中央法規出版)【978-4805851005】

参考書

担当教員：利根川 明子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W220424

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。
 |・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。
 |・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。|・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。

(2) 内容

この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。

受講者に対する要望

教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
また、積極的な質問や感想をお待ちしています。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・発達心理学
- ・パーソナリティ心理学
- ・臨床心理学

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど
02. 発達の理論
03. 各時期の発達の様相①
04. 各時期の発達の様相②
05. 学習の理論①
06. 学習の理論②
07. 教授と学習①
08. 教授と学習②
09. 動機づけの理論①
10. 動機づけの理論②
11. 知能と学力①
12. 知能と学力②
13. 教育の評価①
14. 教育の評価②
15. 授業の実践と研究①
16. 授業の実践と研究②
17. 学級集団①
18. 学級集団②
19. パーソナリティの問題と生徒理解①
20. パーソナリティの問題と生徒理解②
21. 問題行動と教育相談①
22. 問題行動と教育相談②
23. 問題行動と教育相談③
24. 発達の問題①
25. 発達の問題②
26. 発達の問題③
27. 教育実践の記述
28. 教育実践と教育心理学
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 授業内課題 | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』(有斐閣アルマ) 【978-4641220591】

参考書

担当教員：岩田 健

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230100

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目【全】社会福祉主事任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・介護の概念や対象及びその理念等について理解する。|・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。|・終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。

(2) 内容

・介護の概念や対象|・介護過程|・介護の技法（住環境の整備を含む。）|・認知症ケア|・介護予防|・終末期ケア

受講者に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・自立支援
- ・介護の専門性
- ・介護の理念
- ・エンパワメント
- ・個人の尊厳

授業計画

01. 介護の概念や対象 (1) 介護の概念と範囲
02. 介護の概念や対象 (2) 介護の理念
03. 介護の概念や対象 (3) 介護の対象
04. 介護過程
05. 介護の技法 (1) 家事における自立支援
06. 介護の技法 (2) 身支度・移動・睡眠の介護
07. 介護の技法 (3) 食事・口腔衛生の介護
08. 介護の技法 (4) 入浴・清潔・排泄の介護
09. 介護と住環境
10. 認知症ケア (1) 認知症ケアの基本的考え方
11. 認知症ケア (2) 認知症ケアの実際
12. 介護予防 (1) 介護予防の必要性
13. 介護予防 (2) 介護予防プランの実際
14. 終末期ケア (1) 終末期ケアの基本的考え方
15. 終末期ケア (2) 終末期ケアの実際

準備学習(予習)

次回の授業について口述しますから、いわれた箇所を必ず読んでくること。また、配布したプリントの空白を教科書をみて埋めること。

準備学習(復習)

A4のノートを準備し、1回受講ごとに、学んだ内容と感想をまとめ、授業終了5分前にその箇所を広げておく。

評価方法

(1) 試験	70%
(2) 介護過程記録	15%
(3) 宿題	10%
(4) 出席	5%

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度(第4版)』(中央法規出版)【978-4808851067】

参考書

担当教員：岩田 健

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230215

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。| 2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。| 3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。|

(2) 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

受講者に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ ジュハリの窓
- ・ ボディメカニクス
- ・ 生活不活発病
- ・ 自立性・安全性・安楽性
- ・ 自分らしさ

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーションの基本
03. 身支度の介護
04. 身支度の介護演習
05. 移動の介護
06. 移動の介護演習
07. 睡眠の介護
08. 食事の介護
09. 食事の介護演習
10. 入浴・身体の清潔
11. 足浴の演習
12. 排泄の介護
13. 排泄の介護演習
14. 予想される事故とその対応
15. 住環境の整備

準備学習(予習)

次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。

演習に関してはシュミュレーションしておく。

準備学習(復習)

演習を行って見て、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。

評価方法

- | | |
|----------|----------|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) レポート | 20% 宿題含む |
| (3) 出席 | 20% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版』(中央法規出版)【978-480883016】

参考書

担当教員：田村 綾子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W230440

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・ 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。| ・ 相談援助の対象について理解する。| ・ 相談援助の過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。

(2) 内容

・ 相談援助活動の意義 | ・ 相談援助の理論と発展 | ・ 相談援助の対象 | ・ 相談援助の構造と機能 | ・ 相談援助の過程 | ・ ケースマネジメントとケアマネジメント | ・ 相談援助のためのアウトリーチ | ・ 相談援助におけるネットワークング | ・ 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 | ・ 相談援助における情報通信技術(IT)の活用

受講者に対する要望

教科書・ノートを持参すること。授業中は静かに受講し、教員からの問いかけに対して真面目に考察すること。

学びのキーワード

- ・ 相談
- ・ 援助関係
- ・ 生活
- ・ 社会

授業計画

01. 相談援助活動の意義
02. 相談援助の理論と発展 (1) 人と環境の相互作用
03. 相談援助の理論と発展 (2) 相談援助技術体系の発展
04. 相談援助の理論と発展 (3) システム思考に基づくジェネリックな援助理論
05. 相談援助の対象 (1) 社会福祉の対象の概念
06. 相談援助の対象 (2) 相談援助の対象の概念と範囲
07. 相談援助の対象 (3) 個人・家族、グループ、地域との相談援助の視点
08. 相談援助の構造と機能 (1) 相談援助の構造
09. 相談援助の構造と機能 (2) 相談援助の機能
10. 相談援助の過程 (1) 相談援助過程の概観
11. 相談援助の過程 (2) インテーク
12. 相談援助の過程 (3) アセスメント①相談援助におけるアセスメントの特徴
13. 相談援助の過程 (4) アセスメント②情報収集の方法
14. 相談援助の過程 (5) アセスメント③情報の分析・生活課題の確定
15. 相談援助の過程 (6) 支援の計画
16. 相談援助の過程 (7) 支援の実施
17. 相談援助の過程 (8) モニタリングと評価
18. 相談援助の過程 (9) 支援の終結とアフターケア
19. ケースマネジメントとケアマネジメント (1) ケースマネジメントとケアマネジメントの概念
20. ケースマネジメントとケアマネジメント (2) ケアマネジメントの目的と意義
21. ケースマネジメントとケアマネジメント (3) ケアマネジメントの方法と留意点
22. 相談援助のためのアウトリーチ (1) アウトリーチの意義と目的
23. 相談援助のためのアウトリーチ (2) アウトリーチの方法と留意点
24. 相談援助におけるネットワークング (1) ネットワークングの意義と目的
25. 相談援助におけるネットワークング (2) ネットワークングの方法と留意点
26. 相談援助におけるネットワークング (3) ネットワークングのためのシステムづくり
27. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (1) 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
28. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (2) 社会資源の活用・調整開発の方法と留意点
29. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (3) ソーシャルアクションによるシステムづくり
30. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用 IT活用の意義と留意点及び支援の概要

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 期末試験 | 50% |
| (2) 毎回の授業のリアクションペーパー | 30% |
| (3) 提出物 | 10% |
| (4) 受講態度 | 10% |

教科書

社会福祉学習双書』編集委員会『社会福祉援助技術論 I』(全国社会福祉協議会)【978-4793512278】

参考書

担当教員：鷹野 吉章

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W230548

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：選択科目|【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・ 相談援助に係るクリニカル・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。|・ 相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。|・ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。|・ 相談援助の実践（権利擁護活動を含む）について理解する。

(2) 内容

・ 相談援助における援助関係|・ 相談援助のための基本技法|・ 相談援助の実践モデルとアプローチ|・ 集団を活用した相談援助|・ スーパービジョンとコンサルテーション|・ 相談援助における記録|・ 事例分析

受講者に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

学びのキーワード

- ・ クリニカル・ソーシャルワーク
- ・ ソーシャルワーク理論モデル
- ・ グループワーク
- ・ スーパービジョン
- ・ 事例分析

授業計画

01. 相談援助における援助関係 (1) 援助関係の意義と概念
02. 相談援助における援助関係 (2) 援助関係の形成方法
03. 相談援助のための基本技法 (1) コミュニケーション技法
04. 相談援助のための基本技法 (2) 面接技法① 相談援助における面接の目的
05. 相談援助のための基本技法 (3) 面接技法② 相談援助における面接の展開
06. 相談援助のための基本技法 (4) 面接技法③ 相談援助における面接の形態
07. 相談援助のための基本技法 (5) 契約の意義と目的
08. 相談援助のための基本技法 (6) 契約の方法と留意点
09. 相談援助のための基本技法 (7) 観察技法
10. 相談援助の実践モデルとアプローチ (1) 相談援助の焦点化と視点
11. 相談援助の実践モデルとアプローチ (2) ソーシャルワーク実践のモデル①
12. 相談援助の実践モデルとアプローチ (3) ソーシャルワーク実践のモデル②
13. 相談援助の実践モデルとアプローチ (4) ソーシャルワーク実践のモデル③
14. 相談援助の実践モデルとアプローチ (5) ソーシャルワーク実践のモデル④
15. 相談援助の実践モデルとアプローチ (6) ソーシャルワーク実践のモデル⑤
16. 集団を活用した相談援助 (1) 集団を活用した相談援助の意義と特徴
17. 集団を活用した相談援助 (2) グループワークの原則
18. 集団を活用した相談援助 (3) グループワークの実践
19. スーパービジョンとコンサルテーション (1) スーパービジョンの意義と目的
20. スーパービジョンとコンサルテーション (2) スーパービジョンの内容・形態・機能
21. スーパービジョンとコンサルテーション (3) コンサルテーションの意義と目的
22. 相談援助における記録 (1) 記録の意義と目的
23. 相談援助における記録 (2) 記録の種類と方法
24. 相談援助における記録 (3) 個人情報保護の意義と留意点
25. 事例分析 (1) 事例分析の意義と方法
26. 事例分析 (2) 相談援助活動の実践 ①社会的排除
27. 事例分析 (3) 相談援助活動の実践 ②児童虐待
28. 事例分析 (4) 相談援助活動の実践 ③高齢者虐待
29. 事例分析 (5) 相談援助活動の実践 ④ホームレス
30. 事例分析 (6) 相談援助活動の実践 ⑤家庭内暴力 (D.V)

準備学習(予習)

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) レポート | 20% |

出席点について：毎回の出席が欠席となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

教科書

教科書は使用せず毎回配布する資料により講義する。

参考書

児童福祉論 A

CGSW-D-200/CGSW-W-2

担当教員：栗原 直樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230656

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。|・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。|・児童の権利について理解する。|・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。

(2) 内容

・児童・家庭を取り巻く社会環境 | ・児童・家庭福祉の理念とあゆみ | ・児童・家庭にかかわる法制度

受講者に対する要望

【注意事項】
「児童福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (1) 現代社会と子どもの成長・発達
02. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (2) 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
03. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (3) 児童・家庭の福祉ニーズの実際
04. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (1) 児童家庭福祉の理念および概念
05. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (2) 児童育成責任
06. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (3) 児童の権利保障
07. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (4) 児童家庭福祉制度の発展過程
08. 児童・家庭にかかわる法制度 (1) 児童・家庭福祉の法体系
09. 児童・家庭にかかわる法制度 (2) 児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度 (3) 児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度 (4) DV防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度 (5) 母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度 (6) 次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度 (7) 児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度 (8) 児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 松原康雄、オ村純、芝野松次郎 編著 | ミネルウ・ア書房 社会福祉士養成テキストブック ISBN 978-4-623-07378-8

参考書

児童福祉論B

CGSW-D-200/CGSW-W-2

担当教員：栗原 直樹

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230764

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。| ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。| ・児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。|

(2) 内容

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス | ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 | ・児童・家庭への相談活動の実際

受講者に対する要望

【注意事項】
「児童福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

学びのキーワード

- ・子ども
- ・家族
- ・虐待
- ・福祉
- ・子育て支援

授業計画

01. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (1) 母子保健
02. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (2) 障害・難病のある児童と家族への支援
03. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (3) 児童の社会的養護サービス
04. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (4) 児童虐待対策
05. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (5) 保育
06. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (6) ひとり親家庭の福祉
07. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (7) 子育て支援
08. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (8) 児童健全育成
09. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (9) 非行・情緒障害児への支援
10. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (10) 女性福祉
11. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (1) 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (2) 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
13. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (3) 児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
14. 児童・家庭への相談活動の実際 (1) 児童相談所による支援
15. 児童・家庭への相談活動の実際 (2) 多職種連携、ネットワーキング

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 小レポート | 30% |
| (2) テスト | 70% |

教科書

「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 松原康雄、才村純、芝野松次郎 編著 | ミネルヴァ 文芸春秋 社会福祉士養成テキストブック ISBN 978-4-623-07378-8

参考書

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230880

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
 |・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。|・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。|・高齢者の福祉ニーズについて理解する。|・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。

(2) 内容

・発達と老化の理解 | ・高齢者の生活実態 | ・認知症の理解 | ・高齢者の福祉ニーズ | ・少子高齢社会と高齢者

受講者に対する要望

本講義では、高齢者への理解を深めることが主要な目的となります。高齢者にまつわる具体的な事例や統計データ等を用いて、より実践的な学びにつなげるようにしたいと思います。
国家試験受験資格に必要な科目ですので、知識の習得はもちろん重要なことですが、その知識を自分の身近な状況に引き付けて考えることでより深い学びになると思います。是非、社会や地域との接点を意識しながら、講義に参加してください。

学びのキーワード

- ・発達と老化
- ・生活実態
- ・認知症
- ・ニーズ
- ・少子高齢社会

授業計画

01. 発達と老化の理解 (1) 人間の成長と発達の基礎的理解
02. 発達と老化の理解 (2) 老年期の発達と成熟
03. 発達と老化の理解 (3) 老化に伴うことからの変化と日常生活
04. 発達と老化の理解 (4) 高齢者と健康
05. 高齢者の生活実態 (1) 高齢者を取り巻く社会環境
06. 高齢者の生活実態 (2) 高齢者の世帯状況・経済状況
07. 高齢者の生活実態 (3) 高齢者の総合的理解
08. 認知症の理解 (1) 認知症を取り巻く状況
09. 認知症の理解 (2) 認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解 (3) 認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ (1) 要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ (2) 認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ (3) 高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ (4) 高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者

準備学習(予習)

次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。

準備学習(復習)

講義で配布した資料を読み返したり、関連する書籍を読んだりして、理解を深めてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 課題 | 20% |

高齢者をとりまく様々な実態について、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版』(中央法規出版)【978-4805853016】

参考書

担当教員：長谷部 雅美、古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W230988

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。|・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。

(2) 内容

・高齢者保健福祉の発展と制度体系|・介護保険法の概要|・高齢者支援の関係法規|・高齢者を支援する組織と役割|・専門職の役割と実際|・高齢者支援の方法と実際

受講者に対する要望

本講義では、高齢者を支援する法制度や仕組みを学ぶことが主要な目的です。高齢者の生活実態と適宜関連させながら、講義を展開していきます。
国家試験受験資格に必要な科目ですので、知識の習得はもちろん重要なことですが、その知識を自分の身近な状況に引き付けて考えることでより深い学びになると思います。是非、社会や地域との接点を意識しながら、講義に参加してください。

学びのキーワード

- ・制度体系
- ・介護保険法
- ・関係法規
- ・関係組織
- ・専門職の役割

授業計画

01. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (1) 高齢者保健福祉の発展 (担当：古谷野)
02. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (2) 高齢者保健福祉の制度体系 (担当：古谷野)
03. 介護保険法の概要 (1) 介護保険制度の目的・保険財政 (担当：古谷野)
04. 介護保険法の概要 (2) 保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス (担当：古谷野)
05. 介護保険法の概要 (3) 介護保険サービスの体系 (担当：古谷野)
06. 介護保険法の概要 (4) 介護概要 (担当：古谷野)
07. 介護保険法の概要 (5) 介護保険制度の最近の動向 (担当：古谷野)
08. 高齢者支援の関係法規 (1) 老人福祉法 (担当：長谷部)
09. 高齢者支援の関係法規 (2) 高齢者の医療の確保に関する法律 (担当：長谷部)
10. 高齢者支援の関係法規 (3) 高齢者虐待防止法 (担当：長谷部)
11. 高齢者支援の関係法規 (4) その他関係法規 (担当：長谷部)
12. 高齢者を支援する組織と役割 (担当：長谷部)
13. 専門職の役割と実際 (担当：長谷部)
14. 高齢者支援の方法と実際 (担当：長谷部)
15. 高齢者への生活支援の今後の問題 (担当：長谷部)

準備学習(予習)

次回の講義内容について、教科書の該当箇所を読んだり、関連する新聞記事等に目を通してください。

準備学習(復習)

講義で配布したレジュメを読み返したり、関連する書籍を読んだりして、理解を深めてください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 80% |
| (2) 課題 | 20% |

高齢者を支援する法制度や仕組みについて、正しい理解が進んでいるかを期末試験で評価します。また、講義への出席状況や参加状況も考慮して総合的に評価します。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (13) 高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版』(中央法規出版)【978-4805853016】

参考書

担当教員：松井 優子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W231004

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目 | 【全】社会福祉士主任任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・ 障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。 | ・ 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。 | ・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。

(2) 内容

・ 障害の基礎的理解 | ・ 障害者福祉の基本理念 | ・ 生活機能障害の理解 | ・ 障害者の生活理解 | ・ 障害者の実態

受講者に対する要望

・ 私語を禁止します。

学びのキーワード

・ 障害
・ 人権
・ ノーマライゼーション
・ 脱施設化

授業計画

01. 障害の基礎的理解 (1) 国際的な障害の概念 ①ICIDHからICFへ
02. 障害の基礎的理解 (2) 国際的な障害の概念 ②ICFによる障害のとらえ方
03. 障害者福祉の基本理念 (1) 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
04. 障害者福祉の基本理念 (2) ノーマライゼーションとリハビリテーション
05. 障害者福祉の基本理念 (3) 自立と自立生活
06. 生活機能障害の理解 (1) 身体障害の種類と原因、特性
07. 生活機能障害の理解 (2) 知的障害の原因と特性
08. 生活機能障害の理解 (3) 精神障害の種類と原因、特性
09. 生活機能障害の理解 (4) 発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解 (5) 障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解 (6) 障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解 (1) 障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解 (2) 事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解 (3) 事例からみる地域生活の実態と福祉ニー
15. 障害者の実態

準備学習(予習)

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
 2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (14) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第5版)』(中央法規出版) [978-4806851074]

参考書

担当教員：松井 優子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1W231112

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）・必修科目 | 【全】社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・障害者福祉制度の発展過程について理解する。
|・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。|
【注意事項】|「障害者福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

(2) 内容

・障害者福祉制度の発展過程 | ・障害者にかかわる法体系 | ・障害者自立支援法 | ・組織及び団体の役割と実際 | ・障害者に関連する法律

受講者に対する要望

私語を禁止します。

学びのキーワード

- ・障害
- ・人権
- ・ノーマライゼーション
- ・脱施設化

授業計画

01. 障害者福祉制度の発展過程
02. 障害者にかかわる法体系 (1) 障害者基本法の概要
03. 障害者にかかわる法体系 (2) 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
04. 障害者総合支援法 (1) 障害者総合支援法の目的
05. 障害者総合支援法 (2) 支給決定の仕組みとプロセス
06. 障害者総合支援法 (3) 自立支援給付・地域生活支援事業等の体
07. 障害者総合支援法 (4) 障害福祉計画、苦情解決・審査請求
08. 障害者総合支援法 (5) 障害者自立支援制度の動向
09. 組織及び団体の役割と実際
10. 支援サービス提供の実際 (1) サービス提供の実際と専門職の役
11. 支援サービス提供の実際 (2) 障害者福祉分野の多職種連携、ネットワークングの実際
12. 支援サービス提供の実際 (3) 相談支援事業所の役割と活動の实
13. 障害者に関連する法律 (1) 発達障害者支援法他
14. 障害者に関連する法律 (2) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
15. 共生社会をめざして

準備学習(予習)

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 (14) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第5版)』(中央法規出版) [978-4806851074]

参考書

担当教員： 牛津 信忠

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択： 選択科目 単位： 4 授業コード： 1W231328

学部教育の関連目

【W】 対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】 高等学校教諭一種（福祉） 選択科目 | 【全】 社会福祉主事任用資格：選択必修 | 【W】 社会福祉士国家試験受験資格：必修科目 | 【W】 精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。|・地域福祉の主体と対象について理解する。|・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。|・地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握方法、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。|・地域福祉計画と地域福祉活動計画について理解する。|（講義の順番は理解度に応じて変更されることがある）

(2) 内容

・現代社会における地域福祉の実際 | ・地域福祉の基本的考え方 | ・地域福祉の主体と対象 | ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 | ・地域福祉の推進方法 | ・地域福祉計画と地域福祉活動計画

受講者に対する要望

生活の場としての地域社会を自らの体験を通じて具体的に見つめ、そこで課題とされ、或いはされてきた問題状況を念頭に学んでいってほしい。単なる知識の増大を図るのみではなく実践課題をつかみ、その解決への一市民としての自覚的取り組みを忘却することなく、学びを進めること。

学びのキーワード

- ・ ノーマライゼーション
- ・ 主体的共同
- ・ ネットワーキング
- ・ 地域福祉ニーズ
- ・ トータルケアシステム

授業計画

01. 現代社会における地域福祉の実際 (1) 社会の変化と地域福祉の課題
02. 現代社会における地域福祉の実際 (2) 地域における多様な福祉課題への対応
03. 地域福祉の基本的考え方 (1) 地域福祉理論の発展と広がり
04. 地域福祉の基本的考え方 (2) 地域福祉の理念と概念
05. 地域福祉の主体と対象 (1) 地域福祉の主体
06. 地域福祉の主体と対象 (2) 地域福祉の対象
07. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (1) 行政組織と民間組織の役割
08. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (2) 専門職や地域住民の役割
09. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (3) ボランティア活動の考え方と推進方策
10. 地域福祉の推進方法 (1) 地域福祉の方法論
11. 地域福祉の推進方法 (2) 地域における福祉ニーズの把握方法① 地域福祉におけるアウトリーチの意義
12. 地域福祉の推進方法 (3) 地域における福祉ニーズの把握方法② 質的な福祉ニーズの把握方法と実際
13. 地域福祉の推進方法 (4) 地域における福祉ニーズの把握方法③ 量的な福祉ニーズの把握方法と実際
14. 地域福祉の推進方法 (5) ネットワーキング① ネットワーキングの意義と方法
15. 地域福祉の推進方法 (6) ネットワーキング② ネットワーキングの実際
16. 地域福祉の推進方法 (7) 社会資源の活用・調整・開発① 社会資源の概要
17. 地域福祉の推進方法 (8) 社会資源の活用・調整・開発② 社会資源の活用とコーディネート
18. 地域福祉の推進方法 (9) 社会資源の活用・調整・開発③ 福祉サービスの開発
19. 地域福祉の推進方法 (10) 社会資源の活用・調整・開発④ まちづくりとソーシャルアクション
20. 地域福祉の推進方法 (11) 地域トータルケアシステムの構築方法と実際① 地域トータルケアシステムの必要性と考え方
21. 地域福祉の推進方法 (12) 地域トータルケアシステムの構築方法と実際② 地域トータルケアシステムの展開方法
22. 地域福祉の推進方法 (13) 地域トータルケアシステムの構築方法と実際③ 地域トータルケアシステムの事例
23. 地域福祉の推進方法 (14) 地域における福祉サービスの評価方法と実際① 福祉サービスの評価の意義とそのシステム
24. 地域福祉の推進方法 (15) 地域における福祉サービスの評価方法と実際② 福祉サービスの評価の方法と実際
25. 地域福祉の推進方法 (16) 地域における福祉サービスの評価方法と実際③ 福祉サービスのプログラム評価の展開
26. 地域福祉の推進方法 (17) 地域福祉の財源
27. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (1) 地域福祉計画の法制化と策定の意義
28. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (2) 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の策定
29. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (3) 地域福祉活動計画と地区福祉計画の意義と内容
30. これからの地域福祉のあり方

準備学習(予習)

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、認識を深めておくこと。毎回配布するレジュメの未終了箇所を熟読し問題意識を持って次の授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業時に配布のレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項を課題視して思考を深めていくこと。3回に一度行う終了箇所に関する小テストの準備として復習をしっかり行っていくこと。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------|
| (1) 平常点 | 20% | |
| (2) 授業内小テスト | 20% | 授業の区切りにあたるときに20分程で行う復習テスト。 |
| (3) 授業受講態度 | 10% | 座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。 |
| (4) 授業中の質問 | 10% | 授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。 |
| (5) 期末テスト成績 | 40% | 授業全体を対象とし、知識のみならず、思考力を重視する。 |

授業において配布されたプリントを讀み前もって授業の予習しておくこと。授業終了後、ノート、プリントを参照し、復習を行うことを求める。こうした予復習が、最後に行われる学期末筆記試験、その他小テストの高い評価につながる。

教科書

参考書

スライドショー（パワーポイントによる）を主とするが、関連のプリントをも配布する。

社会福祉援助技術現場実習指導I

CGSW-W-300

担当教員：長谷部 雅美

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目

単位：1

授業コード：1W310600

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：選択必修科目 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

(1) 現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。|(2) これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。|

(2) 内容

社会福祉援助技術現場実習指導Iでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。|

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

学びのキーワード

- ・ 価値
- ・ 知識
- ・ 技術
- ・ 守秘義務
- ・ 実習記録

授業計画

01. 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義 社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の留意点
02. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(1)個人のプライバシーの保護の必要性(個人情報保護法の理解を含む)
03. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(2)社会福祉士と守秘義務
04. 現場体験学習及び見学実習 現場体験学習及び見学実習(実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む)の留意点
05. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(1)実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識
06. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(2)基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解
07. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(3)援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解
08. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(4)コミュニティへの働きかけの理解
09. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(1)ケアワークの理解(1)(視聴覚学習)
10. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(2)ケアワークの理解(2)(演習)
11. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(3)感染症の理解とその対策
12. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(1)記録の意義と目的
13. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(2)実習記録ノートの意義と目的
14. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(3)記録技法の修得
15. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(4)実践評価記録の方法

準備学習(予習)

自身が配属された実習機関・施設の内容を十分に学習しておくこと。

準備学習(復習)

授業内で行ったことは必ず振り返り、身に付けること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|------------------|
| (1) 平常点 | 50% | 参加状況やグループワークの状況等 |
| (2) レポート課題 | 50% | |

教科書

参考書

担当教員：長谷部 雅美

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：6 授業コード：1W310808

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：選択必修科目 | 【W】社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。 | ②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。

(2) 内容

実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。 | 1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。 |

受講者に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

学びのキーワード

- ・円滑な援助関係の形成
- ・ニーズ把握と支援計画
- ・アドボカシーとエンパワメント
- ・チームアプローチ
- ・専門職倫理

授業計画

01. 利用者やその関係者、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
02. 利用者理解とそのニーズの把握
03. 利用者やその関係者との援助関係の形成
04. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
05. チームアプローチの実際
06. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
07. 経営やサービスの管理運営の実際
08. 配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解
09. 具体的な社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
10. 社会福祉士と他職種との連携の実際
11. 利用者の支援計画の作成
12. 地域課題の発見と理解
13. 制度の実際の課題の理解
14. ソーシャルアクションの実際
15. まとめ

準備学習(予習)

毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭に置いて実習を行うこと。

準備学習(復習)

その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。

評価方法

(1) 実習内容 100%

教科書

参考書

担当教員：森島 健

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W400100

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

本講義では、地域リハビリテーションの概要を学ぶことにより、高齢者や障がい者の気持ちを理解し、彼らへの共感的理解への第一歩になると考えている。今後、卒業し社会に出ることにより、様々な人々と接する機会が増えると思うが、そこに対応できる人間形成にもなると考えている。|教育目標は、「地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する」ことである。|行動目標は、以下の5点である。|①地域リハビリテーションの理念について説明できる。|②地域リハビリテーションにおける介護保険の役割を概説できる。|③地域リハビリテーションにおいて対象者の心理面の重要性を説明できる。|④障害体験を実施し、環境面との重要性を説明できる。|⑤高齢者や障害者の心情を共感的に理解することができる。

(2) 内容

この授業では、主に地域リハビリテーションにおける援助の方法論を学ぶ。まず地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する。またその活動の中で、リハビリテーション専門職が行う実践活動について視覚教材などを通して理解する。また、介護保険の役割や地域包括ケアシステムについても概説する。後半は実習を通して、高齢者や障がい者の身体面・心理面について学習する。特に障がい体験を実施する事が、介護される側の心理面を共感するための一助となり、身体状況と環境面との関係を考えていくための、手助けになると考えている。教授方法は講義形式だけでなく、実習やワークショップを用いる。

受講者に対する要望

実習という授業形態からグループワークや実習の時間が多くなります。自ら学ぶという強い気持ちと学生諸君の積極的な取り組みに期待します。

学びのキーワード

- ・ 地域
- ・ リハビリテーション
- ・ 施設
- ・ 在宅
- ・ 障がい者

授業計画

01. リハビリテーションとは何かを考える
02. 障害とは何かを考える
03. 地域・コミュニティとは何かを考える
04. 地域リハビリテーションの理念・目的・役割について学ぶ
05. 地域リハビリテーションの歴史的背景について学ぶ
06. 教授方法について、ワークショップなどの考え方について学ぶ
07. 地域の特性について（在宅と施設の違いを考える）
08. 高齢者や障がい者の生活を理解する
09. 社会福祉資源について考える
10. ケアマネジメントの必要性について学ぶ
11. 介護保険とリハビリテーションについて学ぶ
12. 地域包括ケアシステムについて学ぶ
13. 福祉用具・住宅改修について学ぶ
14. 北欧における地域リハビリテーションについて
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われる内容について今まで学習した資料を集めておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布した資料を読み直し、内容を理解し説明できるようにすること。

評価方法

(1) 試験 100%

教科書

参考書

教科書は使用しません。必要な資料は授業時に配布します。

担当教員：岩田 健

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1W400208

学部教育の関連目

【W】対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。| 2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。| 3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。

(2) 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

受講者に対する要望

講義終了後、夏休みに施設実習が入っていますから、15回の講義・演習は絶対休まないでほしい。

学びのキーワード

- ・自己開示
- ・共感と受容
- ・自立支援
- ・個別性（一人ひとりの違いを尊重する）と公平性
- ・専門職

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーション（共感と受容・自己開示）
03. 価値交流学习
04. 事例を通して考える
05. "
06. "
07. "
08. "
09. 利用者理解
10. "
11. スーパービジョン
12. "
13. "
14. 実習準備（1）
15. 実習準備（2）

準備学習（予習）

グループで話し合う資料に目を通し、次回の授業までに自分の考えをまとめておく。

準備学習（復習）

受講した内容と感想をA4のノートにまとめておく。
参考文献を何回か提示しますから、文献を熟読し感想をノートにまとめる。

評価方法

- | | |
|---------------|----------|
| (1) レポート・実習記録 | 80% |
| (2) 出席・授業態度 | 20% 宿題含む |

教科書

参考書

教師論（中高教職）

TEAT-0-100/TEAT-D-1

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程/ 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T100101

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。| 2) 地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。| 3) 戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。| 4) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。|

(2) 内容

教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。| 教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。| その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。|

受講者に対する要望

「教えられる」側から「教える」側へ立場が変わったときに、見えてくるものはいろいろあるはずである。教師についての今までの考え方を見直して、自分なりの教師観をしっかりとつくってほしい。

学びのキーワード

- ・ 職場としての学校
- ・ 教員の特殊性
- ・ 教員の社会的役割

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教師に求められる資質・能力とは（1）－現状と課題
03. 教師に求められる資質・能力とは（2）－生徒の求める教師像
04. 教師に求められる資質・能力とは（3）－教師としての自覚
05. 教師の仕事（1）教師の専門性－教育に関する知識と教科に関する知識
06. 教師の仕事（2）教師の力量向上－研修の義務と機会
07. 教師の地位（1）教師をめぐる法令－教育基本法・地方公務員法など
08. 教師の地位（2）現代社会と教師
09. 教師の環境（1）組織の一員としての教師－教師の多様な職務の理解
10. 教師の環境（2）教育改革と教師－近年の教育関連法の改正と教員
11. 教師の環境（3）最近の環境変化の動向－地域社会や保護者との協力など
12. 教師養成（1）その歴史－戦前期および戦後改革
13. 教師養成（2）－教員養成を巡る近年の動向と教職選択の自覚
14. 教育計画とは何か
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、次の授業のテーマを示します。テーマについてあらかじめ調べてきてもらいます。

準備学習(復習)

授業で取り上げたテーマに関連して作成してもらったレポートの準備を考えてください。

評価方法

- | | |
|------------|-----------------------------|
| (1) 期末テスト | 30% |
| (2) 授業への参加 | 40% 授業中の討論への参加など |
| (3) レポート | 30% 教師に関するレポートを一本提出してもらいます。 |

教科書

参考書

教育原理（中高教職）

TEAT-0-100/TEAT-D-1

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程/ 必修・選択：教職科目/資格課程 単位：2 授業コード：5T200109

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 教育が生物としてのヒトを、人格をもった人に育てる営みであることを理解する（教育の本質および思想）。| 2) 学校の歴史についての理解を深め、現代の学校の特徴や課題について考察する（学校の歴史と見方）。| 3) 理性をもった存在としての人間の子ども達の心身の成長の在り方についての理解を深める（人間の成長）。| 4) 教育課程と教科・科目の構造および学習評価の基本知識を体得し、学校教育の性格を理解する（教育課程）。|

(2) 内容

本科目は教職の入門科目であり、教育についての基礎的な知識をひと通り取り扱う。指定の教科書と各回配布のプリント資料などを利用しながら、教育心理、文化人類学、教育制度、教育法規、教育社会学、比較教育、教育史など、広範にわたるテーマを取上げていく。自分が興味をもったテーマについて関連図書などを参考にしてレポートも作成する。| 教育を「受ける」立場であった学生が、教育を「ほどこす」立場に立つためには、教育に対する考え方を根本から洗いなおすことが必要となる。これらの学習を通じて、社会にとって不可欠な営みとしての教育を捉え、教育に対して、より豊かな視野を獲得を目指す。

受講者に対する要望

教職課程の入り口に位置する科目です。ごく基本的な教育法規も掲載されている教科書を使います。受ける立場から教える立場への意識転換を図る必要があります。

学びのキーワード

- ・教育
- ・成長
- ・学校
- ・学力

授業計画

01. ガイダンス
02. 教育とは何か（1）ヒト固有の営みとして
03. 教育とは何か（2）教育と教育もどき
04. 学校とは何か（1）学校の歴史（古代から中世）
05. 学校とは何か（2）学校の歴史（近代）
06. 学校とは何か（3）日本における学校
07. ころとからだを育てる①ころ
08. ころとからだを育てる②からだ
09. よりよく教え、学ばせる（1）教えること
10. よりよく教え、学ばせる（2）学ばせること
11. 教育評価とはなにか
12. 授業の可能性
13. 学校の可能性
14. よりよい教育を求めて
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書を指定します。各回、次の授業で扱う範囲を指定しますので、十分に予習して授業に臨んでください。

準備学習(復習)

各回、前回の授業内容の理解を確認するために授業の初めに小テストを行います。各回の授業で扱った教科書の内容、配布された資料などをもとに確実に復習しておくこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| (1) 小テスト | 30% | 教科書の指定した範囲の予習・復習を前提とする |
| (2) レポート2本 | 30% | 授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成 |
| (3) 期末テスト | 40% | |

ほぼ毎回の授業で行う小テストでしっかりと知識を定着し、2回のレポートで教育の原理について思考を巡らせる学習をすれば、期末テストも十分な評価が得られるはず。

教科書

田嶋 一、中野 新之祐、福田 須美子、狩野 浩二『やさしい教育原理 新版補訂版』（有斐閣）【978-4641124264】

参考書

担当教員：利根川 明子

学期：春学期 科目：教職課程/ 必修・選択：教職科目/資格課程 単位：4 授業コード：5T200216

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【全】社会教育主事任用資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。
|・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。
|・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。|・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。

(2) 内容

この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。

受講者に対する要望

教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
 また、積極的な質問や感想をお待ちしています。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・発達心理学
- ・パーソナリティ心理学
- ・臨床心理学

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど
02. 発達の理論
03. 各時期の発達の様相①
04. 各時期の発達の様相②
05. 学習の理論①
06. 学習の理論②
07. 教授と学習①
08. 教授と学習②
09. 動機づけの理論①
10. 動機づけの理論②
11. 知能と学力①
12. 知能と学力②
13. 教育の評価①
14. 教育の評価②
15. 授業の実践と研究①
16. 授業の実践と研究②
17. 学級集団①
18. 学級集団②
19. パーソナリティの問題と生徒理解①
20. パーソナリティの問題と生徒理解②
21. 問題行動と教育相談①
22. 問題行動と教育相談②
23. 問題行動と教育相談③
24. 発達の問題①
25. 発達の問題②
26. 発達の問題③
27. 教育実践の記述
28. 教育実践と教育心理学
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 授業内課題 | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』(有斐閣アルマ) 【978-4641220591】

参考書

担当教員：御手洗 明佳

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T201348

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択必修科目【教】中学校教諭一種（保健）：選択必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：選択必修科目【教】高等学校教諭一種（保健）：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

この授業では、社会学的な「ものの見方」を身につけることにより、教員なるための素養を身につけます。そのため、授業の学修を通じて、以下のことができるようになることを目標とします。
 | 1) 客観的なデータ・情報の比較や分析から、教育に関連するさまざまな事象について多面的な考察をおこない、深い理解を示すことができる。
 | 2) 自分が興味をもった教育事象について、客観的なデータに基づく意見を表明することができる。|

(2) 内容

いじめ、不登校、子どもの貧困、家庭のしつけや就学前教育…、私たちの周りには解決が求められる教育問題が溢れています。こうした問題を解決するにはどうしたら良いのでしょうか。教育社会学では、「良い教育とは何か」という規範を学ぶのではなく、「実際の教育とはどのようなのか」という実態の解明を目指します。教育事象そのものを客観的に把握することにより、問題の本質に迫ろうというわけです。この授業では、教育事象を捉える視点を養うことを目的とし、それを通じて私たちが当たり前と思っている教育事象について、いま一度立ち止まり、クリティカル《批判的》に考え直すことを促します。

受講者に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 家族・家庭
- ・ 学歴
- ・ 少年非行
- ・ 貧困

授業計画

01. オリエンテーション（教育社会学とはどのような学問か）
02. 教育の社会的機能（1）社会化概念とその機能
03. 教育の社会的機能（2）配分と正当化
04. 学歴と階層移動（1）努力の報われる社会か
05. 学歴と階層移動（2）エリート教育
06. 逸脱行為（1）逸脱の理論
07. 逸脱行為（2）統計の見方（少年非行を中心に）
08. 家族と教育（1）家族とはなにか
09. 家族と教育（2）戦前から戦後へ
10. 家族と教育（3）教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの生活
12. 貧困と子どもの教育
13. 教育問題を考える（1）教育環境格差
14. 教育問題を考える（2）インクルーシブ教育システム
15. 第1回～第14回講義のまとめ

準備学習(予習)

各テーマで2, 3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備学習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------------|
| (1) 通常の学習活動 | 40% | 出席、授業中の作業など |
| (2) レポート | 30% | 授業中に説明する1本のレポート |
| (3) 期末テスト | 30% | |

教科書

参考書

学校と教育の歴史（中高教職）

TEAT-0-300/TEAT-D-3

担当教員：小林 千枝子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T201471

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：選択科目【教】中学校教諭一種（保健）：選択科目【教】高等学校教諭一種（共通）：選択科目
【教】高等学校教諭一種（保健）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

現代の学校や教育のあり方が、人々の生活の仕方を含む社会の動きを踏まえて変化してきたことが具体的にわかり、現代の学校と教育を歴史的に考察するその基礎を習得することが本講義の目標である。それには、自分の受けてきた教育や自分が知っている学校等を客観的にとらえることも伴う。学校と教育の実際を、ただただ、そういうものとして受けとめるのではなく、なぜこうなのか、どうなるのがよいのかを、自ら考えるその一つの手がかりとして歴史に学ぶことができ、その手がかりを習得できるところに、本講義の意義がある。|||

(2) 内容

学校と教育の歴史を、日本がその影響を多分に受けた欧米社会の動向に触れながらも、日本社会のそれを中心に、近世から戦後までを概観する。編年史的歴史ではなく、日本の学校と教育の特色をよく表すことがらを積極的に取り上げることにより、学校教育が社会のあり方と深くかかわりながら変化してきたことを、受講生が具体的に理解できるようにしたい。その詳細は授業計画の欄に示した。| 学生からの質問や問題提起も講義のなかに取り入れて、学生間で議論する機会も設けたい。| 教科書は指定しないが、折に触れ、プリント教材を配布する。

受講者に対する要望

折に触れ、学生に親しみやすいような文献を紹介するので、読むようにしてほしい。「戦後70年」ということで歴史に言及する新聞記事も少なくない。学校と教育の歴史は、社会全体の人々の子育てや働き方を含む様々な生活の歴史と密接にかかわる。そうした広い視野をもって歴史に目を向け、現代教育の流れがどのような歴史のなかでつくられてきているのかを考えるようにしてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学校教育と社会のかかわり
- ・ 教育を受ける権利
- ・ 生活と教育
- ・ 学校と社会
- ・ 教育と形成、教化、生活訓練、学習

授業計画

01. ガイダンス—学校と教育の歴史を学ぶということ— 教育と、その疑似概念である形成、教化、生活訓練、学習等との違いを考える。|
02. I 伝統社会の子育てと人間形成| (1) 人口構造の変動と共同体社会の子育て慣行
03. (2) 子供組と若者組・娘組
04. II 日本における「近代学校」のはじまり| (1) 「学制」発布と明治元勳の教育思想
05. (2) 教育勅語体制の成立と展開
06. III 自由教育運動と権利としての教育という発想の成立| (1) 新学校における「個性」尊重とその特質
07. (2) 日本教員組合啓明会の成立と展開
08. (3) 自由大学運動と農民自治会運動
09. IV 国民学校令と戦時下の子どもたち| (1) 総力戦体制と国民学校令
10. (2) 教育科学研究会におけるカリキュラム改造運動
11. (3) 戦時下における中等学校生徒たちの勤労動員の実態|
12. V 戦後日本の教育改革とその後| (1) 教育基本法の成立と六・三・三・四制の成立と新制中学校
13. (2) 生活への着目と戦後生活綴方
14. (3) 生活綴方と教育のかかわりを考える
15. 総まとめ

準備学習(予習)

新聞の教育や歴史に関係する記事に目を向けるようにしてほしい。そうすることで、現代教育の特色がどのような歴史過程を踏まえているのかを考えるきっかけをつかんでほしい。

準備学習(復習)

講義で学んだことを振り返り、報道等で知る現代教育や自分の受けてきた教育が歴史を踏まえてきていることを考える習慣を身につけてほしい。質問は講義のなかで随時受けつける。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 学期末試験 | 80% |
| (2) 中間レポートなど | 20% |

学期末試験は記述式とする。自分自身で知識を整理し、考えることが大切である。

教科書

とくに指定しない。

参考書

小林千枝子『教育と自治の心性史—農村社会における教育・文化運動の研究—』藤原書店、1997年。| ISBN4-89434-080-1 C10371
『中内敬夫著作集』藤原書店、2000年。| ISBN4-89434-204-9 C0321|橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之
祐編『青年の社会的自立と教育—高度成長期日本における地域・学校・家族—』大月書店、2011年。| ISBN978-4-272-41213-6 C00371
小林千枝子『戦後日本の地域と教育—京都北嵯峨における教育実践の社会史—』学苑出版社、2014年。| ISBN978-4-284-10415-9
C3037|小林千枝子・平岡さつき・中内敬夫『到達度評価—子どもの思考を深める教育方法の開拓へ—』昭和堂、2016年。| ISBN978-4-8122-1528-9 C3037

担当教員：小川 洋

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T30001

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 教育課程の基本的な性格やその構造についての理解を深める。| 2) 「学習指導要領」の成立と変遷についての基本的な知識を得る。| 3) 学力観と学習指導要領の関係についての理解を深める。| 4) 学習の個別化・個性化の流れを、学習指導法の変化について考えを深める。| 5) 授業の展開と学習環境の在り方について実践的な能力を養成する。| 6) 日本の教育課程と諸外国の教育課程との比較を通して、今後の課題について考察する。

(2) 内容

学習指導要領などの教育課程に関する資料を参考として、授業実践の基盤となる教育課程についての理解を深め、具体的・実践的な学習指導能力の養成に努める。学習指導要領の総則を中心として、教育課程についての考え方がどのように変化してきたか理解を深め、現代の教育課程についての基本的な性格について考えを深める。さらに教育課程を授業実践に具体化するうえで、授業法にどのような工夫が求められているのかなど、多様な授業実践の事例にも触れる機会を提供し、実践的な能力の養成に努める。またいわゆるPISA型学力などに示される学力の考え方に関する国際的な流れについての理解をとおして、教育課程の今後の課題について考察する。

受講者に対する要望

学習指導要領はほぼ10年毎に書き換えられます。その度に、テーマが変わるように、教育の目標やあるべき授業法なども時代によって変わっていきます。自分の学習経験にこだわることなく、柔軟な考え方ができるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 中学校教育課程
- ・ 学習指導要領
- ・ 確かな学力
- ・ 生きる力

授業計画

01. 履修上の注意などのガイダンス及び教育課程に関する基本知識
02. 教育課程とは何か 教育と社会・国家との関係
03. 明治期から第二次世界大戦までの学校教育
04. 学習指導要領の位置づけおよびカリキュラム論
05. アメリカの影響下におけるカリキュラム見直しと学習指導要領
06. 学習指導要領の歴史的展開 (1) 「試案」としての始まり
07. 学習指導要領の歴史的展開 (2) 昭和33年版学習指導要領の特徴
08. 学習指導要領の歴史的展開 (3) 1977年版、1989年版、1998年版 ゆとり路線
09. 1998年版学習指導要領をめぐる諸問題 「ゆとり」の見直し
10. 21世紀の学習指導要領 平成10年版学習指導要領 新学力観をめぐって
11. 学習指導要領の見直しと「確かな学力」
12. 2017（平成28）年度改訂の学習指導要領の性格
13. 外国の学習指導要領（カナダ）① 複数の公用語と州自治
14. 外国の学習指導要領（カナダ）② ブリティッシュ・コロンビア州の教育制度と指導要領
15. 講義の総括と今後の教職課程への取組み

準備学習(予習)

現行の学習指導要領を基本テキストとし、以前の指導要領を必要に応じて部分的に印刷・配布します。事前に授業範囲の資料をよく読んでくること。

準備学習(復習)

学習指導要領の変更や国際学力調査の結果などによって、学習内容や指導法について、さまざまな議論が行われてきた経緯を確実に理解するため、ひとつの単元が終了することに論点をしっかりと整理すること。

評価方法

- | | | |
|---------------|-----|-------------------------------|
| (1) 小テスト | 20% | |
| (2) レポート1本 | 30% | 授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成 |
| (3) 期末テスト | 30% | |
| (4) カリキュラムの作成 | 20% | |

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告知 ）』（東山書房）

参考書

教育方法論（中高教職）

TEAT-0-200/TEAT-D-2

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T300103

学部教育の関連目

【教】教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 学習と学力をめぐる今日の問題について理解できる。| 2) オープンスペースなど、新しい学習空間の考え方についての知識を身に付け、自由な発想で授業を組み立てる力を養う。| 3) 学習指導に効果的な独自の教材づくりを身近なところから見つけ出し、実際に授業で利用できる形の教材を開発する経験をする。| 4) 限られたスペース・時間で、生徒にどの程度の情報を伝えられるか、学生同士のグループ学習で経験し、教授法に必要な身体感覚を育てる。| 5) 生徒の学習評価に関する基本的な考え方を確認した上で、目的に適したテスト問題の在り方などについて考えさせ、実際に問題の作成を経験する。|

(2) 内容

この授業では、まず学習と学力をめぐる現状と問題点、また学校という場の特徴について、講義形式の授業を通して学ぶ。その後は、学習指導において必要となる「伝える」スキルや「理解させる」スキルを学習する。受講生には、情報機器を利用した資料の集め方やプレゼンテーション機器の利用方法などについても積極的に取り組んでもらう。その後、生徒を評価および教育計画について講義を行う。これらを通して得た知識および技能を、教育活動の向上に役立たせられることを目指していく。

受講者に対する要望

授業方法の実践的な学習を中心に取り組んでもらいます。提出課題も多くなります。授業出席はもちろんのこと授業参加が前提です。

学びのキーワード

- ・ 授業実践
- ・ 授業内容
- ・ 深い理解

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習をめぐる現状と問題点
03. 学力をめぐる現状と問題点
04. 学校という場（1）オープンスペースの考え方と利用法
05. 学校という場（2）教科教室制の環境と授業法
06. 学校という場（3）新しい学習環境を考える
07. 魅力的な教材を作る（1）さまざまな形式の教材
08. 魅力的な教材を作る（2）新しい情報(NIE など)を利用した教材
09. 新しい技術ーデジタル機器の利用を前提とした教材
10. 新しい技術の利用ーデジタル機器の利用法
11. 生徒を評価する（1）テストとは何か
12. 生徒を評価する（2）倫理的配慮
13. 教育計画とは（1）年間計画を考える
14. 教育計画とは（2）単元ごとの計画を考える
15. まとめ

準備学習(予習)

全体で5つ程度の課題を提出してもらうことになりま
す。それぞれの課題については授業で指示された内容に
したがって予習し、準備し、期限までに提出すること。

準備学習(復習)

授業中に出された課題は復習のなかで完成することが必
要です。

評価方法

- (1) 授業への参加状況と課題作成 40%
- (2) 課題レポートの内容 60%

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領（平成20年3月告知 平成22年11月一部改正）』（東山書房）【978-4827815405】

参考書

特別活動の理論と方法（中高教職）

TEAT-D-300

担当教員：中沢 辰夫

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T300229

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) 現代の日本の教育の課題と特別活動の歴史を理解できる。| 2) 教育課程における特別活動の位置づけとその目標及び内容を理解できる。| 3) 特別活動の指導計画を立て授業展開ができる。| 4) 生徒会活動や学校行事等の指導の進め方を理解できる。|

(2) 内容

学校の教育課程の三つの領域の一つである「特別活動」について、まず、受講者の体験を振り返り、この科目の持つ児童への指導の意味と重要性を捉える。また、学校の教育課程における特別活動の位置付けを確認し、総合的な学習との違いを明確にしながら、「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」の理論と実際の授業の進め方を、授業での実際の体験も交えて理解する。教育現場での具体的な事例研究を通して、実際に指導計画を立て、学校現場で効果的に実践できる資質や能力、態度を育てる。

受講者に対する要望

自己の教育経験と関連付けて授業に臨むと理解しやすいと思います。

学びのキーワード

- ・学級・ホームルーム活動
- ・生徒会活動
- ・学校行事
- ・人間形成
- ・担任の在り方

授業計画

01. 特別活動の目標と意義
02. 特別活動の変遷
03. 学習指導要領
04. 特別活動の性格と意義
05. 特別活動と他の教育活動との関連
06. 集団形成と人間関係論
07. 指導計画・指導案の作成
08. 学級活動（1）
09. 学級活動（2）
10. 生徒会活動
11. 学校行事（1）
12. 学校行事（2）
13. 特別活動の評価
14. 諸外国の特別活動
15. 講義のまとめ

準備学習（予習）

日本の現代史の知識が必要です。
毎時の予習については授業の中で指示します。

準備学習（復習）

毎時の復習については授業の中で指示します。
受講終了後は他の教職科目で学んだことと関連付けて総復習しましょう。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業・レポート | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編—平成20年9月(平成27年3月付録追加)第9版』(ぎょうせい)【978-4324900055】

参考書

適宜資料を提示する

担当教員：秋池 功

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T300415

学部教育の関連目

【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）|【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) 道徳の本質とその基礎的理論について理解できる。| 2) 道徳教育の変遷について理解できる。| 3) 指導資料をもとに学習指導案を作成することができる。|

(2) 内容

本講義では、まず道徳の本質とその基礎的理論について講義を行う。その後、学校教育の中で道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史の変遷について理解するとともに、道徳教育の意義・目的・内容・方法等について実践事例をもとに考察する。また指導資料を参考、または、開発しそれをもとに学習指導案を作成する。

受講者に対する要望

授業（特にグループ活動場面）への積極的な参加を望みます。

学びのキーワード

- ・道徳教育
- ・学習指導要領
- ・指導法

授業計画

01. シラバスと本講義の意図の説明及び授業に臨む心構え等|道徳と今日の人々の生活や犯罪事件について|
02. 生徒、保護者等が求める道徳の授業と道徳教育
03. 道徳の本質とその基礎理論
04. 道徳教育に携わった学者たちの理論
05. 我が国の道徳教育における歴史の変遷
06. 事例研究（1）諸外国の道徳教育（グループで調べ、発表）
07. 事例研究（2）諸外国の道徳教育（グループで調べ、発表）
08. 道徳教育の目標と内容及び道徳教育実践の試み（教師の指導の在り方）
09. 道徳科の目指すものと、道徳教育を計画的に進める学校教育の諸条件について|全体計画や年間指導計画等 道徳推進教員と道徳主任等 学級づくり、学習作法等
10. 道徳の時間の指導における配慮とその充実
11. 『道徳の時間』の指導（1）望ましい教材（資料）の収集、開発及び活用について
12. 『道徳の時間』の指導（2）学習指導案の作成とその手順（グループ学習）
13. 『道徳の時間』の指導（3）学習指導案の立案（グループ学習）
14. 『道徳の時間』の模擬授業（グループごとの発表）
15. 道徳教育の評価と全体をとおしてのまとめ

準備学習(予習)

教育課程及び教育史関係の科目を受講済みの方は内容を復習しておいてください。またインターネットや文献等を通じて「道徳の時間」の学習指導案を参照しておいてください。

準備学習(復習)

授業で紹介する参考文献を読むことが望ましい。

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期 | 70% |
| (2) 授業態度を重視する | 30% |

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）【978-4536590044】

参考書

社会科公民的分野教育法（中高教職）

SUBP-P-200

担当教員：増田 正博

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302141

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。| <学びの目標> | ○「公民」「公民的資質」における「公民」の概念を理解できる。| ○公民的分野の内容と学習方法を理解できる。| ○公民的分野の学習指導案を作成することができる。|

(2) 内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の公民科も視野に入れながら、中学校における「公民的分野」の内容について考察する。| 本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。| ○戦前の「公民教育」と戦後の社会科教育の関係について理解する。| ○「公民的資質」の概念、公民的分野の内容について理解する。| ○「政治」的単元、「経済」的単元、「国際政治・経済学習、現代社会」的単元について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。|

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。| ○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。| ○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。| ○レポートは必ず提出するようにして欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・政治・経済・社会の動きに興味・関心を持とう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 「生きる力」と戦前の公民教育—戦前の公民教育、戦後の公民科、社会科へ至る経緯について理解する。
03. 戦後の社会科教育の推移と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の内容とその推移を理解する。
04. 公民的分野の目標と学習内容（1）—公民・公民的資質の概念、現在までの公民的分野の内容・目標の推移を理解する。
05. 公民的分野の目標と学習内容（2）—公民的分野の内容とその推移について理解する。
06. 公民的内容の指導計画と指導事例—指導計画の作成方法を理解するとともに、中項目を選択し、指導計画を作成する。
07. 「政治」的単元の扱い—政治的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
08. 「政治」的単元の学習指導案の作成—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、発問計画もたてる。
09. 「経済」的単元の扱い—経済的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
10. 「経済」的単元の学習指導案の作成—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、板書計画もたてる。
11. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の扱い—「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の内容を理解する。
12. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の学習指導案の作成—<演習>学習指導案を作成、発問・板書計画をてる。
13. 公民的分野の授業評価と方法—評価規準について具体的に理解するとともに、評価方法について知る。
14. テスト問題の作成と実践例の紹介—テスト問題の作成の方法を理解するとともに、先進的な実践例について知る。
15. 講義のまとめ—公民的な見方・考え方についてまとめる。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴るよう指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること。

教科書

教科書（中学校）『新編新しい社会 公民（平成28年度）』（東京書籍）【公民929】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編（平成20年9月）』（日本文教出版）【978-453690051】

参考書

担当教員：増田 正博

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302245

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。|<学びの目標>|○「公民的資質」の概念を理解できる。|○地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解できる。|○日本・世界の略地図を描くことができ、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。

(2) 内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の地歴科も視野に入れながら、中学校における「地理的分野」、「歴史的分野」の内容について考察する。|本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。|○戦前の「地理教育」「歴史教育」のねらいを知るとともに、戦後の社会科教育の変遷を理解する。|○社会科の教科構造、地理的分野・歴史的分野の学習内容について理解する。|○「歴史的分野」、「地理的分野」について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。|

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。|○新聞に掲載している教育関連の記事に関心を持って欲しい。|○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。|○レポートは必ず提出して欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・略地図を描くスキルを獲得しよう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 地理・歴史教育の沿革（戦前期）—戦前の地理・歴史教育の内容とそのねらいについて理解する。
03. 戦後の社会科教育の変遷と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の推移とその内容を理解する。
04. 歴史的分野教育法（歴史的分野の目標）—歴史的分野の目標の推移とその内容について理解する。
05. 歴史的分野教育法（歴史的分野の内容）—歴史的分野の内容とその推移について理解する。
06. 歴史的分野教育法（指導計画と指導事例）—<演習>指導計画の方法を知るとともに中項目を選択し、指導計画を作成する。
07. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—学習指導案を作成する方法について理解する。
08. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成する。
09. 地理的分野教育法（地理的分野の目標）—地理的分野の目標の推移とその内容について理解する。
10. 地理的分野教育法（地理的分野の内容）—地理的分野の内容とその推移について理解する。
11. 地理的分野教育法（指導計画と指導事例）—地理的分野の指導計画を知り、学習指導案の書き方を理解する。
12. 地理的分野教育法（学習指導案の作成）—<演習>教材を選択し、学習指導案を作成する。
13. 地理的分野教育法（略地図の作成）—<演習>日本、世界の略地図を作成する。
14. 地理的分野教育法（略地図を用いた板書・テスト問題の作成）—テスト問題の作成の方法、略地図を用いた板書を理解する。
15. 講義のまとめ—地理的・歴史的分野の見方・考え方についてまとめる。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴じるように指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること。

教科書

教科書（中学校）『新編新しい社会 地理（平成28年度）』（東京書籍）【地理725】|教科書（中学校）『新編新しい社会 歴史（平成28年度）』（東京書籍）【歴史729】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編（平成20年9月）』（日本文教出版）【978-4536590051】

参考書

担当教員：増田 正博

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302361

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（社会）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。|<学びの目標>|○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために生徒の住んでいる「地域」に注目することが生徒の興味・関心を喚起できることに気づく。|○フィールドワークの重要性を理解できる。|○地域にこだわった学習指導案を作成することができる。

(2) 内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義表の内容は小・中の社会科・高の「地歴科」「公民科」の関連に注目するとともに、地理・歴史・公民的各分野で「地域」にこだわり、「身近な地域」のフィールドワークを実施する。|○戦前に実践された「社会科」学習の内容を理解する。|○歴史的分野における「郷土」・「人物」・「生活文化」、地理的分野における「身近な地域」、公民的分野における「消費者文化」・「法教育」、等の実践について理解する。|○地理的分野における二万五千分の一の地形図の読図を行う。|○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。|○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。|○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。|○レポートは必ず提出して欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・社会科は道員教科であることを認識しよう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 社会科教育の沿革と教科構造—戦前の「地理・歴史」学習、戦後の社会科教育の推移、社会科の構造を理解する。
03. 現代における社会科教育の役割—「同和教育」を通じて社会科教育の果たす役割を理解する。
04. 中学校社会科の目標と内容—社会科の目標と内容を理解するとともに、「総合的学習の時間」との関連について知る。
05. 小学校社会科・高等学校「地歴科」「公民科」との関連—小・中・高の関連について理解する。
06. 地理的分野「身近な地域の学習」—二万五千分の一の地形図について理解する。
07. 地理的分野「身近な地域の学習」—<演習>地形図をもとにフィールドワークを行う。
08. 歴史的分野「郷土」の扱い—「郷土」の扱いの変遷と「郷土」を扱う意義について理解する。
09. 歴史的分野「生活文化」の学習と博物館—「生活文化」の概念を理解するとともに、博学連携について知る。
10. 歴史的分野「人物」の扱い—歴史における人物の果たす役割について理解する。
11. 公民的分野「消費者教育」—消費者教育の変遷と消費者教育の意義について理解する。
12. 公民的分野「法教育」—法教育の内容と意義を理解するとともに、裁判員制度について知る。
13. 「学習指導案」の作成—<演習>地域にこだわった学習指導案を作成する。
14. 「考古学の利用」・補遺—考古学を利用する意義について理解するとともに、実践例を紹介する。
15. 講義のまとめ—社会科教育では「地域」が重要であることを理解する。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴るよう指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること。

教科書

教科書(中学校)『新編新しい社会 地理(平成28年度)』(東京書籍)【地理725】|教科書(中学校)『新編新しい社会 歴史(平成28年度)』(東京書籍)【歴史729】|教科書(中学校)『新編新しい社会 公民(平成28年度)』(東京書籍)【公民929】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編(平成20年9月)』(日本文教出版)【978-453690051】

参考書

担当教員：増田 正博

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T302462

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(社会)：必修科目

(1) 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。|<学びの目標>|○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために一斉画一指導を克服して多様な学習方法があることに気づく。|○「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の内容・方法について理解する。|○学習指導案を作成することができる。

(2) 内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、さらに「社会科授業研究I」をふまえて本講義を位置づける。本講義の内容は社会科の資料論、指導論を中心に構成した。|○学習方法について、「問題解決学習」、「検証学習」をはじめ多様な方法論を理解する。|○学習過程の多様な方法論と評価論について理解する。|○実物資料による体験、古文書資料の読解などを行う。|○地理的分野における地図帳、歴史的分野における年表、公民的分野における新聞、等の扱いについて理解する。|○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

受講者に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。|○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。|○必ず「レジュメ」(前時に配布する)を読んできて欲しい。|○レポートを必ず提出して欲しい。

学びのキーワード

- ・新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- ・学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- ・社会科は道具教科であることを認識しよう。

授業計画

01. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
02. 指導計画の作成と教材研究—アメリカ社会科の変遷を理解する。あわせて単元学習のあり方について知る。
03. 学習指導過程の工夫—「オープンマインド」・「オープンプロセス」・「オープンエンド」の3つのオープンを理解する。
04. 学習指導の評価と方法—「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の3つの評価を理解する。
05. 学習方法の工夫—「問題解決学習」、「発見学習」をはじめ多様な学習方法を理解する。
06. 授業過程の工夫—「受容的課題」、「選択的課題」、「発見的課題」について理解する。
07. 学習資料の開発—実物資料、加工資料の実際に触れ、資料の重要性を理解する。
08. 地図帳と地理的分野の授業—地理的分野の学習において、空間的認識の育成と地図帳の関連を理解する。
09. 年表と歴史的分野の授業—歴史的分野の学習において、時間的認識を育成するには年表が大きな役割を果たすことについて理解する。
10. 新聞と公民的分野の授業—公民的分野は現実の政治・経済・社会を扱うため新聞が大きな役割を果たしていることについて理解する。
11. 統計の活用—3分野の教科書には多くの統計が所載されている。この統計の見方について理解する。
12. 学習指導案の作成—<演習>卒論としての社会科学習指導案作成を2時間にわたって行う。
13. 「学習指導案」の作成—同上
14. 授業研究と教師のありかた—社会科実践家の事例を紹介し、教材研究の重要性を理解する。
15. 講義のまとめ—教育実習への意欲を喚起する。

準備学習(予習)

第1回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴るよう指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

準備学習(復習)

授業内で指示する。

評価方法

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 平常点 | 35% |
| (2) 新聞発表、レポート、学習指導案、テスト | 65% |

指示された提出物は必ず提出すること

教科書

教科書(中学校)『新編新しい社会 地理(平成28年度)』(東京書籍)【地理725】|教科書(中学校)『新編新しい社会 歴史(平成28年度)』(東京書籍)【歴史729】|教科書(中学校)『新編新しい社会 公民(平成28年度)』(東京書籍)【公民929】|地図帳(中学校)『中学校社会科地図』(帝国書院)【帝国地図724】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編(平成20年9月)』(日本文教出版)【978-4536590051】

参考書

担当教員：井上 兼生

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T303151

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（公民）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

高校の公民の範囲は広い。科目としては「現代社会」「政治・経済」「倫理」がありますが、それぞれの教科書を利用しながら、授業方法について目標設定から一コマの授業計画まで、実践的な力をつけることを目指します。そして、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成を目標とします。

(2) 内容

1. 内容:まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。そのうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業のスキル・教材提示の仕方とともに、教材作成の手がかりとなる教科内容にあった教材や方法を紹介する。具体的には、公民科の授業構成方法、学習指導案の作成方法、教材研究の考え方、板書や発問の仕方、教材作成方法などの従来からの授業展開スキルに加え、ICTの活用、グループ・ディスカッション、ディベート、ジグソー法などのアクティブ・ラーニング型授業展開のスキルの修得も目指す。後半の授業では、学習指導案の発表と模擬授業を実施する。|2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。|||

受講者に対する要望

教育実習の前年の科目でもあり、真剣勝負で臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・ 実践的
- ・ 教材研究
- ・ 教育計画

授業計画

01. 「学習指導要領」の「公民科」の変遷と構成
02. 授業作りのポイントと学習指導案の作り方
03. 授業のスキル：教材研究、話し方、発問、板書 教材作成 授業管理
04. 「現代社会」の学習指導法(1) 青年期の課題
05. 「現代社会」の学習指導法(2) 現代社会の諸課題(1) 地球環境とエネルギー問題
06. 「現代社会」の学習指導法(3) 現代社会の諸課題(2) ITの普及・AIの進歩と雇用問題
07. 「政治・経済」の学習指導法(1) 経済分野(1) 市場取り引きと「市場の失敗」
08. 「政治・経済」の学習指導法(2) 経済分野(2) 経済格差の問題
09. 「政治・経済」の学習指導法(3) 政治分野(1) 日本国憲法の成立
10. 「政治・経済」の学習指導法(4) 政治分野(2) 「機会の平等」と「結果の平等」
11. 「倫理」の学習指導法(1) 在り方生き方
12. 「倫理」の学習指導法(2) 現代の倫理的課題
13. 学習指導案発表と模擬授業(1) 調べ学習
14. 学習指導案発表と模擬授業(2) レポート
15. 研究協議／まとめ

準備学習(予習)

学習指導案などの作成や模擬授業までこなしてもらうので、不足する知識などは事前に幅広く吸収すること。

準備学習(復習)

学習指導案やレポートなどを授業中に完成させることは時間的にも不可能です。課題の作業内容について指摘された問題点など、丁寧に振り返って、よりよいものとする。

評価方法

- (1) 授業中の学習活動 100% 学習指導案やレポートなどの作成・提出、模擬授業など。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編（平成22年6月）』（教育出版）【978-4316300238】

参考書

担当教員：小川 洋

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T304155

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（地歴）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

地歴科の科目を一通り、授業ができるように指導します。高校で履修していない学生もいますが、その部分については自助努力に期待することになります。十分な知識が教授法の前提となります。自分にどのような知識が足りないかを常に意識して取組み、ある程度の自信をもってもらうことが目標です。

(2) 内容

1. 内容:まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。|2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。|

受講者に対する要望

教授法に必要な知識は授業では補えません。知識の部分は個人差も大きいので、自ら積極的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・教材研究
- ・授業計画

授業計画

01. 「学習指導要領」の「地理歴史科」の変遷と構成
02. 地歴科の教育目標など
03. 「日本史」科目の教育目標など
04. 「日本史」の学習指導法(1) 前近代史
05. 「日本史」の学習指導法(2) 近現代史
06. 「世界史」の教育目標など
07. 「世界史」の学習指導法(1) 前近代史
08. 「世界史」の学習指導法(2) 近現代史
09. 「地理」の教育目標など
10. 「地理」の学習指導法(1) 系統地理分野
11. 「地理」の学習指導法(2) 地誌分野
12. 教材づくり
13. 教材の活用法
14. 授業の技術
15. まとめ

準備学習(予習)

各科目ごとに作業を進めるので、あらかじめ自分に知識が不足している科目・単元については自発的に学習準備をすること。

準備学習(復習)

授業で指摘された不十分な箇所や内容については次の授業までに確実に修正しておくこと。

評価方法

- (1) 授業中の学習活動 100% 単元計画から一コマの授業計画あるいは模擬授業を課します。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領』（東山書房）【978-4827815412】

参考書

担当教員：阿字 宏康

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305178

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期にある中、英語科教員に求められる資質・能力もより重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことを通して、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。

(2) 内容

本講義では、英語教育の意義と目的を考察することを通して英語科教員になる目的意識を確立する。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術等への理解を深め、理論から実践へとつなげるために、実際の授業の在り方についても考察する。英語科教員として必要とされる英語力を身につけ、指導案作成や模擬授業を行う中で、指導に必要な力を培う。

受講者に対する要望

英語科教員になるという確かな意志と目指す教員像を明確にしながら授業に臨む。

学びのキーワード

- ・小中高英語教育
- ・学習理論・第二言語習得理論
- ・外国語教授法
- ・学習指導要領
- ・指導技術

授業計画

01. オリエンテーション、英語教育の目的と意義（第1章）
02. 国際語としての英語（第2章）
03. 学習指導要領（第3章）
04. 学習者要因（第4章） 「じゃれマガ」を用いての模擬授業
05. 英語教員に求められるもの（第5章）
06. 小学校における外国語活動（第6章）
07. 英語教授法・四技能（第7章）
08. 「じゃれマガ」を用いての模擬授業・教科書の構成の確認
09. 指導案の作成、教室英語
10. 模擬授業（1） 年間指導計画の確認等
11. 模擬授業（2）
12. 授業運営（第20章）、オーラルイントロダクション
13. 模擬授業（2）
14. 模擬授業（2）
15. まとめ、試験とその解説

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。

準備学習(復習)

講義、模擬授業に対するリフレクションシートを記入して、提出すること。

評価方法

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 授業への貢献 | 30% |
| (2) レポート | 30% |
| (3) 模擬授業・マイクロティーチング | 20% |
| (4) 学期末テスト | 20% |

教科書

ダグラス・ジャレレル『じゃれマガ—100 Stories of 2015—2014』（浜島書店）【978-4834350395】 | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）【-】 | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』（三省堂）【-】 | 高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』（三省堂）【-】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売）【978-4304041617】 | 望月 昭彦、齋崎 弘典、卯城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）【978-4469245665】

参考書

担当教員：阿字 宏康

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305286

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化等、我が国の英語教育が大きな転換期を迎えている中、英語科教員に求められる資質・能力より重要視されている。本講義を通して、英語教育の理論と実践を学ぶことで、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。

(2) 内容

「英語科教育法I」に引き続き、英語教育の意義と目的を考察することを通して、英語科教員になるという目的意識を確立することを目指す。さらに中高英語教育で求められる実践的コミュニケーション能力の育成のために聞く・話す・読む・書くの四技能を有機的に関連づけながら指導することを目指す。模擬授業においては教科用図書（教科書）を十分理解しながら、実際の授業での配慮事項等を段階的に身に付けることをねらう。

受講者に対する要望

英語教員としての在り方、学び方を学び、資質・能力の向上に資するべく授業に臨む。

学びのキーワード

- ・小中高英語教育
- ・コミュニケーション能力の育成
- ・語彙・文法指導
- ・4技能
- ・評価

授業計画

01. オリエンテーション
02. コミュニケーション能力の育成（第9章）
03. リスニング・スピーキングの指導（第10・11章）
04. リーディング・ライティングの指導（第12・13章）
05. ティームティーチング（第14章）
06. 模擬授業（1）
07. 模擬授業（1）
08. 文法指導（第18章）
09. 語彙指導（第19章）
10. 模擬授業（2）
11. 模擬授業（2）
12. 評価（第15章）
13. 教科書と教材研究（第17章）
14. 模擬授業（3）
15. 模擬授業（3） まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。

準備学習(復習)

模擬授業後に自身の授業を必ず見直す。その上でリフレクションシートを記入して、提出すること。

評価方法

(1) 授業への貢献	20%
(2) レポート	20%
(3) 模擬授業	30%
(4) 学期末課題	30%

教科書

ダグラス・ジャレール『じゃれマガ-100 Stories of 2015』（浜島書店）【978-4834350401】|高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1 2016年度版』（三省堂）【三省堂730】|高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 2016年度版』（三省堂）【三省堂830】|高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 2016年度版』（三省堂）【三省堂930】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売）【978-4304041617】|望月 明彦、岩崎 弘貞、卯城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）【978-449245565】

参考書

担当教員：小川 隆夫

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305394

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

中学校の英語学習は、これから長期間にわたる英語学習に備えるため、生徒たちを自律した学習者に育てる必要がある。この講義を通して、さまざまな指導技術とともに、英語教師としての心構え、生き方を学ぶことを目標とする。

(2) 内容

中学校の英語授業のための必須要素を網羅し、授業の展開方法から、4技能を伸ばす指導技術、家庭学習までを学ぶ。| また、授業を効果的に行うため、生徒との人間関係づくり、生徒がお互いに協力し合って学習に取り組むクラス、授業のムード作りなど、クラスルーム・マネジメントの方法も取り上げる。| アクティブ・ラーニングによる、課題研究やディスカッション、プレゼンテーションなどを積極的に行う。

受講者に対する要望

英語科教師になるという自覚を持って参加すること。教育実習を1年後に控え教授法の理論、実技をしっかりと習得するため、遅刻せずに全講義に出席するように努めること。また、教員としての必要とされるマナーや言葉遣いの指導も行う。

学びのキーワード

- ・ ICTの活用
- ・ 授業パターン
- ・ 指導技術
- ・ クラスルーム・マネジメント
- ・ 自律的学習者

授業計画

01. 入門期の指導・基本の授業パターン - 1時間の授業構成
02. 文法中心の授業・リーディング中心の授業
03. 活動中心の授業(グループ・ゲーム、英語の歌を使った授業、クイズやスキットの発表会)
04. 指導技術(ペアワーク・グループワーク・TT、発音と文字)
05. 文法指導と語彙指導の技術
06. リスニング指導・リーディング指導の技術
07. スピーキング指導・ライティング指導の技術
08. 文法指導のアプローチ、評価(観点別評価・ペーパーテスト・評価計画・パフォーマンス評価・Can-Do評価)
09. 教材・教具 クラスルームマネジメント、ICTの活用
10. 自律的学習者に育てるための工夫 - 家庭学習
11. ICTを活用した英語科授業
12. 小学校英語教育との連携
13. 模擬授業と振り返り
14. 模擬授業と振り返り
15. 確認とまとめ

準備学習(予習)

事前に配布するプリントを読んで参加する。模擬授業は1週間以上前に指導案を提出し添削を受ける。

準備学習(復習)

1~10までは授業のポイントをまとめる。11~14は模擬授業のフィードバックをまとめる。

評価方法

(1) 授業への参加度	20%
(2) 模擬授業	35%
(3) 指導案作成	35%
(4) レポート	10%

教科書

授業でハンドアウトを配布する。|教育実習校で使用する英語教科書1年生から3年生分を各自用意すること。

参考書

金谷 進、大田 洋、馬場 哲生、青野 保、柳瀬 陽介『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』(大修館書店)|各自の実習校が使用している教科書1年生から3年生分を事前に用意する。

担当教員：小川 隆夫

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T305400

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（英語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（英語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

高等学校の英語の大きな変化に対応するための方策などを中心に、中学校からの連携を考えるとともに、指導技術から文法まで着実に教えられるようにすることを目標とする。どの学年でも、どの分野でも教えることができるように、知識とテクニック、理論を身に付ける。

(2) 内容

本講義では高等学校新学習要領による「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「英語表現Ⅰ・Ⅱ」「英語会話」の7科目構成をどう教えるかを実践DVDを見ながら考え、模擬授業を組み立てて実践する。また、中学校の英語と比較しながら、高等学校では「英語授業は英語で行うことを基本とする」という方針に合わせ、授業実践の方法を探る。

受講者に対する要望

英語教師になるという自覚のもとに授業に臨むこと。4年生春学期に教育実習を行うことを念頭に毎回の授業を大切に受講すること。遅刻せず全出席を目指してほしい。

学びのキーワード

- ・ 高等学校新学習指導要領
- ・ 中高連携
- ・ コミュニケーション英語
- ・ 英語表現
- ・ 英語会話

授業計画

01. 高等学校新学習指導要領について
02. 中学校との連携と入学時の指導
03. 「英語で授業」の考え方
04. 基本の授業パターン
05. 「コミュニケーション英語」の指導と授業構成
06. 聞いて理解する活動と読んで理解する活動
07. 「英語表現」の指導と展開
08. 「英語会話」の指導計画と展開
09. ネイティブスピーカーの活用と指導技術（発音指導・語彙指導）
10. リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング指導他
11. 文法指導の考え方、評価計画
12. ICTを活用した模擬授業及び振り返り
13. 模擬授業及び振り返り
14. 模擬授業及び振り返り
15. まとめ

準備学習(予習)

事前配布するハンドアウトの指定ページを読んで授業に参加すること。
模擬授業は実施1週間以上前に指導案を提出して添削を受けること。

準備学習(復習)

ハンドアウトの内容及び授業のリフレクションなどをまとめて指定日までに提出すること。

評価方法

(1) 授業への参加度	20%
(2) 模擬授業	35%
(3) 指導案	35%
(4) レポート	10%

教科書

授業にてハンドアウトを配布する。

参考書

金谷 暁、久保野 雅史、高山 芳樹、阿野 幸一 『大修館英語授業ハンドブック 高校編』（大修館書店）配布したプリント等はすべてポータルサイトを参照して保存すること。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306102

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

国語の教師として、教材を研究するに当たって身に着けるべき基礎的な解釈技法の理解と習熟を目指す。この基礎の上に、確実な教材理解に基づいた授業を構想することが可能となるだろう。

(2) 内容

「国語科教育法Ⅰ」と「国語科教育法Ⅱ」とがそれぞれ半期科目として国語科教育の基礎的な知識と技能とを理解し修得することを目指している。そして、前者は主に「理論編」であり後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の理論を主眼とした内容を扱うことになる。| 新学習指導要領が発表され注目が集まる今、学校教育現場では多様な課題が浮かび上がりつつある。授業を一方的な知識伝達の場から相互交流による「学び」の場へと、大きく転換することが必要である。| 授業では、国語科教育が抱える今日的な課題について受講者とともに考え、国語科教育とは何かということについて一人ひとりがアプローチすることを目指す。そして、国語科の教師として、中学校あるいは高等学校の教壇に立つとはどういうことであるのか、どうあるべきなのかを考える基礎を作っていくたい。その上で、実践を視野に入れた授業構想を練ることを通じて、教育実習に実践的に役立つような授業内容を工夫したい。|

受講者に対する要望

国語科の指導者になる、というはっきりとした目的意識をもって授業に参加すること。したがって、授業に関する課題は必ずすべて提出すること。| 単位取得の最低条件として、全授業の4/5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、遅刻も謹んでいただきたい。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。

学びのキーワード

- ・ 国語科教育
- ・ 国語科教育の課題
- ・ 『学習指導要領』
- ・ アクティブ・ラーニング
- ・ 評価

授業計画

01. 授業に関するガイダンス、および自己分析。
02. 自己分析に基づいたスピーチとその指導法
03. 国語科をめぐる教育課題
04. これまでの『学習指導要領』と新『学習指導要領』
05. 教科書と検定制度
06. 解釈のための基礎技法1（視点、中心人物）。
07. 解釈のための基礎技法2（ストーリー・プロット・クライマックス）。
08. 現代の国語に関する課題についての研究討議
09. ことばに就いての学習案
10. 国語科の指導目標
11. 目標に準拠した評価
12. 文学的文章の指導を考える1（教材研究）
13. 文学的文章の指導を考える2（指導目標）
14. 文学的文章の指導を考える3（アクティブ・ラーニングの工夫）
15. 授業の総括

準備学習(予習)

授業計画を参照し、課題に関する準備は早め早めに行うこと。

準備学習(復習)

配布プリントを参考にしながら、教科書の該当部分の内容を次回までに確認しておくこと。

評価方法

(1) 授業への参加状況	10%
(2) 課題レポート	30%
(3) 確認試験	30%
(4) 学修記録	30%

教科書

町田守弘、他『実践国語科教育法—「美しく、力づく」授業の創造』（学文社）【978-4762025792】 | 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）【978-4-316-30021-4】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』（東洋館出版社）【978-4-491-02380-9】 |

参考書

授業中に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306210

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（国語）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

中学校・高等学校の国語科教育の理論と実践の学びを通して、国語科の教員として必要とされる知識と技能の習得を目指す。

(2) 内容

「国語科教育法I」と「国語科教育法II」とがそれぞれ半期科目となっているが、前者は主に「理論編」であり後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の実践を主眼とした内容を扱うことになる。新しい学習指導要領において「アクティブ・ラーニング」「IT化」が重視されていることを踏まえ、この科目では、国語科における様々な言語活動の魅力的な扱いを工夫していきたい。国語科教育法は実践を基盤とするということに配慮して、授業そのものをテキストとした実践的な授業構造にすることにより、効果的な国語科教育指導者の育成を目指す。特に、後半は受講者による模擬授業を実施して、実践的な内容を中心とした授業を展開する。また、教材研究の進め方について理解することは、学習指導に対する自信を生みだし、その自信が教育という職業に対する新たな情熱を生むであろう。そのため、受講者全員が教材研究の方法に習熟し、活用する力を身につけることを目指す。さらに、教えるということは、大きな責任を伴うものでもある。この授業を通して、その責任の大きさも自覚してほしい。

受講者に対する要望

国語科の指導者になる、というはっきりとした自覚をもって授業に参加すること。教材研究・模擬授業・相互批評のすべてに積極的に取り組むこと。なお単位取得の最低条件として、全授業の4/5以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、10分以上の遅刻は認めない。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。

学びのキーワード

- ・ 基礎的技能の応用
- ・ 教材研究
- ・ 国語科教育
- ・ 学習指導要領
- ・ 教育機器とIT化

授業計画

01. 国語科教育の目標① 国語科教育の目標観の変遷を概観する
02. 国語科教育の目標② 学習指導要領（国語科）の構造を学ぶ
03. 授業を構造化する① 板書の計画と方法を学ぶ
04. 授業を構造化する② 指導言（「指示」・「発問」・「解説」）の機能とその効果的な配列の方法を学ぶ
05. 国語科教育のIT化を考える
06. デジタル教科書の可能性と課題
07. 学習指導案の書き方を学ぶ（概略）
08. 学習指導案の書き方を学ぶ（学習の位置づけ）
09. 文学教材の学習指導案作成
10. 文学教材の模擬授業と相互批評を行う① 導入部の工夫
11. 文学教材の模擬授業と相互批評を行う② 展開部の工夫
12. 評論教材の教材研究を行う
13. 評論教材の模擬授業と相互批評を行う① 関心・意欲の指導
14. 評論教材の模擬授業と相互批評を行う② 論理展開の把握と発展的思考
15. 授業のまとめ

準備学習(予習)

指定した教科書のすべてに目を通しておくこと。

準備学習(復習)

配布資料や教科書を参考にして、授業内容を次回までに理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 模擬授業への取り組み | 30% |
| (2) 課題レポート | 30% |
| (3) 学修記録 | 40% |

模擬授業への取り組み（40%）、相互批評への取り組み（40%）、試験（20%）で評価する。

教科書

『国語科教育法I』で使用した以下の教科書を引き続き使用する。|町田守弘、他『実践国語科教育法—「楽しく、力のつく」授業の創造』(学文社)【978-4762025792】|文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』(東洋館出版社)。|文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』(教育出版)。

参考書

授業中に指示する。

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306328

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

教育法Ⅰで学んだ文学的表現の分析方法、教育法Ⅱで学んだ国語科教育に対する全般的な理解を基礎として、実際の教材に対してその事前の研究がどのように重要であるのか、どのように実際の指導につながっていくのかを学ぶ。この学びによって、教育法Ⅳで行う模擬授業に向けた準備とする。

(2) 内容

「話すこと・聞くこと」の指導実践、「書くこと」の指導実践、それぞれについて、学習者の関心・意欲・態度をどのように高めつつ身に付けるべき能力を伸ばしているのかを理解する。更に小説教材を用いた「読むこと」の指導実践を目指して、教材研究の進め方と実践への活かし方を具体的に体験を通して理解し、技能として身につけていく。

受講者に対する要望

教育実習に向けて実践的な力を身に付けるという自覚のもと、研究討議に積極的に参加するとともに、討議内容を踏まえた研究と工夫を求めたい。

学びのキーワード

- ・教材研究
- ・関心・意欲・態度
- ・身に付けるべき能力
- ・知識・理解
- ・体験

授業計画

01. 授業に関するガイダンス、および教材研究の重要性に関する討議。
02. 「学習指導案」についての確認
03. 目標に準拠した評価
04. 「話すこと・聞くこと」の指導
05. 「書くこと」の指導
06. 「伝統的な言語文化」の指導
07. 小説教材による授業実践に向けた教材研究① 教材文の解釈と分析
08. 小説教材による授業実践に向けた教材研究② 作者に関する研究
09. 小説教材による授業実践に向けた教材研究③ 他の作品及び文学史上の位置
10. 小説教材による授業実践に向けた教材研究④ 教材としての価値と意味
11. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑤ 指導目標とアクティブ・ラーニング
12. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑥ 単元の魅力と導入部の工夫
13. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑦ 学習指導案の作成
14. 小説教材による授業実践に向けた教材研究⑧ 学習指導案の相互評価
15. 総括

準備学習(予習)

授業実践で用いたテキストについては、事前に配布するので、十分に読みこなしただで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

配布資料やテキストにより、授業内容を次回までに理解しておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 課題レポート | 40% |
| (2) 授業への参加度 | 30% |
| (3) 最終レポート | 30% |

教科書

授業中にプリントを配布する

参考書

大村はま『新編 教室をいきいきと 1』(筑摩書房) 4-480-08146-1 | 大村はま『新編 教室をいきいきと 2』(筑摩書房) 4-480-08146-2

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T306430

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（国語）：必修科目【教】高等学校教諭一種（国語）：選択科目

(1) 学びの意義と目標

半期の授業の序盤は、国語科の授業研究を行う。中盤から終盤にかけては、国語単元学習（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）の概要を学び、実際に単元学習を作り模擬授業を行う。

(2) 内容

中学校・高等学校の国語科教育の実践と理論の学びを深めることを通して、国語科の教員として必要とされる技能と知識の習得を目指す。

受講者に対する要望

相互批評でのやり取りを踏まえた工夫と研究を常に欠かさぬ態度とを望む。

学びのキーワード

- ・「読むこと」の授業
- ・学習目標
- ・単元学習
- ・教材研究
- ・指導技術

授業計画

01. 授業研究① 「読むこと」の学習指導過程のモデルについて
02. 小説教材による授業実践と相互批評① 教材文の解釈と分析
03. 小説教材による授業実践と相互批評② 導入部の工夫
04. 小説教材による授業実践と相互批評③ 展開部の工夫
05. 小説教材による授業実践と相互批評④ 学習の成立と評価
06. 評論教材による授業実践に向けた教材研究① 教材文の分析
07. 評論教材による授業実践に向けた教材研究② 教材文の意味
08. 評論教材による授業実践と相互評価① 導入部の工夫
09. 評論教材による授業実践と相互評価② 教材文の理解
10. 評論教材による授業実践と相互評価③ 活動と評価
11. 評論教材による授業実践と相互評価④ 単元の組み立て
12. 言語文化教材による授業実践と相互評価① 教材文の解釈
13. 言語文化教材による授業実践と相互評価② 学習の成立
14. 言語文化教材による授業実践と相互評価③ 評価の工夫
15. 授業の総括

準備学習(予習)

教材は前もって渡すので、その教材研究は早め早めに行うこと。

準備学習(復習)

相互批評で指摘された点についての改善策を次回の模擬授業までに整理すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 模擬授業への取り組み | 30% |
| (2) 相互評価への取り組み | 30% |
| (3) 最終レポート | 40% |

教科書

文部科学省、文科省-『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）文部科学省、文科省-『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』（東洋館出版社）

参考書

福祉科教育法Ⅰ（中高教職）

SUBP-W-300

担当教員：中谷 茂一

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T307140

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

(2) 内容

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。| 学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。|

受講者に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。

自分の頭で考え積極的に発言しなければ単位修得はできない。

学びのキーワード

・福祉科教育

授業計画

01. 1 「福祉」教科創設の背景と経緯・基本方針
02. 2 福祉教育の意義と福祉に関する学科設置の基本的な考え方
03. 3 社会福祉学と「福祉」教科
04. 4 「福祉」教科の科目関連と構造
05. 5 教育観と福祉科教育
06. 6 「福祉」の内容と解説 目標・社会福祉基礎・社会福祉制度・社会福祉援助技術
07. 7 基礎介護・社会福祉実習
08. 8 社会福祉演習・福祉情報処理
09. 9 指導計画の作成と内容の取扱い
10. 10 模擬授業(1)
11. 11 模擬授業(2)
12. 12 模擬授業(3)
13. 13 模擬授業(4)
14. 14 模擬授業(5)
15. 15 模擬授業(6)

準備学習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

教育実習を考える会 編『教育実習生のための学習指導案作成教本 社会・地歴・公民科』（産書林）[978-4915442834] | 桐原宏行 編著『福祉科教育法』（三和書館）[978-4916037633] | 保住 芳美『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』（明治図書出版）[978-4188509197]

参考書

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T307241

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（福祉）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

(2) 内容

福祉科教育法Iで学習したことを展開させ、さらにレベルアップした指導案と模擬授業を行ってもらい、教育実習へとつなげていくことを目標とする。| 高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。| 学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。|

受講者に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。

学びのキーワード

・福祉科教育

授業計画

01. 1 社会福祉基礎
02. 2 社会福祉制度
03. 3 社会福祉援助技術
04. 4 基礎介護
05. 5 社会福祉実習
06. 6 社会福祉演習
07. 7 福祉情報処理
08. 8 指導計画の作成と内容の取扱い
09. 模擬授業 (1)
10. 模擬授業 (2)
11. 模擬授業 (3)
12. 模擬授業 (4)
13. 模擬授業 (5)
14. 模擬授業 (6)
15. 模擬授業 (7)

準備学習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T309150

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける【教】遠徳・特別活動・生徒指導・教育相談
ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) 現行制度下における保健科教育の性格と位置づけについて学び、保健科教育の意義と目的を理解する。| 2) 中学校における保健科教育の内容を理解する。| 3) 保健科における学習指導の特質を理解する。| 4) 保健科における指導計画を作成し授業を展開することができる。| 以上により、保健科教諭としての実践的な技能を身に付け、こども期の健康を維持・増進に働きかける教育者としての価値観と人格の形成を図る。|

(2) 内容

保健科教育の意義と必要性、目標および内容を把握し指導案を作成することにより、保健科教育の実際を考える。

受講者に対する要望

小・中・高時代に受けてきた保健科教育についての記憶を呼び戻し、その経験と照らし合わせながら講義の内容を理解し、保健科教育のあり方を自分なりに考えながら授業に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 現代社会における保健的教養
- ・ 保健科教育の独自性
- ・ 保健科で育てる保健の学力
- ・ 保健の授業（保健学習）の特質

授業計画

01. オリエンテーション（講義内容と授業の進め方、教員免許について）
02. 教科保健の目的と性格(1)（現行制度下の保健科教育）（目標1）
03. 教科保健の目的と性格(2)（保健科教育の意義と目的）（目標1）
04. 中学校における保健科教育の内容（1）心身の機能と発達、心の健康（目標2）
05. 中学校における保健科教育の内容（2）健康と環境（目標2）
06. 中学校における保健科教育の内容（3）傷害の防止（目標2）
07. 中学校における保健科教育の内容（4）健康な生活と疾病の予防（目標2）
08. 保健科教育に利用される教材（教材研究とCAIの活用）（目標3）
09. 保健科における学習指導の特質（1）中学校における保健学習のねらい（目標3）
10. 保健科における学習指導の特質（2）中学校における保健科学習指導案（目標3）
11. 保健科における学習指導の特質（3）中学校における保健科学習指導案の作成と留意点（目標3）
12. テーマに基づいた指導案の作成（グループワーク）（目標4）
13. 学習指導案に基づいた模擬授業（目標4）
14. 学習指導案に基づいた模擬授業の振り返り（目標4）
15. まとめ

準備学習(予習)

指定のテキストの該当箇所（その都度指定する）を事前に読む。

準備学習(復習)

提示した宿題に取り組み、翌週にその成果を提出する。

評価方法

- (1) 授業に対する取り組み参加度（関心・意欲・態） 30%
- (2) 時々の宿題レポートで知識の理解度を評価する。 20%
- (3) 最終の課題レポートで理解と技法の習得度を評価 50%

教科書

森昭三・和唐正徳編『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）【978-4469264982】 | 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（東山書房）【978-4827814811】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）【978-4827814637】

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T309251

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) 授業方法・授業設計についての理解を深める
| 2) 高等学校における保健科教育の内容を理解する
| 3) 教材研究から教材の教育についての意味を理解できる
| 4) ロールプレイングによる授業実践演習から実際の授業イメージをもつことができる

(2) 内容

保健科教育法Iで学んだ保健科教育の意義と必要性をさらに深め、IIでは、授業設計、教材研究などの教育における意義を知る。さらに高等学校保健学習指導案をテーマにロールプレイングを行い授業の具体化と実践に関するイメージをもつことができるように授業の構成を行なっている。

受講者に対する要望

保健科教育法Iで習得した内容をもとに、さらに高度な保健授業論を学び、高校の保健科の目標・内容について関心と理解を深めてほしい。

学びのキーワード

- ・保健授業の型
- ・教授行為と学習活動
- ・高校保健科のねらいと内容
- ・教材研究と授業構想

授業計画

01. 保健科学習指導の進め方：授業形態、保健授業の型（目標1）
02. 保健科学習指導の進め方：授業展開と教授法（目標1）
03. 保健科の授業設計：教材研究から授業構想へ、学習指導案の作成（目標1）
04. 高等学校における保健科の目標と内容体系（目標1）
05. 高等学校における保健科教育の内容（1）現代社会と健康（目標2）
06. 高等学校における保健科教育の内容（2）生涯を通じる健康（目標2）
07. 高等学校における保健科教育の内容（3）社会生活と健康（目標2）
08. 実験を取り入れた保健科学習の方法（教材研究を含む）（目標3）
09. 情報機器を利用した保健科学習の方法（教材研究を含む）（目標3）
10. 授業研究の実際（1）「生涯の各段階における健康」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標4）
11. 授業研究の実際（2）「新しい生命の誕生」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標4）
12. 授業研究の実際（3）「幸せで健康な家庭づくり」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標4）
13. それぞれのテーマの模擬授業（ロールプレイング）についての討議（1）授業設計の視点から（目標4）
14. それぞれのテーマの模擬授業（ロールプレイング）についての討議（2）役割分担の視点から（目標4）
15. まとめ

準備学習(予習)

指定のテキストの該当箇所を事前に読む。

準備学習(復習)

時折出される宿題に取り組み、成果のレポートを提出する。

評価方法

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 模擬授業に関する準備（指導案作成、教材準備） | 50% |
| (2) 課題レポート | 50% |

教科書

森昭三・和唐正徳編『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）【978-4469264982】 | 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（東山書房）【978-4827814811】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）【978-4827814637】

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T309352

学部教育の関連目

【D】「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける【教】遠徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) 現行制度下における保健科教育の性格と位置づけについて学び、保健科教育の意義と目的を理解する。| 2) 中学校における保健科教育の内容を理解する。| 3) 保健科における学習指導の特質を理解する。| 4) 保健科における指導計画を作成し授業を展開することができる。| 以上により、保健科教諭としての実践的な技能を身に付け、こども期の健康を維持・増進に働きかける教育者としての価値観と人格の形成を図る。|

(2) 内容

保健科教育の意義と必要性、目標および内容を把握し指導案を作成することにより、保健科教育の実際を考える。

受講者に対する要望

小・中・高時代に受けてきた保健科教育についての記憶を呼び戻し、その経験と照らし合わせながら講義の内容を理解し、保健科教育のあり方を自分なりに考えながら授業に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 現代社会における保健的教養
- ・ 保健科教育の独自性
- ・ 保健科で育てる保健の学力
- ・ 保健の授業（保健学習）の特質

授業計画

01. オリエンテーション（講義内容と授業の進め方、教員免許について）
02. 教科保健の目的と性格(1)（現行制度下の保健科教育）（目標1）
03. 教科保健の目的と性格(2)（保健科教育の意義と目的）（目標1）
04. 中学校における保健科教育の内容（1）心身の機能と発達、心の健康（目標2）
05. 中学校における保健科教育の内容（2）健康と環境（目標2）
06. 中学校における保健科教育の内容（3）傷害の防止（目標2）
07. 中学校における保健科教育の内容（4）健康な生活と疾病の予防（目標2）
08. 保健科教育に利用される教材（教材研究とCAIの活用）（目標3）
09. 保健科における学習指導の特質（1）中学校における保健学習のねらい（目標3）
10. 保健科における学習指導の特質（2）中学校における保健科学習指導案（目標3）
11. 保健科における学習指導の特質（3）中学校における保健科学習指導案の作成と留意点（目標3）
12. テーマに基づいた指導案の作成（グループワーク）（目標4）
13. 学習指導案に基づいた模擬授業（目標4）
14. 学習指導案に基づいた模擬授業の振り返り（目標4）
15. まとめ

準備学習(予習)

指定のテキストの該当箇所（その都度指定する）を事前に読む。

準備学習(復習)

提示した宿題に取り組み、翌週にその成果を提出する。

評価方法

- (1) 授業に対する取り組み参加度（関心・意欲・態） 30%
- (2) 時々の宿題レポートで知識の理解度を評価する。 20%
- (3) 最終の課題レポートで理解と技法の習得度を評価 50%

教科書

森昭三・和唐正徳編『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）【978-4469264982】 | 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（東山書房）【978-4827814811】 | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）【978-4827814637】

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：5T309453

学部教育の関連目

【0】「子ども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける【教】 連携・特別活動・生徒指導・教育相談
ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) 保健科教育法Ⅲでの模擬授業の振り返りを行うことで学生個人が授業設計の強みと問題点を意識づけでき、授業に対する動機と意欲をもつことができる。| 2) 保健科教諭と養護教諭の連携が児童生徒の健康の保持増進に与える影響を理解できる。| 3) 学校で生じる子どものストレスとストレスマネジメントについて理解できる。|

(2) 内容

授業の前半は、保健科教育法Ⅲで行なった模擬授業を再度振り返り、各自の強みを利用した問題点の克服について模擬授業を再度体験することで試みる（10名グループごとによる模擬授業ロールプレイング）。後半は、保健科教諭と養護教諭の連携が児童生徒の健康に大きく影響することを理解した上で、学校という生活の場で生じる子どものストレスへの具体的な対処方法を学ぶ。

受講者に対する要望

小・中・高時代に受けてきた保健科教育についての記憶を呼び戻し、その経験と照らし合わせながら講義の内容を理解し、保健科教育のあり方を自分なりに考えながら授業に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ 現代社会における保健的教養
- ・ 保健科教育の独自性
- ・ 保健科で育てる保健の学力
- ・ 保健の授業（保健学習）の特質

授業計画

01. 保健教育法Ⅲでの模擬授業の振り返り
模擬授業0-47 レイン（保健科教育法ⅢのT-マで各自が振り返りから決めた挑戦したいT-マで行う、4名×20分）
- 02.
03. 模擬授業0-47 レイン（保健科教育法ⅢのT-マで各自が振り返りから決めた挑戦したいT-マで行う、3名×20分）
04. 模擬授業0-47 レイン（保健科教育法ⅢのT-マで各自が振り返りから決めた挑戦したいT-マで行う、3名×20分）
05. 模擬授業の振り返り：模擬授業への取り組み（指導案、教材等の準備と）と模擬授業（授業記録と授業に関する自己考察）、まとめ
06. 保健科教諭と養護教諭の連携の意味
07. 養護教諭が行う心の健康と予防教育について
08. 子どものストレスと現状
09. ストレスマネジメントの理論と方法：ストレスとは
10. ストレスマネジメントの理論と方法：ストレスの仕組みとストレス対処法
11. 身体・感情的なストレスマネジメント：筋弛緩、自律訓練
12. 認知的マネジメント：認知体制化
13. 行動的マネジメント：ソーシャルスキルトレーニング
14. 子どものストレスマネジメント
15. まとめ

準備学習(予習)

指定のテキストの該当箇所（その都度指定する）を事前に読む。

準備学習(復習)

提示した宿題に取り組み、翌週にその成果を提出する。

評価方法

- (1) 各自の目標に即した模擬授業への取り組み（学習） 40%
- (2) ストレスマネジメントに関する知識確認テスト 60%

教科書

藤 昭三、和田 正雄『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）[978-4469264982] | 文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編 平成20年9月』（東山書房）[978-4827814637]

参考書

生徒指導論(進路指導を含む。)(中高教職)

SUBP-0-200/TEAT-D-2

担当教員：井上 兼生

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T400105

学部教育の関連目

【教】道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種(共通)：必修科目|【教】高等学校教諭一種(共通)：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 生徒指導に必要な青年期の心理について、多くの具体的な事例を上げて、実際の場面を考えながら深い理解を促す。| 2) 学校生活上、問題となる生徒の行動について、不登校や薬物利用などを始めとして、いくつかに類型化し、その実態についての理解を深めさせる。| 3) 生徒指導が教科学習指導を始めとする学校生活全体で考えるべきものと位置づけられている意味について理解を確かなものとする。| 4) 進路選択が生徒にとって将来の自己実現につながるものであることを十分に認識し、適切な指導方法について、どのようなものがあるのか理解を深める。| 5) 現代社会の職業や雇用の環境の変化についての理解を深めさせ、これからの子どもたちの進路選択には、どのような情報や判断力が求められているか、考察する。|

(2) 内容

子どもたちを取り巻く社会環境は、時代とともに大きく変化している。生徒指導は学校教育現場において教科指導とともに大切な教育活動であり、子どもの素質・能力・興味を引き出し、成長を援助する指導である。この授業では、生徒指導一般と進路指導とを扱う。生徒指導では、生徒の精神的な発達に関する知識やそれぞれの発達に応じた、教育相談や問題行動などに際しての適切な指導法について学ぶ。進路指導においては、職業選択にとどまらず、より高次のキャリア選択の観点からの生徒を指導する必要性を理解させるとともに、近年の雇用環境の変化についても正確な知識を吸収することによって、より確実な指導能力を養成する。

受講者に対する要望

知らないことを教えたり指導したりすることはできません。生徒指導上で知らなければならないことを確実に理解してもらいます。

学びのキーワード

- ・ 生徒理解
- ・ 雇用環境
- ・ 青年期

授業計画

01. 生徒指導の意義と概念
02. 生徒指導におけるパーソナリティーの発達の理解
03. 生徒指導の原理と方法
04. 生徒理解と生徒指導
05. 生徒指導における教育相談
06. 生徒の問題行動とその対応
07. 性・健康教育と生徒指導
08. 心身の不適応を有する生徒への対応
09. キャリア教育と職業教育(進路指導1)
10. キャリア選択と学校教育・各種資格(進路指導2)
11. 職業教育と職業選択(進路指導3)
12. 雇用環境の変化とこれからの働き方・生き方(進路指導4)
13. 障害理解と生徒指導
14. 地域や他機関との連携による生徒指導
15. 教師になるための生徒指導論

準備学習(予習)

各回の授業は1時間ずつ異なったテーマを取り上げていきます。事前にテーマについての基礎知識を収集しておくこと。

準備学習(復習)

レポートも課します。授業で取り上げた問題を各自、深い理解をする努力を求めます。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 授業への積極性及び貢献度 | 30% |
| (2) レポート提出2回 | 30% |
| (3) 期末試験 | 40% |

教科書

文部科学省『生徒指導提要』(教育図書)【978-4877302740】

参考書

担当教員：小川 歩

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T400213

学部教育の関連目

【教】 道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

【D】 認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・不登校、いじめ、発達障害、各種精神疾患などの特徴・症状を理解し、それぞれのアセスメント方法から介入方法について学習を通して、教育相談場面で役立つアセスメント方法、介入方法を身につける。|・知識の習得だけではなく、グループワークや体験学習を通して総合的な理解を深める。|・教育相談の中で、他職種や外部機関と連携する方法を事例モデルを通して学習することで、連携方法を理解する。

(2) 内容

学校での教育相談場面でよく出会う、不登校、いじめ、発達障害、各種精神疾患の特徴や症状について理解し、それぞれの問題行動に対する教育相談アプローチについて、アセスメントから対応方法まで系統立てて学んでいく。

受講者に対する要望

授業の中で、受講生に対して講師から意見や考えを求める事や、グループに分かれて体験学習を行う事が頻繁にあるので積極的な参加を期待します。

学びのキーワード

- ・教育相談
- ・臨床心理学
- ・学校心理学
- ・精神医学

授業計画

01. オリエンテーション：授業の進め方や教育相談についての説明、自己紹介と他己紹介
02. ライフサイクル理論と実際：学童期から青年期の発達課題と心理的特徴
03. 教育相談アセスメント①：知能・発達のアセスメント
04. 教育相談アセスメント②：行動・人格のアセスメント
05. 教育相談アセスメント③：家庭環境・学校地域社会のアセスメント
06. 発達障害の教育相談
07. 物質関連障害(シンナー、大麻、覚醒剤及び違法薬物)の教育相
08. 心身症・摂食障害の教育相談
09. 不安障害・気分障害の教育相談
10. いじめの理解と対応
11. 不登校の理解と対応
12. カウンセリングの理論と実際①：来談者中心療法・精神分析的心理療法
13. カウンセリングの理論と実際②：認知行動療法
14. 教育相談における他職種・外部機関との連携方法と実際
15. まとめ

準備学習(予習)

授業時に配布する次週の資料を熟読しておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布された資料を熟読し、興味関心のあるテーマについて紹介した参考文献などで理解を深めること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 定期試験 | 70% |
| (2) 授業内の小テスト | 30% |

教科書

特定のテキストは用いず、授業で適時、資料を配布する。

参考書

「包括的スクールカウンセリングの理論と実際」 本田恵子、植山紀彦子 金子書房 (ISBN 4760832475) | 「精神療法の基本：支持から認知行動療法まで」 堀経典、野村俊明 医学書院 (ISBN 4260016725) | 「ライフサイクルの臨床心理学」 馬場礼子 培風館 (ISBN 4563056103) | 「ケースの見方・考え方」 ナンシー マックウィリアムス、成田善弘 創元社 (ISBN 4422113836)

担当教員：井上 兼生

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T550110

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一人として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場면을想定した学びが求められます。

(2) 内容

教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。

受講者に対する要望

卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 教員の役割
- ・ 対人関係能力
- ・ 指導力

授業計画

01. ガイダンス
02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事
03. 教師の仕事(2) 教室での仕事
04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から
05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり
06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫
07. 授業に取り組む(2) 模擬授業
08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から
09. 授業に取り組む(4) グループ討論
10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成
11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から
12. 特別活動を計画する(3) グループ討論
13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために
14. 教師としてのキャリアを考える
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場면을想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付くはずで、必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 70% |
| (2) 学校での実習活動 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T550111

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とする。教職員の一員として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となる。そのためには、あらゆる場면을想定した学びが求められる。

(2) 内容

教職課程の最後の科目である。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられている。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養っていく。

受講者に対する要望

卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでほしい。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事
03. 教師の仕事(2) 教室での仕事
04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から
05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり
06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫
07. 授業に取り組む(2) 模擬授業
08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から
09. 授業に取り組む(4) グループ討論
10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成
11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から
12. 特別活動を計画する(3) グループ討論
13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために
14. 教師としてのキャリアを考える
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場면을想定した実践的な学習をしていく。指定された内容にそった事前準備が求められる。

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ課題で不十分であると気付いた場合は、必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めめる。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 70% |
| (2) 学校での実習活動 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：熊谷 芳郎

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T550112

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一人として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場면을想定した学びが求められます。

(2) 内容

教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。

受講者に対する要望

卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・教育への情熱
- ・学び続ける姿勢
- ・表現力

授業計画

01. ガイダンス
02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事
03. 教師の仕事(2) 教室での仕事
04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から
05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり
06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫
07. 授業に取り組む(2) 模擬授業
08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から
09. 授業に取り組む(4) グループ討論
10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成
11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から
12. 特別活動を計画する(3) グループ討論
13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために
14. 教師としてのキャリアを考える
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場면을想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付かずです。必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 70% |
| (2) 学校での実習活動 | 30% |

教科書

授業中に指示する。

参考書

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：2 授業コード：5T550113

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一人として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場면을想定した学びが求められます。

(2) 内容

教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。

受講者に対する要望

卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。

学びのキーワード

授業計画

01. ガイダンス
02. 教師の仕事(1) 職員室での仕事
03. 教師の仕事(2) 教室での仕事
04. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から
05. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり
06. 授業に取り組む(1) 授業スキルの工夫
07. 授業に取り組む(2) 模擬授業
08. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から
09. 授業に取り組む(4) グループ討論
10. 特別活動を計画する(1) 特別活動案の作成
11. 特別活動を計画する(2) 現職の先生の経験から
12. 特別活動を計画する(3) グループ討論
13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために
14. 教師としてのキャリアを考える
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場면을想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付かずです。必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 70% |
| (2) 学校での実習活動 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：教職に関 必修・選択：教職必修 単位：2 授業コード：5T550114

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目|【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「教職実践演習チェックシート(中高)」を用いた自己評価の結果を振り返ることで学生個人の教育に対する価値観や教育実践力の形成状況の意識づけを行う。それに基づき、いくつかのワークショップ(KJ法、ブレインストーミング、グループワーク、ロールプレイング、模擬授業など)を行うことで、学生各自の強みを利用した問題点の改善とさらなる教育実践力の向上を目指す。

(2) 内容

教師に必要なコミュニケーション能力や教師として必要な教養等を含めた教師の在り方、実践的な指導力、学級形成(学級経営、集団の把握と生活指導、生徒理解と教育相談、保護者・地域との連帯)をバランスよく形成しているかどうかを最終的に確認し、実践的指導力を確実に身につける。

受講者に対する要望

授業は、ワークショップを中心としている。「考え」、「発言」すること。「他の人の意見を聞く」ことが重要である。

学びのキーワード

- ・教育実践
- ・教師
- ・学級形成
- ・教育実践

授業計画

01. 教職実践演習の目的、意義
02. 「教師の在り方」について-KJ法による進め方の説明
03. 「教師の在り方」について-KJ法の結果と考察
04. 「教師あなの在り方」について-グループ発表
05. 「学級形成」-学級経営の意義と学級づくり
06. 「学級形成」-集団の把握と生活指導
07. 「学級形成」-集団の把握と生徒指導
08. 「学級形成」-生徒理解と教育相談
09. 「学級形成」-保護者・地域・校内組織との連帯
10. 「学級形成」-まとめ
11. 「実践的な指導力」-教材研究・教材解釈
12. 「実践的な指導力」-授業づくり
13. 「実践的な指導力」-指導方法・指導技術と評価の観点
14. 「実践的な指導力」-中学校保健科授業の実際
15. 「実践的な指導力」-まとめ

準備学習(予習)

次回のテーマに沿って、事前に調べまとめておくことにより、授業の際に十分な発言ができるように準備学習が必要とされる

準備学習(復習)

授業で取り上げられたテーマは、授業現場で必要とされる内容であることから、毎回の授業のまとめを必ず実践することが求められる

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 授業への取り組みと態度 | 50% |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% |

授業はワークショップなどを中心に行えあるところから、ワークショップへの取り組みへの態度、発表が重要な観点となる。また、テーマを設定してレポートを課題とすることによって、文章をまとめるという作業が必要となる。

教科書

授業中にプリントを配布する

参考書

担当教員：井上 兼生

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：5 授業コード：5T600105

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教職課程の総仕上げです。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成して初めて教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

(2) 内容

1. 内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。|2. カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。|

受講者に対する要望

大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。

学びのキーワード

- ・主体性
- ・計画的取り組み
- ・コミュニケーション能力

授業計画

01. 教育実習の意義と目的
02. 教育実習の展開—事前研究、教育実習の心得
03. 教育実習の形態—観察、参加、授業、事後研究
04. (4) 教育実習の内容(1)—学校経営
05. 教育実習の内容(2)—教育課程、学習指導
06. 教育実習の内容(3)—生活指導、学級経営、特別活動
07. 教育実習に備えて(1)—さまざまな授業
08. 教育実習に備えて(2)—さまざまな教科外活動
09. 直前指導
10. 教育実習の実際(1)—教材研究、学習指導
11. 教育実習の実際(2)—授業参観、記録、授業分析
12. 実習記録の観点と内容
13. 教育実習の反省と評価
14. 実習記録の整理
15. まとめ

準備学習(予習)

実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。

準備学習(復習)

実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 30% |
| (2) 実習校の評価 | 70% |

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：5 授業コード：5T600111

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。

(2) 内容

本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。

受講者に対する要望

教師になるという強い意識を持って、教育実習に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・教科指導
- ・教材研究
- ・模擬授業

授業計画

01. 教育実習の目的
02. 教育実習の心得、注意事項
03. 教育実習の内容(1) 教科指導
04. 教育実習の内容(2) 道德教育
05. 教育実習の内容(3) 生徒指導、学級経営、特別活動
06. 直前指導 教材研究と模擬授業(1)
07. 直前指導 教材研究と模擬授業(2)
08. 直前指導 教材研究と模擬授業(3)
09. 直前指導 教材研究と模擬授業(3)
10. 教育実習の振り返り(1) 授業分析
11. 教育実習の振り返り(2) 生徒指導
12. 教育実習の振り返り(3) 学級経営
13. 教育実習の振り返り(4) 授業観察
14. 実習記録の整理
15. まとめ

準備学習(予習)

実習で使用する教科書の教材研究を行う。

準備学習(復習)

実習前:授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。実習後:実習記録を整理する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加、貢献 | 20% |
| (2) 指導案、模擬授業 | 30% |
| (3) レポート | 20% |
| (4) 教育実習日誌 | 30% |

教科書

プリントを配布する。

参考書

青木昭六、田中誠 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』(現代教育社)

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：5 授業コード：5T600121

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいかをつかみとってほしい。

(2) 内容

本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。

受講者に対する要望

教職につくという「志」と、子どもを育て育むという「理想」とをもって授業に参加してほしい

学びのキーワード

- ・生徒
- ・向き合う
- ・学習支援
- ・指導
- ・学び

授業計画

01. 教育実習の意義と目的
02. 教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境
03. 教育実習の内容 2 教育課程、学習指導
04. 教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動
05. 教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析
06. 模擬授業と研究討議 1 文学的文章
07. 模擬授業と研究討議 2 説明的文章
08. 模擬授業と研究討議 3 話すこと・聞くことの指導
09. 模擬授業と研究討議 4 書くことの指導
10. 中間まとめ
11. 実習体験報告 記録の作成 1 事前打ち合わせ
12. 実習体験報告 記録の作成 2 実習初日
13. 実習体験報告 記録の作成 3 研究授業
14. 実習体験報告 記録の作成 4 生徒との出会い
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。

準備学習(復習)

授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 実習前の準備活動 | 30% |
| (2) 実習校からの評価 | 40% |
| (3) 実習後のレポート | 30% |

教科書

参考書

教育法Ⅲで配布済み

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：5 授業コード：5T600131

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教職課程の学習の総仕上げとしての体験的学習である。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成することにより保健科教員、特別支援教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

(2) 内容

1. 観察、参加、実習を通して、中学校保健科教諭、特別支援教諭の仕事に関する体験的理解を深める。| 2. 実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。| 3. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。|

受講者に対する要望

大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。

学びのキーワード

- ・ 体験的理解
- ・ 観察
- ・ 参加
- ・ 実習

授業計画

01. 中学校教育実習の意義と目的
02. 教育実習の展開—事前研究、教育実習の心得
03. 教育実習の形態—観察、参加、実習の研究
04. 教育実習の内容(1)—学校経営
05. 教育実習の内容(2)—教育課程、学習指導
06. 教育実習の内容(3)—生活指導、学級経営、特別活動
07. 教育実習に備えて(1)—さまざまな授業
08. 教育実習に備えて(2)—さまざまな教科外活動
09. 直前指導
10. 教育実習の実際(1)—教材研究、学習指導
11. 教育実習の実際(2)—授業参観、記録、授業分析
12. 実習記録の観点と内容
13. 教育実習の反省と評価
14. 実習記録の整理
15. まとめ

準備学習(予習)

授業のテーマに沿って事前のc調べ学習をして授業に参加すること。実習の際には、実習内容を明確にし、参加レポート提出を求める。各自が教育実習に臨むにあたって不足する知識や技術について補うこと。

準備学習(復習)

各授業後には授業の内容をまとめ、実習で必要となる教材準備とすること。教育実習後は実習活動報告並びに指導教員による講評を行う予定である。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 50% |
| (2) 実習校の評価 | 50% |

教科書

参考書

担当教員：井上 兼生

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：3 授業コード：5T600204

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教職課程の総仕上げです。2週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成して初めて教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

(2) 内容

1. 内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と2週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。|2. カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。|

受講者に対する要望

大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。

学びのキーワード

- ・主体性
- ・計画的取り組み
- ・コミュニケーション能力

授業計画

01. 教育実習の意義と目的
02. 教育実習の展開—事前研究、教育実習の心得
03. 教育実習の形態—観察、参加、授業、事後研究
04. (4) 教育実習の内容(1)—学校経営
05. 教育実習の内容(2)—教育課程、学習指導
06. 教育実習の内容(3)—生活指導、学級経営、特別活動
07. 教育実習に備えて(1)—さまざまな授業
08. 教育実習に備えて(2)—さまざまな教科外活動
09. 直前指導
10. 教育実習の実際(1)—教材研究、学習指導
11. 教育実習の実際(2)—授業参観、記録、授業分析
12. 実習記録の観点と内容
13. 教育実習の反省と評価
14. 実習記録の整理
15. まとめ

準備学習(予習)

実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。

準備学習(復習)

実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 30% |
| (2) 実習校の評価 | 70% |

教科書

参考書

担当教員：東 仁美

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：3 授業コード：5T600210

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。

(2) 内容

本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。

受講者に対する要望

教師になるという強い意識を持って、教育実習に臨んでほしい。

学びのキーワード

- ・教科指導
- ・教材研究
- ・模擬授業

授業計画

01. 教育実習の目的
02. 教育実習の心得、注意事項
03. 教育実習の内容(1) 教科指導
04. 教育実習の内容(2) 道德教育
05. 教育実習の内容(3) 生徒指導、学級経営、特別活動
06. 直前指導 教材研究と模擬授業(1)
07. 直前指導 教材研究と模擬授業(2)
08. 直前指導 教材研究と模擬授業(3)
09. 直前指導 教材研究と模擬授業(3)
10. 教育実習の振り返り(1) 授業分析
11. 教育実習の振り返り(2) 生徒指導
12. 教育実習の振り返り(3) 学級経営
13. 教育実習の振り返り(4) 授業観察
14. 実習記録の整理
15. まとめ

準備学習(予習)

実習で使用する教科書の教材研究を行う。

準備学習(復習)

実習前:授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。実習後:実習記録を整理する。

評価方法

(1) 授業への参加、貢献	20%
(2) 指導案、模擬授業	30%
(3) レポート	20%
(4) 教育実習日誌	30%

教科書

プリントを配布する。

参考書

青木昭六、田中誠 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』(現代教育社)

担当教員：熊谷 芳郎

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：3 授業コード：5T600220

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいかをつかみとってほしい。

(2) 内容

本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。

受講者に対する要望

教職につくという「志」と、子どもを育て育むという「理想」とをもって授業に参加してほしい

学びのキーワード

- ・生徒
- ・向き合う
- ・学習支援
- ・指導
- ・学び

授業計画

01. 教育実習の意義と目的
02. 教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境
03. 教育実習の内容 2 教育課程、学習指導
04. 教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動
05. 教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析
06. 模擬授業と研究討議 1 文学的文章
07. 模擬授業と研究討議 2 論理的文章
08. 模擬授業と研究討議 3 話すこと・聞くことの指導
09. 模擬授業と研究討議 4 書くことの指導
10. 中間まとめ
11. 実習体験報告 記録の作成 1 事前打ち合わせ
12. 実習体験報告 記録の作成 2 実習初日
13. 実習体験報告 記録の作成 3 研究授業
14. 実習体験報告 記録の作成 4 生徒との出会い
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。

準備学習(復習)

授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 実習前の準備活動 | 30% |
| (2) 実習校からの評価 | 40% |
| (3) 実習後のレポート | 30% |

教科書

参考書

授業の中で指示する | 教育法Ⅲで配布済み

担当教員：中谷 茂一

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：3 授業コード：5T600230

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

福祉科教育法I・IIで学習した内容を応用し、高等学校における実際の2週間の教育実習とその事前・事後指導を行い、教育法の涵養を目標とする。

(2) 内容

教育実習の意義と心構え、事前準備、教育実習中の諸注意、実習日誌の留意点について学ぶ。|並行して実際に教壇に立って授業を行う指導案作成、教材準備を行い、模擬授業をとおして最終的な授業内容の練り上げを実施する。

受講者に対する要望

実習生といえども生徒から見れば一個の教師である。教育者としての倫理と責任をよく認識して教育実習の準備と実施に臨んでほしい。

学びのキーワード

・教育実習

授業計画

01. 教育実習の意義と心構え
02. 事前準備
03. 教育実習中の諸注意
04. 実習日誌の留意点
05. 学習指導案の作成
06. 学習指導案の作成
07. 学習指導案の作成
08. 学習指導案の作成
09. 学習指導案の作成
10. 教材研究と模擬授業～その1
11. 教材研究と模擬授業～その2
12. 教材研究と模擬授業～その3
13. ふりかえりと評価～その1
14. ふりかえりと評価～その2
15. ふりかえりと評価～その3

準備学習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 模擬講義内容 | 50% |
| (3) ディスカッション参加状況 | 30% |

教科書

教育実習研究会 編『中学・高等学校教育実習ノート事前指導から事後指導までを完全サポート（教職課程新書）』（協同出版）【978-4319110247】

参考書

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：教職課程 必修・選択：教職科目 単位：3 授業コード：5T600240

学部教育の関連目

【教】教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教職課程の学習の総仕上げとしての体験的学習である。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成することにより保健科教員、特別支援教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

(2) 内容

1. 観察、参加、実習を通して、高等学校保健科教諭、特別支援教諭の仕事に関する体験的理解を深める。
 | 2. 実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。| 3. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。|

受講者に対する要望

大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。

学びのキーワード

- ・ 体験的理解
- ・ 観察
- ・ 参加
- ・ 実習

授業計画

01. 高等学校教育実習の意義と目的
02. 教育実習の展開—事前研究、教育実習の心得
03. 教育実習の形態—観察、参加、実習の研究
04. 教育実習の内容(1)—学校経営
05. 教育実習の内容(2)—教育課程、学習指導
06. 教育実習の内容(3)—生活指導、学級経営、特別活動
07. 教育実習に備えて(1)—さまざまな授業
08. 教育実習に備えて(2)—さまざまな教科外活動
09. 直前指導
10. 教育実習の実際(1)—教材研究、学習指導
11. 教育実習の実際(2)—授業参観、記録、授業分析
12. 実習記録の観点と内容
13. 教育実習の反省と評価
14. 実習記録の整理
15. まとめ

準備学習(予習)

授業のテーマに沿って事前のc調べ学習をして授業に参加すること。実習の際には、実習内容を明確にし、参加レポート提出を求める。各自が教育実習に臨むにあたって不足する知識や技術について補うこと。

準備学習(復習)

各授業後には授業の内容をまとめ、実習で必要となる教材準備とすること。教育実習後は実習活動報告並びに指導教員による講評を行う予定である。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業中の学習活動 | 50% |
| (2) 実習校の評価 | 50% |

教科書

参考書

担当教員： 齋藤 一雄

学期： 秋学期 科目： 教職課程 必修・選択： 教職科目 単位： 3 授業コード： 5T600301

学部教育の関連目

【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目）

カリキュラム上の位置付け

【D】特別支援学校教諭一種（知・肢・病）：必修科目

(1) 学びの意義と目標

1) 特別支援教育の意義と目的を理解するとともに、その内容を知識として身につけることができる。| 2) 実習を通して、特別支援教育における指導の方法を身につけることができる。| 3) 児童生徒や教員との関わりを通して、特別支援教諭としての社会コミュニケーション力を身につける。| 4) 実習の振り返りを通して、自らの取り組みを反省する力を養う。|これらの過程を通して、特別支援教諭に求められる知識、技能ならびに態度の育成を目指すこととする。

(2) 内容

特別支援教育実習は、本実習ならびに事前事後指導からなる。まず事前指導では、特別支援教育の意義やその内容について、講義形式の授業や実習校の実習担当教諭との懇談を通して学ぶ。本実習では、主に授業参観、指導案作成、授業担当（研究授業を含む）、放課後の教材研究指導、学級経営への参加、学校行事や部活動への参加を行う。本実習終了後の事後指導は主に実習生が作成した実習記録をもとに自己評価と反省を行うとともに、教員としての前提となる心構えを学ぶ。

受講者に対する要望

これまでに学んだ科目のテキストやノートから学習内容を見直し、不明な部分は調べておくこと。また、障害児の教育に関する図書を読み、知見を広げておいてほしい。

学びのキーワード

- ・ 障害児の指導法
- ・ 単元や教材
- ・ 指導計画・授業案の作成
- ・ 授業記録
- ・ 求められる教師像

授業計画

01. 特別支援教育実習オリエンテーション
02. 特別支援教育実習の意義と目的
03. 特別支援教育実習の展開 事前研究、教育実習の心得
04. 特別支援教育実習の形態 観察、参加、実習、事後研究
05. 特別支援教育実習校訪問、実習担当教諭との懇談
06. 特別支援教育実習の内容（1）学級経営、学校の組織、施設環境
07. 特別支援教育実習の内容（2）教育課程、学習指導
08. 特別支援教育実習の内容（3）生活指導、学級経営、特別活動、自立活動
09. 特別支援教育実習の内容（4）教師としての勤務
10. 特別支援教育実習の実際（1）教材研究、学習指導（集団、形態）
11. 特別支援教育実習の実際（2）授業参観の視点、記録、授業分析
12. 特別支援教育実習記録に基づく実習報告と討論
13. レポート作成による自己評価と反省
14. 現職教員との懇談
15. 教師としての心構えと就職に関する指導

準備学習(予習)

配布資料、宿題やレポートなどに目を遠し、必要な事項を調べておくこと。

準備学習(復習)

授業の配布資料、宿題やレポート課題などから、図書や資料を探し、授業の準備をすること。

評価方法

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 実習校からの評価 | 60% |
| (2) 指導計画・指導案作成およびレポート | 40% |

教科書

プリントを配布する

参考書

図書館情報学課程

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程/必修科目 単位：2 授業コード：6L001010

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

(2) 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

受講者に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

学びのキーワード

- ・ 社会教育の理念
- ・ 生涯教育・生涯学習
- ・ 生涯発達論
- ・ 発達課題
- ・ 学歴社会の是正

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育の領域（家庭教育、社会教育、学校教育）
03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）
04. 生涯教育の理念(1)
05. 生涯教育の理念(2)
06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？）
07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情）
08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行）
09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応）
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題）
11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？）
12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など）
13. 生涯教育の理念への批判
14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』（樹村房）【978-4883672301】

参考書

担当教員：黒沢 克朗

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L014070

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

年々、子どもの貧困、いじめなど、子どもを取り巻く環境は決していいとは言えないのが現状である。||2000年「子ども読書年」を境にし、読書においては、国を挙げて力を入れている。その成果として児童サービスが大きく変わってきている。子ども読書推進活動、朝の読書、絵本の読み聞かせ、ブックスタート、ブックトーク、調べ学習などいろいろなことが行われている。本講義では、これらに触れることは勿論のこと、公共図書館における児童サービスの意義や目的など、基本的なことを講義したい。

(2) 内容

1. 内容|児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。||2. カリキュラム上の位置づけ|児童サービスについての基礎的な科目である。||3. 学びの意義と目標|児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。

受講者に対する要望

子どもにとって読書がどんなに大切なものかを学習していくなかで、読書の重要性を把握してほしい

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 子ども
- ・ 児童書

授業計画

01. 児童サービスとは 児童サービスの意義と目的 いま、公立図書館は
02. 児童図書館の歩み 子どもの読書活動の推進
03. 朝の読書 ブックスタート
04. 児童サービスの業務 集会・行事活動 展示・PR
05. 児童サービスの業務 調べ学習・レファレンス
06. 子どもと本を結びつける1 絵本の読み聞かせとは
07. 子どもと本を結びつける2 おはなし会とは
08. 子どもと本を結びつける3絵本の読み聞かせをしてみよう 1
09. 子どもと本を結びつける4絵本の読み聞かせをしてみよう 2
10. 子どもと本を結びつける5ストーリーテリングとは
11. 子どもと本を結びつける6ブックトークとは ブックトークのプログラムを作る
12. 子どもと本を結びつける7ブックトークをしてみよう 読書のアニメシア
13. 各種機関との連携
14. ヤングアダルト、障がいをもった子ども、多文化サービス
15. 児童サービス担当者の役割 まとめ

準備学習(予習)

課題については、事前に調査をし、締切日を厳守

準備学習(復習)

講義の中で紹介した本は、目を通すこと

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 科目修得試験 | 30% |

教科書

堀川 照代『児童サービス論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-6)』(日本図書館協会) [978-4820413158]

参考書

担当教員：若松 昭子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L022020

学部教育の関連目

【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

(2) 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 情報社会

授業計画

01. 図書館の定義
02. 図書館の種類
03. 図書館の理念
04. 情報社会と図書館
05. 図書館の自由に関する宣言
06. 図書館員の倫理綱領
07. 図書館に関する法規
08. 公立図書館の制度と機能 1
09. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとなすこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験またはレポート | 40% |
| (2) 各授業時の課題 | 35% |
| (3) 授業態度や授業への参加度 | 25% |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

教科書

塩見昇『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ3 -1)』(日本図書館協会)四訂版【9784820414179】

参考書

担当教員：若松 昭子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L022021

学部教育の関連目

【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

(2) 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 情報社会

授業計画

01. 図書館の定義
02. 図書館の種類
03. 図書館の理念
04. 情報社会と図書館
05. 図書館の自由に関する宣言
06. 図書館員の倫理綱領
07. 図書館に関する法規
08. 公立図書館の制度と機能 1
09. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとなすこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験またはレポート | 40% |
| (2) 各授業時の課題 | 35% |
| (3) 授業態度や授業への参加度 | 25% |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

教科書

塩見 昇『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-1)』(日本図書館協会)【978-4820414179】

参考書

担当教員：三日市 紀子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L023030

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本科目の履修を通じて、図書館で働くにあたって必要な図書館制度や図書館経営の知識を習得する。

授業計画

01. 図書館制度・図書館経営とは・基本用語の確認
02. 図書館に関わる法体系
03. 図書館法逐条解説（1）総則
04. 図書館法逐条解説（2）公立図書館および私立図書館
05. 他館種の図書館に関する法律など
06. 図書館サービス関連法規
07. 図書館政策（国、地方公共団体）
08. 公共機関・施設の経営方法
09. 図書館の組織・職員
10. 図書館の施設・設備
11. 図書館のサービス計画と予算の確保
12. 図書館業務・サービスの調査と評価
13. 図書館の管理形態の多様化
14. 図書館制度・経営に関わる諸問題
15. まとめ

(2) 内容

図書館に関する法律や関連領域の法律、図書館政策について概観し、図書館経営の考え方、職員や施設などの資源、サービス計画、予算、サービスの評価、管理形態の多様化について解説する。

準備学習(予習)

課題や予習キーワードの下調べなどをこなして、授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業で触れた内容を振り返り、思考を整理してください。|（適宜、内容を振り返る課題を課することもあります）

評価方法

- (1) 試験 50% 6割以上の正解率が必須である。
- (2) 課題提出・授業内ミニテスト 50% 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを前提条件とします。授業開始以降15分までの入室を遅刻とみなし、それ以降の入室は欠席とみなすので留意してください。

受講者に対する要望

1. 授業の内容上、図書館の基本的な機能やサービスについて、理解済みのものとして授業を進めます。図書館概論や図書館サービス概論を履修済みであることが望ましいです（義務付けるものではありませんが、図書館の基礎知識がない場合には、相当する科目の自学自習が必要となることをご理解の上、受講してください）。2. 授業の中で、グループでの討論や発表活動を行う場合があります。各自協力して取り組んでください。3. 初回の授業で授業の進め方について説明します。欠席のないようにしてください。4. 授業中の不要な退室や、指示された時以外のスマートフォン使用はご遠慮ください。

学びのキーワード

教科書

随時、プリントを配布します。

参考書

授業時に提示します。

担当教員：大谷 康晴

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L024040

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

かつて書誌の編集の副産物として書誌データベースが生み出されたように、図書館は本来情報技術を活用してより高度なサービスを展開するべき存在です。しかし、近年の目覚ましいインターネット周辺の情報技術の発展に比して、図書館における活用は大きく遅れています。この遅れは、看過することはできないといえましょう。この授業では、以上の問題意識に立って、以下の点を授業の到達目標とします。|・図書館に活用可能な情報技術について説明できる|・図書館で必要とされる初歩的な情報技術を活用できる|・図書館に関わるさまざまなシステムの概要について説明できる|・図書館における現在の情報技術活用の問題点について指摘できる

(2) 内容

この授業では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じてコンピュータ上で確認をしながら講義をしていきます。

受講者に対する要望

第1回のガイダンスで詳細について説明いたしますので、必ず出席して確認をとってください。

学びのキーワード

- ・情報通信技術
- ・図書館

授業計画

01. 授業ガイダンス
02. 社会、図書館と情報技術
03. コンピュータとネットワークの基礎
04. データベースの仕組み
05. 検索エンジンの仕組み
06. 図書館業務システムの仕組み（ホームページによる情報の発信を含む）
07. 図書館ウェブサイトの評価
08. 図書館サービスと情報技術（レコメンドサービス）
09. 図書館サービスと情報技術（カレントアウェアネス）
10. 電子資料と図書館
11. 情報資源組織と情報技術
12. デジタルアーカイブ
13. コンピュータシステムの管理（ネットワークセキュリティ、ソフトウェア及びデータ管理を含む）
14. 図書館と情報技術のトピック
15. まとめ

準備学習(予習)

- ・基礎的なコンピュータ操作（ウェブ閲覧、電子メール、ワープロソフト）は、事前に確認しておくこと|・授業時に紹介した資料について事前によく読んでおくこと

準備学習(復習)

- ・授業時に紹介した資料について事後にもよく読んでおくこと|・授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 各回での課題提出物・感想 | 40% |
| (2) 期末レポート | 60% |

* 評価対象の前提として欠席は全授業回数3分の1以下とします。

教科書

なし。授業時に資料を配布します|

参考書

講義時に随時紹介いたします。

担当教員：三日市 紀子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L025050

学部教育の関連目

【1】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館サービスの意義を強調し、マネジメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。

(2) 内容

図書館サービスの構造および基本的な考え方を学び、各種サービス（資料提供、情報提供、図書館サービスの連携・協力、利用者に応じた図書館サービス、課題解決型サービス）を理解する。図書館サービスの遂行に必要な要素（著作権や利用者とのコミュニケーション）についても概説する。

受講者に対する要望

1. 授業の中で、グループでの討論や発表活動を行う場合があります。各自協力して取り組んでください。|2. 初回の授業で授業の進め方について説明します。欠席のないようにしてください。|3. 授業中の不要な退室や、指示された時以外のスマートフォン使用はご遠慮ください。|4. 毎回の授業において、前回の内容を振り返るテストを行う予定なので、必ず復習しておいてください。

学びのキーワード

- ・ 図書館サービス
- ・ 利用者サービスの多様性
- ・ 利用空間
- ・ 図書館ネットワーク

授業計画

01. イントロダクション：図書館の機能とサービス、基本用語の確認など
02. 図書館サービスの構造および種類
03. 図書館サービスの変遷
04. 利用空間の整備：書架の配置、排架の原理と工夫
05. 資料提供サービス①：貸出サービスの構造
06. 資料提供サービス②：資料提供の展開：リクエストサービス、相互貸借
07. 図書館サービスと著作権
08. 情報提供サービス：レファレンスサービス、情報発信、講座・セミナー
09. 図書館サービスの連携と協力：図書館ネットワーク
10. 利用目的に応じたサービス：課題解決型サービスなど
11. 利用者に応じたサービス①障害者サービス
12. 利用者に応じたサービス②高齢者サービス
13. 利用者に応じたサービス③多文化サービス
14. 利用者との交流：接遇・コミュニケーション
15. まとめ

準備学習(予習)

課題や予習キーワードの下調べなどをこなして、授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業で触れた内容を振り返り、思考を整理してください。|（適宜、内容を振り返る課題を課することもあります）

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|-------------------------|
| (1) 試験 | 50% | 6割以上の正解率が必須である。 |
| (2) 課題提出・授業内ミニテスト | 50% | 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出 |

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを前提条件とします。授業開始以降15分までの入室を遅刻とみなし、それ以降の入室は欠席とみなすので留意してください。

教科書

随時、プリントを配布します。

参考書

授業時に提示します。

担当教員：吉田 隆

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L026060

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

「演習」にむけての技能を習得する。

(2) 内容

図書館における情報サービスの意義・理論・方法を考える。

受講者に対する要望

授業＜経営＞に積極的に挑んでください。

学びのキーワード

- ・ 情報サービス
- ・ 情報源
- ・ 利用者
- ・ 図書館司書
- ・ 著作権法

授業計画

01. ガイダンス・情報社会と図書館の情報サービス
02. 図書館における情報サービスの理論的展開
03. 図書館における情報サービスの理論的展開
04. レファレンスサービスの理論と実践
05. レファレンスサービスの実際
06. 情報サービスの理論と方法
07. 各種情報源の特質と利用法（1）：情報メディア・文献を探す
08. 各種情報源の特質と利用法（2）：論文・記事を探す
09. 各種情報源の特質と利用法（3）：事項・事実の検索
10. 各種情報源の評価と解説
11. 各種情報源の組織化
12. 発信型情報サービスの意義と方法
13. 情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識
14. 図書館利用教育と情報リテラシーの育成
15. 展望：IT社会と図書館・図書館司書

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に出席してください。

準備学習(復習)

板書・配布資料の要点を自筆のノートに整理してください。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 試験 | 60% |

教科書

竹之内禎編著『情報サービス論(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望)』(学文社) [978-4762021947]

参考書

担当教員：吉田 隆

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：1 授業コード：6L028080

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

(2) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 課題 | 40% |
| (3) 試験 | 40% |

教科書

原田智子編著『情報サービス演習』（樹村房）【978-4883672073】

参考書

担当教員：吉田 隆

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：1 授業コード：6L028081

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

(2) 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

受講者に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

学びのキーワード

- ・レファレンス質問
- ・レファレンスブック
- ・印刷資料
- ・電子資料

授業計画

01. ガイダンス・情報サービスのプロセス
02. 図書情報についての設問
03. 雑誌についての設問
04. 雑誌記事についての設問
05. 新聞記事についての設問
06. 言葉・事柄についての設問
07. 統計についての設問
08. 歴史・日時についての設問
09. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

準備学習(復習)

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 課題 | 40% |
| (3) 試験 | 40% |

教科書

原田智子編著『情報サービス演習』（樹村房）【978-4883672073】

参考書

担当教員：坂内 悟

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：1 授業コード：6L029090

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通し実践的な情報検索能力を身につける。

(2) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号（ハイフン、イコール、アスタリスク、スペース）の半角入力等、および、WindowsおよびInternet Explorerの基本的操作を確実にできるようにしておくこと。配布したプリントを毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する配布プリントのUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

使用しない。プリントを適宜 配布する。

参考書

担当教員：坂内 悟

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：1 授業コード：6L029091

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通し実践的な情報検索能力を身につける。

(2) 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

受講者に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号（ハイフン、イコール、アスタリスク、スペース）の半角入力等、および、WindowsおよびInternet Explorerの基本的操作を確実にできるようにしておくこと。配布したプリントを毎回持参すること。

学びのキーワード

- ・ 二次情報
- ・ 索引
- ・ 論理演算
- ・ OPAC
- ・ 雑誌記事

授業計画

01. 情報検索とは何か
02. データベースの構造と索引作成
03. 検索の基本方針、検索語とフィールド
04. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
05. 図書検索システム演習
06. 図書検索システム演習
07. 図書検索システム演習
08. 図書検索システム演習
09. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する配布プリントのUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 期末試験 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

教科書

使用しない。プリントを適宜 配布する。

参考書

担当教員：大谷 康晴

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L030000

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

情報資源は、図書館を構成する重要な要素です。多くのサービス業において自らの提供するサービス内容への深い理解が求められるのと同様に、図書館に関わる人には図書館における情報資源への深い知識が必要となります。| 以上の意義を踏まえこの授業では、以下の点を到達目標とします。|1) 図書館における情報資源の種類とその内容について説明できる|2) 出版流通について図書館に関わる部分について簡単に説明できる|3) コレクション形成に関する諸要素について説明できる|4) コレクション管理における諸業務について説明できる|

(2) 内容

図書館情報資源の概要・種類，図書館に係る範囲での出版流通，コレクション形成，コレクション管理について講義形式で解説していく

受講者に対する要望

第1回のガイダンスで詳細について説明いたしますので、必ず出席して確認をとってください

学びのキーワード

- ・ 図書館情報資源
- ・ 電子資料
- ・ コレクション形成
- ・ コレクション管理
- ・ 出版流通

授業計画

01. 授業ガイダンス
02. 図書館情報資源
03. 図書を中心とした印刷資料
04. 図書以外の印刷資料と非印刷資料
05. 電子資料
06. 灰色文献，政府刊行物，地域資料
07. 人文・社会科学分野の資料，自然科学・技術分野の資料
08. 出版流通
09. 図書館の「知的自由」
10. 蔵書論
11. 収集選択
12. 蔵書管理
13. 資料の組織化
14. 書庫管理
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストを良く読んでおいて予習すること

準備学習(復習)

講義内容と配布資料を確認して、知識を整理しておくこと

評価方法

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 試験 | 60% |
| (2) 授業への感想・コメント | 40% |

* 評価対象の前提として欠席は全授業回数3分の1以下とします

教科書

馬場俊明『図書館情報資源概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 111: 8)』(日本図書館協会) [978-4-8204-1217-5] |

参考書

講義時に随時紹介します

担当教員：榎本 裕希子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L031010

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要なとなる目録作業等に必要な基礎知識を身につけることを目標とする。

(2) 内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

受講者に対する要望

図書館の目録について関心がある者が受講することが望ましい。少なくとも、聖学院大学附属図書館のOPACを利用し、その機能を把握したうえで受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 目録規則
- ・ 記述目録法
- ・ 日本目録規則
- ・ 書誌情報
- ・ 書誌コントロール

授業計画

01. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
02. 情報資源組織化の意義と理論
03. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
04. 目録規則の歴史と動向 西洋編
05. 目録規則の歴史と動向 日本編
06. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
07. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
08. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（バリ原則を中心に）
09. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌的事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC, 集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ, 共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

準備学習(復習)

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

田窪直規編著『情報資源組織論』（樹村房）【978-4883672592】

参考書

担当教員：榎本 裕希子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L031011

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要となる目録作業等に必要な基礎知識を身につけることを目標とする。

(2) 内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

受講者に対する要望

図書館の目録について関心がある者が受講することが望ましい。少なくとも、聖学院大学附属図書館のOPACを利用し、その機能を把握したうえで受講してほしい。

学びのキーワード

- ・ 目録規則
- ・ 記述目録法
- ・ 日本目録規則
- ・ 書誌情報
- ・ 書誌コントロール

授業計画

01. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
02. 情報資源組織化の意義と理論
03. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
04. 目録規則の歴史と動向 西洋編
05. 目録規則の歴史と動向 日本編
06. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
07. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
08. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（バリ原則を中心に）
09. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌的事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC, 集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ, 共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

準備学習(復習)

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 80% |
| (2) 平常点 | 20% |

教科書

田窪直規編著『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）』（樹村房）【978-4883672592】

参考書

担当教員：長谷川 幸代

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L032020

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

必要な情報を探し出すために資料が秩序立てて分類されているという点は図書館の強みであり、利用者にとっての大きなメリットである。情報を組織することの意義を理解し、利用者が的確な情報を探し出せるような分類作業について理解することを目標とする。

(2) 内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。分類作業の意義、方法、歴史、基礎的な事柄について講義する。分類や主題組織に関連して、ファセット分析やシソーラス、索引法についても解説を行う。

受講者に対する要望

図書館が利用者のためにサービスを行うという意識を大事にしてください。また、教科書に複数回目を通し、用語などに慣れるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 分類
- ・ 情報資源組織
- ・ 主題組織

授業計画

01. 情報資源組織の意義
02. 主題組織法の意義
03. ファセット分析
04. 索引法
05. 分類法の原理と意義、分類法の種類と歴史
06. 日本十進分類法（NDC）概要
07. 日本十進分類法（NDC）構成要素
08. 分類規定、分類作業と所在記号
09. 分類作業の基礎
10. 自然語と統制語
11. シソーラス
12. 基本件名標目表（BSH）の概要
13. 基本件名標目表（BSH）の付与
14. ネットワーク情報資源の組織化
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書に目を通す。

準備学習(復習)

教科書、レジュメを読みなおす。指定された課題をこなす。参考文献に目をとおす。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 受講状況、レポート | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

田窪直規編著『改訂 情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）』2016.（樹村房）【978-4-88467-259-2】

参考書

担当教員：長谷川 幸代

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L032021

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

必要な情報を探し出すために資料が秩序立てて分類されているという点は図書館の強みであり、利用者にとっての大きなメリットである。情報を組織することの意義を理解し、利用者が的確な情報を探し出せるような分類作業について理解することを目標とする。

(2) 内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。分類作業の意義、方法、歴史、基礎的な事柄について講義する。分類や主題組織に関連して、ファセット分析やシソーラス、索引法についても解説を行う。

受講者に対する要望

図書館が利用者のためにサービスを行うという意識を大事にしてください。また、教科書に複数回目を通し、用語などに慣れるようにしてください。

学びのキーワード

- ・ 分類
- ・ 情報資源組織
- ・ 主題組織

授業計画

01. 情報資源組織の意義
02. 主題組織法の意義
03. ファセット分析
04. 索引法
05. 分類法の原理と意義、分類法の種類と歴史
06. 日本十進分類法（NDC）概要
07. 日本十進分類法（NDC）構成要素
08. 分類規定、分類作業と所在記号
09. 分類作業の基礎
10. 自然語と統制語
11. シソーラス
12. 基本件名標目表（BSH）の概要
13. 基本件名標目表（BSH）の付与
14. ネットワーク情報資源の組織化
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書に目を通す。

準備学習(復習)

教科書、レジュメを読みなおす。指定された課題をこなす。参考文献に目をとおす。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 受講状況、レポート | 50% |
| (2) 試験 | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

田窪直規編著『改訂 情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）』2016、(樹村房)【978-4-88467-259-2】

参考書

担当教員：榎本 裕希子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程

単位：1

授業コード：6L033030

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

『日本目録規則（NCR）』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ（記述や標目指示など）の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。

(2) 内容

「情報資源組織論（目録）」で得た知識をもとに、『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。

受講者に対する要望

事前に情報資源組織論（目録）を受講済みであることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 日本目録規則
- ・ 記述
- ・ 標目
- ・ 標目指示

授業計画

01. ガイダンス（講義概要）
02. 記述に関する総則（1）
03. 記述に関する総則（2）
04. 図書の記述（1）タイトルと責任表示に関する事項①
05. 図書の記述（2）タイトルと責任表示に関する事項②
06. 図書の記述（3）タイトルと責任表示に関する事項③
07. 図書の記述（4）版に関する事項、出版・頒布等に関する事項
08. 図書の記述（5）形態に関する事項、シリーズに関する事項
09. 図書の記述（6）注記に関する事項
10. 図書の記述（7）標準番号・入手条件に関する事項
11. 演習問題
12. 標目および標目指示（1）標目総則、タイトル標目
13. 標目および標目指示（2）著者標目、件名標目、分類標目
14. 演習問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。

準備学習(復習)

板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 90% |
| (2) 平常点 | 10% |

教科書

和中幹雄（ほか）共著『情報資源組織演習（JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-10）』（日本図書館協会）【978-4820415152】

参考書

担当教員：榎本 裕希子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：1 授業コード：6L033031

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

『日本目録規則（NCR）』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ（記述や標目指示など）の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。

(2) 内容

「情報資源組織論（目録）」で得た知識をもとに、『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。

受講者に対する要望

事前に情報資源組織論（目録）を受講済みであることが望ましい。

学びのキーワード

- ・ 日本目録規則
- ・ 記述
- ・ 標目
- ・ 標目指示

授業計画

01. ガイダンス（講義概要）
02. 記述に関する総則（1）
03. 記述に関する総則（2）
04. 図書の記述（1）タイトルと責任表示に関する事項①
05. 図書の記述（2）タイトルと責任表示に関する事項②
06. 図書の記述（3）タイトルと責任表示に関する事項③
07. 図書の記述（4）版に関する事項、出版・頒布等に関する事項
08. 図書の記述（5）形態に関する事項、シリーズに関する事項
09. 図書の記述（6）注記に関する事項
10. 図書の記述（7）標準番号・入手条件に関する事項
11. 演習問題
12. 標目および標目指示（1）標目総則、タイトル標目
13. 標目および標目指示（2）著者標目、件名標目、分類標目
14. 演習問題
15. まとめ

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。

準備学習(復習)

板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 試験 | 90% |
| (2) 平常点 | 10% |

教科書

和中幹雄（ほか）共著『情報資源組織演習』（日本図書館協会）【978-4820415152】

参考書

担当教員：三日市 紀子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：1 授業コード：6L034040

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

資料の分類とは、一定の秩序にもとづき、利用者がより利用しやすいように排列するためのものである。図書館における分類法のメリットを理解し、利用者のニーズにあった分類を行うことを目標とする。また、情報資源組織論で得た知識や理論をさらに深めていく。

(2) 内容

情報資源組織論(分類)で学んだ知識をもとに、具体的な分類作業の演習を行う。『日本十進分類法(NDC)』、『基本件名標目表(BSH)』を使用した作業を中心として、分類の歴史や主要な分類法について、さらに詳細な解説を行う。

受講者に対する要望

1. 「情報資源組織概説(分類)」を履修済みであること。|2. 毎回の授業において前回の内容を振り返るミニテストを行う予定なので、必ず復習しておくこと。|3. 初回の授業で授業の進め方について説明します。欠席のないようにしてください。|4. 授業中の不要な退室や、指示された時以外のスマートフォン使用はご遠慮ください。

学びのキーワード

- ・ 分類
- ・ 情報資源組織
- ・ 件名
- ・ 主題組織

授業計画

01. 基礎知識の確認・件名標目とは
02. 件名標目の付与 (1) 基本件名標目表(BSH)の概要と構成
03. 件名標目の付与 (2) 細目の種類と使用法
04. 件名標目の付与 (3) 一般件名規程
05. 件名標目の付与 (4) 特殊件名規程
06. 件名標目の付与 (5) これまでのまとめ
07. 分類記号の付与 (1) 日本十進分類(NDC)の構成
08. 分類記号の付与 (2) 主題の特定と関連索引
09. 分類記号の付与 (3) 形式区分
10. 分類記号の付与 (4) 地理区分・海洋区分
11. 分類記号の付与 (5) 言語区分・言語共通区分・文学共通区分
12. 分類記号の付与 (6) 総合問題演習1: 各類
13. 分類記号の付与 (7) 分類規程1: 複数主題、主題と主題との関係
14. 分類記号の付与 (8) 分類規程2: 主題と材料、原著作とその関連著作
15. まとめとフォローアップ

準備学習(予習)

指定された課題があればこなし、授業に臨んでください。

準備学習(復習)

レジュメや資料を読み返して、学んだことを整理しておいてください。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|-------------------------|
| (1) 課題提出・授業内ミニテスト | 50% | 授業内および授業外で課する課題(プリント)提出 |
| (2) 試験 | 50% | 60%以上の正解率であること |

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを前提条件とします。授業開始以降15分までの入室を遅刻とみなし、それ以降の入室は欠席とみなすので留意してください。

教科書

随時、プリントを配布します。

参考書

授業時に提示します。

担当教員：三日市 紀子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：1 授業コード：6L034041

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

資料の分類とは、一定の秩序にもとづき、利用者がより利用しやすいように排列するためのものである。図書館における分類法のメリットを理解し、利用者のニーズにあった分類を行うことを目標とする。また、情報資源組織論で得た知識や理論をさらに深めていく。

(2) 内容

情報資源組織論(分類)」で学んだ知識をもとに、具体的な分類作業の演習を行う。『日本十進分類法(NDC)』、『基本件名標目表(BSH)』を使用した作業を中心として、分類の歴史や主要な分類法について、さらに詳細な解説を行う。

受講者に対する要望

1. 「情報資源組織概説(分類)」を履修済みであること。|2. 毎回の授業において前回の内容を振り返るミニテストを行う予定なので、必ず復習しておくこと。|3. 初回の授業で授業の進め方について説明します。欠席のないようにしてください。|4. 授業中の不要な退室や、指示された時以外のスマートフォン使用はご遠慮ください。

学びのキーワード

- ・ 分類
- ・ 情報資源組織
- ・ 件名
- ・ 主題組織

授業計画

01. 基礎知識の確認・件名標目とは
02. 件名標目の付与 (1) 基本件名標目表(BSH)の概要と構成
03. 件名標目の付与 (2) 細目の種類と使用法
04. 件名標目の付与 (3) 一般件名規程
05. 件名標目の付与 (4) 特殊件名規程
06. 件名標目の付与 (5) これまでのまとめ
07. 分類記号の付与 (1) 日本十進分類(NDC)の構成
08. 分類記号の付与 (2) 主題の特定と関連索引
09. 分類記号の付与 (3) 形式区分
10. 分類記号の付与 (4) 地理区分・海洋区分
11. 分類記号の付与 (5) 言語区分・言語共通区分・文学共通区分
12. 分類記号の付与 (6) 総合問題演習1：各類
13. 分類記号の付与 (7) 分類規程1：複数主題、主題と主題との関係
14. 分類記号の付与 (8) 分類規程2：主題と材料、原著作とその関連著作
15. まとめとフォローアップ

準備学習(予習)

指定された課題があればこなし、授業に臨んでください。

準備学習(復習)

レジュメや資料を読み返して、学んだことを整理しておいてください。

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|-------------------------|
| (1) 課題提出・授業内ミニテスト | 50% | 授業内および授業外で課する課題(プリント)提出 |
| (2) 試験 | 50% | 60%以上の正解率であること |

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを前提条件とします。授業開始以降15分までの入室を遅刻とみなし、それ以降の入室は欠席とみなすので留意してください。

教科書

随時、プリントを配布します。

参考書

授業時に提示します。

担当教員：黒沢 克朗

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L035000

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

授業では、読書の意義や読書観の変遷を振り返るとともに長い間読み継がれてきた児童書の種類や特性、また児童書の新しい試みや出版動向などを分析し、実際に絵本を手にとり選定を行うなどの体験を通しながら、現在に生きる子どもの要望を組み入れた蔵書構成の考え方について学ぶ。

(2) 内容

子どもの本の現状、選書の重要性を柱として実践体験を基にして講義を展開させたい。

受講者に対する要望

子どもの本の現状、選書の重要性、について受講生の子どもの時代と照らし合わせながら、理解してほしい。

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 子ども
- ・ 児童書

授業計画

01. 児童資料とは 「図書館の自由に関する宣言」について児童資料では
02. 児童図書の出版状況 最近の児童書の特徴
03. 児童書の種類と特性 絵本
04. 児童書の種類と特性 児童文学 幼年
05. 児童書の種類と特性 ことば遊び・詩の本
06. 児童書の種類と特性 ノンフィクション
07. 児童書の種類と特性 視聴覚資料 その他
08. 児童の収集方針 蔵書構成
09. 絵本を選ぶ
10. 絵本を評価してみよう 1
11. 絵本を評価してみよう 2
12. レビュースリップを書いてみよう
13. 図書館の日常業務と資料
14. 資料提供サービス
15. まとめ

準備学習(予習)

課題については、事前に調査し、締切日を厳守すること。
詳細は授業内で指示をする。

準備学習(復習)

講義のなかで紹介した本は、目を通すこと。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 科目修得試験 | 30% |

教科書

堀川 照代『児童サービス論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-6)』(日本図書館協会) [978-4820413158]

参考書

担当教員：吉田 隆

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L036010

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

図書館・図書館員の仕事は利用者サービスが大前提である。利用者にとって心地よいサービスを提供をする上での知識と技法を学ぶ。

(2) 内容

①図書館情報資源を分野別に理解する。②図書館利用者サービスを複眼的に把握する。

受講者に対する要望

教科書の予習と復習が必要不可欠。

学びのキーワード

- ・ 図書館サービス
- ・ 図書館情報資源
- ・ 図書館間相互協力
- ・ 著作権法
- ・ 蔵書構築

授業計画

01. ガイダンス：図書館のめざすもの
02. 図書館は民主主義を維持します|
03. 図書館は社会の壁を打ち破ります
04. 図書館は社会的不公平を改めるための地ならしをします
05. 図書館は一人ひとりを大切にします
06. 図書館は創造性を育てます
07. 図書館は若い心を開きます
08. 図書館は大きな見返りを提供します
09. 図書館はコミュニティをつくります
10. 図書館は家庭を支えます|
11. 図書館は、情報機器を使う能力と考え方を育てます
12. 図書館は心の安らぎの場を提供します
13. 図書館は過去を保存します
14. 図書館の評価
15. 図書館サービス特論の課題と展望

準備学習(予習)

事前の予習。具体的な方法は授業時に指示する。

準備学習(復習)

事後の復讐。配布資料をノートに要約すること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 課題 | 20% |
| (3) 試験 | 60% |

教科書

竹内さとの『図書館のめざすもの 新版』（日本図書館協会）【978-4820414100】

参考書

担当教員：三日市 紀子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L037020

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

図書館情報資源に関する各種のトピックについて、各自が理解を深める。各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料・データベースが理解できることを望んでいる。

(2) 内容

「図書館情報資源概論」で学んだ内容の中から、幾つかのトピックを取り上げて、さらに理解を深める。授業進行としては、それぞれのトピックについて概観したのち、各自にレポート課題を割り当てるので、後日それについての発表を行うこととなる。他の人も含めて、トピックの全体的な理解を目指すので、自分が発表するだけでなく、他の人の発表を聞くことも重要である。トピックとしては、人文、社会、自然科学のそれぞれの情報や資料、図書館資料の情報源、収集方針や地域資料、行政資料などを取り上げる。課題を頻繁に課する予定なので、意欲のある人の受講を期待する。

受講者に対する要望

1. 図書館で扱う情報資源について、基本的な事項を理解済みのものとして授業を進めます。図書館情報資源概論や図書館概論を履修済みであることが望ましいです（義務付けるものではありませんが、これらの基礎知識のない方は相応の学習が求められます）。2. 授業の中で、グループでの討論や発表活動を行う場合があります。各自協力して取り組んでください。3. 初回の授業で授業の進め方について説明します。欠席のないようにしてください。4. 授業中の不要な退室や、指示された時以外のスマートフォン使用はご遠慮ください。

学びのキーワード

授業計画

01. 図書館情報資源とは：前提となるキーワード
02. 電子資料：デジタルアーカイブの事例と課題（1）概要
03. 電子資料：デジタルアーカイブの事例と課題（2）事例発表
04. 学術コミュニケーションへのアクセスと利用、書誌コントロール
05. オンラインデータベース、電子出版、電子ジャーナル
06. インターネットと学術情報
07. 人文科学の諸分野、情報生産・流通
08. 人文社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
09. 社会科学の諸分野、情報生産・流通
10. 社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
11. 自然科学の諸分野、情報生産・流通
12. 自然科学の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
13. 生活の諸分野、情報生産・流通
14. 生活分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
15. まとめ

準備学習(予習)

課題や予習キーワードの下調べなどをこなして、授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業で触れた内容を振り返り、思考を整理してください。|（適宜、レポート課題を課することもあります）

評価方法

- | | | |
|-------------------|-----|-------------------------|
| (1) 試験 | 50% | 50%以上の正解率が求められる。 |
| (2) 課題提出・授業内ミニテスト | 50% | 授業内および授業外で課する課題（レポート）提出 |

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを前提条件とします。授業開始以降15分までの入室を遅刻とみなし、それ以降の入室は欠席とみなすので留意してください。基本的には、欠席をしないことが望ましい。

教科書

随時、プリントを配布します。

参考書

授業時に提示します。

担当教員：若松 昭子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：6L038030

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。

(2) 内容

情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人々の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。

受講者に対する要望

授業への積極的な参加を望む。授業に関連する施設見学や、展示会等の観覧を課すことがある。
|1. 資格取得者優先|2. 人数制限をすることもある

学びのキーワード

- ・ 情報メディア
- ・ 図書
- ・ 図書館
- ・ 書物

授業計画

01. 情報メディア史の意義
02. 文字・記録のはじまり
03. 粘土板と古代の図書館
04. パピルスからパーチメントへ
05. 中世の書物文化と修道院図書館
06. 大学の誕生と書物
07. 印刷術の発明と普及
08. 読書様式の変化
09. 国家形成と国立図書館
10. コーヒーハウスと貸本屋
11. 公共図書館の誕生
12. コンピュータと図書館
13. 日本の図書館と書物文化 (1)
14. 日本の図書館と書物文化 (2)
15. まとめとディスカッション

準備学習(予習)

教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------------|
| (1) 試験 | 50% | 試験に代わるレポートあり |
| (2) 小課題 | 20% | |
| (3) 授業参加状況 | 30% | 授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる

教科書

ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一『本の歴史（「知の再発見」双書）』（創元社）【978-4422211404】

参考書

担当教員：小川 三和子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L050010

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。

(2) 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。

受講者に対する要望

講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。

学びのキーワード

- ・ 学習センター・情報センター・読書センター
- ・ 学校図書館経営
- ・ 学校図書館メディア
- ・ 学校教育
- ・ 知識基盤社会

授業計画

01. 学校図書館の意義と理念、役割
02. 学校図書館の歴史
03. 学校図書館の国際的な動向
04. 教育行政と学校図書館
05. 図書館ネットワーク
06. 学校図書館経営
07. 学校図書館経営
08. 学校図書館の施設・設備
09. 司書教諭の任務と職務
10. 学校図書館メディアの構成
11. 学校図書館メディアの選択・収集
12. 学校図書館メディアの管理・提供
13. 学校図書館活動
14. 評価試験
15. さまざまな図書館・まとめ

準備学習(予習)

学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として理解したことと、今後も考察していくべきこととを明確にする。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--------------------|
| (1) 提出物 | 50% | |
| (2) 評価テスト | 30% | 14回目に行い、最終回に解説をする。 |
| (3) 関心・意欲 | 20% | 私語・居眠りのないように。 |

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。

教科書

なし。プリント配布。

参考書

小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015.10 1800円＋税

担当教員：若松 昭子

学期：秋学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L051020

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。

(2) 内容

学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効率的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。
||

受講者に対する要望

授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくるのが重要です。

学びのキーワード

- ・ 学校図書館
- ・ 学校図書館メディア
- ・ メディア構成
- ・ 資料組織

授業計画

01. 学校図書館メディアの種類
02. メディアの選択と収集
03. 開架式と配列
04. 分類（1）NDCの構成と特徴
05. 分類（2）補助表とその働き-1
06. 分類（3）補助表とその働き-2
07. 分類（4）分類規程
08. 図書記号と別置記号
09. 件名標目表
10. 目録（1）目録の歴史と種類
11. 目録（2）アクセスポイント
12. 目録（3）NCRと記述の実際
13. 機械化と標準化
14. 書誌ユーティリティとネットワーク
15. まとめと総合演習

準備学習(予習)

教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

与えられた課題をきちんとやってくること。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|-----------------------|
| (1) 試験 | 40% | 試験に代わるレポートになる場合もあり |
| (2) 小課題 | 30% | |
| (3) 授業参加状況 | 30% | 授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。

教科書

『シリーズ学校図書館学』編集委員会『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）【978-4793322433】

参考書

担当教員：米谷 茂則

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：6L052030

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

(2) 内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。| 司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

受講者に対する要望

小学校免許取得の場合は国語科又は社会科の指導法科目を、中学・高校免許取得の場合は免許教科指導法科目を先に履修しているか、この科目と並行して履修していることが望ましい。

学びのキーワード

- ・教育課程の展開
- ・情報活用能力の育成
- ・調べ学習の学習過程
- ・学校図書館機能の活用
- ・司書教諭の専門性

授業計画

01. 児童生徒の学校図書館機能活用と読書についての現状理解
02. 教育課程の展開と学校図書館
03. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
04. 情報活用能力の育成、その計画と指導方法
05. 調べ学習、課題学習、課題研究の一般的な学習過程
06. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の体験の発表と実践例の提示
07. 引用指導および調べ学習における自分の考えの形成に関する指導内容
08. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
09. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 現行教科書における調べ学習、課題学習、課題研究の例示／アクティブラーニングレポートの説明
11. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで
12. マンガ読書からマンガ読書学習へ／学習指導案の事前提出
13. 特別支援学校における読書活動、調べ学習の実際
14. アクティブラーニングレポートの発表／学習指導案の検討
15. 学校図書館年間計画の例示／司書教諭の仕事とその専門性／ 【学習指導案の提出】

準備学習(予習)

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。アクティブラーニングレポートの作成をすること。指導案の構想メモにもとづいて学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。

評価方法

- | | | |
|--------------------------|-----|---|
| (1) 発表等 | 20% | 授業において中学校、中学校、高等学校での調べ学習などの発表をこなす。特に本職の授業にて発表があるため、積極的に対応すること。 |
| (2) アクティブラーニングレポートの作成と発表 | 10% | 中学校、高等学校、文部科学省が実施している学校などで、調べ学習、課題学習、課題研究に実践的に取り組んでいる学校でレポートする。 |
| (3) 学習指導案の作成 | 60% | 学習指導案の作成について細かく指導する。指導案検討を経て、個別指導もおこなう。評価基準は第8回にて示す。 |
| (4) 平常点：授業における取組 | 10% | 真面目さを要求する。ノートをとること、資料を配布した場合は、資料への書き込みをいき、ファイルしていくこと。 |

第1回は必ず出席のこと。第1回を含め12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。出席条件を満たし、最終課題を提出したことで単位が認定されるということではない。

教科書

参考書

必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

担当教員：小川 三和子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L053040

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。

(2) 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。

受講者に対する要望

作業や体験、実習、討論などを多く取り入れるので、進んで学習に取り組み、欠席した場合は、出席者に必ず授業内容や次の授業の準備等を確認しておくこと。

学びのキーワード

- ・学校図書館
- ・読書センター・学習センター・情報センター
- ・読書の指導・読書活動
- ・学校教育
- ・司書教諭の役割

授業計画

01. 読書の意義と目的・多様な読書資料
02. 発達段階に応じた読書指導
03. 読書環境の整備と読書材の提供
04. 読書環境の整備と読書材の提供・ポップ作り
05. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ブックトーク等
06. 児童・生徒と本を結ぶための方法・読み聞かせ
07. 児童・生徒と本を結ぶための方法・アニメーション・読書会
08. 全校で取り組む読書活動
09. 各教科等での読書の指導
10. 探究的な学習と読書の指導
11. 学校経営と学校図書館、読書活動の推進
12. 読書活動推進のための連携
13. 児童・生徒と本を結ぶための方法・ビブリオバトル
14. 評価試験
15. 個に応じた読書の指導

準備学習(予習)

多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。ビブリオバトルを行うので、大学生としても豊かな読書生活を送ること。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。

評価方法

- | | | |
|--------------|-----|-------------------|
| (1) 演習・関心・意欲 | 30% | 演習への取り組み、授業態度等。 |
| (2) 提出物 | 30% | |
| (3) 評価試験 | 40% | 第14回に行い、最終に解説を行う。 |

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物、演習、評価試験とを併せ、総合的に評価する。授業態度も評価の対象とする。

教科書

小川三和子「読書の指導と学校図書館」青弓社2015. 10 1800円＋税『読書の指導と学校図書館青弓社』（青弓社）【978-4787200563】

参考書

担当教員：長谷川 幸代

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：6L054050

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】学校図書館司書教諭資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、効果的な情報提供ができることを目標とする。また、効果的なメディアの利用について発案する力を養う。

(2) 内容

社会全般、学校図書館における、さまざまなメディアと資料活用の意義と方法について学ぶ。効果的なメディア利用について考え、受講者それぞれのアイデアを共有していく。現代社会における情報の取り扱いの諸問題についても学ぶ。毎回授業では、前半に解説を行い、後半では各自がテーマについて自分なりの考えをまとめる。また、実際にデータベースを利用し、メディア利用に関する情報の検索を行ったり、効果的な資料・情報のアピールについて実践する。

受講者に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。信頼できる情報を選択するスキルを身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 学校図書館
- ・ 情報メディア
- ・ 司書教諭

授業計画

01. 情報メディアの概要と歴史
02. 教育における情報メディアの活用
03. 情報メディアの種類と特性
04. 情報メディアの選択と管理
05. コンピュータの教育利用（1）
06. コンピュータの教育利用（2）
07. インターネットの概要と利用
08. データベースの利用
09. メディアを利用した教育の促進（1）基本
10. メディアを利用した教育の促進（2）応用
11. メディアとコミュニケーションの理論
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. さまざまなメディアと諸問題

準備学習（予習）

教科書に目を通す。

準備学習（復習）

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内課題 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

3分の2以上の出席が必須です。

教科書

シリーズ学校図書館編集委員会・編『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）【978-4793322464】

参考書

社会教育主事課程

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C301205

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目） | 【E】人と社会の理解・人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【F】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

(2) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。またグループでの発表、話し合いも行う。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 行動変容としての学習の基礎
06. 行動変容としての学習の応用
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 乳幼児の有能さ
11. 認知発達と学習
12. パーソナリティと社会性の発達
13. 特別な支援の必要な子ども
14. 個人差の測定と評価
15. 総括（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、あらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業での課題、発表の内容について自ら整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学第4版』（有斐閣）【978-4641220591】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目 単位：1 授業コード：1C301215

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける | 【D】中・高等学校教諭一種免許状（教職に関わる科目） | 【E】人と社会の理解・人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける | 【F】人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【C】小学校教諭一種：必修科目 | 【C】幼稚園教諭一種：必修科目 | 【C】保育士資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

(2) 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。またグループでの発表、話し合いも行う。

受講者に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの発表、討論等を行うので積極的な参加を望む。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の基礎としての記憶
03. 知識獲得としての学習
04. 問題解決としての学習
05. 行動変容としての学習の基礎
06. 行動変容としての学習の応用
07. 学習への動機づけ
08. 成熟と学習
09. 初期学習
10. 乳幼児の有能さ
11. 認知発達と学習
12. パーソナリティと社会性の発達
13. 特別な支援の必要な子ども
14. 個人差の測定と評価
15. 総括（フィードバックを含む）

準備学習(予習)

授業時にキーワード等を指示するので、あらかじめ調べておく。

準備学習(復習)

授業での課題、発表の内容について自ら整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と小レポート | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学第4版』（有斐閣）【978-4641220591】

参考書

担当教員：鎌原 雅彦

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1C301320

学部教育の関連目

【C】子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【C】小学校教諭一種：必修科目

(1) 学びの意義と目標

学びの意義と目標 | 教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目標とする。

(2) 内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

受講者に対する要望

あらかじめ問題を課すので、積極的に調べて、授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・学習
- ・発達

授業計画

01. オリエンテーション
02. 学習の理論
03. 記憶
04. 学習法
05. 動機づけ
06. 教授学習
07. 発達の原理
08. 発達段階
09. 初期学習
10. 人格
11. 適応
12. 精神衛生
13. 知能
14. 教育評価
15. 総括

準備学習(予習)

予め配布する資料について調べておく。

準備学習(復習)

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 平常点と発表 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：加藤 敦也

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：2 授業コード：1P602010

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

授業の意義と目標は、受講者がジェンダー論を学ぶことにより、性に関するステレオタイプの発想で生じる諸問題とジェンダーの不平等について理解できるようになることである。受講者には、自らが経験している日常生活の様々な場面にジェンダーの問題が深くかかわっていることを理解してもらいたい。また、ジェンダーにとらわれない諸個人のライフスタイルの多様性を理解してもらうことも目標とする。

(2) 内容

女／男という区分は、生物学や医学、脳科学などの説明に還元しきれるものではなく、社会的な文脈に応じて意味が変わると考えるのがジェンダー論である。本講義では主に男性のあり方が構築される社会的文脈に焦点を当て、男性ジェンダーの問題について、家族、教育、労働、恋愛／性愛、服装や美の基準といったテーマを事例としながら説明していく。

受講者に対する要望

講義形式のため、私語は慎んでほしい。ただし、ジェンダー論の扱う問題は日常生活で抱く身近な問題関心に結びつきやすいため、授業に関連のある内容であれば、発言を促すこともある。意欲的な態度で授業に参加してほしい。

学びのキーワード

- ・ジェンダー
- ・男性学
- ・セクシュアリティ
- ・家族
- ・人権

授業計画

01. イントロダクション：ジェンダーとは何か？
02. 性別役割分業について
03. 男性学・メンズリブ
04. 就労・雇用をめぐるジェンダー格差とジェンダー規範（「フリーター」、「ニート」現象に見られるジェンダー問題）
05. 異性愛男性の恋愛意識の変化について（「草食系男子」を事例として）
06. ポルノグラフィの是非について
07. ゲイ・クィアスタディーズ
08. 同性婚とパートナーシップ制度について
09. 男性の家事・育児参加について
10. DV・デートDV（ジェンダーの観点から）
11. 「男男間」暴力（教育空間を事例として）
12. ポピュラー文化と男らしさ（ロック・ミュージック、スポーツにおける男らしさの表象を例として）
13. ファッションとジェンダー（男性向けファッション雑誌を事例として）
14. 女らしさ・男らしさのゆくえ（日本社会の未婚化・晩婚化について）
15. ジェンダー論のまとめ

準備学習(予習)

各授業タイトルに関連するキーワードを書誌文献またはインターネット等で予め調べておくことを推奨する。なお、ジェンダー論の入門書はたくさんあるので、読みやすいものを読んでおくことで学習効果がより高くなる。

準備学習(復習)

板書内容をまとめたノートを見直し、要点を整理したうえで、分かりにくい専門用語、キーワードについては入門書や辞典、あるいは授業で紹介する文献を読み、意味を正確に理解できるようにすることが望まれる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30点 |
| (2) 定期試験 | 70点 |

授業の平常点と定期試験の得点を総合的に加味して評価する。なお、授業では毎回コメントペーパーを書いてもらい、優れたコメントを書いたものは受講生名で読み上げ、加点することがある。ただし、総合点の上限を100点とする。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜指示する。| 分かりやすい入門書としては、次の文献を薦めておく。| ①加藤秀一・海老原暁子・五田仁、2005、『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社。| ②千田有紀・中西祐子・青山薫、2013、『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。| また、男性学の参考文献としては、次の文献を薦めておく。| ①伊藤公雄、1996、『男性学入門』作品社。| ②多賀太、2006、『男らしさの社会学——揺らぐ男のライフコース』世界思想社。| ③田中後之、2009、『男性学の新展開』青弓社。

担当教員：渡辺 英人

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：4 授業コード：1P701220

学部教育の関連目

【P】獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】経済経営コース：自由科目 | 【P】情報コミュニケーションコース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぼう。

(2) 内容

現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

受講者に対する要望

各種資格試験、就職試験でも必ず役に立つ内容である。積極的に学ぶこと。

学びのキーワード

- ・ 社会における情報
- ・ 情報化社会に生きる
- ・ 法、政治、経済、生活と情報

授業計画

01. 現代社会と情報(1)
02. 現代社会と情報(2)
03. 情報と職業(国内)(1)
04. 情報と職業(国内)(2)
05. 行政と情報(1)
06. 行政と情報(2)
07. 企業活動と情報(1)
08. 企業活動と情報(2)
09. 情報の収集、蓄積、再利用(1)
10. 情報の収集、蓄積、再利用(2)
11. インターネット・ビジネス(1)
12. インターネット・ビジネス(2)
13. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
14. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
15. 課題作成(1)
16. 課題作成(2)
17. 情報と職業(海外)(1)
18. 情報と職業(海外)(2)
19. 情報化社会の諸問題2(1)
20. 情報化社会の諸問題2(2)
21. 情報化社会の諸問題(1)
22. 情報化社会の諸問題(2)
23. 情報化社会の将来予測(1)
24. 情報化社会の将来予測(2)
25. 課題作成(1)
26. 課題作成(2)
27. 情報化社会とマスメディア(1)
28. 情報化社会とマスメディア(2)
29. 課題作成(1)
30. 課題作成(2)

準備学習(予習)

前週までにテーマと資料を提供するので、予習および復習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートをもとにして、清書ノートを作成すること。

評価方法

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 授業への積極的参加、発言など | 40% |
| (2) 課題作成 | 30% |
| (3) 試験 | 30% |

教科書

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00111

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につなげる事項の理解を目指す。

(2) 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

受講者に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

学びのキーワード

- ・ 社会教育の理念
- ・ 生涯教育・生涯学習
- ・ 生涯発達論
- ・ 発達課題
- ・ 学歴社会の是正

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
03. 社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
04. 生涯教育の理念(1)
05. 生涯教育の理念(2)
06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ(何がちがうのか?)
07. 生涯教育の理念と社会背景(1)(各国の生涯教育の事情)
08. 生涯教育の理念と社会背景(2)(わが国の教育改革と生涯学習体系への移行)
09. 生涯教育の理念と社会背景(3)(急激な社会変化への適応)
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)(平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題)
11. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か?)
12. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など)
13. 生涯教育の理念への批判
14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』(樹村房)【978-4883672301】

参考書

担当教員：安齋 聡子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00212

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目【P】公務員試験対策プログラム科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育から生涯学習の時代へと、今日いわれるところの生涯学習振興政策がどのような経緯から生まれて来たのか、また生涯学習社会の実現に向けて、今日の社会教育施設に求められる教育的機能について理解することを目標とします。

(2) 内容

本講義では第1に、我が国戦後の社会教育の理念について学びます。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年代半ば以降の教育答申等の内容を通して捉えます。第3に、社会教育施設として設置された、公民館、公共図書館、博物館活動について成り立ちと機能について取り上げ、生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズや、まちづくりとの関連において21世紀に求められる諸機能と課題について展望していきます。|社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられています。|資格取得を目指さない学生の受講も歓迎します。|

受講者に対する要望

今日の社会の中にある、生涯学習の現場に関心を注ぎながら、そして自身の学習体験と照らし合わせながら講義に臨んでください。

学びのキーワード

- ・ 社会教育
- ・ 生涯学習
- ・ 公民館とまちづくり
- ・ 博物館
- ・ 社会教育施設の今日的課題

授業計画

01. 教育の民主化と社会教育
02. 教育基本法・社会教育法と社会教育
03. 社会教育から生涯学習の理念へ (1) 何が新たな展開として出現したか
04. 社会教育から生涯学習の理念へ (2) 生涯学習と社会教育の違いとは?
05. 生涯学習振興と公民館 (1) 公民館の成り立ちから今日へ
06. 生涯学習振興と公民館 (2) 公民館とコミュニティ
07. 生涯学習振興と公民館 (3) 学習機会の設定に関する理論 (学習要求と必要課題の視点から)
08. まちづくりと公民館活動 (特色ある公民館活動の紹介)
09. 自分の住んでいるまちの公民館を調べてみよう
10. 私の暮らしているまちの地域課題 (調べた結果の紹介)
11. 生涯学習振興と博物館 (1) 博物館の成り立ち
12. 生涯学習振興と博物館 (2) 博物館・学校・地域との連携事業
13. まちづくりと博物館 (特色ある博物館活動の紹介)
14. 指定管理者制度と社会教育施設をめぐる議論
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの指定範囲を事前に読みこんで、毎回の授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させてください。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内応答 | 60% |
| (2) 試験 | 40% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』(樹村房)【978-4883672301】

参考書

担当教員：安齋 聡子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00321

<p>学部教育の関連目</p> <p>【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. ガイダンス 02. 社会教育の概念 03. 社会教育計画の概念（1） 04. 社会教育計画の概念（2） 05. 社会教育における地域 06. 社会教育における施設 07. 社会教育における集団（1） 08. 社会教育における集団（2） 09. 社会教育におけるボランティア（1） 10. 社会教育におけるボランティア（2） 11. 社会教育における参加（1） 12. 社会教育における参加（2） 13. 社会教育における学習プログラム（1） 14. 社会教育における学習プログラム（2） 15. まとめ 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p> <p>【全】社会教育主事任用資格：必修科目 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>事前に資料を配布します。それらに目を通してきてください。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とします。また、すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とします。</p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>この授業では、秋学期の「社会教育計画B」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を確認するとともに、一緒に考えていく授業とします。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていきます。</p>	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 授業内応答</td> <td>60%</td> <td><small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握するために行います。この割合は授業内容の理解度を評価するための目安です。</small></td> </tr> <tr> <td>(2) 期末試験</td> <td>40%</td> <td>15回目の授業内で実施します。</td> </tr> </table>	(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握するために行います。この割合は授業内容の理解度を評価するための目安です。</small>	(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。
(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握するために行います。この割合は授業内容の理解度を評価するための目安です。</small>					
(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。					
<p>受講者に対する要望</p> <p>授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p> <p>社会教育の基礎—転形期の社会教育を考える（講座 転形期の社会教育Ⅰ）、2015、学文社【978-4-7620-2511-2】</p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習 ・社会教育 ・社会教育施設 ・社会教育行政 							

担当教員：安齋 聡子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00422

<p>学部教育の関連目</p> <p>【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. 社会教育における学習者（1） 02. 社会教育における学習者（2） 03. 社会教育における学習支援（1） 04. 社会教育における学習支援（2） 05. 社会教育における学習情報 06. 社会教育における大学 07. 社会教育における連携（1） 08. 社会教育における連携（2） 09. 社会教育における評価（1） 10. 社会教育における評価（2） 11. 社会教育行政の変遷 12. 社会教育計画をめぐる課題（1） 13. 社会教育計画をめぐる課題（2） 14. 社会教育計画をめぐる課題（3） 15. まとめ 						
<p>カリキュラム上の位置付け</p> <p>【全】社会教育主事任用資格：必修科目 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目</p>	<p>準備学習(予習)</p> <p>事前に資料を配布します。それらに目を通してきてください。</p>						
<p>(1) 学びの意義と目標</p> <p>社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とします。 また、すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とします。 </p>	<p>準備学習(復習)</p> <p>各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。</p>						
<p>(2) 内容</p> <p>この授業では、春学期の「社会教育計画A」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を確認するとともに、一緒に考えていく授業とします。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていきます。</p>	<p>評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 授業内応答</td> <td>60%</td> <td><small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握し、必要に応じて授業内容を調整します。</small></td> </tr> <tr> <td>(2) 期末試験</td> <td>40%</td> <td>15回目の授業内で実施します。</td> </tr> </table>	(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握し、必要に応じて授業内容を調整します。</small>	(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。
(1) 授業内応答	60%	<small>授業中随時実施し、授業内容の理解度を把握し、必要に応じて授業内容を調整します。</small>					
(2) 期末試験	40%	15回目の授業内で実施します。					
<p>受講者に対する要望</p> <p>授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。</p>	<p>教科書</p> <p>参考書</p> <p>社会教育の基礎—転形期の社会教育を考える（講座 転形期の社会教育Ⅰ）、2015、学文社【978-4-7620-2511-2】</p>						
<p>学びのキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習 ・社会教育 ・社会教育施設 ・社会教育行政 							

担当教員：安齋 聡子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00531

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる、社会教育行政と多様な主体との連携に関する知見を得ることを目標とします。すべての受講生においては、生涯学習・社会教育がどのように進められているのかその具体を把握し、自らに関わることでして考えられるようになることを目標とします。

(2) 内容

この授業では、社会教育行政と一般行政、企業やNPO等の民間、市民、高等教育機関等との連携のあり方や課題等について確認していきます。

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育における連携の意味
03. 社会教育行政と一般行政（1）
04. 社会教育行政と一般行政（2）
05. 社会教育と学校
06. 社会教育と地域
07. 社会教育と社会福祉
08. 社会教育と市民活動（1）
09. 社会教育と市民活動（2）
10. 社会教育と企業活動
11. 社会教育におけるコーディネーション
12. 社会教育と地域振興（1）
13. 社会教育と地域振興（2）
14. 社会教育と学校教育の制度的検討
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの指定範囲を事前に読みこんで、毎回の授業に臨んでください。

準備学習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内応答 | 60% | <small>授業中の発言や質問に対する回答、グループディスカッションの参加状況、レポートの提出状況等を評価します。</small> |
| (2) 期末試験 | 40% | 15回目の授業内で試験を実施します。 |

受講者に対する要望

授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。

学びのキーワード

- ・生涯学習
- ・社会教育
- ・市民活動
- ・ボランティア

教科書

社会教育の連携論—社会教育の固有性と連携を考える（講座 転形期の社会教育Ⅱ）. 2015. 学文社 | [978-4-7620-2512-9]

参考書

担当教員：安齋 聡子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00632

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる、社会教育における多様な学習機会に関する知識を身につけることを目標とします。|すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とします。

(2) 内容

社会教育施設における学習機会とそれぞれの特徴、課題を整理します。|それらの具体的な活動について、受講者自身で資料収集をおこない、テーマを設定した上で、実際に任意の施設を利用して、レポートの作成と授業内での報告を行っていただきます。

受講者に対する要望

授業内報告以外にも、皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。

学びのキーワード

- ・生涯学習
- ・社会教育
- ・学習機会
- ・社会教育施設

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育施設における学習機会 (1)
03. 社会教育施設における学習機会 (2)
04. 社会教育施設における学習機会 (3)
05. 社会教育施設における学習機会 (4)
06. 社会教育施設における学習機会 (5)
07. 授業内報告 (1)
08. 授業内報告 (2)
09. 授業内報告 (3)
10. 授業内報告 (4)
11. 授業内報告 (5)
12. 授業内報告 (6)
13. 授業内報告 (7)
14. 授業内報告 (8)
15. まとめ

準備学習(予習)

事前に資料を配布します。それらに目を通してきてください。|授業内報告についての具体的な方法については授業内で説明します。

準備学習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内応答 | 30% | <small>授業内報告の発表時間と発表内容の質を評価します。発表内容が不明確な場合は、授業内で質問を投げかけ、その場で確認を行います。</small> |
| (2) 授業内報告 | 40% | 原則1人1回の報告とします。 |
| (3) 期末試験 | 30% | 15回目の授業内で実施します。 |

教科書

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00741

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【C】今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として(或いは一個人として)、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

(2) 内容

1. 内容 | 本講義では、日本社会における高齢化の実態と高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学の理論について論じることとする。また、高齢期の人間が直面する課題とそれを解決するためにどのような教育実践が今日展開されているのかについても紹介する。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。|| 2. カリキュラム上の位置づけ | 資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。

受講者に対する要望

遅刻、無断欠席は厳禁とする。

学びのキーワード

- ・ 少子高齢化
- ・ 老年学
- ・ 成人の学習理論
- ・ ジェロロジー
- ・ 加齢と知能

授業計画

01. 日本社会の高齢化の状況と将来推計
02. 戦前の高齢者の社会的地位(家長制度、尊属優位の民法規定)
03. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷
04. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張(活動理論と離脱理論等)
05. 生涯発達理論について
06. 加齢と知的能力(1)
07. 加齢と知的能力(2)
08. 高齢期の発達と危機(高齢期の発達課題)
09. 高齢期の発達と危機(高齢期の生活課題)
10. 高齢者の特性を活かした教育学(gerogogy)の理論
11. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法
12. 高齢者の学習関心・学習要求(1)
13. 高齢者の学習関心・学習要求(2) |
14. 高齢者を対象とする特色ある教育実践の紹介
15. まとめ

準備学習(予習)

講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。

準備学習(復習)

毎回、授業の講義ノートの整理をすること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 25% |
| (3) 試験 | 50% |

教科書

堀薫夫・三輪建二『生涯学習と自己実現』(放送大学教育振興会)【978-4595306143】

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00842

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける | 【C】今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目 | 【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

(2) 内容

1. 内容 | 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題(死・病、対象喪失などをめぐる課題)を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。|| 2. カリキュラム上の位置づけ | 資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。||

受講者に対する要望

本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。

学びのキーワード

- ・ 青少年期の発達特性
- ・ ポストモダン
- ・ 奉仕活動の義務化
- ・ シティズンシップ教育
- ・ 生と死の準備教育

授業計画

01. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
02. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
03. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
04. 非行原因論の系譜（1）
05. 非行原因論の系譜（2）
06. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
07. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
08. 学校教育における奉仕活動の必修化をどう考えるか（協議）
09. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ
10. わが国における「死の準備教育」提唱の背景とその内容
11. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」をめぐる議論について
12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果
13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育－実践事例の紹介－」
15. まとめ

準備学習(予習)

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

準備学習(復習)

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 25% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 25% |
| (3) レポート点 | 50% |

教科書

参考書

講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

担当教員：安齋 聡子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：選択科目/資格課程 単位：2 授業コード：1PF00910

学部教育の関連目

【P】資格等の習得に必要な知識と技術を身につける

カリキュラム上の位置付け

【P】地域共生(まちづくり)コース：自由科目

(1) 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる社会教育施設の役割や活動、運営上の諸課題等に関して知見を得ることを目標とします。|すべての受講生においては、社会教育施設をめぐる現状を把握し、社会教育そのものについて自ら考えられるようになることを目標とします。|受講者自身がそれぞれの視点で社会教育施設における学習機会を確認するとともに、自らの学習・教育活動の経験とあわせて、各施設で展開されている活動の意義を考えられるようになることをめざします。|||

(2) 内容

この授業では、生涯学習支援のための社会教育施設を概観した上で、各施設における活動や運営における諸課題について具体的に考えていきます。

受講者に対する要望

授業では皆さん一人一人に意見を書いていただく機会を設け、その回答を用いて授業を進めます。また、グループ討議なども取り入れますので、積極的な参加を希望します。

学びのキーワード

- ・ 社会教育施設
- ・ 公民館
- ・ 図書館
- ・ 博物館
- ・ 社会教育行政

授業計画

01. ガイダンス
02. 社会教育における施設の体系
03. 社会教育における施設の作られ方
04. 社会教育における施設 (1)
05. 社会教育における施設 (2)
06. 社会教育における施設 (3)
07. 社会教育における施設 (4)
08. 社会教育における施設 (5)
09. 社会教育における施設 (6)
10. 社会教育における施設 (7)
11. 社会教育における施設 (8)
12. 社会教育施設をめぐる環境 (1)
13. 社会教育施設をめぐる環境 (2)
14. 社会教育施設をめぐる環境 (3)
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの指定範囲を事前に読みこんで、毎回の授業に臨んでください。

準備学習(復習)

各回の授業内容のポイントを整理するとともに、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて、理解を深めてください。また、授業で取り上げた項目について、自身の考えとその根拠が明確になるよう努めてください。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|--|
| (1) 授業内応答 | 60% | <small>授業中の発言や質問に対する回答、グループ討議での発言などにより評価します。</small> |
| (2) 試験 | 40% | 15回目の授業内で実施します。 |

教科書

社会教育の施設論—社会教育の空間的展開を考える (講座 転形期の社会教育Ⅲ) . 2015. 学文社 | 978-4-7620-2513-6 |

参考書

担当教員：利根川 明子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：選択科目 単位：4 授業コード：1W220424

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：必修科目 | 【W】認定心理士：選択科目

(1) 学びの意義と目標

・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。
 |・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。
 |・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。|・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。

(2) 内容

この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。

受講者に対する要望

教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
また、積極的な質問や感想をお待ちしています。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・発達心理学
- ・パーソナリティ心理学
- ・臨床心理学

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど
02. 発達の理論
03. 各時期の発達の様相①
04. 各時期の発達の様相②
05. 学習の理論①
06. 学習の理論②
07. 教授と学習①
08. 教授と学習②
09. 動機づけの理論①
10. 動機づけの理論②
11. 知能と学力①
12. 知能と学力②
13. 教育の評価①
14. 教育の評価②
15. 授業の実践と研究①
16. 授業の実践と研究②
17. 学級集団①
18. 学級集団②
19. パーソナリティの問題と生徒理解①
20. パーソナリティの問題と生徒理解②
21. 問題行動と教育相談①
22. 問題行動と教育相談②
23. 問題行動と教育相談③
24. 発達の問題①
25. 発達の問題②
26. 発達の問題③
27. 教育実践の記述
28. 教育実践と教育心理学
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 授業内課題 | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』(有斐閣アルマ) 【978-4641220591】

参考書

担当教員：利根川 明子

学期：春学期 科目：教職課程/ 必修・選択：教職科目/資格課程 単位：4 授業コード：5T200216

学部教育の関連目

【教】生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

【教】中学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【教】高等学校教諭一種（共通）：必修科目 | 【全】社会教育主事任用資格：必修科目

(1) 学びの意義と目標

・現代の子どもの特徴について理解し、子どもが成長するために必要とされる事柄を説明出来る。
|・各回の内容から、青年期に至るまでの発達の経過や発達障害等の問題についても理解を深める。
|・授業で提示された様々な用語を理解し、他者に説明することが出来る。|・自身が教員になった時のことを想定しながら、講義を聴くことが出来る。

(2) 内容

この授業は、子どもの発達や学習などの仕組みについて、教員になった時に役立てられるような心理学の知識や考え方を提供することを目的とする。

受講者に対する要望

教科書を指定するので、事前に該当箇所を読んでおくことを求めます。
 また、積極的な質問や感想をお待ちしています。

学びのキーワード

- ・教育心理学
- ・発達心理学
- ・パーソナリティ心理学
- ・臨床心理学

授業計画

01. イントロダクション：授業の進め方、教育心理学とは何かなど
02. 発達の理論
03. 各時期の発達の様相①
04. 各時期の発達の様相②
05. 学習の理論①
06. 学習の理論②
07. 教授と学習①
08. 教授と学習②
09. 動機づけの理論①
10. 動機づけの理論②
11. 知能と学力①
12. 知能と学力②
13. 教育の評価①
14. 教育の評価②
15. 授業の実践と研究①
16. 授業の実践と研究②
17. 学級集団①
18. 学級集団②
19. パーソナリティの問題と生徒理解①
20. パーソナリティの問題と生徒理解②
21. 問題行動と教育相談①
22. 問題行動と教育相談②
23. 問題行動と教育相談③
24. 発達の問題①
25. 発達の問題②
26. 発達の問題③
27. 教育実践の記述
28. 教育実践と教育心理学
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントと、教科書を読み比べて理解を深めること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 試験 | 70% |
| (2) 授業内課題 | 30% |

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』(有斐閣アルマ) 【978-4641220591】

参考書

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：図書館情 必修・選択：資格課程/必修科目 単位：2 授業コード：6L001010

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修

(1) 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

(2) 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

受講者に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

学びのキーワード

- ・社会教育の理念
- ・生涯教育・生涯学習
- ・生涯発達論
- ・発達課題
- ・学歴社会の是正

授業計画

01. オリエンテーション
02. 教育の領域（家庭教育、社会教育、学校教育）
03. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）
04. 生涯教育の理念(1)
05. 生涯教育の理念(2)
06. 社会教育から生涯教育そして生涯学習へ（何がちがうのか？）
07. 生涯教育の理念と社会背景(1)（各国の生涯教育の事情）
08. 生涯教育の理念と社会背景(2)（わが国の教育改革と生涯学習体系への移行）
09. 生涯教育の理念と社会背景(3)（急激な社会変化への適応）
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)（平均余命の伸長と生涯にわたる発達課題）
11. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？）
12. 生涯教育の理念と社会背景(5)（学校教育をめぐる問題、戦後の青少年の非行など）
13. 生涯教育の理念への批判
14. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 試験 | 70% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』（樹村房）【978-4883672301】

参考書

担当教員：若松 昭子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L022020

学部教育の関連目

【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

(2) 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 情報社会

授業計画

01. 図書館の定義
02. 図書館の種類
03. 図書館の理念
04. 情報社会と図書館
05. 図書館の自由に関する宣言
06. 図書館員の倫理綱領
07. 図書館に関する法規
08. 公立図書館の制度と機能 1
09. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとなすこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験またはレポート | 40% |
| (2) 各授業時の課題 | 35% |
| (3) 授業態度や授業への参加度 | 25% |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

教科書

塩見昇『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ3 -1)』(日本図書館協会)四訂版【9784820414179】

参考書

担当教員：若松 昭子

学期：秋学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L022021

学部教育の関連目

【全】司書として、あるいは情報専門家として、本や情報の効果的な活用を図ることができるよう、情報を読み解き、情報を管理する応用的力を養うこと。地域や家庭において読書指導ができる力を養うことを目的とする。【J】実践力：図書館関連司書資格取得をめざす、並びに情報に関する技能と知識を得ることによってキャリアの可能性を広げる

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

(2) 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

受講者に対する要望

積極的な授業参加を望む。

学びのキーワード

- ・ 図書館
- ・ 情報社会

授業計画

01. 図書館の定義
02. 図書館の種類
03. 図書館の理念
04. 情報社会と図書館
05. 図書館の自由に関する宣言
06. 図書館員の倫理綱領
07. 図書館に関する法規
08. 公立図書館の制度と機能 1
09. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとなすこと。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 試験またはレポート | 40% |
| (2) 各授業時の課題 | 35% |
| (3) 授業態度や授業への参加度 | 25% |

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

教科書

塩見 昇『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-1)』(日本図書館協会)【978-4820414179】

参考書

担当教員：三日市 紀子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程 単位：2 授業コード：6L023030

学部教育の関連目

【全】司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

【全】図書館司書資格：選択必修 | 【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本科目の履修を通じて、図書館で働くにあたって必要な図書館制度や図書館経営の知識を習得する。

授業計画

01. 図書館制度・図書館経営とは・基本用語の確認
02. 図書館に関わる法体系
03. 図書館法逐条解説（1）総則
04. 図書館法逐条解説（2）公立図書館および私立図書館
05. 他館種の図書館に関する法律など
06. 図書館サービス関連法規
07. 図書館政策（国、地方公共団体）
08. 公共機関・施設の経営方法
09. 図書館の組織・職員
10. 図書館の施設・設備
11. 図書館のサービス計画と予算の確保
12. 図書館業務・サービスの調査と評価
13. 図書館の管理形態の多様化
14. 図書館制度・経営に関わる諸問題
15. まとめ

(2) 内容

図書館に関する法律や関連領域の法律、図書館政策について概観し、図書館経営の考え方、職員や施設などの資源、サービス計画、予算、サービスの評価、管理形態の多様化について解説する。

準備学習(予習)

課題や予習キーワードの下調べなどをこなして、授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業で触れた内容を振り返り、思考を整理してください。|（適宜、内容を振り返る課題を課することもあります）

評価方法

- (1) 試験 50% 6割以上の正解率が必須である。
- (2) 課題提出・授業内ミニテスト 50% 授業内および授業外で課する課題（プリント）提出

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを前提条件とします。授業開始以降15分までの入室を遅刻とみなし、それ以降の入室は欠席とみなすので留意してください。

受講者に対する要望

1. 授業の内容上、図書館の基本的な機能やサービスについて、理解済みのものとして授業を進めます。図書館概論や図書館サービス概論を履修済みであることが望ましいです（義務付けるものではありませんが、図書館の基礎知識がない場合には、相当する科目の自学自習が必要となることをご理解の上、受講してください）。2. 授業の中で、グループでの討論や発表活動を行う場合があります。各自協力して取り組んでください。3. 初回の授業で授業の進め方について説明します。欠席のないようにしてください。4. 授業中の不要な退室や、指示された時以外のスマートフォン使用はご遠慮ください。

学びのキーワード

教科書

随時、プリントを配布します。

参考書

授業時に提示します。

担当教員：小池 茂子

学期：春学期 科目：社会教育 必修・選択：資格課程

単位：2

授業コード：6S002020

学部教育の関連目

【全】社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得

カリキュラム上の位置付け

【全】社会教育主事任用資格：選択必修科目

(1) 学びの意義と目標

1. 社会教育行政機関や社会教育施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導もとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、生涯学習推進の具体的施策について学ぶ。| 2. 実習を通して社会教育主事に求められる専門能力の基礎を培うことを目標とする。|

(2) 内容

社会教育行政機関や社会教育施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導もとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、それらの経験を通して社会教育主事に求められる資質と能力の基礎を培うことを目的とする。| 本実習の単位は、社会教育関係施設・機関において、原則として1～2週間の実習を行い、かつ、大学での授業（講義、施設見学）を受講し、所定の要件を満たした者に与えられる。| 授業の内容は 1. ガイダンス（1回） 2. 事前指導（4回—社会教育施設運営・職員論を中心とした講義） 3. 現場実習（1～2週間） 4. 事後指導（1回） 5. 報告会から構成する。|

受講者に対する要望

実習では生涯学習・社会教育の現場で行政職員の直接的な指導を受けて実習に取り組ませていただくことになるので、学生気分を捨て社会人としての責任、言葉づかい、態度などを自らに課して、実習に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・生涯学習推進
- ・社会教育施設
- ・まちづくりと生涯学習
- ・社会教育主事の専門性
- ・教育委員会

授業計画

01. ガイダンス
02. 事前指導
03. 事前指導
04. 事前指導
05. 事前指導
06. 現場実習1～2週間
07. 事後指導（各1回ずつ）
08. 実習報告会
09. 実習報告書の作成
10. 実習報告書の作成
11. 実習報告書の作成
12. 実習報告書の作成
13. 実習報告書の発表と検討（1）
14. 実習報告書の発表と検討（2）
15. まとめ

準備学習（予習）

つぎの授業で取り扱うテーマに関する宿題を課すので、それをやって授業に臨むこと。

準備学習（復習）

生涯学習推進について、実際どのような施策が展開されているか、自らの日常生活の中で注意を払いつつ生活し、現場での実習に向けた準備を行うようにする。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 30% |
| (2) 平常点・課題の提出等 | 30% |
| (3) 実習の評価 | 40% |

教科書

鈴木真理『生涯学習概論』（樹村房）【978-4883672301】

参考書

政治政策学研究所

デモクラシー・人権政策研究 / デモクラシー・人権研究

担当教員：菊地 順、阿久戸 光晴

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2100304

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代における世界共通価値として重要な位置を占めるデモクラシーと人権について学ぶことにより、世界の動向を理解し、人類によりふさわしい未来形成への指針を得ていくことが目指されている。

(2) 内容

デモクラシーと人権という重要な世界共通価値について、具体的な歴史の考察を踏まえ、またその思想の歴史的背景をたどりつつ、その本質について考察し、デモクラシーと人権政策の過去・現在・未来を展望する。

受講者に対する要望

授業では、質疑応答や議論をとおり、理解を深めるよう努めてほしい。

学びのキーワード

- ・ デモクラシー
- ・ 人権
- ・ 差別、偏見、悪
- ・ 社会契約
- ・ 人権政策

授業計画

01. 「世界人権宣言」とその背景 【菊地】
02. ユダヤ人問題とその歴史 (1) —ドイツを中心として (近代まで) 【菊地】
03. ユダヤ人問題とその歴史 (2) —スペインを中心として 【菊地】
04. ユダヤ人問題とその歴史 (3) —ドイツを中心として (近現代) 【菊地】
05. アイヒマン裁判と人間の罪 【菊地】
06. ハンナ・アーレントと悪の問題 【菊地】
07. デモクラシーと人権思想—杉原千畝に触れつつ 【菊地】
08. 現代デモクラシー制度の今日的難題(トランプ大統領発言を巡って) 【阿久戸】
09. 現代デモクラシー制度の史的起源(聖書的契約信仰を軸として) 【阿久戸】
10. 現代デモクラシー制度の根本課題(三権分立の意義、人権との関係) 【阿久戸】
11. 現代の人権をめぐる設問スタディ・ワーク(難民問題などを考える) 【阿久戸】
12. 現代の人権概念の史的起源(イエリネック対ブトミー人権宣言論争) 【阿久戸】
13. 現代の人権をめぐる根本課題(主権対人権、共同体対個人の尊厳ほか) 【阿久戸】
14. デモクラシー・人権政策の行方(グローバル社会の貧困化の中で) 【阿久戸】
15. まとめと課題 【菊地】

準備学習(予習)

デモクラシーとか人権については、人により異なる切り口と理解があることを前提として、シラバスに沿って予め教科書等を一読し、自らの問題の発見に努めてほしい。

準備学習(復習)

教科書や授業で配布されたプリントを必ず読み直し、授業中に紹介された参考文献等にも目を通し、授業の内容の理解を深めると共に、さらに自らの問題の発見に努めてほしい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

最終的には各担当者の与えた評点の平均値による。

教科書

高橋 和之編『新版 世界憲法集 (岩波文庫)』(岩波書店)高木八尺、末延三次、宮沢俊義編『人権宣言集』(岩波文庫)

参考書

【菊地】(1) レオン・ボリアコフ著、金田正人他訳『反ユダヤ主義の歴史』全5巻、筑摩書房(2) アブラム・レオン・ザハル著、津川雅人訳『ユダヤ人の歴史』明石書房(3) ハンナ・アーレント著、久保和郎訳『アイヒマンのアイヒマン』みすず書房(4) ヴィクトール・E・フランクル、池田書店訳『夜と霧 新版』みすず書房【阿久戸】(1) 阿久戸光晴『近代デモクラシー思想の根源』(聖学院ゼネラルサービス、1999年) (2) 阿久戸光晴『教会と国家の分離体制におけるキリスト教学校の使命』『キリスト教学校の形成とチャレンジ』所収 (聖学院大学出版会、2006年) (3) A.D. リンゼイ、永岡薫訳『民主主義の本質』(未來社、1964年) (4) A.D. リンゼイ、古賀敬太・藤井哲郎訳『デモクラシーの宗教的基礎』オックスフォードチャペル講義 (聖学院大学出版会、2001年) (5)

憲法研究

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2201206

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

しばしば憲法は、民法、刑法その他の法律と比較するとメディアの政治報道等において頻繁に言及されるがゆえ、「なんらかの価値観あるいはイデオロギーに依拠した、文脈依存的ないし政治的なもの」とみなされることがある。その一方で、憲法は、民法や刑法と同じく実定法規範であるがゆえ、「現実の政治および経済からは距離を置いた、超歴史的かつ法的なもの」と位置づけられることもある。だが、本講義の受講者は、そのいずれも極端かつ一方的であることを認識するであろう。|| そして、その規範性と妥当性をめぐって織りなされる憲法学の世界の根底に存する「法の賢慮(jurisprudentia)」のなんたるかを受講者が体得するならば、本講義の目的はほぼ達成されたこととなる。それは、とりわけ法実務に携わる者にとって、その職業生活における精神的支柱の形成に資するという意義を有するであろう。

(2) 内容

法学の基礎的な素養があることを前提に、樋口陽一『五訂憲法入門』（勁草書房、2013年）をメインテキストとして取り上げ、丁寧に読み進めてゆく。|| 本テキストは、現代日本を代表する憲法学の泰斗であると同時に最高の知性の一人でもある碩学による、憲法学の入門書である。しかし、その表題および平明な語り口とは裏腹に、その内容はアポリアに満ちかつ知的緊張感溢れるものであり、その読解は一筋縄ではゆかないであろう。|| また、読解に際しては、本テキストの理解に不可欠となる学説、判例その他の基礎知識の修得を確実なものとするため、サブテキストとして石埼学他（編著）『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社、2013年）を適宜参照する。あわせて、『六法』（出版社、種類は問わない）を常に携行するのが望ましい。|| なお、本講義は、カリキュラム上の分類こそ「講義」科目だが、大学院のそれである以上、当然のことながら「演習」形式で行われる。

受講者に対する要望

大学院の講義なので、受講者が主体的にその運営に参画することが、とりわけ強く求められる。加えて、反知性主義が瀰漫する現代日本においては甚だ評判が悪いが、受講者には、かかる時代精神に抗いつつ、意識的に知的虚栄心を持つよう心がけてほしい。|| 換言すれば、広く知られるヴェーバーの言をもじった表現である「精神のある専門人」たらしめる気構え、あるいは、語本来のアカデミックな姿勢に加えディレッタントなそれも求められるということである。

学びのキーワード

- ・ 法学
- ・ 公法学
- ・ 憲法学
- ・ 国法学
- ・ 比較憲法学

授業計画

01. 導入：授業の進め方、分担の決定
02. 憲法の基礎知識に関する講義（総論・人権）
03. 憲法の基礎知識に関する講義（統治・比較法）
04. テキスト輪読・報告、議論：国民権
05. テキスト輪読・報告、議論：平和的生存権
06. テキスト輪読・報告、議論：個人の尊厳
07. テキスト輪読・報告、議論：人権の私人間効力
08. テキスト輪読・報告、議論：信教の自由・政教分離・教育権
09. テキスト輪読・報告、議論：表現の自由
10. テキスト輪読・報告、議論：経済的自由と社会権
11. テキスト輪読・報告、議論：選挙権と代表制
12. テキスト輪読・報告、議論：司法権
13. テキスト輪読・報告、議論：違憲審査制
14. テキスト輪読・報告、議論：憲法改正と憲法尊重擁護義務
15. まとめ

準備学習(予習)

予め割り当てられた自身の報告をこなすことはもちろん、テキストの指定された箇所を毎回読み込み、自らの問題意識を明確にしたうえで講義に臨み、積極的に議論に参加することが求められる。

準備学習(復習)

毎回の講義における議論を踏まえ、自身の報告を再検討することが求められる。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | 割り当てられた報告の内容と議論への参加状況から評価する。 |
| (2) 期末課題 | 20% | |

平常点について、言うまでもなく、単なる「出席（物理的に教室内に存在すること）」だけでは何ら評価の対象とならない。

教科書

樋口 陽一 『五訂 憲法入門』（勁草書房）| 石埼 学、押久保 倫夫、笹沼 弘志（編） 『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社）|

参考書

租税法研究 A

担当教員：吉川 保弘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301010

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

租税法Aにおいては、企業税制の中心的税制でかつビジネスローとしての機能を持つ法人税法について、私法、会計制度との異同にを踏まえた基礎となる取り扱いと考え方の解説をします。|到達目標としては、法人税法の持つ固有の取扱考え方の理解におきます。

(2) 内容

法人税法は、私法で決定した取引を基礎において、その取引を財務会計として表現する公正妥当な会計処理の基準に従って、計算することとしております。その上で、法人税法の目的、考え方に沿わないものは法人税法固有の処理をすることとし、その部分を法律として規定しております。つまり、法人税法は、私法での扱い、企業会計における公正妥当な会計処理を理解している前提で規定されています。こうした意味で法人税法は、私法、企業会計と密接な関係にあります。それぞれが実現しようとする目的は異なっており、三位一体ではありません。したがって、法人税法を学ぶということは、私法、会計制度との異同を学ぶということです。

受講者に対する要望

法人税法は、税理士を営む上で欠くことのできない税法だという認識をもって授業に取り組んでください。|

学びのキーワード

・レジュメには、必ず理解すべき事項について、★マークを付し、重要度に応じてマーク数を増やしているので、参考にしてください。

授業計画

1. 法人税課税の対象と基礎的概念・・・1.法人税課税の対象（法人とは、法人税課税の税額、法人税における所得概念）、2.法人税法・会社法・企業会計原則との関係、3.法人税法適用の原則、4.事業年度の意義、5.納税地
2. 納税義務者及び所得帰属に関する通則・・・6.納税義務者（内国法人、外国法人）、7.同族会社等の行為計算否認規定、8.信託財産に属する資産及び負債等の帰属、9.実質所得者課税の原則、10.課税所得の範囲（内国法人、外国法人）
3. 所得の金額の計算等に関する通則・・・11.①各事業年度の所得の金額の意義（法人税法22条の解説）、②無償取引が法人税法上、益金に算入される根拠（各学説等）、③2段階説における寄付金の意義、④売上原価、販売費等、減価償却費、損失の損
4. 収益の益金計算に関する通則・・・13.棚卸資産の販売による収益計上の時期①引渡基準（製品等の販売による収益計上時期）、②事業年度末時点での販売代金の未確定の扱い、③返品、値引き、割戻しの扱い、④特殊販売形態の収益計上基準（長期）
5. 益金に算入しない収益・・・19.受取配当等の益金不算入、20.みなし配当の取扱、21.その他益金に算入しない収益①資産の評価益、②仮装経理に基づく評価益、③法人税等の還付金、④圧縮記帳制度による補助金の扱い、⑤広告宣伝用資産の受贈
6. 損金の額の計算Ⅰ（棚卸資産）・・・24.棚卸資産の概念①棚卸資産の範囲、②棚卸資産の評価と売上原価の算定、③評価方法、④取得価額に算入すべき費用の範囲、⑤自己の製造等により取得した棚卸資産の取得価額、⑥適正原価計算の判定基準
7. 損金の額の計算Ⅱ（固定資産）・・・25.固定資産の概念、①固定資産の性格、②固定資産の範囲、③非減価償却資産、④減価償却資産の性格、⑤減価償却資産の種類と科目、⑥償却限度額の計算の基礎となる取得価額、⑦取得価額に関する諸問題、⑧
8. 損金の額の計算Ⅲ（繰延資産、引当金、資産の評価損）・・・26.繰延資産、27.引当金、28.資産の評価損
9. 損金不算入規定Ⅰ・・・29.役員給与①平成18年法の趣旨、②役員給与の範囲、③法24条に規定する役員給与の扱い（定時定額、事前確定給付の届け出、利益連動型給与）、④過大役員給与の損金不算入、⑤仮装隠蔽または仮装経理に基づく支給の場合の損金
10. 損金不算入規定Ⅱ・・・29-2役員給与②①新株予約権を対価とする費用等、②過大使用人給与の取扱、③出向及び転籍の場合の扱い、30保険料等、31.寄付金
11. 損金不算入規定Ⅲ・・・32.交際費等、33.租税公課、34.不正行為等に係る費用、35.貸倒損失、36.その他の損金
12. 申告調整、税額計算等・・・37.企業会計と税務会計、38.欠損金の繰越及び控除、39.税額の計算
13. グループ法人税制と連結納税制度・・・40.グループ法人に対する税制の概要、41.グループ法人税制の具体的な内容、42.連結納税制度の概要
14. 事業体課税の概要・・・43.事業体課税の概要、44.法人税の基本的な納税者、45.法人税の対象とならない事業体（組合・信託）、46.納税義務者となる新しい事業体
15. 組織再編税制・・・①会社法における組織再編行為等、②企業結合における会計基準、③組織再編に係る法人税法の扱い、④適格合併、適格分割等の要件、⑤移転資産の譲渡損益の扱い、⑥非適格合併等により移転を受ける資産等に係る調整、⑦株式

準備学習(予習)

法人税法は、講義内容が多岐にわたり分量も多いことから、レジュメ、法令を読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

各回の講義予定の最後に、復習問題を掲載してあるので、講義後確認の意味で回答に取り組んでください。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート提出 | 50% |

成績評価については、平常点を勘案して、レポートの採点により評価しますが平常点を勘案してという意味は、受講時における質疑応答等も考慮に入れて、平常点に対する配点50点を決定するということです。

教科書

租税法研究A用の講本をプリントして配布します。これにそって講義方式で適宜質疑応答をするなど理解度を確認しながら授業を進めます。

参考書

岡村忠生著「法人税法講義第3版」成文堂、成松洋一著「法人税セミナー第4版」税務経理協会、増井良啓著「租税法入門」有斐閣

租税法研究B

担当教員：野田 扇三郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301111

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業では、日本の消費税制度の体系を理解するとともに、諸外国の制度の比較検討を通じて日本のあるべき方向について考え、また税理士としての感覚を磨くべく研鑽する。

(2) 内容

この授業では、2019年10月の消費税の税率アップや、2023年10月から導入されるインボイスの議論等に目を向け、その問題点を探り、消費税への理解を深めるよう努める。その際、それに関連する会計処理等を確実にマスターすることとする。またこれからの制度設計について、次期の修士論文作成に向け自分自身の意見を持つよう心掛ける。

受講者に対する要望

消費税に関する諸問題は国民にとって重要でまた現状もっとも関心の深いものであるため、新聞、その他媒介等を通じて社会の動きに注意を払うこと。

学びのキーワード

- ・ 現状の確実な理解
- ・ 諸外国の制度との比較
- ・ 独自の視点

授業計画

01. 消費税法概論
02. 課税要件
03. 非課税取引と免税取引
04. 納税義務者
05. 納税義務の成立
06. 小規模事業者の納税義務の免除
07. 課税標準・税率
08. 税額控除
09. 簡易課税制度
10. 対価の返還と貸倒の処理
11. 課税期間
12. 申告、納税について
13. 国等に対する課税
14. 届出、記帳義務について
15. 勘定科目等からの課非判定

準備学習(予習)

受講生は漫然と授業に出るのではなく、問題意識をもって臨むよう、予習は欠かさないこと。

準備学習(復習)

配布資料の確認、および問題点の整理により、理解を深めること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 問題意識・意見・発言 | 50% |

教科書

税務大学校「消費税法（基礎編）」を国税庁のHPにアクセスし、プリントアウトすること。

参考書

租税法研究C

担当教員：佐藤 謙一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301212

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

職業会計人として活躍できるように必要な所得税法、相続税法及び租税手続法等の基礎的かつ基本的な理解を進め、今後皆さんが行うこととなる研究のために必要な視点を養うことを目的とします。

(2) 内容

所得税法、相続税法及び租税手続法の各概論

受講者に対する要望

今後皆さんが行う研究につながる問題を見つけて欲しいと思います。

学びのキーワード

- ・ 所得税の計算の仕組み
- ・ 相続税及び贈与税の課税価格とその仕組み
- ・ 租税手続の重要性

授業計画

01. 所得税法—総説、納税義務者
02. 所得税法—所得の種類①—所得の種類、所得税の計算の仕組み、各種所得間の問題①
03. 所得税法—所得の種類②—各種所得間の問題②
04. 所得税法—収入金額と必要経費①
05. 所得税法—収入金額と必要経費②
06. 所得税法—所得控除、税額計算
07. 所得税法—源泉徴収制度、申告、納付等
08. 所得税法—青色申告、雑則その他
09. 相続税法—総説、納税義務者
10. 相続税法—課税価格の計算と税額①
11. 相続税法—課税価格の計算と税額②
12. 相続税法—相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他
13. 相続税法—財産の評価
14. 租税手続法—調査手続、更正・決定等
15. 租税手続法—不服申立制度その他

準備学習(予習)

教科書に沿って講義方式により進める予定ですが、学ぶべき領域が広いにもかかわらず、限られた講義時間なので、事前に、教科書を読んで授業に臨む必要があります。|なお、授業では、適宜、受講生に教科書等を読んでもらったり、質問することを考えています。

準備学習(復習)

授業開始のはじめの時間に前回の授業の復習を行うことを考えているので、特に必要はありません。|なお、必要なときはその旨を伝えます。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) レポート等 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

レポート等の「等」は授業における発言等も評価の対象とする意味です。

教科書

税務大卒校『所得税法(基礎編)』及び『相続税法(基礎編)』|国税庁のHPにアクセスし、プリントアウトしてください。

参考書

金子宏『租税法』(最新版)(弘文堂)|金子宏ほか『ケースブック租税法』(最新版)(弘文堂)

民法法と実務 A

担当教員：木村 裕二

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301313

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、私法による財産取引の規律について概観を得る。| 条文の文言、定義・概念、立法趣旨を用いた法解釈の技術を学ぶことを通して、法的文書の読み・書きの方法論を身につけることを目標とする。||

(2) 内容

民法法は、財産取引や団体をどのように規律しているか。民法総則・物権総論・債権各論の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

受講者に対する要望

レジュメには判例の抜粋や要旨しか引用できないが、自分で判例を検索し、判例全文に目を通して確認する作業をおこなって、判例を読む訓練をしてほしい。|

学びのキーワード

- ・ 要件・効果
- ・ 権利・義務
- ・ 債権と物権
- ・ 意思表示
- ・ 取引の安全

授業計画

01. 法の機能と条文の読み方
02. 法の解釈と判例の読み方
03. 契約と意思表示
04. 人・法人
05. 代理
06. 契約の効力
07. 契約のプロセス
08. 物と所有権
09. 物権変動
10. 占有、時効
11. 売買、贈与
12. 賃貸借、消費貸借
13. 役務型契約
14. 不法行為
15. 会社

準備学習(予習)

レジュメ(事前配布)で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

内田貴「民法Ⅰ 総則・物権総論」「民法Ⅱ 債権各論」東京大学出版会

民法法と実務B

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301414

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、金融取引や相続の私法的構造の概観を得る。|民事訴訟法・家事事件手続法など手続法の基本構造にも触れつつ、権利実現・権利保護のプロセスについて学ぶ。|制度趣旨、条文の要件・効果を構造的に理解する。

(2) 内容

民法法は、金融取引や相続をどう規律しているか。民法の債権総論、担保物権、親族・相続の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

受講者に対する要望

条文の要件・効果に即して議論を位置づける習慣を身につけること。

学びのキーワード

- ・債権の目的
- ・責任財産
- ・民事事件
- ・個人主義
- ・家事事件

授業計画

01. 債権と金融取引
02. 弁済、相殺
03. 強制履行、損害賠償
04. 債権譲渡、保証
05. 抵当権
06. 訴訟・執行・破産
07. 夫婦
08. 親子
09. 要保護者
10. 相続人
11. 相続財産
12. 相続分
13. 遺産分割
14. 遺言
15. まとめと課題

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

内田貴「民法Ⅲ 債権総論・担保物権」「民法Ⅳ 親族・相続」東京大学出版会

公共政策研究

担当教員：児玉 博昭

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2400101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

公共政策はどのようにデザインされ、決定され、実施・評価されるのかを理解できるようになることを目標とする。

(2) 内容

公共政策学は、公共政策、すなわち公共的な問題を解決する基本的な方向性と具体的な手段を考察する学問である。公共政策学は、大別すると、政策決定や実施・評価という政策過程に関する知識（ofの知識）と、政策分析に必要な知識や個別政策領域に関する知識（inの知識）によって構成される。この講義では、前者の政策過程論（ofの知識）に重点を置き、公共政策へのアプローチ、公共政策のデザイン、プロセス、ガバナンスに関する基礎知識を整理する。

受講者に対する要望

大学院生は、概説書の通読を通じて基礎知識を確認するだけでなく、研究書の精読を通じて研究設計の改善や専門知識の蓄積に役立ててほしい。

学びのキーワード

- ・ 公共政策学
- ・ 政策過程
- ・ 政策デザイン
- ・ 政策決定
- ・ ガバナンス

授業計画

01. 授業のねらいと進め方
02. 公共政策学とは何か
03. 公共政策とは何か
04. アジェンダ設定
05. 政策問題の構造化
06. 公共政策の手段
07. 規範的判断
08. 政策決定と合理性
09. 政策決定と利益
10. 政策決定と制度
11. 政策決定とアイデア
12. 公共政策の実施
13. 公共政策の評価
14. 公共政策管理のシステム
15. 授業のまとめ

準備学習(予習)

教科書の該当範囲を通読し疑問点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

関連する研究書を各自に指定するので、内容の要旨と感想・考察をレジュメにまとめ、授業内で発表すること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内発表 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

授業に毎回出席することを前提とし、欠席した場合は減点の対象とする。

教科書

秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉 『公共政策学の基礎（新版）』有斐閣

参考書

埼玉地域政策研究

担当教員：大塚 健司

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2400404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人口減少、少子・高齢化が地域社会にどんな影響を与えているのか、社会構造、地域社会の変化に行政はどう対応しようとしているのかを市民目線で考察する。| 特に国と県、市町村（地方自治体）の関係について、その役割について考える。

(2) 内容

人口減少、少子・高齢社会、グローバル化の中において、地方自治体としての埼玉県がどのような政策決定をしてきたか、また、ますます厳しさを増す財政状況の中でどのような政策展開をしようとしているのか、具体的な事例等を通して実践的な視点から、その取り組みなどに研究対象として考察する。| なお、本講座は必要に応じて埼玉県庁職員等の外部講師を招いて講義を行う。

受講者に対する要望

身近な地方自治、コミュニティ政策に関心のある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・人口減少、少子・高齢社会
- ・国と地方自治体の関係、財政構造
- ・土地政策、コミュニティ、
- ・福祉の体系、年金、医療、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉
- ・環境問題、環境福祉

授業計画

01. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系
02. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系
03. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化
04. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化
05. 埼玉県政の方向
06. 埼玉県政の方向
07. 環境問題の取り組み
08. 環境問題の取り組み
09. "住む"を見直す
10. "住む"を見直す
11. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み
12. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み
13. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～
14. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～
15. 埼玉地域政策研究のまとめ

準備学習(予習)

日本の人口構成、国と地方自治体の関係、福祉の体系、環境問題について調べておくこと。

準備学習(復習)

配布した資料等を参考にさらに論考すること。

評価方法

- (1) レポート 100%

次回の授業までに毎回レポート提出講義の要点をまとめ、討論を踏まえて感想をまとめること。

教科書

参考書

厚生労働白書、統計からみた埼玉県のすがた（編集・発行埼玉県総務部統計課）

まちづくり論研究

担当教員：平 修久

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2400606

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばとその動きが住民の間に広がっている。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。量から質の重視、余暇時間の増加、元気な高齢者の増加、スローライフなど、居住地を見直し、居住環境を改善しようとする意識を持った住民が増加し、まちづくりの担い手となっている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。

(2) 内容

まず、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働について学ぶ。その後、高齢化・人口減少、中心市街地、コミュニティのキーワードに関連するまちづくりの問題と対応策を幅広く学ぶ。

受講者に対する要望

居住地など、自分と関係のある地域コミュニティをいかにより良くしていくかを念頭におきながら、クラスディスカッション等に参加するとともに、本科目は大学院生向けであり、大学院生とともに学ぶことを意識して、授業に臨むことを期待する。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・人口減少
- ・高齢化
- ・中心市街地
- ・コミュニティ

授業計画

01. まちづくりの概要①
02. まちづくりの概要②
03. まちづくりのプロセス・合意形成
04. 住民参加と協働
05. 都市計画制度
06. 人口減少と住宅地の維持
07. 空き家問題と対策
08. コンパクトシティ
09. 高齢化とまち（福祉のまちづくり）
10. 中心市街地の衰退と活性化方策
11. 中心市街地活性化の事例①
12. 中心市街地活性化の事例②
13. 中心市街地活性化の事例③
14. 地域コミュニティの創造
15. まちの居場所づくり

準備学習(予習)

事前に提示した関連資料を予習しておくこと。中心市街地の事例については、担当の受講生がレジュメ2-4枚を用意して発表を行う。

準備学習(復習)

毎回の講義内容を整理し、まとめること。中心市街地の事例に関しては、各自の発表のレジュメを復習すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 30% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) レポート課題 | 50% |

教科書

参考書

授業の中で指示する

経済学研究 A / 経済学研究

担当教員：柴田 武男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2500601

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本経済新聞の経済教室を集中的に読解していくことで、経済論文の論理が読み取る能力が養われ、論文作成時に参考となることを目標とする。

(2) 内容

本講義では、論文作成のために必要とされる経済学に関する理解力の強化を目標とする。日本経済新聞の「経済教室」をテキストとして、そこで展開されるトピックスから理論的背景を説明し、論文執筆のために必要とされる論旨の読解力と批判的理解力も涵養したい。

受講者に対する要望

とにかく180分の集中力の持続を期待する。|もちろん、トイレなどの中座は容認するが、講義は連続180分、途中休憩無しで集中して行う予定である。

学びのキーワード

- ・ 日本経済新聞「経済教室」
- ・ 論旨の読解
- ・ 批判能力
- ・ 180分の集中力
- ・ 継続する学習能力

授業計画

01. 講義の概要についての説明、および担当教員による経済論文の読解の仕方を教示 |
02. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
03. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
04. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
05. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
06. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
07. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
08. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
09. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
10. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
11. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
12. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
13. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
14. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
15. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |

準備学習(予習)

日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで⑤回分を読んでおくこと。

準備学習(復習)

日本経済新聞「経済教室」での専門用語、内容を復習として理解すること。

評価方法

- (1) 担当する経済教室の読解力100%

日本経済新聞の「経済教室」を教材としているのであるから、日々とにかく読むこと。その読解力が評価の基準である。

教科書

日本経済新聞

参考書

講義の中で指示する。

組織行動論研究

担当教員：八木 規子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2 授業コード：P2500810

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成しうる仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるもののひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。そこで、学びの目標は、組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすために、個人が個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークを理解すること、そして、それらの法則性を、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決にどのように適用できるか、考える力を養成することとする。また、大学院レベルの教育として、組織行動論の文献が明示的あるいは非明示的に保持する、研究課題、仮説、その検証方法を見抜く力を磨き、ひいては、自らがそうした科学的研究のフレームワークに沿って、研究論文を書き上げる能力を高めるための訓練の場としたい。

(2) 内容

金井壽宏・高橋潔著『組織行動の考え方』（東洋経済新報社、2004年）をメイン・テキストとする。価値観、モチベーション、チームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、組織文化、といった組織行動論の主要テーマに関する理論やフレームワークを、テキストの輪読、講義を通じて学ぶ。また、それらの原理原則が、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるかを、クラス・ディスカッションにより議論する

受講者に対する要望

大学院では、自分のふだんの考え方とは異なる思考方法・思考パターンを学ぶことになる。受講者には、この体験を新しい思考の道具箱を手に入れるための訓練と捉え、辛抱強く取り組むことを望む。

学びのキーワード

- ・ 組織
- ・ 小集団
- ・ 行動
- ・ 個人
- ・ 成果

授業計画

01. オリエンテーション：授業の進め方、分担決定
02. 学習と知識（Kolbのモデル）科学研究のあり方。
03. 第1章 経営学と組織行動の間柄
04. 第2章 コンピテンシーとは何なのか
05. 第3章その1 モチベーション論のミッシング・リンク
06. 第3章その2 モチベーション論のミッシング・リンク
07. 第4章 「キャリア・デザイン」のデザイン
08. 前半まとめ
09. 第5章 成果を意識した組織行動を目指して
10. 第6章 人事評価をめぐる根本問題
11. 第7章 360度全方向からのフィードバック
12. 第8章 変革の時代におけるリーダーシップの求心力
13. 第9章 職務満足と組織コミットメントから見る職場の幸福論
14. 第10章 現実を変えることから生まれる知識創造のパワー組織行動論の歴史
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの分担箇所のみならず、当日の指定箇所は毎回読んで授業に臨むこと。該当箇所における、研究課題、仮説、仮説の検証方法などが何なのかを見極めることを心がけながら読むこと。

準備学習(復習)

該当箇所についての講義と議論を踏まえて、予習で予測した課題、仮説、検証方法が妥当であったかどうか、振り返る。学んだ理論が適用できる現実社会・組織の例を考えてみる。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | ディスカッションへの参加、担当箇所の発表を含む。 |
| (2) 期末レポート | 60% | |

教科書

金井壽宏、ほか 『組織行動の考え方：ひとを活かし組織力を高める9つのキーコンセプト』東洋経済新報社|

参考書

随時、クラスで指示。UNIPA上にアップロードした資料を学生が各自ダウンロードするか、クラス内で配布する。

経営文化論

担当教員：金子 毅

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2500910

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

受講者各々の現場での調査活動へと反映させるだけの思考力を鍛え、これを理論的な枠組みと関連付け、独自の論文へと昇華させる。

(2) 内容

生活者の立場に寄り添い、行政・企業による観光などの経営戦略と地域との間で織りなされる「葛藤」の局面を重視し、そこから地域に潜在する思想を読み取りつつこれに則った新たな地域資源の開発を試みていく。すなわち、経営を動かす原理を地域の「文化」より探ることで“実践する”行政・企業、“実践される”地域にとり真に望ましい経営のあるべき方向性を討議を通じて模索する、それが経営文化論の狙いである。

受講者に対する要望

複雑難解な知の迷宮に分け入るには地図を柔軟に解釈する思考力（発想力）と現在地を知るコンパス（理論）が不可欠です。でも、恐れずに自分なりのフットワークをもって挑めばよいのです。

学びのキーワード

- ・文化
- ・葛藤関係
- ・地域倫理
- ・地域資源

授業計画

01. 経営文化論の焦点となるテーマは何か
02. 経営と文化の定義
03. 経営としての文化
04. 文化としての経営
05. ドラッカーの思想を手掛かりに1 マネジメントについて
06. ドラッカーの思想を手掛かりに2 マーケティングについて
07. ドラッカーの思想を手掛かりに3 イノベーションについて
08. 宗教実践より見た経営
09. 中間整理
10. 担当者の文献から1 祭りに投影される地域経営 埼玉県吉川八坂祭りを事例に
11. 担当者の文献から2 祭りに投影される地域経営 北九州市戸畑区女提灯山笠を事例に
12. 担当者の文献から3 開発が崩壊させた地域コミュニティ 消えた城山小学校
13. 近代産業遺産化の陥穽 北九州市路面電車がつむぐ地域の記憶
14. 質疑応答
15. 経営文化論のゆくえ

準備学習(予習)

発表者は各々のテーマに即したレジュメ（ネット情報からの切り張りでないもの）を作成しておく。

準備学習(復習)

発表でなされた討議結果を各自の調査研究とすり合わせ、修士論文作成に向けた発想へとつなげていく。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

安富歩、2014『ドラッカーと論語』東洋経済新報社

租税法 A 演習 I

担当教員：吉川 保弘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：P3301010

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

企業のグローバルな展開が企業の規模を問わず、煩雑に展開されております。また、政府は外国企業の我が国の誘致に国家戦略の一環として積極的に取り組んでおります。このような企業国境を越えた経済活動には当然のごとく国際課税が伴います。企業においては税はコストで税負担の軽減化という側面があり、他方課税庁側における課税権の確保という面があります。こうしたことから国際課税を巡る争訟は近年増加しています。|本講座では、我が国の制度の仕組み、判決等を学び討議を通じて、各制度の基本的な考え方、趣旨の理解を目標とします。

(2) 内容

本講座は、増井良啓・宮崎裕子著「国際租税法」、国際課税に係る裁判例・裁決例を教材として、我が国国際租税法の研究を行います。

受講者に対する要望

我が国の国際課税制度、国際課税にかかる判例研究及び裁決事例について、輪番で報告をし、質疑応答|を予定、議論に積極的に参加することを希望する。

学びのキーワード

- ・ 国際課税
- ・ 国際的租税回避
- ・ 二重課税と二重非課税

授業計画

01. 国際租税法第1章 (国際租税法への招待)
02. 国際租税法第1章 (国際租税法への招待)
03. 国際租税法第3章 (国内源泉所得)
04. 国際租税法第3章 (国内源泉所得)
05. 国際租税法第4章 (投資所得に対する源泉徴収)
06. 国際租税法第4章 (投資所得に対する源泉徴収)
07. 国際租税法第5章 (事業所得に対する申告納付)
08. 国際租税法第5章 (事業所得に対する申告納付)
09. 国際租税法第2章 (租税条約)
10. 国際租税法第2章 (租税条約)
11. 国際租税法第7章 (外国税額控除)
12. 国際租税法第8章 (課税権の確保①移転価格税制)
13. 国際租税法第8章 (課税権の確保②・・移転価格税制その2)
14. 国際租税法第8章 (課税権の確保③・・タックスヘイブン対策税制)
15. 国際租税法第8章 (課税権の確保④・・タックスヘイブン対策税制その2)
16. 国際租税法第8章 (課税権の確保⑤・・ (過少資本税制・過大利子税制)
17. 国際租税法第8章 (課税権の確保⑥・・ (外国子会社配当益金不算入制度・その他制度)
18. 国際課税にかかる判例研究① (オデコ大陸棚事件)
19. 国際課税にかかる判例研究② (武富士事件)
20. 国際課税にかかる判例研究③ (三井住友銀行事件)
21. 院生各自の研究テーマの討議及び指導①
22. 院生各自の研究テーマの討議及び指導②
23. 院生各自の研究テーマの討議及び指導③
24. 院生各自の研究テーマの討議及び指導④
25. 国際課税にかかる判例研究④ (ガイダント事件)
26. 国際課税にかかる判例研究⑤ (来料加工事件)
27. 国際課税にかかる判例研究⑥ (双輝汽船事件)
28. 国際課税にかかる判例研究⑦ (アドビ事件)
29. 国際課税にかかる判例研究⑧ (映画フィルム事件)
30. 国際課税にかかる判例研究⑨ (米国LCC事件)

準備学習(予習)

判例裁決事例の討議に当たっては、その事例の基礎となる国際課税制度の仕組みを理解して授業に臨むこと。

準備学習(復習)

討議を通じて出された質疑応答についての理解と、残された課題について整理すること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) 研究の発表、質疑応答 | 30% |
| (3) レポート提出 | 30% |

平常点、研究発表・質疑応答、レポートを総合勘案して評価する。

教科書

増井良啓・宮崎裕子著「国際課税法(3訂版)」東大出版会

参考書

詳解国際税務 吉川保弘他共著、図解国際税務望月文夫著|

租税法B演習I

担当教員：野田 扇三郎

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：P3301111

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

各自による日本や諸外国の租税制度の検討や租税判例研究・各種報告を通じて議論研究を行う。

(2) 内容

修士論文の作成に向けテーマの選定に役立つよう判例等を題材として研究する。

受講者に対する要望

将来の職業専門家としての支柱を、この1年で築くべく意欲と熱意をもって研究すること

学びのキーワード

- ・ 敏感な時代感覚にあったテーマ
- ・ 独自性
- ・ ひたむきな探究心

授業計画

01. ガイダンス
02. 法人税法の総則と申告に関する規定（納税義務者）
03. 法人税法の総則と申告に関する規定（確定申告）
04. 法人税の課税標準の計算のあらまし
05. 法人税の益金の額の計算（資産の販売等）
06. 法人税の益金の額の計算（受取配当等）
07. 法人税の損金の額の計算（棚卸資産の原価計算）
08. 法人税の損金の額の計算（役員給与等）
09. 法人税の損金の額の計算（引当金）
10. 法人税の有価証券に係る譲渡損益及び時価評価損益
11. 法人税の税額の計算
12. 法人税の資本金等の額及び利益積立金額
13. 法人税の連結納税制度
14. 法人税の調査による処分と質問検査権
15. 法人税の国内課税に係る判例研究①課税所得の範囲（団地の管理組合の収益事業判定）
16. 法人税の国内課税に係る判例研究②課税所得の範囲（寺院が墓石業者等から受領する謝礼金は収益事業に当たるか）
17. 法人税の国内課税に係る判例研究③収益の帰属（法人名義で受けた火災保険金の帰属）
18. 法人税の国内課税に係る判例研究④収益の計上時期（賃貸借契約保証金のうち返還を要しない部分の収益計上時期）
19. 法人税の国内課税に係る判例研究⑤収益の計上時期（輸出取引）
20. 法人税の国内課税に係る判例研究⑥益金の額の計算方法（リースバック取引）
21. 法人税の国内課税に係る判例研究⑦益金の額の計算方法（土地の譲受価額の時価との差額）
22. 法人税の国内課税に係る判例研究⑧損金の額の計算（損金の帰属）
23. 法人税の国内課税に係る判例研究⑨損金の額の計算（損金性の有無 従業員の横領）
24. 法人税の国内課税に係る判例研究⑩損金の額の計算（損金性の有無 上場有価証券の評価損計上）
25. 法人税の国内課税に係る判例研究⑪損金の額の計算（損金性の有無 信用保証料は支払い時に全額損金可能か）
26. 法人税の国内課税に係る判例研究⑫損金の計上時期
27. 法人税の国内課税に係る判例研究⑬減価償却資産の償却
28. 法人税の国内課税に係る判例研究⑭繰延資産の償却
29. 法人税の国内課税に係る判例研究⑮寄附金
30. 法人税の国内課税に係る判例研究⑯交際費

準備学習(予習)

各種文献の読破はもちろん、新聞の税務関連記事を見逃さないこと

準備学習(復習)

論文は落とし所を考え、まだ先があるとは考えず、今期中に「目次」だけでも作成し終わるスタンスで！

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 論文作成に向けた取り組み | 40% |
| (2) 講義での発言・意見発表 | 30% |
| (3) レポート提出 | 30% |

教科書

参考書

金子宏「租税法」最新版（弘文堂）|水野忠恒ほか編「租税判例百選（第5版）」（有斐閣）

租税法C演習I

担当教員：佐藤 謙一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：P3301212

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

租税法研究Cにおける講義に対応した裁判例等の研究等を通じてこれまでどのような問題があり、議論がされてきたかを学修することを目的とします。

(2) 内容

租税法研究Cにおいて学んだ各論点に係る裁判例等をみていきます。|事前に裁判例等を調べて授業において発表してもらうことも考えています。

受講者に対する要望

本演習が、職業会計人になるために有益なもので、今後、研究成果をまとめる力を養う上でも重要なものと考えています。したがって、積極的に参加していただきたい。

学びのキーワード

- ・多くの裁判例等を知る。
- ・資料収集力
- ・まとめる力

授業計画

01. 所得税法—総説、納税義務者に係る論点とその解明
02. 所得税法—総説、納税義務者に係る論点とその解明
03. 所得税法—所得の種類①に係る論点とその解明
04. 所得税法—所得の種類①に係る論点とその解明
05. 所得税法—所得の種類②に係る論点とその解明
06. 所得税法—所得の種類②に係る論点とその解明
07. 所得税法—収入金額と必要経費①に係る論点とその解明
08. 所得税法—収入金額と必要経費①に係る論点とその解明
09. 所得税法—収入金額と必要経費②に係る論点とその解明
10. 所得税法—収入金額と必要経費②に係る論点とその解明
11. 所得税法—所得控除、税額計算に係る論点とその解明
12. 所得税法—所得控除、税額計算に係る論点とその解明
13. 所得税法—源泉徴収制度、申告、納付等に係る論点とその解明
14. 所得税法—源泉徴収制度、申告、納付等に係る論点とその解明
15. 所得税法—青色申告、雑則その他に係る論点とその解明
16. 所得税法—青色申告、雑則その他に係る論点とその解明
17. 相続税法—総説、納税義務者に係る論点とその解明
18. 相続税法—総説、納税義務者に係る論点とその解明
19. 相続税法—課税価格の計算と税額①に係る論点とその解明
20. 相続税法—課税価格の計算と税額①に係る論点とその解明
21. 相続税法—課税価格の計算と税額②に係る論点とその解明
22. 相続税法—課税価格の計算と税額②に係る論点とその解明
23. 相続税法—相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他に係る論点とその解明
24. 相続税法—相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他に係る論点とその解明
25. 相続税法—財産評価に係る論点とその解明
26. 相続税法—財産評価に係る論点とその解明
27. 租税手続法—調査手続、更正・決定等に係る論点とその解明
28. 租税手続法—調査手続、更正・決定等に係る論点とその解明
29. 租税手続法—不服申立制度その他に係る論点とその解明
30. 租税手続法—不服申立制度その他に係る論点とその解明

準備学習(予習)

事前に検討すべき裁判例等と発表する者を指定する予定です。したがって、担当者は、該当事件に係る資料の収集から検討等まで行い、その結果をレジュメにまとめ発表する準備をしてもらう必要があります。また、それ以外の者は、該当事件の争点や裁判所等の判断などを理解して授業に臨む必要があります。

準備学習(復習)

各自の自主性に任せます。

評価方法

- | | | |
|-----------|-----|---------------------------------|
| (1) レポート等 | 70% | レポート等には授業のために事前に作成するレジュメも含まれます。 |
| (2) 平常点 | 30% | |

授業でのレジュメ発表や発言等の評価を加味します。

教科書

参考書

金子宏『租税法』(最新版)(弘文堂)|金子宏ほか『ケースブック租税法』(最新版)(弘文堂)|

まちづくり論演習I

担当教員：平 修久

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：P3400606

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

まちづくりを多面的、総合的に捉え、まちという居住環境の改善に重要な要素を抽出すること、合わせて、文献を読み込む力を養成することを目標とする。

(2) 内容

前半は、まちづくりの方法を学び、後半は国内外の具体的なまちづくり事例を参考にしながら、今後のまちや都市の整備と使い方のあるべき姿について検討する。具体的なテーマや事例は、個々の受講生の興味によって設定する。それを踏まえて関連文献・資料を選定し、それに基づいて議論を深める。

受講者に対する要望

修士論文執筆の準備と位置づけ、関連文献にしっかりと取り組むことを期待する。

学びのキーワード

・まちづくり

授業計画

01. ガイダンス①
02. ガイダンス②
03. まちづくりとは何か①
04. まちづくりとは何か②
05. まちづくりの生成と歴史①
06. まちづくりの生成と歴史②
07. まちづくりの体制①
08. まちづくりの体制②
09. 合意形成のための支援技術①
10. 合意形成のための支援技術②
11. まちづくりのプロセス①
12. まちづくりのプロセス②
13. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習①
14. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習②
15. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習③
16. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習④
17. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑤
18. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑥
19. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑦
20. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑧
21. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑨
22. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑩
23. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑪
24. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑫
25. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑬
26. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑭
27. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑮
28. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑯
29. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑰
30. 受講生の興味関心を踏まえた文献等をもとに学習⑱

準備学習(予習)

毎回の授業の内容をレジュメにまとめ、説明できるように準備しておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業でのコメントを整理し、まとめておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 40% |
| (2) 期末レポート | 60% |

教科書

日本建築学会『まちづくりの方法 (まちづくり教科書 第1巻)』丸善出版

参考書

授業の中で指示する。

経済学演習I

担当教員：柴田 武男

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：P3500202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

金融市場論に関する専門知識を磨き、論文作成能力に寄与する。

(2) 内容

経済学演習IIは、担当教員の専門とする金融市場論を中心にしたテーマで修士論文を執筆しようという院生の指導を目標とする。最初に、論文テーマ選定の方法を指導する。初学者においては広範なテーマを選定して、結局は散漫な叙述に陥ってしまうという失敗を散見する。専門論文では、まず研究するテーマを厳密に設定して、なおかつその論点に新たな視点を付け加える創造的知見が求められる厳しいものである。専門論文執筆の厳密性をまずなにより講義していきたい。

受講者に対する要望

金融および企業経営に関して修論作成を目指す院生を受け入れる。

学びのキーワード

- ・ 金融市場
- ・ 企業経営
- ・ 修論作成
- ・ デジタルアーカイブ
- ・ 国会図書館

授業計画

01. 論文テーマ選定する上での留意事項
02. 論文テーマ選定する上での留意事項
03. 論文テーマ選定する上での留意事項…情報収集の方法
04. 論文テーマ選定する上での留意事項…情報収集の方法
05. 国会図書館の利用方法…情報収集の方法
06. 国会図書館の利用方法…情報収集の方法
07. デジタルアーカイブの利用方法…情報収集の方法
08. デジタルアーカイブの利用方法…情報収集の方法
09. 国立公文書館を利用する…情報収集の方法
10. 国立公文書館を利用する…情報収集の方法
11. インターネットを利用する…情報収集の方法
12. インターネットを利用する…情報収集の方法
13. 新聞・雑誌を利用する…情報収集の方法
14. 新聞・雑誌を利用する…情報収集の方法
15. 新聞・雑誌を利用する…情報・資料の蓄積と保存方法
16. 新聞・雑誌を利用する…情報・資料の蓄積と保存方法
17. 資料の蓄積と保存方法
18. 資料の蓄積と保存方法
19. 関連論文の読解…関連論文の読解
20. 関連論文の読解…関連論文の読解
21. 関連論文の読解その1
22. 関連論文の読解その1
23. 関連論文の読解その2
24. 関連論文の読解その2
25. 関連論文の読解その3
26. 関連論文の読解その3
27. 論文の章立てをする
28. 論文の章立てをする
29. 脚注の付け方
30. 脚注の付け方

準備学習(予習)

研究テーマに沿ってデータ及び関連論文はPDFで|配布するので、必ずパソコンメールで受信環境を|整備すること。また、送られたデータは必ず読んでおくこと。|

準備学習(復習)

研究テーマに沿ってデータ及び関連論文はPDFで|配布するので、必ずパソコンメールで受信環境を|整備すること。また、送られたデータは必ず読んでおくこと。|

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート提出 | 50% |

教科書

参考書

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科

アメリカ文化学研究 A

担当教員：高橋 義文

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C2100101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ニーバーは、とくに、人間と歴史の問題を探究した神学者であった。それも、理論的だけでなく、実践的にも、その問題を考究しようとした。その概要を、ニーバーの生涯の歩みを含めてたどることによって、ニーバーの理解した人間と歴史を理解する。その上で、現代に生きるわれわれの文脈で、それをどのように受け止めべきかを考える。|合わせて、ニーバーの生きた20世紀アメリカがどのような課題を持っていたか、また、それに対してニーバーはどのように立ち向かったかを理解する。21世紀の現在、その力が弱体化しつつあると言われるもののなお重要な位置をしめているこの国をどう理解するかは、きわめて現代的かつ緊急の課題である。ニーバーの生涯と思想から、この課題とも取り組んでみたい。

(2) 内容

20世紀アメリカの代表的な神学者・政治思想家・評論家ラインホルド・ニーバー (Reinhold Niebuhr, 1892-1971) の生涯と思想の全体を概観する。その際、ニーバーの背景としてのアメリカ史、とりわけ20世紀アメリカの歴史を確認しながら進める。|

受講者に対する要望

可能な限り欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・ラインホルド・ニーバー
- ・人間
- ・歴史
- ・20世紀
- ・アメリカ

授業計画

01. 今なぜニーバーか。ニーバーを取り巻く歴史的思想的状況 (1)
02. ニーバーを取り巻く歴史的思想的状況 (2)
03. ニーバーの社会的教会的背景 (1)
04. ニーバーの社会的教会的背景 (2)
05. イーデン、イエール時代 (1)
06. イーデン、イエール時代 (2)
07. デトロイト時代 (1)
08. デトロイト時代 (2)
09. デトロイト時代 (3)
10. デトロイト時代 (4)
11. ユニオン時代—初期 (1)
12. ユニオン時代—初期 (2)
13. マルクス主義の受容と批判 (1)
14. マルクス主義の受容と批判 (2)
15. ギフォード講演 (1)
16. ギフォード講演 (2)
17. 信仰と歴史 (1)
18. 信仰と歴史 (2)
19. 第二次世界大戦 (1)
20. 第二次世界大戦 (2)
21. エキュメニカル運動 (1)
22. エキュメニカル運動 (2)
23. 冷戦 (1)
24. 冷戦 (2)
25. 人種問題
26. ベトナム戦争
27. アメリカ史のアイロニー (1)
28. アメリカ史のアイロニー (2)
29. キリスト教現実主義
30. ニーバーと現代

準備学習(予習)

あらかじめ指定する教科書の箇所およびその他の文献に眼を通しておく。

準備学習(復習)

前回の授業内容を、自分の課題として考えてみる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 40% |
| (2) レポート | 60% |

評価割合を踏まえ、総合的に評価する。

教科書

C・C・ブラウン『ニーバーとその時代』聖学院大学出版会、2004

参考書

必要に応じて授業で指示する。

アメリカ文化学研究C

担当教員：森田 美千代

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C2100303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

今学期は、20世紀アメリカにおける最大のキリスト教思想家・牧師・活動家の一人であったマーティン・ルーサー・キング（Martin Luther King, Jr., 1929-1968）について学ぶ。

(2) 内容

キリストの愛がキングたちの運動を規制する原理であったこと、またガンディーの非暴力的抵抗が彼らの運動の方法であったこと、さらに原理と方法が彼らの運動においては分かちがたく結びついていたことについて学ぶ。この学びは、課題多き21世紀に、高い理想とそれを社会において貫いて生きようと願っている者にとって、確実な導きを与えてくれる。

受講者に対する要望

事前にテキストをよく読んで出席し、授業では積極的に参加・発言をしてほしい。

学びのキーワード

- ・アメリカ公民権運動
- ・人種差別
- ・キリスト教
- ・マーティン・ルーサー・キング
- ・マハトマ・ガンディー

授業計画

01. はじめに①
02. はじめに②
03. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。①
04. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。②
05. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。③
06. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。④
07. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑤
08. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑥
09. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑦
10. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑧
11. 『自由への大いなる歩み』を読む。①
12. 『自由への大いなる歩み』を読む。②
13. 『自由への大いなる歩み』を読む。③
14. 『自由への大いなる歩み』を読む。④
15. 『自由への大いなる歩み』を読む。⑤
16. 『自由への大いなる歩み』を読む。⑥
17. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。①
18. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。②
19. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。③
20. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。④
21. 『黒人の進む道』を読む。①
22. 『黒人の進む道』を読む。②
23. 『黒人の進む道』を読む。③
24. 『黒人の進む道』を読む。④
25. 『良心のトランペット』を読む。①
26. 『良心のトランペット』を読む。②
27. 『良心のトランペット』を読む。③
28. 『良心のトランペット』を読む。④
29. おわりに①
30. おわりに②

準備学習(予習)

授業に該当するテキストを事前に読んで、出席する。

準備学習(復習)

授業で扱われた内容について、授業終了後にまとめておく。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

平常点50%とレポート50%によって総合的に評価する。

教科書

クレイボーン カーソン, Clayborne Carson, 梶原 寿 『マーティン・ルーサー・キング自伝』(日本基督教団出版局)

参考書

ヨーロッパ文化学研究 A

担当教員：片柳 榮一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C2200101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

20世紀の後半、現代哲学は言語論的転換を果たしたといわれ、言語の問題が哲学の主要な課題として浮上した。そこでも根本の問題は「人間とは何か」ということであった。言語哲学の問題を「人間とは何か」という存在論的問として考えたい。言語とは何か、という問を通して「人間とは何か」を問うことが目標である。そしてこの問題を、「呼びかけと応答」という観点から考えてみたい。

(2) 内容

本年は「呼びかけと応答」と題して、人間存在の根本にかかわる問題をその根源に遡って、しかも日常生活の経験に照らし合わせながら、考えてみたい。私たちの通常の「呼びかけと応答」は、音を媒介とした言葉、「日本語」や「英語」などを通してなされる。しかし時には、身体の身振り、表情、出会い、出来事、歴史的事件、大災害すらも、一つの呼びかけとなりうる。通常言語を介した「呼びかけ」と、いわば言葉無き「呼びかけ」とは、何処に共通点が存し、どこで相違するのであろうか。これが考察の出発点である。「先取りして言えば、言葉無き事柄が「呼びかけ」となるために必要な要件は、その事柄が、第一に私にとって極めて重要なものであること、さらにその事柄が私を、どちらを選ぶべきかの「選択」の前に立たせること、そして第三に、その選択から自分が逃げ出せないと感じられていることである。」このように「呼びかけと応答」の問題を広い意味で、いわば「存在論的」な問題として捉え、現代における宗教的課題に関わる問題として、共に考えて行きたい。

受講者に対する要望

言葉を単なる伝達手段と考えるのではなく、自己省察、自己覚醒の根源として考えてほしい。

学びのキーワード

- ・沈黙の内なる言葉
- ・呼びかけ
- ・人間存在の開けとしての言葉
- ・選択と決断
- ・神の似像

授業計画

01. 序論①
02. 序論②
03. アウグスティヌスの言語論 | 「教師論」における言語理解 (1)
04. 「教師論」における言語理解 (2)
05. 「三一神論」における言語理解 (1)
06. 「三一神論」における言語理解 (2)
07. 「三一神論」における言語理解 (3)
08. アウグスティヌスの恩恵論における「よびかけと応答」の重要性
09. アウグスティヌスの恩恵論の基本的特徴としての「相応しい呼びかけ」(1)
10. [アウグスティヌスの相応しい呼びかけ] (I I) |
11. アウグスティヌスの「相応しい呼びかけ」(I I I)
12. 近代のアウグスティヌス受容としてのバスケルにおける恩恵論の問題 (1)
13. 近代のアウグスティヌス需要としてのバスケルにおける恩恵論の問題 (I I)
14. バスケルの「宇宙の永遠の沈黙」における隠れたる神の「呼びかけ」(1)
15. バスケルの「宇宙の永遠の沈黙」における隠れたる神の「呼びかけ」(2)
16. 現代における「神の沈黙」の問題 (1)
17. 現代における「神の沈黙」の問題 (2)
18. ハイデガーとアウグスティヌス (1)
19. ハイデガーとアウグスティヌス (2)
20. ハイデガーの「存在と時間」における「良心の「呼びかけ」の問題 (1)
21. ハイデガーの「存在と時間」における良心の「呼びかけ」の問題 (2)
22. ハイデガーの「存在と時間」における良心の「呼びかけ」の問題 (3)
23. ハイデガーの「哲学への寄与」における存在の「呼びかけ」の問題 (1)
24. ハイデガーの「哲学への寄与」における存在の「呼びかけ」の問題 (2) | |
25. ヴィトゲンシュタインとアウグスティヌス
26. 「弁証法神学」における言葉の問題 (1)
27. 弁証法神学における言葉の問題 (2)
28. 弁証法神学における言葉の問題 (3)
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

前もって渡されたテキストを予習として読んできて欲しい。

準備学習(復習)

学んだ歴史事象を現代における可能性として考察しなおしてほしい |

評価方法

- (1) 平常点とレポート 100%

授業は、共にテキストを読みながら対話しつつ考える演習形式でおこない、平常点とレポートで評価する。

教科書

授業中配布

参考書

これも授業中言及する

ヨーロッパ文化学研究B

担当教員： 稲田 敦子、和田 光司

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 4

授業コード： G2200202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

前半、自由論の古典J. S. ミル、T. H. グリーンなど自由主義の歴史的展開過程をたどり、現代におけるイギリスの両義的側面、文化状況の変化への視点を養っていくことを主眼とする。|後半、ヨーロッパ文明における宗派共存や宗教的寛容の歴史的経過に触れ、現代の宗教対立問題に対する歴史的感性を涵養する。

(2) 内容

前半；イギリス像を見る眼をあらたに問い直し、永い伝統を継承しながら同時に新しい時代に対応すべき変革を表している文化状況を中心に、思想的な背景をも検討していきたい。|後半；少数派プロテスタントの歴史を中心に、近世から現代にかけてのフランス宗教史を概観し、フランスにおける宗教共存について考える。

受講者に対する要望

主体的な学びを要望します。

学びのキーワード

- ・イギリス経験論
- ・イギリス自由主義
- ・宗教戦争
- ・ユグノー、宗教的寛容
- ・フランス近世

授業計画

01. イギリス文化の古層：後進性からの出発①
02. イギリス文化の古層：後進性からの出発②
03. イギリス文化の両義性①
04. イギリス文化の両義性②
05. 「大憲章」の時代状況と意義①
06. 「大憲章」の時代状況と意義②
07. イギリス経験論の源流（1）①
08. イギリス経験論の源流（1）②
09. イギリス経験論の源流（2）①
10. イギリス経験論の源流（2）②
11. イギリス経験論の展開過程①
12. イギリス経験論の展開過程②
13. J. S. ミル『自由論』における自由のあり方①
14. J. S. ミル『自由論』における自由のあり方②
15. T. H. グリーンとその時代
16. 中間総括
17. フランス宗教改革①
18. フランス宗教改革②
19. フランス宗教戦争、ナント王令①
20. フランス宗教戦争、ナント王令②
21. 17世紀のプロテスタント①
22. 17世紀のプロテスタント②
23. ナント王令廃止、カミザールの乱①
24. ナント王令廃止、カミザールの乱②
25. 荒野の教会、ヴォルテール、寛容王令①
26. 荒野の教会、ヴォルテール、寛容王令②
27. フランス革命、公認宗教制、19cのプロテスタント①
28. フランス革命、公認宗教制、19cのプロテスタント②
29. 政教分離法、ライシテ②
30. 政教分離法、ライシテ②

準備学習(予習)

それぞれの思想家の資料を事前に読み込んで、基本的な事例を調べておくこと。

準備学習(復習)

講義でとりあげたテキストの内容をまとめておくこと。

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) ブックレポート | 30% |
| (2) 期末レポート | 50% |
| (3) 平常点 | 20% |

教科書

プリントを配布する

参考書

キリスト教文化学研究 A

担当教員： 関根 清三

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 4

授業コード： C2300101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

欧米の文化を理解するためには、キリスト教についての知見が不可欠である。そのキリスト教を倫理思想の切り口から考察することで、キリスト教への理解を深めることが、本講義のさしあたっての目標であり意義である。しかしその先に、キリスト教倫理が現代に語り掛ける肝心要のところは何なのか、それを共に考え説明することがついの目標となるだろう。またそれを説得的に語るためには、一般倫理学の学的水準を十分におさえなければならない。そうした一般倫理の歴史を概観し、その知識や思考法を身に付けることも、本講義の副次的な目標となるに違いない。こうした目標をアプローチするためには、受動的に講義を聞くだけでなく、能動的にテキストを読み議論することも必要となる。随所でテキストを配布し、演習形式のテキスト読解も織り交ぜたい。

(2) 内容

<キリスト教倫理の可能性>人間が社会生活を営む限り、古今東西、人間の生きるところどこにも倫理は存在する。それは時代や民族によって様々な形を取るとともに、それらに通底する古今東西普遍的な相貌をもた有するはずだ。ではキリスト教という宗教は独自のキリスト教倫理についてどこまで語り得、どこから一般倫理との共通性を認めなければならないのか。このキリスト教倫理の可能性の問題を考察するためには、古今東西の倫理思想の基本形をそれぞれ自身として学ぶとともに、それとの比較において、また特に旧新約聖書に立ち帰って、キリスト教倫理の固有性がどこに存するのを見極めなければならない。本講義は、古今東西の倫理思想のうち最も偉大な体系と目される、アリストテレス、カント、そして和辻哲郎の倫理学をひもとき、テキストを精細に読み解きながら、その本質と批判的展開の歴史をたどる。そこから中庸、定言命法、信頼への応答といった倫理の原理とその限界が確認されることとなるだろう。その上で、哲学的な原理を持ち出すよりも、物語を読み解く中で倫理的なものが生き生きと立ち現われてくることを身上とするキリスト教倫理の可能性を探りたい。旧約聖書および新約聖書の、主として物語を読み解きながら、倫理原理を脱構築した倫理的なものを探り当て、そうした考察を積み重ねた先に、全体としてキリスト教倫理が現代に何を語りかけるか、知見を深めることに、本講義のついの課題を定めたい。

受講者に対する要望

古代の異民族のテキストへの違和感や疑問を抑圧しないで、率直にテキストへぶつけ、しかし単なる批判に終わらないで、そういう疑問や批判を抱く自分が何者なのか逆にテキストから問い返され、自分が自明のことと思っていた価値観を揺さぶられて、新たな価値観の構築へと向かう～そうした解釈学的経験を積み重ねてほしい。

学びのキーワード

- ・ 創造信仰と所与性の哲学
- ・ 倫理とその根拠
- ・ 贖罪と神義論
- ・ ニヒリズムとその超克
- ・ 罪と赦し

授業計画

01. 序論①：現代の倫理的・倫理学的状況
02. 序論②：課題と方法
03. ポストモダンの倫理批判
04. 倫理思想の曙：ソクラテス・プラトンの場合
05. 倫理思想の曙：孔子・孟子の場合
06. アリストテレスの倫理学①：プラトン批判
07. アリストテレスの倫理学②：幸福論
08. アリストテレスの倫理学③：中庸論とその評価
09. アリストテレスの倫理学④：倫理的卓越性
10. アリストテレスの倫理学⑤：知的卓越性
11. アリストテレスの倫理学⑥：快樂論
12. アリストテレスの倫理学⑦：幸福としての観想とその評価
13. カントの倫理学①：アリストテレス批判
14. カントの倫理学②：定言命法とその適用例
15. カントの倫理学③：ヘーゲル以降の定言命法批判の歴史とその評価
16. 和辻哲郎の倫理学①：カント批判
17. 和辻哲郎の倫理学②：十戒論とその評価
18. 和辻哲郎の倫理学③：信頼への応答という原理
19. 和辻哲郎の倫理学④：空を空する絶対的否定性の否定の運動
20. 和辻哲郎の倫理学⑤：空の倫理学とその評価
21. 原理論から物語解釈へ
22. モーセの十戒再考
23. モーセの生涯とその物語
24. アブラハムの生涯とその物語
25. アブラハムのイサク献供物語とその解釈史
26. ダビデの生涯とその物語
27. イエスとその弟子たちの生涯と物語
28. イエスに贖罪思想はあったか
29. まとめ①：贖罪信仰と創造神話
30. まとめ②：キリスト教倫理が現代に語りかけるもの

準備学習(予習)

適宜テキストを配布して、各自それを読んでくること。またレポーターは特に、テキストの内容をまとめ、問題提起をすることが大事となる。

準備学習(復習)

当該テキストと読み比べて、講義の主要な論点があったかを纏めること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 期末試験 | 60% |
| (2) 適宜レポート | 40% |

講義と並行して、随所でテキストを配布し、演習形式のテキスト読解も織り交ぜたい。担当するレポートと議論の能動的な参加度で、40%は評価する。残り60%は期末試験の成績で評価する。

教科書

教室で適宜、プリントを配布する。

参考書

『聖書』（特に版は定めない）

キリスト教文化学研究 C

担当教員：菊地 順

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2300303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キングとガンジーは、20世紀において、非暴力の思想とその実践において世界に大きな影響を与えましたが、この二人の人物を中心に非暴力の精神を学ぶと共に、キリスト教を背景とするデモクラシーの精神との関連を考察し、21世紀において持つその意義を考えます。

(2) 内容

この授業では、「キリスト教と非暴力の精神」について学びます。「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀から21世紀へと移行しましたが、戦争は一向になくならないだけでなく、ますます複雑になっています。この授業では、20世紀に非暴力の精神に基づいて展開された運動に注目し、その歴史と精神を学び、現代人の生き方について考えたいと思います。中心的に取り上げるのはアメリカでの公民権運動の指導者マーティン・ルーサー・キングですが、キングに影響を与えたマハトマ・ガンジーや非暴力思想を養ったクエーカーの伝統などにも広げて考察したいと思います。また、「暴力の思想」といった反対の視点からの考察も加えることができればと思います。

受講者に対する要望

質疑応答や議論をしながら授業を進めますので、積極的に参加して下さい。

学びのキーワード

- ・ マーティン・ルーサー・キング
- ・ マハトマ・ガンジー
- ・ 非暴力
- ・ 公民権運動
- ・ 人間の尊厳と人権

授業計画

01. 「キリスト教国」アメリカの現状
02. アメリカとキリスト教の歴史
03. アメリカにおける黒人の歴史①—独立革命まで
04. アメリカにおける黒人の歴史②—南北戦争まで
05. アメリカにおける黒人の歴史③—再建期と人種隔離制度
06. アメリカにおける黒人の歴史④—自由と平等を求める闘い
07. アメリカの公民権運動①—序章
08. アメリカの公民権運動②—モンゴメリーでの闘い
09. アメリカの公民権運動③—非暴力大衆直接運動の展開
10. アメリカの公民権運動④—バーミングハム闘争とワシントン大行進
11. M. L. キングと非暴力の精神①—公民権運動から
12. M. L. キングと非暴力の精神②—反戦運動と貧困撲滅運動から
13. マハトマ・ガンディと非暴力の精神
14. クエーカーと非暴力の精神
15. キリスト教と非暴力の精神—暴力の思想を顧慮しつつ

準備学習(予習)

シラバスに沿って、配布されたプリント等を必ず下読みし、予め問題意識を持って参加して下さい。

準備学習(復習)

配布されたプリント等を必ず読み直し、また授業中に紹介された参考文献等にも目を通し、理解を深めると共に、自らの問題発見に努めて下さい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

授業への参加度を重視します。また学期の終わりには、レポートを置いてもらいます。その両方で評価します。割合は、それぞれ50%です。

教科書

原則、プリント等を使用します。

参考書

授業の中で、随時紹介します。

日本文化学研究 A

担当教員：清水 正之

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C2500604

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

近代の思想史的連関のなかで、対象を考察する中で、自らの宗教性についての理解を一層明らかにし、|それぞれの問題意識が、さらに深まることをひとつの目標としています。

(2) 内容

キリスト教と日本人の精神性との関連を、主としてキリスト教思想家の著作を通して学ぶ授業です。|倫理思想史の観点から、近代のキリスト教思想史の基本的な知識を得るとともに、時代的な思想家の思想的連関にも着目しながら、講義を進めていきます。

受講者に対する要望

授業内での積極的な発言や問題提起を望みます。

学びのキーワード

- ・近代日本思想
- ・日本とキリスト教
- ・日本人の宗教性
- ・近代日本の倫理思想

授業計画

01. 始めに|講義の目標と、それぞれの問題意識との連関を考えていきます。
02. 近代日本思想とキリスト教 1
03. 近代日本思想とキリスト教 2
04. 近代日本思想とキリスト教 3|
05. 近代日本思想とキリスト教 4
06. 近代日本思想とキリスト教 5
07. 近代日本思想とキリスト教 6|
08. 近代日本思想とキリスト教 7
09. 近代日本思想とキリスト教 8|
10. 中間考察 1|
11. 中間考察 2
12. 近代日本哲学とキリスト教 1
13. 近代日本哲学とキリスト教 2|
14. 近代日本哲学とキリスト教 3|
15. 近代日本哲学とキリスト教 4
16. 近代日本哲学とキリスト教 5
17. 近代日本哲学とキリスト教 6
18. 中間考察とまとめ 1|
19. 中間考察とまとめ 2||
20. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 1||
21. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 2
22. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 3
23. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 4|
24. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 5
25. 近代日本文学にあらわれたキリスト教 6
26. 中間考察||
27. 伝統的心性とキリスト教 1|
28. 伝統的心性とキリスト教 2|
29. 伝統的心性とキリスト教 3
30. 総括と結論

準備学習(予習)

該当テキスト、関連研究論文等を前もって周到に読んでおくこと。

準備学習(復習)

各回、小レポートをまとめ、提出することを課す。

評価方法

- (1) 授業への参加度|積極性 50% 講義内での理解度、発言力、討論能力を評価する
- (2) 年度末の小論文をその完成度によって評価する。 50% 完成度、問題提起力、構成の適正さ等から評価する|小論文は、形式、内容の両面から評価する。

教科書

主題ごとに適宜指示します。

参考書

清水正之『日本思想全史』（ちくま新書）

日本文化学研究B

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2500705

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

その分野における先行研究を時代ごとにとつづけ、その根底なる問題意識と対峙すること。その作業を通じて己の関心を問い直し、研究の独自性を練り上げること。

(2) 内容

近現代日本の思想・キリスト教を対象とした最新の研究論文や著作を講読する。ゼミ形式で行う。選定は受講者の関心を重視し相談の上で行う。

受講者に対する要望

最新の研究成果に謙虚に学ぶ姿勢を堅持しつつも、自己の世界、自己の課題を見失うことのないよう、緊張感を持って対峙してほしい。

学びのキーワード

- ・近代日本史
- ・現代日本史
- ・思想史
- ・キリスト教史
- ・文学史

授業計画

01. 授業担当者の研究紹介
02. 研究文献の講読
03. 同上
04. 同上
05. 同上
06. 同上
07. 同上
08. 同上
09. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上

準備学習(予習)

文献に注記されている先行研究には、原則として、すべてに目を通してこくこと。発表の際には対論を必ず出すこと。

準備学習(復習)

自己の研究テーマや方法との交錯および分岐を意識し、みずからの独自性をめぐって思索を深めること。

評価方法

- (1) 研究発表と討論 100%

研究発表と討論が全てである。

教科書

参考書

研究方法特論I

担当教員：森田 美千代

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2900434

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学卒業後にながく学問の場から離れていた学生（シニア学生）や、その他必要を感じている学生に対して、研究の基本である「大学院生としての書く力」を養成することを目標とする。「研究方法特論I」は基礎科目である。

(2) 内容

「大学院生としての書く力」の目標を達成するために、担当者は、受講生が論文作成の基礎としての課題や問題を見だし、自分で調べ、学び、考え、整理し、そして、それらをもとにして実際に論文にまとめる方法を身につけることができるように、毎回個人指導をする。また、担当者は、受講生によって提出された小論文・その他に対して、毎回きめ細かな添削指導をする。

受講者に対する要望

受講者によって毎回提出される小論文のテーマは、春学期中できるだけ一貫性のあるものを望む。

学びのキーワード

- ・ 研究方法の基礎
- ・ 論文作成の基礎
- ・ 大学院生としての書く力
- ・ 添削指導
- ・ 個人指導

授業計画

01. はじめに
02. テーマの設定①
03. テーマの設定②
04. 資料の収集①
05. 資料の収集②
06. 本文の作成①
07. 本文の作成②
08. 本文の作成③
09. 本文の作成④
10. 本文の作成⑤
11. 注のつけ方①
12. 注のつけ方②
13. 文献表の作り方①
14. 文献表の作り方②
15. おわりに

準備学習(予習)

受講生は、事前に小論文・その他を提出する。

準備学習(復習)

受講生は、事前に小論文・その他を提出する。担当者によって添削された小論文・その他を授業終了後に訂正する。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 提出物 | 70% |

平常点30%と提出物70%によって総合的に評価する。

教科書

河野 哲也 『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）

参考書

研究方法特論II

担当教員：森田 美千代

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2900535

学部教育の関連目

授業計画

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

(2) 内容

準備学習(予習)

準備学習(復習)

評価方法

受講者に対する要望

学びのキーワード

教科書

参考書

原書講読 A (英語)

担当教員：氏家 理恵

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2905151

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学院語学選択科目として、研究のために論文を読み解く読み方を身につける。多読によってさまざまな文体に慣れ、より高度な英語文献の読解力をつけることを目標とする。

(2) 内容

英語の論説文・随筆文・物語文などさまざまな文体・様式の英文を読む。単なる訳読にとどまらず、要約や構造のチャート化などを通して、英文の論理展開やレトリックを知り、より深い内容理解を目指す。|テキストは、受講生の興味関心に合わせて、また、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選択・決定する予定である。受講生の英語力によっては、読解・翻訳・要約などの小テストを行う。|

受講者に対する要望

積極的な読書姿勢、意欲的な授業参加を望みます。また、テキスト内容についての活発なディスカッションを求めます。

学びのキーワード

- ・ 英語読解
- ・ 文献講読
- ・ 論説文・随筆文・物語文
- ・ 英語のレトリック
- ・ 英語論文の構成とフォーマット

授業計画

01. イントロダクション—授業の進め方、英語力テスト
02. テキスト選択と決定、分担決定、講読担当にあたっての注意
03. 講読 1
04. 講読 2
05. 講読 3
06. 講読 4
07. 英文の種類と論理展開
08. 講読 5
09. 講読 6
10. 講読 7
11. 講読 8
12. 英語論文のレトリック
13. 講読 9
14. 講読 10
15. 講読 11

準備学習(予習)

テキストは担当部分以外でも必ず前もって読んでおき、知らない単語を調べ、内容を確認しておくこと。担当者は訳だけでなく内容の要約や説明ができるようにし、担当部分のポイントや情報をまとめた発表レジュメを作成すること。|

準備学習(復習)

授業で講読した箇所は必ず復習をしておくこと。また、講読箇所
の要約、講義内容の要点のまとめを随時しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------|
| (1) 発表準備 | 30% | レジュメ作成を含む |
| (2) 発表 | 20% | |
| (3) 平常点 | 30% | |
| (4) 課題・小テスト | 20% | |

小テストの実施については、受講者数と受講者の英語力によって判断する。小テストの評価は課題に含める。

教科書

受講生の興味関心に合わせて、また、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選択・決定する。

参考書

原書講読B(英語)

担当教員：氏家 理恵

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2905252

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学院語学選択科目として、研究のために論文を読み解く読み方を身につける。多読によってさまざまな文体に慣れ、より高度な英語文献の読解力をつけることを目標とする。

(2) 内容

英語の論説文・随筆文・物語文などさまざまな文体・様式の英文を読む。単なる訳読にとどまらず、要約や構造のチャート化などを通して、英文の論理展開やレトリックを知り、より深い内容理解を目指す。|テキストは、受講生の興味関心に合わせて、また、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選択・決定する予定である。受講生の英語力によっては、読解・翻訳・要約などの小テストを行う。|

受講者に対する要望

積極的な読書姿勢、意欲的な授業参加を望みます。また、テキスト内容についての活発なディスカッションを求めます。

学びのキーワード

- ・ 英語読解
- ・ 文献講読
- ・ 論説文・随筆文・物語文
- ・ 英語のレトリック

授業計画

01. イントロダクション—授業の進め方、英語力テスト
02. テキスト選択と決定、分担決定、講読担当にあたっての注意
03. 講読 1
04. 講読 2
05. 講読 3
06. 講読 4
07. 英文の種類と論理展開
08. 講読 5
09. 講読 6
10. 講読 7
11. 講読 8
12. 英文のレトリック
13. 講読 9
14. 講読 10
15. 講読 11

準備学習(予習)

テキストは担当部分以外でも必ず前もって読んでおき、知らない単語を調べ、内容を確認しておくこと。担当者は訳だけでなく内容の要約や説明ができるようにし、担当部分のポイントや情報をまとめた発表レジュメを作成すること。|

準備学習(復習)

授業で講読した箇所は必ず復習をしておくこと。また、講読箇所
の要約、講義内容の要点のまとめを随時しておくこと。

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|-----------|
| (1) 発表準備 | 30% | レジュメ作成を含む |
| (2) 発表 | 20% | |
| (3) 平常点 | 30% | |
| (4) 課題・小テスト | 20% | |

小テストの実施については、受講者数と受講者の英語力によって判断する。小テストの評価は課題に含める。

教科書

受講生の興味関心に合わせて、また、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選択・決定する。

参考書

原書講読B (独語)

担当教員： 関根 清三

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 2

授業コード： C2905454

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

平易なドイツ語を、基本的な文法を押さえて正確に読むことを目標とする。その先に旧新約聖書を自分で紐解いて、それに親しむことは、欧米文化に興味ある多くの人に意義があるはずである。参加者のドイツ語力によっては、文法の手ほどきから入ることにも対応したい。

(2) 内容

昨年度に引き続き、C. Wetsermann: Das Alte Testament und Jesus Christus (旧約聖書とイエス・キリスト)を読む。ヴェスターマンは20世紀を代表する旧約学者の一人。この碩学が、預言、歴史、嘆きと賛美、知恵といった諸テーマをめぐって、旧新約聖書の関連を問うた書物を丹念に読み、縦横に引用される聖書のテキストを参照併読して、聖書についての知見を深める演習。参加者の希望が多ければ、Wetsermannに入る前に、文法の手ほどきをするとも考えたい。

受講者に対する要望

予習と復習をすること。

学びのキーワード

- ・ドイツ語の読解
- ・Bibelkunde
- ・旧約の預言と新約聖書
- ・旧約の歴史とイエス・キリスト
- ・嘆きと賛美における神の民の応答

授業計画

01. 序論
02. 旧新約聖書の関係についての見方の変遷
03. 預言者の嘆き
04. 神の審判の告知者としての預言者
05. 救済の告知者としての預言者
06. 歴史の始めの救い
07. 召命と随順
08. 祝福
09. 王国
10. 律法
11. 原初史と族長時代
12. キリストと民の嘆き
13. 神賛美
14. 知恵
15. まとめ

準備学習(予習)

次の回のテキストのドイツ語の意味を辞書を用いながら、調べておくこと。またそこで言及される旧新約聖書の箇所を参照し、釈義をすること。

準備学習(復習)

前回読んだ箇所の内容を要約すること。

評価方法

- (1) 授業への参加度 100%

毎回出席者に訳してもらい、内容について議論し、それを基準に評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書

原書講読A (ギリシャ語)

担当教員：左近 豊

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2905757

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

新約聖書、七十人訳聖書ギリシャ語文法および原典講読を中心として聖書文献を学ぶ。コイナー・ギリシャ語の初歩を学ぶことで、70人訳聖書や新約聖書の読解に必要な素養を身に着ける。

(2) 内容

教科書にそってコイナー・ギリシャ語文法を体系的に学びつつ、できるだけ多くの原典にあたる。

受講者に対する要望

単語と活用表の暗記がギリシャ語習得の鍵となるので、授業外での単語帳の活用を強く勧める。また言語感覚を養うためにギリシャ語は音読することを求める

学びのキーワード

- ・コイナーギリシャ語
- ・ギリシャ語聖書講読
- ・70人訳聖書講読

授業計画

01. ギリシャ語アルファベット、文字、発音など
02. 動詞活用 直説法能動現在など
03. 名詞 第一変化名詞など
04. 第二変化名詞
05. 定冠詞、第一、第二変化形容詞など
06. 第二変化女性名詞、第一変化男性名詞、前置詞
07. エイミーの直説法現在、人称代名詞
08. 指示代名詞、強意代名詞など
09. 中動・受動現在など
10. 本時称と副時称、能動未完了過去など
11. 中動・受動未完了過去
12. 能動未来、中動未来など
13. 能動第一アオリスト、中動第一アオリストなど
14. 能動第二アオリスト、中動第二アオリストなど
15. 能動現在完了、中動・受動現在完了

準備学習(予習)

各回ごと、教科書の指定箇所を読んでから授業に臨むこと|各単元の新出単語リストを暗記して単語クイズに臨むこと。

準備学習(復習)

各回、章末の問題を解く

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 予習・復習問題 | 60% |
| (2) 単語クイズ(毎回) | 20% |
| (3) 期末試験 | 20% |

教科書

N. C. Croy, A Primer of Biblical Greek. Eerdmans 978-0802867339

参考書

B. Gutierrez and C.L. Murphy, Learn to Read New Testament Greek Workbook, B&H Pub. | R.E. van Voorst, Building Your New Testament Greek Vocabulary, SBL | 辞書 | Liddell, H. G., R.Scott, H.S.Jones, Greek-English Lexicon, Oxford. | W. Bauer, A Greek-English Lexicon of the New Testament and Other Early Christian Literature, 3rd edition, revised by F.W. Danker, Chicago UP. |

原書講読B (ギリシャ語)

担当教員：左近 豊

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2905858

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

春学期に引き続き、新約聖書、七十人訳聖書ギリシャ語文法および原典講読を中心として聖書文献を学ぶ。教科書にそってコイナー・ギリシャ語文法を体系的に学びつつ、できるだけ多くの原典にあたり、実践的なギリシャ語読解力を身につける

(2) 内容

教科書にそってコイナー・ギリシャ語文法を体系的に学びつつ、できるだけ多くの原典にあたる。

受講者に対する要望

単語と活用表の暗記がギリシャ語習得の鍵となるので、授業外での単語帳の活用を強く勧める。また言語感覚を養うためにギリシャ語は音読することを求める。

学びのキーワード

- ・コイナー・ギリシャ語初歩
- ・ギリシャ語聖書講読
- ・70人訳聖書講読

授業計画

01. Aorist Passive indicative, Second Aorist Passiveなど
02. The Third Declension, Neuter Nouns in -maなど
03. Participlesについて
04. Aorist Active Participles, Aorist Middle Participlesなど
05. Aorist Passive Participles, Perfect Active Participlesなど
06. Contract Verbsについて
07. Liquid Verbsについて
08. Subjunctiveに関して
09. Infinitiveに関して
10. Imperativeに関して
11. Interrogative PronounとAdjective, Relative Pronounなど
12. -mi 動詞について (1)
13. -mi 動詞について (2)
14. Comparative Adjectivesなど
15. 総括

準備学習(予習)

毎回事前に章末問題を解いてから授業に臨むこと|各単元の新出単語リストを暗記して単語クイズに臨むこと|

準備学習(復習)

各単元で学んだ文法事項の要点を整理し、章末の発展問題を用いて定着をはかること。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 予習復習問題 | 60% |
| (2) 単語クイズ | 20% |
| (3) 期末試験 | 20% |

教科書

N. C. Croy, A Primer of Biblical Greek. Eerdmans 978-0802867339

参考書

B. Gutierrez and C.L. Murphy, Learn to Read New Testament Greek Workbook, B&H Pub. | R. E. van Voorst, Buidring Your New Testament Greek Vocabulary, SBL | 辞書 | Liddell, H. G. R. Scott, H. S. Jones, Greek-English Lexicon, Oxford. | W. Bauer, A Greek-English Lexicon of the New Testament and Other Early Christian Literature, 3rd edition, revised by F. W. Danker, Chicago UP. |

原書講読 A (ラテン語)

担当教員：片柳 榮一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2905959

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ヨーロッパの古典語一般がそうであるが、ラテン語も名詞、動詞などほとんどの単語がそれぞれ語尾変化し、自らが一つの文章中でどのような役割をしているかを、いちいち語尾変化で示す（近代語は語尾変化を減らして、それを文中の位置で示そうとする）。その変化を覚えるのは、初心者にとっては、いささか苦痛である。その苦痛を少し忍んで、語尾変化を覚えてゆくと、或る日単語がひとりで動いて文章の形（主語と動詞）をなしてゆくように思える時がある。ラテン語がいわば微笑みかけてくる時だ。そうするとラテン語の学びは楽しみとなる。そのような時に至ることを目標にしたい。ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学ぶと確信する。

(2) 内容

名詞は格（主格、属格、与格、対格、奪格）変化に応じて、五つの種類に分かれることを理解し、その代表的なものを覚える。また動詞は人称変化に応じて、四つの類型に分かれることを理解し、代表的なものの現在人称変化を覚える。その他、不定法、命令法、関係代名詞などに関して、その用法を理解する。

受講者に対する要望

正確に文法を把握すること

学びのキーワード

- ・ 名詞の格変化
- ・ 動詞の人称変化
- ・ 命令法
- ・ 不定法
- ・ 関係代名詞

授業計画

01. ラテン語の面白さ
02. 主格および対格
03. 奪格
04. 名詞の性および形容詞
05. 奪格支配および対格支配
06. 名詞の数
07. 属格
08. 繫辞
09. 与格
10. 不定法
11. 動詞の人称変化
12. 命令法および呼格
13. 指示代名詞および不定代名詞
14. 関係代名詞
15. まとめ

準備学習(予習)

知らない単語は前もって調べておくこと。

準備学習(復習)

文法事項の暗唱

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

M・アモロス 『ラテン語の学び方』 (南窓社)|

参考書

原書講読B (ラテン語)

担当教員：片柳 榮一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2906060

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ヨーロッパの古典語一般がそうであるが、ラテン語も名詞、動詞などほとんどの単語がそれぞれ語尾変化し、自らが一つの文章中でどのような役割をしているかを、いちいち語尾変化で示す（近代語は語尾変化を減らして、それを文の中の位置で示そうとする）。その変化を覚えるのは、初心者にとっては、いささか苦痛である。その苦痛を少し忍んで、語尾変化を覚えてゆくと、或る日単語がひとりで動いて文章の形（主語と動詞）をなしてゆくように思える時がある。ラテン語がいわば微笑みかけてくる時だ。そうなるとラテン語の学びは楽しみとなる。そのような時に至ることを目標にしたい。ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学びうると確信する。

(2) 内容

動詞の過去形、半過去形、未来形、大過去形、先立未来形の人称変化を覚える。さらにラテン語の簡潔な表現法としての奪格別句の用法に習熟する。また接続法を理解し、その用法を理解する。

受講者に対する要望

文法事項(殊に動詞の人称変化、名詞の格変化)は正確に憶えること

学びのキーワード

- ・ 動詞の過去形
- ・ 動詞の半過去形
- ・ 動詞の未来形
- ・ 奪格別句
- ・ 動詞の接続法

授業計画

01. 奪格別句
02. 形容詞の比較・最上級
03. 変位動詞
04. 非人称動詞
05. 動詞的形容詞
06. 過去形
07. 半過去形
08. 未来形
09. 大過去形
10. 接続法
11. 間接話法
12. 接続詞cumの用法
13. 条件文
14. 結果文
15. まとめ

準備学習(予習)

知らない単語は前もって調べておくこと。

準備学習(復習)

文法事項の暗唱

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 期末試験 | 50% |

教科書

M・アモロス 『ラテン語の学び方』 (南窓社)|

参考書

文献講読 A / 文献講読 A (日本文化学)

担当教員：清水 均

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2910101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

昨今、特に日本の安全保障問題や憲法改正をめぐる様々な動向の中で、私たちは「日本のアイデンティティ」「日本人としてのアイデンティティ」なるものについて「考える」ことを要請されている。こうした「政治の現状」にあわせる形でこの「アイデンティティ」について考えることの是非は今では措くとして、「日本」とは、「日本人」とはどのような存在なのか、あるいは「日本」や「日本人」はどのように語られてきたのか、更にはこの先の「日本」「日本人」はどうありえるのかということについて考えることは、私たちが「日常」を生きることにしても有益であろう。受講生においては、個々の「生」と「世界」との繋がりを捉える一つの契機となることを期待する。

(2) 内容

西川長夫『国境の超え方 国民国家論序説』（平凡社ライブラリー）を読む。この著作を読むことで、「国民国家」「国境」という概念について考えてみたい。そして、そのことを通じて「日本とは？」「日本人とは？」という問いを立て、更には、グローバル世界、あるいはこれとは逆行する世界の現在の動向について考えたい。|その上で、「日本の文化」ひいては「文化」という概念について考え、学生自らの「文化観」を構築することを目標とする。

受講者に対する要望

授業はテキストの章ごとに担当者を決めて発表してもらうが、発表担当者もそれ以外の学生もテキストをよく読んでおき、各自において課題を見つけておいてほしい。また、テキスト以外の文献を読むことにも果敢に挑戦してもらいたい。

学びのキーワード

- ・ 国境
- ・ 国民国家
- ・ 日本/日本人
- ・ 文化/日本文化

授業計画

01. オリエンテーション|テキストⅠ 日常のなかの世界感覚|1: 世界地図のイデオロギー
02. テキストⅠ 日常のなかの世界感覚|2: 好きな国・嫌いな国-心理的な世界地図
03. テキストⅡ ヨーロッパのオリエンタリズム|3: サイド『オリエンタリズム』再読
04. テキストⅢ 日本における文化受容のパターン|4: 欧化と回
05. テキストⅣ 文明と文化-その起源と変容|5: 起源-ヨーロッパ的価値としての文明と文化
06. テキストⅣ 文明と文化-その起源と変容|6: フランスとドイツ-対抗概念としての文明と文化
07. テキストⅣ 文明と文化-その起源と変容|7: 日本での受容-翻訳語としての文明と文化
08. テキストⅤ 文化の国境を越えるために|8: 国民国家と私文化-日本文化は存在するか?
09. テキストⅤ 文化の国境を越えるために|9: 二つの『日本文化私観』-ブルノ・タウトと坂口安吾
10. テキストⅥ 補論-一九九〇年代をふり返って|10: グローバリゼーション・多文化主義・アイデンティティ-「私文化」に
かんする考察を深めるために
11. 補説 1
12. 補説 2
13. 補説 3
14. 補説 4
15. 補説 5

準備学習(予習)

次回扱うテキストの章を読んでおく。発表者は発表の準備をする。

準備学習(復習)

発表担当者もそれ以外の学生も、当該授業において浮上した課題について考察する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--|
| (1) 最終レポート | 50% | 学生自身の「日本論/日本人論」あるいは「日本文化観」を記述してもらう予定である。 |
| (2) 平常点 | 50% | テキストの読みは学生に分担発表してもらう。その内容について評価する。 |

教科書

西川長夫『国境の超え方 国民国家論序説』（平凡社ライブラリー）

参考書

必要に応じて授業内に指示する。

文献講読B / 文献講読B (日本文化学)

担当教員：濱田 寛

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2910202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

唐・李瀚撰『蒙求』は四言五九六句で構成される一首の作品である。各句は概ね「人名」とその人物に関する「故事」によって構成され、初学者のために編まれた作品である。故宮博物院蔵『蒙求』古鈔本は、現行の宋・徐子光注以前の古態の注を伝える、所謂「古注蒙求」である。この写本にはヲコト点・声点・返点・仮名が施されており、これらの読解を通して漢文資料読解の基本的な技術の修得を目標とする。

(2) 内容

台湾故宮博物院蔵『蒙求』古注の講読

受講者に対する要望

テキストは「画像データ」でも配布する予定である。写本の細部を検討する上でタブレット・PCによる拡大表示は極めて有効である。モバイル端末の使用を推奨する。また、漢和辞典は必携とする(電子辞書も可)。

学びのキーワード

- ・『蒙求』／李瀚／古注
- ・ヲコト点／声点／返点／古訓
- ・原典考証

授業計画

01. ガイダンス
02. 『蒙求』概説
03. 故宮本『蒙求』講読①／王戎簡要
04. 故宮本『蒙求』講読②／裴楷清通
05. 故宮本『蒙求』講読③／孔明臥龍
06. 故宮本『蒙求』講読④／呂望非熊①
07. 故宮本『蒙求』講読⑤／呂望非熊②
08. 故宮本『蒙求』講読⑥／楊震関西
09. 故宮本『蒙求』講読⑦／丁寛易東
10. 故宮本『蒙求』講読⑧／謝安高潔
11. 故宮本『蒙求』講読⑨／王導公忠
12. 故宮本『蒙求』講読⑩／匡衡鑿壁
13. 故宮本『蒙求』講読⑪／孫敬閉戸①
14. 故宮本『蒙求』講読⑫／孫敬閉戸②
15. 総括

準備学習(予習)

テキストの指定箇所の準備を必須とする。

準備学習(復習)

教場にて適宜指示する。

評価方法

- | | | |
|---------|-----|-------------------------|
| (1) 積極性 | 50% | 事前準備・講読における積極性 |
| (2) 習熟度 | 50% | 写本の「読解」のためのスキルの習熟度を勘案する |

本講義は「講読」であるから、受講生の事前の準備が極めて重要である。

教科書

教場にて配布する

参考書

・汲古書院『蒙求古註集成』全四冊 | ・明治書院・新釈漢文大系『蒙求』(上・下)

文献講読C / 文献講読C (ヨーロッパ文化学)

担当教員：和田 光司

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：C2910303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

外国語の文献読解力をブラッシュアップする。またヨーロッパ近世・近代の歴史理解を通じて、ヨーロッパ文明に対する理解を深める。

(2) 内容

ヨーロッパ史についての英語あるいはフランス語の文献を講読する。テキストは受講者と相談し、関心や外国語読解力によって決定する。英語については、R. W. Scribner and C. Scott Dixon, *The German Reformation*, N. Y., 2003; T. C. W. Blanning, *The French Revolution, Class War or Culture Clash?*, N. Y., 1998; Peter Burke, *The Renaissance*, N. Y., 1997. フランス語については、M. Peronnet, *Le XVIIe siècle*, Paris, 1992, Fernand Braudel, *La Mediterranee, l' espace et l' histoire*, Paris, 1985. Jean Delumeau, *Naissance et affirmation de la Reforme*, Paris, 1965. などを候補として考えているが、それ以外も可能である。

受講者に対する要望

語彙力、文法力、作文力など他の語学力の諸要素も、並行して自主的な学習によって伸ばし、この授業に限定せず語学力を総合的に涵養してほしい。

学びのキーワード

- ・ヨーロッパ
- ・歴史
- ・宗教改革
- ・英語
- ・フランス語

授業計画

01. イントロダクション
02. 講読第1回
03. 講読第2回
04. 講読第3回
05. 講読第4回
06. 講読第5回
07. 講読第6回
08. 講読第7回
09. 講読第8回
10. 講読第9回
11. 講読第10回
12. 講読第11回
13. 講読第12回
14. 講読第13回
15. 総括

準備学習(予習)

受講者は毎回、次回の講読箇所を理解しておくこと。

準備学習(復習)

前回の授業での講読箇所でてきた語彙、文法的事項を再度確認し、知識として定着させること。また、歴史事項など、理解の不十分であった事項を調べるとともに、前回の講読内容をそれ以前のテキストとの関連から把握し、テキスト全体としての流れを理解すること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 講読 | 70% |

教科書

参考書

文献講読D / 文献講読D (キリスト教文化学)

担当教員： 関根 清三

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 2

授業コード： C2910404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本を代表するキリスト教思想家・内村鑑三のキリスト教理解の生成と本質を、その新約聖書の読解・注解を通して学びたい。演習形式でテキストを読解し対話を積み重ねることによって、論理的に語り合う力を身につけることもできるはずである。

(2) 内容

《内村鑑三と新約聖書》|内村鑑三（一八六〇—一九三〇）は、聖書解釈に基づく福音主義信仰と時事社会批判を旨とする、日本を代表するキリスト教思想家・伝道者である。彼の思想の根底には、民族や民衆に対する同情と、世界文明の興亡史への関心と、また進化論や宇宙生成論への自然科学的知見がある。それらが、キリストの贖罪と愛に収斂する聖書の救済史的理解と共振して、現実と切り結ぶ迫真性を伴った雄渾な思想が形成された。今学期は、その内村が生涯こととした新約聖書の読解を、新約の各書ごとに通覧する。そのことによって彼の新約理解の生成をたどり、その雄渾な思想の本質に迫りたい。

受講者に対する要望

毎回テキストをよく読んできて積極的に発言してほしい。また担当テキストのレポーターは、背景を調べて、論旨を正確に取り、どこに感銘を受けたか、自分に問い詰めて発表してほしい。それらの積み重ねによって、欧米文化の根底にあるキリスト教についての知見を磨き、自分の中の日本人としての伝統に思いをいたし、また思想について論理的に語る力を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・ 多神教、拝一神教、唯一神教
- ・ 義戦論と非戦論
- ・ 義と愛
- ・ 贖罪
- ・ 創造と平和

授業計画

01. 序論：内村鑑三の生涯と新約聖書
02. 内村鑑三の義戦論と非戦論
03. 内村鑑三のマルコ福音書理解
04. 内村鑑三のマタイ福音書理解
05. 内村鑑三のルカ福音書理解
06. 内村鑑三のヨハネ福音書理解
07. 内村鑑三の使徒行伝理解
08. 内村鑑三のパウロ書簡理解（1）
09. 内村鑑三のパウロ書簡理解（2）
10. 内村鑑三の疑似パウロ書簡理解
11. 内村鑑三の公同書簡その他の理解
12. 内村鑑三のヨハネ黙示録理解（1）
13. 内村鑑三のヨハネ黙示録理解（2）
14. まとめ（1）
15. まとめ（2）

準備学習(予習)

毎回取り上げるテキストを、何度も読んで、自分の意見を述べられるように考えてきてほしい。

準備学習(復習)

演習の対話を通して、テキストについてどういう新しい知見が開けたか、顧みて箇条書きにまとめてみることを薦める。

評価方法

- (1) 平常点とレポート 100%

授業は、共にテキストを読みながら対話しつつ考える演習形式で行い、担当テキストのレポートと毎回の対話への参加度で評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書

アメリカ文化学A演習I

担当教員：高橋 義文

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C3100101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

ラインホールド・ニーバーの歴史思想を確認し、その現代的意義を検討する。

(2) 内容

ラインホールド・ニーバーの主著『人間の運命』（1943年）を講読しながら、ニーバーの歴史論の特質を理解し、その意義や課題について検討する。

受講者に対する要望

可能な限り欠席をしないこと。

学びのキーワード

- ・ ラインホールド・ニーバー
- ・ 歴史
- ・ 恩寵
- ・ 認識
- ・ 終末

授業計画

01. 『人間の運命』の背景（1）
02. 『人間の運命』の背景（2）
03. 『人間の運命』第1章講読（1）
04. 『人間の運命』第1章講読（2）
05. 『人間の運命』第2章講読（1）
06. 『人間の運命』第2章講読（2）
07. 『人間の運命』第3章講読（1）
08. 『人間の運命』第3章講読（2）
09. 『人間の運命』1-3章の検討（1）
10. 『人間の運命』1-3章の検討（2）
11. 『人間の運命』第4章講読（1）
12. 『人間の運命』第4章講読（2）
13. 『人間の運命』第4章の検討（1）
14. 『人間の運命』第4章の検討（2）
15. 『人間の運命』第5章講読（1）
16. 『人間の運命』第5章講読（2）
17. 『人間の運命』第6章講読（1）
18. 『人間の運命』第6章講読（2）
19. 『人間の運命』第7章講読（1）
20. 『人間の運命』第7章講読（2）
21. 『人間の運命』5-7章の検討（1）
22. 『人間の運命』5-7章の検討（2）
23. 『人間の運命』第8章講読（1）
24. 『人間の運命』第8章講読（2）
25. 『人間の運命』第9章講読（1）
26. 『人間の運命』第9章講読（2）
27. 『人間の運命』第10章講読（1）
28. 『人間の運命』第10章講読（2）
29. 『人間の運命』8-10章の検討（1）
30. 『人間の運命』8-10章の検討（2） まとめ

準備学習(予習)

毎回、扱う箇所をあらかじめ熟読しておく。報告担当になった場合は、要約を作成する。

準備学習(復習)

前回の内容をよく確認する。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------|
| (1) 平常点、報告 | 50% | 授業で、指定箇所の要約報告を求める。 |
| (2) レポート | 50% | |

平常点、報告、レポートを、その割合を踏まえ、総合的に評価する。

教科書

ラインホールド・ニーバー『人間の運命』聖学院大学出版会、2017年（予定。出版が遅れる場合には、コピーを配布する。）

参考書

必要に応じて、指示する。

アメリカ文化学C演習I

担当教員：森田 美千代

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C3100303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

このコースではまず、担当者が専門としているマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの内容(思想と行動)を理解することを、目標とする。それと同時に、論文をどのように完成していくかについて学ぶことも、目標とする。これらの学びの目標は、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアのもつ現代的意義を深く理解できるようになることに繋がる。

(2) 内容

このコースは、修士論文を完成するための最初のステップとなるコースである。このコースのなかで、授業計画であげた諸論文を読んでその内容を理解し、そしてそれらの諸論文が、論文としてどのように組み立てられているか、先行研究との対話はどうか、資料の収集はどうかなどを、検討する。

受講者に対する要望

意欲的にキング研究に取り組んでほしい。

学びのキーワード

- ・ マーティン・ルーサー・キング, ジュニア
- ・ キリスト教
- ・ モンゴメリー運動
- ・ バーミングハム運動
- ・ ワシントン大行進

授業計画

01. はじめに①
02. はじめに②
03. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(1)①
04. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(1)②
05. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(2)①
06. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(2)②
07. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(3)①
08. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(3)②
09. モンゴメリー運動に関する森田論文(1)①
10. モンゴメリー運動に関する森田論文(1)②
11. モンゴメリー運動に関する森田論文(2)①
12. モンゴメリー運動に関する森田論文(2)②
13. バーミングハム運動に関する森田論文(1)①
14. バーミングハム運動に関する森田論文(1)②
15. バーミングハム運動に関する森田論文(2)①
16. バーミングハム運動に関する森田論文(2)②
17. ワシントン大行進に関する森田論文(1)①
18. ワシントン大行進に関する森田論文(1)②
19. ワシントン大行進に関する森田論文(2)①
20. ワシントン大行進に関する森田論文(2)②
21. 受講生のプレゼンテーション(1)①
22. 受講生のプレゼンテーション(1)②
23. 受講生のプレゼンテーション(2)①
24. 受講生のプレゼンテーション(2)②
25. 受講生のプレゼンテーション(3)①
26. 受講生のプレゼンテーション(3)②
27. 受講生のプレゼンテーション(4)①
28. 受講生のプレゼンテーション(4)②
29. おわりに①
30. おわりに②

準備学習(予習)

該当論文を事前によく読んで出席する。

準備学習(復習)

授業後は授業中に出てきた疑問や課題に取り組む。さらに、自らのテーマを設定してそれに取り組み、それを修士論文に繋げていくことができるようにする。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) プレゼンテーション | 30% |
| (3) レポート | 40% |

教科書

参考書

ヨーロッパ文化学A演習I

担当教員：片柳 榮一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C3200101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

神の言葉をめぐるバルトとブルトマン|20世紀を代表する二人の神学者の代表的な聖書注解を読む進める中で、この二人の神学者が、歴史文書としての「聖書」のうちに如何にして「神の言葉」を聞きとっているかを探ってみたい。ドイツ人文学の輝かしい成果としての歴史文献学的研究によって徹底的に批判の対象とされた「聖書」のうちに如何に「神の言葉」を聞きとるかはこの二人の神学者の最大の関心事であった。しかし組織神学者のバルトと、新約聖書学者のブルトマンが聖書に向かう態度には少なからぬ相違がある。真の「超越」としての神の言葉に対するバルトとブルトマンの基本的関わりを、明らかにしてゆきたい。

(2) 内容

バルトの聖書注解としてDer Roemerbrief第二版（翻訳も可）を読む。キルケゴールの影響の下に「神と人間との質的差異」を強調し、聖書を読むことは、単に二千年前の歴史的文書に接することではなく、永遠なる神の前に立つことであるとして、当時の神学界に衝撃を与えた書である。現在私たちが読んでも、連続と続く時間と歴史の流れを寸断する絶対者の前に読む者を引き出すインパクトをもっている。現代神学とは何か、現代におけるキリスト教信仰とは如何なる意味をもつのかを考える入門書として読みたい。|ブルトマンの聖書注解としてDas Evangelium des Johannesを読む。ブルトマンはヨハネ福音書の著者をグノーシス思想との接点に立つ人として捉える。宗教史学派のライツェンシュタインが唱えた「救われた救い主」（救い主自身がかつて救われた者であった）としてのグノーシス理解に大きな影響を受けたブルトマンのヨハネ理解を通して、現代における「信仰と理解」の問題を再考したい。

受講者に対する要望

バルトとブルトマンの思想の共通点と相違点を明確に理解するように努めてほしい

学びのキーワード

- ・ 神と人間との質的差異
- ・ 弁証法神学
- ・ パウロとヨハネ
- ・ 宗教史学派
- ・ 非神話化

授業計画

01. 序論
02. 弁証法神学について（1）
03. 弁証法神学について（2）
04. バルトとキルケゴール（1）
05. バルトとキルケゴール（2）
06. バルト「ロマ書講解」第1章Eingangを読む（1）|
07. バルト『ロマ書』第1章Eingangを読む（2）
08. バルト『ロマ書講解』第2章Menschengerechtigkeitを読む（1）
09. バルト『ロマ書講解』第2章Menschengerechtigkeitを読む（2）
10. バルト『ロマ書講解』第3章Gottesgerechtigkeitを読む（1）
11. バルト『ロマ書講解』第3章Gottesgerechtigkeitを読む（2）
12. バルト『ロマ書講解』第4章Die Stimme der Geschichteを読む（1）
13. バルト『ロマ書講解』第4章Die Stimme der Geschichteを読む（2）
14. バルト『ロマ書講解』第5章Der nahende Tagを読む（1）
15. バルト『ロマ書講解』第5章Der nahende Tagを読む（2）
16. バルト『ロマ書講解』第6章 Gnadeを読む|
17. ブルトマンと宗教史学派（1）
18. ブルトマンと宗教史学派（2）
19. ブルトマン以降のヨハネ福音書注解
20. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（1）
21. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（2）
22. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（3）
23. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（4）
24. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（5）
25. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（6）
26. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（7）
27. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（8）
28. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（9）
29. ブルトマン『ヨハネ福音書講解』を読む（10）
30. まとめ

準備学習(予習)

前もって本文を読んで、問題点を整理しておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだことを自らのものにするための省察

評価方法

(1) 討議、平常点 100%

毎回の討議における受け答えをもとに、平常点評価。

教科書

講義中プリント配布

参考書

ヨーロッパ文化学B演習I

担当教員： 稲田 敦子

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 4

授業コード： C3200202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

イギリスにおける自由論の歴史的背景と事例研究を行うことにより、現代における問題点を考える。

(2) 内容

イギリス文化はその両義性に特質があるといえる。その歴史・伝統・民族文化の継承と斬新な革新性には、イングランドを覇権へ導いた主潮たる文化とともに、その対極にある庶民のあり方への視点が示されている。この演習では、自由論の古典とされるミルのOn Libertyを中心に、現代におけるイギリス社会の問題点を事例研究をあわせて検討する。

受講者に対する要望

主体的な学びを要望します。

学びのキーワード

- ・ J. S. ミル
- ・ イギリス自由主義
- ・ イギリス経験論

授業計画

01. イギリス経験論(1)
02. イギリス経験論(2)
03. Mill, On Liberty(1)
04. Mill, On Liberty(2)
05. Mill, On Liberty(3)
06. スコットランド啓蒙主義(1)
07. スコットランド啓蒙主義(2)
08. スコットランド啓蒙主義(3)
09. グリーンの自由主義(1)
10. グリーンの自由主義(2)
11. グリーンの自由主義(3)
12. イギリス社会の問題点(1)
13. イギリス社会の問題点(2)
14. イギリス社会の問題点(3)
15. 中間まとめ
16. 事例研究・地域(1)
17. 事例研究・地域(2)
18. アクトンの自由論(1)
19. アクトンの自由論(2)
20. バーリンの自由論(1)
21. バーリンの自由論(2)
22. 事例研究(1)
23. 事例研究(2)
24. 事例研究(3)
25. イギリス文化の両義性(1)
26. イギリス文化の両義性(2)
27. イギリス文化の両義性(3)
28. ゼミ論草稿
29. ゼミ論
30. まとめ

準備学習(予習)

テキストを十分に予習すること。

準備学習(復習)

検討した課題の復習をしておくこと。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) ブック・レポート | 20% |
| (2) 平常点 | 30% |
| (3) 期末レポート | 50% |

教科書

プリントを配布する

参考書

キリスト教文化学A演習I

担当教員： 関根 清三

学期： 秋学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 4

授業コード： C3300101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

1) キリスト教思想の根幹を旧新約聖書にさかのぼって学び、その知見を深めること、また2) 愛と超越といったその根本テーマをめぐって、他の諸思想と比較しつつ、キリスト教に通底するもの、また異同するものを見極めることを、主たる目標とする。それは、3) それらについてなるべく広くたくさん読み欧米文化の基礎の知識を深め、また4) 自由に討論することで、対話する力を養うなどの意義も持つにちがいない。

(2) 内容

《キリスト教倫理と倫理学の諸体系》|主としてキリスト教倫理を論じた春学期の講義「キリスト教文化学研究A」に接続して、そこで論じ切れなかった旧新約聖書のテキスト、さらには古今東西の倫理学の古典的な体系から幾つかを、落穂拾い的に読み進む。|註解書を併読して解釈を深めること、解釈学的方法論を習得すること、また参加者自身のオリジナルな読解を出し合い、自由に論じ合うことを、目的とした演習であることは、昨年度と同じだが、独自に編集した資料集のうち、昨年度取り上げられなかったテキストを、参加者の希望に沿って取り上げることとする。|

受講者に対する要望

毎回テキストをよく読んできて積極的に発言してほしい。また担当テキストのレポーターは、背景を調べて、論旨を正確に取り、どこに感銘を受けたか、自分に問い詰めて発表してほしい。それらの積み重ねによって、欧米文化の根底にあるキリスト教についての知見を磨き、思想について論理的に語る力を身につけてほしい。

学びのキーワード

- ・キリスト教思想と他の諸思想の比較
- ・愛についての多様な考え方
- ・超越と人間の関係
- ・宗教と戦争
- ・宗教と科学

授業計画

01. 序論①: 春学期「キリスト教文化学研究A」の回顧と展望 (1)
02. 序論②: 春学期「キリスト教文化学研究A」の回顧と展望 (2)
03. ヘブライズムの思想①: 旧約聖書の律法から□
04. ヘブライズムの思想②: 進化論との比較検討 (1)
05. ヘブライズムの思想③: 進化論との比較検討 (2)
06. ヘブライズムの思想④: 旧約聖書の預言書から
07. ヘブライズムの思想⑤: 旧約聖書の諸書から
08. ヘレニズムの思想①: ソクラテスの神理解
09. ヘレニズムの思想②: プラトンの神理解
10. ヘレニズムの思想③: アリストテレスの神理解
11. ヘレニズムの思想④: ヒポクラテスの神理解
12. キリスト教の思想①: イエスの場合 (1)
13. キリスト教の思想②: イエスの場合 (2)
14. キリスト教の思想③: 原始キリスト教団の場合
15. キリスト教の思想④: アウグスティヌスの場合
16. キリスト教の思想⑤: ダンテの場合
17. キリスト教の思想⑥: デカルトの場合
18. キリスト教の思想⑦: パスカルの場合
19. キリスト教の思想⑧: ロックの場合
20. 愛をめぐる思索①: 日本の場合
21. 愛をめぐる思索②: 東洋の場合□
22. 愛をめぐる思索③: 西洋の場合
23. 超越をめぐる思索①: 日本の場合
24. 超越をめぐる思索②: 東洋の場合
25. 超越をめぐる思索③: 西洋の場合 (1)
26. 超越をめぐる思索④: 西洋の場合 (2)
27. キリスト教と暴力
28. キリスト教と諸思想における愛と超越をめぐる思索①
29. キリスト教と諸思想における愛と超越をめぐる思索②
30. まとめ

準備学習(予習)

毎回取り上げるテキストを、何度も読んで、自分の意見を述べられるように考えてきてほしい。

準備学習(復習)

演習の対話を通して、テキストについてどういう新しい知見が開けたか、顧みて箇条書きにまとめてみることを薦める。

評価方法

- (1) 平常点とレポート 100%

採点は、共にテキストを読みながら対話しつつ考える演習形式で行い、担当テキストのレポートと毎回の対話への参加度で評価する。

教科書

プリントを配布する

参考書

日本文化学A演習I

担当教員：清水 正之

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C3500201

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本人の宗教性とキリスト教という、なお現代的な意味のある問題を考えていきたいと思えます。

(2) 内容

この演習では今年度、日本思想における他者認識の問題を扱います。キリスト教の愛は、アガペー的愛とされ、エロスの愛とは区別されています。このキリスト教の愛の考え方を、伊藤整はその論文「近代日本における愛の虚偽」のなかで、日本人はキリスト教的愛の観念を受容することができなかつた、と断じています。「虚偽」であったかとはべつに、近代日本の思想において、キリスト教の立場からあるいはキリスト教に向き合うことで、その影響のもとで他者認識を考察した例はいくつもあります。それらを日本思想と西洋思想の対照もふくめ、大きな視野のもとで、あらためて他者認識の問題を考えていきます。

受講者に対する要望

それぞれの問題意識から、意欲的に関わっていただきたいと願います。

学びのキーワード

- ・日本の宗教性
- ・日本のキリスト教
- ・伝統的宗教思想

授業計画

01. はじめに
02. 他者認識と伝統的宗教思想 1
03. 他者認識と伝統的宗教思想 2
04. 他者認識と伝統的宗教思想 3
05. 他者認識と伝統的宗教思想 4
06. 他者認識と伝統的宗教思想 5
07. まとめ 宗教思想と他者認識
08. 古代の思想に見る他者認識 1
09. 古代の思想に見る他者認識 2
10. 中世の思想と他者認識 1
11. 中世の思想と他者認識 2
12. 中世の思想と他者認識 3
13. 近世の思想と他者認識 1
14. 近世の思想と他者認識 2
15. 近世の思想と他者認識 3
16. 中間考察
17. キリシタンの他者認識 1
18. キリシタンの他者認識 2
19. 明治期キリスト教の他者認識 1
20. 明治期キリスト教の他者認識 2
21. 哲学における他者認識 1 西田幾多郎の場合
22. 哲学における他者認識 2 西田幾多郎
23. 哲学における他者認識 和辻哲郎 1
24. 哲学における他者認識 和辻哲郎 2
25. 哲学における他者認識 波多野精一 1
26. 哲学における他者認識 波多野精一 2
27. 近代日本文学と他者認識 1
28. 近代日本文学と他者認識 2
29. 現代日本の他者認識
30. まとめ

準備学習(予習)

読み進める文献について、まえもって読解しておいてほしい。

準備学習(復習)

各回提出の小レポートによって、理解を深め、問題意識を整理する。

評価方法

- (1) 演習への意欲的な参加、問題意識、問題提起の力 50%
- (2) 期末レポートの完成度 50%

出席状況、演習での発表、期末レポートのそれぞれを上記の割合で、総合的に評価する。

教科書

演習内で適宜指示する。|

参考書

演習内で適宜指示する。

日本文化学B演習I

担当教員：村松 晋

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：C3500302

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本キリスト教史研究は、「キリシタン」時代を除くと、依然、明治～昭和戦前期に集中している。「戦後」も70年を経た現在、このような研究状況は克服される必要がある。本演習での学びを通じ、新たな視点を獲得してほしい。

(2) 内容

戦後日本キリスト教思想を彩った思想家の著作を講読する。ゼミ形式で進める。対象は受講者の関心をふまえ相談して決める。狭義の「キリスト者」に限定しない。近現代日本の思想史、文化史への理解を、受講者と一緒に深めていきたいと希っている。

受講者に対する要望

「神学」「聖書学」のような学問も、あくまで〈時代〉の中で営まれている点を忘却しないこと。社会問題や内外の政治情勢、思想潮流等とかわらせて、しかも内在的に読解すること。

学びのキーワード

- ・ 神学
- ・ 聖書学
- ・ 戦後思想
- ・ 日本現代史
- ・ 日本キリスト教史

授業計画

01. 担当教員の研究紹介
02. 選定した思想家についての講義 1
03. 選定した思想家についての講義 2
04. 選定した思想家についての講義 3
05. 選定した思想家についての講義 4
06. 研究発表
07. 研究発表
08. 研究発表
09. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. 研究発表
16. 研究発表
17. 研究発表
18. 研究発表
19. 研究発表
20. 研究発表
21. 研究発表
22. 研究発表
23. 研究発表
24. 研究発表
25. 研究発表
26. 研究発表
27. 研究発表
28. 研究発表
29. 研究発表
30. まとめ

準備学習(予習)

発表者は参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

準備学習(復習)

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 発表内容 | 50% |
| (2) 授業参加 | 50% |

上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。

教科書

参考書

デモクラシー・人権政策研究 / デモクラシー・人権研究

担当教員：菊地 順、阿久戸 光晴

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2100304

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代における世界共通価値として重要な位置を占めるデモクラシーと人権について学ぶことにより、世界の動向を理解し、人類によりふさわしい未来形成への指針を得ていくことが目指されている。

(2) 内容

デモクラシーと人権という重要な世界共通価値について、具体的な歴史の考察を踏まえ、またその思想の歴史的背景をたどりつつ、その本質について考察し、デモクラシーと人権政策の過去・現在・未来を展望する。

受講者に対する要望

授業では、質疑応答や議論をとおり、理解を深めるよう努めてほしい。

学びのキーワード

- ・ デモクラシー
- ・ 人権
- ・ 差別、偏見、悪
- ・ 社会契約
- ・ 人権政策

授業計画

01. 「世界人権宣言」とその背景 【菊地】
02. ユダヤ人問題とその歴史 (1) —ドイツを中心として (近代まで) 【菊地】
03. ユダヤ人問題とその歴史 (2) —スペインを中心として 【菊地】
04. ユダヤ人問題とその歴史 (3) —ドイツを中心として (近現代) 【菊地】
05. アイヒマン裁判と人間の罪 【菊地】
06. ハンナ・アーレントと悪の問題 【菊地】
07. デモクラシーと人権思想—杉原千畝に触れつつ 【菊地】
08. 現代デモクラシー制度の今日的難題(トランプ大統領発言を巡って) 【阿久戸】
09. 現代デモクラシー制度の史的起源(聖書的契約信仰を軸として) 【阿久戸】
10. 現代デモクラシー制度の根本課題(三権分立の意義、人権との関係) 【阿久戸】
11. 現代の人権をめぐる設問スタディ・ワーク(難民問題などを考える) 【阿久戸】
12. 現代の人権概念の史的起源(イエリネック対ブトミー人権宣言論争) 【阿久戸】
13. 現代の人権をめぐる根本課題(主権対人権、共同体対個人の尊厳ほか) 【阿久戸】
14. デモクラシー・人権政策の行方(グローバル社会の貧困化の中で) 【阿久戸】
15. まとめと課題 【菊地】

準備学習(予習)

デモクラシーとか人権については、人により異なる切り口と理解があることを前提として、シラバスに沿って予め教科書等を一読し、自らの問題の発見に努めてほしい。

準備学習(復習)

教科書や授業で配布されたプリントを必ず読み直し、授業中に紹介された参考文献等にも目を通し、授業の内容の理解を深めると共に、さらに自らの問題の発見に努めてほしい。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

最終的には各担当者の与えた評点の平均値による。

教科書

高橋 和之編『新版 世界憲法集 (岩波文庫)』(岩波書店)高木八尺、末延三次、宮沢俊義編『人権宣言集』(岩波文庫)

参考書

【菊地】(1) レオン・ボリアコフ著、金田正人他訳『反ユダヤ主義の歴史』全5巻、筑摩書房(2) アブラム・レオン・ザハル著、津川雅人訳『ユダヤ人の歴史』朝倉書房(3) ハンナ・アーレント著、久保保和訳『アイヒマンのアイヒマン』みすず書房(4) ヴィクトール・E・フランクル、池田書店代子訳『夜と霧 新版』みすず書房【阿久戸】(1) 阿久戸光晴『近代デモクラシー思想の根源』(聖学院ゼネラルサービス、1999年)(2) 阿久戸光晴『教会と国家の分離体制におけるキリスト教学校の使命』『キリスト教学校の形成とチャレンジ』所収(聖学院大学出版会、2006年)(3) A.D. リンゼイ、永岡薫訳『民主主義の本質』(未來社、1964年)(4) A.D. リンゼイ、古賀敬太・藤井哲郎訳『デモクラシーの宗教的基盤—オックスフォードチャペル講話』(聖学院大学出版会、2001年)(5)

憲法研究

担当教員：石川 裕一郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2201206

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

しばしば憲法は、民法、刑法その他の法律と比較するとメディアの政治報道等において頻繁に言及されるがゆえ、「なんらかの価値観あるいはイデオロギーに依拠した、文脈依存的ないし政治的なもの」とみなされることがある。その一方で、憲法は、民法や刑法と同じく実定法規範であるがゆえ、「現実の政治および経済からは距離を置いた、超歴史的かつ法的なもの」と位置づけられることもある。だが、本講義の受講者は、そのいずれも極端かつ一方的であることを認識するであろう。|| そして、その規範性と妥当性をめぐって織りなされる憲法学の世界の根底に存する「法の賢慮(jurisprudencia)」のなんたるかを受講者が体得するならば、本講義の目的はほぼ達成されたこととなる。それは、とりわけ法実務に携わる者にとって、その職業生活における精神的支柱の形成に資するという意義を有するであろう。

(2) 内容

法学の基礎的な素養があることを前提に、樋口陽一『五訂憲法入門』（勁草書房、2013年）をメインテキストとして取り上げ、丁寧に読み進めてゆく。|| 本テキストは、現代日本を代表する憲法学の泰斗であると同時に最高の知性の一人でもある碩学による、憲法学の入門書である。しかし、その表題および平明な語り口とは裏腹に、その内容はアポリアに満ちかつ知的緊張感溢れるものであり、その読解は一筋縄ではゆかないであろう。|| また、読解に際しては、本テキストの理解に不可欠となる学説、判例その他の基礎知識の修得を確実なものとするため、サブテキストとして石埼学他（編著）『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社、2013年）を適宜参照する。あわせて、『六法』（出版社、種類は問わない）を常に携行するのが望ましい。|| なお、本講義は、カリキュラム上の分類こそ「講義」科目だが、大学院のそれである以上、当然のことながら「演習」形式で行われる。

受講者に対する要望

大学院の講義なので、受講者が主体的にその運営に参画することが、とりわけ強く求められる。加えて、反知性主義が瀰漫する現代日本においては甚だ評判が悪いが、受講者には、かかる時代精神に抗いつつ、意識的に知的虚栄心を持つよう心がけてほしい。|| 換言すれば、広く知られるヴェーバーの言をもじった表現である「精神のある専門人」たらしめる気構え、あるいは、語本来のアカデミックな姿勢に加えディレッタントなそれも求められるということである。

学びのキーワード

- ・ 法学
- ・ 公法学
- ・ 憲法学
- ・ 国法学
- ・ 比較憲法学

授業計画

01. 導入：授業の進め方、分担の決定
02. 憲法の基礎知識に関する講義（総論・人権）
03. 憲法の基礎知識に関する講義（統治・比較法）
04. テキスト輪読・報告、議論：国民主権
05. テキスト輪読・報告、議論：平和的生存権
06. テキスト輪読・報告、議論：個人の尊厳
07. テキスト輪読・報告、議論：人権の私人間効力
08. テキスト輪読・報告、議論：信教の自由・政教分離・教育権
09. テキスト輪読・報告、議論：表現の自由
10. テキスト輪読・報告、議論：経済的自由と社会権
11. テキスト輪読・報告、議論：選挙権と代表制
12. テキスト輪読・報告、議論：司法権
13. テキスト輪読・報告、議論：違憲審査制
14. テキスト輪読・報告、議論：憲法改正と憲法尊重擁護義務
15. まとめ

準備学習(予習)

予め割り当てられた自身の報告をこなすことはもちろん、テキストの指定された箇所を毎回読み込み、自らの問題意識を明確にしたうえで講義に臨み、積極的に議論に参加することが求められる。

準備学習(復習)

毎回の講義における議論を踏まえ、自身の報告を再検討することが求められる。

評価方法

- | | | |
|----------|-----|------------------------------|
| (1) 平常点 | 80% | 割り当てられた報告の内容と議論への参加状況から評価する。 |
| (2) 期末課題 | 20% | |

平常点について、言うまでもなく、単なる「出席（物理的に教室内に存在すること）」だけでは何ら評価の対象とならない。

教科書

樋口 陽一 『五訂 憲法入門』（勁草書房）| 石埼 学、押久保 倫夫、笹沼 弘志（編） 『リアル憲法学〔第2版〕』（法律文化社）|

参考書

租税法研究 A

担当教員：吉川 保弘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301010

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

租税法Aにおいては、企業税制の中心的税制でかつビジネスローとしての機能を持つ法人税法について、私法、会計制度との異同にを踏まえた基礎となる取り扱いと考え方の解説をします。|到達目標としては、法人税法の持つ固有の取扱考え方の理解におきます。

(2) 内容

法人税法は、私法で決定した取引を基礎において、その取引を財務会計として表現する公正妥当な会計処理の基準に従って、計算することとしております。その上で、法人税法の目的、考え方に沿わないものは法人税法固有の処理をすることとし、その部分を法律として規定しております。つまり、法人税法は、私法での扱い、企業会計における公正妥当な会計処理を理解している前提で規定されています。こうした意味で法人税法は、私法、企業会計と密接な関係にあります。それぞれが実現しようとする目的は異なっており、三位一体ではありません。したがって、法人税法を学ぶということは、私法、会計制度との異同を学ぶということです。

受講者に対する要望

法人税法は、税理士を営む上で欠くことのできない税法だという認識をもって授業に取り組んでください。|

学びのキーワード

・レジュメには、必ず理解すべき事項について、★マークを付し、重要度に応じてマーク数を増やしているので、参考にしてください。

授業計画

- 法人税課税の対象と基礎的概念・・・1法人税課税の対象（法人とは、法人税課税の税額、法人税における所得概念）、2法人税法・会社法・企業会計原則との関係、3法人税法適用の原則、4.事業年度の意義、5.納税地
- 納税義務者及び所得帰属に関する通則・・・6.納税義務者（内国法人、外国法人）、7.同族会社等の行為計算否認規定、8.信託財産に属する資産及び負債等の帰属、9.実質所得者課税の原則、10.課税所得の範囲（内国法人、外国法人）
- 所得の金額の計算等に関する通則・・・11.①各事業年度の所得の金額の意義（法人税法22条の解説）、②無償取引が法人税法上、益金に算入される根拠（各学説等）、③2段階説における寄付金の意義、④売上原価、販売費等、減価償却費、損失の損
- 収益の益金計算に関する通則・・・13.棚卸資産の販売による収益計上の時期①引渡基準（製品等の販売による収益計上時期）、②事業年度末時点での販売代金の未確定の扱い、③返品、値引き、割戻しの扱い、④特殊販売形態の収益計上基準（長期
- 益金に算入しない収益・・・19.受取配当等の益金不算入、20.みなし配当の取扱、21.その他益金に算入しない収益①資産の評価益、②仮装経理に基づく評価益、③法人税等の還付金、④圧縮記帳制度による補助金の扱い、⑤広告宣伝用資産の受贈
- 損金の額の計算Ⅰ（棚卸資産）・・・24.棚卸資産の概念①棚卸資産の範囲、②棚卸資産の評価と売上原価の算定、③評価方法、④取得価額に算入すべき費用の範囲、⑤自己の製造等により取得した棚卸資産の取得価額、⑥適正原価計算の判定基準
- 損金の額の計算Ⅱ（固定資産）・・・25.固定資産の概念、①固定資産の性格、②固定資産の範囲、③非減価償却資産、④減価償却資産の性格、⑤減価償却資産の種類と科目、⑥償却限度額の計算の基礎となる取得価額、⑦取得価額に関する諸問題、⑧
- 損金の額の計算Ⅲ（繰延資産、引当金、資産の評価損）・・・26.繰延資産、27.引当金、28.資産の評価損
- 損金算入規制Ⅰ・・・29.役員給与①平成18年法の趣旨、②役員給与の範囲、③法24条に規定する役員給与の扱い（定時定額、事前確定給与の届け出、利益連動型給与）、④過大役員給与の損金不算入、⑤仮装隠蔽または仮装経理に基づく支給の場合の損金
- 損金算入規制Ⅱ・・・29-2役員給与②①新株予約権を対価とする費用等、②過大使用人給与の取扱、③出向及び転籍の場合の扱い、30保険料等、31.寄付金
- 損金算入規制Ⅲ・・・32.交際費等、33.租税公課、34.不正行為等に係る費用、35.貸倒損失、36.その他の損金
- 申告調整、税額計算等・・・37.企業会計と税務会計、38.欠損金の繰越及び控除、39.税額の計算
- グループ法人税制と連結納税制度・・・40.グループ法人に対する税制の概要、41.グループ法人税制の具体的な内容、42.連結納税制度の概要
- 事業体課税の概要・・・43.事業体課税の概要、44.法人税の基本的な納税者、45.法人税の対象とならない事業体（組合・信託）、46.納税義務者となる新しい事業体
- 組織再編税制・・・①会社法における組織再編行為等、②企業結合における会計基準、③組織再編に係る法人税法の扱い、④適格合併、適格分割等の要件、⑤移転資産の譲渡損益の扱い、⑥非適格合併等により移転を受ける資産等に係る調整、⑦株式

準備学習(予習)

法人税法は、講義内容が多岐にわたり分量も多いことから、レジュメ、法令を読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

各回の講義予定の最後に、復習問題を掲載してあるので、講義後確認の意味で回答に取り組んでください。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート提出 | 50% |

成績評価については、平常点を勘案して、レポートの採点により評価しますが平常点を勘案してという意味は、受講時における質疑応答等も考慮に入れて、平常点に対する配点50点を決定するということです。

教科書

租税法研究A用の講本をプリントして配布します。これにそって講義方式で適宜質疑応答をするなど理解度を確認しながら授業を進めます。

参考書

岡村忠生著「法人税法講義第3版」成文堂、成松洋一著「法人税セミナー第4版」税務経理協会、増井良啓著「租税法入門」有斐閣

租税法研究B

担当教員：野田 扇三郎

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301111

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業では、日本の消費税制度の体系を理解するとともに、諸外国の制度の比較検討を通じて日本のあるべき方向について考え、また税理士としての感覚を磨くべく研鑽する。

(2) 内容

この授業では、2019年10月の消費税の税率アップや、2023年10月から導入されるインボイスの議論等に目を向け、その問題点を探り、消費税への理解を深めるよう努める。その際、それに関連する会計処理等を確実にマスターすることとする。またこれからの制度設計について、次期の修士論文作成に向け自分自身の意見を持つよう心掛ける。

受講者に対する要望

消費税関する諸問題は国民にとって重要でまた現状もっとも関心の深いものであるため、新聞、その他媒介等を通じて社会の動きに注意を払うこと。

学びのキーワード

- ・ 現状の確実な理解
- ・ 諸外国の制度との比較
- ・ 独自の視点

授業計画

01. 消費税法概論
02. 課税要件
03. 非課税取引と免税取引
04. 納税義務者
05. 納税義務の成立
06. 小規模事業者の納税義務の免除
07. 課税標準・税率
08. 税額控除
09. 簡易課税制度
10. 対価の返還と貸倒の処理
11. 課税期間
12. 申告、納税について
13. 国等に対する課税
14. 届出、記帳義務について
15. 勘定科目等からの課非判定

準備学習(予習)

受講生は漫然と授業に出るのではなく、問題意識をもって臨むよう、予習は欠かさないこと。

準備学習(復習)

配布資料の確認、および問題点の整理により、理解を深めること。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) 問題意識・意見・発言 | 50% |

教科書

税務大学校「消費税法（基礎編）」を国税庁のHPにアクセスし、プリントアウトすること。

参考書

租税法研究 C

担当教員：佐藤 謙一

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301212

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

職業会計人として活躍できるように必要な所得税法、相続税法及び租税手続法等の基礎的かつ基本的な理解を進め、今後皆さんが行うこととなる研究のために必要な視点を養うことを目的とします。

(2) 内容

所得税法、相続税法及び租税手続法の各概論

受講者に対する要望

今後皆さんが行う研究につながる問題を見つけて欲しいと思います。

学びのキーワード

- ・ 所得税の計算の仕組み
- ・ 相続税及び贈与税の課税価格とその仕組み
- ・ 租税手続の重要性

授業計画

01. 所得税法—総説、納税義務者
02. 所得税法—所得の種類①—所得の種類、所得税の計算の仕組み、各種所得間の問題①
03. 所得税法—所得の種類②—各種所得間の問題②
04. 所得税法—収入金額と必要経費①
05. 所得税法—収入金額と必要経費②
06. 所得税法—所得控除、税額計算
07. 所得税法—源泉徴収制度、申告、納付等
08. 所得税法—青色申告、雑則その他
09. 相続税法—総説、納税義務者
10. 相続税法—課税価格の計算と税額①
11. 相続税法—課税価格の計算と税額②
12. 相続税法—相続時精算課税制度、納付と延納・物納、納税猶予その他
13. 相続税法—財産の評価
14. 租税手続法—調査手続、更正・決定等
15. 租税手続法—不服申立制度その他

準備学習(予習)

教科書に沿って講義方式により進める予定ですが、学ぶべき領域が広いにもかかわらず、限られた講義時間なので、事前に、教科書を読んで授業に臨む必要があります。|なお、授業では、適宜、受講生に教科書等を読んでもらったり、質問することを考えています。

準備学習(復習)

授業開始のはじめの時間に前回の授業の復習を行うことを考えているので、特に必要はありません。|なお、必要なときはその旨を伝えます。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) レポート等 | 70% |
| (2) 平常点 | 30% |

レポート等の「等」は授業における発言等も評価の対象とする意味です。

教科書

税務大卒校『所得税法(基礎編)』及び『相続税法(基礎編)』|国税庁のHPにアクセスし、プリントアウトしてください。

参考書

金子宏『租税法』(最新版)(弘文堂)|金子宏ほか『ケースブック租税法』(最新版)(弘文堂)

民法法と実務 A

担当教員：木村 裕二

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301313

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、私法による財産取引の規律について概観を得る。| 条文の文言、定義・概念、立法趣旨を用いた法解釈の技術を学ぶことを通して、法律的文書の読み・書きの方法論を身につけることを目標とする。||

(2) 内容

民法法は、財産取引や団体をどのように規律しているか。民法総則・物権総論・債権各論の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

受講者に対する要望

レジュメには判例の抜粋や要旨しか引用できないが、自分で判例を検索し、判例全文に目を通して確認する作業をおこなって、判例を読む訓練をしてほしい。|

学びのキーワード

- ・ 要件・効果
- ・ 権利・義務
- ・ 債権と物権
- ・ 意思表示
- ・ 取引の安全

授業計画

01. 法の機能と条文の読み方
02. 法の解釈と判例の読み方
03. 契約と意思表示
04. 人・法人
05. 代理
06. 契約の効力
07. 契約のプロセス
08. 物と所有権
09. 物権変動
10. 占有、時効
11. 売買、贈与
12. 賃貸借、消費貸借
13. 役務型契約
14. 不法行為
15. 会社

準備学習(予習)

レジュメ(事前配布)で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

内田貴「民法Ⅰ 総則・物権総論」「民法Ⅱ 債権各論」東京大学出版会

民法法と実務B

担当教員：木村 裕二

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2301414

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

税法科目群の一環として、金融取引や相続の私法的構造の概観を得る。|民事訴訟法・家事事件手続法など手続法の基本構造にも触れつつ、権利実現・権利保護のプロセスについて学ぶ。|制度趣旨、条文の要件・効果を構造的に理解する。

(2) 内容

民法法は、金融取引や相続をどう規律しているか。民法の債権総論、担保物権、親族・相続の分野から、実務上問題となるテーマを取り上げる。

受講者に対する要望

条文の要件・効果に即して議論を位置づける習慣を身につけること。

学びのキーワード

- ・債権の目的
- ・責任財産
- ・民事事件
- ・個人主義
- ・家事事件

授業計画

01. 債権と金融取引
02. 弁済、相殺
03. 強制履行、損害賠償
04. 債権譲渡、保証
05. 抵当権
06. 訴訟・執行・破産
07. 夫婦
08. 親子
09. 要保護者
10. 相続人
11. 相続財産
12. 相続分
13. 遺産分割
14. 遺言
15. まとめと課題

準備学習(予習)

レジュメ（事前配布）で引用した条文を読んでおくこと。

準備学習(復習)

レジュメで引用した判例に対する自分の理解を確認すること。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

特に指定せず、レジュメを配布する。

参考書

内田貴「民法Ⅲ 債権総論・担保物権」「民法Ⅳ 親族・相続」東京大学出版会

公共政策研究

担当教員：児玉 博昭

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2400101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

公共政策はどのようにデザインされ、決定され、実施・評価されるのかを理解できるようになることを目標とする。

(2) 内容

公共政策学は、公共政策、すなわち公共的な問題を解決する基本的な方向性と具体的な手段を考察する学問である。公共政策学は、大別すると、政策決定や実施・評価という政策過程に関する知識（ofの知識）と、政策分析に必要な知識や個別政策領域に関する知識（inの知識）によって構成される。この講義では、前者の政策過程論（ofの知識）に重点を置き、公共政策へのアプローチ、公共政策のデザイン、プロセス、ガバナンスに関する基礎知識を整理する。

受講者に対する要望

大学院生は、概説書の通読を通じて基礎知識を確認するだけでなく、研究書の精読を通じて研究設計の改善や専門知識の蓄積に役立ててほしい。

学びのキーワード

- ・ 公共政策学
- ・ 政策過程
- ・ 政策デザイン
- ・ 政策決定
- ・ ガバナンス

授業計画

01. 授業のねらいと進め方
02. 公共政策学とは何か
03. 公共政策とは何か
04. アジェンダ設定
05. 政策問題の構造化
06. 公共政策の手段
07. 規範的判断
08. 政策決定と合理性
09. 政策決定と利益
10. 政策決定と制度
11. 政策決定とアイデア
12. 公共政策の実施
13. 公共政策の評価
14. 公共政策管理のシステム
15. 授業のまとめ

準備学習(予習)

教科書の該当範囲を通読し疑問点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

関連する研究書を各自に指定するので、内容の要旨と感想・考察をレジュメにまとめ、授業内で発表すること。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 授業内発表 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

授業に毎回出席することを前提とし、欠席した場合は減点の対象とする。

教科書

秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉 『公共政策学の基礎（新版）』有斐閣

参考書

埼玉地域政策研究

担当教員：大塚 健司

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2400404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人口減少、少子・高齢化が地域社会にどんな影響を与えているのか、社会構造、地域社会の変化に行政はどう対応しようとしているのかを市民目線で考察する。| 特に国と県、市町村（地方自治体）の関係について、その役割について考える。

(2) 内容

人口減少、少子・高齢社会、グローバル化の中において、地方自治体としての埼玉県がどのような政策決定をしてきたか、また、ますます厳しさを増す財政状況の中でどのような政策展開をしようとしているのか、具体的な事例等を通して実践的な視点から、その取り組みなどに研究対象として考察する。| なお、本講座は必要に応じて埼玉県庁職員等の外部講師を招いて講義を行う。

受講者に対する要望

身近な地方自治、コミュニティ政策に関心のある者の受講を望む。

学びのキーワード

- ・人口減少、少子・高齢社会
- ・国と地方自治体の関係、財政構造
- ・土地政策、コミュニティ、
- ・福祉の体系、年金、医療、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉
- ・環境問題、環境福祉

授業計画

01. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系
02. 人口減少、少子・高齢社会, 福祉の体系
03. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化
04. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化
05. 埼玉県政の方向
06. 埼玉県政の方向
07. 環境問題の取り組み
08. 環境問題の取り組み
09. "住む"を見直す
10. "住む"を見直す
11. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み
12. 「環境福祉」をテーマとした地域福祉の取り組み
13. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～
14. 埼玉県の土地政策～見沼田圃の保全と活用～
15. 埼玉地域政策研究のまとめ

準備学習(予習)

日本の人口構成、国と地方自治体の関係、福祉の体系、環境問題について調べておくこと。

準備学習(復習)

配布した資料等を参考にさらに論考すること。

評価方法

- (1) レポート 100%

次の授業までに毎回レポート提出講義の要点をまとめ、討論を踏まえて感想をまとめること。

教科書

参考書

厚生労働白書、統計からみた埼玉県のすがた（編集・発行埼玉県総務部統計課）

まちづくり論研究

担当教員：平 修久

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2400606

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばとその動きが住民の間に広がっている。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。量から質の重視、余暇時間の増加、元気な高齢者の増加、スローライフなど、居住地を見直し、居住環境を改善しようとする意識を持った住民が増加し、まちづくりの担い手となっている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。

(2) 内容

まず、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働について学ぶ。その後、高齢化・人口減少、中心市街地、コミュニティのキーワードに関連するまちづくりの問題と対応策を幅広く学ぶ。

受講者に対する要望

居住地など、自分と関係のある地域コミュニティをいかにより良くしていくかを念頭におきながら、クラスディスカッション等に参加するとともに、本科目は大学院生向けであり、大学院生とともに学ぶことを意識して、授業に臨むことを期待する。

学びのキーワード

- ・まちづくり
- ・人口減少
- ・高齢化
- ・中心市街地
- ・コミュニティ

授業計画

01. まちづくりの概要①
02. まちづくりの概要②
03. まちづくりのプロセス・合意形成
04. 住民参加と協働
05. 都市計画制度
06. 人口減少と住宅地の維持
07. 空き家問題と対策
08. コンパクトシティ
09. 高齢化とまち（福祉のまちづくり）
10. 中心市街地の衰退と活性化方策
11. 中心市街地活性化の事例①
12. 中心市街地活性化の事例②
13. 中心市街地活性化の事例③
14. 地域コミュニティの創造
15. まちの居場所づくり

準備学習(予習)

事前に提示した関連資料を予習しておくこと。中心市街地の事例については、担当の受講生がレジュメ2-4枚を用意して発表を行う。

準備学習(復習)

毎回の講義内容を整理し、まとめること。中心市街地の事例に関しては、各自の発表のレジュメを復習すること。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 授業への参加度合 | 30% |
| (2) 発表 | 20% |
| (3) レポート課題 | 50% |

教科書

参考書

授業の中で指示する

経済学研究 A / 経済学研究

担当教員：柴田 武男

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2500601

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

日本経済新聞の経済教室を集中的に読解していくことで、経済論文の論理が読み取る能力が養われ、論文作成時に参考となることを目標とする。

(2) 内容

本講義では、論文作成のために必要とされる経済学に関する理解力の強化を目標とする。日本経済新聞の「経済教室」をテキストとして、そこで展開されるトピックスから理論的背景を説明し、論文執筆のために必要とされる論旨の読解力と批判的理解力も涵養したい。

受講者に対する要望

とにかく180分の集中力の持続を期待する。|もちろん、トイレなどの中座は容認するが、講義は連続180分、途中休憩無しで集中して行う予定である。

学びのキーワード

- ・ 日本経済新聞「経済教室」
- ・ 論旨の読解
- ・ 批判能力
- ・ 180分の集中力
- ・ 継続する学習能力

授業計画

01. 講義の概要についての説明、および担当教員による経済論文の読解の仕方を教示 |
02. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
03. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
04. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
05. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
06. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
07. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
08. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
09. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
10. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
11. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
12. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
13. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
14. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |
15. 日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで五回分を読解 |

準備学習(予習)

日本経済新聞「経済教室」月曜から金曜まで⑤回分を読んでもらうこと。

準備学習(復習)

日本経済新聞「経済教室」での専門用語、内容を復習として理解すること。

評価方法

- (1) 担当する経済教室の読解力100%

日本経済新聞の「経済教室」を教材としているのであるから、日々とにかく読むこと。その読解力が評価の基準である。

教科書

日本経済新聞

参考書

講義の中で指示する。

組織行動論研究

担当教員：八木 規子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2 授業コード：P2500810

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成しうる仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるもののひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。そこで、学びの目標は、組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすために、個人が個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークを理解すること、そして、それらの法則性を、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決にどのように適用できるか、考える力を養成することとする。また、大学院レベルの教育として、組織行動論の文献が明示的あるいは非明示的に保持する、研究課題、仮説、その検証方法を見抜く力を磨き、ひいては、自らがそうした科学的研究のフレームワークに沿って、研究論文を書き上げる能力を高めるための訓練の場としたい。

(2) 内容

金井壽宏・高橋潔著『組織行動の考え方』（東洋経済新報社、2004年）をメイン・テキストとする。価値観、モチベーション、チームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、組織文化、といった組織行動論の主要テーマに関する理論やフレームワークを、テキストの輪読、講義を通じて学ぶ。また、それらの原理原則が、実際の組織（企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるかを、クラス・ディスカッションにより議論する

受講者に対する要望

大学院では、自分のふだんの考え方とは異なる思考方法・思考パターンを学ぶことになる。受講者には、この体験を新しい思考の道具箱を手に入れるための訓練と捉え、辛抱強く取り組むことを望む。

学びのキーワード

- ・ 組織
- ・ 小集団
- ・ 行動
- ・ 個人
- ・ 成果

授業計画

01. オリエンテーション：授業の進め方、分担決定
02. 学習と知識（Kolbのモデル）科学研究のあり方。
03. 第1章 経営学と組織行動の間柄
04. 第2章 コンピテンシーとは何なのか
05. 第3章その1 モチベーション論のミッシング・リンク
06. 第3章その2 モチベーション論のミッシング・リンク
07. 第4章 「キャリア・デザイン」のデザイン
08. 前半まとめ
09. 第5章 成果を意識した組織行動を目指して
10. 第6章 人事評価をめぐる根本問題
11. 第7章 360度全方向からのフィードバック
12. 第8章 変革の時代におけるリーダーシップの求心力
13. 第9章 職務満足と組織コミットメントから見る職場の幸福論
14. 第10章 現実を変えることから生まれる知識創造のパワー組織行動論の歴史
15. まとめ

準備学習(予習)

テキストの分担箇所のみならず、当日の指定箇所は毎回読んで授業に臨むこと。該当箇所における、研究課題、仮説、仮説の検証方法などが何なのかを見極めることを心がけながら読むこと。

準備学習(復習)

該当箇所についての講義と議論を踏まえて、予習で予測した課題、仮説、検証方法が妥当であったかどうか、振り返る。学んだ理論が適用できる現実社会・組織の例を考えてみる。

評価方法

- | | | |
|------------|-----|--------------------------|
| (1) 授業への貢献 | 40% | ディスカッションへの参加、担当箇所の発表を含む。 |
| (2) 期末レポート | 60% | |

教科書

金井壽宏、ほか 『組織行動の考え方：ひとを活かし組織力を高める9つのキーコンセプト』東洋経済新報社|

参考書

随時、クラスで指示。UNIPA上にアップロードした資料を学生が各自ダウンロードするか、クラス内で配布する。

経営文化論

担当教員：金子 毅

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：P2500910

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

受講者各々の現場での調査活動へと反映させるだけの思考力を鍛え、これを理論的な枠組みと関連付け、独自の論文へと昇華させる。

(2) 内容

生活者の立場に寄り添い、行政・企業による観光などの経営戦略と地域との間で織りなされる「葛藤」の局面を重視し、そこから地域に潜在する思想を読み取りつつこれに則った新たな地域資源の開発を試みていく。すなわち、経営を動かす原理を地域の「文化」より探ることで“実践する”行政・企業、“実践される”地域にとり真に望ましい経営のあるべき方向性を討議を通じて模索する、それが経営文化論の狙いである。

受講者に対する要望

複雑難解な知の迷宮に分け入るには地図を柔軟に解釈する思考力（発想力）と現在地を知るコンパス（理論）が不可欠です。でも、恐れずに自分なりのフットワークをもって挑めばよいのです。

学びのキーワード

- ・文化
- ・葛藤関係
- ・地域倫理
- ・地域資源

授業計画

01. 経営文化論の焦点となるテーマは何か
02. 経営と文化の定義
03. 経営としての文化
04. 文化としての経営
05. ドラッカーの思想を手掛かりに1 マネジメントについて
06. ドラッカーの思想を手掛かりに2 マーケティングについて
07. ドラッカーの思想を手掛かりに3 イノベーションについて
08. 宗教実践より見た経営
09. 中間整理
10. 担当者の文献から1 祭りに投影される地域経営 埼玉県吉川八坂祭りを事例に
11. 担当者の文献から2 祭りに投影される地域経営 北九州市戸畑区女提灯山笠を事例に
12. 担当者の文献から3 開発が崩壊させた地域コミュニティ 消えた城山小学校
13. 近代産業遺産化の陥穽 北九州市路面電車がつむぐ地域の記憶
14. 質疑応答
15. 経営文化論のゆくえ

準備学習(予習)

発表者は各々のテーマに即したレジュメ（ネット情報からの切り張りでないもの）を作成しておく。

準備学習(復習)

発表でなされた討議結果を各自の調査研究とすり合わせ、修士論文作成に向けた発想へとつなげていく。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 発表 | 70% |
| (2) 参加による貢献度 | 30% |

教科書

参考書

安富歩、2014『ドラッカーと論語』東洋経済新報社

研究法入門

担当教員：古谷野 亘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W1100101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学院では、専門領域の知識を獲得するだけでなく、みずから研究課題を定め、研究して、回答を得ていく技術の修得が求められる。本講義で取り扱うのはそのような研究の技術、特に実証的な研究の技術であって、技術の修得に向けて必要な予備知識を得ることが本講義の目的である。

(2) 内容

本講義では研究を行うために必要とされる技術、特に実証的な研究の技術である調査の方法について講義する。情報を集め分析するための枠組作りから、文献の検索と収集、量的調査の計画と実施、論文の書き方までを解説して、オリジナルなデータによって修士論文を作成しようとする学生に必要な基礎知識を提供する。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・ 実証研究
- ・ 研究するための義実

授業計画

01. イントロダクション — 大学院で学ぶ
02. 研究のための技術
03. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (1)
04. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (2)
05. 文献の探し方と入手方法 (1)
06. 文献の探し方と入手方法 (2)
07. 研究のプロセスとモデル (1)
08. 研究のプロセスとモデル (2)
09. 調査の設計と現実的考慮 (1)
10. 調査の設計と現実的考慮 (2)
11. 論文の書き方、発表の仕方 (1)
12. 論文の書き方、発表の仕方 (2)
13. 修論作成までのプロセス (1)
14. 修論作成までのプロセス (2)
15. まとめと課題・総合討論

準備学習(予習)

授業は概ね教科書通りに進むので、次回に相当する箇所を読んでおくとよい。

準備学習(復習)

研究の遂行に必要な技術の修得のため復習が必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』(ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

キリスト教人間学研究

担当教員：阿部 洋治

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W1110202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教人間学研究の基盤は聖書であり、特に、それが、キリスト教の人間理解の研究であるためには、キリスト者たちによって、2000年の間、「神の子」あるいは「キリスト(=救い主)」と告白されて来たナザレ人イエスの教えと働きに注目することから始めなければならない。長い歴史の中で、キリスト教思想家たちが提示して来た人間研究も、出発点はナザレ人イエスの教えと働きが土台となっている。その意味で、この講義では、ナザレ人イエスの教えと働きと向き合いながら、人間とは何か、人間の現実とその可能性を考えたい。|

(2) 内容

具体的には、福音書に記述されたナザレ人イエスの歴史を洞察することになる。それは、約2000年も前の世界の片隅で起こった小さな出来事に着目することである。しかも歴史学的に事実を確認するのに駆使できる資料があるわけではなく、主として、福音書の記述、あるいはその他の新約聖書文書に依拠するほかにはない。いずれも、事実を確認する歴史資料とは言い難い。しかし、ナザレ人イエスの教えや働きから影響を受け、またイエスの人格に深く印象づけられた人々によって記述された書物であり、私たちは、こうした書物をひもときながら、逆に、あのイエスとは誰だったのか、人々に何をもたらしたのかを問い、さらには、このイエスとの関係において、人間とは何かを問うことになる。| 講義は、実際に、聖書(福音書)の記述に触れながら展開することになる。

受講者に対する要望

人間の研究は、ただ単に、他者の思想を云々するだけではない。まず、自分自身への問いを大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・パスカル 織細の精神
- ・モンテーニュ 懐疑主義
- ・人間の弱さ、惨めさ、脆さ
- ・ストア派哲学あるいは啓蒙思想
- ・信仰者たちが出会ったイエス

授業計画

01. はじめに |
02. 近現代におけるイエス究史概説 その1
03. 近現代におけるイエス究史概説 その2
04. 初代教会成立とイエス記述の変遷 その1
05. 初代教会成立とイエス記述の変遷 その2
06. 伝道者パウロの回心とイエス理解 その1
07. 伝道者パウロの回心とイエス理解 その2
08. 福音書に記されたイエスの教えと働き (1) パプテスマのヨハネとイエス
09. 福音書に記されたイエスの教えと働き (2) イエスの試練と決
10. 福音書に記されたイエスの教えと働き (3) 律法主義へのチャレンジ
11. 福音書に記されたイエスの教えと働き (4) イエスの神の国 一瞥え話に触れてー
12. 福音書に記されたイエスの教えと働き (5) 弟子たちの無理解
13. 福音書に記されたイエスの教えと働き (6) イエスの十字架の
14. 復活をめぐる聖書の理解
15. まとめ

準備学習(予習)

第2~5回の講義については、最初の授業で参考文献を紹介するので、前もって、必要に応じて、文献を読み、問題意識を整理して置くのも良い。第6~7回、第8~14回は、関係した聖書に当たりながらの講義となるので、関係箇所を事前に読んで内容を把握しておくことを勧めたい。

準備学習(復習)

講義で語られたことを鵜呑みにせず、また講義を通して啓発されたことについて考察を深め、自分なりの研究テーマを模索してほしい。

評価方法

- (1) レポート

レポート 第2~5回は、今回のテーマをめぐって、最新の研究動向を踏まえて、第6回以降は、聖書をベースに展開する。

教科書

第2~5回は、今回のテーマをめぐって、最新の研究動向を踏まえて、第6回以降は、聖書をベースに展開する。

参考書

授業開始時に提示する

調査研究法I (量的研究)

担当教員：古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W1110303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会・行動科学の研究方法である量的研究の技法、特に変数の測定方法について基礎的な知識を得ることを目標とする。

(2) 内容

前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学的研究法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、心理学的尺度構成法の手順を実例をあげつつ解説し、可能であれば履修者の関心に応じて調査票作成、データ分析、もしくは尺度開発の演習を行う。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・社会・行動科学研究法
- ・社会調査
- ・計量分析
- ・モデル
- ・測定

授業計画

01. 社会調査の理論と方法 | サンプルング (1)
02. サンプルング (2)
03. データ収集の方法 (1)
04. データ収集の方法 (2)
05. 調査票の作成と質問文 (1)
06. 調査票の作成と質問文 (2)
07. 調査票の作成と質問文 (3)
08. 調査票の作成と質問文 (4)
09. 調査データの分析 | 統計の目的 (1)
10. 統計の目的 (2)
11. 1変数の分析 (1)
12. 1変数の分析 (2)
13. クロス表と関連度の係数 (1)
14. クロス表と関連度の係数 (2)
15. 相関と回帰 (1)
16. 相関と回帰 (2)
17. 推定と検定 (1)
18. 推定と検定 (2)
19. 多変量解析 (1)
20. 多変量解析 (2)
21. 多変量解析 (3)
22. 多変量解析 (4)
23. 測定法 | 測定の妥当性と信頼性 (1)
24. 測定の妥当性と信頼性 (2)
25. 構造方程式モデリング (1)
26. 構造方程式モデリング (2)
27. 構造方程式モデリング (3)
28. 構造方程式モデリング (4)
29. まとめと課題・総合討論 (1)
30. まとめと課題・総合討論 (2)

準備学習(予習)

授業は概ね教科書の通りに進むので、次回の箇所を予め読んでおくとよい。

準備学習(復習)

量的研究は“数学っぽい”ことから敬遠されがちであるが、質的研究法より簡単で、基礎的である。ただし、知識・技術の修得には積み重ねが必要であるから、復習は必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』(ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

調査研究法II (質的研究)

担当教員：林 葉子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W1110404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

質的研究はさまざまあり、それぞれが理論的背景と方法論をもっており、それに基づいた分析方法がある。そこで、どの方法を選択する場合も、自覚的な選択が必要となる。本講義では、質的研究の基本的で共通する理論的立場や分析法を学んだうえで、具体的にM-GTAについて理論的背景とそれに基づく具体的な分析方法を学ぶ。分析方法を、マニュアルとしてはなく、自分の問題意識の明確化から始まり、常に収集したデータと自分の思考との対話を続け、データ解釈のプロセスをたどっていくことを体験的に学ぶ。自分自身を振り返りながら現象の理解を深めていく方法は、論文作成や実践現場での関わりを考えていくうえで有用と考えられる。

(2) 内容

この授業の目標は、さまざまな領域で関心が高まっている質的研究についての基本的な事柄を理解し、質的研究法の一つである修正版グランデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) の分析方法を習得することである。質的研究は、さまざまな領域で関心が高まっているが、質的研究方法は多様であるため、どの研究法を選択するか判断が求められる。また、質的研究では言語による報告が主であるので、分析対象とした現象を言語化する力が必要である。本講義では、まず、質的研究の意義、代表的な質的分析法の特性の紹介、受講生が関心をもった現象を言語してとらえる練習、質的論文の購読など基本的な事柄を自分の問題意識と関連付けながら学ぶ。次に、広く対人援助領域で用いられている M-GTA の理論的背景や方法論などを学び、それらをふまえたうえで、サンプルデータを使って実際の分析を行っていく。具体的には問題意識の明確化からテーマの絞り込み、データ収集、分析、まとめまでの過程を体験する。

受講者に対する要望

何を何のために明らかにしたいのか、自分自身の問題意識を明確化すること、自分の考えや感性を大事にすること、物事を新たな目で深くとらえようとする、自分の思考過程を明確にして他者に説明すること、自分の判断に責任をもつこと、研究対象者への敬意の念をもつこと。

学びのキーワード

- 質的研究
- 修正版グランデッド・セオリー・アプローチ
- 対人援助領域
- 社会的相互作用
- 研究する人間

授業計画

01. イントロダクション 授業の説明 質的研究の意義と特性
02. 質的研究の概要・種類
03. 質的研究の概要・種類
04. 質的研究の概要・種類
05. M-GTAの概要...: 概要・歴史・特性・適した研究・分析、理論の考え方・研究する人間
06. M-GTAの概要...: 研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者
07. M-GTAの概要...: データ収集
08. 質的論文購読
09. M-GTAの概要...: 研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者 受講生の問題意識 実践課題
10. 質的論文購読
11. M-GTAの概要...: データ収集 受講生のフィールド、データ収集について
12. M-GTAの概要...: 概念生成・解釈、定義、概念名。継続比較分析。
13. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習
14. 論文購読 論文と受講生の問題意識
15. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習
16. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
17. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。
18. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。
19. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
20. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
21. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
22. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
23. M-GTAの概要...: 分析のまとめ方。カテゴリー化。
24. 分析のまとめ方。カテゴリー化。ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。
25. 分析のまとめ方。カテゴリー化。ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。
26. 分析のまとめ方。カテゴリー化。ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。
27. 論文の評価。補足。
28. 質的研究と分析法について総合的な説明
29. 質的研究と分析法について総合的な説明
30. 質的研究と分析法について総合的な説明

準備学習(予習)

教科書を読んで、疑問点を明らかにすること。(毎授業の前々日までに、教科書の指定した部分の疑問点を授業管理システムを利用して提出する) | 日常生活の中で、関心のある事柄を端的にとらえて、言語化したことを授業で報告する。| 分析実習のときには、ワークシート等の作成をすること。(毎授業の前々日までに、授業管理

準備学習(復習)

教科書としたM-GTA関連本の再読、疑問点の理解を確かめる。| 実際の分析練習に入った後は、授業の振り返りを行い、予習で作成したファイルの修正をする。|

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|---|
| (1) レポート | 50% | 筆記試験と同様に、授業中の発言やワークシートの提出状況、ディスカッションへの参加態度等を評価する。 |
| (2) 実習参加レベル | 50% | 毎授業の予習レポートの提出状況、ディスカッションへの参加態度等を評価する。 |

質的研究、M-GTAについて初めて学ぶ受講生が多いので、理解の速度や言語化の経験の差は問題にしない。受講生なりに自分の問題意識や研究テーマと関連付けて授業に参加し、現象を深く解釈しようとする姿勢を養うことが求められる。

教科書

木下康仁(2007) ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グランデッド・セオリー・アプローチのすべて。弘文堂

参考書

授業で知らせる。

ソーシャルワーク研究 / ソーシャルワーク特論

担当教員： 助川 征雄

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 4

授業コード： W1120307

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会情勢の変化の中で、わが国はこれまで幾度も社会福祉の在り方を見直してきたが、今後に向け、現場を担う専門職や当事者から実効性のある長期展望を提案することが不可欠である。本講ではこれらの課題を見据え、内外の将来性のある実践理論と現場経験との摺合せを以てその解決に挑戦するとともに、真のリーダー養成をめざす。

(2) 内容

本講では、「C/Rapp著:ストレングスモデル」や本職の「英国リカバリー・イノベーション研究」などの要点の紹介と多様な現場情報の擦り合わせを行ってゆく。

受講者に対する要望

教科書の精読

学びのキーワード

- ・ ソーシャルワーク
- ・ 精神障害者支援
- ・ スtrenグスモデル
- ・ コ・プロダクション

授業計画

01. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか①
02. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか②
03. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向①
04. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向②
05. スtrenグスモデル (1) ①
06. スtrenグスモデル (1) ②
07. スtrenグスモデル (2) ①
08. スtrenグスモデル (2) ②
09. スtrenグスモデル (3) ①
10. スtrenグスモデル (3) ②
11. スtrenグスモデル (4) ①
12. スtrenグスモデル (4) ②
13. スtrenグスモデル (5) ①
14. スtrenグスモデル (5) ②
15. スtrenグスモデル (6) ①
16. スtrenグスモデル (6) ②
17. リカバリー・イノベーション (1) イギリスの経年的動向を中心に①
18. リカバリー・イノベーション (1) イギリスの経年的動向を中心に②
19. リカバリー・イノベーション (2) ImROCKー行政構造改革①
20. リカバリー・イノベーション (2) ImROCKー行政構造改革②
21. リカバリー・イノベーション (3) IPSー新たな就労支援①
22. リカバリー・イノベーション (3) IPSー新たな就労支援②
23. リカバリー・イノベーション (4) Recovery College ①
24. リカバリー・イノベーション (4) Recovery College ②
25. リカバリー・イノベーション (5) Peer Support Worker①
26. リカバリー・イノベーション (5) Peer Support Worker②
27. リカバリー・イノベーション (6) わが国における応用の可能性①
28. リカバリー・イノベーション (6) わが国における応用の可能性②
29. まとめと課題①
30. まとめと課題②

準備学習(予習)

授業前には、教科書や配布資料の授業予定部分を予習し、その部分に関連する身近な実践事例やエピソード報告メモなど(提出不要)を準備しておくこと。

準備学習(復習)

教科書要点の再確認

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 平常点(課題) | 50% |

平常点30%、レポート20%、平常点(課題)50%により総合評価する。

教科書

チャールズ・A. ラップ、リチャード・J. ゴスチャ、田中 英樹監訳：『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント』(金剛出版)

参考書

児童学研究 / 児童学特論

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W1130108

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童学の視座に立って子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の論文を読み解いたり実践記録を分析したりすることを通して、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を修得する。

(2) 内容

児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。|福祉学の諸分野の中でも児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願う、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程で様々な困難にであっても、どの子どもの育ちもしあわせであってほしいと願う視座に立って研究を進めるためには、まう、子どものしあわせとは何だろうと考えることから始めたい。さらには、そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているかを自問することは必須である。その力を身につけたい。

受講者に対する要望

子どもについて、自らの経験則に沿った印象や感覚を、理論的に問い直す作業領域に関心をもって履修してほしいと願っています。資料による情報収集が多くなります。文字資料を読み解くことに積極的に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 児童学
- ・ 児童理解
- ・ 保育
- ・ 教育
- ・ 子育て支援

授業計画

01. 児童を研究するということ
02. 児童を研究する方法論
03. 児童研究の動向①理論研究
04. 児童研究の動向②実践研究
05. 児童理解の方法
06. 幼児理解の方法
07. 児童理解の実際
08. 幼児理解の実際
09. 子どもの時間と発達理解
10. 子どもの時間と発達支援
11. 制度からみる子ども
12. 制度からみる保育・教育
13. 保育の制度史
14. 保育の実践史
15. 保育課程の理解
16. 子ども・子育て新制度と今日の保育
17. 児童理解における実践記録の意味
18. 児童理解における実践記録の実際
19. 児童理解における実践記録の分析①子どもへの着目
20. 児童理解における実践記録の分析②関わりへの着目
21. 保育・教育・援助の実践研究の方法
22. 保育・教育・援助の実践研究の実際
23. 保育・教育・援助の場面記録分析の方法
24. 保育・教育・援助の場面記録分析の実際
25. 保育・教育・援助の実践研究分析の方法
26. 保育・教育・援助の実践研究分析の実際
27. 今日の児童をめぐる諸課題の提起
28. 今日の児童をめぐる諸課題の分析
29. 今日の児童をめぐる諸課題に対する検討
30. 総括

準備学習(予習)

配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読み込んでおく。授業での課題報告はレジュメを作成し、主体的に準備を行う。

準備学習(復習)

慣れるまでは、ノート整理をお勧めします。また、修士論文研究に直結する資料を多く扱います。自分の研究に関連深い資料は、授業でのディスカッションをふまえて、授業後にさらに読み込みましょう。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 積極的参加 | 30% |
| (2) 課題報告 | 40% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

授業のなかで指示する。

参考書

臨床心理学特論

担当教員：長谷川 恵美子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2101111

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

心理アセスメントと心理療法の基礎を体験しながら学ぶことを目標としている。

(2) 内容

臨床心理学の定義や理念、歴史などについて概説するとともに、実際の心理アセスメント、心理療法をロールプレイなどの体験を通して幅広く学ぶことを目的としている。また本授業では、各種心理療法の理念とその背景にある理論を紹介するとともに、学校、医療産業など、実社会における臨床心理学の特徴や課題について具体的に概説し、その理論と実践との結びつきを学習し、臨床心理学の特徴や課題について参加者と議論する。

受講者に対する要望

積極的に参加することが望ましい

学びのキーワード

- ・臨床心理学
- ・心理療法
- ・心理アセスメント
- ・うつ病予防

授業計画

01. 臨床心理学とは①
02. 臨床心理学とは②
03. 臨床心理学の歴史①
04. 臨床心理学の歴史②
05. 精神分析学とは①
06. 精神分析学とは②
07. 交流分析とは①
08. 交流分析とは②
09. イメージの心理学とは①
10. イメージの心理学とは②
11. さまざまな芸術療法①
12. さまざまな芸術療法②
13. 行動療法とは①
14. 行動療法とは②
15. 認知にかかわる心理療法①
16. 認知にかかわる心理療法②
17. 心理アセスメントとは①
18. 心理アセスメントとは②
19. 心理アセスメント実習①
20. 心理アセスメント実習②
21. 学校現場における心理臨床①
22. 学校現場における心理臨床②
23. 産業領域における心理臨床①
24. 産業領域における心理臨床②
25. 医療現場における心理臨床①
26. 医療現場における心理臨床②
27. 事例検討とは①
28. 事例検討とは②
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

参考資料や文献を自主的に読むこと。授業時に割り当てられたテーマについてプレゼンテーション方法を含め準備すること。

準備学習(復習)

授業での経験を振り返り、教科書や資料で復習すること。

評価方法

- (1) 平常点 (課題への取り組み、発表内容、ディスカ 70%
- (2) 課題レポート 30% 授業でとりあげた内容をふまえ、客観的根拠に基づいてのべられているか。

教科書

授業時に紹介する

参考書

授業時に紹介する

健康教育学特論 A

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W2101310

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図るとともに、健康の自治能力の育成を目指す。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方で、健康や生命は社会的に守られることなくはないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。

(2) 内容

子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。これらの過程を大切に、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。

受講者に対する要望

子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。

学びのキーワード

- ・健康課題
- ・ヘルスプロモーション
- ・予防
- ・教育保健
- ・科学的認識

授業計画

01. 健康教育学とは何か
02. 学校保健や健康教育に関する課題
03. 学校における健康教育
04. 地域社会における健康教育
05. 職場における健康教育
06. 健康教育行政
07. 諸外国における健康教育
08. 健康教育のねらいと目標
09. 健康教育の方法
10. 健康教育の評価
11. 健康教育の実践
12. 健康教育の課題
13. 健康教育学研究－歴史研究
14. 健康教育学研究－現状と課題
15. 健康教育学研究－まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集めて、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えをまとめておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への姿勢 | 50% |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% |

教科書

授業の中で説明

参考書

健康教育学特論B

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W2101410

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

健康教育学特論Bに継続し、現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーションスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。|歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方で、「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。

(2) 内容

健康教育学特論Aに継続し、子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。|これらの過程を大切に、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。

受講者に対する要望

現在教員として教育に関わっている人、将来、教員を目指す学生、教職を履修している学生はこの講座を必ず志望して欲しいと考えていますが、他の学生においても現代社会に出現している健康課題に関心がある者は自分自身の関心を一つの目標とし、積極的に志望して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 学校保健
- ・ 健康教育
- ・ 表現スキル

授業計画

01. 学校における健康・安全の課題
02. 地域社会における健康の課題
03. 職場における健康の課題
04. 健康教育学と教育保健学を考える
05. 各自の研究テーマの設定－設定の手順について
06. 各自が関心を持った研究テーマを発表する
07. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究の手引き
08. 各自の研究テーマに沿って調べる－仮説の設定
09. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究目的の立て方
10. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究方法について
11. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究結果のまとめ方
12. 自の研究テーマに沿って調べる－考察について
13. 各自のまとめを発表－討論の方法
14. 各自のまとめを発表－討論の実践
15. まとめと討論

準備学習(予習)

テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% |

教科書

授業の中で説明

参考書

児童福祉特論

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2200404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

(2) 内容

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。| 1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実際|

受講者に対する要望

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

学びのキーワード

- ・ 子ども虐待
- ・ 子育て支援
- ・ 児童養護施設
- ・ 社会的養護

授業計画

01. 子ども家庭福祉における「子ども」観①
02. 子ども家庭福祉における「子ども」観②
03. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題①
04. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題②
05. 少子社会と福祉環境①
06. 少子社会と福祉環境②
07. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ①
08. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ②
09. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷①
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷②
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点①
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点②
13. 具体的なサービス内容と課題点①
14. 具体的なサービス内容と課題点②
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源①
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源②
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職①
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職②
19. 「子ども虐待」をとりまく神話①
20. 「子ども虐待」をとりまく神話②
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」①
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」②
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし①
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし②
25. 子ども虐待の社会的対応と限界①
26. 子ども虐待の社会的対応と限界②
27. スクールソーシャルワークの実際①
28. スクールソーシャルワークの実際②
29. ディスカッション①
30. ディスカッション②

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

準備学習(復習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (3) レポート | 40% |

出席率20%、ディスカッション参加状況40%、レポート40%の総合評価。

教科書

参考書

臨床死生学特論

担当教員：藤掛 明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2300110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現実に生と死の危機に直面し、苦しんでいる人々を理解し、援助の道筋を学ぶことが出来る。また自分にとっての「死生」の意味を考え、自分の死生にまつわる問題に対処する各人個別の死生観を探る場としたい。

(2) 内容

死生学の基礎的概念を概観し、グリーフ・カウンセリングとその周辺領域（自助グループ、闘病、自殺予防、心理テスト等）を臨床心理学の観点から学ぶ。学習にあたっては討議を重視する。

受講者に対する要望

受講者として要望があればその都度申し出てほしい。その関心や臨床的理解力に応じて、授業計画の大枠の範囲内で、柔軟に対応する。

学びのキーワード

- ・グリーフ・カウンセリング
- ・自助グループ
- ・闘病体験
- ・自殺予防

授業計画

01. 死生学とは何か（死生学の歴史①）
02. 死生学とは何か（死生学の歴史②）
03. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程①）
04. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程②）
05. 文学作品にみる「死生」①（儀式、台風）
06. 文学作品にみる「死生」②（儀式、台風）
07. 文学作品にみる「死生」③（雨の庭、巨人の星）
08. 文学作品にみる「死生」④（雨の庭、巨人の星）
09. 文学作品にみる「死生」⑤（いま会いにゆきます、散りゆく花）
10. 文学作品にみる「死生」⑥（いま会いにゆきます、散りゆく花）
11. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク①）
12. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク②）
13. グリーフ・カウンセリングの実際①
14. グリーフ・カウンセリングの実際②
15. グリーフ・カウンセリングの実際③
16. グリーフ・カウンセリングの実際④
17. 自助グループの実際①
18. 自助グループの実際②
19. グリーフの特徴①（子を亡くす）
20. グリーフの特徴②（親を亡くす）
21. グリーフの特徴③（配偶者を亡くす）
22. グリーフの特徴④（友人を亡くす）
23. 闘病と「死生」①
24. 闘病と「死生」②
25. 自殺予防と「死生」①
26. 自殺予防と「死生」②
27. 心理テストと「死生」①
28. 心理テストと「死生」②
29. キリスト教と「死生」①
30. キリスト教と「死生」②、まとめ

準備学習(予習)

授業計画や授業内での予告を参考に、情報を集め、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

毎回配布する資料や紹介する文献を授業後に読むことを期待している。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

毎回関連資料を配付する

参考書

社会心理学特論

担当教員：中原 純

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2301110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのような考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。

(2) 内容

「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらおうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問から、「オレオレ詐欺」、「マインドコントロール」、「テロや戦争が起きるメカニズム」、「いじめ」といった重大な社会問題まで、社会心理学の観点から解説します。授業は一方的な講義ではなく、常に受講生と対話しながら進めます。社会心理学の実験や調査を体験してもらったこともありますし、受講生自身が興味のあるトピックを調べ、発表し、討議を行うこともあります。

受講者に対する要望

教員が講義している最中も、静聴する（静かに聴く）必要はありません。疑問に思ったり、気づいたことがあれば、いつでも発言し、積極的に授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 自己概念
- ・ 対人認知
- ・ 態度変容
- ・ 社会規範
- ・ 集団心理

授業計画

01. 社会心理学とは
02. 自己概念(1)
03. 自己概念(2)
04. 自己概念(3)
05. 文化的自己
06. 対人認知(1)
07. 対人認知(2)
08. 対人認知(3)
09. 態度と態度変容(1)
10. 態度と態度変容(2)
11. 態度と態度変容(3)
12. 態度と態度変容(4)
13. 人間関係の進展(1)
14. 人間関係の進展(2)
15. 幸福感(1)
16. 幸福感(2)
17. 社会からの影響(1)
18. 社会からの影響(2)
19. 社会からの影響(3)
20. 集団とリーダーシップ(1)
21. 集団とリーダーシップ(2)
22. 自己と集団(1)
23. 自己と集団(2)
24. 集団間関係(1)
25. 集団間関係(2)
26. 集団間関係(3)
27. 現代的問題と社会心理学—インターネット—
28. 現代的問題と社会心理学—キャリア—
29. 現代的問題と社会心理学—超高齢社会—
30. まとめ

準備学習(予習)

大まかな講義内容は事前にお知らせします。その内容について少し勉強してから授業に参加すると、より理解が深まります。また、講義内容と関係のありそうな自身の経験を振り返ってみることも大切です。

準備学習(復習)

日常の出来事を社会心理学から考えてみる癖をつけて下さい。それによって、勉強した知識を知識のまま終わらせるのではなく、様々な現場で実践に活かせるようになるはずです。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

参考書

人間福祉学研究科

研究法入門

担当教員：古谷野 亘

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W1100101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

大学院では、専門領域の知識を獲得するだけでなく、みずから研究課題を定め、研究して、回答を得ていく技術の修得が求められる。本講義で取り扱うのはそのような研究の技術、特に実証的な研究の技術であって、技術の修得に向けて必要な予備知識を得ることが本講義の目的である。

(2) 内容

本講義では研究を行うために必要とされる技術、特に実証的な研究の技術である調査の方法について講義する。情報を集め分析するための枠組作りから、文献の検索と収集、量的調査の計画と実施、論文の書き方までを解説して、オリジナルなデータによって修士論文を作成しようとする学生に必要な基礎知識を提供する。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・ 実証研究
- ・ 研究するための義実

授業計画

01. イントロダクション — 大学院で学ぶ
02. 研究のための技術
03. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (1)
04. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (2)
05. 文献の探し方と入手方法 (1)
06. 文献の探し方と入手方法 (2)
07. 研究のプロセスとモデル (1)
08. 研究のプロセスとモデル (2)
09. 調査の設計と現実的考慮 (1)
10. 調査の設計と現実的考慮 (2)
11. 論文の書き方、発表の仕方 (1)
12. 論文の書き方、発表の仕方 (2)
13. 修論作成までのプロセス (1)
14. 修論作成までのプロセス (2)
15. まとめと課題・総合討論

準備学習(予習)

授業は概ね教科書通りに進むので、次回に相当する箇所を読んでおくとよい。

準備学習(復習)

研究の遂行に必要な技術の修得のため復習が必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』(ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

キリスト教人間学研究

担当教員：阿部 洋治

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W1110202

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

キリスト教人間学研究の基盤は聖書であり、特に、それが、キリスト教の人間理解の研究であるためには、キリスト者たちによって、2000年の間、「神の子」あるいは「キリスト(=救い主)」と告白されて来たナザレ人イエスの教えと働きに注目することから始めなければならない。長い歴史の中で、キリスト教思想家たちが提示して来た人間研究も、出発点はナザレ人イエスの教えと働きが土台となっている。その意味で、この講義では、ナザレ人イエスの教えと働きと向き合いながら、人間とは何か、人間の現実とその可能性を考えたい。|

(2) 内容

具体的には、福音書に記述されたナザレ人イエスの歴史を洞察することになる。それは、約2000年も前の世界の片隅で起こった小さな出来事に着目することである。しかも歴史学的に事実を確認するのに駆使できる資料があるわけではなく、主として、福音書の記述、あるいはその他の新約聖書文書に依拠するほかにはない。いずれも、事実を確認する歴史資料とは言い難い。しかし、ナザレ人イエスの教えや働きから影響を受け、またイエスの人格に深く印象づけられた人々によって記述された書物であり、私たちは、こうした書物をひもときながら、逆に、あのイエスとは誰だったのか、人々に何をもたらしたのかを問い、さらには、このイエスとの関係において、人間とは何かを問うことになる。| 講義は、実際に、聖書(福音書)の記述に触れながら展開することになる。

受講者に対する要望

人間の研究は、ただ単に、他者の思想を云々するだけではない。まず、自分自身への問いを大切にしてほしい。

学びのキーワード

- ・パスカル 織細の精神
- ・モンテーニュ 懐疑主義
- ・人間の弱さ、惨めさ、脆さ
- ・ストア派哲学あるいは啓蒙思想
- ・信仰者たちが出会ったイエス

授業計画

01. はじめに |
02. 近現代におけるイエス究史概説 その1
03. 近現代におけるイエス究史概説 その2
04. 初代教会成立とイエス記述の変遷 その1
05. 初代教会成立とイエス記述の変遷 その2
06. 伝道者パウロの回心とイエス理解 その1
07. 伝道者パウロの回心とイエス理解 その2
08. 福音書に記されたイエスの教えと働き (1) パプテスマのヨハネとイエス
09. 福音書に記されたイエスの教えと働き (2) イエスの試練と決
10. 福音書に記されたイエスの教えと働き (3) 律法主義へのチャレンジ
11. 福音書に記されたイエスの教えと働き (4) イエスの神の国 一瞥え話に触れて一
12. 福音書に記されたイエスの教えと働き (5) 弟子たちの無理解
13. 福音書に記されたイエスの教えと働き (6) イエスの十字架の
14. 復活をめぐる聖書の理解
15. まとめ

準備学習(予習)

第2~5回の講義については、最初の授業で参考文献を紹介するので、前もって、必要に応じて、文献を読み、問題意識を整理して置くのも良い。第6~7回、第8~14回は、関係した聖書に当たりながらの講義となるので、関係箇所を事前に読んで内容を把握しておくことを勧めたい。

準備学習(復習)

講義で語られたことを鵜呑みにせず、また講義を通して啓発されたことについて考察を深め、自分なりの研究テーマを模索してほしい。

評価方法

- (1) レポート

教科書

第2~5回は、今回のテーマをめぐる新約聖書学的な議論になる。参考文献は授業時に提示する。第6回以降は、聖書をベースに展開する。

参考書

授業開始時に提示する

調査研究法I (量的研究)

担当教員：古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W1110303

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会・行動科学の研究方法である量的研究の技法、特に変数の測定方法について基礎的な知識を得ることを目標とする。

(2) 内容

前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学的研究法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、心理学的尺度構成法の手順を実例をあげつつ解説し、可能であれば履修者の関心に応じて調査票作成、データ分析、もしくは尺度開発の演習を行う。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・社会・行動科学研究法
- ・社会調査
- ・計量分析
- ・モデル
- ・測定

授業計画

01. 社会調査の理論と方法 | サンプルング (1)
02. サンプルング (2)
03. データ収集の方法 (1)
04. データ収集の方法 (2)
05. 調査票の作成と質問文 (1)
06. 調査票の作成と質問文 (2)
07. 調査票の作成と質問文 (3)
08. 調査票の作成と質問文 (4)
09. 調査データの分析 | 統計の目的 (1)
10. 統計の目的 (2)
11. 1変数の分析 (1)
12. 1変数の分析 (2)
13. クロス表と関連度の係数 (1)
14. クロス表と関連度の係数 (2)
15. 相関と回帰 (1)
16. 相関と回帰 (2)
17. 推定と検定 (1)
18. 推定と検定 (2)
19. 多変量解析 (1)
20. 多変量解析 (2)
21. 多変量解析 (3)
22. 多変量解析 (4)
23. 測定法 | 測定の妥当性と信頼性 (1)
24. 測定の妥当性と信頼性 (2)
25. 構造方程式モデリング (1)
26. 構造方程式モデリング (2)
27. 構造方程式モデリング (3)
28. 構造方程式モデリング (4)
29. まとめと課題・総合討論 (1)
30. まとめと課題・総合討論 (2)

準備学習(予習)

授業は概ね教科書の通りに進むので、次回の箇所を予め読んでおくとよい。

準備学習(復習)

量的研究は“数学っぽい”ことから敬遠されがちであるが、質的研究法より簡単で、基礎的である。ただし、知識・技術の修得には積み重ねが必要であるから、復習は必須である。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 70% |

教科書

古谷野 亘、長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』(ワールドプランニング)

参考書

授業の中で指示する

調査研究法II (質的研究)

担当教員：林 葉子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W1110404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

質的研究はさまざまあり、それぞれが理論的背景と方法論をもっており、それに基づいた分析方法がある。そこで、どの方法を選択する場合も、自覚的な選択が必要となる。本講義では、質的研究の基本的で共通する理論的立場や分析法を学んだうえで、具体的にM-GTAについて理論的背景とそれに基づく具体的な分析方法を学ぶ。分析方法を、マニュアルとしてはなく、自分の問題意識の明確化から始まり、常に収集したデータと自分の思考との対話を続け、データ解釈のプロセスをたどっていくことを体験的に学ぶ。自分自身を振り返りながら現象の理解を深めていく方法は、論文作成や実践現場での関わりを考えていくうえで有用と考えられる。

(2) 内容

この授業の目標は、さまざまな領域で関心が高まっている質的研究についての基本的な事柄を理解し、質的研究法の一つである修正版グランデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) の分析方法を習得することである。質的研究は、さまざまな領域で関心が高まっているが、質的研究方法は多様であるため、どの研究法を選択するか判断が求められる。また、質的研究では言語による報告が主であるので、分析対象とした現象を言語化する力が必要である。本講義では、まず、質的研究の意義、代表的な質的分析法の特性の紹介、受講生が関心をもった現象を言語してとらえる練習、質的論文の購読など基本的な事柄を自分の問題意識と関連付けながら学ぶ。次に、広く対人援助領域で用いられている M-GTA の理論的背景や方法論などを学び、それらをふまえたうえで、サンプルデータを使って実際の分析を行っていく。具体的には問題意識の明確化からテーマの絞り込み、データ収集、分析、まとめまでの過程を体験する。

受講者に対する要望

何を何のために明らかにしたいのか、自分自身の問題意識を明確化すること、自分の考えや感性を大事にすること、物事を新たな目で深くとらえようとする、自分の思考過程を明確にして他者に説明すること、自分の判断に責任をもつこと、研究対象者への敬意の念をもつこと。

学びのキーワード

- 質的研究
- 修正版グランデッド・セオリー・アプローチ
- 対人援助領域
- 社会的相互作用
- 研究する人間

授業計画

01. イントロダクション 授業の説明 質的研究の意義と特性
02. 質的研究の概要・種類
03. 質的研究の概要・種類
04. 質的研究の概要・種類
05. M-GTAの概要... : 概要・歴史・特性・適した研究・分析、理論の考え方・研究する人間
06. M-GTAの概要... : 研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者
07. M-GTAの概要... : データ収集
08. 質的論文購読
09. M-GTAの概要... : 研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者 受講生の問題意識 実践課題
10. 質的論文購読
11. M-GTAの概要... : データ収集 受講生のフィールド、データ収集について
12. M-GTAの概要... : 概念生成・解釈、定義、概念名。継続比較分析。
13. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習
14. 論文購読 論文と受講生の問題意識
15. 論文のサンプルデータを用いた概念生成の練習
16. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
17. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。
18. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める。
19. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
20. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
21. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
22. 長文サンプルデータを用いた概念生成、継続比較分析、ワークシート、理論的飽和化を総合的に進める
23. M-GTAの概要... : 分析のまとめ方。カテゴリー化。
24. 分析のまとめ方。カテゴリー化。ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。
25. 分析のまとめ方。カテゴリー化。ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。
26. 分析のまとめ方。カテゴリー化。ストーリーライン。結果図。理論的飽和化。
27. 論文の評価。補足。
28. 質的研究と分析法について総合的な説明
29. 質的研究と分析法について総合的な説明
30. 質的研究と分析法について総合的な説明

準備学習(予習)

教科書を読んで、疑問点を明らかにすること。(毎授業の前々日までに、教科書の指定した部分の疑問点を授業管理システムを利用して提出する) | 日常生活の中で、関心のある事柄を端的にとらえて、言語化したことを授業で報告する。| 分析実習のときには、ワークシート等の作成をすること。(毎授業の前々日までに、授業管理

準備学習(復習)

教科書としたM-GTA関連本の再読、疑問点の理解を確かめる。| 実際の分析練習に入った後は、授業の振り返りを行い、予習で作成したファイルの修正をする。|

評価方法

- | | | |
|-------------|-----|--|
| (1) レポート | 50% | 筆記試験と同様に、授業中の発言や質問、ワークシートの提出状況、ディスカッションへの参加態度等を評価する。 |
| (2) 実習参加レベル | 50% | 毎授業の予習レポートの提出状況、ディスカッションへの参加態度等を評価する。 |

質的研究、M-GTAについて初めて学ぶ受講生が多いので、理解の速度や言語化の経験の差は問題にしない。受講生なりに自分の問題意識や研究テーマと関連付けて授業に参加し、現象を深く解釈しようとする姿勢を養うことが求められる。

教科書

木下康仁 (2007) ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グランデッド・セオリー・アプローチのすべて。弘文堂

参考書

授業で知らせる。

ソーシャルワーク研究 / ソーシャルワーク特論

担当教員： 助川 征雄

学期： 春学期 科目： 専門科目 必修・選択：

単位： 4

授業コード： W1120307

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

社会情勢の変化の中で、わが国はこれまで幾度も社会福祉の在り方を見直してきたが、今後に向け、現場を担う専門職や当事者から実効性のある長期展望を提案することが不可欠である。本講ではこれらの課題を見据え、内外の将来性のある実践理論と現場経験との摺合せを以てその解決に挑戦するとともに、真のリーダー養成をめざす。

(2) 内容

本講では、「C/Rapp著:ストレングスモデル」や本職の「英国リカバリー・イノベーション研究」などの要点の紹介と多様な現場情報の擦り合わせを行ってゆく。

受講者に対する要望

教科書の精読

学びのキーワード

- ・ ソーシャルワーク
- ・ 精神障害者支援
- ・ スtrenグスモデル
- ・ コ・プロダクション

授業計画

01. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか①
02. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか②
03. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向①
04. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向②
05. スtrenグスモデル (1) ①
06. スtrenグスモデル (1) ②
07. スtrenグスモデル (2) ①
08. スtrenグスモデル (2) ②
09. スtrenグスモデル (3) ①
10. スtrenグスモデル (3) ②
11. スtrenグスモデル (4) ①
12. スtrenグスモデル (4) ②
13. スtrenグスモデル (5) ①
14. スtrenグスモデル (5) ②
15. スtrenグスモデル (6) ①
16. スtrenグスモデル (6) ②
17. リカバリー・イノベーション (1) イギリスの経年的動向を中心に①
18. リカバリー・イノベーション (1) イギリスの経年的動向を中心に②
19. リカバリー・イノベーション (2) ImROCKー行政構造改革①
20. リカバリー・イノベーション (2) ImROCKー行政構造改革②
21. リカバリー・イノベーション (3) IPSー新たな就労支援①
22. リカバリー・イノベーション (3) IPSー新たな就労支援②
23. リカバリー・イノベーション (4) Recovery College ①
24. リカバリー・イノベーション (4) Recovery College ②
25. リカバリー・イノベーション (5) Peer Support Worker①
26. リカバリー・イノベーション (5) Peer Support Worker②
27. リカバリー・イノベーション (6) わが国における応用の可能性①
28. リカバリー・イノベーション (6) わが国における応用の可能性②
29. まとめと課題①
30. まとめと課題②

準備学習(予習)

授業前には、教科書や配布資料の授業予定部分を予習し、その部分に関連する身近な実践事例やエピソード報告メモなど(提出不要)を準備しておくこと。

準備学習(復習)

教科書要点の再確認

評価方法

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) レポート | 20% |
| (3) 平常点(課題) | 50% |

平常点30%、レポート20%、平常点(課題)50%により総合評価する。

教科書

チャールズ・A. ラップ、リチャード・J. ゴスチャ、田中 英樹監訳：『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント』(金剛出版)

参考書

児童学研究 / 児童学特論

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W1130108

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童学の視座に立って子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の論文を読み解いたり実践記録を分析したりすることを通して、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を修得する。

(2) 内容

児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。|福祉学の諸分野の中でも児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願う、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程で様々な困難にであっても、どの子どもの育ちもしあわせであってほしいと願う視座に立って研究を進めるためには、まう、子どものしあわせとは何だろうと考えることから始めたい。さらには、そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているかを自問することは必須である。その力を身につけたい。

受講者に対する要望

子どもについて、自らの経験則に沿った印象や感覚を、理論的に問い直す作業領域に関心をもって履修してほしいと願っています。資料による情報収集が多くなります。文字資料を読み解くことに積極的に取り組んでください。

学びのキーワード

- ・ 児童学
- ・ 児童理解
- ・ 保育
- ・ 教育
- ・ 子育て支援

授業計画

01. 児童を研究するということ
02. 児童を研究する方法論
03. 児童研究の動向①理論研究
04. 児童研究の動向②実践研究
05. 児童理解の方法
06. 幼児理解の方法
07. 児童理解の実際
08. 幼児理解の実際
09. 子どもの時間と発達理解
10. 子どもの時間と発達支援
11. 制度からみる子ども
12. 制度からみる保育・教育
13. 保育の制度史
14. 保育の実践史
15. 保育課程の理解
16. 子ども・子育て新制度と今日の保育
17. 児童理解における実践記録の意味
18. 児童理解における実践記録の実際
19. 児童理解における実践記録の分析①子どもへの着目
20. 児童理解における実践記録の分析②関わりへの着目
21. 保育・教育・援助の実践研究の方法
22. 保育・教育・援助の実践研究の実際
23. 保育・教育・援助の場面記録分析の方法
24. 保育・教育・援助の場面記録分析の実際
25. 保育・教育・援助の実践研究分析の方法
26. 保育・教育・援助の実践研究分析の実際
27. 今日の児童をめぐる諸課題の提起
28. 今日の児童をめぐる諸課題の分析
29. 今日の児童をめぐる諸課題に対する検討
30. 総括

準備学習(予習)

配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読み込んでおく。授業での課題報告はレジュメを作成し、主体的に準備を行う。

準備学習(復習)

慣れるまでは、ノート整理をお勧めします。また、修士論文研究に直結する資料を多く扱います。自分の研究に関連深い資料は、授業でのディスカッションをふまえて、授業後にさらに読み込みましょう。

評価方法

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 積極的参加 | 30% |
| (2) 課題報告 | 40% |
| (3) レポート | 30% |

教科書

授業のなかで指示する。

参考書

臨床心理学特論

担当教員：長谷川 恵美子

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2101111

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

心理アセスメントと心理療法の基礎を体験しながら学ぶことを目標としている。

(2) 内容

臨床心理学の定義や理念、歴史などについて概説するとともに、実際の心理アセスメント、心理療法をロールプレイなどの体験を通して幅広く学ぶことを目的としている。また本授業では、各種心理療法の理念とその背景にある理論を紹介するとともに、学校、医療産業など、実社会における臨床心理学の特徴や課題について具体的に概説し、その理論と実践との結びつきを学習し、臨床心理学の特徴や課題について参加者と議論する。

受講者に対する要望

積極的に参加することが望ましい

学びのキーワード

- ・臨床心理学
- ・心理療法
- ・心理アセスメント
- ・うつ病予防

授業計画

01. 臨床心理学とは①
02. 臨床心理学とは②
03. 臨床心理学の歴史①
04. 臨床心理学の歴史②
05. 精神分析学とは①
06. 精神分析学とは②
07. 交流分析とは①
08. 交流分析とは②
09. イメージの心理学とは①
10. イメージの心理学とは②
11. さまざまな芸術療法①
12. さまざまな芸術療法②
13. 行動療法とは①
14. 行動療法とは②
15. 認知にかかわる心理療法①
16. 認知にかかわる心理療法②
17. 心理アセスメントとは①
18. 心理アセスメントとは②
19. 心理アセスメント実習①
20. 心理アセスメント実習②
21. 学校現場における心理臨床①
22. 学校現場における心理臨床②
23. 産業領域における心理臨床①
24. 産業領域における心理臨床②
25. 医療現場における心理臨床①
26. 医療現場における心理臨床②
27. 事例検討とは①
28. 事例検討とは②
29. まとめ①
30. まとめ②

準備学習(予習)

参考資料や文献を自主的に読むこと。授業時に割り当てられたテーマについてプレゼンテーション方法を含め準備すること。

準備学習(復習)

授業での経験を振り返り、教科書や資料で復習すること。

評価方法

- (1) 平常点 (課題への取り組み、発表内容、ディスカ 70%
- (2) 課題レポート 30% 授業でとりあげた内容をふまえて、客観的根拠に基づいてのべられているか。

教科書

授業時に紹介する

参考書

授業時に紹介する

健康教育学特論 A

担当教員：和田 雅史

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W2101310

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図るとともに、健康の自治能力の育成を目指す。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られるなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。

(2) 内容

子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。これらの過程を大切に、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。

受講者に対する要望

子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。

学びのキーワード

- ・健康課題
- ・ヘルスプロモーション
- ・予防
- ・教育保健
- ・科学的認識

授業計画

01. 健康教育学とは何か
02. 学校保健や健康教育に関する課題
03. 学校における健康教育
04. 地域社会における健康教育
05. 職場における健康教育
06. 健康教育行政
07. 諸外国における健康教育
08. 健康教育のねらいと目標
09. 健康教育の方法
10. 健康教育の評価
11. 健康教育の実践
12. 健康教育の課題
13. 健康教育学研究－歴史研究
14. 健康教育学研究－現状と課題
15. 健康教育学研究－まとめ

準備学習(予習)

授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集めて、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えをまとめておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への姿勢 | 50% |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% |

教科書

授業の中で説明

参考書

健康教育学特論B

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W2101410

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

健康教育学特論Bに継続し、現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーションスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。|歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方で、「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。

(2) 内容

健康教育学特論Aに継続し、子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的知識を学び、現代的課題について論じていきたい。学生一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。|これらの過程を大切に、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。

受講者に対する要望

現在教員として教育に関わっている人、将来、教員を目指す学生、教職を履修している学生はこの講座を必ず志望して欲しいと考えていますが、他の学生においても現代社会に出現している健康課題に関心がある者は自分自身の関心を一つの目標とし、積極的に志望して欲しい。

学びのキーワード

- ・ 学校保健
- ・ 健康教育
- ・ 表現スキル

授業計画

01. 学校における健康・安全の課題
02. 地域社会における健康の課題
03. 職場における健康の課題
04. 健康教育学と教育保健学を考える
05. 各自の研究テーマの設定－設定の手順について
06. 各自が関心を持った研究テーマを発表する
07. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究の手引き
08. 各自の研究テーマに沿って調べる－仮説の設定
09. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究目的の立て方
10. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究方法について
11. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究結果のまとめ方
12. 自の研究テーマに沿って調べる－考察について
13. 各自のまとめを発表－討論の方法
14. 各自のまとめを発表－討論の実践
15. まとめと討論

準備学習(予習)

テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。

準備学習(復習)

各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への参加度 | 50% |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% |

教科書

授業の中で説明

参考書

児童福祉特論

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2200404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

(2) 内容

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。| 1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実際|

受講者に対する要望

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

学びのキーワード

- ・子ども虐待
- ・子育て支援
- ・児童養護施設
- ・社会的養護

授業計画

01. 子ども家庭福祉における「子ども」観①
02. 子ども家庭福祉における「子ども」観②
03. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題①
04. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題②
05. 少子社会と福祉環境①
06. 少子社会と福祉環境②
07. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ①
08. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ②
09. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷①
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷②
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点①
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点②
13. 具体的なサービス内容と課題点①
14. 具体的なサービス内容と課題点②
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源①
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源②
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職①
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職②
19. 「子ども虐待」をとりまく神話①
20. 「子ども虐待」をとりまく神話②
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」①
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」②
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし①
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし②
25. 子ども虐待の社会的対応と限界①
26. 子ども虐待の社会的対応と限界②
27. スクールソーシャルワークの実際①
28. スクールソーシャルワークの実際②
29. ディスカッション①
30. ディスカッション②

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

準備学習(復習)

ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。

評価方法

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) ディスカッション参加状況 | 40% |
| (3) レポート | 40% |

出席率20%、ディスカッション参加状況40%、レポート40%の総合評価。

教科書

参考書

臨床死生学特論

担当教員：藤掛 明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2300110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

現実に生と死の危機に直面し、苦しんでいる人々を理解し、援助の道筋を学ぶことが出来る。また自分にとっての「死生」の意味を考え、自分の死生にまつわる問題に対処する各人個別の死生観を探る場としたい。

(2) 内容

死生学の基礎的概念を概観し、グリーフ・カウンセリングとその周辺領域（自助グループ、闘病、自殺予防、心理テスト等）を臨床心理学の観点から学ぶ。学習にあたっては討議を重視する。

受講者に対する要望

受講者として要望があればその都度申し出てほしい。その関心や臨床的理解力に応じて、授業計画の大枠の範囲内で、柔軟に対応する。

学びのキーワード

- ・グリーフ・カウンセリング
- ・自助グループ
- ・闘病体験
- ・自殺予防

授業計画

01. 死生学とは何か（死生学の歴史①）
02. 死生学とは何か（死生学の歴史②）
03. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程①）
04. 死生学とは何か（病的悲嘆、回復過程②）
05. 文学作品にみる「死生」①（儀式、台風）
06. 文学作品にみる「死生」②（儀式、台風）
07. 文学作品にみる「死生」③（雨の庭、巨人の星）
08. 文学作品にみる「死生」④（雨の庭、巨人の星）
09. 文学作品にみる「死生」⑤（いま会いにゆきます、散りゆく花）
10. 文学作品にみる「死生」⑥（いま会いにゆきます、散りゆく花）
11. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク①）
12. 死生学とは何か（ケア、カウンセリング、ワーク②）
13. グリーフ・カウンセリングの実際①
14. グリーフ・カウンセリングの実際②
15. グリーフ・カウンセリングの実際③
16. グリーフ・カウンセリングの実際④
17. 自助グループの実際①
18. 自助グループの実際②
19. グリーフの特徴①（子を亡くす）
20. グリーフの特徴②（親を亡くす）
21. グリーフの特徴③（配偶者を亡くす）
22. グリーフの特徴④（友人を亡くす）
23. 闘病と「死生」①
24. 闘病と「死生」②
25. 自殺予防と「死生」①
26. 自殺予防と「死生」②
27. 心理テストと「死生」①
28. 心理テストと「死生」②
29. キリスト教と「死生」①
30. キリスト教と「死生」②、まとめ

準備学習(予習)

授業計画や授業内での予告を参考に、情報を集め、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

毎回配布する資料や紹介する文献を授業後に読むことを期待している。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 授業態度 | 50% |
| (2) レポート | 50% |

教科書

毎回関連資料を配付する

参考書

キリスト教とカウンセリングI /キリスト教カウンセリング特論

担当教員：藤掛 明

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2300606

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

カウンセリング的人間理解や技法論を、キリスト教という視点から眺め直し、それらを深くとらえ直すことができる。

(2) 内容

カウンセリングの一般的な原理、原則を学ぶことを目標とする。ただし、次のような観点から、深く掘り下げることで、現代社会における人間援助のあり方や、それに由来するスピリチュアルなケアのあり方を理解することにも益するものとした。| 第一に、近代科学主義では対応しきれない心や魂の問題を、カウンセリングはどのような原理、原則に拠って扱っていくのか。それらの原理、原則は、宗教やキリスト教信仰のあり方とどのような関連があるのか、を扱う。| 第二に、現代社会の病理ともいえる「自己愛」「依存・嗜癖」「中年期の逸脱」などをとりあげ、これらに対するアセスメントとカウンセリングの実際を紹介するとともに、なぜ、信仰者、聖職者であっても、これらの病理に陥ってしまうことがあるのか、を扱う。

受講者に対する要望

カウンセリングについても、宗教についても、自分自身の生き方を重ね合わせていく姿勢が望まれる。

学びのキーワード

- ・キリスト教カウンセリング
- ・臨床の知
- ・人格障害
- ・依存・嗜癖
- ・メンタルヘルス

授業計画

01. 臨床の知、魂の知を考える（人を理解するための接近法）①
02. 臨床の知、魂の知を考える（人を理解するための接近法）②
03. 臨床の知、魂の知を考える（相互作用性と多義性）①
04. 臨床の知、魂の知を考える（相互作用性と多義性）②
05. 臨床の知、魂の知を考える（個別性）①
06. 臨床の知、魂の知を考える（個別性）②
07. 臨床の知、魂の知を考える（曖昧さや神秘体験の感受性）①
08. 臨床の知、魂の知を考える（曖昧さや神秘体験の感受性）②
09. 宗教者と人格障害問題（贖罪信仰と自己愛性病理）①
10. 宗教者と人格障害問題（贖罪信仰と自己愛性病理）②
11. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例1）①
12. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例1）②
13. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例2）①
14. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例2）②
15. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例3）①
16. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例3）②
17. 宗教者と依存・嗜癖問題（偶像礼拝と依存・嗜癖病理）①
18. 宗教者と依存・嗜癖問題（偶像礼拝と依存・嗜癖病理）②
19. 宗教者と依存・嗜癖問題（アルコール依存症）①
20. 宗教者と依存・嗜癖問題（アルコール依存症）②
21. 宗教者と依存・嗜癖問題（ギャンブル依存症）①
22. 宗教者と依存・嗜癖問題（ギャンブル依存症）②
23. 宗教者と依存・嗜癖問題（教会と自助グループ）①
24. 宗教者と依存・嗜癖問題（教会と自助グループ）②
25. 宗教者と発達心理（聖化と中年期危機）①
26. 宗教者と発達心理（聖化と中年期危機）②
27. 宗教者と発達心理（メンタルヘルス）①
28. 宗教者と発達心理（メンタルヘルス）②
29. まとめと課題①
30. まとめと課題②

準備学習(予習)

授業計画や、授業内で行う予告を参考にインターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

受講生の臨床的理解力や要望も柔軟に考慮していく。授業で得た体験知を、毎回、配付資料や紹介文献を授業後に読むことを期待している。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 平常点(討議参加) | 30% |
| (2) レポート | 70% |

平常点30%、レポート70%により総合的に評価する。

教科書

毎回関連資料を配布する

参考書

「ありのままの自分を生きる」（藤掛明著、一麦出版）

社会心理学特論

担当教員：中原 純

学期：春学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：4

授業コード：W2301110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのような考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれています。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってください。

(2) 内容

「第1印象はどのように決まるのか」、「なぜ人はだまされてしまうのか」、「恋愛をするのはどういう時か」、「“イイネ”をたくさんもらおうと安心するのはなぜか」、「どうすれば少数派の意見を通すことができるか」といった身近な疑問から、「オレオレ詐欺」、「マインドコントロール」、「テロや戦争が起きるメカニズム」、「いじめ」といった重大な社会問題まで、社会心理学の観点から解説します。授業は一方的な講義ではなく、常に受講生と対話しながら進めます。社会心理学の実験や調査を体験してもらったこともありますし、受講生自身が興味のあるトピックを調べ、発表し、討議を行うこともあります。

受講者に対する要望

教員が講義している最中も、静聴する（静かに聴く）必要はありません。疑問に思ったり、気づいたことがあれば、いつでも発言し、積極的に授業に参加してください。

学びのキーワード

- ・ 自己概念
- ・ 対人認知
- ・ 態度変容
- ・ 社会規範
- ・ 集団心理

授業計画

01. 社会心理学とは
02. 自己概念(1)
03. 自己概念(2)
04. 自己概念(3)
05. 文化的自己
06. 対人認知(1)
07. 対人認知(2)
08. 対人認知(3)
09. 態度と態度変容(1)
10. 態度と態度変容(2)
11. 態度と態度変容(3)
12. 態度と態度変容(4)
13. 人間関係の進展(1)
14. 人間関係の進展(2)
15. 幸福感(1)
16. 幸福感(2)
17. 社会からの影響(1)
18. 社会からの影響(2)
19. 社会からの影響(3)
20. 集団とリーダーシップ(1)
21. 集団とリーダーシップ(2)
22. 自己と集団(1)
23. 自己と集団(2)
24. 集団間関係(1)
25. 集団間関係(2)
26. 集団間関係(3)
27. 現代的問題と社会心理学—インターネット—
28. 現代的問題と社会心理学—キャリア—
29. 現代的問題と社会心理学—超高齢社会—
30. まとめ

準備学習(予習)

大まかな講義内容は事前にお知らせします。その内容について少し勉強してから授業に参加すると、より理解が深まります。また、講義内容と関係のありそうな自身の経験を振り返ってみることも大切です。

準備学習(復習)

日常の出来事を社会心理学から考えてみる癖をつけて下さい。それによって、勉強した知識を知識のまま終わらせるのではなく、様々な現場で実践に活かせるようになるはずです。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 60% |
| (2) レポート | 40% |

教科書

参考書

高齢者保健福祉研究演習Ⅰ / 高齢者福祉研究演習Ⅰ

担当教員：古谷野 亘

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3100404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

先行研究の理解のうえに独自の研究を行い、その結果を論文にまとめられるようになることが本演習の目標である。

(2) 内容

高齢化と高齢社会、高齢者サービスの問題を取り上げ、修士課程での研究を始めた学生に対して、個別的な指導と並行して、中間発表と討論、相互批判の機会を提供する。

受講者に対する要望

積み重ねが重要であるから、欠席せず、復習してわからないことを残さずに次に進むようにすることを希望する。

学びのキーワード

- ・ 高齢化
- ・ 介護保険制度
- ・ 地域包括ケア

授業計画

01. 科目オリエンテーション / 課程修了までのプロセスの確認
02. 基礎的文献の講読と討議 (1)
03. 基礎的文献の講読と討議 (2)
04. 基礎的文献の講読と討議 (3)
05. 基礎的文献の講読と討議 (4)
06. 基礎的文献の講読と討議 (5)
07. 基礎的文献の講読と討議 (6)
08. 基礎的文献の講読と討議 (7)
09. 基礎的文献の講読と討議 (8)
10. 研究の中間発表と討議 (1)
11. 研究の中間発表と討議 (2)
12. 研究の中間発表と討議 (3)
13. 研究の中間発表と討議 (4)
14. 研究の中間発表と討議 (5)
15. 中間のまとめ - 研究演習Ⅱへの継続課題の確認

準備学習(予習)

独創的で高度な研究と内容のある議論を期待する。この期待に応えるためには相当の準備と真摯な取り組みが求められる。

準備学習(復習)

授業時間中の討議を自分の研究に生かせるよう理解し、考察することが必要である。

評価方法

- (1) 平常点 100%

教科書

授業の中で指示する

参考書

授業の中で指示する

障害者福祉研究演習Ⅰ

担当教員：木下 大生

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3100505

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

研究計画の立て方、研究方法と研究の進め方、論理的にまとめる方法を学び、自身の研究をまとめながら、その行程を経験することで、「研究とは何か」を知り、「研究の方法」を体得する。

(2) 内容

修士論文のテーマを、障害がある人、とりわけ知的に障害がある人、もしくは関連する制度・政策に関連するものに定めている院生に対して研究指導を行う。

受講者に対する要望

自身のテーマを深め、研究課題を明らかにするための全てを行う、という気持ちで臨んでいただきたい。

学びのキーワード

- ・ 研究計画
- ・ 研究方法
- ・ 研究手続

授業計画

01. オリエンテーション
02. 個別指導1
03. 個別指導2
04. 個別指導3
05. 個別指導4
06. 個別指導5
07. 個別指導6
08. 個別指導7
09. 個別指導8
10. 個別指導9
11. 個別指導10
12. 個別指導11
13. 個別指導12
14. 個別指導13
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回出される課題に取り組む。

準備学習(復習)

個別指導になるため、毎回教員からなされる指導を振り返り、また出された課題に取り組んでくること。

評価方法

- (1) 参加態度、姿勢、課題 100%

授業への参加態度、研究に取り組む姿勢、その都度課す課題に取り組んだ成果物の内容によって評価する。

教科書

授業の中で指示する

参考書

社会福祉学研究演習Ⅰ

担当教員：牛津 信忠

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3120101

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

この演習において社会福祉という言葉を用いる場合、それは特に広義の意味に用いている。広く人間学に基礎づけられ、人間と社会のwell-beingを求めるが、その展開を人の直面する、あるいは直面する危険のある問題状況から一步一步開明的に歩みでて行こうとする。

(2) 内容

社会福祉学の領域、特に理論と歴史、更に福祉文化に関するテーマで修士論文の作成を目指す学生に、その究明の前提となる福祉哲学まで下り下げた研究指導を行う。社会福祉の体系論や、その基軸となっている福祉思想、とくに人格主義的福祉哲学などの理論分析を行うが、演習参加者には、その理論が生かされる生活の場、地域社会における実践理論の研究という社会福祉の具体を忘却することのない研究態度が絶えず求められる。

受講者に対する要望

自己の問題意識を鮮明にする努力から始め、先人の足跡を参照しながら、自分の思考を積み重ねていってほしい

学びのキーワード

- ・ プロセス論理
- ・ 目的的自己限定
- ・ トポス
- ・ 相互的人格主義
- ・ 関主観性

授業計画

01. 研究計画の再確認（全般）
02. 研究計画の再確認（とくに研究目標について）
03. 研究計画の再確認（とくに方法論的考察）
04. 研究計画の再確認（とくに方法論的考察2）
05. 研究の進捗に応じた個別指導
06. 研究の進捗に応じた個別指導
07. 研究の進捗に応じた個別指導
08. 研究の進捗に応じた個別指導
09. 研究の進捗に応じた個別指導
10. 研究の進捗に応じた個別指導
11. 研究の進捗に応じた個別指導
12. 研究の進捗に応じた個別指導
13. 全体構成の確認
14. 論の整合性に関して
15. 全体の再確認と今後の研究の展望

準備学習(予習)

面談学習の際、事前に関連分野の著作に親しみ、視野を広げるとともに、課題に関する自らできる範囲でよいので問題意識を持って積極的に思考を展開しておくように要望する。

準備学習(復習)

授業の後において、論文作成という最終目的に即して、学んだことを生かして、論文の進捗を図っていくように求める。

評価方法

- | | | |
|----------------|-----|--|
| (1) 修士論文の進捗状況 | 60% | 最終的な修士論文提出までの過程状況を内容検分のもとに判断する。 |
| (2) 平常点 | 10% | 論文作成という目的に即して毎回の面談授業であるので有効に用いて、自己のニーズに即して教師との連絡をしっかりと保つこと。 |
| (3) 資料収集力 | 10% | 演習前・その中頃に必要となる事項であるが、及んでその収集力をその演習内容の重要箇所において発揮すること。 |
| (4) 脚注に見る知識集積度 | 10% | 演習前・その中頃に必要となる事項であるが、特に脚注に即して必要となる知識の集積度を高めることであるが、その集積度ととも演習内容に即して発揮すること。 |
| (5) 論理構成力 | 10% | この項目を評価対象にすることによって、その力量を絶えず推し量り、向上を図る手がかりとしていく。 |
- 自己の方法論的基礎を絶えず問いながら研究を進めること。

教科書

978-4861890901 牛津 信忠 社会福祉における相互的人格主義 (1) 一人間の物象化からの離脱と真の主体化をめざして 臨床出版医学で一括購入しない | 978-4861890918 牛津 信忠 社会福祉における相互的人格主義 (2) 一人間の物象化からの離脱と真の主体化をめざして 臨床出版医学で一括購入しない |

参考書

978-4654075997 ロバート・ピンカー Robert Pinker 星野 政明 牛津 信忠 社会福祉三つのモデル—福祉原理論の探求 臨床出版医学で一括購入しない | 978-4863451483 牛津 信忠 社会福祉における究明—共感的共同からトポスへ至る現象学的考察 臨床出版医学で一括購入しない |

ソーシャルワーク研究演習Ⅰ

担当教員：助川 征雄

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3120203

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

基幹科目「ソーシャルワーク研究」において学ぶ、新たな実践理論の応用。|身近な実践や研究課題を見出し、新たな視点で探求し、深化させること。

(2) 内容

広く社会福祉領域のテーマを修士論文とする院生に対し研究指導を行う。特に今後の福祉実践を切り開くための論考に重点を置く。具体的には、まず、基礎理論として、ストレンクス理論やリカバリー理論の要点の習得を求める。同時に、研究テーマに沿い、個別指導の形で論文作成のための論考を進める。|なお、本職のPSW経験を活かす意味で、精神保健福祉領域のテーマを有する学生諸君を特に歓迎する。

受講者に対する要望

教科書「ストレンクスモデル」の精読

学びのキーワード

- ・ ソーシャルワーク
- ・ ソーシャルワークの歴史
- ・ 関わり
- ・ スtrenクス（強み）の視点
- ・ リカバリーイノベーションの視点

授業計画

01. オリエンテーション（テーマおよび研究法について）
02. 個別指導（1）
03. 個別指導（2）
04. 個別指導（3）
05. 個別指導（4）
06. 個別指導（5）
07. 中間発表・討議
08. 個別指導（6）
09. 個別指導（7）
10. 個別指導（8）
11. 個別指導（9）
12. 個別指導（10）
13. 個別指導（11）
14. 全体発表・討議
15. まとめ

準備学習（予習）

1ヶ月に1～2度のペースで、個別指導を行うので、その都度、疑問点を整理し発表準備をすること。

準備学習（復習）

不確かな専門用語や概念については、その日のうちに調べておくこと。

評価方法

- (1) 論文準備、中間発表 100%

論文準備（完成）度、および「中間発表会」への参加度（内容）などにより評価する。

教科書

チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ、田中 英樹 監訳 『ストレンクスモデル(第3版)—リカバリー志向の精神保健福祉サービス』(金剛出版)

参考書

健康教育学研究演習 I

担当教員：和田 雅史

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3120510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

健康教育学特論A・Bの継続として現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できる科学的認識の育成を図ると同時に、健康の自治能力の育成を図ることが教育としての健康の学びと考えている。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方と、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通じてそれらの育成を図ることが可能となる。

(2) 内容

健康教育学特論A・Bとの関連領域として、子どもの発育発達という視点から、子どもの健康や安全について考えていく。学校保健学あるいは健康教育学の基礎的学びの延長として、現代的健康課題について論じていく中で、一人一人の興味・関心を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する学習を通じて、研究論文作成へとつなげていく。これらの過程を大切にし、実際の体験を通して、健康教育学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。

受講者に対する要望

子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。

学びのキーワード

- ・健康課題
- ・ヘルスプロモーション
- ・予防
- ・教育保健
- ・科学的認識

授業計画

01. 学校における健康・安全とは
02. 地域社会における健康教育について
03. 職場における健康教育について
04. 教育保健の立場から健康を考える
05. 各自の研究テーマの設定 ¥ 設定の手順についての説明
06. 各自が関心を持った研究テーマの設定
07. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究の手引き
08. 各自の研究テーマに沿って調べる－仮説の設定
09. 各自の研究テーマに沿って調べる－研究方法の学び
10. 各自の研究テーマに沿って調べる－まとめ方
11. 各自の研究テーマに沿って調べる－発表の方法
12. 各自のまとめを発表－発表の方法
13. 各自のまとめを発表－討論の方法
14. 各自のまとめを発表－討論の実践
15. まとめの討論

準備学習(予習)

授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集めて、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えをまとめておく。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 授業への姿勢 | 50% |
| (2) 到達度評価のまとめ | 50% |

教科書

授業の中で説明

参考書

児童学研究演習I

担当教員：田澤 薫

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3130108

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

児童に関する福祉の学問的特性を認識し、様々な困難に出会った子ども一人ひとりのしあわせな育ちを問題関心の伏流として持ちながら研究する力を身につける。|「児童学研究」で学修した児童学研究の基礎的知識と方法論の初歩をもとにして、受講生各人の問題関心を明らかにし、それに合わせた研究方法論を模索できるようになる。|研究作業を実践的に試みることを通して、児童学の視座に立った問題解決の基礎力を養う。

(2) 内容

受講生の問題関心をふまえ、修士論文作成を念頭におきながら、そのために必要な研究手法を学ぶ。|授業の前半では、先行研究論文を検討しながら、研究することとの成果を文章にまとめて論文を作成する方法を学ぶ。|授業の後半では、受講生の修士論文研究にあわせた研究方法論を学び、実際に、必要な基礎文献を検討するなど、修士論文研究の基礎的作業に着手する。あわせて、研究した成果を報告することを通して、成果発表の方法を身につける。

受講者に対する要望

自分の問題関心を文章表現することに積極的に取り組んでほしいと願っています。新しい知見を得るためばかりでなく、文章表現手法を学ぶためにも、先行研究論文を読み込んでください。

学びのキーワード

- ・ 児童学
- ・ 児童理解
- ・ 保育
- ・ 教育
- ・ 子育て支援

授業計画

01. 児童を研究することの意味
02. 研究関心の模索
03. 問題の所在の確認
04. 研究テーマに対する研究方法論の種類と方法
05. 研究テーマに対する先行研究
06. 研究テーマに対する先行研究の分析
07. 研究テーマに対する基礎文献
08. 基礎文献の検討
09. 先行研究の調査①保育制度史
10. 先行研究の調査②保育実践史
11. 先行研究の調査③今日の保育実践分析
12. 資料検討と課題報告
13. 資料検討と課題分析
14. 研究計画の立案と検討
15. 総括

準備学習(予習)

授業のなかで指示する文献、配布する論文等の資料を必ず指定された授業回までに読み込んでから授業に参加する。授業のなかで担う課題報告の準備に主体的に取り組む。

準備学習(復習)

授業内容はすべて修士論文作成に直結するものです。授業中の議論は、忘れないうちに必ず文章化して整理しておきましょう。

評価方法

- | | |
|------------|-----|
| (1) 積極的な参加 | 25% |
| (2) 課題報告 | 25% |
| (3) レポート | 50% |

教科書

授業のなかで指示します

参考書

精神保健福祉研究演習Ⅰ

担当教員：相川 章子

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3140110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

精神保健福祉に関するテーマ取り上げて修士論文を作成しようとする院生に対して、研究指導を行う。

(2) 内容

受講者は関心があり探求しようとする研究テーマについて、個別指導の中で研究の方法、論理的に論文を仕上げていくプロセスについて学ぶとともに、定められた全体討議や「中間発表会」等への参加するものとする。

受講者に対する要望

固定概念にとらわれない自由で豊かな発想を醸成していくことを望みます。限りない探究心をもって、楽しみながら自らの研究に取り組んでほしいと願っています。

学びのキーワード

- ・リサーチデザイン
- ・リサーチクエスション
- ・ソーシャルワーク研究法
- ・リカバリー
- ・ピアサポート

授業計画

01. オリエンテーション・研究目的および計画の再確認
02. 文献購読とディスカッション (1)
03. 文献購読とディスカッション (2)
04. 文献購読とディスカッション (3)
05. 文献購読とディスカッション (4)
06. 文献購読とディスカッション (5)
07. 研究中間発表とディスカッション (1)
08. 研究中間発表とディスカッション (2)
09. 研究デザイン再確認・再検討 (1)
10. 研究デザイン再確認・再検討 (2)
11. 進捗状況に応じた個別指導 (1)
12. 進捗状況に応じた個別指導 (2)
13. 進捗状況に応じた個別指導 (3)
14. 研究中間発表とディスカッション (3)
15. 今後の研究計画の再確認

準備学習(予習)

個別指導の際に都度、研究の進捗状況や指導に際し必要な中間報告等のレジメを用意し提出すること。

準備学習(復習)

個別指導での内容について自分なりに吟味し、論文作成へ生かす。

評価方法

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 修士論文進捗状況 | 70% |
| (2) 資料収集 | 10% |
| (3) 文献購読 | 10% |
| (4) ディスカッション | 10% |

教科書

参考書

児童福祉研究演習Ⅰ

担当教員：中谷 茂一

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3200404

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

修士論文について、子どもや家庭に関連するテーマで研究を予定している学生を対象としている。自らの研究テーマに沿ってレポートを発表してもらい、それを素材として学生及び教員でディスカッションをしながら研究視点、方法の検討と考察を深めていく。問題意識の整理からスタートして、先行研究の知見の把握・理解を深め、科学的な思考、検証方法を修得し、論文作成につながる主体的な研究方法を身につけることを目標とする。

(2) 内容

児童福祉分野のうち、子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマが担当教員の研究領域となるが、それ以外でも子どもや家族・学校に関連するテーマであれば指導可能である。児童福祉特論を受講済みであることが望ましいが、1年次の途中からのテーマの変更などの場合、平行履修も可とする。受講者の興味関心、現在のフィールドを踏まえながら、問題意識の整理、論文構成案作成、資料収集、先行研究のレビュー、調査、論述、考察と段階を踏んで進行していけるよう指導する。

受講者に対する要望

児童福祉特論を受講済みであることが望ましいが、1年次の途中からのテーマの変更などの場合、平行履修も可とする。

学びのキーワード

- ・ 修士論文
- ・ 子ども家庭福祉

授業計画

01. オリエンテーション
02. テーマ設定と論文作成について
03. 研究計画作成
04. 論文章立て作成
05. 個別論文指導
06. 個別論文指導
07. 個別論文指導
08. 個別論文指導
09. 個別論文指導
10. 個別論文指導
11. 個別論文指導
12. 個別論文指導
13. 個別論文指導
14. 個別論文指導
15. 個別論文指導

準備学習(予習)

自分の研究テーマに関する文献の検索およびレビューを継続的に取り組む。

準備学習(復習)

本演習時に受けたアドバイスを次回に反映させる。

評価方法

- | | |
|----------|-----|
| (1) 平常点 | 20% |
| (2) 修士論文 | 80% |

教科書

参考書

児童教育学研究演習Ⅰ

担当教員：佐藤 千瀬

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3200510

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

本演習では、各自の研究テーマに関する先行研究の整理、研究目的の設定、異文化間教育の研究手法、研究計画の立て方について、実践演習を通して学ぶことを目標とする。

(2) 内容

本演習は、児童教育学の中でも「異文化間教育」に関するテーマで修士論文を書く院生を対象にした演習である。「異文化間教育」とは、2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握することと同時に、人間形成や発達をどのように組織していくかを検討していくことである。

受講者に対する要望

先行研究の収集等、計画的に取り組むこと。

学びのキーワード

- ・ 修士論文
- ・ 先行研究
- ・ 研究方法
- ・ 児童教育学
- ・ 異文化間教育

授業計画

01. オリエンテーション
02. 研究テーマ
03. 先行研究の検索・収集
04. 先行研究の検討
05. 先行研究の分析
06. 先行研究の整理
07. 研究目的の設定
08. 研究方法の種類
09. 研究方法の実際
10. 研究方法
11. 研究計画の立案
12. 研究計画の検討
13. 論文の作成（先行研究）
14. 論文の作成（研究方法）
15. 総括

準備学習(予習)

授業で指示された文献や配布資料を必ず読むこと。
| 課題の準備を計画的に行うこと。

準備学習(復習)

毎回の授業で指摘された箇所について、必ず修正し提出すること。

評価方法

- | | |
|---------|-----|
| (1) 平常点 | 30% |
| (2) 課題 | 70% |

教科書

参考書

担当教員：藤掛 明

学期：秋学期 科目：専門科目 必修・選択：

単位：2

授業コード：W3300110

学部教育の関連目

カリキュラム上の位置付け

(1) 学びの意義と目標

人生の危機にある人の心理的側面を臨床心理学的な手法により明らかにすることを学ぶ。また、そのことを通して人間理解や対人援助の新しい視点を獲得する。

(2) 内容

本演習では、修士論文を作成する学生に対して研究指導を行う。研究テーマは、生と死の危機に直面し、苦しんでいる人々を対象としたもので、その心理的問題を臨床心理学的手法により解明することを目指す。主に数量的リサーチおよび事例研究を想定している。

受講者に対する要望

受講者としての要望をその都度申し出て欲しい。修士論文の構想に向けて、柔軟に対応する。

学びのキーワード

- ・ 臨床心理学
- ・ 統計論文
- ・ 事例研究論文

授業計画

01. 研究方法の学習①
02. 研究方法の学習②
03. 事例研究（面接過程の分析）によるアプローチの実際①
04. 事例研究（面接過程の分析）によるアプローチの実際②
05. 統計によるアプローチの実際①
06. 統計によるアプローチの実際②
07. KJ法によるアプローチの実際①
08. 受講生による研究のテーマ報告と討議①
09. 受講生による研究のテーマ報告と討議②
10. 受講生による先行研究論文の紹介①
11. 受講生による先行研究論文の紹介②
12. 研究を発表する方法
13. 受講生による研究の中間報告と討議①
14. 受講生による研究の中間報告と討議②
15. まとめ

準備学習(予習)

毎回、個別に指定する課題を次回までに達成することが期待される。多くは関係論文の抄読を指定する予定である。

準備学習(復習)

毎回の指導内容を振り返り、自らの周囲論文作成に生かすこと。

評価方法

(1) 平常点 100%

教科書

毎回、関連する資料等を配布する。

参考書



2017 年度シラバス 聖学院大学

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎 1 番 1 号

TEL 048-780-1801 (教務課)